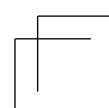
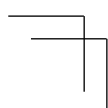


日本大学 法学部

【平成26年度以降～令和元年度以前入学者】



科目名索引

● : 教職課程科目

ア		科学の歴史Ⅰ	177
アジアの歴史Ⅰ	135	科学の歴史Ⅱ	182
アジアの歴史Ⅱ	141	ガバナンス論	3542
アメリカ経済論	3396	環境政策	3547
アメリカ政治論	3401	環境論Ⅰ	187
イ		環境論Ⅱ	192
異文化メディア	3406	観光政策	3552
インターンシップA	3	韓国語ⅠA	3048
インベスター・リレーションズⅠ	3411	韓国語ⅠB	3053
インベスター・リレーションズⅡ	3416	韓国語ⅡA	3058
ウ		韓国語ⅡB	3063
運輸政策	3421	監査論Ⅰ	3557
エ		監査論Ⅱ	3562
英検／IELTSⅠA	1051	管理会計論Ⅰ	3567
英検／IELTSⅠB	1066	管理会計論Ⅱ	3572
英検／IELTSⅡA	1081	キ	
英検／IELTSⅡB	1096	企業法務Ⅰ	3577
英検／IELTSⅢA	1111	企業法務Ⅱ	3582
英検／IELTSⅢB	1116	キャリア・デザインA	8
英検／IELTSⅣA	1121	キャリア・デベロップメントA	13
英検／IELTSⅣB	1126	キャリア入門	18
英語A	901	教育学Ⅰ	197
英語B	926	教育学Ⅱ	202
英語C	951	● 教育課程論	6487
英語D	971	● 教育原論	6492
英語E	991	● 教職実践演習（中・高）	6497
英語F	996	教育政策	3587
英語G	1001	● 教育制度論	6502
英語H	1006	● 教育相談	6507
英語演習C	1011	● 教育の方法・技術論	6512
英語演習D	1021	行政学Ⅰ	3592
英語演習G（木曜3時限）	1031	行政学Ⅱ	3612
英語演習H（金曜4時限）	1041	行政管理研究	3632
映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	3426	行政管理論	3637
映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	3431	行政広報研究	3642
カ		行政広報論	3647
会計学Ⅰ	3436	行政実務演習	3652
会計学Ⅱ	3446	行政組織研究	3657
外国ジャーナリズム史B	3456	行政組織論	3662
外国法A（アジア）Ⅰ	3462	行政法Ⅰ	3667
外国法A（EU）Ⅰ	3467	行政法Ⅱ	3695
外国法A（EU）Ⅱ	3472	共通科目特論 A（ティーチング・スキル）	23
外国法A（英米）Ⅰ	3477	教養演習ⅠA	207
外国法A（英米）Ⅱ	3487	教養演習ⅠB	222
外国法A（仏）Ⅰ	3497	金融商品取引法Ⅰ	3716
外国法A（仏）Ⅱ	3502	金融商品取引法Ⅱ	3722
外国法B（アジア）Ⅰ	3507	金融法Ⅰ	3727
外国法B（EU）Ⅰ	3512	金融法Ⅱ	3732
外国法B（EU）Ⅱ	3517	ク	
外国法B（英米）Ⅰ	3522	グローバル・コミュニケーションⅠ	3737
外国法B（英米）Ⅱ	3532	ケ	
学際教養A【東京の社会文化史】	147	経営学Ⅰ	3742
学際教養B【近代日本の戦争と社会】	162	経営学Ⅱ	3767

経営管理論	3792	公共経済学Ⅱ	4395
経営情報システム論Ⅰ	3797	公共政策基礎演習	4400
経営情報システム論Ⅱ	3802	公共政策特殊講義A	4445
経営組織論	3807	公共政策特殊講義B	4450
経営分析論	3812	公共政策論	4455
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	3817	公共選択論	4460
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	3822	広告コミュニケーションⅠ	4465
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅰ	3827	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	4470
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅱ	3832	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	4475
経済学Ⅰ	3837	公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	4480
経済学Ⅱ	3857	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	4485
経済行政法Ⅰ	3877	公務員制度論	4490
経済行政法Ⅱ	3882	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	4495
経済刑法Ⅰ	3887	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	4500
経済刑法Ⅱ	3892	国際関係史Ⅰ	4505
経済史	3897	国際関係史Ⅱ	4520
経済思想史Ⅰ	3902	国際関係法〔公法系〕AⅠ	4535
経済思想史Ⅱ	3907	国際関係法〔公法系〕AⅡ	4545
刑事政策Ⅰ	3912	国際関係法〔公法系〕BⅠ	4555
刑事政策Ⅱ	3917	国際関係法〔公法系〕BⅡ	4565
経済政策論	3922	国際関係法〔私法系〕AⅠ	4575
経済法Ⅰ	3927	国際関係法〔私法系〕AⅡ	4580
経済法Ⅱ	3932	国際関係法〔私法系〕BⅠ	4585
警察政策	3937	国際関係法〔私法系〕BⅡ	4595
刑事訴訟法Ⅰ	3942	国際関係論Ⅰ	4605
刑事訴訟法Ⅱ	3970	国際関係論Ⅱ	4610
刑事法Ⅰ	3984	国際金融論Ⅰ	4615
刑事法Ⅱ	3994	国際金融論Ⅱ	4620
刑事法特殊講義ⅠA	4004	国際経営論Ⅰ	4625
刑事法特殊講義ⅠB	4019	国際経営論Ⅱ	4630
刑事法特殊講義ⅡA	4034	国際経済法Ⅰ	4635
刑事法特殊講義ⅡB	4044	国際経済法Ⅱ	4640
刑事法特殊講義ⅢA	4054	国際経済論Ⅰ	4645
刑事法特殊講義ⅢB	4059	国際経済論Ⅱ	4650
刑事法特殊講義ⅣA	4064	国際契約法Ⅰ	4655
刑事法特殊講義ⅣB	4069	国際契約法Ⅱ	4660
芸術論Ⅰ	237	国際研修（英）ⅠA	1191
芸術論Ⅱ	257	国際研修（英）ⅠB	1201
刑法Ⅰ	4074	国際研修（中）ⅠA	2906
刑法Ⅱ	4123	国際研修（中）ⅠB	2911
計量経済学	4166	国際研修（独）ⅠA	2163
計量政治学	4171	国際研修（独）ⅠB	2168
原価計算論Ⅰ	4176	国際研修（仏）ⅠA	2515
原価計算論Ⅱ	4181	国際研修（仏）ⅠB	2520
健康科学Ⅰ	277	国際政治学Ⅰ	4665
健康科学Ⅱ	287	国際政治学Ⅱ	4675
● 現代教職論	6517	国際取引法AⅠ	4685
現代行政論Ⅰ	4186	国際取引法AⅡ	4690
現代行政論Ⅱ	4191	国際取引法BⅠ	4695
現代公共論	4196	国際取引法BⅡ	4700
現代政治理論	4201	国際民事紛争処理法Ⅰ	4705
現代メディア社会論Ⅰ	4216	国際民事紛争処理法Ⅱ	4710
現代メディア社会論Ⅱ	4221	国会論	4715
憲法Ⅰ（人権）	4226	コミュニケーションの科学A	4720
憲法Ⅱ（統治機構）	4276	コミュニケーションの科学B	4725
憲法A（人権）	4325	コンピュータ・リテラシーA	33
憲法B（統治機構）	4355		
コ		サ	
公共経営論	4385	債権法各論	4730
公共経済学Ⅰ	4390	債権法総論	4735
		財政学Ⅰ	4740

財政学Ⅱ	4745
財務諸表論Ⅰ	4750
財務諸表論Ⅱ	4755
産学連携と知的財産Ⅰ	4760
産学連携と知的財産Ⅱ	4765
産業技術と知財A（情報通信）Ⅰ	4770
産業技術と知財A（情報通信）Ⅱ	4775
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅰ	4780
産業技術と知財C（バイオ・環境化学）Ⅰ	4785
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅰ	4790
産業立地論	4795
シ	
自主創造の基礎Ⅰ	103
自主創造の基礎Ⅱ	108
自然人類学Ⅰ	297
● 自然地理学概論Ⅰ	6522
● 自然地理学概論Ⅱ	6527
ジャーナリズム演習Ⅰ	4800
ジャーナリズム演習Ⅱ	4805
ジャーナリズム演習Ⅲ	4810
ジャーナリズム・スタディーズⅠ	4815
ジャーナリズム・スタディーズⅡ	4820
ジャーナリズム倫理Ⅰ	4825
ジャーナリズム倫理Ⅱ	4830
社会学Ⅰ	302
社会学Ⅱ	327
● 社会科・公民科教育法Ⅰ	6532
● 社会科・公民科教育法Ⅱ	6542
● 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	6552
● 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	6567
社会思想の歴史Ⅰ	352
社会思想の歴史Ⅱ	357
社会情報システム研究	4835
社会情報システム論	4840
社会政策論Ⅰ	4845
社会政策論Ⅱ	4850
社会調査概論	4855
社会保障法Ⅰ	4860
社会保障法Ⅱ	4865
社会保障論Ⅰ	4870
社会保障論Ⅱ	4875
宗教学Ⅰ	362
宗教学Ⅱ	367
出版メディアⅠ	4880
少年法Ⅰ	4885
少年法Ⅱ	4890
商法Ⅰ（会社法）	4895
消防政策	4930
情報通信政策	4935
情報の科学Ⅰ	4940
情報の科学Ⅱ	4945
情報法Ⅰ	4950
情報法Ⅱ	4955
人材マネジメント論Ⅰ	4960
人材マネジメント論Ⅱ	4965
● 人文地理学概論Ⅰ	6582
● 人文地理学概論Ⅱ	6587
心理学Ⅰ	372
心理学Ⅱ	397
ス	

数学Ⅰ	422
数学Ⅱ	427
スピーキング・リスニング（中）ⅠA	2916
スピーキング・リスニング（中）ⅠB	2921
スピーキング・リスニング（中）ⅡA	2926
スピーキング・リスニング（中）ⅡB	2931
スピーキング・リスニング（中）ⅢA	2936
スピーキング・リスニング（中）ⅢB	2941
スピーキング・リスニング（独）ⅠA	2173
スピーキング・リスニング（独）ⅠB	2198
スピーキング・リスニング（独）ⅡA	2223
スピーキング・リスニング（独）ⅡB	2233
スピーキング・リスニング（独）ⅢA	2243
スピーキング・リスニング（独）ⅢB	2248
スピーキング・リスニング（仏）ⅠA	2525
スピーキング・リスニング（仏）ⅠB	2545
スペイン語ⅠA	3026
スペイン語ⅠB	3032
スペイン語ⅡA	3037
スペイン語ⅡB	3043
セ	
西欧政治思想史Ⅰ	4970
西欧政治思想史Ⅱ	4980
政策過程論	4985
政策研究A	4990
政策評価論	4995
政策法務論	5000
政治学Ⅰ	5005
政治学Ⅱ	5035
政治学原論	5065
政治過程論	5080
政治経済原書研究A	5085
政治経済原書研究B	5095
政治経済専門研究A	5105
政治経済専門研究B	5115
政治コミュニケーション	5130
政治制度論	5135
政治哲学	5140
精神分析学Ⅰ	432
● 生徒指導・進路指導論	6592
税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	5145
税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	5155
税法ⅡA（所得税法）	5165
税法ⅡB（法人税法）	5175
税法ⅢA（資産税法）	5185
税法ⅢB（消費・諸税法）	5195
生命の科学Ⅰ	442
生命の科学Ⅱ	447
● 西洋史概論Ⅰ	6597
● 西洋史概論Ⅱ	6602
西洋政治史Ⅰ	5205
西洋政治史Ⅱ	5215
西洋の歴史Ⅰ	452
西洋の歴史Ⅱ	457
西洋法制史Ⅰ	5220
西洋法制史Ⅱ	5230
世界文学Ⅰ	462
世界文学Ⅱ	487
選挙制度論	5240
専門演習A	5245

専門演習B	5265	ドイツ語演習C（第二部水曜2時限）	2003
専門演習C	5290	ドイツ語演習D（第二部水曜2時限）	2018
専門演習D	5310	ドイツ語演習G	2033
ソ		ドイツ語演習H	2063
総合講座A【芸術/文学/思想と「危機」】	512	ドイツ語基礎表現A	1763
総合講座B【ジェンダーから考える現代社会】	522	ドイツ語基礎表現B	1818
ソーシャル・キャピタル論	5335	ドイツ語基礎文法A	1873
タ		ドイツ語基礎文法B	1938
体育実技I A	3090	ドイツ語資格試験対策I A	2103
体育実技I B	3167	ドイツ語資格試験対策I B	2113
体育実技I C（バレーボール）	3249	ドイツ語資格試験対策II A	2123
体育スポーツ科学I	527	ドイツ語資格試験対策II B	2138
体育スポーツ科学II	532	ドイツ語資格試験対策III A	2153
チ		ドイツ語資格試験対策III B	2158
地域開発論	5341	統計学I	619
地域コミュニケーションA	5346	統計学II	624
地域政策	5351	倒産法I	5491
地球科学I	537	倒産法II	5496
地球科学II	548	● 道德教育の理論と方法	6627
● 地誌学概論I	6607	● 東洋史概論I	6632
● 地誌学概論II	6612	● 東洋史概論II	6642
知的財産英語	5356	東洋法制史I	5501
知的財産法A（特許・実用新案）I	5361	東洋法制史II	5506
知的財産法A（特許・実用新案）II	5376	TOEIC I A	1211
知的財産法B（意匠）	5391	TOEIC I B	1261
知的財産法C（商標・不正競争）	5396	TOEIC II A	1311
知的財産法D（著作権）I	5401	TOEIC II B	1372
知的財産法D（著作権）II	5411	TOEIC III A	1433
知的財産法E（関連条約）I	5421	TOEIC III B	1448
知的財産法E（関連条約）II	5426	TOEIC IV A	1463
知的財産政策	5431	TOEIC IV B	1473
地方財政論I	5436	TOEFL I A	1131
地方財政論II	5441	TOEFL I B	1141
地方自治法I	5446	TOEFL II A	1151
地方自治法II	5451	TOEFL II B	1161
地方自治論I	5456	TOEFL III A	1171
地方自治論II	5471	TOEFL III B	1176
中国語演習C	2796	TOEFL IV A (iBT)	1181
中国語演習D	2816	TOEFL IV B (iBT)	1186
中国語演習G	2836	● 特別活動論	6652
中国語演習H	2851	● 特別支援教育概論	6658
中国語基礎文法A	2676	都市政策	5511
中国語基礎文法B	2736	ニ	
中国語資格試験対策I A	2876	日本経済論I	5516
中国語資格試験対策I B	2881	日本経済論II	5521
中国語資格試験対策II A	2886	日本語I	2956
中国語資格試験対策II B	2891	日本語II	2966
中国語資格試験対策III A	2896	日本語III	2976
中国語資格試験対策III B	2901	日本語IV	2981
中国語基礎表現A	2566	日本語V	2986
中国語基礎表現B	2621	日本語VI	2996
調査ジャーナリズム	5486	日本語VII	3006
地理学I	559	日本語VIII	3016
地理学II	569	日本国憲法	113
テ		● 日本史概論I	6662
哲学I	579	● 日本史概論II	6672
哲学II	599	日本ジャーナリズム史I	5526
● 哲学概論I	6617	日本ジャーナリズム史II	5531
● 哲学概論II	6622	日本政治過程論	5536
ト		日本政治史I	5541

日本政治史Ⅱ	5551
日本政治思想史Ⅰ	5561
日本政治思想史Ⅱ	5566
日本政治論Ⅰ【水曜3限】	5571
日本政治論Ⅱ【水曜3限】	5581
日本大学の歴史	123
日本の近現代Ⅰ	629
日本の近現代Ⅱ	634
日本の自然A	639
日本の自然B	644
日本の社会A	649
日本の社会B	654
日本の前近代Ⅰ	659
日本の前近代Ⅱ	664
日本の文化A	669
日本の文化B	674
日本文学Ⅰ	679
日本文学Ⅱ	704
日本法制史Ⅰ	5591
日本法制史Ⅱ	5596
ニュース英語Ⅰ	5601
ニュース英語Ⅱ	5621
ノ	
農業政策	5641
ハ	
● 発達と学習【新課程】	6682
発展教養A【中国思想の成立】	729
発展教養B【中国思想の発展】	744
犯罪心理学	5646
ヒ	
比較行政論	5651
比較憲法Ⅰ	5656
比較憲法Ⅱ	5661
比較ジャーナリズム史	5666
比較政治学	5671
東アジア経済論	5676
東アジア政治論Ⅰ	5681
東アジア政治論Ⅱ	5686
フ	
フォト・ジャーナリズム	5691
福祉契約論	5701
福祉政策	5706
物権・担保物権法	5711
フランス語演習C	2443
フランス語演習D	2459
フランス語演習G	2475
フランス語演習H	2480
フランス語基礎表現A	2263
フランス語基礎表現B	2308
フランス語基礎文法A	2353
フランス語基礎文法B	2398
フランス語資格試験対策ⅠA	2495
フランス語資格試験対策ⅠB	2500
フランス語資格試験対策ⅡA	2505
フランス語資格試験対策ⅡB	2510
文化人類学Ⅰ	759
文化人類学Ⅱ	764
文章表現法Ⅰ	769
文章表現法Ⅱ	804
ヘ	

平和学	5716
ホ	
法医学Ⅰ	5721
法医学Ⅱ	5726
防衛政策	5731
法学Ⅰ	5736
法学Ⅱ	5781
法学演習AⅠ（憲法基礎演習）	5791
法学演習AⅡ	5806
法学演習BⅠ	5821
法学演習BⅡ	5836
法学演習EⅠ	5851
法学演習EⅡ	5856
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅰ	5861
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅱ	5866
法思想史Ⅰ	5871
法思想史Ⅱ	5881
法哲学Ⅰ	5891
法哲学Ⅱ	5896
法律外国語AⅠ【経営法学科】	5901
法律外国語AⅡ【経営法学科】	5906
法律外国語BⅠ	5911
法律外国語BⅡ	5916
簿記原理Ⅰ	5921
簿記原理Ⅱ	5936
マ	
マーケティング戦略論Ⅰ	5951
マーケティング戦略論Ⅱ	5956
マーケティング論Ⅰ	5961
マーケティング論Ⅱ	5971
マクロ経済学Ⅰ	5981
マクロ経済学Ⅱ	5996
ミ	
ミクロ経済学Ⅰ	6006
ミクロ経済学Ⅱ	6021
民事執行・保全法	6031
民事訴訟法	6038
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	6066
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	6071
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）A	6076
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）B	6081
民事法特殊講義Ⅲ（会社法）A	6086
民事法特殊講義Ⅲ（会社法）B	6091
民事法特殊講義Ⅳ（商法）A	6096
民事法特殊講義Ⅳ（商法）B	6101
民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	6106
民事法特殊講義Ⅵ（商業登記法）	6111
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）A	6116
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）B	6121
民法Ⅰ（民法総則）	6126
民法Ⅳ（債権法総論）	6189
民法Ⅴ（債権法各論）【法職課程】	6217
民法Ⅵ（親族法）	6252
民法Ⅶ（相続法）	6267
民法総則	6282
メ	
メディア演習Ⅰ	6287
メディア・コミュニケーションの科学A	6292
メディア・コミュニケーションの科学B	6297
メディア史	6302

メディア／情報産業Ⅰ	6307	ロシア語ⅠB	3073
メディア調査	6312	ロシア語ⅡA	3078
メディア・テキストの基礎Ⅰ	6317	ロシア語ⅡB	3083
メディア・テキストの基礎Ⅱ	6322	論理学Ⅰ	869
メディア・テキストの基礎Ⅲ	6367	論理学Ⅱ	884
メディア・ビジネス	6382		
メディア法Ⅰ	6389		
メディア法Ⅱ	6394		
メディア理論	6399		
ヨ			
ヨーロッパ経済論	6404		
ヨーロッパ政治論Ⅰ	6409		
ヨーロッパ政治論Ⅱ	6414		
ラ			
WritingⅠA	1743		
WritingⅠB	1748		
WritingⅡA	1753		
WritingⅡB	1758		
WritingⅢA	1733		
WritingⅢB	1738		
リ			
ReadingⅠA	1593		
ReadingⅠB	1623		
ReadingⅡA	1653		
ReadingⅡB	1688		
ReadingⅢA	1723		
ReadingⅢB	1728		
リーディング・ライティング(中)ⅠA	2866		
リーディング・ライティング(中)ⅠB	2871		
リーディング・ライティング(中)ⅡA	2946		
リーディング・ライティング(中)ⅡB	2951		
リーディング・ライティング(独)ⅠA	2093		
リーディング・ライティング(独)ⅠB	2098		
リーディング・ライティング(独)ⅡA	2253		
リーディング・ライティング(独)ⅡB	2258		
リーディング・ライティング(仏)ⅠA	2485		
リーディング・ライティング(仏)ⅠB	2490		
リスク・コミュニケーション	6419		
Listening & SpeakingⅠA(金曜5時限)	1483		
Listening & SpeakingⅠB(金曜5時限)	1508		
Listening & SpeakingⅡA	1533		
Listening & SpeakingⅡB	1548		
Listening & SpeakingⅢA	1563		
Listening & SpeakingⅢB	1573		
Listening & SpeakingⅣA	1583		
Listening & SpeakingⅣB	1588		
立法過程論	6425		
倫理学Ⅰ	839		
倫理学Ⅱ	854		
● 倫理学概論Ⅰ	6687		
● 倫理学概論Ⅱ	6697		
ロ			
労働事情	6430		
労働政策	6435		
労働法Ⅰ	6440		
労働法Ⅱ	6450		
ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	6460		
ローマ法Ⅰ	6465		
ローマ法Ⅱ	6475		
ロシア語ⅠA	3068		

I 群

共通科目

I 群

共通科目

科目名	インターンシップA	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミュニケーション・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。

【履修条件】
第2学年又は、第3学年でメディア関連企業就職希望者。初回講義出席必須。志望業界毎にグループ分けし、第2回よりグループ毎実習開始。

【授業方法】		
志望業界毎に編成したグループで業界研究を行いグループ発表する。夏季休業中に実施されるインターンシップ実習へのエントリーを行う（後学期履修者はインターンシップ経験者の場合はその発表をする）。現業に携わるゲストスピーカーによる特別講習を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる業界研究及び発表、グループ討論は、必ずしも講座時間中だけでなく、発表の為のグループ打ち合わせ等も含む(ピア評価を取り入れる)、模擬面談（やり取りの直接評価）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。					4							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。						4						
③	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。							4					
④	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。								4				
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。									4			
⑥	自らの意思や、長所、短所を理解し、適切な業種選択は具体的な職種を見つけることができる。								4				
⑦	グループ討論などで司会やまとめ役を積極的に担当できる。											4	
⑧	エントリーシートで、自分の短所、長所を含め、インターンシップの志望動機や希望企業の分析等を説明できる。							4					
⑨	面談で、インターンシップ希望企業の志望理由、業界分析、自分の長所、短所がはきはきと説明できる。										4		
⑩	互いに志望する同じ業界の研究を共同して行うことができる。												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポート（ES）が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5		40			70
討論・発表等	第5～10回の講座におけるグループワークおよび打ち合わせのための討論において自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標⑦、⑨、⑩にかかわる意見表明が身についているかを評価する。（ピア評価）							10		5	5	20
授業への参画度	リアクションペーパーで毎回、授業理解度、参加度、自己表明度等を評価する。	1	1	1	1	1	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	6	6	6	6	10	10	40	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
業界研究発表は終了後その場での評価を述べ、レポート等は解説し、模擬面談、グループ討論などは事後に口頭で解説、指導する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないが、授業中に参考図書を示す。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 企業内セミナー（インターンシップとほぼ同じことを行い、時に選考を含む作業の企画実務）を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		グループ面談や個別面談等のモデルケースのやり取りを実際に行ってみて、他の受講生がそれを見てどう感じるか評価も含めて実践する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		インターンシップとキャリア形成／初回ガイダンス (志望業界の研究・発表の為にグループ分けを行うので、履修登録を悩んでいる者も必ず初回に出席すること)	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、仕事に就く意味や、勤労の意欲を理解、表明できる。		
	事前学修	マスコミ・メディア、Web各社のインターンシップの概要を調べておく。自らの第一志望、第二志望の業界業種を決めておく		180分
	事後学修	グループ分け後に連絡を取れるよう各グループでコミュニケーションを密に出来るようにする。		60分
2	各業界に分かれグループワーク (業界研究に着手)		業界研究についてのオリエンテーション／グループワーク 自ら志望する業界(新聞、出版、放送、広告、エンタテインメント、Web)に分かれて業界の歴史と現在の状況を研究するグループワークに着手する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑦、⑩に関連して、自らの志望する業界・企業の研究について、業界の歴史と社会的作用、自らの希望を加味して調べ、資料を分析し、グループ討論で意見表明できる。		
	事前学修	自身の志望業種を絞り、第1志望業界をグループ分けの根本にする。その業界の歴史、主な企業、自らの志望順位等の下調べをしておく		180分
	事後学修	グループワークでの業界研究に必要な情報を入手する方法を出版資料だけでなくWebなどでも調べ、発表に備える。		60分
3	インターンシップの実際を経験者から聞く①		実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く① 4年生などで3年次にインターンシップをした経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。(動画再生を含む)	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。		
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。		180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。		60分
4	インターンシップの実際を経験者から聞く②		実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く② 4年生などで3年次にインターンシップ経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。(動画再生を含む)	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。		
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。		180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。		60分
5	インターンシップの実際を経験者から聞く③		実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く③ 4年生などで3年次にインターンシップ経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。(動画再生を含む)	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。		
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。		180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。		60分
6	インターンシップの実際を経験者から聞く④		実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く④ 4年生などで3年次にインターンシップ経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。(動画再生を含む)	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。		
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。		180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゲストスピーカー①	マスコミ業界に求められる人材① 実際に見メディ・マスコミ業界で仕事をしているゲストスピーカーに話を聴き、業界に対する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、マスコミ・メディア業界に求められる人材について、ゲストスピーカーからの話の内容を分析、自らの志望に置き換えて応用できる。	
	事前学修	ゲストのプロフィール・業界企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
	事後学修	ゲストの話を聴いた上で、メディアに求められる人材について、実際のインターンシップで、申し込みからインターンシップ実施までの中で、評価に注意すべき点を確認しておく。	60分
8	ゲストスピーカー②	マスコミ業界に求められる人材② 実際に見メディ・マスコミ業界で仕事をしているゲストスピーカーに話を聴き、業界に対する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、マスコミ・メディア業界に求められる人材について、ゲストスピーカーからの話の内容を分析、自らの志望に置き換えて応用できる。	
	事前学修	ゲストのプロフィール・業界企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
	事後学修	ゲストの話を聴いた上で、メディアに求められる人材について、実際のインターンシップで、申し込みからインターンシップ実施までの中で、評価に注意すべき点を確認しておく。	60分
9	グループディスカッション	業界研究グループ別に、学生同士で、あるテーマに関して、設定時間内で討論を行う。	
	この回の到達目標	達成されるべき具体的行動③～⑦に関連して、あるテーマに関して業界研究グループ内で、設定時間内で討論を行い、自由な発想で積極的に討論に加わる事。	
	事前学修	過去、自分の業界でグループ討論でた、テーマなどを調べ実際に話してみる。	180分
	事後学修	実際に討論した内容で良かったかどうか反省と、評価をどうされるのか考える。	60分
10	模擬面接	受講生全体から希望者に、公開により、模擬面接を実施する（3対1、1対1）等、1回10～15分実施。	
	この回の到達目標	達成されるべき具体的行動①～⑨に関連して、面談で自らの志望業界の具体的企業の志望動機、自己PR等を具体的に話すことが出来る。	
	事前学修	自らの志望業界の具体的企業の志望動機、自己PR等を改めて検討し、口頭で言えるように練習をする。	180分
	事後学修	実際に、公開で面接を客観的に見てみて、学生はどう映っているか、どうしたら自分の意思を分かってもらえるか、志望動機等を理解してもらえるか、採用につなげることが出来るか分析する。	60分
11	インターンシップ一般公募対策ESの書き方の基礎	インターンシップ一般公募対策 第一志望企業に出すESを提出する。志望理由は詳しく、わかりやすく、質問には具体的に答えるなどESの書き方の基礎を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。	
	事前学修	模擬ESにできるだけ詳しくわかりやすく、具体的に記入し当日提出する。	180分
	事後学修	講座を聴いて改めて自分の書いたESを推敲しブラッシュアップする。	60分
12	業界研究発表① 新聞業界/出版業界 (Web含む)	業界研究発表① 新聞業界/出版業界 グループ研究発表&ディスカッション 新聞業界・出版業界両ES提出。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
	事前学修	受講生は新聞業界・出版業界について基本的なことを知っておく。発表者はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	業界研究発表② 広告業界/放送業界 (Web含む)		業界研究発表② 広告業界/放送業界 グループ研究発表&ディスカッション 広告業界・放送業界両ES提出。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	受講生は広告業界・放送業界について基本的なことを知っておく。 発表者はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。		180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		60分
14	業界研究発表③エンタテインメント業界 (Web含む)		業界研究発表③ エンタテインメント業界についてグループ研究発表&ディスカッション エンタテインメント業界ES提出。 エンタテインメント業界ジャンル(映画、音楽・ライブ、芸能・コンテンツ)	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	受講生はエンタテインメント業界について基本的なことを知っておく。 発表者はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。		220分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		20分
15	ES解説と講座前期総括		ES解説と講座前期総括 前回講座で提出されたESの傾向や、注意事項を開設府フィードバックし、具体的に描く、詳細に書く、分かりやすく書くとはどういうことか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①、⑥、⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。 自らの提出ESと比べ、欠点を補い修正ができる。		
	事前学修	インターンシップAの講座について、要点と質問をまとめて記しておく。		40分
	事後学修	最終的に自らの志望するインターンシップの日程を確認しESを実際を書く		200分

科目名	キャリア・デザインA	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
働く際に必要となる労働事情や労働法制の概略を説明するとともに、キャリアに関する理論、施策などキャリアデザインを考えるうえで必要となる事項について説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情や労働法制の状況を理解したうえで、大学卒業後の長い職業生涯について、自律的に考え、適切に行動できるように学修する。

【履修条件】
キャリア入門の受講者及び単位取得者の受講は奨励しない。

【授業方法】
担当教員の講義を中心に進めるが、可能であれば適宜グループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働事情と労働法制について説明することができる。						2	2						
②	キャリアに関する理論を説明することができる。						2	2						
③	就職に向けて企業情報を収集できる。						2	2						
④	自身のキャリアデザインを描き、実行することができる。						2	2			2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを評価する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	15	15	10	40							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション（履修者数によっては実施しない）の内容をプレゼンテーションする際に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	本講義の進め方と自らのキャリア形成の方向性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関し、講義の進め方と、自分の取り組むべきキャリア形成の方向性について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	労働法の基礎知識	職業生活を送る上で必要な労働法（労働条件関係）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、職業生活を送る上で必要な労働法、労働政策について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	労働法の基礎知識	職業生活を送る上で必要な労働法（ハラスメント）、社会保障制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、保険、年金等職業生活を送る上で必要な社会保障制度について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
4	キャリアコンサルティング	キャリアコンサルティングについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関し、日本版o-netを用い、自らの職業適性等について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	賃金制度	企業の賃金制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、賃金制度、生涯所得の設計、リストラ手段等について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	労働時間、ワークライフバランス	企業の労働時間制度とワークライフバランスの実現に向けた取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、企業の労働時間、ワークライフバランスを実現するための方策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	女性をとりまく労働環境	女性をとりまく労働環境について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、女性をとりまく労働環境、次世代支援と女性活躍推進の考え方について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
8	若者の就労事情	若者の就労事情について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、若者の就労事情、就職氷河期世代やフリーターの実情について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
9	企業情報の収集	企業情報の収集と評価について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、企業情報の収集の方法、法令に基づき公表されている企業情報の種類、それらの評価の方法について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
10	公務員の働き方	公務員の働き方（キャリアパス等）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、公務員の働き方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
11	公務員の働き方	公務員の働き方（労働条件等）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、公務員の働き方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
12	企業の求める人材	企業の人事担当者（ゲストスピーカー）の講話を聴き、企業の求める人材像について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、企業が求める人材と自らのキャリアを比較し、自分の取り組むべきキャリア形成の方向性について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働組合関係者による講話	労働組合幹部（ゲストスピーカー）の講話を聴き、労働組合の意義等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、労働組合幹部の講話、質疑応答等を通じ、労働組合の意義等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	公務員による講話	公務員（ゲストスピーカー）による講話を聴き、国家公務員として働くの醍醐味、求められる能力等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関し、国家公務員として求められる資質、能力等について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	総括	これまでの授業で学んだこと等から自らのキャリア形成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、自らのキャリア形成と職業人生の方向性についてイメージし、説明することができる。、	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
共通科目として、法学部全学生が受講可能。レポート課題・討論の内容から、マスコミ志望学生が適するが、一般企業、公務員等志望にも受講可能。

【授業方法】
受講生の発言や討論によって授業進め、受講生が、多人数の前で意見表明しやすくする。専門性の高いゲストを呼ぶこともあり、授業毎にリアクションペーパーを書かせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討論はピア評価を使用し、「自己分析発表」第6～7講）「発表」（第5講） 「将来の青図を描いて発表する」は、発表後直接評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】		3						
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【知識】			3					
③	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】		3						
④	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【技能】			3					
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】						3		
⑥	グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。 【態度】							3	
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。【態度】							3	
⑧	発表で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がはきはきと説明できる。【態度】							3	
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	40				70
討論・発表等	適職発表、将来の自分像、自己紹介、において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						10		10			20
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求める。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	15	40	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワーク、レポート、発表等は終わった後随時、解説指導を加える時間を取る。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業採用試験での面接員、評価、採用試験企画担当、リクルート担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		人材の望まれ方、仕事に対する知識、情熱、判断力等の披歴やコミュニケーション能力を磨く課題を提示し、実践できるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション 仕事をするために。 これからのキャリアデベロップメントAをどう進めていくかシラバスを中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
	事前学修	アルバイト、パートタイムワーク等を通じて、働くとは何かどんな意味を持つか、800字程で書いておく。	120分
	事後学修	仕事の選択のためにやらなければならない事、特に自己分析、他己分析について、友人知人に聞く準備をしておく。 今回の自己紹介1分を考える。	120分
2	何故仕事をするか① 仕事をする意味・自己紹介	何故仕事に就くか① 仕事をする意味 何のために働くか、労働とはどういうことか。 正社員・契約社員・総合職・一般職・起業・個人事業主などの 入社試験・職場で必ず必要になる自己紹介受講生全員1分ずつ実際にやってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。 自己紹介を実践できる。	
	事前学修	仕事をする。仕事に就くとはどういう事か考えてみる。自己実現、社会貢献、協調協力、経済活動等思いつくことを すべてあげて記してみる。自己紹介を考えておく。	120分
	事後学修	どんな方向の仕事だったらやりたいか、業界・業種を考得てみる。 自己紹介の内容を反省検討する。	120分
3	何故仕事をするか②	何故仕事に就くか② 仕事をする意味が分かったら、好きな事を仕事にするか、好きなことは 取って趣味として仕事をしていないときにするか。受講者が考えを述べながら探る。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
	事前学修	好きなことを仕事として行うか、それとも好きなことは趣味などで、仕事をしていない時にするか、自分はどちらを 取るか考えておき、講座で意見を出し合う	180分
	事後学修	講座を聴き改めて考察する。	60分
4	自己分析① 分析の仕方	自己分析① 分析の仕方、課題提示 自分はどんな仕事に向いているか自己分析、するとともに、 知人や自分に近い人などに自分の向く仕事や、他から見える自分の性格等を聞いた他己分析 をした結果を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③、および④に関連して自らの適職等の分析と、周辺の人に尋ね他から見た適職、向く業種等の分析ができ、 表明できる。	
	事前学修	自らどんな仕事に向いているか考察した上で、友人知人に、自分はどんな仕事に向いていると思うか授業前に聞いて おく他己分析を行っておく。自らの考えと一致していればよいが、一致していなかった場合は、何故なのか考えてい みる。	180分
	事後学修	改めて、自己分析と他人からの意見を総合して、自らの進路を考えてみる。(2時間)	60分
5	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。 課題： 生涯の青図を描いて発表する。 5年後、10年後、15年後、20年後の自分の理想は 何かどうありたいか。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、5年後、10年後、15年後、20年後の自分があるべき希望の姿がどうありたいかを考える	
	事前学修	5年後、10年後、15年後、20年後の自分について、どうありたいか考察し記し、発表の準備をする。	180分
	事後学修	他の学生の発表や意見表明と比較して、自らの将来を再考してみる。	60分
6	自己分析③	自己分析③受講生が自己分析を書面化し発表をする。① 自分がどんな人間か平易な言葉で書面化並びに、発表できる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、自己分析のわかりやすく親しみ易い言葉を使い書面化、及び人の前 で発表が出来る。	
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、書 面及び、口頭で発表準備をする。	180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己分析結果を反省、書面化、発表状況を改善する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自己分析④	自己分析④受講生が自己分析を书面化し発表をする②。 自分がどんな人間か平易な言葉で书面化並びに、発表できる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、自己分析のわかりやすく親しみやすい言葉を使い书面化、及び人の前で発表が出来る。	
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、書面及び、口頭で発表準備をする。	180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己分析結果を反省、书面化、発表状況を改善する。	60分
8	業界研究（Ⅰ） 出版物、Web情報での研究	業界研究（Ⅰ） 自らの目指すところとは何か？ 出版資料等での分析と最新資料をWebで検索して研究する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。	
	事前学修	自らの目指す仕事、業界等を大まかでもいいから決めて、その業界仕事の成り立ち、社会的貢献度、自らの抱く好感度などを記し、事前に興味のある会社や仕事の順に重要度の高いものから調べる。	180分
	事後学修	講座を聞いてみて、再び自己分析を利用して自分の職業を具体的に考えてみる。	60分
9	業界研究（Ⅱ） OB・OGからの情報	業界研究（Ⅱ） Web、書籍をはじめキャリアセミナー、OB・OGからの情報を分析する。 OBGからの確実な経験情報を得るのは重要であるが、そうした手立てをどうつけるか等を講座で明らかにする。	
	この回の到達目標	達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。	
	事前学修	方向が決まれば、実際の業界研究に着手し資料づくりを始める。	120分
	事後学修	情報の整理をする。どんな情報が自分に足りないか、何を得るべきか整理し、小野情報を得る手法を考える。	120分
10	インターンシップ（Ⅰ） 概要	インターンシップ 概要（Ⅰ）行ってみる。試してみる。調べてみる。殆どの企業が3年の夏から秋にかけて行う。インターンシップは選考を兼ねる企業が年々増えている。その実態と対策を示す。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験することができる。	
	事前学修	インターンシップとは何か概要と時期を具体的に調べておく。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。	180分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。	60分
11	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話	インターンシップ（Ⅱ）インターンシップ経験者の話 これまでインターンシップを経験した先輩受講生から、経験談を聞き、自らの実践の参考にする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験する準備ができる。	
	事前学修	自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。	120分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。	120分
12	法学部学生として どう考えるか。	法学部学生であることと、一般常識 入社試験、面接の常識・非常識 この講座の先にある、採用試験を見据え、その場で必ずある一般常識や筆記試験で、法学部性として知っておくべき事柄を示す。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、法学部学生として、知っておくべき一般常識や、法知識について説明、実践できる。	
	事前学修	法律用語・一般常識の入社試験問題集を実際に解いてみる。	120分
	事後学修	法学部学生として、専門知識がきちんと身についたか。また、改めて自己分析と自己紹介の練習をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポート講座内 課題	仕事について。何を目指してきたか、自分にとっての仕事とは何か。仕事の対価として給与をもらうとはどういうことが、また起業するかなど、様々な仕事に対する考え方を踏まえレポートを講座内で70分で仕上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、仕事についての講座内レポートを制限時間内に書ける。	
	事前学修	レポート課題を制限時間内に書けるように、あらかじめ出された課題を時間に合わせて書く。	180分
	事後学修	提出したレポート内容をもう一度考察してチェックする。	60分
14	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカー招聘 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。実際に就職し、仕事をしながら生活している先輩の話を聞く。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、ゲストスピーカーの話の内容を自らの職業選びの参考にできる。	
	事前学修	ゲストのプロフィールをよく読み、必ず質問できるように質問内容を考えておく。	120分
	事後学修	仕事選びについて、ゲストの話の中で実行できるものを直ちにすぐ実行に移す。	120分
15	提出したレポート講座内課題解説、講座まとめ	レポートの解説とまとめ、質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧について、本講座で実践した自己分析、他己分析、自己紹介等を使い、自らの提出したレポートについて、自ら評価分析し、足りない点を補うことが出来る。	
	事前学修	これまでの講座の重要事項をまとめて記しておく。	120分
	事後学修	インターンシップや採用試験に進めるようにエントリーシートの準備をする。	120分

科目名	キャリア入門	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
キャリアデザインの必要性、手法、支援施策とともに、キャリアデザインを考える際に必要となる労働をめぐる諸事情について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
長い職業生活において、自らのキャリア形成を考え、行動していくために、キャリアデザインの重要性を理解し、自らのキャリアデザインを描く能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
担当教員による講義を中心に行うが、学生の理解を促進するために、必要に応じ、グループディスカッションを行うほか、目標への到達度を把握するため、小テストを行い、レポートを課すことがある。 また、企業人事担当者、労働組合幹部の講話聴講を通じ学修を行う。 なお、ホット 이슈を積極的に取り上げるため、シラバスと授業内容が異なることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション（履修者数によっては実施しない。）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	キャリアデザインの必要性を認識し、それを描くことができる。				1	1			1		1	
②	自身のキャリアデザインを実現するために、具体的な行動をとることができる。				1	1			1		1	
③	労働環境にかかわる情報を収集し、それを活用することができる。				1	1			1			
④	自身のキャリアデザインと大学における学びを接続することができる。				1	1			1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①③に関わる基礎知識や態度を 評価する。	5		5								10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適 切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③ ④にかかわるリテラシー、知的姿勢および態度が身につい ているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等	グループ討議における討議への参加等により、②④を評価 する。		5		5							10
授業への参画度	授業への参画は、成績評価の前提となる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション（履修者数によっては実施しない）の内容の発表時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約のこと nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと講義（働くことの意味）	授業の目的、進め方を理解する。働くことの意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、働くことの意味について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、授業の目的、進め方について考えておく	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する	120分
2	働くことの意味と人生	標準的なライフステージ、生涯賃金、フリーターの実情等を通じ、働くことと人生との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、働くことの意味について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する	120分
3	自分探しとキャリア	自分の性格の特性や傾向とキャリア形成の意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、自分の性格の特性や傾向とキャリア形成の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
4	労働法（賃金、労働時間）	アルバイトに関連して労働法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、アルバイトする際に知っておかなければならない労働法（賃金、労働時間関係）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
5	労働法（労働保険等）	アルバイトに関連して労働法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、アルバイトする際に知っておかなければならない労働法（労働保険等）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
6	職業生涯と労働政策	職業生涯において労働政策がどのように関わっているのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、職業生涯において労働政策がどのように関わっているのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本的雇用システムの変容と主体的キャリア形成		日本的雇用システムの変容に伴い、企業の人材育成法も変わる中で、個人が主体的にキャリア形成に努めることの重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、日本的雇用システムの変容に伴い、企業の人材育成法も変わる中で、個人が主体的にキャリア形成に努めることの重要性について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
8	過重労働とワークライフバランス		いわゆる過重労働が生じる背景とワークライフバランスの必要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、いわゆる過重労働が生じる背景とワークライフバランスの必要性について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
9	女性をとりまく労働問題		女性をとりまく労働問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関し、女性をとりまく労働問題について、次世代育成の視点も含め、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
10	非正規雇用労働者		非正規雇用労働者をとりまく状況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、非正規雇用労働者をとりまく状況、働き方改革（いわゆる同一労働同一賃金）、雇用類似労働について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
11	ハラスメント		ハラスメントについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント、パワーハラスメントについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
12	労働組合		労働組合について、労働組合幹部（ゲストスピーカー）の話を聞いて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関し、労働組合幹部の話を聞いて、労働組合、個別労働紛争処理制度について理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業の求める人材像	企業の人事担当者（ゲストスピーカー）の話を聞いて、企業の求める人材像について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、企業の人事担当者の話を聞いて、企業の求める人材像について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
14	企業の実際のすがた	くるみん、えるぼし、ユースエール等の制度と実際にそれを獲得している企業について、情報収集の方法も含め、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関しくるみん、えるぼし、ユースエール等の制度とそれを獲得している企業の現状について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
15	総括	授業で学んだことを活かして自らのキャリアデザインについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、自らのキャリアデザインについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分

科目名	共通科目特論 A(ティーチング・スキル)	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
教育実習では、さまざまなティーチングスキルが求められる。模擬授業の経験を積み、地理教育・歴史教育・政治経済教育などを展開するにあたって、素材を探り出して教材づくりを追究する。この過程を通じて、検定教科書の記述・構成に関して、学科専門科目や教職の概論系科目の学びをあらためて確認するとともに、正確な理解をめざす。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会科」・「高等学校地理・歴史科」・「高等学校公民科」の教育職員免許状の取得をめざし、教育実習にのぞむ学生が、より多くの「模擬授業」を経験してティーチング・スキルの向上をはかる。

【履修条件】
教職課程履修者はもちろん、現在、予備校や塾講師、家庭教師をつとめている学生も歓迎します。

【授業方法】
教科教育法で学んだことをふまえて、学生が「教師役」「生徒役」となって、「学習指導案」を作成し、「模擬授業」をおこなう。「模擬授業」後には、「教師役」の評価をおこない、ティーチングスキルに関して履修者の向上をめざす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	模擬授業の取り組みと検討・評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会的課題と学習指導要領の内容の特色をともに指摘し、実践できる。						4	4						
②	自主的に講読した関連文献を踏まえて、歴史、地理、公民のカリキュラム構成を指摘し、かつ実践できる。						4		4	4				
③	授業での実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						4		4	4				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	模擬授業をおこない、到達目標の①②③の能力が身についているかを評価する	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	模擬授業についての検討・評価についての討論が、到達目標①②の能力が身についているかを評価する	15	15									30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に模擬授業の、次の授業時に学習指導案の添削等をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」を担当	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教職をめざす学生の君へ 教材資料の収集と教材の活用方法		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。教材資料の収集と教材の活用方法について教科教育法で学んだことを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教材資料の収集と教材の活用方法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理しておく。		60分
2	地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
3	年表・歴史地図等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、年表・歴史地図等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、年表・歴史地図等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
4	絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
5	文字史料・資料を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、文字史料・資料等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文字史料・資料を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
6	外交史料・資料を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、外交史料・資料等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外交史料・資料等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法律・法令を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、法律・法令を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法律・法令を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
8	経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
9	「地理総合」または「地理探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「地理」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「地理」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
10	「歴史総合」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「歴史総合」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「歴史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
11	「日本史探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「日本史探求」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日本史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
12	1「世界史探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「世界史探求」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「世界史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「公共」または「倫理」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価	教科教育法での学びと経験をふまえて、「公共」・「倫理」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「公共」・「倫理」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理して、具体的な教材研究に取り組む。	120分
14	「政治・経済」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価	教科教育法での学びと経験をふまえて、「政治・経済」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治・経済」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理、具体的な教材研究に取り組む。	120分
15	1まとめ 「学習指導案」の再作成	さまざまな資料を基にした教材研究方法を振り返りつつ、あらためて「学習指導案」を作成し、実践に取り入れをめざす。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、さまざまな資料を基にした教材研究方法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	いままでのシラバスの内容を確認し、学んだことを整理しておく。	90分
	事後学修	今までの授業で学んだことを、あらためて「学習指導案」を作成し、授業のイメージをおこなう。	120分

科目名	共通科目特論 A(ティーチング・スキル)	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
教育実習では、さまざまなティーチングスキルが求められる。模擬授業の経験を積み、地理教育・歴史教育・政治経済教育などを展開するにあたって、素材を探り出して教材づくりを追究する。この過程を通じて、検定教科書の記述・構成に関して、学科専門科目や教職の概論系科目の学びをあらためて確認するとともに、正確な理解をめざす。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会科」・「高等学校地理・歴史科」・「高等学校公民科」の教育職員免許状の取得をめざし、教育実習にのぞむ学生が、より多くの「模擬授業」を経験してティーチング・スキルの向上をはかる。

【履修条件】
教職課程履修者はもちろん、現在、予備校や塾講師、家庭教師をつとめている学生も歓迎します。

【授業方法】
教科教育法で学んだことをふまえて、学生が「教師役」「生徒役」となって、「学習指導案」を作成し、「模擬授業」をおこなう。「模擬授業」後には、「教師役」の評価をおこない、ティーチングスキルに関して履修者の向上をめざす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	模擬授業の取り組みと検討・評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会的課題と学習指導要領の内容の特色をともに指摘し、実践できる。						4	4						
②	自主的に講読した関連文献を踏まえて、歴史、地理、公民のカリキュラム構成を指摘し、かつ実践できる。						4		4	4				
③	授業での実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						4		4	4				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	模擬授業をおこない、到達目標の①②③の能力が身についているかを評価する	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	模擬授業についての検討・評価についての討論が、到達目標①②の能力が身についているかを評価する	15	15									30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に模擬授業の、次の授業時に学習指導案の添削等をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」を担当	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教職をめざす学生の君へ 教材資料の収集と教材の活用方法		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。教材資料の収集と教材の活用方法について教科教育法で学んだことを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教材資料の収集と教材の活用方法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理しておく。		60分
2	地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地図・分布図・グラフ等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
3	年表・歴史地図等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、年表・歴史地図等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、年表・歴史地図等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
4	絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、絵画資料・歴史遺跡等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
5	文字史料・資料を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、文字史料・資料等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文字史料・資料を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
6	外交史料・資料を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、外交史料・資料等を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外交史料・資料等を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法律・法令を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、法律・法令を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法律・法令を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
8	経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法とその実践		教科教育法の学びを振り返りつつ、経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法とその実践をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済関係のグラフ・指標を用いた教材研究法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
9	「地理総合」または「地理探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「地理」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「地理」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
10	「歴史総合」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「歴史総合」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「歴史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
11	「日本史探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「日本史探求」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日本史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分
12	1「世界史探求」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価		教科教育法での学びと経験をふまえて、「世界史探求」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「世界史総合」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理し、具体的な教材研究に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「公共」または「倫理」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価	教科教育法での学びと経験をふまえて、「公共」・「倫理」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「公共」・「倫理」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理して、具体的な教材研究に取り組む。	120分
14	「政治・経済」について作成した「学習指導案」に基づく模擬授業とその検討・評価	教科教育法での学びと経験をふまえて、「政治・経済」の学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。その検討と評価をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治・経済」の授業のポイント・留意事項について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、「教科教育法」で学んだ事項を確認し、さらに疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、みずから活用すべき事項等をノートに整理、具体的な教材研究に取り組む。	120分
15	1まとめ 「学習指導案」の再作成	さまざまな資料を基にした教材研究方法を振り返りつつ、あらためて「学習指導案」を作成し、実践に取り入れをめざす。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、さまざまな資料を基にした教材研究方法について説明できるとともに、自らの実践に取り入れることができる。	
	事前学修	いままでのシラバスの内容を確認し、学んだことを整理しておく。	90分
	事後学修	今までの授業で学んだことを、あらためて「学習指導案」を作成し、授業のイメージをおこなう。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
ファイルのコピー、ファイル名の変更、複数ファイルの選択といった基本的なコンピューターの操作ができること。これらが分からない場合は、講義2回目までに調べてください。

【授業方法】
教室にあるWindows PCか、各自が持参するWindowsまたはMacにMicrosoft365をインストールしたものを使用して講義を進めます。教科書は使用せず、講義開始前にGoogle Classroomに講義内容と使用するファイルのアドレスを書き込みます。成績は、講義中に作成する課題を評価します。期末の試験やレポート課題はありません。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義中に作成する提出をもとに、上記の到達目標①②③④の観点のとおり習得できているか総合的に評価します。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績の評価対象となる提出課題について、提出締切の翌週に解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールでimafuku.keill@nihon-u.ac.jp、または木曜3. 4限の講義後に直接質問してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法、ファイルの保存方法、持ち込みPCの利用方法、大学の無線LANでネットワークに接続する方法	講義の進め方、講義の準備、成績評価方法について説明する。講義で使用するソフトを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであり、どのようなソフトがあるか調べる。インターネットの正しい利用方法を調べる。	120分
	事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用するファイルの配布、保存、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	Word 文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。行内の文章の位置の変更、行間の調整をできるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトとはどのようなソフトウェアで、どのような機能があるか調べる。	120分
	事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	Word 図、表、グラフの作成	文章を装飾するスタイルを理解する。文章作成ソフトで図、表、グラフを作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトで図、表、グラフを作成する機能を調べる。スタイルとは何か調べる。	120分
	事後学修	文章作成ソフトで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	Word 章および節の番号設定、セクション区切り、図表の番号設定	章や節の番号、図、表の番号を自動設定し、本文中で参照できるようになる。異なるレイアウトのページを混在させるセクション区切りを理解する。章節を使って自動で目次を作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	長い文章で章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。図表番号をつける場所（用紙のヘッダー、フッター）を調べておく。	120分
	事後学修	章番号、図表番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	PowerPoint スライド作成とプレゼンテーション	プレゼンテーションソフトで資料を作る際の注意点を理解する。スライドマスターを使ってレイアウトを調整できるようになる。発表者ツールを使用してプレゼンテーションが出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	プレゼンテーションソフトとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
	事後学修	プレゼンテーションソフトを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
6	Excel 基本操作	セル幅の調整、セル範囲の選択、オートフィル、行の挿入と削除、セル範囲を中央揃え、セルの表示形式、検索、置換を出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
	事後学修	表計算ソフトで計算式を入力する際に重要となる、セルを参照する際に使う相対参照、絶対参照について理解できているか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Excel 計算式、テーブル、関数、グラフの作成	計算式の入力とセル参照に必要な相対参照、複合参照、絶対参照を理解し、データの集計などに使用する関数を使用できるようになる。テーブルの機能、グラフを作成する方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの計算式、関数について調べる。表計算ソフトでのグラフ作成方法を調べる。	120分
	事後学修	関数の使い方を確認する。引数、戻り値が何であるか復習する。グラフの種類や、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
8	Excelの課題1 計算式、関数、グラフ作成	表計算ソフトの基本的な扱いを理解しているか、計算、関数、グラフ作成についての課題を作成して確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの基本操作を理解しているか確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった箇所を復習する。	120分
9	Excel 関数1 RANK, IF	範囲内のデータの順番を計算するRANK関数の使い方から、関数の計算に使用するデータにも相対参照、複合参照があることを理解する。セル内容に応じて処理を変更するIF関数の使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	関数の引数、戻り値について理解しているか確認する。	120分
	事後学修	IF関数により、セルの内容に応じて処理を変更できることを復習する。関数の引数の相対参照、絶対参照について理解しているか確認する。	120分
10	Excel 関数2 SUMIF COUNTIF VLOOKUP	条件を満たしたデータだけ合計するSUMIF, SUMIFS関数、条件を満たすデータを数えるCOUNTIF関数の使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	以前の講義で学んだSUM, COUNT関数の使い方を確認する。IF関数の条件の書き方を確認する。	120分
	事後学修	SUMIF, SUMIFS, COUNTIF関数とIF関数の条件の記述方法の違いを復習する。	120分
11	Excelの課題2 関数	講義で使用した関数を使った課題を作成し、正しく理解しているか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	これまで学習した関数について確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった関数について確認する。	120分
12	Excel 並べ替え、フィルター、ピボットテーブル、小計	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計する機能の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。クロス集計について調べる。	120分
	事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法と、フィルターで必要なデータのみ表示する方法を確認する。ピボットテーブルと小計で集計できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Excelの実用的な利用方法	政府統計の総合窓口e-Statにあるデータから必要な内容だけを取り出して集計し、実用的なデータにおける処理方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、利用することができる。	
	事前学修	e-Statを検索して置かれているデータがどのようなものか確認する。	120分
	事後学修	関数を使わずとも、関数と同じ集計ができることを確認する。	120分
14	Excel パワークエリー	処理内容を記録できるパワークエリーを学習し、ファイルにデータを追加した場合でも処理が自動で適用されることを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	パワークエリーについて調べる。	120分
	事後学修	テーブルとパワークエリーで同じ内容を作成した際に異なる点を確認する。	120分
15	総合解説	講義全体で学んだ内容について最終的な確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学んだ内容を正確に説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
	事後学修	課講義全体で学んだ内容で理解が不十分な点を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
ファイルのコピー、ファイル名の変更、複数ファイルの選択といった基本的なコンピューターの操作ができること。これらが分からない場合は、講義2回目までに調べてください。

【授業方法】
教室にあるWindows PCか、各自が持参するWindowsまたはMacにMicrosoft365をインストールしたものを使用して講義を進めます。教科書は使用せず、講義開始前にGoogle Classroomに講義内容と使用するファイルのアドレスを書き込みます。成績は、講義中に作成する課題を評価します。期末の試験やレポート課題はありません。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義中に作成する提出をもとに、上記の到達目標①②③④の観点のとおり習得できているか総合的に評価します。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績の評価対象となる提出課題について、提出締切の翌週に解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールでimafuku.keill@nihon-u.ac.jp、または木曜3. 4限の講義後に直接質問してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法、ファイルの保存方法、持ち込みPCの利用方法、大学の無線LANでネットワークに接続する方法	講義の進め方、講義の準備、成績評価方法について説明する。講義で使用するソフトを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであり、どのようなソフトがあるか調べる。インターネットの正しい利用方法を調べる。	120分
	事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用するファイルの配布、保存、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	Word 文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。行内の文章の位置の変更、行間の調整をできるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトとはどのようなソフトウェアで、どのような機能があるか調べる。	120分
	事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	Word 図、表、グラフの作成	文章を装飾するスタイルを理解する。文章作成ソフトで図、表、グラフを作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトで図、表、グラフを作成する機能を調べる。スタイルとは何か調べる。	120分
	事後学修	文章作成ソフトで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	Word 章および節の番号設定、セクション区切り、図表の番号設定	章や節の番号、図、表の番号を自動設定し、本文中で参照できるようになる。異なるレイアウトのページを混在させるセクション区切りを理解する。章節を使って自動で目次を作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	長い文章で章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。図表番号をつける場所（用紙のヘッダー、フッター）を調べておく。	120分
	事後学修	章番号、図表番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	PowerPoint スライド作成とプレゼンテーション	プレゼンテーションソフトで資料を作る際の注意点を理解する。スライドマスターを使ってレイアウトを調整できるようになる。発表者ツールを使用してプレゼンテーションが出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	プレゼンテーションソフトとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
	事後学修	プレゼンテーションソフトを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
6	Excel 基本操作	セル幅の調整、セル範囲の選択、オートフィル、行の挿入と削除、セル範囲を中央揃え、セルの表示形式、検索、置換を出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
	事後学修	表計算ソフトで計算式を入力する際に重要となる、セルを参照する際に使う相対参照、絶対参照について理解できているか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Excel 計算式、テーブル、関数、グラフの作成	計算式の入力とセル参照に必要な相対参照、複合参照、絶対参照を理解し、データの集計などに使用する関数を使用できるようになる。テーブルの機能、グラフを作成する方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの計算式、関数について調べる。表計算ソフトでのグラフ作成方法を調べる。	120分
	事後学修	関数の使い方を確認する。引数、戻り値が何であるか復習する。グラフの種類や、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
8	Excelの課題1 計算式、関数、グラフ作成	表計算ソフトの基本的な扱いを理解しているか、計算、関数、グラフ作成についての課題を作成して確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの基本操作を理解しているか確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった箇所を復習する。	120分
9	Excel 関数1 RANK, IF	範囲内のデータの順番を計算するRANK関数の使い方から、関数の計算に使用するデータにも相対参照、複合参照があることを理解する。セル内容に応じて処理を変更するIF関数の使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	関数の引数、戻り値について理解しているか確認する。	120分
	事後学修	IF関数により、セルの内容に応じて処理を変更できることを復習する。関数の引数の相対参照、絶対参照について理解しているか確認する。	120分
10	Excel 関数2 SUMIF COUNTIF VLOOKUP	条件を満たしたデータだけ合計するSUMIF, SUMIFS関数、条件を満たすデータを数えるCOUNTIF関数の使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	以前の講義で学んだSUM, COUNT関数の使い方を確認する。IF関数の条件の書き方を確認する。	120分
	事後学修	SUMIF, SUMIFS, COUNTIF関数とIF関数の条件の記述方法の違いを復習する。	120分
11	Excelの課題2 関数	講義で使用した関数を使った課題を作成し、正しく理解しているか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	これまで学習した関数について確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった関数について確認する。	120分
12	Excel 並べ替え、フィルター、ピボットテーブル、小計	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計する機能の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。クロス集計について調べる。	120分
	事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法と、フィルターで必要なデータのみ表示する方法を確認する。ピボットテーブルと小計で集計できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Excelの実用的な利用方法	政府統計の総合窓口e-Statにあるデータから必要な内容だけを取り出して集計し、実用的なデータにおける処理方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、利用することができる。	
	事前学修	e-Statを検索して置かれているデータがどのようなものか確認する。	120分
	事後学修	関数を使わずとも、関数と同じ集計ができることを確認する。	120分
14	Excel パワークエリー	処理内容を記録できるパワークエリーを学習し、ファイルにデータを追加した場合でも処理が自動で適用されることを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	パワークエリーについて調べる。	120分
	事後学修	テーブルとパワークエリーで同じ内容を作成した際に異なる点を確認する。	120分
15	総合解説	講義全体で学んだ内容について最終的な確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学んだ内容を正確に説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
	事後学修	課講義全体で学んだ内容で理解が不十分な点を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 明彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初学者向けの講義のため前もっての知識・技能は不要。

【授業方法】		
1. 演習形式。 2. 原則、対面形式で実施。 3. 演習講義のため授業参加を重んじる、5回超過の欠席は単位取得意思がないものとみなす。 4. 出欠確認は端末ログでカウントする、授業開始20分以降のアクセスログは“欠席”とみなす。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容によっては学生に発言の機会を設ける。授業内演習、事後学習の内容が主となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題、事後課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業前後の空時間またはメールにて対応する。メールアドレス：kigawa.akihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	端末の利用法、LMSの利用法、E-mailの利用法、講義概要等について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、次回からの講義にのぞめる姿勢を取れる。	
	事前学修	・事前にシラバスを確認しておく。 ・学内端末、GoogleへのログインID、PassWordを調べておく。	120分
	事後学修	操作上、不明な点が無いようにしておく。	120分
2	情報モラルとセキュリティ、関連法令の理解	・情報モラルとセキュリティ(ウイルス、スパイウェア等)について説明する。 ・知的財産権(主に著作権)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近の情報モラル・セキュリティにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
3	Microsoft Wordの使用法 1	・Microsoft Wordのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。 ・ディレクトリやファイル保存の仕組みについて説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの基本的な操作方法を理解し、ファイル管理や保存を適切に行うことができる。	
	事前学修	事前に文書例を提示するので授業内演習資料を自身で用意する。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
4	Microsoft Wordの使用法 2	テキストの書式設定、ページのレイアウトやインデントについて説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切にテキストやページの編集ができる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
5	Microsoft Wordの使用法 3	挿入タブの機能からオブジェクト(表や図、図形、画像等)について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
6	Microsoft Wordの使用法 4	論文作成のための書式(脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等)について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの機能を用い、論文やレポートなどの書式を再現することができる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 5	演習を通しMicrosoft Wordの操作確認を行う。	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内でできなかった演習内容について復習する。	120分
8	Microsoft Excelの使用法 1	Microsoft Excelのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの基本的な操作を通し、セルの扱い、範囲指定の方法を理解できる。	
	事前学修	事前に課題を提示する。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
9	Microsoft Excelの使用法 2	基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK. EQ等)について説明する。	
	この回の到達目標	基本関数の操作を理解できる。また、参照の仕組みを理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
10	Microsoft Excelの使用法 3	分岐の仕組み、論理関数の仕組み、IF関数について説明する。	
	この回の到達目標	分岐の仕組みが理解できる。また、IF関数の操作を通し、論理的に解決策を提示できる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
11	Microsoft Excelの使用法 4	・グラフの読み取りについて説明する。 ・基本的なグラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、2軸グラフ)の操作について説明する。	
	この回の到達目標	基本的なグラフ操作ができる。また、状況に応じて様々なグラフを使い分け提示することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
12	Microsoft Excelの使用法 5	演習を通しMicrosoft Excelの操作確認を行う。	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内でできなかった演習内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Pointの使用方法 1	Microsoft Power Pointのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。 プレゼン手法(プレゼンの仕組み、ストーリーテリング等)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	事前にプレゼンテーション例(文書)を提示するので授業内演習資料を自身で用意する。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
14	Microsoft Power Pointの使用方法 2	Microsoft Power Pointの効果的表現方法について説明する。 ビジュアルエイドの活用、リンクの仕組み(ハイパーリンク、アクションボタン等)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
15	Microsoft Power Pointの使用方法 3	Microsoft Power Pointの最適化と共有方法について説明する。 マスタースライドの編集と適用、アウトプット資料の共有方法について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 明彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初学者向けの講義のため前もっての知識・技能は不要。

【授業方法】		
1. 演習形式。 2. 原則、対面形式で実施。 3. 演習講義のため授業参加を重んじる、5回超過の欠席は単位取得意思がないものとみなす。 4. 出欠確認は端末ログでカウントする、授業開始20分以降のアクセスログは“欠席”とみなす。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容によっては学生に発言の機会を設ける。授業内演習、事後学習の内容が主となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。						1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。						1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。											1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。											1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題、事後課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業前後の空時間またはメールにて対応する。メールアドレス：kigawa.akihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	端末の利用法、LMSの利用法、E-mailの利用法、講義概要等について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、次回からの講義にのぞめる姿勢を取れる。	
	事前学修	・事前にシラバスを確認しておく。 ・学内端末、GoogleへのログインID、PassWordを調べておく。	120分
	事後学修	操作上、不明な点が無いようにしておく。	120分
2	情報モラルとセキュリティ、関連法令の理解	・情報モラルとセキュリティ(ウイルス、スパイウェア等)について説明する。 ・知的財産権(主に著作権)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近の情報モラル・セキュリティにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
3	Microsoft Wordの使用法 1	・Microsoft Wordのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。 ・ディレクトリやファイル保存の仕組みについて説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの基本的な操作方法を理解し、ファイル管理や保存を適切に行うことができる。	
	事前学修	事前に文書例を提示するので授業内演習資料を自身で用意する。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
4	Microsoft Wordの使用法 2	テキストの書式設定、ページのレイアウトやインデントについて説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切にテキストやページの編集ができる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
5	Microsoft Wordの使用法 3	挿入タブの機能からオブジェクト(表や図、図形、画像等)について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
6	Microsoft Wordの使用法 4	論文作成のための書式(脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等)について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの機能を用い、論文やレポートなどの書式を再現することができる。	
	事前学修	・前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。 ・前回保存したファイルを開き、授業内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 5	演習を通しMicrosoft Wordの操作確認を行う。	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内でできなかった演習内容について復習する。	120分
8	Microsoft Excelの使用法 1	Microsoft Excelのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの基本的な操作を通し、セルの扱い、範囲指定の方法を理解できる。	
	事前学修	事前に課題を提示する。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
9	Microsoft Excelの使用法 2	基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK. EQ等)について説明する。	
	この回の到達目標	基本関数の操作を理解できる。また、参照の仕組みを理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
10	Microsoft Excelの使用法 3	分岐の仕組み、論理関数の仕組み、IF関数について説明する。	
	この回の到達目標	分岐の仕組みが理解できる。また、IF関数の操作を通し、論理的に解決策を提示できる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
11	Microsoft Excelの使用法 4	・グラフの読み取りについて説明する。 ・基本的なグラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、2軸グラフ)の操作について説明する。	
	この回の到達目標	基本的なグラフ操作ができる。また、状況に応じて様々なグラフを使い分け提示することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内容についての事後課題を提示する。	120分
12	Microsoft Excelの使用法 5	演習を通しMicrosoft Excelの操作確認を行う。	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの授業内容で不明な点がないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内でできなかった演習内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Pointの使用方法 1	Microsoft Power Pointのインタフェースの概要、基本的な操作についての説明する。 プレゼン手法(プレゼンの仕組み、ストーリーテリング等)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	事前にプレゼンテーション例(文書)を提示するので授業内演習資料を自身で用意する。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
14	Microsoft Power Pointの使用方法 2	Microsoft Power Pointの効果的表現方法について説明する。 ビジュアルエイドの活用、リンクの仕組み(ハイパーリンク、アクションボタン等)について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
15	Microsoft Power Pointの使用方法 3	Microsoft Power Pointの最適化と共有方法について説明する。 マスタースライドの編集と適用、アウトプット資料の共有方法について説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解し、適切な編集ができる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておく。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
実際にP C を利用し実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excel等の操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法、Google Classroom等について説明する。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
	事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
	事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	Microsoft Word の使用法 1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
	事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	Microsoft Word の使用法 2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
	この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	Microsoft Word の使用法 3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
	この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
	事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
	事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
	事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
	事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
	事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
	この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
	事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
	事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
	事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
	事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Point の使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	Microsoft Power Point の使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）ができるようになる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
実際にP C を利用し実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excel等の操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法、Google Classroom等について説明する。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
	事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
	事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	Microsoft Word の使用法 1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
	事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	Microsoft Word の使用法 2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
	この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	Microsoft Word の使用法 3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
	この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
	事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
	事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
	事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
	事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
	事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
	この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
	事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
	事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
	事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
	事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Point の使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	Microsoft Power Point の使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）ができるようになる。	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	佐久間 貴士	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
コンピュータ初心者を前提としますので、わかりやすい授業を心掛けております。

【授業方法】		
授業形態が対面の場合：コンピュータ教室に用意されている情報端末（以下、PC）を利用した実習を行う オンライン授業（ハイブリッド授業）の場合：各自の用意したPCを利用して受講し、実習を行う		
基本的には対面授業を実施しますが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により対面授業が不可能な場合は、「オンライン授業」として実施します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出、更には受講者間での相互評価を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
sakuma.takashi13@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作、成績評価の方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法、等について説明する	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウイルス、マルウェア、フィッシング詐欺、等）について事例や演習問題をもとに説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身につける。	
	事前学修	最近発生した事例を調べ、問題点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティについて、復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索、Eメールの利用や基本的な機能、そしてファイル添付の方法等について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットによる情報検索について学修し、より正確な情報得るため、信ぴょう性を意識しながら検索することができる。またEメールに関しては、役割等を理解し、署名やファイル添付が行える。	
	事前学修	大学から貸与されているメールアカウントと環境を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、まとめ、それを自分宛にメールを送ってみる（確認作業）。	120分
4	Microsoft Word の使用法(1)	文章作成ソフトウェアである Microsoft Word の基本的な操作、ファイルの操作・管理方法、について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作を理解し、ファイルの操作、管理を適切に行うことができる。	
	事前学修	これまでに作成したことのあるWordファイルを確認し、その使用方法等を確認しておくこと。	120分
	事後学修	文章を入力して全体の体裁を整える作業を試みってみる。	120分
5	Microsoft Word の使用法(2)	Microsoft Word を利用し、ビジネス文書の作成について説明する。	
	この回の到達目標	ビジネスの場において作成される、いわゆる「ビジネス文書」を正しい文章マナーに従った上で、見た目の美しさに気を配りながら作成することができる。	
	事前学修	前回作成したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	他者の作成した文書と比較して、美しさにおける評価を行う。	120分
6	Microsoft Word の使用法(3)	プリントスクリーンといったキャプチャ機能の利用方法とインターネット上の著作権に留意した画像の取り込みについて説明する。	
	この回の到達目標	キャプチャ機能を利用し、かつ著作権に留意したドキュメンテーションができる。	
	事前学修	キャプチャ機能について調べ、インターネット上の著作権等についても調べておくこと。	120分
	事後学修	実験的にファイルを作成し、プリンタ等を利用し印刷してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法(4)	Microsoft Word でレポート、あるいは論文を執筆する方法について説明する。	
	この回の到達目標	校閲・コメント機能、スタイルと目次機能、ヘッダーとフッター、文字数と行数の設定、脚注、図表の掲載、といったレポートや論文作成に必要な機能を使用し、文書を作成することができる。	
	事前学修	到達目標に記載した機能を中心に調べておくこと。	120分
	事後学修	機能の確認をしながら、出題された課題を作成する。	120分
8	Microsoft Excel の使用法(1)	表計算ソフトウェアである Microsoft Excel の基本的な操作、ファイル概念・管理方法、について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、利用方法を説明できるようになる。	
	事前学修	Microsoft Excel の基本用語と基本操作を調べておくこと。	120分
	事後学修	作成したファイルを再度開き、内容を確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法(2)	Microsoft Excel を用いてデータ集計を行う場合の機能や基本的な関数について説明する。	
	この回の到達目標	基本的な関数を利用し、データ集計が行うことができる。	
	事前学修	Microsoft Excel の基本的な関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、関数を使いながら完成させておくこと。	120分
10	Microsoft Excel の使用法(3)	Microsoft Excel の関数を利用して、複数の条件判断（IF、AND、OR）を中心に説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel で、条件に見合った複数の関数を使いこなすことなし、イメージ通りの結果を得ることができる。	
	事前学修	条件判断に必要となる関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、複数の関数を利用し完成させておくこと。	120分
11	Microsoft Excel の使用法(4)	グラフの作成方法、利用方法、特徴について説明する。	
	この回の到達目標	表現したいデータに応じて、適したグラフを選択し、作成することができる。	
	事前学修	グラフの種類と用途について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法(5)	Microsoft Excel のデータベースとしての活用方法について説明する。また、Microsoft Word に取り込む方法についても説明する。	
	この回の到達目標	データをテーブルに変換し、データベース管理を容易に行うことができる。また加工されたデータをMicrosoft Word に取り込み、表現することができる。	
	事前学修	データベース（機能）について、調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で作成したファイルの再確認と、手元にデータがあれば試験的に加工作業を実施してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft PowerPoint の使用法(1)	Microsoft PowerPoint の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft PowerPoint の基本的な操作を理解し、プレゼンテーション用資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料のテーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	プレゼンテーションの作成（発表資料）に着手しておくこと。	120分
14	Microsoft PowerPoint の使用法(2)	Microsoft PowerPoint で作成するプレゼンテーションの構成、動き、オブジェクトについて説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料にアニメーションの設定を効果的に行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料に関する素材を収集しておくこと。	120分
	事後学修	課題の作成を進めておくこと。	120分
15	Microsoft PowerPoint の使用法(3)とまとめ	授業のまとめ、課題に関する講評、フィードバック	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解している。	
	事前学修	これまでの学習内容について、確認しておくこと。	120分
	事後学修	理解不足、不安、疑問、等がないか自身で再確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	佐久間 貴士	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
コンピュータ初心者を前提としますので、わかりやすい授業を心掛けております。

【授業方法】		
授業形態が対面の場合：コンピュータ教室に用意されている情報端末（以下、PC）を利用した実習を行う オンライン授業（ハイブリッド授業）の場合：各自の用意したPCを利用して受講し、実習を行う		
基本的には対面授業を実施しますが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により対面授業が不可能な場合は、「オンライン授業」として実施します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出、更には受講者間での相互評価を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
sakuma.takashi13@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作、成績評価の方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法、等について説明する	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウイルス、マルウェア、フィッシング詐欺、等）について事例や演習問題をもとに説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身につける。	
	事前学修	最近発生した事例を調べ、問題点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティについて、復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索、Eメールの利用や基本的な機能、そしてファイル添付の方法等について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットによる情報検索について学修し、より正確な情報得るため、信ぴょう性を意識しながら検索することができる。またEメールに関しては、役割等を理解し、署名やファイル添付が行える。	
	事前学修	大学から貸与されているメールアカウントと環境を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、まとめ、それを自分宛にメールを送ってみる（確認作業）。	120分
4	Microsoft Word の使用法(1)	文章作成ソフトウェアである Microsoft Word の基本的な操作、ファイルの操作・管理方法、について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作を理解し、ファイルの操作、管理を適切に行うことができる。	
	事前学修	これまでに作成したことのあるWordファイルを確認し、その使用方法等を確認しておくこと。	120分
	事後学修	文章を入力して全体の体裁を整える作業を試みってみる。	120分
5	Microsoft Word の使用法(2)	Microsoft Word を利用し、ビジネス文書の作成について説明する。	
	この回の到達目標	ビジネスの場において作成される、いわゆる「ビジネス文書」を正しい文章マナーに従った上で、見た目の美しさに気を配りながら作成することができる。	
	事前学修	前回作成したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	他者の作成した文書と比較して、美しさにおける評価を行う。	120分
6	Microsoft Word の使用法(3)	プリントスクリーンといったキャプチャ機能の利用方法とインターネット上の著作権に留意した画像の取り込みについて説明する。	
	この回の到達目標	キャプチャ機能を利用し、かつ著作権に留意したドキュメンテーションができる。	
	事前学修	キャプチャ機能について調べ、インターネット上の著作権等についても調べておくこと。	120分
	事後学修	実験的にファイルを作成し、プリンタ等を利用し印刷してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法(4)	Microsoft Word でレポート、あるいは論文を執筆する方法について説明する。	
	この回の到達目標	校閲・コメント機能、スタイルと目次機能、ヘッダーとフッター、文字数と行数の設定、脚注、図表の掲載、といったレポートや論文作成に必要な機能を使用し、文書を作成することができる。	
	事前学修	到達目標に記載した機能を中心に調べておくこと。	120分
	事後学修	機能の確認をしながら、出題された課題を作成する。	120分
8	Microsoft Excel の使用法(1)	表計算ソフトウェアである Microsoft Excel の基本的な操作、ファイル概念・管理方法、について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、利用方法を説明できるようになる。	
	事前学修	Microsoft Excel の基本用語と基本操作を調べておくこと。	120分
	事後学修	作成したファイルを再度開き、内容を確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法(2)	Microsoft Excel を用いてデータ集計を行う場合の機能や基本的な関数について説明する。	
	この回の到達目標	基本的な関数を利用し、データ集計が行うことができる。	
	事前学修	Microsoft Excel の基本的な関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、関数を使いながら完成させておくこと。	120分
10	Microsoft Excel の使用法(3)	Microsoft Excel の関数を利用して、複数の条件判断（IF、AND、OR）を中心に説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel で、条件に見合った複数の関数を使いこなすことなし、イメージ通りの結果を得ることができる。	
	事前学修	条件判断に必要となる関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、複数の関数を利用し完成させておくこと。	120分
11	Microsoft Excel の使用法(4)	グラフの作成方法、利用方法、特徴について説明する。	
	この回の到達目標	表現したいデータに応じて、適したグラフを選択し、作成することができる。	
	事前学修	グラフの種類と用途について調べておくこと。	120分
	事後学修	出題された課題について、復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法(5)	Microsoft Excel のデータベースとしての活用方法について説明する。また、Microsoft Word に取り込む方法についても説明する。	
	この回の到達目標	データをテーブルに変換し、データベース管理を容易に行うことができる。また加工されたデータをMicrosoft Word に取り込み、表現することができる。	
	事前学修	データベース（機能）について、調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で作成したファイルの再確認と、手元にデータがあれば試験的に加工作業を実施してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft PowerPoint の使用法(1)	Microsoft PowerPoint の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft PowerPoint の基本的な操作を理解し、プレゼンテーション用資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料のテーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	プレゼンテーションの作成（発表資料）に着手しておくこと。	120分
14	Microsoft PowerPoint の使用法(2)	Microsoft PowerPoint で作成するプレゼンテーションの構成、動き、オブジェクトについて説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料にアニメーションの設定を効果的に行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料に関する素材を収集しておくこと。	120分
	事後学修	課題の作成を進めておくこと。	120分
15	Microsoft PowerPoint の使用法(3)とまとめ	授業のまとめ、課題に関する講評、フィードバック	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解している。	
	事前学修	これまでの学習内容について、確認しておくこと。	120分
	事後学修	理解不足、不安、疑問、等がないか自身で再確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者間での相互評価（第7回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題資料、参照資料を配布する。				

【オフィスアワー】
tanikawa.yukikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い		社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動・終了とファイルの管理方法
	この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動・終了操作を適切に実施することができる。また、コンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。	30分
	事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。 コンピュータの起動・終了操作、ファイルの管理方法を復習する。	90分
2	電子メールの利用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）		電子メールの利用：NU-Mailを利用した自己紹介文の作成と提出 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討、見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認
	この回の到達目標	②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	NU-MailのログインIDとパスワードを確認し、ログインしてみる。 「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	1種類目の資料と2種類目の資料の違いと、それによる効果・弊害を整理して提出する。 1種類目の資料の作成を完了する。	180分
3	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）：見本にそった2種類の資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	2種類目の資料の見本を確認し、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	60分
	事後学修	2種類目の資料の作成を完了する。	180分
4	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）：理解しやすい資料作成のための方法（講義） 理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
	事前学修	理解しやすい資料の作成（1）の「異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討」で自分なりに整理した「違い」とそれによる「効果・弊害」を見直す。	90分
	事後学修	講義内容を復習する。	150分
5	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
	事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	120分
	事後学修	テーマをもとにした資料の作成を完了する。 作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	180分
6	データの分析と解釈 （MS-Excel）		データの分析と解釈（MS-Excel）（1）：データ分析の基本的な考え方（講義）
	この回の到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。	
	事前学修	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。	30分
	事後学修	講義内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	理解しやすい資料の作成（MS-Word） データの分析と解釈（MS-Excel）	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（他者の資料を見てフィードバックする、また他者からのフィードバックを得る） データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：課題（分析テーマ）説明、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
	この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ③に関連して、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
	事前学修	MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	他者の資料、また相互評価でのコメントをもとに、自身の資料の改善点を考える。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。 分析対象データのExcel入力を完了する。	180分
8	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定値の特徴を表す値の算出（数式、関数の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	210分
9	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の分布状況の可視化（ヒストグラムの活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎のヒストグラムの作成を完了する。	240分
10	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：測定値の特徴の読み取り、調査項目間で比較可能な値の算出（偏差値の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、算出値、および作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、測定値の特徴を読み取ることができる。また、読み取った特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏差値が算出（測定値の標準化）できる。	
	事前学修	測定値の特徴の読み取りに関係する講義内容を再確認する。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	90分
	事後学修	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）とヒストグラムから読み取った測定値の特徴を整理して提出する。 各測定値に対する偏差値の算出を完了する。	180分
11	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（6）：調査項目間の違いの可視化（グラフの活用）と測定値の特徴の読み取り	
	この回の到達目標	③に関連して、これまでに学んだExcel操作を応用して、利用目的に応じたグラフを作成できる。さらに、偏差値および作成したグラフをもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、各測定値の特徴を読み取ることができる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。 測定値の特徴の読み取りに関係する講義内容を再確認する。	90分
	事後学修	指示したグラフ作成を完了する。 講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴を整理して提出する。	150分
12	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（7）：分析レポートの作成	
	この回の到達目標	③に関連して、課題（分析テーマ）に対する考察を、読み取った測定値の特徴をもとに、算出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
	事前学修	これまでに整理した測定値の特徴を確認する。	90分
	事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資料の基とする企画書の選択、資料の構想を練り、構想に沿って資料を作成する	
	この回の到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができる。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。		
	事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint))」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。		60分
	事後学修	MS-PowerPointの基本操作を復習する。プレゼンテーション資料の作成を完了する。		180分
14	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 口頭発表時の留意点 (講義)、プレゼンテーションの口頭発表シナリオ作成 プレゼンテーション資料にそって口頭発表シナリオを作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
	この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。		
	事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件 (時間他) を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点(訴求点)をピックアップする。		90分
	事後学修	口頭発表シナリオの作成およびシナリオをもとにしたプレゼンテーション資料のブラッシュアップを完了する。		150分
15	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 企画プレゼンテーション実施 講座全体のまとめ	
	この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。		
	事前学修	作成したプレゼンテーション資料および口頭発表シナリオを確認する。プレゼンテーション (口頭発表) の練習をする。		120分
	事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオのブラッシュアップを完了し提出する。 講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。		120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講者間での相互評価（第7回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題資料、参照資料を配布する。				

【オフィスアワー】
tanikawa.yukikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い		社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動・終了とファイルの管理方法
	この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動・終了操作を適切に実施することができる。また、コンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。	30分
	事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。 コンピュータの起動・終了操作、ファイルの管理方法を復習する。	90分
2	電子メールの利用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）		電子メールの利用：NU-Mailを利用した自己紹介文の作成と提出 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討、見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認
	この回の到達目標	②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	NU-MailのログインIDとパスワードを確認し、ログインしてみる。 「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	1種類目の資料と2種類目の資料の違いと、それによる効果・弊害を整理して提出する。 1種類目の資料の作成を完了する。	180分
3	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）：見本にそった2種類の資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	2種類目の資料の見本を確認し、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	60分
	事後学修	2種類目の資料の作成を完了する。	180分
4	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）：理解しやすい資料作成のための方法（講義） 理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
	事前学修	理解しやすい資料の作成（1）の「異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討」で自分なりに整理した「違い」とそれによる「効果・弊害」を見直す。	90分
	事後学修	講義内容を復習する。	150分
5	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
	事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	120分
	事後学修	テーマをもとにした資料の作成を完了する。 作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	180分
6	データの分析と解釈 （MS-Excel）		データの分析と解釈（MS-Excel）（1）：データ分析の基本的な考え方（講義）
	この回の到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。	
	事前学修	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。	30分
	事後学修	講義内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	理解しやすい資料の作成（MS-Word） データの分析と解釈（MS-Excel）	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（他者の資料を見てフィードバックする、また他者からのフィードバックを得る） データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：課題（分析テーマ）説明、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力		
	この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのため方法を説明することができる。 ③に関連して、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。		
	事前学修	MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。		60分
	事後学修	他者の資料、また相互評価でのコメントをもとに、自身の資料の改善点を考える。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。 分析対象データのExcel入力を完了する。		180分
8	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定値の特徴を表す値の算出（数式、関数の活用）		
	この回の到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出できる。		
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。		30分
	事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。		210分
9	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の分布状況の可視化（ヒストグラムの活用）		
	この回の到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。		
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。		30分
	事後学修	測定項目毎のヒストグラムの作成を完了する。		240分
10	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：測定値の特徴の読み取り、調査項目間で比較可能な値の算出（偏差値の活用）		
	この回の到達目標	③に関連して、算出値、および作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、測定値の特徴を読み取ることができる。また、読み取った特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏差値が算出（測定値の標準化）できる。		
	事前学修	測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。		90分
	事後学修	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）とヒストグラムから読み取った測定値の特徴を整理して提出する。 各測定値に対する偏差値の算出を完了する。		180分
11	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（6）：調査項目間の違いの可視化（グラフの活用）と測定値の特徴の読み取り		
	この回の到達目標	③に関連して、これまでに学んだExcel操作を応用して、利用目的に応じたグラフを作成できる。さらに、偏差値および作成したグラフをもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、各測定値の特徴を読み取ることができる。		
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。 測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。		90分
	事後学修	指示したグラフ作成を完了する。 講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴を整理して提出する。		150分
12	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（7）：分析レポートの作成		
	この回の到達目標	③に関連して、課題（分析テーマ）に対する考察を、読み取った測定値の特徴をもとに、算出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。		
	事前学修	これまでに整理した測定値の特徴を確認する。		90分
	事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資料の基とする企画書の選択、資料の構想を練り、構想に沿って資料を作成する	
	この回の到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができる。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。	
	事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint))」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	MS-PowerPointの基本操作を復習する。プレゼンテーション資料の作成を完了する。	180分
14	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 口頭発表時の留意点 (講義)、プレゼンテーションの口頭発表シナリオ作成 プレゼンテーション資料にそって口頭発表シナリオを作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
	この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。	
	事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件 (時間他) を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えた点 (訴求点) をピックアップする。	90分
	事後学修	口頭発表シナリオの作成およびシナリオをもとにしたプレゼンテーション資料のブラッシュアップを完了する。	150分
15	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 企画プレゼンテーション実施 講座全体のまとめ	
	この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。	
	事前学修	作成したプレゼンテーション資料および口頭発表シナリオを確認する。プレゼンテーション (口頭発表) の練習をする。	120分
	事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオのブラッシュアップを完了し提出する。 講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
基礎的な情報理論、コンピュータの動作原理・基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】		
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1～2回の確認小テストを行う。実習は原則としてMicrosoft Officeの主要アプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）を利用し「実習基礎編」と「応用編」に分けて段階的に進める。併せて情報の収集・分析・発信に係るアカデミックスキルの習得を目的として論文とプレゼンテーションの技法に関する講義と実習を行う。論文骨子、プレゼンテーション、確認小テスト等に関する講評・解説は授業内で行う。Google Classroomをベースに教材や解説動画の配布ならびに小テストや実習結果の提出などを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンデマンド発表会（先に作成した論文（骨子）の問題意識と結論についてPowerPointを利用し簡潔に口頭で説明した動画を作成する。この動画をGoogle Classroomにて1週間程度公開）を実施。公開後の授業において、発表会を総括し、質疑応答や相互評価などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	基礎的な情報理論、コンピュータの動作原理や、到達目標①②に関わる用語等について小テストを実施し理解度を確 認し評価する。	10	10									20
レポート等	WordとExcelの実習、Wordによる論文骨子の構築などにおい て、到達目標③の観点から十分に習得できているかを総合 的に評価する。			40								40
討論・発表等	オンデマンド発表会（先に作成した論文（骨子）の問題意 識と結論についてPowerPointを利用し簡潔に口頭で説明し た動画を作成する。この動画をGoogle Classroomにて1週間 程度公開）を実施。公開後、授業時間内で、発表会を総括 し、質疑応答や相互評価などを行う。到達目標③④の観点 から評価する。				40							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	40	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の休憩時間中、またはメールにて質問・相談を受け付ける。tsuchiya.masatoshi11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の講義・実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	<ガイダンス> 【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義・実習計画・成績評価の方法などの紹介を行い、学生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】PCやネットワーク環境の利用方法、ファイルの管理等について確認する。出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し提出する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連しPCやネットワーク環境の基本的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定されるので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行う。第1回目はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進められるので、ポイントの復習を確実に行う。特に実習項目については自ら再度実行し理解度を高めていく。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を確認する。	120分	
2	<情報通信技術の概要>情報処理関連用語、コンピュータの動作原理の学修	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分	
	事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標準化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分	
3	【実習基礎編1】Windowsの概要とWordの基本操作	Windowsの基本機能を確認したのち、Wordを使ってレイアウト、インデント、タブなどの文書を揃える機能を中心に実習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、Windowsの基本を理解し、Wordの諸機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分	
	事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要であり、WindowsならびにWordの基本操作についてコンピュータを動かして再確認する。	180分	
4	【実習基礎編2】Excelの概要と基本操作	Excelの基本操作を確認し、データ入力、数式の挿入、主要な関数の利用などに係る実習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解し、入力したデータ表に対して数式や関数などを適切に利用しデータ分析ができる。		
	事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分	
	事後学修	Excel三大機能（表計算、グラフ、データベース）などの概要を確認するとともに、基本操作が適切に実行できるよう復習する。	180分	
5	<アカデミックスキル1>情報の収集：インターネット上の情報の利用 【実習基礎編3】PowerPointの概要と基本操作	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用などについて学修する。これを踏まえて、後半は日本大学法学部のホームページ上のデータを利用しつつ受験生に向けて法学部を紹介するPowerPointのスライドを作成し基本操作を確認する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。 到達目標④に関連してPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用に関する課題を整理する。	120分	
	事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し、自身の専攻科目に関連する情報収集を実践する。PowerPointの基本操作についてコンピュータを動かして再確認する。	120分	
6	<アカデミックスキル2>情報の評価・分析 【実習基礎編4】Excelのグラフ機能、データベース機能	統計学の基本的な概念を確認し、コンピュータを活用した情報整理法について学修する。併せて情報の評価・分析の観点からExcelのグラフ機能、データベース機能の基本について実習を行う。また、Excelの統計解析ツールの概要と利用手順について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。Excelのグラフ機能、データベース機能を活用し情報の評価・分析ができる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認し、併せてExcelの基本操作の確認を行う。	120分	
	事後学修	統計学の基本的な概念について復習する。インターネット上のデータを使ってグラフやデータベース機能の確認を行う。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	＜アカデミックスキル3＞情報の創造・発信：論文・レポートの書き方【実習基礎編5】Wordの論文・レポート用機能	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用、注と文献表の役割と書き方など）、口頭による研究発表の方法（PowerPoint発表用スライドの構成など）について学修する。併せてWordの論文・レポート作成に有効なツールの利用方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。	
	事前学修	これまでに学んできた文章の作成方法を整理確認しておく。	120分
	事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識し、特に論文の要件について再確認する。	120分
8	＜座学：情報通信技術と社会＞【確認小テスト】	全15回授業の中間の第8回にあたり、「情報通信技術と社会」の観点から、知的財産や情報セキュリティなどについて学修した後、第2回授業で学修したコンピュータの動作原理や関連用語、そして今回の学修内容を含めて確認小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コンピュータの動作原理やネット利用にかかる知的財産、セキュリティ等について理解し適切に実践できる。	
	事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分
	事後学修	コンピュータの動作原理と併せて、健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産保護などの基本知識を再確認する。	120分
9	【実習応用編1】 Excelによる統計解析等、応用機能の実習	第6回授業での統計学の学修を踏まえ、Excelによる統計解析（統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析など）の実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールや応用的な機能を適切に利用することができる。	
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析や応用ツールを実行する。	180分
10	【実習応用編2】 文書へのオブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	オブジェクト（図表、ワードアートやスマートアート、Excelで作成したグラフなど）の文書への挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等のWordの応用機能について実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、Excelとの連携、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
	事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を繰り返し確認する。	180分
11	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	Wordの論文作成に有効なツールであるアウトライン表示、「見出し」スタイル、目次・索引の自動作成機能、ナビゲーションウインドウなどの利用実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン表示などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
	事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。	180分
12	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（オンデマンド発表会に向け、論文骨子までは案出）	第7回授業の際に確認した論文の要件を踏まえ、Wordによる論文作成実習を行う。その際、Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン表示、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。	
	事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。	120分
	事後学修	オンデマンド発表会に向け、少なくとも論文骨子までは案出する（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）。Wordのこれらの機能は社会人になった後の報告書作成などにも有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	第7回授業で確認した口頭発表の要件を踏まえ、PowerPointを使い口頭発表用スライドを作成する。その過程で、マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、スライドショーの記録と動画作成（エクスポート）、ノート・配布資料の作成等の諸機能を学修・確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを利用し発表スライドを効率的に作成することができる。さらに、スライドショーの記録機能を使い発表を記録した動画を適切に作成することができる。	
	事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	口頭発表用スライドの要件を確認し、発表用のスライドをブラッシュアップする作業を行う。次いで、スライドショーの記録機能を利用してプレゼンテーションを記録した動画を作成、提出する。（提出された動画はまとめてGoogle Classroomで1週間公開：オンデマンド発表会）	180分
14	【「オンデマンド発表会」の総括評価】 【実習応用編6】Excel応用ツールの利用	事前に視聴したプレゼンテーション動画について、質疑、討議、相互評価などを行う。 統計解析や数値最適化などの理論を学修しこれらに係る応用ツールの利用実習を行う	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordによる論文作成やプレゼンテーションの要件を理解し、適切に発表を評価することができる。さらに到達目標③に関連してExcelの統計解析やWhat-if分析などの応用ツールについて理論的背景を理解し利用することができる。	
	事前学修	Google Classroomにて公開されたプレゼン動画を視聴しコメントや評価ポイントなどを取りまとめる。	120分
	事後学修	コメントや評価をふまえ自身のスライドや説明内容などの改訂を行う。 Excelの応用ツールについてはビジネスの場でも広く利用されるツールであり繰り返し実行し身に着ける。	120分
15	＜総まとめ講義＞ 【追加実習】	データ分析、論文・レポート作成、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントを整理するとともに、ICT関連の最新動向について学修する。 必要に応じて、Excel等の応用的機能について学修し実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
	事前学修	生成AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
	事後学修	学生生活に必須のアカデミックスキル（データ分析、論文・レポート作成、口頭発表など）の向上を図っていくためにも、この授業で学修した講義・実習事項を繰り返し確認する。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
基礎的な情報理論、コンピュータの動作原理・基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】		
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1〜2回の確認小テストを行う。実習は原則としてMicrosoft Officeの主要アプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）を利用し「実習基礎編」と「応用編」に分けて段階的に進める。併せて情報の収集・分析・発信に係るアカデミックスキルの習得を目的として論文とプレゼンテーションの技法に関する講義と実習を行う。論文骨子、プレゼンテーション、確認小テスト等に関する講評・解説は授業内で行う。Google Classroomをベースに教材や解説動画の配布ならびに小テストや実習結果の提出などを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンデマンド発表会（先に作成した論文（骨子）の問題意識と結論についてPowerPointを利用し簡潔に口頭で説明した動画を作成する。この動画をGoogle Classroomにて1週間程度公開）を実施。公開後の授業において、発表会を総括し、質疑応答や相互評価などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	基礎的な情報理論、コンピュータの動作原理や、到達目標①②に関わる用語等について小テストを実施し理解度を確 認し評価する。	10	10									20
レポート等	WordとExcelの実習、Wordによる論文骨子の構築などにおい て、到達目標③の観点から十分に習得できているかを総合 的に評価する。			40								40
討論・発表等	オンデマンド発表会（先に作成した論文（骨子）の問題意 識と結論についてPowerPointを利用し簡潔に口頭で説明し た動画を作成する。この動画をGoogle Classroomにて1週間 程度公開）を実施。公開後、授業時間内で、発表会を総括 し、質疑応答や相互評価などを行う。到達目標③④の観点 から評価する。				40							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	40	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の休憩時間中、またはメールにて質問・相談を受け付ける。tsuchiya.masatoshi11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の講義・実習を行う

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	＜ガイダンス＞ 【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義・実習計画・成績評価の方法などの紹介を行い、学生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】PCやネットワーク環境の利用方法、ファイルの管理等について確認する。出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し提出する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連しPCやネットワーク環境の基本的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定されるので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行う。第1回目はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進められるので、ポイントの復習を確実に行う。特に実習項目については自ら再度実行し理解度を高めていく。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を確認する。	120分	
2	＜情報通信技術の概要＞情報処理関連用語、コンピュータの動作原理の学修	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分	
	事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標本化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分	
3	【実習基礎編1】Windowsの概要とWordの基本操作	Windowsの基本機能を確認したのち、Wordを使ってレイアウト、インデント、タブなどの文書を揃える機能を中心に実習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、Windowsの基本を理解し、Wordの諸機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分	
	事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要であり、WindowsならびにWordの基本操作についてコンピュータを動かして再確認する。	180分	
4	【実習基礎編2】Excelの概要と基本操作	Excelの基本操作を確認し、データ入力、数式の挿入、主要な関数の利用などに係る実習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解し、入力したデータ表に対して数式や関数などを適切に利用しデータ分析ができる。		
	事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分	
	事後学修	Excel三大機能（表計算、グラフ、データベース）などの概要を確認するとともに、基本操作が適切に実行できるよう復習する。	180分	
5	＜アカデミックスキル1＞情報の収集：インターネット上の情報の利用 【実習基礎編3】PowerPointの概要と基本操作	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用などについて学修する。これを踏まえて、後半は日本大学法学部のホームページ上のデータを利用しつつ受験生に向けて法学部を紹介するPowerPointのスライドを作成し基本操作を確認する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。 到達目標④に関連してPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用に関する課題を整理する。	120分	
	事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し、自身の専攻科目に関連する情報収集を実践する。PowerPointの基本操作についてコンピュータを動かして再確認する。	120分	
6	＜アカデミックスキル2＞情報の評価・分析 【実習基礎編4】Excelのグラフ機能、データベース機能	統計学の基本的な概念を確認し、コンピュータを活用した情報整理法について学修する。併せて情報の評価・分析の観点からExcelのグラフ機能、データベース機能の基本について実習を行う。また、Excelの統計解析ツールの概要と利用手順について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。Excelのグラフ機能、データベース機能を活用し情報の評価・分析ができる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認し、併せてExcelの基本操作の確認を行う。	120分	
	事後学修	統計学の基本的な概念について復習する。インターネット上のデータを使ってグラフやデータベース機能の確認を行う。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	＜アカデミックスキル3＞情報の創造・発信：論文・レポートの書き方【実習基礎編5】Wordの論文・レポート用機能	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用、注と文献表の役割と書き方など）、口頭による研究発表の方法（PowerPoint発表用スライドの構成など）について学修する。併せてWordの論文・レポート作成に有効なツールの利用方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。	
	事前学修	これまでに学んできた文章の作成方法を整理確認しておく。	120分
	事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識し、特に論文の要件について再確認する。	120分
8	＜座学：情報通信技術と社会＞ 【確認小テスト】	全15回授業の中間の第8回にあたり、「情報通信技術と社会」の観点から、知的財産や情報セキュリティなどについて学修した後、第2回授業で学修したコンピュータの動作原理や関連用語、そして今回の学修内容を含めて確認小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コンピュータの動作原理やネット利用にかかる知的財産、セキュリティ等について理解し適切に実践できる。	
	事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分
	事後学修	コンピュータの動作原理と併せて、健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産保護などの基本知識を再確認する。	120分
9	【実習応用編1】 Excelによる統計解析等、応用機能の実習	第6回授業での統計学の学修を踏まえ、Excelによる統計解析（統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析など）の実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールや応用的な機能を適切に利用することができる。	
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析や応用ツールを実行する。	180分
10	【実習応用編2】 文書へのオブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	オブジェクト（図表、ワードアートやスマートアート、Excelで作成したグラフなど）の文書への挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等のWordの応用機能について実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、Excelとの連携、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
	事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を繰り返し確認する。	180分
11	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	Wordの論文作成に有効なツールであるアウトライン表示、「見出し」スタイル、目次・索引の自動作成機能、ナビゲーションウインドウなどの利用実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン表示などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
	事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。	180分
12	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（オンデマンド発表会に向け、論文骨子までは案出）	第7回授業の際に確認した論文の要件を踏まえ、Wordによる論文作成実習を行う。その際、Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン表示、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。	
	事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。	120分
	事後学修	オンデマンド発表会に向け、少なくとも論文骨子までは案出する（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）。Wordのこれらの機能は社会人になった後の報告書作成などにも有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	第7回授業で確認した口頭発表の要件を踏まえ、PowerPointを使い口頭発表用スライドを作成する。その過程で、マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、スライドショーの記録と動画作成（エクスポート）、ノート・配布資料の作成等の諸機能を学修・確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを利用し発表スライドを効率的に作成することができる。さらに、スライドショーの記録機能を使い発表を記録した動画を適切に作成することができる。	
	事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	口頭発表用スライドの要件を確認し、発表用のスライドをブラッシュアップする作業を行う。次いで、スライドショーの記録機能を利用してプレゼンテーションを記録した動画を作成、提出する。（提出された動画はまとめてGoogle Classroomで1週間公開：オンデマンド発表会）	180分
14	【「オンデマンド発表会」の総括評価】 【実習応用編6】Excel応用ツールの利用	事前に視聴したプレゼンテーション動画について、質疑、討議、相互評価などを行う。 統計解析や数理最適化などの理論を学修しこれらに係る応用ツールの利用実習を行う	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordによる論文作成やプレゼンテーションの要件を理解し、適切に発表を評価することができる。さらに到達目標③に関連してExcelの統計解析やWhat-if分析などの応用ツールについて理論的背景を理解し利用することができる。	
	事前学修	Google Classroomにて公開されたプレゼン動画を視聴しコメントや評価ポイントなどを取りまとめる。	120分
	事後学修	コメントや評価をふまえ自身のスライドや説明内容などの改訂を行う。 Excelの応用ツールについてはビジネスの場でも広く利用されるツールであり繰り返し実行し身に着ける。	120分
15	＜総まとめ講義＞ 【追加実習】	データ分析、論文・レポート作成、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントを整理するとともに、ICT関連の最新動向について学修する。 必要に応じて、Excel等の応用的機能について学修し実習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
	事前学修	生成AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
	事後学修	学生生活に必須のアカデミックスキル（データ分析、論文・レポート作成、口頭発表など）の向上を図っていくためにも、この授業で学修した講義・実習事項を繰り返し確認する。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mori.yasuhidell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
	この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
	事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
	事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	Wordの基本的な操作（１）	Wordの基本的な操作の確認	
	この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	Wordの基本的な操作（２）	ビジネス文書の作成	
	この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
	事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	Wordの基本的な操作（３）	インターネットからの情報の収集・加工	
	この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
	事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひとつおき確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	Wordの基本的な操作（４）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
	この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
	事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
	この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
	事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
	事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Excelの基本的な操作（１）		Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認
	この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
8	Excelの基本的な操作（２）		算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成
	この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
9	Excelの基本的な操作（３）		算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成
	この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
10	Excelの応用的な操作（１）		計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成
	この回の到達目標	BMI 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、BMI 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
11	Excelの応用的な操作（２）		アンケートデータの集計とグラフの作成
	この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
12	WordとExcelの連携		Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する
	この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。	
	事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
	この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
	この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
	事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
	事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mori.yasuhidell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
	この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
	事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
	事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	Wordの基本的な操作（１）	Wordの基本的な操作の確認	
	この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	Wordの基本的な操作（２）	ビジネス文書の作成	
	この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
	事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	Wordの基本的な操作（３）	インターネットからの情報の収集・加工	
	この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
	事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひとつおき確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	Wordの基本的な操作（４）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
	この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
	事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
	この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
	事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
	事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Excelの基本的な操作（１）	Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認	
	この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
8	Excelの基本的な操作（２）	算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成	
	この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
9	Excelの基本的な操作（３）	算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成	
	この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
10	Excelの応用的な操作（１）	計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成	
	この回の到達目標	BMI 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、BMI 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
11	Excelの応用的な操作（２）	アンケートデータの集計とグラフの作成	
	この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
12	WordとExcelの連携	Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する	
	この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。	
	事前学修	WordとExcelを同時に使用する方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
	この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
	この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
	事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
	事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2022年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:10~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2022年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館6階1612） okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	日本国憲法	担当者	上田 涼	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○							

【授業の概要】
憲法は、国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を学修するが、同時に、最新の憲法問題を数多く知ること、憲法を身近なものとして学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、市民としての正しい政治的判断ができるようになるために、憲法（人権・統治機構）の基礎知識を身につけ、日本国憲法の将来を展望する能力を修得する。また、学説・判例の学修を通じて、法的・論理的思考力を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
基本的には、教科書にしたがって授業を行います。適宜、補足説明としてのレジュメを配布します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	立憲主義をはじめとする憲法の基礎的な概念を説明できる。						2						
②	日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できる。						2						
③	日本国憲法に定める統治機構の概要を説明できる。						2						
④	憲法問題を議論し、日本国憲法の将来を展望できる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関連して、授業内容が身についているかを授業内試験により評価する。	20	30	30								80
小テスト等												
レポート等	到達目標④に関連して、課題図書を読んだうえで自らの意見を構築できているかをレポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、リアクションペーパーを配布し、次回の授業冒頭で講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法〔第2版〕』	池田実	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
『憲法概論Ⅰ 総説・統治機構』	大石真	有斐閣	2021	その他	任意
『憲法概論Ⅱ 基本権保障』	大石真	有斐閣	2021	その他	任意
『憲法教科書』	尾吹善人	木鐸社	1993	その他	任意
『憲法概説』	小嶋和司	信山社	2004	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室等において行います。 ueda.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【授業案内】	憲法の初学者を想定した授業案内を行う。具体的には、授業内容、授業日程、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。また、憲法の学修をする際に必要な基礎的事項（法令・判例・学説）の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法の学修をする際に必要な基礎的事項（法令・判例・学説）の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	高校で使用していた教科書（「政治・経済」等）の憲法についての記述を読み、それがシラバス全体とどのように関わってくるのかを考えておく。また、憲法の学修にあたっては、様々な分野の知識が必要になるため、政治・経済、日本史、世界史等の教科書を一通り読んでおくことが望ましい。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、自らの学修計画について検討する。	150分
2	【国家】【憲法とは何か】【立憲主義】	時代・場所を問わず、国家は常に存在してきた。憲法という概念も国家の存在なくして説明することはできない。本授業では、憲法的前提となる国家の存在をふまえたうえで、憲法および立憲主義の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法および立憲主義の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法および立憲主義の意義についてノート等にまとめておく。	150分
3	【日本憲法史】【日本国憲法の基本原理】	日本国憲法は、大日本帝国憲法との比較において、様々な点でその基本原理を異にしている。本授業では、大日本帝国憲法の成立過程・基本原理を確認し、それとの比較を行いつつ、日本国憲法の成立過程・基本原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大日本帝国憲法との比較をふまえたうえで、日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、日本国憲法の成立過程・基本原理についてノート等にまとめておく。	150分
4	【象徴天皇】【皇室制度】	日本固有の歴史・伝統を体現する天皇は、日本国憲法のなかでも独特の地位を占めている。本授業では、日本国憲法における天皇の地位および皇室制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇の地位および皇室制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、天皇の地位および皇室制度についてノート等にまとめておく。	150分
5	【戦争放棄・国防法制】	日本国憲法制定時から今日にいたるまで、絶えず議論的になってきたのが日本国憲法の9条である。本授業では、憲法9条の成立過程や学説・解釈を概観し、自衛隊法や国際法との関係も視野に入れながら、日本国憲法における戦争放棄・国防法制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本国憲法における戦争放棄・国防法制を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法9条の成立過程や学説・解釈を整理し、日本国憲法における戦争放棄・国防法制についてノート等にまとめておく。	150分
6	【個人の尊重】【幸福追求権】【法の下での平等】	日本国憲法においては、人権保障を図る条文が一般的・抽象的に定められている。本授業では、人権学修の初歩として、個人の尊重、幸福追求権および法の下での平等の意義を確認し、それらをめぐる判例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、個人の尊重、幸福追求権および法の下での平等の意義を理解し、説明することができる。また、それらをめぐる判例の概要・判旨を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、個人の尊重、幸福追求権および法の下での平等の意義をノート等にまとめておく。また、それらをめぐる判例の概要・判旨をノート等にまとめておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【自由権】		日本国憲法における自由権は、判例の展開によって、確立されてきたところが多い。本授業では、自由権のうち、精神的自由権および経済的自由権の意義を確認し、それらをめぐる判例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、精神的自由権および経済的自由権の意義を理解し、説明することができる。また、それらをめぐる判例の概要・判旨を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、精神的自由権および経済的自由権の意義をノート等にまとめておく。また、それらをめぐる判例の概要・判旨をノート等にまとめておく。		150分
8	【社会権】		20世紀以降、社会的不平等の是正のために、国家の介入を求める社会権の考え方があらわれてきた。日本国憲法においても、そのような考え方にに基づき、各種の権利が明記されている。本授業では、特に生存権に注目し、それをめぐる判例および学説を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、社会権の意義を理解し、説明することができる。また、判例・学説に基づきながら、生存権の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、社会権の意義をノート等にまとめておく。また、生存権をめぐる判例・学説をノート等にまとめておく。		150分
9	【参政権と選挙制度】		参政権のうち、重要な立ち位置を占めるものは、選挙権である。選挙によって、民主主義国家の政治の営みは大きく左右される。本授業では、日本国憲法における参政権および選挙の基本原則を学修する。また、それらを具体化するための選挙制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本国憲法における参政権および選挙の基本原則を理解し、説明することができる。また、それらを具体化するための選挙制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、日本国憲法における参政権、選挙の基本原則および選挙制度についてノート等にまとめておく。		150分
10	【議会（国会）】		日本国憲法における議会制度は、かなり合理化された形で、各条文に明記されている。本授業では、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越についてノート等にまとめておく。		150分
11	【内閣】 【議院内閣制】		議会制度と同じく、日本国憲法における内閣制度は、かなり合理化された形で、各条文に明記されている。これらの事実から、日本国憲法は明確に議院内閣制を採用しているということが出来る。本授業では、内閣の組織、内閣の権能および議院内閣制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、内閣の組織、内閣の権能および議員内閣制を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、内閣の組織、内閣の権能および議院内閣制についてノート等にまとめておく。		150分
12	【中央・地方関係】 【地方自治】		日本国憲法は、地方自治の章を設けている。しかし、実質的には、憲法典ではなく地方自治法によって、地方自治のあり方は定まっている。本授業では、明治以来の中央・地方関係を振り返りつつ、日本国憲法における地方自治を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、中央・地方関係および地方自治を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、中央・地方関係および地方自治についてノート等にまとめておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【裁判所】 【違憲審査制】	現代国家における人権保障には、裁判所の関与が不可欠である。また、ときに裁判所は違憲審査権を用いて、憲法判断にもふみこむのである。本授業では、裁判所の組織・権能および違憲審査制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、裁判所の組織・権能および違憲審査制を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、裁判所の組織・権能および違憲審査制についてノート等にまとめておく。	150分
14	【憲法改正】	戦後、日本国憲法は一度も改正されずにきた。しかし、政治状況の進展いかんによっては、およそその国民が憲法改正に対する判断を国民投票のなかで迫られることになる。本授業では、憲法改正の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、一人の国民として憲法改正に対する自らの意見をもち、述べることができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法改正が政治日程として決定された場合を想定し、自らがどのような意見をもち、投票を行うかを考える。	150分
15	【試験】 【まとめ】	授業内試験を実施する。その後、全講義のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本科目で学修した内容を総合的に検討することができる。	
	事前学修	本科目で学修した内容を総復習する。	90分
	事後学修	試験と全講義のまとめをふまえて、日本国憲法の全般的な内容を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	日本国憲法	担当者	上田 涼	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○							

【授業の概要】
憲法は、国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を学修するが、同時に、最新の憲法問題を数多く知ること、憲法を身近なものとして学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、市民としての正しい政治的判断ができるようになるために、憲法（人権・統治機構）の基礎知識を身につけ、日本国憲法の将来を展望する能力を修得する。また、学説・判例の学修を通じて、法的・論理的思考力を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
基本的には、教科書にしたがって授業を行います。適宜、補足説明としてのレジュメを配布します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	立憲主義をはじめとする憲法の基礎的な概念を説明できる。					2							
②	日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できる。					2							
③	日本国憲法に定める統治機構の概要を説明できる。					2							
④	憲法問題を議論し，日本国憲法の将来を展望できる。					2							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して、授業内容が身についているかを授業内試験により評価する。	20	30	30								80
小テスト等												
レポート等	到達目標④に関連して、課題図書を読んだうえで自らの意見を構築できているかをレポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、リアクションペーパーを配布し、次回の授業冒頭で講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法〔第2版〕』	池田実	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
『憲法概論Ⅰ 総説・統治機構』	大石真	有斐閣	2021	その他	任意
『憲法概論Ⅱ 基本権保障』	大石真	有斐閣	2021	その他	任意
『憲法教科書』	尾吹善人	木鐸社	1993	その他	任意
『憲法概説』	小嶋和司	信山社	2004	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室等において行います。 ueda.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【授業案内】	憲法の初学者を想定した授業案内を行う。具体的には、授業内容、授業日程、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。また、憲法の学修をする際に必要な基礎的事項（法令・判例・学説）の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法の学修をする際に必要な基礎的事項（法令・判例・学説）の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	高校で使用していた教科書（「政治・経済」等）の憲法についての記述を読み、それがシラバス全体とどのように関わってくるのかを考えておく。また、憲法の学修にあたっては、様々な分野の知識が必要になるため、政治・経済、日本史、世界史等の教科書を一通り読んでおくことが望ましい。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、自らの学修計画について検討する。	150分
2	【国家】【憲法とは何か】【立憲主義】	時代・場所を問わず、国家は常に存在してきた。憲法という概念も国家の存在なくして説明することはできない。本授業では、憲法的前提となる国家の存在をふまえたうえで、憲法および立憲主義の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法および立憲主義の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法および立憲主義の意義についてノート等にまとめておく。	150分
3	【日本憲法史】【日本国憲法の基本原理】	日本国憲法は、大日本帝国憲法との比較において、様々な点でその基本原理を異にしている。本授業では、大日本帝国憲法の成立過程・基本原理を確認し、それとの比較を行いつつ、日本国憲法の成立過程・基本原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大日本帝国憲法との比較をふまえたうえで、日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、日本国憲法の成立過程・基本原理についてノート等にまとめておく。	150分
4	【象徴天皇】【皇室制度】	日本固有の歴史・伝統を体現する天皇は、日本国憲法のなかでも独特の地位を占めている。本授業では、日本国憲法における天皇の地位および皇室制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇の地位および皇室制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、天皇の地位および皇室制度についてノート等にまとめておく。	150分
5	【戦争放棄・国防法制】	日本国憲法制定時から今日にいたるまで、絶えず議論的になってきたのが日本国憲法の9条である。本授業では、憲法9条の成立過程や学説・解釈を概観し、自衛隊法や国際法との関係も視野に入れながら、日本国憲法における戦争放棄・国防法制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本国憲法における戦争放棄・国防法制を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法9条の成立過程や学説・解釈を整理し、日本国憲法における戦争放棄・国防法制についてノート等にまとめておく。	150分
6	【個人の尊重】【幸福追求権】【法の下の平等】	日本国憲法においては、人権保障を図る条文が一般的・抽象的に定められている。本授業では、人権学修の初歩として、個人の尊重、幸福追求権および法の下の平等の意義を確認し、それらをめぐる判例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④に関連して、個人の尊重、幸福追求権および法の下の平等の意義を理解し、説明することができる。また、それらをめぐる判例の概要・判旨を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、個人の尊重、幸福追求権および法の下の平等の意義をノート等にまとめておく。また、それらをめぐる判例の概要・判旨をノート等にまとめておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【自由権】		日本国憲法における自由権は、判例の展開によって、確立されてきたところが多い。本授業では、自由権のうち、精神的自由権および経済的自由権の意義を確認し、それらをめぐる判例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、精神的自由権および経済的自由権の意義を理解し、説明することができる。また、それらをめぐる判例の概要・判旨を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、精神的自由権および経済的自由権の意義をノート等にまとめておく。また、それらをめぐる判例の概要・判旨をノート等にまとめておく。		150分
8	【社会権】		20世紀以降、社会的不平等の是正のために、国家の介入を求める社会権の考え方があらわれてきた。日本国憲法においても、そのような考え方にに基づき、各種の権利が明記されている。本授業では、特に生存権に注目し、それをめぐる判例および学説を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、社会権の意義を理解し、説明することができる。また、判例・学説に基づきながら、生存権の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、社会権の意義をノート等にまとめておく。また、生存権をめぐる判例・学説をノート等にまとめておく。		150分
9	【参政権と選挙制度】		参政権のうち、重要な立ち位置を占めるものは、選挙権である。選挙によって、民主主義国家の政治の営みは大きく左右される。本授業では、日本国憲法における参政権および選挙の基本原則を学修する。また、それらを具体化するための選挙制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本国憲法における参政権および選挙の基本原則を理解し、説明することができる。また、それらを具体化するための選挙制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、日本国憲法における参政権、選挙の基本原則および選挙制度についてノート等にまとめておく。		150分
10	【議会（国会）】		日本国憲法における議会制度は、かなり合理化された形で、各条文に明記されている。本授業では、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、国会の地位、国会の活動、国会の権能および衆議院の優越についてノート等にまとめておく。		150分
11	【内閣】 【議院内閣制】		議会制度と同じく、日本国憲法における内閣制度は、かなり合理化された形で、各条文に明記されている。これらの事実から、日本国憲法は明確に議院内閣制を採用しているということが出来る。本授業では、内閣の組織、内閣の権能および議院内閣制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、内閣の組織、内閣の権能および議員内閣制を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、内閣の組織、内閣の権能および議院内閣制についてノート等にまとめておく。		150分
12	【中央・地方関係】 【地方自治】		日本国憲法は、地方自治の章を設けている。しかし、実質的には、憲法典ではなく地方自治法によって、地方自治のあり方は定まっている。本授業では、明治以来の中央・地方関係を振り返りつつ、日本国憲法における地方自治を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、中央・地方関係および地方自治を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。		90分
	事後学修	授業内容を振り返り、中央・地方関係および地方自治についてノート等にまとめておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【裁判所】 【違憲審査制】	現代国家における人権保障には、裁判所の関与が不可欠である。また、ときに裁判所は違憲審査権を用いて、憲法判断にもふみこむのである。本授業では、裁判所の組織・権能および違憲審査制を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、裁判所の組織・権能および違憲審査制を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、裁判所の組織・権能および違憲審査制についてノート等にまとめておく。	150分
14	【憲法改正】	戦後、日本国憲法は一度も改正されずにきた。しかし、政治状況の進展いかんによっては、およそその国民が憲法改正に対する判断を国民投票のなかで迫られることになる。本授業では、憲法改正の意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、一人の国民として憲法改正に対する自らの意見をもち、述べることができる。	
	事前学修	事前に指定された教科書の該当ページを読んでおく。	90分
	事後学修	授業内容を振り返り、憲法改正が政治日程として決定された場合を想定し、自らがどのような意見をもち、投票を行うかを考える。	150分
15	【試験】 【まとめ】	授業内試験を実施する。その後、全講義のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本科目で学修した内容を総合的に検討することができる。	
	事前学修	本科目で学修した内容を総復習する。	90分
	事後学修	試験と全講義のまとめをふまえて、日本国憲法の全般的な内容を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
事前に「レジュメ」、参考資料を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。						1						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	30	30	10								70
小テスト等												
レポート等	レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教育制度史からみた日本大学史 山田顕義と幕末		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。山田顕義の誕生から倒幕運動を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から幕末の討幕運動について説明できる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		120分
	事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義と幕末の討幕運動について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		120分
2	山田顕義と明治維新 山田顕義と「建白書」		明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。岩倉使節団に随行した山田が帰国後、著した「建白書」を読み、彼の考えを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、山田「建白書」について自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と明治維新、山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。		150分
3	山田顕義と法典編纂		条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
4	山田顕義と大津事件		大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。さらに山田顕義の小テストをおこない、そのピア評価を実施する。小テストは解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
5	帝国大学の誕生-日本における高等教育機関の誕生と発展-		大学の誕生、フンボルト型大学、アメリカ型大学 東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の確保と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本における高等教育機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
6	日本法律学校の創設 山田顕義の死と日本法律学校		山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに小テストをおこない、ピア評価を実施する。小テストについて解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設、山田の死と日本法律学校について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」「山田の死と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	松岡康毅と日本法律学校		松岡康毅をむかえて日本法律学校は再出発し、日本大学と称し専門学校令によって法令上、専門学校となった。大学と称したもの、法令上は大学ではなかった。専門学校令以前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「松岡康毅と日本法律学校」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「松岡康毅と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「松岡康毅と日本法律学校」「専門学校令と日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
8	大学令と日本大学		大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと		90分
	事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
9	澤柳事件と瀧川事件		澤柳事件・瀧川事件をつうじて「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、澤柳事件・瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「澤柳事件・瀧川事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	澤柳事件・瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
10	日本大学の法人化ー私立大学の法人組織をめぐってー		私立大学の法人化の意味するところと、それをめぐる日本大学をはじめとする私立大学の取り組みを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の法人化、私立大学の法人化について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「私立大学の法人化」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	日本大学の法人化、私立大学の法人化について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
11	戦時体制下の日本大学 天皇主権説		戦時体制下の大学、太平洋戦争と日本大学、また天皇主権説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦時下の日本大学、また天皇主権説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
12	天皇機関説事件		天皇機関説事件と「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇機関説事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「天皇機関説事件」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	天皇機関説事件と「大学の自治」について講義の内容を復習し、ノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	美濃部の天皇機関説		美濃部達吉の天皇機関説について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、美濃部達吉の天皇機関説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「美濃部達吉の天皇機関説」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	美濃部の天皇機関説について講義内容を復習し、ノートに整理しておくこと。	150分
14	新制日本大学 授業内試験		新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。 授業内試験
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「新制日本大学の誕生から今日の日本大学まで」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。授業内試験にそなえる	90分
	事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、ノートに整理しておく。授業内試験の復習をする。	150分
15	授業内試験の解説、「日本大学の歴史」に関する講義総括		授業内試験解説、講義総括をおこなう。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	解説を踏まえ、再度授業内試験に取り組む。参考書を読む。	150分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
事前に「レジュメ」、参考資料・「参考図」などを配布して、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。			1					
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。			1					
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。			1					
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	30	30	10								70
小テスト等												
レポート等	レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②の能力が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	教育制度史からみた日本大学史 山田顕義と幕末		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。山田顕義の誕生から討幕倒幕運動を講義する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から討幕倒幕運動について説明できる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から討幕倒幕運動について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	120分
2	山田顕義と明治維新 山田顕義と「建白書」		明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。岩倉使節団に随行した山田が帰国後、著した「建白書」を読み、彼の考えを知る。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新、山田「建白書」説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。	150分
3	山田顕義と法典編纂		条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
4	山田顕義と大津事件		大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
5	帝国大学の誕生－日本における高等教育機関の誕生と発展－		大学の誕生、フンボルト型大学、アメリカ型大学 東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の確保と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「日本における高等教育機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
6	日本法律学校の創設 山田顕義の死と日本法律学校		山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに小テストをおこない、ピア評価を実施する。小テストについて解説をおこなう。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校、山田の死と日本法律学校について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」「山田の死と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	松岡康毅と日本法律学校		松岡康毅をむかえて日本法律学校は再出発し、日本大学と称し専門学校令によって法令上、専門学校となった。大学と称したもの、法令上は大学ではなかった。専門学校令以前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「松岡康毅と日本法律学校」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「松岡康毅と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「松岡康毅と日本法律学校」「専門学校令と日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
8	大学令と日本大学		大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大学令」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
9	澤柳事件と瀧川事件		澤柳事件と瀧川事件をつうじて「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、澤柳事件と瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「澤柳事件と瀧川事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	澤柳事件と瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
10	日本大学の法人化－私立大学の法人組織をめぐって－		私立大学はの法人化の意味するところと、それをめぐる日本大学をはじめとする私立大学の取り組みを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の法人化、私立大学の法人化について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「私立大学の法人化」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	日本大学の法人化、私立大学の法人化について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
11	戦時体制下の日本大学 天皇主権説		戦時体制下の大学、太平洋戦争と日本大学、また天皇主権説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦時下の日本大学、天皇主権説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
12	天皇機関説事件		天皇機関説事件と「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇機関説事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「天皇機関説事件」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「天皇機関説事件」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	美濃部の天皇機関説	美濃部達吉の天皇機関説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、美濃部達吉の天皇機関説について説明できるとともに、自らの見解を述べることができる。	
	事前学修	事前に配布されている「美濃部達吉の天皇機関説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	美濃部の天皇機関説について講義内容を復習し、ノートに整理しておくこと。	150分
14	新制日本大学から今日の日本大学 授業内試験	新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度経済成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度経済成長期の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることができる。	
	事前学修	事前に配布されている「新制日本大学の誕生から今日の日本大学」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。授業内試験にそなえる。	90分
	事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。授業内試験の復習をする。	150分
15	授業内試験の解説、「日本大学の歴史」に関する講義総括	授業内試験の解説、講義総括をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	解説を踏まえ、再度授業内試験に取り組み。参考書を読む。	150分

Ⅱ 群

総合科目

Ⅱ 群

総合科目

科目名	アジアの歴史 I	担当者	伊藤 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
アジアの歴史は、中国・インド・西アジアの農耕文明圏とそこに近接する草原地帯の遊牧勢力との接触・交流・対立を軸に展開し、これらの各地域は陸・海の交通・交易ネットワークを通じて結びついていた。本講義では、特に中国王朝とその北方・西方に位置する遊牧国家に焦点を当て、東アジア（中国・朝鮮・日本）・中央ユーラシア・東南アジアを包含する「東部ユーラシア」の歴史展開を、モンゴル帝国が出現する13世紀以前までたどっていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、東部ユーラシアの歴史展開を通じて、以下の三つの理解を深めることを目的とする。①東部ユーラシアという規模の歴史展開をたどることで、中国や日本の歴史がより広い地域との結びつきをもっていたことを理解することを目的とし、必要に応じてインドや西アジア、ヨーロッパにも言及することで、さらに広い視野での歴史理解も可能としたい。②東部ユーラシアにおける国際情勢の変動や、国際情勢を大きく規定した歴代中国王朝の外交政策・思想の本質を知ることを通じて、現在の中国や日本が置かれたアジア情勢や国際情勢が形成された歴史的背景を理解する。③東部ユーラシアにおける生業・社会・文化の多様性やその伝播・変化などを知ること、異文化理解・他者理解のための素地を涵養する。

【履修条件】
中国やアジア、遊牧民の歴史などに関心のある学生を歓迎します。授業の欠席はいかなる事情も自己責任として扱い、日本大学もしくは法学部で規定されている場合を除き、一切の配慮・救済・代替措置は行いません。また、他の履修生の迷惑になるような行為や履修放棄とみなされるような行為には厳しく対応します。

【授業方法】
配布する授業レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて板書・パワーポイントを利用する。小テストはGoogle Classroomを通じて回収する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	モンゴル帝国出現以前の東部ユーラシアの歴史展開について、大まかな流れた基本的な事項・概念を理解し、説明することができる。【知識】				2	2	2	2							
②	①を踏まえ、現在の東部ユーラシア情勢が形成された歴史的背景について、議論することができる。【態度・習慣】				2	2	2	2							
③	歴史上、東部ユーラシアに存在した多様な社会・文化のうえに現代世界が形成されたことを理解し、異文化理解・他者理解の姿勢を示すことができる【態度・習慣】				2	2	2	2							
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															
【成績評価の方法・基準・割合】					到達目標								評価方法別の比率(%)		
成績評価方法	評価基準				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)															
小テスト等	授業後の小テストを通じて、到達目標①に関わる東部ユーラシアの歴史に関する知識が正確に理解できているかを確認する。				50										50
レポート等	提出されたレポートが書式などの要件を満たし、課題にこたえる内容をともなったうえで、到達目標②③に関わる自らの見解を提示・説明できている。					25	25								50
討論・発表等															
授業への参画度															
その他()															
その他()															
その他()															
到達目標別の比率(%)					50	25	25								100
【課題に対するフィードバックの方法】															
小テストについては、回収後の授業時に必要に応じて補足説明などを行う。															

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国と東部ユーラシアの歴史	佐川英治・杉山清彦 (編)	放送大学教育振興会	2020	参考書	任意
中国の歴史	岸本美緒	筑摩書房	2015	参考書	任意
概説中国史 上 (古代～中世)	富谷至・森田憲司 (編)	昭和堂	2016	参考書	任意
遊牧民から見た世界史 (増補版)	杉山正明	日経BPM (日本経済新聞出版本部)	2011	参考書	任意
中華の成立 唐代まで (シリーズ中国の歴史①)	渡辺信一郎	岩波書店	2019	参考書	任意
江南の発展 南宋まで (シリーズ中国の歴史②)	丸橋充拓	岩波書店	2020	参考書	任意
草原の制覇 大モンゴルまで (シリーズ中国の歴史③)	古松崇志	岩波書店	2020	参考書	任意
備考	各回授業時にも適宜参考書を紹介する。				
【オフィスアワー】					
メールアドレス：ito.kazuma@nihon-u.ac.jp／研究室：法学部本館7階1717研究室					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入：アジアの歴史と中国・中央ユーラシア・東部ユーラシア	中国の歴史における中央ユーラシアの遊牧民の重要性や、東部ユーラシアという空間の意義を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の歴史展開の時間的・空間的な基本構造を説明できる。	
	事前学修	中国の歴史展開の大まかな流れを確認しておく。	120分
	事後学修	中国の歴史展開の時間的・空間的な構造と遊牧民の関わりを整理する。	120分
2	中国文明の誕生と初期王朝の成立	東アジアにおける多面的な新石器文化から中国文明を経て国家・王朝へと至る過程とその特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、東アジアの新石器文化の多元性と文明から国家・王朝が成立する流れを説明できる。	
	事前学修	東アジアの新石器文化について調べておく。 殷・周について調べておく。	120分
	事後学修	東アジアの新石器文化圏の特徴について整理する。 中国における文明や王朝の成立をもたらす要素について整理する。	120分
3	春秋・戦国時代の中国社会と秦の統一	春秋・戦国時代の分裂状態から秦によって統一されていく中で中国社会がどのように変動したかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、春秋・戦国時代や秦代までに形成された易姓革命・中華思想・皇帝という概念について説明できる。	
	事前学修	春秋・戦国時代がどのような時代であったか調べておく。 秦の始皇帝の事績に調べておく。	120分
	事後学修	春秋・戦国時代の中国社会の変動について整理する。 秦の始皇帝の諸政策の特徴と後代への影響を整理する。	120分
4	遊牧民・オアシス民の社会と遊牧国家の成立	中央ユーラシアの遊牧民・オアシス民の社会の特徴、両者の結合によって遊牧国家が誕生することを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遊牧民・オアシス民の特徴や遊牧騎馬民・遊牧国家の歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	中央ユーラシアの自然環境を確認しておく。 歴史上の遊牧国家を調べておく。	120分
	事後学修	遊牧民とオアシス民の特徴と両者の結合のあり方を整理する。	120分
5	秦漢帝国と匈奴	秦・前漢・後漢と匈奴の関係の推移をたどるとともに、両者の関係を軸とする東部ユーラシア情勢の展開を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、秦・前漢・後漢と匈奴との関係の推移を説明できる。	
	事前学修	歴史上、どのような遊牧国家と中国王朝が「共存」していたか調べておく。	120分
	事後学修	匈奴を事例として遊牧国家の特徴について整理する。 秦・漢と匈奴の関係をもとに、遊牧国家と中国王朝の関係の構造を考える。	120分
6	漢帝国の政治・社会と「古典国制」	前漢～新～後漢の政治・社会の特徴を整理し、新・後漢時代にかけて整備され後世の模範となった「古典国制」とは何かを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「古典国制」とはなにか説明できる。	
	事前学修	漢代の政治・社会について調べておく。	120分
	事後学修	漢代の儒教の意義について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	漢帝国と東部ユーラシア	漢代の東部ユーラシアにおける諸国家の形成や国際関係、交易や文化交流の在り方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、漢と諸勢力との関係の特徴、とりわけ冊封・朝貢について説明できる。	
	事前学修	漢と関わりを持った東部ユーラシアの諸国家について調べておく。	120分
	事後学修	漢と周辺諸勢力との関係について、遊牧国家との比較を念頭に整理する。 漢代に東部ユーラシアを往来した人々や文物について整理する。	120分
8	東部ユーラシアの民族大移動①：中国の分裂時代と多民族社会	遊牧集団の流入によって多民族が共存し分裂状態となった中国の政治・社会・文化などの変動を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、魏晉南北朝時代の多民族社会の特徴を説明できる。	
	事前学修	魏晉南北朝時代の中国の歴史を確認しておく。	120分
	事後学修	魏晉南北朝時代の諸政権の特徴を整理する。 中国に流入した遊牧民のもたらした影響を考える。	120分
9	東部ユーラシアの民族大移動②：遊牧国家の興亡と国際情勢の変動	草原・オアシスの遊牧国家の興亡や朝鮮・日本・東南アジアを含む東部ユーラシアの国際情勢を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、この時代の歴史展開が東部ユーラシア規模で連動していたことを説明できる。	
	事前学修	3～6世紀の中央ユーラシアや東アジア・東南アジアの諸国家について調べておく。	120分
	事後学修	3～6世紀の東部ユーラシアの諸勢力の国際関係とその変遷を整理する。 東部ユーラシアにおける仏教の意義を考える。	120分
10	隋唐帝国と古代トルコ帝国①：隋唐帝国の成立とテュルク（突厥）帝国	中国の分裂状態を解消・統一した隋唐帝国と、草原世界に覇を唱えたテュルク（突厥）帝国の動向を軸に、東部ユーラシア情勢の展開をたどる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、隋唐帝国における遊牧民の役割を説明できる。	
	事前学修	隋・唐の諸制度について調べておく。	120分
	事後学修	隋・唐の農耕国家・遊牧国家的な要素を整理する。 遊牧民が唐をどのように認識していたかを考える。	120分
11	隋唐帝国と古代トルコ帝国②：唐帝国の変容とウイグル帝国	栄華を誇った唐帝国の動揺・変容と、ウイグル帝国の勃興により変動する東部ユーラシア情勢の展開をたどる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、8世紀半ば以降の唐および東部ユーラシアの変動について説明できる。	
	事前学修	8世紀半ばの安史の乱について調べておく。	120分
	事後学修	安史の乱の歴史的意義について整理する。 テュルク・ウイグル時代の遊牧社会の変化について整理する。	120分
12	シルクロードの活況と陸・海の変動	唐代に活況をむかえたシルクロードによる交易・交流の様相を整理するとともに、東部ユーラシアの内陸・海域世界の変動を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、9世紀半ばを画期とする東部ユーラシアの内陸・海域世界の変化を説明できる。	
	事前学修	シルクロードについて調べておく。 日本と唐の関係について調べておく。	120分
	事後学修	シルクロードによるユーラシア規模の交易・文化交流の諸相や歴史的意義を整理する。 9世紀半ば以降の東部ユーラシアの変動の要因や過程を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	唐宋変革と東部ユーラシア	唐の滅亡から五代十国時代を経て宋の成立にいたる過程を確認し、政治・経済・社会・文化などの中国の変動を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、宋代の政治・経済・社会・文化などの特徴を唐と比較しながら説明できる。	
	事前学修	政治・経済・社会・文化などの面で宋代に新たに出現したものを調べる。	120分
	事後学修	政治・経済・社会・文化などの面で唐・宋を比較し、両者の共通点・相違点を整理する。	120分
14	中央ユーラシア型国家と盟約の時代 ①：キタイ（契丹）・ジュルチン（女真）の台頭	東部ユーラシアで中央ユーラシア型国家が林立し、契丹・女真を軸に形成された国際情勢を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中央ユーラシア型国家の特徴や歴史的意義を説明できる	
	事前学修	9、10世紀以降に東部ユーラシアに成立した遊牧国家を調べておく。	120分
	事後学修	中央ユーラシア型国家の特徴を匈奴以来の遊牧国家との比較を念頭に整理する。 キタイ（契丹）と北宋、ジュルチン（女真）と南宋との関係を整理する。	120分
15	中央ユーラシア型国家と盟約の時代 ②：外交・交易・文化交流	盟約を中心とする国際関係の特徴と、交易や文化交流を通じた東部ユーラシアにおける連動性を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、盟約の特徴や歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	遊牧国家や中国王朝が周辺勢力と結ぶんだ関係について確認しておく。	120分
	事後学修	10世紀以降の東部ユーラシアにおける多様な国際関係を整理する。 この時代の東部ユーラシアを往来した人々や文物について整理する。	120分

科目名	アジアの歴史Ⅱ	担当者	伊藤 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
アジアの歴史は、中国・インド・西アジアの農耕文明圏とそこに近接する草原地帯の遊牧勢力との接触・交流・対立を軸に展開し、これらの各地域は陸・海の交通・交易ネットワークを通じて結びついていた。本講義では、特に中国王朝とその北方・西方に位置する遊牧国家に焦点を当て、東アジア（中国・朝鮮・日本）・中央ユーラシア・東南アジアを包含する「東部ユーラシア」の歴史展開を13・14世紀のモンゴル帝国成立以降からたどっていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、東部ユーラシアの歴史展開を通じて、以下の三つの理解を深めることを目的とする。①東部ユーラシアという規模の歴史展開をたどることで、中国や日本の歴史がより広い地域との結びつきをもっていたことを理解することを目的とし、必要に応じてインドや西アジア、ヨーロッパにも言及することで、さらに広い視野での歴史理解も可能としたい。②東部ユーラシアにおける国際情勢の変動や、国際情勢を大きく規定した歴代中国王朝の外交政策・思想の本質を知ることを通じて、現在の中国や日本が置かれたアジア情勢や国際情勢が形成された歴史的背景を理解する。③東部ユーラシアにおける生業・社会・文化の多様性やその伝播・変化などを知ること、異文化理解・他者理解のための素地を涵養する。

【履修条件】
中国やアジア、遊牧民の歴史などに関心のある学生を歓迎します。授業の欠席はいかなる事情も自己責任として扱い、日本大学もしくは法学部で規定されている場合を除き、一切の配慮・救済・代替措置は行いません。また、他の履修生の迷惑になるような行為や履修放棄とみなされるような行為には厳しく対応します。

【授業方法】		
配布する授業レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて板書・パワーポイントを利用する。小テストはGoogle Classroomを通じて回収する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力								
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力								
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力								
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力								
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	モンゴル帝国成立以降の東部ユーラシアの歴史展開について、大まかな流れた基本的な事項・概念を理解し、説明することができる。【知識】				2	2	2	2							
②	①を踏まえ、現在の東部ユーラシア情勢が形成された歴史的背景について、議論することができる。【態度・習慣】				2	2	2	2							
③	歴史上、東部ユーラシアに存在した多様な社会・文化のうえに現代世界が形成されたことを理解し、異文化理解・他者理解の姿勢を示すことができる【態度・習慣】				2	2	2	2							
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															
【成績評価の方法・基準・割合】					到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法		評価基準			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)															
小テスト等		授業後の小テストを通じて、到達目標①に関わる東部ユーラシアの歴史に関する知識が正確に理解できているかを確認する。			50										50
レポート等		提出されたレポートが書式などの要件を満たし、課題にこたえる内容をともなったうえで、到達目標②③に関わる自らの見解を提示・説明できている。				25	25								50
討論・発表等															
授業への参画度															
その他()															
その他()															
その他()															
到達目標別の比率(%)					50	25	25								100
【課題に対するフィードバックの方法】															
小テストについては、回収後の授業時に必要に応じて補足説明などを行う。															

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国と東部ユーラシアの歴史		佐川英治・杉山清彦 (編)	放送大学教育振興会	2020	参考書	任意
中国の歴史		岸本美緒	筑摩書房	2015	参考書	任意
概説中国史 下 (近世一近現代)		富谷至・森田憲司 (編)	昭和堂	2016	参考書	任意
遊牧民から見た世界史 (増補版)		杉山正明	日経BPM (日本経済新聞出版本部)	2011	参考書	任意
草原の制覇 大モンゴルまで (シリーズ中国の歴史③)		古松崇志	岩波書店	2020	参考書	任意
「中国」の形成 現代への展望 (シリーズ中国の歴史⑤)		岡本隆司	岩波書店	2020	参考書	任意
備考	各回授業時にも適宜参考書を紹介する。					

【オフィスアワー】	
メールアドレス：ito.kazuma@nihon-u.ac.jp／研究室：法学部本館7階1717研究室	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入：ユーラシアの統合とグローバル化の中の東部ユーラシア	13世紀以降に進展するユーラシアの統合およびグローバル化の中で、東部ユーラシアがどのように位置づけられるかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、13世紀以降のグローバル化の進展を説明できる。	
	事前学修	グローバル化を示す事象にどのようなものがあるか考えておく。	120分
	事後学修	グローバル化を進展させる要因にどのようなものがあるか整理する。	120分
2	モンゴル帝国の成立と拡大	13世紀にモンゴル帝国が成立・拡大する過程と、モンゴル帝国の政治・支配体制の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、モンゴル帝国の政治・支配体制の特徴を説明できる。	
	事前学修	モンゴル時代について調べておく。	120分
	事後学修	モンゴル帝国の成立・拡大を整理する。 モンゴル帝国の政治・支配体制の特徴を遊牧国家・中国王朝との比較を念頭に整理する。	120分
3	モンゴル帝国のユーラシア統合	モンゴル帝国による政治・経済・文化など様々な面でのユーラシア規模の統合のあり方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、モンゴル時代のユーラシア規模の結びつきを説明できる。	
	事前学修	モンゴル時代のユーラシア情勢を確認しておく。	120分
	事後学修	モンゴル時代のユーラシア諸地域の勢力がモンゴル帝国とどのように関わったか整理する。 モンゴル時代にユーラシアの東西を往来した人々や文物を整理する。	120分
4	ポスト・モンゴル時代のユーラシア	モンゴル帝国の崩壊後のユーラシア情勢を概観し、各地に成立したポスト・モンゴル政権の特徴や意義を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ポスト・モンゴル政権が継承したモンゴル帝国の要素を説明できる。	
	事前学修	モンゴル帝国崩壊後のユーラシア各地に成立した政権を確認しておく。	120分
	事後学修	モンゴル帝国崩壊後のユーラシア各地の政権の特徴を整理する。 モンゴル帝国の歴史的意義を考える。	120分
5	元明交替と東部ユーラシア	モンゴルに替わって中国を支配した明の政治体制や、明による国際秩序の構築やその特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明の政治体制や国際秩序の特徴を説明できる。	
	事前学修	明の政治・社会・国際関係について調べておく。	120分
	事後学修	明の政治体制や国際秩序の特徴を整理する。 モンゴル帝国と明を比較して両者の共通点・相違点を整理する。	120分
6	銀の世紀と商業・軍事政権の東部ユーラシア	16世紀に世界が銀で結ばれ、東部ユーラシア各地に商業・軍事政権が成立していく過程やその特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、銀を介した16世紀の世界の結びつきを説明できる。	
	事前学修	16世紀の世界と東部ユーラシアの状況を確認しておく。	120分
	事後学修	16世紀の世界と東部ユーラシアがどのように結ぶついていったかを整理する。 商業・軍事政権の特徴を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	明清交替と東部ユーラシア	明の滅亡とマンジュ（満洲）＝清の勃興および中国進出による中国および東部ユーラシアの変動を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、清の成立から中国進出の流れを説明できる。	
	事前学修	清がどのような国家か調べておく。	120分
	事後学修	明の滅亡から清の勃興・中国進出までの流れを整理する。 清がどのような国家か中国王朝・遊牧国家と比較しながら考える。	120分
8	大清帝国の興隆と東部ユーラシア ①：清の政治・支配体制の確立	清の版図の拡大や政治・支配体制が確立していく過程を概観し、その特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治・支配体制の特徴を説明できる。	
	事前学修	清の拡大や政治・支配体制について調べておく。	120分
	事後学修	清の拡大や政治・支配体制の確立の過程やその特徴を整理する。	120分
9	大清帝国の興隆と東部ユーラシア ②：清の国際秩序	清が東部ユーラシアやヨーロッパ勢力に対してどのような姿勢で臨み、どのような秩序を構築しようとしていたのかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、清の国際関係の特徴を説明できる。	
	事前学修	清と外交関係をもった国家について調べておく。	120分
	事後学修	清が諸外国と結んだ関係について整理する。	120分
10	大清帝国の黄昏と東部ユーラシア ①：列強の進出と中国の近代化	列強諸国のアジア進出の影響によって、中国で近代化が進んでいく過程やその特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の近代化の特徴を説明できる。	
	事前学修	19世紀以降の清の動向を確認しておく。	120分
	事後学修	19世紀以降の清の諸改革や近代化の特徴を整理する。	120分
11	大清帝国の黄昏と東部ユーラシア ②：国際秩序の動揺	列強諸国のアジア進出の影響による清の覇権・秩序の動揺・変容や、新たに形成された国際関係の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀以降の清の国際関係の特徴を説明できる。	
	事前学修	19世紀以降の東部ユーラシアの情勢を確認しておく。	120分
	事後学修	19世紀以降の清と諸外国との関係を整理する。	120分
12	辛亥革命と東アジア	辛亥革命による清の滅亡および中華民国の成立と、それにとまう東アジア各地の変動を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、辛亥革命の特徴や歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	辛亥革命が何を目指したものか調べておく。	120分
	事後学修	辛亥革命によって中華民国が成立する過程を整理する。 辛亥革命が周辺地域に与えた影響を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	二つの世界大戦と東アジア	二度に亘る世界大戦勃発の背景や大戦時における東アジア諸地域の動向を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二つの世界大戦と東アジアとの関わりを説明できる。	
	事前学修	第一次・第二次世界大戦期の東アジアの情勢を確認しておく。	120分
	事後学修	第一次・第二次世界大戦と東アジアとの関わりを整理する。 二つの世界大戦が東アジアに何をもたらしたか考える。	120分
14	中華人民共和国の成立と東アジアの戦後	第二次世界大戦の終結から中華人民共和国成立までの過程や、戦後体制のなかでの東アジアの動向や位置付けを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華人民共和国がどのような国家か説明できる。	
	事前学修	中華人民共和国が成立する過程やその特徴を調べておく。	120分
	事後学修	中華人民共和国がどのような国家か整理する。 戦後のアジアや世界における中国の位置づけを考える。	120分
15	現在の中国・中央ユーラシア・東部ユーラシア	現在の中国・中央ユーラシアおよび東部ユーラシアの情勢を整理し、どのような歴史的背景があるかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在の世界情勢における中国や東部ユーラシアの位置づけを説明できる。	
	事前学修	現代の東部ユーラシアにどのような「問題」があるか考えておく。	120分
	事後学修	現代の東部ユーラシアにおける様々な「問題」がどのような歴史的背景をもつか考える。	120分

科目名	学際教養A【東京の社会文化史】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当の「東京の社会文化史」では、都市論のさまざまなアプローチを織り込みながら、明治・大正・昭和の東京に関するトピックスを掘り下げ、この巨大都市の変化とその特質を考察する。その際、特に地域社会構造（コミュニティ）や生活文化などに重点を置きながら検討する。そして受講生とともにこれからの都市への向き合い方を考える場としたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
東京の過去・現在・未来に関心を持つ者、街歩きが好きな者を歓迎する。単位だけが欲しいという者、参加意欲のない者の履修はお断りします。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント・画像・映像を使用し、時折ディスカッションを通じて参加型の形式を取り入れる。 毎回リアクションペーパーの提出を求める。課外でフィールドワークを行うこともある。 レスポンドで出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー。ピア・レビュー。フィールドワーク。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、レポート試験により評価する。	25	25	25								75
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポート・作業課題により、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、内容の理解と授業への参加度を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評をClassroomで発表

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜13：00～14：30。メールでアポイントを取ること（ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp）。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容	歴史資料や公文書の保存・公開の重要性。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	「東京の社会文化史」とはどういう講義か	さまざまな都市へのアプローチを踏まえ、本講義の狙いと視点、講義概要を説明する。評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介についても言及する。	
	この回の到達目標	本講義の狙いを理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読して、頭に入れておく。特に講義の趣旨や全体像を概観しておく。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読しながら、履修を検討する。	120分
2	東京遷都	江戸幕府を崩壊させた明治新政府は、なぜ江戸への遷都を選んだのだろうか。	
	この回の到達目標	東京遷都の歴史過程と遷都戦略の意味を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
3	明治の東京改造	江戸幕府の崩壊によって荒廃した街をどのように復興させていくのか。明治の東京改造の試みや構想を分析し、封建都市から近代都市へ脱却の意味を考える。	
	この回の到達目標	明治のまちづくりの歴史的意義を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。なぜ東京を改造しなくてはならなかったを考えてみる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
4	下町の社会構造と暮らし	江戸との連続性の強い下町の住民像と生活様式を分析し、明治の下町の地域社会のあり方から考える。	
	この回の到達目標	「下町」的なものの原型を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「下町」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
5	山の手の主婦の日記を読む	明治30年代の山の手の主婦が書いた日記を分析し、下町とは相対的に異なった「山の手」の生活様式や地域社会のあり方について考える。	
	この回の到達目標	「山の手」的なものの原型を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「小林信子日記」を読んで、レポートをまとめる（宿題）。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
6	最暗黒の東京——都市下層社会論	都市スラム（都市下層社会）がどのようなものであり、なぜ形成されたのか、そこを「最暗黒」と名指しするような視線（眼差し）が市民の間に生まれたのはなぜか。	
	この回の到達目標	都市空間の格差や差別についての視点を獲得する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「スラム」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	工業化と地域社会 ——新下町論	東京の工業化に伴って生まれた地域社会＝「新下町」の社会構造や生活様式の特質について分析する。	
	この回の到達目標	「下町」的なものの変容について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。月島は「下町」か？、自分の答えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
8	郊外の思想と住宅地形成	東京の人口が飽和し都市問題が発生する中で、「郊外」の価値が発見される。そのなかでイギリスの「田園都市」思想が日本に紹介されるが、日本的な変容を遂げ定着していく。	
	この回の到達目標	日本における郊外住宅地形成の過程を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「郊外」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
9	百貨店と商業空間の変容	百貨店の誕生を取り上げ、都市空間の消費化について考える。	
	この回の到達目標	都市の発展と消費社会化との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「百貨店」に関わる自分の体験をまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
10	関東大震災と朝鮮人虐殺	関東大震災の被害を概観したうえで、その直後に起こった朝鮮人虐殺事件の実態とその背景について考える。	
	この回の到達目標	都市空間における差別と不平等への視点を獲得し、「共生の作法」の重要性を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。関東大震災について知っていることを書き出す。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
11	震災復興と都市構造の変容	関東大震災後の復興事業の実施過程や内容を検討する。	
	この回の到達目標	土地区画整理事業をはじめとする復興事業の意義や問題点を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。震災復興で出来た施設を挙げる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
12	東京の盛り場論(1)―浅草	江戸時代から続く宗教的盛り場である浅草を取り上げ、変容し続ける娯楽空間のダイナミズムを考える。	
	この回の到達目標	「盛り場」とは何か、その活力の源泉についての考え方を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。盛り場とは何か、自分なりの考えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	東京の盛り場論(2)―銀座・新宿	震災後の「モダン東京」を象徴する盛り場である銀座・新宿を取り上げ、都市構造の変容と盛り場の変容との関係を考える。	
	この回の到達目標	都市構造の変容と盛り場の変容との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。銀座と新宿のイメージを自分なりにまとめる	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
14	戦争と東京 ――地域の組織化と空襲による破壊	戦時下における都市住民の組織化と地域社会の変容、および戦争末期の東京大空襲の実態を踏まえ、「都市は戦争できない」というテーゼについて考える。	
	この回の到達目標	戦争という「非日常」の経験を媒介にして、都市の「日常」への視点を得る。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。自分の地域の町内会や空襲について調べておく。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
15	まとめ 都市への向き合い方（ディスカッション）	近代都市東京の歴史を素材として、都市の諸相について検討してきた本講義を振り返り、「都市への向き合い方」を考えるディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	自分なりの「都市への向き合い方」を思考し、伝達することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返る。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

科目名	学際教養A	担当者	原山 浩介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 原山担当の本講義では、国境を越える人の移動に関わる諸現象を多角的に検討する。日本から海外への「移民」の経験を踏まえながら、今日の世界が直面する諸課題を学修し、将来にわたって私たちが自らの、あるいは他者の移動をどう考え、どう生きるのかを考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
境界を越えた人の移動や、多様な人々が構成する現代社会の可能性と課題に関心のある者。

【授業方法】
講義形式とし、受講生の状況に応じてグループワークの場を設ける。歴史上、および今日の具体的な事例を交えて授業を行うこととし、歴史学と社会学の双方の関心をクロスさせた講義展開にする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー。また、受講者数等の状況に応じて、グループワークを実施する場合がある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかを、レポート試験によって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③に関わって、グループワークが実施できる場合はその成果のとりまとめを小テストして扱う。実施できない場合は小テスト課題にそれぞれの受講者が取り組む。	10										10
授業への参画度	到達目標①②③に関わって、リアクションペーパーにより授業への参加度・理解度を評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限(14:10～16:10)をオフィスアワーとする(研究室)。事前にGoogle Classroomを通じてアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	海外移住に関わる博物館の展示アドバイザー、JICS学術委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		海外移住の歴史と現状に関するビジュアル的な示し方、および社会教育における取り組みの重要性を授業の中で示す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	プロローグ 人口減少社会と「移民」	現在の日本が人口減少社会になっていることに鑑み、今後の見通しやそのなかで進んでいる「外国人労働者」の導入に関わる諸課題について学び、第2回目以降の講義を受けるための問題意識を確認する。	
	この回の到達目標	本講義を通じて、境界、とりわけ国境を越えた人の移動について学んでいく上での基本的な問題意識を持つ。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、人の移動をめぐって自ら関心を持っていることを整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した資料を読み込み、自分の問題意識を整理する。	120分
2	近代日本における海外移住 1	明治以降の日本から海外への移住について、主に北米に焦点を当て、その歴史的経過を捉えるとともに、そもそも人の移住とはどのような現象なのかを考える。	
	この回の到達目標	近代初期の海外への移住についての概略を理解するとともに、人の移住の持つ意味について理解する	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を整理し、事実関係のみならず、人の移住がどのような過程で行われるのかを理解する。	120分
3	「移民国家」アメリカ合衆国を考える	「移民国家」とも呼ばれることのあるアメリカ合衆国において、移住者を含むマイノリティに対する排除と包摂がどのように展開したのかをみる。	
	この回の到達目標	アメリカ合衆国における排除と包摂の2つの論理がどのように併存しているのかを理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	アメリカ合衆国におけるマイノリティ／移住者の扱いの概略を理解する。	120分
4	近代日本における海外移住 2	近代における日本から海外への移住について、主に中南米に焦点を当てて、その経過を学ぶ。。	
	この回の到達目標	中南米への移住についての概略を理解するとともに、移住先に作られた日本人（日系人）社会の存在について理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	日本人（日系人）社会について理解を深める。	120分
5	勢力圏の拡大と人びとの移住 1	日本の勢力圏の拡大と、それに伴う、人の往来をめぐり、その概要を学ぶ。	
	この回の到達目標	日本とその勢力圏の間の人の往来について、その概要を理解するとともに、それが差別／侵略の性格を伴ったことに鑑み、基本的な問題点を理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	日本とその勢力圏の間の人の往来の概要を整理する。	120分
6	勢力圏の拡大と人びとの移住 2	日本とその勢力圏の間の人の往来について、当事者から見えた世界に即して学ぶ。	
	この回の到達目標	満洲開拓について、そこで生じた諸問題を理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	満洲開拓に関わった人びとが置かれた状況について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦争と移民1：強制収容	日米戦のなかでの、アメリカ合衆国における日本人・日系アメリカ人の強制収容について学ぶ。	
	この回の到達目標	アメリカ合衆国における日本人・日系アメリカ人の強制収容について、その流れを理解するとともに、戦争の下で生ずる差別について理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	戦争の下で生ずる差別について、自らの生きる時代にひきつけて考える。	120分
8	戦争と移民1：日系アメリカ人の従軍	日系アメリカ人の第二次世界大戦への米軍兵士としての動員と、その背景について学ぶ。	
	この回の到達目標	戦争の下での移民の境遇について、軍務や愛国心との関わりにおいて理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	日系人兵士の諸相を踏まえて、愛国心とは何かを整理する。	120分
9	戦争と移民3：中国における日本人とアメリカ軍人	中国で、日本の「共産主義者」とアメリカの軍人が、同じ地域で、相互に重要なパートナーとして活動していた、その過程をたどる。	
	この回の到達目標	「移民」という現象を世界的な広がりの中に置き直しながら考える発想を身につける。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	講義で示した複雑な事実関係について整理する。	120分
10	移民たちの社会運動1	日本人移民がハワイで展開した社会運動について、主として戦前期のプランテーションを中心とした動きを学ぶ。	
	この回の到達目標	「移民」にとっての労働問題を理解するとともに、異議申し立ての困難さを理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	エスニックグループ間の分断状況を踏まえて、「移民」にとっての労働運動の難しさを整理する。	120分
11	移民たちの社会運動2	第二次世界大戦後に、ハワイを舞台に複数のエスニックグループが合同で展開した労働運動をたどるとともに、ハワイに特異な「移民」の定着過程を考える。	
	この回の到達目標	「移民」労働者の異議申し立ての諸相を民主主義との関わりの中で理解するとともに、そこで置き去りにされた先住民問題について理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	戦後のハワイの労働運動の展開について、講義で示した複数のコンテキストを踏まえて再整理する。	120分
12	戦後日本からの海外移住と日本の農村	日本から海外への戦後移住について、日本の農村社会の状況との関係のなかで学ぶ。	
	この回の到達目標	戦後の海外移住の展開を、日本の戦後史との関わりの中で理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	高度経済成長下の海外移住の経過について、戦前との比較のもとで整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「多様性」「共生」の思想	1980年代～90年代にかけて、日本において外国人が置かれた状況と、それを取り巻く思想状況について学ぶ、	
	この回の到達目標	1980年代～90年代の、外国人人口が増えていく現実を前にした、「多様性」「共生」の発想の広がり、「国際化」をめぐる捉え方について理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	講義で示した「多様性」「共生」が広がった時代性をめぐり、今日の状況との相違を整理する	120分
14	「外国人労働者」と日本の法制度	日本において外国人を「労働者」として受け入れてきた過程について学ぶ。	
	この回の到達目標	多様な形で日本に居住する外国人「労働者」について、その制度的バックグラウンドを理解するとともに、受け入れの過程で直面してきた課題について理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	外国人「労働者」をめぐる諸問題について、ステレオタイプを乗り越えた理解を構築する。	120分
15	グローバリゼーションと分断の相克	グローバリゼーションの展開と、その反動としての排外主義の横行について学ぶ。	
	この回の到達目標	グローバリゼーションが展開するなかで広がった排外主義と、その克服を目指す市民的・思想的営みについて理解する。	
	事前学修	事前に指定した資料を読む。	120分
	事後学修	グローバリゼーションが展開する現在と、過去の「移民」の動きを重ね合わせ、通底する課題と今日的な課題を導出する。	120分

科目名	学際教養A【沖縄表象文化論】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定される。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当の本講義では「沖縄表象文化論」と題して、人類学を中心とした人文科学の方法論を主に用い、近現代の沖縄に関する具体的なできごとやイメージを扱う。特異な文化と歴史を有する沖縄を取り巻く現代社会の政治的状況を鑑みつつ、構造的差別、国民国家、平和主義といった沖縄とともに問うべき普遍的問題群について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。

【授業方法】
毎回の討議、レビューシートもしくはそれに代わるコメントやレポートの提出（可能な場合はグループワーク）を中心とする。可能であればゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	前富西一馬、勝方＝稲福恵子	昭和堂	2010年	教科書	必携
備考	資料等適宜配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00もしくは昼休み。あるいはメールにて相談可。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会における文化の役割やその政治性についての議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 沖縄と学ぶことの意味について考える	沖縄学についての歴史、現状および沖縄を対象とする様々な人文・社会科学の諸領域についての概略を述べる	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時に自分なりの問題設定を確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、沖縄を学ぶことの自分なりの意義について言語化し整理しておく。	120分
	事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2	琉球・沖縄の歴史と言語 1	沖縄における言語的世界の概観とそのリアリティについて考える。	
	この回の到達目標	沖縄という具体的な場所で、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの経験や定義をまとめておく	120分
	事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3	琉球・沖縄の歴史と言語 2	沖縄における言語的世界のリアリティをめぐる諸問題について考える。	
	この回の到達目標	沖縄の歴史という具体的な時間でのなかで、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの困難な経験や印象的なできごとをまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4	文化の翻訳 1	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージについてまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5	文化の翻訳 2	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6	文化の翻訳 3	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品やできごとを扱った批評や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを扱った批評や論考を通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、社会における沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な批評や論考についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や論争などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	芸術・芸能を味わう 1		沖縄の伝統芸能におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。 ゲストスピーカーを囲んで討議を予定する。	
	この回の到達目標	伝統芸能の世界における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄の伝統文化のイメージをまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄の伝統文化についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
8	芸術・芸能を味わう 2		現代美術におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	現代美術の舞台における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄のアートのイメージをまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄を中心とする日本における現代美術についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
9	芸術・芸能を味わう 3		観光やショービジネスを中心とするメディアにおけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	観光やショービジネスを中心とする沖縄の文化産物における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、沖縄のイメージがどのように形成されてきたかを自分なりにまとめておく		120分
	事後学修	沖縄を中心とする日本における文化産物についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
10	宗教と信仰の世界 1		王権論と世界観について考える。	
	この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきた王権論について考える。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分なりの宗教や信仰のイメージについてまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄と日本における王権論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分
11	宗教と信仰の世界 2		シャーマニズムについて考える。	
	この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきたシャーマニズム論について考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分自身が持っている宗教的世界観や信仰に対するリアリティについてまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄と日本におけるシャーマニズム論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分
12	戦争の記憶と基地問題 1		具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、共同体について考える。	
	この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して共同体のあり方を議論する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分自身が接してきた戦争関連のニュースや基地問題に関する言説についてまとめておく。		120分
	事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争の記憶と基地問題 2	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、国民国家について考える。	
	この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して国民国家のあり方を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、戦争の記憶と基地問題をめぐる議論についてまとめておく。	120分
	事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
14	復帰と反復帰について	同化と異化の問題を文学と政治の領域で考える。	
	この回の到達目標	アイデンティティやエスニシティといった分析概念を整理しつつ、そこからこぼれ落ちるリアルな民族誌的風景を考える。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、日本と沖縄の関係性をめぐる議論についてまとめておく。	120分
	事後学修	復帰と反復帰についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された論考などに触れる。	120分
15	まとめ	これまでのトピックをもとに、沖縄と学ぶアリーナの内と外で討議を行う。	
	この回の到達目標	講義内容とレビューシートへのフィードバックを振り返り、沖縄の文化や社会に対するイメージの変化について議論する。同時に自分自身の言葉が生まれることによって、世界が活気を帯びる様子を共有する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、沖縄の文化や歴史について自分なりの言葉で整理をする。	120分
	事後学修	これまでの資料やノートを見直して講義内容を復習する。期末レポートを作成する。	120分

科目名	学際教養B【近代日本の戦争と社会】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当の「近代日本の戦争と社会」では、戦争・軍隊と社会との関係を歴史的に考察する。なぜ人びとは兵士となることを受け入れたのか？、庶民はどのように戦争と関わりを持ったのか？、兵隊はどのように戦い、どのように死んでいったのか？ 戦時下の兵士や市民のリアルに迫るとともに、彼らの意識や行動を社会構造の問題として考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
本講義では軍事史や戦史を扱わない。初回に出席して、講義の趣旨を良く理解してから履修すること。勉学意欲のない者や単位だけが欲しいという者は履修しないほしい。

【授業方法】		
レジュメとパワーポイント、映像を使用する。毎回リアクションペーパーの提出を求める。レスポンドで出欠確認をする。こちらの問題提起に対し、自分なりに思考し、あるいは表現するなど、授業に積極的に参加して欲しい。 課外で展示施設への見学会も行う予定。 教材の配布、学生への連絡、課題の提出にはClassroomを使用する。必ず登録すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー。フィールドワーク。ピア・レビュー。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、レポート試験により評価する。	25	25	25								75
小テスト等	ワークシートへの記入により、評価する。		5	5								10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、毎回の理解度とともに授業への参加度を評価する。また授業中のディスカッション・質疑での発言を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評はポータルサイトClassroomに掲示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜13：00～14：30。メールでアポイントを取ること（ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp）。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について教育する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション——戦場を想像することの意味	現代日本人の戦争観の一端を紹介し、それを踏まえながら本講義の問題意識や狙い、視角を説明する。 あわせて、講義計画や履修上の注意について述べる。	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読する。講義の趣旨を良く理解する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
2	国民国家と軍隊	近代における戦死者の数の増大や戦争形態の変化をもたらした国民国家について比較史的に考える。	
	この回の到達目標	国民国家概念の理解の上に立って、国民国家と戦争・軍隊との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。国民国家についての知識を確認しておく。	120分
	事後学修	国民国家と軍隊との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
3	戦争とナショナリズム—日清戦争を中心に	日清戦争を事例に戦争とナショナリズムとの関係について考える。	
	この回の到達目標	ナショナリズムが戦争や軍隊に与える影響と、戦争や軍隊がナショナリズム形成に与える影響について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。ナショナリズムについて知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	戦争とナショナリズムとの関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
4	総力戦体験と戦争違法化——第一次世界大戦の意義	総力戦という形態と、それが生み出した惨禍が戦争の違法化という新しい理念を生み出したことを中心に、第一次世界大戦の歴史的意義を考察する。	
	この回の到達目標	戦争社会史のうえでの第一次世界大戦の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦について知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	戦争の歴史にとっての第一次世界大戦の意義を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
5	「良兵」を作り出す社会——軍隊と社会構造	なぜ徴兵制が受容されたのかを社会構造の問題として考える。	
	この回の到達目標	軍隊を支える社会的な基盤を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の軍隊についてのイメージをまとめておく。	120分
	事後学修	軍隊と社会構造との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
6	戦場の兵士——軍事郵便や兵士の日記を読む	兵士が家族などに当てた手紙や兵士の日記を素材に、戦場での兵士の体験や意識を探る。	
	この回の到達目標	戦場の実態や兵士の置かれた状況をリアルに認識するとともに、日本軍兵士の蛮行の構造的要因を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦場では何が起こっていたか、知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	日本軍兵士の蛮行の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	マス・メディアと「大衆の国民化」 ——満州事変を例として	満州事変期の排外主義的ナショナリズムの高揚についてのマス・メディアの役割を考える。	
	この回の到達目標	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変についての知識を確認しておく。	120分
	事後学修	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
8	総力戦体制と国民(1) ——国民の精神・身体の動員	総力戦体制下の国民動員政策について考察する。	
	この回の到達目標	思想・身体の動員システムについて理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「総力戦」に関する知識を確認しておく。	120分
	事後学修	国民の精神・身体の動員メカニズムを中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
9	総力戦体制と国民(2) ——強制と同意	総力戦体制下の国民動員がなぜ可能であったのかを、システムの強制性と同意の契機の両側面から考察する。	
	この回の到達目標	総力戦体制と国民との関係を構造的・重層的に捉える視点を獲得する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。国民は戦争の被害者であるか?、考えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
10	しょうけい館（戦傷病者資料館）見学会	九段下にあるしょうけい館（戦傷病者資料館）を見学し、等身大の兵士の姿や軍隊のシステム、戦場の実態と過酷な従軍体験、戦後の傷痍軍人が置かれた状況等について学ぶ。	
	この回の到達目標	展示物から戦争や軍隊のリアリティを学ぶ。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。しょうけい館のWEBサイトをみて、施設の概要を確認しておく。	120分
	事後学修	見学で感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。	120分
11	ピア・レビューとディスカッション	しょうけい館の見学レポートについてのピア・レビューを実施、そこで出た論点について全体でディスカッションする。また、これまでの講義の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	多様な意見に触れることで、戦争や軍隊のリアリティに関する理解や戦争と社会との関係についての学びを深める。	
	事前学修	しょうけい館の見学レポートを執筆する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容やピア・レビューでの指摘を振り返る。関連する文献を読む。	120分
12	兵士たちの無残な死 ——餓死・玉砕死・特攻死	映像や手記、証言などを通じて、戦場における悲惨な状況を明らかにし、その構造的要因について考える。	
	この回の到達目標	戦場の実態や兵士たちの死に方の特異性や構造的要因を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦死に意味があるのか?、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	無残な死の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	チョウ・ムンサンの遺書 ——極限下の人間から何を学べるか？	B C級戦犯として処刑された朝鮮人軍属の遺書を読み、戦争における生と死、罪と罰について考える。	
	この回の到達目標	戦争における加害と被害の重層性という問題への理解を深める。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦犯や戦争裁判についての知識を確認する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
14	戦争の「傷痕」 ——忘れられた戦争犠牲	「忘れられた皇軍」などの映像を視聴し、戦争の記憶と忘却に関わる諸問題を考える。	
	この回の到達目標	「戦争の記憶」をめぐる問題の所在を理解し、それについて考えることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦争はいつ終わるのか、戦後はいつ終わるのか？、自分なりの答えをまとめる。	120分
	事後学修	日本の戦後処理の特質を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
15	おわりに ——まとめ	まとめのディスカッション	
	この回の到達目標	講義内容を振り返り、あるいはディスカッションにおける他の受講生の発言に触れることを通じ、自らの達成や認識の変化を確認し、今後の課題を考えることができる。	
	事前学修	講義内容を復習する。講義を通じて、自分の戦争観、さらには人間観や社会観どのような変化があったのか、ディスカッションでの発言を考えておく。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容・ディスカッションでの議論を復習する。 関連する文献を読む。期末レポートを執筆する。	120分

科目名	学際教養B	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 原山担当の本講義では、現代の資本主義の性格をめぐり、現代史的な射程を持ちながら、20世紀に想定されていた資本主義像との異同を踏まえて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
本講義は、食と農業をめぐって、主として日本に足場を置きつつ、広い視野のもとで課題と可能性を考える。「食の安全」、農村の過疎化・高齢化、国際間の労働力移動といった今日的なトピックスに目配りし、その一方で食料の輸入に対する依存の高まりと国際情勢の変化を見据えながら、今日において考えるべきポイントを探っていく。概論的な講義の中に、具体的な事例やニュース、マンガなどを織り込み、多角的に食と農業が見えるように講義していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー。また、受講者数等の状況に応じて、グループワークを実施する場合がある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2	2	2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかを、レポート試験によって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標①に関わって、グループワークが実施できる場合はその成果のとりまとめを小テストして扱う。グループワークを実施できない場合は小テスト課題にそれぞれの受講者が取り組む。	10										10
授業への参画度	到達目標①②③に関わって、リアクションペーパーにより授業への参加度・理解度を評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限(14:10～16:10)をオフィスアワーとする(研究室)。事前にGoogle Classroomを通じてアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	プロローグ 食と農を考えることの意味		講義の方針と、進め方に関する説明。食と農を考える上で重要となる今日的な論点を示しつつ、それが後の講義内容とどのように関連するのかを説明し、食と農を考える意味について考察する。
	この回の到達目標	自分がなぜ食や農を考えたいのかを論理立てて説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、食と農をめぐる自らの関心を整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した話題を整理し、講義レジュメを復習する。	120分
2	食料増産の現代史		現代における食料増産の歴史を、国民経済の枠組みと、グローバリゼーションの進展の双方を視野に入れながら捉え直し、その問題点を考える。
	この回の到達目標	戦後日本の食料増産の過程について説明できる。	
	事前学修	戦後の食料難について、インターネットや書籍などで調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、食糧増産の歴史の要点をまとめる。	120分
3	経済成長と食料自給率		経済成長に伴う、食料需要の増大と、農業生産の減少という、アンビバレントな現象をめぐって考察する。
	この回の到達目標	高度経済成長を経て、日本の農業がどのような変化を遂げたのかを説明できる。	
	事前学修	食料自給率に関する記事を探し、現状についてのイメージを作っておく。「革新」の意義を、事前配布資料を参考に考えておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、食料自給率について考える上で留意すべきポイントを整理する。	120分
4	主食としてのコメ		日本におけるコメの持つ意味について考える
	この回の到達目標	コメに対する人々の評価がどのように変化したのかを説明できる。	
	事前学修	コメの生産・消費に関する記事を探し、歴史と現状についてイメージを作っておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、コメの生産・消費がどのように変わったのかをまとめる。	120分
5	ファストフードと食の変容		ファストフードの世界への浸透とその問題点を考える。
	この回の到達目標	ファストフードが食文化に対してどのような認識を作っているのかを説明できる。	
	事前学修	ファストフードのどのような社会問題と結びついているのかを考え、論点を書き出しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、グローバリゼーションと食の関係をまとめる。	120分
6	食品公害の発生と日本の有機農業I		食品公害が歴史的にどのような経過をたどって表面化し、市民と行政がこれにどう対応しようとしてきたのかを検討する。
	この回の到達目標	戦後において食品公害がどのように変化をたどったのかを説明できる。政治において市民が顧客化していく過程について理解できる。	
	事前学修	食品の安全性について書かれた記事を探しながら、自分の考えや発想を整理しておく。	120分
	事後学修	講義で述べた食品公害の内容についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	食品公害の発生と日本の有機農業 2	農業の近代化の弊害と、これを克服しようとした取り組みとしての有機農業を考える。	
	この回の到達目標	有機農業が社会問題との関係でどのような意味を持ってきたのかを説明できる。	
	事前学修	有機農業について、消費者の視点からその内容を調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、有機農業が社会問題への対応においてどのような意味を持ってきたのかを整理する。	120分
8	食の「安心・安全」とその問題点	食の安全に関わる身近な制度を踏まえ、今日の「安心・安全」をめぐる発想の限界や問題点を考える。	
	この回の到達目標	「食の安全」を、消費者の問題意識と対応させながら説明できる。	
	事前学修	「食の安全」に関わる記事を探し、この問題についての自らのイメージを作っておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、日本における「食の安全」の扱いに関わる問題点を整理する。	120分
9	農業の新技术とその問題点：遺伝子組み換え、ゲノム編集	遺伝子組み換えの現状とその可能性および問題点を考えるとともに、農業に対する食料メジャーによる支配の問題点を検討する。さらに、ゲノム編集などの新たな技術について、倫理的な妥当性も含めて検討する。	
	この回の到達目標	遺伝子組み換えをはじめとする技術と社会に関係について説明できる。	
	事前学修	遺伝子組み換え、ゲノム編集についてインターネットなどで調べて、大まかなイメージを作っておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、社会との関わりにおいて「新技术」の功罪をまとめておく。	120分
10	BSE問題の教訓と科学	日本の食の安全をめぐるのは、B S E（牛海綿状脳症）の問題が一つの画期となった。そこで展開した議論と、人々にとっての「科学」の課題を検討する。	
	この回の到達目標	今日の食品表示や食品安全に関わる制度の実態と問題点を説明できる。	
	事前学修	生鮮食品の表示制度について、インターネットと実際の小売店の双方で確認しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、日本におけるBSE問題の発生が今日の制度にどのように影響を与えたのかをまとめる。	120分
11	動物福祉（アニマルウェルフェア）を考える	世界的に重要なテーマになりつつあるアニマルウェルフェア（動物福祉）の議論に注目しながら、日本の畜産の特徴と課題を検討する。	
	この回の到達目標	アニマルウェルフェアの内容と意義について説明できる。	
	事前学修	養鶏の様子について、インターネット上の映像や写真で見た上で、感想をまとめておく。	120分
	事後学修	アニマルウェルフェアという考え方の要点をまとめておく。	120分
12	ドキュメンタリーの中の農村	ドキュメンタリーに映し出された農村の現状を素材に、これまでの講義を振り返りながら生産現場の現実を考える。	
	この回の到達目標	農村はどのようなものとして描かれやすいのかを説明できる。	
	事前学修	配布資料をもとに、映像の内容を理解するための予備知識を得る。必要に応じて図書館などで調べる。	120分
	事後学修	視聴したドキュメンタリーにおいて農村のどのような性格が強調されていたのかをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	誰が農業を担うのか		農業生産にとって大規模化・企業化が万能な方策ではないことを踏まえつつ、小農の可能性について論ずる。	
	この回の到達目標	「小農」とは何か、その可能性はどのようなところにあるのかを説明できる。		
	事前学修	家族農業について事前資料を用いて理解をしておく。		120分
	事後学修	「小農」と大規模農業の基本的な性格の違いをまとめる。		120分
14	農業生産と移民労働者		農業労働の担い手として、日本でも外国人労働者が増えている。移民労働者と農業生産の関係を、歴史的視点と今日的視点から検討する。	
	この回の到達目標	日本における農業分野の外国人労働者の現状と課題を説明できる。		
	事前学修	新聞記事を使って、日本で働く外国人の農業労働者の具体的な事例をみておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて「移民」労働の可能性と問題点をまとめる。		120分
15	エピローグ：食と農の未来を考える		講義の振り返りを行い、食と農の歴史と現状を捉え直した上で、その将来像を考える。	
	この回の到達目標	日本における食と農の現状と将来像について、自らの言葉で説明できる。		
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、講義資料などを見直しておく。		120分
	事後学修	レポート執筆に向けて講義内容を復習・整理しておく。		120分

科目名	学際教養B【マイノリティ・スタディーズ】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当の本講義では「マイノリティ・スタディーズ」と題して、現代社会における少数者を取り巻く諸問題を扱う。具体的な文化理論と時事的問題を紹介しつつ、当事者性、エスニシティ、ジェンダーなどの領域を、言語・文化・権力を軸に考察する。誰かの言葉と世界や社会が天秤にかけられゆめく均衡に、自分の考えや経験を小さな錘として載せ置く作業を共有する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。特に当事者性を有する、もしくは強い関心のある者の参加を望む。

【授業方法】
毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。可能であれば、ゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。資料等適宜配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00もしくは昼休み。以下のメールで事前連絡すること。 maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会におけるエンパワーメントの重要性やアイデンティティ・ポリティクスの課題などの議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション マイノリティと学ぶことの意味について考える	マイノリティ・スタディーズという領域の可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時にマイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、マイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について自分なりにまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2	マイノリティとは誰か。	本講義で扱う様々なマイノリティの問題群をどのように学んでいくか、その形式を自ら選択するために議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティの問題と可能性を学ぶことの意義とその方法について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分なりにマイノリティを学ぶ意義とその方法についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3	少数的意見を聴く 1	ホームレスから移民、就職活動や婚活まで、様々な社会的問題と個人的活動を、マイノリティの視点を通して見つめたときに浮かび上がるシステムについて整理する。特に資本主義の問題について扱う。	
	この回の到達目標	資本主義社会における諸条件を考察することで見えてくるマイノリティの姿を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「経済」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4	少数的意見を聴く 2	ジェンダー、LGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
	この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を考察することで見えてくるマイノリティの意味を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5	少数的意見を聴く 3	ジェンダー、JGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
	この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を、具体的な作品を通して考察することで見えてくるマイノリティの可能性を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6	少数的立場に立つ 1	集団における個のあり方を、エスニシティ、人種問題という条件を通して議論する。	
	この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人のリアリティを、エスニシティ・人種という条件を通して歴史的に考える。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された事件や作品などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	少数的立場に立つ2		エスニシティ、人種問題について具体的な作品や事件を通して議論する。	
	この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人の可能性を、エスニシティ・人種という条件を通して民族誌的に考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分	
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分	
8	少数的立場に立つ3		マイノリティの立場について、同化と異化の視点から議論する。ゲスト・スピーカーを囲む予定。	
	この回の到達目標	マイノリティの立場について、具体的な声を通して同化と異化の視点から議論する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分	
	事後学修	ゲスト・スピーカーの語りを中心に、配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。	120分	
9	当事者とは誰か		当事者性をめぐる問題について議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティの語りに接するときに不可避に生じる当事者性の問題について考える。		
	事前学修	前回のゲスト・スピーカーの語りに応答するレポートを作成する。	120分	
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分	
10	研究者とは誰か		マイノリティを代弁するもしくは代表する立場を取る「研究者」という立場の功罪について議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティを研究する行為のメタレベルを問う議論の倫理的意味について考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、マイノリティと学ぶ可能性における研究者の役割についてまとめておく。	120分	
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分	
11	病と老いについて		「マイノリティになる」最も身近な事例のひとつとして、疾病と老化をとりあげ議論する。	
	この回の到達目標	制度や文化におけるマイノリティの役割について考える。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティという概念を自らの実人生の文脈に位置づける作業を行う。	120分	
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品などに触れる。	120分	
12	多文化主義について		マイノリティの声に対して社会がどのように応答してきたか、その具体的政策のひとつとして、多文化主義の歴史と課題を紹介する。	
	この回の到達目標	アメリカ社会における多文化主義の功罪について具体的な資料をもとに議論する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、多文化主義について自分のことばでまとめておく。	120分	
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学校文化について	いじめ問題やスクール・カーストなど我々の社会の重要な装置としての教育に潜む課題について、マイノリティの視点から議論する。	
	この回の到達目標	誰もが共有する学校空間における「マイノリティ」の経験について言語化する作業を行う。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自らの学校生活について自分のことばで振り返っておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
14	社会運動について	日本における典型的なマイノリティの社会問題とされてきた基地問題を取り上げ、「現地との温度差」を軸に議論する。	
	この回の到達目標	具体的なドキュメンタリー作品を通して、基地問題について議論する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と自分自身の社会性を切り結ぶ作業を共有する。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
15	まとめ	これまで扱ってきた様々なマイノリティの問題群をもとに、その可能性を中心にまとめの討議を行う。	
	この回の到達目標	これまで学んできたことを振り返り、自分の言葉で整理する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と可能性をめぐって自分自身との繋がりをあらためて考える。	120分
	事後学修	これまでの資料やノートを見直して、講義内容を復習する。期末レポート作成の準備をする。	120分

科目名	科学の歴史Ⅰ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心に授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見等を簡潔で明瞭にまとめたコメントを「小レポート」として提出することを出席者の義務とする。この「小レポート」は成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。「小レポート」の質問やコメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているかについて、学期末にレポートにまとめて提出し(期末レポートとする)、その内容により評価する。レポートの詳細は初回授業で説明する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	課題に関する文献の書評をレポート(中間レポートとする)として提出することで、到達目標③に関わる能力が身についているか評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	到達目標③に関わる能力が身についているか、毎回の授業で、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見等を、簡潔で明瞭にまとめて提出したコメントを「小レポート」として評価する。			30								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時間の前後 kurihara.takeshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、「科学」とは何か？	・授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 ・文明が成立するはるか以前に人類が自然についてどのように見ていたのかを考えながら、「科学」とは何かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人類が自然についてどのような見方をしていたのかを説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	「科学」の始まり	・近代科学が成立するはるか以前の古代オリエント文明における「科学」（ここでは自然に関する体系的な見方のこと）の特徴について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代オリエント文明の「科学」の特徴について理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	古代ギリシアの「科学」	近代科学の成立に深く関わる古代ギリシア時代における「科学」について、この時代の代表的な「科学」者であるタレスからアリストテレスの自然観を通じてその特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代ギリシア時代の代表的な「科学」、すなわち当時の自然観について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	ヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」	古代オリエント文明と古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	アラビアの「科学」	古代ギリシアやヘレニズム・古代ローマの「科学」をひきつぎ、それらをさらに発展させ、その後、西欧キリスト教の世界に伝わった、イスラム教の世界を中心としたアラビア世界で発達した独自の「科学」について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アラビアの「科学」について、その特徴を理解し、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」	アラビアの「科学」を導入することで起こった中世西欧世界における「12世紀ルネサンス」と「科学」の発達について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	近代科学の誕生(1) コペルニクスの天文学と地動説	近代科学のはじまりとなったコペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	近代科学の誕生(2) ティコとケプラーの天文学	コペルニクスの地動説を発展させたティコ・ブラーエとヨハネス・ケプラーの天文学について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ティコ・ブラーエとヨハネス・ケプラーの天文学について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	近代科学の誕生(3) ガリレオ・ガリレイの科学	近代科学の成立においてガリレオ・ガリレイの成し遂げた業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガリレオ・ガリレイの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	近代科学の誕生(4) ニュートンと力学の成立	近代科学の誕生をもたらした力学を中心として、ニュートンの業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニュートンの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	近代科学の誕生(5) ラヴォワジエと近代化学の成立	近代的な物質観の成立において重要な貢献をなしたラヴォワジエの業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ラヴォワジエの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	産業革命と科学・技術・社会 (1) 産業革命を支えた発明家たち	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、それを支えた発明家たちの業績を中心に、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命を支えた発明家たちの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	産業革命と科学・技術・社会（2）産業革命と社会の変革		18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、どのような社会変革がもたらされたのか、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命における社会変革について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
14	進化論の成立ーダーウィンと進化論		生物学の近代化に貢献したダーウィンの進化論が、どのように成立したのかについて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ダーウィンの進化論について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
15	科学の制度化と職業的科学者の誕生		18-19世紀における科学の制度化と職業的な科学者の誕生について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学の制度化と職業的な科学者の誕生について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分

科目名	科学の歴史Ⅱ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史（特に近現代）を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、学期末に提出するレポートにより評価する(期末レポート)。レポートの詳細は授業で連絡する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	課題に関する文献の書評をレポート(中間レポートとする)として提出することで、到達目標③に関わる能力が身についているか評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	到達目標③に関わる能力が身についているか、毎回の授業で、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめて提出したコメントを「小レポート」として評価する。			30								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時間の前後 kurihara.takeshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 現代の科学と社会	・授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 ・19世紀以降の現代の科学は、それ以前の科学と比べて、その規模が拡大しただけでなく、社会と深く結びつくようになった。現代の科学の特徴について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学と社会の特徴について考え、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	18世紀の産業革命と科学技術と社会の変革	18世紀に生じ、19世紀以降の世界に引き継がれていった、産業革命において起こった科学技術と社会の変化について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、18世紀の産業革命と科学技術と社会における変化について理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	19世紀の化学産業と第一次世界大戦	19世紀の化学産業と20世紀初頭に起こった第一次世界大戦について、主に科学者のフリッツ・ハーバーの生涯を通じて、科学と国家の関係について考える	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀の化学産業と第一次世界大戦について理解して、説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	20世紀の戦争と科学1	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	20世紀の戦争と科学2	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。現代に通じる科学の研究体制が形成された第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解し、説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	20世紀の戦争と科学3	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。第二次世界大戦の終結後の冷戦の時代の科学について、インターネット構想の起源などを通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、冷戦の時代の科学について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本における科学と政治(1)		日本における科学と政治について、原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後に関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
8	日本における科学と政治(2)		日本における科学と政治について、科学に関する日米関係の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学に関する日米関係の歴史について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後に関する日本史のの該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
9	日本における科学と政治3		日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後に関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
10	現代の科学研究の実際(1)		現代の科学研究の実際について、現代の生物学研究を事例にして、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
11	現代の科学研究の実際(2)		現代の科学研究の実際について、DNA二重らせん構造の発見における人間と社会の関係を事例にして、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
12	現代の科学研究の実際(3)		現代の科学研究の実際について、一つの学術論文が作成されるまでと、それに関する論文捏造問題の事例を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文と論文捏造問題について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代の科学・技術の諸問題(1)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題である水俣病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題である水俣病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	現代の科学・技術の諸問題(2)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題であるイタイイタイ病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題であるイタイイタイ病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	現代の科学・技術の諸問題(3)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊が「発見」され、その対策がなされる歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊の発見と対策について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	環境論Ⅰ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
環境論とは、人間と自然環境との関係に関する理論であり、古くは古代ギリシアより近代的理論へ通じる議論がおこなわれてきた。近代日本においては、急激な産業発展にともなって公害問題が拡大し、近年の社会・経済のグローバル化で地球環境問題は世界の共通認識になった。本科目では、我々の身近な環境問題から地球環境問題についての具体的事例学習を通して、環境問題発生の仕組みを理解し、課題解決に向けた主体的な考察ができるようになることを目的とする。毎回、授業の最後（授業時間内）に小レポートを課し、授業で取り上げたテーマについて、自分なりの課題解決策を考えてもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
世の中で起きている現象とその主体である人間と自然環境の関係について、公平な立場に立って正しく理解し、課題解決に向けて主体的な考察ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって環境問題の抽出をおこない、自分の意見を提示出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	ランダムで実施予定の小テストにおいて、各回で説明のある理論等への理解の程度を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、課題に対して適切に回答する内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、試験時間後にポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパーへの回答は、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00～14：30/金曜日13:00～14：30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスー環境を環境問題から考えるー	前期授業内容の説明，評価方法の説明，「環境」という言葉の意味は？	
	この回の到達目標	前期授業内容の把握，評価方法の理解，「環境」という単語の意味を理解し説明できる。（SB0 s ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	前期授業計画と授業内容の理解	120分
2	環境論とは	環境の定義，環境問題の定義，環境論とは何を学ぶ学問分野か？	
	この回の到達目標	環境および環境問題という言葉の理解，環境論にて学ぶ対象を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	環境という言葉に対するイメージを考える	120分
	事後学修	個々人の持つ環境のイメージと実際の環境および環境問題の定義との関係性を理解する	120分
3	環境の概念とその歴史的変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷	
	この回の到達目標	環境の概念の歴史的変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	環境変化から環境問題へ	環境問題の発生要因	
	この回の到達目標	環境問題と社会そして環境問題発生要因との関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	第2回および第3回内容を踏まえ，現象としての環境問題に関する復習をおこなう	120分
5	規制と環境保全	危険性評価と環境保全へ向けた活動	
	この回の到達目標	環境保全へ向けた法規制や危険性評価，様々な活動を学び，これらの内容を説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	実際の環境保全活動やこれに関連した法規制・政策的誘導の意図に関する理解を深める	120分
6	環境問題①	大気環境・大気汚染とは？	
	この回の到達目標	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境問題②	植生変化と人間活動，里山の自然環境	
	この回の到達目標	人為的影響に関わる植生変化と人間活動を取り上げてその過程や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	生物環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解する	120分
8	環境問題③	有機化学物質とその生態系への影響	
	この回の到達目標	有機化学物質・外因性内分泌攪乱化学物質を例に挙げた環境問題の過程と影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	化学物質とその生態系への影響に関する具体的な現象の影響と過程を理解する	120分
9	環境問題④	資源エネルギーの需要予測と枯渇問題について	
	この回の到達目標	エネルギー問題の増大に係わる今日的要因と解決策に関する現状を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	エネルギーに関する様々な問題とこの現状に関する様々な見解を理解する	120分
10	課題学習	テーマの設定および課題の作成	
	この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して，着想から資料収集，報告に至る過程を理解し実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	第1回～第9回の授業テーマについて理解を深める	120分
	事後学修	様々な自然環境の状況やこれに係わる環境問題に関するレポートの作成	120分
11	環境問題を捉える視点①	環境倫理とは？	
	この回の到達目標	環境倫理の三つの主張を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	学問分野としての環境倫理の主張に関する理解を深める	120分
12	環境問題を捉える視点②	様々な自然の捉え方，自然と人間の関係性に関する考察	
	この回の到達目標	様々な分野における自然の捉え方を学び，現代の自然観に基づく自然の捉え方を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	様々な分野における自然観を理解し，これと人間との関係に関する理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	環境問題を捉える視点③	環境問題における科学技術の役割	
	この回の到達目標	科学技術と社会とのかかわりを学び、環境問題と科学技術の関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	「科学」「技術」「科学技術」の定義およびこれらと環境との関係に関しての理解を深める	120分
14	環境問題を捉える視点④	環境問題に関わる社会的政治的側面	
	この回の到達目標	環境問題とこの影響に関する社会的政治的側面を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	環境問題に内在する社会的政治的側面の理解を深める	120分
15	前学期授業の総括および授業内試験	前学期授業内容のまとめ、授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	前学期の授業内で学んだ様々な自然現象とこれらの人間との関係を復習する	120分

科目名	環境論Ⅱ	担当者	田代 崇	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年の日本においては里地里山に代表される生活環境と社会環境の変化が，固有の生態系に対して悪影響を与えていることが指摘されている。これは，地域の自然環境が人間との関係を持ちながら維持されてきたことによっている。本科目では，ローカルからグローバルまで様々な空間スケールで発生する環境問題に対し，自然科学がどのようなアプローチを取ってきたかを学習すると共に，人間と環境の関係を理解し，将来に向け持続可能な人間環境を考えていくことが出来るようになることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な時空間スケールの環境問題に対し，その中で展開される自然科学的アプローチを理解し説明できるようになる。また、環境変化と人間社会との繋がりを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
環境論Ⅰの単位取得済みであることが望ましい

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって変化の中から問題の抽出をおこなうことが出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	ランダムで実施予定の小テストにおいて、各回で説明のある理論等への理解の程度を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、試験時間後にポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパーへの回答は、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00～14：30/金曜日13:00～14：30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	後学期の授業概要の説明，評価方法の説明	
	この回の到達目標	前期授業内容との関連性の理解，評価方法の理解を通し前期授業内容との繋がりを習得する（SB0 s ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	後期授業計画と授業内容の理解	120分
2	環境論とは	環境論の歴史，前期授業内容の復習（環境の定義，環境問題の定義など）	
	この回の到達目標	単語の理解，環境論にて学ぶ対象に関する理解，環境変化～問題解決までの流れを理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前学期授業内容の復習もしくは「環境」という単語を調べる	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
3	環境の概念とその歴史の変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷（前期授業内容の復習を含む）	
	この回の到達目標	環境の概念の歴史の変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	環境問題の特性	科学的不確実性と予測	
	この回の到達目標	環境問題に内在する科学的不確実性を理解し，個々人で見つけることができるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	環境および環境問題の定義を復習	120分
	事後学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
5	課題学習①	環境学/環境科学の視点、問題設定と解決への道筋	
	この回の到達目標	問題設定および問題解決へ向けた視座を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
	事前学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
	事後学修	環境論・環境関連分野における学問的問題点と映像資料内の科学的不確実性の関連を復習する	120分
6	環境と生態系	植生環境と保全	
	この回の到達目標	植生環境を例に挙げ，その変化の過程と要因を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	植生環境の変化とこれに関わる人間活動との関係を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生態系の分断と破壊	自然生態系の変化	
	この回の到達目標	人為的要因に端を発する生態系の分断や破壊がどのような現象か理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
8	海洋環境	海洋の機能と役割	
	この回の到達目標	海洋環境の変化と他の自然圏との相互関係を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
9	大気環境	大気の機能と役割	
	この回の到達目標	大気環境の変化と他の圏との相互関係を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
10	課題学習②	自然現象の変化に係る時間・空間スケールを学び、理解する	
	この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	第6回～第9回授業内容の理解	120分
	事後学修	様々な環境問題に関するレポートの作成	120分
11	環境保護の思想と現在の地球環境①	エコロジー思想の系譜	
	この回の到達目標	エコロジー思想の歴史と今日的な意味を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
12	環境保護の思想と現在の地球環境②	ディープ・エコロジー	
	この回の到達目標	ディープ・エコロジーとこの考え方に基づく自然観を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地球時代の環境論	現在における地球観を通して見た環境とは？	
	この回の到達目標	後学期中に習得した様々な環境変化とその要因，社会的意味などを通した現在の地球観(自然観)を理解し，個々人の知識として利用できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
14	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深めることで，様々な自然観を基にした環境を理解することが出来るようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
15	授業内試験および試験内容の復習	授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め，個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	後学期の授業内で学んだ具体的な自然現象の発生過程と人間の生活環境との関係を復習する	120分

科目名	教育学Ⅰ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われるがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者が人間の教えと育ちをの関係を明瞭に理解できることを目的とします。教育学の諸課題について、受講者がみずからの考えをみずからの言葉で表現できるようになることを講義の到達目とします。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生を対象としています。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。また、教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おください。

【授業方法】		
毎回レジュメと史資料を配布し、それに沿って講義をします。そのほかに、毎回、写真資料、音声資料、映像資料なども使用します。なお、授業中の私語、講堂外での受講、コメントペーパーの代筆（不正行為）などは、厳しく対応いたします。なお、例年、この授業に関しては、私語、居眠り、いわゆる内職行為などを行う学部生は、ほぼいません。毎年、150～200名程度の受講生がありますが、最近は、私語の注意すらもしたことがありません（チャイムと同時に静かになります）。そういう雰囲気を理解して受講をしないと、とても目立ってしまいますので、ご注意ください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。到達目標①②③について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	30								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。到達目標①②③、授業内容を踏まえた議論が展開できる。	10	10	20								40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴィクトリア朝英国人の日常生活（上・下）	ルース・グッドマン	原書房	2017	参考書	任意
専門知は、もういらないのか	トム・ニコルズ	みすず書房	2019	参考書	任意
差別はたいてい悪意のない人がする	キム・ジヘ	大月書店	2021	参考書	任意
こども服の歴史	エリザベス・ユウィング	東京堂出版	2016	参考書	任意
トランスジェンダー問題	ショーン・フェイ	明石書店	2022	参考書	任意
〈民主〉と〈愛国〉	小熊英二	新曜社	2002	参考書	任意
貧困の戦後史	岩田正美	筑摩書房	2017	参考書	任意
高校紛争 1969-1970	小林哲夫	中央公論新社	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。連絡先：kagawa.nanami〔アットマーク〕nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	現代日本の教育改革・入試／シラバス／カリキュラム	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	シラバスを参照してください。ウェブ検索などでかまいませんので、「教育学」について検討してください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
2	日本教育社会史①	近世の教育文化と明治以降の近代教育システム	
	この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
3	日本教育社会史②	戦後教育スタート・戦前と戦後の連続性と精神史	
	この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
4	日本教育社会史③	高校生がエリートだったころ・『コクリコ坂から』みる青少年文化と社会運動の萌芽	
	この回の到達目標	日本における近代教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
5	日本教育社会史④	紛擾から闘争へ 闘争から紛争へ・学生運動の毀したもの	
	この回の到達目標	教育史における戦争と学校教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
6	日本教育社会史⑤	管理教育と校内暴力・『金八先生』のリアリティ	
	この回の到達目標	戦後の教育改革と都鄙格差について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本教育社会史⑥	『ハレンチ学園』から『ビリギャル』の欺瞞・現代日本教育課題	
	この回の到達目標	学生自治と「エリート教育」の関係と位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
8	近代教育のルーツ①	近代教育以前の子ども像・絵画／玩具／被服／童話／絵本の教育史	
	この回の到達目標	1970年～80年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
9	近代教育のルーツ②	子どもの「価値」変遷・遺棄と保護の教育史	
	この回の到達目標	1990年代～2000年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
10	近代教育のルーツ③	児童小説の変遷・修正される家族観と子ども観	
	この回の到達目標	近代教育の外側に存在した子ども観を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
11	近代教育のルーツ④	児童小説に描写された家族と子どもの幸福・だれが幸福の定義を定めるのか？	
	この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
12	近代教育のルーツ⑤	個々人の「こだわり」と近代社会・トラウマ語り超えて	
	この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代教育のルーツ⑥	量から質の時代へ・多様な家族像と乱反射する価値観の多様性	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
14	変容する価値観①	社会における男女の区分とLGBTQ・映像資料にみる男女の社会的役割の表象と差別問題	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
15	変容する価値観②	男女の区分タブーの変遷・構築される価値観と差別問題 近代日本の女性観	
	この回の到達目標	教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

科目名	教育学Ⅱ	担当者	香川 七海	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われるがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生を対象とします。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おきください。

【授業方法】		
毎回レジュメと史資料を配布し、それに沿って講義をします。そのほかに、毎回、写真資料、音声資料、映像資料なども使用します。なお、授業中の私語、講堂外での受講、コメントペーパーの代筆（不正行為）などは、厳しく対応いたします。なお、例年、この授業に関しては、私語、居眠り、いわゆる内職行為などを行う学部生は、ほぼいません。毎年、150～200名程度の受講生がありますが、最近は、私語の注意すらもしたことがありません（チャイムと同時に静かになります）。そういう雰囲気を理解して受講をしないと、とても目立ってしまいますので、ご注意ください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。設題の内容を理解した記述ができる。到達目標①②③について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	30								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。授業内容を踏まえた議論が展開できる。到達目標①②③について、設題の内容を理解した記述ができる。	10	10	20								40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
【増補新装版】障害者殺しの思想	横田弘	現代書館	2015	参考書	任意
〈和解〉のリアルポリティクス	武井彩佳	みすず書房	2017	参考書	任意
【増補】普通の人びと：ホロコーストと第101警察予備大隊	クリストファー・R・ブラウニング	筑摩書房	2019	参考書	任意
ファシズムはどこからやってくるか	ジェイソン・スタンリー	青土社	2020	参考書	任意
自由なき世界 下：フェイクデモクラシーと新たなファシズム(上・下)	ティモシー・スナイダー	慶應義塾大学出版会	2020	参考書	任意
否定と肯定	デボラ・E・リップシュタット	ハーバーコリンズ・ジャパン	2017	参考書	任意
思い出のアンネ・フランク	ミープ・ヒース	文藝春秋	1994	参考書	任意
雲は答えなかった	是枝裕和	PHP研究所	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて担当教員から明示します。基本的には、「教育学Ⅰ」と同様の時間です。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	社会問題と「教え」と「育ち」	
	この回の到達目標	当該授業にて取り扱う社会問題の性格について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
2	貧困と公教育①	個々人のニーズと公教育・給食制度を手がかりに	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
3	貧困と公教育②	隔離されていく貧困層・『ちびまる子ちゃん』の世界観の喪失	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
4	貧困と公教育③	貧困のイメージと公教育の機会均等・福祉の切り捨てを超えて	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
5	貧困と公教育④	社会階層と教育格差の再生産・「幸せな貧困」でよいのか？	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
6	分断と公教育①	人種による社会階層の分断・アメリカにおける人種差別	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	分断と公教育②	ユダヤ人の迫害史・『アンネの日記』とヨーロッパの差別問題	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
8	分断と公教育③	『アンネの日記』その後史 ナチス・ドイツの台頭と市民	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
9	分断と公教育④	ミープ・ヒースとアドルフ・アイヒマン 市民的勇気と「凡庸な悪」	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
10	分断と公教育⑤	ヨーロッパ各地の公教育・ドイツとオランダの教育実践	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
11	公教育の使命①	オランダとフィンランドの公教育・理想と現実	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
12	公教育の使命②	アメリカの公教育と教育改革・改革による公教育の崩壊	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公教育の使命③	国家と個人・アメリカの家庭教育	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
14	多様性と差別問題①	「曖昧な生きづらさ」と差別問題 吃音／斜視／異形／脱毛／拒食／LGBTQ／在日コリアン／在日台湾人／アトピー性皮膚炎／性犯罪被害／情緒不安定……	
	この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。なお、タイトルにつけた「生きづらさ」の事例は、すべて、これまで、この授業を履修していた学部生の事例です。講堂には、このような多様なアイデンティティ抱えた学部生が雑居しています。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
15	多様性と差別問題②	排除される障害者・「健常者に迷惑をかけない」というバイアスを超えて	
	この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	レポート作成。	120分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、古代から継続されている神祀りに着目する。人々が自然をどのように捉え、どのように共存してきたのかを、『日本書紀』や『古事記』に登場する神々の性質を個々に調査することによって明らかにする。そして我々はどのように自然と共存すべきかを考えたい。加えて、神祀りの歴史変遷を通して形成された地域文化の基層について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で進め、テーマ毎に個人及び共同報告（発表）をしてもらい、それについて質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及び共同報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジюмеの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前に連絡をしてください。 satou.hideaki*nihon-u.ac.jp ※メールは「*」を「@」に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	スポーツを考える	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義	
	この回の到達目標	SB0s③	
	事前学修	「スポーツ」に関する個人及び社会が関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	60分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	60分
2	スポーツの魅力について（１）	・テーマについての説明 ・調査方法の確認	
	この回の到達目標	SB0s①、③	
	事前学修	スポーツの魅力について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
3	スポーツの魅力について（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
4	スポーツの魅力について（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
5	スポーツの魅力について（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
6	現代スポーツの問題点（１）	・テーマについての説明	
	この回の到達目標	SB0s①、③	
	事前学修	現代スポーツの問題点について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現代スポーツの問題点（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
8	現代スポーツの問題点（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
9	現代スポーツの問題点（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
10	スポーツと社会（１）	・テーマについての説明	
	この回の到達目標	SB0s①、③	
	事前学修	スポーツと社会について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
11	スポーツと社会（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
12	スポーツと社会（３）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スポーツと社会（４）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
14	スポーツとは何か	・オリンピック、パラリンピックについて	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	オリンピックムーブメントについて関連する資料を調べまとめる。	60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。	180分
15	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	各テーマ毎作成したレポートを振り返り、疑問点などを抽出する。	180分
	事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツを様々な視点で考える。	180分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に係るテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。 【舘野担当】「どう生きるか」に関して、科学的なものでも、スピリチュアルとされるものでも、好い成果が出ているという面から捉え扱い、自分がいま生きている中での問題について、参加者全員で検討し考察を深めていくことにより、今後の人生が好くなるために検討していく。なお、下記の書籍（『こころの達人』）を使う場合もある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
ガイダンスを受講して詳しい授業内容を必ず確認すること。

【授業方法】
演習形式。特定の課題について一人ずつ、あるいはグループで発表し、それを元にみんなで検討し、様々な見解を知って、自分の考えを作っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及びグループ発表を行い、全員で検討する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジユメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメなどが適切に作成できているかを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るかを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 授業の方法と目的の概説	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的、方法などを理解しそれを説明できる。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、質問を考えておく。	120分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、内容をまとめ、以降の計画を立てる。	120分
2	冥想から考える「どう生きるか」／『こころの達人』第1章 孤絶の行者 宮本武蔵	一人ないし複数で冥想について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
3	呼吸法から考える「どう生きるか」／第1章 孤絶の行者 宮本武蔵	一人ないし複数で呼吸法について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
4	脳科学から考える「どう生きるか」／第2章 遊行の聖 一遍	神経伝達物質から検討し、さらに冥想、精神集中の科学的根拠についても検討する。一人ないし複数で脳科学からの知見について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
5	食事から考える「どう生きるか」／第2章 遊行の聖 一遍	一人ないし複数で東洋思想で説かれる食事（アールユヴェーダ、薬膳など）について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
6	中間試験と講評	2回から7回までに学んだことから自分の見解をまとめ、各自それを発表する。授業者はそれについて講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認し、それを他者に説明できる。	
	事前学修	これまでの発表資料、レポートを熟読しておく。	120分
	事後学修	学んできたことを自分に採り入れて、より生きやすくなるよう努めていく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	精神集中法から考える「どう生きるか」／第3章 花の稽古 世阿弥	一人ないし複数で精神集中について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
8	身体的運動から考える「どう生きるか」／第3章 花の稽古 世阿弥	一人ないし複数で東洋思想で説かれる身体的運動（ヨーガ、気功など）について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
9	成功法則から考える「どう生きるか」／第4章 不惜身命の修行 白隠	一人ないし複数で成功法則について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
10	ニューソートから考える「どう生きるか」／第4章 不惜身命の修行 白隠	一人ないし複数でニューソートについて調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
11	アフメーションから考える「どう生きるか」／第5章 異国に散華 霊仙	一人ないし複数でアフメーションについて調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
12	運の好きから考える「どう生きるか」／第6章 茶道の精華 千利休	一人ないし複数で運の好きについて調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己承認から考える「どう生きるか」／第7章 無心に生きる 沢庵	一人ないし複数で自己承認について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
14	自分を知ることから考える「どう生きるか」／第8章 坐忘の光芒 山岡鉄舟	一人ないし複数で自分を知ることの効用について調査し発表を行い、参加者はそれについて質問し自身の見解を表明し、全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
15	授業内試験と講評	8回から14回までに学んだことから自分の見解をまとめ、各自それを発表する。授業者はそれについて講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認し、それを他者に説明できる。	
	事前学修	これまでの発表資料、レポートを熟読しておく。	120分
	事後学修	学んできたことを自分に採り入れて、より生きやすくなるよう努めていく。	120分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に係るテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、古代から継続されている神祀りに着目する。人々が自然をどのように捉え、どのように共存してきたのかを、『日本書紀』や『古事記』に登場する神々の性質を個々に調査することによって明らかにする。そして我々はどのように自然と共存すべきかを考えたい。加えて、神祀りの歴史変遷を通して形成された地域文化の基層について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。学生主体の授業なので、学生による個人報告（プレゼンテーション）と、学生による議論、質疑応答を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジユメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点を明確にし、プレゼンテーションに対する議論・質疑応答の成果も取り入れた、論理的な内容であるかを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、プレゼンテーションにおける調査内容が適切であるか、レジュメなどが適切に作成されているかを評価する。また他の学生との質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他のプレゼンテーションに対する質疑応答への参加度を評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の終了前に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
式内社調査報告 全24巻	式内社研究会編	皇學館大学出版部	1977	参考書	推奨
日本の神々ー神社と聖地 全13巻	谷川健一編	白水社	1979	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（説明）及び導入講義	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的である、神社の祭神がその地域の文化・歴史などとどのように関連していたのか等を理解することで、自然と共存した地域の文化特性を学修する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、日本の神様について知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、演習課題についての理解を整理する。	120分
2	日本の神祀りとは？（説明）	政治は「マツリゴト」と言われるが、その本質を理解することで、人々はなぜ神祀りをするのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古代と現在の「マツリゴト」に対する認識の相違を理解することができる。	
	事前学修	日本の神祀りとは何か、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
3	天照大御神とは？（説明）	天照大御神とはどのような神なのか、またどのような地域で祀られているのか、どのような歴史があるのかを理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、天照大御神の特性を理解することができる。	
	事前学修	天照大御神について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
4	豊受大神とは？（説明）	豊受大神とはどのような神なのか。またどのような地域で祀られているのか、どのような歴史があるのかを理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、豊受大神の特性を理解することができる。	
	事前学修	豊受大神について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
5	八幡神とは？（プレゼンテーション）	八幡神について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、八幡神の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	八幡神について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
6	大国主命とは？（プレゼンテーション）	大国主命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大国主命とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	大国主命について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	武甕槌大神とは？（プレゼンテーション）		武甕槌大神について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、武甕槌大神とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	武甕槌大神について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
8	猿田彦命とは？（プレゼンテーション）		猿田彦命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、猿田彦命とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	猿田彦命について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
9	須佐之男命とは？（プレゼンテーション）		須佐之男命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、須佐之男命とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	須佐之男命について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
10	伊邪那岐命、伊邪那美命、事とは？（プレゼンテーション）		伊邪那岐命、伊邪那美命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊邪那岐命、伊邪那美命とこの神々が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	伊邪那岐命、伊邪那美命について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
11	表筒男命、中筒男命、底筒男命とは？（プレゼンテーション）		表筒男命、中筒男命、底筒男命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、表筒男命、中筒男命、底筒男命とこの神々が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	表筒男命、中筒男命、底筒男命について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
12	建御名方命とは？（プレゼンテーション）		建御名方命について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、建御名方命とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	建御名方命について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	神功皇后とは？（プレゼンテーション）	神功皇后について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、神功皇后とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	神功皇后について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
14	住吉三神とは？（プレゼンテーション）	住吉三神について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住吉三神とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	住吉三神について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
15	まとめ	授業の最初、なぜそこにその神が祀られているのか、という問いを立てた。ここでは神祀りに関する歴史変遷を理解したことを通して、自然を崇めた祭祀継承により構築された日本文化の有様について討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認することができる。	
	事前学修	これまでのプレゼンテーションから得た情報整理を読み直し、討論の準備をする。	120分
	事後学修	学びの成果を振り返り、今回の討論で得られた新たな問題意識をまとめておく。	120分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、全国に建立されている神社において、なぜこの地にこの神々が祀られているのかを調査することで、地域特有の文化の有様を学修する。また地域文化の歴史変遷にも触れ、今後の自然と共存について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸科目に関係するテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、全国に建立されている神社において、なぜこの地にこの神々が祀られているのかを調査することで、地域特有の文化の有様を学修する。また地域文化の歴史変遷にも触れ、今後の自然と共存について受講生全員で議論する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。授業時及び事前・事後学修時に実習や調査等を課し、個人報告（発表）をしてもらい、それについて議論、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	議論、質疑応答、個人報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジュメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
議論、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前に連絡をすること satou.hideaki*nihon-u.ac.jp ※メール送信の際、「*」を「@」に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	スポーツパフォーマンスとは	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義 ・スポーツパフォーマンスについて	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	「スポーツパフォーマンス」について関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	120分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	120分
2	スポーツ心理学的アプローチ（１）	・スポーツ心理学の研究について ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
3	スポーツ心理学的アプローチ（２）	・運動のメカニズムについて ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
4	スポーツ心理学的アプローチ（３）	・運動学習の原理とは ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動学習について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
5	スポーツ心理学的アプローチ（４）	・運動、スポーツ指導とスポーツ心理学 ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動・スポーツ指導について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
6	スポーツ心理学的アプローチ（５）	・運動制御（反応とは何か） ・目標設定とパフォーマンス ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動制御について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツ心理学的アプローチ（6）	・運動、スポーツの動機付け ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	動機付け（内的、外的）について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
8	スポーツ心理学的アプローチ（7）	・心理検査紙を用いたパフォーマンス評価	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	授業時に配付した心理検査紙を事前に実施し、回答をまとめてくる。	120分
	事後学修	スポーツ心理学におけるパフォーマンスについて自分の考えをまとめ報告書を作成する。	120分
9	スポーツ心理学的アプローチ（8）	・まとめ ・個人発表 ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
10	体力科学的アプローチ（1）	・体力科学の研究について ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	体力科学について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
11	体力科学的アプローチ（2）	・トレーニングとパフォーマンス（1） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
12	体力科学的アプローチ（3）	・トレーニングとパフォーマンス（2） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	体力科学的アプローチ（４）	・トレーニングとパフォーマンス（３） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
14	体力科学的アプローチ（５）	・トレーニングとパフォーマンス（４） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
15	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	全体を振り返り授業で取り上げたスポーツのパフォーマンスについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツのパフォーマンスを様々な視点で考える。	120分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】 総合科目の諸科目に係るテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。 【舘野担当】 「自分を創る」ということについて、「自分を知る」と「精神集中・呼吸法」によって行う。これらは人類の歴史の中で紀元前から探究、実践され重要視され続けてきた、人間が生きていく上で基礎となる重要な訓練である。なお『氣の呼吸法』を使う場合もある。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】 ガイダンスを受講して詳しい授業内容を必ず確認すること。
--

【授業方法】 演習形式。特定の課題について一人ずつ、あるいはグループで発表し、それを元にみんなで実践し、自分を創っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及びグループ発表を行い、全員でj実践、検討する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。						3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。								3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。									3				
④	適切なレジュメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。										3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメなどが適切に作成できているかを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るかを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 授業の方法と目的の概説	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的、方法などを理解しそれを説明できる。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、質問を考えておく。	120分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、内容をまとめ、以降の計画を立てる。	120分
2	自分を知る方法について	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知る方法についての話を聞き、授業者からの発問に回答し、いくつかのテストを行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
3	西洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知ることに関する西洋の先人たちの話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
4	東洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「東洋における自分を知ること」に関する話を聞き、メモを取り、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
5	自分はどのような人かについて	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による「自分はどのような人か」に関する話を聞き、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
6	中間試験と講評	2回から5回までに学んだことから自分の見解をまとめ、各自それを発表する。授業者はそれについて講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認し、それを他者に説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	学んできたことを自分に採り入れて、より生きやすくなるよう努めていく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	瞑想について	参加者は瞑想に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、瞑想を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
8	精神集中について	前回のレポート紹介と講評。参加者は精神集中に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、精神集中を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
9	動禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は動禅に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、動禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
10	静禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は静禅について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、静禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
11	気功について	前回のレポート紹介と講評。参加者は気功について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、気功を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
12	武道と呼吸法について	前回のレポート紹介と講評。参加者は武道と呼吸法について調べてきたことを紹介し、『禅と武道』を元にした授業者の話を聞き、メモを取り、武道の呼吸法を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	仏教の精神集中について	前回のレポート紹介と講評。参加者は仏教の精神集中に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、実践を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	発表内容及び全員の質疑応答を振り返り、自分の考えをまとめる。	120分
14	東洋思想の精神集中について	前回のレポート紹介と講評。参加者は東洋思想における精神集中に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、実践を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題について自分の考えをまとめ、それを説明できる。	
	事前学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
	事後学修	今回の課題について予備調査を行い発表を聞く準備をする。	120分
15	授業内試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は授業者による講義全体のまとめの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認し、それを他者に説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめ、これまでに学んできたことを自分に採り入れて、より生きやすくなるよう努めていく。	120分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に係るテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、全国に建立されている神社において、なぜこの地にこの神々が祀られているのかを調査することで、地域特有の文化の有様を学修する。また地域文化の歴史変遷にも触れ、今後の自然と共存について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。学生主体の授業なので、学生による個人報告（プレゼンテーション）と、学生による議論、質疑応答を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。						3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。								3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。									3				
④	適切なレジュメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。										3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点を明確にし、プレゼンテーションに対する議論・質疑応答の成果も取り入れた、論理的な内容であるかを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、プレゼンテーションにおける調査内容が適切であるか、レジュメなどが適切に作成されているかを評価する。また他の学生との質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他のプレゼンテーションに対する質疑応答への参加度を評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の終了前に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
式内社調査報告 全24巻	式内社研究会編	皇學館大学出版部	1977	参考書	推奨
日本の神々ー神社と聖地 全13巻	谷川健一編	白水社	1979	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（説明）及び導入講義	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的である、神社の祭祀がその地域の文化・歴史などとどのように関連しているのか等を理解することで、自然と共存した地域の文化特性を学修する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、日本の神様について知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、演習課題についての理解を整理する。	120分
2	日本の神祀りとは？（説明）	政治は「マツリゴト」と言われるが、その本質を理解することで、人々はなぜ神祀りをするのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古代と現在の「マツリゴト」に対する認識の相違を理解することができる。	
	事前学修	日本の神祀りとは何か、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
3	伊雑宮とは？（説明）	御田植祭とはどのような祭りなのか、またどのような地域で祀られているのか、どのような歴史があるのかを理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊雑宮御田植祭の目的や歴史等を理解することができる。	
	事前学修	伊雑宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
4	椿大神社とは？（説明）	御田植祭とはどのような祭りなのか。またどのような地域で祀られているのか、どのような歴史があるのかを理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、椿大神社御田植祭の特性を理解することができる。	
	事前学修	椿大神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
5	日吉大社とは？（プレゼンテーション）	日吉大社山王祭について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、日吉大社山王祭の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	日吉大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
6	多賀大社とは？（プレゼンテーション）	多賀大社御田植祭りにについて調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、多賀大社御田植祭りの特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	多賀大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	賀茂大社とは？（プレゼンテーション）		賀茂大社流鏑馬神事について調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、賀茂大社流鏑馬神事の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	賀茂大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
8	住吉大社とは？（プレゼンテーション）		住吉大社踏歌神事について調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住吉大社踏歌神事の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	住吉大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
9	大神神社とは？（プレゼンテーション）		大神神社酒祭りについて調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大神神社酒祭りの特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	大神神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
10	大阪天満宮とは？（プレゼンテーション）		大阪天満宮天神祭について調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大阪天満宮天神祭の特性とこの神々が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	大阪天満宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
11	北野天満宮とは？（プレゼンテーション）		北野天満宮ずいき祭について調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、北野天満宮ずいき祭とこの神々が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	北野天満宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
12	八坂神社とは？（プレゼンテーション）		八坂神社祇園祭について調査し、プレゼンテーションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、八坂神社祇園祭の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	八坂神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	春日大社とは？（プレゼンテーション）	春日大社おん祭について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、春日大社おん祭の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	春日大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
14	談山神社とは？（プレゼンテーション）	談山神社けまり祭について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、談山神社けまり祭の特性とこの神が祀られている周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	談山神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
15	まとめ	授業の最初、なぜそこにその神が祀られているのか、という問いを立てた。ここでは神祀りに関する歴史変遷を理解したことを通して、自然を崇めた祭祀継承により構築された日本文化の有様について討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認することができる。	
	事前学修	これまでのプレゼンテーションから得た情報整理を読み直し、討論の準備をする。	120分
	事後学修	学びの成果を振り返り、今回の討論で得られた新たな問題意識をまとめておく。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイント、映像などを紹介しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜自由コメントを執筆し、学修の深化を図る。それらに対しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	任意
『「空想美術館」を超えて』	河原 啓子	美術年鑑社	2011年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
kawahara.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	授業の方法と目的の概説	芸術の価値 クリエイティブ・クラス AIは何をもたらすか		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
2	既成価値観の見直し（1）	岡本太郎の対極主義 芸術とは何か 「なんだ、これは！」		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
3	既成価値観の見直し（2）	身のまわりを見つめ直す 赤瀬川原平『老人力』にみる新しい立脚点		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
4	既成価値観の見直し（3）	荒川修作 反芸術 弱者に向けた芸術		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
5	既成価値観の見直し（4）	おたく クール？ 村上隆 コンテンポラリー・アートの意味		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
6	既成価値観の見直し（5）	ポップ・アート 日常的イメージの引用 アンディ・ウォーホル 他		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	既成価値観の見直し（6）	芸術を思索すること オノ・ヨーコとジョン・レノン		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
8	複製技術時代の芸術（1）写真の発 明	写真は人々の認識をどのように変えたか 情報授受の変容		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
9	複製技術時代の芸術（2）写真の発 展	記録か芸術か？ 報道写真 表現としての写真		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
10	複製技術時代の芸術（3）映画の発 明	映画前史からたどる 世界初の映画の登場と影響		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
11	複製技術時代の芸術（4）映画、映 像の発展	娯楽か芸術か？ 多様な映像 進展する映像技術		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分
12	複製技術時代の芸術（5）音楽の複 製	生演奏か？ 録音か？ グレン・グールドの問題提起		
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。		
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。		120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ミュージアムの存在意義	各国のミュージアムをめぐって メディアとしての文化装置	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	文化政策	日本 アメリカ フランスを比較する 国家の文化や芸術に対する価値観	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	まとめ・振り返り	世界文化遺産 芸術とは何か 文化とは何か 課題のフィードバック	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しつつ講義を進める。グーグルクラスルームなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。 出席管理については、授業内指示します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力を身に付けられているかを授業内小テストなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力を身に付けられているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス : kinase.norikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	序論Ⅰ：芸術論Ⅰについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術作品には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることを。	120分
	事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	西洋美術史から見た日本美術史 各論1-① 仏教伝来と飛鳥時代	仏教伝来と飛鳥時代について、 鑑賞と解釈の方法や、建築、絵画、彫刻、工芸の定義について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	各論1-② パルテノン神殿と奈良の法隆寺	パルテノン神殿と奈良の法隆寺について、 伽藍造営経緯、作品様式とアルカイックスマイル等諸技法を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	各論1-③ 薬師寺と唐招提寺	薬師寺と唐招提寺について、 歴史記念建造物や世俗建築の概略を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	各論1-④ 天平時代、奈良盛期	天平時代、奈良盛期におけるクラシック様式について、 国家事業としての東大寺造営との関連で解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	西洋美術史から見た日本美術史 各論2-① 平安時代の美術と西洋への影響	浄瑠璃寺、平等院及びサグラダファミリアやモネの絵画を鑑賞し、平安時代の美術と西洋への影響について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各論2-② 曼荼羅と密教尊像	大陸より伝承した図像形式である曼荼羅と密教尊像を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	各論2-③ 絵巻物とやまと絵	絵巻物とやまと絵における、画面構成法、説話表現について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	西洋美術史から見た日本美術史 各論3-① 鎌倉時代における寺院建築	鎌倉時代における寺院建築再興や、大仏様と禅宗様について解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	各論3-② 絵画、彫刻、工芸における 鎌倉様式	絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式について、精緻な肖像に見る写実や、日本とヨーロッパの写実表現の概略を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	各論3-③ 室町時代 楼閣建築と庭園造営	室町時代における楼閣建築と庭園造営について、パラッツォ、ヴィッラの歴史と並行して解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	各論3-④ 水墨画、詩画軸山水 雪舟	水墨画、詩画軸山水、雪舟について、書斎と風景描写、同時代のルネサンス風景画とともに説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業まとめ	前学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
	事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として『授業内試験』を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	授業内試験の準備。前期内容の振り返り。	120分
	事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	フィードバックの準備。前期内容の振り返り。	120分
	事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	山形 治江	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。パワーポイント、映像資料などを使用しながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、クイズ形式で発言の機会を設け、基礎知識の定着を図る。毎回、行う小テストでは、グループで解答を考えることで、授業内容のまとめと疑問点の解消を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを小論文などによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内およびgoogle classroomでフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	配布資料もしくは配信資料を使用する				

【オフィスアワー】
yamagata.harue@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	台本翻訳・舞台制作の現場活動・劇評および作品解説の執筆
実務経験に基づく実践的教育の内容		ギリシャ劇について制作と批評の視点で分析する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	授業ガイダンス・導入講義	・授業内容・学修方法・授業予定・評価方法など ・ギリシャ悲劇についての基礎知識		
	この回の到達目標	到達目標①～④を理解し、授業内容との関連性を把握する。		
	事前学修	小論文と作文の違いについて調べる。 「ギリシャ悲劇」について検索し、基本情報を知っておく。		120分
	事後学修	資料「小論文の書き方」「評価のめやす」を復習し、要点をまとめる。		120分
2	ギリシャ悲劇『メディア』～世界最古の演劇～（1）	物語の背景と作品の特徴		
	この回の到達目標	ギリシャ悲劇について理解する。		
	事前学修	『メディア』について検索し、基本情報を知っておく。		120分
	事後学修	資料「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるように、授業内容を整理する。		120分
3	ギリシャ悲劇『メディア』～世界最古の演劇～（2）	登場人物の人間関係とあらすじ		
	この回の到達目標	『メディア』の全体像について理解する。		
	事前学修	『メディア』の過去の上演例を調べる。		120分
	事後学修	学習テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画を視聴する。		120分
4	ギリシャ悲劇『メディア』～世界最古の演劇～（3）	蜷川幸雄演出の2つの舞台「メディア」		
	この回の到達目標	演出と芸術作品の関係を把握する。		
	事前学修	資料のキーワードを整理し、執筆テーマの候補を選択する。		120分
	事後学修	資料の「キーワードとテーマ」欄を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。		120分
5	シェイクスピア悲劇『マクベス』～演出の仕事～（1）	・シェイクスピアの生涯 ・エリザベス朝時代の劇場		
	この回の到達目標	シェイクスピアと作品についての背景を理解する。		
	事前学修	シェイクスピアとエリザベス朝について検索し、基本情報を知っておく。		120分
	事後学修	資料「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるように授業内容を整理する。		120分
6	シェイクスピア悲劇『マクベス』～演出の仕事～（2）	あらすじと全体像		
	この回の到達目標	作品の演出について芸術的意図を把握する。		
	事前学修	『マクベス』について検索し、基本情報を知っておく。		120分
	事後学修	授業テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画を視聴する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	シェイクスピア悲劇『マクベス』～演出の仕事～（3）	さまざまな解釈と演出	
	この回の到達目標	作品の解釈と演出について理解する。	
	事前学修	資料のキーワードを整理し、執筆テーマの候補を選択する。	120分
	事後学修	資料の「キーワードとテーマ」欄を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。	120分
8	ミュージカルの世界～ハイテクとアナログの芸術～（1）	ミュージカルの誕生と特徴 ミュージカル映画『ウェストサイド物語』1961	
	この回の到達目標	ミュージカル作品と社会的背景の関係を理解する。	
	事前学修	「ミュージカル」について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	資料「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるように授業内容を整理する。	120分
9	ミュージカルの世界～ハイテクとアナログの芸術～（2）	ロンドン・ミュージカルの参入『キャッツ』1981 アメリカ・ミュージカルの復活『ライオン・キング』1997	
	この回の到達目標	ミュージカル「キャッツ」「ライオン・キング」について舞台美術の特徴を把握する。	
	事前学修	「ミュージカル映画」について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	学習テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画を視聴する。	120分
10	ミュージカルの世界～ハイテクとアナログの芸術～（3）	劇団四季の経営戦略	
	この回の到達目標	劇団四季の歴史と創設の理念を理解する。	
	事前学修	「劇団四季」について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	資料のキーワードを整理し、執筆テーマの候補を選択する。 資料の「キーワードとテーマ」欄を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。	120分
11	ホラー芸術～恐怖を演出する～（1）	ホラー芸術と人間心理 アメリカン・ホラーの歴史	
	この回の到達目標	「ホラー芸術」の目的や成立背景について理解する。	
	事前学修	「ホラー映画」について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	資料「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるように授業内容を整理する。	120分
12	ホラー芸術～恐怖を演出する～（2）	ホラー映画の基本的技法 カメラワークによる恐怖シーン	
	この回の到達目標	ホラー映像を作り出す基本技術を把握する。	
	事前学修	「ホラー映画」について検索し、重要な作品と技法について情報を知っておく。	120分
	事後学修	学習テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画を視聴する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ホラー芸術～恐怖を演出する～（3）	ホラー映画の芸術性 ホラー映画の問題点 Jホラーとアメリカンホラー	
	この回の到達目標	ホラー映画と国民性の関係について把握する。	
	事前学修	「怪談話」について調べ、基本情報を知っておく。 資料のキーワードを整理し、執筆テーマの候補を選択する。	120分
	事後学修	資料の「キーワードとテーマ」欄を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。 指定条件に従って、小論文を執筆する。	120分
14	まとめ	授業内容全体と自分の学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	自己の理解力・思考力・表現力を認識する。	
	事前学修	提出した小論文とフィードバックを読み返し、「評価のめやす」に従って自己評価する。	120分
	事後学修	掲載小論と自分の小論を読み比べ、自身の独自性を分析し、改善点をまとめる。	120分
15	振り返り	到達目標①～④について達成度を振り返る。	
	この回の到達目標	達成度に応じて、理解力を補完する。	
	事前学修	全資料の穴埋めを完成させる。	120分
	事後学修	振り返りレポートを書き、授業アンケートを通してFD活動に参加する。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。配布資料、スライド、視聴覚機器を使用し作例を具体的に紹介しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
木曜 1 限、授業前後に受け付ける。授業講堂にて。ishii.kae@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「芸術」「美術」とは何か 図像・様式と写実の歴史	
	この回の到達目標	「芸術」「美術」の基本的概念の把握。	
	事前学修	「芸術」「美術」について自身の知識、見解を整理しておく。	120分
	事後学修	美術史学の基本事項について復習。	120分
2	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本① 写実主義の展開 日本江戸と近代化	
	この回の到達目標	近代における西洋と日本の影響関係の把握。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	19世紀東西文化の復習。	120分
3	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本② 印象派とジャポニスム 日本近代化	
	この回の到達目標	印象派を中心とする東西の影響関係の理解。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ジャポニスムについて復習。	120分
4	世紀末芸術	世紀末芸術 象徴主義、アール・ヌーヴォーの展開	
	この回の到達目標	19世紀末の表現形式の理解。	
	事前学修	世紀末芸術について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	世紀末芸術の思想・視覚表現について復習。	120分
5	表現主義とキュビズム	表現主義とキュビズム マティス、ピカソの時代 色とかたちの追求	
	この回の到達目標	20世紀初頭のムーブメントの理解。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	表現主義とキュビズムについて復習。	120分
6	ダダイズム、シュルレアリスム	ダダイズム、シュルレアリスム ツァラ、デュシャン、ブルトンの時代	
	この回の到達目標	第一次世界大戦後の美術状況の理解。	
	事前学修	20世紀前半の美術、文学活動について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ダダ、シュルレアリスムについて復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦前・戦後の日本美術	前衛と戦争 占領下とその後の日本美術	
	この回の到達目標	占領下とその後の日本美術について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	戦前、戦後美術の復習。	120分
8	戦後の西洋美術	アンフォルメル、アクションの時代① 抽象表現主義 未定形の表現	
	この回の到達目標	戦後の抽象芸術について理解。	
	事前学修	戦後西洋美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	アンフォルメル、抽象表現主義の復習。	120分
9	日本の前衛美術	アンフォルメル、アクションの時代② アンフォルメル旋風と日本 具体美術協会	
	この回の到達目標	50年代日本の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	50年代日本美術の復習。	120分
10	戦後アメリカ美術	ネオダダ、反芸術① カラー・フィールド・ペインティングからネオ・ダダへ	
	この回の到達目標	50年代アメリカの美術状況について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	50年代日本とアメリカ美術の復習。	120分
11	日本の前衛美術	ネオダダ、反芸術② 読売アンデパンダン展の時代とその後	
	この回の到達目標	60年代日本の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	60年代日本美術の復習。	120分
12	ミニマル、コンセプチュアル・アート	ミニマル・アート、もの派、コンセプチュアル・アート 要素の抽出 ミニマルへの普遍的美意識	
	この回の到達目標	日本と西洋におけるミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポップ・アート	ポップ・アート 日用品、マス・メディアへの視点 イメージの提示	
	この回の到達目標	アメリカを中心とするポップ・アートの展開について理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ポップ・アートについて復習。	120分
14	新表現主義	シミュレーショニズム、ニュー・ペインティング 未視感から既視感へ 新表現主義の台頭	
	この回の到達目標	80年代の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	シミュレーショニズム、ニューペインティングについて復習。	120分
15	まとめ	まとめ、現代の動向	
	この回の到達目標	授業全体のまとめおよび00年代以降の展開について理解。	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワー・ポイント、映像などを紹介しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜自由コメントを執筆し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
kawahara.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	芸術とは何か 私たちの視野を広げてくれる芸術 アートの存在意義	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	芸術家の創造・思想・人生（1）フラ ンシスコ・デ・ゴヤ	近代の先駆者 さまざまな試み	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	芸術家の創造・思想・人生（2）ジョ ゼフ・マロード・ウィリアム・ター ナー	風景画の意義 自然と人間	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	芸術家の創造・思想・人生（3）エド ガー・ドガ	社会を見つめるまなざし 写真の影響	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	芸術家の創造・思想・人生（4）ク ロード・モネ	《印象・日の出》当時のジャーナリズムをふり返る 印象派とは	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	芸術家の創造・思想・人生（5）オー ギュスト・ルノワール	酷評された作品 世論とは何か 女性表現の開拓	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	芸術家の創造・思想・人生 (6) エドヴァルド・ムンク	《叫び》はなぜ人々を魅了するのか 病、死をどうとらえるか	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	芸術家の創造・思想・人生 (7) アンリ・マティス	フォーヴィスム（野獣派）とは 《ジャズ》最晩年の作品	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	芸術家の創造・思想・人生 (8) ジョルジュ・ルオー	キリスト教絵画 ヨーロッパの精神文化 独自の世界を構築	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	芸術家の創造・思想・人生 (9) パブロ・ピカソ	キュビズム（立体派）とは ピカソの革新とは何か	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	芸術家の創造・思想・人生 (10) マルク・シャガール	夢や愛を描く 世界的活躍の軌跡	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	芸術家の創造・思想・人生 (11) 葛飾北斎	江戸後期の浮世絵師の挑戦 ジャポニスムへの影響	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	芸術家の創造・思想・人生（12）横山大観	明治、大正、昭和をふり返る 富士の描写にみられるもの芸術家の創造・思想・人生	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	芸術家の創造・思想・人生（13）伊藤若冲 熊谷守一	わが道を行く画家たち 自分らしい生き方とは	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	まとめ・振り返り	人生と芸術 芸術鑑賞の意義 課題のフィードバック	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しつつ講義を進める。グーグルクラスルームなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。 出席管理については、授業内指示します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力を身に付けられているかを授業内小テストなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力を身に付けられているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス : kinase.norikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	序論Ⅱ：芸術論Ⅱについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることを。	120分
	事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	西洋美術史から見た日本美術史 各論4-① 安土桃山、織豊時代	安土桃山、織豊時代について、 国宝姫路城を例として説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	各論4-② 西洋美術の伝播と導入 暮らしを彩る工芸意匠、狩野派	西洋美術の伝播と導入、暮らしを彩る工芸意匠について、 狩野派、茶の湯と茶室、数寄屋造から和式家屋への展開を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	各論4-③ 宗達光琳派	宗達光琳派について、 季節の推移を味わい、ルネサンスの風神（ゼフュロス）画も説明します。。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	西洋美術史から見た日本美術史 各論5-① ロココの雅宴画 寛文美人画と浮世絵	ロココの雅宴画、寛文美人画と浮世絵について、 師宣肉筆、木版製作工程を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	各論5-② 春信、歌麿、広重、北斎などの 錦絵	春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵について 色彩や輪郭、バリの日本美術流行とともに説明します。。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	各論5-③ 舶来機器と洋風絵画 源内		舶来機器と洋風絵画について 源内、蘭学と油彩、オランダ絵画の影響を解説します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。		
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。		120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	各論5-④ 文人画、銅版、動植物絵		文人画、銅版、動植物絵について、 空気と線などによる遠近法、モナ・リザの空気遠近法、イタリアの美人画を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。		
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。		120分
9	西洋美術史から見た日本美術史 各論6-① 学制発布と美術教育の始まり		学制発布と美術教育の始まり、印象派とパリ留学について、 明治以後の建築様式を解説します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。		
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。		120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	各論6-② 日本美術を鑑賞致します		日本美術を鑑賞致します。 伝統保持や復古再生について説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。		
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。		120分
11	各論6-③ アールヌーヴォー アールデコ 万国博覧会		アールヌーヴォー、アールデコについて、 建築装飾、工芸作品を多様に楽しみ、鑑賞する眼を養う。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。		
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。		120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	各論6-④ 近現代における芸術 20世紀初め西洋美術の影響		近現代における芸術、20世紀初め西洋美術の影響について、 洋画や彫刻における充実の様相を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。		
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業まとめ	後学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
	事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として『授業内試験』を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	授業内試験の準備。後期内容の振り返り。	120分
	事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	フィードバックの準備。後期内容の振り返り。	120分
	事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	山形 治江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
無し

【授業方法】
講義形式。パワーポイント、映像資料などを使用しながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、クイズ形式で発言の機会を設け、基礎知識の定着を図る。毎回、行う小テストでは、グループで解答を考えることで、授業内容のまとめと疑問点の解消を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを小論文などによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内およびgoogle classroomでフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	配布資料もしくは配信資料を使用する。				

【オフィスアワー】
yamagata.harue@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	台本翻訳・舞台制作の現場活動・劇評および作品解説の執筆
実務経験に基づく実践的教育の内容		ギリシャ劇について制作と批評の視点で分析する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入授業	授業内容・学修方法・授業予定・評価方法など ギリシャ劇の基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①～④を理解し、授業内容との相関性を把握する。	
	事前学修	小論文と作文の違いについて調べる。 「ギリシャ劇」について調べる。	120分
	事後学修	配布資料「小論文の書き方」「評価のめやす」を復習し、要点をまとめる。	120分
2	ギリシャ悲劇『オイディプス王』～ 世界最古の演劇～（1）	物語の背景と作品の特徴	
	この回の到達目標	物語の全体像を把握する。	
	事前学修	『オイディプス王』について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるよう授業内容を整理する。	120分
3	ギリシャ悲劇『オイディプス王』～ 世界最古の演劇～（2）	古代ギリシャ思想と演劇	
	この回の到達目標	古代ギリシャ人の思想を理解する。	
	事前学修	作品の多様な解釈について検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	授業テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画などを視聴する。	120分
4	ギリシャ悲劇『オイディプス王』～ 世界最古の演劇～（2）	蜷川幸雄演出の2つの『オイディプス王』 オペラ『エディプス王』	
	この回の到達目標	作品の解釈と演出について理解する。	
	事前学修	『エディプス王』の上演例について調べ、演出の可能性についてまとめる。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のテーマ例を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。	120分
5	バレエ～肉体の芸術～（1）	バレエの基礎知識 初期のバレエと現在のバレエ	
	この回の到達目標	バレエの意味と形態について基本的事項を理解する。	
	事前学修	「バレエ」についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるよう授業内容を整理する。	120分
6	バレエ～肉体の芸術～（2）	『白鳥の湖』の初演事情 あらすじとテクニック	
	この回の到達目標	『白鳥の湖』の解釈と表現法について把握する。	
	事前学修	『白鳥の湖』についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	授業テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画などを視聴する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	バレエ～肉体の芸術～（3）	1581年当時のフランスの状況 中国の広東雑技団	
	この回の到達目標	バレエとアクロバットの違いについて把握する。	
	事前学修	「アクロバット」についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	第2回～第7回の2つのテーマのうち1つを選び、指定条件に従って小論文を執筆する。	120分
8	特殊撮影～科学技術と芸術表現的効果～（1）	アメリカの特殊撮影の歴史	
	この回の到達目標	特撮の目的と基本表現について理解する。	
	事前学修	「特殊撮影」についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるよう授業内容を整理する。	120分
9	特殊撮影～科学技術と芸術表現的効果～（2）	SFXとVFX	
	この回の到達目標	特撮技術の進化について把握する。	
	事前学修	「SFX」「VFX」についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	授業テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYou Tubeの動画などを視聴する。	120分
10	特殊撮影～科学技術と芸術表現的効果～（3）	日本の特殊撮影 AI俳優の問題	
	この回の到達目標	日本の特撮の歴史について把握する。 AI俳優の問題について理解する。	
	事前学修	近年上演の日本の特撮映画1本を視聴する。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のテーマ例を参考に、小論文の構想を練り、必要な情報を収集する。	120分
11	映画戦略～芸術作品と現実社会～（1）	映画戦略とネガティブ・キャンペーン 映画「エクソシスト」1973	
	この回の到達目標	映画戦略と製作意図の違いを把握する。	
	事前学修	「ネガティブ・キャンペーン」「サブリミナル効果」についてネット検索し、基本情報を知っておく。	120分
	事後学修	「キーワードとテーマ」欄のキーワードを説明できるよう授業内容を整理する。	120分
12	映画戦略～芸術作品と現実社会～（2）	1985年の映画戦略 映画“Back to the Future”1985	
	この回の到達目標	映画とpost truthの関係把握する。	
	事前学修	映画“Back to the Future”を視聴する。	120分
	事後学修	授業テーマに関連する資料映像を調べ、DVDやYouTubeの動画などを視聴する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	映画戦略～芸術作品と現実社会～ (3)	アメリカひとり勝ち時代の映画 映画による情報操作	
	この回の到達目標	映画と製作の時代背景の関係を把握する。	
	事前学修	異星生物・自然災害・ウィルスをテーマとした1990年代の人気映画を調べる。	120分
	事後学修	第8回～第13回の2つのテーマのうち1つを選び、指定条件に従って小論文を執筆する。	120分
14	まとめ	授業内容全体と自分の学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	自己の理解力・思考力・表現力を認識する。	
	事前学修	提出した2本の小論文を読み返し、「評価のめやす」に従って自己評価する。	120分
	事後学修	掲載小論と自分の小論を読み比べ、自身の独自性を分析するとともに改善点をまとめる。	120分
15	振り返り	到達目標①～④について達成度を振り返る。	
	この回の到達目標	達成度に応じて、理解力を補完する。	
	事前学修	全資料の穴埋めを完成させる。	120分
	事後学修	振り返りレポートを書き、授業アンケートを通してFD活動に参加する。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を用いて具体的な作例を紹介しつつ授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。ishii.kae@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	複製技術とメディア	美術、視覚メディアと素材 画材の歴史 複製技術とマチエール メディア・アート考察	
	この回の到達目標	視覚メディアの歴史について把握	
	事前学修	日常的に使っている視覚メディア、今は使われなくなった視覚メディアについて自身の経験、見解を整理しておく。	120分
	事後学修	美術、視覚メディア史の基本事項について復習。	120分
2	写真と絵画	写真と油絵① 写真の登場と美術、社会への影響	
	この回の到達目標	写真と絵画それぞれの役割と歴史について理解	
	事前学修	油絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
3	写真と絵画	写真と油絵② 錦絵と写真鏡 “Photography”と「写真」	
	この回の到達目標	明治期の浮世絵と写真の役割について理解	
	事前学修	絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
4	近代の複製技術	複製技術の展開① 出版文化と複製イメージ 製版の多様性	
	この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
	事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	複製技術史の復習。	120分
5	近代の複製技術	複製技術の展開② 銅版、石版、木口木版の隆盛	
	この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
	事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	複製技術史の復習。	120分
6	万国博覧会	博覧会の時代① 博覧会ブームの時代 万国博覧会	
	この回の到達目標	万博を中心とする博覧会の歴史について理解	
	事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
	事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	博覧会と作品観賞	博覧会の時代② 作品をみる「場所」考察	
	この回の到達目標	博覧会の流行と展開について理解	
	事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
	事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分
8	博覧会と作品観賞	博覧会の時代③ 日本の博覧会史	
	この回の到達目標	日本の博覧会と近代史との関連について理解	
	事前学修	日本の近代化、現存する博物館・美術館について予習。	120分
	事後学修	日本の博物館史、身近な博物館について復習。	120分
9	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開 素材の拡張 キュビズム以後	
	この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
	事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	コラージュの展開について復習。	120分
10	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材① ミニマル・アート、もの派と素材	
	この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ミニマル・アートについて復習。	120分
11	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材② コンセプチュアル・アートと素材	
	この回の到達目標	美術作品における素材について理解	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	コンセプチュアル・アートについて復習。	120分
12	彫刻の定義と歴史	「彫刻」と「立体」 彫刻作品の定義と役割・歴史	
	この回の到達目標	彫刻作品の定義と役割・歴史について理解	
	事前学修	彫刻作品について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	彫刻史について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・アート	メディア・アート史① 実験映像の時代とCG黎明期	
	この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
	事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
14	メディア・アート	メディア・アート史② CGの発展、「マルチメディア」とは何か	
	この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
	事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
15	まとめ	まとめ 表現と画材の拡張	
	この回の到達目標	授業全体のまとめ。視覚表現の「素材」についての再考。	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	健康科学 I	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
WHO憲章では健康について「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康を理解するには様々な視点から考える必要があるといえる。本講義では健康に関連するテーマ（諸問題や健康被害等）を取り上げ、健康を取り巻く環境について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康問題や健康に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康を保持増進するための環境について健康を総合的に考え、的確に判断する能力を修得する。

【履修条件】
運動・スポーツ等について関心を持ち、それらが自身の健康や生活にどのように関係するか考える姿勢をもつこと。周囲との協力が必要な際には、他者と協働して課題に取り組むこと。シラバスやガイダンスを通じて、講義内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
授業はスライドを使用し、対面で行う。各授業回では小テストを実施し、適宜解答および解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	健康被害について、具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
③	健康を取り巻く環境について具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	社会的な健康問題について、関連する情報を用いて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④についての知識が身についているかを確認 するために、授業内試験を行う。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①～④についての知識が身についているかを確認 する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかを小レ ポートなどにより評価する	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テストの解答および解説、レポート課題の講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業時間前後または授業時間内に受け付ける。email: gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/導入講義	・授業のテーマや内容、課題へのフィードバック方法、成績評価の方法等について説明する。 ・健康や運動の定義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、健康や運動の定義、概念について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。	120分
2	環境と健康	・暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害について知り、予防策や対応策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、私たちを取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
	事前学修	健康に影響を及ぼしうる物理的環境について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、環境が健康に及ぼす影響についての理解を深める。	120分
3	生活習慣と健康	・現代社会において罹患する特徴的な病気について、その原因と予防策を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、望ましい生活習慣について説明することができる。	
	事前学修	自身の生活習慣について振り返る。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、日本人が罹患する病気とその原因についての理解を深める。	120分
4	肥満の影響	・肥満が私たちの身体に及ぼす影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生活習慣と肥満の関係について説明することができる。	
	事前学修	肥満，メタボリックシンドロームについて調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、肥満が及ぼす影響についての理解を深める。	120分
5	感染症とその予防	・ウイルスと細菌による感染症の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ウイルスと細菌が引き起こす感染症について説明することができる。	
	事前学修	新興感染症及び再興感染症について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、感染症についての理解を深める。	120分
6	嗜好と依存症	・飲酒、喫煙の心身への影響を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、嗜好品が及ぼす心身の健康について説明することができる。	
	事前学修	どのような依存症があるか調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、依存症に対する予防策や対処法についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	小テストの解答および解説（第2回～第6回）		・第2回～第6回授業の小テストの解答および解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。		
	事前学修	第2回～第6回の授業内容を確認する。		120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。		120分
8	栄養と健康		・栄養素の働きについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、栄養素の消化吸収について説明することができる。		
	事前学修	五大栄養素について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、栄養素の消化吸収についての理解を深める。		120分
9	ライフステージと健康		・心身の発育発達と加齢変化を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、発育発達及び加齢による生理機能、身体機能の変化について説明することができる。		
	事前学修	サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルというワードについて調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達、加齢による身体機能の変化および健康問題についての理解を深める。		120分
10	運動と体力		・健康に関連する体力要素を知り、「運動不足」や「運動のしすぎ」による健康への悪影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、体力について説明することができる。		
	事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、健康に影響を及ぼす運動の功罪についての理解を深める。		120分
11	スポーツ障害		・スポーツ外傷、スポーツ障害について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツ障害とその予防、健康への影響について説明することができる。		
	事前学修	女性アスリートの三主徴について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツ障害とその予防についての理解を深める。		120分
12	救急処置		・運動・スポーツ現場で行う救急処置について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、運動・スポーツ現場で行う救急処置の方法について説明することができる。		
	事前学修	救急処置の方法にはどのようなものがあるか調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、運動・スポーツ現場で行う救急処置についての理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小テストの解答および解説（第8回～第12回）	・第8回～第12回授業の小テストの解答および解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	第8回～第12回の授業内容を確認する。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。	120分
14	授業内試験	・これまでの授業内容について授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	第2回～第13回の授業内容を確認する。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。	120分
15	総括	・授業内試験の解説、および学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
	事前学修	講義資料を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	健康科学 I	担当者	佐藤 秀明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
WHO憲章では健康について「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康を理解するには様々な視点から考える必要があるといえる。本講義では健康に関連するテーマ（諸問題や健康被害等）を取り上げ、健康を取り巻く環境について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康問題や健康に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康を保持増進するための環境について健康を総合的に考え、的確に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、対面授業である。各授業回にGoogle Classroomを通じて関連資料を配信する。各授業回では小テストを実施し、適宜解答及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（第7回、第13回、第15回）、課題レポート（2回）を活用する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	健康被害について、具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
③	健康を取り巻く環境について具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	社会的な健康問題について、関連する情報を用いて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④についての知識が身についているかを確認する。	10	10	10	5							35
小テスト等	到達目標①～③についての知識が身についているかを確認する。	15	15	15								45
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答及び解説（第7回、第13回）、レポート課題の講評。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前に連絡をしてください。satou.hideaki*nihon-u.ac.jp ※メール送信の際は「*」を「@」に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	健康とは何か	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. WHOの健康の定義について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康の定義をから「健康とは何か」を説明できる。	
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. WHOの健康の定義（日本語及び英語）を読み、そこに示されている視点を調べてくる。	120分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以降の学習計画を立てる。	120分
2	健康とウェルビーイング	1. 健康を理解する上で重要な「考え方」について説明する。 2. 予防医学について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ウェルビーイングとは何かを具体例を挙げて、また予防医学について説明することができる。	
	事前学修	健康におけるウェルビーイングとは何か調べ、価値判断と事実判断に基づく考え方を	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、価値判断と事実判断に基づく考え方の具体例と予防医学について理解を深める。	120分
3	ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア	1. 健康にかかわるサービスの提供について、先進国と発展途上国の関係の変遷について説明する。 2. 従来の健康づくりとヘルスプロモーションの目的、戦略、活動方法の違いを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアの理念について具体例を示し説明することができる。	
	事前学修	オタワ憲章とアルマ・アタ宣言を読み、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて理解を深める。	120分
4	健康診断の活用	1. 健康管理の手段として健康診断はどのように活用されるか、また検診と健診の違いを説明する。 2. ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康診断の意義とその活用方法について説明することができる。	
	事前学修	定期健康診断の情報（個人のもの）を準備する。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康診断の意義とその活用方法について理解を深める。	120分
5	環境と健康 （気候変動による健康被害）	1. 人間の内部環境と外部環境の関係を説明する。 2. 気候変動による健康被害を知り、「緩和策」及び「適応策」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
	事前学修	物理的環境とホメオスタシス（恒常性）について調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、人間の内部環境と外部環境の関係について理解を深める。	120分
6	環境と健康 （公害による健康被害）	1. 化学的環境について説明する。 2. 公害によってもたらされる健康被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
	事前学修	身近な環境汚染問題について調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康被害を引き起こす環境汚染問題についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小テストの解答及び解説 第2回～第6回	・第2回～第6回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容をまとめる。	120分
	事後学修	小テストの解答及び解説を踏まえて、これまでの内容についてリアクションペーパーを作成する。	120分
8	環境と健康 (暑熱・寒冷環境と健康)	暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、暑熱環境及び寒冷環境によって引き起こされる健康被害、その対処法について説明できる。	
	事前学修	暑熱環境の健康被害である熱中症、寒冷環境の健康被害である低体温症について調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について理解を深める。	120分
9	危機管理と健康（感染症）	1. 人類と感染症の関わりについて説明する。 2. 三大感染（エイズ、結核、マラリア）と顧みられない熱帯病を知り、グローバルヘルスの重要性を説明する。 3. 季節性と新型の違いを知り、適切な予防策と対応策を説明する。 4. インフルエンザの世界流行の歴史を概観し、流行がもたらした被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、感染症とは何か具体例を示し説明することができる。	
	事前学修	新興感染症及び再興感染症について調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、感染症についての理解を深める。	120分
10	危機管理と健康（性感染症）	1. ウイルスと細菌による感染症の違いについて説明する。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然免疫と獲得免疫について説明することができる。	
	事前学修	人間の免疫機能について関連資料を調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、自然免疫と獲得免疫についての理解を深める。	120分
11	現代人の病気	現代社会において罹患する特徴的な病気について、その原因と予防策を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本人が罹患する病気とその原因について説明することができる。	
	事前学修	日本人に多い病気について関連資料を調べ、まとめる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、日本人が罹患する病気とその原因について理解を深める。	120分
12	統計と健康	保健統計から健康測定と健康指標について示し、どのような取り組みがなされているかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができる。	
	事前学修	「健康日本21」について調べ、その目的と具体的な取り組みについてまとめる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができるように理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小テストの解答と解説 第8回～第12回	・第8回～第12回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容をまとめる。	120分
	事後学修	小テストの解答及び解説を踏まえて、これまでの内容についてリアクションペーパーを作成する。	120分
14	健康の社会的決定要因	健康格差を生み出す社会的要因について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康の社会決定要因とは何かを説明することができる。また、その原因を示し解決策を述べる	
	事前学修	配付資料及び関連する資料を読み、健康格差とそれを生み出す社会的な要因についてまとめる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康格差の現状を踏まえ、その原因と解決策について理解を深める。	120分
15	健康を取り巻く環境について考える	健康に関連する諸問題や健康被害についてまとめる	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康とは何か健康問題と関連付けて説明することができる。	
	事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
	事後学修	授業の振り返りを行い、健康を取り巻く環境について理解を深める。	90分

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人生100年時代といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の保持増進に関連する「ストレス」や「生活習慣」に関する知識を学修し、主体的に健康行動を実践できる態度を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康課題や健康の保持増進に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康課題を探究し、その課題に対して総合的に判断する能力を修得する。

【履修条件】
運動・スポーツ等について関心を持ち、それらが自身の健康や生活にどのように関係するか考える姿勢をもつこと。周囲との協力が必要な際には、他者と協働して課題に取り組めること。シラバスやガイダンスを通じて、講義内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
授業はスライドを使用し、対面で行う。各授業回では小テストを実施し、適宜解答および解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。					2	2	2	2				
②	数多くの健康情報を体系的にまとめ、主体的に正しく判断できる					2	2	2	2				
③	健康の保持増進の方法について科学的な根拠を示し説明できる。					2	2	2	2				
④	健康課題について、問題提起し関連する知識を用いてその解決策を示すことができる。					2	2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④についての知識が身についているかを確認 するために、授業内試験を行う。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①～④についての知識が身についているかを確認 する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかを小レ ポートなどにより評価する	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テストの解答および解説、レポート課題の講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業時間前後または授業時間内に受け付ける。email: gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス/導入講義		・授業のテーマや内容、課題へのフィードバック方法、成績評価の方法等について説明する。 ・心理的・社会的健康について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、健康や運動の定義、概念について説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。		120分
2	疲労と休養		・疲労のメカニズムと休養の適切な選択について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疲労と休養について説明することができる。		
	事前学修	身体的疲労と精神的疲労、積極的休養と消極的休養について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、疲労のメカニズムと休養の選択についての理解を深める。		120分
3	メンタルヘルス		・メンタルヘルス、ストレスのメカニズムについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メンタルヘルスについて説明することができる。		
	事前学修	メンタルヘルスについて調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、メンタルヘルスとストレスのメカニズムについての理解を深める。		120分
4	ストレスマネジメント		・ストレスへの対処法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ストレスのメカニズムと対処方法について説明することができる。		
	事前学修	ストレスのメカニズムについて復習する。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、ストレスのメカニズムと対処方法についての理解を深める。		120分
5	心理的コンディショニング		・心の状態を整える様々なアプローチについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、心理的コンディショニングの方法について説明することができる。		
	事前学修	心理状態を整える方法について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、心理的コンディショニングについての理解を深める。		120分
6	セルフマネジメント		・心の状態を整える様々なアプローチ方法を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、心理的スキルトレーニングを実践することができる。		
	事前学修	リラクセーション、サイキングアップについて調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、心理的スキルトレーニングの実践方法についての理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	小テストの解答および解説（第2回～第6回）	・第2回～第6回授業の小テストの解答および解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。		
	事前学修	第2回～第6回の授業内容を確認する。		120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。		120分
8	運動・スポーツとパーソナリティ	・運動・スポーツとパーソナリティの関わりについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、運動・スポーツとパーソナリティにどのような関わりがあるのか説明することができる。		
	事前学修	スポーツパフォーマンスとパーソナリティの関係について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツとパーソナリティの関わりについての理解を深める。		120分
9	ライフスキルの獲得	・運動・スポーツを通じたライフスキルの獲得について説明できる。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、運動・スポーツによるライフスキル獲得のプロセスについて説明することができる。		
	事前学修	ライフスキルについて調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、運動・スポーツとライフスキルの関係についての理解を深める。		120分
10	人間関係と健康	・人との関わりが健康に与える影響について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、人との関わりが健康に与える影響について説明することができる。		
	事前学修	コミュニケーションの方法について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、健康と関係する人間関係の重要性についての理解を深める。		120分
11	社会問題と健康	・運動・健康に関連する諸問題や健康被害について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、運動・健康に関する社会的な問題や健康被害について説明することができる。		
	事前学修	わが国における自殺をめぐる問題について調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、運動・健康に関連する諸問題や健康被害についての理解を深める。		120分
12	健康とウェルビーイング	・健康とウェルビーイングの関係について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、健康とウェルビーイングの関係について説明することができる。		
	事前学修	ウェルビーイングについて調べる。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、私たちの生活におけるウェルビーイングについての理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小テストの解答および解説（第8回～第12回）	・第8回～第12回授業の小テストの解答および解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	第8回～第12回の授業内容を確認する。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。	120分
14	授業内試験	・これまでの授業内容について授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	第2回～第13回の授業内容を確認する。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、疑問点をまとめる。	120分
15	総括	・授業内試験の解説、および学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
	事前学修	講義資料を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人生100年時代といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の保持増進に関連する「ストレス」や「生活習慣」に関する知識を学修し、主体的に健康行動を実践できる態度を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康課題や健康の保持増進に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康課題を探究し、その課題に対して総合的に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、対面授業である。各授業回にGoogle Classroomを通じて関連資料を配信する。各授業回では小テストを実施し、適宜解答及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（第8回、第14回、第15回）、課題レポート（2回）を活用する

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	数多くの健康情報を体系的にまとめ、主体的に正しく判断できる				2	2	2	2				
③	健康の保持増進の方法について科学的な根拠を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	健康課題について、問題提起し関連する知識を用いてその解決策を示すことができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～③についての知識が身についているかを確認 するため授業内試験を行う	10	15	10								35
小テスト等	到達目標①～③についての知識が身についているかを確認 する。	10	15	10								35
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかをリア クションペーパー及びレポートにより評価する。	5	5	5	15							30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答及び解説（第8回、第14回）、レポート課題の講評。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日（10:30～12:30、Zoom等）※事前に連絡をしてください。E-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	健康寿命と平均寿命	・ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する ・健康寿命について説明する。また健康日本21の目標についても触れる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康寿命から「健康とは何か」を説明できる。		
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. 健康寿命について調べてくる。		135分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。		105分
2	健康を損なう要因	・健康を損なう要因の一つである喫煙、アルコールのリスクを説明する。 ・薬物依存について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、薬物依存や喫煙・アルコールのリスクを説明することができる。また、それらの対策として講じられている取り組みについて説明することができる。		
	事前学修	薬物依存、受動喫煙、サードハンド・スモークの被害について関連資料を調べてくる。		105分
	事後学修	講義内容をまとめ、薬物依存、喫煙、アルコールのリスクについての理解を深める。		135分
3	心の健康	・メンタルヘルスについて説明するとともに、心理検査の用いて自己のメンタルヘルスについて理解する。 ・ストレスのメカニズムについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、心理検査の使用と評価方法について説明することができる。		
	事前学修	メンタルヘルスについて調べる。		110分
	事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムとメンタルヘルスについて理解を深める。		130分
4	ストレスマネジメント	・認知的評価とストレスへの対処について説明する。 ・ストレスコーピングについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレスのメカニズムと対処方法について説明することができる。		
	事前学修	ストレスのメカニズムについて復習する。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムと対処方法について理解を深める。		120分
5	生活習慣と健康	肥満を栄養・運動・休養の視点から概観し、健康に大きな影響を及ぼす生活習慣の重要性を説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生活習慣と肥満の関係について説明することができる。		
	事前学修	自らの生活習慣（栄養・運動・休養）を振り返り、配布シートに記入する。		150分
	事後学修	講義内容をまとめ、生活習慣と肥満の関係について理解を深め、自身の生活習慣の振り返りを行う。		90分
6	栄養と健康	・身体を作る基本ともいえる三大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂肪）の吸収メカニズムとその働きについて説明する。 ・その他の栄養素（ビタミンとミネラル）の働きについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、栄養素の消化吸収について説明することができる。		
	事前学修	五大栄養素について調べてくる。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、栄養素の消化吸収について理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	食生活と健康		・健康の保持増進・質を向上させるための「食生活」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康にかかわる食行動について説明することができる。		
	事前学修	食品の表示制度について調べる。		90分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康にかかわる食行動について理解を深める。		150分
8	小テストの解答及び解説 第2回～第7回		・第2回～第7回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。		
	事前学修	第2回～第7回の授業内容を確認する。		120分
	事後学修	解説踏まえ、疑問点をまとめる。		120分
9	体力とその必要性		・健康に関連する体力要素を知り、授業では、簡単な自己診断を行い健康体力への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、体力について説明することができる。		
	事前学修	体力とは何か、行動体力と防衛体力についてについて調べる。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。		120分
10	健康的な運動		・「運動不足」による健康への悪影響とともに、「運動のやりすぎ」による健康被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。		
	事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。		150分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。		90分
11	運動処方について		・健康の維持増進を目的とした運動プログラムの考え方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康の維持増進を目的とした運動プログラムの作成手順および考え方を説明することができる。		
	事前学修	ストレングストレーニング（主に自重トレーニング）、有酸素トレーニングについて調べる。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、運動処方について理解を深める。		120分
12	疲労と休養		・疲労のメカニズムと休養の適切な選択について説明する。 ・睡眠のメカニズムについて示し、睡眠の質及び量について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、疲労の種類・メカニズムと休養の種類の示し、適切な休養を選択することができる。		
	事前学修	身体的な疲労と精神的な疲労について調べる。 積極的休養と消極的休養について調べる。 適切な睡眠の有無が健康に及ぼす影響について調べる。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、疲労のメカニズムと休養の選択についての理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ライフスキルと健康	・ライフスキルの一つであるコミュニケーションについて説明する。 ・人との関わりが健康に与える影響についてその必要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、コミュニケーションの有無が健康に及ぼす影響について説明することができる。	
	事前学修	孤独死の原因について調べる。	130分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康と関係するコミュニケーションについての理解を深める。	110分
14	小テストの解答及び解説 第9回～第13回	・第9回～第13回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	第9回～第13回の授業内容を確認する。	120分
	事後学修	解説踏まえ、疑問点をまとめる。	120分
15	健康行動について考える	健康に影響を及ぼす、ストレス及び生活習慣についてまとめる	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康とは何かをストレス及び生活習慣に関する知識を用いて説明することができる。	
	事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
	事後学修	授業の振り返りを行い、健康を獲得するための健康行動について理解を深める。	60分

科目名	自然人類学Ⅰ	担当者	近藤 修	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人類の特質を理解するには、まず哺乳類・霊長類の特徴を捉え直しておく必要がある。このため、授業では「霊長類とはどういう哺乳類か」を概観した上で、現在のヒトの身体的特徴を説明する。そうしたヒトの身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境とに強く関係していること、更には「直立姿勢と二足歩行」という特性が、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の有毛性、家族の形成などのヒトの諸特徴と深く関連している点なども解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「生物としてのヒト」という視点を持ち、ヒトの身体特徴を学習することで、ヒトの身体形質と文化環境は不可分の関係にあることを理解する。また、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を培い、「人類の真の特徴」とは何かを正しく捉える基礎力を養成することを目的とする。この講義によって、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学ぶ。また、それに基づいて、「ヒトが文化を創ったというよりは、文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
疑問をもつこと、自分で考えること、それらをわかりやすく説明することが求められます。

【授業方法】
毎回およそ60分の講義を行い、質問や疑問をGoogle Classroomにて回収する。講義の始まり、あるいは終わりに議論・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前回の講義内容と関連する教科書項目の内容にたいする、疑問や自分の考えをレポートしてもらい、それらをベースに議論と解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになる				2		2	2				
②	「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学び、これに基づき「文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになる					2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	最終回に授業内試験を行う。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	到達目標①，②に関して，出席と疑問点などの小レポートの合計点を評価する。半数回以上の出席と最終試験の受験がなければ不合格とする。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度	半数以上の出席を合格の条件とする。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内におこなう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
人間の本質にせまる科学：自然人類学の挑戦	井原、梅崎、米田	東京大学出版会	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kondo-o@bs.s.u-tokyo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義「ヒトの生物学とは」	講義の形式、評価の方法の説明。授業のテーマ、内容、スケジュール、教科書の説明。講師の自己紹介と「自然人類学とは」の概説	
	この回の到達目標	講義の内容、テーマを把握する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読する	120分
	事後学修	履修をきめたら、教科書を購入して眺める。	120分
2	ヒト以外の霊長類の行動や社会	ヒト以外の霊長類の行動や社会を学び、「ヒト」の行動、社会の特徴をふりかえる。	
	この回の到達目標	「ヒト」の行動、社会の特徴を進化的に考えるために、ヒト以外の霊長類の行動や社会を学び、比較する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
3	猿人とはどんな人類だったのか？	初期人類から猿人（アウストラロピテクス）にかけての進化を概説する。	
	この回の到達目標	ヒトと大型類人猿（チンパンジー）の共通祖先や初期の人類の姿・形、生活を知る。また、どのようにして過去の「ヒト」を知ることができるかを考える。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
4	ホモ・サピエンスはなぜ、いかにして世界に広がったか	ホモ属」の誕生からホモ・サピエンスの拡散までを概説する。	
	この回の到達目標	「ヒト」進化のなかでヒト的な特徴がどのように生まれ、獲得されていったのかを考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
5	ヒトの直立二足歩行の力学と進化	ヒトの特徴の一つである直立二足歩行について、その進化を概説し、力学的意味を考える	
	この回の到達目標	ヒト進化における意味と同時に、他の動物の直立姿勢、二足歩行との違いを考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
6	旧人ネアンデルタールの盛衰	ネアンデルタール人の進化的位置とホモ・サピエンスとの交替劇を解説する	
	この回の到達目標	ネアンデルタール人の絶滅、終焉のなぞについて、わかっていることをしり、考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	言語の起源と進化	ヒトの特徴の一つである「言語」について、その起源と進化を概説する	
	この回の到達目標	「言語」の定義について、他の動物のコミュニケーションとの違いを理解する。また、ヒト進化における意味を考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
8	人類進化から縄文時代と日本人の成り立ちを考える	日本人の基層集団としての縄文人について概説する	
	この回の到達目標	ホモ・サピエンスの拡散の結果として、日本列島に到着した現日本人の姿、形、暮らしを知る	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
9	アジア人・日本人の遺伝的多様性	ゲノム情報から、アジア人・日本人の成り立ちを概説する。	
	この回の到達目標	遺伝的な適応とヒトの拡散の歴史を理解する	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
10	縄文人のゲノム解説	古代ゲノム解析による人類進化へのアプローチを解説する	
	この回の到達目標	古代DNA分析によってなにが分かるのかを理解する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
11	自然選択によるヒトの進化	ヒトの進化にともなう自然選択の事例を講義する。	
	この回の到達目標	自然選択と形質変化について理解する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
12	ヒトと霊長類の色覚	色覚多様性について、概説する。	
	この回の到達目標	色覚の仕組みとその多様性について理解する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヒトの環境適応	ヒト集団と個体の生理的適応について概説する。	
	この回の到達目標	生理的適応とその多様性について理解する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
14	人種と人種差別	ヒトの多様性と「人種」の理解について説明する。	
	この回の到達目標	「人種」の概念とその歴史、差別につながらないヒトの多様性について理解する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
15	試験・まとめ	選択式と記述式を併用する予定。	
	この回の到達目標	筆記試験	
	事前学修	教科書等による復習	120分
	事後学修	なし	150分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートに関する講評・解説などを振り返りながら実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「グリーン・ハウス」があった街ーメディア文化の街はどこへ向かうのかー	仲川秀樹	学文社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。 nakagawa.hideki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会学の世界を知る		授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の紹介など、授業の準備について説明します。社会学の授業の流れを知り、授業の準備となります。	
	この回の到達目標	社会学的考えることは何か、社会学の対象は何か、社会学の世界を理解し、説明することができます。		
	事前学修	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序文を読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序文を再読してください。		120分
2	社会学とメディアの関係		社会学の概念、社会学とメディアとの関係を説明します。社会学とメディアの密接な関係を知り、社会学の関心が広がります。	
	この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を考えます。メディア文化の視点が社会学で必要かを理解し、説明することができます。		
	事前学修	社会学という学問の理解と、メディアと地域社会の取り組みを地域の事例から考えてください。		120分
	事後学修	授業内容から理解を深めてください。		120分
3	社会学の対象としての地域社会		メディア文化が根ざした領域を「地域社会」のフィールドワークを考えます。実証的方法の重要性を知り、社会学の学修スタイルがわかります。	
	この回の到達目標	社会学の対象領域を考えます。都市と地域の関係を理解し、説明することができます。		
	事前学修	地域社会の特徴を、授業で紹介した事例から考えてください。		120分
	事後学修	授業内容から理解を深めてください。		120分
4	メディア文化とは		メディア文化の前提を考えます。	
	この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を説明します。実証研究の上での理論的前提の重要性を考えます。		
	事前学修	メディア文化について、授業内容をよみとってください。		120分
	事後学修	授業内容の該当部分から理解を深めてください。		120分
5	メディア文化の社会学		メディア文化の意味と概念を明確に規定します。	
	この回の到達目標	メディア文化の視点を理解し、社会学とメディアとの関係を説明することができます。		
	事前学修	メディア文化の概念を、授業内容からよみとってください。		120分
	事後学修	授業内容の該当部分から理解を深めてください。		120分
6	メディア文化論を考える		メディア文化の概念からメディア文化の位置づけについて考えます。	
	この回の到達目標	メディア文化論としたアプローチにより、社会現象との関係を理解し、説明することができます。		
	事前学修	メディア文化論の視点を、教科書からよみとってください。		120分
	事後学修	授業内容の該当部分から理解を深めてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ポピュラーカルチャーとサブカルチャーを考える	ポピュラーカルチャーの概念と、サブカルチャーの概念から論点を考えます。	
	この回の到達目標	ポピュラーカルチャーとサブカルチャーの側面を整理し、時代ごとに変化する様相を理解し、説明することができます。	
	事前学修	サブカルチャーの意味を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容の該当部分から理解を深めてください。	120分
8	メディア文化の象徴となった洋画専門館を考える	シンボリックな洋画専門館「グリーン・ハウス」が誕生した理由を考えます。	
	この回の到達目標	メディア文化の象徴がなぜ洋画専門館などかをとおして中心市街地の意味をみつけることができます。	
	事前学修	「グリーン・ハウス」とは何か、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	中心市街地に果たしたメディア文化の象徴を理解してください。	120分
9	メディア文化の街の試み	地方都市をメディア文化とした理由を考えます。	
	この回の到達目標	メディア文化的環境の重要性が理解できます。	
	事前学修	「グリーン・ハウス」と中心市街地の関係を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	中心市街地の役割を理解してください。	120分
10	メディア文化の街の現状	メディア文化的環境の必要性を考えます。	
	この回の到達目標	地方都市の衰退の現実と、モータリゼーションの浸透、地方都市の現状をリアルに理解できます。	
	事前学修	地方都市の現状を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	地方都市の事例を再確認し、該当する地方都市の理解を深めてください。	120分
11	地域社会とメディア文化の関係	地方都市再生に関するメディア文化的視点の必要性を再考します。	
	この回の到達目標	地域社会再生に必要な文化的スタイルを理解することができます。	
	事前学修	地方都市の事例を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	文化的スタイルに長けた地方都市をピックアップしてください。	120分
12	地域社会の中心市街地再生の方向	地域社会の動向を握るメディア文化的方法を考えます。	
	この回の到達目標	中心市街地再生のための試みを検証し、その方向性を理解することができます。	
	事前学修	中心市街地が衰退した理由を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	郊外化の浸透と、中心市街地の衰退の関係を振り返り、実践的な方向性をみつけてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	地方都市のメディア文化再考		洋画専門館「グリーン・ハウス」がもたらしたメディア文化の街を振り返ります。	
	この回の到達目標	メディア文化の街を知り、それが中心市街地に与えた影響を考えます。メディア文化の街を理解し、説明することができます。		
	事前学修	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を提示資料から再考してください。		120分
	事後学修	地方都市の洋画専門館が地域社会にもたらした意味を、教科書からよみとってください。		120分
14	地域社会とメディア文化の取り組み		地域社会におけるメディア文化の取り組みの方向を考えます。	
	この回の到達目標	メディア文化の街のこれからを考えます。地域社会はいかにあるべきかを理解し、説明することができます。		
	事前学修	地域社会のメディア文化的プロジェクトの可能性を考えてください。		120分
	事後学修	メディア文化的視点による地域社会の分析を、教科書およびノートから総括してください。		120分
15	社会学 1 の総括		「社会学 1」講義の総括、振り返ります。	
	この回の到達目標	社会学の世界における都市と地域、地域社会の存在を再考しながら、地方都市の現状を考えます。地方都市を理解し、地方都市の課題を説明することができます。		
	事前学修	該当する教科書部分をピックアップしてください。		120分
	事後学修	教科書の論点から地域社会のメディア文化的取り組みの必要性をまとめてください。		120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、「社会学Ⅱ」も継続履修することが望ましい。

【授業方法】		
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。		
なお、この科目は社会情勢などを考慮して遠隔授業（GoogleClassroomを用いたオンデマンド）で実施される場合もある。対面授業を実施する場合も、「課題」などGoogleClassroomを使用する予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義期間中に数回、講義後に「課題」を提出してもらい、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはということかを説明できる。					2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。						2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。							2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	GoogleClassroom内で提出された「課題」の総合点によって 評価する。	40	20	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroom内にて。内容に応じて全体的、または個別に対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学	服部慶亘	新協（ジャパン・プレス・フォト）	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
GoogleClassroom内にて、または、hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
	この回の到達目標	社会学の性格（性質）について理解できる。	
	事前学修	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。	120分
	事後学修	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	状況（情況）判断①	疑似環境、状況（情況）的影響について。	
	この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
	事前学修	前回の講義内容を確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
3	状況（情況）判断②	レディネス（readiness）の重要性について。	
	この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
4	社会（学）とは何か？	社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。	
	この回の到達目標	「社会」の成り立ちを理解し、自身の行いを振り返ることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
5	社会的動物としての人間①	現代人にとって欠如傾向にある福祉的観点（Double Happiness）を理解する。	
	この回の到達目標	世の中の諸問題に対応する視点を養える。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
6	社会的動物としての人間②	人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。	
	この回の到達目標	我々について、動物学的な知識もふまえて理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人間関係の諸相と構造①	人間とヒトの違いについて理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
8	人間関係の諸相と構造②	人間（Human Being）の本質について考える。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
9	人間関係の諸相と構造③	人間関係における地位（status）について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～8回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
10	人間関係の諸相と構造④	人間関係における役割（role）について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～9回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
11	人間関係の諸相と構造⑤	「地位－役割」の関係性について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
12	人間関係の諸相と構造⑥	地位を性質的に分類する。	
	この回の到達目標	自分自身の「存在」する意味について理解できる。	
	事前学修	7～11回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人間関係の諸相と構造⑦	構造的地位としての「アイドル」（idol）について考える。	
	この回の到達目標	「地位－役割」の関係性とイメージについて理解できる。	
	事前学修	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	人間関係の諸相と構造⑧	構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。	
	この回の到達目標	「ジェンダー」について、その社会的・文化的性質を理解できる。	
	事前学修	7～13回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	「社会学Ⅰ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
	この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
生活世界への社会的アプローチについて、その方法を学修する。講義では、社会学の理論的な枠組みを説明し、現実の社会と理論性の双方を理解できるようにする。また地域調査の事例を踏まえつつ、社会調査の方法についても説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかをレポートによって評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会学（新版）	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限(14:40～16:10)をオフィスアワーとする(研究室)。事前にGoogle Classroomを通じてアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	生活世界を知るための社会学、導入	講義のガイダンスを行うとともに、社会学的な理解・分析の意義を説明する。	
	この回の到達目標	生活世界への社会学的なアプローチについて説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、自ら関心を持っていることを整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した概念を、テキストを参考にしながら整理・復習する。	120分
2	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト	二つの概念を説明して地域社会を考える手がかりを示すとともに、社会学的な分析における対概念の意義を説明する。	
	この回の到達目標	対概念の意義と、二つの概念について説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、二つの概念がどのようなものかを整理しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所と講義レジュメの双方を読み、二つの概念と対概念の意義について理解を深める。	120分
3	「共同体」を考える	イエ・ムラ論をベースにしながら、「共同体」を捉えるための基礎理論を説明する。	
	この回の到達目標	イエ・ムラ論について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、イエとムラという二つの概念について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、村落共同体について理解を深める。	120分
4	農村社会の変容と現在	日本社会が都市化社会へと展開するなかでの、農村の過疎化や限界集落の出現を説明するとともに、そうした傾向に対応する地域活性化などの地域レベルの動きを説明する。	
	この回の到達目標	過疎問題と地域活性化や新規就農・居住者をめぐる一連の現象について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、農村の地域活性化について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、今日の農村社会をめぐる諸問題について理解を深める。	120分
5	「地域活性化」を考える	「地域活性化」にはどのような性格のものがあるのかを、実例を交えて示す。	
	この回の到達目標	「地域活性化」について幅広く理解し、その概要を説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、「地域活性化」およびこれと関連する内容について理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、「地域活性化」についての自分の考え方をまとめる。	120分
6	公害／環境問題と地域	地域社会における「公害」「環境問題」がどのようにもたらされたのかを説明する。	
	この回の到達目標	「公害」「環境問題」を地域社会・被害者に即して説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「公害」「環境問題」について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料と講義レジュメの双方を読み、「公害」「環境問題」について、住民生活の具体性に関わらせて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公害問題の諸相	公害にはどのようなものがあり、それが被害として人々をどのように襲っていくのかを説明する。	
	この回の到達目標	公害の多様性とそれぞれの性質、そして被害が人の営みにどのように介入していくのかを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、公害の類型について整理しておく。	120分
	事後学修	講義資料を見直し、特に「被害」とは何かについてまとめる。	120分
8	広域的な廃棄物の移動と汚染	地域を超えた汚染や廃棄物の移動がもたらす諸問題について説明する。	
	この回の到達目標	廃棄と汚染の広域性を理解し、問題点を説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、地域を越えた形で生起する汚染についてイメージを作っておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、広域的な廃棄・汚染の問題について自分の考えをまとめる。	120分
9	開発と地域社会	地域の「開発」をめぐり、その恩恵の背後で引き起こされる諸問題をどう考えるのかを説明・検討する。	
	この回の到達目標	「開発」の持つ両義性を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「開発」をめぐる諸問題について考えておく。	120分
	事後学修	事前配付資料と講義レジュメの双方を読み、「開発」をめぐる諸問題について理解を深める。	120分
10	環境保護と地域社会	自然環境の保護はそれ自体として肯定的なものとして受け止めることができるが、実際の地域社会の生活・生産活動とは緊張関係があることを説明する。	
	この回の到達目標	環境保護を地域のリアリティと関わらせて説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、環境保護に関わる論点を把握しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、環境保護と地域社会の現実との関係についてまとめる。	120分
11	地域社会への「外部」からの参加	地域社会の活性化において、地域外との人的交流の持つ意味を論ずる。	
	この回の到達目標	地域社会と「外部」との交流の意義を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、地域社会をめぐる人的交流について理解しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえ、地域社会の人的交流の具体例について情報を集める。	120分
12	中間組織としての市民団体	地域社会に対して働きかけをする基盤となるNPOなどの集団形成とその意義について説明する。	
	この回の到達目標	NPO、協同組合などの住民組織について説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、NPOについて整理しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメを読み直し、住民組織の持つ意味について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会調査を考えるⅠ	社会調査をめぐり、質的調査と量的調査の相違、およびそれぞれの意義について説明する。	
	この回の到達目標	質的調査と量的調査を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、社会調査の基本事項について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、質的調査と量的調査の違いについて理解を深める。	120分
14	社会調査を考えるⅡ	オーラル・ヒストリーについて、社会学的な視点からその方法と性格を説明する。	
	この回の到達目標	オーラル・ヒストリーの基本的な性格を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、オーラル・ヒストリーとは何かを自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、オーラル・ヒストリーについて理解を深める。	120分
15	生活世界への社会学的アプローチについてのまとめ	講義の振り返りを行い、生活世界に社会学的なアプローチをすることの意義を確認する。	
	この回の到達目標	生活世界に対する社会学的なアプローチの意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義の内容を、テキスト・レジュメ・資料を見直して確認しておく。	120分
	事後学修	レポート執筆に向けて講義内容を復習・整理しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	松崎 茂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①（50％），②（20％）。期末レポートにより評価する。	50	20									70
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③（30％）。各回の小レポートにより評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時の講評などによりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし。					
備考	特になし。				

【オフィスアワー】
質問等は，講義室および講師室で，講義の前後に受け付ける。 matsuzaki.shigeru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入	本講義の概要を解説し、併せて進め方、成績評価等の説明を行う。	
	この回の到達目標	社会学とはどのような学問か。社会科学の全体像から、その特色を説明することができる。	
	事前学修	社会学という学問に関する情報を調べる。	120分
	事後学修	図書館などで社会学の辞書・事典に目を通す。新聞やニュースなどで、自分の関心がある社会問題を調べる。	120分
2	個人と社会(1)：社会的自我	自己と他者、社会化と社会的自我について論じる。	
	この回の到達目標	クーリー、ミードの諸説から、社会的自我の特徴を説明することができる。	
	事前学修	人間の自我、自意識に関する諸説を調べる。	120分
	事後学修	「私」という存在の成り立ちについて、過去を振り返って理解し、その内容をまとめる。	120分
3	個人と社会(2)：社会的自我の機能	自我のモデルと機能について説明する。	
	この回の到達目標	エゴグラムを用いて自分の自我を分析する。	
	事前学修	自我論の諸説について調べる。	120分
	事後学修	自分の自我の特徴を分析して理解を深める。	120分
4	個人と社会(3)：セクシャリティとジェンダー	現代社会における「私」の変容について、ジェンダーを元にして論じる。	
	この回の到達目標	セクシャリティの多様性とアイデンティティの尊重について説明することができる。	
	事前学修	ジェンダーに関する情報を調べる。	120分
	事後学修	身近な人々と、ジェンダーと個性について対話し、理解した内容をまとめる。	120分
5	集団と社会(1)：地位役割、集団組織	社会集団における地位と役割について論じる。	
	この回の到達目標	クーリー、マートンらの諸説から、地位と役割について説明することができる。	
	事前学修	身近な人間関係の構成を観察し、自分の地位と役割を理解する。	120分
	事後学修	関心のある社会集団や組織の地位と役割の構成について分析する。	120分
6	集団と社会(2)：結婚	現代の結婚について論じる。	
	この回の到達目標	現代の結婚の実態とその背景について説明することができる。	
	事前学修	現代の結婚の形態と実態を調べる。	120分
	事後学修	今後の結婚の形態の変化について分析する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	集団と社会(3)：家族類型	家族の諸類型とその変化について論じる。	
	この回の到達目標	時代や地域による家族構成の違いとその要因について説明することができる。	
	事前学修	前近代と近代の家族構成やイデオロギーの違いについて調べる。	120分
	事後学修	自分の家族・親族を調査し、社会集団として自分の家族を捉えた上で、理解した内容をまとめる。	120分
8	人口と社会(1)：日本と世界の人口	日本と世界の人口の現状について論じる。	
	この回の到達目標	現代における人口の状況とその要因について説明することができる。	
	事前学修	日本の人口と世界の主要国の人口について調べる。	120分
	事後学修	任意の国や地域の人口変動の傾向とその要因について分析する。	120分
9	人口と社会(2)：少子化	少子化の問題について論じる。	
	この回の到達目標	少子化の要因と先進国と途上国の人口構成の違いについて説明することができる。	
	事前学修	世界の少子化の現状について調べる。	120分
	事後学修	自分の結婚や家族形成について、身近な人々と対話し、理解した内容をまとめる。	120分
10	近代化論	マックス・ヴェーバーによる近代化論、合理化論について論じる。	
	この回の到達目標	近代社会における合理化の意義について説明することができる。	
	事前学修	ヴェーバーの諸説、社会的行為論、宗教社会学などについて調べる。	120分
	事後学修	合理化が進む現在の社会領域を分析する。	120分
11	中間まとめ	前半の講義内容を整理する。	
	この回の到達目標	社会学的な視点をもつ基本的な特徴について説明することができる。	
	事前学修	前半の授業内容について復習する。	120分
	事後学修	気になった問題についてより深く調べる。	120分
12	異文化と社会：外国人労働者	在日外国人労働者との関わりから社会における異文化理解について考察する。	
	この回の到達目標	仕事における異文化と多様性の受容の困難さと必要性について説明することができる。	
	事前学修	日本に生活している外国人の現状について調べる。	120分
	事後学修	異なる文化的背景を前提としつつも、協力関係を築くための方法について考え、その内容をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	職業と社会：ワーキングプア	分業に基づく職業の多様化と社会階層の関係, および階層移動について論じる。	
	この回の到達目標	格差社会と貧困層の現状について説明することができる。	
	事前学修	社会階層と職業の関連について調べる。	120分
	事後学修	将来自分が就きたい仕事を調べ、理解した内容をまとめる。	120分
14	規範と社会：自殺論	自殺の現象を手掛かりに社会秩序の可能性と不可能性を論じる。	
	この回の到達目標	デュルケームの諸説から、自殺の要因と対策について説明することができる。	
	事前学修	自殺現象に関する情報を調べる。	120分
	事後学修	身近な人々と、人間の生死について対話し、理解し、その内容をまとめる。	120分
15	全体まとめ	これまでの学習内容の確認。	
	この回の到達目標	社会学の視角から社会現象を捉えることの意義について理解する。	
	事前学修	後半の授業内容について復習する。	120分
	事後学修	関心のある問題についてより深く調べる。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	渡邊 隼	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について、関連する知識が身についているかどうかを、レポート（毎回提出）によって評価する。	40	20	40								100
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③について、レポート（毎回提出）によって議論が展開できているかどうかを評価する。											
その他(注意事項)	授業内で出題されるレポートは、すべて提出する必要がある。レポート（毎回提出）のほかにもレポートを不定期に出題する可能性がある。未提出のレポートがひとつでもある場合は成績評価の対象とならないので履修にあたって十分注意すること。											
その他(注意事項)	本授業の履修にあたっては、英語（英検準1級～2級程度）と数学（高校卒業程度）が求められる。必要に応じて履修前に復習しておくこと。											
その他(注意事項)	成績評価の詳細については初回の授業時に説明するので必ず出席すること。											
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（毎回提出）に対しては原則として次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019年	参考書	推奨
『21世紀を生きるための社会学の教科書』	ケン・プラマー（赤川学監訳）	筑摩書房	2020年	参考書	推奨
備考	そのほかの参考文献は各回の授業で適宜紹介する。受講者からの問い合わせも歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。 watanabe.shun@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・授業のガイダンス ・社会学はいかなる学問か ・社会学の研究視点		・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の成立と展開について説明する。 ・社会学の研究や社会調査を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代社会の諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
2	社会学の理論（1）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会システム、文化と社会規範をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
3	社会学の理論（2）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会意識、法と社会システムをあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
4	社会学の理論（3）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、経済と社会システム、産業・職業をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
5	社会学の理論（4）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会階級・社会階層をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
6	社会学の理論（5）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会変動の概念をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会学の理論（6）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、近代化、産業化、情報化をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
8	社会学の理論（7）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口理論、人口構造をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
9	社会学の理論（8）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口問題、少子高齢化、人口減少社会の問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
10	社会学の理論（9）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフトなどをあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
11	社会学の理論（10）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、官僚制、アソシエーション組織の概念をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
12	社会学の理論（11）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係と社会的孤立をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会学の理論（12）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的行為をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	社会学の理論（13）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的役割をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
15	授業内容のまとめ	授業内容の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業全体で学修した内容をまとめておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び，現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ，社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートに関する講評・解説などを振り返りながら実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「グリーン・ハウス」があった街ーメディア文化の街はどこへ向かうのかーメディア文化の街はどこへ向かうのか	仲川秀樹	学文社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。 nakagawa.hideki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会学の世界を知る	授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の紹介など、授業の準備について説明します。社会学の授業の流れを知り、授業の準備となります。	
	この回の到達目標	社会学的考えることは何か、社会学の対象は何か、社会学の世界を理解し、説明することができます。	
	事前学修	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序章を読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序章を再読してください。	120分
2	社会学とメディアの関係	社会学の概念、社会学とメディアとの関係を説明します。社会学とメディアの密接な関係を知り、社会学の関心が広がります。	
	この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を考えます。メディア文化の視点が社会学で必要かを理解し、説明することができます。	
	事前学修	社会学という学問の理解と、メディアと地域社会の取り組みを地域の事例から考えてください。	120分
	事後学修	授業内容から理解を深めてください。	120分
3	社会学の対象としての地域社会	メディア文化が根ざした領域を「地域社会」のフィールドワークを考えます。実証的方法の重要性を知り、社会学の学修スタイルがわかります。	
	この回の到達目標	社会学の対象領域を考えます。都市と地域の関係を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地域社会の特徴を、授業で紹介した事例から考えてください。	120分
	事後学修	授業内容から理解を深めてください。	120分
4	地域社会に根差したメディア文化とは	洋画専門館「グリーン・ハウス」の存在がもたらした地域性を考えます。なぜ、メディア文化の街といわれたのかを学修します。	
	この回の到達目標	地域社会にある、地域性を考えます。地域の文化を知り、地域を理解し、その地域を説眼することができます。	
	事前学修	地域社会に根差した洋画専門館について、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容に関する教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
5	都市とメディア環境充足度とは	大都市と地方都市のメディア環境を比較し、都市の活性化のための計画を考えます。	
	この回の到達目標	その都市の活性度を知り、都市に何が必要かを理解し、説明することができます。	
	事前学修	メディア環境の意味を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容関する教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
6	地域社会を時代から考える	1 9 7 0 年代のメディア文化を映像や資料をもとに学修します。	
	この回の到達目標	地域の歴史的背景を知るのには時代性の理解が必要です。時代と地域の関係を理解し、説明することができます。	
	事前学修	1 9 7 0 年代の時代背景の特質を、提示資料からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容に関する教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地域社会の事例	山形県酒田市中心市街地を対象に、地方都市のメディア文化の関係を学修します。	
	この回の到達目標	酒田市中心市街地の衰退要因である、酒田大火と中心市街との関係を理解し、中心市街地の詳細を説明することができます。	
	事前学修	酒田大火の歴史を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	酒田大火によって街はどのように変貌したのかを、教科書に沿って考えてください。	120分
8	地域社会の衰退	中心市街地から郊外型社会へと流れが変わり、地域社会の衰退がもたらしたものは、郊外型社会です。その過程を学修します。	
	この回の到達目標	地域社会の変化を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方都市のモータリゼーションがもたらした状況を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	中心市街地の衰退の意味を、郊外型店舗登場との関係からまとめてください。	120分
9	地域社会の活性化プロジェクト	地域活性化へ向けた取り組みとしてのメディア文化的プロジェクトを学修します。	
	この回の到達目標	地域社会活性化の方法について理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方都市活性化の取り組みを、教科書から事前に学習してください。	120分
	事後学修	メディア文化的プロジェクトが若者に浸透した事例を、教科書から振り返ってください。	120分
10	地域社会と地方アイドル	地方アイドルによるまちおこしプロジェクトを学修します。	
	この回の到達目標	地方都市から発信したアイドルプロジェクトを考えます。アイドルでのまちおこしを理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方アイドル登場の社会的背景を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	地方アイドル登場によって街がどのように変化するのか、教科書から予測してください。	120分
11	アイドルによる地域活性化とは	アイドル誕生と商店街との関係、住民、まちの活性化を学修します。	
	この回の到達目標	商店街発アイドル誕生の過程を知り、中心市街地活性化の必要策を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方アイドルが商店街活性化に与えて影響を、教科書からよみとってください。	120分
	事後学修	商店街はどのように発展するのか、商店街アイドルの実態を振り返ってください。	120分
12	地域社会の中心市街地活性化とは	地域社会の動向を握る中心市街地商店街の進化を学修します。	
	この回の到達目標	商店街の進化の背景にあるメディア文化プロジェクトを検証します。プロジェクトを理解し、商店街の進化の背景を説明することができます。	
	事前学修	商店街の活性化から、商店街の進化の過程を、教科書から探ってください。	120分
	事後学修	郊外に比較し、衰退続ける商店街に、進化の可能性とは何か、教科書から振り返ってください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	地方都市のメディア文化再考		洋画専門館「グリーン・ハウス」と「世界一と言われた映画館」ロードショー公開がもたらしたメディア文化の街を学修します。
	この回の到達目標	メディア文化の街を知り、それが中心市街地に与えた影響を考えます。メディア文化の街を理解し、説明することができます。	
	事前学修	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を、教科書から再考してください。	120分
	事後学修	ドキュメンタリー映画になった地方都市の洋画専門館が果たした役割を、講義から振り返ってください。	120分
14	地域社会のこれから		メディア文化の街のゆくえを総括します。
	この回の到達目標	メディア文化の街のこれからを考えます。地域社会はいかにあるべきかを理解し、説明することができます。	
	事前学修	地域社会のメディア文化的プロジェクト、「地方アイドル」「洋画専門館」の事実を再考してください。	120分
	事後学修	社会学的思考による地域社会の分析をこれまでの講義、実践的な取り組みから総括してください。	120分
15	社会学Ⅱの総括		「社会学Ⅱ」講義の総括、振り返ります。
	この回の到達目標	社会学の世界における都市と地域、地域社会の存在を再考しながら、地方都市の現状を考えます。地方都市を理解し、地方都市の課題を説明することができます。	
	事前学修	教科書と提示資料で履修した部分を振り返ってください。	120分
	事後学修	教科書と講義用ノートから、社会学における地域社会のメディア文化的意義をまとめてください。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。		
なお、この科目は社会情勢などを考慮して遠隔授業（GoogleClassroomを用いたオンデマンド）で実施される場合もある。対面授業を実施する場合も、「課題」などGoogleClassroomを使用する予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義期間中に数回、講義後に「課題」を提出してもらい、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力						
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。		2	2					
②	現代日本社会の特徴を社会的に説明できる。			2	2				
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。				2			2	
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	GoogleClassroom内で提出された「課題」の総合点によって 評価する。	40	20	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroom内にて。内容に応じて全体的、または個別に対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学	服部慶亘	新協（ジャパン・プレス・フォト）	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
GoogleClassroom内にて、または、hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
	この回の到達目標	【後期からの履修者】社会学の性格（性質）について理解できる。 【前期からの継続履修者】前期の解説内容を実践に移すレディネスを養える。	
	事前学修	後期から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。 前期からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、後期から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロログ」に目を通しておく。	120分
2	問題行動の根源①	「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。	
	この回の到達目標	「問題」という状況を理解する視点を養える。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
3	視聴覚機器による問題行動の理解①	韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
	この回の到達目標	日本では問題とされていないシーンが韓国でどう理解されているか、実感できるようになる。	
	事前学修	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
4	視聴覚機器による問題行動の理解②	韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
	この回の到達目標	日本と韓国の、子どもたちへのメッセージの違いから歌詞（内容）に変化が生じることを理解する。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
5	問題行動の根源②	「罪」の定義および構造について理解する。	
	この回の到達目標	人間の動作が「罪」に至るまでの流れを理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
6	問題行動の根源③	「自我」と「超自我」の関係性について理解する。	
	この回の到達目標	「罪」と「自我」「超自我」の関係性について理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	問題行動の根源④	「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。	
	この回の到達目標	一般に混同されがちな「行為」「行動」の概念について、リーガルマインドにも照らし合わせつつ理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
8	問題行動の根源⑤	社会的自我について理解する。	
	この回の到達目標	自分自身の行為・行動が他者からどのように映っているのか、それを確認する方法を理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
9	問題行動の根源⑥	「主我」と「客我」の関係性を理解する。	
	この回の到達目標	『Let It Go』をもとに、社会的自我について理解を深めることができる。 アノミー（anomie）現象について、実例を上げて説明する。 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
10	問題行動の誤対処①	「人生縮小化」について。	
	この回の到達目標	「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
11	問題行動の誤対処②	人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。	
	この回の到達目標	人間の本能と問題行動との関係性を理解できる。	
	事前学修	9～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
12	「正義」の含意①	日本人の発想（一元論、二元論、多元論）と「正義」の関係性を考える。	
	この回の到達目標	日本人の行動・思考パターンが諸外国から理解されにくい現実を、実例を上げて説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「正義」の含意②	「正義」の定義および性質について理解する。	
	この回の到達目標	「正義」の絶対性と相対性について理解できる。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	「正義」の含意③	「正義」と献身について。	
	この回の到達目標	「正義」の絶対的な側面について、自分自身の行いを振り返って考えられる。	
	事前学修	1 2 ～ 1 3 回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	「社会学Ⅱ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
	この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
私たちの日常の重要な部分を構成する「消費社会」のなりたちを糸口にしなが、社会学的な理解と分析について学修する。講義で社会学的な理解のエッセンスを具体例を交えて説明し、教科書の内容との連関を説明することで、社会学的な理解の全体像をつかめるようにする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかをレポートによって評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限(14:40～16:10)をオフィスアワーとする(研究室)。事前にGoogle Classroomを通じてアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	プロローグ:消費社会・消費者を考える意味、導入	講義のガイダンスを行うとともに、消費社会・消費者について学ぶ意味を説明する。	
	この回の到達目標	消費社会・消費者について社会的に学ぶ意味を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、消費社会の諸問題のなかで自ら関心を持っていることを整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した概念を整理し、講義レジュメを復習する。	120分
2	戦後インフレを考える	敗戦直後の日本を覆ったインフレについて、その後の消費社会の展開の起点として説明する。	
	この回の到達目標	戦後の経済状況を、その後の消費社会の生成との関わりにおいて説明できる。	
	事前学修	事前に指定した資料を読み、敗戦直後の日本の経済状況を理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、戦後のインフレについて要点をまとめる。	120分
3	消費社会の生成	消費社会の生成過程について、資本主義の展開とフォーディズムとの関係を中心に置きながら説明する。	
	この回の到達目標	消費社会の基本的な性格を、フォーディズムとの関わりから説明できる。	
	事前学修	事前配付資料を読み、消費社会がどのように成立したのかを考えておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、消費社会の基本的な性格について理解を深める。	120分
4	高度経済成長と消費者運動	高度経済成長という歴史的に特異な時期に形成された消費者運動、および「消費者」に対する理解のあり方について説明する。	
	この回の到達目標	高度経済成長という時代背景のなかで、半ば通時的な用語として定着した「消費者運動」「消費者」について理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、高度経済成長の時代的性格のなかの消費者運動について概略を理解しておく。	120分
	事後学修	日本における「消費者運動」「消費者」の性格付けについて整理する。	120分
5	「食品公害」と消費者問題1	20世紀後半の「食品公害」とその克服に向けた市民運動について説明する。	
	この回の到達目標	「食品公害」と、これに対する市民の主体的な関わりについて理解する。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、「食品公害」の概略を理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、「食品公害」と市民運動の関わりについて理解する。	120分
6	「食品公害」と消費者問題2	消費者としての自己批判を伴う市民運動の展開について説明する。	
	この回の到達目標	消費者としての自己批判が持つ構想力を理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「産消提携」の意味を理解しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえ、消費者の自己批判を伴う市民運動の意義について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	消費者に対する政治的・企業の介入	消費者が政治的・企業の扱い方の変化から、現代社会における「社会的正義」のあり方とその変容を読み解く。	
	この回の到達目標	「消費者」という存在が社会的にどう扱われているのかを理解する。	
	事前学修	事前配付資料を読み、企業が消費者をどのように捉えようとしたのかを理解する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、「消費者」をめぐる「社会的正義」のあり方を整理する。	120分
8	消費の「多様化」と消費社会論	高度大衆消費社会と呼ばれる現象、ならびに「記号的消費」と呼ばれる消費社会論の到達点について説明する。	
	この回の到達目標	消費社会論のなかに「記号論」が導入されたことの意味を理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「記号的消費」の議論の概略を理解する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、「記号的」として整理された消費社会論の骨格を整理する。	120分
9	消費社会論ブームとマーケティング	消費の「多様化」がどのように論じられたのかを、消費社会論・マーケティング言説を取り上げながら説明する。	
	この回の到達目標	消費の「多様化」が論じられる際の複数のコンテキストを理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、消費社会論について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、消費の「多様化」の持つ複層的な意味について整理する。	120分
10	グローバル化のなかの消費	消費生活がグローバル化のなかに置かれたことの意味と問題点を説明する。	
	この回の到達目標	今日の消費生活において前提となっているグローバル化のなかの日常について対象化し、理解する。	
	事前学修	事前配付資料を読み、消費の場面で看取できるグローバル化の典型例について理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、グローバル化との関わりにおいて日常の消費行為を捉え返す。	120分
11	消費社会論の構造と課題	消費社会論を成り立たせている論理構造について説明する。	
	この回の到達目標	消費社会論の構造を理解する。	
	事前学修	事前配付資料を読み、消費社会論の一例について理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、消費社会論の持つ論理構造を整理する。	120分
12	自己決定の両義性1 消費者の決定権の重要性	個人の自己決定が尊重されることの意義と、それを成り立たせている考え方を説明する。	
	この回の到達目標	自己決定を尊重することのメリットを論理的に説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、自己決定の重要性について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、自己決定の意義について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自己決定の両義性2 自己決定の困難		自己決定が個人に対して及ぼす困難、ならびに自己決定を過剰に要求することが持つ問題点について説明する。
	この回の到達目標	自己決定が個人に対してどのように抑圧的に作用するのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、安易な自己決定要求が内包する抑圧について理解しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、自己決定の問題点について理解を深める。	120分
14	現代資本主義のなかの「格差」と消費		現代資本主義をめぐる議論を紹介しながら、「格差」が消費との関わりでどのように埋め込まれているのかを説明する。
	この回の到達目標	現代資本主義の議論のなかで「格差」と消費を理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「格差」がどのように構造化されているのかを理解する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、現代資本主義との関わりの中で「格差」を整理する。	120分
15	エピローグ:消費社会の現実のなかの私たち、まとめ		講義の振り返りを行い、消費社会・消費者を捉え直した上で、私たちを取り巻く現実について考える。
	この回の到達目標	これまでの講義内容を踏まえながらも、他方で自らを取り巻く消費社会の様々な困難を直視し、両者をどのように架橋できるのかを考える。	
	事前学修	これまでの講義の内容を、配付資料・レジュメ・資料を見直して確認しておく。	120分
	事後学修	レポート執筆に向けて講義内容を復習・整理しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	松崎 茂	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び，現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ，社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2					
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2				
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①（50％），②（20％）。期末レポートにより評価する。	50	20									70
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③（30％）。各回の小レポートにより評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時の講評などによりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問等は，講義室および講師室で，講義の前後に受け付ける。 matsuzaki.shigeru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入	本講義の概要を解説し、併せて進め方、成績評価等の説明を行う。	
	この回の到達目標	社会学の視点から、現代社会の傾向を説明することができる。	
	事前学修	現代の社会問題に関する情報を調べる。	120分
	事後学修	図書館などで社会学の辞書・事典に目を通す。新聞やニュースなどで、自分の関心がある社会問題を調べる。	120分
2	環境と社会(1)：自然再生と持続可能性	自然、環境と人間、社会の関係について論じる。	
	この回の到達目標	えりも岬の自然再生の事例から、持続可能性の意義について説明することができる。	
	事前学修	自分と自然環境との関わりを確認する。	120分
	事後学修	自然再生の事例から持続可能性の意味を整理する。	120分
3	環境と社会(2)：社会的ジレンマ	社会的ジレンマ（囚人のジレンマ、共有地の悲劇）の理論から、人間社会と自然環境の関係を論じる。	
	この回の到達目標	社会的ジレンマ（囚人のジレンマ、共有地の悲劇）の理論を説明することができる。	
	事前学修	ゲーム理論、社会的ジレンマについて調べる。	120分
	事後学修	理論を使って身の周りの社会事象を説明してみる。	120分
4	環境と社会(3)：人間社会と動物	動物解放論、動物権利論、自然の権利論から、人間社会と動物の関係を論じる。	
	この回の到達目標	動物解放論、動物権利論、自然の権利論の特徴を説明することができる。	
	事前学修	自分と動物との関わりを確認する。	120分
	事後学修	動物の価値について自分の考えを整理する。	120分
5	環境と社会(4)：環境正義論	環境正義論から、貧困と環境汚染の関係を論じる。	
	この回の到達目標	正義論、環境正義論の特徴を説明することができる。	
	事前学修	貧困と地域社会、環境問題の関係について調べる。	120分
	事後学修	貧困層の生活環境と環境問題の改善策を整理する。	120分
6	環境と社会(5)：熊本水俣病①	熊本水俣病の事例から、人間社会と自然環境の関係を論じる。	
	この回の到達目標	産業公害の特徴とそれがもたらす被害について説明することができる。	
	事前学修	日本の高度経済成長期の特徴と四大公害問題について調べる。	120分
	事後学修	産業公害の原因とその社会背景について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境と社会(6)：熊本水俣病②	熊本水俣病の事例から、人間社会と自然環境の関係を論じる。	
	この回の到達目標	熊本水俣病の事例から、人間社会と自然環境の関係を論じる。	
	事前学修	公害被害者の視点から、地域社会と国家の構造について説明することができる。	120分
	事後学修	産業公害による被害とそこから回復する努力について整理する。	120分
8	中間まとめ	前半の講義内容を整理する。	
	この回の到達目標	社会学的な視点をもつ基本的な特徴について説明することができる。	
	事前学修	前半の授業内容について復習する。	120分
	事後学修	気になった問題についてより深く調べる。	120分
9	医療と社会(1)：脳死と臓器移植	医療技術の発展と人間、社会への影響について論じる。	
	この回の到達目標	自然死と脳死の定義について説明することができる。	
	事前学修	脳死と臓器移植の関係について調べる。	120分
	事後学修	臓器移植の現状と、そのメリットとデメリットについて整理する。	120分
10	医療と社会(2)：尊厳死・安楽死	医療技術の発展と人間、社会への影響について論じる。	
	この回の到達目標	難病患者の立場から、生と死について考え、論じることができる。	
	事前学修	ALSなどの難病とその治療について調べる。	120分
	事後学修	尊厳死、安楽死の類型とその違いについて整理する。	120分
11	医療と社会(3)：再生医療	医療技術の発展と人間、社会への影響について論じる。	
	この回の到達目標	再生医療の可能性とその問題点について説明することができる。	
	事前学修	再生医療について調べる。	120分
	事後学修	人間の幸福にとって、生命、健康がもつ意義を整理する。	120分
12	医療と社会(4)：ゲノム編集	医療技術の発展と人間、社会への影響について論じる。	
	この回の到達目標	ゲノム編集の可能性とその問題点について説明することができる。	
	事前学修	ゲノム編集について調べる。	120分
	事後学修	医療技術による生命の改変がもつメリットとデメリットを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	情報と社会(1)：IT企業	情報社会における監視化とプライバシーの保護について論じる。	
	この回の到達目標	情報の支配と権力の関係について説明することができる。	
	事前学修	インターネットを始めとする情報通信技術について、自分の利用状況を確認する。	120分
	事後学修	情報社会におけるリスクを理解した上で、自分なりの利用方法を考えてまとめる。	120分
14	情報と社会(2)：人工知能	情報技術の発展と人間、社会への影響について論じる。	
	この回の到達目標	人工知能の発展と情報社会における働き方を説明することができる。	
	事前学修	人工知能について調べる。	120分
	事後学修	情報を活用した仕事と、そのメリットとデメリットを整理する。	120分
15	全体まとめ	これまでの学習内容の確認。	
	この回の到達目標	社会学の視角から社会現象を捉えることの意義について理解する。	
	事前学修	後半の授業内容について復習する。	120分
	事後学修	関心のある問題についてより深く調べる。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	渡邊 隼	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び，現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ，社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について、関連する知識が身についているかどうかを、レポート（毎回提出）によって評価する。	40	40	20								100
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③について、レポート（毎回提出）によって議論が展開できているかどうかを評価する。											
その他(注意事項)	授業内で出題されるレポートは、すべて提出する必要がある。レポート（毎回提出）のほかにもレポートを不定期に出題する可能性がある。未提出のレポートがひとつでもある場合は成績評価の対象とならないので履修にあたって十分注意すること。											
その他(注意事項)	本授業の履修にあたっては、英語（英検準1級～2級程度）と数学（高校卒業程度）が求められる。必要に応じて履修前に復習しておくこと。											
その他(注意事項)	成績評価の詳細については初回の授業時に説明するので必ず出席すること。											
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業時に提出が求められる小レポート課題に対しては、原則として次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019年	参考書	推奨
『21世紀を生きるための社会学の教科書』	ケン・プラマー（赤川学監訳）	筑摩書房	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。 watanabe.shun@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	・ガイダンス ・授業内容のイントロダクション ・日本社会の諸問題	・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の研究を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。 ・社会学的視点から日本社会の諸問題へアプローチする方法について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代の日本社会における諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
2	社会学と現代社会（1）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、地域概念、コミュニティ概念をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
3	社会学と現代社会（2）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
4	社会学と現代社会（3）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族概念、世帯概念をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
5	社会学と現代社会（4）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の構造をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
6	社会学と現代社会（5）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の変容、家族の機能をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会学と現代社会（6）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、生活のとらえ方、生活の変容をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
8	社会学と現代社会（7）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的ジレンマの諸問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
9	社会学と現代社会（8）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係資本論をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
10	現代社会の社会問題（1）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、貧困、失業、差別、社会的排除などの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
11	現代社会の社会問題（2）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、自殺、犯罪、非行などの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
12	現代社会の社会問題（3）		現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、児童虐待、いじめ、DV、ハラスメントなどの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代社会の社会問題（4）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、ラベリング理論、逸脱論をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	現代社会の社会問題（5）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会構築主義をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
15	授業内容のまとめ	授業内容の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業全体で学修した内容をまとめておく。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅰ	担当者	川本 隆	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ルターからモンテスキューに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回授業内容コメント課題で講義内容に関する質問・意見を求め、フィードバックされることで理解を深める。チェックテスト（4択問題10問）を3回程度行う。最終的な学期末レポートは1回提出するのみ。期末試験はない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルターからモンテスキューに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課されるチェックテスト の成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Google Classroomの提出欄に、 Googleフォームを用いてアップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課される授業内容コメン ト課題を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論：社会思想史とは何か	社会思想の成り立ちと性格、および歴史とのかかわりについて学修する。また、年間講義計画・成績評価の方法、参考文献紹介などの確認を行う。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	本講座「社会思想の歴史」で学ぶことの内容を理解できる。また、受講するに際して固定観念に縛られない柔軟な姿勢の重要性を知り、これからの学修に生かすことができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、気になる何人かの思想家について一般的な理解がどのようなものか、インターネットサイトを通して概観し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業時に配布された「履修上の注意」および資料を精読し、重要と思われる項目をマーカー塗布またはアンダーラインして把握する。	120分
2	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター①人と思想	当時のキリスト教世界においてなぜ贖宥状が必要だったか、社会において教会がどのような役割を果たしていたかを把握する。	
	この回の到達目標	当時のカトリック教会の腐敗状況をふまえ、ルター『95箇条の論題』の放つ時代的意義を理解できる。	
	事前学修	Google Classroomにアクセスして「ルター」のPDF資料を読み、理解しがたい箇所・重要だと思われる箇所をそれぞれノートに書きだし、受講に備える。	120分
	事後学修	Google Classroomにアップロードされたルター関連のPDFで授業内容を復修し、授業で取り上げられなかった資料に目を通して理解を深め、内容整理する。	120分
3	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター②思想と影響	「95か条の論題」の成立背景を確認しつつ、ルターの信仰義認説の概要と意義を理解する。また、ルターの放った主教改革の狼煙がどのように同時代人に受け止められていくかを学修する。	
	この回の到達目標	ルターが最初から宗教改革者になろうとして「95箇条の論題」を公表したわけではない事情を理解し、思想と反響のズレを把握できる。	
	事前学修	前回配布の資料をよみ、問題点・疑問点をピックアップしておく。	120分
	事後学修	Google Classroomに提示された新しいルター関連のPDFを参考に授業内容を復習し、キリスト教的信仰の意味を理解しようと努める。	120分
4	ルネサンス期の社会思想：エラスムス	「宗教改革」がカトリック内部から生じてくる背景を理解し、エラスムスの時代批判の意義を確認する。	
	この回の到達目標	『痴愚神礼讃』の成立背景およびルターとの関連性・相違点を把握する。	
	事前学修	配布されたプリントやGoogle ClassroomのPDF資料をもとに、ルターのプロテスタンティズムとエラスムスやモアのカトリック的改革との違いを予想する。	120分
	事後学修	時代のキリスト教を改革しようとする精神は共通しているにもかかわらず、ルターとエラスムスの両者が対立していくのはなぜかについて、自分の考えをノートにまとめる。	120分
5	ルネサンス期の社会思想：モア	主著『ユートピア』の成立事情とその影響を学修する。	
	この回の到達目標	「どこにもないところ」としてのモアの『ユートピア』を、時代状況に照らしつつ、人文主義的技巧を駆使した作品として理解する。	
	事前学修	キリスト教教会の時代的な腐敗と国王の覇権主義との関係に注意しながら、モアの複雑な立ち位置を想像してみる。	120分
	事後学修	主著『ユートピア』が対話篇で綴られている理由は、プラトンの影響が考えられる。作中人物としてのモアと書き手としてのモアの使い分けに留意しながら彼の思想をまとめる。	120分
6	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリとその時代	エラスムスと同時代でありながらキリスト教的な枠を突き抜ける、マキアヴェリ思想の時代的意義について学修する。	
	この回の到達目標	ルネサンス期のイタリアの傭兵の成立事情とマキアヴェリの傭兵評価を等身大で理解する。	
	事前学修	マキアヴェリの時代背景を知るには、イタリア・ルネサンスの時期の傭兵の役割を知る必要がある。PDF資料の「傭兵の二千年史」（抜粋）を一読しておく。	120分
	事後学修	エラスムス、モア、ルターの3者と全く異なる発想がマキアヴェリにあることを確認し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリ『君主論』		都市国家フィレンツェにおけるマキアヴェリの政治的位置に配慮しながら、『君主論』をはじめとするマキアヴェリ思想の意義を学修する。	
	この回の到達目標	一見、冷徹な皮肉屋にみえて単純な権謀術に還元できない思想家マキアヴェリの多様な側面を理解し、説明できる。		
	事前学修	Google Classroomに提示されたマキアヴェリ関連の資料PDFを読み、「フォルトーナ」「ヴィルトゥ」「スタト」というキーワードを抑えながら、マキアヴェリ思想の輪郭をまとめる。		120分
	事後学修	授業時に触れられない『リウィウス論』について調べ、『君主論』との異同をノートにまとめる。		120分
8	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の成立		ホッブズの時代背景（2つの市民革命）を踏まえて、ホッブズのリヴァイアサン思想の成立事情を学修する。	
	この回の到達目標	王党派にも革命派にも属さないホッブズ特有の位置を踏まえながら、ホッブズ思想の時代に与えた影響を等身大で把握できる。		
	事前学修	ピューリタン革命の時代にホッブズがどのような立場で思想を形成していたかを考えながら、事前資料PDFを読んでおく。		120分
	事後学修	ホッブズに「絶対王政擁護者」というレッテルを貼ることが不適切である。その根拠を問いただし、王党派、長老派、独立派、平等派との関係に配慮しながら、ホッブズ思想の特徴を列記する。		120分
9	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の思想		自然権を譲渡する必要からコモンウェルスが生成する事情を理解し、ホッブズ思想が近代人権思想の源流であることを理解し説明できる。	
	この回の到達目標	コモンウェルスの成立要件と相対主義的倫理の回避に必要なポイントを的確に説明できる。		
	事前学修	マキアヴェリの君主論とホッブズのリヴァイアサン思想を比較する際、決定的に異なる特徴は何か？ 予想される項目をノートに列記する。		120分
	事後学修	「自然権」と「自然法」の相違に注意しながら、コモンウェルスの必要性を箇条書きにまとめる。また「リヴァイアサン」の挿絵の意味を考え、ホッブズ思想の時代的意義をノートにまとめる。		120分
10	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の背景		机上の理論家でなく、名誉革命の立役者でもあったロックの『統治論』の成立背景を学修する。	
	この回の到達目標	ピューリタン革命から名誉革命の時代的推移において、国王と議会の対立がどのように変容していったか、また、この変容にロックの思想に深くかかわっている事情を理解し説明できる。		
	事前学修	ピューリタン革命から名誉革命に至るロックの時代背景を、PDF資料の年譜を見ながら、おおまかに把握しておく。		120分
	事後学修	時代の嵐に翻弄されながらもロックはどのような政治体制を待望していたのか？ 授業内容を踏まえつつ、その概要をノートに整理する。		120分
11	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の思想		ロックの思想が議会制民主主義の基礎づけを果たしたとされる根拠を学修する。	
	この回の到達目標	「プロパティ」という用語の背後に「神」があることに気をつけながら、人間固有の権利がロックにおいてどのように規定されているかを理解し、説明できる。		
	事前学修	ホッブズで明確に区別されていた「自然権」と「自然法」との区別がロックではなくなる。その理由を考えながら、『統治論』の抜粋PDF資料を精読する。		120分
	事後学修	イギリスの議会政治の歴史的発達とロックの『統治論』は密接な関係に留意しつつ、ロック思想の基本的特徴をノートにまとめる。		120分
12	近代の社会契約思想：ルソー『人間不平等起源論』		ルソーのパーソナリティの特異性と『不平等論』の成立事情を学修する。	
	この回の到達目標	ルソーのステレオタイプな「自然に帰れ」論を括弧にくくり、彼の個人史から読み取れるパーソナリティを踏まえて、『不平等論』の成立事情を理解し、説明できる。		
	事前学修	ルソーの思想を等身大で見るとの予備作業として、Google ClassroomにアップされたPDF資料で彼の人生遍歴を概観し、重要と思われるエピソードにマーキングをしておく。		120分
	事後学修	アムール・ド・ソワ とアムール・ド・プロブルは同じ愛でありながら、極端な差異としてとらえられる点に気をつけながら、『不平等論』の骨子をノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代の社会契約思想：ルソー『社会契約論』	『不平等論』と『社会契約論』との「自然状態」概念の相違に着目しつつ、後者の論のパラドックス（全面譲渡の謎）を読み解く。	
	この回の到達目標	『不平等論』と『社会契約論』とで「自然状態」が異なる根拠を理解し、『社会系契約論』におけるルソーの狙いを客観的視点で説明できる。	
	事前学修	『不平等論』と『社会契約論』とでは「自然状態」のとらえ方の相違点をGoogle ClassroomにアップされたPDF資料から読み取り、箇条書きでノートに書きだす。	120分
	事後学修	「全面譲渡」という極端な形で描かれるルソーの社会契約論を時代背景と照らし合わせて考え、ノートにまとめる。	120分
14	仏リベラリズム：モンテスキュー『法の精神』	法服貴族という立場からフランスの王政の暴走に法的な歯止めをかけようとしたモンテスキュー思想の意義を学修する。	
	この回の到達目標	モンテスキューの権力分立論の根拠を、当時のフランスの時代状況と照らし合わせて理解し説明できる。	
	事前学修	法服貴族というモンテスキューの身分（立ち位置）が彼の思想とどのような関係にあるか？ PDF資料を読んで予想される内容をノートに書きだす。	120分
	事後学修	「穏和な整体」というときの「穏和」の意味に注意しながら、モンテスキューの権力分立論の独自性（特徴）についてノートにまとめる。	120分
15	前学期のまとめ	時代状況に即して思想家たちの行った改革の総まとめを行う。	
	この回の到達目標	ルネサンス・宗教改革の時代から近代にいたる社会思想の潮流をトータルかつ客観的に把握し、説明できる。	
	事前学修	年代順に並べなおすと、マキアヴェリ、エラスムス、モア、ルター、ホッブズ、ロック、モンテスキュー、ルソーの順になるにもかかわらず、なぜ上記のような順で概説したか考え、その根拠をノートにまとめる。	120分
	事後学修	「カトリシズム的改革とプロテスタンティズム」、「アダム的人間とプロメテウスの人間」、「社会契約思想と権力分立論」、「自然法概念」の推移、という4項目について、これまで学んできたことをトータルに整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅱ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回授業内容コメント課題で講義内容に関する質問・意見を求め、フィードバックされることで理解を深める。チェックテスト（4択問題10問）を3回程度行う。最終的な学期末レポートは1回提出するのみ。期末試験はない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課されるチェックテスト の成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Google Classroomの提出欄に、 Googleフォームを用いてアップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課される授業内容コメン ト課題を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	市民社会の思想：アダム・スミスの道徳哲学		時代背景を踏まえつつ、『道徳感情論』を中心に性善説・性悪説をのりこえるスミスの道徳論の形成について学修する。	
	この回の到達目標	スミスの時代の道徳学説の諸説を対照し、スミスが独自の道徳感情論を形成する経緯を理解し、説明できる。		
	事前学修	Google ClassroomのPDF資料「アダム・スミス」の年譜と概要を読み、気になる点（飲み込めない箇所）をマーキングして受講に備える。	120分	
	事後学修	道徳感覚学派の利他的人間像と、マンデヴィル、ヒュームらの利己的人間像の特徴をまとめ、スミスがどのようにこれらの道徳論を超越していったかをノートに整理する。	120分	
2	市民社会の思想：アダム・スミス『国富論』		『国富論』の「見えざる手」の理論と分業の功罪について学修する。	
	この回の到達目標	スミスの重商主義批判を踏まえつつ、『国富論』を単純な市場開放論といえない面があることを的確に指摘し、説明できる。		
	事前学修	スミスの道徳論が「共感」や「公平な観察者」というテクニカルタームにどうつながっていくか、予想をたて、ノートに書きだす。	120分	
	事後学修	スミスの自由主義的経済思想の特徴を列記し、その発展系が現代のグローバル社会の新自由主義思想といえるかどうか、自分の考えをノートにまとめる。	120分	
3	市民社会の思想：カントの道徳哲学と法論		カントの義務倫理の成立背景をたどり、キリスト教倫理との関係を含め、カントの理想が今日どのような意味をもつかを考察する。	
	この回の到達目標	厳格なカントの義務倫理が何を根拠にして生じるのか、道徳法則にしたがう自由のパラドックスをどのように解くか、という問いについての的確に応答し説明できる。		
	事前学修	Google Classroomに挙げられた資料を読み、カントの道徳論は厳格な義務倫理といわれる理由について、予想を立て、それをノートに書きだす。	120分	
	事後学修	不幸な介護殺人や鴟外の『高瀬舟』などの事例で、カントの「生きる義務」という価値観が適用できる可能性についてノートにまとめる。	120分	
4	市民社会の思想：スピノザの市民社会論		日常意識を超える神の視点では「必然性」と「自由」が一つであること、そのような「永遠の相のもと」で生きることに真の幸福があることを、スピノザの主著『エチカ』から学修する。	
	この回の到達目標	超越神論と汎神論の相違を踏まえ、スピノザの哲学において自由と必然が合致すること、また、この視点は、政治哲学的な意味も含意していることを理解できる。		
	事前学修	スピノザの汎神論のが、人間中心的な道徳観（個）を超える普遍の立場でありながら、民主主義的でありうるというパラドックスをどう解いたら良いか？ Google Classroomに挙げられた資料を一読し予想してみる。	120分	
	事後学修	スピノザ哲学では、自我の主権意識にこだわるほうが真理から遠のくことになるのはなぜか、その理由を考えながら、スピノザの倫理思想をノートにまとめる。	120分	
5	市民社会の思想：ヘーゲルの弁証法		ドイツ観念論の完成者といわれるヘーゲル哲学の体系構築に不可欠の弁証法について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル哲学体系における「弁証法」という方法の役割およびその内実についての的確に理解し、説明できる。		
	事前学修	「正→反→合」という図式的理解を「カツ→カレー→カツカレー」という喩えに変えることには問題がある。Google Classroomに挙げられた資料を読み、その問題点を予想し、ノートに書きだす。	120分	
	事後学修	ヘーゲルにとって弁証法はわき役であったにもかかわらず、体系構成の重要な方法と位置づけられる根拠を考えながら、ヘーゲル弁証法のポイントをノートにまとめる。	120分	
6	市民社会の思想：ヘーゲル『法の哲学』家族論		ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第一段階「家族」について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』の「人倫」と「道徳性」との違いを踏まえ、人倫における「家族」の役割について理解し、説明できる。		
	事前学修	カントの道徳性を超えるヘーゲルの人倫（倫理）とは何か？ Google Classroomに挙げられた資料を読んでその内実を予想し、ノートにまとめ、受講に備える。	120分	
	事後学修	家族の一体性・普遍性が「解体」されるとはどういうことか？ 家族の空中分解を意味するわけではないことに注意しながら、『法の哲学』における家族から市民社会への移行の論理を、ノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』市民社会論		ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第二段階「市民社会」と第三段階「国家」について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』における市民社会の問題点とその克服の方法に関するヘーゲルの見解を理解し、説明できる。		
	事前学修	ヘーゲルのとらえる市民社会が「欲求の体系としての強制国家」といわれる根拠は何か。Google Classroomに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	人倫の弁証法的発展としての「家族→市民社会→国家」の歩みの必然性を職業団体の「誇り」の意識に注意しながら、ノートにまとめる。		120分
8	経済社会の思想：マルクス『経済学・哲学草稿』		初期の『経済学・哲学草稿』を中心にマルクスが「労働の疎外」を当時どのように考えていたかについて学修する。	
	この回の到達目標	本来、喜びと充足をもたらすはずの労働においてなぜ人間は疎外されてしまうのか？ この問題に関する初期のマルクスの分析を理解し、説明できる。		
	事前学修	労働における人間の「自己疎外」、すなわち「働けば働くほど人間が貧しくなる」という逆説がなぜ生じるか？ その回答を予想し、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	チャップリンの『モダン・タイムス』の20世紀と19世紀ドイツの状況と対比しながら、マルクスの労働疎外論のもつ意味について、ノートにまとめる。		120分
9	経済社会の思想：マルクス『資本論』の物象化論		マルクス『資本論』における商品の分析と物象化論的錯視の意味について学修する。	
	この回の到達目標	アソシアシオンという協同社会がいまだ実現されていないことを踏まえ、マルクスの資本主義社会に対する批判的分析のもつ意義について理解し、説明できる。		
	事前学修	マルクスの思想とマルクス主義は異なる。その意味について、Google Classroomに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	「アソシアシオン」「物象化論的錯視」というキーワードを抑えながら、労働者を解放しようとしたマルクスの意図と構想のポイントをノートにまとめる。		120分
10	現代の環境思想：レイチェル・カーソン『沈黙の春』と日本の公害		カーソンの『沈黙の春』の成立事情と1970年代の日本の公害問題と現代の環境問題とを関連づけて学修する。	
	この回の到達目標	文学者ではなく海洋生物学者としてカーソンが『沈黙の春』で警告した内容を的確に把握し、説明できる。		
	事前学修	Google Classroomに挙げられたカーソンの『沈黙の春』冒頭の「明日の寓話」を読み、「白い粉」は何の寓意かを予想し、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	生態系が「目に見えないネットワーク」であることを見定めつつ、授業で触れられなかった彼女の思想をまGoogle Classroomに挙げられた資料にあるカーソンの思想をノートにまとめる。		120分
11	現代の環境思想：ディープ・エコロジー①自己実現		「エゴ」と「セルフ」区別を踏まえつつ、アルネ・ネス「拡大自己実現」の思想を学修する。	
	この回の到達目標	「自己同一化」というキーワードを抑えつつ、「自我ego」から区別されるネスの「自己Self」概念を的確に理解し、ネスのホーリズムの立場を説明できる。		
	事前学修	起点を共有しながらも、本質的に異なる概念とされる「自我」と「自己」。その異同の内実は何かについて、Google Classroomに挙げられた資料を読みながら予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	実体としての「自我」、関係としての「自己」という両概念の特性に注意しながら、ネスの思想をノートにまとめる。		120分
12	現代の環境思想：ディープ・エコロジー②エプロン・ダイアグラム		ディープエコロジーの思想と運動の違いに留意しながら、エプロン・ダイアグラムとプラットフォーム原則について学修する。	
	この回の到達目標	ディープエコロジー運動にあつては、エプロン・ダイアグラムにおいて、レベル1の宗教・哲学よりも、レベル2のプラットフォーム原則のほうが重視されることの根拠について、的確に理解し、説明できる。		
	事前学修	ディープエコロジー運動において、思想や信条などの哲学的理念を共有事項とすると、なぜ問題なのかについて、Google Classroomに挙げられた資料から予想を立て、受講に備える。		120分
	事後学修	プラットフォーム原則の第4原則「不可欠の必要」があえて「曖昧な」書き方になっている点に注意しながら、プラットフォーム原則全体の要点をノートに整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	現代の環境思想：ソーシャル・エコロジー①		ディープ・エコロジーの発想で見落とされがちな、社会関係（人間対人間の関係）の問題をマレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジー思想から学修する。	
	この回の到達目標	エコロジー問題を考える際に、対自然関係よりも対人間関係が優先課題となる理由について、現代社会の事例を挙げて理解し、説明できる。		
	事前学修	ブクチンの『エコロジーと社会』第1章に登場する、カリフォルニア出身のエコロジストの言説のおかしな点とは何か？ Google Classroomに挙げられた資料を読み、自分なりの考えをノートにまとめる。		120分
	事後学修	生物資源を略奪するドイツの製薬会社の事例を参考に、社会的な人間相互の関係を改善せずには、地球環境問題の真の解決には至らない、というブクチンの主張をノートにまとめる。		120分
14	現代の環境思想：ソーシャル・エコロジー②		ルソーの『人間不平等起源論』をブクチンがどのようにソーシャル・エコロジー思想に生かしていったかを学修する。	
	この回の到達目標	ブクチンのキーワード「第一の自然」「第二の自然」という用語が二元論的思考の克服にいかに関与するかを理解し、説明できる。		
	事前学修	ブクチンの『エコロジーと社会』第2章の内容を要約し、彼の言説の新しさがどこにあるかをノートにまとめる。		120分
	事後学修	ブクチンのソーシャル・エコロジー思想のメリット・デメリットをまとめ、彼のディープエコロジー批判の善し悪しを的確にノートする。		120分
15	現代の環境思想：レスター・ブラウンのプランB		ディープ・エコロジー思想、ソーシャル・エコロジー思想と対比しつつ、ブラウンの具体的な解決策の定言の問題点を探る。	
	この回の到達目標	エコロジー対策の指針にこれまで学んできたエコロジー思想をベースにし、ブラウンの環境政策提言を吟味し、将来的に必要なとされる環境対策の指針について説明できる。		
	事前学修	レスター・ブラウンのプランBの骨子をまとめ、問題点はないか、自分なりの考えをノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディープエコロジーやソーシャルエコロジーとブラウンの思想との相違点をピックアップし、項目別に現実への適用の可否およびその理由をノートにまとめる。		120分

科目名	宗教学 I	担当者	舘野 正生	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本義とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。
--

【履修条件】 毎回、2,000字程度のレポートを書く。真剣に取り組めること。遅刻・欠席しないこと。5回の欠席で成績は付かない。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、必ず記録しバックアップも取ること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	宗教の定義・本義を十分に理解し、それを説明できる。					2	2		2				
②	自分の現状を明確にでき、それを基にさらに成長したことを説明できる。							2					
③	宗教の本義に基づき、いかなる時もそれに基づいて行動することができる。					2			2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関する知識が取得でき、それを説明できているかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標①、②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	40	20	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、欠席は1回につき5点、減点する。											
その他(宿題)	到達目標③に関し、宗教の根本義に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	宗教の定義	宗教の定義に関して、語源、歴史、研究者による定義などについて概説し、本授業で行うことを説明する。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①に関して、宗教とはどのようなものか、その定義を理解し、根本義は何かを明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	宗教という言葉の定義を広く調べた上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	人生の目標・目的	前回のレポート紹介と講評。人間が生きている環境、そこをどのように生きればいいのか、その目標・目的について扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、生きることの意味、人生の目標・目的を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	人生の中間目標、最終目的について考え、ノートにまとめておく	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人間はどのように生きればいいのか。	前回のレポート紹介と講評。日常でどのように生きているか、どのように生きることがいい方向となるのかについて扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、人間はどのように生きればいいのかを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が日常をどのように生きているかを確認し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	主人公とは何か。	前回のレポート紹介と講評。日常の自分は一体何によって動かされているのかなどに関する話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の人生を自分で生きることを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が何を求めて生きているか、ノートに書き出し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	主人公は誰か	前回のレポート紹介と講評。他人を相手にするのみでは人生が進んでいかないことなどについての授業者の話を読み、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の主人公を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	承認欲求について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	向上・進化できたこと		参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	執われとは		前回のレポート紹介と講評。人間の苦しみはどこから生ずるのかについて授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分が執われていることを自覚し、そこから離れることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	仏教に於ける「執着(しゅうじゃく)」について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	執われからの展開（初段階）		前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開に関する初段階の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の精神的立場が一点に執われ続けていることを、自分の日常を記録することで調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	執われからの展開（高段階）		前回のレポート紹介と講評。精神的次元をさらに高める話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の日常のふるまいを精神的次元にあてはめて、それを記録しノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	自分の短所・欠点		前回のレポート紹介と講評。短所・欠点を元に、そこから展開していく話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の短所・欠点を明確にし、それをどうすればよいかを考えられるようになり、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の短所・欠点を調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	精神的な弱さについて		前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さについての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の精神的な弱さについて理解し、それを乗り越えていく行動ができるようになり、それについて説明できる。		
	事前学修	精神的弱さについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	精神集中について		前回のレポート紹介と講評。精神集中についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神集中の意義について理解し、自分に合ったものを行うことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	精神集中について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめ		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	生きやすくなることについて		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標③に関して、これまでの授業を振り返り、どのように生きればいいかを確認し、より生きやすくなることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	宗教学Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。

【履修条件】
宗教学Ⅰを履修済みであること。毎回2,000字程度のレポートを書く。真剣に取り組めること。遅刻・欠席しないこと。5回の欠席で成績は付かない。

【授業方法】
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、必ず記録しバックアップも取ること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分と他者を充分に知り理解し、それを説明することができる。				2	2						
②	達成目標①に基づき、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に判断することができるようになり、それを説明できる。						2	2				
③	自分の行動を観察し、意識的にすることができ、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に行動することができるようになり、それを説明できる。							2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関して、十分に自分を理解でき、客観的に冷静に判断することができて、それを説明できるかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない判断が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない行動が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	20	40	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、欠席は1回につき5点、減点する。											
その他(宿題)	到達目標②、③に関し、客観的に冷静に判断・行動することができ、それを説明できるかを評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	自分を知ること	授業者による「自分を知る」ことに関する先人たちの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることの重要性を歴史的に理解し、その意義を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	自分はどのような人かについて探究することの意義を調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	自分を知る方法	前回のレポート紹介と講評。参加者は「自分を知る」ためのテストを行い、自分について分かったことをレポートに書き、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることによって自分に対する理解を深め、外側から自分の軸を創ることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、さらに理解を深める。	120分
4	変えられること、変えられなこと	前回のレポート紹介と講評。「変えられること、変えられなこと」、それをどうすればいいか、などについての話に対し、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、自分を含め観察し、調和の取れた生き方ができるようになり、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が「どうにもできないこと、どうにかできること」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	無常、無我について	前回のレポート紹介と講評。仏教の「無常」、「無我」についての話などを聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、「無常」、「無我」が自分を含め観察するということであることを理解し、それについて説明できる。	
	事前学修	仏教の「無常」、「無我」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	人間の暗い面	前回のレポート紹介と講評。「人間の暗い面」についての先人の見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の暗い面を十分に理解し、自分に当てはめて納得し、またそれについて説明できる。	
	事前学修	「人間の暗い面」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	向上・進化できたこと		参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	この回の到達目標	到達目標②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	人間の邪悪さ		前回のレポート紹介と講評。「人間の邪悪さ」に関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の邪悪さを十分に理解し、自分に当てはめて納得でき、それについて説明できる。	
	事前学修	人間の邪悪さについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	失敗に対する捉え方		前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの見解、授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標①に関して、失敗に対する先人たちの捉え方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
	事前学修	失敗について自分の経験から考え、見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	失敗に対処すること		前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの対処の仕方、授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標②に関して、失敗に対する先人たちの対処の仕方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートとを振り返り、失敗にどのように対応すればよいかを思考し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	対象に対する思い込み		前回のレポート紹介と講評。対象に対する思い込みに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標②に関して、対象に執われていることから、客観的に観察し、執われることから離れることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	対象を捉えるとき、自分の思いをかぶせることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	自分の進化を停滞させるもの		前回のレポート紹介と講評。自分の進化を停滞させるものに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の進化を停滞させるものを明確に知り、それを修正して生きていくことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	自分の進化を停滞させるものについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自分の行動は自分が選んで行っているか		前回のレポート紹介と講評。自分の行動は自分が選んで行っているかに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の行動を意識的に自分で選んで生きることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	自分の行動は自分が選んで行っているかについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめ		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標②、③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	自分が生きやすくなり、それが人類の進展に繋がっていること		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業を振り返り、自分が生きやすくなり、それを人類の進展に繋げることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	伊藤 令枝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
「こころ」を客観的に把握することに関心をもって取り組めること。また、学習内容や授業方法等を理解した上で履修すること。

【授業方法】		
講義形式とし、パワーポイントによる提示と板書を併用する。 授業内容に応じた資料（インデックス程度）を配布する。 定期試験を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実験課題のレポートやリアクションペーパー等の提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。				2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。					2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。						2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。							2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関して、基本用語と概念をどれだけ獲得できたか定期試験によって評価する。	20	20			10						50
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関して、実験実習や検査実習の結果を考察し、他者との討議をとおして検討したレポートによって評価する。			10	5		5					20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関して、授業で示された課題に関するリアクションペーパーによって評価する。	10	10			10						30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	10	5	20	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第4版 (Next教科書シリーズ)	和田万紀 (編)	弘文堂	2021	教科書	必携
心理学 第5版補訂版	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 (編)	東京大学出版会	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心理学へのアプローチ	「こころ」へのアプローチと研究手法、心理学の学習への誘い、心理学の研究手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心にアプローチすることができる。	
	事前学修	シラバスと教科書を確認しておくこと。	120分
	事後学修	学習計画や履修計画と照らし合わせて、心理学の学習の意義を熟考する。	120分
2	心理学の歴史	科学としての心理学の成立、心理学の独自性、日本における心理学の受容	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心に科学的にアプローチすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	諸学問領域のなかでの心理学の存在意義、自身の専攻領域と心理学との関係性について考察する。	120分
3	感覚・知覚（1）	感覚の種類、感覚器官をととした感覚受容、特殊神経エネルギー説、共感覚	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、感覚・知覚の基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	感覚・知覚システムの複雑性について具体的に考察する。	120分
4	感覚・知覚（2）	ニューロンによる情報伝達メカニズム、大腦における精神機能の局在性と可塑性	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚・知覚にかかわる神経系の基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	「脳科学」的俗説について批判的に思考する。	120分
5	感覚・知覚（3）	視覚・色覚のしくみ、三色説と反対色説、主観色、盲点、順応、残像	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、視知覚にかかわるメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	眼球の構造から、視覚システムの複雑性について理解を深める。	120分
6	感覚・知覚（4）	対比と同化、幾何学的錯視、主観的輪郭、運動知覚	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、視知覚にかかわるメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	精神物理学的測定法を用いて、幾何学的錯視を実証する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	認知と思考（1）	パターン認識と知覚の恒常性、奥行き知覚、選択的注意	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、認知にかかわるメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	注意できる範囲を確認し、「ながら」行動の危険性を実証する。	120分
8	認知と思考（2）	思考における限定合理性とバイアス、ステレオタイプ	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、認知バイアスを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	思考上のバイアスと適応的行動について熟考する。	120分
9	記憶（1）	記憶と忘却のメカニズム、短期記憶の保持容量と保持時間、ワーキング・メモリのシステムと機能	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、記憶の基本的なシステムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	感覚記憶と短期記憶のメカニズムを実証する。	120分
10	記憶（2）	長期記憶のシステム、長期記憶としての知識の定着と利用、意味ネットワークモデル	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、長期記憶の基本的なシステムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	知識の可視化を試み、長期記憶の構造やメカニズムを実証する。	120分
11	記憶（3）	長期記憶の変容と「汚染」、フォルス・メモリ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、長期記憶の基本的なシステムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	記憶のダイナミクスについて考察する。	120分
12	感情・情動	感情・情動の測定、感情・情動の発生メカニズム、ジェームズ・ランゲ説とキャノン・バード説	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、感情・情動にかかわる基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	感情・情動の複雑性について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	欲求と行動（1）	動機づけのメカニズム、環境適応と適応機制、条件づけと学習のメカニズム	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、行動や学習の基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	学習の複雑性について考察する。	120分
14	発達	生涯学習と生涯発達、発達のメカニズム	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤に関連して、発達の基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	自己のアイデンティティの確立について考察する。	120分
15	知能	知能の概念とモデル、学習能力と知能	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、こころの諸側面を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	こころについて科学的に検討する。	120分

科目名	心理学 I	担当者	亀岡 聖朗	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法をよく理解した上で履修すること。

【授業方法】		
講義形式。毎回、パワーポイントを使用しながら講義を行う。時間が許せば、講義について討論の時間を設ける。また、授業のテーマによっては視聴覚に訴える試み（動画視聴や簡単な心理学実験、エクササイズなど）を行うことがある。毎回、リアクションペーパーの提出を求める。定期試験を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーの提出を求める。また簡単なエクササイズや講義のテーマについて討議の時間を設けることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。				2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。					2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。						2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。							2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関して、基本用語と概念をどれだけ獲得できたのかについて定期試験で評価します。	20	20			20						60
小テスト等	到達目標①②⑤に関して、3回の小テストと各授業で提出を求めるリアクションペーパーと課題を確認して、基本用語と概念の獲得の状況について評価します。	7	7			6						20
レポート等	到達目標③④⑥に関して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポート等で確認して評価します。			10	5		5					20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	27	10	5	26	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学部総合ポータルサイトや講義等でお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第4版（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業時にお知らせします。kameoka.seiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／「心理学Ⅰ」を学ぶ	ガイダンス、心理学とは何か、心理学の成り立ち、意識・無意識・行動	
	この回の到達目標	ガイダンスを通して、「心理学Ⅰ」の内容や授業の進め方について理解すること。また、心理学は何を起源として成立してきたのか、心理学が対象とするのは何であるかを説明できること。	
	事前学修	教科書「序章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
2	見えない心をどう捉えるか～心理学の方法論	心理学の方法論（実験、調査、検査、面接等）	
	この回の到達目標	「心」の捉え方について説明できること。	
	事前学修	教科書「第1章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
3	目は心の窓～感覚・知覚の心理学	知覚とは何か、感覚とは何か	
	この回の到達目標	知覚と感覚の違いについて理解し、それぞれの特徴について説明できること。知覚された世界が、物理的な世界をそのまま写し取っているわけではないことを理解・説明できること。	
	事前学修	教科書「第1章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
4	記憶のはたらき～認知の心理学①	ものを覚えるしくみ、ものを忘れるしくみ、忘れないための工夫	
	この回の到達目標	記憶のしくみや種類、忘却の要因、忘れないための工夫について説明できること。短期記憶と長期記憶の違いを実験を通して理解し説明できること。	
	事前学修	教科書「第3章」の1を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
5	注意と思考・判断～認知の心理学② 小テスト①（範囲：第1回～第4回）	選択的注意、人の思考・判断の特徴	
	この回の到達目標	普段あまり自覚しない人の注意の特徴や判断の特徴について説明できること。	
	事前学修	教科書「第2章」の4、6を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
6	できなかったことができるようになる～学習の心理学①	学習とは何か、学習のしくみ	
	この回の到達目標	学習のしくみについて説明できること。	
	事前学修	教科書「第3章」の2を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	やる気がわくとき・わかないとき～学習の心理学②	動機づけと欲求、動機づけの種類、無気力に陥るとき、動機づけを高めるためには	
	この回の到達目標	学習を支える要因としての動機づけについて、その種類や動機づけを高める要因のいくつかについて説明できること。	
	事前学修	教科書「第4章」の4を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
8	喜怒哀楽～感情と欲求の心理学①	感情が備わっているのはなぜか、感情の種類、欲求と欲求不満	
	この回の到達目標	感情のはたらき、欲求・欲求不満、葛藤の種類について説明できること。	
	事前学修	教科書「第4章」1、2、3を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
9	適応のメカニズム～感情と欲求の心理学②	葛藤、適応のメカニズム（防衛機制）	
	この回の到達目標	葛藤と適応機種の種類および日常で見られる例について説明できること。	
	事前学修	教科書「第4章」5を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
10	私はどんな人？～個人差の心理学① 小テスト②（範囲：第5回～第9回）	性格とは何か、性格の理論	
	この回の到達目標	性格の理論について理解し説明できること。	
	事前学修	教科書の「序論」と「第5章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
11	性格を捉える～個人差の心理学②	性格を測定する道具（性格検査）、実習を含む（予定）	
	この回の到達目標	性格検査の種類について説明できること。検査実習を通して、検査の手順や結果の解釈を説明できること。	
	事前学修	教科書「序論」の2と「第5章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
12	「勉強ができる＝頭がいい」なのか～個人差の心理学③	知能とは何か、知能を測定する道具（知能検査）	
	この回の到達目標	知能の定義や種類、知能測定の道具（知能検査）について説明できること。	
	事前学修	教科書「序章」の4と第8章の4を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生涯発達～発達の心理学①	発達とは何か、人の発達の原理（共通性）、認知発達	
	この回の到達目標	人の発達は生涯に亘って続くこと、人の発達の原理や、認知発達の段階について説明できること。	
	事前学修	教科書「第6章」の1、2を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
14	発達の理論～発達の心理学②	身体をもとにした人の発達理論、アイデンティティ	
	この回の到達目標	発達理論について、それを唱えた人物と理論との結びつきをつけて、説明できること。	
	事前学修	教科書「第6章」の3を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
15	整理とまとめ 小テスト③（範囲：第10回～第14回）	「心理学Ⅰ」の学びの振り返り	
	この回の到達目標	「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返り、その内容について確認し、説明できること。	
	事前学修	これまでに配布した資料、教科書の該当する箇所を見直しておくこと。	120分
	事後学修	「心理学Ⅰ」の到達度を、自分自身で確認すること。	120分

科目名	心理学 I	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。

【授業方法】		
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。授業内試験を実施する。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックすること。 ※なお、諸事情により対面講義に出席できなくなった受講生は、Google ClassroomからVODを用いて行われる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。				2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。					2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。						2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。							2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	20	20			20						60
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第4版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	必携
誠信心理学辞典 新版	下山晴彦	誠信書房	2014	参考書	任意
有斐閣 現代心理学辞典	子安増生	有斐閣	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心理学Ⅰのガイダンス・導入講義	心理学Ⅰの講義概要、成績評価についての留意点、心理学の領域、心理学の研究法：実験法、調査法、観察法、面接法	
	この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点について理解し、心理学がどのような領域に広がっているか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「序章」「第1章」を中心に全体を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
2	科学としての心理学の歴史	科学としての心理学が始まる前と後	
	この回の到達目標	科学としての心理学が始まった19世紀後半を中心とした歴史的経緯を理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「序章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
3	感覚・知覚 1	視覚の仕組み	
	この回の到達目標	視覚の基本的な機能について、心理学の視点から考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
4	感覚・知覚 2	視覚のしくみ（その2）、聴覚・味覚・触覚・嗅覚について	
	この回の到達目標	視覚のみならず、それ以外の五感の機能について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
5	学習 1	心理学での「学習」とはなにか（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習）	
	この回の到達目標	学習の中でももっとも基本的な、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
6	学習 2	洞察学習、観察学習、条件づけの応用	
	この回の到達目標	5で学んだ条件づけ以外の学習について理解し、それらをどのように応用できるかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	感情 1	感情とは何か、感情の生起メカニズム	
	この回の到達目標	感情はどのように生ずるのかについて生理学的・心理学的な視点から理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・1，2」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	感情 2	動機づけ、欲求不満	
	この回の到達目標	動機づけ（モチベーション）と欲求不満（フラストレーション）の基本的なメカニズムについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・4」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
9	記憶	記憶の種類とそれらの性質	
	この回の到達目標	記憶はどのように研究され、記憶の種類とそれらの性質について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章・1」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
10	パーソナリティ 1	性格に関する理論	
	この回の到達目標	古来から今日まで人の性格はどのように捉えられてきたかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第5章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	パーソナリティ 2	パーソナリティ検査の種類	
	この回の到達目標	パーソナリティはどのようにして測るかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
12	発達 1	誕生から児童期までの成長	
	この回の到達目標	人間の誕生から小学生を卒業するまでの発達について、心理学的な視点から理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分
	事後学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発達 2		生涯を発達として考える
	この回の到達目標	人間の一生涯を発達段階の視点で理解することができる。 「アイデンティティ」という概念を広めたE. エリックソンによる生涯発達について理解し、自分自身のこれからの発達について考察することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・3」を通読する。	120分
	事後学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分
14	総括		心理学Ⅰで学んだことの総括
	この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、重要なポイントについて理解することができる。	
	事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、留意点で述べられたことを参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	授業内試験・まとめ		心理学Ⅰの理解度を確認する
	この回の到達目標	これまでの心理学Ⅰの学習を総括する。	
	事前学修	14回目の講義とこれまで事前にダウンロードされたすべてのPPT資料、教科書をもう一度確認する。	210分
	事後学修	試験の解答を確認する。	30分

科目名	心理学Ⅰ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
人数が多い場合、抽選または上級学年から履修可能とします。マスコミなどで語られている「心理学」とは異なりますので、思い込みは捨ててください。単位や時間割の都合で履修されると下記の授業内容が負担になる場合がありますので注意してください。

【授業方法】

講義を中心とします。講義中に、エクササイズ（検査実習や実験など）や課題を示しますので、これらを毎回提出します。講義終了後はリフレクションペーパーを提出します。さらに別途に、レポートを課します。
なお、出席確認、リフレクションペーパー、エクササイズ、レポート課題等の提出の際に「レスポンス」を使用したり、「クラスルーム」への提出を求めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リフレクションペーパー及びエクササイズ（検査実習や実験など）の課題を行い、提出します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験、授業内試験によって評価する。	10	10			10						30
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポート課題で確認して評価する。			10	10		10					30
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②④⑥に関連して、各授業でエクササイズを行い、結果と考察をまとめて提出して、授業への参画度を評価する。	5	5		5		5					20
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示されたエクササイズ、リフレクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトや講義等でお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学	和田万紀編著	弘文堂	2021	教科書	必携
ミュラーリヤーの錯視・性格の認知	木下富雄	ナカニシヤ出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで行う。wada.maki@nihon-u.ac.jpあてに、事前予約をする。法学部から割り当てられたメールアドレスを用いて、必ず、業科目名、時限、学科、学年、学生番号、名前を明記して、wada.maki @nihon-u.ac.jp連絡してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心は「みえる化」できるのか？	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。心を「見える化」するとはどのようなことなのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「心理学」と「現代心理学」の相違を、基本用語と概念を用いて説明して比較できる。。	
	事前学修	「ここをみえる化」することはできるのか、について自分の考えをまとめて記述する。。	120分
	事後学修	評価方法、課題提出方法、課題購入方法を確認する。心理学のイメージ、ここを「みえる化」することについて、自分の考えと学修内容との相違をまとめて記述する。	120分
2	心理学の歴史	なぜ「現代心理学」なのか。現代心理学はいかに誕生したのか。実験心理学の誕生について心理学の歴史から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代心理学の誕生と、心理学における実験という方法の誕生の歴史的過程について、理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、現代心理学の誕生前後について記述する。	120分
	事後学修	「心理学の過去は長いが歴史は短い」の意味を学修内容をまとめて記述する。	120分
3	心理学の方法（１）	心理学の代表的な方法と特徴を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心理学の代表的な方法と特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書、資料等から、心理学の方法について、実験法、心理検査法、調査法についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	心理学の代表的な方法について、具体例を挙げながら長所、短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
4	心理学の方法（２）	心は実験できるのか。心理学における実験という方法について具体例を通してその短所、長所を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実験という方法を用いた具体的研究例から、心理学における実験という方法のその長所、短所について理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書と配布資料を読み、実験法を用いた研究例を記述する。	120分
	事後学修	心理学で実験という方法を用いる長所と短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
5	感覚と知覚（１）	見ることと見えること。人間の感覚の特徴について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤につ関連して、人間の感覚の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、人間の感覚の特徴について具体例を記述する。	120分
	事後学修	閾という概念、感覚の特徴、感覚と知覚の差、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	感覚と知覚（２）	知覚の特徴、注意の機能について検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通して発展的に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能について理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、実験実習を実施して、データの整理、仮説の検討、考察を記述して、他者との討議から結論づけることができる。	
	事前学修	教科書配布資料を読み、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	実験実習とその後の他者との討議で得られた自他のデータの比較検討行い、仮説を検証、発展させてレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	記憶の仕組み		記憶の仕組みについて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶の種類や記憶の仕組み、忘却、知識等を基本用語と概念を用いて理解して、説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、記憶の仕組みをまとめて記述する	120分
	事後学修	記憶の仕組みについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
8	感情の働き		感情は非合理的なのか。感情のコントロールとストレスについて検討する。検査実習を行い、自分の感情のコントロールとストレス対処法の特徴について検討して、他者の結果との差を討議する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、情報としての感情、という視点から感情が心の働きに与える影響を理解する。到達目標③④⑥に関連して検査実習を行い、自分の感情のコントロールの特徴、ストレス対処の特徴を説明して、他者との討議を通じて結論づけることができる。	
	事前学修	教科書資料や経験から、判断や行動などが感情に強く影響された具体例を記述する。	120分
	事後学修	自分の感情のコントロールの特徴とストレス対処の特徴について、検査実習の結果を検討して、他者との討議の結果から、レポートを作成する。	120分
9	動機と行動		動機と行動について、動機の種類、強さ、構造、欲求不満と耐性及び対処法について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、行動の原因を動機の種類、特徴から理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、動機と行動について、基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	動機と行動について、動機が存在しても行動が生じなかった例、発達の過程で特に強く感じた動機の例を述べて、その過程を学修内容をまとめて記述する。	120分
10	認知と行動		行動の原因として、帰属過程を含む認知的側面から検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、認知と行動の関係と過程について、基本用語と概念を理解して説明できる。	
	事前学修	教科書資料を読み、認知と行動についての基本用語と概念についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	行動変容に与える認知過程の影響を、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	性格のとらえ方		性格の特徴について、特性論と類型論等の説明、性格検査の種類とその特徴を検討する。検査実習を行い、その結果から自分の性格特徴について基礎用語と概念を用いて記述して、討議を通じて他者と比較検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、性格のとらえ方について基本用語と概念を用いて説明し、検査方法の種類と長所短所を説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の性格特徴を説明し、他者との討議を通じて自他の性格特徴の差を説明できる。	
	事前学修	教科書資料を読み、性格のとらえ方について基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	検査実習の結果と討議から、自分の性格の特徴と他者の性格の特徴との差について比較検討してレポートを作成する。	120分
12	心の発達（１）		乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達について理解して基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、心の発達における乳幼児期の特徴についての基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	心の発達（2）		青年期とそれ以降について、認知的、社会的発達の特徴を検討する。検査実習を実施して、自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通して比較検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、青年期の発達の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通じて他者との差異を説明して、結論づけることができる。	
	事前学修	教科書資料を読み、青年期とそれ以降の発達の特徴を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
	事後学修	青年期の認知的、社会的発達の特徴を学修内容をまとめて記述する。検査実習と他者との討議の結果からレポートを作成する。	120分
14	意識と行動		意識と行動について、心理学の歴史と心の働きから理解して、現代心理学での位置づけを検討する。また無意識の研究例を示して、意識と無意識、無意識と行動等について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、意識と行動、意識と無意識に関する研究例を、基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書と資料を読み、意識と行動の説明を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
	事後学修	意識と行動、意識と無意識に関する学修内容をまとめて記述する。	120分
15	「現代心理学」から「心の働き」を考える		授業のまとめを行い、各授業で示されたキーワードの説明を補足する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の基本用語と概念を用いて、授業で示された各キーワードを説明することができる。	
	事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、試験の準備をする。	120分
	事後学修	到達目標①②⑤に関連して、自分の到達度を評価して、不足を補う。	120分

科目名	心理学 I	担当者	戸澤 純子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
人間の心の働きを科学的な観点から理解してほしい。シラバスは授業の進行によって変更する場合がある。

【授業方法】
指定した教科書「心理学（第4版）」（弘文堂）を使用して、対面式の授業行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行われる試験において、到達目標①②⑤⑥に関わる基本的な心理学概念、心理学理論の理解度について確認する。基礎的な知識の習得ともに、知識を日常の人間の行動に関係に応用できるかを確認する。	20	20			20	20					80
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に行われる実習やレスポンス等による質問に対する回答を授業参画度として評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	10	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に口頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50。問い合わせは tozawa.junko@nihon-u.ac.jp までお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 心理学の概要の説明	心理学は人間の行動や意識に関する多様な研究を行う。ガイダンスでは、心理学のおおまかな内容を概説する。受講生は心理学のおおまかなイメージをつかむことができる。また授業のテーマや内容、成績評価の方法を説明し、教科書を紹介する。加えてGoogleClassroomに授業資料を配布する。受講生はGoogleClassroomの使い方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、心理学という研究分野の大まかなイメージを把握できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書2ページから4ページを読んで、心理学のイメージをおおまかなイメージを自分なりにつかんでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを整理して、自分なりのまとめと要約を書いておく。	120分
2	心理学の方法（１）：心理学実験について	心理学が人間の行動と意識を研究するための方法にはさまざまである。心理学の方法の概要を説明し、中でも頻繁に使用される実験法について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、心理学でなぜ実験が必要か、加えて実験になぜ動物を使用するのかの意義を理解する。それによって受講生は心理学実験の意義を説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、心理学実験はどのように行われるのかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
3	心理学の方法（２）：心理学調査法について	心理学調査の概要を紹介する。加えて、心理学の方法を理解するために欠かせない、測定における尺度水準の概念も紹介する。これまでの授業内容の理解度確認のために小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、心理学において調査はどのような目的で、どのように行われるのかをについて概説する。また測定における尺度水準の概念の理解は、数値を扱うために重要である。これらの理解することによって、同じ数であっても心理学では異なる意味になることを受講生は説明することができる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、心理学調査はどのように行われるのかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめ、授業内に行われる小テストの準備をする。	180分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。実施後に解説を聞いた小テストの内容を、再度復習する。	180分
4	記憶（１）：記憶のモデルと短期記憶	記憶は幼いころから現在までの「私」が一貫して「私」であり続けることに関わる心の働きである。心理学で行われてきた記憶実験のうち、短期記憶に関する研究内容を中心に概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、受講生は人間の様々な活動において、記憶がいかに重要な働きをしているのかを理解できる。また様々な記憶のうち、短期記憶について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、短期記憶はどのような特徴を持つかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
5	記憶（２）：長期記憶とリハーサルの関係	比較的長い間覚えていた記憶を長期記憶という。授業では記憶とリハーサルの関係を学び、長期記憶の特徴を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、効率的な覚え方（長期記憶とリハーサルの関係）を、心理学実験に基づいて理解できる。また長期記憶について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、長期記憶はどのような特徴を持つかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
6	記憶（３）：日常記憶の現象と理論	人間の長期記憶は「私」を維持する重要な働きを持ちながら、時には大きく歪むこともある。日常記憶を実験例を紹介しながら、長期記憶の複雑な特徴について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、長期記憶の複雑な特徴を理解できる。また長期記憶について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、日常記憶はどのような特徴を持つかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	記憶（４）：忘却の理論と記憶のまとめ		覚えているあり方も多様であり、忘れ方（忘却）も多様である。忘却の理論を説明すし、これまでの記憶についてまとめる。これまでの理解度の確認のために、授業中に記憶に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、忘却の心理学理論を理解できる。また記憶と忘却について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された資料を読み、忘却の理論と記憶の理論の概要をおおまかに把握し、その内容をノートにまとめ、小テストに備える。	180分	
	事後学修	授業内容と小テストの内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。授業内で解説を受けた小テストの内容について、再度確認を行う。	180分	
8	学習（１）：古典的条件づけ		心理学において学習は、経験による行動変容である。つまり学校での勉強という意味ではない。人間の日常のいろいろな行動は「学習」の成果である。心理学で研究されてきた「学習」の仕組みについて、理論や実験を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古典的条件づけの実験を例として学習の仕組みを学ぶ。人間はいかに多くのことを「学習」しているかを理解することができる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、古典的条件づけの理論の概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分	
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分	
9	学習（２）：オペラント条件づけ		自発的な行動は学習を始め、多くの人間の行動に重要なものである。学習の重要な仕組みであるオペラント条件づけについて学ぶ。これまでの授業内容の理解度の確認のために、授業中に小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、オペラント条件づけの実験を例として学習の仕組みを学ぶ。自発的な行動がどのように学習され、行動が変容するかを理解することができる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、オペラント条件づけの理論の概要を把握し、その内容をノートにまとめ、小テストに備える。	180分	
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。実施後に解説を聞いた小テストの内容を、再度復習する。	180分	
10	学習（３）：さまざまな学習		人間の学習は条件づけだけによって成立するのではない。この回では観察学習などの認知的学習について学ぶ。加えて学習に関する小テストを授業中に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人間は観察することで学習できることを示した実験と心理学理論を紹介する。人間の持つ学習能力の多様性や柔軟性について理解することができる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、認知的学習の理論の概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分	
	事後学修	授業内容と小テストの内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分	
11	知覚（１）：人間の知覚の特徴		外界からの情報を取り込む始まりが知覚である。日常の生活で、知覚の働きの複雑さや重要性について気づくことは少ない。授業では閾、順応や対比などの人間の基礎的な知覚の特徴的な働きについて紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、通常、人間の知覚の能力について気づくことは少ない。授業を通して、人間が取り込む外界からの情報には制限があり、絶対的なものではないことを理解できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、人間の知覚の特徴の大まかな内容を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分	
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分	
12	知覚（２）：知覚恒常性と３次元空間の知覚		人間は外界のありのままを知覚しているのではない。授業を通して、三次元空間を行動する状況での知覚現象を紹介する。加えて授業中にこれまでの理解度の確認のために小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、人間の知覚世界は外界のありのままを見ているのではなく、脳が解釈した世界であることを理解できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、知覚恒常性などの知覚現象の人間の知覚の特徴の大まかな内容を把握し、その内容をノートにまとめて小テストに備える。	180分	
	事後学修	授業内容と小テストの内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。実施後に解説を聞いた小テストの内容を、再度復習する。	180分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	心理学の歴史（１）：心理学初期	心理学は人間の行動を研究する学問分野であるが、独立した科学研究の始まりは以外にも遅い。心理学の初期において、人間の行動をどのように理解しようとしたかの理論の歴史を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、心理学は人間の心という難題に、悪戦苦闘して取り組んできたことが理解できる。また心理学の初期に現れた学派の理論のエッセンスは、現代にも引き継がれていることを理解できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、構成主義やゲシュタルト心理学などの心理学派の特徴を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
14	心理学の歴史（２）：行動主義と認知心理学	心理学において、人間の「意識」に対する考え方は多様に変遷し、発展を遂げてきた。人間の心の研究に、行動主義と認知心理学はどのように取り組んできたかを紹介する。加えて授業中にこれまでの理解度の確認のために小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、心理学は人間の心という難題に、悪戦苦闘して取り組んできたことが理解できる。心理学の発展の歴史が理解できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、行動主義や認知心理学などの心理学派の特徴を把握し、その内容をノートにまとめ、小テストに備える。	180分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。実施後に解説を聞いた小テストの内容を、再度復習する。	180分
15	試験と振り返り	半期の授業の内容に関する試験を行い、内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、心理学は人間の多面的な心と行動に取り組む学問であることが理解できる。	
	事前学修	教科書とノートから、授業全般を復習する。	180分
	事後学修	試験で良くできなかった点を整理する。	60分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	伊藤 令枝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
「こころ」を客観的に把握することに関心をもって取り組めること。また、学習内容や授業方法等を理解した上で履修すること。

【授業方法】		
講義形式とし、パワーポイントによる提示と板書を併用する。 授業内容に応じた資料（インデックス程度）を配布する。 定期試験を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実験課題のレポートやリアクションペーパー等の提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関して、基本用語と概念をどれだけ獲得できたか定期試験によって評価する。	10	10	15	15							50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②⑤⑥に関して、実験実習や検査実習の結果を考察し、他者との討議をとおして検討したレポートによって評価する。	5	5			5	5					20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関して、授業で示された課題に関するリアクションペーパーによって評価する。	5	10	5	5	5						30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	25	20	20	10	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第4版 (Next教科書シリーズ)	和田万紀 (編)	弘文堂	2021	教科書	必携
心理学 第5版補訂版	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 (編)	東京大学出版会	2020	参考書	任意
ガイド社会心理学	田之内厚三 (編)	北樹出版	2006	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会心理学へのアプローチ	「こころ」へのアプローチと研究手法、社会心理学の学習への誘い、社会心理学の研究手法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心にアプローチすることができる。	
	事前学修	シラバスと教科書を確認しておくこと。	120分
	事後学修	学習計画や履修計画と照らし合わせて、心理学の学習の意義を熟考する。	120分
2	自己と他者（1）	自己像と自己理解、自我、自己開示と自己呈示、自己意識と防犯	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己理解を深めることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	自己について客観的に思考する。	120分
3	自己と他者（2）	アイデンティティの確立、社会性の発達、自己モニタリング	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、アイデンティティの概念を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	自分自身のアイデンティティを考察する。	120分
4	自己と他者（3）	パーソナル・スペース、テリトリ、ホーム・アドバンテージ	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、自己と他者との関係性を行動的側面から理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	対人関係について実証的に検討する。	120分
5	個性とパーソナリティ（1）	個性の理解と多様性、家系研究の危険性、相関関係と因果関係	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、個性を客観的に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	多様性について心理学的に考察する。	120分
6	個性とパーソナリティ（2）	類型論によるパーソナリティの理解とその限界、パーソナリティの記述	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤⑥に関連して、パーソナリティを客観的に測定する方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	検査法を用いて自己のパーソナリティを客観的に測定する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	援助行動		街中での援助行動とその阻害要因、傍観者効果、社会的意思決定の複雑性
	この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、援助行動の複雑性を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	社会のなかで個人行動を規定する要因について検討する。	120分
8	社会的相互作用		社会的促進と社会的抑制、社会的手抜き、ホーソン実験
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、さまざまな社会的相互作用を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	社会的相互作用について実証的に検討する。	120分
9	集団の圧力		同調と集団的圧力、集団浅慮
	この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、集団の基本的な性質を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	集団圧力について実証的に検討する。	120分
10	権力と権威		リーダーシップと勢力、権威への服従、アサーション
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、権力について心理学的に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	権威への服従について考察する。	120分
11	群集		群集心理、群集事故、没個性化、暴徒
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、群集の基本的な構造と性質を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	群集について考察する。	120分
12	集団パニック		催眠商法、火星人襲来パニック、集団催眠現象
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集団パニックの性質を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	集団催眠現象について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	災害発生時の人間行動	避難行動の特徴、避難行動におけるパニック状態、災害ユートピアと災害ディストピア	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、災害時の行動を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	正常化バイアスについて考察する。	120分
14	流言	流言の発生と伝播、災害時流言、情報リテラシー	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、流言の基本的なメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	SNSにおける情報の拡散について心理学的に考察する。	120分
15	社会的動物	環境の中での人間行動、社会と個人	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、社会の中での個々人のこころの諸側面を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	よりよい社会の構築について科学的に検討する。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	亀岡 聖朗	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
「心理学Ⅰ」を履修済であることが望ましい。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】		
講義形式。毎回、パワーポイントを使用しながら講義を行う。時間が許せば、講義について討論の時間を設ける。また、授業のテーマによっては視聴覚に訴える試み（動画視聴や簡単な心理学実験、エクササイズなど）を行うことがある。毎回、リアクションペーパーの提出を求める。定期試験を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーの提出を求める。また簡単なエクササイズや講義のテーマについて討議の時間を設けることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関して、基本用語と概念をどれだけ獲得できたかについて定期試験で評価します。	20	20			20						60
小テスト等	到達目標①②⑤に関して、3回の小テストと各授業で提出を求めるリアクションペーパーと課題を確認して、基本用語と概念の獲得の状況について評価します。	7	7			6						20
レポート等	到達目標③④⑥に関して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポート等で確認して評価します。			10	5		5					20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	27	10	5	26	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学部総合ポータルサイトや講義等でお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第4版（Next心理学シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業時にお知らせします。kameoka.seiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／「心理学Ⅱ」を学ぶ	ガイダンス、環境とのかかわりの中で人はどう行動するのか、社会心理学と臨床心理学について	
	この回の到達目標	ガイダンスを通して、「心理学Ⅱ」の内容や授業の進め方について理解すること。また、心理学を「環境とのかかわりの中で人はどう行動するか」という観点から、社会心理学や臨床心理学の領域を説明できること。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。指定の教科書を用意しておくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
2	第一印象は変えられるのか～対人関係の心理学①	対人認知、印象形成、第一印象	
	この回の到達目標	人の対人認知過程のうち、印象形成のしくみについて説明できること。	
	事前学修	教科書「第7章」の1を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
3	いっどのような人を好きになるのか～対人関係の心理学②	対人魅力、恋愛の心理	
	この回の到達目標	人の対人認知過程のうち、対人魅力の要因について説明できること。	
	事前学修	教科書「第7章」の2を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
4	コミュニケーションの手段としての「環境」～対人関係の心理学③	コミュニケーションとは、コミュニケーションの種類、プロクセミクス、プライバシー	
	この回の到達目標	コミュニケーションの定義や種類について理解し、そのうち特に非言語的なコミュニケーションの手段としての「環境」を手段として利用したコミュニケーションの実際について説明できること。	
	事前学修	自らの対人的なコミュニケーションの特徴を振り返り、特に言語に寄らないコミュニケーション手段にどのようなものがあるかを確認すること。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
5	長い物には巻かれた方がいいのか～集団の心理学① 小テスト（範囲：第1回～第4回）	集団の中の個人、社会的促進と社会的手抜き、同調の心理、服従	
	この回の到達目標	集団の中で個人がどのように行動するのかを、同調や服従の観点から説明できること。	
	事前学修	教科書「第7章」の3を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
6	都会の無関心～集団の心理学②	都会の無関心、援助行動とは、援助行動の抑制要因	
	この回の到達目標	集団の中で個人がどのように行動するのかを、援助行動の観点から説明できること。	
	事前学修	教科書「第7章」の2を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リーダーシップとフォロワーシップ～集団の心理学③	リーダーシップとは、リーダーの役割とリーダーのタイプ、リーダーシップの様々なスタイル	
	この回の到達目標	リーダーシップのスタイルを理解し、とくに現代のリーダーシップのスタイルについて説明できること。	
	事前学修	自分の身の回りのリーダーの特徴を考え、リーダーとメンバーの関係について確認すること。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
8	ストレスと心の健康～臨床の心理学①	臨床心理学とは、ストレッサーとストレス、ストレスに対する対処の考え方、ストレスモデル、対処方略	
	この回の到達目標	ストレスやストレス対処方略について説明できること。	
	事前学修	教科書「第8章」の1、2、3と「第4章」の5を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
9	心を病むとはどういうことか（神経症領域の病）～臨床の心理学② 小テスト②（範囲：第5回～第8回）	精神疾患の捉え方、神経症とは、神経症領域に該当する心の病の種類とその特徴	
	この回の到達目標	精神疾患（神経症領域）の基礎知識について理解し、それを説明できること。	
	事前学修	教科書「第8章」の4を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
10	心を病むとはどういうことか（精神病領域）～臨床の心理学③	精神病領域に該当する精神疾患の種類と特徴	
	この回の到達目標	精神疾患（精神病領域）の基礎知識について理解し、それを説明できること。	
	事前学修	教科書「第8章」の4を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
11	発達上の障害をどう捉えるか～臨床の心理学④	発達障害の特徴、主な発達障害	
	この回の到達目標	発達障害の基礎知識について理解し、それを説明できること。	
	事前学修	発達障害とはどのような状態を示すのかについて確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
12	カウンセリングの営み（精神分析理論）～カウンセリングの心理学①	カウンセリングと心理療法、フロイトによる精神分析理論、精神分析療法とは	
	この回の到達目標	精神分析理論に基づくカウンセリングの基礎知識について理解し、それを説明できること。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点を確認したり、質問できるように準備する。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	カウンセリングの営み（行動理論） ～カウンセリングの心理学②	学習のしくみに基づく行動理論、行動療法とは	
	この回の到達目標	行動理論に基づくカウンセリングの基礎知識について理解し、それを説明できること。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点を確認したり、質問できるように準備する。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
14	カウンセリングの営み（認知理論） ～カウンセリングの心理学③	認知理論、認知行動療法とは	
	この回の到達目標	教科書の関連項目を読み、不明な点を確認したり、質問できるように準備する。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点を確認したり、質問できるように準備する。	120分
	事後学修	授業中に配布された資料を整理し、見直しておくこと。	120分
15	整理とまとめ 小テスト③（範囲：第9回～第14回）	「心理学Ⅱ」の学びの振り返り	
	この回の到達目標	「心理学Ⅱ」で学んだことを振り返り、その内容について確認し、説明できること。	
	事前学修	これまでに配布した資料、教科書の該当する箇所を見直しておくこと。	120分
	事後学修	「心理学Ⅱ」の到達度を、自分自身で確認すること。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。「心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。

【授業方法】		
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。授業内試験を実施する。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックすること。 ※諸事情のため対面講義に出席できなくなった受講生は、講義はGoogle ClassroomからVODを用いて行われる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第4版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	推奨
産業・組織心理学エッセンシャルズ（第4版）	外島裕・田中堅一郎	ナカニシヤ出版	2019	参考書	推奨
有斐閣 現代心理学辞典	子安増生	有斐閣	2021	参考書	任意
備考	教科書よりも、参考書の使用頻度が多いです。				

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心理学Ⅱのガイダンス・導入講義	心理学の応用領域について	
	この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点、心理学の応用領域について理解できる。	
	事前学修	講義ノートとテキストを確認して、「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返る。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
2	応用心理学の歴史的経緯	心理学応用はいつから始まったか	
	この回の到達目標	応用心理学がどのように始まり発展してきたかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
3	ワーク・モチベーション1	科学的管理法、ホーソン研究、達成動機理論	
	この回の到達目標	仕事におけるモチベーションの歴史的経緯と基本的な用語を理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
4	ワーク・モチベーション2	期待-価値モデル、目標設定理論と目標による管理	
	この回の到達目標	ワーク・モチベーションをどうすれば高めることができるかについて、その手立てを理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
5	同調と服従	同調行動と権威への服従を実験で再現したら	
	この回の到達目標	同調行動と権威への服従を心理学の視点から理解し、ナショナリズムやホロコーストの原因について考察できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・3）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
6	説得を科学する	人を説得するのに効果的な手立てはあるか	
	この回の到達目標	効果的な説得と要請の仕方について理解し、効果的に説得するにはどうすればよいか考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・2）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リーダーシップを心理学の視点から考える 1	特性アプローチ、行動アプローチ	
	この回の到達目標	リーダーシップをリーダーの特性面と行動面から理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	リーダーシップを心理学の視点から考える 2	状況適合的アプローチ	
	この回の到達目標	効果的なリーダーシップが、リーダーを取り巻く状況へ適合できるか否かで決まることを理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
9	職業適性	「自分に合う仕事は何か」を科学する	
	この回の到達目標	職業の適性について理解し、自分自身の職業適性を考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「3 人事測定の方法」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
10	組織における意思決定の落とし穴 1	プロスペクト理論	
	この回の到達目標	日常生活における一見すると「不合理な」判断を、心理学的視点から理論的に考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	組織における意思決定の落とし穴 2	コミットメントのエスカレーション	
	この回の到達目標	経営者・運営管理者が陥る「非合理的」な意思決定について理解し、その対処法について考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
12	職場におけるストレス	ストレスとは何か、ストレスへの具体的な対処	
	この回の到達目標	ストレスに関する基本用語（例えば、ストレッサーとストレイン）を理解することができる。	
	事前学修	教科書「第4章・5」、事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法と心理学	法学における心理学の役割とは何か	
	この回の到達目標	心理学は法学にどのような貢献ができる、法学において心理学をどう応用できるか理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
14	総括	講義の総括と期末試験についての留意点	
	この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、重要なポイントについて理解することができる。	
	事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートと参考書を確認して、講義の総括と期末試験についての留意点を確認し、試験準備を行う。	120分
15	授業内試験・まとめ	心理学Ⅱの理解度を確認する。	
	この回の到達目標	これまでの心理学Ⅱの学習を総括する。	
	事前学修	14回目の講義とこれまで事前にダウンロードされたすべてのPPT資料、教科書をもう一度確認する。	210分
	事後学修	試験の解答を確認する。	30分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Ⅰを履修済み、または履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
講義を中心とする。授業中に実験実習、検査実習を行い、結果の検討、考察を行います。試験の講評等は授業内、ポータルサイト等を通じて行います。講義の出席確認、リフレクションペーパー、エクササイズ、レポート課題の提出に際して、「レスポンス」や「クラスルーム」を利用することがあります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	エクササイズ、リアクションペーパーの提出、及び実験実習、検査実習を授業中に行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、獲得した知識の確認と考察の程度を授業内試験または定期試験にて評価する。	5	5	5	5							20
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を各講義での課題提出等で評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					15	15					30
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、各授業ごとにエクササイズ、課題提出、リアクションペーパー等を確認して評価する。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学	和田万紀編著	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで。wada.maki@nihon-u.ac.jpあてに事前予約をすること。法学部から割り当てられたメールアドレスを用いて、科目名、時間割、学科、学年。学生番号、名前、を記入してwada.maki@nihon-u.ac.jpへ連絡してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	社会的動物としての人間とはどのような存在か。		授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。社会的動物としての人間存在について、社会心理学からの考え方を説明する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連して、社会心理学の視点を理解して説明することができる。	
	事前学修	評価方法などを確認する。社会的動物とは何かについて、自分の考えを記述する。	120分
	事後学修	社会的動物としての人間存在に関して、学修内容から社会心理学の視点と自分の考えの相違をまとめて記述する。	120分
2	自己認知		自己概念と自己認知、現実自己と理想自己、他人の目に映る自分の姿、という視点から、自己の姿の特徴を検討する。実験実習の結果を他者との討議を通じて検討して、自己認知の特徴を記述する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己認知と他者認知の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論づけることができる	
	事前学修	自分を意識化する、自己認知には複数の視点があることを具体例から確認して記述する。	120分
	事後学修	自己認知の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習の結果と討議からレポートを作成する。	120分
3	社会的認知		対人認知、社会的推論の形成と特徴を説明して検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通じて検討して社会的認知の特徴を一般化する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対人認知、社会的推論の特徴を社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論付けることができる。	
	事前学修	教科書、資料から、対人認知と社会的推論の特徴について社会心理学の基本用語と概念からまとめて記述する。	120分
	事後学修	対人認知、社会的推論の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習と討議を通じて結果を検討して、レポートを作成する。	120分
4	上手な自己表現（１）自己呈示		上手な自己表現とは何か、自己呈示の種類と自分の自己呈示の特徴及び対人関係への影響を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己呈示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料等から、自己呈示にはどのような様な種類があるのか、上手な自己表現、下手な自己表現とは何かについて記述する。	120分
	事後学修	誰に、自分のどのような側面を、どのような提示方法で、見せるのか。その結果対人関係はどのように変化するのかについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
5	上手な自己表現（２）自己開示		自己開示の定義、機能、対人関係への影響、自己開示と適応及び社会的スキル等について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料等から、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて記述する。	120分
	事後学修	自分にとって「上手な自己表現」とは何か、自己開示はどのように上手な自己表現に寄与するのか、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	援助行動・援助要請行動		援助行動と援助要請行動について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、援助行動と援助要請行動の生起過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
	事前学修	なぜ援助行動ができないのか、なぜ援助要請行動ができないのか、について具体例を記述する。	120分
	事後学修	援助行動が起きるまでと援助要請行動が起きるまでの心理的過程について学修内容をまとめて、援助行動、援助要請行動を起こすことができない要因を記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	攻撃行動		攻撃行動の生起要因、及び抑制要因、攻撃行動の対人機能などを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、攻撃行動の生起過程と抑制要因について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。		
	事前学修	教科書、資料等から攻撃行動の原因、生起過程、抑制要因について記述する。		120分
	事後学修	攻撃行動について学修内容をまとめて記述する。		120分
8	態度と行動		態度と行動の一貫性について、態度の定義、態度形成、態度の強度と持続性、態度変容、説得的コミュニケーション等から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、態度と行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる		
	事前学修	教科書、資料等から態度の形成 集団認知と集団間関係、態度変容、説得的コミュニケーションについて記述する。		120分
	事後学修	態度と行動の一貫性について、学修内容をまとめて記述する。		120分
9	他者の存在の影響		空気を読む、とは何か。規範の形成と種類、同調行動等について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、規範の形成と個人の行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。		
	事前学修	他者の存在により自分の判断や行動が影響を受けた例から、その原因と心理的過程、結果を記述する。		120分
	事後学修	裸の王子様の寓話について、規範の形成、同調行動から学修内容をまとめて記述する。		120分
10	集団と個人		集団と個人に関して、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団と個人に関して社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。		
	事前学修	教科書、資料から、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等について記述する。		120分
	事後学修	集団と個人について、学修内容をまとめて記述する。		120分
11	組織の特徴		組織の特徴について、リーダーシップとフォロワー、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤、日本型組織の特徴、組織の発達と終焉等について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、組織の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。		
	事前学修	教科書、資料から、組織と個人、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤等に関してまとめて記述する。		120分
	事後学修	組織の特徴について、学修内容をまとめて記述する。		120分
12	集団認知と集団間関係		集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等からその特徴を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団認知の特徴、集団間関係について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。		
	事前学修	教科書、資料等から集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等をまとめて記述する。		120分
	事後学修	集団認知の特徴と集団間関係について、学修内容をまとめて記述する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	集合行動		集合行動の特徴と没個性化について検討する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集合行動の特徴と没個性化等について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
	事前学修	教科書、資料等から、集合行動について具体例や研究例をまとめて記述する。	120分
	事後学修	集合行動の特徴と没個性化について学修内容をまとめて記述する。	120分
14	流行、流言		流行、流言についてその発生、普及、終息過程から、なぜ私たちはそれを信じるのか、を検討する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、流行や流言の発生、普及、終息過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	流行や流言に自分が影響を受けた例、受けなかった例を考えて、その理由と心理的過程を記述する。	120分
	事後学修	流行、流言について、学修内容をまとめて記述する。	120分
15	社会的動物としての人間とは何か		授業全体を振り返り、社会心理学の基本用語と概念の確認をする。そして、社会的動物としての人間とは何かについて、考察する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者の存在が個人に与える影響について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
	事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、質問等を記述する。未提出物がないかを確認する。	120分
	事後学修	到達目標について、自分の達成度をそれぞれ評価して、授業の総まとめをする。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	戸澤 純子	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
人間の心の働きを科学的な観点から理解してほしい。シラバスは授業の進行によって変更する場合がある。

【授業方法】
指定した教科書「心理学（第4版）」（弘文堂）を使用して、対面式の授業行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業中に行われる小テストと授業内最終試験において、到達目標①から⑥に関わる基本的な心理学概念、心理学理論の理解度について確認し、主として到達目標①②の視点から社会心理学理論と日常の人間の行動に関係に応用できるかを確認する。	20	20	20	20							80
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に行う実習やレスポンス等による質問に対する回答を授業参画度として評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に口頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50。問い合わせは tozawa.junko@nihon-u.ac.jp までお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス 授業内容の説明	心理学2では社会心理学にかかわる内容を主に解説する。初めに人間の社会行動に関わる基礎的な心理学研究について概説する。ガイダンスでは、心理学、社会心理学のおおまかな内容を紹介する。受講生は心理学全体のおおまかなイメージをつかむことができる。また授業のテーマや内容、成績評価の方法を説明し、教科書を紹介する。授業資料はGoogleClassroomで配布する。受講生は、これによって授業準備を円滑に行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、社会心理学という研究分野の大まかなイメージを把握できる。		
	事前学修	シラバスを確認し、教科書2ページから4ページを読んで、心理学のイメージをおおまかなイメージを自分なりにつかんでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを整理して、自分なりのまとめと要約を書いておく。		120分
2	欲求（1）：欲求の理論	人間の社会的行動をはじめ、様々な行動の原動力となるのは「欲求」である。欲求は人間の心に欠かせないものであることから、多くの研究が行われてきた。さまざまな欲求の理論のうち、マズローの欲求階層説を紹介する。		
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、マズローの欲求階層説を理解し、欲求の特徴を理解する。自分の日常生活で感じる欲求を、理論に基づいて説明することができる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、欲求の特徴についておおまかに把握し、その内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
3	欲求（2）：社会的欲求	様々な欲求は、日常でいろいろな経験を経て身につくものもある。そのような欲求を社会的欲求と呼ぶ。様々な欲求のうち、達成欲求、親和欲求などを紹介する。		
	この回の到達目標	達成欲求は、日常の言葉で言えば「やる気」である。到達目標①から⑥に関連して、やる気に関する心理学実験、心理学理論を理解して、やる気を科学的に説明することができる。		
	事前学修	指定された資料を読み、達成欲求、親和欲求などの社会的欲求をおおまかに把握し、その内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
4	欲求（3）：内発的欲求	欲求は、その目標が外にある欲求（外発的欲求）と内にある欲求（内発的欲求）とに分類することができる。この授業では内発的欲求に関わる実験と理論を紹介し、欲求に関する小テストを授業中に行う。		
	この回の到達目標	受講生は人間の様々な活動において、内発的欲求がいかに重要な働きをしているのかを理解できる。到達目標①から⑥に関連して、内発的欲求について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された資料を読み、内発的欲求はどのような特徴を持つかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめ、小テストに備える。		180分
	事後学修	授業内容と小テストの内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		180分
5	情動の理論（1）：抹消起源説と中枢起源説	情動とは、一般的な言葉で言うと「感情」に当たる。うれしい、楽しい、悲しいなどの感情を説明する代表的な心理学理論を紹介する。		
	この回の到達目標	情動の生起と説明する代表的な理論を理解できる。到達目標①から⑥に関連して、2つの情動の理論について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、情動の理論をおおまかに把握し、その内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
6	情動の理論（2）：情動2要因理論	情動は人間の脳や体内だけの問題ではなく、環境や状況にも影響されると考える理論がある。情動2要因理論に関する実験例を紹介しながら、理論の概要を説明する。加えて情動に関する小テストを行う。		
	この回の到達目標	脳や体内の生理的な変化が同一でも、異なる情動が生じることを理解できる。到達目標①から⑥に関連して、情動2要因理論について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、日常記憶はどのような特徴を持つかをおおまかに把握し、その内容をノートにまとめ、小テストに備える。		180分
	事後学修	授業内容と小テストの内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会行動（１）：同調行動		この回から社会心理学の内容を紹介する。社会心理学は人間の日常生活での様々な行動に対する疑問を解明する心理学分野である。日常よく見受けられる「同調行動」をテーマとして、社会心理学のエッセンスを学ぶ。	
	この回の到達目標	同調行動の特徴について理解できる。到達目標③④に関連して、同調行動には長所と短所があることを、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書を読み、同調行動の内容をおおまかに把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
8	社会行動（２）：説得的コミュニケーションに関わる諸要因		説得のためのコミュニケーションは、日常でも広告、CM、選挙など多くの応用例がある。説得を効果的に行うための心理学研究が数多く行われてきた。この授業では、それらの心理学研究から示された説得的コミュニケーションに関わる諸要因について紹介する。	
	この回の到達目標	説得にはさまざまな要因が関係していることを理解できる。到達目標①②に関連して、人間はいかに多くの説得を受けているのか、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、説得的コミュニケーションの概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
9	社会行動（３）：説得の技法		説得技法を利用した販売法は、心理学の理論に基づいて説明することができる。この授業では、効果的な説得技法とそれらを説明する心理学理論を学ぶ。	
	この回の到達目標	代表的な説得技法とそれを説明する心理学理論を学ぶ。到達目標①②に関連して、それらの説得技法について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、説得技法の概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
10	社会行動（４）：対人魅力に関する諸要因		人を好きになる心理（対人魅力）を学ぶ。人を好きになる心理に関わる要因は多数ある。この授業では、対人魅力にかかわる代表的な要因について紹介する。	
	この回の到達目標	人は近くにいる人を好きになる、自分に似た人を好きになるなど、対人魅力にかかわる諸要因について学ぶ。到達目標①②に関連して、対人魅力にかかわる諸要因について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、対人魅力の概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
11	社会行動（５）：対人魅力の理論		人を好きになる心理（対人魅力）を学ぶ。人を好きになる心理に関わる要因は多数ある。この授業では、対人魅力にかかわる代表的な理論について紹介する。	
	この回の到達目標	対人魅力には先の授業で紹介した「情動」の理論も密接にかかわる。到達目標①②に関連して、対人魅力を説明する理論について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、対人魅力を説明する理論の大まかな内容を把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分
12	社会行動（６）：内集団と外集団		人が集団で社会生活を送るうえで、自分の所属する集団は内集団、所属しない集団は外集団である。集団の一員となったときに生じる心理に関する代表的な心理学理論について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、内集団と外集団の心理を学ぶ。集団の心理について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。		
	事前学修	指定された教科書のページを読み、集団の心理に関して大まかな内容を把握し、その内容をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会行動（7）：集団による意思決定	集団で決定した内容は、一人で決定した内容としばしば大きな違いが生まれる。集団での意思決定について、代表的な心理現象について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、集団での意思決定、その過程にかかわる諸要因を学ぶ。集団での意思決定について、自分の経験と照らし合わせながら説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、集団での意思決定の特徴を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
14	社会行動（8）：流行の理論	ファッションやゲームなど、様々な分野で流行が発生する。流行が生じる心理過程や、説明する心理学理論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、流行の現象とそれを説明する理論を学ぶ。流行の心理について自分の経験と照らし合わせながら説明できる。	
	事前学修	指定された教科書のページを読み、流行現象の概要を把握し、その内容をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を整理して、ノートにまとめる。よく理解できた点、疑問点を分けて整理する。	120分
15	試験と振り返り	主に社会行動で紹介した授業の内容に関する試験を行い、内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑥に関連して、心理学は人間の多面的な心と行動に取り組む学問であることが理解できる。	
	事前学修	教科書とノートから、授業全般を復習する。	180分
	事後学修	試験で良くできなかった点を整理する。	60分

科目名	数学 I	担当者	川根 深	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
数学は、自然現象を理解できるだけでなく、人間の社会活動においても論理的思考に大いに役立つことは言うまでもない。この授業では、文系理系問わず現代社会の複雑なシステム（例えば、インターネットなど）を理解していく上で必要な数学的思考を身につけるを目指す。特に、初等関数（2次関数、3次関数、指数関数、対数関数、三角関数など）の基本的な性質と計算及び、微分積分の性質と計算を通して、数学の論理的な思考を身につけることに重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法学はあまり数学的な思考を必要としないと考える人が多いように思える。しかし、現代社会の仕組みは十分に数学的に構成されている。法律もまたそうである。この授業では、数学的な論理思考を通して、社会の仕組み（日本国憲法、法律など）をしっかりと理解し、いろいろな問題に対処できる社会人としての問題解決力の素養を身につけることを目的とする。

【履修条件】
高校時代、数学I、数学IIの授業を受けているのが望ましい。

【授業方法】
対面授業を基本とする 講義資料、レポートはgoogle classroomを用いて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数式の計算、方程式と不等式、について理解し、課題を解く方法を指摘することができる。							2					
②	初等関数のグラフが描け、初等関数の性質を理解し説明できる。							2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。								2				
④	学修者は、文章化された問題を数学的に定式化し、論理的に解くことができる。						2						
⑤	現代社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、それを論理的に思考し解決できる。					2			2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、達成度を2回の授業内試験で確認して評価する。	15	15	4	4	2						40
小テスト等	到達目標①②に関して、授業の基礎事項のについて理解しているか小テストを行い評価する。	5	5									10
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとに知識の獲得の程度をレポートで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解答を次回に示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生の数学リテラシー	岩本悌治、佐々木隆幸、飯島徹穂	共立出版	2004	参考書	推奨
数学入門	石村園子	共立出版	2004	参考書	任意
基礎の数学	矢野健太郎、石原繁	裳華房	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
kawane.fukashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【式の計算】	「数学I」の授業のあり方と法学の関係について簡単に説明する。また、成績評価の方法について説明する。 整式の加法・減法、因数分解、整式の除法、分数式	
	この回の到達目標	達成目標①に関して、2次式、3次式の計算が整理でき、因数分解ができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、第1回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。また、参考書等で高校で習ってきた整式の計算と因数分解、分数式の計算の確認をする。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第1回レポートの課題に取り組んで解答し、次回までに提出する。	120分
2	【方程式と不等式】	2次方程式、2次不等式 解の公式を用いた因数分解、解と係数の関係、その不等式への応用	
	この回の到達目標	達成目標①に関して、2次方程式の解の公式の導出と因数分解、その不等式への応用ができる。	
	事前学修	講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 解の公式の確認と2次不等式の解放について、参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第2回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
3	【2次関数、2次関数の応用】	2次関数のグラフ、2次関数の性質、頂点座標、最大・最小値	
	この回の到達目標	達成目標②に関して、2次関数のグラフが描けて、2次関数の性質を説明できる。	
	事前学修	第3回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 2次関数の性質と2次関数のグラフを参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第3回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
4	平面図形と式（1）	直線方程式、円の方程式、円と接線	
	この回の到達目標	達成度②に関して、直線方程式と円のグラフが描けて、それらの性質が説明できる。	
	事前学修	第4回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 直線方程式と円の方程式のグラフと性質を参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第4回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
5	平面図形と式（2）	不等式と領域 円の内側と外側、直線と円、2次関数と直線	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、直線と円の位置関係、そのグラフから範囲を読み取ることができる。また、不等式の示す領域をグラフに描くことができる。	
	事前学修	第5回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 円と直線のグラフから示めされた領域（範囲）を図示できるように参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第5回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
6	指数関数	指数の計算法則、指数関数の性質、指数関数のグラフ、指数方程式、指数不等式	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、指数の計算、指数関数のグラフを描くことができる。また、指数方程式を解くことができる。	
	事前学修	第6回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 指数の計算法則、指数関数のグラフについて参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第6回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	対数関数	対数の計算法則、対数関数の性質、対数関数のグラフ、対数方程式、対数不等式	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、対数の計算、対数関数のグラフを描くことができる。また、対数方程式を解くことができる。	
	事前学修	第7回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 対数の計算法則、対数関数のグラフについて参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第7回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
8	中間試験 1 (45分) 中間試験の解説 (45分)	第1回から第7回までの講義内容に関する確認のための中間試験 (式と計算、方程式と不等式、2次関数、直線方程式と円、不等式と領域、指数関数、対数関数) 中間試験をダウンロードして時間内に解答して提出する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関して、45分間の試験で第1回から第7回までの内容について理解度を確認する。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義資料とレポート内容をしっかりと見返して理解できていない単元を押させる。	120分
	事後学修	中間試験の内容を確認するとともに、理解が乏しいと思われる単元をもう一度確認して知識の整理を行う。	120分
9	三角関数 (1)	三角比、弧度法、三角関数の性質、三角関数のグラフ	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、三角比の計算ができ、角度を弧度法で明記できる。三角関数のグラフが描ける。三角関数の性質を説明できる。	
	事前学修	第9回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 三角比の計算、三角関数のグラフと性質について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第9回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
10	三角関数 (2)	加法定理、2倍角・半角の公式、和積の公式、三角関数の合成	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、加法定理の計算、2倍角・半角公式の計算、和積の公式の計算ができる。	
	事前学修	第10回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 加法定理の仕組みを参考書等で確認し計算に取り組む。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第10回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
11	微分法 (1)	関数の極限、平均変化率、微分係数、導関数	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、関数の極限値の計算ができる。整式の微分係数と導関数が計算できる。	
	事前学修	第11回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 関数の極限値の計算、整式の微分について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第11回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
12	微分法 (2) 微分の応用	接線と法線の方程式、関数の増減とグラフ	
	この回の到達目標	達成目標②に関して、接線方程式が求められる。関数の増加減少をグラフを描き説明できる。	
	事前学修	第12回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 接線方程式、関数の増減表とグラフを参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第12回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	積分法（１）	不定積分、定積分	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、整式の不定積分の計算、定積分の計算ができる。	
	事前学修	第13回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 整式の不定積分の計算、定積分の計算について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第13回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
14	積分法（２） 積分の応用	定積分と微分、定積分と面積、回転体の体積	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関して、定積分と微分の関係が説明できる。2つの関数で囲まれた部分の面積が計算できる。	
	事前学修	第14回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 整式の定積分の計算と面積の関係、2つの関数で囲まれた部分の面積の計算について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第14回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
15	期末試験(45分) 期末試験の解説(45分)	第9回から第14回までの講義内容に関する確認のための期末試験 (三角関数、加法定理、微分法、積分法)	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関して、45分間の試験で第9回から第14回までの内容について理解度を確認する。	
	事前学修	第9回から第14回までの講義資料とレポート内容をしっかりと見返して理解できていない単元を押させる。	120分
	事後学修	期末試験の内容を確認するとともに、理解が乏しいと思われる単元をもう一度確認して知識の整理を行う。	120分

科目名	数学Ⅱ	担当者	川根 深	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会の科学技術の発展は目を見張るものがある。それに伴い科学技術の特許や著作権を守るための法律の整備が急速に進んでいる。この授業では、それを踏まえて科学発展に必要なコンピュータの基礎ともなっている数列や線形代数について学んでいく。特に、数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、また、集合と論証について学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会事象を数学で表現して処理するために、基本的な知識の定着と発展、応用を目的として、数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と論証を学ぶことを通して、応用展開を行う力を修得する。

【履修条件】
前期 数学Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
対面授業を基本とする 講義資料、課題レポートはgoogle classroomを用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と命題について理解し、課題を解く方法を指摘できる。							2					
②	数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と命題について理解し、課題を解く方法を理解して、発展問題に応用できる							2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。								2				
④	文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。						2						
⑤	社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。					2							
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤について、2回の授業内試験で確認して評価する。	15	15	4	4	2						40
小テスト等	到達目標①②について、授業の基礎事項を理解しているかを小テストで評価する。	5	5									10
レポート等	各授業ごとに、達成目標①②③④⑤について、レポートで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解答をオンラインで掲載する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
kawane.fukashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス 数と集合	【ガイダンス】授業の進め方、成績評価について説明する。 【数と集合】いろいろな数、複素数、実数、無理数、有理数などを集合的に考察し、学修する数列や線形代数の概要を簡単に説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、数の種類を集合という概念で分類分けできる。また、その数の性質を説明できる。		
	事前学修	第1回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
2	数列（1） 等差数列	等差数列 例えば、偶数、奇数といった等差数列の一般項と初項から第n項までの和について、等差数列を特徴づける初項と公差を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、等差数列の一般項を求めることができ、初項から第n項までの和を求めることができる。		
	事前学修	第2回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
3	数列（2） 等比数列	等比数列 等比数列の一般項と初項から第n項までの和について、等比数列を特徴づける初項と公比を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、等比数列の一般項を求めることができ、初項から第n項までの和を求めることができる。		
	事前学修	第3回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
4	平面ベクトル（1） 平面座標、ベクトルの演算	平面ベクトル ベクトルの演算（和とスカラー倍）、ベクトルの成分		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ベクトルの和と差が計算できる。ベクトルの成分表示から具体的にベクトル大きさと向きをx-y平面上に描くことができる。		
	事前学修	第4回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
5	平面ベクトル（2） 内積、図形への応用	ベクトルの内積の定義と計算、ベクトルの平行と垂直、図形への応用		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内積の計算ができる。ベクトルの平行条件と垂直条件を説明できる。三角形や平行四辺形への応用ができる。		
	事前学修	第5回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
6	空間ベクトル（1） 空間座標、ベクトルの成分	3次元空間における座標、空間ベクトルの成分、空間ベクトルの演算		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、空間ベクトルの和と差が計算できる。空間ベクトルの成分表示から具体的にベクトル大きさと向きをx-y-z空間に描くことができる。		
	事前学修	第6回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	空間ベクトル（2） 内積、直線・平面方程式	空間ベクトルの内積の計算、空間座標における直線方程式・平面方程式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、空間ベクトルの内積が計算できる。空間座標での直線方程式と平面方程式が求められる。	
	事前学修	第7回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
8	中間試験（45分） 中間試験の解説（45分）	第1回から第7回までの内容について授業内中間試験（45分）を行う。 数と集合、等差数列、等比数列、平面ベクトル、空間ベクトル 中間試験の解説を行う（45分）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、数列、ベクトルの基本的な内容が説明できる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義資料とレポートの内容を再確認する。	120分
	事後学修	中間試験の内容で、理解度が乏しい単元について再度、参考書等で確認してしっかりと理解を深める。	120分
9	行列（1） 行列の定義、行列の演算	行列の定義、行列の演算（和とスカラー倍）、行列の積	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行列の和と差の計算ができる。行列の積の計算ができる。	
	事前学修	第9回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
10	行列（2） 逆行列、行列式	転置行列、正方行列の行列式の定義、逆行列の定義	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、転置行列が求められる。正方行列の行列式が計算でき、逆行列が求められる。	
	事前学修	第10回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
11	連立1次方程式（1） 消去法、基本変形	連立1次方程式 行列表示、基本変形、消去法（掃き出し法）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、連立1次方程式の行列表示ができる。基本変形で解くことができる（掃き出し法）	
	事前学修	第11回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
12	連立1次方程式（2） 逆行列、クラメルの公式	連立1次方程式の逆行列を用いた解法、クラメルの公式による解法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、逆行列を求めて連立1次方程式が解くことができる。クラメルの公式を用いた行列式の計算で解くことができる。	
	事前学修	第12回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	集合と論証（１） 部分集合、和集合、補集合	集合と要素、部分集合、共通部分、和集合、補集合	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、集合と要素を説明できる。部分集合、和集合、補集合を分けて説明できる。	
	事前学修	第13回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
14	集合と論証（２） 命題と条件	命題の真偽、必要条件・十分条件、逆・裏・待遇、背理法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、命題の真偽の判定ができる。命題の逆・裏・待遇が説明できる。命題の背理法による証明ができる。	
	事前学修	第14回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
15	期末試験（45分） 期末試験の解説（45分）	第9回から第14回までの内容の確認するための期末試験（45分）を行う。 行列、連立1次方程式、集合と論証 期末試験の解説を行う（45分）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、行列、連立1次方程式、集合と論証について基礎的内容が説明できる。	
	事前学修	第9回から第14回までの講義資料とレポートの内容を再確認する。	120分
	事後学修	期末試験の内容で、理解度が乏しい単元について再度、参考書等で確認してしっかりと理解を深める。	120分

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	土井 孝典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式を基本とするが、授業毎のリアクションペーパーを通じて得られる学生からの疑問や意見を反映させることで、双方向性をもたせた授業をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。					2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。								2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。						2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。							2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。							2					
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を実施し、到達目標①②③④⑤について、理解度を評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて、課題にみられた特徴や学生からの疑問点等についてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
集中講義精神分析・上	藤山直樹	岩崎学術出版社	2008	参考書	推奨
集中講義精神分析・下	藤山直樹	岩崎学術出版社	2010	参考書	推奨
図解雑学フロイトの精神分析	鈴木晶	ナツメ社	2001	参考書	推奨
図解雑学精神分析	小谷野 博	ナツメ社	2004	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
まずはメールにてお問合せください。ddashstyle@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	臨床心理士・公認心理師として様々な臨床領域での実務経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		臨床心理士・公認心理師としての様々な領域での臨床実務経験にもとづいて、精神分析学に関する知識を教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション・精神分析学を概観する		「精神分析学」とはいかなる学問であるかを概観する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、精神分析が自己理解・他者理解に有益であること、その誕生や社会に与えた影響、その後の発展等の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「精神分析」というもののイメージが自分なりにもてるよう、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析」と、授業で概観されたイメージとの違いを認識し、整理する。		120分
2	精神分析の誕生		人間のこころの病への理解と治療方法がいかなる歴史的変遷をたどってきたかを概観し、精神分析が誕生した意義を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、人間のこころの病への理解と治療方法がいかなる歴史的変遷をたどってきたかを理解し、そのなかで精神分析が誕生した意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「こころの病」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「こころの病」と、授業で概観された「こころの病」の歴史的変遷との違いを認識し、整理する。		120分
3	フロイトの生涯		精神分析を創始したフロイトの生涯を概観することで、精神分析理論が誕生する経緯や時代背景及び精神分析が世界各地へ広がっていった経緯を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、精神分析を創始したフロイトの生涯を理解し、精神分析理論が誕生する経緯や時代背景及び精神分析が世界各地へ広がっていった経緯を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「フロイトの生涯」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フロイトの生涯」と、授業で概観された「フロイトの生涯」との違いを認識し、整理する。		120分
4	フロイトの患者と精神分析の発見		精神分析の理論が患者との治療過程で発見され洗練されていったプロセスを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、精神分析の理論が患者との治療過程で発見され洗練されていったプロセスを理解し、説明することができる。		
	事前学修	「フロイトの患者」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フロイトの患者」と、授業で概観された「フロイトの患者」との違いを認識し、整理する。		120分
5	無意識のあらわれ方：錯誤行為、夢、こころの病		無意識のあらわれとしての錯誤行為、夢、こころの病について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無意識のあらわれとしての錯誤行為、夢、こころの病について理解し、説明することができる。		
	事前学修	「錯誤行為、夢、こころの病」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「錯誤行為、夢、こころの病」と、授業で概観された「錯誤行為、夢、こころの病」との違いを認識し、整理する。		120分
6	無意識の構造		フロイトが提唱した無意識の構造に関するいくつかの視点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フロイトが提唱した無意識の構造に関するいくつかの視点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「無意識の構造」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「無意識の構造」と、授業で概観された「無意識の構造」との違いを認識し、整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	フロイトの発達論	フロイトは人の精神発達を小児性欲の発達との関係で捉えていたことを概観し、小児性欲の発達と精神発達、またこころの病の形成との関係を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フロイトは人の精神発達を小児性欲の発達との関係で捉えていたことを理解し、小児性欲の発達と精神発達、また、そのプロセスとこころの病の形成との関係を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「小児性欲」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「小児性欲」と、授業で概観された「小児性欲」との違いを認識し、整理する		120分
8	転移の発見	フロイトが転移を発見したことにより、精神分析が質的、方法的に発展したことを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フロイトが転移を発見したことにより、精神分析が質的、方法的に発展したことを理解し、説明することができる。		
	事前学修	「転移」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「転移」と、授業で概観された「転移」との違いを認識し、整理する。		120分
9	精神分析の設定、訓練	精神分析が治療法として確立していく過程で、一定の設定と訓練方法が確立されていったプロセスを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、精神分析が治療法として確立していく過程で、一定の設定と訓練方法が確立されていったプロセスを理解し、説明できる。		
	事前学修	「精神分析の設定、訓練」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析の設定、訓練」と、授業で概観された「精神分析の設定、訓練」との違いを認識し、整理する。		120分
10	フロイト以後 1（フェレンツィ、ユング）	フロイト以後の精神分析の発展について、フェレンツィ、ユングの理論を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、フェレンツィ、ユングの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「フェレンツィ、ユング」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フェレンツィ、ユング」と、授業で概観された「フェレンツィ、ユング」との違いを認識し、整理する。		120分
11	フロイト以後 2（アンナ・フロイト、メラニー・クライン）	フロイト以後の精神分析の発展について、アンナ・フロイト、メラニー・クラインの理論を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、アンナ・フロイト、メラニー・クラインの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」と、授業で概観された「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」との違いを認識し、整理する。		120分
12	フロイト以後 3（ビオン、ウィニコット）	フロイト以後の精神分析の発展について、ビオン、ウィニコットの理論を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、ビオン、ウィニコットの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「ビオン、ウィニコット」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「ビオン、ウィニコット」と、授業で概観された「ビオン、ウィニコット」との違いを認識し、整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	精神分析と文化、ユングの言語連想法		精神分析はこころの治療の技法のみならず、人の文化的営みの分析にも適用された事例を概観し、精神分析が世界の見方に及ぼした影響を理解する。また、深層心理を知るための検査であるユングの言語連想法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、精神分析はこころの治療の技法のみならず、人の文化的営みの分析にも適用された事例を概観し、精神分析が世界の見方に及ぼした影響を理解し、説明できる。また深層心理を知るための検査であるユングの言語連想法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「精神分析と文化、言語連想法」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析と文化、言語連想法」と、授業で概観された「精神分析と文化、言語連想法」との違いを認識し、整理する。		120分
14	全体的な振り返りと補完		第1～13回の講義を振り返るとともに、リアクションペーパーから得られた学生からの疑問に答える形で授業内容を補完する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第1～13回の講義内容及び補完された講義内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業1～13回を復習し、疑問点等を整理する。		120分
	事後学修	授業1～13回および補完された事項について整理し、理解を定着させる。		120分
15	授業内試験と解説		授業内試験を行い、講義内容の習熟度を評価する。また、試験後、試験内容についての解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、講義内容の理解度を授業内試験により把握し、解説を受けることにより、理解できなかった点について理解し、説明できる。		
	事前学修	授業1～13回および補完された事項について整理し、理解を定着させる。		120分
	事後学修	試験内容の解説と自身の試験回答とすり合わせ、理解が不十分だった点について復習し、理解を定着させる。		120分

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	土井 孝典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式を基本とするが、授業毎のリアクションペーパーを通じて得られる学生からの疑問や意見を反映させることで、双方向性をもたせた授業をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。					2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。								2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。						2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。							2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。							2					
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を実施し、到達目標①②③④⑤について、理解度を評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて、課題にみられた特徴や学生からの疑問点等についてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
集中講義精神分析・上	藤山直樹	岩崎学術出版社	2008	参考書	推奨
集中講義精神分析・下	藤山直樹	岩崎学術出版社	2010	参考書	推奨
図解雑学フロイトの精神分析	鈴木晶	ナツメ社	2001	参考書	推奨
図解雑学精神分析	小谷野 博	ナツメ社	2004	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
まずはメールにてお問合せください。ddashstyle@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	臨床心理士・公認心理師として様々な臨床領域での実務経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		臨床心理士・公認心理師としての様々な領域での臨床実務経験にもとづいて、精神分析学に関する知識を教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション・精神分析学を概観する		「精神分析学」とはいかなる学問であるかを概観する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、精神分析が自己理解・他者理解に有益であること、その誕生や社会に与えた影響、その後の発展等の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「精神分析」というもののイメージが自分なりにもてるよう、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析」と、授業で概観されたイメージとの違いを認識し、整理する。		120分
2	精神分析の誕生		人間のこころの病への理解と治療方法がいかなる歴史的変遷をたどってきたかを概観し、精神分析が誕生した意義を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、人間のこころの病への理解と治療方法がいかなる歴史的変遷をたどってきたかを理解し、そのなかで精神分析が誕生した意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「こころの病」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「こころの病」と、授業で概観された「こころの病」の歴史的変遷との違いを認識し、整理する。		120分
3	フロイトの生涯		精神分析を創始したフロイトの生涯を概観することで、精神分析理論が誕生する経緯や時代背景及び精神分析が世界各地へ広がっていった経緯を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、精神分析を創始したフロイトの生涯を理解し、精神分析理論が誕生する経緯や時代背景及び精神分析が世界各地へ広がっていった経緯を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「フロイトの生涯」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フロイトの生涯」と、授業で概観された「フロイトの生涯」との違いを認識し、整理する。		120分
4	フロイトの患者と精神分析の発見		精神分析の理論が患者との治療過程で発見され洗練されていったプロセスを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、精神分析の理論が患者との治療過程で発見され洗練されていったプロセスを理解し、説明することができる。		
	事前学修	「フロイトの患者」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フロイトの患者」と、授業で概観された「フロイトの患者」との違いを認識し、整理する。		120分
5	無意識のあらわれ方：錯誤行為、夢、こころの病		無意識のあらわれとしての錯誤行為、夢、こころの病について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無意識のあらわれとしての錯誤行為、夢、こころの病について理解し、説明することができる。		
	事前学修	「錯誤行為、夢、こころの病」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「錯誤行為、夢、こころの病」と、授業で概観された「錯誤行為、夢、こころの病」との違いを認識し、整理する。		120分
6	無意識の構造		フロイトが提唱した無意識の構造に関するいくつかの視点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フロイトが提唱した無意識の構造に関するいくつかの視点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「無意識の構造」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「無意識の構造」と、授業で概観された「無意識の構造」との違いを認識し、整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	フロイトの発達論		フロイトは人の精神発達を小児性欲の発達との関係で捉えていたことを概観し、小児性欲の発達と精神発達、またこころの病の形成との関係を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フロイトは人の精神発達を小児性欲の発達との関係で捉えていたことを理解し、小児性欲の発達と精神発達、また、そのプロセスとこころの病の形成との関係を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「小児性欲」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「小児性欲」と、授業で概観された「小児性欲」との違いを認識し、整理する		120分
8	転移の発見		フロイトが転移を発見したことにより、精神分析が質的、方法的に発展したことを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フロイトが転移を発見したことにより、精神分析が質的、方法的に発展したことを理解し、説明することができる。		
	事前学修	「転移」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「転移」と、授業で概観された「転移」との違いを認識し、整理する。		120分
9	精神分析の設定、訓練		精神分析が治療法として確立していく過程で、一定の設定と訓練方法が確立されていったプロセスを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、精神分析が治療法として確立していく過程で、一定の設定と訓練方法が確立されていったプロセスを理解し、説明できる。		
	事前学修	「精神分析の設定、訓練」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析の設定、訓練」と、授業で概観された「精神分析の設定、訓練」との違いを認識し、整理する。		120分
10	フロイト以後 1（フェレンツィ、ユング）		フロイト以後の精神分析の発展について、フェレンツィ、ユングの理論を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、フェレンツィ、ユングの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「フェレンツィ、ユング」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「フェレンツィ、ユング」と、授業で概観された「フェレンツィ、ユング」との違いを認識し、整理する。		120分
11	フロイト以後 2（アンナ・フロイト、メラニー・クライン）		フロイト以後の精神分析の発展について、アンナ・フロイト、メラニー・クラインの理論を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、アンナ・フロイト、メラニー・クラインの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」と、授業で概観された「アンナ・フロイト、メラニー・クライン」との違いを認識し、整理する。		120分
12	フロイト以後 3（ビオン、ウィニコット）		フロイト以後の精神分析の発展について、ビオン、ウィニコットの理論を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、フロイト以後の精神分析の発展について、ビオン、ウィニコットの理論を理解し、説明できる。		
	事前学修	「ビオン、ウィニコット」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「ビオン、ウィニコット」と、授業で概観された「ビオン、ウィニコット」との違いを認識し、整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	精神分析と文化、ユングの言語連想法		精神分析はこころの治療の技法のみならず、人の文化的営みの分析にも適用された事例を概観し、精神分析が世界の見方に及ぼした影響を理解する。また、深層心理を知るための検査であるユングの言語連想法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、精神分析はこころの治療の技法のみならず、人の文化的営みの分析にも適用された事例を概観し、精神分析が世界の見方に及ぼした影響を理解し、説明できる。また深層心理を知るための検査であるユングの言語連想法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	「精神分析と文化、言語連想法」に関して、インターネット、本、映画、漫画など、媒体は問わないので関心をもって触れてみる。		120分
	事後学修	事前学修でイメージしていた「精神分析と文化、言語連想法」と、授業で概観された「精神分析と文化、言語連想法」との違いを認識し、整理する。		120分
14	全体的な振り返りと補完		第1～13回の講義を振り返るとともに、リアクションペーパーから得られた学生からの疑問に答える形で授業内容を補完する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第1～13回の講義内容及び補完された講義内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業1～13回を復習し、疑問点等を整理する。		120分
	事後学修	授業1～13回および補完された事項について整理し、理解を定着させる。		120分
15	授業内試験と解説		授業内試験を行い、講義内容の習熟度を評価する。また、試験後、試験内容についての解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、講義内容の理解度を授業内試験により把握し、解説を受けることにより、理解できなかった点について理解し、説明できる。		
	事前学修	授業1～13回および補完された事項について整理し、理解を定着させる。		120分
	事後学修	試験内容の解説と自身の試験回答とすり合わせ、理解が不十分だった点について復習し、理解を定着させる。		120分

科目名	生命の科学 I	担当者	白川 由佳	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、目に見えないミクロな視点から生命現象を支えるメカニズムについて概説する。我々の生命活動を支えているさまざまな事象について、基本的な生物学の知識を学びながら、その仕組みや意味、そして必要性についての理解を深める。また、近年、生命科学分野の技術は急速な発展が続いており、私たちの日常生活にも影響を与えている。こういった先端技術の原理についても容易に理解できるよう、基礎的な知識の習得にとどまらず、講義の中では身近な実例やエピソードも取り上げ、目に見えないミクロな現象がどのようにしてマクロな生命現象につながるのかについても解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
生命科学に関する基礎的な知識の習得と、日常生活にあふれている生命や健康に関する情報について、講義を通して習得した知識や理論を用いて説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
スライドを用いた講義形式で行う。参考資料は必要に応じ配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容についてのリアクションペーパーの提出を課すことが有る。回答や課題に対するフィードバックは、次回において行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命科学に関する基礎的な知識を基に、生命現象の仕組みについて説明ができる。				2	2						
②	生命科学に関わる技術から受けている恩恵や影響を認識し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	現代社会における生命科学の役割について考え、その問題点について議論できるようになる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容の理解度を評価する。	10	10									20
小テスト等	毎回の授業終了時に実施する小テストやリアクションペーパーによって、生命科学に関わる基礎知識が身についているか確認する。	30	30									60
レポート等	期末レポートを課し、生命科学に対する理解と説明能力の習得度合いを評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業終了時に実施する小テスト・リアクションペーパーの回答・解説については次の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考書等については適宜講義の中で紹介する。				

【オフィスアワー】
メール（shirakawa.yuka86@nihon-u.ac.jp）にて随時受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/生命とは？	本講義で取り扱う内容や評価方法について説明する。また、本講義における生命とはどのようなものを対象としているか、概説する。	
	この回の到達目標	本講義で扱う内容について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	シラバスを確認し、生命科学という学問がどのようなものであるか調べておく。	60分
	事後学修	配付資料を復習し、新しく学んだ内容・用語を整理しておく。	90分
2	生物の体をつくる細胞	生命の最小単位である細胞の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	生物を形作る細胞の構造や機能について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第2回の講義資料を事前に確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
3	生命活動に必要なエネルギー	生命活動を維持するためには外部からエネルギーを取り入れる必要がある。本講義では生命活動とエネルギーの関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	生命活動には外部からのエネルギーが必要なことを理解し、どのようにエネルギーを得て、消費しているのか説明ができる。（到達目標①）	
	事前学修	第3回の講義資料を事前に確認するとともに、「アデノシン三リン酸（ATP）」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
4	代謝	食べ物からエネルギーを取り出す、代謝のメカニズムについて学ぶ。	
	この回の到達目標	ミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について理解し、説明できる。（到達目標①）。	
	事前学修	第4回の講義資料を事前に確認するとともに、「ミトコンドリア」、「解糖系」、「クエン酸回路」、「電子伝達系」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
5	光合成	太陽エネルギーを化学エネルギーに変換する、光合成のメカニズムについて学ぶ。	
	この回の到達目標	光合成のメカニズムについて理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第5回の講義資料を事前に確認するとともに、「葉緑体」、「クロロフィル」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
6	シグナル伝達	多細胞生物における細胞間の情報伝達の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	細胞間のシグナル伝達について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第6回の講義資料を事前に確認するとともに、第2回の内容を復習し、「シグナル伝達物質」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	神経系		神経細胞の活動と神経細胞間の情報伝達についての仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて理解し、説明できる。（到達目標①）		
	事前学修	第7回の講義資料を事前に確認するとともに、「神経細胞」、「神経伝達物質」、「活動電位」について調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分
8	ヒトの脳機能		ヒト脳の基本構造と脳機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	生命活動における脳の役割を理解し、説明できる。（到達目標①②）		
	事前学修	第8回の講義資料を事前に確認するとともに、「ヒトの脳領域」について調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分
9	外界からの情報を受容する仕組み		生物が外界の情報を取得する仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	生物が外界の情報を取得する仕組みについて理解し、説明できる。（到達目標①）		
	事前学修	第9回の講義資料を事前に確認するとともに、「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「前庭覚」について調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分
10	ホメオスタシス		ヒトがからだを調節するしくみである、ホメオスタシス(恒常性)について学ぶ。	
	この回の到達目標	ヒトが身体の状態を一定に保つ仕組みについて理解し、説明できる。（到達目標①②）		
	事前学修	第10回の講義資料を事前に確認するとともに、「ホメオスタシス」が生命活動の維持において何故重要であるかについて調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分
11	免疫(1)：自然免疫		ヒトの持つ免疫機構のうち、自然免疫の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	自然免疫について理解し、説明できる。（到達目標①）		
	事前学修	第11回の講義資料を事前に確認するとともに、「白血球」について調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分
12	免疫(2)：適応免疫		ヒトの持つ免疫機構のうち、適応免疫の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	適応免疫について理解し、説明できる。（到達目標①）		
	事前学修	第12回の講義資料を事前に確認するとともに、「B細胞」、「T細胞」、「抗体」について調べておく。		90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生物の死	生物の「死」という現象について学ぶ。	
	この回の到達目標	死という現象について、生物学的な死について理解した上で、その意味について自身の考えを説明できるようになる。	
	事前学修	第13回の講義資料を事前に確認するとともに、「アポトーシス」、「ネクローシス」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
14	前学期授業の総括/授業内試験	第1回～第13回までの講義内容に関しての総括と授業内テストを実施し、講義内容についての理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第1回～第13回までの授業内容について必要な知識を獲得し、その知識を活かすことができる。（到達目標①②）	
	事前学修	第13回までの講義内容の復習を行う。	240分
	事後学修	授業内テストの自己採点を行い、誤答箇所を明らかにしておく。	120分
15	前学期授業の総括/授業内試験の解説	授業内テストの解説を通し、前学期で学んだ内容について総括する。	
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深める。（到達目標①②③）	
	事前学修	授業内テストの誤答箇所について、これまでの講義資料を参考に復習を行う。	120分
	事後学修	試験の内容と自身の回答を振り返り、講義で学んだ内容を整理する。期末レポート課題に取り組む。	450分

科目名	生命の科学Ⅱ	担当者	白川 由佳	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講義では、目に見えないミクロな視点から生命活動がどのように制御され、調整されているかについて、生命科学の基礎的な知識を学ぶ。また、私たちの日常生活にも影響を与えている生命科学分野の先端技術についても容易に理解できるよう、講義の中では身近な事例やエピソードも取り上げ、目に見えないミクロな現象がどのようにしてマクロな生命現象につながるのかについても解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生命科学に関する基礎的な知識の習得と、日常生活にあふれている生命や健康に関する情報について、講義を通して習得した知識や理論を用いて説明・議論することができる能力の習得を目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
スライドを用いた講義形式で行う。参考資料は必要に応じ配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容についてのリアクションペーパーの提出を課すことが有る。回答や課題に対するフィードバックは、次回において行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	生命科学に関する基礎的な知識を基に、生命現象の仕組みについて説明ができる。						2	2					
②	生命科学に関わる技術から受けている恩恵や影響を認識し、それを説明することができる。						2	2	2	2			
③	現代社会における生命科学の役割について考え、その問題点について議論できるようになる。						2	2	2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容の理解度を評価する。	10	10									20
小テスト等	毎回の授業終了時に実施する小テストやリアクションペーパーによって、生命科学に関わる基礎知識が身についているか確認する。	30	30									60
レポート等	期末レポートを課し、生命科学に対する理解と説明能力の習得度合いを評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業終了時に実施する小テスト・リアクションペーパーの回答・解説については次の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考書等については適宜講義の中で紹介する。				

【オフィスアワー】
メール（shirakawa.yuka86@nihon-u.ac.jp）にて随時受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/生命とは？	本講義で取り扱う内容や評価方法について説明する。また、本講義における生命とはどのようなものを対象としているか、概説する。	
	この回の到達目標	本講義で扱う内容について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	シラバスを確認し、生命科学という学問がどのようなものであるか調べておく。	60分
	事後学修	配付資料を復習し、新しく学んだ内容・用語を整理しておく。	90分
2	生物の基本構造	ヒトを含む生物の体を構成する細胞について、その基本的な構造と機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	生物を形作る細胞の構造や機能について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第2回の講義資料を事前に確認するとともに、「細胞小器官」、「単細胞生物」、「多細胞生物」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
3	遺伝とDNA	遺伝の法則性と、遺伝情報の担い手である核酸(DNA)について学ぶ。	
	この回の到達目標	遺伝子、ゲノム、DNAの関係について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第3回の講義資料を事前に確認するとともに、「遺伝の法則」、「遺伝子」、「DNA」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
4	遺伝子発現(1)：転写	核酸が持つ情報から、どのようにして細胞や個体が形作られるのか、核酸の情報をRNAに写し取る「転写」について学ぶ。	
	この回の到達目標	遺伝子発現における転写について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第4回の講義資料を事前に確認するとともに、「メッセンジャーRNA」、「RNAポリメラーゼ」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
5	遺伝子発現(2)：翻訳	核酸が持つ情報から、どのようにして細胞や個体が形作られるのか、核酸の情報を写し取ったRNAからタンパク質を合成する「翻訳」について学ぶ。	
	この回の到達目標	遺伝子発現における翻訳について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第5回の講義資料を事前に確認するとともに、「アミノ酸」、「リボソーム」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
6	遺伝子解析技術とその応用	DNAの塩基配列情報を調べる手法について学ぶ。また、遺伝子外戚技術が活用されている事例について学ぶ。	
	この回の到達目標	遺伝子解析の手法について理解し、説明できる。（到達目標①） 遺伝子解析技術が日常生活の中でどのように活用され、どのような影響や恩恵をもたらしているのか説明できる。（到達目標②）	
	事前学修	第6回の講義資料を事前に確認するとともに、第3回～第5回の講義内容を復習しておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	遺伝子組み換え技術		遺伝子組み換え技術が活用されている研究や事例について学ぶ。
	この回の到達目標	遺伝子組み換え技術について理解し、説明できる。（到達目標①） 遺伝子組換え技術が自身の生活の中においてどのような影響や恩恵をもたらすか、自己の見解を述べることができる。（到達目標②③）	
	事前学修	第7回の講義資料を事前に確認するとともに、「クローニング」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
8	細胞周期・細胞分裂		細胞分裂の仕組みについて学ぶ。
	この回の到達目標	細胞分裂の仕組みと細胞周期について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第8回の講義資料を事前に確認するとともに、「体細胞分裂」「減数分裂」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
9	多細胞生物の発生と細胞分化		多細胞生物の受精から発生の過程と細胞の分化について学ぶ。
	この回の到達目標	発生の流れと細胞分化について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第9回の講義資料を事前に確認するとともに、第2回、第8回の講義の復習をしておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
10	がん		がんとは何か、またがんを引き起こす仕組みについて学ぶ。
	この回の到達目標	がんについて理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第10回の講義資料を事前に確認するとともに、第8回の講義内容を復習しておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
11	老化		なぜヒトは老化するのか、老化は生物としてどのような意味を持つのかについて学ぶ。
	この回の到達目標	老化の仕組みについて理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第11回の講義資料を事前に確認するとともに、「テロメア」について調べておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
12	幹細胞（ES細胞・iPS細胞）		幹細胞について学ぶ。
	この回の到達目標	ES細胞、iPS細胞について理解し、説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	第12回の講義資料を事前に確認するとともに、第9回の講義内容を復習しておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	再生医療と幹細胞技術	幹細胞技術が再生医療にどのように活用されているか学ぶ。	
	この回の到達目標	幹細胞技術が自身の生活の中においてどのような影響や恩恵をもたらすか、自己の見解を述べることができる。（到達目標②③）	
	事前学修	第11回の講義資料を事前に確認するとともに、第12回の講義内容を復習しておく。	90分
	事後学修	配付資料やノートを復習し、講義を聴講して新しく学んだことを整理しておく。	120分
14	後学期授業の総括/授業内試験	第1回～第13回までの講義内容についての総括と授業内テストを実施し、講義内容についての理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第1回～第13回までの授業内容について必要な知識を獲得し、その知識を活かすことができる。（到達目標①②）	
	事前学修	第13回までの講義内容の復習を行う。	240分
	事後学修	授業内テストの自己採点を行い、誤答箇所を明らかにしておく。	120分
15	後学期授業の総括/授業内試験の解説	授業内テストの解説を通し、後学期で学んだ内容について総括する。	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深める。（到達目標①②③）	
	事前学修	授業内テストの誤答箇所について、これまでの講義資料を参考に復習を行う。	120分
	事後学修	試験の内容と自身の回答を振り返り、講義で学んだ内容を整理する。期末レポート課題に取り組む。	450分

科目名	西洋の歴史Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ルネサンスの時代から啓蒙思想の時代に至るまでの人物や事件、思想、文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治、経済、社会、宗教、文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、ルネサンスや宗教改革や自然科学革命に関連する人物や事件・思想・文化などを理解した上で、「三時代区分問題」を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・リアクションペーパー・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルネサンスから啓蒙思想までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における時代三区分の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜 2 限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。（mabuchi.akira@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゆがめられた西洋史	西洋史で用いられる三時代区分について、その特徴と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋史における時代区分法の問題を、どのような方法で検討できるか説明できる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
	事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	西洋史とは何か	西洋史という歴史研究・教育領域での日本の特殊な歴史的背景と関係していること、また今日では西洋史という枠組みが揺らいでいることをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「西洋史」という歴史研究・教育領域と日本の特殊な歴史背景と関係、および今日における西洋史という枠組みの動揺を説明できる。	
	事前学修	西洋とは何か、また西洋史が東洋史など他の歴史とどう区別されているのか考えておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	古代・中世・近代とは何か	古代・中世・近代とは何か	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ世界に直線史観がどのような経緯で入ったのか、またどのような変容を遂げたのかを説明できる。	
	事前学修	循環史観と直線史観とは何か、また代表的なものにそれぞれどのようなものがあるか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	古代ギリシアの世界	ルネサンスの基調となった人文主義と、また、人文主義者が憧れた古代ギリシアの世界を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ギリシアの世界に憧れた理由を説明できる。	
	事前学修	古代ギリシアとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	古代ローマの世界	人文主義者が憧れた古代ローマの世界を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ローマの世界にあこがれた理由を説明できる。	
	事前学修	古代ローマとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	ルネサンスと三時代区分法	「ルネサンス」による時代三区分法の特徴とその問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ルネサンス」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	「ルネサンス」とは何か、また「ルネサンス」との呼称がついている歴史用語にどのようなものがあるかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	宗教改革とルター	宗教改革とルターの福音解釈について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ルターの説く福音信仰による個人の救いとはどういうことかを説明できる。	
	事前学修	「宗教改革」とは、何をどのように改革しようと試みたものなのかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
8	宗教改革と三時代区分	「中世」的世界観の発展したものとしてルターの宗教改革を位置づけられるか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「宗教改革」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	己（個人）の魂の革新をえるために格闘し続けてきた隠修士・修道士に、古代ローマ時代から宗教改革期までの時期にどのようなグループ（修道院・修道会）があり、どのように発展してきたかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	近代自然科学の誕生	近代自然科学の土台となっている方法と理論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ある種のキリスト教的自然観が近代科学の誕生に影響を与えていたことを説明できる。	
	事前学修	なぜイギリスでは地動説がキリスト教からの反発を受けず、ニュートンたちによって近代自然科学が確立したのかを調べたり考えたりしておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	自然・社会科学と三時代区分	法・政治・経済・社会における科学ブームとその反動を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「科学革命」・「啓蒙思想」で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	近代自然科学の成果と啓蒙思想の発展がどのように関係しているか、また17世紀から19世紀において科学的・合理的世界とは異なる（あるいは反する）思想にどのようなものがあったかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	時代三区分法の問題点	西洋史に三時代区分法を用いた場合、歴史解釈上のどのような問題が生じるかをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ三時代区分が歴史研究において深刻な問題を生じさせるのかを説明できる。	
	事前学修	「ルネサンス」「宗教改革」「科学革命」のどれによってでも、「中世」と「近代」を区分する際に、過去の実態を見誤らせられることを再確認しておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	近代歴史学の登場	西洋における歴史研究の手法や理念がどのように発展したかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法が、これまで人類が持っていた歴史研究手法とは異なり、特殊であることを説明できる。	
	事前学修	近代歴史学がどのように誕生したのか、近代歴史学はそれまでの歴史研究とどのような点で異なるかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	歴史研究の方法	近代歴史学の手法では、どのように歴史研究がなされるのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法による歴史研究の長所・可能性と短所・限界を説明できる。	
	事前学修	今日の歴史研究者が、近代歴史学に基づいて実際にどのように研究作業を遂行しているかを調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋の歴史Ⅰ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋の歴史Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フランス革命からドイツ帝国成立に至るまでの人物や事件・思想・文化などを主に取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス革命からドイツ統一までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における進歩史観の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜 2 限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。（mabuchi.akira@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	西洋史と歴史観（ガイダンス）	西洋史と種々の進歩史観の関係について、その特徴と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の歴史観が西洋史の理解を誤らせる可能性があることを説明できる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
	事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	近代歴史学の特殊性と課題	「近代歴史学」の特殊性と課題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学に対して多くの批判があり、それらがどのようなものであるかを説明できる。	
	事前学修	歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	歴史学と他の学問との違い	近代歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点を説明できる。	
	事前学修	歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるかを調べたり考えたりしてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	歴史学の視点	自分の理想や価値観といった今日の世界観を通して、過去を物語っていいのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学では、現在のためという外側からでなく、過去そのものの内側から理解することがなぜ大切であるかを説明できる。	
	事前学修	歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何かを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	フランス革命	フランス革命と進歩史観について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命が啓蒙主義や進歩史観やナショナリズムとどのように関係しているかを説明できる。	
	事前学修	フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	ナポレオン	ナポレオンに対する二つの異なる歴史像と、フランス以外のナショナルな歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかを説明できる。	
	事前学修	ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	産業革命		「産業革命」の起源と社会的影響や、自由主義・急進主義・社会主義・階級意識に基づく歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級層的な歴史観が芽生えたのかを説明できる。		
	事前学修	「産業革命」はどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように変容させる出来事だったのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
8	ウィーン体制		ウィーン体制の起こりと、ウィーン体制に関連する超民族共同体的・漸進的保守主義の歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリズム的、漸進的保守主義の歴史観が強められたことを説明できる。		
	事前学修	「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
9	1848年の革命		1848年の革命の起こりと発展、そしてこの革命で種々の歴史観の衝突したことを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことを説明できる。		
	事前学修	ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
10	イタリア統一と東方問題		イタリア統一と東方問題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、イタリア統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割についてと、東方問題がイタリア統一にどのように関係したのかを説明できる。		
	事前学修	東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。また、イタリアの統一がどのように達成されたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
11	ドイツ統一		ドイツ統一と、民族主義に根差す歴史観の発展について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割について説明できる。		
	事前学修	ドイツの統一がどのように達成されたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
12	進歩史観の根源と問題点		歴史研究において、歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑についてその根源と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋史の学びが西洋の過去の実態の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについて説明できる。		
	事前学修	西洋の歴史のこの講義の5回から11回まで学習したことを復習しておく。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	歴史学の真の目的と社会貢献	歴史の学びは今日の現代社会に役に立つのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることを説明できる。	
	事前学修	西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、ここまでの講義内容を振り返ることで再確認する。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋の歴史Ⅱ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	世界文学 I	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業のテーマに即した課題について考え、授業の理解を深めるため必要があれば質問をする（リアクションペーパーの提出） ③課題や質問について、次回の授業で説明を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で課題に取り組み、授業の理解を深めるために質問を行う（リアクションペーパーの提出）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義の理解にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他(小論文1)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	20	5	5								30
その他(小論文2)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	25	10	5								40
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最後の授業で行う小論文作成については、フィードバックを配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業の中で資料を配布し、参考文献を適宜指示する。				

【オフィスアワー】
講義に関する質問等をメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
	事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
	事後学修	配布されたプリントを読んだうえで、疑問点を抽出して調べる	120分
2	19世紀フランスの歴史と文学(1)	19世紀フランスの歴史と社会(1) 19世紀フランス文学概観(1)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	19世紀フランスの歴史と文学(2)	19世紀フランスの歴史と社会(2) 19世紀フランス文学概観(2)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀後半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	キリスト教概説(1)	キリスト教の教義、その他	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(1)	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	キリスト教概説(2)	キリスト教概説：フランス史におけるキリスト教について	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(2)	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	啓蒙思想と19世紀文学(1)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(1)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、啓蒙思想およびフランス大革命とロマン主義文学の関連について説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	啓蒙思想と19世紀文学（2）	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学（2）		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルソーの宗教観についてロマン主義文学との関わりで説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
8	啓蒙思想と19世紀文学（3）	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学（3）		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルソーの宗教観についてロマン主義文学との関わりで説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
9	啓蒙思想と19世紀文学（4）	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件および19世紀文学との関わり（1）		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
10	啓蒙思想と19世紀文学（5）	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件および19世紀文学との関わり（2）		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
11	ゾラとドレフュス事件（1）	1．ドレフュス事件の経緯① 2．ゾラの作品		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、1．ドレフュス事件の経緯の概要を把握し、 2．ゾラの作品の概要についてはその文学的位置づけを含めて、説明できる。		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
12	ゾラとドレフュス事件（2）	1．ドレフュス事件の経緯② 2．ゾラの作品		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読みかえし、疑問点を抽出しておくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゾラとドレフュス事件（３）	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』（１）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	配布されたプリントをよく読んでおくこと	120分
14	ゾラとドレフュス事件（４）	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』（２）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	配布されたプリントをよく読んでおんで理解すること	120分
15	まとめ	小論文の課題に取り組む	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で扱った作品をその社会的背景とともに理解し、それらの作品について自分なりに解釈し、その内容を説明できる	
	事前学修	小論文の準備をすること	120分
	事後学修	前期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
中国の文学に興味や関心のある者。

【授業方法】		
講義は主にスライドを用いて進めていき、ワークシートを作成してもらう。 また、中国文学を鑑賞するにあたり、作品の読解に必要な最低限の漢字、漢語、句法に関する知識の習得も目指す。 さらに、各作品が書かれた中国の歴史的、社会的背景についても学ぶ。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ワークシートの作成や議論を適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	「達成されるべき具体的行動」の①②③④に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業における質問や発言に基づいて、「達成されるべき具体的行動」の①②③④のそれぞれの能力が身に付いているのかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomにおいて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考図書等については授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応する。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp （メールを送信する際は、★を@に書き換えること。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1回 ガイダンス		授業の進め方と試験や成績評価について説明する。 中国文学（先秦～盛唐）の歴史を概観する。 辞書や参考図書について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期の講義内容と成績評価の方法を理解するとともに、中国文学の流れを大まかに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読する。		120分
	事後学修	中国の歴代王朝の歴史についてノートにまとめる。		120分
2	第2回 『詩経』を読む		西周時代の歴史を概観し、『詩経』の鑑賞を通して中国の古代歌謡に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『詩経』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	『詩経』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『詩経』の一首を10回音読する。		120分
3	第3回 『楚辞』を読む		春秋・戦国時代の歴史を概観し、『楚辞』の鑑賞を通して古代中国人の天体や宇宙観に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『楚辞』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	『楚辞』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『楚辞』の一首を10回音読する。		120分
4	第4回 『論語』を読む		『論語』の鑑賞を通して、孔子の生涯と儒教に関する基本的な理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『論語』の哲学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	『論語』と孔子について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『論語』の一節を10回音読する。		120分
5	第5回 『莊子』を読む		『莊子』の鑑賞を通して、「万物斉同」の思想に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『莊子』の哲学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	『莊子』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『莊子』の一節を10回音読する。		120分
6	第6回 『史記』を読む		秦・前漢時代の歴史を概観し、『史記』の鑑賞を通して古代中国人の伝統的な歴史観に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『史記』の編纂形式の特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。		
	事前学修	『史記』と司馬遷について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『史記』の一節を10回音読する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第7回 三曹の詩を読む	後漢・三国時代の歴史を概観し、曹操、曹丕、曹植の詩の鑑賞を通して、建安文学に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、曹操の「短歌行」の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	曹操、曹丕、曹植について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「短歌行」を10回音読する。	120分
8	第8回 王羲之の「蘭亭序」を読む	東晋時代の歴史を概観し、王羲之の「蘭亭序」の鑑賞を通して、東晋時代の文学に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「蘭亭序」の文学的特徴と書法芸術としての価値について理解し、説明することができる。	
	事前学修	王羲之の「蘭亭序」について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「蘭亭序」の一節を10回音読する。	120分
9	第9回 陶淵明の詩を読む	陶淵明の「飲酒」詩の鑑賞を通して、隠逸文学に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、陶淵明の「飲酒」詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	陶淵明について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「飲酒」詩を10回音読する。	120分
10	第10回 『世説新語』を読む	六朝時代の歴史を概観し、『世説新語』の鑑賞を通して、六朝文学に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『世説新語』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『世説新語』と劉義慶について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『世説新語』の一節を10回音読する。	120分
11	第11回 王維の詩を読む	唐時代の歴史を概観し、王維の「竹里館」詩などの鑑賞を通して、盛唐時代の自然を詠った詩に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、王維の詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	王維について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「竹里館」詩を10回音読する。	120分
12	第12回 李白の詩を読む	李白の「月下独酌」詩などの鑑賞を通して、盛唐時代の月を詠った詩に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、李白の詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	李白について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「月下独酌」詩を10回音読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第13回 杜甫の詩を読む	杜甫の「兵車行」詩などの鑑賞を通して、盛唐時代の戦争を詠った詩に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、杜甫の詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	杜甫について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、「兵車行」詩の一節を10回音読する。	120分
14	第14回 まとめ	前期の学修内容が理解できているかを確認するために筆記試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先秦時代から盛唐時代までの文学の特色をその歴史的背景とともに理解し、その内容について簡潔に記述できる。	
	事前学修	授業で配布したスライド等の資料をノートにまとめて記憶しておく。	120分
	事後学修	授業で読んだ作品を1つ選んで、それについて自分なりの解釈をまとめる。	120分
15	第15回 講評と議論	講義の内容を振り返り、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国古典文学の形式、内容、表現の特色について、時代に即して簡潔に説明できる。	
	事前学修	授業で配布したスライド等の資料をノートにまとめて記憶しておく。	120分
	事後学修	先秦時代から盛唐時代の中国文学について、前期の講義内容の復習をしておくこと。	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
英米文学に関心を持ち、双方向授業に取り組む意欲がある者

【授業方法】
英米文学について、文献や映像を用いて学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを用いて、双方向の学修を重視する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	授業にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜2限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）、もしくは、メール（宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp）にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英米文学に関する研究書、事典の執筆、出版
実務経験に基づく実践的教育の内容		英米文学に関する研究書、事典の執筆、出版経験に基づいた実践的教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション イギリス文学入門：『ハリー・ポッターと賢者の石』に見るイギリス文学の特徴		イギリス文学について概説を行い、イギリス文学について学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、イギリス文学について学ぶことの意義を説明できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、イギリス文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
2	16～17世紀：『リチャード三世』（ウィリアム・シェイクスピア） 1		中世と近代、百年戦争と薔薇戦争、エリザベス朝、イングランドの興隆、ルネサンス、革命の予感	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『リチャード三世』（シェイクスピア）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『リチャード三世』（シェイクスピア）について、自分の意見をまとめる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、『リチャード三世』（シェイクスピア）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
3	16～17世紀：『リチャード三世』（ウィリアム・シェイクスピア） 2		中世と近代、百年戦争と薔薇戦争、エリザベス朝、イングランドの興隆、ルネサンス、革命の予感	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『リチャード三世』（シェイクスピア）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『リチャード三世』（シェイクスピア）について、自分の意見をまとめる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、『リチャード三世』（シェイクスピア）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
4	17～18世紀：『ガリバー旅行記』（ジョナサン・スウィフト） 1		革命の世紀、政治学、イングランドの拡張、風刺とユーモア、植民地政策、啓蒙思想、児童文学	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ガリバー旅行記』（スウィフト）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ガリバー旅行記』（スウィフト）について、自分の意見をまとめる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、『ガリバー旅行記』（スウィフト）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
5	17～18世紀：『ガリバー旅行記』（ジョナサン・スウィフト） 2		革命の世紀、政治学、イングランドの拡張、風刺とユーモア、植民地政策、啓蒙思想、児童文学	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ガリバー旅行記』（スウィフト）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ガリバー旅行記』（スウィフト）について、自分の意見をまとめる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、『ガリバー旅行記』（スウィフト）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
6	18～19世紀：『デイヴィッド・コパフィールド』（チャールズ・ディケンズ） 1		近代と現代、ヴィクトリア朝、大英帝国、産業革命、階級格差、労働問題、貧困問題、メディアの勃興、新聞、教養小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）について、自分の意見をまとめる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	18～19世紀：『デイヴィッド・コパフィールド』（チャールズ・ディケンズ） 2	近代と現代、ヴィクトリア朝、大英帝国、産業革命、階級格差、労働問題、貧困問題、メディアの勃興、新聞、教養小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『デイヴィッド・コパフィールド』（ディケンズ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	前期前半の振り返り 中間レポート	前期前半の内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期前半に学修した内容について説明できる。	
	事前学修	前期前半の復習を行う。	60分
	事後学修	前期前半の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分
9	19～20世紀：『ボヘミアの醜聞』（コナン・ドイル） 1	シャーロック・ホームズ、ジェントルマン、ヴィクトリア朝、大英帝国、階級格差、科学と心霊主義、探偵小説と推理小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	19～20世紀：『ボヘミアの醜聞』（コナン・ドイル） 2	シャーロック・ホームズ、ジェントルマン、ヴィクトリア朝、大英帝国、階級格差、科学と心霊主義、探偵小説と推理小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『ボヘミアの醜聞』（ドイル）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	20世紀～：『日の名残り』（カズオ・イシグロ） 1	世界大戦、モダニズム、ジェントルマン、大英帝国の終焉、アメリカの台頭	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	20世紀～：『日の名残り』（カズオ・イシグロ） 2	世界大戦、モダニズム、ジェントルマン、大英帝国の終焉、アメリカの台頭	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『日の名残り』（カズオ・イシグロ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	イギリス文学の特徴と読み解き方：『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー） 1		構造主義批評、ポスト構造主義批評、精神分析学批評、マルクス主義批評、ジェンダー/フェミニズム批評、ポストコロニアリズム批評	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
14	イギリス文学の特徴と読み解き方：『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー） 2		構造主義批評、ポスト構造主義批評、精神分析学批評、マルクス主義批評、ジェンダー/フェミニズム批評、ポストコロニアリズム批評	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『フランケンシュタイン』（メアリー・シェリー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
15	前期後半の振り返り 期末レポート		前期後半の内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期後半に学修した内容について説明できる。		
	事前学修	前期後半の復習を行う。		60分
	事後学修	前期後半の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。		60分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】		
チェコの作家カレル・チャペックの戯曲『ロボット（R.U.R.）』（1920）と『白い病』（1937）を読む。前者は「ロボット」という造語を世界に広めたSFの古典。後者は戦争が迫るなか疫病に襲われた社会を鋭く描いたもの。ふたつの文学（演劇）作品を通して、ロボットやAIと人間との境界線、および両者の共生について、また疫病と社会、そして戦争について考えたい。授業は発表や意見交換を交えた演習形態でおこなう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。		2		2				
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。			2	2	2			
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。			2	2	2			
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。				2	2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験課題によって評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する（コメントシートを含む）。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評と解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ロボット	チャペック／阿部賢一訳	中公文庫	2020	教科書	必携
白い病	チャペック／阿部賢一訳	岩波文庫	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」を読むことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	120分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
3	カレル・チャペックの人と作品	カレル・チャペック（1890-1938）について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、カレル・チャペックについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	カレル・チャペックについて調べ、メモを作成する。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
4	『ロボット』 1	チャペックの戯曲『ロボット』（1920）序幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
5	『ロボット』 2	『ロボット』第1幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
6	『ロボット』 3	『ロボット』第2幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『ロボット』 4	『ロボット』 第3幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
8	『ロボット』 まとめ	『ロボット』 全体を振り返り、読み取れるテーマや問題について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	戯曲を再読し、読み取れるテーマや問題点等をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
9	『白い病』 1	チャペックの戯曲『白い病』（1937）第1幕1場～3場を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
10	『白い病』 2	『白い病』 第1幕4場～5場、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
11	『白い病』 3	『白い病』 第2幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
12	『白い病』 4	『白い病』 第3幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『白い病』まとめ	『白い病』全体を振り返り、読み取れるテーマや問題について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	戯曲を再読し、読み取れるテーマや問題点等をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
14	比較研究	『ロボット』と『白い病』を比較研究し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期で扱った文学（戯曲）作品の社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『ロボット』と『白い病』を比較し、両者から読み取れるテーマや問題の違いと共通性をメモし、作者の思考の展開等について考えておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、要点をまとめる。	120分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「世界の文学」についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	文学（戯曲）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	半期で学んだことを整理する。	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	真道 杉	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・ワークシート作成を取り入れながら進める。 ゲストスピーカーによる講義も予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ワークシート作成等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ワークシート)	授業中に質問やコメントをどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ワークシート及びレポートの講評・解説を授業あるいはClassroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜昼休み（4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	授業の進め方の説明及び授業で扱う分野の概論	
	この回の到達目標	授業の進め方及び授業で扱う分野について説明することができる。（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	シラバス確認	120分
	事後学修	ドイツ語圏における20世紀から現在の歴史についてまとめる。	120分
2	テーマ1-1 様々なメディアと文学1	様々なメディアが発信するメッセージを具体例を見ながら概観し、その中の文学が持つ特徴を考察する。	
	この回の到達目標	様々なメディアと比較した中で文学がもつ特徴について自分の意見を言うことができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
3	テーマ1-2 様々なメディアと文学2	様々な形態のメディアの中から、物語という概念を考察する。	
	この回の到達目標	物語がどのようなところにあるのか、どのような役割を果たしているのか自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
4	テーマ2-1 オーストリア文学の特徴 ウィーンと文学	ウィーンという街を例に都市空間と文学について考察する	
	この回の到達目標	テキストに描かれる社会の特徴について説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
5	テーマ2-2 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学	シュティフターが生きていた時代のウィーンの歴史的背景及びシュティフターの生い立ちを概観し、作品との関連を考察する。	
	この回の到達目標	シュティフターが生きた時代の世界の特徴と作品との関連について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで理解したことを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
6	テーマ3-1 オーストリア文学の諸相 カフカの『変身』1	フランツ・カフカの『変身』の中で描かれている主人公の観点から、主人公が生きている社会について考察する。	
	この回の到達目標	フランツ・カフカの『変身』について概略とその特徴を説明し、について意見をいうことができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ3-2 オーストリア文学の諸相 カフカの『変身』2	フランツ・カフカが生きた時代のプラハの歴史的背景及びカフカの生い立ちを概観し、作品との関連を考察する。	
	この回の到達目標	カフカについて、そして彼が生きた時代の特徴と作品との関連について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで理解したことを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
8	テーマ3-3 オーストリア文学の諸相 カフカの『掟の門』1	カフカの『掟の門』に描かれる掟について考察する。	
	この回の到達目標	カフカの『掟の門』に描かれているモチーフと人物について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
9	テーマ3-4 オーストリア文学の諸相 カフカの『掟の門』2	カフカの生涯と生きた社会と作品の関連について考察する。	
	この回の到達目標	カフカの生涯と生きた社会と作品の関連について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで理解したこと、考えてことを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
10	テーマ 4-1 戦後オーストリア文学 アイヒンガーの『より大きな希望』1	イルゼ・アイヒンガーの『より大きな希望』に描かれている世界から当時の社会と作品について考察する。	
	この回の到達目標	アイヒンガーの『より大きな希望』について、作品の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
11	テーマ 4-2 戦後オーストリア文学 アイヒンガーの『より大きな希望』2	アイヒンガーの生涯と生きた時代について作品との関連について考察する。	
	この回の到達目標	アイヒンガーの生涯及び生きた社会と作品の関連について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作者について理解したことを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
12	テーマ 4-3 戦後オーストリア文学 アイヒンガーの『縛られた男』1	イルゼ・アイヒンガー『縛られた』について考察する。	
	この回の到達目標	アイヒンガーの『縛られた男』を読んで作品について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ 4-3 戦後オーストリア文学 アイヒンガーの『縛られた男』2	イルゼ・アヒンガー『縛られた男』を例に自由について考察する。	
	この回の到達目標	『縛られた男』と自由について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
14	レポート作成 1	レポートを作成する	
	この回の到達目標	期末レポート案を練り、ポイントをおさえてレポートを作成する。	
	事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③④）	120分
	事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	レポートプレゼン＋講評	完成させたレポートについて講評	
	この回の到達目標	①②③④の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
	事前学修	レポートの作成	210分
	事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業のテーマに即した課題について考え、授業の理解を深めるため必要があれば質問をする（リアクションペーパーの提出） ③課題や質問について、次回の授業で説明を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で課題に取り組み、授業の理解を深めるために質問を行う（リアクションペーパーの提出）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義の理解にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他(小論文1)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	20	5	5								30
その他(小論文2)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	25	10	5								40
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、授業内で質問に回答する。小論文についてはポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
死刑囚最後の日	ヴィクトル・ユゴー	光文社文庫	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
	事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
2	19世紀の歴史・社会・宗教（１）	19世紀の歴史とヴィクトール・ユゴーの政治的軌跡（１）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について、説明できる	
	事前学修	フランス19世紀について、調べておくこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	19世紀の歴史・社会・宗教（２）	19世紀の歴史とヴィクトール・ユゴーの政治的軌跡（２）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史・社会・宗教について、説明できる	
	事前学修	ヴィクトール・ユゴーという作家について、その作品にどのようなものがあるか調べておくこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	『レ・ミゼラブル』について知る（１）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（１）ジャンの犯罪	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	『レ・ミゼラブル』のあらすじを理解しておくこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	『レ・ミゼラブル』について知る（２）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（２）ジャンの回心	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	『レ・ミゼラブル』と教科書『死刑囚最後の日』についてさまざまな角度から比較しておく	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	『レ・ミゼラブル』について知る（３）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（３）ミリエル司教と死刑	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、その社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	「反教権主義」（反聖職者主義）がどのようなものか、確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『レ・ミゼラブル』について知る (4)	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想 (4) フランス革命	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連において作品の特徴を説明できる	
	事前学修	フランス革命および19世紀の革命に関して調べておくこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	『死刑囚最後の日』について知る (1)	『死刑囚最後の日』の本文について (1)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書の該当する箇所を理解し、社会的背景との関連において作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読むこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	『死刑囚最後の日』について知る (2)	『死刑囚最後の日』本文について (2)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書の該当する箇所を理解し、社会的背景との関連において作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読むこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	『死刑囚最後の日』について知る (3)	『死刑囚最後の日』本文について (3)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読むこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	『死刑囚最後の日』について知る (4)	『死刑囚最後の日』の本文について (4)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読むこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	『死刑囚最後の日』について知る (5)	『死刑囚最後の日』本文について (5)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読むこと	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『死刑囚最後の日』について知る (6)	『死刑囚最後の日』本文について (6)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読んでくること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
14	『死刑囚最後の日』について知る (7)	『死刑囚最後の日』本文について (7)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	教科書の該当する箇所を読んでくること	120分
	事後学修	教科書を読み返し、小論文作成のための準備をする	120分
15	まとめ	小論文1, 2の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するために後期のまとめとして小論文を作成する中で、扱った作品について時代背景とともに理解し、その内容について説明できる。さらに自分なりに批判考証して、その内容を適切に表現できる	
	事前学修	小論文の準備をする	120分
	事後学修	後期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
中国の文学に興味や関心のある者。

【授業方法】		
講義は主にスライドを用いて進めていき、ワークシートを作成してもらう。 また、中国文学を鑑賞するにあたり、作品の読解に必要な最低限の漢字、漢語、句法に関する知識の習得も目指す。 さらに、各作品が書かれた中国の歴史的、社会的背景についても学ぶ。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ワークシートの作成や議論を適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。		2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。			2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。			2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。				2	2				
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	「達成されるべき具体的行動」の①②③④に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業における質問や発言に基づいて、「達成されるべき具体的行動」の①②③④のそれぞれの能力が身に付いているのかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomにおいて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考図書等については授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応する。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp （メールを送信する際は、★を@に書き換えること。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第1回 ガイダンス	授業の進め方と試験や成績評価について説明する。 中国文学の歴史（中唐～近代）を概観する。 辞書や参考図書について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期の講義内容と成績評価の方法を理解するとともに、中国文学の流れを大まかに説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	120分
	事後学修	中国の歴代王朝の歴史についてノートにまとめる。	120分
2	第2回 白居易の詩を読む①	唐時代（安祿山の乱以降）の歴史を概観し、白居易の諷諭詩の鑑賞を通して当時の社会状況に関する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、白居易の諷諭詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。	
	事前学修	白居易について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、白居易の諷諭詩の一首を10回音読する。	120分
3	第3回 白居易の詩を読む②	白居易の閑適詩の鑑賞を通して個人の幸福のあり方への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、白居易の閑適詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。	
	事前学修	白居易について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、白居易の閑適詩の一首を10回音読する。	120分
4	第4回 李賀の詩を読む	李賀の詩の鑑賞を通して、中唐における詩人の個性と表現の多様性を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、李賀の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。	
	事前学修	李賀について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、李賀の詩の一節を10回音読する。	120分
5	第5回 蘇軾の詩を読む	宋時代の歴史を概観し、蘇軾の詩の鑑賞を通して当時の文人の生き方への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、蘇軾の詩の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、簡潔に説明することができる。	
	事前学修	蘇軾について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、蘇軾の詩の一節を10回音読する。	120分
6	第6回 『三国演義』を読む	明時代の歴史を概観し、『三国演義』の物語構造と人物描写の特色を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三国演義』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『三国演義』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『三国演義』の一節を10回音読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第7回 『水滸伝』を読む	『水滸伝』を鑑賞し、宋江の人物描写から中国の伝統的なリーダー像について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『水滸伝』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『水滸伝』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『水滸伝』の一節を10回音読する。	120分
8	第8回 『西遊記』を読む	『西遊記』を鑑賞し、荒唐無稽な物語の中にある精密な論理を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『西遊記』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『西遊記』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『西遊記』の一節を10回音読する。	120分
9	第9回 『菜根譚』を読む	『菜根譚』を鑑賞し、現在の日本においても広く受け入れられている処世訓を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『菜根譚』の哲学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『菜根譚』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『菜根譚』の一節を10回音読する。	120分
10	第10回 『紅樓夢』を読む	清時代の歴史を概観し、『紅樓夢』の豊かな文章表現、濃厚な人物描写、緻密な物語展開を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『紅樓夢』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	『紅樓夢』について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、『紅樓夢』の一節を10回音読する。	120分
11	第11回 魯迅の『狂人日記』を読む	清末民初の歴史を概観し、魯迅の『狂人日記』の鑑賞を通して、儒教的な家制度と礼教の弊害について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『狂人日記』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	魯迅について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、魯迅の『狂人日記』の一節を10回音読する。	120分
12	第12回 老舎の『駱駝祥子』を読む	中華民国期の歴史を概観し、老舎の『駱駝祥子』の鑑賞を通して、中国近代文学における人力車夫の表象について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、老舎の『駱駝祥子』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	老舎について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、老舎の『駱駝祥子』の一節を10回音読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第13回 巴金の『寒夜』を読む	巴金の『寒夜』を鑑賞し、夫婦の愛情が破綻していく描写から中国の家制度を再考する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、巴金の『寒夜』の文学的特徴とその歴史的背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	巴金について、漢和辞典やインターネットなどで調べてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業のスライドを見直して講義内容を復習するとともに、巴金の『寒夜』の一節を10回音読する。	120分
14	第14回 まとめ	後期の学修内容が理解できているかを確認するために筆記試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中唐時代から現代までの文学の特色をその歴史的背景とともに理解し、その内容について簡潔に記述できる。	
	事前学修	授業で配布したスライド等の資料をノートにまとめて記憶しておく。	120分
	事後学修	授業で読んだ作品を1つ選んで、それについて自分なりの解釈をまとめる。	120分
15	第15回 講評と議論	講義の内容を振り返り、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期で読んだ中国文学の特色について、時代に即して簡潔に説明できる。	
	事前学修	授業で配布したスライド等の資料をノートにまとめて記憶しておく。	120分
	事後学修	中唐時代から近代の中国文学について、後期の講義内容の復習をしておくこと。	120分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
英米文学に関心を持ち、双方向授業に取り組む意欲がある者

【授業方法】
英米文学について、文献や映像を用いて学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを用いて、双方向の学修を重視する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	授業にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜2限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）、もしくは、メール（宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp）にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英米文学に関する研究書、事典の執筆、出版
実務経験に基づく実践的教育の内容		英米文学に関する研究書、事典の執筆、出版経験に基づいた実践的教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション アメリカ文学入門：『スターウォーズ』に見るアメリカ文学の特徴	アメリカ文学について概説を行い、アメリカ文学について学ぶ意義を明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ文学について学ぶことの意義を説明できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、アメリカ文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
2	アメリカの原点：『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン） 1	自由、無垢、ヒーロー、文明、若さ、人種差別		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
3	アメリカの原点：『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン） 2	自由、無垢、ヒーロー、文明、若さ、人種差別		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『ハックルベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
4	ゴシック小説：『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー） 1	ゴシック、南北問題、科学、推理小説と探偵小説		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
5	ゴシック小説：『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー） 2	ゴシック、南北問題、科学、推理小説と探偵小説		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『アッシャー家の崩壊』（エドガー・アラン・ポー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	
6	ピューリタン：『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン） 1	ゴシック、ピューリタン、保守主義、宗教、性、罪		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）について説明できる。		
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）について、自分の意見をまとめる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ピューリタン：『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン） 2	ゴシック、ピューリタン、保守主義、宗教、性、罪	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『緋文字』（ナサニエル・ホーソーン）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	後期前半の振り返り 中間レポート	後期前半の内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期前半に学修した内容について説明できる。	
	事前学修	後期前半の復習を行う。	60分
	事後学修	後期前半の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分
9	保守と開放：『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ） 1	南北問題、保守主義、無垢、性	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	保守と開放：『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ） 2	南北問題、保守主義、無垢、性	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『欲望という名の電車』（テネシー・ウィリアムズ）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	黒人問題：『カラーパープル』（アリス・ウォーカー） 1	黒人問題、文明と自然、ポストコロニアリズム	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	黒人問題：『カラーパープル』（アリス・ウォーカー） 2	黒人問題、文明と自然、ポストコロニアリズム	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『カラーパープル』（アリス・ウォーカー）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アメリカ文学の特徴と読み解き方：『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド） 1	構造主義批評、ポスト構造主義批評、精神分析学批評、マルクス主義批評、ジェンダー/フェミニズム批評、ポストコロニアリズム批評	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	アメリカ文学の特徴と読み解き方：『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド） 2	構造主義批評、ポスト構造主義批評、精神分析学批評、マルクス主義批評、ジェンダー/フェミニズム批評、ポストコロニアリズム批評	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）について説明できる。	
	事前学修	事前に指示された資料を熟読し、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）について、自分の意見をまとめる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、『グレート・ギャツビー』（スコット・フィッツジェラルド）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	後期後半の振り返り 期末レポート	後期後半の内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期後半に学修した内容について説明できる。	
	事前学修	後期後半の復習を行う。	60分
	事後学修	後期後半の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】		
ロシアの作家アントン・チェーホフ（1860-1904）の『かもめ』（1896）と『桜の園』（1904）を読み、発表や意見交換を交えた演習形態の授業をおこなう。 『かもめ』は『四大戯曲（演劇）』のうち最初に、『桜の園』は最後（最期）に書かれた作品。両者とも「四幕の喜劇」と副題付きだが、演出したスタニスラフスキーは「悲劇」としか思えなかった。そんな作品を作者はなぜ「喜劇」とみなしたか。戯曲としての『可能性の中心』はどこにあるのか。履修者と考えたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。					2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。						2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、課題（小論文）によって評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）かつ適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する（コメントシートを含む）。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評と解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、もしくは授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
かもめ	チェーホフ／浦雅春 訳	岩波文庫	2010	教科書	必携
桜の園／プロポーズ／熊	チェーホフ／浦雅春 訳	光文社古典新訳文庫	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」を読むことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	120分
2	アントン・チェーホフについて	ロシアの作家 アントン・チェーホフ（1860-1904）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、アントン・チェーホフについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	ロシアの作家 アントン・チェーホフについて調べ、メモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
3	『かもめ』 1	『かもめ』第1幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
4	『かもめ』 2	『かもめ』第2幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
5	『かもめ』 3	『かもめ』第3幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
6	『かもめ』 4	『かもめ』第4幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『かもめ』まとめ	『かもめ』全体についての意見交換と、一部の「読み合わせ」をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を見直し、読み取れるテーマや問題についてメモする。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
8	『桜の園』 1	『桜の園』第1幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
9	『桜の園』 2	『桜の園』第2幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
10	『桜の園』 3	『桜の園』第3幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を見直し、読み取れるテーマや問題についてメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
11	『桜の園』 4	『桜の園』第4幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
12	『桜の園』 まとめ	『桜の園』全体についての意見交換と、一部の「読み合わせ」をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を見直し、当該箇所を音読練習をおこなう。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	比較研究	『かもめ』と『桜の園』を比較し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『かもめ』と『桜の園』を比較し、共通性と差異性についてメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
14	テーマ設定と小論文	小論文課題と論文作法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文作法について説明することができる。	
	事前学修	半期で扱った二つの作品から読み取れるテーマや問題について整理しておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	120分
15	小論文試験と半期の振り返り	小論文試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「世界の文学」についての小論文試験に論文作成できる。	
	事前学修	「世界の文学」についての小論文作成作業を完成させる。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	60分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜昼休み（4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス ドイツ語圏文学概論		20世紀ドイツ語圏文学の背景と文学の特徴を概観する。	
	この回の到達目標	20世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③④）。		
	事前学修	シラバス確認		120分
	事後学修	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる。		120分
2	テーマ1-1 ナチスとドイツ文学1 エーリヒ・フリート『ナチスの陰の子供時代』1		エーリヒ・フリート『ナチスの陰の子供時代』を例に第2次世界大戦前後の文学について考察する。	
	この回の到達目標	エーリヒ・フリート『ナチスの陰の子供時代』について自分の意見が言える。（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）		120分
3	テーマ1-2 ナチスとドイツ文学2 エーリヒ・フリート『ナチスの陰の子供時代』2		エーリヒ・フリートの生涯と生きた時代と作品の関連性について考察する。（関連SB0s①②③④）	
	この回の到達目標	エーリヒ・フリートの生涯と生きた時代と作品の関連性について説明し、自分の意見が言える。		
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）		120分
4	テーマ2-1 カフェ文化と文学1		ウィーンのカフェ文学を概観し、リヒャルド・ミクリーンのカフェについての文章をもとにカフェの持つ役割について考察する。	
	この回の到達目標	ミクリーンのテキストに描かれているカフェの特徴と社会における役割と効果について自分の考えを述べるができる。（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）		120分
5	テーマ2-2 カフェ文化と文学2		ペーター・アルテンベルクとイルゼ・アイヒンガーの短編を題材に、カフェ文学の特徴について概観する。	
	この回の到達目標	カフェ文学の特徴について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	予習教材と関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）		120分
6	テーマ3-1 ノンフィクション文学1		ナチスと白バラの運動について概観し、インゲ・ショルの『白バラは散らず』の成立について講義、ノンフィクション文学について考察する。	
	この回の到達目標	白バラと『白バラは散らず』について説明することができる。（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ3-2 ノンフィクション文学2	『白バラは散らず』を読んで、そこに書かれている内容について自分の考えを述べ、他の人の意見についてレビューをする。	
	この回の到達目標	『白バラは散らず』を読んで考察した内容を説明し、他の人の考えについてコメントすることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
8	テーマ4-1 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後1 ギュンター・アイヒ	ナチスのプロパガンダと言語について概観し、戦後ドイツ語に起こった言語と文学の危機についてギュンター・アイヒの詩を例に考察する。	
	この回の到達目標	ナチス時代とその後のドイツ語の状況について説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
9	テーマ4-2 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後2 ツェラーン	ツェラーンの詩を例に戦後のドイツ語文学について考察する。	
	この回の到達目標	第二次世界大戦後のドイツ語圏文学の特徴について、具体的な作品を通じて説明することができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
10	テーマ5-1 グリム童話はどう読まれたか1	グリム童話の成立と作品の特徴とドイツ語圏の受容について考察する。	
	この回の到達目標	グリム童話について新しく得た知見について説明できる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
11	テーマ5-2 グリム童話はどう読まれたか2	グリム童話の背景を踏まえてテキストを読む。	
	この回の到達目標	グリム童話について具体的にテキストに言及しながら自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
12	テーマ6-1 過去を振り返る1： ティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』1	ティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』を例にアイコンとしてのヒトラーと時代を考察する。	
	この回の到達目標	時代背景を踏まえて、『帰ってきたヒトラー』について自分の意見を述べることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ6-2 過去を振り返る2：ティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』2	ティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』から時代によるヒトラーの作品におけるヒトラーの扱われ方を考察する。	
	この回の到達目標	時代背景を踏まえて、『帰ってきたヒトラー』について自分の意見を述べることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③④）	120分
14	レポート作成	作成するレポートについて章立てと参考文献について検討する。	
	この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、レポートを作成する。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	レポートのプレゼンテーションと講評	完成させたレポートの発表と講評	
	この回の到達目標	①②③④の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
	事前学修	レポートの作成	210分
	事後学修	自分の発表内容を自己評価して、改善点をまとめる。	30分

科目名	総合講座A【芸術/文学/思想と「危機」】	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「社会文化学の挑戦」（水3限）・「芸術/文学/思想と〈危機〉」（金3限）それぞれのテーマに対して、複数の教員がそれぞれの専門分野をバックグラウンドに講義を行う。学際的なアプローチを行うことにより、それぞれのテーマを多角的に扱い、考察をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を表す一形式としての文化という観点から社会文化に親しむ習慣を身につけ、ものごとを複眼的視点から見、自律的に分析・評価することができる能力を修得する。

【履修条件】
必ず初回に出席し、成績評価の方法・課題レポート作成の注意点を理解すること。

【授業方法】
ゲストを含む複数の講師が共通テーマに基づき、それぞれ専門分野を背景に講義をおこなう。適宜、ビデオ・画像等を用いる。アクションシート作成、及びレポート作成を通じて各論について考察を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業ごとにアクションシート作成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人文学・社会科学・自然科学の領域横断的それぞれの領域の方法を動員し、学際的な思考と「知」の総合化の獲得の重要性を理解できる。				2		2	2				
②	現代社会において重要であると考えられる諸課題を、学際的かつ複眼的に分析・検討すべきものとして見出すことができる。				2	2	2					
③	授業で扱う問題やテーマへの理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	①②③に関する各能力が身についているかを、3回のレポートによって評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)/適切に行ったかを基準に、①③に関する各能力が身についているかを評価する	5		5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を各区分の翌週以降に配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業の質問はClassroom上で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講師の実践的な経験に基づき、各授業ごとに反映	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義 【真道 杉】	共通テーマ「芸術/文学/思想と「危機」」に関する概論と、受講の仕方についての説明	
	この回の到達目標	テーマについての概要を理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	120分
	事後学修	授業の内容をノートにまとめる。	120分
2	「『平家物語』巻七「忠度都落」 (1)：死を覚悟した別れ」【小野 美典】	源氏の進撃に耐えきれず都落をする平氏の中の武将・平忠度の物語を読む	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、巻七「忠度都落」の概要が理解でき、物語の文学性について説明できるようになる。到達目標の③に関連して、教員・他の学生の意見に対して自身の意見を客観的に述べることができる。	
	事前学修	『平家物語』の概要を調べておく	120分
	事後学修	資料を読み直し、巻七「忠度都落」のストーリーが説明できるようにしておく。	120分
3	『平家物語』巻七「忠度都落」 (2)：作り上げられる武将像【小野 美典】	『平家物語』の諸本に目を向けて忠度の武将像の造形を考える	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、「諸本」という考えが理解でき、諸本間の武将像の造形の差異が説明できるようになる。到達目標の③に関連して、教員・他の学生の意見に対して自身の意見を客観的に述べることができる。	
	事前学修	諸本の異同について整理しておく	120分
	事後学修	源平の争乱の中に巻き込まれた一武将の生き方から、物語作者が何を言いたかったのかを整理しておく。	120分
4	フランソワ・ラブレーとルネサンス —信仰の危機と人間性の回復 (1) 【石橋正孝】	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景にフランソワ・ラブレーとその著作について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーについて自分の意見を伝えることができる	
	事前学修	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
	事後学修	講義で扱った本文を再度読み直し、バフチンの参考書と照らし合わせながら、生命の喜びと生命の死を文化の創造と破壊のサイクルに当てはめて読み直す。	120分
5	フランソワ・ラブレーとルネサンス —信仰の危機と人間性の回復 (2) 【石橋正孝】	バフチンの理論を参照しながら、唯名論争、宗教革命をキーワードにフランソワ・ラブレーを読む。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーとルネサンスについて自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	唯名論争、宗教革命について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
	事後学修	講義で扱った本文を、講義で学んだ歴史的・文化的文脈の中で再度読み直し、中世から近代への移行をもたらした要因について考察する。	120分
6	戦争の責任は誰にある？—シェイクスピアの戦争論 (1) 【松山 博樹】	ウィリアム・シェイクスピアの歴史劇『リチャード三世』(1597)に描かれた戦争の在り様について、考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、ウィリアム・シェイクスピアの『リチャード三世』について、自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	1週間前までに配布される課題プリントに取り組んでおく。	120分
	事後学修	次週に備え、講座の振り返りを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦争の責任は誰にある？－シェイクスピアの戦争論（2）【松山 博樹】	前週の講座を批判的に振り返り、ウィリアム・シェイクスピアの歴史劇『リチャード三世』（1597）に描かれた戦争の在り様について、再考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、ウィリアム・シェイクスピアの『リチャード三世』について、自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	前週の講座で得た知見を、現在の国際状況に照らし合わせ、自分の意見をまとめる。	120分
	事後学修	講座の振り返りを行い、現在の国際状況について、自分の意見をまとめる。	120分
8	人間主義の危機（1）：ピーター・シンガーの動物（動物は平等である）【吉澤 保】	人間主義（人間の尊厳、人権思想など）こそが現実の差別、不平等をしりぞけるための強力な根拠となる。その一方で人間主義は人間以外のものを客体、手段におとしめる可能性をもつ。人間主義を種差別として批判しながら、オーストラリア出身の功利主義応用倫理学者シンガーは、苦痛を感じる動物の利益への平等な配慮を主張する。シンガーを世界的に有名にした『動物の解放』（1975）の第一章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①②に関連して、シンガーについて自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	シンガー、動物解放、アニマル・ライツ、アニマル・ウエルフェア、功利主義などについて調べる。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。生産的な質問を考える。	120分
9	人間主義の危機（2）：ジル・ドゥルーズの出来事（出来事は平等である）【吉澤 保】	近代において平等の理念が掲げられたが、その理念は人間という種にとどまった。シンガーはそれを動物にまで拡張しようとした。さらに生物、環境にまで拡張する思想も登場した。フランスの哲学者ドゥルーズは出来事こそが平等であると主張する。これは一見それまでの平等主義の拡張のようにも見えるが、決してそうではない。あらゆる差別主義をしりぞけるそのオリジナルな哲学の一端を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①②に関連して、ドゥルーズについて自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	リーガン、レオポルド、生命中心主義、生態系中心主義について、また、ドゥルーズ、ポスト構造主義、出来事、生成、内在などについて、調べる。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。生産的な質問を考える。	120分
10	「弥助」：危険の時代における人間生活を考察する（1）【ロックリー・トーマス】	織田信長の黒人家臣「弥助」の生涯について概観し、日本の戦国時代又は当時の海外の世界の状況を考察する。日本における人間生活を異文化の観点から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、考察の観点を考え、「弥助」とその時代について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	参考本又はネット上にある論文などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
11	「弥助」：危険の時代における人間生活を考察する（2）【ロックリー・トーマス】	織田信長の黒人家臣「弥助」の生涯についてさらに理解を深め、日本における人間生活を異文化の観点から考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、考察の観点を考え、到達目標1、2に関連して、「弥助」とその時代について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	紹介する映像/音声などを利用し、ウィーン・フィルのさまざまな演奏を聞く。さらに、授業のプリント、参考文献等を使用し、クラシック音楽文化について理解を深める。	120分
	事後学修	授業内で得た知見を整理し、レポートを執筆する。	120分
12	特別講義【ゲストスピーカー】	特別講義：造形芸術は時代の危機をどのように映すか	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、造形芸術は時代の危機をどのように映すか具体的事例をもとに自分の考えを表すことができる。	
	事前学修	造形芸術について資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で得た知見を整理し、造形芸術と危機について自分なりの考察をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	冷戦時代のオーストリア芸術運動 (1) 【真道 杉】	1960年代から90年にオーストリアでおこった芸術運動について、当時の社会と照らし合わせて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、冷戦時代のオーストリアとその時代が生んだ芸術について説明することができる。	
	事前学修	冷戦時代のヨーロッパについて調べておく。	120分
	事後学修	授業で扱った事柄について、新たに得た知見について整理する。	120分
14	冷戦時代のオーストリア芸術運動 (2) 【真道 杉】	1990年代の冷戦構造が変化した時代の芸術について、当時の社会と照らし合わせて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、1990年代のオーストリアとその時代が生んだ芸術について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業の資料を元に、1990年前後のヨーロッパについて調べておく。	120分
	事後学修	授業で扱った事柄について、新たに得た知見について整理し、考察する。	120分
15	振り返り 【真道 杉】	授業全体を振り返り、学期中に扱った事例を元に「危機」と芸術/文学/思想について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、授業内で扱ったテーマについて自分の意見を伝えることができるとともに、到達目標③に関連して、他の人の意見についてコメント（レビュー）ができる。	
	事前学修	半期の授業を振り返り、何を得たかまとめる。	120分
	事後学修	授業で学んだことを今後に活かすにはどうすればよいか考察する。	120分

科目名	総合講座A【社会文化学の挑戦】	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「社会文化学の挑戦」（水3限）・「芸術/文学/思想と〈危機〉」（金3限）それぞれのテーマに対して、複数の教員がそれぞれの専門分野をバックグラウンドに講義を行う。学際的なアプローチを行うことにより、それぞれのテーマを多角的に扱い、考察をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を表す一形式としての文化という観点から社会文化に親しむ習慣を身につけ、ものごとを複眼的視点から見、自律的に分析・評価することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にない。但し、社会文化学系ゼミナールに関心ある1・2年生には履修を推奨する。

【授業方法】
オムニバス形式の講義とし、1回ないし2回で一つのテーマを完結させる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人文学・社会科学・自然科学の領域横断的それぞれの領域の方法を動員し、学際的な思考と「知」の総合化の獲得の重要性を理解できる。						2		2	2				
②	現代社会において重要であると考えられる諸課題を、学際的かつ複眼的に分析・検討すべきものとして見出すことができる。						2	2	2					
③	授業で扱う問題やテーマへの理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかを、レポート試験によって評価する。	20	10	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関わって、リアクションペーパーにより授業への参加度・理解度を評価する。	20	10	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で受講生からのリアクションペーパーや質問への応答として実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜 4 限に原山が対応する。事前にGoogle Classroomを通じてアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション（担当：原山）	社会文化学というアプローチの意義を知るとともに、講義内容についてのイメージを作る。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、領域横断的な「知」のあり方を理解し、日常において直面する諸課題を多角的に検討することの意味を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、社会文化学とは何かを考えておく。	120分
	事後学修	講義内で扱った内容を振り返り、今後の履修と関わって自分の問題意識を整理しておく。	120分
2	前近代中国の外交・軍事と国際情勢（1）：中国王朝の天下・世界秩序（担当：伊藤）	近代以前の中国王朝が周辺・外国勢力とどのような関係を形成していたのか、そのありかたを規定する大きな要素でもあった中国における天下・世界秩序の観念を紹介しつつ、その変遷やそれぞれの特徴を概観し、現在とどのような共通点・相違点があるかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国における外交政策の歴史的な特徴を理解し、他地域や現在の国際情勢と比較することができる。	
	事前学修	高校教科書などに基づいて中国および東アジアの前近代史の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	前近代の中国王朝の外交政策とその特徴を王朝ごとに整理する。	120分
3	前近代中国の外交・軍事と国際情勢（2）：宋代中国と多国体制の時代（担当：伊藤）	中国に宋王朝が成立した10～13世紀に形成された、多国体制とも称される中国および周辺地域の国際関係の実態や、自らを取り巻く国際情勢に対する宋王朝の外交的・軍事的な姿勢を具体的な史料の読解を通じて理解するとともに、政治・社会・経済などとの関わりを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外交や軍事が政治・社会・経済などに与える影響を理解するとともに、現代社会を見通す視座を獲得することができる。	
	事前学修	「宋王朝」という言葉から連想される語について、5個以上説明できるようにする。	120分
	事後学修	10～13世紀の中国の国際関係を、他時代・他地域と比較する。	120分
4	私たちが縛るものの歴史性―歴史を学ぶことの意味(担当:大岡)	私たちの思考や行動に影響を与える諸観念のうち、いわゆる「自己責任論」を取り上げ、歴史に遡って考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会問題への文化的アプローチや歴史的に考えることの有効性を理解する。	
	事前学修	「日本人らしい振る舞い」として思いつくものをいくつかあげてください。	120分
	事後学修	プリント、ノートを復習し、理解を深めるとともに、本時の問題提起について、自分なりの考えをまとめる。	120分
5	戦争と生活―戦争社会史の射程(担当:大岡)	1930年代の社会史・民衆史の史料を読み解きながら、帝国主義や戦争、軍隊と民衆生活との関係について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦争に関する学際的な視点、方法を理解し、現代世界に向き合う自分なりの視座を獲得する。	
	事前学修	「戦争」「軍隊」という言葉から連想した語をそれぞれにつき、10個以上列挙し、メモしておいてください。	120分
	事後学修	プリント、ノートを復習し、理解を深めるとともに、本時の問題提起について、自分なりの考えをまとめる。	120分
6	詠史和歌の解釈と受容、そして研究（1）：明智光秀の「時は今」の句を題材に（担当：小野）	本能寺の変の直前に明智光秀が張行した「愛宕百韻」連歌の発句「時は今あめが下しる五月かな」を題材に、資料を厳密に読んで解釈することの重要性和面白さを学ぶ。とともに、文献批判の方法の初歩に触れてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資料を厳密に読んで立論する方法を身につけ、文献批判の方法の初歩に関して説明することが出来る。	
	事前学修	「本能寺の変」「明智光秀」「粽（ちまき）」に関して、各種参考書やウェブ上の記述などで調査し概要をつかんでおく。	120分
	事後学修	授業で扱った資料の最も妥当性の高い解釈を各自で考えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	詠史和歌の解釈と受容、そして研究 (2)：近世和歌の頼山陽『日本楽府』受容（担当：小野）		前回の明智光秀の発句「時は今」を題材とする近世後期の詠史和歌を詠むことで、頼山陽の『日本楽府』『本能寺』詩が光秀句受容に影響したことを実証的に検証する。併せて頼山陽の「蒙古来」詩の幕末和歌への受容をもとに、文学と社会・歴史の関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、頼山陽詩が近世後期の詠史和歌に与えた影響について説明できるとともに、頼山陽の歴史認識が従来にない新しさを持つことを説明することができる。		
	事前学修	「頼山陽」「日本楽府」「元寇」に関して、各種参考書やウェブ上の記述などで調査し概要をつかんでおく。		120分
	事後学修	幕末に詠史和歌が盛んに詠まれた理由について考える。また、頼山陽の「蒙古来」詩が勤王の志士たちに与えた影響について考える。		120分
8	社会問題を考える（担当：原山）		人々が認識を共有する過程は、理論的にどのように整理できるのかを考える。その際、私たちが日常の中で直面する困難を、社会問題として多くの人々と共有し、解決を図ろうとすることと、他者を「叩く」ことや人々が共有している価値観を毀損するようなネガティブな局面とのせめぎ合いに注目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、社会問題をどのように多くの人々と共有できるのかを考えた上で、自分にとっての切実なものとして向き合うべき社会問題を析出する。		
	事前学修	自分が最も重要であると考え「社会問題」を一つ選び、簡単に説明できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義資料やノートを復習しながら、自分が考え続けるべき社会問題をまとめる。		120分
9	「ステレオタイプ」を考える（1） 他者の表象から（担当：前嵩西）		商品や作品、事件や事物の解釈における「ステレオタイプ」の諸問題を、異文化と日本社会を同時に見つめる視点を通して具体的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、身近にある文化や社会に潜む等閑視されがちなイメージを分析・考察する力を養い、そのイメージを共有しない他者と理解し合う方法について説明することができる。		
	事前学修	ステレオタイプの利点と問題についてどのようなものがあるか、各自調べて整理をしておく。		120分
	事後学修	講義内で扱った事象やトピックの意義について自分の言葉で考える。		120分
10	「ステレオタイプ」を考える（2） 自己の表象から（担当：前嵩西）		商品や作品、事件や事物の解釈における「ステレオタイプ」の諸問題を、自文化と国際社会を同時に見つめる視点を通して具体的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、身近にある文化や社会に潜む等閑視されがちなイメージを分析・考察する力を養い、そのイメージを共有しない他者と理解し合う方法について説明することができる。		
	事前学修	配布資料を精読する。		120分
	事後学修	講義内で扱った事象やトピックの意義について自分の言葉で考える。		120分
11	「生きづらさ」から「曖昧な生きづらさ」へ（担当：香川）		障害学や当事者研究から現代の「生きづらさ」について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、映像資料やテキストを読解する方途を学び、考察を深めることができるようになる。		
	事前学修	自己の経験を振り返り、自他の「生きづらさ」を言語化できるようにする。		120分
	事後学修	配布資料を読む。		120分
12	「生きづらさ」と差別問題（担当：香川）		現代の多様な「生きづらさ」と差別問題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、映像資料やテキストを読解する方途を学び、考察を深めることができるようになる。		
	事前学修	配布資料を読む。		120分
	事後学修	配布資料を読む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地球環境の変化と地域性(1)：グローバルな環境変化(担当：田代)	地球規模で発生する環境変化を題材とし、これらの発生メカニズムについて近年の研究成果を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、環境に変化を起こす原因と結果の因果関係について、原理を理解した上で多角的に考察することが出来るようになる。	
	事前学修	各自の認識する地球規模での環境変化を複数挙げ、これらの関連性を考察しておく。	120分
	事後学修	授業内で取り扱った現象の発生メカニズムを理解する。	120分
14	地球環境の変化と地域性(2)：グローバルとローカルな環境変化のリンクage(担当：田代)	グローバルな空間で発生する環境変化とローカルな空間で発生する環境変化を題材とし、両者の発生メカニズムと現象としての性質を理解することで人間社会との関係を考察していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、原理や規模の異なる現象同士の関連性を理解し、これらの人間社会への影響を考察することが出来るようになる。	
	事前学修	第13回で取り扱った地球規模の環境変化に関する発生メカニズムを理解しておく。	120分
	事後学修	第13～14回を通して学んだ環境変化と人間社会の関係性を考察する。	120分
15	エピソード「問題をつくる」ことの意義(担当：原山)	講義全体を振り返りながら、自らにとって向き合うべき「問題」の所在がどこにあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の中でも、特に③と関連し、自分が考えていくべき「問題」を見出すことができる。	
	事前学修	過去の講義内容を振り返り、自分が最も強い関心を持ったテーマを書き留め、簡単に説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	自分にとって今後も考え続けるべき「問題」をまとめる。	120分

科目名	総合講座B【ジェンダーから考える現代社会】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「ジェンダーから考える現代社会」をテーマとする。前半は人文・社会科学における「ジェンダー」をめぐる視点を紹介する。後半は「ジェンダーバランスに歪みのある社会」をジェンダー平等の立場から問い直す。具体的には、夫婦の氏の問題、非正規雇用などの格差社会の問題、無償労働である家事労働・育児・介護などの問題を取り上げる。これらの諸問題の解決方法を講義とディスカッションなどを通じて模索していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジェンダーの視点から現代社会の現状を分析し、将来展望も含めた今後の解決策を提案できるようにする。さらに、ジェンダー問題の背景にある社会構造、イデオロギーや歴史的文脈を問うことで、多様性を認める共生社会の在り方について理解を深める。その上で、社会問題の背後に流れるジェンダー意識を解析・理解し、現代社会の動向を的確に把握できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
【対面授業】オムニバス形式による講師陣からの問いかけを通して考えていく。ゲスト講師（講座テーマに関連する分野で知見を持つ専門家）を含む13人の講師陣が、それぞれの専門分野から講義を行う。適宜、ビデオ・画像等を用いる。講義の中での学生同士の話し合い、質問時間等を設ける。毎回、リアクションペーパーの記入を課題とする。最終回は総括としてディスカッションを中心に進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。学生同士の話し合い、ディスカッション、リアクションペーパーの記入、質問タイムを設定する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジェンダー概念を理解し、概念形成の背景を論理的に説明できる。		2	2	2	2			
②	①に関連して、現代社会における諸問題を抽出し、それらについて分析できる。		2	2	2	2			
③	①と②を総合して、現代社会の諸問題の解決に向けて、自らの解決策を説明し、他者と共有できる。		2	2	2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、レポートによって評価する。	20	20	10								50
討論・発表等	発表・質問への応答やディスカッション等が適切にできたかを基準に、到達目標③に関わる能力および態度が身についているかを評価する。			10								10
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②が達成できているかについて、リアクションペーパーによって評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～13:00（場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ゲストスピーカーにおける社会経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業における労働問題への対応の経験	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義/言語を通して考えるジェンダー	前半は各回の授業内容について説明をする。「ジェンダーから考える現代社会」に関する問題提起をする。後半は、身の回りで使用されている言語にあらわれるジェンダーを捉えながら、社会におけるジェンダーのあり方や、構築のプロセスを分析・考察する。とりわけ、ジェンダーを規定する「ことばの力」を批判的に検討し、より多様なジェンダーのあり方に開かれた社会へ向け課題を見出す。【黒滝 真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの目標の具体的な内容を理解し、その達成に向けてどのように学修すればよいかが説明できる。また、ジェンダーを決定する言語使用のストラテジーを分析し、言語とジェンダーの関係について論理的に意見を述べることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、特に興味をもった内容に関して調べておく。	120分
	事後学修	配布された参考文献に関して、興味あるものを選んで読んでおく。さらに、講義内容を踏まえ、言語性差を引き起こしてきた歴史・社会・文化の背景についてまとめる。	120分
2	ジェンダー学とその射程	ジェンダー学の多様性と汎用性、ジェンダー概念とそれを考えるにあたっての用語に関する考察【江島 泰子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダー学の範疇とその可能性について説明できる。	
	事前学修	あなたのジェンダー概念に照らして、社会のさまざまな事象（芸術作品、マンガ・アニメ等も含む）のなかで気にかかること、疑問に思うことについてメモしておくこと。	120分
	事後学修	講義で何を学んだかを整理し、ジェンダー概念をめぐる自らの問題意識について説明できるようにする。	120分
3	歴史で考えるジェンダー	「女らしさ」「男らしさ」が歴史的にどのように形成され、どのような意味を持ったか。このことを近代の働き方や家族のあり方との関係で考える。【大岡 聡】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「歴史で考える」ことの重要性を理解する。	
	事前学修	200年前・100年前・50年前の家族は、それぞれどのようなものであったとイメージしますか。自分が抱いているイメージを箇条書きで書いてください。	120分
	事後学修	講義を受講して、自らの認識にどのような変化があったかをまとめなさい。	120分
4	現代社会への問いとしてのジェンダー	「性別役割分業」が根強く存在してきた日本社会を、それが解体／克服されようとする過程とともに見ていく。さらに、この過程で問われねばならない、日常生活のあり方、個の確立の問題を考えながら、「ジェンダー」が孕む、現代社会そのものを問い直す契機を捉える。【原山 浩介】	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連して、今日の社会が抱えるジェンダーに関わる諸課題を理解する。	
	事前学修	「性別役割分業」について、事典や書籍を参考にしながら、その意味を箇条書きにしておいておく。	120分
	事後学修	授業内容を参考に、今日の社会において最も重要であると考えられるジェンダーに関わる問題を取り上げ、その内容をまとめる。	120分
5	「男らしさ」を問う	現在「女らしさ」や「女子力」という概念がもたらす圧力が問われる一方で、男性もまた「男らしさ」という価値観に縛られてきたことが注目されている。本講義では、男性をめぐるイメージがどのように歴史的に形作られてきたか、文化的な面に注目しながら考えていく。それは、多様な男性性があることの発見にもつながる。【熊谷 謙介(ゲスト講師)】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、男性史の観点からジェンダーについて説明できる。	
	事前学修	軍隊や企業といった「男性」集団に支配的な文化から、スポーツやゲームに至るまで、わたしたちの社会にあるのに見えるにくくなっている「男らしさ」を模索しておく。	120分
	事後学修	講義を受講して、自らの認識にどのような変化があったかをまとめる。	120分
6	東アジアで／から考えるジェンダー	韓国や台湾において、ジェンダーをめぐる諸問題が、どのように認識され、いかなる克服のための挑戦が続けられているのかについて、冷戦期／権威主義体制期という＜過去＞との時間的な連続性に目配りしながら紹介する。それは、日本におけるジェンダー問題を複眼的に捉えるべく広がりとお興行のある視座を提供するものとなる。【小林 聡明】	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連して、東アジア、とりわけ韓国や台湾の文脈から、今日のジェンダーをめぐる課題を把握し、その克服に向けた試みについて理解する。	
	事前学修	東アジアの社会状況について、新聞などのメディアを活用し、また、関連する文献にもあたって、何が起きているのか、なぜ、起きているのかについて、自分なりに考えを整理しておくこと。	120分
	事後学修	東アジアで、そして、東アジアからジェンダーを考えることは、どのような意味と可能性を有しているのかについて、授業内で提示した文献を手がかりに、自らの問題意識を磨き、今、ここにある現実に対する鋭敏な感覚を養うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	LGBTの人権運動の今		性的マイノリティの連帯を示す概念であるLGBTの人権運動の現状を紹介する。LGBについては同性パートナーシップ制度の現状や「婚姻平等」（同性婚の法制化）をめぐる裁判の状況、Tについては性別移行の脱精神疾患化にともなう「GID特例法」の改正問題など、最新の動向を解説する。【三橋 順子(ゲスト講師)】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、LGBTの観点からジェンダーについて説明できる。		
	事前学修	日本においても2015年くらいからLGBTの人権運動が活発化したが、新聞記事などからLGBTについて触れられている記事を探してみよう。		120分
	事後学修	講義を受講して、自らの認識にどのような変化があったかをまとめる。		120分
8	雇用の場で考えるジェンダー		雇用分野におけるジェンダー不平等を表すいくつかの指標や事例を提示し、なぜ、こうした不平等が今なお解消されないのかを考えるとともに、現在の法制度の課題と望ましいあり方を検討する。【藤井 直子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、雇用分野におけるジェンダー課題および法制度上の問題点を理解し、説明できる。		
	事前学修	あなたが考える雇用分野の「男性像」と「女性像」に違いはあるのかを考えておく。たとえば、職種・賃金・労働時間・部長などの管理職を考えると、「男性像」「女性像」は同じなのか違うのか。		120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、雇用の場面でのジェンダー課題に対して、何が求められるのか、また、望ましい社会のあり方は何かを考え、まとめる。		120分
9	海外の視点から フランスの法政策にみる“ジェンダー平等”		海外の視点から フランスは、“ジェンダー平等”を実現するためにどのような法政策をとっているのかについて学び、女性やLGBTQの人々にとって生きやすい社会なのかを検討する。【神尾 真知子(ゲスト講師)】	
	この回の到達目標	①②③に関連して、フランスは、女性やLGBTQの人々に対して“ジェンダー平等”を保障する、どのような法政策をとっているのか、“ジェンダー平等”の視点で見るとフランスの法政策にはどのような課題があるのかについて説明できる。		
	事前学修	フランスはどのような国か、人口などの基本的な情報を収集して、整理しておく。		120分
	事後学修	フランスの家族政策やカップルに関する法政策を踏まえて、日本の法政策が、女性に“自由な選択”を保障しているのか、LGBTQの人々に“平等”を保障しているのか、批判的に検討する。		120分
10	ジェンダー視点から考えるケア		近年、注目を集めているケアの倫理について、ジェンダー研究の視点から学修する。なぜフェミニズム研究の中からケアに関する理論が生まれたのか、ジェンダー視点からケアを考えることはなぜ重要なのか、そしてケアの倫理が私たちの社会をどのように変化させていくのか学ぶ。【杉本 竜也】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ケアの倫理の理論的概要やそれが構想された経緯、そしてそれが社会をどのように理解し、どのような未来を構想しているのか説明することができる。		
	事前学修	これまでの回で学んできたさまざまなジェンダー研究の内容を復習しておく。そして、それらに共通する要素について、まとめる。		120分
	事後学修	ケアの倫理に関する研究が求められるようになった背景を理解して、その理由について考える。そして、それを踏まえて、現代社会の問題点について考える。		120分
11	結婚をクイアに考える		男女二人の結びつきだけを法的に保護するのはなぜだろう？結婚により守られるのは何だろう？同性婚の可能性のみならず、ケアし合う関係への法的保護を考察することで、現在の婚姻制度を「クイアに」再検討していく。【松島 雪江】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法は婚姻制度により何を守ろうとしているのかを理解し、制度上の問題点を説明できる。		
	事前学修	以下の点につき、各自まとめておく。①結婚のイメージ、②結婚すると何が変わるか、③結婚で得すること何か、④結婚に必要な条件		120分
	事後学修	婚姻制度を通じて法が守るべきものは何かについて、複数の論点を示しながら自分の考えをまとめる。		120分
12	結婚と「氏」の選択		家族にとっての「氏」が果たす役割を考える。「氏」の持つ歴史的意味を考え、これからの家族について考える。【大杉 麻美】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国における氏の歴史的変遷をながめるとともに、最近の選択的夫婦別姓制度導入に関する議論を理解する。		
	事前学修	民法750条を読んで、結婚時に氏を選択するということについて調べておく。		120分
	事後学修	わが国において、「氏」はどのように捉えられるべきか。家族にとって、わたくしたちにとって、氏はどのような役割を果たしているのか、まとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の子育て支援	日本における子育て支援策を学習し、その課題を検討する【橋爪 幸代】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における子育て支援施策について説明できる。	
	事前学修	日本における子育て支援策について調べ、どのような課題があるかをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義から学んだことを整理し、日本における子育て支援施策における課題とそれに対する解決策を考える。	120分
14	高齢者ケア（介護）の担い手を考える	高齢者のケア（介護）は、長らく、家族（家庭内の女性）の役割と捉えられてきた。しかし、共働き家庭の増加や晩婚化等により、家族形態も多様化した現代においては、介護の担い手不足が深刻化し、今や、高齢者介護は若者も含めたあらゆる世代が直面する課題である。この講義では、高齢者ケアを誰が担い、そのための支援としてどのような制度・仕組みが必要かを考えてみたい。【矢田 尚子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多様化する介護と家族の在り方についての実状を理解し、制度上の課題について説明できる。	
	事前学修	「地域包括ケアシステム」、「介護保険制度」、「扶養」、「特別な寄与分制度」について調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	レジュメにそって、講義内容を復習し、講義の中で示した家族と介護の在り方について書かれた著作を読んでみる。	120分
15	【総括】プレゼンテーションとディスカッション	レポートの内容を発表した後でディスカッションを行う。到達目標①②③の確認をし、解説を行う。【黒滝 真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、プレゼンテーションを行うことで、「ジェンダーから考える現代社会」の諸問題の理解を深め、これらについて、ジェンダーの視点と関連させて自分なりの見解を述べ、改善策を提案できる。到達目標①②③それぞれが達成できているかをディスカッションのなかで再検討し、自分なりの検証結果を述べることができる。	
	事前学修	「ジェンダーから考える現代社会」に関して現在の日本が抱える諸問題について、自分なりの見解をまとめて他者に説明できるようにしておく。また、ジェンダーの視点から、これらの問題をどのように考えたらよいのかを検討し、プレゼンの準備をする。	120分
	事後学修	ディスカッションで交わされた様々な意見について整理し、その前後で自分の見解に変化があったかを考える。その上で、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。①②③について自分が達成できていたか、ディスカッションを振り返って考え、今後の行動目標を定める。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅰ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツが関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。教材(ビデオ等)として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー・小レポート・期末レポート等を提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スポーツに関わる基本的な概念を理解し、スポーツの価値を認め、論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標②③にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解しているかを評価する。		20	20								40
レポート等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているか、提出されたりレポートの書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。	20	20	10								50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②に関して教材（ビデオ等）の各テーマ課題に取り組み、積極的な学修態度が身についているかを評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末レポート，小レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室（9号館 3階 9310号） メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ スポーツ科学とは何か	①スポーツ科学とは何か、②授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の理論体系について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	スポーツとは何か	スポーツ科学の体系について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ科学の理論体系について説明できる。	
	事前学修	スポーツを楽しめる能力(スポーツリテラシー)について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツとは何かについて自分なりの説明でまとめる。	120分
3	スポーツと体力_1 (トレーニングの原理・原則)	トレーニングの原理・原則について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力の構成要素の防衛体力、行動体力について説明できる。	
	事前学修	トレーニングの原理・原則について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの原理・原則について理解を深める。	120分
4	スポーツと体力_2 (トレーニングの種類)	トレーニングの種類について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングの種類について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からトレーニングの種類について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの種類についてまとめる。	120分
5	スポーツと体力_3 (トレーニング計画とその実際)	トレーニング計画とその実際について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニング計画とその実際について説明できる。	
	事前学修	トレーニング目標の設定について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニング計画とその実際について理解を深める。	120分
6	スポーツとドーピング_1 (スポーツの価値)	スポーツの価値について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツの価値について説明できる。	
	事前学修	スポーツの価値について調べる。	120分
	事後学修	スポーツの価値について自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツとドーピング_2（ゲストスピーカーを予定）	世界・および我が国のドーピング問題について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界・および我が国のドーピング問題について説明できる。	
	事前学修	ドーピングが禁止される理由について調べる。	120分
	事後学修	世界・および我が国のドーピング問題について理解を深める。	120分
8	スポーツとドーピング_3（アスリートの権利）	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について考察する。	
	事前学修	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について調べる。	120分
	事後学修	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について理解を深める。	120分
9	スポーツコーチング_1（コーチングとは）	アスリートとコーチングの現状について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーチングフィロソフィについて説明できる。	
	事前学修	アスリートとコーチングの現状について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、コーチングフィロソフィについて理解を深める。	120分
10	スポーツコーチング_2（コーチに必要な資質と能力）	コーチに必要な資質と能力について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーチに必要な資質と能力を説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からコーチに必要な資質と能力について自分なりの考えをまとめる。	120分
	事後学修	コーチに必要な資質と能力について理解を深める。	120分
11	スポーツコーチング_3（スポーツコーチングの実践）	スポーツコーチングの実践を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツコーチングの実践を説明できる。	
	事前学修	スポーツ競技を1つの選択し、その競技の国際競技力と強化方策を調べる。	120分
	事後学修	スポーツコーチングの実践について日本の国際競技力と強化策について理解を深める。	120分
12	スポーツとオリンピック_1（ゲストスピーカーを予定）	オリンピックの現状について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの現状について説明できる。	
	事前学修	オリンピックの現状と課題について調べる。	120分
	事後学修	オリンピックの現状と課題について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スポーツとオリンピズム_2（オリンピックの理念）	オリンピックはどんな願いが込められている？	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの理念について説明できる。	
	事前学修	オリンピックの理念について調べる。	120分
	事後学修	オリンピックの理念について理解を深める。	120分
14	スポーツとオリンピズム_3（オリンピック競技大会）	オリンピック・パラリンピック競技大会について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピック・パラリンピック競技大会について説明できる。	
	事前学修	オリンピック・パラリンピック競技大会について調べる。	120分
	事後学修	オリンピック・パラリンピック競技大会について理解を深める。	120分
15	まとめ/ 振り返り	期末レポート及び解説、学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅱ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツに関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。教材(ビデオ等)として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー・小レポート・期末レポート等を提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多面にわたるスポーツの価値を認め、論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。					2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより，実施到達目標②③にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解しているかを評価する。		20	20								40
レポート等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているか、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。	20	20	10								50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②に関して、教材（ビデオ等）の各テーマ課題に取り組む、積極的な学修態度がみについているかを評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室(9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約することtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/スポーツ科学とは何か	スポーツ科学で扱うテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の概観を説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート・資料を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	スポーツと文化	スポーツと文化について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スポーツと文化について説明できる。	
	事前学修	スポーツと文化について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツと文化について理解を深める。	120分
3	2024年パリオリンピックの日本選手のサポート体制（ゲストスピーカーを予定）	パリオリンピックの日本選手のサポート体制について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、パリオリンピックの日本選手のサポート体制について理解する。	
	事前学修	パリオリンピックの日本選手のサポート体制について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	パリオリンピックの日本選手のサポート体制について自分なりの説明でまとめる。	120分
4	スポーツと発育発達_1（一貫指導の重要性）	発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて説明できる。	
	事前学修	発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達期（ジュニア期）のプログラム、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
5	スポーツと発育発達_2（発育発達に応じた指導）	発育発達に応じた指導について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発育発達に応じた指導について説明できる。	
	事前学修	発育発達に応じた指導について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達に応じた指導について、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
6	スポーツと栄養_1（五大栄養素の役割）	五大栄養素の役割について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、五大栄養素の役割について説明できる。	
	事前学修	五大栄養素の役割について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、五大栄養素の役割と、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツと栄養_2（トレーニングと食事）	トレーニングと食事について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングと食事について説明できる。	
	事前学修	トレーニングと食事について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、トレーニングと食事、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
8	スポーツと栄養_3（バランスの取れた食事）	バランスの取れた食事を理解し、健康に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、バランスの取れた食事の重要性と、留意点について説明できる。	
	事前学修	バランスの取れた食事について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、バランスの取れた食事の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	スポーツと武道_1（柔道の誕生と発展）	柔道の誕生と発展を理解し、スポーツと武道に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道の誕生と発展に関しての重要性について説明できる。	
	事前学修	柔道の誕生と発展について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道の誕生と発展の重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
10	スポーツと武道_2（柔道の国際化）	柔道の国際化について理解し、スポーツと武道に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道の国際化について説明できる。	
	事前学修	柔道の国際化について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道の国際化について考え、自分なりの説明でまとめる。	120分
11	スポーツと武道_3（柔道技術の原理）	柔道技術の原理について理解し、その重要性和留意点について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道技術の原理を理解し、その重要性和留意点について説明できる。	
	事前学修	柔道技術の原理について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道技術の原理について、自分なりの説明でまとめる。	120分
12	スポーツ外傷・障害	スポーツ活動中に多い外傷・障害について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い外傷・障害について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からスポーツ外傷・障害についてまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツ外傷・障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内科的スポーツ障害	スポーツ活動中に多い内科的障害について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い内科的障害について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験から内科的スポーツ障害についてまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、内科的スポーツ障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。。	120分
14	外傷・障害の救急処置	スポーツ現場で行う救急処置について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ現場で行う救急処置について説明できる。	
	事前学修	救急処置にはどのようなものがあるか調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツ現場で行う救急処置について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分
15	まとめ/振り返り	期末レポート及び解説、学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を評価する。	
	事前学修	講義ノート・資料を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	地球科学 I	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学は日々の生活で身近な現象である天気や地球温暖化，そして地震や火山噴火などを扱うため，文系の学生でも容易に理解することができる学問である．この授業を通して「地球」を良く知ること，日々の生活を豊かにするような知識を皆さんに身につけてもらいたい．「地球科学」は理系科目であるため苦手意識をもつ学生もいるかもしれないが，皆さんが日々当たり前のように目にする「地球」で起こる現象について知る学問であるため，理解は容易である．この授業を通して，理系科目を学ぶ楽しさを皆さんに知ってもらいたい．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，自然災害に対処できる知識を皆さんに身につけてもらうとともに，環境問題に対して自分の意見を持てるようになることを目的とする．また，思わず周りの人に話したくなるような地球で起こる面白い現象について皆さんに理解してもらいたい．この授業を通して理系好きの学生はより理系が好きになり，理系科目に苦手意識を持っている学生は理系科目を学ぶ楽しさを知ってもらえればと考えている．「楽しく学んでいるうちにいつの間にか知識が修得できている」というのがこの授業の目指すところである．

【履修条件】
理系が好きな学生も，理系が苦手だけど挑戦してみたいという学生也大歓迎です．全ての受講生が「楽しい!」と感じてもらえる授業にしたいと思っています．

【授業方法】
①授業形態：講義形式． ②成績評価：ポータルで実施する3回の小テスト（選択式）の合計点数と（80％），出席（20％）で成績評価が決まる．出席は不定期に取ります．また，出席の取り方については初回の授業でご説明します． ③質問・感想：質問やコメントは毎週Google Classroomで提出するリアクションペーパーをお願いします．リアクションペーパーの提出は任意です（成績評価には関係ない）． ★午前中の授業なので朝が早く大変だと思いますが，頑張って授業に参加して下さいね．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球で起こる自然現象が私たちの生活に与える影響について理解し、人に説明できるようになる。						2	2				
②	自然災害に直面した際の対処法が身に付く。				2		2	2				
③	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる。				2	2	2	2				
④	環境問題に対して自分の意見を持てるようになる。				2	2	2	2				
⑤	地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる。						2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】				到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)														
小テスト等	ポータルで小テストを3回実施し、到達目標①②③④⑤に関わる地球科学の基礎知識が身についているかを確認する。 ★受講生全員の合計点数から成績評価が決まるため、必ずしも大学の成績評価基準と同じとは限らない。			20	15	20	10	15						80
レポート等														
討論・発表等														
授業への参画度	不定期に出席を取る（出席の取り方については初回の授業で説明する）。			4	4	4	4	4						20
その他()														
その他()														
その他()														
到達目標別の比率(%)				24	19	24	14	19						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの実施期間が終わるごとに正解と解説ファイルを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問はリアクションペーパーに書いて下さい（授業前後に直接聞きに来てもらっても良いですよ）。教員にコンタクトをとりたい場合は以下のメールアドレスに連絡を下さい。教員のメールアドレス：nagata.rena@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の实務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義ガイダンス～日々の生活に見られる気象現象を知ろう！～		全15回の授業で学ぶ気象現象の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから気象現象を深く学ぶための予備知識を身につけることができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ気象現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の学修に役立つ知識を身につける。	
	事前学修	シラバスに書いてあるこの授業で取り扱う気象現象か、もしくは日々の生活の中で気になっている気象現象をいくつか選んで、その現象が発生するメカニズムについて調べてくること。	120分
	事後学修	①授業内容をもとに作成したノートとPDF資料を見ながら今後の授業の流れをまとめること。また、これから授業内容をうまくノートに取るためにはどうしたらよいか自分に合った方法を考えること。 ②ガイダンスで話した中で興味を持った内容はwebなどで検索してみること。	120分
2	地球大気組成と成り立ち～特別な環境を持つ星「地球」～		地球は太陽系の惑星の1つだが、地球には太陽系の他のどの惑星とも異なるユニークな大気を持ち、海があり生命体が存在するという特別な惑星である。太陽系には隠れミッキーのような形のクレーターを持つ惑星や、高さ25kmの火山を有する惑星など興味深い惑星が存在する。他の太陽系の惑星と比較しながら、なぜ地球だけが特別な環境を持つ惑星となったのかその歴史について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、なぜ、地球大気だけに人間が生きるのに十分な酸素が存在するのか？その鍵は海の誕生である。私たちにとって至って当たり前である「海」と「酸素」。それらがいかにして誕生したのかその謎について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気にどのようにして酸素が誕生したのかについて調べてくること。 ②太陽系の惑星の中で興味のある星を1つ選んで（地球以外）その特徴を調べること。	120分
	事後学修	①現在の地球環境が形成された過程についてノートにまとめること。 ②地球以外の太陽系の7つの惑星の特徴をまとめること。	120分
3	大気鉛直構造と大気運動～なぜ風は吹くのか？～		風はなぜ吹くのか？と考えたことがあるだろうか。その鍵は東京ドームを出る際に強風が発生するメカニズムにある。本講義では、身近な現象を通して大気の流れのメカニズムを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、普段私たちが感じる風は「大気の流れ」である。東京ドームから出る際に「強風に押し出されるのはなぜ？」と疑問に思ったことはないだろうか？東京ドームの強風のメカニズムがわかれば風が吹く仕組みを理解することができる。今回は、日頃疑問に感じている気象の豆知識について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気は4つの層に分けられる。各層の特徴について調べてくること。 ②天気予報で示される地上天気図で実際の地上気圧の値をみてみること。	120分
	事後学修	①気圧と高度の関係について良く理解するとともに、地上で吹く風と上空で吹く風に働く力の違いについてもしっかりと理解すること。 ②今後天気図が折々出てくるので、以下のサイトにある気象庁の地上天気図を見て天気図に慣れておくこと (https://www.jma.go.jp/jp/g3/)。	120分
4	地球のエネルギー収支～大気がなければ地球の気温は－18℃？～		地球は私たち生物が生きるのに適した気温に保たれている。この「適した気温」が作り出されるメカニズムについて学修する。また、赤道に近い地域は気温が高く、極に近い地域は気温が低い。同じ地球にもかかわらずこのような気温差が生じるのはなぜなのだろうか？普段当たり前と思っているこれらの疑問を解き明かす。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、季節変化はなぜあるのか知っているだろうか？ちなみに、太陽からの距離が季節に応じて変わるからではない。日本は四季の移り変わりがはっきりしており季節に応じた美しい景観を愛でることができる。この四季が生じるメカニズムについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気に「温室効果ガス」が存在するおかげで、地球は生命体が生きるのに適した温度に保たれている。この「温室効果ガス」の種類について調べてくること。 ②なぜ季節があるのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地球の平均気温が15℃に保たれているメカニズムについてノートにまとめること。 ②以下のサイトから南半球と北半球の地点を1つずつ選び、月平均気温のグラフを見ることで南半球と北半球では季節が逆になっていることを確かめること（比較には緯度30～60度の中緯度がおすすめ）。 https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climatview/frame.php	120分
5	降水過程～雨はどうやって降るのか？～		私たちに恵みをもたらす雨はどうやって降ってくるのだろうか？雨が降る際には雲が存在するのだが、では雲から雨が降る仕組みはどうなっているのだろうか？この講義を聞いた後には、雨を眺めながらその発生メカニズムを思い出さずにはいられないような内容を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、雨が降る仕組みは暑い夏の日にはペットボトルを室温に置いておくとペットボトルの表面に水滴が生じるメカニズムと同じである。普段目にする身近な例をもとに雨が降る仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①空气中を降ってくる雨粒はどのような形をしているのかと、その理由について調べてくること。 ②大気の状態が不安定とはどのような状態を言うのか？また、大気の状態が不安定になるとどのような現象が発生するのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①雨が降る仕組みについてノートにまとめること。この際、上昇気流が発生する原因や雲がどうやって発生するのかについても説明すること。 ②以下の『積乱雲のでき方』の動画を見ながら、積乱雲が発生するメカニズムと積乱雲が発生した際に気を付ける点をノートにまとめること。 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/sub1.html	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	大規模な大気の運動～地球をめぐる大気の流れと高気圧・低気圧～	外に出るたびに感じる風は実は地球の大きな流れの一部である。私たちが普段よく耳にする「低気圧」・「高気圧」・「前線」とは一体何なのか？そして、実は前線にはいくつか種類があることなど天気予報を見る際に役立つ知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、天気予報で頻繁に耳にする用語を学ぶことで、第8回の日本の四季に応じた気圧配置を理解する基礎作りを行うことができる。	
	事前学修	①熱帯にスコールが多い理由を調べ、「亜熱帯高圧帯」という用語と亜熱帯高圧帯と砂漠との関係について調べてくること。 ②温帯低気圧の特徴と、温帯低気圧に見られる前線の種類について調べてくること。	120分
	事後学修	①大気大循環がどのように熱輸送を行うのかについてノートにまとめること。この際、ハドレー循環・フェレル循環・温帯低気圧・極循環の4つの単語を入れること。 ②天気予報を見る際に天気図で低気圧・高気圧の位置を確認し、自分の住んでいる地域の今日・明日の天気が晴れなのか雨なのかを自分で予報してみること。	120分
7	中小規模の気象現象～台風・集中豪雨・竜巻～	中小規模現象は雷・台風・竜巻・集中豪雨などが挙げられるが、これらの現象は時には災害を引き起こす。中小規模現象の発生メカニズムと特徴を正しく理解するとともに、実際に遭遇した際の対処法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、近年、台風や集中豪雨による災害が頻発している。これらの現象から身を守るためには正しい知識の修得が必要である。今後増えると思われる気象災害に対処するための知識を修得し、気象情報の活用法について学ぶ。	
	事前学修	①台風と温帯低気圧の特徴を比較し、台風・ハリケーン・サイクロンの違いについても調べてくること。 ②台風・突風・集中豪雨などの中小規模の気象現象による過去の災害の事例について調べること。	120分
	事後学修	①雷や突風はどのような状況で発生するのかについて理解し、実際に遭遇した際に自分がどう行動すべきかをノートにまとめること。 ②授業で話したようにこれからやってくる梅雨には大雨被害が発生しやすい。授業で紹介した『今後の雨』のサイトを日々見ることで、自分が住んでいる地域での大雨発生を事前に知る能力を身につけること。 https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/index.html	120分
8	日本の気候と卓越する気圧配置～冬の日本海側はなぜ雪が多いのか？～	日本には冬は寒く雪が降り、夏は暑いという季節に応じた特徴的な天候が見られる。この天候をもたらす気圧配置について学ぶ。なぜ冬の東京には雪があまり降らないのか？なぜ春の天気は変わりやすいのかなど、日々感じている気象の素朴な疑問について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、日本の季節に応じた気圧配置を学ぶことで、天気予報を見る際に現在よりもその内容を深く理解することを目指す。また、冬季に耳にする「西高東低の気圧配置」や夏季によく聞く「太平洋高気圧」とは何かを理解し、天気図を見てその日のおおまかな天気を知ることができる。	
	事前学修	①日本の四季の中で好きな季節を選び、その季節に見られる天候の特徴について調べてくること。 ②冬季に日本の日本海側に雪が降る気圧配置について調べ、冬季の金沢に雷が多い理由について調べてくること（金沢の雷のキーワードは「大気の状態が不安定」）。	120分
	事後学修	①日本の天候の特徴について、四季ごとに見られる気圧配置も含めてまとめること。その際に以下のサイトを参考にすること。 ②また、このサイトの下の方にある「地域ごと天候の詳細はこちら」をクリックして、この資料をもとに自分が住んでいる地域の天候についてもまとめること。 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kisetsu_riyou/tenkou/gaisetu.html	120分
9	気候変動とは？～今の気候は地球にとって「標準の気候」ではない？～	第4回に学んだように赤道付近は暖かく極付近は寒い。このような気候は地球の長い歴史の中では決して「標準の気候」ではない。過去の地球には現在よりもかなり暖かく極付近にさえ海水などの氷が存在しなかった時代や、逆に赤道付近の気温がマイナスとなるほど寒い時代もあった。今では考えられないような地球の過去の気候について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、現在地球温暖化に伴う異常気象が問題になっている。過去の地球の気候変動を知ることで、第10回～第12回に学ぶ地球温暖化が過去と比較していかに異常であるかを理解するための基礎知識を養うことができる。	
	事前学修	①今後地球温暖化の回でも重要になってくるので、氷河・氷床・海水の違いについて調べてくること。 ②スノーボールアースイベント（全球凍結）とは何かについてと、全球凍結時の地球の平均気温は何度だったのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①最終氷期における陸地の氷の分布と海面水位との関係について理解し、氷期―間氷期サイクルについてよく復習しておくこと。第9回以降に地球温暖化の話の中でこの知識が必要になってきます。 ②授業で出てきた「氷床コア」から過去の気温以外に何がわかるのかについて調べること。	120分
10	近年の気候変動～地球温暖化について正しく知ろう！～	「最近天気がおかしい」と感じることはないだろうか？猛烈な雨や強い台風など私たちが今までに経験したことのない異常気象が頻発している。この原因は人間活動が引き起こしている気温の上昇、つまり「地球温暖化」であると考えられている。第9回で学んだように、現在よりも地球の気温が高い時代があったにも関わらず地球温暖化が問題とされるのはなぜなのか、その理由について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、地球温暖化の原因を知ることで地球温暖化の問題点を正しく理解し、この問題に私たち人類はどのように対処していけば良いのかについて考える力を養う。また、学んだ知識を周りの人に話すことで、地球温暖化に対する人々の関心を高める役割を果たすことができるようになる。	
	事前学修	①地球温暖化とはどのような現象であり、地球温暖化を引き起こす原因は何であるのかについて調べてくること。 ②21世紀末の日本の気候がどのように変化すると予測されているのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地球温暖化は過去の気候と比較して何が異常であるのかについて第9回の内容も参考にしながらノートにまとめること。 ②日本の二酸化炭素排出量の推移について調べ、世界の他の国の排出量と比較してみること（第12回に役立ちます）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
11	地球温暖化の影響～海面上昇や大雨の増加～		地球温暖化の影響とみられる現象が世界各地で報告されている。例えば、大陸上の氷（氷河・氷床）の融解による海面上昇や、夏の高温日や大雨の増加などの気象災害につながる現象も見られる。地球温暖化の影響について具体例を挙げながら学ぶことで、いかにこの問題の解決が急を要するのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、「今も寒い冬を経験することがあるのだから地球温暖化は起きていない」と主張する人もいるが、実はこの理論は正しくない。日本の冬は地球温暖化の影響で寒くなる年もあるのだ。地球温暖化にとって一番大事なことは人々が正しい知識を持つことである。地球温暖化の影響について正しく理解し、対処方法について考える力を養うことができる。		
	事前学修	①地球温暖化に伴う日本の降水量の変化について調べてくること。この際、最近発生している大雨との関係についても調べること。 ②海面水位の上昇により世界でどのような影響が出ているのかについて調べてくること。		120分
	事後学修	①地球温暖化によりなぜ海面水位が上昇するのかそのメカニズムについて第9回で学んだ最終氷期の海面水位の特徴と比較しながらまとめること。 ②地球温暖化にも関わらず日本が寒い冬を経験するメカニズムについてまとめること。		120分
12	地球温暖化に対する国際的な取り組み～身近にできる地球温暖化対策も学びましょう！～		地球温暖化対策は経済活動の停滞につながるため、対策が思うように進まない現状もあるが、紆余曲折を経ながら「地球温暖化に真剣に取り組もう！」とする国々の意識は少しずつ高まってきている。地球温暖化対策に関して話し合う会議である「COP」とは何か？何が話し合われているのかについて学ぶとともに、今日から私たちができる地球温暖化対策についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、国際的な地球温暖化対策について深く知ること自分たちが今何をすべきなのかを考える力を養う。また、身近にできる地球温暖化対策を学ぶことで、日々の暮らしで地球温暖化について考える習慣を身につけることができる。		
	事前学修	①地球温暖化対策に関連して以下の用語を調べること：COP、京都議定書、パリ協定。 ②私たちが身近にできる地球温暖化対策にはどのようなものがあるのかを調べてくること。		120分
	事後学修	①京都議定書からパリ協定に至るまで、世界の地球温暖化対策はどのように変化していったのかその変遷についてノートにまとめること。 ②今後自分が実施しようと思う身近な地球温暖化対策についてノートに書き出し、実際に行ってみること。		120分
13	エルニーニョ現象と世界の天候～ペルーでアンチョビが獲れなくなると日本は冷夏？～		エルニーニョ現象は熱帯太平洋の海洋で起こる現象であるが、遠い日本の天候にも影響する。エルニーニョ現象が発生すると日本は冷夏・暖冬になりやすい。エルニーニョ現象は世界の天候に大きな影響を与え、時には気象災害が発生するような極端な現象を引き起こす。海洋で発生するエルニーニョ現象が大気にもたらす影響について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、エルニーニョ現象とはどのような現象であるかと、エルニーニョ現象が世界の天候へ与える影響についても理解する。現在までは大気のみを扱ってきたが、この回では海洋と大気が密接に関係しているという概念を学ぶことができる。		
	事前学修	①エルニーニョ現象とはどのような現象であるのかと、ラニーニャ現象との違いについて調べること。 ②エルニーニョ・ラニーニャ現象発生時に世界で起きた過去の異常気象について調べてくること。		120分
	事後学修	①エルニーニョ・ラニーニャ現象発生時の熱帯太平洋の大気と海洋の特徴についてまとめること。 ②エルニーニョ現象発生時に世界や日本で見られる天候の特徴についてまとめること。		120分
14	ヒートアイランド現象～なぜ東京の夏は暑いのか？～		東京などの都心部では夏に郊外よりも気温が高くなる。これが都市化により発生する「ヒートアイランド現象」である。都市では平均気温の上昇だけではなく、熱帯夜や局地的な豪雨の増加も顕著となっている。都市が作り出すヒートアイランド（熱の島）はいかにして作り出されているのか、そのメカニズムについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、「都市は暑い！」と感じたことはあっても「それはなぜ？」と聞かれると答えられる人は少ない。夏に都市を歩きながら、暑さをもたらす要因とそのメカニズムを考えることができる知識を習得する。		
	事前学修	①都市の高温化であるヒートアイランド現象の発生要因について調べてくること。 ②ヒートアイランド現象を緩和する対策にはどのようなものがあるのかについて調べてくること。		120分
	事後学修	①ヒートアイランドの要因についてノートにまとめ、自宅の周辺でヒートアイランドの要因と考えられるものを探してみること。 ②夏の暑い日に樹木の下でクールアイランド効果を実感してみること。		120分
15	講義のまとめ～講義の知識を気象災害から身を守るために生かそう！～		第2回～第14回の講義を振り返るとともに、今まで得た知識をもとにした応用編も学ぶ。また、復習を行いながらすべての講義で学んだ知識を結び付けることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の主な目標は1) 天気予報を見る際に深く理解できる知識を身につける、2) 気象災害に対処できる知識と情報活用能力を修得する、3) 地球温暖化などの環境問題について他人に問題提起できる能力を養うである。講義を聴きながら自分が上記の1)～3) についてどの程度達成できたかを自己評価することができる。		
	事前学修	第2回～第14回の講義について通しで復習して、内容を思い出ししておくこと。また、この講義を受けた内容で一番生活に役立った知識は何かも考えてくること。		120分
	事後学修	講義の中で一番興味をもったトピックについてwebで調べたり書籍を読むなどして、さらに理解を深めること。		120分

科目名	地球科学 I	担当者	吉岡 美紀	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学は日々の生活で身近な現象である天気や地球温暖化，そして地震や火山噴火などを扱うため，文系の学生でも容易に理解することができる学問である．この授業を通して「地球」を良く知ること，日々の生活を豊かにするような知識を皆さんに身につけてもらいたい．「地球科学」は理系科目であるため苦手意識をもつ学生もいるかもしれないが，皆さんが日々当たり前のように目にする「地球」で起こる現象について知る学問であるため，理解は容易である．この授業を通して，理系科目を学ぶ楽しさを皆さんに知ってもらいたい．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，自然災害に対処できる知識を皆さんに身につけてもらうとともに，環境問題に対して自分の意見を持てるようになることを目的とする．また，思わず周りの人に話したくなるような地球で起こる面白い現象について皆さんに理解してもらいたい．この授業を通して理系好きの学生はより理系が好きになり，理系科目に苦手意識を持っている学生は理系科目を学ぶ楽しさを知ってもらえればと考えている．「楽しく学んでいるうちにいつの間にか知識が修得できている」というのがこの授業の目指すところである．

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主にPC接続プロジェクトを用いて講義をおこなう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	防災情報入手の回では、各自が簡単な作業をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球で起こる自然現象が私たちの生活に与える影響について理解し，人に説明できるようになる.						2	2				
②	自然災害に直面した際の対処法が身に付く.				2		2	2				
③	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる.				2	2	2	2				
④	環境問題に対して自分の意見を持てるようになる.				2	2	2	2				
⑤	地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる.						2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験によって、各目標項目達成のための知識、手法の修得について評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業内におこなう小テスト等によって、地球科学に関する用語やしぐみについて、修得、理解したか評価する。	10		10	10	10						40
レポート等	課題提出によって、各自が防災情報入手方法を修得したか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、あるいはポータルシステムを通しておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
みわたす・つなげる自然地理学	小野 映介・吉田 圭一郎編	古今書院	2021	参考書	任意
日本列島 100 万年史	山崎晴雄・久保純子	講談社ブルーバック ス	2017	参考書	任意
はじめて学ぶ大学教養地学	杉本憲彦ほか	慶應義塾大学出版会	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
履修者には、授業開始後にe-mailアドレスを伝える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	北極観測、研究の補助。中学高校地学教員。日本語教員。測量会社にて地図関連作業。
実務経験に基づく実践的教育の内容		仕事で得た知識を講義に生かす	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 日食 地理院地図		授業開始時のガイダンス 地球、太陽、月の位置関係によって見られる日食について 日本の基本地図である地理院地図の使用方法について	
	この回の到達目標	到達目標①、③、⑤に関連して、地球、太陽、月との位置関係で見られる日食について理解する。 ①～⑤全到達目標に関連して、地理院地図の使用方法を修得する。		
	事前学修	シラバスを読んで、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
2	地球科学入門		地球科学を学ぶにあたり基礎的な知識について、実生活の中で見られる現象から確認していく。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球科学の基礎となる知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
3	球体としての地球、経度		地球表面の経度と経度に関わる事象について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、球体としての地球について基礎となる知識さらにそこから派生する知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
4	球体としての地球、緯度		地球表面の緯度と緯度に関わる事象について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、球体としての地球について基礎となる知識さらにそこから派生する知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
5	地図		地形図と各種の地図について、学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球を平面で表す地図について基礎となる知識さらにそこから派生する知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
6	地球科学で使用する基本単位		地球科学で使用する基本的な単位について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球科学で使用する基本単位について、定義と背景(歴史)を学ぶ。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	地層とチバニアン		地質年代に初めて日本発の名称がついたチバニアンの話題から、地層と地磁気についての基礎を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地層や地磁気の基礎について修得する。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
8	プレートテクトニクス		地球上の大地形をつくりだすプレートテクトニクス、さらにプルームテクトニクスについての基礎を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球表層近くの地殻の構造、動きについて修得する。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
9	地震		地震発生のしくみや現象について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地震について現象や発生のしくみについて修得し、自分が遭遇した時に少しでも落ち着いた行動ができる土台をつくる。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
10	地震と防災		地震発生時の被害を軽減させるための防災について学ぶ。
	この回の到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、地震についての知識を元に、各自が周囲の被害を軽減させることができるようになることを目的とする。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
11	科学と人間社会		科学と人間社会との関わりについて、提示された例を元に考察する。
	この回の到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、科学的に導かれた情報が人間社会に入るとどのように変化する可能性があるか、一例として学ぶ。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
12	北極とは		地球環境を考える上で重要な地域である北極について、基礎的な知識を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、北極地域について基礎的な知識を修得する。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	北極の自然	北極域で見られる自然とその変化について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、北極地域の自然について基礎的なことを修得する。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
14	北極をめぐる話題	地球上に未知の場所が残っていた北極探検時代の歴史の一部から、人間社会について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、北極探検時代の話題から、人間社会について考察する機会を持つ。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
15	前期授業のまとめ	前期授業全体についてふりかえる。	
	この回の到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、前期授業の内容を理解したことを確認する。	
	事前学修	前期授業で学習した内容についてふりかえり、整理しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、自分のものとする。疑問点があれば、まずは自分で調べる。	120分

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学は日々の生活で身近な現象である天気や地球温暖化，そして地震や火山噴火などを扱うため，文系の学生でも容易に理解することができる学問である．この授業を通して「地球」を良く知ること，日々の生活を豊かにするような知識を皆さんに身につけてもらいたい．「地球科学」は理系科目であるため苦手意識をもつ学生もいるかもしれないが，皆さんが日々当たり前のように目にする「地球」で起こる現象について知る学問であるため，理解は容易である．この授業を通して，理系科目を学ぶ楽しさを皆さんに知ってもらいたい．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，自然災害に対処できる知識を皆さんに身につけてもらうとともに，環境問題に対して自分の意見を持てるようになることを目的とする．また，思わず周りの人に話したくなるような地球で起こる面白い現象について皆さんに理解してもらいたい．この授業を通して理系好きの学生はより理系が好きになり，理系科目に苦手意識を持っている学生は理系科目を学ぶ楽しさを知ってもらえればと考えている．「楽しく学んでいるうちにいつの間にか知識が修得できている」というのがこの授業の目指すところである．

【履修条件】
理系科目ですが，あまり理系っぽくない授業です．地震や火山など防災に必要な知識を身につけたい皆さんは，ぜひ受講して下さい．前期の地球科学Ⅰを受講していなくても受講可能です．前期と重複する内容は初めから説明するので心配ないですよ．

【授業方法】
①授業形態：講義形式． ②成績評価：ポータルで実施する3回の小テスト（選択式）の合計点数と（80％），出席（20％）で成績評価が決まる．出席は不定期に取ります．また，出席の取り方については初回の授業でご説明します． ③質問・感想：質問やコメントは毎週Google Classroomで提出するリアクションペーパーをお願いします．リアクションペーパーの提出は任意です（成績評価には関係ない）． ★午前中の授業なので朝が早く大変だと思いますが，頑張って授業に参加して下さいね．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球で起こる自然現象が私たちの生活に与える影響について理解し、人に説明できるようになる。						2	2				
②	自然災害に直面した際の対処法が身に付く。				2		2	2				
③	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる。				2	2	2	2				
④	環境問題に対して自分の意見を持てるようになる。				2	2	2	2				
⑤	地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる。						2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等	ポータルで小テストを3回実施し、到達目標①②③④⑤に関わる地球科学の基礎知識が身についているかを確認する。 ★受講生全員の合計点数から成績評価が決まるため、必ずしも大学の成績評価基準と同じとは限らない。		20	15	20	10	15						80
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度	不定期に出席を取る（出席の取り方については初回の授業で説明する）。		4	4	4	4	4						20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			24	19	24	14	19						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの実施期間が終わるごとに正解と解説ファイルを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問はリアクションペーパーに書いて下さい（授業前後に直接聞きに来てもらっても良いですよ）。教員にコンタクトをとりたい場合は以下のメールアドレスに連絡を下さい。教員のメールアドレス：nagata.rena@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義ガイダンス～地球の内部と表面について知ろう！～		全15回の授業で学ぶ地球内部と表面の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから地震・火山などの現象を深く学ぶための予備知識を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学修に役立つ知識を身につけることができる。	
	事前学修	地球に関して日頃から疑問に思っていることやシラバスの中で興味のあるテーマを1つ選び、自分なりに調べてくること。	120分
	事後学修	①講義の流れをノートにまとめることで講義概要をしっかりと頭に入れ、今後の講義に備えること。また、ノートの取り方について自分にあったやり方を考えること。 ②ガイダンスで話した中で興味を持った内容について自分で調べること。	120分
2	地球の誕生～火の玉地球から現在の地球になるまで～		46億年前に誕生したばかりの原始地球は「火の玉地球」と呼ばれるマグマに覆われた高温状態だった。高温の「火の玉地球」から、海が存在し生命体が居住可能な現在の地球はどのようにして形成されたのかその過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、2020年12月に小惑星「リュウグウ」の岩石サンプルを格納したカプセルが地球に帰還して話題となったが、なぜ小惑星の探査は重要なのだろうか？また、地球はどうやって生物が住むことのできる環境になったのだろうか？地球の歴史を理解することで、これらの疑問点を説明することができる。	
	事前学修	①なぜ原始地球は真っ赤に溶けた火の玉のような状態だったのか、その理由について調べてくること。 ②小惑星とは何かと、小惑星を調べると何がわかるのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地球の誕生から現在の地球環境ができるまでの過程をノートにまとめること。 ②地球以外の太陽系の惑星の衛星について調べ、地球の衛星である月と比較してみること。	120分
3	地球環境の変遷～地球環境の古文書「地層」とは？～		地球の長い歴史においてその環境は劇的に変化してきた。地球環境の変化を知る鍵が地層である。地層は「地球環境の古文書」と呼ばれるほど地球環境に関する多くの情報が詰まっている。地層から過去の地球の情報を取り出す方法とそれによって明らかになった地球環境の変遷の歴史について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、オーロラはどうやって発生するのか？また、「チバニアン」や「地磁気逆転」など、ニュースで聞く話題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球の過去を知ることが出来る「地層」はどのように形成されるのかについて調べてくること。 ②オーロラはどうやって発生するのか、またオーロラを見ることのできる地域はどこなのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地層からどうやって地球環境の変遷を知ることができるのかについてノートにまとめること。 ②地質時代の中で1つ時代を選び、当時の地球環境について調べること。	120分
4	世界の大地形～地震が多いところと少ないところがあるのはなぜ？～		陸地には険しい山脈がある一方で、平野が広がる地域も見られる。実は、険しい山がある地域は地震が多い。今回は地形と地震の多さとの関係について学修する。また、普段は海水に覆われて見ることはできないが実は面白い海底地形についても学ぶ。
	この回の到達目標	戦国武将・武田信玄の軍旗には「動かざること山の如し」と書いてあったといわれているが、実は山はゆっくりと動いている。到達目標①③⑤に関連して、地球内部の動きによりどのような地形が形成されるのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①海底地形である「海嶺」と「海溝」について調べてくること。 ②ヨーロッパのアルプス山脈と北米大陸にあるアパラチア山脈がどこに位置するのかを調べ、2つの山脈の形状を比較すること。	120分
	事後学修	①新期造山帯と古期造山帯がどこに位置するのかを分布図をよく見て頭に入れること。 ②アルプス山脈以外の褶曲山脈が世界のどこにあるのかについて探してみること。	120分
5	地球の内部構造～地球はひび割れたゆで卵？～		地球の内部はどうなっているのだろうか？と考えたことはあるだろうか。実は地球は卵の黄身・白身・殻のような3層構造になっており、殻にひびが入ったゆで卵に例えることができる。今回は、私たちが普段目にする「山」を作り出す地球内部の動きについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、地球内部の構造を知ることと今後学んで行く地震や火山噴火のメカニズムを理解するための基礎知識を身につける。	
	事前学修	①地球の内部構造の分け方には2種類ある。2種類の分け方について調べてくること。 ②地震波とは何かとその種類について調べてくること。	120分
	事後学修	①地球の2種類の分け方についてまとめ、各層の名前を頭に入れること。 ②今後プレートは重要になってくるので、プレートとは何かと日本周辺のプレートの名称とその位置を覚えること。	120分
6	プレートテクトニクスと大陸移動説～昔大陸は1つだった！～		現在地球には6つの大陸が存在するが、昔々大陸は1つだった。この大陸の移動は地球の表面を覆う「プレート」の動きで説明できる。プレートについて正しく理解することで、ハワイ諸島が日本に近づいている理由やヨーロッパのアルプス山脈誕生のメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、大陸に見られる大山脈や海底地形の形成はプレートの運動で説明することができる。プレートについて理解することで、地球上で見られる地形の成り立ちについて理解し説明できるようになる。	
	事前学修	①プレート同士の境目である「プレート境界」の種類を調べ、プレート境界が世界のどこに位置しているのかの種類ごとに調べてくること。 ②日本付近に見られるプレートについて調べてくること。	120分
	事後学修	①「広がる境界」と「狭まる境界」に見られる地形の特徴と、なぜその地形が形成されるのかについてノートにまとめること。 ②日本付近に見られる海溝の名前を調べ、Google Earthで確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	地震はなぜ起こる？～日本はどうして地震が多いのか～		日本は地震大国である。世界で起こる地震のなんと約10%が日本とその周辺で発生している。地震が発生した際によく耳にする「震度」や「マグニチュード」などの用語について正しい知識を見につけるとともに、地震はなぜ起こるのかそのメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、地震に慣れている私たち日本人だが、時折災害をもたらすような大きな地震を経験することがある。第8回に大きな地震が発生した時の対処法について学ぶが、今回は「地震への対処法」をよりよく理解するためにまずは地震発生のメカニズムについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	①海溝型地震と内陸型地震の違いについて調べてくること。 ②断層と活断層の違いについて調べてくること。	120分
	事後学修	①海溝型地震と内陸型地震地震が発生するメカニズムと被害の特徴についてまとめること。 ②マグニチュード・震度・震源などの地震に関する用語をしっかりと理解し、次回地震が発生した際に地震情報を見てにすぐに理解できるようにすること。	120分
8	大規模地震のメカニズム～阪神・淡路大震災と東日本大震災の例から～		東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震と、阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震はともに甚大な被害をもたらした地震であるが、その発生メカニズムは異なる。地震は発生メカニズムによって被害に違いが生じるという点を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、過去に日本で大きな被害をもたらした2つの地震についてその発生メカニズムと被害状況を学ぶことで、今後大きな地震が来た際に自分がどのような行動をとるべきなのかについて考えることができる。	
	事前学修	①断層運動の種類について調べること。 ②東日本大震災と阪神淡路大震災ではどのような被害が生じたのか事前に調べてくること。特に阪神淡路大震災発生時には皆さんは生まれていなかったため、当時の報道写真を探して被害の実態を予習しておくこと。	120分
	事後学修	①阪神・淡路大震災と東日本大震災における被害の違いについて地震発生のメカニズムから説明できるようにノートにまとめること。 ②自宅にいる時と外出時に大きな地震が発生した時の自分の行動をシミュレーションしておくこと。	120分
9	火山噴火の仕組み～なぜ火山は噴火するのか？～		よく耳にする「活火山」とは何か？なぜ日本列島には火山が多いのか？なぜ火山は噴火するのか？火山大国である日本に住んでいる私たちが普段疑問に思っていることや、実際に火山噴火に遭遇した際に気を付ける点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、火山噴火のメカニズムや火山が噴火すると何が起きるのかを理解することで、明日起こるかもしれない火山噴火に備える知識を身につけることができる。	
	事前学修	①なぜ日本列島に火山が多いのかその理由について調べてくること。 ②火山噴火時に噴出される「火山噴出物」にはどのようなものがあるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①火山大国日本で火山と上手に付き合っていくために「火山はどこにでき、どうして噴火するのか」についてノートにまとめること。 ②日本の活火山の分布図から自分の住んでいる地域にある火山、もしくは興味のある火山について詳しく調べてみる	120分
10	日本の火山活動と災害～長崎県の雲仙岳を例に～		現在のイタリア南部に存在した古代都市ポンペイを一瞬にして消し去り、1990年代の雲仙岳の噴火でも多くの犠牲者を出した火砕流の怖さについて学修する。また、ディズニーシーのプロメテウス火山は、噴火の歴史を知ることができるほど精巧に作られた人工火山である。プロメテウス火山形成の歴史を学ぶことで、火山噴火についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、長崎県雲仙岳で発生した火砕流のメカニズムと被害状況を理解することで、今後火山噴火に直面した際に役だつ知識を身につけることができる。また、ディズニーシーを訪れた際にプロメテウス火山の形成過程について人に語れるようになる。	
	事前学修	①火山噴火時に発生する「火砕流」とはどのような現象であるのかについて調べてくること。 ②水蒸気噴火とマグマ水蒸気噴火の違いについて調べてくること。	120分
	事後学修	①1990年代に発生した雲仙岳の噴火の特徴と被害の概要をまとめること。 ②自分が住んでいる地域にある活火山もしくは自分が興味のある活火山について授業で紹介したwebサイトから情報を取得してみる	120分
11	氷河地形～現在の地形を見れば昔の氷河の分布がわかる？～		1万8,000年前の日本の平均気温は今よりも6～9℃ほど低かったと考えられており、その頃には日本の多くの山にも「氷河」が存在した。その証拠が日本の山に「氷河地形」として残っている。氷河とは何か？そして氷河が作り出す地形の種類と形成過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、氷河地形は「今よりもだいぶ気温が低い時代があり、その当時そこに氷河が存在した」ことを示す。氷河と氷河が作り出す地形の形成過程を学修することで、山岳に見られる地形から過去の気候変動が読み取れるという概念を理解できるようになる。	
	事前学修	①氷河地形であるU字谷・モレーン・氷河湖がどのように形成されるのかについて調べてくること。 ②日本で見られる氷河地形について調べ、Google Earthで確認しておくこと。	120分
	事後学修	①氷河が作る地形の特徴とその形成過程についてノートにまとめること。 ②自分が今後訪れてみたい国に見られる氷河地形を探し、Google Earthで確認すること。	120分
12	海洋が地球環境に果たす役割～海洋の変動が気候を決める？～		海洋の深層には2,000年で地球を一巡りするゆっくりとした循環が存在し「海洋のコンベアベルト」と呼ばれている。1万2,000年前に海洋のコンベアベルトが停止し、地球が急激に寒冷化したことがわかっている。ここでは、海洋の深層循環が気候に影響するメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、よく耳にする「氷期」とはなにか？寒い氷期が終わると地球の平均気温が上昇するのだが、その際にどのような現象が生じるのかについて理解し説明できるようになる。	
	事前学修	①「海洋のコンベアベルト」・「ヤンガードライアス期」とは何かを調べてくること。 ②「氷河湖決壊洪水」はなぜ発生するのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①海洋のコンベアベルトとはどのような循環なのかと、ヤンガードライアス期の原因についてノートにまとめること。 ②海流が気候に与える影響についてもまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	川が作る地形～東京の地下鉄はなぜ地上を走るのか？～		わたしたちが毎日何気なく見ている風景の中には川が作った地形が多く存在する。日本の川は大雨が降ると一気に増水するため洪水被害が発生することもあるが、一方で私たちは川の恩恵を受けて生きている。ここでは川が作り出す地形について学修するとともに、身近な川の意外と知らない豆知識についても学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、私たちは川が作った土地を利用して生活しているということを理解する。また、東京では地下鉄が地上に出たり、逆に地上を走る電車が急に地下にもぐったりするが、これは川が作る地形が関係している。電車に乗りながら東京の地形の成り立ちを考えられる力を身につける。	
	事前学修	①世界と日本の川の特徴を比較すること。また、興味のある川を選びその川の源流（つまり川の始まり）はどこにあるのかを調べてくること。 ②川が作る地形にはどのような種類があるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①川の上流と下流ではどのような地形が形成されるのかと、その理由についてまとめること。 ②渋谷の地形がどのように形成されたのかについてまとめ、銀座線が渋谷駅で地上に出る理由について理解すること。	120分
14	砂漠とは何か？～砂がなくても「砂漠」です！～		「砂漠」には「砂」という文字が含まれているが、実は砂漠の定義は「砂がたくさんあること」ではない。砂漠は日中は気温が高いが夜はセーターが必要なほど冷え込むなど、知ると驚く砂漠の知識を含めて「砂漠とはなにか」を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、砂漠の正しい定義となぜそこに砂漠が存在するのかその形成メカニズムを学修するとともに、日本では「鳥取砂丘」で知られる砂丘と砂漠の違いについて理解することができる。	
	事前学修	①砂漠の定義と、砂漠と砂丘の違いについて調べてくること。 ②砂漠にできる地形の種類とそのでき方について調べてくること。	120分
	事後学修	①回帰線砂漠と海岸砂漠のでき方についてと、なぜ砂漠は日中と夜間で気温差が大きいのかについてまとめること。 ②砂丘と砂漠の違いを理解し、鳥取砂丘の形成過程についてまとめること。	120分
15	講義のまとめ～安全に地球に住むために私たちが気を付けること～		第2回～第14回の講義の復習を行う。全講義の中で質問やコメントが多かった内容について重点を置いて復習を行うとともに、追加情報も織り込むことでさらなる知識の向上を図る。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全ての講義内容について通して復習することで各回で学んだ知識を体系化することが可能となり、地震や火山噴火などの自然災害に直面した際に自分の身を守る手段として活用できるようになる。	
	事前学修	第2回～第14回について通して復習し、一番興味があったことや疑問に思うことをまとめてから講義に臨むこと。	120分
	事後学修	現在の地球がどのようにして成り立ったのかをよく理解することで、地震や火山噴火などの災害時に自分がどのように対応したら良いのかについて考えること。	120分

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	吉岡 美紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学は日々の生活で身近な現象である天気や地球温暖化，そして地震や火山噴火などを扱うため，文系の学生でも容易に理解することができる学問である．この授業を通して「地球」を良く知ること，日々の生活を豊かにするような知識を皆さんに身につけてもらいたい．「地球科学」は理系科目であるため苦手意識をもつ学生もいるかもしれないが，皆さんが日々当たり前のように目にする「地球」で起こる現象について知る学問であるため，理解は容易である．この授業を通して，理系科目を学ぶ楽しさを皆さんに知ってもらいたい．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，自然災害に対処できる知識を皆さんに身につけてもらうとともに，環境問題に対して自分の意見を持てるようになることを目的とする．また，思わず周りの人に話したくなるような地球で起こる面白い現象について皆さんに理解してもらいたい．この授業を通して理系好きの学生はより理系が好きになり，理系科目に苦手意識を持っている学生は理系科目を学ぶ楽しさを知ってもらえればと考えている．「楽しく学んでいるうちにいつの間にか知識が修得できている」というのがこの授業の目指すところである．

【履修条件】
特になし．ただし前期の「地球科学Ⅰ」を履修済みであることが望ましい．

【授業方法】
主にPC接続プロジェクトを用いて講義をおこなう予定である．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	防災情報入手の回では、各自が簡単な作業をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球で起こる自然現象が私たちの生活に与える影響について理解し，人に説明できるようになる．						2	2				
②	自然災害に直面した際の対処法が身に付く．				2		2	2				
③	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる．				2	2	2	2				
④	環境問題に対して自分の意見を持てるようになる．				2	2	2	2				
⑤	地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる．						2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験によって、各目標項目達成のための知識、手法の修得について評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業内におこなう小テスト等によって、地球科学に関する用語やしぐみについて、修得、理解したか評価する。	10		10	10	10						40
レポート等	課題提出によって、各自が防災情報入手方法を修得したか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、あるいはポータルシステムを通しておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
みわたす・つなげる自然地理学	小野 映介・吉田 圭一郎編	古今書院	2021	参考書	任意
日本列島 100 万年史	山崎晴雄・久保純子	講談社ブルーバックス	2017	参考書	任意
はじめて学ぶ大学教養地学	杉本憲彦ほか	慶應義塾大学出版会	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
履修者には、授業開始後にe-mailアドレスを伝える。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		北極観測、研究の補助。中学高校地学教員。日本語教員。測量会社にて地図関連作業。 仕事で得た知識を講義に生かす

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 前期の復習 月について		授業開始時のガイダンス 前期の授業内容のうち、後期授業受講の前提として必要な知識について、再確認する。 2024年の中秋の名月は9月17日である。月との関わりについて。	
	この回の 到達目標	①～⑤全到達目標に関連して、後期授業受講に必要な知識について確認する。		
	事前学修	シラバスを読んで、これまでに修得している知識の整理をしておく。 前期に学修した内容を再確認しておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
2	火山と火山災害		火山についての基礎知識と火山によってどのような災害が発生する可能性があるかについて学修する。	
	この回の 到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、火山とその災害についての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
3	河川		自然な河川の流れや河川管理など、河川についての基礎的な知識を修得する。	
	この回の 到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、自然の河川の流れについて知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
4	河川地形		普段生活している場所やその周囲で見られる地形のうち、主に河川によって形成された地形について、学ぶ。	
	この回の 到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、河川によって形成される地形についての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
5	水害と防災		大雨時の災害について、被害を軽減させるための防災について学ぶ。	
	この回の 到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、特に水害についての知識を元に、各自が周囲の被害を軽減させることができるようになることを目的とする。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
6	海水準変動と段丘地形		地形形成に関わる海水準変動と段丘地形やテフラについて学ぶ。	
	この回の 到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、海水準変動、段丘地形やテフラについての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	東京の地形		大学キャンパス付近から、さらにその周辺の地形について、地理院地図で確認しながら地形に関わる知識を入手していく。	
	この回の到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、滞在時間の長い大学付近やその周辺の地形について、知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
8	地形トピックス		国内での地形に関する話題や、海外の特に寒冷地で見られる地形について、知識を修得していく。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地形についての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
9	地球大気、気象の基礎		地球大気、気象や気象観測に関わる基礎的な知識を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、大気、気象について基礎的な知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
10	気候等の区分		地球全体の気候等の区分や気象・気候に関わる内容について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、気象や気候とそれに関わる事象についての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
11	地球の水と海洋		地球表面の水と海洋について、基礎的な知識を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球の水や海洋についての知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分
12	雪と氷		日本の冬季に降る雪や高山の雪氷、地球上の寒冷地で見られる雪氷について、基礎的な知識を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球上の雪氷について基礎的な知識を修得する。		
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。		120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	気候変動		地球の過去の気候変動について、その寒暖や解明方法などについて学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球の過去の気候変動とその解明方法についての知識を修得する。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
14	地球温暖化		世界の関係科学者の知見をまとめたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告書の内容などを元に、地球温暖化についての知識を修得し、考察する基礎とする。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、地球温暖化の科学的基礎について学修し、今後、この問題を考察していく基礎とする。	
	事前学修	この回のテーマについて、これまでに修得している知識の整理をしておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、さらに理解を深めるために提示された資料に目を通す。疑問点はまずは自分で調べる。	120分
15	後期授業のまとめ		後期授業全体についてふりかえる。
	この回の到達目標	全到達目標①～⑤に関連して、後期授業の内容を理解したことを確認する。	
	事前学修	後期授業で学習した内容についてふりかえり、整理しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を確認し、自分のものとする。疑問点があれば、まずは自分で調べる。	120分

科目名	地理学 I	担当者	小関 勇次	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
我々の身近な生活空間である日本の国土の自然環境と地理的諸課題について、地図を用いて空間的に解析していく。具体的な学習項目は日本の地形環境と気候環境、自然災害と防災について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
日本の自然環境の特質について理解すること。 地図を活用して地理的事象を考察する力（空間的思考力）を身に付けること。 自然と人間活動のかかわりを考察できること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
① 対面式授業で実施する。 ② 授業ごとにワークシート（プリント）をpdfで配布するので必ずダウンロード&プリントアウトして準備する。ワークシートは作業学習が多いので事前学習に十分時間がけること。 ③ レポートの提出・授業コメントの提出を求める。 ④ 試験を実施する。（ワークシートの内容から出題します）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	地理的技能をを伴う地形図読解、地形判読について理解度や習熟度を確認するために回答を求める。課題については発表や報告を予定している。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境（地形環境と気候環境）の特質について具体的に説明できる。				2	2	2	2				
②	地形図から発想・判読・活用するスキルを身に付けている。				2	2						
③	日本における自然災害を列挙することができ、防災についての課題を検討できる。					2	2	2				
④	自然と人間活動の関わりについて事例を挙げて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験を実施し到達目標①②③④の達成度を評価する。	30	10	10	10							60
小テスト等	地理的技能については確認テストにより到達目標②③の習熟度で評価する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③及び④に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。			10	10							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での質問に対しての回答・確認テストの講評・レポートの講評などは大学のポータルサイトを通じて対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もう一度読む 山川地理	田邊裕	山川出版	2019	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業後やポータルを通じて質問・相談に対応する。 koseki.yuuji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校の地理歴史科の教諭として36年間勤務し、主に地理を担当した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教職志望の学生には授業に役立つ知識や技能の習得を目指した授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入 地理学とは	講座内容・シラバスの確認・授業方法等の確認 地理学とは 地理学の領域について	
	この回の到達目標	講座内容とシラバスを確認し授業方法等について理解する。 地理学の概念について理解する。（関連SB0s①）	
	事前学修	授業の準備（テキスト・シラバス・授業方法等） 地理学をWeb検索して、地理学について400文字程度で定義しておく。	120分
	事後学修	あなたに外国人の友達がいる、【日本の自然】について紹介する手紙を書くこととする。あなたはどのように紹介するか、400文字で紹介する。（次回の授業で報告）	120分
2	日本の地形環境の特質	世界から見た日本の地形環境～日本は島国？山国？～ 課題報告【日本の自然】	
	この回の到達目標	日本の地形環境の特質につて事例を挙げて説明できる。 日本の自然について紹介できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	地図帳を参考に世界の大地形を作図しておく。 テキストやWebを利用して日本の自然環境の特色をまとめておく。	180分
	事後学修	配布ワークシート（日本の地形環境の特質）を完了させる。	60分
3	山地の地形	日本における山地の分布・種類・成因 褶曲山地・火山の成因	
	この回の到達目標	白地図に日本の山地の分布を図示できる。 山地の分布・種類・成因を説明できる。 地形図から形状の違いを判断できる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されている白地図ワークシートに日本の山地の分布を完成させておく。 地形図コンターワーク（火山地形）の作業を進めておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び火山地形の地形図作業を完了させる。	60分
4	平野の地形	日本における平野の分布・種類・成因 地形図から沖積平野の微地形分類及び特徴	
	この回の到達目標	白地図に日本の平野の分布を図示できる。 平野の分布・種類・成因を説明できる。 地形図から氾濫原の微地形分類ができる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されている白地図ワークシートに日本の平野の分布を完成させておく。 氾濫原における微地形分類の作業を進めておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び氾濫原微地形分類の作業を完了させる。	60分
5	海岸の地形	日本における砂浜海岸と礫浜海岸の分布・種類・成因 地形図から海岸地形の種類と特徴	
	この回の到達目標	日本の海岸について砂浜と礫浜の分布を判別できる。 堆積海岸と侵食海岸の形状の違いを説明できる。 地形図から海岸地形の分類ができる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されているワークシートの堆積海岸と侵食海岸のイラストを描いてくる。 授業担当者の論文「消える砂浜」を精読し内容を把握しておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び海岸地形の地形図作業を完了させる。	60分
6	島嶼の地形	日本における島嶼の地形と成因。島の成因（裾礁・堡礁・環礁・火山島） 海洋国家日本の領域	
	この回の到達目標	島の成因を説明できる。 裾礁・堡礁・環礁などの珊瑚地形の堆積・侵食が説明できる。 日本の領域を大まかに描ける。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	配布されているワークシートの堆積海岸と侵食海岸のイラストを描いてくる。 授業担当者の論文「消える砂浜」を精読し内容を把握しておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び珊瑚地形（南大東島）の地形図作業を完了させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本の気候環境の特質		日本の気候環境の特質 気候と日本の生活文化の形成（年中行事・俳句・挨拶）	
	この回の到達目標	日本の気候環境の特質を説明できる。 気候環境と生活文化の関連を紹介できる。（関連SB0s①④）		
	事前学修	ケッペンの気候分類から日本の気候型の特徴をまとめる。 日本の気候環境と年中行事との関連について具体的事例を400文字程度で記述する。（授業で報告）		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気候環境の特質）を完了させる。		60分
8	日本の気候区		日本の気候環境と気圧配置 日本の気候区分と気候区の特徴	
	この回の到達目標	日本の気候環境を決定する日本周辺の気圧配置を描くことができる。 日本の気候区分と気候区の特徴を説明できる。（関連SB0s①）		
	事前学修	配布されているワークシートの気圧配置図をと日本の気候型を白地図に描く。 日本の気候区の特徴をまとめておく。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気圧配置図・気候区・気候区の特徴）を完了させる。		60分
9	台風と雪		台風の発生システムとその影響 日本における降雪エリア（スノーライン）と降雪の要因	
	この回の到達目標	台風の発生システムを説明できる。 降雪エリア（スノーライン）を引くことができる。 降雪の要因を図示することができる。（関連SB0s①）		
	事前学修	日本における近年の台風被害の事例を調べる。 日本における近年の豪雪被害の事例を調べる。		180分
	事後学修	台風の発生システムとその影響について整理する。 降雪エリア（スノーライン）と降雪の作図を完了させる。		60分
10	自然と災害①気象災害		日本の主な気象災害の種類と発生要因 台風・竜巻・集中豪雨・豪雪の被害想定	
	この回の到達目標	日本の主な気象災害の事例を列挙できる。 気象災害の発生要因を説明できる。 被害写真から気象災害の種類を判別できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	日本における近年の気象災害の事例を調べる。 気象庁のHPを検索して気象災害の発生要因を調べる。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気象災害）を完了させる。 気象災害の被害想定反復練習。		60分
11	自然と災害②地震と火山		日本の地震と火山の分布と発生要因 地震・火山の被害想定 地震の二次災害（津波と液状化）	
	この回の到達目標	日本の地震と火山の分布と発生要因を説明できる。 被害写真から地震・火山・津波・液状化を判別できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	日本における近年の地震・火山災害の事例を調べる。 地震と火山の発生システムを作図してくる。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシートの作図（地震・火山の発生システム）を完了させる。 地震・火山の被害想定反復練習。		60分
12	東日本大震災の教訓		東日本大震災の振り返り 東日本大震災の教訓（防災の課題・復興の課題）	
	この回の到達目標	東日本大震災について概要を説明できる。 東日本大震災について復興の課題を指摘できる。 原子力発電の是非について自分なりの見解が持てる。（関連SB0s③④）		
	事前学修	東日本大震災についてWeb検索し動画を視聴しておく。 東日本大震災の被害概況をまとめておく。		120分
	事後学修	原子力発電のメリット&デメリットを精査して、原子力発電に対する自分なりの見解を記述する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	防災①地震防災	地震の災害リスクと被害想定 地震防災の取り組みと課題	
	この回の到達目標	地震の被害想定ができる。 地震防災の課題が指摘できる。（関連SB0s③④）	
	事前学修	高校時代の地震に対する避難訓練や防災訓練について振り返る（授業で紹介）。 地震防災の避難訓練や防災訓練の課題について振り返る（授業で紹介）。	120分
	事後学修	自宅周辺を想定して、地震発生時の避難行動を整理する。	120分
14	防災②洪水ハザード	集中豪雨時の洪水リスクと被害想定 洪水ハザードマップの活用 避難行動の課題	
	この回の到達目標	洪水の被害想定ができる。 洪水ハザードマップを活用できる。 避難行動の課題を指摘できる。（関連SB0s③④）	
	事前学修	自宅周辺の洪水ハザードマップを入手、又は市町村HPからハザードマップをプリントアウトしておく。 ハザードマップから洪水発生時の避難行動について確認しておく。（避難場所・避難時間など）	60分
	事後学修	自宅周辺の自然災害を想定して【地域防災の課題】レポート作成・提出。	180分
15	試験及び振り返り	授業内容の理解を問う試験（50分 100点） 授業の振り返り	
	この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための試験に対して十分解答することができる。 授業を振り返り自己評価ができる。	
	事前学修	試験の準備。配布されたワークシートやノート類の総復習。	180分
	事後学修	答案の自己評価と授業の振り返り。	60分

科目名	地理学 I	担当者	杉山 昌謙	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
我々の身近な生活空間である日本の国土の自然環境と地理的諸課題について、地図を用いて空間的に解析していく。具体的な学習項目は日本の地形環境と気候環境、自然災害と防災について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の自然環境の特質について理解すること。 地図を活用して地理的事象を考察する力（空間的思考力）を身に付けること。 自然と人間活動のかかわりを考察できること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義資料を中心とした講義形式。関連する動画教材も使用する。また、小テスト・課題についてのフィードバックは必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境（地形環境と気候環境）の特質について具体的に説明できる。				2	2	2	2				
②	地形図から発想・判読・活用するスキルを身に付けている。				2	2						
③	日本における自然災害を列挙することができ、防災についての課題を検討できる。					2	2	2				
④	自然と人間活動の関わりについて事例を挙げて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～④に関する基礎知識・技能が身についている かを授業内の小テストまたは提出課題により評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①～④に関する基礎知識・技能が身についている かを期末レポートにより評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新詳高等地図	帝国書院編集部編	帝国書院	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
sugi-ma@fc.jwu.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校専任教員 34年間
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本女子大学附属高等学校地歴公民科	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地理学とは何か	授業の進め方、受講上の注意について説明する。地理学とは何かについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、本授業の進め方、受講上の注意について理解し、地理学とは何かについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容を確認する。地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	地図の利用	地理学における地図の利用法について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、地理学における地図の利用法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（地図など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（各種地図の利用法など）について復習する。	120分
3	地形図読解の基礎	地形図読解の基礎について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、基礎的な地形図読解ができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（地形図など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（地図記号、等高線など）について復習する。	120分
4	身近な地形（１）　　おう地の記号で表現される地形	等高線でおう地の表現を理解し、自然の状態で造られるおう地について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、おう地の地図記号が説明でき、自然の状態で造られるおう地について地形を理解し、説明することができる。	
	事前学修	地図記号のなかに、おう地の表現があることを確認しておく。普通の等高線とどのように違うのか確認しておく。	120分
	事後学修	配布資料の自然のおう地について地形を復習する。	120分
5	身近な地形（２）　　沖積平野（谷底平野、扇状地）	沖積平野の分類のうち河川上流部の地形（谷底平野と扇状地）について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、谷底平野と扇状地について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（谷底平野、扇状地）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項(谷底平野、扇状地）について復習する。	120分
6	身近な地形（３）　　沖積平野（自然堤防地帯、三角州）	沖積平野の分類のうち、河川下流部の地形（自然堤防地帯と三角州）について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、自然堤防地帯と三角州について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（自然堤防地帯、三角州）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（自然堤防地帯、三角州）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	身近な地形（4） 台地、海岸平野	沖積平野の分類のうち、台地と海岸平野について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、台地と海岸平野について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（台地、海岸平野）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（台地、海岸平野）について復習する。	120分
8	リアス海岸 三陸海岸	リアス海岸の事例として、三陸海岸について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、リアス海岸の特徴と三陸海岸の地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（リアス海岸など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（リアス海岸の特徴と三陸海岸の地域特性など）について復習する。	120分
9	海岸砂丘 鳥取砂丘	海岸砂丘の事例として鳥取砂丘について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、海岸砂丘の特徴と鳥取砂丘の地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（海岸砂丘など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（海岸砂丘の特徴と鳥取砂丘の地域特性など）について復習する。	120分
10	日本の気候の概要	日本の気候の概要について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の気候の概要について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（日本の気候区分）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（気候区分、日本の気候の概要など）について復習する。	120分
11	新潟県の豪雪地域	新潟県の豪雪地域について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本における豪雪のメカニズム、豪雪地域の地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（日本海側の気候など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本における豪雪のメカニズムと豪雪地域の地域特性など）について復習する。	120分
12	日本の自然災害の概要	日本の自然災害の概要について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の自然災害の概要と防災について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（ハザードマップなど）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の自然災害の概要と防災の実際など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の地震災害	日本の地震災害の特徴について具体的に事例をあげ詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の地震災害のメカニズムと特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（地震、活断層など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（地震、活断層など）について復習する。	120分
14	日本の火山災害	日本の火山災害の特徴について具体的事例をあげて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の火山災害のメカニズムと特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（火山など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の火山災害のメカニズムと特徴など）について復習する。	120分
15	まとめと補足説明	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。事前に配布資料がある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業全体の重要事項について復習する。	120分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	小関 勇次	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本における地理的諸課題の中から地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を主要テーマとして授業を展開する。特に日本が劇的に変化した高度経済成長期以後の人工改変については時系列地図を用いて考察していく。併せて都市と農村、中央と地方などの関係や課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を理解し検討することで地域を診断する能力を養う。また、地図を活用して地域の特徴や変容を見出す地域調査法を習得する。授業を通じて、地域を見る目、地域性を見い出す能力、地域を比較・検討する分析力を身に付ける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
① 対面式授業で実施する。 ② 授業ごとにワークシート（プリント）をpdfで配布するので必ずダウンロード&プリントアウトして準備する。ワークシートは作業学習が多いので事前学習に十分時間がけること。 ③ レポートの提出・授業コメントの提出を求める。 ④ 試験を実施する。（ワークシートの内容から出題します）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	時系列地図を用いての地域解析などの地理的技能を伴う授業の場合は個別の指導を行う。 また、レポートや課題報告については、発表を通じて相互評価を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の地域構造について地域的特色、歴史的発展過程を説明できる				2	2	2	2				
②	高度経済成長期以後における地域の変容について時系列地図を用いて説明できる。				2	2	2	2				
③	農業と工業、都市と農村、中央と地方の諸課題について比較・検討できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験を実施し到達目標①②③の達成度を評価する。	20	20	20								60
小テスト等	時系列地図を用いての地域解析など地理的技能を確認するために小テストを行い到達目標①②の習熟度を評価する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での質問に対しての回答、確認テストの講評、レポートの講評などは授業後に対応する他、大学のポータルサイトを通じて対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もう一度読む 山川地理	田邊裕	山川出版	2019	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業後やポータルを通じて質問・相談に応じる。 koseki.yuuji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校の地理歴史科の教員として36年間勤務し、主に地理を担当した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教職志望の学生には授業に役立つ知識や技能の習得を目指した授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入	シラバスの確認 地理学Ⅱの授業内容と授業方法の紹介	
	この回の到達目標	地理学Ⅱのシラバス・授業内容・授業方法を理解する。（関連SB0s①）	
	事前学修	シラバスの確認・地理学Ⅱの授業内容と授業方法の確認。 「日本の生活と文化」について、興味関心のあるテーマについて考えてくる。	60分
	事後学修	出身地域の伝統文化について、400文字程度で紹介する。（次回の授業で報告）	180分
2	日本の生活と文化	出身地域の伝統文化紹介 日本の文化の独自性 日本人の世界観・価値観	
	この回の到達目標	日本文化を紹介することができる。 日本文化の独自性を説明できる。 日本人の世界観・価値観を紹介できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	日本文化について、興味関心のあるテーマを調べてくる。 日本の年中行事を調べてくる。 日本人の世界観・価値観について討論できる準備ををする。	120分
	事後学修	「文化の伝播と変容」について事例を取り上げ400文字程度で記述する。	120分
3	風土論と景観論	和辻哲郎の「風土論」 風土と景観の違い	
	この回の到達目標	日本の風土を紹介できる。 日本的な景観を紹介できる。 風土・景観・景色の違いを説明できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	和辻哲郎の「風土論」をWeb検索して要旨を400文字程度で記述しておく。 日本的な景観を取材し（写真を撮る）授業で紹介できるように準備する。	180分
	事後学修	日本的景観の報告会で共有された情報を整理する。	60分
4	地域の見方・考え方	地域とは何か～地域の見方・考え方～ 空間の概念と構造	
	この回の到達目標	地域とは何か説明できる。 空間の概念と構造を説明できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	「地域」をキーワードとして400文字程度で定義付けをしってくる。（授業で報告）	120分
	事後学修	未完のワークシート「地域の概念図」を完成させる。	120分
5	地域性と県民性	地域性・県民性 文化圏の比較（東日本と西日本）	
	この回の到達目標	地域性とは何か、説明できる。 東日本と西日本の文化の違いを見出せる。 県民性を紹介できる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	「郷土の地域性と県民性」について400文字程度でまとめておく（授業で報告）。	120分
	事後学修	授業で共有された「地域性・県民性」についての記録を整理する。	120分
6	日本の農業地域 ～米づくりの今～	日本の農業地域 伝統的稲作と現代の米作	
	この回の到達目標	日本の農業地域について事例を挙げて説明できる。 伝統的稲作について理解している。 現代農業の特色を紹介できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	事前に配布された「日本の農業地域」のワークシート作業を完了させる。	120分
	事後学修	「日本の農業の将来構想」について400文字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本の工業地域 ～臨海コンビナート～		日本の工業地域 港湾の形態と機能（東京湾）	
	この回の 到達目標	日本の主要な工業地域について列挙できる。 港湾の形態と機能について説明できる。 臨海コンビナートの特色を説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	配布されたワークシート「東京湾海図」の作業を進めておく。 臨海コンビナートの特色を調べておく。		120分
	事後学修	未完の「東京湾海図」チャートワークを完了させる。		120分
8	里山資本主義 ～里山からの提言～		里山・中山間地域の概念 里山資本主義	
	この回の 到達目標	里山・中山間地域の生活について説明できる。 里山の魅力を紹介できる。 持続可能な地域づくりのアイデアを紹介できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	「里山資本主義」について、文献を読むかWeb検索して400文字程度で定義付けをしてくる。		120分
	事後学修	「里山の魅力」「持続可能な地域づくり」のアイデアを400文字程度記述する。		120分
9	日本の村落の形態と機能		村落の立地条件 伝統的村落の形態と機能	
	この回の 到達目標	村落の立地条件について説明できる。 伝統的村落の形態と機能を説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	事前に配布された「村落」に関する地形図作業を進めておく。		120分
	事後学修	未完の地形図作業（条里集落）を完了させる。		120分
10	日本の都市の形態と機能		都市の立地条件 都市の形態と機能	
	この回の 到達目標	都市の立地条件について説明できる。 都市の形態と機能について説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	事前に配布された「都市」に関する地形図作業を進めておく。		120分
	事後学修	未完の地形図作業（城下町）を完了させる		120分
11	都市化と地域変容① 高度経済成長		都市化・都市の発展 高度経済成長の功罪 都市問題	
	この回の 到達目標	日本の高度経済成長期について説明できる。 都市化と都市の発展に伴う諸課題を指摘できる。（関連SB0s②）		
	事前学修	「高度経済成長期」をキーワードとして文献・Web検索し要点を400文字程度でまとめておく。		120分
	事後学修	未完のワークシート「都市問題」について整理する。		120分
12	都市化と地域変容② 首都圏		首都圏の変容 東京の発展と諸課題	
	この回の 到達目標	首都圏における地域変容について事例をあげて説明できる。 東京の発展について説明できる。 再開発について検討できる。（関連SB0s②）		
	事前学修	事前に配布された時系列地図「東京の発展」について作業をすすめておく。		120分
	事後学修	「都市の再開発」について自分の見解を400文字程度でまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	都市化と地域変容③ 地方	地方の変容 人工改変による地域変容の問題 過疎化と高齢化	
	この回の到達目標	地方の地域変容について事例をあげて説明できる。 人工改変による地域変容の問題を指摘できる。 地方における過疎化・高齢化問題を議論できる。（関連SB0s②）	
	事前学修	事前に配布された時系列地図「人工改変展」について作業をすすめておく。	120分
	事後学修	「過疎化・高齢化」問題について自分の見解を400文字程度でまとめる。	120分
14	都市化と地域変容④ 郷土	郷土の変容 郷土の地域変容に伴う諸課題 郷土の将来構想	
	この回の到達目標	郷土の地域変容について紹介できる。 郷土の地域変容に伴う諸課題を指摘できる。 郷土の未来について提案できる。（関連SB0s②）	
	事前学修	「地図で読む郷土の変容」の主題でレポートを作成・提出する。（授業で報告）	180分
	事後学修	授業で報告された内容について整理する。自分のレポートの校正・修正。	60分
15	試験及び振り返り	授業内容の理解を問う試験（50分 100点） 授業の振り返り	
	この回の到達目標	SB0s①②③を評価するための試験に対して十分解答することができる。 授業を振り返り自己評価ができる。	
	事前学修	試験の準備。配布されたワークシートやノート類の総復習。	180分
	事後学修	答案の自己評価と授業の振り返り。	60分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	杉山 昌謙	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本における地理的諸課題の中から地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を主要テーマとして授業を展開する。特に日本が劇的に変化した高度経済成長期以後の人工改変については時系列地図を用いて考察していく。併せて都市と農村、中央と地方などの関係や課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を理解し検討することで地域を診断する能力を養う。また、地図を活用して地域の特徴や変容を見出す地域調査法を習得する。授業を通じて、地域を見る目、地域性を見い出す能力、地域を比較・検討する分析力を身に付ける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義資料を中心とした講義形式。関連する動画教材も使用する。また、毎回の小テスト・課題についてのフィードバックは必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の地域構造について地域的特色、歴史的発展過程を説明できる				2	2	2	2				
②	高度経済成長期以後における地域の変容について時系列地図を用いて説明できる。				2	2	2	2				
③	農業と工業、都市と農村、中央と地方の諸課題について比較・検討できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③に関する基礎知識・技能が身についているかを、授業内の小テストまたは提出書類により評価する。	8	4	8								20
レポート等	到達目標①～③に関する基礎知識・技能が身についているかを、期末レポートにより評価する。	40	20	20								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	24	28								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新詳高等地図	帝国書院編集部編	帝国書院	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
sugi-ma@fc.iwu.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校専任教員 34年間
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本女子大学附属高等学校地理歴史科	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地理学とは何か	本授業の進め方、受講上の注意、地理学とは何かについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意について理解する。地理学とは何かについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容を確認する。地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	日本の人口と社会	日本の人口の変遷と社会問題の特徴について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の人口分布の変遷と社会問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（過密、過疎など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の人口分布の変遷と社会問題の特徴など）について復習する。	120分
3	過疎地域	過疎地域について具体的事例をあげて、詳しく説明する、	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、過疎地域の地域問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（「過疎法」など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（過疎地域の地域問題など）について復習する。	120分
4	日本の農業地域（１） 米作	日本の農業概要と米作地域について具体的事例をあげて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の農業概要と米作地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（米作農業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の農業の概要と米作農業地域の地域特性の変遷など）について復習する。	120分
5	日本の農業の農業地域（２） 畑作、果樹作	日本の畑作農業地域と果樹作農業地域について具体的事例をあげて、詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の畑作農業地域、果樹作農業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（畑作農業、果樹作農業）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の畑作農業地域、果樹作農業地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分
6	日本の農業地域（３） 畜産業	日本の畜産業地域について具体的事例をあげて、詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の畜産業の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（日本の畜産業）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の畜産業の地域特性とその変遷）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の林業の概要と林業地域	日本の林業の概要と林業地域について具体的事例をあげて、詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の林業の概要と林業地域について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（林業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本林業の概要と林業地域の地域特性とその変遷）について復習する。	120分
8	日本の水産業の概要と水産業地域	日本の水産業の概要と水産業地域の地域特性とその変遷について具体的事例をあげて、詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の水産業の概要と水産業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（水産業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の水産業の概要と水産業地域の地域特性とその変遷）について復習する。	120分
9	日本の鉱業・エネルギー資源の概要	日本の鉱業・エネルギー資源の概要について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の鉱業・エネルギー資源の概要についてについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（鉱業、エネルギー資源など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項日本の鉱業・エネルギー資源の概要など）について復習する。	120分
10	日本の鉱業地域 産炭地域	日本の鉱業地域の事例として、産炭地域について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、産炭地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（石炭産業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（産炭地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分
11	日本のエネルギー資源地域 原子力	日本のエネルギー資源地域の事例として、原子力発電所が立地する電源地域について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、原子力発電所の立地動向と電源地域の地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（原子力発電など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本における原子力発電所の立地動向と電源地域の地域特性など）について復習する。	120分
12	日本の工業地域（１） 在来工業	日本の工業の概要と工業地域の事例として、在来工業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の工業の概要と在来工業の立地について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（在来工業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の工業の概要と在来工業の立地など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の工業地域（２） 近代工業	日本の近代工業の立地と工業地域の形成について、具体的事例をあげて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の近代工業の立地と工業地域の形成について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（近代工業など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（日本の近代工業の立地と工業地域の特徴など）について復習する。	120分
14	日本の工業地域（３） 企業城下町	企業城下町の特徴について具体的事例をあげて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、企業城下町形成のメカニズムとその特徴について理解し、説明ができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（企業城下町など）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（企業城下町形成のメカニズムとその特徴など）について復習する。	120分
15	まとめと補足説明	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、前回までの学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。	120分
	事後学修	授業全体の重要事項について復習する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『わからなさを生きる哲学』	岡山敬二	亜紀書房	2022	教科書	推奨
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」		ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
2	「人間らしさ」とは——心と身体をめぐって		前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を心と身体という点から考える。	
	この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を心と身体という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②		
	事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、心と身体という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかについて、その意味を心と身体という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
3	哲学的人間観の諸相		デカルトとニーチェ、この二人の哲学者を通して、哲学的人間観の代表的な諸相を比較、検討する。	
	この回の到達目標	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	デカルトやニーチェとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
4	「私」という存在		デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり（je pense donc je suis）」という命題について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	デカルトの哲学、とくに「われ思う、ゆえにわれあり」という命題の意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
5	人間はどこまで動物か		動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を考える。	
	この回の到達目標	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	人間と動物との違い、心や利害意識、言語能力とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	動物における心や利害、言語能力の有無について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
6	人間らしさの基準とは		人間存在に固有の言語と認識能力について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	言語とは、認識とは何かについて思い、考えることを整理しておくこと		90分
	事後学修	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人類（ホモ・サピエンス）の「心」の歴史	人類の心の歴史をたどりながら、動物の行動と人間の行動を比較し、その違いについて考える。	
	この回の到達目標	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ヒト（ホモ・サピエンス）の誕生について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて考える。	
	この回の到達目標	人間と機械や動物との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	人間と機械や動物との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
9	心と身体の違いについて——デカルトをめぐって	デカルトに始まる身心問題の歴史的背景を確認し、その意味について考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる身心問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	心（精神）と身体（肉体）と物質の違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトに始まる身心問題について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	心と身体の間接点について——デカルトを超えて	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	心（精神）と身体（肉体）や物質とはどうつながるのかについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	「生きられる身体」としての自己の身体へ	物体存在ではない、内面としての「私」によって裏打ちされた身体のあり方について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	物質と身体（肉体）との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	「世界内存在」としての身体——表現、表情をめぐって	身体の実現や表情という点から自己と他者との関係性について考える。	
	この回の到達目標	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	表情や表現とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「身体図式」とは一身体行動のなりたちをめぐって	感覚連合説の難点とゲシュタルトとしての「身体図式」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	幻影肢という現象、ゲシュタルトという概念とはどういうものかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	生きられた世界―日常生活へと巻き戻して	日常生活で経験される世界のありように照らし合わせ、フッサールの「生活世界」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	生活世界と科学的、客観的な世界観との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったのかを調べておくこと。日常生活の世界と科学的世界観との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	生活世界と科学的、客観的な世界との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	小口 裕史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
知的好奇心と探究心が旺盛であることが望ましい。

【授業方法】
講義を中心に進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、定期試験により評価する。 ※ただし、登録者が多数でない場合は、第15回目の授業内に試験を実施するよう変更する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	20	10	20								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問は、授業後に教室で受け付ける。問い合わせ先メールアドレス：oguchi.hirofumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。また、「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、授業の概要を理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
2	「ソクラテス以前の哲学者たち」 (1) ミレトス派	「ソクラテス以前の哲学者」「自然学者たち」と呼ばれる人々の「自然観」として、まず「ミレトス派」の三人が「万物のアルケー（原理）」を何であると考えたのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	タレーズが「万物のアルケー」として「水」を、アナクシマンドロスが「無限定なもの」を、アナクシメネスが「空気」を挙げたことを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
3	「ソクラテス以前の哲学者たち」 (2) ピタゴラス派とヘラクレイトス	ピタゴラス派とヘラクレイトスの「万物のアルケー」についての考えを学ぶ。	
	この回の到達目標	ピタゴラス派が「万物のアルケー」として「数」を挙げ、ヘラクレイトスが「火」を挙げたことを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
4	「ソクラテス以前の哲学者たち」 (3) エレア派	「万物のアルケー」が何であるかという問題ではなく、「存在」について探究した「エレア派」のパルメニデスと、彼の考えを継承したゼノンの考えを学ぶ。	
	この回の到達目標	パルメニデスの「存在」と、ゼノンによる「変化と運動の否定」について理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
5	「ソクラテス以前の哲学者たち」 (4) エンペドクレス、アナクサゴラス、原子論者たち	パルメニデスの一元論に対抗して多元論を唱えたエンペドクレス、アナクサゴラス、原子論者たち(レウキッポスとデモクリトス)の学説について学ぶ。	
	この回の到達目標	エンペドクレスの「四元素説」、アナクサゴラスの「万物の種子」、原子論者たちの「原子」と「空虚」について理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
6	ソフィストたちとソクラテス	ソフィストたちとソクラテスを比較しながら、「哲学」という活動はいかなるものなのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	ゴルギアスらが「ソフィスト（知者）」と自称したのに対して、ソクラテスが「哲学者（愛知者）」と呼ばれる理由を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プラトンの哲学	ソクラテスの弟子の一人だったプラトンの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	プラトンの「イデア論」とその難点を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
8	アリストテレスの哲学（１）	プラトンの弟子の一人だったアリストテレスの哲学、特に「形而上学」の意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	「形而上学」という訳語の由来を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
9	アリストテレスの哲学（２）	アリストテレス の「実体」「形相」「質料」などの概念について学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレス の「実体」概念や「形相と質料」の区別について理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
10	スコラ哲学	中世の哲学で主題とされた「神の存在証明」および「存在と本質」の区別について学ぶ。	
	この回の到達目標	「神の存在証明」の仕方と、「存在と本質」の区別を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
11	大陸合理論（１）デカルト	大陸合理論の祖と呼ばれるデカルトの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	デカルトの「方法的懐疑」「物心二元論」「機械論的自然観」などを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
12	大陸合理論（２）スピノザとライプニッツ	合理論の系譜に属するスピノザとライプニッツそれぞれの形而上学について学ぶ。	
	この回の到達目標	スピノザの「汎神論」と、ライプニッツの「モナド論」を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	イギリス経験論（１）ロック	イギリス経験論に属するロックとバークリの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	ロックの「経験」と「観念」、バークリの「非物質主義」を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
14	イギリス経験論（２）ヒューム	ロックとバークリに続くヒュームの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	ヒュームの「印象」と「観念」の区別、および因果律批判を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	振り返り・まとめ	各回の授業内容の復習とまとめをおこなう。	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシャ哲学からイギリス経験論までの主要な学説を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回までの授業内容を、プリントやノートを読み直して総合的に確認しておく。	180分
	事後学修	各回の授業内容の要点を確認し直して、定期試験に備える。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	金子 佳司	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	できるかぎり学生との対話を取り入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の内容を理解し、理解したことを正確に説明できること。	40	30									70
小テスト等	授業の内容を踏まえて課題に答えられること。この小テストは授業への参画度の確認でもある。			30								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行なう小テストについては、後日、講評をGoogleClassroom上で行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
哲学の起源と変貌	金子佳司	北樹出版	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間に、教室等にて。または、kaneko.keijill@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入 哲学について	授業計画や評価方法などの説明。 「哲学とは何か」「哲学はいつ始まったのか」という問題を考える。	
	この回の 到達目標	哲学という学問について理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、この授業の概要を理解する。また、教科書の「はじめに」を読んで、哲学とは何かを考える。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
2	哲学の始まり	アリストテレスの哲学史観を学ぶ。	
	この回の 到達目標	哲学の歴史について理解する。	
	事前学修	教科書の「哲学の始まり」を読んで、哲学がいつ始まったかを考える。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
3	ミレトス派	ミレトス派の自然哲学を学ぶ。	
	この回の 到達目標	最初の哲学と言われているミレトス派の哲学を理解する。	
	事前学修	教科書の「ミレトス派」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
4	ピュタゴラスとヘラクレイトス	ピュタゴラスとヘラクレイトスの自然哲学を学ぶ。	
	この回の 到達目標	ピュタゴラスとヘラクレイトスの哲学を理解する。	
	事前学修	教科書の「ピュタゴラス」と「ヘラクレイトス」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
5	エレア派	エレア派の考え方を学ぶ。	
	この回の 到達目標	エレア派の哲学がこれまでの哲学とどのように異なるかを理解する。	
	事前学修	教科書の「エレア派」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
6	エンペドクレスとアナクサゴラス	エンペドクレスとアナクサゴラスの自然観を学ぶ。	
	この回の 到達目標	エレア派の哲学がその後の哲学にどのように影響したかを理解する。	
	事前学修	教科書の「エンペドクレス」と「アナクサゴラス」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	原子論	レウキッポスとデモクリトスの原子論を学ぶ。	
	この回の到達目標	エレア派の哲学と原子論と関係を理解する。	
	事前学修	教科書の「原子論」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
8	ソフィストとソクラテス	ソフィストとソクラテスの考え方や生き方を学び、哲学者とは何かを考える。	
	この回の到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方や生き方の違いを理解する。	
	事前学修	教科書の「ソフィスト」と「ソクラテス」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
9	プラトン(1)	プラトンがなぜイデア論を唱えるようになったかを考える。	
	この回の到達目標	プラトンのイデア論を理解する。	
	事前学修	教科書の「プラトン(1)」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	123分
10	プラトン(2)	プラトンのイデア論に基づく世界観を学ぶ。	
	この回の到達目標	イデア論に基づくプラトンの哲学を理解する。	
	事前学修	教科書の「プラトン(2)(3)」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
11	アリストテレス(1)	アリストテレスの世界観を学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレス哲学における世界観を理解する。	
	事前学修	教科書の「アリストテレス(1)第一哲学」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
12	アリストテレス(2)	アリストテレスの人生観を学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレス哲学における人生観を理解する。	
	事前学修	教科書の「アリストテレス(2)実践哲学」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘレニズム時代の哲学	エピクロスの快楽主義とストア派の禁欲主義を学ぶ。	
	この回の到達目標	エピクロスの快楽主義とその背後にある世界観を理解する。 ストア派の禁欲主義とその背後にある世界観を理解する。	
	事前学修	教科書の「エピクロス」と「ストア派」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
14	まとめ（復習）	授業の総まとめ	
	この回の到達目標	古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	教科書とノートを使って、ここまでの授業の内容を復習する。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	理解の確認	この授業の内容が理解できていたかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	ここまでの授業内容を振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	江川 晃	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による講義。5回の小課題（8点）を出します。その内容は授業のまとめです。感想・意見・質問等は自由にお書きください。必ず期日内に提出してください。次回、それをもとに授業を進めていきます。哲学レポートの書き方も指導します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の最後に質問・意見・感想等を記入すること。翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	小課題（8点×5回＝40点）Googleclassroomから提出のこと！	40										40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日1限、授業終了後Googleclassroomにて対応します。egawa.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	「哲学」という語が、日常使われる場合と学問として使われる場合の相違に関して考えてみる。 なぜ人類にとって、哲学が必要なのかを考えてみる。 前期・後期の内容を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①についてスケッチを描けるようになる。	
	事前学修	シラバスを読んでこよう。	120分
	事後学修	配布プリントの復習。	120分
2	「哲学」とは何か	日本において「哲学」という語がいつできたか。 それは何を意味したのか。	
	この回の到達目標	「哲学」という語の語源と意味を理解する。	
	事前学修	プリントを読んでくること。	120分
	事後学修	「哲学」という語の語源と意味を復習する。	120分
3	ギリシアの自然哲学 1	ミレトス学派とピュタゴラス学派、ヘラクレイトスとパルメニデス学派の相違。	
	この回の到達目標	自然哲学とは何かについて理解する。	
	事前学修	プリントを読んで、ギリシアの自然哲学の流れを把握してくること。	120分
	事後学修	哲学発生の意義の理解。	120分
4	ギリシアの自然哲学 2	エンペドクレスの生きる自然とデモクリトスの死せる自然	
	この回の到達目標	到達目標③各思想の対比。	
	事前学修	プリントを読んでく、エンペドクレスの意義について把握してくること。	120分
	事後学修	タレスからデモクリトスまでの流れを理解する。	120分
5	ソクラテス	ソクラテスの対話の真意とは何か。	
	この回の到達目標	到達目標②ソクラテス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ソクラテスについてのプリントを読んでくること。	120分
	事後学修	ソフィスト、徳の定義について把握。	120分
6	プラトン	プラトンの想起説と魂の不死。	
	この回の到達目標	到達目標②プラトン哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プラトンについての配布プリントを読んでくること。	120分
	事後学修	「イデア」を具体的に説明できるように復習しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アリストテレス	アリストテレスの自然学と形而上学	
	この回の到達目標	アリストテレス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	アリストテレスとは誰だ。	120分
	事後学修	「存在論」とは何か。	120分
8	科学革命	コペルニクス・ケプラー・ガリレオ・ニュートンの反アリストテレス主義。	
	この回の到達目標	科学革命における宗教・哲学・科学について関連させ説明できる。 到達目標③科学革命における自然哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	天動説と地動説を調べる。	120分
	事後学修	科学革命の構造の理解。	120分
9	デカルトの哲学	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」	
	この回の到達目標	到達目標②デカルト哲学の立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを讀んでくること。	120分
	事後学修	デカルトの「精神と物質の二元論」を説明できるようにしておこう。	120分
10	F. ベーコン	種族イドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラ	
	この回の到達目標	到達目標②ベーコンの経験論の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを讀んでくること。	120分
	事後学修	「イドラ」とは何かを説明できるように復習しよう。	120分
11	カント	カントの哲学と認識論	
	この回の到達目標	到達目標②カント哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	「コペルニクスの転回」とは何か。	120分
	事後学修	「純粋理性」とは何かをまとめよう。	120分
12	キルケゴールの実存主義	キルケゴールの実存の三段階(美的実存・倫理的実存・宗教的実存)	
	この回の到達目標	到達目標②キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	「実存」と「主体的真理」について調べておこう。	120分
	事後学修	美的実存・倫理的実存・宗教的実存についてまとめよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘーゲルの弁証法	「即自存在」「対自存在」「即自対自存在」について	
	この回の到達目標	到達目標②ヘーゲルの弁証法の概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	弁証法的発展について調べておこう。	120分
	事後学修	人生にとっての「挫折」の意義を考えよう。	120分
14	課題コメント・感想・質問会	今までの授業の課題・感想・質問についてコメントいたします。	
	この回の到達目標	到達目標③様々な学生の課題・感想・質問を参考にして、これまでの哲学思想の理解を深めよう。	
	事前学修	課題・感想・質問をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	最終レポートの内容を決めること。	120分
15	レポート提出 まとめ	授業補足と前期レポート提出	
	この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	レポートの完成・提出と解説。	120分
	事後学修	反省。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評・解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『わからなさを生きる哲学』	岡山敬二	亜紀書房	2022	教科書	推奨
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」		ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め、履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
2	「人間らしさ」とは一時間と死をめぐって		前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を時間と死という点から考える。	
	この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を時間と死という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②		
	事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、時間や死という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかという意味について、時間と死という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
3	時間とは何か		時間（現在・過去・未来）の存在の不思議さとその意味について考える。	
	この回の到達目標	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	時間の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
4	時間の見方——アリストテレスとアウグスティヌスをめぐって		アリストテレスとアウグスティヌスの時間論を比較し、その違いの意味について考える。	
	この回の到達目標	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	アリストテレスやアウグスティヌスとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
5	現象学の視点——フッサールをめぐって		フッサールをはじめとする現象学の時間論を考察する準備として、「現象学的還元」という方法の意味について考える。	
	この回の到達目標	「現象学的還元」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「現象学的還元」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
6	「内的時間意識」の諸相——フッサールの時間論をめぐって		フッサールの時間論の「把持」と「予持」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	フッサールの時間論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	積み重なる時間——メルロ=ポンティをめぐって		メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	メルロ=ポンティとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
8	授業の前半部の総括		授業の前半部の内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
9	死とは——人間と死		人間存在と死の問題の関係について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	人間存在と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	生と死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間存在と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
10	魂は不死なのか		形而上学的不死思想（プラトンなど）について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	形而上学的な死生観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死後の世界、魂の不死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	形而上学的な死生観について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
11	死は悪なのか		非形而上学的死生観（エンペドクレス、ソクラテスなど）について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	死の善と悪について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死の悪について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	死の善と悪について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
12	死と時間——エピクロスをめぐって		エピクロスの死生観を確認し、死と時間意識の関係について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	死と時間意識の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死と時間の関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	死と時間意識の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	死と存在——ハイデガーをめぐって	ハイデガーの存在論にとっての死の問題の意味と役割について考える。		
	この回の到達目標	存在論と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ハイデガーとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	存在論と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分	
14	時間と運命——ハイデガーの時間論をめぐって	ハイデガーの時間論における「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を考える。		
	この回の到達目標	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	運命や縁の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分	
15	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。		
	この回の到達目標	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分	

科目名	哲学Ⅱ	担当者	小口 裕史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
「哲学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義を中心に進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	20	10	20								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問は、授業後に教室で受け付ける。問い合わせ先メールアドレス：oguchi.hirofumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと「学問としての哲学」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、近世から現代にかけての「学問としての哲学」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。また、「学問としての哲学」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①③	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、授業の概要を理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
2	大陸合理論とイギリス経験論	大陸合理論とイギリス経験論という近世哲学の2つの流れについて学ぶ。	
	この回の到達目標	デカルトの「コギト」と「生得観念」説、および、「生得観念」を否定するロックの「経験」論と、ヒュームの因果律批判を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
3	カントの哲学 1	大陸合理論とイギリス経験論を総合したと言われるカントの「批判哲学」と「コペルニクスの転回」について学ぶ。	
	この回の到達目標	カントの「批判哲学」という方法と「コペルニクスの転回」の要点を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
4	カントの哲学 2	カントの「現象と物自体」の区別と「純粋理性の二律背反」について学ぶ。	
	この回の到達目標	「現象」と「物自体」の区別と「純粋理性の二律背反」を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
5	ドイツ観念論	「ドイツ観念論」と呼ばれるフィヒテ、シェリング、ヘーゲルの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	フィヒテ、シェリング、ヘーゲルの「自我」や「絶対者」に関する説を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
6	パースの哲学 1	アメリカ合衆国で独自の哲学として誕生した「プラグマティズム」について学ぶ。	
	この回の到達目標	パースによる「プラグマティズム」という造語の由来、および「プラグマティズムの格率」を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パースの哲学 2	パースが注目した「アブダクション」という推理形式について学ぶ。	
	この回の到達目標	「アブダクション」という推理の形式と特徴を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
8	ジェイムズとデューイの哲学	ジェイムズとデューイそれぞれがプラグマティズムをどのように展開したかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	ジェイムズの真理論と「根本的経験論」、およびデューイの「道具主義」と「保証付きの言明可能性」を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
9	フレーゲとラッセルの哲学	「分析哲学」の祖と見なされている哲学者の中から、フレーゲとラッセルを取り上げて「分析」の仕方について学ぶ。	
	この回の到達目標	記号論理学の根本にどのような哲学があるのかを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
10	ウィトゲンシュタインの哲学 1	フレーゲとラッセルの哲学および論理学を継承したウィトゲンシュタインの著書『論理哲学論考』の要点について学ぶ。	
	この回の到達目標	『論理哲学論考』の世界観と言語観を理解する。：関連SB0s①③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
11	ウィトゲンシュタインの哲学 2	『論理哲学論考』の「語りえぬこと」とは何かという問題と、『論理哲学論考』に強い影響を受けて誕生した論理実証主義について学ぶ。	
	この回の到達目標	「語りえぬこと」とはどのようなことなのか、また、「検証」と「反証」の違いはどのような点にあるのかを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
12	ウィトゲンシュタインの哲学 3	ウィトゲンシュタインが後に自分の言語観を否定して、新たに展開した「言語ゲーム論」について学ぶ。	
	この回の到達目標	「言語ゲーム」とはどのようなものなのか、またこの概念を提示した目的は何かを理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ローティの哲学	「ネオ・プラグマティズム」と呼ばれる立場ないし世代の一人であるローティの哲学について学ぶ。	
	この回の到達目標	ローティが指摘した近世哲学における3つの「転回」と、彼の「新ファジー主義」を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
14	人工知能と哲学	人工知能の研究開発と現代哲学との関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	「人間と同等の知能を持つA Iをつくる」という目標に対する哲学的観点からの批判を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回の授業内容を、プリントやノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	授業内試験と解説	授業内試験を実施し、その後で解説をおこなう。	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、近世哲学から現代哲学までの主要な学説を理解する。：関連SB0s①②③	
	事前学修	前回までの授業内容を、プリントやノートを読み直して総合的に確認しておく。	180分
	事後学修	試験の解答および解説を確認し直して、自分の理解をより正確なものとする。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	できる限り学生との対話を取り入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の内容を理解し、理解したことを正確に説明できること。	40	30									70
小テスト等	授業の内容を踏まえて課題に答えられること。この小テストは授業への参画度の確認でもある。			30								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行なう小テストについては、後日、講評をGoogleClassroom上で行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
哲学の起源と変貌	金子佳司	北樹出版	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間に、教室等にて。または、kaneko.keijill@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入 近代哲学について	授業計画や評価方法などの説明 哲学は近代になって西ヨーロッパで大きく変化したが、その変化とその影響について考える。	
	この回の到達目標	近代哲学は新たなものとして西ヨーロッパで生まれ、その後「近代化」の名のもとに全世界に大きな影響を与えたことを理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、この授業の概要を理解する。また、教科書の「近代の成立」「哲学の近代西欧への伝承」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
2	近代哲学成立の歴史的背景	ルネッサンス・宗教改革について学ぶ。	
	この回の到達目標	どのような歴史的経緯を経て、西ヨーロッパで近代哲学が生まれたかを理解する。	
	事前学修	教科書の「近代哲学成立の歴史的背景」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
3	「科学革命」の時代	17世紀の西ヨーロッパで世界観が大きく変化したことを学ぶ。	
	この回の到達目標	17世紀の西ヨーロッパで生まれた近代哲学・科学が「新しいもの」であることを理解する。	
	事前学修	教科書の「科学革命」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
4	デカルト哲学の原点	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」という言葉が何を意味するかを考える。	
	この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」の哲学的な意味を理解する。	
	事前学修	教科書の「『我』の発見」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
5	デカルトの世界観	デカルトの物心二元論の世界観とその問題点を考える。	
	この回の到達目標	デカルトの物心二元論の世界観の内容を理解し、そこに心身問題があることを理解する。	
	事前学修	教科書の「世界の認識」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
6	ホッブズ哲学	ホッブズの唯物論的な世界観と社会契約説を学ぶ。	
	この回の到達目標	ホッブズの世界観と国家観を理解する。	
	事前学修	教科書の「ホッブズ」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ロックの認識論		ロックの経験主義に基づく認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	経験主義に基づくどのような認識論が成立するかを理解する。		
	事前学修	教科書の「ロック」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分
8	パークリーとヒュームの認識論		経験主義に基づく認識論を徹底させたパークリーとヒュームの認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	経験主義に基づいて認識論を徹底するとどうなるかを理解する。		
	事前学修	教科書の「パークリー」「ヒューム」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分
9	フランス啓蒙主義と産業革命		フランス啓蒙主義について学び、それと産業革命との関係を考える。	
	この回の到達目標	フランスに始まる啓蒙主義の思想とはどのようなものであり、それが産業革命とどのような関係にあるかを理解する。		
	事前学修	教科書の「フランス啓蒙主義と産業革命」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分
10	カントの認識論		ロックらのイギリス経験主義の認識論の問題を踏まえながらも、デカルトらの理性主義（合理主義）も継承したカントの認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	人間の認識の成立には、経験だけではなく、経験に基づかないもの（アプリオリなもの）をも必要とすることを理解する。		
	事前学修	教科書の「認識論」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分
11	カントの道徳論		カントの幸福主義批判と彼の「義務」に基づく道徳論を学ぶ。	
	この回の到達目標	カントが幸福主義を批判した理由と「義務」を尊重した理由を理解する。		
	事前学修	教科書の「道徳論」を読む。教科書の「認識論」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分
12	ヘーゲルの世界観と国家観		ヘーゲルの観念論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
	この回の到達目標	ヘーゲルの「絶対者」と弁証法を理解し、それらに基づく歴史観を理解する。		
	事前学修	教科書の「ヘーゲル」を読む。		120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マルクスの唯物史観とサルトルの実存主義	マルクスの唯物論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。 サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。	
	この回の到達目標	ヘーゲルから弁証法を継承しながらも、ヘーゲルとは異なり唯物論を唱えたマルクスの歴史観を理解する。 サルトルの実存主義に基づく人生観を理解する。	
	事前学修	教科書の「マルクスの唯物史観」「サルトルの実存主義」を読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
14	まとめ（復習）	授業の総まとめ	
	この回の到達目標	近代ヨーロッパ哲学の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	教科書とノートを使って、ここまでの授業の内容を復習する。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	理解の確認	この授業の内容が理解できていたかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	ここまでの授業の内容を振り返って、近代哲学の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業の内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による講義。5回の小課題（8点）を出します。その内容は授業のまとめです。感想・意見・質問等は自由にお書きください。必ず期日内に提出してください。次回、それをもとに授業を進めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題に質問・意見・感想等を記入すること。翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、最終課題レポート等により評価する。(50点)	20	20	20								60
小テスト等	小課題(8点×5回=40点)をgoogle classroomに提出のこと。	20	10	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。(動画・PDFによる)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日1限、授業終了後とgoogleclassroomにて対応します。egawa.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと プラグマティズム 1	後期の内容説明と「信念は行動の規則」である。	
	この回の 到達目標	到達目標②パースの哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	C. S. パースとはだれか。パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	疑念、信念、習慣、行動を関連付ける。	120分
2	プラグマティズム 2	信念の固め方は4つある。固執の方法・権威の方法・先天的方法・科学的方法。	
	この回の 到達目標	到達目標②パースのプラグマティズムの主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	探究とは何か。パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	科学的知性の共同体における究極的意見の一致（実在）についてまとめる。	120分
3	プラグマティズム 3	プラグマティズムの格率（意味は外への効果だ）	
	この回の 到達目標	到達目標②パースの「プラグマティズムの格率」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	講義中の具体例「ヤバイの意味」を「プラグマティズムの格率」によりまとめよう。	120分
4	パースの記号論	情報は記号である（情報記号論）	
	この回の 到達目標	到達目標②パースの記号論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	「記号過程の進化システム」を理解しよう。	120分
5	VRの記号論	VRの哲学的分析（シネマ“MATRIX”の哲学）	
	この回の 到達目標	到達目標②VRの記号論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	VRに対して記号論的に把握し、「現実」とは何かを理解しよう。	120分
6	構造主義 1	メディアはその下位に神話作用を持っており、われわれはそれにより支配される。	
	この回の 到達目標	到達目標②バルト哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ロラン・バルトとはだれか。	120分
	事後学修	メディアの裏に隠された意図を知る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	構造主義 2		モードは服であるが、言語として説明ができるのだ！
	この回の到達目標	到達目標②バルトのモード論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	言語として流行を見るとはどういうことかをまとめよう。	120分
8	ウィトゲンシュタインの人生		どのようにして科学哲学（分析哲学）は生まれたか。
	この回の到達目標	考到達目標②、科学哲学（分析哲学）の発祥の歴史を、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ウィトゲンシュタインはどのようにして哲学に目覚め、挫折し、復活したかを予習しておこう。	120分
	事後学修	ウィトゲンシュタインの最期の言葉「私の人生は素晴らしかった」の意味を考えよう。	120分
9	ウィトゲンシュタインの哲学 1		『論理哲学論考』の「言語は世界の写像だ」について考える。
	この回の到達目標	到達目標②「写像理論」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	「写像理論」をまとめておく。	120分
10	ウィトゲンシュタインの哲学 2		「語りうるもの」と「語りえぬもの」について。
	この回の到達目標	到達目標②ウィトゲンシュタインの哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	「真理関数」とは何か、パワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	「語りうるもの」と「語りえぬもの」についてまとめよう。	120分
11	論理実証主義		検証主義とポパーの反証主義
	この回の到達目標	到達目標②論理実証主義の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを読んできること。	120分
	事後学修	検証主義と反証主義についてまとめること。	120分
12	言語行為論		日常言語学派「話すことは同時に3つの行為をしている」について考える。
	この回の到達目標	到達目標②オースティンの言語行為論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	パワポPDFを予習してくる。	120分
	事後学修	発語行為、発語内行為、発語媒介行為の理解。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	心の哲学 1	心身問題とは何か。	
	この回の到達目標	到達目標②心の哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	心身問題についてバワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	心身問題についてまとめる。	120分
14	心の哲学 2	心と脳は同じ（心脳同一説）。ロボットの心（機能主義）。	
	この回の到達目標	到達目標③「心の哲学」の立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	心脳同一説と機能主義をバワポPDFで予習しておく。	120分
	事後学修	心脳同一説と機能主義をまとめる。	120分
15	レポート提出と解説	授業補足と期末レポート提出	
	この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	レポートの完成・提出と解説。	120分
	事後学修	反省。	120分

科目名	統計学 I	担当者	鳥越 規央	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では，データの統計分析が必須となる。この授業では，データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として，データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため，統計学の目的と役割を踏まえ，記述統計の諸概念を正確に理解し，データから適切な仕方て情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
各自が自由に使えるパソコンをお持ちで、そのパソコンに表計算ソフトウェア「マイクロソフトEXCEL」がインストールされていることを履修の条件とする。

【授業方法】

事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業ではパワーポイントを使いながら説明をするスタイルで授業を行い、各授業の最後に講義内容を理解したかを確認するための簡単なレポートの提出と、不定期でEXCEL演習課題レポートの提出を課す。なお、出席確認は、出席確認システム（レスポん）を利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席確認システム（レスポん）やGoogle Classroom を利用しながら、適宜、理解度を確認するための演習課題を提出していただき、統計学に対する理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。					2	2					
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。					2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②について、関連する知識が身についているかどうかを試験によって評価する。	30	10									40
小テスト等	到達目標②について、記述統計に関する基礎知識の習得を確認するための毎回のレポートを累計して評価を行う。		20									20
レポート等	到達目標②、③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		10	30								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習課題やレポートについては、翌週の講義の中で解説を行う。また、レスポんやGoogle Classroom経由で採点も行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
統計学基礎 （改訂版）	日本統計学会 編	東京図書	2015	教科書	必携
経済統計の実際	日本統計学会 編	東京図書	2022	参考書	
調査の実施とデータの分析	日本統計学会 編	東京図書	2023	参考書	
確率思考の戦略論	森岡毅 今西聖貴	角川書店	2016	その他	
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内で行うか、メール、Google Classroom経由でご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。 torigoe.norio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 【統計の基礎】		統計学の基礎知識について学ぶ。 データ解析の実例を説明しながら、統計を学ぶ意義について考察してもらう。 検定統計2級取得に対応している指定教科書についての説明を行い、さらに、各自のパソコンのEXCELの設定手順も合わせて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法学部における統計理解の重要性を理解する。 到達目標③に関連して、統計学人文社会の領域でも活用されている事例を知る。		
	事前学修	統計や確率に関する各自の考えをまとめてください。 これに関しては、授業内で確認レポートとして皆さんに解答してもらいます。		120分
	事後学修	講義内容を振り返り、統計や確率に関する各自の考えをまとめてください。		120分
2	【統計法規】 【統計調査】		日本における統計に関する法律や代表的な統計調査の基本的内容について学ぶ。 データの分類、グラフの種類、用語の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、統計法の目的、理念について理解する。基幹統計、統計調査の種類を把握する。 統計を正しく見るために、主な経済、社会統計の内容を理解する。		
	事前学修	日本の基幹統計に関する情報をWEBなどで検索し、統計調査の意義を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
3	【記述統計学】 【統計グラフ】		記述統計学の基礎知識について学ぶ。 データの分類、グラフの種類、用語の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、量的データと質的データの違いを理解し、それぞれの解析の方法について分けて考察できるようにする。 相対度数と累積相対度数について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の1～10ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特にEXCELによる表作成やグラフ作成ができるよう課題に取り組んでください。		120分
4	【ABC分析】 【ローレンツ曲線とジニ係数】		累積相対度数の使用例として、マーケティングにおいて重要なABC分析と、経済格差を示すジニ係数、ローレンツ曲線に関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、ABC分析について理解する。 経済格差を表すローレンツ曲線とジニ係数の定義と意義を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の11～15ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特にEXCELによる表作成やグラフ作成ができるよう課題に取り組んでください。		120分
5	【データの平均と分散】		平均と分散、特に分散についての重要性について講義する。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について解説を行う。時系列データの平滑化の位置手法である「移動平均」について理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、統計学における平均の扱い方と、分散の重要性、変動係数の意味、偏差値の成り立ちについて理解できるようになる。 平均や分散の計算方法を理解し、計算できるようになる。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の15～19ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。平均や分散の計算がEXCELでスムーズにできるように課題に取り組んでください。		120分
6	【データの五数要約】 【外れ値】		中央値と四分位偏差について講義する。また、外れ値という概念とその扱い方について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、統計学における中央値の扱い方と、平均との違いについて理解できる。 四分位範囲を理解し、箱ひげ図でデータの比較ができるようになる。 外れ値の概念を理解し、データにおける外れ値の扱い方を習得する。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の21～26ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に箱ひげ図がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【2変数データの記述と要約】【相関係数】		2変数データについての記述と要約の手法について講義します。また相関係数の意味とその計算方法についても講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、2変数データを相関図（散布図）で表せるようしたり、分布を理解できたりするようになる。相関係数の意味とその計算方法を習得する。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の26～32ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に散布図作成や相関係数の計算がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。		120分
8	【回帰分析】		相関の強いデータ間にある線形関係を分析する回帰分析について講義します。単回帰分析を中心に、重回帰分析や指数回帰分析についても講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、回帰分析の意義を理解する。単回帰分析の手法を理解し、実際に回帰直線を求めることができるようになる。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の32～37ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に回帰直線がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。		120分
9	【時系列データ】【経済統計データの分析】		時系列データの意義や視覚化の手法について講義する。さらには、消費者物価指数といった経済指標の計算方法についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、時系列データの基本的な分析手法を理解する。経済指数などの統計指標を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第1章「データの記述と要約」の39～49ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
10	【確率】【条件付き確率】		確率の公理と条件付き確率の意味について講義する。また現代社会において実用例の多い「ベイズの定理」についても講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連して、「確率の公理」について理解できる。「条件付き確率」と「同時確率」の違いを判別できるようになる。「ベイズの定理」を理解し、実用で事後確率を計算できるようになる。		
	事前学修	指定教科書の第2章「確率と確率分布」の53～64ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に条件付き確率の計算やベイズの定理における事後確率の計算がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。		120分
11	【確率変数と確率分布】		確率変数の意味と、確率分布の種類や実用例について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、確率変数の定義を理解できる。離散型確率分布と連続型確率分布の違いについて理解できる。確率変数の期待値と分散、標準偏差について理解できる。		
	事前学修	指定教科書の第2章「確率と確率分布」の64～71ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
12	【離散型確率分布】		「二項分布」と「ポアソン分布」を中心に離散型確率分布について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、二項分布の定義と、その使用例について理解する。ポアソン分布の成り立ちとその使用例について理解する。確率分布がマーケティングの世界では重要なメソッドであることを理解する。		
	事前学修	指定教科書の第2章「確率と確率分布」の71～76ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に、二項分布とポアソン分布の確率の計算がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【連続型確率分布】 【正規分布】	確率分布の代表的存在である正規分布を中心に、連続型確率分布について講義する。	
	この回の到達目標	指数分布の定義とその使用例について理解する。 正規分布の定義とその使用例について理解する。 標準正規分布と、正規分布との関係性について理解する。	
	事前学修	到達目標①、②に関連して、指定教科書の第2章「確率と確率分布」の76～81ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に正規分布の確率がEXCELでスムーズに作成できるように課題に取り組んでください。	120分
14	【母集団と標本】	これまで学んだ確率変数と確率分布を基礎とする「推測統計」とよばれる手法の基礎について講義する。特に母集団から標本を抽出する際に注意しなければならないことについて説明する。	
	この回の到達目標	母集団と標本の定義とその関係性を正しく知る。 標本調査と標本抽出の方法について理解する。 データを収集するための調査の種類とそれぞれのデータの特徴を理解する。	
	事前学修	到達目標①、③に関連して、指定教科書の第3章「統計的推定」の97～105ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。	120分
15	【理解度確認のための試験および解説】	統計学に関する基礎知識がどの程度理解できたかを確認するための試験を行い、その後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③の修得を確認する。 講義を通して学んだ統計学に関する内容への理解を深め、知識を活かし実践できるようになる。	
	事前学修	指定教科書を熟読し、用語の意味や統計手法の実施方法を理解して臨むこと。	120分
	事後学修	これまでに学んだことをレポートとしてまとめ、提出する。	120分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	鳥越 規央	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、統計的推測の原理を正確に理解し、データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計学Ⅰを履修していることが望ましい。また、各自が自由に使えるパソコンをお持ちで、そのパソコンに表計算ソフトウェア「マイクロソフトEXCEL」（または類似のソフトウェア）がインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業ではパワーポイントを使いながら説明をするスタイルで授業を行い、各授業の最後に講義内容を理解したかを確認するための簡単なレポートの提出と、不定期でEXCEL演習課題レポートの提出を課します。なお、出席確認は、出席確認システム（レスポん）を利用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席確認システム（レスポん）やGoogle Classroom を利用しながら、適宜、理解度を確認するための演習課題を提出していただき、統計学に対する理解の定着を図ります。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②について、関連する知識が身についているかどうかを試験によって評価する。	30	10									40
小テスト等	到達目標②について、記述統計に関する基礎知識の習得を確認するための毎回のレポートを累計して評価を行う。		20									20
レポート等	到達目標②、③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		10	30								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習課題やレポートについては、翌週の講義の中で解説を行います。また、レスポんやGoogle Classroom経由で採点も行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
統計学基礎（改訂版）	日本統計学会 編	東京図書	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内で行うか、メール、Google Classroom経由でご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。 torigoe.norio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 【推測統計学の基礎】		推測統計学の基礎知識について学ぶ。 データ解析の実例を説明しながら、統計を学ぶ意義について考察していただく。 検定統計2級取得に対応している指定教科書についての説明を行い、さらに、各自のパソコンのEXCELの設定手順も合わせて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、法学部における推測統計学の重要性を理解する。 到達目標③に関連して、統計学が人文社会の領域でも活用されている事例を知る。		
	事前学修	統計学Ⅰで学んだ内容を振り返っておいてください。また「統計的推定」「統計的仮説検定」について調べておきましょう。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
2	【母集団と標本】		統計学Ⅰで学んだ確率変数と確率分布を基礎とする「推測統計」とよばれる手法の基礎について講義する。特に母集団から標本を抽出する際に注意しなければならないことについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連して、母集団と標本の定義とその関係性を正しく知る。 到達目標①に関連して、標本調査と標本抽出の方法について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第3章「統計的推定」の97～105ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
3	【2変数の確率分布】		2変数確率変数が従う確率分布の性質や、統計学における活用法について講義する。 また、クロス集計表の分析方法や活用法についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、2変数確率分布に関する知識を正しく知る。 到達目標③に関連して、クロス集計表の分析手法について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第2章「確率と確率分布」の81～86ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
4	【標本分布】 【大数の法則】 【中心極限定理】		代表的な標本分布であるカイ2乗分布、t分布、F分布の用途について講義する。特にt分布が母分散未知の母集団から得られた標本の大きさが大きくない場合に用いられることについて解説する。 また、標本の大きさが十分大きいときに効力を発揮する「大数の法則」や「中心極限定理」についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、カイ2乗分布、t分布、F分布の用途を理解する。 大数の法則について理解する。 中心極限定理と正規分布の関係性について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第2章「確率と確率分布」の86～94ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
5	【統計的推定】 【点推定】		母集団の母数を推定する手法について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、統計的推定の手法「点推定」と「区間推定」の区別とその長所、短所を理解する。 推定量の不偏性について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第3章「統計的推定」の105～110ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分
6	【正規母集団の母平均、母分散の区間推定】		正規分布に従う母集団の母平均と母分散を区間でもって推定する方法について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、母平均の区間推定の成り立ちと求め方を理解する。 母分散の区間推定の成り立ちと求め方を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第3章「統計的推定」の110～118ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。		120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【二項母集団の母比率の区間推定】 【2つの母集団の母数に関する区間推定】		母集団分布が二項分布に従う母集団の母比率を区間でもって推定する方法について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、母比率の区間推定の成り立ちと求め方を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第3章「統計的推定」の118～131ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。	120分	
8	【統計的仮説検定】 【母分散の比の検定】		統計学的に仮説を実証する「統計的仮説検定」の概要と大まかな手順について講義する。「帰無仮説」と「対立仮説」の設定の仕方や、有意水準に対応する棄却域の設定の仕方などの解説を行う。また、2つの正規母集団の母分散に差異があるかどうかを検定する手法について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、「統計的仮説検定」について理解する。「帰無仮説」と「対立仮説」が設定できるようになる。有意水準に対応する棄却域を設定できるようになる。2つの母分散の比についての仮説検定を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第4章「統計的仮説検定」の133～150ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特にEXCELによる仮説検定ができるよう課題に取り組んでください。	120分	
9	【母平均の差の検定】 【母比率の差の検定】		2つの正規母集団の母平均に差異があるかどうかの検定を、母分散が等しいか否かというシチュエーション別に解説を行う。また、2つの二項母集団の母比率に差異があるかどうかの検定について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、母平均の差の検定の手順を理解する。 到達目標①、②に関連して、母比率の差の検定の手順を理解する。		
	事前学修	指定教科書の第4章「統計的仮説検定」の150～160ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特にEXCELによる仮説検定ができるよう課題に取り組んでください。	120分	
10	【線形回帰モデル】		相関の強いデータ間にある線形関係を分析する回帰分析について講義する。統計学Ⅰに習得した知識を利用した線形単回帰モデルについて解説し、さらには多変量解析の基本となる「線形重回帰モデル」について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、回帰分析の意義を理解する。 重回帰分析の手法を理解し、実際に線形重回帰モデルを求めることができるようになる。 係数の取捨選択の手法について理解する。		
	事前学修	指定教科書の第5章「線形モデル分析」の163～184ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。 特に学んだ検定手法をEXCELで実践できるように演習を行う。	120分	
11	【確率の推定とロジスティック回帰分析】		確率の推定で用いられるロジスティック回帰分析について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、ロジスティック回帰分析の意義を理解する。 実際のデータを用いて、ロジスティック分析を行い、確率を推定できるようになる。		
	事前学修	指定教科書には該当の内容の記載がないので、ロジスティック回帰をインターネットで検索し、各自で情報を収集しておくこと。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。	120分	
12	【分散分析の数理】 【1元配置分散分析】		多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を講義する。 特にF分布とF値の考えを理解することを目的とする。 1つの質的変数の影響を分析するための1元配置分散分析について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、分散分析の数学的構造を理解する。 実際のデータを用い、分散分析を行い、結論を導くことができるようになる。		
	事前学修	指定教科書の第5章「線形モデル分析」の185～190ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分	
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。 特に学んだ検定手法をEXCELで実践できるように演習を行う。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	【2元配置分散分析】		2つの因子の影響を分析するための2元配置分散分析について講義する。特に2因子の交互作用があるかないかについての考察は1元配置にはない考え方であるので、そこを重点として説明する。
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、1元配置分散分析の数学的仕組みを理解する。実際のデータを用い、分散分析を行い、結論を導くことができるようになる。交互作用について理解する。	
	事前学修	指定教科書の第6章「線形モデル分析」の190～196ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に学んだ検定手法をEXCELで実践できるように演習を行う。	120分
14	【適合度検定】【独立性の検定】		母集団分布の当てはまりの良さを検定する適合度検定について講義する。2つの属性が独立な属性なのか、従属している属性なのかを検討する手法について講義する。
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、カイ2乗分布の成り立ちと確率の求め方を理解する。実際のデータを用いて、適合度検定や独立性検定を行うことができる。	
	事前学修	指定教科書の第6章「その他の分析法」の203～210ページを熟読し、用語の意味を理解して講義に臨むようにしてください。	120分
	事後学修	講義で配布した演習課題に取り組み、疑問点などあればテキストやWEBサイトで調べる。特に学んだ検定手法をEXCELで実践できるように演習を行う。	120分
15	【理解度確認のための試験および解説】		総復習として、半年間行った講義内容を、どの程度理解できたかを確認するための試験を行い、その後解説を行う。この講義によって、統計分析の適用範囲を正しく理解することを目指す。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③の修得を確認する。本講座で理解した統計処理が、どのようなフィールドで利用可能かを理解する。	
	事前学修	今まで講義について、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
	事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	日本の近現代Ⅰ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
19世紀後半における日本の国民国家形成過程とその問題点を学習する。①日本は欧米諸国との関係でどのような道を選び取ったのか、それはアジアとの関係にどのような影響を与えたか、②日本が選び取った道筋は、その後の日本の歩みにどのような刻印を与えたのか、③近代社会の形成は、ふつうの人びとの生き方や価値観にどのような変化を与えたか、そのことの持つ意味は何か。これらの問いを受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代社会の形成過程やその特質を学び、「近代」の意味を考えることは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義はそれらについて基本的な認識を獲得するために行われる。基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析する力をつけ、その歴史的意義や問題点を発見したり、国際比較の中で日本の近代の特質を理解すること、そして獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。履修者過多の場合は履修制限する。

【授業方法】		
毎回レジュメと史料を配布し、パワーポイントを用い、それに沿って講義する。配布の史料の他、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に授業内課題を課すので期日までに提出する。また講義中の発問について自分なりの答えを積極的に考えてほしい。 毎回、グループフォームで、リアクションペーパーの提出を課し、これを持って平常点とする。 教材の配布、受講生への連絡、課題の提出はClassroomを通じて行うので、必ず登録すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題・リアクションペーパー・ピアレビュー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の国民国家形成過程に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀の世界との関わりで日本の近代の特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、中間・期末試験により評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関わるレポートにより、到達目標①②に関わる学習内容の深化の度合いを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度	毎回のリアクションペーパーや中間・期末課題により講義内容の理解度を評価すると同時に、授業への能動的参加の度合いを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をClassroomで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜 13：00～14：30。事前にアポイントを取ること(ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp)。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆を与える。特に史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって／日本の「近代」とは	①教養とは何か、歴史を学ぶとはどういうことか ②講義概要と視点、目標 ③評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。	
	この回の到達目標	本講義の内容を理解する。歴史を学ぶことを意義を自分なりに表現できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	120分
	事後学修	ガイダンス資料をよく読んで、履修を検討する。プリントや講義中のメモに沿って。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	幕末の社会情勢と幕藩体制の危機	19世紀前半の社会情勢について、正統性の危機という観点から考察する。	
	この回の到達目標	19世紀前半の社会変動の基本的性格について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回配布資料とシラバスを熟読する。 江戸時代の支配のしくみについて、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	「開国」の歴史的意義	近世の対外関係の特質と「外患」の世界史的な背景を踏まえながら、「開国」の歴史的意義について考える。	
	この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「鎖国」や「開国」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	公論・尊王・世直し	「開国」後の幕藩体制の危機と、それを克服しようとする諸政治構想について考察する。	
	この回の到達目標	「開国」後の政治社会情勢と、当該期の危機を克服しようとする諸政治構想について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「開国」後の社会情勢について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	「国民」になるということ	明治の日本が直面した国民国家形成という課題について考える。	
	この回の到達目標	国民国家概念の習得の上に、明治の諸改革を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「国民」とは何か？ 自分なりの答えを考えておく。 明治初期の諸政策について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	文明開化論 ——対外的自立と＜文明化＞	対外的自立という課題との関係で＜文明化＞に関わる明治政府の政策について考える。	
	この回の到達目標	＜文明化＞の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「文明開化」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	<国民化>と<文明化> ―前半期の振り返り	<国民化>と<文明化>概念を軸に、前半期の講義を小括し、その後前半期の振り返り課題と、講義内容の理解を問う中間課題に取り組む	
	この回の到達目標	小レポートを通じて前半の学習成果について、論理的に説明できる。前半期の学びを振り返り、成果と課題を自己評価する（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
	事後学修	前半期の講義を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
8	「文明」への懐疑 ―明治前期の民衆運動と「近代」	明治前期の民衆運動を通して、「近代」の意味について考える。	
	この回の到達目標	明治前期の民衆運動の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。 明治前期の民衆運動について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
9	「国民」の誕生？ ―自由民権と明治憲法	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で考察する。	
	この回の到達目標	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 自由民権運動と明治憲法について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	日本外交の「2つの顔」 ―<文明化>と東アジア国際関係の再編	明治前期の日本外交の2側面と、そのことが東アジア国際関係に持った意味を考える。	
	この回の到達目標	明治前期の日本外交の特質と東アジア国際関係との関わりについて説明する（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 明治政府の外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	<文明化>と対アジア外交論の諸潮流 ―征韓論・興亜論・脱亜論・小国主義	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流とその歴史的な意味について考察する。	
	この回の到達目標	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流を<文明化>との関わりで説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 征韓論や脱亜論について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	日清戦争論 ―「文明戦争論」とその実態	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義を<文明化>や<国民化>との関係で考える。	
	この回の到達目標	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日清戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	東アジア国際情勢の変化と日露戦争	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争への道を考える。	
	この回の到達目標	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争の開戦までの経緯を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	日露戦争と日比谷焼打事件——20世紀の開幕	日露戦争後の日本の帝国主義外交や日比谷焼打事件を取り上げ、日露戦争の歴史的意義を考える。	
	この回の到達目標	①日露戦後の帝国主義外交と韓国併合の過程について、説明することができる。②日比谷焼打事件を通じて、戦争とナショナリズムとの関係や、ナショナリズムの両義性について理解し、説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦後の内政・外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	期末試験と振り返り	講義内容の理解を問う期末試験に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行い、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
	事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、期末試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
	事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	60分

科目名	日本の近現代Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
20世紀初頭、世界の諸帝国の仲間入りをした日本は、それゆえ国内外にさまざまなジレンマを抱え込むことになり、これに規定されて内政・外交にわたる針路の変更を繰り返した。「帝国日本」は結局破局への道を歩むことになるが、その過程では現代日本社会につながるような社会変容も起きている。20世紀前半の日本の歩みと、それを規定した基本的な要因を受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代の帰結としてアジア・太平洋戦争における破滅・破壊を迎えたこと、および日本の現代社会への転換過程やその特質を修得することは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄であるので、本講義はそのために行われる。基礎的な歴史的事項の修得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的・客観的に分析する技能と態度、出来事の歴史的意義や問題点の発見力を身につけ、獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。履修者過多の場合は履修制限することもある。

【授業方法】		
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に授業内課題を発表し、期日までに提出する。講義中の発問について、積極的に自分の考えを持つことを求める。毎回Googleフォームを通じて、リアクションペーパーの提出を課す。これを持って平常点とする。 なお、教材の配布、学生への連絡、課題の提出にはClassroomを使用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題・リアクションペーパー・ピアレビュー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「帝国」日本の展開と崩壊に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、20世紀前半の世界との関わりで、当該期の日本のあゆみの特質と問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、中間・期末課題により評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関するレポートにより、到達目標①②に関わる学習の深化の度合いを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業内課題・リアクションペーパーにより、授業の理解度ともに授業への参加度を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をClassroomで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜13：00～14：30。メールでアポイントを取ること（ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp）。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆する。特に歴史的史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	開講にあたって／「帝国」になるということ		前半では、①講義概要と視点、目標、授業計画、②評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介、日本の近現代Ⅰで講義した19世紀後半の日本の特質について説明する。後半では「帝国」日本の版図や民族構成を確認し、20世紀前半の日本が「帝国」であり、多民族国家であったことを確認する。	
	この回の到達目標	講義概要や履修上の注意事項を理解する。「帝国」日本の版図の拡大過程や民族構成を年表や統計表から読み取り、日本が「帝国」であること理解して、説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	シラバスを熟読する。日本の領土拡大過程を中学・高校の教科書で確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分
2	日本の植民地主義と植民地支配		植民地支配を正当化する言説の特質を比較史的に考察した上で、日本の植民地支配の内実を検討する。	
	この回の到達目標	日本の植民地主義と植民地支配の特質を説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の植民地支配に関する記述をを中学・高校の教科書で確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分
3	「裏日本」とは何か―地域間の不均等発展		統計表を分析しながら、産業革命前後における日本の地域間の不均等発展を確認し、その要因を考察する。	
	この回の到達目標	「上から」の近代化との関係で、地域間の不均等発展を説明することができる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の産業革命に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分
4	帝国主義世界の変容と日本の針路―第一次世界大戦のインパクト		帝国主義世界の変容と日本の抱えたジレンマゆえ、「帝国」拡大路線の修正を余儀なくさせたことについて、考察する。	
	この回の到達目標	第一次世界大戦後の日本の針路修正の構造的要因を説明することができる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦と日本との関わりについての中学・高校の教科書記述を確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分
5	工場労働者の「誕生」とその意識の変容		産業革命期の工場労働者が抱えた矛盾とそれを乗り越えようとする労働者意識の特質について考察する。	
	この回の到達目標	産業革命期の工場労働者労働者意識の変容やその特質について説明することができる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回の講義内容を復習する。産業革命期～第1次世界大戦期の工場労働者に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分
6	「帝国」のデモクラシー①―政治的デモクラシーと社会的デモクラシー		政党政治の形成とその規定にある社会的デモクラシーの動きとの関係を検討する	
	この回の到達目標	政治的デモクラシーと社会的デモクラシーについて説明することができる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	大正デモクラシーに関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。		120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	帝国のデモクラシー② ——普選体制論	デモクラシー状況・大衆社会状況に対応した政治体制の変容を考察する。	
	この回の到達目標	「帝国」であることと大衆民主制への変容との関係について説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	大正デモクラシーや「憲政の常道」に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	「帝国」と「大衆」の時代／前半期の振り返り	前半期に講義した1900～1920年代を「帝国」と「大衆」の時代という観点で小括する。そのうえで前半期の振り返りと内容理解を問う中間課題に取り組む。	
	この回の到達目標	「帝国」と「大衆」の時代の時代というまとめを踏まえ、1900～1920年代の日本の歴史像について、自分なりに説明することができる。前半期の取り組みと自己の達成を評価することができる（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
	事後学修	前半期を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
9	岐路に立つ帝国日本——満州事変の歴史的意義	満州事変に始まる日本の対外針路の転換の構造的要因と、同時代の世界における位置づけを考える。	
	この回の到達目標	満州事変の歴史的意義について考察し、それを論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	戦争拡大の構図——日中全面戦争	日中戦争開戦および開戦後の日本軍の蛮行がその後の歴史過程に与えた影響について考える。	
	この回の到達目標	日本軍の蛮行の構造的要因を理解し、それを論理的説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日中戦争前後の日本に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の開戦過程と、この戦争の特質について検討する。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の開戦の経緯を踏まえながら、この戦争の特質を論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。アジア・に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	総力戦体制と国民生活	総力戦体制下の国民生活の諸相について理解した上で、国民が戦争に同調していくメカニズムを検討する。	
	この回の到達目標	総力戦概念、および戦時国民生活や国民の意識の特徴について説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦時下の国民生活に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「大日本帝国」の崩壊	戦線の崩壊と国民生活や国土の破壊を経て、敗戦にいたる過程について検討する。	
	この回の到達目標	日本の敗戦過程について理解することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	日本の敗戦過程に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	戦争体験と戦後デモクラシー	戦後改革の歴史的意義を踏まえつつ、日本の戦後処理の問題点について考察する。	
	この回の到達目標	戦後改革と日本の戦後処理の意義と問題点について、説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	戦後改革に関する中学・高校の教科書の記述を書くにしておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	期末試験と振り返り	講義内容の理解を問う期末試験に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
	事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、期末試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
	事後学修	プリントやノートをみながら、試験の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	60分

科目名	日本の自然A	担当者	伊藤 慎悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。以下4つの到達目標を具体的に達成する。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
パワーポイントと板書の授業を行います。プリントは1枚程度配付します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーへの記入と、それに対するフィードバックとフォローを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。						2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。						2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験。履修人数によって小テスト2回、またはプレゼンテーションにする可能性があります。初回授業時に説明します。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業後に振り返りシート（リアクションペーパー）を記入	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対する全体的なフィードバックを、授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校社会科地図	帝国書院編集部	帝国書院	2022	教科書	必携
新詳地理資料COMPLETE2023	帝国書院編集部	帝国書院	2023	参考書	任意
世界と日本の地理の謎を解く	水野一晴	PHP研究所	2021	参考書	任意
地理と気候の日本地図	浅井健爾	PHP研究所	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に対応いたします。ito.shingo23@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	「日本の自然」をはじめるにあたり	シラバスの確認や成績評価方法、教科書などについて説明します。また、日本の自然の大枠について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、皆さんの出身地の自然環境について書くことができる。	
	事前学修	シラバスを一読してください。	60分
	事後学修	日本の自然環境で興味のあるニュース、新聞記事を探してみましょう。	180分
2	地球上の位置	地球に関する基本的な事項を整理、確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地球の基本的概念を、地図を使って説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本列島のスケール、位置関係について復習しておきましょう。	180分
3	地形とは何か	地形という用語の説明や、対象とする地形、地形の概要を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地形の基本的概念を説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本の地形の特徴などについて、復習しておきましょう。	180分
4	プレートと地殻変動	プレートの動きや地震、火山について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どこで地震が多いのか、理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	なぜ日本で地震や火山が多いのか、復習しておきましょう。	180分
5	日本の平野と河川	日本の平野や河川の特徴について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本独特の平野について説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本の河川はなぜ「滝のようだ」といわれるのか、そしてその河川によってどのような平野がつくられるのか、復習しておきましょう。	180分
6	カルスト地形	日本に見られるカルスト地形について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、カルスト地形のメカニズムと、どのような場所に見られるのかを説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	カルスト地形を活かし、どのような産業振興がなされたのか、復習しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	応用発展：扇状地と人々の暮らし	これまでの地形の知識を発展させ、日本によく見られる扇状地と、土地利用との関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、扇状地の成立や土地利用の具体例を説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	扇状地の特徴と集落の成立について復習しておきましょう。	180分
8	地形のまとめ	日本の地形の総括を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本お地形の特徴を説明できるようにする。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	これまでのノート、プリントを一読してください。	180分
9	気候と気候要素	気候とは何か、説明いたします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、気候や気候データについて理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本の気象庁ホームページで、気候データを見てみましょう。	180分
10	気候因子について	気候因子とは何か、どのようなものがあるのか学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主な気候因子と、それによる気候の違いを説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	具体的な事例をもって気候の違いを復習しておきましょう。	180分
11	日本の気候	日本の気候の特徴と、気候区分について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、気候帯を分けるキーワードをおさえ、それを説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	気候区分と各地域の特徴について復習しておきましょう。	180分
12	日本の夏・冬	日本の夏と冬の特徴について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、季節風の風向と	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	扇状地の特徴と集落の成立について復習しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	都市気候と気象災害	都市特有の気候や、過去に起こった気象災害について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、なぜ日本では気象災害が多いのか、説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	気象災害の事例について復習しておきましょう。	180分
14	気候のまとめ	これまで取り扱った気候について補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の気候について文章でまとめられるようにする。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	印象に残った気候の事例について、その理由や自身で調べたことをまとめておきましょう。	180分
15	前期学習状況の確認と解説	前期の学習状況についてアピールしていただきます。	
	この回の到達目標	前期に扱ったテーマから各自文献を探し、論述してまとめられるようにする。	
	事前学修	これまでのノート、プリントを見ておきましょう。地図帳での確認も忘れずに	180分
	事後学修	分からなかった部分は、調べて復習しておきましょう。	60分

科目名	日本の自然B	担当者	伊藤 慎悟	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
パワーポイント・板書を用いた講義を行い、プリントは1枚程度配付します。ノートと筆記用具を必ずご持参ください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーへの記入と、それに対するフィードバックとフォローを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。				2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。				2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験。履修人数によって小テスト2回、またはプレゼンテーションになる可能性があります。初回授業時に説明します。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業後に振り返りシート（リアクションペーパー）を記入	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対する全体的なフィードバックを、授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校社会科地図	帝国書院編集部	帝国書院	2022	教科書	必携
新詳地理資料COMPLETE2023	帝国書院編集部	帝国書院	2023	参考書	任意
カネミ油症 過去・現在・未来	カネミ油症被害者支援センター	緑風出版	2006	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に対応いたします。ito.shingo23@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期授業をはじめるにあたり	後期の授業計画や授業方法についてお話しします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の自然Bの授業方針を理解することができる。	
	事前学修	後期は公害、植生、景観等を扱いますので、図書館でそのあたりの本を読んでおきましょう。	60分
	事後学修	授業概要をよく読んでおいてください。	180分
2	日本の公害問題	高度経済成長期と公害について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の公害問題をおおまかに理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	四大公害病の基本概念をおさえておきましょう。	180分
3	植生と植物	植生・植物の概要を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、植生や植物の大まかな意味を説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	授業で扱った基本用語について復習しておきましょう。	180分
4	植物の分類	植物の分類方法について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、植物分類の概要を理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	植物で種子をつくるもの、つくらないものについて復習しておきましょう。	180分
5	シダ・コケ類	対象植物の概要と、具体例について解説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、シダ・コケ類とは何か、どのようなものがあるか説明することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	シダ・コケ類それぞれの特徴について復習しておきましょう。	180分
6	裸子植物	裸子植物の特徴について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裸子植物に関する理解を深めることができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	身近な裸子植物を探してみましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	被子植物		被子植物の概要と、具体例について解説します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被子植物の特徴と、これに該当する植物はどれか理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	被子植物の具体例について復習しておきましょう。	180分
8	第7回までの復習、総括		後期前半の総括をいたします。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、	
	事前学修	これまでの復習をしておきましょう。	180分
	事後学修	自分が理解できた部分、出来なかった部分を把握しておきましょう。	60分
9	林業と植林政策		日本の林業と課題について学習します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、林業で何が問題となっているのかを理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本の植林政策について復習しておきましょう。	180分
10	紅葉文化		日本の紅葉文化について学習します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、紅葉文化の起源や広がりについて学習します。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	京都の紅葉の特徴について復習しておきましょう。	180分
11	日本の景観		近年注目されている日本での景観議論について考察します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本と海外の景観に関する考え方の違いや、景観の変化について理解することができ	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	日本と欧米諸国の景観に関する考え方の違いについて復習しておきましょう。	180分
12	景観保全に関する取り組み		日本の景観保全に関する近年の取り組み事例を紹介します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、景観保全に関する考え方や、実際の取り組み例について理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	各自治体の景観に関する取り組みや条例について調べてみましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の文化（地名）	日本に見られる地名について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地名の種別や、おこりについて理解することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	気になる地名があったらピックアップしておきましょう。	180分
14	日本の文化（人名）	日本独特の苗字について学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の苗字に関する知識を蓄積することができる。	
	事前学修	事前配付用資料を一読してください。	60分
	事後学修	（人名）苗字における中国や韓国との違いについて復習しておきましょう。	180分
15	これまでのまとめと総括	これまでの学習成果を述べていただきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の言葉で調べたことを簡潔にまとめることができる。	
	事前学修	後期の授業を復習しておきましょう。	210分
	事後学修	自分が理解できた部分と、出来なかった部分を把握しておきましょう。	30分

科目名	日本の社会A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執われない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位の取得が可能。ガイダンスを受講して詳しい授業内容を必ず確認すること。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。入室時に出席表に記入すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表に対しレポートを書き、それを元に発表者に質問・意見し、さらに全員に意見を聞き検討する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7回と第14回に、それまでの回から理解したことなどに関するレポートを発表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重せず、他国を尊重する態度が身に付いてるかを確認する。		40									40
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	20	20									40
授業への参画度												
その他(授業内レポート)	毎回の授業内レポートについて、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、発表、前回レポートを講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山克秀	かんき出版	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本の社会Aの学習	日本の社会Aの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、レポートを確認し、その内容を十分に理解する。	120分
2	グローバル化と情報化	テキストの01「格差社会を拡散させるグローバル化の猛威」、02「情報化のキーワードはつながる」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、グローバル化と情報化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	少子高齢化と安全な社会づくり	前回のレポート紹介と講評。テキストの03「世界一のスピード！日本は少子高齢化超特急だ」、04「環境問題だけじゃない！安全で幸せな社会づくり」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、少子高齢化と安全な社会づくりについて、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	文化と現代文化	前回のレポート紹介と講評。テキストの05「国や地域によって千差万別！生活に密着している文化」、06「マンガ・アニメは日本の誇る現代文化だ」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、文化と現代文化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	自由と責任、正義について	前回のレポート紹介と講評。テキストの07「責任を伴わない自由なんてありえない！」、08「多数決こそが正義は危険！」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と責任、正義について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	基本的人権と主権者について	前回のレポート紹介と講評。テキストの09「あたり前だけどあたり前じゃない基本的人権」、10「天皇は神から人に、国民は家臣から主権者に!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的人権と主権者について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、さらにそれを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	国民権と自衛隊について	前回のレポート紹介と講評。テキストの11「国民こそが国家の支配者だ!」、12「自衛隊は戦力ではなく実力!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、国民権と自衛隊について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	人権と差別問題について	前回のレポート紹介と講評。テキストの13「犯罪者にだって人権はある!？」、14「日本に存在する差別問題」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人権と差別問題について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	自由と最低限度の生活について	前回のレポート紹介と講評。テキストの15「おれは自由だ〜って誰から、何から?」、16「健康で文化的な最低限度の生活って何?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と最低限度の生活について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	参政権と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの17「参政権なんていらねーよとかいっちゃダメ!」、18「人権は無制限には尊重できない!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、参政権と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	憲法と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの19「憲法に載っていない人権がある?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、憲法と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新しい人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの20「社会の変化が生み出した新しい人権」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、新しい人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明することができる。	
	事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
	事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業ノート確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の社会B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位の取得が可能。ガイダンスを受講して詳しい授業内容を必ず確認すること。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。入室時に出席表に記入すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表に対しレポートを書き、それを元に発表者に質問・意見し、さらに全員に意見を聞き検討する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7回と第14回に、それまでの回から理解したことなどに関するレポートを公表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重せず、他国を尊重する態度が身に付いているかを確認する。		40									40
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	20	20									40
授業への参画度												
その他(授業内レポート)	毎回の授業内レポートについて、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、発表、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山克秀	かんき出版	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本の社会Bの学習	日本の社会Bの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと授業ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	主権と選挙権	前回のレポート紹介と講評。テキストの21「少数意見の持ち主もみんなが主権者」、22「お金がなくても選挙権を持っている」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、主権と選挙権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	選挙違反、政治と金	前回のレポート紹介と講評。テキストの23「連呼に電話に戸別訪問。いったいどれが選挙違反！？」、24「政治にカネがかかるは事実」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、選挙違反、政治と金について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	主張の偏り、国会議員	前回のレポート紹介と講評。テキストの25「あなたの主張、偏っていない？」、26「国会議員が何をする人かわかりますか？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、主張の偏り、国会議員について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	120分
5	国会、内閣	前回のレポート紹介と講評。テキストの27「ヤジ、バンザイ、審議拒否…国会の仕事って？」、28「国会と内閣ってどう違うんだっけ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、国会、内閣について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	官僚、黙秘権	前回のレポート紹介と講評。テキストの29「官僚って何をする人？」、30「令状がないなら帰れ黙秘します！は憲法上の権利」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、官僚、黙秘権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	裁判員制度、国会・内閣・裁判所	前回のレポート紹介と講評。テキストの31「えっ！私が裁判員になるの？」、32「国会・内閣・裁判所はグー・チョキ・パーの関係」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、裁判員制度、国会・内閣・裁判所について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	地方、住民投票	前回のレポート紹介と講評。テキストの33「地方らしさの発揮って何をするの？」、34「外国人でも中学生でも政治に参加できる！？住民投票」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、地方、住民投票について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	経済、悪徳商法	前回のレポート紹介と講評。テキストの35「ごはんを食べ、服を買い、映画を観るのが経済」、36「悪徳商法には引っ掛かりたくない」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、経済、悪徳商法について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	自由と平等、会社組織	前回のレポート紹介と講評。テキストの37「自由を取るか、平等を取るか。それが分かれ目だ」、38「会社で一番偉いのは社長じゃない！？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と平等、会社組織について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	働く意味、働き方	前回のレポート紹介と講評。テキストの39「働くことの意味ってなんだろう？」、40「これからの働き方はどうなっていくんだろう？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、働く意味、働き方について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	需要と供給、紙幣の価値	前回のレポート紹介と講評。テキストの41「需要と供給ってどういうこと？」、42「ただの紙なのに、1万円札に価値があるのはなぜ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、需要と供給、紙幣の価値について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができるようになり、それを説明できる。	
	事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業ノートを確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の前近代Ⅰ	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 古文書や図像などのさまざまな史料（歴史研究の材料）を使ってどのように歴史研究を進めていくのか、ということの切り口にして、歴史学の特質について学修する。特に、前近代の日本の史料（漢文や古文のようなもの）を中心素材として学修する。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、さまざまな資料から情報を抽出し、活用することへの初歩的な理解や、歴史に関するさまざまな情報を取捨選択するための初歩的な能力を修得する。

【履修条件】 恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。
--

【授業方法】 講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間の営為のなかで、どのように情報が残されていくのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
②	残された過去の情報をもとに、どのようにして「歴史」が明らかにされるのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	40	60									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本近世史入門』	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	勉誠社	2024	教科書	推奨
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。 shimizu.mitsuaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
	事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	主題1 基礎 歴史学とは何か？ （1）―その目的と境界―	歴史学の目的とその境界について概観する	
	この回の到達目標	歴史学の目的と境界についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	主題1 展開 歴史学とは何か？ （2）―隣接諸分野との関係―	歴史学と隣接諸分野（政治学・法学・経済学等）との関係について概観する	
	この回の到達目標	歴史学と隣接諸分野との関係についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	主題2 基礎 時代区分とは何か？ （1）―戦前の歴史学から戦後歴史学まで―	日本史の時代区分論について、戦前の歴史学から戦後歴史学までの主要な議論を概観する	
	この回の到達目標	日本史の時代区分論（戦前の歴史学～戦後歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	主題2 展開 時代区分とは何か？ （2）―現代歴史学の諸動向―	日本史の時代区分論について、現代歴史学の諸動向を概観する	
	この回の到達目標	日本史の時代区分論（現代歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	主題3 基礎 史料とは何か？（1） ―一次史料と二次史料―	史料についての基礎的な知識や留意点を概観する	
	この回の到達目標	史料についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	主題3 展開 史料とは何か？（2） —口承文芸とオーラル・ヒストリー—	無文字社会（アイヌ等）の歴史を辿るための「史料」の性格とその留意点を概観する	
	この回の到達目標	無文字社会の歴史を辿るための「史料」の性格と留意点について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	中間まとめ	前半の授業内容を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
	この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	主題4 基礎 史料批判とは何か？ （1）—その目的と方法—	史料批判の目的と方法について概観する	
	この回の到達目標	史料批判の目的と方法について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	主題4 展開 史料批判とは何か？ （2）—言語論的転回との関係—	史料批判と言語論的転回の関係について、主要な議論を概観する	
	この回の到達目標	史料批判と言語論的転回の関係について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	主題5 基礎 拡大する史料（1）— 書物研究の進展—	研究の進展にともなって新たな史料が開拓された事例（書物研究等）について概観する	
	この回の到達目標	書物研究の事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	主題5 展開 拡大する史料（2）— 偽文書と由緒—	偽文書を活用した研究の方法や事例について概観する	
	この回の到達目標	偽文書を活用した研究の方法や事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題6 基礎 史料と現在（1）—整理・保存・活用—	史料の整理・保存・活用について概観する	
	この回の到達目標	史料の整理・保存・活用について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	主題6 展開 史料と現在（2）—歴史実践とパブリック・ヒストリー—	歴史実践とパブリック・ヒストリーについて概観する	
	この回の到達目標	歴史実践の諸相やパブリック・ヒストリーの動向について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
	この回の到達目標	人間の営為のなかでどのように情報が残されるのかということ、及び残された過去の情報をもとにどのように「歴史」が明らかにされるのかということについて、一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
	事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の前近代Ⅱ	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
江戸時代の社会について、史料を切り口に、いくつかの話題から掘り下げて考えていく。具体的には、漢文や古文のような江戸時代の史料を読み解きながら、日本の近世の村や、日本の近世の社会の特質について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、日本の近世の村や日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解を持つ。それを踏まえて、現在の社会との類似点・相違点を考えることにより、現在の社会を捉え直す視点を獲得する。

【履修条件】
恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史的な視点に立ち、歴史的事象について説明できる。				2	2	2	2				
②	日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解をもち、説明できる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	30	70									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本近世史入門』	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	勉誠社	2024	教科書	推奨
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。 shimizu.mitsuaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
	事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	主題1基礎 近世日本の政治体制と東アジア（1）―統治組織の構造―	近世日本の政治体制の性格について、統治組織の構造を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（統治組織の構造）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	主題1展開 近世日本の政治体制と東アジア（2）―中国・朝鮮との比較から―	近世日本の政治体制の性格について、中国・朝鮮との比較を中心に検討する	
	この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（中国・朝鮮との比較）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	主題2基礎 近世日本の民間社会と庶民（1）―身分集団の様態―	近世日本の民間社会の特徴について、身分集団の様態を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（身分集団の様態）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	主題2展開 近世日本の民間社会と庶民（2）―出版文化の隆盛―	近世日本の民間社会の特徴について、出版文化の隆盛を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（出版文化の隆盛）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	主題3基礎 近世日本の対外関係と長崎（1）―出島・唐人屋敷・通詞―	近世日本の対外関係の実態について、出島・唐人屋敷・通詞といったキーワードを中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（出島・唐人屋敷・通詞）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	主題3 展開 近世日本の対外関係と長崎（2）—異国人・遊女・混血児—	近世日本の対外関係の実態について、異国人・遊女・混血児といったキーワードを中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（異国人・遊女・混血児）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	中間まとめ	前半の授業を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
	この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	主題4 基礎 近世琉球の政治・社会と東アジア（1）—中国・日本・薩摩との関係—	近世琉球の様態について、中国・日本・薩摩との関係を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世琉球の様態（中国・日本・薩摩との関係）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	主題4 展開 近世琉球の政治・社会と東アジア（2）—琉球文化の諸相—	近世琉球の様態について、その文化の諸相を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世琉球の様態（琉球文化の諸相）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	主題5 基礎 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（1）—私塾・会読・遊学—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、私塾・会読・遊学を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（私塾・会読・遊学）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	主題5 展開 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（2）—武士の上方在番と学問受容—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、武士の上方在番の事例を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（武士の上方在番の事例）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題6基礎 幕末・維新时期へ（1） —天皇・朝廷の政治的浮上とその背景—	幕末・維新时期の諸相について、天皇・朝廷の政治的浮上を中心に概観する	
	この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（天皇・朝廷の政治的浮上）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	主題6展開 幕末・維新时期へ（2） —ロシアの出現とその波紋—	幕末・維新时期の諸相について、ロシアの出現を中心に概観する	
	この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（ロシアの出現）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
	この回の到達目標	歴史的な視点に立ち、日本の近世社会の特質について基礎的な知識を持ち、それを一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
	事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の文化A	担当者	浅野 充	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では1年の各時期に、また人の生涯を通じてさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば、江戸や東京について、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の年中行事について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の年中行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】		
テキスト購読を主とし、リアクションペーパー＝小テストを毎回提出してもらいます。小テストのフィードバックは授業内にて行います。最後に授業内試験ないし授業内レポート作成を実施します。テキストを離れて（花見や歴史都市江戸など）、トピック的な内容の回を設定することもあり得ます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の年中行事、習慣の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書くレポートにより評価する。	30	40									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で小テストを返却します。メール、ポータルシステム、GoogleClassroomを利用することもあるかもしれません。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新装版『日本人のしきたり』青春新書	飯倉晴武	青春出版社	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で対応する。オンライン授業の場合は基本的にメール、ないしGoogleClassroomで対応する。メールはasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【干支と六曜】	授業計画などのガイダンスと導入。干支や六曜などを導入として取り上げ、日本の習慣やしきたりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自国の文化、生活、社会と比較する素地をつくる。	
	事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣との比較や、日本での生活とで思い浮かぶことをまとめておくこと。	120分
2	【日本の花見】	花見と日本人（最新の出来事Ⅰ）。日本の花見の習慣の歴史や桜の種類などについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の桜の花見について、あらためて学修、整理をする。	
	事前学修	花見に行っておくことが望ましい。	120分
	事後学修	花見について、自分の国の習慣との比較や、日本での経験などをまとめておくこと。まだ行える花見があるかどうか調べてみる（行ってみても良いかもしれません）。	120分
3	【日本の正月の行事のしきたり】	テキストを購読する。序章：旧暦・氏神と鎮守・ハレとケ。第1章正月行事のしきたり1：初日の出。初詣。門松。しめ飾り。年男。若水。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
4	【日本の正月の行事のしきたり】	テキストを購読する。第1章正月行事のしきたり2：鏡餅。鏡開き。おとそ。おせち料理。雑煮。お年玉。書き初め。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
5	【日本の正月の行事のしきたり】	テキストを購読する。第1章正月行事のしきたり3：初夢。七草がゆ。鏡開き。小正月。左義長。藪入り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
6	【日本の年中行事のしきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり1：節分。初午。針供養。ひな祭り。お彼岸。花祭り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。なお、取り上げたしきたりが、ちょうど時期的に合っているものについては、自分の住居の近所の行事を見学したりすることも良いかと思います。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【日本の年中行事のしきたり】		テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり2：八十八夜・端午の節句。衣替え。七夕。土用の丑の日。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
8	【日本の年中行事のしきたり】		テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり3：お盆。盆踊り。お月見。重陽の節句。恵比須講。酉の市。年の市。除夜の鐘。年越しそば。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
9	【江戸と東京】		江戸と東京1。近世都市江戸の成立について学修する。
	この回の到達目標	現在、学びの場である日大法学部の所在する東京の歴史的な成り立ちを理解し、自国の人たちに概略を説明できるようになる。	
	事前学修	自分の住んでいる地域や日大法学部のある地域の地図をよく見ておくこと。歴史地図を見られればさらに良いです。	120分
	事後学修	江戸について、知っていること、知りたいことを整理しておくこと。	120分
10	【江戸と東京】		江戸と東京2。大江戸の成立。水道橋の名称の由来と江戸の上水を学修し、江戸についてのビデオを見る。
	この回の到達目標	日大法学部の所在する水道橋について興味を持ち、日本の江戸時代の文化、生活の一端を理解する。	
	事前学修	配布したプリントの江戸と東京の地図をよく見ておくこと。	120分
	事後学修	江戸について知ったこと、さらに知りたいことを整理してまとめておくこと。	120分
11	【日本の結婚のしきたり】		テキストを購読する。第3章結婚のしきたり1：婚姻。見合い。仲人。結納。神前結婚式。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
12	【日本の結婚のしきたり】		テキストを購読する。第3章結婚のしきたり2：三三九度。披露宴。お色直し。引出物。里帰り。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する。第4章懐妊・出産のしきたり1：帯祝い。へその緒。お七夜。赤飯。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
14	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する。第4章懐妊・出産のしきたり2：お宮参り。お食い初め。初誕生祝い。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
15	【これまでの講義内容のまとめ：授業内試験】	日本の文化Aの講義内容のまとめと、授業に関する授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを授業内試験（オンライン授業の際はレポート作成）を通じて確認する。	
	事前学修	日本の文化Aの授業内容について、配信教材のノート・小テストを見直し、確認しておくこと	120分
	事後学修	試験内容の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。フィードバックは、1週間後くらいに配信する。	120分

科目名	日本の文化B	担当者	浅野 充	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では、お祝いや弔事（葬儀など）の時などにさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば歴史都市、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の慶事（お祝い）や弔事（葬儀など）の行事、手紙の作法について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の慶事・弔事の行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とし、リアクションペーパー＝小テストを毎回提出してもらいます。小テストのフィードバックは授業内にて行います。最後に授業内試験ないし授業内レポート作成を実施します。歴史都市京都の回数をもう少し増やすこともあり得ます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の慶事や弔事の行事、手紙作法の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書くレポートにより評価する。	30	40									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で返却します。メール、ポータルシステム、GoogleClassroomを利用することがあるかもしれません。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新装版『日本人のしきたり』青春新書	飯倉晴武	青春出版社	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で対応します。オンライン授業の場合はメール、GoogleClassroomで対応します。メールはasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【日本の休日制度】	授業計画などのガイダンスと導入を行う。導入については、日本の休日制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の休日制度と文化との関わりを理解し、その歴史や現状を理解し、学修する。	
	事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱った休日などについて、自分の国の休日と比較し、まとめること。	120分
2	【日本の祝いのしきたり】	テキストを購読する。第5章祝いのしきたり1：七五三・十三参り・成人式。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝いの行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。第2回、第3回で取り上げたしきたりが自分の周りで行われているようでしたら、見学させてもらいたいと思います。	120分
3	【日本の祝いのしきたり】	テキストを購読する。第5章祝いのしきたり2：還暦の祝い・長寿の祝い。地鎮祭。棟上式。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝いの行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
4	【日本の贈答のしきたり】	テキストを購読する。第6章贈答のしきたり1：中元・歳暮。贈答品の包装。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝いのしきたり・贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
5	【日本の贈答のしきたり】	テキストを購読する。第6章贈答のしきたり2：水引・のし・贈答品の表書き。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。第4回、第5回で取り上げたしきたりを自分が実際に行った体験がある人は良く思いだしておくこと。	120分
6	【ハロウィーン】	10月31日に行われるハロウィーンについて調べてみる。	
	この回の到達目標	西洋から入ってきた行事であるハロウィーンについて、その歴史や、日本や中国、韓国などでの現在の行われ方を理解する。	
	事前学修	自分がこれまで経験したハロウィーンの内容について、整理しておく。	120分
	事後学修	自分の国では今年のハロウィーンはどのように行われていたかを調べてみる。新しいことが行われているかどうか調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【歴史都市京都】		観光都市・歴史都市の京都について学修するⅠ：平安京を中心にして日本の古代の都の具体的実像を理解し、確認する。	
	この回の到達目標	日本の平安京と中国の唐の長安城とを比較し、両者の類似点、相違点を整理する。		
	事前学修	自分が旅行などで、京都のどこに行ったかを思いだし整理しておくこと。地図などを駆使することもお勧めです。		120分
	事後学修	自分が行ったことのある京都の観光地などは歴史的にみるとどの時代のものかを整理しておくこと。		120分
8	【歴史都市京都】		観光都市・歴史都市の京都について学修するⅡ：その後の（中世・近世・近代・現代）の京都の変遷を理解し、確認する。京都の人気観光スポットを概観する。	
	この回の到達目標	中世以後の京都の歴史を学修し、理解する。京都の人気観光スポットを確認し、その歴史と注目点を学修し、理解する		
	事前学修	配布プリントをよく見ておくこと。授業では説明し切れていない部分もあるので、その部分はよく読んでおくこと。		120分
	事後学修	今後、京都のどこに行きたいかをあらためて考えてみる。世界遺産、国宝などの該当寺社なども調べてみると興味がわくと思います。		120分
9	【歴史都市京都】		観光都市・歴史都市の京都について学修するⅢ。京都御所のビデオを見る。	
	この回の到達目標	現在の京都御所の所在地、歴史、注目点を学修するために、京都御所の歴史を概観するビデオを視聴する。時間があれば、京都についての他のビデオも視聴する。		
	事前学修	京都御所について、歴史や所在地について調べてみる。		120分
	事後学修	京都御所のビデオを見た感想をまとめてみる。		120分
10	【日本の手紙のしきたり】		テキストを購読する：第7章手紙のしきたり1。手紙と葉書。表書き。裏書き。往復はがき。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。		
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分が書いた往復はがきについて思い起こしておくこと。		120分
	事後学修	授業で講義した内容を基に、配信資料を参考にしながら、往復はがきの返信の書き方を練習をしてみる。		120分
11	【日本の手紙のしきたり】		テキストを購読する：第7章手紙のしきたり2。頭語と結語。時候のあいさつ。実際に、手紙の凡例を書く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。		
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておく。		120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておく。		120分
12	【日本の手紙のしきたり】		テキストを購読する。第7章手紙のしきたり3。年賀状。暑中見舞い。手紙の禁忌言葉。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、日本式の手紙の書き方の細部を理解する。年賀状を書くことができるようになる。		
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の時候の手紙を確認して（現在だけではなく、古い習慣も調べてみる）。		120分
	事後学修	授業で取り扱った手紙や禁忌言葉について、自分の国の手紙などと具体的に比較し、まとめてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日本の葬式のしきたり】	テキストを購読する：第8章葬式のしきたり1；末期の水。死装束。北枕。通夜。葬式。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
14	【日本の葬式のしきたり】	テキストを購読する：第8章葬式のしきたり2；。焼香。戒名。位牌。お布施。出棺。香典。忌中と忌明け。精進落とし。年忌法要。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学習、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。香典の金額の相場などを学修する。	
	事前学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
15	【これまでの講義内容のまとめ：授業内試験】	日本の文化Bの講義内容のまとめと、授業に関する授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを授業内試験（オンライン授業の際はレポート作成）を通じて確認する。	
	事前学修	日本の文化Bの授業内容について、配信教材のノート・小テストを見直し、確認しておくこと。	120分
	事後学修	試験内容の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。フィードバックは、1週間後くらいに配信する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	小野 美典	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書・スマホの利用可)を持参すること。この授業はGoogle Classroomへの登録(クラスコードは初回に公表)が必要。

【授業方法】
「争乱の時代の文学」と題して、平安時代末・鎌倉時代初期の文学作品『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』『方丈記』を読む。中心は『建礼門院右京大夫集』であり、戦乱という大きな歴史の渦の中で、一組の恋人たち(建礼門院に仕えた女房と平家の武将)がどのように恋の世界に生き、それを文学作品に昇華して行ったかを考察する。当該作品は女性の側が書いた日記(私家集)であるが、同時代の出来事を物語化した『平家物語』、随筆として書かれた『方丈記』もあわせて読む。複数のジャンルの同時代・同一事件(事項)を扱う文学作品を読解することで、この時代の文学に関する知見を深め、多角的に考察して行きたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各自の意見・質問を取り上げて次回の授業で学習の深化を図る双方向授業も実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内テストによって、①②③④に関して、授業内容を理解をした上で各自が問題意識を持って発展学習・調査を行い、その理解・学習・調査が答案に反映され、目標が達成できているかを評価する。(ただし、社会情勢によっては急遽、レポートに変更することもあり得る)	10	10	20	20							60
小テスト等	毎回の授業終了後に実施するチェックテストによって、①②③④に関して、どの程度の学習がなされて授業内容を理解しているかをチェックすることで、各自の到達度を評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の週の授業冒頭でチェックテストの解説を行うことで対応。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
Google Classroomの個人限定質問、あるいはメール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアボをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要の説明【履修希望者は第1回の授業に必ず参加すること】	授業の概要・目的・方法を詳細に説明する。また、Google Classroom利用に関する説明とクラスコードを発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、この授業の目的が説明できるとともに、「時代転換期」としてこの時代を設定した理由が説明できることを目標とする。	
	事前学修	シラバスを精読し、この授業の概要・目的・方法を理解する。	120分
	事後学修	授業時配付プリントを再読することで、授業の概要・目的・方法の徹底を図る。また発展内容として、講義で扱う作品以外に、この時代の文学作品としてどのようなものがあるのかを調べてみる。	120分
2	源平の争乱の時代と文学	平安時代末から鎌倉時代初期の文学作品を概観するとともに、それらの作品が武士の台頭をどのように見なしていたかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平安時代末・鎌倉時代初期の時代的特質と文学作品のおおまかな概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	平安時代末から鎌倉時代初期の文学作品としてどのようなものがあるのかを整理しておく。	120分
	事後学修	〈1〉授業内で触れた作品が時代転換期の文学的特質をどのように表しているのかを確認する。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
3	『建礼門院右京大夫集』六段「一枝の花」	『建礼門院右京大夫集』の概要を知るとともに、六段の贈答歌を通じて右京大夫集と平資盛との恋の始まりを読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『建礼門院右京大夫集』の概要が説明できるとともに、六段の桜の一枝の役割らに関して説明できることを目標とする。	
	事前学修	『建礼門院右京大夫集』の作者・成立年代・概要、ならびに平資盛について調査しておく。	120分
	事後学修	〈1〉『建礼門院右京大夫集』の文学作品としての特質を整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
4	『建礼門院右京大夫集』二十五段「住の江の草」	右京大夫と資盛との恋の深まりを贈歌と答歌の巧みな応酬から読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、贈答歌に込められた詠者の思いが説明できることを目標とする。	
	事前学修	本文中に登場する「州浜（すはま）」「忘れ草（わすれぐさ）」がどのようなものであるのかを調べておく。	120分
	事後学修	〈1〉贈歌で資盛の言おうとした内容に対して、答歌で右京大夫がどのように返答したのかを整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
5	『建礼門院右京大夫集』九十七段「たぐひも知らぬ憂きこと」	平家の都落ちに同行する資盛の苦悩を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、平氏の家に生まれた資盛の都落ち（出陣前）の覚悟が説明できることを目標とする。	
	事前学修	本文の中で、資盛が右京大夫に要求している事柄が何なのかを理解し整理しておく。	120分
	事後学修	〈1〉都落ちに際して、資盛が右京大夫に願い出た内容を整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
6	『建礼門院右京大夫集』百段「荒き騒ぎにただよひて」～百三段「夢にやあらむ」	資盛の生存がわからない中、身近な平家の武将たちの悲報に接して混乱する右京大夫の思いを読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、平家軍劣勢の報が続く中で右京大夫が和歌に詠んだ思いが説明できることを目標とする。	
	事前学修	平資盛とその兄弟たちが史実としてはどうなったのか（特に、戦死したのか捕らえられたのか）を調べておく。	120分
	事後学修	〈1〉和歌に託されている、右京大夫の思いを整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『平家物語』巻七「経正都落」	かつて稚児として仕えた仁和寺御室との離別の思いを和歌から読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、都落ちを前にして平経正の抱いた思いを和歌と関連させて説明できることを目標とする。	
	事前学修	『建礼門院右京大夫集』の平資盛と『平家物語』の平経正が、それぞれ都落ち直前に何を望んだのかを比較して整理しておく。	120分
	事後学修	〈1〉都落ちを前にして平資盛・平経正の共通点を整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
8	『平家物語』巻七「維盛都落」〈一〉	都落ちをせざるを得ない中で苦悩する維盛の胸中を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、維盛の家族愛が効果的に描写されている方法に関して説明できることを目標とする。	
	事前学修	都落ちによる別れを維盛の家族がどのように捉えているかを整理する。	120分
	事後学修	〈1〉苦悩する維盛の胸中を整理する。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
9	『平家物語』巻七「維盛都落」〈二〉	維盛・資盛兄弟と父重盛、そして後白河法皇の関係を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、維盛・平資兄弟の『平家物語』中での位置付け、ならびに後白河法皇との関係が説明できることを目標とする。	
	事前学修	資盛と後白河法皇との関係について調べておく。	120分
	事後学修	〈1〉「経正都落」「維盛都落」に共通するテーマを整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
10	『平家物語』巻九「三草合戦」	源義経の奇襲の成功の一方で、落ち行く平資盛ら平家軍の姿を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、三草合戦の概要が時系列で説明できることを目標とする。	
	事前学修	三草合戦の概要を調査しておく。	120分
	事後学修	〈1〉義経が鮮やかな勝ちを得た理由を考えるとともに、平家軍の敗因も整理しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
11	『平家物語』巻十一「先帝身投」	壇ノ浦の合戦において平家は劣勢となって天皇を始めとして多くの武将たちが戦死する。その人々の死の形を読み解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、壇ノ浦の合戦の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	壇ノ浦の合戦の概要を調べておく。	120分
	事後学修	〈1〉本文中の会話によって戦況がどのように描写されているかをまとめるとともに、安徳天皇の入水の概要を整理する。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
12	『平家物語』巻十一「能登殿最期」	平家敗戦という中で、武将や主だった平家の側の人々の動向を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、能登殿の最期が説明できるとともに、建礼門院が助けられた状況が説明できることを目標とする。	
	事前学修	壇ノ浦の合戦で亡くなった人を整理しておく。	120分
	事後学修	〈1〉平資盛の最期を確認しておく。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『方丈記』「安元の大火」と『平家物語』巻一「内裏炎上」	安元三年の京都大火を題材にして、随筆『方丈記』と軍記物語『平家物語』とでの叙述の方法の違い、ひいては作品の違いを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、随筆『方丈記』と軍記物語『平家物語』とで同一素材への把握の仕方、叙述の方法の異同が説明できることを目標とする。	
	事前学修	安元三年四月の京都大火の概要を諸資料にあたって調べておく。	120分
	事後学修	〈1〉『方丈記』と『平家物語』の末尾の記述の意味を考えて整理する。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
14	『方丈記』「治承の辻風」と『平家物語』巻三「颯」	治承四年の京都の竜巻を題材にして、随筆『方丈記』と軍記物語『平家物語』とでの叙述の方法の違い、ひいては作品の違いを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、随筆『方丈記』と軍記物語『平家物語』とで同一素材への把握の仕方、叙述の方法の異同が説明できることを目標とする。	
	事前学修	治承四年四月二十九日の竜巻に関して、その被害の状況を確認しておく。	120分
	事後学修	〈1〉随筆文学と物語文学の違いについて考えてみる。〈2〉チェックテストの問題を各自で解き、締め切りまでに送信・提出する。	120分
15	半期にわたる授業の振り返りと整理・試験	〈1〉1～14回までの授業内容の理解度・到達度をみるための授業内試験。〈2〉試験の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、源平の争乱の時代の文学の特質を自分の言葉で文章化し、説明できることを目標とする。	
	事前学修	1～14回までの授業内容を確認するとともに、プリント資料の整理をする。	120分
	事後学修	〈1〉試験の中で出来のよくなかった問題に関して、教員による授業内の解説や友人との意見交換などによって理解の深化をはかる。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	川下 俊文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
事前に作品を読んでいることを前提として、毎回の授業を行う。受講者は課題提出だけでなく、事前学修についても怠らずに取り組むこと。

【授業方法】		
講義形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業後にリアクションペーパーを実施し、受講者の質問や意見を書いてもらう。そのなかで到達目標①②③④にかかわる記述ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムのコメント機能と、授業内での講評・解説によって行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
当世書生気質	坪内逍遙	岩波書店	2006	教科書	必携
浮雲	二葉亭四迷	岩波書店	2004	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでの相談に随時応じる。 kawashita.toshifumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	導入 近代文学成立の経緯		本授業の進め方について説明する。近代文学成立の経緯を把握するために、江戸時代から明治20年代にかけての社会と文学について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近世・近代文学に関する基礎的な事項と、その当時の社会の仕組みを理解し、合理的な観点から注意深く観察することができる。		
	事前学修	近世・近代の社会と文学について、高校までに習ったことを復習する。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
2	坪内逍遙の小説論 『小説神髓』		明治文学を読む前提として、近世の大衆文学である「戯作文学」について解説し、それを坪内逍遙がどのように乗り越えようとしたかについて、『小説神髓』の理論によって把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坪内逍遙の唱えた文学理論を社会背景とともに理解し、戯作文学との比較に基づいて、その革新性や問題点についても批判的・合理的に観察することができる。		
	事前学修	配布資料をダウンロードし、授業前に読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
3	『当世書生気質』を読む①		以下の授業では坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第一回・第二回を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第一回～第二回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
4	『当世書生気質』を読む②		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第三回から第五回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第三回～第五回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
5	『当世書生気質』を読む③		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第六回から第八回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第六回～第八回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
6	『当世書生気質』を読む④		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第九回から第十回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第九回～第十回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	『当世書生気質』を読む⑤		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第十一回から第十二回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第十一回～第十二回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
8	『当世書生気質』を読む⑥		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第十三回から第十四回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第十三回～第十四回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
9	『当世書生気質』を読む⑦		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第十五回から第十七回までを講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第十五回～第十七回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
10	『当世書生気質』を読む⑧		坪内逍遙『当世書生気質』を通読し、明治10年代の世相および書生の生活について学ぶ。今回は第十八回から第二十回までを講読し、作品全体を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』に描かれた書生生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『当世書生気質』第十八回～第二十回を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
11	二葉亭四迷の理論と文体		坪内逍遙の理論を発展させ、口語体の小説を創始したことによって近代文学の基礎を築いた二葉亭四迷の革新性について、「小説総論」を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、二葉亭四迷の唱えた文学理論と言文一致の主張を社会背景とともに理解し、坪内逍遙の理論との比較に基づいて、その革新性や問題点についても批判的・合理的に観察することができる。		
	事前学修	配布資料をダウンロードし、授業前に読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
12	『浮雲』を読む①		以下の授業では二葉亭四迷『浮雲』を通読し、明治20年頃の青年男女の自己意識について学ぶ。今回は第一篇を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『浮雲』に描かれた青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『浮雲』第一篇を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『浮雲』を読む②	二葉亭四迷『浮雲』を通読し、明治20年頃の青年男女の自己意識について学ぶ。今回は第二篇を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『浮雲』に描かれた青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。	
	事前学修	『浮雲』第二篇を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。	120分
14	『浮雲』を読む③	二葉亭四迷『浮雲』を通読し、明治20年頃の青年男女の自己意識について学ぶ。今回は第三篇を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『浮雲』に描かれた青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。	
	事前学修	『浮雲』第三篇を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。	120分
15	今学期のまとめ	学期全体を振り返り、近代文学の始まりと、そこに描かれた青年たちのありさまについて把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『当世書生気質』『浮雲』両作品に描かれた青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察したうえで、批判精神をもって論評することができる。	
	事前学修	これまでに扱った作品を読み直し、それぞれの特徴を確認する。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、期末レポートとリアクションペーパーを提出する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特にありませんが、この講義では日本の古典文学を取り上げますので、日本の文化や歴史に興味があり、積極的に学びたい学生の受講を希望します。なお、各作品の内容については口語訳を配付します。

【授業方法】		
本講義では文学を取り巻く文化・歴史について、「調査」し「考察」していきます。特に鴨長明の『無名抄』『方丈記』『発心集』の三つの作品を取り上げ、各作品が成立した時代や背景を学びます。平安末期から鎌倉初期という時代に翻弄され、挫折を味わった長明が隠者として世の本質を見つめ、無常の世をいかに生きたかという点を分析します。その長明の生き方を現代と対照して考えてみましょう。 講義の進め方としては、担当者が作成したプリント資料を用いながら、講義を行います。毎回、講義内容の確認小テストを行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の確認小テストについて次週に解説を行います。またテーマごとに参考文献を示しますので、それを読み感想・意見を提出してもらう回もあります。提出した課題は全体・あるいは個別にフィードバックし、受講生の間で意見を深められるようにします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内テストにより、到達目標①②③④について、授業内容を理解した上で知識・読解力・考察力を身につけたかを筆記テストにより評価する。	10	10	10	20							50
小テスト等	毎回授業の際に実施する小テストや感想文などにより、到達目標①②③④について理解しているかを確認し、各自の到達達成を評価する。	20	10	10	10							50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業内・またはclassroomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。教員が作成したプリントを使用します。				

【オフィスアワー】
大学付与のGmailにて受け付けます。担当者のメールアドレスなど詳細については、第1回の講義で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション 文字について		講義内容・講義形式、評価方法、受講に当たってのルールや注意点について説明します。 また、文学を書き表す「文字」についても考えます。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②について、日本における文字の発達について基本的なことが説明できるようにします。		
	事前学修	シラバスをよく読み、受講したい講義内容かどうか確認をしておいてください。		120分
	事後学修	第1回の授業内容をまとめ、復習をして、日本の「文字」の特徴について説明できるようにしておいてください。		120分
2	日本中世文学の特徴		日本中世文学を読み解くための基礎知識を確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②について、日本中世文学の基礎知識を説明できるようにします。		
	事前学修	国語便覧などで、日本文学史、特に中世の文学史について確認しておいてください。		120分
	事後学修	第2回の授業内容をまとめ、復習をしておいてください。		120分
3	鴨長明に人生について①		長明の生い立ちなど、育った環境について確認し、長明の文学活動にどのような影響を与えたかを考えます。また、長明の和歌についても分析します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②④について、平安時代末期から鎌倉時代初期という時代背景や家族やその周辺人物との関係などが作者の文学作品に及ぼした影響を説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された文献をよく読み、第3回の授業内容をまとめてみましょう。		120分
4	鴨長明の人生について② 鴨長明『無名抄』を読む①		歌人長明の和歌に関する著述を読み解きます。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④について、新古今時代とはどのような時代か理解し、その時代の中で長明の活動について説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配付する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	長明の文学作品について、概要をまとめておきましょう。		120分
5	鴨長明『無名抄』を読む②		先行歌論歌学書と読み比べ、長明の作品の特徴を考えてみよう。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②④について、長明が学んだ歌学書の内、特に『俊頼髓脳』との関係を説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	長明の和歌の師である俊恵法師とその父・源俊頼の作品との関係についてまとめてみましょう。		120分
6	鴨長明『無名抄』を読む③		長明の和歌作品と歌語について、考えてみよう。	
	この回の 到達目標	到達目標の③④について、新古今時代における数寄者としての長明について説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	数寄者とは何か、まとめてみましょう。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	鴨長明『無名抄』を読む④	『無名抄』とはどのような作品なのか、考えます。		
	この回の到達目標	到達目標の①②④について、ジャンルとしては歌論書と分類される作品は、長明にとってDのような作品であるのか、説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	『無名抄』という作品の特徴をまとめてみましょう。		120分
8	『方丈記』を読む①	随筆というジャンルについて考えます。また、作品に描かれた時代背景について理解します。		
	この回の到達目標	到達目標の①②④について、「記」の文学としての『方丈記』について理解し、説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。 随筆とはどのようなものか、国語便覧アドで調べておいてください。		120分
	事後学修	『方丈記』の文学ジャンルについて、その特徴をまとめてみましょう。		120分
9	『方丈記』を読む②	五大災厄をリアルに描くジャーナリストとしての長明の表現力について学びます。		
	この回の到達目標	到達目標の③④について、同一の事象について他の作品と読み比べながら、長明の表現力について理解し、説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	長明の表現力の特徴についてまとめておきましょう。		120分
10	『方丈記』を読む③	第9回の講義に引き続き、五大災厄をリアルに描くジャーナリストとしての長明の表現力について学びます。		
	この回の到達目標	到達目標の③④について、同一の事象について他の作品と読み比べながら、長明の表現力について理解し、説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	長明の表現力の特徴についてまとめておきましょう。		120分
11	『方丈記』を読む④	方丈の庵と隠遁生活について学びます。		
	この回の到達目標	到達目標の①②④について、長明にとって「方丈の庵」とはどのようなものか、説明できるようにします。		
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。		120分
	事後学修	方丈の庵と隠遁生活について、まとめてみましょう。		120分
12	『方丈記』を読む⑤	『方丈記』における長明の思想について考察します。		
	この回の到達目標	到達目標の③④について、『方丈記』に記される思想について説明できるようにします。		
	事前学修	これまでに配布された資料を読み直しておきましょう。		120分
	事後学修	『方丈記』における思想および作品を執筆した背景について、まとめておきましょう。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『発心集』を読む①	仏教説話集である『発心集』の成立、執筆動機などについて考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④について、発心とはどのようなものか、説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。説話集というジャンルについて、調べておいてください。	120分
	事後学修	講義内で示された文献をよく読み、内容をまとめてみましょう。	120分
14	『発心集』を読む②	『発心集』における数寄と無常について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の③④について、長明が心の安定のために求めた数寄の境地と無常観について理解し、説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。	120分
	事後学修	第13・14回の講義内容をまとめてみましょう。	120分
15	鴨長明の文学観 講義のまとめと振り返り	到達目標達成度確認試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標の③④について、長明がどのような文学観を持っていたのかという点について、各作品から具体的に説明できるようにします。	
	事前学修	全14回の講義を振り返り、到達目標達成度確認試験で記述する内容を確認しておきましょう。	120分
	事後学修	授業内で行う解説・講評などを参考にして、これまでの講義をまとめ、参考文献などを読むことによって、中世の文学について理解し興味関心を深めましょう。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。提出されたレポートについては、講評を公開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	5	10	5	10							30
レポート等	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
上代文学史を学ぶ	梶川信行	翰林書房	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入『万葉集』とは？	前期の授業計画と内容、目標についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大まかな8世紀の日本で成立した『万葉集』の概略を理解することができる。	
	事前学修	高校の教科書などを使って、『万葉集』がどのように成立しかのか、まとめておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	8世紀の日本とは？	「日本」と「天皇」の成立時期とその意義について学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「日本」・「天皇」の成立を通して、8世紀の日本が行った外交政策について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	『万葉集』が成立した時期と、「日本」「天皇」が成立した時期について確認する。	120分
3	田辺福麻呂とは？	田辺福麻呂に関する説明を受け、渡来人系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宮廷歌人的な存在でもあった田辺福麻呂の人物像を通して、古代の官人の地方赴任時の業務について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
4	田辺福麻呂の宴席歌とは？	田辺福麻呂が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席でのルールを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、田辺福麻呂の宴席歌からうかがえる、地方の地名が同音の別の語を連想させ、歌のレトリックとして用いられる表現の戯遊性について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における田辺福麻呂の役割について確認する。	120分
5	秦朝現とは？	秦朝元に関する説明を受け、宴席で歌を披露することができなかった歌人の事情を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、秦朝元からうかがえる渡来系氏族の一実態と、天皇臨席の宴席における人間関係（政敵を含む）の一端を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
6	宴席の座席は決まっているの？	秦朝元が歌を披露した宴席歌群全体を通して、天皇臨席の宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分によって「大殿」と「南の細殿」に席が分けられ、身分の高い人から順に歌を披露されていくこの時代の宴席の特徴について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における秦朝元の役割を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	大伴家持とは？		大伴家持に関する説明を受け、家持がいかに宴席に慣れていたかを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当時21歳の大伴家持をはじめ若い貴族子弟が参集された宴席での、家持の立ち位置を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。		120分
8	宴席のルールとは？		大伴家持が参加した「黄葉」を主客にした宴席全体を通して文雅を愛する子弟たちの宴席歌の特徴について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分秩序に基づいた席順、歌を披露する順番、歌で表現しなければならないルール等と理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における大伴家持の役割を確認する。		120分
9	大伴坂上郎女の伝記的情報とは？		大伴坂上郎女の伝記的情報とはどのようなものか学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『万葉集』が伝える坂上郎女の伝記的情報の特殊性を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。		120分
10	女性歌の「引き留め歌」とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、女性歌の宴席での役割を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌の宴席歌「引き留め歌」の特徴を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する①。		120分
11	禁酒令とは？		古代の禁酒令について学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日照りの害や疫病、災害に関する対策の一つで公布される禁酒令とそれらが目的ではなく公布された禁酒令との違いを理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。		120分
12	酒と宴席歌の関係性とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、酒と歌との関係性について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、酒と宴席歌との関連性を通して、宴席歌における表現の意図についても理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する②。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	藤原仲麻呂とは？	藤原仲麻呂の政治家としての活躍を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、藤原氏の頂点に立っていた時の藤原仲麻呂の人物像について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	宴席における君臣秩序とは？	藤原仲麻呂が歌を披露した宴席歌群を通して、歌による君臣秩序の作用を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、あえて歌の形で自分の力を誇示した藤原仲麻呂の宴席歌の特徴について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における藤原仲麻呂の役割を確認する。	120分
15	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、宴席は社交の場であり、平城京時代の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	貴族は宴席で歌を披露するルールをどのように理解していたのかを確認する①。	180分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	片野 智子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
第1回目の授業の際にテキストを示す。毎回授業の後にコメントシートを課題として提出してもらい、次の授業の冒頭で講評と解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートの講評や、質問に対する回答を行うことで、学習の深化を図る双方向授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回授業終了後にコメントシートを課すことで、到達目標①②③④に関して、授業の内容を理解した上で、作品に対して自分なりの問題意識を持って論じることができるかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	レポートを課すことで、到達目標①②③④における、知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているか、それによって到達目標①②③④を達成できているかを評価する。	10	10	20	20							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で講評・解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは授業内で指示する他、資料を配付する。				

【オフィスアワー】
質問は授業後に対応する他、メール（katano.tomoko@nihon-u.ac.jp）でも受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入	(1) ガイダンス……授業の進め方と成績評価の方法等の説明 (2) 導入……日本近代文学の流れについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本近代文学の流れについて概要を掴むことができる。	
	事前学修	シラバスを精読して授業の概要を掴むと共に、シラバスに書かれた作家について簡単に調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
2	テキストを読むとはどういうことか	テキストを作者と直接結びつけることなく、それ自体独立したものとして読むための方法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、テキストとは何かを説明することができる。	
	事前学修	ロラン・バルトの宣言した「作者の死」とは何を意味するのか調べておく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
3	夏目漱石『こころ』	夏目漱石の経歴について紹介し、『こころ』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『こころ』を分析することができる。	
	事前学修	夏目漱石とはどのような作家なのかを調べ、『こころ』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
4	森鷗外『半日』	森鷗外の経歴について紹介し、『半日』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『半日』を分析することができる。	
	事前学修	森鷗外とはどのような作家なのかを調べ、『半日』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
5	樋口一葉『たけくらべ』	樋口一葉の経歴について紹介し、『たけくらべ』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『たけくらべ』を分析することができる。	
	事前学修	樋口一葉とはどのような作家なのかを調べ、『たけくらべ』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
6	田山花袋『少女病』	田山花袋の経歴について紹介し、『少女病』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『少女病』を分析することができる。	
	事前学修	田山花袋とはどのような作家なのかを調べ、『少女病』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	泉鏡花『婦系図』		泉鏡花の経歴について紹介し、『婦系図』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『婦系図』を分析することができる。		
	事前学修	泉鏡花とはどのような作家なのかを調べ、『婦系図』を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分
8	芥川龍之介『藪の中』		芥川龍之介の経歴について紹介し、『藪の中』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『藪の中』を分析することができる。		
	事前学修	芥川龍之介とはどのような作家なのかを調べ、『藪の中』を調べておく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分
9	谷崎潤一郎『鍵』		谷崎潤一郎の経歴について紹介し、『鍵』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『鍵』を分析することができる。		
	事前学修	谷崎潤一郎とはどのような作家なのかを調べ、『鍵』を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分
10	志賀直哉『小僧の神様』		志賀直哉の経歴について紹介し、『小僧の神様』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『小僧の神様』を分析することができる。		
	事前学修	志賀直哉とはどのような作家なのかを調べ、『小僧の神様』を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分
11	川端康成『水月』		川端康成の経歴について紹介し、『水月』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『水月』を分析することができる。		
	事前学修	川端康成とはどのような作家なのかを調べ、『水月』を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分
12	横光利一『蠅』		横光利一の経歴について紹介し、『蠅』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『蠅』を分析することができる。		
	事前学修	横光利一とはどのような作家なのかを調べ、『蠅』を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	太宰治『葉桜と魔笛』	太宰治の経歴について紹介し、『葉桜と魔笛』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『葉桜と魔笛』を分析することができる。	
	事前学修	太宰治とはどのような作家なのかを調べ、『葉桜と魔笛』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
14	安部公房『密会』	安部公房の経歴について紹介し、『密会』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『密会』を分析することができる。	
	事前学修	安部公房とはどのような作家なのかを調べ、『密会』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
15	村上春樹『レーダーホーゼン』	村上春樹の経歴について紹介し、『レーダーホーゼン』を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『レーダーホーゼン』を分析することができる。	
	事前学修	村上春樹とはどのような作家なのかを調べ、『レーダーホーゼン』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	小野 美典	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書・スマホ可)を持参すること。

【授業方法】		
平安時代の歌物語『伊勢物語』『大和物語』を読む。『伊勢物語』は恋多き歌人として著名な在原業平の一代記形式であるが、『大和物語』に関しても、恋愛・夫婦愛・家族愛など「愛情」に関わる章段を中心に持ち上げて古典世界の愛の形を考察する。授業方法は、プリント資料を使いながらの講義形式。授業と並行してGoogle Classroomを立ち上げるので、それへの登録を必ず行うこと。グーグルフォームを使つてのチェックテスト、質問・意見・感想の提出を要求する。また、各自の意見を紹介するなどして、一方通行の授業にならないように注意する。なお、履修生の興味のありように対応して取り上げる章段の変更もあり得る。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自の意見・質問を取り上げて次回の授業で学習の深化を図る双方向授業も実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内テストによって、①②③④に関して、授業内容を理解をした上で各自が問題意識を持って発展学習・調査を行い、その理解・学習・調査が答案に反映され、目標が達成できているかを評価する。(ただし、感染症などの社会情勢によっては急遽、レポートに変更することもあり得る)	10	10	20	20							60
小テスト等	毎回の授業終了後に実施するチェックテストによって、①②③④に関して、どの程度の学習がなされて授業内容を理解しているかをチェックすることで、各自の到達度を評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の週の授業内にフィードバックの時間を設けて対応する。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
Google Classroomの個人限定質問機能、或いは「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと歌物語の基礎知識【履修希望者は第1回の授業に必ず参加すること】	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。〔2〕歌物語の概要。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、歌物語についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
	事前学修	高校時代に学習した便覧・文学史のテキストなどで歌物語にどのようなものがあるのか調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、歌物語の概要に関して整理しておく。	120分
2	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要とその特質	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
	事前学修	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』に関して書かれている部分を読み直す。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。	120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の特質をまとめておく。	120分
3	『伊勢物語』の序段を読む	『伊勢物語』を読む〔その1〕——初段「初冠」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「初冠」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの初段「初冠」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕有職故実としての語句「初冠」について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、初段「初冠」に対する理解を深める。〔2〕「いちはやきみやび」とは何なのかをまとめておく。	120分
4	『伊勢物語』の芥川伝説	『伊勢物語』を読む〔その2〕——六段「芥川」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「芥川」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの六段「芥川」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕当該本文の構成の面白さについて考えておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、六段「芥川」に対する理解を深める。	120分
5	『伊勢物語』が描く男女のすれ違い	『伊勢物語』を読む〔その3〕——二十四段「梓弓」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「梓弓」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの二十四段「梓弓」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕古典世界における「弓」「矢」の呪術的な意味合いについて調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、二十四段「梓弓」に対する理解を深める。〔2〕女の心情の変化を整理する。（2時間）	120分
6	『伊勢物語』が描く男の理想像	『伊勢物語』を読む〔その4〕——四十五段「ゆく蜚」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「ゆく蜚」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの四十五段「ゆく蜚」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕蜚の見られる季節やその特色について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、四十五段「ゆく蜚」に対する理解を深める。〔2〕和歌に込められた男の思いをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	『伊勢物語』の和歌を楽しむ	『伊勢物語』を読む〔その5〕——百二十三段「鶉」		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鶉」の段の概要が説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百二十三段「鶉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「深草」の地について調べておく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十三段「鶉」に対する理解を深める。〔2〕男の心情の変化について整理する。	120分	
8	『伊勢物語』の結末	『伊勢物語』を読む〔その6〕——百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、在原業平の辞世の歌に込められた思いが説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「辞世の歌」について調べておく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」に対する理解を深める。〔2〕業平の恋愛について整理しておく。	120分	
9	『大和物語』の芦刈伝説	『大和物語』を読む〔その1〕——百四十八段「芦刈」 （1）		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『大和物語』の芦刈説話の概要が説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。	120分	
10	『大和物語』の芦刈伝説と他の作品	『大和物語』を読む〔その2〕——百四十八段「芦刈」 （2）		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、登場人物の心情の変化が論理的に説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、ストーリーを整理する。〔2〕「芦刈伝説」について調べておく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。〔2〕物語中の和歌の役割について考えてみる。	120分	
11	『大和物語』の伝説の描き方	『大和物語』を読む〔その3〕——百五十段「猿沢の池」		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「猿沢の池」の段の概要が説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百五十段「猿沢の池」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十段「猿沢の池」に対する理解を深める。〔2〕猿沢の池に関して発展学習として調べてみる。	120分	
12	『大和物語』の人物描写	『大和物語』を読む〔その4〕——百五十六段「姥捨」		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「姥捨」の段の概要が説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分	
	事後学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を再読し、登場人物三人の人物像を整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『大和物語』と他の作品の比較研究	『大和物語』を読む〔その5〕——百五十八段「鹿鳴く声」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鹿鳴く声」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百五十八段「鹿鳴く声」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕『今昔物語集』掲載本文との違いについて考えておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十八段「鹿鳴く声」に対する理解を深める。〔2〕男の恋心が取り戻された理由について整理する。	120分
14	半年間の学びの振り返り1	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験について。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語の特質を説明できるとともに実際の章段の読解を通じて『伊勢物語』『大和物語』の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	これまでの講義内容をまとめ、「歌物語に見られる「生」「愛」「死」のかたち」について整理し理解する。授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策をしておく。	120分
	事後学修	授業目的・到達目標の達成度確認試験の概要を確認し、各自の学びで理解の足りない部分を復習しておく。	120分
15	半年間の学びの振り返り2	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験の実施。〔2〕試験の解説。授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語や『伊勢物語』『大和物語』の特質を他者に向かって説明できることを目標とする。	
	事前学修	授業目的・到達目標の達成度確認試験の内容に沿って、復習しておく。	120分
	事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	川下 俊文	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
事前に作品を読んでいることを前提として、毎回の授業を行う。受講者は課題提出だけでなく、事前学修についても怠らずに取り組むこと。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業後にリアクションペーパーを実施し、受講者の質問や意見を書いてもらう。そのなかで到達目標①②③④にかかわる記述ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムのコメント機能と、授業内での講評・解説によって行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
三四郎	夏目漱石	岩波書店	1990	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでの相談に随時応じる。 kawashita.toshifumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	導入 夏目漱石の文学		本授業の進め方について説明する。『三四郎』を読む前提として、明治20年代から40年代にかけての社会・文学の変遷と、夏目漱石の文学について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、明治文学に関する基礎的な事項と、その当時の社会の仕組みを理解し、合理的な観点から注意深く観察することができる。		
	事前学修	明治時代の社会と文学について、高校までに習ったことを復習する。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
2	『三四郎』を読む①		以下の授業では夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（一）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（一）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
3	『三四郎』を読む②		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（二）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（二）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
4	『三四郎』を読む③		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（三）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（三）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
5	『三四郎』を読む④		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（四）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（四）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
6	『三四郎』を読む⑤		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（五）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（五）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	『三四郎』を読む⑥		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（六）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（六）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
8	『三四郎』を読む⑦		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（七）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（七）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
9	『三四郎』を読む⑧		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（八）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（八）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
10	『三四郎』を読む⑨		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（九）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（九）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
11	『三四郎』を読む⑩		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（十）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（十）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分
12	『三四郎』を読む⑪		夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（十一）を講読する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。		
	事前学修	『三四郎』（十一）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『三四郎』を読む⑫	夏目漱石『三四郎』を通読し、明治末期における大学生の生活や思想について学ぶ。今回は（十二）・（十三）を講読し、作品全体を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。	
	事前学修	『三四郎』（十二）（十三）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。	120分
14	『三四郎』読解に関する議論	夏目漱石『三四郎』読解における疑問点について代表的なものを挙げ、先行研究において提唱されてきた読みの可能性を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察することができる。	
	事前学修	配布資料をダウンロードして読み、これまでの授業で出た疑問点を整理する。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。	120分
15	今学期のまとめ	学期全体を振り返り、夏目漱石がとらえた明治末の青年像や文学観について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『三四郎』に描かれた明治末期の青年男女の生活を社会背景とともに理解し、現代社会に生きる大学生としての視点から多角的に観察したうえで、批判精神をもって論評することができる。	
	事前学修	『三四郎』のもつ文学的・社会的・思想的な特徴を整理する。	120分
	事後学修	授業内容を復習して自分なりの作品理解をまとめ、期末レポートとリアクションペーパーを提出する。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
この講義では日本の古典文学を取り上げますので、日本の文化や歴史に興味があり、積極的に学びたい学生の受講を希望します。同一担当者の日本文学Ⅰを受講していることが望ましい

【授業方法】		
本講義では日本文学Ⅰに引き続き、文学を取り巻く文化・歴史について調査し考察していきます。特に、日本古典文学の中から、『徒然草』を取り上げ、作品の成立した時代や背景について学びます。授業方法は担当者が作成するプリント資料を用いた講義形式の授業です。到達度、理解度をはかるため、ほぼ毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。課題については次週以降で紹介するなどし、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーに基づき、学習内容を深めるよう適宜フィードバックを行い、受講生の間で意見を深められるようにします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内テストにより、到達目標の①②③④について、授業内容を理解した上で発展学習・調査を行い、それを自らの言葉で説明できているか、筆記テストにより評価する。	10	10	10	20							50
小テスト等	ほぼ毎回の授業の際に実施する小テストや感想文などにより、到達目標の①②③④について理解しているかを確認し、各自の到達達成度を評価する。	20	10	10	10							50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週以降の授業内、またはclassroomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません。担当者が作成したプリントを使用します。				

【オフィスアワー】
大学付与のGmailにて受け付けます。担当者のメールアドレスなどについては、第1回の講義で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 中世文学について	講義内容、講義形式、評価方法、受講に当たってのルール・注意点について説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。 また、『徒然草』と作品が生まれた背景として中世文学の特徴について、考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、中世文学が生まれた背景について、基本的な事項が説明できるようにします。	
	事前学修	シラバスをよく読み、取り上げる作品などを確認し、受講したい内容がよく検討しておいてください。また、中世文学と呼ばれる作品にはどのようなものがあるか、国語便覧などで調べておきましょう。	120分
	事後学修	中世文学が生まれた背景について、まとめておきましょう。	120分
2	兼好法師とは何者か	兼好法師の伝記について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、通説と新説を理解し説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んできてください。	120分
	事後学修	「兼好」とはどのような人物なのか、説明できるようにまとめておきましょう。	120分
3	兼好法師とはどのような人物か①	『徒然草』に記される兼好の自己紹介を読み解き、作者について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、『徒然草』の作者像を理解し、説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、この回の目標を達成させましょう。	120分
4	兼好法師とはどのような人物か②	前回に引き続き、作者の自己紹介を読み解き、作者について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、『徒然草』の作者像を理解し、説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業内容をまとめ、作者兼好法師について理解を深めましょう。	120分
5	兼好法師の交友・『徒然草』の時代背景	『徒然草』の成立した時代背景について理解し、兼好法師の交友関係を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、作者の交友関係について理解し、『徒然草』が成立した時代背景について説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。	120分
	事後学修	兼好法師の交友関係についてまとめ、作者の友人論にならって自身の友人論を考えてみましょう。	120分
6	兼好法師と和歌	歌人兼好法師に注目し、その和歌の特徴を分析します。『徒然草』のなかでどのように表現されているか、学びます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、『徒然草』の作者が歌人であることを理解し、表現について説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおいてください。 「二条為世」という人物と、「和歌四天王」について、調べてきてください。	120分
	事後学修	歌道家についてまとめ、兼好法師の和歌の特徴を理解し、作品にどのように反映されているか、説明できるようにまとめておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『徒然草』における説話的章段を読む①	『徒然草』に登場する特徴的な人物について、どのように描かれているか、その執筆背景や意図について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、『徒然草』にのみ記される内容が執筆された背景とその執筆意図について説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。	120分
	事後学修	授業内容をまとめ、取り上げた章段から理解される兼好法師の思想についてまとめておきましょう。	120分
8	「徒然草」における説話的章段を読む②	前回に引き続き『徒然草』に登場する特徴的な人物について、どのように描かれているか、その執筆背景や意図について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、『徒然草』にのみ記される内容が執筆された背景とその執筆意図について説明できるようにします。	
	事前学修	「仁和寺」について、辞典類などで調べておきましょう。事前に配布する資料をよく読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業内容をまとめて、取り上げた章段が執筆された背景についてまとめておきましょう。	120分
9	「徒然草」における説話的章段を読む③	前回に引き続き『徒然草』に登場する特徴的な人物について、どのように描かれているか、その執筆背景や意図について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、『徒然草』にのみ記される内容が執筆された背景とその執筆意図について説明できるようにします。	
	事前学修	日野資朝について、調べておきましょう。事前に配布する資料をよく読んでおいてください	120分
	事後学修	授業内容をまとめて、取り上げた章段が執筆された背景についてまとめておきましょう。	120分
10	『徒然草』第一部を連続して読む①	江戸時代の『徒然草』研究における来意説について考え、作品を冒頭から通読し、そこに示される執筆意図について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の④に関連して、『徒然草』第一部といわれる部分の内容とその執筆意図について説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおいてください。	120分
	事後学修	『徒然草』における「あらまほしきこと」とはどのようなものか、まとめてみましょう。	120分
11	『徒然草』第一部を連続して読む②	前回に引き続き『徒然草』の第一部といわれる章段を通読します。	
	この回の到達目標	到達目標の④に関連して、『徒然草』第一部といわれる部分の内容とその執筆意図について説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおいてください。	120分
	事後学修	『徒然草』における来意とはどのようなものか、まとめてみましょう。	120分
12	『徒然草』における「数寄」と「無常」	兼好の考える「数寄」および「無常」について、作品内部から読み解きます。	
	この回の到達目標	到達目標の②③④に関連して、同一説話の取り上げ方が作品によって相違し、作者の考える「数寄」について説明できるようにします。また無常の文学とされる『徒然草』をどのように読み解くかということを理解し、作品内における「無常」について説明できるようにします。	
	事前学修	「数寄」とは「無常」とは何か、辞書的な意味を調べておいてください。事前に配布する資料をよく読んでおいてください。	120分
	事後学修	兼好がどのように「数寄」と「無常」を捉えていたかをまとめてみましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『徒然草』のジャンルについて 『徒然草』の「つれづれ」	『徒然草』が執筆された当時、どのような目的で執筆されたのか、随筆というジャンルについて考えます。 また、『徒然草』序段に記される「つれづれなるままに」の「つれづれ」について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、これまでの知識を確認し、作者がどのような態度で執筆したのかという点について説明できるようにします。	
	事前学修	国語便覧などで随筆とはどのようなジャンルを指すのか、また三大随筆と呼ばれる作品について調べておきましょう。	120分
	事後学修	ジャンルの特徴と『徒然草』との関係について、まとめてみましょう。	120分
14	『徒然草』における「なぞ」	中世という時代に流行した「なぞ」について考えます。 また、これまでの講義内容について振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、古典文学における「なぞ」について、説明できるようにします。	
	事前学修	事前に配布する資料をよく読んでおきましょう。	120分
	事後学修	これまでの講義をまとめてみましょう。	120分
15	講義のまとめと振り返り	到達目標達成度確認試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、『徒然草』とはどのような作品であるか、理解し説明できるようにします。	
	事前学修	前回までの講義を振り返り、到達目標達成度確認試験で記述する内容を確認しておきましょう。	120分
	事後学修	授業内で行う解説・講評などを参考にして、これまでの講義をまとめ、授業内で示された参考文献などを読むことによって、『徒然草』という作品、さらには中世文学についての興味関心を深めましょう。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。提出されたレポートについては講評を公開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	5	10	5	10							30
レポート等	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
上代文学史を学ぶ	梶川信行	翰林書房	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入「梅花宴」とは？	後期の授業計画と内容、目標についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、元号の典拠となった『万葉集』梅花宴の概略を理解することができる。	
	事前学修	ポータルで配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	石上宅嗣とは？	石上宅嗣に関する説明を受け、渡来系歌人の特徴を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある石上宅嗣の略歴を通して、古代の官人の実態について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
3	歌文化の形成について	石上宅嗣が歌を披露した宴席歌群全体を通して、『万葉集』に登場する歌人はごく一部の官人であることを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大伴家持と交流がなく、漢文学に精通している石上宅嗣が、宴席でふさわしい歌を詠んでいることから、平城京の歌文化の背景には歌に限らない幅広い教養の官人の存在も理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における石上宅嗣の役割を確認する。	120分
4	葛井広成とは？	葛井広成に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある葛井広成を通して、8世紀の歌文化の形成にはこうした渡来系氏族を含めて成立したことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
5	宴席歌の特徴とは？	葛井広成が歌を披露した宴席歌群全体を通して、親しい仲間同士が集まった宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「蟬」の声に着目しながら宴席にける同調を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における葛井広成の役割を確認する。	120分
6	文馬養とは？	文馬養に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある文馬養を通して、平城京の歌文化の成熟に貢献した氏族の存在を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	宴席の「終宴歌」とは？		文馬養が歌を披露した宴席歌群全体を通して、直属の上司が主催した宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上司も含む仕事仲間が参集した宴席での歌の披露方法とその特徴について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における文馬養の役割について確認する。	120分
8	秦八十島とは？		秦八十嶋に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある秦八十島を通して、無位から官途を歩み始めなければならない官人の存在を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
9	上司を和ませる宴席歌とは？		秦八十嶋が歌を披露した宴席歌群全体を通して、赴任先の地方で開催された宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宴席歌全体の流れを確認することで渡来系歌人の秦八十島の歌がいかに洒落ていて適切なものであったのかを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における秦八十嶋の役割を確認する。	120分
10	大伴坂上郎女とは？		大伴坂上郎女に関する説明を受け、女性歌の特徴と役割を学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、女性歌としての坂上郎女歌の特徴を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
11	歌の表現から考えられる作者の意図とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席歌と明記のない作品の読み方までも学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌を読む行為を通して、社交の具としての歌に長けた坂上郎女を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する。	120分
12	「梅花宴」とは？		「梅花宴」に関する研究史について学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」32首における類似性が同調と融和の証であり、宴席歌にとっては必須条件であったことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	研究史における問題点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「梅花宴」の参加者とは？	「梅花宴」の参加者の動向を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」の参加者は大伴旅人との個人的な交遊が認められる者以外は、たまたま大宰府に訪れていた官人たちであったことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	「梅花宴」の舞台・大宰府とは？	「梅花宴」に参加した歌人の配置と披露された歌の順番を通して、大宰府という第二の政庁における宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、参加者が全員男性であったことから女性を侍らせるような性格の宴席ではなく、旅人は参加者たちを文人と見做し、蘭亭の雅会のごとき清遊を企図した宴席であったことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	研究論文を読むことを通して、自分の考えはどのように述べるべきなのかを確認する。	120分
15	後期まとめ	後期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、平城京と大宰府の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	貴族は宴席をどのような場所として捉えていたのかを確認する②。	180分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	片野 智子	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
第1回目の授業の際にテキストを示す。毎回授業の後にコメントシートを課題として提出してもらい、次の授業の冒頭で講評と解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートの講評や、質問に対する回答を行うことで、学習の深化を図る双方向授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回授業終了後にコメントシートを課すことで、到達目標①②③④に関して、授業の内容を理解した上で、作品に対して自分なりの問題意識を持って論じることができるかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	レポートを課すことで、到達目標①②③④における、知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているか、それによって到達目標①②③④を達成できているかを評価する。	10	10	20	20							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で講評・解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは授業内で指示する他、資料を配付する。				

【オフィスアワー】
質問は授業後に対応する他、メール（katano.tomoko@nihon-u.ac.jp）でも受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入	(1) ガイダンス……授業の進め方と成績評価の方法等の説明 (2) 導入……文学批評の流れについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、文学批評の流れについて概要を掴むことができる。	
	事前学修	シラバスを精読して授業の概要を掴むと共に、シラバスに書かれた作家について簡単に調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーとは何か、それが文学にどのような関わりがあるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、ジェンダーとは何かを説明することができる。	
	事前学修	ジェンダーとは何かについて自分なりに調べたうえで、疑問があればノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
3	クィア・スタディーズとは何か	クィア・スタディーズとは何か、それがテキストを分析することとどのように関わりがあるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、クィア・スタディーズとは何かを説明することができる。	
	事前学修	クィア・スタディーズとは何かについて調べたうえで、疑問があればノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
4	森鷗外『舞姫』	近代的自我と他者の発見	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『舞姫』を分析することができる。	
	事前学修	森鷗外とはどのような作家なのかを調べ、『舞姫』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
5	田山花袋『蒲団』	性欲の発見	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『蒲団』を分析することができる。	
	事前学修	田山花袋とはどのような作家なのかを調べ、『蒲団』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
6	夏目漱石『それから』	家と家庭の狭間で	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『それから』を分析することができる。	
	事前学修	夏目漱石とはどのような作家なのかを調べ、『それから』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	谷崎潤一郎『痴人の愛』	ピグマリオン・コンプレックス	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『痴人の愛』を分析することができる。	
	事前学修	谷崎潤一郎とはどのような作家なのかを調べ、『痴人の愛』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
8	太宰治『皮膚と心』	崩壊する<わたし>と身体	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『皮膚と心』を分析することができる。	
	事前学修	太宰治とはどのような作家なのかを調べ、『皮膚と心』を調べておく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
9	岡本かの子『老妓抄』	欲望の三角関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『老妓抄』を分析することができる。	
	事前学修	岡本かの子とはどのような作家なのかを調べ、『老妓抄』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
10	安部公房『砂の女』	男らしさという病	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『砂の女』を分析することができる。	
	事前学修	安部公房とはどのような作家なのかを調べ、『砂の女』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
11	倉橋由美子『暗い旅』	孕む身体と主体	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『暗い旅』を分析することができる。	
	事前学修	倉橋由美子とはどのような作家なのかを調べ、『暗い旅』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
12	古井由吉『杳子』	共鳴する身体	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『杳子』を分析することができる。	
	事前学修	古井由吉とはどのような作家なのかを調べ、『杳子』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	村上春樹『レキシントンの幽霊』	死人の声を聞く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、自分なりの問題意識を持って『レキシントンの幽霊』を分析することができる。	
	事前学修	村上春樹とはどのような作家なのかを調べ、『レキシントンの幽霊』を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
14	クィア批評の歴史と文学	男性同性愛の歴史について概観し、それが日本文学にどのように描かれてきたのかを探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、男性同性愛と文学の関わりについて説明できる。	
	事前学修	男性同性愛の歴史について調べ、疑問があればノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分
15	クィア批評の歴史と文学	女性同性愛の歴史について概観し、それが日本文学にどのように描かれてきたのかを探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解したうえで、女性同性愛と文学の関わりについて説明できる。	
	事前学修	女性同性愛の歴史について調べ、疑問があればノートにまとめておく。。	120分
	事後学修	授業内で配布されたプリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、授業後に課されたコメントシートに答えることで、自分なりの問題意識を持って作品を論じることができるようにする。	120分

科目名	発展教養A【中国思想の成立】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 齋藤担当の発展教養Aでは、「中華思想の成立」を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	レポートではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等	レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に到達目標①②に関わり、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店	2004	教科書	必携
はじめて学ぶ中国思想	渡邊義幌浩ほか	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
名言で読み解く 中国の思想家	湯浅邦弘ほか	ミネルヴァ書房	2012	参考書	推奨
概説 中国思想史	湯浅邦弘ほか	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	大学生の君へ 帝王の呼び名、省王朝について		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。中国における名前と社会ルールの関係、省の名の由来、王朝の変遷を考える。課題を課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、帝王の呼び名、省の名の由来、王朝について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	シシラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと		120分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		120分
2	中国文明のはじまりから春秋戦国時代まで		中国文明のはじまりから春秋戦国時代までの文化史を中心に紹介する。課題を課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国文明のはじまりから春秋戦国時代までの文化史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国文明のはじまりから春秋戦国時代までの文化史の要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
3	中国の神話・聖王 革命と禪譲・放伐		中国の神話・聖王、革命と禪譲・放伐、さらにそれらの後世への影響について考える。第1回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の神話・聖王、革命、禪譲・放伐について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の神話・聖王、革命、禪譲・放伐について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
4	『詩経』・『楚辞』の世界 古代の文学		『詩経』・『楚辞』の世界と中国の古代文字について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代中国の思想、とくに『詩経』・『楚辞』、について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、『詩経』・『楚辞』について紹介した古代の歌謡を3回以上音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
5	諸子百家の世界		諸子百家の世界をつうじて、これらの思想展開が、その後の中国の思想や社会において、大きな影響をあたえことを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸子百家の世界について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、諸子百家の世界について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
6	孔子の生涯と思想 孔子のことば		儒教的世界の思想を知るうえで不可欠な孔子の生涯と思想を考える。第4回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孔子の生涯と思想、さらに孔子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孔子のことばを3回以上音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	墨子の生涯と思想 墨子のことば		墨子の生涯と思想と墨子のことばについて理解し、孔子の思想と比較して考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、墨子の生涯と思想と墨子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、墨子のことばを3回以上音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
8	孟子の生涯と思想 孟子のことば		儒教的世界の思想を知るうえで不可欠な孟子の生涯と思想、『孟子』にみられる孟子のことばを読み解き、その意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孟子の生涯と思想、孟子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孟子のことばを3回以上音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
9	荀子の生涯と思想 荀子のことば		荀子の生涯と思想、荀子のことばについて理解し、孔子の思想・孟子の思想と比較して考える。第7回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孟子の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、荀子のことばを3回以上音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分
10	老子の生涯と思想 老子のことば		老子の生涯と思想、老子のことばについて理解し、その意味を考える	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、老子の生涯と思想、老子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、老子のことばを3回音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分
11	莊子の生涯と思想 莊子のことば		莊子の生涯と思想、莊子のことばについて理解し、老荘思想と儒家の思想を比較して考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、莊子の生涯と思想、莊子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し莊子のことばを3回音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
12	孫子の生涯と思想 孫子のことば		孫子の生涯と思想、老子のことばについて理解し、その意味を考える。第10回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孫子の生涯と思想、孫子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し孫子のことばを3回音読すること。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	秦漢時代の文化史		秦漢時代について、文化を中心に紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、秦漢時代の文化史を説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、秦漢時代の文化史の要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
14	識緯思想 陰陽五行説 授業内試験（レポート試験）		識緯思想 陰陽五行説について考える。第13回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、識緯思想と陰陽五行説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	本講義をふりかえり、講義内容を確認し。授業内試験にそなえる。		180分
	事後学修	授業内試験の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
15	授業内試験（レポート試験）の解説、中国に関する「思想文化論A」に関する講義総括		授業内試験（レポート試験）の解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する思想文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。		150分
	事後学修	解説をふまえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業内課題に取り組む。		90分

科目名	発展教養A【生きる方法の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 【舘野担当】 多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。また個人発表も行う。発表はその直後に、レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート、発表の機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、毎回の授業での発言、レポート、及び中間・期末のレポートにより評価する。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表、レポートに対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	宗教の定義とその根本義について	「宗教」の定義に関して考察し、その基本となる意義を説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、宗教とその根本義について理解し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	「宗教」という言葉の定義について、詳しく調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	人工知能について	前回のレポート紹介と講評。人工知能の発展によって人間の環境が大きく変わること、それに対応するためにどのようにすればいいか、生きればいいのかについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、人工知能について考察し、どのように生きればいいかを考察し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	人工知能について、現状について調査し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人工知能を超えるもの	前回のレポート紹介と講評。人工知能を超えるものについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、人工知能を超えることについて考察し、そのためにどのように生きればいいかを考察し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	人工知能を超えるものについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	何を求めて生きているか	前回のレポート紹介と講評。自分が何を求めて生きているかに関する受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、何を求めて生きているかを明確にし、その基本に立って生き、それを明確に説明できること。	
	事前学修	自分が何を求めて生きているかに対し考察しノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	自分の主人公について	前回のレポート紹介と講評。自分の主人公とは何かを考察し、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分の主人公を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	自分の主人公について調査、考察し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ここまでの振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ここまでの授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。		
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	執われを超えること		前回のレポート紹介と講評。執われを超えることについて授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分の執われと、それを超えることを明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	自分が執われていることについて、現状を検討してノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	精神的次元の展開		前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開について話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、精神的次元の展開の内容を明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	精神的次元の展開について考察し、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	欲求階層説における自己超越		前回のレポート紹介と講評。欲求階層説における自己超越などの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、欲求階層説における自己超越の内容を明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	欲求階層説について調査し、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	近代科学の特徴と欠点		前回のレポート紹介と講評。近代科学の特徴と欠点を考察し、そこからどのように展開していけばいいかについて検討し、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、近代科学の特徴と欠点についての内容を明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	近代科学と宗教について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	精神的な弱さとその超克について		前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さとその超克についての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、精神的な弱さとその超克についての内容を明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	精神的弱さについて調査し、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	精神集中		前回のレポート紹介と講評。精神集中について、受講者は調べてきたことを発表し、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、精神集中の内容、効果についての内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	精神集中、その効果について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、第8回から第13回までの授業内容を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	全体の振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、全体の授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	発展教養A【法学部のためのイスラーム概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】								
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Aでは、「法学部のためのイスラーム概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、イスラームの教義、世界秩序観、法、奴隷制、税制、神秘主義等を概観したうえで、現代の事象を検討する。								

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)								
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。								

【履修条件】								
なし								

【授業方法】								
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答する。								

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2						
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2					
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、質問用紙への記述により評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週、可能な限り回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波イスラーム辞典』	大塚和夫他編	岩波書店	2002	参考書	任意
『イスラームのとらえ方』	東長靖	山川出版社	1996	参考書	任意
『西アジア』上巻	屋形禎亮・佐藤次高	朝日新聞社	1993	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。hasebe.kiyohiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	現代の中東・イスラーム地域	2000年以降の「中東・イスラーム地域」について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、2000年以降の「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	預言者ムハンマド	ムハンマドの生涯について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、ムハンマドの生涯について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	六信五行	六信五行について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、六信五行について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	聖典『クルアーン』	聖典『クルアーン』について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、聖典『クルアーン』について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	スンナ派とシーア派	スンナ派とシーア派について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スンナ派とシーア派について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	ウマイヤ朝とアッバース朝	ウマイヤ朝とアッバース朝について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、ウマイヤ朝とアッバース朝について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	シャリーアとフィクフ	シャリーアとフィクフについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、シャリーアとフィクフについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	ウラマーとマドラサ	ウラマーとマドラサについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、ウラマーとマドラサについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	マムルークとイクター制	マムルークとイクター制について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、マムルークとイクター制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	スーフィーと聖者	スーフィーと聖者について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スーフィーと聖者について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	スンナ派の時代	スンナ派の時代（12世紀）について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スンナ派の時代（12世紀）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	モンゴルの時代	モンゴルの時代（13世紀）について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、モンゴルの時代（13世紀）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	オスマン朝とティムール朝	オスマン朝とティムール朝について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン朝とティムール朝について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	イスラームの普及1—アフリカとインド	アフリカとインドにおけるイスラームの普及について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アフリカとインドにおけるイスラームの普及について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
15	イスラームの普及2—東南アジアと中国	東南アジアと中国におけるイスラームの普及について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、東南アジアと中国におけるイスラームの普及について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

科目名	発展教養B【中国思想の発展】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 齋藤担当の発展教養Bでは、「中華思想の発展」を講義する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。			2	2			
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2		
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2		2			
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等	レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に到達目標①②に関わり、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店	2004	教科書	必携
はじめて学ぶ中国思想	渡邊義浩ほか	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
名言で読み解く 中国の思想家	湯浅邦弘ほか	ミネルヴァ書房	2012	参考書	推奨
概論 中国史思想史	湯浅邦弘ほか	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィシアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	大学で学ぶ君へ 魏晉南北朝時代の文化	本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。「魏晉南北朝時代の文化史」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「魏晉南北朝時代の文化史」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、「魏晉南北朝時代の文化史」の要点をノートにまとめる。	120分
2	隋唐時代の文化 宋代の思想課題	中国史のなかで隋唐時代の文化史、宋代の思想課題について考える。第1回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、隋唐時代の思想、宋代の思想課題について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、隋唐時代の思想、宋代の思想課題について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、隋唐時代の思想、宋代の思想課題について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	朱熹の生涯と思想	中国史のなかで朱熹の生涯と思想について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朱熹の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、朱熹の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、朱熹の生涯と思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	朱熹のことば	朱熹のことばを読み解きその意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朱熹のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、朱熹のことばを3回音読すること。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、朱熹のことばについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	東アジアのなかの朱子学 陸九淵の思想とことば	東アジアのなかの朱子学の意味を、中国史のなかの陸九淵の思想を、陸九淵のことばを、それぞれ考える。第3回授業から今回の授業までのレポートを課す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、東アジアのなかの朱子学について、陸九淵の思想とことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、東アジアのなかの朱子学、陸九淵の思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、東アジアのなかの朱子学、陸九淵について整理して、課題の作成をおこなう。	150分
6	元代の文化と思想	中国史における元代の文化と思想を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、元代の文化と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、元代の文化と思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、元代の文化と思想について適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	明代の文化と思想		中国史における明代の文化と思想を考える。第6回授業と今回の授業までのレポートを課す。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明代の文化と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、明代の思想と文化について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、明代の思想と文化について適宜参考文献にあたってノートに整理して、課題の作成をおこなう。	150分
8	王陽明の生涯と思想 王陽明のことば		中国史における王陽明の生涯と思想について考える。さらに王陽明のことばを読解してその意味を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、王陽明の生涯と思想、王陽明のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、王陽明の生涯と思想について要点をノートに整理して王陽明のことばを3回音読すること。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、王陽明の生涯と思想、王陽明のことばについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
9	清代の思想と文化		清代の思想と文化について考える。第8回授業から今回の授業までのレポートを課す。中国史における王陽明の生涯と思想について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、清代の思想と文化について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、清代の思想と文化について要点をノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、清代の思想と文化について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分
10	清初の三大家のことば		清初の三大家のことばを読解してその意味を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、清初の三大家のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、清初の三大家のことばについて要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、清初の三大家のことばについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
11	中国近代文化史-儒教の再解釈・共和政・新文化運動-		中国の近代文化史について概述する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の近代文化史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の近代文化史について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、中国の近代文化史について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
12	康有為の生涯と思想、孫文の生涯と思想		康有為の生涯と思想、孫文の生涯と思想について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、康有為の生涯と思想、孫文の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、康有為の生涯と思想、孫文の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、康有為の生涯と思想、孫文の生涯と思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	毛沢東の生涯と思想 授業内試験 (レポート試験)		毛沢東の生涯と思想について考える。 授業内試験 (レポート試験)	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、毛沢東の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、毛沢東の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。授業内試験に そなえる。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、毛沢東の生涯と思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。授業内試験の 復習をする。	150分	
14	魯迅の生涯と思想 魯迅の作品を読 む		魯迅の生涯と思想について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、魯迅の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、魯迅の生涯と思想について要点をノートに整理し、魯迅の作品を読む。	180分	
	事後学修	事前に配布されたレジュメを精読し、魯迅の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	150分	
15	授業内試験の解説、中国についての 「思想文化論B」に関する講義総括		授業内試験の解説、中国についての「思想文化論B」に関する講義総括をおこなう。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する思想文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分	
	事後学修	解説を踏まえ、再度、授業内試験 (レポート試験) を解く。	90分	

科目名	発展教養B【人生の意味の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 【舘野担当】 多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。また個人発表も行う。発表はその直後に、レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート、発表の機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、毎回の授業での発言、レポート、及び中間・期末のレポートにより評価する。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表、レポートに対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	自分・自我・自己について	自分・自我・自己に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分・自我・自己について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	自分ということについて考え、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	自分を超越えるということについて	前回のレポート紹介と講評。自分を超越えるということに関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分を超越えるということについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人間の次の段階について	前回のレポート紹介と講評。人間の次の段階に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、人間の次の段階について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	人間の次の段階について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	仏教の仏・菩薩・神などについて	前回のレポート紹介と講評。仏教の仏・菩薩・神などに関しての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、仏教の仏・菩薩・神などについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	仏教の仏・菩薩・神、ユダヤ教、キリスト教の神について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	仏教のダルマなどについて	前回のレポート紹介と講評。仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma に関する先人の見解、授業者による話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、仏教のダルマなどについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第6回までの振り返りと講評		第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き、提出し、授業者はそれを講評する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	第6回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	人間が生きるための犠牲について		前回のレポート紹介と講評。人間が生きるための犠牲に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、人間が生きるための犠牲について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	人間が生きるための犠牲について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	仏教に於ける戒と律		前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、仏教に於ける戒と律について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	仏教に於ける戒と律について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理		前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	唯識思想		前回のレポート紹介と講評。仏教の唯識思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、唯識思想について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	対象は自分の思考が現れたものであるという見解について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	華厳思想に於ける唯心		前回のレポート紹介と講評。仏教の華厳思想に於ける唯心思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、華厳思想に於ける唯心について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	自分の主体について		前回のレポート紹介と講評。受講者は自分の主体に関する授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分の主体について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	自分の主体とは何かについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
14	第8回から13回までの振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	第8回から第13回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
15	講義全体のまとめ		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出し、授業者はそれを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、について理解し、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	初回からのノート、レポートすべてを振り返り、自分にとっての意味を明らかにし、自分の見解を書いておく。		120分
	事後学修	初回からのノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。		120分

科目名	発展教養B【法学部のためのオスマン史概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Bでは、「法学部のためのオスマン史概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、支配体制、国際体系、ナショナリズム、自由と平等、法の継受、立憲制、議会制、外国投資などにつき、オスマン帝国を事例に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、質問用紙への記述により評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週、可能な限り回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『オスマン帝国』	小笠原弘幸	中央公論新社	2018	参考書	任意
『オスマン帝国』	鈴木 董	講談社	1992	参考書	任意
『オスマン帝国 500年の平和』	林佳世子	講談社	2008	参考書	任意
『トルコ史』	永田雄三編	山川出版社	2023	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。hasebe.kiyohiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	15世紀までの中東・イスラーム地域	15世紀までの「中東・イスラーム地域」について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、15世紀までの「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	オスマン帝国の全体像	オスマン帝国（ca. 1300-1922）の全体像について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の全体像について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	形成の時代1―戦士集団から君侯国へ	オスマン帝国の形成の時代について概観する。とくに13世紀から15世紀前半までを対象とする。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の形成の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	形成の時代2―コンスタンティノープルの征服	オスマン帝国の形成の時代について概観する。とくにコンスタンティノープルの征服に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の形成の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	拡張の時代1―世界帝国への道	オスマン帝国の拡張の時代について概観する。とくにメフメト2世とセリム1世による領土の拡大に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の拡張の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	拡張の時代2―スレイマンの時代	オスマン帝国の拡張の時代について概観する。とくにスレイマン1世による領土の拡大に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の拡張の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	拡張の時代3—支配組織の確立	オスマン帝国の拡張の時代について概観する。とくに古典的支配組織の確立を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の拡張の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	変容の時代1—兵制と税制の変容	オスマン帝国の変容の時代について概観する。とくに兵制と税制の変容に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の変容の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	変容の時代2—対外関係の変容	オスマン帝国の変容の時代について概観する。とくに対外関係の変容に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の変容の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	刷新の時代1—改革の序章	オスマン帝国の刷新の時代について概観する。とくにセリム3世とマフムト2世による改革に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の刷新の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	刷新の時代2—二つのナショナリズム	オスマン帝国の刷新の時代について概観する。とくにナショナリズムに焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の刷新の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	刷新の時代3—社会秩序の変容	オスマン帝国の刷新の時代について概観する。とくに社会秩序の変容に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の刷新の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	崩壊の時代1―専制と革命	オスマン帝国の崩壊の時代について概観する。とくにアブデュルハミト2世の時代を対象とする。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の崩壊の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	崩壊の時代2―帝国の終焉	オスマン帝国の崩壊の時代について概観する。とくに第一次世界大戦に焦点をあてる。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の崩壊の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
15	崩壊の時代3―支配組織の変遷	オスマン帝国の崩壊の時代について概観する。とくに支配組織の変遷を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の崩壊の時代について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

科目名	文化人類学Ⅰ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーと資料の読解および視聴の併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシート（もしくはそれに代わるコメントやレポート）へのフィードバックを次の講義にて行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。					2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。						2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。							2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。								2			
⑤												
⑥						3						
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。メールアドレスは、以下のとおり。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期ガイダンス・導入（授業計画、参考文献紹介など）	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
	事前学修	シラバスの確認。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容確認。	120分
2	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(1)	文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
3	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
4	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(3)	人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
5	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
6	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(3)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
8	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(4)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
9	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(5)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
10	マイノリティの可能性について(1)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11	マイノリティの可能性について(2)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12	マイノリティの可能性について(3)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(1)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(2)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15	後学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
	事前学修	配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文化人類学Ⅱ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーと資料の読解および視聴の併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシート（もしくはそれに代わるコメントやレポート）へのフィードバックを次の講義にて行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。メールアドレスは、以下のとおり。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期ガイダンス・導入（授業計画、参考文献紹介など）	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
	事前学修	シラバスの確認。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容確認。	120分
2	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(1)	文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
3	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
4	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(3)	人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
5	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
6	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(3)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
8	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(4)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
9	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(5)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
10	マイノリティの可能性について(1)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11	マイノリティの可能性について(2)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12	マイノリティの可能性について(3)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(1)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(2)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15	後学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
	事前学修	配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】 様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。
--

【履修条件】 【第1回目には人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。
--

【授業方法】 テキストとプリント資料併用で、講義と演習を組み合わせた授業。各自の文章を教材として使用（全員にオープン）することもあるので了承の上で履修して欲しい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。なお、授業内実施の演習課題もここに含める。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法〔新訂版〕——21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典ほか	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の理解	〔1〕講義概要の説明（成績評価の方法なども詳細に説明するので、必ず出席すること）。 〔2〕テキストの概要とその使い方の説明。〔3〕履修希望者が定員を超えた場合は人数調整の実施。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバス全体を読んで授業の概要と流れをつかむ。また、テキスト4ページの「はじめに」を読んでテキストの編集意図を理解しておく。	120分
	事後学修	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、理解の徹底に努める。	120分
2	様々な提出文書1	履歴書の書き方1〔概説〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、様々な提出文書の概要を知るとともに、正しい履歴書の書き方に関する基本的な事項を理解し、正しく書くことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第9章を読んでおく。特に語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。テキストに掲載されている「履歴書」〔例〕に記入してみる。	120分
3	様々な提出文書2	履歴書の書き方2〔注意点〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、社会人としてよりふさわしい履歴書、高い評価の得られる履歴書に関する基本的な事項を理解し、正しく書くことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	図書館の資料や各種ウェブサイトで、履歴書記入に際しての注意点を事前に調査しておく。	120分
	事後学修	講義中に配布した履歴書の下書きを完成させる。また、最終的には完成させたものを課題学習として提出する。	120分
4	様々な提出文書3	履歴書の書き方3〔実例をもとに〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、履歴書による自己アピールに関して理解し、各自の履歴書作成に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	前回の事後学習において作成した履歴書に不備がないか事前に確認する。	120分
	事後学修	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、テキスト第9章の理解の徹底に努める。	120分
5	手紙の書き方1	手紙の書き方1〔手紙の基本と形式〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、社会の様々な場において適切な手紙文が書けるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第7章の前半（手紙文の構成）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	テキストの第7章の課題1をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
6	手紙の書き方2	手紙の書き方2〔手紙文の構成と実例〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、伝統的な手紙の書き方を理解し、実際に各自で適切な手紙文が書けるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第7章の後半（手紙を書くときの注意）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	講義中に指示された手紙文を作成する。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	手紙の書き方3	手紙の書き方 3 [カバーレターとは]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、カバーレターの特徴と利用法を理解し、実際に各自で適切なカバーレターが作成でき、それを利用することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	今回の講義内容はテキストにはあまり詳しくかれていない事項なので、図書館の資料や各種ウェブサイトで、「カバーレター・添え状」に関して事前に調査しておく。	120分
	事後学修	講義中の配付プリントを読み返し理解の徹底に努めるとともに、各自でカバーレターを書いてみる。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。	120分
8	手紙の書き方4	手紙の書き方 4 [実作演習]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、より良い手紙文の作成法を理解し、実際に活かすことができるようになることを目標とする。また、各自で作成した手紙文に関する意見交換・論評によって、受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かすことができるようになることも目標とする。	
	事前学修	第6回の事後学習で取り組んだ提出課題にミスがないか、再度確認する。	120分
	事後学修	テキストの第7章の課題2をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
9	文章作成法1	小論文・作文の書き方 1 [小論文と作文]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、各自の意見を客観的に文章化する理論の基礎的な事項を身に付け、それを実践的に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第3章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。特にテキスト21ページ以降の構成に関しては理解の徹底に努める。	120分
10	文章作成法2	小論文・作文の書き方 2 [文章を書く上での基礎知識 1]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、文章作成上の基本的なルールを理解し、それを実際の文章作成に活かせるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第1章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	テキストの第1章の課題1・2をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
11	文章作成法3	小論文・作文の書き方 3 [文章を書く上での基礎知識 2]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、不適切な文や文章がどのようなものかを理解し、そうした誤りを犯さないで正しい文章表現ができるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第2章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	テキストの第3章の課題をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
12	文章作成法4	小論文・作文の書き方 4 [実作演習 1]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。また、相互に鑑賞・批判することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	今回は授業内での課題演習をおこなうので、9・10・11回で学習した内容を事前に復習して講義に臨む。	120分
	事後学修	自分が書き上げた課題に誤字・脱字がないか確認する。また、日本語として不自然な表現、わかりにくい言い回しがないか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章作成法5	小論文・作文の書き方5〔演習の解説〕。併せて次回の授業内試験の概要の説明。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。また、相互に鑑賞・批判することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	前回の事後学習の内容を再度確認して、講義に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の答案の良い点・悪い点を考える。また、講義中に配布された他の人々の課題文の良い点・悪い点を各自で考える。	120分
14	学習のまとめ1	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認小テスト。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでの講義内容をまとめ、前回到公表された小テスト概要に沿って、対策を立てておく。	180分
	事後学修	小テスト問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	学習のまとめ2	〔1〕14回目に実施した小テストの解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、相互に文章を論評することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	14回目の授業内小テストの問題を再度確認し、授業での解説に備える。	120分
	事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	180分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	茅原 雅之	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
『日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ』（翰林書房）を教科書にしながら、講義および実習によって進めていく。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成していく。作成した文章については、必要であれば学生間で問題点を討論する。また提出課題については教員が添削する。なお文章表現の一環として語彙力を高めるべく、漢字・四字熟語・慣用句・ことわざなども適宜学習する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生が作成した文章をもとに、その問題点と評価すべき点についてディスカッションする。 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	第15回目の授業時に、授業内試験を行う。到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関して、授業内容を正しく理解し、正しい日本語でもって文章を作成できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生が作成した文章に対して積極的に質問できるか否か、また他の受講生からの質問に的確に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に直接の相談を受け付ける。質問・相談については電子メールにでも対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	教科書の内容確認。授業計画に関する詳細な説明。到達目標の説明。	
	この回の到達目標	実社会に対応する上で必要となる文章力が、どの程度のものであるのかを理解する。	
	事前学修	辞書・教科書の準備。	120分
	事後学修	配布資料（漢字）についての復習。	120分
2	手紙の書き方。（１）	手紙文の基本構成・社会的慣習を学ぶ。	
	この回の到達目標	社会生活を営む上で必要になる手紙文の書き方を理解する。	
	事前学修	配布資料（手紙の構成）に関する予習。	120分
	事後学修	配布資料（手紙の構成）に関する復習。	120分
3	手紙の書き方。（２）	各種の手紙文を作成する。	
	この回の到達目標	社会的慣例に則った手紙文の作成が可能となる。	
	事前学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の復習。	120分
4	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（１）	適切な文章と不適切な文章を比較する。	
	この回の到達目標	適切な文の長さ・主述の一致・句読点の用法について基本を理解する。 読みやすい文章とは、〈読み手〉に対する気遣いがなされた文章であることを理解する。	
	事前学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の復習。	120分
5	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（２）	文章表現の誤った用例を確かめていく。	
	この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
	事前学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の復習。	120分
6	文章表現の基礎，敬語の確認。（１）	各種敬語を学ぶ。	
	この回の到達目標	尊敬語・謙譲語・丁寧語の基本的用法を理解する。	
	事前学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する予習。	120分
	事後学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文章表現の基礎、敬語の確認。 (2)	敬語表現への理解を深める。	
	この回の到達目標	敬語表現を正しくつかいこなす。 不適切な敬語表現に対して、その誤りを正すことができるようになる。	
	事前学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の復習。	120分
8	文章表現の基礎、原稿用紙の使い方。	原稿用紙を使用する際の基本を学ぶ。	
	この回の到達目標	禁足文字・括弧・英数字・引用文の記述など、原稿用紙を自在に使用できるようになる。	
	事前学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の復習。	120分
9	文章表現の基礎、段落・構成の組み方。	文章構成の組み方を学習する。	
	この回の到達目標	文章の構成が何かを理解する。構成と段落の関係を理解する。	
	事前学修	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の復習。	120分
10	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。（1）	自身の考えを他者に伝える。何を伝えたいのか明確にする。	
	この回の到達目標	自分と他者の考え方・価値基準の違いを理解する。	
	事前学修	自分が紹介したいと思う作品の選定。	120分
	事後学修	自分が紹介したいと思う作品の適否確認。	120分
11	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。（2）	自身の考えを文章に置き換えていく。どのようにして伝えるのか、構成と表現を工夫する。	
	この回の到達目標	自身の考えを他者に伝えることの重要性和難しさを理解する。	
	事前学修	紹介文の文章構成を考える。	120分
	事後学修	提出課題〈紹介文〉の作成。	120分
12	エントリーシートの作成。	エントリーシートが何かを理解し、作成法を学ぶ。就職活動に向けて。	
	この回の到達目標	就職活動を視野に入れつつ、就職に有利で効果的なエントリーシートの作成が可能になる。	
	事前学修	教科書〈効果的な文章作成〉項目の予習。	120分
	事後学修	提出課題〈エントリーシート〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基礎，漢字の確認。	各種の漢字について学ぶ。	
	この回の到達目標	文章表現の基礎として漢字を使いこなせるようになる。	
	事前学修	教科書〈練習問題〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈練習問題〉項目の復習。	120分
14	授業のまとめ。	前授業の学習内容を再確認していく。授業内容に関する質疑応答。	
	この回の到達目標	授業を統括する。文章表現の意義と重要性を理解する。	
	事前学修	授授業にて理解不十分であった点を自己点検する。	120分
	事後学修	授業内容の自己総括。	120分
15	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
	この回の到達目標	授業の理解について達成度を確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
	事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
	事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	川下 俊文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
論理的な思考力を鍛え、批判的に文献を読む意欲を持つてほしい。

【授業方法】
教科書・参考書の内容をもとに講義を行う。また、提出課題に対する指導・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	口頭発表・討論・レポート執筆

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	討論・発表の成果に基づき、第15回授業終了後にレポートを提出させる。書式・文章構成・論理展開などの観点から評価し、到達目標①②③④に達しているか確認する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	第10回以降の授業内で討論・発表を行い、教員による講評と、受講生相互の質疑応答をさせる。その発表内容について、到達目標①②③④に達しているか確認する。	15	15	15	15							60
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評・指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門 学生のためのプレゼン上達術	大出敦・直江健介	慶應義塾大学出版会	2020	教科書	必携
思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版）	井下千以子	慶應義塾大学出版会	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでの相談に随時応じる。kawashita.toshifumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【プレゼンテーションとは何か】	本授業の目的と進め方を説明する。また、プレゼンテーション（口頭発表）で自分の考えを伝えるための、根本的な考え方を解説する。人数の調整をするので必ず出席すること。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文献を批判的に読解して自らの文章表現に活用することの大切さを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書を事前に入手し、全体に目を通しておく。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に解答する。	120分
2	【文献を読む①】	文献を読んで論点を整理するための方法を解説する。また、現代社会の問題に関する課題文を受講生各自に読ませ、論点の整理を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文献を正確に読解し、重要な論点を見つけ出すことができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、課題文に目を通しておく。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に解答する。	120分
3	【文献を読む②】	文献から見出される論点について、適切な問題意識を導き出すための方法を解説する。また、受講生各自に問題意識の導出を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文献読解に基づいて自分なりの問題意識を導き出すことができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、課題文から考えられることを整理しておく。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に解答する。	120分
4	【問いを立てる】	問題意識を明確化し、学術的な問いを立てるための方法を解説する。また、受講生各自に問いの立て方を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分なりの問いを正しい日本語で明快に表明することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、課題文のもつ論点について自分なりに考察する。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に解答する。	120分
5	【調査を広げる】	学術的な問いを解決するために、さまざまな文献調査を行う方法を解説する。また、受講生各自に文献調査を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、問題解決のために自ら文献を調査し、適切に読解することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、文献調査を進める。	120分
6	【アウトラインを作る】	問いや調査結果を論理的に構成し、アウトラインを作る方法を解説する。また、受講生各自にアウトライン作成を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術的な問いと答えを正しい日本語で明快に表明することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、文献調査を進める。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、文献調査とアウトライン作成を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【アウトラインを改良する】		引き続き、問いや調査結果を論理的に構成し、アウトラインを作る方法を解説する。また、受講生各自にアウトライン作成を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術的な問いと答えを正しい日本語で明快に表明することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。		
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、文献調査とアウトライン作成を進める。		120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、文献調査とアウトライン作成を進める。		120分
8	【発表の準備①】		アウトラインに基づいてプレゼンテーション（口頭発表）の資料と発表原稿を作る方法を解説する。また、受講生各自に発表準備を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術的な問いと答えを正しい日本語で論理的に構成することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。		
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、文献調査とアウトライン作成を進める。		120分
	事後学修	アウトラインを作成し、発表準備と練習を行う。		120分
9	【発表の準備②】		引き続き、アウトラインに基づいてプレゼンテーション（口頭発表）の資料と発表原稿を作る方法を解説する。また、受講生各自に発表準備を実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術的な問いと答えを正しい日本語で論理的に構成することができる。また、到達目標④に関連して、教員の指導に応じて成果を改善することができる。		
	事前学修	アウトラインを作成し、発表準備と練習を行う。		120分
	事後学修	教員の指導に応じてアウトラインや資料を改良し、発表準備と練習を行う。		120分
10	【発表と質疑応答①】		ここから4回にわたり、受講生各自の調査結果に基づいて口頭発表をさせる。また、受講生相互での質疑応答を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、口頭発表として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講者同士で互いの意見を交換し、受け止めることができる。		
	事前学修	発表準備と練習を行う。		120分
	事後学修	発表が済んだ者はレポート執筆を開始する。まだの者は発表準備と練習を行う。		120分
11	【発表と質疑応答②】		受講生各自の調査結果に基づいて口頭発表をさせる。また、受講生相互での質疑応答を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、口頭発表として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講者同士で互いの意見を交換し、受け止めることができる。		
	事前学修	発表が済んだ者はレポート執筆を進める。まだの者は発表準備と練習を行う。		120分
	事後学修	発表が済んだ者はレポート執筆を進める。まだの者は発表準備と練習を行う。		120分
12	【発表と質疑応答③】		受講生各自の調査結果に基づいて口頭発表をさせる。また、受講生相互での質疑応答を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、口頭発表として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講者同士で互いの意見を交換し、受け止めることができる。		
	事前学修	発表が済んだ者はレポート執筆を進める。まだの者は発表準備と練習を行う。		120分
	事後学修	発表が済んだ者はレポート執筆を進める。まだの者は発表準備と練習を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【発表と質疑応答④】	受講生各自の調査結果に基づいて口頭発表をさせる。また、受講生相互での質疑応答を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、口頭発表として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講者同士で互いの意見を交換し、受け止めることができる。	
	事前学修	発表が済んだ者はレポート執筆を進める。まだの者は発表準備と練習を行う。	120分
	事後学修	受講者全員がレポート執筆を進める。	120分
14	【成果の文章化①】	質疑応答の成果を反映し、レポートの執筆をさせる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、調査結果を論理的に構成し、文章として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講生同士や教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	レポート執筆を進める。	120分
	事後学修	教員の指示に応じてレポートを改良する。	120分
15	【成果の文章化②】	質疑応答の成果を反映し、レポートの執筆をさせる。また、教員による指導を行い、授業後に完成稿を提出させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、調査結果を論理的に構成し、文章として発信することができる。また、到達目標④に関連して、受講生同士や教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	レポート執筆を進める。	120分
	事後学修	教員の指示に応じてレポートを改良し、完成稿を提出する。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	鹿野 しのぶ	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目】に人数調整を実施する】積極的に授業に参加できる学生向けの授業です。

【授業方法】
課題作文の執筆や相互に読み合うなど、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。事前学習を行い、講義を受講します。講義で指示される課題を行い提出します。フィードバックされた課題をリライトします。 この課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題を提出してもらい、添削をしたものをフィードバックし、全員で課題について討論、検討します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に添削をし、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2021	教科書	必携
備考	教科書を利用して課題を提出してもらいます。受講が決まったら用意をして、講義の際は必ず持参してください。				

【オフィスアワー】
メールにて質問を受け付けます。詳細については第1回目の講義で説明をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	授業ガイダンス、導入授業		人数調整を行います。 授業の進め方、受講に当たってのルール、用意するものについて説明します。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、真摯に受講できるか見極めることができる。		
	事前学修	シラバスをよく読み、教科書を準備し、一通り読み、どのような目的を持って学ぶか、ノートにまとめておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で指示された課題を提出してください。		120分
2	電子メールの書き方・デジタル機器を用いた文章作成		インターネットやデジタル機器を用いた文章作成を理解し、電子メールを使って自分の考えを的確に相手に伝える方法を学びます。	
	この回の到達目標	マナーを理解してコミュニケーションツールとしてメール機能を使いこなすことができる。 電子メールで自分の考えを的確に伝えることができる。デジタル機器を用いた文章作成が適切にできる。		
	事前学修	教科書第8章をよく読み、課題1・2、およびテキスト第4章をよく読み、課題1をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
3	書くために知っておきたい知識		文章を書く際の基本的な知識の理解を深めましょう。	
	この回の到達目標	段落・禁則・句読点・記号の使い方などを理解し、適切に使うことができる。		
	事前学修	教科書第1章をよく読み、課題1・2をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
4	悪文とは		文を書く時の注意点を理解し、実践で活かしましょう。	
	この回の到達目標	主語・述語の対応、一文の長さ、慣用表現などについて理解し、日常生活において適切に用いることができる。		
	事前学修	教科書第2章をよく読み、課題1・2をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
5	自己紹介文を書く1		効果的な自己紹介の方法を考え、400字程度で自己紹介文を書きます。	
	この回の到達目標	効果的な自己紹介文とはどのようなものか、理解し、適切に表現することができる。		
	事前学修	教科書第9章をよく読み、課題1をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義でのポイントを踏まえて、課題1を推敲し提出してください。		120分
6	自己紹介文を書く2 効果的な文書作成		添削を受けた自己紹介文を修正しリライトします。 また、効果的なエントリーシートの書き方について考えます。	
	この回の到達目標	効果的な文書作成ができる。		
	事前学修	教科書第9章をよく読み、実際に履歴書を書いてみよう。		120分
	事後学修	リライトの提出、およびテキスト53ページの課題2を行い提出してください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	手紙を書く 1	時候の挨拶など、手紙の基本的な書き方について学びます。 円滑なコミュニケーションができるようにしましょう。 実際に手紙を書いてみましょう。	
	この回の到達目標	手紙の基本的な書き方を理解し、実践することができる。	
	事前学修	教科書第7章をよく読み、手紙の構成はどのようなものか、前回指示された内容について下書きをしておこう。	120分
	事後学修	講義内で示された条件に沿って、実際に手紙を書いて提出してください。	160分
8	手紙を書く 2	書いた手紙を添削、清書します。敬語表現などにも注意しながら書いてみましょう。	
	この回の到達目標	内容に応じて適切な手紙を書くことができる。 さまざまな手紙の種類について考えます。	
	事前学修	時候の挨拶など、実践で記したもの以外の表現も確認しておきましょう。	120分
	事後学修	前回書いた手紙を添削、清書し提出してください。	120分
9	敬語を適切に使おう	敬語の種類を理解し、その使用方法を学び適切な敬語表現ができることを目指しましょう。	
	この回の到達目標	適切な敬語表現ができる。	
	事前学修	教科書第6章をよく読み、課題をやっておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い提出してください。	120分
10	課題作文 1	読書体験を書こう。今まで読んだ本の中で印象深かったものについて、感想や自分に与えた影響についてまとめます。	
	この回の到達目標	読書体験を適切に表現し、伝わりやすい文章を作成することができる。	
	事前学修	自分が読んだ本の中からみんなに紹介したい作品を1冊、準備しておきましょう。その際に、図書館を利用しましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
11	課題作文2	前回の課題について、自分の書いた文章を受講生同士で読み合い、合評します。	
	この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解し実践することができる。	
	事前学修	自分が紹介した本を、どのように表現したらみんなが読みたくなるか、テキスト第5章をよく読んで、プレゼンテーションの方法を考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	添削で示された部分を復習し、指示された課題を提出してください。	120分
12	文章表現の基本 1 インターネットとデジタル機器を用いた文章作成	わかりやすい文章とはどのようなものかを考えます。 また、インターネットの情報をどのように文章に活かせるか、考えます。	
	この回の到達目標	良い文章を書くための方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書第4章と第2章を再度熟読しておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基本 2	論理的な文章の書き方を学び、実際に書いてみよう。	
	この回の到達目標	論理的な文章とはどのようなものか理解し、書くことができる。	
	事前学修	教科書第3章をよく読み、課題1のBのテーマについて構成を考え提出してください。	160分
	事後学修	教科書第3章・課題2を行い提出してください。	160分
14	文章表現の基本 3	前回書いた文章を添削し、合評します。	
	この回の到達目標	添削された部分を理解し、修正する、また、他の受講生の考えを理解し、評価をすることができる。	
	事前学修	教科書をよく読み、分かりやすい文章とはどのようなものか考えをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	120分
15	前期のまとめ	前期に学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	前期に学んだことを振り返り、学習したことが理解できる。	
	事前学修	教科書全体を再度熟読し、文章表現の基礎を確認しておきましょう。	120分
	事後学修	配付資料をよく読んで文章表現の基礎を確認し、ノートにまとめておきましょう。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】 様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】 第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。
--

【授業方法】 教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めるため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはGoogleclassroomの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語表現の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他(課題)	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト準２級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（９号館９３０７研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（１２時２０分～１２時５０分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
	事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	第1章基礎力「語彙」	熟語や慣用句を正しく使用することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた意味内容や用法から、その熟語や慣用句を適切に選ぶことができる。	
	事前学修	教科書の「コラム」に掲載されている四字熟語の読み方と意味を理解しておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
3	第1章基礎力「文法」	最近よく見かける言葉遣いで、適切とは言えないものは何か見極めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ら抜き言葉やレ足す言葉などを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、適切とはいえない表現とはどのようなものかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
4	第2章読解力「意味内容・文章構成」	段落の役割とその相互関係とは何かを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の役割やその段落どうしの関係を理解、文章化することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、文章には何が書かれているのか、あるいは筆者の考えは何かを読み取るとはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
5	第2章読解力「資料分析」	資料を読み取る方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図表やグラフを読み取る際、注意をしなければならないことを理解し、文章化することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、正しい資料の読み取り方とはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
6	第3章作成力（1）「書く力」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読み手のことを想像しながら、文章を書くことができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすさの原理とはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3章作成力（1）「表現」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どのような表現を用いれば、読み手にわかってもらえるのか深く理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすい表現をする工夫を考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
8	第4章作成力（2）「伝える力」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時相手にどのような配慮をすべきかを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙の文章で注意すべきことを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
9	第4章作成力（2）「総合・通信文」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時情報を正確に伝えるにはどうすればよいのか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙で自分の思いを正確に伝えるにはどうすればいいのかを考えておく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	第5章作成力（3）「考える力」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の考えを主張するだけでなく、自分とは異なる考え方にも配慮した文章をどのように書けばいいのか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、論説文の型はどのようなものが適切なのかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
11	第5章作成力（3）「総合・論説文」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文を作成する手順を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、適切な論説文の構成とはどのようなものかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
12	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、基礎力と読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、四字熟語やグラフ付きの文章を正しく使用したり読んだりすることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、読解力と作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章構成に関する問題や手紙文を推敲する問題を正解することができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
14	まとめ問題 第5問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を的確に伝えるだけでなく、自分の意見が他と異なる時はブレーン・ストーミングを行い、自分の立場や意見を支える材料集めたり、理由を考えたりすることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
15	授業内復習テスト・まとめ	復習テストの実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	200分
	事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回で人数調整をする場合があるので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
対面授業となります。練習問題や課題に取り組み、個人作業、ピアワークを複合した演習形式で進めます（必要に応じてGoogle Classroomを活用します）。質問については、Google Classroomのコメント機能やGmail（NUメール）で対応します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第6、7、8、12、13回はピアワークによるディスカッション（もしくは、共有ドキュメントを活用した交流）を実施し、練習問題・演習問題・文章作成などに取り組みます。なお、授業の進捗状況によっては、個人作業に変更することがあります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身についているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習問題については作成例の提示と解説を、小テストについては添削と解説を、ピアワークについては全体講評を行います。レポート等に該当する課題については解説と全体講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の授業の前後以外にも、Google Classroomのコメント機能やGmail（NUメール）で随時対応します。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp★印を@に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、向上させたい能力、身につけたい知識・技術を踏まえて学修活動の見通しを持つことができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。	120分
	事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。	120分
2	アカデミック・スキルの基礎	レポートやハンドアウトの書式などを中心に、アカデミック・スキルの基礎について確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、アカデミック・スキルを修得することができる。	
	事前学修	テキスト14ページ～18ページ、23ページから27ページ、29ページから32ページを読み、大学での学修に必要なアカデミック・スキルについて想起し、整理しておきます。	120分
	事後学修	大学での学修に必要なアカデミック・スキルの基礎が身に付いてるかについて、点検しておきます。	120分
3	文章作成の基本Ⅰ：表記法の確認	表記の基準と読みやすさに関する演習問題に取り組み、読みやすさへの配慮について確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、表記の仕方を工夫することで読みやすい文章を書くための準備ができる。	
	事前学修	メールや提出物などで日常的に用いている表記の仕方について確認し、各自の表記の特徴をまとめておきます。	120分
	事後学修	図書館やインターネットで用意した文章を表記の基準に注意しながら読み、必要に応じて修正案を考えます。	120分
4	文章作成の基本Ⅱ：必要な知識についての確認	わかりやすい文章を書くために必要な知識について修得します。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、わかりやすい文章の特徴を理解し、実践することができる。	
	事前学修	テキスト5ページ～10ページを読み、各自の文章の書き方について点検しておきます。	120分
	事後学修	わかりやすい文章を書くために必要な知識について再点検し、整理しておきます。	120分
5	文章作成の基本Ⅲ：知識を活用した実践	わかりやすい文章を書くために必要な知識を活用し、実践します。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関して、基本となる知識を活用して、わかりやすい文章を書くことができる。	
	事前学修	テキスト11ページ～14ページを読み、11ページの課題に取り組みます。	120分
	事後学修	演習問題の解答を踏まえて、わかりやすい文章の書き方について振り返っておきます。	120分
6	文章作成の基本Ⅳ：要約文の作成	要点の捉え方と文章化の手順を踏まえて、要約文の作成を実践し、ピアワークで読み合わせをします。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、文章の要点を捉えた要約文を作成することができる。	
	事前学修	要約文の作成に関する注意点について想起し、まとめておきます。	120分
	事後学修	作成例を基に要約文をリライトし、演習問題に取り組みます。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	敬語Ⅰ：尊敬語		尊敬語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 練習問題にピアワークで取り組みます。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、尊敬語を適切に使用することができる。		
	事前学修	テキスト33ページ～34ページを読み、尊敬語を中心とした敬語の使用について想起し、曖昧な部分を確認しておきます。		120分
	事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、尊敬語を中心とした敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。		120分
8	敬語Ⅱ：謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語		謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 練習問題にピアワークで取り組みます。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語を適切に使用することができる。		
	事前学修	テキスト34ページ～35ページと授業資料を読み、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱを中心とした敬語の使用について想起し、曖昧な部分を確認しておきます。		120分
	事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱを中心とした敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。		120分
9	敬語Ⅲ：敬語の誤用例		敬語の誤用例について学び、適切に使用するための注意点について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、誤用例を踏まえて、適切に敬語を使用することができる。		
	事前学修	テキスト35ページ～36ページと授業資料を読み、敬語の誤用例について確認しておきます。		120分
	事後学修	敬語の使用全般に関して弱点がないかについて、再点検しておきます。		120分
10	敬語Ⅳ：小テスト（敬語総合演習問題） 実用文Ⅰ：手紙文の基本		小テスト（敬語総合演習問題）で到達度を確認します。 手紙文の基本について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、敬語を適切に使用することができる。 到達目標①に関して、手紙文の基本を修得することができる。		
	事前学修	テキスト33ページ～38ページと授業資料を読み、小テストに備えます。 テキスト39ページ～46ページを読み、手紙文作成に関する知識を整理し、曖昧な部分を把握しておきます。		120分
	事後学修	テキストと授業資料の作成例を基に手紙文の基本について整理し、確認しておきます。		120分
11	実用文Ⅱ：メールの基本		教員とのメールや就職活動時のメールの基本についての注意点を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、メールによる円滑なコミュニケーションができるようになる。		
	事前学修	テキスト47ページ～52ページを読み、日常的なメールの使用に関して問題点がないかについて把握しておきます。		120分
	事後学修	テキスト47ページの課題1に取り組みます。		120分
12	実用文Ⅲ：エントリーシート作成の基本		基本的な知識と手順を踏まえて、自己分析シートの記述をピアワークによって見直します。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、自己分析を通してエントリーシート作成の基本を修得することができる。		
	事前学修	テキスト53ページから54ページを読み、自己分析をしておきます。		120分
	事後学修	エントリーシートの効果的な作成の仕方について整理しておきます。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	実用文Ⅳ：自己PRの作成	基本的な知識と手順を踏まえて自己PRを作成し、ピアワークで読み合わせをします。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PRを作成することができる。	
	事前学修	自己分析シートを踏まえて、アピールポイントを確認します。	120分
	事後学修	作成例を基に自己PRをリライトします。	120分
14	実用文Ⅴ：小テスト（実用文総合演習問題）についての準備と実施	敬語と手紙文について復習し、小テスト（実用文総合演習問題）によって到達度を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、実用文に関する学修内容を整理し、到達度を確認することができる。	
	事前学修	テキスト33ページ～46ページを読み、実用文に関する学修内容を整理しておきます。	120分
	事後学修	敬語と手紙文を中心とした実用文に関する学修内容を振り返り、整理しておきます。	120分
15	冠婚葬祭・贈答のしきたり 自己点検報告の作成	冠婚葬祭・贈答のしきたり＝社会人に求められる〈常識〉について確認します。 文章表現に関する自己点検報告を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、文章作成に関する自己点検をすることができる。	
	事前学修	テキスト59ページから64ページを読み、社会人に求められる〈常識〉について確認しておきます。	120分
	事後学修	文章表現全般についての弱点を再点検し、克服のための手立てを講じ、実践します。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	片野 智子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業で人数調整をする場合がありますので、履修希望者は必ず出席すること。

【授業方法】
教員による講義＋受講者による実習という複合的な授業を行う。講義では、まずはじめに教員が文章を書くために必要な基本的知識について解説した後、受講者に実際に課題に取り組んでもらうことで、知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 講義の度に課題を出し、場合によっては小テストを行うこ とで確認する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、提出されたレポートが書式等の 要件を満たした上で、正しい日本語で書かれているかを評 価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、教員から問いかけがあった際に受 講者同士で討論しあい相互に意見を検討しあえるかどう か、または自己の文章に出されたコメントに次回以降適切 に対応できるかどうかを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後以外にも、Google ClassroomやGmail (katano.tomoko@nihon-u.ac.jp) で随時質問は受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、文章表現とは	授業計画、成績評価の方法等について説明するとともに、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の概要や、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、文章表現を学ぶ意義について自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要や文章表現を学ぶ意義について確認する。	120分
2	論理的な文章とは何か	全体から部分について説明する、事実と意見とを分けるといった基本的な文章表現について学ぶことで、論理的な文章の書き方を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的で明確な文章を書くことができる。また、事実と意見の違いが何か説明できる。	
	事前学修	論理的な文章とは何か、どのように書けば人により伝わりやすいか、自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
3	パラグラフ・ライティングについて学ぶ	パラグラフ・ライティングについて学び、今までなんとなく分けていた段落を意識して分けるための方法を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、段落を的確に分け、より読みやすい文章を書くことができる。	
	事前学修	パラグラフとは何か確認しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
4	敬体と常体、文のねじれ	場面に応じて適切かつ解りやすい文章表現ができるように、敬体と常体の使い分けや、文のねじれについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、敬体と常体の使い分けができる。文のねじれを理解し、まとまりのある文章を書くことができる。	
	事前学修	自分の文章について、普段どういうことに気をつけて書いているかを、確認しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
5	資料の調査方法について学ぶ	資料＝証拠集めが何故重要なのかを確認したうえで、国会図書館の利用方法や、データベースの活用方法など、様々な調査方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資料＝証拠集めが論文やレポートを書くために何故必要なのかを説明できる。データベースを実際に活用し、資料について調べる。	
	事前学修	国会図書館のサイトを検索したり、図書館に実際に足を運んでみる等、資料の調査方法について自分なりに調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
6	文章を引用する	剽窃を避け、論拠を提示できるように、どこからが引用でどこからが自分の文章なのかを明確に書くための方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの文章に相応しい引用方法を選び、論拠の明確な文章を書くことができる。	
	事前学修	これまでの講義の内容を復習し、曖昧な点をピックアップしておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	文章を要約する	新聞のコラム等の短い文章と、論文等の長い文章の、それぞれの要約の方法について学ぶ。他者の文章を要約することで、その文章の論旨を正確に把握し、自分の文章にどのように組み込むかについても考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長い文章と短い文章のどちらもそれぞれに合った要約ができる。また、要約することで他者の文章の論旨を的確に把握することができる。		
	事前学修	事前に配布されたプリントを読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
8	参考文献の書き方について学ぶ	レポートを書く際の参考文献の書き方について学ぶ。新聞、雑誌、本、サイト等、出典ごとに書かなければいけない情報を知るとともに、その情報がどこに書かれているかについても学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、出典ごとの参考文献を正確に書くことができる。		
	事前学修	本や雑誌の奥付に目を通し、何が書かれているかを知っておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
9	注記について学ぶ	レポートを書く際の注記について学ぶ。引用と参考文献の書き方を確認したうえで、それらを活かしてどのように注記を書くべきか、注記にはどのような種類があるのかを知る。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、注記を正確に書くことができる。		
	事前学修	引用と参考文献の書き方について確認し、曖昧な点をピックアップしておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
10	レポートを書く（1）問いを立てる	レポートを書く際の問いの立て方について学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分なりの問いを立てることができる。		
	事前学修	レポートの題材となるような問いについて自分なりに考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
11	レポートを書く（2）方法を考える	前回自分で立てた問いに対して、どのような方法を使えば、その問いが明らかになるかを考える。また、質的調査と量的調査の違いについても学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮説を立証するために相応しい方法を選ぶことができる。		
	事前学修	前回立てた問いに対して、どのような方法を使えば明らかになるか、自分なりに考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
12	レポートを書く（3）構成を考える	レポート全体の構成について考える。どのような論理展開にすれば、より説得的な文章が書けるかについて学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明確な論理展開をもった文章を書くことができる。		
	事前学修	レポートの全体の構成について、自分なりに考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポートを書く（4） 調査と考察	調査データの分析の方法と、考察の書き方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、調査データを的確に分析したうえで、自分なりの考察を付け加えることができる。	
	事前学修	必要となる調査データがどこにあるか、自分なりに調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
14	レポートを書く（5） 結論	レポートの結論の部分に何を書くべきかについて学ぶ。教員に出来たところまで見せ、修正されたものを元にリライトする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レポートが感想文となってしまうよう、論理的な文章でもって結論を書くことができる。	
	事前学修	ここまでで作成したレポートを見直し、最後まで書き進める。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
15	レポートの提出と授業の振り返り	レポートを提出する。これまでの授業を振り返り、改めて文章表現を学ぶ意義と、これからレポートや論文を書くにあたって気をつけるべきことを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの授業内容を正しく理解して、形式と内容ともに整ったレポートを書くことができる。	
	事前学修	完成させたレポートを見直し、不備がないかどうか確認する。	120分
	事後学修	授業全体の振り返りを行い、返却されたレポートを自己採点する。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】		
受講生が文章表現に関する課題に演習形式で取り組み、担当者がそれにコメントなどを付す形式で授業を進める。毎回の授業の積み重ねが重要なため、欠席に対しては厳しい対応をおこなう。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替え・変更する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それをを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。なお、授業内実施の演習課題もここに含める。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法』新訂版―21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。なお古い「改訂版」などは既に書店に在庫はない。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	〔1〕 授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕 文章表現の概説。〔3〕 履修希望者が定員を超えた場合は人数調整の実施。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになる。	
	事前学修	高等学校で使用した国語便覧などで、文章表現の基本的事項に関して書かれている部分を精読する。	60分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。文章表現の基本的事項を整理し、確認する。	180分
2	敬語法 1	敬語法の基本概念	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、敬語法の基本的な事を理解し、正しく使うことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
3	敬語法 2	社会の中に見られる敬語の誤用	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を理解し、それを実際に生かすことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
4	敬語法 3	注意すべき敬語の用法	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を正しく理解し、自己の文章に適切に使うことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
5	贈答にかかわる文章表現 1	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、季節ごとのふさわしい文章作成ができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
	事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分
6	贈答にかかわる文章表現 2	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、祝儀・不祝儀の場での適切な文章表現や各種の表書きができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
	事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文・論作文の実践演習 1	要約の方法の理解	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、文章を要約することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「要約の方法の理解」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「要約の方法の理解」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
8	小論文・論作文の実践演習2	要約の実践とその応用	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、要約の実践とその応用を文章表現に活かすことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「要約の実践とその応用」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「要約の実践とその応用」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
9	小論文・論作文の実践演習3	意見論述の方法	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、意見論述の方法を文章作成に活かすことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の方法」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「意見論述の方法」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
10	小論文・論作文の実践演習4	意見論述の実践	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、様々な課題作文・課題小論文をにおいて、適切な意見論述ができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の実践」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「意見論述の実践」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
11	小論文・論作文の実践演習5	引用のある小論文作成（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、引用のある課題作文・課題小論文を適切に書くことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「引用のある小論文作成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
12	小論文・論作文の実践演習6	引用のある小論文作成（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の引用が適切であるかを判断することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「引用のある小論文」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小論文・論作文の実践演習7	小論文の構成（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、構成に配慮の行き届いた小論文を書くことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
14	小論文・論作文の実践演習8	小論文の構成（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の小論文を客観的に批判し、不適切な箇所を説明することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、他の受講生の文章を事前に読んでおく。	120分
	事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
15	総合的理解と自らの理解の適切な文章化	各自の学修を確認する小テストの実施。その後、小テストの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、半年間の学びを踏まえて、自らの意見を客観的に提示することができるようになる。	
	事前学修	14回までの授業内容を振り返り、小テストの対策をおこなう。	180分
	事後学修	授業内に行われた小テストの出題意図・採点基準についての解説をもとに、各自の半年間の学びを整理・確認する。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	茅原 雅之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	第15回目の授業時に、授業内試験を行う。到達目標①②③に関して、文章表現の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	授業の進展に合わせて、適宜、課題の提出を求める。到達目標①②③に関して、授業内容を正しく理解し、正しい日本語でもって文章を作成できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生が作成した文章に対して積極的に質問できるか否か、また他の受講生からの質問に的確に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出した課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。必要な資料は講義時に配布する。				

【オフィスアワー】
質問・相談については電子メールにて対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp また授業の前後にも、直接の相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業内容（全15回）の全体像を把握する。小論文とは何か、エッセイとは何かについて学習する。	
	この回の到達目標	授業計画の全体像を把握する。小論文とエッセイに対する理解を深める。	
	事前学修	小論文とエッセイについて事前に調査しておく。過去に読んだ小論文やエッセイがあれば読み返しておく。	120分
	事後学修	配付資料（四字熟語）の復習。	120分
2	文章表現の基礎①〈ことわざ・故事成語〉の確認。	各種の〈ことわざ・故事成語〉について学ぶ。	
	この回の到達目標	〈ことわざ・故事成語〉についての理解を深める。	
	事前学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の復習。	120分
3	小論文とは何か。	小論文とは何か、論理的な文章とは何かを学ぶ。	
	この回の到達目標	小論文が何かを理解する。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の復習。	120分
4	小論文を書く。（1）	与えられた課題をもとに文章構成を組み立てる。	
	この回の到達目標	三段構成を理解し、三段構成の文章を書くことができる。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の復習。	120分
5	小論文を書く。（2）	小論文を記述する際の言葉遣いを学ぶ。	
	この回の到達目標	敬体と常体の文体を使い分ける。	
	事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
	事後学修	提出課題〈小論文「思いやり」〉の作成。	120分
6	小論文を書く。（3）	小論文の各種応用問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	複合型課題の小論文を執筆することができる。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「デザイナーベビー」〉の予習。	120分
	事後学修	提出課題〈小論文「デザイナーベビー」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文を書く。（４）	公務員試験における小論文の傾向を学ぶ。	
	この回の到達目標	公務員試験の小論文に対応できる。	
	事前学修	配布資料（公務員試験の出題傾向）の予習。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「他者への気遣いとマナー」）の作成。	120分
8	小論文を書く。（５）	公務員試験対策の資料準備として何が必要かについて学習する。	
	この回の到達目標	小論文執筆に必要となる各種資料を集めることができる。	
	事前学修	配布資料（小論文の書き方「少子化対策」）の予習。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「少子化対策」）の作成。	120分
9	小論文を書く。（６）	公務員試験の実例をもとに時間内に小論文を作成する。	
	この回の到達目標	公務員試験の既出問題を、制限時間以内に執筆することができる。	
	事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「超高齢化社会」）の作成。	120分
10	エッセイとは何か。	エッセイの起源から現在に至るまでの展開を学ぶ。	
	この回の到達目標	エッセイが何かを説明することができる。	
	事前学修	エッセイについての事前調査。	120分
	事後学修	配布資料（各種エッセイ）の復習。	120分
11	エッセイを書く。（１）	エッセイとは「自分」を表現すること。	
	この回の到達目標	エッセイにより、自分を表現することができる。	
	事前学修	エッセイでもって自分の何を表現したいのか考えておく。資料を集める。	120分
	事後学修	提出課題（３分スピーチ）の作成。	120分
12	エッセイを書く。（２）	エッセイにおける「文筆力」を学ぶ。	
	この回の到達目標	短い文章の中に、文筆力を駆使して文を書くことが出来る。	
	事前学修	エッセイにて表現する（文筆力）について考えておく。構想を立てておく。	120分
	事後学修	提提出課題（仮称「エッセイ」）の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基礎②〈漢字〉の確認。	各種漢字について学習する。誤読しやすい漢字・書き誤りしやすい漢字・四字熟語などを学習する。	
	この回の到達目標	社会一般で誤用が目立つ漢字について、間違いを指摘することができる。四字熟語を正しく用いることができる。	
	事前学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の復習。	120分
14	授業全体のまとめ。	これまでの授業に関する総合的な質疑応答。	
	この回の到達目標	漢字・小論文・エッセイについて、知識と執筆方法を確かなものにする。	
	事前学修	これまでの授業で理解できなかった点について自己点検する。	120分
	事後学修	授業全体の自己総括をする。	120分
15	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
	この回の到達目標	授業の達成度について自己確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
	事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
	事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	川下 俊文	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
論理的な思考力を鍛え、説得力のある文章で発信する意欲を持ってほしい。

【授業方法】
教科書・参考書の内容をもとに講義を行う。また、受講生による発表や論文に対する指導・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	論文執筆・口頭発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	本学期を通じて1編の論文を執筆させ、第15回授業終了後に完成稿を提出させる。提出された論文について、書式・文章構成・論理展開などの観点から評価し、到達目標①②③④に達しているか確認する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	第6～8回(人数に応じて増減する)の授業内で中間発表を課し、教員による講評と、受講生相互の質疑応答をさせる。その発表内容について、到達目標①②③④に達しているか確認する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評・指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
最新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK出版	2022	教科書	必携
思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第3版)	井下千以子	慶應義塾大学出版会	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでの相談に随時応じる。kawashita.toshifumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【論文とは何か】	授業の進め方を説明する。また、大学で書くべき論文とはどのような文章であるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学術的な文章に要求される客観性・論理性・批判性を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書を事前に入手し、全体に目を通しておく。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習する。	120分
2	【論文の要素】 【論文を書く手順】	論文に必要な「問題提起・主張・論証」および論文執筆の具体的な手順について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学術的な文章に要求される文章構成を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習する。	120分
3	【問題意識をもつ】	論文を書くきっかけになる問題提起をどのように行うべきか解説し、受講生各自に実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、複雑な現代社会の中から学術的な検討の対象になる問題を発見し、提示することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、文献調査を開始する。	120分
4	【アウトラインを作る】	論文の骨格となる「アウトライン」の作成について解説する。この回以降、受講者各自での小論文の執筆を開始する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、論文執筆に必要な文献を収集・読解し、得られた知見を論理的に構成することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、文献調査の成果を取り入れたアウトラインを作成する。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、アウトラインの作成を進める。	120分
5	【アウトラインを改良する】	アウトライン作成から論文執筆に至る過程について解説し、受講生各自にアウトラインの改良をさせる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、論文執筆に必要な文献を収集・読解し、得られた知見を論理的に構成することができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。また、文献調査の成果を取り入れたアウトラインを作成する。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、アウトラインの作成・改良を進める。	120分
6	【中間発表①】	ここから3回にわたり、ここまでで作成したアウトラインに基づき、論文構想の発表をさせる。また、受講生相互での意見交換を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決の方針を説得力をもって述べることができる。また、到達目標④に関連して、受講生や教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	アウトラインを作成し、発表準備を行う。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【中間発表②】	ここまでで作成したアウトラインに基づき、論文構想の発表をさせる。また、受講生相互での意見交換を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決の方針を説得力をもって述べることができる。また、到達目標④に関連して、受講生や教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	アウトラインを作成し、発表準備を行う。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分
8	【中間発表③】	ここまでで作成したアウトラインに基づき、論文構想の発表をさせる。また、受講生相互での意見交換を行う。なお、実際の実施回数は受講生の人数によって増減する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決の方針を説得力をもって述べることができる。また、到達目標④に関連して、受講生や教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	アウトラインを作成し、発表準備を行う。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分
9	【論文にふさわしい語彙】	論文執筆に必要な技術として、学術的にふさわしい語句を用いる必要がある。その技法について解説し、受講生各自に実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、正しい日本語を用いた適切な文章表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分
10	【わかりやすい文章】	論文執筆に必要な技術として、一文レベルで論理関係を明確にする必要がある。その技法について解説し、受講生各自に実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、正しい日本語を用いた適切な文章表現ができるようになる。また、到達目標③に関連して、論理的かつ説得力のある文章表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分
11	【パラグラフ・ライティング】	論文執筆に必要な技術として、論理構造を明確にするための段落構成＝パラグラフ・ライティングがある。その技法について解説し、受講生各自に実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論理的かつ説得力のある文章表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、ポータルシステムで課題に回答する。	120分
12	【文献引用】	論文執筆においては、引用・参照した文献を適切に示し、自分自身の文章との区別を明確にする必要がある。その技法について解説し、受講生各自に実践させる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文献を適切に読解・参照し、自分の文章に活かすことができる。	
	事前学修	教科書のうち、授業内容に対応する箇所を読む。	120分
	事後学修	今回の授業内容について復習し、論文執筆を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【論文添削①】	受講生各自が執筆している論文に対し、教員による講評を行い、改善すべき点を指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、文章として発信することができる。また、到達目標④に関連して、教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	論文執筆を進める。	120分
	事後学修	教員の指示に応じて論文を改良する。	120分
14	【論文添削②】	受講生各自が執筆している論文に対し、教員による講評を行い、改善すべき点を指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、文章として発信することができる。また、到達目標④に関連して、教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	論文執筆を進める。	120分
	事後学修	教員の指示に応じて論文を改良する。	120分
15	【論文添削③】	受講生各自が執筆している論文に対し、教員による講評を行い、改善すべき点を指示する。授業後に完成稿を提出させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、問題解決のための知見を論理的に構成し、文章として発信することができる。また、到達目標④に関連して、教員の意見を取り入れた改良ができる。	
	事前学修	論文執筆を進める。	120分
	事後学修	教員の指示に応じて論文を改良し、完成稿を提出する。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
積極的に授業に参加し、課題を必ず提出できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業を必ず受講して、ガイダンスを受けてください。なお、担当者の前期科目・文章表現法Ⅰを受講していることが望ましい。

【授業方法】
課題作文を作成する、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文を作成する、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題作文を提出してもらいます。添削したものをフィードバックし、全員で課題について合評します。積極的に意見を述べることが求められます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削し、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて受け付けます。詳細については第1回目の講義で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス、導入授業	授業の進め方、受講に当たってのルール、必要なものについて説明します。	
	この回の到達目標	本講義の学習内容を理解し、積極的に文章で表現しようとする意識を持つことができる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、本講義を受講する理由をノートにまとめておいてください。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
2	文章の読解と要約について	新聞のコラム欄を利用して、文章の読解と要約する方法を学びます。	
	この回の到達目標	書かれた内容を理解し、要約することができる。	
	事前学修	前回配布した資料をよく読み、課題を行ってください。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
3	文章表現の基礎の復習	文章を執筆する際における注意事項を確認します。	
	この回の到達目標	段落・禁則・句読点・記号など文章を書く上で基本的な知識を理解し、実践に活かすことができる。	
	事前学修	テキスト第1章をよく読み、課題2をやっておきましょう。200字で自己紹介をしてみよう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
4	叙事文を書く1	不特定多数の読者を対象とする出来事や事実を伝える文を書いてみましょう。	
	この回の到達目標	文章による表現と話し言葉による表現を理解し、適切に表現することができる。	
	事前学修	テキストの第1・2章をよく読み、前回示された課題について、構想をノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
5	叙事文を書く2	出来事や事実を「分かりやすく、正確に、生き生きと、簡潔に」伝えるにはどうしたらよいかということを考え、課題文をリライトします。	
	この回の到達目標	誤字・脱字なく文章を書き、文章の構成を考えて書くことができる。	
	事前学修	前回提出した課題文を、もう一度読み直し、「別の目」で添削をしておきましょう。	120分
	事後学修	課題文をリライトして提出してください。	120分
6	叙事文を書く3	出来事や事実を「分かりやすく、正確に、生き生きと、簡潔に」伝えるにはどうしたらよいかということを考え、課題文を書いてみましょう。	
	この回の到達目標	読者が鮮明な風景をイメージすることができるように、言葉で表現することができる。	
	事前学修	前回示された課題について、構想をノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的な文章を書く 1 レポート作成方法	論理的な文章の構成などを学びわかりやすい文章の書き方を学びます。	
	この回の到達目標	独りよがりにならない「レポート」「論文」を書く方法を理解し、実践に活かすことができる。	
	事前学修	前回示された課題1について、どのように論じるか、考えノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
8	論理的な文章を書く 2 「客観的」な文章とはなにか。	「私」を主語としない「客観的」な事実の記述方法を学びます。	
	この回の到達目標	「客観的」とはどのようなことか、理解し、文章を書くことができる。	
	事前学修	「客観的な文章」とはどのようなものか、考えをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	課題 1 について、添削された部分を理解し、リライトします。	120分
9	論理的な文章を書く 3 「意見の対立」 1	資料を読み、「意見の対立」からどのように結論を導き出すかを学びます。	
	この回の到達目標	反対意見の存在を認め、反証することができる。	
	事前学修	前回配布した資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
10	論理的な文章を書く 4 「意見の対立」 2	前回到き続き、「意見の対立」からどのように結論を導き出すかを学びます。	
	この回の到達目標	反対意見の存在を認め、反証することができる。	
	事前学修	前回配布した資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	添削に基づき、リライトして課題を提出してください。	120分
11	論理的な文章を書く 5 「文献の引用」 1	資料の引用や先行研究を参考文献として明示する際に必要な知識について学びます。	
	この回の到達目標	適切に文献を引用することができる。	
	事前学修	テキスト第2章を再度よく読み、文献の引用方法についてノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
12	論理的な文章を書く 6 「文献の引用」 2	前回到き続き、資料の引用や先行研究を参考文献として明示する際に必要な知識について学びます。	
	この回の到達目標	先行研究に学び、適切に引用し、自身の意見に反映させることができる。 参考文献が適切に明示できる。	
	事前学修	前回の講義を再度確認し、参考文献リストの作成方法を考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論理的な文章を書く 7	最終レポートテーマに従って、論理的な文章にまとめてみましょう。	
	この回の到達目標	課題について適切な先行研究を調査・参照し、それに対する自身の意見を述べることができる	
	事前学修	テーマについて適切な参考文献を調査・参照し、文章に適切に引用できるように準備をしておきましょう。	120分
	事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	120分
14	論理的な文章を書く 8 冠婚葬祭のマナー	レポートを客観的に読み直します。 冠婚葬祭のマナーを学びます。 祝儀・不祝儀袋の書き方、水引の意味など、伝統文化なども学びます。	
	この回の到達目標	これまでに学んだことを活かして、リライトができる。 祝儀袋などの書き方、日本の伝統文化について理解することができる。	
	事前学修	レポートの問題点をまとめておきましょう。 テキスト第10章をよく読み、課題1をやっておきましょう。	120分
	事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。 付録6のbに祝儀袋の書き方にしたがってもう一度書き、確認し提出してください。	120分
15	まとめ	半期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	半期で習得した方法を活かし、適切な表現を用いて文章を作成することができる。	
	事前学修	テキストを再度よく読み、講義で学んだことをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	授業目的、到達目標が達成できたかを確認し、課題を提出してください。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。

【授業方法】
教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めるため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業内、もしくはGoogleclassroomの通知で行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他(課題)	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト 2 級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9 号館 9 3 0 7 研究室）の場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（1 2 時 2 0 分～1 2 時 5 0 分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
	事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本語の語彙は4種類（和語・漢語・外来語・混種語）に分けられるが、実際に使用する際に適切な語彙を自ら選ぶことができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
3	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的な観点からよく見られる間違いを理解し、適切な表現を用いることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
4	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約するときの手順を理解し、適切な要約文を作成することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
5	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約文を使って自分の考えを述べる際に適切な文章構成を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
6	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図表やグラフからどのようにデータを分析すべきか、どのようなことは分析できないのかを識別する能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、誤字・脱字に注意するだけでなく、さらに分かりやすい表現にすることはできないかを考えることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
8	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推敲する際にチェックすべき表現上や表記上のポイントを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
9	第4章作成力（2）伝える力「総合」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きの通信文の基本形式を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	第4章作成力（2）伝える力「通信文」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きにおける敬意の表し方や基本形式の変形を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
11	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文の型とそれを作る手順を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
12	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、良い論説文である条件を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフからの的確にデータを読み取り、自分の考えを論理的に述べることができる。また適切なレポートを書くことができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
14	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な手紙や論説文を書くことができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
15	授業内復習テスト・まとめ	復習テストの実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	200分
	事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回に人数調整をする場合があるので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
対面授業となります。個人作業、ピアワークを複合した演習形式で進めます。質問については、Google Classroomのコメント機能やGmail（NUメール）でも対応します。また、文章作成全般（実用文を含む）に関する質問については、希望者を対象に個別対応をする予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3、7、8、10回にピアワークを通して、演習問題、文章作成、振り返りに取り組みます。なお、授業の進捗状況によって個人作業に変更することがあります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身についているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テスト・小論文の添削・返却・解説、課題小論文の解説と講評をします。フィードバックについては、Google Classroomも活用します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の授業の前後以外にも、Google Classroomのコメント機能やGmail（NUメール）で随時対応します。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp★印を@に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、学修活動の見通しを持つことができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身につけたい知識・技術についてまとめておきます。	120分
	事後学修	テキスト5ページ～18ページを読み、文章作成の基本について点検しておきます。	120分
2	論理的な文章の基本Ⅰ：パラグラフ・ ライティングの概念	論理的な文章を書く技術であるパラグラフ・ライティングの概念を捉え、活用の準備をします。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、活用の準備をすることができる。	
	事前学修	インターネットで論理的な文章を探し、その特徴をまとめておきます。	120分
	事後学修	パラグラフ・ライティングの概念を踏まえて、図書館やインターネットで各自が用意した文章を読んでおきます。	120分
3	論理的な文章の基本Ⅱ：結束性の高 め方	センテンスやパラグラフの結束性の高め方について、ピアワークで確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、接続表現やキーワードを効果的に配置し、センテンスやパラグラフの結束性を高めることができる。	
	事前学修	接続表現の効果的な使い方、キーワードの効果的な配置の仕方について想起し、注意点をまとめておきます。	120分
	事後学修	接続表現の効果的な使い方、キーワードの効果的な配置の仕方を踏まえ、センテンスやパラグラフの結束性の高め方についてももう一度実践します。	120分
4	情報収集の基本・発想法・引用法	情報収集の基本と活用法について確認し、実践します。発想法として、論理的思考と批判的思考の基本を修得します。また、引用法についても確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、論理的思考と批判的思考に基づいて情報を収集し、活用することができる。	
	事前学修	テキスト23ページ～28ページを読み、各自の情報収集の仕方について振り返り、点検しておきます。	120分
	事後学修	図書館やインターネットを活用し、小論文作成に関する情報収集を実践します。	120分
5	表記と表現についての小テストによる確認 目標規定文の作り方	表記と表現についての確認：表記と表現について小テストで確認します。目標規定文を作り、提案型小論文作成の準備をします。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、わかりやすい文章を書くために必要な表記と表現を身に付けることができる。 到達目標①②④に関して、目標規定文を作り、提案型小論文作成の準備をすることができる。	
	事前学修	授業資料を読み、表記と表現についての確認に備えます。	120分
	事後学修	提案型小論文作成の準備として、目標規定文の見直しをします。	120分
6	小論文攻略法：提案型小論文	提案型小論文の攻略法（各論パラグラフのアウトラインの作り方を含む）を修得し、小論文（721～800字）を作成します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、提案型小論文の攻略法を修得し、小論文を作成することができる。	
	事前学修	テキスト19ページ～21ページを読み、提案型小論文の作成手順を想起し、整理しておきます。	120分
	事後学修	授業時に作成した提案型小論文（下書き）をリライトします。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文の推敲と提出	リライトした提案型小論文（721～800字）をピアワークでチェックし、提出します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、提案型小論文を推敲し、完成度を高めることができる。	
	事前学修	テキスト16ページ～17ページを読み、リライトした提案型小論文を推敲し、完成度を高めます。	120分
	事後学修	作成例を参照し、提案型小論文の作成手順を再確認します。	120分
8	論理的思考と批判的思考についての確認	論理的思考と批判的思考についての演習問題にピアワークで取り組み、到達度を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、論理的思考と批判的思考についての到達度を確認することができる。	
	事前学修	論理的思考と批判的思考について、既習内容を振り返っておきます。	120分
	事後学修	小論文作成における論理的思考と批判的思考の活用の仕方について、整理しておきます。	120分
9	小論文攻略法：抽象題型小論文	抽象題型小論文の攻略法（各論パラグラフのアウトラインの作り方を含む）を修得します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、抽象題型小論文の攻略法を修得し、作成することができる。	
	事前学修	抽象題型小論文の作成手順を想起し、整理しておきます。	120分
	事後学修	抽象題型小論文の作成手順を再確認し、課題小論文作成の準備をします。	120分
10	小論文攻略法：自己PR型小論文	アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PR型小論文の攻略法（各論パラグラフのアウトラインの作り方を含む）を修得します。 自己分析を基にアピールポイントを決め、エピソード化します。 ピアワークでエピソードの読み合わせをします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、自己PR型小論文の攻略法を修得し、アピールポイントを効果的に読み手に伝えることができる。	
	事前学修	テキスト53ページ～54ページを読み、自己PR型小論文の作成に必要な情報について検討し、自己分析をします。	120分
	事後学修	アピールポイントの裏付けとなるエピソードを、課題小論文に活用できるように整理しておきます。	120分
11	課題小論文の作成	課題小論文（提案型小論文721～800字、もしくは自己PR型小論文721～800字）を作成し、提出します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成することができる。	
	事前学修	テキスト5ページ～27ページ、53ページ～54ページ、授業資料を読み、課題小論文（下書き）を推敲します。	120分
	事後学修	完成した課題小論文を熟読し、完成度を点検しておきます。	120分
12	実用文Ⅰ：敬語と手紙文の基本についての確認	手紙文作成に必要な敬語と手紙文の基本（レイアウトを含む）について確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、敬語と手紙文の基本に関する理解度を確認することができる。	
	事前学修	テキスト33ページ～46ページと授業資料を読み、敬語と手紙文の基本に関する理解度を確認しておきます。	120分
	事後学修	よりフォーマルな敬語の使い方について想起し、手紙文作成の準備をします。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	実用文Ⅱ：手紙文の作成	敬語と手紙文の基本を踏まえて、目上に宛てた私信を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、敬語と手紙文の基本を踏まえた手紙文を作成することができる。	
	事前学修	テキスト39ページ～46ページと授業資料を読み、手紙文作成の準備をします。	120分
	事後学修	目上に宛てた私信の場合と公的な通信文の場合の作成上の注意点について、授業資料で再確認しておきます。	120分
14	実用文Ⅲ：手紙文作成の振り返り 課題小論文作成の振り返り	作成した手紙文について、解説と講評で振り返ります。 課題小論文（721～800字）について、解説と講評で振り返ります	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、手紙文の作成過程・完成度について点検することができる。 到達目標①②③④に関して、課題小論文の作成過程・完成度を検証することができる。	
	事前学修	テキスト19ページ～21ページ、39ページから46ページと授業資料を読み、手紙文と課題小論文の作成過程を振り返っておきます。	120分
	事後学修	作成例を踏まえて、手紙文と課題小論文の完成度について、点検しておきます。	120分
15	自己点検報告の作成	授業全体を振り返り、文章表現全般に関する自己点検報告を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業全体を振り返って、文章表現全般に関する自己点検をすることができる。	
	事前学修	テキストと授業資料を読み、文章表現全般に関する自己点検の準備をします。	120分
	事後学修	授業全体の振り返りを通して、文章表現全般についての注意事項を各自でまとめ、発展的な学習へつなげます。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	片野 智子	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業で人数調整をする場合がありますので、履修希望者は必ず出席すること。

【授業方法】		
教員による講義＋受講者による実習という複合的な授業を行う。講義では、まずはじめに教員が文章を書くために必要な基本的知識について解説した後、受講者に実際に課題に取り組んでもらうことで、知識の定着を図る。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分の作成した課題について他の受講者と話し合ってもらう。12回と14回にはプレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 講義の度に課題を出し、場合によっては小テストを行うこ とで確認する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、提出されたレポートが書式等の 要件を満たした上で、正しい日本語で書かれているかを評 価する。											
討論・発表等	到達目標①②③④に関して、プレゼンテーションの原稿が 正しい日本語で書かれているか、発表に出されたコメント に次回以降適切に対応できるかどうかを評価する。また、 到達目標④に関しては、ディスカッションの際に積極的に 意見を出し、受講者同士で相互に意見を検討しあえるかど うかについても評価する。	20	10	10	20							60
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後以外にも、Google ClassroomやGmail（katano.tomoko@nihon-u.ac.jp）で随時質問は受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、文章表現とは	授業計画、成績評価の方法等について説明するとともに、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の概要や、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、文章表現を学ぶ意義について自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要や文章表現を学ぶ意義について確認する。	120分
2	案内文を作成する	案内文を作成する。その際、主観的表現と客観的表現の違いについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的な文章を作成するために、主観的表現と客観的表現の違いを理解する。	
	事前学修	論理的な文章とは何か、どのように書けば人により伝わりやすいか、自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
3	自己紹介文を書く	第2回で学んだことを踏まえて、自己紹介文を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主観的表現と客観的表現を使い分けながら、自己について明快な言葉で語る。	
	事前学修	第2回の講義内容を復習し、主観的表現と客観的表現の違いについて確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
4	自己PR文を書く	自己PR文を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、客観的に自己について分析し、それを明確な文章で説明できる。また、就職の際により説得的な文章で自己についてアピールできる。	
	事前学修	自分自身のアピールポイントについて考えておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
5	履歴書を書く	第4回で作成した自己PR文を利用し、履歴書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しい日本語を用い、履歴書に相応しい形式で書くことができる。	
	事前学修	履歴書にどのような項目があるかを確認し、自分の経歴について整理しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
6	メール文を書く	様々な状況に合わせたメールの書き方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メールを送る状況に合わせて、簡潔かつ明快な言葉遣いで書くことができる。	
	事前学修	これまで自分がどのようなメールを送ってきたかを確認する。メールの使い方について簡単に調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	手紙文・ハガキ文を書く	様々な状況に合わせた手紙文とハガキ文の書き方について学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙やハガキを送る状況に合わせて、形式を守って人の心に響くような文章を書くことができる。		
	事前学修	事前に配布されたプリントを読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
8	アンケートをとる	アンケートの採り方について学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アンケートを採る際に正しい日本語で文章を書き、論理的な答えが導き出せるような項目を作成する。		
	事前学修	身近で見かけるアンケートの形式がどのようなになっているか調べておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
9	対話と議論の方法について学ぶ	対話とは何か、議論とはどのようなものであるかについて学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論理的に自己の意見を表明し、異なる意見に対しても尊重した上で、発展的な議論に繋ぐことができる。		
	事前学修	配布されたプリントを読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
10	ディベートを行う	ディベートを行う。		
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、多様な意見を尊重しながらも、自己の意見を論理的に表明できる。		
	事前学修	前回の授業で提示されたディベートのテーマについてあらかじめ調べておく。		120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。		120分
11	1回目のプレゼンテーションの準備をする	第1回目のプレゼンテーション用の原稿を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話の筋道が明確で、より説得力のある文章を書くことができる。		
	事前学修	前回の授業で提示されたプレゼンテーションのテーマについてあらかじめ調べておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーション用原稿を完成させる。		120分
12	1回目のプレゼンテーションを行う	第1回目のプレゼンテーションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、効果的なプレゼンテーションの方法について学ぶ。		
	事前学修	プレゼンテーションの練習をする。		120分
	事後学修	発表に出されたコメントを踏まえて、反省点を確認し、二回目のプレゼンテーションに備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	2回目のプレゼンテーションの準備をする	第2回目のプレゼンテーション用の原稿を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回のプレゼンテーションの反省を踏まえて、直すべき点がどこにあったかを理解した上で、より説得力のある文章を書くことができる。	
	事前学修	前回の授業で提示されたプレゼンテーションのテーマについてあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容を配布プリント等で確認したうえで、課題に取り組む。	120分
14	2回目のプレゼンテーションを行う	第2回目のプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、前回のプレゼンテーションの反省を踏まえて、効果的なプレゼンテーションの方法を実践する。	
	事前学修	プレゼンテーションの練習をする。	120分
	事後学修	2回のプレゼンテーションを踏まえた上で、事前準備として文章を作成することの意味と意義とは何かについて、整理する。	120分
15	全体講評と授業の振り返り	これまでの授業を振り返り、改めて文章表現を学ぶ意義と、これからディベートやプレゼンテーションを行うにあたって注意する点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの授業内容を正しく理解して、文章表現を学ぶ意味と意義について説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、人前で話すことと書くこととの違いと共通点について考えておく。	120分
	事後学修	授業全体の振り返りを行い、自分なりにまとめておく。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	関谷 雄磨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
初回で授業の進め方について説明するので必ず出席して下さい。就職活動関連、部活動・サークル関連、他講座を受講していた等の理由も含めて、初回に出席していない場合は単位を認定しません。（初回に出席していなくてもシステム上は履修登録が可能ですが、単位は認定しないので十分に注意してください。）

【授業方法】
授業の概要を記したプリントを毎回配布し、それに沿って講義形式で進めます。また、内容に関するリアクションペーパーを毎回書いてもらい、次回に匿名で紹介しながらコメントするという形で、内容についての疑似的な対話を行いたいと思います。なお、授業終盤に成績評価のための授業内試験を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③について、筆記試験によって総合的に 評価します。	30	40	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対するコメントおよび質疑応答の時間に総合的に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋思想の要諦周覧』	嘉吉・斎藤編	北樹出版	1994	参考書	任意
備考	必須ではありませんが、このテキストのような哲学史の本が一冊手元にあるとよいでしょう。				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後（philosophy_gr_sekiya@yahoo. co. jpまでご連絡いただいても結構です。その場合は件名を必ず「日大法学部 ○○学科 学籍 番号○○○○○ 氏名 用件」として下さい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	倫理学とはどのような学問か		本講座の進め方の説明および「倫理学入門」（「倫理学」はどのような問題を取り扱う学問であるのかについての概説）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような問いを扱う学問であるのかを、具体的な事例を挙げながら説明することができる。		
	事前学修	自分自身が生きている中で感じている倫理（道徳）に関する問題を可能な限り列挙しておき、そのことについてどのような答えがありうるのか、よく考えておくこと。		120分
	事後学修	配布プリントを参考にしながら講義内容を反芻し、倫理学がどのような問いを扱い、どのような性格を持つ学問であるのかについて理解を深めておくこと。		120分
2	「優れた人」であることについて（1）		古典期アテネの時代状況と倫理観について、特に「政治と弁論術」という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
3	「優れた人」であることについて（2）		ソクラテスの倫理思想について、特に「魂の優秀性」という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
4	「ずる」をしながら生きることについて		プラトンの倫理思想について、特に「不正と幸福」という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
5	「欲望」との付き合い方について		『ゴルギアス』（プラトン）の内容をもとに、欲望と幸福の関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
6	優れた「能力」を持つことと幸福の関係について（1）		アリストテレスの倫理思想の概略について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	優れた「能力」を持つことと幸福の関係について（2）		アリストテレスの倫理思想について、特に優秀性という観点から学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
8	人生は楽しければそれでOK？（1）		快楽主義の倫理思想について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
9	人生は楽しければそれでOK？（2）		キュレネ学派アリストIPPソスの倫理思想を学修し、快楽主義の難しさについて考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
10	物欲を持たないという生き方について		キュニコス学派アンティステネスの倫理思想について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
11	「ノモス病」について		キュニコス学派ディオゲネスの倫理思想について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
12	試験についての詳細な説明		試験について説明した後、倫理学のような「決まった正解」の存在しない試験での答案の書き方を詳細に説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、倫理学の答案の書き方を理解し、授業内試験でスムーズな論述ができるようにすること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	試験の内容について熟考しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	質疑応答	授業内容、授業内容を踏まえて受講生自身が考えたこと、自分自身の身の回りの問題などについて、質問用紙を利用した質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を自分がどれくらい理解しているか、またその周辺にどのような問題が潜んでいるのかを質疑応答を通じて確認し、不足している部分を補うこと。	
	事前学修	これまでの講義全体を振り返り、質問事項をまとめておくこと。	120分
	事後学修	質疑応答を思い出しながら本講座で何を学んだのかを自分なりにまとめ、それを踏まえつつ、自分自身の倫理観・人生観について深く考察すること。	120分
14	授業内試験および総括（１）	授業内試験の実施および全体の総括（１）	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての到達度を確認するための授業内試験によって単位を獲得すること。	
	事前学修	講義全体を振り返り、試験の内容について熟考しておくこと。	120分
	事後学修	試験で問われたことを振り返り、自分なりの考えを再構築すること。	120分
15	授業内試験および総括（２）	授業内試験の実施および全体の総括（２）	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての到達度を確認するための授業内試験によって単位を獲得すること。	
	事前学修	講義全体を振り返り、試験の内容について熟考しておくこと。	120分
	事後学修	試験で問われたことを振り返り、自分なりの考えを再構築すること。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	中澤 瞳	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。授業内課題への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説などを通じて、自主的な思考力を培う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な倫理学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が達成されているか、論述式の授業内試験により評価する。	20	10	30								60
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③に関連して、授業内課題の提出状況により評価する。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題に関する内容を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はない。授業ごとに適宜資料を配布する。また参考書は事後学修に載せた文献以外にも、授業ごとに適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
時間：講義終了後、場所：授業講堂、連絡先：nakazawa.hitomi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	そもそも倫理的な人間でなければいけないのか？	授業のガイダンスと倫理学の考え方の簡単な紹介	
	この回の到達目標	倫理学の一つの考え方について知り、自分でも考えることができる（到達目標①）	
	事前学修	シラバスを読む。倫理学について簡単に調べておく。	120分
	事後学修	事前学修と授業内容を踏まえて、道徳的に善く振る舞うべき理由について考えてみる。	120分
2	倫理学とは何か	倫理学がどのような学問か、その基礎的な事柄について説明する。	
	この回の到達目標	倫理学という学問の概要を説明できる。（到達目標①、②）	
	事前学修	前回の授業を振り返っておく。	120分
	事後学修	事前学修で調べたことと授業内容を踏まえて、倫理学の概要を説明する。	120分
3	整形すること	美容整形は倫理に反するのか検討する。	
	この回の到達目標	美容整形をめぐる論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	磯野真穂『ダイエット幻想』なども参考にして、さらに考える。	120分
4	運動能力の増強	薬で運動能力を増強することは倫理に反するのか検討する。	
	この回の到達目標	ドーピングをめぐる論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	林芳紀・伊吹友秀『マンガで学ぶ スポーツ倫理』などを参考にドーピングについてさらに考える。	120分
5	身体の機械化	人間を機械化することは倫理に反するのか検討する	
	この回の到達目標	サイボーグ化をめぐる論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	佐藤岳詩『心とからだの倫理学』を参考にさらに考える。	120分
6	認知能力の増強	薬で認知能力の増強は倫理に反するのか検討する。	
	この回の到達目標	認知能力の向上についての論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	佐藤岳詩『心とからだの倫理学』を参考にさらに考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	感情のコントロール	薬によって感情に介入することは倫理に反するか検討する。	
	この回の到達目標	感情への薬の介入に関する論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	佐藤岳詩『心とからだの倫理学』を参考にさらに考える。	120分
8	善人を作る	道徳能力を向上させることは倫理に反するののか検討する。	
	この回の到達目標	道徳能力の向上に関する論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	佐藤岳詩『心とからだの倫理学』を参考にさらに考える。	120分
9	義務	義務についての倫理学な考え方を紹介する	
	この回の到達目標	義務論について説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	御子柴善之『自分で考える勇気 カント哲学入門』などを参考にカントの倫理をさらに考える。	120分
10	功利	功利主義とその批判を検討する。	
	この回の到達目標	功利主義批判を整理し、規則功利主義、選好功利主義について説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	児玉聡『功利主義入門－はじめての倫理学』などを参考にしてさらに考える。	120分
11	徳	徳についての倫理学な考え方を紹介する	
	この回の到達目標	徳についての倫理学の考え方について理解する。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネットなどを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	ダニエル・ラッセル『徳倫理学』などを参考にしてさらに考える。	120分
12	正義	正義の原理についてのさまざまな立場について検討する。	
	この回の到達目標	正義をめぐる倫理学の見解を整理し、説明することができる（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』などを参考に正義についてさらに考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケア	ケアの倫理を紹介する。	
	この回の到達目標	ケアの倫理の見解を整理し、説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネットなどを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	マイケル・スロート『ケアの倫理と共感』などを参考にケアの倫理についてさらに調べて考える。	120分
14	メタ倫理	メタ倫理学について紹介する。	
	この回の到達目標	メタ倫理学について説明することができる。	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	佐藤岳詩『メタ倫理学入門』を参考にさらにメタ倫理学を整理する。	120分
15	補足解説と授業内試験	第1回～第14回の授業に関する補足解説(30分)と、授業内試験の実施(60分)	
	この回の到達目標	今学期の講義内容を踏まえ、自分の意見を適切に示すことができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	講義内容を復習しておく。自分なりの考えを筋道立てて記述できるようにしておく。	120分
	事後学修	今学期の内容を振り返り、特に興味のある話題についてはさらに調べ、自分なりの考えを再構築する。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。

【授業方法】
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	20	30	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席数の2/3以上出席すること				30							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、適宜質問して理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しませんが、日常的に新聞記事を読むこと。				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，導入授業	授業概要と倫理について	
	この回の到達目標	どのように授業を進めていくのか理解する	
	事前学修	高校時代の『倫理社会と現代』を復習してくること（2時間）	120分
	事後学修	道徳と倫理の違いについて確認すること（2時間）	120分
2	倫理とは何か	現代社会における倫理	
	この回の到達目標	「倫理」の意味について理解する	
	事前学修	南博『日本的自我』（岩波新書）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	友人や後輩・先輩との人間関係に必要なことを考えること（2時間）	120分
3	日本社会の倫理	日本的社会と人間関係	
	この回の到達目標	身の回りの人間関係がどのようになっているのかを理解する	
	事前学修	中根千枝『タテ社会の力学』（講談社学術文庫）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	日本の人間関係の特色について確認すること（2時間）	120分
4	日本人の倫理と価値観	アメリカ人の正義・日本人の「和」	
	この回の到達目標	国や文化によって、人間関係の基準が違うことを理解する	
	事前学修	池田謙一『日本人の考え方 世界の人の考え方』（勁草書房）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	国や文化によって、人間関係の違いを確認しておくこと（2時間）	120分
5	僕はどこにいるのか	社会の中での自己位置の確認	
	この回の到達目標	自己と集団との関係はどのようにあるのか理解する	
	事前学修	南博『日本人の心理と生活』（勁草書房）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	家族や友だちにとっての自分の立場を確認すること（2時間）	120分
6	社会と自己	弱気な私と強気な集団	
	この回の到達目標	日本人特有の自我について理解する	
	事前学修	増成隆士『現代の人間観と世界観』（放送大学教材）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	集団的犯罪行為はなぜ起こるのか、新聞記事を調べること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「らしさ」と文化	日本人の同調性と倫理的行動	
	この回の到達目標	他者との同調行動をなぜ行なうのか理解する	
	事前学修	大平健『豊かさの精神病理』（岩波新書）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	なぜ人と同じ行動を取るのか考えてみること（2時間）	120分
8	メディアと人間関係	メディアが変える人間関係	
	この回の到達目標	情報機器との関係がどのようなものかを理解する	
	事前学修	梅本吉彦『情報社会と情報倫理』（丸善）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	TVやゲーム機がどのように日常生活の中に入り込んでいるのか、確認すること（2時間）	120分
9	情報と人間関係	TV・コンピューターが生み出すデジタル人間と倫理	
	この回の到達目標	スマホがどのように人間関係を変えようとしているのか理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	IT革命 がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
10	情報社会の人間関係	疑似現実世界の人間関係	
	この回の到達目標	仮想空間が現実空間の人間関係に与えている影響について理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	Virtual reality がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
11	情報社会の恋愛	愛情は「モノ」でしか表現できないのか	
	この回の到達目標	情報機器によって恋愛関係が変化していることを理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	Virtual な恋愛について、考えてみること（2時間）	120分
12	青年期の人間関係	反抗 ― 自立 ― 恋愛の関係に就いて	
	この回の到達目標	青年期に直面する人間関係の難しさを理解する	
	事前学修	福島章『青年期の心』（講談社現代新書）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	それぞれが直面している倫理的問題を箇条書きしてみること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人間形成と自己実現	青年期の自己実現の意味と目的	
	この回の到達目標	私たちはどのように「自己実現」を目指すのかを理解する	
	事前学修	小林司『「生きがい」とは何か』（NHKブックス）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	何のために生きているのか、自己実現との関係で考えてみること（2時間）	120分
14	まとめ	講義の重要事項についての解説と補足	
	この回の到達目標	これまでの授業をフィードバックしてまとめる	
	事前学修	これまでの講義ノートの整理と重要な点についての確認をすること（2時間）	120分
	事後学修	学年末試験の対策を講じること（2時間）	120分
15	授業内試験、振り返り	前期末試験及び振り返り	
	この回の到達目標	授業内容を、どの程度理解しているのかを確認する	
	事前学修	前期授業内容の総復習（2時間）	120分
	事後学修	自己採点をすること（2時間）	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	関谷 雄磨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
初回で授業の進め方について説明するので必ず出席して下さい。就職活動関連、部活動・サークル関連、他講座を受講していた等の理由も含めて、初回に出席していない場合は単位を認定しません。（初回に出席していなくてもシステム上は履修登録が可能ですが、単位は認定しないので十分に注意してください。）

【授業方法】
授業の概要を記したプリントを毎回配布し、それに沿って講義形式で進めます。また、内容に関するリアクションペーパーを毎回書いてもらい、次回に匿名で紹介しながらコメントするという形で、内容についての疑似的な対話を行いたいと思います。なお、授業終盤に成績評価のための授業内試験を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な倫理学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③について、筆記試験によって総合的に 評価します。	30	40	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対するコメントおよび質疑応答の時間に総合的に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋思想の要諦周覧』	嘉吉・斎藤編	北樹出版	1994	参考書	任意
備考	必須ではありませんが、このテキストのような哲学史の本が一冊手元にあるとよいでしょう。				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後（philosophy_gr_sekiya@yahoo. co. jpまでご連絡いただいても結構です。その場合は件名を必ず「日大法学部 ○○学科 学籍 番号○○○○○ 氏名 用件」として下さい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	倫理学とはどのような学問か	本講座の進め方の説明および「倫理学入門」（「倫理学」はどのような問題を取り扱う学問であるのかについての概説および「倫理学I」のおさらい）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような問いを扱う学問であるのかを、具体的な事例を挙げながら説明することができる。	
	事前学修	自分自身が生きている中で感じている倫理（道徳）に関する問題を可能な限り列挙しておき、そのことについてどのような答えがありうるのか、よく考えておくこと。	120分
	事後学修	配布プリントを参考にしながら講義内容を反芻し、倫理学がどのような問いを扱い、どのような性格を持つ学問であるのかについて理解を深めておくこと。	120分
2	ストレスフルな現代人への提言（1）	ヘレニズム時代の社会状況と一般的倫理観について、「人びとの不安」という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
3	ストレスフルな現代人への提言（2）	エピクロスによる快楽主義の倫理思想について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
4	不幸を根本的に回避するには（1）	ストア派ゼノンの倫理思想について、特に宇宙と人間という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
5	不幸を根本的に回避するには（2）	ストアのゼノンの倫理思想について、特に善悪という観点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分
6	不幸を根本的に回避するには（3）	後期ストア派セネカ、エピクテトスによる「慰めの哲学」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。	
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	自己愛と他者愛について		『新約聖書』の内容からキリスト教的倫理観について学修し、特に自己愛と他者愛について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
8	「精神」と「物体」という線引きについて		デカルトの「物心二元論」について学修し、それがもたらした倫理的問題について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
9	「欲望と道徳のはざまで」（１）		功利主義（ベンサム、ミル）と義務倫理（カント）の概要について学修し、それらの関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
10	「欲望と道徳のはざまで」（２）		功利主義と義務倫理の視点から、現代の倫理的問題に関する応用問題を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
11	現代を幸福に生きるための「ヒント」		『幸福論』（B. ラッセル）の内容をもとに、「不幸の原因」と「幸福をもたらすもの」について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該回の内容について理解し、それを自分自身の価値観・人生観に照らして評価すること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	当該回の内容を復習し、自分自身の価値観・人生観に照らして問題点をより明確にしておくこと。		120分
12	試験についての詳細な説明		試験の内容について説明した後、倫理学のような、「決まった正解」の存在しない試験での答案の書き方を詳細に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、倫理学の答案の書き方を理解し、授業内試験でスムーズな論述ができるようにすること。		
	事前学修	前回の内容について復習し、他の受講生のリアクションについても主体的に考察できるようにしておくこと。		120分
	事後学修	講義全体を振り返り、試験の内容について熟考しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	質疑応答	授業内容、授業内容を踏まえて受講生自身が考えたこと、自分自身の身の回りの問題などについて、質問用紙を利用した質疑応答を行う（授業内試験の総評を含む）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を自分がどれくらい理解しているか、またその周辺にどのような問題が潜んでいるのかを質疑応答を通じて確認し、不足している部分を補うこと。	
	事前学修	これまでの講義全体を振り返り、質問事項をまとめておくこと。	120分
	事後学修	質疑応答を思い出しながら本講座で何を学んだのかを自分なりに振り返り、それを踏まえつつ、自分自身の倫理観・人生観について深く考察すること。	120分
14	総括と授業内試験（１）	授業内試験の実施および全体の総括（１）	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての到達度を確認するための授業内試験によって単位を獲得すること。	
	事前学修	講義全体を振り返り、試験の内容について熟考しておくこと。	120分
	事後学修	試験で問われたことを振り返り、自分なりの考えを再構築すること。	120分
15	総括と授業内試験（２）	授業内試験の実施および全体の総括（２）	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての到達度を確認するための授業内試験によって単位を獲得すること。	
	事前学修	講義全体を振り返り、試験の内容について熟考しておくこと。	120分
	事後学修	試験で問われたことを振り返り、自分なりの考えを再構築すること。	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	中澤 瞳	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。授業内課題への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説などを通じて、自主的な思考力を培う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が達成されているか、論述式の授業内試験により評価する。	20	10	30								60
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③に関連して、授業内課題の提出状況により評価する。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題に関する内容を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はない。授業ごとに適宜資料を配布する。また参考書は事後学修に載せた文献以外にも、授業ごとに適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
時間：講義終了後、場所：授業講堂、連絡先：nakazawa.hitomi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	そもそも倫理的であるとはどういうことか	授業のガイダンスと倫理学の考え方の簡単な紹介	
	この回の到達目標	倫理学の一つの考え方について知り、自分でも考えることができる（到達目標①）	
	事前学修	シラバスを読む。倫理学について簡単に調べておく。	120分
	事後学修	事前学修と授業内容を踏まえて、倫理学という学問の方向性を説明できるようにする。	120分
2	倫理学とは何か	倫理学がどのような学問か、その基礎的な事柄について説明する。	
	この回の到達目標	倫理学という学問の概要を説明できる。（到達目標①、②）	
	事前学修	前回の授業を振り返っておく。	120分
	事後学修	事前学修で調べたことと授業内容を踏まえて、倫理学の概要を説明する。	120分
3	人種	人種概念を整理し、人種をめぐる問題を検討する。	
	この回の到達目標	人種についての論点を整理、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	小手川正二郎『現実を解きほぐすための哲学』なども参考にさらに考える。	120分
4	親子	親子関係について検討する。	
	この回の到達目標	親子についての論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	小手川正二郎『現実を解きほぐすための哲学』なども参考にさらに考える。	120分
5	難民	難民についての問題点を検討する。	
	この回の到達目標	難民についての論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	小手川正二郎『現実を解きほぐすための哲学』なども参考にさらに考える。	120分
6	人間の命への介入 1	遺伝子操作技術に関わる倫理的問題を検討する。	
	この回の到達目標	遺伝子操作技術の倫理的問題を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	児玉聡・なつたか『マンガで学ぶ生命倫理』なども参考にさらに考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人間の命への介入 2	優生保護法をめぐる問題について検討する。	
	この回の到達目標	優生保護法をめぐる問題を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	児玉聡・なつたか『マンガで学ぶ生命倫理』なども参考にさらに考える。	120分
8	動物	動物の命についての問題点を検討する。	
	この回の到達目標	動物の命についての論点を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	伊勢田哲治・なつたか『マンガで学ぶ動物倫理』なども参考にさらに考える。	120分
9	ロボットの倫理	ロボット、AIと倫理について考える。	
	この回の到達目標	ロボットやAIの倫理的問題を整理し、自分でも考えることができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	久木田水生・神崎宣次・佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』なども参考にさらに考える。	120分
10	義務	義務論を利主義と比較しながら紹介する。	
	この回の到達目標	義務論を功利主義との比較において理解する。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	石川文康『カント入門』などを参考にカントの倫理をさらに考える。	120分
11	功利	功利主義と他者危害原則について説明する。	
	この回の到達目標	功利主義と他者危害原則について説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	柘植尚則『プレップ倫理学』なども参考にして考える。	120分
12	徳	徳についての倫理学な考え方を紹介する	
	この回の到達目標	徳についての倫理学の考え方について理解する。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	加藤尚武・児玉聡『徳倫理学基本論文集』などを参考にしてさらに考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケア	ケアの倫理を紹介する。	
	この回の到達目標	ケアの倫理の見解を整理し、説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	キャロル・ギリガン『もうひとつの声で—心理学の理論とケアの倫理』などを参考にケアの倫理についてさらに調べて考える。	120分
14	認識的不正義	認識的不正義について紹介する。	
	この回の到達目標	認識的不正義の見解を整理し、説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	取りあげる話題について、インターネット、図書館などを利用して簡単に調べておく。	120分
	事後学修	ミランダ・フリッカー『認識的不正義』などを参考にさらに調べて考える。	120分
15	補足解説と授業内試験	第1回～第14回の授業に関する補足解説(30分)と、授業内試験の実施(60分)	
	この回の到達目標	今学期の講義内容を踏まえ、自分の意見を適切に示すことができる。（到達目標①、②、③）	
	事前学修	講義内容を復習しておく。自分なりの考えを筋道立てて記述できるようにしておく。	120分
	事後学修	今学期の内容を振り返り、特に興味のある話題についてはさらに調べ、自分なりの考えを再構築する。	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】		
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	20	30	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席数の2/3以上出席すること。				30							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、適宜質問をして理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しませんが、日常的に新聞記事を読むこと。				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	環境倫理とはなにか	
	この回の到達目標	現代起きている環境問題について確認する	
	事前学修	夏期休業中の環境問題に関する新聞記事を確認すること	120分
	事後学修	環境の何が問題となっているのか、復習しておくこと	120分
2	自然とは何か	東洋では自然をどのように考えてきたのか	
	この回の到達目標	中国を代表する東洋的自然観は、どのような特色があるのかを理解する	
	事前学修	安田喜憲『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）を読んでくること	120分
	事後学修	中国以外の自然観を調査すること	120分
3	西洋人の自然観	キリスト教的自然観と私たちの自然観とどのように違うのか	
	この回の到達目標	西洋文明のもとにあるキリスト教ではどのように自然を考えているのか、どのように私たちと違うのかを理解する	
	事前学修	旧約聖書の「創世記」冒頭部分を読んでくること	120分
	事後学修	現代日本に於けるキリスト教の影響を考えてみること	120分
4	日本人の自然観	古代日本人の感じた神聖なる自然への眼差し	
	この回の到達目標	古代日本人は、どのように自然を考えていたのかを理解する	
	事前学修	土橋寛『日本語に探る古代信仰』（中公新書）を読んでくること	120分
	事後学修	身近な神社のご神木に、どのような種類があるか、調べてみること	120分
5	現代日本人の自然観	宮崎駿はもののけ姫で、何を主張しようとしたのか	
	この回の到達目標	現代日本人の代表として、宮崎駿がどのような自然観を持っているのか、彼のアニメを通して理解する	
	事前学修	「もののけ姫」のビデオを見てくること	120分
	事後学修	宮崎駿の他のアニメで、どのように自然を描いているのか、調べてみること	120分
6	文明と自然観	世界の各文明がもっている自然観の違いを比較しながら考える	
	この回の到達目標	自然観は、民族や宗教、文化や歴史によってまったく違っていることを理解する	
	事前学修	森本哲郎『そして文明は歩む』（新潮社）を読んでくること	120分
	事後学修	授業内容の文明における自然観の違いを、表にしてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境破壊の根源	破壊をもたらした近代社会の構造的原因は何か	
	この回の到達目標	現代社会が直面している環境破壊の原因がどこにあるのかを理解する	
	事前学修	A. トフラー『第三の波』のなかで、近代社会の特色を確認すること	120分
	事後学修	身近な環境問題にどのようなものがあるのか、確認すること	120分
8	環境倫理と新しい世界観・価値観	近代社会の終焉と新しい世界像	
	この回の到達目標	環境問題が、新しい社会制度を生み出そうとしていることを理解する	
	事前学修	A. トフラーの主張する、新しい社会について、調べてくること	120分
	事後学修	「近代主義」の先の「人間と自然」の関係はどのようなものか、レポートにまとめること	120分
9	生命倫理の基本的考え方	生命倫理とバイオテクノロジー	
	この回の到達目標	医療技術の進展が、いのちに対する考え方を変えようとしている現状を理解する	
	事前学修	日常の新聞記事の中で、医療問題や終末期医療の問題を確認すること	120分
	事後学修	環境倫理と生命倫理の区別を確認すること（2時間）	120分
10	生殖医療技術と人間関係 1	体外受精がもたらす問題	
	この回の到達目標	急激に変化している生殖医療技術が、どのような問題を生み出そうとしているのかを具体的に理解する	
	事前学修	体外受精における精子提供や卵子提供について確認してくること	120分
	事後学修	生殖医療を自らの問題として考えること	120分
11	生殖医療技術と人間関係 2	代理母問題を通して	
	この回の到達目標	産みの母と法的な母が分離しようとしている現状を理解する	
	事前学修	向井亜紀と高田延彦夫婦の代理出産の事例を確認してくること	120分
	事後学修	代理母以外に子供を持つ方法はあるのかを考えること	120分
12	生殖医療技術と人間関係 3	同性婚や性転換がもたらす影響	
	この回の到達目標	医療技術の進展によって、肉体的性別と社会的性別の区別を生み出し始めていることを理解する	
	事前学修	ジェンダーと性的役割の葛藤を確認してくること	120分
	事後学修	生殖医療技術が、どのような倫理的問題を起こすのかをまとめること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	脳死・臓器移植問題	人間の心はどこに宿るのか。生命倫理と心身論	
	この回の到達目標	脳死問題は、私たちの「自我」がどこにあるのか、根源的な問題を突きつけていることを理解する	
	事前学修	クレア・シルヴィア『記憶する心臓』（角川書店）を読んでくること	120分
	事後学修	臓器移植ネットワークのデータで、移植者のみならず移植希望者の数を確認すること	120分
14	新しい「死」	安楽死と生命の尊厳、現代医療技術がもたらす新しい死のあり方と意味	
	この回の到達目標	現代の医療技術の進展によって、新しい「死」が生み出されていることを理解する	
	事前学修	奥野修司『魂でもいいから、そばにいて』（新潮社）を読んでくること	120分
	事後学修	家族の死について、両親などより聞き取りをすること	120分
15	授業内試験、振り返り	学期末試験及び振り返り	
	この回の到達目標	授業内容をどの程度理解していたのかを確認する	
	事前学修	授業内容の総復習	120分
	事後学修	自己採点をすること	120分

科目名	論理学 I	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
公務員試験などをはじめとする様々な就職試験・進学試験においては、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうかが問われる。これらは、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであるからだ。文章を書く場合、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要があるし、論理的な文章を読む場合には、批判的に相手の論証を読み解いていく必要がある。本講座ではこれらの論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう～。

【授業方法】
対面授業により、講義と演習を交互に行ないます。まず動画1では基本的な形式論理学の原理を説明します。次に動画2で、徹底的に演習した後、具体的な応用問題を考えていただきます。動画3では、解答を詳しく説明します。最後に課題（フォーム課題）を出しますので期日まで提出してください。「考えるより慣れていきましょう」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習してくこと。事後、質問を受けつけます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようなになっているか分析し反論することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、試験により評価する。 (60点)	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題（フォーム課題）への取り組みの成果を評価する。（5点×8回＝40点）	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回授業のはじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	パワポプリント教材を使用します。				

【オフィスアワー】
月曜日 4 限、授業終了後とgoogleclassroomにて対応します。 egawa.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	：論理学とは何か	
	この回の到達目標	論理学はトレーニングであることを理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読玩味すること。（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンス動画をよく復讐すること。（2時間）	120分
2	1 直接推理	（1）対当推理	
	この回の到達目標	対当推理の理解。	
	事前学修	プリントで対当推理とは何かを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	4つの対当推理を理解しておくこと。（2時間）	120分
3	演習	（矛盾対当・反対対当・小反対対当・大小対当推理関する具体的な問題）	
	この回の到達目標	実生活での推理解。	
	事前学修	問題を考えてくること。（2時間）	120分
	事後学修	もう一度、問題を復習すること。（2時間）	120分
4	変形推理	（2）変形推理（E判断、I判断、A判断）	
	この回の到達目標	変形推理解。	
	事前学修	「変形推理とは何か」をプリントで見えておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	変形推理のタイプを区別できるように復習すること。（2時間）	120分
5	演習	演習（E判断、I判断、A判断の変形推理）	
	この回の到達目標	実践能力開発。	
	事前学修	問題を考えておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	該当問題の復習（2時間）	120分
6	2 間接推理	（1）定言三段論法（定言三段論法の構造と、格式）	
	この回の到達目標	三段論法の格・式の構造理解。	
	事前学修	三段論法に関するプリントの該当箇所をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容（格式、妥当な推理）の復習、（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	演習	(ベン図による妥当性判定に関する練習問題)	
	この回の到達目標	妥当性判定トレーニング。	
	事前学修	妥当性に関する練習問題をやっておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	ベン図による練習問題の復習(2時間)	120分
8	仮言三段論法	(2) 仮言三段論法	
	この回の到達目標	仮言三段論法の構造理解。	
	事前学修	仮言三段論法とは何かを把握しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容の復習(2時間)	120分
9	演習	(仮言三段論法の問題)	
	この回の到達目標	仮言三段論法の実践トレーニング。	
	事前学修	具体的問題を見ておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	問題練習の復習。(2時間)	120分
10	選言三段論法	(3) 選言三段論法	
	この回の到達目標	選言三段論法の構造理解。	
	事前学修	「選言三段論法とは何か」を調べておこう。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容復習(2時間)	120分
11	演習	(選言三段論法に関する問題)	
	この回の到達目標	選言三段論法の実践トレーニング。	
	事前学修	配布プリントの選言三段論法に関する問題を考えておく(2時間)	120分
	事後学修	授業復習(2時間)	120分
12	3 命題論理	(1) 論理語 (2) 命題計算	
	この回の到達目標	命題計算の意味。	
	事前学修	命題論理について把握しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容復習(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	演習		(命題計算)
	この回の到達目標	命題計算の実践。	
	事前学修	問題予習 (2時間)	120分
	事後学修	問題復習 (2時間)	120分
14	模擬試験 振り返り		模擬試験及び振り返り
	この回の到達目標	総復習。	
	事前学修	今までの授業をまとめておこう! (2時間)	120分
	事後学修	回答をよく理解しておこう。 (2時間)	120分
15	試験本番 解説		授業内試験と解説
	この回の到達目標	試験と解説。	
	事前学修	総復習の内容を完ぺきにする。 (2時間)	120分
	事後学修	もう一度やりなそう。 (2時間)	120分

科目名	論理学 I	担当者	佐藤 陽祐	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうかが問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行います		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようになっているか分析し反論することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義で学んだ内容について問う試験を行います。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	論理学は積み重ねの学問ですので、コツコツと学習を進めることのできる人の履修を望みます。授業時に出席を確認し、平常点として評価対象とします。	50										50
その他()	学部として認められている理由は別として、4回以上の欠席はどのような理由であれ単位の認定を不可とします。全員がテキストを読み込んできていることを前提にこの授業は進行します。したがって、予習は不可欠となります。また、言葉の真の意味において成績評価を「とてつもなく厳しく」行うので、簡単に単位を取得できるとは思わないでもらいたい。努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	20	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に対する採点、講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
まったくゼロからの論理学	野矢茂樹	岩波書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
佐藤までご連絡をいただきまして、アポを取っていただければと思います。 （sato.yosuke@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	担当講師の自己紹介、講義の進め方、試験の内容、成績評価の方法等について説明の上、論理学という学問分野について概説的な説明を行います。	
	この回の到達目標	論理学という学問がどのような学問であるのか、理解すること。	
	事前学修	論理学から何を学びたいと思っているのか、シラバスを熟読し考えておくこと。	60分
	事後学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
2	論理学の特徴、論理とは何かについて	論理学の特徴、そもそも論理とは何なのかについて講義を行います。また、論証の正しさと命題の真偽を区別し、命題の記号化の練習を行う。	
	この回の到達目標	論証の正しさと命題の真偽を区別し、自然言語によって表現された命題を記号を用いて表現できるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
3	命題論理で何をするかを確認する	論理式の使い方、表記の仕方について学ぶ。	
	この回の到達目標	論理式の使い方、表記の仕方を理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
4	真理関数と真理値分析	真理関数とは何かを理解し、真理値分析について学ぶ。	
	この回の到達目標	真理値分析をできるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	真理値分析ができるように復習する。	120分
5	論理的同値と推論式の妥当性について①	論理的同値と推論式の妥当性について学ぶ。	
	この回の到達目標	論理的同値を理解し、推論式の妥当性を自分でチェックできるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	推論式の妥当性チェックの問題を解いてもらいます。	180分
6	恒真式と推論式の妥当性について②	恒真式を理解し、より複雑な推論式の妥当性について学ぶ。	
	この回の到達目標	恒真式を理解し、より複雑な推論式の妥当性をチェックできるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	推論式の妥当性チェックの問題を解いてもらいます。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	シェーファー棒の使い方について学ぶ	シェーファー棒の使い方について学ぶ	
	この回の到達目標	シェーファー棒を使った論理式を書けるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
8	十分条件と必要条件、条件命題の逆・裏・対偶について	十分条件と必要条件、条件命題の逆・裏・対偶について学ぶ。	
	この回の到達目標	十分条件と必要条件、条件命題の逆・裏・対偶について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
9	排中律と矛盾律、否定を用いた問題の解決法について	排中律と矛盾律について理解し、否定を用いた自然言語の判断について学ぶ。	
	この回の到達目標	排中律と矛盾律について理解し、否定を用いた自然言語の判断について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
10	述語論理の基礎①	述語論理の基礎について学ぶ。述語論理の表記について。	
	この回の到達目標	述語論理の基礎的内容、述語論理の表記について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
11	自然言語の論理式への翻訳	自然言語を論理式へ翻訳する方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	自然言語を論理式へ翻訳できるようになる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	自然言語を論理式へ翻訳する問題を解いてもらいます。	120分
12	多重量化について	多重量化とその表記法について学ぶ。	
	この回の到達目標	多重量化とその表記法について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	古典論理では解決できない問題について	古典論理では解決できない問題を述語論理によって解消することを学ぶ。	
	この回の到達目標	多重量化を用いた論理式の扱いに慣れる。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
14	述語論理の意味論について	述語論理の意味論について学ぶ。	
	この回の到達目標	述語論理の意味論について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
15	講義の総括を行う	学期中に学んだ論理学について総括的に復習を行う。	
	この回の到達目標	学期中に学んだ内容について復習する。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。	120分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。	120分

科目名	論理学 I	担当者	津留 竜馬	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面授業で、講義形式で行う。理解を確実なものとするため、授業中に練習問題を解いてもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようになっているか分析し反論することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標 ①②③が達成できているかどうかについて、小テストで確認する。	30	30	40								100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストに対するフィードバックを次回の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了時 tsuru.ryoma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論証における論理語	論証の中にふくまれる論理的な言葉	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理語の働きを理解する。	
	事前学修	シラバス全体に目を通しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、ノートにまとめておく。	120分
2	論理と真偽	文の真偽が決まるメカニズム	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の真偽がどのようにして決まるのかを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて整理した上で、今回の内容について考えておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、すべて正解できるようにしておく。	120分
3	論証と真偽	論理的な言葉と真偽	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的な言葉と真理の関係性を理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をまとめて、今回の授業時に参照できるように準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をすべて解けるようにしておく。	120分
4	論証と同値な命題	論理的に同値となる命題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的同値性について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるよう準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をもう一度解いておく。	120分
5	論証と「言い換え」	論理と同値変形	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同値変形について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容を復習して整理して、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、すべて正解できるようにしておく。	120分
6	文における名前と述語	名前と述語の働き	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名前と述語の働きを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論証における「すべて」と「ある」	全称文と存在文	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、全称文と存在文について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
8	論証と否定	否定語の働き	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理における否定語の働きを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
9	論証と関係をあらわす言葉	関係述語	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係を表す言葉の働きを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
10	「すべて」と「ある」と他の論理語	全称と存在と他の論理語との関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、全称と存在が他の語とどのようにかわるかを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
11	様々な文の論理構造	文の論理構造	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の論理構造を読み取れるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をすべて解きなおして全問正解できるようにしておく。	120分
12	文の真偽を定めるもの	名前の解釈と述語の解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の真偽を定めるものを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「すべて」と「ある」の解釈	全称文と存在文の真偽	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、全称文と存在文の解釈を理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
14	複雑な文の真偽	複合文の解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合文の解釈を理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
15	論証と論理	論証を論理的に読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論証と読み取れるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
公務員試験などをはじめとする様々な就職試験・進学試験においては、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうかが問われる。これらは、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであるからだ。文章を書く場合、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要があるし、論理的な文章を読む場合には、批判的に相手の論証を読み解いていく必要がある。本講座ではこれらの論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう～。

【授業方法】
対面授業により、講義と演習を交互に行ないます。まず、基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習した後、具体的な応用問題を考えていただき、その後、解答を詳しく説明します。最後に課題（フォーム課題）を出しますので期日まで提出してください。「考えるより慣れていきましょう！」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習しておくこと。 事後、質問を受けつけます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。		2	2	2	2			
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。		2	2	2	2			
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。		2	2	2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題（フォーム課題）への取り組みの成果を評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	パワポプリント教材を使用します。				

【オフィスアワー】
月曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。egawa.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期ガイダンス・導入講義	後期の論理学では何を学修するのか。	
	この回の到達目標	後期授業の大まかな把握。	
	事前学修	配布プリントの該当箇所をよく読んでおく。（2時間）	120分
	事後学修	論証図について授業中に取り上げた問題等を復習する。（2時間）	120分
2	論証の構造	論証の構造と論証図・演習	
	この回の到達目標	論証図の把握。	
	事前学修	論証の構造と論証図について把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容復習。（2時間）	120分
3	演繹と推測	演繹と推測の違い・演習	
	この回の到達目標	演繹と推測の違いについての把握。	
	事前学修	仮説とは何かを把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業の復習（2時間）	120分
4	仮説形成	具体的問題演習	
	この回の到達目標	証拠・説明・仮説・前提・他の仮設の消去の関係。	
	事前学修	証拠・説明・仮説・前提・他の仮設の消去について把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	否定・反対・両立不可能について復習（2時間）	120分
5	否定とは何か	否定と反対の演習	
	この回の到達目標	否定と反対と両立不可の把握。	
	事前学修	「かつ」と「または」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分
6	ド・モルガンの法則の基礎	(1) 「かつ」と「または」 (ド・モルガンの法則1) (2) 「すべて」と「存在する」 (ド・モルガンの法則2)	
	この回の到達目標	ド・モルガン（2）の把握。	
	事前学修	「すべて」と「存在する」／「すべて」と「存在する」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ド・モルガンの法則の応用	複雑なド・モルガンの法則の応用	
	この回の到達目標	ド・モルガンの法則の複雑問題の把握。	
	事前学修	2つド・モルガンの法則のとは何か予習しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	逆・裏・対偶を具体的な問題を通じてよく理解しておこう。（2時間）	120分
8	演習	ド・モルガンの法則を用いた具体的問題の解法	
	この回の到達目標	条件連鎖の構造把握。	
	事前学修	条件連鎖の構造を予習しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業復習（2時間）	120分
9	条件構造	逆・浦・対偶	
	この回の到達目標	逆・浦・対偶のトレーニング。	
	事前学修	問題を事前に解いておこう。（2時間）	120分
	事後学修	問題1～4を復習しよう。（2時間）	120分
10	条件連鎖	条件連鎖による推理	
	この回の到達目標	条件連鎖の理解。	
	事前学修	「条件連鎖」をよく読んでおこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体例の復習。（2時間）	120分
11	演習	条件構造・条件連鎖による具体的推理の理解	
	この回の到達目標	条件構造を持つ推理の理解。	
	事前学修	消去法とは何かを把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体例・演習の復習。（2時間）	120分
12	推論の技術	存在文の扱い方	
	この回の到達目標	存在文を含む推論の理解。	
	事前学修	「存在文とは何か」を把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体的問題をもう一度独力で解答してみよう。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	消去法	具体的問題による消去法の演習	
	この回の到達目標	消去法の演習	
	事前学修	プリントの予習（2時間）	120分
	事後学修	傾向と対策(1)復習（2時間）	120分
14	背理法	具体的問題による背理法を用いた証明の演習	
	この回の到達目標	背理法の理解。	
	事前学修	プリントの予習（2時間）	120分
	事後学修	背理法の復習（2時間）	120分
15	学期末試験と解説	試験と解説	
	この回の到達目標	後期理解度の最大発揮。	
	事前学修	試験の傾向と対策を徹底的に理解しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	試験復習（2時間）	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	佐藤 陽祐	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストを用いた講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。						2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義で学んだ内容について問う試験を行います。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	論理学は積み重ねの学問ですので、コツコツと学習を進めることのできる人の履修を望みます。授業時に出席を確認し、平常点として評価対象とします。	50										50
その他()	学部として認められている理由は別として、4回以上の欠席はどのような理由であれ単位の認定を不可とします。全員がテキストを読み込んできていることを前提にこの授業は進行します。したがって、予習は不可欠となります。また、言葉の真の意味において成績評価を「とてつもなく厳しく」行うので、簡単に単位を取得できるとは思わないでもらいたい。努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	20	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に対する採点、講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
				参考書	推奨
				参考書	推奨
				教科書	必携
				教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
佐藤までご連絡をいただきまして、アポを取っていただければと思います。 (sato.yosuke@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	担当講師の自己紹介、講義の進め方、試験の内容、成績評価の方法等について説明の上、論理学という学問分野について概説的な説明を行います。	
	この回の到達目標	論理学という学問がどのような学問であるのか、理解すること。	
	事前学修	論理学から何を学びたいと思っているのか、シラバスを熟読し考えておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
2	接続の論理について①	さまざまな接続関係として、接続詞によって示される論理のあり方について学ぶ。	
	この回の到達目標	接続詞によって示される論理のあり方について学ぶ。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
3	接続の論理について②	接続の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	自然言語において論理が示される接続の構造について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
4	接続の論理について③	接続関係や構造にもとづいた議論の組み立て方について学ぶ。	
	この回の到達目標	接続関係や構造にもとづいた議論の組み立て方について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
5	論証の構造と評価	論証とは何なのか、論証の構造、正しい論証と誤った論証の判断について学ぶ。	
	この回の到達目標	論証とは何なのか、論証の構造、正しい論証と誤った論証の判断について理解を深める。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
6	演繹と推測	演繹的推論について学ぶ。	
	この回の到達目標	演繹的推論について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	価値評価について	論証における価値評価について学ぶ。	
	この回の到達目標	論証における価値評価について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
8	否定について	演繹において否定がもたらす効果について学ぶ。	
	この回の到達目標	演繹における否定の役割について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
9	条件構造について	条件構造を持つ命題や文章について学ぶ。	
	この回の到達目標	条件構造を持つ命題や文章について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
10	推論の技術について	正しい推論の方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	正しい推論の方法について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
11	議論における批判について	議論における批判の意義や論理との関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	議論における批判の意義や論理との関係について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと。	120分
	事後学修	自然言語を論理式へ翻訳する問題を解いてもらいます。	120分
12	論理的な文章を書く方法について	論文など論理的な文章を書く方法論について学ぶ。	
	この回の到達目標	論文など論理的な文章を書く方法論について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日常言語における論理の妥当性を測る訓練①	文章を読み、論理の妥当性について検討する方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	文章を読み、論理の妥当性について検討する方法について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
14	日常言語における論理の妥当性を測る訓練②	より難解な文章を読み、その論理の妥当性について判断する方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	より難解な文章を読み、その論理の妥当性について判断する方法について理解する。	
	事前学修	教科書の指定の箇所を事前に読み込み、何がわからないかを明らかにしておくこと	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
15	講義の総括を行う	学期中に学んだ論理学について総括的に復習を行う。	
	この回の到達目標	学期中に学んだ内容について復習する。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。	120分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	津留 竜馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面授業で、講義形式で行う。理解を確実なものとするため、授業中に練習問題を解いてもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標 ①②③が達成できているかどうかについて、小テストで確認する。	30	30	40								100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストに対するフィードバックを次回の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了時 tsuru. ryoma@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論証における論理語	論証の中にふくまれる論理的な言葉	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理語の働きを理解する。	
	事前学修	シラバス全体に目を通しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、ノートにまとめておく。	120分
2	論証と推論	推論とは何か	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推論とは何かを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて整理した上で、今回の内容について考えておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、すべて正解できるようにしておく。	120分
3	論証のなかの前提	推論と前提	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推論における前提とは何かを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をまとめて、今回の授業時に参照できるように準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をすべて解けるようにしておく。	120分
4	論証のなかの結論	推論と結論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推論の結論とは何かを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるよう準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をもう一度解いておく。	120分
5	論証と連言	連言がはいった推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連言について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容を復習して整理して、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおして、すべて正解できるようにしておく。	120分
6	論証と選言	選言がはいった推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選言について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論証と含意	含意がはいた推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、含意について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
8	論証と否定	否定がはいた推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理における否定語の働きを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
9	論証と全称	全称がはいた推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、全称について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
10	論証と存在	存在がはいた推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、存在について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
11	様々な論理語がはいた論証	様々な論理語がはいた推論	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複雑な推論を理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題をすべて解きなおして全問正解できるようにしておく。	120分
12	論証の健全性	推論の健全性	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、健全性について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論証の完全性	推論の完全性	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完全性について理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
14	論証と証明	証明とは何か	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、証明とは何かを理解する。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分
15	論証と論理	論証を論理的に読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論証と読み取れるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめて、今回の授業時に参照できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業中に解いた問題を解きなおしておく。	120分

Ⅲ群

外国語科目

Ⅲ群

外国語科目

科目名	英語A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。英語Aのみの受講を希望する場合には、初回授業出席時に必ず相談をして下さい。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表・ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での発言や任意課題の提出あるいはグループワークやペアワークなど、授業にどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点后に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて。また、必要に応じて、NUメール（itakura.toru11@nihon-u.ac.jp）やGoogle Classroom内のコメントでも質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(1) 1章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(2) 1章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(3) 1章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(1) 2章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(2) 2章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(3) 2章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (1) 3章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (2) 3章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (3) 3章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum (1) 4章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(2) 4章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		10分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(3) 4章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		10分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		10分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。		60分
	事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。		10分

科目名	英語A	担当者	小池 祐子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
原則，英語Bと通年で履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークおよびグループワークを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Effective Approaches to Grammar and Reading on the TOEIC Test -New Edition-	西谷敦子他	朝日出版社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後またはeメール（koike.yuko@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	科目の内容および成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、科目の目的および内容を理解し、これからの学修に繋げることができる。	
	事前学修	シラバスおよび教科書に目を通し、科目の概要をつかんでおく。	30分
	事後学修	科目内容を再度確認し、今後の学習計画を立てる。	30分
2	Section 1 文法・語法 Unit 1 品詞	文法・語法の学習と運用、およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
3	Section 1 文法・語法 Unit 1 品詞	文法・語法の学習と運用、およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
4	Section 2 読解 Unit 1 Advertisements	小テスト (Section 1 Unit 1) 文法・語法の学習と運用、およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
5	Section 1 文法・語法 Unit 2 動詞の形①時制	小テスト (前置詞の熟語的用法) 文法・語法の学習と運用、およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
6	Section 1 文法・語法 Unit 2 動詞の形①時制	文法・語法の学習と運用、およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Section 2 読解 Unit 2 Letters, E-mails, & Text message chains	小テスト (Section 1 Unit 2) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
8	Section 1 文法・語法 Unit 3 動詞の形②能動態・受動態と分詞	小テスト (前置詞の熟語的用法) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
9	Section 1 文法・語法 Unit 3 動詞の形②能動態・受動態と分詞	文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
10	Section 2 読解 Unit 3 Notices, Instructions, & Announcements	小テスト (Section 1 Unit 3) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
11	Section 1 文法・語法 Unit 4 動詞の形③その他いろいろ	小テスト (前置詞の熟語的用法) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
12	Section 1 文法・語法 Unit 4 動詞の形③その他いろいろ	文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Section 2 読解 Unit 4 Articles & Web pages	小テスト (Section 1 Unit 4) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法・語法を習得し、それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み、問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
14	前期試験	授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでに学んだ知識およびスキルを使い、問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	これまでの学習の総復習を行う。	120分
	事後学修	試験の復習をする。	30分
15	振り返り	試験および本科目の振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学習を振り返り今後の学習に繋げることができる。	
	事前学修	今学期の学習を振り返る。	30分
	事後学修	本科目で学んだことおよび自律的学習について振り返り、後期の学習に繋げる。	30分

科目名	英語A	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
再履修クラス。授業時には必ず辞書（スマートフォンや携帯電話は不可）を携帯してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）を実施します。授業内に実施したテストはすべて返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的な表現や文法を身に着けるため、ペアワークまたはグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価します。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを語彙力チェックや小テストにより評価します。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	発言・音読・板書・発表などを参加点としてカウントします。ペアやグループワークの場合は最も活躍したチームが参加点を得ます。その合計が評価に反映します。そのために座席指定となります。授業にどの程度(頻度)参加したかにより、到達目標①②にかかわる積極的な学習態度が身についているかを評価します。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Kickoff English Mystery (『キックオフミステリー』—楽しく学べる総合英語	Terry O’Brien, 三原京他	南雲堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
問い合わせはできるだけ授業前後に教室かメールでお願いします。onizuka.masako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英語学習について	授業の進め方や評価方法について説明する。受講についての諸注意をする。	
	この回の到達目標	授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考える。	
	事前学修	テキストの「はじめに」と「本書の使い方」を熟読し、その内容を理解する。	60分
	事後学修	もう一度テキストの「はじめに」と「本書の使い方」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	ニュースのアナウンス	Unit 1 An Accident ニュースのアナウンスで使われる英語表現を理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、交通事故を描写する英語表現を学ぶ。繰り返し音読して覚える。	
	事前学修	テキスト6-7頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 1の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	現在形と過去形の注意すべき表現	Unit 1 An Accident 現在及び過去の動作・状態を表す表現、一般的事実や諺の英語、過去の反復動作を英語を理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、一般的事実や諺を表現する現在形と反復動作を表す過去形を理解する。	
	事前学修	テキスト8-10頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 1の後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	事故・事件を報道する英語	Unit 2 Did You See Anything? 視聴者に協力を訴えるニュース報道の英語を把握できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、繰り返し聞いて、ただ事実を伝えるニュース英語ではなく、人の心に訴える報道を伝える英語であることを理解する。	
	事前学修	テキスト11-12頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 2の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	There is / are 構文	Unit 2 Did You See Anything? 基本的な構文の使い方を振り返り、慣用表現が使えるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、There is/are の使い方、さらに否定文、疑問文、未来形を学び、慣用表現を理解する。	
	事前学修	テキスト13-15頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 2の後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	会社の概要（仕事内容）	Unit 3 The Bryson Engineering Company 会社の概要及び危機管理を表現する英語を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、一人の経営者の目を通して会社の概要を表す英語を理解する。	
	事前学修	テキスト16-17頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 3の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	冠詞と代名詞		Unit 3 The Bryson Engineering Company 不定冠詞・定冠詞と単数名詞・複数名詞の使い方を習得し、人称代名詞と指示代名詞の区別ができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、英文読解で注意すべき冠詞と代名詞の使い方を学ぶ。文中の紛らわしい人称代名詞と指示代名詞の区別ができる。		
	事前学修	テキスト18-20頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 3の後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
8	雑誌者の企業インタビュー		Unit 4 An Interview 企業インタビューを通して、質問と回答（説明文）の仕方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、インタビュー時の質問に対する長い回答（説明）と人物描写を学ぶ。		
	事前学修	テキスト21-22頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 4の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
9	加算名詞と不可算名詞		Unit 4 An Interview 先に学習した冠詞と可算名詞・不可算名詞の使い方、名詞の種類と使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、固有名詞、物質名詞、抽象名詞の区別ができるようになる。		
	事前学修	テキスト23-25頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 4 後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
10	事件の真相に戸惑う警察		Unit 5 The Police Are Puzzled. 部下を叱咤激励する警察署長の話から説得力と力強さを感じさせる英語を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、比較表現を学び、同等比較、比較級、最上級を理解する。		
	事前学修	テキスト26-30頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 5で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
11	事件の目撃証言 形容詞と副詞の用法		Unit 6 Two Witnesses 二人の異なる目撃証言の英語を理解し、文章構造を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、文中の3種類の形容詞―性質形容詞、数量形容詞、代名形容詞―と副詞の用法を理解できる。		
	事前学修	テキスト31-35頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 6で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
12	送迎を頼まれたドライバー 未来形と完了形		Unit 7 The Car Driver ドライバーの証言、時間の流れの沿った説明表現を学習し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、未来形、現在形と現在完了形で表す未来表現、完了形（現在完了形、過去完了形、未来完了形）を使い分けることができる。		
	事前学修	テキスト36-40頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 7 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。前期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
	事前学修	前期に学習した語彙（単語、熟語）と発音記号を覚える。	60分
	事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。文章の構成（起承転結）、慣用句、会話表現、英問英答などについての振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、前期に学習した慣用句、文章の構成、会話表現などを確実に習得する。さまざまな状況の英文を理解する。	
	事前学修	前期に学習したすべてこのことを復習し、習得する。	60分
	事後学修	間違えた問題を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	前期の振り返り	前期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるので、学生は準備しておく。後期の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
	事前学修	前期に学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語A	担当者	矢澤 オーリア	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening & Speaking I.B.

【授業方法】
反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Class discussionとGoogle Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1		
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含 むグループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参 加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修 態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テキストの課題で目標達成度を確認。授業動画でテキストの解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Business Partner with MyEnglishLab online workbook, Pearson, A2+		Pearson	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や相談がある場合には olbu@yahoo.com にメールをください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス Learn about the objectives of the class. Get to know each other.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare to introduce a partner in English. Prepare possible questions to ask your partner about themselves. (30min)		30分
	事後学修	Registration to MyEnglishlab		30分
2	Unit 1.1 Traveling at work.	Project: Helping a business traveler. Event management.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
3	Unit1.3 Communication Skills.	Task: Practice making small talks with colleagues. Business Skills. Task: Practise explaining and solving IT problems		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
4	Business Workshop.	Task: Rearrange plans. Review Unit 1		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
5	Unit 2.1 Business location.	Project: Research the location for a company. Visiting Singapore. Speaking: Describing problems.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
6	2.3 Communication skills.	Task: Clarifying information in a meeting. Task: Opening a meeting.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Business workshop		Choose a location.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Preparation for midterm test		30分
8	Midterm		Review of Units 1-2	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
9	Unit 3 Retail		Project: A survey about shopping habits. Unit 3.2 The retail experience.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
10	Communication Skills.		Task: Dealing with workflow. Unit 3.4 Business Skills. Task: A presentation.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
11	Business Workshop. ent.		Task: Design your own pop-up store.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Review of unit 3		30分
12	Unit 4 Work patterns.		Project: Researching work patterns. Unit 4.2 Executives at work. Women in Business.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 4.3 Communication skills.	Task: Discussing proposals at meetings.Business skills. Task: Roleplay a phone call.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分
14	Business workshop.	Negotiate changes.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Review of Units 1-6	30分
15	Final Test Review	Final test units 3-4	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Relax	30分

科目名	英語A	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Classes will be conducted Face-to-Face in the classroom observing Covid-19 prevention measures. Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group work

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments in class to students on their performance and written feedback on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. If you have questions see me Saturday 3rd period or 4th period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		Experience at an international company training clients in business communication The content of this course will provide the student with a foundation for building human relationships in the workplace.

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Course Introduction、及び導入講義	Instructor & course introduction; ice breaking activities; introducing yourself to others	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to understand the content and style of the class. Students will be able to introduce themselves to others. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	Personal introductions	Introducing yourself/ Personal information	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to introduce themselves and question others for basic personal information. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	Formal introductions	Formal language used in the workplace for introductions; job titles and duties	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use more formal language to introduce themselves and others. They will also be able to initiate and sustain a short conversation about jobs and duties. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	What a life!	Daily life as a student	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about their daily routine. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson.	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson.	30分
5	What a life!	Discussing typical daily life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use time expressions to talk about daily activities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	Free-time	Hobbies	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about things they can do and things they like to do. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Free-time		Leisure activities; Listening Test 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about free-time activities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Places		Talking about your hometown and what you can do there.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to describe their hometown and its facilities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Places		Hometown facilities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about the available facilities in their hometown area. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Getting around		Directions	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about their commute to college. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Getting around		Ask for and give directions	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to ask for for and give directions. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Shopping		Describing shopping habits	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to describe their shopping style. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Shopping	Shopping habits	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to ask for assistance from shop clerks when shopping. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Evaluation、まとめ	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	英語B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。英語Bのみの受講を希望する場合には，初回授業参加時に必ず相談をして下さい。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表・ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での発言や任意課題の提出あるいはグループワークやペアワークなど、授業にどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NUメール（itakura.torull@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントで質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (1) 5章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (2) 5章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (3) 5章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (1) 6章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (2) 6章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans(3) 6章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(1) 7章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	7. Water, Water, Everywhere(2) 7章のエッセイの中盤を精読します。 英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(3) 7章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(1) 8章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(2) 8章のエッセイの中盤を精読します。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分	
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分	
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(3) 8章のエッセイの結論部を精読します。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分	
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分	
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業の振り返り。 前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分	
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分	
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	後期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分	
	事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	10分	

科目名	英語B	担当者	小池 祐子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
原則、英語Aと通年で履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークおよびグループワークを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Effective Approaches to Grammar and Reading on the TOEIC Test -New Edition-	西谷敦子他	朝日出版社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後またはeメール（koike.yuko@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス Section 1 文法・語法 Unit 5 前置詞と接続詞	科目の内容および成績評価方法等について説明する。 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 科目の目的および内容を理解し、これからの学修に繋げることができる。また, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	シラバスに目を通して科目の概要をつかんでおく。 指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
2	Section 1 文法・語法 Unit 5 前置詞と接続詞	文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
3	Section 2 読解 Unit 5 Double Passages	小テスト (Section 1 Unit 5) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
4	Section 1 文法・語法 Unit 6 代名詞と関係詞	小テスト (前置詞の熟語的用法) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
5	Section 1 文法・語法 Unit 6 代名詞と関係詞	文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
6	Section 2 読解 Unit 6 Tripple Passages	小テスト (Section 1 Unit 6) 文法・語法の学習と運用, およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 文法・語法を習得し, それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み, 問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し, 文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Section 1 文法・語法 Unit 7 比較と可算・不可算名詞	小テスト（前置詞の熟語的用法） 文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
8	Section 1 文法・語法 Unit 7 比較と可算・不可算名詞	文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
9	Section 1 文法・語法 Unit 8 長文穴埋め問題（Part 6）	小テスト（Section 1 Unit 7） 文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
10	Section 1 文法・語法 Let's Review!	小テスト（前置詞の熟語的用法） 文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
11	Section 1 文法・語法 Let's Review!	文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
12	Section 2 読解 Let's Review!	小テスト（前置詞の熟語的用法） 文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Section 2 読解 Let's Review!	文法・語法の学習と運用，およびTOEICのフォーマットにおける読解演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，文法・語法を習得し，それらを活用して英文を正しく理解することができる。	
	事前学修	指定のユニットを読み，問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，文法・語法の知識を固め読解力を深める。	30分
14	後期試験	授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，これまでに学んだ知識およびスキルを使い，問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	これまでの学習の総復習を行う。	120分
	事後学修	試験の復習をする。	30分
15	振り返り	試験および本科目の振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，今学期の学習を振り返り今後の学習に繋げることができる。	
	事前学修	今学期の学習を振り返る。	30分
	事後学修	本科目で学んだことおよび自律的学習について振り返り，今後の英語学習における課題を見出す。	30分

科目名	英語B	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
再履修クラス。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的表現を習得するために、ペアワークやグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、語彙力チェックや小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	発言・音読・板書・発表などを参加点としてカウントします。グループワークやペアワークの場合は最も活躍したチームが参加点を獲得します。その合計が評価に反映します。そのため座席指定となります。授業にどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ペアワーク及びグループワーク終了後、学生同士でその成果を評価し合います。授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Kickoff English Mystery(『キックオフミステリー』一楽しく学べる総合英語)	Terry O’Brien, Key Mihara 他	南雲堂	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や問い合わせはできるだ授業前後に教室かメールでお願いします。onizuka.masako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英語のリズムを身に着ける	前学期に学習した語彙力をチェックする。よく知られている短い英詩や早口言葉を全員で音読し、暗唱する。声に出して繰り返し、英詩を暗唱することで、英語のリズムを自然に身に着けることができる。 Unit 8 Office Security	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考えることができる。	
	事前学修	前期に学んだテキストの内容を振り返り、確認する。テキスト41-42頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	もう一度テキストの「はじめに」と「本書の使い方」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてウェブサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	オフィス・セキュリティ	Unit 8 Office Security 使役動詞や知覚動詞を含む受動態、使役動詞（have, make, let, get）を用いた英文を理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、短い英文の中に書かれている筆者の見解を読み取ることができる。文中の受動態や使役動詞の使われ方を学ぶ。	
	事前学修	テキスト43～45頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 8 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	回復する女性の意識	Unit 9 Her Memory Is Coming Back! 自分の行動を振り返っての供述から、時間の流れを読み取ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、状況説明の文と自分の行動を語る直接話法の文のつながりを学び、理解する。	
	事前学修	テキスト46～47頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く	60分
	事後学修	Unit 9の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	直接話法と間接話法	Unit 9 Her Memory Is Coming Back! 直接話法から間接話法へ、間接話法から直接話法への書き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の書き換えの場合に生じる人称代名詞の変化、時制の変化及び一致を理解できるようにする。	
	事前学修	テキスト48～50頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 9の後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	刑事の質問と真相究明	Unit 10 Is Ted Bryson a Criminal? 刑事の鋭い質問とそれに答える参考人との会話から真相に迫る文章の構成を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、先に学習した直接話法を再度学習し、事件の急展開を文章から味わうことができる。	
	事前学修	テキスト51～52頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 10の 前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	進行形と助動詞	Unit 10 Is Ted Bryson a Criminal? 進行形のさまざまな用法（現在・過去・完了・未来・近い未来）と助動詞を学び、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、進行形が現在・過去・完了・未来の進行している動作及び近い未来を表すことと、数ある助動詞の使い方を理解する。	
	事前学修	テキスト53～55頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。	60分
	事後学修	Unit 10 の後半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	女性の正体		Unit 11 Who Is She? 事件の真相を知る女性のこれまでの歩みを表現する文章を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事件の真相に迫る文章の構成を学び、読む人に与える納得感を理解する。		
	事前学修	テキスト56～57頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 11の前半で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
8	不定詞と動名詞		Unit 11 Who Is She? 不定詞の3方法の区別、動名詞の文の中での用法、不定詞及び動名詞と動詞との組み合わせによる使い方と違いについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞の名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法、文の主語・補語・目的語及び前置詞の目的語となる動名詞の用法を理解する。		
	事前学修	テキスト58～60頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 11の後半 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
9	説得力のある語り 前置詞と接続詞		Unit 12 Do You Realise Who You Are? 警察官の語る説得力のある力強い英語を学ぶ。 前置詞と接続詞の用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞と接続詞の文の中での位置と用法（前置詞は時・場所・理由・方法などを表す、接続詞は語・句・文をつなぐ）を学習し、理解する。		
	事前学修	テキスト61～65頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 12 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする		30分
10	医師の説明 命令文と感嘆文		Unit 13 How Are You? 医師により患者の容態を説明する英語を理解する。 命令文と感嘆文の用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、命令文が人に何かを命令、禁止、提案する表現であること、感嘆文が驚き、悲しみ、喜びなどの感情を強調して伝える表現であることを学習し、理解する。		
	事前学修	テキスト66～70頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 13 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
11	謎の失踪 関係代名詞と関係副詞		Unit 14 A Face in the Crowd 病院内から被害者（且つ参考人）の失踪の描写を学習する。関係詞の働きを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞と関係副詞の用法とその違いを理解する。		
	事前学修	テキスト71～75頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 14 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分
12	レポーターの報告による事件の終結 仮定法		Unit 15 Did You Watch TV Last Night? レポーターの語る英語を学習する。 仮定法過去と仮定法過去完了の用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一連のミステリーの流れを振り返りながら、結末をしっかりと把握する。仮定法過去と仮定法過去完了の違いを理解し、仮定法の慣用的表現を学習する。		
	事前学修	テキスト76～81頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。音声教材を聞く。		60分
	事後学修	Unit 15 で学習した語句や表現を復習し、音声教材を聞いて繰り返し音読練習をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。後期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
	事前学修	後期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。	60分
	事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。文章の構成（起承転結）、慣用句、会話表現、英問英答などについての振り返りをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した慣用句、文章の構成、会話表現などを確実に習得する。さまざまな状況の英文を理解する。	
	事前学修	後期に学習したすべてのことを復習、習得する。	60分
	事後学修	間違えた問題を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	後学期の振り返り	後期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるので、学生は準備しておく。来年度の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
	事前学修	後期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語B	担当者	矢澤 オーリア	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening & Speaking IIIB.

【授業方法】		
反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Class discussionとGoogle Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含 むグループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参 加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修 態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テキストの課題で目標達成度を確認。授業動画でテキストの解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Business Partner with MyEnglishLab online workbook, Pearson, A2+		Pearson	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や相談がある場合には olbu@yahoo.com にメールをください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス Learn about the objectives of the class. Get to know each other.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare to introduce a partner in English. Prepare possible questions to ask your partner about themselves. (30min)	30分
	事後学修	Regiatration to MyEnglishlab	30分
2	Unit 5.	Unit 5.1 Listening Un. Money. 5.2 Grammar	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分
3	Unit 5 Communication Skills.	Unit 5.3 Going cashless Unit 5.4 Preferable means of payments	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分
4	Business Workshop.	Creating an ad. Review Unit 5	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分
5	Unit 6. Teamwork	Listening. What makes a team great. Unit 6.2 Grammar	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking. about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分
6	Communication skills	Unit 6.3 Unit 6.4 Team building	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Online workbook assignment.	30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Business workshop		The amasing chair company	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Preparation for midterm test		30分
8	Midterm		Review of Units 5 & 6	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
9	Unit 7 Research and Development		Project: Design a product	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
10	Communication Skills. Presentation skills		Present your product	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
11	Business Workshop.		Task: Opena new store	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Review of unit 3		30分
12	Unit 8 Green solutions		Project: Researching green energy	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Communication skills		Task: Discussing proposals for a SDG friendly house in groups	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Grammar and comprehension quiz through Google Classroom.		30分
14	Presentation		Present your project	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Review of Units 7 & 8		30分
15	Final Test Review		Final test units 7 & (	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Online workbook assignment.		30分
	事後学修	Relax		30分

科目名	英語B	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 Listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral feedback on performance in classroom and written feedback for homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Welcome back/ Summer break、導入		Introduction of second half of the course; ice-breaking activities; talking about summer
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to understand the content and style of the course. They will also be able to converse about what they did during the summer. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	What's happening?		Talking about what's happening in your life
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe their current life. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	What's happening?		Talking about what's happening in your life
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to use the present continuous to talk about daily activities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	People		Describing people's physical appearance
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe how people look. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	People		Describing people's character
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe people's personality. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	Having fun		Invitations
	この回の到達目標	At the end of this class students will be able to make and respond to invitations. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Having fun		Making future arrangements	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss plans for the future and make arrangements. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Vacation		Memorable vacations	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about some of their most memorable trips. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Movies		English through movies	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their favorite movies. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Life stories		Talking about early memories	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to speak about their childhood memories. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Life stories		Life stories of famous people	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about famous people's lives. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Hopes and intentions		The future	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams for the future. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Hopes and intentions	After graduation	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams after they graduate. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Evaluation、まとめ	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	英語C	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回の授業に必ず出席できる学生。初回授業に出席できる学生で、WordとPower Pointの基本操作ができる学生のみ履修可

【授業方法】
毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
メールで対応します。takata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	リスニングやスピーキングに役立つサイトや参考文献の紹介	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、辞書だけでなく適切な参考書やサイトを確認するを。	
	事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
	事後学修	ガイダンスプリントの確認を行う。	60分
2	スピーキングについて	グループ創作会話 その1 英語表現の確認 文法プリント演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、場面想定ของกลุ่ม会話	
	事前学修	プリントの確認を行う。	60分
	事後学修	1分間プレゼンテーションのテーマを考える	60分
3	1分間英語プレゼンテーションについて	文法プリント 文法プリント演習 英語原稿作成。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、一つのテーマについて英語である程度の長さの文章を作成するための表現を学ぶ。	
	事前学修	表現方法の確認を行う。	60分
	事後学修	原稿の推敲を行う。	60分
4	文法確認テストとリスニングチェック	TOEIC, TOEFL文法テストとリスニングチェック 説得性のある英語表現について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、相手に伝えるための身体表現について学ぶ。	
	事前学修	文法の問題を見直す。	60分
	事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
5	英語プレゼンテーション その1	英語プレゼンテーション その1 コメント交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションの基本的な技術を学ぶ。	
	事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
	事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
6	英語プレゼンテーション その1	英語スピーチ その2 コメント交換 3分間英語プレゼンテーションについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、プレゼンテーションの基本的な技術を学び、具体的なコメントを行えるようにする。	
	事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
	事後学修	3分間プレゼンテーションのテーマを考える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	視覚的効果と具体的な表現について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、パワーポイントを使って効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技術を学ぶ。	
	事前学修	英語スピーチの原稿修正を行う。	60分
	事後学修	パワーポイントの表紙を作成する。	60分
8	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	パワーポイント作成と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、3分間英語プレゼンテーションのテーマ展開と構成の基本を学ぶ。	
	事前学修	プリントの見直しを行う。	60分
	事後学修	タイピング練習を行う。	60分
9	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 2	パワーポイント作成と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、パワーポイントの英文作成のコツを学ぶ。	
	事前学修	発表用のパワーポイントのシートを作成する。	60分
	事後学修	英文の推敲を行う。	60分
10	復習テストと発表の最終確認	文法とリスニングの復習テスト 英語プレゼンテーション 原稿推敲	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、発表前の英語プレゼンテーションの問題点を解決する。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を確認する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
11	英語プレゼンテーション その 1	英語ミニプレゼンテーション 1 学生によるコメント交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語プレゼンテーションの予行演習を行う。	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
12	英語プレゼンテーション その 2	英語ミニプレゼンテーション 2 学生によるコメント交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英語プレゼンテーション その3	英語ミニプレゼンテーション 3 学生によるコメント交換	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
14	英語プレゼンテーション その4	英語ミニプレゼンテーション 4 学生によるコメント交換 試験に備えての注意事項説明	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
15	発表についての総評とテスト	まとめと復習テスト	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、発表についての原稿とパワーポイントのシートを完成させる。	
	事前学修	発表の完成版を作る。	60分
	事後学修	テスト問題と解答の確認を行う。	60分

科目名	英語C	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
原則、C、Dを通年で受講する。

【授業方法】		
講義と演習形式。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者同士のペア・ワークと発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②の能力が身についているかどうかを、授業内の筆記試験によって確認する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②の能力が身についているかどうかを、2單元ごとの授業内の筆記試験によって確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②についての学習態度が身についているかどうかを、ペア・ワークや発表などへの参加度によって確認する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での解説解説、Google Classroomでの提示、メールでの質問に対する応答

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2	Andrew E. Bennett	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室で

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	この科目の授業内容とテキストについての説明	
	この回の到達目標	授業内容とテキストについて理解する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、テキストを入手しておく。	30分
	事後学修	テキストに目を通し、音声をダウンロードしておく。	30分
2	Unit1 Family①	Unit1をサンプルとして、Vocabulary、Dictation、Listening Comprehensionを学習しながら、この科目の学習方法を知る	
	この回の到達目標	Unit1のP11-12の内容を理解し、ユニット前半の学習方法を知る。	
	事前学修	P. 11-12の音声を聞き、できる範囲で問題を解いて来る。	30分
	事後学修	P. 11-12の音声を聞き取り、問題の正解を振り返る。	30分
3	Unit1 Family②	Unit1の後半部分をサンプルとして、Usage、問答などをペア・ワークを用いて学習し、テキストの内容と、この科目の学習方法を理解する。	
	この回の到達目標	Unit1のP. 13-14の内容を理解し、ユニット後半の学習の仕方や、自分に合った予習、復習の仕方を理解する。	
	事前学修	P. 13-14の英文の内容を把握しておく。	30分
	事後学修	前回の内容と合わせてUnit1のリスニング、英語表現を復習する。	30分
4	Unit2 Friends	友人関係についての英語表現	
	この回の到達目標	友人関係についての英語表現を身に着ける。 頻度を表す表現を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 15-16のリスニングの練習をする。 P. 17-18のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Pattern sやQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
5	Unit3 Culture	文化の違いについての英語表現 Unit1, 2のミニテスト	
	この回の到達目標	文化の違いについての英語表現を身につける。 助動詞の表現を復習し、正しく使えるようにする。	
	事前学修	P. 19-20のリスニングの練習をする。 P. 21-22のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Pattern sやQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
6	Unit4 Education	教育や学校、学習をめぐる英語表現	
	この回の到達目標	教育についての英語表現を身に着ける。 自分の意見をはっきり述べる言い方、予想外のことを伝える言い方を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 23-24のリスニングの練習をする。 P. 25-26のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Pattern sやQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit5 Sports		スポーツをめぐる英語表現 Unit3, 4 のミニテスト	
	この回の到達目標	スポーツについての英語表現を身に着ける。 自分の話が本当であることを印象付ける言い方、期待を述べる表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 27-28のリスニングの練習をする。 P. 29-30のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
8	Unit6 Work		仕事をめぐる英語表現	
	この回の到達目標	仕事についての英語表現を身に着ける。 過去、現在、未来の時間をはっきりと表す表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 31-32のリスニングの練習をする。 P. 33-34のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
9	Unit7 Food		食物や料理をめぐる英語表現 Unit5, 6 のミニテスト	
	この回の到達目標	食物についての英語表現を身に着ける。 仮定法の表現、「～次第だ」という表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 35-36のリスニングの練習をする。 P. 37-38のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
10	Unit8 Studying English		英語学習についての英語表現	
	この回の到達目標	英語学習についての英語表現を身に着ける。 問題やトラブルについての表現、目標達成についての表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 39-40のリスニングの練習をする。 P. 41-42のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
11	Unit9 Health		健康についての英語表現 Unit7, 8 のミニテスト	
	この回の到達目標	健康についての英語表現を身に着ける。 病気で休む時の言い方、それに対する同情の表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 43-44のリスニングの練習をする。 P. 45-46のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
12	Unit 10 Clothes		衣服やファッションをめぐる英語表現	
	この回の到達目標	衣服やファッションについての英語表現を身に着ける。 理由を述べる表現、条件を述べる表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 47-48のリスニングの練習をする。 P. 49-50のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEICのリスニング・セクション	TOEICのリスニング・セクションの学習方法 Unit9, 10のミニテスト	
	この回の到達目標	TOEICのリスニング問題を解き、自分に合った学習方法を見つけよう。	
	事前学修	指定された問題を解いて来る。	30分
	事後学修	もう一度問題を解いて復習し、自分のリスニング能力を延ばす学習法を確認する。	30分
14	筆記試験による学習の振り返り	問題を解くことを通じて英語Cの学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	学習内容を復習、理解する。	
	事前学修	内容を復習しておく。	30分
	事後学修	間違った部分をもう一度確認する。	30分
15	第14回授業のフィードバック	授業内試験のフィードバック	
	この回の到達目標	試験のフィードバックを通じて、前期の学習で不十分だった点を補強する。	
	事前学修	解けなかった点や不明な点を整理しておく。	30分
	事後学修	不明な点を正しく理解し、練習する。	30分

科目名	英語C	担当者	町田 章	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Natural English for Beginners	矢作三蔵／ C, Richard	開文社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10 研究室（1721研究室）machida.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション		・授業の進め方と英語を取り巻く環境について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語を取り巻く環境を理解することができる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読しその内容を確認するとともに、不明な点があれば教員に質問出来るようにしておく。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習する。		30分
2	発音練習		到達目標①②に関連して、英語発音の理解と練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の発音の仕組みについて理解できる。		
	事前学修	これまでに習った英語の発音について復習しておく。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて英語の発音を練習する。		30分
3	リズム練習		到達目標①②に関連して、伝わる英語のリズムについて練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本語と英語のリズムの違いについて理解できる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて発音の練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいてリズムの練習をする。		30分
4	早口言葉の練習		到達目標①②に関連して、早口言葉の練習を通して、発音とリズムの統合を図る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いくつかの早口言葉を言うことができる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて発音とリズムの練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて早口言葉の練習をする。		30分
5	シャドウイングの仕方		到達目標①②に関連して、シャドウイングの意義と練習法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シャドウイングの意義と練習の仕方について理解できる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて早口言葉の練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいてシャドウイングの練習をする。		30分
6	音が結びつく		到達目標①②に関連して、音の連結を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の連結ができるようになる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいてシャドウイングの練習をしてくる。		30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	代名詞は弱い形で		到達目標①②に関連して、聞き取りにくい代名詞の音を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き取りにくい代名詞を聞き取ることができる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
8	[n]の後ろの[t]と[d]は消える		到達目標①②に関連して、音の欠落を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の欠落を理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
9	破裂を控える破裂音		到達目標①②に関連して、連続した破裂音のバリエーションを知る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続した破裂音のバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
10	単語の最後はそっと		到達目標①②に関連して、語尾の破裂音のバリエーションを知る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語尾の破裂音のバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
11	変化するyou		到達目標①②に関連して、youのバリエーションを知る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、youのバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
12	消えてなくなる[th]		到達目標①②に関連して、nに続くthの消滅を知る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、nに続くthの消滅が理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後から影響を受けて違った音に	到達目標①②に関連して、無声化現象について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無声化された音を理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
14	学期の振り返りと練習	到達目標①②に関連して、シャドウイングの練習と暗唱の確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語らしい発音とリズムで英文を暗唱することができる。	
	事前学修	授業で扱った英文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	授業で扱った英文の暗唱を確かなものにする。	30分
15	試験と振り返り	到達目標①②に関連して、試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験に解答できる。	
	事前学修	試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語C	担当者	小島 和枝	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lesson を2授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
DataBase 3000	萩野治雄 監修	桐原書店	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英検の教材を研究し、授業で用いた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		英検の教材を研究し、授業で用いた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。そしてLesson1に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson1	Lesson1：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson1をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson3をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson3をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson4		Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson4		Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson5		Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson5		Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson6		Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson6		Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	Practice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組む、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	Simulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英語D	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回の授業に必ず出席できる学生。前期の英語Cを履修した学生。WordとPower Pointの基本操作が可能な学生のみ履修可。

【授業方法】
演習方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業での理解度を確認するテストにより，到達目標①②が達成できているかを確認する。	30	30									60
レポート等	最終レポートにより，到達目標①②が達成できているかを確認する。	10	10									20
討論・発表等	英語によるプレゼンテーションにより，到達目標①②が達成できているかを確認する。	10	10									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
メールで予約の上、対応いたします。takata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス 英文聞き取り 文法確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業の概要を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
	事後学修	配布プリントを確認する。	60分
2	スピーキングに必要な慣用表現とは？	英語表現の確認 英語スピーチのポイント確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、スピーキングに必要な慣用表現を学ぶ。	
	事前学修	推奨サイトを確認する。	60分
	事後学修	配布プリントを確認する。	60分
3	英文タイピング上達のコツ	文法テスト タイピング練習英文聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文タイピング上達のコツをつかむ	
	事前学修	推奨サイトを確認する。	60分
	事後学修	タイピングの練習を行う。	60分
4	1分間英語スピーチのコツとは？	英語スピーチ その1 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、1分間英語スピーチの構成を学び、ポイントをつかむ。	
	事前学修	スピーチの原稿を作成する。	60分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	60分
5	1分間英語スピーチの表現方法について	英語スピーチ その2 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、1分間英語スピーチの慣用表現方法について学ぶ。	
	事前学修	スピーチの原稿を完成する。	60分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	60分
6	1分間英語スピーチのコメントについて	英語スピーチ その3 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、スピーチについての英語のコメントの表現法を学ぶ。	
	事前学修	スピーチの原稿を修正する。	60分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英語のプレゼンテーションについて	プレゼンテーションのワークシート作成 英文聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、5分間プレゼンテーションの概念について学び、ワークシートを作成する。	
	事前学修	プレゼンテーションのテーマを考える。	60分
	事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
8	英語のプレゼンテーションのアイデアと展開について	復習テスト タイピング練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語のプレゼンテーションのアイデアについて、実例を検証しながら、その問題点を探る。	
	事前学修	ワークシートを交換の上、互いに修正を行う。	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイント作成。	60分
9	英語プレゼンテーションのシート修正	英語プレゼンテーションの内容確認とワークシート修正	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションのシートを完成させる。	
	事前学修	英語プレゼンテーション パワーポイント修正。	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション ワークシートの修正を行う。	60分
10	英語プレゼンテーション 実践 1	英語プレゼンテーション 1 コメント交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、的確なコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	60分
11	英語プレゼンテーション 実践 2	英語プレゼンテーション 2 コメント	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、的確なコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	60分
12	英語プレゼンテーション 実践3	英語プレゼンテーション 3 コメント	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、英語でコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英語プレゼンテーション 実践4	英語プレゼンテーション 4 英文コメント作成	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、英語でコメントを執筆する。	
	事前学修	英語表現プリントを確認する。	60分
	事後学修	コメントを確認する。	60分
14	復習テスト	プレゼンテーションの内容について英語でまとめる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、後期の学習内容の確認	
	事前学修	英語表現プリントを確認する。	60分
	事後学修	プリントを確認する。	60分
15	復習テスト返却と解説	プレゼンテーションの内容と英文を最終確認する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、英文シートと発表原稿の修正点を再確認する。	
	事前学修	プリントを確認する。	60分
	事後学修	テスト解答の確認を行う。	60分

科目名	英語D	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
原則、英語C、Dを通年で受講する。

【授業方法】
講義と演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者同士のペア・ワークと発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②の能力が身についているかどうかを、授業内の筆記試験によって確認する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②の能力が身についているかどうかを、2單元ごとの授業内の筆記試験によって確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②についての学習態度が身についているかどうかを、ペア・ワークや発表などへの参加度によって確認する。	10	10									20
その他()	到達能力①②に関わる能力が身についているかを、一年生一斉テストによって評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での説明、Google Classroomでの提示、メールでの質問に対する返信

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2	アンドルー E. ベネット	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室で

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	時事ニュース	アメリカの新聞で報じられた時事ニュースを読む。	
	この回の到達目標	ニュース記事を読み、時事英語の表現に触れる。	
	事前学修	指定されたニュースを読んでおく。	30分
	事後学修	もう一度ニュースを読んでもみる。	30分
2	Unit11 Traveling	旅行についての英語表現	
	この回の到達目標	旅行についての英語表現を身に着ける。 頻度を表す表現、自分が避けたいことを言う表現を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 51-52のリスニングの練習をする。 P. 53-54のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
3	Unit12 Music	音楽についての英語表現	
	この回の到達目標	音楽についての英語表現を身に着ける。 自分の好き嫌いを伝える言い方を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 55-56のリスニングの練習をする。 P. 57-58のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
4	Unit13 Movie	映画についての英語表現 Unit11, 12のミニテスト	
	この回の到達目標	映画についての英語表現を身に着ける。 比較級、最上級の表現を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 59-60のリスニングの練習をする。 P. 61-62のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
5	Unit14 Shopping	買い物についての英語表現	
	この回の到達目標	買い物についての英語表現を身に着ける。 付け加えて言う時の言い方、話題を変える時の言い方を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 63-64のリスニングの練習をする。 P. 65-66のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分
6	Unit15 Internet	インターネットについての英語表現 Unit13, 14のミニテスト	
	この回の到達目標	インターネットについての英語表現を身に着ける。 より確実なものになりつつあることを伝える表現、その逆のことを伝える表現を学び、自分で使えるようにする。	
	事前学修	P. 67-68のリスニングの練習をする。 P. 69-70のテーマと例文の意味を調べておく。	30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit16 Weather		天候についての英語表現	
	この回の到達目標	天候についての英語表現を身に着ける。 良く起きることを表す修飾語、そうでないことを表す修飾語の表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 71-72のリスニングの練習をする。 P. 73-74のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
8	Unit17 Feelings		感情についての英語表現 Unit15, 16のミニテスト	
	この回の到達目標	感情についての英語表現を身に着ける。 感情を伝える表現、その原因を伝える表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 75-76のリスニングの練習をする。 P. 77-78のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
9	Unit18 Government		政府についての英語表現	
	この回の到達目標	政府についての英語表現を身に着ける。 答えがyes, no両方である場合の言い方、難しい質問に対する答え方を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 79-80のリスニングの練習をする。 P. 81-82のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
10	Unit19 Art		美術についての英語表現 Unit17, 18のミニテスト	
	この回の到達目標	美術についての英語表現を身に着ける。 丁寧な否定の返答、混乱を伝える言い方を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 83-84のリスニングの練習をする。 P. 85-86のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
11	Unit20 The Future		未来についての英語表現	
	この回の到達目標	未来についての英語表現を身に着ける。 未来はこうなると言う表現、未来はこうならないと言う表現を学び、自分で使えるようにする。		
	事前学修	P. 87-88のリスニングの練習をする。 P. 89-90のテーマと例文の意味を調べておく。		30分
	事後学修	リスニングの練習を繰り返し、Usage Patterns やQuestions & Patternsの英語を、自分の表現としてアウトプットしてみる。		30分
12	TOEICの練習①		リスニング・セクションPart1、Part2、リーディング・セクションPart5の問題 Unit19, 20のミニテスト	
	この回の到達目標	リスニング・セクション、リーディングセクションの問題に慣れ、解答のコツをつかむ。		
	事前学修	指定された問題を解く。		30分
	事後学修	授業で扱った問題をもう一度解いてみる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEICの練習②	リスニング・セクションPart3、Part4、リーディング・セクションPart6、Part7の問題	
	この回の到達目標	リスニング・セクション、リーディングセクションの問題に慣れ、解答のコツをつかむ。	
	事前学修	指定された問題を解く。	30分
	事後学修	授業で扱った問題をもう一度解いてみる。	30分
14	筆記試験による学習の振り返り	問題を解くことを通じて英語Dの学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	英語Dの学習内容を復習、理解する。	
	事前学修	内容を復習しておく。	30分
	事後学修	間違った部分をもう一度確認する。	30分
15	第14回授業のフィードバック	授業内試験のフィードバック	
	この回の到達目標	試験のフィードバックを通じて、前期の学習で不十分だった点を補強する。	
	事前学修	解けなかった点や不明な点を整理しておく。	30分
	事後学修	不明な点を正しく理解し、練習する。	30分

科目名	英語D	担当者	町田 章	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
1年生学科指定クラス。原則、英語Dと通年で履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Natural English for Beginners	矢作三蔵／ C, Richard	開文社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10 研究室（1721研究室） machida.akira@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション		・授業の進め方と英語を取り巻く環境について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語を取り巻く環境を理解することができる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読しその内容を確認するとともに、不明な点があれば教員に質問出来るようにしておく。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習する。		30分
2	発音練習		到達目標①②に関連して、英語発音の理解と練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の発音の仕組みについて理解できる。		
	事前学修	これまでに習った英語の発音について復習しておく。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて英語の発音を練習する。		30分
3	リズム練習		到達目標①②に関連して、伝わる英語のリズムについて練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本語と英語のリズムの違いについて理解できる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて発音の練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいてリズムの練習をする。		30分
4	早口言葉の練習		到達目標①②に関連して、早口言葉の練習を通して、発音とリズムの統合を図る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いくつかの早口言葉を言うことができる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて発音とリズムの練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて早口言葉の練習をする。		30分
5	シャドウイングの仕方		到達目標①②に関連して、シャドウイングの意義と練習法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シャドウイングの意義と練習の仕方について理解できる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいて早口言葉の練習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいてシャドウイングの練習をする。		30分
6	音が結びつく		到達目標①②に関連して、音の連結を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の連結ができるようになる。		
	事前学修	授業で配布されたプリント等に基づいてシャドウイングの練習をしてくる。		30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	代名詞は弱い形で	到達目標①②に関連して、聞き取りにくい代名詞の音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き取りにくい代名詞を聞き取ることができる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
8	[n]の後ろの[t]と[d]は消える	到達目標①②に関連して、音の欠落を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の欠落を理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
9	破裂を控える破裂音	到達目標①②に関連して、連続した破裂音のバリエーションを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続した破裂音のバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
10	単語の最後はそっと	到達目標①②に関連して、語尾の破裂音のバリエーションを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語尾の破裂音のバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
11	変化するyou	到達目標①②に関連して、youのバリエーションを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、youのバリエーションが理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
12	消えてなくなる[th]	到達目標①②に関連して、nに続くthの消滅を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、nに続くthの消滅が理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後から影響を受けて違った音に	到達目標①②に関連して、無声化現象について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無声化された音を理解できる。	
	事前学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	シャドウイングの練習を通して教科書の短文を暗唱する。	30分
14	学期の振り返りと練習	到達目標①②に関連して、シャドウイングの練習と暗唱の確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語らしい発音とリズムで英文を暗唱することができる。	
	事前学修	授業で扱った英文を暗唱してくる。	30分
	事後学修	授業で扱った英文の暗唱を確かなものにする。	30分
15	試験と振り返り	到達目標①②に関連して、試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験に解答できる。	
	事前学修	試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語D	担当者	小島 和枝	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lessonを2授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
DataBase 3000	萩野治雄 監修	桐原書店	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英検の教材を研究し、授業で用いた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		英検の教材を研究し、授業で用いた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。そしてLesson 7に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson7	Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson8	Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson8	Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson9	Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson9	Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	Practice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組む、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	Practice Test単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	Simulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英語E	担当者	ロッキー・トーマス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about Japanese history and culture in English so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内)により評価する。	20	20									40
授業への参画度	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、毎週 の課題に関する態度 (Starter, Comprehension, Discussion, Reflection等)により評価する。	20	20									40
その他()	到達目標②③にかかわるSemester reflectionを基準に評価 する。		10	10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む日本の歴史をつくった女性たち	ロックリー トーマス	東京書籍	2022年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Introduction及び導入講義	Learn about the aims and objectives and methods of the course		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
2	Sei Shonagon	Learn about the history of Sei Shonagon		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Sei Shonagon story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
3	Murasaki Shikibu	Learn about the history of Murasaki Shikibu		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Murasaki Shikibu story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
4	Izumo no Okuni	Learn about the history of Izumo no Okuni		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Izumo no Okuni story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
5	Katsushika Oi	Learn about the history of Katsushika Oi		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Katsushika Oi story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
6	Madama Butterfly	Learn about the history of Madama Butterfly		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Madama Butterfly story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Yosano Akiko		Learn about the history of Yosano Akiko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yosano Akiko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
8	Hosokawa Gracia		Learn about the history of Hosokawa Gracia	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Gracia story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
9	Maria Guiomar de Pina		Learn about the history of Maria Guiomar de Pina	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Maria Guiomar de Pina story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
10	How to do a presentation		Learn about making presentations in English	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentation making in English.		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
11	Presentation Making		Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
12	Presentation Making		Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations	Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Assessment Presentations	Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Revise	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語F	担当者	ロッキー・トーマス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about some powerful and inspirational women in Japanese history so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only and aimed at improving speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Eと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、 Workbookにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 Weekly Reflection, Homework, Positive attitude to learning and participation in class (using English etc.)を基準に評価する。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	50	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 日本の歴史をつくった女性たち	ロックリー・トーマス	東京書籍	2021年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Tsuda Umeko		Learn about the history of Tsuda Umeko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tsuda Umeko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
2	Beate Sirota Gordon		Learn about the history of Beate Sirota Gordon	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Beate Sirota Gordon story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
3	Ogata Sadako		Learn about Ogata Sadako	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ogata Sadako story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
4	Tagawa Matsu		Learn about Tagawa Matsu	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
5	Aoyama Mitsuko		Learn about Aoyama Mitsuko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Aoyama Mitsuko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
6	Kawakami Sadayakko		Learn about Kawakami Sadayakko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kawakami Sadayakko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Yamaguchi Yoshiko		Learn about Yamaguchi Yoshiko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamaguchi Yoshiko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
8	Himiko		Learn about Himiko	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Himiko story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
9	Suiko Tenno		Learn about Suiko Tenno	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Suiko Tenno story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
10	Tomoe Gozen		Learn about Tomoe Gozen	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tomoe Gozen story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
11	Presentation Making		Learn about presenting in English - using gestures.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
12	Presentation Making		Learn about presenting in English - structure and transitions.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語G	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about language and linguistics in this course. After completing this course you will have a good understanding of the different areas of linguistics and will be able to form your own research questions about language use.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
completed 英語E/F or have a TOEIC score of 550 or higher.

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						4		4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	10	10									20
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。		10	10								20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	Readings will be provided in class and on Google Classroom				

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10 研究室（9402研究室） joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction・導入講義		Course overview and introduction to Second Language Acquisition (SLA); What predicts language acquisition?	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read syllabus		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
2	SLA		Input, intake, interaction	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
3	SLA		Interaction, circumlocution, recasts	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
4	Intercultural collaboration		Preparation for international Collaboration	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
5	Intercultural collaboration		International Collaboration with students from the US	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
6	International Collaboration		International Collaboration with students from the US	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	International Collaboration (reflection)		Connecting your international collaboration to principles of SLA; presentation skills (Structure and transitions in presentations (i.e., the physical message))	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
8	The sounds of language		Learn about how sounds are made, and theory of sounds in language.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
9	The sounds of language		Learn about how sounds are made, and theory of sounds in language.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
10	The sounds of language		Learn about how sounds are made, and theory of sounds in language.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
11	The sounds of language		Learn about how sounds are made, and theory of sounds in language.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
12	Final project		Presentation skills and project work time	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Final project		Presentation skills and project work time	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
14	Final project		Presentations and assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分
15	Final project		Presentations and assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks.		60分

科目名	英語H	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about language and linguistics in this course. After completing this course you will have a good understanding of the different areas of linguistics and will be able to form your own research questions about language use.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
completed 英語E/F/G or have a TOEIC score of 550 or higher.

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts								4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English								4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills								4		4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	10	10									20
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。		10	10								20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	Reading will be provided in class and on Google Classroom.				

【オフィスアワー】
金曜日14:40-16:10 研究室（9402研究室） joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Review of last semester		Review content from last semester	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Review final presentations from last semester.		60分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test.		60分
2	First language acquisition		Learn about how first languages are learned	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
3	First language acquisition		Learn about how first languages are learned.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
4	Grammar & Syntax		Learn about theories of grammar and syntax	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
5	Grammar & Syntax		Learn about theories of grammar and syntax	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
6	Grammar & Syntax		Learn about theories of grammar and syntax	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Systemic Functional Linguistics (SFL)		Systemic Functional Linguistics (SFL): Ideational	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
8	Systemic Functional Linguistics (SFL)		SFL: Ideational processes Text annotation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Complete in-class tasks		60分
9	Systemic Functional Linguistics (SFL)		Text annotation assignment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Review tools for corpus analysis.		60分
10	Systemic Functional Linguistics (SFL)		SFL: Textual--Theme and Rheme I	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
11	Systemic Functional Linguistics (SFL)		SFL: Textual--Theme and Rheme II	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation/lesson		60分
12	Final project		Prepare a presentation that analyzes your own language learning experiences from SLA and SFL perspectives.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.		60分
	事後学修	Continue with research and presentations/lessons		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Final project	Prepare a presentation that analyzes your own language learning experiences from SLA and SFL perspectives.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Prepare assignment for next lesson.	60分
	事後学修	Continue with research and presentations/lessons	60分
14	Final project	Presentations and assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Continue with research and presentations	60分
	事後学修	Continue with research and presentations/lessons	60分
15	Assessment Presentations	Presentations and assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Continue with research and presentations	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語演習C	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言の意志

【授業方法】
英国ロマン派の詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。詩を読むには、散文より文法力を必要とする。この点を考慮して履修すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・（状況が許せば）グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2					2		2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する（コメントシートを含む）。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	PDFで配信する（必ず印刷して使用のこと）				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英詩入門 1	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる詩作品について概説し、英詩を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を確認する。	30分
2	英詩入門 2	英詩の構造について解説し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、英詩の構造について理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	英詩について調べたうえで、「詩とは何か」自分なりに考えてみる。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
3	愛について	Robert Burns, “O my love’s like a red, red rose”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	象徴について（1）	William Blake, “The Sick Rose”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	象徴について（2）	William Blake, “The Garden of Love”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	ハエと人間	William Blake, “The Fly”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生・死・自然（１）	William Wordsworth, “She dwelt among the untrodden ways” を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	生・死・自然（２）	William Wordsworth, “A slumber did my spirit seal” を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	生・死・自然（３）	William Wordsworth, “We are seven” を読む（１）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	生・死・自然（４）	William Wordsworth, “We are seven” を読む（２）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	生・死・自然（５）	William Wordsworth, “We are seven” を読む（３）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	夢と現実	S. T. Coleridge, “Something Childish, But Very Natural”, P. B. Shelley, “To ---” (Song) を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	愛と休息	Lord Byron, “So, we’ ll go on no more a roving”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
14	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で読んだ諸英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	心に残った詩を暗唱し、前期で読んだ英詩についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習C	担当者	島本 慎一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
通年で履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式（オンデマンド形式による）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2					2		2
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる学習態度が身についているかを、毎回のワークシートとQuizletの進捗を基準に評価する。	50	50									100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bilingual -Life and Reality	François Grosjean	Harvard University Press	2012	教科書	必携
備考	上掲の教科書はKindle版でも構わない。英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
Eメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	オリエンテーション		シラバスの確認と授業の進め方の説明 Schema Building「バイリンガルとは何か？」
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの概念理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を復習しておく。	30分
2	バイリンガルとは何か？：定義づけ		1. Why Are People Bilingual?①
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの定義理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート1を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
3	バイリンガルとは何か？：歴史的背景		1. Why Are People Bilingual?②
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの歴史的背景を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート2を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
4	バイリンガルを取り巻く環境		2. Describing Bilinguals①
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルを取り巻く環境について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート3を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
5	バイリンガルを取り巻く環境：バイリンガルとモノリンガルの違い		2. Describing Bilinguals②
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルとモノリンガルの違いについて理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート4を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
6	ことばの働き		3. The Functions of Languages①
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、ことばの働きについて理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート5を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ことばの役割		3. The Functions of Languages②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、ことばの役割について理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート6を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
8	言語モード		4. Language Mode and Language Choice①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語モードについて理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート7を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
9	言語選択の理由		4. Language Mode and Language Choice②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語選択の理由について理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート8を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
10	コード・スイッチングとは		5. Code-Switching and Borrowing①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、コード・スイッチングについて理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート9を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
11	言語借用とは		5. Code-Switching and Borrowing②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語借用について理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート10を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
12	モノリンガルのスピーキングにおける特徴		6. Speaking and Writing Monolingually①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、モノリンガルのスピーキングにおける特徴について理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート11を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	モノリンガルのライティングにおける特徴	6. Speaking and Writing Monolingually②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、モノリンガルのライティングにおける特徴における特徴について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート１２を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
14	言語の訛り:アクセント	7. Having an Accent in a Language①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語のアクセントににおける特徴について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート１３を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
15	言語の訛り: World Englishesと多様性	7. Having an Accent in a Language②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、World Englishesと多様性における特徴について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート１４を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分

科目名	英語演習D	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言の意志

【授業方法】
英米の近現代詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。詩を読むには、散文より文法力を必要とする。この点を考慮して履修すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・（状況が許せば）グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3					3		3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (小論文) により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する（コメントシートを 含む）。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	PDFで配信する（必ず印刷して使用のこと）				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英詩入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明（再確認）する。また、取り上げる近現代のイギリス・アメリカ・アイルランドの詩作品について概説し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
2	ことばの音楽	E. A. Poe, “Annabel Lee”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
3	ことばと認識	E. Dickinson, “Success is counted sweetest” / “My life closed twice before its close”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	死別（1）	Thomas Hardy, “The Walk”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	死別（2）	Thomas Hardy, “The Voice”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	求愛と神話（1）	W. B. Yeats, “He Wishes for the Cloths of Heaven”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	求愛と神話（2）	W. B. Yeats, “Leda and the Swan”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	自然と人間	Robert Frost, “The Pasture” / “Stopping by Woods on a Snowy Evening”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	自由詩（1）	D. H. Lawrence, “Snake”を読む（1）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	自由詩（2）	D. H. Lawrence, “Snake”を読む（2）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	多元化された私	T. S. Eliot, “La Figlia Che Piange”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	信仰の問題	Edmund Blunden, “Report on Experience”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
14	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
	事前学修	心に残った英詩のテーマについてメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容（小論文の書き方）について整理する。	60分
15	小論文試験と振り返り	小論文試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についての小論文試験に論文作成できる。	
	事前学修	任意に選んだ英詩についてテーマを設定し、小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習D	担当者	島本 慎一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
通年で履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式（オンデマンド形式による）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3					3		3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる学習態度が身についているかを、毎回のワークシートとQuizletの進捗を基準に評価する。	40	30	30								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bilingual -Life and Reality	François Grosjean	Harvard University Press	2012	教科書	必携
備考	上掲の教科書はKindle版でも構わない。英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
Eメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	シラバスの確認と授業の進め方の説明 前学期のおさらい	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの概念を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を復習しておく。	30分
2	言語能力の変遷：進化	8. Languages across the Lifespan①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語能力の変遷を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート1を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
3	言語能力の変遷：退化	8. Languages across the Lifespan②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語能力の変遷を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート2を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
4	バイリンガルの態度	9. Attitudes and Feelings about Bilingualism①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの態度についてを理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート3を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
5	バイリンガルの感情	9. Attitudes and Feelings about Bilingualism②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの感情について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート4を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
6	バイリンガルとモノカルチュラル	10. Bilinguals Who Are Also Bicultural①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルとモノカルチュラルを理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート5を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バイリンガルとバイカルチュラル		10. Bilinguals Who Are Also Bicultural②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルとバイカルチュラルを理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート6を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
8	バイリンガルの思考		11. Personality, Thinking and Dreaming, and Emotions in Bilinguals①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの思考について理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート7を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
9	バイリンガルは何語で夢を見るか		11. Personality, Thinking and Dreaming, and Emotions in Bilinguals②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルは何語で夢を見るかについて理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート8を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
10	バイリンガルである時とそうでない時①		Part II 1. In and Out of Bilingualism①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの入れ替わりを理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート9を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
11	バイリンガルである時とそうでない時②		Part II 1. In and Out of Bilingualism②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの入れ替わりを理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート10を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分
12	2つの言語を獲得すること		Part II 2. Acquiring Two Languages①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、2つの言語を獲得することについて理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ワークシート11を完成させる。		30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	言語獲得と習得	Part II 2. Acquiring Two Languages②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、言語獲得と習得について理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート12を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
14	バイリンガルの親ができること	Part II 4. Family Strategies and Support①	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、バイリンガルの親ができることについて理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート13を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分
15	子どもをバイリンガルにするには	Part II 4. Family Strategies and Support②	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、英語で書かれた文献を通して、子どもをバイリンガルにするのに必要なプロセスを理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	ワークシート14を完成させる。	30分
	事後学修	事前学習と授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておく。	30分

科目名	英語演習G(木曜3時限)	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語力と発言の意志

【授業方法】
法廷（陪審）ドラマを一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法等について詳しく説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する（コメントシートを含む）。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men（ISBN 0-413-70610-9）	Reginald Rose	Methuen Drama；New版	1996	教科書	必携
備考	購入時は同名タイトルでも版が違うと頁数も違うので注意すること				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法廷ドラマ入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）について概説し、法廷（陪審）ドラマを読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法廷（陪審）ドラマを原著で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第1幕を読む（1）	第1幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第1幕を読む（2）	第1幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第1幕を読む（3）	第1幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第1幕を読む（4）	第1幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1幕を読む（5）	第1幕（5）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第1幕を読む（6）	第1幕（6）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第1幕を読む（7）	第1幕（7）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第1幕を読む（8）	第1幕（8）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第1幕を読む（9）	第1幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第1幕を読む（10）	第1幕（10）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前半部の読み合わせ	前半部の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	前半部のまとめ	前半部を振り返り、関連ビデオを視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	前半部を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷（陪審）ドラマについての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	法廷（陪審）ドラマ（前半）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習G(金曜4時限)	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語力＋芸術への関心と歴史的背景の知識

【授業方法】		
戯曲（演劇台本）を一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。テキストは、ユダヤ系イギリス人の劇作家が、第二次大戦直後のドイツを舞台に、戦時の芸術（音楽）家のあり方を問うた作品。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法等について詳しく説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する（コメントシートを含む）。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TAKING SIDES	Ronald Harwood	EIHOSHA	1997	教科書	必携
備考	上記テキストは絶版のためPDFを配信する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	演劇（戯曲）入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）および劇作家について概説し、戯曲を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、戯曲を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
3	背景・登場人物・舞台装置	テキストの前書き，“Characters,” “Set,” pp. 3-6 を読み、内容、背景等について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の背景・登場人物・舞台装置について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦前後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第1幕を読む（1）	第1幕（Act One）pp. 7- 12 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第1幕を読む（2）	第1幕（Act One）pp. 13-16 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第1幕を読む（3）	第1幕（Act One）pp. 16-21 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1幕を読む（4）	第1幕（Act One）pp. 21-25 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第1幕を読む（5）	第1幕（Act One）pp. 25-28 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第1幕を読む（6）	第1幕（Act One）pp. 29-33 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第1幕を読む（7）	第1幕（Act One）pp. 33-37 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第1幕を読む（8）	第1幕（Act One）pp. 37-41 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第1幕の読み合わせ（1）	第1幕（Act One）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第1幕の読み合わせ（2）	第1幕（Act One）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第1幕のまとめ	第1幕を振り返り、関連ビデオやCDを視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第1幕を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	第1幕についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	前期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習H(金曜4時限)	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語力＋芸術への関心と歴史的背景の知識

【授業方法】		
戯曲（演劇台本）を一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。テキストは、ユダヤ系イギリス人の劇作家が、第二次大戦直後のドイツを舞台に、戦時の芸術（音楽）家のあり方を問うた作品。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法等について詳しく説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (小論文) により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する（コメントシートを 含む）。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TAKING SIDES	Ronald Harwood	EIHOSHA	1997	教科書	必携
備考	上記テキストは絶版のためPDFを配信する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第1幕の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。第1幕を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の第1幕について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第一幕の内容を再確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第2幕を読む（1）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦直後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第2幕を読む（2）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第2幕を読む（3）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 50-54 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第2幕を読む（4）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 54-58 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	60授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第2幕を読む（5）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 59-63 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2幕を読む（6）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 63-66 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第2幕を読む（7）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 67-71 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第2幕を読む（8）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 71-74 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第2幕を読む（9）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 75-76 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第2幕の読み合わせ（1）	第2幕（Act Two）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第2幕の読み合わせ（2）	第2幕（Act Two）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第2幕のまとめ	第2 幕を振り返り、資料映像・音源を視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第2 幕全体を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
	事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	小論文試験と振り返り	小論文試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についての小論文試験に論文作成できる。	
	事前学修	作品についての小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英語演習H(木曜3時限)	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語力と発言の意志

【授業方法】
法廷ドラマを一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法等について詳しく説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (小論文) により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men（ISBN 0-413-70610-9）	Reginald Rose	Methuen Drama；New 版	1996	教科書	必携
備考	購入時は同名タイトルでも版が違うと頁数も違うので注意すること				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	作品前半の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。法廷ドラマの前半を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの前半について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、法廷（陪審）ドラマ前半の内容を再確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第1幕を読む（1 1）	第1幕（1 1）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第1幕を読む（1 2）	第1幕（1 2）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第1幕を読む（1 3）	第1幕（1 3）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第2幕を読む（1）	第2幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第2幕を読む（2）	第2幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	第2幕を読む（3）	第2幕（3）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
8	第2幕を読む（4）	第2幕（4）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
9	第2幕を読む（5）	第2幕（5）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
10	第2幕を読む（6）	第2幕（6）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
11	第2幕を読む（7）	第2幕（7）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
12	第2幕を読む（8）	第2幕（8）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれた社会的テーマや問題点について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷（陪審）ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
	事前学修	作品のテーマについてメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容（小論文のテーマ設定・書き方）について整理する。	60分
15	小論文試験と振り返り	小論文試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷（陪審）ドラマについて的小論文試験に論文作成できる。	
	事前学修	法廷ドラマについて的小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。後期に英検/IELTS IBを履修すること

【授業方法】
対面授業。毎回、予習課題として問題を解いておき、その解法と必要な知識について授業で演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習問題に基づく演習問題の解法確認、および確認演習による自己フィードバック	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題演習に関する解法、基本知識について授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
必要に応じてアポイントメントをとること。tanaka.takuro@nihion-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの概略	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。英検とIELTSに関する一般的な概略を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本科目の運営方針、学習方法を理解する。英検とIELTSに関する出題形式を理解する。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認する。不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習する。自分の受験する資格試験の日程を確認し、逆算して学習計画をたてる。	60分
2	基本5文型	基本構文と動詞の項構造	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、動詞の種類と構文を理解し、適切な英文解釈と英文作成ができるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
3	変形構文	わかりにくい構文と書きにくい英文へのアプローチ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本語と英語の違いを理解し、訳しにくい英文について理解を深める	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
4	準動詞1	不定詞の意味と使い方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、不定詞の用法に習熟し、英文読解と英作文で使いこなすことができるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
5	準動詞2	等位接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、現在分詞と過去分詞の用法に習熟し、英文読解と英作文で使いこなすことができるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
6	接続詞1	【文法】関係詞 / 【読解】パラグラフに分かれた文章の読み方 / 【作文】政策論題の演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、関係詞を使った長い文を正確に読み取り、作文で書くことができる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	接続詞2	従位接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、複文の構造を理解し、適切に英文を書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
8	関係詞1	関係副詞、関係形容詞、asなどの特殊関係詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、関係詞の特質を理解し、適切に英文を書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
9	関係詞2	関係副詞、関係形容詞、asなどの特殊関係詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、関係詞全般の理解を深め、応用力の高い英文作成力を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
10	分詞構文	接続詞を使わない複文・重文の書き方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、分詞の副詞用法の使い方に習熟し、適切に英文を書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
11	第五文型	日本語と発想が違う文の書き方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、直訳に頼らず、文型を使って英作文をするための方法を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
12	物主構文	物が主語にくる構文の理解のしかたと書き方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本語と英語の違いを理解し、適切な主語を設定して英文が書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	受身	受身文が使われる状況と基本的な意味	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、受身の機能と状況を理解し、適切に英文を書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
14	総合演習	文法、読解、作文、聴解の総合演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、試験本番の流れを理解し、自分のペースで問題を解き進めることができる	
	事前学修	前回までの授業素材を復習し、いままでの問題演習で間違えた箇所を復習する。英検・IELTSの受験の流れをイメージする。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に問題演習で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と授業内容の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、資格試験に準拠した形式の筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則、後学期の英検 I Bを履修すること

【授業方法】
対面授業を行います。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級マスターコース	今村洋美、他	金星堂	2021	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さと内容を持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さと内容を持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。後期に英検/IELTS IBを履修することが望ましい。

【授業方法】
毎授業、主に使用する教科書の各Unitで指定された課題を解いておき、その解法と必要な知識について授業で演習を行う。(この教科書は英語の運用能力をバランス良く伸ばし、「使える英語」とは何かを理解し、実際それを意識して運用できるようになることである)英検・IELTS問題は適宜解いていく。 Google Classroomの使い方を覚えておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループでディスカッションをする。自分の意見が述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①にかかわるリーディング能力等②が身についているかを判断するため、テストにより評価する。	50	10									60
小テスト等	授業の内容①が把握できているか、応用力はあるか等を評価する。	10										10
レポート等	自分の意見①が述べられるか、学んだ文法や単語が活用②ができるかレポート等で、到達目標①②にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言①ができたかを、そして発言内容を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度	積極的に授業に参加し、ディスカッションや発言①ができているかで評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート提出で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Wide English on DVD Volume 1 -Revised Edition- 世界で輝く若者たちの英語1－改訂版－	森田 彰／佐藤 明彦 ／藤本 淳史	成美堂	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後前後で対応。急用の時には、メールで対応：fujimoto.atsushill@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	使用教科書について 英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、教材、提出物、成績の付け方等。資格英語について。そして、クラスでの自己紹介。Unit 1 Los Angeles Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 Los Angeles Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
2	Unit 2 Los Angeles Documentary	Unit 2 Los Angeles Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2 Los Angeles Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
3	Unit 3 Scotland Introduction	Unit 3 Scotland Introduction に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3 Scotland Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
4	Unit 4 Scotland Documentary	Unit 4 Scotland Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 4 Scotland Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
5	Unit 5 Canada Introduction	Unit 5 Canada Introduction に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5 Canada Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
6	Unit 6 Canada Documentary	Unit 6 Canada Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 Canada Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 7 Review Section I		Unit 7 Review Section I に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7 Review Section Iの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
8	Unit 8 New Zealand Introduction		Unit 8 New Zealand Introduction に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8 New Zealand Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
9	Unit 9 New Zealand Documentary		Unit 9 New Zealand Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9 New Zealand Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
10	Unit 10 England Introduction		Unit 10 England Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10 England Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
11	Unit 11 England Documentary		Unit 11 England Documentaryに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 England Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
12	Unit 12 The Bahamas Introduction		Unit 12 The Bahamas Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12 The Bahamas Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 The Bahamas Documentary	Unit 13 The Bahamas Documentaryに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 13 The Bahamas Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 14 Review Section II	Unit 14 Review Section IIに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 14 Review Section IIの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	授業の振り返り	これまでの授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの授業を振り返る。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分にあれば履修可とする。前期の英検/IELTS IAからの継続授業。

【授業方法】
対面授業。毎回、予習課題として問題を解いておき、その解法と必要な知識について授業で演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、面接練習のプレゼンテーション、発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が、身に付いているかを授業内試験により評価する	20	20									40
小テスト等	授業内容の復習としての小テストにより、到達目標①②にかかわる基本事項が、理解できているかを評価する	15	15									30
レポート等	毎回の授業課題をもとに、到達目標①②に関わる積極的な学習習慣が、身に付いているかどうかを評価する	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題演習に関する解法、基本知識について授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
必要に応じ、アポイントメントをとること。tanaka.takuro@nihion-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	定冠詞	冠詞の概念と名詞句の用法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、冠詞の概念と必要性を理解し、定冠詞を使った英文を適切に書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
2	不定冠詞	定性・不定性の理解と冠詞の概念の結びつき	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、不定冠詞の概念を理解し、定冠詞と不定冠詞を区別した英文が書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
3	時制1	現在形と過去形	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時制の概念を理解し、現在形と過去形を区別した英文が書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
4	時制2	進行形と完了形	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、進行形のニュアンスと状況を理解し、過去形と完了形の区別ができるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
5	時制3	未来と複合時制	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、未来を表す書き方と複合時制の概念を理解し、適切に英文が書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
6	助動詞1	助動詞の基本概念	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、助動詞を使う状況とニュアンスについての基本概念を理解する	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	助動詞2		似たような表現の相違
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、各種の助動詞を適切に使い分けできるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
8	主語は何か		英文の書き始めの手続き
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本語と英語の違いを理解し、適切な構文を選択して英文が書けるようになる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
9	名詞構文		日本語に訳しにくい英文、英訳しにくい日本語
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、名詞構文の構造を理解し、日本語と英語の違いを使って正しく訳することができる	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
10	英検の問題演習1		文法問題、英文読解、英作文
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英検の出題傾向を理解し、英文読解と英作文の対処法を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
11	英検の問題演習2		リスニング、面接
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英検の出題傾向を理解し、リスニング問題と面接の対処法を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
12	IELTSの問題演習1		英文読解、英作文
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、IELTSの出題傾向を理解し、英文読解と英作文の対処法を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	IELTSの問題演習2	リスニング、面接	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、IELTSの出題傾向を理解し、リスニング問題と面接の対処法を身につける	
	事前学修	予習課題を解く。試験の本番を想定し、時間を計って必ず自力で問題を解いてみる	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる	60分
14	総合演習	文法、読解、作文、聴解の総合演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、試験本番の流れを理解し、自分のペースで問題を解き進めることができる	
	事前学修	前回までの授業素材を復習し、いままでの問題演習で間違えた箇所を復習する。英検・IELTSの受験の流れをイメージする。	60分
	事後学修	授業内容を復習を復習する。特に予習課題で間違えたところを確認し、理解を深め記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と授業内容の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、資格試験に準拠した形式の筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則、前期の英検 I Aを履修していること

【授業方法】
対面授業を行います。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級マスターコース	今村洋美、他	金星堂	2021	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。後期に英検/IELTS IBを履修することが望ましい。

【授業方法】
毎授業、主に使用する教科書の各Unitで指定された課題を解いておき、その解法と必要な知識について授業で演習を行う。(この教科書は英語の運用能力をバランス良く伸ばし、「使える英語」とは何かを理解し、実際それを意識して運用できるようになることである) 英検・IELTS問題は適宜解いていく。 Google Classroomの使い方を覚えておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループでディスカッションをする。自分の意見が述べられるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①にかかわるリーディング能力等②が身についているかを判断するため、テストにより評価する。	50	10									60
小テスト等	授業の内容①が把握できているか、応用力はあるか等を評価する。	10										10
レポート等	自分の意見①が述べられるか、学んだ文法や単語が活用②ができるかレポート等で、到達目標①②にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言①ができたかを、そして発言内容を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度	積極的に授業に参加し、ディスカッションや発言①ができているかで評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート提出で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Wide English on DVD Volume 2 世界で輝く若者たちの英語2	森田 彰／佐藤 明彦 ／藤本 淳史	成美堂	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後前後で対応。急用の時には、メールで対応：fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	使用教科書について 英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、教材、提出物、成績の付け方等。資格英語について。そして、クラスでの自己紹介。Unit 1 New York Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 New York Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
2	Unit 2 New York Documentary	Unit 2 New York Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2 New York Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
3	Unit 3 Australia Introduction	Unit 3 Australia Introduction に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3 Australia Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
4	Unit 4 Australia Documentary	Unit 4 Australia Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 4 Australia Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
5	Unit 5 Northern Ireland Introduction	Unit 5 Northern Ireland Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5 Northern Ireland Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
6	Unit 6 Northern Ireland Documentary	Unit 6 Northern Ireland Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 Northern Ireland Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 7 Review Section I	Unit 7 Review Section I に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7 Review Section Iの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
8	Unit 8 South Africa Introduction	Unit 8 South Africa Introduction に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8 South Africa Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
9	Unit 9 South Africa Documentary	Unit 9 South Africa Documentary に取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9 South Africa Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
10	Unit 10 Wales Introduction	Unit 10 Wales Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10 Wales Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
11	Unit 11 Wales Documentary	Unit 11 Wales Documentaryに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 Wales Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
12	Unit 12 India Introduction	Unit 12 India Introductionに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。 英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12 India Introductionの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 India Documentary	Unit 13 India Documentaryに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 13 India Documentaryの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 14 Review Section II	Unit 14 Review Section IIに取り組む。最後に授業のフィードバックをする。英検・IELTSの問題も解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 14 Review Section IIの内容に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	授業の振り返り	これまでの授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの授業を振り返る。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡBを履修すること

【授業方法】
学修内容の発表形式、それについての解説、およびテスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	30	30	5	5							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	5	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる。 morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくる。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット１の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット１の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット１の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット２の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット２の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット２の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット３の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット３の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット３の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット４の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット4の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット５の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	小島 和枝	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lessonを2授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
DataBase 3000	萩野治雄 監修	桐原書店	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英検の教材を研究し、授業で用いた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		英検の教材を研究し、授業で用いた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。そしてLesson1に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson1	Lesson1：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson1をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson3をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson3をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson4		Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson4		Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson5		Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson5		Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson6		Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson6		Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	Practice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	Simulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	島本 慎一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
通年で履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④にかかわる学習態度が身についているかを、毎回のワークシートとQuizletの進捗を基準に評価する。	25	25	25	25							100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検準1級 での順パス単 5訂版（旺文社英検書）	旺文社	旺文社	2021	教科書	必携
DAILY25日間 英検準1級 集中ゼミ 6訂版（旺文社英検書）	旺文社	旺文社	2023	教科書	必携
備考	英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
Eメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	シラバスの確認と授業の進め方の説明 英検準1級の問題形式の把握	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、英検準1級の構成を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	授業で扱われる英検準1級サンプル問題を解き、解説を見ながら、自己採点を行う。	30分
2	「短文の語句空所補充問題を攻略！①」	集中ゼミDay1 単語帳Section1	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の空所補問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section1をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay1の復習 Quizletで単語帳Section1を復習する	30分
3	長文の語句空所補充問題を攻略！①	集中ゼミDay2 単語帳Section2	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の空所補問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section2をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay2の復習 Quizletで単語帳Section2を復習する	30分
4	長文の内容一致選択問題を攻略！①	集中ゼミDay3 単語帳Section3	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section3をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay3の復習 Quizletで単語帳Section3を復習する	30分
5	長文の内容一致選択問題を攻略！②	集中ゼミDay4 単語帳Section4	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section4をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay4の復習 Quizletで単語帳Section4を復習する	30分
6	英作文問題を攻略！①	集中ゼミDay5 単語帳Section5	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の英作文問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section5をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay5の復習 Quizletで単語帳Section5を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	英作文問題を攻略！②		集中ゼミDay6 単語帳Section6
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の英作文問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section6をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 6 の復習 Quizletで単語帳Section6を復習する	30分
8	会話の内容一致選択問題を攻略！①		集中ゼミDay7 単語帳Section7
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の会話の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section7をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 7 の復習 Quizletで単語帳Section7を復習する	30分
9	文の内容一致選択問題を攻略！①		集中ゼミDay8 単語帳Section8
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の文の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section8をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 8 の復習 Quizletで単語帳Section8を復習する	30分
10	Real-Life形式の内容一致選択問題を攻略！①		集中ゼミDay9 単語帳Section9
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級のReal-Life形式の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section9をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 9 の復習 Quizletで単語帳Section9を復習する	30分
11	短文の語句空所補充問題を攻略！②		集中ゼミDay10 単語帳Section10
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section10をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 10の復習 Quizletで単語帳Section10を復習する	30分
12	短文の語句空所補充問題を攻略！③		集中ゼミDay11 単語帳Section11
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section11をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 11 の復習 Quizletで単語帳Section11を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	短文の語句空所補充問題を攻略！④	集中ゼミDay12 単語帳Section12	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section12をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay12の復習 Quizletで単語帳Section12を復習する	30分
14	長文の語句空所補充問題を攻略！②	集中ゼミDay13 単語帳Section13	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section13をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay13の復習 Quizletで単語帳Section13を復習する	30分
15	前学期のまとめと解説	まとめ問題	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section14をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay14の復習 Quizletで単語帳Section14を復習する	30分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡAを履修していること。

【授業方法】
学修内容の発表形式、それについての解説、およびテスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	30	30	5	5							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	5	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる。 morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パート別考え方のアイデア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パート別考え方のアイデアに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	小島 和枝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lessonを2授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
DataBase 3000	萩野治雄 監修	桐原書店	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英検の教材を研究し、授業で用いた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		英検の教材を研究し、授業で用いた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。そしてLesson7に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson7	Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson7	Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson8	Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson8	Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson9	Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson9		Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	56ページのPractice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	Simulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	島本 慎一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
通年で履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式（オンデマンド形式による）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④にかかわる学習態度が身についているかを、毎回のワークシートとQuizletの進捗を基準に評価する。	25	25	25	25							100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検準1級 での順パス単 5訂版（旺文社英検書）	旺文社	旺文社	2021	教科書	必携
DAILY25日間 英検準1級 集中ゼミ 6訂版（旺文社英検書）	旺文社	旺文社	2023	教科書	必携
備考	英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
Eメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	シラバスの確認と授業の進め方の説明 単語帳Section15	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、英検準1級の構成を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	単語帳Section15をQuizletで学習する	30分
2	「長文の内容一致選択問題を攻略！④」	集中ゼミDay15 単語帳Section1	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の内容一致選択問題対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section1をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 15 の復習 Quizletで単語帳Section1を復習する	30分
3	長文の内容一致選択問題を攻略！⑤	集中ゼミDay16 単語帳Section2	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section2をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 16 の復習 Quizletで単語帳Section2を復習する	30分
4	英作文問題を攻略！③	集中ゼミDay17 単語帳Section3	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の英作文問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section3をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 17 の復習 Quizletで単語帳Section3を復習する	30分
5	英作文問題を攻略！④	集中ゼミDay18 単語帳Section4	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の英作文問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section4をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 18 の復習 Quizletで単語帳Section4を復習する	30分
6	会話の内容一致選択問題を攻略！②	集中ゼミDay19 単語帳Section5	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の会話の内容一致選択問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section5をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 19 の復習 Quizletで単語帳Section5を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話の内容一致選択問題を攻略！③		集中ゼミDay20 単語帳Section6
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の会話の内容一致選択問題に対処とができる。	
	事前学修	単語帳Section6をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 20 の復習 Quizletで単語帳Section6を復習する	30分
8	文の内容一致選択問題を攻略！②		集中ゼミDay21 単語帳Section7
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の文の内容一致選択問題に対処とすることができる。	
	事前学修	単語帳Section7をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 21 の復習 Quizletで単語帳Section7を復習する	30分
9	文の内容一致選択問題を攻略！③		集中ゼミDay22 単語帳Section8
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の文の内容一致選択問題に対処とすることができる。	
	事前学修	単語帳Section8をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 22 の復習 Quizletで単語帳Section8を復習する	30分
10	Real-Life形式の内容一致選択問題を攻略！②		集中ゼミDay23 単語帳Section9
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級のReal-Life形式の内容一致選択問題に対処とすることができる。	
	事前学修	単語帳Section9をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 23 の復習 Quizletで単語帳Section9を復習する	30分
11	Real-Life形式の内容一致選択問題を攻略！③		集中ゼミDay24 単語帳Section10
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の内容一致選択問題に対処とすることができる。	
	事前学修	単語帳Section10をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 24 の復習 Quizletで単語帳Section10を復習する	30分
12	実力確認問題		集中ゼミDay25 単語帳Section11
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の語句空所補充問に対処とすることができる。	
	事前学修	単語帳Section11をQuizletで学習する	30分
	事後学修	集中ゼミDay 25 の復習 Quizletで単語帳Section11を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	長文要約問題を攻略①	要約問題① 単語帳Section12	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の短文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section12をQuizletで学習する	30分
	事後学修	要約サンプル問題①の復習 Quizletで単語帳Section12を復習する	30分
14	長文要約問題を攻略②	要約問題② 単語帳Section13	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の長文の語句空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section13をQuizletで学習する	30分
	事後学修	要約サンプル問題②の復習 Quizletで単語帳Section13を復習する	30分
15	後学期のまとめと解説	まとめ問題	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、語彙・文法の知識と解法技術を用いて英検準1級の空所補充問題に対処することができる。	
	事前学修	単語帳Section14をQuizletで学習する	30分
	事後学修	Quizletで単語帳Section14を復習する	30分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡBを履修すること

【授業方法】
学修内容の発表形式、それについての解説、およびテスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	30	30	5	5							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	5	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる。 morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくる。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット１の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット１の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット１の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット２の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット２の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット２の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット３の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット３の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット３の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット４の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット4の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット５の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡAを履修していること。

【授業方法】
学修内容の発表形式、それについての解説、およびテスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	30	30	5	5							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	5	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる。 morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A, B, C, D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分	
8	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。		
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分	
9	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分	
10	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分	
11	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分	
12	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分	
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パート別考え方のアイデア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パート別考え方のアイデアに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS IVA	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則、後期の英検IVBを履修すること

【授業方法】
対面授業を行います。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせて、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS IVB	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則、前期の英検IVAを履修していること

【授業方法】
対面授業を行います。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	会話の応答文選択		到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
14	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
15	筆記試験と学修の振り返り		筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験に解答できる。		
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。		60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。		30分

科目名	TOEFL I A	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、後期のTOEFL IBと併せて履修すること。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CNN 10 Student News Vol. 12	関戸冬彦、小暮正 人、Jake Arnold、 Christopher Mattson	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL ITPの解説	ガイダンス、読解力のチェック、TOEFL ITPの解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	TOEFLを勉強する目標をたてておく。これまで使用した英語の単語集、文法解説書をまとめておく。	30分
	事後学修	教科書を準備して音声をダウンロードする。授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	スポーツに関する英語	教科書 Unit 1 Baseball in Japan	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
3	テクノロジーに関する英語	教科書 Unit 2 Restaurant Robot	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
4	食品に関する英語	教科書 Unit 3 Keeping Food Fresh	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
5	教科書 Unit 1から3までの振り返り	教科書 Unit 1から3までの振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の復習の問題に答えることができる。	
	事前学修	既習事項を復習して、テストに臨む。	30分
	事後学修	復習テストの内容を振り返り、間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	テクノロジーに関する英語	教科書 Unit 4 The Metaverse	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境に関する英語	教科書 Unit 5 Lionfish Problem	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
8	TOEFL ITP対策（リスニング）	TOEFL ITP対策（リスニングを中心に）Part A	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの教科書の内容を復習して、TOEFLの問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料で分からない単語を調べておく。	30分
	事後学修	間違えた問題を復習する。	30分
9	TOEFL ITP対策（リスニング）	TOEFL ITP対策（リスニングを中心に）Part B, C	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの教科書の内容を復習して、TOEFLの問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料で分からない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	TOEFL ITP対策（文法）	TOEFL ITP対策（文法）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの教科書の内容を復習して、TOEFLの問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料で分からない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	TOEFL ITP対策（読解）	TOEFL ITP対策（読解）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの教科書の内容を復習して、TOEFLの問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料で分からない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	スポーツに関する英語	教科書 Unit 6 Successful Football Player	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会・国際に関する英語	教科書 Unit 7 Bringing Back Oysters to Hong Kong	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開きとることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語彙の問題を解いて、ニュース動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
14	教科書Unit 4から7の振り返り	教科書Unit 4から7の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の復習の問題に答えることができる。	
	事前学修	語彙、文法などを中心に既習事項を振り返り、テストに臨む。	30分
	事後学修	間違えた問題を復習する。	30分
15	前期の振り返り	授業内試験及び前期の学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、授業内試験で間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	稲田 貴子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL I Aでは、原則後期のTOEFL I Bと併せて履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワーク及びグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEFLテスト英単語3800 4訂版	神部孝	旺文社	2014	参考書	推奨
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後又は、メールで対応します。inada.takako12@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で説明された内容を復習する。自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	60分
2	授業1: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
3	授業2: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
4	授業3: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
5	授業4: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
6	授業5: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL-ITP 対策	第1回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
8	TOEFL-ITP 対策	第1回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分
9	授業6: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
10	授業7: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
11	授業8: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
12	授業9: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業10: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
14	TOEFL-ITP 対策	第2回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
15	TOEFL-ITP 対策	第2回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分

科目名	TOEFL I B	担当者	堀 千和子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、前期のTOEFL IAと併せて履修すること。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CNN 10 Student News Vol. 12	関戸冬彦、小暮正 人、Jake Arnold、 Christopher Mattson	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の振り返り、後期の学習に向けてのウォームアップ	前期の振り返り、語彙・文法・読解の復習問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの復習問題に答えることができる。	
	事前学修	前期の学習を振り返り、今期の目標を立てておく。	30分
	事後学修	配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	自然・環境に関する英語	教科書 Unit 8 To Qatar by Bicycle	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
3	食物・社会に関する英語	教科書 Unit 9 Food for the Food Bank	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
4	社会に関する英語	教科書 Unit 10 Big Ben Restoration	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
5	金融に関する英語	教科書 Unit 11 Making Digital Money	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
6	教科書 Unit 8から11までの振り返り	教科書 Unit 8から11までの振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書で学習したニュースの問題に答えられる。	
	事前学修	語彙、文法、語法を中心に既習事項を振り返る。	30分
	事後学修	間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	芸術に関する英語	教科書 Unit 12 Raleigh' s Museums and Galleries	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
8	農業に関する英語	教科書 Unit 13 Community Farmer	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
9	TOEFL ITP対策（リスニング）	TOEFL ITP対策（リスニングを中心に） Part A, B, C	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話・スピーチの内容を正確に聞き取ることができる。	
	事前学修	配布資料のプリントでわからない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	TOEFL ITP対策（文法）	TOEFL ITP対策（文法）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際のTOEFLの文法問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のプリントでわからない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	TOEFL ITP対策（読解）	TOEFL ITP対策（読解を中心に）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、既習事項を活用して実際のTOEFLの問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のプリントでわからない単語を調べておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	動物・環境に関する英語	教科書 Unit 14 Green Safari in Botswana	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを聞き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	環境に関する英語	教科書 Unit 15 Green Energy Buildings	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語ニュースを開き取ることができ、内容を把握することができる。	
	事前学修	教科書の重要語句の問題を解いて、ニュースの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、復習問題を解く。	30分
14	教科書 Unit 1 2から1 5までの振り返り	教科書 Unit 1 2から1 5までの振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書で学習したニュースの問題に答えられる。	
	事前学修	語彙、文法、語法を中心に既習事項を振り返る。	30分
	事後学修	間違えた問題を復習する。	30分
15	後期の振り返り	授業内試験及び後期の学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、授業内試験で間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	稲田 貴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則，前期のTOEFL IAと併せて履修すること。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニン グ	2023	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	いいずな書店編集部	いいずな書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第6版	南出康世・中邑光男	大修館書店	2023	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要，事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	助動詞（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，助動詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	助動詞（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，助動詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	助動詞（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，助動詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	TOEFL ITP対策（1）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	TOEFL ITP対策（2）リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.34-37) の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のVocabulary Check! (p.34-37) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	比較（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
8	比較（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
9	比較（3）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
10	TOEFL ITP対策（3）文法		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
11	TOEFL ITP対策（4）読解・語彙		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
12	副詞		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEFL ITP対策 (5) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	TOEFL ITP対策 (6) リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.46-49) の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のVocabulary Check! (p.49) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	TOEFL ITP対策 (7) 模擬試験	TOEFL-ITPの模擬試験とその解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習し、模擬試験に備えておく。	30分
	事後学修	模擬試験の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、後期のTOEFL IIBと併せて履修すること。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義形式と演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークかグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解答・解説を行う。小テストは次回に採点されて返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kaga.takehiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLの初期演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を把握することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を概観しておく。		10分
	事後学修	初期演習の復習を行う。		30分
2	・TOEFL実践的演習(1) ・多義語の演習		・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を精読し、それに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLリーディングの設問の諸々の傾向を把握し、何が問われているかを理解し、対応できる。		
	事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を予習する。		60分
	事後学修	学習した「多義語」の意味を復習し、覚える。		30分
3	・TOEFL実践的演習(2) ・重要単語の用法の演習		・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の理解を深める演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の用法が理解・判別できる。		
	事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（後半）を予習する。		60分
	事後学修	今回学習した「重要単語」の復習を行う。		30分
4	・TOEFL実践的演習(3) ・前置詞の用法の演習		・テキストChapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(前半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の用法」の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の用法が重要単語の用法ができる。		
	事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（前半）を予習する。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「前置詞の用法」の復習を行う。		30分
5	・TOEFL実践的演習(4) ・接頭辞から語彙を増やす演習		・Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・接頭辞から語彙を増やす演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。接頭辞から語彙を増やすことができる。		
	事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（後半）を予習する。		60分
	事後学修	今回学習した接頭辞、および新しい語彙を復習し、覚える。		30分
6	既習内容の総復習(1)		Chapter 1～2の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の総復習・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 1～2の総復習・振り返りを通じて、各自の課題を見出すことができる。		
	事前学修	Chapter 1～2を再読し、単語・構文・内容を総復習する。		60分
	事後学修	授業で提示された重要箇所を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	・TOEFL実践的演習(5) ・word formの演習	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLにおける word formに関連した問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。word formに関連した問題を解くことができる。	
	事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）を予習する。	60分
	事後学修	TOEFLの word formの問題をもう一度解いてみる。	30分
8	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出「重要単語」の意味・用法	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味・用法を理解する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が判別できる。	
	事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
9	・TOEFL実践的演習(7) ・多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
	事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分
10	・TOEFL実践的演習(8) ・多義語の知識を増やす演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の知識を増やす演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
	事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語を復習し、覚える。	30分
11	既習内容の総復習(2)		テキストChapter 3～4の総復習・振り返りを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 3～4の総復習・振り返りを通じて、各自の課題を見出すことができる。	
	事前学修	Chapter 3～4を再読し、単語・構文・内容を総復習する。	60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。	30分
12	・TOEFL実践的演習(9) ・読解における多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 5: Double Edged Net（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を理解・判別する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
	事前学修	Chapter 5: Double Edged Net（前半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	・TOEFL実践的演習(10) ・TOEFL「重要単語」の意味・用法	・テキストChapter 5: Double Edged Net（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が理解できる。	
	事前学修	Chapter 5: Double Edged Net（後半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
14	・TOEFL実践的演習(11) ・重要な「前置詞」の意味・用法	・テキストChapter 6: The Issues of Oceansに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の意味・用法」の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の意味・用法が理解・判別できる。	
	事前学修	Chapter 6: The Issues of Oceansを予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
15	既習内容の総復習(3)	テキストChapter 5～6の総復習・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 5～6の総復習・振り返りを通じて、各自の課題を見出すことができる。	
	事前学修	Chapter 5～6を再読し、単語・構文・内容を総復習する。	60分
	事後学修	今学期の学習を踏まえて、各自の弱点等を認識し、これからの英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、後期のTOEFL II Bと併せて履修すること。Criterionを副教材とし、学期中に少なくとも一回はTOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストやcriterionなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についている かを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度） 活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験，小テスト，授業参画度などで目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Template Writing:Deeper Idea Development	八木橋/野村/多々良/Spreadbury	金星堂	2024	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリア受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	TOEFL-ITPの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフリーディング	Chapter 1 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	アカデミック・ライティング	Chapter 2 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	パラグラフリーディング	Chapter 3 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	アカデミック・ライティング	Chapter 4 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフリーディング	Chapter 5 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ITP対策(1)	ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	ITP対策(2)	ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、前期のTOEFL IIAと併せて履修すること。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークかグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解答・解説する。小テストは採点されて次の回に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kaga.takehiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLに向けた初期演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を把握することができる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。	10分
	事後学修	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。	30分
2	・TOEFL実践的演習(1) ・TOEFL「重要構文」の演習		・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要構文」を見抜き、理解できるようになる演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「重要構文」を見抜き、理解することができる。	
	事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）の予習を行う。	60分
	事後学修	今回学習した「重要構文」の復習を行う。	30分
3	・TOEFL実践的演習(2) ・TOEFL頻出「多義語」の演習		・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の知識を広げる演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「多義語」を的確に判別できる。	
	事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）の予習を行う。	60分
	事後学修	今回新たに学習した「多義語」の復習を行う。	30分
4	・TOEFL実践的演習(3) ・英語の文体的特徴の演習		・テキストChapter 8: An Obsession with Possessionに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の文体的特徴（並列法、パラレリズム、対照法等）を理解する演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の文体的特徴を認識できる。	
	事前学修	テキストChapter 8: An Obsession with Possessionの予習を行う。	60分
	事後学修	今回新たに学習した文体的特徴の復習を行う。	30分
5	既習内容の総復習 1		テキストChapter 7～8のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習と振り返りを通じて、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。	
	事前学修	テキストChapter 7～8を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。	30分
6	・TOEFL実践的演習(4) ・TOEFL頻出「熟語の多義」の演習		・テキストChapter 9: Heading for a Crashに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「熟語の多義」を判別する演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「熟語の多義」を識別できる。	
	事前学修	テキストChapter 9: Heading for a Crashの予習を行う。	60分
	事後学修	今回新たに学習した熟語の多義を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	・TOEFL実践的演習(5) ・英語の「同綴異義語」の演習		・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の「同綴異義語」の意味を判別する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の「同綴異義語」を認識し、判別できる。		
	事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「多義語」の復習を行う。		30分
8	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出word formsの演習		・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出するword formsの演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した内容に基づいて、適切なword formを選べるようになる。		
	事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習したword formsの重要事項の復習を行う。		30分
9	既習内容の総復習 2		テキストChapter 9～10のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習と振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことができる。		
	事前学修	テキストChapter 9～10を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
10	・TOEFL実践的演習(7) ・注意すべき「否定語」の演習		・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する注意すべき「否定語」を習得する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定語」を認識できる。		
	事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した注意すべき「否定語」の復習を行う。		30分
11	・TOEFL実践的演習(8) ・注意すべき「否定構文」の演習		・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英文において注意すべき「否定構文」を理解できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定構文」を正確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「否定構文」の復習を行う。		30分
12	・TOEFL実践的演習(9) ・注意すべき一見simpleな英語表現の演習		・テキストChapter 12: The Other Precious Liquid に関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において解釈に注意すべき一見simpleな英語表現を理解する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき一見simpleな英語表現を的確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 12: The Other Precious Liquidの予習を行う。		60分
	事後学修	今回学習した「注意すべき一見simpleな英語表現」の復習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	既習内容の総復習 3	テキストChapter 11～12のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習と振り返りを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習と振り返りを通じて、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。		
	事前学修	テキストChapter 11～12を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
14	・TOEFL実践的演習(10) ・注意すべき「熟語表現」の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquidに関するTOEFL形式の問題を解く ・TOEFLにおいて注意すべき「熟語表現」の理解を深める演習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「熟語表現」を的確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 14: Good Help, Bad Helpの予習を行う。 (*Chapter 13は飛ばします。)		60分
	事後学修	今回新たに学習した注意すべき「熟語表現」の復習を行う。		30分
15	・TOEFL実践的演習(11) ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習	・テキストChapter 15: Are You Happy? に関するTOEFL形式の問題を解く ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」を適切に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 15: Are You Happy?の予習を行う。		60分
	事後学修	今回学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の復習を行う。 今学期学習した内容を振り返り、今後の自分の学習の方向性を考える。		30分

科目名	TOEFL II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、前期のTOFEL II Aと併せて履修すること。Criterionを副教材とし、学期中に少なくとも一回はTOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。						2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。						2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。						2	2		
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストやcriterionにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験，小テスト，授業参画度などで目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Template Writing:Deeper Idea Development	八木橋/野村/多々良/Spreadbury	金星堂	2024	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリア受講料（5回で1220円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。 Chapter6 アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフリーディング	Chapter7,8 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	アカデミック・ライティング	Chapter 9,10 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	パラグラフリーディング	Chapter11,12 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	アカデミック・ライティング	Chapter13 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフリーディング	Chapter 14 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL-ITP対策	TOEFL-ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	TOEFL-ITP対策	TOEFL-ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	稲田 貴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL III Aでは、原則後期のTOEFL III Bと併せて履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワーク及びグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEFLテスト英単語3800 4訂版	神部孝	旺文社	2014	参考書	推奨
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後又は、メールで対応します。inada.takako12@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で説明された内容を復習する。自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	60分
2	授業1: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
3	授業2: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
4	授業3: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
5	授業4: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
6	授業5: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL-ITP 対策	第1回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
8	TOEFL-ITP 対策	第1回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分
9	授業6: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
10	授業7: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
11	授業8: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
12	授業9: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業10: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
14	TOEFL-ITP 対策	第2回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
15	TOEFL-ITP 対策	第2回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	自分のペースでTOEFLの単語学習をする。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	稲田 貴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL III Bでは、原則前期のTOEFL III Aと併せて履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワーク及びグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	15	15	15								45
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEFLテスト英単語3800 4訂版	神部孝	旺文社	2014	参考書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後又は、メールで対応します。inada.takako@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で説明された内容を復習する。TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(220個)を学んでおく。	60分
2	授業1: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
3	授業2: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
4	授業3: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
5	授業4: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
6	授業5: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL-ITP 対策	第1回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
8	TOEFL-ITP 対策	第1回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分
9	授業6: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
10	授業7: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
11	授業8: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
12	授業9: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業10: Listening, Grammar, Reading	Listening, Grammar, Reading(プリント)の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、その知識を身につけると共に、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	授業の復習をする。	30分
14	TOEFL-ITP 対策	第2回小テスト	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	今までの授業の復習をし、今までに学んだ単語を覚えておく。	60分
	事後学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
15	TOEFL-ITP 対策	第2回小テストの解説	
	この回の到達目標	到達目標1, 2, 3に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を理解することができる。	
	事前学修	TOEFLテスト英単語3800 4訂版の単語(次の120個)を学んでおく。	30分
	事後学修	本日の授業の復習をし、TOEFL-ITPのために勉強する。	60分

科目名	TOEFL IVA (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、後期のTOFEL IVBと併せて履修すること。Criterionを副教材とし、学期中に少なくとも一回はTOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。										4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。										4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（TOEFL-ITP、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標①③が達成しているかを、criterionにより評価する。	10		10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Point Academic Writing	深山／幸重／尾鍋／村尾／Moore	金星堂	2021	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義 (TOEFL-iBTとは)	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフリーディング	Unit 1 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	アカデミック・ライティング	Unit 2 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	パラグラフリーディング	Unit 3 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	アカデミック・ライティング	Unit 4 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフリーディング	Unit 5 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ITP対策(1)	ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	ITP対策(2)	ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	TOEFL iBT (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
原則、前期のTOFEL IVAと併せて履修すること。Criterionを副教材とし、学期中に少なくとも一回はTOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。										4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。										4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（TOEFL-ITP、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標①③が達成しているかを、criterionにより評価する。	10		10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験，小テスト，授業参画度などで目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Point Academic Writing	深山／幸重／尾鍋／村尾／Moore	金星堂	2021	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、、クライテリオン受講料（5回で1220円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義 (TOEFL-iBTとは)	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフリーディング	Unit 6 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	アカデミック・ライティング	Unit 7 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	パラグラフリーディング	Unit 8 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	アカデミック・ライティング	Unit 9 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフリーディング	Unit 10 パラグラフリーディング、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	iBT対策	iBT対策	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	iBT対策	iBT対策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターン、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	国際研修(英) I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
TOEIC 500以上又はCEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海外の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	海外の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	5	5									10
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。		10	10								20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	50	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	Readings and materials will be provided in class and on Google Classroom.				

【オフィスアワー】
金曜日14:40-16:10 研究室（9402研究室） joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Course Introduction	Course and self introductions.		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can reflect on summer experiences and share with class. Prepare for presentation.		
	事前学修	Review material from last semester.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
2	Review of writing paragraphs	Opinion paragraphs and methods of cohesion and coherence		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about making presentations more effective through gestures - practice. This skill will be useful when taking part in study abroad classes		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
3	Review of writing paragraphs	Opinion paragraphs and methods of cohesion and coherence		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentations with structure and transitions - practice. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
4	Meeting students from the US	Planning Tour for ISU students in Ueno		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can practice and make presentations. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
5	Meeting students from the US	Ueno tour for ISU students		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can undertake final presentation preparation and practice with teacher. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
6	Rhetorical Analysis	Introduction to rhetorical analysis (RA); Ravioli advertisement		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can carry out assessments		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Rhetorical Analysis		Advert (student choice) for Pathos; Analyze ravioli for pathos.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing polite and appropriate emails in English. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
8	Rhetorical Analysis		Students lead discussions about Pathos analysis of advert of their choice.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing polite and appropriate emails in English. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
9	Rhetorical Analysis		Introduction to Logos (analysis of text)	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to write about themselves in the context of job hunting abroad. This skill will be useful when living abroad.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
10	Rhetorical Analysis		Analysis of Logos (NYT article)	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to write about themselves in the ocntext of job hunting abroad. This skill will be useful when living abroad.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
11	Presentation skills		The physical message	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing paragraphs which share opinions. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
12	Presentation skills		The story message	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about how to make paragraphs which compare different points of an argument. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Presentations		Working on presentations
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can revise all the key points about writing essays in preperation for assessment. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations		Assessment for presentations
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about unity and coherence in writing. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Final exam, まとめ		Course wrap-up and reflections
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can do assessments	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Reflect on semester	60分

科目名	国際研修(英) I A	担当者	小原 ダイアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、国際研修(英) I Bと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海外の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	海外の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	5	5									10
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。		10	10								20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	50	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Contemporary Topics Level 1 (4E)	Helen S Solorzano, Laurie L Frazier	Pearson	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
diane.obara@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction		Learn about the aims and objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in communication and critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
2	Psychology: Happiness		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
3	Linguistics: A Time to Learn		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
4	Public Health: Sleep		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
5	Catch-up Lesson		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Review Discussion Skills		60分
	事後学修	Prepare for Discussion Test		60分
6	Discussion “Review” Test		Group Discussions from Chapters 1-3.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Review Skills and Content.		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Presentation Skills		Group Presentation Introduction Research and Writing	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
8	Presentation Workshop		Create PowerPoint Slideshow and Interactive Lesson for Overseas	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class and practice		60分
9	Group Presentations		Groups will present on topics intended for an international audience.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
10	Business: Negotiating for Success		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare mini-report and presentation		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
11	Art History: Modern Art		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
12	Engineering: Robots		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussion "Review" Test	Group Discussions from Chapters 4-6.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Prepare texts and readings	60分
	事後学修	Complete assignment for next class	60分
14	Cultural Differences: High Context/Low Context	Writing Skills and Reaction/Reflection Paper	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Continue with Writing Skills	60分
	事後学修	Continue with Writing Skills	60分
15	Cultural Differences: High Context/Low Context	Final Reaction/Reflection Paper Due	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Share hopes and aspirations for study abroad.	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	国際研修(英)ⅠB	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、国際研修（英）ⅠAと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	英語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	5	5									10
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	10	10									20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14:40-16:10 研究室（9402研究室）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Welcome back		Summarizing what we learned last semester	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Review material from last semester.		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
2	Online International Collaboration		Preparation for collaboration by reviewing project texts	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
3	Online International Collaboration		Preparation for collaboration by reviewing project texts	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
4	Online International Collaboration		Preparation for collaboration by reviewing project texts	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
5	Online International Collaboration		Meeting your international collaboration partners	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
6	Online International Collaboration		Choosing a project with your international collaborators	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Online International Collaboration		Submitting a project proposal	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
8	Online International Collaboration		Work on projects	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
9	Online International Collaboration		Continue work on projects	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
10	Online International Collaboration		Submit first draft of project	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
11	Online International Collaboration		Work on revisions for project	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary and concepts for the short test.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分
12	Online International Collaboration		Work on revisions for project	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Continue with Presentations.		30分
	事後学修	Complete tasks for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Online International Collaboration	Practice final presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Reflecting on the project throughout the semester	60分
14	Online International Collaboration	Practice final presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Write draft of reflections	30分
	事後学修	Reflecting on the project throughout the semester	60分
15	Final exam, まとめ	Final presentation assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①②③ above, students can carry out the semester assessment.	
	事前学修	Continue with reflections	30分
	事後学修	Reflect on the semester	60分

科目名	国際研修(英)ⅠB	担当者	小原 ダイアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、国際研修（英）ⅠAと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	英語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。		10	10								20
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	60	35								120

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Contemporary Topics Level 1 (4E)	Helen S Solorzano, Laurie L Frazier	Pearson	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
diane.obara@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
1	Introduction		Learn about the aims and objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
2	"Hot Topics" in Japan: Life and Society to Share with the World		Introduction to Mini-Presentations (Skills and Structure)	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
3	Presentation Workshop		Create PowerPoint for "Hot Topic" Presentation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Google Classroom Assignment		60分
	事後学修	Finish Creating Mini-presentation		60分
4	Media Studies: Interactive Games		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Mini-presentations due		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
5	Biology: Genetically-modified Food		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
6	Business: Design Thinking		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare mini-report and presentation		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Discussion "Review" Test		Group Discussions from Chapters 7-9	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
8	History: Shackleton		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
9	Philosophy: Ethics		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
10	Information Technology: Big Data		Note-taking, Focusing Attention, Discussion Functions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare mini-report and presentation		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
11	Intercultural Communication: Cultural Differences (Conflict Resolution)		Introduction to the Final Discussion-Leading Assignment (lesson)	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
12	Intercultural Communication (Conflict Resolution)		Research and Writing. Preparation for Final Discussion leader assignment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Prepare texts and readings		60分
	事後学修	Finalize Discussion-leading Assignment.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Discussion Leading		Final Discussions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Continue with Discussion Leading		60分
	事後学修	Continue with Discussion Leading		60分
14	Discussion Leading		Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Continue with Discussion Leading		60分
	事後学修	Prepare for the final lesson		60分
15	Course Review		Write course evaluations and reflections	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Reflect on the semester		60分
	事後学修	Reflect on the semester.		60分

科目名	TOEIC I A	担当者	石川 太郎	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
対面授業。オンデマンドとの併用は行わない。実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているか を評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①②が達成できているか評価す る。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test: Level 1	北尾泰幸その他	朝日出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、今後の授業の進め方の説明	
	事前学修	前年度の授業の復習	30分
	事後学修	小テストの復習	30分
2	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、TOEIC試験形式に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	part 1～3	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 1: リスニングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前2回の授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	part 4～7	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 2: リーディングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	part 1～3	Unit 2: 人物の動作に注目する 1: リスニングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	part 4～7	Unit 2: 人物の動作に注目する 2: リーディングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	part 1～3	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	part4～7	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	part 1～3	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	part4～7	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	part 1～3	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	part4～7	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	part 1~3	Unit 6: 設問を先読みする 1:リスニングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	part 1~3 and part4~7	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
	事後学修	全体の復習	30分
15	part 1~3 and part4~7	前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。（受験料及び教材費は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークを行いながら、TOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークやグループ・ワークなどの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEI, テスト（小テスト等を含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	Koji HAYAKAWA, Naoyuki Bamba	金星堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に対応します。不可能な場合に限りメールで対応します。アドレス（suzuki.fusako@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	TOEIC Listening & Reading Testとは？ 授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEICがどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
	事後学修	TOEICテストについてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 オリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	Pre-test	Pre-testを実施する グループを決める	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	Pre-testのListening 小テストの勉強をする。	30分
	事後学修	Pre-testのReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる	30分
3	Pre-testのふりかえり①	Pre-testのListeningを復習する Listeningのグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのListeningの復習を通じて、TOEIのListeningの問題形式を習得することができる。	
	事前学修	Pre-testのListeningを復習し、単語をチェックする。	30分
	事後学修	Pre-testのReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	Pre-testのふりかえり②	Pre-testのListening・単語の小テスト Pre-testのReadingを復習する Readingのグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのReadingの復習を通じて、TOEIのReadingの問題形式を習得することができる。	
	事前学修	Pre-testのListeningと単語の勉強をする。	30分
	事後学修	Pre-testのReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	Unit1 Travel①	Pre-testのReading・単語の小テスト Unit 1 Travel	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Travelに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	Pre-testのReadingの小テストの勉強をする。 テキストUnit 1の単語を覚えてくる。	30分
	事後学修	Unit 1のListeningを復習し、音読する。	30分
6	Unit1 Travel②	Unit 1の単語・Listening小テスト ClassMateの使い方を覚える（配信スタート予定） Unit 1 Travel―品詞①名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の使い方を覚え、Travelに関連するReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	テキストUnit 1の単語を覚えて、Listeningの小テストの勉強をする。	30分
	事後学修	Unit 1の単語を復習し、名詞の使い方を覚える。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 2 Dining Out①		ClassMATE Minitest1 Unit2 Dining Out
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Dining Outに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week1の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit2のListeningを復習し、音読する。	30分
8	Unit 2 Dining Out②		ClassMATE Minitest2 Unit2 Dining Out--品詞②形容詞
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の使い方を身につけ、Dining Outに関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week2の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit2の単語を復習し、形容詞の使い方を覚える。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる。	30分
9	Unit 3 Daily Life①		ClassMATE Minitest3 Unit3 Daily Life
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Daily Lifeに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week3の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit3のListeningを復習し、音読する。	30分
10	Unit 3 Daily Life②		ClassMATE Minitest4 Unit3 Daily Life--品詞③副詞
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞の使い方を身につけ、Daily Life関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week4の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit3の単語を復習し、副詞の使い方を覚える。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる。	30分
11	Unit4 Entertainment①		ClassMATE Minitest5 Unit4 Entertainment
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainmentに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week5の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit4のListeningを復習し、音読する。	30分
12	Unit4 Entertainment②		ClassMATE Minitest6 Unit4 Entertainment--代名詞①主格
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞の主格の使い方を身につけ、Entertainmentに関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week6の課題を行う。	30分
	事後学修	ClassMATE模擬テスト（40問）の課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ミニ模擬テスト		授業とClassMATEで学んだ解法のテクニックや知識を実際の試験でどのように応用するのかミニ模擬テストで確認することができる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業とClassMATEで学んだ解法のテクニックや知識を実際の試験でどのように応用するのかミニ模擬テストで確認することができる。	
	事前学修	ClassMATE の課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	ミニ模擬テストで解けなかった問題を復習する。	30分
14	前期試験とふり回り		テキストの前期試験 プリントの課題を行う
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することでTOEIC受験に必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
	事前学修	試験の範囲を勉強する。	30分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	前期のふり回り		前期の授業をふり返る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり回り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
	事後学修	前期で学んだ単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考え、夏休み以降の学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。GoogleFormsを使った課題の場合は、模範解答を見て見直してください。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC L&R テスト 文法項目別トレーニング』	鈴木 淳ほか	松柏社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の教室またはメールで対応します。yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。	30分
2	【単語テスト】 【品詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	【単語テスト】 【品詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	【単語テスト】 【時制】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	【単語テスト】 【時制】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	【単語テスト】 【受動態】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【単語テスト】 【単語ノート点検】 【受動態】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	【単語テスト】 【ClassMATE】 【不定詞・動名詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	【単語テスト】 【ClassMATE】 【不定詞・動名詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	【単語テスト】 【ClassMATE】 【分詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	【単語テスト】 【ClassMATE】 【分詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	【単語ノート点検】 【ClassMATE】 【前置詞・接続詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ClassMATE】 【全体の復習】	ClassMATE教材の復習。 学習した範囲を見直し、分からない点や忘れている点を確認し再度理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	学習範囲の総復習	60分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	川谷 弘子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMate)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Successful Steps for the TOEIC L&R Test	Hisakazu Tsukano 他	成美堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。kawatani.hiroko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。	20分
	事後学修	今日のガイダンスで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	40分
2	Unit 1: Entertainment（娯楽に関する英語表現） リスニング・パート	・Unit1: Entertainment: 娯楽に関する英語表現の理解と演習（リスニング） ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、娯楽に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 1のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト1に取り組み、期限内に提出する。	30分
3	Unit 1: Entertainment（娯楽に関する英語表現） リーディング・パート	・文法（5文型、名詞）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、5文型、名詞に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 5のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト2に取り組み、期限内に提出する。	40分
4	Unit 2: Personnel（人物描写に関する英語表現） リスニング・パート	・Unit2: Personnel: 人物描写に関する英語表現の理解と演習（リスニング） ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物描写に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 9のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト3に取り組み、期限内に提出する。	30分
5	Unit 2: Personnel（人物描写に関する英語表現） リーディング・パート	・文法（動詞の現在形、代名詞）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の現在形、代名詞に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 12のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト4に取り組み、期限内に提出する。	40分
6	Unit 3: Office Work & Supplies（オフィス・ワークに関する英語表現） リスニング・パート	・Unit3: Office Work & Supplies: オフィス・ワークに関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク ・ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オフィス・ワークに関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 17のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト5に取り組み、期限内に提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 3: Office Work & Supplies (オフィス・ワークに関する英語表現) リーディング・パート	・文法 (動詞の過去形、形容詞) の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の過去形、形容詞に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 20のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 1の課題に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト6に取り組み、期限内に提出する。	60分
8	Unit 4: Office Message (ビジネス文書に関する英語表現) リスニング・パート	・Unit4:Office Message :ビジネス文書に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ビジネス文書に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 26のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 2の課題に取り組む。 リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト7に取り組み、期限内に提出する。	40分
9	Unit 4: Office Message (ビジネス文書に関する英語表現) リーディング・パート	・文法 (未来表現、冠詞) の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来表現、冠詞に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 29のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 3に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト8に取り組み、期限内に提出する。	60分
10	Unit 5: Eating Out (外食に関する英語表現) リスニング・パート	・Unit5:Eating Out :外食に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外食に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 34のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 4の課題に取り組む。 リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト9に取り組み、期限内に提出する。	40分
11	Unit 5: Eating Out (外食に関する英語表現) リーディング・パート	・文法 (進行形、副詞) の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、進行形、副詞に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 37のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 5の課題に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト10に取り組み、期限内に提出する。	60分
12	Unit 6: Technology (技術に関する英語表現) リスニング・パート	・Unit6: Technology:技術に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークとグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、技術に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 42のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 6の課題に取り組む。 リスニングのスキプトの内容、表現を復習する。 小テスト11に取り組み、期限内に提出する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6: Technology（技術に関する英語表現） リーディング・パート	・文法（完了形、比較級）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完了形、比較級に関する知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 45のGrammar Focusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATEの課題を復習する。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト12に取り組み、期限内に提出する。	60分
14	復習（1）	・授業内試験（前期末）実施 ・まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを学修することができる。	
	事前学修	前期に学習した範囲を復習し、前期末試験に備える。	120分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	復習（2）	・授業内試験（前期末）返却と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返し、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	30分
	事後学修	夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	矢嶋 瑠莉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、教科書を中心に問題演習や小テストを行い、必要に応じてペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	双方向型の学習形式を取り、教科書を中心としたリスニングパートの学習を行う。 毎回の授業で解いた問題を提出してもらい、解答解説時は学生を当てて回答してもらう。 3回の小テストは、復習と自己学習に役立ててもらうため採点して返却する。 必要に応じてペアワークやグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・期末試験は、試験後に解答解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
LISTENING UPGRADE FOR THE TOEIC® TEST	菽越知子他	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。yajima.ruri@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	TOEIC Listening & Reading Testとは？ 教科書の紹介、授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	教科書を購入し、シラバスに目を通しておくこと。	30分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。 TOEIC L&R TestのHPに目を通しておくこと。	30分
2	PART1 Unit1	Unit1 ①人をよく観察しよう(1)～写真に登場する人が1人の場合	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART1の写真描写問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
3	PART1 Unit2, 3	Unit2 ②人をよく観察しよう(2)～写真に登場する人が2人以上の場合 Unit3 ③写っているものや、場所・状態をよく観察しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART1の写真描写問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
4	PART2 Unit5	Unit5 ①質問の出だし(Wh-)に注意しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART2の応答問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
5	PART2 Unit6, 7	Unit6 ②疑問詞(How)で始まる質問に慣れよう Unit7 ③Yes/No疑問文、orを含む疑問文、否定疑問文に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART2の応答問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
6	PART2 Unit8, 9	Unit8 ④許可、依頼、勧誘・提案に関する表現に慣れよう Unit9 ⑤文を最後まで注意して聞こう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART2の応答問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit4(PART1の小テスト), Unit10(PART2の小テスト)	Unit4 写真描写問題まとめ Unit10 応答問題まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART1とPART2の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	いままで授業で習ったPART1, 2をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	小テストの解説で説明したところをよく復習する。	30分
8	PART3 Unit11, 12	Unit11 ①設問を先読みして、聞き取りのポイントをおさえよう Unit12 ②設問の種類を分析しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART3の会話問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
9	PART3 Unit13, 14	Unit13 ③誰に関する設問か考えよう Unit14 ④語句の言い換えに注意し、後で確認しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART3の会話問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
10	PART3 Unit15, 16	Unit15 ⑤話し手の意図を理解しよう Unit16 ⑥3人の会話問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART3の会話問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
11	PART3 Unit17, Unit18(PART3の小テスト)	Unit17 ⑦会話と図表の情報を関連させよう Unit18 会話問題まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART3の会話問題を理解し、解くことができる。 到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART3の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。 いままで授業で習ったPART3をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	授業で習ったところを（小テストの解説も含めて）よく復習する。	30分
12	PART4 Unit19, 20	Unit19 ①設問を先読みして、聞き取りのポイントをおさえよう Unit20 ②設問の種類を分析しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART4の説明文問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	PART4 Unit21, 22		Unit21 ③語句の言い換えに注意し、後で確認しよう Unit22 ④話し手の意図を理解しよう
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART4の説明文問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
14	PART4 Unit23, Unit24(PART4の小テスト)		Unit23 ⑤説明文と図表の情報を関連させよう Unit24 説明文問題まとめ
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART4の説明文問題を理解し、解くことができる。 到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART4の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。 いままで授業で習ったPART4をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	授業で習ったところを（小テストの解説も含めて）よく復習する。	30分
15	前期期末試験、解説		前期の試験を実施する。余った時間で解答解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の試験を受験することでTOEICのリスニングパートの理解度をはかることができる。	
	事前学修	試験対策として、前期に習ったことをよく復習すること。	30分
	事後学修	試験の解答解説をふり返し、復習しておく。 夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 10	国際英辞書協会	IIBC	2023	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤	朝日新聞出版	2017	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に対応します。（念のため、メールアドレス：osumi.yurikoll@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション・導入講義		・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。		
	事前学修	シラバスを読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。テキスト2冊を購入する。		30分
	事後学修	公式問題集のサンプル問題を解く。『金フレ』『はじめに』を読む。		30分
2	公式問題集TEST 1 Listening		公式問題集 TEST 1 Listening Partを解いてみる 解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Listening 問題を最初に解き、答え合わせをし、初回の自分の力を認識し、TOEICの問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	公式問題集の最初のサンプル問題を解き、解説も読む。金フレ600点レベルを音声と共に音読、シャドウイングをする。		60分
	事後学修	公式問題集 TEST 1 Listening Partの間違ったところの復習。 金フレ600点レベルの音読とシャドウイング。		30分
3	公式問題集TEST Reading		公式問題集 TEST 1 Reading Partを解いてみる 解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Reading 問題を解き、答え合わせをし、初回の自分の力を認識し、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	公式問題集 TEST 1 Reading Partの間違ったところの確認。 金フレ600点レベルの音読とシャドウイング。		30分
4	公式問題集 TEST 1 Listening Part1 & Reading Part 5		公式問題集 TEST 1 Listening Part1 & Reading Part 5の解き方のコツと解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part1 & Reading Part 5の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
5	公式問題集 TEST 1 Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6		公式問題集 TEST 1 Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6の解き方のコツと解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		30分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
6	公式問題集 TEST 1 Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公式問題集 TEST 1 Listening Part3, Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part3, Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part3, Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 1の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
8	公式問題集 TEST 1 Listening Part3 & 4, Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part3 & 4, Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part3 & 4, Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 2の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
9	公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 3の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
10	公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 4の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
11	公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 5の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
12	公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 1 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 6の課題をする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公式問題集TEST 1 Listening	公式問題集TEST 1 Listening 2回目解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Partを2回目解き、初回より解けるようになったことを実感することができる。	
	事前学修	ClassMATEの課題にもう一度トライする。金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で解いた公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	60分
14	公式問題集TEST Reading	公式問題集TEST Reading 2回目解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Part2回目を解き、初回より解けるようになったことを実感することができる。	
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で解いた公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	30分
15	楽しみながら英語を学ぶ	前期の授業を振り返り、楽しみながら英語を学ぶ方法の紹介	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返し、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	金フレ 600点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。 公式問題集 TEST 1 のまだよく理解できないところを解き、解説を読み理解する。	60分
	事後学修	夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。 公式問題集 TEST1 音声と共にシャドウイングする。	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニング(ClassMATE)を副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
テキスト、オンライン教材を使って、問題演習、小テスト、グループワークなどをしながらTOEICの受験対策をする。学期中に必ずTOEICを受験すること。（シラバスに変更がある場合は初回授業で説明をする）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内でペア・ワーク、グループ・ワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題、テスト等については授業内で解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L & R TEST	Koji Hayakawa 他	金星堂	2023年	教科書	必携
備考	TOEIC受験、オンライン・トレーニング料が別途かかる。授業の際は辞書を用意すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。またメールでも対応します（sato.akiko01@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義 TOEICとは	・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	Unit 1 Travel	Unit 1 Travel	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「旅行」に関する語句・表現と名詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 1 を予習する。	60分
	事後学修	Unit1 の復習をする。	60分
3	Unit 2 Dining Out その1	Unit 2 Dining Out その1 Unit 1 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「食事」に関する語句・表現と形容詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 2 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 2 の復習をする。	60分
4	Unit 2 Dining Out その2	Unit 2 Dining Out その2 Unit 1 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「食事」に関する語句・表現と形容詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 2を予習する。	60分
	事後学修	Unit 2 の復習をする。	60分
5	Unit 3 Daily Life その1	Unit 3 Daily Life その1 Unit 2 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「日常生活」に関する語句・表現と副詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 3 を予習する。	60分
	事後学修	Unit 3 を復習する。	60分
6	Unit 3 Daily Life その2	Unit 3 Daily Life その2 Unit 2 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「日常生活」に関する語句・表現と副詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 3 を予習する。	60分
	事後学修	Unit 3 を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	Unit 4 Entertainment その1		Unit 4 Entertainment その1 Unit 3 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「娯楽」に関する語句・表現と代名詞を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 4 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 4 を復習する。		60分
8	Unit 4 Entertainment その2		Unit 4 Entertainment その2 Unit 3 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「娯楽」に関する語句・表現と代名詞を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 4 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 4 を復習する。		60分
9	Unit 5 Purchasing その1		Unit 5 Purchasing その1 Unit 4 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「買い物」に関する語句・表現と時制（現在・過去・未来）を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 5 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 5 を復習する。		60分
10	Unit 5 Purchasing その2		Unit 5 Purchasing その2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「買い物」に関する語句・表現と時制（現在・過去・未来）を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 5 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 5 を復習する。		60分
11	Unit 6 Offices その1		Unit 6 Offices その1 Unit 5 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「オフィス」に関する語句・表現と主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 6 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 6 を復習する。		60分
12	Unit 6 Offices その2		Unit 6 Offices その2 Unit 5 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「オフィス」に関する語句・表現と主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 6 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 6 を復習する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	Unit 7 Clients その1		Unit 7 Clients その1 Unit 6 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「顧客」に関する語句・表現と能動態・受動態を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 7 を予習する。		60分
	事後学修	Unit 7 を復習する。		60分
14	Unit 7 Clients その2		Unit 7 Clients その2 Unit 6 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「顧客」に関する語句・表現と能動態・受動態を学び、TOEICの問題に応用することができる		
	事前学修	Unit 7 を予習する。		120分
	事後学修	Unit 7 を復習する。		60分
15	前期のふり返り（テスト）		前期のふり返り（テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。		
	事前学修	前期に学んだことを復習する。		60分
	事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。		60分

科目名	TOEIC I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークや、グループワークをしながらTOEIC受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークや、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Develop Grammartical Competence for the TOEIC L&R Test	鈴木淳他	松柏社	2020	教科書	必携
公式TOEIC Listening &Reading 問題集10	国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	2024	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：授業後またはメールにて対応 machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。
実務経験に基づく実践的教育の内容	企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明、自己紹介
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、500点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけ、出題問題の傾向に慣れることで、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する方法を認識できる。	
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。テキストを購入する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	30分
2	基礎編 Unit 1 品詞, PART1, PART6		Unit1, 品詞PART1, PART6を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R500点獲得の為にリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築できる。	
	事前学修	Unit 1の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
3	Unit 2 時制, PART2, PART7		Unit 2 時制, PART2, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit2の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
4	Unit3 受動態, PART3, PART6		Unit3 受動態, PART3, PART6を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit3の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
5	Unit4 不定詞・動名詞, PART4, PART7		Unit4 不定詞・動名詞, PART4, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit4の問題を解いてくる。 CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。 音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
6	Unit5 分詞, PART1, PART6		Unit5 分詞, PART1, PART6を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit5 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit6 前置詞・接続詞, PART2, PART7	Unit6 前置詞・接続詞, PART2, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit6 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。Role Play の各自パートの練習をする。	30分
8	Unit7 関係詞, PART3, PART6	Unit7 関係詞, PART3, PART6を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Letters & E-mails (GR:前置詞)の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
9	Unit8 仮定法, PART4, PART7	Unit8 仮定法, PART4, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Health (GR:数量形容詞)の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
10	【応用編】 Unit9 語彙問題1 形容詞・副詞, PART1, PART7	Unit9 語彙問題1 形容詞・副詞, PART1, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、The Bank & The Post Office (GR:自動詞と他動詞)の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit9 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
11	Unit10 イディオム問題1, PART2, PART7	Unit10 イディオム問題1, PART2, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、New Products, Travel (GR:接尾辞と品詞) の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit10 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
12	Unit11 語彙問題2 動詞・名詞, PART3, PART6	Unit11 語彙問題2 動詞・名詞, PART3, PART6を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Daily Life、Job Applicationsの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit11の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit12 イディオム問題 2, PART4, PART7	Unit12 イディオム問題2, PART4, PART7を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Shopping、Educationの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit12の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
14	14 基礎力確認テストと実力テスト	前期試験を受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	前期試験範囲の勉強をする。	60分
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分
15	15 補強問題とまとめ	学習内容のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の学習修得の成果を確認し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	40分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。公式問題集を解き、後期に向けて計画をたてる。	20分

科目名	TOEIC I A	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストのフィードバックは、授業内またはポータルで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Effective Approach for the TOEIC L&R Test, Revised edition [TOEIC L&Rテスト：スコアアップのための総合英語改訂新版]	田中清美他	南雲堂	2021	教科書	必携
備考	辞書を持参すること				

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容		高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	授業の概要、成績評価などについてのオリエンテーション TOEIC Listening & Reading Test の概要	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Pretest	リスニング・リーディング能力、語彙・文法知識の診断	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己の英語運用能力を診断すると共に、テストニング・ストラテジーを習得することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
3	Unit 1	Part 1: 物の位置と状態を聞き取る Part 5: 語幹を共有する名詞・動詞・形容詞・副詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
4	Unit 2	Part 2: 基本的な疑問文に答える Part 6: 気をつけるべき英語の語順 Part 7: 広告文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
5	Unit 3	Part 3: 電話での会話 Part 5: 数にからんだ語の用法①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
6	Unit 4	Part 4: スピーチ Part 6: 数にからんだ語の用法② Part 7: チャットのやりとり	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 5		Part 1: 人物の動作と様子 Part 5: ねらわれやすい現在形と未来を表す表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。		30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。		30分
8	Mid-term exam		授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。		120分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。		30分
9	Unit 6		Part 2: いろいろなWh-疑問文 Part 6: ねらわれやすい過去形と完了形の表現 Part 7: 図表と文書	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。		30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。		30分
10	Unit 7		Part 3: カジュアルな日常会話 Part 5: 比較がらみの表現①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。		30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。		30分
11	Unit 8		Part 4: 録音メッセージ・広告 Part 6: 比較がらみの表現② Part 7: 雑誌・新聞の記事	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。		30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。		30分
12	Unit 9		Part 1: 建物・乗り物と周りの関係 Part 5: 文と文との結びつきの表現①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。		
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。		30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 10	Part 2: いろいろな形の問いかけに対応する Part 6: 文と文との結びつきの表現② Part 7: 求人広告と応募の手紙	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
14	End-of-term exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
15	Review	授業内試験へのフィードバックと解説、課題の提示	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでに学習した内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングClassMATEを副教材として受講することを義務づける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
実際の取得目標を意識したレベルのテキストを使用し、TOEIC及び英語検定試験のための勉強方法の習得を演習形式で実践します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	解答の根拠(何故、それが正解なのか)について受講者間で確認し合うなど情報共有を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト(小テストを含む)により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に着いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後、返却時に解説を行う。加えて、初見(テキスト解答)不正解の解答を実施する。(受講者各自の記録を必須とし、学期末に提出予定。)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R TESTオールラウンド演習	石井隆之、平田千夏、松村優子、山口修、岩田雅彦、Joe Ciunci	成美堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に対応します。※基本、直接問い合わせてください。(長期的に出席できない事由が発生した場合：oyama.seiko11@nihon-u.ac.jpへ)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び初回授業(実力チェック ※あくまでも現時点での各自のレベル把握のため。成績評価ではありません。)		本科目の授業の進め方 TOEIC L&R Testとは?→テキストを使った「実践」(初見(実直)チェック)Listening	
	この回の到達目標	TOEICが具体的にどんな英語テストなのかを把握する。加えて、現時点での各自のレベルを把握し、到達目標を設定する。		
	事前学修	TOEICが「資格」としてどう評価されているか(何点くらいでどのように手段として英語を運用できるものか、また就職活動にいかせるのか)を調べてくる。加えて、YouTube等のSNSでTOEICを扱っているサイトや、図書館や書店等で実際の対策問題集を手に取り、実際の問題がどんなものか調査してくる。		30分
	事後学修	初見チェック後、音声スクリプトを配布するので、テキストにあるサイトのストリーミングを(聴きとれるまで)再生し、空所補充(綴り不明な場合はカタカナで可。※TOEICでは綴りを書く問題はない。)してくる。		30分
2	最初の段階での各自のレベル把握及び学習目標の設定・明確化		(第1回に続き)初見レベルチェック(Listening+Reading section※実際のTOEICと同一の時間配分で実施) +(第1回実施Listening)スクリプトの空所補充(解答)及び音読	
	この回の到達目標	本科目の目標のレベルとはどの程度の英語を必要とするのかを把握し、それに到達するために受講者各自が15回(最終回)までにどこまでレベルアップすべきか具体的・明確にする。		
	事前学修	スクリプトにある未習の語句(「空所」については授業にて確認するのでそれ以外)をリストアップし、品詞及び代表的概念・訳語(和訳)を書き出してくる。※アルファベット順にすると「重複」を避けられる。		30分
	事後学修	(スクリプトの空所補充後の)補充した「空所」の語句も加えて、Unit毎にVocabulary Listを作成する。加えて、初見で不正解の問題の正解は何でそれは何故か(解答の根拠)を書き出す。		30分
3	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit1 Listening Section:Part1-4)		Unit1のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとは参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
4	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit1 Reading Section:Part5-7)		Unit1のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとは参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
5	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit2 Listening Section:Part1-4) +Unit1 Mini Test		Unit2のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとは参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
6	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit2 Reading Section:Part5-7)		Unit2のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとは参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit3 Listening Section:Part1-4) +Unit2 Mini Test		Unit3のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
8	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit3Reading Section:Part5-7)		Unit3のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
9	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit4 Listening Section:Part1-4) +Unit3 Mini Test		Unit4のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
10	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit4 Reading Section:Part5-7)		Unit4のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
11	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit5 Listening Section:Part1-4) +Unit4 Mini Test		Unit5のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
12	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit5 Reading Section:Part5-7)		Unit5のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit6 Listening Section:Part1-4) +Unit4 Mini Test		Unit6のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、 Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
13	この回の 到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。 ※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit6 Reading Section:Part5-7)		Unit6のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
14	この回の 到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
	テキスト展開範囲(Unit1-6)の内容理解の確認及び受講者各自による「分析」「課題」		(実際のTOEIC同様の)時間配分で、展開範囲(+追加解説した文法事項も含む)、加えて Vocabulary(Mini Test過去問題から出題)を授業内にて試験し、併せて各自で「初見不正解」の解答解説記録を完成させます。	
15	この回の 到達目標	(本科目展開範囲全般の)Vocabulary, 英語(会話)表現, 文法事項(規則性)や語法の理解の学習効果を学習者自身が分析・把握する。		
	事前学修	Mini Test (Unit1-5) の正解の確認、(Part2を中心とした)Listening Sectionの英語表現の理解の確認、Reading Sectioinで展開された文法事項の規則性や文章表現の内容の確認を行う。		30分
	事後学修	初見で「不正解」であったものの「正解」の確認を全展開範囲に関しに行い、全体を見渡して各自が「不得意な語彙の分析(「音声認識が不十分で誤解」「他の語句と混同してしまう)」を行い、その内容を文章化・記録する。(これにより今後同様の問題が出題された際の「正答率」が向上します。)		30分

科目名	TOEIC I B	担当者	石川 太郎	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
対面授業。オンデマンドとの併用は行わない。実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Skills for the TOEIC Listening and Reading Test: Level 1	北尾泰幸その他	朝日出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	part 1～3 and 4～7	前期授業の確認と復習	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前期授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
2	part 4～7	Unit 6: 設問を先読みする 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	Unit 6の予習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	part 1～3	Unit 7: 文脈を意識する 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	part 4～7	Unit 7: 文脈を意識する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	part 1～3	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 1: リスニングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	part 4～7	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	part 1～3	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 1:リスニングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	part 4～7	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 2:リーディングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	part 1～3	Unit 10: 代名詞を理解する 1:リスニングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	part 4～7	Unit 10: 代名詞を理解する 2:リーディングセクション	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	part 1～3	Test演習 1 (リスニングセクション中心)	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	part 4～7	Test演習 2 (リーディング中心)	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	part 4～7	Test演習 3（文法項目中心）	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	文法事項の復習	30分
14	part 1～3 and 4～7	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	part 1～3 and 4～7	後期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力を想定して、リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。（受験料及び教材費は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークを行いながら、TOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークやグループ・ワークなどの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEI, テスト（小テスト等を含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	Koji Hayakawa, Naoyuki Bamba	金星堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に対応します。不可能な場合に限りメールで対応します。アドレス（suzuki.fusako@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	後期の授業の進め方について TOEICのPart別特徴・頻出事項について復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を復習し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	夏休み中の学習状況を伝えることができるようにしておく。TOEICの試験の特徴などを調べておく。	30分
	事後学修	TOEICの各Partの特徴や頻出の傾向を頭に入れ、自分の弱点を把握する。	30分
2	復習テスト	復習テスト（文法・リスニング）を実施する 後期のグループを決める	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、復習テストを受験して、自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	頻出の問題を解き、復習をしておく。	30分
	事後学修	テストで間違ったところを自分で見つけ、得意な点と弱点を分析し、学習計画を立てる。	30分
3	Unit 5 Purchasing①	Unit5の単語の小テスト Unit5 Purchasing	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのListeningの復習を通じて、TOEIのListeningの問題形式を習得することができる。	
	事前学修	テキストUnit5の単語の勉強をする。	30分
	事後学修	Unit 5 のListeningを復習し、音読する。	30分
4	Unit 5 Purchasing②	Unit 5 の単語・Listening小テスト Unit 5 Purchasing――時制（現在・過去・未来）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制の使い方を覚え、Purhsingに関連するReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	テキストUnit5の単語とListeningの小テストの勉強をする。	30分
	事後学修	Unit5の単語を復習し、時制の使い方を復習する。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる	30分
5	Unit 6 Offices①	Unit 5 のReading・単語の小テスト Unit6 Offices	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Officesに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	Unit 5 の単語とReadingの小テストの勉強をする。	30分
	事後学修	Unit 6 のListeningを復習し、音読する。	30分
6	Unit 6 Offices②	Unit 6 の単語・Listening小テスト ClassMateの注意事項（配信スタート予定） Unit6 Offices――主語と動詞の一致	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と動詞の一致の解法を身につけ、Officesに関連するReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	テキストUnit6の単語とListeningの小テストの勉強をする。	30分
	事後学修	°	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit7 Clients Clients①		ClassMATE Minitest1 Unit7 Clients
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Clientsに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week1の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit7のListeningを復習し、音読する。	30分
8	Unit7 Clients②		ClassMATE Minitest2 Unit7 Clients--能動態・受動態
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、能動態・受動態の使い方を身につけ、Clientsに関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week2の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit7の単語を復習し、能動態・受動態の使い方を復習する。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる。	30分
9	Unit8 Recruiting①		ClassMATE Minitest3 Unit8 Recruiting
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Recruitingに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week3の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit8のListeningを復習し、音読する。	30分
10	Unit8 Recruiting②		ClassMATE Minitest4 Unit8 Recruiting--動名詞・不定詞
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動名詞・不定詞の使い方を身につけ、Purchasingに関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week4の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit8単語を復習し、動名詞・不定詞の使い方を復習する。Readingのテキストを音読し、自分で訳してみる。	30分
11	Unit9 Personnel①		ClassMATE Minitest5 Unit9 Personnel
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Personnelに関連するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week5の課題を行う。	30分
	事後学修	Unit9のListeningを復習し、音読する。	30分
12	Unit9 Personnel②		ClassMATE Minitest6 Unit9 Personnel--比較
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較の使い方を身につけ、Personnelに関連する読解問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week6の課題を行う。	30分
	事後学修	ClassMATE模擬テスト（40問）の課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ミニ模擬テスト	授業とClassMATEで学んだ解法のテクニックや知識を実際の試験でどのように応用するのかミニ模擬テストで確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業とClassMATEで学んだ解法のテクニックや知識を実際の試験でどのように応用するのかミニ模擬テストで確認することができる。	
	事前学修	ClassMATE の課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	ミニ模擬テストで解けなかった問題を復習する。	30分
14	後期試験とふり回り	テキストの後期試験 プリントの課題を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することでTOEIC受験に必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
	事前学修	試験の範囲を勉強する。	30分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	後期のふり回り	後期の授業をふり返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり回り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
	事後学修	後期で学んだ単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、対策を考え、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。GoogleFormsを使った課題の場合は、模範解答を見て見直してください。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC L&R テスト 文法項目別トレーニング』	鈴木 淳	松柏社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の教室またはメールで対応します。yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらい、単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
2	【単語テスト】 【関係詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	【単語テスト】 【関係詞】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	【単語テスト】 【仮定法】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	【単語テスト】 【仮定法】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	【単語テスト】 【語彙問題】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【単語テスト】 【単語ノート点検】 【語彙問題】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	【単語テスト】 【ClassMATE】 【イディオム問題】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	【単語テスト】 【ClassMATE】 【イディオム問題】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	【単語テスト】 【ClassMATE】 【語彙問題2】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	【単語テスト】 【ClassMATE】 【語彙問題2】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	【単語ノート点検】 【ClassMATE】 【イディオム問題2】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びオンライン教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ClassMATE】 【全体の復習】	ClassMATE教材の復習。 学習した範囲を振り返り、分からない点や忘れていた点を見直し再度理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	学習範囲の総復習	60分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	川谷 弘子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(TOEIC)												
その他(ClassMate)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Successful Steps for the TOEIC L&R Test	Hisakazu Tsukano 他	成美堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。kawatani.hiroko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Unit7：Research&Merchandise Development 研究開発に関する英語表現 (リスニング・パート)	・授業の進め方について確認する ・Unit7：Research&Merchandise Developmen：研究開発に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究開発に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。 教科書P. 51のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト1の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
2	Unit7：Research&Merchandise Development 研究開発に関する英語表現 (リーディング・パート)	・文法（助動詞）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（助動詞）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 54のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト2の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
3	Unit8：Finance&Budgets 財務に関する英語表現 (リスニング・パート)	・Unit8：Finance&Budgets：財務に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財務に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 59のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	20分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト3の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
4	Unit8：Finance&Budgets 財務に関する英語表現 (リーディング・パート)	・文法（受動態、不定詞）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（受動態、不定詞）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 62のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト4の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
5	Unit9：Purchases 購買に関する英語表現 (リスニング・パート)	・Unit9:Purchases：購買に関する英語表現の理解と演習 ・リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、購買に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 67のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	20分
	事後学修	リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト5の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
6	Unit9：Purchases 購買に関する英語表現 (リーディング・パート)	・文法（時制の一致、分詞）の理解を深める ・リーディング・パートを用いた演習 ・ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（時制の一致、分詞）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 62のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト6の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit10 : Manufacturing 工場や生産に関する英語表現 (リスニング・パート)	- Unit10:Manufacturing :工場や生産に関する英語表現の理解と演習 - リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、工場や生産に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P.76のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 1の課題に取り組む。 リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト7の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
8	Unit10 : Manufacturing 工場や生産に関する英語表現 (リーディング・パート)	- 文法（動名詞）の理解を深める - リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（動名詞）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P.79のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 2の課題に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト8の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
9	Unit11 : Marketing & Sales マーケティングや販売に関する英語表現 (リスニング・パート)	- Unit11:Manufacturing :マーケティングや販売に関する英語表現の理解と演習 - リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーケティングや販売に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P.84のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 3に取り組む。 リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト9の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
10	Unit11 : Marketing & Sales マーケティングや販売に関する英語表現 (リーディング・パート)	- 文法（仮定法）の理解を深める - リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（仮定法）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P.87のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 4の課題に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト10の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
11	Unit12 : Travel 旅行に関する英語表現 (リスニング・パート)	- Unit12:Travel :旅行に関する英語表現の理解と演習 - リスニングのスキプトを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、旅行に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P.93のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATE Week 5の課題に取り組む。 リスニングのスキプトの内容を復習する。 小テスト11の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
12	Unit12 : Travel 旅行に関する英語表現 (リーディング・パート)	- 文法（関係代名詞、関係副詞）の理解を深める - リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（関係代名詞、関係副詞）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P.96のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	ClassMATE Week 6の課題に取り組む。 リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト12の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit13 : Contracts & Negotiations 契約や交渉に関する英語表現 (リスニング・パート)	- Unit13:Contracts & Negotiations :契約や交渉に関する英語表現の理解と演習 - リスニングのスキットを利用したペアワークやグループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約や交渉に関する英語表現を理解し、コミュニケーションの場で応用することができる。	
	事前学修	教科書P. 102のVocabularyを調べ、各自で音声を確認しておく。	30分
	事後学修	ClassMATEの課題を復習する。 リスニングのスキットの内容を復習する。 小テスト13の課題に取り組み、期限内に提出する。	60分
14	Unit13 : Contracts & Negotiations 契約や交渉に関する英語表現 (リーディング・パート)	- 文法（命令文）の理解を深める - リーディング・パートを用いた演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法（命令文）の知識を活用し、リーディング・パートの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書P. 105のGrammarFocusの部分を読んでおく。	20分
	事後学修	リーディングパートの語句や表現を復習する。 小テスト14の課題に取り組み、期限内に提出する。	40分
15	復習	- 授業内試験（後期末）実施 - 試験の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを学修することができる。	
	事前学修	学期末試験に備え、学習内容を復習する。	120分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	矢嶋 瑠莉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、教科書を中心に問題演習や小テストを行い、必要に応じてペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	双方向型の学習形式を取り、教科書を中心としたリーディングパートの学習を行う。 毎回の授業で解いた問題を提出してもらい、解答解説時は学生を当てて回答してもらう。 3回の小テストは、復習と自己学習に役立ててもらうため採点して返却する。 必要に応じてペアワークやグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・期末試験は、試験後に解答解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
READING UPGRADE FOR THE TOEIC® TEST	菽越知子	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。yajima.ruri@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	TOEIC Listening & Reading Testとは？ 教科書の紹介、授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	教科書を購入し、シラバスに目を通しておくこと。	30分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。 TOEIC L&R TestのHPに目を通しておくこと。	30分
2	PART5 Unit1, 2	Unit1 ①語彙の問題に慣れよう Unit2 ②品詞の問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART5の短文穴埋め問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
3	PART5 Unit3, 4	Unit3 ③動詞の問題に慣れよう(1)～主語と動詞の一致、能動態と受動態、自動詞と他動詞 Unit4 ④動詞の問題に慣れよう(2)～時制、仮定法、使役動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART5の短文穴埋め問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
4	PART5 Unit5, 6	Unit5 ⑤不定詞・動名詞・分詞の問題に慣れよう Unit6 ⑥比較・関係詞・代名詞の問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART5の短文穴埋め問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
5	PART5 Unit7, Unit8(PART5の小テスト)	Unit7 ⑦前置詞・接続詞の問題に慣れよう Unit8 短文穴埋め問題まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART5の短文穴埋め問題を理解し、解くことができる。 到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART5の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。 いままで授業で習ったPART5をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	授業で習ったところを（小テストの解説も含めて）よく復習する。	30分
6	PART6 Unit9, 10	Unit9 ①挿入文の問題に慣れよう Unit10 ②時制の問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART6の長文穴埋め問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	PART6 Unit11, 12	Unit11 ③つなぎ言葉の問題に慣れよう Unit12 ④代名詞の問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART6の長文穴埋め問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
8	Unit13 (PART6の小テスト)	Unit13 長文穴埋め問題まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART6の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	いままで授業で習ったPART6をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	小テストの解説で説明したところをよく復習する。	30分
9	PART7 Unit14, 15	Unit14 ①タイトルと設問を先読みして、ポイントをおさえよう Unit15 ②設問の種類を分析しよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART7の読解問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
10	PART7 Unit16, 17	Unit16 ③語句の言い換えに注意して答えを選ぼう Unit17 ④挿入文の問題に慣れよう	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART7の読解問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
11	PART7 Unit18, 20	Unit18 ⑤テキストメッセージの文書に慣れよう Unit20 ⑥2つの文書の関連性を把握しよう (1)～タイトル、最初の1,2文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART7の読解問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
12	PART7 Unit21, 22	Unit21 ⑦2つの文書の関連性を把握しよう (2)～文書のトピックと関連性、出来事の前後関係 Unit22 ⑧3つの文書の関連性を把握しよう (1)～文書のタイトル、日付、最初の1～2文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART7の読解問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PART7 Unit23	Unit23 ⑨3つの文書の関連性を把握しよう(2)～共通する固有名詞やキーワード	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PART7の読解問題を理解し、解くことができる。	
	事前学修	授業で習う箇所に目を通しておく。	30分
	事後学修	授業で習ったところをよく復習する。	30分
14	Unit19(PART4の小テスト1) Unit24(PART4の小テスト2)	Unit19 読解問題まとめⅠ Unit24 読解問題まとめⅡ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小テストの受験によりPART7の解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	いままで授業で習ったPART7をよく復習して小テストに備える。	30分
	事後学修	小テストの解説で説明したところをよく復習する。	30分
15	後期期末試験、解説	後期の試験を実施する。余った時間で解答解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の試験を受験することでTOEICのリーディングパートの理解度をはかることができる。	
	事前学修	試験対策として、後期に習ったことをよく復習すること。	30分
	事後学修	試験の解答解説をふり返し、復習しておく。 今後のTOEICの自主学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 10	国際英辞書協会	IIBC	2023	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤	朝日新聞出版	2017	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に対応します。（念のため、メールアドレス：osumi.yurikoll@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEIC I B オリエンテーション	・楽しみながら英語を学ぶ方法の紹介と今後の授業でのストイックな学び方の確認 ・前期に引き続き、授業の進め方、申し込み等手続きの再確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を再確認し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	金フレ600 & 730点レベルを音声と共に音読とシャドウイングする。	60分
	事後学修	金フレ 600 & 730点レベルを音声と共に音読とシャドウイングする。	60分
2	公式問題集TEST 2 Listening	公式問題集 TEST 2 Listening Partを解く 解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Listening 問題を最初に解き、答え合わせをし、現在の自分の力を認識し、TOEICの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	公式問題TEST 1 を振返る。金フレ600 & 730点レベルを音声と共に音読、シャドウイングをする。	60分
	事後学修	公式問題集 TEST 2 Listening Partの間違ったところの復習。 金フレ 600 & 730点レベルの音読とシャドウイング。	60分
3	公式問題集TEST 2 Reading	公式問題集 TEST2 Reading Partを解く 解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Reading 問題を解き、答え合わせをし、現在の自分の力を認識し、TOEICの問題形式を把握することができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	公式問題集 TEST 2 Reading Partの間違ったところの確認。 金フレ 600 & 730点レベルの音読とシャドウイング。	60分
4	公式問題集 TEST 2 Listening Part1 & Reading Part 5	公式問題集 TEST 2 Listening Part1 & Reading Part 5の解き方のコツと解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part1 & Reading Part 5の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	30分
5	公式問題集 TEST 2 Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6	公式問題集 TEST 2 Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6の解き方のコツと解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part2, Reading Part 5 & Part 6の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	30分
6	公式問題集 TEST 2 Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7	公式問題集 TEST 2 Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part2 & 3, Reading Part 6 & Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公式問題集 TEST 2 Listening Part3, Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part3, Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part3, Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 1の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
8	公式問題集 TEST 2 Listening Part3 & 4, Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part3 & 4, Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part3 & 4, Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 2の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
9	公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 3の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
10	公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 4の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
11	公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 5の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		30分
12	公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7		公式問題集 TEST 2 Listening Part4 & Reading Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part4 & Reading Part 7の解答のコツを得て、TOEICの問題形式を把握することができる。		
	事前学修	ClassMATE Week 6の課題をする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。		60分
	事後学修	授業で進んだ公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公式問題集TEST 2 Listening	公式問題集TEST 2 Listening 2回目解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Partを2回目解き、力がついたことを実感することができる。	
	事前学修	ClassMATEの課題にもう一度トライする。金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で解いた公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	60分
14	公式問題集TEST 2 Reading	公式問題集TEST 2 Reading 2回目解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Part2回目を解き、力がついたことを実感することができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。	60分
	事後学修	授業で解いた公式問題集の箇所を、ダウンロードした音声に合わせてオーバーラッピングとシャドウイングをする。	30分
15	楽しみながら英語を学ぶ	後期の授業を振り返り、楽しみながら英語を学ぶ方法の紹介	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	金フレ 600 & 730点レベルを音読とシャドウイングをし、把握している単語を増やす。 公式問題集 TEST 1 のまだよく理解できないところを解き、解説を読み理解する。	60分
	事後学修	今後のTOEICの自主学習の計画を立てる。 公式問題集 TEST2 音声と共にシャドウイングする。	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニング(ClassMATE)を副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
テキスト、オンライン教材を使って、問題演習、小テスト、グループワークなどをしながらTOEICの受験対策をする。学期中に必ずTOEICを受験すること。（シラバスに変更がある場合は初回授業で説明する）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内でペア・ワーク、グループ・ワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題、テスト等については授業内で解説をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L & R TEST	Koji Hayakawa 他	金星堂	2023年	教科書	必携
備考	TOEIC受験、オンライン・トレーニング料が別途かかります。授業の際は辞書を用意すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。またメールでも対応します（sato.akiko01@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Unit 8 Recruiting その1	Unit 8 Recruiting その1 Unit 7 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「採用・求人」に関する語句・表現と動名詞・不定詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 8 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 8 の復習をする。	60分
2	Unit 8 Recruiting その2	Unit 8 Recruiting その2 Unit 7 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「採用・求人」に関する語句・表現と動名詞・不定詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 8 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 8 の復習をする。	60分
3	Unit 9 Personnel その1	Unit 9 Personnel その1 Unit 8 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「人事」に関する語句・表現と比較を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 9 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 9 の復習をする。	60分
4	Unit 9 Personnel その2	Unit 9 Personnel その2 Unit 8 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「人事」に関する語句・表現と比較を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 9 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 9 の復習をする。	60分
5	Unit 10 Advertising その1	Unit 10 Advertising その1 Unit 9 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「広告・宣伝」に関する語句・表現と前置詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 10 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 10 の復習をする。	60分
6	Unit 10 Advertising その2	Unit 10 Advertising その2 Unit 9 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「広告・宣伝」に関する語句・表現と前置詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 10 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 10 の復習をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 11 Media その1		Unit 11 Media その1 Unit 10 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「メディア」に関する語句・表現と接続詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 11 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 11 の復習をする。	60分
8	Unit 11 Media その2		Unit 11 Media その2 Unit 10 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「メディア」に関する語句・表現と接続詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 11 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 11 の復習をする。	60分
9	Unit 12 Finance その1		Unit 12 Finance その1 Unit 11 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「財務」に関する語句・表現と接続詞・前置詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 12 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 12 の復習をする。	60分
10	Unit 12 Finance その2		Unit 12 Finance その2 Unit 11 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「財務」に関する語句・表現と接続詞・前置詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 12 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 12 の復習をする。	60分
11	Unit 13 Meeting その1		Unit 13 Meeting その1 Unit 12 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現と関係代名詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 13 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 13 の復習をする。	60分
12	Unit 13 Meeting その2		Unit 13 Meeting その2 Unit 12 の復習（小テスト）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現と関係代名詞を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 13 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 13 の復習をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 14 Sales & Marketing その1	Unit 14 Sales & Marketing その1 Unit 13 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「売上・販売促進」に関する語句・表現と語彙を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 14 の予習をする。	60分
	事後学修	Unit 14 の復習をする。	60分
14	Unit 14 Sales & Marketing その2	Unit 14 Sales & Marketing その2 Unit 13 の復習（小テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「売上・販売促進」に関する語句・表現と語彙を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 14 の予習をする。	120分
	事後学修	Unit 14 の復習をする。	60分
15	Unit 15 Seminar & Workshop 後期のふり返り（テスト）	Unit 15 Seminar & Workshop 後期のふり返り（テスト）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、「セミナー・研修」に関する語句・表現と語彙を学び、TOEICの問題に応用することができる。また後期に学んだことをふり返り、TOEICの受験に活かすことができる。	
	事前学修	Unit 15 の予習をする。後期に学んだことを復習する。	60分
	事後学修	Unit 15 の復習をする。テキスト・ClassMATEをもう一度復習する	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークや、グループワークをしながらTOEIC受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークや、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST』Intermediate	吉塚弘	成美堂	2022	教科書	必携
公式TOEIC Listening &Reading 問題集10	国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	2024	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：授業後またはメールにて対応 machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	模擬テスト		Preliminary Lesson（Pre-test）の問題を理解し、解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、500点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけ、出題問題の傾向に慣れることで、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する方法を認識できる。	
	事前学修	テキストを購入する。	30分
	事後学修	Preliminary Lesson（Pre-test）の間違った箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
2	模擬テスト解説		Preliminary Lesson（Pre-test）の問題を解答解説を聞き理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、TOEIC L&R500点獲得の為にリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築できる。	
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。	30分
	事後学修	Preliminary Lesson（Pre-test）の間違った箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
3	Unit 1 Restaurants		Unit 1: Restaurants (GR: 人称代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurants (GR: 人称代名詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
4	Unit 2 Entertainment		Unit 2: Entertainment (GR: 不定代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainment (GR: 不定代名詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
5	Unit 3 Business		Unit 3: Business (GR: 現在・過去の時制) を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Business (GR: 現在・過去の時制) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。 CM (ClassMATE) の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
6	Unit 4 Office		Unit 4: The Office (GR: 現在完了) を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Office (GR: 現在完了) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 5 Telephone	Unit 5: Telephone (GR:前置詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Telephone (GR:前置詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit5 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	R間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
8	Unit 6 Letters & E-mails	Unit 6: Letters & E-mails (GR:前置詞) を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Letters & E-mails (GR:前置詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit6 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
9	Unit 7 Health	Unit 7 :Health (GR:数量形容詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Health (GR:数量形容詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
10	Unit 8: The Bank & The Post Office	Unit 8: The Bank & The Post Office (GR:自動詞と他動詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、The Bank & The Post Office (GR:自動詞と他動詞) の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
11	Unit 9 New Products Unit10 Travel	Unit 9 New Products (GR:接尾辞と品詞-形容詞)/Unit10 Travel (GR:接尾辞と品詞-副詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、New Products, Travel (GR:接尾辞と品詞) の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit 9,10 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
12	Unit 11 Daily Life Unit 12 Job Applications	Unit11Travel (GR:分詞構文)/ Unit12 Job Applications (GR:比較)を理解し、それに対応する問題を解答。CM実施。語彙テスト10を実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Daily Life、Job Applicationsの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit11,12 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 Shopping Unit 14 Education	Unit 13 Shopping (GR:受動態)/Unit14: Education (GR:関係代名詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Shopping、Educationの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit13, 14の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。	30分
14	前期試験	教科書の内容の前期試験を受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	前期試験範囲の勉強をする。	60分
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分
15	まとめ	学習内容のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit1~Unit14までの学習修得の成果を確認し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	40分
	事後学修	間違えた問題を確認し、解き直す。公式問題集を解き、後期に向けて計画をたてる。	20分

科目名	TOEIC I B	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストのフィードバックは、授業内またはポータルで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Effective Approach for the TOEIC L&R Test, Revised edition [TOEIC L&Rテスト：スコアアップのための総合英語改訂新版]	田中清美他	南雲堂	2021	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書可）				

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容	高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	授業の概要、成績評価などについてのオリエンテーション TOEIC Listening & Reading Test の概要	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Pretest	リスニング・リーディング能力、語彙・文法知識の診断	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己の英語運用能力を診断すると共に、テストイング・ストラテジーを習得することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
3	Unit 11	Part 3: 同僚との多様なやりとり Part 5: V-ing とV-ed の使い分け①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
4	Unit 12	Part 4: 案内放送 Part 6: V-ing とV-ed の使い分け② Part 7: お知らせ文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
5	Unit 13	Part 1: 複数の人物の様子 Part 5: まぎらわしい動詞の語形・意味・語法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
6	Unit 14	Part 2: How と Why の広がる意味とその応答 Part 6: まぎらわしい前置詞の表現 Part 7: 説明文とレシピ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 15	Part 3: ビジネス会話 Part 5: 不定詞の重要表現①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
8	Mid-term exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
9	Unit 16	Part 4: ガイドの説明 Part 6: 不定詞の重要表現② Part 7: 社内文書	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
10	Unit 17	Part 1: 風景写真・人物と背景写真の描写 Part 5: 条件と仮定法の表現①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
11	Unit 18	Part 2: 特殊な疑問文にすばやく反応する Part 6: 条件と仮定法の表現② Part 7: トリプルパッセージの問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
12	Unit 19	Part 3: オフィス内の会話 Part 5: 疑問詞・関係詞・接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 20	Part 4: ニュース Part 6: 気をつけたい助動詞の用法 Part 7: 製品などの説明書	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	様々な情報源から英文を読み（聞き）、概要を理解すると共に、語彙や文法項目を確認する。	30分
14	End-of-term exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題演習によってリスニング・リーディング能力を高めると共に、語彙・文法事項を習得することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
15	Review	授業内試験へのフィードバックと解説、課題の提示	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでに学習した内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEIC初級レベルの2年生を対象としたクラス。TOEIC 500点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC500点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングClassMATEを副教材として受講することを義務づける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
実際の取得目標を意識したレベルのテキストを使用し、TOEIC及び英語検定試験のための勉強方法の習得を演習形式で実践します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	解答の根拠(何故、それが正解なのか)について受講者間で確認し合うなど情報共有を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア500点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト(小テストを含む)により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に着いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後、返却時に解説を行う。加えて、初見(テキスト解答)不正解の解答を実施する。(受講者各自の記録を必須とし、学期末に提出予定。)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R TESTオールラウンド演習	石井隆之、平田千夏、松村優子、山口修、岩田雅彦、Joe Ciunci	成美堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に対応します。※基本、直接問い合わせてください。(長期的に出席できない事由が発生した場合：oyama.seiko11@nihon-u.ac.jpへ)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び初回授業(実力チェック ※あくまでも現時点での各自のレベル把握のため。成績評価ではありません。)		本科目の授業の進め方 テキストによる「実践」(初見(実直)チェック)Listening	
	この回の到達目標	現時点での各自のレベルを把握し、到達到達目標を設定する。		
	事前学修	テキストUnit1-6のListening SectionのストリーミングのシャドーイングやVocabulary Listの語句がどの程度理解できているかを確認する。	30分	
	事後学修	初見チェック後、音声スクリプトを配布するので、テキストにあるサイトのストリーミングを(聴きとれるまで)再生し、空所補充(綴り不明な場合はカタカナで可。※TOEICでは綴りを書く問題はない。)してくる。	30分	
2	最初の段階での各自のレベル把握及び学習目標の設定・明確化		(第1回に続き)初見レベルチェック(Listening+Reading section※実際のTOEICと同一の時間配分で実施) +(第1回実施Listening)スクリプトの空所補充(解答)及び音読	
	この回の到達目標	本科目の目標のレベルとはどの程度の英語を必要とするのかを把握し、それに到達するために受講者各自が15回(最終回)までにどこまでレベルアップすべきか具体的・明確にする。		
	事前学修	スクリプトにある未習の語句(「空所」については授業にて確認するのでそれ以外)をリストアップし、品詞及び代表的概念・訳語(和訳)を書き出してくる。※アルファベット順にすると「重複」を避けられる。	30分	
	事後学修	(スクリプトの空所補充後の)補充した「空所」の語句も加えて、Unit毎にVocabulary Listを作成する。加えて、初見で不正解の問題の正解は何でそれは何故か(解答の根拠)を書き出す。	30分	
3	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit7 Listening Section:Part1-4)		Unit7のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。	30分	
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分	
4	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit7 Reading Section:Part5-7)		Unit7のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。	30分	
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分	
5	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit8 Listening Section:Part1-4) +Uni7 Mini Test		Unit8のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。	30分	
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分	
6	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit8 Reading Section:Part5-7)		Unit8のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。	30分	
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit9 Listening Section:Part1-4) +Unit8 Mini Test		Unit9のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
8	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit9 Reading Section:Part5-7)		Unit9のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
9	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit10 Listening Section:Part1-4) +Unit9 Mini Test		Unit10のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
10	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit10 Reading Section:Part5-7)		Unit10のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
11	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit11 Listening Section:Part1-4) +Unit10 Mini Test		Unit11のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。		
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分
12	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit11 Reading Section:Part5-7)		Unit11のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5,6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。	
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。		
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。		30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit12 Listening Section: Part1-4) +Unit11 Mini Test		Unit12のVocabulary List(品詞及び代表的概念(訳語))を完成させ、そのリストを参照しながら、Vocabulary Check(テキスト各Unit冒頭)及びListening Ssection(Part1-4)の解答解説を行う。
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故(根拠)か」を説明できるよう理解すること、そして理解出来た英文を声に出して繰り返し発話することで「目」→「頭」→「耳」→「口」と五感を使って英語を修得する。加えて、「英語的な表現」を通じて文化的な理解にも努める。	
	事前学修	テキスト該当箇所(毎回展開範囲は指定します)の問題の「正解」は何でそれは何故(根拠)を考え、書き出してくる。※毎回、授業にて受講者間情報共有するための準備をやって授業に臨んでください。	30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分
14	TOEIC演習問題の解答解説の実践 (Unit12 Reading Section:Part5-7)		Unit12のVocabulary Listを参照しながら、テキストPart5, 6及び7(Reading Section)の解答解説を行う。
	この回の到達目標	「正解はどれでそれは何故か(根拠)」を理解・(他者に)説明できるよう確認・文章化(記録)を行うことで、展開されている文法事項や、文脈の理解による読解の向上を図る。	
	事前学修	初見で「正解」であったものについては「どうしてその解答を選択したのか」を、そして初見で「不正解」であったものは「どれが正解でそれはどこに書かれているか」を考え、書き出してくる。※授業にて情報共有し、正解を確認する。	30分
	事後学修	「事前学修」にて書き出してきたものと、授業での情報共有後のものとを参照し、必要に応じて修正を行う。各自の「初見不正解」であったものについては解説を文章化して記録する。	30分
15	テキスト展開範囲(Unit7-12)の内容理解の確認及び受講者各自による「分析」「課題」		(実際のTOEIC同様の)時間配分で、展開範囲(+追加解説した文法事項も含む)、加えてVocabulary(Mini Test過去問題から出題)を授業内にて試験し、併せて各自で「初見不正解」の解答解説記録を完成させます。
	この回の到達目標	(本科目展開範囲全般の)Vocabulary, 英語(会話)表現, 文法事項(規則性)や語法の理解の学習効果を理解・把握及び情報整理する。	
	事前学修	Mini Test (Unit7-11) の正解の確認、(Part2を中心とした)Listening Sectionの英語表現の理解の確認、Reading Sectionで展開された文法事項の規則性や文章表現の内容の確認を行う。	30分
	事後学修	初見で「不正解」であったものの「正解」の確認を全展開範囲に関して行い、全体を見渡して各自が「得意な語彙の分析」「音声認識が不十分で誤解」「他の語句と混同してしまう」)を行い、その内容を文章化・記録し、今後の英語学習の課題とする。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、ⅡBとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。										2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
google classroom内で

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 10	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2023	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2022	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
メールで受けつけます。inoue.etsuo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、Part2、Part5	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
	事前学修	TOEICの問題形式を調べる	30分
	事後学修	テキストで問題形式を確認する、問題の復習	30分
2	TOEICの全体的なアプローチ	Part2,Part5、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	Part2,5 の位置づけ	Part2,5、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	Part1,2 の実践演習	Part1,2 (教科書 Test1)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part1,2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part5 の演習	ClassMATEの課題、Part5(Test1 101-110)、Part2 (別問題)	
	この回の到達目標	Part5の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	Part1, 2, 5の演習	ClassMATEの課題、Part1, 2 (Test2)、Part5(Test1 111-120)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part1, 2に習熟する。Part5の形式を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	Part2(定型表現)、Part3入門	ClassMATEの課題、Part2 (定型表現)の練習、Part5 (Test2 121-130)、Part3 (Test1 32-55)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	Part3 演習	ClassMATEの課題、Part3 (Test1 56-70)、Part2(別問題)、Part5(Test2 101-110)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part3の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	Part4 入門	ClassMATEの課題、Part4 (Test1 71-85)、 Part2 (別問題)、Part5(Test2 111-120)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part4の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	Part4 演習	Part4 (Test1 76-100)、Part2 (別問題)、Part5 (Test2 121-130)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part4の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Part6 入門	Part6 (Test1 131-138)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part4の形式と傾向をより理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	Part6 演習	Part6 (Test1 139-146)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
15	まとめ、TOEIC IP受験	TOEIC IP受験、今後の学習計画を吟味する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習や小テスト等を通してTOEICテスト対策を行う。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICテスト形式の問題に取り組みながら、各自が自分に適した解答法を策定し、それを基にアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認し、適宜解説や講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応。（詳細は初回授業にて説明） takasaka.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション他	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEIC概要の説明等。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC科目におけるスケジュールや授業の進め方等を理解し、前期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業全体について大まかに把握する。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認し、前期の学習計画を立てる。	30分
2	Listening Sectionの形式および解法	Unit 1: Listening Section Vocabularyテキスト Section A Unit 1&2小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section(Part 1～Part 4) の形式と解法を習得することができる。	
	事前学修	テキストを入手する。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
3	Reading Section の形式および解法	Unit 1: Reading section Vocabularyテキスト Section A Unit 3&4小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Section (Part5～Part7) の形式と解法を習得することができる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
4	Lunch & Parties: Listening	Unit 2: Listening Section Vocabularyテキスト Section A Unit 5&6小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子音 (r, m, n) と母音の連結の聞き取りができる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
5	Lunch & Parties: Reading	Unit 2: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 7&8小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞と冠詞の問題に対応できる	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
6	Medicine & Health: Listening	Unit 3: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 9&10小テスト ClassMATEの使い方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、r, m, n以外の子音と母音の連結の聞き取りができる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Medicine & Health: Reading	Unit 3: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 11&12の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第1週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
8	Traffic & Travel: Listening	Unit 4: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 13&14の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の混合に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第2週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
9	Traffic & Travel: Reading	Unit 4: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 15&16の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第3週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
10	Ordering & Shipping: Listening	Unit 5: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 17&18の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、t音の変化に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第4週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
11	Ordering & Shipping: Reading	Unit 5: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 19&20の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞と時制の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第5週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
12	Factories & Production: Listening	Unit 6: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 21&22の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、さまざまな数字表現に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第6週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Factories & Production: Reading	Unit 6: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 23&24小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来表現の問題に対応できる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
14	授業内試験とふり返り	テキスト2種の前期まとめ試験 タスク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、復習テストに取り組むことで前期に学習した語彙や文法および各種スキルを定着させることができる。	
	事前学修	テキスト2種の前期学習範囲を復習する。	30分
	事後学修	テストで出題された箇所を確認し、理解が不十分な箇所を復習する。	30分
15	まとめ	前期学習内容の総まとめ タスク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&Rへの理解を深め、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期学習内容をふり返り、気付いた点をまとめる。	30分
	事後学修	総まとめをもとに、今後の学習計画やTOEIC対策を考える。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを取り入れながら演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	10										10
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているかを評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて 解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL 1	北尾 泰幸	朝日出版社	2018	教科書	必携
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了以後講堂で対応

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
	この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
	事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	Part1.2のストラテジーの学習	写真問題、質疑応答問題についての理解	
	この回の到達目標	Part1.2の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	配布資料の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	Part3のストラテジーの学習	小テスト1(Part1.2.5.6) 会話問題についての理解	
	この回の到達目標	Part3の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語1-50を暗記する。 テキストpp.2-3.5-6.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
4	Part4のストラテジーの学習	小テスト2(Part3.4.7) トーク問題等についての理解	
	この回の到達目標	Part4の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語51-100を暗記する。 テキストpp.3-4.7-8.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
5	Part1.2.と動詞	小テスト3(Part1.2.5.6) 時制に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、時制に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語101-150を暗記する。 テキストpp.9-10.12-13.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
6	Part3.4:Travel	小テスト4(Part3.4.7) アナウンス等に関するの表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ショート・リーディングに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語151-200を暗記する。 テキストpp.10-11.14-15	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part1.2と動詞（2）	小テスト5(Part1.25.6) 更なる時制に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、品詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語201-250を暗記する。 テキストpp.16-17.19-20を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
8	Part3.4:Amusement	小テスト6(Part3.4.7) イベントに関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、イベントに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語251-300を暗記する。 テキストpp.17-18.21-22.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	Part1.2と代名詞	小テスト7(Part1.2.5.6) 代名詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語301-350を暗記する。 テキストpp.23-24.26-27.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
10	Part3.4:Meeting	小テスト8(Part3.4.7) 広告に関する表現についての理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、広告に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語351-400を暗記する。 テキストpp.24-25.28-29.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	Part1.2と不定詞、動名詞	小テスト9(Part1.2.5.6) 不定詞と動名詞についての理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定詞、動名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語401-450を暗記する。 テキストpp.30-31.33-34.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
12	人事・雇用	人事・雇用に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、人事部に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	テキストpp.31-32.35-36.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの学習の確認	これまでの戦略の確認による、自己達成度の向上確認	
	この回の到達目標	これまでの解法の戦略を駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
	事前学修	単語小テスト1-9とUnit1-5の確認をする。	60分
	事後学修	配布プリントの復習	30分
14	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
	この回の到達目標	英語圏の思考形式を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
	事前学修	英語圏の思考形式に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
	事後学修	英語圏人々の思考形式を確認する。	30分
15	英語圏の文化とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違の理解	
	この回の到達目標	英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
	事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
	事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	藤本 淳史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 * 第一回目の授業で授業方法や授業計画について説明します。 * また授業の連絡はGoogle Classroomを使う予定です（アクセスコードなどは初回時にお伝えします）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	30										30
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	15										15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(TOEIC)	TOEICにより、到達目標①が達成できているか評価する。	15										15
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One Advanced TOEIC(R) L&R TEST マスタリードリル [全パート上級編]	早川 幸治	桐原書店	2019	教科書	必携
備考	【2023年度にTOEIC II A/B で使用していた教科書とは違いますので、注意してください】				

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作表現 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	Unit 01 品詞・代名詞 (Part 5)	Unit 01 品詞・代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞・代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	Unit 02 疑問詞で始まる疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞で始まる疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	Unit 02 態・分詞 (Part 5)	Unit 02 態・分詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、態・分詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	Unit 03 店・ホテルでの会話 (Part 3)	Unit 03 店・ホテルでの会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、店・ホテルでの会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	Unit 03 読解の基礎を身につける (Part 7)	Unit 03 読解の基礎を身につける (Part 7) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読解の基礎を身につける (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 04 留守番電話 (Part 4)	Unit 04 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	Unit 04 詳細情報を特定する (Part 7)	Unit 04 詳細情報を特定する (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してUnit 04 詳細情報を特定する (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	Unit 05 物に関する描写 (Part 1)	Unit 05 物に関する描写 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物に関する描写 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	Unit 05 話の展開を読み取る (Part 7)	Unit 05 話の展開を読み取る (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話の展開を読み取る (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	Unit 06 Yes/No疑問文・選択疑問文 (Part 2)	Unit 06 Yes/No疑問文・選択疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Yes/No疑問文・選択疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	Unit 06 接続詞・前置詞 (Part 5)	Unit 06 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 07 日常生活における会話 (Part 3)	Unit 07 日常生活における会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活における会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 07 内容把握問題に挑戦する (Part 7)	Unit 07 内容把握問題に挑戦する (Part 7) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内容把握問題に挑戦する (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	前期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	出水 純二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate / コミュニケーションスキルが身に付くTOEIC® L&R TEST 〈中級編〉	角山照彦, Simon Capper	成美堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する。メール対応も可（izumi.junji@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	クラスの目標、授業の進め方を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの達成事項を把握できる。	
	事前学修	シラバスに目を通す。	30分
	事後学修	年間の学習計画を立てる。	30分
2	Restaurants 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
3	Restaurants 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト1	30分
4	Offices 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
5	Offices 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト2	30分
6	Daily Life 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Daily Life 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト3	30分
8	Personnel 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
9	Personnel 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト4	30分
10	Shopping 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
11	Shopping 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト5	30分
12	Finances 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Finances 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト6	30分
14	Transportation 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
15	Transportation 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト7	30分

科目名	TOEIC II A(火曜1時限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
火曜日1時限クラス。学期中にTOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。Google Classroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEのトレーニングにより、到達目標①が達成できているか評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST (Intermediate)	吉塚弘，他2名共著	成美堂	2022年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。 NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	授業の進め方、e-learning、TOEIC-IPまたは公開テストの受験、成績評価についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの概要とTOEIC IAの授業の内容を理解して前期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。前期にどのようなことを学ぶのかをまとめてみる。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、前期の学習スケジュールを立てる	30分
2	TOEIC TEST：パートごとの説明	TOEIC TESTの構成とパートごとの内容を説明する / 練習問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの構成とパートごとの内容を把握し、自分の実力に合った学習計画を立てることが出来る。	
	事前学修	TOEICの公式ホームページからTOEIC TESTの構成や公開テストの受験の仕方などを調べて重要な点をまとめる。前期に受けるTOEICテストの目標点を定める。	30分
	事後学修	目標点を取るために各パートごとの説明を振り返り、各パートごとの勉強方法を決める。	30分
3	Unit 1 Restaurants	Listening Section：人称代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してRestaurants関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。。	
	事前学修	Warm-up： Dictation PracticeとListening Section（Part1-4）の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
4	Unit 1 Restaurants	Reading Section：人称代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してRestaurants関係のTOEICのリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
5	Unit 2 Entertainment	Listening Section：不定代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してEntertainment関係のリスニング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up： Dictation PracticeとListening Section（Part1-4）の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
6	Unit 2 Entertainment	Reading Section： 不定代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してEntertainment関係のリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 3 Business	Listening Section:時制について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
8	Unit 3 Business	Reading Section: 時制について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
9	Unit 4 The Office	Listening Section:現在完了について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
10	Unit 4 The Office	Reading Section現在完了について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
11	Unit 5 Telephone	Listening Section:前置詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して電話をする時に必要な語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
12	Unit 5 Telephone	Reading Section : 前置詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して電話をする時に必要な語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6 Letters & E-mails	Listening Section:前置詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して手紙文やメール関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を確認する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
14	Unit 6 Letters & E-mails	Reading Section : 前置詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して手紙文やメール関係の語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
15	復習	TOEICテスト全パートの復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して前期の授業で学んだことを理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 1~6の単語や問題を見なおす。Unit 7の語彙を覚え、Part 1~7の練習問題を解く。	30分
	事後学修	復習の問題で間違えたところを再度見直す	30分

科目名	TOEIC II A(火曜2時限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
火曜日2時限クラス。学期中にTOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。Google Classroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川、番場共著	金星堂	2022年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	授業の進め方、e-learning、TOEIC-IPまたは公開テストの受験、成績評価についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの概要とTOEIC IAの授業の内容を理解して前期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。前期にどのようなことを学ぶのかをまとめてみる。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、前期の学習スケジュールを立てる	30分
2	TOEIC TEST：パートごとの説明	TOEIC TESTの構成とパートごとの内容	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの構成とパートごとの内容を把握し、自分の実力に合った学習計画を立てることが出来る。	
	事前学修	TOEICの公式ホームページからTOEIC TESTの構成や公開テストの受験の仕方などを調べて重要な点をまとめる。前期に受けるTOEICテストの目標点を定める。	30分
	事後学修	目標点を取るために各パートごとの説明を振り返り、各パートごとの勉強方法を決める。	30分
3	Unit 1 Travel	TOEIC練習問題：旅行に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行関係の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
4	Unit 1 Travel	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行関係のTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
5	Unit 2 Dining Out	TOEIC練習問題：食事に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して食事関係の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
6	Unit 2 Dining Out	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して食事関係の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 3 Daily Life	TOEIC練習問題：日常生活に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活関連の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
8	Unit 3 Daily Life	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活関連の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
9	Unit 4 Entertainment	TOEIC練習問題：日常生活に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してエンターテインメント関連の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
10	Unit 4 Entertainment	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	(到達目標) 到達目標①②に関してエンターテインメント関連の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
11	Unit 5 Purchasing	TOEIC練習問題：買い物に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して買い物に関係のある語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
12	Unit 5 Purchasing	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して買い物に関係のある語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6 Offices	TOEIC練習問題：オフィスに関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してオフィスに関連する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
14	Unit 6 Offices	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してオフィスに関連する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
15	Unit 7 Clients	復習とミニテスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して前期の授業で学んだことを理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 1~6の単語や問題を見なおす。Unit 7の語彙を覚え、Part 1~7の練習問題を解く。	30分
	事後学修	復習の問題で間違えたところを再度見直す	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
木曜日4時限クラス。TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。Google Classroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST (BOOK 3)	角山、Capper共著	成美堂	2024年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
					必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	授業の進め方、e-learning、TOEIC-IPまたは公開テストの受験、成績評価についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの概要とTOEIC IAの授業の内容を理解して前期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。前期にどのようなことを学ぶのかをまとめてみる。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、前期の学習スケジュールを立てる	30分
2	TOEIC TEST：パートごとの説明	TOEIC TESTの構成とパートごとの内容を説明する / 練習問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの構成とパートごとの内容を把握し、自分の実力に合った学習計画を立てることが出来る。	
	事前学修	TOEICの公式ホームページからTOEIC TESTの構成や公開テストの受験の仕方などを調べて重要な点をまとめる。前期に受けるTOEICテストの目標点を定める。	30分
	事後学修	目標点を取るために各パートごとの説明を振り返り、各パートごとの勉強方法を決める。	30分
3	Unit 01 Restaurants	Listening Section:Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してRestaurants関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。。	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。	30分
4	Unit 01 Restaurants	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してRestaurants関係のTOEICのリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
5	Unit 02 Offices	Listening Section:Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してオフィス関係の単語を理解してリスニング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
6	Unit 02 Offices	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してオフィス関係の単語を理解してリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 3 Daily Life		Listening Section:Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活に関係のある語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする		30分
8	Unit 3 Daily Life		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活に関係のある語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。		30分
9	Unit 4 Personnel		Listening Section:Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して人事関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする		30分
10	Unit 4 Personnel		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して人事関係の語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。		30分
11	Unit 5 Shopping		Listening Section:Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して買い物に関連したリスニング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする		30分
12	Unit 5 Shopping		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して買い物に関連したリーディング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6 Finances	Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して財政関連のリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3, 4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする	30分
14	Unit 6 Finances	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して財政関連のリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して、間違えた理由を考える。	30分
15	復習	TOEICテスト全パートの復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して前期の授業で学んだことを理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 1~6の単語や問題を見なおす。Unit 7の語彙を覚え、テキストの問題をもう一度解いてみる。	30分
	事後学修	復習の問題で間違えたところを再度見直す	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	佐藤 寛子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習、発話練習、ペアワーク、グループワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC Listening & Reading 問題集 9 (ISBN: 978-4906033683)	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前・後に教室で対応する。緊急の場合のみメールで受付（sato.kanshi@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入	授業の進め方について & TOEIC (L&R) の概要。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC (L&R) の概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、テキストを購入する(問題冊子に書き込みしないこと。解答・解説部分への書き込みは可)。	30分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	【TEST 1】 Part 1 & Part 7	Part 1 と Part 7の問題形式を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの写真描写問題 (Part 1) とリーディングの長文読解 (Part 7) の問題形式を知ることができる。	
	事前学修	前週で学習した事項の復習をする。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
3	【TEST 1】 Part 1 & Part 7	Part 1 と Part 7の問題形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの写真描写問題 (Part 1) とリーディングの長文読解 (Part 7) の問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 Part 1の小テストに備える。	30分
4	【TEST 1】 Part 2 & Part 7 小テスト	Part 2の問題形式を知る。Part 7の問題形式に慣れる(続き)。 小テスト実施(前週までの英単語とPart 1)。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの応答問題形式 (Part 2) を知り、リーディングの長文読解 (Part 7) の問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
5	【TEST 1】 Part 2 & Part 7	Part 2とPart 7の問題形式に慣れる(続き)。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの応答問題 (Part 2) とリーディングの長文読解 (Part 7) の問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
6	【TEST 1】 Part 2 & Part 6	Part 2の問題形式に慣れる(続き)。Part 6の問題形式を知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの応答問題 (Part 2) に慣れ、リーディングの空欄埋め問題 (Part 6) の問題形式を知ることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 小テストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【TEST 1】Part 3 & Part 6 小テスト		Part 3の問題形式を知り、Part 6の問題形式に慣れる。 小テスト実施（前週までの英単語とPart 2）。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）を知り、リーディングの空欄埋め問題（Part 6）の問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。		30分
8	【TEST 1】Part 3 & Part 5		Part 3の問題形式に慣れ、Part 5の問題形式を知る。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）に慣れ、リーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式を知ることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。		30分
9	【TEST 1】Part 3 & Part 5		Part 3と Part 5の問題形式に慣れる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。		30分
10	【TEST 1】Part 3 & Part 5		Part 3と Part 5の問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。		30分
11	【TEST 1】Part 3 & Part 5		Part 3と Part 5の問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 小テストに備える。		30分
12	【TEST 1】Part 4 & Part 5 小テスト		Part 4の問題形式を知り、Part 5の問題形式に慣れる（続き）。 小テスト実施（前週までの英単語とPart 5）	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）の形式を知り、リーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。		
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。		30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【TEST 1】Part 4 & Part 5	Part 4と Part 5の問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
14	【TEST 1】Part 4 & Part 5	Part 4と Part 5の問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）の問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。	30分
15	総括&まとめ試験	前期で学習したことの総括と確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期の学習内容の総復習をする	60分
	事後学修	夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	15分

科目名	TOEIC II A	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト(小テストを含む)により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは授業内で解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(水曜1限・3限のみ)SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE	番場直之	金星堂	2019	教科書	必携
(水曜2限・4限のみ)THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	早川幸治	金星堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	TOEIC Testについて、ClassMateについて、CheckLinkについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、学習計画を立てることができる	
	事前学修	教科書を購入して、12～13ページを読み、TOEIC Testについて概要を理解しておく	30分
	事後学修	教科書冒頭の「CheckLinkの使い方」に従って、CheckLinkの登録を行う。また、教科書の音声ファイルをダウンロードしておく。TOEICテスト受験に向けて勉強の計画を立てる	30分
2	Topic : Travel (1) Listening Section問題	旅行に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、旅行に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	旅行に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
3	Topic : Travel (2) Reading Section問題	名詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	名詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
4	Topic : Dining Out (1) Listening Section問題	レストランや食事・料理に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、レストランや食事・料理に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	レストランや食事・料理に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
5	Topic : Dining Out (2) Reading Section問題	形容詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	形容詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
6	Topic : Media (1) Listening Section問題	メディアに関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メディアに関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	メディアに関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Topic : Media (2) Reading Section問題	副詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	副詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
8	Topic : Entertainment (1) Listening Section問題	エンターテインメントに関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、エンターテインメントに関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	エンターテインメントに関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
9	Topic : Entertainment (2) Reading Section問題	時制の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	時制の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
10	Topic : Purchasing (1) Listening Section問題	買い物に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、買い物に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	買い物に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
11	Topic : Purchasing (2) Reading Section問題	主語と述語の一致に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と述語の一致に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	主語と述語の一致について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
12	Topic : Clients (1) Listening Section問題	顧客との取引に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、顧客との取引に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	顧客との取引に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Topic : Clients(2) Reading Section 問題	能動態・受動態の使い方に関するReading Section問題	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、能動態・受動態の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	能動態・受動態の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
14	Topic : Recruiting(1) Listening Section問題	求人・採用に関するListening Section問題	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、求人・採用に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	求人・採用に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
15	前期のまとめ	前期授業内容の振り返り	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前期授業で学んだことを振り返り、今後の学習計画を立てることができる	
	事前学修	前期に学習した内容を振り返り、忘れていないか確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。 TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。学生の理解度に応じて進度を変更することもあり得る。また、単語テストも定期的実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。 TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。 テストは後日返却し、必要に応じて解

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川幸治他	金星堂	2023	教科書	必携
改訂版TOEICテストTEPPAN英単語	関正生	KADOKAWA	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
mizuno.takayukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス		・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・授業の進め方について”
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	Unit1 Travel		「旅行」に関する語句・表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「旅行」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
3	Unit1 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト1～30
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、旅行に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
4	Unit2 Dining Out		「食事」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト31～60
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「食事」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
5	Unit2 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト61～90
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、「食事」に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
6	Unit3 Daily Life		「日常生活」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト91～120
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「日常生活」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit3 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト121～150
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、「日常生活」に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
8	Unit4 Entertainment		「娯楽」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト151～180
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「娯楽」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
9	Unit4 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト181～210
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、娯楽に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
10	Unit5 Purchasing		「買い物」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト211～240
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「買い物」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
11	Unit5 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト241～270
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、買い物に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
12	Unit6 Offices		「オフィス」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト271～300
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「オフィス」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit6 Mini Test	前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト301～330	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、オフィスに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
14	Unit 7 Clients	「顧客」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト331～360	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「顧客」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
15	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	授業内試験を通して、前期学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期の学習内容を確認し、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	教科書の総復習をする。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	室谷 章子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
小テスト、問題演習（各自、ペア、グループ）、説明、復習（各自、ペア、グループ）質問への説明

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	1．提示されたテーマや問題について自分の意見とその意見に至った理由を「考える」。 2．パートナーやグループメンバーと「話し合い」「意見を集約」し、その意見と理由を「発表する」。 3．正解とその理由をパートナーやグループメンバーに「説明し」不明点があるか理解度を「確認する」。 4．今日学んだ重要事項について、パートナーやグループメンバーと「話し合い」不明点は「質問する」。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力											
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力											
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力											
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力											
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。										2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60												60
小テスト等														
レポート等														
討論・発表等														
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30											30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10												10
その他()														
その他()														
到達目標別の比率(%)		70	30											100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中は口頭で、授業後はメールやクラスルームで実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC Listening&Reading 650+	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2023	教科書	必携
TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2017	教科書	必携
備考					
【オフィスアワー】					
授業前後及びメールにて適宜対応致します（muroya.akiko@nihon-u.ac.jp）。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	TOEIC IIAの概要について		TOEICの概要及び本科目の目的、授業方法、具体的な到達目標、課題、評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC及びTOEIC 1Aの概要についての理解及び個別の到達目標を設定することができる。		
	事前学修	シラバス・指定教科書の概要・TOEICReading&ListeningのHPを読み、不明点を書き出し、質問の準備をする。		30分
	事後学修	TOEICテストの各セクションの各パートの制限時間、優先順位、目的について復習する。毎回の課題のための学習方法、時間の配分、各自の到達目標をより詳細に設定し、それに沿った具体的な学習プランを策定する。		30分
2	語彙1 発音の基礎とL-Part1		音の「連結」や「消滅」、内容語と機能語による単語間の「強弱」や「長短」の相違について金のフレーズのPart1の例文を使って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語特有の単語の発音を理解し、語彙学習の際に英語の発音を正確に習得し、Part1の単語を聞き取ることができる。		
	事前学修	これまでの自分の発音学習方法とその良かった点、不安点、疑問を書き出し、発表、質問の準備をする。		30分
	事後学修	上記目標達成のため、発音について学んだことを完璧に復習しPart1問題の文章を書き取り、暗記する。		60分
3	語彙2 語彙の構造と同義語、反意語、派生語、コロケーション		接尾辞・接頭辞の機能、反意語・派生語の関係及び同義語、コロケーションについて金のフレーズの助走の400語の例文を使って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、単語の構造とコロケーションを理解し、金のフレーズの例文を使って語彙の反意語、派生語、コロケーションを習得することができる。		
	事前学修	これまでに習得した反意語、派生語、コロケーションを書き出し、発表、質問の準備をする。		30分
	事後学修	上記目標達成のため、構造とコロケーションについて学んだことを完璧に復習し金のフレーズ助走の400語の語彙、派生語・反意語・同義語・コロケーションを暗記する。		60分
4	文の基本構造1		文の要素と品詞の役割及び二者の関係、動詞の種類と構造との関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文の要素と品詞の役割と相互関係及び動詞の種類と構造との関係について理解し、Part5の簡単な問題を和訳に頼らない論理的な方法で解く方法を理解することができる。		
	事前学修	自己紹介を必ず「自力のみ」で10英文前後で作成し、作成時の不明点、疑問点を書き出し、発表、質問の準備をする（わからない単語は日本語で入れて下さい。自分で考えて書くことが大事です）。		30分
	事後学修	上記目標達成のため、文の構造について学んだことを完璧に復習し、文の基本構造の小テストの準備をする。		60分
5	文の基本構造2		第4回で学んだ文の構造についての知識をPart2の問題文・解答の英訳により運用する機会を与え不明点、疑問点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文の構造についての知識を使って金のフレーズ助走の400語の例文の文構造を理解できる。		
	事前学修	前回学んだ文の基本構造を運用できる出来るよう復習し、小テストの準備をする。		30分
	事後学修	上記目標達成のため、文の知識の運用によるPart2の問題文・解答の英訳を完璧に復習し暗記する。		60分
6	Listening Part1		Part1の問題の特徴と頻出問題について説明する。 (ClassMATE配信開始予定5月24日)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part1の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取ることができる。		
	事前学修	Part1の音声ダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W1課題完了。		60分
	事後学修	Part1特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Listening Part2	Part2の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part2の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取ることができる。	
	事前学修	Part2の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W2課題完了。	60分
	事後学修	Part2特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
8	Listening Part3	Part3の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part3の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取ることができる。	
	事前学修	Part3の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W3課題完了。	60分
	事後学修	Part3特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
9	Listening Part5(1)	Part5の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part5の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取りPart4の対応準備ができる。	
	事前学修	Part5の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W4課題完了。	60分
	事後学修	Part5特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
10	Listening Part5(2)	Part5の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part5の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を書き取りPart4の対応準備ができる。	
	事前学修	Part5の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W5課題完了。	60分
	事後学修	Part5特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記しW15の最終テストの準備をする（30分x5日）。	150分
11	TOEICテスト準備 中間テスト1	7月9・8・11日実施のTOEICテストの準備のため、中間テストListeningを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストのListening各パートについて理解し実際の受験で実践することができる。	
	事前学修	第6回から第8回までの書き取りテストの復習をする（語彙の意味・発音、文の構造）。ClassMATE W6課題完了。	60分
	事後学修	テスト問題の誤答を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し復習しW15の最終テストの準備をする（30分x5日）。	150分
12	TOEICテスト準備 中間テスト2	7月9・8・11日実施のTOEICテストの準備のため、中間テストReading実施し解答を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストのReading各パートについて理解し実際の受験で実践することができる。	
	事前学修	第9回・第10回の書き取りテストの復習をする（語彙の意味・発音、文の構造）。	60分
	事後学修	授業で解説した問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記しW15の最終テストの準備をする（30分x5日）。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Reading Part6		Part6の問題の特徴と頻出問題について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part6の文の構造と語彙を金のフレーズを使って習得しPart6・Part7の対応準備ができる。	
	事前学修	準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part6特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し書き取りテストの準備をする（30分×5日）。	150分
14	Reading Part6		Part5の問題の特徴と頻出問題について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part5の文の構造と語彙を習得しPart6・Part7の対応準備ができる。	
	事前学修	Part5の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part5特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記しW15の最終テストの準備をする（30分×5日）。	150分
15	最終テスト・スコアフィードバック		第13回及び第14回を範囲とした最終テストを実施し、各自のスコアについてフィードバックする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記回の範囲の習得を確認できる。	
	事前学修	当該の範囲を徹底的に復習しテスト準備をする（20分×9回）。	180分
	事後学修	筆記試験の誤答を直ちに復習し完璧に習得する。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、II Bとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 10	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2023	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2022	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜４・５限、水曜１・２限 inoue.etsuoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	形式と対策方法		ガイダンス(問題構成の確認)、Part5 (別問題)
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、問題構成の再確認。	
	事前学修	既習事項の確認	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	Part6の演習		Part6 (Test2 131-138)、Part1 (別問題)、音読練習
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part6、Part1の正解数を増やす。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	Part6の習熟		Part6 (Test2 139-146)、Part2 (別問題)、音読
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part6 (5/8問)、Part2 (7割程度)、程度正解すること。ただし、Part2は複数回聴くことができる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	Part7(1つの文書)の演習		Part7 (Test1 147-160)、Part3 (別問題)、音読
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part7の形式に慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	Part7(1つの文書)の習熟		Part7 (Test1 161-175)、Part4 (別問題)、音読
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part7に習熟する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	Part7 (2つの文書)の演習		Part7 (Test1 176-200)、Part2 (別問題)、音読
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part3の演習	ClassMATEの小テスト、Part3 (Test2 32-55)、Part5 (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part3の正解率を高める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	Part3の習熟	ClassMATEの小テスト、Part3 (Test2 56-70)、Part5 (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part3の英文の内容を細部まで理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	Part4の演習	ClassMATEの小テスト、Part4 (Test2 71-85)、Part5 (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本番を意識して問題を解ける。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	Part4の習熟	ClassMATEの小テスト、Part4 (Test2 86-100)、Part5 (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本番を意識して問題を解ける。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	Part7(1つの文書)習熟、Listening Section 実戦対策	ClassMATEの小テスト、Part7 (Test2 147-160)、Listening Section (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、読解問題の本文を正確に読める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	Part7(1つの文書)習熟、Listening Section 実戦対策	Part7 (Test2 161-175)、Listening Section (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、読解問題の本文を正確に読める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Part7(複数の文書)習熟 Listening Section 実戦対策	Part7 (Test2 176-200)、Listening Section (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	Reading Section 実戦対策	Reading Section (別問題)、音読	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	答えの確認	30分
15	まとめ	TOEIC IP受験、まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習や小テスト等を通してTOEICテスト対策を行う。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICテスト形式の問題に取り組みながら、各自が自分に適した解答法を策定し、それを基にアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認し、適宜解説や講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応。（詳細は初回授業にて説明） takasaka.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション Research & Development: Listening	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEIC概要の説明等。 Unit 7: Listening Section	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC科目におけるスケジュールや授業の進め方等を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業全体について大まかに把握する。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認し、後期の学習計画を立てる。	30分
2	Research & Development: Reading	Unit 7: Reading Section Vocabularyテキスト Section B Unit 1&2小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と動詞の呼応および時制の一致の問題に対応できる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
3	Computers & Technology: Listening	Unit 8: Listening Section Vocabularyテキスト Section B Unit 3&4小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックを把握しながらリスニングができる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
4	Computers & Technology: Reading	Unit 8: Reading Section Vocabularyテキスト Section B Unit 5&6小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、能動態・受動態の問題に対応できる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
5	Employment & Promotions: Listening	Unit 9: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 7&8小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、状況、場所、人間関係を把握しながらリスニングができる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
6	Employment & Promotions: Reading	Unit 9: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 9&10小テスト ClassMATEの使い方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞の問題に対応できる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
7	Advertisements & Personnel: Listening	Unit 10: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 11&12の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、場面をイメージしながらリスニングができる。	
	事前学修	ClassMATE第1週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
8	Advertisements & Personnel: Reading	Unit 10: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 13&14の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第2週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
9	Telephone & Messages: Listening	Unit 11: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 15&16の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の話の展開の特徴を知ることができる。	
	事前学修	ClassMATE第3週の課題に取り組む 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
10	Telephone & Messages: Reading	Unit 11: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 17&18の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第4週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
11	Banking & Finance: Listening	Unit 12: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 19&20の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、すべての語句を聞き取ろうとせずに解答することができる。	
	事前学修	ClassMATE第5週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
12	Banking & Finance: Reading	Unit 12: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 21&22の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の問題に対応できる。	
	事前学修	ClassMATE第6週の課題に取り組む。 小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Office Work & Equipment: Reading	Unit 13: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 23&24の小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞の問題に対応できる。	
	事前学修	小テストの準備をする。	30分
	事後学修	テキストの当該箇所を資料とともに復習し、重要表現を覚える。	30分
14	授業内試験とふり返り	テキスト2種の後期まとめ試験 タスク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、復習テストに取り組むことで後期に学習した語彙や文法および各種スキルを定着させることができる。	
	事前学修	テキスト2種の後期学習範囲を復習する。	30分
	事後学修	テストで出題された箇所を確認し、理解が不十分な箇所を復習する。	30分
15	まとめ	後期学習内容の総まとめ タスク	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&Rへの理解を深め、今後の英語学習計画を立てることができる。	
	事前学修	後期の学習内容をふり返り、気付いた点をまとめる。	30分
	事後学修	総まとめをもとに、今後の英語学習に関する計画や目標を考える。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。		10									10
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて 解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL 1	北尾 泰幸	朝日出版社	2018	教科書	必携
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了以後講堂で対応

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
	この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
	事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	Part5. 6. のストラテジーの学習	短文穴埋め問題、長文穴埋め問題についての理解	
	この回の到達目標	Part5. 6. の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	配布プリントの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	Part7. のストラテジーの学習	小テスト1(Part1. 2. 5. 6.) 読解問題についての理解	
	この回の到達目標	Part7. の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語501-550を暗記する。 テキストpp. 37-38. 40-41. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
4	Part3. 4. :Shopping	小テスト2(Part3. 4. 7.) 準動詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、チャットに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語551-600を暗記する。 テキストpp. 38-39. 42-43. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
5	Part1. 2. と名詞・冠詞	小テスト3(Part1. 2. 5. 6.) 分詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語601-650を暗記する。 テキストpp. 44-45. 47-48. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
6	Part3. 4:Advertisement	小テスト4(Part3. 4. 7.) 出張等に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、旅行に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語651-700を暗記する。 テキストpp. 45-496. 49-50. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part1.2と数量詞	小テスト5(Part1.2.5.6.) 分詞構文、使役動詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞構文、使役構文に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語701-750を暗記する。 テキストpp. 51-52. 55-56. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
8	Part3.4:Daily Life	小テスト6(Part3.4.7.) 会議、天候に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議、天候に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語751-800を暗記する。 テキストpp. 52-53. 57-58. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	Part1.2と仮定法	小テスト7(Part1.2.5.6.) 比較構文に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、比較構文に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語801-850を暗記する。 テキストpp. 59-60. 62-63. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
10	Part3.4:Office Work	小テスト8(Part3.4.7.) 商品注文に関する表現についての理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ダブル・パッセージに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語851-900を暗記する。 テキストpp. 60-61. 64-65. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	Part1.2と分詞	小テスト9(Part1.2.5.6.) 不定代名詞についての理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語901-950を暗記する。 テキストpp. 66-67. 70-71. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
12	図表のリスニング・パート	図表問題の取り組み方の理解	
	この回の到達目標	図表の解法 (Part3.4.7) の解法が理解できる。	
	事前学修	テキストpp. 67-68. 72-73. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの学習の確認	これまでのストラテジーの確認による、自己達成度の向上確認	
	この回の到達目標	これまでの解法のストラテジーを駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
	事前学修	単語小テスト1-9とUnit6-10の確認をする。	60分
	事後学修	配布プリントの復習	30分
14	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
	この回の到達目標	英語圏における世界観を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
	事前学修	英語圏の人々の世界観に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
	事後学修	英語圏人々の世界観を確認する。	30分
15	英語圏の世界観とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の世界観の相違の理解	
	この回の到達目標	英語圏と日本での人々の世界観の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
	事前学修	単語951-1005を暗記する。	30分
	事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	藤本 淳史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 * 第一回目の授業で授業方法や授業計画について説明します。 * また授業の連絡はGoogle Classroomを使う予定です（アクセスコードなどは初回時にお伝えします）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	30										30
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	15										15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(TOEIC)	TOEICにより、到達目標①が達成できているか評価する。	15										15
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One Advanced TOEIC(R) L&R TEST マスタリードリル [全パート上級編]	早川 幸治	桐原書店	2019	教科書	必携
備考	【2023年度にTOEIC II A/B で使用していた教科書とは違いますので、注意してください】				

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義 Unit 08 アナウンス・宣伝 (Part 4)	オリエンテーション Unit 08 アナウンス・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。 (後期は前期使用した教科書を引き続き使用する)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。 Unit 08 アナウンス・宣伝 (Part 4) も行う。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	Unit 08 語彙問題・その他 (Part 5)	Unit 08 語彙問題・その他 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙問題・その他 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	Unit 09 ステートメント・付加疑問文	Unit 09 ステートメント・付加疑問文 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのステートメント・付加疑問文の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	Unit 09 時制・代名詞・語彙 (Part 6)	Unit 09 時制・代名詞・語彙 (Part 6) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制・代名詞・語彙 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	Unit 10 マルチプルパッセージ (2つの文書) (Part 7)	Unit 10 マルチプルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルチプルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 11 トーク（会議・イベント）	Unit 11 トーク（会議・イベント） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 トーク（会議・イベント）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
8	Unit 11 Part 5の復習（Part 5）	Unit 11 Part 5の復習（Part 5） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してUnit 04 詳細情報を特定する（Part 7）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
9	Unit 12 オフィスでの会話 ②（Part 3）	Unit 12 オフィスでの会話 ②（Part 3） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オフィスでの会話 ②（Part 3）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
10	Unit 12 つなぎ語・文選択（Part 6）	Unit 12 つなぎ語・文選択（Part 6） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、つなぎ語・文選択（Part 6）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
11	Unit 13 ニュース・ラジオ放送（Part 4）	Unit 13 ニュース・ラジオ放送（Part 4） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 13 ニュース・ラジオ放送（Part 4）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分
12	Unit 13 マルチプルパッセージ（3つの文書）（Part 7）	Unit 13 マルチプルパッセージ（3つの文書）（Part 7） 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルチプルパッセージ（3つの文書）（Part 7）の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分） ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 14 図表問題と意図問題 (Part 3)	Unit 14 図表問題と意図問題 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図表問題と意図問題 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 14 Part 6とPart 7の復習 (Part 6, Part 7)	Unit 14 Part 6とPart 7の復習 (Part 6, Part 7) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内容把握問題に挑戦する (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	後期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	出水 純二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate / コミュニケーションスキルが身に付くTOEIC® L&R TEST 〈中級編〉	角山照彦, Simon Capper	成美堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する。メール対応も可（izumi.junji@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Technology 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
2	Technology 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト1	30分
3	Health 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
4	Health 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト2	30分
5	Travel 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
6	Travel 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト3	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Business 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
8	Business 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト4	30分
9	Entertainment 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
10	Entertainment 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト5	30分
11	Education 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
12	Education 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト6	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Housing 1	Part 1-4の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listeningの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	Vocabularyセクションを調べる。	30分
	事後学修	音声を聴きなおす。	30分
14	Housing 2	Part 5-7の問題演習とコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Readingの問題を解き、タスクに取り組むことができる。	
	事前学修	英文の使われる場面を想像する。	30分
	事後学修	小テスト7	30分
15	まとめ	まとめのコミュニケーションタスクを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コミュニケーションスキルを活用できる。	
	事前学修	タスクの準備をする。	30分
	事後学修	1年間の学びを振り返る。	30分

科目名	TOEIC II B(火曜1時限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
火曜日 1 時限クラス。学期中にTOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。 (受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEの学習状況により到達目標①が達成できているかを評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でおこなう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST (Intermediate)	吉塚弘，他2名共著	成美堂	2022年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	TOEIC TEST：各パートごとの説明、 TOEIC IBの授業の進め方についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの各パートの重要点とTOEIC IBの授業の内容を理解して後期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、後期の学習スケジュールを立てる	30分
2	Unit 8 The Bank & The Post Office	Listening Section:動詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して銀行や郵便局に関する語彙を理解して問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
3	Unit 8 The Bank & The Post Office	Reading Section：動詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して銀行や郵便局に関する語彙を理解して問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
4	Unit 9 New Products	Listening Section:形容詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して会社の製品を扱う場面でのTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
5	Unit 9 New Products	Reading Section形容詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して会社の製品を扱う場面でのTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
6	Unit 10 Travel	Listening Section:副詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行に関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 10 Travel	Reading Section：副詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行に関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
8	Unit 11 Daily Life	Listening Section:分詞構文について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活の様々なことに関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
9	Unit 11 Daily Life	Reading Section：分詞構文について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して日常生活の様々なことに関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
10	Unit 12 Job Applications	Listening Section:比較について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して就職に関するTOEICの問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
11	Unit 12 Job Applications	Reading Section：比較について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して就職に関するTOEICの問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
12	Unit 13 Shopping	Listening Section:受動態について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してショッピングに関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 Shopping	Reading Section：受動態について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してショッピングに関するTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分
14	Unit 14 Education	Listening Section:関係代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して教育に関するTOEICの問題を解くことが出来る	
	事前学修	Warm-up: Dictation PracticeとListening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を提出。再度音声を聴いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
15	Unit 14 Education	Reading Section：関係代名詞について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して教育に関するTOEICの問題を解くことが出来る	
	事前学修	Grammar ReviewとReading Sectionの「頻出単語チェック」の問題を解く。その後でPart 5-7の問題を解いて解答を提出する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを確認して間違た理由を確認する。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
木曜日4時限クラス。TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。Google Classroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST (BOOK 3)	角山、Capper共著	成美堂	2024年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス		TOEIC TEST：各パートごとの説明、 TOEIC IBの授業の進め方についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの各パートの重要点とTOEIC IBの授業の内容を理解して後期の学習目標を立てることが出来る。		
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。後期の目標を立てる。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、後期の学習スケジュールを立てる		30分
2	Unit 08 Technology		TOEICパート別の解説、Unit 8 Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して科学技術に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。		30分
3	Unit 08 Technology		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して科学技術に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。		30分
4	Unit 09 Health		Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して健康に関するリスニング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。		30分
5	Unit 09 Health		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して健康に関するリーディング問題を解くことが出来る。		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。		30分
6	Unit 10 Travel		Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行に関するTOEICのリスニング問題を解くことが出来る		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 10 Travel	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して旅行に関するTOEICのリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。	30分
8	Unit 11 Business	Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリスニング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。	30分
9	Unit 11 Business	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してBusiness関係の語彙を理解してリーディング問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。	30分
10	Unit 12 Entertainment	Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してEntertainment関係のリスニング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。	30分
11	Unit 12 Entertainment	Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してEntertainment関係のリーディング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。	30分
12	Unit 13 Education	Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して教育に関するTOEICのリスニング問題を解くことが出来る	
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。	30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Unit 13 Education		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して教育に関するTOEICのリーディング問題を解くことが出来る		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。		30分
14	Unit 14 Housing		Listening Section: Vocabularyの単語の意味を確認。Listening Section (Part1-4)の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解く。解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して住宅に関するTOEICのリスニング問題を解くことが出来る		
	事前学修	Vocabularyの問題を解く。 Listening Section (Part1-4)の音声を聴いて解答を書く。再度音声を聴いて、Part 3、4の内容を確認する。		30分
	事後学修	授業で配布されたスクリプトを見て内容を確認。更に音読練習をする。		30分
15	Unit 14 Housing		Reading Section: Part 5-7の問題を「解法のコツ」の説明を見ながら解答と解説。Part 5は重要な点を説明。Part 6-7は英文の内容を確認して重要な点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して住宅に関するTOEICのリーディング問題を解くことが出来る		
	事前学修	Reading Section (Part 5-7)の問題を辞書を使わないで解く。問題を解いた後で分からない語（句）の意味を辞書で確認する。もう一度英文を読み、内容を確認する。		30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。特にPart 5, 6は間違えたところを復習する。		30分

科目名	TOEIC II B(火曜2時限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
火曜日2時限クラス。学期中にTOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEの学習状況により到達目標①が達成できているかを評価する	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でおこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川、番場共著	金星堂	2023年	教科書	必携
TOEIC TEST 文法・語彙 出るとこだけ！問題集	小石裕子	アルク	2016年	参考書	推奨
改訂版TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の終えた後で質問などに対応します。緊急の連絡事項はNUメールからメールを送ってください。NUメールアドレス kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	TOEIC TEST：各パートごとの説明、 TOEIC IBの授業の進め方についての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEIC TESTの各パートの重要点とTOEIC IBの授業の内容を理解して後期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	シラバスを読んでテキストに目を通す。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、後期の学習スケジュールを立てる	30分
2	Unit 8 Recruiting	TOEIC練習問題：採用や求人に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して採用や求人関係の語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
3	Unit 8 Recruiting	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して採用や求人に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
4	Unit 9 Personnel	TOEIC練習問題：人事に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して人事に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
5	Unit 9 Personnel	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して人事に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
6	Unit 10 Advertising	TOEIC練習問題：広告や宣伝に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して広告や宣伝に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 10 Advertising	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して広告や宣伝に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える	30分
8	Unit 11 Media	TOEIC練習問題：メディアに関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してメディアに関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
9	Unit 11 Media	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してメディアに関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
10	Unit 12 Finance	TOEIC練習問題：金融、財務に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して金融、財務に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む。	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分
11	Unit 12 Finance	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して金融、財務に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
12	Unit 13 Meetings	TOEIC練習問題：会議や打ち合わせに関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して会議や打ち合わせに関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 Meetings	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して会議や打ち合わせに関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分
14	Unit 14 Sales & Marketing	TOEIC練習問題：売り上げ、販売促進に関する語句、表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して販売促進に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit最初のページの単語の意味を確認。その後Part 1~7の練習問題を解く。Part 1~4は音声を良く聞き、音声について音読。Part 5~7は分からない語（句）を調べて英文をもう一度読む	30分
	事後学修	授業で聴いた解説を基に、間違えた問題を中心に復習する。	30分
15	Unit 14 Sales & Marketing	TOEIC Mini Test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して販売促進に関する語彙を理解してTOEIC問題を解くことが出来る。	
	事前学修	Unit 前半の練習問題で学んだことを復習した後でTOEIC Mini Testの問題を解いて解答を提出。	30分
	事後学修	授業の内容を振り返り、間違えたところを復習する。リスニング部分は音声を再度聴いて音読する。リーディング部分は分からなかった単語を覚える。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	佐藤 寛子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料・受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習、発話練習、ペアワーク、グループワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC Listening & Reading 問題集 9 (ISBN: 978-4906033683)	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前・後に教室で対応する。緊急の場合のみメールで受付（sato.kanshi@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入 & 【TEST 2】 Part1	前期の振り返り&授業の進め方について & 【TEST 2】 Part 1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の振り返りを行い、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	前期の振り返りを行う。特に、学習不足であったり、苦手意識の強いPartはどれかを確認しておく。	30分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	【TEST 2】 Part 1 & Part 7	Part 1 と Part 7の様々な問題形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの写真描写問題（Part 1）とリーディングの長文読解（Part 7）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週で学習した事項の復習をする。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
3	【TEST 2】 Part 1（総復習） & Part 7	Part 1 の総復習とPart 7の問題形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの写真描写問題（Part 1）を総復習し、リーディングの長文読解（Part 7）の様々な問題形式にさらに慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 小テストに備える。	30分
4	【TEST 2】 Part 2 & Part 7 小テスト	Part 2とPart 7の様々な問題形式に慣れる（続き）。 小テスト実施（前週までの英単語とPart 1）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの応答問題（Part 2）とリーディングの長文読解（Part 7）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
5	【TEST 2】 Part 2 & Part 7（総復習）	Part 2とPart 7の総復習。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの応答問題（Part 2）と、リーディングの長文読解（Part 7）を総復習し、苦手な部分を減らすことができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
6	【TEST 2】 Part 3 & Part 6	Part 3とPart 6の様々な問題形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 6）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 小テストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【TEST 2】Part 3 & Part 5 小テスト	Part 3とPart 5の様々な問題形式に慣れる。 小テスト実施（前週までの学習事項）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
8	【TEST 2】Part 3 & Part 5	Part 3とPart 5の様々な問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
9	【TEST 2】Part 3 & Part 5	Part 3とPart 5の様々な問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
10	【TEST 2】Part 3 & Part 5	Part 3とPart 5の様々な問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
11	【TEST 2】Part 3 & Part 5	Part 3の総復習とPart 5の様々な問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングの会話問題（Part 3）の総復習とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。 小テストに備える。	30分
12	【TEST 2】Part 4 & Part 5 小テスト	Part 4とPart 5の様々な問題形式に慣れる。 小テスト実施（前週までの学習事項）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。 小テストに備える。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【TEST 2】Part 4 & Part 5	Part 4と Part 5の様々な問題形式に慣れる（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）とリーディングの空欄埋め問題（Part 5）に登場するより多くの問題形式に慣れることができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。課題を行う。	30分
14	【TEST 2】Part 4 & Part 5（総復習）	Part 4と Part 5の総復習。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングのモノログ問題（Part 4）と、リーディングの空欄埋め問題（Part 5）を総復習し、苦手な部分を減らすことができる。	
	事前学修	前週までに学習した事項の復習を繰り返す。	30分
	事後学修	特に苦手な部分について、何度も復習を行い、語彙・表現の定着を図る。	30分
15	総括&まとめ試験	後期で学習したことの総括と確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	後期の学習内容の総復習をして、試験に備える。	60分
	事後学修	今後のTOEICの自主学習の計画を立てる。	15分

科目名	TOEIC II B	担当者	間山 伸	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける(受験料、受講料は自己負担)。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト(小テストを含む)により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは授業内で解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(水曜1限・3限のみ)SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE	番場直之	金星堂	2019	教科書	必携
(水曜2限・4限のみ)THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	早川幸治	金星堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス		前期授業内容の確認
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期授業学習内容を踏まえて、後期TOEICテスト受験に向けて学習計画を立てることができる	
	事前学修	前期に学習した内容を振り返り、忘れていないか確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
2	Topic : Recruiting(2) Reading Section問題		不定詞・動名詞の使い方に関するReading Section問題
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞・動名詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	不定詞・動名詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
3	Topic : Personnel(1) Listening Section問題		人事に関するListening Section問題
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人事に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	人事に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
4	Topic : Personnel(2) Reading Section問題		現在分詞・過去分詞の使い方に関するReading Section問題
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在分詞・過去分詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	現在分詞・過去分詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
5	Topic : Advertising(1) Listening Section問題		広告・宣伝に関するListening Section問題
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、広告・宣伝に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	広告・宣伝に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
6	Topic : Advertising(2) Reading Section問題		代名詞の使い方に関するReading Section問題
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	代名詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Topic : Meetings(1) Listening Section問題	会議に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、会議に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	会議に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
8	Topic : Meetings(2) Reading Section問題	比較の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	比較の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
9	Topic : Finance(1) Listening Section問題	予算・費用に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算・費用に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	予算・費用に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
10	Topic : Finance(2) Reading Section問題	前置詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	前置詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
11	Topic : Offices(1) Listening Section問題	オフィスに関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オフィスに関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	オフィスに関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
12	Topic : Offices(2) Reading Section問題	接続詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	接続詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Topic : Daily Life(1) Listening Section問題	日常生活に関するListening Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活に関する語句・表現を使ったListening Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	日常生活に関する語句・表現を確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
14	Topic : Daily Life(2) Reading Section問題	前置詞の使い方に関するReading Section問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の使い方に関するReading Sectionの問題を解くことができる	
	事前学修	前置詞の使い方について確認をする	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分
15	後期のまとめ	後期授業内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期授業で学んだことを振り返り、今後の学習計画を立てることができる	
	事前学修	後期に学習した内容を振り返り、忘れていないか確認する	30分
	事後学修	授業で学習した内容を振り返り、学習内容の定着を図る	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。 TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。学生の理解度に応じて進度を変更することもあり得る。また、単語テストも定期的実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。 TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。 テストは後日返却し、必要に応じて解

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川幸治他	金星堂	2023	教科書	必携
改訂版TOEICテストTEPPAN英単語	関正生	KADOKAWA	2021	教科書	必携
備考	前期TOEIC IIA と同じなので、改めて購入する必要はありません。				

【オフィスアワー】
mizuno.takayukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Unit7 Mini Test		Unit7で学んだことを確認する問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、顧客に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
2	Unit8 Recruiting		「採用・求人」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト361～390
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「採用・求人」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
3	Unit8 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト391～420
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、採用・求人に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
4	Unit9 Personal		「人事」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト421～450
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「人事」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
5	Unit9 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト451～480
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、「人事」に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
6	Unit10 Advertising		「広告・宣伝」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト481～510
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「広告・宣伝」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit10 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト5111～540
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、「広告・宣伝」に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
8	Unit11 Media		「メディア」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト541～570
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「メディア」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
9	Unit11 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト571～600
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、メディアに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
10	Unit12 Finance		「財務」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト601～630
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「財務」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
11	Unit12 Mini Test		前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト631～660
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、財務に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
12	Unit13 Meetings		「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト661～690
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit13 Mini Test	前回学んだことを確認する問題を解く。 単語テスト691～720	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学んだことを活用し、会議・打ち合わせに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	Mini Testを解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
14	Unit14 Sales & Marketing	「売上・促進販売」に関する語句・表現を覚える。 単語テスト721～750	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「売上・促進販売」に関する語句・表現を覚え、それに対応するTOEICの問題に解答することができる。	
	事前学修	章の前半の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	再度問題を解き、同じ間違いを繰り返さないようにする。	30分
15	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	授業内試験を通して、後期学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期の学習内容を確認し、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
	事前学修	教科書の総復習をする。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	室谷 章子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC II Aを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
小テスト、問題演習（各自、ペア、グループ）、説明、復習（各自、ペア、グループ）質問への説明

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	1. 提示されたテーマや問題について自分の意見とその意見に至った理由を「考える」。 2. パートナーやグループメンバーと「話し合い」「意見を集約」し、その意見と理由を「発表する」。 3. 正解とその理由をパートナーやグループメンバーに「説明し」不明点があるか理解度を「確認する」。 4. 今日学んだ重要事項について、パートナーやグループメンバーと「話し合い」不明点は「質問する」。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力										
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60											60
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30										30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10											10
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		70	30										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中は口頭で、授業後はメールやクラスルームで実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式TOEIC Listening&Reading 650+	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2023	教科書	必携
TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2017	教科書	必携
備考					
【オフィスアワー】					
授業前後及びメール（muroya.akiko@nihon-u.ac.jp）にて適宜対応します。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Listening Part1復習テスト	Part1の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part1の語彙と文法の知識を完璧に習得する。	
	事前学修	前期に学んだPart1の頻出語彙、文の構造を専用ノートに書き出し復習しておき、不明点はテスト前の準備時間に質問できるよう、復習テストの準備をする。	30分
	事後学修	Part1特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
2	Listening Part2	Part2の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part2の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。	
	事前学修	前期に学んだPart2の頻出語彙、文の構造、時制・テンスを専用ノートに書き出し復習しておく。不明点は授業で質問する準備をしておく。	30分
	事後学修	Part2特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文をダウンロードをした音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
3	Listening Part3(1)	Part3の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part3の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。	
	事前学修	前期に学んだPart3の頻出語彙、文の構造、時制・テンスを専用ノートに書き出し復習しておく。不明点は授業で質問する準備をしておく。	30分
	事後学修	Part3特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文をダウンロードをした音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。 Part3特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文をダウンロードした音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
4	Listening Part3(2)	Part3の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part3の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。	
	事前学修	Part3の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part3特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
5	Listening Part4(1)	Part4の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part4の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取ることができる。	
	事前学修	Part4の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part4特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
6	Listening Part4(2)	Part4の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。 (ClassMATE配信開始予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part4の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。	
	事前学修	Part4の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W1課題完了。	60分
	事後学修	Part4特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し次の書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Reading Part5(1)		Part5の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part5の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。		
	事前学修	前期に学んだPart5の頻出語彙、文の構造、時制・テンスを専用ノートに書き出し復習しておく。不明点は授業で質問する準備をしておく。ClassMATE W2 課題完了。		60分
	事後学修	Part5特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し 次回の書き取りテストの準備をする（30分 x 5日）。		150分
8	Reading Part5(2)		Part5の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part5の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。		
	事前学修	Part5の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W3 課題完了。		60分
	事後学修	Part5特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し 次回の書き取りテストの準備をする（30分 x 5日）。		150分
9	Reading Part6(1)		Part6の問題の特徴と頻出問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part6の問題特有の文の構造と語彙を習得し問題文を正確に発音し書き取りPart4の対応準備ができる。		
	事前学修	Part6の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W4 課題完了。		60分
	事後学修	Part6特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し 次回の書き取りテストの準備をする（30分 x 5日）。		150分
10	Reading Part6(2)		Part6の語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part6の語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。		
	事前学修	Part6の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。ClassMATE W5 課題完了。		60分
	事後学修	Part6特有の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し W15の最終テストの準備をする（30分 x 5日）。		150分
11	TOEIC準備 中間テスト 1 Listening		後期実施のTOEICテストの準備のため、中間テスト 1（Part2-4）を実施し習得を完璧にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストのListening各パートの650レベル正解数を達成することができる。		
	事前学修	第2回から第6回までの書き取りテストの復習をする（語彙の意味・発音、文の構造）。		60分
	事後学修	授業で解説した問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し中間テストの復習をしTOEICテストの準備をする（30分 x 5日）。		150分
12	TOEIC準備 中間テスト 2 Reading		後期実施のTOEICテストの準備のため、中間テスト 2（Part5/6）を実施し習得を完璧にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストのReading各パートの650レベル正解数を達成することができる。		
	事前学修	第7回から第10回の語彙・書き取りテストの復習をする（語彙の意味・発音、文の構造）。		60分
	事後学修	授業で解説した問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記しW15の最終テストの準備をする（30分 x 5日）。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Reading Part7(1)		Part7の問題形式の特徴と取り組み方について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part7特有の問題形式と解法を理解することができる。	
	事前学修	Part7の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part7頻出の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記し書き取りテストの準備をする（30分x5日）。	150分
14	Reading Part7(2)		Part7の解法及び語彙と文法の知識を運用し正解を導く練習をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part7の解法及び語彙と文法の知識を運用し正解を導くことができる。	
	事前学修	Part7の音声をダウンロードする。準備した専用のノートに、①問題文を書き出し、②音声を聞いてスラッシュを入れ、わからない単語の発音①アクセント②意味③品詞を書き出す。	30分
	事後学修	Part7頻出の文の構造と語彙を完璧に復習する。授業で扱った問題文を音声を使って音読・シャドーイング・暗記しW15の最終テストの準備をする（30分x5日）。	150分
15	最終テスト・スコアフィードバック		第13回・第14回を範囲とした最終テストを実施し、各自のスコアについてフィードバックする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記回の範囲の習得を確認できる。	
	事前学修	当該回の範囲を徹底的に復習しテスト準備をする（20分x12回）。公開TOEICテストのスコアを準備しておく。	240分
	事後学修	筆記試験の誤答を直ちに復習し完璧に習得する。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
授業形態は「教室での対面授業」。実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。小テストは授業内で返却を行う。授業内試験後に、試験の解説を行い、内容を振り返る。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEICテスト公式問題集 新形式対応編 (ISBN: 978-4-906033-48-5)	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後講堂で受け付けます。授業外の場合は kitamura.yutaka11@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	TOEICとは		General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の使い方を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の進め方、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てる事ができる。英英辞典の使い方を習得する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	TOEIC第1部について		リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第1部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキストPart 1の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
	事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。	30分
3	TOEIC第2部について		リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(Part 2)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
4	TOEIC第3部について		リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第3部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(Part 3)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
5	TOEIC第4部について		リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(Part 4)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
6	TOEIC第5部について		リーディング第5部：演習と解説 TOEICリーディング第5部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第5部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(Part 5)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEIC第6部について		リーディング第6部：演習と解説 TOEICリーディング第6部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。 授業内アチーブメント・テストの実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(Part 6)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
8	TOEIC第7部（前半部分、single passage）について		リーディング第7部（前半部分、single passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部前半（single passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第7部前半（single passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の準備、テキスト(Part 7前半)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
9	TOEIC第7部（後半部分、double passage）について		リーディング第7部（後半部分、double passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部後半（double passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第7部後半（double passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半（double passage）問題演習の準備、テキスト(Part 7後半)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部後半部分（double passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
10	TOEIC第1部と第2部について		リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第1－2部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第1－2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備、テキスト(Parts 1-2)の内容に関するリサーチをしてくる。		30分
	事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分
11	TOEIC第3部と第4部について		リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第3－4部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第3－4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備、テキスト(Parts 3-4)の内容に関するリサーチをしてくる。		30分
	事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分
12	TOEIC第5部と第6部について		リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第5－6部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第5－6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備、テキスト(Parts 5-6)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	TOEIC第7部single passage問題について		リーディング問題演習（第7部前半single passage問題）と解説 自宅トレーニング方法の紹介
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第7部前半single passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第7部（前半）問題演習の準備、テキスト(Part 7前半)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
14	TOEIC第7部double passage問題について		リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 自宅トレーニング方法の紹介
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第7部後半double passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第7部（後半）問題演習の準備、テキスト(Part 7後半)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
15	前期の振り返りと学習内容の定着		前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。試験後解説と前期学習内容の振り返り。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期授業の総まとめとしての授業内試験を通して、前期の授業で扱った内容を確認し、ビジネス英語全般の理解を深める事ができる。	
	事前学修	「前期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。（30分）	30分
	事後学修	「前期のまとめ」の内容の復習。前期授業の学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
アクティブ・ラーニング演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像教材や音声教材、Web英語学習システムを活用し、受け身ではない実践的な双方向演習に取り組む。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。									3		
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認し、必要があれば解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced	Simon Capper	成美堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）、もしくは、メール（宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp）にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 英語教育教材や研究書、事典などの執筆、出版
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語教育教材や研究書、事典の執筆、出版経験に基づいた実践的教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEICについて	TOEICについて概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICについて学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	Restaurants	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのRestaurantsを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
3	Offices	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのOfficesを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
4	RestaurantsおよびOfficesの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのRestaurantsおよびOfficesを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
5	Daily Life	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDaily Lifeを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
6	Personnel	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPersonnelを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Daily LifeおよびPersonnelの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDaily LifeおよびPersonnelを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
8	Shopping	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのShoppingを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
9	Finances	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのFinancesを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
10	ShoppingおよびFinancesの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのShoppingおよびFinancesを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
11	Transportation	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTransportationを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
12	Transportationの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTransportationを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEICミニ模擬テスト	TOEIC模擬テストの実施、解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC模擬テストに適切に対応することができる。	
	事前学修	TOEIC模擬テストに備えて、これまでの授業の総復習を行う。	60分
	事後学修	TOEIC模擬試験の振り返り	60分
14	振り返り	前期に学修した内容を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC試験に適切に対応することができる。	
	事前学修	前期に学修した単語・熟語学習	60分
	事後学修	前期に学修した内容の振り返り	60分
15	筆記試験/解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	町田 章	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川幸治 番場直之	金星堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	授業の進め方について TOEICについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	オリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	Unit 1 Travel	TOEIC形式の演習問題を通して「旅行」に関する語句・表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「旅行」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week1の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
3	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week2の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
4	Unit 2 Dining Out	TOEIC形式の演習問題を通して「食事」に関する語句・表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「食事」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week3の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
5	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week4の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
6	Unit 3 Daily Life	TOEIC形式の演習問題を通して「日常生活」に関する語句・表現を覚える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「日常生活」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week5の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week6の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
8	Unit 4 Entertainment		TOEIC形式の演習問題を通して「娯楽」に関する語句・表現を覚える
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「娯楽」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week7の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
9	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week8の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
10	Unit 5 Purchasing		TOEIC形式の演習問題を通して「買い物」に関する語句・表現を覚える
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「買い物」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week9の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
11	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week10の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
12	Unit 6 Offices		TOEIC形式の演習問題を通して「オフィス」に関する語句・表現を覚える
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「オフィス」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week11の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week12の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
14	前期試験	前期試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
	事前学修	これまでに学修した表現を覚えなおす。	120分
	事後学修	試験でできなかったところを教科書で確認する。	30分
15	試験の返却と解説	・テスト返却 ・前期の授業をふり返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことを振り返り、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
	事後学修	夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
授業形態は「教室での対面授業」。実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験後解説と振り返りを行う。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。									3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、 レポートなどを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評 価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価す る。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (2)	Yutaka Kitamura	OD Publishing	2017	教科書	必携
備考	教科書は日大法学部専用の丸善教科書販売Web siteで注文してください。				

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は kitamura.yutaka11@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	General introduction		General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。TOEICのスコア表の読み方を学ぶ。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の進め方、TOEICの概要を理解し、今後の学習計画を立てることができる。TOEICのスコア表の読み方を学び、自分で学習戦略を立てる事ができる。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
	事前学修	授業の概要を大学のHPで確認する。（30分）	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	TOEICリスニング第1部について		リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(1-5頁)に取り組む。	30分
	事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。	30分
3	TOEICリスニング第2部について		リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(6-11頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。	30分
4	TOEICリスニング第3部について		リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(12-19頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
5	TOEICリスニング第4部について		リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(20-28頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
6	TOEICリーディング第5部について		リーディング第5部：演習と解説 リーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEICリーディング第6部について		リーディング第6部：演習と解説 リーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。 授業内アチーブメント・テストの実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICリーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
8	TOEICリーディング第7部前半single passageについて		リーディング第7部（前半single passage）：演習と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備、テキスト(39-47頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
9	TOEICリーディング第7部後半double passageについて		リーディング第7部（後半double passage）：演習と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半問題演習の復習、テキスト(47-58頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
10	TOEICリスニング第1－2部について		リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説 リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備。テキスト(59-63頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
11	TOEICリスニング第3－4部について		リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説 リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備。テキスト(64-67頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
12	TOEICリーディング第5－6部について		リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備。テキスト(5-22頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	TOEICリーディング第7部前半single passageについて		リーディング問題演習（第7部前半single passage）と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備。テキスト(68-72頁)に取り組む。（30分）		30分
	事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）		30分
14	TOEICリーディング第7部後半double passageについて		リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半double passage問題演習の準備。テキスト(78-89頁)に取り組む。（30分）		30分
	事後学修	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。授業内最終テストに備える。		30分
15	後期授業の総まとめと振り返り		Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。その後解説と後期学習内容の振り返り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期授業の総まとめとしての授業内試験（及びその後の解説）を通して、後期学習内容の理解を深める事ができる。		
	事前学修	「後期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。		30分
	事後学修	「後期のまとめ」の内容の復習。後期授業の学習内容を確認する。 今後の自分の学習計画を立て、将来の受験に備える。		30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
アクティブ・ラーニング演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像教材や音声教材、Web英語学習システムを活用し、受け身ではない実践的な双方向演習に取り組む。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認し、必要があれば解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced	Simon Capper	成美堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）、もしくは、メール（宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp）にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 英語教育教材や研究書、事典などの執筆、出版
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語教育教材や研究書、事典の執筆、出版経験に基づいた実践的教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEICについて	TOEICについて概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICについて学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	Technology	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTechnologyを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
3	Health	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのHealthを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
4	Technology およびHealthの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTechnologyおよびHealthを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
5	Travel	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
6	Business	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのBusinessを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TravelおよびBusinessの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelおよびBusinessを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
8	Entertainment	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのEntertainmentを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
9	Education	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのEducationを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
10	EntertainmentおよびEducationの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのEntertainmentおよびEducationを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分
11	Housing	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのHousingを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	Vocabulary Sectionに回答する。	60分
	事後学修	小テストとShadowingに取り組む。	60分
12	Housingの復習	ペアやグループで実践的な演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのHousingを設定した問題に適切に対応することができる。	
	事前学修	事前に提示された音声変化現象を問う問題に回答する。	60分
	事後学修	小テストとスピーキング演習に取り組む。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEICミニ模擬テスト	TOEIC模擬テストの実施、解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC模擬テストに適切に対応することができる。	
	事前学修	TOEIC模擬テストに備えて、これまでの授業の総復習を行う。	60分
	事後学修	TOEIC模擬試験の振り返り	60分
14	振り返り	後期に学修した内容を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC試験に適切に対応することができる。	
	事前学修	後期に学修した単語・熟語学習	60分
	事後学修	後期に学修した内容の振り返り	60分
15	筆記試験/解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	町田 章	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC 500点程度を取得している2年生を対象としたクラス。TOEIC 600点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルにつながる基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルにつながる英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点以上を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST	早川幸治 番場直之	金星堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に教室で対応する

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Unit 7 Clients		TOEIC形式の演習問題を通して「顧客」に関する語句・表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「顧客」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	後期の学習計画を立てる。ClassMATE Week13の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
2	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week14の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
3	Unit 8 Recruiting		TOEIC形式の演習問題を通して「採用・求人」に関する語句・表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「採用・求人」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week15の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
4	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week16の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
5	Unit 9 Personnel		TOEIC形式の演習問題を通して「人事」に関する語句・表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「人事」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week17の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
6	TOEIC Mini Test		TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week18の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 10 Advertising	TOEIC形式の演習問題を通して「広告・宣伝」に関する語句・表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「広告・宣伝」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week19の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
8	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week20の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
9	Unit 11 Media	TOEIC形式の演習問題を通して「メディア」に関する語句・表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「メディア」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week21の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
10	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week22の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
11	Unit 12 Finance	TOEIC形式の演習問題を通して「財務」に関する語句・表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「財務」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week23の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
12	TOEIC Mini Test	TOEIC形式の演習問題を通してテストの形式に慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間に留意しながら問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week24の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 Meetings	TOEIC形式の演習問題を通して「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「会議・打ち合わせ」に関する語句・表現を理解し使うことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week25の課題をやる。	30分
	事後学修	授業で学修した表現を音読して覚える。	30分
14	後期試験	後期試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
	事前学修	これまでに学修した表現を覚えなおす。	120分
	事後学修	試験でできなかったところを教科書で確認する。	30分
15	試験の返却と解説	・テスト返却 ・後期の授業をふり返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことを振り返り、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
	事後学修	今後の以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVA	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC ⅢAを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 750点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC750点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークや、グループワークをしながらTOEIC受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークや、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア750点以上を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC、テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced	角山照彦 / Simon Capper	成美堂	2024	教科書	必携
公式TOEICListening & Reading 問題集10	国際ビジネスコミュニケーション	国際ビジネスコミュニケーション	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：授業後またはメールにて対応 machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。 企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方、評価方法、TOEIC概要確認、自己紹介の英文を書き、ペアや全体で確認し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、750点以上獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけ、出題問題の傾向に慣れることで、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する方法を認識できる。	
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。テキストを購入する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。	30分
2	Unit 1 Restaurants		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
3	Unit 2 Offices		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit2の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
4	Unit 3 Daily Life		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit3の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
5	Unit 4 Personnel		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit4 の問題を解いてくる。 CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
6	Unit 5 Shopping		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit5 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
7	Unit 6 Finances		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit6の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
8	Unit 7 Transportation		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
9	Unit 8 Technology		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit8の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
10	Unit 9 Health		解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit9の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
11	Unit 10	Travel	解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit10の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
12	Unit 11	Business	解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit11の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
13	Unit 12	Entertainment	解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit12の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
14	Unit 13 Unit 14	Education Housing	解説を聞き、それに対応する問題を解答し、理解する。Role Playで各自のパートを演じる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit13, 14の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを実施する。	60分
	事後学修	間違えた問題を確認、解き直す。シャドウイング練習をする。前期授業の学習内容を確認する。	30分
15	前期試験と解説		教科書の内容の前期試験を受け、学習内容のまとめをする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit1~Unit14までの学習修得の成果を確認し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期試験範囲の勉強をする。	40分
	事後学修	間違えた問題を解き直し、前期授業の学習内容を確認する。公式問題集を解き、後期に向けて計画をたてる。	20分

科目名	TOEIC IVA	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC ⅢAを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 750点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC750点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けてペアワークやグループワークを通して問題演習を行う。授業内テスト、課題、ClassMATE等で学修内容の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションやグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア750点以上を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤									4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEICスコア、授業内テスト、小テスト、課題等により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画度等において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(TOEIC)												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて授業内やウェブで解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A communicative approach to the TOEIC L&R test Advanced	Kadoyama & Capper	Seibido	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて対応。tsujioka.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	TOEICの目標点数や目標ストラテジーを決めて、学習スケジュールをたてる。	30分
2	Restaurants	語彙問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
3	Offices	文挿入問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
4	Daily life	チャット形式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
5	Personnel	eメール形式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
6	Shopping	複数文書問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定）	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Finances	手紙形式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 1	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
8	Transportation	クロスレファレンス問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 2	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
9	Technology	チャット形式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 3	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
10	Health	記事書式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 4	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
11	Travel	トリプルパッセージ問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 5	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
12	Business	シングルパッセージ問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 6	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Entertainment	キーワードに関する設問	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
14	Education	複数文書問題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
15	Review	ストラテジー	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙、ストラテジーを説明し使用することができる。	
	事前学修	学期の学修内容の振り返り	30分
	事後学修	Strategy wrap-up, evaluation	30分

科目名	TOEIC IVB	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC ⅢAを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 750点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC750点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークや、グループワークをしながらTOEIC受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークや、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア750点以上を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEIC. テスト（小テストを含む）により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC L&R TEST: On Target』Book2 Revised Edition	大賀リエ	南雲堂	2020	教科書	必携
公式TOEIC Listening &Reading 問題集9	国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：授業終了後又は、メールmachida.junko11@nihon-u.ac.jpにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。
実務経験に基づく実践的教育の内容	企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	TOEIC模擬テスト		TOEIC模擬テストを実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、750点以上獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけ、出題問題の傾向に慣れることで、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する方法を認識できる。	
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。テキストを購入する。	30分
	事後学修	TOEIC模擬テストの間違った箇所を確認する。	30分
2	模擬テストの解説		模擬テストの解説を聞き、理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、TOEIC L&R750点以上獲得の為のリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築できる。	
	事前学修	テキストの準備をする。	30分
	事後学修	模擬テストの間違った箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
3	Unit 1 Word Forms		Unit 1: Word Forms(語形に関する問題)を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
4	Unit 2 Tricky Prepositions		Unit 2: Tricky Prepositions(前置詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit2 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
5	Unit 3 Essential Comparatives		Unit 3: Essential Comparatives(大切な比較表現のいろいろ)を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit3 の問題を解いてくる。 CM (ClassMATE) の手続きを完了し、準備をする。音読、語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
6	Unit 4 Articles and Quantifiers		Unit 4: Articles and Quantifiers(冠詞と数量詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit4 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 5 Participles		Unit 5: Participles(分詞構文~ingと~ed)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Unit5 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分
8	Unit 6 Future Tense		Unit 6: Future Tense(未来形の様々な表現)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Unit6 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分
9	Unit 7 Subject-Verb Agreement		Unit 7 Subject-Verb Agreement(主語と動詞の関係)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分
10	Unit 8: TO+Verb vs Verb+ING		Unit 8: TO+Verb vs Verb+ING (TOを取る動詞とINGを取る動詞)を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分
11	Unit 9 Past Modals with "have"		Unit 9 Past Modals with "have"（過去完了形の文）を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Unit 9 の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分
12	Unit 10 Conditional Sentences		Unit10 Conditional Sentencesを理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。		
	事前学修	Uni10の問題を解いてくる。 音読、語彙の確認をする。 CMを実施する。		30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Review テスト1&2		Review テスト1&2を理解し、それに対応する問題を解答、解説を聞く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Review テスト1&2の問題を解いてくる。 語彙の確認をする。	60分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。前期期末テストの準備をする。	30分
14	前期期末試験 授業の振り返り		教科書の内容の前期試験実施
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、制限時間内で解くTOEICの為の文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできる。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit1～Unit10までの復習をする。	40分
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	20分
15	まとめと解説		前期期末試験解説
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit1～Unit10までの学習修得の成果を確認し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。公式問題集を解き、今後の学習計画をたてる。	30分

科目名	TOEIC IVB	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
2年生でTOEIC ⅢAを履修した学生を対象としたクラス。TOEIC 750点以上の取得を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC750点以上を獲得するために、出題形式を学びながら、上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
TOEIC受験に向けてペアワークやグループワークを通して問題演習を行う。授業内テスト、課題、ClassMATE等で学修内容の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションやグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア750点以上を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤									4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、TOEICスコア、授業内テスト、小テスト、課題等により評価する。	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画度等において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他(TOEIC)												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて授業内やウェブで解説をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Best Practice for the TOEIC L&R Test-Advanced	Yoshizuka & Graham	Seibido	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて対応。tsujioka.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	TOEICの目標点数や目標ストラテジーを決めて、学習スケジュールをたてる。	30分
2	Dining out	前置詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
3	Offices	形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
4	General business	接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
5	Manufacturing	相関接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
6	Communication	分詞構文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定）	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Health	倒置	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 1	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
8	Finance and Budgeting	受動態	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 2	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
9	Entertainment	比較	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 3	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
10	Purchasing	不定詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 4	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
11	Technical areas	関係代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 5	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
12	Travel	複合関係詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 6	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Housing/Corporate property	過去完了	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
14	Personeel	使役	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	上記テーマや内容に関する文法、語彙の確認	30分
	事後学修	授業振り返り Strategy Feedback	30分
15	Review	ストラテジー	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙、ストラテジーを説明し使用することができる。	
	事前学修	学期の学修内容の振り返り	30分
	事後学修	Strategy wrap-up, evaluation	30分

科目名	Listening & Speaking I A(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Face-to-face. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions on the google classrooms system and should be engaged in active listening and note taking during class time.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be used to calculate your grade.	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Participation will be graded based on how actively engaging the student is in class.	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting. The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Introduction	Content: Meet the instructor. Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
	事前学修	Pre-study : Review the syllabus and course description.	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Frontier	60分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	60分
	事後学修	Post study : Make sure you have a means of keeping your notes organized and available for taking quizzes	60分
3	3. Theme : East Vs West	Content: Quiz #2 Lecture #3 The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Part One of Stagecoach.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	60分
	事後学修	Post study : Reading: John Ford’ s Stagecoach	60分
4	4. Theme : The Victims of Social Prejudice	Content: Quiz #3 Lecture#4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	60分
	事後学修	Post study : Reading ; The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood	60分
5	5. Theme : Finding Common Ground	Content: Quiz #4 Lecture # 5 Excerpts from Stagecoach :The search for redemption	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	60分
	事後学修	Post study : Establish a clear timeline of events in the film	60分
6	6. Theme : Redemption and Revenge	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from Stagecoach ; Final Confrontations	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	60分
	事後学修	Post study : Reading: Wagon Trains of the Old West	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Cattle Culture in the American West	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	60分
	事後学修	Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	60分
8	8. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts from Red Rive (1948)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	60分
	事後学修	Post study : Reading : Branding, Howard Hawkes	60分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from Red River (1948) Back to White and Black hats again.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers	60分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from Red River (1948) “I don’ t want to have to kill you…”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	60分
	事後学修	Post study : Reading :Cowboy Clothes, Coffee and Food	60分
12	12. Theme : Power struggle between Generations	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Red River (1948) “Who will stop me?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	60分
	事後学修	Post study : Reading ; Wayne and Clift, Dunson and Matt	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	13. Theme : Screening Between the Lines	Content: Quiz #11 Lecture #12 The nature of Matt and Tom' s relationship	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11	60分
	事後学修	Post study : Reading : The Economics of Inequality	60分
14	14. Theme : Juvenile Delinquency and the West	Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Left handed Gun (1958)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12	60分
	事後学修	Post study : Reading : The True Story of Billy The Kid	60分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分

科目名	Listening & Speaking I A(水曜5時限・二部月曜1時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Face-to-face. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions on the google classrooms system and should be engaged in active listening and note taking during class time	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be used to calculate your grade.	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Participation will be graded based on how actively engaging the student is in class.	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting. The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Introduction	Content: Meet the instructor. Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
	事前学修	Pre-study : Review the syllabus and course description.	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Frontier	60分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	60分
	事後学修	Post study : Make sure you have a means of keeping your notes organized and available for taking quizzes	60分
3	3. Theme : East Vs West	Content: Quiz #2 Lecture #3 The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Part One of Stagecoach.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	60分
	事後学修	Post study : Reading: John Ford’ s Stagecoach	60分
4	4. Theme : The Victims of Social Prejudice	Content: Quiz #3 Lecture#4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	60分
	事後学修	Post study : Reading ; The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood	60分
5	5. Theme : Finding Common Ground	Content: Quiz #4 Lecture # 5 Excerpts from Stagecoach :The search for redemption	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	60分
	事後学修	Post study : Establish a clear timeline of events in the film	60分
6	6. Theme : Redemption and Revenge	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from Stagecoach ; Final Confrontations	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	60分
	事後学修	Post study : Reading: Wagon Trains of the Old West	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Cattle Culture in the American West	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	60分
	事後学修	Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	60分
8	8. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts from Red Rive (1948)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	60分
	事後学修	Post study : Reading : Branding , Howard Hawkes	60分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from Red River (1948) Back to White and Black hats again.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers	60分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from Red River (1948) “I don’ t want to have to kill you…”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	60分
	事後学修	Post study : Reading :Cowboy Clothes, Coffee and Food	60分
12	12. Theme : Power struggle between Generations	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Red River (1948) “Who will stop me?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	60分
	事後学修	Post study : Reading ; Wayne and Clift, Dunson and Matt	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	13. Theme : Screening Between the Lines	Content: Quiz #11 Lecture #12 The nature of Matt and Tom' s relationship	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11	60分
	事後学修	Post study : Reading : The Economics of Inequality	60分
14	14. Theme : Juvenile Delinquency and the West	Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Left handed Gun (1958)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12	60分
	事後学修	Post study : Reading : The True Story of Billy The Kid	60分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Listening & Speaking IB

【授業方法】
講義および演習形式 Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair work, group work, question creation	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class speaking/listening test 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
授業への参画度	Participation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class feedback given immediately or next week

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introductory communication Basic questions		Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
	この回の到達目標	Feeling comfortable meeting non-Japanese people In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)		30分
	事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)		30分
2	Basic question reinforcement More complex questions		Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
	この回の到達目標	Ability to elicit information from non-Japanese In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)		30分
3	Discussing family matters		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing family matters		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing food		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing food		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills In connection with goal 1	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
	事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills In connection with goal 1	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss music likes and dislikes In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	Topic creation in groups	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Create original topic using format modeled on format in previous classes In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	listening and speaking tests In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening & Speaking IB.

【授業方法】
Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood. This will be done in the form of individual, pair and group work activities.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students will engage in pair work and group work activities.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester as per SB0 (1) and (2)	15	15									30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/ Group Presentation as per SB0 (1) and (2)	15	15									30
授業への参画度	Students' attitude to learning as per SB0 (1) and (2)	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class during the lesson and assignments done at home at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Fridays before or after the class. You can also contact me by email - azmaih2763@gmail.com and please write your name, class and message in English.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read the contents of the syllabus		35分
	事後学修	Prepare answers for the before you read questions in Unit 1, page 2 and bring it to class.		35分
2	Law in Daily Life	Students familiarize themselves on the practical use of law in daily life		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese		30分
	事後学修	Read the reading passage in Unit 1, page 3 and find the meaning of difficult words		40分
3	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4		30分
	事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards		45分
4	Law in Daily Life	Discussing the debate question		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Summmarize the reading passage in the textbook		45分
	事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2		30分
5	Legal Systems	Legal Systems around the World		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the legal terms section on page 8		30分
	事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words		45分
6	Legal Systems	Talk about legal systems around the world		
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10		50分
	事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Adversarial and Inquisitorial		Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9		40分
	事後学修	Prepare answers to the question on kinds of courts in Japan		45分
8	Japanese Court System		The Japanese Court System	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14		35分
	事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words		40分
9	Lay Assessors		Should lay assessors also participate in civil cases?	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the debate question for homework		45分
	事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words		40分
10	Presentation		Introducing basic presentation techniques	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a brief outline.		40分
	事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issue in Japan		40分
11	Legal Professionals		Legal Profession in Japan	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Students think of the legal profession in Japan and write a brief description of them.		40分
	事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage.		35分
12	Legal Professionals		Discussion of the passage on legal professionals in Japan	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the comprehension questions on page 22.		30分
	事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25.		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation	Preparation for presentation	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Students prepare the script for the power point slides.	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week.	45分
14	Presentation	Final group presentation	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	40分
15	Wrap up	Wrap up and review	
	この回の到達目標	As per SBO (1) and (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Review for the test	40分
	事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Listening & Speaking IB

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
hartley.ryan@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
2	PLACES 1 – Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
3	PLACES 2 – Kyoto	Learn about the ancient capital	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
4	PLACES 3 – Imperial Palace	Learn about the imperial palace	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
5	PLACES 4 – Meiji Jingu	Learn about Meiji jingu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
6	PLACES – Presentation	Presentation 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
7	PRACTICES 1 - Sumo	Learn about sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
8	PRACTICES 2 - Kabuki	Learn about kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
9	PRACTICES 3 - Manga	Learn about manga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
10	PRACTICES - Presentation	Presentation 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
11	OBJECTS 1 - Kimono	Learn about the kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
12	OBJECTS 2 - Arts and crafts	Learn about arts and crafts	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	OBJECTS 3 - Shinkansen	Learn about the bullet train	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Zhu Shun-sui story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
14	OBJECTS - Presentation	Presentation 3	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Revise for the semester exam	60分
15	Semester Exam・まとめ	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	60分
	事後学修	Reflect on the semester	60分

科目名	Listening & Speaking I B (金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Face-to-face. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be used to calculate your grade.	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Participation will be graded based on how actively engaging the student is in class.	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting. The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Another Search for Redemption	Content: Lecture #1 Excerpts from The Gunfighter (1950)	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Range Wars	60分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child.	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	60分
	事後学修	Post study : Reading : Free Range Vs The Homestead Act	60分
3	3. Theme : Why Shane stays in the Valley	Content: Quiz #2 Lecture #3 Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Great Gun Debate	60分
4	4. Theme: Still Another Search for Redemption	Content: Quiz #3 Lecture #4 Excerpts from Shane (1953) A case of murder	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Stump	60分
5	5. Theme : The Shadow Self	Content: Quiz #4 Lecture #5 Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	60分
	事後学修	Post study : A very surprising ending	60分
6	6. Theme : Lawless Lawmen	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992)	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	60分
	事後学修	Post study : Reading: Lawmen of The Old West	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分
8	8. Theme : Law vs Lawlessness	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “What kind of Community is this?”	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	60分
	事後学修	Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	60分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962) : The John Ford Acting Company	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	60分
	事後学修	Post study : prepare to make a timeline of events in the film	60分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) Going to school with John Ford	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	60分
	事後学修	Post study : Reading: Aging Icons of the Western	60分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “When the truth becomes legend, print the legend. “	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	60分
	事後学修	Post study : Reading : The American Indian	60分
12	12. Theme : Images of the American Indian : Stereotypes	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Cimarron (1931)Stagecoach (1939) and Drums Along The Mohawk (1939) .	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	60分
	事後学修	Post study : Reading : Weapons and Warriors	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	13. Theme : Evolving Images of the American Indian; from Savagery to Nobility	Content: Quiz #11 Lecture #12 Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester '73 (1950) and Broken Arrow (1950).	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11	60分
	事後学修	Post study : Reading : Compare and Contrast films about the American Indian.	60分
14	14. Theme : The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.	Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Searchers (1956) , Cheyenne Autumn (1964)	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12	60分
	事後学修	Post study : Reading : When John Ford Lost his Audience	60分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分

科目名	Listening & Speaking I B(水曜5時限・ 二部月曜1時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Face-to-face. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be used to calculate your grade.	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Participation will be graded based on how actively engaging the student is in class.	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting. The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	1. Theme : Another Search for Redemption		Content: Lecture #1 Excerpts from The Gunfighter (1950)
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Range Wars	60分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place		Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child.
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	60分
	事後学修	Post study : Reading : Free Range Vs The Homestead Act	60分
3	3. Theme : Why Shane stays in the Valley		Content: Quiz #2 Lecture #3 Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Great Gun Debate	60分
4	4. Theme: Still Another Search for Redemption		Content: Quiz #3 Lecture #4 Excerpts from Shane (1953) A case of murder
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	60分
	事後学修	Post study : Reading: The Stump	60分
5	5. Theme : The Shadow Self		Content: Quiz #4 Lecture #5 Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	60分
	事後学修	Post study : A very surprising ending	60分
6	6. Theme : Lawless Lawmen		Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992)
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	60分
	事後学修	Post study : Reading: Lawmen of The Old West	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分
8	8. Theme : Law vs Lawlessness	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “What kind of Community is this?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	60分
	事後学修	Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	60分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962) : The John Ford Acting Company	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	60分
	事後学修	Post study : prepare to make a timeline of events in the film	60分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) Going to school with John Ford	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	60分
	事後学修	Post study : Reading: Aging Icons of the Western	60分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “When the truth becomes legend, print the legend. “	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	60分
	事後学修	Post study : Reading : The American Indian	60分
12	12. Theme : Images of the American Indian : Stereotypes	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Cimarron (1931)Stagecoach (1939) and Drums Along The Mohawk (1939) .	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	60分
	事後学修	Post study : Reading : Weapons and Warriors	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	13. Theme : Evolving Images of the American Indian; from Savagery to Nobility	Content: Quiz #11 Lecture #12 Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950) and Broken Arrow (1950).	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11	60分
	事後学修	Post study : Reading : Compare and Contrast films about the American Indian.	60分
14	14. Theme : The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.	Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Searchers (1956) , Cheyenne Autumn (1964)	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12	60分
	事後学修	Post study : Reading : When John Ford Lost his Audience	60分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per SBO 1 and 2 above, As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	Pre-study : Review lecture notes	60分
	事後学修	Post study : Review quizzes	60分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should have completed Listening & Speaking IA

【授業方法】
講義および演習形式。 Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class Speaking/Listening test 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
授業への参画度	Class participation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week's class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to communication		Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)		30分
	事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)		30分
2	Basic question reinforcement. More complex questions		In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)		30分
3	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
	事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing school and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	New topic questions creation	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Revision of semester's work, listening and speaking tests	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should have completed Listening & Speaking IA.

【授業方法】
Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood. This will be done in the form of individual, pair and group work activities.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students will engage in pair work and group work activities.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester as per SB0 (1) and (2)	15	15									30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/group presentations as per SB0 (1) and (2)	15	15									30
授業への参画度	Students' attitude to learning as per SB0 (1) and (2)	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class will be given at the lesson and at home at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
You can speak to the instructor on Fridays before or after class in the classroom. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail.com. Please write your name, class and message in English.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Feedback and Syllabus 導入講義		Feedback on the final test, students talk about their summer vacation and discussion of the syllabus for the fall semester.	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Review the units studied in the spring semester		40分
	事後学修	Research on how modern Japanese law evolved		40分
2	Foreign Laws		Japan adopting foreign laws	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards		40分
	事後学修	Answering the comprehension questions on page 28		45分
3	Role of lawyers in courts		Discuss the role of lawyers in courts	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Summmarize the reading passage on page 27		40分
	事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution		40分
4	Japanese Constitution		Role of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32		30分
	事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions		40分
5	Japanese Constitution		Articles of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Answer the debate question on page 36		45分
	事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed		35分
6	Criminal Law		Criminal Law in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words		40分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page 42		40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	Movie	Watching a movie on a criminal trial		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Do a research on the movie to be watched		50分
	事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42		40分
8	Civil Law	Criminal Law and Civil Law		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45		40分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page 46		35分
9	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese Culture		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words		40分
	事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure		40分
10	Commercial Law	Importance of Commercial Law		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan		40分
	事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD		40分
11	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58		40分
	事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words		40分
12	Lay Judge System	Lay Judge System in Japan		
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system		40分
	事後学修	Listen to the reading passage on the CD and write down the unfamiliar words		40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation	Preparation for presentation	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	Presentation	Final individual presentation	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentations of the classmates	45分
15	Wrap up	Wrap up. review, feedback and final test	
	この回の到達目標	As per SBOs (1) (2) above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	40分
	事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should have completed Listening & Speaking IA

【授業方法】
参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク。 学生中心の学習。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
hartley.ryan@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Getting started	Getting started, course overview, goal setting	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
2	JAPANESE INSIDE JAPAN - Samurai (侍)	Learn about the Samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
3	JAPANESE INSIDE JAPAN - Wako (倭寇)	Learn about the Wako	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
4	JAPANESE INSIDE JAPAN - Hasekura Tsunenaga (支倉 常長)	Learn about Hasekura Tsunenaga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
5	JAPANESE INSIDE JAPAN - The Tensho Embassy (天正遣欧少年使節)	Learn about The Tensho Embassy	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
6	JAPANESE INSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Yamada Nagamasa (山田 長政)	Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
8	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Nagasawa Kanae (長澤鼎)	Learn about Nagasawa Kanae	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
9	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Kim Chung-seon (沙也可)	Learn about Kim Chung-seon	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
10	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
11	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - William Adams (ウヰリアム・アダムス / 三浦按針)	Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
12	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - Yasuke (弥助 / 弥介)	Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - Kairakutei Black (快樂亭 ブラック)	Learn about Kairakutei Black	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
14	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 3	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Revise for the semester exam	60分
15	Semester Exam・まとめ	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Reflect on the semester	60分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class is ONLY for serious students who want to improve their English speaking skills for business, study, and future activities. Active participation is mandatory.

【授業方法】
This class will be conducted entirely in English. During class, we will watch and study TED Talks, do vocabulary expansion exercises, and discuss in pairs. Students who are absent will be expected to do extensive homework and make-up activities.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	During class, we will watch and study TED Talks, do vocabulary expansion exercises, and discuss in pairs.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	There will be a midterm and a final exam to assess SB0s ①②.	5	5									10
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Attendance and active participation during each class to be assessed by SB0s ①②.	15	15									30
その他(Online Presentations)	Each week students will upload a 2-minute speech in English to Google Classroom related to the week's topic to be assessed by SB0s ①②.	15	15									30
その他(Online assignment)	Each week students will complete an online questionnaire for Google Classroom AND do online activities related to the textbook to be assessed by SB0s ①②..	15	15									30
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be given feedebck after completing the weekly assignments.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The English Gym I with Digital Workbook. New Edition (ISBN 978-4-9909741-5-2)	Jon Carle	Oak Hills Press	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
dianehawley.nagatomol1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Orientation・導入講義	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and self introductions	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will understand how the class will be run, the assignments, and the criteria for getting grades.	
	事前学修	Come to class on time.	0分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
2	Introductory activities	Unit 1: Getting to Know You	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a simple conversation about their homes, family and hobbies.	
	事前学修	Students MUST obtain the textbook. Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
3	Food and health	Unit 2: Food & Drink	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a simple conversation about food and drinks, including eating habits and health issues.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic to Flipgrid. (60-90 分)	90分
4	Family	Unit 3: Your Neighborhood	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a simple conversation about their neighborhoods, including talking their neighbors, daily commute, and plans for the future.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
5	Times and dates	Unit 4: Daily Routines	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a simple conversation about their daily routines, including school life and free time activities	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic to Flipgrid. (60-90 分)	90分
6	Likes and dislikes	Unit 5: Entertainment	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a simple conversation about movies, sports, television and games.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Review		Prepare for Conversation Test
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students prepare and practice for their conversation test, based on the units covered in the semester.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic, and prepare for the mid-term conversation test. (60-90 分)	90分
8	Demonstrate knowledge acquired		Mid-Term Conversation Test
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students have a 3 to 5 minute conversation based on the units covered in class. The students will be evaluated on pronunciation, interaction, vocabulary, grammar and fluency.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
9	Advice and suggestions		Unit 6: Friends & Dating
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a conversation about their friends and dating, including offering advice and making suggestions.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
10	Appearance and adjectives		Unit 7: Fashion & Style
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a conversation about clothes, accessories, uniforms and tattoos.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
11	Describing university life		Unit 8: University Life
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a conversation about university life, including classes, clubs, living alone and studying abroad.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
12	Sports and staying fit		Unit 9: Sports and Fitness
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a conversation about sports and staying fit	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Plans for the future	Unit 10: Travel	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a conversation about travelling, including sharing past experiences, and future plans.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
14	Review	Prepare for Final Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students prepare and practice for their conversation test, based on the units covered in the semester.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
15	Test・まとめ	Final Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students have a 3 to 5 minute conversation based on the units covered in class. The students will be evaluated on pronunciation, interaction, vocabulary, grammar and fluency.	
	事前学修	Students will be tested on Units 1-10 (30分)	90分
	事後学修	Students will demonstrate knowledge and understanding of Units 1-10 (30分)	0分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	B. ダム	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
At least 75% attendance, active participation, textbook.

【授業方法】
Students will participate in communication activities such as pair work and small group discussions. Audio recordings will also be played to improve listening comprehension.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Listening and Speaking tasks

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	1 Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 Listening Quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Active participation in communication activities.	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will receive oral comments on performance during class and written comments on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		This content of this course is a foundation to help build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction、及び導入講義		Instructor and course introduction, ice breaker activities, How to Introduce Yourself	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of the style and content of the course. Students will learn how to introduce themselves and how to introduce a friend to others. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Look through the textbook and become familiar with its layout. Come to class well-rested and ready to participate. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of the lesson. (30min)		30分
2	Lifestyles		Introducing yourself / Introducing a friend, daily life, routines	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their daily life and routine. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
3	Lifestyles		Lifestyles	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use adverbs of frequency to talk about daily routines. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
4	Leisure		Leisure: hobbies & interests	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use the simple present and present continuous when discussing sports and leisure. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
5	Leisure		Likes and dislikes	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their likes and dislikes. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
6	Getting along		Getting along: requests & permission	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to make and respond to requests. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Getting along		Getting along: requests & permission; Listening Test 1; Submission of Video Task #1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to make requests and ask for permission. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Interests		Favorite hobbies and interests	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to discuss their favorite hobbies and interests. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Interests		Favorite hobbies and interests	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to listen for specific information about people's hobbies and interests. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Telling a story		Storytelling, adjectives of emotion	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to tell a story about a personal experience. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Telling a story		Talking about past events	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to tell and retell stories. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Celebrations		Celebrations around the world	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to describe in detail how people celebrate various holidays around the world. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Celebrations		Celebrations in Japan; Listening Test 2; Submission of Video Task #2	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to describe celebrations of Japanese holidays and festivals. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
14	Final Speaking Test Self-reflection & Course feedback		Final Speaking Test Student reflection on their learning this term Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will complete tasks that allow them to review the course communication goals. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
15	Final Speaking Test, Self-reflection & Course feedback、まとめ		Final Speaking Test Student reflection on their learning this term Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will complete two questionnaires evaluating their learning outcomes and the course activities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Listening & Speaking IIB

【授業方法】
講義および演習形式. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair work, group work, question creation	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class speaking/listening test 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
授業への参画度	Participation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
In class feedback given immediately or next week	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】	
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introductory communication Basic questions		Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
	この回の到達目標	Feeling comfortable meeting non-Japanese people In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)		30分
	事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)		30分
2	Basic question reinforcement More complex questions		Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
	この回の到達目標	Ability to elicit information from non-Japanese In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)		30分
3	Discussing family matters		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing family matters		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing food		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing food		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills In connection with goal 1	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
	事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills In connection with goal 1	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss music likes and dislikes In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	Topic creation in groups	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Create original topic using format modeled on format in previous classes In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	listening and speaking tests In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class is ONLY for serious students who want to improve their English speaking skills for business, study, and future activities. Active participation is mandatory.

【授業方法】
This class will be conducted entirely in English. During class, we will watch and study TED Talks, do vocabulary expansion exercises, and discuss in pairs. Students who are absent will be expected to do extensive homework and make-up activities.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	During class, we will watch and study TED Talks, do vocabulary expansion exercises, and discuss in pairs.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	There will be a midterm and a final exam to assess SB0s ①②.	5	5									10
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Attendance and active participation during each class to be assessed by SB0s ①②.	15	15									30
その他(Online Presentations)	Each week students will upload a 2-minute speech in English to Google Classroom related to the week's topic to be assessed by SB0s ①②.	15	15									30
その他(Online assignment)	Each week students will complete an online questionnaire for Google Classroom AND do online activities related to the textbook to be assessed by SB0s ①②..	15	15									30
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be given feedeback after completing the weekly assignments.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The English Gym I with Digital Workbook. New Edition (ISBN 978-4-9909741-5-2)	Jon Carle	Oak Hills Press	2024	教科書	必携
備考	We will continue to use the same textbook as in the first semester.				

【オフィスアワー】
dianehawley.nagatomol1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Orientation・導入講義	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and talking about summer vacation	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, new students will understand how the class will be run, the assignments, and the criteria for getting grades. Welcome Back, Explain Syllabus, Review of Classroom English Unit 11: Summer Vacation (begin)	
	事前学修	Come to class on time.	0分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
2	Summer vacation	Unit 11: Summer Vacation (finish)	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, Students will be able to have a detailed conversation about their summer vacations, including the best and worst parts of their holiday, and their hopes for next summer.	
	事前学修	Students MUST obtain the textbook. Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
3	Childhood memories	Unit 12: Childhood memories	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, Students will be able to have a detailed conversation about memories of their childhood.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic to Flipgrid. (60-90 分)	90分
4	English study skills	Unit 13: English Study Skills	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about studying languages.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
5	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Unit 14: Work (Part-time Jobs & Future Career)	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about work, including part-time jobs, future career, and important job skills.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic to Flipgrid. (60-90 分)	90分
6	Your Personality	Unit 15: Your Personality	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about people's personalities	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Review	Prepare for Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students prepare and practice for their conversation test, based on the units covered in the semester.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic, and prepare for the mid-term conversation test. (60-90 分)	90分
8	Demonstrate knowledge acquired	Mid-Term Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students have a 3 to 5 minute conversation based on the units covered in class. The students will be evaluated on pronunciation, interaction, vocabulary, grammar and fluency.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
9	People	Unit 16: People	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about people, including friends, relatives, celebrities and politicians.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
10	Tourism in Japan	Unit 17: Tourism in Japan	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about sightseeing in Japan, including giving recommendations for tourists visiting Japan.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
11	Culture	Unit 18: Culture	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about cultural issues. Will also discuss about culture differences.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分
12	Holidays & Special Days	Unit 19: Holidays & Special Days	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about holidays and special days, including Christmas, New Year's, Halloween and birthdays. Will also discuss about culture differences.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week's topic. (60-90 分)	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Future Plans	Unit 20: Future Plans	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students will be able to have a detailed conversation about their future plans for the upcoming break, life after graduation, and their personal “bucket list” .	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week’s topic. (60-90 分)	90分
14	Review	Prepare for Final Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students prepare and practice for their conversation test, based on the units covered in the semester.	
	事前学修	Preview the textbook and check unknown vocabulary and expressions (30分)	30分
	事後学修	Students will do a series of online exercises that are related to the textbook, complete a questionnaire survey on Google Classroom and make and upload a mini-speech on this week’s topic. (60-90 分)	90分
15	Test・まとめ	Final Conversation Test	
	この回の到達目標	In relation to the goals ① and ②, students have a 3 to 5 minute conversation based on the units covered in class. The students will be evaluated on pronunciation, interaction, vocabulary, grammar and fluency.	
	事前学修	Students will be tested on Units 1-10 (30分)	90分
	事後学修	Students will demonstrate knowledge and understanding of Units 1-10 (30分)	0分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	B. ダム	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
At least 75% attendance, active participation, textbook

【授業方法】
Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Role plays, pair work, and group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Final Speaking Exam	40										40
小テスト等	2 Listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Active participation in class	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments on performance and written comments on homework assignments.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		Experience working at an international company training clients in business communication The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction、及び導入講義		Course and instructor introduction, summer vacation activities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students at the end of this class will be able to talk about what they did during the summer break. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Study the layout of the textbook. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
2	Food and Drink		Food and Drink; countable and uncountable nouns	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students at the end of this class will be able to talk about their food and drink preferences. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
3	Food and Drink		Food and Drink; famous foods around the world and in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about famous dishes. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
4	Rules		Rules in life, i.e. at school, at home, at work, and in public facilities.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about what is permitted or not allowed in various contexts. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
5	Rules		Talking about rules in your life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about what is permitted or not allowed in various contexts. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
6	Adventures		Adventure activities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about about exciting things they have done. So as to assess the relevant SBOs, students will engage So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Adventures		Adjectives to describe experiences; Listening Test 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about about adventure activities and how they make you feel. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Health		Suggestions and advice on how to keep healthy	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about give and receive advice on how to keep healthy. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Health		Symptoms and treatment of various illnesses	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about about various illnesses and their symptoms. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Comparisons		Making comparisons and expressing preferences	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students at the end of this class will be able to compare various consumer products and express their preferences. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Comparisons		Adjectives to describe objects and people	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students at the end of this class will be able to compare various consumer products and express their preferences. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Christmas		The Cultural and Spiritual meaning of Christmas	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students at the end of this class will be able to understand the true meaning of Christmas. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Modern World	Modern technology in our lives; Listening Test 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about technology in their life. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Review Final Speaking Test	Review of course learning goals	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Improved communication skills about the course learning goals. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Final Speaking Test Self-reflection & Course Feedback、まとめ	Self-reflection survey Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above Students will evaluate the progress of their learning goals and give feedback on the course activities. So as to assess the relevant SBOs, students will engage in roles plays, pair work, and small group discussions.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should have completed Listening & Speaking IIA

【授業方法】
講義および演習形式. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class Speaking/Listening test 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%, to be assessed by SB0s ①②.	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
授業への参画度	Class participation 25%, to be assessed by SB0s ①②.	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week's class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to communication		Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)		30分
	事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)		30分
2	Basic question reinforcement. More complex questions		In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)		30分
3	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport In connection with goal 1 & 2		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
	事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Discussing school and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	New topic questions creation		Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.
	この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Revision of semester's work, listening and speaking tests		Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester In connection with goal 1 & 2	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Listening & Speaking IIIB

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】

Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】

hartley.ryan@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
2	PLACES 1 – Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
3	PLACES 2 – Kyoto	Learn about the ancient capital	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
4	PLACES 3 – Imperial Palace	Learn about the imperial palace	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
5	PLACES 4 – Meiji Jingu	Learn about Meiji jingu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
6	PLACES – Presentation	Presentation 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	PRACTICES 1 - Sumo	Learn about sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
8	PRACTICES 2 - Kabuki	Learn about kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
9	PRACTICES 3 - Manga	Learn about manga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
10	PRACTICES - Presentation	Presentation 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
11	OBJECTS 1 - Kimono	Learn about the kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
12	OBJECTS 2 - Arts and crafts	Learn about arts and crafts	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	OBJECTS 3 - Shinkansen	Learn about the bullet train	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Zhu Shun-sui story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
14	OBJECTS - Presentation	Presentation 3	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Revise for the semester exam	60分
15	Semester Exam・まとめ	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	60分
	事後学修	Reflect on the semester	60分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	J.D.フィールドマン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students are expected to be prepared for each class. Prepared means to have the textbook (or photocopy), to have all homework ready before class begins, to have done any assigned pre-reading or other

【授業方法】
Classes are taught based on the material in the textbook. The teacher encourages open discussion for nearly all activities which allows for maximum student expression and participation. Students will work with partners and/or small groups in all classes.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom / Direct commentary in classroom.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What's That You Say?: Bright Ideas for Reading, Writing, and Discussing in the English Classroom	Jono David	Nan'un-do	2023	教科書	必携
備考	ISBN: 978-4-523-17944-3				

【オフィスアワー】
The teacher is only available during class time.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	COURSE INTRODUCTION	COURSE INTRODUCTION: syllabus, textbook, general overview/guidelines/rules, meeting and greeting	
	この回の到達目標	COURSE INTRODUCTION: syllabus, textbook, general overview/guidelines/rules, meeting and greeting	
	事前学修	Unit 1: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all course introduction materials.	60分
2	UNIT 1. The Last Chance for a First Impression	This unit focuses on the importance and impacts of first impressions. Activities include: vocabulary, reading comprehension, personality vocabulary, interview do' s and don' ts	
	この回の到達目標	First Impressions	
	事前学修	Unit 1: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
3	UNIT 2. Why Learn English?	This unit focuses on the importance and benefits of learning English and other foreign languages. Activities include: vocabulary, reading comprehension, open interview questions, pros and cons of leaning English	
	この回の到達目標	Why Learn English?	
	事前学修	Unit 2: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
4	UNIT 3. Focus on Photography	This unit focuses on the significance of photography in history and its development. Activities include: vocabulary, reading comprehension, comparing various genres, reading a photograph	
	この回の到達目標	Focus on Photography	
	事前学修	Unit 3: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
5	UNIT 4. Gender Inequality in Japan	This unit focuses on the status of gender inequality in Japan including historical background and roles genders dominate in Japan. Activities include: vocabulary, reading comprehension, stereotyping, gender-neutral language	
	この回の到達目標	Gender Inequality in Japan	
	事前学修	Unit 4: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
6	UNIT 5. Social Media and the Internet	This unit focuses on the pros and cons of the internet and social media. Activities include: vocabulary, reading comprehension, internet vocabulary, sentence building, identifying social media and internet icons	
	この回の到達目標	Social Media and the Internet	
	事前学修	Unit 5: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	UNIT 6. Indigenous Peoples of the World	This unit focuses on native peoples of the world, their struggles and challenges, and their populations. Activities include: vocabulary, reading comprehension, locations and populations, borrowed vocabulary, developing questions to ask indigenous people	
	この回の到達目標	Indigenous Peoples of the World	
	事前学修	Unit 6: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed). Unit 7. Great People in History	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
8	Unit 7. Great People in History	This unit focuses on famous people and their impact on the world. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying a selection of famous people, great people in our personal lives, what it means to be a great person	
	この回の到達目標	Great People in History	
	事前学修	Unit 7: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
9	Unit 8. The Road Less (or More) Traveled	This unit focuses on why people travel, its pros and cons, and how travel changes people. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying travel experiences, sharing personal travel stories, travel quiz	
	この回の到達目標	The Road Less (or More) Traveled	
	事前学修	Unit 8: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
10	Unit 9. The Culture of Food	This unit focuses on the importance of food beyond nutritional value, attitudes and symbolism of food, and food trends. Activities include: vocabulary, reading comprehension, describing foods, eating etiquette quiz, creating an imaginary restaurant dialog	
	この回の到達目標	The Culture of Food	
	事前学修	Unit 9: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
11	Unit 10. Freedom and Responsibility	This unit focuses on the relationship between freedom and social responsibility, and how these terms vary from country to country and within cultures. Activities include: vocabulary, reading comprehension, open discussion questions, United Nations Universal Declaration of Human Rights, personal freedoms and responsibilities	
	この回の到達目標	Freedom and Responsibility	
	事前学修	Unit 10: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
12	Unit 11. Love One, Love All	This unit focuses on the meaning and expressions of love around the world. Activities include: vocabulary, reading comprehension, love survey, steps to a life of love, love vocabulary and idioms	
	この回の到達目標	Love One, Love All	
	事前学修	Unit 11: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 12. Money and Finance, Dollars and Sense	This unit focuses on the definitions of money, currency, and finance, and knowing how to manage one' s money. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying currencies of the world, open discussion questions, cost of living survey	
	この回の到達目標	Money and Finance, Dollars and Sense	
	事前学修	Unit 12: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
14	Unit 13. Careers: Nice Job!	This unit focuses on the importance of work and occupations and strategies to identify the type of work one is interested in. Activities include: vocabulary, reading comprehension, describing jobs, job interviews, career planning checklist	
	この回の到達目標	Careers: Nice Job!	
	事前学修	Unit 13: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
15	TERM 1: Final Exam・まとめ	TERM 1: Final Exam	
	この回の到達目標	Final Exam・まとめ	
	事前学修	Reflect upon the contents of term 1.	60分
	事後学修	N/A	60分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should have completed Listening & Speaking IIIA

【授業方法】
参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク。 学生中心の学習。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
hartley.ryan@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Getting started	Getting started, course overview, goal setting	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	60分
2	JAPANESE INSIDE JAPAN - Samurai (侍)	Learn about the Samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
3	JAPANESE INSIDE JAPAN - Wako (倭寇)	Learn about the Wako	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
4	JAPANESE INSIDE JAPAN - Hasekura Tsunenaga (支倉 常長)	Learn about Hasekura Tsunenaga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
5	JAPANESE INSIDE JAPAN - The Tensho Embassy (天正遣欧少年使節)	Learn about The Tensho Embassy	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
6	JAPANESE INSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Yamada Nagamasa (山田 長政)	Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
8	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Nagasawa Kanae (長澤鼎)	Learn about Nagasawa Kanae	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
9	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - Kim Chung-seon (沙也可)	Learn about Kim Chung-seon	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
10	JAPANESE OUTSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
11	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - William Adams (ウヰリアム・アダムス / 三浦按針)	Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
12	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - Yasuke (弥助 / 弥介)	Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - Kairakutei Black (快樂亭 ブラック)	Learn about Kairakutei Black	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	60分
14	NON-JAPANESE INSIDE JAPAN - PRESENTATION	PRESENTATION 3	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Revise for the semester exam	60分
15	Semester Exam・まとめ	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	60分
	事後学修	Reflect on the semester	60分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	J.D.フィールドマン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】		
Classes are taught based on the material in the textbook. The teacher encourages open discussion for nearly all activities which allows for maximum student expression and participation. Students will work with partners and/or small groups in all classes.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Partner work. Group work. Presentations.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。										3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										3	3		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom / Direct commentary in classroom.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What's That You Say?: Bright Ideas for Reading, Writing, and Discussing in the English Classroom	Jono David	Nan'un-do	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher is only available during class time.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	COURSE INTRODUCTION	COURSE INTRODUCTION: syllabus, textbook, general overview/guidelines/rules, meeting and greeting	
	この回の到達目標	COURSE INTRODUCTION: syllabus, textbook, general overview/guidelines/rules, meeting and greeting	
	事前学修	Unit 1: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all course introduction materials.	60分
2	UNIT 1. The Last Chance for a First Impression	This unit focuses on the importance and impacts of first impressions. Activities include: vocabulary, reading comprehension, personality vocabulary, interview do' s and don' ts	
	この回の到達目標	First Impressions	
	事前学修	Unit 1: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
3	UNIT 2. Why Learn English?	This unit focuses on the importance and benefits of learning English and other foreign languages. Activities include: vocabulary, reading comprehension, open interview questions, pros and cons of leaning English	
	この回の到達目標	Why Learn English?	
	事前学修	Unit 2: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
4	UNIT 3. Focus on Photography	This unit focuses on the significance of photography in history and its development. Activities include: vocabulary, reading comprehension, comparing various genres, reading a photograph	
	この回の到達目標	Focus on Photography	
	事前学修	Unit 3: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
5	UNIT 4. Gender Inequality in Japan	This unit focuses on the status of gender inequality in Japan including historical background and roles genders dominate in Japan. Activities include: vocabulary, reading comprehension, stereotyping, gender-neutral language	
	この回の到達目標	Gender Inequality in Japan	
	事前学修	Unit 4: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
6	UNIT 5. Social Media and the Internet	This unit focuses on the pros and cons of the internet and social media. Activities include: vocabulary, reading comprehension, internet vocabulary, sentence building, identifying social media and internet icons	
	この回の到達目標	Social Media and the Internet	
	事前学修	Unit 5: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	UNIT 6. Indigenous Peoples of the World	This unit focuses on native peoples of the world, their struggles and challenges, and their populations. Activities include: vocabulary, reading comprehension, locations and populations, borrowed vocabulary, developing questions to ask indigenous people	
	この回の到達目標	Indigenous Peoples of the World	
	事前学修	Unit 6: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
8	Unit 7. Great People in History	This unit focuses on famous people and their impact on the world. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying a selection of famous people, great people in our personal lives, what it means to be a great person	
	この回の到達目標	Great People in History	
	事前学修	Unit 7: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
9	Unit 8. The Road Less (or More) Traveled	This unit focuses on why people travel, its pros and cons, and how travel changes people. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying travel experiences, sharing personal travel stories, travel quiz	
	この回の到達目標	The Road Less (or More) Traveled	
	事前学修	Unit 8: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
10	Unit 9. The Culture of Food	This unit focuses on the importance of food beyond nutritional value, attitudes and symbolism of food, and food trends. Activities include: vocabulary, reading comprehension, describing foods, eating etiquette quiz, creating an imaginary restaurant dialog	
	この回の到達目標	The Culture of Food	
	事前学修	Unit 9: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
11	Unit 10. Freedom and Responsibility	This unit focuses on the relationship between freedom and social responsibility, and how these terms vary from country to country and within cultures. Activities include: vocabulary, reading comprehension, open discussion questions, United Nations Universal Declaration of Human Rights, personal freedoms and responsibilities	
	この回の到達目標	Freedom and Responsibility	
	事前学修	Unit 10: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
12	Unit 11. Love One, Love All	This unit focuses on the meaning and expressions of love around the world. Activities include: vocabulary, reading comprehension, love survey, steps to a life of love, love vocabulary and idioms	
	この回の到達目標	Love One, Love All	
	事前学修	Unit 11: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 12. Money and Finance, Dollars and Sense	This unit focuses on the definitions of money, currency, and finance, and knowing how to manage one' s money. Activities include: vocabulary, reading comprehension, identifying currencies of the world, open discussion questions, cost of living survey	
	この回の到達目標	Money and Finance, Dollars and Sense	
	事前学修	Unit 12: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
14	Unit 13. Careers: Nice Job!	This unit focuses on the importance of work and occupations and strategies to identify the type of work one is interested in. Activities include: vocabulary, reading comprehension, describing jobs, job interviews, career planning checklist	
	この回の到達目標	Careers: Nice Job!	
	事前学修	Unit 13: Complete unit vocabulary and reading (check vocabulary as needed).	60分
	事後学修	Review all key vocabulary, key concepts, and complete other homework as necessary.	60分
15	TERM 1: Final Exam・まとめ	TERM 1: Final Exam	
	この回の到達目標	Reflect upon the contents of term 1.	
	事前学修	Exam study.	60分
	事後学修	n/a	60分

科目名	Listening & Speaking IVA	担当者	小原 ダイアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Communication IVB.

【授業方法】
講義および演習形式で行う。Four-skills, communicative approach. Content and Language Integrated Learning (CLIL). Critical thinking skills.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Mid-term and Final Exams. (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual Mini-presentation and Group Presentation. (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	20	20									40
授業への参画度	Participation (interactive listening activities, discussion participation, and attendance). (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
その他()	Textbook Homework (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Encounters 2 (Listening and Speaking), 2nd edition (American Studies)	Kim and Carlos Sanabria	Cambridge	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
diane.obara@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to the Course		Listen to the explanation of the course and talk about the syllabus. Vocabulary check.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the syllabus.		60分
	事後学修	Review the syllabus. Complete the textbook pages.		60分
2	The Foundations of Government		Reading, Discussion, and Active Listening	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
3	Constitutional Issues Today		Reading, Discussion, and Active Listening	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
4	"Active Learning" Mini-presentations		Researching and Discussion: "Hot Topics" in the News regarding Laws of the Land and Constitutional Issues Today	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Complete research worksheet for mini-presentation.		60分
	事後学修	Finish research for mini-presentation.		60分
5	"Active Learning" Mini-presentation Workshop		Create presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Start Working on Mini-Presentations.		60分
	事後学修	Finish Mini-presentations.		60分
6	The Foundation of Government and Constitutional Issues Today Continued		Presentations. Listening and Discussion. Review for Midterm.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Mini "Hot Topic" Presentations Due.		60分
	事後学修	Review for Midterm.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Midterm Review		Midterm Review Exam. Presentation.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review Midterm.		60分
	事後学修	Review Materials.		60分
8	"Hot Topics" Free Choice Lesson		Interactive Listening and Discussion (TED Talk, Newsela, Intercultural Communication).	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review Materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
9	Topic #3: The Origins of Diversity		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
10	Topic #4: Diversity in the U.S., Japan, and Other Nations Today		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
11	Diversity Issues Continued		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Read the materials.		60分
12	"Hot Topics" Free Choice Lesson		Interactive Listening and Discussion (TED Talk, Newsela, Intercultural Communication). Review for Final Review Exam.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the homework pages.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Final Exam		Complete the Final Assessment (review from the textbook).	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Review for the Final Exam.		60分
14	Film Discussion		Film-viewing and Discussion	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review for Final Exam.		60分
	事後学修	Write Course Evaluation.		60分
15	Course Evaluation and Reflection		Final TED Talk/Interactive Listening.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Write Course Evaluation.		60分
	事後学修	Reflection.		60分

科目名	Listening & Speaking IVB	担当者	小原 ダイアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Communication IIB.

【授業方法】
講義および演習形式で行う。Four-skills, communicative approach. Content and Language Integrated Learning (CLIL). Critical thinking skills.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Mid-term and Final Exams. (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual Mini-presentation and Group Presentation (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	20	20									40
授業への参画度	Participation (interactive listening activities, discussion participation, and attendance) (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
その他()	Textbook Homework (As per SBOs 1 and 2 above, students will be assessed on their skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.)	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Encounters 2 (Listening and Speaking), 2nd edition (American Studies)	Kim and Carlos Sanabria	Cambridge	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
diane.obara@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to the Course		Listen to the explanation of the course and talk about the syllabus. Vocabulary check.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the syllabus.		60分
	事後学修	Review the syllabus. Complete the textbook pages.		60分
2	Equality: The Struggle Begins		Reading, Discussion, and Active Listening	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
3	Equality: The Struggle Continues		Reading, Discussion, and Active Listening	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
4	"Active Learning" Mini-presentations		Researching and Discussion: "Hot Topics" in the News regarding Equality Past and Present	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Complete research worksheet for mini-presentation.		60分
	事後学修	Finish research for mini-presentation.		60分
5	"Active Learning" Mini-presentation Workshop		Create presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Start Working on Mini-Presentations.		60分
	事後学修	Finish Mini-presentations.		60分
6	Equality Past and Present Continued		Presentations. Listening and Discussion. Review for Midterm.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Mini "Hot Topic" Presentations Due.		60分
	事後学修	Review for Midterm.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Midterm Review		Midterm Review Exam. Presentation.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review Midterm.		60分
	事後学修	Review Materials.		60分
8	"Hot Topics" Free Choice Lesson		Interactive Listening and Discussion (TED Talk, Newsela, Intercultural Communication).	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review Materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
9	Topic #3: Values from the Past (Domestically and Internationally)		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
10	Topic #4: Values Today (Domestically and Internationally)		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the textbook pages for homework.		60分
11	Values from the Past and Present Continued (Domestically and Internationally)		Presentations. Active Listening and Discussion.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Read the materials.		60分
12	"Hot Topics" Free Choice Lesson		Interactive Listening and Discussion (TED Talk, Newsela, Intercultural Communication). Review for Final Review Exam.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Complete the homework pages.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Final Exam		Complete the Final Assessment (review from the textbook).	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Read the materials.		60分
	事後学修	Review for the Final Exam.		60分
14	Film Discussion		Film-viewing and Discussion	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Review for Final Exam.		60分
	事後学修	Write Course Evaluation.		60分
15	Course Evaluation and Reflection		Final TED Talk/Interactive Listening.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can holistically learn skills for listening and speaking to improve their overall communication ability in English.		
	事前学修	Write Course Evaluation.		60分
	事後学修	Reflection.		60分

科目名	Reading I A	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
対面授業。テキスト音読し正しい発音を練習してから、単語と構文の文法的説明をして、和訳を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1		1		
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータル等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	クラスルームからダウンロード。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。 kitahara.yasuharu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 導入講義		授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
2	【米国の全体理解】【発音】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
3	【米国の文化】【動詞】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
4	【米国の文化】【補語と目的語】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
5	【米国の文化】【助動詞】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
6	【米国の文化】【現在進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【米国の文化】【過去進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
8	【米国の文化】【未来進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
9	【米国の文化】【現在完了形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
10	【米国の文化】【過去完了形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
11	【カナダの文化】【未来完了形】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
12	【カナダの文化】【関係代名詞】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【カナダの文化】【関係副詞】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
14	【カナダの文化】【複合関係詞】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
15	【授業内試験】【振り返り】		授業内試験と復習とまとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国とカナダの歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。		30分

科目名	Reading I A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表・ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		3					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		4			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点后に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies 映画に観る多文化社会のかたち	Joseph Tabolt 他	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の講堂にて。また、必要に応じて、NUメール（itakura.toru11@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントでも質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】 【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文前半を精読します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文後半を精読します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit1の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文前半を精読します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit2の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit3の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit4の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
	事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	10分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	LMSを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業への参画状況（授業動画の視聴なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
LMS上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生のための ジーニアス基礎英文法	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	文型と品詞	文型と品詞について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文型と品詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	事前に配布された資料を熟読しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 1 時制-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 1 時制-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 2 完了形-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 2 完了形-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 3 助動詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 3 助動詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 4 受動態-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 4 受動態-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 5 不定詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 5 不定詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Lesson 6 不定詞 (2) -1		『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分
14	Lesson 6 不定詞 (2) -2		『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分
15	Pre-Lesson 文の種類・動詞と文型		『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson (文の種類・動詞と文型) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の種類・動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson (文の種類・動詞と文型) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	LMSを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業への参画状況（授業動画の視聴なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
LMS上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生のための ジーニアス基礎英文法	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	文型と品詞	文型と品詞について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文型と品詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	事前に配布された資料を熟読しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 1 時制-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 1 時制-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 2 完了形-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 2 完了形-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 3 助動詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 3 助動詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 4 受動態-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 4 受動態-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 5 不定詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 5 不定詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Lesson 6 不定詞 (2) -1		『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分
14	Lesson 6 不定詞 (2) -2		『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6 (不定詞 (2)) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分
15	Pre-Lesson 文の種類・動詞と文型		『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson (文の種類・動詞と文型) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の種類・動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson (文の種類・動詞と文型) の標準問題を解いておく。		40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		20分

科目名	Reading I A	担当者	堀 紳介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	必要に応じてグループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、授業内試験で評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
火曜日9：00～10：30 hori.shinsuke11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	英文を精読	30分
2	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
3	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
10	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。関連して	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
14	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	【前期授業のまとめ】	英国社会、文化、これまで読んだ英文に関しての総括を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
	事前学修	既習事項の確認、復習	30分
	事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	Reading I A	担当者	島本 慎一郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
老人と海 The Old Man and the Sea 【日本語ナビ付き原書】 (ナビつき洋書シリーズ)	Earnest Hemingway	IBCパブリッシング	2007	教科書	必携
ラジオ エンジョイ・シンプル・イングリッシュ 2024年4月号	NHK出版	NHK出版	2024	教科書	必携
備考	英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
授業前後教室、またはEメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	シラバスの確認と授業の進め方の説明 エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day1	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、TOEIC Listeningセクションの構成を理解し、他者に説明することができる。 また、英語で提案を行うことができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱った部分の復習をラジオを聞きながら行う。	30分
2	「ウォーキング」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day2 『老人と海』1章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
3	「バンド結成」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day3 『老人と海』2章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
4	「彫刻を学ぶ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day4 『老人と海』3章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
5	「尊敬する人」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day5 『老人と海』4章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
6	「スーツの店&転校生」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day6 『老人と海』3章①の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「遺言&サプライズ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day7 『老人と海』5章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
8	「足ツボマッサージ&ストリートスナップ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day8 『老人と海』6章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
9	「時限爆弾&ソムリエのテスト」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day9 『老人と海』7章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
10	「カップラーメン」 「ルパン〜怪盗紳士〜第1話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day10 『老人と海』8章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
11	「修正テープ」 「ルパン〜怪盗紳士〜第2話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day11	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
12	「害虫駆除装置」 「ルパン〜怪盗紳士〜第3話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day12	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「カメラ付き携帯電話」 「ルパン〜怪盗紳士〜第4話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day13	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
14	「うさぎと亀」 老人と海まとめ	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day14 老人と海第1章〜8章までの復習と語彙確認	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
15	期末テストとその解説 「父親と息子とろば」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day15	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえて、期末テストの問題の復習を行う。	30分

科目名	Reading I B	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、前期のReading IAと併せて履修すること。

【授業方法】
対面授業。テキスト音読し正しい発音を練習してから、単語と構文の文法的説明をして、和訳を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータル等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	クラスルームからダウンロード。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。 kitahara.yasuharu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 導入講義		授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
2	【ロシアの全体理解】【発音】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
3	【ロシアの文化】【受動態】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
4	【ロシアの文化】【助動詞】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、助動詞を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
5	【ロシアの文化】【仮定法】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、仮定法の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
6	【ロシアの文化】【話法】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【ロシアの文化】【分詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	【ロシアの文化】【動名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	【ロシアの文化】【名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	【ロシアの文化】【代名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	【中国の文化】【冠詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	【中国の文化】【形容詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【中国の文化】【副詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	【中国の文化】【比較】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアと中国の歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則，前期のReading IAと併せて履修すること。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表・ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点后に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies 映画に観る多文化社会のかたち	Joseph Tabolt 他	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の講堂にて。また、必要に応じて、NUメール（itakura.toru11@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントでも質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。また、前期Reading I Aで学修した語彙や構文・文法について、振り返りまとめ直します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。前期のReading IAを受講していた場合には、前期に学修した構文・文法をしっかりと見直しておくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit5の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit6の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit7の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit8の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	10分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	後期の授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
	事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	10分

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、前期のReading IAと併せて履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	LMSを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業への参画状況（授業動画の視聴なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
LMS上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生のための ジーニアス基礎英文法	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	Lesson 7 動名詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 7 動名詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 8 分詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 8 分詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 9 分詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 9 分詞 (2) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9 (分詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9 (分詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 10 比較-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 10 比較-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 11 関係詞 (1) -1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 11 関係詞 (1) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 12 関係詞 (2) -1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson 12 関係詞 (2) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	Lesson 13 仮定法-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) 標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	Lesson 13 仮定法-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) 標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則，前期のReading IAと併せて履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により，演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	LMSを使用して，アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業への参画状況（授業動画の視聴なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
LMS上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生のための ジーニアス基礎英文法	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	Lesson 7 動名詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 7 動名詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 8 分詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 8 分詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 9 分詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 9 分詞 (2) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9 (分詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9 (分詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 10 比較-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 10 比較-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10 (比較) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 11 関係詞 (1) -1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 11 関係詞 (1) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11 (関係詞 (1)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 12 関係詞 (2) -1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson 12 関係詞 (2) -2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12 (関係詞 (2)) の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	Lesson 13 仮定法-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) 標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	Lesson 13 仮定法-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13 (仮定法) 標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

科目名	Reading I B	担当者	堀 紳介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則，前期のReading IAと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	必要に応じてグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、授業内試験で評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
火曜日9：00～10：30 hori.shinsuke11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	英文を精読	30分
2	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
3	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
10	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。関連して	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
14	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	【前期授業のまとめ】	英国社会、文化、これまで読んだ英文に関しての総括を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
	事前学修	既習事項の確認、復習	30分
	事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	Reading I B	担当者	島本 慎一郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
講義及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験により評価する	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを， グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発 に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
老人と海 The Old Man and the Sea 【日本語ナビ付き原書】 (ナビつき洋書シリーズ)	Earnest Hemingway	IBCパブリッシング	2007	教科書	必携
ラジオ エンジョイ・シンプル・イングリッシュ 2024年9月 号	NHK出版	NHK出版	2024	教科書	必携
備考	英和辞典については各自で用意すること。				

【オフィスアワー】
授業前後教室、またはEメール（shimamoto.shinichirou@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	シラバスの確認と授業の進め方の説明 エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day1	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	シラバスを確認してくる。	30分
	事後学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱った部分の復習をラジオを聞きながら行う。	30分
2	「ウォーキング」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day2 『老人と海』 9 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
3	「バンド結成」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day3 『老人と海』 1 0 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
4	「彫刻を学ぶ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day4 『老人と海』 1 1 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
5	「尊敬する人」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day5 『老人と海』 1 2 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
6	「スーツの店&転校生」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day6 『老人と海』 1 3 章①の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「遺言&サプライズ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day7 『老人と海』 1 4 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
8	「足ツボマッサージ&ストリートスナップ」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day8 『老人と海』 1 5 章の内容・語彙・文法・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
9	「時限爆弾&ソムリエのテスト」 Hemingway短編紹介	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day9 Hemingway短編 The sea changeの内容確認と文法・語彙・先行研究における解釈の紹介	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
10	「カッブラーメン」 「ルパン〜怪盗紳士〜第1話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day10 「ルパン〜怪盗紳士〜第1話」演習	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
11	「修正テープ」 「ルパン〜怪盗紳士〜第2話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day11 「ルパン〜怪盗紳士〜第2話」演習	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
12	「害虫駆除装置」 「ルパン〜怪盗紳士〜第3話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day12 「ルパン〜怪盗紳士〜第3話」演習	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「カメラ付き携帯電話」 「ルパン〜怪盗紳士〜第4話」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day13 「ルパン〜怪盗紳士〜第4話」 演習	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
14	「うさぎと亀」 老人と海まとめ	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day14 老人と海第9章〜15章までの復習と語彙確認	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	『老人と海』の扱った範囲を再度自力で読み直す。不明な語句を調べて覚える。	30分
15	期末テストとその解説 「父親と息子とろば」	エンジョイ・シンプル・イングリッシュ Day15	
	この回の到達目標	到達目標の①と②に関連して、英語を通して、必要な情報を得ることができる。	
	事前学修	エンジョイ・シンプル・イングリッシュの扱う部分をラジオを聞きながら学習する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえて、期末テストの問題の復習を行う。	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IIBと併せて履修すること。

【授業方法】
前の授業で指示された箇所を予習しておくこと。授業中はアトランダムに指名し訳してもらう。。2回予習していないと単位を認めない。加えて文法の説明をする。。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出された課題を次の授業までにやっておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に解答を配布し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
必要な時にメールで連絡を受け付ける。ishikawa.masaru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、単位を修得するための過程を理解する。	
	事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	授業方法に慣れる	Unit 1Europeを読む 五文型の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，五文系を理解する。	
	事前学修	指示された個所を訳し提出する。	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
3	文法を理解したうえでの和訳	Unit1 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，文法の知識を和約に反映できるようになる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出する。	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
4	文脈を考慮に入れた訳	Unit1 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，不定詞が理解できる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文脈にあった訳に訂正する。	30分
5	テキストの内容の理解を深める。	Unit1 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，内容を理解しながら訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
6	ingの理解	Unit2 Itaryを読む ingの説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，文法を理解したうえで訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	語彙力アップ	Unit2 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、小テストでよい点を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	試験で間違った個所を復習する。	30分
8	If節の用法	Unit2 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、条件文と仮定法の区別ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
9	文法の復習	Unit2 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、今までに学んだ文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文法の知識に基づいて訳しなおす。	30分
10	テキストの内容の理解を深める。	Unit3 Franceを読む that節の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、that節を理解する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
11	正確の和訳	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、文法に照らして正確の和訳ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	正確に訳せているか復習する。	30分
12	詳細な辞書の引き方	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、辞書の引き方をただす。	
	事前学修	指示された個所の予習	39分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法のおさらい	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、これまでに習った文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文法を意識して訳しなおす。	30分
14	訳の確認	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、テキストの訳を正確なものにする。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正	30分
15	前期の授業のまとめ	Unit 3 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、小テストでよい点数を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II A	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IIBと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
INSIGHTS 2024 世界を読むメディア英語入門2024	村尾純子他	金星堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
motoji.kumiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	前期の授業の進め方、テキスト（英字新聞）について、英語学習法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英字新聞について知り、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	Chapter 1 Hug a Seal, Begin to Heal	Chapter 1 Adorable robot therapy seal helps relieve anxiety, stress の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学技術・アニマルセラピーに関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 1のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
3	Chapter 2 Inheriting Traditional Sounds	Chapter 2 Shamisen industry in a pinch to protect unique sound integral to Japanese theater の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・労働伝統文化・動物保護に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 2のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
4	Chapter 3 Used Home Appliances Gaining Popularity	Chapter 3 Market for used home appliances undergoes a sea change in Japan の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・文化に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 3のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
5	Chapter 4 The Ideal Solid Fuel	Chapter 4 Japanese firms look to plant-based, carbon-neutral "biocoke" fuel to cut CO2 emissions の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、環境・燃料に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 4のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
6	Chapter 5 Dress Codes to Promote Gender Equality	Chapter 5 Banks changing with the times by ditching female-only uniforms の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・文化・ジェンダーに関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表し、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 5のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Review Chapter 1-5		Chapter 1-5の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 1-5で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 1-5の本文を再読する。各ChapterのComprehension, Summaryに解答する。	30分
	事後学修	Chapter 1-5の本文の内容を再確認する。	30分
8	Chapter 6 Do You Dare Take the "Train to Apocalypse"?		Chapter 6 Jakarta train firm holds 'zombie' event to scare up more passengers の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 6のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
9	Chapter 7 Island Doctor Saves the Day		Chapter 7 Captivated by island, doctor relocates to treat residents の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、医療に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 7のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
10	Chapter 8 Changing Flavor with Magic		Chapter 8 What's cooking with Japanese developer's "magic tableware" that changes taste? の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、健康科学に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 8のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
11	Chapter 9 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity		Chapter 9 Zoos move to reduce stress for animals in their care の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生物に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 9のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
12	Chapter 10 Movie House Turned Club House		Chapter 10 Old cinema opens doors to truant children, offering life lessons の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・教育に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 10のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Review Chapter 6-10	Chapter 6-10の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 6-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 6-10の本文を再読する。各ChapterのComprehension, Summaryに解答する。	30分
	事後学修	Chapter 6-10の本文の内容を再確認する。	30分
14	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
	事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 1-10で学習した単語を活用して英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
	事後学修	前期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて英文を正確によむための方法を身につける

【履修条件】
原則、後期のReading IBと併せて履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題の提出により授業を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを用いてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身に付いているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせて、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さと内容を持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さと内容を持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	依田 悠介	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IIBと併せて履修すること。

【授業方法】
本授業では、英文を正しく読むことを目標とする。授業では各自が予習し、その予習した部分に関して学生が発表する。また、学生の発表内容について、教員と受講生の間で意見交換を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループや受講者間での意見交換、議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					2		2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomや対面授業を用いてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールにて調整する yusuke.yoda@tyg.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと授業の進め方	授業の進行・課題提出方法・評価について説明する	
	この回の到達目標	授業の全体像を理解する	
	事前学修	シラバスを読み教材を手に入れる	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
2	コミュニケーションの7つの理想化	英文を詳細に読み、コミュニケーションの理想化について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
3	手持ちの道具の確認と実社会	英文を詳細に読み、実社会のコミュニケーションについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
4	コミュニケーションを考える上でいくつかの但し書きについて	英文を詳細に読み、コミュニケーションについて考える際の注意点について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
5	逸脱した意図：会話の推意	英文を詳細に読み、会話の中での逸脱について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
6	なぜ推意を考えるのか？	英文を詳細に読み、コミュニケーションにおいて推意が必要かについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	逸脱した意味	英文を詳細に読み、逸脱した意味について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
8	文脈のコントロール1	英文を詳細に読み、文脈をコントロールすることについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、文脈について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
9	文脈のコントロール2	英文を詳細に読み、文脈をコントロールすることについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、文脈について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
10	逸脱から悪へ	英文を詳細に読み、なぜ逸脱することが悪いことなのかについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、逸脱について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
11	嘘を述べる：間違い	英文を詳細に読み、なぜ間違いが嘘に繋がるのかについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、間違いについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
12	嘘を述べる：真摯さに欠ける	英文を詳細に読み、なぜ真摯さにかけることが嘘に繋がるのかについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、真摯さにかけることについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	嘘を述べる：虚構		英文を詳細に読み、虚構と嘘について授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、虚構について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
14	嘘とミスリード		英文を詳細に読み、嘘とミスリードについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、ミスリードについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
15	まとめと試験		これまでに授業内で考えてきたことをまとめ受講者の意見をまとめていく
	この回の到達目標	これまでの内容を理解し、自分なりの意見を作れる。	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

科目名	Reading II A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
競技部対象。

【授業方法】
オンデマンド形式。Google Classroomを利用し、授業動画および課題の配信、課題の提出をする。また学生同士の意見交換もGoogle Classroom内で実施する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用し、お互いの意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを、授業への参画状況（授業動画の視聴、課題の提出状況なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業参画度（動画の視聴、課題の提出状況を含む）、提出課題の点数により、目標達成度を確認。課題提出締切後に説明動画を配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Enjoying Different Cultures（「グローバル化の中で学ぶ日本文化」）	Arnold Arao、他	南雲堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール、Zoom等で実施。sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス		授業の進め方やテキスト、評価方法等について説明し、次回までの課題を指示する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	テキストを入手し、前期の学習計画をたてる。	30分
2	Unit 1 College Sports		日米のスポーツ文化 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米のスポーツ文化」の比較を英語で学びながら、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	Unit 2 Homework		諸外国の宿題をする時間 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「諸外国の宿題をする時間」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
4	Unit 3 Tidying Up		学校で行う掃除に対する考え方 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「学校で行う掃除に対する考え方」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
5	Unit 4 School Schedules		日米学校教育 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米学校教育」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
6	Unit 5 Baths		風呂かシャワーか 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「風呂かシャワーか」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 6 Mamachari		なぜか人気のママチャリ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「なぜか人気のママチャリ」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分
8	Unit 7 Vegetarian Diet		ベジタリアンに優しい料理 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「ベジタリアンに優しい料理」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分
9	Unit 8 Paid Days Off		有給休暇の取り方 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「有給休暇の取り方」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分
10	Unit 9 Greetings		文化によって異なる挨拶 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「文化によって異なる挨拶」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分
11	Unit 10 Napping in Public		なぜ人前で居眠りをするの？ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「なぜ人前で居眠りをするの？」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分
12	Unit 11 Parenting Styles		国によって異なる子育て 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「国によって異なる子育て」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。		
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。		30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 12 Gender Segregation	女性の仕事観や管理職の格差 1. Reading、2. Conversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「女性の仕事観や管理職の格差」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
14	前期テストと振り返り	Unit 1 - 12 前期テストの実施と振りかえり	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Unit 1 - 12 の復習テストを通じて、前期に学んだ英語の語彙、文法、Reading 力、Listening 力を定着することができる。	
	事前学修	テストの準備をする。	120分
	事後学修	テストを復習する。	30分
15	テストの解説と前期授業の振り返り	テストの解説と前期授業の振り返り	
	この回の到達目標	前期授業の振り返り	
	事前学修	前回の前期試験を自己採点してみる。	30分
	事後学修	テストで間違えたところを中心に復習する。後期の学習計画を立てる。	30分

科目名	Reading II A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IIBと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
チキンスープをどうぞ	ジャック・カンフィールド/小野和人	金星堂	1997	教科書	必携
備考	その他の辞書や参考書については授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
火・水曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（本館8階1814研究室）satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	動詞と文型、品詞	動詞と文型，品詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，動詞と文型，品詞に関する知識を身につけるとともに，それらを自分のことばで説明することができる。	
	事前学修	事前に配布された資料に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，もう一度理解を試みる。	30分
3	The Magic Paddles (1)	The Magic Paddlesの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	The Magic Paddles (2)	The Magic Paddlesの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	The Magic Paddles (3)	The Magic Paddlesの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	We're the Retards (1)	We're the Retardsの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	We're the Retards (2)	We're the Retardsの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
8	We're the Retards (3)	We're the Retardsの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
9	Attitude (1)	Attitudeの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
10	Attitude (2)	Attitudeの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
11	Attitude (3)	Attitudeの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
12	Look out Our Baby I'm Your Love Man (1)	Look out Our Baby I'm Your Love Manの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Look out Our Baby I'm Your Love Man (2)	Look out Our Baby I'm Your Love Manの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	Look out Our Baby I'm Your Love Man (3)	Look out Our Baby I'm Your Love Manの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	45分
	事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	Reading II A	担当者	依田 悠介	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、後期のReading IIBと併せて履修すること。

【授業方法】
本授業では、英文を正しく読むことを目標とする。授業では各自が予習し、その予習した部分に関して学生が発表する。また、学生の発表内容について、教員と受講生の間で意見交換を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループや受講者間での意見交換、議論を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomや対面授業を用いてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールにて調整する yusuke.yoda@tyg.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと授業の進め方	授業の進行・課題提出方法・評価について説明する	
	この回の到達目標	授業の全体像を理解する	
	事前学修	シラバスを読み教材を手に入れる	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
2	コミュニケーションの7つの理想化	英文を詳細に読み、コミュニケーションの理想化について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
3	手持ちの道具の確認と実社会	英文を詳細に読み、実社会のコミュニケーションについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
4	コミュニケーションを考える上でいくつかの但し書きについて	英文を詳細に読み、コミュニケーションについて考える際の注意点について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
5	逸脱した意図：会話の推意	英文を詳細に読み、会話の中での逸脱について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
6	なぜ推意を考えるのか？	英文を詳細に読み、コミュニケーションにおいて推意が必要かについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	逸脱した意味		英文を詳細に読み、逸脱した意味について授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、会話の推意について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
8	文脈のコントロール1		英文を詳細に読み、文脈をコントロールすることについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、文脈について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
9	文脈のコントロール2		英文を詳細に読み、文脈をコントロールすることについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、文脈について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
10	逸脱から悪へ		英文を詳細に読み、なぜ逸脱することが悪いことなのかについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、逸脱について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
11	嘘を述べる：間違い		英文を詳細に読み、なぜ間違いが嘘に繋がるのかについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、間違いについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
12	嘘を述べる：真摯さに欠ける		英文を詳細に読み、なぜ真摯さにかけることが嘘に繋がるのかについて授業で共有する
	この回の到達目標	正しく英文を読み、真摯さにかけることについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	嘘を述べる：虚構	英文を詳細に読み、虚構と嘘について授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、虚構について理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
14	嘘とミスリード	英文を詳細に読み、嘘とミスリードについて授業で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、ミスリードについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
15	まとめと試験	これまでに授業内で考えてきたことをまとめ受講者の意見をまとめていく	
	この回の到達目標	これまでの内容を理解し、自分なりの意見を作れる。	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

科目名	Reading II B	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、前期のReading IIAと併せて履修すること。

【授業方法】
課題を出し、翌週答え合わせをする。授業中はアトランダムに指名し訳してもらう。2回予習していないと単位を認めない。加えて文法の説明も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	課題を出し、解説する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に回答を配布し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
必要な時にメールで連絡を受け付ける。ishikawa.masaru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、単位を修得するための過程を理解する。	
	事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	授業方法に慣れる	Unit 4 Spainを読む 五文型の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，五文系を理解する。	
	事前学修	指示された個所を期日までに提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った箇所の復習	30分
3	文法を理解したうえでの和訳	Unit4 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，文法の知識を和約に反映できるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	文法に即した訳に直す。	30分
4	文脈を考慮に入れた訳	Unit4 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，不定詞が理解できる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
5	テキストの内容の理解を深める。	Unit4 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，内容を理解しながら行くセル用になる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	内容を理解したうえで訳しなおす。	30分
6	ingの理解	Unit5 Britainを読む ingの説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して，文法を理解したうえで訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	語彙力アップ	Unit2 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、小テストでよい点を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
8	If節の用法	Unit5 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、条件文と仮定法の区別ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
9	文法の復習	Unit6 Benelux前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、今までに学んだ文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	これまでの文法事項の復習	30分
10	テキストの内容の理解を深める。	Unit6 Bを読む that節の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、that節を理解する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正	30分
11	正確の和訳	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、文法に照らして正確の和訳ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	正確な訳を学ぶ。	30分
12	詳細な辞書の引き方	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、辞書の引き方をただす。	
	事前学修	指示された個所の予習	39分
	事後学修	正確な辞書の引き方を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法のおさらい	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、これまでに習った文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った箇所を復習する。	30分
14	訳の確認	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、テキストの訳を正確なものにする。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	間違った箇所を復習する。	30分
15	後期の授業のまとめ	Unit 6 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、小テストでよい点数を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II B	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、前期のReading IIAと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
INSIGHTS 2924 世界を読むメディア英語入門2024	村尾純子他	金星堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
motoji.kumiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期の学習内容を整理、確認する。	30分
	事後学修	後期の英語学習計画を立てる。	30分
2	Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In	Chapter 11 Bangladesh farmers swap rice for vegetables as water dries up の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業・気候変動・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 11のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
3	Chapter 12 Finding a Home Away from Home	Chapter 12 A record number of Japanese nationals are now living as permanent residents abroad の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 12のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
4	Chapter 13 Lessons Learned from a Chatbot	Chapter 13 The new chatbots could change the world. Can you trust them? の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報技術・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 13のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
5	Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity	Chapter 14 College cafeteria offers halal food for both Muslims and Japanese の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会・文化に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 14のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
6	Chapter 15 Competing for Cutting-Edge Robot technology	Chapter 15 Contest aims to improve robots for rescues on mountains の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学技術に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表し、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 15のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Review Chapter 11-15		Chapter 11-15の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 11-15で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 11-15の本文を再読する。各ChapterのComprehension, Summaryに解答する。	30分
	事後学修	Chapter 11-16の本文の内容を再確認する。	30分
8	Chapter 16 Can You Do Without It?		Chapter 16 A fridge too far? Living sustainably in NYC by unplugging の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 16のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
9	Chapter 17 An Apocalypse Already in Progress		Chapter 17 From fireflies to dung beetles, insects are vanishing の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、環境・生物・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 17のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
10	Chapter 18 Tailoring Tea to Taste		Chapter 18 Tea farmer eyes India as export market with cinnamon flavor の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際・文化・ビジネスに関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 18のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
11	Chapter 19 Art of Noise		Chapter 19 UK project aims to preserve lost sounds の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文化・歴史雑学・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 19のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分
12	Chapter 20 New Leadership at Harvard University		Chapter 20 Claudine Gay to be Harvard's 1st Black president, 2nd woman の本文を読んで内容を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人種・ジェンダー・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 20のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。Insights into Today's Worldに解答する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Review Chapter 16-20	Chapter 16-20の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 16-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 16-20の本文を再読する。各ChapterのComprehension, Summaryに解答する。	30分
	事後学修	Chapter 16-20の本文の内容を再確認する。	30分
14	後期授業のまとめ①	後期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 11-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	Chapter 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
	事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	後期授業のまとめ②	後期の学習内容を再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 11-20で学習した単語を活用して英字新聞の記事を正しく理解し、発表、他者と意見交換をすることができる。	
	事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
	事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルのReadingの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則、前期のReading II Aと併せて履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業を行います。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2			2		
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2			2		
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを筆記試験（授業内試験）により評価する。		30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。		10	10									20
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発にさんかしたかを基準評価する。				20								20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2011	教科書	必携
英米情報辞典	飛田茂雄（編）	研究社	2000	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	依田 悠介	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則，前期のReading IIAと併せて履修すること。

【授業方法】
本授業では、英文を正しく読むことを目標とする。授業では各自が予習し、その予習した部分に関して学生が発表する。また、学生の発表内容について、教員と受講生の間で意見交換を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループや受講者間での意見交換、議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomや対面授業を用いてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールにて調整する yoda.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと授業の進め方	授業の進行・課題提出方法・評価について説明する	
	この回の到達目標	授業の全体像を理解する	
	事前学修	シラバスを読み、教科書を手に入れる	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
2	嘘とミスリード-1	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
3	嘘とミスリード-2	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
4	嘘とミスリード-3	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
5	真実を言うことの意味-1	英文を読み、真実を語ることにについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
6	真実を言うことの意味-2	英文を読み、真実を語ることにについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	真実を言うことの意味-3	英文を読み、真実を語ることについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
8	ブルシットと嘘	英文を読み、ブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
9	ブルシットが世の中に溢れている	英文を読み、世の中とブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
10	フランクファートのブルシットの概念	英文を読み、フランクファートのブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
11	嘘、ミスリード、ブルシットとフェイクニュース-1	英文を読み、フェイクニュースについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
12	嘘、ミスリード、ブルシットとフェイクニュース-2	英文を読み、フェイスニュースについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意味のない話	英文を読み、意味のない話について授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
14	意味のない話とジバリッシュ	英文を読み、ジバリッシュについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
15	まとめと試験	これまで学修した内容に関して授業内で共有する	
	この回の到達目標	これまで読んだ英文の内容を理解し、自分なりのコミュニケーション感を作る	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

科目名	Reading II B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
競技部対象。

【授業方法】
オンデマンド形式。Google Classroomを利用し、授業動画および課題の配信、課題の提出をする。また学生同士の意見交換もGoogle Classroom内で実施する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用し、お互いの意見交換を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを、授業への参画状況（授業動画の視聴、課題の提出状況なども含む）により評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業参画度（動画の視聴、課題の提出状況を含む）、提出課題の点数により、目標達成度を確認。課題提出締切後に説明動画を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Enjoying Different Cultures（「グローバル化の中で学ぶ日本文化」）	Arnold Arao、他	南雲堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール、Zoom等で実施。sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス		授業の進め方やテキスト、評価方法等について説明し、次回までの課題を指示する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	テキストを入手し、後期の学習計画をたてる。	30分
2	Unit 13 Japanese Hospitality		顧客サービスの考え方 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「顧客サービスの考え方」の比較を英語で学びながら、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	Unit 14 Tax		国によって異なる消費税 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「消費税」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
4	Unit 15 Returns		返品や返金の仕方 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「返品や返金の仕方」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
5	Unit 16 Healthcare		日米の医療制度 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米の医療制度」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
6	Unit 17 Vending Machines		日本の自販機の多さにビックリ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米の自販機事情」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 18 Toilets		世界のトイレ事情 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「世界のトイレ事情」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
8	Unit 19 Rapid Transit Systems		安全・信頼・快適な日本の新幹線 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米の鉄道事情」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
9	Unit 20 Cables in the Sky		送電線は地上か地中か？ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米の送電線事情」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
10	Unit 21 Tissue Marketing		広告用ポケットティッシュは日本発祥？ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「広告用ポケットティッシュ事情」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
11	Unit 22 PDA		公共の場における愛情表現 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「日米の愛情表現」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
12	Unit 23 Love Hotels		ラブホテルは日本特有のもの？ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「アメリカのモーテルと日本のラブホテル」の比較を通して、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 24 Faces of Japan	不思議な国日本の魅力！ 1. Reading、2. Coversation、3. Text Completion、4. Composition	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「外国人から見た日本および日本文化」を理解しながら、総合的な英語力を身に着けることができる。	
	事前学修	今回の授業範囲に出てくる単語・フレーズ等を予習する。	30分
	事後学修	テキストの学習で間違えたところを中心に復習する。	30分
14	前期テストと振り返り	Unit 1 - 12 前期テストの実施と振りかえり	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Unit 1 - 12 の復習テストを通じて、前期に学んだ英語の語彙、文法、Reading 力、Listeing力を定着することができる。	
	事前学修	テストの準備をする。	120分
	事後学修	テストを復習する。	30分
15	テストの解説と後期授業の振り返り	テストの解説と後期授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、この1年間で学んだ日米文化の比較をふり返りつつ、身に着けた英語のスキルを定着させることができる。	
	事前学修	前回の後期試験を自己採点してみる。	30分
	事後学修	テストで間違えたところを中心に復習する。前期・後期で学んだ英語のスキルを定着させる。	120分

科目名	Reading II B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則、前期のReading IIAと併せて履修すること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
チキンスープをどうぞ	ジャック・カンフィールド/小野和人	金星堂	1997	教科書	必携
備考	その他の辞書や参考書については授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
火・水曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（本館8階1814研究室）satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	動詞と文型、品詞	動詞と文型、品詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞と文型、品詞に関する知識を身につけるとともに、それらを自分のことばで説明することができる。	
	事前学修	事前に配布された資料に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、もう一度理解を試みる。	30分
3	The Rabbi's Gift (1)	The Rabbi's Giftの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	The Rabbi's Gift (2)	The Rabbi's Giftの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	The Rabbi's Gift (3)	The Rabbi's Giftの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	Walt Jones (1)	Walt Jonesの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Walt Jones (2)	Walt Jonesの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
8	Walt Jones (3)	Walt Jonesの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
9	Napoleon and the Furrier (1)	Napoleon and the Furrierの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
10	Napoleon and the Furrier (2)	Napoleon and the Furrierの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
11	Napoleon and the Furrier (3)	Napoleon and the Furrierの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
12	The Golden Buddha (1)	The Golden Buddhaの序盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Golden Buddha (2)	The Golden Buddhaの中盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	The Golden Buddha (3)	The Golden Buddhaの終盤を輪読形式で読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
	事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
	事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	後期の授業内容の総復習をしておく。	45分
	事後学修	後期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	Reading II B	担当者	依田 悠介	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則，前期のReading IIAと併せて履修すること。

【授業方法】
本授業では、英文を正しく読むことを目標とする。授業では各自が予習し、その予習した部分に関して学生が発表する。また、学生の発表内容について、教員と受講生の間で意見交換を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループや受講者間での意見交換、議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomや対面授業を用いてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
メールにて調整する yoda.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと授業の進め方	授業の進行・課題提出方法・評価について説明する	
	この回の到達目標	授業の全体像を理解する	
	事前学修	シラバスを読み、教科書を手に入れる	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
2	嘘とミスリード-1	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
3	嘘とミスリード-2	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
4	嘘とミスリード-3	英文を読み、嘘とミスリードについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
5	真実を言うことの意味-1	英文を読み、真実を語ることにについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
6	真実を言うことの意味-2	英文を読み、真実を語ることにについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	真実を言うことの意味-3	英文を読み、真実を語ることについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
8	ブルシットと嘘	英文を読み、ブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
9	ブルシットが世の中に溢れている	英文を読み、世の中とブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
10	フランクファートのブルシットの概念	英文を読み、フランクファートのブルシットについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
11	嘘、ミスリード、ブルシットとフェイクニュース-1	英文を読み、フェイクニュースについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
12	嘘、ミスリード、ブルシットとフェイクニュース-2	英文を読み、フェイスニュースについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意味のない話	英文を読み、意味のない話について授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
14	意味のない話とジバリッシュ	英文を読み、ジバリッシュについて授業内で共有する	
	この回の到達目標	正しく英文を読み、コミュニケーションについて理解できる	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分
15	まとめと試験	これまで学修した内容に関して授業内で共有する	
	この回の到達目標	これまで読んだ英文の内容を理解し、自分なりのコミュニケーション感を作る	
	事前学修	該当部分を読み、ノートを作成する。	30分
	事後学修	理解度のチェックを実施する	30分

科目名	Reading III A	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期の Reading IIIB と合わせて履修することが望ましい。(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。インターネット上のニュースも教材に使用。Google Classroomなどでの課題解答、提出により演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				3		3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価する。	10	10									20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 により評価する。	25	25									50
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，発表 により評価する。AI翻訳を使わなくても内容が理解できて いる、あるいはAI翻訳の誤りを正すことができているとい うことも発表時にみていきます。	10	10									20
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかについ て、与えられた教材のほかに学生自身がどれだけ調査研究 をして準備をして臨んでいるか、グループワークやペア ワークなどでそれを反映できているか、などをその後の発 表を基準に評価する。			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートなどの課題の解説を授業内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2024 Edition)時事英語の 総合演習-2024年度版-	堀江洋文、加藤香 織、ほか	朝日出版社	2024年 出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事を授業で配布します。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入授業	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。 この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標及びその達成方法などについて説明することができる。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
	事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	国内政治	Chapter 1 国内政治 Ruling LDP faced unexpectedly close election battles を読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
3	latest domestic news	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	60分
4	news clip on the latest domestic news	日本の政治に関する最新の英語のニュースを視聴する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	課題：第3回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどによる別のニュースのディクテーション。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
5	経済・ビジネス（1）	Chapter 2 経済・ビジネス(1) Inflation tests a global economy that has weathered Covid-19, Ukraine warを読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
6	latest economy / business news	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	news clip on the latest economy / business news	経済・ビジネスに関する最新の英語のニュースを視聴する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第6回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。課題スクリプトと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	軍事	Chapter 5 軍事 Taiwan Voters Consider US-China Tensions を読む。軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、軍事に関連するニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 5 軍事を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
9	military affair news	第8回授業で配布された 軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第8回授業で配布された軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る	60分
10	news clip on the latest military affair news	第9回授業で配布された軍事に関する最新のnews clipのスクリプトを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第9回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：第9回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	36分
11	外交・国際会議	Chapter 4 外交・国際会議 G7 communique amps up pressure on China, Russia を読む。外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、外交・国際会議を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 4 外交・国際会議を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
12	latest foreign affair / international conference news	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	news clip on the latest foreign affair / international conference news		第12回授業で配布された外交・国際会議に関する最新の英語のニュースを視聴する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第12回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：第12回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	地球環境		Chapter 10 地球環境・気象 World's war on greenhouse gas emissions has a military blind spot を読む。地球環境に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、地球環境を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 10 地球環境を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
15	latest global environment news		第14回授業で配布されたに地球環境に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第14回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第14回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る。	60分

科目名	Reading ⅢB	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期の Reading IIIA と合わせて履修することが望ましい。(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。インターネット上のニュースも教材に使用。Google Classroomなどでの課題解答、提出により演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				3		3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題(授業内試験、レポート、小テストを含む)により評価する。	10	10									20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題により評価する。	25	25									50
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，発表により評価する。AI翻訳を使わなくても内容が理解できている、あるいはAI翻訳の誤りを正すことができているということも発表時にみていきます。	10	10									20
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかについて、与えられた教材のほかに学生自身がどれだけ調査研究をして準備をして臨んでいるか、グループワークやペアワークなどでそれを反映できているか、などをその後の発表を基準に評価する。			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートなどの課題の解説を授業内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2024 Edition)時事英語の総合演習-2024年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2024年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事を授業で配布します。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・導入授業	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。 この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標及びその達成方法などについて説明することができる。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。		30分
	事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		60分
2	食料・エネルギー	Chapter 11 食料・エネルギー Japan aims to boost hydrogen supply to 12 million T by 2040を読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、食料・エネルギー問題のニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 11 食料・エネルギーを読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
3	latest news clip on the latest food & energy security news	第2回授業で配布された食料・エネルギーに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第2回授業で配布された食料・エネルギーに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		60分
4	news clip on the latest food & energy security news	食料・エネルギーに関する最新の英語のニュースを視聴する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	課題：第3回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。		30分
	事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどによる別のニュースのディクテーション。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。		60分
5	経済・ビジネス（2）	Chapter 3 経済・ビジネス(2) Japan's long-suffering stock market is back. This boom may have 'staying power'を読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
6	latest economy / business news	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	news clip on the latest economy / business news		経済・ビジネスに関する最新の英語のニュースを視聴する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第6回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。課題スクリプトと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	海外政治情勢		Chapter 6 海外政治情勢 King Charles III crowned in ceremony blending history and change を読む。軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、軍事に関連するニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 6 海外政治情勢を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
9	foreign affair news		第8回授業で配布された 海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第8回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	60分
10	news clip on the latest foreign affair news		第9回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のnews clipのスクリプトを確認する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第9回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：第9回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	36分
11	裁判・法令		Chapter 9 裁判・法令 Fukuoka court rules same-sex marriage ban is in "state of unconstitutionality" を読む。裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、裁判・法令を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 9 裁判・法令を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
12	latest justice and law news		第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	news clip on the latest justice and law news		第12回授業で配布された裁判・法令に関する最新の英語のニュースを視聴する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第12回授業のニュースに関する内容・語彙をしっかりと学修する。	30分
	事後学修	課題：第12回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。課題スクリプトと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	犯罪・事件		Chapter 8 犯罪・事件 Wave of 'sushi terrorism' grips Japan's restaurant worldを読む。犯罪・事件に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、犯罪・事件を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 8 犯罪・事件を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
15	latest global environment news		第14回授業で配布されたに犯罪・事件に関連する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第14回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第14回授業で配布された犯罪・事件に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る。	60分

科目名	Writing ⅢA	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEFL-iBT, IELTSやTOEIC S&Wなどの資格試験に対応できるライティングスキルを修得するために, 論理的かつ明確な英文が表現できる能力を身につける。

【履修条件】
後期のWriting ⅢBと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること(受講料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。										3	3		3
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。										3	3		3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	20	20									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき, 到達目標①②にかかわる積極的 な学修態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価す る。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験，小テスト，授業参画度などで目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本／大井／上村／ Sano／松本	金星堂	2021	教科書	任意
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	エッセイとは	Chapter 1 エッセイの重要な特徴、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	エッセイとは	Chapter 2 エッセイの重要な特徴、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	エッセイのトピック	Chapter 3 エッセイのトピック、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	エッセイのトピック	Chapter 4 エッセイのトピック、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	Introductionとは	Chapter5 Introductionの役割、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Introductionの書き方		Chapter 6 Introductionの役割、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
8	Bodyの構造		Chapter 7 Bodyの構造、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
9	Bodyの構造		Bodyの構造、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
10	conclusionのまとめ方		Conclusionのまとめ方、クライテリオン	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
11	conclusionとクライテリオン(1)		Conclusionのまとめ方、クライテリオン 1	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
12	クライテリオン(2)		クライテリオン 2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。		
	事前学修	クライテリオン 1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン 2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)、授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、試験の講評と振り返り	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	Writing ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEFL-iBT, IELTSやTOEIC S&Wなどの資格試験に対応できるライティングスキルを修得するために, 論理的かつ明確な英文が表現できる能力を身につける。

【履修条件】
前期のWriting ⅢAと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること(受講料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。									4	4		4
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。									4	4		4
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	20	20									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき, 到達目標①②にかかわる積極的 な学修態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価す る。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験，小テスト，授業参画度などで目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本／大井／上村／ Sano／松本	金星堂	2021	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
水曜日12:10~13:00 （場所などはメールにて対応する。） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	エッセイとは	Chapter 8 エッセイの重要な特徴、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	英語の時制	Chapter 9 英語の時制、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	英語の時制と相	Chapter 10 英語の時制と相、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	英語の相	Chapter 11 英語の相、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	英語の法助動詞	Chapter12 英語の法助動詞、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英語の法助動詞	Chapter 13 英語の法助動詞、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	Introductionの書き方	Chapter 14 Introductionの書き方、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	Bodyの構造	Bodyの構造、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	conclusionのまとめ方	Conclusionのまとめ方、クライテリオン	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)、授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、試験の講評と振り返り	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	Writing I A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
This class will be conducted in English and the speed and pace of the class will be adjusted depending on the progress of the class.

【授業方法】
In this class, students will improve their writing skills. They will first learn to write grammatically correct sentences, and thereafter write short paragraphs. The instructor will guide them to write topic sentences, supporting sentences and concluding sentences. In addition to the textbook, supplementary materials relevant to the topics done in class will be given to the students as and when necessary.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。										1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。										1	1		1
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Writing test at the end of the semester as per (1) and (2) of the SBO	20	20									40
小テスト等	Assignments given in class and homework	10	10									20
レポート等	Writing a paper for final assignment	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度	Active class participation	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Real Writing; From structured paragraph to complete essay	Mariko Kawasaki et al	Nan’undo	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
Students may speak to the instructor on Fridays before or after class. You may also contact by email - azmiah2763@gmail.com Please write your message in English.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Improve writing skills		Students will study basic writing skills and will initially write grammatically correct short sentences. Thereafter, with the guidance of the instructor and using the textbook will learn to write structured paragraphs to complete essay.	
	この回の到達目標	AS per SBO (1) and (2) above, students can write grammatically correct sentences and thereafter structured paragraphs. Learning objective is to improve their overall ability to write perfect paragraphs.		
	事前学修	Read the contents of the syllabus.		35分
	事後学修	Read chapter 1 on Explanatory Paragraphs (page 6).		35分
2	Chapter 1 – Explanatory Paragraphs		Practice Explanatory Paragraphs	
	この回の到達目標	After reading the explanatory paragraph, students fill in the blanks with appropriate words to see how the paragraph is structured.		
	事前学修	Students check the meaning of the difficult words in the explanatory paragraph and write them on the word cards.		30分
	事後学修	Part 2 on explanatory paragraph. Paragraph structure – the topic and the main idea.		45分
3	Writing Tools – Capitalization		Learn how to use capital letters. Read the paragraph and underline the words that begin with a capital letter.	
	この回の到達目標	Study the rules of capitalization.		
	事前学修	Do the exercise on page 9.		30分
	事後学修	Writing – Read the paragraph on New Ways of Communication. Find the meaning of the difficult words.		30分
4	Brainstorming		Brainstorming is one way to generate ideas.	
	この回の到達目標	Brainstorming in pair or in a group on a particular topic – stress for university students or studying abroad.		
	事前学修	Students brainstorm ideas for one of the above topics.		45分
	事後学修	Students think of appropriate topic sentences for the topics written in the brainstorming activity.		30分
5	Chapter 2 – Information Paragraph		Information paragraph – provided information on a topic in various ways. Review paragraph structure.	
	この回の到達目標	Read the model paragraph and do the exercise on page 13.		
	事前学修	Students read Part 2 of this chapter on supporting sentences.		30分
	事後学修	Practice A, B and C on pages 14 and 15.		30分
6	Writing Tools – Punctuation: Commas		Students learn the rules on how to use commas.	
	この回の到達目標	Practice using commas the model writing paragraph on page 16.		
	事前学修	Practice E on page 17 – choose one of the topics and think what to write about it.		45分
	事後学修	Writing topic sentence and supporting sentences.		35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Chapter 3 - Opinion Paragraph		Opinion Paragraph - to express and explain opinion on a specific topic.	
	この回の到達目標	Students will review paragraph structure and learn about concluding sentences. Students will also learn how to introduce reasons for supporting ideas.		
	事前学修	Read the opinion paragraph on page 18 - Dinosaur Park 2 Movie Review. Answer the exercise on page 19.		45分
	事後学修	Concluding sentence - read the explanation on page 19.		30分
8	Practice writing concluding sentences.		In addition to the topic and supporting sentences studied in the previous lessons, students will learn to write concluding sentences.	
	この回の到達目標	Writing concluding sentences.		
	事前学修	Students do the exercise on pages 20 and 21 on writing concluding sentences.		35分
	事後学修	Read Part 3 on expressing opinions and reasons.		30分
9	Expressing Opinions and Reasons		Signals for opinions and reasons - phrases to introduce opinions and word to connect ideas to reasons.	
	この回の到達目標	Combining two sentences as one sentence using because or so where appropriate.		
	事前学修	Do the writing exercise on page 22 - Practice E		30分
	事後学修	Practice F and G on page 23.		45分
10	Chapter 4 - Descriptive Paragraphs		Students learn to write about a person, place or thing.	
	この回の到達目標	To be able to write about a person, place or thing. Also learn how to add more information to supporting sentences.		
	事前学修	Read the Model paragraph on page 24. Answer the questions on page 25.		45分
	事後学修	Adding details or examples to a supporting sentence. Using common signal words and identifying common mistakes.		45分
11	Writing Tools - Descriptive words		Learning how to use descriptive words effectively.	
	この回の到達目標	Read the model paragraph and circle the descriptive words. Think about how these words are used and try to write similar sentences using descriptive words.		
	事前学修	Practice D on page 27.		30分
	事後学修	Part 4 - read the paragraph on Crowdfunding and correcting the errors.		40分
12	Practice writing		Writing a paragraph using the format given in the textbook on page 29.	
	この回の到達目標	Practice writing using the format given in the textbook.		
	事前学修	Writing a paragraph using the format given on page 30. Bring the completed paragraph to class.		40分
	事後学修	Read Chapter 5 on the introduction to comparative paragraphs.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Chapter 5 – Comparative Paragraphs	Learn to explain the similarities between different things.	
	この回の到達目標	Students develop the ability to explain the similarities between two things. Students will be required to write a comparative paragraph for their final assignment. The topic will be given to the students in class.	
	事前学修	Read the introduction on page 32 and do the exercise on page 33.	45分
	事後学修	Comparing with a purpose – using signal words for comparing. Read page 33 and do the practice on page 34.	30分
14	Comparative Paragraphs – finding the similarities	Students learn how to write comparative expressions effectively.	
	この回の到達目標	Learning to write comparative paragraphs using the exercises in the textbook.	
	事前学修	Read Model 2 on page 36 and find the meaning of the difficult words and write them on word cards.	30分
	事後学修	Prepare for the final written examination.	45分
15	Wrap up, review and final test	Review the chapters covered in the spring semester.	
	この回の到達目標	To make sure that the students have understood what was done in class during the semester. Return their homework assignments with comments,	
	事前学修	Review the chapters studied in class during the semester to give their comments/suggestions on the class.	45分
	事後学修	Preparation for study in the next semester.	45分

科目名	Writing I B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Class will be conducted in English. The level and pace of the class will be adjusted depending on the progress of the students.

【授業方法】		
In this semester students will continue to develop their writing skills to be able to write essays. Students will be taught more advanced writing skills to be able to write argumentative paragraphs. They will also be guided to write summaries for the paragraphs written by them. Emphasis will also be placed on avoiding plagiarim when writing papers/reports.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。								1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。								1	1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Writing test at the end of the semester as per (1) and (2) SB0	20	20									40
小テスト等	Assignments in class and homework	10	10									20
レポート等	Writing a paper for final assignment	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度	Active class participation	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Real Writing: From structured paragraph to complete essay	Mariko Kawasaki et al	Nan’undo	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students may speak to the instructor on Fridays before or after class. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail. com Please write your name, class and the message in English.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Develop skills to write complete essay Chapter 6 – Contrast Paragraphs		Students will develop the skills already achieved and learn how to write from structured paragraph to complete essay.	
	この回の到達目標	Review chapter 1-5 done in the spring semester. Instructor explains the syllabus for the fall semester. Students write about how they spent their summer vacation and present it to the class.		
	事前学修	Students read the introduction on Contrast Paragraphs on page 40.		40分
	事後学修	Use of signal words for contrasting paragraphs. Answer the questions on page 42 – Practice A, B and C.		40分
2	Contrast Paragraphs continued – Adjectives for telling the difference		Circle the comparative words. Correcting errors in the writing paragraph.	
	この回の到達目標	Practice writing by correcting the errors in a written paragraph. Thereafter practice writing their own paragraph using the corrected paragraph as a model.		
	事前学修	Prepare questions for collecting information, interview people, go to the library or search over the internet on the topic given by the instructor.		45分
	事後学修	Use the information collected and write a paragraph.		45分
3	Chapter 7 – Cause and Effect Paragraphs		To learn to distinguish between cause and effect in paragraphs.	
	この回の到達目標	Learn to explain the reasons for a specific situation.		
	事前学修	Read Model 1 on page 48 and complete the exercise on page 49.		45分
	事後学修	Topic sentences for cause-and-effect paragraphs. Signal words for telling causes and effects.		40分
4	Chapter 7 continued – learning to use cause and effect expressions.		Learning to use cause and effect expression in paragraphs.	
	この回の到達目標	Learn to use cause and effect expression in paragraphs.		
	事前学修	Complete the exercises on pages 52 and 53.		45分
	事後学修	Write a paragraph explaining the causes of a current social problem using the format given on page 54.		45分
5	Chapter 8 – Argumentative Paragraphs		Learn to express different views including counter-arguments. In addition, learn to provide evidence using references.	
	この回の到達目標	Write argumentative paragraphs.		
	事前学修	Read the paragraph on page 57 and answer the questions on page 57.		45分
	事後学修	Topic sentence for argumentative paragraphs.		45分
6	Chapter 8 continued.		Expressing opinions of both sides. Learn to use signal words effectively.	
	この回の到達目標	To be able to express opinions of both sides with supporting evidence.		
	事前学修	Read the model paragraph on page 59 and underline the opposing opinions.		35分
	事後学修	Writing an outline for argumentative paragraph with supporting evidence.		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Chapter 9 – Problem and Solution Paragraphs	Introduce how to write problem and solutions paragraph.	
	この回の到達目標	How to write problem and solutions paragraphs and practice the use of auxiliary verbs could and would.	
	事前学修	Read the model paragraph on page 64 and complete the questions on page 65.	40分
	事後学修	The structure of problem and solution paragraphs. Learn examples of the use of auxiliary verbs.	40分
8	Chapter 9 continued. Correcting errors in a paragraph (Writing)	Correcting errors in a paragraph and re-writing the paragraph.	
	この回の到達目標	Correct the paragraph by changing verbs and gerunds where appropriate.	
	事前学修	Read the paragraph on page 69 and answer the questions on the same page.	40分
	事後学修	Write a paragraph explaining a problem and offering a solution on page 70.	45分
9	Chapter 10 – Time-order Paragraphs	Learn to narrate events in the order they happened.	
	この回の到達目標	Time-order paragraphs help students to learn how to narrate events in the order they happened.	
	事前学修	Read the model paragraph on page 72 and underline the topic sentence. Then underline the hints in this paragraph about events in history.	45分
	事後学修	Topic sentence and concluding sentence for time-order paragraphs. Answer the questions on page 74.	40分
10	Chapter 10 continued – signals to show time-order	Understand how signals are used to show time-order.	
	この回の到達目標	Students learn how signals are used to show time-order when writing paragraphs.	
	事前学修	Read the explanation on comma rules in using subordinators and prepositions.	45分
	事後学修	Correcting the errors in the paragraph on page 77 and completing the concluding paragraph.	40分
11	Chapter 11 – Process Paragraph	Process Paragraph on how to do something. Start with basics like making a cake or changing a flat tire of a car.	
	この回の到達目標	Learn to write on how to do something.	
	事前学修	Complete Model 1 on page 81.	35分
	事後学修	Write topic sentence and supporting sentence for process paragraphs.	45分
12	Chapter 11 – Process Paragraph continued.	Writing supporting sentences for process paragraphs.	
	この回の到達目標	Students learn to write supporting sentences for process paragraph, to give step by step instructions. Topic for the class assignment will be given by the instructor.	
	事前学修	Complete Practice A and B.	45分
	事後学修	Using punctuations (commas) for signals and clauses.	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Chapter 12 - Summaries	Students learn to summarize the content of an article, report etc.	
	この回の到達目標	Students will choose a short paragraph from the textbook and write a short summary.	
	事前学修	Complete the sample article 1 on page 89.	45分
	事後学修	Write a summary giving only main ideas using sample article 1.	40分
14	Chapter 12 continued - Paraphrasing	Students learn the basics of paraphrasing.	
	この回の到達目標	Students learn to summarize information given in an article, but change the style or summarize the original sentence.	
	事前学修	Read the example of paraphrasing. Prepare answers for Practice A on page 90. Plagiarism and how to avoid plagiarism on page 91.	40分
	事後学修	Review for the final test next week.	45分
15	Wrap up, review and final test	Review of chapters covered in this semester. Feedback on assignments submitted.	
	この回の到達目標	Feedback on assignments submitted by the students. Review. Final test.	
	事前学修	Study for the final test.	45分
	事後学修	Await to hear the good results of the test.	45分

科目名	Writing II A	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
文の構成・表現スタイル・伝達内容の3点を柱に、アカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading, and writing tasks.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions, peer-peer reviews.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ明確な英文を書くために必要な文法の知識や表現力を活用することができる。									2	2		2
②	パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。									2	2		2
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Assessed writing tasks	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	25	25									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Whole-class feedback on writing tasks. Individual feedback on writing tasks.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ready to Write 2	Karen Blanchard, Christine Root	Pearson	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email beatle_gaz@hotmail.com. Please ask questions after class (Tuesday 2nd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Paragraph structure 1		Students will learn to construct simple paragraphs with topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
2	Paragraph structure 2		Students will learn to construct simple paragraphs with topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
3	Organising information by time-order 1		Students will write paragraphs in which information is organised by time-order, using signal words and prepositions of time.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
4	Organising information by time-order 2		Students will write paragraphs in which information is organised by time-order, using signal words and prepositions of time.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
5	Organising information by order of importance 1		Students will write paragraphs in which information is organised by order-of-importance, using signal words and appropriate topic sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
6	Organising information by order of importance 2		Students will write paragraphs in which information is organised by order-of-importance, using signal words and appropriate topic sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Understanding the writing process 1		Students will study and use the writing process: 1) pre-writing, 2) clustering, and 3) redrafting.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
8	Understanding the writing process 2		Students will study and use the writing process: 1) pre-writing, 2) clustering, and 3) redrafting.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
9	Supporting the main idea 1		Students will write paragraphs in which the main idea is supported by additional details: facts, examples, personal details, etc.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
10	Supporting the main idea 2		Students will write paragraphs in which the main idea is supported by additional details: facts, statistics, graphs, quotes, etc.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
11	Writing Workshop #1		Students will write a paragraph on a topic chosen from a number of alternatives, using the three steps of the writing process.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
12	Expressing an opinion 1		Students will write a paragraph in which they express an opinion in a persuasive manner using reasons, facts, and examples.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	Expressing an opinion 2		Students will write a paragraph in which they express an opinion in a persuasive manner using reasons, facts, and examples.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
14	Writing a summary 1		Students will write a paragraph that summarises and article or story in a concise, accurate and objective manner.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
15	Writing a summary 2		Students will write a paragraph that summarises and article or story in a concise, accurate and objective manner.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

科目名	Writing II B	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
文の構成・表現スタイル・伝達内容の3点を柱に、アカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading, and writing tasks.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions, peer-peer reviews.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ明確な英文を書くために必要な文法の知識や表現力を活用することができる。								2	2		2
②	パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。								2	2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Assessed writing tasks	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	25	25									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Whole-class feedback on writing tasks. Individual feedback on writing tasks.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ready to Write 2	Karen Blanchard, Christine Root	Pearson	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email beatle _gaz@hotmail.com. Please ask questions after class (Tuesday 2nd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Paragraph structure 1		Students will learn to construct simple paragraphs with topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
2	Paragraph structure 2		Students will learn to construct simple paragraphs with topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
3	Organising information by spatial order 1		Students will write a paragraph describing a place using spacial order and prepositions of place.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
4	Organising information by spatial order 2		Students will write a paragraph describing a place using spacial order and prepositions of place.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
5	Explaining a process 1		Students will write a paragraph describing the steps in a process using imperative sentences and time-order signal words.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
6	Explaining a process 2		Students will write a paragraph describing the steps in a process using imperative sentences and time-order signal words.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	Writing descriptions 1		Students will write a paragraph using descriptive details about a person, place, or thing, using sensory words and adjectives.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
8	Writing descriptions 2		Students will write a paragraph using descriptive details about a person, place, or thing, using sensory words and adjectives.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
9	Comparing and contrasting 1		Students will write a paragraph comparing or contrasting two people, places, or things.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
10	Comparing and contrasting 2		Students will write a paragraph comparing or contrasting two people, places, or things.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
11	Writing Workshop #1		Students will write a paragraph on a topic chosen from a number of alternatives, using the three steps of the writing process.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
12	Analysing causes and effects 1		Students will write a paragraph describing the causes or effects of an event.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	Analysing causes and effects 2		Students will write a paragraph describing the causes or effects of an event.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
14	Writing Workshop #2		Students will write a paragraph on a topic chosen from a number of alternatives, using the three steps of the writing process.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分
15	Course review		Students will review the content of the course and evaluate peers' writing from Writing Workshops #2.	
	この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students will study appropriate grammar and structure, so as to write clear sentences and well-organised paragraphs.		
	事前学修	Review previous week's work.		30分
	事後学修	Complete textbook activities that reinforce concepts learned in class.		30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A・B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。和独辞書必携。予習は必須。欠席しないこと。12月にドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。独検4級レベルの表現力をつける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した表現を使ってドイツ語で自分のことを表現する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ナビゲーション3.0	前田良三	朝日出版社	2023年		
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。kawakami.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：ドイツ語圏の国々について	ガイダンス ドイツ語とドイツ語圏の国々、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語を話す国や地域についてを理解し、説明することができる。授業の全体的な方針を理解することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	ドイツ語のつづり字と母音の発音	ドイツ語のつづり字と発音の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベット、発音の規則、母音の読み方を理解し、教科書の単語を発音することができる。	
	事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認してくる。	30分
	事後学修	アルファベット、単語のアクセント位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	ドイツ語のつづり字と子音の発音	ドイツ語の子音つづり字と発音の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、子音の読み方を理解し、教科書の単語と挨拶表現を発音することができる。	
	事前学修	ローマ字読みで読める単語を読む練習をしてくる。	30分
	事後学修	子音のつづり字の発音、挨拶表現、短文をの発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
4	動詞〔規則動詞〕の変化	1課 動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。動詞の辞書の引き方について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主語になる代名詞、動詞の変化、動詞の辞書の引き方について理解し、簡単な文を作ることができる。	
	事前学修	教科書の単語を読む練習をしてくる。	30分
	事後学修	主語になる代名詞と動詞の変化を復習すること。	30分
5	語順：動詞の位置	平叙文・疑問文の動詞の位置、重要動詞の現在人称変化、疑問詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平叙文・疑問文の動詞の位置について理解し、簡単な文を作ることができる。会話文を音読し、訳すことができる。自己紹介できる。	
	事前学修	会話文練習P3の訳と発音練習をしてくる。 seinとhabenの変化と疑問詞を発音練習をしてくる。	30分
	事後学修	重要表現練習を復習すること。 seinとhabenの変化と疑問詞を復習し、確実に覚えること。	30分
6	名詞について	2課 名詞について〔性・数・格〕定冠詞、不定冠詞について学習する。 格の用法、名詞の辞書の引き方について理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名詞の種類、名詞の辞書の引き方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認してくる。 会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
	事後学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えること。格の用法について復習してくる。 名詞を辞書で調べて、性と複数形を調べてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	疑問代名詞について		疑問代名詞について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。会話文の発音練習と訳を行う。買い物の時の表現を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞の変化について理解し、学習した単語を用いて買い物の会話表現を使うことができる。		
	事前学修	会話文の名詞を辞書で調べてくること。		30分
	事後学修	重要表現練習を復習すること。		30分
8	テキスト講読		テキスト講読P12ーケルンでの散策ーテキストの発音練習、訳すことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞、名詞の変化について理解し、辞書を引くことができる。学習した単語を用いて自分のお気に入りについて表現することができる。		
	事前学修	テキスト講読P12の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。		30分
9	動詞〔不規則動詞〕の変化		3 課 動詞〔不規則動詞〕の変化、命令形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不規則動詞の変化について理解し、学習した単語を用いて朝食について表現することができる。命令文の作り方について理解し、使いこなせることができる。		
	事前学修	会話文練習P15の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	不規則動詞の変化を確実に覚えること。命令形を復習すること。		30分
10	代名詞の格変化		人称代名詞の変化、非人称のesについて学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人称代名詞の変化、非人称のesを使った表現を理解し、使いこなせることができる。		
	事前学修	会話文練習P17の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	代名詞の格変化を確実に覚えること。非人称のesを使った表現を復習すること。		30分
11	様々な冠詞類について		4 課 定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞の使い方、否定文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞類、所有冠詞、否定冠詞の使い方を理解し、冠詞類を用いて自分の家族について表現することができる。		
	事前学修	名詞を辞書で調べて、性と複数形を調べてくること。定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えてくること。		30分
	事後学修	所有冠詞の変化、否定文の作り方を復習すること。		30分
12	疑問文の答え方		疑問文の答え方について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、会話文の発音練習と訳を行う。観光の時の表現練習を行う。様々な否定文を使いこなせることができる。		
	事前学修	会話文練習P23の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現を復習すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト講読	テキスト講読P24ーベルリンへの研修旅行ーテキストの発音練習、訳すことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞、名詞の格変化を考慮し、文法を理解しながら辞書を引くことができる。会話文の発音練習と訳を行う。	
	事前学修	テキスト講読P24の訳と発音練習をしてくる。テキストの中の動詞を不定詞に戻し辞書を引くこと。名詞の格を説明する。	30分
	事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。	
	事前学修	前期学習した文法と重要表現を復習してくる。	30分
	事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と単語を覚える。	30分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類と代名詞の変化について説明し、自分や身近な人について学習した単語を用いて表現することができる。	
	事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を総復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	2	3	3	2							10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	2	3	3	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	26	26	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プーメラン・エルエー	小野寿美子	朝日出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日8:50～10:40 kawajiri.tatsuakil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。ドイツ語やドイツ語圏についておおまかなアウトラインを理解する。アルファベートの発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
	事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること。	30分
2	ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
	事前学修	教科書4, 5ページの単語をCDを聞きながら発音してみること。	30分
	事後学修	ローマ字読みできない複母音を特に練習すること。	30分
3	第1課 動詞の人称変化および語順について	平叙文では主語がつねに文頭に来るわけではないことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。語尾変化した動詞から不定詞を導き出すことができる。	
	事前学修	教科書6, 7ページのあいさつを音読しておくこと。	30分
	事後学修	教科書10, 11ページの練習問題で動詞の人称変化に習熟すること。	30分
4	練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていき、ドイツ語の語順に習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な自己紹介ができる。また、相手に尋ねることができる。	
	事前学修	教科書13ページを予習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞はすべて現在人称変化してみること。	30分
5	第2課 名詞の姓・格・冠詞の変化、複数形	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、「Was (Wer) ist ～ ? Das ist ～ .」の構文を使い、人や物を紹介できる。	
	事前学修	教科書14, 16ページのテキストを音読しておくこと。	30分
	事後学修	教科書18, 19ページの練習問題で定冠詞・不定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
6	練習問題	格の用法に注意しながら問題を解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、格変化できる。定冠詞と不定冠詞の基本的意味を理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	教科書21ページを予習しておくこと。名詞はすべて定冠詞をつけて格変化しておくこと。	30分
	事後学修	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第3課 不規則動詞について		不規則動詞の現在人称変化を学修する。
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、よく使われる不規則動詞を用いて簡単な文章を作ることができる。	
	事前学修	第1課の人称変化語尾を復習しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。	30分
8	非人称のes、命令法について		英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。 命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ふだんよく使われる非人称の表現を理解し、文章を作ることができる。 到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書26ページの練習問題で不規則動詞の変化に慣れること。	30分
	事後学修	多用される非人称の熟語表現、特にes gibt を使って文章を作ってみること。	30分
9	練習問題		不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく
	この回の到達目標	達目標②に関連して、3種類の命令形を理解し、適切に使うことができる。	
	事前学修	教科書29ページの問題を予習してくること。	30分
	事後学修	動詞の人称変化、特にe→i (e) 型の不規則動詞を復習しておくこと。	30分
10	第4課 冠詞類、人称代名詞の格変化		定冠詞類・不定冠詞類の意味および語尾変化を学修する。welcherの用法に習熟する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	格の概念について整理しておくこと。	30分
	事後学修	教科書34ページの練習問題で冠詞類の変化に慣れておくこと。	30分
11	練習問題		英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、疑問形容詞welcherの用法を理解し、使うことができる。 否定詞 nicht と kein を使い分けることができる。	
	事前学修	教科書37ページを予習しておくこと。	30分
	事後学修	与えられた文章を否定文にしてみること。 基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。	30分
12	第5課 前置詞 (1)		前置詞は4種類あり、それぞれ特定の格を支配することを学修する。
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、ふだんよく使われる3格支配の前置詞に習熟し、適切に使うことができる。	
	事前学修	2、4課の冠詞類の格変化を今一度確認しておくこと。	30分
	事後学修	よく出てくる前置詞と定冠詞の融合形を覚えること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前置詞（2）	前置詞の多様な意味を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、適切に使うことができる。	
	事前学修	教科書42ページの3格支配の前置詞を覚えること。	30分
	事後学修	教科書43ページの問題で3・4格支配の前置詞に慣れること。	30分
14	練習問題	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書45ページを予習しておくこと。3・4格支配の前置詞では、3格の場合は4格に、逆に4格の場合は3格になるような文章を作ってみること。	30分
	事後学修	3・4格支配の前置詞の3，4格の使い分けを復習しておくこと。	30分
15	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
	事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜3時限目ドイツ語基礎文法A(小笠原)を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。

【授業方法】
練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
	この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	教材準備	30分
2	Lektion 1 挨拶・自己紹介	挨拶と自己紹介ができるようになる	
	この回の到達目標	挨拶と自己紹介をして、相手の言うことがわかるようになる（SB0s①②③④）	
	事前学修	CD確認 アルファベット予習	30分
	事後学修	挨拶・自己紹介を作文する	30分
3	Lektion 1 国名・専攻	国名と専攻についてドイツ語で理解し話す	
	この回の到達目標	国名と専攻について聞き取り話し綴りが書けるようになる。（SB0s①-④）	
	事前学修	CDで発音確認	30分
	事後学修	練習問題及び作文	30分
4	Lektion 2 職業	職業に関する表現の学修	
	この回の到達目標	職業に関するな表現を理解し、聞き取り、同じ場面を口頭及び作文で再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備	30分
	事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得・作文	30分
5	Lektion 2 国と国籍	国と国籍に関する表現の学修	
	この回の到達目標	国と国籍に関してに必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	会話練習と小テスト準備	30分
	事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得・作文	30分
6	Lektion 3 友達の紹介と数詞	友達の紹介と数詞の表現の学修	
	この回の到達目標	友達の紹介及び数詞の表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得・作文	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3 言語名	言語についての表現の学修	
	この回の到達目標	国・言語についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得・作文	30分
8	Lektion 4 レストランでの会話	レストランでの会話表現	
	この回の到達目標	レストランでの会話表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習。	30分
	事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得・作文	30分
9	Lektion 4 持ち物・色	持ち物と色の表現	
	この回の到達目標	持ち物と色についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得・作文	30分
10	Lektion 5 住まい・家具	住まいと家具についての表現 1	
	この回の到達目標	住まいと家具についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得・作文	30分
11	Lektion 5 値段を聞く	値段を聞く表現	
	この回の到達目標	値段を聞く表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得・作文	30分
12	Lektion 6 家族	家族についての表現	
	この回の到達目標	家族についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得・作文	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6 持ち物 2	持ち物についての表現 2	
	この回の到達目標	持ち物についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得・作文	30分
14	筆記試験・振り返り	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	試験の振り返り	30分
15	口述試験・まとめ	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	60分
	事後学修	試験の振り返り	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ ドイツ語総合読本【三訂版】	神竹道士	白水社	2024	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール (suzuki.mitsurull@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字と発音	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を説明できる。	
	事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。	30分
	事後学修	文字と発音の復習	30分
2	【単語と挨拶】	発音・単語	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まず基本単語を読むことができる。	
	事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。	10分
	事後学修	授業1回目～2回目の復習	50分
3	【動詞の現在人称変化】	規則変化、主語になる人称代名詞、動詞 sein、疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、動詞の基本変化とそれにとまなう事項を説明できる。	
	事前学修	授業1回目～2回目の復習	15分
	事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
4	【名詞の性数格】	名詞の性、冠詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、格変化の概略を説明することができる。	
	事前学修	授業1回目～3回目の復習	15分
	事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
5	【冠詞】	動詞 haben、補足疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、冠詞の変化を中心に格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～4回目の復習	15分
	事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
6	【名詞の複数形】	名詞の複数形	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、名詞の複数形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～5回目の復習	15分
	事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【冠詞類】	定冠詞類・不定冠詞類、否定文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定冠詞（類）・不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
	事前学修	授業1回目～6回目の復習	15分
	事後学修	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
8	【不規則変化動詞】	動詞 haben、補足疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、不規則変化動詞の活用ができる。	
	事前学修	授業1回目～7回目の復習	15分
	事後学修	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
9	【命令文】	命令、勧誘	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、命令・勧誘表現ができる。	
	事前学修	授業1回目～8回目の復習	15分
	事後学修	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
10	【人称代名詞の格】	人称代名詞の格変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、人称代名詞を格変化表が理解できる。	
	事前学修	授業1回目～9回目の復習	15分
	事後学修	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
11	【前置詞】	前置詞の格支配	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前置詞の目的語の格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～10回目の復習	15分
	事後学修	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
12	【話法の助動詞】	話法の助動詞の意味と語順、並列接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞を使った文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～11回目の復習	15分
	事後学修	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【未来の助動詞】	ドイツ語の未来形、zu 不定詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドイツ語で未来形を作った理由を説明できる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 2 回目の復習	15分
	事後学修	1 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【形容詞の格変化】	形容詞の用法と格変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、変化表を使って形容詞の格変化をさせることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 3 回目の復習	15分
	事後学修	1 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
15	【形容詞の名詞化】	名詞として使われる形容詞、序数詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞を名詞化させる理由を理解し、変化させることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 4 回目の復習	15分
	事後学修	1 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	河田 一郎	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	渡辺徳夫(他)	三修社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、時間を設ける。kawada.ichiroll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[ガイダンス]・導入講義	授業の進め方等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語文法の学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	[ドイツ語の発音について]	ドイツ語の基本的な発音、特有な発音について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
8	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
9	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
10	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
11	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
12	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[ヒアリング練習]	ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験・振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
初めてドイツ語を学ぶ方を対象とします。

【授業方法】
ドイツ語の初級文法を学習しながら、首都ベルリンについて知識を深め、学習した文法事項を応用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課2回のペースで読みます。文法を説明し、練習問題で確認し、会話や読み物で理解を深めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
日本語に訳してもらい、解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ベルリンに夢中	ヴォンデ、石井、保阪	同学社	2014年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4・5限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツについて・導入	導入	
	この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
	事前学修	プリントのクイズをやってくる	30分
	事後学修	プリントの発音一覧を音読する	30分
2	発音規則	第1課 発音	
	この回の到達目標	発音規則を把握する	
	事前学修	プリントを事前に一読する	30分
	事後学修	教科書第1課のDialogを音読してみる	30分
3	動詞の現在人称変化	Lektion 1 Das Brandenburger Tor 1	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を学ぶ	
	事前学修	1課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	1課の練習問題をやる	30分
4	ブランデンブルク門	Lektion 1 Das Brandenburger Tor 2	
	この回の到達目標	ブランデンブルク門について知る	
	事前学修	1課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	1課を復習する	30分
5	名詞の格変化	Lektion 2 Der Bundestag 1	
	この回の到達目標	名詞の格変化を学習する	
	事前学修	2課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	2課の練習問題をやる	30分
6	連邦議会	Lektion 2 Der Bundestag 2	
	この回の到達目標	連邦議会（旧帝国議会）議事堂について知る	
	事前学修	2課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	2課を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複数形	Lektion 3 Die Spree 1	
	この回の到達目標	名詞の複数形を学習する	
	事前学修	3課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	3課の練習問題をやる	30分
8	シュプレー川	Lektion 3 Die Spree 2	
	この回の到達目標	シュプレー川について知る	
	事前学修	3課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	3課を復習する	30分
9	不規則動詞	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 1	
	この回の到達目標	強変化動詞・不規則動詞の現在人称変化を学習する	
	事前学修	3課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	3課練習問題の1をやる	30分
10	命令形・人称代名詞	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 2	
	この回の到達目標	命令形、人称代名詞の格変化を学習する	
	事前学修	4課のDialogを訳してみる	30分
	事後学修	4課練習問題の2, 3をやる	30分
11	フンボルト大学	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 3	
	この回の到達目標	フンボルト大学について知る	
	事前学修	4課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	4課を復習する	30分
12	前置詞	Lektion 5 Der Potsdamer Platz 1	
	この回の到達目標	前置詞を学習する	
	事前学修	5課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	5課の練習問題をやる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポツダム広場	Lektion 5 Der Potsdamer Platz 2	
	この回の到達目標	ポツダム広場について知る	
	事前学修	5課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	5課を復習する	30分
14	前期のまとめ	教科書第1課～第5課	
	この回の到達目標	前期の学習を確かめる	
	事前学修	1～5課を振り返る	30分
	事後学修	1～5課を復習する	30分
15	解説・まとめ	前期の総括	
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	試験を振り返る	30分
	事後学修	試験を復習する	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	島崎 のぞみ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aも併せて履修すること。

【授業方法】		
この授業では、他の学習者と共に協働学習を行っていく予定です。 授業では、毎回新しい表現や語彙を学習することになりますが、練習問題や会話練習に取り組むことで表現できることを増やしていきます。 課が終わるごとに小テストを行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業では、毎回ペア・ワークやグループ・ワークを行いますので、積極的に参加してください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る						1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する						1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする						1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題へのフィードバックは授業内及びGoogle Classroomで行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリマ・プラス	(編著者) 藁谷郁美 他	朝日出版社	2016	教科書	必携
独和辞典				その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日昼休み・授業後 【問い合わせ先】 shimazaki.nozomi(at)nihon-u.ac.jp ※(at)は@マークに置き換えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス、挨拶表現・導入】	授業計画や成績評価等、授業の進め方について説明する。 簡単な挨拶表現を学習し、はじめの自己紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、アルファベートと発音の規則を理解し、簡単な挨拶と自己紹介をすることができる。 授業の目的、進め方、評価方法等を理解する。 簡単な挨拶をすることができる。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	学習した表現の習得・復習をしておく。	30分
2	Lektion 1 【アルファベート、発音の規則、挨拶と自己紹介(1)】	アルファベート、発音の規則、挨拶と自己紹介の表現を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、アルファベートと発音の規則を理解し、簡単な自己紹介をすることができる。	
	事前学修	教科書2ページのアルファベートの音声の聞き取りに挑戦しておく。 (音声トラック:6) 朝日出版社のHPより、音声をダウンロードすることができます。 (https://text.asahipress.com/free/german/primaplus/)	30分
	事後学修	重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
3	Lektion 1 【挨拶と自己紹介 2】	【表現】 相手との関係に応じたあいさつ、出身や居住地を述べる表現 【文法】 2人称の使い分け (Sieとdu) ・動詞の1人称と2人称の形・疑問詞	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、発音のルールを確認しながら、出身地や居住地の情報を加えた自己紹介をすることができる。	
	事前学修	教科書3ページを中心に、新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
4	Lektion 1 【あいさつと自己紹介(3)】	【表現】 趣味や好きなことを表わす動詞句 【文法】 mögen (～を好む) の人称変化と使い方 【発音】 つづりと発音 【学習事項の応用】 リーディング、リスニング	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、発音のルールを確認しながら、自己紹介に加えて好きなことを表現することができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
5	Lektion 1の小テスト Lektion 2 【大学生活 (1) 】	【表現】 専攻・学習科目・学習言語に関する動詞・名詞 【文法】 動詞の3人称形 【発音】 疑問文の発音とメロディー	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、大学生活で使用する表現をすることができる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
6	Lektion 2 【大学生活 (2) ・数字 (1) 】	【表現】 好きなこと (mögen) 、他者の紹介 【文法】 動詞の人称変化と3人称での表現 【発音】 文の発音とメロディー 【その他】 基本の数 (～20) と電話番号、年齢	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、電話番号を尋ねたり、他者を紹介する表現をすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 2 【大学生活（3）・数字（2）】	【表現】 学生生活に必要な持物（名詞） 【文法】 名詞の性と冠詞 【学習事項の応用】 リーディング、リスニング 【その他】 数（20～1000）	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、発音のルールを確認しながら、学生生活に必要な持ち物に関する表現をすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
8	Lektion 2 【リーディングとまとめ】 Lektion 3 【動物】	【表現】 ペット・動物を表わす名詞 【文法】 名詞の性と冠詞	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、発音のルールを確認しながら、リーディングに挑戦する。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
9	Lektion 2の小テスト Lektion 3 【好きな動物、好きなもの（1）】	【表現】 ペットの有無 【文法】 habenの人称変化、名詞の4格（目的格）と冠詞	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、ペットの有無や好きな動物に関する表現をすることができる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
10	Lektion 3 【好きな動物、好きなもの（2）】	【表現】 名前や出生地に関する表現の復習、所有冠詞「私の～」「あなたの～」 【文法】 疑問文の語順 【応用】 ペットや好きな動物、好きなものについてクラスでインタビュー	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、自己紹介を含め、持ち物やペットに関する情報などを交換するインタビューをすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
11	Lektion 3 【好きな動物、好きなもの（3）】	【表現】 動物やものの様態を表わす形容詞、色 【文法】 名詞の性とそれに応じた代名詞 【応用】 リーディング、リスニング	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、自己紹介を含め、持ち物やペットに関する情報などを交換するインタビューをすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
12	Lektion 3 【リーディングとまとめ】 Lektion 4 【1日のスケジュール（1）】	【文法】 人称代名詞と名詞、冠詞、1格と4格を復習 【表現】 数と時刻（12時間制／24時間制）	
	この回の到達目標	到達目標①、②、④に関連して、発音のルールを確認しながら、リーディングに挑戦する。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 3の小テスト Lektion 4 【1日のスケジュール（2）】	【表現】 1日の活動を表わす動詞表現 【文法】 文の語順・動詞の位置 【応用】 リーディング	
	この回の到達目標	到達目標①、②、④に関連して、発音のルールを確認しながら、自分の一日の活動を表現することができる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
14	Lektion 4 【スケジュールに関する表現】	【表現】 一週間の時間割、予定を尋ねるための疑問詞 【応用】 学校生活や一週間の予定などについて、これまで学習した表現を用いてインタビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、一週間の予定を表現することができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
15	【授業内試験と解説・まとめ】	授業内試験と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語順や疑問詞、動詞の変化、名詞と冠詞類と代名詞の変化について説明し、自分や第三者に関する情報を表現することができる。	
	事前学修	前期に学習した表現や語彙、文法を復習しておく。	30分
	事後学修	学習内容を振り返り、復習しておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】		
単語や短い文を発音しながら、ドイツ語の音と表現に慣れ、基本的なドイツ語の構造を理解することを目指します。日常会話などで使われる簡単な文章を発音してみるとともに、初歩的な文法を解説します。毎週の課題で練習問題を解いていただくことで、どの程度ドイツ語の表現が定着しているのかを確認しつつ進めていきます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回出される課題に取り組む。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一歩ずつー楽しいドイツ語ー Erste Schritte Deutsch für Anfänger	小川さくえ、片岡律子	同学社	2019	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等がある場合は授業後に直接か、メールで問い合わせること。(souma.daiki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	導入		授業方法の説明と、辞書の紹介、ドイツ語のアルファベートを確認。
	この回の到達目標	ドイツ語のアルファベートを発音できる。	
	事前学修	シラバスを読む。	30分
	事後学修	アルファベートの発音をさらしておく。	30分
2	ドイツ語の発音（あいさつと数字）		あいさつの表現と数字を通して、ドイツ語の発音を学ぶ。
	この回の到達目標	ドイツ語の特殊な発音に慣れる。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	あいさつと数字の復習をしておく。	30分
3	自己紹介1		教科書の例文（10ページ）をもとに自己紹介の表現を学ぶ。
	この回の到達目標	例文を通して、ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	人称代名詞の種類と、動詞の現在人称変化を復習しておく。	30分
4	自己紹介2		教科書の例文（12ページ）を通して、趣味や住所を答える表現を学ぶ。
	この回の到達目標	疑問文の語順と、注意が必要な動詞の人称変化を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	seinやarbeitenなど、注意が必要な動詞の人称変化を覚えておく。	30分
5	知り合いを紹介する		教科書の例文（16ページ）を通して、知り合いを紹介する表現を学ぶ。
	この回の到達目標	不規則な現在人称変化を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	不規則変化する動詞を復習しておく。	30分
6	予定を聞く		教科書の例文（18ページ）を通して、予定を聞く表現と命令形を学ぶ。
	この回の到達目標	変化に注意が必要な動詞の人称変化と命令形を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	haben、werden、wissenの変化と命令形の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	物を紹介する	教科書の例文（22ページ）を通して、ドイツ語の格を学ぶ。	
	この回の到達目標	格の概念と、定冠詞、不定冠詞の変化を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	定冠詞と不定冠詞の変化を復習する。	30分
8	家族を紹介する	教科書の例文（24ページ）を通して、家族を紹介する表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類、人称代名詞の3格、4格を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	定冠詞類と所有冠詞の変化を復習する。	30分
9	パンを買う	教科書の例文（28ページ）を通して、買い物の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	名詞の複数形、値段の読み方を習得する。	
	事前学修	数字の復習をしておく。	30分
	事後学修	値段の読み方を復習しておく。	30分
10	時間を聞く	教科書の例文（30ページ）を通して、時間を聞く表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	時間や西暦の読み方、非人称のesを使った熟語表現、月名、曜日を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	時間の表現を復習しておく。	30分
11	道を尋ねる	教科書の例文（34ページ）を通して、道を尋ねる表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	前置詞（2格、3格、4格、3格&4格支配）の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	教科書36ページの例文を訳しておく。	30分
12	一日の出来事	教科書の例文（36ページ）を通して、一日の出来事紹介する表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	前置詞と定冠詞の融合形、疑問文への答え方を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	ja、doch、neinの使い方を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	デパートでの会話	教科書の例文（40ページ）を通して、商品の感想を伝える表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	形容詞の格変化を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	形容詞の語尾変化を復習しておく。	30分
14	前期テスト	前期の文法事項が定着しているかを確認するために、テストを実施する。時間に余裕があれば、テスト問題の解説もする。	
	この回の到達目標	前期の文法事項を復習することで、定着させる。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	テストで自信がなかった箇所を復習しておく。	30分
15	前期のふり返り	前期に学んだ内容をふり返る。	
	この回の到達目標	前期のまとめをすることで、後期への橋渡しをする。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	前期のおさらいをしておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	前川 一貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
日常の場面を想定して、会話文を作成したり、会話のロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：日常的な会話文の作成	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の作成など	0	13	13	14							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	28	28	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1 (シュピッツェ！1)	新倉真矢子、正木晶子、中野有希子	朝日出版社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語のあいさつ	授業の進め方 あいさつの発音	
	この回の到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 シーンに応じて、あいさつができるようにする。	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	あいさつを言えるようにし、スペルも覚える。	60分
2	Lektion 1 名前	名前を教えあえる。	
	この回の到達目標	自分の名前を言える。相手の名前が分かる。スペルの確認ができる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
3	Lektion 1 国名、専攻	出身と専攻について話せる。	
	この回の到達目標	自分の出身や専攻が言える。いろいろな国名や専攻を表す単語が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
4	Lektion 2 職業	職業について話せる。	
	この回の到達目標	自分の職業が言える。いろいろな職業を表す単語が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
5	Lektion 2 国籍	国籍について話せる。	
	この回の到達目標	自分の国籍が言える。いろいろな国籍を表す単語が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
6	Lektion 3 友達の紹介	友達の名前、出身、職業などが言える。	
	この回の到達目標	三人称の人称代名詞を主語にして文が作れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3 数	数字が分かる。	
	この回の到達目標	ドイツ語の数の表し方を理解し、発音できるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	数字を覚える。	60分
8	Lektion 4 レストランで注文	レストランでの会話	
	この回の到達目標	メニューが読める。注文ができる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
9	Lektion 4 レストランでお会計	レストランでの会話	
	この回の到達目標	チップについて理解する。お会計ができる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
10	Lektion 5 家具を買う	電話で中古の家具を購入できる。	
	この回の到達目標	電話の受け答えができる。家具の名前を覚える。値段を尋ねられる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
11	Lektion 5 部屋探し	内見の日取りを決められる。	
	この回の到達目標	電話の受け答えができる。部屋の名前を覚える。物件について質問できる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
12	Lektion 6 家系図を書く	家族・親戚を紹介できる。	
	この回の到達目標	親族を表す単語を覚える。家族・親戚の名前、職業、年齢が書ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6 家族の紹介	家族・親戚を紹介できる。	
	この回の到達目標	所有冠詞を用いた文で、家族・親戚の名前、職業、年齢が言える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
14	口頭試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜日4時間目 黒瀬志保先生の「ドイツ語基礎文法」を必ず同時履修すること

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、テキストの翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2021 2022	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。辞書は初回の授業で紹介する。電子辞書は使用不可。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
水5時限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
	事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
	事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
	事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	動詞の基本的な変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
	事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
	事後学修	lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	sein habenの変化 定形2位の原則	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
	事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
	事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げることができる。	
	事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
	事後学修	格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	2格の位置	小テストを実施する。 学者が間違いやすい、2格を取り上げ、文構造を説明する。	初
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、2格名詞を含んだ平易な文章を作ることができる。	
	事前学修	2格名詞に注意して、文章を訳し、実際に書いてみる。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
	事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	母音交替動詞の変化	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。	
	事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみて、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
10	人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
	事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	定冠詞類と不定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
	事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
12	疑問代名詞、疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類と不定冠詞類、そして疑問詞を含んだ平易な文章を訳し、作成することができる。	
	事前学修	疑問代名詞の格変化と男性、中性の定冠詞の格変化とを比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、練習問題を何度も発音し、覚えるまでノートに書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞について取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「が・の・に・を」の4つの格を補うための品詞、前置詞を用いることで、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	前置詞の意味だけでなく、どの前置詞が何格と結びつくかをしっかりと覚えておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
	事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
	事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
	事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	前川 一貴	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
会話文の読解：グループワークで一文ずつ内容を読み取り、そのあと音読の練習をする。 会話練習：授業で習う表現を用いながら、日常の場面に即したロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：教科書の会話文から出題	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の和訳、会話文の作成など		13	13	14							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	28	28	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BUMERANG RE (ブーメラン・エルエー)	小野寿美子、中川明博、西巻丈児	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語のあいさつ	授業の進め方 あいさつの発音	
	この回の到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 シーンに応じて、あいさつができるようにする。	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	あいさつを言えるようにし、スペルも覚える。	60分
2	Lektion 1 ミュンヘンで自己紹介	初対面の会話が分かる。	
	この回の到達目標	名前、出身、住んでいる場所についての会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
3	会話プリント①「名前、出身、住んでいる場所」	初対面の会話ができる。	
	この回の到達目標	あいさつやつなぎの言葉も入れて、出会いから別れまでスムーズに話せるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
4	Lektion 2 ザルツブルクの美術館で	職業や専攻に関する会話が分かる。	
	この回の到達目標	職業や専攻についての会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
5	会話プリント②「職業と専攻」	職業や専攻に関する会話ができる。	
	この回の到達目標	自分の職業や専攻が言える。いろいろな職業・専攻を表す単語が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
6	Lektion 3 ヴィーン市街で	場所を尋ねる会話が分かる。	
	この回の到達目標	場所に関する会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話プリント③「趣味を尋ねる」	趣味に関する会話ができる。	
	この回の到達目標	自分の趣味が言える。いろいろな趣味を表す単語が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
8	Lektion 4 ハンブルクで買い物	買い物の会話が分かる。	
	この回の到達目標	買い物の会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
9	会話プリント④「感想をたずねる」	身のまわりにあるものの感想を言いあえる。	
	この回の到達目標	身のまわりのものの単語を覚える。感想を伝える表現を身に付ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
10	Lektion 5 前置詞	文法事項に関する確認	
	この回の到達目標	前置詞の格支配について理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
11	Lektion 5 「バーゼルで」	道案内の会話が分かる。	
	この回の到達目標	道案内の会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
12	会話プリント⑤「趣味を尋ねる 2」	頻度・趣味歴について話せる。	
	この回の到達目標	日・週・月・年当たりの回数や趣味に取り組んでいる年数を言えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	期末試験対策	口頭試験の模擬、会話文の総復習	
	この回の到達目標	前期の内容を概観し、試験に備える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	試験勉強	60分
14	口頭試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。和独辞書必携。予習は必須。欠席しないこと。ドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
ドイツ語基礎表現Aの続き行う。発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した表現を使ってドイツ語で自分のことを表現する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。		20	20	20							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は次の授業で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ナビゲーション3.0	前田良三	朝日出版社	2023年		
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で。授業中でも質問を受け付ける。kawakami.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習		前期に学習した動詞と名詞の変化の確認、単語の発音について復習し、練習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した重要動詞を確認し、文を作ることができる。	
	事前学修	前期に練習した単語の発音を復習すること。	30分
	事後学修	数字の読み方を確実に覚えること。 動詞の人称変化を復習し、確実に覚えること。	30分
2	前置詞		5課 前置詞の使い方と前置詞と定冠詞の融合形について学習する。 重要表現練習を行う。行き方を尋ねる表現練習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の格支配、意味を理解し、説明することができる。 会話を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P27の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	前置詞の格支配と使い方を復習すること。	30分
3	動詞・形容詞の前置詞の格支配		5課 動詞・形容詞の前置詞の格支配 前置詞と代名詞の融合形について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞・形容詞の前置詞の格支配を理解し、説明することができる。 会話を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P29の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。	30分
4	話法の助動詞		6課 話法の助動詞の変化とその構文、未来形について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、話法の助動詞の変化と意味・助動詞構文を理解し、説明することができる。助動詞を使った文を作ることができる。会話を音読し、訳すことができる。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P33の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	話法の助動詞の変化と意味を確実に覚える。重要表現練習を復習する。	30分
5	分離動詞とその構文		6課 分離動詞とその構文について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞とその構文について理解し、説明することができる。電車の乗り方について表現することができる。会話を音読し、訳すことができる。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P35の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	分離動詞とその構文について復習する。 重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。	30分
6	接続詞と語順		接続詞の種類と構文について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、従属の接続詞と副文について理解し、説明することができる。副文を使って表現することができる。会話を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P35の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習と接続詞の問題を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト講読		テキスト講読P36一語学コースでの口頭発表ーテキストの発音練習、訳すことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文の構造を理解し、動詞を不定詞にし、辞書を正確に引くことができる。自分のスケジュールをドイツ語で表現できる。別冊の問題を解答できる。		
	事前学修	テキスト講読P36の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	テキストの重要単語と単語を復習すること。 重要表現練習を復習してくること。		30分
8	再帰表現について		8課 再帰代名詞と再帰動詞について学習する。自分の興味がある事について表現することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、再帰動詞を辞書で調べることができる。チェックポイントの問題を解答できる。		
	事前学修	会話文練習P45の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。		30分
9	zu不定詞		8課 課 zu不定詞について学習する。自分の予定について表現することができる。	
	この回の到達目標	zu不定詞句の作り方、用法について理解し、説明することができる。 会話文を音読し、訳すことができる。チェックポイントの問題を解答できる。		
	事前学修	会話文練習P47の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現練習とzu不定詞句についてを復習する。		30分
10	動詞の三基本形と過去形		7課 動詞の三基本形と過去形について学習する。過去形の文で表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の三基本形と過去形の人称変化について理解し、説明することができる。物語を読むことができる。		
	事前学修	重要動詞の現在形の人称変化を復習してくること。		30分
	事後学修	重要動詞の三基本形を確実に覚える。		30分
11	現在完了形		7課 現在完了形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在完了形の文について理解し、説明することができる。自分の過去の出来事を表現することができる。		
	事前学修	sein , habenの人称変化と過去分詞を復習しておくこと。会話文練習P41の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現と現在完了形の文を復習する		30分
12	テキスト講読		テキスト講読P48ーサッカー観戦ーテキストの発音練習、訳すことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文の構造を理解し、動詞を不定詞にし、辞書を正確に引くことができる。テキストP50の発音練習と訳を行う。過去形の人称変化、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、説明することができる		
	事前学修	テキスト講読P48の訳と発音練習をしてくること。		30分
	事後学修	テキストの重要単語と単語を復習すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	形容詞	9課 形容詞の付加語的用法について学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化について理解し、説明することができる。会話文を音読し、訳することができる。チェックポイントの問題を解答できる。	
	事前学修	会話文練習P51の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで後期学習した文法事項の問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、それに対応する問題を解答することができる。	
	事前学修	後期学習した文法と重要表現を復習してくること。	30分
	事後学修	出来なかった箇所を復習してくること。重要表現と重要単語を覚える。	30分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、説明することができる。	
	事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を復習してくること。	60分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	2	3	3	2							10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	3	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	26	26	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プーメラン・エルエー	小野寿美子	朝日出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日9:00～10:30 kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、変化できる。	
	事前学修	前期範囲のテキストを音読しておくこと。	30分
	事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第6課 話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学修する。助動詞構文では本動詞が後置されることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、本動詞に様々なニュアンスを付ける話法の助動詞について理解し、的確に使い分けることができる。	
	事前学修	不定詞と定動詞の違いについて確認しておくこと。 教科書50ページを予習しておくこと。	30分
	事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
3	副文（従属文）、複合動詞について	副文（従属文）は主文に含まれた文であり、定動詞後置になることを学修する。分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、主文と副文を判別することができる。到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	平叙文、疑問文の定動詞の位置を今一度確認しておくこと。	30分
	事後学修	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。	30分
4	練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく。長文の構造を把握すること（どれが主文でどれが従属文かを理解すること）を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
	事前学修	定動詞の位置に注意して（主文なのか従属文なのかを意識して）教科書53ページの問題を予習してくること。	30分
	事後学修	主文と従属文からなる複文の構造に慣れておくこと。	30分
5	第7課 形容詞の用法	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。形容詞を名詞化する方法とその用法、特に多用される中性名詞化について学修する。また、形容詞は副詞としても使われることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、述語的用法と付加語的用法の違いを理解できる。よく使われる形容詞を用いて、人や事物の性質・状態を説明できる。	
	事前学修	教科書58ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。	30分
	事後学修	教科書40ページを参考によく使われる形容詞を反対語とペアで覚えること。	30分
6	練習問題	付加語形容詞等の辞書の引き方に習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。身近なことに关して比較の文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書61ページの問題を予習してくること。	30分
	事後学修	比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第8課 動詞の3基本形	3基本形とは何かについて学修する。また、過去分詞の様々な用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、複合動詞も含め、あらゆる動詞の3基本形を作ることができる。分詞は形容詞であることを理解し、付加語形容詞や名詞化として用いることができる。	
	事前学修	不規則動詞変化表の読み方をもう一度確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書66ページの練習で3基本形の出し方に習熟すること。	30分
8	第8課 完了形	完了形の作り方とその用法について学修する。完了形も枠構造になることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特に日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。2種類の助動詞を適切に選ぶことができる。	
	事前学修	haben と sein の現在人称変化を復習しておくこと。完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。	30分
	事後学修	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてみること。	30分
9	練習問題	特に日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞・非分離動詞の過去分詞から、容易に不定詞を導き出すことができる。	
	事前学修	教科書69ページの練習問題を助動詞に注意しながら解いてくること。	30分
	事後学修	過去分詞から不定詞を容易に導き出せるように、辞書の引き方も含め、教科書の70、72ページのテキストを読み練習すること。	30分
10	第9課 過去人称変化について	過去形の作り方と用法、および現在完了形との違いについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、過去形の文章を作ることができる。	
	事前学修	現在人称変化をもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
11	練習問題	不規則動詞の過去形から不定詞を見つけ出すことに習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、過去形の文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書76、77ページの練習問題を予習してくる。動詞は必ず3基本形を調べておくこと。	30分
	事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを覚えておくこと。	30分
12	第10課 関係代名詞	関係文も従属文であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、適切な関係代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	従属文の定動詞の位置について確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書83ページの練習問題で関係文に慣れておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	zu不定詞（句）について	zu不定詞（句）の作り方と用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、zu不定詞句を用いて自分の趣味を紹介することができる。	
	事前学修	不定詞と定動詞の違いについてもう一度確認しておくこと。	30分
	事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分
14	練習問題	動詞の位置に注意しながら問題を解いていく。不定関係文章について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の先行詞に対して関係文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書85ページの練習問題を関係代名詞の格に注意しながら予習してくること。	30分
	事後学修	関係代名詞のえらび方を復習しておくこと。	30分
15	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
	事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜3時限目ドイツ語基礎文法A（小笠原）を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。

【授業方法】
練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明	
	この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	教材準備	30分
2	Lektion 7 趣味・余暇活動	趣味・余暇活動に関する表現の学修	
	この回の到達目標	趣味・余暇活動に関する表現を理解し、聞き取り、同じ場面を口頭及び作文で再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得・作文	30分
3	Lektion 7 頻度の表現・曜日	頻度と曜日に関する表現の学修	
	この回の到達目標	頻度と曜日について聞き取り話し綴りが書けるようになる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得・作文	30分
4	Lektion 8 贈り物	贈り物に関する表現の学修	
	この回の到達目標	贈り物に関する表現を理解し、聞き取り、同じ場面を口頭及び作文で再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得・作文	30分
5	Lektion 8 身につけるもの	身につけるものに関する表現の学修	
	この回の到達目標	身につけるものに関してに必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	会話練習と小テスト準備	30分
	事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得・作文	30分
6	Lektion 9 ルの受付	予定の取り決め・ホテルの受付に関する表現の学修	
	この回の到達目標	予定の取り決め・ホテルの受付に関する表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得・作文	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9 予定・規則・願望	予定・規則・願望についての表現の学修	
	この回の到達目標	予定・規則・願望についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得・作文	30分
8	Lektion 10 街の中・道案内	街の中・道案内に関する会話表現	
	この回の到達目標	街の中・道案内に関する会話表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得・作文	30分
9	Lektion 10 交通手段	交通手段に関する会話表現	
	この回の到達目標	交通手段についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得・作文	30分
10	Lektion 11 時刻表現	時刻についての表現 1	
	この回の到達目標	時刻についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得・作文	30分
11	Lektion 11 1日の行動	1日の行動に関する表現	
	この回の到達目標	1日の行動に関する表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得・作文	30分
12	Lektion 12 旅行・週末	旅行・週末についての表現	
	この回の到達目標	旅行・週末についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得・作文	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 1 2 天候・過去の出来事	天候・過去の出来事についての表現 2	
	この回の到達目標	天候・過去の出来事についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、会話練習	30分
	事後学修	Lektion 1 2 練習問題・語彙習得・作文	30分
14	筆記試験・振り返り	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	試験の振り返り	30分
15	口述試験・まとめ	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	60分
	事後学修	試験の振り返り	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ ドイツ語総合読本【三訂版】	神竹道士	白水社	2024	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール (suzuki.mitsurull@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【前期学習事項の確認】	ガイダンス、前期学習事項の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前期学習事項の重要な点を確認し、弱点を克服する。	
	事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく。	30分
	事後学修	授業1回目の復習	30分
2	【比較】	形容詞・副詞の比較変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞・副詞を比較変化させることができる。	
	事前学修	前期学習事項・授業第1回目の復習	10分
	事後学修	授業1回目～2回目の復習	50分
3	【比較表現】	非人称	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、非人称表現を理解することができ、重要なものを使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～2回目の復習	15分
	事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
4	【分離動詞・非分離動詞】	分離動詞・非分離動詞の区別	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞・非分離動詞を使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～3回目の復習	15分
	事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
5	【3基本形】	不定形・過去基本形・過去分詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～4回目の復習	15分
	事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
6	【完了形】	現在完了形	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現在完了形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～5回目の復習	15分
	事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【従属接続詞】	副文と従属接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、副文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～6回目の復習	15分
	事後学修	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
8	【再帰動詞】	再帰動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、再帰動詞の構造を説明できる。	
	事前学修	授業1回目～7回目の復習	15分
	事後学修	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
9	【再帰表現】	再帰表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、再帰表現を使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～8回目の復習	15分
	事後学修	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
10	【定関係代名詞】	定関係代名詞、副文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定関係代名詞の変化をさせることができる。	
	事前学修	授業1回目～9回目の復習	15分
	事後学修	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
11	【指示代名詞】【不定関係代名詞】	指示代名詞と定冠詞の関係、不定関係代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、指示代名詞の格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～10回目の復習	15分
	事後学修	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
12	【動作受動】	動作受動とその時制	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～11回目の復習	15分
	事後学修	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【自動詞の受動】 【状態受動】	英語の受動文との違い	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文を作ることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 2 回目の復習	15分
	事後学修	1 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【接続法概説】	接続法の意味	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、接続法の意味を説明できる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 3 回目の復習	15分
	事後学修	1 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
15	【接続法の形態】	接続法第 I 式、接続法第 II 式	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、日常的な接続法を使うことができる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 4 回目の復習	15分
	事後学修	1 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	河田 一郎	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	渡辺徳夫(他)	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、時間を設ける。kawada.ichiroll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[分離動詞について]	分離動詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3基本形について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	[現在完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	[現在完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[zu不定詞について]	zu不定詞について学び、和訳することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験・振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
初めてドイツ語を学ぶ方を対象とします。

【授業方法】
ドイツ語の初級文法を学習しながら、首都ベルリンについて知識を深め、学習した文法事項を応用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課2回のペースで読みます。文法を説明し、練習問題で確認し、会話や読み物で理解を深めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
日本語に訳してもらい、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ベルリンに夢中	ヴォンデ、石井、保阪	同学社	2014年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館１階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜３・４・５限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	冠詞類・導入	Lektion 6 Die Currywurst 1	
	この回の到達目標	冠詞類の格変化を学習する	
	事前学修	6課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	1課の練習問題をやる	30分
2	カレーソーセージ	Lektion 6 Die Currywurst 2	
	この回の到達目標	カレーソーセージについて知る	
	事前学修	6課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	6課を復習する	30分
3	複合動詞	Lektion 7 Die Berliner Philharmonie 1	
	この回の到達目標	複合動詞の現在人称変化を学習する	
	事前学修	7課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	7課の練習問題の1をやる	30分
4	接続詞	Lektion 7 Die Berliner Philharmonie 2	
	この回の到達目標	接続詞を学習する	
	事前学修	7課のDialogを訳してみる	30分
	事後学修	7課の練習問題の2をやる	30分
5	ベルリンフィル	Lektion 7 Die Berliner Philharmonie 3	
	この回の到達目標	ベルリンフィルについて知る	
	事前学修	7課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	7課を復習する	30分
6	話法の助動詞	Lektion 8 Tempelhof 1	
	この回の到達目標	話法の助動詞の現在人称変化を学習する	
	事前学修	8課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	8課の練習問題をやる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テンペルホーフ空港跡地	Lektion 8 Tempelhof 2	
	この回の到達目標	テンペルホーフ空港跡地について知る	
	事前学修	8課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	8課を復習する	30分
8	動詞の3基本形	Lektion 9 Die Berliner Mauer1	
	この回の到達目標	動詞の3基本形の作り方を学習する	
	事前学修	9課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	9課の練習問題の1をやる	30分
9	動詞の過去人称変化	Lektion 9 Die Berliner Mauer 2	
	この回の到達目標	動詞の過去人称変化を学習する	
	事前学修	8課のDialogを訳してみる	30分
	事後学修	8課の練習問題の2をやる	30分
10	ベルリンの壁	Lektion 9 Die Berliner Mauer 3	
	この回の到達目標	ベルリンの壁について知る	
	事前学修	9課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	8課を復習する	30分
11	現在完了	Lektion 10 Die Museumsinsel 1	
	この回の到達目標	現在完了を学習する	
	事前学修	10課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	10課の練習問題をやる	30分
12	博物館島	Lektion 10 Die Museumsinsel 2	
	この回の到達目標	博物館島について知る	
	事前学修	10課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	10課を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	形容詞の格変化	Lektion 11 Das Holocaust-Mahnmal 1	
	この回の到達目標	形容詞の格変化を学習する	
	事前学修	11課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	11課の練習問題の1をやる	30分
14	後期のまとめ	教科書第6課～第11課	
	この回の到達目標	後期の学習を確かめる	
	事前学修	6～11課を振り返る	30分
	事後学修	6～11課を復習する	30分
15	解説・まとめ	後期期の総括	
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	試験を振り返る	30分
	事後学修	試験を復習する	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	島崎 のぞみ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bも併せて履修すること。

【授業方法】		
この授業では、他の学習者と共に協働学習を行っていく予定です。 授業では、毎回新しい表現や語彙を学習することになりますが、練習問題や会話練習に取り組むことで表現できることを増やしていきます。 課が終わるごとに小テストを行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業では、毎回ペア・ワークやグループ・ワークを行いますので、積極的に参加してください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題へのフィードバックは授業内及びGoogle Classroomで行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリマ・プラス	(編著者) 藁谷郁美 他	朝日出版社	2016	教科書	必携
独和辞典				その他	任意
備考	おすすめの独和辞典 『アクセス独和辞典』三修社，『アポロン独和辞典』同学社，『クラウン独和辞典』三省堂				

【オフィスパワー】
金曜日昼休み・授業後 【問い合わせ先】shimazaki.nozomi(at)nihon-u.ac.jp ※(at)は@マークに置き換えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、前期の復習・導入	授業計画や成績評価等、授業の進め方について説明する。 前期に学習した内容を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、アルファベートと発音の規則を理解し、簡単な挨拶と自己紹介をすることができる。 授業の目的、進め方、評価方法等を理解する。 前期に学習した内容を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	学習した表現の習得・復習をしておく。	30分
2	Lektion 5 【趣味と余暇の過ごし方（1）】	【表現】 余暇活動・趣味を表わす動詞表現（1） 【文法】 不規則な動詞の変化 【応用】 趣味に関するリーディング	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、趣味や余暇の過ごし方について説明することができる。	
	事前学修	重要な定型表現のつづり、音を覚える。	30分
	事後学修	新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
3	Lektion 5 【趣味と余暇の過ごし方（2）】	【表現】 余暇活動・趣味を表わす動詞表現（2） 【文法】 分離動詞 【応用】 リスニング、リーディング	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、分離動詞を使いこなして余暇の活動について紹介することができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
4	Lektion 5 【趣味と余暇の過ごし方（3）】	【表現】 何をすることができるか 【文法】 話法の助動詞（できる）können 【応用】 Lektion 5の復習として、練習問題等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、自分やほかの人ができることについて質疑応答・紹介することができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
5	Lektion 5の小テスト Lektion 6 【家族（1）】	【表現】 家族関係を表わす名称・左右前後の表現 【文法】 所有冠詞（mein わたしの） 【発音】 母音・子音の適切な発音 【応用】 前期に学んだ表現を応用して家族を紹介する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、家族関係を示す語を使い、写真を見て紹介することができる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
6	Lektion 6 【家族（2）】	【表現】 家族関係を表わす名称 【文法】 所有冠詞 【発音】 母音・子音の適切な発音 【応用】 家族紹介のリスニング、リーディング	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、家族紹介の聞き取りで、続柄や年齢、居住地などを理解できる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 6 【家族（3）・職業】	【表現】 職業 【文法】 名詞の男性形と女性形 【発音】 名詞のアクセント 【応用】 ドイツ語圏の家族のあり方に関するリーディング	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、発音のルールを確認しながら、職業に関する質疑応答、自分の夢の職業に関する紹介をすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
8	Lektion 6 【前期に学習した語彙を使った応用】 まとめ Lektion 8 【住居と日常生活（1）】	【表現】 部屋にあるもの（名詞） 【応用】 これまでに学習した語彙を使い、所有冠詞や形容詞、物の値段などの表現と組み合わせたのスピーキング練習	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、これまでに学習した語彙と表現を使い、応用表現に挑戦する。	
	事前学修	前期に学習した語彙を復習し、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。（名詞の性も）	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
9	Lektion 6の小テスト Lektion 8 【住居と日常生活（2）】	【表現】 部屋にあるもの（名詞）と位置関係を表わす語（前置詞） 【文法】 前置詞と名詞の格 【発音】 適切な早さと区切り 【応用】 自分の部屋を紹介する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、物の位置関係を表現できる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
10	Lektion 8 【住居と日常生活（3）】	【表現】 ものの位置関係・相手への依頼 【文法】 前置詞と名詞の格・命令文 【発音】 命令や依頼の発話のメロディー	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、相手に依頼することができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
11	Lektion 8 【住居と日常生活（4）】	【表現】 日常の用事・義務、頻度 【文法】 話法の助動詞（～しなければならない） müssen 【発音】 適切な早さと区切り	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、日常生活での自分の活動（義務）について紹介し、他の人にも尋ねることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
12	Lektion 8 【住居と日常生活（5）】 まとめ	【表現】 物の位置関係・日常の用事・義務、気分を表す形容詞 【応用】 日常生活についてクラスでインタビュー・作文・読解	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、発音のルールを確認しながら、好きな食べ物について紹介することができる。	
	事前学修	小テスト準備 新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 8の小テスト Lektion 9 【食生活（1）】	【表現】 飲料・食品の名称（名詞）・好きの度合い 【文法】 動詞 essenの人称変化 【発音】 文のメロディー 【応用】 好きな食べ物、飲物と食生活についてインタビューする	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、学食のメニューを読み解くことができ、郷土料理についての知識を深めることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
14	Lektion 9 【食生活（2）】 まとめ	【表現】 飲食店での注文・価格（数字の復習）、ja/nein/doch 【発音】 適切な早さと区切り 【応用】 飲食店で注文する会話の練習	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④に関連して、既習の数字を用いて飲食店での注文をすることができる。	
	事前学修	新規語彙を調べ、発音できるように練習するとともに語彙を覚えておく。	30分
	事後学修	新規語彙と重要な定型表現のつづり、音を覚える。 新しく学んだ語・表現や文のルールを理解し、応用できるようにするための練習問題に取り組む。	30分
15	【授業内試験と解説・まとめ】	授業内試験と解説	
	この回の到達目標	達成目標①、②、③、④に関連して、これまでの学習内容について振り返ることができる。	
	事前学修	後期に学習した表現や語彙、文法を復習しておく。	30分
	事後学修	学習内容を振り返り、復習しておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】
単語や短い文を発音しながら、ドイツ語の音と表現に慣れ、基本的なドイツ語の構造を理解することを目指します。日常会話などで使われる簡単な文章を発音してみるとともに、初歩的な文法を解説します。後期は、少し長めの文章を読んでいく予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回出される課題に取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一歩ずつー楽しいドイツ語ー Erste Schritte Deutsch für Anfänger	小川さくえ、片岡律子	同学社	2019	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等がある場合は授業後に直接か、メールで問い合わせること。(souma.daiki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入	前期の復習	
	この回の到達目標	形容詞の変化等、前期の内容を思い出す。	
	事前学修	前期の内容を復習しておく。	30分
	事後学修	形容詞の変化を復習しておく。	30分
2	メールの書き方と家族を紹介する表現 ²	教科書の例文（42ページ）を通して、メールの書き方や家族を紹介する表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	形容詞・副詞の比較級と最高級、および序数を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	比較級、最高級の語尾変化を復習しておく。	30分
3	Paul、体調を崩す	教科書の例文（46ページ）をもとに、体調不良を伝える表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	話法の助動詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	話法の助動詞の用法を復習しておく。	30分
4	Emma、夢を語る	教科書の例文（49ページ）を通して、自分の夢を伝える表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	未来形とzu不定詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	zu不定詞の用法を復習しておく。	30分
5	週末の予定を話し合う	教科書の例文（52ページ）を通して、週末の予定を話し合う表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	分離動詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	分離動詞の用法を復習しておく。	30分
6	Paul、いとこの結婚式に参加する	教科書の例文（54ページ）を通して、予定を伝える表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	従属の接続詞と並列の接続詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	従属の接続詞の用法を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	動詞の三基本形（過去形）		動詞の三基本形、特に過去形の用法を学ぶ。
	この回の到達目標	ドイツ語の三基本形を覚えるとともに、過去形の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	20分
	事後学修	教科書の例文（58ページ）を訳しておく。	45分
8	動詞の三基本形（完了形）		ドイツ語の完了形の用法を学ぶ。
	この回の到達目標	ドイツ語の完了形の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	20分
	事後学修	教科書の例文（60ページ）を訳しておく。	45分
9	受動態		ドイツ語の受動態を学ぶ。
	この回の到達目標	ドイツ語の受動態を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	20分
	事後学修	教科書の例文（64ページ）を訳しておく。	45分
10	再帰代名詞、再帰動詞		再帰代名詞の用法と再帰動詞を学ぶ。
	この回の到達目標	再帰動詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	再帰動詞を復習しておく。	30分
11	関係代名詞、不定関係代名詞		関係代名詞の用法を学ぶ。
	この回の到達目標	関係代名詞の用法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	20分
	事後学修	教科書の例文（66ページ）を訳しておく。	50分
12	接続法1式		接続法1式の用法を学ぶ。
	この回の到達目標	間接話法、要求話法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	接続法1式の変化、用法を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法2式	接続法2式の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	非現実話法を習得する。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	接続法の動詞の変化、用法を復習しておく。	30分
14	後期テスト	後期の文法事項が定着しているかを確認するために、テストを実施する。時間に余裕があれば、テスト問題の解説もする。	
	この回の到達目標	後期の文法事項を復習することで、定着させる。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	テストで自信がなかった箇所を復習しておく。	30分
15	後期のふり返り	後期に学んだ内容をふり返る。	
	この回の到達目標	前期のまとめをすることで、後期への橋渡しをする。	
	事前学修	授業の復習をしておく。	30分
	事後学修	後期のおさらいをしておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	前川 一貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
日常の場面を想定して、会話文を作成したり、会話のロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：日常的な会話文の作成	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の作成など	0	13	13	14							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	28	28	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1 (シュピッツェ！1)	新倉真矢子、正木晶子、中野有希子	朝日出版社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	授業の進め方 ドイツ語の感覚を取り戻す。	
	この回の 到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 これまでに身に付けた会話表現を思い出す	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	あいさつを言えるようにし、スペルも覚える。	60分
2	Lektion 7 趣味	趣味について話せる。	
	この回の 到達目標	自分の趣味が言える。ほかのいろいろな趣味を表す言葉が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
3	Lektion 7 頻度の表現	頻度について話せる。	
	この回の 到達目標	日・週・月・年当たりの回数を言えるようにする	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
4	Lektion 8 贈り物	プレゼント選びができる。	
	この回の 到達目標	友人の誕生日に何を贈るのかについて話せる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
5	Lektion 8 品物選び	品物の感想を言える。	
	この回の 到達目標	どちらの品物のほうがいいのかについて話しあえる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
6	Lektion 9 ホテルの予約	ホテルでの受付の対応ができる。	
	この回の 到達目標	宿泊日数や部屋のタイプ、バス・シャワー、値段などについて聞ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9 ホテル探し	インターネットで泊まりたいホテルを見つける。	
	この回の到達目標	部屋の情報をまとめられる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	数字を覚える。	60分
8	Lektion 10 建物の場所	建物の場所を説明できる。	
	この回の到達目標	建物の単語を覚える。前置詞を用いて場所が言える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
9	Lektion 10 道案内	道案内ができる。	
	この回の到達目標	道を進む、曲がるといった表現を覚える。どこに何が見えるのかを説明できるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
10	Lektion 11 開館・閉館時間	開館・閉館時間について尋ねられる。	
	この回の到達目標	時刻の表現が分かる。観光名所が開いている時間を調べられる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
11	Lektion 11 観光予定	観光予定が立てられる。	
	この回の到達目標	観光名所で何をするか、どの順番で訪れるのかを文章にできる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
12	Lektion 12 週末にしたこと	週末にしたことについて話せる。	
	この回の到達目標	現在完了形を用いて、過去にしたことを言えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12 週末の出来事	週末にしたことを文章にできる。	
	この回の到達目標	さまざまな過去の表現を身に付ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
14	口頭試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜4時間目 黒瀬志保先生の「ドイツ語基礎表現B」を必ず同時履修すること。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面授業を予定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。電子辞書は使用不可。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	前期文法の総復習 3・4格支配の前置詞		前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。その後、3・4格支配の前置詞の用法の説明を行う。	
	この回の到達目標	英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えてうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。		
	事前学修	冠詞類の格変化(3格形、4格形)を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
2	前置詞を伴う熟語融合形	前置詞の	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どうい うばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表 記も説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、ドイツ語の熟語を知ること、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。		
	事前学修	参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
3	話法の助動詞		話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。		
	事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
4	動詞の三基本形変化	過去人称	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。		
	事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
5	完了形		完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。		
	事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
6	分離動詞		前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と結びつけて考えることができる。		
	事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	形容詞の用法 付加語的用法		ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化するのはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。		
	事前学修	強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
8	esの用法		非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。 天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。		
	事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
9	再帰動詞 再帰代名詞		主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加えられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞的な意味にすることができる。		
	事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。		30分
10	受動態		今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別して表現することができる。		
	事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
11	分詞 zu不定詞		分詞の定義と種類を説明し、その後、zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すことができる。		
	事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。		30分
12	副文 関係文		まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。		
	事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
	事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	110分
14	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
	事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	110分
	事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
	事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	前川 一貴	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
会話文の読解：グループワークで一文ずつ内容を読み取り、そのあと音読の練習をする。 会話練習：授業で習う表現を用いながら、日常の場面に即したロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：教科書の会話文から出題	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の和訳、会話文の作成など		13	13	14							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	28	28	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BUMERANG RE (ブーメラン・エルエー)	小野寿美子、中川明博、西巻丈児	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	授業の進め方 ドイツ語の感覚を取り戻す。	
	この回の 到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 これまでに身に付けた会話表現を思い出す。	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	前期の復習	60分
2	Lektion 6 話法の助動詞	文法事項の確認	
	この回の 到達目標	助動詞の使い方を理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
3	Lektion 6 従属の接続詞と副文	文法事項の確認	
	この回の 到達目標	接続詞の使い方を理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
4	Lektion 6 分離動詞と非分離動詞	文法事項の確認	
	この回の 到達目標	分離動詞・非分離動詞の使い方を理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
5	Lektion 6 コンサートに行きたい	チケットを購入する会話が分かる。	
	この回の 到達目標	チケットを購入する会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
6	会話プリント⑥「遊びに誘う」	共通の趣味を見つけて、仲を深められる。	
	この回の 到達目標	「～しよう」や「ぜひ」などの表現を使えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 7 形容詞の格変化語尾	文法事項の確認	
	この回の到達目標	形容詞の格変化について理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
8	Lektion 7 形容詞・副詞の比較	文法事項の確認	
	この回の到達目標	比較表現について理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	文法の練習問題	60分
9	Lektion 7 レストランで食事	レストランで注文する会話が分かる。	
	この回の到達目標	レストランで注文する会話文が読める。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分
10	会話プリント⑦「食べ物について尋ねる」	食べ物の好き嫌いについて話せる。	
	この回の到達目標	mögenやgernの使い方、keinとnichtの使い分け、単数形と複数形の区別について理解し、会話のなかで使えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
11	Lektion 8 動詞の三基本形	文法事項の確認	
	この回の到達目標	過去分詞が分かる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
12	Lektion 8 現在完了形	文法事項の確認	
	この回の到達目標	現在完了形の文が作れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の和訳	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話プリント⑧「週末にしたこと」	過去にしたことについて話せる。	
	この回の到達目標	現在完了形を用いて、自分がしたことを言い表せる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
14	口頭試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	後期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	後期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Aも併せて履修すること。12月にドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
身近な基本表現を多く使い、練習を積み重ねながら着実に文法を身につけられるように演習形式を主に授業を進める。確実に習得すべき事項に関しては確認の小テストを実施する。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと課題は返却する。次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田悟	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で kawakami.hirokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス：ドイツ語について		ドイツ語について、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の歴史について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	母音字の発音		1課 発音規則を説明し、ドイツ語のつづり字と発音の関係を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音規則を理解し、アルファベットと教科書の単語が発音することができる。	
	事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認しておくこと。	30分
	事後学修	アルファベット、単語のアクセントの位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	子音字の発音		子音字の読み方、簡単な挨拶表現、数字の読み方を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、子音字の読み方を理解し、教科書の単語が発音することができる。	
	事前学修	ローマ字読みで読める単語を発音練習してくる。	30分
	事後学修	子音つづり字の発音、挨拶表現、数字を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。 数字の小テストを実施する。	30分
4	主語と動詞〔規則動詞〕の変化		2課 主語と動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の形は主語の種類で決まることを理解し、動詞を辞書で引くことができる。	
	事前学修	教科書の単語を発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	主語になる代名詞と規則変化動詞の人称変化を確実に覚えること。	30分
5	語順について		語順について説明し、平叙文、疑問文の動詞の位置を学習する。重要動詞〔sein, haben〕の変化を練習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の位置で文のタイプが決まることを理解し、平叙文、疑問文を作ることができる。 練習問題P8	
	事前学修	練習問題P8 I を予習してくること。	30分
	事後学修	動詞の位置を復習する。小テストを実施するので、重要動詞〔sein, haben〕の変化は確実に覚えること。	30分
6	名詞の性と数		3課 名詞の性と数について説明し、名詞の種類と複数形、定冠詞、不定冠詞、所有冠詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の三つの種類と複数形について理解し、名詞を辞書で引くことができる。 練習問題P8	
	事前学修	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認しておくこと。	30分
	事後学修	名詞の複数形、定冠詞、不定冠詞について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	名詞の種類と代名詞の関係	名詞の種類と代名詞の使い方、否定文の作り方について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の種類と代名詞の使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P12	
	事前学修	練習問題P12 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	三人称の代名詞の使い方について復習すること。 間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	名詞の格変化	4課 文中での名詞の役割を表す[1・2・3・4格]の格について説明する。冠詞類の変化、否定冠詞を使った否定文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの名詞が主語か目的語か名詞の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	名詞の性、複数形、定冠詞、不定冠詞についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	名詞の格変化についてを復習すること。小テストを実施するので、定冠詞、不定冠詞の変化は確実に覚えること。	30分
9	名詞の格変化の練習	名詞の格変化を理解し、冠詞の種類と使い方について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞と冠詞の格変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P16	
	事前学修	練習問題P16を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
10	動詞〔不規則動詞〕の変化	5課 動詞の語幹も変化する動詞〔不規則動詞〕の変化について説明し、命令表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞の変化と称代名詞の格変化について理解し、説明することができる。	
	事前学修	動詞の規則変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞の変化、命令表現について復習すること。小テストを実施するので、人称代名詞の変化は確実に覚えること。	30分
11	代名詞の格変化	人称代名詞の格変化、非人称表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名詞の格変化と不規則動詞の変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P20	
	事前学修	練習問題P20を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
12	前置詞と格支配	6課 前置詞と格支配について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞によって結び付く名詞の格が決まる格支配について理解し、説明することができる。	
	事前学修	名詞、定冠詞、不定冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の格変化と意味について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	3・4格支配の前置詞	3・4格支配の前置詞について説明し、練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格変化と使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P24 I	
	事前学修	練習問題P24 I を辞書引きながら予習してくること。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 前置詞の使い方を確実に覚える。	30分
14	重要文法の復習	練習プリントで、動詞と名詞と前置詞の練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を理解し、解答できる。	
	事前学修	前期学習した文法事項を復習し、練習してくること。	40分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
	事前学修	前期の文法と重要単語を総復習する。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	40	20	20								80
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	4	3	3								10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	4	3	3								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	26	26								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語なんて怖くない	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂　土曜日10:30～14:40　月曜日16:10～18:00　kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。 アルファベートの発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
	事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること	30分
2	第1課 ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
	事前学修	添付CDで9、10ページの単語の発音をよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	教科書11ページの単語を発音して意味を調べること。	30分
3	第2課 動詞の現在人称変化、sein 動詞、語順について	動詞は人称と数に応じて語尾変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語尾変化した動詞から不定詞を導き出すことができる。	
	事前学修	教科書15ページの人称代名詞に目を通しておくこと	30分
	事後学修	教科書12ページの不定詞句を使って文章を作ってみること。	30分
4	第2課 練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
	事前学修	教科書17ページを予習しておくこと。動詞はすべて現在人称変化してみること。	30分
	事後学修	自己紹介の仕方を練習しておくこと。	30分
5	第3課 名詞の姓と格変化（単数）について	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書19～21ページに目を通し、定冠詞・不定冠詞の使い分けを頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。	30分
6	第3課 練習問題	格の用法に注意しながら問題を解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、定冠詞と不定冠詞の基本的意味を理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	教科書23ページを予習しておくこと。名詞はすべて定冠詞をつけて格変化しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された単語を不定冠詞を付けて格変化させること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課 名詞の複数形、人称代名詞の格変化、定冠詞類について	名詞の複数形には様々なタイプがあることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	第6回授業で課題に出した単語の複数格を格変化させること。	30分
8	第4課 練習問題	英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問形容詞welcherの用法を理解し、使うことができる。	
	事前学修	教科書29ページを予習しておくこと。年代聞き取りの問題は、ドイツ語でつづりを書いておくこと。	30分
	事後学修	基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。	30分
9	第5課 不定冠詞類 小テスト(1)	所有冠詞、否定冠詞keinの用法について学修する。 nicht の位置について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、nichtとkeinの違いを理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	不定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	与えられた文章を否定文にしてみる。教科書35ページを予習しておくこと。Aの問題は自分でも質問を作ってみること。	30分
10	第5課 練習問題 第6課 不規則動詞、従属文について	不規則動詞の現在人称変化を学修する。従属文では定動詞が後置されることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、よく使われる不規則動詞を用いて簡単な文章を作ることができる。	
	事前学修	平叙文と疑問文の定動詞の位置を復習しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。	30分
11	第6課 練習問題	不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
	事前学修	教科書41ページを予習しておくこと。Bの問題は従属文も使って作文してみる。	30分
	事後学修	教科書36ページの不規則動詞の変化を覚えること。	30分
12	第7課 前置詞	前置詞は特定の格を支配することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、的確な前置詞を選ぶことができる。	
	事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと	30分
	事後学修	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第7課 非人称のes	英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ふだんよく使われる非人称の表現を理解し、文章を作ることができる。	
	事前学修	3人称の人称代名詞の用法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	多用される非人称の熟語表現、特にes gibt を使って文章を作ってみること。	30分
14	第7課 練習問題	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書47ページを予習しておくこと。3・4格支配の前置詞では、3格の場合は4格に、逆に4格の場合は3格になるような文章を作ってみること。	30分
	事後学修	時刻の言い方を練習しておくこと。	30分
15	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
	事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜4時限)	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。水曜5時限目の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎表現AB」を必ず同時履修すること。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題（事後学修）とし、次の授業で解説します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポん）によるアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説します。授業内試験の解説はポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版] 』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【ドイツ語のアルファベット】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のアルファベットの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。	30分
2	【ドイツ語の発音】	ドイツ語の発音の原則と注意すべき発音について学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のつづりの読み方を理解し、発音ができる。	
	事前学修	教科書 8 ～ 9 ページを見ながら、音声を聞く。	30分
	事後学修	教科書 8 ～ 9 ページの発音練習を行う。	30分
3	【動詞の現在人称変化】 【数詞 0 ～ 2 0】	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について学習する。 数詞 0 から 2 0 までの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について理解し、動詞を変化させることができる。数詞 0 から 2 0 までを発音できる。	
	事前学修	教科書 1 0 ページを読む。 教科書 1 1 ページの数詞の音声を聞いてくる。	20分
	事後学修	主語になる人称代名詞、現在人称変化、数詞 0 ～ 2 0 を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の1. ～5., 2 の1. ～3. を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【sein, habenの現在人称変化】 【定形の位置】	重要動詞sein, habenの現在人称変化、定形の位置について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、sein, habenの現在人称変化、定形の位置について理解し、sein, habenを変化させることができる。ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	sein, habenの現在人称変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の6. ～7., 2 の4. ～7., 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【名詞の性と格、定冠詞】	名詞の性、定冠詞の形と格の用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と格、定冠詞について理解し、定冠詞を変化させることができる。	
	事前学修	教科書 1 3 ～ 1 4 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	定冠詞の変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の1., 5., 2 の2. を行う。 発音練習を行う。	40分
6	【不定冠詞、複数形】	不定冠詞の形、名詞の複数形のタイプと格変化について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞と名詞の複数形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞と複数形の格変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の2. ～4., 2 の1., チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【幹母音が変わる現在形】 【数詞 20～100】	語幹の母音が変わる動詞の変化について学習する。 数詞 20～100 の読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母音が変わる動詞の現在形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。数詞 20 以上を発音できる。	
	事前学修	教科書 17～18 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。 教科書 18 ページの数詞の音声を聞く。	20分
	事後学修	特に注意すべき動詞の現在人称変化、20～100 の数詞を暗記する。 教科書 19 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	40分
8	【人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類】	人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 21～22 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類の種類と変化を暗記する。 教科書 24 ページの練習問題 1，2 を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【不冠詞類、疑問詞】	不定冠詞類の意味と形、疑問詞の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞類、疑問詞について理解し、不定冠詞類を変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 22～23 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞類の種類と変化、疑問詞を暗記する。 教科書 24 ページの練習問題 3，4 を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【前置詞の格支配】	前置詞の意味と格支配について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 26～27 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	前置詞の発音と意味を復習し、暗記する。 教科書 29 ページの練習問題 1 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【前置詞と熟語、前置詞と定冠詞の融合形】	特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 28 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 29 ページの練習問題 2，3 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【並列接続詞、定形第 1 位、命令文】	並列接続詞、定形第 1 位、命令文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、並列接続詞、定形第 1 位、命令文について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 30～31 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	並列接続詞、命令形を暗記する。 教科書 32 ページの練習問題 1，3 を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【副文】	従属接続詞と副文、間接疑問文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従属接続詞と副文、間接疑問文について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 3 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	従属接続詞を暗記する。 教科書 3 2 ページの練習問題 2，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【esの用法】	非人称のesを使った表現、時刻の表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非人称のesを使った表現について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。時刻の表現ができる。	
	事前学修	教詞を復習しておく。教科書 3 4 ページ「時刻」、5 3 ページ「esの用法」を読む。わからない単語の意味を調べる。	30分
	事後学修	時刻の表現の練習を行い、暗記する。 授業内に指示された課題を行う。	30分
15	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書 8 ～ 3 4，5 3 ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現ABを同時履修すること

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面授業を予定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2021 2022	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。辞書は初回の授業で紹介する。電子辞書は使用不可。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ドイツ語のアルファベット		ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
	事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
	事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	発音の3原則		アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞		基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
	事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	動詞の基本的な変化		ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
	事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
	事後学修	lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	sein habenの変化 定形2位の原則		重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
	事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
	事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格		基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げることができる。	
	事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
	事後学修	格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	2格の位置	小テストを実施する。 学者が間違いやすい、2格を取り上げ、文構造を説明する。	初
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、2格名詞を含んだ平易な文章を作ることができる。	
	事前学修	2格名詞に注意して、文章を訳し、実際に書いてみる。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
	事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	母音交替動詞の変化	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。	
	事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみて、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
10	人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
	事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	定冠詞類と不定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
	事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
12	疑問代名詞、疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類と不定冠詞類、そして疑問詞を含んだ平易な文章を訳し、作成することができる。	
	事前学修	疑問代名詞の格変化と男性、中性の定冠詞の格変化とを比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、練習問題を何度も発音し、覚えるまでノートに書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞について取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「が・の・に・を」の4つの格を補うための品詞、前置詞を用いることで、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	前置詞の意味だけでなく、どの前置詞が何格と結びつくかをしっかりと覚えておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
	事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
	事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
	事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
一年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に履修すること。

【授業方法】
教科書をもとに、文法事項の説明をしたうえで、練習問題を解きながら授業を進める。授業内で実施した試験や課題に関しては、授業内で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リヒトホーフ・ノイ ー初級ドイツ語文法ー	松鶴功記他	朝日出版	2023	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等がある場合は授業後に直接か、メールで問い合わせること。(souma.daiki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、アルファベート、発音 ①	授業についての説明と、ドイツ語のアルファベートを一通り確認し、発音を練習する。	
	この回の到達目標	ドイツ語のアルファベートを発音することができる。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	授業で習った発音を復習し、覚える。	30分
2	発音②	前回の知識を前提に、あいさつや数詞、曜日などの発音を確認する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の発音規則を覚え、単語を正確に発音できるようにする。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	教科書に付いているQRコードを活用し、発声練習をしておくこと。	30分
3	第一課 人称代名詞と動詞の現在人称変化	ドイツ語の人称代名詞の種類を覚え、動詞の現在人称変化について説明する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を、正確に使用できるようになる。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第一課（後半）語順 第二課（前半）名詞の性と格、定冠詞	教科書の例文をもとに、ドイツ語の基本的な語順を説明する。第二課では、名詞の性と格について解説する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の基本的な語順と、名詞の性と格を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第二課（後半）不定冠詞と複数形	不定冠詞の変化と複数形について学ぶ。	
	この回の到達目標	定冠詞、不定冠詞の変化、用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第三課 動詞の現在人称変化(2)、命令形	現在人称変化の不規則な動詞について学ぶ。命令形の場合の動詞の変化を解説する。	
	この回の到達目標	不規則変化動詞の特徴を理解し、命令形の用法を覚える。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第四課（前半）定冠詞類の変化	定冠詞類の変化と用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	定冠詞類の種類を覚え、変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第四課（後半）不定冠詞類の変化、否定の表現	不定冠詞類（所有冠詞、否定冠詞）の変化と用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	不定冠詞類の変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
9	第五課（前半）人称代名詞と前置詞	人称代名詞の3、4格と、前置詞の格支配について学ぶ。	
	この回の到達目標	人称代名詞の3、4格を覚え、前置詞の格支配について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	第五課（後半）人称代名詞と前置詞	前回の復習をした後、3・4格支配の前置詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	3・4格支配の前置詞の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	第六課（前半）話法の助動詞と未来形	話法の助動詞の種類と用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	話法の助動詞の人称変化、語順を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	第六課（後半）話法の助動詞と未来形	話法の助動詞の用法を復習し、未来系（werden）の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	話法の助動詞の用法を定着させ、未来形の用法も理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第七課（前半）分離動詞、非分離動詞	分離動詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	分離動詞、非分離動詞の特徴を理解する。非分離動詞の特徴を確認する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	試験の準備。	120分
14	前期の確認	前期の授業内容が理解できているか確認するため、授業内テストを実施する。	
	この回の到達目標	前期の授業で得た知識を活かして、練習問題を解く。	
	事前学修	前期の文法事項を総ざらいし、試験に備える。	120分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を復習しておく。	30分
15	前期のまとめ，振り返り	前回のテストの解説と、前期の総復習。	
	この回の到達目標	前期で扱った文法事項をまとめ、後期へとつなぐ足がかりとする。	
	事前学修	試験で自信がなかった箇所を、確認しておく。	30分
	事後学修	前期の授業内容を繰り返し復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A【月曜2時限】	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。こまめに小テストを行う予定です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！グラマティック ノイ	新倉真矢子ほか	郁文堂	2023	教科書	必携
備考	2018年出版ですが、できるだけ版の新しいものを購入してください。				

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかる場合は事前にメールで連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価の付け方等の説明、導入授業	
	この回の到達目標	授業の具体的な目標を理解する・アルファベート、発音（SB0s③）	
	事前学修	シラバスに目を通してくる	30分
	事後学修	教材の準備および授業の復習	30分
2	Lektion 1	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	発音の復習、および動詞の現在人称変化を学ぶ（SB0s①③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	発音の復習、インターネットサイトでドイツ語を聴いてみる	30分
3	Lektion 1	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を使えるようにする・語順を学ぶ（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 2	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	ドイツ語の基本人称変化を学び、練習問題を解く（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 2	並列の接続詞	
	この回の到達目標	並列の接続詞を中心に、Lektion 2の内容を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 1と2の復習	60分
6	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	
	この回の到達目標	冠詞類の意味、変化を理解し覚える（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化 （2）	
	この回の到達目標	冠詞類の意味、変化を理解し使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞	
	この回の到達目標	規則を理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 3、4の復習	60分
9	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞 （2）	
	この回の到達目標	規則を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類	
	この回の到達目標	冠詞類をさらに理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類	
	この回の到達目標	冠詞類を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 6	動詞の現在人称変化・命令形	
	この回の到達目標	さらに不規則な現在人称変化や命令形を学び、理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6	動詞の現在人称変化・命令形	
	この回の到達目標	不規則な現在人称変化や命令形が使えるようになる（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	前期の復習を行い、応用できるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	60分
	事後学修	授業の復習	60分
15	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	特にLektion 5, 6の確認（SB0s①-③）	
	事前学修	今学期を振り返り、後期の計画を立てる	30分
	事後学修	授業の振り返り	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A【月曜3時限】	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。こまめに小テストを行う予定です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！グラマティック ノイ	新倉真矢子ほか	郁文堂	2023	教科書	必携
備考	2018年出版ですが、できるだけ版の新しいものを購入してください。				

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかる場合は事前にメールで連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価の付け方等の説明、導入授業	
	この回の到達目標	授業の具体的な目標を理解する・アルファベート、発音（SB0s③）	
	事前学修	シラバスに目を通してくる	30分
	事後学修	教材の準備および授業の復習	30分
2	Lektion 1	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	発音の復習、および動詞の現在人称変化を学ぶ（SB0s①③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	発音の復習、インターネットサイトでドイツ語を聴いてみる	30分
3	Lektion 1	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を使えるようにする・語順を学ぶ（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 2	動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	ドイツ語の基本人称変化を学び、練習問題を解く（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 2	並列の接続詞	
	この回の到達目標	並列の接続詞を中心に、Lektion 2の内容を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 1と2の復習	60分
6	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	
	この回の到達目標	冠詞類の意味、変化を理解し覚える（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化 （2）	
	この回の到達目標	冠詞類の意味、変化を理解し使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞	
	この回の到達目標	規則を理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 3、4の復習	60分
9	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞 （2）	
	この回の到達目標	規則を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類	
	この回の到達目標	冠詞類をさらに理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類	
	この回の到達目標	冠詞類を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 6	動詞の現在人称変化・命令形	
	この回の到達目標	さらに不規則な現在人称変化や命令形を学び、理解する（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んできく	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6	動詞の現在人称変化・命令形	
	この回の到達目標	不規則な現在人称変化や命令形が使えるようになる（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	前期の復習を行い、応用できるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	60分
	事後学修	授業の復習	60分
15	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	特にLektion 5, 6の確認（SB0s①-③）	
	事前学修	今学期を振り返り、後期の計画を立てる	30分
	事後学修	授業の振り返り	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	杉田 芳樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に基づいて発音や文法を説明し、練習問題を課題とします。課題の解答と説明は、原則として、次回の授業で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験に代 わる課題により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身について いるかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評 価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]	荻原耕平／山崎泰孝	白水社	2024	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜 日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜〇限、ドイツ語基礎文法を受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、ドイツ語のアルファベット、基本的なあいさつ	授業の進め方と注意事項を理解する。ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現を発音できる。	
	事前学修	シラバスの各項目を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現の発音練習を行う。	30分
2	ドイツ語の発音	発音の原則、注すべき母音と子音について学修し、発音練習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の綴りと発音を理解し、発音できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 1 を精読し、音声を聞く。	30分
	事後学修	教科書 Lektion 1 の発音練習を行う。	30分
3	人称代名詞と動詞の現在人称変化	人称代名詞 1 格、動詞の人称変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞 1 格、動詞の人称変化を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 2 の「人称代名詞 1 格」「動詞の人称変化」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
4	人称代名詞と動詞の現在人称変化	sein と haben、ドイツ語の語順について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、sein と haben、ドイツ語の語順を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 2 の「sein と haben」「ドイツ語の語順」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
5	名詞の性と格	名詞の性、名詞の格について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性、名詞の格を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 3 の「名詞の性」「名詞の格」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
6	名詞の性と格	定冠詞と不定冠詞の格変化、複数形について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞と不定冠詞の格変化、複数形を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 3 の「定冠詞と不定冠詞の格変化」「複数形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	定冠詞類と不定冠詞類	定冠詞類の格変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類の格変化を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 4 の「定冠詞類の格変化」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
8	定冠詞類と不定冠詞類	不定冠詞類の格変化、所有冠詞、否定冠詞 kein について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞類の格変化、所有冠詞、否定冠詞 kein を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 4 の「不定冠詞類の格変化」「所有冠詞」「否定冠詞 kein」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
9	人称代名詞	人称代名詞の格変化、3人称の人称代名詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の格変化、3人称の人称代名詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 5 の「人称代名詞の格変化」「3人称の人称代名詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
10	人称代名詞	3格と4格の語順、非人称の es について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3格と4格の語順、非人称の es を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 5 の「3格と4格の語順」「非人称の es」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
11	不規則動詞・命令形	fahren 型、sprechen 型、sehen 型の現在人称変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、fahren 型、sprechen 型、sehen 型の現在人称変化を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 5 の「fahren 型、sprechen 型、sehen 型」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
12	不規則動詞・命令形	重要な不規則動詞の現在人称変化、命令形について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な不規則動詞の現在人称変化、命令形を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 6 の「その他の重要な不規則動詞」「命令形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	前置詞		3 格支配の前置詞、4 格支配の前置詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3 格支配の前置詞、4 格支配の前置詞を理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 7 の「3 格支配の前置詞」「4 格支配の前置詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。		30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。		30分
14	前置詞		3・4 格支配の前置詞、前置詞と定冠詞の融合形について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4 格支配の前置詞、前置詞と定冠詞の融合形を理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 7 の「3・4 格支配の前置詞」「前置詞と定冠詞の融合形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。		30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。		30分
15	授業内試験、フィードバック		授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。		
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。		30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。		30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	練習問題や課題の発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』	河田一郎 他著	三修社	2021	教科書	必携
独和辞典（授業内で説明します。）				参考書	必携
備考	※『気分はドイツ[改訂版]』は、必ず[改訂版]の方をご用意ください。				

【オフィスアワー】
授業終了後の教室にて。できる限り、事前に申し出ることが望ましい。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】とアルファベット	授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。ドイツ語のアルファベットについて。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独和辞典などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。ドイツ語のアルファベット理解し、発音することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。授業で確認したアルファベットを復習する。	30分
2	【Lektion 0】発音	ドイツ語の発音について	
	この回の到達目標	ドイツ語の基礎的な発音を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の7頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で確認した発音を復習する。	30分
3	【Lektion 1】動詞	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則動詞)、重要動詞seinとhaben	
	この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の10頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
4	【Lektion 1】語順	平叙文、疑問文での語順	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の11頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ語順のパターンを復習する。	30分
5	【Lektion 2】冠詞と名詞	名詞の性、冠詞の格変化	
	この回の到達目標	名詞の性別と冠詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の13頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ名詞の性別と冠詞の格変化を復習する。	30分
6	【Lektion 2】名詞の複数形	名詞の複数形の5つの型	
	この回の到達目標	名詞の複数形の5つの型を理解し、独和辞典で確認することができる。	
	事前学修	教科書の14頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ複数形の5つの型について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 3】不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	規則動詞との違いを理解し、不規則動詞の現在人称変化を適用することができる。	
	事前学修	教科書の17頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
8	【Lektion 4】人称代名詞	人称代名詞の3格と4格	
	この回の到達目標	人称代名詞の形を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の21頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ人称代名詞を復習する。	30分
9	【Lektion 4】冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類	
	この回の到達目標	定冠詞類、不定冠詞類の種類と格変化を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の22頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定冠詞類、不定冠詞類を復習する。	30分
10	【Lektion 5】前置詞	前置詞の種類と格支配	
	この回の到達目標	前置詞の種類と格支配を理解し、使用することができる	
	事前学修	教科書の26頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配を復習する。	30分
11	【Lektion 6】定形の位置	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合	
	この回の到達目標	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の30-31頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定形の位置を復習する。	30分
12	【Lektion 6】時刻	数詞と時刻の表現	
	この回の到達目標	数詞と時刻の表現を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の11, 18頁の「数詞」を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ数詞と時刻の表現を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 7】 話法の助動詞	助動詞の種類と語順	
	この回の到達目標	話法の助動詞の種類、現在人称変化、語順を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の35頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の現在人称変化と語順を復習する。	30分
14	【前期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて前期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【前期の総括・振り返り】	前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	前期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	練習問題や課題の発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』	河田一郎 他著	三修社	2021	教科書	必携
独和辞典（授業内で説明します。）				参考書	必携
備考	※『気分はドイツ[改訂版]』は、必ず[改訂版]の方をご用意ください。				

【オフィスアワー】
授業終了後の教室にて。できる限り、事前に申し出ることが望ましい。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】とアルファベット	授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。ドイツ語のアルファベットについて。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独和辞典などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。ドイツ語のアルファベット理解し、発音することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。授業で確認したアルファベットを復習する。	30分
2	【Lektion 0】発音	ドイツ語の発音について	
	この回の到達目標	ドイツ語の基礎的な発音を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の7頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で確認した発音を復習する。	30分
3	【Lektion 1】動詞	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則動詞)、重要動詞seinとhaben	
	この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の10頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
4	【Lektion 1】語順	平叙文、疑問文での語順	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の11頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ語順のパターンを復習する。	30分
5	【Lektion 2】冠詞と名詞	名詞の性、冠詞の格変化	
	この回の到達目標	名詞の性別と冠詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の13頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ名詞の性別と冠詞の格変化を復習する。	30分
6	【Lektion 2】名詞の複数形	名詞の複数形の5つの型	
	この回の到達目標	名詞の複数形の5つの型を理解し、独和辞典で確認することができる。	
	事前学修	教科書の14頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ複数形の5つの型について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 3】不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	規則動詞との違いを理解し、不規則動詞の現在人称変化を適用することができる。	
	事前学修	教科書の17頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
8	【Lektion 4】人称代名詞	人称代名詞の3格と4格	
	この回の到達目標	人称代名詞の形を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の21頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ人称代名詞を復習する。	30分
9	【Lektion 4】冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類	
	この回の到達目標	定冠詞類、不定冠詞類の種類と格変化を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の22頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定冠詞類、不定冠詞類を復習する。	30分
10	【Lektion 5】前置詞	前置詞の種類と格支配	
	この回の到達目標	前置詞の種類と格支配を理解し、使用することができる	
	事前学修	教科書の26頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配を復習する。	30分
11	【Lektion 6】定形の位置	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合	
	この回の到達目標	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の30-31頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定形の位置を復習する。	30分
12	【Lektion 6】時刻	数詞と時刻の表現	
	この回の到達目標	数詞と時刻の表現を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の11, 18頁の「数詞」を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ数詞と時刻の表現を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 7】 話法の助動詞	助動詞の種類と語順	
	この回の到達目標	話法の助動詞の種類、現在人称変化、語順を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の35頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の現在人称変化と語順を復習する。	30分
14	【前期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて前期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【前期の総括・振り返り】	前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	前期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜5時限)	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題（事後学修）とし、次の授業で解説します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポンス）によるアンケート

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説します。授業内試験の解説はポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版] 』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【ドイツ語のアルファベット】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のアルファベットの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。	30分
2	【ドイツ語の発音】	ドイツ語の発音の原則と注意すべき発音について学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のつづりの読み方を理解し、発音ができる。	
	事前学修	教科書 8 ～ 9 ページを見ながら、音声を聞く。	30分
	事後学修	教科書 8 ～ 9 ページの発音練習を行う。	30分
3	【動詞の現在人称変化】 【数詞 0 ～ 2 0】	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について学習する。 数詞 0 から 2 0 までの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について理解し、動詞を変化させることができる。数詞 0 から 2 0 までを発音できる。	
	事前学修	教科書 1 0 ページを読む。 教科書 1 1 ページの数詞の音声を聞いてくる。	20分
	事後学修	主語になる人称代名詞、現在人称変化、数詞 0 ～ 2 0 を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の 1. ～ 5. , 2 の 1. ～ 3. を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【sein, habenの現在人称変化】 【定形の位置】	重要動詞sein, habenの現在人称変化、定形の位置について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、sein, habenの現在人称変化、定形の位置について理解し、sein, habenを変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	sein, habenの現在人称変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の 6. ～ 7. , 2 の 4. ～ 7. , 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【名詞の性と格、定冠詞】	名詞の性、定冠詞の形と格の用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と格、定冠詞について理解し、定冠詞を変化させることができる。	
	事前学修	教科書 1 3 ～ 1 4 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	定冠詞の変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の 1. , 5. , 2 の 2. を行う。 発音練習を行う。	40分
6	【不定冠詞、複数形】	不定冠詞の形、名詞の複数形のタイプと格変化について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞と名詞の複数形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞と複数形の格変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の 2. ～ 4. , 2 の 1. , チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【幹母音が変わる現在形】 【数詞 20～100】	語幹の母音が変わる動詞の変化について学習する。 数詞 20～100 の読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母音が変わる動詞の現在形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。数詞 20 以上を発音できる。	
	事前学修	教科書 17～18 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。 教科書 18 ページの数詞の音声を聞く。	20分
	事後学修	特に注意すべき動詞の現在人称変化、20～100 の数詞を暗記する。 教科書 19 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	40分
8	【人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類】	人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 21～22 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類の種類と変化を暗記する。 教科書 24 ページの練習問題 1，2 を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【不冠詞類、疑問詞】	不定冠詞類の意味と形、疑問詞の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞類、疑問詞について理解し、不定冠詞類を変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 22～23 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞類の種類と変化、疑問詞を暗記する。 教科書 24 ページの練習問題 3，4 を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【前置詞の格支配】	前置詞の意味と格支配について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 26～27 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	前置詞の発音と意味を復習し、暗記する。 教科書 29 ページの練習問題 1 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【前置詞と熟語、前置詞と定冠詞の融合形】	特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 28 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 29 ページの練習問題 2，3 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【並列接続詞、定形第 1 位、命令文】	並列接続詞、定形第 1 位、命令文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、並列接続詞、定形第 1 位、命令文について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 30～31 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	並列接続詞、命令形を暗記する。 教科書 32 ページの練習問題 1，3 を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【副文】	従属接続詞と副文、間接疑問文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従属接続詞と副文、間接疑問文について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 3 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	従属接続詞を暗記する。 教科書 3 2 ページの練習問題 2，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【esの用法】	非人称のesを使った表現、時刻の表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非人称のesを使った表現について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。時刻の表現ができる。	
	事前学修	教詞を復習しておく。教科書 3 4 ページ「時刻」、5 3 ページ「esの用法」を読む。わからない単語の意味を調べる。	30分
	事後学修	時刻の表現の練習を行い、暗記する。 授業内に指示された課題を行う。	30分
15	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書 8 ～ 3 4，5 3 ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	山本 知佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後に、練習問題を解き、基礎的な文法の定着を図る。必要に応じて小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や練習問題の発表を通じてアクティブ・ラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『シュリット・フュア・シュリット』（三訂版）	今井田亜弓 他	三修社	2021年	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考	教科書は「三訂版」を用意する。				

【オフィスアワー】
授業の後、またはメールにて対応する。yamamoto.chika@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスとアルファベート	授業の進め方、注意事項、試験について説明する。 ドイツ語のアルファベートの読み方を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベートを発音することができる。 自分の名前のつづりを言うことができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。 教科書6頁の音声を聞き、アルファベートの発音練習をする。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、前期の学習範囲を捉える。 ドイツ語のアルファベートの発音練習をする。	30分
2	【LEKTION 0】発音	ドイツ語の発音、挨拶、数字について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の発音の規則を理解し、挨拶や数字を正しく発音することができる。	
	事前学修	教科書8～11頁を読み、音声を聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ発音の規則について復習する。 簡単な挨拶、数字の0から100までを覚える。	30分
3	【LEKTION 1】動詞の人称変化	人称代名詞・不定詞・定動詞、定動詞の位置・語順、疑問詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞、動詞の現在人称変化、定動詞の位置・語順、疑問詞を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書14～15頁を読み、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ人称代名詞、動詞の現在人称変化のパターン、定動詞の位置・語順のパターン、疑問詞の用法について復習する。	30分
4	【LEKTION 1】seinの現在人称変化	seinの現在人称変化、否定表現、並列の接続詞について説明する。 ドイツ語の職業、国・国籍、専攻の単語について発音を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、seinの現在人称変化、否定表現、並列の接続詞を理解し、文の構造を捉えることができる。 ドイツ語の職業、国・国籍、専攻の単語を正しく発音し、簡単な自己紹介ができる。	
	事前学修	教科書16～17頁、20頁を読み、音声を聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだseinの現在人称変化、否定表現の形、並列の接続詞の用法について復習する。 ドイツ語の職業、国・国籍、専攻の単語を覚える。	30分
5	【LEKTION 2】名詞の性と格(1格と4格)	名詞の性と冠詞、格変化(1格と4格)、人称代名詞(1格と4格)について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と冠詞、格変化(1格と4格)、人称代名詞(1格と4格)を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書22～24頁を読み、発音練習をする。 31頁の「教室の中」の音声を聞き、意味を調べ発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ名詞の性と冠詞、主格である1格、直接目的格である4格の格変化、人称代名詞(1格と4格)について復習する。	30分
6	【LEKTION 2】habenの現在人称変化	habenの現在人称変化、否定の疑問文への答え方、名詞の複数形について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、habenの現在人称変化、否定の疑問文への答え方、名詞の複数形の5つのパターンを理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書25頁、30頁を読み、発音練習をする。これまで学習した名詞の複数形を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだhabenの現在人称変化、否定の疑問文への答え方、名詞の複数形について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【LEKTION 3】その他の格(3格・2格)	格変化(3格と2格)、男性弱変化名詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、格変化(3格と2格)、男性弱変化名詞を理解し、文の構造を捉えることができる。またこれで1格から4格までの格変化を学習したので、定冠詞・不定冠詞のそれぞれの格変化を適切に用いることができる。	
	事前学修	教科書32～33頁を読み、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ間接目的格である3格、所有格である2格の格変化について復習する。 定冠詞・不定冠詞の格変化を暗記する。	30分
8	【LEKTION 3】人称代名詞	人称代名詞、非人称のes、3格・4格の語順、冠詞を伴う国名、複合語について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞、非人称のes、3格・4格の語順、冠詞を伴う国名、複合語を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書33～35頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ人称代名詞、非人称のes、3格・4格の語順、冠詞を伴う国名、複合語について復習する。	30分
9	【LEKTION 4】不規則変化動詞の現在人称変化	不規則変化動詞の現在人称変化、注意が必要な動詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則変化動詞の現在人称変化、注意が必要な動詞を理解し、文の構造を捉えることができる。好きなこと、得意なことを表現できる。	
	事前学修	教科書40～41頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ不規則変化動詞の現在人称変化、注意が必要な動詞について復習する。	30分
10	【LEKTION 4】命令形	命令形について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形のパターンを理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書42頁を読み、音声聞き、発音練習をする。これまで学習した動詞の命令形を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ命令形の3つのパターンについて復習する。	30分
11	【LEKTION 5】冠詞類	不定冠詞類・定冠詞類について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞類・定冠詞類の格変化を理解し、文の構造を捉えることができる。気に入っている物や人を表現できる。	
	事前学修	教科書50～52頁を読み、発音練習をする。 57頁の「私の家族」の音声聞き、意味を調べ発音練習をする。 同頁の性格、職業の単語の音声も聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ不定冠詞類・定冠詞類の格変化について復習する。 不定冠詞類・定冠詞類の格変化を暗記する。	30分
12	【LEKTION 6】前置詞	前置詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配、用法を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書58～60頁を読み、発音練習をする。前置詞の意味を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配、場所や方向を示す3・4格と結びつく前置詞の捉え方を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【LEKTION 6】分離動詞・非分離動詞	分離動詞・非分離動詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞・非分離動詞の形を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書60～61頁を読み、発音練習をする。主な分離前つづり、分離しない前つづりの意味を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ分離動詞・非分離動詞について復習する。	30分
14	【授業内試験】	これまでの学習内容を振り返り、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学習内容を十分に理解し、試験に答えることができる。	
	事前学修	これまでの学習内容を復習し、試験に備える。	60分
	事後学修	試験の内容を確認し、復習する。	30分
15	前期の学習内容の振り返り	試験問題を振り返り、前期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習内容を十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習内容で分からなかった箇所を復習する。	30分
	事後学修	前期で学習した内容を振り返り、文法事項を確認する。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	前川 一貴	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
教員が各課のポイントを解説したあと、学生はグループで教科書の解説を読み、問題演習に取り組む。分からない箇所があれば、いつでも自由に質問できる。グループで問題を解き終わったら、教員がチェックし、アドバイスをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の最終回に筆記試験を行う。教科書の練習問題から出題する。	30	30	0								60
小テスト等	各課の練習問題の答案を提出する。	15	15	0								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、グループワークに積極的に参加したかどうか。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	48	4								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題を返却し、学生同士で答え合わせをする。その後、教員が質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]	萩原耕平・山崎泰孝	白水社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベート	授業の進め方 アルファベートの発音・聞き取り	
	この回の到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 ドイツ語の母音と特徴的な子音を発音できるようにし、すべての文字を暗記する。	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	アルファベートを覚え、発音できるようにする。	60分
2	Lektion 1 ドイツ語の発音	単語の読み方	
	この回の到達目標	発音の三大原則を押さえ、つづりと発音がどのような関係になっているのかを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	ドイツ語圏の国名や都市を発音できるようにする。	60分
3	Lektion 2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化	人を指す代名詞、動詞の現在形	
	この回の到達目標	主語に合わせて、動詞の形が変化することを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
4	Lektion 2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化	sein動詞とhaben動詞、ドイツ語の語順	
	この回の到達目標	sein動詞とhaben動詞は不規則に変化することを押さえる。 ドイツ語の文は2番目の位置に動詞が来ることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
5	Lektion 3 名詞の性と格	定冠詞・不定冠詞の格変化	
	この回の到達目標	ドイツ語の名詞は男性名詞・女性名詞・中性名詞に分類されることを押さえる。 定冠詞・不定冠詞の形を変えて「～は、の、に、を」を表す仕組みを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
6	Lektion 3 名詞の性と格	複数形、疑問詞	
	この回の到達目標	複数形を作る語尾が5種類あることを理解する。 いろいろな疑問詞を覚える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の格変化	
	この回の到達目標	定冠詞と不定冠詞の格変化と似ていることを押さえる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
8	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	否定冠詞kein	
	この回の到達目標	keinとnichtの違いを理解し、否定文を作れるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
9	Lektion 5 人称代名詞	人称代名詞の格変化	
	この回の到達目標	ドイツ語は4格（～を）だけでなく、3格（～に）もあることを押さえる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
10	Lektion 5 人称代名詞	3格と4格の語順、非人称のes	
	この回の到達目標	原則として3格+4格の語順になることを押さえる。 esには「それ」と訳さない特殊な使い方があることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
11	Lektion 6 不規則動詞・命令形	不規則動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	人称変化の際、語幹の母音が変化する動詞があることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
12	Lektion 6 不規則動詞・命令形	命令形の作り方	
	この回の到達目標	2人称親称（単数・複数）と2人称敬称に対応して、3つの命令形があることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 7 前置詞	前置詞の格支配、3格支配と4格支配の前置詞	
	この回の到達目標	前置詞のあとに来る名詞が何格になるのかを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
14	Lektion 7 前置詞	3・4格支配の前置詞、前置詞と定冠詞の融合形	
	この回の到達目標	3・4格支配の前置詞はどのように使い分けるのかを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	後期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面授業を予定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	その他	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。電子辞書は使用不可。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	前期文法の総復習 3・4格支配の前置詞		前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。その後、3・4格支配の前置詞の用法の説明を行う。	
	この回の到達目標	英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えてうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。		
	事前学修	冠詞類の格変化(3格形、4格形)を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
2	前置詞を伴う熟語 融合形	前置詞の	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どうい うばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表 記も説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の熟語を知ること、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ること ができる。		
	事前学修	参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノート に書き留めておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
3	話法の助動詞		話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観 察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができ る。		
	事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
4	動詞の三基本形 変化	過去人称	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過 去の人称変化についても述べる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。		
	事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
5	完了形		完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文 構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語 表現であることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。		
	事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いてお く。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
6	分離動詞		前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げ て、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠 構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達 目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と 結びつけて考えることができる。		
	事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いて おく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認し ておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	形容詞の用法 付加語的用法		ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化するのはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。		
	事前学修	強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
8	esの用法		非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。 天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。		
	事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
9	再帰動詞 再帰代名詞		主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加えられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞的な意味にすることができる。		
	事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。		30分
10	受動態		今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別して表現することができる。		
	事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
11	分詞 zu不定詞		分詞の定義と種類を説明し、その後、zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すことができる。		
	事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。		30分
12	副文 関係文		まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。		
	事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
	事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	110分
14	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
	事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	110分
	事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
	事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bも併せて履修すること。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。ドイツ語検定4級を受験を推奨。

【授業方法】
ドイツ語基礎文法Aの続きの文法を学習する。身近な基本表現を多く使い、練習を積み重ねながら着実に文法を身につけられるように演習形式を主に授業を進める。確実に習得すべき事項に関しては確認の小テストを実施する。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田 悟	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で kawakami.hirokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	数字	20以上の数字、時刻の表現について学習，練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字と時間を表現できる。	
	事前学修	単語と数字の発音を復習しておくこと。	30分
	事後学修	数字、時刻の表現を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。	30分
2	6課 接続詞について	接続詞について学習する。接続詞の種類と文の構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞の種類と文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P24 I / II	
	事前学修	前置詞を復習しておくこと。	30分
	事後学修	接続詞を覚えること。副文の作り方を復習する。	30分
3	話法の助動詞、未来形	7課 話法の助動詞、未来形について学習する。助動詞構文について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞の変化、助動詞構文の文型について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 II	
	事前学修	練習問題P28 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞の人称変化と意味と助動詞構文の構造を確実に覚える。	30分
4	複合動詞について	分離する動詞と分離しない動詞について学習する。ドイツ語の枠構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の枠構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 I	
	事前学修	練習問題 P28 I 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	分離動詞を使った文の構造（助動詞構文と同じ）を確実に覚える。	30分
5	再帰表現	9課 再帰表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語と目的語が同じものを表わす再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P36 I	
	事前学修	人称代名詞の変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	再帰表現を復習し、重要再帰動詞を確実に覚える。zu不定詞の用法について復習する。	30分
6	1回から6回目までの練習	疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞の練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	練習プリントを予習してくる。	30分
	事後学修	問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	zu 不定詞	8課 zu 不定詞の作り方と用法と形容詞の比較表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu 不定詞句と形容詞の比較表現について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 I、P36 II	
	事前学修	練習問題P32 I、P36 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	zu不定詞の用法、形容詞の比較表現について復習する。	30分
8	形容詞	8課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 II	
	事前学修	定冠詞の変化を復習しておくこと。練習問題 P32 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞の変化を復習する。	30分
9	過去形	10課 動詞の三基本形と過去形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	動詞の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の三基本形と過去形の人称変化を確実に覚える。動詞の三基本形の小テストを実施する。	30分
10	現在完了形	11課 現在完了形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	動詞の過去分詞を復習しておくこと。	30分
	事後学修	現在完了形の文を復習する。	30分
11	受動態	受動態について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能動態と受動態の関係を理解し、受動態の文を作ることができる。	
	事前学修	動詞の三基本形を復習しておくこと。	30分
	事後学修	受動態の文を復習する。	30分
12	関係代名詞	12課 関係代名詞と関係文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞を修飾する関係文について理解し、関係文を作ることができる。	
	事前学修	定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	定関係代名詞と関係文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の作り方、使い方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法の用法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	過去形の人称変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	接続詞1式・2式の作り方を復習する。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで、受動態、関係文について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	後期学習した文法事項を復習してくること。	40分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。重要単語と重要表現を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、説明することができる。	
	事前学修	過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文の総復習をすること。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	40	20	20								80
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	4	3	3								10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	4	3	3								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	26	26								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日10:30～14:40 月曜日16:10～18:00 kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、説明できる。	
	事前学修	前期範囲の文法事項を整理しておくこと	30分
	事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第8課 話法の助動詞、命令法について	話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語に応じて話法の助動詞を適切に人称変化させることができる。	
	事前学修	不定詞と定動詞の違いをもう一度確認すること。	30分
	事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
3	第8課 練習問題	助動詞構文は枠構造になることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書53ページを予習しておくこと。Aの問題は完全な文章で答えること。	30分
	事後学修	課題に出された文章を命令法に書き換えてくること。	30分
4	第9課 形容詞の用法 小テスト(2)	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。形	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
	事前学修	教科書55～56ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。	30分
	事後学修	よく使われる形容詞を反対語とペアで覚えること。	30分
5	第9課 複合動詞について 練習問題	分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書59ページを予習しておくこと。Bの問題は出来ればドイツ語で答えてみること。	30分
	事後学修	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。	30分
6	第10課 再帰動詞・再帰代名詞、zu不定詞（句）について	「再帰」とは何かを学修する。zu不定詞（句）の作り方と用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「再帰」の意味を理解し、適切な再帰代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	人称代名詞を復習しておくこと	30分
	事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第10課 練習問題		3人称だけは再帰代名詞がsichになることに注意して問題を解いていく
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書65ページを予習しておくこと。再帰動詞の問題は主語の人称をいろいろ変えてみること。	30分
	事後学修	教科書60ページの再帰動詞を使って文章を作ってみること。	30分
8	第11課 形容詞と副詞の比較級、序数について		比較の様々な用法について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、身近なことに關して比較の文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書55～56ページの形容詞の用法について復習しておくこと	30分
	事後学修	よく出てくる形容詞の比較級と最上級を覚えること。	30分
9	第11課 練習問題		比較級・最上級が付加語的に使われた場合の語尾変化に注意して問題を解いていく
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数を用いて日付を言うことができる。	
	事前学修	教科書69ページを予習しておくこと。序数を用いて自分の生年月日を言えるようにしておくこと。	30分
	事後学修	比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分
10	第12課 動詞の3基本形および過去人称変化		3基本形とは何かについて学修する。過去人称変化と過去形の用法について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞も含め、あらゆる動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	現在人称変化を復習しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
11	第12課 練習問題		3基本形の作り方を復習しつつ問題を解いていく
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形の文章を読み、かつ作ることができる。	
	事前学修	教科書73ページを予習しておくこと。過去形の動詞はすべて不定詞と過去分詞を出しておくこと。	30分
	事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを完全に覚えておくこと。	30分
12	第13課 完了形の作り方とその用法		完了形も枠構造になることを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2種類の助動詞を適切に選ぶことができる。	
	事前学修	habenおよびseinの現在人称変化を復習しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてくること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第13課 分詞について	分詞は動詞から作られた形容詞で名詞を修飾できることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を使った表現を理解し、簡単な表現を作ることができる。	
	事前学修	形容詞の語尾変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	現在分詞と過去分詞の違いを理解しておくこと。	30分
14	第13課 練習問題	過去形との違いを確認しつつ問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。	
	事前学修	教科書79ページを予習しておくこと。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形も出しておくこと。	30分
	事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。	30分
15	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
	事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜4時限)	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを履修済みであること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。水曜5時限目の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎表現AB」を必ず同時履修すること。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題（事後学修）とし、次の授業で解説します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポシ）によるアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説をします。授業内試験の解説はポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版] 』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【話法の助動詞（現在人称変化と文構造）】	授業の進め方と注意事項を説明する。 話法の助動詞の現在人称変化と文構造について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の現在人称変化と文構造について理解し、話法の助動詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。 教科書35ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	60分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 教科書37ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	30分
2	【話法の助動詞（用法）】	話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書35～36ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書37ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分
3	【分離動詞】	分離動詞のしくみについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞のしくみについて理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書39ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題1，3の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【zu不定詞】	zu不定詞の形式と用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の形式と用法について理解し、zu不定詞を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書40ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題2，3の1.，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形について理解し、変化させたり、調べることができる。	
	事前学修	教科書42～43ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書44ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	40分
6	【過去人称変化】 【序数】	過去人称変化について学習する。 また、序数について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去人称変化について理解し、過去形のドイツ語文を作ることができる。序数について理解し、序数を用いた表現ができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書43ページ、50ページ「序数」を読む。わからない単語の意味を調べる。数詞を復習しておく。	30分
	事後学修	過去人称変化を暗記する。 教科書44ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【現在完了形】		現在完了形について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、現在完了形のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 4 5～4 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 4 7 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分
8	【再帰動詞】		再帰代名詞と再帰動詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、再帰動詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	再帰代名詞を暗記する。 教科書 5 4 ページの練習問題 1, 2 の1., 2., 3 の1.を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【受動】		動作受動、状態受動について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作受動、状態受動について理解し、受動態のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 2 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 4 ページの練習問題 2 の3.～6., 3 の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【形容詞の変化】		形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化について理解し、形容詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 5 5～5 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 1, 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【形容詞の比較変化】		形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 7 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【関係代名詞】		定関係代名詞、不定関係代名詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定関係代名詞、不定関係代名詞について理解し、関係代名詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 6 0 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 1 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【直説法と接続法、接続法第 1 式】	直説法と接続法、接続法第 1 式の形、要求話法、間接話法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、直説法と接続法、接続法第 1 式の形、要求話法、間接話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 6 4 ～ 6 5 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 7 ページの練習問題 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【接続法第 2 式】	接続法第 2 式の形、非現実話法、接続法の過去について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第 2 式の形、非現実話法、接続法の過去について理解し、ドイツ語文中でも認識でき、接続法第 2 式を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 6 5 ～ 6 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 7 ページの練習問題 1， 3 を行う。 授業内に指示された課題を行う。	40分
15	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書 3 5 ～ 6 7 ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
一年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に履修すること。原則、「ドイツ語基礎文法A」と通年で履修すること。

【授業方法】
教科書をもとに、文法事項の説明をしたうえで、練習問題を解きながら授業を進める。授業内で実施した試験や課題に関しては、授業内で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リヒトホーフ・ノイ ー初級ドイツ語文法ー	松鶴功記他	朝日出版	2023	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等がある場合は授業後に直接か、メールで問い合わせること。(souma.daiki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期に学んだ文法事項を総復習する。	
	この回の到達目標	前期の文法事項を思い出し、さらなる定着を図る。	
	事前学修	前期に扱った教科書の該当箇所を見直しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
2	第七課（後半）接続詞	並列の接続詞と従属の接続詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	並列の接続詞の用法と、従属の接続詞の用法（特に語順）を理解する。主文と副文の関係を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
3	第八課 動詞の三基本形と過去形の用法	動詞の三基本形と過去形の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	動詞の三基本形を覚え、過去形の語尾変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第九課（前半）完了形	現在完了形、過去完了形の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	完了形の用法（語順）を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第九課（後半）受動形	各種の受動態の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	他動詞の受動、自動詞の受動、状態受動の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第十課（前半）形容詞の格変化	形容詞の格変化と用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	形容詞の格変化（強変化、弱変化、混合変化）を覚える。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第十課（後半）形容詞と副詞の比較表現	比較級、最上級の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	前回学んだ形容詞の知識をもとに、比較級、最上級の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第十一課（前半）再帰代名詞・再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	再帰代名詞と再帰動詞の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
9	第十一課（後半）zu不定詩の用法	zu不定詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	zu不定詞句の各種用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	第十二課（前半）定関係代名詞	定関係代名詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	定関係代名詞の格変化と、用法について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	第十二課（後半）指示代名詞・不定関係代名詞werとwas	前回の知識をもとに、指示代名詞と不定関係代名詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	指示代名詞と不定関係代名詞の用法について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	第十三課 接続法	接続法の場合の動詞の人称変化と、接続法の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	接続法1式（要求話法、間接話法）および、接続法2式（非現実話法、外交的表現）の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後期の内容を振り返る	後期に扱った文法事項を総復習する。	
	この回の到達目標	後期の学習内容を振り返り、改めて文法事項を整理する。	
	事前学修	後期に学んだ内容を自分なりに振り返る。	20分
	事後学修	テストに向けて、文法事項をしっかりと復習する。	40分
14	後期テスト、振り返り	後期の授業内容が理解できているか確認するため、授業内テストを実施する。	
	この回の到達目標	前期の授業で得た知識を活かして、練習問題を解く。	
	事前学修	前期の文法事項を総ざらいし、試験に備える。	30分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を復習しておく。	30分
15	後期のまとめ、フィードバック	後期のテストの解説と、後期の総復習。	
	この回の到達目標	後期に学んだ文法事項をまとめ、今後の学習へとつなげていく。	
	事前学修	試験で自信がなかった箇所を、確認しておく。	30分
	事後学修	後期の授業内容を繰り返し復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B【月曜3時限】	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
基本的に、真道杉先生の表現とペアで履修してください。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。小テストをこまめに行う予定です。速習クラスの予定ですので、詳しい進め方については、授業の最初の時間にアナウンスします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！ グラムマティック ノイ	新倉真矢子ほか	郁文堂	2018	教科書	必携
備考	前期のものを使用します。このクラスのに履修する学生は、できるだけ新しい版のものを注文してください。				

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかるときは事前に連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価方法の説明、前期の復習（SB0s①-③）	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する	
	事前学修	シラバスに目を通してくる、前期の学習内容を確認してくる	60分
	事後学修	前期の学習内容で忘れていた部分をさらに復習してくる	60分
2	前期の復習、Lektion 7	話法の助動詞・未来形	
	この回の到達目標	話法の助動詞・未来形を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	Lektion 7	話法の助動詞・未来形	
	この回の到達目標	話法の助動詞・未来形を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	
	この回の到達目標	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	
	この回の到達目標	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 7と8をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
6	Lektion 9	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞	
	この回の到達目標	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞	
	この回の到達目標	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 10	動詞の3基本形	
	この回の到達目標	動詞の3基本形（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
9	Lektion 10	動詞の3基本形	
	この回の到達目標	動詞の3基本形を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 9と10をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 11	動詞の3基本形（2）・受動態	
	この回の到達目標	動詞の3基本形（2）・受動態を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 11	動詞の3基本形（2）・受動態	
	この回の到達目標	動詞の3基本形（2）・受動態を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞	
	この回の到達目標	形容詞の変化・比較・関係代名詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞	
	この回の到達目標	形容詞の変化・比較・関係他代名詞を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 11と12をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
14	ステップアップ	接続法	
	この回の到達目標	接続法を学び理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	よく復習し、特にわからなかったことをまとめておく。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
15	後期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	後期の文法項目を復習し応用できる。（SB0s①-③）	
	事前学修	後期の学習内容を振り返る。	60分
	事後学修	今後の学習計画を立てる。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法B【月曜2時限】	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。小テストをこまめに行う予定です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！グラマティック ノイ	新倉真矢子ほか	郁文堂	2018	教科書	必携
備考	前期のものを使用します。				

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかるときは事前に連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価方法の説明、前期の復習（SB0s①-③）	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する	
	事前学修	シラバスに目を通してくる、前期の学習内容を確認してくる	60分
	事後学修	前期の学習内容で忘れていた部分をさらに復習してくる	60分
2	前期の復習、Lektion 7	話法の助動詞・未来形	
	この回の到達目標	話法の助動詞・未来形を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	Lektion 7	話法の助動詞・未来形	
	この回の到達目標	話法の助動詞・未来形を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	
	この回の到達目標	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	
	この回の到達目標	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 7と8をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
6	Lektion 9	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞	
	この回の到達目標	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞	
	この回の到達目標	分離動詞・非分離同士・zu 不定詞・従属の接続詞を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 10	動詞の 3 基本形	
	この回の到達目標	動詞の 3 基本形（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
9	Lektion 10	動詞の 3 基本形	
	この回の到達目標	動詞の 3 基本形を使えるようにする（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 9と10をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 11	動詞の 3 基本形（2）・受動態	
	この回の到達目標	動詞の 3 基本形（2）・受動態を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 11	動詞の 3 基本形（2）・受動態	
	この回の到達目標	動詞の 3 基本形（2）・受動態を使えるようにする。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞	
	この回の到達目標	形容詞の変化・比較・関係代名詞を理解する。（SB0s①-③）	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞	
	この回の到達目標	形容詞の変化・比較・関係他代名詞を使えるようにする。(SB0s①-③)	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 11と12をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
14	ステップアップ	接続法	
	この回の到達目標	接続法を学び理解する。(SB0s①-③)	
	事前学修	よく復習し、特にわからなかったことをまとめておく。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
15	後期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	後期の文法項目を復習し応用できる。(SB0s①-③)	
	事前学修	後期の学習内容を振り返る。	60分
	事後学修	今後の学習計画を立てる。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	杉田 芳樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法B」を履修済みであること。

【授業方法】
教科書に基づいて発音や文法を説明し、練習問題を課題とします。課題の解答と説明は、原則として、次回の授業で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験に代 わる課題により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身について いるかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評 価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]	荻原耕平／山崎泰孝	白水社	2024	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜 日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜〇限、ドイツ語基礎文法を受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、分離動詞・接続詞	授業の進め方と注意事項を理解する。分離動詞、非分離動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞、非分離動詞を理解できる。	
	事前学修	シラバスの各項目を概観する。教科書 Lektion 8 の「分離動詞、非分離動詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
2	分離動詞・接続詞	従属接続詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従属接続詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 8 の「従属接続詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
3	話法の助動詞	話法の助動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 9 の「話法の助動詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
4	話法の助動詞	未来・推量の助動詞 werden について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、未来・推量の助動詞 werden を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 9 の「未来・推量の助動詞 werden」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
5	動詞の3基本形・過去形	動詞の3基本形、過去分詞で ge- のつかない動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形、過去分詞で ge- のつかない動詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 10 の「動詞の3基本形、過去分詞で ge- のつかない動詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
6	動詞の3基本形・過去形	過去形について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 10 の「過去形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現在完了形・受動文	現在完了形、haben支配とsein支配について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形、haben支配とsein支配を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 11 の「現在完了形」「haben支配とsein支配」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
8	現在完了形・受動文	受動文、状態受動について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動文、状態受動を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 11 の「受動文、状態受動」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
9	形容詞・比較表現	形容詞の3つの用法、形容詞の格変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の3つの用法、形容詞の格変化を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 12 の「形容詞の3つの用法」「形容詞の格変化」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
10	形容詞・比較表現	比較表現（比較級・最上級）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較表現（比較級・最上級）を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 12 の「比較表現（比較級・最上級）」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
11	再帰代名詞・zu不定詞	再帰代名詞、再帰動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞、再帰動詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 13 の「再帰代名詞」「再帰動詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
12	再帰代名詞・zu不定詞	zu不定詞の用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の用法を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 13 の「zu不定詞の用法」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	関係代名詞・接続法	関係代名詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 14 の「関係代名詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
14	関係代名詞・接続法	接続法第2式について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第2式を理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 14 の「接続法第2式」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
15	授業内試験、フィードバック	授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。	30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	練習問題や課題の発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』	河田一郎 他著	三修社	2021	教科書	必携
独和辞典（授業内で説明します。）				参考書	必携
備考	※『気分はドイツ[改訂版]』は、必ず[改訂版]の方をご用意ください。				

【オフィスアワー】
授業終了後の教室にて。できる限り、事前に申し出ることが望ましい。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】と独検について	授業の進め方、評価方法の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。また独検についての概要説明と、過去問題を確認する。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独検などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独検関連の参考書についてWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	【前期の復習】	Lektion1～Lektion7までの復習	
	この回の到達目標	前期で学習した文法事項を再確認し、使用することができる。	
	事前学修	Lektion1～Lektion7までの文法事項を読んでおく。	30分
	事後学修	理解が不十分であると思われた前期の文法事項を復習する。	30分
3	【Lektion 8】分離動詞	分離動詞の使い方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、分離動詞の使い方を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の39頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ分離動詞を復習する。	30分
4	【Lektion 8】zu不定詞	zu不定詞の用法	
	この回の到達目標	zu不定詞の基本的な使い方や熟語表現を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の40頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだzu不定詞の様々な用法を復習する。	30分
5	【Lektion 9】動詞の3基本形	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）	
	この回の到達目標	動詞の3基本形を理解し、不規則なものに関しては独和辞典を使って3基本形を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の42頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ3基本形を復習する。	30分
6	【Lektion 9】過去形	過去人称変化	
	この回の到達目標	過去形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の43頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ過去形の文章を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 10】現在完了形	現在完了形の文章の作り方（完了の助動詞と過去分詞、語順）	
	この回の到達目標	現在完了形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の45-46頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ現在完了形の文章を復習する。	30分
8	【Lektion 11】再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞	
	この回の到達目標	再帰代名詞・再帰動詞の使い方や辞書での調べ方を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の51頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ再帰動詞の熟語的表現を復習する。	30分
9	【Lektion 11】受動	動作受動と状態受動	
	この回の到達目標	受動の文章の種類、構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の52頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動作受動と状態受動を復習する。	30分
10	【Lektion 12】形容詞	形容詞の用法	
	この回の到達目標	形容詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の55-56頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の用法を復習する。	30分
11	【Lektion 12】比較	形容詞の原級、比較級、最上級の用法	
	この回の到達目標	形容詞の比較級、最上級の形を確認し、形容詞の原級、比較級、最上級の様々な用法を使用することができる。	
	事前学修	教科書の57頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の原級、比較級、最上級の用法を復習する。	30分
12	【Lektion 13】関係代名詞	関係代名詞の格と文章構造	
	この回の到達目標	関係代名詞を使った文章の構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の60頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ関係代名詞を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 14】接続法	接続法第1式、接続法第2式	
	この回の到達目標	接続法の用法を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の64-66頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続法の用法を復習する。	30分
14	【後期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて後期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第3回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【後期の総括・振り返り】	後期授業のまとめ	
	この回の到達目標	後期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	練習問題や課題の発表。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』	河田一郎 他著	三修社	2021	教科書	必携
独和辞典（授業内で説明します。）				参考書	必携
備考	※『気分はドイツ[改訂版]』は、必ず[改訂版]の方をご用意ください。				

【オフィスアワー】
授業終了後の教室にて。できる限り、事前に申し出ることが望ましい。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】と独検について	授業の進め方、評価方法の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。また独検についての概要説明と、過去問題を確認する。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独検などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独検関連の参考書についてWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	【前期の復習】	Lektion1～Lektion7までの復習	
	この回の到達目標	前期で学習した文法事項を再確認し、使用することができる。	
	事前学修	Lektion1～Lektion7までの文法事項を読んでおく。	30分
	事後学修	理解が不十分であると思われた前期の文法事項を復習する。	30分
3	【Lektion 8】分離動詞	分離動詞の使い方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、分離動詞の使い方を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の39頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ分離動詞を復習する。	30分
4	【Lektion 8】zu不定詞	zu不定詞の用法	
	この回の到達目標	zu不定詞の基本的な使い方や熟語表現を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の40頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだzu不定詞の様々な用法を復習する。	30分
5	【Lektion 9】動詞の3基本形	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）	
	この回の到達目標	動詞の3基本形を理解し、不規則なものに関しては独和辞典を使って3基本形を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の42頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ3基本形を復習する。	30分
6	【Lektion 9】過去形	過去人称変化	
	この回の到達目標	過去形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の43頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ過去形の文章を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 10】現在完了形	現在完了形の文章の作り方（完了の助動詞と過去分詞、語順）	
	この回の到達目標	現在完了形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の45-46頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ現在完了形の文章を復習する。	30分
8	【Lektion 11】再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞	
	この回の到達目標	再帰代名詞・再帰動詞の使い方や辞書での調べ方を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の51頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ再帰動詞の熟語的表現を復習する。	30分
9	【Lektion 11】受動	動作受動と状態受動	
	この回の到達目標	受動の文章の種類、構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の52頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動作受動と状態受動を復習する。	30分
10	【Lektion 12】形容詞	形容詞の用法	
	この回の到達目標	形容詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の55-56頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の用法を復習する。	30分
11	【Lektion 12】比較	形容詞の原級、比較級、最上級の用法	
	この回の到達目標	形容詞の比較級、最上級の形を確認し、形容詞の原級、比較級、最上級の様々な用法を使用することができる。	
	事前学修	教科書の57頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の原級、比較級、最上級の用法を復習する。	30分
12	【Lektion 13】関係代名詞	関係代名詞の格と文章構造	
	この回の到達目標	関係代名詞を使った文章の構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の60頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ関係代名詞を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 14】接続法	接続法第1式、接続法第2式	
	この回の到達目標	接続法の用法を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の64-66頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続法の用法を復習する。	30分
14	【後期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて後期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第3回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【後期の総括・振り返り】	後期授業のまとめ	
	この回の到達目標	後期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜5時限)	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを履修済みであること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。

【授業方法】		
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題（事後学修）とし、次の授業で解説します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポん）によるアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説をします。授業内試験の解説はポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版]』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【話法の助動詞（現在人称変化と文構造）】	授業の進め方と注意事項を説明する。 話法の助動詞の現在人称変化と文構造について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の現在人称変化と文構造について理解し、話法の助動詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。 教科書35ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	60分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 教科書37ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	30分
2	【話法の助動詞（用法）】	話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書35～36ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書37ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分
3	【分離動詞】	分離動詞のしくみについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞のしくみについて理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書39ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題1，3の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【zu不定詞】	zu不定詞の形式と用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の形式と用法について理解し、zu不定詞を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書40ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題2，3の1.，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形について理解し、変化させたり、調べることができる。	
	事前学修	教科書42～43ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書44ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	40分
6	【過去人称変化】 【序数】	過去人称変化について学習する。 また、序数について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去人称変化について理解し、過去形のドイツ語文を作ることができる。序数について理解し、序数を用いた表現ができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書43ページ、50ページ「序数」を読む。わからない単語の意味を調べる。数詞を復習しておく。	30分
	事後学修	過去人称変化を暗記する。 教科書44ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【現在完了形】		現在完了形について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、現在完了形のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 4 5 ～ 4 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 4 7 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分
8	【再帰動詞】		再帰代名詞と再帰動詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、再帰動詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	再帰代名詞を暗記する。 教科書 5 4 ページの練習問題 1, 2 の1., 2., 3 の1.を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【受動】		動作受動、状態受動について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作受動、状態受動について理解し、受動態のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 2 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 4 ページの練習問題 2 の3. ～6., 3 の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【形容詞の変化】		形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化について理解し、形容詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 5 5 ～ 5 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 1, 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【形容詞の比較変化】		形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 7 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【関係代名詞】		定関係代名詞、不定関係代名詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定関係代名詞、不定関係代名詞について理解し、関係代名詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 6 0 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 1 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【直説法と接続法、接続法第 1 式】	直説法と接続法、接続法第 1 式の形、要求話法、間接話法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、直説法と接続法、接続法第 1 式の形、要求話法、間接話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 6 4 ～ 6 5 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 7 ページの練習問題 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【接続法第 2 式】	接続法第 2 式の形、非現実話法、接続法の過去について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第 2 式の形、非現実話法、接続法の過去について理解し、ドイツ語文中でも認識でき、接続法第 2 式を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 6 5 ～ 6 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 7 ページの練習問題 1， 3 を行う。 授業内に指示された課題を行う。	40分
15	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書 3 5 ～ 6 7 ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	山本 知佳	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後に、練習問題を解き、基礎的な文法の定着を図る。必要に応じて小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や練習問題の発表を通じてアクティブ・ラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『シュリット・フュア・シュリット』（三訂版）	今井田亜弓 他	三修社	2021年	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考	教科書は「三訂版」を用意する。				

【オフィスアワー】
授業の後、またはメールにて対応する。yamamoto.chika@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと前期の復習	授業の進め方、注意事項、試験について説明する。 前期に学習した内容を確認するために、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の基礎的な文法を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。 前期の学習内容を確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、後期の学習範囲を捉える。 練習問題で分からなかった箇所を含め、前期の学習内容を復習する。	30分
2	【LEKTION 6】時刻表現	ドイツ語の時刻表現、序数、日付・誕生日の言い方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の時刻表現を理解し、文の構造を捉えることができる。 時刻を聞くことができ、また答えることができる。	
	事前学修	教科書66～67頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ時刻表現、序数、日付・誕生日の言い方について復習する。 特に24時間制と12時間制で用いられる表現の違いを捉える。	30分
3	【LEKTION 7】話法の助動詞	話法の助動詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書68～69頁を読み、音声聞き、発音練習をする。話法の助動詞の意味を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の用法について復習する。	30分
4	【LEKTION 7】副文	副文について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従属の接続詞に導かれる副文を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書70頁を読み、発音練習をする。従属の接続詞の意味を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ従属の接続詞の用法について復習する。	30分
5	【LEKTION 8】動詞の三基本形・過去形	動詞の三基本形と過去形について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の三基本形を理解する。 そのうちの過去基本形から作られる過去形の人称変化を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書76～77頁を読み、発音練習をする。これまで学習した動詞の三基本形を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ動詞の三基本形のタイプ、過去形について復習する。	30分
6	【LEKTION 8】現在完了形	現在完了形について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書78～79頁を読み、発音練習をする。 これまで学習した動詞が現在完了形で示される場合の完了の助動詞と過去分詞を調べる。	30分
	事後学修	授業で学んだ現在完了形について復習する。 特に完了の助動詞にhabenを用いる場合、seinを用いる場合の動詞の傾向を捉える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【LEKTION 9】 zu不定詞句	zu不定詞句について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞句を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書84～85頁を読み、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだzu不定詞句の用法について復習する。	30分
8	【LEKTION 9】 再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞を理解し、文の構造を捉えることができる。特に人称代名詞と再帰再名詞を用いる場合の違いを十分に捉えることができる。	
	事前学修	教科書86～87頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ再帰代名詞と再帰動詞について復習する。主な再帰表現を暗記する。	30分
9	【LEKTION 10】 形容詞の格変化	形容詞の格変化：名詞の修飾語について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の修飾語としての形容詞の格変化を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書92頁を読み、これまで学習した中での、形容詞の用いられ方を確認する。同頁の表①～③を見て語尾変化を捉える。98頁の色の名前の音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ名詞の修飾語としての形容詞の格変化について復習する。	30分
10	【LEKTION 10】 比較表現	比較表現について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較表現を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書93～94頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞・副詞の原級、比較級、最上級を用いた比較表現について復習する。	30分
11	【LEKTION 11】 関係代名詞・指示代名詞	関係代名詞・指示代名詞について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞・指示代名詞を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書100～102頁を読み、音声聞き、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ関係代名詞・指示代名詞の用法について復習する。	30分
12	【LEKTION 12】 受動態	受動態について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書108～109頁を読み、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ受動態の構造を復習する。特に動作受動と状態授業の意味の違いを十分に捉える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【LEKTION 12】接続法Ⅱ式	接続法Ⅱ式について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法Ⅱ式を理解し、文の構造を捉えることができる。	
	事前学修	教科書110～111頁を読み、発音練習をする。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続法Ⅱ式について復習する。 接続法Ⅱ式の場合の人称変化を覚え、非現実話法、外交的接続法の用法を十分に捉える。	30分
14	【授業内試験】	これまでの学習内容を振り返り、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学習内容を十分に理解し、試験に答えることができる。	
	事前学修	これまでの学習内容を復習し、試験に備える。	60分
	事後学修	試験の内容を確認し、復習する。	30分
15	後期の学習内容の振り返り	試験問題を振り返り、後期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期の学習内容を十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習内容で分からなかった箇所を復習する。	30分
	事後学修	後期で学習した内容を振り返り、文法事項を確認する。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	前川 一貴	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
とくになし

【授業方法】
教員が各課のポイントのみ解説したあと、学生はグループで教科書の解説を読み、問題演習に取り組む。分からない箇所があれば、いつでも自由に質問できる。グループで問題を解き終わったら、教員がチェックし、アドバイスをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の最終回に筆記試験を行う。教科書の練習問題から出題する。	30	30	0								60
小テスト等	各課の練習問題の答案を提出する。	15	15	0								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、グループワークに積極的に参加したかどうか。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	48	4								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題を返却し、学生同士で答え合わせをする。その後、教員が質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]	萩原耕平・山崎泰孝	白水社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
1	前期の復習 Lektion 8 分離動詞・接続詞		数字、簡単な会話表現 前つづり、分離動詞・非分離動詞の仕組み	
	この回の到達目標	ドイツ語の感覚を取り戻す。 前つづり＋基礎動詞という分離動詞の構造を理解し、文のなかで使えるようにする。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、前期の学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分
2	Lektion 8 分離動詞・接続詞		従属接続詞	
	この回の到達目標	並列接続詞と従属接続詞の違いを理解し、正しい語順で文を作れるようにする。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分
3	Lektion 9 話法の助動詞		話法の助動詞の意味、人称変化、構文	
	この回の到達目標	話法の助動詞を用いた文を作れるようにする。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分
4	Lektion 9 話法の助動詞		助動詞の単独用法、未来・推量の助動詞werden	
	この回の到達目標	becomeに当たる動詞werdenが、未来や推量を表す動詞としても使われることを理解する。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分
5	Lektion 10 動詞の3基本形・過去形		過去基本形、重要動詞の過去基本形、分離動詞の過去基本形、過去形の文	
	この回の到達目標	過去基本形に人称変化語尾を付ける仕組みを理解する。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分
6	Lektion 10 動詞の3基本形・過去形		過去分詞、過去分詞でge-がつかない動詞	
	この回の到達目標	規則動詞、不規則動詞、分離動詞などの過去分詞が分かるようにする。		
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。		30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 11 現在完了形・受動文	現在完了形の文、haben支配とsein支配	
	この回の到達目標	完了の助動詞と過去分詞で枠構造を作ることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
8	Lektion 11 現在完了形・受動文	受け身の文	
	この回の到達目標	受け身の助動詞werdenと過去分詞で枠構造を作ることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
9	Lektion 12 形容詞・比較表現	形容詞の3つの用法、形容詞の格変化	
	この回の到達目標	形容詞の付加語的用法は格変化することを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
10	Lektion 12 形容詞・比較表現	形容詞と副詞の比較表現	
	この回の到達目標	比較級と最上級の文を作れるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
11	Lektion 13 再帰代名詞・zu不定詞	再帰代名詞の格変化、再帰動詞	
	この回の到達目標	「～自身」がドイツ語ではどうなるのかを押さえ、それが動詞とセットでよく使われることを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
12	Lektion 13 再帰代名詞・zu不定詞	zu不定詞の用法	
	この回の到達目標	zu不定詞句を作れるようにしたうえで、それを文のなかで使えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 14 関係代名詞・接続法	関係代名詞の使い方	
	この回の到達目標	関係代名詞が代名詞のひとつであり、それがどのような文の構造を成しているのかを理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
14	Lektion 14 関係代名詞・接続法	接続法第2式の用法	
	この回の到達目標	非現実話法と外交話法を理解する。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	教科書の練習問題を解き直す。	60分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	後期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	ドイツ語演習C(第二部水曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編の伝記なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解②の意見表明に関わる能力がが身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年	教科書	必携
『気分はドイツ〔改訂版〕』	河田一郎著	三修社	2020年	教科書	必携
『アクセス独和辞典』他		三修社	2021年	その他	必携
備考	独和辞典は必ず持参のこと（電子辞書不可）。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
①水曜 3 限授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 授業の進め方 テキストの読み方		初級文法が終わった時点で内容のあるものを一冊読み上げることの意義について述べる。ロケットの父、ヴェルンヘル・フォン・ブラウンの功績について簡単に説明する。 第1章の第1段落だけ取り上げる。	
	この回の到達目標	史上初めて人類が月に立つことに貢献したフォン・ブラウンの業績を簡単に紹介できる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
2	アポロ11号の月面着陸		第1章 アポロ11号 このテキストの文体である「歴史的現在」の訳し方について説明する。	
	この回の到達目標	アポロ11号の月面着陸とフォン・ブラウンとの関係を類推できる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。2格の用法について調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
3	人類月に立つ		第1章 アポロ11号 このテキストの文体である「歴史的現在」の効果について説明する。	
	この回の到達目標	月世界の情景と世界中の人たちの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
4	少年の月と星への夢		第2章 1960年代のアメリカから1920年代のドイツへ。 伝記小説の構成について説明する。この	
	この回の到達目標	主人公の少年の月への情熱を読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
5	ロケット花火の実験		第2章を読んでいく。	
	この回の到達目標	主人公の少年が、ロケット花火の実験をなぜ行ったのか、その理由を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
6	宇宙空間とロケット工学		第2章を読んでいく。 宙空間へ行くためには、なぜ飛行機ではなく、ロケットなのかを説明する。宇	
	この回の到達目標	主人公の少年が、ロケット工学の専門書に取り組もうとする意欲を読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	寄宿舎での生活		第2章を読んでいく。 チス台頭前のドイツの時代背景に触れる。	
	この回の到達目標	主人公の少年の、望遠鏡を与えられたときの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
8	映画『月世界の女性』		第2章 映画『月世界の女性』（1920年）の解説を行う。あわせて当時の宇宙への知識についても触れる。 映画(DVD)を鑑賞しながら、テキストをともに読んでいく。	
	この回の到達目標	映画のあらすじと主人公の行動とを結びつけ、その関係を発表することができる。（到達目標①②③④）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
9	世界のロケット研究事情		第3章を読んでいく。	
	この回の到達目標	各国の宇宙工学の状況を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
10	世界恐慌とロケット開発		第3章を読んでいく。 第1次世界大戦後の世界恐慌について簡単に説明する。	
	この回の到達目標	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
11	自動車王フォードとナチス		第3章を読んでいく。	
	この回の到達目標	アメリカの自動車王フォードとナチスがどのようにロケット開発にかかわってくるかについて推測しながらテキストを読み込み、意見を述べることができる。（到達目標①②③④）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
12	宇宙旅行協会とオーベルト教授		第3章を読んでいく。ベルリンの宇宙旅行協会について触れる。	
	この回の到達目標	宇宙旅行協会でのロケット研究とオーベルト教授との共同開発の内容を理解したうえで、テキストを読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	宇宙への情熱	第3章を読んでいく。第4章の文法解説。	
	この回の到達目標	主人公の少年の、変わらぬ月への情熱を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。関係文とzu不定詞についての文法事項を調べておく	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	150分
14	試験/解説	独文和訳形式（もしくはレポート課題）。辞書参照可。文法解説。	
	この回の到達目標	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	150分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	解説／振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
	この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。テキストを通して、主人公のロケットへの情熱について接してみて、どう感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返る。第5章を先取りして、調べておく。	30分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基礎文法を一通り学習し終えていること。

【授業方法】
一年次に習得した文法事項を復習・確認しながら、ドイツ語のテキストの音読、読解、独作文など行う。ドイツ語検定3級レベルの読解力を身につけるために必要に応じて小テストを行う。必ず独和辞書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した表現を使ってドイツ語で自分の身の回りの出来事を表現する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを、試験により評価する。	50	10									60
小テスト等	到達目標①にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解と②の意見表明に関わる能力および積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	10									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート課題は返却、添削する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身近なドイツ語ーしゃべりたくなる１０のトピックー	木戸沙織	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で。kawakami.hirokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス：ドイツ語とドイツ語圏の文化と芸術について・導入		授業の進め方・成績評価の方法について説明する。一年次に学習した文法事項の理解度を確認する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自分が関心を持っているドイツの文化・芸術について説明することができる。苦手な文法事項を確認することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。一年次に習得した文法事項を確認し、苦手な項目をチェックしておく。		30分
	事後学修	苦手な文法事項を復習する。		30分
2	ドイツ語の発音		発音規則について説明し、簡単な挨拶文、日本で使われる単語、有名なドイツ人の名前の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語の発音規則とつづり字の発音を理解し、単語を発音することができる。		
	事前学修	ドイツ語の母音・子音の発音規則を復習しておくこと。		30分
	事後学修	授業中に練習した単語を何度も繰り返し発音練習する。		30分
3	動詞の人称変化		主語になる代名詞、疑問詞、動詞の変化、位置を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡単な平叙文・疑問文を作ることができる。		
	事前学修	Lektion 1教科書を読み、動詞の変化について復習しておく。		30分
	事後学修	自己紹介ができるように、学習した単語を使い自分について説明する練習をする。		30分
4	Text1"Summ, summ, summ":講読		TextP7の発音練習と訳を行う。テキストの中の重要動詞の変化と語順を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規則変化動詞の人称変化を理解し、平叙文と疑問文を作ることができる。		
	事前学修	テキストの音読と辞書を使用し訳を予習してくること。		30分
	事後学修	重要表現、重要動詞の変化を確実に覚える。		30分
5	名詞について		名詞の種類、定冠詞、不定冠詞、格の用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞、冠詞の変化、格の用法について理解し、説明することができる。		
	事前学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えてくる。		30分
	事後学修	名詞の格の用法を復習し、練習する。		30分
6	Text 2:Wiener Kaffee 講読		TextP11の発音練習と訳を行う。テキストの中の重要動詞の変化と名詞の格を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、重要動詞:sein haben werdenを使った文を作ることができる。		
	事前学修	テキストの音読と辞書を使用し訳を予習してくること。		30分
	事後学修	重要表現、重要不規則動詞の変化を確実に覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Text 3:Mond 講読		Text:P15の発音練習と訳を行う。テキストの中の不定冠詞の格変化を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格と不規則動詞の変化を理解し説明することができる。重要な不規則動詞を使った文と否定文を作ることができる。		
	事前学修	テキストの音読練習と名詞の格を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。		30分
8	冠詞類の変化		定冠詞類、不定冠詞類の冠詞の種類と変化、否定冠詞を使った否定文を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類、不定冠詞類を使いこなせるようになる。否定冠詞を使った否定文を作ることができる。		
	事前学修	Lektion 4 教科書を読み、定冠詞、不定冠詞の格変化をもう一度確実に覚えてくる。		30分
	事後学修	定冠詞類の冠詞、所有冠詞を確実に覚える。		30分
9	Text 4:Rad 講読		Text:P19の発音練習と訳を行う。冠詞の変化を確認し理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類の冠詞、所有冠詞、名詞の格を理解し説明することができる。		
	事前学修	テキストの音読練習と冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。		30分
10	人称代名詞と再帰代名詞について		人称代名詞と再帰代名詞の変化、再帰動詞の使い方を確認し理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞と再帰代名詞を使いこなせるようになる。再帰動詞を使った文を作ることができる。		
	事前学修	Lektion 5 教科書を読み、人称代名詞の変化を確実に覚えてくる。		30分
	事後学修	再帰動詞の用法を復習し、練習する。		30分
11	Text 5: Nase putzen講読		Text:P23の発音練習と訳を行う。人称代名詞と再帰代名詞の変化を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞の格と再帰動詞の使い方を理解し説明することができる。		
	事前学修	テキストの音読練習と冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。		30分
	事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。		30分
12	前置詞の格支配		前置詞の使い方を確認し理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞を使いこなせるようになる。前置詞の格支配を理解し説明することができる。		
	事前学修	Lektion 6 教科書を読み、名詞の格変化をもう一度確実に覚えてくる。		30分
	事後学修	重要な前置詞の格や意味を確実に覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Text 6:Kindergarten 講読	Text:P27の発音練習と訳を行う。テキストの中の置詞の使い方を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の使い方を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音読練習と前置詞の使い方を確認しながら、辞書を使用し訳をしていくこと。	30分
	事後学修	重要表現、前置詞の格や意味を確実に覚える。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントを使用して前期学習した文法事項の問題を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について説明することができる。	
	事前学修	前期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について調べまとめる。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分
15	授業内試験と振り返り・まとめ	授業内試験及び前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類の変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
	事前学修	前期に学習した文法と重要単語を総復習する。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	杉田 芳樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」及び「ドイツ語基礎表現」を履修済みであること。

【授業方法】
教科書に基づいて文法を詳細に説明し、その後、グループワークによって作文や長文読解のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、パートナー練習、和訳を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	10									60
小テスト等	到達目標①②に関する理解が身についているかを、小テストにより評価する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
わかるぞドイツ語！みえるぞドイツ！WEB改訂版	春日正男／松澤淳	朝日出版社	2022	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜4限、人文系ドイツ語演習を受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、【Lektion 1】 Japan in Deutschland	授業の進め方と注意事項を理解する。ドイツの中の日本についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの中の日本に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	シラバスの各項目を概観する。Lektion 1 の例文と練習問題（2～6ページ）および長文テキスト（1ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
2	【Lektion 2】 Auch Wein ist in Deutschland beliebt.	ドイツのビールとワインについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのビールとワインに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 2 の例文と練習問題（8～12ページ）および長文テキスト（7ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
3	【Lektion 3】 Berlin ist die Hauptstadt Deutschlands.	冠詞と名詞の格変化を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ベルリンに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 3 の例文と練習問題（14～17ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
4	【Lektion 3】 Berlin ist die Hauptstadt Deutschlands.	ベルリンについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ベルリンに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 3 の練習問題（18ページ）および 長文テキスト（13ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
5	【Lektion 4】 Die Kultur in Europa ist sehr vielfältig.	不規則変化動詞、命令形を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパと EU に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 4 の例文と練習問題（20～23ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
6	【Lektion 4】 Die Kultur in Europa ist sehr vielfältig.	ヨーロッパと EU についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパと EU に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 4 の練習問題（24ページ）および 長文テキスト（19ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【Lektion 5】 Manche Studenten machen auch ein Praktikum.		定冠詞類、不定冠詞類、指示代名詞、疑問代名詞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの若者とアルバイトに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。		
	事前学修	Lektion 5 の例文と練習問題（26～29ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分
8	【Lektion 5】 Manche Studenten machen auch ein Praktikum.		ドイツの若者とアルバイトについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの若者とアルバイトに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。		
	事前学修	Lektion 5 の練習問題（30ページ）および 長文テキスト（25ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分
9	【Lektion 6】 Am Morgen gehen die Leute vor der Arbeit zur Bäckerei.		人称代名詞の格変化、前置詞の格支配を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのパン屋に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。		
	事前学修	Lektion 6 の例文と練習問題（32～35ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分
10	【Lektion 6】 Am Morgen gehen die Leute vor der Arbeit zur Bäckerei.		ドイツのパン屋についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのパン屋に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。		
	事前学修	Lektion 6 の練習問題（36ページ）および 長文テキスト（31ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分
11	【Lektion 7】 Er möchte dieses Jahr mit seiner Frau in die Türkei fahren.		話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と定動詞の位置を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ人の旅行事情に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。		
	事前学修	Lektion 7 の例文と練習問題（38～41ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分
12	【Lektion 7】 Er möchte dieses Jahr mit seiner Frau in die Türkei fahren.		ドイツ人の旅行事情についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ人の旅行事情に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。		
	事前学修	Lektion 7 の練習問題（42ページ）および 長文テキスト（37ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。		60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 8】 Jedes Jahr findet das Orchesterfest in München statt.	分離動詞、再帰動詞、es の用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミュンヘンに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 8 の例文と練習問題（44～47ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
14	【Lektion 8】 Jedes Jahr findet das Orchesterfest in München statt.	ミュンヘンについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミュンヘンに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 8 の練習問題（48ページ）および 長文テキスト（43ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
15	授業内試験、フィードバック	授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。	30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習D(第二部水曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編の伝記なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。				2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。				2					2		2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解②の意見表明が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年	教科書	必携
『気分はドイツ〔改訂版〕』	河田一郎他著	三修社	2021年	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社	2018年	その他	必携
備考	web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
①水曜 3 限，授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 後期授業の進め方 第4章の復習	第4章までの内容を振り返る。第5章を読んでいく。	
	この回の到達目標	ナチスから資金援助を受けることになった経緯を文章から読み取ることができる。この時の主人公の心の葛藤についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。 アポロ11号について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	ドルンベルガーとベルリンのロケット研究所	第5章を読んでいく。クンメルスドルフの地理的位置について説明する。	
	この回の到達目標	この時の主人公の心境についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	ロケットの宇宙旅行から兵器への転用	第5章を読んでいく。クンメルスドルフのロケット研究所での実験	
	この回の到達目標	テキストを読んで、クンメルスドルフのロケット研究所での実験の失敗から主人公の心境を読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	ヒトラーの独裁政治の始まりとロケット開発	第6章を読んでいく。	
	この回の到達目標	陸軍兵器局とロケット開発との関係をテキストから読み取ることができる。その理由について意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。ヒトラーの独裁政権がいつ始まったか調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	ロケット基地の建設	第6章を読んでいく。パーネミュンデの地理的な位置について説明する。	
	この回の到達目標	ロケット基地をなぜパーネミュンデに移したかその理由をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	大陸弾道ロケットの設計	第6章を読んでいく。当時のドイツの戦況について説明する。	
	この回の到達目標	ヒトラーから命令を受けた時の主人公の心境をテキストとの行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	イギリス情報部の活動		第7章を読んでいく。	
	この回の到達目標	多くの失敗を経て、A4ロケットの成功に至る経緯を理解したうえで、主人公の相反する心境を行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
8	オスロレポート		第7章を読んでいく。	
	この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
9	バルト海沿岸の空中写真解説		第7章を読んでいく。バルト海沿岸の地理的な位置を示す。	
	この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
10	ペーネミュンデへの爆撃と終戦		第7章を読んでいく	
	この回の到達目標	終戦直後の主人公と技術者の行動についてテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
11	自由の天地へ		第8章を読んでいく。	
	この回の到達目標	主人公がなぜアメリカへ行く決心をしたか文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分
12	再び宇宙計画に向う		第8章を読んでいく。米ソの宇宙開発競争について解説する。	
	この回の到達目標	主人公のアメリカでの生活とソ連との宇宙開発競争について文章から読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年のころの夢の実現へ	第8章を読んでいく。読んだ後に、このテキストの構造が円環形式になっていることを説明する。	
	この回の到達目標	主人公が人類初の月への着陸という夢を達成した経緯をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
14	試験/解説	独文和訳形式（もしくはレポート課題）。辞書参照可。文法解説。	
	この回の到達目標	第8章までの内容を踏まえ、テキスト全体の内容を正確に理解したうえで、翻訳することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	解説/振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
	この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。このテキストを通して、主人公の生涯をかけた研究、強い意志、たゆみない努力に接してみて、何を感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返る。宇宙への挑戦者の伝記を読んで、どう感じたかを考えてみる。	30分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基礎文法を学習し終えていること。

【授業方法】
ドイツ語演習Cの続きを学習する。一年次に習得した文法事項を復習・確認しながら、ドイツ語のテキストの音読、読解、独作文など行う。ドイツ語検定3級レベルの読解力を身につけるために必要に応じて小テストを行う。必ず独和辞書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した表現を使ってドイツ語で自分のことを表現する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、試験により評価する。	50	10									60
小テスト等	到達目標①にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解と②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	20	10									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは返却、課題は授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身近なドイツ語ーしゃべりたくなる１０のトピックー	木戸沙織	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で。kawakami.hirokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：ドイツ語圏の文化と芸術について・導入	授業の進め方・成績評価の方法について説明する。前期に学習した文法事項の理解度を確認する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分が関心を持っているドイツの文化・芸術について説明することができる。苦手な文法事項を確認することができる。	
	事前学修	前期に習得した文法事項を確認し、復習しておく。シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	苦手な文法事項を復習する。	30分
2	複合動詞	複合動詞と熟語動詞について説明し、分離動詞と使った文を作ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語の枠構造を理解し、分離動詞と使った文を作ることができる。	
	事前学修	Lektion 7教科書を読み、複合動詞について復習しておく。	30分
	事後学修	分離動詞と非分離動詞を使って文を作る。	30分
3	従属接続詞	接続詞の種類と定動詞の位置について説明し、副文を作ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属接続詞を理解し、副文を作ることができる。	
	事前学修	接続詞の種類と定動詞の位置について復習しておく。	30分
	事後学修	枠構造を復習し、従属接続詞を確実に覚える。	30分
4	Text 7:Salz 講読	TextP31 の発音練習と訳を行う。テキストの中の分離動詞と使った文と副文を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞と使った文と副文を確認し、訳すことができる。	
	事前学修	テキストの音読練習と分離動詞と使った文と副文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現、枠構造の文型を整理し確実に覚える。	30分
5	話法の助動詞、非人称	話法の助動詞の種類と助動詞構文、非人称のesについて説明し、助動詞と使った文を作ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞の変化と動詞位置を理解し、助動詞構文を説明することができる。	
	事前学修	Lektion 8 教科書を読み、助動詞の変化について復習しておく。	30分
	事後学修	助動詞構文を復習し、助動詞の変化と意味を確実に覚える。	30分
6	Text 8:Bernhardiner講読	TextP35 の発音練習と訳を行う。テキストの中の助動詞構文、非人称のesを使った文を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞構文と助動詞の意味について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストの音読練習と助動詞と非人称のesを使った文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現、助動詞構文と非人称のesを使った熟語の文を整理し確実に覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現在完了形、受動態	動詞の三基本形を復習し、現在完了形、受動態について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完了形と受動態の助動詞構文について理解し、現在完了形、受動態の文を作ることができる。	
	事前学修	Lektion 9教科書を読み、動詞の三基本形について復習しておく。	30分
	事後学修	重要不規則動詞の過去分詞を確実に覚える。	30分
8	Text 9:Hexenschuss講読	TextP39の発音練習と訳を行う。テキストの中の現在完了形、受動態の文を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形、受動態について理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの現在完了形、受動態を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現、現在完了形、受動態を整理し、作り方を復習する。	30分
9	過去形、zu 不定詞	過去形の人称変化、zu 不定詞の用法を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去形とzu 不定句を使いこなせるようになる。	
	事前学修	Lektion 10 教科書を読み、動詞の三基本形をもう一度確実に覚えてくる。	30分
	事後学修	過去形の人称変化を復習する。	30分
10	Text 10: Das Rote Kreuz講読	TextP43の発音練習と訳を行う。テキストの中の過去形とzu 不定詞の用法を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去形の人称変化、zu 不定詞の用法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音読練習し、過去形とzu 不定詞の用法を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現、zu 不定句の用法を整理し確実に覚える。	30分
11	関係文	関係文の作り方と用法を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係文の役割を理解し説明することができる。	
	事前学修	定冠詞の変化を確実に覚えてくる。	30分
	事後学修	関係文の用法を復習し、練習する。	30分
12	Maerchen講読	Textの発音練習と訳を行う。テキストの中の定関係代名詞と関係文の文型を確認し練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定関係代名詞と関係文の文型を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音読練習と関係文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現、重要動詞を確実に覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の変化と用法を確認し理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の使い方を理解し説明することができる。	
	事前学修	過去形の人称変化を復習してくる。	30分
	事後学修	接続法の文の用法を復習し、練習する。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントを使用して後期学習した文法事項の問題を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について説明することができる。	
	事前学修	後期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について調べまとめる。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分
15	授業内試験と振り返り・まとめ	授業内試験及び前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、枠構造、副文と関係文 助動詞構文についてを説明することができる。	
	事前学修	前期に学習した文法と重要単語を総復習する。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	杉田 芳樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」及び「ドイツ語基礎表現」を履修済みであること。

【授業方法】
教科書に基づいて文法を詳細に説明し、その後、グループワークによって作文や長文読解のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、パートナー練習、和訳を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	10									60
小テスト等	到達目標①②に関する理解が身についているかを、授業内課題により評価する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
わかるぞドイツ語！みえるぞドイツ！WEB改訂版	春日正男／松澤淳	朝日出版社	2022	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜4限、人文系ドイツ語演習を受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、【Lektion 9】 Die vielen Gäste kommen aus der ganzen Welt.	形容詞の格変化、形容詞の名詞化を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミュンヘンのオクトーバーフェストに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 9 の例文と練習問題（50～53ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
2	【Lektion 9】 Die vielen Gäste kommen aus der ganzen Welt.	ミュンヘンのオクトーバーフェストについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミュンヘンのオクトーバーフェストに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 9 の練習問題（54ページ）および 長文テキスト（49ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
3	【Lektion 10】 Er war schon als Kind Mitglied in einem Fußballverein.	動詞の3基本形、過去人称変化の名詞化を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのサッカー事情に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 10 の例文と練習問題（56～59ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
4	【Lektion 10】 Er war schon als Kind Mitglied in einem Fußballverein.	ドイツのサッカー事情についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのサッカー事情に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 10 の練習問題（60ページ）および 長文テキスト（55ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
5	【Lektion 11】 Viele Städte haben eine strenge Mülltrennung eingeführt.	完了形を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのエコライフに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 11 の例文と練習問題（62～65ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
6	【Lektion 11】 Viele Städte haben eine strenge Mülltrennung eingeführt.	ドイツのエコライフについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのエコライフに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 11 の練習問題（66ページ）および 長文テキスト（61ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 12】 Familien, die kleine Kinder haben, kaufen gerne im Biomarkt ein.	関係代名詞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然食品マーケットでの買い物に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 12 の例文と練習問題（68～71ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
8	【Lektion 12】 Familien, die kleine Kinder haben, kaufen gerne im Biomarkt ein.	自然食品マーケットでの買い物についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然食品マーケットでの買い物に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 12 の練習問題（72ページ）および 長文テキスト（67ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
9	【Lektion 13】 Manche Leute trinken ein Glas Glühwein, um sich aufzuwärmen.	比較、現在分詞、zu不定詞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのクリスマスに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 13 の例文と練習問題（74～77ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
10	【Lektion 13】 Manche Leute trinken ein Glas Glühwein, um sich aufzuwärmen.	ドイツのクリスマスについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのクリスマスに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 13 の練習問題（78ページ）および 長文テキスト（73ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
11	【Lektion 14】 Die deutsche Autobahn wird in der ganzen Welt bewundert.	受動を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのアウトバーンに関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 14 の例文と練習問題（80～83ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
12	【Lektion 14】 Die deutsche Autobahn wird in der ganzen Welt bewundert.	ドイツのアウトバーンについてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツのアウトバーンに関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 14 の練習問題（84ページ）および長文テキスト（79ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 15】 Wenn ein Kind in der Grundschule gute Leistungen erbringt, würden die meisten Eltern es wohl aufs Gymnasium schicken.	接続法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの教育制度に関するテキスト読解のための語彙・文法を理解できる。	
	事前学修	Lektion 15 の例文と練習問題（86～89ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
14	【Lektion 15】 Wenn ein Kind in der Grundschule gute Leistungen erbringt, würden die meisten Eltern es wohl aufs Gymnasium schicken.	ドイツの教育制度についてテキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの教育制度に関するテキストを発音でき、文構造を理解できる。	
	事前学修	Lektion 15 の練習問題（90ページ）および長文テキスト（85ページ）の単語の意味と発音および文構造を調べておく。	60分
	事後学修	学修内容を復習し、ドイツ文の発音練習をする。	30分
15	授業内試験、フィードバック	授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。	30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいはドイツ語の初級文法を習得していること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。

【授業方法】
初級文法を復習しながら、テキスト読解を行う。発音と文法も確認しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポシ）によるアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①の理解②の意見表明に関わる能力が身について いるかを、筆記試験により評価する。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解 ②の意見表明③の対話④の応答に関わる能力が身について いるかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこ なったかを基準に、①の理解②の意見表明③の対話④の応 答に関わる能力および態度が身についているかを評価す る。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版] 』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考	コピーを配付する場合もある。				

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、発音の復習	授業の進め方と注意事項を説明する。 発音とつづりの読み方のポイントを復習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語学習の基礎である発音とつづりの読み方のポイントを理解し、発音ができ、聞き分けることもできる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 発音練習を行う。	30分
2	初級文法の復習（動詞の現在人称変化）とテキスト読解	動詞の現在人称変化、定形の位置について復習する。 発音と定形・不定形を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の現在人称変化、定形の位置について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 1 0 ・ 1 1 ・ 1 7 ・ 1 8 ページで動詞の現在人称変化について、教科書 3 0 ・ 3 1 ページで定形の位置について復習しておく。 教科書 3 4 ページのテキストを和訳し、質問に答える。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
3	初級文法の復習（冠詞[類]と名詞、人称代名詞）とテキスト読解	冠詞[類]と名詞、人称代名詞の格変化について復習する。 発音と名詞の性・数・格を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、冠詞[類]と名詞、人称代名詞の格変化について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 1 3 ～ 1 5 ページで冠詞と名詞について、教科書 2 1 ～ 2 3 ページで人称代名詞・冠詞類について復習しておく。 プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
4	初級文法の復習（数詞、話法の助動詞）とテキスト読解	数詞、話法の助動詞について復習する。 数詞を用いた練習を行い、発音と話法の助動詞の人称変化と文構造を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、数詞、話法の助動詞について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 1 1 ・ 1 8 ページで数詞について、教科書 3 5 ・ 3 6 ページで話法の助動詞について復習しておく。 教科書 3 2 ページ「数詞」の練習問題を解き、教科書 3 6 ページのテキストを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
5	初級文法の復習（前置詞）とテキスト読解	前置詞について復習する。 発音と前置詞の格支配を確認しながら、テキスト読解と練習問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 2 6 ～ 2 8 ページで前置詞について復習しておく。 教科書 3 8 ページのテキストを和訳し、練習問題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
6	初級文法の復習（分離動詞、zu不定詞、再帰動詞）とテキスト読解	分離動詞、zu不定詞、再帰動詞について復習する。 発音と分離動詞、zu不定詞、再帰動詞を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞、zu不定詞、再帰動詞について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 9 ・ 4 0 ・ 5 1 ページで分離動詞、zu不定詞、再帰動詞について復習しておく。 教科書 5 9 ページのテキストを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。 教科書 5 9 ページのFrageに答える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	初級文法の復習（動詞の3基本形と過去人称変化）とテキスト読解		動詞の3基本形と過去人称変化について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の3基本形と過去人称変化について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書42・43ページで動詞の3基本形と過去人称変化について復習しておく。教科書48ページのテキストKluntを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
8	初級文法の復習（形容詞の変化）とテキスト読解		形容詞の変化について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の変化について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書55・56ページで形容詞の変化について復習しておく。教科書48ページのテキストHundertwasserを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
9	初級文法の復習（現在完了形）とテキスト読解		現在完了形について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書45・46ページで現在完了形について復習しておく。プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
10	初級文法の復習（受動）とテキスト読解		受動について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書55・56ページで形容詞の変化について復習しておく。教科書48ページのテキストMozartを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
11	初級文法の復習（過去人称変化、zu不定詞、受動）とテキスト読解		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書49ページのテキストBeethoven, Schubertを和訳する。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		60分
12	初級文法の復習（形容詞の比較変化）とテキスト読解		形容詞の比較変化について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の比較変化について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書57ページで形容詞の比較変化について復習しておく。プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	応用練習	テキストの内容を振り返り、その他の情報についても確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストの内容を理解して説明することができ、さらに知識や理解を深める。	
	事前学修	教科書４８～４９ページの質問に答える。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
14	授業内試験、振り返り	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、第１回～第１３回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第１回～第１３回の学習内容を復習する。独和辞典の使い方を確認しておく。	60分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
15	フィードバック、前期の復習	試験問題を振り返り、できなかったところを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、与えられたテキストを文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。前期に読んだテキストから、ドイツの社会・歴史についての理解を深める。	
	事前学修	第１回～第１３回で読んだテキストの内容を振り返る。	60分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を履修済であることを前提とします。

【授業方法】
ドイツ人の日常生活について知識を深め、中級程度のテキストを読みこなせる語学力をつけます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課2回のペースで読み進み、日本語に訳してもらい、訂正したり解説したりします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
日本語に訳してもらい、解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ人の一生	ラープ、石井	朝日出版社	2001年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4・5限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツについて・導入	導入	
	この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
	事前学修	プリントのクイズをやってくる	30分
	事後学修	プリントの発音一覧を音読する	30分
2	発音規則	第1課 発音	
	この回の到達目標	発音規則を把握する	
	事前学修	プリントを事前に一読する	30分
	事後学修	教科書第1課を音読みしてみる	30分
3	誕生	Kapitel 1 Geburt 1	
	この回の到達目標	ドイツの出生届について知る	
	事前学修	1課前半を予習する	30分
	事後学修	1課前半を復習する	30分
4	誕生	Kapitel 1 Geburt 2	
	この回の到達目標	ドイツの命名、洗礼式について知る	
	事前学修	1課後半を予習する	30分
	事後学修	1課後半を復習する	30分
5	学校制度	Kapitel 2 Schule 1	
	この回の到達目標	ドイツの学校制度について知る	
	事前学修	2課前半を予習する	30分
	事後学修	2課前半を復習する	30分
6	学校生活	Kapitel 2 Schule 2	
	この回の到達目標	ドイツの学校生活について知る	
	事前学修	2課後半を予習する	30分
	事後学修	2課後半を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	若者社会		Kapitel 3 Jugendliche in der Gesellschaft 1
	この回の到達目標	ドイツの若者社会について知る	
	事前学修	3 課前半を予習する	30分
	事後学修	3 課前半を復習する	30分
8	若者文化		Kapitel 3 Jugendliche in der Gesellschaft 1
	この回の到達目標	ドイツの若者のライフスタイルについて知る	
	事前学修	3 課後半を予習する	30分
	事後学修	3 課後半を復習する	30分
9	余暇		Kapitel 4 Jugend und Freizeit 1
	この回の到達目標	ドイツ人の余暇の過ごし方について知る	
	事前学修	4 課前半を予習する	30分
	事後学修	4 課前半を復習する	30分
10	娯楽		Kapitel 4 Jugend und Freizeit 2
	この回の到達目標	ドイツ人の娯楽について知る	
	事前学修	4 課後半を予習する	30分
	事後学修	4 課後半を復習する	30分
11	祭日		Kapitel 5 Feiertage und Ferien 1
	この回の到達目標	ドイツの国民の祭日について知る	
	事前学修	5 課前半を予習する	30分
	事後学修	5 課前半を復習する	30分
12	休暇		Kapitel 5 Feiertage und Ferien 2
	この回の到達目標	ドイツ人の長期休暇の過ごし方について知る	
	事前学修	5 課後半を予習する	30分
	事後学修	5 課後半を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	卒業		Kapitel 6 Schulabschluss umnd Berufsausbildung 1
	この回の到達目標	ドイツの卒業資格について知る	
	事前学修	6 課前半を予習する	30分
	事後学修	6 課前半を復習する	30分
14	就職		Kapitel 6 Schulabschluss umnd Berufsausbildung 2
	この回の到達目標	ドイツ人の就職について知る	
	事前学修	6 課後半を予習する	30分
	事後学修	6 課後半を復習する	30分
15	解説・まとめ		前期の総括
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	1 ～ 6 課を振り返る	30分
	事後学修	1 ～ 6 課を復習する	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語の原文を多く読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
文法の要点の復習しながら、日本やドイツのみならず世界中のインターネット上のアクチュアルなニュースをドイツ語で厳密に読むことが目的である。毎回コピーを配布し、基礎文法を確認しながら読み進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文構造の把握と正確な音読と和訳	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べる（対話力）。							2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。							2		2		2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明、④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）行ったかを基準に、①の理解、③の対話、④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でその都度コメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	河田一郎	三修社	2021年	教科書	必携
『アクセス独和辞典』『アポロン独和辞典』他		三修社・同学社	2021年	その他	必携
備考	独和辞典を必ず持参すること。電子辞書は不可。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
月曜日の16時半から9号館共有スペース。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	本科目の目的や授業の進め方、試験等について説明する。 簡単な練習問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。使用テキスト（『気分はドイツ』）の文法事項（動詞の人称変化）を一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業で指示されたテキストの練習問題の予習をすること。	30分
2	基礎文法の復習	人称変化と格変化という独文法の2本柱について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（冠詞類の格変化）を一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容を照らし合わせて、分からなかった部分、あやふやな部分を確認すること。 授業で指示されたテキストの練習問題の予習をすること。	30分
3	基礎文法の復習	分離動詞の文構造が、実はドイツ文の基本構造になっていることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（前置詞の用法、話法の助動詞、分離動詞）を一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容を照らし合わせて、分からなかった部分、あやふやな部分を確認すること。 授業で指示されたテキストの練習問題の予習をすること。	30分
4	基礎文法の復習	過去形、現在完了形、受動態、再帰動詞の訳し方の要点を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（過去形、現在完了形）を一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容を照らし合わせて、分からなかった部分、あやふやな部分を確認すること。 授業で指示されたテキストの練習問題の予習をすること。	30分
5	ドイツのニュースを読む	ドイツのニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（受動態、再帰表現）を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくること。	30分
	事後学修	授業内容を照らし合わせて、分からなかった部分、あやふやな部分を確認すること。	30分
6	ドイツのニュースを読む	ドイツのニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（形容詞の用法）を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくること。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくること。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツのニュースを読む	ドイツのニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実に読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（関係文、zu不定詞）を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分
8	ドイツのニュースを読む	ドイツのニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実にかつ早く読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト『気分はドイツ』の文法事項（接続法）を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分
9	ドイツのニュースを読む	ドイツのニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、平易な文を確実にかつ早く読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	使用テキスト（『気分はドイツ』）の文法事項全体を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分
10	日本のニュースを読む	日本のニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	使用テキスト（『気分はドイツ』）の文法事項（中級編）を一通り読んでおくこと。 授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分
11	日本のニュースを読む	日本のニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分
12	日本のニュースを読む	日本のニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくる。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本のニュースを読む	日本のニュースを文構造を観察しながら厳密に読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくること。	30分
	事後学修	授業で配布されたプリントの予習をしてくること。 インターネット、新聞等で関連記事を検索し、内容を確認すること。	60分
14	試験・世界のニュースを読む	筆記試験を実施する。（独和辞典参照可） 試験後、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	基本文法の確認と辞書を引く練習をすること。	60分
	事後学修	間違った箇所を確認し、修正すること。	30分
15	フィードバック 振り返り	前学期の授業内容を振り返る。 夏休みの学習について。 後期授業の展望。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示されたニュースのドイツ文を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	間違った箇所を確認し、修正すること。	30分
	事後学修	自分で興味のある記事をインターネットで検索し、ドイツ語情報を取得してみる。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 そしてアウトプットとして、課題や練習問題があります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	まず、正確にドイツ語を理解することを目指します。つぎに、自分でドイツ文を作る練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30										30
小テスト等												
レポート等	到達目標②の実現の程度を課題提出等により評価する。		30									30
討論・発表等												
授業への参画度	遅刻をしない、ノートをまとめる、積極的に課題に取り組む姿勢をつうじて③④の能力を身につけようとしているかを評価する。			20	20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステム等を利用して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホントにあったウソみたいな話	三瓶慎一	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール (suzuki.mitsurull@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【導入講義】	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマについての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を理解し、テキストのテーマを理解できる	
	事前学修	ドイツ語の基礎文法の復習をしておく。	40分
	事後学修	1回目授業の要点をノート等にまとめる。	20分
2	【テキスト1前半】	テキスト1の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト1前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語の発音において向上できる	
	事前学修	テキスト1前半の単語調べ	30分
	事後学修	2回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
3	【テキスト1後半】	テキスト1の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト1後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。名詞の性において向上できる	
	事前学修	テキスト1後半の単語調べ	30分
	事後学修	3回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
4	【テキスト1の練習問題解説】	テキスト1の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト1の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。名詞の格変化において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	4回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
5	【テキスト2前半】	テキスト1の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト2前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。動詞の現在人称変化において向上できる	
	事前学修	テキスト2前半の単語調べ	30分
	事後学修	5回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
6	【テキスト2後半】	テキスト2の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト2後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。助動詞の変化において向上できる	
	事前学修	テキスト2後半の単語調べ	30分
	事後学修	6回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【テキスト2の練習問題解説】	テキスト1の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト1の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。簡単な質問に対する応答において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	7回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
8	【テキスト3前半】	テキスト2の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト3前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語のアクセントにおいて向上できる	
	事前学修	テキスト3前半の単語調べ	30分
	事後学修	8回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
9	【テキスト3後半】	テキスト3の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト3後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。冠詞の格変化において向上できる	
	事前学修	テキスト3後半の単語調べ	30分
	事後学修	9回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
10	【テキスト3の練習問題解説】	テキスト3の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト3の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。möchte の現在人称変化において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	10回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
11	【テキスト4前半】	テキスト4の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト4前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。zu 不定詞の用法において向上できる	
	事前学修	テキスト4前半の単語調べ	30分
	事後学修	11回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
12	【テキスト4後半】	テキスト1の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト4後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語のアクセントの位置の示し方において向上できる	
	事前学修	テキスト4後半の単語調べ	30分
	事後学修	12回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【テキスト4の練習問題解説】	テキスト4の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト4の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。冠詞と名詞の変化の関連性の理解において向上できる	
	事前学修	テキスト4の練習問題を見直す	30分
	事後学修	1 3 回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
14	【テキスト5】	テキスト5の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト5の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。3 基本形の形態について理解できる	
	事前学修	テキスト5の単語調べ	30分
	事後学修	1 4 回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
15	【テキスト5の練習問題解説】	テキスト5の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト5の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。es gibt という表現について理解し、応用できる	
	事前学修	テキスト5の練習問題を見直す	30分
	事後学修	1 5 回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。ドイツ語の原文を多く読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】		
Andreas UngerböckとMicael Peklerによるウィーンを舞台とした映画に関する文章を読む。テキストは教員が準備をする。（Andreas Ungerböck / Michael Pekler "Ortes des Kinos Wien. Eine Stadt als Filmkulisse" Schüren, 2019） 文法に関して説明をする際には「必携ドイツ文法総まとめ」を参照しつつ行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文の作成。文構造の把握。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標③④に関わる能力が身についているかを評価する。			5	5							10
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)おこなったかを基準に、到達目標③④が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
必携ドイツ文法総まとめ	中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧	白水社	2003	参考書	必携
独和辞典					必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の教室かメールで対応。（souma.daiki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	シラバスを読んでくる。基礎文法で使った教科書を簡単に見直してくる。	30分
	事後学修	指定された箇所を読んでくる。	30分
2	テキスト読解 Der dritte Mann①	ウィーンを舞台とした映画の代表作「第三の男」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
3	テキスト読解 Der dritte Mann②	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
4	テキスト読解 Der dritte Mann③	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
5	テキスト読解 Der dritte Mann④	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
6	テキスト読解 Der dritte Mann⑤	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト読解 Eine dunkle Begierde①	フロイトとユングを取り上げた映画「危険なメソッド」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
8	テキスト読解 Eine dunkle Begierde②	引き続きテキストを読む	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
9	テキスト読解 Eine dunkle Begierde③	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
10	テキスト読解 Eine dunkle Begierde④	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
11	テキスト読解 Before Sunrise①	ウィーンを舞台にした映画として世界的に有名な作品である「ビフォアサンライズ」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
12	テキスト読解 Before Sunrise②	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解 Before Sunrise③	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んできく。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
14	筆記試験	前期に扱った内容をもとに、筆記試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、筆記試験に答えることができる。	
	事前学修	前期の内容を復習しておく。	30分
	事後学修	テスト内容を復習しておく。	30分
15	前期のまとめ	筆記試験の答え合わせをし、前期の内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明できるとともに、前期の内容をまとめ後期への橋渡しとする。	
	事前学修	筆記試験で分からなかった部分を復習しておく。	30分
	事後学修	前期で読んだ内容をおさらいしておく。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	山本 知佳	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修していること。またはドイツ語の初級文法を習得していること。

【授業方法】
基礎的な文法を確認しながらテキストを読解していく。これらを通じドイツの社会や文化について理解を深める。必要に応じて補足プリントを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課を2～3回のペースで進める。音読、和訳を行い文構造を把握する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	目標到達①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標②の意見表明、④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。		10		10							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解、②の意見表明、③の対話、④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ノイエ・シュリッテ』	今井田亜弓 他	三修社	2024年	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
『必携ドイツ文法総まとめ』(改訂版)	中島悠爾 他	白水社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、またはメールにて対応する。yamamoto.chika@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、注意事項、試験について説明する。発音を説明し練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語の発音の規則を確認し、平易な文章を読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。これまで学習したドイツ語の発音の規則を復習する。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所の復習をする。	30分
2	基礎的な文法の復習①	人称代名詞、動詞の現在人称変化、定冠詞・定冠詞類、不定冠詞・不定冠詞類を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、基礎的な文法事項を確認し、平易な文章を読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	教科書6～7頁の人称代名詞と動詞の現在人称変化、重要な動詞、定冠詞・定冠詞類、不定冠詞・不定冠詞類について復習する。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
3	基礎的な文法の復習②	前置詞、自己紹介に関する表現を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、基礎的な文法事項を確認し、平易な文章を読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	教科書8頁のテキストの音声聞き、発音練習をして和訳をする。 9頁の前置詞について復習する。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：前置詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
4	テキスト読解：ドイツの食事①	ドイツの食事に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：不規則な変化をする動詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
5	テキスト読解：ドイツの食事②	ドイツの食事に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：形容詞・副詞の比較表現を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
6	テキスト読解：食品ロス①	食品ロスに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト読解：食品ロス②	食品ロスに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：分離動詞・非分離動詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
8	テキスト読解：食品ロス③	食品ロスに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：形容詞の付加語的用法を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
9	テキスト読解：音楽①	音楽に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：従属の接続詞・副文を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
10	テキスト読解：音楽②	音楽に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：定関係代名詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
11	テキスト読解：ドイツ製品①	ドイツ製品に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
12	テキスト読解：ドイツ製品②	ドイツ製品に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：過去形を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解：ドイツ製品③	ドイツ製品に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳する。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：現在完了形を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
14	振り返りと授業内試験	これまでの学習内容を振り返り、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでの学習内容を十分に理解し、試験に答えることができる。	
	事前学修	これまでの学習内容を復習し、試験に備える。	30分
	事後学修	試験の内容を確認し、復習する。	30分
15	前期の学習内容の確認	試験問題を振り返り、前期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期で取り扱ったテキストの内容と文法を十分に理解し説明することができる。またこれらを通じてドイツの社会や文化について理解を深める。	
	事前学修	試験で分からなかった箇所を復習する。	30分
	事後学修	前期で学習した内容を振り返り、内容と文法を復習する。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいはドイツ語の初級文法を習得していること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨むこと。

【授業方法】
初級文法を復習し、中級文法も説明しながら、テキスト読解を行う。発音と文法も確認しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、出席管理システム（レスポシ）によるアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①の理解②の意見表明に関わる能力が身について いるかを、筆記試験により評価する。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解 ②の意見表明③の対話④の応答に関わる能力が身について いるかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこ なったかを基準に、①の理解②の意見表明③の対話④の応 答に関わる能力および態度が身についているかを評価す る。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ [改訂版] 』	河田一郎 他	三修社	2023年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考	コピーを配付する場合もある。				

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、発音と初級文法の復習	授業の進め方と注意事項を説明する。 簡単な練習問題と発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキスト読解のための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 授業でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
2	初級文法の復習（数詞）とテキスト読解（Sissi）	数詞（序数、年号）について復習する。 発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、数詞（序数、年号）について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書４１・５０ページで動詞の数詞（序数、年号）について復習しておく。 教科書６８ページのテキストを文法を確認しながら和訳する。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
3	テキスト読解（Richard Wagner）	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書６９ページのテキストを文法を確認しながら和訳する。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
4	テキスト読解（Heidi）	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書７０ページのテキストを文法を確認しながら和訳する。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
5	テキスト読解（Heidi, Welterbe）	第４回で読んだテキストの内容についての質問に答える。 発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの内容を理解して、それについての質問に答えることができる。テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書７０ページのテキストを読み、質問に答える。 教科書７１ページのテキストを文法を確認しながら和訳する。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
6	テキスト読解（Welterbe）と初級文法の復習（関係代名詞）	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行い、テキストについての質問に答える。 関係代名詞について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。 関係代名詞をテキストの中で認識できる。	
	事前学修	教科書７１ページFrage 1 A・Bのテキストを和訳し、質問に答える。音声を聞いて発音練習を行う。 教科書６０ページで関係代名詞について復習しておく。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト読解（Welterbe）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行い、テキストについての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。テキストの内容を応用できる。		
	事前学修	教科書 7 1 ページFrage 1 C のテキストを和訳し、質問に答える。音声聞いて発音練習を行う。Frage 3 の質問に答える。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。教科書 7 1 ページFrage 2 に取り組む。		60分
8	テキスト読解（E-Mail aus Wien）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書 7 2 ページのテキストを文法を確認しながら和訳する。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
9	初級文法の復習（接続法第 1 式）とテキスト読解		接続法第 1 式について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法第 1 式について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書 6 4 ・ 6 5 ページで接続法第 1 式について復習しておく。プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
10	初級文法の復習（接続法第 2 式）とテキスト読解		続法第 2 式について復習する。発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法第 2 式について確認し、テキストを正しく発音できる。テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書 6 5 ・ 6 6 ページで接続法第 2 式について復習しておく。プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
11	テキスト読解（異文化理解）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
12	テキスト読解（時事テキスト）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、テキストの内容と文法を理解して説明することができる。		
	事前学修	プリントのテキストを和訳し、質問に答える。発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	応用練習	テキストの内容を振り返り、その他の情報についても確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストの内容を理解して説明することができ、さらに知識や理解を深める。	
	事前学修	プリントの質問に答える。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
14	授業内試験、振り返り	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、第1回～第13回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第1回～第13回の学習内容を復習する。独和辞典の使い方を確認しておく。	60分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
15	フィードバック、後期の復習	試験問題を振り返り、できなかったところを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、与えられたテキストを文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。前期に読んだテキストから、ドイツの社会・歴史についての理解を深める。	
	事前学修	第1回～第13回で読んだテキストの内容を振り返る。	60分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	石井 寿子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を履修済であることを前提とします。

【授業方法】
ドイツ人の日常生活について知識を深め、中級程度のテキストを読みこなせる語学力をつけます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課2回のペースで読み進み、日本語に訳してもらい、訂正したり解説したりします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
日本語に訳してもらい、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ人の一生	ラープ、石井	朝日出版社	2001年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4・5限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	就活・導入		Kapitel 7 Beruf 1
	この回の到達目標	ドイツの就活について知る	
	事前学修	7課前半を予習する	30分
	事後学修	7課前半を復習する	30分
2	労働条件		Kapitel 7 Beruf 2
	この回の到達目標	ドイツの労働条件について知る	
	事前学修	7課後半を予習する	30分
	事後学修	7課後半を復習する	30分
3	大学		Kapitel 8 Studieren in Deutschland 1
	この回の到達目標	ドイツの大学について知る	
	事前学修	8課前半を予習する	30分
	事後学修	8課前半を復習する	30分
4	大学制度		Kapitel 8 Studieren in Deutschland 2
	この回の到達目標	ドイツの大学制度について知る	
	事前学修	8課後半を予習する	30分
	事後学修	8課後半を復習する	30分
5	学生生活		Kapitel 9 Wie junge Leute wohnen 1
	この回の到達目標	ドイツの大学生生活について知る	
	事前学修	9課前半を予習する	30分
	事後学修	9課前半を復習する	30分
6	住宅事情		Kapitel 9 Wie junge Leute wohnen 1
	この回の到達目標	ドイツの住宅事情について知る	
	事前学修	9課後半を予習する	30分
	事後学修	9課後半を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	婚活		Kapitel 10 Heirat 1
	この回の到達目標	ドイツ人の婚活について知る	
	事前学修	10課前半を予習する	30分
	事後学修	10課前半を復習する	30分
8	結婚式		Kapitel 10 Heirat 2
	この回の到達目標	ドイツの結婚式について知る	
	事前学修	10課後半を予習する	30分
	事後学修	10課後半を復習する	30分
9	家族		Kapitel 11 Familie
	この回の到達目標	ドイツ人の家族形態について知る	
	事前学修	11課を予習する	30分
	事後学修	11課を復習する	30分
10	家事		Kapitel 12 Haushalt
	この回の到達目標	ドイツの家事について知る	
	事前学修	12課を予習する	30分
	事後学修	12課を復習する	30分
11	職場		Kapitel 13 Arbeitsplatz
	この回の到達目標	ドイツの職場について知る	
	事前学修	13課を予習する	30分
	事後学修	13課を復習する	30分
12	社会生活		Kapitel 14 Aspekte gesellschaftlichen Lebens
	この回の到達目標	ドイツの社会生活について知る	
	事前学修	14課を予習する	30分
	事後学修	14課を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	晩年		Kapitel 15 Lebensabend
	この回の到達目標	ドイツ人の晩年について知る	
	事前学修	15課を予習する	30分
	事後学修	15課を復習する	30分
14	後期のまとめ		教科書 7 ～ 1 5 課
	この回の到達目標	後期の学習をまとめる	
	事前学修	7 ～ 1 5 課を振り返る	30分
	事後学修	7 ～ 1 5 課を復習する	30分
15	解説・まとめ		前期の総括
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	試験を振り返る	30分
	事後学修	試験を復習する	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	渡辺 徳夫	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修していること。日独のみならず世界中のアクチュアルなドイツ語のニュースを多く読むので、その覚悟で授業を履修すること。【授業方法】有 音読、訳文の作成、文の構造把握等。ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、

【授業方法】		
インターネット上のドイツ語のニュースをテキストとし、文法の要点と文構造を説明しながら、正しく和訳していくことが授業の中心である。毎回コピーを配布する。基礎文法を確認しながら、読み進めていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文構造の把握と正確な音読と和訳	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解、②の意見表明が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明、④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解、③の対話、④の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要がある時に、授業中にコメントをつける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	河田一郎	三修社	2021年	教科書	必携
『アクセス独和辞典』『アポロン独和辞典』他		三修社、同学社他	2021年	その他	必携
備考	コピーを配布するが、上記の教科書と独和辞典（電子辞書不可）は必ず授業時に持参すること。web翻訳を使用しないこと。				

【オフィスアワー】
月曜日16時半より9号館共有スペース watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 簡単な作文		前期を振り返る。講読に際して必要になる文法事項について確認する。試験について説明をする。簡単な作文をすることによってドイツ文法を確実なものにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、ニュースの原文を読んでいくための基礎固めをすることができる。前期のニュースの文体を思い出し、後期の訳読を着実に進めていくための準備ができる。		
	事前学修	授業で指示された教科書の練習問題の予習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で扱ったところの文章を音読し暗唱すること。		30分
2	簡単な作文		簡単な作文をすることによって、ドイツ文法を確実なものにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法と文構造を把握し、ニュースの原文を読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された教科書の練習問題の予習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で扱ったところの文章を音読し暗唱すること。		30分
3	簡単な読み物		簡単な読み物を読むことによって、ドイツ文法を確実なものにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法と文構造を把握し、ニュースの原文を読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された教科書の練習問題の予習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で扱ったところの文章を音読し暗唱すること。		30分
4	簡単な読み物		簡単な読み物を読むことによってドイツ文法を確実なものにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法と文構造を把握し、ニュースの原文を読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された教科書の練習問題の予習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で扱ったところの文章を音読し暗唱すること		30分
5	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを読み、文法的にも内容的にも、そして出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくる。		30分
	事後学修	授業で扱ったところの文章を音読し暗唱すること		30分
6	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくる。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。 中級文法も駆使する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。		30分
8	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。 中級文法も駆使する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。		30分
9	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。 中級文法も駆使する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。		30分
10	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。また、正確さと同時に迅速に意味を取ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。できれば英語情報を使ってクロスチェックしてみる。		30分
11	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。また、正確さと同時に迅速に意味を取ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。できれば英語情報を使ってクロスチェックしてみる。		30分
12	世界のニュースをドイツ語で読む		文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。また、正確さと同時に迅速に意味を取ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。		30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。できれば英語情報を使ってクロスチェックしてみる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	世界のニュースをドイツ語で読む	文法を確認し、文構造を観察しながら、ニュースの文章を精読する。また、正確さと同時に迅速に意味を取ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確かつ迅速に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。	30分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。できれば英語情報を使ってクロスチェックしてみる。	60分
14	筆記試験	筆記試験。独辞典参照可。 試験後、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確かつ迅速に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	今までの授業で配布されたニュースの内容把握の予習をしてくること。 辞書を引く練習をしておくこと。	60分
	事後学修	関連するニュース記事をインターネットで検索し、内容を確認すること。日本語情報を使ってクロスチェックしてみる。	30分
15	フィードバック・まとめ	試験問題を振り返り、間違ったところを把握し、正す。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、配布されたニュースを正確かつ迅速に読み、文法的にも内容的にも、さらに、事件や出来事の背景をも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回の筆記試験で間違った部分を思い出し、確認する。	30分
	事後学修	自分で興味のあるテーマをインターネットで検索し、ドイツ語情報を得る。日本語情報や、できればさらに、英語情報を使ってクロスチェックしてみる。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	鈴木 満	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 そしてアウトプットとして、課題や練習問題があります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	まず、正確にドイツ語を理解することを目指します。つぎに、自分でドイツ文を作る練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30										30
小テスト等												
レポート等	到達目標②の実現の程度を課題提出等により評価する。		30									30
討論・発表等												
授業への参画度	遅刻をしない、ノートをまとめる、積極的に課題に取り組む姿勢をつうじて③④の能力を身につけようとしているかを評価する。			20	20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステム等を利用して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホントにあったウソみたいな話	三瓶慎一	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（suzuki.mitsurull@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【導入講義】	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマについての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を理解し、テキストのテーマを理解できる。ドイツ語の文法について全体的なイメージを持つことができる	
	事前学修	ドイツ語の基礎文法を確実なものとし、いわゆる中級レベルの文法書・解説書にも軽く目を通す	40分
	事後学修	1回目授業の要点をノート等にまとめる	20分
2	【テキスト 6 前半】	テキスト 6 の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 6 前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。ドイツ単語の発音表記において理解が深まる	
	事前学修	テキスト 6 前半の単語調べ	30分
	事後学修	2回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
3	【テキスト 6 後半】	テキスト 6 の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 6 後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。名詞の例外的な格変化を自ら調べることができる	
	事前学修	テキスト 6 後半の単語調べ	30分
	事後学修	3回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
4	【テキスト 6 の練習問題解説】	テキスト 6 の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト 6 の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。強変化動詞の 3 基本形を調べることができる	
	事前学修	テキスト 6 の練習問題を見直す	30分
	事後学修	4回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
5	【テキスト 7 前半】	テキスト 7 の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 7 前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。話法の助動詞を含む質問文に答えることができる	
	事前学修	テキスト 7 前半の単語調べ	30分
	事後学修	5回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
6	【テキスト 7 後半】	テキスト 7 の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 7 後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。例外的な単語の発音にも、ある程度規則性のあることを理解できる	
	事前学修	テキスト 7 後半の単語調べ	30分
	事後学修	6回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【テキスト7の練習問題解説】	テキスト7の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト7の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。否定文の作り方のバリエーションを増やすことができる	
	事前学修	テキスト7の練習問題を見直す	30分
	事後学修	7回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
8	【テキスト8前半】	テキスト8の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト8前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。副文の基本が使えるようになる	
	事前学修	テキスト8前半の単語調べ	30分
	事後学修	8回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
9	【テキスト8後半】	テキスト8の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト8後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。自分の意見ではなく、他の意見を引用して答えることができる	
	事前学修	テキスト8後半の単語調べ	30分
	事後学修	9回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
10	【テキスト8の練習問題解説】	テキスト8の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト8の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。分離動詞の発音についての注意点が理解できる	
	事前学修	テキスト8の練習問題を見直す	30分
	事後学修	10回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
11	【テキスト9前半】	テキスト9の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト9前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。合成語の知識において向上できる	
	事前学修	テキスト9前半の単語調べ	30分
	事後学修	11回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
12	【テキスト9後半】	テキスト9の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト9後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。形容詞の比較級において向上できる	
	事前学修	テキスト9後半の単語調べ	30分
	事後学修	12回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【テキスト9の練習問題解説】	テキスト9の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト9の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。非分離動詞の発音についての注意点が理解できる	
	事前学修	テキスト9の練習問題を見直す	30分
	事後学修	13回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
14	【テキスト10】	テキスト10の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト10の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。外来語の名詞の変化を調べることができる	
	事前学修	テキスト10の単語調べ	30分
	事後学修	14回目授業の要点をノート等にまとめる	30分
15	【テキスト10の練習問題解説】	テキスト10の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト10の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。ある程度決まったパターンの接続法が理解できるようになる	
	事前学修	テキスト10の練習問題を見直す	30分
	事後学修	15回目授業の要点をノート等にまとめる	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。ドイツ語の原文を多く読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】		
Andreas UngerböckとMicael Peklerによるウィーンを舞台とした映画に関する文章を読む。テキストは教員が準備をする。（Andreas Ungerböck / Michael Pekler "Ortes des Kinos Wien. Eine Stadt als Filmkulisse" Schüren, 2019） 文法に関して説明をする際には「必携ドイツ文法総まとめ」を参照しつつ行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文の作成。文構造の把握。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標③④に関わる能力が身についているかを評価する。			5	5							10
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)おこなったかを基準に、到達目標③④が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
必携ドイツ文法総まとめ	中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧	白水社	2003	参考書	必携
独和辞典					必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の教室かメールで対応。 （souma.daiki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	シラバスを読んでくる。基礎文法で使った教科書を簡単に見直してくる。	30分
	事後学修	指定された箇所を読んでくる。	30分
2	テキスト読解 The Boys from Brazil - Geheimakte viertes Reich①	「ブラジルから来た少年」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
3	テキスト読解 The Boys from Brazil - Geheimakte viertes Reich②	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
4	テキスト読解 The Boys from Brazil - Geheimakte viertes Reich③	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
5	テキスト読解 Die Klavierspielerin①	ミヒャエル・ハネケ監督「ピアニスト」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
6	テキスト読解 Die Klavierspielerin②	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んでくる。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト読解 Die Klavierspielerin③		引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分
8	テキスト読解 Mission:Impossible - Rogue Nation①		ウィーンの前座を舞台にアクションシーンを構築した「ミッションインポッシブルローグネーション」に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分
9	テキスト読解 Mission:Impossible - Rogue Nation②		引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分
10	テキスト読解 Mission:Impossible - Rogue Nation③		引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分
11	テキスト読解 Tora-San goes to Vienna①		「男はつらいよ」シリーズでウィーンを舞台にした作品である第41作に関する文章を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分
12	テキスト読解 Tora-San goes to Vienna②		引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキストを読んでくる。		30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解 Tora-San goes to Vienna③	引き続きテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを読んできく。	30分
	事後学修	授業内容を復習しておく。	30分
14	筆記試験	後期に扱った内容をもとに、筆記試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、筆記試験に答えることができる。	
	事前学修	後期の内容を復習しておく。	30分
	事後学修	テスト内容を復習しておく。	30分
15	後期のまとめ	筆記試験の答え合わせをし、後期の内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	筆記試験で分からなかった部分を復習しておく。	30分
	事後学修	後期で読んだ内容をおさらいしておく。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	山本 知佳	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修していること。またはドイツ語の初級文法を習得していること。

【授業方法】
基礎的な文法を確認しながらテキストを読解していく。これらを通じドイツの社会や文化について理解を深める。必要に応じて補足プリントを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課を2～3回のペースで進める。音読、和訳を行い文構造を把握する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	目標到達①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標②の意見表明、④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。		10		10							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解、②の意見表明、③の対話、④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ノイエ・シュリッテ』	今井田亜弓 他	三修社	2024年	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
『必携ドイツ文法総まとめ』(改訂版)	中島悠爾 他	白水社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、またはメールにて対応する。yamamoto.chika@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、注意事項、試験について説明する。前期の学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語の文法の基礎を確認し、平易な文章を読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。これまで学習したドイツ語の発音の規則や文法を復習する。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
2	テキスト読解：ツーリズム①	ツーリズムに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
3	テキスト読解：ツーリズム②	ツーリズムに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：話法の助動詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
4	テキスト読解：ツーリズム③	ツーリズムに関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：受動態を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
5	テキスト読解：祝祭と祝日①	祝祭と祝日に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：esの用法を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
6	テキスト読解：祝祭と祝日②	祝祭と祝日に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：zu不定詞(句)を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト読解：映画①	映画に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
8	テキスト読解：映画②	映画に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：再帰代名詞・再帰動詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
9	テキスト読解：映画③	映画に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：不定関係代名詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
10	テキスト読解：ドイツ再統一①	ドイツ再統一に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：並列の接続詞、副詞的接続詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
11	テキスト読解：ドイツ再統一②	ドイツ再統一に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：現在分詞と過去分詞を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
12	テキスト読解：年末①	年末に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳をする。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：zuのない不定詞とともに用いる動詞・話法の助動詞に準じる動詞)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解：年末②	年末に関するテキストを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストを正しく発音でき、その内容と文法を理解し説明することができる。	
	事前学修	テキストの音声を聞き、発音練習をして和訳する。	30分
	事後学修	授業の内容(文法：接続法Ⅱ式を含む)を復習し、不明であった箇所を確認する。 授業で指示された箇所を読んでくる。	30分
14	振り返りと授業内試験	これまでの学習内容を振り返り、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでの学習内容を十分に理解し、試験に答えることができる。	
	事前学修	これまでの学習内容を復習し、試験に備える。	30分
	事後学修	試験の内容を確認し、復習する。	30分
15	後期の学習内容の確認	試験問題を振り返り、後期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期で取り扱ったテキストの内容と文法を十分に理解し説明することができる。またこれらを通じてドイツの社会や文化について理解を深める。	
	事前学修	試験で分からなかった箇所を復習する。	30分
	事後学修	後期で学習した内容を振り返り、内容と文法を復習する。	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Basic knowledge of spelling, pronunciation, simple grammar, basic vocabulary for daily conversation. We will start by reviewing basic skills before we move on to the next level.

【授業方法】		
Using parts of German textbooks with various forms of text samples and exercises for gradually building reading and composition skills taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	バリエーション豊富な文章に触れて実践的な作文トレーニングをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
questions and answers about exercises during class, short presentations of solved exercises, corrections, by email: astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
during class and by email: astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Hallo !	Introduce yourself with name, origin, languages, hobbies and interests	
	この回の到達目標	learn to write a short text for your profile and about another person review basic grammar for verb conjugation etc.	
	事前学修	review vocabulary for countries, languages, hobbies join google classroom, follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	review any new vocabulary, complete and submit assignment that was started in class	30分
2	Hallo! 2 work and family	complete rest of self introductions student life, job, career	
	この回の到達目標	learn to write a short biography of yourself and another person	
	事前学修	review vocabulary for professions, subjects in university, family status follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete a short biography and submit	30分
3	German speaking countries data	Data and statistics about Germany and other countries numbers	
	この回の到達目標	Learn to information about countries, write descriptions review numbers	
	事前学修	review numbers 1-10000	25分
	事後学修	write a text about Japan and submit	35分
4	In the city	Meeting a friend in the city, making plans for cultural activities Talk about favorite artists etc	
	この回の到達目標	daily conversation for meeting a friend, express your interests and preferences about museums, books etc	
	事前学修	prepare a list of your favorite singers, actors, painters, authors, museums and exhibitions	30分
	事後学修	write an email about your activities , submit	30分
5	German cities	Frankfurt and Hamburg	
	この回の到達目標	understand a description of a city, and write one yourself	
	事前学修	prepare for reading a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete text about a city, submit	30分
6	German cities 2 Time and schedules	presentations of city descriptions time schedules and activities opening hours	
	この回の到達目標	present your written work in class review time, hours, and durations	
	事前学修	review the clock	30分
	事後学修	review exercises done in class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	From morning to evening	describe activities and plans	
	この回の到達目標	learn to form sentences using time and place	
	事前学修	prepare to read a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	review vocabulary, time, days, months etc	30分
8	Events, ads restaurants	Choose an ad for your activities	
	この回の到達目標	learn to read newspaper ads for events read and describe restaurant guide adjective declination	
	事前学修	choose a restaurant you want to recommend	35分
	事後学修	complete restaurant description, submit	25分
9	Specialties	sweets in Germany, Austria and Switzerland	
	この回の到達目標	read a text about food and its history	
	事前学修	prepare for reading a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分
10	Yesterday and today	What people did yesterday	
	この回の到達目標	learn to form sentences using present perfect	
	事前学修	review any grammar you learned about perfect tense, view grammar tables for verbs	30分
	事後学修	complete exercises	30分
11	Yesterday and today 2	Describe activities in the office	
	この回の到達目標	learn to use perfect tense past tense of to be	
	事前学修	review grammar for present perfect and past tense of to be	30分
	事後学修	complete exercises, submit	30分
12	Daily schedules	What people did all day	
	この回の到達目標	understand a descriptive text in present perfect, transform sentences from present to present perfect	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Last week Study in Germany		An Email A text about universities
	この回の到達目標	compose an email using present perfect, read a text and summarize	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises, submit composition	30分
14	Student life		A text about German students
	この回の到達目標	reading comprehension , vocabulary , reproduce information in the text	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises, review vocabulary	30分
15	Test		Test, Text composition
	この回の到達目標	check your new skills	
	事前学修	review , prepare for test	45分
	事後学修	review what you forgot	15分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠB	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得 (A2-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
basic knowledge of German level A1.1

【授業方法】
using copies and files with exercises for reading, written exercises and text composition exercises will be done during class taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	バリエーション豊富な文章に触れて実践的な作文トレーニングをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class and email: astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
during class, by email: astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Yesterday and today Study	describe intentions and past education	
	この回の到達目標	review present perfect, composition skills	
	事前学修	review vocabulary to describe study follow announcements in google classroom about files in Drive	30分
	事後学修	complete exercise, submit	30分
2	Out and about	Text about vehicles and public transport	
	この回の到達目標	learn transport vocabulary, describe how you move	
	事前学修	view text and vocabulary	30分
	事後学修	learn vocabulary	30分
3	Trains and buses, commuting	How do you go to work? Descriptions	
	この回の到達目標	Form sentences using "by car" etc, learn transport vocabulary	
	事前学修	prepare vocabulary list , text follow announcements in google classroom about drive	30分
	事後学修	review vocabulary, complete exercises	30分
4	The seasons, vacation	seasons, months, describe travel plans	
	この回の到達目標	vocabulary for seasons, months, weather	
	事前学修	view vocabulary	30分
	事後学修	complete exercises	30分
5	Resorts, travel	Descriptions of holiday destinations , plans	
	この回の到達目標	vocabulary, grammar for traveling, verb to want	
	事前学修	preview vocabulary, grammar	30分
	事後学修	complete exercises	30分
6	A postcard	Read a postcard	
	この回の到達目標	apply travel vocabulary, reading comprehension	
	事前学修	prepare to read text follow announcements in google classroom about drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Travel		exercises for grammar and vocabulary for traveling
	この回の到達目標	learn to form sentences using want and directions	
	事前学修	review vocabulary	30分
	事後学修	complete exercises	30分
8	luggage		daily necessities , what to pack into your suitcase
	この回の到達目標	vocabulary for luggage, clothes, gadgets etc	
	事前学修	preview vocabulary, present perfect	30分
	事後学修	complete exercises	30分
9	Clothes, colors		descriptions of clothes
	この回の到達目標	adjective declination Nominativ, Akkusativ	
	事前学修	preview vocabulary and grammar	30分
	事後学修	complete exercises	30分
10	Shopping		Buying clothes
	この回の到達目標	verb to must which and this declination	
	事前学修	preview grammar	30分
	事後学修	learn grammar	30分
11	Daily needs Shopping 2		Data about internet shopping
	この回の到達目標	vocabulary for shopping 2	
	事前学修	preview text	30分
	事後学修	complete exercises	30分
12	Work		activities in the office
	この回の到達目標	office vocabulary	
	事前学修	preview vocabulary	30分
	事後学修	review present perfect, complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Punctuality		Text about being on time or not, customs postpone an appointment
	この回の到達目標	learn about German etiquette write business email	
	事前学修	prepare to read text	30分
	事後学修	write email, submit	30分
14	Work, Office		Make an appointment
	この回の到達目標	verbs for office work, usage	
	事前学修	preview vocabulary	30分
	事後学修	complete email exercise, submit	30分
15	Test		Test, Text composition
	この回の到達目標	check your level	
	事前学修	prepare for test	60分
	事後学修	review your work	15分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	渡辺徳夫(他)	三修社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、時間を設ける。kawada.ichiroll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[ガイダンス] [検定試験に合格する勉強法について]	授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語検定の内容を理解し、合格に向けての学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	[ドイツ語の発音について]	ドイツ語の基本的な発音、特有な発音について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
8	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
9	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
10	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
11	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
12	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	杉田 芳樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」もしくは「ドイツ語基礎表現」を履修済みであること。12月に独検を受験すること（できれば6月も）。

【授業方法】
教科書に基づいて発音や文法を説明し、練習問題を課題とします。併せて、独検の傾向と対策を解説します。課題の解答と説明は、原則として、次回の授業で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、パートナー練習、和訳を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる									1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる									1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる									1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる									1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(ドイツ語技能検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野壽美子／中川明博	朝日出版	2019	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜二部2限、ドイツ語基礎試験対策ⅠAを受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、ドイツ語技能検定試験（独検）の概要、ドイツ語の基本的な発音規則	授業の進め方と注意事項を理解する。独検の概要について理解する。ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現を発音できる。	
	事前学修	シラバスの各項目を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。ドイツ語のアルファベットと基本的なあいさつ表現の発音練習を行う。	30分
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化（1）	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 1 の「主語になる人称代名詞」「動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	教科書 Lektion 1 の発音練習を行う。	30分
3	sein, habenの現在人称変化	重要動詞sein, habenの現在人称変化（不規則動詞）について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重要動詞sein, habenの現在人称変化（不規則動詞）について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 1 の「sein, habenの現在人称変化（不規則動詞）」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
4	語順、自己紹介の表現	語順（定動詞の位置）、自己紹介－はじめまして－について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語順（定動詞の位置）、自己紹介－はじめまして－について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 1 の「語順（定動詞の位置）」「自己紹介－はじめまして－」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
5	名詞の性と格、定冠詞	名詞の性と格、名詞の格変化（定冠詞＋名詞）、格の用法について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名詞の性と格、名詞の格変化（定冠詞＋名詞）、格の用法について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 2 の「名詞の性と冠詞」「名詞の格変化（定冠詞＋名詞）」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
6	不定冠詞	名詞の格変化（不定冠詞＋名詞）について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名詞の格変化（不定冠詞＋名詞）について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 2 の「名詞の格変化（不定冠詞＋名詞）」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	疑問代名詞、並列の接続詞、基本表現「職業は何ですか」		疑問代名詞wer, wasの格変化、並列の接続詞、基本表現「職業は何ですか」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞wer, wasの格変化、並列の接続詞、基本表現「職業は何ですか？」について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 2 の「疑問代名詞wer, wasの格変化」「並列の接続詞」「職業は何ですか？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	
8	動詞の現在人称変化（2）、命令形		動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）、命令形について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）、命令形について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 3 の「動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）」「命令形」精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	
9	人称代名詞 3 格と 4 格		人称代名詞の 3 格と 4 格について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人称代名詞の 3 格と 4 格について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 3 の「人称代名詞の3格と 4 格」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	
10	3格と4格の語順、非人称のes、基本表現「趣味は何？」		3 格と 4 格の語順、非人称のes、基本表現「趣味は何？」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3 格と 4 格の語順、非人称のes、基本表現「趣味は何？」について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 3 の「3 格と 4 格の語順」「非人称の es」「趣味は何？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	
11	名詞の複数形		名詞の複数形について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名詞の複数形について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 4 の「名詞の複数形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	
12	冠詞類		冠詞類（定冠詞類、不定冠詞類）について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、冠詞類（定冠詞類、不定冠詞類）について理解できる。		
	事前学修	教科書 Lektion 4 の「冠詞類」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分	
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	keinとnichtの使い方、否定疑問文、基本表現「パン屋で買い物」	keinとnichtの使い方、否定疑問文、基本表現「パン屋で買い物」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、keinとnichtの使い方、否定疑問文、基本表現「パン屋で買い物」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 4 の「keinとnichtの使い方」「否定疑問文」「パン屋で買い物」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
14	授業内容の振り返り	これまでの学習内容を復習する。動詞の現在人称変化と名詞類の格変化について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の現在人称変化と名詞類の格変化について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 1～4 の文法事項を確認する。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
15	授業内試験、フィードバック	授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。	30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ（改訂版）』	渡辺徳夫(他)	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、時間を設ける。kawada.ichiroll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[分離動詞について]	分離動詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3基本形について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	[現在完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	杉田 芳樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」もしくは「ドイツ語基礎表現」を履修済みであること。12月に独検を受験すること。

【授業方法】
教科書に基づいて発音や文法を説明し、練習問題を課題とします。併せて、独検の傾向と対策を解説します。課題の解答と説明は、原則として、次回の授業で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、パートナー練習、和訳を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(ドイツ語技能検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で、解答へのアプローチを説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野壽美子／中川明博	朝日出版	2019	教科書	必携
アクセス独和辞典 等		同学社	2022	その他	必携
備考	教科書と独和辞典は必ず持参すること。翻訳アプリの使用は不可。				

【オフィスアワー】
授業終了後。ただし、事前に申し出ることが望ましい。連絡先：112verbindung@gmail.com なお、メール本文には、必ず、大学名、開講曜日・時限、授業名、名前を記載すること。（例：日本大学法学部、火曜二部2限、ドイツ語基礎試験対策ⅠBを受講している山田太郎です。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前置詞の格支配	前置詞の格支配（3格支配、4格支配、3・4格支配）について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の格支配（3格支配、4格支配、3・4格支配）について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 5 の「前置詞の格支配」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
2	前置詞と定冠詞の融合形、基本表現「どう行けばいいですか？」	前置詞と定冠詞の融合形、基本表現「どう行けばいいですか？」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞と定冠詞の融合形、基本表現「どう行けばいいですか？」について理解する。	
	事前学修	教科書 Lektion 5 の「前置詞と定冠詞の融合形」「どう行けばいいですか？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
3	話法の助動詞の現在人称変化、未来形	話法の助動詞の現在人称変化、未来形について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、話法の助動詞の現在人称変化、未来形について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 6 の「話法の助動詞の現在人称変化」「未来形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
4	従属の接続詞と副文	従属の接続詞と副文について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、従属の接続詞と副文について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 6 の「従属の接続詞と副文」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
5	時刻の表現、不定代名詞man、基本表現「ノイシュヴァンシュタイン城を見たい」	時刻の表現、不定代名詞man、基本表現「ノイシュヴァンシュタイン城を見たい」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時刻の表現、不定代名詞man、基本表現「ノイシュヴァンシュタイン城を見たい」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 6 の「時刻の表現」「不定代名詞man」「ノイシュヴァンシュタイン城を見たい」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
6	形容詞の格変化	形容詞の格変化について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の格変化について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 7 の「形容詞の格変化」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	形容詞・副詞の比較、基本表現「レストランでの料理の注文」	形容詞・副詞の比較、基本表現「レストランでの料理の注文」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞・副詞の比較、基本表現「レストランでの料理の注文」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 7 の「形容詞・副詞の比較」「レストランでの料理の注文」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
8	分離動詞、非分離動詞	分離動詞、非分離動詞について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞、非分離動詞について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 8 の「分離動詞」「所有冠詞」「非分離動詞」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
9	zu不定詞・zu不定詞句、基本表現「週末の予定は？」	zu不定詞・zu不定詞句、基本表現「週末の予定は？」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、zu不定詞・zu不定詞句、基本表現「週末の予定は？」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 8 の「zu不定詞・zu不定詞句化」「週末の予定は？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
10	動詞の3基本形	動詞の3基本形について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の3基本形について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 9 の「動詞の3基本形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
11	現在完了形、基本表現「週末に何をしたの？」	現在完了形、基本表現「週末に何をしたの？」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在完了形、基本表現「週末に何をしたの？」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 9 の「現在完了形」、「週末に何をしたの？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
12	過去形	過去形について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去形について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 10 の「過去形」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	再帰代名詞と再帰動詞、基本表現 「昨日はどこにいたの？」	再帰代名詞と再帰動詞、基本表現「昨日はどこにいたの？」について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、再帰代名詞と再帰動詞、基本表現「昨日はどこにいたの？」について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 10 の「再帰代名詞と再帰動詞」「昨日はどこにいたの？」を精読し、わからない単語の意味と発音を調べる。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
14	授業内容の振り返り	これまでの学習内容を復習する。動詞の現在人称変化・過去人称変化・現在完了形と名詞類の格変化について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の現在人称変化・過去人称変化・現在完了形と名詞類の格変化について理解できる。	
	事前学修	教科書 Lektion 5～10 の文法事項を復習する。	30分
	事後学修	学修内容を確認し、授業中に指示された課題を行う。	30分
15	授業内試験、フィードバック	授業内試験を通じて、第1～14回の学修内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第1～14回の学修内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	これまでの学修内容の理解度を確認する。	30分
	事後学修	これまでの学修内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。 時事的な問題に対応できるように、インターネットのドイツ語ニュースを通して、世界のアクチュアルな出来事について多く読んでみたいと考えています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 5訂版	恒吉良隆	白水社	2023	教科書	必携
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他	2020	その他	必携
備考	テキストは新刊の「5訂版」なので、「4訂版」を購入しないこと。				

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと基本単語の確認		授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。		
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、一年間に学習することが何か、イメージを得ておくこと。		30分
	事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
2	独検4級 模擬試験		独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、3級合格に向けて今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。		30分
3	前回の模擬試験の解説		前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。		30分
4	発音、動詞と文		発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
5	格変化(単数形)、複数形		格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
6	3人称の人称代名詞 疑問代名詞、疑問副詞		3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	不規則変化動詞 複合的な疑問詞	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	話法の助動詞 未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	分離動詞 命令形	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞の三基本形 過去形 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	120分
14	理解度の確認 前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テスト(もしくはレポート課題)を実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	120分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
最低2年間ドイツ語を履修した学生。あるいは、同等のレベルと思われる学生。

【授業方法】		
この授業では、主にCEFR型試験の問題を紹介し、実際に解くことにより、そのレベルに必要なスキルはもとより今まで学んだ語彙、文法を拡充しつつ定着させます。読む、書く、聞く、話す、やりとりする、のご技能を身につけます。CEFR型試験 A1-A2 を目指して授業を構築予定です。履修者のレベルを見ながら授業を進めます。CEFR型試験のA1, A2はゲーティンスティットゥートとオーストリア政府公認ドイツ語技能検定試験と問題が異なるため、その両方を扱う予定ですが、まずは会話型教科書を用い、リスニングおよびスピーキング、作文に照準を当てながら必要な知識をアウトプットできるように練習します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	互いに考え、検証し、意見を出し合う時間も多く取ります。 積極的な協働学習が求められます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる										2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる										2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける										2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる										2	2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	単語テストを行い、語彙や表現の定着度をチェックする	8	8	8	8							32
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③、④が身につけているかをチェックし評価する	7	7	7	7							28
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーションツールとしてのドイツ語をいっしょに学ぼう！改訂版	小笠原藤子・永井千鶴子	三修社	2021	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉・小笠原藤子他	三修社	2013	参考書	推奨
備考	教科書はかならず改訂版を購入すること。表紙は黒色で、Supergut!と大きく書いてあります。				

【オフィスパワー】
特にありませんが、メール以外では授業前後あるいは昼休みに対応します。ogasawara.fujiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	各種資格試験の試験官、準備講座
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際に試験官として携わってきた経験により、よりの確な指導ができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	講義計画・成績評価の方法・テキスト・学習教材、学習用Webサイトの紹介、CEFRとは何か、試験日程等ガイダンス	
	この回の到達目標	CEFRとは何か。それに準じる資格試験とは何かを説明する。それに応じて、どのような語学能力を身につける必要があるのかを学ぶ。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業内容を把握しておく	60分
	事後学修	授業を振り返り、どのようにこの授業に取り組むべきか計画を立てる。CEFRとは何かよく復習し、自分がどの位置にあるかを把握、どのようなドイツ語力を何のために身につけるのか考える。	60分
2	Lektion 1、Lektion2、資格試験問題	自己紹介	
	この回の到達目標	自己紹介に必要な語彙を拡充し、自由にアウトプットできる（SB0s①②④）	
	事前学修	授業で紹介されたWebサイトなどを実際に視聴してみる	100分
	事後学修	自分に不足する語彙や表現を復習する	60分
3	Lektion 3、資格試験問題	趣味、好きなこと、嫌いなこと	
	この回の到達目標	趣味に関する表現を拡充し、自由にアウトプットできる（SB0s①②④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙や表現を書き出し復習する	60分
4	Lektion 4、資格試験問題	家族紹介、他己紹介（SB0s①②④）	
	この回の到達目標	試験形式を把握し、問題の効率的な解き方を見出す	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙や表現を書き出し復習する	60分
5	Lektion 5、資格試験問題	買い物（SB0s①②④）	
	この回の到達目標	前回学んだことを生かし、実践してみる	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙や表現を書き出し復習する	60分
6	Lektion 6	約束の取り決め（1）	
	この回の到達目標	さまざまな約束の取り決めを想定する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙や表現を書き出し復習する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 6, 資格試験問題	約束の取り決め（2）	
	この回の到達目標	前回学んだことを生かし、さらに工夫してみる。書けるようにもしてみる。（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
8	今までのまとめ	会話	
	この回の到達目標	今までのまとめをアウトプットしてみる（SB0s①②④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分をすべて書き出し復習する	60分
9	Lektion 7	家や部屋の描写	
	この回の到達目標	家や部屋を描写し相手に伝える（SB0s①②④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙、表現、文法を書き出し復習する	60分
10	Lektion 8	目的地への行き方の説明	
	この回の到達目標	道案内ができるようになる（SB0s①②④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙、表現、文法を書き出し復習する	60分
11	Lektion 9	身の回りのものの描写	
	この回の到達目標	身の回りのものの描写をし、助動詞や分離動詞をアウトプットして使いこなせるようにする（SB0s①②④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙、表現、文法を書き出し復習する	60分
12	Lektion 10	休暇中の出来事を説明 1	
	この回の到達目標	過去の表現を使って休暇中の出来事を表現できるようにする（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙、表現、文法を書き出し復習する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 11	休暇中の出来事を説明 2	
	この回の到達目標	前回の授業で学だことを生かし、さらに工夫する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する語彙、表現、文法を書き出し復習する	60分
14	授業内試験・まとめ	各技能の総合的なチェック	
	この回の到達目標	実際に試験問題をひとりで解くことにより、実力を試してみる（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	120分
	事後学修	試験でわからなかった部分を確認する	60分
15	フィードバック	授業内試験で行なったものを返却し、振り返り、次の学期に備える	
	この回の到達目標	自分の試験結果を見て、振り返る（SB0s①-④）	
	事前学修	試験でできなかった部分をどのように克服していくか考えてくる	60分
	事後学修	試験結果を踏まえ、今後の学習計画を立てる	60分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策（石井寿子・渡辺徳夫担当）及びCEFRA1-A2対策（小笠原藤子担当）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの授業で目標とする検定試験（ドイツ語検定 3 級及びCEFR A1-A2）に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語運用能力を習得する。

【履修条件】
初めてドイツ語を学ぶ方を対象とします。

【授業方法】
ドイツ語の初級文法を学習しながら、首都ベルリンについて知識を深め、学習した文法事項を応用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各課2回のペースで読みます。文法を説明し、練習問題で確認し、会話や読み物で理解を深めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
日本語に訳してもらい、解説する	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時にプリント教材を配布します。				

【オフィスアワー】	
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4・5限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツについて・導入	導入	
	この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
	事前学修	プリントのクイズをやってくる	30分
	事後学修	プリントの発音一覧を音読する	30分
2	発音規則	第1課 発音	
	この回の到達目標	発音規則を把握する	
	事前学修	プリントを事前に一読する	30分
	事後学修	教科書第1課のDialogを音読してみる	30分
3	動詞の現在人称変化	Lektion 1 Das Brandenburger Tor 1	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を学ぶ	
	事前学修	1課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	1課の練習問題をやる	30分
4	ブランデンブルク門	Lektion 1 Das Brandenburger Tor 2	
	この回の到達目標	ブランデンブルク門について知る	
	事前学修	1課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	1課を復習する	30分
5	名詞の格変化	Lektion 2 Der Bundestag 1	
	この回の到達目標	名詞の格変化を学習する	
	事前学修	2課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	2課の練習問題をやる	30分
6	連邦議会	Lektion 2 Der Bundestag 2	
	この回の到達目標	連邦議会（旧帝国議会）議事堂について知る	
	事前学修	2課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	2課を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複数形	Lektion 3 Die Spree 1	
	この回の到達目標	名詞の複数形を学習する	
	事前学修	3課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	3課の練習問題をやる	30分
8	シュプレー川	Lektion 3 Die Spree 2	
	この回の到達目標	シュプレー川について知る	
	事前学修	3課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	3課を復習する	30分
9	不規則動詞	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 1	
	この回の到達目標	強変化動詞・不規則動詞の現在人称変化を学習する	
	事前学修	3課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	3課練習問題の1をやる	30分
10	命令形・人称代名詞	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 2	
	この回の到達目標	命令形、人称代名詞の格変化を学習する	
	事前学修	4課のDialogを訳してみる	30分
	事後学修	4課練習問題の2, 3をやる	30分
11	フンボルト大学	Lektion 4 Die Humboldt-Uni 3	
	この回の到達目標	フンボルト大学について知る	
	事前学修	4課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	4課を復習する	30分
12	前置詞	Lektion 5 Der Potsdamer Platz 1	
	この回の到達目標	前置詞を学習する	
	事前学修	5課のDVDを見て予習し、Dialogを音読する	30分
	事後学修	5課の練習問題をやる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポツダム広場	Lektion 5 Der Potsdamer Platz 2	
	この回の到達目標	ポツダム広場について知る	
	事前学修	5課のLesetextを予習する	30分
	事後学修	5課を復習する	30分
14	前期のまとめ	教科書第1課～第5課	
	この回の到達目標	前期の学習を確かめる	
	事前学修	1～5課を振り返る	30分
	事後学修	1～5課を復習する	30分
15	解説・まとめ	前期の総括	
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	試験を振り返る	30分
	事後学修	試験を復習する	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。 時事的な問題に対応できるように、インターネットのドイツ語ニュースを通して、世界のアクチュアルな出来事について多く読んでみたいと考えています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。									2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。									2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。									2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 5訂版	恒吉良隆	白水社	2023	教科書	必携
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他	2020	参考書	必携
備考	テキストは新版の5訂版なので、旧版の4訂版を購入しないこと。				

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、前期の復習		授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。		
	事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
2	現在完了形 受動文		あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
3	接続詞 副文 zu不定詞		接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
4	接続法		接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
5	形容詞の格変化 比較表現		形容詞の格変化と比較表現について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、形容詞の格変化と比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
6	関係文		関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	独検3級対策 読解問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	独検3級 模擬試験 筆記とリスニング	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	独検 解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる	
	事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくること。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	後期の復習	後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検2級受験のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	150分
14	理解度の確認 後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テスト(もしくはレポート課題)を実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	150分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	後期の振り返り	あらためて後期の学習事項を振り返り、来年度に勉強することを確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
最低2年間ドイツ語を履修した学生。あるいは、同等のレベルと思われる学生。

【授業方法】		
この授業では、主にCEFR型試験の問題を紹介し、実際に解くことにより、そのレベルに必要なスキルはもとより今まで学んだ語彙、文法を拡充しつつ定着させます。読む、書く、聞く、話す、やりとりする、のご技能を身につけます。CEFR型試験 B1 を目指してA2対策の授業を構築予定です。履修者のレベルを見ながらシラバスにある授業内容を調整します。CEFR型試験のA1, A2はゲーティンストゥートとオーストリア政府公認ドイツ語技能検定試験と問題が異なるため、その両方を扱う予定です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	黙々と過去問題集を解く授業ではなく、互いに考え、検証し、意見を出し合う時間も多く取ります。積極的な協働学習が求められます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる									1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる									1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる									1	1		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる									1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	単語テストを行い、語彙や表現の定着度をチェックする	8	8	8	8							32
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③、④が身につけているかをチェックし評価する	7	7	7	7							28
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉、小笠原藤子 他	三修社	2013		推奨
備考					

【オフィスアワー】
特にありませんが、メール以外では授業前後あるいは昼休みに対応します。ogasawara.fujiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	各種資格試験の試験官、準備講座
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際に試験官として携わってきた経験により、よりの確な指導ができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	講義計画・成績評価の方法・テキスト・学習教材、学習用Webサイトの紹介、CEFRとは何か、試験日程等ガイダンス	
	この回の到達目標	CEFRとは何か。それに準じる資格試験とは何かを説明する。それに応じて、どのような語学能力を身につける必要があるのかを学ぶ。A1の復習（SB0s①-④）	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業内容を把握しておく	60分
	事後学修	授業を振り返り、どのようにこの授業に取り組むべきか計画を立てる。CEFRとは何かよく復習し、自分がどの位置にあるかを把握、どのようなドイツ語力を何のために身につけるのか考える。	60分
2	A2 Sprechen (1)	会話問題	
	この回の到達目標	会話試験問題を通し、内容の把握、必要な語彙を拡充する（SB0s①-④）	
	事前学修	授業で紹介されたWebサイトなどを実際に視聴してみる	100分
	事後学修	自分に不足する部分を復習する	60分
3	A2 Sprechen (2)	会話問題	
	この回の到達目標	どのような語彙およびスキルが必要か、学習者同士で話し合いながら問題に対する理解を深める（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
4	A2 Lesen, Hören	読解問題およびリスニング問題	
	この回の到達目標	試験形式を把握し、問題の効率的な解き方を見出す（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
5	A2 Lesen, Hören	読解問題およびリスニング問題	
	この回の到達目標	前回学んだことを生かし、実践してみる（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
6	A2 Schreiben	筆記問題	
	この回の到達目標	試験形式を把握し、何が求められているかを見出す（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	A2 Schreiben		筆記問題
	この回の到達目標	前回学んだことを生かし、さらに工夫してみる（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
8	B1 Sprechen		会話問題
	この回の到達目標	A1 Sprechenとの違いを把握し、何ができればいけないのか把握する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
9	B1 Sprechen		会話問題
	この回の到達目標	前回の授業で学んだことを生かし、さらに工夫する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
10	B1 Lesen, Hören		読解問題およびリスニング問題
	この回の到達目標	A1の問題と比較し、何が求められているのか把握する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
11	B1 Lesen, Hören		読解問題およびリスニング問題
	この回の到達目標	前回の授業で学んだことを生かし、実践してみる（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
12	B1 Schreiben		筆記問題
	この回の到達目標	A1の問題と比較し、何が求められているのか把握する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	B1 Schreiben	筆記問題	
	この回の到達目標	前回の授業で学だことを生かし、さらに工夫する（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	60分
	事後学修	自分に不足する部分を書き出し復習する	60分
14	授業内試験・まとめ	各技能の総合的なチェック	
	この回の到達目標	実際に試験問題をひとりで解くことにより、実力を試してみる（SB0s①-④）	
	事前学修	前回の授業で不足した語彙や表現、文法を復習する	120分
	事後学修	試験でわからなかった部分を確認する	60分
15	フィードバック	授業内試験で行なったものを返却し、振り返る	
	この回の到達目標	自分の試験結果を見て、振り返る（SB0s①-④）	
	事前学修	試験でできなかった部分をどのように克服していくか考えてくる	60分
	事後学修	試験結果を踏まえ、今後の学習計画を立てる	60分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策、2級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を履修済であることを前提とします。

【授業方法】
独検2級の過去問題を通じて傾向と対策を知、重要な文法事項を解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	6	6	4	4							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		31	31	19	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の練習問題の答え合わせをしながらポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時にプリント教材を配布します。				

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4・5限 ishii.toshiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	おさらい		3級の復習
	この回の到達目標	前期の学習を思い出す	
	事前学修	前期のプリントを復習する	30分
	事後学修	間違ったところを確認する	30分
2	語形成		2級問題1：文法
	この回の到達目標	ドイツ語の語形成を学習する	
	事前学修	2級問題1をやってくる	30分
	事後学修	問題1を見直す	30分
3	単語の使い方		2級問題2：文法 語彙
	この回の到達目標	名詞の使い方を学習する	
	事前学修	2級問題2をやってくる	30分
	事後学修	問題2を見直す	30分
4	同義表現		2級問題3：語彙 書き換え、空欄補充
	この回の到達目標	同義表現を学ぶ	
	事前学修	2級問題3をやってくる	30分
	事後学修	問題3を見直す	30分
5	固定表現		2級問題4 語彙 固定表現・機能動詞表現
	この回の到達目標	固定表現を学ぶ	
	事前学修	2級問題4をやってくる	30分
	事後学修	問題4を見直す	30分
6	内容把握		2級問題5：読解 大まかな内容を把握
	この回の到達目標	内容理解のスキルを身に着ける	
	事前学修	2級問題5をやってくる	30分
	事後学修	問題5を見直す	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文脈把握	2 級問題 6：読解 文の内容理解、語彙、言い換え	
	この回の到達目標	語彙のニュアンスを感じる	
	事前学修	2 級問題 6 をやってくる	30分
	事後学修	問題 6 を見直す	30分
8	会話成立	2 級問題 7：読解 会話の場面に適した表現を選び会話を完成させる	
	この回の到達目標	会話が成り立つよう並び替える	
	事前学修	3 級問題 7 をやってくる	30分
	事後学修	問題 1 を見直す	30分
9	長文	2 問題 8：読解 長文・説明文の大まかな内容を理解する	
	この回の到達目標	長文に慣れる	
	事前学修	2 級問題 8 をやってくる	30分
	事後学修	問題 8 を見直す	30分
10	会話理解	2 級聞き取り問題 1：短い会話	
	この回の到達目標	即座の応答	
	事前学修	2 級聞き取り問題 1 をやってくる	30分
	事後学修	問題 1 を見直す	30分
11	状況理解	3 級聞き取り問題 2：長い会話	
	この回の到達目標	テキスト理解	
	事前学修	2 級聞き取り問題 2 をやってくる	30分
	事後学修	問題 1 を見直す	30分
12	総合力	2022 年 2 級春	
	この回の到達目標	2 級全体の把握	
	事前学修	2022 年 2 級春問題をやってくる	30分
	事後学修	2022 年 2 級春問題を見直す	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総合力		2022年 2 級秋
	この回の到達目標	2 級全体の把握	
	事前学修	2 級2023年春の問題をやってくる	30分
	事後学修	2 級2023年秋の問題を見直す	30分
14	筆記試験		後期の総括
	この回の到達目標	後期のまとめ	
	事前学修	2 級問題をやってくる	30分
	事後学修	問題 1 を見直す	30分
15	解説		後期のおさらい
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	3 級全体を振り返る	30分
	事後学修	間違ったところを見直す	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定2級準1級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定2級、準1級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定3級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
	この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
	事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	独検演習 1 -1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 1	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く，語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
3	独検演習1- 2	長文読解（文法解釈） 1	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
4	独検演習1- 3	様々な場面の聞き取り2	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
5	Zertifikat演習 1-1	Lesen （読解）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の長文を速読/精読した内容について説明ができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	テキストの文法解釈・語彙練習・翻訳	60分
	事後学修	語彙練習	30分
6	Zertifikat演習 1-2	Hören（聞き取り）	
	この回の到達目標	日常的な場面におけるテーマについて聞き取った内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取り練習・語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Zertifikat 演習1-3	Schreiben （作文）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	課題の作文作成、語彙練習	60分
	事後学修	作文の修正、語彙練習	30分
8	Zertifikat演習1-4	Sprechen（会話） 1	
	この回の到達目標	テーマについて、パートナーとドイツ語で会話をすることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話のテーマに合わせてメモを作成、語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
9	独検演習2-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 2	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く 語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
10	独検演習2-2	長文読解（文法解釈） 2	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
11	独検演習2-3	様々な場面の聞き取り 2	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
12	Zertifikat実践 1	Lesen und Hören	
	この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	教科書長文読解、聞き取り練習	90分
	事後学修	実践演習の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Zertifikat実践2	Schreiben	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	作文の準備、語彙練習	90分
	事後学修	作文の修正 語彙練習	30分
14	Zertifikat実践3	会話試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を試験のフォーマットに合わせて会話することができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話準備	60分
	事後学修	試験の見直し	30分
15	講評（フィードバック）	実践演習の講評	
	この回の到達目標	これまでの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	総復習	90分
	事後学修	後期授業に向けての計画	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定 3 級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
	この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
	事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	独検演習 3-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング3	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く，語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
3	独検演習 3-2	長文読解（文法解釈）3	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
4	独検演習3- 3	様々な場面の聞き取り3	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
5	Zertifikat演習2-1	Lesen （読解）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の長文を速読/精読した内容について説明ができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	テキストの文法解釈・語彙練習・翻訳	60分
	事後学修	語彙練習	30分
6	Zertifikat演習2-2	Hören（聞き取り）	
	この回の到達目標	日常的な場面におけるテーマについて聞き取った内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取り練習・語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Zertifikat 演習2-3	Schreiben （作文）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	課題の作文作成、語彙練習	60分
	事後学修	作文の修正、語彙練習	30分
8	Zertifikat演習2-4	Sprechen（会話）2	
	この回の到達目標	テーマについて、パートナーとドイツ語で会話をする事ができる。ドイツ語で短いプレゼンテーションをすることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話のテーマに合わせてメモを作成、語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
9	独検演習 4-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 4	
	この回の到達目標	演習問題文法規則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く 語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
10	独検演習4-2	長文読解（文法解釈） 4	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
11	独検演習4-3	様々な場面の聞き取り 4	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
12	Zertifikat実践2-1	Lesen und Hören	
	この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	教科書長文読解、聞き取り練習	90分
	事後学修	実践演習の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Zertifikat実践2-2	Schreiben	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	作文の準備、語彙練習	90分
	事後学修	作文の修正 語彙練習	30分
14	Zertifikat実践2-3	会話試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を試験のフォーマットに合わせて会話することができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話準備	60分
	事後学修	試験の見直し	30分
15	講評（フィードバック）	実践演習の講評	
	この回の到達目標	これまでの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	総復習	90分
	事後学修	後期授業に向けての計画	30分

科目名	国際研修(独) I A	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるために、それを達成し得るドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎表現ABが履修済みであることが望ましい。ウィーン夏期語学研修を受講する学生さんはできるだけこの授業を履修すること。

【授業方法】
自己発信型のコミュニケーションができるために、会話のドリル練習に加えペア・ワーク、グループ・ワークを通じて、自由な会話をたくさん取り入れます。積極的に参加してください。小テストを定期的に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、自己発信型のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題ごとに授業内にフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	短期・長期留学に向けた基本的な心得 語学レベルの到達目標を明らかにする	
	この回の到達目標	留学までに何ができるようになっていなければならないか、留学先で何を学んでくるのか目標を明らかにして説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、これまで学んだ文法・語彙を復習しておく。	60分
	事後学修	次週に向けて教材の予習をして単語を覚える。	30分
2	Kontaktel	挨拶・自己紹介をする中で、シチュエーションに応じた敬語の使い方、場に応じた質問の仕方を学ぶ。	
	この回の到達目標	相手に合わせて挨拶をして、自己紹介ができる。相手のプロフィールを臨機応変に聞き出すことができる。	
	事前学修	挨拶・自己紹介ができるようにしておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
3	Kontakte 2	他己紹介、相手の連絡先を聞き出せるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。 ドイツ語圏のメディア事情について解説	
	この回の到達目標	他己紹介ができるようになる。相手の連絡先を聞き出し、自分の連絡先を伝えることができる	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
4	Studium und Sprachen	専攻分野、履修科目、言語について情報交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	自分の専攻分野や履修している科目について話すことができ、相手から同じテーマについて聞き出すことができる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
5	Hobbys	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
6	Essen und Trinken	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	Familie und Berufe	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分
8	Gegenstände	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分
9	Wohnen	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分
10	Uhrzeit und Datum	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分
11	Nach dem Wochenende	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分
12	Stadt und Universität	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。		
	この回の到達目標	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるようになる。		
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。		30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Vor den Ferien	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。 プレゼンテーションの準備	30分
14	Was kann man in Wien machen?	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。ウィーンの街について調べてくる。	60分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	60分
15	プレゼンテーション	留学へ行った先で何をしたいのか、ドイツ語と日本語でプレゼンテーションをする。	
	この回の到達目標	留学先の情報と自分の計画をプレゼンテーションできる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	60分
	事後学修	授業中に新たに学んだことをまとめる。	30分

科目名	国際研修(独) I B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を身につけるために、それを達成しうるドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していることが望ましい

【授業方法】
海外語学研修の授業と日常生活を想定し、ドイツ語会話と作文、及び現地の地誌・文化・社会情勢を踏まえてコミュニケーションができるよう、実践的なトレーニングをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける										1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	検定試験や留学試験の目標を明確にして、必要とされるスキルについて解説		
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、今後の目標のために必要とされるスキルについて説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。		30分
	事後学修	12月の独検、年明けのÖSD受験に向けて、単語と熟語の勉強を始めること。		30分
2	テキスト1 読解	ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。		
	この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。		
	事前学修	テキスト1を翻訳してくる。		60分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。		30分
3	テキスト1 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。		
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。		
	事前学修	テキスト1について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。		30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。		30分
4	テキスト1 論説文	テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。		
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。		
	事前学修	テキスト1に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。		30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備		30分
5	テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。		
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト1についてプレゼンテーションができる。		
	事前学修	プレゼンテーションの準備		30分
	事後学修	新出表現をまとめておく。		30分
6	テキスト2 読解	ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。		
	この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。		
	事前学修	テキスト2を翻訳してくる。		30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト2 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
	事前学修	テキスト2について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
8	テキスト2 論説文	テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
	事前学修	テキスト2に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
9	テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト2についてプレゼンテーションができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
	事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
10	テキスト3 読解	ドイツ語のテキスト3を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
	この回の到達目標	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	事前学修	テキスト3を翻訳してくる。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
11	テキスト3 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
	事前学修	テキスト3について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
12	独検の解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を指摘することができる。	
	事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
	事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト3 論説文	テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
	事前学修	テキスト3に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
14	テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト3についてプレゼンテーションができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
	事後学修	出来なかったところをよく復習すること。	30分
15	試験・まとめ	授業内で学んだこと全般を対象に試験を実施する	
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を示すことができる。	
	事前学修	後期の学習事項について、時間をかけて復習すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises The course will be taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class and by email: astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。inquiries may be sent by email : astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Guten Tag	1. Introducing yourself and others (picture story)	
	この回の到達目標	Alphabet, phonics, pronunciation exercises learn to introduce yourself	
	事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Greetings	2. greetings	
	この回の到達目標	learn to introduce yourself 2	
	事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	I am...	3. self introduction, "Where do you come from?"	
	この回の到達目標	learn about countries and related languages	
	事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	Countries	4. countries and languages	
	この回の到達目標	learn to give personal information	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	alphabet, data	5. the alphabet, telephone call, business cards	
	この回の到達目標	talk on the phone, read addresses	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	Family	6. family and friends (picture story)	
	この回の到達目標	talk about your family	
	事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	introducing people	7. "How are you?" family relations	
	この回の到達目標	learn to introduce others	
	事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	relatives	8. introducing family members	
	この回の到達目標	learn to talk about your friends	
	事前学修	Read page 26 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary, workbook section C (30分)	30分
9	numbers, personal data	9. get registered	
	この回の到達目標	learn counting, giving your personal data	
	事前学修	Read page 27 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C, verb conjugation (30分)	30分
10	geography, family	10. map of Germany, a text about a family	
	この回の到達目標	learn city names, directions, read a simple text	
	事前学修	Read page 28, 29 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary, workbook D (30分)	30分
11	Food and drink	11. picture story about shopping	
	この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
	事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
	事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	Food 2	12. Food items, supermarket	
	この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
	事前学修	Read page 36, 37 (30分)	30分
	事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	shopping		13. food vocabulary, prices, shopping conversation
	この回の到達目標	learn to hear and say prices, grocery shopping	
	事前学修	Read p. 38.39 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	meals and restaurants		14. conversations at the table, recipe
	この回の到達目標	learn names of dishes, understand a recipe	
	事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	test、振り返り		test (written), review, 解説
	この回の到達目標	review, check your level	
	事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises The course will be taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class and by email: astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。inquiries may be sent by email：astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Guten Tag		1. Introducing yourself and others (picture story)
	この回の到達目標	Alphabet, phonics, pronunciation exercises learn to introduce yourself	
	事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Greetings		2. greetings
	この回の到達目標	learn to introduce yourself 2	
	事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	I am...		3. self introduction, "Where do you come from?"
	この回の到達目標	learn about countries and related languages	
	事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	Countries		4. countries and languages
	この回の到達目標	learn to give personal information	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	alphabet, data		5. the alphabet, telephone call, business cards
	この回の到達目標	talk on the phone, read addresses	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	Family		6. family and friends (picture story)
	この回の到達目標	talk about your family	
	事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	introducing people	7. "How are you?" family relations	
	この回の到達目標	learn to introduce others	
	事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	relatives	8. introducing family members	
	この回の到達目標	learn to talk about your friends	
	事前学修	Read page 26 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary, workbook section C (30分)	30分
9	numbers, personal data	9. get registered	
	この回の到達目標	learn counting, giving your personal data	
	事前学修	Read page 27 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C, verb conjugation (30分)	30分
10	geography, family	10. map of Germany, a text about a family	
	この回の到達目標	learn city names, directions, read a simple text	
	事前学修	Read page 28, 29 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary, workbook D (30分)	30分
11	Food and drink	11. picture story about shopping	
	この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
	事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
	事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	Food 2	12. Food items, supermarket	
	この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
	事前学修	Read page 36, 37 (30分)	30分
	事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	shopping		13. food vocabulary, prices, shopping conversation
	この回の到達目標	learn to hear and say prices, grocery shopping	
	事前学修	Read p. 38.39 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	meals and restaurants		14. conversations at the table, recipe
	この回の到達目標	learn names of dishes, understand a recipe	
	事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	test、振り返り		test (written), review, 解説
	この回の到達目標	review, check your level	
	事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente A1.1	Sandra Evans	Hueber	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-16:10 anette.liebhart11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
	この回の到達目標	挨拶ができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト9-10頁	30分
2	自己紹介	Lektion 1 出身地、国	
	この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
	事前学修	テキスト9-10頁	30分
	事後学修	テキスト10-12頁	30分
3	自己紹介	Lektion 2 居住地、職業	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
	事前学修	テキスト13-14頁	30分
	事後学修	テキスト15-16頁	30分
4	自己紹介	Lektion 2 数字	
	この回の到達目標	仕事について会話ができる。100までの数字。	
	事前学修	テキスト15-16頁	30分
	事後学修	テキスト17-18頁	30分
5	自己紹介	Lektion 3 家族	
	この回の到達目標	家族について話すことができる。所有冠詞。	
	事前学修	テキスト17-18頁	30分
	事後学修	テキスト19-20頁	30分
6	自己紹介	Lektion 3 言語	
	この回の到達目標	疑問文。自分について会話ができる。	
	事前学修	テキスト19-26頁	30分
	事後学修	テキスト27-28頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	物		Lektion 4 家具	
	この回の到達目標	名詞の性と定冠詞、 人称代名詞について理解する。		
	事前学修	テキスト27-28頁		30分
	事後学修	テキスト29-30頁		30分
8	買い物		Lektion 4 値段	
	この回の到達目標	買い物ができる。		
	事前学修	テキスト29-30頁		30分
	事後学修	テキスト31-32頁		30分
9	物		Lektion 5 日用品	
	この回の到達目標	不定冠詞について理解する。		
	事前学修	テキスト31-32頁		30分
	事後学修	テキスト33-34頁		30分
10	物		Lektion 5 物、色、素材	
	この回の到達目標	物について話すことができる。		
	事前学修	テキスト33-34頁		30分
	事後学修	テキスト35-36頁		30分
11	仕事場		Lektion 6 オフィス	
	この回の到達目標	複数形について理解する。目的語を正しく使う。		
	事前学修	テキスト35-36頁		30分
	事後学修	テキスト37-38頁		30分
12	仕事場		Lektion 6 電話	
	この回の到達目標	電話で話すことができる。		
	事前学修	テキスト37-38頁		30分
	事後学修	テキスト39-44頁		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	復習	
	この回の到達目標	単語と文法を知る。	
	事前学修	テキスト39-44頁	30分
	事後学修	復習	30分
14	テスト予備、振り返り	振り返り	
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ	まとめ	
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Deutsch lernen mit System Sprachniveau A1.2 und A2.1 ISBN 9784990723552	Dieter Klement	German Council Tokyo	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 ABC	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 2 Wie heissen Sie?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 3 Woher kommen Sie?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 4 Zahlen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 5 Uhrzeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 6 einkaufen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 7 Fragen und Antworten	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 8 Nomen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 9 Ordnungszahlen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 10 Fragen und Antworten	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 11 Freizeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 12 Hobby	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 13 Zeitangaben	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Video	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨み、授業内での練習に積極的に取り組むこと。

【授業方法】
教科書に沿って、表現の内容と文法を確認しながら、発音練習や対話練習、聞き取り練習を行う。口頭での小テストも適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	対話練習、発表

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が身についているかを、筆記試験および口頭試験により評価する。	30	20									50
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	10	10	5								25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	10	5								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ベーシック版 自己表現のためのドイツ語<ノイ>	板山真由美 他	三修社	2024	教科書	必携
独和辞典				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【アルファベット、発音の規則】	授業の進め方と注意事項を説明する。 アルファベットと発音との規則を復習し、あいさつと授業で使う表現を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音の規則を理解し、発音ができ、聞き分けることもできる。あいさつや授業で使う表現を適切に用いることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。	60分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 発音練習を行う。	30分
2	【Lektion 1】自己紹介をする、飲み物を注文する	自己紹介の表現、飲み物を注文する表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介ができ、飲み物を注文することができる。また、飲み物についての会話を聞き取ることができる。	
	事前学修	教科書 9 ～ 1 1 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
3	【Lektion 1】相手の職業を尋ねる	職業に関する表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相手の職業など尋ね、答えることができる。また、職業を聞き取ることができる。	
	事前学修	教科書 1 2 ～ 1 3 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
4	【Lektion 1】相手の名前、出身地、居住地、職業を尋ねる	相手の名前、出身地、居住地、職業を尋ねたり、答えたりする表現を学習し、対話練習を行う。 主語によって変化する動詞の形を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相手の名前、出身地、居住地、職業を尋ね、答えることができる。動詞を正しい形で使うことができる。	
	事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
5	【Lektion 2】相手について尋ねる	duを使って相手について尋ねる表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。 数詞 0 ～ 2 0 を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、duを使って相手について尋ね、答えること、質問と答えを聞き取ることができる。また、数詞 0 ～ 2 0 を言うことができる。	
	事前学修	教科書 1 7 ～ 1 9 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
6	【Lektion 2】家族・友人を紹介する	家族・友人を紹介する表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。 数詞 2 1 ～ 1 0 0 を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族・友人を紹介できる、第三者についての会話を聞き取ることができる。また、数詞 2 0 ～ 1 0 0 を言うことができる。	
	事前学修	教科書 2 0 ～ 2 1 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 2】数詞、動詞の形、疑問詞	数詞0～100を聞き取る練習を行う。 主語によって変化する動詞の形を確認する。 適切な疑問詞の使い方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字0～100を聞き取ることができる。動詞を正しい形で使うことができる。また、正しい疑問詞を使うことができる。	
	事前学修	教科書22～23ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
8	【Lektion 3】必要な物があるか尋ねる	部屋にある家具に関する語彙、必要な物があるか尋ねる表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の部屋に何があるのか（何が足りないか）を説明できる。また、部屋に何があるかを聞き取ることができる。	
	事前学修	教科書25～27ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
9	【Lektion 3】メール文を読む、意見を聞く	メールの文章を読み、内容を確認する。 意見を求める表現、意見を述べる表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メールの文章が理解できる。また、意見を求め、意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書28～29ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
10	【Lektion 3】メールを書く	メールの書式を学修し、メールを書く。 名詞を性にしたがって分類する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メールを書くことができる。また、名詞の性がわかる。	
	事前学修	教科書30～31ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
11	【Lektion 4】相手の行き先や予定を尋ねる	いろいろな行き先に関する語彙、相手の行き先や予定を尋ねる表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いろいろな行き先を表すドイツ語が言え、相手の行き先や予定を尋ね、答えることができる。また、行き先や予定を聞き取ることができる。	
	事前学修	教科書33～35ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
12	【Lektion 4】時刻の表現	時刻の表現を学習し、対話練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時刻を言うことができ、時刻に関する対話ができる。	
	事前学修	教科書36～37ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 4】行き先、時刻を言う	行き先に関する表現、日常会話で時刻表現を学習し、対話練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適切な語彙を用いて、行き先や時刻を言うことができる。	
	事前学修	教科書 38～39 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
14	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回～第13回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書 6～40 ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
15	【フィードバック、まとめ】	試験問題を振り返り、できなかったところを把握する。 これまでの学習した表現を用いて応用練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学習内容を応用できる。	
	事前学修	第1回～第13回で読んだテキストの内容を振り返る。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】		
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises The course will be taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class and by email: astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。astrid.sato11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Housing	16. My apartment (picture story)	
	この回の到達目標	learn to describe homes	
	事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
	この回の到達目標	learn to buy furniture	
	事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
	事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	furniture	18. furniture, household gadgets	
	この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
	事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
	この回の到達目標	learn to describe your home	
	事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	your apartment	20. describe your apartment	
	この回の到達目標	learn to describe your day	
	事前学修	Read p 56 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	Talk about your day	21. My day (picture story)	
	この回の到達目標	learn to say times in German	
	事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
	事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Time	22. the clock	
	この回の到達目標	learn to talk about times of the day and activities	
	事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	Spending time	23. daily activities, times of day	
	この回の到達目標	learn to describe free time activities, inviting a friend	
	事前学修	Review the clock , verbs, read p 62 (30分)	30分
	事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	Free time	24. times of the day	
	この回の到達目標	describe daily activities, compose sentences that include time	
	事前学修	Read p 63 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	Sightseeing	25. City tour in Berlin	
	この回の到達目標	listen to answering machines, learn business hours, read city tourism pamphlet	
	事前学修	Read p. 64,65 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary , workbook E (30分)	30分
11	Leisure	26. excursions, hiking	
	この回の到達目標	listen and understand picture story	
	事前学修	Read p 70,71 (30分)	30分
	事後学修	Workbook A (30分)	30分
12	Weather	27. weather reports	
	この回の到達目標	understand weather reports	
	事前学修	Read p 72 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	small talk, interests	conversations about food, hobbies	
	この回の到達目標	learn to ask and answer questions during meals and in restaurants read a profile	
	事前学修	Read p 73, 74, 75 (30分)	30分
	事後学修	workbook C (30分)	30分
14	seasons and travel	29. traveling and leisure facilities in Germany, wintersports	
	この回の到達目標	learn the seasons and related leisure activities read a travel pamphlet	
	事前学修	Read page 76, 77 (30分)	30分
	事後学修	write essay about a country (30分)	30分
15	Test、振り返り	テスト(written), review, 解説	
	この回の到達目標	review what you learned	
	事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises The course will be taught in the classroom The pace of the syllabus is subject to change in speed

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class and by email: astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。email: astrid.satoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Housing	16. My apartment (picture story)	
	この回の到達目標	learn to describe homes	
	事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
	この回の到達目標	learn to buy furniture	
	事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
	事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	furniture	18. furniture, household gadgets	
	この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
	事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
	この回の到達目標	learn to describe your home	
	事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	your apartment	20. describe your apartment	
	この回の到達目標	learn to describe your day	
	事前学修	Read p 56 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	Talk about your day	21. My day (picture story)	
	この回の到達目標	learn to say times in German	
	事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
	事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Time	22. the clock	
	この回の到達目標	learn to talk about times of the day and activities	
	事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	Spending time	23. daily activities, times of day	
	この回の到達目標	learn to describe free time activities, inviting a friend	
	事前学修	Review the clock , verbs, read p 62 (30分)	30分
	事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	Free time	24. times of the day	
	この回の到達目標	describe daily activities, compose sentences that include time	
	事前学修	Read p 63 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	Sightseeing	25. City tour in Berlin	
	この回の到達目標	listen to answering machines, learn business hours, read city tourism pamphlet	
	事前学修	Read p. 64,65 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary , workbook E (30分)	30分
11	Leisure	26. excursions, hiking	
	この回の到達目標	listen and understand picture story	
	事前学修	Read p 70,71 (30分)	30分
	事後学修	Workbook A (30分)	30分
12	Weather	27. weather reports	
	この回の到達目標	understand weather reports	
	事前学修	Read p 72 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	small talk, interests		conversations about food, hobbies
	この回の到達目標	learn to ask and answer questions during meals and in restaurants read a profile	
	事前学修	Read p 73, 74, 75 (30分)	30分
	事後学修	workbook C (30分)	30分
14	seasons and travel		29. traveling and leisure facilities in Germany, wintersports
	この回の到達目標	learn the seasons and related leisure activities read a travel pamphlet	
	事前学修	Read page 76, 77 (30分)	30分
	事後学修	write essay about a country (30分)	30分
15	Test、振り返り		テスト(written), review, 解説
	この回の到達目標	review what you learned	
	事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente A1.1	Sandra Evans	Hueber	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30 anette.liebhart11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	余暇	Lektion 7 趣味	
	この回の到達目標	できることについて話せる。	
	事前学修	テキスト45-46	60分
	事後学修	テキスト47-48頁	30分
2	余暇	Lektion 7 暇の時間	
	この回の到達目標	好きなことについて話せる。	
	事前学修	テキスト47-48頁	30分
	事後学修	テキスト49-50 頁	30分
3	日常	Lektion 8 予定	
	この回の到達目標	時間と曜日を知る。	
	事前学修	テキスト49-50頁	30分
	事後学修	テキスト51-52頁	30分
4	日常	Lektion 8 スケジュール	
	この回の到達目標	予約や待ち合わせができる。	
	事前学修	テキスト51-52頁	30分
	事後学修	テキスト53-54 頁	30分
5	食事	Lektion 9 食材	
	この回の到達目標	好きな物について話せる。	
	事前学修	テキスト53-54頁	30分
	事後学修	テキスト55-56 頁	30分
6	食事	Lektion 9 レストラン	
	この回の到達目標	レストランで注文ができる。	
	事前学修	テキスト55-56頁	30分
	事後学修	テキスト63-64 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	交通	Lektion 10 交通	
	この回の到達目標	分離動詞を知る。	
	事前学修	テキスト63-64 頁	30分
	事後学修	テキスト65-66頁	30分
8	交通	Lektion 10 旅行	
	この回の到達目標	交通の情報がわかる。	
	事前学修	テキスト65-66 頁	30分
	事後学修	テキスト67-68 頁	30分
9	過去	Lektion 11 日常	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト67-68 頁	30分
	事後学修	テキスト69-70頁	30分
10	過去	Lektion 11 日程	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト69-70 頁	30分
	事後学修	テキスト71-72 頁	30分
11	過去	Lektion 12 祭り、行事	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト71-72 頁	30分
	事後学修	テキスト73-74 頁	30分
12	過去	Lektion 12 イベント	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト73-74 頁	30分
	事後学修	テキスト75-80頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	復習	
	この回の到達目標	単語と文法を知る。	
	事前学修	テキスト75-80 頁	30分
	事後学修	復習	30分
14	テスト予備、振り返り	振り返り	
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ	まとめ	
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Deutsch lernen mit System Sprachniveau A1.2 und A2.1 ISBN 9784990723552	Dieter Klement	German Council Tokyo	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 14 Was machen Sie am Wochenende?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 15 Wie spaet ist es?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 16 Ihre deutsche Freundin	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 17 nicht und doch	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 18 Nomen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 19 Possessivartikel	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 20 Gespraechе	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 21 eine kleine Nachtmusik	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 22 Fragen und Antworten	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 23 Dialoge	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 24 Vergangenheit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 25 Einkaufen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 26 Modalverben	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	deutsche Gesellschaftsspiele	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠB	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。事前学修と事後学修に取り組んだ上で授業に臨み、授業内での練習に積極的に取り組むこと。

【授業方法】
教科書に沿って、表現の内容と文法を確認しながら、発音練習や対話練習、聞き取り練習を行う。口頭での小テストも適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	対話練習、発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が身についているかを、筆記試験および口頭試験により評価する。	30	20									50
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	10	10	5								25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	10	5								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ベーシック版 自己表現のためのドイツ語<ノイ>	板山真由美 他	三修社	2024	教科書	必携
独和辞典				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。kurose.shiho11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】 【アルファベットとドイツ語の発音】	授業の進め方と注意事項を説明する。 アルファベットとドイツ語の発音を復習し、発音練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音の規則を理解し、発音ができ、聞き分けることもできる。		
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。		60分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
2	【Lektion 5】 相手を誘う、しなければならないこと、したいことの表現	相手を誘う表現、しなければならないことやしたいことを表す表現を学習し、対話練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相手を誘うことができ、しなければならないことやしたいことを表現できる。		
	事前学修	教科書 4 1 ～ 4 3 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
3	【Lektion 5】 しなければならないこと、してはいけないことの表現	しなければならないことやしてはいけないことを表す表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、しなければならないことやしてはいけないことを表現できる。また、滞在先での決まりを聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 4 4 ～ 4 5 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
4	【Lektion 5】 話法の助動詞を用いた表現	話法の助動詞を用いた表現を読み取る練習と文を作る練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞を用いて表現することができる。		
	事前学修	教科書 4 6 ～ 4 7 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
5	【Lektion 6】 週末や一週間の予定を語る	週末や一週間の予定を語る表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、週末の予定について尋ね、答えることができ、一週間の予定を語ることもできる。また、週末の予定を聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 4 9 ～ 5 1 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
6	【Lektion 6】 意見を求める、意見を述べる	意見を求める表現、意見を述べる表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、身近なものについて尋ねたり、意見を述べることができる。意見を聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 5 2 ～ 5 3 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【Lektion 6】高校生の時間割、分離動詞、人称代名詞		ドイツ語の高校生の時間割を見て、1 週間の予定について話す練習を行う。分離動詞や人称代名詞を用いた練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、1 週間の予定について話すことができる。また、分離動詞や人称代名詞を用いて正しく文を作ることができる。		
	事前学修	教科書 5 4～5 5 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
8	【Lektion 7】相手の意志を尋ねる、待ち合わせ場所を相談する		相手の意志を尋ねる表現、待ち合わせ場所を相談する表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相手の意志を尋ね、答えることができ、待ち合わせ場所を相談できる。また、待ち合わせについての会話を聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 5 7～5 9 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
9	【Lektion 7】待ち合わせの時間や持ち物を相談する		待ち合わせの時間や持ち物を相談する表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、待ち合わせの時間や持ち物の相談ができ、持ち物について聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 6 0～6 1 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
10	【Lektion 7】コトバ作り、zu不定詞、前置詞、複数形		単語を作る練習、Lust habenを使った表現やいろいろな前置詞を使った場所の表現の練習を行う。複数形を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Lust habenを使って「～する気がする」と言うことができる。いろいろな前置詞を使って、場所を表現できる。また、単語の成り立ちや複数形がわかる。		
	事前学修	教科書 6 2～6 3 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
11	【Lektion 8】過去の出来事を話す(haben＋過去分詞)		現在完了形(haben＋過去分詞)を用いた過去の出来事についての表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の中で現在完了形が使われていることがわかる。現在完了形を用いて過去の出来事について表現でき、聞き取ることもできる。		
	事前学修	教科書 6 5～6 7 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分
12	【Lektion 8】過去の出来事を話す(sein＋過去分詞)		現在完了形(sein＋過去分詞)を用いた過去の出来事についての表現を学習し、対話練習と聞き取り練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形を用いて過去の出来事について尋ね、答えることができる。また、過去の出来事について聞き取ることができる。		
	事前学修	教科書 6 8～6 9 ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 8】1年の思い出	この1年にどんなことをしたか、現在完了形を使って話す練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形を使って、過去の出来事について話すことができる。	
	事前学修	教科書70～71ページに目を通し、わからない単語を調べて表現の意味を考え、発音してみる。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分
14	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回～第13回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	教科書41～72ページの総復習を行う。	90分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を確認し、復習する。	30分
15	【フィードバック、まとめ】	試験問題を振り返り、できなかったところを把握する。 これまでの学習した表現を用いて応用練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学習内容を応用できる。	
	事前学修	第1回～第13回で読んだテキストの内容を振り返る。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、発音練習を行う。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente AI	Sandra Evans	Hueber	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-16:10 anette.liebhart11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	Lektion 13 Berlinにて	
	この回の到達目標	Berlinを知る。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト81-82頁	30分
2	Berlin	Lektion 13 Berlinにて	
	この回の到達目標	人称代名詞の3格を使う。	
	事前学修	テキスト81-82頁	30分
	事後学修	テキスト83-84頁	30分
3	町にて	Lektion 14 街案内	
	この回の到達目標	町を案内することができる。。	
	事前学修	テキスト81-84頁	30分
	事後学修	テキスト85-86頁	30分
4	町にて	Lektion 14 街案内	
	この回の到達目標	前置詞を使うことができる。	
	事前学修	テキスト85-86頁	30分
	事後学修	テキスト87-88頁	30分
5	住まい	Lektion 15 家	
	この回の到達目標	家について話すことができる。	
	事前学修	テキスト85-88頁	30分
	事後学修	テキスト89-90頁	30分
6	住まい	Lektion 15 家具	
	この回の到達目標	所有代名詞を使うことができる。	
	事前学修	テキスト85-90頁	30分
	事後学修	テキスト91-92頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	まとめ		Magazin 応用問題	
	この回の 到達目標	発展。		
	事前学修	テキスト81-92頁		30分
	事後学修	テキスト93-96頁		30分
8	困りごと		Lektion 16 故障、サービス	
	この回の 到達目標	頼み事をする事ができる。		
	事前学修	テキスト81-96頁		30分
	事後学修	テキスト97-98頁		30分
9	困りごと		Lektion 16 アポイントメント	
	この回の 到達目標	アポイントメントを取ることができる。		
	事前学修	テキスト97-98頁		30分
	事後学修	テキスト99-100頁		30分
10	将来		Lektion 17 将来の夢	
	この回の 到達目標	将来の夢について話すことができる。		
	事前学修	テキスト97-100頁		30分
	事後学修	テキスト101-102頁		30分
11	将来		Lektion 17 予定	
	この回の 到達目標	将来の計画について話すことができる。		
	事前学修	テキスト101-102頁		30分
	事後学修	テキスト103-104頁		30分
12	健康		Lektion 18 体、病気	
	この回の 到達目標	単語を知る。		
	事前学修	テキスト101-104頁		30分
	事後学修	テキスト105-106頁		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	健康		Lektion 18 病気, 治療
	この回の到達目標	命令文, 提案をすることができる。	
	事前学修	テキスト105-106頁	30分
	事後学修	テキスト107-108頁	30分
14	テスト予備、振り返り		振り返り
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ		まとめ
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	前川 一貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現A・B、及びドイツ語基礎文法A・Bの単位を取得していること。

【授業方法】
日常の場面を想定して、会話文を作成したり、会話のロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、、グループワーク、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：日常的な会話文の作成	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の作成など	30	10									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Menschen A1. 1	Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht	Hueber	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 1年次の復習	授業の進め方 基本的な会話表現	
	この回の到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 ドイツ語の感覚を取り戻す。	
	事前学修	シラバスを概観する	30分
	事後学修	ドイツ語基礎表現の教科書を見返す。	60分
2	Lektion 1 名前、出身	初対面の会話	
	この回の到達目標	シーンに応じて、適切な名前の尋ね方・答え方ができる。 決定疑問文を効果的に使って、出身を聞いてみる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
3	Lektion 1 調子、人物の紹介	人を紹介する。	
	この回の到達目標	シーンに応じて、適切に調子を尋ねられる。 三人称の人称代名詞を主語にして文が作れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
4	Lektion 2 職業	名刺を見て会話する。	
	この回の到達目標	職業について複数の尋ね方・答え方ができる。 いろいろな職業を表す単語を覚える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
5	Lektion 2 略歴	自身の略歴を書く。	
	この回の到達目標	年齢、配偶関係、子どもの有無についても答えられる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
6	Lektion 3 写真	写真の人物が誰なのかを説明する。	
	この回の到達目標	所有冠詞を用いた文で、家族・親戚の名前、職業、年齢が言える。 否定疑問文を使うことができる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3 家族	家族を紹介する。	
	この回の到達目標	家族構成についてプレゼンテーションをし、質問を受ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
8	Lektion 4 家具	家具屋での会話	
	この回の到達目標	値段のやり取りができる。家具の説明をしたり、受けたりできる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
9	Lektion 4 オークション	オークションのロールプレイ	
	この回の到達目標	商品の説明ができる、聞き取れる。 数字を即座に言える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
10	Lektion 5 視力検査	眼科で視力検査を受ける。	
	この回の到達目標	否定文を正しく使える。推測する文が作れる。 正しいかどうかの確認、待ってほしいという意思表示ができる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
11	Lektion 5 眼鏡の注文	眼鏡をオーダーメイドする。	
	この回の到達目標	素材、色、形状を説明できる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
12	Lektion 6 SMS・メール、電話	メールを読む。電話をかけたり、受けたりする。	
	この回の到達目標	ドイツでのメールの書き方、電話のかけ方・受け方に慣れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6 テレワーク	テレワークについて自分の意見が言える。	
	この回の到達目標	賛成・反対を示し、その理由を述べられる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
14	口頭試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り	授業内試験	
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente A1	Sandra Evans	Hueber	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30 anette.liebhart11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入授業		Lektion 19 日常生活
	この回の到達目標	レブルチェック 日常生活に使う単語を知る。	
	事前学修	前期範囲の復習を行っておくこと	30分
	事後学修	テキスト115-116頁	30分
2	家事		Lektion 19 日常生活
	この回の到達目標	命令文。 4格人称代名詞を正しく使う。	
	事前学修	テキスト115-116頁	30分
	事後学修	テキスト117-118頁	30分
3	人柄、姿		Lektion 20 人の様子
	この回の到達目標	人の様子や性格を表す言葉を知る。	
	事前学修	テキスト115-118頁	30分
	事後学修	テキスト119-120頁	30分
4	人柄、姿		Lektion 20 人の様子
	この回の到達目標	過去形を使うことができる。	
	事前学修	テキスト119-120頁	30分
	事後学修	テキスト121-122頁	30分
5	公生活		Lektion 21 規則
	この回の到達目標	規則が分かる。	
	事前学修	テキスト119-122頁	30分
	事後学修	テキスト123-124頁	30分
6	公生活		Lektion 21 規則
	この回の到達目標	助動詞を使うことができる。	
	事前学修	テキスト123-124頁	30分
	事後学修	テキスト125-126頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	まとめ		Magazin 応用問題	
	この回の 到達目標	復習と発展。		
	事前学修	テキスト123-126頁		30分
	事後学修	テキスト126-132頁		30分
8	服装		Lektion 22 服	
	この回の 到達目標	服について話すことができる。		
	事前学修	テキスト115-132頁		30分
	事後学修	テキスト132-133頁		30分
9	服装		Lektion 22 服	
	この回の 到達目標	比較級、最上級が分かる。		
	事前学修	テキスト132-133頁		30分
	事後学修	テキスト134-135頁		30分
10	天気		Lektion 23 各地の天気	
	この回の 到達目標	天気について話すことができる。		
	事前学修	テキスト134-135頁		30分
	事後学修	テキスト136-137頁		30分
11	天気		Lektion 23 各地の天気	
	この回の 到達目標	ハガキを書くことができる。		
	事前学修	テキスト136-137頁		30分
	事後学修	テキスト137-138頁		30分
12	祝日		Lektion 24 祝い事	
	この回の 到達目標	月日を知る。		
	事前学修	テキスト137-138		30分
	事後学修	テキスト139-140		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	祝日	Lektion 24 祝賀	
	この回の到達目標	お祝いの言葉を知る。	
	事前学修	テキスト	30分
	事後学修	テキスト	30分
14	テスト予備、振り返り	振り返り	
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ	まとめ	
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	前川 一貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現A・B、及びドイツ語基礎文法A・Bの単位を取得していること。

【授業方法】
日常の場面を想定して、会話文を作成したり、会話のロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、、グループワーク、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	口頭試験：簡単なドイツ語会話 筆記試験：日常的な会話文の作成	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(宿題)	会話文の作成など	30	10									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員が添削して返却、そのあと質問を受ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Menschen A1. 1	Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht	Hueber	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回授業にて教員のメールアドレスを伝える。履修前に連絡を取りたい場合は、事務所に連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	授業の進め方 これまでに習った会話表現	
	この回の 到達目標	授業概要、到達目標、全15回の計画、成績評価の方法を把握する。 ドイツ語の感覚を取り戻す。	
	事前学修	シラバスを概観する。	30分
	事後学修	教科書で学習した範囲を見返す。	60分
2	Lektion 7 褒める	驚きなどの気持ちを込めて、褒め言葉を言えるようにする。	
	この回の 到達目標	助動詞könnenと程度を示す副詞を組み合わせて、いろいろな文を作れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
3	Lektion 7 趣味	趣味について話を広げる。	
	この回の 到達目標	お気に入りの人・ものや頻度、好き嫌いについて話せる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
4	Lektion 8 予定	一日の予定を尋ねる。	
	この回の 到達目標	いろいろな活動・アクティビティを言えるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
5	Lektion 8 約束	遊びに行く約束をする。	
	この回の 到達目標	シーンに応じた誘い方と応じ方・断り方ができるようにする。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
6	Lektion 9 食事	いっしょに食事をする。	
	この回の 到達目標	食事のあいさつ、料理の説明や感想、飲み物のすすめ方などを学ぶ。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9 招待	食事に誘い、メニューを決める。	
	この回の到達目標	食べ物の好き嫌いについて話せる。いろいろな料理の単語を覚える。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
8	Lektion 10 駅	駅で乗り物を利用する。	
	この回の到達目標	電車の乗り降りの際に必要な表現を身に付ける。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
9	Lektion 10 すごろく	ゲームを楽しむ。	
	この回の到達目標	分離動詞の使い方、乗り物の表現に慣れる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
10	Lektion 11 最近したこと	今日一日したことについて話す。	
	この回の到達目標	現在完了形を用いて、過去にしたことを言い表せる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
11	Lektion 11 メール	今日一日したことを文章にする。	
	この回の到達目標	メールの書き方を学ぶ。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
12	Lektion 12 祝祭・お祭り	文章を聞き取る・読む。	
	この回の到達目標	さまざまな祝祭・お祭について知る。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Lektion 12 思い出		自分が体験した祝祭・お祭りについて話す。
	この回の到達目標	5 W 1 Hを意識して、話を広げる。	
	事前学修	グループワークに参加できるように、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	30分
	事後学修	会話文の作成	60分
14	口頭試験、振り返り		授業内試験
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分
15	筆記試験、振り返り		授業内試験
	この回の到達目標	前期の内容をどのくらい理解しているのかを把握する。	
	事前学修	試験に備えて、これまでの学習内容で不明な点をなくす。	60分
	事後学修	試験で分からなかった箇所をもう一度復習する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
GrGrundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。										3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。										3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートドイツ語	岡村 りら	白水社	2022		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット1 過去形、現在完了。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット1 過去形、現在完了。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット1 過去形、現在完了。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット2 受働。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット2 受働。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット2 受働。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット3 2 格、前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット3 2 格、前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット3 2 格、前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット4 未来形、es, 買い物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット4 未来形、es, 買い物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット4 未来形、es, 買い物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット5 命令文、接続法、。。。。	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Video	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズなドイツ語コミュニケーションの習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自立的に使用できる能力を習得する。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
GGrundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								4	4		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								4	4		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートドイツ語	岡村 りら	白水社	2022		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット5 命令文、接続法	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット5 命令文、接続法	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット6 自分の意見を発表、プレゼンテーション	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット6 自分の意見を発表、プレゼンテーション	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット6 自分の意見を発表、プレゼンテーション	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	ユニット7 形容詞、食べ物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット7 形容詞、食べ物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Station 1	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット7 形容詞、食べ物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット8 比較、都市と農村	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット8 比較、都市と農村	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット8 比較、都市と農村	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	ユニット9 再起動、コンピューター	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	deutsche Gesellschaftsspiele	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Übersetzungen, eigene Sätze und Texte erstellen

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	翻訳・作文・書き換えなどの実践練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Kreativ Deutsch schreiben ISBN9784261012552	Nobuo Ikeuchi	ikebundo	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 1 動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 1 動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 2 名詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 2 名詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 3 一日が始まる、複数形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 3 一日が始まる、複数形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 4 人称代名詞、時間	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 4 人称代名詞、時間	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 5 不定冠詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 5 不定冠詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 6 ペトラと散歩、前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch		Deutsch lernen
	この回の到達目標	Lektion 6 ペトラと散歩、前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 7 分離動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	deutsches Video	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、A2レベルの試験に合格する文書による意思疎通の能力を習得します。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Übersetzungen, eigene Sätze und Texte erstellen

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	翻訳・作文・書き換えなどの実践練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Kreativ Deutsch schreiben ISBN9784261012552	Nobuo Ikeuchi	ikebundo	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限 imke.lenz11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 7 分離動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 8 再起動、祭り	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 8 再起動、祭り	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 9 形容詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 9 形容詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 10 未来、勉強	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 0 未来、勉強	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 1 命令形、部屋を見せる	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 1 命令形、部屋を見せる	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 2 過去形、日記を書く	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 2 過去形、日記を書く	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 3 現在完了、買い物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion 1 3 現在完了、買い物	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	deutsche Gesellschaftsspiele	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法Aを同時履修すること

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語 改訂版	山下利枝 他	三修社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の目的・内容、進め方、教科書、参考書の紹介、テストの実施方法、成績評価方法について説明。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の指針を理解し、それに基づいて今後の学習計画を立てられる。	
	事前学修	教科書に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	形容詞	主語＋動詞＋形容詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞を含む簡単な例文を聞き取り、暗唱できる。	
	事前学修	1課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	形容詞の位置	名詞＋形容詞、形容詞＋名詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、フランス語特有の形容詞の位置について理解し、それを用いた例文を聞き取り暗唱できる。	
	事前学修	2課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	形容詞と副詞	主語＋動詞＋形容詞、主語＋動詞＋副詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞、副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	3課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	時の副詞	～mentを使った副詞、時の副詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、～mentを使った副詞、時の副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	4課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	定冠詞と不定冠詞	le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	5課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	部分冠詞	du, de laの意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞du, de laを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	6課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、これまでのまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	7回目までの音で覚えたフレーズを書けるようにする。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	指示形容詞と指示代名詞	ce, cette, celui-ci, celle-ciなどの指示形容詞、指示代名詞意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞、指示代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	7課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	所有形容詞と所有代名詞	son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法を理解して暗唱できる。	
	事前学修	8課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	場所を表す前置詞	à, au, enなどの場所を表す前置詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、à, au, enなどの場所を表す前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	9課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	場所、時の前置詞	de, à, versなどの時・場所の前置詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、de, à, versなどの時・場所の前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	10課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	直接補語代名詞	直接補語代名詞le, la, lesの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、直接補語代名詞le, la, lesを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	11課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	到達度測定テスト、解説。	前期末試験とその採点、解説。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、文法事項を理解しながらフランス語の短文を書くことができる。	
	事前学修	前回までのまとめ。	30分
	事後学修	テストで間違えた箇所の文法事項を理解する。	30分
15	フィードバックとまとめ。	これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書けるか、動詞の活用ができるか、テストの結果をもとに確認。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでに音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文中の動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	テストで間違えた箇所の綴り、文法事項について理解し、簡単な応用ができるようにする。	30分
	事後学修	フランス語の音声を繰り返し聞き、学んだ知識を確認する。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者が発音したり、課題に解答するアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アレグレス	江島泰子	トレフル出版	2014年	教科書	必携
備考	江島担当のフランス語基礎文法も同時に履修している学生は、同じ教科書なので購入不要。				

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問、留学等について、授業の前後およびメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）による相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入授業	1. 授業の説明 2. 挨拶の表現① 3. 綴り字の読み方①	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、1. 簡単な挨拶①ができる 2. 綴り字①を読むことができる	
	事前学修	フランス語の特徴について調べておく。	30分
	事後学修	学修した内容をダウンロードした音声によって確認し、小テストの準備をする。	30分
2	挨拶、発音練習	1. 挨拶の表現② 2. 綴り字の読み方②	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、1. 簡単な挨拶②ができる 2. 綴り字②を読むことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
3	挨拶、発音練習	1. 挨拶の表現③ 2. 綴り字の読み方③	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、1. 簡単な挨拶③ができる 2. 綴り字③を読むことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
4	提示の表現など	1. 提示表現 (C'est, Ce sont) 2. 身分・職業を言う 3. 自分や他者の特徴を述べる	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、提示表現をもちいて現前にあるものについて会話を行うことができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
5	初対面の人との会話	初めて会う友人との会話	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第1課の本文の会話をモデルに、二人での会話を作り、それを覚えて実際に会話できる。その内容を正確に書くことができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
6	現前にあるものの紹介/特徴を語る (第2課)	1. Voici, Voilàを用いて人や物を紹介する 2. 人や物の特徴を語る	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Voici, Voilàを用いて人や物を紹介できる。さらに、人や物の特徴を語るすることができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	身分、年齢、居住地	1. 数詞（30まで） 2. 自分の身分、年齢、居住地について語る	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、数詞を30まで言うことができ、自分の身分、年齢、居住地について語ることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
8	国籍、趣味、曜日	1. 国籍、趣味について質問し、答える 2. 曜日と月を言う	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 自分や他者に関する国籍、趣味について質問し、答えることができる 2. 曜日と月について表現できる	
	事前学修	前期中間試験の準備をする。	180分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
9	時間表現、否定	中間試験 1. 時間表現 2. 否定	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時間に関する会話ができる 2. 否定表現を用いて会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
10	存在について語る	1. Il y aを用いた表現 2. 指示形容詞を用いた表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. Il y aを使って会話ができる 2. 指示形容詞を用いた表現を使うことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
11	場所に関係する表現	1. 場所に関する会話（動詞 être, aller） 2. 中性代名詞y を用いた応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 場所に関する会話（動詞 être, aller）ができる 2. 中性代名詞y を用いた応答ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
12	qui, queを用いた表現	1. 疑問代名詞qui, queを用いた表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞qui, queを用いた表現を使って会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	位置を示す表現	1. 空間に関連する前置詞・前置詞句	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、空間に関連する前置詞・前置詞句を用いて会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	さまざまな質問に答える	1. どこ？いつ？どのように？どうして？どのくらい？ 2. 交通手段の表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. où ? quand ? comment ? pourquoi ? combien ? を用いて質問でき、それに答えることできる 2. 交通手段に関する会話を行うことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
15	前期の総括	前期末試験とまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、期末試験に解答できる	
	事前学修	前期末試験の準備をする	180分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Bと続けて履修するとよい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがって音声ファイルやDVDを利用しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パリ - ボルドー	藤田裕二	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後やメール（fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp）から受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な音を聞き取り、発音できるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語のアルファベの読みを暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
2	フランス語の発音と綴り字	フランス語の発音の規則を学ぶ。それによって受講生は基本的な母音と子音の発音とそれに対応する綴り字の関係が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス語のつづり字と発音の関係が理解できるようになる。	
	事前学修	教科書0課の発音の規則に目を通しておく。	30分
	事後学修	発音規則を確認しながら単語の読みを復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
3	第1課 自己紹介する(1) 名前	自己紹介の表現を学ぶ。それによって受講生は周囲の人にフランス語で自己紹介できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自己紹介文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	1課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
4	第1課 自己紹介する(2) 職業	être動詞を用いた国籍や職業を示す表現を学ぶ。それによって受講生は自分や周囲の人の国籍や職業を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国籍や職業を示す表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
5	第2課 物を指し示す(1) 名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は様々な単語をフランス語で言えるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な単語を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	2課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
6	第2課 物を指し示す(2) 形容詞	形容詞の用法を学ぶ。それによって受講生は周囲のものの性質を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞を含む文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課 尋ねる(1) 規則動詞の活用		er動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生はer動詞を用いた表現を習得することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、er動詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	3課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
8	第3課 尋ねる(2) 疑問文		疑問文の作り方を学ぶ。それによって受講生は質問ができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、質問を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
9	第4課 買い物をする(1) 動詞 avoir		avoirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生はavoirを使って表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを含む表現を正しく聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	4課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
10	第4課 買い物をする(2) 否定文		否定文の作り方と用法を学ぶ。それによって受講生は、否定文を使うことができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、否定文を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
11	第5課 物事や人について尋ねる(1) allerと近接未来		動詞allerの活用と用法を学ぶ。それによって受講生はallerを含む文を正しく理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、allerを含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	5課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
12	第5課 物事や人について尋ねる(2) 疑問代名詞		疑問代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は物や人を尋ねる文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第6課 場所を尋ねる(1) 所有形容詞		所有形容詞を学ぶ。それによって受講生は自分や他者の持ち物について表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有形容詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	6課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
14	第6課 場所を尋ねる(2) 疑問形容詞		疑問形容詞の意味と用法を学ぶ。それによって受講生は疑問形容詞を使って質問できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問形容詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	前期の授業内容を整理し、全体を復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
15	授業内試験およびフィードバック		授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。		
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。		60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。		30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、授業時に、解説し返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ぜんぶ話して！（改訂版）』	レナ・ジュンタ、清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方、フランス語の挨拶	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。アルファベ、綴り字の読み方を正確に発音できる。フランス語の挨拶ができる(達成目標①②③④に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	
	この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。名詞の性と数について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	
	この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。être、リエゾン・アンシェヌマンについて、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	
	この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	
	この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞、数（1～10）、都市、言語、学科」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer。	
	この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「不定冠詞。avoir, aimer」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、中間試験の準備をする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	中間試験、および第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。		1）中間試験 2）第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。
	この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「否定文中のde、数（11～20）、家族、趣味」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	中間試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
8	中間試験解説、および第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。		1）中間試験解説 2）第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。
	この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「部分冠詞、il y a」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。		第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。
	この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。		第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。
	この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment. 形状、性質、性格。		第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment. 形状、性質、性格。
	この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（20～60）、qui, comment. 形状、性質、性格」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。		第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir。	
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（60～100）、aller, venir」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、期末試験の準備をする。	90分
14	期末試験、および第六課：行く、来る。国名、行き先。	1) 期末試験 2) 第六課：行く、来る。国名、行き先。	
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「国名、行き先」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	期末試験解説、および第六課：行く、来る。様々な場所 前期の振り返り	1) 期末試験解説 2) 第六課：行く、来る。様々な場所 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期に学修した文法事項を理解し、説明することができる。また同様に、フランス語表現「行く、来る」、前期学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶。	
	この回の到達目標	アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	自己紹介 1	自己紹介 1 名前、国籍。名前の綴りを言う。êtreの動詞。数字（0～10）	
	この回の到達目標	簡単な自己紹介することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	自己紹介 2	自己紹介 2 年齢を言う・尋ねる、家族について話す。avoirの動詞。数字（10～20）	
	この回の到達目標	簡単な自己紹介、家族について話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	国と言語	住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねる。-er型規則動詞。定冠詞。	
	この回の到達目標	住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねることができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	恰好の描写	人の恰好を描写する	
	この回の到達目標	自分の恰好を描写することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	好きなことを言う	好きなことを言う。動詞の肯定・否定。数字（30～60）	
	この回の到達目標	好きなことについて話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	他人を紹介する	他人を紹介する ここまでの復習	
	この回の到達目標	他人を紹介することができる。(SB0s①②) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	前期中間試験 場所に行く	前期中間試験の実施 場所に行く。aller, venirの動詞。場所の前置詞。	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。 aller, venirの動詞と場所の前置詞を使って、場所に行く・来ることについて簡単な会話することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	前期中間試験解説 場所に行く	前期中間試験の返却と解説 場所に行く。aller, venirの動詞。場所の前置詞。	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 aller, venirの動詞と場所の前置詞を使って、場所に行く・来ることについて簡単な会話することができる。(SB0s①②)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	疑問の3種類・疑問詞	疑問の3種類・疑問詞	
	この回の到達目標	疑問文を使うことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	一日の分け方・曜日・月	一日の分け方・曜日・月・数字(60～100)	
	この回の到達目標	一日の分け方・曜日・月を言うことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	食べる・飲む1	食べ物と飲み物を言う・尋ねる。部分冠詞。manger, boireの動詞。	
	この回の到達目標	食べ物と飲み物を言う・尋ねることができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	食べる・飲む 2	食べ物と飲み物を言う・尋ねる。部分冠詞。manger, boireの動詞。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	食べ物と飲み物を言う・尋ねることができる。(SB0s①②③) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	前期期末試験 まとめ	前期期末試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説・前期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアーの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	5	5							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限 gilles.delmaire11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス語の基礎	Initiation	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、フランス語の基礎を理解する	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、簡単な挨拶する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、名前を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	数字	Leçon 1/2	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、10まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、名前を言う、30まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、職業、国籍を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	家族	Leçon 3	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、人を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	家族	Leçon 3	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、家族を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	大学	Leçon 3/4	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、自分の大学を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	大学	Leçon 4	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、キャンパスをの構成を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	大学	Leçon 4	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大学の付近を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	自己紹介	Leçon 5	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、話せる言語、専攻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己紹介	Leçon 5	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、趣味を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	前期のクラスの内容	まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	前期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加を求めます。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の深度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業中に解説する	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション A1 (ISBN 978-4-905343-33-2) [改訂版]	Vannieuwenhuijse	ALMA	2023	教科書	必携
備考	2023年の改訂版を購入してください。				

【オフィスアワー】	
授業内に対応する授業時間：水曜 1・2 限	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、一年間の授業内容を把握する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	レッスン1-1	フランス語の基礎	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
	事前学修	レッスン1の予習	30分
	事後学修	レッスン1の復習	30分
3	レッスン1-2	フランス語の基礎	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
	事前学修	レッスン1の予習	30分
	事後学修	レッスン1の復習	30分
4	レッスン2-1	Premières présentations 自己紹介をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	レッスン2の予習	30分
	事後学修	レッスン2の復習	30分
5	レッスン2-2	Premières présentations 自己紹介をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	レッスン2の予習	30分
	事後学修	レッスン2の復習	30分
6	レッスン3-1	Dire où on habite et d' où on vient 今住んでいるところや出身地について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
	事前学修	レッスン3の予習	30分
	事後学修	レッスン3の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	レッスン3-2	Dire où on habite et d' où on vient 今住んでいるところや出身地について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
	事前学修	レッスン3の予習	30分
	事後学修	レッスン3の復習	30分
8	レッスン4-1	Parler des transports 交通手段について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の復習	30分
9	レッスン4-2	Parler des transports 交通手段について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の復習	30分
10	レッスン5-1	Parler des petits boulots アルバイトについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン5の予習	30分
	事後学修	レッスン5の復習	30分
11	レッスン5-2	Parler des petits boulots アルバイトについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン5の予習	30分
	事後学修	レッスン5の復習	30分
12	レッスン6-1	Panorama 1 総復習 1	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン5までの内容を使って話すことができる。	
	事前学修	レッスン6の予習	30分
	事後学修	レッスン6の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レッスン6-2	Panorama 1 総復習 1	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン5までの内容を使って話すことができる。	
	事前学修	レッスン6の予習	30分
	事後学修	レッスン6の復習	30分
14	レッスン 7-1	Parler de ses animaux, etc. ペットなどについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン7の予習	30分
	事後学修	レッスン7の復習	30分
15	レッスン 7-2	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン7の予習	30分
	事後学修	レッスン7の復習	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限 連絡先： poupi.damien11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	テーマ別の基礎表現		授業のオリオンテーション。挨拶の表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
2	テーマ別の基礎表現		自分・他者を紹介する1（男女区別、動詞の活用）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
3	テーマ別の基礎表現		自分・他者を紹介する2（男女区別、動詞の活用）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
4	テーマ別の基礎表現		自分について語る1（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
5	テーマ別の基礎表現		他人について語る2（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
6	テーマ別の基礎表現		趣味について語る	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テーマ別の基礎表現	行き先を説明する、道を尋ねる（疑問文）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現	友達を訪ねる、友達を誘う（助動詞、複合動詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現	原因と結果の表現		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現	要約する（所有形容詞、動詞の過去形）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現	店で買い物する（部分冠詞、分量表現）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
14	テーマ別の基礎表現	スケジュールを立てる		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
15	テーマ別の基礎表現	(課題提出：プリントを参照) 動詞の活用のもとめ（現在形、過去形など）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】		
会話の練習だけでなく、短い文章を書いたり、音声を聞いたり、短い文章を読んだりすることで、フランス語でのコミュニケーションのルールや文化に焦点を当てます。4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）がカバーされ、Google Classroom上の課題で授業は完結する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教師の説明やフィードバックの際には、積極的にメモを取るようにしましょう。わからないことは質問する。クラスでのアクティビティはすべてグループで行い、お互いに手伝うことが大切です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標1、2、3、4が身につけているかを、授業内試験により評価する	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標1、2、3、4が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において1、2、3、4が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4・5限 claire.renoull1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス紹介、フランス語・フランスについてのクイズ	授業のオリエンテーション	
	この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。(SB0s①②③)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を手に入れて、教科書をめくって観察する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)で音声無料ダウンロードをして、音声を聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
2	自己紹介	Leçon 0 挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
	この回の到達目標	挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	テキストの8、9ページを読んでおく。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
3	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
	この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
4	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
	この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
5	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
	この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
6	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字(0-19)	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字(0-19)を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）を言うことができるようになる。（SB0s①②③）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
8	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）を言うことができるようになる。（SB0s①②③）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
9	筆記中間テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。（SB0s①②③）	
	事前学修	中間テストの準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	30分
10	口頭中間テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。（SB0s①②③）	
	事前学修	中間テストの準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
11	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）を言うことができるようになる。（SB0s①②③）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
12	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）を言うことができるようになる。（SB0s①②③）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）を言うことができるようになる。（SB0s①②③）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
14	筆記期末テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。（SB0s①②③）	
	事前学修	前期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	30分
15	口頭期末テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。（SB0s①②③）	
	事前学修	前期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語 改訂版	山下利枝 他	三修社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	後期ガイダンス、簡単なフランス語の音声に触れる。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、簡単なフランス語の文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	教科書の13課以降に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	強勢形代名詞	moi, toiなどの強勢形代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moi, toiなどの強勢形代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	13課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	中性代名詞 en	中性代名詞の種類、enの文法的用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のenを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	中性代名詞 y	中性代名詞 yの文法的用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のyを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	15課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	代名詞の位置	le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞の語順・位置。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞のを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	単純関係代名詞	単純関係代名詞qui, que, dont, oùの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、単純関係代名詞qui, que, dont, oùを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	17課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複合関係代名詞	複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	疑問形と否定形	簡単な構文の疑問形est-ce queなどと否定形ne pas, non plusなどの表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問形と否定形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	19課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	様々な疑問表現	où, quand, comment, combien, pourquoiなどの様々な疑問表現を用いた疑問文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、様々な疑問表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	様々な否定表現	ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	21課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	時間の表現	il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続を表す表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続の表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	比較表現	moins, plusなどの比較表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moins, plusなどの比較表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	23課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	到達度測定テスト、解説。	後期末テストと採点、解説。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、文法事項を理解しながらフランス語の短文を書くことができる。	
	事前学修	前回までのまとめ。	30分
	事後学修	テストで間違えた箇所の文法事項を理解する。	30分
15	フィードバックとまとめ。	これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書けるか、動詞の活用ができるか、テストの結果をもとに確認。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	テストで間違えた箇所の綴り、文法事項を理解し、簡単な応用ができるようにする。	30分
	事後学修	フランス語の音声を繰り返し聞き、学んだ知識を確認する。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者が発音し、課題に解答するアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アレグレス	江島泰子	トレフル出版	2014年	教科書	必携
備考	江島のフランス語基礎文法Bを同時に履修している学生は、同じ教科書なので購入不要。				

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問、留学相談等について、授業の前後あるいメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）による相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習① 中性代名詞 en	1. Bilan1-1の問題 1, 2, 3 2. 中性代名詞 en	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. Bilan1-1の問題 1, 2, 3に解答できる 2. 中性代名詞 enを用いて会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
2	前期の復習② 比較の表現	1. Bilan1-2 の問題 1, 2, 3 2. 身体の部位の語彙 3. 比較の表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. Bilan1-2 の問題 1, 2, 3に解答できる 2. 身体の部位の語彙を覚えて運用できる 3. 比較の表現を使った会話ができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
3	直接目的語に関する会話	1. 最上級 2. 直接目的語を使った会話	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 最上級を用いて表現ができる 2. 直接目的語を使った会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
4	間接目的語に関する会話 過去について語る①	1. 間接目的語を使った会話 2. 過去に関する表現①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 間接目的語を使った会話ができ、 2. 昨日の行動について会話ができる①	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
5	代名詞強勢形を使う 過去について語る②	1. 代名詞強勢形を用いた会話 2. 過去に関する表現② 3. 数詞 (30～100)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 代名詞強勢形を使って会話ができる 2. 昨日の行動について会話ができる② 3. 100までの数詞を覚えて、使うことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
6	代名動詞を使う①、天候表現	1. 代名動詞を用いた表現① (現在形) 2. 天候表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 代名動詞を用いた表現 (現在形) を使って会話ができる 2. 天候に関する会話ができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	代名動詞を使う② 多用な否定表現、		1. 代名動詞を用いた表現②（過去形） 2. 多様な否定表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 代名動詞を用いた表現②（過去形）を使って会話ができる 2. 多様な否定に関する会話ができる		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。		30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする。		30分
8	過去の状態を語る		後期中間試験 1. 過去の状態を語る	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に回答することができる。1. 過去の状態に関して表現し、会話できる。		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。		180分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。		30分
9	関係代名詞を使つての表現		前期中間テストの解説 1. 関係代名詞qui, queを使つての表現 2. 身に着けるもの	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 関係代名詞qui, queを用いた表現ができ、聞き取りできる。2. 「身に着けるもの」に関する会話ができる。		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。		30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。		30分
10	未来について語る①		1. 未来について語る① 2. connaitre の運用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 未来形を用いて、未来のことについて語り、会話ができる① 2. connaitreを使つて会話ができる		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。		30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。		30分
11	未来について語る②		1. 未来について語る② 2. if文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 未来について語り、会話ができる② 2. if文の表現ができ、会話ができる		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞き、宿題を行う。		30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする		30分
12	丁寧な表現		1. 丁寧な表現 2. prendre の運用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 条件法現在を用いて、丁寧な表現ができる 2. prendre を使って会話ができる		
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。		30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	現実に反する仮定に基づいて語る		1. 現実に反する仮定の表現（条件法を用いて） 2. savoirの運用
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 条件法を用いて、現実に反する仮定に基づく表現ができる 2. savoirを用いて会話ができる sa	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする。	30分
14	感情や考えを表現する		1. 自分の感情や考えを表現する 2. 時間的前後関係の表現
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1. 接続法を用いて、自分の感情や考えを表現できる 2. 時間的前後関係の表現を用いて、自分の状況を表現できる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、宿題を行う。	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。期末試験の準備をする。	30分
15	後期の総括		後期期末試験とまとめ
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期末試験に解答することができる	
	事前学修	後期末試験の準備をする。	180分
	事後学修	ポータルで公表された正解を確認し、後期の復習を行う。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Aより引き続き履修するとよい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがって音声ファイルやDVD等を利用して授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パリ - ボルドー	藤田裕二	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後やメール（fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp）から受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第6課までの復習 第7課 ～したいと言う(1) 人称代名詞の強勢形		1～6課の復習および第7課の強勢形を学ぶ。それによって受講生は人称代名詞の強勢形を使った表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、強勢形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	7課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
2	第7課 ～したいと言う(2) 指示代名詞		指示代名詞を学ぶ。それによって受講生は指示代名詞を使って表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指示代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
3	第8課 興味を述べる(1) 前置詞と定冠詞の縮約		定冠詞の縮約を学ぶ。それによって受講生は前置詞と定冠詞の縮約を使った文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞の縮約を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	8課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
4	第8課 興味を述べる(2) 補語人称代名詞		補語人称代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は補語人称代名詞を正しく理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、補語人称代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
5	第9課 誘う(1) 代名動詞		代名動詞を学ぶ。それによって受講生は代名動詞を使った日常生活を説明する表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代名動詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	9課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
6	第9課 誘う(2) 中性代名詞 y		中性代名詞 y の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 y を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第10課 天候と時刻を言う(1) 非人称構文		天候や時刻を表す非人称構文を学ぶ。それによって受講生は天気や時間を表す文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天候・時刻表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	10課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
8	第10課 天候と時刻を言う(2) 命令形と感嘆文		命令形と感嘆文の形と用法を学ぶ。それによって受講生は命令したり、感動を表す表現を習得することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、命令形や感嘆文を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
9	第11課 数量を表す(1) 部分冠詞と中性代名詞 en		部分冠詞と中性代名詞 en の用法を学ぶ。それによって受講生は部分冠詞を使った質問に中性代名詞enを用いて答えられるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、部分冠詞やenを含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	11課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
10	第11課 数量を表す(2) 数量副詞		さまざまな数量表現を学ぶ。それによって受講生は数や量を表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、数量表現を含む文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
11	第12課 比較する(1) 比較級		比較級を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比較することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比較級を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	12課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
12	第12課 比較する(2) 単純未来		単純未来形を学ぶ。それによって受講生は将来について表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単純未来形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第13課 過去のことを話す(1) 複合過去	複合過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	13課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
14	第13課 過去のことを話す(2) 半過去	半過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は過去の状況について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	これまでの授業内容を整理し、全体を復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、授業時に、返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ぜんぶ話して！（改訂版）』	レナ・ジュンタ、清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910 研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	授業の説明、第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	
	この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	
	この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「faireの慣用表現、家事」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	
	この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「近接未来、近接過去」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	
	この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	
	この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「代名動詞、指示形容詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、中間試験の準備をする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	中間試験、および第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。		1) 中間試験 2) 第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。
	この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「非人称 (il fait)、se lever、時の表現」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	中間試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期中間試験の準備をする。	30分
8	第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約 (de)。		第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約 (de)。
	この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約 (de)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。		第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。
	この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)。		第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)。
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (1)、否定表現 (1)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。中性代名詞 (en)、趣味、通信。		第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。中性代名詞 (en)、趣味、通信。
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (1)、否定表現 (1)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞 (en)、趣味、通信」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第十二課：過去のことを語る (2)、否定表現 (2)。複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)		第十二課：過去のことを語る (2)、否定表現 (2)。複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (2)、否定表現 (2)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（２）、否定表現（２）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（y）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、期末試験の準備をする。	90分
14	期末試験、および第七課から第九課の振り返り。	1) 期末試験 2) 第七課から第九課の振り返り。	
	この回の到達目標	第七課から第九課に学修した事項を理解し、説明することができる。またこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	期末試験解説、および第十課から第十二課の振り返り。	1) 期末試験解説 2) 第十課から第十二課の振り返り。	
	この回の到達目標	第十課から第十二課に学修した事項を理解し、説明することができる。また同様にこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	後期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス、授業の説明、前期の復習。	
	この回の到達目標	前期で学習した内容が応用できる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	人を描写する	恰好・服、疑問文、人称代名詞強勢形	
	この回の到達目標	人を描写することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	物を描写する	形容詞の性・数・位置。指示代名詞。	
	この回の到達目標	物を描写することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	物の場所	場所の前置詞	
	この回の到達目標	物の場所を説明することができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	時刻 1	数字・時刻、日常生活について話す	
	この回の到達目標	時刻を言うことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	時刻 2	時刻を言う。日常生活について話す。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	時刻を言うこと、日常生活について話すことができる。(SB0s①②③④) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	後期中間試験 日常生活	後期中間試験の実施 日常生活の語彙	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。 日常生活について話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	後期中間試験解説 日常生活のスケジュール	前期中間試験の返却と解説 日常生活のスケジュール、代名動詞。	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 日常生活のスケジュールを書くことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	交通手段 1	交通手段と時刻	
	この回の到達目標	交通手段について話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	交通手段 2	交通手段と時間	
	この回の到達目標	交通手段についての話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	天候	天候について話す。	
	この回の到達目標	天候について話すことができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	道順を聞く 1	場所、道順を尋ねる。前置詞（場所）	
	この回の到達目標	場所、道順を尋ねることができる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	道順を聞く2 ここまでの復習	場所、道順を説明する。命令・義務の表現。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	場所、道順を説明することができる。(SB0s①②③④) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	後期期末試験 まとめ	後期期末試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③④)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアーの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	5	5							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限 gilles.delmaire11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期に習ったこと	前学期の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、一日のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、平日、週末のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	観光、休み	Leçon 6/7	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、休みの予定を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、時刻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、日日や季節を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	天気	Leçon 8	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、天気を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
8	家	Leçon 8	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、自分が住んでいる家を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
9	食べ物	Leçon 8/9	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、食べ物の容量を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
10	食べ物	Leçon 9	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、レシピを言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
11	レストランやカフェ	Leçon 9	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、禁じる、許可をあげる	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
12	服	Leçon 10	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、服を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	服	Leçon 10	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、お店で服を買う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	後期のクラスの内容	まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	後期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加を求めます。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の深度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション A1 (ISBN 978-4-905343-33-2) [改訂版]	Vannieuwenhuijse	ALMA	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習		前期の復習
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期の復習をする。	
	事前学修	前期の授業で習ったことを見直しておく。	30分
	事後学修	前期の復習を見直しておく。	30分
2	レッスン8-1		Parler de sa famille 家族について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
	事前学修	レッスン8の予習	30分
	事後学修	レッスン8の復習	30分
3	レッスン8-2		Parler de sa famille 家族について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
	事前学修	レッスン8の予習	30分
	事後学修	レッスン8の復習	30分
4	レッスン9-1		Parler des tâches ménagères 家事について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
	事前学修	レッスン9の予習	30分
	事後学修	レッスン9の復習	30分
5	レッスン9-2		Parler des tâches ménagères 家事について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
	事前学修	レッスン9の予習	30分
	事後学修	レッスン9の復習	30分
6	レッスン10-1		Parler de ce qu' on mange 食べ物について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
	事前学修	レッスン10の予習	30分
	事後学修	レッスン10の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	レッスン10-2		Parler de ce qu' on mange 食べ物について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
	事前学修	レッスン10の予習	30分
	事後学修	レッスン10の復習	30分
8	レッスン11-1		Sortir à Paris パリで遊ぶ
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、外出について話すことができる。	
	事前学修	レッスン11の予習	30分
	事後学修	レッスン11の復習	30分
9	レッスン11-2		Sortir à Paris パリで遊ぶ
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、外出について話すことができる。	
	事前学修	レッスン11の予習	30分
	事後学修	レッスン11の復習	30分
10	レッスン12-1		Panorama 2 総復習 2
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン11までの内容を使って話すことができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の復習	30分
11	レッスン12-2		Panorama 2 総復習 2
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン11までの内容を使って話すことができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の復習	30分
12	レッスン 13-1		Parler des matières et des profs 科目・先生について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン13の予習	30分
	事後学修	レッスン13の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	レッスン13-2		Parler des matières et des profs 科目・先生について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン13の予習	30分
	事後学修	レッスン13の復習	30分
14	レッスン 14-1		Parler des loisirs クラブ活動について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン14の予習	30分
	事後学修	レッスン14の復習	30分
15	レッスン 14-2		Parler des loisirs クラブ活動について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン14の予習	30分
	事後学修	レッスン14の復習	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限 連絡先： poupi.damien11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	テーマ別の基礎表現		後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
2	テーマ別の基礎表現		尋ねた場所について語る（過去形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
3	テーマ別の基礎表現		出来たことについて語る（過去形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
4	テーマ別の基礎表現		レストラン等で注文をする（欲する表現、代名動詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
5	テーマ別の基礎表現		交通機関の使い方（直接目的補語、時間の言い方）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
6	テーマ別の基礎表現		レジャーとスポーツ1（趣味）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テーマ別の基礎表現	レジャーとスポーツ2（趣味）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現	久々の再会1（半過去形、単純未来形）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現	久々の再会2（半過去形、単純未来形）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現	将来について語る（未来系、条件法など）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現	時刻の表現（数字）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現	フランスと日本の生活を比較する1（比較、最上級）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	フランスと日本の生活を比較する2（比較、最上級）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	(課題提出：プリントを参照) 動詞の活用まとめ（現在形、過去形など）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	テストの準備と実行（会話作成）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、話していることを理解したり、自律的に文章を作って話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】		
会話の練習だけでなく、短い文章を書いたり、音声を聞いたり、短い文章を読んだりすることで、フランス語でのコミュニケーションのルールや文化に焦点を当てます。4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）がカバーされ、Google Classroom上の課題で授業は完結する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教師の説明やフィードバックの際には、積極的にメモを取るようにしましょう。わからないことは質問する。クラスでのアクティビティはすべてグループで行い、お互いに手伝うことが大切です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限 claire.renoull1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Leçons 0-3の復習	前期のレッスンの練習問題 授業のオリエンテーション	
	この回の到達目標	前期の内容で会話ができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を手に入れて、めくって観察する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)で音声無料ダウンロードをして、音声を聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
2	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。宿題を行う。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
3	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
4	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
5	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
6	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
8	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
9	筆記中間テスト、振り返り	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	中間テストの準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	口頭中間テスト、振り返り	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	中間テストの準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
11	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
12	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言うことができるようになる。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
14	筆記期末テスト、振り返り	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
15	口頭期末テスト、振り返り	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、後期の復習を行う。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話・反復してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験答案返却時に解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー1	高橋信良 他	朝日出版社	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 フランス語の特徴を理解し、音とつづりを一致させることができる。	
	事前学修	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。	30分
	事後学修	指定教材フランス語ブルー1に目を通しておいてください。	30分
2	Leçon0: フランス語の綴り・発音	フランス語の音声・綴りに馴染む。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	0課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
3	Leçon1: 主語人称代名詞	Leçon1: 主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマン。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマンを理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	1課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
4	Leçon2: 動詞avoir	動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオン。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオンを理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
5	Leçon3: 形容詞	C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
6	Leçon4: 第一群規則動詞	第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 5: 動詞aller, venir	動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
	事前学修	0, 1, 2, 3, 4, 5課の復習。	30分
	事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	Leçon 6: 動詞faire	動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	Leçon 7: 第二群規則動詞	第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	Leçon 8: 直接法複合過去	直接法複合過去、補語人称代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直接法複合過去、補語人称代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	Leçon9: 語幹の特殊変化 préférer	語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Leçon 10: 動詞pouvoir, vouloir	動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	到達度測定テスト、解説。	期末テスト、採点、解説。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
	事前学修	後半6, 7, 8, 9, 10課の復習。	30分
	事後学修	採点で間違えた箇所のチェック	30分
15	フィードバックとまとめ。	期末テストの不明点の質疑応答、まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
	事前学修	採点で間違えた箇所の理解できていない部分を明確にする。	30分
	事後学修	採点で間違えた問題点を理解し克服する。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	トレフル出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）により受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入授業	授業の説明およびフランス語の綴り字記号と綴り字の読み方（１）	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. 綴り字記号について理解できる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の綴り字記号と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。	30分
2	発音、文法	1. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課） 3. アルファベの読み方(達成目標①②③に関連する)	
	この回の到達目標	1. フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる。2. アルファベを発音できる。（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	綴り字記号と学んだ部分の綴り字の発音を復習する。	30分
	事後学修	アルファベ、綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする	30分
3	発音、文法	1. 発音と綴り字の読み方(3) 2. 形容詞(第1課) 3. 主語となる代名詞	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 2. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる 3. 主語となる代名詞について理解し、発音し綴ることができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語の形容詞と主語代名詞について、その特徴を整理しておく。	30分
	事後学修	綴り字の読み方と形容詞の変化、主語代名詞を整理して、小テストの準備をする。	30分
4	発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 動詞 être/提示の表現	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 2. être 動詞を正確に活用できる 3. 提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語のbe動詞とその他の動詞(loveなど)の現在形活用の相違について確認する。	30分
	事後学修	être動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える。	30分
5	文法、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 文化面の内容を理解し、説明できる 3. 定冠詞を理解し、運用できる 4. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語の定冠詞の特徴を確認する。英語のhave動詞の現在形について確認する。	30分
	事後学修	定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。	30分
6	文法、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 第2課の文化面	
	この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語における形容詞の位置を確認する。文化面の質問について調べる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、文化		1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 第3課の文化面	
	この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる 2. 疑問文（第3課）を作ることができる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語の疑問文について確認しておく。第3課の文化面の質問を調べてくる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
8	文法、文化		1. 疑問形容詞（第3課） 2. 所有形容詞（第4課）	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 所有形容詞（第4課）を理解し、運用できる。（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語whatの運用について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。		30分
9	文法、文化		前期中間試験（第1回～8回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 否定文の作り方	
	この回の到達目標	1. 動詞faire（第4課）を理解し、運用できる。2. 否定文を作ることができる。		
	事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする。英語のdo, makeの運用/there is, there areの用法について確認する。		180分
	事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。		30分
10	文法、文化		1. 中間試験テストの解説 2. 指示形容詞（第5課） 3. Il y a（第5課） 4. 第4課の文化面	
	この回の到達目標	1. 中間試験の解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 指示形容詞/Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語のdo, makeの用法について確認する。文化面の質問について調べる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
11	文法、文化		1. 中性代名詞 y（第5課） 2. 動詞 aller 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約（第5課）	
	この回の到達目標	1. 中性代名詞yを理解し、運用できる 2. 動詞allerを理解し、運用できる 運用できる 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約を理解し、運用できる		
	事前学修	英語のgoの用法について確認する。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
12	文法、文化		1. 近接未来（第5課） 2. 疑問代名詞quiとque 3. 第5課の文化面	
	この回の到達目標	1. 動詞allerを理解し、運用できる 2. 近接未来の用法を理解し、運用できる 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約を理解し、運用できる 4. 第5課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語の「どこ？」「いつ？」などの疑問文について確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、文化	1. 動詞venir（第6課） 2. 近接過去 3. 前置詞 de と定冠詞の縮約 4. 第6課の文化面	
	この回の到達目標	1. 動詞venirを理解し、運用できる 2. 近接過去を理解し、運用できる 3. 前置詞 a と定冠詞の縮約を理解し、運用できる 4. 第6課の文化面を理解し、説明できる。（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語のcomeの用法について確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。	30分
14	文法、文化	1. 部分冠詞 2. pouvoirとvouloir	
	この回の到達目標	1. 部分冠詞を理解し、運用できる 2. pouvoirとvouloirの用法について理解し、運用できる 3. 前期文法項目を再確認する中で理解を深め、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする。	30分
15	文法、訳、文化	前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
	この回の到達目標	前期後半に学んだ文法について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前期末試験の準備をする。	180分
	事後学修	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ル・フランセ・クレール』（三訂版）	清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞	
	この回の到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	
	この回の到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞	
	この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	
	この回の到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	
	この回の到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、中間試験の準備をする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間試験、および第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	1) 中間試験 2) 代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
	この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	中間試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
8	中間試験解説、および第四課：所有形容詞	1) 中間試験解説 2) 第四課：所有形容詞	
	この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
	この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
	この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
	この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
	この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
	この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、期末試験の準備をする。	90分
14	期末試験、および第七課：形容詞(2)	1) 期末試験 2) 第七課：形容詞(2)	
	この回の到達目標	形容詞(2)について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	期末試験解説、および第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	1) 期末試験解説 2) 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	
	この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Bと続けて履修するとよい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、音声ファイル等で発音を確認しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マ・グラメール（三訂版・CD付）	小野ゆり子・村松マリ＝エマニュエル	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後やメール（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）から受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 第1課 アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な発音ができるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を整理し、アルファベの読みを暗記する。課題に取り組む。	30分
2	第1課 つづり字の読み方	フランス語の発音規則を学ぶ。それによって受講生は基礎的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的な母音と子音の発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書7～9ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで単語の発音を確認する。	30分
	事後学修	音声ファイルを活用し、発音練習をする。課題に取り組む。	30分
3	第1課 フランス語の読み方の規則	フランス語の発音の規則や特徴的な語群の読み方を学ぶ。それによって受講生は基本的な語群の読みができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、フランス語に特有のつづり字と発音の関係を理解し、発音できるようになる。	
	事前学修	教科書9～10ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	音声ファイルを活用し、教科書の単語の読みを練習する。課題に取り組む。	30分
4	第2課 名詞と冠詞	男性名詞と女性名詞、名詞につく冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は名詞および冠詞の特徴を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、名詞と冠詞についての文法規則を理解し、説明できるようになる。単語の発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書12ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
5	第2課の復習 第3課 être動詞	2課の内容を復習し、名詞と冠詞の用法を確認する。また、être動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生はêtre動詞を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、être動詞を使った文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書14ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	être動詞の活用を暗記し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
6	第3課 動詞 avoir 第4課 第1群規則動詞	動詞avoir・第1群規則動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は自分の持ち物や周囲のものについてフランス語で表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、avoirや第1群規則動詞を含む文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書14～16ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	動詞の活用を暗記し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課 第2群規則動詞・形容詞	第2群規則動詞および形容詞の用法について学ぶ。それによって受講生はこれらの文法事項を用いた表現を理解することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2群規則動詞や形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書16ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
8	Civilisation フランスについて 第5課 基本文型・否定形	フランスについての知識を整理し、フランス語の基本文型と否定文の作り方を学ぶ。それによって受講生はフランスの地理や文化の一端に触れ、否定文を作れるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、さまざまな文型の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書18～20ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	基本文型と否定文の作り方を暗記し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
9	第6課 疑問文・応答文、所有形容詞	疑問文と応答文の作り方と所有形容詞を学ぶ。それによって受講生は他者に質問をしたり、誰のものか言えるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問文・所有形容詞の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書22ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、所有形容詞を暗記する。音声ファイルで発音を練習する。課題に取り組む。	30分
10	第6課 所有形容詞の復習 第7課 指示形容詞	所有形容詞の復習および指示形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生はこれらの形容詞を用いた表現が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有形容詞や指示形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書22～24ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、所有形容詞・指示形容詞の形と用法を発音とともに暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
11	第7課 特殊な女性形・複数形を持つ形容詞・名詞	特殊な女性形・複数形を持つ形容詞や名詞を学ぶ。それによって受講生はこれらの特殊な形容詞や名詞を用いた表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特殊な女性形・複数形を持つ形容詞や名詞が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書24ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、特殊な女性形を持つ形容詞や名詞の形を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
12	第8課 aller, venirの活用 近接未来と近接過去 冠詞の縮約	aller, venirの活用と用法および冠詞の縮約を学ぶ。それによって受講生は近い未来や過去の表現を理解したり、行き来を表す文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、aller, venir が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書26ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、動詞の活用と冠詞の縮約の規則を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Civilisation フランコフォニー 第9課 疑問代名詞		フランス語圏に関する知識と疑問代名詞を学ぶ。それによって受講生はフランス語が世界中で用いられることを知ったり、疑問代名詞を用いた質問が理解できるようになる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書28～30ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、フランコフォニーについての知識をまとめ、疑問代名詞の意味と用法を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
14	第9課 疑問副詞 第1～9課のまとめ		疑問副詞を学ぶ。それによって受講生は疑問詞を用いた表現を正しく理解し、説明できるようになる。第9課までの文法知識を整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書30ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、疑問点を確認する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
15	授業内試験およびフィードバック		授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アレグレス	江島泰子	トレフル出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）により受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入授業	授業の説明およびフランス語の綴り字記号と綴り字の読み方（１）	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. 綴り字記号について理解できる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の綴り字記号と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。	30分
2	発音、文法	1. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課） 3. アルファベの読み方(達成目標①②③に関連する)	
	この回の到達目標	1. フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる。2. アルファベを発音できる。（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	綴り字記号と学んだ部分の綴り字の発音を復習する。	30分
	事後学修	アルファベ、綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする	30分
3	発音、文法	1. 発音と綴り字の読み方(3) 2. 形容詞(第1課) 3. 主語となる代名詞	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 2. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる 3. 主語となる代名詞について理解し、発音し綴ることができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語の形容詞と主語代名詞について、その特徴を整理しておく。	30分
	事後学修	綴り字の読み方と形容詞の変化、主語代名詞を整理して、小テストの準備をする。	30分
4	発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 動詞 être/提示の表現	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 2. être 動詞を正確に活用できる 3. 提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語のbe動詞とその他の動詞(loveなど)の現在形活用の相違について確認する。	30分
	事後学修	être動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える。	30分
5	文法、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 文化面の内容を理解し、説明できる 3. 定冠詞を理解し、運用できる 4. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語の定冠詞の特徴を確認する。英語のhave動詞の現在形について確認する。	30分
	事後学修	定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。	30分
6	文法、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 第2課の文化面	
	この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語における形容詞の位置を確認する。文化面の質問について調べる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、文化		1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 第3課の文化面	
	この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる 2. 疑問文（第3課）を作ることができる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語の疑問文について確認しておく。第3課の文化面の質問を調べてくる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
8	文法、文化		1. 疑問形容詞（第3課） 2. 所有形容詞（第4課）	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 所有形容詞（第4課）を理解し、運用できる。（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語whatの運用について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。		30分
9	文法、文化		前期中間試験（第1回～8回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 否定文の作り方	
	この回の到達目標	1. 動詞faire（第4課）を理解し、運用できる。2. 否定文を作ることができる。		
	事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする。英語のdo, makeの運用/there is, there areの用法について確認する。		180分
	事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。		30分
10	文法、文化		1. 中間試験テストの解説 2. 指示形容詞（第5課） 3. Il y a（第5課） 4. 第4課の文化面	
	この回の到達目標	1. 中間試験の解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 指示形容詞/Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語のdo, makeの用法について確認する。文化面の質問について調べる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
11	文法、文化		1. 中性代名詞 y（第5課） 2. 動詞 aller 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約（第5課）	
	この回の到達目標	1. 中性代名詞yを理解し、運用できる 2. 動詞allerを理解し、運用できる 運用できる 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約を理解し、運用できる		
	事前学修	英語のgoの用法について確認する。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
12	文法、文化		1. 近接未来（第5課） 2. 疑問代名詞quiとque 3. 第5課の文化面	
	この回の到達目標	1. 動詞allerを理解し、運用できる 2. 近接未来の用法を理解し、運用できる 3. 前置詞 à と定冠詞の縮約を理解し、運用できる 4. 第5課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語の「どこ？」「いつ？」などの疑問文について確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、文化	1. 動詞venir（第6課） 2. 近接過去 3. 前置詞 de と定冠詞の縮約 4. 第6課の文化面	
	この回の到達目標	1. 動詞venirを理解し、運用できる 2. 近接過去を理解し、運用できる 3. 前置詞 a と定冠詞の縮約を理解し、運用できる 4. 第6課の文化面を理解し、説明できる。（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	英語のcomeの用法について確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。	30分
14	文法、文化	1. 部分冠詞 2. pouvoirとvouloir	
	この回の到達目標	1. 部分冠詞を理解し、運用できる 2. pouvoirとvouloirの用法について理解し、運用できる 3. 前期文法項目を再確認する中で理解を深め、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする。	30分
15	文法、訳、文化	前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
	この回の到達目標	前期後半に学んだ文法について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前期末試験の準備をする。	180分
	事後学修	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、発音・作文・読解・翻訳を練習します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、文法の練習問題を通じてグループワークで発音と会話を練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶、自己紹介。	
	この回の到達目標	アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶、自己紹介することができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	動詞être	主語人称代名詞と動詞être、性・数一致	
	この回の到達目標	主語人称代名詞と動詞être、性・数一致を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	動詞avoir	動詞avoir、不定冠詞。	
	この回の到達目標	動詞avoir、不定冠詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	-er型規則動詞	第一群規則動詞(-er)、定冠詞。	
	この回の到達目標	第一群規則動詞(-er)、定冠詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	C'est・形容詞	C'est/Ce sont・形容詞。	
	この回の到達目標	C'est/Ce sont、形容詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	動詞の肯定・否定	否定文の作り方	
	この回の到達目標	否定文を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Il y a	Il y a の使い方 ここまでの復習	
	この回の到達目標	Il y a の表現を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③) ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	前期中間試験	前期中間試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	前期中間試験解説 動詞aller, venir	前期中間試験の返却と解説 aller, venirの動詞。場所の前置詞。近接過去・近接未来	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 aller, venirの動詞。場所の前置詞。近接過去・近接未来を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	疑問文	疑問の3種類	
	この回の到達目標	疑問の3種類を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	疑問詞	疑問詞の使い方	
	この回の到達目標	疑問詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	動詞manger, boire	manger, boireの動詞・部分冠詞	
	この回の到達目標	manger, boireの動詞・部分冠詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	動詞faire		faireの動詞 ここまでの復習
	この回の到達目標	faireの動詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③) ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	前期期末試験		前期期末試験の実施
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り		前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による演習形式。文法事項についての説明を聞いてから、発音と簡単な会話練習をして、練習問題に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語で実際に会話を行いながら文法項目を身に付けていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に答えます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ア・ピエ！　ーフランス語初級文法ー	西部由里子	朝日出版社	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室で、またはメール（shimoda.takayuki@nihon-u.ac.jp）で質問・相談に答えます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション／フランス語第一歩	授業の説明、簡単なあいさつとアルファベ、1～10の数を学び、フランス語の音に慣れ、フランス語の特徴をつかむ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	フランス語を学ぶ理由と目標について考える。	30分
	事後学修	学習事項を教科書附属の復習ノートに記入する。あいさつとアルファベ、1～10の数を覚える。	30分
2	Leçon 1：名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞	名詞の性・数、不定冠詞と定冠詞について学ぶ。綴り字の読み方と発音に慣れる。リエゾン・アンシェヌマン・エリジオンを学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	あいさつとアルファベ、1～10の数を復習する。教科書 Leçon 1 に目を通す。	30分
	事後学修	教科書 Leçon 1 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
3	Leçon 2：主語人称代名詞、être の直説法現在、提示表現(1)	主語人称代名詞と動詞 être の活用を学ぶ。提示表現を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 1 の内容を完全に身につける。leçon 2 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 2 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
4	Leçon 3：部分冠詞、avoir の直説法現在、提示表現(2)	部分冠詞と動詞 avoir の直説法現在と新たな提示表現を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 2 の内容を完全に身につける。leçon 3 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 3 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
5	Leçon 4：-er動詞の直説法現在、否定文(1)	-er動詞の活用を学ぶ。否定文の作り方を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 3 の内容を完全に身につける。leçon 4 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 4 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
6	Révision 1：ここまでの学習事項のまとめ	ここまで学習した文法事項を復習する。名詞の女性形と複数形の例外、3つの文型について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçons 1 - 4 の内容を完全に身につける。	30分
	事後学修	Révision 1 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 5：変則的な-er動詞の直説法現在、疑問文、否定文(2)	変則的な-er動詞の活用と疑問文の作り方（3種類）を学ぶ。否定の de について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Révision 1 の内容を完全に身につける。Leçon 5 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 5 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
8	Leçon 6：形容詞（女性形・複数形・位置）	形容詞の特徴（女性形・複数形・位置）について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 5 の内容を完全に身につける。Leçon 6 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 6 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
9	Leçon 7：語尾が-irの動詞の直説法現在、指示形容詞、所有形容詞	語尾が-irの動詞の直説法現在（finir型とpartir型）、指示形容詞（ce / cet / cette / ces）、所有形容詞（mon / ma / mes …）について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 6 の内容を完全に身につける。Leçon 7 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 7 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
10	Leçon 8：aller、venir、近い将来・近い過去、前置詞と定冠詞の縮約	動詞 aller（行く）と venir（来る）の活用を学ぶ。近い未来や近い過去についていう言い方を学ぶ。前置詞 a, de と定冠詞の縮約を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 7 の内容を完全に身につける。Leçon 8 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 8 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
11	Révision 2：ここまでの学習事項のまとめ	教科書 leçon 5 ～ leçon 8 の内容のまとめ。倒置疑問文の補足、色彩・国籍の形容詞、国名の前に置かれる前置詞。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçons 5 - 8 の内容を完全に身につける。	30分
	事後学修	Révision 2 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
12	Leçon 9：faire、prendre の直説法現在、疑問形容詞、疑問副詞	動詞 faire（する）、prendre（とる）の活用を学ぶ。疑問形容詞・疑問副詞を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Révision 2 の内容を完全に身につける。Leçon 9 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 9 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Leçon 10 :attendre の直説法現在、疑問代名詞	動詞 attendre（待つ）の活用を学ぶ。疑問代名詞の使い方を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話を する。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 9 の内容を完全に身につける。Leçon 10 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 10 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
14	今期のまとめ	試験の準備をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 10 の内容の復習。	90分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
15	試験と振り返り	試験を行い、解説する。今期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 10 の内容の復習。	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法事項を説明してから、対応した練習問題を解いて解説を加えます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	5	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	5	5								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却し、次の授業時に解答を確認します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ル・フランセ・クレール [三訂版] 』	清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は、授業後に教室で受け付けます。メールでの問い合わせ先：negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス語の発音について	オリエンテーション フランス語のアルファベについて	
	この回の到達目標	フランス語と英語の違いを知り、発音に慣れる①②③	
	事前学修	教科書p6に目を通しておいてください。	30分
	事後学修	アルファベの発音を練習して、覚えましょう。	30分
2	フランス語の文字と発音について	フランス語で使う文字 綴り字の読み方	
	この回の到達目標	綴り字の読み方を知る①②③	
	事前学修	教科書p. 6～p. 9に目を通しておいてください。	30分
	事後学修	綴り字の読み方をノートにまとめてみましょう。	30分
3	名詞の性と数/冠詞について	名詞の性と数 冠詞	
	この回の到達目標	不定冠詞 定冠詞 部分冠詞の特徴を知る①②③	
	事前学修	1 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	授業中に出て来た男性名詞と女性名詞を、それぞれノートにまとめてみましょう。	30分
4	主語になる代名詞/動詞être（～である）とavoir（もつ）について	主語人称代名詞 基本的な動詞êtreとavoir	
	この回の到達目標	主語人称代名詞の特徴と基本的な動詞の活用を知る①②③	
	事前学修	2 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	基本的な動詞êtreとavoirの活用を書けるようにしておきましょう。	30分
5	提示の表現/否定形/形容詞について	提示の表現 否定形 形容詞の女性形と複数形	
	この回の到達目標	否定文を作れるようになる①②③	
	事前学修	2 課と 3 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	否定文を作る練習をしましょう。	30分
6	-er動詞の現在形について	動詞の基礎的な活用	
	この回の到達目標	動詞の基礎的な活用を知る①②③	
	事前学修	4 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	基礎的な動詞の活用を書けるようにしておきましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	疑問形/疑問文に対する答えについて	疑問形 疑問文に対する答え	
	この回の到達目標	疑問文の作り方を知る①②③	
	事前学修	4 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	疑問文を作って、返事を書く練習をしてみましょう。	30分
8	指示形容詞/疑問形容詞/所有形容詞について	指示形容詞 疑問形容詞 所有形容詞	
	この回の到達目標	指示形容詞・疑問形容詞・所有形容詞を使えるようになる①②③	
	事前学修	5 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	今までに出て来た名詞に、三種類の形容詞を付ける練習をしてみましょう。	30分
9	aller（行く）とvenir（来る）の現在形/近い未来と近い過去/前置詞と定冠詞の縮約について	疑問形容詞 近い未来と近い過去 前置詞と定冠詞の縮約 不規則動詞の直説法現在：aller, venir	
	この回の到達目標	近い未来と近い過去の作り方を知る①②③	
	事前学修	6 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	aller, venirの活用を書けるようにしておきましょう。	30分
10	finir（終わる）とpartir（出発する）の現在形/疑問代名詞/疑問副詞について	疑問代名詞 疑問副詞 不規則動詞の直説法現在：finir, partir	
	この回の到達目標	疑問代名詞と疑問副詞を使えるようになる①②③	
	事前学修	7 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	finir, partirの活用を書けるようにしておきましょう。	30分
11	voir（見る）、dire（言う）、entendre（聞く）の現在形/形容詞・副詞の比較級について	比較級 不規則動詞の直説法現在：voir, dire, entendre	
	この回の到達目標	比較級を作れるようになる①②③	
	事前学修	8 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	voir, dire, entendreの活用を書けるようにしておきましょう。	30分
12	形容詞・副詞の最上級/特殊な比較級と最上級について	形容詞と副詞の最上級 特殊な優等比較級・最上級。	
	この回の到達目標	最上級を作れるようになる①②③	
	事前学修	8 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	自分でも最上級の文を作ってみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	faire（する、作る）とprendre（取る）の現在形/命令形/非人称構文について		命令形 非人称構文 不規則動詞の直説法現在：faire, prendre
	この回の到達目標	命令形の作り方と非人称構文を覚える①②③	
	事前学修	9課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	faire, prendreの活用を書けるようにしておきましょう。	30分
14	目的語になる人称代名詞と強勢形について		目的語になる人称代名詞 強勢形
	この回の到達目標	目的語になる人称代名詞を使えるようになる①②③	
	事前学修	10課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	目的語になる人称代名詞を使う練習をしてみましょう。	30分
15	まとめとテスト		前期のまとめ・期末テスト
	この回の到達目標	前期に学んだことを身に付け、簡単な読み書きができるようになる①②③	
	事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	岡本 健	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	齋藤 昌三	白水社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
	この回の到達目標	到達目標①に関しての準備を行う。	
	事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分
	事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	名詞に関する基礎項目	名詞の性と数の説明	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	不定冠詞と部分冠詞に関する基礎項目	2つの冠詞の練習と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	定冠詞に関する基礎項目	冠詞の使い方の違いを学ぶ	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する	
	事前学修	2 課の予習。	30分
	事後学修	2 課の単語を覚える。	30分
5	主語人称代名詞に関する基礎項目	主語人称代名詞の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	3 課前半の予習。	30分
	事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分
6	規則動詞に関する基礎項目	規則動詞の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	3課後半の予習。	30分
	事後学修	3課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	avoirに関する基礎項目	avoir(have)の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	4 課前半の予習。	30分
	事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
8	êtreに関する基礎項目	être(be)の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	4 課後半の予習。	30分
	事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
9	形容詞に関する基礎項目	形容詞の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	5 課の予習。	30分
	事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
10	aller/venirに関する基礎項目	aller(go)とvenir(come)の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	6 課の予習。	30分
	事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
11	faire/prendreに関する基礎項目	faire(do)/prendre(take)の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	7 課前半の予習。	30分
	事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
12	命令形に関する基礎項目	命令形の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	7 課後半の予習。	30分
	事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	vouloir/pouvoirに関する基礎項目	vouloir (want)/pouvoir (can) の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関し到達目標で①②③を達成する。	
	事前学修	8 課前半の予習。	30分
	事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
14	形容詞と副詞の比較級・最上級に関する基礎項目	比較級と最上級の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	8 課後半の予習。	30分
	事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
15	前期のまとめ、振り返り	課題の解説	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、繰り返し発話してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点答案返却の後で解説・質問受付をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー2	高橋信良 他	朝日出版社	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、授業の方針・進め方を理解することができる。	
	事前学修	前期教科書のフランス語ブルー1の復習をして、指定教材フランス語ブルー2とポケット版ではない学習辞書を用意してください。(30分)	30分
	事後学修	指定教材フランス語ブルー2に目を通しておいてください。(30分)	30分
2	Leçon1:動詞connaître, savoir、	動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leを理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	1課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
3	Leçon2:動詞mettreとprendre	動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法を理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
4	Leçon3:動詞devoirとrendre	動詞devoirとrendre、非人称代名詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞devoirとrendre、非人称代名詞を理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
5	Leçon4:動詞direとécrire	動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフを理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
6	Leçon5:動詞croireとvoir	動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞を理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 6:直説法大過去	直説法大過去、補語人称代名詞の語順。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法大過去、補語人称代名詞の語順を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの範囲の文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	1, 2, 3, 4, 5, 6課の復習。	30分
	事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	Leçon 7:直説法単純未来	直説法単純未来、直説法前未来の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法単純未来、直説法前未来を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	Leçon 8:関係代名詞lequel	関係代名詞lequel、接続詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、関係代名詞lequel、接続詞を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	Leçon 9:条件法	条件法現在、条件法過去の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、条件法現在、条件法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	Leçon10:間接話法	間接話法、感嘆文の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、間接話法、感嘆文を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Leçon 11:接続法現在	接続法現在の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法現在を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	到達度測定テスト、解説。	後期末テスト、採点、解説。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までのまとめ。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	フィードバックとまとめ。	前回のテストの不明点の質疑応答、全体のまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 文法事項の弱点を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回テストの理解できなかった点を明確にする。	30分
	事後学修	前回テストで間違えた箇所の文法事項を理解する。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	トレフル出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を、授業の前後またはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	文法、文化	1. Bilan1-1(4, 5, 6) (pp. 34-35) の答え合わせ 2. 動詞finir(p. 35)の活用 3. 中性代名詞 en 3.	
	この回の到達目標	1. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(4, 5, 6)に解答できる (pp. 34-35) 2. 動詞finirを理解し、運用できる 3. 中性代名詞 en を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	Bilan1-1の指定された問題を行っておく。	120分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
2	文法、文化	1. Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37) の答え合わせ 2. 助動詞pouvoir/vouloirの活用 (第7課) 3. 比較級 (第7課) 4. 第7課の文化面	
	この回の到達目標	1. Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37)に解答できる 2. 助動詞 pouvoirとvouloirを理解し、運用できる 3. 比較級を理解し、運用できる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、説明できる (達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37)を行ってくる。英語の比較級に関して確認してくる。第7課の文化面の質問について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
3	文法、文化	1. 最上級 (第7課) 2. 目的補語人称代名詞 (直接目的語) (第8課)	
	この回の到達目標	1. 最上級を理解し、運用できる 2. 目的補語人称代名詞 (直接目的語) について理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	英語の最上級について確認しておく。英語の直接目的語 (普通名詞、代名詞のとき) について確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
4	文法、文化	1. 目的補語人称代名詞 (間接目的語) 2. 複合過去 (助動詞がavoirのとき) 3. 第8課の文化面	
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞 (間接目的語) について理解し、運用できる 2. 複合過去 (助動詞がavoirのとき) について理解し、運用できる 3. 第7課の文化面の内容を理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	英語の間接目的語 (普通名詞、代名詞のとき) について確認しておく。第8課の文化面の質問について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
5	文法、文化	1. 目的補語人称代名詞 (強勢形) (第8課) 2. 複合過去 (助動詞がêtreのとき) (第8課)	
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞 (強勢形) について理解し、運用できる (第8課) 2. 複合過去 (助動詞がêtreのとき) について理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	すでに学修した目的補語人称代名詞の直接目的と間接目的の用法について復習しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
6	文法、文化	1. 代名動詞の分類 (第9課) 2. 代名動詞の現在形 (第9課) 3. 命令法 (第9課)	
	この回の到達目標	1. 代名動詞の分類 (第9課) とは何かを理解できる 2. 代名動詞の現在形 (第9課) を運用できる 3. 命令法 (第9課) を理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	英語の命令法について確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、文化		1. 代名動詞の過去形 2. 否定の表現（第9課） 3. 第9課の文化面	
	この回の到達目標	1. ジェロンディフとは何かを理解し、運用できる 2. 否定の表現（第9課）を理解し、運用できる 3. 第9課の文化面の内容を理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	今までに学んだ動詞の現在形の活用において、nousが主語のときにかたちを復習しておく。第9課の文化面の質問について調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。		30分
8	文法、文化		後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 半過去（第10課） 2. ジェロンディフ（第9課）	
	この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）に解答できる 2. 半過去とは何かを理解し、運用できる 3. ジェロンディフとは何かを理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	後期中間試験の準備をする。		180分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。		30分
9	文法、文化		1. 後記中間試験の解説 2. 関係代名詞quiとque（第10課） 3. 動詞connaître（第10課）	
	この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 2. 関係代名詞quiとqueについて理解し、運用できる 3. 動詞connaîtreの現在形を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	英語の関係代名詞に関して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
10	文法、文化		1. 単純未来①（語幹に不定詞をもちいる場合）（第11課） 2. 動詞prendre（第11課） 3. 第10課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来①について理解し、運用できる 2. 動詞 prendreについて理解し、運用できる 3. 第10課の文化面について理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	動詞avoirの活用を復習しておく。英語のtakeの用法について確認しておく。第10課の文化面の質問を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
11	文法、文化		1. 単純未来②（語幹が不規則な場合） 2. if文にあたる構文 3. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来②について理解し、運用できる 2. if文にあたる構文を理解し、運用できる 3. 第11課の文化面について理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語のif文の時制について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
12	文法、文化		1. 条件法現在（第11課） 2. 動詞 savoir(第12課)	
	この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）について理解し、運用できる 2. 動詞 savoir(第12課)の現在形を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	半過去形（直説法）の語尾に関して復習しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、文化	1. 接続法現在①（用法と語幹が規則的な場合）（第12課） 2. 非人称表現 Il faut（第12課） 3. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在① について理解し、運用できる 2. 非人称表現 Il fautについて理解し、運用できる 3. 第11課の文化面について理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	finir, partir, connaître, venir, prendreの現在形（直説法）の3人称単数について確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
14	文法、文化	1. 接続法現在②（語幹が不規則な場合）（第12課） 2. 第12課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在②を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	今までに学んだ動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。	30分
15	文法、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
	この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	後期末試験の準備をする。	180分
	事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ル・フランセ・クレール』（三訂版）	清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞	授業の説明、目的補語人称代名詞	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
	この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第九課：代名動詞	第九課：代名動詞	
	この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現	よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
	この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
	この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
	この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、中間試験の準備をする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間試験、および第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	1) 中間試験 2) 第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
	この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	中間試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
8	中間試験解説、および第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	1) 中間試験解説 2) 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
	この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
	この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	
	この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第十三課：関係代名詞	第十三課：関係代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第十三課：強調構文、時の表現	第十三課：強調構文、時の表現	
	この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第十四課：条件法現在形、条件法過去形		第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
	この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、期末試験の準備をする。		90分
14	期末試験、および第十四課：条件法の用法、時の表現(前置詞など)		1) 期末試験 2) 第十四課：条件法の用法、時の表現(前置詞など)	
	この回の到達目標	条件法の用法、時の表現(前置詞など)について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		90分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
15	期末試験解説、および第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致		1) 期末試験解説 2) 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
	この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の箇所を含めて後期全体の学修を振り返る。		30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Aから引き続き履修するとよい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、音声ファイルで発音を確認しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マ・グラメール（三訂版・CD付）	小野ゆり子・村松マリ＝エマニュエル	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後やメール（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）から受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1～9課のまとめ 第10課 疑問形容詞		第1～9課で学んだ文法事項を復習する。また、疑問形容詞の用法を学ぶ。それによって受講生はこれまでの学修内容を復習し、疑問形容詞を用いた文が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第9課までの学修内容を復習する。また、疑問形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	第1～9課の内容を見直し、不明な点について質問を準備する。 教科書32ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	疑問形容詞を用いた文の用法を確認し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
2	第10課 比較級・最上級		形容詞・副詞の比較級と最上級の作り方を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現や最上級表現を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較級・最上級を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書32ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	比較級・最上級の作り方を確認し、音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
3	第11課 命令法 非人称構文		命令形および非人称構文を学ぶ。それによって受講生は他者に指示をしたり、天候や時間などを示す表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形や非人称構文を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書34ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	命令文の作り方を確認し、非人称構文を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
4	第12課 過去分詞 複合過去		過去分詞および過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去分詞の作り方や複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書36ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	過去分詞の作り方を暗記し、複合過去の文の構造を確認する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
5	第12課 複合過去 Civilisation フランスの歴史		過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。また、フランス史の大まかな流れを学ぶことでフランスに関する知識を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書36～39ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	複合過去の形と用法を復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
6	第13課 人称代名詞の目的補語形 強勢形		人称代名詞の目的補語形と強勢形を学ぶ。それによって受講生はこれらの人称代名詞を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的語人称代名詞や強勢形を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書40ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	人称代名詞の目的補語形と強勢形を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第14課 複合過去と目的補語人称代名詞 過去分詞の一致		目的補語人称代名詞を含む複合過去の文を学ぶ。それによって受講生はこれらの文法事項を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的補語人称代名詞を含む複合過去の文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書42ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	目的補語人称代名詞を含む複合過去の文の語順をよく確認し、暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
8	第15課 関係代名詞 強調構文		基本的な4種類の関係代名詞の用法および強調構文の作り方を学ぶ。それによって受講生は関係代名詞や強調構文を用いた文を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞や強調構文を用いた表現の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書44ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	関係代名詞の使い分けを復習し、強調構文の語順を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
9	第16課 代名動詞		代名動詞の用法を学ぶ。それによって受講生は代名動詞を用いて日常生活を描写することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書46ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	代名動詞の活用と語順を確認し、例文を暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
10	第17課 単純未来 中性代名詞		単純未来の活用と用法、3種類の中性代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことや未来の予定を表現したり、正しい中性代名詞を選択し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単純未来や中性代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書48ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	単純未来の活用を暗記し、中性代名詞の用法を覚える。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
11	第18課 半過去		半過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は半過去と複合過去の違いを理解し、使い分けられるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書52ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	半過去の用法と活用を覚える。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分
12	第19課 受動態 ジェロンドィフ		受動態およびジェロンドィフの用法を学ぶ。それによって受講生は受動態やジェロンドィフを用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態やジェロンドィフを用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書54ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。		30分
	事後学修	受動態やジェロンドィフの形を覚える。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第20課 条件法現在	条件法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は事実と反する仮定を用いた表現や、語調緩和表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条件法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書56ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	条件法の活用を暗記し、用法を確認する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
14	第21課 接続法現在	接続法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は願望や推測などを示す表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書58ページの内容に目を通しておく。音声ファイルで発音を確認する。	30分
	事後学修	接続法の活用を暗記し、用法を確認する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題に取り組む。	30分
15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	トレフル出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を、授業の前後またはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	文法、文化		1. Bilan1-1(4, 5, 6) (pp. 34-35) の答え合わせ 2. 動詞finir(p. 35)の活用 3. 中性代名詞 en 3.	
	この回の到達目標	1. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(4, 5, 6)に解答できる (pp. 34-35) 2. 動詞finirを理解し、運用できる 3. 中性代名詞 en を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	Bilan1-1の指定された問題を行っておく。		120分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
2	文法、文化		1. Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37)の答え合わせ 2. 助動詞pouvoir/vouloirの活用 (第7課) 3. 比較級 (第7課) 4. 第7課の文化面	
	この回の到達目標	1. Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37)に解答できる 2. 助動詞 pouvoirとvouloirを理解し、運用できる 3. 比較級を理解し、運用できる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、説明できる (達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	Bilan1-2(4, 5, 6) (pp. 36-37)を行ってくる。英語の比較級に関して確認してくる。第7課の文化面の質問について調べてくる。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
3	文法、文化		1. 最上級 (第7課) 2. 目的補語人称代名詞 (直接目的語) (第8課)	
	この回の到達目標	1. 最上級を理解し、運用できる 2. 目的補語人称代名詞 (直接目的語) について理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	英語の最上級について確認しておく。英語の直接目的語 (普通名詞、代名詞のとき) について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
4	文法、文化		1. 目的補語人称代名詞 (間接目的語) 2. 複合過去 (助動詞がavoirのとき) 3. 第8課の文化面	
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞 (間接目的語) について理解し、運用できる 2. 複合過去 (助動詞がavoirのとき) について理解し、運用できる 3. 第7課の文化面の内容を理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	英語の間接目的語 (普通名詞、代名詞のとき) について確認しておく。第8課の文化面の質問について調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
5	文法、文化		1. 目的補語人称代名詞 (強勢形) (第8課) 2. 複合過去 (助動詞がêtreのとき) (第8課)	
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞 (強勢形) について理解し、運用できる (第8課) 2. 複合過去 (助動詞がêtreのとき) について理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	すでに学修した目的補語人称代名詞の直接目的と間接目的の用法について復習しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
6	文法、文化		1. 代名動詞の分類 (第9課) 2. 代名動詞の現在形 (第9課) 3. 命令法 (第9課)	
	この回の到達目標	1. 代名動詞の分類 (第9課) とは何かを理解できる 2. 代名動詞の現在形 (第9課) を運用できる 3. 命令法 (第9課) を理解し、運用できる (達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	英語の命令法について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、文化		1. 代名動詞の過去形 2. 否定の表現（第9課） 3. 第9課の文化面	
	この回の到達目標	1. ジェロンディフとは何かを理解し、運用できる 2. 否定の表現（第9課）を理解し、運用できる 3. 第9課の文化面の内容を理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	今までに学んだ動詞の現在形の活用において、nousが主語のときにかたちを復習しておく。第9課の文化面の質問について調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。		30分
8	文法、文化		後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 半過去（第10課） 2. ジェロンディフ（第9課）	
	この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）に解答できる 2. 半過去とは何かを理解し、運用できる 3. ジェロンディフとは何かを理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	後期中間試験の準備をする。		180分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。		30分
9	文法、文化		1. 後記中間試験の解説 2. 関係代名詞quiとque（第10課） 3. 動詞connaître（第10課）	
	この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 2. 関係代名詞quiとqueについて理解し、運用できる 3. 動詞connaîtreの現在形を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	英語の関係代名詞に関して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
10	文法、文化		1. 単純未来①（語幹に不定詞をもちいる場合）（第11課） 2. 動詞prendre（第11課） 3. 第10課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来①について理解し、運用できる 2. 動詞 prendreについて理解し、運用できる 3. 第10課の文化面について理解し、説明できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	動詞avoirの活用を復習しておく。英語のtakeの用法について確認しておく。第10課の文化面の質問を調べておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
11	文法、文化		1. 単純未来②（語幹が不規則な場合） 2. if文にあたる構文 3. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来②について理解し、運用できる 2. if文にあたる構文を理解し、運用できる 3. 第11課の文化面について理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	英語のif文の時制について確認しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分
12	文法、文化		1. 条件法現在（第11課） 2. 動詞 savoir(第12課)	
	この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）について理解し、運用できる 2. 動詞 savoir(第12課)の現在形を理解し、運用できる(達成目標①②③に関連する)		
	事前学修	半過去形（直説法）の語尾に関して復習しておく。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、文化	1. 接続法現在①（用法と語幹が規則的な場合）（第12課） 2. 非人称表現 Il faut（第12課） 3. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在① について理解し、運用できる 2. 非人称表現 Il fautについて理解し、運用できる 3. 第11課の文化面について理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	finir, partir, connaître, venir, prendreの現在形（直説法）の3人称単数について確認しておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。	30分
14	文法、文化	1. 接続法現在②（語幹が不規則な場合）（第12課） 2. 第12課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在②を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	今までに学んだ動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する。	30分
15	文法、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
	この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	後期末試験の準備をする。	180分
	事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、発音・作文・読解・翻訳を練習します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、文法の練習問題を通じてグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。前期の復習。	
	この回の到達目標	ガイダンス、及び導入講義。前期の復習。(SB0s①②③)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	フランス語の動詞の現在形活用。	-er / -ir / その他 / 代名動詞 ・現在形と命令形	
	この回の到達目標	-er / -ir / その他 / 代名動詞 ・現在形と命令形の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	補語人称代名詞。	補語人称代名詞の作り方	
	この回の到達目標	補語人称代名詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	中性代名詞en, y, le	中性代名詞en, y, leの作り方	
	この回の到達目標	中性代名詞を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	複合過去 (avoir)	複合過去 (avoir)の作り方	
	この回の到達目標	複合過去 (avoir)の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	複合過去 (être)	複合過去 (être)の作り方	
	この回の到達目標	複合過去 (être)の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複合過去（代名動詞）	複合過去(代名動詞)の作り方 ここまでの復習	
	この回の到達目標	複合過去(代名動詞)の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	後期中間試験 半過去	後期中間試験の実施 半過去の作り方	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。 半過去の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	後期中間試験解説 半過去	後期中間試験の返却と解説 半過去の作り方	
	この回の到達目標	後期中間試験の返却と解説 半過去の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	半過去と複合過去の使い方	半過去と複合過去の使い方	
	この回の到達目標	半過去と複合過去を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	大過去	大過去の作り方	
	この回の到達目標	大過去の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	単純未来形	単純未来形の作り方	
	この回の到達目標	未来形の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前未来形	前未来形の活用 ここまでの復習	
	この回の到達目標	前未来の活用を正しく使って書くことができる。(SB0s①②③) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	後期期末試験	後期期末試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による演習形式。文法事項についての説明を聞いてから、発音と簡単な会話練習をして、練習問題に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語で実際に会話を行いながら文法項目を身に付けていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に答えます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ア・ピエ！　ーフランス語初級文法ー	西部由里子	朝日出版社	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室で、またはメール（shimoda.takayuki@nihon-u.ac.jp）で質問・相談に答えます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Leçon 11 : vouloir, pouvoir の直説法現在、非人称構文、命令法	動詞 vouloir (～が欲しい／～したい) , pouvoir (～できる) の活用と使い方を学ぶ。非人称構文 (天候・時刻など) を学ぶ。命令法を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 10 までの内容を完全に身につける。leçon 11 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 11 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
2	Leçon 12 : 人称代名詞強勢形、過去分詞、直説法複合過去	人称代名詞強勢形 (moi, toi, lui, elle, …) の形と使い方を学ぶ、過去分詞、直説法複合過去について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 11 の内容を完全に身につける。leçon 12 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 12 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
3	Révision 3 : Leçons 9-12 のまとめ	Leçons 9-12 のまとめ。時刻の表現についてより詳しく学ぶ。動詞 devoir (～しなければいけない) の活用と使い方を学ぶ。疑問代名詞 (lequel …) の使い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçons 9-12 の内容を完全に身につける。	30分
	事後学修	Révision 3 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
4	Leçon 13 : 強調構文、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	強調構文について学ぶ。形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Révision 3 の内容を完全に身につける。leçon 3 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 13 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
5	Leçon 14 : 目的語人称代名詞	直接目的語人称代名詞と間接目的語人称代名詞について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 13 の内容を完全に身につける。leçon 14 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 14 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
6	Leçon 15 : 代名動詞の直説法現在、代名動詞の用法	代名動詞の活用と用法を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 14 の内容を完全に身につける。leçon 15 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 15 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 16 : 関係代名詞 (qui, que, dont, où) 、 受動態	関係代名詞 (qui, que, dont, où) と受動態について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 15 の内容を完全に身につける。leçon 16 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 16 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
8	Révision 4 : Leçons 13-16 のまとめ	Leçons 13-16 のまとめ。人称代名詞の併用、複合過去における目的語人称代名詞、代名動詞の複合過去について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçons 13-16 の内容を完全に身につける。	30分
	事後学修	Révision 4 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
9	Leçon 17 : 直説法半過去、指示代名詞	直説法半過去の活用と用法を学ぶ。さまざまな指示代名詞について学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Révision 4 の内容を完全に身につける。Leçon 17に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 17 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
10	Leçon 18 : 直説法単純未来、中性代名詞 (y, en)	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ。中性代名詞 (y, en) の用法を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 17 の内容を完全に身につける。Leçon 18 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 18 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
11	Leçon 19 : 条件法現在、現在分詞、ジェロンディフ	条件法現在の活用と用法を学ぶ。現在分詞、ジェロンディフの用法を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon 18 の内容を完全に身につける。Leçon 19 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 19 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
12	Leçon 20 : 法について、接続法現在	法について学ぶ。接続法現在の活用と用法を学ぶ。学習事項を使って簡単な会話をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçon19 の内容を完全に身につける。Leçon 20 に目を通しておく。	30分
	事後学修	Leçon 20 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Révision 5 : Leçons 17-20 のまとめ	Leçons 17-20 のまとめ。中性代名詞 le 、直説法大過去、直説法前未来。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	Leçons 17-20 の内容を完全に身につける。	30分
	事後学修	Révision 5 復習。復習ノートに記入し、声に出して発音する。	30分
14	今期のまとめ	試験の準備をする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 11 ～ leçon 20 の内容の復習。	90分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
15	試験と振り返り	試験を行い、解説する。今期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 10 の内容の復習。	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法事項を説明してから、対応した練習問題を解いて解説を加えます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	5	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	5	5								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却し、次の授業時に解答を確認します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ル・フランセ・クレール [三訂版] 』	清岡智比古	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は、授業後に教室で受け付けます。メールでの問い合わせ先：negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期のまとめ	前期の復習　オリエンテーション	
	この回の到達目標	前期に学んだことを確認①②③	
	事前学修	前期の内容を見直しておきましょう。	30分
	事後学修	忘れていた事項を確認し、書き出しましょう。	30分
2	過去分詞/複合過去(1)助動詞avoirを用いる場合について	過去分詞　直説法複合過去	
	この回の到達目標	複合過去の文を作れるようになる①②③	
	事前学修	1 1 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	今までに出て来た動詞の過去分詞をまとめてみましょう。	30分
3	複合過去(2)助動詞êtreを用いる場合について	複合過去、助動詞êtreを用いる場合	
	この回の到達目標	助動詞êtreを用いる複合過去の文を作れるようになる①②③	
	事前学修	1 1 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	助動詞にavoirを使う動詞とêtreを使う動詞をまとめてみましょう。	30分
4	関係代名詞/強調構文について	関係代名詞　強調構文	
	この回の到達目標	関係代名詞の使い方を知る①②③	
	事前学修	1 2 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	関係代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分
5	代名動詞について	代名動詞	
	この回の到達目標	代名動詞を活用できるようになる①②③	
	事前学修	1 3 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	代名動詞を現在形に活用できるようにしておきましょう。	30分
6	指示代名詞について	指示代名詞	
	この回の到達目標	指示代名詞を使えるようになる①②③	
	事前学修	1 3 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	指示代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	pouvoir（できる）、vouloir（望む）、devoir（ねばならない）の現在形について	不規則動詞の活用：pouvoir, vouloir, devoir	
	この回の到達目標	pouvoir, vouloir, devoirを活用できるようになる①②③	
	事前学修	1 4 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	pouvoir, vouloir, devoirの現在形の活用をおぼえましょう。	30分
8	単純未来について	単純未来	
	この回の到達目標	未来形の作り方と使い方を知る①②③	
	事前学修	1 4 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	単純未来の活用を書けるようにしておきましょう。	30分
9	中性代名詞について	中性代名詞	
	この回の到達目標	中性代名詞の使い方に慣れる①②③	
	事前学修	1 5 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	今までに出て来た文を、中性代名詞を使った文に書き直してみましょう。	30分
10	半過去について	半過去	
	この回の到達目標	半過去の使い方に慣れる①②③	
	事前学修	1 6 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	半過去の活用を書けるようにしておきましょう。	30分
11	受動態について	受動態	
	この回の到達目標	能動態から受動態に変えることができる①②③	
	事前学修	1 6 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	受動態の文を作ってみましょう。	30分
12	現在分詞/ジェロンディフについて	現在分詞 ジェロンディフ	
	この回の到達目標	ジェロンディフの作り方と訳し方を知る①②③	
	事前学修	1 7 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	今までに出て来た動詞の、現在分詞を書いてみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	条件法現在について	条件法現在	
	この回の到達目標	条件法を使えるようになる①②③	
	事前学修	1 8 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	条件法の活用を書けるようにしておきましょう。	30分
14	接続法現在について	接続法	
	この回の到達目標	接続法が要求される場合について知る①②③	
	事前学修	1 9 課に出て来る単語の意味を確認しておきましょう。名詞は男性・女性の別も見ておくこと。	30分
	事後学修	接続法を使う表現をノートにまとめておきましょう。	30分
15	まとめとテスト	後期のまとめ・期末テスト	
	この回の到達目標	後期に学んだことを身に付け、簡単な読み書きができるようになる①②③	
	事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	岡本 健	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	齋藤 昌三	白水社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	過去の表現に関する基礎項目	avoirとêtreを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	9課の予習。	30分
	事後学修	9課の単語を覚える。	30分
2	関係代名詞に関する基礎項目	関係代名詞の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	10課の予習。	30分
	事後学修	10課の単語を覚える。	30分
3	目的語に関する基礎項目	直接目的と間接目的の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	11課前半の予習。	30分
	事後学修	11課前半の単語を覚える。	30分
4	強勢形に関する基礎項目	強勢形の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	11課後半の予習。	30分
	事後学修	11課後半の単語を覚える。	30分
5	受動態に関する基礎項目	受動態の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	12課前半の予習。	30分
	事後学修	12課前半の単語を覚える。	30分
6	強調構文に関する基礎項目	強調構文の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	12課後半の予習。	30分
	事後学修	12課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 3 課の予習。	30分
	事後学修	1 3 課の単語を覚える。	30分
8	単純未来に関する基礎項目	単純未来の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 4 課の予習。	30分
	事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分
9	半過去に関する基礎項目	半過去の説明と作文	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 5 課の予習。	30分
	事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
10	条件法に関する基礎項目	条件法の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 6 課の予習。	30分
	事後学修	1 6 課の単語を覚える。	30分
11	話法に関する基礎項目	話法の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 7 課の予習。	30分
	事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
12	接続法に関する基礎項目	接続法の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	1 8 課の予習。	30分
	事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話体文章の読解	プリントを配布する	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	プリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
14	時事的な文章の読解	プリントを配布する	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	プリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
15	後期のまとめ、振り返り	課題の解説	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	プリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語演習C	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABをすでに修得していること。

【授業方法】
1) 読解に必要な文法知識を復習する。2) 内容について解説する 3) グループで訳を作成する 4) 文法や構文理解の点から検討を加える 5) 内容に関して、全員あるいはグループで意見交換する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	10									50
小テスト等	前回に学修した内容についての理解を評価する。訳、文法、構文分析を含む。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業は文献に関する理解を深め、他者と議論・検討を行う機会であるので、その観点から評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験に関しては授業内で、期末試験に関してはポータルシステムを通じてフィードバックを行う。その他については原則として授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に、適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問、留学相談等を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入講義		①授業の説明 ②フランス語辞書の使い方 ③綴り字の読み方
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、授業の進行方法について、また取り扱うテキストに関して理解し、どのように取り組んだらよいか説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、内容を確認する。ヴィクトル・ユゴーについて調べておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ヴィクトール・ユゴーを読む１－（１）		①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ヴィクトール・ユゴーを読む１－（２）		①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
4	ヴィクトール・ユゴーを読む１－（３）		①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ヴィクトール・ユゴーを読む１－（４）		①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
6	ヴィクトール・ユゴーを読む１－（５）		①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ヴィクトール・ユゴーを読む１－ （６）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	前半の内容の総復習をして、次週の中間テストの準備をする。	120分
8	前期中間試験 ヴィクトール・ユゴーを読む２－ （１）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の前半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	ヴィクトール・ユゴーを読む２－ （２）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
10	ヴィクトール・ユゴーを読む２－ （３）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
11	ヴィクトール・ユゴーを読む２－ （４）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
12	ヴィクトール・ユゴーを読む２－ （５）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヴィクトル・ユゴーを読む２－ （６）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
14	ヴィクトル・ユゴーを読む２－ （７）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	後半の授業の総復習をして、期末試験の準備をする。	120分
15	前期末試験、振り返り	前期末試験とまとめを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の後半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	前期の文法事項や語彙、扱ったテキスト内容についての整理をする。	30分

科目名	フランス語演習C	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを 評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解 ②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語 改訂版	山下利枝 他	三修社	2021年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、教科書紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために 授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
	事前学修	シラバスを読んで授業の進め方について理解する。	30分
	事後学修	配布資料の範囲を確認しておく。	30分
2	1. Qui suis-je? 1	être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	1. Qui suis-je? 2	自己紹介のフランス語。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、 フランス・アルザス地方の歴史・文化についてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	2. Mon appartement au Japon 1	er動詞の受身形。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、第一群規則動詞の現在形・受け身を復習し、活用できる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	2. Mon appartement au Japon 2	ils trouvent que, j'ai l'impressions deなどの表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏住居環境の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? 1	on, vousの使い方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、on, vousのフランス語特有の使い方の理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	3. Qu'est-ce qui me plait au Japon? 2	日仏の対人関係の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために 日仏の対人関係の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
8	まとめと小テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
9	4. Le métro de Tokyo 1	フランス語の様々な熟語表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、 Grâce à, même siなどの表現を理解してテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
10	4. Le métro de Tokyo 2	日仏地下鉄事情について。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏の交通網の違いについての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
11	5. Les prénoms 1	動詞の未来形の活用と用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、動詞の未来形の活用と用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
12	5. Les prénoms 2	フランスの名前について。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスのファーストネームの文化的背景についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	6. La Dernière Classe 1	歴史的叙述の時制。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、半過去、未来形の混在する歴史的叙述への理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	まとめと到達度測定テスト。	これまで学んだテキストについての理解度を前期末テストで問い、まとめをする。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、これまでに学んだフランス語の長文テキストの内容を理解し、フランス語で書くことができる。	
	事前学修	前回までのまとめ。	30分
	事後学修	テストで間違えた箇所の確認。	30分
15	フィードバックと解説。	期末テストの間違えた箇所の質疑応答、解説をする。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
	事後学修	語学の為の語学ではなく、フランス語で知識を学ぶという意識を持つ。	30分

科目名	フランス語演習C	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を取得していること。

【授業方法】
エコロジー、差別問題、恋愛といったテーマについてのフランスの若者たちへのインタビューを見ながら聞き取りの力を伸ばし、それぞれのテーマに即したテキストを読み解くことによりフランス語の読解力を高める。 〈第1週〉 1) (聞き取り) インタビュー動画に関する選択問題に挑戦する。 2) (講読) その課のテーマに即したテキストを読む。担当者が音読し、訳を発表する。 〈第2週〉 3) (文法) 文法事項を解説し、練習問題を行う。 4) (聞き取り) もう一度インタビュー動画を見て、より深く理解する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表と意見交換

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。		2						2		2			
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。		2						2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。		40	10										50
小テスト等														
レポート等														
討論・発表等	発表の内容と質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかどうかを評価する。		10	10										20
授業への参画度	授業中に行った質問や意見表明の頻度と内容を基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。		15	15										30
その他()														
その他()														
その他()														
到達目標別の比率(%)			65	35										100
【課題に対するフィードバックの方法】														
毎回の授業内で行う。														

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クワ・ド・ヌフ？ーZ世代のリアル・フランスー	レナ・ジュンタ 清岡智比古 オリヴィア・ボワセル	白水社	2023年	教科書	必携
備考					
【オフィスアワー】					
授業後、またはメール（shimoda.takayuki@nihon-u.ac.jp）で質問・相談に答えます。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、数、基本構文	授業の概要についての説明。数の復習。基本構文。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	シラバスを読んでおく。	30分
	事後学修	数や数を使った表現を言えるようにする。	30分
2	Leçon 1：ソーシャル・ネットワーク	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
3	Leçon 1：ソーシャル・ネットワーク	〈文法〉疑問文・代名動詞。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
4	Leçon 2：住宅事情	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
5	Leçon 2：住宅事情	〈文法〉関係代名詞。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
6	Leçon 3：エコロジー	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 3 : エコロジー	〈文法〉比較級・最上級。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
8	ここまでのまとめ	ここまでのまとめを行う。必要により、ここまで十分にできなかった項目に取り組む。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 1 ～ Leçon 3 までを復習する。	30分
	事後学修	Leçon 1 ～ Leçon 3 のテキストと動画の復習。	30分
9	Leçon 4 : オーディオ・ビジュアル	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
10	Leçon 4 : オーディオ・ビジュアル	〈文法〉目的語人称代名詞と中性代名詞 en, y 。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
11	Leçon 5 : お財布事情	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
12	Leçon 5 : お財布事情	〈文法〉複合過去・半過去 〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ここまでのまとめ	ここまでのまとめを行う。必要により、ここまで十分にできなかった項目に取り組む。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 4, Leçon 5 を復習する。	30分
	事後学修	Leçon 4, Leçon 5 のテキストと動画の復習。	30分
14	試験対策	最終回の授業内試験に備え、模擬試験を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 1～ Leçon 5 のテキストと動画の復習。	30分
	事後学修	模擬試験問題の復習。	30分
15	試験と解説	試験と試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	模擬試験問題の復習。	30分
	事後学修	Leçon 1～ Leçon 5 の内容を振り返る。	30分

科目名	フランス語演習D	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABをすでに修得していること。

【授業方法】
1) 読解に必要な文法知識を復習する。2) 内容について解説する 3) 訳してきた内容を担当者が発表する 4) 文法や構文理解の点から検討を加える 5) 内容に関して、全員あるいはグループで意見交換する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	10									50
小テスト等	前回に学修した内容についての理解を評価する。訳、文法、構文分析を含む。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業は文献に関する理解を深め、他者と議論・検討を行う機会であるので、その観点から評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験に関しては授業内で、期末試験に関してはポータルシステムを通じてフィードバックを行う。その他については原則として授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に、適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問、留学相談等を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	①授業の説明 ②フランス語辞書の使い方 ③綴り字の読み方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、授業の進行方法について、また取り扱うテキストに関して理解し、どのように取り組んだらよいか説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、内容を確認する。ヴィクトル・ユゴー、ジャン・ジョレスについて調べておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ジャン・ジョレスを読む1－（1）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ジャン・ジョレスを読む1－（2）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
4	ジャン・ジョレスを読む1－（3）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ジャン・ジョレスを読む1－（4）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
6	ジャン・ジョレスを読む1－（5）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャン・ジョレスを読む１－（６）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	前半の内容の総復習をして、次週の中間テストの準備をする。	120分
8	後期中間試験	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の前半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	ジャン・ジョレスを読む２－（１）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
10	ジャン・ジョレスを読む２－（２）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
11	ジャン・ジョレスを読む２－（３）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
12	ジャン・ジョレスを読む２－（４）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャン・ジョレスを読む 2－（5）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
14	ジャン・ジョレスを読む 2－（6）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	後半の授業の総復習をして、期末試験の準備をする。	120分
15	後期末試験、振り返り	前期末試験とまとめを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の後半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	後期の文法事項や語彙、扱ったテキスト内容についての整理をする。	30分

科目名	フランス語演習D	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを 評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解 ②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語 改訂版	山下利枝 他	三修社	2021年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、資料紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
	事前学修	基礎科目で学んだフランス語知識を復習する。	30分
	事後学修	配布資料の確認をする。	30分
2	7. Etudier le français 1	非人称構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、非人称構文における主語を文脈判断で理解してフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	7. Etudier le français 2	フランス語の文化的地位。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日本におけるフランス語の地位に対する理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	8. Tu et vous 1	Il est +形容詞+de+不定法	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、Il est +形容詞+de+不定法などの構文理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	8. Tu et vous 2	フランスにおける二人称の使い方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスにおける二人称・敬語についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	9. Les plats alsaciens 1	時制の混在。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、現在、半過去の混在するテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	9. Les plats alsaciens 2		アルザス料理について。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、アルザス料理に対するドイツの影響の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
8	まとめと小テスト		これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	7課から9課までの単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
9	10. L'hiver froid 1		大過去の用法。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、大過去の用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
10	10. L'hiver froid 2		過去時制の混在。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、複合過去、半過去、大過去の混在する文章の時系列理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
11	11. La fête 1		pourtant, doncなどの接続語。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、pourtant, doncなどの接続語の使い方を理解した上でテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
12	11. La fête 2		日仏の祭りについて。
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、祭りの日仏の在り方についての比較的知識を学びながらテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	12. La pétanque	主語＋permettre＋de＋不定法の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、ペタンクというスポーツについての知識を得ることでテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	到達度測定テストとまとめ。	これまで学んだテキストについての理解度を後期末テストで問い、まとめをする。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、これまでに学んだフランス語の長文テキストの内容を理解し、フランス語で書くことができる。	
	事前学修	前回までのまとめ。	30分
	事後学修	テストで間違えた箇所を確認する。	30分
15	フィードバックと解説。	期末テストの間違えた箇所の質疑応答・解説をする。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	テストで間違えた箇所の文法事項を理解する。	30分
	事後学修	語学の為の語学ではなく、フランス語で知識を学ぶという意識を持つ。	30分

科目名	フランス語演習D	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を取得していること。

【授業方法】
エコロジー、差別問題、恋愛といったテーマについてのフランスの若者たちへのインタビューを見ながら聞き取りの力を伸ばし、それぞれのテーマに即したテキストを読み解くことによりフランス語の読解力を高める。 <第1週> 1) (聞き取り) インタビュー動画に関する選択問題に挑戦する。 2) (講読) その課のテーマに即したテキストを読む。担当者が音読し、訳を発表する。 <第2週> 3) (文法) 文法事項を解説し、練習問題を行う。 4) (聞き取り) もう一度インタビュー動画を見て、より深く理解する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表と意見交換	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。		2						2		2			
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。		2						2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。		40	10										50
小テスト等														
レポート等														
討論・発表等	発表の内容と質問への応答が適切にできていたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。		10	10										20
授業への参画度	授業中に行った質問や意見表明の頻度と内容を基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。		15	15										30
その他()														
その他()														
その他()														
到達目標別の比率(%)			65	35										100
【課題に対するフィードバックの方法】														
毎回の授業内で行う。														

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クワ・ド・ヌフ？ーZ世代のリアル・フランスー	レナ・ジュンタ 清岡智比古 オリヴィア・ボワセル	白水社	2023年	教科書	必携
備考					
【オフィスアワー】					
授業後、またはメール（shimoda.takayuki@nihon-u.ac.jp）で質問・相談に答えます。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Leçon 6：差別	〈聞き取り〉インタビュー動画の大まかな理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳、構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
2	Leçon 6：差別	〈聞き取り〉インタビュー動画の理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
3	Leçon 7：余暇	〈聞き取り〉インタビュー動画の大まかな理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳、構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
4	Leçon 7：余暇	〈文法〉現在分詞・ジェロンディフ。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
5	まとめと補足	必要に応じて Leçon 6, Leçon 7 の内容の補足、またはテーマ学習を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 6, Leçon 7 の内容の復習。	30分
	事後学修	Leçon 6, Leçon 7 の内容の復習。扱ったテーマについて考える。	30分
6	Leçon 8：ファッション	〈聞き取り〉インタビュー動画の大まかな理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 8：ファッション	〈文法〉単純未来形・強調構文。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
8	Leçon 9：恋愛事情	〈聞き取り〉インタビュー動画の大まかな理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
9	Leçon 9：恋愛事情	〈文法〉条件法現在・強調構文。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分
10	まとめと補足	必要に応じて Leçon 8, Leçon 9 の内容の補足、またはテーマ学習を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 8, Leçon 9 の内容の復習。	30分
	事後学修	Leçon 8, Leçon 9 の内容の復習。扱ったテーマについて考える。	30分
11	Leçon 10：仕事探し	〈聞き取り〉インタビュー動画の大まかな理解。〈講読〉テキストの音読と日本語訳。構文の理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストを読み、知らない単語について辞書で調べる。文の構造を理解した上で訳文を作る。音源を手本に音読の練習をする。	30分
	事後学修	文の構造を意識しながらテキストを音だけで理解できるようになるまで復習する。	30分
12	Leçon 10：仕事探し	〈文法〉指示代名詞・接続法現在。〈聞き取り〉インタビュー動画のより深い理解。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	テキストをさらに復習する。インタビュー動画を見る。	30分
	事後学修	文法事項について復習する。インタビュー動画を理解できるまで見る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ学習	これまで扱ったテーマから一つを選択し、掘り下げて考える。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 6 - Leçon 10 を復習する。	30分
	事後学修	Leçon 6, Leçon 10 のテキストと動画の復習。	30分
14	試験対策	最終回の授業内試験に備え、模擬試験を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	Leçon 6～ Leçon 10 のテキストと動画の復習。	30分
	事後学修	模擬試験問題の復習。	30分
15	試験と解説	試験と試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	模擬試験問題の復習。	30分
	事後学修	Leçon 6～ Leçon 10 の内容を振り返る。	30分

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
一年時（初年度）に、基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。あるいは以上と同等以上の既習者であること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考え文章化する。それに対して生産的な質問を考え文章化する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		85	15									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事フランス語ー2024年度版ー』	石井洋二郎他	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義		フランス語の新聞、雑誌などに挑戦したいという大学生は少なくないかもしれないが、初級フランス語の学習を終えたばかりではなかなか歯が立たないというのが実情ではないか。『時事フランス語』はそのような大学生向けのシリーズものの教科書であり、毎年新学期の授業に合わせて最新のものが刊行されている。話題になった内容はそのままに、このような大学生でも読むことができるように書き下ろされている。フランス語だけではなく、社会、文化をも学ぶのにふさわしい教材である。	
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
2	パリのノートルダム寺院（１）		パリのノートルダム寺院（１）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
3	パリのノートルダム寺院（２）		パリのノートルダム寺院（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
4	パリのノートルダム寺院（３）		パリのノートルダム寺院（３）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
5	エマニュエル・マクロン（１）		エマニュエル・マクロン（１）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだテキストについて調べてコメントなどを書く。		90分
6	エマニュエル・マクロン（２）		エマニュエル・マクロン（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備えて勉強する。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、およびパリオリンピック・パラリンピック（１）		1）中間試験 2）パリオリンピック・パラリンピック（１）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	中間試験に備えて勉強する。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		90分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
8	中間試験解説、およびパリオリンピック・パラリンピック（２）		1）中間試験解説 2）パリオリンピック・パラリンピック（２）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	バゲット（１）		バゲット（１）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
10	バゲット（２）		バゲット（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだテキストについて調べてコメントを書く。		90分
11	ジェンジャック・サンペ（１）		ジャン・ジャック・サンペ（１）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		90分
12	ジャン・ジャック・サンペ（２）		ジャン・ジャック・サンペ（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	チャットGPT（１）		チャットGPT（１）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備えて勉強する。	90分
14	期末試験、およびチャットGPT（２）		1）期末試験 2）チャットGPT（２）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	期末試験に備えて勉強する。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	90分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
15	期末試験解説、チャットGPT（３）、および前期のとりまとめ		1）期末試験解説 2）チャットGPT（３）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。 3）前期のとりまとめ
	この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだ箇所について調べてコメントを書く。	90分

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
一年時（初年度）に、基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。あるいは以上と同等以上の既習者であること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考え文章化する。それに対して生産的な質問を考え文章化する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		85	15									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事フランス語ー2024年度版ー』	石井洋二郎他	朝日出版社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、及び導入講義		フランス語の新聞、雑誌などに挑戦したいという大学生は少なくないかもしれないが、初級フランス語の学習を終えたばかりではなかなか歯が立たないというのが実情ではないか。『時事フランス語』はそのような大学生向けのシリーズものの教科書であり、毎年新学期の授業に合わせて最新のものが刊行されている。話題になった内容はそのままに、このような大学生でも読むことができるように書き下ろされている。フランス語だけではなく、社会、文化をも学ぶのにふさわしい教材である。
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	アニー・エルノー（１）		アニー・エルノー（１）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	アニー・エルノー（２）		アニー・エルノー（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
4	自動車はもう都市を走れなくなる？（１）		自動車はもう都市を走れなくなる？（１）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	自動車はもう都市を走れなくなる？（２）		自動車はもう都市を走れなくなる？（２）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだテキストについて調べてコメントなどを書く。	90分
6	クリスチャン・ディオール（１）		クリスチャン・ディオール（１）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備えて勉強する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、およびクリスチャン・ディオール（2）		1）中間試験 2）クリスチャン・ディオール（2）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	中間試験に備えて勉強する。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		90分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
8	中間試験解説、およびクリスチャン・ディオール（3）		1）中間試験解説 2）クリスチャン・ディオール（3）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	セネガル狙撃兵（1）		セネガル狙撃兵（1）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
10	セネガル狙撃兵（2）		セネガル狙撃兵（2）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだテキストについて調べてコメントを書く。		90分
11	ケベックの食文化とブドウ栽培（1）		ケベックの食文化とブドウ栽培（1）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		90分
12	ケベックの食文化とブドウ栽培（2）		ケベックの食文化とブドウ栽培（2）について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	フランスのシャンソンとラップ（1）		フランスのシャンソンとラップ（1）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備えて勉強する。	90分
14	期末試験、およびフランスのシャンソンとラップ（2）		1）期末試験 2）フランスのシャンソンとラップ（2）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	期末試験に備えて勉強する。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	90分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
15	期末試験解説、フランスのシャンソンとラップ（3）、および前期のとりまとめ		1）期末試験解説 2）フランスのシャンソンとラップ（3）についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。 3）前期のとりまとめ
	この回の到達目標	この後期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この回までに読んだ箇所について調べてコメントを書く。後期の授業を振り返りまとめる。	90分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠA	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法、 基礎表現を履修した者

【授業方法】
日常生活で必要なフランス語の書き言葉を実践的な書き言葉の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業グループワークで問題練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、自己紹介と他人の紹介	
	この回の到達目標	自己紹介と他人の紹介することができる (SB0s①)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
2	フランスの履歴書	簡単な履歴書を書く	
	この回の到達目標	フランス語で履歴書を書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
3	手紙 1	フランス語で手紙を読む・理解する	
	この回の到達目標	手紙を読み、理解することができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
4	手紙 2	フランス語で手紙を書く	
	この回の到達目標	フランス語で手紙を書くことができる (SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
5	スケジュールの書き方 1	スケジュールの書き方 (一日・時間)	
	この回の到達目標	一日のスケジュールを書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
6	スケジュールの書き方 2	スケジュールの書き方 (一週間・曜日)	
	この回の到達目標	一週間のスケジュールを書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日常生活		日常生活2（自分・他人の日常生活を語る） ここまでの復習	
	この回の到達目標	自分・他人の日常生活を語ることができる。（SB0s①③） 今まで学習した内容が応用できる。		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。		30分
8	前期中間試験 フランスへ旅行1		前期中間試験の実施 フランスへ旅行1 フランスの簡単な地理 世界の国の名前	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。 フランスの簡単な地理、世界の国の名前を学ぶ。（SB0s①③）		
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。		30分
9	前期中間試験解説 フランスへ旅行2		前期中間試験解説 フランスへ旅行2 旅行のプログラムをつくる	
	この回の到達目標	前期中間試験解説 旅行のプログラムをつくることができる。（SB0s①③）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。		30分
10	観光1		地図を読む・交通手段・道を聞く・教える	
	この回の到達目標	道を聞く・教えることができる。（SB0s①③）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。		30分
11	観光2		情報を聞く・教える	
	この回の到達目標	観光地について情報を聞く・教えることができる。（SB0s①②③）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。		30分
12	葉書1		葉書の書き方（基本）	
	この回の到達目標	基本の手紙、旅行の葉書を書くことができる。（SB0s①②③）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	葉書 2		葉書（人・物を描写する） ここまでの復習
	この回の到達目標	人・物を描写することができる。（SB0s①②③） 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
14	前期期末試験、まとめ		前期期末試験の実施
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。（SB0s①②③）	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り		前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。（SB0s①②③） 前期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠB	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法、 基礎表現を履修した者。

【授業方法】
日常生活で必要なフランス語の書き言葉を実践的な書き言葉の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業グループワークで問題練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて、日常的な事柄について自律的に書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、メールを書く 1（基本）	
	この回の到達目標	ガイダンス、基本のメールを書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
2	メールを書く	メールを書く（具体的なビジネスメール・ビジネス手紙）	
	この回の到達目標	具体的なビジネスメール・ビジネス手紙を書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
3	フランスの祝日 1	フランスの休日、お祝い	
	この回の到達目標	フランスの祝日について学ぶ。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
4	フランスの祝日 2	フランスの祝日、お祝いについて書く	
	この回の到達目標	フランスの祝日、お祝いについて書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
5	レシピ 1	フランス料理のレシピを読み、理解する。	
	この回の到達目標	フランス料理のレシピを読み、理解することができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
6	レシピ 2	料理のレシピを書く。	
	この回の到達目標	料理のレシピを書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ここまでの復習	ここまでの復習	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
8	後期中間試験	後期中間試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
9	後期中間試験解説 好きな本について書く 1	後期中間試験の返却と解説 本の情報について書くこと	
	この回の到達目標	後期中間試験の返却と解説 本の情報について書くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
10	好きな本について書く 2	本の話について書くこと	
	この回の到達目標	本の話について書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
11	好きな映画について書く 1	映画の情報について書く	
	この回の到達目標	映画の情報について書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
12	好きな映画について書く 2	映画の話について書くこと	
	この回の到達目標	映画の話について書くことができる。(SB0s①③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ここまでの復習	ここまでの復習	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
14	後期期末試験、まとめ	後期期末試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『マエストロ1』	北村亜矢子、 Durrenberger Vincent	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス、第1課	授業の進め方等のガイダンスを行った後、「フランス語のアルファベ（第1課）」などについて、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、1)「フランス語のアルファベ（第1課）」などで学習した綴り字を読み発音することができ、また、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	第2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う	「第2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う」について、重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第2課で、学習した発音をすることができ、問題を解くことができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
3	第3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う	「第3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う」について、学習したものを発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	第4課：住んでいる国や都市を言う、否定する	「第4課：住んでいる国や都市を言う、否定する」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、表現（好みを言う）、「第4課：住んでいる国や都市を言う、否定する」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	第5課：持ち物を言う、年齢を言う	「第5課：持ち物を言う、年齢を言う」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第5課：持ち物を言う、年齢を言う」について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	第6課：行き先を言う、家事について話す、普段することを語る	「第6課：行き先を言う、家事について話す、普段することを語る」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第6課：行き先を言う、家事について話す、普段することを語る」発音をすることができ、その問題に解答することができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは問題を解いてみて）、前期試験の準備をすること。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、および第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う（1）		1）中間試験 2）「第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。前期試験に備えて勉強すること。		90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
8	中間試験解説、および「第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う（2）」		1）中間試験解説 2）「第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第7課：人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う（2）」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
9	第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（1）		「第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（1）」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
10	第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（2）		「第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第8課：欲しい物を言う、色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる（2）」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
11	第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（1）		「第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
12	第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（2）		「第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第9課：食事でとるものを言う、食料品を買う、値段を言う（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（1）		「第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、期末試験の準備をすること。		90分
14	期末試験、および第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（2）		1）期末試験 2）「第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第10課：位置関係を言う、家の図面を説明する（2）」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。期末試験に備えて勉強すること。		90分
	事後学修	4級の内容を把握し、11月の試験に向けてどのように勉強するか計画をたてること。		30分
15	期末試験解説、および第11課：道順を説明する、命令する		1）期末試験解説 2）「第11課：道順を説明する、命令する」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第11課：道順を説明する、命令する」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること（あるいは再度問題を解いてみる）。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること。		30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『マエストロ 1』	北村亜矢子、 Durrenberger Vincent	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期ガイダンス、第12課：質問をする、予定について語る（1）		授業の進め方等のガイダンスを行った後、「第12課：質問をする、予定について語る（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第12課：質問をする、予定について語る（1）」で学習した綴り字を読み発音することができ、また、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	第12課：質問をする、予定について語る（2）		「第12課：質問をする、予定について語る（2）」について、重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第12課：質問をする、予定について語る（2）」で、学習した発音をすることができ、問題を解くことができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
3	第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（1）		「第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（1）」について、学習したものを発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（2）		「第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第13課：12課までの復習、天気について話す、時刻を言う（2）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（1）		「第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（1）」について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（2）		「第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第14課：自分の一日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる（2）」について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは問題を解いてみて）、中間試験の準備をすること。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、および第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（1）		1）中間試験 2）「第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（1）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。中間試験の準備をすること。		90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
8	中間試験解説、および第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（2）		1）中間試験解説 2）「第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第15課：今していることを言う、したばかりのことを言う、贈り物について相談する（2）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
9	第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（1）		「第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（1）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
10	第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（2）		「第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第16課：過去の行為や出来事を語る（Ⅰ）（2）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
11	第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（1）		「第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（1）」について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
12	第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（2）		「第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第17課：過去の行為や出来事を語る（Ⅱ）（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（1）	「第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、期末試験の準備をすること。	90分
14	期末試験、および第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（2）	1）期末試験 2）「第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第18課：過去の行為や出来事を語る（Ⅲ）（2）」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。期末試験の準備をすること。	90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
15	期末試験解説、および第19課：比較する	1）期末試験解説 2）「第19課：比較する」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第19課：比較する」について、発音をすることができ、その問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること（あるいは再度問題を解いてみること）。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」４級・３級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検４級・３級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現AB、コミュニケーションIABから４単位を取得していること。あるいは以上と同等の既習者であること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブ・ラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いフランス語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Spirale Nouvelle édition (新スパラル) 』	ガエル・クレピウ、 フィリップ・カレン ス	アシェット・ジャパ ン	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、およびイニシエーション（１）：挨拶する、別れの挨拶する等		この授業の進め方等のガイダンスを行った後、「イニシエーション（１）：挨拶する、別れの挨拶する等」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「イニシエーション（１）：挨拶する、別れの挨拶する等」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	イニシエーション（２）：挨拶する（夕方）、ある人についてたずねる（１）等		「イニシエーション（２）：挨拶する（夕方）、ある人についてたずねる（１）等」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「イニシエーション（２）：挨拶する（夕方）、ある人についてたずねる（１）等」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
3	第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（１）		「第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（１）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（１）」についての問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（２）		「第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（２）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第１課：名前・職業・住んでいるところをたずねるなど（２）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（１）		「第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（１）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（１）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（２）		「第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（２）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第２課：職業をたずねる、やりたい職業を言うなど（２）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問４級ないし３級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、中間試験の準備をすること。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、および第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（1）		1）中間試験 2）「第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。中間試験の準備をすること。		90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
8	中間試験解説、および第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（2）		1）中間試験解説 2）「第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第3課：ある人についてたずねる（2）、知らないと言うなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
9	第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（1）		「第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
10	第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（2）		「第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第4課：好きなものを言う、好き嫌いの程度を表すなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
11	第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（1）		「第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
12	第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（2）		「第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第5課：何をするのが好きか言う、好き嫌いの程度を言い表す（2）」について、発音をすることができ、問題に解答することができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（1）		「第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、期末試験の準備をすること。		90分
14	期末試験、および第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（2）		1）期末試験 2）「第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第6課：好みを説明する、どちらが好きか理由を述べるなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。期末試験の準備をすること		90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
15	期末試験解説、および第7課：自分について言う、年齢を言うなど		1）期末試験解説 2）「第7課：自分について言う、年齢を言うなど」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第7課：自分について言う、年齢を言うなど」について、発音をすることができ、問題に解答できる。前期学修したことを整理・総括することができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ箇所をノートにまとめて、再度問題を解き直すこと。前期全体の振り返りをノートにまとめること。		30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」４級・３級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検４級・３級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現AB、コミュニケーションIABから少なくとも４単位を取得していること。あるいは以上と同等の既習者であること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブ・ラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いフランス語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Spirale Nouvelle édition (新スパラル) 』	ガエル・クレピウ、 フィリップ・カレン ス	アシェット・ジャパ ン	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス、第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（1）	この授業の進め方等のガイダンスを行った後、「第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「」について第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（1）発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
2	第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（2）	「第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第8課：持っているものについて話す、物を借りるなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
3	第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（1）	「第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（1）」についての問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
4	第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（2）	「第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第9課：ある場所について説明する、ある場所についての情報を求めるなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
5	第10課：何をするかたずねる・答えるなど（1）	「第10課：何をするかたずねる・答えるなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第10課：何をするかたずねる・答えるなど（1）」について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
6	第10課：何をするかたずねる・答えるなど（2）	「第10課：何をするかたずねる・答えるなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第10課：何をするかたずねる・答えるなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、中間試験の準備をすること。	90分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	中間試験、および第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（1）		1）中間試験 2）「第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。中間試験の準備をすること。		90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
8	中間試験解説、および第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（2）		1）中間試験解説 2）「第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第11課：趣味・余暇の過ごし方について話すなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
9	第12課：家族について話すなど（1）		「第12課：家族について話すなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第12課：家族について話すなど（1）」について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
10	第12課：家族について話すなど（2）		第12課：家族について話すなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第12課：家族について話すなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
11	第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（1）		「第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
12	第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（2）		「第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第13課：どこに行くのか尋ねる・答えるなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第14課：できることとするべきことを言うなど（1）		「第14課：できることとするべきことを言うなど（1）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第14課：できることとするべきことを言うなど（1）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、期末試験の準備をすること。	90分
14	期末試験、および第14課：できることとするべきことを言うなど（2）		1）期末試験 2）「第14課：できることとするべきことを言うなど（2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第14課：できることとするべきことを言うなど（2）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。期末試験の準備をすること。	90分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
15	期末試験解説、および第15課：よく行く場所について話す等		1）期末試験解説 2）「第15課：よく行く場所について話す等」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「第15課：よく行く場所について話す等」について、発音をすることができ、問題に解答できる。後期学修したことを整理・総括することができる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読むこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、再度問題を解き直すこと。後期全体の振り返りをノートにまとめること。	30分

科目名	国際研修(仏) I A	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける								1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス ・授業で使うフランス語の文章を覚える	
	この回の到達目標	ガイダンス ・授業で使うフランス語の文章を覚える (SB0s①)	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	自己紹介 1	名前・国籍・趣味・恰好など	
	この回の到達目標	名前・国籍・趣味・恰好など (SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	自己紹介 2	他人の紹介	
	この回の到達目標	他人の紹介 (SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	お出かけ 1	友達とお出かけする	
	この回の到達目標	友達とお出かけする (SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	お出かけ 2	友達とお出かけする	
	この回の到達目標	友達とお出かけする (SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	ショッピング 1	ショッピング、色、服	
	この回の到達目標	服・色の語彙を覚える。 (SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ショッピング 2	値段を聞く・言う。	
	この回の到達目標	値段を聞くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	家を描写する 1	家の語彙	
	この回の到達目標	家の語彙を覚える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	家を描写する 2	場所の前置詞	
	この回の到達目標	場所の前置詞。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	買い物	買い物の語彙、値段を聞く・教える	
	この回の到達目標	買い物するための語彙を覚える、値段を聞く・教える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	パン屋さんへ	フランスパンの文化	
	この回の到達目標	フランスパンの文化について学ぶ。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	お医者さんへ 1	体の語彙	
	この回の到達目標	体の語彙を覚える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	お医者さんへ2	病院で使う表現	
	この回の到達目標	病院で使う表現を覚える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。 前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
14	前期期末試験	前期期末試験の実施	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	国際研修(仏) I B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける								1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15～13:00 4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。前期の復習。	
	この回の到達目標	前期で学んだを使うことができる。(SB0s①②使う	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	フランス旅行	フランスで旅行するアドバイス	
	この回の到達目標	フランスで旅行プログラムを作る。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	ホテルに到着	ホテルで使う表現	
	この回の到達目標	ホテルで使う表現を覚える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	観光協会に 1	フランスの町を紹介する。	
	この回の到達目標	フランスの町を紹介する。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	観光協会に 2	観光地について情報を聞く・教えることができる。	
	この回の到達目標	観光地について情報を聞く・教えることができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	観光地や博物館に 1	フランスの観光地を聞く。	
	この回の到達目標	フランスの観光地を聞くこと。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	観光地や博物館に 2	観光地を訪れる、アドバイスを聞くことができる。	
	この回の到達目標	観光地を訪れる、アドバイスを聞くことができる。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	駅 1	電車切符を買うこと	
	この回の到達目標	電車切符を買うこと。(SB0s①②③)	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	駅 2	フランスの電車に乗る	
	この回の到達目標	フランスの電車に乗る。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	道を聞く・教える 1	道を聞く	
	この回の到達目標	道を聞く。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	道を聞く・教える 2	道を教える	
	この回の到達目標	道を教える。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	レストラン	フランスのレストランで注文する	
	この回の到達目標	フランスのレストランで注文すること。(SB0s①②③)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	フランスの生活		日本とフランスの生活の違い ここまでの復習
	この回の到達目標	日本とフランスの生活の違いについて学ぶ。(SB0s①②③) 今まで学習した内容が応用できる。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。 後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
14	後期期末試験		後期期末試験の実施
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り		後期期末試験の返却と解説 前期の振り返り
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り 今まで学習した内容が応用できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加を求めます。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... Communication A1 [改訂版] ISBN 9784905343332	Vannieuwenhuyse	ALMA	2023	教科書	必携
備考	2023年の改訂版を購入してください。				

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、一年間の授業内容を把握する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	レッスン1	フランス語の基礎	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、テキストのレッスン1で学んだ内容を確認する。	
	事前学修	レッスン1を読んでおく	30分
	事後学修	レッスン1を復習しておく	30分
3	レッスン2	Premières présentations 自己紹介をする	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	レッスン2の予習	30分
	事後学修	レッスン2の復習	30分
4	レッスン3	Dire où on habite et d' où on vient 今住んでいるところや出身地について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
	事前学修	レッスン3の予習	30分
	事後学修	レッスン3の復習	30分
5	レッスン4	Parler des transports 交通手段について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、交通手段について話すことができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の予習	30分
6	レッスン5	Parler des petits boulots アルバイトについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン5の予習	30分
	事後学修	レッスン5の予習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	レッスン6	Panorama 1 総復習 1	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン5までで学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン6の予習	30分
	事後学修	レッスン6の予習	30分
8	レッスン7	Parler de ses animaux, etc. ペットなどについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン7の予習	30分
	事後学修	レッスン7の復習	30分
9	レッスン8	Parler de sa famille 家族について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、家族について話すことができる。	
	事前学修	レッスン8の予習	30分
	事後学修	レッスン8の復習	30分
10	レッスン9	Parler des tâches ménagères 家事について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、家事について話すことができる。	
	事前学修	レッスン9の予習	30分
	事後学修	レッスン9の復習	30分
11	レッスン10	Parler de ce qu' on mange 食べ物について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、食べ物について話すことができる。	
	事前学修	レッスン10の予習	30分
	事後学修	レッスン10の復習	30分
12	レッスン11	Sortir à Paris パリで遊ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、外出について話すことができる。	
	事前学修	レッスン11の予習	30分
	事後学修	レッスン11の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レッスン12-1	Panorama 2 総復習 2	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン11までで学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の復習	30分
14	レッスン12-2	Panorama 2 総復習 2	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の復習	30分
15	前期のまとめ	前期のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、前期で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	前期の見直し	30分
	事後学修	前期の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】
授業での活動的な参加は求められている(出席だけでは参加になりません) 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限 連絡先：poupi.damien11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	テーマ別の基礎表現		授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
2	テーマ別の基礎表現		数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
3	テーマ別の基礎表現		国籍を言う（代名詞と名詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
4	テーマ別の基礎表現		名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
5	テーマ別の基礎表現		発音と綴り字記号の読み方	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
6	テーマ別の基礎表現		持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス語の基礎	Initiation	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語の基礎を理解する	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、簡単な挨拶する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、名前を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	数字	Leçon 1/2	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、10まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、名前を言う、30まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、職業、国籍を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	家族	Leçon 3	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、人を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	家族	Leçon 3	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、家族を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	大学	Leçon 3/4	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分の大学を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	大学	Leçon 4	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、キャンパスをの構成を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	大学	Leçon 4	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、大学の付近を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	自己紹介	Leçon 5	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、話せる言語、専攻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己紹介	Leçon 5	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、趣味を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	前期のクラスの内容	まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	前期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
この授業は、1年次にフランス語の基礎文法と会話パターンを学習した学生を対象としている。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】

自己紹介の文章は、読み方や発音のルールと同様に最初の2レッスンで復習されるが、知っていることが前提である。会話の練習だけでなく、短い文章を書いたり、音声を聞いたり、短い文章を読んだりすることで、フランス語でのコミュニケーションのルールや文化に焦点を当てます。4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）がカバーされ、Google Classroom上の課題で授業は完結する。

学生のレベル、希望に合わせてプログラムの変更となる可能性があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	教師の説明やフィードバックの際には、積極的にメモを取るようにしましょう。わからないことは質問する。クラスでのアクティビティはすべてグループで行い、お互いに手伝うことが大切です。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	コピー資料の配布				

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限　・5限　claire.renoul11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義・自己紹介	本講義の目的と概要についての説明。自己紹介とフランス語の読み方の復習。	
	この回の到達目標	今学期の授業内容を把握する。自己紹介を言えるようになる。フランス語の単語が読めるようになる。	
	事前学修	授業で習った自己紹介を振り返る。	30分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
2	自己紹介の復習（つづき）	名前、職業、国籍、住まい、年齢、趣味、家族構成を言うための復習とフランス語の読み方の復習。	
	この回の到達目標	自己紹介を言えるようになる。フランス語の単語が読めるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
3	彼らは何を着ていますか。 Qu'est-ce qu'ils portent ?	衣類、装身具、色の学習	
	この回の到達目標	着ている服とその色を言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
4	彼らは何を着ていますか。 Qu'est-ce qu'ils portent ?	指示形容詞、人の説明の形容詞の学習	
	この回の到達目標	人物を描写できるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
5	彼らは何を着ていますか。 Qu'est-ce qu'ils portent ?	関係代名詞の学習	
	この回の到達目標	洋服の好き嫌いが言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
6	彼らは何を着ていますか。 Qu'est-ce qu'ils portent ?	所有形容詞の学習	
	この回の到達目標	自分の持っているものを説明できるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	中間テストの準備をする。ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚える こと。	60分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。	60分
8	どうやって行きましょう？ On y va comment？	お店、公共の場所の学習	
	この回の到達目標	どこに行くのかを言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
9	どうやって行きましょう？ On y va comment？	交通手段の学習	
	この回の到達目標	移動に使っている交通手段を言えるようにする。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
10	どうやって行きましょう？ On y va comment？	venir動詞の学習	
	この回の到達目標	自分がどこから来たかを言えるようにする。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
11	どうやって行きましょう？ On y va comment？	場所を表す前置詞の学習	
	この回の到達目標	自分がどこの出身かを言えるようにする。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
12	どうやって行きましょう？ On y va comment？	なぜその都市が好きなのかを説明の学習	
	この回の到達目標	訪問する町を提案できるようにする。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	どうやって行きましょう？ On y va comment？		なぜそのレストランが好きなのかを説明の学習	
	この回の 到達目標	レストランでの外食を提案できるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分
14	期末試験、振り返り		到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、期末試験に解答できる。(SB0s①②③)		
	事前学修	期末試験の準備をする。ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚える こと。		60分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。		60分
15	フィードバック		まとめ、振り返り	
	この回の 到達目標	試験のフィードバックを理解する。(SB0s①②③)		
	事前学修	レッスンの単語を調べてオーディオを聞いて発音する。宿題を行う。		60分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う。		30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語学習 2 年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加を求めます。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... Communication A1 [改訂版] ISBN 9784905343332	Vannieuwenhuyse	ALMA	2023	教科書	必携
備考	2023年の改訂版を購入してください。				

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前期の内容を読み返す	30分
	事後学修	前期の内容を復習する	30分
2	レッスン13	Parler des matières et des profs 科目・先生について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン13を読んでおく	30分
	事後学修	レッスン13を復習しておく	30分
3	レッスン14	Parler des loisirs クラブ活動について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン14の予習	30分
	事後学修	レッスン14の復習	30分
4	レッスン15	Parler de l'heure 時間について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、時間について話すことができる。	
	事前学修	レッスン15の予習	30分
	事後学修	レッスン15の復習	30分
5	レッスン16	Parler du week-end 週末の過ごし方について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
	事前学修	レッスン16の予習	30分
	事後学修	レッスン16の復習	30分
6	レッスン17	Parler de ses goûts 好みについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、好みについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン17の予習	30分
	事後学修	レッスン17の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	レッスン18-1		Panorama 3 総復習 3	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン17までで学んだことを用いながら会話することができる。		
	事前学修	レッスン18の予習		30分
	事後学修	レッスン18の復習		30分
8	レッスン18-2		Panorama 3 総復習 3	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン17までで学んだことを用いながら会話することができる。		
	事前学修	レッスン18の予習		30分
	事後学修	レッスン18の復習		30分
9	レッスン19		Parler des vacances 休暇中の活動について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、休暇中の活動について話すことができる。		
	事前学修	レッスン19の予習		30分
	事後学修	レッスン19の復習		30分
10	レッスン20		Parler de ses expériences 経験について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、経験について話すことができる。		
	事前学修	レッスン20の予習		30分
	事後学修	レッスン20の復習		30分
11	レッスン21		Parler de la géographie et de la gastronomie 地理や食文化について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、地理や食文化について話すことができる。		
	事前学修	レッスン21の予習		30分
	事後学修	レッスン21の復習		30分
12	レッスン22		Parler du temps 天気について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、天気について話すことができる。		
	事前学修	レッスン22の予習		30分
	事後学修	レッスン22の復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レッスン23	Planifier un voyage en France フランスへの旅を計画する	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、旅行の計画について話すことができる。	
	事前学修	レッスン23の予習	30分
	事後学修	レッスン23の復習	30分
14	レッスン24-1	Panorama 4 総復習 4	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン23までで学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン24の予習	30分
	事後学修	レッスン24の復習	30分
15	レッスン24-2	Panorama 4 総復習 4	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、レッスン23までで学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン24の予習	30分
	事後学修	レッスン24の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限 連絡先：poupi.damien11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テーマ別の基礎表現		日常生活の表現 1（代名動詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現		日常生活の表現2（近接未来）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現		量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現		天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現		比較する（比較級、最上級）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現		過去のことを語る1（複合過去形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス語で身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解したり、決まった言い回しを用いて話すことができるようになる。	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアーの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自立的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期に習ったこと	前学期の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、一日のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、平日、週末のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	観光、休み	Leçon 6/7	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、休みの予定を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、時刻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、日日や季節を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	天気		Leçon 8
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、天気を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
8	家		Leçon 8
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、自分が住んでいる家を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
9	食べ物		Leçon 8/9
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、食べ物の容量を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
10	食べ物		Leçon 9
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、レシピを言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
11	レストランやカフェ		Leçon 9
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、禁じる、許可をあげる	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
12	服		Leçon 10
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、服を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	服	Leçon 10	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、お店で服を買う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	後期のクラスの内容	まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	後期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
この授業は、1年次にフランス語の基礎文法と会話パターンを学習した学生を対象としている。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
この授業は前期の授業に続くもので、受講生は前期の授業で学習した内容に慣れていることが前提となる。 会話の練習だけでなく、短い文章を書いたり、音声を聞いたり、短い文章を読んだりすることで、フランス語でのコミュニケーションのルールや文化に焦点を当てます。4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）がカバーされ、Google Classroom上の課題で授業は完結する。 学生のレベル、希望に合わせてプログラムの変更となる可能性があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教師の説明やフィードバックの際には、積極的にメモを取るようにしましょう。わからないことは質問する。クラスでのアクティビティはすべてグループで行い、お互いに手伝うことが大切です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5				挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6				コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7				リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8				省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】					到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する				20	20	10									50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。				10	10	10									30
レポート等																
討論・発表等																
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する				5	5	10									20
その他()																
その他()																
その他()																
到達目標別の比率(%)					35	35	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業で行われるかポータルサイト	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	コピー資料の配布				
【オフィスアワー】					
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限・5限 claire.renoul11@nihon-u.ac.jp					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・導入講義	本講義の目的と概要について説明します。前期のレッスンの復習。		
	この回の到達目標	後期の授業内容を把握する。		
	事前学修	前期で習った内容を振り返る。		30分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。		60分
2	どんな天気ですか。 Quel temps fait-il ?	数字と時刻の学習		
	この回の到達目標	今が何時なのかを尋ね、伝えることができるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分
3	どんな天気ですか。 Quel temps fait-il ?	時刻の公式の言い方と日常的な言い方の学習		
	この回の到達目標	公式な時間の伝え方と日常的な時間の伝え方を区別できるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分
4	どんな天気ですか。 Quel temps fait-il ?	天候の表現の学習		
	この回の到達目標	天気を尋ね、伝えることができるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分
5	どんな天気ですか。 Quel temps fait-il ?	曜日、月、季節の学習		
	この回の到達目標	誕生日と好きな月や季節も言えるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分
6	どんな天気ですか。 Quel temps fait-il ?	時刻、天候、季節のまとめ		
	この回の到達目標	出身地の季節ごとの気候について話すことができるようになる。		
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。		30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間テスト、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3が身についているかを、試験により評価する。(SB0s123)	
	事前学修	中間テストの準備をする。ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚える こと。	60分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。	60分
8	フランスの地理と気候 Géographie et climat	フランスの地理と気候を考える	
	この回の到達目標	フランスの地理と気候がわかるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
9	コーヒを飲みます。 Je bois du café.	食品の語彙の学習	
	この回の到達目標	食品の語彙を言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
10	コーヒを飲みます。 Je bois du café.	食べ物の部分冠詞と不定冠詞の使い方の学習	
	この回の到達目標	食べ物について話すとき、冠詞を正しく使うことができるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
11	コーヒを飲みます。 Je bois du café.	代名詞の-enの学習	
	この回の到達目標	朝食に何を食べるか尋ね、言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分
12	コーヒを飲みます。 Je bois du café.	頻度の表現の学習	
	この回の到達目標	ある活動をどのくらいの頻度で行っているかを言えるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。 わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。 週間テストの準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コーヒーを飲みます。 Je bois du café.	値段を尋ねる、言う表現の学習	
	この回の到達目標	市場で買い物ができるようになる。	
	事前学修	レッスンの分からない単語を調べてオーディオを聞いて発音する。Google Classroom上の宿題の添削を確認する。わからないところは授業かポータルサイトで先生に質問する。	30分
	事後学修	レッスンの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。Google Classroom上の宿題を行う。週間テストの準備をする。	60分
14	期末試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、期末試験に解答できる。(SB0s①②③)	
	事前学修	期末試験の準備をする。ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚える こと。	60分
	事後学修	Google Classroom上の宿題を行う。	60分
15	フィードバック	まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	試験のフィードバックを理解する。(SB0s①②③)	
	事前学修	レッスンの単語を調べてオーディオを聞いて発音する。宿題を行う。	60分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項説明・発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	42	3	3	22							70
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	11	2	2	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		56	8	7	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめよう楽々中国語	小林和代・韓軍	白水社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語の標準語はどのような言語か	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	中国語の標準語はどのような言語が大まかに説明できる。四声のイメージを説明できる。単母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキスト6・7ページを一読しておく。	20分
	事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。テキスト8～10ページを一読しておく。	15分
	事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	中国語の発音	複合母音・鼻母音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	複合母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。テキスト11～14ページを一読しておく。	15分
	事後学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。	45分
4	数字	第3課前半 数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	1から10までの数字を言える。月日・曜日を尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
	事前学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。17・18ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き17・18ページの発音練習をする。	15分
	事後学修	18ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
5	時刻・時間	第3課前半小テスト 第3課後半 時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	時刻・時間の長さを尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
	事前学修	19ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き19ページの発音練習をする。18ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	19ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
6	人称代名詞・姓名	第3課後半小テスト 第4課前半 人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	人称代名詞を言える。姓名を尋ねられる。自分の姓名を中国語で言える。	
	事前学修	21・22ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き21・22ページの発音練習をする。19ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	22ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	動詞〈是〉・構造助詞〈的〉	第4課前半小テスト 第4課後半 動詞〈是〉、構造助詞〈的〉のはたらきとその前後の語順を学習する。	
	この回の到達目標	動詞〈是〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。構造助詞〈的〉のはたらきが必要となる場合を説明できる。	
	事前学修	23ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き23ページの発音練習をする。22ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	〈是〉のはたらきと語順、〈的〉のはたらきと語順を説明できるようにする。23ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
8	動詞述語文の基本語順・疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置	第4課後半小テスト 第5課前半 動詞述語文の基本語順、疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置と意味。	
	この回の到達目標	動詞述語文の基本語順を説明できる。疑問詞〈誰〉〈什么〉の意味と位置を説明できる。	
	事前学修	27・28ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き27・28ページの発音練習をする。23ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	28ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞述語文の基本語順を何も見ないで説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を何も見ないで説明できるようにする。	45分
9	指示代詞〈這〉〈那〉、疑問の〈嗎〉	第5課前半・第3課前半小テスト 第5課後半 〈這〉〈那〉の使い方、〈嗎〉はどのような疑問文で使えるか。	
	この回の到達目標	〈這〉〈那〉の意味と位置を説明できる。〈嗎〉がどのような疑問文で使えるか説明できる。	
	事前学修	29ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き29ページの発音練習をする。18・28ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	29ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	30分
10	量詞と動詞〈有〉	第5課後半・第3課後半小テスト 第6課前半 六種の量詞と名詞の関係を覚える。動詞〈有〉の使い方を練習する。	
	この回の到達目標	六種の量詞と名詞の関係を説明できる。動詞〈有〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。	
	事前学修	31・32ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き31・32ページの発音練習をする。19・29ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	32ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。六種の量詞と名詞の関係を何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	省略疑問文と反復疑問文	第6課前半・第4課前半小テスト 第6課後半 省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か。	
	この回の到達目標	省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できる。	
	事前学修	33ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き33ページの発音練習をする。22・32ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	33ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
12	場所を表す指示代名と動詞〈在〉	第6課後半・第4課後半小テスト 第7課前半 場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方。	
	この回の到達目標	場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方を説明できる。	
	事前学修	37・38ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き37・38ページの発音練習をする。23・33ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	38ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。場所を表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。動詞〈在〉の語順を説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習		20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。 7課までの単語を復習する。
	この回の到達目標	3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。3課から7課の単語が聞き取れる。	
	事前学修	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題を解いておく。3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
14	期末試験及び前期学習内容の振り返り		授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	この回の到達目標	間違えやすい発音の注意点について説明できる。 第1課から第7課までの単語が聞き取れる。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	間違えやすい発音の注意点について説明できるように復習する。 第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分
15	期末試験追試及び前期学習内容の振り返り		授業内試験追試及び前期学習内容の振り返り
	この回の到達目標	間違えやすい発音の注意点について説明できるように復習する。 第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	
	事前学修	間違えやすい発音の注意点について説明できるように復習する。 第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話練習をする。書き取りやリスニングも行う。 フィードバックは授業内で行う。筆記試験については採点し、解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験などについて採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「Ⅰ冊目の中国語一会話クラス」	劉 喜多山幸子 松田かの子	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	シラバスの概要 中国語について		1、ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明する」 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音と声調
	この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：単母音と声調	
	事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	30分
	事後学修	単母音と声調の復習	30分
2	中国語の発音		発音：子音と複母音
	この回の到達目標	子音と複母音の発音ができる。	
	事前学修	子音と複母音の予習	30分
	事後学修	子音と複母音の復習	30分
3	中国語の発音		発音：鼻母音と発音のトレーニング
	この回の到達目標	鼻母音と発音ができる。	
	事前学修	鼻母音の予習	30分
	事後学修	発音の総復習	30分
4	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是” 3. 否定を表す“不” 4. 疑問を表す“嗎”
	この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
5	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」 トレーニング、リスニング
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第1課の総復習	30分
6	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. 疑問詞“怎么样” 4. “的”
	この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第2課の総復習		30分
8	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」本文訳 ポイント 1. 場所代名詞 2. 動詞述語文 3. 疑問詞疑問文 4. 省略疑問文“呢” 5. 時を表すことばの位置	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
9	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第3課の総復習		30分
10	第4課		第4課 「ケーキを食べたいですか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“想” 2. 選択疑問文 3. 副詞“也” 4. 動詞の重ね型 5. 語気助詞“吧”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
11	第4課		第4課 ケーキを食べたいですか。 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第4課の総復習		30分
12	第5課		第5課 「これはいくらですか。」本文訳 ポイント 1. 数詞 2. 量詞の使い方 3. 反復疑問文	
	この回の到達目標	第5課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課 「これはいくらですか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第5課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第1課～5課のまとめ（前期授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	前期のまとめ	①フィードバック・質疑応答（筆記試験問題について解説する） ②会話テストか書き取りを行う。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を確認し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎表現A【金曜日5時限・土曜日4時限】	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れつつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する	9	10	10	10							39
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認し評価する	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、規定の成果をあげることができたかを評価する	7	9	7	7							30
その他(実力テスト)	到達目標①、②、③、④が一定以上のレベルに到達しているかを、実力テストにより評価する	3	3	2	3							11
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	27	24	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いま始めよう！アクティブラーニング	陳淑梅・張国璐	朝日出版社	2016	教科書	必携
備考	教科書自体は全28課の内容ですが、前期授業では12課をとばして13課まで、後期授業では12課から始め24課までを学習予定です				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・中国語について・導入	授業の目的・内容、進め方の確認。中国語入門知識について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明できる	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、ネットなどにて中国語という言語について簡単に調べておく。可能な限り教科書を入手して初回授業にのぞむ	60分
	事後学修	初回の授業内容についてノート整理をおこなう。授業での指示に従い、指定されたストリーミング動画について確認する	30分
2	声調・第三声の変調など	教科書第1課にて声調・第三声の変調などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、声調・第三声の変調などについて理解し、学修済みの言葉を正しく発音できる	
	事前学修	第1課のストリーミング音声を事前に視聴、指定された言葉を指示された方法で調べたうえで授業にのぞむ	30分
	事後学修	第1課を復習、ストリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	60分
3	単母音・複母音、y-/w-など	教科書第2課にて単母音・複母音、y-/w-などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、単母音・複母音、y-/w-などについて理解し、学修済みの言葉を正しく発音できる	
	事前学修	第2課のストリーミング動画を事前に視聴、指定された言葉を指示された方法で調べたうえで授業にのぞむ	30分
	事後学修	第2課を復習、ストリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	60分
4	唇音・舌尖音・舌根音・舌面音など	教科書第3課にて唇音・舌尖音・舌根音・舌面音の発音などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、唇音・舌尖音・舌根音・舌面音などについて理解し、学修済みの言葉を正しく発音できる	
	事前学修	第3課のストリーミング動画を事前に視聴、指定された言葉を指示された方法で調べたうえで授業にのぞむ	30分
	事後学修	第3課を復習、ストリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	60分
5	そり舌音・舌歯音・鼻音-n/-ngなど	教科書第4課にてそり舌音・舌歯音・鼻音-n/-ngなどを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、そり舌音・舌歯音・鼻音-n/-ngなどについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる	
	事前学修	第4課のストリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ	30分
	事後学修	第4課を復習、ストリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	60分
6	“是”の用法・疑問文など	教科書第5課にて“是”の用法・疑問文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、“是”の用法・疑問文などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる	
	事前学修	第5課のストリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ	30分
	事後学修	第5課を復習、ストリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名前の言い方と尋ね方など		教科書第6課にて名前の言い方と尋ね方などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、名前の言い方と尋ね方などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第6課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第6課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
8	動詞述語文と選択疑問文など		教科書第7課にて動詞述語文と選択疑問文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動詞述語文と選択疑問文などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第7課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第7課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
9	連動文・願望表現など		教科書第8課にて連動文と願望表現などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、連動文と願望表現などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第8課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第8課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
10	動詞“有”と“在”など		教科書第9課にて動詞“有”と“在”などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動詞“有”と“在”などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第9課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第9課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
11	年月日や曜日の言い方・助動詞など		教科書第10課にて年月日や曜日の言い方・助動詞などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、年月日や曜日の言い方・助動詞などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第10課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第10課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
12	形容詞述語文・時刻の言い方		教科書第11課にて形容詞述語文・時刻の言い方などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、形容詞述語文・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第11課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第11課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	年齢の言い方・前置詞“在”など		教科書第13課にて年齢の言い方・前置詞“在” などなどを学修する（前期最後は12課をとばして13課を学習。12課は後期に学習予定）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、年齢の言い方・前置詞“在” などなどについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第13課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ	60分	
	事後学修	第13課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		120分
14	期末筆記試験・まとめ		本授業で最も重要な前期単位認定期末筆記試験を実施する（受験必須）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを身に付け説明することができる		
	事前学修	教科書前期学修内容の復習。ノートやストーリーミング動画などをもちいて、前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ（試験範囲は第1課～第11課、第13課予定）		120分
	事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習しておく		30分
15	実力テスト・まとめ		一定以上のレベルに到達しているかを判定するための後期期末実力テストを実施する（実力テストの詳細は授業にて説明）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期学修内容を一定レベル以上に身に付け、正しく応用することができる		
	事前学修	教科書・ノートやストーリーミング動画などをもちい、十分な復習を行って、実力テストに備えるとともに、質問があればまとめておく		120分
	事後学修	前期を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく		30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】
発音、基礎文法、基本表現の学習を授業行う。授業の前半は学習、後半は応用練習、授業中で一人ずつ発音と文法表現を練習させ、質問を翻訳、通訳、回答などを通して、確認して毎回A、B、C 三つのレベルで平常点で評価します。 授業終わる前の10分間に学生からの質問時間を用意しますので、フィードバックは授業内において行う。 成績評価は授業内テスト60%、発音、会話練習、聞き取り、書き取り20%、小テスト20%の比例で総合評価します。 出席、提出ものの状況によって、勉強姿勢をとして悪いと10点まで減点します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎日中国語の四字熟語や諺やネット用語や新しい流行語の一つを覚え、授業の時一人ずつ、発表する。一つ中国語の漢詩や歌や簡単な文章を覚えさせ、暗唱することを確認する。前期と後期のうちに2回ずつ行う。 毎回授業終わる前に10分ほどを用意する。 勉強した中国語を使って先生と話してみる、通じるとプラス評価をもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内テスト60％ 試験により到達目標が身につくことを確認して評価する。 1. 勉強した単語の日本語、中国語、ピンインを自由に書き換えてできる10点 2. 勉強した基礎表現の日本語、中国語、ピンインを自由に書き換えてできる30点 3. 勉強した基礎表現の日本語意味理解し、質問の答え文を中国語で書き出すできる20点	10	20	20	10							60
小テスト等	1. 中国語の発音ピンインの子音表と母音表の暗記暗唱することができる10点 2. 勉強した基礎単語と基礎表現の聞き取りと書き取りができる10点	10										10
レポート等												
討論・発表等	1. 簡単な挨拶言葉、授業用語、日常会話を話せる 2. 学んだ表現を用いて自分の事を書いて、二人から四人までグループで中国語自由会話発表します			10	10							20
授業への参画度												
その他(発音と会話 表現)	1. 新出単語と会話表現のピンインを正確で発音できる 2. 漢詩と指定文章の暗唱暗記ができる	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『文型から覚える中国語』	周聖来・劉秋佳等共著	飛鳥文化出版	2022年4月	教科書	必携
備考	ISBN：9784907277024 飛鳥文化出版 2022年4月初版発行 2400円				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		NHK文化センターの中国語講座はじめ、大手企業の海外派遣社員のための中国語講座、複数の大学中国語言語文学講義を20年以上、実務している。 国語を教え、さらに中国の文化と社会事情も伝えて中国の理解を深める。 LINEとWechatの交流コラムを通じて関連情報を共有して紹介する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
1	第1回導入 導入講義		中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください		30分
	事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します		30分
2	第2回(発音一)		韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
3	第3回 (発音二)		複母音と鼻母音(声調符号の付け方) 基礎知識(1)：数字、日付と曜日/数字、日付と曜日と応用表現	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
4	第4回 (発音三)		特殊発音、声調の変化・ 基礎知識(2)：時間の言い方/時間の言い方と応用表現	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	発音練習予定部分を学習してください		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
5	第5回 発音部分の小テスト		発音の総合練習とテスト	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の練習と配布した練習問題を復習してください		30分
	事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください		30分
6	第6回 第1課 今天天气怎么？		述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第7回 第2課 你是哪国人？		貴方はどの国の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
8	第8回 応用練習と文化事情		会話の応用練習:グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
9	第9回 第3課 你是大学生？		あなたは大学生ですか。 動詞述語文と時態助詞などを勉強する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
10	第10回 第4課 你吃早了？		君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
11	第11回 第5課 你是怎么来学校的？		第5課 あなたはどうやって学校に行きましたか。 “是～的”構文	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
12	第12回 会話の応用練習と中国文化の紹介		会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第13回 総復習		前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
14	第14回授業内テスト		テストの確認要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください		30分
15	第15回 口頭テストと追試		口頭テスト 病気など正当理由の試験欠席の方を追試験に行う	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。		30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
中国語は漢字ですので、先ず発音を身につけ、それから基本的な文型を覚えさせ、授業中に応用練習を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身につくかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表 30 %；筆記試験 60 %；授業内に小テスト 10 % で評価する。	30	30									60
小テスト等	授業の始めに宿題を発表させ応用能力によって、点数を付ける。評価の 10 % を占める。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖来・劉秋佳等	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
u. shouhi@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語について、紹介すると共に勉強の方法および注意事項、成績評価の方法等を説明する。	
	この回の到達目標	中国語を勉強することを明確し、勉強の意欲を向上させる	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、ノートに整理し、授業内容と比較、検討できるように準備する。	80分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	80分
2	発音編：母音と複母音	中国語 6 個の母音と複母音	
	この回の到達目標	母音の発音方法を把握し、日本語と違う部分を理解できる。	
	事前学修	教科書に書いてる説明をよく読んで、ネットでの発音をダウンロードして、ついて練習する	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、繰り返して練習する	80分
3	発音編：鼻音と子音	21個の子音を覚える	
	この回の到達目標	日本語にない巻舌音の発音方法が分かり、うまく発音ができること。	
	事前学修	教科書を読み、説明を納得する。	80分
	事後学修	授業中の知識を使い。子音の発音をできるように練習する。	80分
4	発音編：声調と声調変化	中国語の四声の知識を説明し、歌のように練習する。また文にある四声は変化があることを説明する	
	この回の到達目標	四声の発音と声調変化は上手にできる。	
	事前学修	教科書の説明を読んで理解すること。	80分
	事後学修	音声を聞き、ついて練習する。	80分
5	簡単な挨拶用語	授業用語と自分のお名前を中国語で言えるように練習させる。	
	この回の到達目標	発音の勉強は終わって、すべての漢字を読めるようになる。自分のお名前も中国語で言える。自己紹介もできる。	
	事前学修	自分のお名前をピンインで調べて、発音の練習をする。	80分
	事後学修	正確な発音で自分の名前を中国語で練習する	80分
6	基礎知識 数字を言う	毎日沢山の数字を使っている。それを先ず覚える。	
	この回の到達目標	数字の 1 から10まで、ルールを覚え、続いて無限に数える。	
	事前学修	教科書を読んで、音声を練習する	80分
	事後学修	授業の説明を覚えて、繰り返す練習する	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	基礎知識 時点と時間の長さ	数字と関係ある年、月、日、曜日、および時間の表現を説明する。	
	この回の到達目標	数字と関係ある年、月、日、曜日、および時間の表現を応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を良く理解して、言い方を暗記する	80分
	事後学修	宿題を準備する	80分
8	第1課 形容詞述語文	中国語の文型に入る：日本語と中国語表現の相違点を身につけ、形容詞述語文表現の形を説明する。	
	この回の到達目標	日本語と中国語表現の相違点を身につけ、応用でき、話せることができる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、中国語の表現を理解する。	80分
	事後学修	宿題を準備する。	80分
9	第2課 “是”を用いた文	“是”を用いた文について説明する	
	この回の到達目標	“是”を用いた文の表現を身につけ、応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	中国語の表現を理解し、宿題を作成する。	80分
10	第3課 動詞述語文	日本語と中国語の語順について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と中国語の語順について理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	中国語の動詞述語文を復習しながら宿題を作成。	80分
11	第4課 動態助詞“了”	動態助詞“了”の表現とその文型を説明する。	
	この回の到達目標	動態助詞“了”の表現とその文型を理解でき、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を良く理解し、それに基づいて宿題を作成	80分
12	第5課 “是～的”の構文	“是～的”の構文について、説明する。	
	この回の到達目標	“是～的”の構文の表現を身につけ、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総合復習		発音から第5課まで、総合復習する
	この回の到達目標	発音から第5課まで、勉強した知識を使い、その範囲で話せるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
14	期末テスト 1 口頭発表		1 発音のチェック 2 表現の応用力
	この回の到達目標	発音から表現まで、勉強した知識を使い、その範囲で話せるようになる。	
	事前学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
	事後学修	口頭発表の準備	80分
15	期末テスト 2 筆記試験		テスト範囲を指定し、中国語の表現を身につけ、問題に解説できるチェック。
	この回の到達目標	勉強した知識を身につけ、読める、書ける、話せるの目標に達成する。	
	事前学修	全般復習	60分
	事後学修	勉強は続ける事！	60分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語会話の練習を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	会話を中心に発音(ピンイン)による中国語表記とを繰り返し練習し、基本的な文の構造を学習する。 学んだことを演習形式で実践する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖來、劉秋佳、于曉飛	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考	備考授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：syu.seirai@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語とは？ 授業の進め方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むこと。	60分
	事後学修	教科書を用意すること。	60分
2	発音編①	発音 母音、子音と声調	
	この回の到達目標	中国語の発音を覚えること。	
	事前学修	ピンインを予習して、発音を練習すること。	60分
	事後学修	勉強した発音を、音声を聞きながら覚えること。	60分
3	発音編②	声調変化 簡単な単語を覚えさせる	
	この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
	事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
	事後学修	発音を練習して、単語を暗記すること。	60分
4	発音編③	ピンインの総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ、また正しく発音できるように。	
	事前学修	前回の内容を復習しておくこと。	60分
	事後学修	教科書の練習と配った練習問題を復習すること。	60分
5	第1課	形容詞記述文 自己紹介	
	この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。 形容詞を用いる文を勉強する。	
	事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備すること	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。	60分
6	ピンインと第1課の練習	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	氏名表現と形容詞の使用方法	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第1課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間テスト・振り返り	ピンインと自己紹介	
	この回の到達目標	ピンインの暗記、自己紹介ができるようになる。	
	事前学修	今までに学んだ発音、ピンインなどを応用することができる。	60分
	事後学修	第2課の内容を予習すること。	60分
8	第2課	“是”を用いた文	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第2課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
9	第2課 第3課	第2課の練習問題を解いて答え合わせ 動詞述語文	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第3課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
10	第3課	第3課の練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第3課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
11	第4課	動態助詞ー“了”	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第4課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
12	第4課 第5課	第4課の練習問題を解いて答え合わせ “是”的構文	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第5課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課の練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第5課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
14	復習及び口頭試験	期末試験の復習 口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	期末筆記試験・まとめ	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る						1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する						1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする						1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	2	3	4	15							24
小テスト等	小テスト①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
レポート等	レポートなど定期的に提出①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
討論・発表等	授業中の問答や発表など①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	20	55							100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限 man.seikai1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第一課①回目。授業概要。第一課概要。本文練習。挨拶・会話練習。会話入門。簡単な挨拶語を使って会話する。標準的な中国語の基本発音1。	授業概要。第一課「問候」。①第一課概要。②挨拶・会話練習。③会話入門。中国語の語順、語調。文章の切り取り(句切)、ピークストレス(標峰重音)。標準的な中国語の発音法。④単語表、本文を読む。本文を訳す。本文と日本語訳を書く。簡単な挨拶語を使って会話する。⑤標準的な中国語の基本発音1。音節・四声・軽声・単韻母。	
	この回の到達目標	中国語及び中国言語文化、異文化を理解する。簡単な挨拶語を使って会話する。	
	事前学修	筆記と書き取り練習用ノート(1)を用意する。シラバスに目を通しておく。	30分
	事後学修	復習。第一課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
2	第一課②回目。復習。疑問文(1)と答えかた。人称代名詞。二つの語気助詞と比較。文の種類。会話練習。標準的な中国語の基本発音1-2。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-2。声母、複韻母。音節・変調発音訓練。③人称代名詞。二つの語気助詞と比較。疑問文(1)と答えかた。文の種類。④会話1。(1)-(3)。⑤標準的な中国語の基本発音1-2テスト。本文と会話1.の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	人称代名詞、二つの語気助詞を把握する。標準的な中国語の基本発音1-2要領を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話1。(1)-(3)を声出して読む。第一課会話1。(1)-(3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
3	第一課③回目。復習。四声と軽声の比較、音の識別、音節・変調発音訓練、標準的な中国語の基本発音1-3。常用単語と発音練習。会話練習。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-3。鼻韻母。四声と軽声の比較練習。音の識別、音節・変調発音訓練。③親族。常用単語と発音練習。④会話2。(4)-(6)。⑤標準的な中国語の基本発音1-3テスト。会話2.の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	四声と軽声、音節の識別、変調、標準的な中国語の基本発音1-3を把握する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話1。(1)-(3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話2。(4)-(6)を声出して読む。第一課会話2。(4)-(6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。	30分
4	第一課④回目。復習。第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4。朗読練習。会話練習。第一課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-4。アル化韻。ローマ字綴り規則。音節表。音の識別、軽音と重音、軽重音の変化、標峰重音、句切と文単位。③朗読練習。会話練習・語調。④第一課①-④回授業要点をチェック。⑤標準的な中国語の基本発音1-4テスト。単語と会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4要領を把握する。第一課①-④回授業要点を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話2。(4)-(6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。第一課常用単語と会話を声出して読む。常用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。	30分
5	第二課①回目。復習。第二課概要。名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。序数と数量。疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。本文練習。本文について会話練習。中国語で自己紹介。	第一課復習問題。第二課「我是学生」。①第二課概要。②名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。「副詞」。序数と数量。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。⑤本文について会話練習。中国語で自己紹介。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』成績表を提出。	
	この回の到達目標	中国語で自己紹介する。名詞述語文の構文を把握する。指示代名詞、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞を把握する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話1。(1)-(3)、会話2。(4)-(6)を声出して読む。第一課の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。中国語で自己紹介を練習する。	30分
6	第二課②回目。復習。数の数え方(1)-(3)。疑問文(1)-(3)の語調。会話練習(1)-(4)。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	第二課 ①復習問題。②強勢と弱勢。強勢と弱勢の変化。四声練習。音の識別。③数の数え方(1)-(3)。④疑問文(1)-(3)の語調。会話練習(1)-(4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	数の数え方(1)-(3)を把握する。疑問文(1)-(3)の語調を把握する。六つの疑問詞を使って簡単会話する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。疑問文(1)-(3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1)-(4)を声出して読む。会話練習(1)-(4)と日本語訳を書く。数の数え方(1)-(3)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第二課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二課③回目。復習。品詞一覧。名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。置換え会話(1) - (3)。会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②品詞一覧。③名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文を把握する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』。	30分
8	第二課④回目。復習。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第二課①-④回授業要点をチェック。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③第二課①-④回授業要点をチェック。④会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第二課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課数の数え方(1) - (3)、会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』。	30分
9	第三課①回目。復習。第三課概要。形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。本文練習。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「我的父母」。①第三課概要。②形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』成績表を提出する。	
	この回の到達目標	名詞述語文・形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文の構文を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
10	第三課②回目。復習。3つの「de」助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。量詞の種類と常用名量詞と動量詞。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②三つの「de」助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。③量詞の分類と常用名量詞と動量詞。④会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	3つの「de」助詞「的」「地」「得」の使い方を把握する。「得」つくる補語と他の補語を把握する。量詞の分類と常用名量詞と動量詞を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。常用名量詞と動量詞。疑問文(4)。三つの「de」。程度補語・可能補語と結果補語・方向補語・数量補語。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分
11	第三課③回目。復習。数量練習。四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。置換え会話(1) - (3)。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②数量練習。③四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	常用名量詞・動量詞の使い方を把握する。形容詞述語と形容詞修飾語を把握する。程度副詞表す程度を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課会話練習(1) - (4)を声出して読む。数量詞、三つの「de」、程度補語と可能補語、疑問文(1) - (4)をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12		第三課④回目。年齢段別の聞き方。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第三課①-④回授業要点をチェック。	第三課 ①復習問題。②年齢段別の聞き方。③置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。④第三課①-④回授業要点をチェック。⑤会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。
	この回の到達目標	年齢段別の聞き方。第三課①-④回授業要点を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分
13		第一課～第三課復習。中国語作文を完成する。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』成績表を提出する。
	この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。中国語作文を完成する。	
	事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	第一課～第三課復習。要点をチェック。	30分
14		(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。
	この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	第一課～第三課復習。	30分
	事後学修	中国語作文を声出して読む。	30分
15		中国語作文口頭発表会(口頭試験)。	中国語作文口頭発表会(口頭試験)。中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。
	この回の到達目標	中国語作文口頭発表会(口頭試験)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	中国語作文を声出して読む。	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	叢 暁波	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とする

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をするが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを試験により 評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを 評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：2，3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日中通訳、翻訳等
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
	この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
	事前学修	テキスト8－9ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音1を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音2を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音3を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音4を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音5を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話篇		第1課：「初次面」 文法、会話と練習
	この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
	事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話篇		第2課：「迎新生」 文法、会話と練習
	この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
	事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話篇		第3課：「我的一家」 文法、会話と練習
	この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
	事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話篇		第4課：「生日快」 文法、会話と練習
	この回の到達目標	第4課：「生日快」を習得する	
	事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話篇		第5課「漫学」 会話と練習
	この回の到達目標	第5課「漫学」を習得する	
	事前学修	第5課「漫学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話篇		第6課：「参校园」 文法、会話と練習
	この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
	事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	復習		期末総合復習
	この回の到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
	事前学修	総合復習の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
14	授業内試験・振り返り		期末授業内試験
	この回の到達目標	授業内試験を行う	
	事前学修	試験の準備	60分
	事後学修	前期授業内容の復習	60分
15	期末総括		前期授業の総括
	この回の到達目標	期末試験結果を分析し、前期授業を総括する	
	事前学修	前期授業の学習状況の回顧と総括	120分
	事後学修	試験結果の再点検	120分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	星 健一	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
特になし

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④に関する基礎知識が身についているかを、 試験により評価する。		20	20	20							60
小テスト等	到達目標①に関する基礎知識が身についているかを、第7回 授業時に実施する小テストにより評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④に関する事項が身についているかを、授業中に どれだけ活発に発言したかに基づき評価する。				20							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点し、返却時に講評を行う。期末テストは答案回収後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
聞く・話す フォーアップ初級中国語 <CD付>	守屋宏則 / 柴森著	同学社	1999	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後などに教室または講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【声調，単母音について】		ガイダンスとして授業，試験，評価に関し説明する。これにより，履修者は今後の授業の準備をスムーズに行うことができる。また，発音の第一歩として声調，単母音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，声調，単母音について理解することができる。		
	事前学修	前もってこのシラバスに目を通すとともに，テキストP ii～iiiに目を通し声調，単母音の概要を把握する。		20分
	事後学修	ガイダンス内容について今後不明な点が出てきたら質せるようにしておくとともに，声調，単母音の内容を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		40分
2	【子音について】		子音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，子音について理解することができる。		
	事前学修	テキストP iv～vに目を通し子音の概要を把握する。		10分
	事後学修	子音の内容を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
3	【二重母音，三重母音，鼻音で終わる複母音について。】		二重母音，三重母音，鼻音で終わる複母音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，二重母音，三重母音，鼻音で終わる複母音について理解することができる。		
	事前学修	テキストP vi～ixに目を通し二重母音，三重母音，鼻音で終わる複母音の概要を把握する。		10分
	事後学修	二重母音，三重母音，鼻音で終わる複母音の内容を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
4	【軽声，r化母音，r化音，声調変化について】		軽声，r化母音，r化音，声調変化を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，軽声，r化母音，r化音，声調変化について理解することができる。		
	事前学修	テキストP xiiに目を通し軽声，r化母音，r化音，声調変化の概要を把握する。		10分
	事後学修	軽声，r化母音，r化音，声調変化の内容を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
5	【“是”“不”“ma(口+馬)”“的”の用法について】		“是”“不”“ma(口+馬)”“的”の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として，“是”“不”“ma(口+馬)”“的”の用法について理解することができる。		
	事前学修	第一課（P 2～3）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	“是”“不”“ma(口+馬)”“的”の用法を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
6	【“是”の反復疑問文，“有”と“没”の用法，“有”の反復疑問文，副詞“都”の用法について】		“是”の反復疑問文，“有”と“没”の用法，“有”の反復疑問文，副詞“都”の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として“是”の反復疑問文，“有”と“没”の用法，“有”の反復疑問文，副詞“都”の用法について理解することができる。		
	事前学修	第二課（P 6～7）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	“是”の反復疑問文，“有”と“没”の用法，“有”の反復疑問文，副詞“都”の用法を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【動詞述語文、目的語，“shenme”，副詞“也”の用法について】【発音とピンイン表記に関する小テスト】	動詞述語文、目的語，“shenme”，副詞“也”の用法を学ぶとともに、発音とピンイン表記に関する小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として動詞述語文、目的語，“shenme”，副詞“也”の用法について理解することができる。	
	事前学修	第三課（P10～11）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備するとともに、発音とピンイン表記に関する総復習をしておく。	60分
	事後学修	動詞述語文、目的語，“shenme”，副詞“也”の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
8	【形容詞述語文、形容詞の反復疑問文、疑問詞疑問文、動詞の重ね型の用法について】	形容詞述語文、形容詞の反復疑問文、疑問詞疑問文、動詞の重ね型の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として形容詞述語文、形容詞の反復疑問文、疑問詞疑問文、動詞の重ね型の用法について理解することができる。	
	事前学修	第四課（P14～15）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	形容詞述語文、形容詞の反復疑問文、疑問詞疑問文、動詞の重ね型の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
9	【“有”で存在を表わす文，“在”で存在を表わす文，量詞について】	“有”で存在を表わす文，“在”で存在を表わす文，量詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として“有”で存在を表わす文，“在”で存在を表わす文，量詞の用法について理解することができる。	
	事前学修	第五課（P18～19）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	“有”で存在を表わす文，“在”で存在を表わす文，量詞の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
10	【介詞，“ne（口＋尼）”を使う疑問文，選択疑問文，願望，義務などを表わす助動詞について】	介詞，“ne（口＋尼）”を使う疑問文，選択疑問文，願望，義務などを表わす助動詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として介詞，“ne（口＋尼）”を使う疑問文，選択疑問文，願望，義務などを表わす助動詞の用法について理解することができる。	
	事前学修	第六課（P22～23）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	介詞，“ne（口＋尼）”を使う疑問文，選択疑問文，願望，義務などを表わす助動詞の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
11	【動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”について】	動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”の用法について理解することができる。	
	事前学修	第七課（P26）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
12	【動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”を含む会話文について】	動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”を応用した会話文を理解することができる。	
	事前学修	第七課（P27）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	動詞に“了”のつく文，文末に“了”のつく文，疑問を表わす“多”を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃について】	進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃の用法について理解することができる。	
	事前学修	第八課（P30）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	15分
14	【進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃を含む会話文について】	進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃を応用した会話文を理解することができる。	
	事前学修	第八課（P31）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	進行を表わす「〃在〃＋動詞」、持続を表す「動詞＋〃着〃」、存現文、助動詞〃能〃〃会〃〃可以〃を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
15	【授業内試験と解説】	今学期の学習事項の定着度を測る試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識のうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。	
	事前学修	今学期の学習事項について総復習する。	50分
	事後学修	今後の学習に向け、不足している部分を復習する。	10分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	小川 都	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オーディオリンガル教授法を利用し、段階的に中国語の4技能を習得し、発音や会話にも力を入れ、楽しい教室活動を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した活動やタスクを与え、学生の活発な授業参加を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が身についているかを授業内テストにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進捗に合わせ、到達目標の①②③の習得程度について確認する。	6	7	7								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問をして、授業に積極的に参加しているか、また、到達目標①②③の習得程度を確認する。その出来具合によって評価する。	6	7	7								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		32	34	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で解説する	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面シラバスで段階的に学ぶ中国語	小川都・孟慧・周聖來	飛鳥文化出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】	
ogawa.miyako@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 中国語とは		年間講義の計画、成績評価の方法、授業の運び方を紹介する
	この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
2	発音①		発音について学ぶ 音節、声調、単母音
	この回の到達目標	声調を理解し発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
3	発音②		発音について学ぶ 複合母音、鼻母音
	この回の到達目標	鼻母音の違いを理解し、発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
4	発音③		発音について学ぶ 声母、有気音と無気音、そり舌音
	この回の到達目標	声母の違いを理解し、発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
5	発音④		発音について学ぶ 軽声、アル化、変調
	この回の到達目標	ピンインの特徴を理解し、音声聞き取れること、また、正しい発音ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
6	発音⑤		発音の到達度を確認する 発音と書き取りのテスト
	この回の到達目標	発音を聞き取れ、また、ピンインの表記ができること	
	事前学修	ピンインに関する復習	30分
	事後学修	テスト問題の見直し	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1課	挨拶に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、簡単な挨拶ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
8	第2課	身分に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、中国人の身分について表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
9	第3課	時刻・日にちに関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、時刻・日にちを中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
10	第4課	家庭構成・年齢に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、家族の紹介を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
11	第5課	方位に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、方位に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
12	第6課	評価に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、評価に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第7課	行為（未然）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し行為（未然）に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
14	第8課	職業に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、職業に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
15	前期末テスト	まとめ、試験、フィードバック	
	この回の到達目標	前期で学んだことを整理し、定着すること	
	事前学修	前期の内容を教材を使用し復習すること	30分
	事後学修	テストの結果を見直し	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	藤本 澄江	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義と学生主体の授業で半々です。効率的に中国語を理解し、定着できるように、講義では基礎文法を学んでいきます。文法を学んだ後には学生主体のペア練習を行っていきます。本授業は中国語検定準4級習得も視野に入れているため、小テストを行います。全体的に難易度の高い授業ではないものの、自主的な学習（暗記）が必須です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回。ペア学習が中心の授業であるため、自主的な学習（暗記）が必須です。ペアは教員が指定し、ほぼ毎回変えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に返却し、解説をおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》できる・つたわるコミュニケーション中国語	岩井伸子・胡興智	白水社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後の当該教室にて。授業時間：金曜1、2、3限。 メールアドレス：fujimoto.sumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	1 シラバスの確認 2 教科書の確認 3 中国と中国語の概要	
	この回の到達目標	シラバスを読んで理解すること。中国と中国語の概要を理解すること。	
	事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	30分
	事後学修	中国と中国語に関する基礎知識をまとめ、理解しておくこと。	30分
2	発音（ピンイン）練習①	1 短母音 2 声調 3 二重母音 4 三重母音	
	この回の到達目標	短母音、声調、二重母音、三重母音を正確に発音しよう。	
	事前学修	①漢字・単語：意味確認する。②音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。	30分
	事後学修	①音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。	30分
3	発音（ピンイン）練習②	5 子音 6 鼻音 7 軽声	
	この回の到達目標	子音、鼻音、軽声を正確に発音しよう。	
	事前学修	①漢字・単語：意味確認する。②音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。	30分
	事後学修	①音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。	30分
4	発音（ピンイン）練習③	8 その他のルール 覚えておきたい表現 発音のまとめと理解度の確認	
	この回の到達目標	発音に関するその他のルール、覚えておきたい表現を覚えよう。	
	事前学修	①漢字・単語：意味確認する。②音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。③その他：自分の名前のピンインを調べ、口に出して練習する。	30分
	事後学修	①音声教材：繰り返し聞き、口に出して練習する。	30分
5	第1課 あいさつする	1 人称代名詞 2 “是” 3 “” 疑問文	
	この回の到達目標	1. 中国語であいさつができるようになる。 2. 日本人・中国人であると言えるようになる。	
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。	30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。	30分
6	第2課 名前を尋ねる	1 疑問詞 “” “だれ” 2 疑問詞 “什么” “何” “何の” 3 “的” “～の”	
	この回の到達目標	1. 相手の名前を尋ねられるようになる。 2. 趣味について話せるようになる。	
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。	30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課 食べたいものを尋ねる		1 動詞述語文 2 副詞“也”「～も」 3 省略疑問文“呢”「～は？」	
	この回の到達目標	1. 食べたいもの、飲みたいものを言えるようになる。 2. 相手はどうするか、同じ質問を返せるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
8	第4課 近況を尋ねる		1 形容詞述語文 2 曜日の言い方・尋ね方	
	この回の到達目標	1. 相手が忙しいかどうか、尋ねられるようになる。 2. 週末の予定について話せるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
9	復習①		第1課～第4課の復習	
	この回の到達目標	第1課～第4課での学習を振り返り、理解できていなかったところを見つけ、理解できるようになる。		
	事前学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：挑戦する。③その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：間違ったところをまとめる。		30分
10	第5課 予定を尋ねる		1 疑問詞“哪儿”「どこ」 2 時刻の言い方と数詞 3 前置詞“和”「～と」	
	この回の到達目標	1. 相手の予定を尋ねられるようになる。 2. 何時に何をするか言えるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
11	第6課 場所を尋ねる		1 指示代名詞（1） 2 存在を表す“在”	
	この回の到達目標	1. 行きたい場所がどこにあるか、尋ねられるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
12	第7課 注文する		1 所有と存在を表す“有” 2 数量の言い方	
	この回の到達目標	1. 料理や飲みものを注文できるようになる。 2. ほしいものがあるかどうか尋ねられるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第8課 値段の交渉をする	1 指示代名詞（2） 2 いろいろな量詞 3 値段の言い方・尋ね方	
	この回の到達目標	1. 品物の値段を尋ねられるようになる。 2. 値下げの交渉ができるようになる。	
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。	30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とペンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。	30分
14	復習②	第5課～第8課の復習 理解度の確認	
	この回の到達目標	第5課～第8課での学習を振り返り、理解できていなかったところを見つけ、理解できるようになる。	
	事前学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：挑戦する。③その他：分からない箇所を見つけ出す。	30分
	事後学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：間違ったところをまとめる。	30分
15	学期末試験	理解度の確認	
	この回の到達目標	発音と基本的な表現の確認をする。	
	事前学修	学習してきた内容を総復習する。	30分
	事後学修	理解していなかった箇所を見つけ、再度復習する。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項説明・発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	42	3	3	22							70
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	11	2	2	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		56	8	7	29							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめよう楽々中国語	小林和代・韓軍	白水社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	総復習		四声・単母音・鼻母音・子音・声調の変化、5課までの発音とポイントの確認をする。	
	この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・鼻母音・子音を正確に発音できる。5課までのポイントの基本語順を説明できる。5課までの単語が聞き取れる。		
	事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音及び第3課から第7課前半までの本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第3課から第前半課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。		30分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。		30分
2	総復習		第6・7課の発音とポイントの確認をする。第6・7課の単語が聞き取れるように復習する。	
	この回の到達目標	第6・7課のポイントの基本語順を説明できる。第6・7課の単語を正確に発音できまた聞き取れる。		
	事前学修	CDを聞き第6・7課の本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第6・7課のポイントの内容を説明できるように復習しておく。		30分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。		30分
3	形容詞述語文、前置詞		第8課前半 形容詞述語文の基本語順と前置詞〈离〉〈从～到〉を練習する。	
	この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。前置詞〈离〉と〈从～到〉の位置と意味を説明できる。41・42ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	41・42ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き41・42ページの発音練習をする。		15分
	事後学修	42ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。形容詞述語文の基本語順、前置詞〈离〉〈从～到〉について何も見ないで説明できるように練習する。		45分
4	動詞〈喜歡〉、連動文		第8課前半小テスト 第8課後半 動詞〈喜歡〉とその目的語の性質を習う。連動文の語順と訳し方。	
	この回の到達目標	動詞〈喜歡〉とその目的語の特徴説明できる。連動文の語順と訳し方について説明できる。43ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	43ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き43ページの発音練習をする。42ページの聞き取りができるように復習しておく。		15分
	事後学修	43ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞〈喜歡〉とその目的語の性質と連動文について何も見ないで説明できるように練習する。		45分
5	手段・方法、値段の尋ね方		第8課後半小テスト 第9課前半 手段・方法の尋ね方、値段の尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	手段・方法を尋ねられまた答えられる。値段を尋ねられまた答えられる。47・48ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	47・48ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き47・48ページの発音練習をする。43ページの聞き取りができるように復習しておく。		15分
	事後学修	47・48ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		45分
6	比較文		第9課前半・第8課前半小テスト 第9課後半 比較文の二種類の語順を練習する。	
	この回の到達目標	比較文の二種類の語順と訳し方を説明できる。49ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	49ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き49ページの発音練習をする。42・48ページの聞き取りができるように復習しておく。		30分
	事後学修	49ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。比較文の語順について何も見ないで説明できるように練習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	完了態、助動詞	第9課後半・第8課後半小テスト 第10課前半 完了の〈了〉と助動詞〈想〉を練習する。	
	この回の到達目標	完了の〈了〉の位置と訳し方を説明できる。助動詞〈想〉の位置と訳し方を説明できる。51・52ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	51・52ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き51・52ページの発音練習をする。43・49ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	52ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。完了の〈了〉と助動詞〈想〉の位置について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
8	変化態、前置詞	第10課前半・第9課前半小テスト 第10課後半 変化の〈了〉と前置詞〈在〉を練習する。	
	この回の到達目標	変化の〈了〉と限定できるのはどのような場合かを説明できる。前置詞〈在〉の訳し方と動詞の〈在〉との違いを説明できる。53ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	53ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き53ページの発音練習をする。48・52ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	53ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。変化の〈了〉と前置詞〈在〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
9	助動詞〈会〉と〈能〉	第10課後半・第9課後半小テスト 第11課前半 助動詞〈会〉と〈能〉を練習する。	
	この回の到達目標	助動詞〈会〉と〈能〉の使い分けを説明できる。57・58ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	57・58ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き57・58ページの発音練習をする。49・53ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	57・58ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。助動詞〈会〉と〈能〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
10	助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉	第11課前半・第10課前半小テスト 第11課後半 助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉を練習する。	
	この回の到達目標	助動詞〈可以〉の位置と意味を説明できる。前置詞〈給〉の位置と意味を説明できる。58ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	59ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き59ページの発音練習をする。52・58ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	59ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	進行形と禁止	第11課後半・第10課後半小テスト 第12課前半 進行形と禁止の言い方を練習する。	
	この回の到達目標	進行形と禁止に用いる単語とそれぞれの位置を説明できる。61・62ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	61・62ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き61・62ページの発音練習をする。53・59ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	61・62ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。進行形と禁止の言い方について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
12	経験と〈是～的〉構文	第12課前半・第11課前半小テスト 第12課後半 経験の〈過〉と〈是～的〉構文を練習する。	
	この回の到達目標	経験に用いる単語とその位置を説明できる。〈是～的〉構文とはどのような文かを説明できる。63ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	63ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き63ページの発音練習をする。58・62ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。経験の〈過〉と〈是～的〉構文について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	復習	第7課から第12課の復習 44・46・50・54・56・60・64・66ページの解答合わせと誤答の分析をする。	
	この回の到達目標	第7課後半から第12課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第7課後半から第12課までの単語が聞き取れる。	
	事前学修	44・46・50・54・56・60・64・66ページの練習問題を解いておく。 第7課後半から第12課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。 第7課後半から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。	45分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。聞き取れなかった単語を聞き取れるように復習する。	15分
14	期末試験と後期学習内容の振り返り	授業内試験追試及び前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	第7課後半から第12課までの単語が聞き取れる。 第7課後半から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第7課後半から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。 第7課後半から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分
15	期末試験追試と後期学習内容の振り返り	授業内試験追試及び前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	第7課後半から第12課までの単語が聞き取れる。 第7課後半から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第7課後半から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。 第7課後半から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話を練習する。書き取りやリスニングも行う。 フィードバックは授業内で行う。筆記試験については採点し、解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の内容を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験などについて採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「Ⅰ冊目の中国語一会話クラス」	劉 喜多山幸子松田 かの子	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	シラバスの概要 第6課		ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明する。 第6課「電子辞書を持っていますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞“有” 2. 動詞“在” 3. 前置詞“离”
	この回の 到達目標	シラバスの概要が確認できる。 第6課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
2	第6課		第6課 「電子辞書を持っていますか。」 トレーニング、リスニング
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第6課の総復習	30分
3	第7課		第7課 「京劇のチケットを買いました。」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. “什么” +名詞 3. 完了の“了” 4. 疑問詞“怎么”
	この回の 到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
4	第7課		第7課 「京劇のチケットを買いました。」 トレーニング、リスニング
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第7課の総復習	30分
5	第8課		第8課 「ファーストフード店がありますか。」本文訳 ポイント 1. 変化を表わす“了” 2. 動詞“有” 3. 前置詞“在”
	この回の 到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
6	第8課		第8課 ファーストフード店がありますか。 トレーニング、リスニング
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第8課の総復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課		第9課 「中国の歌が歌えますか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“可以” “会” “能” 2. 動詞“喜歡” 3. 前置詞“給”	
	この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
8	第9課 中間のまとめ		第9課 「中国の歌が歌えますか。」 トレーニング、リスニング 第6課～9課のまとめ（授業内中間筆記試験）	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第9課の総復習		30分
9	第10課		第10課 「長城に行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1. 時刻の言い方 2. 経験を表わす“過” 3. 動作の回数を表わす言い方 4. 方向補語	
	この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
10	第10課		第10課 「長城に行ったことがありますか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第10課の総復習		30分
11	第11課		第11課 「お腹をこわしました。」本文訳 ポイント 1. 主述述語文 2. “有点儿” 3. “是～的” 4. 比較の表現	
	この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
12	第11課		第11課 「お腹をこわしました。」本文訳 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第11課の総復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課	第12課 「どのくらいの時間がかかりますか。」本文訳 ポイント 1. 結果補語 2. “从～到…” 3. 二つの目的語をもつ動詞 トレーニング・リスニング	
	この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。 会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	文法とトレーニングリスニングの予習	30分
	事後学修	第12課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第6課～12課のまとめ（授業内期末筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第6課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	後期のまとめ	①フィードバック・質疑応答（筆記試験問題について解説する） ②会話テストか書き取りを行う。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。	
	事前学修	後期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎表現B【金曜日5時限・土曜日4時限】	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	9	10	10	10							39
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、規定の成果をあげることができたかを評価する	7	9	7	7							30
その他(実力テスト)	到達目標①、②、③、④が一定以上のレベルに到達しているかを、実力テストにより評価する	3	3	2	3							11
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	27	24	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いま始めよう！アクティブラーニング	陳淑梅・張国璐	朝日出版社	2016	教科書	必携
備考	教科書自体は全28課の内容ですが、前期授業では12課をとばして13課まででした。後期授業では12課から始め24課までを学習予定です				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・前期の確認・導入		授業の目的・内容、進め方の確認。成績評価方法について。前期学修内容の確認と復習を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、後期の内容を確認するとともに前期までの学修について復習しておく		60分
	事後学修	初回の授業内容について復習、必要に応じて第1課～第11課、第13課のストーリーミング動画を視聴しておく		60分
2	金額の言い方・量詞など		教科書第12課にて金額の言い方・量詞などを学修する（前期は第12課をとばして第13課まで学習した。よって後期は第12課からの学習となる）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、金額の言い方・量詞などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第12課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第12課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
3	文末の“了”・動詞の重ね型など		教科書第14課にて文末の“了”・動詞の重ね型などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文末の“了”・動詞の重ね型などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第14課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第14課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
4	経験表現・比較表現など		教科書第15課にて経験表現・比較表現などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、経験表現・比較表現などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第15課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第15課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
5	助動詞“会”・二重目的語など		教科書第16課にて助動詞“会”・二重目的語などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”・二重目的語などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第16課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第16課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
6	“可以”・「ちょっと～だ」など		教科書第17課にて助動詞“可以”・「ちょっと～だ」などの表現を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“可以”・「ちょっと～だ」などの表現について理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第17課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第17課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	様態補語・時間の長さなど	教科書第18課にて様態補語・時間の長さなどを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、様態補語・時間の長さなどなどについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第18課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第18課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
8	結果補語・回数の言い方など	教科書第19課にて結果補語・回数の言い方などを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、結果補語・回数の言い方などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第19課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第19課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
9	“是～的”構文・禁止表現など	教科書第20課にて“是～的”構文・禁止表現などを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、“是～的”構文・禁止表現などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第20課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第20課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
10	方向補語・完了の“了”など	教科書第21課にて方向補語・完了の“了”などを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、方向補語・完了の“了”などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第21課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第21課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
11	現在進行・“是～的”構文など	教科書第22課にて現在進行・“是～的”構文などを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、現在進行・“是～的”構文などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第22課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第22課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分
12	進行表現・可能補語など	教科書第23課にて進行表現・可能補語などを学修する		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、進行表現・可能補語などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる		
	事前学修	第23課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ		30分
	事後学修	第23課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	いくつかの前置詞・程度補語など	教科書第24課にていくつかの前置詞・程度補語などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの前置詞・程度補語などについて理解し、学修済みの表現を正しく発音できる	
	事前学修	第24課のストーリーミング動画を事前に視聴、教科書事前学習単語シートの空欄部分をすべて調べ、書き込んで授業にのぞむ	60分
	事後学修	第24課を復習、ストーリーミング動画により音読の反復練習をおこなったうえで宿題に取り組む。指定された小テスト課題を何度も書くなどして覚え、次回小テストの準備をおこなう	120分
14	期末筆記試験・まとめ	本授業で最も重要な後期単位認定期末筆記試験を実施する（受験必須）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを身に付け説明することができる	
	事前学修	教科書後期学修内容の復習。ノートやストーリーミング動画などをもちいて、後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ（試験範囲は第12課、第14課～第24課予定）	120分
	事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習しておく	30分
15	実力テスト・まとめ	一定以上のレベルに到達しているかを判定するための後期期末実力テストを実施する（実力テストの詳細は授業にて説明）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期学修内容を一定レベル以上に身に付け、正しく応用することができる	
	事前学修	教科書・ノートやストーリーミング動画などをもちい、十分な復習を行って、実力テストに備えるとともに、質問があればまとめておく	120分
	事後学修	一年間の学修を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること. 授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。

【授業方法】
発音、基礎文法、基本表現の学習を授業行う。授業の前半は学習、後半は応用練習、授業中で一人ずつ発音と文法表現を練習させ、質問を翻訳、通訳、回答などを通して、確認して毎回A、B、C 三つのレベルで平常点として評価します。宿題を提出しない場合や、遅刻、無断欠席、授業姿勢が悪いなどで10%まで減点する。 成績評価は授業内テスト60%、発音、会話練習、聞き取り、書き取り20%、小テスト20%の割合で総合評価します。 出席、提出物の状況によって、学修姿勢が消極的な場合は10点まで減点します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎日中国語の四字熟語や諺やネット用語や新しい流行語の一つを覚え、授業の時一人ずつ、発表する。一つ中国語の漢詩や歌や簡単な文章を覚えさせ、暗唱することを確認する。前期と後期のうちに2回ずつ行う。 毎回授業終わる前に10分ほどを用意する。 勉強した中国語を使って先生と話してみる、通じるとプラス評価をもらう。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験は到達目標の①②④が身につくことを確認して評価する。 1. 勉強した単語の日本語、中国語、ピンインを自由に書き換えできる10点 2. 勉強した基礎表現の日本語、中国語、ピンインを自由に翻訳でき、書き換えできる30点 3. 勉強した基礎表現の意味を理解し、質問の答え文を中国語で書き出すができる20点	10	30	10	10							60
小テスト等	到達目標の①②が身につくことを確認して評価する。 1. 学んだ基礎単語と基本表現に中国語漢字とピンインを書き取りができる。 2. 簡単な作文を書くことができる	10	10									20
レポート等												
討論・発表等	1. 簡単な挨拶言葉、授業用語、日常会話を話せる 2. 学んだ表現を用いて自分の事を書いて、二人から四人までグループで中国語自由会話発表します			5	5							10
授業への参画度												
その他(朗読と会話表現)	聞き取りと書き取りの練習や朗読、暗記暗唱の練習で以下の項目を確認して評価します 1. 発音の確認：新出単語を正確な発音でピンインを読むことができ、会話表現も正確発音で話せる 2. 簡単な挨拶言葉、授業用語、日常会話を話せ、聞き取り、書き取り、暗唱暗記ができる			5	5							10
その他(評価比例)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『文型から覚える中国語』	周聖来・劉秋佳等共著	飛鳥文化出版	2022年4月初版発行	教科書	必携
備考	ISBN：9784907277024 飛鳥文化出版 2022年4月初版発行 2400円				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	NHK文化センターの中国語講座はじめ、大手企業の海外派遣社員のための中国語講座、複数の大学中国語言語文学講義を20年以上、中国語講師として勤めている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、中国の国際関係と中国の最新事情を紹介する。 LINE:08032718681／Wechat::koku811	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国の文化事情・導入	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
	事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	第6課 你家有几口人？	第6課 貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞‘有’、疑問詞‘幾’などを勉強する 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	第7課 你//得//很好。 あなたの中国語をはなすのが上手です。	第7課 程度補語 A 時間詞＋主語＋動詞＋得＋程度補語（形容詞） B 時間詞＋主語＋動詞A＋目的語＋動詞A＋得＋形容詞	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	第8課 他比我大。 彼は私より年上です。	比較表現 日本語：AはBより～/ BはAほど～でない/ AはBと同じ～ 中国語：A 比B～/ A 没有B(那么/么) ～/ A和B 一～	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	第9課 我在上（呢） 私は授業を受けています。	第9課 動作の進行、状態の持続 ～しているの進行形を学習する 日本語：～～をしている／～～がしてある 中国語：1 … 呢2 在…（呢）3 正…（呢）4 正在…（呢）	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	応用練習		会話の応用練習と作文練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文の例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
8	第10課 我去一次中国 私は中国に一回行ったことがあります		動量補語 選択 1 作文の宿題：我和中国
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すできるように復習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
9	第11課 我看了两个小的。 私は二時間テレビを見ました。		時間補語 時点と時間の長さの表見 配布資料と宿題：中国文化と社会事情の紹介の関連資料と課題を配布します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 応用練習と中国の文化事情の紹介	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すできるように復習しなさい	30分
10	会話応答練習と中国文化事情の紹介		中国の習慣、マナ、裏社会を知る 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
11	第12課 你会？ 中国語を話すことができますか。		第12課 1. 能願動詞：会、能、可以/想， 2. 動詞の重ね：想去看看
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさ	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すできるように復習しなさい	30分
12	会話の応用練習と作文練習		グループで会話練習を確認させて評価します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 応用練習と中国の文化事情の紹介	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すできるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習 後期の総合練習		復習と総合練習 後期の学習要点をまとめて総合練習問題を作り出し、学生に配布して復習します。
	この回の 到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	授業内テスト		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を
	この回の 到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	テストのまとめと再試験、追試験		病気など正当理由の試験欠席の方に再試験、追試験を行う
	この回の 到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
中国語は漢字ですので、先ず発音を身につけ、それから基本的な文型を覚えさせ、授業中に応用練習を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身についているかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表３０％；筆記テスト６０％、授業内にスピーチテスト１０％で評価する。	30	30									60
小テスト等	授業開始の宿題を発表させ、知識を応用能力によって、点数を付ける。評価の１０％を占める。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖来・劉秋佳等	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
u. shouhi@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語について、紹介すると共に勉強の方法および注意事項、成績評価の方法等を説明する。	
	この回の到達目標	中国語を勉強することを明確し、勉強の意欲を向上させる	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、ノートに整理し、授業内容と比較、検討できるように準備する。	80分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	80分
2	第6課 動詞“有”と“在”	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”の表現について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”について表現できるようになる。	
	事前学修	教科書に書いて解釈をよく読んで、理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、宿題を作成。	80分
3	第7課 程度補語	日本語と比較して、中国語の補語について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較して、中国語の補語について理解でき、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、説明を納得する。	80分
	事後学修	例文を真似して、自己のことに基づいて宿題を作成。	80分
4	第8課 比較表現	日本語と比較して、中国語の比較表の形式を説明する。	
	この回の到達目標	様々なことについて、比較表現できる	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことについて比較してみる。宿題を作成。	80分
5	第9課 動作の進行・状態の持続表現	動作の進行中とその状態が持続する表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の進行中とその状態が持続する表現を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、簡単な作文を作る。	80分
6	第10課 動量補語	日本語と比較して、中国語の動作の回数について、その表現は動量補語という表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の回数について、その表現は身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書解釈を読んで、日本語と中国語の相違点を把握する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、自己のことについて、作文をする。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第11課 時間補語		日本語と比較し、中国語の表現の特徴な文型について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語のその相違点を明確し、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を良く理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、宿題を作成	80分
8	第12課 能願動詞		能願動詞：会・能・可以の使い方について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語表現の相違点を身につけ、応用でき、話せることができる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、中国語の表現を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分
9	第13課 結果補語・可能補語		日本語と比較し、中国語の表現の特徴的な文型について説明する。
	この回の到達目標	中国語の文型を覚えて、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、宿題を作成する。	80分
10	第14課 “把”を用いた文		この表現の条件について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語の語順について理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	“把”を用いた文を復習しながら宿題を作成。	80分
11	第15課 使役と受け身文		使役と受け身文を文型を説明する
	この回の到達目標	使役と受け身表現とその文型を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を良く理解し、それに基づいて宿題を作成	80分
12	第16課 中国語をマスターしよう		会話文に現れた語句の使い方について説明する。
	この回の到達目標	中国語表現のレベルは一層高まる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、応用練習をしてみよう。	80分
	事後学修	自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総合復習 質問に中国語で答えましょう！		第1課～16課までの知識を身につけ、話せるようになれ！
	この回の到達目標	中国語の基本的な文型を身につけ、話せる！書ける！読めるになった！	
	事前学修	テストの範囲を暗記する。	80分
	事後学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
14	期末テスト 1 口頭発表		1 発音のチェック 2 表現の応用力
	この回の到達目標	発音から表現まで、勉強した文型を知使い、話せるようになる。	
	事前学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
	事後学修	口頭発表の準備	80分
15	期末テスト 2 筆記試験		テスト範囲を指定し、中国語の表現を身につけ、問題に解説できるチェック。
	この回の到達目標	勉強した知識を身につけ、読める、書ける、話せるの目標に達成する。	
	事前学修	全般復習	60分
	事後学修	勉強は続ける事！	60分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語会話の練習を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	会話を中心に発音(ピンイン)による中国語表記とを繰り返し練習し、基本的な文の構造を学習する。 学んだことを演習形式で実践する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖來、劉秋佳、于曉飛	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考	備考授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：syu.seirai@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	自己紹介とガイダンス・導入講義	授業の進め方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むことと自己紹介の準備	60分
	事後学修	前期勉強したことを復習	60分
2	第6課	動詞“有”と“在”	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第6課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
3	第6課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	前回の内容を復習して、第6課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
4	第7課	程度補語	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第7課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
5	第7課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	前回の内容を復習して、第7課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
6	第8課	比較表現	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第8課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第8課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	前回の内容を復習して、第8課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
8	中間テスト・振り返り	第5課～第8課	
	この回の到達目標	第5課～第8課の内容を活用できる。	
	事前学修	今までの内容を復習する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
9	第9課	動作の進行、状態の持続	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第9課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
10	第9課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	前回の内容を復習して、第9課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
11	第10課	動量補語	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第10課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
12	第10課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	前回の内容を復習して、第10課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	復習	期末試験の復習	
	この回の到達目標	単語と本文を覚える	
	事前学修	第6課～第10課までの内容を復習する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
14	口頭試験及び復習	口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	期末筆記試験・まとめ	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る			1			1	1	
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する			1			1	1	
③	身近な話題について簡単なやり取りをする			1			1	1	
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する			1			1	1	
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、試験により評価する。	2	3	4	15							24
小テスト等	小テスト①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
レポート等	レポートなど定期的に提出①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
討論・発表等	授業中の問答や発表など①、②、③、④が身につけているかを評価する。	2	3	4	10							19
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	2	3	4	10							19
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	20	55							100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限 man.seikai1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第四課①回目。前期復習問題。第四課概要。本文練習。「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	前期復習問題。第四課「我家有五口人」。①第四課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	この回の到達目標	「有」構文、存現文(1)、不定数の使い方を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
	事後学修	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
2	第四課②回目。復習。中国の通貨—人民元。番号と金額。疑問文(5) - (6)。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第四課 ①復習問題。②中国の通貨—人民元。番号と金額。③四声練習。音の識別。疑問文(5) - (6)。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	番号と金額、疑問文(5) - (6)を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
3	第四課③回目。復習。第四課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。第四課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第四課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
4	第五課①回目。復習。本文練習。自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課復習問題。第五課「今天休息」。①第五課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	自動詞と他動詞、目的語・二重目的語、二つの「了」、連動文・兼語文、使役・受身文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分
5	第五課②回目。復習。方向補語・数量補語。曜日・週と年・月・日。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②曜日・週と年・月・日。③方向補語・数量補語。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
	この回の到達目標	方向補語・数量補語、曜日・週と年・月・日を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12		第七課 ①復習問題。第七課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第七課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』。	30分
13		第四課～第七課復習。要点をチェック。第四課～第七課朗読短文復習。(口頭試験の朗読短文を選択)。	
	この回の到達目標	第七課①復習問題。②第四課～第七課復習。③第四課～第七課朗読短文復習。(口頭試験の朗読短文を選択)。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』成績表コピーを提出する。	
	事前学修	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。	
	事後学修	第七課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
14		(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
	この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	第四課～第七課復習。要点をチェック。	30分
	事後学修	朗読短文を書いて(簡体字、ピンイン、日本語訳)、声出して読む。	30分
15		(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
	この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	朗読短文を声出して読む。	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	叢 暁波	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とする

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をするが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを試験により 評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを 評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：2，3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日中通訳、翻訳等
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
	この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う	
	事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	会話篇	第7課：「趣好」	
	この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
	事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	会話篇	第8課：「学」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
	事前学修	第8課：「学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	会話篇	第9課：「交朋友」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第9課：「交朋友」を習得する	
	事前学修	第9課：「交朋友」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	会話篇	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
	事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	会話篇	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
	事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話篇		第12課：「季化」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第12課：「季化」を習得する	
	事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話篇		第13課：「上学交通」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
	事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話篇		第14課：「外打工」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第14課：「外活」を習得する	
	事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話篇		第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」を習得する	
	事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話篇		第16課「校活」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第16課「校活」を習得する	
	事前学修	第16課「校活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話篇		第17課：「出国留学」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
	事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	復習	期末総合復習	
	この回の到達目標	期末総合復習を行う	
	事前学修	総合復習の準備	120分
	事後学修	復習内容の再チェック	120分
14	期末試験・振り返り	期末授業内試験	
	この回の到達目標	期末試験を行う	
	事前学修	期末試験の準備	120分
	事後学修	試験問題の復習	120分
15	総括	後期授業の総括	
	この回の到達目標	後期授業の総括と試験結果の分析	
	事前学修	後期の回顧と総括の準備	120分
	事後学修	後期授業と試験結果の再チェック	60分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	星 健一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
特になし

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④に関する基礎知識が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	20	20							60
小テスト等	到達目標①に関する基礎知識が身についているかを、第7回 授業時に実施する小テストにより評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④に関する事項が身についているかを、授業中に どれだけ活発に発言したかに基づき評価する。				20							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点し、返却時に講評を行う。期末テストは答案回収後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
聞く・話す フォーアップ初級中国語 <CD付>	守屋宏則 / 柴森	同学社	1999	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後などに教室または講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を学ぶ。について】		ガイダンスとして授業，試験，評価に関し説明する。これにより，履修者は今後の授業の準備をスムーズに行うことができる。また，経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として，経験を表わす“過”，動量詞，数量補語について理解することができる。		
	事前学修	テキスト第9課（P34）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		20分
	事後学修	経験を表わす“過”，動量詞，数量補語の内容を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		40分
2	【経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を含む会話文について】		経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として，経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を含む会話文を理解することができる。		
	事前学修	テキスト第9課（P35）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	経験を表わす“過”，動量詞，数量補語を含む会話文を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
3	【比較の表現，程度補語について】		比較の表現，程度補語の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として，比較の表現，程度補語について理解することができる。		
	事前学修	テキスト第10課（P38）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	比較の表現，程度補語の用法を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
4	【比較の表現，程度補語を含む会話文について】		比較の表現，程度補語を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，比較の表現，程度補語を含む会話文を理解することができる。		
	事前学修	テキスト第10課（P39）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	比較の表現，程度補語を含む会話文を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
5	【結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法について】		結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として，結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法について理解することができる。		
	事前学修	テキスト第11課（P42）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法の用法を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分
6	【結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法を含む会話文について】		結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する初歩的知識として，結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法を含む会話文を理解することができる。		
	事前学修	テキスト第11課（P43）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。		10分
	事後学修	結果補語，方向補語，複合方向補語の拡張用法を含む会話文を理解し，不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【可能補語，“是…的”文型の用法について】 【発音とピンイン表記及び語彙に関する小テスト】	可能補語，“是…的”文型の用法を学ぶとともに、発音とピンイン表記及び語彙に関する小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、可能補語，“是…的”文型の用法について理解することができる。	
	事前学修	テキスト第12課（P46）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備するとともに、発音とピンイン表記及び語彙に関する総復習をしておく。	60分
	事後学修	可能補語，“是…的”文型の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
8	【可能補語，“是…的”文型を含む会話文について】	可能補語，“是…的”文型を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、可能補語，“是…的”文型を含む会話文を理解することができる。	
	事前学修	テキスト第12課（P47）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	可能補語，“是…的”文型を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
9	【様態補語、“把”構文の用法について】	様態補語、“把”構文の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、様態補語、“把”構文の用法について理解することができる。	
	事前学修	テキスト第13課（P50）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	様態補語、“把”構文の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
10	【様態補語、“把”構文を含む会話文について】	様態補語、“把”構文を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、様態補語、“把”構文を含む会話文を理解することができる。	
	事前学修	テキスト第13課（P51）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	様態補語、“把”構文を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
11	【使役文、受身文の用法について】	使役文、受身文の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、使役文、受身文の用法について理解することができる。	
	事前学修	テキスト第14課（P54）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	使役文、受身文の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
12	【使役文、受身文を含む会話文について】	使役文、受身文を含む会話文を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、使役文、受身文を応用した会話文を理解することができる。	
	事前学修	テキスト第14課（P55）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	使役文、受身文を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【複文の用法について】	さまざまな複文の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、さまざまな複文の用法について理解することができる。	
	事前学修	テキスト第15課（P58）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	さまざまな複文の用法を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	15分
14	【複文を含む会話文について】	さまざまな複文を含む文章を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識として、さまざまな複文を応用した文章を理解することができる。	
	事前学修	テキスト第15課（P59）に目を通し正しい発音で文を音読できるよう準備する。	10分
	事後学修	さまざまな複文を含む会話文を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	50分
15	【授業内試験と解説】	今学期の学習事項の定着度を測る試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関する知識のうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。	
	事前学修	今学期の学習事項について総復習する。	50分
	事後学修	今後の学習に向け、不足している部分を復習する。	10分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	小川 都	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オーディオリンガル教授法を利用し、段階的に中国語の4技能を習得し、発音や会話にも力を入れ、楽しい教室活動を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した活動やタスクを与え、学生の活発な授業参加を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が身についているかを授業内テストにより 評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進捗に合わせ、到達目標①②③の習得程度について 確認する。	6	7	7								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問をして、授業に積極的に参加しているか、また、 到達目標①②③の習得程度を確認する。その出来具合 によって評価する。	6	7	7								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		32	34	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で解説する	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面シラバスで段階的に学ぶ中国語	小川都・孟慧・周聖來	飛鳥文化出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】	
ogawa.miyako@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 後期の学習内容の説明	後期の講義計画、成績評価の方法、受講の注意	
	この回の到達目標	前期の内容を振り返り、後期の学習につながる準備ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
2	第9課	行為（已然）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（已然）に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
3	第10課	買い物に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、買い物に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
4	第11課	行為（経験）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（経験）に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
5	第9課から11課までのまとめ	第9課から11課までの文法や単語の復習と小テスト	
	この回の到達目標	第9課から11課までの内容が定着すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
6	第12課	行為（進行・持続）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（進行・持続）に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第13課	行為（結果）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（結果）に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
8	第14課	比較に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、比較に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
9	第12課から14課までのまとめ	第12課から14課までの文法や単語の復習と小テスト	
	この回の到達目標	第12課から14課までの内容が定着すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
10	第15課	能力・好みに関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、能力・好みに関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
11	第16課	可能に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、可能に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
12	第17課	禁止に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、禁止に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第18課	請求に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、請求に関する内容を表現できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
14	総合復習	文法、表現、語彙の復習	
	この回の到達目標	初級の文法事項を理解し、中国語を使った簡単なコミュニケーションができること	
	事前学修	習った内容を整理し、覚える	30分
	事後学修	期末テスト備えてドリルなどで定着度の自己確認を行う	30分
15	期末テスト 講評	試験とフィードバック	
	この回の到達目標	後期の学習効果を確認する	
	事前学修	テストの準備	30分
	事後学修	テスト結果の見直し	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	藤本 澄江	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義と学生主体の授業で半々です。効率的に中国語を理解し、定着できるように、講義では基礎文法を学んでいきます。文法を学んだ後には学生主体のペア練習を行っていきます。本授業は中国語検定4級習得も視野に入れているため、小テストを行います。全体的に難易度の高い授業ではないものの、自主的な学習（暗記）が必須です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回。ペア学習が中心の授業であるため、自主的な学習（暗記）が必須です。ペアは教員が指定し、ほぼ毎回変えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に返却し、解説をおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》できる・つたわるコミュニケーション中国語	岩井伸子・胡興智	白水社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後の当該教室にて。授業時間：金曜1、2、3限。 メールアドレス：fujimoto.sumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	前期の総復習		発音と基本的な表現の総復習をする。	
	この回の到達目標	発音と基本的な表現の理解を確認する。		
	事前学修	教科書（発音・第1課～第8課）の内容に目を通しておく。		30分
	事後学修	教科書（発音・第1課～第9課）の内容で分からなかったことを把握し、分からなかったところを整理し、口に出して練習する。		30分
2	第9課 出来事を尋ねる①		1 動作が発生したことを表す“了” 2 連動文（1）	
	この回の到達目標	1. 夏休みに何をしたら尋ねられるようになる。 2. 「～しに行く」「～しに来る」の表現を身に付けよう。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
3	第10課 出来事を尋ねる②		1 状態補語 2 “是～的” “～なのです”	
	この回の到達目標	1. 夏休みがどうだったか尋ねられるようになる。 2. 出来事について、くわしく表現できるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
4	第11課 希望を尋ねる		1 助動詞“想” “～したい” 2 動作の完了を表す“了” “～した” 3 前置詞“在” “～で”	
	この回の到達目標	1. 相手の希望を尋ねられるようになる。 2. 「どこで～する」の表現を身に付けよう。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
5	第12課 行き方を尋ねる		1 “怎么” “どうやって” “どのように” 2 選択疑問文“AそれともB?” 3 前置詞“” “～に”	
	この回の到達目標	1. 目的地までどうやって行くのか尋ねられるようになる。 2. 2つの選択肢のうちどちらか、尋ねられるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
6	第13課 経験を尋ねる		1 時量補語 2 経験を表す“” “～したことがある” 3 二重目的語をとる動詞“”	
	この回の到達目標	1. 中国語の学習歴を尋ねられるようになる。 2. 経験について尋ねられるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	復習③		第9課～第13課の復習 理解度の確認	
	この回の到達目標	第9課～第13課での学習を振り返り、理解できていなかったところを見つけ、理解できるようになろう。		
	事前学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：挑戦する。③その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：間違ったところをまとめる。		30分
8	第14課 相手の都合を尋ねる		1 助動詞“会”「～できる」 2 助動詞“能”「～できる」 3 連動文（2）方法・手段を表す	
	この回の到達目標	1．相手の都合を尋ね、出かける約束ができるようになる。 2．できること、できないことについて言えるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
9	第15課 比較する		1 比較を表す“比” 2 反復疑問文 3 名詞を修飾する“的”	
	この回の到達目標	2つのものを比べて表現できるようになろう。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：間違ったところをまとめる。		30分
10	第16課 条件・情報を尋ねる		1 前置詞“离”「～から/～まで」 2 “有点儿”「ちょっと」 3 比較を表す“没有” 4 動詞の重ね型	
	この回の到達目標	自分の希望に合うかどうか、条件や情報を尋ねられるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
11	第17課 進行状況を尋ねる		1 動作の進行を表す副詞“在” 2 結果補語	
	この回の到達目標	1．進行中の出来事について、状況を尋ねられるようになる。 2．動作の結果をくわしく言えるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分
12	第18課 別れを告げる		1 助動詞“要”「～しなければならない」 2 変化を表す“了”	
	この回の到達目標	1．相手を見送り、別れを告げる表現を身につけよう。 2．しなければならないことについて言えるようになる。		
	事前学修	①単語：意味確認する。②会話文：朗読練習および翻訳してみる。③文法：目を通す。④練習問題（A・B）：挑戦してみる。⑤その他：分からない箇所を見つけ出す。		30分
	事後学修	①別冊単語帳：漢字練習とピンイン練習をする。②単語・会話文：音声教材を繰り返し聞き、口に出して練習する。③練習問題（A・B）：間違えたところを整理し、口に出して練習する。④小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	復習④	第14課～第18課の復習 理解度の確認	
	この回の到達目標	第14課～第18課での学習を振り返り、理解できていなかったところを見つけ、理解できるようになろう。	
	事前学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：挑戦する。③その他：分からない箇所を見つけ出す。	30分
	事後学修	①復習問題の本文：口に出して練習する。②練習問題：間違ったところをまとめる。	30分
14	総復習	第9課～第18課の総復習をする。中検4級レベルの問題に挑戦してみよう。	
	この回の到達目標	基礎初級レベルをしっかりとおさえよう。	
	事前学修	学習してきた内容を総復習する。	30分
	事後学修	理解していなかった箇所を見つけ、再度復習する。	30分
15	学期末試験	理解度の確認	
	この回の到達目標	後期の学習成果を発揮しよう。	
	事前学修	学習してきた内容を総復習する。	30分
	事後学修	理解していなかった箇所を見つけ、再度復習する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び初歩的発音練習	授業展開方法に関して詳しく紹介し、中国語発音の初歩的練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国語の初歩的発音を習得することができる。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った初歩的発音を復習すること。	30分
2	基礎発音練習(中国語母音)	中国語母音(韻母)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語母音(韻母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語母音(韻母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語母音(韻母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
3	基礎発音練習(中国語子音)	中国語子音(声母)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語子音(声母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語子音(声母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語子音(声母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
4	基礎発音練習(中国語声調)	中国語声調(四声)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語声調(四声)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語声調(四声)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語声調(四声)を自身で発音練習すること。	30分
5	教科書第一課(人称代名詞等)	人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課人称代名詞、名前の聞き方と答え方の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	人称代名詞、名前の聞き方と答え方の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第二課(動詞述語文等)	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第三課(形容詞述語文等)	形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第三課形容詞述語文、疑問詞「誰」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞述語文、疑問詞「誰」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第四課(的)	所有等を表す「的」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、所有等を表す「的」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第四課所有等を表す「的」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	所有等を表す「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	教科書第五課(数字、量詞)	数字、量詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、数字、量詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課数字、量詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	数字、量詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第五課(量詞、序数)	量詞、序数について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、量詞、序数について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課量詞、序数の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	量詞、序数の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第六課(了、想)	完了の「了」、助動詞「想」について学ぶ。	
	この回の到達目標	事前に第六課完了の「了」、助動詞「想」の部分に目を通しておくこと。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、完了の「了」、助動詞「想」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	完了の「了」、助動詞「想」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第六課(多少、幾等)	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第七課(時を表す語)	時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	教科書第七課(時を表す語が述語となる文)	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・発音練習・和訳練習・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	35	5	30								70
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	7	3	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	4	3	3								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	11	43								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
好きです中国語 文法編	中村俊弘・吉田泰謙 他	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	中国語とはどのような言語か。中国語の発音		中国語について 四声の発音練習を行う。
	この回の到達目標	中国語の標準語とはどのような言語かを大まかに説明できる。 四声のそれぞれのイメージを説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキストのはじめに・7ページを一読しておく。	20分
	事後学修	CDを使い四声の発音練習をする。	40分
2	中国語の発音		四声の復習を行う。 単母音・子音の発音練習を行う。
	この回の到達目標	四声のそれぞれのイメージを何も見ないで説明できる。 単母音の発音の仕方を説明できる。 子音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	四声のイメージを何も見ないで説明できるようにする。 テキスト7ページ単母音および8ページ子音を一読し、CDを聞いておく。	15分
	事後学修	四声のイメージを何も見ないで説明できるようにする。 単母音の発音方法を何も見ないで説明できるようにする。 CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	中国語の発音		単母音・子音の復習と練習を行う。 複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。
	この回の到達目標	すべての子音の発音方法を説明できる。 複母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	単母音の発音方法を何も見ないで説明できるようにする。 子音の発音方法を説明できるようにする。 テキスト8ページ複母音・鼻母音を一読し、CDを聞いておく。	15分
	事後学修	複母音・鼻母音の発音方法を何も見ないで説明できるようにする。 子音の発音方法を何も見ないで説明できるようにする。 CDを使い子音・複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	45分
4	中国語の発音 人称代名詞、動詞、副詞		複母音・子音の復習を行う。 第1課 人称代名詞、動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を学習し発音練習する。
	この回の到達目標	複母音・子音の発音方法を何も見ないで説明できる。 人称代名詞が言える。動詞〈是〉を含む文の語順を説明できる。副詞〈也〉〈都〉の意味と文中の位置を説明できる。	
	事前学修	複母音・子音の発音方法を何も見ないで説明できるように復習する。 12～14ページを一読しCDを聞いておく。	15分
	事後学修	テキストを見てCDを使い12～14ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い12～14ページの発音練習をする。	45分
5	人称代名詞、動詞、副詞、指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字		第1課 人称代名詞、動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を復習し、第1課の単語と例文を定着させる。第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字を学習し発音練習をする。
	この回の到達目標	第1課の例文と単語を聞き取れる。 何も見ないで人称代名詞が言える。動詞〈是〉を含む文の語順を説明できる。副詞〈也〉〈都〉の意味と文中の位置を説明できる。	
	事前学修	テキストを見てCDを使い12～14ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い12～14ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い12～14ページの発音練習をする。 18～20ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	15～17ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い12～14ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い12～14ページの発音練習をする。	40分
6	指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語、疑問詞疑問文、数字		15～17ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字の発音練習をする。
	この回の到達目標	指示代名詞の使い方を説明できる。動詞述語文の基本語順を説明できる。連体修飾語と〈的〉の位置を説明できる。疑問詞の文中の位置を説明できる。10までの数字を言える。	
	事前学修	15～17ページのドリルを解いておく。 テキストを見てCDを使い18～20ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い18～20ページの発音練習をする。	20分
	事後学修	テキストのピンインを隠してCDを使い18～20ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い18～20ページの発音練習をする。 第2課のポイントを何も見ないで説明できるようにする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語、疑問詞疑問文、数字、形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方		第1課聞き取りテスト 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字の復習をし、第2課の単語と例文を定着させる。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の学習と練習をする。
	この回の到達目標	第2課の例文と単語を聞き取れる。 1～99までの数字を聞き取れて言える。 動詞述語文の基本語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第1課12～17ページの単語と例文を聞き取れるように練習する。副詞の位置・連体修飾語・疑問詞の位置を説明できるようにする。 テキストのピンインを隠してCDを使い18～20ページの発音練習をする。 24～26ページを一読しCDを聞いておく。	
	事後学修	21～23ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い18～20ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い18～20ページの発音練習をする。	
8	形容詞述語文、年月日・曜日、時刻		21～23ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。
	この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。年月日・曜日、時刻を言える。	
	事前学修	21～23ページのドリルを解いておく。 テキストを見てCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い24～26ページの発音練習をする。	
	事後学修	テキストを見てCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い24～26ページの発音練習をする。	
9	形容詞述語文、年月日・曜日、時刻、指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文		第2課聞き取りテスト 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の復習をし、第3課の単語と例文を定着させる。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文を学習し発音練習をする。
	この回の到達目標	第3課の例文と単語を聞き取れる。 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方について何も見ないで説明できる。 很について説明できる。	
	事前学修	第2課18～23ページの単語と例文を聞き取れるように練習する。 テキストのピンインを隠してCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い24～26ページの発音練習をする。 30～32ページを一読しCDを聞いておく。	
	事後学修	27～29ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い24～26ページの発音練習をする。 テキストを見てCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い30～32ページの発音練習をする。	
10	指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文		27～29ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文を学習し発音練習をする。
	この回の到達目標	場所を表す指示代名詞が言える。所有の〈有〉と存在の〈有〉の文のそれぞれの基本語順を説明できる。副詞〈有点儿〉の位置を説明できる。短縮疑問文について説明できる。	
	事前学修	27～29ページのドリルを解いておく。 テキストを見てCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い30～32ページの発音練習をする。	
	事後学修	テキストを見てCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い30～32ページの発音練習をする。	
11	指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文、選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉		第3課聞き取りテスト 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文の復習をし、第4課の単語を定着させる。 第5課 選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉を学習し発音練習をする。
	この回の到達目標	第4課の例文と単語を聞き取れる。 選択疑問文について説明できる。完了の〈了〉の位置と否定文について説明できる。反復疑問文について説明できる。動詞〈喜歡〉の特徴を説明できる。	
	事前学修	第3課24～29ページの単語と例文を聞き取れるように練習する。 テキストのピンインを隠してCDを使い30～32ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い30～32ページの発音練習をする。 36～38ページを一読しCDを聞いておく。	
	事後学修	33～35ページのドリルを解く。 テキストを見てCDを使い36～38ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い36～38ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い36～38ページの発音練習をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉	33～35ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第5課 選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉の復習をし、第5課の単語と例文を定着させる。	
	この回の到達目標	第5課の例文と単語を聞き取れる。選択疑問文、完了の〈了〉の位置と否定文、反復疑問文、動詞〈喜歡〉の特徴について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	33～35ページのドリルを解いておく。 テキストのピンインを隠してCDを使い36～38ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い36～38ページの発音練習をする。	20分
	事後学修	39～41ページのドリルを解く。 テキストを見てCDを使い36～38ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い36～38ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い36～38ページの発音練習をする。	40分
13	総復習	39～41ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第1課から第5課までの単語・ポイントと関連する語順を復習する。	
	この回の到達目標	注意すべき発音について説明できる。第1課から第5課までの単語と例文を聞き取れる。第1課から第5課までの文法ポイントとそれに関連する語順を説明できる。	
	事前学修	39～41ページのドリルを解いておく。 12～41ページの単語と例文をCDを使い復習する。第1課～第5課のポイントおよび関連する語順を説明できるように復習しておく。	40分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
14	前期の振り返り	第1課から第5課までの期末テストを行う。	
	この回の到達目標	第1課から第5課までの単語と例文を聞き取れる。 第1課から第5課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。 注意すべき発音について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第1課～第5課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。 発音の注意点について復習しておく。	40分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順、説明できなかった発音の注意点を覚えなおす。	20分
15	追試 使役を表す文、因果関係を表す構文、「もうすぐ～する」を表す構文、介詞「在」	追試（14回目の期末試験がやむを得ない事情により未受験の場合）を行う。 期末試験受験済みの場合ビデオで第13課を学修する。	
	この回の到達目標	第1課から第5課までの単語と例文を聞き取れる。 第1課から第5課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。 使役を表す文、因果関係を表す構文、「もうすぐ～する」を表す構文、介詞「在」について説明できる。	
	事前学修	第1課～第5課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。 84～85ページを一読しCDで発音練習をする。 発音の注意点について復習しておく。	40分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	20分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れつつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	15	15	9								39
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認し評価する	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、規定の成果をあげることができたかを評価する	10	10	10								30
その他(実力テスト)	到達目標①、②、③が一定以上のレベルに到達しているかを、実力テストにより評価する	4	4	3								11
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		37	37	26								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	授業では教科書の会話部分を中心に学修します。またGoogleclassroomなどにおいて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・中国語の四声・導入		授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、できれば教科書を購入し、第1課に目を通すとともにCDも聴いておく		60分
	事後学修	教科書・CD・指定されたストリーミング動画などをもちいて四声・既習短文の復習と音読の反復練習をする		30分
2	母音・3声の変調・軽声		母音・3声の変調・軽声の発音とそれらをもちいた短文、いくつかの基礎文法事項などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第1課予習。添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、四声の発音を確認し授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
3	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）など		-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）などの発音とそれらをもちいた短文、いくつかの基礎文法事項を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第2課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
4	舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w		主にプリントを使用し舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wとそれらをもちいた短文、いくつかの基礎文法事項を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第3課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
5	発音と綴りのまとめ		主にプリントを使用し、発音と綴りをまとめ、短文、いくつかの基礎文法事項を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、中国語の発音と綴りについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第4課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wを身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ発音の全般、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
6	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文		教科書ユニット2-第5課にて“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第5課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて中国語の発音と綴りを身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	5課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	反復疑問文・形容詞述語文	ユニット2-第6課にて反復疑問文・形容詞述語文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第6課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	6課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、既習短文の復習と音読の反復練習をする	60分
8	“呢”疑問文・“的”の用法	ユニット2-第7課にて“呢”疑問文・“的”の用法を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第7課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	7課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、既習短文の復習と音読の反復練習をする	60分
9	選択疑問文・数を問う疑問詞	ユニット2-第8課にて選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第8課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	8課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、既習短文の復習と音読の反復練習をする	60分
10	文末付加型疑問文・“吧”の用法	ユニット2-第9課にて文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第9課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	9課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、既習短文の復習と音読の反復練習をする（10課は各自で必ず訳しておくこと）	60分
11	所有の“有”の用法	ユニット3-第11課にて所有の“有”の用法などを学修する（第10課は「講読文の課」につき授業では解説しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第11課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、文末付加型疑問文・“吧”の用法を身につけ授業にのぞむ（今回は第11課）	30分
	事後学修	11課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ所有の“有”、既習短文の復習と音読の反復練習をする。また10課の講読文を訳してみる。	60分
12	ユニット2+αのまとめと復習	ユニット2-第5課～第9課と第11課の復習を通して身に付けるべき文法・単語・短文を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、文法・単語・短文を復習し、学修済みの文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書前半第5課～11課を復習。前課の復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	第5課～第10課及び第11課のノート整理。教科書・CD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、既習文法・単語・既習短文を復習し音読の反復練習をする。また10課の講読文を訳してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書前半の復習	前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して前期の内容を復習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書前半第1課～11課を復習。教科書、添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、前期の学修内容を復習しつつ、前期学修範囲と10課講読文について疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
	事後学修	第5課～第10課及び第11課のノートによる学修。前期の内容を教科書・CD・指定されたストーリーミング動画などを持ち復習するとともに音読の反復練習をする	120分
14	期末筆記試験・まとめ	本授業で最も重要な前期単位認定期末筆記試験を実施する（受験必須）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを身に付け説明することができる	
	事前学修	教科書、添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
	事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習と短文音読の反復練習をする	30分
15	実力テスト・まとめ	一定以上のレベルに到達しているかを判定するための前期期末実力テストを実施する（実力テストの詳細は授業にて説明）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期学修内容を一定レベル以上に身に付け、正しく応用することができる	
	事前学修	教科書、添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、十分な復習を行って、実力テストに備えるとともに、質問があればまとめておく	120分
	事後学修	前期を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、最新の中国事情についても紹介する。1 課終了ごとに小テストを実施し、次の授業までに返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50、木曜日9：00～12：10（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） homma.naoto11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【発音練習】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 発音練習	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
2	【発音練習】【人称代名詞などについて】	発音練習、第1課 人称代名詞、“是”の文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。また、人称代名詞などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	【名前の聞き方と答え方、場所を表す指示代名詞などについて】	第1課 名前の聞き方と答え方について、第2課 場所を表す指示代名詞などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名前の聞き方と答え方について、また、場所を表す指示代名詞などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	【疑問詞、省略疑問文などについて】	第2課 疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【副詞“都……”について】	第3課 副詞“都……”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞“都……”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
6	【形容詞述語文について】	第3課 形容詞述語文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【指示代名詞、“的”の用法について】	第4課 指示代名詞、“的”の用法について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞、“的”の用法について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
8	【所有などを表す“有”、副詞“也”について】	第4課 所有などを表す“有”、副詞“也”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有などを表す“有”、副詞“也”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	【数字、量詞について】	第5課 数字、量詞について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字、量詞について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
10	【序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について】	第5課 序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【完了の“了”、助動詞“想”について】	第6課 完了の“了”、助動詞“想”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了の“了”、助動詞“想”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
12	【存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて】	第6課 存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について】	第7課 時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
14	【時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について】	第7課 時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	吉富 透	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語の発音・意味・字体が日本語と全く違う外国語であると認識している者が望ましい。

【授業方法】
演習形式の授業を行う。文法説明の講義に終始せず、理解度確認の作文練習を時間内に行う。外国語授業であるため、読めるようになることも重要である。そのため指定された文を読めるかどうかの確認も同時に行うように、学生参加型の授業である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音指導、基本文型を用いた応用作文練習を随時行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・朱芸 共著	郁文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室内で受け付ける。後日の質問は次のメールでお願いします。 yoshitomi.torull@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 中国語とは		現代中国語と漢文・日本漢字との意味や字形・発音の違いを説明する。これにより受講生が 日本語漢字で簡単に習得できるという安易な発想をさせない。また授業計画・成績評価等の 説明により、中国語学習に対する意識を高めることができる。	
	この回の到達目標	現代中国語と日本語漢字の字形と意味に違いがあることを理解する。 日本語漢字音と現代中国語の発音との大きな違いがあることも理解する。		
	事前学修	まえがきと発音篇の説明を読み、声調とはどういうものであるのか音声ファイルをダウンロードして聞いておく。		30分
	事後学修	音声ファイルを聞いて声調練習をしてみる。		30分
2	発音練習 1 中国語の声調・単母音・複合 母音		4つある声調と単母音・複合母音の発音を説明し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して4つの声調と単母音・複合母音が正しく発音できる。		
	事前学修	音声ファイルを聞いて単母音・複合母音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。		30分
	事後学修	音声ファイルを聞いて復習し、さらにピンイン表記を書いて覚える。		30分
3	発音練習 2 中国語の鼻母音・子音とその 組み合わせ		日本語でも使い分けている鼻母音と子音の発音の仕方を説明し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、鼻母音と子音の発音ができる。		
	事前学修	音声ファイルを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。		30分
	事後学修	CDを聞いて発音の復習をし、実際の発音とピンイン表記e, iの違いを確認し覚える。 ピンインを書いて覚える。		30分
4	発音練習 3 ピンイン表記の音声変化・声 調の変化		見た目のローマ字（ピンイン）通り読めない綴りと“一” “不” の声調変化パターンを説明 し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、間違えやすいローマ字（ピンイン）の組み合わせを正しく発音できる。		
	事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。		30分
	事後学修	ある母音で始まるピンイン表記が変化することを書いて確認し発音してみる。 声調の変化がある第三声と“不” “一” の変化を確認し、書いて覚える。		30分
5	発音の総復習		数字を用いた年月日曜日、時刻の尋ね方と答え方を説明し、中国語で実際に受け答えがで きる ように発音練習と併せて練習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、年月日曜日・時刻について答えることができる。		
	事前学修	日本語と漢字表記が違うものをピックアップし、先に単語を覚える。 CDを聞いてピンインを見ながら発音練習してみる。		30分
	事後学修	日本語表記と違う単語を再確認する。 ピンイン表記を再確認し、CDを聞いて発音してみる。		30分
6	第1課 名前の聞き方と答え方・動詞述語文（1）・ドリル問題		中国語で名前の言い方、尋ね方を説明し、実際に答えられるよう練習する。 基本文型「AはBです」の肯定・否定・疑問の形を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の名前や「AはBです」の基本文型を用いて中国語で正しく答えることができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 自分の名前の簡体字・ピンインを中国語辞書で調べておく。		30分
	事後学修	自分の名前の簡体字とピンイン表記を再確認する。 「AはBです」の肯定文・否定文・疑問文を再確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課 疑問詞疑問文・名詞の修飾の仕方・副詞「も」の用法・ドリル問題	指示代名詞と疑問詞「なに」「だれ」を用いた「Aは（も）Bです」の文型に、名詞を修飾する助詞の用法を説明し、第1課の基本文型を応用発展させた表現ができるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞を用いた「AはだれのBです」を中国語で正しく答えることができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	人称代名詞・指示代名詞を確認する。 第1課と第2課の疑問文の違いを確認する。 名詞を修飾する場合の「の」に相当する“的”が不要なケースを再確認する。	30分
8	第3課 場所代名詞・形容詞述語文・疑問詞「どうですか」・ドリル問題	述語が形容詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現ができるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 形容詞述語文に“是”が用いられてないことを確認しておく。	30分
	事後学修	場所代名詞をしっかり覚える。 形容詞述語文の肯定文・否定文・疑問文の特徴を再確認する。特に副詞との組み合わせに注意。	30分
9	第4課 動詞述語文（2）・時点を表す語句の位置・省略疑問文・ドリル問題	述語が動詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、SVO文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 時点の語句は16－17頁参照。	30分
	事後学修	動詞述語文と時点を組み合わせた文に慣れるよう書いて覚える。	30分
10	第5課 所在の表現・方位詞の用法・前置詞“離”を用いた表現・ドリル問題	「AはBにある/いる」の肯定文・否定文・疑問文の文型と前置詞「から」の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所在と前置詞構文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	英語の前置詞句と違うことを再確認する。 日本人の言語習慣上忘れやすい「中」を再確認し、日中言語の相違を再考する。	30分
11	第6課 所有の表現・量詞＋名詞の組み合わせ・二種類の数の尋ね方・ドリル問題	日本語の助数詞に当たる量詞と名詞の組み合わせと「AはBを持っている/がある」の肯定文・否定文・疑問文の文型を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語式モノの数え方と所有文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 今までの否定文と違うことに着目しておく。	30分
	事後学修	量詞と名詞の組み合わせは一定なので、単語で覚えるよりもセットで確認する。 所有の否定文に用いられる“没”を再確認する。	30分
12	第7課 存在を表現する“有”の文・各種年齢の尋ね方・ドリル問題	「AにBがいる/ある」の肯定文・否定文・疑問文と年齢表現・親族の名称を説明し、簡単な家族紹介ができるよう練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の存在表現文との違いを理解し家族紹介を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課“在”と第6課“有”の違いを確認しておく。	30分
	事後学修	短文を自分の家族構成に沿って表現できるようにする。 第5課から第7課までの“在”と“有”、場所を表す語句がどのように並び替えされるのか再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第8課 前置詞“在”を用いた表現・連動文（1）・ドリル問題	前置詞“在”を用いた動詞文の構造を説明した後、これと同じ構造の連動文も併せて説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の前置詞文との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語の前置詞句と違うことを確認しておく。	30分
	事後学修	4つの「で」に相当する前置詞を使い分けできるよう再確認する。 場所表現が置かれる位置を確認し、中国語の基本動詞述語文の構成を再確認する。	30分
14	第9課 動作の完了表現・前置詞“跟”を用いた表現・ドリル問題	動作の完了文型と前置詞“跟”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課と第8課の前置詞文との同異を再理解し、かつある動作が終了したことを中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞句を確認しておく。	30分
	事後学修	動作の完了を表現する“了”の位置と否定文・疑問文を再確認する。 述語が形容詞の場合の前置詞句を再確認する。	30分
15	前期の総合復習	授業内試験を実施し、後に解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の漢字（簡体字）と発音表記ピンインで正しく表現することができる。	
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種否定文の違いを整理して覚えること。	30分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと数と量詞を用いた肯定文を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③本文の音読④発音指導⑤文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。本文で扱っている単語は辞書を引いて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐらい音読を繰り返しましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学んだ文法項目を使用して、身近な事柄を中国語で伝え、相手にも尋ねる。 学んだ文法項目を使用して、日常生活でよく使われる文章を書く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる能力が身に付いているかを評価する。	8	8	4								20
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで応対します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。また、これから学ぶ「中国語」という言語の特徴について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。また、「中国語」という言語の特質について説明することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	辞書は特に必要ないが、個人的に用意したい場合は相談してください。	30分
2	発音①「声調と母音（韻母）」	「声調（四声）」の取り方について学ぶ。 「単母音」の発音方法について学ぶ。 「複母音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、「声調（四声）」について、声調符号に従ってそれぞれ正しくコントロールできる。また、「単母音」と「複母音」について、それぞれの口の使い方を理解しながら正しい音声を発することができる。	
	事前学修	1年生の時に使用した教科書等で発音の基礎を復習しておきましょう。	30分
	事後学修	「声調」、「単母音」、「複母音」について、授業で配布した教材を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
3	発音②「子音（声母）」	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、息、唇、舌、歯、顎の使い方に注意しながら、発音表記に従ってそれぞれ正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「声調」、「単母音」、「複母音」の発音方法について、よく復習しておくこと。	30分
	事後学修	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」について、授業で配布した教材を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
4	発音③（「鼻母音」とその他の発音の注意点）	「鼻母音」の発音方法について学ぶ。また、「轻声」や「変調」についても補足説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、「n」と「ng」及び母音の音声の相違を識別して正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法についてよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	「n」と「ng」の違いに留意して、授業で配布した教材を参考にしながら繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
5	第1課 自己紹介をしよう	人称代名詞を学ぶ。 動詞「是」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞「是」を用いた文の語順の特徴について説明することができる。 到達目標②の達成のため、動詞「是」を用いて自分の国籍や身分を書くことができる。 到達目標③の達成のため、出身を言ったり尋ねたりできる。	
	事前学修	動詞の「是」と中国語の人称代名詞について、辞書で意味・用例を調べておくこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	人称代名詞と動詞の「是」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。 さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	第2課 何を食べるのかを伝えよう	動詞述語文について学ぶ。 疑問詞の「什么」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞述語文における中国語と日本語の語順の相違点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、「何を食べるのか」を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	「食べる」、「飲む」、「学ぶ」等の日常的によく使う動詞について、基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動詞述語文と疑問詞の「什么」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。 さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3課 どこに行くのかを伝えよう。	動詞の「去」と「来」の使い方を学ぶ。 疑問詞の「nar3」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、「どこへ行くのか」を伝えたり尋ねたりできる。 中国語の疑問詞の基本的な用法について説明できる。	
	事前学修	身近な場所を表す名詞を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	動詞述語文と疑問詞の「nar3」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	第4課 味や体調を伝えよう	形容詞述語文の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、中国語の形容詞述語文の文法的な注意点について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、形容詞述語文を用いて、人柄や容姿、味などの感想を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	「甘い」や「辛い」等の日常的によく使う形容詞について、基本的な意味と用例を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	形容詞述語文について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	第5課 生年月日や年齢を伝えよう	数字、年月日、年齢の言い方について学ぶ。 疑問詞の「几」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	中国語の0～99までの数字を正確に言えるようになる。 自身の生年月日を伝えられるようになる。 自身の年齢を伝えられるようになる。	
	事前学修	0～10までの数字のピンインを辞書で調べておく。	30分
	事後学修	疑問詞の「几」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	第6課 自分の持ち物を伝えよう	動詞の「有」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞の「有」について語順の型式を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、自分の身の周りの持ち物について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	身内や自身の所持品を表す中国語の単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「有」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
11	第7課 持ち物の数量を伝えよう	名量詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、名量詞について中国語と日本語の語順の相違について対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、自分の持ち物の数について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	身内や自身の所持品を表す中国語の単語を辞書で調べておくこと。 0～99までの数字の言い方を復習しておく。	30分
	事後学修	名量詞について、要点をノートに整理すること。また、第5課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	第9課 中国語文法概説A	現代中国語の文法的特徴について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、現代中国語の大まかな特徴を文法面から考え、説明できるようになる。	
	事前学修	日本語と英語の文法的特色を整理しておくこと。	30分
	事後学修	解説内容を振り返っておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 期末試験の準備	これまでに学修した文法項目の要点を復習する。 日文中訳の筆記問題を数多く解き、知識の定着を図る。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、前期に学修した内容を整理し、文法項目ごとにその要点を説明することができる。 到達目標②と③の達成のため、中国語の本文を正確に発音することができる。	
	事前学修	前期に配布したスライドをすべて読み返すこと。 練習問題をもう一度解いて、間違った問題を重点的に覚えること。	30分
	事後学修	前期の講義スライドを見直し、講義内容を踏まえて補充する。	30分
14	期末試験・復習	前期で学修した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	前期で学修した内容について、授業内で配布した資料で復習をしておくこと。	30分
	事後学修	前期で学修した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	前期で学習した内容を振り返り、試験のフィードバックも行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①②③について、前期の学修内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話練習や書き取りを行う。問題集がついているので、必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。筆記試験については採点し、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	10	5								25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験などについて採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版)「中国語はじめての一步」	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	シラバスの概要 中国語について		1、ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明する」 2、中国の概況 3、中国語の発音：短母音、声調
	この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：短母音、声調	
	事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	30分
	事後学修	短母音、声調の復習	30分
2	中国語の発音		発音：子音、複合母音
	この回の到達目標	発音：子音、複合母音の発音ができる。	
	事前学修	子音、複合母音の予習	30分
	事後学修	子音、複合母音の復習	30分
3	中国語の発音		発音：鼻母音、発音のトレーニング
	この回の到達目標	鼻母音の発音ができる。	
	事前学修	鼻母音の予習	30分
	事後学修	発音の総復習	30分
4	第1課		第1課 「あなたは中国人ですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. “是” の文
	この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
5	第1課		第1課 「あなたは中国人ですか。」 本文、トレーニング
	この回の到達目標	第1課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと	30分
	事後学修	第1課の総復習	30分
6	第2課		第2課 「これはなんですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 (1) 2. 疑問詞疑問文 3. “的” の用法 4. 副詞
	この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第2課		第2課 「これはなんですか。」 本文、トレーニング、	
	この回の到達目標	第2課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第2課の総復習		30分
8	第3課		第3課 「あなたはどこに行きますか。」 本文訳 ポイント 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
9	第3課		第3課 「あなたはどこに行きますか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第3課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第3課の総復習		30分
10	第4課		第4課 「このバックはいくらですか」 本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 指示代名詞 (2) 3. 形容詞の文 4. “几” と“多少”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
11	第4課		第4課 「このバックはいくらですか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第4課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第4課の総復習		30分
12	第5課		第5課 「あなたは夜用事がありますか。」 本文訳 ポイント 1. 数字 2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現	
	この回の到達目標	第5課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課 「あなたは夜用事がありますか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第5課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	第5課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第1課～5課のまとめ。（前期末授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内の復習で、問題点を解説し、正しく理解できる。	
	事前学修	第1課～5課の復習、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	前期のまとめ	①フィードバック、質疑応答（筆記試験問題について解説する。） ②会話テストを行うか、または書き取りをやる。	
	この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を総復習し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語文法の習得を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話を中心に発音(ピンイン)による中国語表記とを繰り返し練習し、基本的な文の構造を学習する。 学んだことを演習形式で実践する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	30	20	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖來、劉秋佳、于曉飛	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考	備考授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：syu.seirai@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むこと。	60分
	事後学修	教科書を用意すること。	60分
2	発音編①	発音 母音、子音と声調	
	この回の到達目標	中国語の発音を覚えること。	
	事前学修	ピンインを予習して、発音を練習すること。	60分
	事後学修	勉強した発音を、音声を聞きながら覚えること。	60分
3	発音編②	声調変化 簡単な単語を覚えさせる	
	この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
	事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
	事後学修	発音を練習して、単語を暗記すること。	60分
4	発音編③	ピンインの総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ、また正しく発音できるように。	
	事前学修	前回の内容を復習しておくこと。	60分
	事後学修	教科書の練習と配った練習問題を復習すること。	60分
5	第1課	形容詞記述文 自己紹介	
	この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。 形容詞を用いる文を勉強する。	
	事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備すること	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。	60分
6	ピンインと第1課の練習	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	氏名表現と形容詞の使用方法	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第1課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間テスト・振り返り	ピンインと自己紹介	
	この回の到達目標	ピンインの暗記、自己紹介ができるようになる。	
	事前学修	今までに学んだ発音、ピンインなどを応用することができる。	60分
	事後学修	第2課の内容を予習すること。	60分
8	第2課	“是”を用いた文	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第2課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
9	第2課 第3課	第2課の練習問題を解いて答え合わせ 動詞述語文	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第3課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
10	第3課	第3課の練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第3課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
11	第4課	動態助詞ー“了”	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第4課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
12	第4課 第5課	第4課の練習問題を解いて答え合わせ “是”的構文	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第5課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課の練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第5課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
14	復習及び口頭試験	期末試験の復習 口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	期末筆記試験・まとめ	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
3分の2以上の出席が必要、積極的に授業での練習に参加すること。出席状況、宿題提出など含めて、授業態度が悪いと成績の評価に10%に減点することになります。

【授業方法】
発音、基礎文法、基本表現の学習を授業行う。授業の前半は学習、後半は応用練習、授業中で一人ずつ発音と文法表現を練習させ、質問を翻訳、通訳、回答などを通して、確認して毎回A,B,C 三つのレベルで平常点で評価します。 授業終わる前の10分間に学生からの質問時間を用意しますので、フィードバックは授業内において行う。 出席、提出ものの状況によって、勉強姿勢をとして悪いと10点まで減点します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎日中国語の四字熟語や諺やネット用語や新しい流行語の一つを覚え、授業の時一人ずつ、発表する。 毎回授業終わる前に10分ほどを用意する。 勉強した中国語を使って先生と話してみる、通じるとプラス評価をもらう。 一つ中国語の漢詩や歌や簡単な文章を覚えさせ、暗唱することを確認する。前期と後期のうちに2回ずつ行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	以下の到達目標項目を確認する ①中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。 勉強した基礎表現の日本語、中国語、ピンインを自由に書き換えできる ②基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。 勉強した基礎表現の日本語意味理解し、質問の答え文を中国語で書き出すできる	30	30									60
小テスト等	以下の到達目標項目を確認する ①③中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。 1. ピンインの子音表と母音表を暗記暗唱ができる 2. 学んだ基礎単語の漢字とピンインの聞き取りと書き取りができる 3. 簡単な挨拶言葉と日常会話の聞き取り、書き取りができる	10		10								20
レポート等												
討論・発表等	1. 漢詩と文章を翻訳して、暗唱暗記できる 2. 簡単な自己紹介文を書き、朗読ができる		10									10
授業への参画度												
その他(発音の確認)	1. 正確発音でピンインを読むことができる 2. 新出単語と会話表現を正確発音で話せる 3. 正確発音で簡単な挨拶言葉と日常会話を話せる			10								10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『文型から覚える中国語』	周聖来・劉秋佳等共著	飛鳥文化出版	2022. 4 初版	教科書	必携
備考	ISBN：9784907277024 飛鳥文化出版 2022年4月初版発行 2400円				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有
実務経験の内容	NHK文化センターの中国語講座はじめ、大手企業の海外派遣社員のための中国語講座、複数の大学中国語言語文学講義を20年以上、実務している。
実務経験に基づく実践的教育の内容	中国語を教える上に中国の文化と社会事情も伝えて中国の理解を深める。 LINEとWechatの交流コラムを通じて関連情報を共有して紹介する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1回導 入 導入講義		中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください		30分
	事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します		30分
2	第2回(発音一)		韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
3	第3回 （発音二）		複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
4	第4回 （発音三）		特殊発音、声調の変化 （授業用語）	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	発音練習予定部分を学習してください		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
5	第 5 回 発音部分の小テスト		発音の総合練習とテスト	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の練習と配布した練習問題を復習してください		30分
	事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください		30分
6	第 6 回 第1課 今天天气怎么？		形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第7回 第2課 你是哪国人？		貴方はどの国の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
8	第8回 第3課你是大学生？		君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
9	第9回 応用練習と文化事情		会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
10	第10回 第4課 你吃早了？		あなたは朝ご飯を食べましたか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
11	第11回 第5課 你是怎么来学校的？		第5課 あなたはどうやって学校に行きましたか “是～的”構文	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
12	第12回 会話の応用練習		会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第13回 総復習 前期学習の総合練習		前期の学習要点をまとめ、復習問題を配布し、総合練習します。
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
14	第14回 授業内テスト		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分
15	第15回 テストのまとめと再試験、追試験		テストのまとめと再試験、追試験
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 順子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語初学者を対象とする講義内容である。

【授業方法】		
教科書に沿って進める。 課ごとに練習問題を使って習得度を確認する。 フィードバックは授業内で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の習得度を授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での発音練習や練習問題の取り組み姿勢から①②③が身に付いているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で板書により解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発 中国語	本間直人 栗原千里 王熙萍	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で質問を受け付ける。授業時間：月曜日 3～5 時限 kurihara.yoriko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語について	中国語普通話の概説 中国語検定試験について 辞書など教材について 四声の練習	
	この回の到達目標	中国語普通話の特徴や仕組みを理解する 四声を区別できる	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと 教科書に目を通しておくこと	30分
	事後学修	四声発音を練習すること	30分
2	単母音・子音発音練習	単母音の練習 四声の復習	
	この回の到達目標	四声をつけて単母音を発音できる 子音と母音を組み合わせた発音ができる	
	事前学修	単母音の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	単母音と子音の組み合わせを確認しておくこと	30分
3	複合母音・鼻母音発音練習 ピンインのまとめ	複合母音・鼻母音と子音を組み合わせで発音する ピンインつづりの解説	
	この回の到達目標	中国語音節表の音を全てはあくできる 正しくピンインを表記できる	
	事前学修	中国語音節表を確認しておくこと	30分
	事後学修	中国語音節表を発音してみる	30分
4	関係動詞の文 名前の言い方	第1課 単語 本文訳 是の文 名前の言い方 練習問題	
	この回の到達目標	中国語の動詞述語文の基本を理解する	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	練習問題を確認してみる	30分
5	指示代名詞 疑問詞疑問文	第2課 単語 本文訳 指示代名詞 疑問詞疑問文 練習問題	
	この回の到達目標	様々な疑問文の形を覚える	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	練習問題を確認しておくこと	30分
6	副詞の使い方	第3課 単語 疑問詞疑問文 副詞	
	この回の到達目標	様々な疑問詞や副詞の意味を覚える	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	形容詞述語文	第3課 形容詞述語文 練習問題	
	この回の到達目標	形容詞述語文の文型を理解する	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
8	連体修飾語	第4課 単語 本文 連体修飾語	
	この回の到達目標	連体修飾語を使った表現をつくれる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分
9	所有を表す文	第4課 所有を表す文 練習問題	
	この回の到達目標	所有を表す文をつくれる	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
10	家族・数字の表現	第5課 単語 本文 家族の名称 数字表現	
	この回の到達目標	100以下の数字を中国語で表現できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	身近な数字を中国語で発音してみること	30分
11	量詞表現	第5課 量詞 数を尋ねる疑問詞 練習問題	
	この回の到達目標	名詞と量詞を正しく組み合わせることができる	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
12	完了表現	第6課 単語 本文 完了の文	
	この回の到達目標	完了を表す文をつくらることができる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	助動詞		第6課 願望を表す助動詞 存在を表す文 練習問題
	この回の到達目標	助動詞の使い方を理解する	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
14	前期学習の確認		前期学習内容の確認となる授業内試験
	この回の到達目標	正しくピンインを発音できる 学習した文法事項を理解できる	
	事前学修	前期学習部分に目を通しておくこと	30分
	事後学修	不明点をまとめ、確認すること	30分
15	前期学習の復習		教科書本文・文法事項例文・練習問題の確認
	この回の到達目標	本文を発音できる 文法事項例文の意味を理解できる	
	事前学修	前期学習内容の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	後期学習内容に目を通しておくこと	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	小川 都	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オーディオリンガル教授法を利用し、段階的に中国語の文法や表現を説明していく。発音や会話にも力を入れ、楽しい教室活動を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した活動やタスクを与え、学生の活発な授業参加を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が身についているかを授業内テストにより 評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進捗に合わせ、到達目標の①②③の習得程度につい て確認する。	6	7	7								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問をして、授業に積極的に参加しているか、ま た、到達目標①②③の習得程度を確認する。その出来具合 によって評価する。	6	7	7								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		32	34	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面シラバスで段階的に学ぶ中国語	小川 都・孟 慧・ 周 聖来	飛鳥文化出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
ogawa.miyako@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語とは	年間講義の計画、成績評価の方法、授業の運び方を紹介する。	
	この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
2	発音①	発音について学ぶ 音節、声調、単母音	
	この回の到達目標	声調を理解し発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
3	発音②	発音について学ぶ 複合母音、鼻母音	
	この回の到達目標	鼻母音の違いを理解し、発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
4	発音③	発音について学ぶ 声母、有気音と無気音、そり舌音	
	この回の到達目標	声母の違いを理解し、発音できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
5	発音④	発音について学ぶ 軽声、アル化、変調	
	この回の到達目標	ピンインの特徴や聞き取れること、また、正しい発音ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
6	発音⑤	発音の到達度を確認する 発音と書き取りのテスト	
	この回の到達目標	発音を聞き取れ、また、ピンインの表記ができること	
	事前学修	ピンインに関する復習	30分
	事後学修	テスト問題の見直し	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1課	挨拶に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、簡単な挨拶ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
8	第2課	身分に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、中国人の身分について理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
9	第3課	時刻・日にちに関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、時刻・日にちを中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
10	第4課	家庭構成・年齢に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、家族の紹介を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
11	第5課	方位に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、方位に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
12	第6課	評価に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、評価に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第7課	行為（未然）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（未然）に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
14	第8課	職業に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、職業に関する内容を中国語で言えること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
15	前期末テスト まとめ、解説	まとめ、試験、フィードバック	
	この回の到達目標	前期で学んだことを整理し、定着すること	
	事前学修	前期の内容を教材を使用し復習すること	30分
	事後学修	テストの結果を見直し	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	林 怡州	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語のネイティブ話者、小学校以上の中国語教育を受けた者は本科目を受講せず、他言語の科目を受講することが望ましい。

【授業方法】
中国語の発音と声調をしっかりと身に付け、文法ポイントの基本文型を修得できるよう指導する。日本語との相違に留意しつつ、通じる会話を身につける。生活に密着した表現や中国・台湾の最新事情も随時取り入れ紹介する。目安として、約3回の講義で2課分を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方向的な授業ではなく、学生参加型の講義。毎回の講義で学習者に発音練習をさせ、フィードバックしていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標①②③に関わる中国語知識が身についているかについて検証する。	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	受講態度・授業中の質疑応答などを総合的に評価する。		3	3	3	3	3					15
その他(課題の提出)	第3回目の講義以降、『簡体字ドリル』の課題を2回提出し、添削したあと、後日返却する。							25				25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	3	3	3	3	3	25				100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出した課題を添削し、提出者に個別に説明する。小テストの実施後、全体的に解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実学実用・初級中国語（ライト版）：講義用	陳淑梅・劉光赤	朝日出版社	2019年	教科書	必携
超入門！書いて覚える簡体字ドリル：課題用	林怡州	ナツメ社	2021年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:00～14:30／月曜日18:00～18:30 講師室（事前に右記のメールでアポイントメントを取ってください） lin.yizhou@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【中国語とは】	「基本知識」：中国語及び中国・台湾について 「第1課」：声調（四声）および単母音の修得	
	この回の到達目標	中国語及び中国・台湾に関して、基本的な知識を学習し、第1課の声調（四声）・単母音を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	中国語及び中国・台湾に関して、基本的情報を調べておくこと。	90分
	事後学修	中国語及び中国・台湾に関して、基本的な知識を整理し、学習した声調および単母音を復習する。	160分
2	【発音練習】 【ピンイン表記】	前回講義の復習を行う。 「第1課」：単母音の修得 「第2課」：複母音の修得	
	この回の到達目標	第1課の単母音および第2課の複母音を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	予め音声を聴いて、第1課・第2課の発音に慣れること。	90分
	事後学修	第1課のドリルおよび第2課の前半を音読し、学習した複母音を復習する。	160分
3	【発音練習】 【ピンイン表記】	前回講義の復習を行う。 「第2課」：引き続き複母音の修得 「第2課」：“不”と“一”の声調変化	
	この回の到達目標	第2課の複母音を声に出して繰り返し練習し、ドリルを行い、その内容ができるようになること。	
	事前学修	予め音声を聴いて、第2課の発音に慣れること。	90分
	事後学修	第2課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P13の簡体字を書いて練習すること。	160分
4	【発音練習】 【ピンイン表記】	前回講義の復習を行う。 「第3課」：子音（無気音・有気音）の修得	
	この回の到達目標	第3課の子音（無気音，有気音）を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	予め音声を聴いて、第3課の発音に慣れること。	90分
	事後学修	第3課の子音を音読し、内容を確認する。課題：参考書P15の簡体字を書いて練習すること。	160分
5	【発音練習】 【ピンイン表記】	前回講義の復習を行う。 「第3課」：引き続き子音の修得 「第4課」：鼻母音の修得	
	この回の到達目標	第3課の子音および第4課の鼻母音（-n，-ng）を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	予め音声を聴いて、第3課・第4課の発音に慣れること。	90分
	事後学修	第3課のドリルおよび第4課の前半を音読し、学習した鼻母音を復習する。課題：参考書P17の簡体字を書いて練習すること。	160分
6	【発音練習】 【ピンイン表記】	前回講義の復習を行う。 「第4課」：引き続き鼻母音の修得 「第4課」：数字表現の修得	
	この回の到達目標	第4課の鼻母音を声に出して繰り返し練習し、ドリルを行い、その内容ができるようになること。	
	事前学修	予め音声を聴いて、第4課の発音に慣れること。	90分
	事後学修	第4課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P19の簡体字を書いて練習すること。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【発音の総復習】		第1課から第4課まで、学習した内容をおさらいし、第5課の予備学習を行う。写真や映像を用いて、中国・台湾の事情を紹介する。	
	この回の到達目標	ピンイン表記を読めるようになる。		
	事前学修	第1課～第4課の学習内容を再確認する。		90分
	事後学修	第1課～第4課のピンイン表記を読めるように発音練習する。課題：参考書P21の簡体字を書いて練習すること。		160分
8	第5課「キャンパスで初対面」		「第5課」の文法要点：「動詞“是”」「語気助詞“ne”」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「動詞“是”」「語気助詞“ne”」ができるようになること。		
	事前学修	第5課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。		90分
	事後学修	第5課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P27の簡体字を書いて練習すること。		160分
9	第5課「キャンパスで初対面」 第6課「名前を尋ねる」		前回講義の復習を行う。 「第5課」の文法要点：「人称代名詞」の修得 「第6課」の文法要点：「姓名の言い方」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「人称代名詞」「姓名の言い方」ができるようになること。		
	事前学修	第6課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。		90分
	事後学修	第5課のドリルおよび第6課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P29の簡体字を書いて練習すること。		160分
10	第6課「名前を尋ねる」		前回講義の復習を行う。 「第6課」の文法要点：「相手の名前の尋ね方」「助詞“的”」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「相手の名前の尋ね方」「助詞“的”」ができるようになること。		
	事前学修	第6課全ての内容を理解する。		90分
	事後学修	第6課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P31の簡体字を書いて練習すること。		160分
11	第7課「喫茶店で」		前回講義の復習を行う。 「第7課」の文法要点：「動詞述語文」「疑問詞疑問文と反復疑問文」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「動詞述語文」「疑問詞疑問文と反復疑問文」ができるようになること。		
	事前学修	第7課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。		90分
	事後学修	第7課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P33の簡体字を書いて練習すること。		160分
12	第7課「喫茶店で」 第8課「趣味を語る」		前回講義の復習を行う。 「第7課」の文法要点：「選択疑問文」の修得 「第8課」の文法要点：「助動詞“想”」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「選択疑問文」「助動詞“想”」ができるようになること。		
	事前学修	第8課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。		90分
	事後学修	第7課のドリルおよび第8課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P35の簡体字を書いて練習すること。		160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第8課「趣味を語る」	前回講義の復習を行う。 「第8課」の文法要点：「連動文」「動詞“喜歡”」の修得	
	この回の到達目標	第8課の本文会話を練習し、ドリルを行い、その内容ができるようになること。	
	事前学修	第8課全ての内容を理解する。	90分
	事後学修	第8課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P37の簡体字を書いて練習すること。	160分
14	第9課「Tシャツを買う」 第10課「レストランで」	この2課の文法要点を分かりやすく説明する。	
	この回の到達目標	ポイント「量詞」や「助詞“過”」「形容詞述語文」などを理解すること。	
	事前学修	第9課および第10課のポイントの内容を認識する。	90分
	事後学修	第9課および第10課の文法内容を確認する。課題：参考書P39の簡体字を書いて練習すること。	160分
15	【小テスト】	小テストの実施および解説を行う。	
	この回の到達目標	「HSK」1級・「中国語検定試験」準4級レベルまでもっていく。	
	事前学修	前期の学習内容を再確認する。	160分
	事後学修	課題である簡体字ドリルの内容を全て再度確認する。課題：参考書P41の簡体字を書いて練習すること。	90分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教科書第八課(動作回数、継続時間等)	動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課動作回数と継続時間、時間の長さの表現の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動作回数と継続時間、時間の長さの表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	教科書第八課(離合詞、従、在)	離合詞、介詞「従」「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、離合詞、介詞「従」「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課離合詞、介詞「従」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	離合詞、介詞「従」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第九課(過、会、能、可以)	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に教科書第九課経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第九課(反復疑問文、選択疑問文)	反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第九課反復疑問文、選択疑問文「還是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	反復疑問文、選択疑問文「還是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第十課(方位詞、有、在)	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第十課(給、喜歡)	介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課介詞「給」、動詞「喜歡」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「給」、動詞「喜歡」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第十一課(様態補語、動詞重ね型)	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第十二課(離、連動文)	介詞「離」、連動文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、介詞「離」、連動文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課介詞「離」、連動文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「離」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	教科書第十二課(在)	動作進行の「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、動作進行の「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課動作進行の「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動作進行の「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第十二課(別、的)	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第十三課(是～的)	「是～的」構文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「是～的」構文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十三課「是～的」構文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「是～的」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第十三課(比較表現)	比較表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、比較表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十三課比較表現の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第十四課(二重目的語)	二重目的語を取る動詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、二重目的語を取る動詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十四課二重目的語を取る動詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	二重目的語を取る動詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十四課(譲)	使役の「譲」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十四課使役の「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	使役の「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・発音練習・和訳練習・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	35	5	30								70
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	7	3	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	4	3	3								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	11	43								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
好きです中国語 文法編	中村俊弘・吉田泰謙 他	朝日出版社	2015年	教科書	必携
					任意
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	基本の復習		総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、第1課から第9課までのポイントの例文の発音とポイントの内容確認をする。
	この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・子音の発音の仕方を説明できる。第三声の声調変化の原則について説明できる。動詞述語文・形容詞述語文の基本語順を説明できる。修飾語の位置を説明できる。第1課から第5課までの文法ポイントの内容を説明できる。	
	事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音および第1課から第5課までのポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第1課から第5課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。	45分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	15分
2	所在の〈在〉、介詞、変化の〈了〉、年齢・金額の言い方		第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方の学習と発音練習をする。
	この回の到達目標	所在の〈在〉の基本語順を説明できる。介詞の基本語順を説明できる。変化の〈了〉と限定できる場合を説明できる。年齢を質問できまた答えられる。金額を質問できまた答えられる。	
	事前学修	42～44ページを一読しCDを聞いておく。	15分
	事後学修	テキストを見てCDを使い42～44ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い42～44ページの発音練習をする。	45分
3	所在の〈在〉、介詞、変化の〈了〉、年齢・金額の言い方、几と多少、助動詞〈想〉、方法を尋ねる〈怎么〉		第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方wo 復習し、第6課の単語と例文を定着させる。 第7課 几と多少、助動詞〈想〉、方法を尋ねる〈怎么〉の学習と発音練習をする。
	この回の到達目標	第6課の例文と単語を聞き取れる。何も見ないで所在の〈在〉の基本語順・介詞の基本語順を説明できる。何も見ないで変化の〈了〉と限定できる場合を説明できる。何も見ないで年齢を質問できまた答えられる。何も見ないで金額を質問できまた答えられる。	
	事前学修	テキストを見てCDを使い42～44ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い42～44ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い42～44ページの発音練習をする。	20分
	事後学修	45～47ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い42～44ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い42～44ページの発音練習をする。 テキストを見てCDを使い48～50ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い48～50ページの発音練習をする。	40分
4	几と多少、助動詞〈想〉、方法を尋ねる〈怎么〉		第6課聞き取りテスト 45～47ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第7課 几と多少、助動詞〈想〉、方法を尋ねる〈怎么〉を復習し、第7課の単語と例文を定着させる。
	この回の到達目標	第6・7課の例文と単語が聞き取れる。 几と多少、助動詞〈想〉、方法を尋ねる〈怎么〉について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第6課42～47ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 45～47ページドリルを解いておく。 テキストのピンインを隠してCDを使い48～50ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い48～50ページの発音練習をする。	40分
	事後学修	51～53ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い48～50ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い48～50ページの発音練習をする。	40分
5	助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形		第7課聞き取りテスト 51～53ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形の学習と発音練習をする。
	この回の到達目標	第7課の例文と単語が聞き取れる。 助動詞〈会〉〈能〉の使い分け、主述述語文、進行形について説明できる。	
	事前学修	51～53ページのドリルを解いておく。 第7課48～53ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 54～56ページを一読しCDを聞いておく。	40分
	事後学修	テキストを見てCDを使い54～56ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い54～56ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い54～56ページの発音練習をする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形、助動詞、依頼表現、〈是〜的〉構文、動量詞〈一下〉	第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形を復習し、第8課の単語と例文を定着させる。 第9課 助動詞〈会〉〈可能性〉、〈〉を使った依頼表現、〈是〜的〉構文、動量詞〈一下〉の学習と発音練習をする。	
	この回の到達目標	第8課の例文と単語を聞き取れる。 助動詞〈会〉〈能〉の使い分け、主述述語文、進行形について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	テキストのピンインを隠してCDを使い54～56ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い54～56ページの発音練習をする。 60～62ページを一読しC Dを聞いておく。	20分
	事後学修	57～59ページのドリルを解く。 テキストを見てCDを使い60～62ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い60～62ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い60～62ページの発音練習をする。	40分
7	助動詞、依頼表現、〈是〜的〉構文、動量詞〈一下〉	第8課聞き取りテスト 57～59ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第9課 助動詞〈会〉〈可能性〉、〈〉を使った依頼表現、〈是〜的〉構文、動量詞〈一下〉を復習し、第9課の単語と例文を定着させる。	
	この回の到達目標	第8・9課の例文と単語が聞き取れる。 助動詞〈会〉〈可能性〉、〈〉を使った依頼表現、〈是〜的〉構文、動量詞〈一下〉について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第8課54～59ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 57～59ページのドリルを解いておく。 テキストのピンインを隠してCDを使い60～62ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い60～62ページの発音練習をする。	40分
	事後学修	テキストのピンインを隠してCDを使い60～62ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い60～62ページの発音練習をする。 63～65ページのドリルを解く。	40分
8	禁止、介詞、経験、原因・理由を訪ねる〈怎么〉	第9課聞き取りテスト 63～65ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉の練習をする。	
	この回の到達目標	第9課の例文と単語が聞き取れる。 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉について説明できる。	
	事前学修	第9課60～65ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 63～65ページのドリルを解いておく。 66～68ページを一読しC Dを聞いておく。	40分
	事後学修	テキストを見てCDを使い66～68ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い66～68ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い66～68ページの発音練習をする。	40分
9	禁止、介詞、経験、原因・理由を訪ねる〈怎么〉、介詞、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞	第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉を復習し、第10課の単語と例文を定着させる。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞の学習と発音練習をする。	
	この回の到達目標	第10課の例文と単語を聞き取れる。 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉について何も見ないで説明できる。 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞について説明できる。	
	事前学修	テキストのピンインを隠してCDを使い66～68ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い66～68ページの発音練習をする。 72～73ページを一読しC Dを聞いておく。	20分
	事後学修	69～71ページのドリルを解く。 テキストを見てCDを使い72～73ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い72～73ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い72～73ページの発音練習をする。	40分
10	介詞、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞	第10課聞き取りテスト 69～71ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞を復習し、第11課の単語と例文を定着させる。	
	この回の到達目標	第10・11課の例文と単語が聞き取れる。 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第10課66～71ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 69～71ページのドリルを解いておく。 テキストを見てCDを使い72～73ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い72～73ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い72～73ページの発音練習をする。	40分
	事後学修	75～77ページのドリルを解く。 テキストのピンインを隠してCDを使い72～73ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い72～73ページの発音練習をする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	比較、助動詞〈可以〉程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉	第11課聞き取りテスト 75～77ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の学習と発音練習をする。	
	この回の到達目標	第11・12課の例文と単語が聞き取れる。 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉について説明できる。	
	事前学修	第11課72～77ページの例文と単語を聞き取れるように練習する。 75～77ページのドリルを解いておく。 78～80ページを一読しCDを聞いておく。	40分
	事後学修	81～83ページのドリルを解く。 テキストを見てCDを使い78～80ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い78～80ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い78～80ページの発音練習をする。	40分
12	比較、助動詞〈可以〉程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉	81～83ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉を復習し、第12課の単語と例文を定着させる。	
	この回の到達目標	第12課の例文と単語を聞き取れる。 二種類の比較文の基本語順、助動詞〈可以〉の用法、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の位置と意味を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	75～77ページのドリルを解いておく。 78～80ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	テキストを見てCDを使い78～80ページの発音練習をする。 テキストのピンインを隠してCDを使い78～80ページの発音練習をする。 テキストを見ないでCDを使い78～80ページの発音練習をする。 81～83ページのドリルを解いておく。	40分
13	総復習	第6課から第12課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
	この回の到達目標	第6課から第12課の例文と単語を聞き取れる。 第6課から第12課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第6課から第12課の例文と単語を聞き取れるように復習する。 第6課から第12課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習し何も見ないで説明できるようにする。	50分
	事後学修	忘れている単語・例文と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	10分
14	後期学習内容の振り返り	第6課から第12課までの期末テストを行う。	
	この回の到達目標	第6課から第12課までの例文と単語を聞き取れる。 第6課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。 注意すべき発音について何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第6課から第12課の例文と単語を聞き取れるように復習する。 第6課～第12課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。 発音の注意点について復習しておく。	40分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
15	追試 結果補語、逆接の構文、様態補語、 是不是を使った疑問文	追試（14回目の期末テストがやむを得ない事情により未受験の場合）を行う。 期末試験受験済みの場合ビデオで第14課を学習する。	
	この回の到達目標	第6課から第12課までの単語と例文を聞き取れる。 第6課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。 注意すべき発音について何も見ないで説明できる。 結果補語、逆接の構文、様態補語、是不是を使った疑問文について説明できる。	
	事前学修	第6課～第12課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。 90～91ページを一読しCDで発音練習をする。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aの内容が身につけており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	15	15	9								39
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認し評価する	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、規定の成果をあげることができたかを評価する	10	10	10								30
その他(実力テスト)	到達目標①、②、③が一定以上のレベルに到達しているかを、実力テストにより評価する	4	4	3								11
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		37	37	26								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016	その他	任意
備考	教科書は会話部分をメインとして学修し、Googleclassroomなどにおいて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・前期の確認・導入		授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、教科書を事前に入手して第1課から第11課までを復習して初回授業にのぞむ		60分
	事後学修	教科書、添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて前期学修内容の復習と音読の口頭練習をする		60分
2	存在の“有”・順と量の概念		ユニット3-第12課にて存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの文法事項について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第12課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ		30分
	事後学修	12課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
3	“在”の用法		ユニット3-第13課にて“在”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第13課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、存在の“有”・順と量の概念を身につけて授業にのぞむ		30分
	事後学修	13課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ“在”の用法、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
4	“是”を省略できる文		ユニット3-第14課にて“是”を省略できる文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第14課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、“在”の用法を身につけて授業にのぞむ		30分
	事後学修	14課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、既習短文の復習と音読の反復練習をする		60分
5	“会”“能”“想”の用法		ユニット3-第15課にて“会”“能”“想”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第15課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちいて、“是”を省略できる文を身につけて授業にのぞむ		30分
	事後学修	15課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ助動詞の用法、既習短文の復習と音読の反復練習をする（次回は17課。16課は各自で必ず訳しておくこと）		60分
6	曜日・時刻の言い方		ユニット4-第17課にて曜日・時刻の言い方などを学修する（第16課は「講読文の課」につき授業中には解説しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	教科書第17課予習。復習は添付のCD・指定されたストーリーミング動画などをもちい、“会”“能”“想”の用法を身につけて授業にのぞむ（第16課は各自学修してもらうので、とばして第17課に進む）		30分
	事後学修	17課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストーリーミング動画などをもちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と音読の反復練習をする（16課は各自で必ず訳ができるようにしておくこと）		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	介詞・“要”の用法	ユニット4-第18課にて介詞・“要”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と介詞・“要”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第18課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	18課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする	60分
8	比較表現	ユニット4-第19課にて比較表現などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第19課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	19課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ比較表現、既習短文の復習と音読の反復練習をする	60分
9	金額・月日の言い方	ユニット4-第20課にて金額・月日の言い方などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第20課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	20課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、既習短文の復習と音読の反復練習をする	60分
10	介詞“給”の用法・連動文	ユニット4-第21課にて介詞“”の用法・連動文などを学修する（第22課は「講読文の課につき授業中には解説しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第21課予習。復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	21課プリントによるノート整理。教科書・CD・動画などをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、既習短文の復習と音読の反復練習をする（第22課は各自必ず訳しておく）	60分
11	ユニット3のまとめと復習	ユニット3-第12課～第15課のまとめと復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、ユニット3で学修したいくつかの表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第12課～第16課の復習。21課の復習は添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ（第22課は各自学修）	30分
	事後学修	12課～15課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回確認した表現・単語や文法の復習と音読の反復練習をする。また16課の講読文を再度訳してみる。	60分
12	ユニット4のまとめと復習	ユニット4-第17課～第21課のまとめと復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、ユニット4で学修したいくつかの表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書第17課～22課の復習。添付のCD・指定されたストリーミング動画などをもちいて、ユニット4の内容を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	17課～21課プリントによるノート整理。教科書・CD・ストリーミング動画などをもちいて、今回確認したいくつかの既習短文・単語や文法の復習と音読の反復練習をする。また22課の講読文を再度訳してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	課題文の練習		後期総復習として、テキスト・プリントなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して後期の内容を全般的に学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ表現・単語・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	教科書後半の復習。添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、教科書後半の内容を身につけ授業にのぞむ。また16課・22課の講読文を中心に質問があれば整理しておく。	60分
	事後学修	12課～21課プリントによるノート整理。教科書・プリント・ノート・CD・ストーリーミング動画などを持ち復習しノートを整理しておく	120分
14	期末筆記試験・まとめ		本授業で最も重要な後期単位認定期末筆記試験を実施する（受験必須）
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを身に付け説明することができる	
	事前学修	教科書後半の復習。添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
	事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習しておく	30分
15	実力テスト・まとめ		一定以上のレベルに到達しているかを判定するための後期期末実力テストを実施する（実力テストの詳細は授業にて説明）
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期学修内容を一定レベル以上に身に付け、正しく応用することができる	
	事前学修	教科書、添付のCD・指定されたストーリーミング動画などを持ち、十分な復習を行って、実力テストに備えるとともに、質問があればまとめておく	120分
	事後学修	一年間の学修を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業までに返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・ 本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50、木曜日9：00～12：10（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） homma.naoto11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容	中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 第8課 時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について学習する。	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	【離合詞、介詞“从”“在”について】	第8課 離合詞、介詞“从”“在”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離合詞、介詞“从”“在”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	【助動詞“会、能、可以”について】	第9課 助動詞“会、能、可以”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞“会、能、可以”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	【反復疑問文、選択疑問文について】	第9課 反復疑問文、選択疑問文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、反復疑問文、選択疑問文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【方位を表す言い方、存在を表す言い方について】	第10課 方位を表す言い方、存在を表す言い方について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方位を表す言い方、存在を表す言い方について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
6	【動作の対象や受益者を導く表現について】	第10課 動作の対象や受益者を導く表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の対象や受益者を導く表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【程度補語、動詞の重ね型について】	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、程度補語、動詞の重ね型について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
8	【介詞“离”、連動文について】	第11課 介詞“离”、連動文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、介詞“离”、連動文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	【動作進行の“在”、“的”の用法について】	第12課 動作進行の“在”、“的”の用法について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作進行の“在”、“的”の用法について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
10	【禁止表現について】	第12課 禁止表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について】	第13課 過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
12	【“没有”の比較表現、類似を表す表現について】	第13課 “没有”の比較表現、類似を表す表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“没有”の比較表現、類似を表す表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【二重目的語をとる動詞、使役表現について】	第14課 二重目的語をとる動詞、使役表現について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語をとる動詞、使役表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
14	【“跟……一起”を用いた表現について】	第14課 “跟……一起”を用いた表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“跟……一起”を用いた表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	吉富 透	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語が日本語で通じるなどと安易に考えていない積極的な者が望ましい。

【授業方法】
演習形式の授業を行う。文法説明の講義に終始せず、理解度確認の作文練習を時間内に行う。外国語授業であるため、読めるようになることも重要である。そのため指定された文を読めるかどうかの確認も同時に行うように、学生参加型の授業である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音指導、基本文を応用した作文練習を随時行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・主芸 共著	郁文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室内で受け付ける。後日の質問は次のメールでお願いします。 yoshitomi.torull@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第10課 願望表現・選択疑問文・提案文・ドリル問題確認	願望を表す助動詞文と提案文・選択疑問文の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、願望表現と提案文を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	助動詞文の肯定文・否定文・二種類の疑問文を確認する。 選択疑問文と提案文の構文を確認する。	30分
2	第11課 比較表現・「～するのが好きだ」の表現・副詞“越”の用法・ドリル確認	前置詞“比”を用いた比較表現と間違えやすい「～が好きだ」の表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞を述語にとる比較表現と「AすればするほどBだ」・「～をするのが好きだ」の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課・第8課の形容詞が述語になる時の前置詞句との違いに着目しておく。	30分
	事後学修	第5課・第8課・第11課の前置詞句の違いを再確認する。特に比較文の否定文に気を付ける。 日本人が間違えやすい“好”の意味を再確認し、中国語の「好き」「嫌い」を正しく覚える。	30分
3	第12課 過去の経験表現・助動詞“打算”・状況の変化表現・ドリル確認	過去における経験の有無（したことがある/ない）と予定を表す助動詞文・状況の変化表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の経験表現と強調助動詞文・ある状況の変化表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課の“了”を用いた文と比較してみる。	30分
	事後学修	第9課“了”を用いた文との違いを再確認する。 第10課の助動詞と合わせて否定文の表現を再確認する。	30分
4	第13課 動作の進行表現・連動文（2）・推量と確認の表現・ドリル確認	動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文と推量・確認表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文・推量確認表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課・第12課の時制文と文構成を比較してみる。 第8課の連動文を再確認しておく。	30分
	事後学修	3つの時制文を整理し再確認する。 第8課の連動文との違いを整理し再確認する。	30分
5	第14課 3つの「できる」の表現・動詞の重ね型・依頼の表現（1）・ドリル確認	3つの「できる」の表現の使い分けと動詞の重ね型を用いた依頼表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、三種類の助動詞の使い分けと動詞の重ね型の文構造を理解し、「できる」と依頼文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 助動詞使用法の違いを読んでおく。	30分
	事後学修	三種類の助動詞の使用法と否定文のニュアンスの違いを再確認する。 命令形と依頼文の違いを再確認する。	30分
6	第15課 強調表現（1）・お金の言い方・ドリル確認	過去の強調表現（1）と中国式お金の言い方を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去における時間・場所・方法手段を強調した文とお金の言い方を理解し、過去の強調文と買い物に関して中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5（時点）・8（場所・前置詞）・9（了）課の内容を再確認しておく。	30分
	事後学修	第5課と第9課の語順を再確認し、強調文の構成文字の位置を再確認する。 数に慣れるようCDを聞いて発音し再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	既習事項の確認		動作の完了・過去における経験の有無・動作の進行の時制表現と前置詞文・助動詞文を再確認する。これにより中国語検定試験準4級・4級受験者への事前確認にも当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種時制表現・各種助動詞・各種前置詞の文構造を再確認し中国語で正しく表現することができ		
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 時制文を覚える。特に助動詞文も含めて各種否定文の違いを整理して覚えること。		30分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時点・場所・数量表現を再確認する。		30分
8	第16課 依頼表現（2）・結果補語の表現・前置詞“用”を用いた文・ドリル確認		新たな依頼表現文と結果補語構造とその表現・前置詞“用”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、依頼表現と結果補語の文構造と既習文法との違いを理解し中国語で正しく表現することができ		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9・15課の前置詞文を確認しておく。		30分
	事後学修	結果補語の有無による肯定文と否定文の違いを整理し再確認する。 前置詞文の否定文が第5・9課と違うことを再確認する。		30分
9	第17課 方向補語の表現・前置詞“給”“従”を用いた表現・ドリル確認		「行く/来る」を用いた方向補語・前置詞“給”“従”を用いた文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方向補語と前置詞文の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 方向補語の説明文を読んでおく。動詞が述語になる前置詞文を確認しておく。		30分
	事後学修	各種前置詞の用法を整理し再確認する。 方向補語のニュアンスを再確認する。		30分
10	第18課 可能補語の表現・「それから」の表現・ドリル問題		第16課結果補語と第18課方向補語を応用発展させた可能補語と接続詞「それから」を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能補語と接続詞を用いた文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第12課の助動詞を確認しておく。		30分
	事後学修	第16課の結果補語からの応用形であることを整理し再確認する。 第12課「できる」表現との違いを整理し再確認する。		30分
11	第19課 様態補語の表現・時間量の表現と“了”・ドリル確認		ある動作の様子や状態の表現と動作の時間量と“了”の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、様態補語と動作の時間量と動作の完了表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができ		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第3課形容詞文と第9課の“了”を用いた文を再確認しておく。		30分
	事後学修	様態補語の肯定文は日本語表現の語順と同じであり、否定文疑問文は第3課と同じ表現であることを再確認する。 時間量の表現がある場合の“了”の位置を再確認する。		30分
12	第20課 二重目的語を要する動詞・助動詞「しなければならない」の表現・ドリル確認		二重目的語を要する動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語を必要とする動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語と同じ文構造であることと、助動詞の説明文を読んでおく。		30分
	事後学修	助動詞の否定文を再確認し、併せて各種助動詞を整理して覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第21課 使役表現・副詞を用いた各種強調表現（2）・ドリル確認	使役文と副詞を用いた各種強調表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、使役文と強調表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第16課の依頼文の構成を確認しておく。	30分
	事後学修	使役文の文構成を整理し、日本語の翻訳の仕方を再確認する。 各種程度副詞と併せて整理し再確認する。	30分
14	第22課 受身表現・近接未来表現・伝聞表現・ドリル確認	受身文と近い将来に起こり得ることの表現及び伝聞表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受身文と未来・伝聞の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第21課の使役文の文構成を確認しておく。	30分
	事後学修	使役文と受身文の違いを整理し再確認する。 近接未来表現にも“了”が用いられるが、第9・12課の“了”と区分できるよう整理し再確認する。	30分
15	授業内試験 一年間の基礎中国語文法総復習	一年間の基礎中国語文法習得度を確認するために試験を行う。終了後解説をし再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文法構造とピンインを総合的に再確認し理解する。	
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種補語表現と否定文の違いを整理して覚えること。	30分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時間量を用いた肯定文・各種補語表現を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③本文の音読④発音指導⑤文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。本文で扱っている単語は辞書を引いて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐらい音読を繰り返しましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせ、授業中に発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等		8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる能力が身に付いているかを評価します。	8	8	4								20
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	48	24								120

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで応対します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／発音の復習	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。 発音の復習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。 到達目標③の達成のため、母音（韻母）や子音（声母）を正しく発音することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	辞書は特に必要ないが、個人的に用意したい場合は相談してください。	30分
2	第1課 自分の居場所を伝えよう	動詞の「在」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞の「在」の意味を「有」と区別して理解できる。 到達目標②と③の達成のため、動詞の「在」を用いて自分の居場所を伝えることができる。	
	事前学修	場所を表す名詞を辞書で調べておく。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「在」について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
3	第2課 位置を詳しく伝えよう	方位詞の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、中国語の基本的な方位詞を覚える。 到達目標②と③の達成のため、目的地や自分の居場所を方位詞を用いてより具体的に伝えることができる。	
	事前学修	動詞の「在」の用法と意味を復習しておくこと。 助詞の「的」の用法と意味を復習しておくこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	方位詞について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	第3課 動作を行う場所を伝えよう	前置詞の「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、前置詞の「在」について、修飾語の位置に着目しながら中国語と日本語における語順の共通点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動作を「どこで」するのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	場所を表す名詞を辞書で調べておく。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の「在」について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	第4課 曜日を伝えよう	曜日の言い方を学ぶ。 時を表す語句の位置（語順）について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、時を表す語句の位置について、中国語と日本語における語順の共通点・相違点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動作を「いつ」するのかを正しい語順で説明できる。	
	事前学修	0～99までの数字について、読み方を復習しておくこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	時点の語順について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	第5課 時刻を伝えよう	時刻の言い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、中国語で時刻を正しく伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	0～99までの数字について、読み方を復習しておくこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	時刻について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第6課 自分の過去の経験を伝えよう	助詞の「過」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、助詞の「過」を用いて、渡航歴や学習歴などの過去の経験や体験を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自身が行ったことのある地名や駅名の中国語の読み方を辞書で調べておくこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	助詞の「」について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	第7課 今していることを伝えよう	副詞の「在」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、副詞の「在」について進行の意味を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、副詞の「在」を用いて今まさにやっている動作を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自身が日常的によく行う動作について、その中国語の読み方を辞書で調べておこう。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	副詞の「在」について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	第8課 自分の「デキル」ことを伝えよう	可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」の用法の共通点や相違点を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、「デキル」ことを伝えたり尋ねたりできる。また、相手に許可を取れるようになる。	
	事前学修	自分が何メートル泳げるのか、その距離を数字で言えるようにしておく。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	第9課 どこへ何をしに行くのか伝えよう	連動文の語順を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、連動文の語順について、日本語と対照させて理解することができる。 到達目標②と③の達成のため、どこへ何を買いに行くのか伝えられるようになる。	
	事前学修	自身が買い物で行きたい場所と買いたいモノの単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	連動文について、文法上の要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
11	第10課 好きなものを伝えよう	動詞の「喜歡」の用法と意味を学ぶ。 助詞の「的」の用法と意味を学ぶ。 接続詞の「還是」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、助詞の「的」の用法と意味及び中国語の修飾語の語順について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動詞の「喜歡」と接続詞の「還是」を用いて、相手に好きなものを尋ねたり、自分の好きな物を伝えることができる。	
	事前学修	自分の好きな食べ物、飲み物、スポーツの単語を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	助詞の「的」について、要点をノートに整理すること。また、スライドの例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	第11課 中国語文法概説B	現代中国語の文法的特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、現代中国語の大まかな特徴を文法面から考え、説明できるようになる。	
	事前学修	日本語と英語の文法的特色を整理しておくこと。	30分
	事後学修	解説内容を振り返っておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 期末試験の準備	これまで学修した文法項目の要点を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、後期に学修した内容を整理し、文法項目ごとにその要点を説明することができる。 到達目標②と③の達成のため、中国語の本文を正確に発音することができる。	
	事前学修	後期に配布したスライドをすべて読み返すこと。 練習問題ももう一度書いて、間違った問題を重点的に覚えること。	30分
	事後学修	後期の講義スライドを見直し、講義内容をふまえて補充する。	30分
14	期末試験・復習	後期で学修した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	後期で学修した内容について、授業内で配布した資料で復習をしておくこと。	30分
	事後学修	後期で学修した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	後期で学習した内容を振り返り、試験の講評とフィードバックも行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②と③について、後期の学修内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話や書き取りを行う。問題集がついているので、必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。筆記試験については採点し、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	10	5								25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験などについて採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 「中国語はじめての一步」	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第6課	ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明する」 第6課 「あなたは食事をしましたか。」本文訳 ポイント 1. 「完了」を表わす“了” 2. 「所在」を表わす“在” 3. 助動詞“想”	
	この回の到達目標	第6課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
2	第6課	第6課 「あなたは食事をしましたか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第6課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	第6課の総復習	30分
3	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」本文訳 ポイント 1. 介詞“在” ” 离” 2. 「存在」を表わす“有” 3. 反復疑問文	
	この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
4	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第7課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	第7課の総復習	30分
5	第8課	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。本文訳 ポイント 1. 「時間量」を表わす語 2. 助動詞“得” 3. 介詞 (2) “从”	
	この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
6	第8課	第8課 「あなたは何時からアルバイトを始めますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第8課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	第8課の総復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課		第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1. 「過去の経験」を表わす“過” 2. “是～的”の文 3. 介詞 (3) “跟”, “給”	
	この回の 到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
8	第9課		第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」 本文、トレーニング 練習問題 第6課～9課のまとめ（授業内筆記試験）	
	この回の 到達目標	第9課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第9課の総復習		30分
9	第10課		第10課 「あなたは歌を歌えますか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“能”, “会” 2. 「動作の様態」を言う表現 3. 動詞の重ね型	
	この回の 到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
10	第10課		第10課 「あなたは歌を歌えますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の 到達目標	第10課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第10課の総復習		30分
11	第11課		第11課 「あなたは何をしているのですか。」本文訳 ポイント 1. 「動詞の進行」を表わす“在～呢” 2. 「～しに来る・～しに行く」の表 し方3. “是” 4. 目的語を文頭に出す表現	
	この回の 到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
12	第11課		第11課 あなたは何をしているのですか。 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の 到達目標	第11課の練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。		
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと。		30分
	事後学修	第11課の総復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課	第12課 「楽しい旅行を！」本文訳 ポイント 1.「比較」の表現 2.“的”の用法 (2) 3.2つの目的語をとる動詞 4.目的語が主述句の時 練習問題	
	この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。練習問題をやることによって、文法の使い方がわかる。	
	事前学修	文法の予習と練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
14	中間のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期末授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点を確認し、正しく理解できる。	
	事前学修	第6課～12課の復習 問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	後期のまとめ	①フィードバック、質疑応答（筆記試験問題について解説する） ②会話テストを行うか、または書き取りをやる。	
	この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	後期学習した内容を確認し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語文法の習得を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話を中心に発音(ピンイン)による中国語表記とを繰り返し練習し、基本的な文の構造を学習する。 学んだことを演習形式で実践する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	30	20	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖來、劉秋佳、于曉飛	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考	備考授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：syu.seirai@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	自己紹介とガイダンス・導入講義	授業の進み方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むことと自己紹介の準備	60分
	事後学修	前期勉強したことを復習	60分
2	第6課	動詞“有”と“在”	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第6課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
3	第6課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	前回の内容を復習して、第6課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
4	第7課	程度補語	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第7課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
5	第7課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	前回の内容を復習して、第7課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
6	第8課	比較表現	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第8課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第8課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	前回の内容を復習して、第8課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
8	中間テスト・振り返り	第5課～第8課	
	この回の到達目標	第5課～第8課の内容を活用できる。	
	事前学修	今までの内容を復習する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
9	第9課	動作の進行、状態の持続	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第9課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
10	第9課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	前回の内容を復習して、第9課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
11	第10課	動量補語	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に予習して、第10課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
12	第10課	練習問題を解いて答え合わせ	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	前回の内容を復習して、第10課の単語を暗記する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	復習	期末試験の復習	
	この回の到達目標	文法点を理解する	
	事前学修	第6課～第10課までの内容を復習する。	60分
	事後学修	勉強した単語と文法を書く、読む、話すことができるまで復習すること。	60分
14	口頭試験及び復習	口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	期末筆記試験・まとめ	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
3分の2以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること. 授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。

【授業方法】		
発音、基礎文法、基本表現の学習を授業行う。授業の前半は学習、後半は応用練習、授業中で一人ずつ発音と文法表現を練習させ、質問を翻訳、通訳、回答などを通して、確認して毎回A、B、C 三つのレベルで平常点として評価します。 成績評価は授業内テスト60%、発音、会話練習、聞き取り、書き取り20%、小テスト20%の比例で総合評価します。 出席、提出ものの状況によって、勉強姿勢をとして悪いと10点まで減点します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎日中国語の四字熟語や諺やネット用語や新しい流行語の一つを覚え、授業の時一人ずつ、発表する。 一つ中国語の漢詩や歌や簡単な文章を覚えさせ、暗唱することを確認する。前期と後期のうちに2回ずつ行う。 毎回授業終わる前に10分ほどを用意する。 勉強した中国語を使って先生と話してみる、通じるとプラス評価をもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。				1		1	1	
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。				1		4	1	
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。						1	1	
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験は到達目標が身につくことを確認して評価する。 1. 勉強した基礎表現の日本語、中国語、ピンインを自由に翻訳でき、書き換えできる30点 2. 簡単な中国語作文を書くことができ、勉強した基礎表現の意味を理解し、質問の答え文を中国語で書き出すができる20点 3. 勉強した単語の日本語、中国語、ピンインを自由に書き換えできる10点	30	20	10								60
小テスト等	1. 単語の漢字とピンインの聞き取りと書き取りをすることができる 2. 簡単な挨拶言葉、授業用語、日常会話の聞き取り、書き取り、暗唱暗記ができる 3. 簡単な作文を書くことができる		10	10								20
レポート等												
討論・発表等	学んだ表現を用いて自分の事を書いて、二人から四人までグループで中国語自由会話発表します。		10									10
授業への参画度												
その他(朗読と会話表現)	聞き取りと書き取りの練習や朗読、暗記暗唱の練習で以下の項目を確認して評価します 1. 新出単語を正確な発音でピンインを読むことができる。 2. 正確発音で簡単な挨拶言葉、授業用語、会話表現を話せる			10								10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『文型から覚える中国語』	周聖来・劉秋佳等共著	飛鳥文化出版	2022. 4 初版	教科書	必携
備考	ISBN：9784907277024 飛鳥文化出版 2022年4月初版発行 2400円				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	NHK文化センターの中国語講座はじめ、大手企業の海外派遣社員のための中国語講座、複数の大学中国語言語文学講義を20年以上、中国語講師として勤めている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、中国の国際関係と中国の最新事情を紹介する。 LINE:08032718681／Wechat::koku811	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国の文化事情・導入	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
	事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	第6課 你家有几口人？ 貴方は何人家族ですか？	第6課 貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	第7課 你//得//很好。 あなたの中国語をはなすのが上手です。	第7課 程度補語 A 時間詞＋主語＋動詞＋得＋程度補語（形容詞） B 時間詞＋主語＋動詞A＋目的語＋動詞A＋得＋形容詞	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	第8課 他比我大。 彼は私より年上です。	第8課 比較表現 日本語：AはBより～/ BはAほど～でない/ AはBと同じ～ 中国語： A 比B～/ A 没有B(那么/么) ～/ A和B 一～	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第9課 我在上（呢） 私は授業を受けています。		第9課 動作の進行、状態の持続 ～しているの進行形を学習する 日本語：～～をしている／～～がしてある 中国語： 1 … 呢2 在… （呢）3 正… （呢）4 正在… （呢）
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	第10課 我去一次中国 私は中国に一回行ったことがあります		第10課 動量補語 日本語：私は中国に一回行ったことがあります 中国語：我去一次中国（動量補語） 作文の宿題：我和中国
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
9	応用練習		会話の応用練習と作文練習 グループで会話練習を確認させて評価します 作文の宿題の提出
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	第11課 我看了两个小的。 私は二時間テレビを見ました。		第11課 時間補語 時点と時間の長さの表見 文型 日本語：昨日、私は二時間テレビを見ました。 中国語：A昨天我看看了两个小。（時間補語） B昨天我看了两个小的。
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文：先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	第12課 你会？ 中国語を話すことができますか。		第12課 1.能願動詞：会、能、可以/想， 2.動詞の重ね：想去看看 配布資料と宿題：中国文化と社会事情の紹介の関連資料と課題を配布します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさ	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	応用練習と中国の文化事情の紹介		会話応答練習と中国文化事情の紹介 中国の習慣とマナを知る 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習		復習と総合練習
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	授業内テスト		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認します。
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	口頭テストと追試験		口頭テスト：発音、アクセント四声、読み、会話力を聞き取りや書き取りの問題で再確認する 病気など正当理由の試験欠席の方を追試験に行う
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 順子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
講義内容が中国語基礎文法Aからの続きとなっているため、中国語基礎文法Aを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
教科書に沿って進める。 課ごとに練習問題を使って習得度を確認する。 フィードバックは授業内で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の習得度を授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での発音練習や練習問題の取り組み姿勢から①②③ が身に付いているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で板書により解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発 中国語	本間直人 栗原千里 王熙萍	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で質問を受け付ける。授業時間：月曜日 3～5 時限 kurihara.yoriko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	時を表す語	第7課 単語 本文 時を表す語 練習問題	
	この回の到達目標	中国語普通話の特徴や仕組みを理解する 四声を区別できる	
	事前学修	前期の復習をしておくこと	30分
	事後学修	時を表す語の発音を練習すること	30分
2	離合詞	第8課 単語 本文 回数表現 離合詞	
	この回の到達目標	離合詞の使い方が理解できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	離合詞の使い方を確認しておくこと	30分
3	反復疑問文	第9課 単語 本文 経験を表す文 可能を表す助動詞 反復疑問文 選択疑問文 練習問題	
	この回の到達目標	反復疑問文の使い方を理解できる	
	事前学修	単語と本文の発音を練習しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
4	方位詞	第10課 単語 本文 方位詞	
	この回の到達目標	方位詞の使い方を理解する	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
5	前置詞	第10課 前置詞 練習問題	
	この回の到達目標	前置詞の使い方を理解できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	練習問題を確認しておくこと	30分
6	程度補語	第11課 単語 本文 程度補語	
	この回の到達目標	中国語の補語の仕組みを理解できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	連動文	第 1 1 課 動詞の重ね型 連動文 練習問題	
	この回の到達目標	連動文の文型を理解する	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
8	進行形	第 1 2 課 単語 本文 動作の進行を表す文	
	この回の到達目標	動作の進行を表す文をつくれる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分
9	禁止表現	第 1 2 課 禁止表現 練習問題	
	この回の到達目標	禁止を表す文をつくれる	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
10	強調構文	第 1 3 課 単語 本文 強調構文	
	この回の到達目標	強調構文の仕組みを理解できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分
11	比較文	第 1 3 課 様々な比較文 練習問題	
	この回の到達目標	比較文の仕組みを理解できる	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
12	二重目的語文	第 1 4 課 単語 本文 二重目的語文	
	この回の到達目標	二重目的語文の仕組みを理解できる	
	事前学修	単語と本文の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	本文の訳を確認しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	使役文	第14課 使役文 練習問題	
	この回の到達目標	使役文の仕組みを理解する	
	事前学修	練習問題に目を通しておくこと	30分
	事後学修	文法事項の例文を確認しておくこと	30分
14	後期学習の確認	後期学習内容の確認となる授業内試験	
	この回の到達目標	学習した文法事項を理解できる	
	事前学修	後期学習部分に目を通しておくこと	30分
	事後学修	不明点をまとめ、確認すること	30分
15	後期学習の復習	教科書本文・文法事項例文・練習問題の確認	
	この回の到達目標	本文を発音できる 文法事項例文の意味を理解できる	
	事前学修	後期学習内容の音を聞いておくこと	30分
	事後学修	後期学習内容をまとめておくこと	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	小川 都	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オーディオリンガル教授法を利用し、段階的に中国語の文法や表現を説明していく。発音や会話にも力を入れ、楽しい教室活動を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した活動やタスクを与え、学生の活発な授業参加を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が身についているかを授業内テストにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業の進捗に合わせ、到達目標の①②③の習得程度について確認する。	6	7	7								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問をして、授業に積極的に参加しているか、また、到達目標①②③の習得程度を確認する。その出来具合によって評価する。	6	7	7								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		32	34	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で解説する	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面シラバスで段階的に学ぶ中国語	小川都・孟慧・周聖来	飛鳥文化出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】	
ogawa.miyako@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 後期の学習内容の説明	後期の講義計画、成績評価の方法、受講の注意	
	この回の到達目標	前期の内容を振り返り、後期の学習につながる準備ができること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
2	第9課	行為（已然）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（已然）に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
3	第10課	買い物に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、買い物に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
4	第11課	行為（経験）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（経験）に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
5	第9課から11課までのまとめ	第9課から11課の文法や単語の復習と小テスト	
	この回の到達目標	第9課から11課の内容が定着すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
6	第12課	行為（進行・持続）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（進行・持続）に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第13課	行為（結果）に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、行為（結果）に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
8	第14課	比較に関する内容	
	この回の到達目標	教材の予習文法事項を理解し、比較に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
9	第12課から14課までのまとめ	第12課から14課の文法や単語の復習と小テスト	
	この回の到達目標	第12課から14課の内容が定着すること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
10	第15課	能力・好みに関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、能力・好みに関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
11	第16課	可能に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、可能に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
12	第17課	禁止に関する内容	
	この回の到達目標	文法事項を理解し、禁止に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第18課		請求に関する内容
	この回の到達目標	文法事項を理解し、請求に関する内容を理解できること	
	事前学修	教材の予習	30分
	事後学修	授業の内容の復習	30分
14	総合復習		文法、表現、語彙の復習
	この回の到達目標	初級の文法事項を理解し、中国語を使った簡単なコミュニケーションができること	
	事前学修	習った内容を整理し、覚える	30分
	事後学修	期末テストに備えてドリルなどで定着度の自己確認を行う	30分
15	期末テスト 講評		試験とフィードバック
	この回の到達目標	後期の学習効果を確認する	
	事前学修	テストの準備	30分
	事後学修	テスト結果の見直し	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	林 怡州	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語のネイティブ話者、小学校以上の中国語教育を受けた者は本科目を受講せず、他言語の科目を受講することが望ましい。

【授業方法】
修得した発音及び基本文型をベースに、更にステップアップをしていく。中国・台湾の文化、風俗習慣を取り上げながら、楽しく講義を進める。中国語や中国文化に興味を持てるように、現地で撮影した写真やDVDを活用する。目安として、約3回の講義で2課分を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	一方向的な授業ではなく、学生参加型の講義。毎回の講義で学習者に発音練習をさせ、フィードバックしていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標①②③に関わる中国語知識が身についているかについて検証する。	60										60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	受講態度・授業中の質疑応答などを総合的に評価する。		3	3	3	3	3					15
その他(課題の提出)	第3回目の講義以降、『簡体字ドリル』の課題を2回提出し、添削したあと、後日返却する。							25				25
その他(資格の取得)	検定試験（HSK・中検）の合格者にプラス評価します。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	3	3	3	3	3	25				100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出した課題を添削し、提出者に個別に説明する。小テストの実施後、全体的に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実学実用・初級中国語（ライト版）：講義用	陳淑梅・劉光赤	朝日出版社	2019年	教科書	必携
超入門！書いて覚える簡体字ドリル：課題用	林怡州	ナツメ社	2021年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:00～14:30／月曜日18:00～18:30 講師室（事前に右記のメールでアポイントメントを取ってください） lin.yizhou@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第11課「交番で道を尋ねる」	ピンインのおさらいを行う。 「第11課」の文法要点：「動詞“在”」「方位詞」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「動詞“在”」「方位詞」ができるようになること。	
	事前学修	第11課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第11課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P55の簡体字を書いて練習すること。	160分
2	第11課「交番で道を尋ねる」 第12課「今年はいくつ？」	前回講義の復習を行う。 「第11課」の文法要点：「前置詞」の修得 「第12課」の文法要点：「年月日・曜日の言い方」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「前置詞」「年月日・曜日の言い方」ができるようになること。	
	事前学修	第12課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第11課のドリルおよび第12課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P57の簡体字を書いて練習すること。	160分
3	第12課「今年はいくつ？」	前回講義の復習を行う。 「第12課」の文法要点：「文末の“了”」「年齢の言い方、尋ね方」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「文末の“了”」「年齢の言い方、尋ね方」ができるようになること。	
	事前学修	第12課全ての内容を理解する。	90分
	事後学修	第12課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P59の簡体字を書いて練習すること。	160分
4	第13課「毎日何時に起きますか？」	前回講義の復習を行う。 「第13課」の文法要点：「時刻の言い方」「時間量の言い方」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「時刻の言い方」「時間量の言い方」ができるようになること。	
	事前学修	第13課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第13課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P61の簡体字を書いて練習すること。	160分
5	第13課「毎日何時に起きますか？」 第14課「セールでの買い物」	前回講義の復習を行う。 「第13課」の文法要点：「前置詞“在”」の修得 「第14課」の文法要点：「動詞の直後の“了”」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「前置詞“在”」「動詞の直後の“了”」ができるようになること。	
	事前学修	第14課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第13課のドリルおよび第14課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P63の簡体字を書いて練習すること。	160分
6	第14課「セールでの買い物」	前回講義の復習を行う。 「第14課」の文法要点：「比較の言い方」「比較文の否定表現」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「比較の言い方」「比較文の否定表現」ができるようになること。	
	事前学修	第14課全ての内容を理解する。	90分
	事後学修	第14課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P65の簡体字を書いて練習すること。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【途中の総復習】	第11課から第14課まで、学習した内容をおさらいし、第15課の予備学習を行う。写真や映像を用いて、中国・台湾の事情を紹介する。	
	この回の到達目標	第11課から第14課までの学習内容を身につくこと。	
	事前学修	第11課～第14課の学習内容を再確認する。	90分
	事後学修	第11課～第14課の単語や例文を読めるように発音練習する。課題：参考書P71の簡体字を書いて練習すること。	160分
8	第15課「歴史記念館で」	「第15課」の文法要点：「助動詞“可以”」「方向補語」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「助動詞“可以”」「方向補語」ができるようになること。	
	事前学修	第15課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第15課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P73の簡体字を書いて練習すること。	160分
9	第15課「歴史記念館で」 第16課「テニスに誘う」	前回講義の復習を行う。 「第15課」の文法要点：「指示代名詞のまとめ」の修得 「第16課」の文法要点：「結果補語」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「指示代名詞のまとめ」「結果補語」ができるようになること。	
	事前学修	第16課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第15課のドリルおよび第16課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P79の簡体字を書いて練習すること。	160分
10	第16課「テニスに誘う」	前回講義の復習を行う。 「第16課」の文法要点：「主述述語文」「助動詞“会”」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「主述述語文」「助動詞“会”」ができるようになること。	
	事前学修	第16課全ての内容を理解する。	90分
	事後学修	第16課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P81の簡体字を書いて練習すること。	160分
11	第17課「バトミントンを楽しんだ後」	前回講義の復習を行う。 「第17課」の文法要点：「二重目的語をとる動詞」「様態補語」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「二重目的語をとる動詞」「様態補語」ができるようになること。	
	事前学修	第17課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第17課の例文・新出語句・本文を音読し、内容を確認する。課題：参考書P83の簡体字を書いて練習すること。	160分
12	第17課「バトミントンを楽しんだ後」 第18課「中国語が聞き取れなくて」	前回講義の復習を行う。 「第17課」の文法要点：「助動詞“能”」の修得 「第18課」の文法要点：「可能補語」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「助動詞“能”」「可能補語」ができるようになること。	
	事前学修	第18課のポイント・新出語句・本文を音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	第17課のドリルおよび第18課の前半を音読し、学習した内容を復習する。課題：参考書P85の簡体字を書いて練習すること。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第18課「中国語が聞き取れなくて」	前回講義の復習を行う。 「第18課」の文法要点：「助動詞“得”」「程度補語」の修得	
	この回の到達目標	ポイント「助動詞“得”」「程度補語」ができるようになること。	
	事前学修	第18課全ての内容を理解する。	90分
	事後学修	第18課全てを音読し、内容を確認する。課題：参考書P87の簡体字を書いて練習すること。	160分
14	第19課「今何をしているの？」 第20課「引越し」	この2課の文法要点を分かりやすく説明する。	
	この回の到達目標	ポイント「進行表現と持続表現」や「“是～的”構文」「“把”構文」などを理解すること。	
	事前学修	第19課および第20課のポイントの内容を理解する。	90分
	事後学修	第19課および第20課の文法内容を確認する。課題：参考書P93の簡体字を書いて練習すること。	160分
15	【小テスト】	小テストの実施および解説を行う。	
	この回の到達目標	「HSK」2級・「中国語検定試験」4級レベルまでもっていく。	
	事前学修	後期の学習内容を再確認する。	160分
	事後学修	課題である簡体字ドリルの内容を全て再度確認する。課題：参考書P95の簡体字を書いて練習すること。	90分

科目名	中国語演習C	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
オンデマンド式で授業を行う。「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、授業内試験により評価する。	40										40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		85	15									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及文法紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、多少専門的な中国語文法の紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に多少専門的な中国語文法知識を習得することができる。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った文法知識を自分なりに整理すること。	30分
2	教科書第一課(可以、要)	助動詞「可以」「要」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、助動詞「可以」「要」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	第一課助動詞「可以」「要」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞「可以」「要」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第一課(主述述語文)	主述述語文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主述述語文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第1課主述述語文部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	主述述語文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第二課(因為)	原因や理由を表す「因為」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、原因や理由を表す「因為」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第2課原因や理由を表す「因為」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	原因や理由を表す「因為」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第二課(可是)	逆説を表す「可是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、逆説を表す「可是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第2課逆接を表す「可是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	逆接を表す「可是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第三課(連動文等)	連動文、「是～的」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、連動文、「是～的」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第3課連動文、「是～的」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	連動文、「是～的」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第三課(怎麼)	疑問詞「怎麼」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「怎麼」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第3課疑問詞「怎麼」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞「怎麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第四課(了)	「了」の三つの用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「了」の三つの用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第4課「了」の三つの用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「了」の三つの用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	第四課(就)	副詞「就」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「就」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第4課副詞「就」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「就」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	第五課(結果補語、有点兒)	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第5課結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	第五課(要是)	仮定を表す「要是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、仮定を表す「要是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第5課仮定を表す「要是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	仮定を表す「要是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	第六課(存現文)	存現文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、存現文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課存現文部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課(主語がフレーズである時)	主語がフレーズである時について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主語がフレーズである時について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課主語がフレーズの時の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	主語がフレーズの時の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第六課(又～又～等)	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	吉富 透	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び初級中国語基礎文法を習得済みの方が望ましい。

【授業方法】
演習形式の授業を行う。文法説明の講義に終始せず、理解度確認の作文練習を時間内に行う。外国語授業であるため、読めるようになることも重要である。そのため指定された文を読めるかどうかの確認も同時に行うように、学生参加型の授業である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業において、発音・修正の時間を設ける。 文型確認のため、応用的作文練習と指導解説を随時行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	50										50
小テスト等	到達目標②の理解度確認を小テストにより評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	20										20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語つぎへの一步	竹島毅・尹景春	白水社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室内で受け付ける。後日の受け付けは次のメールでお願いします。 yoshitomi.torui1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 初級中国語基礎単語と文型の確認	初級中国語の習得度を教科書の「復習」を用いて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 一年目の中国語で習った単語や文法事項を確認し、未習単語や文法事項を覚える。	
	事前学修	教科書冒頭の「復習」にある単語と基礎文型4番までを、一年目の教科書から確認しておく。	30分
	事後学修	一年目の教科書になかった・忘れた単語や文型を覚える。	30分
2	「復習」	教科書の「復習」を用いて既習事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。	
	事前学修	教科書8ページ5番から8番までの内容に関して、一年目の中国語テキストから再確認する。	30分
	事後学修	忘れていた基本文型を再整理する。	30分
3	第1課 3種類の助動詞表現 主述述語文構造 目的語が主述句の文構造 本文読解	「復習」で確認した助動詞の別の用例と否定表現を間違えない。 二重主語の構造と目的語句にSV0を用いる文構造を正しく理解し表現できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 助動詞の正しい否定表現ができる。 複雑な文構造を正しく読解でき、なおかつ表現できる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の助動詞を再確認する。	30分
	事後学修	「復習」以外の助動詞の用法を再整理する。 資料にある文法構造を見て再確認する。	30分
4	第1課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第1課の本文・文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
5	第2課 1:名詞の修飾表現 2:原因理由を表す接続詞 3:文末助詞の各種表現 本文読解	名詞を修飾する時“的”の有無ルール 原因や理由の問い方と答え方 文末助詞の6種類の表現	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 「なぜ」「なぜならば」の受け答えができる。 多様な意味がある文末助詞表現の使い分けが正しくできる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の名詞を修飾する“的”を再確認する。	30分
	事後学修	一文字形容詞＋名詞の修飾表現を再確認する。 原因・理由の尋ね方と答え方に用いる疑問詞と接続詞を確認する。 文末助詞の多様な表現を確認する。	30分
6	第2課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第2課の本文・文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	前回の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第3課 1:連動文表現 2:強調表現 3:方法の問い方 本文読解		同一主語に対して二つ以上の動詞が行われる順番に連用される文の表現 いつ・どこで・どのようにしたのかを強調説明した表現。 疑問詞“怎么”の二つの疑問表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動作が行われる順番を意識して連動文を作れる。 すでに行われた事柄を強調説明できる。 疑問詞“怎么”を用いた疑問表現ができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の基本動詞文の構成と「復習」の4番を再確認する。	30分
	事後学修	連動文における日本語訳の使い分けを再確認する。 主語＋時間＋前置詞＋名詞＋動詞＋目的語の語順を再確認する。	30分
8	第3課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第3課の本文・文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	主語＋時間＋否定詞＋助動詞＋前置詞＋名詞＋動詞＋目的語の語順を再確認する。 ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
9	第4課 1:多様な意味がある“了”表現 2:多様な意味がある“就”表現 本文読解		“了”の3つの用法（完了・変化・語気） 副詞“就”の用法
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 “了”と“就”の多様な意味・用法を理解しそれぞれ表現できる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の“了”を再確認する。	30分
	事後学修	間違えやすい“了（～した）”の位置と他の用例表現を再確認し、全てが「～した」ではないことを確認する。	30分
10	第4課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第4課の本文理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
11	第5課 1:様子や状態の補語表現 2:予測表現 3:仮定表現 本文読解		動作や行為の行われ方がどのような状態・様子であるのかを説明する表現。 可能性の予測表現。 仮定「もしも～ならば」の表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 様態補語の文構造を理解し表現できる。 可能性の予測と仮定の表現ができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の形容詞文を再確認する。	30分
	事後学修	初級中国語で習った単語の意味と使用法の違いを再確認する。	30分
12	第5課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第5課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課 1:動作の結果表現 2:様々な「少し」表現 本文読解	動作の結果、ある状態になる表現。 感覚的・数量的な「少し」の中国語における表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動詞＋結果補語の構成を正しく理解し表現できる。 「少し」の表現を中国語で使い分けることができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 この教科書の第4課1番（1）を再確認する。	30分
	事後学修	「動詞＋結果補語」の構成を新しい単語のようして覚える。ここで覚えないと第10課・第12課の理解が難しくなる。	30分
14	第6課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第6課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
15	前期の総復習	前期習得度を確認する試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	中元 雅昭	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
すでに1年間以上の中国語学習経験を有する学生。

【授業方法】		
中国語の学習を通じて、日本と中国の諸文化の相違に対する理解を深めます。 大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③本文の音読④発音指導⑤スライドを用いた文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。 本文の単語を辞書で調べて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐらい音読しましょう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で扱うテーマに即して、中国語で書かれた書籍やインターネットサイトで情報を集める。また、自分自身の身の周りの事柄について、中国語で記述する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①と②の達成度を測るため、授業内の筆記試験により評価する。 主に中国語の文法を正しく運用できているか、また簡体字で正しく記述できているかを中心に確認する。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開と成績評価についてきちんと理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	次の授業までに、以前使用した教科書やノートで中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
2	第1課 中国語の発音の復習	中国語の基本的な発音方法について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、声調、母音、子音（無気音、有気音、そり舌音、摩擦音）、鼻母音を正しく発音できるようになる。	
	事前学修	これまでに使用した教科書等で中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音（韻母）と子音（声母）について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
3	第2課 「学校生活」①	中国と日本の「学校生活」の共通点について、中国語の学習を通して理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、学校の名前や所在地を言ったり書いたりできる。 到達目標②の達成のため、好きな科目や嫌いな科目について、言ったり尋ねたりできる。	
	事前学修	第2課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第2課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	第3課 「学校生活」②	中国と日本の「学校生活」の相違点について、中国語の学習を通して理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、学校の簡単な概要を説明した簡単な資料を理解することができる。 到達目標②の達成のため、休み時間や放課後の過ごし方について、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。	
	事前学修	第3課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第3課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	第4課 「朝食」①	中国と日本の「朝食」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、朝食によく食べるものについて、言ったり尋ねたりすることができる。 到達目標②の達成のため、自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物など、料理名や食品名を口頭で伝えることができる。	
	事前学修	第4課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第4課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	第5課 「朝食」②	中国と日本の「朝食」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、日本の代表的な料理や地域の料理について、口頭または文章で紹介できる。 到達目標②の達成のため、中国の食べ方やマナーなどについて、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第5課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第5課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第6課 「喫茶」①	中国と日本の「喫茶」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、日本でよく飲まれるお茶の種類と産地について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第6課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第6課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また。授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	第7課 「喫茶」②	中国と日本の「喫茶」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国でよく飲まれるお茶の種類と産地について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第7課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第7課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また。授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	第8課 「食文化」①	中国と日本の「食文化」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、日本の年中行事で何を食べるかについて、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第8課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第8課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また。授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	第9課 振り返り	第8課までの講義で学修した内容について、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、これまで学修した中国と日本の文化の共通点と相違点について、それぞれの特徴を説明できる。	
	事前学修	これまでのスライドを整理して要点をまとめ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	30分
	事後学修	復習しても解けなかった問題については、教員に質問する。	30分
11	第10課 「食文化」②	中国と日本の「食文化」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国の地域や民族によって異なる多様な食文化に関する資料を読み、それぞれの特徴について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第10課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第10課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また。授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	第11課 「服飾」①	中国と日本の「服飾」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、身に付けているものの名称や色・素材を言うことができる。 到達目標①と②の達成のため、自分の服装・髪型・身に付けている小物などの好みについて、言ったり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	第11課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第11課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また。授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 「服飾」②	中国と日本の「服飾」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、日本と中国の伝統服や民族衣装の歴史や地域性について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第12課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第12課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
14	期末試験・復習	前期で学修した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	前期で学修した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学修した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	前期で学習した内容を総復習し、試験のフィードバックも行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、前期の学習内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	星 健一	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
授業中の発言の際、他の学生や授業担当者に聞こえるように話すことを条件とする（特段の事情がある場合は配慮する）。

【授業方法】
テキストの音読，文法的な説明および作文練習を実施するとともに，授業の流れに応じ中国語や中国文化を中心としたさまざまなことについて履修者に意見や説明を求めつつ授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2					2		2
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関する事項が身についているかを、授業中にどれだけ活発に発言したかに基づき評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は答案回収後または返却時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 つぎへの一步	尹景春、竹島毅	白水社	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後などに教室または講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	・ガイダンス ・中国語とはどんな言語か	ガイダンス：この授業の進め方、試験及び評価の方法について説明する。 中国語とはどんな言語か：中国語の特徴について概略を述べる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関する初歩的知識として、中国語の特徴について自分なりのイメージを構築できる。		
	事前学修	このシラバスを熟読する。		30分
	事後学修	ガイダンス内容について今後不明な点が出てきたら質せるようにしておくとともに、中国語の特徴について自分なりのイメージを構築すること。		30分
2	第1課（ポイント） ・助動詞“可以”“要” ・主述述語文 ・目的語が主述句となる表現を学ぶ。	第1課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・助動詞“可以”“要” ・主述述語文 ・目的語が主述句となる表現		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞“可以”“要”、主述述語文、目的語が主述句となる表現について理解することができる。		
	事前学修	第1課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	助動詞“可以”“要”、主述述語文、目的語が主述句となる表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
3	第1課（本文） ・助動詞“可以”“要” ・主述述語文 ・目的語が主述句となる表現を含む表現からなる本文を学ぶ。	第1課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞“可以”“要”、主述述語文、目的語が主述句となる表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第1課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	助動詞“可以”“要”、主述述語文、目的語が主述句となる表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
4	第2課（ポイント） ・“的” ・原因、理由を表わす“因” ・文末の助詞“吧”“呢”を学ぶ。	第2課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・“的” ・原因、理由を表わす“因” ・文末の助詞“吧”“呢”		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“的”、原因や理由を表わす“因”、文末の助詞“吧”“呢”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第2課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	“的”、原因や理由を表わす“因”、文末の助詞“吧”“呢”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
5	第2課（本文） ・“的” ・原因、理由を表わす“因” ・文末の助詞“吧”“呢”を含む表現からなる本文を学ぶ。	第2課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“的”、原因や理由を表わす“因”、文末の助詞“吧”“呢”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第2課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	“的”、原因や理由を表わす“因”、文末の助詞“吧”“呢”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
6	第3課（ポイント） ・連動文 ・“是～的” ・疑問詞“怎么”を学ぶ。	第3課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・連動文 ・“是～的” ・疑問詞“怎么”		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連動文、“是～的”、疑問詞“怎么”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第3課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	連動文、“是～的”、疑問詞“怎么”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課（本文） ・連動文 ・“是～的” ・疑問詞“怎么” を含む表現からなる本文を学ぶ。		第3課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連動文、“是～的”、疑問詞“怎么”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第3課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	連動文、“是～的”、疑問詞“怎么”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
8	第1課から第3課の小テスト		第1課から第3課の小テストと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関することがらのうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。		
	事前学修	これまでの授業で扱った部分を再度復習しておく。		30分
	事後学修	今後に向け、基本事項のうち理解不十分な部分を復習する。		30分
9	第4課（ポイント） ・“了”の3つの用法 ・副詞“就” を学ぶ。		第4課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・“了”の3つの用法 ・副詞“就”	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“了”の3つの用法、副詞“就”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第4課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	3つの用法の“了”、副詞“就”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
10	第4課（本文） ・“了”の3つの用法 ・副詞“就” を含む表現からなる本文を学ぶ。		第4課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、3つの用法の“了”、副詞“就”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第4課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	3つの用法の“了”、副詞“就”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
11	第5課（ポイント） ・様態補語 ・可能性を表わす“会” ・仮定を表わす“要是” を学ぶ。		第5課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・様態補語 ・可能性を表わす“会” ・仮定を表わす“要是”	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様態補語、可能性を表わす“会”、仮定を表わす“要是”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第5課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	様態補語、可能性を表わす“会”、仮定を表わす“要是”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
12	第5課（本文） ・様態補語 ・可能性を表わす“会” ・仮定を表わす“要是” を含む表現からなる本文を学ぶ。		第5課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様態補語、可能性を表わす“会”、仮定を表わす“要是”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第5課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	様態補語、可能性を表わす“会”、仮定を表わす“要是”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課（ポイント） ・結果補語（1） ・副詞“有点儿” を学ぶ。	第6課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・結果補語（1） ・副詞“有点儿”	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語、副詞“有点儿”を用いた表現について理解することができる。	
	事前学修	第6課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。	30分
	事後学修	結果補語、副詞“有点儿”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	30分
14	第6課（本文） ・結果補語（1） ・副詞“有点儿” を含む表現からなる本文を学ぶ。	第6課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語、副詞“有点儿”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。	
	事前学修	第6課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。	30分
	事後学修	結果補語、副詞“有点儿”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	30分
15	授業内試験と解説	今学期の学習事項の定着度を測る試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関する知識のうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。	
	事前学修	今学期の学習事項について総復習する。	30分
	事後学修	今後の学習に向け、不足している部分を復習する。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	栗原 千里	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
オンデマンド式で授業を行う。「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、授業内試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		85	15									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第七課(着)		状態の持続を表す「着」について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、状態の持続を表す「着」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第7課状態の持続を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	状態の持続を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	第七課(再、部分否定)		副詞「再」、部分否定について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「再」、部分否定について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第7課副詞「再」、部分否定の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「再」、部分否定の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	第八課(方向補語、譲)		方向補語、使役を表す「譲」について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方向補語、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第8課方向補語、使役を表す「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	方向補語、使役を表す「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	第八課(疑問詞不定用法)		疑問詞の不定用法について学ぶ。小課題。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞の不定用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第8課疑問詞の不定用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞の不定用法の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	第九課(可能補語)		可能補語について学ぶ。小課題。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、可能補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第9課可能補語部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	第九課(強調表現)		強調表現について学ぶ。小課題。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、強調表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第9課強調表現部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	強調表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第十課(為了、会)	目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第10課目的を表す「為了」、推測を表す「会」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	目的を表す「為了」、推測を表す「会」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	第十課(～了～了)	「～了～了」の用法について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「～了～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第10課「～了～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「～了～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	第十一課(到、在)	結果補語「～到～」 「～在～」について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～到～」 「～在～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課結果補語「～到～」 「～在～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～到～」 「～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	第十一課(給)	結果補語「～給～」について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～給～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課結果補語「～給～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～給～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	第十一課(被)	受け身を表す「被」について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、受け身を表す「被」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課受け身を表す「被」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	受け身を表す「被」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	第十二課(快～了)	「快～了」の用法について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課「快～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十二課(快要～了)	「快要～了」の用法について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快要～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課「快要～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「快要～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十二課(把)	介詞「把」について学ぶ。小課題。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「把」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課介詞「把」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「把」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と比較的大きな課題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び比較的大きな課題を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	吉富 透	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び初級中国語基礎法を習得済みのが望ましい。

【授業方法】
演習形式の授業を行う。文法説明の講義に終始せず、理解度確認の作文練習を時間内に行う。外国語授業であるため、読めるようになることも重要である。そのため指定された文を読めるかどうかの確認も同時に行うように、学生参加型の授業である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業において、発音や修正の時間を適宜設ける。 文型確認のため、作文練習と指導解説を随時行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	50										50
小テスト等	到達目標②の理解度確認を小テストにより評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	20										20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語つぎへの一步	竹島毅・尹景春共著	白水社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室内で受け付ける。後日の質問受け付けは次のメールでお願いします。 yoshitomi.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイドダンス 第7課 1:存在・出現・消失の表現 2:主語が動詞フレーズの構造 3:二つの“了”と時間量表現	ある場所に何か／誰かが「存在している」「出現した」「消えた」の文構造。 主語が動詞＋目的語からなる文構造。 時間量がある場合の一つの“了”と二つ“了”がある場合の表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 初級中国語で習った“有”の文構造から存現文が理解できる。 主語が動詞＋目的語から構成されている文の理解。 “了”＋時間量＋“了”の表現が理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習った“有”と“了”の文構造を確認しておくこと。	30分
	事後学修	初級中国語で習得した文構造の応用形であることを再確認する。	30分
2	第7課 トレーニング ヒアリング	第7課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
3	第8課 1:状態の持続表現 2:多様な“再”表現 3:疑問詞の不定用法	ある動作をしたあとの状態が持続している表現。 副詞と接続詞の用法。 疑問詞に“”が付いた時の表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動作の進行表現「している」と持続表現「している」の違いが理解できる。 文脈から副詞と接続詞の違いが理解できる。 疑問詞疑問文の“”がある場合の表現の違いが理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習得した動作の進行表現を確認する。 各種疑問詞を確認し、疑問詞疑問文では“”を省略していたことを再確認する。	30分
	事後学修	日本語の「している」で理解するのではなく、動作の有無を再確認する。 疑問詞の不定用法の肯定文の使い方も再確認する。	30分
4	第8課 トレーニング ヒアリング	第8課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
5	第9課 1:方向補語の表現 2:使役表現	動作の向かう方向性を表す“去”と“来”を用いた表現。 使役文の構造理解と日本語表現。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動詞に方向性を表す“去”“来”を組み合わせた表現と目的語の位置が理解できる。 使役文の中国語文構造だけでなく、相手に合わせた日本語表現が理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習得した動詞の重ね型表現と前置詞を用いた文構造を確認する。	30分
	事後学修	様々な動詞と“去”“来”を組み合わせた表現を再確認する。 前置詞文の応用文構造であることを再確認する。	30分
6	第9課 トレーニング ヒアリング	第9課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	前半習得事項の確認		第7課から第9課までの本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	第7課から第9課までの内容を再確認する。	30分
	事後学修	解答を見て、各種補語と肯定・否定文の確認をする。	30分
8	第10課 1:可能補語の表現 2:強調表現（2）		結果補語と方向補語を用いた可能表現。 副詞“也”“都”を用いた強調表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 結果補語と可能補語を用いたより具体的な「できる・できない」の表現を理解する。 副詞を用いた強調表現を理解する。	
	事前学修	第6課の結果補語と第9課の方向補語の表現を確認する。	30分
	事後学修	“能”を用いない可能補語の組み合わせを再確認する。	30分
9	第10課 トレーニング ヒアリング		第10課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
10	第11課 1:結果補語の表現（2） 2:受身表現		前置詞を用いた結果補語の表現。 受身文の文構造とその表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 前置詞を用いた結果補語と受身の表現ができる。	
	事前学修	初級中国語で習得した各種前置詞を確認する。 第9課の使役表現の文構造を確認する。	30分
	事後学修	動詞＋前置詞＋名詞の結果補語構造を再確認する。 使役文と受身文の文構造の違いを再確認する。	30分
11	第11課 トレーニング ヒアリング		第11課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
12	第12課 1:近接未来の表現 2:目的語を動詞の前に持ってくる文構造とその表現		「もうすぐ・まもなく～だ」の表現。 前置詞“把”を用いて目的語を動詞の前に移動させた表現に付随するルール説明。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 実現するまで時間がさほどかからない場合の表現ができる。 日本語の語順のように中国語を組み立てる時の特殊ルールが理解できる。	
	事前学修	習得事項の前置詞文構造・動詞の重ね型・結果補語・方向補語を再確認する。	30分
	事後学修	このテキストで習得した補語表現が前置詞“把”構文で活用されることを再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 トレーニング ヒアリング	第12課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
14	長文読解	習得した文法事項を確認するため、中国語の長文を読解する。	
	この回の到達目標	中国語の長文を正しく理解し日本語に翻訳できる。	
	事前学修	単語の意味を事前に調べて確認する。	30分
	事後学修	読解を通じて中国文化の一端を理解する。	30分
15	後期習得事項の確認	授業内試験を実施し、最後に解説を加える。	
	この回の到達目標	各種補語表現と副詞の用い方を正しく表現できる。	
	事前学修	前期で習った結果補語を含め、各種補語表現を再確認する。 副詞と助詞の用い方を再確認する。	30分
	事後学修	解答を見て確認し、基本から応用発展の形式を整理し理解する。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	中元 雅昭	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
すでに1年間以上の中国語学習経験を有する学生。

【授業方法】		
中国語の学習を通じて、日本と中国における諸文化の類似や相違に対する理解を深めます。 大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③本文の音読④発音指導⑤スライドを用いた文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。 本文の単語を辞書で調べて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐらい音読しましょう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で扱うテーマに即して、中国語で書かれた書籍やインターネットサイトで情報を集める。また、自分自身の身の周りの事柄について、中国語で記述する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①と②の達成度を測るため、授業内の筆記試験により評価する。 主に中国語の文法を正しく運用できているか、また簡体字で正しく記述できているかを中心に確認する。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開と成績評価についてきちんと理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	次の授業までに、以前使用した教科書やノートで中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
2	第1課 中国語の発音の復習	中国語の基本的な発音方法について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、声調、母音、子音（無気音、有気音、そり舌音、摩擦音）、鼻母音を正しく発音できるようになる。	
	事前学修	これまでに使用した教科書等で中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音（韻母）と子音（声母）について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
3	第2課 「交通」①	中国と日本の「交通」の共通点について、中国語の学習を通して理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、通学で利用する交通機関を言ったり書いたりできる。 到達目標②の達成のため、自分の行きたい場所について、言ったり尋ねたりできる。	
	事前学修	第2課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第2課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	第3課 「交通」②	中国と日本の「交通」の相違点について、中国語の学習を通して理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、日本と中国の社会人の出勤方法の相違について説明ができる。 到達目標②の達成のため、日本と中国のタクシーの相違について、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。	
	事前学修	第3課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第3課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	第4課 「文化祭」①	中国と日本の「文化祭」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、学校の行事について、言ったり尋ねたりすることができる。 到達目標②の達成のため、自身のサークル活動について口頭で伝えることができる。	
	事前学修	第4課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第4課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	第5課 「文化祭」②	中国と日本の「文化祭」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、日本と中国の文化祭の開催時期や内容の相違について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第5課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第5課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第6課 「スポーツ」①	中国と日本の「スポーツ」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、自分の好きなスポーツについて、口頭または文章で紹介できる。 到達目標①と②の達成のため、日本の代表的なスポーツについて、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第6課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第6課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	第7課 「スポーツ」②	中国と日本の「スポーツ」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国の代表的なスポーツについて、口頭または文章で紹介できる。 到達目標①と②の達成のため、日本と中国の武術について簡単に紹介できる。	
	事前学修	第7課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第7課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	第8課 「言葉」①	中国と日本の「言葉」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、どんな言語を学んでいるのか、また学習状況について、口頭または文章で紹介できる。 到達目標①と②の達成のため、日本語の文字の種類と使い分けについて、口頭で紹介できる。	
	事前学修	第8課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第8課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	第9課 振り返り	第8課までの講義で学修した内容について、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、これまで学修した中国と日本の文化の共通点と相違点について、それぞれの特徴を説明できる。	
	事前学修	これまでのスライドを整理して要点をまとめ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	30分
	事後学修	復習しても解けなかった問題については、教員に質問する。	30分
11	第10課 「言葉」②	中国と日本の「言葉」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国語の文字の成り立ちや特徴について、口頭または文章で紹介できる。 到達目標①と②の達成のため、日本語と中国語を比べて、類似点や相違点を簡単な例を挙げて説明できる。	
	事前学修	第10課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第10課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	第11課 「行事」①	中国と日本の「行事」の共通点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国と日本の行事の名称・月日を言ったり尋ねたりすることができる。 到達目標①と②の達成のため、祝祭日や儀礼の時に用いる決まり文句やお祝いの言葉を言ったり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	第11課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第11課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 「行事」②	中国と日本の「行事」の相違点について、中国語の学習を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、中国の行事の過ごし方について書かれた文章を読んで大意を理解できる。 到達目標①と②の達成のため、日本の代表的な行事の由来や意味について、口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	第12課の本文について、自分で本文を10回以上音読し、さらに音声を聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。 新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	第12課で学んだ内容について、要点をノートに整理する。また、スライドの例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確認すること。	30分
14	期末試験・復習	後期で学修した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	後期で学修した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学修した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	後期で学習した内容を総復習し、試験のフィードバックも行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、前期の学習内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	星 健一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
授業中の発言の際、他の学生や授業担当者に聞こえるように話すことを条件とする（特段の事情がある場合は配慮する）。

【授業方法】
テキストの音読，文法的な説明および作文練習を実施するとともに，授業の流れに応じ中国語や中国文化を中心としたさまざまなことについて履修者に意見や説明を求めつつ授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関する事項が身についているかを、授業中にどれだけ活発に発言したかに基づき評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験は答案回収後または返却時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 つぎへの一步	尹景春、竹島毅	白水社	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後などに教室または講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・ガイダンス ・基本的事項の確認		ガイダンス：この授業の進め方、試験及び評価の方法について説明する。 基本的事項の確認：授業に必要な最低限の知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関する前提としてこの授業のあり方を理解できる。		
	事前学修	このシラバスを熟読する。		30分
	事後学修	ガイダンス内容について今後不明な点が出てきたら質せるようにしておくこと。		30分
2	第7課（ポイント） ・存現文 ・主語がフレーズである表現 ・“～了～了”の用法 を学ぶ。		第7課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・存現文 ・主語がフレーズである表現 ・“～了～了”の用法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、存現文、主語がフレーズである表現、“～了～了”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第7課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	存現文、主語がフレーズである表現、“～了～了”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
3	第7課（本文） ・存現文 ・主語がフレーズである表現 ・“～了～了”の用法 を含む表現からなる本文を学ぶ。		第7課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、存現文、主語がフレーズである表現、“～了～了”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第7課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	存現文、主語がフレーズである表現、“～了～了”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
4	第8課（ポイント） ・「状態の持続」を表わす“着” ・副詞“再” ・疑問詞の不定用法 を学ぶ。		第8課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・「状態の持続」を表わす“着” ・副詞“再” ・疑問詞の不定用法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「状態の持続」を表わす“着”、副詞“再”、疑問詞の不定用法を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第8課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	「状態の持続」を表わす“着”、副詞“再”、疑問詞の不定用法を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
5	第8課（本文） ・「状態の持続」を表わす“着” ・副詞“再” ・疑問詞の不定用法 を含む表現からなる本文を学ぶ。		第8課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“的”、原因や理由を表わす“因”、文末の助詞“吧”“呢”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第8課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	「状態の持続」を表わす“着”、副詞“再”、疑問詞の不定用法を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
6	第9課（ポイント） ・方向補語 ・使役を表わす“” を学ぶ。		第9課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・方向補語 ・使役を表わす“”	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、方向補語、使役を表わす“”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第9課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	方向補語、使役を表わす“”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課（本文） ・方向補語 ・使役を表わす“” を含む表現からなる本文を学ぶ。		第9課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、方向補語、使役を表わす“”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第9課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	方向補語、使役を表わす“”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
8	第7課から第9課の小テスト		第7課から第9課の小テストと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関することがらのうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。		
	事前学修	これまでの授業で扱った部分を再度復習しておく。		30分
	事後学修	今後に向け、基本事項のうち理解不十分な部分を復習する。		30分
9	第10課（ポイント） ・可能補語 ・強調表現 を学ぶ。		第10課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・可能補語 ・強調表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、可能補語、強調表現を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第10課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	可能補語、強調表現を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
10	第10課（本文） ・可能補語 ・強調表現 を含む表現からなる本文を学ぶ。		第10課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、可能補語、強調表現を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第10課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	可能補語、強調表現を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
11	第11課（ポイント） ・結果補語（2） ・受け身を表わす“被” を学ぶ。		第11課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・結果補語（2） ・受け身を表わす“被”	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語（2）、受け身を表わす“被”を用いた表現について理解することができる。		
	事前学修	第11課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	結果補語（2）、受け身を表わす“被”を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分
12	第11課（本文） ・結果補語（2） ・受け身を表わす“被” を含む表現からなる本文を学ぶ。		第11課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語（2）、受け身を表わす“被”を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。		
	事前学修	第11課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。		30分
	事後学修	結果補語（2）、受け身を表わす“被”を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課（ポイント） ・ “快～了” の用法 ・ “把” 構文 を学ぶ。	第12課（ポイント）に挙がる以下の文法事項について解説する。 ・ “快～了” の用法 ・ “把” 構文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“快～了”、“把” 構文を用いた表現について理解することができる。	
	事前学修	第12課（ポイント）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。	30分
	事後学修	“快～了”、“把” 構文を用いた表現を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	30分
14	第12課（本文） ・ “快～了” の用法 ・ “把” 構文 を含む表現からなる本文を学ぶ。	第12課（本文）の正確な音読、解釈に加え、練習問題を扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“快～了”、“把” 構文を用いた表現を応用した文章を音読し理解することができる。	
	事前学修	第12課（本文）に目を通し、正しい発音で文を音読できるよう準備する。	30分
	事後学修	“快～了”、“把” 構文を用いた表現を含む文章を理解し、不明な点があれば次回授業時に質せるようにしておく。	30分
15	授業内試験と解説	今学期の学習事項の定着度を測る試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関する知識のうち不足している部分に気づき、今後に向けた復習の方針を立てる。	
	事前学修	今学期の学習事項について総復習する。	30分
	事後学修	今後の学習に向け、不足している部分を復習する。	30分

科目名	中国語演習G	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読と関連する練習問題を解くことを中心とした演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に、どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『《新版》中国語さらなる一歩』	尹景春・竹島毅	白水社	2002	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50、木曜日9：00～12：10（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取る） homma.naoto11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【基本単語と基本文型の復習	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型の復習	
	この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。また、到達目標①②に関連して、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	【助動詞“可以”“要”、主述述語文などについて】	第1課 助動詞“可以”、“要”、主述述語文などについて学習する。	
	この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、助動詞“可以”、“要”、主述述語文などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	【第1課 練習問題および解説】	第1課 助動詞“可以”、“要”、主述述語文などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、助動詞“可以”、“要”、主述述語文などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	【「原因・理由」を表す“因”、文末の助詞“吧”、“呢”などについて】	第2課 「原因・理由」を表す“因”、文末の助詞“吧”、“呢”などについて学習する。	
	この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、「原因・理由」を表す“因”、文末の助詞“吧”、“呢”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【第2課 練習問題および解説】	第2課 「原因・理由」を表す“因”、文末の助詞“吧”、“呢”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、「原因・理由」を表す“因”、文末の助詞“吧”、“呢”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
6	【連動文、疑問詞“怎么”などについて】	第3課 連動文、疑問詞“怎么”などについて学習する。	
	この回の到達目標	連動文、疑問詞“怎么”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【第3課 練習問題および解説】	第3課 連動文、疑問詞“怎么”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	連動文、疑問詞“怎么”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
8	【“了”の3つの用法、副詞“就”などについて】	第4課 “了”の3つの用法、副詞“就”などについて学習する。	
	この回の到達目標	“了”の3つの用法、副詞“就”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	【第4課 練習問題および解説】	第4課 “了”の3つの用法、副詞“就”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	“了”の3つの用法、副詞“就”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
10	【結果補語、「假定」を表す“要是”などについて】	第5課 結果補語、「假定」を表す“要是”などについて学習する。	
	この回の到達目標	結果補語、「假定」を表す“要是”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【第5課 練習問題および解説】	第5課 結果補語、「假定」を表す“要是”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	「假定」を表す“要是”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
12	【存現文、主語がフレーズのときの表現などについて】	第6課 存現文、主語がフレーズのときの表現などについて学習する。	
	この回の到達目標	存現文、主語がフレーズのときの表現などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【第6課 練習問題および解説】	第6課 存現文、主語がフレーズのときの表現などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	存現文、主語がフレーズのときの表現などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
14	【文法事項のまとめ、中国文化について】	これまでに学習した内容について、文法事項を中心に総復習をする。また、テキストの内容を踏まえ、各自が興味・関心を抱いた中国文化についてレポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「社会系中国語演習A」で学習した内容、特に文法事項について理解する。またレポート作成の基礎を身に着ける。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「社会系中国語演習A」で学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習G	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を身につけており、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる中国語文献について理解・説明できる能力の涵養を柱とした演習授業。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（以下R P）を提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する知識を理解するための中国語能力が身についているかを、筆記試験により評価する	40	10									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②の達成のため、興味ある分野について理解し、自分の言葉で説明したり意見表明する能力が身についているかを評価する	5	5									10
授業への参画度	到達目標①②の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、一定以上の成果をあげることができたかを評価する	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 2	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2006年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	語学の基礎学習には教科書（及び指定ストリーミング動画）を使用し、社会・歴史関係の学習には適宜補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。（s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・基礎復習 a ・導入		授業の目的・内容、進め方の確認。成績評価方法について。中国の社会・歴史に関する情報の学修とともに基礎の復習 a として中国語の再初歩レベルの確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、シラバスや基礎復習 a の内容について確認し、復習した言葉や文章、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、授業内容を理解しておく。教科書を購入し「はじめに」「目次」「登場人物」部分等に目を通しておく。	30分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 a の文章や言葉、解説された社会・歴史情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	30分	
2	中国の社会/歴史・基礎復習 b		中国語の基礎の復習 b として前回よりも少し掘り下げた部分について復習し、中国の社会・歴史に関する情報についても学修します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、授業内容や基礎復習 b について理解し、学修した言葉や文章、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付された今回の授業用プリントに目をとおしておく。教科書のはじめの部分をまだ見ていない者は読んでおく。教科書を入手できていない者は入手に向けて最大限の努力をする。	30分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 b の文章や言葉、解説された社会・歴史情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	30分	
3	中国雑技鑑賞に誘う		事前配付プリントと教科書で第 1 課を学修し「了」の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した「了」を用いた文章・言葉等、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストリーミング動画の第 1 課に目を通しておく。教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。	30分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（「了」を用いた文章や言葉等、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	60分	
4	劇場の前で		事前配付プリントと教科書で第 2 課を学修し現在進行表現の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した現在進行表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストリーミング動画の第 2 課に目を通しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。	60分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（進行表現等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	60分	
5	雑技を鑑賞する		事前配付プリントと教科書で第 3 課を学修し 2 種類の「了」の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した 2 種類の「了」等を用いた文章・言葉、解説された社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストリーミング動画の第 3 課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。	60分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（2 種類の「了」等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	60分	
6	雑技を終えて		事前配付プリントと教科書で第 4 課を学修し経験表現等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した経験表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストリーミング動画の第 4 課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。	60分	
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（経験表現等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「雑技を観る」講読文		事前配付プリントと教科書で第5課を学修しユニット1を復習するとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット1の授業内容を理解し、第1課～第4課で学修した文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第5課に目を通し、指定動画第1～4課を再視聴しておく。いまだに教科書を手でできていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット1の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
8	北海公園の湖畔		事前配付プリントと教科書で第6課を学修し基本的な存現文の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した基本的な存現文等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第6課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基本的な存現文等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
9	太極拳と回廊の絵		事前配付プリントと教科書で第7課を学修し発展的存現文の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した発展的存現文等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第7課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（発展的な存現文等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
10	舟遊びに誘う		事前配付プリントと教科書で第8課を学修し結果補語等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した結果補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第8課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（結果補語等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
11	景山に登る		事前配付プリントと教科書で第9課を学修し数量補語・程度補語の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した数量補語・程度補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第9課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（数量・程度補語等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
12	「北海・景山散策」講読文		事前配付プリントと教科書で第10課を学修しユニット2を復習するとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット2の授業内容を理解し、第6課～第9課で学修した文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第10課に目を通し、指定動画第6～9課を再視聴しておく。教科書を手でできていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット2の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	前期の復習		前期の復習として、プリント・教科書などを持ち、第1課～第10課までの学修内容を振り返ります。
	この回の到達目標	達目標①②に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容について疑問点を整理し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	これまで配付されたプリントと教科書ユニット1・2を復習し、指定ストリーミング動画第1～9課を再視聴しておく。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット1・2の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
14	期末試験準備		前期の総復習として、担当者の解説を参考に期末試験の準備を行うとともに疑問点を解決しておきます。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容について疑問点を解決し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、疑問点を整理して授業にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（前期に学んだ文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
15	期末試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、フィードバックとしてまとめと解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を身につけ自ら応用したり解説したりすることができる。	
	事前学修	前期学修部分を再び総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	R P等を通して試験を振り返り、疑問点があれば質問、身につけていない部分については復習し改善しておく。	20分

科目名	中国語演習G	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
この授業では、中国語の学習を通して、中国社会に対する理解を深めます。毎回、スライドを用いて中国の各都市・地域の概要を講義しますので、それぞれの地域の地理、歴史、観光名所などについて中国語で簡単に説明してもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式と演習形式を組み合わせで行います。スライドに基づきながら講義を行い、各自で課題に取り組み発表してもらうことで、中国の自然環境や風土地理への理解を深めます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身に付いているかを、筆記試験により評価します。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標①②に関わる能力が身に付いているかを評価します。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に行ったかを基準に、到達目標①②が身に付いているかを評価します。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールをする時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開と成績評価についてきちんと理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	次の授業までに、以前使用した教科書やノートで中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
2	第1課 中国語の発音の復習	中国語の基本的な発音方法について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、声調、母音、子音（無気音、有気音、そり舌音、摩擦音）、鼻母音を正しく発音できるようになる。	
	事前学修	これまでに使用した教科書等で中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音と子音について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
3	第2課 「北京市」	「北京市」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「北京市」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「北京市」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「北京市」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「北京市」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
4	第3課 「上海市」	「上海市」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「上海市」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「上海市」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「上海市」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「上海市」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
5	第4課 「天津市」	「天津市」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「天津市」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「天津市」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「天津市」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「天津市」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
6	第5課 「重慶市」	「重慶市」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「重慶市」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「重慶市」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「重慶市」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「重慶市」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第6課 「内モンゴル自治区」		「内モンゴル自治区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「内モンゴル自治区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「内モンゴル自治区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「内モンゴル自治区」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「内モンゴル自治区」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
8	第7課 「新疆ウイグル自治区」		「新疆ウイグル自治区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「新疆ウイグル自治区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「新疆ウイグル自治区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「新疆ウイグル自治区」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「新疆ウイグル自治区」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
9	第8課 「チベット自治区」		「チベット自治区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「チベット自治区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「チベット自治区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「チベット自治区」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「チベット自治区」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
10	第9課 振り返り		第8課までの講義で学修した内容について、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、これまで学修した中国の都市について、それぞれの概要を説明できる。	
	事前学修	これまでのスライドを整理して要点をまとめ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	30分
	事後学修	復習しても解けなかった問題については、教員に質問する。	30分
11	第10課 「広西チワン族自治区」		「広西チワン族自治区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「広西チワン族自治区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「広西チワン族自治区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「広西チワン族自治区」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「広西チワン族自治区」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
12	第11課 「香港特別行政区」		「香港特別行政区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「香港特別行政区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「香港特別行政区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「香港特別行政区」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「香港特別行政区」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 「寧夏回族自治区」	「寧夏回族自治区」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「寧夏回族自治区」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「寧夏回族自治区」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「重慶市」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「重慶市」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
14	期末試験・復習	前期で学習した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	前期で学習した内容を総復習し、試験のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、前期の学習内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読と資料を用いた演習。また、テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に、それぞれの意見を発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40										40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に、どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『《新版》中国語さらなる一歩』	尹景春・竹島毅	白水社	2002	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16:20～17:50、木曜日9：00～12：10（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること）homma.naoto11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【基本単語と基本文型、「社会系中国語演習A」の内容についての復習】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型、「社会系中国語演習A」の内容についての復習	
	この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。到達目標①②に関連して、中国語の基本単語と基本文型、さらに「社会系中国語演習A」で学習した内容について理解する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。「社会系中国語演習A」での学習内容について復習しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
2	【「状態の持続」を表す“着”、部分否定等について】	第7課 「状態の持続」を表す“着”、部分否定等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「状態の持続」を表す“着”、部分否定等について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	【第7課 練習問題および解説】	第7課 「状態の持続」を表す“着”、部分否定等について、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「状態の持続」を表す“着”、部分否定等について、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	【方向補語、疑問詞の不定用法などについて】	第8課 方向補語、疑問詞の不定用法などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、方向補語、疑問詞の不定用法などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【第8課 練習問題および解説】	第8課 方向補語、疑問詞の不定用法などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、方向補語、疑問詞の不定用法などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
6	【可能補語、強調表現などについて】	第9課 可能補語、強調表現などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、可能補語、強調表現などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【第9課 練習問題および解説】	第9課 可能補語、強調表現などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、可能補語、強調表現などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
8	【「目的」を表す“了”、「推測」を表す“会”などについて】	第10課 「目的」を表す“了”、「推測」を表す“会”などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「目的」を表す“了”、「推測」を表す“会”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	【第10課 練習問題および解説】	第10課 「目的」を表す“了”、「推測」を表す“会”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「目的」を表す“了”、「推測」を表す“会”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
10	【結果補語、「受身」を表す“被”などについて】	第11課 結果補語、「受身」を表す“被”などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語、「受身」を表す“被”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【第11課 練習問題および解説】	第11課 結果補語、「受身」を表す“被”などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、結果補語、「受身」を表す“被”などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
12	【“快了”について】	第12課 “快～了”の用法、介詞“把”などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“快～了”の用法、介詞“把”などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【第12課 練習問題および解説】	第12課 “快～了” の用法、介詞“把” などについて、テキストの練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、“快～了” の用法、介詞“把” などについて、より深く理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
14	【文法事項のまとめ、中国文化について】	これまでに学習した内容について、文法事項を中心に総復習をする。また、テキストの内容を踏まえ、各自が興味・関心を抱いた中国文化についてレポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「社会系中国語演習B」で学習した内容、特に文法事項について理解する。また、レポート作成の基礎を身につける。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「社会系中国語演習B」で学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	福木 滋久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を身につけており、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる中国語文献について理解・説明できる能力の涵養を柱とした演習授業。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（以下R P）を提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する知識を理解するための中国語能力が身についているかを、筆記試験により評価する	40	10									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②の達成のため、興味ある分野について理解し、自分の言葉で説明したり意見表明する能力が身についているかを評価する	5	5									10
授業への参画度	到達目標①②の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、一定以上の成果をあげることができたかを評価する	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 2	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2006年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	語学の基礎学習には教科書（及び指定ストリーミング動画）を使用し、社会・歴史関係の学習には適宜補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。（s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・基礎復習 c ・導入		授業の目的・内容、進め方の確認。成績評価方法について。中国の社会・歴史に関する情報の学修とともに基礎の復習 c として中国語の基礎の確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、シラバスや基礎復習 c の内容について確認し、復習した言葉や文章、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、授業内容を理解しておく。教科書を購入し「はじめに」「目次」「登場人物」「第1課～第10課」部分等に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 c を用いた文章や言葉、解説された中国の社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
2	中国の社会/歴史・基礎復習 d		中国語の基礎の復習 b として前回よりも少し掘り下げた部分について復習し、中国の社会・歴史に関する情報についても学修します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、授業内容や基礎復習 d について理解し、学修した言葉や文章、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付された今回の授業用プリントに目をとおしておく。初回に指示した教科書の部分をまだ見ていない者は読んでおく。教科書を入手できていない者は入手に向けて最大限の努力をする。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 d を用いた文章や言葉、解説された中国の社会・歴史関係情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
3	訪問と挨拶		事前配付プリントと教科書で第11課を学修し方向補語等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した方向補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第11課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（方向補語等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
4	餃子を包む		事前配付プリントと教科書で第12課を学修し処置式等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した処置式等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第12課に目を通しておく。いまだに教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（処置式等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
5	餃子を茹でる		事前配付プリントと教科書で第13課を学修し可能補語等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した可能補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第13課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（可能補語等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
6	皆で乾杯		事前配付プリントと教科書で第14課を学修し「祝～」等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した「祝～」等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第14課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（「祝～」等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「先生宅訪問」講読文		事前配付プリントと教科書で第15課を学修しユニット3を復習するとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット3の授業内容を理解し、第11課～第14課で学修した文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第15課に目を通し、指定ストーリーミング動画第11～14課を再視聴しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット3の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
8	野外写生に誘う		事前配付プリントと教科書で第16課を学修し使役文等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した使役文等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第16課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（使役文等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
9	北京の円明園		事前配付プリントと教科書で第17課を学修し受身表現等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した受身文等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第17課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（受身文等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
10	円明園の大水法		事前配付プリントと教科書で第18課を学修し同一疑問詞呼応表現等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した同一疑問詞呼応表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第18課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（同一疑問詞呼応表現等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
11	絵画の批評		事前配付プリントと教科書で第19課を学修し様態補語等の使い方を学ぶとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した様態補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・指定ストーリーミング動画の第19課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（様態補語等を用いた文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
12	「円明園でスケッチ」講読文		事前配付プリントと教科書で第20課を学修しユニット4を復習するとともに、中国の社会・歴史に関する情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット4の授業内容を理解し、第16課～第19課で学修した文章・言葉、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第20課に目を通し、指定ストーリーミング動画第15～19課を再視聴しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット4の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	後期の復習		後期の復習として、プリント・教科書などを持ち、第11課～第20課までの学修内容を振り返ります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容について疑問点を整理し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	これまで配付されたプリントと教科書ユニット3・4を復習し、指定ストリーミング動画第11～19課を再視聴しておく。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット3・4の文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
14	期末試験準備		後期の総復習として、担当者の解説を参考に期末試験の準備を行うとともに疑問点を解決しておきます。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容について疑問点を解決し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の社会・歴史に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	後期学修部分を全体的に総復習し、疑問点を整理して授業にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（前期に学んだ文章や言葉、解説された社会・歴史に関する情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
15	期末試験とまとめ		後期試験を実施し、フィードバックとしてまとめと解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を身につけ自ら応用したり解説したりすることができる。	
	事前学修	後期学修部分を再び総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して試験を振り返り、疑問点があれば質問、身につけていない部分については復習し改善しておく。	20分

科目名	中国語演習H	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎科目4単位を取得済みであること。

【授業方法】
この授業では、中国語の学習を通して、中国社会に対する理解を深めます。毎回、スライドを用いて中国の各都市・地域の概要を講義しますので、それぞれの地域の地理、歴史、観光名所などについて中国語で簡単に説明してもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式と演習形式を組み合わせで行います。スライドに基づきながら講義を行い、各自で課題に取り組み発表してもらうことで、中国の自然環境や風土地理への理解を深めます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する理解が身に付いているかを、筆記試験により評価します。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、到達目標①②に関わる能力が身に付いているかを評価します。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に行ったかを基準に、到達目標①②が身に付いているかを評価します。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
googleクラスルームやメールで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールをする時には★を@に変えてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開と成績評価についてきちんと理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音と子音について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
2	第1課 「吉林省」	「吉林省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「吉林省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「吉林省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「吉林省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「吉林省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
3	第2課 「山西省」	「山西省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「山西省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「山西省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「山西省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「山西省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
4	第3課 「陝西省」	「陝西省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「陝西省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「陝西省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「陝西省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「陝西省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
5	第4課 「甘粛省」	「甘粛省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「甘粛省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「甘粛省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「甘粛省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「甘粛省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
6	第5課 「山東省」	「山東省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「山東省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。 到達目標②の達成のため、「山東省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「山東省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「山東省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第6課 「河南省」	「河南省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「河南省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「河南省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「河南省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「河南省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
8	第7課 「広東省」	「広東省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「広東省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「広東省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「広東省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「広東省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
9	第8課 「雲南省」	「雲南省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「雲南省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「雲南省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「雲南省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「雲南省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
10	第9課 振り返り	第8課までの講義で学修した内容について、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、これまで学修した中国の都市について、それぞれの概要を説明できる。	
	事前学修	これまでのスライドを整理して要点をまとめ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	30分
	事後学修	復習しても解けなかった問題については、教員に質問する。	30分
11	第10課 「四川省」	「四川省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「四川省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「四川省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「四川省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「四川省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
12	第11課 「台湾省」	「台湾省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「台湾省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「台湾省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「台湾省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「台湾省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 「海南省」	「海南省」の位置、地形、気候、歴史、観光名所などについて中国語で学び、中国社会についての理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「海南省」の地理や歴史について書かれた中国語の文章を読んで、大意を理解できる。到達目標②の達成のため、「海南省」の概況（人口、面積、観光名所）などについて口頭または文章で紹介できる。	
	事前学修	「海南省」について、google earthで地理的位置を確認しておく。 「海南省」の中国語の表記と読み方を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	予習してきた内容と授業のスライドをノートに整理し、分からなかった部分が解決できたかを確認する。	30分
14	期末試験・復習	後期で学習した内容がきちんと身に付いているかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、授業内試験を通してリスニングとライティングの能力を測定する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分
15	総復習	後期で学習した内容を総復習し、試験のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、前期の学習内容を振り返り、中国語の運用能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料を用いて振り返っておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになる。練習問題が豊富なため、中国語で文章を書く力が向上できる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語学力を有する人。）

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳し、練習問題を解く。文章表現に力を入れる。書き取りや会話練習なども行う。練習問題を必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。試験問題については採点し、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験問題について採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版「中国語さらなる一步」	竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて 2時限～4時限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	シラバスの概要	ガイダンス 授業の概要や到達目標について説明する。	
	この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。	
	事前学修	シラバスの確認 基本動詞・基本形容詞・基本文型をチェックしよう（テキスト6頁～9頁）	30分
	事後学修	基本動詞・基本形容詞・基本文型をチェックしよう（テキスト6頁～9頁）	30分
2	第1課「中国に行こう」	第1課の文法と本文訳 1. 助動詞“可以”、“要” 2. 主述述語文 3. 目的語が主述句の時	
	この回の到達目標	第1課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
3	第1課「中国に行こう」	第1課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
4	第2課「ウーロン茶を飲もう」	第2課の文法と本文訳 1. 「原因・理由」を表わす“因” 2. 「逆接」を表わす“可是” 3. 文末の助詞“吧”“呢”	
	この回の到達目標	第2課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
5	第2課「ウーロン茶を飲もう」	第2課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
6	第3課「友だちをつくろう」	第3課の文法と本文訳 1. 連動文 2. “是～的”の文 3. 疑問詞“怎么”	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3課「友だちをつくろう」	第3課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
8	第4課「長城に登ろう」	第4課の文法と本文訳 1.“了”の3つの用法 2. 副詞“就”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
9	第4課「長城に登ろう」	第4課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
10	第5課「漢字を覚えよう」	第5課の文法と本文訳 1. 結果補語 2. 副詞“有点儿” 3. 「假定」を表わす“要是”	
	この回の到達目標	第5課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
11	第5課「漢字を覚えよう」	第5課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
12	第6課「街を歩こう」	第6課文法1. 存現文 2. 主語がフレーズするとき 3.“又”～“又～”、“一儿～一儿”の用法	
	この回の到達目標	第6課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課の文法や発音ができる。	第6課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
14	中間のまとめ	第1課～6課のまとめ（前期末授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第1課～6課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	前期授業のまとめ	フィードバック・質疑応答 筆記試験問題について解説する。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を確認し問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	学習内容を再確認し、理解を深める。	30分

科目名	リーディング・ライティング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。練習問題が豊富なため、中国語で文章を書く力が向上できる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人。）

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳し、練習問題を解く。文章表現に力を入れる。書き取りや会話練習も行う。練習問題を必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。試験問題については採点し、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課し、学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験などについて採点して、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版「中国語さらなる一步」	竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて 2時限～4時限 nagata.noriko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスの概要・導入講義	ガイダンス 授業の概要や到達目標について説明する。	
	この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	シラバスの理解を確認する。	30分
2	第7課「中国映画を見よう」	第7課の文法と本文訳 「状態の持続」を表わす“着” 2. 副詞“再” 3. 部分否定	
	この回の到達目標	第7課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
3	第7課「中国映画を見よう」	第7課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
4	第8「シルクを買おう」	第8課の文法と本文訳 1. 方向補語 2. 「使役」を表わす“” 3. 疑問詞の不定用法	
	この回の到達目標	第8課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
5	第8課「シルクを買おう」	第8課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
6	第9課「中華を食べよう」	第9課の文法と本文訳 1. 可能補語 2. 強調表現	
	この回の到達目標	第9課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第9課「中華を食べよう」	第9課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
8	第10課「太極拳を習おう」	第10課の文法と本部訳 1. 「目的」を表わす“了” 2. 「推測」表わす“会” 3. “～了～了” の用法	
	この回の到達目標	第10課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
9	第10課「太極拳を習おう」	第10課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
10	第11課「水滸伝を楽しもう」	第11課の文法と本文訳 1. 結果補語（2） 2. 「受身」を表わす“被”	
	この回の到達目標	第11課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
11	第11課「水滸伝を楽しもう」	第11課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
12	第12課「春節を過ごそう」	第12課の文法と本文訳 1. “快～了” の用法 2. 介詞“把”	
	この回の到達目標	第12課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課「春節を過ごそう」	第12課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
14	中間のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習で問題点が確認できる。	
	事前学修	第7課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	後期授業のまとめ	フィードバック・質疑応答 筆記試験問題について、解説する。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。	
	事前学修	後期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	学習内容を再確認し、理解を深める。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅠA	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
はじめて中国語を学修する者を対象とした中国語検定準4級対策と4級へのステップアップに向けた語学授業。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
“0(ゼロ)”から中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
準4級の試験問題を分野別に分析してそれぞれの要点を細かく整理し、出題形式に沿って問題を解いてもらいます。自らの弱点を克服し、たくさん問題を実践的に解いていくことによって、本番の試験での対応力を着実に養います。 大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③本文の音読④発音指導⑤スライドを用いた文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。授業で紹介する準4級頻出単語については、自分で辞書で調べて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐらい音読して復習しましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者それぞれが過去問の正答率を割り出し、自身の中国語の能力を客観的に見つけて問題点を自ら分析する。記述式の問題に対応するために作文の課題も提出してもらい、簡体字が正確に書けているかどうかを個別指導する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現が理解できる								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介ができる								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内やメールで対応します。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】	
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 成績評価と期末試験についての説明 中国語検定試験準4級についての概説	授業の内容と範囲、成績評価の方法及び期末試験について説明する。また、日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、本講座の展開や成績評価の方法を理解し、中国語検定試験準4級の出題範囲や形式を理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。また、日本中国語検定協会のホームページを閲覧して試験情報を収集しておくこと。	30分
	事後学修	自らが受験しようとする試験日を予定し、それに基づいた学習計画を立てること。	30分
2	発音の基礎学習	「声調（四声）」、「単母音」、「複母音」、「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」、「鼻母音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、ピンイン表記を見てそれぞれの音を正確に発音したり聞き取ることができる。	
	事前学修	中国語の基本的な特質について理解を深めておくこと。	30分
	事後学修	それぞれの発音における口の使い方に注意しながら、実際に声に出して繰り返し発声のトレーニングをすること。	30分
3	出題項目別 準四級試験対策 1	単語トレーニング 1（代名詞） 発音問題対策 1（第1声と第3声） 筆記問題対策 1（名前と年齢）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な代名詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、名前と年齢を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	前回の発音について復習しておくこと。	30分
	事後学修	代名詞を暗記すること。 名前と年齢の言い方をノートに整理しておくこと。	30分
4	出題項目別 準四級試験対策 2	単語トレーニング 2（数詞） 発音問題対策 2（第2声と第4声） 筆記問題対策 2（「的」の用法）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な数詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、「的」を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（第1声と第3声）について復習しておくこと。また（名前と年齢）についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	数詞を暗記すること。 「的」の用法をノートに整理しておくこと。	30分
5	出題項目別 準四級試験対策 3	単語トレーニング 3（量詞） 発音問題対策 3（軽声と2音節の声調の聞き分け） 筆記問題対策 3（疑問詞①）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な量詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、疑問詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（第2声と第4声）について復習しておくこと。また、（「的」の用法）についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	量詞を暗記すること。 疑問詞のそれぞれの用法と意味をノートに整理しておくこと。	30分
6	出題項目別 準四級試験対策 4	単語トレーニング 4（方位詞） 発音問題対策 4（有気音と無気音①） 筆記問題対策 4（疑問詞②）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な方位詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、疑問詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（軽声と2音節の声調の聞き分け）について復習しておくこと。また、疑問詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	方位詞を暗記すること。 疑問詞のそれぞれの用法と意味をノートに整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	出題項目別 準四級試験対策 5	単語トレーニング 5（名詞） 発音問題対策 5（有気音と無気音②） 筆記問題対策 5（前置詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な名詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、前置詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（有気音と無気音）について復習しておくこと。また、疑問詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	名詞を暗記すること。 前置詞をノートに整理しておくこと。	30分
8	出題項目別 準四級試験対策 6	単語トレーニング 6（動詞） 発音問題対策 6（声調と有気音・無気音の組み合わせ） 筆記問題対策 6（時間詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な動詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、時間詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（有気音と無気音）について復習しておくこと。また、前置詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞を暗記すること。 時間詞をノートに整理しておくこと。	30分
9	出題項目別 準四級試験対策 7	単語トレーニング 7（助動詞） 発音問題対策 7（「n」 と「ng」 ①） 筆記問題対策 7（助動詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な助動詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、助動詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（声調と有気音と無気音の組み合わせ）について復習しておくこと。また、時間詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞を暗記すること。 助動詞のそれぞれの用法と意味についてノートに整理しておくこと。	30分
10	出題項目別 準四級試験対策 8	単語トレーニング 8（形容詞） 発音問題対策 8（「n」 と「ng」 ②） 筆記問題対策 8（副詞①）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な形容詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら副詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（「n」 と「ng」 ）について復習しておくこと。また、助動詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞を暗記すること。 副詞のそれぞれの用法と意味についてノートに整理しておくこと。	30分
11	出題項目別 準四級試験対策 9	単語トレーニング 9（副詞） 発音問題対策 9（3つの「i」 の識別） 筆記問題対策 9（副詞②）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な副詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら副詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（「n」 と「ng」 ）について復習しておくこと。また、副詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	副詞を暗記すること。 副詞のそれぞれの意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
12	出題項目別 準四級試験対策10	単語トレーニング 10（前置詞） 発音問題対策 10（「zu」、「cu」、「su」、「zi」、「ci」、「si」 ） 筆記問題対策 10（名量詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な前置詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら名量詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（3つの「i」 の識別）について復習しておくこと。また、副詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞を暗記すること。 名量詞のそれぞれの意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	出題項目別 準四級試験対策11	単語トレーニング 1 1 (接続詞) 発音問題対策 1 1 (「iou」、「uei」、「uen」) 筆記問題対策 1 1 (動詞の「有」)	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な接続詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、動詞の「有」を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	(「zu」、「cu」、「su」、「zi」、「ci」、「si」)について復習しておくこと。また、名量詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	接続詞を暗記すること。 動詞の「有」の意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
14	出題項目別 準四級試験対策12	単語トレーニング 1 2 (助詞) 発音問題対策 1 2 (「ü(yu)」の識別) 筆記問題対策 1 2 (動詞の「在」)	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な助詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、動詞の「在」を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	(「iou」、「uei」、「uen」)について復習しておくこと。また、動詞の「有」の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	助詞を暗記すること。 動詞の「在」の意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
15	前期の総復習及び期末課題	前期に学習した内容の総復習と確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が達成できたかどうか、確認テストを通して準4級で求められる語彙、文法、作文の能力の6割を目指す。	
	事前学修	前期に学習した発音、語彙、文法、作文の要点をそれぞれ整理しておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	試験結果を客観的に分析し、発音、語彙、文法、作文のどの項目を重点的に学習をしなければならないか、今後の学習計画を立て直すこと。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅠB	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語検定試験準4級の受験を志望する学生。

【授業方法】
準4級の試験問題を分野別に分析してそれぞれの要点を細かく整理し、出題形式に沿って問題を解いてもらいます。自らの弱点を克服し、たくさん問題を実践的に解いていくことによって、本番の試験での対応力を着実に養います。 大まかな授業の流れとしては、①出席確認②前回の復習③教科書の音読④発音指導⑤スライドを用いた文法解説⑥会話練習⑦作文練習 となります。授業で紹介する準4級頻出単語については、自分で辞書で調べて意味と用例を調べておきましょう。また、授業後はスライドを全て暗記するぐら音読しましょう。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 受講者それぞれが過去問の正答率を割り出し、自身の中国語の能力を客観的に見つけて問題点を自ら分析する。記述式の問題に対応するために作文の課題を提出してもらい、簡体字が正確に書けているかどうかを個別指導する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現が理解できる									1	1		
②	身近な場面における会話ができる									1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読んで理解できる									1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書きとることができる									1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業時間内やメールで対応します。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しないので、購入する必要はない。授業中に資料を配布する。推薦の辞書や参考書等についても授業内で詳しく紹介する。				

【オフィスアワー】	
メールで対応します。nakamoto.masaaki★nihon-u.ac.jp ※メールを送信する時には★を@に変えてください。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 成績評価と期末試験についての説明 中国語検定試験準4級についての概説		授業の内容と範囲、成績評価の方法の説明する。また、日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級について改めて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、本講座の展開や成績評価の方法を理解し、中国語検定試験準4級の出題範囲や形式を理解することができる。		
	事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。また、日本中国語検定協会のホームページを閲覧して試験情報を収集しておくこと。		30分
	事後学修	自らが受験しようとする試験日を予定し、それに基づいた学習計画を立てること。		30分
2	出題項目別 準四級試験対策B 1		発音問題対策 1（「l」と「r」、 「uo」と「ou」） 筆記問題対策 1（連動文）	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、連動文を適切に読み書きすることができる。		
	事前学修	発音について、声調、母音、子音について総復習しておくこと。		30分
	事後学修	連動文の組み立て方をノートに整理しておくこと。		30分
3	出題項目別 準四級試験対策B 2		発音問題対策 1（「h」と「f」、 「e」と「u」） 筆記問題対策 1（形容詞述語文）	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、形容詞述語文を適切に読み書きすることができる。		
	事前学修	「l」と「r」、 「uo」と「ou」の発音の識別を復習しておくこと。		30分
	事後学修	形容詞述語文のルールをノートに整理しておくこと。		30分
4	模擬試験①（リスニング問題）		発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。		
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験①（リスニング問題）に対応できるようにしておく。		30分
	事後学修	模擬試験①（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。		30分
5	模擬試験①（筆記問題）		単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。		
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験①（筆記問題）に対応できるようにしておく。		30分
	事後学修	模擬試験①（筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。		30分
6	模擬試験②（リスニング問題）		発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。		
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験②（リスニング問題）に対応できるようにしておく。		30分
	事後学修	模擬試験②（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	模擬試験②（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験②（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験②（筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
8	模擬試験③（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で6割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験③（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験③（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
9	模擬試験③（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で6割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験③（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験③筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
10	模擬試験④（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で7割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験④（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験④（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
11	模擬試験④（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で7割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験④（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験④筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
12	模擬試験⑤（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で8割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験⑤（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験⑤（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬試験⑤（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で8割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験⑤（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験⑤筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
14	その他の重要単語のまとめ	日中の主要な地名や教室用語、IT用語などの頻出単語を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、中国語検定試験準4級もしくは4級に頻出の固有名詞を中国語で書くことができる。	
	事前学修	辞書を用いて主要な都市名や観光名所を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	中国語検定試験準4級における単語のピンイン表記や日中翻訳の記述に対応できるようにしておく。	30分
15	後期の総復習及び期末課題	後期に学習した内容の総復習と確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が達成できたかどうか、確認テストを通して準4級で求められる語彙、文法、作文の能力の8割を目指す。	
	事前学修	後期に学習した発音、語彙、文法、作文の要点をそれぞれ整理しておくこと。 リスニングについては、音声を聴いて簡体字を正確に書き取れるようにしておくこと。 ライティングについては、簡体字、ピンイン、声調符号を正確に書き取れるようにすること。	30分
	事後学修	試験結果を客観的に分析し、発音、語彙、文法、作文のどの項目を重点的に学習をしなければならないか、今後の学習計画を立て直すこと。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅡA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定4級対策を通じて、初級～中級レベルの中国語運用能力を身につける語学授業

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定4級受験可能レベル～4級合格レベルの中国語運用能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
必ず履修条件を確認のうえ事前抽選に申し込んでください。①年度内に中国語検定4級を受験すること。②後期「中国語検定過去問WEB」に加入すること。③中国語検定4級の難易度を理解したうえで④担当者の指示に従い合格に向け積極的に努力できること。

【授業方法】
実際に4級レベルの文法や語彙を学びつつ4級の問題に取り組みます。事前・事後学習として講読練習、聴解練習や発音練習をかかさず行ってもらい、定期的にリアクションペーパーや音声課題を提出してもらいます。担当者は次回以降必要に応じてそれらの回答内容にコメント・解説を加え、問題提議などを行います。検定試験対策を一方法とした総合的学修を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的な中国語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験と発音提出課題により評価する	10	10	10	10							40
小テスト等	毎回の小テストへの取り組みを総合的に判定し、到達目標①、②、③、④が身についているかを評価する	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、一定以上の成果をあげることができたかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業やGoogleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用しませんが、履修条件に定めているごとく、後期必ず「中国語検定過去問WEB」へ加入してもらいます。（3200円程度）				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。（s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・準4級レベルの確認・復習a（動/形容詞述語文・疑問/否定文等）・導入		授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。準4級レベルの基礎の確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、準4級レベル（復習a）の言葉や文章について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、1年時の中国語学習の内容を自分なりに復習しておく。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などを持ちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習a）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
2	復習b（疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など）		復習aの文法事項の定着度を確認し、疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など、準4級レベルの文法事項（復習b）について復習します。 ●小テスト（前01）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習b）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト（前01）課題などを持ちい、準4級レベル（復習a）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などを持ちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習b）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
3	復習c（連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など）		復習bの文法事項の定着度を確認し、連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など、準4級レベルの文法事項（復習c）について復習します。 ●小テスト（前02）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習c）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト（前02）課題などを持ちい、準4級レベル（復習b）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などを持ちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習c）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
4	介詞の用法（初級編）		プリントを使用して、介詞の用法（初級編）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前03）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞の用法（初級編）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト（前03）課題などを持ちいて、復習cの短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などを持ちいて、今回学修した介詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
5	副詞の用法（初級編）		プリントを使用して、副詞の用法（初級編）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前04）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞の用法（初級編）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト（前04）課題などを持ちいて、介詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などを持ちいて、今回学修した副詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
6	疑問詞の用法（初級編）		プリントを使用して、疑問詞の用法（初級編）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前05）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、疑問詞の用法（初級編）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト（前05）課題などを持ちいて、副詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などを持ちいて、今回学修した疑問詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	能願動詞の用法（初級編）		プリントを使用して、能願動詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前06) ※検定試験前々週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちい、疑問詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などで、今回学修した能願動詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
8	動態助詞の用法（初級編）		プリントを使用して、動態助詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前07) ※検定試験前週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、能願動詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などで、今回学修した動態助詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
9	離合詞・数量補語の用法		プリントを使用して、離合詞・数量補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、離合詞・数量補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学修した離合詞・数量補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
10	結果補語の用法		プリントを使用して、結果補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、結果補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、離合詞・数量補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学修した結果補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
11	動態助詞の用法（中級編）		プリントを使用して、動態助詞の用法（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、結果補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学修した動態助詞の用法（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
12	前期の復習		前期の小テストで覚えた単語・短文を復習し、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容を復習し、既習短文や長文について日中相互翻訳ができる。		
	事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	前期試験対策		前期総復習の一環として、プリントなどをもちい、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した語彙・文法について理解し、学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト(前12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
	事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文を、プリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちい復習する。	120分
14	筆記試験とまとめ		前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳、および応用ができる。	
	事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	口頭試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
	事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡB	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
前期中国語資格試験対策ⅡAとセットとなる後期科目。すでに中国語の基礎を習得した者を対象とする初級卒業レベルの語学演習。中国語検定4級取得を希望する学生向けの指導を行い、受講者には必ず年内に検定試験（原則として4級以上）を受検してもらう。毎回の小テストはハードである。前年度のネットワークドライブを参照し、内容をあらかじめ確認、よく考えてから受講を決めてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
検定合格を一目標に定めつつ、学習を通して、話す・聴く・読む・書くといった総合的中国語運用能力の養成を目的とする。中国語検定の4級は、聴解と講読筆記に対して共に一定レベル以上の能力が求められる。中国語の履修が週1～2コマ程度の本学部生にとって、中検4級合格は決して容易ではない。語彙を増やし、聴解・読解の訓練を繰り返して、11月末までに検定4級合格レベルに到達できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。

【履修条件】
必ず履修条件を確認のうえ事前抽選に申し込んでください。①年度内に中国語検定4級を受験すること。②後期「中国語検定過去問WEB」に入ること。③中国語検定4級の難易度を理解したうえで④担当者の指示に従い合格に向け積極的に努力できること。

【授業方法】
実際に4級レベルの文法や語彙を学びつつ4級の問題に取り組みます。事前・事後学習として講読練習、聴解練習や発音練習をかかさず行ってもらい、定期的にリアクションペーパーや音声課題を提出してもらいます。担当者は次回以降必要に応じてそれらの回答内容にコメント・解説を加え、問題提議などを行います。検定試験対策を一方法とした総合的学修を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短い中国語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、中国語検定試験の受験結果と発音提出課題により評価する	10	10	10	10							40
小テスト等	毎回の小テストへの取り組みを総合的に判定し、到達目標①、②、③、④が身についているかを評価する	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④の達成のために指示された学習が積極的かつ継続的に行われ、一定以上の成果をあげることができたかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業やGoogleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用しませんが、履修条件に定めているごとく、後期必ず「中国語検定過去問WEB」へ加入してもらいます。（3200円程度）				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。（s-fukugi.2024@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・前期学修内容の確認・ 様態補語・程度補語・導入		授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。様態補語・程度補語の用法を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、様態補語・程度補語について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、前期からの受講者は前期の内容を復習、後期からの受講者はこれまで使ってきた教科書により文法事項や語彙を復習しておく。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期01）などをもちいて、今回学修した様態補語・程度補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	存現文・方向補語（初級編）		プリントを使用して、存現文・方向補語（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後01）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存現文・方向補語（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後01）課題などをもちいて、様態補語・程度補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などをもちいて、今回学修した存現文・方向補語（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	方向補語（中級編）・比較表現		プリントを使用して、方向補語（中級編）・比較表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後02）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、方向補語（中級編）・比較表現について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後02）課題などをもちいて、存現文・方向補語（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などをもちいて、今回学修した方向補語（中級編）・比較表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	処置式・“是～的”の構文		プリントを使用して、処置式・“是～的”の構文と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後03）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、処置式・“是～的”の構文について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後03）課題などをもちいて、方向補語（中級編）・比較表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などをもちいて、今回学修した処置式・“是～的”の構文について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	可能補語		プリントを使用して、可能補語と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後04）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、可能補語について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後04）課題などをもちいて、処置式・“是～的”の構文の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などをもちいて、今回学修した可能補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	使役表現・受身表現		プリントを使用して、使役表現・受身表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後05）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、使役表現・受身表現について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後05）課題などをもちいて、可能補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などをもちいて、今回学修した使役表現・受身表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	副詞（中級編）・疑問詞（中級編1）		プリントを使用して、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(後06)課題などを持ちい、使役表現・受身表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期07）などで、今回学修した副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
8	能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）		プリントを使用して、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(後07)課題などを持ちいて、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期08）などで、今回学修した能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
9	検定4級受験を振り返る		受験した検定試験の4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。		60分
	事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		60分
10	3級筆記問題		3級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、3級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。		30分
	事後学修	学修した3級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		30分
11	3級聴解問題		3級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、3級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。		60分
	事後学修	学修した3級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		30分
12	後期の復習		後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。		
	事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。		120分
	事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどを持ちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	映像教材		前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。		
	事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の3級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。		120分
	事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する。		60分
14	口頭試験対策と練習		後期総復習として、プリントなどを持ち口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。		
	事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。		60分
	事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。		120分
15	口頭試験とまとめ		後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。		
	事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。		10分

科目名	中国語資格試験対策ⅢA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級受験を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。辞書必携(電子辞書可)。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考	教科書は使用しないが、辞書必携(電子辞書可)。				

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び文法説明	授業展開方法に関して詳しく説明し、中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級過去問に対する初歩的練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為の授業展開方法を理解し、更に中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級試験問題の出題状況に対して初歩的に理解することが出来る。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法内容をしっかりと復習すること。	30分
2	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
8	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
9	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
10	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
11	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
12	第八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	第八十七回中国語検定試験過去問	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習、授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅢB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級合格を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。辞書(電子辞書可)必携。中国語検定試験(日本中国語検定協会)受験必須。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考	教科書は使用しないが、辞書(電子辞書可)必携。				

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第八十八回中国語検定試験過去問		第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
2	第八十八回中国語検定試験過去問		第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
3	第八十九回中国語検定試験過去問		第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
4	第八十九回中国語検定試験過去問		第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
5	第九十回中国語検定試験過去問		第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
6	第九十回中国語検定試験過去問		第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第九十一回中国語検定試験過去問		第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
8	第九十一回中国語検定試験過去問		第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
9	第九十二回中国語検定試験過去問		第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
10	第九十二回中国語検定試験過去問		第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
11	第百四回中国語検定試験(令和三年十一月二十八日実施)過去問		第百十回中国語検定試験(令和五年十一月二十六日実施)過去問に対する解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為、聞取能力、作文能力、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	第百十回中国語検定試験(令和五年十一月二十六日実施)過去問を再度見直し、その解説に備える。	30分	
	事後学修	第百十回中国語検定試験(令和五年十一月二十六日実施)過去問で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
12	第九十三回中国語検定試験過去問		第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できる中国語コミュニケーション力の養成。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修参加を目指すため、必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。海外語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に海外語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活および語学研修に対応した聞取・会話ができる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章を書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメント頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び中国諸事情紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、又中国諸事情に関して色々紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国諸事情を初歩的に理解することが出来る。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った中国諸事情の知識を自分なりに整理しておくこと。	30分
2	教科書第一課(対、的)	前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課前置詞「対」、名詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞「対」、名詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第一課(有的～有的～等)	「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課「有的～有的～」、「既～又～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「有的～有的～」、「既～又～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第二課(毎～都～等)	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第二課(比較用法等)	比較用法、「連～也～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、比較用法、「連～也～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
6	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞呼応表現、「除了～以外～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第三課疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	教科書第三課(即使～也～等)		「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第三課「即使～也～」、「一点兒也～」の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	「即使～也～」、「一点兒也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分
8	教科書第四課(着)		持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第四課持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分
9	教科書第四課(複合方向補語等)		複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第四課複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分
10	第五課(結果補語、存現文)		結果補語、存現文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、結果補語、存現文について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第五課結果補語、存現文の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	結果補語、存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分
11	教科書第五課(因為～所以～等)		「因為～所以～」、「什麼的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第五課「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分
12	教科書第六課(可能補語等)		可能補語、「什麼的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、可能補語、「什麼的」について学ぶことが出来る。		
	事前学修	事前に第六課可能補語、「什麼的」の部分に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	可能補語、「什麼的」の用法に関して読んで書いて練習すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課(只要～就～)	「只要～就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只要～就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課「只要～就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「只要～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第六課(一～就～)	「一～就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「一～就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課「一～就～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「一～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期復習及び授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できる中国語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に参加するため、必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。海外語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に海外語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活及語学研修に対応した聞取・会話が十分できる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章が書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教科書第七課(是～的、様態補語)	「是～的」、様態補語について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「是～的」、様態補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課「是～的」、様態補語の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「是～的」、様態補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	教科書第七課(不知道～才好等)	「不知道～才好」、「好像～一樣」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不知道～才好」、「好像～一樣」について	
	事前学修	事前に第七課「不知道～才好」、「好像～一樣」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「不知道～才好」、「好像～一樣」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第八課(疑問詞不定用法、可能補語)	疑問詞不定用法、可能補語について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞不定用法、可能補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課疑問詞不定用法、可能補語の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞不定用法、可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第八課(無論～都～等)	「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課「無論～都～」、「要是～的話，就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「無論～都～」、「要是～的話，就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第九課(給等)	動詞の後の「給」、受身文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	動詞の後の「給」、受身文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第九課(不是～就是～等)	「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	「不是～就是～」「再也沒～過」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第十課(動量補語、離合詞)	動量補語、離合詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動量補語、離合詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課動量補語、離合詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動量補語、離合詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第十課(雖然～但是～等)	「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
9	教科書第十一課(有)	後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課後置修飾語を伴う「有」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	後置修飾語を伴う「有」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第十一課(讓)	使役の「讓」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「讓」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第十一課(就、都)	教科書第十一課(就、都)	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、副詞「就」、副詞「都」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課副詞「就」、副詞「都」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「就」、副詞「都」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第十二課(把)	「把」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「把」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「把」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「把」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第十二課(対～來說)	「対～來說」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「対～來說」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「対～來說」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「対～來說」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十二課(只有～才～)	「只有～才～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只有～才～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「只有～才～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「只有～才～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文の発音と応用ができるかどうかを確認します。 各課の練習問題の答え合わせをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	課題70%（第一課～第五課計6回の課題中の一部を見て得点を出す）・出席30%（欠席1回、2点減る。6回分の課題をclassroomに提出すれば、6回の出席になる）	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語を聞いて書いて覚えてよう	劉力・植松希久磨	天々出版	2022年8月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス及びピンインと呼ばれる中国語発音記号についての説明	
	この回の到達目標	授業の進め方と学習方法を理解する	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する 教科書の内容構成・使用方法を理解するように『中国語を聞いて書いて覚えよう』のまえがきを読むこと。	30分
	事後学修	CDを聞いて、Ⅰ声調・Ⅱ母音の発音練習をすること	30分
2	教科書3～8ページの発音	Ⅰ声調 Ⅱ母音など	
	この回の到達目標	中国語の声調と母音を正確に発音でき、書けること。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて声調と母音の発音練習と書く練習をすること。	90分
	事後学修	音声ファイルを聞いて声調と母音の発音練習と書く練習をすること。	90分
3	第1課～第3課の新出単語などの発音	第1課～第3課の新出単語などの発音と書く練習	
	この回の到達目標	第1課～第3課の新出単語などの発音ができ、書けること。	
	事前学修	第1課～第3課の新出単語などの発音練習、書く練習	90分
	事後学修	第1課～第3課の新出単語などの発音練習、書く練習	90分
4	第4課～第6課の新出単語の発音	第4課～第6課の新出単語の発音と書く練習	
	この回の到達目標	第4課～第6課の新出単語の発音ができ、書けること	
	事前学修	第4課～第6課の新出単語などの発音練習、書く練習	90分
	事後学修	第4課～第6課の新出単語などの発音練習、書く練習	90分
5	第1課	第1課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第1課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。	
	事前学修	第1課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。	90分
	事後学修	第1課の練習問題一～三を締め切りまでにclassroomに提出すること。	90分
6	第1課	第1課の練習問題一～三の答え合わせと練習問題四～六	
	この回の到達目標	第1課練習問題四～六を解けること	
	事前学修	第1課の復習と練習問題四～六	90分
	事後学修	第1課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、練習問題四～六とともにclassroomに提出すること	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第2課		第 1 課の練習問題四～六の答え合わせ・第2課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第2課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。		
	事前学修	第2課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。		90分
	事後学修	第1課練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第2課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること。		90分
8	第2課		第2課の練習問題一～三の答え合わせ、練習問題四～六	
	この回の到達目標	第2課の練習問題四～六を解けること。		
	事前学修	第2課の復習と練習問題四～六		90分
	事後学修	第2課の練習問題一～三のを赤ペンで訂正した後第2課の練習問題四～六とともにclassroomに提出すること。		90分
9	第3課		第2課の練習問題四～六の答え合わせ・第3課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～四	
	この回の到達目標	第3課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～四を解けること。		
	事前学修	第3課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～四をやる。		90分
	事後学修	第2課の練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第3課の練習問題一～四とともにclassroomに提出すること		90分
10	第3課		第3課の練習問題一～四の答え合わせ・練習問題五～八	
	この回の到達目標	第3課の練習問題五～八を解けること。		
	事前学修	第3課の復習と練習問題五～八		90分
	事後学修	第3課の練習問題一～四を赤ペンで訂正した後、第3課の練習問題五～八とともにclassroomに提出すること		90分
11	第4課		第4課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第4課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。		
	事前学修	第4課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。		90分
	事後学修	第3課の練習問題五～八を赤ペンで訂正した後、第4課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること		90分
12	第4課		第4課の練習問題一～三の答え合わせと練習問題四～六	
	この回の到達目標	第4課の練習問題四～六を解けること。		
	事前学修	第4課の復習と第4課練習問題四～六をやる		90分
	事後学修	第4課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第4課の練習問題四～六とともにclassroomに提出すること		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第5課		第5課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～二
	この回の到達目標	第5課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～二を解けること。	
	事前学修	第5課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～二をやる。	90分
	事後学修	第4課の練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第5課の練習問題一と二とともにclassroomに提出すること。	90分
14	第5課		第5課の練習問題一と二の答え合わせと練習問題三と四。
	この回の到達目標	第5課の練習問題三と四を解けること。	
	事前学修	第5課の復習と第5課の練習三と四	90分
	事後学修	第5課の練習問題一と二を赤ペンで訂正した後、第5課の練習問題三と四とともにclassroomに提出すること	90分
15	第6課		第6課 新出単語・本文・ポイント例文・練習問題一～三
	この回の到達目標	第6課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。	
	事前学修	第6課 新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。	90分
	事後学修	第5課の練習問題三と四を赤ペンで訂正した後、第6課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文の発音と応用ができるかどうかを確認します。 各課の練習問題の答え合わせをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	課題70%（第六課～第十二課計7回の課題中の一部を見て得点を出す）・出席30%（欠席1回、2点減る。6回分の課題をclassroomに提出すれば、7回の出席になる）	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語を聞いて書いて覚えてよう	劉力・植松希久磨	天々出版	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第6課	第6課の練習問題一～三の答え合わせと第6課の練習問題四～七	
	この回の到達目標	第6課の練習問題四～七を解けること	
	事前学修	第6課の復習と第6課の練習問題四～七	90分
	事後学修	第6課の練習問題一～三を赤ペンで提出した後、第6課練習問題四～七とともにclassroomに提出すること。	90分
2	第1課～第6課の総合練習	第1課の練習問題五と六・第2課の練習問題四～六・第3課の練習問題五～八・第4課の練習問題五と六・第5課の練習問題四・第6課の練習問題四の中国語の文を日本語に訳す。	
	この回の到達目標	第1課～第6課の内容への理解を一層高める	
	事前学修	第1課～第6課のポイントの復習	90分
	事後学修	第1課の練習問題五と六・第2課の練習問題四～六・第3課の練習問題五～八・第4課の練習問題五と六・第5課の練習問題四・第6課の練習問題四の中国語の文の日本語訳をclassroomに提出すること。	90分
3	第7課	第7課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第7課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。	
	事前学修	第7課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。	90分
	事後学修	第1課～第6課の日本語訳を赤ペンで訂正した後、第7課練習問題一～三とともにclassroomに提出すること	90分
4	第7課	第7課練習問題一～三の答え合わせ・第7課練習問題四～七	
	この回の到達目標	第7課練習問題四～七を解けること	
	事前学修	第7課の復習と練習問題四～七	90分
	事後学修	第7課練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第7課練習問題四～七とともにclassroomに提出すること	90分
5	第8課	第7課の練習問題四～七の答え合わせ・第8課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第8課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。	
	事前学修	第8課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。	90分
	事後学修	第7課の練習問題四～七を赤ペンで訂正した後、第8課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること	90分
6	第8課	第8課の練習問題一～三答え合わせ・第8課練習問題四～六	
	この回の到達目標	第8課練習問題四～六を解けること	
	事前学修	第8課の復習と練習問題四～六	90分
	事後学修	第8課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第8課の練習問題四～六とともにclassroomに提出すること	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課		第8課の練習問題四～六の答え合わせ・第9課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第9課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。		
	事前学修	第9課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。		90分
	事後学修	第8課の練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第9課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること		90分
8	第9課		第9課の練習問題一～三答え合わせ・第9課の練習問題四と五	
	この回の到達目標	第9課の練習問題四と五を解けること		
	事前学修	第9課の復習と第9課の練習問題四と五		90分
	事後学修	第9課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第9課の練習問題四と五とともにclassroomに提出すること		90分
9	第10課		第9課の練習問題四と五の答え合わせ・第10課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第10課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。		
	事前学修	第10課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。		90分
	事後学修	第9課の練習問題四と五を赤ペンで訂正した後、第10課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること		90分
10	第10課		第10課の練習問題一～三の答え合わせ・第10課の練習問題四～六	
	この回の到達目標	第10課の練習問題四～六を解けること		
	事前学修	第10課の復習と第10課の練習問題四～六		90分
	事後学修	第10課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第10課の練習問題四～六とともにclassroomに提出すること		90分
11	第11課		第10課の練習問題四～六の答え合わせ・第11課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三	
	この回の到達目標	第11課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。		
	事前学修	第11課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。		90分
	事後学修	第10課の練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第11課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること		90分
12	第11課		第11課の練習問題一～三の答え合わせと第11課の練習問題四～六	
	この回の到達目標	第11課の練習問題四～六を解けること		
	事前学修	第11課の復習と第11課の練習問題四～六		90分
	事後学修	第11課の練習問題一～三を赤ペンで訂正した後、第11課の練習問題四～六とともにclassroomに提出すること		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第12課		第11課の練習問題四～六のこたえあわせ・第12課の新出単語・本文・ポイントの例文・練習問題一～三
	この回の到達目標	第12課の新出単語・本文・ポイントの例文を正確に発音でき、ポイント例文の語彙の並べ方が理解でき、練習問題一～三を解けること。	
	事前学修	第12課の新出単語・本文・ポイントの発音練習・ポイント例文の語彙の並べ方を覚え、練習問題一～三をやる。	90分
	事後学修	第11課の練習問題四～六を赤ペンで訂正した後、第12課の練習問題一～三とともにclassroomに提出すること	90分
14	第12課		第12課の練習問題一～三の答え合わせと第12課の練習問題四と五
	この回の到達目標	第12課の練習問題四と五を解けること	
	事前学修	第12課の復習と第十二課の練習問題四と五	90分
	事後学修	第12課の練習問題一～三赤ペンで訂正した後、第12課の練習問題四と五とともにclassroomに提出すること	90分
15	第7課～第12課の総合練習		第12課の練習問題四と五の答え合わせ・第7課の練習問題四～七・第8課の練習問題五と六・第9課の練習問題五・第10課の練習問題五と六・第11課の練習問題四～六・第12課の練習問題四と五の中国語の文の日本語訳をclassroomに提出すること。
	この回の到達目標	第1課～第6課の内容への理解を一層高める	
	事前学修	第7課の復習と練習問題四～七	90分
	事後学修	第12課の練習問題四と五を赤ペンで訂正した後、上記の日本語訳とともにclassroomに提出すること	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	林 怡州	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語のネイティブ話者、小学校以上の中国語教育を受けた者は本科目を受講せず、他言語の科目を受講することが望ましい。

【授業方法】		
日常会話能力を向上させることに重点を置く「全員参加型」の講義。講義を進めながら、学習者に質問したり、答えてもらったりという「一問一答」方式を行う。また、日常生活の常用表現や中国・台湾の社会事情、流行語なども随時取り入れ紹介する。1回の講義で約6ページを目安に進めていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方向的な授業ではなく、学生参加型の講義。毎回の講義で学習者に会話練習をさせ、フィードバックしていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標①②③に関わる中国語知識が身についているかについて検証する。	50										50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	受講態度・授業中の質疑応答などを総合的に評価する。		5	5	5	5						20
その他(課題の提出)	第5回目の講義以降、指定したキーワードで「造句」の課題を提出し、添削したあと、後日返却する。						30					30
その他(資格の取得)	検定試験（HSK・中検）の合格者にプラス評価します。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	5	5	5	5	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出した課題を添削し、提出者に個別に説明する。小テストの実施後、全体的に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語新HSK 1・2級 初級単語 400	林怡州	語研	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:00～14:30／月曜日18:00～18:30 講師室（事前に右記のメールでアポイントメントを取ってください） lin.yizhou@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【日常会話練習①】	「口語知識」：日常会話に欠かせない表現を紹介する。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	今まで学習した中国語を再度整理しておくこと。 1 4 ページ～1 7 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
2	【日常会話練習②】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 1 8 ページ～2 3 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
3	【日常会話練習③】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 2 4 ページ～2 9 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
4	【日常会話練習④】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 3 0 ページ～3 7 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
5	【日常会話練習⑤】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 3 8 ページ～4 3 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
6	【日常会話練習⑥】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 4 4 ページ～4 9 ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【実践演習】	現地で撮影した写真やDVD映像を用いて、講義内容と結びつく中国・台湾の事情を紹介する。	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を正しい発音で読むことができ、身につくこと。	
	事前学修	第49ページまでの学習内容を再確認する。	90分
	事後学修	第49ページまでの学習内容を応用できること。	160分
8	【日常会話練習⑦】	「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 50ページ～55ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
9	【日常会話練習⑧】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 58ページ～63ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
10	【日常会話練習⑨】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 64ページ～69ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
11	【日常会話練習⑩】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 70ページ～75ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
12	【日常会話練習⑪】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 76ページ～85ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日常会話練習⑫】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 86ページ～91ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
14	【日常会話練習⑬】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 92ページ～97ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
15	【小テスト】	小テストの実施および解説を行う。	
	この回の到達目標	「HSK」3級・「中国語検定試験」3級レベルまでもっていく。	
	事前学修	前期の学習内容を再確認して、試験に備える。。	160分
	事後学修	小テスト実施後、その内容を再度確認し、不十分なところを強化する。	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	林 怡州	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
中国語のネイティブ話者、小学校以上の中国語教育を受けた者は本科目を受講せず、他言語の科目を受講することが望ましい。

【授業方法】		
前期に修得した会話のスキルをベースに、更にステップアップをしていく。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のバランスを取りながら、コミュニケーション能力を総合的に育成したい。前期と同様、日常生活の常用表現や中国・台湾の社会事情、流行語なども随時取り入れ紹介する。1回の講義で約6ページを目安に進めていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方向的な授業ではなく、学生参加型の講義。毎回の講義で学習者に会話練習をさせ、フィードバックしていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標①②③に関わる中国語知識が身についているかについて検証する。	50										50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	受講態度・授業中の質疑応答などを総合的に評価する。		5	5	5	5						20
その他(課題の提出)	第5回目の講義以降、指定したキーワードで「造句」の課題を提出し、添削したあと、後日返却する。						30					30
その他(資格の取得)	検定試験（HSK・中検）の合格者にプラス評価します。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	5	5	5	5	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出した課題を添削し、提出者に個別に説明する。小テストの実施後、全体的に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語新HSK 1・2級 初級単語 400	林怡州	語研	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:00～14:30／月曜日18:00～18:30 講師室（事前に右記のメールでアポイントメントを取ってください） lin.yizhou@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【日常会話練習⑭】		「口語復習」：前期修得した日常会話をおさらいする。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	今まで学習した中国語を再度整理しておくこと。 104ページ～107ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	
2	【日常会話練習⑮】		前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 108ページ～113ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	
3	【日常会話練習⑯】		前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 114ページ～119ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	
4	【日常会話練習⑰】		前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 120ページ～127ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	
5	【日常会話練習⑱】		前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 128ページ～133ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	
6	【日常会話練習⑲】		前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。		
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 134ページ～139ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分	
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【実践演習】	現地で撮影した写真やDVD映像を用いて、講義内容と結びつく中国・台湾の事情を紹介する。	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を正しい発音で読むことができ、身につくこと。	
	事前学修	第139ページまでの学習内容を再確認する。	90分
	事後学修	第139ページまでの学習内容を応用できること。	160分
8	【日常会話練習㉔】	「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 140ページ～145ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
9	【日常会話練習㉕】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 150ページ～155ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
10	【日常会話練習㉖】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 156ページ～161ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
11	【日常会話練習㉗】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 162ページ～167ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
12	【日常会話練習㉘】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 168ページ～175ページをまずテキストの付属音声を読み、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日常会話練習㉔】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 176ページ～181ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
14	【日常会話練習㉕】	前回講義の復習を行う。 「語彙理解」：本日のキーワードを音読し、解説する。 「会話練習」：テキストの会話例文に基づき、コミュニケーション力を強化していく。	
	この回の到達目標	定められたキーワードを修得し、会話文を声に出して繰り返し練習し、その内容ができるようになること。	
	事前学修	前回学習した中国語を再度整理しておくこと。 182ページ～187ページをまずテキストの付属音声聞き、それから音読し、内容を理解する。	90分
	事後学修	本日学習したキーワードと会話文を全て音読し、内容を確認する。キーワードを用いて、例文を作る。	160分
15	【小テスト】	小テストの実施および解説を行う。	
	この回の到達目標	「HSK」3級・「中国語検定試験」3級レベルまでもっていく。	
	事前学修	後期の学習内容を再確認して、試験に備える。。	160分
	事後学修	小テスト実施後、その内容を再度確認し、不十分なところを強化する。	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面において中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身につくかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表30%；筆記試験60%；授業内に小テスト10%で評価する。	30	20	10								60
小テスト等	授業の始めに宿題を発表させ、応用能力により判断する。 評価の10%を占める。	10										10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
場面シラバスで段階的に学ぶ中国語	小川 都 孟慧	飛鳥文化出版	2024年	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17:50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	授業の進み方と学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
	事後学修	音声を聞き、中国語の発音を耳にする。	60分
2	発音の復習と基本単語	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
	この回の到達目標	発音を復習し、基本単語を整理する。	
	事前学修	発音を練習すること。	60分
	事後学修	発音の練習	60分
3	声調変化と挨拶練習	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
	事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
	事後学修	発音を聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	自己紹介	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。	
	この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。	
	事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習。	60分
5	氏名表現と「是」の用法	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。	
	この回の到達目標	氏名表現と「是」の用法を理解する。	
	事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	疑問文の作り方	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
	この回の到達目標	疑問文の作り方を理解し、それに対する回答をできるようにする。	
	事前学修	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	年月日曜日の表現	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日	
	この回の到達目標	年月日曜日の表現ができるようにする。	
	事前学修	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	時刻の表現	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。	
	この回の到達目標	時刻を言えるようにする。	
	事前学修	第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	家族親族の紹介	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称	
	この回の到達目標	各自の家族親族を紹介できるようにする。	
	事前学修	第6課の単語と会話文を発音練習を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する。	60分
10	年齢の表現	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。	
	この回の到達目標	年齢を言えるようにする。	
	事前学修	第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	場所方位の表現	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
	この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞の用法を理解する。	
	事前学修	第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	希望願望の表現	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現	
	この回の到達目標	願望や希望の表現を理解し、簡単な文を表現できるようにする。	
	事前学修	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	職業の表現		会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	この回の到達目標	職業の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
	事前学修	第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	学習の応用		発表テスト 口頭発表 講評
	この回の到達目標	学習したことを用いて作文できるか確かめる。	
	事前学修	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	中国語ヒヤリング		中国の映画を鑑賞
	この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズな中国語コミュニケーションの習得（A2

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的・社会的場面において基礎的な語彙を用いて中国語で意思疎通をすることができる。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的、社会的な場面において平易な語彙を用いてスムーズに話することができる								4	4		
②	日常的、社会的な場面において遭遇する平易な言葉を用いた会話を理解することができる								4	4		
③	日常的、社会的な場面において平易な表現を用いて、適切な対応をしながら普通のテンポでインターアクティブな会話ができる								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身につくかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表30%；筆記試験60%；授業内に小テスト10%で評価する。	30	20	10								60
小テスト等	授業開始の始めに、宿題を発表させ、知識の応用能力により評価する。評価の10%を占める。	10										10
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」	陳洲挙、于曉飛、劉 渴氷	同学社	2020年3 月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
	この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分
2	自己紹介と授業説明	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方と注意事項をする。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。 自己紹介の準備	60分
	事後学修	CDを聞き、中国語の発音を復習	60分
3	全般復習（第1課～第10課	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習	
	この回の到達目標	第1課～第10課までの会話を復習し、会話できることを確認する。	
	事前学修	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。	60分
4	評価の表現	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現	
	この回の到達目標	評価の表現ができるようにする。	
	事前学修	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
5	買い物表現	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現	
	この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介を通して発音が正しくできるようにする。買物の表現をできるようにする。	
	事前学修	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
6	動態助詞	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的	
	この回の到達目標	動作の時間、場所、方式、行為者等の表現（是・・・的）を理解し、使用できるようにする。	
	事前学修	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	好みについての表現		会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む	
	この回の到達目標	「～をするのが好きである；～することを好む」の表現をできるようにする。		
	事前学修	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。		60分
8	「～したことがある」表現と時間補語		会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語	
	この回の到達目標	「～したことがある」表現と時間補語の用法を理解し、会話できるようにする。		
	事前学修	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
9	比較表現		筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現	
	この回の到達目標	比較表現をできるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
10	動作の進行中と持続表現		会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現	
	この回の到達目標	動作の進行中と持続表現をできるようにする。		
	事前学修	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
11	可能の表現		会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現	
	この回の到達目標	可能を表す表現をできるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
12	単純方位詞とその関連表現		筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
	この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現を理解し、会話文の理解と表現ができるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	能力の表現	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現	
	この回の到達目標	能力についての表現ができるようにする。	
	事前学修	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	口頭発表、会話小テスト、期末テスト、講評	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評	
	この回の到達目標	口頭発表、会話小テスト、期末テストにおいて、勉強した表現を使うことができる。	
	事前学修	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。	60分
15	復習と筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
	この回の到達目標	勉強したことを理解し、上手く解答できる	
	事前学修	テスト範囲で復習	60分
	事後学修	全般復習	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
なし

【授業方法】
中国語は漢字ですので、は先ず発音を身につけ、それから基本的な文型を覚えさせ、授業中に応用練習を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤									2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身につくかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表３０％；筆記試験６０％；授業内に小テスト１０％で評価する。	30	50	10								90
小テスト等	授業開始の前宿題を発表させ応用能力によって、点数を付ける。評価の１０％を占める。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖来・劉秋佳等	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
u. shouhi@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語について、紹介すると共に勉強の方法および注意事項、成績評価の方法等を説明する。	
	この回の到達目標	中国語を勉強することを明確し、勉強の意欲を向上させる	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、ノートに整理し、授業内容と比較、検討できるように準備する。	80分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	80分
2	第6課 動詞“有”と“在”	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”の表現について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”について表現できるようになる。	
	事前学修	教科書に書いて解釈をよく読んで、理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、宿題を作成。	80分
3	第7課 程度補語	日本語と比較して、中国語の補語について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較して、中国語の補語について理解でき、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、説明を納得する。	80分
	事後学修	例文を真似して、自己のことに基づいて宿題を作成。	80分
4	第8課 比較表現	日本語と比較して、中国語の比較表の形式を説明する。	
	この回の到達目標	様々なことについて、比較表現できる	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことについて比較してみる。宿題を作成。	80分
5	第9課 動作の進行・状態の持続表現	動作の進行中とその状態が持続する表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の進行中とその状態が持続する表現を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、簡単な作文を作る。	80分
6	第10課 動量補語	日本語と比較して、中国語の動作の回数について、その表現は動量補語という表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の回数について、その表現は身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書解釈を読んで、日本語と中国語の相違点を把握する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、自己のことについて、作文をする。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第11課 時間補語	日本語と比較し、中国語の表現の特徴な文型について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と中国語のその相違点を明確し、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を良く理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、宿題を作成	80分
8	第12課 能願動詞	能願動詞：会・能・可以の使い方について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と中国語表現の相違点を身につけ、応用でき、話せることができる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、中国語の表現を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分
9	第13課 結果補語・可能補語	日本語と比較し、中国語の表現の特徴的な文型について説明する。	
	この回の到達目標	中国語の文型を覚えて、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、宿題を作成する。	80分
10	第14課 “把”を用いた文	この表現の条件について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と中国語の語順について理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	“把”を用いた文を復習しながら宿題を作成。	80分
11	第15課 使役と受け身文	使役と受け身文を文型を説明する	
	この回の到達目標	使役と受け身表現とその文型を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を良く理解し、それに基づいて宿題を作成	80分
12	第16課 中国語をマスターしよう	会話文に現れた語句の使い方について説明する。	
	この回の到達目標	中国語表現のレベルは一層高まる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、応用練習をしてみよう。	80分
	事後学修	自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総合復習 質問に中国語で答えましょう！		第1課～16課までの知識を身につけ、話せるようになれ！
	この回の到達目標	中国語の基本的な文型を身につけ、話せる！書ける！読めるになった！	
	事前学修	テストの範囲を暗記する。	80分
	事後学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
14	期末テスト 1 口頭発表		1 発音のチェック 2 表現の応用力
	この回の到達目標	発音から表現まで、勉強した文型を知使い、話せるようになる。	
	事前学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
	事後学修	口頭発表の準備	80分
15	期末テスト 2 筆記試験		テスト範囲を指定し、中国語の表現を身につけ、問題に解説できるチェック。
	この回の到達目標	勉強した知識を身につけ、読める、書ける、話せるの目標に達成する。	
	事前学修	全般復習	60分
	事後学修	勉強の事は続ける事！	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡB	担当者	于 曉飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
なし

【授業方法】
中国語は漢字ですので、は先ず発音を身につけ、それから基本的な文型を覚えさせ、授業中に応用練習を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に関する基礎知識が身につくかを試験により判断する。 期末テスト：口頭発表 30%；筆記試験 60%；授業内に小テスト 10% で評価する。	30	50	10								90
小テスト等	授業開始の前宿題を発表させ応用能力によって、点数を付ける。評価の 10% を占める。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から覚える中国語	周聖来・劉秋佳等	飛鳥出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
u. shouhi@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	中国語について、紹介すると共に勉強の方法および注意事項、成績評価の方法等を説明する。	
	この回の到達目標	中国語を勉強することを明確し、勉強の意欲を向上させる	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、ノートに整理し、授業内容と比較、検討できるように準備する。	80分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	80分
2	第6課 動詞“有”と“在”	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”の表現について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較し、中国語の動詞“有”と“在”について表現できるようになる。	
	事前学修	教科書に書いて解釈をよく読んで、理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、宿題を作成。	80分
3	第7課 程度補語	日本語と比較して、中国語の補語について説明する。	
	この回の到達目標	日本語と比較して、中国語の補語について理解でき、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、説明を納得する。	80分
	事後学修	例文を真似して、自己のことに基づいて宿題を作成。	80分
4	第8課 比較表現	日本語と比較して、中国語の比較表の形式を説明する。	
	この回の到達目標	様々なことについて、比較表現できる	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことについて比較してみる。宿題を作成。	80分
5	第9課 動作の進行・状態の持続表現	動作の進行中とその状態が持続する表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の進行中とその状態が持続する表現を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を読んで理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、簡単な作文を作る。	80分
6	第10課 動量補語	日本語と比較して、中国語の動作の回数について、その表現は動量補語という表現を説明する。	
	この回の到達目標	動作の回数について、その表現は身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書解釈を読んで、日本語と中国語の相違点を把握する。	80分
	事後学修	授業の内容を理解し、自己のことについて、作文をする。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第11課 時間補語		日本語と比較し、中国語の表現の特徴な文型について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語のその相違点を明確し、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を良く理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記して、宿題を作成	80分
8	第12課 能願動詞		能願動詞：会・能・可以の使い方について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語表現の相違点を身につけ、応用でき、話せることができる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、中国語の表現を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分
9	第13課 結果補語・可能補語		日本語と比較し、中国語の表現の特徴的な文型について説明する。
	この回の到達目標	中国語の文型を覚えて、応用できるようになる	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	例文を暗記し、宿題を作成する。	80分
10	第14課 “把”を用いた文		この表現の条件について説明する。
	この回の到達目標	日本語と中国語の語順について理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	“把”を用いた文を復習しながら宿題を作成。	80分
11	第15課 使役と受け身文		使役と受け身文を文型を説明する
	この回の到達目標	使役と受け身表現とその文型を身につけ、応用できるようになる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、日本語と中国語の表現の相違点を理解する。	80分
	事後学修	授業の内容を良く理解し、それに基づいて宿題を作成	80分
12	第16課 中国語をマスターしよう		会話文に現れた語句の使い方について説明する。
	この回の到達目標	中国語表現のレベルは一層高まる。	
	事前学修	教科書の解釈を理解し、応用練習をしてみよう。	80分
	事後学修	自己のことに基づいて、宿題を作成。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総合復習 質問に中国語で答えましょう！		第1課～16課までの知識を身につけ、話せるようになれ！
	この回の到達目標	中国語の基本的な文型を身につけ、話せる！書ける！読めるになった！	
	事前学修	テストの範囲を暗記する。	80分
	事後学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
14	期末テスト 1 口頭発表		1 発音のチェック 2 表現の応用力
	この回の到達目標	発音から表現まで、勉強した文型を知使い、話せるようになる。	
	事前学修	全般とテスト範囲を主に復習する	80分
	事後学修	口頭発表の準備	80分
15	期末テスト 2 筆記試験		テスト範囲を指定し、中国語の表現を身につけ、問題に解説できるチェック。
	この回の到達目標	勉強した知識を身につけ、読める、書ける、話せるの目標に達成する。	
	事前学修	全般復習	60分
	事後学修	勉強の事は続ける事！	60分

科目名	日本語 I	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	50分
2	講義の受け方	講義はどのような姿勢で受けるのか、また講義メモはどのように取るのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の受け方や講義メモの取り方を理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
3	教科書の読み方	講義で指定された教科書をどのように読み取るのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、教科書の情報を正確に読み取ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
4	レポートの言葉遣いについて	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レポートは適切な漢字と書き言葉を使って書くことを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	分かりやすい文章について	読みやすい文章を書く上で必要な注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読みやすい文書とはどのようなものか気づくことができる。レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	分かりやすい文章の書き方	文章の構成とはどのようなものかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の構成がいかに重要であるか理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	引用の方法		自分の考えと他人の考えをどのように区別するのかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、引用の方法を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		30分
8	筋の通った文章について		パラグラフとは何かを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筋の通った文章はいかに読みやすいかを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	インターネットを使った情報収集について		インターネットを使った情報収集の注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットを使った情報収集の注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	図解から情報を読み取る方法		グラフや図表から、どのように情報を読み取るのかを考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グラフや図表から適切に情報を読み取ることができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	文章の種類について		文章の種類とその違いを理解する。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の種類とその違いに気づくことで、レポートとの違いを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	記録文と説明文の違いについて		記録文と説明文の違いを理解する。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記録文と説明文との違いに気づくことで、レポートとの違いを更に理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自分の考えの伝え方		自分の考えはどのように伝えるべきか、その注意点を考える。また、レポートで使用する漢字を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の考えを適切に伝えるための注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。またこれまでの漢字のテスト不正解を確認しておく。	50分
14	授業内試験と解説		これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り		講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要なかを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語 I	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。 毎回「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ方法論を実践できる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論説文の読解1	漢字テスト No. 1～No. 50 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の構成と内容把握の概略を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1～No. 50） 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	小説の読解1	漢字テスト No. 51～No. 100 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心情描写の表現と小説独特の書体を理解し、使い分けることができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 51～No. 100） 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1～No. 50）の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	論説文の読解2	漢字テスト No. 101～No. 150 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抽象的な文章の読解と、具体例から内容を把握できる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 101～No. 150） 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 51～No. 100）の間違った箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	小説の読解2	漢字テスト No. 151～No. 200 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な記述によって心情を描く文章の読解方法を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 151～No. 200） 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 101～No. 150）の間違った箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	論説文の読解3	漢字テスト No. 201～No. 250 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内容把握と記述による表現方法の関連を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 201～No. 250） 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 151～No. 200）の間違った箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	小説の読解3		漢字テスト No. 251～No. 300 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、擬音語、擬態語、副詞による場面描写の読み解き方を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分
8	論説文の読解4		漢字テスト No. 301～No. 350 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般論と具体例、抽象概念と具体例が入り乱れる文章を読み解くことができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分
9	随想の読解1		漢字テスト No. 351～No. 400 随想読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「事実」と「意見」の区別を、記述の特徴から理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 351～No. 400） 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 301～No. 350）の間違った箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分
10	論説文の読解5		漢字テスト No. 401～No. 450 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比喩の種類、および比喩による説明の特徴を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 401～No. 450） 論説文5の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 351～No. 400）の間違った箇所を確認する 論説文5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分
11	随想の読解2		漢字テスト No. 451～No. 500 随想読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、導入ー背景ー本論ー結論の流れと段落構成を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 451～No. 500） 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 401～No. 450）の間違った箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分
12	論説文の読解6		漢字テスト No. 501～No. 550 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論理接続詞による内容のつながりと文章構造のしくみを理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる		
	事前学修	漢字テストの予習（No. 501～No. 550） 論説文6の教材を読み、設問を解いておくこと		45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 451～No. 500）の間違った箇所を確認する 論説文6を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小説の読解4	漢字テスト No. 551～No. 600 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間の流れと登場人物の心情のうつりかわりを把握することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 551～No. 600） 小説4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 501～No. 550）の間違った箇所を確認する 小説4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	随想の読解3	漢字テスト No. 601～No. 650	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、暗喩による表現、および比喩を具体論に落とし込むための読解方法を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 601～No. 650） 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 551～No. 600）の間違った箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
	事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。		20									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	50分
2	課題図書を読む	短い文章を読んで、内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、短い課題図書の内容を理解し、まとめることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
3	インタビュー調査	インタビューを開き取る。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、インタビューを正確に聞き取ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
4	プレゼンテーションの準備	課題図書の本文とインタビューの内容をもとに、レジュメを作成する方法を理解する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、短時間のプレゼンをするためのレジュメを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	テキストを読む	専門分野のテキストを読んで、内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、テキストの内容を適切にまとめることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	プレゼンテーションの準備	レジュメを作成するために、プレゼンテーションの仕方や手順を考える。	
	この回の到達目標	到達科目②に関連して、プレゼンテーションの仕方や手順を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プレゼンテーションの読み原稿を書く	レジュメに合わせた読み原稿を作成する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、レジュメに合わせた読み原稿を作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
8	スピーチを聞く	スピーチのチラシから、キーワードを知る。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、スピーチのキーワードを知ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
9	スピーチを聞く	スピーチを聞いてメモを取り、内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを聞いてメモを取ったり、内容を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
10	スピーチを聞く	スピーチの内容を聞いて、質問を考える。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチの内容に基づいて質問内容を考えることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
11	質疑応答	スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
12	スピーチを書く	スピーチのアウトラインを作成する	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチのアウトラインを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スピーチを書く	スピーチを作成する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
前期「日本語ⅠA」からの継続授業。

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前期授業（日本語ⅠA）と同様。毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。		20									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ。方法論を実践できる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論説文の読解1	漢字テスト No. 651～No. 700 論説文(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、イメージ的な抽象表現から主張の具体例を導くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 651～No. 700) 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	小説の読解1	漢字テスト No. 701～No. 750 小説(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、小説の場面展開と段落構成の関係を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 701～No. 750) 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 651～No. 700) の間違えた箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	論説文の読解2	漢字テスト No. 751～No. 800 論説文(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論説文に頻出する用語の確認と使用例を理解し、実際に使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 751～No. 800) 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 701～No. 750) の間違えた箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	小説の読解2	漢字テスト No. 801～No. 850 小説(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文語文、擬古文の読解方法を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 801～No. 850) 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 751～No. 800) の間違えた箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	随想の読解1	漢字テスト No. 851～No. 900 随想(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、記述者の視点の違いによる描写の差異を理解し、異なった立場に立ち意見を述べるができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 851～No. 900) 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 801～No. 850) の間違えた箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小説の読解3	漢字テスト No. 901～No. 950 小説(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、主語・目的語が明示されていない行為文から場面の展開を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 901～No. 950) 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 851～No. 900) の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	論説文の読解3	漢字テスト No. 951～No. 1000 論説文(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、哲学的文章の読解練習を行い、抽象的概念や一般論を扱った文章を書くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 951～No. 1000) 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 901～No. 950) の間違えた箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	随想の読解2	漢字テストNo. 1001～No. 1050 随想(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、通常とは異なる意味で使われている語句の意味を、文脈から理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1001～No. 1050) 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 951～No. 1000) の間違えた箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	論説文の読解4	漢字テスト No. 1051～No. 1100 論説文(4)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、異なる時代、異なる文化的背景に基づく論説を読み解き、実体験に頼ることなく意見の根拠を述べることができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1051～No. 1100) 論説文4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1001～No. 1050) の間違えた箇所を確認する 論説文4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	随想の読解3	漢字テストNo. 1101～No. 1150 随想(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国人から見た日本文化論を読み解き、実際に書くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1101～No. 1150) 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1051～No. 1100) の間違えた箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	評論文の読解1	漢字テストNo. 1151～No. 1200 評論文(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、事実と意見のつながりと根拠の揃え方を理解し、実践することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1151～No. 1200) 評論文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1101～No. 1150) の間違えた箇所を確認する 評論文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	随想の読解4	漢字テストNo. 1201～No. 1250 随想(4)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「個別事象の描写」と「一般論の展開」を区別することができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1201～No. 1250） 随想4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1151～No. 1200）の間違った箇所を確認する 随想4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	随想の読解5	漢字テスト No. 1251～No. 1300 随想(5)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、複数のトピックが入り乱れる文章の主張文を整理することができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1251～No. 1300） 随想5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1201～No. 1250）の間違った箇所を確認する 随想5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、14回の授業を通して身につけた能力を通して、日本語を用いた言論活動を円滑に行うことができる。	
	事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	日本語Ⅲ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのかを把握することができる。				1	1		1				
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									1	1	
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。		
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。		20分
	事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。		40分
2	(教科書) 「大学の魅力」	大学はどのような場所なのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学は学問をする場所であり、学問は創造的な問いかけをすることだと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。		20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
3	(教科書) 「大学の魅力」	大学の魅力を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学の最終目標が知的可能性の探求であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
4	(教科書) 習・研究	高校との違いを踏まえ、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを決めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
5	(教科書) 習・研究	学修・研究をいかにするのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、学修・研究を成功させるためのスタディースキルを修得することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
6	(教科書) 際	自分の目標に合わせた履修計画を立て、学修計画の重要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の目標に合わせた学修計画の重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書)「大学の学習・研究の実 際」		自主学習の必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自主学習の必要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
8	(教科書)「ノートの取り方」		大学ではなぜノートを取るのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、大学ではノートを取り、まとめて、保管し、上手に利用することが学生の責任であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	(教科書)「ノートの取り方」		よい講義ノートとはどのようなノートなのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義ノートは講義後、それを基に内容を復元できるものと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	(教科書)「大学生のための読解」		関連知識の必要性和整理の重要性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、読解力を向上させるために日頃から様々な知識を蓄えてくことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	(教科書)「大学生のための読解」		読む習慣を身につける必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、目的によって読解の方法が異なることと、読む習慣がいかに重要かを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	(教科書)「情報収集」		どのような目的でどのような情報を探しているのかはつきりさせる必要があることを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、情報を収集する際には目的を明確にすれば効率がよいことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「情報収集」	収取した情報は、規格化、再利用、情報源の明記を心掛けて整理しておくことを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、収集した情報を整理する重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅳ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのか明確に把握することができる。				2	2		2			
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									2	2
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				2						
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「インターネット」	大学生活をサポートするインターネット利用で心得るべきことを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、インターネットの利用規定の内容を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	(教科書) 「インターネット」	コミュニケーションツールとしての電子メールのマナーを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ネチケットについて調査をし、深く理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	(教科書) 「テーマの選び方」	レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	(教科書) 「テーマの選び方」	トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	(教科書) 「情報の整理」	一次資料と二次資料の違いを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、二次資料は理解を深めるのに必要な資料だが、それをまとめたり発表に使えないことを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書) 「情報の整理」		『あしながおじさん』を例に、質的な情報をどのように整理するかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一次資料を使用して、どのようなことでも新しい知見を引き出すことができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
8	(教科書) 「書くことの重要性」		「読む」ことと「書く」ことの関連性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、研究における「書く」ことの重要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	(教科書) 「書くことの重要性」		「書く」ことの意味を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、上手な文章の書き方の基本について考えることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	(教科書) 「レポートや論文を書く」		レポートとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートを書く際の重要なポイントを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	(教科書) 「レポートや論文を書く」		良いレポートの書き方を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、引用と剽窃の区別ができたり、説得力のあるレポートとはどのようなものを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	(教科書) 「プレゼンテーション」		効果的なプレゼンテーションとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、準備を始める前から問題意識を持つ必要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「テストの準備と受け方」	大学のテストがいかに重要か、またその種類や内容を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学のテストの重要性やその種類と内容を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	(教科書) 「テストの準備と受け方」	テストの準備と受験について、どのような点に注意すべきかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、テスト時間割の確認と学修計画の作成ができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。						2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。									2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。						2			2	2	2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、それぞれ理解したことを踏まえて実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要か考えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「はじめに」	日本語能力のトレーニングを始めるにあたり、日本語の適切さがどのように決まるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、あいまいな文や言葉の誤変換を通して、適切な日本語とはどのように決まるのかを理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	(教科書) 「敬語の種類と使い分け」	敬語の種類（時に尊敬語・謙譲語）と使い分けについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敬語の種類と使い分けについて理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	(教科書) 「敬語の種類と使い分け」	尊敬語と謙譲語を使う場面を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、敬語の使い方に注意しながら実際に近い場面で適切な敬語を使うことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
5	(教科書) 「注意すべき敬語」	尊敬語・謙譲語の混同、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする表現の間違いを気づくようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく間違える敬語を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
6	(教科書) 「注意すべき敬語」	間違った敬語を適切な敬語に書き換えるには、どのような点に注意すべきかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、間違った敬語を適切な敬語に書き改めることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書) 「配慮を示す言葉」		円滑な人間関係を確立したり、維持するための言語行動の考え方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敢えて敬語を使わないことが相手との円滑な人間関係を維持するために必要な場合があることを理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
8	(教科書) 「配慮を示す言葉」		円滑な人間関係を確立したり、維持するため、敬語だけにとどまらない適切な配慮表現とは何かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、忌み言葉やほのめかしの表現を身につけることができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
9	(教科書) 「ら抜きことば・レタス言葉・さ入れ言葉」		ら抜き言葉、レタス言葉を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ら抜き言葉、レタス言葉は間違いだと理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
10	(教科書) 「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」		さ入れ言葉を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、さ入れ言葉は間違いだと理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
11	(教科書) 「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」		長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語が対応しているか判別する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語がきちんと対応しているか判別することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		50分
12	(教科書) 「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」		文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「接続詞・接続語と文章」	接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	(教科書) 「接続詞・接続語と文章」	連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を身につけることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活で必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
授業は演習形式で行う。実際に作文を書く課題をもとに、その内容についてディスカッションする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。 作文、小論文の演習を行う。答案はすべて添削のうえ返却し、良い点と改良すべき点を授業で説明する。答案作成（アウトプット）とフィードバック（インプット）の両面から、作文能力の向上をはかる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。					2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。								2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。					2			2	2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、それぞれ理解したことを踏まえて実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各演習問題で作成した答案に直接添削を行う。直すべき点のポイントと改良の方法を、授業で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の基本的な流れを説明し、日本語の作文力を高めるための学習方法について学ぶ	
	この回の到達目標	日本語の作文の勉強方法について理解し、実践することができる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の流れと構成を理解する	30分
	事後学修	日本語作文の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	日本語で作文を書く際の注意点	作文の種類と、段落構成の概要について。課題作文1「ことばと学習」のアウトライン作り	
	この回の到達目標	日本語文章の「型」について理解し、実際に執筆することができる	
	事前学修	「問題提起」「意見提示」の構成と、表現および語彙について確認する	20分
	事後学修	課題作文1「ことばと学習」の作文を完成させる	60分
3	作文の文体	書き言葉の表現、語彙を学習する。原稿用紙の使い方を確認する。課題作文2「日本での体験」のアウトライン作り	
	この回の到達目標	話し言葉や流行語を使わず、フォーマルな表現で作文を書くことができる	
	事前学修	課題作文1「ことばと学習」の確認と提出 常体（「～だ」「～である」）表現の予習と確認	30分
	事後学修	文体の違いを確認する。課題作文2「日本での体験」の作文を完成させる	90分
4	メモの取り方	課題のポイントを考え、アイデアメモをつくる方法を学ぶ。課題作文3「ごみの分別」のアウトライン作り。課題作文1「ことばと学習」のフィードバック	
	この回の到達目標	課題に即したアウトラインのメモを作ることができる	
	事前学修	配布教材でアウトラインの役割について理解する。課題作文2「日本での体験」の確認と提出	30分
	事後学修	メモのとりかたの復習。課題作文3「ごみの分別」の作文を完成させる	90分
5	「問題提起」の書き方	書き始めの段落（問題提起）の内容と表現を学ぶ。課題作文4「察しの文化」のアウトライン作り。課題作文2「日本での体験」のフィードバック	
	この回の到達目標	小論文の第一段落を適切に書くことができる	
	事前学修	段落の役割について確認する。課題作文3「ごみの分別」の確認と提出	30分
	事後学修	問題提起の表現、内容について確認する。課題作文4「察しの文化」の作文を完成させる	90分
6	「意見提示」の書き方	第二部に相当する「意見提示」の内容と表現を学ぶ。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のアウトライン作り。課題作文3「ごみの分別」のフィードバック	
	この回の到達目標	論理接続詞の使い、意見を提示する表現を適切に書くことができる	
	事前学修	接続詞の使い方と意味について確認する。課題作文4「察しの文化」の確認と提出	30分
	事後学修	意見提示の表現について確認する。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「展開」の書き方	根拠をもとに自分の意見を幅広く展開する表現について学ぶ。課題作文6「手間と無駄の功罪」のアウトライン作り。課題作文4「察しの文化」のフィードバック	
	この回の到達目標	根拠を、単なる羅列ではなく、文章として展開する書き方ができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の確認と提出	30分
	事後学修	「展開」の表現について確認しておく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の作文を完成させる	90分
8	「結論」の書き方	文章全体をまとめ、結論にむけて文章を整える方法を学ぶ。課題作文7「知的生産の技術」のアウトライン作り。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のフィードバック	
	この回の到達目標	各段落の役割が明確な文章を完成させることができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の確認と提出	30分
	事後学修	「結論」の表現について確認しておく。課題作文7「知的生産の技術」の作文を完成させる	90分
9	グラフ、表、資料の読み取り方	提示された資料をもとに主張を展開するための方法を学ぶ。課題作文8「歴史とは何か」のアウトライン作り。課題作文6「手間と無駄の功罪」のフィードバック	
	この回の到達目標	様々な資料を根拠として主張を展開することができる	
	事前学修	配布された資料を読み、課題の問題を解いておく。課題作文7「知的生産の技術」の確認と提出	30分
	事後学修	資料をもとにした主張の展開方法を確認する。課題作文8「歴史とは何か」の作文を完成させる	90分
10	異なる意見を比べる	様々な立場の意見を取り入れ、比較して判断する文章の書き方を学ぶ。課題作文9「動物愛護の賛否」のアウトライン作り。課題作文7「知的生産の技術」のフィードバック	
	この回の到達目標	様々な意見を客観的に読み取り、比較することができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文8「歴史とは何か」の確認と提出	30分
	事後学修	意見の比較の方法を確認する。課題作文9「動物愛護の賛否」の作文を完成させる	90分
11	反論の方法	他人の主張に対して、効果的に反論をする方法を学ぶ。課題作文10「選挙制度」のアウトライン作り。課題作文8「歴史とは何か」のフィードバック	
	この回の到達目標	主張に対する反論する方法を理解し、実践することができる	
	事前学修	課題文を読み、展開されている主張をまとめておく。課題作文9「動物愛護の賛否」の確認と提出	30分
	事後学修	反論の方法について確認する。課題作文10「選挙制度」の作文を完成させる	90分
12	データや資料の活用	ひとつのデータから複数の主張を導き、データの適切な運用について学ぶ。課題作文11「食料自給率」のアウトライン作り。課題作文9「動物愛護の賛否」のフィードバック	
	この回の到達目標	特定のデータや資料から双方向の議論を展開できる。	
	事前学修	配布された資料を読み、データから読み取れることをまとめておく。課題作文10「選挙制度」の確認と提出	30分
	事後学修	データの活用方法について確認する。課題作文11「食料自給率」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	具体例と一般論の区別	個別事象と一般論を区別し、それらを混同した議論に反論する。期末課題の説明とアウトラインの作成。課題作文10「選挙制度」を完成させる	
	この回の到達目標	具体例と一般論を混同した議論を指摘できる	
	事前学修	課題文を読み、反論すべき問題点を確認しておく。課題作文11「食料自給率」の確認と提出	30分
	事後学修	具体例と一般論の区別について確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	90分
14	作文に必要な事項についてのまとめ	期末課題を執筆するために必要な内容を総復習する。課題作文11「食料自給率」のフィードバック	
	この回の到達目標	日本語作文に必要な事項を理解し、自分の書いた小論文を客観的にチェックすることができる	
	事前学修	配布されたチェックリストを確認し、いままで演習で行った自分の作文を自己採点しておく	60分
	事後学修	チェックリストの内容を確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	120分
15	期末課題の提出とフィードバック	期末課題についての説明とフィードバック	
	この回の到達目標	学期間に学んだことを活かして日本語作文を執筆できる	
	事前学修	期末課題答案の確認と提出	30分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅵ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、それぞれ理解したことを踏まえて実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはGoogleclassroomにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要か考えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「類義語・対義語」	細かな意味や微妙な意味合いの違いをつかみ、語感を鍛える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、細かな意味や微妙な意味合いの違いを理解し、語感を鍛えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	(教科書) 「類義語・対義語」	和語、漢語、カタカナ語という語種の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、和語・漢語・カタカナ語という語種の違いを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	(教科書) 「文体、話し言葉・書き言葉」	言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントをより深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	(教科書) 「文体、話し言葉・書き言葉」	「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用を目指す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用ができるようになる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	(教科書) 「コロケーション」	慣用的な言葉のつながりについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	(教科書) 「コロケーション」	間違いやすいコロケーションとは何かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、間違いやすいコロケーションを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
8	(教科書) 「部首・音訓・熟語」	漢字についての基本事項について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、漢字について、部首・音訓に関する基本事項を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
9	(教科書) 「部首・音訓・熟語」	熟語の読み方、構成について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、熟語の読み方とその構成について理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
10	(教科書) 「仮名遣い・送り仮名」	現代仮名遣いの適切な使い方について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代仮名遣いの適切な使い方について深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
11	(教科書) 「仮名遣い・送り仮名」	送り仮名の付け方について、注意すべき点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、送り仮名の付け方について深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
12	(教科書) 「総合問題」	報告書の下書きを読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、報告書の下書きにおける不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「総合問題」	手紙文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	(教科書) 「総合問題」	小論文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小論文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
	事前学修	後期授業内容を復習する。(40分)	150分
	事後学修	試験で間違った問題を再度復習する。(30分)	30分

科目名	日本語Ⅵ	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活で必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
前期授業（日本語ⅢA）を履修していることが望ましい。

【授業方法】
演習方式。実際に論文を書くプロセスを演習によって敷衍し、大学生活におけるレポートや学術論文の書き方を段階ごとに実践する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、提出された課題をもとに良い点と改良点をディスカッションする。期末には実際に論文を書き、理解の定着をはかり確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、それぞれ理解したことを踏まえて実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題で提出された答案にはすべて個別に添削講評を行う。全員の答案を授業内で比較し、ディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する	
	この回の到達目標	授業の流れを理解し、レポート・論文を執筆するための勉強法を理解することができる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	レポート、論文の基本についておさらいし、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論文の概略	論文の構成、作り方、まとめ方、種類について理解する。課題1「段落の内容を絞る」の解説	
	この回の到達目標	「論文」に必要な条件を理解し、作文と論文を区別して書くことができる	
	事前学修	課題1「段落の内容を絞る」の答案作成	40分
	事後学修	論文の概略について復習し、授業の内容を確認する。課題1の復習	45分
3	テーマの見つけ方	データや資料をもとにテーマを見つける方法について学ぶ。課題2「文の長さ」の解説	
	この回の到達目標	適切なテーマと不適切なテーマの違いについてし、適切なテーマの設定ができる	
	事前学修	課題2「文の長さ」の答案作成	40分
	事後学修	テーマの見つけ方について復習し、授業の内容を確認する。課題2の復習	45分
4	データの種類	テーマの基本となるデータ、資料の見分け方を種類について学ぶ。課題3「読み違いの表現」の解説	
	この回の到達目標	論文に必要なデータの種類を理解し、立論に必要なデータを収集できる	
	事前学修	課題3「読み違いの表現」の答案作成	40分
	事後学修	データの種類について復習し、授業の内容を確認する。課題3の復習	45分
5	計量的データの利用方法	事柄データ、数量データ、文章データの種類を理解し、データ解釈の演習を行う。課題4「否定文と肯定文」の解説	
	この回の到達目標	データを正しく読み取り、問題を汲み取ることができる	
	事前学修	課題4「否定文と肯定文」の答案作成	40分
	事後学修	データの種類ごとに解釈の方法を確認する。課題4の復習	45分
6	図表に関する表現	図表、数、資料、調査、実験を引用する際の表現と形式を学ぶ。課題5「受動態と能動態」の解説	
	この回の到達目標	論文に図表を適切な表現と形式で引用することができる	
	事前学修	課題5「受動態と能動態」の答案作成	40分
	事後学修	図表について復習し、授業の内容を確認する。課題5の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	資料に関する表現	古語や外国語の資料の提示のしかた、調査の概要や実験の概要を示す表現と形式を学ぶ。課題6「直訳調、漢語調の表現」の解説	
	この回の到達目標	論文に資料を適切な表現と形式で引用することができる	
	事前学修	課題6「直訳調、漢語調の表現」の答案作成	40分
	事後学修	資料の種類と引用方法について復習し、授業の内容を確認する。課題6の復習	45分
8	本論の構成	「問い」「仮説」「予測」「検証」の内容について理解し、本論で書くべき内容を理解する。課題7「漢字熟語の動詞」の解説	
	この回の到達目標	論文の本体となる内容の構成について理解し、適切な段落を構成することができる	
	事前学修	課題7「漢字熟語の動詞」の答案作成	40分
	事後学修	本論の役割と構成について復習し、授業の内容を確認する。課題7の復習	45分
9	問題提起の表現	「データの提示」「疑問点の指摘」「目的の表示」「問題解決の方法」の内容と表現について学ぶ。課題8「漢字とひらがなの使い分け」の解説	
	この回の到達目標	問題提起の表現と内容について理解し、適切な問題設定ができる	
	事前学修	課題8「漢字とひらがなの使い分け」の答案作成	40分
	事後学修	問題提起の内容と表現について復習し、授業の内容を確認する。課題8の復習	45分
10	検証の表現	「予測（インプリケーション）」から資料や実験による「検証」につなげる内容と表現について学ぶ。課題9「主語と述語の距離」の解説	
	この回の到達目標	検証の節の役割と表現について理解し、客観的な検証を実践できる	
	事前学修	課題9「主語と述語の距離」の答案作成	40分
	事後学修	検証の方法と役割について復習し、授業の内容を確認する。課題9の復習	45分
11	結論の表現	結びの役割、全体のまとめ、評価、展望提示の内容と表現についてそれぞれ学ぶ。課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の解説	
	この回の到達目標	結論の段落の構成と表現を理解し、適切な結論を書くことができる	
	事前学修	課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の答案作成	40分
	事後学修	結論の書き方と内容について復習し、授業の内容を確認する。課題10の復習	45分
12	展開の技術	「例を挙げる」「対比する」「類似点を挙げる」「相違点を指摘する」「注目させる」「推論を示す」の表現の演習を行う。課題11「誤解を招く多義語」の解説	
	この回の到達目標	議論を展開し、持論を補強する表現を身につけることができる	
	事前学修	課題11「誤解を招く多義語」の答案作成	40分
	事後学修	展開の表現について復習し、授業の内容を確認する。課題11の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	論文の体裁を整える		表題、要旨、キーワード、目次、付記、注、参考文献、付録の書体と内容について学ぶ。課題12「接続詞の注意点」の解説
	この回の到達目標	論文に必要な要素を理解し、適切な書体に仕上げることができる	
	事前学修	課題12「接続詞の注意点」の答案作成	40分
	事後学修	論文の体裁を整えるための要素について復習し、授業の内容を確認する。課題12の復習	45分
14	論文の最終チェック		チェックリストをもとに、自分の書いた論文を最終確認するための方法について学ぶ。課題13「間違いやすい助詞」の解説
	この回の到達目標	論文を推敲し、ミスのない論文を仕上げることができる	
	事前学修	課題13「間違いやすい助詞」の答案作成	40分
	事後学修	論文の最終チェックについて復習し、授業の内容を確認する。課題13の復習	45分
15	最終課題の提出、および解答と解説		最終レポートの提出、および解答と解説を行い、フィードバックを行う
	この回の到達目標	自力でレポート・論文を完成させることができる	
	事前学修	今までの演習、授業内容をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	最終レポートのフィードバックをよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書・スマホ利用可）。なお、日本語の初級から中級の授業のうち、少なくとも3つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】		
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞の社説やコラムを精読する。それをもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出してもらい、添削指導、全員での検討を行う。なお、以下の各回に取り上げる予定の社説・コラムを記したが、可能な限り最新の新聞を扱う予定。よって、取り上げる内容も変更する場合があることを了解してほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、学期末授業内試験によって、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等	単元終了ごとに小テスト形式のチェックテストを実施する。事前に範囲を指定するのでレポートに準じて各自で用意・準備しテストに臨んでもらう。到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。最新の新聞の社説・コラムなどから、現在最も注目すべき内容を扱っているものを取りあげて、配付し、教材として用いる。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと日本語による短文作成	〔１〕講義概要と成績評価に関する説明。〔２〕日本に来て感じたことに関する課題文章の完成と提出。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	日本人は働きバチか？	「日本人は働きバチか？」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。働きバチの実態に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人は働きバチか？」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	働くことの意味	「日本人は働きバチか？」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。前回の授業内容を確認しておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人は働きバチか？」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	慌ただしい毎日	2回・3回授業の確認小テスト 「エスカレーターを歩く人」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「エスカレーターを歩く人」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「エスカレーターを歩く人」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	急ぐことの代償	「エスカレーターを歩く人」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本人の気ぜわしい性格に関してどのような意見があるか、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「エスカレーターを歩く人」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	go toトラベル	4回・5回授業の確認小テスト 「コロナ禍」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「コロナ禍」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「コロナ禍」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	日本政府が相手にするところ		「コロナ禍」に関するコラムの解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「コロナ禍」に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「コロナ禍」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	最も効率のよい接種とは		6回・7回授業の確認小テスト 「ワクチン接種の順番」に関するコラムの解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。コロナワクチンに関して、ネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ワクチン接種の順番」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	命の選択		「ワクチン接種の順番」に関するコラムの解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「ワクチン接種の順番」で問題とされている事項をまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ワクチン接種の順番」に関する発展問題の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	便利さの中に生きる現代人		8回・9回授業の確認小テスト 「電気の来ない闇の中で」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「電気の来ない闇の中で」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「電気の来ない闇の中で」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	電気のない生活		「電気の来ない闇の中で」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。東日本大震災に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「電気の来ない闇の中で」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	時短営業		10回・11回授業の確認小テスト 「時短営業」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。時短営業に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「時短営業」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	コンビニの売り上げ		「時短営業」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「時短営業」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現		12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認		半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	山口 真紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力(語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等)を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
課題を提出し、添削した上で返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文を添削した上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				3						
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。						3				
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。							3			3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。								3		
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関連して、学期末に実施する試験により日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標③④に関連して、授業内で行うスピーキングテストにおいて、自分の意見を適切に説明することができるかを評価する。			10	10							20
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。				10	10						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	20	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解[上級]	東京外国語大学留学生日本語教育センター	スリーエーネットワーク	2015年	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日昼休み中に講師室にて対応します。（事前に必ずアポイントメントを取ってください）yamaguchi.maki@eco.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。授業の概要を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
	事後学修	フィードバックのあった点について復習しておくこと。	120分
2	テーマに沿った文章を読む1	第1課「暈」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第1課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第1課「暈」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	テーマに沿った文章を読む2	第2課「天神様」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第2課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第2課「天神様」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	テーマに沿った文章を読む3	第3課「暗闇イベント」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第3課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第3課「暗闇イベント」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	テーマに沿った文章を読む4	第4課「知里幸恵さん」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第4課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第4課「知里幸恵さん」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	テーマに沿った文章を読む5	第5課「開発途上国支援」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第5課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第5課「開発途上国支援」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマに沿った文章を読む6	第6課「バイオミミクリ 生物に学ぶ技術」 スピーキングテスト①	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第6課を読んでおくこと。スピーキングテストの準備。	120分
	事後学修	第6課「バイオミミクリ 生物に学ぶ技術」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	テーマに沿った文章を読む7	第7課「フェアトレード」 スピーキングテスト②	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第7課を読んでおくこと。スピーキングテストの準備。	120分
	事後学修	第7課「フェアトレード」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	テーマに沿った文章を読む8	第8課「渋滞学」 スピーキングテスト③	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第8課を読んでおくこと。スピーキングテストの準備。	120分
	事後学修	第8課「渋滞学」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	テーマに沿った文章を読む9	第9課「パイオトイレ」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第9課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第9課「パイオトイレ」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	テーマに沿った文章を読む10	第10課「人はなぜ化粧をするのか」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第10課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第10課「人はなぜ化粧をするのか」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	テーマに沿った文章を読む11	第11課「茶の湯」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第11課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第11課「茶の湯」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマに沿った文章を読む12	第12課「ガラスの天井」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第12課を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第12課「ガラスの天井」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	テーマに沿った文章を読む13	第13課「子どもの顔」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第13課を読んでおくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	第13課「子どもの顔」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	期末試験	アカデミック・ライティングと文章一般、講義の理解について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
	事前学修	総復習をしておくこと。	120分
	事後学修	アカデミック・ライティングと文章一般、講義の理解について、講義内容を復習しておくこと。一年の講義内容を確認すること。	120分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書・スマホ利用可）。なお、日本語の初級から中級の授業のうち、少なくとも3つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】		
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞の社説やコラムを精読する。それをもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出してもらい、添削指導、全員での検討を行う。なお、以下の各回に取り上げる予定の社説・コラムを記したが、可能な限り最新の新聞を扱う予定。よって、取り上げる内容も変更する場合があることを了解してほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、学期末授業内試験によって、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等	単元終了ごとに小テスト形式のチェックテストを実施する。事前に範囲を指定するのでレポートに準じて各自で用意・準備しテストに臨んでもらう。到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。最新の新聞の社説・コラムなどから、現在最も注目すべき内容を扱っているものを取りあげて、配付し、教材として用いる。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと日本語による出身国の紹介	〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕日本と祖国との違いに関する課題文章の完成と提出。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	日本におけるしつけの問題	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「怒る」と「叱る」の違いに関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	人を生かす叱り方とは	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。効果的な「叱り方」に関して各自で考えておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	日本独特の食文化	2回・3回授業の確認小テスト 「納豆」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「納豆」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	発酵食品	「納豆」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日配食品」にどのようなものがあるか、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	日本の地震対策	4回・5回授業の確認小テスト 「東日本大震災」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「東日本大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	地震に対する各自の考え		「東日本大震災」に関するコラムの解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「関東大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	世界史の中の「喫茶店」		6回・7回授業の確認小テスト 「喫茶店」に関するコラムの解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。喫茶店の成り立ちに関して、図書館やネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	真の安らぎとは		「喫茶店」に関するコラムの解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「喫茶店」に臨むことをまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	便利さの中に生きる現代人		8回・9回授業の確認小テスト 「ブラックアウト」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ブラックアウト」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	電気がない生活		「ブラックアウト」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。寺田寅彦に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	真の教養とは		10回・11回授業の確認小テスト 「休養と教養」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「休養」「教養」という言葉に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教養を身に付けるために		「休養と教養」に関する社説の解読②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現		12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認		半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	山口 真紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
課題文についてディスカッションを行い、その結果を文章にまとめて提出する。シャドーイングによる口頭練習を行う。提出物は添削の上、返却する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、課題添削を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。						3						
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。								3				
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。									3			3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②に関連して、適切かつ正確な日本語で意図の伝達ができているかを基準に、日本語の口頭表現運用能力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			20	20							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	40	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上、返却する。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・シャドーイング 日本語を話そう！ 中～上級編 [英語・中国語・韓国語訳版]		斎藤仁志/深澤道子/ 掃部知子/酒井理恵 子/中村雅子	くろしお出版	2022	教科書	必携

【オフィスアワー】
金曜日昼休み講師室にて対応します。（必ず事前にアポイントメントをとってください。） yamaguchi.maki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスを行う。日本語レベルのチェックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
	事後学修	フィードバック、コメントをもとに、自分の日本語について振り返る。	120分
2	グループワークとディスカッション1	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
3	グループワークとディスカッション2	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
4	グループワークとディスカッション3	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
5	グループワークとディスカッション4	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
6	グループワークとディスカッション5	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとディスカッション6	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
8	グループワークとディスカッション7 スピーキングテスト①	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。スピーキングの小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。スピーキングの小テストの準備。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
9	グループワークとディスカッション8 スピーキングテスト②	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。スピーキングの小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。スピーキングの小テストの準備。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
10	グループワークとディスカッション9	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
11	グループワークとディスカッション10	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
12	グループワークとディスカッション11	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワークとディスカッション 12	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
14	グループワークとディスカッション 13	学生が選んだ文章について、グループワークとディスカッションを行う。シャドーイングを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、自分の意見を発信することができる。ディスカッションの内容を文章にまとめることができる。	
	事前学修	指示された文章を読み、ディスカッションポイントを考えておくこと。	120分
	事後学修	講義の内容を復習しておくこと。	120分
15	アカデミック・ジャパニーズについて	アカデミックジャパニーズについて総復習を行う。半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
	事前学修	授業内容の総復習をしておくこと。	120分
	事後学修	フィードバック、コメントを踏まえて、自分の日本語を振り返ること。	120分

科目名	スペイン語ⅠA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	中間試験において、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español vivo（生き活きスペイン語）改訂版	Noritaka Fukushima	朝日出版	2022年	その他	必携
プログレッシブ スペイン語辞典（第2版）	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限 kawasaki.kayo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	4/10 挨拶 名前を言う	オリエンテーション・参考文献の紹介 Lección 1(1)	
	この回の到達目標	挨拶表現、アルファベットを覚える。	
	事前学修	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。	10分
	事後学修	復習。授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	60分
2	4/17 発音 1	Lección 1(2) スペイン語の発音	
	この回の到達目標	スペイン語を正しい発音で読むことができる。	
	事前学修	第一回目の授業で配られた用紙にスペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄などについて記入する。	30分
	事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。	30分
3	4/24 発音 2 会話	Lección 1(3)	
	この回の到達目標	簡単な挨拶ができるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。 Lección 1の会話の復習	30分
4	5/8 名詞、冠詞	Lección 2(1)	
	この回の到達目標	名詞と冠詞の使い方を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
5	5/15 人称代名詞、ser	Lección 2 (2)	
		Lección 2	
		Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の到達目標 ser動詞の活用を覚え、使い方を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	ser動詞の活用を覚える	30分
6	5/22 会話	Unidad 2(3)	
		この回の到達目標 簡単な自己紹介ができるようになる。	
		事前学修	新出単語調べ 30分
		事後学修	Lección 2の会話の復習 30分
7	5/29	中間試験	
		この回の到達目標 Lección2までに学習したことを定着させる。	
		事前学修	Lección 1-2復習 120分
		事後学修	できなかったものを復習する。 30分
8	6/5	中間試験 FB Lección 3(1)	
		この回の到達目標 estar動詞 ser, estarの使い分けを学ぶ	
		事前学修	新出単語調べ 30分
		事後学修	復習と定着 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
9	6/12 疑問文、感嘆文	Lección 3(2)	
	この回の到達目標	疑問文、感嘆文の使い方を学ぶ 数字0~10	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	数字を覚える。	60分
10	6/19 形容詞 会話	Lección 3(3)	
	この回の到達目標	形容詞の使い方の習得 スペイン語圏の主要都市の場所を知る	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 3の会話の復習	30分
11	6/26 規則動詞1	Lección 4(1)	
	この回の到達目標	hablarなど-ar動詞の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	動詞の活用を覚える。	30分
12	7/3 規則動詞2	Lección 4(2)	
	この回の到達目標	Comerなどの-er動詞、vivirなどの-ir動詞の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	動詞の活用を覚える。	60分
13	7/10 会話	Lección 4(3)	
	この回の到達目標	日常生活について簡単に述べる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 4の会話の復習	120分
14	7/17 まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
15	7/24 まとめと復習	期末テストフィードバック	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語 I B	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
スペイン語の読み方の既習者

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	中間試験において、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
生き活きスペイン語 改訂版	福寫教隆	朝日出版	2022		必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直 他	小学館	2016		推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限 kawasaki.kayoll@ninoh-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	9/18 規則動詞の復習、 不規則動詞：tener	春学期 復習 Lección 5(1)	
	この回の到達目標	tenerの用法(家族について述べる。体調について述べる)	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	規則動詞の活用を復習し、tenerの活用を覚える。	30分
2	9/25 不規則動詞：ir, venir	Lección 5(2)	
	この回の到達目標	旅行について述べる 近い未来について述べる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	ir, venirの活用を覚える。	30分
3	10/2 時間表現 数字～30まで 会話	Lección 5(3)	
	この回の到達目標	直接目的語の代名詞の用法の習得 時刻を言えるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección5 会話の復習	60分
4	10/9 不規則動詞：querer, poder	Lección 6(1)	
	この回の到達目標	したいこと、できることについて述べる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	querer, poderなどの不規則活用を覚える。	30分
5	10/16 不規則動詞：decir, saber, conocer 目的語の代名詞	Lección 6(2)	
	この回の到達目標	目的語の使い方を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	decir, saber, conocerの動詞の活用を覚え、目的語を使った文を復習する。	30分
6	10/23 目的語の代名詞、gustar	Lección 6(3)	
	この回の到達目標	好きなものを言ったり、聞いたりできるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección6 会話の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	10/30 Lección 5~6 復習	中間テスト	
	この回の到達目標	Lección 5~6の学習項目の定着	
	事前学修	Lección 6までの復習	120分
	事後学修	中間テストでできなかったものを復習する	30分
8	11/6 所有詞、指示詞	Lección 7(1)	
	この回の到達目標	所有詞、指示詞の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分
9	11/13 比較級、最上級	Lección 7(2)	
	この回の到達目標	比較級の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	60分
10	11/20 会話	Lección 7(3)	
	この回の到達目標	最上級の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección7 会話の復習	30分
11	11/27 点過去：規則動詞	Lección 8(1)	
	この回の到達目標	点過去 規則動詞の活用を習得する	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	点過去 規則動詞の活用を覚える	30分
12	12/4 点過去：不規則動詞	Lección 8(2)	
	この回の到達目標	点過去 不規則動詞の活用を習得する	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	点過去 不規則動詞の活用を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	12/11 会話	Lección 8(3)	
	この回の到達目標	過去のことについて述べることができるようになる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	Lección8 会話の復習	120分
14	12/18 まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	1/15 まとめと復習	試験のフィードバック	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	スペイン語ⅡA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
テキストを中心に進めます。辞書必携。 このクラスはスペイン語1のクラスを補強、発展させる内容です。会話練習や聞き取りを中心により実践的なスペイン語を身につけていきます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A partir de hoy 今日から私は、スペイン語 改訂版	安藤真次郎 他	朝日出版	2024年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限 kawasaki.kayo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	4/10 スペイン語の挨拶 数字 0-1 0		オリエンテーション・参考文献の紹介 Introducción
	この回の到達目標	スペイン語の挨拶や数字などを覚え、スペイン語の音に馴染む。	
	事前学修	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏に興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。	10分
	事後学修	復習。授業で学んだ表現を覚える。	60分
2	4/17 Lección 1 発音1 スペイン語圏の国々		Lección 1 (1)
	この回の到達目標	簡単な挨拶ができる 正しく発音できる	
	事前学修	第1回目の授業で行った内容を復習しておく	30分
	事後学修	新出単語を覚える。	30分
3	4/24 Lección 1 発音2 スペイン語圏の国々		Lección 1 (2)
	この回の到達目標	スペイン語圏の国々について知る（ 正しく発音ができる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 1の会話の復習	30分
4	5/8 Lección 2		Lección 2 (1) 名詞、冠詞
	この回の到達目標	スペイン語圏の食べ物や飲み物を知る	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	数字を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	テーマ	内 容			
5	5/15 レストランで注文できる 数字 11-20	Lección 2 (2) Lección 2 Unidad 2 人称代名詞 動詞ser			
	この回の到達目標	レストランで注文できる			
	事前学修	新出単語調べ			30分
	事後学修	Lección 2の会話を覚える			30分
6	5/22 職業、国籍が言える	Lección 3 (1) ser動詞			
	この回の到達目標	国籍			
	事前学修	新出単語調べ			30分
	事後学修	新出単語を覚える			30分
7	5/29 自己紹介ができる	Lección 3 (2) 形容詞			
	この回の到達目標	自己紹介ができる			
	事前学修	新出単語を調べる			120分
	事後学修	Lección 3 の会話を覚える。			30分
8	6/5 復習	中間試験			
	この回の到達目標	Lección 1, 2, 3 で学習した内容の定着と確認			
	事前学修	Lección 1, 2, 3 で学習した内容の復習			30分
	事後学修	できなかったものを復習する。			30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
9	6/12 場所について述べる（１）	中間テスト フィードバック Lección 4（1） estar動詞	
	この回の到達目標	スペイン語圏の国々の首都が言えるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	estar動詞の活用を覚える	60分
10	6/19 場所について述べる（2） 数字21ー100	Lección 4（2） 存在を表す動詞hayとestar ser estarの違い	
	この回の到達目標	数字100まで言えるようになる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	数字0ー100まで覚える。新出単語を覚える	30分
11	6/26 日常生活について述べる（1）	Lección 5（1） 規則動詞 疑問詞	
	この回の到達目標	規則動詞の活用を覚える。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	規則動詞の活用を覚える。	30分
12	7/3 日常生活について述べる（2）	Lección 5（2） 疑問詞、指示形容詞、指示代名詞	
	この回の到達目標	自分の日常生活について述べたり、友達に質問したりできる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	規則動詞の活用を覚える。	60分
13	7/10 復習	Lección 1-5	
	この回の到達目標	これまでに学習したことを定着させる	
	事前学修	全体の復習をしておく	30分
	事後学修	活用を覚える	120分
14	7/17 まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
15	7/24 まとめと復習	期末テストフィードバック	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語ⅡB	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。 このクラスはスペイン語1のクラスを補強、発展させる内容です。会話練習や聞き取りを中心により実践的なスペイン語を身につけていきます。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
A partir de hoy 今日から私は、スペイン語 改訂版	安藤真次郎 他	朝日出版	2024年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限 kawasaki.kayo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	9/18 復習 Lección 6 (1)	Lección 6 (1) 不規則動詞1: hacer, ver, dar, saber	
	この回の到達目標	スペイン語の挨拶や数字などを覚え、スペイン語の音に馴染む。	
	事前学修	規則動詞の活用を復習しておく	10分
	事後学修	復習。授業で学んだ表現を覚える。	60分
2	9/25 天候について話す	Lección 6 (2)	
	この回の到達目標	天候について話すことができる	
	事前学修	第1回目の授業で行った内容を復習しておく	30分
	事後学修	Lección 6の会話の復習	30分
3	10/2 予定について話すことができる	Lección 7 (1) 不規則動詞2：語幹母音変化動詞	
	この回の到達目標	不規則動詞の活用を覚える 数字1000まで覚える	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 1の会話の復習	30分
4	10/9 時間について話すことができる	Lección 7 (2) 時刻	
	この回の到達目標	これからすることについて話すことができる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	動詞の活用 数字を覚える	30分
5	10/16 復習	Lección 6-7 の復習	
	この回の到達目標	これまで学習したことの定着	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 6-7 の復習	30分
6	10/23	中間テスト	
	この回の到達目標	Lección 6-7 の定着	
	事前学修	Lección 6-7 の復習	30分
	事後学修	テストでできなかった所を確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	10/30 好きなことが言える	Lección 8 (1) 目的語の使い方を習得する	
	この回の到達目標	好きなことが言える	
	事前学修	新出単語を調べる	120分
	事後学修	目的語の代名詞の復習	30分
8	11/6 家に招待された時の表現を学ぶ	Lección 8 (2) 感謝を述べる	
	この回の到達目標	gustar型の動詞の使い方を習得する	
	事前学修	新出単語を調べる	30分
	事後学修	Lección 8 の会話を復習する。	30分
9	11/13 より詳しく 日常生活について述べる	Lección 9 (1) 再帰動詞	
	この回の到達目標	日常生活について述べることができる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	再帰動詞とそうではないものをまとめておく	60分
10	11/20 時の表現のまとめ	Lección 9 (2) 季節、月、曜日	
	この回の到達目標	ものの名前を聞ける	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 9 の会話を覚える	30分
11	11/27 今行っていることが言える	Lección 10 (1) 現在分詞	
	この回の到達目標	現在進行形を習得する	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	現在分詞の作り方を復習する	30分
12	12/4 経験について述べる	Lección 10 (2) 過去分詞 現在完了	
	この回の到達目標	自分の日常生活について述べたり、友達に質問したりできる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 10 の会話を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	12/11 復習	Lección 6-10	
	この回の到達目標	これまでに学習したことを定着させる	
	事前学修	全体の復習をしておく	30分
	事後学修	活用を覚える	120分
14	12/18 まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
15	1/15 まとめと復習	期末テストフィードバック	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	韓国語ⅠA	担当者	金香淑	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。授業内の小テスト、適宜習得度合いの確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③が身につけているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
最新 チャレンジ！ 韓国語	金順玉・阪堂千津子	白水社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜14:30～，金曜14:30～ 授業終了後の講堂にて kim.hyangsuk@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	「ハングル」のしくみ	「ハングル」のしくみを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標の①、②に関連して、韓国語全般について理解する。	
	事前学修	第1課の「ハングル」のしくみを読む。	30分
	事後学修	復習。	30分
2	基本・合成母音字母と発音	第1課、ハングルの基本母音字母と発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標の②に関連して、基本母音字を覚える	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	基本子音字母と発音	第2課、基本子音字母と発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本子音字母と発音を覚える	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	「カナダラ表」と子音・母音字母の発音	第2課、「カナダラ表」と子音・母音字母の発音を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「カナダラ表」と子音・母音字母の発音を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	濃音と合成母音字母	第2課、第3課、濃音と合成母音字母及びその発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、濃音と合成母音字母及びその発音を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	「かな文字のハングル表記表」とパッチム（終声）	第3課、第4課、「かな文字のハングル表記表」とパッチム（終声）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「かな文字のハングル表記表」とパッチム（終声）を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	発音の規則	第4課、発音の規則（連音化、有性音化、激音化、鼻音化、口蓋音化など）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発音の規則（連音化、有性音化、激音化、鼻音化、口蓋音化など）を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
8	二重パッチム（終声）と教室でよく使う言葉	第4課、二重パッチム（終声）と教室でよく使う言葉を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、二重パッチム（終声）と教室でよく使う言葉を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	自己紹介とかしこまった丁寧体	第5課、わたしは ～です。 自己紹介の表現とかしこまった丁寧体を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自己紹介の表現とかしこまった丁寧体を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	相手の予定や持ち物の有無をたずねる	第6課、時間ありますか？ 相手の予定や持ち物の有無をたずねる表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、相手の予定や持ち物の有無をたずねる表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	「です・ます」体の尊敬形	第7課、それは何ですか？ うちとけた「です・ます」体の尊敬形とかしこまった「です・ます」体の尊敬形を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、うちとけた「です・ます」体の尊敬形とかしこまった「です・ます」体の尊敬形を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	うちとけた「です・ます」体のつくりかた	第8課、日曜日に何をしますか？ うちとけた「です・ます」体のつくりかたを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、うちとけた「です・ます」体のつくりかたを覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	固有数詞と漢数詞	第8課、固有数詞と漢数詞。 ものを数えるときに使う固有数詞と電話番号をいうとき使う漢数詞を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ものを数えるときに使う固有数詞と電話番号をいうとき使う漢数詞を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	変則用言	第9課、何が好きですか？ 自分の好みや希望を表現するときに使われる変則用言を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自分の好みや希望を表現するときに使われる変則用言を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験、振り返り、まとめ	期末試験及び振り返り、まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語 I B	担当者	金 香 淑	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定5級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
韓国の文字（ハングル）が読めること。

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。授業内の小テスト、適宜習得度合いの確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかについて確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
最新 チャレンジ！ 韓国語	金順玉・阪堂千津子	白水社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜14:30～，金曜14:30～ 授業終了後の講堂にて kim.hyangsuk@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	5級検定対策、導入	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	5級検定対策	ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	5級検定対策	ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	5級検定対策	ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	5級検定対策	ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	5級検定対策	ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	5級検定対策		ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	5級検定対策		ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
9	過去形		第10課、週末に何をしましたか？ 自分のしたことを表現するときに使う過去形を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自分のしたことを表現するときに使う過去形を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	自分の予定や推測を言い表す		第11課 明日は何をするつもりですか？ 自分の予定や推測を言い表す表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自分の予定や推測を言い表す表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	自分の気持ちや周りの様子を表現する		第12課、スープが冷たくておいしいです。 自分の気持ちや周りの様子を言い表す表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自分の気持ちや周りの様子を言い表す表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	比較と最上級の表現		第12課、二つの事柄を比較する表現と最上級の表現を覚える。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、比較することや最上級の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	意志表現と意思の確認、勧誘表現		第13課、一度遊びに来てください。 自分の意志の表現と相手の意思を尋ねてみたり誘う表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、自分の意思を言い表したり、相手の意思を尋ねてみたり誘う表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	感嘆の気持ちや勧誘、予告・宣言の表現、副詞		第13課、～ですね、～するでしょう。 感嘆の気持ちを述べたり、予告・宣言する表現を覚える。 頻度を表す副詞、可能・不可能を表す副詞、程度を表す副詞。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、感嘆の気持ちを述べたり、予告・宣言する表現、頻度・可能・不可能・程度を表す副詞を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験、まとめと振り返り		期末試験、まとめと振り返り
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の解答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡA	担当者	金 香 淑	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
20時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。授業内の小テスト、適宜習得度合いの確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③が身につけているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もっとチャレンジ！韓国語	金順玉・阪堂千津子	白水社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜16:10～ 授業終了後講堂にて kim.hyangsuk@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	韓国語の品詞の分け方と活用の三つの型、文型	6頁～7頁の韓国語の品詞の分け方と活用の三つの型、文型を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、品詞の分け方と活用の三つの型、文型を覚える。	
	事前学修	説明を読み、辞書で日本語の品詞と文型について調べる。	30分
	事後学修	配布資料で理解度を確認する。	30分
2	先行動作、在連体形	第1課、先行動作、勧誘、動詞・存在しの現在連体形の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、先行動作、勧誘、動詞・存在しの現在連体形の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	状況をより詳しく説明する表現	第2課、理由、推測、意思、仮定、条件の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、理由、推測、意思、仮定、条件の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	自分のことを話す	第3課、動詞の過去連体形、順序、経験、時間の経過、願望の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去連体形、順序、経験、時間の経過、願望の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	尊敬の表現	第4課、尊敬語、特別な尊敬の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、尊敬語、特別な尊敬の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	様子から推測・判断する表現	第5課、推測、傾向、感嘆、変化の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推測、傾向、感嘆、変化の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	連体形のまとめ	第1課～第5課のまとめ 連体形の表現を学ぶ。 動詞と形容詞の現在・過去・未来（未実現） 指定詞と存在詞の現在・過去・未来（未実現）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連体形の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
8	変則用言	39頁、「変則用言」を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「変則用言」を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	列挙、試み、不可能の表現	第6課、列挙、試み、不可能の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、列挙、試み、不可能の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	注意・指示、義務の表現	第7課、注意・指示、義務の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、注意・指示、義務の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	状態の継続	第7課、状態の継続の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、状態の継続の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	やりもらいの表現	第8課、やりもらいの表現（対等か目上・目下の相手に対して）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、やりもらいの表現（対等か目上・目下の相手に対して）を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	説明や描写の表現	第9課、原因・理由、見た目での推量、打消し、禁止の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、原因・理由、見た目での推量、打消し、禁止の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	忠告やアドバイスの表現	第10課、不可能、禁止命令、前置き、根拠の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不可能、禁止命令、前置き、根拠の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験、まとめと振り返り	期末試験、まとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡB	担当者	金 香淑	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定4級レベル対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
30時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。授業内の小テスト、適宜習得度合いの確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③が身につけているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もっとチャレンジ！韓国語	金順玉・阪堂千津子	白水社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜16:10～ 授業終了後の講堂にて kim.hyangsuk@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	4級検定対策、導入	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
9	4級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ハングル検定試験対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
10	間接話法	第11課、下宿に帰って。 他人の話を伝える表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、聞いた話しや他人が言ったことを伝える表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	許可と禁止	第12課、診察を受ける。 許可と禁止の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、許可を求めたり禁止を表す表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	韓国語の文体	第13課、和解。 韓国語の文体：丁寧体、敬体、非敬体（友達言葉やパンマル）の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、韓国語の文体：丁寧体、敬体、非敬体（友達言葉やパンマル）の表現を学ぶ。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞の現在下称形	第14課、悲しみよ、さようなら。 現在の事実を述べる表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、現在の事実を述べる表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	動詞の過去下称形	第14課、過去の事実を述べる表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、過去の事実を述べる表現を覚える。	
	事前学修	説明を読み、用例文を訳する。CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験、まとめと振り返り	期末試験、まとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	ロシア語ⅠA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語のキリル文字の発音からゆっくりと練習していく。発音できるようになってから、基本となる初級文法をひとつずつ学び、ロシア語の基礎を習得するためのトレーニングをする。また、時事問題や文化・芸術についても適語レクチャーを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめて提出したものを翌週に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
初級ロシア語20課	桑野隆	白水社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義： ロシア語とはどんな言語か	ロシア語の歴史や特徴、現在ロシア語が使える国々について解説する。	
	この回の到達目標	ロシア語に使われているキリル文字の由来について知る。	
	事前学修	教科書を購入し、シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	配布した資料「ロシアについての基礎知識」を読む。	30分
2	アルファベットについて知る	アルファベットの名称と書き方	
	この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの名称を覚え、書けるようになる。	
	事前学修	教科書p. 22-23を見ながら音源27を3回聞く。	30分
	事後学修	アルファベットをすべて覚える。	30分
3	文字と発音（母音）	10の母音の発音をマスターする	
	この回の到達目標	10の母音をマスターし、正しく発音できるようになる。	
	事前学修	教科書p. 10、14に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	母音の発音が正確にできるか確認しつつ宿題のプリントで練習する。	30分
4	文字と子音の発音	22の子音の発音をマスターする。	
	この回の到達目標	子音の音価を覚え、常に正確な発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 11-17に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	母音・子音すべての音を正確に発音できるか確認しつつ宿題のプリントを解きながら練習する。	60分
5	A=Bの構文とイントネーション	「これは〇〇です」「これは〇〇ですか？」の構文とイントネーション。	
	この回の到達目標	A=Bです、A=Bですか？というもっとも基本的な構文の文法を学び、平叙文と疑問文の正確なイントネーションを身につける。	
	事前学修	教科書pp. 24-27に目を通し、音源を聞きながら本文の発音を反復してみる。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある作文に取り組む。	30分
6	人称代名詞	人称代名詞6つ、「〇〇は～ではない」の構文、基本的な挨拶（こんにちは、はじめまして、おはようございます、こんばんは）の言い方。	
	この回の到達目標	人称代名詞6つの区別と正しい発音を覚える。基本の否定文の構造とイントネーションを学ぶ。日常的に使う挨拶の表現を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 28-31に目を通し、音源を聴きながら本文の発音と繰り返し、1課で学んだ肯定文との違いを考えてみる。	30分
	事後学修	教科書pp. 32-33の練習問題を解き、新しく出てきた単語を覚える（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	動詞の現在変化①	動詞の第一変化、名詞の性	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化のうち、もっとも多い第1変化のかたちを習得する。 名詞の性の見分け方を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 34-37に目を通し、音源を少なくとも3回聞いておく。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	60分
8	所有代名詞	所有代名詞、指示代名詞、名詞の複数形の作り方	
	この回の到達目標	所有代名詞（私の、あなたの等）と指示代名詞（この）の種類を覚え、名詞とともに正しい形で使えるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 38-41に目を通しておく。	40分
	事後学修	教科書pp. 42-43の練習問題を解く（宿題）。	60分
9	名詞の格変化：前置格	名詞の格変化と前置詞 в, н а, о。- с я 動詞の現在人称変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の格の概念について知り、前置格の用法と格変化の仕方を覚える。 また、ロシア人の名前の仕組みについても知る。	
	事前学修	教科書pp. 44-47に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解き、前置格の格変化をしっかりと復習する。	40分
10	動詞の現在変化②	動詞の第二変化	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化の第2変化のかたちをマスターし、第1変化と正確に区別できるようにする。 形容詞の用法についても知る。	
	事前学修	教科書pp. 48-51に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 52-53の練習問題を解く（宿題）。	40分
11	名詞の生格	生格とは何か、格変化の仕方。	
	この回の到達目標	生格の用法と格変化の仕方を覚える。生格を用いた所有の表現「私は○○を持っています」を知る。	
	事前学修	教科書pp. 54-57に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある動詞をすべて正確に現在人称変化させる。	40分
12	動詞の過去時制 名詞の与格	動詞の過去時制の作り方。名詞の与格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	動詞を過去形に変化できるようになる。与格の用法を知り、格変化の仕方を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 58-61に目を通し、音源を聞いておく。	40分
	事後学修	教科書pp. 52-63の練習問題を正確に解く（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	移動の動詞		「行く」を意味する二つの動詞の用法。	
	この回の到達目標	「（歩いて）行く」と「（乗り物で）行く」を意味する二つの動詞を知り、文脈に応じて使い分けられるようになる。		
	事前学修	教科書pp. 64-67に目を通し、音源を聞いておく。		30分
	事後学修	動詞идти、ехатьの現在人称変化を暗記する。		30分
14	動詞の未来時制 名詞の対格		動詞の未来時制の作り方。名詞の対格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	動詞を未来形に変化できるようになる。体格の用法を知り、格変化の仕方を覚える。		
	事前学修	教科書pp. 68-71に目を通し、音源を聞いておく。		60分
	事後学修	教科書pp. 72-73の練習問題を正確に解く（宿題）。		60分
15	理解度の確認と解説・まとめ		試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
	この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。		
	事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。		120分
	事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。		60分

科目名	ロシア語ⅠB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
初級ロシア語20課	桑野隆	白水社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の体・導入	動詞の完了体・不完了体の意味と用法。	
	この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 76-79を音源を聴きながら熟読する。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	80分
2	形容詞短語尾形	形容詞の短い形の用法と作り方。	
	この回の到達目標	形容詞短語尾形の用法と作り方、よく使われる語を覚える。 順序数詞のルールを知る。	
	事前学修	教科書pp. 80-83に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 84-85の練習問題を解く（宿題）。	40分
3	名詞の造格①	名詞の造格の用法。－о в а т ь 動詞の変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の造格の用法と変化の仕方を覚える。－о в а т ь 動詞の現在変化の仕方を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 86-89に目を通し、音源を聴く。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
4	形容詞の比較級	形容詞の比較級の作り方と用法	
	この回の到達目標	形容詞の比較級の種類と作り方を覚える。生格の新しい用法「否定生格」を知る。	
	事前学修	教科書pp. 90-93に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 94-95の練習問題を解く（宿題）。	40分
5	個数詞	個数詞のルールと用法	
	この回の到達目標	個数詞の正確な発音を身につけ、名詞とともに用いる際の格支配について覚える。 時間の表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 96-99にじっくりと目を通し、音源を少なくとも2回は聞いてくる。	60分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
6	無人称文	無人称文とはどのような構文か	
	この回の到達目標	主語のない構文を求める можно, нельзя などおもな無人称文の述語を覚え、正しく作文できるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 100-103に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 104-105の練習問題を解く（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	値段の表現	値段の表現。よく用いる不規則変化動詞。	
	この回の到達目標	既習の個数詞のルールを思い出しながら値段の表現を覚える。 また使用頻度の高いхотеть（～したい）、нравиться（好きだ）といった不規則な変化や用法の動詞を正確に使えるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 106-109に目を通しておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
8	名前の言い方 名詞の造格②	名前を訊ねるときの表現、答え方。 名詞の造格の新しい用法。	
	この回の到達目標	不定人称文という特殊な構文を用いる名前の言い方を覚える。 また、造格の新しい用法（道具、述語、職業の表現）も覚える。	
	事前学修	教科書pp. 110-113に目を通し、音源を聴く。	40分
	事後学修	教科書pp. 114-115の練習問題を解く（宿題）。	40分
9	定動詞・不定動詞	移動の動詞の仕組み。	
	この回の到達目標	既習の「行く」という動詞の用法を思い出しながら、さらに新しい概念である定動詞／不定動詞を理解し、文脈にあわせて適切な動詞が選べるようになる。	
	事前学修	10課を復習した上で、教科書pp. 116-119に目を通す。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	30分
10	関係代名詞	関係代名詞の用法。	
	この回の到達目標	関係代名詞которыйの用法と格変化の仕方を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 120-122に目を通し、音源を聞いておく。形容詞の格変化表（p. 127）を確認しておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
11	仮定法	仮定法のルールと作文。	
	この回の到達目標	仮定法のルールを覚え、作文、露文和訳ができるようになる。	
	事前学修	動詞の過去形の作り方（8課）を復習した上で、教科書pp. 122-123に目を通す。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	30分
12	接続詞чтобы	接続詞чтобыの用法	
	この回の到達目標	意志や願望、目的を表す従属文を導く接続詞чтобыの用法を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 123に目を通す。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	アクティブ・ラーニング		ロシア文化について関心のあるテーマを選びレポートする。
	この回の到達目標	ロシアについて関心のあるテーマを選び、メディアや出版物などから興味のある情報を得る方法を知り、それらをまとめて報告する能力を身につける。	
	事前学修	情報収集、レジュメや原稿の準備を各自行う。	120分
	事後学修	教員からのコメントを読み、改善点すべき点などを再考する。	30分
14	これまでのまとめと復習		後期で学習したことの総復習。
	この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
	事前学修	教科書11-20課を中心に総復習をしてくる。	120分
	事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	120分
15	理解度の確認と解説		試験とその後の解説、間違った箇所の復習。
	この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
	事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
	事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅡA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語入門レベルの知識を有していること

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと発音復習・導入	授業の進め方についてガイダンス、各履修者の希望とレベルをチェック。	
	この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの発音を復習し再確認する。	
	事前学修	初級の教科書のCDを聞きながら、アルファベットの発音を復習しておく。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントでさらに発音の復習。	30分
2	基本の構文	「A=Bです」「A=Bではありません」、挨拶の表現。	
	この回の到達目標	基本の肯定文と否定文の構文をおさらいし作文できるようになる。また、基本の挨拶：「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」「さようなら」なども覚える。	
	事前学修	初級の教科書1課2課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	動詞の現在変化	動詞の第1変化、第2変化。人称代名詞。	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を第1変化、第2変化ともに確実にできるようになる。6つの人称代名詞を主語にして現在形の簡単な文章が言えるようになる。	
	事前学修	初級の教科書3課6課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	名詞の性、複数形	名詞の性の区別と複数形の作り方。	
	この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚える。複数形の作り方、不規則な複数形をもつ名詞で使用頻度が高いものを覚える。	
	事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
5	所有代名詞、指示代名詞	所有代名詞の種類と指示代名詞の使用法。	
	この回の到達目標	人称代名詞ごとの所有代名詞を覚え、名詞の性・数に合わせて適切な所有代名詞を選べるようになる。指示代名詞も同様に、名詞の性・数に合わせて4つの中から適切なものを正確に選べるようにする。	
	事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	形容詞	形容詞主格の語尾変化。	
	この回の到達目標	名詞の性・数に合わせて形容詞の語尾が4種類に変化することを理解し、常に適切な変化ができるようにする。	
	事前学修	初級の教科書6課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名詞の格変化：前置格		名詞の前置格の用法と変化の仕方。場所の表現。	
	この回の到達目標	名詞の前置格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。前置格を用いた場所の表現ができるようになる。		
	事前学修	初級の教科書5課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
8	名詞の格変化：対格		名詞の対格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の対格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。対格を目的語とする主語＋動詞・目的語の構文を言えるようになる。		
	事前学修	初級の教科書9課10課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
9	名詞の格変化：生格		名詞の生格の用法と変化の仕方。所有・所属の表現。	
	この回の到達目標	名詞の生格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、否定生格の意味を理解し、非存在の意味をもつ文章を言えるようになる。		
	事前学修	初級の教科書7課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
10	名詞の格変化：与格		名詞の与格の用法と変化の仕方。無人称文。	
	この回の到達目標	名詞の与格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、人称代名詞の格変化を学ぶとともに、無人称文の意味と用法を理解する。		
	事前学修	初級の教科書8課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
11	名詞の格変化：造格		名詞の造格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の造格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。		
	事前学修	初級の教科書13課18課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
12	動詞の時制・過去形		動詞の過去時制を用いた作文。	
	この回の到達目標	主語の性・数に応じて動詞を正確に過去時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。		
	事前学修	初級の教科書8課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞の時制・未来形	動詞の未来時制を用いた作文。	
	この回の到達目標	主語の人称に応じて動詞を正確に未来時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
	事前学修	初級の教科書10課を読んてくる。	30分
	事後学修	授業で使ったプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
14	所有の表現	ゞ＋生格を用いた所有の表現。	
	この回の到達目標	前置詞ゞを用いた所有の表現における主語と、生格で示される所有者の機能を正しく把握し、作文できるようになる。また、「もっていない」を示す否定生格も正確に表現できるようにする。	
	事前学修	初級の教科書7課を読んてくる。	30分
	事後学修	授業で使ったプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
15	理解度の確認と解説・まとめ	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
	この回の到達目標	既習の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
	事前学修	授業中に使ったプリントと初級の教科書を使って、既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	60分
	事後学修	試験の解答の見返しと復習。	30分

科目名	ロシア語ⅡB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
前期に引き続き、基本の文法の復習を行いながら、同時に講読、会話、リスニングのトレーニングを強化し、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の動詞・導入	動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」の構文と行き先の表現。	
	この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
	事前学修	初級の教科書9課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
2	主語のない構文：不定人称文	不定人称文、受身の表現。	
	この回の到達目標	名前を名乗ったり、「～されている」という表現を作る不定人称文という構文を知り、言えるようになる。	
	事前学修	指示した動詞の現在変化を言えるようにしておく。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	主語のない文章：無人称文	無人称文。気候、許可、禁止、義務、可能の表現。	
	この回の到達目標	主語をとらない無人称文はどんなときに、どのように使うのかを正しく把握し、正確に言えるようになる。	
	事前学修	人称代名詞の格変化を復習してくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	講読：簡単な読み物	読み物「私の家族」「日本について」の講読。	
	この回の到達目標	基本の文法事項を使って、教科書の読み物を正確に読みとき、美しい日本語に訳すことができるようになる。	
	事前学修	教科書p. 125の読み物を辞書を丁寧に読み日本語に訳す。その際、名詞の格や動詞の時制と体に留意することを常に意識する。	40分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
5	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体と不完了体の意味と用法。	
	この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。体の機能を理解した上で正確な作文ができる。	
	事前学修	初級の教科書11課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	数詞の決まり	個数詞と順序数詞の用法。	
	この回の到達目標	数詞をめぐる文法を学び、数詞と名詞の結合を正確にできるようにする。文の中に数詞を用いた表現を入れ、より豊かな表現ができるようになる。	
	事前学修	初級の教科書p. 133を復習し、1～1000までの数詞の発音をチェックする。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	関係代名詞		関係代名詞 к о т о р ы й の用法。
	この回の到達目標	関係代名詞 к о т о р ы й の機能と変化の仕方を覚える。二つの文章を関係代名詞を用いてひとつにすることができるようになる。関係代名詞を用いた文を正確に和訳できるようにする。	
	事前学修	事前に配布したプリントを辞書を引きながら露文和訳してくる。	40分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	講読：短編		短い物語の講読と露文和訳。
	この回の到達目標	数詞や関係代名詞が含まれた文章を、基本の文法事項の知識と辞書を使って美しい日本語に訳すことができるようになる。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら和訳してくる。	40分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
9	仮定法		仮定法の意味と作り方。
	この回の到達目標	仮定法の助詞 б ы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。仮定法の文章を正しく和訳できるスキルを身につける。	
	事前学修	初級の教科書20課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	形動詞：能動形動詞		能動形動詞現在・過去の機能と用法。
	この回の到達目標	能動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	関係代名詞について復習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	60分
11	形動詞：受動形動詞		受動形動詞現在・過去の機能と用法。
	この回の到達目標	受動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
12	講読：インターネットの記事		インターネット上のニュース記事を読む。
	この回の到達目標	形動詞が用いられたジャーナリズムの文章を、辞書を引きながら読み解く。実際のテキストで用いられている生きたロシア語に触れ、これまでの文法がどのように使用されているかを把握する。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	講読：社会批評	社会批評の記事を読む。	
	この回の到達目標	比喩や風刺などが含まれた実際の社会批評を辞書を引きながら読み解く。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
14	副動詞	副動詞：完了体・不完了体の機能と用法	
	この回の到達目標	完了体副動詞・不完了体副動詞の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
	事後学修	授業で使用了プリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
15	理解度の確認と解説・まとめ	初見のテキストの訳出、解説と復習。	
	この回の到達目標	辞書を引きながら初見のテキストを正確、迅速に和訳することのできる集中力と基本文法の応用力を磨く。	
	事前学修	既習の文法事項の総復習をしてくる。	60分
	事後学修	自身の読解力の評価を行い、苦手な文法事項を知ってさらなる強化を。	40分

IV群

体育实技科目

IV群

体育实技科目

科目名	体育実技ⅠA	担当者	大室 龍大	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。水分補給をできるようにしておくこと。

【授業方法】
全授業回で対面式の実技授業を実施する。実技授業は2号館体育場、グラウンド及びトレーニングルームを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に受け付ける。 アドレス：ohmuro.tatsuhiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	全体のガイダンス 導入講義	「ガイダンス」授業の目的・方法・評価方法・受講上の注意・授業計画の説明を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業における体育やスポーツの意義について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 大学における体育スポーツの授業について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。	30分
2	体力測定	「体力測定」体力測定を実施します。アスリートが行っている体力測定を説明し、実際に行います。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力レベルの確認をする。 一年間の目標を設定する。	
	事前学修	体力測定にはどのような種類があるか調べておく。	30分
	事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
3	バランストレーニング	「バランスボール」を使ったトレーニングを説明し、実施します	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	バランスボールについて調べておく。	30分
	事後学修	バランスボールを使用した感想をまとめる。	30分
4	ストレッチボール	「ストレッチボール」を使ったストレッチを説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチを説明し実践できる。	
	事前学修	ストレッチボールについて調べておく。	30分
	事後学修	自宅にて、ストレッチボールを使用して実施する。	30分
5	インターバルトレーニング	「インターバルトレーニング」を説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	タバタ式トレーニングとは何か調べておく。	30分
	事後学修	筋肉痛になった箇所をまとめておく。	30分
6	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、筋力トレーニングを説明し実践できる。	
	事前学修	自重トレーニングにはどのようなものがあるか調べてくる。	30分
	事後学修	負荷を上げた状態での自重トレーニングを実施する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	レクリエーション		「鬼ごっこ」について説明し、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	どんなルールの鬼ごっこがあるか調べておく。		30分
	事後学修	どのルールの鬼ごっこが楽しかったかまとめておく。。		30分
8	ドッジボール		「ドッジボール」 ドッジボールについて説明し、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、基本的な技術・戦術を説明することができる。		
	事前学修	ドッジボールの試合映像を見てくる。		30分
	事後学修	ドッジボールに必要な要素をまとめる。		30分
9	ドッジビー		「ドッジビー」 ドッジビーについて説明し、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ドッジビーの試合映像をみってくる。		30分
	事後学修	ドッジビーに必要な要素をまとめる。		30分
10	ウォーキングサッカー		「ウォーキングサッカー」 ウォーキングサッカーについて説明し、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、ウォーキングサッカーの特性を理解し基本的な技能を身につけることができる。		
	事前学修	ウォーキングサッカーについて調べておく。		30分
	事後学修	ウォーキングサッカーの試合映像を見る。		30分
11	フットサル		「フットサル」 フットサルについて説明し、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	フットサルのルールを調べておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分
12	卓球①		「卓球」 卓球について説明し、シングルスゲームを実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	卓球のルールを調べておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	卓球②		「卓球」卓球について説明し、ダブルスゲームを実施します。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ダブルスゲームの映像をみてくる。	30分
	事後学修	ペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	パラスポーツ		「パラスポーツ」パラスポーツについて説明し、実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	パラスポーツの試合映像をみてくる。	30分
	事後学修	自分の良かったプレー、悪かったプレーをまとめる。	30分
15	前期のまとめ・振り返り		前期の振り返りを実施し、総括します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	前期の振り返り、反省や改善点などをまとめる。	30分
	事後学修	全授業内容を振り返りまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動着と室内用運動靴を着用すること。 土曜4限のみ、運動やスポーツが苦手な学生を優先する。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						1			1	1	1	1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	筋力トレーニングについて、トレーニングに対する正しい知識を身につけているか、実技の技能を十分に身につけているかを基準に、到達目標①・③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	10		10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①・②・③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	10	5	5								20
討論・発表等												
授業への参画度	授業に参加する服装・持ち物・態度や仲間とのコミュニケーションなど、授業に臨む姿勢を中心として、どれだけ積極的に授業に取り組むことにできたかを基準に、到達目標②・③に関わる主体的な学修態度が身についているかを評価する。		30	30								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題については、授業内に講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて適宜資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業時間前後または授業時間内に受け付ける。email: gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・体力と健康増進について	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について学修する。また、年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、体力及び健康の維持増進に関する概念について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること	30分
	事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること	30分
2	身体ほぐしとトレーニングの導入	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、トレーニング器具の使用方法について理解し、実際に利用することができる。	
	事前学修	提出物の作成と体力の要素について情報を得ること	30分
	事後学修	配布されたプリント資料よりストレッチ方法を理解し実践に移すこと	30分
3	第一回体力チェック	ストレッチ、体力チェックを行い、自身の運動能力の現状について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態の現状を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること	30分
	事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること	30分
4	バランスボール	ストレッチ、及びバランスボールを活用した簡単な運動を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身のバランス感覚を理解し、バランスボールを活用してバランスをとること・体幹部を鍛えることができる。	
	事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること	30分
	事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること	30分
5	最大筋力測定・卓球の基礎技術について	最大筋力の測定を実施する。また、卓球の基礎技術について習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の最大筋力を測定し、理解することができる。また、仲間と協力し、卓球の基礎技術であるサーブ・レシーブを練習し、習得することができる。	
	事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること	30分
	事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること	30分
6	有酸素運動の実践・卓球のルールに関する理解と実践	前回到続き最大筋力測定を行う。また、エアロバイク・エアロクライムの使用方法を理解し、実践する。卓球についてはルールを理解し、実際にシングルスゲームを行う	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の最大筋力を測定し、理解することができる。また、卓球の基本的なルールを理解し、シングルスゲームを行うことができる。	
	事前学修	有酸素運動の知識を得て適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。卓球のゲーム方法とルールを調べること	30分
	事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。ゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	筋力トレーニングプログラムの作成・シングルスゲームの実践		個々の体力に合わせた筋力トレーニングのプログラムを作成する。卓球ではシングルスゲーム、リーグ戦を行い、基礎技術のチェックテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、これまでの測定を踏まえて、自身に必要な筋力トレーニングのメニューを作成することができる。また、卓球ではシングルスゲームのリーグ戦を行い、基礎技術を磨くことができる。		
	事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5〜6種目選択し、メニューを作成すること。シングルスゲームの戦術を工夫すること		30分
	事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃える		30分
8	トレーニングプログラムの実践・ダブルスゲームの実践		自身で作成したトレーニングプログラムを実践する。また、卓球ではダブルスゲーム、基礎技術のチェックテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、前回、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、筋力の増強に繋げることができる。また、卓球ではダブルスゲームを行い、リーグ戦では仲間と協力して試合に取り組むことができる。		
	事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。ダブルスゲームの方法とルールを調べること		30分
	事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと		30分
9	トレーニングプログラムの実践と修正・ダーツの基本（ハイスコア）		自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて修正を加える。ダーツは基本的な種目である「ハイスコア」を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、ダーツでは基本的な姿勢や投げ方を習得し、種目である「ハイスコア」をスムーズに行うことができる。		
	事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。ダーツの基本ルール・技術を調べること		30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。ダーツの技術をゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと		30分
10	有酸素運動の実践・ダーツの実践（ゼロワン）		エアロバイクやトレッドミルなど、有酸素運動を中心にトレーニングを行う。また、ダーツでは「ゼロワン」を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、有酸素運動を行った消費カロリーを確認し、自身の日常生活における消費カロリーと摂取カロリーのバランスについて考えることができる。また、ダーツでは狙った的に的確にダーツを投げ、ゼロワンをスピーディーに終えることを通して、集中力を養うことができる。		
	事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。ダーツ（ゼロワン）のルールを調べること		30分
	事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。ダーツのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと		30分
11	トレーニングの実践と確認・フットサルの基本		自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、実践テストに備えて使用方法や使用部位についてよく確認する。また、フットサルはパスやドリブル、シュートといった基本的な動きを中心に練習する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニング器具の使用方法や使用部位を十分に理解し、ポイントを押さえた効果的なトレーニングを行うことができる。また、フットサルでは基礎技術について理解し、練習を通して最低限の基礎技術を習得することができる。		
	事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。フットサルのルールや技術を調べること		30分
	事後学修	体力カードをチェックし正確な記録とフットサルにおけるチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること		30分
12	トレーニングの確認テスト・フットサルの実践		筋力トレーニングに関する実践テストを行う。また、フットサルはミニゲームを中心に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニング器具の使用方法や使用部位を十分に理解し、トレーニングのポイントについて適切に説明することができる。また、フットサルではゲームを通して、仲間との交流を深めることができる。		
	事前学修	トレーニング器具の使用方法や使用部位について再度チェックすること。フットサルでのボールコントロールについて考えること		30分
	事後学修	トレーニングに関する適切な説明ができていたか考え、残りのトレーニングに活かす。フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	トレーニングの確認テスト・フットサルの実践と工夫		前回に引き続き、筋力トレーニングに関する実践テストを行う。また、フットサルは条件付きゲームを中心に行う。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニング器具の使用方法や使用部位を十分に理解し、トレーニングのポイントについて適切に説明することができる。また、フットサルではゲームを通して、仲間と適切なコミュニケーションをとることができる。	
	事前学修	トレーニング器具の使用方法や使用部位について再度チェックすること。フットサルでのポジションや特定の条件を活かすための戦略について考えること	30分
	事後学修	トレーニングに関する適切な説明ができていたか考え、残りのトレーニングに活かす。フットサルのゲームでの戦略について反省し、チームの課題や工夫した点について考えること	30分
14	第二回体力チェック		ストレッチ、体力チェックを行い、自身の運動能力の現状について理解する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態を理解し、説明することができる。また、第一回体力チェックの結果と比較し、自身の身体の変化について確認することができる。	
	事前学修	体力チェックの種類や方法について再度確認しておくこと	30分
	事後学修	第一回体力チェックと第二回体力チェックの結果を比較し、その変化について分析・考察しておくこと	30分
15	自身の体力・健康状態の理解		前期のまとめ、レポート、質疑応答、講評を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、前期の授業を通じて変化した身体の状態について分析し、課題等につづくことができる。また、自身の課題を踏まえ、後期の授業開始までの適切な過ごし方について、考えることができる。	
	事前学修	前期のまとめレポート作成の資料をチェックし構想を練ること	30分
	事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。出席状況で授業内容を変更する場合もある。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることをできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標が達成できているかについて、各回の課題を実施し身体運動や理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した身体運動から、グループワークを通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題リポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて shiojima.riell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康、ガイダンス	年間授業計画、評価の方法に関するガイダンス	
	この回の到達目標	体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえ、年間授業計画について説明する	
	事前学修	授業内容等の把握、シラバス参照	30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認する	30分
2	体力チェック	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（１）	
	この回の到達目標	自身の体力状況を把握し、今後の目標を定める	
	事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する	30分
	事後学修	体力チェックテスト（２）に対応できるよう復習をする	30分
3	体操	ゆがみ修正体操 二人組になり、お互いにゆがみをチェックし修正方法を参考に実施する	
	この回の到達目標	クラス内の交流を図りながら、自身のゆがみをチェック、修正方法を習得する	
	事前学修	身体のゆがみはなぜ起こるのかを調べる	30分
	事後学修	ゆがみ修正体操 ストレッチングを実施する	30分
4	卓球（シングルス）①	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	卓球の基本動作を習得する	
	事前学修	卓球のフォア・バックの予習を行う（30分）	30分
	事後学修	卓球のフォア・バックの復習を行う	30分
5	卓球（シングルス）②	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、カット） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	卓球の基本動作を習得する	
	事前学修	卓球のカットの予習を行う	30分
	事後学修	卓球のカットの復習を行う	30分
6	卓球（シングルス）③	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	卓球の基本動作を習得する	
	事前学修	卓球のサーブの予習を行う	30分
	事後学修	卓球のサーブの復習を行う（	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	卓球（シングルス）④		卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとレシーブ） 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球の基本動作を習得する	
	事前学修	卓球のサーブとレシーブの予習を行う	30分
	事後学修	卓球のサーブとレシーブの復習を行う	30分
8	卓球（シングルス）⑤		卓球 シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球のルールを学び、試合に向けてスキルアップを目指す	
	事前学修	卓球シングルスのゲームとルールの予習を行う	30分
	事後学修	卓球シングルスのゲームとルールの復習を行う	30分
9	卓球（シングルス）⑥		卓球 シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球の試合に向けてスキルアップを目指す	
	事前学修	卓球シングルスのルールとマナーの予習を行う	30分
	事後学修	卓球シングルスのルールとマナーの復習を行う	30分
10	卓球（シングルス）⑦		卓球 シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球の試合に向けてスキルアップを目指す	
	事前学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
	事後学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分
11	卓球（ダブルス）①		卓球 ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球（ダブルス）の試合に向けてルールを学び、スキルアップを目指す	
	事前学修	卓球ダブルスのルールとマナーの予習を行う	30分
	事後学修	卓球ダブルスのルールとマナーの復習を行う	30分
12	卓球（ダブルス）②		卓球 ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球（ダブルス）の試合に向けてスキルアップを目指す	
	事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
	事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	卓球（ダブルス）③		卓球 基本スキル（サーブ・ラリー）の授業内試験およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う
	この回の到達目標	卓球における基本動作を習得し実施することができる	
	事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認	30分
	事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う	30分
14	軽スポーツ		器具トレーニング ダーツなど軽スポーツ各種実施する
	この回の到達目標	当該スポーツにおいて必要な技術およびルールを説明することができる	
	事前学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う	30分
	事後学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う	30分
15	体育・スポーツのまとめ		【まとめ】授業の振り返り、講評
	この回の到達目標	体育およびスポーツの実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる	
	事前学修	半期の振り返りを行う	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める また今後の健康増進に向けた目標を立てる。課題レポートを作成する	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業は対面式で実施する。運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（運動着、屋内運動用シューズ）。授業後の課題提出に必要な通信環境とデバイスがあること。

【授業方法】
対面式での実技授業を実施する。教場は2号館B1の体育場及びトレーニングルームを使用する（更衣室も同じフロア）。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを実施する。 また教場の消毒作業および更衣室における混雑を回避するため授業終了時間を早める。この措置の代替として、Googleクラスルームにて授業後の振り返り課題に取り組んでもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
基本的には対面授業時に相談等を受け付ける。メールアドレス：shirato.minayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入講義	・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 ・classroomへの登録を行う。 * 初回は着替え不要	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。classroomから課題を提出。	30分
2	体力の把握	・体力要素について ・簡易的な体力測定を実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。classroomから課題を提出。	30分
3	ストレッチング	・ストレッチングの種類と効果について ・様々なストレッチングの実践	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。classroomから課題を提出。	30分
4	ヨガの実践①	・ヨガの歴史と効果について ・太陽礼拝の解説と実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
5	ヨガの実践②	・太陽礼拝の復習 ・発展ポーズの実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。classroomから課題を提出。	30分
6	ヨガの実践③	・太陽礼拝の復習 ・発展ポーズの復習 ・瞑想	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	自重トレーニングの実践	・筋力トレーニングの効果について ・自らの体重を負荷とした筋力トレーニングの実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。classroomから課題を提出。		30分
8	マシントレーニングの実践①	・マシンの使用方法と正確なフォームについて ・各種マシントレーニングの負荷設定を実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
9	マシントレーニングの実践②	・前回設定した負荷でのマシントレーニングの実施		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。classroomから課題を提出。		30分
10	有酸素運動の実践①	・有酸素運動の効果について ・有酸素マシンの使用方法について ・有酸素運動時の運動強度について ・有酸素性能力のテスト（エアロバイクを使用）		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
11	有酸素運動の実践②	・前回設定した運動強度での有酸素運動の実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。classroomから課題を提出。		30分
12	器具トレーニングの実践（まとめ）	・筋力トレーニングの実践 ・有酸素マシンの実践 ＊運動強度を確認しながら実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	エアロビクスの実践	・簡単なエアロビクスステップの解説 ・エアロビクスダンスの実践 ＊運動中も数回心拍数を測定し運動強度を確認する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
14	高強度インターバルトレーニング（HIIT）の実践	・HIITの効果と方法について ・HIITの実践（トレーニング種目の説明および4分間の実践）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
15	まとめ	・自己評価、全授業の感想 ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	今後の運動計画について立案する。classroomから課題を提出。	60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力や運動経験の有無は不問であるが、積極的に受講できること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用し、実技形式で実施する（最終回のみ、講義形式）。特定のスポーツ種目ではなく、①目的に応じた様々なフィットネスエクササイズの実践、②数種目のニュースポーツを取り扱う。授業開始時に、配布資料を用いて実技課題及び関連する理論についてのレクチャーを行った後、実技を実施する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進め、学習後は各回の学習内容を記録する。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う（事前学習にて、各自の目標に対応した自重トレーニングの方法を調べ、グループで共有し実践する）。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、実施した各種身体運動から、グループワークなどを通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定及び解決方策を示すことができるかを授業記録シートを用いて評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内における実技実践の取り組みやグループワークにおいて課題を理解し実践しているかの行動を基準に、理解と実践の融合の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②③が達成できているかについて、自身の課題提示、課題解決などへの取り組みの積極性を事前学習フォームや授業記録シートを用いて評価する。		10	15								25
その他()												
その他(事前学習 及び、授業記録 シート)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録シート、事前課題への講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	運動と健康		〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動と健康・体力とは	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	体力の把握 身体調整系エクササイズ①		・簡易的な体力測定 ・音楽を使った動的ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。自らの身体づくりへの見通しを立てることができる。		
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
3	身体調整系エクササイズ②		・ゲーム形式での身体ほぐし運動 ・ストレッチング（ダイナミックストレッチング）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進、特に「ストレッチング」について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、各自のストレッチングにおける課題を明確にし、その解決方法を示す。		30分
4	身体調整系エクササイズ③		・エアロビックダンス（低強度：リニア展開） ・自重トレーニング ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、エアロビックダンスの特徴を理解し自分の目的に応じた強度プログラムを選択することができる。またそれを当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	自分の課題となる部位の自重トレーニングを1種目調べ、ポイントを説明できるようにしておく。		30分
	事後学修	実施したエクササイズに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
5	身体調整系トレーニング④		・エアロビックダンス（低強度：リニア展開） ・自重トレーニング ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	「有酸素運動」を実践する際のポイントについて、授業記録シートにまとめる。		30分
6	トレーニング①		・マシントレーニング（目的に応じた負荷設定の理解） ・有酸素運動（エアロバイク）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、「健康維持・増進の運動」を実践するためのポイントについて、「運動の種類」という観点から当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	クラスルームに配信された資料を読み、各自のトレーニング目的を設定しておく。		30分
	事後学修	実施したトレーニング負荷についての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	トレーニング②		・マシントレーニング（1RMの測定①） ・HIIT（High Intensity Interval Training）の実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、筋力トレーニング（適切な負荷の設定）について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	マシントレーニングにおける負荷設定について調べる。		30分
	事後学修	1RMの測定値を踏まえ、自分の筋力トレーニングの目的に応じた負荷を計算し、トレーニングカードに整理する。		30分
8	トレーニング③		・マシントレーニング（1RMの測定②） ・有酸素運動（エアロバイク）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、筋力トレーニング（適切な負荷の設定）について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	トレーニングの原理原則について調べ、事前学習シートを完成させる。		30分
	事後学修	1RMの測定値を踏まえ、自分の筋力トレーニングの目的に応じた負荷を計算し、トレーニングカードに整理する。		30分
9	ボールゲーム①		卓球（基本的技能練習とミニゲーム）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	「卓球（シングルス）」に関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
10	ボールゲーム②		・卓球ダブルス（ゲーム） ・グループワーク（ゲーム運営）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	卓球（ダブルス）のゲーム運営ができるようにルール詳細と審判について調べておく 事前学習シートの作成		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
11	ボールゲーム③		・卓球シングルス・ダブルス（ゲーム） ・グループワーク（ゲーム運営）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
12	ボールゲーム④		・ネオホッケー ・マシントレーニング（各自の目的に応じた負荷）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	ネオホッケーのゲーム動画を視聴し、ルールを理解する。 マシントレーニングにおける負荷設定の見直し（フィードバック）		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。 マシントレーニングの記録をトレーニングカードに記載する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ボールゲーム⑤	・ネオホッケー ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ネオホッケーのゲーム動画を視聴し、ボール不保持の際のポジショニングを観察する。 マシントレーニングにおける負荷設定の見直し（フィードバック）	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。 マシントレーニングの記録をトレーニングカードに記載する。	30分
14	ボールゲーム③	・ネオホッケー ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	前回の課題を踏まえ、その解決方法を明確にする。事前学習シートの作成。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。 マシントレーニングの記録をトレーニングカードに記載する。	30分
15	まとめ 「健康維持・増進」のための基礎知識 目的に応じた運動を選択する方法	・グループワーク（自己評価と学習内容の整理・実生活へ生かすための方法共有） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「学習したことを実際の生活に生かすための方法や、運動へのモチベーションを高める方法」について自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	田中 雅子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着・タオル・飲み物（水・スポーツドリンク・お茶など）を準備すること。

【授業方法】
対面で行う。ただしコロナの感染状況によっては、オンラインに変更することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標（コンビネーションの作成、リード）について実技試験を行う	10	5	5								20
小テスト等	グループで協力し合い、ダンスの一部を創作発表を行う。	10	5	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席、グループワークの参加度によって評価する 欠席1回マイナス5点 遅刻早退マイナス3点	50	5	5								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	15	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習ノート、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	オリジナルドリルである演習ノートを配布します				

【オフィスアワー】
授業後に行う アドレス：tanaka.masako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	フィットネスクラブ、行政、企業などでエアロビックダンス、健康教育指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		健康教育（企業セミナー 官公庁） エアロビックダンス指導及び指導者養成（スポーツセンター、民間フィットネスクラブ）	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の概要、目的／エアロビックダンスとは	研究課題：授業の目的・方法・評価方法・授業計画の説明 エアロビックダンスの概要について 運動課題：ストレッチ	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。 ・授業では学生諸君になじみのあるアニメソングを課題曲として行います。	
	事前学修	有酸素運動について調べる。	30分
	事後学修	運動習慣化と体力及び健康について理解し、ストレッチダンスを実施する。	30分
2	ダンスを理解するためのツールについて	研究課題：ステップシートの読み方 ステップ辞書の読み方（ステップの原型） 運動課題：原型ステップの課題曲（体力測定）	
	この回の到達目標	課題曲（アニメソング）を実施し、基本的なステップとコンビネーションパターンを理解する。	
	事前学修	課題曲を聴いて、楽曲の構成を確認する。 ストレッチング、柔軟性の意義について理解し、運動プログラムを実施する。	30分
	事後学修	ステップ辞書にて、原型ステップを確認する。	30分
3	原型ステップとコンビネーションパターン	研究課題：コンビネーションパターンを理解する 運動課題：バリエーションステップを含む課題曲	
	この回の到達目標	課題曲で実技を行い、原型ステップ（基本的なステップ）とコンビネーションパターン理解する。 最も簡単な構成のコンビネーションパターンを作成、実演する。	
	事前学修	原型ステップと授業で実施した課題曲のステップを辞書で確認する。	30分
	事後学修	作成したコンビネーションを実施する	30分
4	コンビネーションパターン2	研究課題：コンビネーションパターン2の作成、実施 運動課題：複雑な組み合わせの課題曲	
	この回の到達目標	コンビネーションを作成し実施することができる。	
	事前学修	課題曲を実施し運動量を確保する。	30分
	事後学修	作成したコンビネーションを実施する。	30分
5	コンビネーションパターン3	研究課題：コンビネーションパターン3を作成し実施することができる。 運動課題：複雑な組み合わせの課題曲	
	この回の到達目標	コンビネーションを作成し実施することができる。	
	事前学修	課題曲を実施し運動量を確保する	30分
	事後学修	作成したコンビネーションを実施する 授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）	30分
6	コンビネーションパターン4	研究課題：コンビネーションパターン4を作成し実施することができる。 運動課題：課題曲を実施（有酸素運動）	
	この回の到達目標	コンビネーションを作成し実施することができる。	
	事前学修	課題曲を実施し運動量を確保する	30分
	事後学修	今作成したコンビネーションを実施する 授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	作成したコンビネーションをダンスにする方法		研究課題：エアロビックダンスの最小単位ステップとステップを組み合わせたコンビネーションとダンスの関係を理解する。 運動課題：課題曲に学生が作成したコンビネーションを組み合わせて実施する。	
	この回の到達目標	エアロビックダンスの最小単位ステップとステップを組み合わせたコンビネーションとダンスの関係を理解する		
	事前学修	教員が作成した課題曲を練習してくる。		30分
	事後学修	作成したコンビネーションを実施する 授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）		30分
8	指導方法 キューイング		研究課題：指導者がいなくても、学生同士などで運動することができる技術を身につける。 運動課題：課題曲を実施	
	この回の到達目標	動きながら次の動きの指示をする、キューイングの技術を身につける。		
	事前学修	作成したコンビネーションの復習		30分
	事後学修	作成したコンビネーションのキューイングの実施 授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）		30分
9	グループテスト		学生が作成した課題曲を発表する。	
	この回の到達目標	指導者がいなくても学生同士協力してダンスを実施できるようにする。		
	事前学修	課題曲の練習		30分
	事後学修	作成したプログラムの練習 授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）		30分
10	姿勢		研究課題：姿勢のゆがみについて 運動課題：姿勢のチェックと歩き方	
	この回の到達目標	良い姿勢と悪い姿勢の原因と改善方法を理解する		
	事前学修	作成したプログラムの練習		30分
	事後学修	授業で実施したダンスの動画を視聴、実施し運動量を稼ぐ（動画を配信）作成したプログラムの練習		30分
11	睡眠と食事		健康を保つための睡眠と食事ついて理解する。	
	この回の到達目標	健康を保つために運動、栄養、休息について理解し、正しい生活習慣を身に着ける。		
	事前学修	食事内容、睡眠時間を確認する。		30分
	事後学修	正しい生活習慣を身に着けるには、自分の生活習慣をどのように変化させればよいか考察する。		30分
12	筋コンディショニング 1		酸素運動）と筋コンディショ研究課題：ストレッチングと筋コンディショニング 運動課題：課題曲（有ョニング	
	この回の到達目標	ストレッチングと筋コンディショニングを理解し説明できる。		
	事前学修	ストレッチングの効果について調べる。		30分
	事後学修	腹筋運動を実施し、筋コンディショニングについて理解を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	筋コンディショニング2	研究課題：睡眠について 運動課題：有酸素、筋コンディショニングの課題曲	
	この回の到達目標	睡眠と疲労回復を理解し説明できる。	
	事前学修	睡眠の効果について調べる。	30分
	事後学修	筋コンディショニングの実施 睡眠と疲労回復について理解を深める。	30分
14	実技テスト	実技テスト	
	この回の到達目標	指導者がいなくても自分一人で運動することができるようにする。	
	事前学修	実技テスト（64カウントのシンメトリーコンビネーション）の作成、練習	30分
	事後学修	自分の作成したコンビネーション用いて運動を実施する。	30分
15	まとめ：運動習慣を身につける	研究課題：運動習慣を身につける 運動課題：課題曲全曲	
	この回の到達目標	自身の体力、体調合わせて、運動を選択し実施できる。	
	事前学修	日常生活における運動量について調べる。	30分
	事後学修	運動を選択し実施してそれらを記録する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。第1回目は準備不要(履修カードに張り付ける顔写真を準備)

【授業方法】
出席・実施内容の説明をおこなう。授業開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。	事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み：12:10～13:00メールにて事前に予約をすることtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について説明できる。	
	事前学修	スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操	[ストレッチ体操] 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。	
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
	事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
	事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成について説明できる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平衡性：バランスを高める運動を説明できる。	
	事前学修	「竹馬」の乗り方について調べる。	30分
	事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
8	ロープスポーツ_1	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	ダブルダッチについて調べ、必要な体力要素や動作について考える。	30分
	事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。 グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有する。	30分
9	ロープスポーツ_2	大縄跳び・ダブルダッチの技術確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、チーム技術について、グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有し説明できる。	
	事前学修	前回授業における課題について、改善策を考えておく。	30分
	事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。 グループにおける仲間とお互いの良い点や課題、前回からの改善出来た点などを共有する。	30分
10	球技:フットサル_1	足の使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、足の使い方、基本動作について説明できる。	
	事前学修	フットサルのルールについて調べる。	30分
	事後学修	足の使い方、基本動作について反復練習を実施し理解を深める。	30分
11	球技:フットサル_2	個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人戦術、チーム戦術について説明できる。	
	事前学修	試合における個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
	事後学修	個人戦術、チーム戦術について分析を行う。	30分
12	球技:フットサル_3	実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションの取り方について説明できる。	
	事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	戦略・戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	器具を使ったトレーニング_1	正しいフォームを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、力が発揮できるフォームについて説明できる。	
	事前学修	レジスタンストレーニングの最高反復回数と% 1RMについて調べる。	30分
	事後学修	再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
14	器具を使ったトレーニング_2	適切な負荷の設定を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について説明できる。	
	事前学修	超回復理論について調べる。	30分
	事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。	30分
15	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、自己の達成を評価する。	
	事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業時には、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
全授業15回対面実技授業を行います。授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提に授業を進めて行きます。授業開始・終了時に、傷害予防のためのウォーミングアップとクールダウンを行い、安全に配慮しながら進めていきます。授業中、授業後は、課題提示、及び、事後学習を行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および問題解決を行っていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③について、スポーツの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回の何れかで、授業内テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。		5	5								10
小テスト等	到達目標①②③について、各種スポーツの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、毎回の授業で運動課題と研究課題を履修学生に課し、これを小テストとして評価する。主な評価内容は、以下の2点である。 1)運動課題をおこない、記述する。 2)研究課題をおこない、記述する。 (15%)。	5	5	5								15
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の運動課題と研究課題を実施し、提出されたコメント、及び、関連知識のチェックを通じて、身体運動、運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。 第1回と第13回、第14回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第7回、第8回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく (15%)。	5	5	5								15
討論・発表等	到達目標①②が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べることできたかを基準に、深化（成長）の度合いを評価する。 (10%)	5	5									10
授業への参画度	実施した各種身体運動からグループワーク等を通じて、自己の身体感覚を言語化して他者に伝えること。グループの仲間と協力して、問題発見・課題設定をおこなうこと。協調性を発揮し、課題解決、解決方策に取り組むことが出来るかを評価する。(50%)	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	40	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
運動課題と研究課題を評価し、履修者にフィードバックしていく。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トレーニング科学 最新エビデンス	安部 孝	講談社サイエンティフィック	2008年	参考書	任意
乳酸を活かしたスポーツトレーニング	八田 秀雄	講談社	2002年	参考書	任意
備考	こちらで、学習内容に応じて参考として使用します。上記参考書を購入する必要はないです。毎回の授業で、授業資料を配布します。復習教材とします。				

【オフィシアワー】
授業後金曜日18時10分～18時25分（休暇中を除く。事前にメールで連絡をしてください。） zononishi53@hotmail.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義※アンケート調査		・ガイダンス：授業の目的、方法、評価方法、受講上の注意、授業計画の説明等を行う。運動課題：軽運動の実践 研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	体力の把握		自己の体力の把握を、簡易的な体力測定で実践していく。 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
3	軽運動ジョギングの実践		軽運動ジョギングの実践 ・運動課題：軽運動：10分間ジョギング 当該スポーツの技術の習得、ジョギングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ジョギングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ジョギングのフォームについて、予習する。		30分
	事後学修	ジョギングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
4	ウォーキングの実践		ウォーキングの実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、ウォーキングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ウォーキングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ウォーキングのフォームについて、予習する。。		30分
	事後学修	ウォーキングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
5	コーディネーショントレーニング		身体の機能全体の調整力トレーニングについて ・運動課題：コーディネーショントレーニング、調整力の理解 ・研究課題：コーディネーショントレーニングを通じて、当該種目の楽しさを感じる。 コーディネーションの理解と整理を行う。	
	この回の到達目標	到達目標：到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
6	ディスクスポーツ①		ディスクスポーツ①の実践 ・運動課題：フライングディスクのスローとキャッチ ・研究課題：ゴールゲームの実施	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び映像視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	コンディショニング②※課題レポートの実施		コンディショニング②の実践 ・運動課題：セルフマッサージの効果（四肢のコンディショニング） ・研究課題：身体的疲労、精神的疲労の原因および、身体運動の効果について整理する。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
8	筋力トレーニング①※課題レポートの実施		筋力トレーニング① ・運動課題：筋発揮張力維持法（スロートレーニング） ・研究課題：筋肉の衰えと健康
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
9	筋力トレーニング②		筋力トレーニング② ・運動課題：体幹トレーニング（色々なスタビライゼーショントレーニングの実践） ・研究課題：筋力トレーニングの効果について調査する。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調査する。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
10	サッカー1vs1、2vs2の実践		サッカー1vs1、2vs2の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「攻撃における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー1vs1、2vs2の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：サッカーを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。 学習内容の整理。運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	サッカーの実践上、攻撃における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。	30分
11	サッカー2vs2、2vs2プラスフリーマン、3vs3の実践		サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「守備における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。 守備における個人のプレーと2人関係について学習出来たことを記述する。
	この回の到達目標	サッカーの実践上、攻撃における個人のプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。サッカーの攻撃に必要な技術について説明することができる。	
	事前学修	サッカーの実践上、守備における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したサッカーについての振り返りを行い、整理し、理解を深める。運動課題、研究課題を行う。	30分
12	卓球①		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える
	この回の到達目標	①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化※アンケート調査		筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化 ・運動課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の評価（各種ジャンプ運動や椅子からの立ち上がり10回測定など）の実践。 ・研究課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の強化（スクワット運動など）について、理解する。評価を整理し、感想を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調査する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
14	卓球②：卓球（ダブルス）※アンケート調査		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分
15	卓球③：卓球（スマッシュ、カットの実践）		・運動課題：技術スマッシュ、カットの打法の理解と習得 ・研究課題：ゲームを通じて、卓球のスマッシュ、カットを考える	
	この回の到達目標	技術スマッシュ、カットについて、説明することが出来る。技術スマッシュ、カットを用いて、ゲームを楽しむことが出来る。		
	事前学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。		60分
	事後学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。ゲームの中で、技術スマッシュ、カットの有効性と課題を整理し、復習する。運動課題と研究課題を行う。		60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業時には、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
全授業15回対面実技授業を行います。授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提に授業を進めて行きます。授業開始・終了時に、傷害予防のためのウォーミングアップとクールダウンを行い、安全に配慮しながら進めていきます。授業中、授業後は、課題提示、及び、事後学習を行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および問題解決を行っていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③について、スポーツの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回の何れかで、授業内テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。		5	5								10
小テスト等	到達目標①②③について、各種スポーツの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、毎回の授業で運動課題と研究課題を履修学生に課し、これを小テストとして評価する。主な評価内容は、以下の2点である。 1) 運動課題をおこない、記述する。 2) 研究課題をおこない、記述する。 (15%)。	5	5	5								15
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の運動課題と研究課題を実施し、提出されたコメント、及び、関連知識のチェックを通じて、身体運動、運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。 第1回と第13回、第14回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第7回、第8回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく (15%)。	5	5	5								15
討論・発表等	到達目標①②が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化（成長）の度合いを評価する。 (10%)	5	5									10
授業への参画度	実施した各種身体運動からグループワーク等を通じて、自己の身体感覚を言語化して他者に伝えること。グループの仲間と協力して、問題発見・課題設定をおこなうこと。協調性を発揮し、課題解決、解決方策に取り組むことが出来るかを評価する。(50%)	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	40	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
運動課題と研究課題を評価し、履修者にフィードバックしていく。。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トレーニング科学 最新エビデンス	安部 孝	講談社サイエンティフィック	2008年	参考書	任意
乳酸を活かしたスポーツトレーニング	八田 秀雄	講談社	2002年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後金曜日18時10分～18時25分（休暇中を除く。事前にメールで連絡をしてください。） zononishi53@hotmail.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義※アンケート調査の実施		・ガイダンス：授業の目的、方法、評価方法、受講上の注意、授業計画の説明等を行う。運動課題：軽運動の実践 研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	体力の把握		自己の体力の把握を、簡易的な体力測定で実践していく。 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
3	軽運動ジョギングの実践		軽運動ジョギングの実践 ・運動課題：軽運動：10分間ジョギング 当該スポーツの技術の習得、ジョギングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ジョギングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ジョギングのフォームについて、予習する。		30分
	事後学修	ジョギングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
4	ウォーキングの実践		ウォーキングの実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、ウォーキングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ウォーキングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ウォーキングのフォームについて、予習する。		30分
	事後学修	ウォーキングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
5	コーディネーショントレーニング		身体の機能全体の調整力トレーニングについて ・運動課題：コーディネーショントレーニング、調整力の理解 ・研究課題：コーディネーショントレーニングを通じて、当該種目の楽しさを感じる。 コーディネーションの理解と整理を行う。	
	この回の到達目標	到達目標：到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
6	ディスクスポーツ①		ディスクスポーツ①の実践 ・運動課題：フライングディスクのスローとキャッチ ・研究課題：ゴールゲームの実施	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び映像視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コンディショニング②※課題レポートの実施※授業内テストの実施	コンディショニング②の実践 ・運動課題：セルフマッサージの効果（四肢のコンディショニング） ・研究課題：身体的疲労、精神的疲労の原因および、身体運動の効果について整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
8	筋力トレーニング①※課題レポートの実施※授業内テストの実施	筋力トレーニング① ・運動課題：筋発揮張力維持法（スロートレーニング） ・研究課題：筋肉の衰えと健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
9	筋力トレーニング②※授業内テストの実施	筋力トレーニング② ・運動課題：体幹トレーニング（色々なスタビライゼーショントレーニングの実践） ・研究課題：筋力トレーニングの効果について調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調査する。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
10	サッカー1vs1、2vs2の実践※授業内テストの実施	サッカー1vs1、2vs2の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「攻撃における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー1vs1、2vs2の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：サッカーを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。学習内容の整理。運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	サッカーの実践上、攻撃における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。課題を行う。	30分
11	サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践※授業内テストの実施	サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「守備における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。守備における個人のプレーと2人関係について学習出来たことを記述する。	
	この回の到達目標	サッカーの実践上、守備における2人の協力関係について、映像や関連資料を調べて準備し予習する。サッカーの守備における2人の協力関係について、説明することができる。	
	事前学修	サッカーの実践上、守備における個人のプレーと2人の関係について、映像や関連資料を調べて準備し予習する。	30分
	事後学修	実施したサッカーについての振り返りを行い、理解を深める。課題を行う。	30分
12	卓球①※授業内テストの実施※授業内テストの実施	・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化※アンケート調査の実施※授業内テストの実施	筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化 ・運動課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の評価（各種ジャンプ運動や椅子からの立ち上がり10回測定など）の実践。 ・研究課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の強化（スクワット運動など）について、理解する。評価を整理し、感想を記述する。		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調査する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
14	卓球②：卓球（ダブルス）※アンケート調査の実施	・運動課題：当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分
15	卓球③：卓球（スマッシュ、カットの実践）	・運動課題：技術スマッシュ、カットの打法の理解と習得 ・研究課題：ゲームを通じて、卓球のスマッシュ、カットを考える		
	この回の到達目標	技術スマッシュ、カットについて、説明することが出来る。技術スマッシュ、カットを用いて、ゲームを楽しむことが出来る。		
	事前学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。		60分
	事後学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。ゲームの中で、技術スマッシュ、カットの有効性と課題を整理し、復習する。運動課題と研究課題を行う。。		60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装（ジャージ等）、靴（室内用）を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します。アドレス：fujii.hiromu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【体育実技の授業方法について】	年間授業計画、授業の進め方などに関するガイダンス	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や到達目標、年間のスケジュールなどをよく理解しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明を振り返って授業内容や授業の進め方を理解する。また次週以降の授業に備えて体調管理に留意する。	30分
2	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
	事前学修	体力チェックの項目にはどのようなものがあるか、種目と実施方法を調べておく。	30分
	事後学修	自身の体力チェックの結果をふりかえり、体力および健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	【体への理解とメンテナンス方法の実践】	体ほぐし・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。	30分
	事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。	30分
4	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング トレーニング機器の安全な使用方法の理解と実践する	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニング機器の種類や安全で正しい使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	サーキットトレーニングとは何か、またどのような効果があるか事前に調べておく。	30分
	事後学修	機器の重量の替え方やポジションの調整など、次週以降繰り返し説明が必要ないように復習しておく。	30分
5	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 機器の使用法の確認と個人のトレーニングメニューの作成	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニングを実践しその方法や効果を理解し、説明することができる。	
	事前学修	前週の内容を振り返り、機材の使い方や重量の設定の仕方などを復習しておく。	30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、自分自身に合ったトレーニングメニューについて考える。	30分
6	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 個人のトレーニングメニューの実践および長期目標の設定	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力に合ったメニューを作成するとともに、トレーニングを実践しそのメニューに対して評価をし、説明することができる。	
	事前学修	自分自身でトレーニングメニューを作り、実践する準備をしておく。	30分
	事後学修	自分の作ったトレーニングメニュー・および実践した内容を振り返り、よりよいメニューを考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【卓球のルール理解と実践】 【シングルスとは】		卓球 シングルスのルールの理解と基本練習・ミニゲーム
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	卓球のシングルスのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
8	【卓球のルール理解と実践】 【シングルのゲーム】		卓球 シングルのルールの復習とリーグ戦
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	ルールについて確認するとともに、ラケットの種類やボールの打ち方についても調べておく。	30分
	事後学修	卓球シングルの楽しさとはなにか、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
9	【ウォーキングの効果の理解と実践】		ウォーキング
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	ウォーキングの効果やメリットについて、一日どれくらい歩くことが推奨されているか事前に調べておく。	30分
	事後学修	自分自身の普段の歩数を意識的に調べ、足りないようであれば隙間時間などにウォーキングを実践する。	30分
10	【フットサルのルール理解と実践】		フットサル フットサルのルールの理解と基本練習・ミニゲーム
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	フットサルとサッカーの違いは何か、また使用するボールやルールについて調べておく。	30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
11	【フットサルのルール理解と実践】		フットサル フットサルのルールの復習とリーグ戦
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	ルールについて確認するとともに、蹴り方の種類などについても調べておく。	30分
	事後学修	フットサルの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方についての意見をまとめる。	30分
12	【自宅でも気軽にできる運動とは】		DVD鑑賞（トレーニングやエアロビクスなど）
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	近年刊行された運動やスポーツについての書籍の中で、興味のあるものをピックアップしておく。	30分
	事後学修	自分自身に合う運動のスタイルとは何か、自分なりの意見をまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの理解および基本練習	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	ダーツのルールや歴史また、基本的ないくつかのゲームの種類や進め方について、あらかじめ調べておく。	30分
	事後学修	ダーツがもつスポーツ性とは何か、自分なりの意見をまとめる。	30分
14	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの復習とゲームの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	ルールやゲームの方法を振り返り、ダーツの投げ方や握り方についても調べておく。	30分
	事後学修	ダーツの楽しさとは何か、グループまたは授業のメンバーとディスカッションし、楽しみ方について意見をまとめる。	30分
15	【前期の授業の振り返りおよび解説】	前期のまとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
	事前学修	体育実技ⅠAの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
	事後学修	後期に向けて、健康の維持・増進のため具体的にどのような運動に取り組むかの目標を立てる。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	星 大輔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						1			1	1	1	1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業で行った内容について、到達目標①～③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15								45
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	授業における準備・後片付け、仲間とのコミュニケーション等の授業に臨む姿勢を中心として、どれだけ積極的に授業に取り組むことにできたかを基準に、到達目標①～③に関わる主体的な学修態度が身についているかを評価する。	15	10	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題について、授業内に講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
2限終了後12：10～の時間帯にて対応する。授業講堂にて。（メールアドレス：hoshi.daisuke@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・体力と健康増進について	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について学習する。また、年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、体力及び健康の維持増進に関する概念について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること	30分
	事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること	30分
2	トレーニング機器の導入、身体ほぐし運動	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、トレーニング器具の使用方法について理解し、実際に利用することができる。	
	事前学修	提出物の作成と体力の要素について情報を得ること	30分
	事後学修	配布されたプリント資料よりストレッチ方法を理解し実践に移すこと	30分
3	卓球基礎、最大筋力の測定	卓球の基礎技術について習得する。また、最大筋力の測定を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の最大筋力を測定し、理解することができる。また、仲間と協力し、卓球の基礎技術であるサーブ・レシーブを練習し、習得することができる。	
	事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること	30分
	事後学修	得られた測定結果からトレーニング内容を構築すること	30分
4	卓球（シングルスゲーム）、筋力トレーニングの実践	シングルスゲームにおけるルールや戦術を学ぶ。また、前回の最大筋力の測定結果から自身で鍛えたい部位を決め、トレーニングの設定と実践を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、これまでの測定を踏まえて、自身に必要な筋力トレーニングのメニューを実践することができる。卓球ではシングルスゲームを行い、基礎技術の習得と戦術を試行錯誤する。	
	事前学修	限られた時間の中で、効率的にトレーニングができるよう考える。卓球シングルのルールを事前に学習する。	30分
	事後学修	トレーニングによって損傷した筋肉を休ませる。試合をした相手に敬意を払い、互いの健闘を讃える。	30分
5	卓球（ダブルスゲーム）、筋力トレーニングの実践	卓球のダブルスゲームにおけるルールや戦術を学ぶ。自身で設定した筋力トレーニングを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、これまでの測定を踏まえて、自身に必要な筋力トレーニングを実践することができる。また、卓球ではダブルスゲームを行い、基礎技術を磨くとともに仲間とコミュニケーションをとり戦略を立てることができる。	
	事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5〜6種目選択し、メニューを作成すること。ダブルスゲームの戦術を工夫すること	30分
	事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。ダブルスの仲間とコミュニケーションを取り健闘を讃える	30分
6	卓球（ダブルスゲーム）、筋力トレーニングの実践	卓球ダブルスゲームのリーグ戦を行う。自身で設定した筋力トレーニングを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、これまでの測定を踏まえて、自身に必要な筋力トレーニングを実践することができる。また、卓球ではダブルスゲームを行い、基礎技術を磨くとともに仲間とコミュニケーションをとり戦略を立てることができる。	
	事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5〜6種目選択し、メニューを作成すること。ダブルスゲームの戦術を工夫すること	30分
	事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。ダブルスの仲間とコミュニケーションを取り健闘を讃える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第一回体力チェック		ストレッチ、体力チェックを行い、自身の運動能力の現状について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態の現状を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること		30分
	事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること		30分
8	筋力トレーニングの実践と確認・フットサルの基本		自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、実践テストに備えて使用方法や使用部位についてよく確認する。また、フットサルはパスやドリブル、シュートといった基本的な動きを中心に練習する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、有酸素運動を行った消費カロリーを確認し、自身の日常生活における消費カロリーと摂取カロリーのバランスについて考えることができる。また、ダーツでは狙った的に的確にダーツを投げ、ゼロワンをスピーディーに終えることを通して、集中力を養うことができる。		
	事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。フットサルのルールや技術を調べること		30分
	事後学修	体力カードをチェックし正確な記録とフットサルにおけるチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること		30分
9	筋力トレーニングの実践と見直し・フットサルの実践		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。また、フットサルは攻撃局面の練習およびミニゲームを中心に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、フットサルではゲームを通して、仲間との交流を深めることができる。		
	事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。フットサルでのボールコントロールについて考えること		30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること		30分
10	筋力トレーニングの実践と見直し・フットサルの実践		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。また、フットサルは守備局面の練習およびミニゲームを中心に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、フットサルではゲームを通して、仲間との交流を深めることができる。		
	事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。フットサルでのボールコントロールについて考えること		30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること		30分
11	筋力トレーニングの実践と見直し・フットサル（応用）		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。また、フットサルはフットサルは条件付きミニゲームおよびリーグ戦を中心に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、フットサルではゲームを通して、仲間との交流を深めることができる。		
	事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。フットサルでのボールコントロールについて考えること		30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること		30分
12	筋力トレーニングの実践、ディスクスポーツ基礎		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。フライングディスクを使用し、基礎的な技術（持ち方、投げ方、キャッチング）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、筋力トレーニングを学び、実践する。また、ディスクスポーツでは扱い方（リリース、キャッチ）ができる。		
	事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。フライングディスクの扱い方（リリース、キャッチ等）について事前に調べる。		30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。ゲームに向けたフライングディスクの扱い方について考えること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	筋力トレーニングの実践、ディスクスポーツの実践		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。フライングディスクを使用し、アキュラシーを中心に実践する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、ディスクスポーツでは基礎的なフライングディスクの扱い方を試合で応用する。	
	事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取る。アキュラシーのルールについて学習する。	30分
	事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。ディスクスポーツでは仲間とコミュニケーションをとり勝利するためにどうしたらよいか話す。	30分
14	筋力トレーニングの実践、ディスクスポーツの実践		自身で設定した筋力トレーニングを実践し、必要に応じて修正を加える。フライングディスクを使用し、ドッジビーを中心に実践する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて重量を調整・変更することができる。また、ディスクスポーツでは基礎的なフライングディスクの扱い方を試合で応用する。	
	事前学修	これまでの筋力トレーニングについて振り返り、自己評価する。ドッジビーのルールについて学習する。	30分
	事後学修	後期のトレーニングに生かせるよう改善すべき点を具体的に示す。ディスクスポーツでは仲間とコミュニケーションをとり勝利するためにどうしたらよいか話す。	30分
15	前期授業のまとめ		前期のまとめ、レポート、質疑応答、講評を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、前期の授業を通じて変化した身体の状態について分析し、課題等につづくことができる。また、自身の課題を踏まえ、後期の授業開始までの適切な過ごし方について、考えることができる。	
	事前学修	前期のまとめのレポート作成の資料をチェックし構想を練ること	30分
	事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	前鼻 啓史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。授業時に不足した関連情報は、クラスルームを通じて〔課題〕として配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						1			1	1	1	1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	15	10	10								35
レポート等	到達目標①～③が達成できているかについて、実施した各種身体運動やグループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①～③が達成できているかについて、グループワークにおいて自身の考えを示すことができているかをグループワーク課題及び振り返りシートを用いて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②、③が達成できているかについて、問題発見、課題解決などの取り組みの積極性を受講態度や振り返りシートを用いて評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に受け付ける。それ以外ではE-mail、クラスルーム等で受付をする。E-mail: maehana.hirofuimi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	科目担当教員はパラスポーツ団体等において役職を歴任している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実施者の体力や能力に応じた運動処方を適切に行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康について	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	30分
2	自己体力（行動体力）の把握	・体力測定によって自身の体力について考える ・ペアで行う軽運動 〔課題〕体力の要素について ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	行動体力とは何かを調べてくる。体力測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果を確認し、資料を用いて自己評価を行う。 振り返りシートを作成する。	30分
3	柔軟性のエクササイズ	・ストレッチの効果と用途に応じた使い分け ・様々なストレッチを紹介し実践する。 ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ストレッチの種類について調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（柔軟性）にあった運動プログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
4	トレーニングの原理原則について	・トレーニング機器を用いた運動 ・運動強度を知る ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	「1RM（1 repetition maximum）」について調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（筋力）にあった運動負荷を考える。 振り返りシートを作成する。	30分
5	自体重トレーニング	・自体重トレーニングの理解とその実践 ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	トレーニング器具を用いない、ストレングストレーニングについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（筋力あるいは筋持久力）にあった運動のプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
6	ネットスポーツ① バドボン	・バドボン（1回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	バドボンに関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ネットスポーツ② バドボン	・バドボン（2回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
8	ネットスポーツ③ バドボン	・バドボン（3回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
9	ネットスポーツ④ インディアカ	・インディアカ（1回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	インディアカに関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
10	ネットスポーツ⑤ インディアカ	・インディアカ（2回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
11	ネットスポーツ⑥ インディアカ	・インディアカ（3回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
12	ネットスポーツ⑦ 卓球	・卓球（1回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	卓球に関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ネットスポーツ⑧ 卓球	・卓球（2回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
14	ネットスポーツ⑨ 卓球	・卓球（3回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・軽度の運動・スポーツの実施 ・今学期の授業を振り返る。 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツの実施がもたらすの恩恵について理解を深める。 課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】		
基本的に対面で実技授業等を行う。実技授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。Google classroomを用いて実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力測定結果を受けて、実践した各種身体運動から、グループワークの中で自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見や課題設定および解決を行う。また、リーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
classroom及びメールにて相談等を受け付ける。yamada.miekoll@nihon-u.ac.jp 授業期間木曜日のみ13:00から18:00 2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	AHA TC IEMA BLS Faculty, 国際救命救急協会理事, イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に指導していく。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイドダンス 運動と健康	〔ガイドダンス〕 ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕「運動と健康」について講義（身近なところから考えてみよう！）。	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	30分
	事後学修	ガイドダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	30分
2	体力の把握	・簡易的な体力測定と体力について	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・ストレッチングの実践とトレーニング機器の使い方	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 トレーニングルームの使用方法を理解する。	
	事前学修	ストレッチの意義について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。トレーニング機器の使用の確認をする。	30分
4	からだづくり運動 1	・からだづくり運動各種（グループワーク）	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	からだづくり運動について事前に調べる。	45分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	30分
5	からだづくり運動 2	・からだの歪みのチェックと体幹トレーニング（グループワーク）	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	体幹トレーニングについて事前に調べる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	30分
6	からだづくり運動 3	・縄跳びを使ったからだづくり運動（グループワーク） ・大縄や短縄	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	色々な縄跳びの跳び方について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	からだづくり運動 4		・ボールを使ったからだづくり運動（グループワーク） ・ドッジボール	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	ボールの使い方について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分
8	マシントレーニングと筋力測定 1		・自身の筋力を測ってみる。（前半組） ・竹馬にチャレンジ（後半組）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	マシントレーニングについて事前に調べる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分
9	マシントレーニングと筋力測定 2		・自身の筋力を測ってみる。（後半組） ・バランスボールにチャレンジ（前半組）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分
10	ニューススポーツ 1		・ブレルボール ・バレーボール	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「ブレルボール」、「バレーボール」の特性とルールを調べてくる。 メンバーと協力してつなぐためには何をすることが大切なのかを考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分
11	ニューススポーツ 2		・インディアカ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「インディアカ」の特性とルールを調べてくる。 メンバーと協力してつなぐためには何をすることが大切なのかを考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分
12	トレーニングと卓球 1		・卓球（シングルス） 色々なストロークにチャレンジする。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	卓球のストローク、ルールについて事前に調べる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	トレーニングと卓球 2	・卓球（ダブルス） ルールと動き方を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ダブルスの動き方や戦法について事前に調べてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	30分
14	トレーニングと卓球	・卓球大会（学生による試合展開）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	卓球のルールについて調べ、試合の運営方法を考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	30分
15	トレーニングと卓球 まとめ	・卓球大会 ・まとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	大会の進め方を考えてくる。 前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	運動実施後に感想をまとめる。グループワークの内容をまとめ、同じグループメンバーからもらったコメントを確認する。	60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	高田 佑輔	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内シューズ、ジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況によって授業内容を変更する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。ペアやチーム内でディスカッションを行い、コミュニケーションを図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で授業の振り返りや体力測定データの解説をします。さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールで連絡をしてください。E-mail：takata.yusuke★nihon-u.ac.jp（★を@に変更して使用すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本バスケットボール協会公認C級コーチライセンスおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、スポーツの指導を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動やスポーツが心身に与える影響を伝え、生涯スポーツの一助になる授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスとアイスブレイク	この授業の進め方（ルール）などの説明する。履修生同士のコミュニケーションを図るため、アイスブレイクを実施する。 ※集合は2号館地下202教場、更衣は不要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業における体育スポーツの意義について説明できる。ガイダンスの内容を理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 大学における体育スポーツの授業について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。	30分
2	軽運動と体力・体組成測定	体力測定では、体重、体組成（体脂肪率など）、握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びなどを実施します。 体組成は素足で測定するので、足底を覆うタイツは着用しないこと。靴下はその場で脱いで測定しましょう。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自身の体組成や体力レベルを確認する。 一年間（または半期）の目標を設定する。	
	事前学修	実施する体力測定の方法を調べる。	30分
	事後学修	体力測定の結果を踏まえて今後の授業の目標を立てる。 指定されたURLに体力・体組成の結果を報告する。	30分
3	柔軟性のトレーニング①	全身の柔軟性をチェックし、柔軟性のトレーニングを実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、柔軟性の意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの生活や運動の経験を振り返って、自分の身体が何で硬いか（または軟らかいか）を説明できるようにしておく。 ウォーミングアップ、ウォームダウン（クーリングダウン）の中で取り入れられるストレッチについて調べておく。	30分
	事後学修	柔軟性のトレーニングを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。 柔軟性チェックの結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
4	柔軟性のトレーニング②	ストレッチポールを使用した柔軟性のトレーニングを実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチポールを使用した柔軟性のトレーニングを説明できる。	
	事前学修	ストレッチポールの扱い方やトレーニングについて調べておく。	30分
	事後学修	柔軟性のトレーニングを実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
5	持久力のトレーニング	持久力のトレーニングとして、自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルの使い方を説明します。 自分の体力レベルや目的に合った負荷設定を理解しましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、持久力およびその能力が必要とされる競技を説明できる。	
	事前学修	これまでの体育の授業や部活動などの運動、スポーツ活動で行ってきたトレーニングのうち、持久力向上に当てはまるものを考え、その意義を説明できるようにしておく。	30分
	事後学修	自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルを使用した際の自分の目的に合った負荷をまとめておく。 今後の目標を立てる。	30分
6	敏捷性のトレーニング	ラダーなどを用いて、敏捷性のトレーニングを学習します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敏捷性のトレーニングを説明できる。	
	事前学修	敏捷性のトレーニングとして挙げられるSAQトレーニングとは何かを説明できるようにしておく。	30分
	事後学修	敏捷性のトレーニングを実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	体幹のトレーニング①		体幹のトレーニングとして、自重でできるスタビライゼーショントレーニングを実施します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビライゼーショントレーニングを説明できる。	
	事前学修	スタビライゼーショントレーニングについて調べておく。	30分
	事後学修	スタビライゼーショントレーニングを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
8	体幹のトレーニング②		体幹のトレーニングとして、バランスボールを使ったトレーニングを実施します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バランスボールを使った体幹トレーニングを説明できる。	
	事前学修	バランスボールの扱い方やトレーニングについて調べておく。	30分
	事後学修	体幹のトレーニングを実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
9	レジスタンストレーニング		マシンやダンベルなどのフリーウエイトを使用して、レジスタンストレーニングを実施します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、レジスタンストレーニングを説明できる。	
	事前学修	IRMとは何かを調べておく。 さらに、トレーニングの原理と原則を調べておく。	30分
	事後学修	各トレーニング種目における自分の目的に合った負荷をまとめ、今後のトレーニングメニューを考える資料を作る。	30分
10	フロアカーリング①		フロアカーリングを行います。 個人技術を高めるため、基本動作の練習をします。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合いましょう。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
	事前学修	フロアカーリングのルールを調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
11	フロアカーリング②		フロアカーリングを行います。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合いましょう。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
	事前学修	フロアカーリングの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
12	卓球①		卓球（シングルス）を行います。 競技特性とシングルスのルールを説明します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のシングルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
	事前学修	卓球のシングルスのルールや動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人の反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	卓球②		卓球（ダブルス）を行います。 ダブルスのルールを説明します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。	
	事前学修	卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	ドッジボール		ドッジボールを行います。 オーソドックスなルールだけではなく様々なルールを適用するので、ルールを理解することが求められます。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	この授業で実施するドッジボールのルールを1つ考えておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
15	前期のまとめと振り返り		前期の振り返りを実施し、総括します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	前期の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
	事後学修	発表して浮き彫りになった課題を後期に解決できるようにする。 夏季休業中も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	福地 修也	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。水分補給をできるようにしておくこと。

【授業方法】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングをするためのシューズが必要です。実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める（変更がある際には事前に連絡をします）。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学習した知識をもとに自らの課題を発見し、解決するための方法を考える。学生間でのディスカッションにより、どのようにしたら自身の考えが他者に伝わるかを考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				1			1	1	1	1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準にする。自身の健康とスポーツ・身体運動の関連について理解しているか否かを基準にし、到達目標①②③が達成できているかを評価する	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内において自身の意見を述べることができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	自己の身体感覚を言語化して他者に伝えることができているか。問題発見・課題設定及び解決といった取り組みができているか否かを基準に、到達目標①②③が達成できているかを評価する。	10	10	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に質問等を受け付ける。 ※事前に連絡をしてください。(fukuchi.shuya.xu@alumni.tsukuba.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・ガイダンスおよび用具の説明 ・運動と健康と体力		授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具及び施設の使用方 法、注意点を説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連や体力について説明できる。		
	事前学修	運動の意義についてまとめる。 体力について考える。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。		30分
2	【体ほぐしの運動】		アイスブレイク、パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニ ケーションを図る。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連し、ストレッチの重要性を説明できる。		
	事前学修	ストレッチの効果について調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。		30分
3	【体力テスト（Pre）】		身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを 実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連し、体力測定の結果を踏まえ自らの目標を説明できる。		
	事前学修	測定種目について確認する。		30分
	事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。		30分
4	【筋力トレーニング①】		自身の体重を利用した筋力トレーニングの方法を紹介し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自重トレーニングについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、自重トレーニングを実施する。		30分
5	【筋力トレーニング②】		器具を使用した筋力トレーニングの方法や注意点を解説し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	マシントレーニングの種類を調べる。		30分
	事後学修	筋力増強のメカニズムについてまとめる。		30分
6	【筋力トレーニング③-1】		各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【筋力トレーニング③-2】		各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
8	【有酸素性トレーニング①】		エアロバイクによる有酸素性トレーニングの方法を解説し、実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	有酸素性トレーニングについて調べる。		30分
	事後学修	エアロバイクの回転数や強度についてまとめる。		30分
9	【有酸素性トレーニング②】		心拍数をもとにエアロバイクの強度を設定し、有酸素性トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	安静時心拍数を確認しておく。		30分
	事後学修	目標とする運動中の心拍数を確認する。		30分
10	【有酸素性トレーニング③-1】		作成した有酸素性トレーニングプログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自分自身に適した有酸素性トレーニングを考案する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
11	【有酸素性トレーニング③-2】		作成した有酸素性トレーニングプログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自分自身に適した有酸素性トレーニングを考案する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
12	最新トレーニング		近年話題となっている最新のトレーニングについて、方法や注意点を解説し、実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、最新のトレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、最新のトレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	最新のトレーニングについて調査する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、最新トレーニングの特徴をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サーキットトレーニング	サーキットトレーニングについて、方法や注意点を解説し、実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、サーキットトレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、サーキットトレーニングの達成目標について説明できる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調査する。	30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、サーキットトレーニングの特徴をまとめる。	30分
14	【体力テスト（Post）】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、事前の体力測定の結果との比較を行い、自らの目標を説明できる。	
	事前学修	体力測定(Pre)の結果を確認しておく。	30分
	事後学修	体力テストの結果を踏まえ、今後さらなるレベルアップを目指した目標を立てる。	30分
15	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
	事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
	事後学修	トレーニングやスポーツを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	大室 龍大	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。水分補給をできるようにしておくこと。

【授業方法】
全授業回で対面式の実技授業を実施する。実技授業は2号館体育場、グラウンド及びトレーニングルームを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に受け付ける。 アドレス：ohmuro.tatsuhiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	全体のガイダンス 導入講義	「ガイダンス」授業の目的・方法・評価方法・受講上の注意・授業計画の説明を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業における体育やスポーツの意義について説明できる。	
	事前学修	ガイダンスの内容を理解する。 シラバスをよく読み、質問をまとめておく。	30分
	事後学修	大学における体育スポーツの授業について、自分なりの考えをまとめておく。 ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。	30分
2	ストレッチ	「ストレッチ」ダイナミックストレッチとスタティックストレッチについて説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進、特に「ストレッチ」について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ストレッチについて調べておく。	30分
	事後学修	当該授業で学んだストレッチを自宅で行う。	30分
3	コーディネーショントレーニング	「コーディネーショントレーニング」コーディネーショントレーニングについて説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	コーディネーショントレーニングとは何か調べておく。	30分
	事後学修	当該授業で学んだコーディネーショントレーニングを自宅で行う。	30分
4	レジスタンストレーニング	「レジスタンストレーニング」器具を使った筋力トレーニングを説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、筋力トレーニングを説明し実践できる。	
	事前学修	スポーツジムにある機材を調べておく。	30分
	事後学修	身体の中の部分に筋肉痛があるかまとめる。	30分
5	レクリエーション	「レクリエーション」レクリエーションスポーツを実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	レクリエーションスポーツについて調べておく。	30分
	事後学修	一番楽しかったレクリエーションスポーツをまとめておく。	30分
6	ガッツ	「ガッツ」ガッツについて説明し、実施します。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ガッツの映像を見てくる。	30分
	事後学修	ガッツの競技特性をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	卓球①		「卓球」卓球について説明し、チーム戦を実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	卓球のシングルスゲームの試合映像を見てくる。	30分
	事後学修	卓球の競技特性をまとめる。	30分
8	卓球②		「卓球」卓球について説明し、チーム戦を実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	卓球のダブルスゲームの試合映像を見てくる。	30分
	事後学修	卓球の競技特性をまとめる。	30分
9	ソフトバレーボール		「ソフトバレーボール」ソフトバレーボールを説明し、実施します。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ソフトバレーボールの試合映像をみてる。	30分
	事後学修	ソフトバレーボールの競技特性をまとめる。	30分
10	ユニホック①		「ユニホック」ユニホックについて説明し、基本技術を実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ユニホックのとは何か調べておく。	30分
	事後学修	ユニホックの競技特性をまとめる。	30分
11	ユニホック②		ユニホック」ユニホックについて説明し、試合を実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ユニホックの試合映像を見てくる。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
12	フライングディスク		「フライングディスク」フライングディスクについて説明し、実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	フライングディスクのルールを調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	アルティメット		「アルティメット」アルティメットについて説明し、実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	アルティメットのルールを調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	フロアカーリング		「カーリング」カーリングについて説明し、色々なルールを設けながら実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	カーリングとは何か調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
15	後期のまとめ・振り返り		後期の振り返りを実施し、総括します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	後期の振り返り、反省や改善点などをまとめる。	30分
	事後学修	全授業内容を振り返りまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。 土曜4限のみ、運動やスポーツが苦手な学生を優先する。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業で行った有酸素トレーニング及び筋力トレーニングについて、到達目標①・②・③に関わる知識が身についているかを評価する。	10	5	5								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①・②・③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	10	5	5								20
討論・発表等												
授業への参画度	授業における準備・後片付け、仲間とのコミュニケーション等の授業に臨む姿勢を中心として、どれだけ積極的に授業に取り組むことにできたかを基準に、到達目標②・③に関わる主体的な学修態度が身についているかを評価する。		30	30								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題については、授業内に講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて適宜資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業時間前後または授業時間内に受け付ける。email: gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第一回体力チェック		ストレッチ、体力チェックを行い、自身の運動能力の現状について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日常生活の中でストレッチを実践し、前期からの自身の身体の変化について確認しておくこと		30分
	事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること		30分
2	トレーニングプログラムの作成と基本原則・体ほぐし		体力チェックの結果を踏まえ、自身に最適なトレーニングプログラムを作成する。また、トレーニングを行う上で重要なポイントや、トレーニングの基本原則について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントや基本原則について理解し、以降のトレーニングに活用することができる。		
	事前学修	後期のトレーニングプログラムを作成するため、前期のメニューについて確認しておくこと		30分
	事後学修	トレーニングを行う上で重要なポイントや基本原則について復習しておくこと		30分
3	トレーニングメニューの実践・エアロビクス		前回作成したトレーニングメニューを実践する。また、ローインパクトのエアロビクスを実践し、音楽に合わせて気持ちよく身体を動かすことを体験する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、作成したトレーニングメニューを実践し、基礎体力を醸成することができる。また、基本的なエアロビクスの動きについて理解し、実践することができる		
	事前学修	家でもできるようなトレーニングメニューを考え、実践してみること。基本的なエアロビクスの動きや原則について調べておくこと		30分
	事後学修	トレーニング時間と内容が妥当であるか確認すること、エアロビクスの動きや強度変換方法を理解すること		30分
4	トレーニングメニューの実践・ヨガエクササイズ		前回同様、作成したトレーニングメニューの他、自体重のトレーニングも行う。また、ヨガエクササイズを行い、呼吸と姿勢に意識を向ける。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自体重でのトレーニングの効果と重要性について理解し、自宅で行う方法をも身につけることができる。また、ヨガエクササイズの基本的な方法を身につけ、日常生活におけるストレスマネジメントの重要性について理解することができる。		
	事前学修	ヨガエクササイズの様々なポーズについて理解しておくこと		30分
	事後学修	トレーニング種目が適切か確認し、ヨガエクササイズの基本事項について理解し、うまくできたか省みること		30分
5	トレーニングメニューの実践・フロアカーリング		必要に応じて自体重のトレーニングも取り入れ、改めて自分に必要なトレーニングについて確認する。また、ニュースポーツであるフロアカーリングを体験し、フロッカーをうまくコントロールしながら、仲間と競技を楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングの効果について考え、自分に必要な種目を取捨選択することができる。また、フロアカーリングでは、仲間と協力しながら戦略を立てて試合を展開することができる。		
	事前学修	フロアカーリングのルールを確認しておくこと		30分
	事後学修	フロアカーリングがうまくできたか省みること		30分
6	トレーニングメニューの確認・スキッピングロープの実践		作成したトレーニングメニューを必要に応じて修正する。また、スキッピングロープを行い、個人・チームで楽しく跳びながら、心肺機能を養う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、これまで行ってきたトレーニングメニューを見直し、自分に必要なトレーニングの取捨選択をすることができる。また、スキッピングロープを通して、個々の脂肪燃焼・心肺機能向上だけでなく、チームワークを養うことができる。		
	事前学修	筋肉疲労を軽減するためストレッチを必ず実施すること		30分
	事後学修	トレーニング段階の一区切りとしてプログラムを再検討すること、スキッピングロープの結果や課題について顧みること		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	修正したトレーニングメニューの修正・ダブルダッチの実践		前回修正したトレーニングメニューを実践する。また、ダブルダッチを行い、仲間と協力しながら、様々な跳び方に挑戦する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、修正したトレーニングメニューを実践し、更なる筋力の維持向上に繋げることができる。また、ダブルダッチを通して、心肺機能の向上とチームワークの醸成を目指し、仲間とのコミュニケーションをとることができる。	
	事前学修	ダブルダッチの基本的な跳び方や様々な技について確認しておくこと	30分
	事後学修	トレーニングの運動量を検討し意識を高めること。また、ダブルダッチではうまく跳ぶことができたか、難しい点はあったかなどについて省みること	30分
8	有酸素トレーニングの実践・ドッジビーの基本		エアロバイクやトレッドミルを活用し、有酸素トレーニングを行う。また、ドッジビーでは、様々なパスなどの基礎技術を練習する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、有酸素トレーニングの効果について理解し、実践することができる。また、ドッジビーの基本的なルールやコントロール方法を理解し、仲間と協力してゲームを展開することができる。	
	事前学修	ドッジビーの投げ方・キャッチの仕方について確認しておくこと	30分
	事後学修	短時間でも良いので、ウォーキングやジョギングなど、有酸素運動を実践してみる。また、うまくドッジビーを投げたり取ったりすることができたか振り返り、どのようにすればうまくできるか考えてみる	30分
9	トレーニングのバリエーション・ゴールドッジの実践		普段あまり使い慣れていないトレーニング器具を使用し、トレーニングを行ってみる。また、ドッジビーではミニゲーム（ゴールドッジ）を中心に行う。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、普段あまり行わないトレーニングについての知識を深め、トレーニングの幅を広げる。また、ドッジビーでは、ゴールドッジを行い、コントロールの難しさやそれを補うコミュニケーションの重要性について理解することができる。	
	事前学修	ドッジビーの様々な種目について確認しておくこと	30分
	事後学修	今日行ったトレーニングを今後のトレーニングに導入できるか考えてみる。また、うまくドッジビーをコントロールし、仲間へ繋いだりシュートすることができたか振り返ること	30分
10	トレーニングの実践・スポーツ鬼ごっこ		トレーニング（筋力・有酸素）を行う。また、スポーツ鬼ごっこでは、仲間と協力して、気持ちよく汗を流す。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の体組成を確認し、年末年始に向けての生活について考えることができる。スポーツ鬼ごっこでは、仲間との話し合いや連携を通して、チームワークを醸成することができる。	
	事前学修	スポーツ鬼ごっこのルールについて確認しておくこと	30分
	事後学修	体組成のチェックにより食生活や運動習慣を考える。スポーツ鬼ごっこでは、仲間と適切にコミュニケーションを取り、有効な戦略を立てることができたか、実践することができたかを省みる	30分
11	トレーニングの実践及び確認・コアコンディショニングの実践		トレーニング（筋力・有酸素）、及びコアを中心とした身体のコンディショニングを行う。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の身体の状態について客観的に把握することができ、調整の方法を理解した上で、実践することができる。	
	事前学修	トレーニングの結果を認識し、更にトレーニングの原則について確認しておくこと	30分
	事後学修	正しくトレーニングを実施し記録が確実にチェックすること、コアコンディショニングでは、コンディショニングの重要性・必要性および自分の身体の変化に気づくことができたかを省みる	30分
12	トレーニングの実践及び復習・ポートボールの導入		トレーニングにおいて重要なポイントを再度確認し、ポートボールでは、基礎的な技術を中心に練習する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントについて理解し、説明することができる。また、ポートボールでは、ドリブル・パス・シュート等の基礎技術の練習と、ミニゲームを行う。	
	事前学修	トレーニングの原則や重要なポイントについて確認しておくこと	30分
	事後学修	ポートボールでのポジションが適切であったか考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	トレーニング確認テスト・ポートボールの実践		トレーニングに関する確認テストを行う。また、ポートボールはゲームを中心に行う。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントについて理解し、自身のトレーニングに活用することができる。また、ポートボールでは、ゲームを通して言語的コミュニケーションだけでなく、非言語的コミュニケーションの重要性についても理解し、活用することができる。	
	事前学修	トレーニングのルールについてよく確認しておくこと	30分
	事後学修	トレーニングに関する正確な知識が身についていたか考え、これまでのトレーニングを振り返ること。ポートボールのゲームでの戦略について振り返り、チームの課題や工夫した点について考えること	30分
14	第二回体力チェック		ストレッチ、体力チェックを行い、自身の運動能力の現状について理解する。
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態を理解し、説明することができる。また、第一回体力チェックの結果と比較し、自身の身体の変化について確認することができる。	
	事前学修	体力チェックの種類や方法について再度確認しておくこと	30分
	事後学修	第一回体力チェックと第二回体力チェックの結果を比較し、その変化について分析・考察しておくこと	30分
15	自身の体力・健康状態の理解		後期のまとめ、レポート、質疑応答、講評を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関して、後期の授業を通じて変化した身体の状態について分析し、課題等に気づくことができる。また、本授業を通して学んだ知識を取捨選択し、今後の自身の生活にどのように活用すればよいか考えることができる。	
	事前学修	後期のまとめレポート作成の資料をチェックすること	30分
	事後学修	到達目標を再認識し、将来に向けて健康や体力の向上を目指し運動習慣を獲得すること	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】		
本講座は、実技科目である。授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進め、各授業回において授業後には当該授業の振り返りを課題提示を行う。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	15	15	15								45
レポート等	到達目標①～③が達成できているかについて、実施した各種身体運動やグループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等	到達目標①～③が達成できているかについて、グループワークにおいて自身の考えを示すことができているかをグループワーク課題及び振り返りシートを用いて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②、③が達成できているかについて、対面授業において、問題発見、課題解決などの取り組みの積極性を受講態度や振り返りシートを用いて評価する。		10	15								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
対面授業時に受け付けるが、必要に応じてオンライン（Zoom等）によって対応する。※事前に連絡をすること (E-mail: satou.hideaki @ nihon-u.ac.jp)。また、オンライン授業では、クラスルームを通じて随時質問等を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動・スポーツの心理的効果について	・ガイダンス：授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 ・軽運動を通じて運動・スポーツの心理的効果を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 各課題について振り返る。	30分
2	体力の把握	・体力測定によって自身の体力について考える ・ペアで行う軽運動	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から自己評価を行う。 振り返りシートを作成する。	30分
3	身体のアライメントとコンディショニング	・姿勢が身体不調に及ぼす影響について理解する。 ・ツールコンディショニングについて実践を通じて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	姿勢と身体不調の関係、コンディショニングについて事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	姿勢のアライメント、ツールコンディショニングについて振り返り、自分に合ったコンディショニングを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
4	スタビライゼーショントレーニング	・体幹トレーニングの実践 ・トレーニングプログラムの作成及び実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	身体を適切に支持する「体幹」とは何か事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	各自で作成したプログラムの検証及び振り返りシートを作成する。	30分
5	有酸素運動	・ボクササイズの動作の理解とその実践 ・トレーニングプログラムの作成及び実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	有酸素運動の有効性について事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	各自で作成したプログラムの検証及び振り返りシートを作成する。	30分
6	インターバルトレーニング	・HIIT及びタバタ式トレーニングの実践 ・グループワーク ・トレーニングプログラムの作成及び実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	インターバルトレーニングの有効性について事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	各自で作成したプログラムの検証及び振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ロープスポーツ 1	・縄跳び、ダブルダッチ ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施する運動・スポーツについて、動画の視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツの振り返りを行い、課題の設定及び方策を挙げる。 実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考える。 振り返りシートを作成する。	30分
8	ロープスポーツ 2	・ダブルダッチ ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業内容を振り返り、課題設定を行う。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。	30分
9	ラケットスポーツ 1	・場所に合ったゲームの楽しみ方を考える ・グループワーク ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施する運動・スポーツについて、動画の視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考える。 振り返りシートを作成する。	30分
10	ラケットスポーツ 2	・場所に合ったゲームの楽しみ方を考える ・グループワーク ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、実施したスポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べてくる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考える。 振り返りシートを作成する。	30分
11	ラケットスポーツ 3	・場所に合ったゲームの楽しみ方を考える ・グループワーク ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標③に関連して、実施したスポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べてくる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考える。 振り返りシートを作成する。	30分
12	卓球1 (ダブルス 1)	・卓球 (ダブルス、トーナメント) ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べてくる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツの振り返りを行い、課題の設定及び方策を挙げる。 振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卓球2（ダブルス2）	・卓球（ダブルス）の実施 ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業内容を振り返り、課題設定を行う。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	設定した課題及び方策についての振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
14	卓球3（チーム戦）	・卓球（チーム戦）の実施 ・各自で作成したトレーニングプログラムの実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業内容を振り返り、課題設定を行う。事前学習シートを作成する	20分
	事後学修	設定した課題及び方策についての振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
15	まとめ 運動・スポーツへの参加について	・体育スポーツ実習Bの振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標①～③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。 半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。 運動・スポーツの実施によって得られる恩恵及び運動・スポーツに参加するために必要な情報等について調べる。 課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニング（体組成計測定含む）を並行して展開していく。出席状況で授業内容を変更する場合もある。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかどうかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標が達成できているかどうかについて、各回の課題を実施し身体運動や理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した身体運動から、グループワークを通じて自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて 担当教員連絡先 shiojima.riell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体操		準備体操などストレッチを行う	
	この回の到達目標	自身の運動能力を発揮できるよう、基礎的なストレッチを自身で行えるようにする		
	事前学修	授業内容等の確認 体育実技にふさわしい服装の準備をすること		30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認する		30分
2	体力チェック		各施設使用方法説明 体力チェックテスト（２）を行う	
	この回の到達目標	自身の体力状況を把握し、今後の目標を定める		
	事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する		30分
	事後学修	体力チェックテスト（１）との比較ができるように記入用紙を作成する		30分
3	軽スポーツ		器具トレーニング 軽スポーツ各種実施する	
	この回の到達目標	当該スポーツにおいて必要な技術およびルールを説明することができる		
	事前学修	軽スポーツ 各種ルールの予習を行う		30分
	事後学修	軽スポーツ 各種ルールの復習を行う		30分
4	バドミントン（シングルス）①		バドミントンのシングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの基本動作を習得する		
	事前学修	バドミントンのフォア・バックの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントンのフォア・バックの復習を行う		30分
5	バドミントン（シングルス）②		バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、ヘアピン） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの基本動作を習得する		
	事前学修	バドミントンのヘアピンの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントンのヘアピンの復習を行う		30分
6	バドミントン（シングルス）③		バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの基本動作を習得する		
	事前学修	バドミントンのサーブの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントンのサーブの復習を行う		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バドミントン（シングルス）④		バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとドライブ） 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの基本動作を習得する		
	事前学修	バドミントンのサーブとドライブの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントンのサーブとドライブの復習を行う		30分
8	バドミントン（シングルス）⑤		バドミントン シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンのルールを学び、試合に向けてスキルアップを目指す		
	事前学修	バドミントン シングルのゲームとルールの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントン シングルのゲームとルールの復習を行う		30分
9	バドミントン（シングルス）⑥		バドミントン シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの試合に向けてスキルアップを目指す		
	事前学修	バドミントン シングルのルールとマナーの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントン シングルのルールとマナーの復習を行う		30分
10	バドミントン（シングルス）⑦		バドミントン シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントンの試合に向けてスキルアップを目指す		
	事前学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略を予習する		30分
	事後学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略の復習を行う		30分
11	バドミントン（ダブルス）①		バドミントン ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントン（ダブルス）の試合に向けてルールを学び、スキルアップを目指す		
	事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの予習を行う		30分
	事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの復習を行う		30分
12	バドミントン（ダブルス）②		バドミントン ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
	この回の到達目標	バドミントン（ダブルス）の試合に向けてスキルアップを目指す		
	事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する		30分
	事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	バドミントン（ダブルス）③		バドミントン ダブルス戦 リーグ戦3回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う 体組成計測定データをもとに振り返り、レポート課題を作成する
	この回の到達目標	バドミントンにおける基本動作を習得し実施することができる	
	事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認	30分
	事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う	30分
14	軽スポーツ		器具トレーニング 軽スポーツ各種実施する 体組成計測定データをもとに振り返り、レポート課題を作成する
	この回の到達目標	当該スポーツにおいて必要な技術およびルールを説明することができる	
	事前学修	軽スポーツ 各種ルールの予習を行う	30分
	事後学修	軽スポーツ 各種ルールの復習を行う	30分
15	体育・スポーツのまとめ		【まとめ】授業の振り返り、講評
	この回の到達目標	体育およびスポーツの実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる	
	事前学修	半期の振り返りを行う	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業は対面式で実施する。運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（運動着、屋内運動用シューズ）。授業後の課題提出に必要な通信環境とデバイスがあること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。対面授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 第3～9回までは履修者を2グループに分け、トレーニングとスポーツ実践を交互に実践する。 また授業終了後、振り返り課題の提出をclassroomから行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
対面授業時またはClassroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shirato.minayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	〔ガイダンス〕 ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 ・classroomへの登録	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 classroomから課題を提出。	30分
2	体力の把握	・簡易的な体力測定	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。classroomから課題を提出。	30分
3	ユニバーサルホッケー①	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
4	ユニバーサルホッケー②	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
5	ユニバーサルホッケー③	・連携プレイと応用技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、試合などの動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
6	ユニバーサルホッケー④	・連携プレイと応用技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、試合などの動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	簡易版フットサル①		・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
8	簡易版フットサル②		・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
9	簡易版フットサル③		・連携プレイと応用技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進と健康について説明することができる。 到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、試合などの動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
10	卓球①		・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
11	卓球②		・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分
12	卓球③		・回転を考えた応用技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卓球④	・回転を考えた応用技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
14	卓球⑤	・様々なゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。classroomから課題を提出。	30分
15	まとめ・振り返り	・自己評価、全授業の感想 ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	今後の運動計画について立案する。classroomから課題を提出。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力や運動経験の有無は不問だが、積極的に受講できること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用し、実技形式で実施する（最終回のみ、講義形式）。特定のスポーツ種目ではなく、①目的に応じた様々なフィットネスエクササイズの実践、②数種目のニュースポーツを取り扱う。授業の開始時に、配布資料を用いて実技課題及び関連する理論についてのレクチャーを行った後、実技を実施する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進め、学習後は各回の学習内容を記載する。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、実施した各種身体運動から、グループワークなどを通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定及び解決方策を開めることができるかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内における実技実践の取り組みやグループワークにおいて課題を理解し実践しているかの行動を基準に、理解と実践の融合の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②③が達成できているかについて、自身の課題提示、課題解決などへの取り組みの積極性を事前学習フォームや授業記録シートを用いて評価する。		10	15								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録シート、課題リポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	運動・スポーツの身体効果		〔ガイダンス〕授業の目的・方法・評価方法・受講上の注意・授業計画の説明 軽運動、 運動・スポーツの身体的、心理的效果を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、運動・スポーツの身体的、心理的效果について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 「運動」の身体的効果、心理的效果について授業記録シートにまとめる。		30分
2	身体調整系エクササイズ		・身体ほぐしのゲーム ・自重トレーニング ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。自らの身体づくりへの見通しを立てることができる。		
	事前学修	自分に必要な自重トレーニングを1種類調べ、グループで共有できるように準備する。		30分
	事後学修	実施したエクササイズに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
3	マシントレーニング（負荷設定の確認）		・マシントレーニング ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、マシントレーニングにおける間接法を用いた1RMの測定、計算と目的に応じた負荷設定ができる。		
	事前学修	前期の1RMの値を確認し、トレーニングカードに書き写して準備する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
4	ディスクスポーツ①		・フライングディスクのキャッチ&スローとドッジビー ・実施種目に対応した適切なウォームアップとは？	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、フライングディスクの特性を理解し基本的な技能を身につけることができる。またそれを当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	「フライングディスク」を使った競技に関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
5	ディスクスポーツ②		・ミニアルティメット（グループ戦） ・グループワーク ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	ディスクスポーツ③		・ミニアルティメット（グループ戦） ・グループワーク ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	ディスクゴルフに関する動画の視聴や関連資料を調べ、ルールやスローの基本技能を事前学習シートにまとめておく		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	身体調整系トレーニング②		・ヨガ（目的に応じたヨガの選択と実践）。 ・マインドフルネス	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、ヨガ・マインドフルネスについて当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べておく。 自分の「生活」「思考」に関する課題や改善したい点があれば書き出しておく。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
8	ボールゲーム①		・ボールを用いてパスゲーム（基本的技能練習とミニゲーム） ・ボールを用いたマルチタスクトレーニング ・マシントレーニング(各自の目的に応じた負荷設定)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	「ニュースポーツ」の特徴について調べ、ポートボールに関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
9	ボールゲーム②		・ポートボール（ガードマンなし） ・グループワーク（ゲーム運営） ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
10	ボールゲーム③		・ポートボール（ガードマンあり） ・グループワーク（ゲーム運営） ・マシントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。		
	事前学修	ゲーム運営ができるようにルール詳細と審判について調べておく 事前学習シートの作成		30分
	事後学修	ガードマンの有無によってゲームの展開がどのように違ったかを考察し、その役割について授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
11	ツールコンディショニング①		・身体の歪みチェック ・「バランスボール」を用いた歪みの矯正や調整エクササイズ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	バランスボールの特徴と運動効果について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
12	ツールコンディショニング ②		・ステップ台を用いたステップエアロビクス① ・フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使ったファンクショナルローラーピラティス	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について特に「ツールを利用したエクササイズ」の特徴と効果を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使った「ベーシック7」を調べておく。事前学習シートの作成。		30分
	事後学修	実施したエクササイズについての振り返りを行い、タオルなどの代用品で再度実践する。 授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ツールコンディショニング③	・ステップ台を用いたステップエアロビクス② ・フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使った筋膜リリース	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、ステップエアロビクスの特徴とその効果について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使った「ベーシック7」を一人で実践できるようにする。事前学習シートの作成。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	ツールコンディショニング④	・「バランスボール」を用いたマルチタスクトレーニングと体幹トレーニング ・アクティブケアとパッシブケア	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について、特に「バランスボール」の特徴と身体への効果を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	自分の目的に応じたポーズを調べ、ポイントを説明できるようにしておく。事前学習シートの作成。	30分
	事後学修	実施したエクササイズについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
15	講義：「食行動と食の安全」 「睡眠のメカニズム」	・グループワーク（自己評価と学習内容の整理・実生活へ生かすための方法共有） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「当該授業で学習したことを実際の生活に生かすための方法や、運動へのモチベーションを高める方法」について自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	40分
	事後学修	「ライフスタイル（食行動と睡眠）」に関する課題と具体的な解決方法と授業記録シートにまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
医師に運動を止められていない者。

【授業方法】
実技と演習を行います。アニメソングやJポップなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	実技テスト	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	ダンス作成シート	10	5	5								20
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークの参加度 欠席1回5点マイナス、遅刻早退マイナス3点	50	5	5								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	15	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	オリジナルの演習ノートを使います				

【オフィスアワー】
質問、相談は毎授業後（水曜1、2限）に受け付けます。 アドレス：tanaka.masako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業、官公庁、民間フィットネスクラブ 健康教育、エアロビックダンス指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		健康教育（企業セミナー 官公庁） エアロビックダンス指導及び指導者養成（スポーツセンター、民間フィットネスクラブ）	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習・導入講義	前期で行ったスダンスの復習	
	この回の到達目標	前期で行った課題曲を行い、運動量を確保する。	
	事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
	事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
2	コンビネーションの復習	コンビネーションの復習と指導（1） コンビネーションを作成し指導を行う。	
	この回の到達目標	グループでコンビネーションを作成して、運動量を確保する。	
	事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
	事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
3	シンメトリーコンビネーション	コンビネーションの復習と指導（2） シンメトリーコンビネーションを学生が作成し指導を行う。	
	この回の到達目標	リードチェンジテクニックを使って、シンメトリーコンビネーションを作成し実施する。	
	事前学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
	事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
4	指導方法	指導方法 キューイング	
	この回の到達目標	学生同士でエアロビックダンスを実施できるように指導方法を理解する。	
	事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
	事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
5	フォーメーションの効果と方法	フォーメーション隊形移動の効果と方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	学生が作成するダンスでフォーメーションを振りつけるために、フォーメーションの方法と効果を理解する。	
	事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
	事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
6	グループワーク（1） 楽曲分析	楽曲の決定とステップシートを用いて、楽曲の分析を行う。	
	この回の到達目標	グループで選んだ楽曲の構成を分析する。	
	事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
	事後学修	楽曲の構成をステップシートにて確認	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワーク（2）	楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
	この回の到達目標	楽曲の構成を理解し、コンビネーションを振り付ける。	
	事前学修	楽曲の構成をステップシートにて確認	30分
	事後学修	作成中のダンスの練習	30分
8	グループワーク（3）	楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
	この回の到達目標	楽曲の構成を理解し、コンビネーションを振り付ける。	
	事前学修	作成中のダンスの練習	30分
	事後学修	作成中のダンスの練習	30分
9	グループワーク（4）	グループワーク（4） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
	この回の到達目標	楽曲の構成を理解し、コンビネーションを振り付ける。	
	事前学修	作成中のダンスの練習	30分
	事後学修	作成中のダンスの練習	30分
10	グループワーク（5）	イメージにあったアームスの振付	
	この回の到達目標	足の動きに手の動きを振り付ける。	
	事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
	事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
11	グループワーク（6）	フォーメーションの作成	
	この回の到達目標	フォーメーション（隊形移動）を振り付ける。	
	事前学修	完成したダンスの練習	30分
	事後学修	完成したダンスの練習	30分
12	グループワーク（7）	グループメンバー全員が動けるように練習をする。	
	この回の到達目標	作成したダンスを動けるようにする。	
	事前学修	完成したダンスの練習	30分
	事後学修	完成したダンスの練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	実技テスト		発表 実技テスト
	この回の到達目標	作成したダンスで運動を行えるようにする。	
	事前学修	完成したダンスの練習	30分
	事後学修	完成したダンスの練習	30分
14	作成したプログラムで運動する		学生の作成したプログラムの実施
	この回の到達目標	完成したプログラムで運動する。	
	事前学修	完成したダンスの練習	30分
	事後学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
15	まとめ 講評		まとめ、講評 今まで学習したフィットネスダンス全曲と学生が作成したダンスを行う。
	この回の到達目標	学習したプログラムと、学生が作成したダンスを実施	
	事前学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
	事後学修	健康づくりのために自分たちが作成したダンスを学友同士で実施し運動習慣をつける。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。第1回目は証明写真を持参すること。

【授業方法】
出席・実施内容の説明を行う。授業開始・終了時にはウォーミングアップとクールダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み：12:10～13:00メールにて事前に予約をすることtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について	[ガイダンス] ①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操	[ストレッチ体操] 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
3	自重トレーニングを知る	[自重トレーニング] スタビラゼーショントレーニングを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビラゼーショントレーニングの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	等張性筋収縮について調べる。	30分
	事後学修	体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
4	球技:卓球 (シングルス)_1	ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を理解し、説明できる。	
	事前学修	卓球のルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球における体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	球技:卓球 (シングルス)_2	個人戦術について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、個人戦術の実践形式について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
6	球技:卓球 (ダブルス)_3	実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式においてのチームにおけるコミュニケーション理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	球技:卓球（ダブルス）_4	ダブルス形式における戦略戦術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ダブルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
	事前学修	ダブルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ダブルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
8	球技:ユニバーサルホッケー(基本動作)_1	スティックの使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スティックの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
	事前学修	ユニバーサルホッケーのルールについて調べる。	30分
	事後学修	ユニバーサルホッケーにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
9	球技:ユニバーサルホッケー(実践形式)_2	個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、個人戦術、チーム戦術の技術について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
10	球技:ユニバーサルホッケー(実践形式)_3	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションの取り方について、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
11	球技:ユニバーサルホッケー(実践形式)_4	実践形式におけるチームにおける戦術の振り返りを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおける戦術の振り返りを理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
12	器具を使ったトレーニング_1	正しいフォームを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、力が発揮できるフォームについて、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	器具を使ったトレーニング_2	適切な負荷の設定を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	器具を使ったトレーニング_3	トレーニングメニューに関して学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トレーニングメニューに関して理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
15	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
	事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業時には、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
全授業15回対面実技授業を行います。授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提に授業を進めて行きます。授業開始・終了時に、傷害予防のためのウォーミングアップとクールダウンを行い、安全に配慮しながら進めていきます。授業中、授業後は、課題提示、及び、事後学習を行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および問題解決を行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③について、スポーツの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回のいずれかで、授業内テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。		5	5								10
小テスト等	到達目標①②③について、各種スポーツの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、毎回の授業で運動課題と研究課題を履修学生に課し、これを小テストとして評価する。主な評価内容は、以下の2点である。 1) 運動課題をおこない、記述する。 2) 研究課題をおこない、記述する。 (15%)。	5	5	5								15
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の運動課題と研究課題を実施し、提出されたコメント、及び、関連知識のチェックを通じて、身体運動、運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。 第1回と第13回、第14回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第7回、第8回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく (15%)。	5	5	5								15
討論・発表等	到達目標①②が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化（成長）の度合いを評価する。 (10%)	5	5									10
授業への参画度	実施した各種身体運動からグループワーク等を通じて、自己の身体感覚を言語化して他者に伝えること。グループの仲間と協力して、問題発見・課題設定をおこなうこと。協調性を発揮し、課題解決、解決方策に取り組むことが出来るかを評価する。(50%)	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	40	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
運動課題と研究課題を評価し、履修者にフィードバックしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トレーニング科学 最新エビデンス	安部 孝	講談社サイエンティフィック	2008年	参考書	任意
乳酸を活かしたスポーツトレーニング	八田 秀雄	講談社	2002年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後金曜日18時10分～18時25分（休暇中を除く。事前にメールで連絡をしてください。） zononishi53@hotmail.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義※アンケート調査の実施		・ガイダンス：授業の目的、方法、評価方法、受講上の注意、授業計画の説明等を行う。運動課題：軽運動の実践 研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	体力の把握		自己の体力の把握を、簡易的な体力測定で実践していく。 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
3	軽運動ジョギングの実践		軽運動ジョギングの実践 ・運動課題：軽運動：10分間ジョギング 当該スポーツの技術の習得、ジョギングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ジョギングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ジョギングのフォームについて、予習する。		30分
	事後学修	ジョギングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
4	ウォーキングの実践		ウォーキングの実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、ウォーキングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ウォーキングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ウォーキングのフォームについて、予習する。。		30分
	事後学修	ウォーキングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
5	コーディネーショントレーニング		身体の機能全体の調整力トレーニングについて ・運動課題：コーディネーショントレーニング、調整力の理解 ・研究課題：コーディネーショントレーニングを通じて、当該種目の楽しさを感じる。 コーディネーションの理解と整理を行う。	
	この回の到達目標	到達目標：到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
6	ディスクスポーツ①		ディスクスポーツ①の実践 ・運動課題：フライングディスクのスローとキャッチ ・研究課題：ゴールゲームの実施	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び映像視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	コンディショニング②※課題レポートの実施※授業内テストの実施		コンディショニング②の実践 ・運動課題：セルフマッサージの効果（四肢のコンディショニング） ・研究課題：身体的疲労、精神的疲労の原因および、身体運動の効果について整理する。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
8	筋力トレーニング①※課題レポートの実施※授業内テストの実施		筋力トレーニング① ・運動課題：筋発揮張力維持法（スロートレーニング） ・研究課題：筋肉の衰えと健康
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
9	筋力トレーニング②※授業内テストの実施		筋力トレーニング② ・運動課題：体幹トレーニング（色々なスタビライゼーショントレーニングの実践） ・研究課題：筋力トレーニングの効果について調査する。
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調査する。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
10	サッカー1vs1、2vs2の実践※授業内テストの実施		サッカー1vs1、2vs2の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「攻撃守備における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー1vs1、2vs2の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：サッカーを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。学習内容の整理。運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	サッカーの攻撃における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。	30分
11	サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践		サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「守備における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。守備における個人のプレーと2人関係について学習出来たことを記述する。
	この回の到達目標	サッカーの実践上、守備における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備し予習する。守備における2人の協力関係について説明することができる。	
	事前学修	守備における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備し、予習を行う。	30分
	事後学修	実施したサッカーについての振り返りを行い、理解を深める。課題を行う。	30分
12	卓球①※授業内テストの実施		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える
	この回の到達目標	①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化※アンケート調査の実施※授業内テストの実施		筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化 ・運動課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の評価（各種ジャンプ運動や椅子からの立ち上がり10回測定など）の実践。 ・研究課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の強化（スクワット運動など）について、理解する。評価を整理し、感想を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調査する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
14	卓球②：卓球（ダブルス）※アンケート調査の実施		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分
15	卓球③：卓球（スマッシュ、カットの実践）		・運動課題：技術スマッシュ、カットの打法の理解と習得 ・研究課題：ゲームを通じて、卓球のスマッシュ、カットを考える	
	この回の到達目標	技術スマッシュ、カットについて、説明することが出来る。技術スマッシュ、カットを用いて、ゲームを楽しむことが出来る。		
	事前学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。		60分
	事後学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。ゲームの中で、技術スマッシュ、カットの有効性と課題を整理し、復習する。運動課題と研究課題を行う。		60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
授業時には、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】		
全授業15回対面実技授業を行います。授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提に授業を進めて行きます。授業開始・終了時に、傷害予防のためのウォーミングアップとクールダウンを行い、安全に配慮しながら進めていきます。授業中、授業後は、課題提示、及び、事後学習を行っていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および問題解決を行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③について、スポーツの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回の何れかで、授業内テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。		5	5								10
小テスト等	到達目標①②③について、各種スポーツの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、毎回の授業で運動課題と研究課題を履修学生に課し、これを小テストとして評価する。主な評価内容は、以下の2点である。 1) 運動課題をおこない、記述する。 2) 研究課題をおこない、記述する。 (15%)。	5	5	5								15
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の運動課題と研究課題を実施し、提出されたコメント、及び、関連知識のチェックを通じて、身体運動、運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。 第1回と第13回、第14回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第7回、第8回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく (15%)。	5	5	5								15
討論・発表等	到達目標①②が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べることできたかを基準に、深化（成長）の度合いを評価する。 (10%)	5	5									10
授業への参画度	実施した各種身体運動からグループワーク等を通じて、自己の身体感覚を言語化して他者に伝えること。グループの仲間と協力して、問題発見・課題設定をおこなうこと。協調性を発揮し、課題解決、解決方策に取り組むことが出来るかを評価する。(50%)	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	40	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
運動課題と研究課題を評価し、履修者にフィードバックしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トレーニング科学 最新エビデンス	安部 孝	講談社サイエンティフィック	2008年	参考書	任意
乳酸を活かしたスポーツトレーニング	八田 秀雄	講談社	2002年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後金曜日18時10分～18時25分（休暇中を除く。事前にメールで連絡をしてください。） zononishi53@hotmail.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。過去に他大学での同内容の講師経験を有する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入※アンケートの実施	・ガイダンス：授業の目的、方法、評価方法、受講上の注意、授業計画の説明等を行う。運動課題：軽運動の実践 研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	30分
2	体力の把握	自己の体力の把握を、簡易的な体力測定で実践していく。 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	軽運動ジョギングの実践	軽運動ジョギングの実践 ・運動課題：軽運動：10分間ジョギング 当該スポーツの技術の習得、ジョギングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ジョギングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ジョギングのフォームについて、予習する。	30分
	事後学修	ジョギングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
4	ウォーキングの実践	ウォーキングの実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、ウォーキングフォームの理解。心拍数の計測。 ・研究課題：ウォーキングを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。運動効果を調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	ウォーキングのフォームについて、予習する。	30分
	事後学修	ウォーキングの体力測定を行う。体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
5	コーディネーショントレーニング	身体の機能全体の調整力トレーニングについて ・運動課題：コーディネーショントレーニング、調整力の理解 ・研究課題：コーディネーショントレーニングを通じて、当該種目の楽しさを感じる。 コーディネーションの理解と整理を行う。	
	この回の到達目標	到達目標：到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。	30分
6	ディスクスポーツ①	ディスクスポーツ①の実践 ・運動課題：フライングディスクのスローとキャッチ ・研究課題：ゴールゲームの実施	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び映像視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	コンディショニング②※課題レポートの実施※授業内テストの実施		コンディショニング②の実践 ・運動課題：セルフマッサージの効果（四肢のコンディショニング） ・研究課題：身体的疲労、精神的疲労の原因および、身体運動の効果について整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
8	筋力トレーニング①※課題レポートの実施※授業内テストの実施		筋力トレーニング① ・運動課題：筋発揮張力維持法（スロートレーニング） ・研究課題：筋肉の衰えと健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
9	筋力トレーニング②※授業内テストの実施		筋力トレーニング② ・運動課題：体幹トレーニング（色々なスタビライゼーショントレーニングの実践） ・研究課題：筋力トレーニングの効果について調査する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調査する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
10	サッカー1vs1、2vs2の実践※授業内テストの実施		サッカー1vs1、2vs2の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「攻撃における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー1vs1、2vs2の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：サッカーを通じて、当該スポーツの楽しさを感じる。学習内容の整理。運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	サッカーの実践上、攻撃における個人のプレーと2人関係でのプレーについて、映像や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分
11	サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践		サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の実践 ・運動課題：当該スポーツの技術の習得、「守備における2人の関係」の理解。心拍数の計測：サッカー2vs2、2vs2プラス1フリーマン、3vs3の体力測定評価を心拍数を計測する。 ・研究課題：運動効果を調査結果を通じての感想を記述する。 守備における個人のプレーと2人関係について学習出来たことを記述する。	
	この回の到達目標	サッカーの実践上、守備における2人の協力関係について、映像や関連資料を調べて準備し予習する。サッカーの守備における2人の協力関係について、説明することができる。		
	事前学修	サッカーの実践上、守備における個人のプレーと2人の関係について、映像や関連資料を調べて準備し予習する。		30分
	事後学修	実施したサッカーについての振り返りを行い、理解を深める。課題を行う。		30分
12	卓球①※授業内テストの実施		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化※アンケートの実施※授業内テストの実施		筋力トレーニング③下肢筋力の評価と強化 ・運動課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の評価（各種ジャンプ運動や椅子からの立ち上がり10回測定など）の実践。 ・研究課題：下肢の筋力、及び、パワー発揮能力の強化（スクワット運動など）について、理解する。評価を整理し、感想を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調査する。		30分
	事後学修	運動課題実施後に、課題内容の整理と感想をまとめて記述する。		30分
14	卓球②：卓球（ダブルス）※アンケートの実施		・運動課題：当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・研究課題：ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など映像視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。		30分
15	卓球③：卓球（スマッシュ、カットの実践）		・運動課題：技術スマッシュ、カットの打法の理解と習得 ・研究課題：ゲームを通じて、卓球のスマッシュ、カットを考える	
	この回の到達目標	技術スマッシュ、カットについて、説明することが出来る。技術スマッシュ、カットを用いて、ゲームを楽しむことが出来る。		
	事前学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。		60分
	事後学修	技術スマッシュ、カットの打法を予習する。ゲームの中で、技術スマッシュ、カットの有効性と課題を整理し、復習する。運動課題と研究課題を行う。		60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装（ジャージ等）、靴（室内用）を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します。アドレス：fujii.hiromu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 【体への理解とメンテナンス方法の実践】		体育実技ⅠBについてのガイダンスおよび授業方法についての解説 体ほぐし、ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することができる。 体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明することができる。		
	事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。		30分
	事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。		30分
2	【卓球のルール理解と実践】 【ダブルスとは】		卓球 ダブルスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	卓球のダブルスのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。		30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。		30分
3	【卓球のルール理解と実践】 【ダブルスのゲーム】		卓球 ダブルスのルールの復習とリーグ戦	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	ルールについて確認し、とくにダブルスにおけるペアのローテーションの仕方を復習しておく。		30分
	事後学修	卓球ダブルスの楽しさとはシングルスに比べてどういう点か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。		30分
4	【ボッチャのルール理解と実践】		ボッチャ ボッチャのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	ボッチャについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。		30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。		30分
5	【ボッチャのルール理解と実践】		ボッチャ ボッチャのルールの復習とリーグ戦	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	ボッチャについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 どのように戦略を工夫したり、協力したりすると楽しめるか考えておく。		30分
	事後学修	ボッチャの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。		30分
6	【ミニテニスのルール理解と実践】		ミニテニス ミニテニスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	テニスについて、ゲームの種類やルールなどについて調べておく。		30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【ミニテニスのルール理解と実践】		ミニテニス ミニテニスのルールの復習とリーグ戦	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	ミニテニスについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 また小さなコートで行う際に、ルールをどのように工夫すると楽しめるか考えておく。		30分
	事後学修	テニス型ゲームの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。		30分
8	【さまざまな運動理論の学習と実践】		様々なトレーニングを体験 DVDなどを用いたヨガやエアロビクスなどの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	様々な健康体操やストレッチ運動などについて、どのようなものがあるか書籍や関連動画について調べておく。		30分
	事後学修	実施した運動を振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。		30分
9	【縄を用いた運動】		大縄、短縄を用いた運動 いろいろな種類の縄を用いた運動の実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	縄を用いた運動にはどういったものがあるか、書籍や関連動画について調べておく。		30分
	事後学修	実施した運動を振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。		30分
10	【ドッジボールのルール理解と実践】		ドッジボール・ドッジビー ドッジボールやドッジビーのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	ドッジボール・ドッジビーについて、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。		30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。		30分
11	【バランスボールを用いた運動】		バランスボール バランスボールを用いた様々なエクササイズの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	バランスボールの特徴を把握し、どのようなエクササイズがあり、効果が期待できるのか、あらかじめ調べておく		30分
	事後学修	バランスボールを用いた運動の仕方や効果を復習し、自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。		30分
12	【フリスビーのルール理解と実践】		フリスビー フリスビーのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。		
	事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。		30分
	事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【フリスビーのルール理解と実践】	フリスビー フリスビーのルールの復習とリーグ戦	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
	事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを復習しておく。 また投げ方やキャッチのコツなどについても調べておく。	30分
	事後学修	フリスビーの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
14	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。 また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
	事前学修	前期に行った体力チェックテストの結果を見直しておく。 またこれまでの授業の取り組みで、向上が望める種目を予想しておく。	30分
	事後学修	体力チェックテストの結果を振り返り、自分自身の体力について考えるとともに、 後期の授業（運動）への取り組みを評価する。	30分
15	【後期の授業の振り返りと解説】	まとめ及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
	事前学修	体育実技ⅠBの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
	事後学修	授業を振り返り、自分自身のからだにとってどのような学びがあったのかをまとめる。今後も継続して運動やスポーツを続けるためにはどのような運動が適しているか、自己分析をおこなう。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	星 大輔	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。授業時に不足した関連情報は、クラスルームを通じて〔課題〕として配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動・スポーツ活動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業で行った有酸素トレーニングについて、到達目標①～③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15								45
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～③に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	授業における準備・後片付け、仲間とのコミュニケーション等の授業に臨む姿勢を中心として、どれだけ積極的に授業に取り組むことができたかを基準に、到達目標①～③に関わる主体的な学習態度が身についているかを評価する。	15	10	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題レポートについて、授業内に講評および解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に受け付ける。 授業時以外はE-mailにて受け付ける（ hoshi.daisuke@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入		・ガイダンス：授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	有酸素運動の実践、ユニホック基礎		有酸素運動（エアロバイク、エアロクライム）の使用方法を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的なルールおよび技術を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、様々な有酸素運動の方法を学ぶ。また、ユニホックでは基礎的な動きやスティックの扱い方ができる。		
	事前学修	有酸素運動のトレーニングメニューを考えること。 ユニホックについて事前に調べる。		30分
	事後学修	実践したトレーニングをもとにトレーニング計画を考える。 試合に向けたスティックの扱い方および動きについて考えること。		30分
3	有酸素運動の実践、ユニホック①		自身に最適な有酸素トレーニングプログラムを作成し実践する。また、ユニホックを用いて基礎練習およびミニゲームを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、様々な有酸素運動の方法を学ぶ。また、ユニホックでは基本的な動きができる。		
	事前学修	自身にあった有酸素運動を考える。ユニホックのに必要な体力づくりを行う。		30分
	事後学修	ユニホックでは仲間とコミュニケーションをとり勝利するためにどうしたらよいか話す。		30分
4	有酸素運動の実践、ユニホック②		自身に最適な有酸素トレーニングプログラムを実践する。また、ユニホックを用いて基礎練習およびミニゲームを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身に必要な有酸素運動トレーニングのメニューを作成することができる。また、ユニホックでは、味方からのパスからシュートをすることができる。		
	事前学修	これまでに実践していた有酸素運動はどのくらいの運動強度（心拍数やRPE）か考える。ユニホックのルールを理解する。		30分
	事後学修	実践からプログラムを修正し、以降の授業に生かす。ユニホックでは仲間とコミュニケーションをとり勝利するためにどうしたらよいか話す。		30分
5	有酸素運動の実践、ユニホック③		自身に最適な有酸素トレーニングプログラムを実践する。また、ユニホックではミニゲームを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントについて理解し、説明することができる。また、ユニホックの試合では戦略について仲間とコミュニケーションをとり試合を展開する。		
	事前学修	ユニホックに関する戦術を事前に学習する。		30分
	事後学修	実践した有酸素運動プログラムと当初の目標を確認し、プログラムの修正を行う。ユニホックでは、対戦した相手や仲間とコミュニケーションをとり、讃えあう。		30分
6	有酸素運動実践、ボッチャの実践		自身が作成した有酸素運動のトレーニングを行う。また、ボッチャの説明と基礎練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、有酸素運動の効果について理解し、実践することができる。また、ボッチャのルールやコントロール方法を理解し、仲間とコミュニケーションをとりながら工夫する。		
	事前学修	前回の授業から、自分に合った有酸素運動の強度（心拍数）を設定する。また、関連資料を用いてボッチャのルール、コツを調べる。		30分
	事後学修	実践した有酸素運動を振り返る。ボッチャのコツについて仲間と共有し、次回の試合につなげる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	様々な有酸素運動実践、ボッチャの実践（応用）		エアロバイクやトレッドミルを用いて有酸素運動を行う。ボッチャはミニゲームを中心にチーム戦を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、普段実践していない有酸素運動に挑戦する。ボッチャではチームで戦略を話し合いながら試合を進める。		
	事前学修	ボッチャの試合ルールについて調べる。		30分
	事後学修	今回の有酸素運動方法を踏まえて、今後のトレーニング方法の検討を考える。		30分
8	有酸素運動実践、フロアカーリング基礎		自身が作成した有酸素運動を振り返り、トレーニングを実践する。また、フロアカーリングの説明と基礎練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、有酸素運動の効果について理解し、実践することができる。また、フロアカーリングのルールやコントロール方法を理解し、仲間とコミュニケーションをとりながら工夫する。		
	事前学修	関連資料を用いてフロアカーリングのルール、コツを調べる。		30分
	事後学修	実践した有酸素運動を振り返り、プログラムの修正を行う。フロアカーリングのコツについて仲間と共有し、次回の試合に生かす。		30分
9	有酸素運動実践、フロアカーリング①		自身が作成した有酸素運動のトレーニングを行う。また、フロアカーリングのチーム戦を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントについて理解し、説明することができる。また、フロアカーリングの試合では戦略について仲間とコミュニケーションをとり試合を展開する。		
	事前学修	フロアカーリングの試合ルールについて調べる。		30分
	事後学修	日常的なカロリー消費または摂取について数値化し、振り返る。フロアカーリングでは、対戦した相手や仲間とコミュニケーションをとり、讃えあう。		30分
10	有酸素運動実践、フロアカーリング②		自身が作成した有酸素運動のトレーニングを行う。また、フロアカーリングのチーム戦を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、トレーニングを行う上で重要なポイントについて理解し、説明することができる。また、フロアカーリングの試合では戦略について仲間とコミュニケーションをとり試合を展開する。		
	事前学修	フロアカーリングの試合ルールについて調べる。		30分
	事後学修	プログラムを実施し、当初の目標と見比べながらプログラムの修正を行う。フロアカーリングでは、対戦した相手や仲間とコミュニケーションをとり、讃えあう。		30分
11	第2回体力チェック		前期に実施した体力チェックを再度行い、年間を通してどう変化したのか評価する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身の運動能力や健康状態を理解し、説明することができる。		
	事前学修	前期からの自身の体の変化（体組成や運動能力）について確認しておくこと。		30分
	事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量の項目をチェックし、前期のものと比較する。		30分
12	有酸素運動実践、ダーツ（基礎）		有酸素運動を行う。ダーツでは基礎技術を学び、ハイスコアを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて運動強度を調整・変更することができる。また、ダーツでは基本的な姿勢や投げ方を習得し、種目である「ハイスコア」をスムーズに行うことができる。		
	事前学修	関連資料を用いて、ダーツのルールや投げ型、姿勢を事前に調べる。		30分
	事後学修	ダーツの技術をゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動実践、ダーツ（個人戦）	有酸素運動を行う。ダーツでは基礎技術から成功率を上げる練習を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、自身で作成したトレーニングプログラムを実践し、必要に応じて運動強度を調整・変更することができる。また、ダーツでは条件付きの目標に向かって投げるようにできる	
	事前学修	ダーツの試合ルールについて調べる。	30分
	事後学修	トレーニングプログラムの反省から、自身にあったプログラム作成や方法を考える。ダーツのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かす。	30分
14	有酸素トレーニング評価、ダーツ（団体戦）	後期のトレーニングプログラムの結果を確認し、評価を行う。ダーツでは団体戦を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、後期から実践してきた有酸素運動のトレーニングプログラムに対して評価を行える。また、ダーツでは仲間と協力し合いながらスムーズに試合を行う。	
	事前学修	ダーツのルールを確認する。	30分
	事後学修	トレーニングプログラムの反省から、自身にあったプログラム作成や方法を考える。ダーツのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと	30分
15	後期まとめ	・後学期の振り返り ・まとめと講評	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、運動・スポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツの実施によって得られる恩恵について考える。また運動・スポーツに参加するために必要な情報等について調べる。課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	前鼻 啓史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。授業時に不足した関連情報は、クラスルームを通じて〔課題〕として配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	15	10	10								35
レポート等	到達目標①～③が達成できているかについて、実施した各種身体運動やグループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①～③が達成できているかについて、グループワークにおいて自身の考えを示すことができているかをグループワーク課題及び振り返りシートを用いて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②、③が達成できているかについて、問題発見、課題解決などの取り組みの積極性を受講態度や振り返りシートを用いて評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に受け付ける。それ以外ではE-mail、クラスルーム等で受付をする。E-mail: maehana.hirofuimi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	科目担当教員はパラスポーツ団体等において役職を歴任している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実施者の体力や能力に応じた運動処方を適切に行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	運動と健康について	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		30分
2	自己体力（行動体力）の把握	・体力測定によって自身の体力について考える ・ペアで行う軽運動 〔課題〕体力の要素について ※2号館体育場にて実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	行動体力とは何かを調べてくる。体力測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定の結果を確認し、資料を用いて自己評価を行う。 振り返りシートを作成する。		30分
3	柔軟性のエクササイズ	・ストレッチの効果と用途に応じた使い分け ・様々なストレッチを紹介し実践する。 ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ストレッチの種類について調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（柔軟性）にあった運動プログラムを考える。 振り返りシートを作成する。		30分
4	トレーニングの原理原則について	・トレーニング機器を用いた運動 ・運動強度を知る ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	「1RM（1 repetition maximum）」について調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（筋力）にあった運動負荷を考える。 振り返りシートを作成する。		30分
5	自体重トレーニング	・自体重トレーニングの理解とその実践 ※2号館体育場・トレーニングルームにて実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の保持・増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	トレーニング器具を用いない、ストレングストレーニングについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力（筋力あるいは筋持久力）にあった運動のプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。		30分
6	パラスポーツ① ボッチャ	・ボッチャ（1回目） ※2号館体育場にて実施する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		
	事前学修	ボッチャに関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。		30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パラスポーツ② ボッチャ	・ボッチャ（2回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
8	パラスポーツ③ ボッチャ	・ボッチャ（3回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
9	パラスポーツ④ ボッチャ	・ボッチャ（4回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	ボッチャに関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
10	パラスポーツ⑤ フロアカーリング	・フロアカーリング（1回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
11	パラスポーツ⑥ フロアカーリング	・フロアカーリング（2回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
12	パラスポーツ⑦ フロアカーリング	・フロアカーリング（3回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	フロアカーリングに関する競技の規則や試合の進め方などについて関連資料をもとに理解を深める。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パラスポーツ⑧ フロアカーリング	・フロアカーリング（4回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返り、自分の体力やスキルにあったトレーニングプログラムを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
14	パラスポーツ⑨ 卓球バレー	・卓球バレー（1回目） ※2号館体育場にて実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、運動・スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	当該スポーツの特異的な動作やスキルのコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	本種目全体の振り返りを行うとともに自身の体力やスキルの変化を省察する。 振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・軽度の運動・スポーツの実施 ・今学期の授業を振り返る。 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツの実施がもたらすの恩恵について理解を深める。 課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。

【授業方法】
基本的に対面で実技授業等を行う。実技授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。Google classroomを用いて実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力測定結果を受けて、実践した各種身体運動から、グループワークの中で自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見や課題設定および解決を行う。また、リーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び各課題の振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
classroom及びメールにて相談等を受け付ける。yamada.miekoll@nihon-u.ac.jp 授業期間木曜日のみ13:00から18:00 2号館地下(体育教員室, 体育場)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	AHA TC IEMA BLS Faculty, 国際救命救急協会理事, イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に指導していく。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	各種ストレッチと後期のガイダンス	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。固まったからだをほぐして、運動に慣れる。		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。ストレッチの種類を調べてくる。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。ストレッチの効果をまとめる。		30分
2	ニュースポーツ	・ダーツ		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	事前に提示されたカウントアップ、ゼロワンのルールを学んでくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
3	ニュースポーツ	・変則野球		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	事前に提示されたルールを学んでくる。 チームメンバーと協力してアウトを取るには何をしたら良いのか考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
4	ニュースポーツ	・ドッジビー		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	事前に提示されたルールを学んでくる。 チームメンバーと協力してアウトを取るには何をしたら良いのか考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
5	ニュースポーツ	・ドッジボール		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	事前に提示されたルールを学んでくる。 チームメンバーと協力してアウトを取るには何をしたら良いのか考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
6	ニュースポーツ	・アルティメット		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	事前に提示されたルールを学んでくる。 チームメンバーと協力して点を取るには何をしたら良いのか、戦術を考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ニュースポーツ		・変則ハンドボール	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	事前に提示されたルールを学んでくる。 チームメンバーと協力して点を取るには何をしたら良いのか、戦術を考えてくる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
8	グループワーク 4		・筋力の評価とユニホッケー	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。 「ユニホッケー」の特性やルールを調べてくる。 メンバーと協力してボールをどのようにパスして点数を取るのか、戦術を考えてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
9	ニュースポーツ トレーニング		・マシントレーニングとフロアカーリング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 「フロアカーリング」の特性とルールを調べ、チームメンバーと協力して勝つための戦術を考える。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
10	ニュースポーツ トレーニング		・マシントレーニングとフロアカーリング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 チームメンバーと協力して試合で優位に立つための戦術について調べてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
11	ニュースポーツ トレーニング		・バウンドテニス 1	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 事前に提示されたルールについて確認し分からないところを調べる。		30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
12	ニュースポーツ トレーニング		・バウンドテニス 2	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 チームメンバーと協力して試合で優位に立つためのバウンドテニスの戦術について調べてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	身体チェック	- 筋力測定（前半組） - 体力測定（後半組）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	測定について確認してくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想と結果をまとめる。	30分
14	身体チェック	- 筋力測定（後半組） - 体力測定（前半組）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	測定について確認してくる。	30分
	事後学修	運動実施後に結果をまとめ、春期の結果と比べて運動の必要性についてまとめる。	30分
15	球技大会	- 自己評価、まとめ - 球技大会	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	高田 佑輔	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内シューズ、ジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況によって授業内容を変更する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。ペアやチーム内でディスカッションを行い、コミュニケーションを図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で授業の振り返りや体力測定データの解説をします。さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールで連絡をしてください。E-mail：takata.yusuke★nihon-u.ac.jp（★を@に変更して使用すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本バスケットボール協会公認C級コーチライセンスおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、スポーツの指導を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動やスポーツが心身に与える影響を伝え、生涯スポーツの一助になる授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよびスポーツの習慣化	授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明します。 前期に履修した体育スポーツ実習Aおよび夏休み中の身体活動をもとに、後期の目標を立てましょう。 体重と体組成を測定します。体組成は素足で測定するので、足底を覆うタイツは着用しないこと。靴下はその場で脱いで測定しましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、スポーツの習慣化について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 スポーツの習慣化について、発表できるようにする。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。	30分
2	なわとび	なわとびを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、なわとびのトレーニング効果を説明できる。	
	事前学修	全員が積極的に参加できるようなルールを発表できるようにしておく。	30分
	事後学修	個人の反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
3	ダブルダッチ	2本のなわとびを使用するダブルダッチを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、なわとびのトレーニング効果を説明できる。	
	事前学修	到達目標①③に関連して、ダブルダッチを通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。 ダブルダッチの競技特性を説明できる。	30分
	事後学修	個人とチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
4	プレルボール	プレルボール（バウンドさせるハンドテニス）を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、プレルボールのルールを説明できる。 プレルボールの競技特性を説明できる。	
	事前学修	プレルボールの試合の進め方やルールを調べておく。	30分
	事後学修	個人とチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
5	シットティングバレーボール	シットティングバレーボールを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、シットティングバレーボールのルールを説明できる。 シットティングバレーボールの競技特性を説明できる。	
	事前学修	シットティングバレーボールの試合動画を見て、立位6人制のバレーボールとの違いを明確にしておく。	30分
	事後学修	個人とチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
6	卓球①	卓球（シングルス）を行います。 競技特性とシングルスのルールを説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のシングルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
	事前学修	前期の復習を兼ねて、卓球のシングルスのルールや動き方を調べておく。 卓球の技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
	事後学修	個人の反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	卓球②		卓球（ダブルス）を行います。 ダブルスのルールを説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球の技術を向上させるために必要なことを調べておく。		
	事前学修	前期の復習を兼ねて、卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。 卓球の技術を向上させるために必要なことを調べておく。		30分
	事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分
8	バウンドテニス①		バウンドテニスを行います。 競技特性とルールを説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、バウンドテニスのルールを説明できる。 バウンドテニスの競技特性を説明できる。		
	事前学修	バウンドテニスのルールや競技について調べておく。		30分
	事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分
9	バウンドテニス②		バウンドテニスを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、バウンドテニスに触れ、ペアと協力してゲームを遂行できる。		
	事前学修	前回の反省を生かし、バウンドテニスの技術を工夫する。		30分
	事後学修	試合を実施して感じたことや個人とペアの改善点をまとめる。		30分
10	フロアカーリング①		フロアカーリングを行います。 個人技術を高めるため、基本動作の練習をします。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合しましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。		
	事前学修	前期の復習を兼ねて、フロアカーリングのルールと戦略を調べておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分
11	フロアカーリング②		フロアカーリングを行います。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合しましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。		
	事前学修	フロアカーリングの技術を向上させるために必要なことを調べておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分
12	ダーツ①		ダーツ（カウントアップ）を行います。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダーツを通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。 ダーツの競技特性を説明できる。		
	事前学修	ダーツの試合の進め方や基本的なルールを把握しておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ダーツ②		ダーツ（ゼロワン）を行います。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダーツを通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。ダーツの競技特性を説明できる。	
	事前学修	前回の反省を生かし、うまく投げるための方法や戦略を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	体力測定		体重、体組成、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈などの体力測定を実施します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身の体力レベルの確認をする。	
	事前学修	前期の復習を兼ねて、今回実施する体力測定の方法を調べておく。	30分
	事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
15	一年間のまとめと振り返り		一年間の振り返りを実施し、総括します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	一年間の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
	事後学修	発表して浮き彫りになった課題を今後の学生生活で解決できるようにする。受領終了後も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	福地 修也	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。水分補給をできるようにしておくこと。

【授業方法】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングをするためのシューズが必要です。実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める（変更がある際には事前に連絡をします）。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学習した知識をもとに自らの課題を発見し、解決するための方法を考える。学生間でのディスカッションにより、どのようにしたら自身の考えが他者に伝わるかを考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準にする。自身の健康とスポーツ・身体運動の関連について理解しているか否かを基準にし、到達目標①②③が達成できているかを評価する	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内において自身の意見を述べることができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	自己の身体感覚を言語化して他者に伝えることができているか。問題発見・課題設定及び解決といった取り組みができているか否かを基準に、到達目標①②③が達成できているかを評価する。	10	10	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業時に質問等を受け付ける。 ※事前に連絡をしてください。(fukuchi.shuya.xu@alumni.tsukuba.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・ガイダンスおよび用具の説明 ・運動と健康と体力		授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具及び施設の使用方 法、注意点を説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連や体力について説明できる。		
	事前学修	運動の意義についてまとめる。 体力について考える。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。		30分
2	【体ほぐしの運動】		アイスブレイク、パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニ ケーションを図る。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連し、ストレッチの重要性を説明できる。		
	事前学修	ストレッチの効果について調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。		30分
3	【体力テスト（Pre）】		身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを 実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連し、体力測定の結果を踏まえ自らの目標を説明できる。		
	事前学修	測定種目について確認する。		30分
	事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。		30分
4	【筋力トレーニング①】		自身の体重を利用した筋力トレーニングの方法を紹介し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自重トレーニングについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、自重トレーニングを実施する。		30分
5	【筋力トレーニング②】		器具を使用した筋力トレーニングの方法や注意点を解説し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	マシントレーニングの種類を調べる。		30分
	事後学修	筋力増強のメカニズムについてまとめる。		30分
6	【筋力トレーニング③-1】		各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【筋力トレーニング③-2】		各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
8	【有酸素性トレーニング①】		エアロバイクによる有酸素性トレーニングの方法を解説し、実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	有酸素性トレーニングについて調べる。		30分
	事後学修	エアロバイクの回転数や強度についてまとめる。		30分
9	【有酸素性トレーニング②】		心拍数をもとにエアロバイクの強度を設定し、有酸素性トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	安静時心拍数を確認しておく。		30分
	事後学修	目標とする運動中の心拍数を確認する。		30分
10	【有酸素性トレーニング③-1】		作成した有酸素性トレーニングプログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自分自身に適した有酸素性トレーニングを考案する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
11	【有酸素性トレーニング③-2】		作成した有酸素性トレーニングプログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素性トレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素性トレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	自分自身に適した有酸素性トレーニングを考案する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。		30分
12	最新トレーニング		近年話題となっている最新のトレーニングについて、方法や注意点を解説し、実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、最新のトレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、最新のトレーニングの達成目標について説明できる。		
	事前学修	最新のトレーニングについて調査する。		30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、最新トレーニングの特徴をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サーキットトレーニング	サーキットトレーニングについて、方法や注意点を解説し、実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、サーキットトレーニングと健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、サーキットトレーニングの達成目標について説明できる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調査する。	30分
	事後学修	実施した内容について振り返り、サーキットトレーニングの特徴をまとめる。	30分
14	【体力テスト（Post）】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、事前の体力測定の結果との比較を行い、自らの目標を説明できる。	
	事前学修	体力測定(Pre)の結果を確認しておく。	30分
	事後学修	体力テストの結果を踏まえ、今後さらなるレベルアップを目指した目標を立てる。	30分
15	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
	事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
	事後学修	トレーニングやスポーツを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	岡野 弘子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（体調を整えておくこと、運動ができる服装を用意すること等）。体力の有無は問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
2時限連続の実技形式にて行う。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 個人的なスキルを身につけた後、ゲームを行い実践を通してチームメイトとの関係の重要性を学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の後半では試合を行う。その際、チームメイトと協力し、学生が主体となって試合に勝利するための課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	必要な技術が身についているかを実技テストにより評価する。	20										20
小テスト等												
レポート等	バレーボールの基礎的知識、また運動や健康に関する理論等を理解しているかをレポートにより評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリント等を配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後、またはメールにて対応する。メールアドレス：okano.hiroko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ4（上級）保有。現在、女子バレーボール部のコーチを務める。
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ4（上級）を保有し、自身も長年Vリーグで選手としてプレーをした経験からバレーボールの高度な技術の習得とより実践的な考え方を講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 導入授業	授業の目的・方法、評価方法、授業計画の説明等を行う。	
	この回の 到達目標	ガイダンス内容を理解する。体力の維持増進と健康について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、以降の受講計画を確認する。	30分
2	バレーボールの運動特性とルール、 マナー	バレーボールの運動特性とルール、マナー、授業における安全管理を学修する。	
	この回の 到達目標	バレーボールのルールやマナーを理解する。また、バレーボール実施に伴う危険性について理解し、安全管理について説明 することができる。	
	事前学修	バレーボールの運動特性、ルール、マナーについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
3	ボールを使ったウォーミングアップ、 ボール慣れ	柔らかいボール（ソフトバレー）を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感 する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
4	ボールを使ったウォーミングアップ、 ボール慣れ	柔らかいボール（ソフトバレー）を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感 する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
5	オーバーハンドパス①	オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを 使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
6	オーバーハンドパス②	オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを 使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アンダーハンドパス①	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
8	アンダーハンドパス②	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
9	スパイク①	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
10	スパイク②	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
11	サーブ①	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
12	サーブ②	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	トス		オーバーハンドパスから発展し、トス技術を習得する。
	この回の到達目標	トスアップの特性、基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し、スパイカーにトスをあげることができる。	
	事前学修	トス（セッター）について調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
14	ブロック		ジャンプのタイミング、ボールとの位置関係、ネットに触れないようにするための身体のコントロールなどブロックの基本技術を習得する。
	この回の到達目標	ブロックの基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し相手のスパイクをブロックすることができる。	
	事前学修	ブロックについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
15	連係プレー①		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
16	連係プレー②		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
17	フォーメーション（ローテーション）		フォーメーション（ローテーション）、ゲームの一連の流れを習得する。
	この回の到達目標	フォーメーション、またバレーボールの特徴であるローテーションを理解し、ゲームの一連の流れを説明できる。	
	事前学修	フォーメーションについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
18	ゲーム運営と審判法		ゲームのルール、審判法を習得する。
	この回の到達目標	ゲームのルール、審判法を理解し、実践で使える。	
	事前学修	ゲームのルールと審判について調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	戦術とゲームプラン①		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。	
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。		
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
20	戦術とゲームプラン②		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。	
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。		
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
21	チーム別練習とゲーム①		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。		
	事前学修	バレーボールの練習方法について調べる。		30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。		30分
22	チーム別練習とゲーム②		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。		
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。		30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。		30分
23	チーム別練習とゲーム③		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。		
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。		30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。		30分
24	チーム別練習とゲーム④		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。		
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。		30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	リーグ戦①	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
26	リーグ戦②	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
27	リーグ戦③	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
28	リーグ戦④	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
29	リーグ戦⑤	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
30	まとめ・振り返り	授業の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業を振り返り、スポーツ実技が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	岡野 弘子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（体調を整えておくこと、運動ができる服装を用意すること等）。体力の有無は問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
2時限連続の実技形式にて行う。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 個人的なスキルを身につけた後、ゲームを行い実践を通してチームメイトとの関係の重要性を学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の後半では試合を行う。その際、チームメイトと協力し、学生が主体となって試合に勝利するための課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	必要な技術が身についているかを実技テストにより評価する。	20										20
小テスト等												
レポート等	バレーボールの基礎的知識、また運動や健康に関する理論等を理解しているかをレポートにより評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリント等を配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後、またはメールにて対応する。メールアドレス：okano.hiroko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ4（上級）保有。現在、女子バレーボール部のコーチを務める。
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ4（上級）を保有し、自身も長年Vリーグで選手としてプレーをした経験からバレーボールの高度な技術の習得とより実践的な考え方を講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 導入授業	授業の目的・方法、評価方法、授業計画の説明等を行う。	
	この回の 到達目標	ガイダンス内容を理解する。体力の維持増進と健康について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、以降の受講計画を確認する。	30分
2	バレーボールの運動特性とルール、マナー	バレーボールの運動特性とルール、マナー、授業における安全管理を学修する。	
	この回の 到達目標	バレーボールのルールやマナーを理解する。また、バレーボール実施に伴う危険性について理解し、安全管理について説明することができる。	
	事前学修	バレーボールの運動特性、ルール、マナーについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
3	ボールを使ったウォーミングアップ、ボール慣れ	柔らかいボール（ソフトバレー）を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
4	ボールを使ったウォーミングアップ、ボール慣れ	柔らかいボール（ソフトバレー）を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
5	オーバーハンドパス①	オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
6	オーバーハンドパス②	オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アンダーハンドパス①	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
8	アンダーハンドパス②	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使った2人制、3人制のミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
9	スパイク①	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
10	スパイク②	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
11	サーブ①	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
12	サーブ②	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	トス		オーバーハンドパスから発展し、トス技術を習得する。	
	この回の到達目標	トスアップの特性、基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し、スパイカーにトスをあげることができる。		
	事前学修	トス（セッター）について調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
14	ブロック		ジャンプのタイミング、ボールとの位置関係、ネットに触れないようにするための身体のコントロールなどブロックの基本技術を習得する。	
	この回の到達目標	ブロックの基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し相手のスパイクをブロックすることができる。		
	事前学修	ブロックについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
15	連係プレー①		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。	
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。		
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
16	連係プレー②		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。	
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。		
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
17	フォーメーション（ローテーション）		フォーメーション（ローテーション）、ゲームの一連の流れを習得する。	
	この回の到達目標	フォーメーション、またバレーボールの特徴であるローテーションを理解し、ゲームの一連の流れを説明できる。		
	事前学修	フォーメーションについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分
18	ゲーム運営と審判法		ゲームのルール、審判法を習得する。	
	この回の到達目標	ゲームのルール、審判法を理解し、実践で使える。		
	事前学修	ゲームのルールと審判について調べる。		30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	戦術とゲームプラン①		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。	
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
20	戦術とゲームプラン②		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。	
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。	30分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	30分
21	チーム別練習とゲーム①		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	バレーボールの練習方法について調べる。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
22	チーム別練習とゲーム②		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
23	チーム別練習とゲーム③		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
24	チーム別練習とゲーム④		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	リーグ戦①	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
26	リーグ戦②	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
27	リーグ戦③	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
28	リーグ戦④	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
29	リーグ戦⑤	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
30	まとめ・振り返り	授業の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業を振り返り、スポーツ実技が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠC(コンバインドスポーツ)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
屋外・屋内運動靴（紐靴が望ましい）、運動着（トレーニングウェア等）、タオル、その他運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。特定のスポーツ種目ではなく、様々なスポーツ種目を実施するため、各回ごとの事前学習シートの作成が重要となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールグダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	30	20									50
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00 メールアドレス：satou.hideaki*nihon-u.ac.jp ※メール送信の際は、「*」を「@」に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	体育・スポーツの意義と価値		ガイダンス ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 ・事前学習及び事後学習についての説明 体育実技と健康について（講義形式）
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる。また、到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。体育・スポーツについての考えをまとめる。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。	30分
2	体力及び身体運動への理解		・ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する ・フィットネス測定の方法と評価について理解する
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる。また、到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる	30分
	事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。	30分
3	ソフトバレーボール①		ソフトバレーボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
4	ソフトバレーボール②		ソフトバレーボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
5	インディアカ①		インディアカ① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
6	インディアカ②		インディアカ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バドミントン①		バドミントン（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
8	バドミントン②		バドミントン（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
9	ターゲットバードゴルフ①		ターゲットバードゴルフ① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
10	ターゲットバードゴルフ②		ターゲットバードゴルフ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・マナーや課題への挑戦についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
11	チェックボール①		チェックボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
12	チェックボール②		チェックボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ミニテニス①		ミニテニス（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
14	ミニテニス②		ミニテニス（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
15	卓球①		卓球（シングルス①） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
16	卓球②		卓球（シングルス②） ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)		30分
17	卓球③		卓球（ダブルス） ・ルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
18	卓球④		卓球（チーム戦） ・意見の交換を通じてリーダーシップや協働への理解。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。		30分
	事後学修	チームメンバーと達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ユニバーサルホッケー①		ユニバーサルホッケー① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
20	ユニバーサルホッケー②		ユニバーサルホッケー② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
21	ディスクスポーツ①		アルティメット ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
22	ディスクスポーツ②		ゴールディスク ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
23	ティーボール①		ティーボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
24	ティーボール②		ティーボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	キンボール①		キンボール① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
26	キンボール②		キンボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
27	フェンシング①		フェンシング① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
28	フェンシング②		フェンシング② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
29	ユニバーサルスポーツを考える		新スポーツ種目の提案 ・既存のスポーツの実施方法を工夫することや、新たなスポーツ種目を設定し実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツとは何かを説明することができる。		
	事前学修	様々なスポーツ種目を概観し、誰でも楽しめるスポーツ（ルールや実施方法等）について考え事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての意見交換を行い、その意見をまとめる。		30分
30	スポーツの価値について考える		文化としてのスポーツ ・スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 ・授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツの価値とは何か、自身の経験と学びに基づいた考えを示すことができる。		
	事前学修	スポーツとは何かについて、自らの経験や学びを踏まえて考えをまとめる。		30分
	事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。課題レポートを作成する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(卓球)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。卓球の知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卓球に関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、競技特性や運動特性、知識（ルール、マナー、安全管理）を理解しているかを、筆記試験等にて評価する。		20									20
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(筆記・技能 試験)	到達目標①について、必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができるかを、技能試験等にて評価する。 ※スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	20							50
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業実施日、あるいはGoogle Classroom等 satou.hideaki*nihon-u.ac.jp ※メール送信の際は、「*」を「@」に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体育・スポーツの意義と価値		1. ガイダンス内容（授業目的、到達目標、評価方法、授業計画）について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる		
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめる		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。		30分
2	体力及び身体運動への理解		1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる		
	事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる		30分
	事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。		30分
3	卓球の特性と安全管理（講義）		1. 卓球の特性（歴史、技術、ルール、倫理、用具等）を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標②に関連して、卓球の特性（歴史、技術、倫理、用具等）を説明できる 2. 到達目標②に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる		
	事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる		30分
	事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める		30分
4	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド		1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標①に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
5	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー		フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。		30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す		30分
6	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド		1. カットのフォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程（認知構造）について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。		
	事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー	カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分	
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分	
8	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ	1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。		
	事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分	
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分	
9	基本的な動作と技術の確認 技能試験	1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。		
	事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。	30分	
	事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。	30分	
10	審判技術を学ぶ	1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ルールと審判法について説明できる。		
	事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。	30分	
	事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。	30分	
11	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。		
	事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分	
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分	
12	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。		
	事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分	
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	状況に応じた技術の選択〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
14	状況に応じた技術の選択〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
15	状況に応じた技術の選択〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
16	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり（前半戦）	1. シングルス総当たり（前半戦） 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
	事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
17	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり（後半戦）	シングルス総当たり（後半戦）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
18	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント（前半戦）	1. シングルストーナメント（前半戦） 2. フェアプレイとは何かを理解する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
	事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント（後半戦）	シングルストーナメント（後半戦）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
20	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ	ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
21	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔2〕 打球コースの選択	ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
22	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり	ダブルス総当たり	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合方法、ルールを確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる。	30分
23	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント	ダブルストーナメント	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	総当たりの課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
24	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	試合運営〔2〕 シングルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
27	試合運営〔4〕 ダブルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
	事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	レクリエーションとしての卓球を学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
	事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
	事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	60分
30	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
	事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
	事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育実技 I C(ソフトボール)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパス（グラウンド）の施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室(9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	開講にあたって/ 体力及び健康について		①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操		適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	フィットネスチェック		フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。	
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	敏捷性：アジリティトレーニングを知る		ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
	事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
	事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	キャッチボールの基礎練習		キャッチボールの基礎技術を習得する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボールの基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	キャッチボールの基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	キャッチボール応用練習		実践形式においてキャッチボール応用技術を習得する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボール応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	キャッチボール応用技術の練習を調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	バッティング基礎練習	バッティング基礎技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バッティング基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	バッティング応用練習	実践形式においてバッティング応用技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バッティング応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	バッティング応用練習を調べる。	30分
	事後学修	バッティング応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	走塁の基礎練習	走塁基礎技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	走塁の応用練習	実践形式において走塁の応用技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁の応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
	事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて、理解し説明することができる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	実践におけるオールラウンドな体力の向上	実践において体力向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践におけるオールラウンドな体力の向上について、理解し説明することができる。	
	事前学修	実践に必要な体力を調べる。	30分
	事後学修	実践におけるオールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング		難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて、理解し説明することができる。		
	事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。		30分
14	実践における筋力とパワーの向上		実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践において筋力とパワーの向上について、理解し説明することができる。		
	事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。		30分
	事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。		30分
15	実践形式：リーグ戦_A		ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。		
	事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。		30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。		30分
16	実践形式：リーグ戦_A		ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。		
	事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。		30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。		30分
17	実践形式：リーグ戦_B		対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。		
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。		30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。		30分
18	実践形式：リーグ戦_B		対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。		
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。		30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	実践形式：リーグ戦_C	守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
	事前学修	守備練習について調べる。	30分
	事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
20	実践形式：リーグ戦_C	守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
	事前学修	守備練習について調べる。	30分
	事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
21	実践形式：リーグ戦_D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
22	実践形式：リーグ戦_D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
23	実践形式：リーグ戦_E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
	事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分
24	実践形式：リーグ戦_E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
	事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	実践形式：リーグ戦_F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
	事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。	30分
26	実践形式：リーグ戦_F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
	事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。	30分
27	実践形式：リーグ戦_G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	実践形式：リーグ戦_G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	実践形式：リーグ戦_H ゲームの運営法	ゲームの運営法を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームの運営法について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ゲームの運営法について調べる。	30分
	事後学修	ゲームの運営法を振り返り理解を深める。	30分
30	まとめ/ 振り返り	フィtnesチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnesチェック、授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(多種目スポーツ)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパスの施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題レポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 (9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ習慣化と体力及び健康について、理解し説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法について説明できる。	
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
	事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
	事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バランスを高めるために必要なトレーニング方法について説明できる。	
	事前学修	竹馬の乗り方について調べる。	30分
	事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	キャッチボール練習：ティーボール_1	実践形式においてキャッチボール技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてキャッチボール技術について説明できる。	
	事前学修	キャッチボール技術の練習を調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	バッティング基礎練習：ティーボール_2	実践形式においてバッティング基礎技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてバッティング基礎技術について説明できる。	
	事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	バッティング応用練習：ティーボール_3	実践形式においてティーボール技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてティーボール技術について説明できる。	
	事前学修	ティーボールのルールを調べる。	30分
	事後学修	ティーボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	走塁の基礎練習：ティーボール_4	走塁基礎技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、走塁基礎技術について説明できる。	
	事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	走塁の応用練習：ティーボール_5	実践形式において走塁の応用技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式において走塁の応用技術について説明できる。	
	事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
	事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	オールラウンドな体力の向上	オールラウンドな体力向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上について説明できる。	
	事前学修	オールラウンドな体力の向上について調べる。	30分
	事後学修	オールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践における筋力とパワーの向上について説明できる。	
	事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
	事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	実践形式：バスケットボール_1	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
	事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	実践形式：バスケットボール_1	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
	事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	実践形式：バスケットボール_2	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	実践形式：バスケットボール_2	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
20	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
21	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
22	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
23	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
24	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
26	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
27	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	ゲームにおける運営：フットサル	ゲームにおける運営を積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームにおける運営について、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
30	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返り、理解し説明できる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(サッカー)	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
オープンマインドであること。学ぶ姿勢を有し、高め合う姿勢を有していること。サッカーの実践に適した服装、シューズで参加してください。

【授業方法】
本科目では、サッカーにおける「プレーの原則」を踏まえた戦術・「協力の仕方」を理解し、修得することを目的とする。この目的を達成するために、本科目では、学校体育のゴール型・サッカーの授業、日本サッカー協会指導教本、「プレーの原則」を踏まえて、サッカーに求められる知識、技能、戦術等について、Match-Training-Matchの指導過程を通して実戦し、修得する。毎回の授業資料に、履修者自身が自己評価（理解度、達成度）をし、感想や分析を記述する。この自己評価を履修者にフィードバックする過程を通して、理解を深めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第18回まで学習したサッカーにおける攻撃の内容、守備の内容で、自己が最も得意とするプレーを「学習内容」として課題設定し、班の実技実践で表現する。第19回授業、第20回授業、第21回授業、第22回授業で実施予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、サッカーの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第17回、第18回、第19回、第20回、第21回、第22回の何れかで、授業内実技テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。	5	5									10
小テスト等	到達目標②③④について、サッカーの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、 毎回の授業で振り返りシートを履修学生に課し、小テストとして評価する。 主な評価内容は、以下の2点である。 1)履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度を記述する。 2)感想、授業内容の分析やプレーの分析を記述する(15%)。		5	5	5							15
レポート等	到達目標③④について、サッカーのルールについて、サッカーの実践で期待される恩恵について、学習内容における自らの達成状況について、 サッカーの第1回と第27回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第13回、第14回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく(10%)。			5	5							10
討論・発表等	到達目標①②④について、1点目は、授業での発言、質問、意見を思考力、判断力、表現力、分析力などの評価対象とします。2点目は、グループごとに授業内容やプレーに関するミーティングを実施していきます。ミーティングを討論・グループディスカッションの場とし、思考力、判断力、表現力、分析等を評価していきます(15%)。	5	5		5							15
授業への参画度	到達目標①②③④について、サッカーの実践に関する知識、技能、戦術、状況に応じた技術の実践を評価します。また、授業への参加度・出席状況を重視します。主体的に学習に取り組む姿勢を評価します(20%)。 サッカーの特性、ルール、マナー、安全管理について評価します(10%)。 グループやチームでの協力の仕方・集団での実践力について評価します(10%)。 授業内や毎回の振り返りシート、課題レポート等で、履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度、感想、授業内容の分析やプレーの分析の記述状況を評価します(10%)、	20	10	10	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	25	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業資料振り返りシートの中で、履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度を記述する。感想、分析を記述する。この授業資料を評価し、履修者にフィードバックする方法である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説 体育編	中学校学習指導要領解説 体育編	東山書房	2008年	参考書	任意
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	保健体育編・体育編	東山書房	2009年	参考書	任意
JFA サッカー指導教本2020	JFA 技術委員会監修	金原出版株式会社	2020年	参考書	任意
備考	こちらで、学習内容に応じて参考として使用します。上記参考書を購入する必要はないです。毎回の授業で、授業資料を配布します。復習教材とします。				

【オフィスアワー】			
金曜日対面授業前後の時間帯、大宮体育館教員控室で適宜行う。（休暇中を除く。※後期は授業後のみ行う。） zononishi53@hotmail.co.jp			
【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。
実務経験に基づく実践的教育の内容			2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、サッカーの歴史 ※アンケート1の実施		フットボールからの歴史、サッカーの起源、サッカーとラグビーの分岐点、サッカーの歴史、サッカーの競技規則・ルールを概観し、学習内容とする。
	この回の到達目標	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則について、特に第11条オフサイドについて、理解することを目標とする。	
	事前学修	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則について、調べて用語を予習する。	30分
	事後学修	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則について、内容を復習する。	30分
2	ガイダンス、サッカーの歴史、準備運動の実践、スモールサイドゲームの実践 ※アンケート1の実施		フットボールからの歴史、サッカーの起源、サッカーとラグビーの分岐点、サッカーの歴史、サッカーの競技規則・ルールを概観し、学習内容とする。グループでの連携を高めることを目的とした準備運動の実践、4vs4、5vs5のスモールサイドゲームの実践していく。
	この回の到達目標	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則について、特に第11条オフサイドについて、理解することを目標とする。準備運動を実践し、グループ内の連携を高めることを目標とする。最後には、スモールサイドゲームを実践することを目標とする。	
	事前学修	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則、準備運動、4vs4や5vs5などのスモールサイドゲームについて、調べて内容を予習する。	30分
	事後学修	サッカーの起源、サッカーの語源、サッカーの競技規則、準備運動、4vs4や5vs5などのスモールサイドゲームについて、内容を復習する。	30分
3	コミュニケーション（声・ボディランゲージ）を用いた協力の仕方		集団・グループで協力し、パスを繋ぐことの重要性を体感し、クローズドスキルを獲得する。グループで名前を呼び、手を用いたパスから始めていく。段階的に足を用いて、パスを繋ぐことを実践していく。
	この回の到達目標	手を用いてパスを繋ぐスキルの獲得、ボールをもっていない攻撃者のコミュニケーションの取り方と実戦を目標とする。	
	事前学修	コミュニケーションの種類、サッカーのプレー中のコミュニケーションの取り方について想定し、予習する。特にボールをもたない人からの発信、ボール保持者からの発信について予習する。	30分
	事後学修	サッカーのプレー中に味方とコミュニケーションをとり、協力することの有効性を復習する。具体的には、味方の名前を呼び、パスを繋ぐことの有効性、ボールをもっていない味方からの「言葉がけ」、ボールの出し手からボールをもっていない味方への「言葉がけ」の効果を復習する。	30分
4	コミュニケーション（声・ボディランゲージ）を用いた協力の仕方、クローズドスキル・ドリブル、パス		集団・グループで協力し、パスを繋ぐことの重要性を体感し、クローズドスキルを獲得する。グループで名前を呼び、連携しながら足を用いて、パスを繋ぐことを実践していく。最後は、相手がいる状況でのオープンスキルの発揮へと繋げていく。相手がいる状況でのコミュニケーションの取り方・ドリブル、パスの判断に繋げていく。
	この回の到達目標	足を用いて、パスを繋ぐスキルの獲得、ボールをもっていない攻撃者のコミュニケーションの取り方と実践を目標とする。	
	事前学修	コミュニケーションの種類、サッカーのプレー中のコミュニケーションの取り方について想定し、予習をする。	30分
	事後学修	サッカーのプレー中に味方とコミュニケーションをとり、協力することの有効性を復習する。具体的には、味方の名前を呼び、パスを繋ぐことの有効性、ボールをもっていない味方からの「言葉がけ」、ボール保持者からボールをもっていない味方への「言葉がけ」の効果を復習する。	30分
5	1vs1の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、スモールサイドゲームの実践		1vs1の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、「守備・ボールを奪う」を学習する。
	この回の到達目標	攻撃での突破・「ドリブル突破」を目標とする。守備時、「ゴールの守り方・相手の攻撃の遅らせ方」、「守備・ボールを奪う」を目標とする。	
	事前学修	1vs1（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測し、予習する。	30分
	事後学修	1vs1では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
6	2vs2の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、スモールサイドゲームの実践		2vs2の状況での「攻撃の厚み」対「守備の厚み」、「守備・チャレンジ&カバー」を学習する。
	この回の到達目標	「攻撃の厚み」、サポートから展開、攻撃での突破・「スルーパスでの突破」、「壁パスでの突破」を目標とする。「守備の厚み」、守備のサポートから「ゴールの守り方・相手の攻撃の遅らせ方」、「守備・ボールを奪う」を目標とする。	
	事前学修	2vs2（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	2vs2では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	攻撃戦術：個人戦術、グループ戦術での突破の実践		2vs2の状況での「攻撃の厚み」対「守備の厚み」、「守備・チャレンジ&カバー」を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、2人での「壁パスでの突破」、3人での「第3の動き」での突破を目標とする。 守備では、2人の守備者の守り方・「チャレンジ&カバー」を身につけることを目標とする。		
	事前学修	2vs2（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。		30分
	事後学修	2vs2では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
8	守備戦術：「守備の厚み」、グループでの守備のサポート		守備では、「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込む・「守備の集中」を学習する。攻撃では、後方からのサポートと第7回までに学習した様々な突破を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、1stDFの斜め後方からのサポートした厚みのある守備を実践する（2ndDF）。守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を計画し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。		
	事前学修	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。		30分
	事後学修	5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定したプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人での攻撃の仕方は、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
9	攻撃戦術：グループ戦術での突破の実戦2		攻撃では、相手ゴール前での「臨機応変な攻撃」、グループによるコンビネーションプレーでの突破を学習する。守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、相手ゴール前での「臨機応変な攻撃」、様々なコンビネーションプレーでの突破を学習する。具体的には、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などである。守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」を学習する。		
	事前学修	4vs3（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。		30分
	事後学修	4vs3では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
10	「攻撃の厚み」対「守備の厚み」		4vs4の状況での「攻撃の厚み」対「守備の厚み」、守備から攻撃の連続性、攻撃から守備の連続性を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、2人での「壁パスでの突破」、3人での「第3の動き」での突破を図りながら、攻撃から守備の連続性に目標とする。守備では、2人の守備者の守り方・「チャレンジ&カバー」を身につけながら、守備から攻撃の連続性に挑戦することを目標とする。		
	事前学修	4vs4の状況（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）では、どのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。		30分
	事後学修	4vs4の状況では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
11	守備の個人戦術：背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対する守備		背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対して、守備者は「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」で対応する。攻撃は、これまでに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対して、守備者は「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」で対応する動きを学習する。攻撃は、第5回までに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指すプレーを学習し、目標とする。		
	事前学修	背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対して、守備者は「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」で対応する動きを学習する。攻撃は、これまでに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指すプレーを学習し、目標とする。		30分
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 4vs4プラス1フリーマンでは、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	守備のグループ戦術：厚みのある攻撃に対する「守備の厚み」、「ボール奪取」の計画		グループで厚みのある相手の攻撃に対して、守備グループは、1stDFの斜め後方からのサポートした厚みのある守備を実践する（2ndDF）。守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を計画し、ボールを奪うことに挑戦する。	
	この回の到達目標	グループで厚みのある相手の攻撃に対して、守備グループは、1stDFの斜め後方からのサポートした厚みのある守備を実践する（2ndDF）。守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を計画し、ボールを奪うことに挑戦する。攻撃は、第10回までに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指すことを目標とする。		
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分	
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
13	攻撃戦術：「攻撃の厚み」、グループでのサポートの実戦。 ※課題レポートの伝達		攻撃では、ボール保持者に対してのサポートを学習する。三角形、菱形、中間ポジションなど、攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」・サポートを学習する。特に、攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」の重要性について学習する。 ※課題レポートを履修生に伝達する。	
	この回の到達目標	攻撃では、ボール保持者に対してのサポートを学習する。三角形、菱形、中間ポジションなど、攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」を学習する。特に、攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」の重要性について学習する。		
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分	
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
14	攻撃戦術：「攻撃の厚み」、グループでのサポートの実践、攻撃と守備の連続性 ※課題レポートの伝達。		攻撃では、ボール保持者に対しての菱形、中間ポジションなどサポートを学習する。攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」を学習する。攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」のポジションを学習する。特に、攻撃と守備の連続性について、学習する。 ※課題レポートを履修生に伝達する。	
	この回の到達目標	攻撃では、ボール保持者に対しての菱形、中間ポジションなどサポートを学習する。攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」を学習する。攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」のポジションを学習する。特に、攻撃と守備の連続性について、学習する。		
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分	
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
15	守備のグループ戦術：「スライド」など、複数守備者の協力の仕方		守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込む・「守備の集中」を学習する。攻撃では、後方からのサポートとこれまでに学習した様々な突破を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込み、ボールを奪ってカウンターアタックするプレーを学習する。攻撃では、後方からのサポートとこれまでに学習した様々な突破を用いて、相手ゴールを目指す。		
	事前学修	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、どのような「ボールの奪い所」がたてられるのか、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分	
	事後学修	5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
16	守備のグループ戦術：「スライド」など、複数守備者の協力の仕方・第15回の改善		守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。第15回の実践でボールを奪えたプレーとボールを奪えなかったプレーを抽出する。ボールを奪えなかったプレーを改善し、実践していく。	
	この回の到達目標	守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。第15回の実践でボールを奪えたプレーとボールを奪えなかったプレーを抽出する。ボールを奪えなかったプレーや「あと少しでボールが奪えそうなプレー」を改善し、実践していく。		
	事前学修	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、どのような状況で相手攻撃グループに突破されてしまうのか、どのような状況でボールが奪えない状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分	
	事後学修	5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
17	攻撃戦術：グループでの「ボールの運び方」、「ゴールへの運び方」※授業内テストの実施		攻撃では、第13回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフプレーンでの中間ポジションの有効性について学習する。
	この回の到達目標	攻撃では、第13回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフプレーンでの中間ポジションの有効性について学習することを目標とする。	
	事前学修	4人での菱形のポジションでのボールの運び方や4角形の中央に1人の攻撃者をポジショニングした5人での運び方では、どのようなボールの運び方が可能か、想定し、起こり得る運び方を予測する。	30分
	事後学修	4人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
18	攻撃戦術：グループでの「ボールの運び方」、「ゴールへの運び方」とリスクマネジメント※授業内テストの実施		攻撃では、第13回で学習したボール保持者に対するサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、ビルドアップ中にボールを失ってしまうプレーに対してのリスクマネジメントの取り方に焦点をあて、学習する。
	この回の到達目標	攻撃では、第13回で学習したボール保持者に対するサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、ビルドアップ中にボールを失ってしまうプレーに対してのリスクマネジメントの取り方に焦点をあて、学習する。	
	事前学修	4人での菱形のポジションでのボールの運び方や4角形の中央に1人の攻撃者をポジショニングした5人での運び方では、どのようなボールの運び方をしたら、ボールを相手グループに奪われてしまうのか、その状況を想定し、予測する。	30分
	事後学修	4人でのボールの運び方とボールを失う状況では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5人でのボールの運び方とボールを失う状況では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
19	守備戦術：グループでの守備から攻撃、「守備の集中」からカウンターアタックに繋げる。※授業内テストの実施		守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げる。「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を活かし、実践する。
	この回の到達目標	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。	
	事前学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。攻撃では、5人の守備に対して、どのような「攻撃の突破方法」があるか、予測する。	30分
	事後学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人の攻撃の突破では、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
20	守備戦術：グループでの守備から攻撃、「守備の集中」からカウンターアタックに繋げる。※授業内テストの実施		守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げる。「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を活かし、実践してみる。
	この回の到達目標	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。	
	事前学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。攻撃では、5人の守備に対して、どのような「攻撃の突破方法」があるか、予測する。	30分
	事後学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人の攻撃の突破では、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
21	攻撃戦術：「攻撃の幅」※授業内テストの実施		攻撃では、相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。
	この回の到達目標	相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。	
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測して、授業で実践する。	30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
22	攻撃戦術：「攻撃の幅」 ※授業内テストの実施		攻撃では、相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。	
	この回の到達目標	相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測して、授業で実践する。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
23	守備戦術：ゴール前の守備「守備の集結」 リーグ戦形式のゲーム①		コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目的とする。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。		
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、予測しておく。		30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
24	守備戦術：ゴール前の守備「守備の集結」 リーグ戦形式のゲーム①		コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目的とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げる。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げることを目標とする。		
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな守備戦術・「ボールの奪い方」を予測して、授業で実践する。また、相手攻撃チームからボールを奪った状況・「守備から攻撃の局面」で、どのようなプレーが起こりそうか、事前に予測し想定しておく。		30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
25	ゴール前での「攻撃戦術」対「守備戦術」 リーグ戦形式のゲーム②		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の幅」「スペースを創り、使う動き」での突破を図り、ゴールを目指す。守備では、これまでに学習した「ゴールの守り方」、計画的な「ボールの奪い方」を実践する。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げることを目標とする。		
	事前学修	攻撃側チームは、最後はゴールに向かって攻撃してくる。守備側チームは、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」について、授業前に起こりそうな守備戦術・「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」を予測して想定し、授業で実戦する。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。守備では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
26	ゴール前での「攻撃戦術」対「守備戦術」 リーグ戦形式のゲーム②		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の幅」「スペースを創り、使う動き」での突破を図り、ゴールを目指す。守備では、これまでに学習した「守備の集結」、計画的な「ボールの奪い方」を実践する。	
	この回の到達目標	攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の幅」「スペースを創り、使う動き」での突破を図り、ゴールを目指すことを目標とする。守備では、これまでに学習した「ゴールの守り方」、計画的な「ボールの奪い方」を実践することを目標とする。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測しておく。守備では、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、守備戦術を予測しておく。		30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」、「守備から攻撃」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
27	「攻撃の活動性」 リーグ戦形式のゲーム③※アンケート調査2の実施		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の活動性」・「スペースを創り、使う動き」で突破を図り、ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」、「スペースを創り、使う動き」での突破があるのか、を想定して授業で実践する。また、相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」で、どのようなプレーが必要か、事前に想定し、授業で実践する。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」、「スペースを創り、使う動き」での突破があるのか、を事前に想定して予測する。また、相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」で、どのようなプレーが必要か、事前に想定しておく。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・「スペースを創り、使う動き」が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
28	「攻撃の活動性」対「守備のバランス」 リーグ戦形式のゲーム③※アンケート調査2の実施	ゴールを目指し様々な突破をしてくる攻撃に対して、守備は、整備されたバランスで対応し、ゴールを守。攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の活動性」・「スペースを創り、使う動き」で突破を図り、ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	ゴールを目指し様々な突破をしてくる攻撃に対して、守備は、整備されたバランスで対応し、ゴールを守る。特に、3角形の底の守備者の関わり方と攻撃参加してくる攻撃者に対するマーキングを学習することを目標とする。攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術で突破を図り、ゴールを目指すことを目標とする。	
	事前学修	3人、4人、5人でゴールを目指し、突破を図ってくる攻撃に対して、守備はどのような対応をし、ゴールを守ることが出来るのか、について、どのような状況が起こりそうなのか、予測し想定しておく。	30分
	事後学修	3人、4人、5人での攻撃に対して、守備では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
29	ゴール前の「守備戦術」対「攻撃戦術」、リーグ戦形式のゲーム④、整理・まとめ、	守備では、これまでに学習してきた守備戦術、特に、ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実戦する。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」も学習する。	
	この回の到達目標	守備と攻撃が対峙し、対戦していることを学習する。ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実戦することを目標とする。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」、カウンターアタックを目標とする。	
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな守備戦術・「ボールの奪い方」を予測して、授業で実践する。また、相手攻撃チームからボールを奪った状況・「守備から攻撃の局面」で、どのようなプレーが起こりそうか、事前に想定し、授業で実践する。	30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」、「守備から攻撃」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
30	ゴール前の「守備戦術」対「攻撃戦術」、リーグ戦形式のゲーム④、整理・まとめ、	守備では、これまでに学習してきた守備戦術、特に、ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実戦する。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」も学習する。	
	この回の到達目標	守備と攻撃が対峙し、対戦していることを学習する。攻撃と守備が対戦する中での「ゴールの守り方」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実戦することを目標とする。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」、カウンターアタックも目標とする。攻撃は、ゴール方向へのビルドアップと「臨機応変なコンビネーションを活かした攻撃」を目標とする。	
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな守備戦術・「ボールの奪い方」を予測して、授業で実践する。攻撃では、どのような「ゴールの奪い方」が有効になるのか、事前に想定しておく。	30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」、「守備から攻撃」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか。攻撃では、事前に想定した「ゴールの奪い方」が、どのような結果になったのか。事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

科目名	体育実技 I C(フットサル)	担当者	西園 聡史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
オープンマインドであること。学ぶ姿勢を有し、高め合う姿勢を有していること。フットサルの実践に適した服装、シューズで参加してください。

【授業方法】		
本科目では、サッカー、フットサルにおける「プレーの原則」を踏まえた戦術・「協力の仕方」を理解し、修得することを目的とする。この目的を達成するために、本科目では、学校体育のゴール型・サッカーの授業、日本サッカー協会指導教本、「プレーの原則」を踏まえて、フットサルに求められる知識、技能、戦術等について、Match-Training-Matchの指導過程を通して実戦し、修得する。毎回の授業資料に、履修者自身が自己評価（理解度、達成度）をし、感想や分析を記述する。この自己評価を履修者にフィードバックする過程を通して、理解を深めていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第18回まで学習したフットサルにおける攻撃の内容、または、守備の内容の中から、自己が最も得意とするプレーを「実践内容」として課題設定し、班の実技実践で表現する。第19回授業、第20回授業、第21回授業、第22回授業で実施予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、フットサル、サッカーの知識、技術、戦術、状況に応じた技術の実践を通して、第17回、第18回、第19回、第20回、第21回、第22回に授業内テストを実施し、評価していきます。これを授業内試験とします(10%)。	5	5									10
小テスト等	到達目標②③④について、フットサル、サッカーの知識について、期待される健康行動について、学習内容における履修学生自らの自己評価について、毎回の授業で振り返りシートを履修学生に課し、小テストとして評価する。 主な評価内容は、以下の2点である。 1)履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度を記述する。 2)感想、授業内容の分析やプレーの分析を記述する(15%)。		5	5	5							15
レポート等	到達目標③④について、フットサル、サッカーのルールについて、フットサル、サッカーの実践で期待される恩恵について、学習内容における自らの達成状況について、第1回と第27回で、授業に関するアンケート調査を実施します。 中間期・第13回、第14回時に、課題レポートを実施し、これを評価していく(10%)。			5	5							10
討論・発表等	到達目標①②④について、1点目は、授業での発言、質問、意見を思考力、判断力、表現力、分析力などの評価対象とします。2点目は、グループごとに授業内容やプレーに関するミーティングを実施していきます。ミーティングを討論・グループディスカッションの場とし、思考力、判断力、表現力、分析等を評価していきます(15%)。	5	5		5							15
授業への参画度	到達目標①②③④について、フットサル、サッカーの実践に関する知識、技能、戦術、状況に応じた技術の実践を評価します。また、授業への参加度・出席状況を重視します。主体的に学習に取り組む姿勢を評価します(20%)。フットサル、サッカーの特性、ルール、マナー、安全管理について評価します(10%)。グループやチームでの協力の仕方・集団での実践力について評価します(10%)。 授業内や毎回の振り返りシート、課題レポート等で、履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度、感想、授業内容の分析やプレーの分析の記述状況を評価します(10%)、毎回の授業で、授業資料を配布します。復習教材とします。 受講生に承諾をえたうえで、授業を撮影し、授業映像を学習教材とします。	20	10	10	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	25	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業資料振り返りシートの中で、履修学生自身が授業を自己評価し、理解度、達成度を記述する。感想、分析を記述する。この授業資料を評価し、履修者にフィードバックする方法である。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説 体育編		中学校学習指導要領解説 体育編	東山書房	2008年	参考書	任意
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編		保健体育編・体育編	東山書房	2009年	参考書	任意
JFA サッカー指導教本2020		JFA 技術委員会監修	金原出版株式会社	2020年	参考書	任意
フットサル戦術 パーフェクトバイブル		ミゲル・ロドリゴ	株式会社カンゼン	2012年	参考書	任意
備考	こちらで、学習内容に応じて参考として使用します。上記参考書を購入する必要はないです。毎回の授業で、授業資料を配布します。復習教材とします。					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時40分（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取る） zononishi53@hotmail.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公益財団法人日本サッカー協会指導者養成事業、C級ラ・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。
実務経験に基づく実践的教育の内容		2016年から(公財)日本サッカー協会指導者養成事業、C級ライセンス・D級ライセンス取得講習のインストラクター・講師の一員である。ライセンスを取得するための講習をおこなっている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイドンス、フットサルの歴史、サッカーの歴史 ※アンケート調査の実施	フットボールからの歴史、サッカーの起源、サッカーとラグビーの分岐点、フットサルの歴史、フットサルの競技規則・ルールを概観し、学習内容とする。	
	この回の到達目標	サッカーの起源、サッカーの語源、フットサルの歴史、フットサルの競技規則・ルールについて、学習することを目標とする。	
	事前学修	サッカーの起源、サッカーの語源、フットサルの歴史、フットサルの競技規則について、調べて予習する。	30分
	事後学修	サッカーの起源、サッカーの語源、フットサルの歴史、フットサルの競技規則について、内容を復習する。	30分
2	フットサルの競技規則、準備運動の実践、スモールサイドゲームの実践	フットサルの歴史、フットサルの競技規則・ルール、準備運動の実践、スモールサイドゲームの実践を学習内容とする。	
	この回の到達目標	フットサルの競技特性を踏まえて、手を用いてパスを繋ぐスキルの獲得、足を用いて、パスを繋ぐスキルの修得し、ボールをもっていない攻撃者のコミュニケーションの取り方を学習していく。	
	事前学修	サッカーのプレー中に味方とコミュニケーションをとり、協力することの有効性を復習する。具体的には、味方の名前を呼び、パスを繋ぐことの有効性、ボールをもっていない味方からの「言葉がけ」、ボールの出し手からボールをもっていない味方への「言葉がけ」の効果について予習する。	30分
	事後学修	サッカーのプレー中に味方とコミュニケーションをとり、協力することの有効性を復習する。具体的には、味方の名前を呼び、パスを繋ぐことの有効性、ボールをもっていない味方からの「言葉がけ」、ボールの出し手からボールをもっていない味方への「言葉がけ」の効果を復習する。	30分
3	1vs1の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、ドリブルとパスを用いたスモールサイドゲーム	1vs1の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、「守備・ボールを奪う」を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃での突破・「ドリブル突破」、「スルーパスでの突破」、「壁パスでの突破」を目標とする。守備時、「ゴールの守り方・相手の攻撃の遅らせ方」、「守備・ボールを奪う」を目標とする。	
	事前学修	1vs1（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	1vs1では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
4	2vs2の状況での「攻撃の突破」対「守備のディレイ」、ドリブルとパスを用いたスモールサイドゲーム	2vs2の状況での「攻撃の厚み」対「守備の厚み」、「守備・チャレンジ&カバー」を学習する。2vs2プラス1フリーマンの状況での「攻撃の厚み」対「守備の厚み」、守備から攻撃の連続性、攻撃から守備の連続性を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、2人での「壁パスでの突破」、3人での「第3の動き」での突破を目標とする。守備では、2人の守備者の守り方・「チャレンジ&カバー」を目標とする。	
	事前学修	2vs2（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 2vs2プラス1フリーマン（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）では、どのような状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	2vs2では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 2vs2プラス1フリーマンでは、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
5	攻撃戦術：グループ戦術での突破の実戦2	攻撃では、相手ゴール前での「臨機応変な攻撃」、グループによるコンビネーションプレーでの突破を学習する。具体的には、相手ゴール前での「臨機応変な攻撃」、「スルーを含んだ突破」などである。4人の攻撃・4角形での攻撃を学習する。守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」を学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、相手ゴール前での「臨機応変な攻撃」、様々なコンビネーションプレーでの突破を学習する。具体的には、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」などである。4人の攻撃・4角形での攻撃を学習する。守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」を学習する。	
	事前学修	4vs3（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 4人の攻撃・4角形での攻撃（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）では、どのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	4vs3では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 4人の攻撃・4角形での攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	守備の個人戦術：背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対する守備	背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対して、守備者は「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」で対応する。3人での守備、4人での守備を学習する。攻撃は、第5回までに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	背後を奪い突破を図る相手攻撃者に対して、守備者は「マークの原則」、「チャレンジの優先順位」で対応する動きを学習する。攻撃は、第5回までに学習した様々な「攻撃の突破」を用いて、相手ゴールを目指すプレーを目標とする。	
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 3人での守備、4人での守備（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）では、どのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 3人での守備、4人での守備では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
7	守備のグループ戦術：「チャレンジ&カバー」など、複数守備者の協力の仕方。	守備では、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込む・「守備の集中」を学習する。攻撃では、後方からのサポートと第6回までに学習した様々な突破を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	守備では、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込む・「守備の集中」を学習する。守備の際に「ボールの奪い所」を計画し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。	
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような守備状況、攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
8	攻撃戦術：「攻撃の厚み」、グループでのサポート	攻撃では、ボール保持者に対してのサポートを学習する。三角形、菱形、中間ポジションなど、攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」を学習する。特に、攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」の重要性について学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、ボール保持者に対してのサポートを学習する。三角形、菱形、中間ポジションなど、攻撃の形に触れながら「オフ・ザ・ボールの動き」を学習する。特に、攻撃の際のボール保持者に対して、斜め後方からの「攻撃の厚み」の重要性について学習する。	
	事前学修	4vs4（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。 5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）でどのような攻撃状況、守備状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	4vs4では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
9	攻撃戦術：「ボールの運び方」、グループでのゴールへの運び方	攻撃では、第8回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフプレーンでの中間ポジションの有効性について学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、第8回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフプレーンでの中間ポジションの有効性について学習し目標とする。	
	事前学修	4人での菱形のポジションでのボールの運び方や4角形の中央に1人の攻撃者をポジショニングした5人での運び方では、どのようなボールの運び方が可能か、想定し、起こり得る運び方を予測する。	30分
	事後学修	4人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
10	守備戦術：「守備の厚み」、グループでの守備のサポート	守備では、「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を学習する。2人以上の守備者で、ボールと相手攻撃者を挟み込む・「守備の集中」を学習する。攻撃では、後方からのサポートと第9回までに学習した様々な突破を用いて、相手ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、1stDFの斜め後方からのサポートした厚みのある守備を実践する（2ndDF）。守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を計画し、ボールを奪い、カウンターアタックに繋げることを目標とする。	
	事前学修	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。	30分
	事後学修	5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人での攻撃の仕方は、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	守備戦術：グループでの守備から攻撃、「守備の集中」からカウンターアタックに繋げる。	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げる。「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を活かし、実践してみる。	
	この回の到達目標	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。	
	事前学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。攻撃では、5人の守備に対して、どのような「攻撃の突破方法」があるか、予測する。	30分
	事後学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人の守備に対する攻撃の突破では、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
12	攻撃戦術：「攻撃の幅」リーグ戦形式のゲーム①	攻撃では、相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実戦する。	
	この回の到達目標	相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実戦する。	
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測して、授業で実戦する。	30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
13	守備戦術：ゴール前の守備「守備の集結」リーグ戦形式のゲーム② ※課題レポートの実施	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目的とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げる。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げることを目標とする。	
	事前学修	攻撃側チームは、最後はゴールに向かって攻撃してくる。守備側チームは、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」について、授業前に起こりそうな守備戦術・「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」を予測して想定し、授業で実戦する。	30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
14	ゴール前での「攻撃戦術」対「守備戦術」リーグ戦形式のゲーム③ ※課題レポートの実施	攻撃では、13回までに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の幅」「スペースを創り、使う動き」での突破を図り、ゴールを目指す。守備では、13回までに学習した「守備の集結」、計画的な「ボールの奪い方」を実戦する。	
	この回の到達目標	攻撃と守備が対峙し、対戦していることを学習する。相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃で、サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」も学習し、目標とする。	
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測して、授業で実戦する。また、相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」で、どのようなプレーが起こりそうか、事前に想定し、授業で実戦する。	30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した「ゴールの奪い方」、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分
15	ゴール前の「守備戦術」対「攻撃戦術」リーグ戦形式のゲーム④ 、整理・まとめ、	守備では、14回までに学習してきた守備戦術、特に、ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実践する。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」も学習する。	
	この回の到達目標	守備と攻撃が対峙し、対戦していることを学習する。ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実践することを目標とする。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」、カウンターアタックも目標とする。	
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな守備戦術・「ボールの奪い方」を予測して、授業で実戦する。また、相手攻撃チームからボールを奪った状況・「守備から攻撃の局面」で、どのようなプレーが起こりそうか、事前に想定し、授業で実践する。	30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」、「守備から攻撃」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
16	守備のグループ戦術：「スライド」など、複数守備者の協力の仕方・第15回の改善		守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。第15回の実践でボールを奪えたプレーとボールを奪えなかったプレーを抽出する。ボールを奪えなかったプレーを改善し、実践していく。	
	この回の到達目標	守備では、グループで「スライド」しながら「ボール奪取計画」をたて、ボールを奪う戦術を学習する。第15回の実践でボールを奪えたプレーとボールを奪えなかったプレーを抽出する。ボールを奪えなかったプレーや「あと少しでボールが奪えそうなプレー」を改善し、実践していく。		
	事前学修	5vs5（自分のゴール1つを守り、相手ゴール1つを攻撃する）で、どのような状況で相手攻撃グループに突破されてしまうのか、どのような状況でボールが奪えない状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。		30分
	事後学修	5vs5では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
17	攻撃戦術：グループでの「ボールの運び方」、「ゴールへの運び方」※授業内テストの実施		攻撃では、第13回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフレーンでの中間ポジションの有効性、「4角形プラス1」について学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、第13回で学習した菱形、中間ポジションなどのボール保持者に対してのサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、相手ディフェンスラインとミッドフィルダーラインの間・シビアゾーンやハーフレーンでの中間ポジションの有効性、「4角形プラス1」について学習することを目標とする。		
	事前学修	4人での菱形のポジションでのボールの運び方や4角形の中央に1人の攻撃者をポジショニングした5人での運び方では、どのようなボールの運び方が可能か、想定し、起こり得る運び方を予測する。		30分
	事後学修	4人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5人でのボールの運び方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
18	攻撃戦術：グループでの「ボールの運び方」、「ゴールへの運び方」とリスクマネジメント※授業内テストの実施		攻撃では、第13回で学習したボール保持者に対するサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、ビルドアップ中にボールを失ってしまうプレーに対してのリスクマネジメントの取り方に焦点をあて、学習する。	
	この回の到達目標	攻撃では、第13回で学習したボール保持者に対するサポートを活かしながら、相手ゴールへボールを運ぶ・ビルドアップを学習する。特に、ビルドアップ中にボールを失ってしまうプレーに対してのリスクマネジメントの取り方に焦点をあて、学習する。		
	事前学修	4人での菱形のポジションでのボールの運び方や4角形の中央に1人の攻撃者をポジショニングした5人での運び方では、どのようなボールの運び方をしたら、ボールを相手グループに奪われてしまうのか、その状況を想定し、予測する。		30分
	事後学修	4人でのボールの運び方とボールを失う状況では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。 5人でのボールの運び方とボールを失う状況では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
19	守備戦術：グループでの守備から攻撃、「守備の集中」からカウンターアタックに繋げる。※授業内テストの実施		守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げる。「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を活かし、実践する。	
	この回の到達目標	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。		
	事前学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。攻撃では、5人の守備に対して、どのような「攻撃の突破方法」があるか、予測する。		30分
	事後学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人の攻撃の突破では、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
20	守備戦術：グループでの守備から攻撃、「守備の集中」からカウンターアタックに繋げる。※授業内テストの実施		守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げる。「守備の厚み」、「チャレンジ&カバー」、「スライド」などのグループ戦術を活かし、実践してみる。	
	この回の到達目標	守備の際に3角形のポジショニングを活かし「ボールの奪い所」を意図的、計画的に設定し、ボールを奪い、カウンターに繋げることを目標とする。		
	事前学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、守備の際、どのようなボールの奪い方が起こりそうなのか。5人の攻撃は、どのような攻撃状況となるのか、起こりそうなプレーを予測する。攻撃では、5人の守備に対して、どのような「攻撃の突破方法」があるか、予測する。		30分
	事後学修	3角形を活かしたボールの奪い方、「挟み込む奪い方」、5人でのボールの奪い方では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。5人の攻撃の突破では、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
21	攻撃戦術：「攻撃の幅」※授業内テストの実施		攻撃では、相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」などを実践する。	
	この回の到達目標	相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」などを学習する。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測しておく。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
22	攻撃戦術：「攻撃の幅」※授業内テストの実施		攻撃では、相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「第3の動き」による突破、「スルーを含んだ突破」、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。	
	この回の到達目標	相手ゴール中央を固めて守る守備に対して、幅広い攻撃を試みる。サイドに相手ディフェンダーを引き出し、相手ゴール中央に入り込むスペースを創り出す。さらに、「斜めの動きを組み合わせた突破」などを実践する。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測しておく。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
23	守備戦術：ゴール前の守備「守備の集結」 リーグ戦形式のゲーム①		コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目的とする。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。		
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、予測しておく。		30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
24	守備戦術：ゴール前の守備「守備の集結」 リーグ戦形式のゲーム①		コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目的とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げる。	
	この回の到達目標	コンビネーションプレーで突破してくる攻撃に対して、守備では、ゴールを守る守備・「守備の集結」で対応し、学習する。第1にはゴールを守ることを目標とする。第2に、ボールを奪える状況を計画的に創り、守備から攻撃に繋げることを目標とする。		
	事前学修	守備では、相手攻撃チームがゴールを目指すプレーに対して、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな守備戦術・「ボールの奪い方」を予測して、授業で実践する。また、相手攻撃チームからボールを奪った状況・「守備から攻撃の局面」で、どのようなプレーが起こりそうか、事前に予測し想定しておく。		30分
	事後学修	守備では、「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」について、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
25	ゴール前での「攻撃戦術」対「守備戦術」 リーグ戦形式のゲーム②		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の幅」「スペースを創り、使う動き」での突破を図り、ゴールを目指す。守備では、これまでに学習した「ゴールの守り方」、計画的な「ボールの奪い方」を実践する。	
	この回の到達目標	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測しておく。守備では、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、守備戦術を予測しておく。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」があるのか、授業前に想定し、起こりそうな攻撃戦術・攻撃方法を予測しておく。守備では、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、守備戦術を予測しておく。		30分
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。守備では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分
26	ゴール前での「攻撃戦術」対「守備戦術」 リーグ戦形式のゲーム②		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、「数的有利の攻撃」での突破を図り、ゴールを目指す。ゴールキーパーの攻撃参加・「パワープレー」を学習する。守備では、これまでに学習した「ゴールの守り方」、計画的な「ボールの奪い方」、「数的不利な状況での守備」を実践する。	
	この回の到達目標	攻撃では、「数的有利の攻撃」での突破を図り、ゴールを目指す。ゴールキーパーの攻撃参加・「パワープレー」を学習する。守備では、「ゴールの守り方」、計画的な「ボールの奪い方」、「数的不利な状況での守備」を学習することを目標とする。		
	事前学修	攻撃では、数的有利な状況で、どのようにゴールを奪う戦術があるのか、について「攻撃の絵」を想定しておく。守備では、数的不利な状況で、どのような「ゴールの守り方」、「ボールの奪い方」があるのか、「守備の絵」を想定しておく。		30分
	事後学修	攻撃では、数的有利な状況での「攻撃の絵」が、どのような結果になったのか、守備では、数的不利な状況での「守備の絵」が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
27	「攻撃の活動性」リーグ戦形式のゲーム③※アンケート調査の実施		攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の活動性」・「スペースを創り、使う動き」で突破を図り、ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」、「スペースを創り、使う動き」での突破があるのか、を想定して授業で実践する。また、相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」で、どのようなプレーが必要か、事前に想定し、授業で実践する。		
	事前学修	攻撃では、相手守備陣がゴール前を固めて守備に対して、どのような「ゴールの奪い方」、「スペースを創り、使う動き」での突破があるのか、を事前に想定して予測する。また、相手守備チームにボールを取られた状況・「攻撃から守備の局面」で、どのようなプレーが必要か、事前に想定しておく。	30分	
	事後学修	攻撃では、自己が事前に想定した起こりそうな攻撃戦術・「スペースを創り、使う動き」が、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
28	「攻撃の活動性」対「守備のバランス」リーグ戦形式のゲーム③※アンケート調査の実施		ゴールを目指し様々な突破をしてくる攻撃に対して、守備は、整備されたバランスで対応し、ゴールを守。攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術、特に、相手ゴール前での「攻撃の活動性」・「スペースを創り、使う動き」で突破を図り、ゴールを目指す。	
	この回の到達目標	ゴールを目指し様々な突破をしてくる攻撃に対して、守備は、整備されたバランスで対応し、ゴールを守る。特に、3角形の底の守備者の関わり方と攻撃参加してくる攻撃者に対するマーキングを学習することを目標とする。攻撃では、これまでに学習してきた攻撃戦術で突破を図り、ゴールを目指すことを目標とする。		
	事前学修	3人、4人、5人でゴールを目指し、突破を図ってくる攻撃に対して、守備はどのような対応をし、ゴールを守ることが出来るのか、について、どのような状況が起こりそうなのか、予測し想定しておく。	30分	
	事後学修	3人、4人、5人での攻撃に対して、守備では、自己が事前に想定した起こりそうなプレーが、どのような結果になったのか、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
29	ゴール前の「守備戦術」対「攻撃戦術」、パワープレーでの攻撃戦術、リーグ戦形式のゲーム④、まとめ		これまでに学習してきた守備戦術、攻撃戦術を活かし、実践する。また、攻撃戦術・パワープレーしてくる相手チームに対する守備戦術を実践し、学習していく。	
	この回の到達目標	これまでに学習してきた守備戦術、攻撃戦術を活かし、実践する。また、1点負けている状況でのゴールを奪う攻撃戦術・パワープレーを実践していく。攻撃側チームのゴールキーパーを高いポジションで攻撃参加することの有効性を学習することを目標とする。		
	事前学修	自チームが1点負けている状況で、どのようなゴールを奪う攻撃戦術があるか。ゴールキーパーを高いポジションで攻撃参加することを戦術の1例として、予測の絵をもつ。その他のゴールの奪う攻撃戦術も想定できる学生は、予測する。	30分	
	事後学修	自チームが1点負けている状況での攻撃戦術・パワープレーで「予測した絵」に関して、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	
30	ゴール前の「守備戦術」対「攻撃戦術」、パワープレーに対する守備戦術、リーグ戦形式のゲーム④、まとめ		守備では、14回までに学習してきた守備戦術、特に、ゴールを守る守備・「守備の集結」、「守備の厚み」、「計画的なボールの奪い方」を活かし、実戦する。相手攻撃チームからボールを奪えた状況・「守備から攻撃の局面」も学習する。	
	この回の到達目標	これまでに学習してきた守備戦術、攻撃戦術を活かし、実践する。また、攻撃戦術・パワープレーしてくる相手チームに対する守備の対応の仕方・相手攻撃チームが1人多い局面が生じた時のゴールの守り方を学習することを目標とする。		
	事前学修	パワープレーの攻撃戦術でゴールを奪いにくるチームに対して、どのような守備でゴールを守ることができるのか。について、事前に「対応する守備の絵」をもち、起こりえるプレーを予測しておく。	30分	
	事後学修	パワープレーの攻撃戦術でゴールを奪いにくるチームに対して、どのような守備でゴールを守ることができるのか。「対応する守備の絵」に関して、事前の想定と事後の結果を比較し、学習を深める。	30分	

科目名	体育実技ⅠC(テニス上級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス中級者、上級者を対象とする（硬式テニスの経験のない軟式テニス経験者及び初級者は、後期「テニス初級」科目を受講することが望ましい）。テニスに相応しい服装（運動着と運動靴）、飲み物、汗拭き用タオル、その他、室内用の運動靴（雨天時）、必要に応じてサンダラスや帽子を準備すること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。

【授業方法】		
・大宮キャンパスのスポーツ施設において2時限連続の実技形式によって行う。雨天時も体育館を使用して基礎技術の練習やテニスに関連したトレーニング、軽運動などを行う。ラリーやサーブなどの技術達成度を評価する技術テスト、ゲームの進め方を含むルールや基礎技術に関する理解度を確認する小テストを行う場合もある。 ・毎回行うドリルとしては、ショートラリー、ロングラリー、フィードによるドリル、サーブドリル、ゲームドリルなどを予定しているが、週ごとに実施されるテーマに応じて組み合わせは異なる。 ・毎回の練習にあたってはデモンストレーションを行うが、その際には学生に協力してもらう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・テニス技術の向上を目的として、学生をグループに分け、サーブなどをスマートフォンで撮影し、映像を基に改善点などについてディスカッションさせる。 ・ダブルスゲームにおいて陣形の選択やポジショニングについてディスカッションをさせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2						
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2				
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2				
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2							
⑤																	
⑥																	
⑦																	
⑧																	
⑨																	
⑩																	
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等																	
討論・発表等																	
授業への参画度	到達目標①②③④についてドリルの実践及びグループワークにおいてコミュニケーション、リーダーシップや協働力が発揮できるかについて評価する。						10	10	10	10							40
その他(筆記試験、技術の試験)	①②について必要な知識や技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。						20	20									40
その他(事前学習及び、授業準備)	①②③④についてスポーツする上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを評価する。						5	5	5	5							20
その他()																	
到達目標別の比率(%)							35	35	15	15							100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
授業の中で行う筆記試験や実技テストの結果を解説することによって行う。																	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】	
授業実施日の教場（金曜日16:45～）、あるいはメール park.mihyang@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	プロのプレイヤーであったこと、選手から一般人まで幅広く指導した経験がある。日本プロテニス協会コーチ資格など。
実務経験に基づく実践的教育の内容		さまざまなレベルの学生の技術指導とともにルールやマナーについての的確なアドバイスができる。授業を通して社会性の醸成が可能である。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス：授業の進め方 導入講義		授業の進め方、受講時の注意点、授業計画の説明を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、授業の計画と内容、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業からの適正な準備と受講ができるようになる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに大宮校舎までの交通手段と時間、授業に必要なものについて準備をする。		30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要なものを準備する。		30分
2	テニス運動の特性と安全管理など		テニスの運動特性と実技授業を安全に行うための規則とマナー、授業運営への協力、ウォーミングアップを学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テニスコートにおける外傷・障害の原因について理解し、授業運営へ協力を自覚できる。		
	事前学修	テニスの運動特性とウォーミングアップについて調べる。		30分
	事後学修	コートサーフェスの特徴とボールの特性についてまとめる。		30分
3	基礎技術の確認		ステップドリルやハンドアイコーディネーションドリルなどを行い、ボディワークについて学習するとともにグラウンドストロークにおいて基礎的な練習を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ステップドリルやハンドアイコーディネーションドリルなどを行うことにより、打点のつかみ方の再確認、自分のフットワークやボディワークの把握ができる。		
	事前学修	フォアハンドストロークとバックハンドストローク技術の特徴について調べる。		30分
	事後学修	グラウンドストローク時、打球姿勢についてデモンストレーションができるように準備する。		30分
4	フォアハンドストロークのトップスピン打法		グラウンドストロークにおけるトップスピンの有効性について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、トップスピン打法に関連して下半身の使い方やラケットワークが習得できる。		
	事前学修	ボールの回転とラケットワークについて調べる。		30分
	事後学修	フォアハンドストロークのトップスピン打法についてまとめる。		30分
5	バックハンドストロークのトップスピン打法		片手打ちと両手打ちとの相違点について理解し、グリップ、打球姿勢、ラケットワークを修得する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドのトップスピン打法が習得できる。		
	事前学修	バックハンドに用いるグリップとバックスイングについて確認する。（両手打ちと片手打ち）		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点をまとめる。		30分
6	バックスイングの役割と重要な要素について		グラウンドストロークにおけるバランス取れた構え姿勢について再確認し、バックスイングの役割と重要な要素について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、構えの姿勢から打球までの動き「知覚」→「動き出し」→「フットワークとバックスイング」の流れを素早くできるようなテクニックが習得できる。		
	事前学修	バランスの取れた構え姿勢やスプリットステップについてデモンストレーションができるようにする。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルや技術の要点について整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フォワードスイングからインパクト、フォロースルーまで	主要局面と終末局面の役割とその重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な打点と打球方向へのスイングが習得できる。	
	事前学修	グラウンドストロークのイメージトレーニングをする。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルや観察されたことについて整理する。	30分
8	フットワーク（浅いボールと深いボール）	浅いボールと深いボールに対して正しいステップについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サイドステップやクロスステップを修得することにより、適切な打点で打つことができる。	
	事前学修	動画などを参考に、ステップについて調べる。	30分
	事後学修	サイドステップをストロークラリーに活用できるように練習しておく。	30分
9	フットワーク（ワイドのボール）	ワイドのボールに対してランニングステップやクロスステップを活用することによって、返球率を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、遠いボールに対して返球できるフットワークが習得できる。	
	事前学修	試合の動画を視聴し、フットワークを学修する。	30分
	事後学修	練習したドリルの中で「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」について整理する。	30分
10	クロスコート・ラリー	試合で用いられる基本戦術である「クロスコート・ラリー」を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クロスコート・ラリー練習を通してリカバリー能力を高める。	
	事前学修	グラウンドストロークラリーにおける「クロスコートラリー」の有効性について学修する。	30分
	事後学修	クロスコート・ラリーを行った後、達成度や改善点についてまとめる。	30分
11	クロスコート・ラリーとドリルゲーム	「クロスコート・ラリー」を活かしたゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「クロスコート・ラリー」のゲームを通して「安定したグラウンドストロークラリー」に必要な要素について学修する。	
	事前学修	ゲームのルール「タイプレークシステム」について確認する。	30分
	事後学修	ゲームを振り返り、記録紙をもとにアウトした時のショットとコースについて把握し、課題と練習ドリルについてノートする。	30分
12	グラウンドストロークラリー達成度の確認	クロスコートラリーを行い、ラリーの回数や深さ、スピン、リカバリーの姿勢などを観察する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、安定したクロスコートラリーができる（フォアとバック）。	
	事前学修	前回行ったドリルのイメージトレーニングを行う。	30分
	事後学修	行ったラリーを振り返り良かったところと、改善点についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	サーブ技術の基礎		自分のサービスグリップの再確認とそのグリップに適切なトス位置やラケットワークなどについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フォロースルーをした後、体のバランスや重心移動を確認することにより安定したトス位置、正確なインパクトを身につける。		
	事前学修	資料を参考にサービス技術の要点を確認する。		30分
	事後学修	サーブ練習を振り返り、自分の改善点とトレーニング方法についてまとめる。		30分
14	サーブ技術の基礎と応用		スピンスーブを打つためには、必要な要素について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、トップスピンやスライスサーブを身につけることによりサービスコースや安定したサービスが打てる。		
	事前学修	肩が滑らかに動けるように柔軟性の向上するトレーニングや投球練習などを行う。		30分
	事後学修	投球動作とサーブ動作の類似点と相違点についてまとめる。		30分
15	サーブのリターン		サーブのリターン率を高めるための要素について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リターンするまでの「予測と動き始める足」「ステップとスタンス」「ラケットの準備」などについて習得する。		
	事前学修	プロの試合動画を視聴し、レシーバーの構え姿勢、ポジショニング、動き始める足などを観察する。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルとリターン技術の要点と改善点についてまとめる。		30分
16	ゲームドリル		ゲームを通してサーブからラリーへ移行するフットワークやリズムを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルスゲームを通して各基礎技術の確認とともに課題を見つける		
	事前学修	セルフジャッジ方法（判定とコール、スコアのコール、マナーなど）について調べる。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り要点をまとめる。		30分
17	ボレーの基礎（打球姿勢、グリップとラケットワーク）		ボレーの特徴を理解し、自分のグリップを知ること、初めて打球姿勢、そのグリップに合った打点、ラケットワークについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ボレーの基礎技術とともに打球姿勢とラケットワークが修得できる。		
	事前学修	ボレーの技術（グリップ、基本打法、）グラウンドストロークとの相違点について調べておく。		30分
	事後学修	行ったドリルや「うまくできたところ、うまくできなかったところ」について整理しておく。		30分
18	ボレーの基礎と応用		体に近いボールと遠いボール、低いボールと高いボールなどの打ち方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、打点に合わせたフットワークを修得することにより、ボールコントロールの精度を高めることができる。		
	事前学修	ボレーの特徴について調べる。		30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ、うまくできなかったところ」を整理しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ネットプレーを楽しむ	グラウンドストローク対ボレー・ラリーの状況の中、相手の球質に対するボレーのテクニックや適切な判断、ポジショニングなどを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ハーフボレーの技術を習得することによりバランス取れた姿勢の維持や返球の成功率が上がる。	
	事前学修	プロ試合の動画を視聴し、ハーフボレー時の姿勢やラケットワークについて観察する。	30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ」、「うまくできなかったところ」を整理しておく。	30分
20	ダブルスゲーム	ダブルスゲームを楽しむ中でゲームのルールやゲームの戦術、パートナーシップなどに慣れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ダブルスゲームの実践ができる。	
	事前学修	ダブルスゲームの進め方及び判定とコール、得点のコール（セルフジャッジ）ができるようにする。	30分
	事後学修	ゲームを振り返り、サーブやリターンの確率、ショットについて良かった点と良くなかった点についてまとめる。	30分
21	ダブルスゲーム（雁行陣）	前衛と後衛の役割を確認し、前衛のポジショニングについて学習する。	
	この回の到達目標	前衛の役割と後衛の役割について説明ができる。	
	事前学修	ダブルス試合の動画を視聴して選手の動きについて学修する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、要点についてまとめる。	30分
22	ダブルスゲーム（前衛の役割：ロブ処理とスマッシュ）	ハイボレーでのロブ処理とスマッシュ技術の練習を行い、ドリルゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロブに対するショットの判断とスマッシュのコントロールを高める。	
	事前学修	スマッシュの基本打法について調べる。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点についてまとめる。	30分
23	スライス打法	スライス打法を習得することにより、アプローチショットや、ドロップショット、ロブ、リターンなどの精度が高まる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、スライス打法を習得するとともにアンダースピンで打てるショットについて学修する。	
	事前学修	スライス打法について調べる。	30分
	事後学修	スライス技術の要点と行ったドリルと課題についてまとめる。	30分
24	アプローチショットとネットプレー	浅いボールに対する「返球し方」や「ネットにつく動き」、「アプローチショット」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アプローチショットの技術を高めてネットプレーの状況を増やす。	
	事前学修	アプローチショット技術について調べる。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ダブルスゲームの戦略（リターンしてネットプレー）		セカンドサーブをリターンし、ネットプレーで得点を狙う戦略について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブのリターンからネットについて平行陣プレーができる。		
	事前学修	ネットプレーの利点について調べておく。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
26	ダブルスゲームの戦略（平行陣）		ネット平行陣対ベースライン平行陣の練習を通してショットの選択やコース、ポジショニングなどについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平行陣プレーを楽しむ中でボレーのコントロールやショットの選択、パートナーとのポジショニングなどについて理解が深まる。		
	事前学修	ダブルスゲームの動画を視聴し、平行陣プレーを学修しておく。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
27	ダブルスゲーム（パッシングショットとロブ）、		平行陣プレイヤーに対する戦術の一つである「パッシングショット」と「ロブ」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、状況に応じて適切なショットが打てるかどうかの判断能力が修得できる。		
	事前学修	動画を視聴し、平行陣について理解を深める。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
28	シングルスおよびダブルスゲーム		ゲームの運営、さまざまな技術レベルの人とテニスの楽しみ方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。		
	事前学修	基本的なリーグ戦の方法を確認する。審判のコールの仕方を確認する。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめる。		30分
29	ダブルスゲームの運営		さまざまな技術レベルの人とテニスを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、習得したさまざまな技術とポジショニングをペアと共有する能力を習得できる。		
	事前学修	平行陣と雁行陣について理解を深めておく。サーブの種類とリターンのポジショニングについて調べる。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめる。		30分
30	振り返り・まとめ		継続的にテニスを楽しむための技術の修得以外に仲間の存在の重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テニスを実践することによって「健康の維持・増進、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション能力、リーダーシップ・協働力」などを身につける。		
	事前学修	健康スポーツとしてのテニス活動によって得られる恩恵を再考する。		30分
	事後学修	運動に対する自信、努力や練習をすればできるようになるという自信、仲間から受け入れられているという自信などの運動有能感について考えておく。		30分

科目名	体育実技ⅠC(テニス初級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初心者を対象とするが、経験者の受講も可とする。テニスに相応しい服装（運動着と運動靴）飲み物、汗拭き用タオル、室内用の運動靴（雨天時）、必要に応じてサングラスや帽子を準備すること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。

【授業方法】
・大宮キャンパスのスポーツ施設において2時限連続の実技形式によって行う。雨天時も体育館を使用して基礎技術の練習や、テニスに関連したトレーニングなどを行う。ラリーやサーブなどの技術達成度を評価する技術テスト、ゲームの進め方を含むルールや基礎技術に関する理解度を確認する小テストを行う場合もある。 ・毎回行うドリルとしては、ショートラリー、ロングラリー、フィードによるドリル、サーブドリル、ゲームドリルなどを予定しているが、週ごとに実施されるテーマに応じて組み合わせは異なる。 ・毎回の練習にあたってはデモンストレーションを行うが、その際には学生に協力してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テニス技術の向上を目的としてサーブなどをスマートフォンで撮影し、映像を基に改善点などについてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④についてドリルの実践及びグループワークにおいてコミュニケーション、リーダーシップや協働力が発揮できるかについて評価する。	10	10	10	10							40
その他(筆記試験、 技術の試験)	①②について必要な知識や技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。	20	20									40
その他(事前学習 及び、授業準備)	①②③④についてスポーツする上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で行う筆記試験や実技テストの結果を解説することによって行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業実施日（金曜日16:45～）教場、あるいはメール　park.mihyang@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	プロのプレイヤーであったこと、選手から一般人まで幅広く指導した経験がある。日本プロテニス協会プロコーチ資格など。
実務経験に基づく実践的教育の内容		さまざまなレベルの学生の技術指導とともにルールやマナーについての的確なアドバイスができる。授業を通して社会性の醸成が可能である。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	1回：ガイダンス： 授業の進め方 導入講義		授業の進め方、受講時の注意点、授業計画の説明を行う。
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、授業の計画と内容、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業からの適正な準備と受講ができるようになる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに大宮校舎までの交通手段と時間、授業に必要なものを準備をする。	30分
	事後学修	第2回以降の授業に備え、テニスを行う際の服装や用具などを確認しておくこと。	30分
2	1回：テニス運動の特性と安全管理など		テニスの運動特性と実技授業を安全に行うための規則とマナー、授業運営への協力について学修する。
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、テニスの障害を予防するため、正しいストレッチやケアの方法などを身につける。	
	事前学修	テニスにおける外傷・障害の原因について調べておくこと。	30分
	事後学修	実技授業を安全に行うための規則とマナー、注意点などについてまとめておくこと。	30分
3	2回：セルフテニス ハンドアイコーディネーション		準備運動をととしてテニス技術に必要な基本的な運動技能について学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボールのドリルを通して「ハンドアイコーディネーション」能力を向上させる。また、コンチネンタルグリップに慣れることやボールつきセルフラリーを20回程度を目安に連続できる。	
	事前学修	基礎技術や専門用語について調べておくこと。	30分
	事後学修	準備運動で行ったストレッチができるようにする。	30分
4	2回：ボールタッチとラケット面の コントロール		短い距離でラリーを行い、相手とのリズム、間の取り方、相手打球の見極め（弾道、距離、バウンド、位置等）、最適な打点と面づくり、ボールタッチなどを学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、サーブスコートやアレイコートを使ったラリーをすることにより、打球強度のコントロールやラケットの面のコントロールなどを習得する。	
	事前学修	コートの名称や専門用語について調べる	30分
	事後学修	授業で行った「ハンドアイコーディネーション」ができるようにする。	30分
5	3回：グラウンドストロークの基本 （フォアハンドストローク）		「フィードイングによるドリル」をおこない基本打法を習得する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、「知覚」、「打球姿勢」、「適切な打点とラケットの面のコントロール」、「重心のコントロール」などが習得できる。	
	事前学修	フォアハンドストローク技術（グリップ、打球姿勢、ラケットスイングなど）について調べる。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルとフォアハンドストローク技術の要点についてまとめる。	30分
6	3回：ショートラリー		ラリーにおけるフットワークについて学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、かまえ姿勢から「一歩動き始めるピボット」→「ランニングステップやサイドステップ」→「スタンス」→「サイドステップやクロスステップ」を習得する。	
	事前学修	グラウンドストロークにおけるスタンスの種類とステップについて調べる。	30分
	事後学修	授業で行った「ステップドリル」をできるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	4回：グラウンドストロークの基本（バックハンドストローク）		パートナーとのフィーディングによるドリルをおこない、バックハンドストロークの基本打法を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連してバックハンドストロークの「打球姿勢」、「適切な打点とラケットの面のコントロール」、「重心のコントロール」などが習得できる。		
	事前学修	バックハンドストロークの技術（グリップ、打球姿勢、ラケットスイングなど）について調べる。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルとバックハンドストローク技術の要点についてまとめる。		30分
8	4回：返球までの準備動作（グリップチェンジとテークバック）		フォアハンドストロークからバックハンドストロークへ移行する際のグリップチェンジと同時にテークバック動作を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、グリップチェンジからテークバックまでの動作がスムーズにできることで適切な打点で安定したインパクトができることを学ぶ。		
	事前学修	自分の「フォアハンドストローク時のグリップの名称と打点」、「バックハンドストロークのグリップの名称と打点」についてデモンストレーションができるようにする。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルや技術の要点、自分の改善点などを含め総合的にまとめる。		30分
9	5回：ショートラリーと易しいゲーム		ラリーを通して返球までの準備動作（知覚とバックスイング動作、ステップとスタンス）を再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブスコートを使ってショートラリーを中心に「ミニゲーム」を体験し、相手の打球を見極めること、ボールタッチの感覚、スコアリングなどを学修する。		
	事前学修	相手のボールを受けるための構え姿勢について調べる。		30分
	事後学修	ゲームを体験した後、うまくできた点とうまくできなかった点についてまとめる。		30分
10	5回：ボレーの基本（フォアハンドとバックハンド）		ボレーの特徴を理解した上で、「フィーディングによるドリル」を行い、ボレーの基本打法を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、相手の打球（弾道、距離、方向等）を見極め、打点と面づくり、ボールタッチなどを習得することにより、ラリーの能力やネットプレーができるようにする。		
	事前学修	ボレー技術（グリップ、打球姿勢、ステップなど）を調べる。		30分
	事後学修	グラウンドストロークと異なる点やボレー技術の要点についてまとめる。		30分
11	6回：ボレーの基本（打点に合わせたステップ）		「からだに近いボールと遠いボール」「高いボールと低いボール」の打点に合わせたステップとラケットワークについて学修する。	
	この回の到達目標	「体に近いボールと遠いボール」に対して、ステップを使い分けることにより適切な打点で正確なインパクトができることを学ぶ。		
	事前学修	テニス動画などを視聴し、ボレーの姿勢、ステップ、ラケットの動きについて学修する。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点についてまとめる。		30分
12	6回：・ボレー対グラウンドストロークラリー ・ネットプレー		ボレー対グラウンドストロークラリーを通して、相手の打球の見極めとともにバックスイングの大きさやラケットワーク、ラリーのリズムについて学修する。	
	この回の到達目標	ボレー対グラウンドストロークラリードリルを行うことにより、ボレーとグラウンドストロークそれぞれの返球までの準備動作（かまえ姿勢、知覚とスプリングステップ、テークバックなどの技能を学ぶ。		
	事前学修	前回行ったドリル（投げて送球し、返球、返球されたボールをキャッチするリル）をフォアハンドとバックハンドを交互にインパクトができるようにする。		30分
	事後学修	授業で行った内容を振り返り、改善点についてまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	7回：グラウンドストローク・ラリー動作の観察		グラウンドストロークラリー時の動きをスマートフォンなどで撮ってもらい、「構え、打点へのフットワーク、ラケットスイング、リカバリー姿勢など」の動きを観察するようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループごとにグラウンドストロークラリーを動画で撮った後、動きや打法を観察し改善点について話し合う。		
	事前学修	資料を基にフォアハンドストロークとバックハンドストローク技術の局面構造について目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で撮ったラリーの動画を観察し、自分の改善点についてまとめておくこと。		30分
14	7回：サーブの基本（グリップとインパクト）		サーブの基本動作について学修し、「インパクト」から最も近い関節（手首→肘→肩）を動かす練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コンチネンタルグリップを用いて前腕と手を内側に回す運動を行うことによって正確なインパクトができる。		
	事前学修	投球動作とサーブ動作の類似点について調べる。		30分
	事後学修	サーブにおけるコンチネンタルグリップの有効性についてまとめる。		30分
15	8回：サーブの基本（ラケットワーク）		正確なインパクトを取るための要素について考える。例えば、トスの位置、フォワードスイングの開始時間、バランスとリズム、テークバック後のための時間、ラケットの面の向きや維持など)	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、安定したインパクトをするためのフォワードスイングの重要性について学修する。		
	事前学修	トス練習とともにキャッチボールなどを行い、肩の動きを滑らかに動かせるようにする。		30分
	事後学修	フォワードスインを習得するためのトレーニングについてまとめる。		30分
16	8回：サーブの基本（ボールに回転を加える）		ボールに横回転を加えてサーブを打つことにより、サービスコートへサーブが入ることを体験する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、横回転をかけたボールを打つために、トスの位置、ラケットスイングの方向、前足でのバランスの維持などを学修する。		
	事前学修	前回行った「ボールをインパクトするまでの動作（トスとテークバック、前足でバランスを維持）を確認する。		30分
	事後学修	これまでの学習したサーブ基礎についてまとめる。（グリップ、インパクトするまでのトスと打点、バランスとフォワードスイング）		30分
17	9回：サーブのリターンの仕方、スライス打法とドリルゲーム		相手のサーブをうまく返球するためには、攻撃ではなく防御を考えて早く反応し、コンパクトなドライブのリターンで返球することを理解する。確実に返球に役に立つショットとして「ブロック、チップ、スライスなど」を習得する。 サーブのリターンの仕方（方向を予測・判断し、スプリットステップとともに動き出す足、コンパクトなバックスイングなど）について学習する。	
	この回の到達目標	相手の球種と方向を予測し、遅れないタイミングでインパクトできるテクニックを習得する。		
	事前学修	試合の動画を視聴し、ファーストサーブ時のリターン仕方とセカンドサーブ時のリターン仕方について理解を深める。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
18	9回：トップスピン打法について（フォアハンドストローク）		トップスピン打法を習得することにより、安定したラリーとともにヘッドスピードや様々なショットが打てる。ゲームにおいても有効なショットが打てることについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、トップスピン打法（グリップ、打球姿勢、スタンス、ラケットワーク）を習得できる。		
	事前学修	動画を活用してトップスピンの打球を観ておくこと。		30分
	事後学修	授業で行った内容を振り返り、うまくできた点とうまくできなかった点についてまとめておくこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	10回：トップスピン打法 (両手打ちのバックハンドストローク)		片手打ちと両手打ちとの相違点について理解し、両手打ちのバックハンドストロークの打法を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、両手打ちバックハンドストロークの打法（グリップ、打球姿勢、スタンス、ラケットワーク）が習得できる。		
	事前学修	体幹の捻り動作を滑らかに動かすために体幹部や肩周辺のストレッチをしておく。		30分
	事後学修	授業で行った内容を振り返り、うまくできた点とうまくできなかった点についてまとめる。		30分
20	10回：トップスピン打法で深いラリーとゲームドリル		・トップスピン打法を習得することにより、ベースラインからのグラウンドストロークを安定させる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相手の打球（弾道、距離、バウンド）を見極めて、ボールのスピードやリズムに合わせたストロークを習得する。		
	事前学修	動画を活用してグラウンドストロークを観ておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
21	11回：クロスコート・ラリーとドリルゲーム		フィードされたボールをクロスコートへ打ち、連続ラリーの練習を行う。 ラリー中心にゲームドリルを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クロスコートルリーを行い、ベースラインの局面でのセオリーについて学習する。		
	事前学修	戦術の資料を読んで、クロスコートでラリーを展開することが基本であることを理解しておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
22	11回：シングルスゲームのリーグ戦		4人1グループに分けてリーグ戦を行う。ゲームを待機する人は、仲間のプレーを記録とし審判をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルスゲームを行い、ゲームの進め方、セルフジャッジとコール仕方を身につける。		
	事前学修	タイブレーク方式について調べておく。		30分
	事後学修	記録したゲーム内容を確認し、サーブとリターンの確率、ラリーの安定性について分析しておく。		30分
23	12回：ダブルスゲーム（雁行陣）		基本的なダブルスゲームのフォーメーション（雁行陣）を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ルールに従って相手と競い、自主的に参加するというスポーツの本質を理解する。		
	事前学修	ダブルスゲームの進め方（トス、判定とコール、得点の数え方など）について調べる。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り、「良かったところ」と「うまくできなかった点」についてまとめる。		30分
24	12回：アプローチショットとネットプレー		浅いボールに対する打てるショットと打った後のポジションについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、浅いボールを打って、ネット際でポジションをとる場合や、確実に返球したいときなどに、スライス打法が有効であることを理解する。		
	事前学修	アプローチショットショットについて調べる。		30分
	事後学修	アプローチショットとネットプレーの練習を振り返り、「うまくできなかった点」と「うまくできなかった点」についてまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	13回：ダブルスゲーム（平行陣）		ネット際で平行陣プレー対するベースラインの局面での平行陣プレーを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、異なる陣形のゲーム状況下とプレースタイルでダブルルームゲームを行い、パートナーとの協力やコミュニケーションをとる試合を行う。		
	事前学修	ダブルスゲームの試合の動画を視聴しておき、パートナーとの間隔や相手の打球、自分たちの打球を見極め、ポジションを変えることを学ぶ。	30分	
	事後学修	ゲームを振り返り、「うまくできた点」と「うまくできなかった点」、「ショットによるポジション」などについて質疑応答する。	30分	
26	13回：ダブルスゲーム		ネット際での判断と動き、ポーチやロブ処理などのショットについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前衛の役割として相手の打球とパートナの打球を見極め、ラリーごとにポジションを変える。		
	事前学修	基本的なリーグ戦の方法や審判のコールの仕方を確認しておく。 ダブルス試合の動画を視聴し、それぞれの選手の動きについて学修しておく。	30分	
	事後学修	前衛の動きを振り返り、ネット際でうまく打てなかったショットやポジショニングについてまとめる。	30分	
27	14回：シングルスおよびダブルスゲーム		シングルスとダブルスの試合をする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゲームの運営、技術レベルの差がある人とゲームを行う際にルールの解釈で埋めることを工夫しゲームを楽しむ。		
	事前学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、戦術や戦略を考えておく。	30分	
	事後学修	試合を振り返り、「よくできた点」と「よくできなかった点」についてまとめる。	30分	
28	14回：シングルスおよびダブルスゲーム		ゲームの運営、テニスを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。		
	事前学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、戦術や戦略を考えておく。	30分	
	事後学修	ゲームを振り返り、プレーの全般についてうまくできた点とうまくできなかった点についてまとめる。	30分	
29	15回：サーブ技術の習得度		サーブのテストを行い、これまでの習得してきたサーブ技術（グリップ、バランス、トスとテークバックなど）とサービスコートに入れる頻度を測る。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、サーブのテストを通してこれまでの習得してきたサーブ技術（グリップ、バランス、トスとテークバックなど）とサービスコートに入れる頻度を測る。		
	事前学修	テストに備えからだのからだのコンディションを整えておく。	30分	
	事後学修	テストを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめておく。	30分	
30	15回：ペーパーテスト、総括		継続的にテニスを楽しむための技術の習得以外に仲間の存在の重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テニスを実践することによって「健康の維持・増進、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション能力、リーダーシップ・協働力」などを身につける。		
	事前学修	健康スポーツとしてのテニス活動によって得られる恩恵を再考する。	30分	
	事後学修	運動に対する自信、努力や練習をすればできるようになるという自信、仲間から受け入れられているという自信などの運動有能感について考えておく。	30分	

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問いません。運動靴（紐靴が望ましい）、運動着（トレーニングウェア等）、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をしてください。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設を使用して、2時限連続の実技形式により行う。バドミントンの知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	バドミントンに関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、競技特性や運動特性、知識（ルール、マナー、安全管理）を理解しているかを、筆記試験等にて評価する。		15									15
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、準備・運営・協働等により授業への積極的参画ができているかをリアクションペーパーにより評価する。			15								15
その他(技能等)	到達目標①について、必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができるかを、技能試験等にて評価する。 ※スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	15										15
その他(振り返りシート等)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後やグーグルクラスルーム等を通して受け付ける。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 体育・スポーツの意義と価値		授業の目的と方法、授業の組み立て、評価方法、授業時の注意点等について理解する。 受講にあったって体育・スポーツの意義と価値について考え、様々な恩恵を推測する。	
	この回の 到達目標	到達目標③・④に関連して、ガイダンス内容および体育・スポーツの意義と価値について説明できる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。 体育・スポーツに対する自身の考えを準備する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の授業計画を確認する。		30分
2	バドミントンの運動特性及び安全管理		バドミントンの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業を安全に実施するための安全管理について理解する。また、スポーツ活動によって起こりうるスポーツ傷害について理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②・③に関連して、バドミントンの運動特性および実践による恩恵について説明することができる。また、スポーツを安全に実施するための準備について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンの運動特性及び特徴について調べる。また、当該スポーツにおいて発生するスポーツ傷害について調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、理解を深める。		30分
3	体力測定及び身体運動への理解		体力測定により自己の体力評価・水準の把握を行い、体力の保持・増進のための適正な運動強度について理解する。アイスブレイクを兼ねた軽運動を通じて、他者とのコミュニケーションの取り方について考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標③・④に関連して、自己の体力評価および体力の保持増進に向けた方策について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンに必要な体力要素について調べる。事前に周知する測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定結果を踏まえ自己の体力に対して評価し、体力の保持・増進に向けた方策を考える。振り返りシートを作成する。		30分
4	グリップの握り方、ラケットの振り方、コートの設営		ラケットの基本的な握り方や振り方を実習し理解する。バドミントンの運動動作に関連するエクササイズを実践する。コートの設営方法、その際の注意点を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標①・②に関連して、バドミントンのグリップの握り方及び振り方等の基本的な技術、及び用具の名称について説明することができる。		
	事前学修	ラケットの特徴、各部の名称について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、握り方や振り方についての理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
5	ラケットに慣れる バドミントンのフットワーク		素振りを通じて基本的な動作と技術について理解する。バドミントンに必要とされる動作（フットワーク）について、コートを利用して実習する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①・④に関連して、バドミントン技術（動作）について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンの動作特性を調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、動き方やラケットコントロールについての理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
6	シャトルに慣れる		シャトルを使った簡単なエクササイズを通じて、シャトルの特徴を理解する。天井および壁打ちによる打ち方の基礎運動を行う。付帯伸長能力を養うためラケットコントロールエクササイズを行う。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①・④に関連して、シャトルの特徴とそれを扱う技術、ラケットコントロールについて説明することができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	シャトルの特性について調べる。ラケットにシャトルが当たらない原因について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、シャトルを自由に扱うために必要なトレーニングについて理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基本的な動作と技術を学ぶ		基本となるストローク（オーバーヘッド、サイド、アンダー）について理解し、それに応じたショットを実習する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	授業で提示する3つのストロークについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ストロークの種類と共にショットの特徴について理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
8	基本的なショットを学ぶ（サーブ、ドライブ）		サービスの種類（ショート・ロング）と、フォア及びバックそれぞれの技術について実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	サーブ及びドライブショットの特徴と必要な動作（ラケットワーク、フットワーク等）について調べる。特に、サーブについては競技規則を確認し、ルールに基づいた動作を確認する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
9	基本的なショットを学ぶ（ドロップ、プッシュ、カット）		様々なオーバーヘッドストロークのショットについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ドロップ、プッシュ、カットの特徴と必要な動作（ラケットワーク、フットワーク等）について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
10	基本的なショットを学ぶ（ロビング、ヘアピン）		ネット前のショットについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ロビング、ヘアピンの特徴と必要な動作（ラケットワーク、フットワーク等）について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
11	基本的なショットを学ぶ（クリア）		ハイクリア及びドリブンクリアについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、各ショット技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ハイクリア及びドリブンクリアの特徴と必要な動作（ラケットワーク、フットワーク等）について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
12	基本的なショットを学ぶ（スマッシュ）		スマッシュ及びスマッシュレシーブについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	スマッシュ及びスマッシュレシーブの特徴と必要な動作（ラケットワーク、フットワーク等）について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ショットの技術確認と評価 1		サーブおよび各ショットの打ち分けについて技能テストを実施する。テストの結果を踏まえて、これまでの取り組みについて振り返り、課題設定と解決方を考える。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、自己の技能レベルについて評価及び説明ができる。また、向上のために課題設定及び必要な解決方を示すことができる。		
	事前学修	学修した各種ショットについて復習する。		30分
	事後学修	技能テストの結果を踏まえて自己の技能レベルに対して評価し、技術及び技能向上のための方策を考える。		30分
14	シングルスゲームの実践①		これまでの取り組み、競技規則を用いてシングルスのゲーム進行を理解する。グループ分けのための試合を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則に基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの実践を通して得られた気づきを踏まえて、目標設定（課題の明確化、解決方を提示）をすることができる。		
	事前学修	シングルスに関連する競技規則を確認する。		30分
	事後学修	試合の結果及びこれまでの取り組みから気づいた点をまとめ、それらを踏まえて目標の設定を行う。振り返りシートを作成する。		30分
15	シングルスゲームの実践②グループ別リーグ戦		競技力で分けたリーグ戦形式の試合（前半）を行う。審判方法、技術について実習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	スムーズな試合進行のために必要な準備をする。審判方法（用語、ジェスチャー）について調べる。目標設定を確認する。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理し、設定した目標の達成度を確認する。		30分
16	シングルスゲームの実践③（グループ別リーグ戦）		リーグ戦形式の試合（後半）を行う。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合結果を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理し、事前に設定した目標の達成度を確認する。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分
17	シングルスゲームの実践④（グループ別トーナメント戦）		リーグ戦の結果を踏まえたトーナメント形式で試合（前半）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	リーグ戦を振り返り、ゲームの組み立てや戦術を考える。スムーズな試合進行のために必要な準備をする。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術について「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。		30分
18	シングルスゲームの実践⑤（グループ別トーナメント戦）		トーナメント形式で試合（後半）を行う。対戦相手の戦術を理解し、適切な対処方法を考える。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術の目標設定を行う。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	シングルスゲームの実践⑥（団体戦）		シングルスの団体戦（紅白戦）を行う。チームの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。ルールおよびマナーについての小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、他者と協力することで得られる恩恵について説明することができる。		
	事前学修	スムーズな試合進行のために必要な準備をする。競技規則を確認し用語やマナーについて復習する。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術の成果、意見交換の内容を整理し、振り返りシートを作成する。小テストの結果を踏まえて、ルール及びマナーの理解を深める。		30分
20	ショットの確認と評価2（技能テスト）		サーブおよび各ショットの打ち分けについて技能テストを実施する。テストの結果を踏まえて、これまでの取り組みについて振り返り、課題設定と解決方策を考える。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、自己の技能レベルについて評価及び説明ができる。また、向上のために課題設定及び必要な解決方策を示すことができる。		
	事前学修	学修した各種ショットについて復習する。		30分
	事後学修	技能テストの結果を踏まえて自己の技能レベルに対して評価し、向上のための方策を考える。		30分
21	ダブルスゲームの実習①		これまでの取り組み、競技規則を用いてダブルスのゲーム進行を理解する。ゲームの組み立てや戦術についてのワークを実習する。実習した戦術を踏まえて簡易ゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方策を提示することができる。		
	事前学修	ダブルスに関する競技規則を確認する。ダブルスに必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。		30分
22	ダブルスゲームの実習②		審判方法、技術について実習する。ゲームの組み立てや戦術についてのワークを実習する。実習した戦術を踏まえて簡易ゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方策を提示することができる。		
	事前学修	競技規則を確認する。したワークの内容を復習する。ダブルスに必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
23	ダブルスゲームの実践①（グループ別リーグ戦）		競技力で分けたリーグ戦形式の試合（前半）を行う。前回までに実習した戦術やゲームの組み立てを意識してゲームを楽しむ。パートナーと共にゲームの組み立てや戦術について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方策を提示することができる。		
	事前学修	習得した技能を用いたゲームの組み立てや戦術を考え、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。		30分
24	ダブルスゲームの実践②（グループ別リーグ戦）		リーグ戦形式の試合（後半）を行う。同じリーグの仲間とお互いの戦術やゲームの組み立てパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ダブルスゲームの実践③（グループ別トーナメント）		リーグ戦の結果を踏まえてトーナメント形式で試合（前半）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方を提示することができる。		
	事前学修	リーグ戦の試合内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。		30分
26	ダブルスゲームの実践④（グループ別トーナメント）		トーナメント形式で試合（後半）を行う。対戦相手の戦術を理解し、適切な対処方法を考える。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分
27	トリプルスゲームの実践①		トリプルのルールを理解し、それを踏まえてゲーム（前半）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方を提示することができる。		
	事前学修	トリプルのルール（サービス順、リベロの役割等）について調べる。必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。		30分
28	トリプルスゲームの実践②		トリプルの試合を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・④に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合内容（ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション）を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
29	レクリエーションとしてのバドミントンを学ぶ		これまでの取り組みを踏まえて、健康スポーツあるいは生涯スポーツとして実施できる試合方法を提案し、それを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでの取り組みを踏まえて、既存のスポーツを様々な視点（参加者の特性等）から考察し新しい価値を提案することができる。		
	事前学修	健康スポーツとして、あるいは生涯スポーツとして実施するためにどのような取り組みがあるか調べる。		30分
	事後学修	これまでの取り組みを踏まえて、スポーツへの継続的な参加あるいは運動の習慣化によってもたらされる恩恵について整理する。		30分
30	まとめと講評		授業での学びを振り返り、バドミントンの実践あるいは運動・スポーツの実践により身体的・心理的・社会的側面にどのような恩恵があったかについてレポートを作成する。また自己の目標達成度を確認する。また、当該スポーツの参加がもたらす、健康面への影響について様々な視点から考察する。まとめテスト（筆記試験）の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、様々なバドミントンの実践によってもたらされた、身体的・心理的・社会的側面への影響について説明することができる。また、スポーツ参加の功罪について理解し、様々な視点で考察することができる。		
	事前学修	これまでの取り組みを振り返り、スポーツへの継続的な参加あるいは運動の習慣化によってもたらされる恩恵について考える。		30分
	事後学修	バドミントンに限らず、運動・スポーツの実践によって得られる様々な恩恵について再考する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(ゴルフ初級)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
受講者は運動靴、運動着（トレーニングウェア等）を準備すること。※第1回目は準備不要

【授業方法】		
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設を使用して、2時限連続の実技形式により行う。ゴルフの知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゴルフに関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、競技特性や運動特性、知識（ルール、マナー、安全管理）を理解しているかを、筆記試験等にて評価する。		15									15
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、準備・運営・協働等により授業への積極的参画ができているかをリアクションペーパーにより評価する。			15								15
その他(技能等)	到達目標①について、必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができるかを、技能試験等にて評価する。 ※スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	15										15
その他(振り返りシート等)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後やグーグルクラスルームを通して質問等を受け付ける。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体育・スポーツの意義と価値（ガイダンス）		授業の目的と方法、授業の組み立て、評価方法、授業時の注意点等について理解する。受講にあたって体育・スポーツの意義と価値について考え、様々な恩恵を推測する。	
	この回の到達目標	到達目標③・④に関連して、ガイダンス内容および体育・スポーツの意義と価値について自身の体験を踏まえて説明できる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。体育・スポーツに対する自身の考えを準備する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の授業計画を確認する。		30分
2	ゴルフの運動特性と安全管理		ゴルフの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業を安全に実施するための安全管理について理解する。また、スポーツ活動によって起こりうるスポーツ傷害について理解する。ゴルフスの歴史、クラブの種類と名称、アドレスとスイングに関する基本的な名称について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゴルフの歴史、ゴルフを行うときの基本的な名称とゴルフ種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。また、安全管理の方法と意識を再確認する。		
	事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。		30分
	事後学修	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。		30分
3	体力測定と自己評価		体力測定により自己の体力評価・水準の把握を行う。体力の保持・増進のための適正な運動強度について理解する。アイスブレイクを兼ねた軽運動を通じて、他者とのコミュニケーションの取り方について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③・④に関連して、自己の体力評価および体力の保持増進に向けた方策について説明することができる。		
	事前学修	ゴルフに必要な体力要素について調べる。事前に周知する測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定結果を踏まえ自己の体力に対して評価し、体力の保持・増進に向けた方策を考える。		30分
4	基礎理論と実践（グリップ、アドレス、スイング）		クラブの特性及グリップ、アドレス、スイングについて資料を用いて理解する。レッスンドリルに基づき、アドレスによる基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイングについて実習する。実習した各種基本動作を踏まえて室内用ボールを使ったハーフスイングによるショットを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、アイアンの特性を知り、基本的なスタンスとグリップを調整することができる。		
	事前学修	事前に配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とグリップ、アドレス、スイングの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
5	スイング動作の理解		レッスンドリルに基づきアドレスにおけるルーティン動作（特にグリップ、スタンス）に注目して確認する、室内用ボールを使ったハーフスイングによるショットの練習を行う。また、スイング時の注視点と頭の位置、アドレスでの両腕の形状とクラブの角度についての調整を実習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、スタンスとグリップの調整を行い、続く注視点や頭の位置、両腕の形状などのスイング準備に関係する主要な調整ポイントを意識できる。		
	事前学修	事前に配布されている資料を見て、アドレスの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
6	スイング動作の実践		スイング運動の課題である「肩の回転運動」について理解し、レッスンドリルを実習する。それを踏まえて室内用ボールを使ったハーフスイングによるショットを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、スイング動作の課題である「肩の回転運動」について説明することができる。また、スイング動作における正しい「肩の回転運動」を身につける。		
	事前学修	事前に配布されている資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ショートアイアン（ウェッジ）のショット1	エクササイズ（インターバルトレーニング）を行い、脈拍数（心拍数）の測定値と運動負荷量の関係から健康に必要な至適運動について理解する。レッスンドリルに基づきスイング運動の課題である「肩の回転運動」について確認し、室内用ボールを使ったハーフスイングによるショットの練習を行う。練習から確認された修正すべきチェックポイントを抽出する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実施する運動の強度を把握する手続きについて説明することができる。また、スイング動作を調整し正しい「肩の回転運動」を身につける。	
	事前学修	事前に配布されている資料を見て、「肩の回転運動」に関係するスイングの重要ポイントを確認する。脈拍の測り方を実践して確認しておく。	30分
	事後学修	授業を振り返り、チェックした修正ポイントを確認する。運動強度を把握するための方法を確認する。	30分
8	ショートアイアン（ウェッジ）のショット2	レッスンドリルに基づきスイング運動の課題である「肩の回転運動」について確認し、実際のボールを使ったハーフスイングによるアプローチショットを実習する。それを踏まえて、テイクバックの大きさによる飛距離の調整を実践する。確認された修正すべきチェックポイントを抽出する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、テイクバックの大きさとボール飛距離の関係性を理解するとともに、肩の回転運動の「コツ」及び「カン」について言語化することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、チェックした修正ポイントを確認する。	30分
9	ショートアイアン（ウェッジ）のショット3	スイング動作の課題である「重心移動」について理解し、レッスンドリルを実習する。それを踏まえて室内用ボールを使ったアプローチショットを実践する。またスイング動作の調整を高めることを目的とした的入れゲームを行う。ピアサポートによりスタンス、グリップ、スイングのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、スイング動作の課題である「重心移動」について説明することができる。また、スイング動作における正しい前後の「重心移動」を身につける。ピアサポートを通して他者の動作の改善点を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。ピアサポートを通じて得た改善点等についてシート（練習評価票）にまとめる。	30分
10	ショートアイアン（ウェッジ）のショット4	レッスンドリルに基づきスイング運動の課題である「重心移動」について確認し、それを踏まえて室内用ボールを使ったアプローチショットの練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、アドレス及びスイング動作の改善点を明確にし、イメージ想起を用いた練習ができる。また、重心移動の「コツ」及び「カン」について言語化することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
11	スイング及びショット動作の確認と評価1	ショートアイアンによるアドレスとスイング動作を各自で動画撮影する。それを用いて4名程度のグループワーク（自己評価及び他者評価）を行い練習記録票にまとめる。グループワークの内容から導いた学習状況及び達成度、課題の抽出・改善方をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、自己と他者の動作の課題点について、学修した観点からそれらを整理・省察することができる。省察に基づいて課題の抽出・改善方を提示し目標を明確にすることができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、確認したあるいは確認された修正ポイントを確認する。整理・省察した内容に基づき達成すべき目標を設定する。	30分
12	バードゴルフボールのショットとルールとマナー理解	レッスンドリルに基づきスイング運動における「両腕のひねり回転」について理解し、それを踏まえてバードゴルフボールを使ったフルショットを実習する。バードゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ラウンドのための準備をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、バードゴルフの主要なマナーとルールを理解する。また、これまで学修されたスイングスキルをバードゴルフボールのショットにも応用することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。事前に配布された資料を用いてバードゴルフの特性について確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、異なるボールを用いることによる「感覚の違い」についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ミドルアイアン（7番）のショット 1	レッスンドリルに基づきスイング運動における「両腕のひねり回転」について確認し、室内用ボールを使ってミドルアイアンによるショットの練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、長さの異なるクラブに対して、アドレス、スイングの調整法を身につける。スイング動作における両腕のひねり回転とたたみ方を理解して、これまで学修してきた回転運動と重心移動と合わせてスイング動作の注意点を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
14	ミドルアイアン（7番）のショット 2	ゴルフボールを使った様々なアプローチショットを練習する。パードゴルフのコースおよびルールを確認し、パードゴルフのターゲットを用いてアプローチショットを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、実践的なアプローチショットを身につける。そのとき、スイングの回転運動と重心移動をスムーズに行い、ボールの軌道をコントロールして距離調整を行うことができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、チェックした修正ポイントを確認する。	30分
15	様々なアイアンのショット	レッスンドリルに基づきスイング運動における「前方の腕の伸展運動（ヒンジング）」について理解し、室内用ボールを使ってショートアイアン及びミドルアイアンによるショットを実習する。ピアサポートによりスイング動作のチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、スイングにおける前方の腕（肘）の伸展運動とテイクバックによる手首（コック）の使い方を学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
16	ゴルフのルールとマナー理解、練習ラウンドの実践 1	パードゴルフのラウンドの進め方を理解しコース戦略を設定した上で、4ホールのラウンド練習を実習する。また、ゴルフゲームの基本的な知識としてプレーにおけるマナーの他、パーシステムとハンディキャップシステムについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、パードゴルフの実践、および資料に基づきコースをまわる際の安全管理とルール・マナー・スコアについて説明することができる。実際のゴルフラウンドをスムーズに安全に行うために協力することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。配布資料を見て、コースラウンドの方法と安全管理を確認する。	30分
17	ゴルフのルールとマナーの確認	ゴルフの発生・成立の経緯、ラウンドにおけるルールとマナー、安全管理に関する小テストの実施。パードゴルフのラウンド練習を行う。練習ラウンドを通じてスコアの記録と確認の方法を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、スポーツのルールとマナーの意義について正しく理解するとともに、ゴルフにおいて複数でラウンドする際の協力と支援の重要性を理解する。	
	事前学修	事前に配布された資料と自ら収集した資料を用いて、ゴルフの歴史や安全管理、ルール・マナーについて理解を深める。	30分
	事後学修	小テストの結果を踏まえて、今後の授業でラウンドする際に不可欠なルールやマナーについて理解が不十分な部分を復習する。	30分
18	パッティング練習、練習ラウンドの実践 2	パッティングのスタンスとスイングを実習し、パッティングゲーム（3名同時パッティング、5名連続パッティングなど）を試みる。パードゴルフのラウンド練習を行う。練習ラウンドを通じてスコアの記録と確認の方法を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、パッティングによるボールの軌道と距離調整を精緻化する。また、ラウンドにおけるマナーとスコア記録の方法を身につける。ラウンドにおいて個々人にとって適正なゴルフプレーをすることで心理的な恩恵があることを理解する。	
	事前学修	事前に配布された資料を用いて、ゴルフトーナメントの方法と運営について確認する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、スコア記録を踏まえて技術獲得度と修正ポイントを認識する。アプローチショットの課題点を把握する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	様々なクラブを使ったショット		室内用ボールを使ってドライバーのショットを実習する。また、レッスンドリルに基づきスイング運動におけるスイングクロックとスイングプレーンの調整について実践する。ピアサポートによりスイング動作のチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、様々なクラブを使ったときのスイングクロック（振り幅）とスイングプレーン（スイング軌道の角度）の理解とその意義について学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
20	練習ラウンドの実践 3		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。パードゴルフ4ホール（＋実際のゴルフボールを使用した5ホール、合計9ホールのうちの前半）で練習ラウンドを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ルール及びマナーを遵守してゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートを通じて種々のスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
21	スイング及びショット動作の確認と評価 2		アイアンによるアドレスとスイング動作を各自で動画撮影する。それをを用いて4名程度のグループワーク（自己評価及び他者評価）を行い練習記録票にまとめる。前回に設定した目標を振り返り、グループワークの内容から導いた学習状況及び達成度、課題の抽出・改善方策をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、自己と他者の動作の課題点について、学修した観点からそれらを整理・省察することができる。省察に基づいて課題の抽出・改善方策を提示し目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、確認したあるいは確認された修正ポイントを確認する。整理・省察した内容に基づき達成すべき目標を設定する。		30分
22	練習ラウンドの実践 4		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ルール及びマナーを遵守してゴルフゲームを楽しむことができる。また、スコアや安全管理に関して仲間との協力と相互サポートができ、協調を通じてスポーツにおける楽しみ方とスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。整理・省察に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。		30分
23	第1回ゴルフトーナメント（前半）		アイアンおよびドライバーのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。また、取り上げてきたレッスンドリルに加え、様々なレッスンドリルを実習する。ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで実践する（全9ホールのうち、前半4ホール）。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、スイングの動作調整（特に、コントロールスイング）を高める。これまでのレッスンドリルで取り上げてこなかった点について理解し、自分の問題点と照らして改善の方法を自ら導くことができる。ラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
24	第1回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで実践する（後半5ホール）。最終的なスコアを記録し、ルールやマナーに関する疑問点を解決する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ルール及びマナーを遵守してゴルフゲームを楽しむことができる。また、スコアや安全管理に関して仲間との協力と相互サポートができ、協調を通じてスポーツにおける楽しみ方とスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。		30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	第2回ゴルフトーナメント（前半）	パッティングのスタンスとスイングを練習する。第1回トーナメントのスコアを参考にハンディキャップを設定して、ハンディキャップ方式による4ホール（全9ホールの前半）をストロークプレーによるラウンドを実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ドライバーのスイングスキルをアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、仲間との協力とともにスキル向上を促進することができる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
26	第2回ゴルフトーナメント（後半）	ハンディキャップ方式による5ホール（全9ホールの後半）をストロークプレーによるラウンドを実践する。最終的なスコアを記録し、ルールやマナーに関する疑問点を解決する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを楽しみ、ゴルフの継続的な実施によって期待される心身への恩恵と健康行動に対する価値を実感する。	
	事前学修	事前に配布された資料を確認し、前回の授業で確認したチェックポイントについて自分の課題（改善点）を抽出する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。配布資料を見て、ゴルフの運動特性、および用具やスイング運動に関する要点を確認する。	30分
27	第3回ゴルフトーナメント（前半）	ゴルフの運動特性、学修の要点、ゴルフ用具の名称と機能、スイング運動の要点に関する小テストを行う。ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコース4ホール（全9ホールの前半）で実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ゴルフの運動特性とこれまでの取り組み（方略）の成否について正しく理解するとともに、用具に対して正しい身体の使い方を導き出すための機序に関する知識を高める。スポーツに対する様々な側面からのアプローチによってスポーツの楽しさを理解して、自らのゴルフスキルの向上を実感する。	
	事前学修	事前に配布された資料と自ら収集した資料を用いて、ゴルフの運動特性や用具、スイング動作に関する知識の理解を深める。	30分
	事後学修	小テストの結果を踏まえて、ゴルフのスキルを高めるために必要な知識について理解が不十分な部分を復習する。また、より楽しく継続的に行うための方法について確認する。	30分
28	第3回ゴルフトーナメント（後半）	ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコース5ホール（全9ホールの後半）で実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、様々な方法による楽しみ方を再考し、多様な参加者に応じたラウンドを提案することができる。	
	事前学修	ゴルフゲームを継続して楽しむための関わり方を考える。	30分
	事後学修	様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	30分
29	スイング及びショット動作の確認と評価3	アイアンによるアドレスとスイング動作を各自で動画撮影する。それを用いて4名程度のグループワーク（自己評価及び他者評価）を行い練習記録票にまとめる。前回に設定した目標を振り返り、グループワークの内容から導いた学習状況及び到達度等をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①・④に関連して、自己と他者の動作の課題点について、学修した観点からそれらを整理・省察することができる。省察に基づいて課題の抽出・改善方策を提示し目標を明確にすることができる。また、種々の取り組みから達成度を自ら評価できる。	
	事前学修	前回の授業で確認したチェックポイントについて修正した動作イメージを確認する。自らの技術的な学習到達度を主観的に評価する。	30分
	事後学修	授業を振り返り、確認したあるいは確認された修正ポイントを確認する。整理・省察した内容に基づき達成すべき目標を設定する。これまで記録してきたものをまとめて提出する。	30分
30	授業の振り返り	授業での学びを振り返り、ゴルフの実践あるいは運動・スポーツの実践により身体的・心理的・社会的側面にどのような恩恵があったかについてレポートを作成する。また自己の目標達成度を確認する。また、当該スポーツの参加がもたらす、健康面への影響について様々な視点から考察する。まとめテスト（筆記試験）の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゴルフの実践によってもたらされた、身体的・心理的・社会的側面への影響について説明することができる。また、スポーツ参加の功罪について理解し、様々な視点で考察することができる。	
	事前学修	これまでの取り組みを振り返り、スポーツへの継続的な参加あるいは運動の習慣化によってもたらされる恩恵について考える。	30分
	事後学修	ゴルフに限らず、運動・スポーツの実践によって得られる様々な恩恵について再考する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(卓球)	担当者	松永 修司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、実技形式により行う。卓球の知識(ルール、マナー等)・技術・戦術の習得・実践(ゲーム等)・運営が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卓球に関する知識(ルール、マナー等)や実践(練習、ゲーム)について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、競技特性や運動特性、知識(ルール、マナー、安全管理)を理解しているかを、筆記試験等にて評価する。		20									20
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			5								5
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、準備・運営・協働等により授業への積極的参画ができているかをリアクションペーパーにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①について、必要な技術の習得(技能)及び、状況に応じた技術の選択ができるかを、技能試験等にて評価する。	20										20
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	5	20							45
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
基本は授業実施日、緊急を要する連絡等はGoogle Classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習(実技及び講義)
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体育・スポーツの意義と価値		1. ガイダンス内容(授業目的、到達目標、評価方法、授業計画)について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標4に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標3に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる		
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめる		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。		30分
2	体力及び身体運動への理解		1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標4に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標4に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる		
	事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる		30分
	事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。		30分
3	卓球の特性と安全管理(講義)		1. 卓球の特性(歴史、技術、ルール、倫理、用具等)を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標2に関連して、卓球の特性(歴史、技術、倫理、用具等)を説明できる 2. 到達目標2に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる		
	事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる		30分
	事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める		30分
4	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド		1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標1に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
5	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー		フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標4に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。		30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す 30分		30分
6	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド		1. カットのフォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程(認知構造)について説明する	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標4に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。		
	事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー	カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標4に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
	事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
8	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ	1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標4に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。	
	事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
9	基本的な動作と技術の確認 技能試験	1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
	事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。	30分
	事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。	30分
10	審判技術を学ぶ	1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ルールと審判法について説明できる。	
	事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。	30分
	事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。	30分
11	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
12	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施(シングルス11点1セット)	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	状況に応じた技術の選択〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施(シングルス11点1セット)	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
14	状況に応じた技術の選択〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施(シングルス11点1セット)	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
15	状況に応じた技術の選択〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施(シングルス11点1セット)	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
16	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり(前半戦)	1. シングルス総当たり(前半戦) 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
	事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方策をまとめる。	30分
17	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり(後半戦)	シングルス総当たり(後半戦)	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
18	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント(前半戦)	1. シングルストーナメント(前半戦) 2. フェアプレイとは何かを理解する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方策をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント(後半戦)		シングルストーナメント(後半戦)	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。		
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。		30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。		30分
20	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ		ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。		
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
21	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔2〕 打球コースの選択		ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標1に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。		
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
22	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり		ダブルス総当たり	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。		
	事前学修	試合方法、ルールを確認する。		30分
	事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる。		30分
23	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント		ダブルストーナメント	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。		
	事前学修	総当たりの課題を再度確認する。		30分
	事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。		30分
24	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦(技能レベル別)		1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。		
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。		30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方策をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	試合運営〔2〕 シングルストーナメント(技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦(技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方策をまとめる。	30分
27	試合運営〔4〕 ダブルストーナメント(技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標2に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標4に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方策を示すことができる。	
	事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
	事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	レクリエーションとしての卓球を学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
	この回の到達目標	到達目標234に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
	事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
	事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	60分
30	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標34に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
	事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
	事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	松永 修司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問いません。運動靴(紐靴が望ましい)、運動着(トレーニングウェア等)、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をし てください。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設を使用して、実技形式により行う。バドミントンの知識(ルール、マナー等)・技術・戦術の習得・実践(ゲーム等)・運営が中心となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	バドミントンに関する知識(ルール、マナー等)や実践(練習、ゲーム)について、グループワークや発表等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、競技特性や運動特性、知識(ルール、マナー、安全管理)を理解しているかを、筆記試験等にて評価する。		20									20
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			5								5
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、準備・運営・協働等により授業への積極的参画ができているかをリアクションペーパーにより評価する。			10								10
その他(技能等)	到達目標①について、必要な技術の習得(技能)及び、状況に応じた技術の選択ができるかを、技能試験等にて評価する。 ※スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(振り返りシート等))	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	5	20							45
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
基本は授業実施日、緊急を要する連絡等はGoogle Classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 体育・スポーツの意義と価値		授業の目的と方法、授業の組み立て、評価方法、授業時の注意点等について理解する。 受講にあったって体育・スポーツの意義と価値について考え、様々な恩恵を推測する。	
	この回の 到達目標	到達目標3・4に関連して、ガイダンス内容および体育・スポーツの意義と価値について説明できる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。 体育・スポーツに対する自身の考えを準備する。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の授業計画を確認する。		30分
2	バドミントンの運動特性及び安全管理		バドミントンの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業を安全に実施するための安全管理について理解する。また、スポーツ活動によって起こりうるスポーツ傷害について理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標2・3に関連して、バドミントンの運動特性および実践による恩恵について説明することができる。また、スポーツを安全に実施するための準備について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンの運動特性及び特徴について調べる。また、当該スポーツにおいて発生するスポーツ傷害について調べる。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、理解を深める。		30分
3	体力測定及び身体運動への理解		体力測定により自己の体力評価・水準の把握を行い、体力の保持・増進のための適正な運動強度について理解する。アイスブレイクを兼ねた軽運動を通じて、他者とのコミュニケーションの取り方について考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標3・4に関連して、自己の体力評価および体力の保持増進に向けた方策について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンに必要な体力要素について調べる。事前に周知する測定項目を確認する。		30分
	事後学修	体力測定結果を踏まえ自己の体力に対して評価し、体力の保持・増進に向けた方策を考える。振り返りシートを作成する。		30分
4	グリップの握り方、ラケットの振り方、コートの設営		ラケットの基本的な握り方や振り方を実習し理解する。バドミントンの運動動作に関連するエクササイズを実践する。コートの設営方法、その際の注意点を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標1・2に関連して、バドミントンのグリップの握り方及び振り方等の基本的な技術、及び用具の名称について説明することができる。		
	事前学修	ラケットの特徴、各部の名称について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、握り方や振り方についての理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
5	ラケットに慣れる バドミントンのフットワーク		素振りを通じて基本的な動作と技術について理解する。バドミントンに必要とされる動作(フットワーク)について、コートを利用して実習する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標1・4に関連して、バドミントン技術(動作)について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	バドミントンの動作特性を調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、動き方やラケットコントロールについての理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
6	シャトルに慣れる		シャトルを使った簡単なエクササイズを通じて、シャトルの特徴を理解する。天井および壁打ちによる打ち方の基礎運動を行う。付帯伸長能力を養うためラケットコントロールエクササイズを行う。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標1・4に関連して、シャトルの特徴とそれを扱う技術、ラケットコントロールについて説明することができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	シャトルの特性について調べる。ラケットにシャトルが当たらない原因について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、シャトルを自由に扱うために必要なトレーニングについて理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基本的な動作と技術を学ぶ		基本となるストローク(オーバーヘッド、サイド、アンダー)について理解し、それに応じたショットを実習する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	授業で提示する3つのストロークについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ストロークの種類と共にショットの特徴について理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
8	基本的なショットを学ぶ(サーブ、ドライブ)		サービスの種類(ショート・ロング)と、フォア及びバックそれぞれの技術について実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	サーブ及びドライブショットの特徴と必要な動作(ラケットワーク、フットワーク等)について調べる。特に、サーブについては競技規則を確認し、ルールに基づいた動作を確認する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
9	基本的なショットを学ぶ(ドロップ、プッシュ、カット)		様々なオーバーヘッドストロークのショットについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ドロップ、プッシュ、カットの特徴と必要な動作(ラケットワーク、フットワーク等)について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
10	基本的なショットを学ぶ(ロビング、ヘアピン)		ネット前のショットについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ロビング、ヘアピンの特徴と必要な動作(ラケットワーク、フットワーク等)について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
11	基本的なショットを学ぶ(クリア)		ハイクリア及びドリブンクリアについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、各ショット技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	ハイクリア及びドリブンクリアの特徴と必要な動作(ラケットワーク、フットワーク等)について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
12	基本的なショットを学ぶ(スマッシュ)		スマッシュ及びスマッシュレシーブについて実習する。簡易ゲームを通じて、当該ショットの使い分けを理解する。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・4に関連して、技術及びそれを使用する状況について説明ができる。また授業時の取り組みを他者に適切に伝える方法について説明することができる。		
	事前学修	スマッシュ及びスマッシュレシーブの特徴と必要な動作(ラケットワーク、フットワーク等)について調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ショットの技術確認と評価1	サーブおよび各ショットの打ち分けについて技能テストを実施する。テストの結果を踏まえて、これまでの取り組みについて振り返り、課題設定と解決方を考える。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、自己の技能レベルについて評価及び説明ができる。また、向上のために課題設定及び必要な解決方を示すことができる。	
	事前学修	学修した各種ショットについて復習する。	30分
	事後学修	技能テストの結果を踏まえて自己の技能レベルに対して評価し、技術及び技能向上のための方策を考える。	30分
14	シングルスゲームの実践1	これまでの取り組み、競技規則を用いてシングルスゲームの進行を理解する。グループ分けのための試合を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則に基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの実践を通して得られた気づきを踏まえて、目標設定(課題の明確化、解決方を提示)をすることができる。	
	事前学修	シングルスに関連する競技規則を確認する。	30分
	事後学修	試合の結果及びこれまでの取り組みから気づいた点をまとめ、それらを踏まえて目標の設定を行う。振り返りシートを作成する。	30分
15	シングルスゲームの実践2(グループ別リーグ戦)	競技力で分けたリーグ戦形式の試合(前半)を行う。審判方法、技術について実習する。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。	
	事前学修	スムーズな試合進行のために必要な準備をする。審判方法(用語、ジェスチャー)について調べる。目標設定を確認する。	30分
	事後学修	ゲームを振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理し、設定した目標の達成度を確認する。	30分
16	シングルスゲームの実践3(グループ別リーグ戦)	リーグ戦形式の試合(後半)を行う。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。	
	事前学修	前半の試合結果を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理し、事前に設定した目標の達成度を確認する。	30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。	30分
17	シングルスゲームの実践4(グループ別トーナメント戦)	リーグ戦の結果を踏まえたトーナメント形式で試合(前半)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。	
	事前学修	リーグ戦を振り返り、ゲームの組み立てや戦術を考える。スムーズな試合進行のために必要な準備をする。	30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術について「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。	30分
18	シングルスゲームの実践5(グループ別トーナメント戦)	トーナメント形式で試合(後半)を行う。対戦相手の戦術を理解し、適切な対処方法を考える。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。	
	事前学修	前半の試合結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術の目標設定を行う。	30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	シングルスゲームの実践6(団体戦)		シングルの団体戦(紅白戦)を行う。チームの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。ルールおよびマナーについての小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、他者と協力することで得られる恩恵について説明することができる。		
	事前学修	スムーズな試合進行のために必要な準備をする。競技規則を確認し用語やマナーについて復習する。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、ゲームの組み立てや戦術の成果、意見交換の内容を整理し、振り返りシートを作成する。小テストの結果を踏まえて、ルール及びマナーの理解を深める。		30分
20	ショットの確認と評価2(技能テスト)		サーブおよび各ショットの打ち分けについて技能テストを実施する。テストの結果を踏まえて、これまでの取り組みについて振り返り、課題設定と解決方を考える。4～5名程度のグループを作り、仲間とお互いの動作について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、自己の技能レベルについて評価及び説明ができる。また、向上のために課題設定及び必要な解決方を示すことができる。		
	事前学修	学修した各種ショットについて復習する。		30分
	事後学修	技能テストの結果を踏まえて自己の技能レベルに対して評価し、向上のための方策を考える。		30分
21	ダブルスゲームの実習1		これまでの取り組み、競技規則を用いてダブルスのゲーム進行を理解する。ゲームの組み立てや戦術についてのワークを実習する。実習した戦術を踏まえて簡易ゲームを行う	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方を提示することができる。		
	事前学修	ダブルスに関する競技規則を確認する。ダブルスに必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。		30分
22	ダブルスゲームの実習2		審判方法、技術について実習する。ゲームの組み立てや戦術についてのワークを実習する。実習した戦術を踏まえて簡易ゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方を提示することができる。		
	事前学修	競技規則を確認する。したワークの内容を復習する。ダブルスに必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
23	ダブルスゲームの実践1(グループ別リーグ戦)		競技力で分けたリーグ戦形式の試合(前半)を行う。前回までに実習した戦術やゲームの組み立てを意識してゲームを楽しむ。パートナーと共にゲームの組み立てや戦術について意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方を提示することができる。		
	事前学修	習得した技能を用いたゲームの組み立てや戦術を考え、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。		30分
24	ダブルスゲームの実践2(グループ別リーグ戦)		リーグ戦形式の試合(後半)を行う。同じリーグの仲間とお互いの戦術やゲームの組み立てパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ダブルスゲームの実践3(グループ別トーナメント)		ダブルスゲームの実践3(グループ別トーナメント)	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方策を提示することができる。		
	事前学修	リーグ戦の試合内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。		30分
26	ダブルスゲームの実践4(グループ別トーナメント)		トーナメント形式で試合(後半)を行う。対戦相手の戦術を理解し、適切な対処方法を考える。同じグループの仲間とお互いのパフォーマンスについて意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	前半の試合内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	ゲーム内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。設定した目標の達成度を確認する。振り返りシートを作成する。		30分
27	ゲームの実践1		ルールを理解し、それを踏まえてゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、ゲームの組み立てと戦術を理解し、自らの課題とそのための解決方策を提示することができる。		
	事前学修	ルール(サービス順、リベロの役割等)について調べる。必要な動作及び戦術について調べる。		30分
	事後学修	授業を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。		30分
28	ゲームの実践2		試合を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標1・2・4に関連して、競技規則及びマナーに基づいて協働して試合運営ができる。また、設定した目標の達成度を確認し省察することができる。		
	事前学修	試合内容(ゲームの組み立て、戦術、コミュニケーション)を振り返り、目標の設定を行う。		30分
	事後学修	試合の結果を振り返り、「できたところ」と「できなかったところ」を整理する。振り返りシートを作成する。		30分
29	レクリエーションとしてのバドミントンを学ぶ		これまでの取り組みを踏まえて、健康スポーツあるいは生涯スポーツとして実施できる試合方法を提案し、それを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標1〜4に関連して、これまでの取り組みを踏まえて、既存のスポーツを様々な視点(参加者の特性等)から考察し新しい価値を提案することができる。		
	事前学修	健康スポーツとして、あるいは生涯スポーツとして実施するためにどのような取り組みがあるか調べる。		30分
	事後学修	これまでの取り組みを踏まえて、スポーツへの継続的な参加あるいは運動の習慣化によってもたらされる恩恵について整理する。		30分
30	まとめと講評		授業での学びを振り返り、バドミントンの実践あるいは運動・スポーツの実践により身体的・心理的・社会的側面にどのような恩恵があったかについてレポートを作成する。また自己の目標達成度を確認する。また、当該スポーツの参加がもたらす、健康面への影響について様々な視点から考察する。まとめテスト(筆記試験)の実施。	
	この回の到達目標	到達目標1〜4に関連して、様々なバドミントンの実践によってもたらされた、身体的・心理的・社会的側面への影響について説明することができる。また、スポーツ参加の功罪について理解し、様々な視点で考察することができる。		
	事前学修	これまでの取り組みを振り返り、スポーツへの継続的な参加あるいは運動の習慣化によってもたらされる恩恵について考える。		30分
	事後学修	バドミントンに限らず、運動・スポーツの実践によって得られる様々な恩恵について再考する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパスー体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	与えられた課題をチームに反映するために、ゲーム前にその都度話し合いを行う。また、その際に、知識として足りないと感じたら、教員が手助けをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜１限）終了後に対応する。 メールアドレス：matsumoto.shin11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	埼玉大学教育学部における、実技（バスケットボール）授業
実務経験に基づく実践的教育の内容		バスケットボールの技能レベルが多様に存在する中で、それぞれのレベルに対応する指導・アドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス バasketボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認 1	
	事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
	事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	Basketボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認2	
	事前学修	高校までに習得したBasketボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
	事後学修	班員の確認。自分の身体の状況を確認する。（30分）	30分
3	Basketボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認3	
	事前学修	Basketボールのルールを確認する。（30分）	30分
	事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	Basketボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得1	
	事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	Basketボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得2	
	事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
	事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	Basketボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得3	
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
	事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バスケットボールの応用戦術1		「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1		
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）		30分
	事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）		30分
8	バスケットボールの応用戦術2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2		
	事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）		30分
	事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
9	バスケットボールの個人技1		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認1		
	事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
	事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）		30分
10	バスケットボールの個人技2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認2		
	事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）		30分
11	バスケットボールの個人技3		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認3		
	事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）		30分
12	バスケットボールの個人技4		部分戦術を習得する。特に、2対2のパス＆ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認4		
	事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	2対2のパス＆ランについて復習確認する。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バスケットボールの部分戦術1		部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1		
	事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）		30分
14	バスケットボールの部分戦術2		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2		
	事前学修	ピック&ロールの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）		30分
15	バスケットボールの部分戦術3		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3		
	事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）		30分
16	バスケットボールの部分戦術4		部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4		
	事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）		30分
17	バスケットボールの部分戦術5		ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5		
	事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。		30分
18	バスケットボールの部分戦術6		バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解		
	事前学修	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
	事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
	事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
	事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
	事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
	事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
	事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
	事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
	事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
	事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
	事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	バスケットボールのゲームコントロール2		バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2		
	事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）		30分
	事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）		30分
26	ゲームの中で復讐1		これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1		
	事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
27	ゲームの中で復讐2		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
28	ゲームの中で復讐3		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
29	ゲームの中で復讐4		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
30	ゲームの中で復讐5		まとめ・講評	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）		30分

科目名	体育実技 I C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部 別	第一部	期 間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパスー体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	与えられた課題をチームに反映するために、ゲーム前にその都度話し合いを行う。また、その際に、知識として足りないと感じたら、教員が手助けをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2		
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。メールアドレス：matsumoto.shin11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	埼玉大学教育学部における、実技（バスケットボール）授業。
実務経験に基づく実践的教育の内容		バスケットボールの技能レベルが多様に存在する中で、それぞれのレベルに対応する指導・アドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス バスケットボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認 1	
	事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
	事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	バスケットボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認2	
	事前学修	高校までに習得したバスケットボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
	事後学修	班員の確認。自分の身体の状況を確認する。（30分）	30分
3	バスケットボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認3	
	事前学修	バスケットボールのルールを確認する。（30分）	30分
	事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	バスケットボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得1	
	事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	バスケットボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得2	
	事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
	事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	バスケットボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得3	
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
	事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バスケットボールの応用戦術1		「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1		
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）		30分
	事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）		30分
8	バスケットボールの応用戦術2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2		
	事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）		30分
	事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
9	バスケットボールの個人技1		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認1		
	事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
	事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）		30分
10	バスケットボールの個人技2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認2		
	事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）		30分
11	バスケットボールの個人技3		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認3		
	事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）		30分
12	バスケットボールの個人技4		部分戦術を習得する。特に、2対2のパス＆ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認4		
	事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	2対2のパス＆ランについて復習確認する。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バスケットボールの部分戦術1		部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1		
	事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）		30分
14	バスケットボールの部分戦術2		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2		
	事前学修	ピック&ロールの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）		30分
15	バスケットボールの部分戦術3		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3		
	事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）		30分
16	バスケットボールの部分戦術4		部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4		
	事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）		30分
17	バスケットボールの部分戦術5		ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5		
	事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。		30分
18	バスケットボールの部分戦術6		バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解		
	事前学修	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
	事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
	事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
	事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
	事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
	事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
	事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
	事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
	事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
	事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
	事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	バスケットボールのゲームコントロール2		バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2		
	事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）		30分
	事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）		30分
26	ゲームの中で復讐1		これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1		
	事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
27	ゲームの中で復讐2		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
28	ゲームの中で復讐3		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
29	ゲームの中で復讐4		前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）		30分
30	ゲームの中で復讐5		まとめ・講評	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5		
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）		30分
	事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）		30分

科目名	体育実技 I C(ゴルフ)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
ゴルフ初心者・初級者を対象とする。ゴルフ（運動）に相応しい服装，およびゴルフ手袋と屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】
面接授業。大宮キャンパスのスポーツ施設において2時限連続の対面による実技形式の授業を行う。授業は，ゴルフショットの反復練習と，バードゴルフを利用したラウンドが中心である。また，ゴルフの運動特性やショット技術，ルールとマナー，安全管理などを解説した資料集を配布し，その理解度を評価するために小テスト（筆記試験）を行う。これを全授業の中で2回行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ゴルフスキル向上のための実技練習に関連して，ショット動作にみられる自己と他者の動作の問題点について，実際のショット動作を撮影・観察し，時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与える。その情報に基づきグループディスカッションを行って，達成すべき個々の目標を「レッスン記録票」にまとめ，そのプロセスで目標達成と問題解決に関する自己理解を促す。これを全授業の中で2回行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、必要な知識及び技術が身についているかを筆記試験により評価する。		30									30
レポート等	到達目標③について、運動・スポーツの「期待される恩恵」および「健康行動」を客観的指標に基づき関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(技能試験)	到達目標①について、必要な技術が身についているかを技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および技能試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に体育教員室で行う。その他，Google classroomを通じて受け付ける。アドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス及び導入講義	授業の目的と方法、半期授業の組み立て、到達目標、評価方法、受講時の注意・履修条件などについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
	事前学修	抽選期間までに配信されているスポーツ科目に関する資料を確認する。シラバスを確認する。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	ゴルフの運動特性と危険性	ゴルフの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフを継続的に行うことで得られる恩恵とゴルフによる健康行動の利点について理解する。また、ゴルフ実施に伴う危険性について熟知して怪我の発生を予防できる。	
	事前学修	ゴルフおよびバードゴルフにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
	事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
3	ゴルフ授業の要点と授業運営 体力測定	ゴルフおよびバードゴルフの実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力の意義を理解する。ゴルフスポーツの歴史、クラブの種類と名称、アドレスとスイングに関する基本的な名称について理解する。グループ単位でアイズブレイクを行う。身体機能を評価するための体力測定を5項目について行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゴルフの歴史、ゴルフを行うときの基本的な名称とゴルフ種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。また、安全管理の方法と意識を再確認する。アイズブレイクにより自己理解と他者理解を深める。身体機能発達のピークに当たる時期の身体機能レベルを知り、その後の生活機能の変化を推測できるようになる。	
	事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。体力測定を行うための簡単なコンディショニング（食事や睡眠を含む）を行う。	30分
	事後学修	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	アドレスの作り方(1)	ゴルフクラブの特性を資料を用いて理解する。レッスンドリルに基づき、アドレスによる基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイングについて調整する。室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイアンクラブの特性を知り、基本的なスタンスとグリップを調整できる。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とスイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	アドレスの作り方(2)	レッスンドリルに基づきアドレスにおけるルーティン動作、グリップのつくり方に注目して、室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。また、注視点と頭の位置、アドレスでの両腕の形状とクラブの角度について調整する。レッスン記録票の「私を野菜にたとえると」を紹介して自己開示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタンスとグリップの調整を行い、続く注視点や頭の位置、両腕の形状などのスイング準備に係る主要な調整ポイントを意識できる。新たな仲間により自己を開示するとともに他者理解を深める。	
	事前学修	配布資料を見て、アドレスの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	ショートアイアンの打撃練習(1)	室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テイクバックの大きさとボール飛距離の関係性を理解するとともに、それに関係する回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ショートアイアンの打撃練習(2)		室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃（体育館で行う）練習を行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、振り幅を調整したハーフスイングの動作と正しい肩の回転運動を身につける。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを学修する。ウォーミングアップとして行うエクササイズ運動の運動強度をカルボーネン法により求める。		
	事前学修	配布資料を見て、肩の回転運動に関係するスイングの重要ポイントを確認する。脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。カルボーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
8	ショートアイアンの打撃練習(3)		実際のボールを使ったアプローチショットを練習する。テイクバックの大きさによる飛距離の調整を行う。スイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テイクバック（振り幅）の大きさと飛距離の関係、および肩の回転運動を身体知として理解する。ウォーミングアップとして行うエクササイズ運動の運動強度をカルボーネン法により求める。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。カルボーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
9	ショートアイアンの打撃練習(4)		室内用ボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。的入れゲームを行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題であるスイングにおける並進運動（重心移動）について実践する。ピアサポートによりスタンス、グリップ、スイングのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングにおける正しい前後の並進運動（重心移動）を身につける。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
10	ショートアイアンの打撃練習(5)		実際のボールを使ったアプローチショットを練習する。スイング運動の中心的な課題であるスイングにおける並進運動（重心移動）について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称と調整ポイントで説明ができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。クラブ各部分の名称と動作調整のポイントについて理解する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
11	ショット動作の評価(1)		ショートアイアンによるアドレスとスイング動作を各自のスマホで動画撮影する。その際にレッスン記録票を用いて自己評価を行い、その内容と課題および目標を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
12	バードゴルフの練習、およびルールとマナー		バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショットを練習する。バードゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ラウンドのための準備をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バードゴルフの主要なマナーとルールを理解する。運動学習が進み、固定化してきたショートアイアンのスイングスキルをバードゴルフによるラウンドに応用することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。バードゴルフの特性を資料に基づき確認しておく。		30分
	事後学修	配布資料をもとに、ゴルフとバードゴルフのルールの違いを確認する。設定した目標に対して自分のスイング動作の動画を比べて具体的な取り組みをイメージ化する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	様々なアイアンによる打撃練習(1)		室内用ボールを使ってショートアイアンにミドルアイアンによる打撃練習（体育館で行う）を加える。レッスンドリルに基づきスイング運動における両腕のひねり回転について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長さの異なるクラブに対して、アドレス、スイングの調整法を身につける。スイング動作における両腕のひねり回転とたたみ方を理解して、これまで習得してきた回転運動と並進運動に加えていく。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
14	様々なアイアンによる打撃練習(2)		ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。バードゴルフのコースおよびルールを確認し、バードゴルフのアプローチショットを様々なアイアンで実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践的なアプローチショットを身につける。そのとき、スイングの回転運動と並進運動がスムーズに行われ、ボールの軌道を上げて距離調整を行うことができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。		30分
15	様々なアイアンによる打撃練習(3)		室内用ボールを使ってショートアイアンにミドルアイアンによる打撃練習（体育館で行う）を実践する。レッスンドリルに基づきスイング運動における前方の腕の伸展運動（ヒンジング）について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングにおける前方の腕（肘）の伸展運動とテイクバックによる手首（コック）の使い方を学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
16	ゴルフのルールとマナー練習ラウンド(1)		バードゴルフ4ホールのラウンド練習をする。ラウンドの仕方とコース戦略を設定する。また、ゴルフの本コースデビューを見据えて、資料に基づきクラブハウスとプレーにおけるルールとマナーについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バードゴルフの実践、および資料に基づきコースをまわる際の安全管理とルール・マナーを体現する。実際のゴルフラウンドをスムーズに安全に行うために協力することができる。ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコアについて理解し実践することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。配布資料を見て、コースラウンドの方法と安全管理を確認する。		30分
17	ルールとマナーに関するチェック		ゴルフの発生・成立の経緯、ラウンドにおけるルールとマナー、安全管理、運動強度の算出に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツのルールとマナーの意義について正しく理解するとともに、ゴルフにおいて3・4名でラウンドする際の協力と支援の重要性を認識する。そして、スコアを記録しながら、多様な人にとって適正なゴルフプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、ゴルフの歴史や安全管理、ルール・マナーについて理解を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、今後の授業でラウンドする際のルールやマナーについての修正ポイントを確認する。		30分
18	パッティング練習ラウンド(2)		体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習し、パッティングゲーム（3名同時パッティング、5名連続パッティングなど）を試みる。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行い、スコアの記録と確認の方法を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、パッティングによるボールの軌道と距離調整を精緻化する。また、ラウンドにおけるマナーとスコア記録の方法を身につける。		
	事前学修	ゴルフ競技会の方法と運営について、配布資料をもとに理解する。		30分
	事後学修	スコアから読み取れる技術獲得度と修正ポイントを認識する。アプローチショットの問題点を把握する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	様々なアイアンによる打撃練習(4)		室内用ボールを使って様々なアイアンにウッド（ドライバー）を加えて打撃練習（体育館で行う）を実践する。レッスンドリルに基づきスイング運動におけるスイングクロックとスイングブレーンの調整について実践する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々なクラブを使ったときのスイングクロック（振り幅）とスイングブ레인（スイング軌道の角度）の調整とその意義について学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
20	練習ラウンド(3)		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでバードゴルフ4ホール+実際のゴルフボールを使用した5ホール（パッティングあり）、合計9ホールのうちの前半4ホールを行う。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
21	練習ラウンド(4)		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを自ら楽しむこと、スコアや安全管理に関して仲間との協力と相互サポートができ、スポーツにおける協調の楽しみ方とスキルアップを実現する。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
22	スイング動作のチェック		アイアンおよびドライバーのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、スイングの動作調整を高める。また、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込むことができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
23	第1回ゴルフトーナメント（前半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（前半4ホール）。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでのレッスンドリルで取り上げてこなかった点について理解し、自分の問題点と照らして改善の方法を自ら導くことができる。ラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	第1回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（後半5ホール）。最終的なスコアを記録し、ルールやマナーに関する疑問点を解決する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	パッティング 第2回ゴルフトーナメント（前半）		体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習する。ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（前半4ホール）。前回授業のスコアを参考にハンディキャップを設定して、ハンディキャップ方式による9ホールストロークプレーとなる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、パッティングのアドレス、グリップ、スイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、仲間との協力とともにスキル向上を促進することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
26	第2回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンド（ハンディキャップ）をグラウンドコースで開催する（後半5ホール）。様々なゴルフゲームを楽しむ。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを楽しみ、ゴルフの継続的な実施によって期待される心身への恩恵と健康行動に対する価値を実感する。		
	事前学修	配布資料を確認し、前回の授業でチェックされたポイントについて自分の課題を推測する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 配布資料を見て、ゴルフの運動特性、および用具やスイング運動に関する要点を確認する。		30分
27	第3回ゴルフトーナメント（前半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコース9ホールで開催する（前半4ホール）。安全を確保してゴルフを楽しみ、仲間との協力と協調を積極的に行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフの運動特性と適正な学修方略について正しく理解するとともに、用具の名称と機能に対して正しい身体の使い方を導き出すといった手続き的な知識を高める。そういった側面におけるスポーツの楽しさを理解して、自らのゴルフスキルの向上を実感する。		
	事前学修	ゴルフゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。		30分
	事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を確認する。		30分
28	第3回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコース9ホールで開催する（後半5ホール）。安全のためのマナーを理解し、ゴルフを楽しみ、仲間との協力と協調を積極的に行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。		
	事前学修	ゴルフゲームを、様々な特徴をもつ人が共通してゴルフを楽しむための積極的な関わり方を考える。		30分
	事後学修	ゴルフ授業の経験を他者からの指摘を踏まえて、様々な個性をもつ人たちがみんなで楽しむためのゴルフゲームを考える。		30分
29	運動特性とスイング運動に関する チェック、ショット動作の評価		ゴルフの運動特性、学修の要点、ゴルフ用具の名称と機能、スイング運動の要点に関する小テストを行う。 主にショートアイアンのショット動作について自己評価を行う。さらにグループディスカッションによる他者評価を受け、レッスン記録票にそれらの評価内容をまとめ、自らの変化にみられる目標達成と問題解決にみる自己の特徴を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関連して、様々なクラブの機能に対応した正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察をもとにスイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、ゴルフの運動特性や用具、スイング動作に関する知識を深めておく。前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、ゴルフスキルあるいはスポーツスキルを高めて、より楽しく継続的に行うための方法について確認する。ショット動作についてまとめた内容をレッスン記録票に記述して完成させることで学修のプロセスを提出する。		30分
30	授業の振り返り		スポーツ実践およびゴルフ実践による授業について学びの観点から振り返り、その身体的、心理的、社会的側面における恩恵についてレポートを作成する。継続的にゴルフを行うことによる健康行動への影響、またゴルフを行うことの注意点や悪影響についても考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、ゴルフ運動の身体面への影響に限らず、ゴルフを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。スポーツの仕方による健康行動への影響についても適正に判断することができる。		
	事前学修	これまでの授業で起こった出来事と自分の変化との関連を振り返り、ゴルフあるいはスポーツへの継続的な参加が及ぼす影響を推測してみる。		30分
	事後学修	ゴルフの健康スポーツとしての可能性と適正なスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。		30分

科目名	体育実技 I C(テニス初級)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス初心者・初級者を対象とする。テニス（運動）に相応しい服装，および屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
面接授業。大宮キャンパスのスポーツ施設において、2時限連続の対面による実技形式の授業を行う。授業は、テニスショットの反復練習とダブルスのゲームが中心である。ショットスキルの向上効果は、各種ショットのレイティングテストによって評価する。さらに、テニスの運動特性、ルールとマナー、各種のショット技術、安全管理などを解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために小テスト（筆記試験）を行う（全授業の中で2回実施）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テニススキル向上のための実技練習に関連して、ショット動作にみられる自己と他者の動作の問題点について、実際のショット動作を観察し、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与える。その情報に基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を「レッスン記録票」にまとめ、そのプロセスで目標達成と問題解決に関する自己理解を促す。これを全授業の中で2回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、必要な知識及び技術が身についているかを筆記試験により評価する。		30									30
レポート等	到達目標③について、運動・スポーツの「期待される恩恵」および「健康行動」について客観的根拠をもとに関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(技能試験)	到達目標①について、必要な技術が身についているかを技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および技能試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に体育教員室で行う。その他，Google classroomを通じて受け付ける。アドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス及び導入講義	授業の目的と方法、半期授業の組み立て、評価方法、到達目標、受講時の注意・履修条件などについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
	事前学修	抽選期間までに配信されているスポーツ科目に関する資料を確認する。シラバスの内容を確認する。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	テニスの運動特性と危険性	テニスの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、テニスを継続的に行うことで得られる恩恵とテニスによる健康行動の利点について理解する。また、テニス実施に伴う危険性について熟知して怪我の発生を予防できる。	
	事前学修	テニスにおける基本的なショット技術の名称を確認する。	30分
	事後学修	テニスの運動特性と健康スポーツとしてのテニスの位置づけについて理解を深める。	30分
3	テニス授業の要点と授業運営 体力測定	テニスの実技授業を安全に行うための約束事と授業運営への協力の意義を理解する。テニスポーツの歴史、ラケットとコートの種類と名称、構えとショットスイングに関する基本的な名称について理解する。グループ単位でアイズブレイクを行う。身体機能を評価するための体力測定を4項目について行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、テニスの歴史、テニスを行うときの基本的な名称とテニスゲームの多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。安全管理の方法と意識を再確認する。アイズブレイクにより自己理解と他者理解を深める。身体機能発達のピークに当たる時期の身体機能レベルを知り、その後の生活機能の変化を推測できるようになる。	
	事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。体力測定を行うための簡単なコンディショニング（食事や睡眠を含む）を行う。	30分
	事後学修	テニスで使うラケット各部の名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	テニスの構えとグリップの種類	テニスラケットとボールの特性を資料を用いて理解する。レッスンドリルに基づき、レディポジションにおける基本的な姿勢、グリップのつくり方、素振りによるラケットの軌道について調整する。柔らかいボールを使ったボール遊びとショートラリーを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的なレディポジションとグリップを調整できる。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ラケットとボールの特性とレディポジションの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。レッスン記録票の課題「私を野菜にたとえると」に自己理解の内容を入力する。	30分
5	フォアハンドストロークの習得(1)	ラケットとボールの特性を理解し、柔らかいボールを使った遊びからキャッチボール、ワンバウンドのラリー、およびフォアハンドのグリップによるスイングを練習する。レッスン記録票の「私を野菜にたとえると」を紹介して自己開示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的な構えとグリップをフォアハンドストロークに合わせて調整できる。新たな仲間により自己を開示するとともに他者理解を深める。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、フォアハンドのスイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	フォアハンドストロークの習得(2)	柔らかいボールを使って、ワンバウンドのボールのキャッチ。飛来してワンバウンドするボールの見え方とフォアハンドストロークの構えおよび打点の調整について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、構えとグリップの調整を行い、続く注視点や上半身の回転、テイクバックでの腕の位置、重心移動など、フォアハンドストロークに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
	事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	フォアハンドストロークの習得(3) 運動の強度の算出		ストロークの準備（ステップ：左右・前後の動き、構え、バウンドとボール軌跡と打点の予測）、基本的なストロークフォームを意識し、ボール軌道の知覚と予測の重要性、および初心者の課題について学修する。カルバーネン法により準備運動で行うエクササイズの運動強度を求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、早いテイクバックとそれに対応したステップ、ボール軌道の予測と前後の移動による打点の調整について試行錯誤し、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。		
	事前学修	配布資料によってフォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。 脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 カルバーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
8	フォアハンドストロークの習得(4)		柔らかいボールを使ってサービスコートのストロークラリーを行う。その際に、動画によるストロークのワンポイントフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、狭いサービスコートを利用して、コンパクトなフォアハンドストロークの動作調整を体験する。その際に、ボールの軌道と回転をコントロールするためのラケットスイングを安定させる方法を身につける。		
	事前学修	配布資料によってフォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
9	フォアハンドストロークの習得(5)		サービスコートのストロークによるシングルスゲームを行う。フォアハンドストロークの修正ポイントを自己チェックして、チェックシートに整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ショートラリーを利用することで、早いテイクバックや予測的な前後移動と正確なストロークの関係性を身体知として認識する。		
	事前学修	配布資料によってフォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
10	フォアハンドストロークの習得(6) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリー10往復をパフォーマンス目標とする。ダブルスゲームのルールとゲームの審判法を学び、サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。フォアハンドストロークのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ショートゲームの実践により、早いテイクバックと上半身の回転を意識するストロークと安定したショットの関係を精緻化する。動作調整の改善点を自ら説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。フォアハンドストロークの動作調整のポイントについて確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
11	ショット動作の評価(1)		フォアハンドのグランドストロークによるアドレスとショット動作を各自のスマホで動画撮影する。その際にレッスン記録票を用いて自己評価を行い、その内容と課題および目標を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
12	バックハンドストロークの習得(1) ダブルスゲームの実践		バックハンドストロークのダブルハンドグリップ、構え、打点を理解し、基本的なスイングの準備（ステップ：左右の動き、スタンス、構え、打点の予測）を実践する。基本的なスイングフォームについて、フォアハンドとの違いを認識する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称を用いて調整ポイントを説明ができる。		
	事前学修	配布資料によってバックハンドのスイングの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームのマナーと審判法を再確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バックハンドストロークの習得(2) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリーにおいて動画によるストローク動作のワンポイントフィードバックを行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運動学習が進み、固定化してきたフォアハンドにバックハンドを加えることで、ストローク動作の各調整の幅を広げることができる。すなわち、グランドストロークスキルのスキーマを形成する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 テニスのダブルスゲームのコートカバーについて確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
14	バックハンドストロークの習得(3) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリーを行いながら、バックハンドストロークの修正ポイントをチェックする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドストロークのステップ、テイクバック、上半身の回転、打点などの準備動作の調整を身につける。また、テニスの主要なルールとマナーを理解する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
15	バックハンドストロークの習得(4) ダブルスゲームの実践		サービスコートのショートラリーから始める。ベースラインからのフォアとバックのストロークラリー10回以上をパフォーマンス目標として練習する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストロークのショートラリーでボール軌道を安定させる調整を行うことができる。また、テニスのゲーム運営を見据えてルールとマナーを身につける。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
16	ストロークの習熟度チェック ダブルスゲームの実践		フォアハンドおよびバックハンドストロークのテニスレイティングテストを行う。 シングルスとダブルスのゲーム運営およびルールとマナーの適用を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フォアハンドとバックハンドのストロークで、ボールを正確に相手コートの深い位置に打ち返せる。それを可能にした運動学習による調整動作の変容を説明することができる。配布した資料に基づきゲーム運営、安全管理、ルール・マナーを体現する。実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。配布資料を見て、ゲーム運営、ルールとマナー、安全管理などについて確認する。		30分
17	ルールとマナーに関するチェック		テニスの発生・成立の経緯、ゲームにおけるルールとマナー、安全管理、運動強度の算出に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、スポーツのルールとマナーの意義について正しく理解するとともに、テニスにおいてゲームを行う際の協力と支援の重要性を認識する。そして、ゲームカウントを記録しながら、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、テニスの歴史や安全管理、ルール・マナーについて理解を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、今後の授業でゲームを行う際のルールやマナーについての修正ポイントを確認する。		30分
18	サービスの習得(1) ダブルスゲームの運営と実践		オーバーヘッドサーブの準備（グリップの握り方、構え、スイング軌道、打点）を身につける。 ラケットを担いだ小さなスイングによる打点と打球方向のコントロールを理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。そして、テニススキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。カウント、ゲーム、セットを指示しながら、ゲームをコントロールすることができ、他者に助言することができる。そして、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	配布資料によってサーブの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームの戦略と意図を確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	サービスの習得(2) ダブルスゲームの実践		オーバーヘッドサーブの準備（グリップ、構えとスタンス、スイング軌道）に続く大きなスイングによるフラットなボールコンタクトを実現する。クローズドスキルであるサーブの繰り返し練習による学習効果を理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブの正確性を高めるために求められる基本的な動作調整ポイントを理解する。ゲームを行う際の安全管理とルール・マナーを体現することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
20	サービスの習得(3) ダブルスゲームの実践		オーバーヘッドサーブの様々なグリップと球種の違いを実践する。サーブの正確性を高めるポイントについて、動画によるワンポイントフィードバックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スムーズなサーブ動作を実現して、正確性を高めるための動作調整を自ら行うことができる。ゲームを行う際のペアによる協力と支援の重要性を理解する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
21	シングルスゲームの体験		シングルスゲームを体験する。ダブルスとルールが変わることで、サービスの位置、コートの広さ、コートカバーの方法、さらに運動量などのテニスの要素が変化することを経験する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルスとシングルスのルールの違いにともない技術、戦術、運動量などが変化することを理解する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で体験・観察されたテニスの多様化の可能性について整理して記録する。		30分
22	サービスの習熟度チェック ドリル練習(1) ダブルスゲームの実践		テニスレイティングテストでサービスの正確性を評価する。この評価に基づきハンディキャップ（HP）を決定する。 ドリルでは、左右のグランドストローク、左右のボレーを連続して正確に行う。 ダブルスゲームのトーナメント戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サービスによるボール軌道の正確性をつくるスキルの精緻化を進める。ダブルスゲームの基本的陣形とポジションとフォーメーションを理解する。一つひとつの技術を連続して目標を達成することの楽しさを実感する。また、ゲームにおけるマナー、ジャッジ、カウントの指示と助言の方法を身につける。		
	事前学修	前回の授業で紹介されたゲームにおける代表的な技術の流れを確認する。		30分
	事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
23	ボレーの習得(1) ドリル練習(2) ダブルスゲームの実践		構えとボールへの反応動作（ステップと上半身の回転）、ボレーを打つ位置、フォアボレーのグリップ、打点の高さによるラケットの角度調整を理解し、基本的なグランドストロークとの違いを認識する。ドリルでは、左右のグランドストローク、ローボレー、ハイボレー、スマッシュと連続的に行う。 ダブルスゲームのトーナメント戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ボレーの基本的な動き方と動作調整のポイントを理解する。さらにゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。ダブルスゲームのポジションと打球に対する動き、コートカバーの意義を理解する。		
	事前学修	配布資料によってボレーの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおけるボレーの意義を確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
24	ボレーの習得(2) ドリル練習(3) ダブルスゲームの実践		バックボレーのグリップ、打点の高さによるラケットの角度調整を身につける。ボレーの基本的なステップとラケット操作を実践する。練習ではボレーで相手コートの深い位置を目標とする。ドリルでは、コートカバーを中心とした打球によるポジションの変化に対応する。 ダブルスゲームのリーグ戦の運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相手コートの深い位置にボレーによりボールを打ち返すことができる。そのときに、素早い上半身の回転によるテイクバックと大きなラケットスイングを行わないことを実践できる。習得した様々な技術を、相手選手や打球の違いに合わせて選択して打ち返し、さらにポジションをペアと協調して変えることができる。自らのスキルアップを実感する。		
	事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習におけるポジションの変化を確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 ポジショニングとコートカバーの必要性和方法を確認し、ゲームのどの場面で発揮するか考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ボレーの習得(3) ダブルスゲームの実践		ボレーはラリー10往復がパフォーマンス目標となる。動画によるボレー動作のチェックを行う。 ダブルスゲームのリーグ戦の運営を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、連続してボレーを行うことで動作調整を固定化する。ボレーを行うことで攻撃の幅が広がること、陣形とポジショニングに関してペアとの協力が重要となることを理解する。そのコミュニケーションと協力を楽しむことができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 テニスのダブルスゲームにおける戦略としてのボレーの意図を確認する。		30分
26	ロブとスマッシュの習得 ダブルスゲームのトーナメント		スマッシュのステップ、構え、さらに打点位置、スイングを調整する。ロブのボール軌道と狙う地点を認識する。 ダブルスゲームの最終トーナメント戦を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ロブとスマッシュの戦略的な意味を理解し、時間的・空間的な調整を試みる。特にラケットのスイング開始時点と打点の位置の調整を試みる。ゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。		
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ロブとスマッシュの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 配布資料を見て、テニスの運動特性、およびラケットやコート、ショット運動に関する要点を確認する。		30分
27	ショット動作の自己評価と他者評価		グラウンドストローク、ボレー、サービスを中心にショット動作について自己評価を行う。さらにグループディスカッションによる他者評価を受け、レッスン記録票にそれらの評価内容をまとめ、自らの変化にみられる目標達成と問題解決にみる自己の特徴を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関連して、様々なショットにおける正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察をもとにショット動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。		30分
	事後学修	ショット動作について整理した内容をレッスン記録票のファイルに入力して完成させる。		30分
28	多様なテニスの楽しみ方		シングルス、ダブルス、ミニテニス、子どものテニス、高齢者のテニス、車いすテニスなど、多様な人々がテニスを楽しむためのアイデアと安全な方法を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるテニスゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。		
	事前学修	テニスゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。		30分
	事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を確認する。		30分
29	運動特性とショット運動に関する チェック		テニスの運動特性、学修の要点、ラケットとコートの名称と機能、ショット運動の要点に関する小テストを行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、テニスの運動特性と適正な学修方略について正しく理解するとともに、ラケットとコートの名称と機能に対して正しい身体の使い方を導き出すといった手続き的な知識を高める。そういった側面におけるスポーツの楽しさを理解して、自らのテニススキルの向上を実感する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、テニスの運動特性や用具、ショット動作に関する知識を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、テニススキルあるいはスポーツスキルを高めて、より楽しく継続的に行うための方法について確認する。		30分
30	授業の振り返り		スポーツ実践およびテニス実践による授業について学びの観点から振り返り、その身体的、心理的、社会的側面における恩恵についてレポートを作成する。継続的にテニスを行うことによる健康行動への影響、またテニスを行うことの注意点や悪影響についても考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、テニス運動の身体面への影響に限らず、テニスを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。スポーツの仕方による健康行動への影響についても適正に判断することができる。		
	事前学修	これまでの授業で起こった出来事と自分の変化との関連を振り返り、テニスあるいはスポーツへの継続的な参加が及ぼす影響を推測してみる。		30分
	事後学修	テニスの健康スポーツとしての可能性と適正なスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	渡部 裕美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問いません。周囲と協力し、積極的に授業に臨むこと。運動靴(紐靴が望ましい)、運動着(トレーニングウェア等)、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をしてください。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設を使用して、2時限連続の実技形式により行う。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 個人的なスキルを身につけた後、ゲームを行い実践を通してチームメイトとの関係の重要性を学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の後半では試合を行う。その際、チームメイトと協力し、学生が主体となって試合に勝利するための課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	必要な技術が身についているかを実技テストにより評価する。	20										20
小テスト等	バレーボールのルール等、基礎的知識について小テストを行う。		10									10
レポート等	バレーボールの基礎的知識、また運動や健康に関する理論等を理解しているかをレポートにより評価する。		10	20								30
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、もしくはメールにて対応する。メールアドレスは授業内にてお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	一般体育受講生に対し、体育実技の1科目として指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		経験者、未経験者を問わず、個人の技術レベルに差異があっても共に楽しむことに重点を置く授業を行った。バレーボールの実践を通して、健康の保持増進・人間関係の形成及び社会性の向上・技術・ルール・マナー・安全管理の習得を目指している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション 導入授業		授業の履修条件、目的・方法、評価方法、授業計画の説明等を行う。 アイスブレーキング。	
	この回の 到達目標	ガイダンス内容を理解する。共に受講する学生とコミュニケーションを図る。		
	事前学修	シラバスを確認する。		30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、以降の受講計画を確認する。		30分
2	バレーボールの運動特性とルール、 マナー		バレーボールの運動特性とルール、マナー、授業における安全管理を学修する。	
	この回の 到達目標	バレーボールのルールやマナーを理解する。また、バレーボール実施に伴う危険性について理解し、安全管理について説明 することができる。		
	事前学修	バレーボールの運動特性、ルール、マナーについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
3	ボールを使ったウォーミングアップ、 ボール慣れ		柔らかいボール(ソフトバレー)を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。		
	事前学修	事前学修 インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
4	ボールを使ったウォーミングアップ、 ボール慣れ		柔らかいボール(ソフトバレー)を使い、身体をほぐしながらボールを繋ぐことの楽しさを実感する。	
	この回の 到達目標	バレーボールの特性を理解し、ボールを繋ぐことができる。		
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
5	オーバーハンドパス①		オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを 使ったミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。		
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
6	オーバーハンドパス②		オーバーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。オーバーハンドパスを 使ったミニゲームを行う。	
	この回の 到達目標	オーバーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。 オーバーハンドパスについて調べる。		
	事前学修	オーバーハンドパスについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アンダーハンドパス①	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使ったミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
8	アンダーハンドパス②	アンダーハンドパスの基本的なフォーム、ボールの扱い方を習得する。アンダーハンドパスを使ったミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	アンダーハンドパスの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識できる。	
	事前学修	アンダーハンドパスについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
9	サーブ①	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
10	サーブ②	サーブの種類と特徴を理解し、フォームを習得する。自身の特性に合ったサーブを選択する。	
	この回の到達目標	サーブの種類と基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	サーブについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
11	スパイク①	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
12	スパイク②	助走、ジャンプ、腕の振り、ボールヒットなどスパイク技術を習得し、手投げのトスでネット越しにスパイク動作を行う。	
	この回の到達目標	スパイクの基礎技術について理解し説明できる。ポイントを意識し、ネット越しにスパイクを打つことができる。	
	事前学修	スパイクについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	トス		オーバーハンドパスから発展し、トス技術を習得する。	
	この回の到達目標	トスアップの特性、基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し、スパイカーにトスをあげることができる。		
	事前学修	トス(セッター)について調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
14	ブロック		ジャンプのタイミング、ボールとの位置関係、ネットに触れないようにするための身体のコントロールなどブロックの基本技術を習得する。	
	この回の到達目標	ブロックの基礎技術を理解し説明できる。ポイントを意識し相手のスパイクをブロックすることができる。		
	事前学修	ブロックについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
15	連係プレー①		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。	
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。		
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
16	連係プレー②		レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃に挑戦する。3本目をヒットで返球できるよう仲間とコミュニケーションを図り、行う。	
	この回の到達目標	連係プレーの大切さを理解し、易しいボールを3段攻撃につなげることができる。		
	事前学修	インターネット等でバレーボールのラリーの動画を視聴する。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
17	フォーメーション(ローテーション)		フォーメーション(ローテーション)、ゲームの一連の流れを習得する。	
	この回の到達目標	フォーメーション、またバレーボールの特徴であるローテーションを理解し、ゲームの一連の流れを説明できる。		
	事前学修	フォーメーションについて調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分
18	ゲーム運営と審判法		ゲームのルール、審判法を習得する。	
	この回の到達目標	ゲームのルール、審判法を理解し、実践で使える。		
	事前学修	ゲームのルールと審判について調べる。		30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	戦術とゲームプラン①		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。	
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
20	戦術とゲームプラン②		各ポジションの特性、役割を理解し、チーム毎にポジションを決定する。また、各チームで戦術を話し合う。
	この回の到達目標	各ポジションの特性、役割、チーム戦術を理解し、試合を実施することができる。	
	事前学修	バレーボールの戦術について調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
21	チーム別練習とゲーム①		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	バレーボールの練習方法について調べる。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
22	チーム別練習とゲーム②		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
23	チーム別練習とゲーム③		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分
24	チーム別練習とゲーム④		各チームで必要な練習を行い、その後ゲームを行う。
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、課題設定・解決ができる。	
	事前学修	前回のゲームを振り返り、次のゲームに備える。	30分
	事後学修	ゲーム内容を振り返り、改善点を考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	リーグ戦①	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
26	リーグ戦②	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
27	リーグ戦③	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
28	リーグ戦④	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
29	リーグ戦⑤	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトと協力し、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて戦術を考える。	30分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	30分
30	まとめ・振り返り	授業の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業を振り返り、スポーツ実技を通して身についたと感じる事柄やスポーツが心身に及ぼす影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	渡部 裕美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問いません。周囲と協力し、積極的に授業に臨むこと。運動靴(紐靴が望ましい)、運動着(トレーニングウェア等)、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をしてください。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設を使用して、2時限連続の実技形式により行う。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 個人的なスキルを身につけた後、ゲームを行い実践を通してする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	必要な技術が身についているかを実技テストにより評価する。	20										20
小テスト等	バドミントンのルール等、基礎的知識について小テストを行う。		10									10
レポート等	バドミントンの基礎的知識、また運動や健康に関する理論等を理解しているかをレポートにより評価する。		10	20								30
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、もしくはメールにて対応する。メールアドレスは授業内にてお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	一般体育受講生に対し、体育実技の1科目として指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		経験者、未経験者を問わず、個人の技術レベルに差異があっても共に楽しむことに重点を置く授業を行った。バドミントンの実践を通して、健康の保持増進・人間関係の形成及び社会性の向上・技術・ルール・マナー・安全管理の習得を目指している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 導入授業	授業の履修条件、目的・方法、評価方法、授業計画の説明等を行う。 アイスブレーキング。	
	この回の 到達目標	ガイダンス内容を理解する。共に受講する学生とコミュニケーションを図る。	
	事前学修	シラバスを確認する。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、以降の受講計画を確認する。	30分
2	バドミントンの運動特性とルール、 マナー	バドミントンの運動特性とルール、マナー、授業における安全管理を学修する。	
	この回の 到達目標	バドミントンのルールやマナーを理解する。また、バドミントン実施に伴う危険性について理解し、安全管理について説明 することができる。	
	事前学修	バドミントンの運動特性、ルール、マナーについて調べる。	30分
	事後学修	授業内容について振り返りを行う。	30分
3	【基本技術】 グリップの握り方・ラ ケットの振り方	グリップの握り方、ラケットの振り方を説明し、実践する。	
	この回の 到達目標	ラケットを正しい握り方で握ることができ、ラケットを振ることができる。	
	事前学修	握り方について学ぶ。	30分
	事後学修	覚えたグリップの握り方を復習する。	30分
4	【基本技術】 シャトルを打つ	天井や壁、床、天井に向かってシャトルを打つことでシャトルを打つ感覚や打ち方を覚える。	
	この回の 到達目標	ラケットがどの方向を向いていてもシャトルを当てることができる。 意図した方向にシャトルを打つことができる。	
	事前学修	シャトルを打つ方法を学ぶ。	30分
	事後学修	様々な方向に打つときの打ち方を素振りを通して復習する。	30分
5	【基本技術】 サービス	サービスラインを理解し、ライン内にシャトルを打つ。	
	この回の 到達目標	サービスをミスなく打てるようになる。	
	事前学修	サービスラインについて学ぶ。	30分
	事後学修	サービスを打つ強さや方向を復習する。	30分
6	【基本技術】 ストローク①(ドライ ブショット)	ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の 到達目標	ドライブショットが打てるようになる。	
	事前学修	ドライブショットについて学ぶ。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【基本技術】ストローク①(ドライブショット)		ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドライブショットで打ち分けができるようになる。		
	事前学修	ドライブショットの打ち分けについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分
8	【基本技術】ストローク②(ハイクリアーショット)		ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットが打てるようになる。		
	事前学修	ハイクリアーショットについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分
9	【基本技術】ストローク②(ハイクリアーショット)		ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットで打ち分けができるようになる。		
	事前学修	ハイクリアーショットの打ち分けについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分
10	【基本技術】ストローク③(ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ)		ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブが打てるようになる。		
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分
11	【基本技術】ストローク③(ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ)		ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブで打ち分けができるようになる。		
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブの打ち分けについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分
12	【基本技術】ストローク④(スマッシュショット)		スマッシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュショットが打てるようになる。		
	事前学修	スマッシュショットについて学ぶ。		30分
	事後学修	打ち方を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【基本技術】ストローク④(スマッシュシュショット)	スマッシュシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュシュショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	スマッシュシュショットの打ち分けについて学ぶ。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分
14	【基本技術】ストローク⑤(ヘヤピンシュショット)	ヘヤピンシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘヤピンシュショットが打てるようになる。	
	事前学修	ヘヤピンシュショットについて学ぶ。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分
15	【基本技術】ストローク⑤(ヘヤピンシュショット)	ヘヤピンシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘヤピンシュショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ヘヤピンシュショットの打ち分けについて学ぶ。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分
16	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークについて復習する。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分
17	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを50回以上続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすればラリーが続けられるか考える。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分
18	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いて相手を揺さぶるようにラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすれば相手を揺さぶることができるか考える。	30分
	事後学修	打ち方を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解する。	
	事前学修	ダブルスのルールについて学ぶ。	30分
	事後学修	ルールについて復習する。	30分
20	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	ダブルスのルールについて復習する。	30分
	事後学修	ダブルスのルールを人に説明する。	30分
21	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して試合をする楽しさを学ぶ。	
	この回の到達目標	学んだルールを生かして試合を実践する。 ゲームの楽しさを学ぶ。	
	事前学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	30分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	30分
22	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力してコートを支配する。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力してポイントを取る喜びを学ぶ。	
	事前学修	試合でポイントを取るためにはどうすればいいか学ぶ。	30分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	30分
23	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して相手を崩す。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力して相手のフォーメーションを崩す。	
	事前学修	相手のフォーメーションを崩す方法について学ぶ。	30分
	事後学修	相手のフォーメーションを崩す方法について復習する。	30分
24	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 問題点を修正しながら戦略を立てる。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 自分たちの問題点を考え、修正しながらゲームの戦略を立てることができる。	
	事前学修	自分のチームの問題点について考え、戦略を立てる。	30分
	事後学修	戦略が成功していたかを振り返る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	【技術の展開】シングルスフットワーク	シングルスルールを学ぶ。	
	この回の到達目標	シングルスルールを理解する。	
	事前学修	シングルスルールについて学ぶ。	30分
	事後学修	シングルスルールについて復習する。	30分
26	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルの打ち分けを学ぶ。	
	この回の到達目標	相手を揺さぶるためにシャトルを打ち分ける。	
	事前学修	広いコートでのシャトルの打ち分けについて学ぶ。	30分
	事後学修	実践したことを復習する。 広いコートでのシャトルの打ち分けについて復習する。	30分
27	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルを打ち分ける。	
	この回の到達目標	状況に応じて必要なショットを打つことができる。	
	事前学修	状況に応じて打つショットを学ぶ。	30分
	事後学修	実践したことを復習する。	30分
28	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 相手を揺さぶる。	
	この回の到達目標	シャトルを打ち分け相手を揺さぶり、崩すことができる。	
	事前学修	コート上で相手を崩す方法について学ぶ。	30分
	事後学修	実践したことを復習する。	30分
29	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 軽快なフットワークで様々なショットを繰り出す。	
	この回の到達目標	コートを縦横無尽に支配することができる。	
	事前学修	コートを支配する方法について学ぶ。	30分
	事後学修	実践したことを復習する。	30分
30	【実践】講義内容テストおよび実技テストまとめ	講義内容に関するテストおよび実技テストを実施する。	
	この回の到達目標	ルールやストロークの小テスト及び実技テストを実施。	
	事前学修	これまで学んだことについて復習する。	30分
	事後学修	小テスト、実技について復習する。	30分

V ~ VII群

専門科目

専門基幹・専門展開・専門演習関連

V
VII群
専門科目

科目名	アメリカ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とアメリカに係する経済的問題及び解決策を提示そして相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、アメリカ経済の歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

【履修条件】
特にないが、政治学及び経済学の基礎的知識を有することが望ましい。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはGoogleClassroomにアップするので必要に応じて持参すること（毎回教員から紙媒体の資料を配布する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	アメリカの経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2					
②	アメリカの経済及び政治に関する出来事についての専門用語を理解できる。					2					
③	アメリカの経済及び政治に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。					2		2			
④	アメリカ経済論に関する他者の評価や意見を尊重することができる。							2		2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についての能力が身についているかを、グループディスカッション及びグループ発表により評価する。			5	10							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アメリカ経済の歩み』	榊原胖夫・加藤一誠	文真堂	2011		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカ経済論を学ぶ意味：アメリカ経済論の枠組みと授業概要について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、アメリカ経済論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、アメリカ経済論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、アメリカ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。	90分
	事後学修	講義資料を確認し、アメリカ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにアメリカの特徴もまとめること。	150分
2	戦後の好況とアメリカの「ルール」：第一次世界大戦後のアメリカにおける好況について	第一次世界大戦の背景とアメリカ経済に与えた影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次世界大戦がどのようにアメリカ経済の好況を促したかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、第一次世界大戦の基本的内容とアメリカ経済に与えた影響について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、第一次世界大戦後のアメリカ経済の好況及び減速の理由をそれぞれまとめること。	120分
3	大不況とニューディール政策1：大不況発生とその原因	戦間期における大不況発生とその原因について、株式ブームの崩壊を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大恐慌発生の原因と大恐慌がいかに世界的な問題であったかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような経緯で大不況が発生したかについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、大不況が発生した原因についてまとめること。また、次回使用するケインズの有効需要の原理についてもまとめておくこと。	120分
4	大不況とニューディール政策2：大不況への処方箋とケインズ	ニューディール政策及びケインズの有効需要の原則に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニューディール政策の内容及び効果と有効需要の原則を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、大不況への処方箋として登場したニューディール政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ニューディール政策の内容とその効果についてまとめておくこと。また、ケインズの考え方に關しても再度理解を深めること。	120分
5	第二次世界大戦とアメリカ経済における「供給」側の変化	第二次世界大戦の背景とアメリカ経済、特に「供給」システムに与えた影響を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第二次世界大戦がアメリカ経済に与えた影響及び持続可能な成長システムについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、第二次世界大戦が企業及び生産システムに与えた影響について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、第二次世界大戦時の「供給」システムについて理解を深めること。また、このシステムが経済成長とどのように関わっているかもまとめること。	120分
6	ゆたかな社会の確立へ向けて1：アイゼンハワー政権が目指した「安定」	アイゼンハワー政権が行った主要な政策と「安定化」について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイゼンハワー政権が行った政策の内容及びその効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、アイゼンハワー政権時の政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、人口増加及び朝鮮戦争が経済成長に与えた影響及びアイゼンハワー政権についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゆたかな社会の確立へ向けて2：戦後の成長及びその成長がもたらした変化	戦後経済の成長と、その結果としてアメリカ経済に発生した社会的変化について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカ経済の急速な成長と社会的変化について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、戦後の成長がアメリカ経済「全体」に与えた影響について、その意味を理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、戦後経済成長がアメリカに与えた影響及び解決策について、項目ごとにまとめること。	120分
8	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済1：ケネディとジョンソン	ケネディ政権及びジョンソン政権の政策について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両政権の政策及びニューフロンティアの概念について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ニューフロンティアの考え方について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ケネディ及びジョンソン政権におけるそれぞれの政策についてまとめること。	120分
9	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済2：国際的な相互依存体制の枠組みについて	国際的為替・貿易システム及びアメリカ経済の問題であったスタグフレーションと貿易赤字について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時のアメリカ経済の問題点及びニクソン政権の政策を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、スタグフレーションと貿易赤字について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ニクソンショック、スタグフレーション、財政赤字など重要なキーワードについてまとめること。	120分
10	アメリカ経済と「規制」撤廃1：カーター政権と規制撤廃	アメリカ経済の主要な問題の1つであった規制とカーター政権の政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、カーター政権の主要な政策における規制撤廃の意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、カーター政権が行なった政策について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、規制が撤廃されることによりアメリカ経済がどのような状況になったかについてまとめること。	120分
11	アメリカ経済と「規制」撤廃2：レーガノミクスからブッシュ（パパ）政権まで	レーガン大統領及びブッシュ（パパ）政権の主要な政策について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両大統領の政権時における主要な政策について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、レーガノミクスの内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、レーガノミクスが問題視した点とのレーガノミクスの効果についてまとめること。	120分
12	繁栄が続いた1990年代のアメリカ経済：クリントン政権の活躍	アメリカ経済の救世主と言われたクリントン政権の主要な政策に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クリントン政権がどのようにアメリカ経済を救ったのかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、クリントン政権が行なった政策等の内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、クリントン政権がどのように財政赤字解消等を達成したのかについてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	21世紀のアメリカ経済：ブッシュ政権およびオバマ政権の政策	ブッシュ政権とオバマ政権時の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ブッシュ政権及びオバマ政権が行なった政策等の内容について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。	180分
	事後学修	講義資料を確認し、それぞれの政権の政策がどのように連鎖しているかについてまとめること。	60分
14	現代のアメリカ経済とトランプ大統領：大統領選挙、中間選挙、そして経済政策	ブッシュ政権とトランプ政権の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。	
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、直近の大統領選挙及び中間選挙の結果と投票者の特徴について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。	180分
	事後学修	講義資料を確認し、トランプ政権がこれまで行なってきた政策について、政策ごとに経済学的な意味をまとめること。	60分
15	アメリカ経済論のまとめ及び試験の説明	アメリカ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ経済論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
	事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。	90分
	事後学修	これまでの講義資料を確認し、試験の準備を進めること。	150分

科目名	アメリカ政治論	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
アメリカ政治の実像をより深く理解するため、アメリカ政治史の流れをふまえ、大統領制、連邦議会といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ社会の価値観を知るため、文化的背景をほりさげるとともに、歴史的・制度的なアプローチをし、アメリカ政治に関する知識の修得をめざす。くわえて、アメリカ政治の特色をめぐって、ディスカッションをおこなうときに、相手の意見を尊重しつつ、みずからの意見を表明できるようになる。

【履修条件】
学期末試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。なお、授業は、あくまでも対面式を基本としているものの、状況によっては、学期末試験などがオンライン式に変更となる可能性がある。それゆえ、この科目を履修する場合、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とするので注意すること（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象がおきたときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	建国の理念やアメリカ合衆国憲法の意義を説明することができる。【知識】					2					
②	アメリカ政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】					2					
③	アメリカ政治史上の事象をふまえて、現代アメリカがかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】					2		2			
④	アメリカ政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】							2		2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に表明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日米首脳会談の政治学』（※ ソフトカバー）	浅野一弘	同文館出版	2023	教科書	必携
『アメリカ政治』〔第3版〕	久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅	有斐閣	2017	参考書	推奨
『アメリカ政治外交史』〔第2版〕	斎藤眞・古矢旬	東京大学出版会	2012	参考書	推奨
『アメリカ政治史』	久保文明	有斐閣	2018	参考書	推奨
『現代アメリカ』	渡辺靖編	有斐閣	2010	参考書	推奨
『戦後アメリカ外交史』〔第3版〕	佐々木卓也編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカ政治をみる目	われわれは、アメリカという国を理解しているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、アメリカ政治を的確にみていくために必要な最低限の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治の一端を把握することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ政治を考察するうえで必要な基礎的知識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
2	アメリカという国の特質	アメリカという国には、日本と異なる多くの特質がみられる。そうした特徴をおさえておくことが緊要であるため、アメリカという国の有する特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の流れをふまえ、アメリカという国の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカという国のもつ基本的な特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
3	アメリカ合衆国憲法	アメリカの建国と憲法制定にいたる流れを学修する。くわえて、アメリカ合衆国憲法の有する意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権力分立という観点からアメリカ合衆国憲法の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ合衆国憲法の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
4	連邦議会	大統領との緊張関係を見るだけでなく、「シニオリティ・ルール」「フィリバスター」といったアメリカ連邦議会の有する特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、連邦議会の有する権限とその役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカの連邦議会の有する特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
5	中間選挙（連邦議会選挙）	2020年大統領選挙などの結果もふまえ、2022年の中間選挙の現状と課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、アメリカの中間選挙の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカの中間選挙のしくみをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
6	大統領制	大統領の権限を概観するとともに、リーダーシップという観点から、第二次大戦後の各大統領の政策決定スタイルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、大統領制の特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所など精読し、アメリカの大統領制についての基本的知識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	大統領選挙	2024年大統領選挙の動向をつよく意識しつつ、アメリカの大統領選挙のしくみと特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、大統領選挙の特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカの大統領選挙のしくみをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
8	政党	二大政党制という、アメリカの政党制の現状と課題をみたうえで、政策面から共和党、民主党おのおのの特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、共和党と民主党の政策のちがいを的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカの二大政党制の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
9	官僚制	日本の政治と異なり、アメリカの官僚制では、スポイルズ・システムという特徴がみられる。そこで、官僚の人事制度などにふれながら、日米間の官僚制のちがいについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、官僚制の機能についての的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ政治において、官僚制がどのような役割をはたしているのかについて、十分おさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
10	利益集団	二大政党とのかかわりを視野に入れつつ、争点ごとにアメリカの利益集団がどのように機能しているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、二大政党制という視点をふまえ、アメリカの利益集団の有する特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読しアメリカの利益集団の有する特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
11	世論	日本の政治と同様に、アメリカの政治でも、世論が大きな役割をはたしている。そこで、新聞やテレビの実態などにふれながら、アメリカにおける世論形成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、世論のはたす役割の大きさを的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ政治において、世論のはたす役割をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
12	地方自治（連邦制）	中央・地方関係を視野に入れつつ、連邦制をとるアメリカの地方自治のしくみがどのようなになっているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央・地方関係という視点をふまえ、アメリカの地方自治（連邦制）の有する特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカの地方自治（連邦制）の有する特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	アメリカ外交の基調		アメリカ外交の基調とされる孤立主義の系譜をたどる。そして、混迷の度合いをます、現在のアメリカ外交の特徴についても学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、アメリカ外交の基調である孤立主義の流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ外交の基調をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
14	アメリカと日本		第二次大戦後の日米関係の動向について、政治・経済・文化といった側面から学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治・経済・文化というアプローチから、第二次大戦後の日米関係の流れを説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当箇所などを精読し、第二次大戦後の日米関係の流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
15	アメリカ政治の新方向？		アメリカ政治の今後の動向について、経済・文化・宗教といった側面からアプローチし、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済・文化・宗教という観点から、今後のアメリカ政治の方向性の一端を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所などを精読し、アメリカ政治の現状と展望をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

科目名	異文化メディア	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人種や民族、国籍などの異なる者同士、あるいは障害者ともに暮らすという状況は、ごく当たり前の日常となっている。だが、そこには少数者が、多数者から、何かが「異なる」という理由でしばしば差別され、時として激しい暴力が行使されるという現実が存在している。なぜ、そうしたことが起きるのか、それらがメディアでどう取り上げられているのかを取り上げる。本授業では、他者という観点から、この問いに向きあい、多様性を認め合う寛容な社会について考えていく。なお、講義資料を毎回提示する予定。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業の目的は、①国家や国民、民族、人種が決して自明のものではなく、社会的に構築されたものであること、②そこに構造化された政治性が差別を生みだし、そのことが、国民国家を成立させる重要な資源になっていたこと、③国民国家が、近代の産物として発明され、<かたち>を帯びていく過程で、メディアが、どのような役割を果たしたのかを理解することにある。本授業の到達目標は、他者理解のために自己を開くことにある。

【履修条件】
メディア、異文化理解は誰にとっても重要なことであるので、誰にでも門戸は開かれている。

【授業方法】
基本的には講義である。時に映像を見たり、資料を見ながら一緒に考えていくことにする。気楽に話し合います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	資料を参照した上での対話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアが世界をどのように表象しているのか					3	3	3	3				
②	他者に対する理解の場を開く					3	3	3	3				
③	自分のことを理解する					3	3	3	3				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験で成績をつける	80										80
小テスト等	授業内リアクションペーパーは実施し成績の参考にする	10										10
レポート等												
討論・発表等	思ったことを自由に言って欲しい		5	5								10
授業への参画度	もちろん参加度が高いことを期待する											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		90	5	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中に質問をどしどしして欲しい

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
希望者は水曜3限授業後に授業講堂にて申し出ること。kobayashi.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション	
	この回の到達目標	授業の目的を知る	
	事前学修	特にないが異文化とメディアに関する文献を自分なりに用意して欲しい	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
2	文化と異文化という概念	文化と異文化という概念に関する社会学的理解を解説する	
	この回の到達目標	文化と異文化という概念を理解する	
	事前学修	あなたが考える文化や異文化がどのようなものか自力で考える	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
3	他者とコミュニケーション	コミュニケーションとは一体なんであるのか学術的な解説をこなう	
	この回の到達目標	他者とコミュニケーションという概念を理解する	
	事前学修	あなたが考えるコミュニケーションがどのようなものか自力で考える	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
4	映画から異文化に接する	障害者の映画「むかしMattoの町があった」を見て考える	
	この回の到達目標	映画の内容を理解し、そこにある他者について考える	
	事前学修	前回授業で渡された資料をよく読み込んでくる	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
5	スポーツメディアに現れる他者性	オリンピック映画のプロパガンダ性とそこに現れる他者性の可能性を考察する	
	この回の到達目標	メディアの特質について理解する	
	事前学修	ベルリンオリンピックについて調べておく	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
6	国家、国民を理解する	メディアが、どのように「国民」を創出していったのかについて、アンダーソン「想像の共同体」の議論の有効性と限界に注意を払いながら考える。	
	この回の到達目標	民族＝国民という図式に注意を払いながら、国民で構成された国家の形成プロセスについて説明する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	異文化を理解するための理論	異文化理解をするための方法論や概念を解説する。	
	この回の到達目標	異文化を理解するためのいくつかの理論を紹介する。その上で多文化共生とはなんであるのかについて考える。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
8	日本人の境界	国家や国民という概念の揺らぎに関して解説する。	
	この回の到達目標	日本人というカテゴリーが、どのように恣意的に形成されていったのかについて、台湾と朝鮮、さらに沖縄とアイヌに焦点をあてて説明する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
9	エスニック・メディアについて1	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
	この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
10	エスニック・メディアについて2	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
	この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
11	東アジアの文化を理解する	自国と隣接する国々の考えを理解する。	
	この回の到達目標	中国や韓国の文化について考察し、自国の文化との違いについて考察する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
12	スポーツにおける異文化	国際化していると思われるスポーツの中にある自国中心主義を明らかにする。	
	この回の到達目標	日本の相撲を取り上げ、その中にある日本人の異文化に対する理解のありようについて考察する	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自己を相対化し、自己を理解する		自己を理解するためには他者との関係性が重要である。そのための具体的な事例を取り上げる。
	この回の到達目標	自国の文化に内閉していないのかについて考えてみる	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
14	他者を理解する 1		読書とはなんであるのか他者性との関わりから解説する。
	この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。特に読書とはなんであるのかについて扱う。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分
15	他者を理解する 2		メディアが他者性をもたらす可能性に関して考察する。
	この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。その受容における振り返りとしての自己理解への開かれを考える。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	120分
	事後学修	授業内容を振り返る	120分

科目名	インベスター・リレーションズⅠ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、これらの意思決定のうち、企業価値を最大化するための投資政策、および財務政策の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の投資政策、及び財務政策の基礎を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。					3	3	3	3				
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような投資政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。					3	3	3	3				
③	資本構成（負債と株主資本の内訳）と企業価値の関係を理解し、説明することができる。					3	3	3	3				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験によって、達成目標①②③に関する内容を理解しているかを確認する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③に関する疑問点と内容の理解を確認する。	4	3	3								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	33	33								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）ikedanaoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		コーポレートファイナンスの学問上の位置づけやその対象について学修する。また、授業計画や評価方法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：コーポレートファイナンスと資産価格理論（アセットプライシング）や証券投資論（インベストメント）との関連を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について整理する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について復習し、説明できるようにする。コーポレートファイナンスを学修することで自分にとってどのようなメリットがあるかを考える。		120分
2	企業活動の基本と企業の目標		企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスが対象とする企業活動は何か、また、その活動をするときの企業の目標は何かを検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化である理由を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
3	キャッシュフローの現在価値		将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を復習し、自分で計算できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
4	評価の基本原則：期待収益率と要求収益率		期待収益率と要求収益率の概念を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：期待収益率と要求収益率の概念を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、期待収益率と要求収益率の概念を確認し、両者が異なるものであることを認識する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、期待収益率と要求収益率の概念を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
5	評価の基本原則：資本市場の均衡		資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
6	評価の基本原則：価格と現在価値の関係		資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致するメカニズムを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致するメカニズムを検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	システマティックリスクと固有リスク		分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）があることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：分散投資のリスク低減効果を押さえた上で、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）があることを理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、分散投資のリスク低減効果が生じる理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）がある理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
8	資本資産評価モデル（CAPM）		投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、システマティックリスクの指標がベータで測れる理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
9	投資政策：NPV法		NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、NPVの計算方法を確認する。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、NPVの計算方法を復習し、自分で計算できるようにする。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
10	投資政策：IRR法		IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、IRRの計算方法を確認する。また、IRR法による意思決定が機能しないとき（NPV法と一致しないとき）はどのようなときかを検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、IRRの計算方法を復習し、自分で表計算ソフト等を使って計算できるようにする。また、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）がある理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
11	投資政策：その他の投資意思決定手法		回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、回収期間の計算方法を確認する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、回収期間の計算方法を復習する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
12	財務政策：資本構成とMM命題		資本構成とは何か、またMM命題の概略を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：資本構成とは何か、またMM命題の概略を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本構成とは何か、またMM命題の概略を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MM命題の概略を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財務政策：MMの第1命題	完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とは何かを確認する。また、MMの第1命題とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MMの第1命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	財務政策：MMの第2命題	MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇する理由を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MMの第2命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	インベスター・リレーションズⅡ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、企業価値を最大化するための財務政策とペイアウト政策について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の財務政策とペイアウト政策を理解する。

【履修条件】
インベスター・リレーションズⅠの履修を前提とする。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 （ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような財務政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
③	企業価値を最大化するために、企業はどのようなペイアウト政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験によって、達成目標①②③に関する内容を理解しているかを確認する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③に関する疑問点と内容の理解を確認する。	4	3	3								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	33	33								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）ikedanaoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
	事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
2	財務政策：法人税の導入	完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、負債利用には節税効果があることを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、負債利用の節税効果を押さえた上で、修正MM命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	財務政策：節税効果と加重平均資本コスト	加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、法人税が存在する場合での加重平均資本コストの定義を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	財務政策：財務的困難のコストの導入	完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、財務的困難のコストとは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法人税と財務的困難のコストを導入した世界では、企業価値を最大にするような資本構成が存在する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	財務政策：負債のエージェンシーコスト	完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事後情報の非対称性とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	財務政策：リスクを高める資産代替	完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生することを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、リスクを高める資産代替とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	財務政策：デットオーバーハング		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、デットオーバーハングとは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
8	財務政策：ペッキング・オーダー理論		完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測されること（ペッキング・オーダー理論）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事前情報の非対称性とは何かを確認する。また、ペッキング・オーダー理論の予測とは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事前情報の非対称性を導入した世界では、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
9	ペイアウト政策：ペイアウト政策とMM命題		ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ペイアウト政策に関するMM命題の概略を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
10	ペイアウト政策：MM命題の例証		ペイアウト政策に関するMM命題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えないことを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、ペイアウト政策が企業価値に及ぼす影響について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、完全資本市場では、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えない理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
11	ペイアウト政策：シグナリング仮説		完全資本市場の仮定を緩めて、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とペイアウト政策の関係について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与える理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
12	ペイアウト政策：エージェンシー問題		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界では、エージェンシー問題の存在から、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、エージェンシー問題とペイアウト政策の関係について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与える理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書と参考書を読むことに加えて、最近の新聞記事を読んで、コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括	インベスター・リレーションズⅠの内容を含め、いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③関連：いままでの授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	運輸政策	担当者	後藤 洋志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
運輸政策について、まず概論、基礎を学修し、その後各運輸分野についてその現状、課題及び政策効果などについて学修する。運輸政策についての理解を深めるとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活に関連する運輸政策について、各運輸分野の現状、課題及び政策効果などを学修し、運輸政策についての理解を深めることを目的とする。外国の運輸政策についても触れる。運輸政策の概念、基本的構造等を習得して、その基礎にある理論を履修するとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【履修条件】
2年次以降を対象とする

【授業方法】
講義形式、スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	効率的な運輸・交通体系を形成するために運輸政策が必要とされていることを理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
②	他分野の政策とは異なる運輸政策の基本的構造と政策の内容を理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
③	運輸政策のそれぞれの施策がどのように機能し、課題や問題点を解決するのに適用されるかを調べることができる。[技能]				4		4	4	4			
④	運輸政策のそれぞれの施策の実際上の運用を理解し、与えられた課題に対して適切に適用することができる。[技能]				4		4	4	4			
⑤	運輸政策のそれぞれの施策の解釈・運用に関する議論に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。[態度・習慣]				4		4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、文字数、書式等の要件を満たし、課題に適切に応える内容になっているかを基準に、到達目標①②に関する基礎知識が身についているか、到達目標③④に関わる調査・説明ができるようになっているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標⑤に関わる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説・講評を、後日、ポータルシステム等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了前後に適宜実施 e-mail c57110@vanilla.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	約30年間 運輸省、国土交通省勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		運輸政策の立案・実施を含む実務経験に基づき、運輸各分野の現状、課題及び政策効果などについて講義を実施する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	交通運輸と社会のかかわり		交通運輸と経済社会の幅広いかかわりについて述べるとともに運輸政策を担う行政機関である国土交通省の概要・機能を紹介する。 また、政策モード、輸送モードごとに構成する本講義のポイントを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運輸政策がどのような政策か、またどのような目的で実施されているかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、事前に示す講義資料を読み、講義の全体を概観する。	120分
	事後学修	講義終了後、講義内容についてノートを整理・復習して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討することが望ましい。	120分
2	データで見る運輸		人口減高齢化が輸送に与える影響（乗客減、運転手不足）、モードごとの旅客・貨物輸送量推移、新型コロナからの回復状況、GDPとの関係、交通産業の規模、労働者数、都市部・地方部の輸送実態などを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済活動や国土形態、人口動態と運輸の関係について理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
3	交通産業の事業特性と公的規制の必要性		他のサービスと交通サービスの違い（公共的性格、派生需要、外部経済効果、費用通減型産業など）について説明するとともに、交通サービスの特性を踏まえた公的規制の必要性和基本的な事業規制手法を解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他のサービスと交通サービスの違い（公共的性格、派生需要、外部経済効果、費用通減型産業など）について理解する。また、運輸事業法規制の基本を理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
4	交通分野における公的規制の変遷と評価		第2次大戦後の交通政策の変遷を3つのステージに区分して説明するとともにその評価を行う。 第1ステージ：高度経済成長期の官主導による交通産業育成・供給力増加 第2ステージ：1980年代からの民営化・規制緩和によるサービス向上・多様化 第3ステージ：バブル崩壊後の低成長時代における交通の活性化・再生策
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、戦後の運輸事業規制の変遷を理解する（護送船団方式～規制緩和～官民共創によるモビリティ維持）。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
5	地域公共交通政策		4回目の講義での第3ステージである現在、交通政策のベースとされる交通基本法の内容について解説するとともに、人口減・高齢化により厳しさを増す地域交通の維持方策について、我が国より人口密度が低くマイカー依存度が高いヨーロッパ諸国の事例も交えながら、町づくり、福祉、教育、商業など交通以外のステークホルダーとの連携の必要性、クロスセクターベネフィットの考え方も含めながら解説する。あわせて、フィンランドが起源のMaaSについて我が国での普及状況も解説する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、交通基本法、地域交通活性化に基づく計画作成のスキーム、交通以外の他分野と連携した地域交通維持策などを理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
6	交通と環境問題、安全規制について		交通機関各モードにおける環境対策の推進状況を解説する。また、EVなど低公害車普及の現状や環境に対応した自動車関連税制の動向、ドイツにおけるアウトバーン有料化と環境対策について解説する。 次に、運輸産業に関する安全規制の概要を解説する。特にJR宝塚線大事故を教訓に導入された運輸マネジメントシステムの内容を紹介するとともに、軽井沢バス事故を踏まえた安全対策強化策についても紹介する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、陸海空の各モードごとの環境対策の推進状況を理解する。また、EVなど低公害車普及の現状や環境に対応した自動車関連税制の動向、ドイツにおけるアウトバーン有料化と環境対策について概要を理解する。また、運輸安全マネジメントなど運輸部門の安全規制の概要について理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	講義の総括とレポート作成のガイダンスなど	前回までの講義内容を総括するとともに重点ポイントを確認する。 またレポート作成のガイダンス等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、前回までの講義のポイントを復習しつつ確認するとともに、レポート作成要領を理解する。	
	事前学修	レポート作成に関し、知識情報の再確認を行うとともに、教官に対する質問事項なども整理しておくこと。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
8	レポート作成	前回までの講義内容を対象にレポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、前回までの講義範囲でレポートを作成する。	
	事前学修	講レポート作成範囲の中の知識情報の再確認を行う。	120分
	事後学修	引き続き、運輸分野について興味を持ち、情報収集・学習などを継続することが望まれる。	120分
9	鉄道産業について（その１）	鉄道産業の規模、種類などについて解説するとともに、鉄道事業法制等の概要、国鉄改革と新幹線、リニア中央新幹線など鉄道行政の基本を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、鉄道産業の規模、種類や、鉄道事業法制等の概要、国鉄改革と新幹線、リニア中央新幹線など鉄道行政の基本を理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
10	鉄道産業について（その２）	前回講義の内容とともに、都市鉄道ネットワーク充実のための施策やローカル線維・持廃止問題への対応について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、都市鉄道ネットワーク充実のための施策やローカル線維持廃止問題への対応策について理解する。国にバス・タクシー産業の状況、運転手不足、ライドシェアの導入検討状況について理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
11	自動車輸送産業について（その１） 海運産業について	バス、タクシー、トラック産業について、中小企業が多いといった産業特色や低賃金・深刻化する人手不足の状況などを説明する。また、タクシー不足に端を発したライドシェアの検討・導入状況や今後必要な貨物が十分には運べなくなると言われる物流２０２４問題に対応した新たな政策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、到達目標③④に関し、バス・タクシー産業の状況、運転手不足、ライドシェアの導入検討状況について理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
12	自動車輸送産業について（その２）	前回講義を継続し、特に物流関係を中心に講義を行う予定	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、物流業の構造的な問題 特に深刻化する物流2024問題への対応（重層的な下請け構造、運賃制度、宅配再配達問題など）について理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	航空・海運産業について	コロナ禍で他の交通機関に比べ大きな影響を受けた航空産業の概況を解説するとともに、コロナによる公的支援縮小・廃止を受けた国内、国際分野のそれぞれの課題、拠点空港の整備促進、コンセッション方式による空港サービス民営化の状況などについて解説する。 海運については外航と国内に分け、それぞれの課題について解説する。外航海運については、海運自由の原則の下、厳しい国際競争の中での経営課題について、内航海運については重層的な下請け構造の中での船員確保対策などについて解説する。	
	この回の到達目標	航空産業の概要と空港インフラの整備、サービス民営化策（コンセッション方式）について理解する。 また、外航海運・内航海運について、業界概要、業界の課題対応策などについて理解する。	
	事前学修	講義の際の理解を促進、深度化するため事前に示す講義資料を読み、可能な範囲で自分の考えを持つ。	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
14	講義の総括とレポート作成のガイダンスなど	第9回鉄道産業について（その1）から前回までの講義内容を総括するとともに重点ポイントを確認する。 またレポート作成のガイダンス等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、第9回鉄道産業について（その1）から前回までの講義のポイントを復習しつつ確認するとともに、レポート作成要領を理解する。	
	事前学修	レポート作成に関し、知識情報の再確認と行うとともに、教官に対する質問事項なども整理しておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、速やかに講義内容についてノートを整理・復習しつつ、講義のポイントを自分の考えでまとめる。	120分
15	レポート作成	第9回鉄道産業について（その1）から前回までの講義内容を対象にレポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、第9回鉄道産業について（その1）から前回までの講義範囲でレポートを作成する。	
	事前学修	レポート作成範囲の中の知識情報の再確認と行う。	120分
	事後学修	引き続き、運輸分野について興味を持ち、情報収集・学習などを継続することが望まれる。	120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディアやジャーナリズムの現代社会における必要性や価値を認識するために、放送ジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、それを踏まえて現状における問題点や今後に向けた課題等を認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）をクラスで視聴し、その内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴を説明することができる					3						
②	映像ジャーナリズムのメディア特性や影響力の特徴について述べるができる				3							
③	NHK、民放それぞれの放送事業の特徴や問題について理解し、説明することができる					3						
④	映像コンテンツの制作過程について理解し、その内容について批判的に解釈できる						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④についての各能力が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	25	25							70
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①③にかかわる論点を説明できるようになっているかどうかを評価する。	10		10								20
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、到達目標①②に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	放送メディアを取り巻く現況と課題	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像ジャーナリズムを取り巻く現状や課題の概況について述べることができる	
	事前学修	シラバスに目を通し、入手した教科書にも目を通しておく	120分
	事後学修	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴するなどして確認すること	120分
2	映像メディアの特性	放送メディアのメディア特性。時間メディアとしての放送、情報伝達の総合性	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像メディアのメディア特性について、その特徴や問題点などを説明することができる。	
	事前学修	メディア論の基本的な考え方、知識について教科書（第Ⅰ章）、参考書などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。	120分
3	放送の制作現場①	放送局の主な職種と番組の企画・制作	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の制作過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する	120分
4	放送の制作現場② （ゲストスピーカー）	番組における取材、構成とは	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、番組制作における取材、構成のプロセスについて説明することができる	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業内容を踏まえテレビ番組を分析的に視聴する	120分
5	放送の公共性とは何か	放送の公共性はどのような論理構造になっているのか、公共性ゆえの法的規制とはどのようなものか	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、放送がなぜ公共性を持っているのか、その背景や法理などについて説明することができる。	
	事前学修	放送法や放送の公共性について教科書（第Ⅲ章、第Ⅳ章）、参考書等で予習する	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料を使って復習する。	120分
6	放送体制①	公共放送の組織構造、財源	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送の基本的特徴、日本の公共放送NHKの組織や財源の仕組みなどについて述べるができる。	
	事前学修	公共放送について、教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	放送体制②	公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送NHKの放送事業の特徴、ジャーナリズム上の課題などについて説明することができる。	
	事前学修	公共放送について教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分
8	放送体制③	民放のネットワークとビジネスモデル	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放のネットワークや組織、収益構造の特徴や問題点などについて述べることができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分
9	放送体制④	民放によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放が展開するジャーナリズム活動の特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書などで調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する	120分
10	中間総括	テレビジャーナリズムの変容（小括と小レポートの実施）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、メディア環境の変容に伴って放送ジャーナリズムの変容の諸相を述べることができる。	
	事前学修	第4回～9回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
11	バラエティ番組論	バラエティ番組の特徴、傾向、課題	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連し、娯楽番組、バラエティ番組の特徴や課題について述べることができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章）を読んでおく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。	120分
12	ドラマ論①	ドラマの誕生と歴史的展開	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連し、ドラマの歴史的展開について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	授業ノートと教科書による振り返り	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ドラマ論②	ドラマのジャーナリズム性	
	この回の到達目標	到達②④に関連し、ドラマが持つジャーナリズム機能・役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
14	映像ジャーナリズムの行方	映像ジャーナリズムの今後に向けての可能性と課題を考察する	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、現代の放送番組と放送倫理の関係に関して具体的な問題の諸相やその背景について説明することができる。	
	事前学修	事前に関連資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
15	授業総括とまとめ	授業全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、映像ジャーナリズムをめぐる主要な論点や問題点などについて説明することができる。	
	事前学修	授業総括したうえで、授業内容を復習しておく。	120分
	事後学修	授業ノート、教科書による振り返り	120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本授業で中心的に扱うのは、放送のジャーナリズム機能を考えるうえで重要なジャンルである「テレビ・ドキュメンタリー」である。権力の監視、災害、マイノリティ、格差、戦争記憶などの諸テーマを取り上げた優れたドキュメンタリー番組を実際に視聴しながら、制作者の意図、時代背景との関係性などを分析し、ドキュメンタリーの役割や可能性、課題について考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドキュメンタリーが何を問題にし、何を明らかにしてきたのか、逆に何を問題にしてこなかったか、何を語っていないか、それはなぜかといった諸点について多角的に考え、理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。授業内で各テーマ領域ごとの優れたドキュメンタリー番組を視聴。それについての解説、ディスカッション、リアクションペーパー、フィードバックを組み合わせながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）を全員で視聴したあと、内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う（但し、その方法は履修者数によって変更する）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴や問題点などについて述べるができる。					3						
②	放送業界の歴史的発展過程や主要番組ジャンルの形成過程について説明することができる。				3							
③	戦争記憶・歴史認識と放送の関係に関する問題点について批判的に説明することができる。						3					
④	放送と市民の関係性をめぐる現状と課題について述べることができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達①②③④についての各能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20	15							75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式などの要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②④に関わる論点を説明できるようになっているかを評価する。		5		5							10
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、到達目標②③④に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。		5	5	5							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	ドキュメンタリーとは何か	
	この回の到達目標	変容期の放送業界をめぐる概況と主要な論点を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書、参考書の内容について目を通しておく	120分
	事後学修	資料、ノートを用いて振り返り	120分
2	NHKのドキュメンタリー	NHKのドキュメンタリーの誕生とその後の歴史的展開	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、NHKのドキュメンタリーの誕生とその後の歴史的展開について説明ことができる	
	事前学修	教科書（第Ⅱ、Ⅴ章）を読んでおく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
3	民放のドキュメンタリー	民放のドキュメンタリーの歴史と意義	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、民放のドキュメンタリーの特徴と意義について説明することができる	
	事前学修	教科書（第Ⅱ、Ⅴ章）を読んでおく	120分
	事後学修	講義内容を整理してまとめておく	120分
4	震災を伝える①	震災と「3月ジャーナリズム」	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドキュメンタリーが震災・復興をどう伝えてきたか、その特徴や課題について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
5	震災を伝える②	地域メディアの制作するドキュメンタリーの特徴と可能性 ※視聴番組「NNNドキュメント 雨が止むとき～震災7年の面影」	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドキュメンタリーが震災・復興をどう伝えてきたか、その特徴や課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅳ章）を読んでおく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
6	震災を伝える③	寄り添う報道とドキュメンタリー ※視聴番組「NNNドキュメント きっと大丈夫 福島から生まれた希望」	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドキュメンタリーが震災・復興をどう伝えてきたか、その特徴や課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅳ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政治権力との対峙①	権力の監視機能とドキュメンタリー①：NHK・BS1スペシャル「河瀬直美が見た東京五輪」問題を例として	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、政治権力とドキュメンタリーについて、その特徴や課題を説明できる。	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章、第Ⅵ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
8	政治権力との対峙②	権力の監視機能とドキュメンタリー② ※視聴番組「HBCドキュメンタリー ヤジと民主主義—小さな自由が排除された先に」	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、政治権力とドキュメンタリーについて、その特徴や課題を説明できる。	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章、第Ⅵ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
9	境界線のポリティクス① （ゲストスピーカー）	境界線のポリティクスに向き合うドキュメンタリー：ゲストスピーカー	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多様性やマイノリティをキーワードに現代のドキュメンタリーの課題や役割について述べることができる	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	講義内容を整理してまとめる	120分
10	境界線のポリティクス②	ドキュメンタリーはマイノリティの代弁者たり得るか ※視聴番組「NHKスペシャル ヤングケアラー SOSなき若者の叫び」	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多様性やマイノリティをキーワードに現代のドキュメンタリーの課題や役割について述べることができる	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
11	戦争記憶とドキュメンタリー①	戦後史のなかの「八月ジャーナリズム」	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート・配布資料を用いて復習する。	120分
12	戦争記憶とドキュメンタリー②	戦争表象の脱歴史化・ロマン化 ※視聴番組「NHKスペシャル #あちこちのすずさん・戦争×アニメ×青春！」	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送と集合的記憶③	「加害」の後景化と「継承」をめぐるポリティクス ※視聴番組「NNNドキュメント 侵略リポート」	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する	120分
14	ドキュメンタリーとダイバーシティ	テーマ、アプローチ、制作者の多様化とドキュメンタリーの可能性 ※視聴番組「ウクライナ語で叫びたい」「ラーマのつぶやき」	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ドキュメンタリーの今後に向けての可能性や課題について述べることができる、	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章、Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	授業内容について、ノート、配布資料を用いて復習する	120分
15	総括	講義全体の総括と授業内小レポートの実施	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義全体の概要を踏まえて主要な論点について説明することができる。	
	事前学修	講義ノートを復習して内容をまとめておく	120分
	事後学修	講義内容を整理して総括する	120分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、受講の際は電卓を用意すること。また、Google classroomを利用した授業管理を行う。クラスコードは授業初回に周知する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤についての総合的な理解が身についているかを、試験によって評価する。試験による評価は、全体の60%を占める。	15	15	12	9	9						60
小テスト等	一定の進捗ごとに、到達目標①～⑤についての基本的理解が身についているかを、授業課題によって評価する。授業課題による評価は、全体の40%を占める。	10	10	8	6	6						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、授業内で解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（ビデオ通話による対応も可。また、事前にメールにてアポを取る可） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	複式簿記の仕組み、会計とは何か	複式簿記の仕組みを把握し、会計とは何かを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、簿記の仕組みを理解し、会計の役割を学ぶ	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、簿記一巡の手続きを確認しておく。	120分
	事後学修	会計の目的について理解し、複式簿記の仕組みを理解する。	120分
2	会計制度と会計基準	わが国における会計制度の展開と、会計基準の成り立ちを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、わが国における会計制度がどのように展開し、今日の会計基準がいかんにして成り立ったかを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	会計基準の必要性を理解し、わが国における会計制度の展開を説明できるようにする。	120分
3	財務諸表の種類、貸借対照表	財務諸表の構成と貸借対照表の機能を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～③および⑤に関して、わが国における財務諸表としてどのような書類が存在するかを把握し、貸借対照表の構成と機能を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貸借対照表の基本的構造を理解し、その様式と役割を把握する。	120分
4	損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の構成とそれぞれの機能を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～③および⑤に関して、損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の各書類がどのような情報を提供するかを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の基本的構造を理解し、それらの様式と役割を把握する。	120分
5	棚卸資産の意義と範囲、取得原価、売上原価の計算	棚卸資産の意義と具体的範囲、会計上の論点を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、棚卸資産の会計上の取扱いを理解し、売上原価の計算に関する会計基準の規定や考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	棚卸資産の意義や範囲を把握し、その会計処理上のポイントを理解する。また、売上原価の計算に関する各種論点を理解する。	120分
6	棚卸資産の期末評価	棚卸資産の期末評価の方法と基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、棚卸資産の期末評価に関する会計基準の考え方を理解し、期末評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	正味売却価額を用いた期末評価を行う根拠を理解し、実際の期末評価ができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	有形固定資産の種類と取得原価の計算、減価償却	有形固定資産の種類や取得原価、減価償却費の計算方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、設備投資の基本的考え方を理解し、各種有形固定資産の取得原価や減価償却費の計算方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	設備投資による有形固定資産の取得をはじめ、有形固定資産会計にまつわる諸論点を理解するとともに、取得原価や減価償却費の計算方法を把握する。	120分
8	有形固定資産の減価償却	減価償却の基本的考え方や実施する目的、効果を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、減価償却の理論的根拠とその目的を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	減価償却に関する理論上の論点を理解する。	120分
9	リース取引	リース取引の基本的考え方と借手の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、リース取引の全体像を把握し、会計基準におけるリース取引の借手の会計処理規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	リース取引の態様や割引計算の基本的考え方を理解し、現在価値の計算方法を身につける。	120分
10	減損会計	固定資産の減損処理の必要性和減損会計の手続き一巡を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、減損会計の基本的考え方を理解し、回収可能価額を用いた減損処理の方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	減損会計一巡の手続き（特に回収可能価額の算定における使用価値計算方法）を理解する。	120分
11	無形固定資産	無形固定資産の会計処理の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、無形固定資産の種類およびそれらの会計処理を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	無形固定資産の会計処理方法を身につける。	120分
12	ソフトウェアと研究開発費	ソフトウェアの会計処理方法と研究開発費の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、ソフトウェアの制作目的別の会計処理を把握し、研究開発費の会計処理の理論的根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	市場販売目的のソフトウェアの償却方法を身につけ、研究開発費の発生時費用処理の根拠を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融資産と当座資産	金融資産の全体像とともに当座資産の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、金融資産と事業用資産の違いを把握し、当座資産の期末評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	金融資産の定義を理解し、貸倒見積高の算定方法を身につける。	120分
14	有価証券	有価証券の保有目的別の処理とその理論的根拠を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、有価証券の各種保有目的における処理を把握し、時価評価差額の取扱いに関する基本的考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	有価証券の保有目的別処理を把握し、売買目的有価証券とその他の有価証券の時価評価差額の取扱いの違いについての理論的根拠を理解する。	120分
15	前期総括	会計制度の基本的論点と資産会計における学修内容を総括する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、財務会計の基本的論点から、資産会計における各種論点の内容までを理解する。	
	事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組具合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケースでまなぶ財務会計	永野 則雄	白桃書房	2022	参考書	任意
財務会計・入門	桜井 久勝、須田 一幸	有斐閣アルマ	2023	参考書	任意
コンパクト財務会計―クイズでつける読む力	小栗 崇資	中央経済社	2016	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室） matsuda.mayumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入：会計学とは	会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、会計学とはどのようなものであるのか、また授業の進め方などが理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心を持ちながら準備する。	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。	135分
2	企業会計とは	企業会計とは 財務会計と管理会計の役割	
	この回の到達目標	①、②に関連して、財務会計がどのような役割を果たしているのか、管理会計の違いとは何かについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて財務会計とは何かを検討する。	135分
3	会計を取り巻く法制度	財務会計とそれを取り巻く法律（会社法・金融商品取引法） その情報開示	
	この回の到達目標	①、②、④に関連して、財務会計と法律（会社法と金融商品取引法）の関係や情報開示について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて法律と情報開示について検討する。	135分
4	国際会計基準	国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割 その影響 日本の基準との関係性	
	この回の到達目標	①、②、④に関連して、国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割やその影響について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて国際会計基準と日本の会計基準との関係について検討する。	135分
5	企業の開示情報	企業の財務情報とは 貸借対照表と損益計算書とは その役割と構成	
	この回の到達目標	①、⑤に関連して、企業が開示する情報の中心となる、貸借対照表と損益計算書の構成およびその役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて企業の貸借対照表、損益計算書の役割について検討する。	135分
6	貸借対照表	財産法と損益法とは 貸借対照表の表記方法	
	この回の到達目標	②、③、④に関連して、利益の計算とはどのように行われているのか、貸借対照表はどのように表記されているのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じてどのように利益が計算されるのかを検討する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	資産負債の区分と評価法		資産・負債の表記の区分（流動・固定） 評価法について	
	この回の到達目標	①、②、③に関連し、貸借対照表の数字は過去・現在・未来の評価を基準に構成され、また資産・負債はどのように区分されているのか、理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて評価方法が財務情報へ影響を与えることを検討する。		135分
8	流動資産		流動資産の区分 当座資産 現金・掛取引・手形取引	
	この回の到達目標	①、②に関連して、流動資産の区分や現金、売掛金、受取手形がどのようなものかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、取引や目的によって貸借対照表における表示が異なることを検討する。		135分
9	棚卸資産		棚卸資産とは何か 棚卸資産と売上原価、そして利益との関係	
	この回の到達目標	①、③に関連して、棚卸資産とは何か、それが貸借対照表や損益計算書へどのような影響を与えるのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産と売上原価の関係について検討する。		135分
10	棚卸資産		棚卸資産の評価方法 在庫管理とは	
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、棚卸資産はどのように評価されるのか、その評価の差異による影響、在庫管理の分析について理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産の意味や棚卸資産が企業へ与える影響について検討する。		135分
11	有形固定資産		有形固定資産と何か 償却資産と非償却資産 建物はなぜ一括で費用にならないのか 減価償却とは	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、有形固定資産とは何か、そしてその評価方法や減価償却が何かを理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、有形固定資産と減価償却について検討する。		135分
12	無形固定資産		無形固定資産とは何か 償却方法	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、無形固定資産とは何か、その償却方法、有形固定資産との違いについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて無形固定資産と有形固定資産の違いについて検討する。		135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	負債		負債とは何か 法的債務ではない負債とは 借入金や社債 社債の消却
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、企業の負債とは何か、また社債を発行する意味やその償還・消却について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて負債とは何か、そして社債の意味について検討する。	135分
14	引当金		引当金とは何か その設定方法 任意の引当金
	この回の到達目標	③、④、⑤に関連して、引当金とは何か、また引当金を設定することが与える影響について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて活動が引当金へ与える影響とともに、引当金自体が企業へ与える影響について検討する。	135分
15	総括		会計基準や資産・負債について テスト 解説
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、前期の内容の理解度を確認する。	
	事前学修	配布資料やノートに目を通し、会計基準や貸借対照表の資産・負債について復習する。	120分
	事後学修	内容を復習し、総括する。	120分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかんとして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、受講の際は電卓を用意すること。また、Google classroomを利用した授業管理を行う。クラスコードは授業初回に周知する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。						2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。							2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。							2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。						2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。						2							2
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤についての総合的な理解が身についているかを、試験によって評価する。試験による評価は、全体の60%を占める。	15	15	12	9	9						60
小テスト等	一定の進捗ごとに、到達目標①～⑤についての基本的理解が身についているかを、授業課題によって評価する。授業課題による評価は、全体の40%を占める。	10	10	8	6	6						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、授業内で解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（ビデオ通話による対応も可。また、事前にメールにてアポを取る可） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計学Ⅰの学修内容の確認および会計学Ⅱの全体像の確認	会計学Ⅰで学修した会計の基本と資産会計の論点を復習しつつ、会計学Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、会計学Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
	事後学修	会計の目的や資産会計における各論の内容を理解する。	120分
2	負債概念、流動負債	負債の概念を理解し、流動負債の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、財務会計の基礎概念としての資産および負債の定義を理解し、流動負債の会計処理を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	負債の概念を理解し、純資産との違いを理解する。流動資産の会計処理を身につける。	120分
3	固定負債、引当金	固定負債の会計処理および引当金の論点を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、社債の会計処理を身につけ、引当金会計における基本的考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	社債の期末評価の方法を身につけるとともに、引当金計上の要件を把握する。	120分
4	退職給付	退職給付の基本的考え方と退職給付引当金の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、退職給付の支給方式の違いを把握し、退職給付引当金の会計処理方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	退職給付会計における基本的論点を理解し、退職給付引当金に関する一連の会計処理を身につける。	120分
5	純資産の部、資本と利益の区分	純資産の部の構成と資本と利益の区分に関する会計理論上の考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、純資産の部の基本的構成を把握し、資本と利益の区分を要する理論的根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	純資産の部における株主資本とそれ以外の構成内容を把握し、資本と利益の区分に関する2つの考え方を理解する。	120分
6	払込資本と留保利益の会計	払込資本および留保利益に関する会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、払込資本に関する一連の会計処理を理解し、剰余金の配当の会計処理を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	払込資本の会計処理を理解し、剰余金分配時の分配可能額の算定方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	収益の認識基準（現金主義、発生主義、実現主義）	収益認識に関する各種基準を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、現金主義、発生主義、実現主義の各基準の考え方を理解し、それぞれの基準による認識時点の違いを把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	収益認識に関する伝統的な議論の展開を理解し、現金主義、発生主義、実現主義による収益認識の方法を身につける。	120分
8	工事契約、新たな収益認識、費用収益対応の原則	工事契約における収益認識基準と、新たな会計基準による収益認識、費用収益対応の原則を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、工事契約における収益認識基準と新たな会計基準における収益認識の方法を把握し、費用収益対応の原則を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	工事完成基準と工事進行基準による収益認識、新基準に基づく5ステップを通じた収益認識の方法を身につける。	120分
9	連結財務諸表の意義と連結財務諸表の構成	連結財務諸表の意義、連結の範囲、連結貸借対照表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、連結財務諸表の意義と構成を理解し、連結貸借対照表の作成方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	連結財務諸表の意義・構成を把握し、連結貸借対照表作成のための資本連結手続きを身につける。	120分
10	連結損益計算書の作成	連結損益計算書の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、連結損益計算書の作成方法と、連結会社間取引より生じた未実現利益の消去方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	連結損益計算書の作成方法を把握し、内部取引・未実現利益の消去方法を把握する。	120分
11	財務諸表分析の基礎、流動性の分析	財務諸表情報を用いた企業経営の分析の仕方と、流動性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①、③および⑤に関して、財務諸表分析の意義を理解し、流動性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、流動性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
12	安全性分析	安全性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①、③および⑤に関して、安全性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、安全性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	効率性分析		効率性分析の方法を学ぶ
	この回の到達目標	到達目標①、③および⑤に関して、効率性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、効率性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
14	収益性分析		収益性分析の方法を学ぶ
	この回の到達目標	到達目標①、③および⑤に関して、収益性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、収益性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
15	後期総括		負債会計から財務諸表分析までの学修内容を総括する
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、負債会計、純資産会計および損益会計の各種論点と、財務諸表分析の各方法を理解する。	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。						2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。							2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。							2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。						2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。						2							2
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組具合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケースでまなぶ財務会計	永野 則雄	白桃書房	2022	参考書	任意
財務会計・入門	桜井 久勝 、須田 一幸	有斐閣アルマ	2023	参考書	任意
コンパクト財務会計―クイズでつける読む力	小栗 崇資	中央経済社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室） matsuda.mayumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・導入：会計学とは		会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、資産、負債とは何か、そしてさまざまな会計のルールが存在することや授業の進め方が理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心を持ちながら準備する。	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。	135分
2	純資産		純資産とは何か その構成 内部留保とは 自己株式とは
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連し、純資産はどのようなものによって構成されているのか、また蓄積とされる内部留保は何をさすのか、そして自己株式を保有することがどのような効果をもたらすのか、について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、純資産の内容やそれに影響を与える自己株式などについて検討する。	135分
3	収益と費用		収益と費用の認識方法 特殊な取引 当期純利益と包括利益
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、収益と費用の認識基準、特殊な取引への対応や国際財務報告基準の包括利益とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、収益と費用の認識や、包括利益の意味について検討する。	135分
4	金融商品		株式 債券 オプション
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、株式の保有目的によって異なる評価、債券の評価およびオプションなど金融派生商品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、株式の評価の違いなどについて検討する。	135分
5	連結会計		日本における連結会計の変遷 連結範囲 ルノー・日産の関係の変化
	この回の到達目標	①、②、③、④に関連して、国際会計基準と連結会計が企業にもたらした影響、連結はどこまで対象となっているのか、子会社と関連会社の違いなどについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、連結範囲や連結はずしなどを検討する。	135分
6	連結会計		連結貸借対照表・損益計算書について その作成手続きと考え方
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、連結は貸借対照表と損益計算書にはどのような反映されるのか、子会社と関連会社では計算上どのような違いが生まれてくるのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習について、連結の手続きについて検討する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	リース会計		リースとは リースの種類 借りた資産でも所有資産と同じ扱い リースの会計処理
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、リースとは何か、その会計処理がもたらす影響について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、借りて使うのか、購入して使うのか、リース会計の意味について検討を行う。	135分
8	減損会計		土地再評価法とは 減損会計とは その会計処理方法
	この回の到達目標	①、③、④に関連して、減損会計とは何か、そしてその影響とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、減損会計の導入がもたらして影響を検討する。	135分
9	退職給付会計		企業年金とは 退職給付会計とは それがもたらす企業や従業員への影響
	この回の到達目標	②、③、⑤に関連して、企業年金の変遷や、退職給付と退職給与の違い、退職給付会計がもたらした影響について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業年金が置かれている状況やその会計について検討する。	135分
10	企業結合会計		企業結合会計とは 対等合併と買収とは その会計的考え
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、企業結合とは何か、買収と対等合併の違い、それに基づく会計基準について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業を買収することとはどういうことなのか、またその会計的な考えについて検討する。	135分
11	企業結合会計		企業買収とのれんのれんの会計処理
	この回の到達目標	②、③、④に関連して、のれんはどのように生まれるのか、そしてのれんの評価がもたらす影響、東芝とのれん問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業買収とのれんについて検討する。	135分
12	資産除去債務		資産除去債務とは 原発と資産除去債務 資産除去債務の会計処理方法
	この回の到達目標	①、③に関連して、資産除去債務とは、引当金から資産除去債務へ、原発へ資産除去債務を適用することについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、資産除去債務の意味を検討する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	税効果会計	税効果会計とは 企業に課せられる税金 損失と繰延税金資産	
	この回の到達目標	①、③に関連して、税効果会計とは何なのか、企業の業績予測、そして損失がもたらす影響などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業の税金について検討する。	135分
14	キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書とは その見方	
	この回の到達目標	①、②、⑤に関連して、なぜキャッシュフロー計算書が必要なのか、キャッシュフロー計算書の構成について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、キャッシュフロー計算書について、どのような構成になっているのかなど検討する。	135分
15	総括	純資産・さまざまな会計ルールについて 試験 解説	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、後期の内容全体の理解度を確認する。	
	事前学修	配布資料やノートに目を通し、純資産やさまざまな会計のルールについての復習を行う。	120分
	事後学修	後期の内容を復習する。	120分

科目名	外国ジャーナリズム史B	担当者	水野 剛也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講の最大の目的は、アメリカのジャーナリズムの歴史について理解を深めることである。アメリカは日本やヨーロッパ諸国に比べ、国としての歴史は浅い。だが、こと「言論・報道の自由」に関しては、成文化された憲法の下、世界でも有数の起伏に富んだ積みあげがある。日本をはじめ世界各国に与えた影響も多大であり、居住国・地域にかかわらず、学ぶべき点が多い。 なお、本講は全体を通じて、古い時代から現代にむかってさかのぼる時系列的な方法は基本的にとらず、各回の主題を中心に過去の事例を検討し、かつ現在まで残る教訓や痕跡について議論するつもりである。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
大まかに、ジャーナリズムの定義とその変遷、言論・表現の自由に関する概念の発達、アメリカ憲法修正第1条、報道の発展・普及とともに形づくられたジャーナリズムの価値（「ニュース」とは何か）、他方で発生した数々の弊害をふまえ意識化されたジャーナリズムの自由と責任に関する考え方、などを主題として取りあげる。 歴史的な視点を重視するため、新聞を中心とした活字ジャーナリズムに比重を置く。 少なくとも1度は、映画など映像作品を鑑賞、批評する回を設ける予定である。

【履修条件】
「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。 また、受講者は少なくとも新聞（国内の一般総合紙でよい）を1紙、定期的に関読することが求められる（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトなどは不可）。

【授業方法】
歴史を現代と結びつけるためにも、受講者は少なくとも新聞（国内の一般総合紙でよい）を1紙、定期的に関読することが求められる（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトなどは不可）。 毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。 本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者（とくに就職活動を予定する者など）は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。 受講希望者は、初回にはかならず出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「授業方法」でのべたとおり、毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求める。できるだけ参加型の講義にするつもりなので、その他にも多くの質問を投げかける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。						3							
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。							3						
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。								3					
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。								3					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	提出物（「ジャーナリズム日誌」を含む）が、書式などの要件を満たし、課題に適切に応えているかを前提に、到達目標1234に関わる知識を備え、独創的な思考ができているかを評価する。	12	12	12	12								48
討論・発表等	毎回、数名に求めるコメントや質問などに対する応対において、事前の十分な準備にもとづいて、到達目標1234に照らし、自発的・積極的に参加できているかを評価する。	5	5	5	5								20
授業への参画度	上述の「討論・発表等」と同じく、毎回、数名に求めるコメントや質問などに対する応対において、事前の十分な準備にもとづいて、到達目標1234に照らし、自発的・積極的に参加できているかを評価する。	5	5	5	5								20
その他()	追加的な課題により、到達目標1234に照らし、若干の評価点を与える予定である。	3	3	3	3								12
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業、およびポータル・システムを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
火曜日、講義後の午前中（事前連絡要） mizuno.takeya@nihon-u.ac.jp					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。初回から、少なくとも当日の新聞（国内の一般総合紙でよい）を閲読し、持参すること。	
	この回の到達目標	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。初回から、少なくとも当日の新聞（国内の一般総合紙でよい）を閲読しておくこと。	
	事前学修	新聞閲読	120分
	事後学修	ジャーナリズム日誌の作成	120分
2	ジャーナリズムの定義	本講ではいかなる意味で「ジャーナリズム」をとらえるかを、主要な要素をあげて解説する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムにはさまざまな定義があること、逆にいえば、唯一絶対的な定義があるわけではなく、時代などによっても変わりえる動的なものであることを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
3	ジャーナリズムの定義、その多様性	前回の内容をふまえ、より多様な定義の存在を受講者が調べ、探究する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムのとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
4	言論・表現の自由の概念の発達	英米を中心とする言論・表現の自由の概念、別言すれば、ジャーナリズムによる報道の自由に対する考え方の変遷を跡づける。	
	この回の到達目標	現在、当前視されがちな自由で批判的なジャーナリズム活動は、けっして所与のものではなく、歴史的な経過のなかで発展してきたことを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
5	アメリカ憲法修正第1条	アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規について解説する。	
	この回の到達目標	アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
6	アメリカ憲法修正第1条の成立後	成立後に焦点をあて、アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規である憲法修正第1条について解説する。	
	この回の到達目標	前回にひきつづき、アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズムの価値（「ニュース」とは何か）	アメリカのジャーナリズムにおいて、何が「ニュース」とであると認識されてきたのか、代表的な考え方を紹介する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの定義についてもいえるが、ニュース価値にはさまざまな考え方があること、逆にいえば、唯一絶対的な指標があるわけではなく、時代などによっても変わりえる動的なものであることを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
8	ジャーナリズムの価値（「ニュース」とは何か）、その多様性	前回の内容をふまえ、ニュース価値のさまざまな形態を受講者が調べ、探究する。	
	この回の到達目標	ニュース価値のとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
9	ジャーナリズムの自由と責任 1	アメリカのジャーナリズムにとっては、これまで強調してきた自由もさることながら、社会的責任も車の両輪のごとくきわめて重要である点を説明する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの社会的責任の重要性について総論的に理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
10	ジャーナリズムの自由と責任 2	ジャーナリズムの社会的責任に関する初期の考え方について解説する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの社会的責任の重要性について、初期の段階に焦点をあてて理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
11	ジャーナリズムの自由と責任 3	ジャーナリズムの社会的責任について、初期以降の考え方の変遷について解説する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの社会的責任の重要性について、初期以降の段階に焦点をあてて理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
12	ジャーナリズムの自由と責任 4	ジャーナリズムの社会的責任について、より現代的な考え方について解説する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの社会的責任の重要性について、より現代に近い段階に焦点をあてて理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	映画が描くジャーナリズム		これまでとは趣向を変えて、映画においてジャーナリズム、ないしジャーナリストがどのように描かれてきたのかについて解説する。
	この回の到達目標	映画が一般市民の認識を視覚的に反映する、という認識に立ち、ジャーナリズム、ないしジャーナリストがアメリカ社会においてどのような存在として認識されてきたのかを理解する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
14	これまでの総括 1		これまでの講義をふまえ、各自が作成してきた「ジャーナリズム日誌」を発表する。
	この回の到達目標	自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明する。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成、課題のために必要な文献などの調査	120分
15	これまでの総括 2		これまでの講義をふまえ、各自が作成してきた「ジャーナリズム日誌」を発表、かつお互いに議論する。
	この回の到達目標	自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明し、かつ他者と建設的な議論をする。	
	事前学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分
	事後学修	新聞閲読、ジャーナリズム日誌の作成	120分

科目名	外国法A(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特徴である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法制度を有するが、同時に、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法の分野における個々の実定法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中華人民共和国に関連する法律問題の規律に接した場合において、当該規律のために必要な基礎知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
履修条件ではないが、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義方式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。				2	2				2		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。				2	2				2		
③	中華人民共和国法が準拠法になった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末授業内筆記試験を実施する。	20	20	20								60
小テスト等	5月及び6月に1回ずつ実施する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国法案内	徐瑞静	文真堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義後、教場にて行う。jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	講義の進め方、自習の方法、成績評価等についてガイダンスする。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（120分）	120分
	事後学修	シラバスを理解すること。（120分）	120分
2	中国法の歴史（1）	中国古代法の生成及び発展、隋唐五代の法制度について解説する。	
	この回の到達目標	中国法の歴史を説明できること。	
	事前学修	教科書第1章から第3章を予習すること。（120分）	120分
	事後学修	教科書第1章から第3章を復習すること。（120時間）	120分
3	中国法の歴史（2）	中国中世、近世、近代の法制度について解説する。	
	この回の到達目標	中国法の歴史を説明できること。	
	事前学修	教科書第4章及び第5章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第4章及び第5章を復習すること。（2時間）	120分
4	中華人民共和国の司法制度（1）	概要、裁判制度について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の司法制度を説明できること。	
	事前学修	教科書第6章及び第7章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第6章及び第7章を復習すること。（2時間）	120分
5	中華人民共和国の司法制度（2）	検察制度、捜査制度、仲裁制度、執行制度について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の司法制度を説明できること。	
	事前学修	教科書第8章から第11章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第8章から第11章を復習すること。（2時間）	120分
6	中華人民共和国の司法制度（3）	刑務所制度、労働教養制度、司法鑑定制度、弁護士制度について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の司法制度を説明できること。	
	事前学修	教科書第12章から第15章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第12章から第15章を復習すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中華人民共和国の司法制度（４）	法律援助制度、公証制度、人民調停制度について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の司法制度を説明できること。	
	事前学修	教科書第１６章から第１８章を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第１６章から第１８章を復習すること。（２時間）	120分
8	香港及びマカオの司法制度	香港及びマカオの司法制度について解説する。	
	この回の到達目標	香港及びマカオの司法制度を説明できること。	
	事前学修	教科書第１９章を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第１９章を復習すること。（２時間）	120分
9	中華人民共和国憲法（１）	概要、前文、基本原則について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国憲法を説明できること。	
	事前学修	教科書第２０章第１節から第３節を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第２０章第１節から第３節を復習すること。（２時間）	120分
10	中華人民共和国憲法（２）	公民の基本的権利及び義務、国家機関について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国憲法を説明できること。	
	事前学修	教科書第２０章第４節から第６節を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第２０章第４節から第６節を復習すること。（２時間）	120分
11	中華人民共和国行政法（１）	概要、国务院の権限及び組織、基本原則、民主行政、行政サービス、行政法の法源について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国行政法を説明できること。	
	事前学修	教科書第２１章第１節から第６節を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第２１章第１節から第６節を復習すること。（２時間）	120分
12	中華人民共和国行政法（２）	行政許可、行政強制、行政処罰について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国行政法を説明できること。	
	事前学修	教科書第２１章第７節から第９節を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第２１章第７節から第９節を復習すること。（２時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中華人民共和国行政法（３）	行政訴訟、国家賠償について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国行政法を説明できること。	
	事前学修	教科書第２１章第１０節及び第１１節を予習すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第２１章第１０節及び第１１節を復習すること。（２時間）	120分
14	まとめ	第２回講義から第１３回講義のまとめ。	
	この回の到達目標	中華人民共和国法を説明できること。	
	事前学修	教科書第１章から第２１章を通読すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第１章から第２１章を復習すること。（２時間）	120分
15	質疑応答	教科書第１章から第２１章の内容に関する質疑応答。	
	この回の到達目標	中華人民共和国法を説明できること。	
	事前学修	教科書第１章から第２１章を通読すること。（２時間）	120分
	事後学修	教科書第１章から第２１章を復習すること。（２時間）	120分

科目名	外国法A(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回手元に用意すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかをについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法権は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末試験において、到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかをにより評価する（教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可）。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の最後に授業内容について問う課題を提示し、その解説・講評を翌週の授業の冒頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法 第2版	庄司克宏	有斐閣	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	EU法入門第1回		EU法入門（1）EU法を支える原則は何か（一） ヨーロッパ統合とEU法、個人が裁判所でEU法を使えるということ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とEU法、および、EU法と個人の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』第1～2回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
2	EU法入門第2回		EU法入門（2）EU法を支える原則は何か（二） EU法と国家主権の調整	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とにおけるEU法と国家主権の調整について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』第3回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
3	EU法入門第3回		EU法入門（3）トランスナショナルな法空間の構築（一） トランスナショナルな法空間、物・人・サービス・資本の自由移動	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間としての物・人・サービス・資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』第4～5回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
4	EU法入門第4回		EU法入門（4）トランスナショナルな法空間の構築（二） トランスナショナルな自由競争、単一通貨ユーロの仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間における競争法と単一通貨について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』第6～7回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
5	EU法入門第5回		EU法入門（5）トランスナショナルな課題とEU法 EU市民権と外国人、物の自由移動と契約法、人の自由移動と刑事司法協力、域内市場と環境保護	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間において、どのような問題が生じ、いかにして解決されているかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』第8～11回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
6	EU基本条約と権限類型		EU法制度の発展（一） EU法制度とその発展を、EU基本条約と権限類型に関連づけてそれぞれ説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU基本条約と権限類型に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法 第2版』第12回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	EU法の法源とEU諸機関	EU法制度の発展（二） EU法制度とその発展を、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけてそれぞれ説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法 第2版』第12回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	EU立法手続	EU立法（一） 通常立法手続および特別立法手続、立法手続における諸機関の役割、補完性手続による国内議会の監視について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU立法手続、EU諸機関および国内議会の役割について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法 第2版』第13回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	EU法秩序と「民主主義の赤字」	EU立法（二） EU法秩序における「民主主義の赤字」という問題についても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「民主主義の赤字」という問題がなぜ生じ、どのように解決されるべきかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法 第2版』第13回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	EU行政	EU行政 コミッションによる委任立法、EU立法の実施におけるコミトロジーおよび補助機関についてメローニ原則を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUにおいて行政がどのように行われるのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章4節、『はじめてのEU法 第2版』第14回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	EU裁判所組織と訴訟類型	EU司法（一） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	先決付託手続	EU司法（二） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	取消訴訟と違法性の抗弁	EU司法（三） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	義務不履行訴訟	EU司法（四） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	前期授業の総括と質疑	前期授業の総括と質疑	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでに学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法 第2版』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					2	2				2		
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末試験において、到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかをにより評価する（教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可）。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の最後に授業内容について問う課題を提示し、その解説・講評を翌週の授業の冒頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法 第2版	庄司克宏	有斐閣	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	EU法の直接効果		EU法の直接効果と優越性（一） EU法秩序を確立した判例法として、直接効果に関するVan Gend en Loos判決を紹介し、EU法の直接効果の定義および要件について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、直接効果に関するVan Gend en Loos判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法 第2版』第2回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	EU法の優越性		EU法の直接効果と優越性（二） EU法秩序を確立した判例法として、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法 第2版』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EU指令と直接効果		EU法の直接効果と優越性（三） EU法の直接効果に関し、「指令」に焦点を当てて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの「指令」の直接効果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法 第2版』第2回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	EU指令とその他の効果		EU法の直接効果と優越性（四） 「指令」の直接効果以外の効果として、国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「指令」における国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法 第2版』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	EU法違反と国家賠償責任		EU法の直接効果と優越性（五） EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法 第2版』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	EU法の優越性と国民的一体性条項		EU法の直接効果と優越性（六） とくに「指令」の直接効果以外の効果（国内裁判所の適合解釈義務、抵触国内法の適用排除義務、加盟国の損害賠償責任）について解説する。また、EU法の優越性の範囲と国民的一体性条項について解説する。その際、立憲的多元主義についても触れる。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法 第2版』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	加盟国の手続的自律性の根拠と定義		EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（一） 直接効果を有し、かつ国内法に優越するEU法規定に基づく権利が私人に付与されたとしても、その侵害に対する救済は国内裁判所において国内法に依拠して行われる。それは加盟国の手続的自律性と呼ばれる。その根拠および定義について理論的に解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の根拠および定義について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	加盟国の手続的自律性の要件		EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（二） 加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性に焦点を当てる。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	EU法の下における基本的人権の保護と判例法		EU法の下における基本的人権の保護（一） EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	EU司法裁判所と基本権審査の範囲		EU法の下における基本的人権の保護（二） EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲はどこまで及ぶのかについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	EU基本権憲章と欧州人権条約		EU法の下における基本的人権の保護（三） EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	EUの欧州人権条約加入		EU法の下における基本的人権の保護（四） EUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について、EU司法裁判所の判例法を中心に検討する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法を踏まえてEUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法 第2版』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	イギリスのEU離脱	EU脱退手続と権利停止手続（一） Brexit（イギリスのEU離脱）	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、イギリスのEU離脱問題とその結果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	加盟国による「法の支配」原則違反	EU脱退手続と権利停止手続（二） ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	学期末試験 まとめ	学期末試験（60分間）および終了後の解説	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまで学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。次いで、「違憲立法審査権」「連邦制度（連邦と州の規制権の関係）」「判例法主義」「デュー・プロセス」「基本的人権」に関連する判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。						2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。						2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。						2	2				2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期中に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間にみる抑制と均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権		(1) 合衆国憲法1条8節18項（「必要かつ適当条項」）；(2) 判例研究：McCulloch v. Maryland	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前前回の授業で配布された判例（McCulloch v. Maryland）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I		(1) 合衆国憲法1条8節3項（「州際通商条項」）；(2) 合衆国憲法修正10条（「留保条項」）との関係；(3) 判例研究：Gibbons v. Ogden	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Gibbons v. Ogden）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II		(1) 判例研究：Wickard v. Filburn；(2) 判例研究：Cooley v. Board of Wardens；(3) 判例研究：Southern Pacific Co. v. Arizona	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Wickard v. Filburn；Cooley v. Board of Wardens；Southern Pacific Co. v. Arizona）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III		(1) 判例研究：Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority；(2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	判例法主義I		(1) イギリスの先例拘束性；(2) 判例研究：London Tramways Co. v. London County Council；(3) Practice Statement [1966] による修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（London Tramways Co. v. London County Council）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料（Practice Statement [1966]）を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	判例法主義II		(1) アメリカの先例拘束性；(2) 判例研究：Flood v. Kuhn；(3) 判例研究：Roe v. Wade；(4) 判例研究：Planned Parenthood v. Casey；(5) 判例研究：Dobbs v. Jackson Women's Health Organization	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Flood v. Kuhn；Roe v. Wade；Planned Parenthood v. Casey；Dobbs v. Jackson Women's Health Organization）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「連邦制度（連邦と州の規制権の関係）」「判例法主義」「デュー・プロセス」「基本的人権」に関連する判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。				2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。				2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期中に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間にみる抑制と均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権		(1) 合衆国憲法1条8節18項(「必要かつ適当条項」); (2) 判例研究: McCulloch v. Maryland	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前前回の授業で配布された判例(McCulloch v. Maryland)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I		(1) 合衆国憲法1条8節3項(「州際通商条項」); (2) 合衆国憲法修正10条(「留保条項」)との関係; (3) 判例研究: Gibbons v. Ogden	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Gibbons v. Ogden)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II		(1) 判例研究: Wickard v. Filburn; (2) 判例研究: Cooley v. Board of Wardens; (3) 判例研究: Southern Pacific Co. v. Arizona	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Wickard v. Filburn; Cooley v. Board of Wardens; Southern Pacific Co. v. Arizona)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III		(1) 判例研究: Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority; (2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	判例法主義I		(1) イギリスの先例拘束性; (2) 判例研究: London Tramways Co. v. London County Council; (3) Practice Statement [1966]による修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例(London Tramways Co. v. London County Council)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料(Practice Statement [1966])を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	判例法主義II		(1) アメリカの先例拘束性; (2) 判例研究: Flood v. Kuhn; (3) 判例研究: Roe v. Wade; (4) 判例研究: Planned Parenthood v. Casey; (5) 判例研究: Dobbs v. Jackson Women's Health Organization	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey; Dobbs v. Jackson Women's Health Organization)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。						2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。						2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。						2	2				2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	連邦と州の裁判制度 I	(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	連邦と州の事物的管轄権	(1) 連邦裁判所の事物的管轄権 (2) 州裁判所の事物的管轄権 (3) 競合的事物的管轄権	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。	
	事前学修	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の事物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	人的管轄権の拡張と縮小	(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	州と州の関係	(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	裁判所における実体準拠法の選択基準	(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Babcock v. Jackson) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	陪審制度I	(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。	
	事前学修	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例 (Curtis v. Loether) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	陪審制度II	(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：Ramos v. Louisiana (3) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (4) 判例研究：Williams v. Florida	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; Ramos v. Louisiana; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	基本的人権 I	(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	基本的人権 II	(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	基本的人権 III	(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	基本的人権 IV	(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education of Topeka	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	基本的人権 V	テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。					2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。					2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	連邦と州の裁判制度 I	(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	連邦と州の事物的管轄権	(1) 連邦裁判所の事物的管轄権 (2) 州裁判所の事物的管轄権 (3) 競合的事物的管轄権	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。	
	事前学修	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の事物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	人的管轄権の拡張と縮小	(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	州と州の関係	(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	裁判所における実体準拠法の選択基準	(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Babcock v. Jackson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	陪審制度I	(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。	
	事前学修	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例（Curtis v. Loether）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	陪審制度II	(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：Ramos v. Louisiana (3) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (4) 判例研究：Williams v. Florida	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; Ramos v. Louisiana; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	基本的人権 I	(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	基本的人権 II	(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	基本的人権 III	(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	基本的人権 IV	(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education of Topeka	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	基本的人権 V	テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(仏)Ⅰ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
外国法の学習は、条文の解説に留まらず、それが制定された背景にある歴史、思想、社会を理解することが必要である。本講義では、フランス法の歴史と現代フランスの基本的法構造を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の歴史的発展過程と現代の基本的法構造についての基礎知識の習得する。これらを理解し、日本法との主要な違いを説明できる。

【履修条件】
憲法学（統治機構）を履修済であること。

【授業方法】
講義形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを求める。その他、質疑応答や条文の音読を適宜求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス法の歴史的発展過程を理解し、説明できる。				2							
②	現代フランスの基本的法構造について理解し、説明できる。				2							
③	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べるができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について知識が身についているかを確認する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーや質疑応答等を通じ、到達目標③について評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランスの政治制度 [改訂版]	大山礼子	東信堂	2013	参考書	任意
フランスの事後的違憲審査制	ベルトラン・マチュー	日本評論社	2015	参考書	任意
現代フランス法の論点	岩村正彦・大村敦志・他	東京大学出版会	2021	参考書	任意
備考	これらはいずれも参考書です。授業でこれらは使用せず、配付物を使用する。				

【オフィスアワー】
質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、フランス法学習の意義、フランス法の歴史（序）		授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法を説明する。フランス法の歴史の概略を示す。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、日仏の法制史の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。日仏の法制史の概要についてまとめる。	120分
2	フランス法の歴史（1）古法時代		ガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス古法時代について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランスの古法時代のうちガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス法の歴史を説明できる。	
	事前学修	世界史の大枠を復習しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
3	フランス法の歴史（2）古法時代—中間法時代		絶対王政期から中間法時代への変遷を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランス古法時代の終盤である絶対王政期から中間法時代にかけてどのような法的社会的変化が生じたかを説明できる。	
	事前学修	世界史の流れを復習する。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
4	フランス法の歴史（3）中間法時代		中間法時代の様々な法的変化について具体的に説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、中間法時代にどのような変革から近代法制度が確立したかを説明できる。	
	事前学修	世界史（特に近代史）の流れを復習する。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
5	フランス法の歴史（4）近代法時代		フランス近代の一般的歴史と法制史としての変化を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、社会の変化と共に中間法時代に確立した制度がどのように変化したかを説明できる。	
	事前学修	世界史（近代史）の流れを復習する。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
6	第五共和制憲法の構造		フランス現行憲法の成り立ち、構造、特徴を解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス第五共和制憲法の成り立ち、構造、特徴を知り、日本国憲法と比較して論じることができる。	
	事前学修	資料のフランス憲法の構造を確認する。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、フランス憲法と日本憲法の違いについて考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	大統領と政府		執行権を担う大統領と政府の権限と関係を憲法条文に沿って解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、大統領と政府の権限や関係について理解し、日本国憲法の行政権と比較して論じることができる。	
	事前学修	フランス憲法2章および3章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、大統領と政府の権限について考察する。日本法との違いを考える。	120分
8	国会		国会および国会と政府の関係について憲法条文に沿って解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスの国会および国会と政府の関係について理解し、日本国憲法の制度と比較して論じることができる。	
	事前学修	フランス憲法4章および5章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、国会および国会と政府の関係について考察する。日本法との違いを考える。	120分
9	行政組織・地方自治		フランスの行政組織と地方自治について憲法条文に沿って解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスの行政組織と地方自治のあり方を理解し、日本の制度と比較して論じることができる。	
	事前学修	フランス憲法12章および13章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、行政組織・地方自治について考察する。日本法との違いを考える。	120分
10	裁判制度（1）司法裁判所		フランス裁判制度の概要を説明し、司法裁判制度について詳述する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、裁判制度一般について日仏の異同を理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス憲法8章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、裁判制度の概要と司法裁判制度について考察する。日本法との違いを考える。	120分
11	裁判制度（2）行政裁判所		フランスの行政裁判制度について説明する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスの行政裁判制度を理解し、説明できる。	
	事前学修	行政裁判制度とは何かを調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、行政裁判制度について考察する。	120分
12	裁判制度（3）その他の裁判所		司法裁判所や行政裁判所に属さないその他の裁判制度について説明する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、司法裁判所や行政裁判所に属さないその他の裁判所の役割や制度を理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス憲法9章および10章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、司法・行政裁判所以外の裁判制度について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	裁判制度（4）違憲審査制の発展	フランスにおける違憲審査の発展について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスにおける違憲審査制度の位置づけや発展について理解し、日本の状況と比較して説明できる。	
	事前学修	フランス憲法7章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、憲法院および違憲審査制度について考察する。	120分
14	憲法改正・国民投票	憲法改正と国民投票について憲法条文に沿って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス憲法における改正手続と国民投票の制度を理解し、日本の状況と比較して説明できる。	
	事前学修	フランス憲法16章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、憲法改正・国民投票について考察する。日本法と比較して異同をまとめる。	120分
15	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の歴史とフランス法の基礎を総体的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
	事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法A(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
フランス語の法源およびフランス法の一部であり重要な関係を有する法規範（国際法・EU法）との関わりを学習する。さらにフランスの法曹制度、人権保障について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の法源およびフランス法と国際法・EU法との関わりについて基礎知識を習得する。フランスを取り巻く広義の法構造を説明できる。フランスにおける人権保障のあり方について理解し、説明できる。

【履修条件】
外国法A（仏）Ⅰを履修済であること。加えて、憲法学（統治機構と人権）を履修済であること。

【授業方法】		
講義形式。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを求める。その他、質疑応答や条文の音読を適宜求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	フランス法の法源、法曹制度、フランス法の国際法・EU法との関係を理解し、説明できる。						2						
②	フランスにおける人権保障について理解し、説明できる。						2						
③	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べるができる。										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について知識が身についているかを確認する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーや質疑応答を通じ、到達目標③について評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015	参考書	任意
フランスの憲法判例Ⅰ・Ⅱ	フランス憲法判例研究会	信山社	2002, 2013	参考書	任意
現代フランス法の論点	岩村正彦・大村敦志・他	東京大学出版会	2021	参考書	任意
備考	これらはいずれも参考書です。授業でこれらは使用せず、配付物を使用する。				

【オフィスアワー】
質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、法源（序）	授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法を説明する。フランス法の法源について概略を示す。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、日仏の法源のあり方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。フランス法の法源についてまとめる。	120分
2	法源（1）国内法	フランス法の国内規範について憲法条文に沿って解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランス法の国内規範の種類と意味を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法の法源について復習しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。	120分
3	法源（2）国際法の基本	国際社会に由来するフランス法の法源を理解するために、国際法の基本について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランス法に関連する国際法の基礎を理解し、説明することができる。	
	事前学修	国際法の基本を調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、国際法の基礎について考察する。	120分
4	フランス法とヨーロッパ法（1）EUの歴史：	EUの歴史とフランスがこれにどのように関与してきたかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、EUの歴史の概要とフランスの関わりを理解し、説明することができる。	
	事前学修	EUとフランスの関わりを調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUの歴史およびEUとフランスの関わりについて考察する。	120分
5	フランス法とヨーロッパ法（2）EUの仕組み	特殊な国際組織であるEU内部の仕組みについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、EUの基本構造と諸機関の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	EUの基本的構造を調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUの仕組みについて考察する。	120分
6	フランス法とヨーロッパ法（3）：EUと加盟国の関係	EU法とEU加盟国の国内法の関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、EU法がフランスをはじめとする加盟国の国内法とどのような関係にあるかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	EUと加盟国との法的関係について調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUと加盟国の法的関係について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	フランス法とヨーロッパ法（4） 憲法と国際規範		国際法やEU法についてフランス憲法にどのように位置づけられているかを説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランス憲法における国際規範の位置づけを理解し、説明することができる。	
	事前学修	フランス憲法6章および15章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における国際規範の位置づけについて考察する。	120分
8	法学教育と法曹		法や制度は法学教育や法曹のあり方とも関係している。フランスにおける法学教育や法曹について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、フランスにおける法学教育や法曹育成のあり方を理解し、日本の状況と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の法曹について考える。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランスにおける法学教育と法曹について考察する。	120分
9	フランス憲法における人権保障		人権宣言の意義や内容、フランス歴代憲法における人権保障について説明する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス人権宣言の意義と内容、憲法による人権保障の発展を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第5共和国憲法前文、人権宣言、第4共和国憲法前文を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における人権保障について考察する。	120分
10	国際人権法とフランスの人権保障との関わり		フランスの人権保障に影響を与える国際人権法について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、国際人権法がフランスにどのように関わっているかを理解し、日本の状況と比較して説明することができる。	
	事前学修	国際人権法の基本を調べる。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、国際人権法とフランスの人権保障の関係について考察する。	120分
11	人権に関する憲法判例(1) 平等		フランスにおける平等概念とこれに関する憲法院判例、法的発展について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスにおける平等概念とこれに関する法的問題や発展を理解し、日本法と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本憲法における平等について復習しておく。フランス憲法の平等規定を探す。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における平等について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分
12	人権に関する憲法判例(2) 思想・良心・信教の自由		フランスにおける思想・良心・信教の自由について、その概念と関連する憲法院判例等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスにおける思想・良心・信教の自由について理解し、日本法と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法における思想・良心の自由および信教の自由について復習しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における思想・良心・宗教の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人権に関する憲法判例(3)表現の自由	フランスにおける表現の自由について、その概念と関連する憲法院判例について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスにおける表現の自由について理解し、日本法と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法における表現の自由について復習しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における表現の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分
14	人権に関する憲法判例(4)環境憲章	環境憲章の意義、内容、関連する憲法院判例について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、環境憲章の意義と内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	環境憲章を読む。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、環境憲章における権利義務について考察する。	120分
15	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の国内的・国際的法源、法曹制度、人権保障のあり方について総体的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
	事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法B(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特徴である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法制度を有するが、同時に、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法の分野における個々の実定法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中華人民共和国に関連する法律問題の規律に接した場合において、当該規律のために必要な基礎知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
履修条件ではないが、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って講義方式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。					3	3	3			3		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。					3	3	3			3		
③	中華人民共和国法が準拠法となった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる					3	3	3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内筆記試験を実施する。	20	20	20								60
小テスト等	10月及び11月に1回ずつ実施する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国法案内	徐瑞静	文真堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義後、教場にて行う。jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	講義の進め方、自習の方法、成績評価等についてガイダンスする。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	シラバスを理解する。（2時間）	120分
2	中華人民共和国民法典（1）	概要、総則編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第1 節及び第2 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第1 節及び第2 節を復習すること。（2時間）	120分
3	中華人民共和国民法典（2）	物権編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第3 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第3 節を復習すること。（2時間）	120分
4	中華人民共和国民法典（3）	契約編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第4 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第4 節を復習すること。（2時間）	120分
5	中華人民共和国民法典（4）	人格権編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第5 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第5 節を復習すること。（2時間）	120分
6	中華人民共和国民法典（5）	家庭婚姻編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第6 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第6 節を復習すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中華人民共和国民法典（6）	相続編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第7 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第7 節を復習すること。（2時間）	120分
8	中華人民共和国民法典（7）	権利侵害責任編について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 2 章第8 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 2 章第8 節を復習すること。（2時間）	120分
9	中華人民共和国刑法（1）	概要、総則、犯罪、刑罰について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国刑法を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 3 章第1 節から第4 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 3 章第1 節から第4 節を復習すること。（2時間）	120分
10	中華人民共和国刑法（2）	各個の犯罪について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国刑法を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 3 章第5 節を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 3 章第5 節を復習すること。（2時間）	120分
11	個人情報保護立法	中華人民共和国における個人情報保護立法について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の個人情報保護立法を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 4 章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 4 章を復習すること。（2時間）	120分
12	環境保護立法	中華人民共和国における環境保護立法について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の環境保護を説明できること。	
	事前学修	教科書第2 5 章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2 5 章を復習すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	食品安全立法	中華人民共和国における食品安全立法について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国の食品安全を説明できること。	
	事前学修	教科書第26章を予習すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第26章を復習すること。（2時間）	120分
14	まとめ	第2回講義から第13回講義のまとめ。	
	この回の到達目標	中華人民共和国法を説明できること。	
	事前学修	教科書第22章から第26章を通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第22章から第26章を復習すること。（2時間）	120分
15	質疑応答	教科書第22章から第26章の内容に関する質疑応答。	
	この回の到達目標	中華人民共和国法を説明できること。	
	事前学修	教科書第22章から第26章を通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第22章から第26章を復習すること。（2時間）	120分

科目名	外国法B(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法において、物・人・サービスの自由移動に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】				3	3	3			3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末試験において、到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかをにより評価する（教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可）。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の最後に授業内容について問う課題を提示し、その解説・講評を翌週の授業の冒頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2007年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	EUの仕事、制度、拡大と深化	EUの基礎知識（一）EUの仕事、制度、拡大と深化 （１）EUはどのような仕事を行っているか。誰によりどのように運営されているか。 （２）EUはどのように拡大してきたか。どこまで拡大するのか。脱退はあるか。 （３）EUの深化にはどのような限界があるか。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの仕事、制度、拡大と深化について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第１～３章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟	EUの基礎知識（二）EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟 （１）域内市場の統治モデルとしての市場統合アプローチにはどのようなものがあるか。 （２）EU司法裁判所は、加盟国の社会的価値や文化的多様性に対して、どのように配慮しているか。 （３）EU市民権はどのように保護されているか。 （４）経済通貨同盟における金融政策と財政政策は、どのような意味で非対称的か。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４～７章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係	EUの基礎知識（三）EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係 （１）EUはどのような意味で規範形成力を行使しているか。 （２）EUはどのようにして安全保障上の役割を果たしているか。 （３）EUは東アジアのモデルとなるか。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第８～１０章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	域内市場（単一市場）総論	域内市場（単一市場）総論 物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場について概観し、複数の国家が単一の市場を形成するには何が必要なのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場の基本事項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』序章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（一） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（二） 物自由移動のうち差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、差別的内国税の禁止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7		関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的国内税の禁止（EU機能条約第110条）の関係	物の自由移動（関税・課徴金、国内税）（三） 関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的国内税の禁止（EU機能条約第110条）の関係について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止と差別的国内税の禁止の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8		数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（一） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、定義および明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止の定義および明文の適用除外について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9		相互承認と「不可避的要請」	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（二） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、相互承認と「不可避的要請」に関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止における相互承認と「不可避的要請」について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10		「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチ	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（三） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠隔度テスト、「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11		物の自由移動と知的財産権	物の自由移動（知的財産権との関係）（四） 国内法の所産としての知的財産権はEU域内市場における物の自由移動を制限する方向に働くが、EU司法裁判所はどのようにして両者の調和を図っているかについて権利消尽理論に焦点を当て、特許、商標、著作権に関する判例を取り上げながら説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物の自由移動と知的財産権との関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章5節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12		人の自由移動の範囲と明文の適用除外	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（一） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲および明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動の範囲および明文の適用除外について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人の自由移動と資格同等性原則	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（二） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、相互承認と「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則に関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動における相互承認、「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	人の自由移動における市場アクセス・アプローチ	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（三） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	前期授業の総括と質疑	前期授業の総括と質疑	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでに学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法B(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法のうち、資本の自由移動および競争法全般について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】					3	3	3			3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末試験において、到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかをにより評価する（教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可）。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の最後に授業内容について問う課題を提示し、その解説・講評を翌週の授業の冒頭で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2007年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	EUの基礎知識の再確認	EUの基礎知識の再確認	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』の内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	資本の自由移動	資本の自由移動 資本の自由移動について他の自由移動との相違を踏まえながら、その範囲および適用除外について判例の動向とともに解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EU競争法の枠組みおよび目的	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（一） EU競争法の枠組みおよび目的について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の枠組みおよび目的について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	EU競争法の遵守確保（1）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（二） EU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に関して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	EU競争法の遵守確保（2）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（三） EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	EU機能条約第101条（1）	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（一） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条1項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	EU機能条約第101条（2）		EU競争法（競争制限的行為の禁止）（二） EU機能条約第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条3項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	EU機能条約第101条の域外適用		EU競争法（競争制限的行為の禁止）（三） EU機能条約第101条の域外適用の問題について取り上げる。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条の域外適用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	EU機能条約第102条（1）		EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（一） EU機能条約第102条における支配的地位の有無に関し、産品市場および地理的市場、市場占有率および参入障壁について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の有無について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	EU機能条約第102条（2）		EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（二） EU機能条約第102条における支配的地位の濫用の態様について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の濫用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	EU合併規則		EU競争法（合併規則）（三） EU合併規則の背景、合併規則におけるEUの管轄、手続および実体的審査について、それぞれ解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU合併規則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第9章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	EU競争法と公共サービス		EU競争法（EU競争法と公共サービス）（四） まずEU法における市場と国家の関係について述べた後、公の事業者等に対するEU競争法の適用の問題、国家援助規制と公共サービスの関係、一般的経済利益を有するサービスの順に解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法における市場と国家の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	EU市民権		EU市民権（一） 経済活動に従事していなくとも加盟国国民のEU市民権という基本的地位に基づいて、移動・居住することが可能となっていることについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権の地位について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	EU市民権と自由移動		EU市民権（二） EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法の発展について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	学期末試験 まとめ		学期末試験（60分間）および終了後の解説
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでに学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野として契約法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、日本法と比較してアメリカの契約法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米契約法総論 I	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	英米契約法総論II	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) I	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) II	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) I	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) II	(1) ミラーイメージルール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックス スルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、ミラーイメージルールを否定するアメリカ合衆国統一商法典 2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	：契約の成立要件：約因 (consideration) I		(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	契約の成立要件：約因 (consideration) II		(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	契約の成立要件：約因 (consideration) III		(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV		(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I		(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II		(1) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）	（１）契約締結能力（capacity）の欠如 （２）違法性（illegality）（３）強迫（duress） （４）良心性（Unconscionarbility）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える（1時間）	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野として契約法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、日本法と比較してアメリカの契約法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米契約法総論 I	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	英米契約法総論II	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) I	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) II	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) I	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) II	(1) ミラーイメーجزール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックス スルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、ミラーイメーجزールを否定するアメリカ合衆国統一商法典 2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	: 契約の成立要件：約因 (consideration) I	(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
8	契約の成立要件：約因 (consideration) II	(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
9	契約の成立要件：約因 (consideration) III	(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV	(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
11	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I	(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
12	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II	(1) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめる。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べる。(2時間)	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）	（１）契約締結能力（capacity）の欠如 （２）違法性（illegality）（３）強迫（duress） （４）良心性（Unconscionarbility）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える（1時間）	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較	アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) I	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) II	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (前回から続く) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) III	(1) 詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行 (part performance) の法理 (2) 詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言 (estoppel) の法理 (3) 詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I	(1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II	(1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	救済：類型と範囲 III	(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野として契約法の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカの契約法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。					3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。					3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。					3	3	3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較	アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) I	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) II	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (前回から続く) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) III	(1) 詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行 (part performance) の法理 (2) 詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言 (estoppel) の法理 (3) 詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I	(1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II	(1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	救済：類型と範囲 III	(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	ガバナンス論	担当者	鏡 圭佑	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講義ではガバナンスについて解説する。ガバナンスとはさまざまな学問分野で様々な意味で用いられている概念であるが、ここでは政策学および行政学において用いられているガバナンス概念に着目する。一般的に、政策学・行政学では、政策過程において行政組織・民間企業・NPOが責任を分有して政策を形成したり実施したりする在り方に言及する際にガバナンスという概念が用いられている。講義では、ガバナンスの理論および実態について受講生が理解できることを目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ガバナンスの概念とそれが重要視されるようになった歴史的背景について理解する。そして、中央政府、地方政府、国際政治を対象に、そこにおけるガバナンスの実態を理解する。また、受講生自身が現実のガバナンスを批判し、その望ましい在り方を主張できるようになることが目標となる。

【履修条件】
特になし。ただし、行政学および政策学系の基礎知識が前提となる点に留意されたい。

【授業方法】
基本的には、講師が講義内容について解説した後、学生がリアクション・ペーパーを提出する形で、毎回の講義を進める。また、ガバナンスの維持管理に従事する公務員をゲスト・スピーカーとして招き、講演をしてもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーに、毎回の講義で講師が話した内容に関する自分の意見を記載してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ガバナンスの概念とそれが着目された歴史的背景について理解する。					2							
②	中央政府、地方政府、国際政治を対象に、そこにおけるガバナンスの実態を理解する。					2							
③	受講生自身が現実のガバナンスを批判し、その望ましい在り方を主張できるようになる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義目標①②③に関して受講生の到達度を評価するための 定期試験を実施する。	25	25	20								70
小テスト等	毎回の講義でのリアクション・ペーパーの提出を通じて、 講義内容に関する理解度を確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	ゲスト・スピーカーの講演時に質問をした学生については 特別に加点する。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説をポータルにて実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考文献については各回の講義のなかで指示する。				

【オフィスアワー】	
講義内容に関する質問等は講義前後に講堂にて受け付ける。また、研究室でも対応可能。その場合は事前にメールでアポイントを取ること (kagami.keisuke@nihon-u.ac.jp)。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省行政管理局での勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		総務省行政管理局での勤務を通じて得た行政の実態に関する知識を講義で紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、ガバメントからガバナンスへ	講義の全体像および成績評価について確認した後に、なぜ政策学・行政学においてガバナンスに対する関心が高まったのかを理解する。	
	この回の到達目標	政策学および行政学におけるガバナンスを勉強する際に前提となる「ガバメントからガバナンスへ」という言葉の意味を理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	これまでの政策学や行政学系の講義においてガバナンスという言葉がどのような文脈でどのような意味で用いられていたのかを振り返る。	120分
	事後学修	「ガバメントからガバナンスへ」という言葉の重要性を他者に説明できるようにする。	120分
2	ガバナンス概念の整理	ガバナンスという言葉がさまざまな学問分野においてさまざまな意味で用いられていることを確認したうえで、政策学と行政学におけるガバナンスの一般的な意味を整理する。	
	この回の到達目標	ガバナンスという概念の多義性を把握するとともに、これからの講義で検討するガバナンスの意味を理解する。	
	事前学修	ガバナンスという言葉がどのように用いられているのか、インターネット等を通じて確認してみる。	120分
	事後学修	政策学と行政学におけるガバナンスの概念の意味と重要性について説明できるように、レジュメを整理する。	120分
3	ガバナンスの進展と類型	さまざまな社会における多様なガバナンスを分類するためのガバナンスの類型に関する理論を学修する。	
	この回の到達目標	ガバナンスといってもさまざまな形態があることを確認するとともに、ガバナンスの在り方について自分なりに考えてみる（講義目標①②③に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	講義で紹介したガバナンスの類型を示した表について、自分の関心に応じて考察を加えてみる。	120分
4	ガバナンスのアクター	ガバナンスに関与する政府、民間企業、NP0等の多様なアクターについて理解する。	
	この回の到達目標	ガバナンスを構成するアクターの多様性を把握するとともに、それぞれのアクターの特徴についても理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分の興味のある政策領域においてどのようなアクターが関与しているのかを調査してみる。	120分
5	中央政府のガバナンス	日本の中央政府の各政策領域におけるガバナンスの基本的な特徴について確認する。	
	この回の到達目標	理論的な観点から日本の中央政府における各政策領域で形成されているガバナンスの特徴を理解したうえで、自分なりの批判的な見解を持てるようにする（講義目標①②③に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	前回に引き続き、今度は理論的な観点も踏まえて自分の興味のある政策領域で形成されるガバナンスについて調べてみる。	120分
6	中央政府のガバナンスの事例①原子力政策	原子力政策を題材に、中央政府のガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	前回の講義で学修した一般的な観点も踏まえつつ、原子力政策のなかで形成された具体的なガバナンスの事例について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、原子力政策におけるガバナンスの問題点を自分なりに調査し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中央政府のガバナンスの事例②	特定の政策領域を題材に、中央政府のガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	特定の政策領域のなかで形成された具体的なガバナンスの事例について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自分の関心のある政策領域におけるガバナンスについて調査してみる。	120分
8	ローカル・ガバナンスの理念と実態	地方自治体レベルにおけるガバナンスについて、その規範、実態における基本的な特徴、主要なアクター等について理解する。	
	この回の到達目標	ローカル・ガバナンスについて理念的な側面と実態的な側面があることを識別したうえで、両者の基本について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分の生まれ育った地域において自分の関心のある行政領域でどのようなガバナンスが形成されているのかを調べてみる。	120分
9	ローカル・ガバナンスの事例①地域福祉	地域福祉を事例に、地方自治体レベルのガバナンスの実態について学修する。	
	この回の到達目標	前回の講義で学修した一般的な観点も踏まえつつ、地域福祉におけるローカル・ガバナンスの事例について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分が生まれ育った地域における地域福祉のガバナンスを調べてみる。	120分
10	ローカル・ガバナンスの事例②防災行政	防災行政を事例に、地方自治体レベルのガバナンスの実態について学修する。	
	この回の到達目標	第8回の講義で学修した一般的な観点も踏まえつつ、防災行政におけるローカル・ガバナンスの事例について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分が生まれ育った地域における防災行政のガバナンスを調べてみる。	120分
11	グローバル・ガバナンス	これまでの講義で扱ってきた中央政府や地方政府を中心としたガバナンスの概念を補強するために、グローバル・ガバナンスを学修する。	
	この回の到達目標	グローバル・ガバナンスについて概念、基本的な特徴、主要なアクターについて説明できるようにする（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分の関心のある政策領域における政策形成および政策実施におけるグローバル・ガバナンスの影響を考察してみる。	120分
12	ゲスト・スピーカー①広域自治体における協働の実践	東京都庁で協働を担当する職員の方をゲスト・スピーカーに招いて、広域自治体における協働の実態と課題について講演してもらう（予定）。	
	この回の到達目標	広域自治体レベルにおけるローカル・ガバナンスの実態について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	ゲスト・スピーカーの指示を別途伝える。	120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの話を聞くなかで疑問に思った点について、自分の生まれ育った広域自治体を対象に調査してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゲスト・スピーカー②基礎自治体における協働の実践	基礎自治体レベルで協働を担当する職員の方をゲスト・スピーカーに招いて、基礎自治体における協働の実態と課題について講演してもらう（予定）。	
	この回の到達目標	基礎自治体レベルにおけるローカル・ガバナンスの実態について理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	ゲスト・スピーカーの指示を別途伝える。	120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの話を聞くなかで疑問に思った点について、自分の生まれ育った基礎自治体を対象に調査してみる。	120分
14	ゲスト・スピーカー③NPO職員の側から見た協働	NPOの職員の方をゲスト・スピーカーに招いて、行政との協働における実態と改善点について講演してもらう（予定）。	
	この回の到達目標	行政と協働するアクターの観点から協働の実態と問題点を説明できるようになる（講義目標②③に関係）。	
	事前学修	ゲスト・スピーカーの指示を別途伝える。	120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの話を聞くなかで疑問に思った点について、自分の興味のある政策領域を対象に調べてみる。	120分
15	講義のまとめ	改めて講義の全体像を振り返り、成績評価の方法についても理解したうえで、講義の内容を復習する。	
	この回の到達目標	ガバナンスの理念および実態を復習し、自分自身のガバナンス観を確立する（講義目標①②③に関係）。	
	事前学修	これまでのレジュメをさらっと確認し、講義の全体像を振り返る。	120分
	事後学修	期末試験に向けて勉強する。	120分

科目名	環境政策	担当者	賀来 健輔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
環境問題は、地球上の生きとし生けるもの全ての生死に関わる現代社会の最も憂慮すべき課題の一つである。環境問題の改善を企図する環境政策は、今日公共政策の個別分野の中でも最も重要な位置を占めていると言ってよい。この授業では、我が国を中心とした環境政策と環境行政の基本的事項を学修する。特になぜ日本では、これまで「持続可能な発展（Sustainable Development）」の観点から十分な環境政策が取られてこなかったのかという点に注目し、これから必要とされる環境政策のあり方を一歩進んだ政策対応という形で受講者諸君と共に考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生きていく上で環境問題を考えることがいかに重要なことであるのかを理解できる人を育成すること、また環境政策、環境行政というものが公共政策を考えていく上でいかに重要であるのかということが理解できる人を育成することを授業の目的とする。環境問題の発生、解決、及び環境政策の仕組みや機能、その果たす役割が広くかつ深く理解できるようになることを涵養する。

【履修条件】
特にないが、「公共政策論」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」など関係の深い科目と併せて履修することで、より効果的な学習が期待できる。

【授業方法】
講義形式による授業を進める。基本的に必要に応じレジュメや講義資料を配布する。各単元（章）の終了時に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	単元で扱う課題などを通して、可能な限り学生との対話・応答を行い、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	環境問題を現状を理解し、その中から取りうるべき高い倫理観を得ることができる。				4							
②	現状十分な環境政策がとられていないことに関して、批判的な洞察力をえることができる。						4					
③	環境問題に関して十分な考察の上、取りうるべき行動を発見する・見つけることができる。							4				
④	これまでの流されてきた現代社会のライフスタイルを見直し、地球規模の環境改善のために取りうるべき地球市民としての行動力を涵養する。								4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④、に関して、十分に備わっている のかを筆記試験により評価する。	30	20	15	10							75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④に関して必要に応じ小テスト（含 むりアクション・ペーパー）やレポート、積極的な質問、 意見等を通して、自分の身についているかを確認する。	10	5	5	5							25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	25	20	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時やまたgoogle classroomなどを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
環境政策論【第3版】	倉坂秀史	信山社	2014	参考書	推奨
環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト	東京商工会議所編	日本能率協会マネジ メントセンター	2023	参考書	任意
食・農・環境とSDGs	古沢広祐	農文協	2020	参考書	任意
考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂	2013	参考書	任意
わか〜る環境法 [増補改訂版]	西尾哲茂	信山社	2019	参考書	任意
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
どのような形で行うかはメールのやり取りで決めますので、まずはメールでどのような内容なのかをご連絡下さい。kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が授業の準備を行えるようにする。その後前提的理解として、環境問題とは何か、環境政策とは何か、環境行政とは何かについて、その意味するところについて学ぶ。	
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①、②、③、④、を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を確認し、理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書として挙げた文献の目次や各章を参照し、環境政策（論）とはどのような授業科目であるのか、また講義の全体像を概観及び理解する。	120分
	事後学修	第1回目の授業内容をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	1. 公共政策と環境政策	「公共政策と環境政策」という標題のもと、公共政策とは何か？環境政策とは何か？環境問題とは何か？という点について、基礎的理解を深める。	
	この回の到達目標	公共政策とは何か？環境政策とは何か？環境問題とは何か？という点についてよく理解し、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）	120分
3	2. 環境行政組織(1) 環境省	環境省を中心とした国レベルの環境行政組織について、その制度的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境省に関してその行政組織上の概要と課題をよく理解した上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）	120分
4	3. 環境行政組織(2) 環境省を除いたその他の環境行政組織	環境省を除いた他の中央官庁の環境行政組織と地方自治体の環境行政組織に関して、その制度的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境省を除いたその他の中央官庁の環境行政組織と地方自治体の環境行政組織に関してよく理解した上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
5	4. 環境政策の手法(1) 規制的手法	環境政策は一つの手法を用いて完結するものではなく、多種多様な手法を相互有機的に用いて初めて効果的な政策実施が可能になる。この授業ではまずその多種多様な環境政策の種類について基本的な概要を学び、次にその中でも最も基本的なものとされる規制的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境政策で用いられる最も基本的な手法である規制的手法の概要、仕組みを学び、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
6	5. 環境政策の手法(2) 経済的手法	規制的手法の次に重要な位置を占めるとされる経済的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	規制的手法に次いで環境政策の主要な手法とされる経済的手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	6. 環境政策の手法(3)情報的手法①情報的手法とは何か		経済的手法に次いで重要な位置を占めるとされる情報的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。
	この回の到達目標	経済的手法と並んで環境政策の主要な手法とされる情報的手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
8	7. 環境政策の手法(4)情報的手法②情報的手法の意義と機能		情報的手法がグリーン・コンシューマー、グリーン・インベスターに果たす意義や役割について学ぶ。
	この回の到達目標	情報的手法がグリーン・コンシューマーやグリーン・インベスターに果たす意義や役割について学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
9	8. 環境政策の手法(5)自主的取組手法		情報的手法に次いで重要な位置を占めるとされる自主的取組手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。また環境政策の手法のまとめとして、ポリシーミックスの重要性を考える。
	この回の到達目標	経済的手法と並んで環境政策の主要な手法の一つである自主的取り組み手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
10	9. 国際的な環境政策の諸相		この授業では、国際的な取り決めとしての各国協調の上での環境政策の形成、決定、実施について学習する。特に地球温暖化防止条約締結国会議（COP）を事例として取り上げ、京都議定書やパリ協定の意義と限界（課題）などについて理解を深める。
	この回の到達目標	日本も国際的な協調の上で環境政策を展開することが求められていることから、この会では各国協調の上での環境政策の形成、決定、実施について学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
11	10. 環境法の仕組み(1)制度的概要		環境法体系(1) 環境政策の基本をなすのは環境法と言われる環境に関する諸法である。ここではその中でも最も根幹をなす環境基本法について、その制度的概要を学ぶ。
	この回の到達目標	環境法体系の中心をなす環境基本法の概要や仕組みを学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
12	11. 環境法の仕組み(2)仕組みと機能		環境法体系(2) 個別の環境法について、その制度的概要、機能、役割について学ぶ。また国際的な環境に関する取り決め（条約など）と日本の国内法への作用などについても理解を深める。
	この回の到達目標	個別の環境法について、その制度的概要、機能、役割について学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	12. 環境政策の歴史(1)～明治時代から戦後高度経済成長期前半まで		日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、特に明治時代の開国、富国強兵、殖産興業期から高度経済成長期の前半までを取り上げて学習する。	
	この回の到達目標	今回は日本の環境政策の歴史の中でも、特に明治開国以来から戦後の高度経済成長期の前半までの政策展開をよく学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。		120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。		120分
14	13. 環境政策の歴史(2)～戦後高度経済成長期後半から現在まで		前回に引き続き日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、高度経済成長期の後半から現在までを取り上げて学習する。	
	この回の到達目標	引き続き日本の環境政策の歴史を概観するが、今回は度経済成長期の後半から現在までの政策展開をよく学んだ上で、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。		120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。		120分
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る		授業全体を通じた理解度を測るために、理解到達度試験を行う。また後半の時間を使って、試験の解説、また学期中のまとめとして、この間に行った主要な事柄に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	これまでの授業で行った環境政策の全体像を断片的にではなく有機的に理解し直し、到達目標①、②、③、④、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について講義でとったノートや参考文献を見直し、全体的な理解に努める。		120分
	事後学修	学習到達度を測るテストで出題された問題と自ら解答した内容を復習し直し、一層の環境問題、環境政策、環境行政への深い理解に努める。		120分

科目名	観光政策	担当者	後藤 洋志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
観光政策について、まず概論、基礎を学修し、その後各分野についてその現状、課題及び政策効果などを学修する。観光政策についての理解を深めるとともに、「観光」の語源をはじめ、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果などを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
観光政策について、その現状、課題及び政策効果などを学修し、観光政策の政策形成に必要な基礎的知識を身につけ、論理的かつ批判的にプロセスや政策効果を評価することができる能力を修得することを目的とする。 旅の歴史、「観光」の語源をはじめ、観光産業の具体的なイメージや概念、観光に関する組織、観光の現状の具体例、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果が広範囲に及んでいることなどを理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
2年次以降を対象にする。

【授業方法】
スライドを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域を振興し、内外の我が国への理解を深めるために観光政策が必要とされていることを理解し、説明することができる。〔知識〕					4		4	4	4			
②	他分野の政策とは異なる観光政策の基本的構造と政策の内容を理解し、説明することができる。〔知識〕					4		4	4	4			
③	観光政策のそれぞれの施策がどのように機能し、課題や問題点を解決するのに適用されるかを調べることができる。〔技能〕					4		4	4	4			
④	観光政策のそれぞれの施策の実際上の運用を理解し、与えられた課題に対して適切に適用することができる。〔技能〕					4		4	4	4			
⑤	観光政策のそれぞれの施策の解釈・運用に関する議論に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。〔態度・習慣〕					4		4	4	4			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する知識の習得度、③④に関する調査能力等に関するテストを2回実施する。また観光振興に関する創造力・アイデアも問う。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関する知識習得度、調査能力等に関し、また観光振興に関する創造力・アイデアも含めレポートを作成する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	質問・意見など授業への参画度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの講評などを後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業内及び授業後に教室内で行う。 メールアドレス c57110@vanilla.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	約30年間、運輸省、国土交通省勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		観光政策に関する実務経験に基づき、観光各分野の現状、課題、政策効果などの講義を実施。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	観光入門～観光とは何か～		観光の定義・歴史、産業としての位置づけと役割、観光庁など関係行政機関について解説するとともに、講義全般の概要について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、観光が我が国経済社会に与える影響や観光と行政のかかわり、観光による地域振興策などを理解し、説明できること。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	今回の講義内容を振り返り、自らの学習計画や他の履修科目との関係について検討すること。	120分
2	国際観光政策の変遷（その１）		国際観光政策の変遷を以下の６つのステージに分けて解説する。㉞ 1963年観光基本法制定と国際観光振興策、㉟ 1980年代アウトバウンド政策（日本人海外旅行促進策）全盛期、㊱ 1990年代のインバウンド政策黎明期、㊲ 2000年代のインバウンド政策の本格的始動、㊳ 2010年代のインバウンド政策の充実拡大と観光産業の地位向上、㊴アフターコロナ時代の観光政策の方向性
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、その時々を経済社会情勢と㉞～㊴の政策変遷の関係、それぞれの政策意義について、理解し説明できること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
3	国際観光政策について（その２）		上記㉟の講義を継続するとともに、政府観光局（JNTO、国際観光振興会）の概要・役割について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、その時々を経済社会情勢と㉞～㊴の政策変遷の関係、それぞれの政策意義、加えて政府観光局の機能について理解し、説明できること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
4	国内観光政策		国内観光政策について、DXの推進、テレワークやワーケーション普及への対応、関係人口の増加による地域活性化、持続可能な観光の推進とオーバーツーリズム対策、観光地域づくり法人（DMO）による観光地域活性化、ユニバーサルツーリズムの重要性等について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②について、講義で述べた主要政策の背景・内容について理解し説明できること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
5	旅行業の現状、制度		旅行業に関する法規制、データなどについて解説するとともに、運輸系企業との関係、OTA（オンライントラベルエージェンシー）の現況について解説する。また、観光産業への就職の際に取得が望ましいと思われる大学生向け国家資格についても紹介する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、旅行業の法規制、定義、産業概要、運輸企業との関連、経営課題などについて理解し説明できる。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
6	宿泊業の現状・制度（その１）		宿泊業について、法規制、データなどについて解説するとともに、旅館業、ホテル業、民泊の概要、人手不足、最近の新たな動きについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、宿泊業の法規制、特に旅館・民泊の産業動向・人材確保・育成の必要性について理解し説明できる。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	宿泊業の現状・制度（その2）		前回の講義を継続するが、特にホテルについて産業概況、市場動向、所有と経営の分離などの経営課題、顧客満足度などについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、産業動向、所有と経営の分離などホテル経営の多様化について理解し説明できること。、	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
8	講義前半の総括		前半の講義（観光に関する政策制度、産業概要など）について総括するとともに重点ポイントを確認する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関し、前半の講義（観光に関する政策制度、産業概要など）について理解し説明できること。	
	事前学修	前半の講義に関するノートを整理すること。	120分
	事後学修	今回の講義を踏まえて、前半講義の重点ポイントを把握する。	120分
9	授業内中間試験の実施		1回目から8回目までの講義の範囲内で授業内試験を実施する。
	この回の到達目標	試験問題を含めた1回目から8回目の講義内容を理解すること。	
	事前学修	前回講義を踏まえて、1回目から8回目までの講義の重点ポイントを再確認すること。	120分
	事後学修	試験問題を含めた1回目から8回目の講義内容を復習すること。	120分
10	観光振興の取り組み事例（その1）		観光地・地域の再活性化事例 北海道・小樽、九州・黒川温泉など
	この回の到達目標	紹介事例において、再活性化が実現した要因とその背景を把握し、知識として一般化し、自分の考えが述べられるようにすること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
11	観光振興の取り組み事例（その2）		地域固有の観光資源を発見し活用した観光振興事例 北海道・紋別流水観光、長野・星空観光など
	この回の到達目標	固有の観光資源の発見と観光振興を成功に導いたプロセスを把握し、知識として一般化し、自分の考えが述べられるようにすること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
12	観光振興の取り組み事例（その3）		愛媛県大洲市の官民連携観光まちづくり アニメツーリズムの推進等新たな分野と連携したツーリズムについて
	この回の到達目標	計画策定や街づくりのみならず、官民連携によりビジネス（利益が上がる）として成功した要因・プロセスを理解し、知識として一般化し、自分の意見が述べられるようにすること。また、アニメ、スポーツ、医療など新たな分野と連携したツーリズムの拡大について理解する。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	観光マーケティングについて	地域でのSWOT（強味、弱点、チャンス、脅威）分析によるターゲット設定、マーケティングとプロモーション、プロジェクト実施、スケジュール管理、PDCAサイクルによるスパイラルアップ、観光ライフサイクル活性化 等について解説する。	
	この回の到達目標	観光に関する基礎的マーケティング手法の知識を理解・習得し、説明できるようにすること。	
	事前学修	事前に示す講義資料に目を通すこと。	120分
	事後学修	ノートの整理、復習を行うこと。	120分
14	授業後半の総括	初回からの講義を総括するとともに、重点ポイントを確認する。 また、レポート作成のガイダンスを行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関し、講義全般について理解し説明できること。特に10回目～13回目の講義で紹介した観光振興事例の成功要因、プロセスについては、習得した知識を一般化し、自分の考えを述べられるようにすること。	
	事前学修	講義全般に関するノートを整理すること。	120分
	事後学修	今回の講義を踏まえ講義全般の重点ポイントを把握する。	120分
15	レポート作成	授業全体を対象にレポートを作成する。	
	この回の到達目標	今までの講義の内容やポイントを理解すること。	
	事前学修	前回までの講義を踏まえて、講義全般の重点ポイントを再確認すること。	120分
	事後学修	今後も観光に興味を持ち、情報収集・学習を継続すること。	120分

科目名	監査論Ⅰ	担当者	小俣 光文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
現代の経済社会の中心的な担い手となっているのは、広く一般の投資家から資金を調達する株式会社である。株式会社は、資金を提供する投資家等に対して、資金が適切に利用されていることを示すために、財務報告を行う必要がある。しかしながら、会社の経営者が行った財務報告は、会社に都合の良い情報しか示されていない可能性があり、そのままでは信用されないため、会社が示した情報が適切なものであるかどうかを判断できるようにするのが監査の役割である。そこで、本講義では、なぜ監査という行為が行われるのか、どのように監査が行われるのかについて学び、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
監査が現代の経済社会に、監査に対する社会的期待が非常に高まるとともに、各種の情報公開が進むにつれて監査に対するニーズも非常に大きくなっている。監査に対するニーズが高まるとともに、新聞やテレビのニュースで監査が扱われる事例が増えている。まず、監査についての基本的な理論を習得することによって、こうした監査に対するニーズが高まっている理由を理解できる能力を身につける。そして、監査に関する基礎知識を習得することによって、こうした新聞記事やニュースの内容を理解できる能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにレスポンを使ってミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】				3	3						
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】				3	3						
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】						3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】						3	3		3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける omata.mitsufumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	監査論の考え方		監査とは何か、また監査論とはどのような学問なのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。		100分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。		100分
2	ディスクロージャー制度と株式会社		金融商品取引法の債権者保護の前提となる企業情報ディスクロージャー制度について、前提となる株式会社の成立過程について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、株式会社の成立過程について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、株式会社がどのように成立したのかについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、株式会社の本質や成立改定について知識を整理しておく。		120分
3	コーポレート・ガバナンス		コーポレート・ガバナンスとは何かについて、様々な定義から検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、コーポレート・ガバナンスについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、コーポレート・ガバナンスについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、コーポレート・ガバナンスの定義や本質について知識を整理しておく。		100分
4	日本企業のガバナンス		日本の会社法制下における企業のガバナンスについて検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、会社法における機関設計の規定について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、会社法における機関設計を中心としたガバナンスについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、会社法における機関設計を中心としたガバナンスについて知識を整理しておく。		100分
5	財務諸表の見方		金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。また財政状態を示す貸借対照表および損益計算書からどのような情報がよみとれるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表、貸借対照表および損益計算書について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表・損益計算書について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表および損益計算書について知識を整理しておく。		120分
6	監査の経済的機能		監査が経済社会においてどのような機能を果たしているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	監査のフレームワーク		企業情報の作成者と利用者、監査人といった3者関係を中心とした監査のフレームワークについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査のフレームワークについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査の理論的な構造について調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査の経済的機能について知識を整理しておく。	120分
8	監査規範と監査人の適格性		監査基準を中心に，監査規範がなぜ必要なのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査基準の生成過程と内容について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査基準の生成過程と内容について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査基準の生成過程と内容および果たす役割について知識を整理しておく。	120分
9	監査人の独立性		公認会計士法に盛られた監査人の独立性に関する規定を念頭に，信頼しうる監査を遂行するための監査人の適格性および監査業務と非監査業務の同時提供の禁止問題について検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査人の適格性について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査基準を中心に監査人の適格性についてどのような規定が置かれているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査人の適格性の内容と規定について知識を整理しておく。	120分
10	金融商品取引法監査制度		金融商品取引法の下で監査がどのように規定されているのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，金融商品取引法において監査についてどのような規定が置かれているのかについて知識を整理しておく。	120分
11	公認会計士の責任		公認会計士法を中心として，監査を実施した公認会計士にどのような責任が課されているのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，公認会計士法において公認会計士の責任がどのように規定されているのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，公認会計士法において公認会計士の責任についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，公認会計士法において公認会計士の責任についてどのように規定されているのかについて知識を整理しておく。	120分
12	不正・違法行為		企業の不正・違法行為について，監査上どのような対応が必要となるのかについて，クレッシーの理論を用いて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査上、企業の不正や違法行為についてどのように対応するのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，企業の不正や違法行為について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，企業が不正や違法行為を行う原因や監査上の対応について知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	財務報告の枠組み		財務報告の枠組みについて理解するとともに、現代の企業の様々な情報開示について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，財務報告の枠組みと、現代の企業がどのような情報を開示しているのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，財務報告の枠組みと、現代の企業が開示しなければならない情報についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，財務報告の枠組みと、現代の企業が開示しなければならない情報についてどのように規定されているのかについて知識を整理しておく。	120分
14	保証業務		保証業務について概要を理解するとともに，監査証明業務との違いについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，保証業務がどのようなものかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，保証業務についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，保証業務についてどのように規定されているのかについて知識を整理しておく。	120分
15	まとめ		監査論Ⅰにおける財務諸表監査のまとめを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関して，レジュメや参考書を読み，監査が社会システムにおいてどのような役割を果たしているのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	これまでのレジュメや，参考資料を読み，特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。	120分
	事後学修	本講義で学んだ内容をまとめて復習し，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また，金融商品取引法と会社法における監査制度の違いについて整理する。	120分

科目名	監査論Ⅱ	担当者	小俣 光文	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
監査は、一つの社会的なコントロールシステムとして企業の健全な社会的発展を図るために必要不可欠な要具となっている。しかしながらエンロンのように経営破綻した企業が、それまで経営の不振を隠蔽するために不正な財務報告を行っていたことが明らかになることがある。このような事態が生じると監査に対する批判が高まり、その批判に答える形で、監査の実施方法も大きく変わることがある。そこで、本講義では、監査に対する批判が高まる原因となる不正な財務報告の事例等を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準がどのように監査を規定しているかを中心にして、企業の財務諸表監査が具体的にどのように行われているのかについて学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は監査に対するニーズが高まっており、公認会計士にならずとも多くの人が監査に関わる機会が増えている。こうした状況のなかで、監査がどのように行われているのか、また監査の結果がどのように利用者に伝達されるのかについて学び、自らが監査に関わる立場になったときに必要な知識を習得することを目標とする。 さらに、公認会計士になった場合はもちろんのこと、実際に内部監査部門に配属されたり、監査を受ける立場になったり、監査報告書を読む場合に必要な知識も身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにレスポんを使ってミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3				
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3				
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】						3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】						3	3		3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける omata.mitsufumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	監査実施プロセスの全体像		国民経済の適切な運営、投資者の保護、公認会計士監査：金融商品取引法第193条の2の規定に基づく公認会計士または監査法人による監査の基本的枠組みについて理論的な視点から検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の基本的枠組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法における公認会計士監査の規定について調べておく。	100分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。	100分
2	リスクアプローチ		リスクアプローチとはどのような監査の方法論化なのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、リスクアプローチがどのように生成してきたのか、また、どのような考え方なのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、リスクアプローチとはどのようなものなのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、リスクアプローチに関して知識を整理しておく	120分
3	監査計画と監査要点		監査要点とは何か、戦略的な監査の実施と監査計画について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査要点とは何か、監査の戦略的实施と監査計画の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①、②に関して、監査要点と監査計画について調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査要点と監査の戦略的实施と監査計画の関係に関して知識を整理しておく。	120分
4	監査証拠		監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査証拠とは何か、および監査証拠の分類について調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかに関して知識を整理しておく。	120分
5	内部統制 1		経営者の責任の一環として位置づけられる内部統制について、内部統制とコーポレートガバナンス、内部統制とリスクマネジメントの関係について検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、内部統制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、内部統制について調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、内部統制に関して知識を整理しておく。	120分
6	内部統制 2		内部統制について、COSOのフレームワークを中心に、内部統制の目的、構成要素について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、内部統制の目的および構成要素について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、COSOの内部統制のフレームワークについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、COSOの内部統制のフレームワークに関して知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	監査リスクと監査上の重要性		監査リスクおよび監査上の重要性とは何か、監査リスクと監査上の重要性について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査リスクおよび監査上の重要性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査リスクおよび監査上の重要性について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査リスクおよび監査上の重要性に関して知識を整理しておく。		120分
8	重要な虚偽表示のリスクの評価		重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかに関して知識を整理しておく。		120分
9	リスク対応手続と内部統制		評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査手続とは何かについて調べておく。		120分
	事後学修	および監査を実施する上で試査が原則とされるのかについて知識を整理しておく。		120分
10	試査		監査を実施する上での試査と統計理論について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、試査とは何か、試査が原則とされる理由について学び、実際に監査の結果をどのように解釈するのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、試査およびサンプリングとは何かについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、試査とはどのような考え方なのか、レジュメや、参考資料を読み、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかに関して知識を整理しておく。		120分
11	監査報告		短文式監査報告書に盛られる監査人のメッセージの中に「一般に公正妥当と認められる監査の基準」および「適正に表示している」との重要なキーワードがあるが、それらの意味する内容等について検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、短文式監査報告書の形式と記載内容について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、短文式監査報告書の形式と記載内容について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、短文式監査報告書の形式と記載内容に関して知識を整理しておく。		120分
12	監査上の主要な検討事項		監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、KAMについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、KAMに関して知識を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	継続企業の前提と監査報告		監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、ゴーイングコンサーン情報の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、ゴーイングコンサーン情報の開示について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、ゴーイングコンサーン情報の開示に関して知識を整理しておく。		120分
14	その他の記載内容と監査報告		近年重要になっている財務情報以外の非財務情報に対して、監査人が対応を求められるようになった背景と、監査人がどのように対応するのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、その他の記載内容の種類とその他の記載内容に関して、監査人がどのように対応することが求められているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、その他の記載内容と非財務情報について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、その他の記載内容がどのようなものであり、監査人がその他の記載内容についてどのように対応しているのかに関して知識を整理しておく。		120分
15	内部統制監査		内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査をめぐる問題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、経営者の内部統制報告書とその監査について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査に関して知識を整理しておく。		120分

科目名	管理会計論Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】
経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】
管理会計論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。また、Google classroomを利用した授業管理を行う。クラスコードは授業初回に周知する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	製品原価の計算構造を理解し、経営形態ごとの製造原価計算ができる。					3	3						
②	原価管理の考え方を理解し、標準原価による原価管理ができる。						3	3	3				
③	利益管理の考え方を理解し、直接原価計算やCVP分析による利益管理ができる。						3	3	3				
④	原価管理や利益管理の理解を通じて、企業経営者が会計情報を通じてどのように経営を考え、課題を発見するかを理解できる。							3	3			3	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④についての総合的な理解が身についているかを、試験によって評価する。試験による評価は、全体の70%を占める。	14	21	21	14							70
小テスト等	毎回の学修内容について、到達目標①～④に関する基本的理解が身についているかを、授業課題によって評価する。授業課題による評価は、全体の30%を占める。	6	9	9	6							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、授業内で解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館8階1820研究室にて実施（ビデオ通話による対応も可。また、事前にメールにてアポを取ること）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	原価計算の基本と管理会計	原価計算の基本を確認し、管理会計と財務会計の違いを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、原価計算の基本を概観し、管理会計と財務会計の違いを理解する。また、管理会計の役割を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、製造業における経営の全体像をイメージしておく。	120分
	事後学修	管理会計と意義と役割、財務会計との違いを説明できるようにする。各種原価を把握する。	120分
2	個別原価計算の仕組み	生産販売形態別の製品原価計算方法と個別原価計算の仕組みを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、個別原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	指図書別の製品原価の計算方法を身につける。	120分
3	製造間接費の配賦	製造間接費をめぐる論点とその配賦方法、差異分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、製造間接費の配賦手続きの必要性を理解し、具体的な配賦方法と変動予算における差異分析を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	公式法変動予算における製造間接費の配賦と予算差異・操業度差異の分析方法を把握する。	120分
4	総合原価計算、月末仕掛品の評価	総合原価計算の計算の仕組みと月末仕掛品の評価方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、総合原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解し、月末仕掛品の評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	総合原価計算における原料費と加工費の取扱いの違いを理解し、月末仕掛品の評価と完成品総合原価の計算を身につける。	120分
5	先入先出法と平均法	月初仕掛品がある場合の期末仕掛品の評価方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、先入先出法と平均法の計算方法の違いを理解し、それぞれの評価方法における月末仕掛品の評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	先入先出法と平均法のそれぞれによる月末仕掛品の評価方法を身につける。	120分
6	標準原価計算による製品原価の計算	標準原価計算の基本的考え方と標準原価による製品原価の計算を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、標準原価を用いた製品原価計算の基本的考え方を理解し、標準原価による月末仕掛品評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	標準原価計算と実際原価計算の違いを理解し、原価標準を用いて製品原価を計算する方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	標準原価による原価管理と直接材料費差異分析	標準原価計算を用いた原価管理の考え方と直接材料費差異分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、原価の目標値としての標準原価の役割を理解し、直接材料費差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	直接材料費差異を材料消費価格差異と材料消費数量差異に分解できるようにする。	120分
8	直接労務費差異分析	直接労務費差異の分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、直接労務費差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	直接労務費差異を賃率差異と作業時間差異に分解できるようにする。	120分
9	製造間接費差異分析	製造間接費差異の分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、製造間接費差異の内容を細分析した上で、各差異の分類方法の違いによる分析方法を学ぶ	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	予算差異、変動費能率差異、固定費能率差異、操業度差異の分解方法を身につけ、それぞれの際の分類方法に応じた差異分析方法の違いを理解する。	120分
10	CVP分析と貢献利益	原価・営業量・利益の関係に基づく利益管理の考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、分析の基本となる変動費と固定費の分解や貢献利益の計算方法などの基礎的知識を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	原価の発生態様による分類の必要性和意義を理解し、貢献利益ないし限界利益と呼ばれる利益の概念を理解する。	120分
11	各種CVP分析と固変分解	損益分岐点分析をはじめとする各種CVP分析の方法と、固変分解の仕方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、損益分岐点売上高や目標利益達成点販売量等の計算方法、固変分解のための高低点法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貢献利益率を使った各種CVP分析手法や高低点法による固変分解の方法を把握する。	120分
12	直接原価計算の概要	直接原価計算の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、CVP分析のための基礎資料を提供する直接原価計算の方法を理解し、全部原価計算との違いを把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	変動費のみによる製品原価の計算方法を身につけ、全部原価計算との違いを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	固定費調整		固定費調整の必要性と固定費調整の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、固定費調整の意義を理解し、コロガシ調整法による固定費調整の仕方を身につける。		
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	直接原価計算による営業利益を全部原価計算による営業利益へと調整する仕組みを理解する。		120分
14	問題演習による各種計算技法の確認		前期に扱った各種計算技法を、問題演習を通じて再確認する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、問題演習を通じて各論点の計算方法を修得する。		
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	前期に扱った各論点の計算方法を完全に修得する。		120分
15	前期総括		管理会計論の基本的考え方から原価管理および利益管理までの内容を総括する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、管理会計の基礎から標準原価計算、CVP分析および直接原価計算の各論点を理解する		
	事前学修	前期の学修内容を概観する。		120分
	事後学修	試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。		120分

科目名	管理会計論Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】 経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】 管理会計論Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】 授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。また、Google classroomを利用した授業管理を行う。クラスコードは授業初回に周知する。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	予算管理の考え方を理解し、企業における予算と実績の差異分析ができる。					3		3					
②	業務的意思決定の考え方を理解し、日常業務レベルにおける経営課題の認識やその解決のための意思決定を理解できる。					3	3	3	3				
③	構造的意意思決定の考え方を理解し、経営基盤に関わる意意思決定における課題の認識やその解決のための意意思決定を理解できる。					3	3	3	3				
④	新たな原価管理の手法や企業評価の方法など、経営トップの意意思決定に影響する管理会計上の論点を理解できる。							3	3			3	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～④についての総合的な理解が身についているかを、試験によって評価する。試験による評価は、全体の70%を占める。	14	21	21	14							70
小テスト等	毎回の学修内容について、到達目標①～④に関する基本的理解が身についているかを、授業課題によって評価する。授業課題による評価は、全体の30%を占める。	6	9	9	6							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、授業内で解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（ビデオ通話による対応も可。また、事前にメールにてアポを取る可） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	管理会計論Ⅰの学修内容の確認および管理会計論Ⅱの全体像の確認	管理会計論Ⅰで学修した管理会計の基本と原価管理・利益管理の各論点を復習しつつ、管理会計論Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、管理会計論Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
	事後学修	管理会計の目的をはじめ、原価管理や利益管理の基本論点を理解する。	120分
2	予算実績差異分析	貢献利益の予算と実績の差異を分析する手法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、貢献利益差異を販売価格差異、販売数量差異、変動費差異に分解する方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貢献利益差異の細分析方法を修得する。	120分
3	販売数量差異の細分析	販売数量差異を細分析する方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を理解し、販売数量差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を身につける。	120分
4	意思決定の基礎	意思決定の種類と意思決定における基本的用語を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②および③に関して、業務的意思決定と構造的意意思決定の違いを理解し、意思決定会計における基本用語の内容を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定と構造的意意思決定の違いや、差額収益、差額原価ならびに埋没原価といった基本用語が説明できるようになる。	120分
5	差額原価収益分析	差額原価収益分析を用いた業務的意思決定を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、差額原価収益分析における差額収益や差額原価の概念を理解し、業務的意思決定の方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定における基本的な意思決定の流れを理解する。	120分
6	問題演習による差額原価収益分析の理解	問題演習を通じて差額原価収益分析による業務的意思決定を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、問題演習によって、差額原価収益分析における差額収益や差額原価の捉え方、埋没原価の取扱いを身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	演習問題を復習し、差額原価収益分析による意思決定の方法を完全に修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	構造的意思決定の基礎	構造的意思決定の基本的考え方とキャッシュ・フローの見積りを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、設備投資の是非を題材に、構造的意思決定の基本的考え方を理解し、キャッシュ・フローの見積り方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定と構造的意思決定の違いを認識し、将来キャッシュ・フローの見積り方法を把握する。	120分
8	単純回収期間法と貨幣の時間価値	単純回収期間法による投資案の評価方法と貨幣の時間価値の概念を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、単純回収期間法による投資案の評価ができるようになるとともに、貨幣の時間価値の概念を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	単純回収期間法の計算方法を身につけ、貨幣の時間価値を考慮するための割引計算の必要性を理解する。	120分
9	正味現在価値法による意思決定	正味現在価値法による設備投資の意思決定方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、割引計算の手法を理解し、正味現在価値により設備投資案の評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	正味現在価値の計算手法を修得し、NPV法による構造的意思決定を理解する。	120分
10	タックス・シールドの考慮と資本コストの計算	より実践的な構造的意思決定のための論点と技法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、設備投資の意思決定におけるタックス・シールド考慮の必要性を理解するとともに、割引計算の基礎となる資本コストの算定根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	タックス・シールドを考慮した将来キャッシュ・フローの見積りや、加重平均資本コストの計算ができるようになる。	120分
11	問題演習による構造的意思決定の理解	問題演習を通じて設備投資の意思決定方法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、問題演習を通じて設備投資における構造的意思決定を総合的に理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	演習問題を復習し、構造的意思決定の方法を完全に修得するとともに、相互排他的な投資案の評価方法を把握する。	120分
12	企業価値評価	企業価値評価の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関して、配当割引モデルを用いた企業価値の評価方法を理解し、設備投資の意思決定との考えの共通性を認識する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	配当割引モデルによる企業価値の評価方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ライフサイクル・コストイング	ライフサイクル・コストイングの基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関して、ライフサイクル・コストイングの必要性を理解し、製品ライフサイクルの各段階における原価の概念を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	製品ライフサイクルにおける各段階で生じる原価の内容を把握し、ライフサイクル全体を通じた原価管理の必要性を理解する。	120分
14	原価企画	原価企画の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関して、原価企画によって製品の企画開発段階から原価管理を行う必要性を理解する	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	製品の企画開発の段階から始まる原価管理の手法を理解し、今日的な原価管理の論点を把握する。	120分
15	後期総括	予算実績差異分析から原価企画までの内容を総括する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、予算実績差異分析、業務的意思決定、構造的意決定、ライフサイクル・コストイングおよび原価企画の各論点を理解する	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業法務Ⅰ	担当者	川村 佑紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
企業の事業活動によって発生する法律問題は多種多様であり、また、多くの法律領域にまたがっている。本講義では、ビジネスとの関わりのある領域を俯瞰することに主眼を置き、かかる領域において発生する個別の法律問題を法制度の内容とともに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、ビジネスと法の関わりについて学修することを目的とする。 このような、いわゆる”ビジネス法務”を学修することで、ビジネス法に対する基本的理解を涵養し、個別の法律問題に対して妥当な結論を導き出せる能力を身につけることを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスに関する法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1	1	1					
②	ビジネス法務に関する実務運用状況や、関連法律問題における主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						2	2	2					
③	ビジネス法において発生する個別の法律問題について講義で得られた知見を活用したうえで考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2	2					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	第15回の授業内テストにより、到達目標①②③にかかわるビジネス法の基本的構造を理解しているのか、設定された問題に対して講義で得た知識をもとに妥当な結論を導き出すことができるのかを確認する。	40	40	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に模範解答例・解説などを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ビジネス法務の理論と実践	松嶋隆弘・鬼頭俊泰	芦書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、適宜行う。kawamura.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文具メーカー管理部及び投資会社法務部
実務経験に基づく実践的教育の内容		メーカー勤務の経験を活かし、製造業においてどんなことが現場で教育されているかなどについて、また、現在投資会社勤務しており様々なベンチャーやスタートアップと接していることから、現在のビジネスの特徴や起業の動きなどについて、講義の中でご紹介できればと思っています。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス・導入】ビジネスと法	ビジネス法を学修するにあたって、ビジネス法の全体像を提示し、各法領域と各種法律との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、ビジネスと法がどのようにかかわっているのか、また、ビジネス法においてどのような法律問題が発生していて、何を講義で学ぶのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ビジネスと法とのかかわりがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ビジネス法の全体像につき、確認・整理をする。	120分
2	契約とは何か	小売業を例に挙げながら、民法が定める契約に関するルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、契約の内容や締結する過程に問題がある場合のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、民法が定める契約に関するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、民法の定める契約ルールにつき、確認・整理をする。	120分
3	消費者法による民法理論の修正	小売業を例に挙げながら、民法が定めるルールが消費者法によってどのように修正されているのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、消費者法の内容や特性を理解し、民法との違い、民法が定めるルールがどのように修正されているのかを説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、民法が定めるルールが消費者法によってどのように修正されているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、消費者法が定めるルールにつき、確認・整理をする。	120分
4	商取引に対する規律	卸売業を例に挙げながら、商法が定めるルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、商人間でなされる取引に適用される商法のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、商法が定めるルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、商法が定めるルールにつき、確認・整理をする。	120分
5	電子商取引に対する規律	電子商取引がなされている状況を例に挙げながら、かかる取引に適用される規律について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、電子商取引に適用されるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、電子商取引と同取引に対する規律がどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、電子商取引に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
6	不動産売買における法律問題	不動産業における不動産売買を例に挙げながら、不動産売買にかかるルールにつき民法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、不動産売買に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、不動産売買に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、不動産売買に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	不動産賃貸借における法律問題		不動産業における不動産賃貸借を例に挙げながら、不動産賃貸借にかかるルールにつき民法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、不動産賃貸借に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、不動産賃貸借に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、不動産賃貸借に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
8	建設業における法律問題 建物建設		建設業における建物建設を例に挙げながら、不動産建設請負を巡って生じうる法律問題につき民法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、建物建設に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、建物建設に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、建物建設に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
9	耐久消費財の製造における法律問題		耐久消費財を製造するに際して発生しうる法律問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、耐久消費財の製造に関わる各種法律（製造物責任法など）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、耐久消費財の製造にあたって、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、耐久消費財の製造にあたって適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
10	非耐久消費財の製造における法律問題		非耐久消費財のうち食品・医薬品・化学製品を例に挙げながら、非耐久消費財の製造にあたって発生し得る法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、非耐久消費財（食品・医薬品・化学製品）の製造にかかわる各種法律（食品衛生法など）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、非耐久消費財の製造にあたって、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、非耐久消費財の製造にあたって適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
11	ロジスティクス業における法律問題 運送・倉庫・場屋		ロジスティクス業のうち、運送・倉庫・場屋を例に挙げながら、それら業種で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）にかかわるルール（主に商法）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
12	金融業（銀行）における法律問題		金融業のうち、銀行を取り上げ、かかる業界で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、金融業（銀行）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、金融業（銀行）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、金融業（銀行）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融業（証券・保険）における法律問題	金融業のうち、証券・保険を取り上げ、かかる業界で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、金融業（証券・保険）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、金融業（証券・保険）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、金融業（証券・保険）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
14	サービス業における法律問題 人材業・仲介業	サービス業のうち、人材業・仲介業を取り上げ、かかる業界で発生し得る法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、サービス業（人材業・仲介業）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、サービス業（人材業・仲介業）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、サービス業（人材業・仲介業）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
15	授業の振り返りと理解度チェック及び試験の講評	第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。また、試験の講評や模範解答を配布し解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③と関連して、第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、これまでの講義内容を全体的に振り返り、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、これまでの講義内容につき、確認・整理をする。	120分

科目名	企業法務Ⅱ	担当者	川村 佑紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
企業の事業活動によって発生する法律問題は多種多様であり、また、多くの法律領域にまたがっている。本講義では、ビジネスとの関わりのある領域を俯瞰することに主眼を置き、かかる領域において発生する個別の法律問題を法制度の内容とともに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、ビジネスと法の関わりについて学修することを目的とする。 このような、いわゆる”ビジネス法務”を学修することで、ビジネス法に対する基本的理解を涵養し、個別の法律問題に対して妥当な結論を導き出せる能力を身につけることを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスに関する法制度の全体構造とその特質を識別することができる。					1	1	1					
②	ビジネス法務に関する実務運用状況や、関連法律問題における主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2	2	2					
③	ビジネス法において発生する個別の法律問題について講義で得られた知見を活用したうえで考察し、自分の意見を述べることができる。					2	2	2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	第15回の授業内テストにより、到達目標①②③にかかわるビジネス法の基本的構造を理解しているのか、設定された問題に対して講義で得た知識をもとに妥当な結論を導き出すことができるのかを確認する。	40	40	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に模範解答例・解説などを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ビジネス法務の理論と実践	松嶋隆弘・鬼頭俊泰	芦書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、適宜行う。kawamura.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文具メーカー管理部及び投資会社法務部
実務経験に基づく実践的教育の内容		メーカー勤務の経験を活かし、製造業においてどんなことが現場で教育されているかなどについて、また、現在投資会社に勤務しており様々なベンチャーやスタートアップと接していることから、現在のビジネスの特徴や起業の動きなどについて、講義の中でご紹介できればと思っています。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス・導入】企業法務の意義		ビジネス法を学修するにあたって、ビジネス法の全体像を提示し、各法領域と各種法律との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、ビジネスと法務においてどのような法律問題が発生していて、何を講義で学ぶのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ビジネス法務がどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ビジネス法務の全体像につき、確認・整理をする。		120分
2	コンプライアンスとリスク管理		コンプライアンスとリスク管理の問題を取り上げ、企業法務においてそれらがなぜ重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理の重要性について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
3	コーポレート・ガバナンス		コーポレート・ガバナンスの問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコーポレート・ガバナンスの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、コーポレート・ガバナンスがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、コーポレート・ガバナンスの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
4	M&Aに対する規律		M&Aとそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるM&Aの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、M&Aがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、M&Aの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
5	コーポレート・ファイナンス		コーポレート・ファイナンスとそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコーポレート・ファイナンスの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、コーポレート・ファイナンスがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、コーポレート・ファイナンスの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
6	企業と従業員（労務管理）		労務管理とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における労務管理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、労務管理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、労務管理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	債権管理・回収		債権管理・回収とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における債権管理・回収の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、債権管理・回収がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、債権管理・回収の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
8	与信取引と担保		与信取引・担保とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における与信取引・担保の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、与信取引・担保がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、与信取引・担保の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
9	取引決済		取引決済とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における取引決済の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、取引決済がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、取引決済の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
10	公正取引の確保		公正取引の確保とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における公正取引確保の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、公正取引の確保がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、公正取引確保の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
11	ビジネスと知的財産権		知的財産権とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における知的財産権の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、知的財産権がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、知的財産権の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
12	紛争の処理		紛争処理とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における紛争処理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、紛争処理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、紛争処理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ビジネスと租税・企業と犯罪	租税・企業犯罪に関する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれらへの対応が重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における租税・企業犯罪への対応の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、租税・企業犯罪への対応がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、租税・企業犯罪への対応の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。	120分
14	企業の倒産処理	倒産処理に関する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれらへの対応が重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における倒産処理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、倒産処理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、倒産処理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。	120分
15	授業の振り返りと理解度チェック	第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③と関連して、第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、これまでの講義内容を全体的に振り返り、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、これまでの講義内容につき、確認・整理をする。	120分

科目名	教育政策	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
教育政策立案過程から説き起こし、教育政策が社会生活に及ぼす重要性を理解する。とくに、「子どもの貧困」というわが国社会が直面している問題を深く掘り下げ、その対策について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教育政策が社会に及ぼす影響を理解し社会人として教育問題に取り組む態度を育み、「子どもの貧困」対策について自らの考えを述べられる知識、さらにその具体的解決策について提言できるような技能を身に付けられるよう教育政策論を学修する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義を基本とするが、BYODを活用して、講義中に学生自身が資料や統計を検索しつつ講義は進められる。講義に対するラーニングリフレクションの提出を求め、各テーマの理解度、補足必要な課題などを検証しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。				4		4	4	4			
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。				4		4	4	4			
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。				4		4	4	4			
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。				4		4	4	4			
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。				4		4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ラーニングリフレクションを毎時間作成してもらい、理解度を調査しながら講義を進める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義の前後で対応する。本館 2 階講師室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業計画について 導入講義	講義形式、BYODの活用、評価法を説明し、教育政策論の領域について紹介する。	
	この回の 到達目標	教育政策の学修領域とは何かを理解し、講義に対する意欲・意識を高める。	
	事前学修	シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。各自の教育歴・学校歴の中で、教育政策と関係が深いと思われる事象についてリストアップする。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
2	教育政策の概念について	日本経済の成長の過程で、教育政策がどのようにかかわってきたのかを明らかにし、教育政策の概念を明らかにする。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、教育政策とはどのように社会と関わっているか説明できる。	
	事前学修	各自の教育歴と学校歴のなかで教育政策とのかかわりについて把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	近代日本の教育政策	教育政策がわが国の近代化に大きく貢献したことを確認する。	
	この回の 到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
	事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	教育政策立案過程	現代の教育問題に対して行政がどのように対応しているのか明らかにし、政策立案過程に見られる問題点を明らかにする。	
	この回の 到達目標	教育政策が社会の発展と大きく関わっていることを歴史的事実から説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	近代史の中から教育政策の果たした役割について把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	教育政策と学習指導要領	教育政策が学習指導要領にどのように反映しているかを明らかにする。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関して、学習指導要領の教育政策的意味について説明できるようにする。	
	事前学修	学習指導要領の法的位置づけについて調べ、授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	中国の歴史的 教育政策と日本への影響	わが国の伝統的教育政策と中国との交流について学習する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、わが国の教育政策に見られる伝統について説明することができる。	
	事前学修	教育に関する公的支出が少ないのにわが国の教育水準が高い理由について各自が自分の意見を授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	古代ギリシャの教育政策		社会構造の違いが教育政策にどのような影響を与えるかについて古代ギリシャの教育政策から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、社会構造と教育政策の関係を明らかにして、今日の教育問題の原因を論理的に説明・批判できるようにする。		
	事前学修	今日の教育に関する問題点を各自明らかにし、問題の所在を自らの言葉で、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	絶対主義王政下の教育政策		義務教育制度の成り立ちと教育政策の関係を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、義務教育制度の果たすべき役割と問題点について説明することができる。		
	事前学修	各自の教育歴の中に占める義務教育大きさについて、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	資本主義発達期の教育政策		産業の発達と教育政策の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、産業社会の発達に教育政策が深くかかわることを説明することができる。		
	事前学修	高指定された文献等で産業の発達と教育政策との深い関係について、質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	現代アメリカの教育政策と現代日本の教育政策		今後の教育政策の展望のために、現代アメリカ、現代日本が直面している教育問題について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、今後の教育政策に何を期待するか各自の意見を述べることができる。		
	事前学修	指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	子どもの貧困（1）		一億総中流という意識の中で捨て置かれてきた「子どもの貧困」問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか説明することができる。		
	事前学修	指定された資料・文献等により、OECDの勧告の意味を理解し、その重大性を把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	子どもの貧困（2）		到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか医療ものの観点から説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、医療の観点から貧困家庭の子供が置かれている現状を説明することができる。		
	事前学修	指定された資料・文献等により、医療の観点から子供の置かれている状況尾を授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	子どもの貧困（3）	受験制度・進学問題から「子どもの貧困」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、貧困家庭と進学・受験問題の深刻な現実について学び、その問題性を説明できる。	
	事前学修	自らの学校歴の中から、受験や進学が現代日本においていかに重要な問題であるかをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	子どもの貧困（4）	世界各地の貧困状態に置かれた子供の現状にも目を向け、その解決策について議論できる力をつける。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際的視点から「子どもの貧困」問題を理解し、この解決策を模索し、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	子どもの貧困問題への提言	これまでの講義内容を踏まえて「子供の貧困」という問題に有効な手を打てない現代の教育政策の問題点を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、論理的に自らの意見をまとめ、「子どもの貧困」対策を自らの言葉で訴えることができるようにする。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加でき、自らの意見を述べらるよう自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。出席管理システム（レスポ）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により、到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 行政学』第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
『行政学』	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、国民生活と行政		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。		120分
2	行政サービスの範囲拡大		歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史の変遷について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、特に社会背景と行政の役割について理解を深めること。		180分
3	福祉国家の成立と課題		行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。		180分
4	行政と国民		行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。		180分
5	アメリカ行政学の歴史的展開		現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代国家に必要不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。		180分
6	アメリカ行政学と行政理論		社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政学の構成		日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	180分	
8	現代国家の政府体系		中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を梓づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	180分	
9	現代国家の政府体系の課題		行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分	
10	行政管理と行政改革		行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性和、公共性について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政が導入した、重要な概念である管理について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	180分	
11	行政活動の能率		行政管理で用いられる、能率性・効率性・経済性の用語を中心に、現代で求められる公共性について検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の能率・効率について調べておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	180分	
12	行政組織		組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織の機能について検討しておくこと。	120分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	官僚制と民主制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度について検討しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	180分
15	講義のまとめと行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	児玉 博昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を併せて履修することが望ましい。
--

【授業方法】 教科書に沿って講義形式で行う。確認問題を解きながら知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるよう努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	学期末の筆記試験によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に行う確認問題等によって到達目標①②の習得状況を評価する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業における質疑によって到達目標④の資質を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に関する解説を後日ポータルサイトで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての行政学（新版）	伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔	有斐閣	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取る）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		民間シンクタンクの研究員として官公庁の受託調査研究、自治体の計画策定支援に従事してきた。また、自治体の審議会等委員として自治体の総合計画・行政改革・政策評価、制度設計・運営について指導助言している。
		審議会や研究所での経験を活かし、行政活動の実際を具体例に挙げるなど、実務感覚のある講義を行うよう努める。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政とは何か	私たちと行政、政府はなぜ必要なのか、政府の構成、行政のとらえ方について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政とは何かについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
2	大きくなる政府の役割(1)	近代国家の発展と政府の役割の増大、官僚制化と行政国家化について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、大きくなる政府の役割について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
3	大きくなる政府の役割(2)	日本官僚制の発達と行政国家化、例外としてのアメリカについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、大きくなる政府の役割について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
4	行政学はどのような学問か(1)	政治行政分断論の登場、組織管理論の展開について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政学はどのような学問かについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
5	行政学はどのような学問か(2)	政治行政融合論と現代組織論、戦後アメリカ行政学の展開について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政学はどのような学問かについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
6	新しい行政の見方	福祉国家・行政国家への批判と新自由主義の登場、行政改革と新公共管理論、NPMからガバナンスへ、NPM、ガバナンスと日本の行政について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、新しい行政の見方について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政と行政学のまとめ		政府の役割の変化、行政学の誕生と展開について総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政と行政学について理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分
8	国と自治体を動かすしくみ		執政制度の比較、日本の議院内閣制と首相のリーダーシップ、政官関係、自治体の執政制度について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国と自治体を動かすしくみについて理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分
9	政府の姿		行政組織のとらえ方、中央府省の組織編制、行政を取り巻く組織、自治体の行政組織について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政府の姿について理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分
10	行政を担う人々		公務員制度のとらえ方、公務員の数と種類、国家公務員制度、地方公務員制度について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政を担う人々について理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分
11	変化する日本の行政		行政組織の改革、公務員制度改革、規制改革、地方分権改革と自治体の行政改革について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、変化する日本の行政について理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分
12	執政制度と行政制度のまとめ		執政・行政制度の運用実態や改革動向について総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、執政制度と行政制度について理解し、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。		120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業内試験と解説	行政と行政学、執政制度と行政制度に関する試験を実施し、試験後に問題と解答を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政と行政学、執政制度と行政制度について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
14	映画で学ぶ行政学（前半）	黒澤明『生きる』を視聴し、主人公の市民課長がなぜミイラとあだ名されるようになったのか、官僚制の理論に当てはめて議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、官僚制の特質と逆機能について考察できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
15	映画で学ぶ行政学（後半）	黒澤明『生きる』を視聴し、誰がどのようにして公園を建設したのか、政策決定のモデルに当てはめて議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政策決定のモデルを応用して事例を分析できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポシ）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーやレスポシを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。				4		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関して、身につけているかを定期試験により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験等に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説等を加える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政学 第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、行政とは	行政学について理解するために、行政、行政学とは何かについて学修する。また、行政学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政、行政学とは何かについて概説できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認や教科書の目次を見て、行政学の全体像等について把握する。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政、行政学について理解を深める。	120分
2	国家の発展と行政	国家の発展と行政について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国家の発展と行政について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、国家の発展と行政について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、国家の発展と行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	行政国家・福祉国家	行政国家・福祉国家について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政国家・福祉国家について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政国家・福祉国家について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政国家・福祉国家について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	行政学の誕生	行政学の誕生について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政学の誕生について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政学の誕生について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政学の誕生について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	行政学の発展	行政学の発展について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政学の発展について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政学の発展について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政学の発展について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	行政学の発展	行政学の発展について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政学の発展について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政学の発展について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政学の発展について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	官僚制	官僚制について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、官僚制について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官僚制について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	執政制度と行政組織	執政制度と行政組織について学修し、説明できるようになる。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、執政制度と行政組織について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、執政制度と行政組織について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、執政制度と行政組織について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	政官関係	政官関係について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政官関係について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政官関係について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政官関係について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	我が国の行政組織	我が国の行政組織について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、我が国の行政組織について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、我が国の行政組織について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、我が国の行政組織について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	行政管理論	行政管理論について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政管理論について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政管理論について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政管理論について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	行政改革	行政改革について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政改革について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政改革について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公務員制度論	公務員制度について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、公務員制度について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、公務員制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公務員制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	公務員制度改革	公務員制度改革について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、公務員制度改革について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、公務員制度改革について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公務員制度改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	行政学および行政の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政及び制度等を考慮し、行政のあり方、自らの行動について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、行政学の基礎的知識を確認し、行政のあり方について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】 教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政学第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	推奨
行政学	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館1603） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政の実態について理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、国民生活と行政		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。		120分
2	行政サービスの役割と責任範囲の拡大		歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史の変遷について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、社会背景と行政の役割について理解を深めること。		120分
3	現代と福祉国家の成立、その課題		行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。		120分
4	行政と国民		行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。		120分
5	アメリカ行政学の歴史的展開		現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。		
	事前学修	現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。		120分
6	アメリカ行政学と行政理論		社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。		
	事前学修	社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政学の構成	日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。	
	事前学修	日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	120分
8	現代国家の政府体系	中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を梓づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	120分
9	現代国家の政府体系の課題	行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分
10	行政管理と行政改革	行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性和、公共性について説明できる。	
	事前学修	行政組織のマネジメントの歴史（アメリカ行政学説史）について学習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	120分
11	行政活動における能率	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。	
	事前学修	行政の能率・効率について調べておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	120分
12	行政組織	組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。	
	事前学修	行政組織の機能について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	官僚制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
	事前学修	公務員制度について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	120分
15	前期講義の総括と行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。出席管理システム（レスポ）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により、到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 行政学』第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
『行政学』	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	中央政府の組織編制		中央政府の組織を見つつ、その内部構成を検討していく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁の特色等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、さらに中央省庁のホームページ等を見て行政組織図について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。		120分
2	行政の内部過程		行政の内部メカニズムについて検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織における、統合と調整等、そのメカニズムを説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、管理運営技術などを検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるメカニズムの理解を深めること。		120分
3	政策過程		政策過程を概説し、政策展開を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策形成・立案における、行政と国民の関係を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策とは何かについて理解しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。		180分
4	環境変化と政策		環境変化による政策の変化を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。		120分
5	政策過程分析		政策ごとに進め方や参加者が違うこと等に着目し、政策過程分析をみていく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策過程の理論や分析等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。		120分
6	行政裁量・許認可・行政指導		行政裁量について、許認可・行政指導との関連をみていく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政行為について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性和課題の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策評価	政策評価の対象と基準について検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策評価の意義と限界について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の効果について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。	120分
8	政策決定過程	政策過程における諸段階のうち、政策決定過程を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策決定過程ならびに、その過程における調整等について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策決定過程について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定などその過程についての理解を深めること。	120分
9	政策実施過程	政策過程における諸段階のうち、行政の実施を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、実施主体の課題等について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策実施過程について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策過程を全体として理解する。	120分
10	予算と会計	財政制度と予算・決算について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の財政制度とその課題について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、財政制度について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。	180分
11	議院内閣制と省庁制	行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁改革の目的などを説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、三権分立における行政について、検討しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、中央省庁改革などの理解を深めること。	180分
12	地方自治	戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、一番身近な行政である地方自治を理解し、住民意識の重要性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、地方自治について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政責任		行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、現代で求められる行政責任について、自分なりの意見を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政責任について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政責任のバランスを考えること。	180分
14	行政統制		行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政統制の必要性、なかでも国民の責任について理解する。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政内・外の存在の理解を深めること。	180分
15	講義のまとめと新たな行政モデル		行政をとりまく環境変化を検討しつつ、新たな行政モデルの必要性を検討し、その後全体のまとめを行う。
	この回の到達目標	①～④に関連して、現状の行政について理解しつつ、その問題点を説明でき、新たな行政モデルの必要性について自分の意見を持つ。	
	事前学修	初回からの教科書と講義ノートを見直し、行政内・外の役割について考察する。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	児玉 博昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を併せて履修することが望ましい。
--

【授業方法】 教科書に沿って講義形式で行う。確認問題を解きながら知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるよう努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	学期末の筆記試験によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に行う確認問題等によって到達目標①②の習得状況を評価する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業における質疑によって到達目標④の資質を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に関する解説を後日ポータルサイトで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての行政学（新版）	伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔	有斐閣	2022	教科書	必携
公共政策学の基礎（第3版）	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取ること）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	民間シンクタンクの研究員として官公庁の受託調査研究、自治体の計画策定支援に従事してきた。また、自治体の審議会等委員として自治体の総合計画・行政改革・政策評価、制度設計・運営について指導助言している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会や研究所での経験を活かし、行政活動の実際を具体例に挙げるなど、実務感覚のある講義を行うよう努める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政活動をデザインする	公共政策としての行政活動、公共政策をみる視点、政策過程における行政組織、調査と立案について学習する。	
	この回の到達目標	行政活動のデザインについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
2	法律・条例をつくる	法令の政策的機能と制度、中央府省における法案作成過程、法案作成後の対応と執行準備、自治体の条例制定について学習する。	
	この回の到達目標	法律・条例について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
3	予算をつくる	予算の政策的機能と制度、マクロ編成、ミクロ編成と会計執行、地方財政と自治体予算・計画について学習する。	
	この回の到達目標	予算について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
4	行政と社会のインターフェース	政策実現の手段と実施主体、第一線職員と対象集団、政策の評価とフィードバック、政策の失敗と行政の責任について学習する。	
	この回の到達目標	行政と社会のインターフェースについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
5	公共政策と行政活動のまとめ	行政活動の実態、政策過程と組織管理について総括する。	
	この回の到達目標	公共政策と行政活動について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
6	公共政策学とは何か、公共政策とは何か	公共政策学の誕生と2つの知識、3つの時期、3つのアプローチ、政策問題と公共政策、公共政策の基本構造、公共政策の類型について学習する。	
	この回の到達目標	公共政策学とは何か、公共政策とは何かについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アジェンダの設定、政策問題の構造化	アジェンダ設定理論、アジェンダを動かすもの、アジェンダ設定から政策決定へ、問題構造への注目、構造化の伝統的手法、議論・解釈による構造化について学習する。	
	この回の到達目標	アジェンダ設定、政策問題の構造化について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
8	公共政策の手段、規範的判断	直接供給と直接規制、経済的インセンティブ、その他の手段、政治と価値、公平、効率性、安全・安心、自由、価値の対立と政策の判断基準について学習する。	
	この回の到達目標	公共政策の手段、規範的判断について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
9	公共政策のデザインのまとめ	公共政策へのアプローチ、公共政策のデザインについて総括する。	
	この回の到達目標	公共政策のデザインについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
10	政策決定と合理性・利益	合理的意思決定の構造、政策決定の合理化への試み、合理的意思決定の限界、利益調整としての政策決定過程、利益・選好をどう考えるか、どのような利益が政治において代表されるかについて学習する。	
	この回の到達目標	政策決定と合理性・利益について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
11	政策決定と制度・アイデア	新制度論の台頭、制度による影響（決定の場とプロセス、選択肢の制約）、アイデアの概念、アイデアによる影響、政策へのプロセスについて学習する。	
	この回の到達目標	政策決定と制度・アイデアについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
12	公共政策の実施・評価	政策実施の位置づけと構造、実施の現場、実施研究のアプローチ、評価のロジック、政策評価の種類と機能、政策評価の政治性と参加について学習する。	
	この回の到達目標	公共政策の実施・評価について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共政策管理のシステム	ガバナンス、市場メカニズムの活用、地方分権と政策波及・政策革新について学習する。	
	この回の到達目標	公共政策管理のシステムについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
14	公共政策の決定とガバナンスのまとめ	政策決定と合理性、利益・制度・アイディア、公共政策の実施・評価、公共政策管理のシステムについて総括する。	
	この回の到達目標	公共政策の決定とガバナンスについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
15	授業内試験と解説	公共政策と行政活動に関する試験を実施し、試験後に問題・解答を解説する。	
	この回の到達目標	公共政策と行政活動について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポん）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーやレスポんを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、身につけているかを毎回の授業内課題(リアクションペーパー)や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験等に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説等を加える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政学 第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政理論の新動向	行政理論の新動向について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政理論の新動向について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政理論の新動向について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政理論の新動向について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	官民関係	官民関係について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、官民関係について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、官民関係について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官民関係について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	政策過程	政策過程について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政策過程について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	政策過程分析	政策過程分析について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政策過程分析について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政策過程分析について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程分析について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	政策評価	政策評価について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政策評価について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政策評価について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政策評価について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	予算・会計	予算・会計について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、予算・会計について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、予算・会計について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、予算・会計について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政組織論－古典的組織論・新古典的組織論	古典的組織論・新古典的組織論について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、古典的組織論・新古典的組織論について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、古典的組織論・新古典的組織論について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、古典的組織論・新古典的組織論について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	行政組織論－現代組織論	現代組織論について学修し、説明できるようになる。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、現代組織論について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、現代組織論について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、現代組織論について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	中央地方関係	中央地方関係について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、中央地方関係について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、中央地方関係について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、中央地方関係について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	地方自治	地方自治について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地方自治について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	行政責任	行政責任について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政責任について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政責任について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政責任について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	行政統制	行政統制について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政統制について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政統制について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政統制について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政と情報	行政と情報について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政と情報について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政と情報について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政と情報について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	行政と参加	行政と参加について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、行政と参加について概説できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政と参加について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政と参加について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	政策過程や行政責任、行政統制、行政組織論等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政策過程や行政責任、行政統制、行政組織論等について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政策過程や行政責任、行政統制、行政組織論等について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】 教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政学第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館1603） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政の実態について理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、国民生活と行政		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。		120分
2	行政サービスの役割と責任範囲の拡大		歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史の変遷について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、社会背景と行政の役割について理解を深めること。		120分
3	現代と福祉国家の成立、その課題		行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。		120分
4	行政と国民		行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。		120分
5	アメリカ行政学の歴史的展開		現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。		
	事前学修	現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。		120分
6	アメリカ行政学と行政理論		社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。		
	事前学修	社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政学の構成	日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。	
	事前学修	日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	120分
8	現代国家の政府体系	中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を梓づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	120分
9	現代国家の政府体系の課題	行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分
10	行政管理と行政改革	行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性和、公共性について説明できる。	
	事前学修	行政組織のマネジメントの歴史（アメリカ行政学説史）について学習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	120分
11	行政活動における能率	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。	
	事前学修	行政の能率・効率について調べておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	120分
12	行政組織	組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。	
	事前学修	行政組織の機能について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	官僚制		官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	現代公務員制度の構成原理		公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
	事前学修	公務員制度について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	120分
15	前期講義の総括と行政環境の変化		行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。
	この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政管理研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
行政組織の業務を目的活動と区別し、目的活動を効率的に達成できるようにするための組織と維持発展をはかるためには何が必要かを検討する。具体的にはトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントにも続き、行政活動との関連で行政管理のあり方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、国民の期待に応え、社会により貢献していく行政管理を、専門的に理解する能力を学修者に養成することを目的とする。具体的に本講義では、行政管理の基礎理論を解説しつつ、行政の効率的機能の改善・合理化を検討し、行政管理の問題点・展望を検討していく。さらに行政の目的のひとつである能率に検討を加えることで、能率よりも高い価値とされる「公益」とのバランスを学修者には考えられるようになってもらうことを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、行政管理の概念を理解し、行政管理のマネジメント機能について説明できる。					4							
②	学修者が、行政機関におけるトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントの機能に基づき、行政管理の機能を説明できる。					4		4	4				
③	学修者が、現代に求められる行政管理を能率と公益を踏まえて説明できるようになる。					4			4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の機能について理解し、行政組織の在り方を定期試験の問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	行政組織の目的		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の目的について理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておく。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味や意義について理解を深めること。		120分
2	行政組織と行政管理		行政組織と行政管理の関係について検討していく。	
	この回の到達目標	①～③に関連して組織と管理の関係について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織論について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織と管理の関係について理解を深めること。		120分
3	行政管理の機能		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、管理の機能について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理者についての機能について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理機能について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と機能について理解を深めること。		120分
4	意思決定と行政管理		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、意思決定との関係を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の意思決定と管理機能の関係について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政の意思決定過程について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と意思決定の理解を深めること。		120分
5	行政管理と基本構想		行政管理と基本構想などの具体的な事例を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、具体的な行政活動と管理の関係を説明できる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想などを見ておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分が住む自治体の方向性と行政管理について検討を加えること。		120分
6	政策と行政管理		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、政策実施・行政組織との関係を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、政策実施における行政管理の機能について理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、政策とは何かについて理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と政策、行政の部署の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	行政責任と行政管理	行政責任の変遷と、行政管理の関係について学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政に求められる責任の変化と行政管理の変化について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政責任とは何かについて理解しておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理の考え方や変化について理解を深めること。	120分	
8	トップ・マネジメント	行政管理における、トップ・マネジメントについて学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、トップ・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、トップ・マネジメントについて調べておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるトップ・マネジメントと行政管理の役割についての理解を深めること。	120分	
9	ミドル・マネジメント	行政管理における、ミドル・マネジメントについて学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、ミドル・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、ミドル・マネジメントについて調べておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるミドル・マネジメントの役割についての理解を深めること。	120分	
10	ローアー・マネジメント	行政管理における、ローアー・マネジメントについて学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、ローアー・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、ローアー・マネジメントと行政サービスの実施段階について理解しておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるローアー・マネジメントの役割についての理解を深めること。	120分	
11	行政評価と行政管理	行政管理と行政評価の関連について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政評価と行政管理の機能の関連を説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政評価と政策評価について理解しておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理と行政評価を経営管理の側面から理解を深めること。	120分	
12	行政理論と行政管理	行政理論の変遷と行政管理について学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政理論とその時代の行政管理の考え方の関係を説明できる。説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政理論と行政管理の関係について、歴史と照らし合わせて理解しておくこと。	120分	
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代の要請に基づく行政管理について理解を深めること。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	行政管理における管理者の役割		歴史・社会背景を見つつ、時代に求められる管理者について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、社会変化に伴う、管理者の役割変化について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理者の意味について復習しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代ごとの管理者の役割について理解を深めること。		120分
14	NPMと行政管理		NPMを含めた、新しい行政管理についてグループディスカッションを行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、現代的な行政管理について意見が言えるようになる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、NPMと行政の能率について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、現代に求められる行政管理について検討すること。		120分
15	講義のまとめと現代的行政管理		現在求められている行政組織を、行政管理の機能に基づいて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の機能と階層別のマネジメントを理解し、現在求められる行政管理について説明できる。		
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の機能とその対象について考察する。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。		120分

科目名	行政管理論	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代行政が多岐にわたり国民の期待にさらに応え、社会により貢献していくためには、行政を科学的・能率的に管理（Managing）することが必要とされる。すなわち、行政が効率的に機能を果たすように、行政活動の改善・合理化を進め、行政機能をより一層有効に果たすことが要請されているのである。そこで本講義では、行政管理の歴史、基礎理論を解説しつつ、行政管理の問題点や展望の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政に関連する、上級科目履修のために必要な行政管理の基礎の修得を目的とする。現在国・地方も財政難と言われ、行政の効率化が叫ばれている。そこで、行政の目的のひとつである「能率」に検討を加えることで、能率より高い価値とされる「公益」とのバランスを、行政だけではなく国民自身がそれぞれ現在の行政活動には何が求められるかを学修者が考える力をつけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者が、民間と行政の管理の概念違いを理解し、行政管理の特徴を説明できる。						2						
②	学修者が、現代に求められる行政サービスとの重要性和行政管理の役割について、歴史と社会背景を関係させつつ説明できる。						2		2	2			
③	学修者が、行政管理の機能を理解し、現在求められる行政管理手法の基礎を身につける。						2			2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の概念、機能について理解し、試験の問題において課題について論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政管理の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	管理の考え方		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連を基礎にしつつ、管理の意味や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にこなせるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理の意味についてマネジメントであることを理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味について理解を深めること。		120分
2	行政の概念		歴史の中での行政活動を見つつ、その公共性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政活動の誕生と、公共サービスとは何かについて理解する。		
	事前学修	様々な教科書などを読み、行政とは何かについて、調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、公共性・公益について検討すること。		120分
3	行政組織の役割		公共性に基づく、行政組織の在り方について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政組織と民間組織の違いについて説明できる。		
	事前学修	ニュースなどを見て、関心ある行政活動について検討しておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の透明性の必要性の理解を深めること。		180分
4	行政の技術性		行政の技術性について学習し、その必要性と公共性との関係を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、現代にもとめられる行政の技術性と問題点を説明できる。		
	事前学修	身近で行われている行政活動について、ホームページなどで調べ、行政の専門性について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の専門性と公共性のバランスに検討を加えておくこと。		120分
5	管理の歴史		管理という言葉を経史的に検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、民間の管理手法から行政へ導入された「管理」の意味について理解できる。		
	事前学修	官民の管理活動を調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理についての理解を深めること。		120分
6	行政国家の成立		国家の歴史的変遷を見つつ、政府・官僚制などを検討し、行政サービスと管理手法を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、その時代に求められた行政活動と行政管理を説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政国家について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政国家の成立要因についてまとめておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政国家の展開	福祉国家への道と、行政サービスの拡大をみつつ、そこで求められる管理を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の拡大と行政管理の変化を理解できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、福祉国家について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、福祉国家への道への共通認識と、行政活動について理解を深めること。	120分
8	行政と行政管理	歴史の中で、社会背景に要請された行政活動の妥当性とは何かについて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、社会の要請と行政管理の役割について説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政機能の拡大の歴史について復習しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会に求められてきた行政活動を行うための行政の変化について検討しておくこと。	120分
9	科学的管理法	テーラーの科学的管理法と行政活動について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、テーラーの科学的管理法について説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、科学的管理法について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、なぜ科学的管理法を行政が導入する必要性があったかを検討しておくこと。	120分
10	POSDCORB	ギューリックのPOSDCORBを検討しつつ、行政における管理の必要性について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理機能について説明できる。	
	事前学修	組織における管理機能について検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政機能の拡大と管理を関連させて理解を深めること。	120分
11	行政管理の理念と概念	行政組織における「管理」の意味について、キーワードを用いて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の効率性について自分の意見が言えるようになる。	
	事前学修	行政の効率性について、検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の目的と行政組織について理解を深めること。	120分
12	現代行政と行政管理の役割	行政の能率について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の能率に関する考えを説明できる。	
	事前学修	自分が住んでいる地域の財政について調べておくこと。	60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、能率の考え方について検討しておくこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政管理における効率と経済性	行政の目標を効率性・経済性を踏まえて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体の行政とは何かについて、自分の意見が言えるようになる。	
	事前学修	行政の効率性と、公益について、検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分にとって必要な行政活動について検討しておくこと。	120分
14	行政管理と公益	現代行政に求められる行政管理について、グループディスカッション行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理と公共性について説明できる。	
	事前学修	「公益」を中心に文献を読み、行政活動を検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を総合的に理解しておくこと。	120分
15	講義のまとめと行政管理	現在求められている、行政管理について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を踏まえて、行政管理を説明できる。	
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の役割について考察する。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政広報研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、社会とのコミュニケーション手段である「広聴広報」を戦略的に展開するいわば「戦略的広報」に焦点をあてる。そのため「戦略的広報」を実施していくにあたって、広聴広報行政の課題である「役割分担の明確化と連携の強化」、「PDCAサイクルのCAの強化」、及び「情報の共有化」の推進など、戦略的広報に必要となる情報創造・経営意思の明確化・組織内外の情報収集などの課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政課題を専門的に解決する能力の養成を目的とする。具体的には、行政環境の変容における現代の行政機関と地域住民とを結ぶパイプ・ラインの醸成の仕方、行政と住民の善意友好関係を築く行政広報・広聴（PublicRelations）を出発点として、広報活動を多角的に考察し、市民との関係を調整する、Public Relationsの優れた機能を検討することで、行政組織におけるマネジメントとしての行政広報を理解できるようになることを学修者の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者が、行政の新しいモデルと行政広報の関係の必要性と、そのキーワードを説明できるようになる。						4						
②	学修者が、行政課題解決に用いられるための、行政広報の機能を身に着ける。						4		4	4			
③	学修者が、行政広報戦略を立案できるようになる。									4	4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の機能を理解ししつつ、その戦略等について理解し、試験問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報のマネジメントを指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	広報戦略のキーワード	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーション、行政マネジメントの関係について理解できるようになる。		
	事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。		180分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。		60分
2	広報・広聴の理論	行政広報に関する、理論などを学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の一般理解と理論の違いについて説明できるようになる。		
	事前学修	日本における広報の一般理解について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、一般的に考えられている行政広報と、講義内で説明した理論を比較し理解を深めること。		120分
3	行政組織内における広報・広聴の役割	行政経営と行政広報の役割について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、現在求められる行政経営という言葉と、行政広報の関連を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体などの広報紙を読んでおくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営の必要性について理解を深め、行政広報との関連をまとめる。		180分
4	行政組織外における広報・広聴の役割	行政の基本方向と行政広報の関連について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体とは何かについて理解できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、予算など自分の生活する地域を知っておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の基本方向と住民の関連について理解を深めること。		120分
5	広報・広聴制度の検討	行政組織内外の関係構築について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報による、組織内外のマネジメントの必要性を理解することができるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、広報課などの仕事を理解しておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報による協力のネットワーク作りについての理解を深めること。		180分
6	広報・広聴戦略立案	具体的事例を解説しつつ、行政広報と行政の方向性について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政と市民が同じ方向性を共有するための広報戦略を理解することができるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想を見ておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政と住民の関係をまとめておく。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	広報・広聴と地域活性化		具体的事例を解説しつつ、行政広報における「選択」・「統合」・「関係」・「価値」を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政と住民のコミュニケーションの必要性について説明できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の活性化方策など、地域の方向性をみておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営と行政広報の関連をまとめる。		120分
8	地域経営と広報・広聴戦略		ハコ作りから、コト作りへの変化の要請について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報と地域の価値について説明できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の財政を見ておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、地域財政と行政広報の役割についての理解を深めること。		180分
9	広報・広聴マネジメント		中枢管理機能としての行政広報を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の役割について説明できるようになる。		
	事前学修	どこか民間企業のホームページなど見て調べ、その広報活動中心に活動を知っておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政マネジメントと行政広報の役割をまとめておくこと。		120分
10	住民との合意形成		合意形成と行政広報の役割について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政対住民、住民対住民の対立構造について理解できるようになる。		
	事前学修	合意形成の必要性について、官民の活動を見ておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、合意形成における行政広報の具体的実施方法について理解を深めること。		120分
11	迷惑施設と合意形成		合意形成における、行政対住民・住民対住民など対立関係改善の行政広報をグループディスカッションを行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の説明責任と行政広報について理解できるようになる。		
	事前学修	迷惑施設とは何かについて、理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、関係改善のための行政広報の役割についての理解を深めること。		120分
12	迷惑施設と行政広報機能		行政広報による価値の共有の手法について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、広聴を軸に、従来型行政広報の活動と現在の違いを説明できるようになる。		
	事前学修	民間企業における地域開発事例、地元の企業誘致活動などを調べておくように。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来型の行政広報との違いについて理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	迷惑施設と行政広報の行政広報の課題		迷惑施設の建設プロセスなどの事例を解説し、課題を検討する。
	この回の到達目標	①～③に関連して、迷惑施設における行政の問題点を示すことができるようになる。	
	事前学修	身近にある迷惑施設と、自らの関係を調べ、自分で問題意識を持つておくように。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分なりの解決策をまとめる。	120分
14	広聴と広報の連動		双方向性」・「協働」・「コミュニケーション」・「マネジメント」と行政広報の関連について学習する。
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の関係を説明できるようになる。	
	事前学修	双方向コミュニケーションについて調べておくように。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働へと導く行政広報戦略についてまとめる。	120分
15	講義のまとめと広報行政		行政活動における、広聴の重要性を再確認し、コミュニケーションに基づく行政活動の確立を検討する。
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民本位の行政活動とは何かについて、行政広報に基づき問題点を明らかにすることが出来るようになる。	
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報・行政マネジメント・協働・地域経営について考察する。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政広報論	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義において、学修者は行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政広報の歴史・概念・方法論を理解し、社会の課題解決に役立てるための行政広報の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政活動における、市民とのコミュニケーション実践の基礎を養成することを目的とする。市民の関心を引く広報技術、さらに行政広報・広聴（Public Relations）の優れた機能を検討することで、コミュニケーション・マネジメント戦略としての行政広報を理解し、そうしたマネジメントを立案できる能力がつくことを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 関連する事象についてグループディスカッションを行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、行政広報の概念を理解し、一般に理解されている行政広報の問題点を批判できる。				2							
②	学修者が、現代に求められる行政と市民の協働の重要性と行政広報の役割について説明できる。				2		2	2				
③	学修者が、行政広報の機能を理解し、社会の諸問題の解決方法を身に着ける。				2			2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の概念、機能について理解し、試験の問題において課題が論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	行政広報のキーワード		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーションの関係について理解できるようになる。		
	事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。		180分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。		60分
2	広報の概念		広報の概念について、その多義性・共通性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の正しいイメージを再確立できるようになる。		
	事前学修	広報という言葉や、辞書などで調べておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報に関する一般理解と講義での説明の違いについて理解しておくこと。		180分
3	広報の歴史		広報の歴史を見つつ、広報活動の発展と変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、広報機能の歴史的変化を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	自分の身の回りの広報の対象について、官民組織ごとに検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会背景と広報の発展段階の理解を深めること。		120分
4	広報の理論的考察		広報とその対象を検討しつつ、理論的な変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の主体・客体を理解し、現状の問題点を説明できるようになる。		
	事前学修	広報における情報の方向性について、情報の送受信を基礎に検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代・対象・理論についてまとめておくこと。		120分
5	行政広報と自治体		自治体における政策と、行政広報のかかわりについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、自治体の政策と行政広報の関連、並びに重要性を理解できるようになる。		
	事前学修	自分の住んでいる自治体の広報紙またはホームページを見ておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自治体の基本計画・経営方針などについて、検討しておくこと。		180分
6	行政広報の課題確認		行政広報の一般理解として認識されている、一方向性について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報がPublic Relationsであることを理解し、その機能を説明できるようになる。		
	事前学修	広報における対象とのコミュニケーション活動について、具体的活動を官民の活動を通して検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報＝Public Relationsという理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	アクターの相互関係	双方向コミュニケーションとしての行政広報を検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の双方向コミュニケーションの必要性について説明できるようになる。		
	事前学修	広報における主体・客体について検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織における双方向コミュニケーションの必要性についての理解を深めること。		120分
8	行政広報と組織マネジメント	組織マネジメントにおける行政広報の位置づけについて学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報組織の環境整備の重要性について理解できるようになる。		
	事前学修	行政と民間企業の広報担当の組織の位置づけについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、中枢管理機能と行政広報についての理解を深めること。		120分
9	市民との信頼関係構築	市民協働の視点と、行政広報について学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民との協働手法としての行政広報が説明できるようになる。		
	事前学修	地域における「市民の役割」と、「市民」という言葉について調べておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働と行政広報の関係についての理解を深めること。		180分
10	地域社会と政策	ニーズの把握における広聴の重要性について学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民ニーズの多様化と、それを聴く手法である広聴の必要性和政策への反映について説明できるようになる		
	事前学修	行政組織と環境変化について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政における広聴の重要性の理解を深めること。		120分
11	市民の社会参加と行政広報	行政の社会変化対応と行政広報について学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、新しい行政モデルの必要性和行政広報の関係について理解できるようになる。		
	事前学修	行政における参加の意味について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、プロデュース型行政の理解を深めること。		120分
12	合意形成と行政広報	迷惑施設など、行政対応と行政広報をグループディスカッション行いつつ検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政における調整コミュニケーション手法の必要性について理解できるようになる。		
	事前学修	自分に身近な行政サービスなどについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、市民とのコミュニケーションの重要性の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広報戦略の組織的展開	行政広報戦略と戦術の必要性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、協働のマネジメントとしての行政広報手法を理解できるようになる。	
	事前学修	市民と行政の協働について、具体例や必要性について調べておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来の一方的な広報では、市民の理解は得られないという認識を深めること。	120分
14	広報戦略とメディア	市民との情報ギャップを埋める、行政広報戦略と情報発信媒体であるメディア工夫について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政実務における基礎となる、住民とのコミュニケーションと政策の関係について理解できるようになる。	
	事前学修	行政と市民のコミュニケーションの必要性とその方策について、調べておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、コミュニケーションに基づく仕事への転換についての理解を深めること。	120分
15	講義のまとめと協働型行政広報	現在求められている、協働型広報について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の協働による共同作品とは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報＝Public Relationsの役割について考察する。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政実務演習	担当者	福島 康仁 岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	○

【授業の概要】 行政機関や非営利法人などにおいて2週間以上のインターンシップを行うことを前提とする。インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成に資することを目的とする。 インターンシップにより行政の理論と実際に体験することで、より理論的考察を深化させ、多角的思考ができるようになることを目標とする。

【履修条件】 ①ガイダンスをオンデマンドで視聴すること。②学内で行われるインターンシップ・マナー講座を受講すること。③公職につく意思があること。その他の事項について詳細はガイダンス期間中に説明する。

【授業方法】 この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。なお、インターンシップ先は、行政機関が行う公募によって決定する方法と本学部が提携する機関で行う方法（学内での選抜）を予定している。 事後レポートの講評を行う。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習を通じて意見を述べなければならないので、ほとんどの演習時間中、教員との質疑応答をおこなう。またレポートの添削をつうじて常にフィードバックと作業を繰り返す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者として必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4			4				
②	各種の政策課題の認知、公共的な解決に当たって規範的判断について理解し説明できる。									4			
③	課題解決の優先順位、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。										4		
④	政策課題の規範論の観点から積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。											4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について公共政策規範の諸論点・具体的事例への適用等について、学術論文の技法を駆使して説明できているか等をレポートにより評価する。	20	10	10								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(実務演習)	到達目標①②④について公共政策規範、具体的に現場への適用等について実践できるかを評価する。	20	20		20							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時レポートの添削指導をおこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメール（fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp）などでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体の審議会委員としての経験を生かして、実務的な場面を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業計画の説明とこの演習の位置づけ	インターンシップとは行政機関の公募試験の概要、学内選抜試験の概要について学修する。	
	この回の到達目標	インターンシップの位置づけについて説明できる。	
	事前学修	インターンシップガイダンスに参加していること。	120分
	事後学修	履修条件と自分の将来との関係を考える	120分
2	インターンシップの選択方法について	インターンシップの選択方法や考え方について学修する	
	この回の到達目標	インターンシップの選択方法や考え方について説明できる	
	事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
	事後学修	インターンシップの選択しその理由について考える	120分
3	インターンシップ先での学修について	インターンシップの選択し何を学ぶ事項について学修する	
	この回の到達目標	インターンシップの何を学ぶ事項について説明できる	
	事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
	事後学修	実習をしたいインターンシップ先について考える	120分
4	エントリーシートの書き方	エントリーシートの書き方について学修する	
	この回の到達目標	エントリーシートのひとり書きあげることができる	
	事前学修	エントリーシートを自分の視点で記述してみる	120分
	事後学修	エントリーシートを指摘事項を修正する	120分
5	エントリーシートの留意点	エントリーシートの作成時の留意点について学修する	
	この回の到達目標	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業ができる	
	事前学修	エントリーシートを指摘事項を踏まえて作成する	120分
	事後学修	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業する	120分
6	事前レポートの作成	事前レポートの形式と内容について学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの形式と内容について説明できる	
	事前学修	レポートの作成方法についてインターネットを用いて調べてくる	120分
	事後学修	事前レポートの骨格を作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事前レポートの留意点	事前レポートの留意点について学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの形式と内容の留意点について説明できる	
	事前学修	事前レポートの骨格について説明できるように準備をする	120分
	事後学修	事前レポートを留意点を意識しながら作成する	120分
8	事前レポート作成のための調査手法	事前レポート作成のための調査手法について学修する	
	この回の到達目標	事前レポート作成のための調査手法について説明できる	
	事前学修	事前レポート作成のための調査方法を調べてみる	120分
	事後学修	事前レポート作成のための調査してみる	120分
9	読みやすい事前レポート	読みやすい事前レポートについて学修する	
	この回の到達目標	読みやすい事前レポートについて学修する	
	事前学修	読みやすい事前レポートとはなにか考える	120分
	事後学修	読みやすい事前レポートのための工夫する	120分
10	事前レポートの作成	事前レポートの完成にむけて学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの完成にむけて完成する	
	事前学修	事前レポートの完成にむけて不足分を考える	120分
	事後学修	事前レポートの完成させる	120分
11	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し仕事の在り方について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分
12	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し使命感について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し働き方について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分
14	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの形式について学修する	
	この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの的確な形式について説明できる	
	事前学修	メモをまとめてレポートを作成する	120分
	事後学修	アドバイスをもとに修正する	120分
15	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点について学修する	
	この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点をふまえてレポートを作成できる	
	事前学修	レポートの総仕上げをする	120分
	事後学修	提出後の反省を整理する	120分

科目名	行政組織研究	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今後の公共政策の学習及び実社会での各種活動等において必須の知識となる我が国行政組織の原理・編成を体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手としての基礎的知識を獲得するために、我が国中央行政組織の編成原理、内閣・府省組織の基本的構造及び独立行政法人制度などを体系的に学習し、実際の行政現場や公共政策課題解決の場において円滑に行動するための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	既存の組織理論にとらわれず、自ら日本行政組織の特性を分析し説明できる。				4		4					
②	現代日本の行政組織の問題点は何か、その改善のためには何が求められるか自分の言葉で説明できる。							4				
③	地域社会における行政組織の実態を知るための、実地調査・ヒアリングなどの調査手法を実行できる。								4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業等におけるグループワークにおいて自分の意 見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかか わる説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	
期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		累次の国家行政組織法改正や組織新設査定に従事した経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び行政組織の基本構造 1（基本法制等）		①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②行政組織法制と機構定員管理の概要を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、国家行政組織法及び機構定員管理の基本的仕組みを説明することができる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②行政法テキスト等により国家行政組織法及び総定員法の概要を学習しておく		180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		180分
2	行政組織の基本構造 2（省庁トップマネジメント）		各省庁のトップ層を構成する大臣、副大臣、大臣政務官、事務次官等の組織制度・機能等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省庁の大臣等の役割を説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法の大臣等に係る規定を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
3	行政組織の基本構造 3（省庁内部部局）		各省庁の基本組織となる局・部・課などの制度・機能等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政組織特有のライン組織及びスタッフ組織の基本的構造や組織編制の考え方を説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により局・課等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
4	行政組織の基本構造 4（庁・委員会・審議会）		①同じ基本的行政機関である府省と庁・委員会との役割分担や、②いわゆる3条機関としての委員会と諮問機関としての審議会の違いについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本府省と外局との違い、諮問機関としての審議会と外局としての委員会との違いなどについて説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により庁・委員会・審議会等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
5	行政組織の基本構造 5（施設等機関・地方支分部局）		施設等機関の類型・機能、地方支分部局の役割等について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省にどのような機関等が設置され、どのような役割を果たしているか説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法等により施設等機関・地方支分部局等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
6	内閣・内閣官房の組織体制		内閣・内閣官房がどのような組織から構成され、どのように機能発揮しているかを学ぶ。特に各省庁にまたがる内外の情報関係業務がどのように調整され、統合されているか調べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣等の総合調整機能・政策企画機能の発揮のために、どのような組織設計がされているか、特に情報機関相互の連携等がどう確保されているか説明することができる。		
	事前学修	内閣法の規定を読んでおくとともに、内閣官房等の公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	内閣府の組織体制①（内部部局・各種会議体）	総合調整機関及び政策実施機関の双方の性格を持つ内閣府の組織体制・機能を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣官房と内閣府はどのように機能分担しているのか、各省庁とはどのように組織体制・機能が異なるのか説明することができる。	
	事前学修	内閣府設置法及び内閣府公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
8	内閣府の組織体制②（警察・公取・宮内庁など）	内閣府の外局である各庁・委員会にどのような組織・機能上の特徴があるか学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣府の外局はどのように機能分担しているのか、そのためにどのような組織体制をとっているのか説明することができる。	
	事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
9	内閣府の組織体制③（金融・消費者・復興庁など）	比較的最近に設置された内閣府外局の設置経緯・組織上の特徴等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、新たな内閣府の外局はどのような経緯で設置されたのか、組織設置が実現するためには、どのような条件が必要なのか説明することができる。	
	事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
10	行政コントロール機関（内閣人事局、人事院、会計検査院）	各省庁の監督機関の立場にあり、組織上も独自の位置づけを与えられている各種組織の制度・機能等を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政コントロール機関設置の必要性や、そのために与えられた権限や機能発揮のための制度等を説明することができる。	
	事前学修	各機関の根拠法及び公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
11	省庁組織 1（総務・法務・外務・財務省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に最も新しい庁である出入国在留管理庁の設置経緯等について調べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び新たな出入国在留管理庁はどのような経緯で設置されたのか、説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
12	省庁組織 2（厚労・文科・農水省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は文科省の業務運営の実態等について組織面から理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び文科省の業務運営にはどのような特徴があるのか説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイト閲覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	省庁組織3（国交・環境・防衛省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は原子力規制庁等の組織制度及び防衛本省と自衛隊との関係などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び原子力規制行政・防衛行政の特徴について組織面から説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
14	独立行政法人制度	各府省と一体となって重要な業務を実施する独立行政法人の制度・実態を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、独立行政法人の主要制度、組織類型、代表的な法人の業務実態等について説明することができる。	
	事前学修	独立行政法人通則法及び主要法人の根拠法・公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	60分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	60分

科目名	行政組織論	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
組織論の代表的な理論について、特に行政組織・非営利組織を特徴づける基本要素は何か、その行動原理はどのようなものかを体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基礎的素養を身に付けるために、組織とは何か、どのような原理で組織ができるのか、行政機関・NPO等は民間企業とどこが異なるのか、その具体的な働きの特徴は何か等を理解し、自己の立場を確認しつつ他者との関係の中で課題解決を円滑に進める能力を修得する。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭に行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回、授業内レポートを課す。必ず毎回授業に出席すること。中間テストと期末テストを実施し、理解度のチェックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数の関係上、グループワーク等は実施できないが、毎回、レポートのフィードバックを行うことで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間集団としての組織の本質を学び、組織人としての心構えを身に付け、行動で示すことができる。				2							
②	組織とは何か、すぐれた組織の特性は欧米理論に頼らず、自らの分析に基づいて述べるることができる。						2					
③	現代日本の行政組織の問題点は何か自分の言葉で説明できる。							2				
④	現代日本の行政組織について、主要理論に照らしてどのような改善策が考えられるか、自分の言葉で提案できる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④について、行政組織に関する基礎知識を理解できているか、自分の言葉で説明できるかを筆記試験により評価する。	10	15	15	15							55
小テスト等	到達目標②③④について、行政組織に関する基礎知識を理解できているかを小テストにより評価する。		5	5	5							15
レポート等	到達目標②～④について、授業内レポートで理解度を評価する		10	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートは、次回の授業で、全体の傾向についてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の2限とする。事前に次のメールに連絡し、アポイントメントをとること。hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った行政組織に関する基礎知識を整理し、自分の考えを整理し、次回の授業で発表できるようにとりまとめておくこと。	120分
2	行政組織に関する理論	行政組織に関する基礎理論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、行政組織に関する基礎理論を理解し、民間企業との違いなどについて自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	国と地方公共団体の行政組織について調べ、民間企業などの営利組織との違いについてとりまとめ、授業で発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	行政組織に関する基礎理論を整理し、それが国と地方公共団体の組織運営のどの点に見て取れるかを整理しておくこと。	120分
3	国と地方公共団体の行政組織（１）	国と地方公共団体の組織に関する基礎理論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国と地方公共団体の組織に関する基礎理論を理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	内閣と国会の関係、首長と地方議会の関係について、インターネット上で情報収集・整理を行い、相違をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	国の中央省庁と都道府県庁の基本構造を整理し、基礎理論と関連させながらとりまとめておくこと。	120分
4	国と地方公共団体の行政組織（２）	国と地方公共団体の組織の基本構造を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国と地方公共団体の組織についての現状と課題を理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	国と地方公共団体の執行機関の所掌業務について整理し、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で課題として取り上げた中央省庁と地方公共団体の執行機関の組織について調べ、現状と課題をとりまとめておくこと。	120分
5	地方公共団体の組織（１）	長の地位と権限について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方公共団体の長の地位と権限を理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	首長の職務について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	自分の関心がある首長の職務の状況について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。	120分
6	地方公共団体の組織（２）	長の補助機関について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方公共団体の長の補助機関を理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	首長の補助機関・補助組織について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	自分の関心がある地方公共団体の副知事・副市町村長、会計管理者、地方公営企業の管理者について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公共団体の組織（３）		長の補助組織について学修する。中間テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方公共団体の長の補助組織を理解し、自分の言葉で説明することができる。第６回までの講義の基礎知識を確実なものとする。		
	事前学修	地方公共団体の内部組織の編成と所掌する事務について、情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。中間テストの準備をしておくこと。		120分
	事後学修	自分の関心がある地方公共団体の本庁組織と出先機関について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。		120分
8	地方公共団体の組織（４）		ゲストスピーカーの講演を通して、地方公共団体の組織に関する現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの講演を通して、地方公共団体の現状と課題について整理し、自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	ゲストスピーカーの所属する地方公共団体について、その概要と課題についてとりまとめ、質問を考えておく。		120分
	事後学修	ゲストスピーカーから提示された課題について検討し、とりまとめておくこと。		120分
9	地方公共団体の組織（５）		地方公共団体における委員会制度、委員について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方公共団体における委員会制度と委員を理解し、自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	教育委員会制度について、情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。		120分
	事後学修	自分の関心がある地方公共団体の教育委員会について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。		120分
10	地方議会（１）		地方議会の基本構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方議会の地位と権限を理解し、自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	地方議会について、情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。		120分
	事後学修	自分の関心がある地方議会について、インターネット上で情報収集・整理を行い、その特徴をとりまとめておくこと。		120分
11	地方議会（２）		地方議会に関する現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方議会の現状と課題について整理し、自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	自分の住む地方自治体の議会について、その概要と課題についてとりまとめ、質問を考えておく。		120分
	事後学修	提示された課題について検討し、とりまとめておくこと。		120分
12	行政組織の改善策（１）		地方公共団体の組織に関する現状と課題を整理し、現状と課題について学修する。なお、進め方は、受講者数を鑑みて決定する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、行政組織の現状と課題について、グループワークで分析を進めながら、とりまとめ、その特質について説明することができる。		
	事前学修	グループで選択した特定の地方公共団体の組織に関する現状と課題を整理しておくこと。		120分
	事後学修	グループワークを通して抽出した課題について、グループのメンバー間で役割分担をして調査をしておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政組織の改善策（２）		ゲストスピーカーの講演を通して、地方公共団体の組織に関する現状と課題を整理し、現状と課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの講演を通して、行政組織の現状と課題についてとりまとめ、その特質について説明することができる。	
	事前学修	ゲストスピーカーの地方公共団体の組織に関する現状と課題を整理しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーから提示された課題について検討し、とりまとめておくこと。	120分
14	行政組織の改善策（３）		地方公共団体の組織に関する現状と課題を整理し、現状と課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、行政組織の現状と課題について、グループワークで分析を進めながら、とりまとめ、プレゼンテーションでその特質について説明することができる。	
	事前学修	プレゼンテーションに向けて、各グループで最終のとりまとめを行う。	120分
	事後学修	プレゼンテーション時に指摘された課題を修正し、提出する資料を作成する。	120分
15	総括・授業内試験		これまでの授業で扱った公共政策の現状と課題を整理し、今後の地方自治の展望について学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方創生の現状と課題をグループで検討し、公共政策と関連づけながらプレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で学習した内容について整理し、授業内試験への準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った行政組織に関するする知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	鵜澤 剛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。 毎回の授業終了後に、確認テストとして、比較的短めの文章の誤りを指摘させる問題を5問前後出題し、次回授業の冒頭で内容を確認する。 定期試験は、この確認テストから、10問出題される。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルームなどにて、適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第4版）	池村正道編	弘文堂	2022年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第8版）	斎藤誠ほか編	有斐閣	2023年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み 研究室（本館6階1615）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・行政法の全体像	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要について、他の法分野との対応関係にも触れつつ、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、あらかじめ教科書の目次等（参考資料がある場合には、参考資料も）を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書の目次等（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。行政法の概要について、他の法分野との対応関係にも触れつつ、説明できるか、確認する。	120分
2	法律による行政の原理	法律による行政の原理3つの内容、およびその一つである法律の留保原則の妥当範囲について、具体例を交えつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の3つの内容および相互関係、法律の留保原則の妥当範囲について、具体例をあげて説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
3	行政の組織①	行政組織の一般理論、国の行政組織の基本的構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政組織の一般理論を構成する基本的概念について説明することができる。国の行政組織の基本構造について、国家行政組織法や各省庁設置法の規定に照らしながら説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
4	行政の組織②	地方公共団体の行政組織の基本構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の組織について、地方自治法等の規定を参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
5	行政の組織③	内部関係と外部関係の区別について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内部関係と外部関係の区別について説明することができる。あわせて、機関と公務員の区別について説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
6	行政処分の意義と種類①	行政処分の概念、およびその分類としての命令的行為と形成的行為の区別、法律行為的行政行為と準法律行為的行政行為の区別について、条文に即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分の概念について、私法上の法律行為との対比を交え、説明することができる。命令的行為と形成的行為の区別、法律行為的行政行為と準法律行為的行政行為の区別について、条文の具体的定めを参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	行政処分の意義と種類②		行政処分の分類としての許可と特許、設権行為、下命などについて、条文に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、許可と特許の区別、設権行為の性質、下命の概念などについて、条文の具体的定めを参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
8	行政処分の意義と種類③		行政処分の分類としての確認、通知、公証などの行為、および対人処分と対物処分の区別などについて、条文に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、確認、通知、公証などの行為の性質、対人処分と対物処分の区別などについて、条文の具体的定めを参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
9	行政処分の成立と発効・失効		行政処分が何によって成立し、発効し、失効するのかについて学修する。とりわけ、行政処分の職権取消しおよび撤回について、その意義、両者の異同、法律の根拠の要否、その制限について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分の成立要件と効力要件の区別、行政処分の成立、発効、失効の原因にどのようなものがあるかについて説明することができる。また、職権取消しと撤回の違い、法律の根拠の要否について説明することができる。取消し・撤回の制限について、具体的場面を想定して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
10	行政処分の特殊な効力		行政処分の特殊な効力（とりわけ公定力）について、その内容と問題の現れ方を具体例に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分の特殊な効力としてどのようなものがあるかについて、説明することができる。公定力の概念、公定力が生ずる具体的範囲、公定力の限界について、具体例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
11	行政処分の瑕疵・総説		行政処分の瑕疵の意義および種類、瑕疵の治癒と違法行為の転換などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分の瑕疵の概念・分類について説明することができる。瑕疵の治癒、違法行為の転換について、具体的場面を想定して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
12	取消しすべき瑕疵と無効の瑕疵		取消しと無効の区別、無効の瑕疵を認める実益、無効の判断方法などについて、具体的事例に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しと無効の意義および異同、無効の行政処分を認める実益について説明することができる。無効の瑕疵の判断方法、それがどのような場合に認められるかについて、具体的場面を想定して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政処分と裁量①		行政裁量の意義、およびどの段階にどのような理由から裁量が認められるのかを、処分の根拠法規の定め方に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分における裁量が、どのような場合に、どのような理由から認められるのかを、条文の具体的定めを参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
14	行政処分と裁量②		裁量処分の統制方法について、判例を交えつつ、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政処分における裁量の司法的統制がどのように行われているかを、裁判例を参照しつつ、また、具体的な条文の定めにも照らしながら、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
15	行政処分の手続①		憲法と行政手続の関係について確認した上で、行政手続法の全体像について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続に対する憲法の適用、行政手続法の適用範囲、および行政手続法の定義規定や章立てについて、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
16	行政処分の手続②		申請に対する処分に関する行政手続法の規律内容、および各手続において瑕疵があった場合の効果について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、申請に対する処分について、行政手続法がどのような規定を置いているか、その趣旨は何か、について説明することができる。また、これらの手続に瑕疵があった場合、瑕疵ある手続を経て行われた処分がどのように評価されることになるかについて、判例を参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
17	行政処分の手続③		不利益処分に関する行政手続法の規律内容、および各手続において瑕疵があった場合の効果について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不利益処分について、行政手続法がどのような規定を置いているか、その趣旨は何か、について説明することができる。また、これらの手続に瑕疵があった場合、瑕疵ある手続を経て行われた処分がどのように評価されることになるかについて、判例を参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
18	行政調査および調査の瑕疵の効果		行政調査の意義、分類を理解したうえで、令状主義等の適用の有無、収集資料の適法な利用範囲、調査手続について学修する。また、行政処分の前提として行われた調査手続に瑕疵があった場合に、それが行政処分の違法事由となるかどうかについて、行政処分の根拠法規の定め方と関連づけつつ学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査の意義・分類、令状主義等の適用の有無、収集資料の適法な利用範囲、調査手続について、説明することができる。また、違法な調査を経て処分が行われた場合に、調査の瑕疵が処分の適法性にどのように影響するかについて、具体的場面を想定しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	行政強制と制裁①		行政上の強制執行と即時強制の区別、義務履行確保手段と義務違反に対する制裁の区別、行政上の強制執行の種類などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の強制執行と即時強制の区別、義務履行確保手段と義務違反に対する制裁の区別、行政上の強制執行の種類などについて、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
20	行政強制と制裁②		代執行、直接強制、執行罰、即時強制の要件や手続について、条文に即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政代執行法の定める代執行の要件について、それらが問題となる具体的場面を想定しつつ、説明することができる。行政代執行法の定める代執行の手続について、条文を指摘して、説明することができる。個別法の定める代執行、直接強制、執行罰、即時強制の概要について、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
21	行政強制と制裁③		司法的執行の可否、義務違反に対する制裁としての行政罰、氏名公表などのインフォーマルな手段について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、司法的執行の可否について、最高裁判例の内容も踏まえながら、議論状況を説明することができる。行政罰としての行政刑罰と秩序罰について、関係する条文を挙げつつ説明することができる。指名公表、給付拒否などのインフォーマルな手段について、その意義と問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
22	行政立法		行政立法の意義と種類、法律との関係等について学修する。また、委任命令の限界について、行政処分における裁量との異同を明らかにさせながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政立法の種類にどのようなものがあり、法律との関係がどのようなものかについて、具体例に照らして説明することができる。委任命令の適法性がどのように判断されるかについて、判例に照らして説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
23	条例の限界		地方公共団体の議会制定法である条例の種類、国の法令と条例との関係、条例の限界について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条例の種類、国の法令との関係について、説明することができる。また、条例の適法性がどのように判断されるかについて、判例に照らし、また、具体的な条文の定めを参照しつつ説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
24	行政計画		行政計画の意義と種類、法律の根拠の要否等について学修する。また、計画裁量について、行政処分における裁量との異同を明らかにさせながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画とは何か、行政計画にはどのようなものがあるかについて、具体例をあげて説明することができる。また、行政計画の適法性がどのように判断されるかについて、判例に照らし、また、具体的な条文の定めを参照しつつ説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	行政指導		行政指導の意義、種類を理解した上で、行政指導に対する制約としてどのようなものがあるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義、種類について説明することができる。また、行政指導に対する行政手続法の規定内容を、関係する判例がある場合はそれも踏まえつつ、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
26	行政契約		行政契約の意義、種類、行政契約がどのような場面で用いられるか、行政契約に対する制約としてどのようなものがあるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義、種類、行政契約がどのような場面で用いられるかについて、説明することができる。また、行政契約に対する制約としてどのようなものがあるかについて、具体例を挙げながら、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
27	規制権限の不行使		規制権限の不行使がどのような場合に違法になるかについて、処分等の権限の不行使とそれ以外の権限の不行使に分けて、根拠法規の定め方に即して学ぶ。	
	この回の到達目標	規制権限の不行使がどのような場合に違法になるかについて、判例を踏まえ、また、根拠法規の定め方を指摘しつつ、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
28	行政上の法律関係		公法関係と私法関係の区別、公法関係における私法の適用について、具体的事例も踏まえて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法関係と私法関係の区別、公法関係における私法の適用について、具体例をあげて、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
29	憲法原則		憲法原則としての平等原則や比例原則の内容、およびこれらが行政活動を統制する尺度としてどのように用いられるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法原則としての平等原則や比例原則の内容、およびこれらが行政活動を統制する尺度としてどのように用いられるのかについて、判例を踏まえつつ、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分
30	法の一般原則		法の一般原則としての信義則や権利濫用の禁止の内容、およびこれらが行政活動を統制する尺度としてどのように用いられるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の一般原則としての信義則や権利濫用の禁止の内容、およびこれらが行政活動を統制する尺度としてどのように用いられるのかについて、判例を踏まえつつ、説明することができる。		
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。		120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特にはありませんが、憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。

【授業方法】
対面にて講義形式で行います。また、参考資料については、受講生の人数によって授業時に配付する場合も（但し、当該参考資料を使用する初回のみ）ありますが、授業中の私語・スマホ操作の状況によっては各自で印刷をして貰うことに変更する場合もあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②に基づいて、行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、法律上の要件・効果を的確に指摘でき、かつ、これらの表現力が身に付いているかを評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルームなどにて、フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第4版）	池村正道編	弘文堂	2022年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第8版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2022年	参考書	必携
備考	本講義は、行政法総論の部分であるため行政判例百選Ⅰは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅱの部分については資料として配付することになります。百選については、直近で第8版が刊行予定となります。				

【オフィスアワー】
希望者は、授業後などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要、導入	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、あらかじめ教科書の目次等（参考資料がある場合には、参考資料も）を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の概要について理解を深める。	120分
2	行政の概念	行政法学の対象である「行政」の概念・特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の概念と特徴等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政の概念に関する学説について再確認し理解を深める。	120分
3	行政組織	行政活動の担い手である行政組織について、主に行政主体、行政機関等を取り上げ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政組織について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政主体と行政機関の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政組織について再確認し理解を深める。	120分
4	行政法の法源	行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の存在形式と特質を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動に関連する法規範を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の法源について再確認し理解を深める。	120分
5	行政上の法律関係	公法私法二元論、行政法規違反の法律行為の効力等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法私法二元論や行政法規違反の法律行為の効力等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公法私法二元論等について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、公法私法二元論等について再確認し理解を深める。	120分
6	行政過程	行政過程のあり方について、3段階構造モデルとその修正モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程のモデルについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動の法的な流れを図式化する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政過程について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政の活動（1）；行政基準①（法規命令）		行政が立法を行う場面のうち、市民の権利義務に関する基準を定立する法規命令について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法規命令の概念および種類について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法規命令の種類である委任命令と執行命令といった分類および、法規命令が問題となった事例について再確認をするようにしてください。		120分
8	行政の活動（1）；行政基準②（行政規則）		行政が立法を行う場面のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の概念およびそれが抱える問題点（いわゆる外部化現象）について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政規則が問題となった事例について再確認をするようにしてください。		120分
9	行政の活動（2）；行政計画①（行政計画の意義と種類）		行政計画とは何か、そしてまた、行政計画にはどのようなものがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の概念および行政計画の位置付けなどについて十分な説明・理解ができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。		120分
10	行政の活動（2）；行政計画②（行政計画の統制と権利救済）		行政計画は、どのようにコントロールすべきであるのか、そしてまた市民に大きな影響を及ぼす場合にどのように権利救済を行うことができるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画が行政訴訟の対象となるかどうかについて、いくつかの判例を挙げ、そしてこれについて十分な理解ができるようになる。		
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政計画が行政訴訟の対象となるかについては判例の動向を再確認するようにしてください。		120分
11	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質①）		行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為とは何か、そして日常生活のどのようなものと一致するのかといったことを十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の定義については覚えるようにしてください。		120分
12	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質②）		行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の特徴を挙げることができ、そして他の「行政の活動」などどのような違いがあるのかを十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為とその他の活動との差異については再確認をするようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	行政の活動（3）；行政行為②（行政行為の効力）		行政行為という行政の活動には、どのような特別な効力があるのかということについて学ぶこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力を挙げることができ、そしてこれらの概念を簡潔に説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の効力の種類については覚えるようにしてください。		120分
14	行政の活動（3）；行政行為③（行政行為の種類）		行政行為の種類について概観していくとともに、許可、特許そして認可について重点的に学んでいくこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類を挙げることができ、そしてこれらの種類の違いについて十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、許可と特許、許可と認可の違いについては再確認をするようにしてください。		120分
15	行政の活動（3）；行政行為④（行政行為の羈束と裁量）		行政裁量と呼ばれるものについて、種類およびわが国における展開について学んでいくこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の概念を説明することができ、その種類について十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、司法審査の有無から区別される羈束裁量と自由裁量については再確認をするようにしてください。		120分
16	行政の活動（3）；行政行為⑤（行政行為の附款）		行政行為の附款と呼ばれるものの定義や種類について学んでいくこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の附款を説明することができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、附款の種類については覚えるようにしてください。		120分
17	行政の活動（3）；行政行為⑥（行政行為の瑕疵、取消しと撤回）		取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いについて学んでいくこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いを十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料8から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消と撤回の違いについては再確認をするようにしてください。		120分
18	行政の活動（4）；行政契約①		行政契約とは何か、そしてどのような行政契約があるのかについて学んでいくこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の概念を十分理解し、その種類などについて説明することができるようになる。		
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約の概念および行政契約が登場する場面については再確認をするようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政の活動（４）；行政契約②	行政契約が問題となった事例について、掘り下げて学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約が問題となった事例を簡潔に説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約が問題となった事例については再確認をするようにしてください。	120分
20	行政の活動（５）；行政指導①	行政指導の概念およびその種類について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の概念およびその種類についてを十分理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導の概念および行政指導の種類については覚えるようにしてください。	120分
21	行政の活動（５）；行政指導②	行政指導が問題となった裁判例を確認しつつ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導が問題となった裁判例を紹介することができ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導が問題となった事例および、行政手続法における行政指導に関する規定については再確認をするようにしてください。	120分
22	行政の実効性確保（１）；行政上の強制執行①（行政代執行）	行政の実効性確保を概観すると共に、行政代執行法で規定されている代執行について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して行政の実効性確保について理解ができ、かつ、到達目標①に関連して行政代執行法で規定されている代執行について説明することができるようになる。	
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制の沿革および行政代執行の要件については再確認するようにしてください。	120分
23	行政の実効性確保（１）；行政上の強制執行②（執行罰、直接強制、強制徴収）	執行罰、直接強制、強制徴収などについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執行罰、直接強制、強制徴収などについて説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
24	行政の実効性確保（２）；即時強制	即時強制と呼ばれるものについて、行政強制との違いを意識しつつ、学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して即時強制の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政強制との違いについて理解することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制との違いについては再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	行政の実効性確保（3）；その他の義務履行確保制度（行政罰）		行政上のその他の義務履行確保制度として、行政刑罰と行政上の秩序罰について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政罰の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政刑罰と行政上の秩序罰との違いについて理解することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政刑罰と行政上の秩序罰との異同については再確認をするようにしてください。	120分
26	行政の実効性確保（4）；行政調査		行政調査について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
27	行政手続①		行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
28	行政手続②		行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
29	情報公開		情報公開法に基づいて、情報公開の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して情報公開法の規定について理解をし、到達目標②に関連して情報公開法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	グーグルクラスルーム参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、情報公開法の規定も確認するようにしてください。	120分
30	個人情報保護、まとめ		行政機関個人情報保護法に基づいて、個人情報保護の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政機関個人情報保護法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政機関個人情報保護法の規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政機関個人情報保護法の規定も確認するようにしてください。	120分

科目名	行政法 I	担当者	西原 雄二	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面授業で講義形式。授業内試験やレポート課題の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。 コロナの状況によって、変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、授業内試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第4版）	池村正道編	弘文堂	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
一部（月曜日12：10/金曜日14：30）、二部（月曜日21：10/火曜日21：10）に授業教室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を事前にざっと目を通しておくこと。	120分
	事後学修	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。	120分
2	行政法とは何か	行政法の全体像と主要なテーマについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	行政とは何か	行政の意義、特徴、種類について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の意義と特徴について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
4	行政法の法源の意義と種類(成文法源)	行政法の法源の意義と種類のうち、成文法源について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における成文法源について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
5	行政法の法源の種類(不文法源)	行政法の法源の種類のうち、不文法源の意義と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における不文法源について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、行政法の法源について自分の意見をノートにまとめること。	120分
6	行政法の効力範囲と行政上の法律関係	行政法の効力範囲、行政上の法律関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の効力範囲、行政上の法律関係の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法律による行政の原理の意義と内容	「法律による行政の原理」の意義と具体的内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、法律による行政の原理について自分の意見をノートにまとめること。	120分
8	法律の留保の妥当範囲	法律の留保の妥当範囲をめぐる学説と判例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保の妥当範囲をめぐる争いの概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
9	行政主体	行政主体の意義、種類、特色について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政主体の種類と特色について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政主体について自分の意見をノートにまとめること。	120分
10	行政機関	行政機関の意義、種類、権限について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政機関について自分の意見をノートにまとめること。	120分
11	行政過程と法	行政過程の意義、特色、対象について学修する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程の意義と概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
12	行政行為の意義と性質	行政行為の意義と性質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の意義と性質について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政行為の種類		行政行為の種類である法律行為的行政行為と準法律行為的行政行為について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類と具体例について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
14	行政行為の効力		行政行為の効力である公定力、不可争力、執行力、不可変更力について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力の種類と特色について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
15	行政裁量		行政裁量の意義、必要性、種類、司法審査について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
16	行政行為の瑕疵		行政行為の瑕疵の意義と種類について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の瑕疵の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
17	行政行為の取消と撤回		行政行為の取消と撤回の意義と相違点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の取消と撤回の意義と相違点について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深める。	120分
18	行政行為の付款		行政行為の付款の意義、種類、違法な付款とその効力について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の付款の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政立法の意義と法規命令	行政立法の意義、法規命令の特色・内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政立法の意義と法規命令の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政立法について感想をノートにまとめること。	120分
20	行政規則の意義と内容	行政立法の種類のうち、行政規則の意義と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
21	行政計画の意義と種類と根拠	行政計画の意義、種類、根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
22	行政計画の手続的統制と司法的統制	行政計画に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
23	行政指導の意義と分類	行政指導の意義、分類、法的根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
24	行政指導の手続的統制と司法的統制	行政指導に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	行政契約		行政契約の意義、種類、履行確保手段について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
26	行政上の義務履行確保の手段		行政上の義務履行確保の手段の意義や種類について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の強制手段の特色と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
27	行政手続		行政手続の意義、特色、内容について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続の特色と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
28	行政情報管理		情報公開、個人情報保護、公文書管理について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政情報管理の特色と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
29	行政調査		行政調査の意義、特色、種類、法的統制について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
30	授業内試験と解説		行政法総論の基本問題に関して、授業内試験（60分）を行い、残りの時間で解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法総論の基本的な論点について説明できる。	
	事前学修	これまでの学んだことを復習し、行政法の体系や基本的論点を考察すること。	120分
	事後学修	これまでの学んだことを再度復習し、さらに理解を深めること。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	高橋 雅夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
第二部の授業は、対面授業で実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	提出された回答が、行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、法律上の要件・効果を的確に指摘できているかを評価する。	25	25									50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出レポートの解説は、後日ポータルシステム(グーグルクラスルームを含む)にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法〔第4版〕	池村正道編	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao〇nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、あらかじめ教科書の目次等（参考資料がある場合には、参考資料も）を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の概要について理解を深める。	120分
2	行政の概念	行政法学の対象である「行政」の概念・特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の概念と特徴等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政の概念に関する学説について再確認し理解を深める。	120分
3	行政組織	行政活動の担い手である行政組織について、主に行政主体、行政機関等を取り上げ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政組織について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政主体と行政機関の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政組織について再確認し理解を深める。	120分
4	行政法の法源	行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の存在形式と特質を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動に関連する法規範を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の法源について再確認し理解を深める。	120分
5	行政上の法律関係	公法私法二元論、行政法規違反の法律行為の効力等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法私法二元論や行政法規違反の法律行為の効力等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公法私法二元論等について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、公法私法二元論等について再確認し理解を深める。	120分
6	行政過程	行政過程のあり方について、3段階構造モデルとその修正モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程のモデルについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動の法的な流れを図式化する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政過程について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法律による行政の原理 1（法律による行政の原理の意義と内容）	行政活動を法的にコントロールする原理である「法律による行政の原理」の基本的な内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の意義および具体的内容について説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律による行政の原理の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律による行政の原理の意義および具体的内容について再確認し理解を深める。	120分
8	法律による行政の原理 2（法律の留保）	法律による行政の原理のうち、法律の留保の妥当範囲等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保に関する学説について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律の留保について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律の留保の学説について再確認し理解を深める。	120分
9	法律による行政の原理 3（法律による行政の原理の例外）	法律による行政の原理の例外としての部分社会論と緊急措置のほかに、法の一般原則との抵触について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の例外および法の一般原則との抵触について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律による行政の原理の例外を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律による行政の原理の例外および法の一般原則との抵触について再確認し理解を深める。	120分
10	行政基準 1（法規命令）	行政基準の意義および私人の権利義務に関する基準を定立する法規命令の概念・コントロールのあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政基準の意義および法規命令の概念について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政基準の意義と法規命令の概念について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政基準の意義および法規命令の概念・コントロールのあり方について再確認し理解を深める。	120分
11	行政基準 2（行政規則）	行政基準のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の概念およびその外部化現象について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政規則の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政規則の概念、外部化現象およびコントロールのあり方について再確認し理解を深める。	120分
12	行政計画 1（行政計画の意義と種類）	行政計画の意義および種類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の概念および法的根拠等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政計画の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政計画の概念および行政過程における位置づけ等について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	行政計画 2（行政計画のコントロールと権利救済）	行政計画に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画に対するコントロールのあり方について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政計画に対するコントロールの概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政計画に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。		120分
14	行政行為 1（行政行為の意義と特質）	行政行為の意義と特質について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の意義と特質を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の意義・特質の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の意義および行政過程における位置づけ等について再確認し理解を深める。		120分
15	行政行為 2（行政行為の効力）	行政行為という活動形式に認められる特別な効力について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力を挙げ、説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の効力である、公定力、不可争力、執行力、不可変更力の概要を理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の効力について再確認し理解を深める。		120分
16	行政行為 3（行政行為の種類）	行政行為の分類のあり方を含め、行政行為の種類について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類を挙げることができ、それらの概念を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の種類の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の分類のあり方および行政行為の種類について再確認し理解を深める。		120分
17	行政行為 4（行政裁量）	行政裁量の意義、必要性、種類および司法的コントロールについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の意義と種類について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政裁量の必要性について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政裁量の意義、必要性、種類および司法的コントロールについて再確認し理解を深める。		120分
18	行政行為 5（行政行為の附款）	行政行為の附款の意義、種類、違法な附款とその効力について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の附款の意義と種類について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の附款の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の附款の意義、種類等について再確認し理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政行為 6（行政行為の瑕疵）	行政行為の瑕疵の種類とその是正のための法的ルートについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の取消原因たる瑕疵（取消すべき行政行為）と無効原因たる瑕疵（無効の行政行為）の相違点と、無効の判定基準について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の瑕疵の程度に応じた種類の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の瑕疵の種類と無効の判定基準について再確認し理解を深める。	120分
20	行政指導 1（行政指導の意義と分類）	事実行為である行政指導の意義、分類、法的根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政指導の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政指導の意義、分類、法的根拠について再確認し理解を深める。	120分
21	行政指導 2（行政指導の手続的コントロールと司法的コントロール）	行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールの概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政指導の手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。	120分
22	行政契約 1（行政契約の意義と分類）	行政契約の意義と分類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政契約の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政契約の意義と分類について再確認し理解を深める。	120分
23	行政契約 2（行政契約の手続的コントロールと司法的コントロール）	行政契約の手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政契約に対するコントロールのあり方の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政契約の手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。	120分
24	行政上の義務履行確保の手段 1（行政代執行）	行政上の義務履行確保の手段の概要と行政代執行について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の義務履行確保の手段の概要および行政代執行を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政上の義務履行確保の手段の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政上の義務履行確保の手段の概要および行政代執行について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	行政上の義務履行確保の手段 2（執行罰、直接強制、強制徴収）	行政上の義務履行確保の手段である、執行罰、直接強制、金銭債権の強制徴収について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執行罰、直接強制、強制徴収について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、執行罰、直接強制、強制徴収について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、執行罰、直接強制、強制徴収について再確認し理解を深める。	120分
26	行政上の義務履行確保の手段 3（行政罰）	行政上の義務履行確保の手段としての行政刑罰と秩序罰について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政罰の概念と種類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政罰の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政刑罰と秩序罰について再確認し理解を深める。	120分
27	行政上の義務履行確保の手段 4（その他の義務履行確保の手段および類似の制度）	行政上の義務履行確保のその他の手段（公表等）と直接強制に代わり多用される即時強制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、その他の義務履行確保の手段と即時強制について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公表等の義務履行確保の手段と即時強制の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、その他の義務履行確保の手段および即時強制について再確認し理解を深める。	120分
28	行政手続	行政活動の手続的コントロールのあり方を、行政手続法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続の意義を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政手続法の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政手続の意義および行政手続法について再確認し理解を深める。	120分
29	行政情報管理・行政調査	情報公開制度、個人情報保護制度、公文書管理、行政調査について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政情報管理、行政調査の意義および制度について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政情報管理、行政調査の制度の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政情報管理、行政調査の諸制度について再確認し理解を深める。	120分
30	講義のまとめ	行政法総論の体系と基本的な論点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法総論の基本的論点について説明できる。	
	事前学修	これまでの配布物、教科書等を読み返し、行政法の体系と基本的論点を考察する。	120分
	事後学修	各項目について、簡単にまとめたものを文章化し、定期試験に向けて準備をする。	120分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	鵜澤 剛	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 毎回の授業終了後に、確認テストとして、比較的短めの文章の誤りを指摘させる問題を5問前後出題し、次回授業の冒頭で内容を確認する。 定期試験は、この確認テストから、10問出題される。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。						2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。						2		2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルームなどを用いて適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第4版）	池村正道編	弘文堂	2022年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第8版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み 研究室（本館6階1615研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	この授業の全体像		行政救済法と呼ばれる分野の全体像について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済法の概要について説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
2	行政事件訴訟法の全体像		司法権に関する憲法的知識を確認し、行政事件訴訟法の意義と沿革を確認した上で、行政事件訴訟の訴訟類型や相互関係について学修する。
	この回の到達目標	主観訴訟と客観訴訟の区別（憲法との関係も含む）、抗告訴訟と当事者訴訟の区別について説明することができる。行政事件訴訟法が用意している訴訟類型について、条文を示しつつ、説明し、また、これらの相互関係（民事訴訟との関係も含む）について、具体例を示しつつ、説明することができる。行政事件訴訟法の全体構造（章立て）について、条文を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
3	抗告訴訟の対象（処分性）①		抗告訴訟の対象となる「行政庁の処分その他公権力の行使に当たる行為」の意義およびその該当性（処分性）がどのような形で問題になるかを整理した上で、公権力性が問題となる場面について、具体例に即して学修する。
	この回の到達目標	処分性が抗告訴訟の定義上の訴訟要件であることについて、条文を指摘しつつ、説明することができる。「その他公権力の行使に当たる行為」に含まれる事実行為がどのようなものかを、具体例を示しつつ、説明することができる。処分性が公権力性の有無の点で問題となる場面がどのようなものか、公権力性の有無がどのように判断されるのかについて、具体例を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
4	抗告訴訟の対象（処分性）②		引き続き処分性の問題について、法的効果の有無が問題となる場面について、具体手例に即して学修する。
	この回の到達目標	処分性が法的効果の有無の点で問題となる場面がどのようなものか、法的効果の有無がどのように判断されるのかについて、具体例を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
5	抗告訴訟の対象（処分性）③		引き続き処分性の問題について、法的効果の個別性・具体性が問題となる場面について、具体手例に即して学修する。
	この回の到達目標	処分性が法的効果の個別性・具体性の点で問題となる場面がどのようなものか、法的効果の個別性・具体性がどのように判断されるのかについて、具体例を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
6	抗告訴訟の対象（処分性）④		処分性の問題として学修した内容を振り返りつつ、処分性の問題が果たす2つの機能（成熟性の判定と訴訟類型の配分）について学修する。
	この回の到達目標	処分性の問題が、成熟性の判定と訴訟類型の配分という2つの機能を果たすことについて、具体例を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	取消訴訟（1）原告適格①		取消訴訟の訴訟要件としての原告適格がなぜ問題となるのかを確認した上で、原告適格判定の基本的考え方について学修する。
	この回の到達目標	取消訴訟の原告適格がどのような問題なのか、行訴法9条2項が適用される場面がどのようなものかを、取消訴訟の性質を踏まえつつ、説明することができる。原告適格の判定方法について、行訴法9条2項の規定を指摘しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
8	取消訴訟（1）原告適格②		前回の学修を踏まえ、原告適格の有無が判例上どのように判断されているかについて学修する。
	この回の到達目標	原告適格の有無が判例上どのように判断されているかを、具体例に即して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
9	取消訴訟（2）訴えの利益①		取消訴訟の訴訟要件としての訴えの利益の問題の所在、問題の現れ方について確認した上で、原告の側における回復すべき利益の有無が問題となる場面について学修する。
	この回の到達目標	取消訴訟における訴えの利益がどのような問題か、どのような形で問題となるかについて、取消訴訟の性質を踏まえつつ、説明することができる。訴えの利益が、原告の側における回復すべき利益の有無の点で問題となる場面にどのようなものがあるか、そこで訴えの利益の有無はどのように判断されるかについて、具体例に即して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
10	取消訴訟（2）訴えの利益②		引き続き訴えの利益に関し、処分の本来的効果の消滅が問題となる場面について学修する。
	この回の到達目標	訴えの利益が当該処分の本来的効果の消滅の点で問題となる場面にどのようなものがあるか、そこで訴えの利益の有無はどのように判断されるかについて、具体例に即して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
11	取消訴訟（2）訴えの利益③		引き続き訴えの利益に関し、後続処分による当該処分の消滅が問題となる場面について学修する。
	この回の到達目標	訴えの利益が後続処分による当該処分の消滅の点で問題となる場面にどのようなものがあるか、そこで訴えの利益の有無はどのように判断されるかについて、具体例に即して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
12	取消訴訟（3）その他の訴訟要件		被告適格、管轄裁判所、不服申立前置、出訴期間など、取消訴訟におけるその他の訴訟要件について学修する。
	この回の到達目標	その他の取消訴訟の訴訟要件について、条文を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	取消訴訟（4）本案審理上の問題①	取消訴訟における訴訟物、当事者の主張・立証のあり方、違法判断の基準時について学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟における訴訟物の捉え方、弁論主義の適用、主張立証責任の分配、違法判断の基準時について、具体的場面を想定しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
14	取消訴訟（4）本案審理上の問題②	取消訴訟における主張制限の問題としての、自己の法律上の利益に関係のない違法主張の排除、違法性の承継について学修する。	
	この回の到達目標	自己の法律上の利益に関係のない違法主張の排除、違法性の承継がどのような問題か、そしてどのように判断されるかについて、判例を踏まえつつ、また、具体的場面を想定しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
15	取消訴訟（4）本案審理上の問題③	取消訴訟における主張制限の問題としての原処分主義、理由の差替え、さらにその他の本案審理上の問題（釈明処分の特則、職権証拠調べ、訴訟参加）について学修する。	
	この回の到達目標	原処分主義、理由の差替えがどのような問題か、そしてどのように判断されるかについて、具体的場面を想定しつつ、説明することができる。また、釈明処分の特則、職権証拠調べ、訴訟参加について、行訴法の条文を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
16	取消訴訟（5）判決	取消訴訟の終了に関する問題を概観したうえで、判決の効力に関する解釈上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟が何によって終了するかについて、説明することができる。また、取消訴訟における判決の効力にはどのようなものがあるのか、それぞれの内容と作用の仕方について、具体的場面を想定しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
17	その他の抗告訴訟①	無効等確認訴訟、不作為違法確認訴訟について、それぞれの利用される場面を確認した上で、解釈上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	無効等確認訴訟、不作為違法確認訴訟の利用場面、その訴訟要件等について、具体例を示しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
18	その他の抗告訴訟②	義務付け訴訟について、その種類、それぞれの利用される場面を確認した上で、解釈上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	義務付け訴訟の種類、それぞれの利用される場面について、条文を示しつつ、説明することができる。各義務付け訴訟の訴訟要件が設けられた趣旨、基本的考え方について、具体例を交えつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	その他の抗告訴訟③	差止訴訟の解釈上の論点を学ぶとともに、当事者訴訟としての予防的確認訴訟との関係を整理する。	
	この回の到達目標	差止訴訟の各訴訟要件が設けられた趣旨、基本的考え方について、具体例を交えつつ、説明することができる。補充性要件については、当事者訴訟としての確認訴訟との関係も交えて、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
20	抗告訴訟以外の行政事件訴訟①	当事者訴訟の種類およびそれぞれの利用される場面を学ぶとともに、当事者訴訟としての確認訴訟の訴訟要件（確認の利益）について学修する。	
	この回の到達目標	当事者訴訟の種類、それぞれの利用される場面を、具体例を示しつつ、説明することができる。公法上の確認訴訟の訴訟要件としての確認の利益に関する基本的考え方について、具体例を交えつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
21	抗告訴訟以外の行政事件訴訟②	機関訴訟と民衆訴訟、特に選挙訴訟と住民訴訟の概要について学修する。	
	この回の到達目標	機関訴訟と民衆訴訟の概念について、条文に照らしつつ、説明することができる。選挙訴訟、住民訴訟の種類、基本的考え方について、条文を参照しつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
22	仮の救済①	抗告訴訟に関する仮の救済制度（執行停止、仮の義務付け、仮の差止め）の要件や手続について学修する。	
	この回の到達目標	抗告訴訟に関する仮の救済制度（執行停止、仮の義務付け、仮の差止め）の各要件に関する基本的考え方について、具体例を交えつつ、説明することができる。また、手続について、条文に即して、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
23	仮の救済②	行訴法44条の民事保全法による仮処分の排除について学修する。	
	この回の到達目標	行訴法44条の趣旨、問題となる場面について、具体例を交えつつ、説明した上で、仮処分が排除されるか否かに関する基本的考え方を説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
24	行政不服審査法	行政不服審査法	
	この回の到達目標	行政不服審査法の概要（種類、対象、適法要件、手続）について、条文を示しつつ、説明することができる。その他の行政上の不服申立て、苦情処理手続等について、概要を説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	国家賠償法（1）国家賠償法1条の責任①	国家賠償制度の存在意義、国賠法1条の責任の性質を理解した上で、その構成要件としての公権力の行使、公務員、職務行為について学修する。	
	この回の到達目標	国家賠償制度の存在意義（憲法上の位置づけを含む）、国賠法1条の責任の性質について説明することができる。構成要件としての公権力の行使、公務員、職務行為について、問題となる場面と基本的考え方を説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
26	国家賠償（1）国家賠償法1条の責任②	国賠法1条の構成要件としての故意・過失および違法性について学修する。	
	この回の到達目標	構成要件としての故意・過失、違法性の意味および相互関係について、具体例を交えつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
27	国家賠償（2）国家賠償法2条の責任	国賠法2条の責任の性質を理解した上で、その構成要件である設置・管理の瑕疵について学修する。	
	この回の到達目標	国賠法2条の責任の性質（憲法や民法との関係を含む）について説明することができる。構成要件としての設置・管理の瑕疵の意味および基本的考え方について、具体例を交えつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
28	国家賠償（3）責任主体	原因者の責任、費用負担者の責任および求償関係について学修する。	
	この回の到達目標	原因者の責任、費用負担者の責任および求償関係について、基本的考え方を判例を踏まえつつ説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
29	損失補償①	財産権保障に関する憲法の知識を確認しつつ、損失補償の要否について学修する。	
	この回の到達目標	損失補償請求権と憲法との関係について説明することができる。損失補償の要否に関する基本的考え方を、具体例を交えつつ、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分
30	損失補償②、国家賠償と損失補償の谷間	損失補償の内容、および国家賠償と損失補償の谷間について学修する。	
	この回の到達目標	損失補償の内容に関する基本的考え方（憲法29条3項の「正当な補償」の意義を含む）について、具体例を交えつつ、説明することができる。また、国家賠償と損失補償の谷間という問題がどのようなものか、この問題に関する基本的考え方について、説明することができる。	
	事前学修	教科書（参考資料を含む）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料を含む）を突き合わせ、学修内容を確認する。確認テストを解く。	120分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】 行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】 憲法や民法といった主要科目については履修もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができる。

【授業方法】 対面にて講義形式で行います。また、参考資料については、受講生の人数によって授業時に配付する場合も（但し、当該参考資料を使用する初回のみ）ありますが、授業中の私語・スマホ操作の状況によっては各自で印刷をして貰うことに変更する場合があります。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力				
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力				
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力				
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力				
達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。		2		2		2		
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。		2		2		2		
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②に基づいて、必要な知識を持っており、かつそれらの表現力が身に付いているかどうか。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルームなどを用いて適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第4版）	池村正道編	弘文堂	2022年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第8版）	斎藤誠ほか編	有斐閣	2022年	参考書	必携
備考	本講義は、行政救済法の部分であるため行政判例百選Ⅱは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅰの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、授業後などに申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政救済制度の概観、導入	行政救済制度（行政争訟と国家補償）の全体像を学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済制度（行政争訟と国家補償）について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。	120分
2	行政訴訟の概観と司法権	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟および行政訴訟について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。	120分
3	行政訴訟の類型	行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政訴訟の類型を挙げ、そしてこれらについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。	120分
4	取消訴訟（1）	行政事件訴訟法で規定されている取消訴訟の要件について、全体を確認していくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の要件を挙げ、これらの要件について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。	120分
5	取消訴訟（2）；処分性①	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性の概念および重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。	120分
6	取消訴訟（2）；処分性②	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取消訴訟（2）；処分性③	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分
8	取消訴訟（3）；原告適格①	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の動向について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原告適格の概念、これに関する学説および、重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
9	取消訴訟（3）；原告適格②	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
10	取消訴訟（3）；原告適格③	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
11	取消訴訟（4）；訴えの利益	取消訴訟の訴訟要件のうち、訴えの利益について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴えの利益の概念および関連する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。	120分
12	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理	取消訴訟の審理として、審理対象や審理手続について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮の権利救済		取消訴訟について裁判所が出す判決の種類およびその効果、そして、仮の権利救済について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の判決の種類とその効果、そして仮の権利救済について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮の権利救済の種類と要件については覚えるようにしてください。		120分
14	その他の抗告訴訟		その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟以外のその他の抗告訴訟を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。		120分
15	行政不服審査法		行政不服審査法で規定されている審査請求について、行政事件訴訟法との異同を意識しながら学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の重要規定を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。		120分
16	国家補償法の概観①		国家補償法として、国家賠償および損失補償について概観したいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。		120分
17	国家賠償法の概観②		国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償賠償法の沿革について十分な説明ができ、国家賠償法の規定を簡単に説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。		120分
18	国賠法1条（1）；賠償責任の根拠		国家賠償法について、どのような理由から国が賠償をすることになるのかについて、学説を踏まえて見ていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の責任の根拠に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	国賠法1条（2）；公権力の行使①		国家賠償法1条が規定する「公権力の行使」とは何かについて説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公権力の行使に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
20	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）		公権力の行使との関係で、いわゆる権限の不行使が国家賠償法1条の対象となるのかについて説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権限不行使に関する判例の展開について十分な利害ができるようになり、そして判例で示された要件を説明できるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。	120分
21	国賠法1条（3）；職務関連性		職務関連性の概念およびこれに関する判例について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務関連性について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。	120分
22	国賠法1条（4）；違法性①		国家賠償法で規定する違法性の概念について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法性について説明をすることができ、これに関する学説の展開を示すことができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。	120分
23	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）		行政機関以外の国家機関による違法な活動について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関以外の国家機関に対する国家賠償訴訟に関する重要判例を説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。	120分
24	国賠法1条（5）；過失①		国家賠償法で規定する過失の概念およびその後の展開について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失とは何かを説明することができるようになり、そして過失の客観化についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	国賠法1条（5）；過失②		過失に関する重要判例および組織過失について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失が問題となった事案を紹介することができるようになり、そして組織過失についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。	120分
26	国賠法2条 瑕疵概念		国家賠償法2条で規定している公の営造物の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の営造物の瑕疵とはどのような場面であり、そしてそこでの要件について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	グーグルクラスルームから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。	120分
27	国賠法2条（2）；道路設置管理瑕疵		公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、道路設置管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道路設置管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。	120分
28	国賠法2条（3）；河川設置管理瑕疵		公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、河川管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、河川管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。	120分
29	損失補償①―損失補償の根拠と要件		損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。	120分
30	損失補償②、まとめ		損失補償を行う際に、国家側はどの程度、補償をすべきかなどについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、損失補償を行う際に、国家側の補償の程度に関する学説を挙げることができ、そしてその学説について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。	120分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	高橋 雅夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができる。

【授業方法】		
講義形式 原則、対面形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。		2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。		2		2		2			
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①及び②に基づいて、必要な知識を持っているかどうか。	25	25									50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題については、Googleクラスルームなどを用いて適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法〔第4版〕	池村正道編	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政救済制度の概観	行政救済制度（行政争訟と国家補償）の全体像を学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済制度（行政争訟と国家補償）について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。	120分
2	行政訴訟の概観と司法権	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟および行政訴訟について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。	120分
3	行政訴訟の種類	行政訴訟の種類として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政訴訟の種類を挙げ、そしてこれらについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。	120分
4	取消訴訟（1）：訴訟要件の全体像	行政事件訴訟法で規定されている取消訴訟の要件について、全体を確認していくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の要件を挙げ、これらの要件について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。	120分
5	取消訴訟（2）；処分性① 処分性の概念	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性の概念および重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。	120分
6	取消訴訟重要判例	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資66から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取消訴訟（2）；処分性③ 処分性の重要判例	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分
8	取消訴訟（3）；原告適格① 原告適格の概念	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の動向について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原告適格の概念、これに関する学説および、重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
9	取消訴訟（3）；原告適格② 原告適格をめぐる重要判例	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以前の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
10	取消訴訟（3）；原告適格③ 原告適格をめぐる重要判例	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
11	取消訴訟（4）；訴えの利益	取消訴訟の訴訟要件のうち、訴えの利益について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴えの利益の概念および関連する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。	120分
12	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理	取消訴訟の審理として、審理対象や審理手続について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の審理手続について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮の権利救済		取消訴訟について裁判所が出す判決の種類およびその効果、そして、仮の権利救済について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の判決の種類とその効果、そして仮の権利救済について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮の権利救済の種類と要件については覚えるようにしてください。		120分
14	その他の抗告訴訟		その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟以外のその他の抗告訴訟を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料14を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。		120分
15	行政不服審査法		行政不服審査法で規定されている審査請求について、行政事件訴訟法との異同を意識しながら学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の重要規定を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料15を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。		120分
16	国家補償法の概観①		国家補償法として、国家賠償および損失補償について概観したいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料16を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。		120分
17	国家賠償法の概観②		国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償賠償法の沿革について十分な説明ができ、国家賠償法の規定を簡単に説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料17から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。		120分
18	国賠法1条（1）；賠償責任の根拠		国家賠償法について、どのような理由から国が賠償をすることになるのかについて、学説を踏まえて見ていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の責任の根拠に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料18を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	国賠法1条（2）；公権力の行使①	国家賠償法1条が規定する「公権力の行使」とは何かについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公権力の行使に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料19から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
20	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）	公権力の行使との関係で、いわゆる権限の不行使が国家賠償法1条の対象となるのかについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権限不行使に関する判例の展開について十分な利害ができるようになり、そして判例で示された要件を説明できるようになる。	
	事前学修	参考資料20から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。	120分
21	国賠法1条（3）；職務関連性	職務関連性の概念およびこれに関する判例について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務関連性について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料21から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。	120分
22	国賠法1条（4）；違法性①	国家賠償法で規定する違法性の概念について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法性について説明をすることができ、これに関する学説の展開を示すことができるようになる。	
	事前学修	参考資料22から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。	120分
23	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）	行政機関以外の国家機関による違法な活動について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関以外の国家機関に対する国家賠償訴訟に関する重要判例を説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料23から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。	120分
24	国賠法1条（5）；過失①	国家賠償法で規定する過失の概念およびその後の展開について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失とは何かを説明することができるようになり、そして過失の客観化についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料24から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	国賠法1条（5）；過失②		過失に関する重要判例および組織過失について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失が問題となった事案を紹介することができるようになり、そして組織過失についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料25から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。	120分
26	国賠法2条 瑕疵概念		国家賠償法2条で規定している公の营造物の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の营造物の瑕疵とはどのような場面であり、そしてそこでの要件について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	参考資料26を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。	120分
27	国賠法2条（2）；道路設置管理瑕疵		公の营造物の瑕疵に関する判例のうち、道路設置管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道路設置管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料27から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。	120分
28	国賠法2条（3）；河川設置管理瑕疵		公の营造物の瑕疵に関する判例のうち、河川管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、河川管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料28から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。	120分
29	損失補償①；損失補償の根拠と要件		損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料29を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。	120分
30	損失補償②；補償の内容		損失補償を行う際に、国家側はどの程度、補償をすべきかなどについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、損失補償を行う際に、国家側の補償の程度に関する学説を挙げることができ、そしてその学説について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料30から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。	120分

科目名	金融商品取引法Ⅰ	担当者	中曽根 玲子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者等規制に分かれる。本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために定められている、①ディスクロージャー制度全般について取り上げる。なお、②③は後期開講の金融商品取引法Ⅱで扱う。金融商品取引法は幅広く有価証券を適用対象としているが、本講義では、有価証券の典型例である株式を主に取り上げて説明を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の知識に基づき、論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
株式の知識を前提とするため、会社法をすでに履修または同時並行で履修すること。金融商品取引法の全体像を理解するためには、金融商品取引法Ⅱと合わせて履修することが望ましい。

【授業方法】
・担当者が作成した独自のレジュメ等（ほか判例、最新のトピック）を活用して講義を行う ・レジュメ等は、Google Classroomにアップするので、各自ダウンロードし事前学修しておく ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については、受講生の状況を踏まえ説明する ・出席管理システム（レスポ）を利用して授業内で基礎知識の確認チェックを適宜行う ・金融商品取引法の理解を深めるため、実践的な授業外課題に取り組む

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・出席管理システム（レスポ）を使って、授業内での発言や理解の定着度を測る	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。		3						
②	資本市場における公正な価格形成を達成するために金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続きの概要、法規制に違反した場合の法効果などを理解した上で、金融商品取引法のあるべき方向性について自らの考えを述べる				3				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①については、典型的な事例問題を通して、金融商品取引法の役割・目的を確実に理解しているかを評価し、到達目標②に関しては、金融商品取引法のディスクロージャー制度の具体的な内容について基礎知識が定着しているかを記述問題によって評価する。		20	20									40
小テスト等													
レポート等	各回の授業の進度に応じて、到達目標①②の修得状況の確認と実践力を養うため、適宜授業外課題の提出を求め、その内容を評価する。		20	20									40
討論・発表等													
授業への参画度	到達目標①②については、授業テーマに沿って事前に配付するレジュメ等に目を通し、目的や内容を理解して授業に臨んでいるかを授業内での知識確認チェックを適宜行い、評価する。		10	10									20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の内容に応じて、授業内でのコメント、Google Classroomでの講評及び解説、添削またはコメント付きの課題の返却等を通じて行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第5版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2022	教科書	必携
指定六法			最新版	その他	必携
金融商品取引法への誘い	川口恭弘	有斐閣	2018	参考書	推奨
金融商品取引法判例百選	神田秀樹・神作裕之編	有斐閣	2013	参考書	推奨
金融商品取引法入門（第8版）	黒沼悦郎	日本経済新聞社	2021	参考書	推奨
金融商品取引法	飯田秀総	新世社	2023	参考書	推奨
備考					
【オフィスアワー】					
原則として授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅰの学修に当たって	・講義のテーマや内容、講義の方法、成績評価の方法等について説明する ・金融商品取引法Ⅰを受講するに際しての取り組み方、注意事項等について説明する ・金融商品取引法の全体像、及び会社法との関係について概観する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅰの学修計画を立てることができる	
	事前学修	・シラバス及びレジュメ等をよく読み、他の履修科目との関係や自分の学修計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と第2章「Ⅰ 有価証券の上場」を読んでおく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	60分
2	【金融商品取引法総論】金融商品取引法の目的は何か	・証券市場とは何かを考える ・金融商品取引法1条の目的の意義について、金融商品取引法成立の背景を踏まえて説明する ・投資家を一般投資家、機関投資家、特定投資家に区分する意義とそれぞれの違いについて整理する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、横断的資本市場規制である金融商品取引法の規制目的について、投資家保護の考え方の意義を理解した上で、批判的に検討することができる	
	事前学修	・教科書 第1章「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第4章「Ⅷ 特定投資家への適用除外」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
3	【金融商品取引法上の有価証券（１）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	・金融商品取引法が規制の対象とする有価証券とは、どのようなものを概観する ・有価証券の典型である株式については、会社法を踏まえつつ説明する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条1項及び2項前段に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第1章「Ⅲ 金融商品取引法はどの範囲に適用されるか」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
4	【金融商品取引法上の有価証券（２）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	・資産流動化法に基づく有価証券について概観する ・みなし有価証券（とくに集団投資スキーム）について説明する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条2項各号に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第6章「Ⅰ 投資信託および集団投資スキームの経済的意義 ②」と「Ⅴ 集団投資スキーム持分の規制」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
5	【証券市場のプレーヤー】証券市場でのキーマンは誰か	・証券市場を利用する上場会社について考える ・証券会社の役割について検討する ・証券取引所（金融商品取引所）の役割について会社法を踏まえて説明する ・金融庁や証券取引等監視委員会の役割にも言及する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、証券市場の役割を支えるシステムやプレーヤーについて理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第2章「Ⅲ 金融商品取引所」、第4章「Ⅰ 金融商品取引業の意義」、第8章を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
6	【流通市場の役割】流通市場とは何か		・流通市場が果たす役割について説明する ・株式はどのように譲渡（売買）されるかについて説明する ・会社法を踏まえつつ、振替株式について確認する
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに流通市場）が果たす役割について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第2章「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
7	【流通市場の情報開示（１）】流通市場での開示の必要性は何か		・自己責任の原則とは何か、その前提条件は何かについて確認する ・上場会社における会計と監査の意義とその制度について概観する ・会社法上の会計および監査制度について復習する
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・レジュメ等をよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
8	【流通市場の情報開示（２）】継続開示にはどのようなものがあるか		・金融商品取引法が上場会社等に課す情報開示義務のうち、有価証券報告書・四半期報告書・臨時報告書についてその目的や開示の意義について概観する
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場における情報開示の重要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅰ 開示規制の概要」と「Ⅲ 上場会社等が行う定期的な開示」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
9	【流通市場の情報開示（３）】継続開示にはどのようなものがあるか		・金融商品取引法が上場会社に課す情報開示義務のうち、内部統制報告書や確認書等についてその目的や開示の意義について概観する ・証券取引所におけるタイムリーディスクロージャーの意義について考える
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場において開示される情報の多様性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅳ 財務情報の正確性を確保するための制度」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
10	【発行市場の役割】発行市場とは何か		・発行市場の役割について説明する ・発行市場と流通市場の連続性と関係性について説明する ・発行市場を通じて行われる上場会社の資金調達方法について会社法を踏まえつつ概観する
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに発行市場）が果たす役割について理解し説明することができる	
	事前学修	・レジュメ等をよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【発行市場の情報開示（１）】発行市場における情報開示の必要性は何か	・発行開示規制の必要性和有典型例である価証券届出書等について説明する ・募集概念と売却概念について、会社法を踏まえつつ説明す・	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示①②」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
12	【発行市場の情報開示（２）】発行開示にはどのようなものがあるか	・発行開示における継続開示制度との統合について説明する ・投資家に対して提供される目論見書の意義について考える	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場での開示の仕組みについて理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示③④」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
13	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（１）】発行市場における責任とは何か	・発行市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また事例を題材に検討する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発行市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文の意義や適用関係について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか①②③」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
14	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（２）】流通市場における責任とは何か	・流通市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また事例を題材に検討する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、流通市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文の意義や適用関係について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか④⑤」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
15	授業内試験及び振り返り		提示された問題に時間内で取り組む
	この回の到達目標	問題に取り組むことで、到達目標①②の達成度を各人が確認することができる	
	事前学修	・レジュメ等に沿って教科書や自らの講義ノートを熟読しておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を抽出して、自学自習を行い、疑問を解消しておく	120分
	事後学修	・授業内試験を通じて不正確であった部分及び理解が十分でなかった部分について復習をしておく ・フィードバックの内容を確認する	60分

科目名	金融商品取引法Ⅱ	担当者	中曽根 玲子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。金融商品取引法Ⅰの講義をベースに、本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために定められている②公開買付け、インサイダー取引、相場操縦等の不公正な取引規制と、③資本市場を支える証券会社に対する業者規制や行為規制について取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の法的知識に基づき、論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
株式の知識を前提とするので、会社法をすでに履修または同時並行で履修すること。金融商品取引法の全体像を理解するためには、金融商品取引法Ⅰと合わせて履修することが望ましい。

【授業方法】		
・担当者が作成した独自のレジュメ（他に、判例、最新のトピック）を活用して講義を行う ・レジュメ等は、Google Classroomにアップするので、各自ダウンロードし事前学修をしておく ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については、受講生の状況を踏まえ説明する ・出席管理システム（レスポん）を利用して授業内での発言と基礎知識の確認チェックを適宜行う ・金融商品取引法の理解を促すために、実践的な内容の課題提出を求める		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・出席管理システム（レスポん）を使って、授業内で適宜理解の定着度を測る	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。					3							
②	資本市場における公正な価格形成を達成するために金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続きの概要、法規制に違反した場合の法効果について説明できる。							3					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関しては、典型的な事例問題を通して、公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの不公正な取引規制の内容、手続きの意義及び適用要件・法効果、また市場を支える金融商品取引業者の役割や義務等について理解度を評価する。到達目標②に関しては、基礎知識が定着しているかを記述問題によって評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	各回の授業の進度に応じて、到達目標①②の修得状況の確認と実践力を養うため、適時授業外課題の提出を求め、その内容を評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②については、授業テーマに沿って事前に配付するレジュメ等に目を通し、目的や内容を理解して授業に臨んでいるかについて、適宜、授業内での知識確認チェックを行って評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の内容に応じて、授業内でのコメント、Google Classroomでの講評及び解説、添削またはコメント付きの課題の返却等を通じて行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第5版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2022	教科書	必携
指定六法			最新版	その他	必携
金融商品取引法への誘い	川口恭弘	有斐閣	2018	参考書	推奨
金融商品取引法判例百選	神田秀樹・神作裕之編	有斐閣	2013	参考書	推奨
金融商品取引法入門（第8版）	黒沼悦郎	日本経済新聞社	2021	参考書	推奨
金融商品取引法	飯田秀総	新世社	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅱの学修に当たって	・講義のテーマや内容、講義の方法、成績評価の方法等について説明する ・金融商品取引法Ⅱを受講するに際しての取り組み方、注意事項等について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅱを学修するに際して学修計画を立てることができる	
	事前学修	・シラバス及びレジュメ等をよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく（とくに金融商品取引法Ⅰを受講していない場合には、丁寧に読む） ・質問を用意しておく	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	60分
2	【公開買付制度（１）】公開買付けの意義とは何か	・公開買付制度の意義について考える ・企業買収方法に関連して、会社法を踏まえつつ説明する ・公開買付制度の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、公開買付制度とはどのような制度かを説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）①②」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
3	【公開買付制度（２）】強制公開買付けとは何か	・公開買付けが適用されるケース（強制公開買付け）について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、強制公開買付の意義及びその内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）③」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
4	【公開買付制度（３）】公開買付者に求められている義務は何か	・公開買付けの方法に関する規制の意義や内容について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、勧誘の対象者と公開買付者の利益調整を図る規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
5	【公開買付制度（４）】発行会社による公開買付けとは何か	・引き続き、公開買付けの方法に関する規制、違法な公開買付の場合の対応について説明する ・発行会社による公開買付けの目的と規制内容について概観する ・発行会社以外の会社による公開買付けとの違いを確認する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、発行会社が行う公開買付についてその目的と規制内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④⑤」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	【大量保有報告制度（１）】大量保有報告とは何か	・大量保有報告制度の目的について考える ・大量保有報告制度を概観する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上場会社の一定の株主に義務付けられている大量保有報告制度について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは ①②③」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
7	【大量保有報告制度（２）】大量保有報告の特例	・大量保有報告制度の意義を踏まえつつ、特例報告制度について検討する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、機関投資家に適用される大量保有報告制度について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは ④⑤⑥」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
8	【インサイダー取引規制（１）】インサイダー取引規制とは何か	・インサイダー取引規制の意義について考える ・インサイダー取引規制の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的に関連して、上場会社の株式に係る重要情報を利用したインサイダー取引が規制される目的について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ①」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
9	【インサイダー取引規制（２）】インサイダー取引規制はどのような場合に適用されるか	・インサイダー取引規制の対象となる者とのような情報がインサイダー取引規制の対象となるかについて説明をする ・公開買付関係者によるインサイダー取引とは何かを確認する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ②」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
10	【インサイダー取引規制（３）】インサイダー取引の予防を目的とする規制とは何か	・インサイダー取引を未然に防止するために設けられた規制について説明する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引を抑止または予防する規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ③⑤」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【不正取引規制（１）】相場操縦とは何か	・相場操縦規制の意義について考える ・相場操縦行為として規制対象となる類型を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、悪質な市場阻害行為としての相場操縦規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制 ①②③」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
12	【不正取引規制（２）】その他不正取引とは何か	・空売り、風説の流布、偽計取引規制について取り上げる ・詐欺的行為を規制する金融商品取引法157条について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、相場操縦以外の悪質な市場阻害行為に対する規制の必要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制 ④⑤」と「Ⅰ 詐欺的行為を禁止する157条」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する等	90分
13	【金融商品取引業者等に対する規制（１）】金融商品取引業者規制とは何か	・市場を支える金融商品取引業者、金融商品取引仲介業者、外務員について説明する ・金融商品取引業を行うための登録制度について概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者に対する規制の目的とその内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第4章「Ⅱ 開業の規制と登録制度」、「Ⅳ 金融商品仲介業制度」、「Ⅴ 外務員への規制」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
14	【金融商品取引業者等に対する規制（２）】金融商品取引業者はどのような義務を負うか	・金融商品取引業者の誠実公正義務（適合性原則と最良執行義務）を取り上げる ・金融商品取引業規制のうち、とくに損失補填を巡る法的問題点と規制の在り方について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者が顧客に対して負う義務について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第4章「Ⅵ 金融商品取引業者の誠実公正義務」と第7章「Ⅳ 金融商品取引業者による不正取引 ②」を読んでおく ・レジュメ等に目を通しておく ・質問を用意する	90分
	事後学修	・講義の内容を復習し、説明できるようにする ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	90分
15	授業内試験及び振り返り	・提示された問題について時間内に取り組む	
	この回の到達目標	課題に取り組むことで、到達目標①②の達成度を各人が確認することができる	
	事前学修	・レジュメ等に沿って教科書や各自の講義ノートを熟読しておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を抽出し、自学自習を行い、疑問を解消しておく	120分
	事後学修	・授業内試験を通じて不正確であった部分及び理解が十分でなかった部分について復習をしておく ・フィードバックの内容を確認する	60分

科目名	金融法Ⅰ	担当者	田中 貴一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主として預金取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。

【履修条件】
民法総則、担保物権法、債権法（総論・各論）を履修済みであること

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。				3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。				3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。						3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門(第2版)	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2023	教科書	推奨
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。yoshikazu_tanaka@klo.gr.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において生ずる法律問題と解決方法の紹介、金融規制法に関するロビイングを踏まえた立法プロセス等の紹介

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び金融法の全体像	ガイダンスを行い、金融法の全体像について講義する。	
	この回の到達目標	金融法の全体像に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事（ウェブサイトの記事を含む。以下同じ。）に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	120分
2	預金の法的性質と種類	預金の法的性質や預金の種類について講義する。	
	この回の到達目標	預金の法的性質や種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
3	預金の受入れ	預金の受入れについて講義する。	
	この回の到達目標	預金の受入れに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
4	預金の払戻し	預金の払戻しについて講義する。	
	この回の到達目標	預金の払戻しに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
5	預金の相続	預金の相続について講義する。	
	この回の到達目標	預金の相続に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
6	預金の差押え、消滅時効	預金の差押え、消滅時効について講義する。	
	この回の到達目標	預金の差押え、消滅時効に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	当座勘定取引	当座勘定取引について講義する。	
	この回の到達目標	当座勘定取引に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
8	約束手形	約束手形について講義する。	
	この回の到達目標	約束手形に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
9	為替手形・小切手	為替手形・小切手について講義する。	
	この回の到達目標	為替手形・小切手に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
10	手形交換制度、電子記録債権	手形交換制度と電子記録債権について講義する。	
	この回の到達目標	手形交換制度、電子記録債権に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
11	貸出の種類	貸出の種類について講義する。	
	この回の到達目標	貸出の種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
12	金利規制等	金利規制等について講義する。	
	この回の到達目標	金利規制等に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	銀行取引約定書（前半）	銀行取引約定書（第5条まで）について講義する。	
	この回の到達目標	銀行取引約定書（第5条まで）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	銀行取引約定書（後半）	銀行取引約定書（第6条以下）について講義する。	
	この回の到達目標	銀行取引約定書（第6条以下）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	授業内試験及びまとめ	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
	この回の到達目標	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
	事前学修	前期中に配布されたレジュメや講義の復習をして授業内試験に備える。	120分
	事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科目名	金融法Ⅱ	担当者	田中 貴一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融法Ⅱでは、前期の金融法Ⅰに引き続き、金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主に貸出取引、為替取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。加えて、銀行の固有業務（預金、貸出、為替取引）から派生する決済手段であるクレジット取引や電子マネー取引のほか、信託に関する取組みについても修得する。

【履修条件】
金融法Ⅰを履修済みであること、民法総則、担保物権法、債権法（総論、各論）を履修済みであること）。

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。					3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。					3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。							3					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門(第2版)	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2023	教科書	推奨
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。yoshikazu_tanaka@klo.gr.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において生ずる法律問題と解決方法の紹介、金融規制法に関するロビイングを踏まえた立法プロセス等の紹介

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	貸出取引の相手方	貸出取引の相手方について講義する。	
	この回の到達目標	貸出取引の相手方に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事（ウェブサイトの記事を含む。以下同じ。）に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
2	抵当権・根抵当権	抵当権・根抵当権について講義する。	
	この回の到達目標	抵当権・根抵当権に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
3	抵当権・根抵当権以外の担保	抵当権・根抵当権以外の担保について講義する。	
	この回の到達目標	抵当権・根抵当権以外の担保に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
4	保証	弁済・相殺	
	この回の到達目標	保証に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
5	弁済・相殺	弁済・相殺について講義する。	
	この回の到達目標	弁済・相殺に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
6	時効管理等	時効管理等について講義する。	
	この回の到達目標	時効管理等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法的倒産手続		法的倒産手続について講義する。
	この回の到達目標	法的倒産手続に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
8	為替取引		為替取引について講義する。
	この回の到達目標	為替取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
9	守秘義務、マネーロンダリング規制等		守秘義務、マネーロンダリング規制等について講義する。
	この回の到達目標	守秘義務、マネーロンダリング規制等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
10	銀行の業務範囲規制		銀行の業務範囲規制について講義する。
	この回の到達目標	銀行の業務範囲規制に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
11	クレジット取引		クレジット取引について講義する。
	この回の到達目標	クレジット取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
12	電子マネー		電子マネーについて講義する。
	この回の到達目標	電子マネーに関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	信託の概略		信託の概説について講義する。
	この回の到達目標	信託の概略に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	信託の活用事例		信託の活用事例について講義する。
	この回の到達目標	信託の活用事例に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	授業内試験及びまとめ		後期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。
	この回の到達目標	金融法Ⅱの全体を通じて、到達目標①②③の到達度を評価し、今後の学修に役立てる。	
	事前学修	後期中に配布されたレジュメや講義の復習をする。	120分
	事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科目名	グローバル・コミュニケーションⅠ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
アメリカは、いくたびかの戦争、そして平時を通じて、どのようにメディアを駆使し、人々の心と精神を勝ち取ろうとしたのか。本授業では、アメリカのメディア戦略と実践を学びながら、メディアと外交の絡み合い、そして文化や科学技術の持つ政治性について考える。それは、一見すると国際政治や日米関係史を学ぶもののように思えるが、マス・コミュニケーション／メディア研究や広告研究などにも密接に繋がっており、本授業は、メディアと文化、政治の諸関係をめぐる領域横断的な議論のうえに成り立っている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、昨今の国際政治・外交で大きな注目を浴びている広報文化外交やパブリック・ディプロマシーの可能性や限界、課題を考えるための知識の習得と新たな視点の提供を目的としている。到達目標は、次の三点におかれている。 1. 東アジア・アメリカを中心とする国際関係とメディアの関係性に対する理解 2. 広報文化外交や対外情報プログラム、パブリック・ディプロマシーに関する知識の獲得 3. メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座の提供 ※なお、「本／論文の読み方」に関する技法の獲得も、本授業が有する重要な目的の一つであることを付言しておきたい。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
原則として、毎回、受講生には論文あるいは学術書の1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教員からのフィードバックを中心に行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題の論文、あるいは著書1章分を読み、上記のペーパーを提出したうえで授業に参加し、講義内で課題の解説とペーパーへの応答を行うことで理解を深める。なお課題論文は、教員から配布する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	広報文化外交やパブリック・ディプロマシーについて説明することができる。				3							
②	東アジアおよびアメリカの政治・社会・文化について説明することができる。					3						
③	メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座を獲得することができる。						3					
④	国際政治とメディアの関係を読み解き、解釈することができる。							3				
⑤	社会構造の多様性や重層性について、構造的な観点から説明することができる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につく、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につく、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対米依存の起源』	松田武	岩波書店	2015	参考書	任意
『アメリカ文化外交と日本』	藤田文子	東京大学出版会	2015	参考書	任意
『占領する眼・占領する声』	吉見俊哉ほか	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『スマート・パワー』	ジョセフ・ナイ	日本経済新聞出版社	2011	参考書	任意
『文化冷戦と科学技術』	土屋由香	京都大学学術出版界	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則的には、水曜日の12時20分～13時。事前にメールで予約を取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	広報文化外交について学ぶことの意義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、「アメリカ」について思想的に問うことの重要性を把握し、広報文化外交に関する研究の射程への考察を通じて、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を体得できるようにする。	
	事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	広報文化外交とは何か	広報文化外交とは何か：外交における世論の重要性が、あらたな課題として浮上してきている現状を紹介し、広報外交研究の潮流と、その射程について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の研究意義と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	広報文化外交と世論	世論調査データを読み解くことで、現在の国際政治環境について説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、外交と世論の関係を説明できるようになる。	
	事前学修	2回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	アメリカの「強さ」とは何か	ジョセフ・ナイの議論であるハード、ソフト、スマートパワーの概念について説明し、有用性と限界について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、ハード、ソフト、スマート・パワーについて説明し、それぞれが内包する問題点、課題について考察することができる。	
	事前学修	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	広報文化外交の理念	主として欧米での議論を中心に、その歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の歴史的起源と、その政治・社会的背景について述べることができる。	
	事前学修	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	第二次世界大戦期の心理戦	広報文化外交の前史として、第二次世界大戦期に活発に行われた心理戦の実態と、それが、どのように広報文化外交へと装いを新たにしていくのか。そのプロセスと意味について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、心と精神を掴み取ろうとする心理戦が、どのように開始され、いかに展開されたのかについて述べることができる。	
	事前学修	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	広報文化外交に関する研究蓄積を踏 まえた時事解説および現状分析		広報文化外交に関する研究蓄積を踏まえた時事解説および現状分析：国際政治、外交に関する時 事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについて の具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。	
	この回の 到達目標	国際政治、外交に関する時事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについて の具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に勝つようし、日常的に国際報道に接しておくこ と。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
8	GHQ占領とアメリカの文化攻勢（1）		GHQ占領期に、アメリカが、敗戦国日本の国民から、心と精神を掴み取ろうとしたのか、その 戦略と実践について説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQ占領による文化戦略と実践について、現代日本社会にもたらしている意味を踏まえなが ら、述べることができる。		
	事前学修	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
9	GHQ占領とアメリカの文化攻勢		心と精神を掴み取るために、どのようにメディアが利用されたのかを説明したうえで、「文化」 の持つ力と政治性について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQは、どのように「文化」を活用し、占領政策を推進したのか、その効果と限界について述 べることができる。		
	事前学修	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）		120分
10	GHQ占領期におけるメディア検閲（1）		アメリカが行ったメディア検閲の実態について説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、検閲に関する説明と、それがもたらす政治的、意味について説明することができる。		
	事前学修	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
11	GHQ占領期におけるメディア検閲（2）		民主主義を促進するために行われた「非民主主義」的な方法という観点から、検閲と並行して行 われたメディアへの指導について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、言論の自由と民主主義に関する歴史的なアプローチからの説明を行うことができる。		
	事前学修	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
12	アメリカの対外情報プログラムと 「メディア」としての科学技術①		科学技術と文化冷戦の関係について説明し、広報外交・情報政策などの概念整理を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の拡張された議論を理解し、文化だけでなく、科学技術も、パブリック・ディ プロマシーの手段として活用されていたこと、そして、その意味について述べることができる。		
	事前学修	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アメリカの対外情報プログラムと「メディア」としての科学技術②	「アトムズ・フォー・ピース」から「サイエンス・フォー・ピース」への展開を説明し、科学技術が、アメリカの対外情報プログラムにおいて、積極的に活用されていく様相を講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、対外情報プログラムにおける科学技術の利用について、その背景や意図も含めて説明することができる。	
	事前学修	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	アメリカの対外情報プログラムと「メディア」としての科学技術③	宇宙開発が、アメリカの対外情報プログラム、あるいはパブリック・ディプロマシーの重要な手段としてされていく様相を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、宇宙開発の意味について、対外情報プログラムの観点から説明することができる。	
	事前学修	13回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	広報文化外交の可能性と今後の課題について説明する。	
	この回の到達目標	授業の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと。（2時間）	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、必要な経営学に関する基礎的知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	25	25							90
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを、リアクションペーパーに基づいて評価する。	2	2	3	3							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	22	28	28							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサンコ/マーク・リャンリー/デイビッド・ドラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/アンドレア・シェパード/ジョエル・ポドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く） 研究室（9号館4階9407号） ikeda.naoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	経営学とはどのような学問かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営学とはどのような学問かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営学の対象を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営学とはどのような学問かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
2	経営戦略とは何か	経営戦略とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営戦略とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略の定義を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	企業の目標	株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業の目標とは何かを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	競争と利益	競争と利益の関係を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：競争と利益の関係を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全競争市場と独占市場について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、競争と利益の関係を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	需要曲線	需要曲線（顧客の支払い意思）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：需要曲線（顧客の支払い意思）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、需要曲線（顧客の支払い意思）について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、需要曲線（顧客の支払い意思）を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	平均費用	平均費用とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：平均費用を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、平均費用について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、平均費用を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経営戦略の成り立ち	経営戦略はどのようなもので成り立っているかを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営戦略はどのようなもので成り立っているかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略に必要な要素は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略はどのようなもので成り立っているかを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
8	事業戦略の考え方	事業戦略の基本的な考え方を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：事業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
9	外部要因の分析	企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業を取り巻く外部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、業界構造分析とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
10	内部要因の分析	企業の内部要因を分析するための視点について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業の内部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、バリューチェーン分析とリソース・ベースト・ビューについて確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業の内部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
11	競争優位と基本戦略	競争優位の基本的な型について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：競争優位の基本的な型を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位の基本的な型であるコスト優位と差別化優位が何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、競争優位の基本的な型について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
12	コスト優位	コストに影響を与える要因は何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：コストに影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、コストに影響を与える要因は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コストに影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	差別化優位		差別化に影響を与える要因は何かを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：差別化に影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、影響を与える要因は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、差別化に影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括		いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④関連：いままでの授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説		理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：到達目標①②③④の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
第1回ガイダンスの受講・ガイダンス内容確認書の提出。

【授業方法】
授業は、パワーポイントを使用したオンデマンド形式で行う。画像・映像なども利用し、対象企業や対象製品等について体感的に理解が進むようにする。 ※シラバスの内容、授業方法・授業計画等に変更が生じることがあります。その場合、第1回ガイダンス講義にて周知します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	調査、報告、レポート、リアクションペーパー等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関する経営学の基礎的な知識の習得、 理解度、考察力について、課題(小テスト、レポート、報告 等)により評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックについて、授業内で提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門	武石彰	岩波書店	2021	参考書	任意
わかりやすいマーケティング戦略 新版	沼上幹	有斐閣	2008	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。参考図書について、授業で紹介する。				

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 導入講義：企業経営とは	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	経営学の概要について、理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について確認する。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
2	事業の目的と成果 事業のための基本構想－経営戦略	企業の目的、事業の定義、事業の成果－価値の創造と獲得、事業のための基本構想－経営戦略について、学習する。	
	この回の到達目標	事業の目的と成果、事業のための基本構想－経営戦略について、理解し説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
3	競争優位－コスト優位と差別化	競争優位－コスト優位と差別化、競争優位の要因、競争優位の構築について、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	競争優位－コスト優位と差別化について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
4	アクティブラーニング、課題	講義で提示した経営学のテーマに関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	講義で提示した経営学のテーマに関して、事例を調査し、まとめることができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
5	顧客と商品の設定	顧客と商品の設定、市場の細分化について、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	顧客と商品の設定、市場の細分化について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
6	マーケティング・ミックス	プロダクト、プレイス、プロモーション、プライス、マーケティング・ミックスについて、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	マーケティング・ミックスについて、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	小テスト		第1回～6回の講義内容に関して、小テストを行う。
	この回の到達目標	第1回～6回の講義内容について、復習する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を確認し、小テストの準備をする。	120分
	事後学修	小テスト及び第1回～6回の内容について、復習する。	120分
8	マーケティング戦略		顧客と商品の設定、マーケティング・ミックス、マーケティング戦略について、事例に即して学習する。
	この回の到達目標	マーケティング戦略について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
9	ケース分析		身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行う。
	この回の到達目標	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行い、考察する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
10	アクティブラーニング、課題		講義で提示した経営学のテーマに関して、調査学習を行う。
	この回の到達目標	講義で提示した経営学のテーマに関して、事例を調査し、まとめることができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
11	全社戦略、多角化		事業戦略の全体像、全社戦略、多角化の動機、効果、経営成果について、事例に即して学習する。
	この回の到達目標	全社戦略、多角化について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
12	事業とドメインの定義		事業定義・ドメイン定義の重要性、事業定義の方法、ドメイン定義の注意点について、事例に即して学習する。
	この回の到達目標	事業とドメインの定義について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケース分析	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行う。	
	この回の到達目標	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行い、考察する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
14	最終課題準備：調査	「経営学Ⅰ」で扱ったテーマに関して、調査し、報告準備を行う。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ」で扱ったテーマに関して、調査し、報告資料・レポートを作成する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	テーマに関連する新聞・雑誌記事やニュースを調べる。報告資料・レポートを作成する。	120分
15	最終課題：報告資料・レポート提出、報告	「経営学Ⅰ」で扱ったテーマに関して、調査内容をまとめ、報告資料・レポートを作成、報告する。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ」で扱ったテーマに関して、調査・報告を行い、企業経営に関する理解を深める。	
	事前学修	調査内容をまとめ、報告資料・レポートを作成する。	120分
	事後学修	報告資料・レポートを提出する。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	佐藤 正弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義の前半はパワーポイントを使って行うので、スライドを各自でノートにまとめて下さい。受講生全員がノートを書き終わってから、次のスライドに進みます。また、講義の後半にはグループワークとプレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内で提示した課題についてグループワークを行い、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験、もしくは授業内試験にて評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題についてグループワークとプレゼンテーションを行い、その内容にて評価する。	20	10	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中やClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週水曜日16：20～17：50に研究室にて実施（事前にメールでアポイントを取る事）。sato.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	食品メーカーの販売企画部にてインスタ・プロモーション等の企画立案業務に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		食品メーカー企画部での実務経験を活かして、マーケティング現場の事例を豊富に取り入れた講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入：経営学とは	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、経営学とは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
2	ゲスト・スピーカー講演	ゲスト・スピーカーが行っている企業経営について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ゲスト・スピーカーが行っている企業経営について、事例に即して理解し説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
3	ビジネスモデルとは	ビジネスモデルについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ビジネスモデルについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
4	ビジネスモデル特許	ビジネスモデル特許について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ビジネスモデル特許について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
5	ビジネスモデルによる差別化：グループワーク	ビジネスモデルによる差別化について、グループワークを行い、企画書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、ビジネスモデルによる差別化について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
6	ビジネスモデルによる差別化：プレゼンテーション	グループワークで作成した企画書をプレゼンテーションする。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、ビジネスモデルによる差別化について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ビジネスモデルの設計	ビジネスモデルの設計について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ビジネスモデルの設計について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
8	ビジネスモデルの基本原理	ビジネスモデルの基本原理について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ビジネスモデルの基本原理について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
9	イノベーションと顧客満足	イノベーションと顧客満足について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、イノベーションと顧客満足について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
10	ベンチャービジネスとは	ベンチャービジネスについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、ベンチャービジネスについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
11	イノベーションとベンチャーブーム	イノベーションとベンチャーブームについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、イノベーションとベンチャーブームについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
12	ベンチャー企業の成長マネジメント	ベンチャー企業の成長マネジメントについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、ベンチャー企業の成長マネジメントについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク	提示された課題について、グループワークを行い、発表資料を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、課題について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
14	プレゼンテーション	グループワークで作成した発表資料をプレゼンテーションする。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、課題について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
15	前期のまとめ	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』【改訂版】	風間、松田編	文真堂	2021	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	現代社会と経営学：経営学とは何か	経営学とはいかなる学問なのか、現代社会においてこれを学ぶことの意義を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学とはどのような学問なのかを理解すること。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	企業と社会	社会における企業の位置づけ・役割について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の役割や存在意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と社会との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	企業の種類	企業の種類についての分類方法とそれぞれの特質について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の種類や分類方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の種類について、それぞれの特質を説明できるようにまとめる。	120分
5	企業理念と企業文化	企業理念と企業文化とはどのようなものなのか、その意義を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業理念と企業文化の意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、その企業がどのような企業理念・企業文化をもっているのかをまとめる。	120分
6	企業文化の浸透とその逆機能	企業文化が組織内に浸透することでどのような有効性を発揮するのか、またどのような危険性があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業文化の意義と危険性について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業文化の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	企業の社会的責任Ⅰ：環境問題と社会的課題	企業を取り巻く環境問題や社会的課題にはどのようなものがあるか、それに企業はどのように対応していくことが求められているのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任の概念について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の社会的課題とはいかなるものなのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
8	企業の社会的責任Ⅱ：事業活動と社会貢献活動	企業が事業活動と社会貢献活動を両立していくためには、どのような課題があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の社会的責任の意義と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ事業活動と社会貢献活動を両立しなければならないのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
9	ケースメソッドⅠ：企業の社会的責任	企業はどのようにして社会的責任を果たしているのか調べ、それが社会にどのような影響を与えているのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業の社会的責任に関するさまざまな企業の取り組みについて、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、どのような社会貢献活動を行っているのか調べておく。	120分
	事後学修	企業の社会的責任の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分
10	企業戦略論Ⅰ：戦略の必要性	企業の活動において戦略はどのような意義があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の活動における戦略の必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ、どのようにして戦略を企てるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
11	企業戦略論Ⅱ：経済性と社会性の調和	企業が戦略を企てる上で、利益(経済性)と社会貢献(社会性)のバランスをどのようにしてとっているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性について、自分なりの考えをまとめる。	120分
12	ケースメソッドⅡ：企業分析	授業内で説明した企業分析の手法を用いて、興味ある企業の分析を行い発表する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業分析を行い、自分の意見を述べるができる。	
	事前学修	配布資料をよく読み、企業分析の手法について理解しておく。	120分
	事後学修	企業戦略の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マーケティング論Ⅰ：市場と顧客	市場と顧客の関係から、企業がどのようにして顧客を見つけ出すのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、マーケティングの必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
14	マーケティング論Ⅱ：製品戦略と製品ライフサイクル	企業は顧客にどのようにして価値を形成し、それを伝達するのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、製品戦略と製品ライフサイクルについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、これからのマーケティングに求められるものについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
15	前期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	若林 広二	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートの作成に多大な時間を要するため、履修態勢が十分にできていること。経営学を将来の仕事（経営コンサルティング業務や企業の経営企画業務等）に結び付けようと考えていること。

【授業方法】		
授業で使用する資料（PDF）を、Google Classroom（クラスコード：qjd3lr2）より事前にダウンロードして授業に臨む（授業中の資料の配布はない）。クラス討議や授業内課題への回答結果で各人のクラス参画度を評価する。中間・期末の各レポート課題への回答を期限内に提出し、それらの品質を評価する。授業関連の全ての連絡はGoogle Classroomより行う。授業で使用する講義スライド、ケース、教科書等の全資料は、Google Classroomより入手可。授業成果を得るために、一定の事前学修・事後学修時間（後掲）を要する。配布資料に基づく十分な事前学修が特に重要。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポンス等）を出欠確認に使用。授業内課題（問題）への回答と中間・期末レポートについて、フィードバックを実施。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているか、また、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを、レポート課題等により評価する。		15	15	15	5							50
討論・発表等													
授業への参画度	クラス討議での発言や授業内課題への回答を評価する。各人の独自の思考結果だけが評価対象となり、ネット情報や他の履修者の回答の引き写しは評価対象にならない。ネット検索はあくまでも思考過程を支援する補助的手段にすぎない。		10	10	10	20							50
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間レポート課題は授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポート課題はGoogle Classroomより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版社	2013年	教科書	必携
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之 西野和美	日本経済新聞出版社	2012年	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務や企業での経営管理業務に基づき、経営理論の説明に終わらず、理論の経営現場への適用面にも留意した学修を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営学と経営の違いについて、理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	教科書「経営学入門（上）」の全体に目を通し、「経営」と「経営学」の違いについて考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容をレビューする。特に、単位取得の条件や成績評価方法を再確認する。	60分
2	ミクロ組織論	ミクロ組織論。組織行動論（個人～20名未満のグループの行動）に関しての理論について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
	この回の到達目標	組織行動に関する主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』13～48頁、49～96頁に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、ミクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
3	マクロ組織論	20名以上の構成員からなる組織に関する理論（「組織論」）について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
	この回の到達目標	組織論の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』97～140頁に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、マクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
4	社会的ネットワーク論と柔構造組織	SNSの普及とともに社会において重要性が増している社会的ネットワーク論の主要理論について学修する。また、社会的ネットワーク論に関連して組織の「柔構造」についても環境との関係より学修する。	
	この回の到達目標	社会的ネットワーク論のうち組織に関する理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年149～185頁、若林広二「柔構造の理論」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 13、2020年を熟読し、社会的ネットワーク論の主要理論について理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、社会的ネットワーク論の主要理論の提唱者とその概要、柔構造組織の概要について理解し説明できるようになる。	60分
5	業務プロセスと人事制度	企業内で従業員が日々実施している業務を分類し、各業務の内容について学修する。また、ミクロ組織論の適用としての人事制度の実際について学修する。	
	この回の到達目標	主要業務プロセスと人事制度を理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
	事前学修	ポーター、M. E.（土岐岬他訳）『競争優位の戦略』ダイヤモンド社1985年45～77頁を熟読し、業務プロセス（バリューチェーン）の概念について理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、業務プロセスと人事制度の不要な構成要素について説明できるようになること。	60分
6	事業定義1（概念）	経営戦略の中核をなす事業定義（事業ドメイン）の背景、概念、重要性について、分析的アプローチとの対比等も踏まえて学修。	
	この回の到達目標	事業ドメインを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』141～152ページ、188～213ページに目を通し、経営戦略の定義と事業ドメインについて理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義に概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事業定義2（方法）	事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。	
	この回の到達目標	事業ドメインの再構築方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページに目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ（AKB48）に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。	60分
8	SWOT	自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。それとともに、アップル等の「プラットフォーム」の戦略の特徴について触れる。	
	この回の到達目標	SWOTのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ（アップル）、若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年、31～34ページに目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。	60分
9	製品・市場戦略とマーケティング	製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の概念と適用手順を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページに目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる。	60分
10	5フォースと競争戦略	ポーターの競争要因分析ツール：5フォースによる業界構造分析の方法について学修する。競争戦略とブルー・オーシャン戦略やプラットフォームの戦略の関係にも触れる。	
	この回の到達目標	5フォースの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『経営学入門（上）』169～180ページに目を通し、教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）に関して授業内課題に回答する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、5フォースを特定業界に適用できるようになる。	60分
11	PPM	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
	この回の到達目標	PPMのフレームワークを理解し、説明できるようになる（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『経営学入門（上）』152～169ページに目を通す。企業のケースに目を通す。前期中間レポートの作成。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、PPMの概念について説明できるようになる。	60分
12	コア・コンピタンス	企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。	
	この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	プラハラード, C.K. & ハメル, G.「コア・コンピタンス経営」に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦略プロファイリング	特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
14	バランス・スコアカード	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
	この回の到達目標	バランス・スコアカードのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページに目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる。	60分
15	全体のまとめ	組織と戦略に関する主要理論とその適用範囲、今後の生かし方等について学修。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
	事前学修	期末レポートの作成。	200分
	事後学修	授業全体のコンテンツについて復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	池田 直史	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修を前提とする。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、必要な経営学に関する基礎的知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	25	25							90
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを、リアクションペーパーに基づいて評価する。	2	2	3	3							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	22	28	28							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサンコ/マーク・リャンリー/デイビッド・ドラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/アンドレア・シェパード/ジョエル・ポドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）ikedanaoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
	事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
2	企業戦略の考え方	企業戦略の基本的な考え方を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	垂直統合とは	垂直統合とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	垂直統合と生産費用	垂直統合と生産費用の関係について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と生産費用の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、生産費用とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と生産費用の関係について復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	垂直統合と取引費用	垂直統合と取引費用の関係について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と取引費用の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、取引費用とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と取引費用の関係について復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	垂直統合と市場取引	垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合と市場取引の関係を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	多角化とは	多角化とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：多角化とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
8	多角化の誘因	企業の多角化の誘因を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業の多角化の誘因を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業の多角の誘因を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業の多角化の誘因を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
9	多角化のマネジメント	多角化のマネジメントについて学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：多角化のマネジメントについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のマネジメント手法を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化のマネジメントについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
10	多角化と内部資本市場	内部資本市場とその存在のメリットとは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：内部資本市場とその存在のメリットとは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、内部資本市場とその存在のメリットを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、内部資本市場とその存在のメリットとは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
11	多角化ディスカウント：内部資本市場の機能不全	内部資本市場が機能不全を起こした場合に、多角化ディスカウントが生じる可能性があることを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：内部資本市場が機能不全を起こした場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のメリットとデメリットを整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化のメリットとデメリットを押さえた上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
12	多角化ディスカウント：エージェンシー問題	エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じる可能性があることを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、エージェンシー問題と多角化ディスカウントの関係を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	M&A	M&A（企業の合併・買収）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：M&A（企業の合併・買収）とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、M&A（企業の合併・買収）とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、M&A（企業の合併・買収）とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括	経営学Ⅰの内容を含め、いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④関連：授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：到達目標①②③④の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
「経営学Ⅰ」の履修。第1回講義(ガイダンス)への出席・ガイダンス内容の確認。

【授業方法】
授業は、パワーポイントを使用したオンデマンド形式で行う。画像・映像なども利用し、対象企業や対象製品等について体感的に理解が進むようにする。 ※シラバスの内容、授業方法・授業計画等に変更が生じることがあります。その場合、第1回ガイダンス講義にて周知します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	調査、報告、レポート、リアクションペーパー等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。						2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。						2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。							2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関する経営学の基礎的な知識の習得、 理解度、考察力について、課題(小テスト、レポート、報告 等)により評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックについて、授業内で提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナール経営学入門 第3版	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞社	2003	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。参考図書について、授業で紹介する。				

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 導入講義	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の 到達目標	経営学の概要について、理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について復習する。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
2	マクロ組織のマネジメント	マクロ組織のマネジメント、組織形態のバリエーションと選択について、事例に即して学習する。	
	この回の 到達目標	マクロ組織のマネジメント、組織形態のバリエーションと選択について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する	120分
3	ミクロ組織のマネジメント	ミクロ組織のマネジメント、インセンティブシステム、リーダーシップについて、事例に即して学習する。	
	この回の 到達目標	ミクロ組織のマネジメント、インセンティブシステム、リーダーシップについて、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
4	アクティブラーニング、課題	講義で提示したテーマに関して、調査学習を行う。	
	この回の 到達目標	講義で提示したテーマに関して、事例を調査し、まとめることができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
5	環境・戦略・組織	企業を取り巻く環境、企業がとる戦略、その戦略を実行するための組織のあり方がどのように関連しているのかについて、事例に即して学習する。	
	この回の 到達目標	企業を取り巻く環境、企業がとる戦略、その戦略を実行するための組織のあり方の関連性について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
6	ケース分析	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行う。	
	この回の 到達目標	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行い、考察する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小テスト	第1回～6回の講義内容に関して、小テストを行う。	
	この回の到達目標	第1回～6回の講義内容について、復習する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を確認し、小テストの準備をする。	120分
	事後学修	小テスト及び第1回～6回の講義内容について、復習する。	120分
8	経営理念と組織文化	経営理念とは何か、組織文化とは何か、組織文化の生成と共有について、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	経営理念、組織文化、組織文化の生成と共有について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
9	パラダイム転換のマネジメント	パラダイム転換のマネジメント、脱成熟化について、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	パラダイム転換のマネジメント、脱成熟化について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
10	企業と経営者	企業と経営者、経営者の役割について、事例に即して学習する。	
	この回の到達目標	企業と経営者、経営者の役割について、事例に即して理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
11	アクティブラーニング、課題	講義で提示したテーマに関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	講義で提示したテーマに関して、事例を調査し、まとめることができる。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
12	ケース分析	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行う。	
	この回の到達目標	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行い、企業経営に関する理解を深める。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケース分析	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行う。	
	この回の到達目標	身近な企業・産業を対象に、ケース分析を行い、企業経営に関する理解を深める。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・配布資料を確認し、講義内容について復習する。	120分
14	最終課題準備：調査	「経営学Ⅰ・Ⅱ」で扱ったテーマに関して、調査し、報告準備を行う。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ・Ⅱ」で扱ったテーマに関して、調査し、発表資料を作成する。	
	事前学修	講義ノート・配布資料を読む。	120分
	事後学修	テーマに関する新聞・雑誌記事やニュースを調べる。発表資料を作成する。	120分
15	最終課題：報告資料作成、報告	「経営学Ⅰ・Ⅱ」で扱ったテーマに関して、調査内容をまとめ、報告資料を作成、報告する。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ・Ⅱ」で扱った内容に関して、調査・報告を行い、企業経営に関する理解を深める。	
	事前学修	調査内容をまとめ、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	報告資料・レポートを提出する。	120分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	佐藤 正弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義の前半はパワーポイントを使って行うので、スライドを各自でノートにまとめて下さい。受講生全員がノートを書き終わってから、次のスライドに進みます。また、講義の後半にはグループワークとプレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内で提示した課題についてグループワークを行い、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験、もしくは授業内試験にて評価する。	20	10	10	10							50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題についてグループワークとプレゼンテーションを行い、その内容にて評価する。	20	10	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中やClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週水曜日16：20～17：50に研究室にて実施（事前にメールでアポイントを取る事）。sato.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	食品メーカーの販売企画部にてインスタ・プロモーション等の企画立案業務に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		食品メーカー企画部での実務経験を活かして、マーケティング現場の事例を豊富に取り入れた講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入：経営分析とは	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、経営分析とは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
2	ゲスト・スピーカー講演	ゲスト・スピーカーが行っている企業経営について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ゲスト・スピーカーが行っている企業経営について、事例に即して理解し説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
3	経営戦略①（戦略的マーケティング）	経営戦略（戦略的マーケティング）について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、経営戦略（戦略的マーケティング）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
4	経営戦略②（戦略市場計画）	経営戦略（戦略市場計画）について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、経営戦略（戦略市場計画）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
5	商品企画プロセス	商品企画プロセスについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、商品企画プロセスについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
6	マーケティング分析	マーケティング分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、マーケティング分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケーススタディ：グループワーク	ビジネスケースについてグループワークを行い、企画書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、ビジネスケースについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
8	ケーススタディ：プレゼンテーション	グループワークで作成した企画書をプレゼンテーションする。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、ケーススタディについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
9	相関分析	相関分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、相関分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
10	回帰分析	回帰分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、回帰分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
11	因子分析	因子分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、因子分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
12	仮説検証	仮説検証について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、仮説検証について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク	提示された課題について、グループワークを行い、企画書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、課題について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
14	プレゼンテーション	グループワークで作成した企画書をプレゼンテーションする。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、課題について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノートを読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
15	後期のまとめ	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、分析に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』【改訂版】	風間、松田編	文真堂	2021	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	企業の組織構造	企業はどのような組織構造によって構成されているのか、また組織構造にはどのような種類があるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の組織構造について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	雇用と人事	企業には、ワーク・ライフ・バランスを推進する上でなにが求められているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、働くことの意味について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、仕事と生活を両立するためにはなにが重要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	合併・買収(M&A)の効果と目的	企業はなぜ合併・買収(M&A)を推し進めるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、買収・合併(M&A)の効果と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	企業とイノベーション	企業はなぜイノベーションを必要とするのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、イノベーションの効果と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イノベーションとはなにかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	生産管理論Ⅰ：モノづくりの基本	企業はどのようにしてモノづくりを行っているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、モノづくりの基礎について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの基礎とこれまでどのように発展してきたのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生産管理論Ⅱ：モノづくりの高度化	グローバル化や技術革新の進展が、モノづくりにどのような影響を与えているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、グローバル化や技術革新がモノづくりに与える影響について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの高度化によって私たちの生活がどのように変化しているのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	ケースメソッドⅠ：イノベーションと生産管理論	技術革新、とりわけAI技術の進展によって、私たちの生活はどのように変化するのか、その効果と課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、技術革新が私たちの生活に与える影響について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	私たちが日々の生活で使用している製品が、技術革新によってこれまでどのように変化してきたのかを調べる。	120分
	事後学修	イノベーションとモノづくりの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	人的資源管理Ⅰ：リーダーシップ論	企業の経営者はどのようにして人的資源(人材)を有効活用しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、人的資源の有効な活用方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者の役割と責任について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	人的資源管理論Ⅱ：グローバル化とダイバーシティ	グローバル化の進展が、企業を構成するメンバー(従業員)にどのような変化をもたらしているのか、そのことによってどのような課題が生じているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、人的資源を活用する上での課題を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ダイバーシティとはなにか、なぜそれが必要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	ケースメソッドⅡ：人的資源管理	さまざまな環境の変化によって、私たちの働き方がどのように変化していくのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、働き方の多様化について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	昨今の社会状況の変化によって、働き方がどのように変化してきているのかを調べる。	120分
	事後学修	働き方の多様化が、社会にどのような影響を与えるのか、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	国際経営Ⅰ：国際経営の組織モデル	企業は海外でどのように経営しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業が海外進出をする意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際経営独自の課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経営Ⅱ：グローバル化と経営の現地化	国際経営において、経営の現地化がなぜ必要なのか、その課題とはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、国際経営の課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営の現地化の必要性和課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	SDGs(持続可能な開発目標)と企業価値の向上	社会の健全な発展と企業価値の向上を目指して、求められる企業像とはなにかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために求められる企業の役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、現代社会における企業の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	後期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	若林 広二	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートの作成に多大な時間を要するため、そのための履修態勢が十分にできていること。経営学を将来の仕事(経営コンサルティング業務や企業の経営企画業務等)に結び付けようと考えていること。

【授業方法】
授業で使用する資料(PDF)を、Google Classroom(クラスコード:dy4zwls)より事前にダウンロードして授業に臨む。クラス討議や授業内課題への回答結果で各人のクラス参画度を評価する。中間・期末の各レポート課題への回答を期限内に提出し、それらの品質を評価する。授業関連の全ての連絡はGoogle Classroomより行う。授業で使用する講義スライド、ケース、教科書等の全資料は、Google Classroomより入手可(授業中の資料の配布はない)。授業成果を得るために、一定の事前学修・事後学修時間(後掲)を要する。配布資料に基づく十分な事前学修が特に重要。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム(レスポンス等)を出欠確認に使用。授業内課題(問題)への回答と中間・期末レポートについてフィードバックを実施。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているか、また、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを、レポート課題等により評価する。	10	15	15	5							45
討論・発表等												
授業への参画度	クラス討議での発言や授業内課題への回答を評価する。各人の独自の思考結果だけが評価対象となり、ネット情報や他の履修者の回答の引き写しは評価対象にならない。ネット検索はあくまでも思考過程を支援する補助的手段にすぎない。	15	10	10	20							55
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間レポート課題は授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポート課題は希望者に対してメールにより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンサルティングの基本	神川貴実彦	日本実業出版社	2008	参考書	推奨
コンサルティングの基本 ベストプラクティス集	神川貴実彦	日本実業出版社	2013	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務の知見に基づき、経営理論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	シラバスに基づく後期授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容と主旨について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	経営学Ⅰで学修した理論について、コンサルタントとして経営現場に適用することを想定しながら復習する。	120分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	120分
2	コンサルティング業界と組織	世界と日本のコンサルティング市場（規模、分野別構成比と各分野の成長性、主要企業別収益ランキング）とコンサルティング企業の組織構造や人事評価制度について学修する。	
	この回の到達目標	コンサルティング業界とコンサルティング企業の組織体制・人事制度について理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、39～58ページに目を通し、コンサルティング業界の全体像を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	60分
3	コンサルティング業務	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
	この回の到達目標	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
	事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、13～36ページに目を通し、コンサルティング業務の手順と内容を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング業務の手順について説明できるようになる。	60分
4	事業ドメインコンサルティング1（概要）	企業において実際に事業定義（ドメイン）を設定する手順を各種分析ツールを用いながら学修する。	
	この回の到達目標	事業ドメイン再構築の手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（6）事業ドメインの概念、（7）事業定義の方法を復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年3～12ページを熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の復習し、事業ドメインコンサルティングの手順について説明できるようになる。	60分
5	事業ドメインコンサルティング2（演習1）	第4回で作成したCFT分析表に基づいて、将来の事業ドメイン（案）を設定する。	
	この回の到達目標	CFT分析の記入方法について理解し、自身で作成できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	良品計画のホームページ（www.muji.com/jp）より、現在の主要製品群（事業）を10～20抽出し、それぞれについてCFT分析をする（指定様式使用）。	180分
	事後学修	各人が作成したCFT分析表を、授業の内容を受けて修正する。	60分
6	事業ドメインコンサルティング3（演習2）	各人が作成した事業ドメインマップに基づいて、全社の将来事業を定義する。	
	この回の到達目標	将来事業ドメインの再構築方法について理解し、自身である程度事業ドメインを構築できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	良品計画について、CFT分析の結果に基づいて、現在から将来の事業ドメインマップを作成する（指定様式使用）。	180分
	事後学修	事業ドメインマップに基づいて、全社事業定義を設定する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	収益コンサルティング		損得学の主要理論について、演習課題により修得する。	
	この回の到達目標	損得学の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。		
	事前学修	森田正雄「経営者のための損得学入門」海難タイムズVol. 379・382・385・388・391・395、2012年を熟読し、意思決定の論理を理解する。		120分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、損得学の同様の問題に対して正答できるようになる。		120分
8	事業戦略コンサルティング		状況に応じて、製品・紫綬戦略、新規事業戦略、ブルー・オーシャン戦略の3つがあるが、各ツールの手順について学修する。	
	この回の到達目標	事業戦略策定方法を複数修得し、説明できるようになること（関連目標③）。		
	事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理（全面改訂版）』日本経済新聞出版社2012年257～77ページ（アサヒビール）に目を通す。		180分
	事後学修	配布資料の復習により、各種事業コンサルティング手法を状況によって使い分けることができるようになる。		60分
9	人事・組織コンサルティング		企業に人事制度を導入する際の手順、また組織構造を変える際の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	人事・組織のコンサルティング手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。		
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（3）マクロ組織論、（5）業務プロセスと人事制度 について復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年81～95ページを熟読する。		180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、人事制度の改定・組織改編の手順を説明できるようになる。		60分
10	ファイナンスと将来設計		大学での学修を将来への自己投資ととらえ、投資を中心としたファイナンスの基礎理論について学修する。	
	この回の到達目標	ファイナンスの重要性を理解し、キャリアプランとの関係で説明できるようになること（関連目標①）。		
	事前学修	野村総合研究所『日本におけるコンピューター化と仕事の未来』2015年に目を通す。中間レポート（実在企業に対するコンサルティングプロジェクトの企画提案書）の作成。		180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、ファイナンス理論の基礎を説明できるようになる。		60分
11	中間レポートレビュー		各人作成・提出の企画提案書（PPT）について講評する。	
	この回の到達目標	中間レポートを完成させるとともに、期末レポートに向けての課題を確認する（関連目標④）。		
	事前学修	前回作成した中間レポートのレビュー（特にコンサルティングのテーマ）。		120分
	事後学修	各企画提案書に対する講評を振り返り修正し、修正版を再提出する。		120分
12	バランス・スコアカードコンサルティング1（概要）		前期扱ったバランス・スコアカードを実際に企業に導入する際の手順について学修。	
	この回の到達目標	バランス・スコアカードの導入手順を理解し、説明できるようになること（関連目標①④）。		
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（14）バランス・スコアカード（経営学Ⅰ履修者）や若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページ（経営学Ⅰ未履修者）について復習する。		180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの導入手順を説明できるようになる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	バランス・スコアカードコンサルティング2（戦略プロファイリング）	経営学Ⅰの戦略プロファイリングの手順をレビューし、同ツールへの理解を深める。		
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順を完全に修得する（関連目標①④）。		
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年をレビューする。	100分	
	事後学修	指定企業の戦略プロファイリング（全体の一部）を実施・提出。	140分	
14	ブルー・オーシャン戦略	ブルー・オーシャン戦略の理論について理解する。		
	この回の到達目標	ブルー・オーシャン戦略の概念について、理解し説明できるようになること（関連目標②③）。		
	事前学修	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』ダイヤモンド社2014年、33～58頁（「ブルー・オーシャン戦略」）に目を通す。	180分	
	事後学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）の情報に基づいて、サムスン電子の戦略キャンパスを作成・提出。	60分	
15	全体のまとめ	各回の内容、扱ったコンサルティングツールとそのポイント、キャリアとしての経営コンサルタント等について学修。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの適用についても触れる。		
	この回の到達目標	科目全体を通して、経営コンサルティング業務とそのポイントを理解し、説明できるようになること（関連目標①②③④）。		
	事前学修	期末レポート（中間レポートの企画提案書に対応した答申書）の作成。	200分	
	事後学修	配布資料（PDF）により全体について復習する。	40分	

科目名	経営管理論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
経営管理論の対象は企業内部における価値創造のダイナミズムであり、それを生み出す組織の活動であり、その組織で主体的活動を行う人間そのものである。経営管理論を学ぶということは、企業内部における人と資源が織りなす有機的な協働システムの実態を把握し、そこから生み出される企業固有の能力の展開を理解することである。本講義では、経営管理論の理論的背景を歴史的視点から概観することで、その背景から経営管理施策の現代的意味を理解していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営管理論の成立過程と歴史的背景について説明できるようになる。 今日的な経営管理課題について理論的な視角から分析できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面形式で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ネットワークを利用し、出来る限りインタラクティブな講義を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営管理論の成立過程と歴史的背景について理解している。				2		2	2				
②	経営管理論の理論体系について理解している。				2		2	2				
③	今日的な経営管理課題について理論的な視角から分析できる。						3	3				
④	分析結果から適切な解決策を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	今日的な経営管理課題について理論的な視点から分析し、適切な解決策を提案できるかについて、到達目標①②③④の観点から授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④の観点から身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	経営管理について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	経営管理とは何か	経営管理（マネジメント）の歴史的体系について説明する。	
	この回の到達目標	経営管理（マネジメント）の歴史的体系について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	テイラーと科学的管理法	テイラーの科学的管理法の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	テイラーの科学的管理法の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	ファヨールと管理過程論	ファヨールの管理過程論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	ファヨールの管理過程論の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	人間関係論と行動科学	人間関係論と行動科学の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	人間関係論と行動科学の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	人的資源管理論	人的資源管理論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	人的資源管理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	モチベーション理論	モチベーション（動機付け）理論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	モチベーション（動機付け）理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	経営戦略論	経営戦略論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営戦略論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	経営資源における情報	情報資源の蓄積・利用と組織体制について説明する。	
	この回の到達目標	情報資源の蓄積・利用と組織体制について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	バーナードと近代組織論	近代組織論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	近代組織論の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	組織間関係論	組織間関係論と日本の企業グループについて説明する。	
	この回の到達目標	組織間関係論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	リーダーシップ	リーダーシップの主要な理論について説明する。	
	この回の到達目標	リーダーシップの主要な理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業文化と組織	企業文化と組織の理論について説明する。	
	この回の到達目標	企業文化と組織の理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	日本の経営管理	日本の経営管理について説明する。	
	この回の到達目標	日本の経営管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営情報システム論Ⅰ	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
ICTが飛躍的に発展している現在、企業や様々な組織において、大量なデータ等を効率的に活用することは、経営の根幹にかかわる重要課題である。この経営情報システム論は、人と情報技術、そして組織を経営の視点から包括的に研究する学問領域であり、学生は、このような見地から企業その他の組織を把握し、経営情報システムがどのように利用されているかを学修することで経営情報システムの概要について理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日のICT環境を前提にして、「情報システム」と個々の「人間固有の情報処理能力」の情動的相互作用を組織全体として整合性のあるものにする理論の構築ができ、それによって組織体の維持発展や革新のための提案ができるようになる。

【履修条件】
特になし。後期の「経営情報システム論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムとICTの関係について理解している。					2		2	2				
②	企業環境の変化と経営情報システムの変遷について理解している。							2					
③	情報セキュリティの概要や情報倫理の問題点について理解し、説明できる。					2							
④	経営情報システムとネットビジネスの関係について理解し、説明できる。							2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	経営情報システムとは何か	経営情報システムとは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムとは何かについて理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	経営情報論の基礎	組織体と情報システムについて説明する。	
	この回の到達目標	組織体と情報システムについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	経営情報論の基礎理論	経営組織論と経営戦略論の概要について説明する。	
	この回の到達目標	経営組織論と経営戦略論の概要について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	経営情報システムの変遷	経営情報システムの変遷について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	情報通信技術の進展	情報通信技術の進展（クラウド・コンピューティング、ビッグデータ等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術の進展について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経営情報システムの設計・開発	経営情報システムの設計・開発方法論（SDLC法等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの設計・開発について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	経営情報システムの管理	経営情報システムの管理（情報セキュリティ・マネジメント等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	情報通信技術とビジネス・プロセス革新	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	ネット・ビジネス	ネット・ビジネスについて説明する。	
	この回の到達目標	ネット・ビジネスについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	情報通信技術と組織変革	情報通信技術と組織変革（クローズドシステムとオープンシステム）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と組織変革について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	情報通信技術と組織コミュニケーション	情報通信技術と組織コミュニケーション（メディア・リッチネス等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と組織コミュニケーションについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	情報通信技術と社会	情報通信技術と社会（個人情報の利用とプライバシー等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と社会について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	経営情報システムの課題	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営情報システム論Ⅱ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
近年、経営情報システムはICTの急激な進歩に伴って大きく変化している。ERP（Enterprise Resource Planning）やSCM（Supply Chain Management）をはじめ、クラウドやIoT、ビッグデータ、AIなど様々な環境の変化に対応し変化している。本講義では、実際に事例に当たること、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善できる知識を身に付けていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営情報システムの最新技術への対応を理解しシステムを体験することで、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。前期の「経営情報システム論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムの変遷と背景について理解している。						2	2				
②	情報通信技術の現状と課題について理解している。				2		2	2				
③	経営情報システムの最新技術について理解している。						2	2				
④	経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる。				2		2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	I C Tとパラダイムシフト	I C Tによる地球規模でのパラダイムシフトについて説明する。	
	この回の到達目標	I C Tによる地球規模でのパラダイムシフトについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	I C Tと経営情報システム	I C Tと経営情報システムの現状について説明する。	
	この回の到達目標	I C Tと経営情報システムの現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）と背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）と背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	基幹業務統合システム（ERP）	基幹業務統合システム（ERP）について説明する。	
	この回の到達目標	基幹業務統合システム（ERP）について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	サプライチェーンの全体最適化（SCM）	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明する。	
	この回の到達目標	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	ビッグデータの概念とその戦略的活用	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明する。	
	この回の到達目標	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明する。	
	この回の到達目標	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	クラウドサービスの活用と問題点	クラウドサービスの活用と問題点について説明する。	
	この回の到達目標	クラウドサービスの活用と問題点について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	A I の活用と課題	A I の活用と課題について説明する。	
	この回の到達目標	A I の活用と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明する。	
	この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	HRテクノロジーの活用事例	HRテクノロジーの活用事例について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーの活用事例について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	情報セキュリティとサイバー攻撃	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明する。	
	この回の到達目標	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営組織論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
経営組織論の対象はビジネスの現場のみならず社会全般に亘っており、組織と関わらずに生活することはほとんど不可能と言える。本講義では基本的な組織論の歴史的背景を概観した上で、組織の定義からその成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）、組織が安定的に活動を継続することを可能にする構造とプロセスを取り上げる。また、現代の組織において重要な課題であるイノベーション創出や変革を取り上げ、組織と戦略の関係性についても解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営組織論の成立過程と歴史的背景について説明できるようになる。 経営組織論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる。 経営組織論の枠組みで経営組織課題を分析できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド形式で講義動画を視聴してもらう形で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ネットワークを利用し、出来る限りインタラクティブな講義を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営組織論の成立過程と歴史的背景について理解している。				2		2	2				
②	経営組織論の基本的な概念について理解している。				2		2	2				
③	今日的な経営組織における課題について理論的な視角から分析できる。						3	3				
④	分析結果から適切な解決策を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	今日的な経営組織における課題について理論的な視点から分析し、適切な解決策を提案できるかについて、到達目標①②③④の観点から授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④の観点から身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	経営組織について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	組織とは	経営組織の定義について説明する。	
	この回の到達目標	経営組織の定義について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	組織の成立要件	組織の3つの成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）について説明する。	
	この回の到達目標	組織の3つの成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	組織目的の存在	組織目的や制約としての諸目的について説明する。	
	この回の到達目標	組織目的や制約としての諸目的について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	組織におけるコミュニケーション	組織におけるコミュニケーションと調整について説明する。	
	この回の到達目標	組織におけるコミュニケーションと調整について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）について説明する。	
	この回の到達目標	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	組織の発展と構造変化	組織の発展と構造変化について説明する。	
	この回の到達目標	組織の発展と構造変化について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	官僚制	官僚制の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	官僚制の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	ネットワークと組織文化	ネットワークと組織文化について説明する。	
	この回の到達目標	ネットワークと組織文化について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	組織プロセスの重要性	組織プロセスの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	組織プロセスの重要性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	モチベーション理論	モチベーションの主要な理論について説明する。	
	この回の到達目標	モチベーションの主要な理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	環境と組織	環境と組織の関係について説明する。	
	この回の到達目標	環境と組織の関係について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦略と組織学習	戦略と組織学習の理論について説明する。	
	この回の到達目標	戦略と組織学習の理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	イノベーションと組織	イノベーションと組織の関係について説明する。	
	この回の到達目標	イノベーションと組織の関係について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営分析論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
企業活動とは経営戦略の実行であり当然これを実行した結果が決算書に表れてくる。つまりより良く企業を知るためには企業が目指す経営戦略を念頭に置いて決算書を読み解く必要がある。つまり経営分析を行うためにも経営戦略の評価が必要であり、経営分析は正しい戦略的意思決定を行うプロセスであるといえる。本講義では戦略的意思決定を行うための経営分析の知識を身に付け、実際に財務諸表を読み解くケーススタディを実施する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業経営を評価するための前提として経営戦略を念頭に置いた経営分析を理解し、正しい意思決定ができる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。会計知識があることが望ましいが、基礎から説明するので初学者でも可。

【授業方法】
オンデマンド形式により、授業動画を視聴してもらい授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り課題を提出させ、それに答える形式で講義を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務3表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）について理解している。				2		2	2				
②	会計数値や会計指標について理解している。				2		2	2				
③	各指標を用いて経営分析を行うことができる。						3	3				
④	分析結果から適切な意思決定を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	財務3表について各指標を用いて分析ができるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	財務3表について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について説明する。	
	この回の到達目標	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	売上高、利益、原価率（P/L）	売上高、利益、原価率（P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	売上高、利益、原価率（P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	キャッシュフロー計算書（C/F）	キャッシュフロー計算書（C/F）について説明する。	
	この回の到達目標	キャッシュフロー計算書（C/F）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	連結決算（B/S、P/L）	連結決算（B/S、P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	連結決算（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケーススタディ 1	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	ケーススタディ 2	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	ケーススタディ 3	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	ケーススタディ 4	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	ケーススタディ 5	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	ケーススタディ 6	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケーススタディ 7	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	ケーススタディ 8	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、組織体の戦略を策定しその実施を推進し、働き方を変えていくための実践的スキルを身につけることを目的とする。「経営学Ⅰ」で取り上げた経営戦略の主要理論の理解を前提に、より多くのケースに接することで、組織内のファシリテーターやリーダーとして戦略作りを推進できるようになることを目標とする。関連C P ・ D P：経営法学科3

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、そのための履修態勢が十分にできていること。経営戦略論を将来の仕事に結び付けようと考えていること。

【授業方法】		
授業で使用する資料（PDF）を、Google Classroom（クラスコード：64mxro7）より各自事前にダウンロードして授業に臨む。授業は、履修者の授業内容についての理解度を確認しながら進め、クラス討議や授業内課題の回答結果で各人のクラス参画度を評価する。授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてGoogle Classroomで評価をフィードバック。授業成果を得るために、一定の事前学修・事後学修時間（後掲）を要する。配布資料に基づく十分な事前学修が特に重要。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（問題）に対して回答を提出する。出席管理システム（レスポ等）を出欠確認に使用予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	企業にとって戦略的発想の重要性を理解し、それを説明することができる。						3				
②	企業のおかれた状況の中で、最適な戦略を選ぶ能力を高める。						3				
③	企業の戦略的目標を認識し、目標間の関係性を明確化する方法を修得する。						3				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題2では、到達目標③について、レポートを提出し戦略目標間の関係性の適切さを評価する。			30								30
討論・発表等	課題1では、到達目標③について、企業のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し発表する。			30								30
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身についているかを、クラス討議での発言や授業中の課題への回答により評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・課題1は授業時間内に回答例の提示や講評を実施。課題2はGoogle Classroomより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書	推奨
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） 経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、企業経営にとって経営戦略の果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	経営学Ⅰの授業コンテンツの復習。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習と、戦略プロファイリング対象企業候補を検討。	120分
2	事業定義1（理論）	事業定義の重要性の再確認と事業定義手順について学修。	
	この回の到達目標	事業定義の方法・手順を説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	レビット, T. 「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス』1993年2月-3月号を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年1～33頁に目を通す。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義を企業組織で実際に実施できるようになる。	120分
3	事業定義2（ケース）	セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。	
	この回の到達目標	セコムの事業定義の優れている点について理解し、説明すること（関連目標②）。	
	事前学修	セコムのケース（コピー事前配布）に基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正。	60分
4	戦略プロファイリング1（理論）	戦略プロファイリングの背景、定義、実施方法について学修。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年を熟読し、戦略プロファイリングの概念を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により「戦略プロファイリング」を説明できるようになる。	60分
5	製品・市場戦略1（理論）	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
	事前学修	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74ページを読む。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により「製品・市場戦略」の適用手順を説明できるようになる。	60分
6	製品・市場戦略2（ケース）	各人作成のワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の手順・適用方法を理解し、適用できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	ケースを読み、それに基づく製品・市場分析、K F S（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	SWOTと業界構造分析1（理論）	外部環境と経営資源の分析に用いられるSWOTと5フォースの適用に重点を置いた学修。	
	この回の到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	ポーター，M．E．（土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習による5フォースの正しい適用方法を説明できるようになる。	60分
8	SWOTと業界構造分析2（ケース1）	マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWOTと5フォースの適用方法を学修。	
	この回の到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	アップルのケース1（PCメーカー時代）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOTと5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
	事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
9	SWOTと業界構造分析3（ケース2）	iPod・iPhone以降のプラットフォームへの成長過程のアップルについて、ケース1からSWOTで導かれる戦略仮説がケース2で実際に実施されたか検証する。	
	この回の到達目標	アップルの戦略を通して、クロスSWOT分析に基づく戦略と実際の戦略の関係について理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	アップルのケース2（iPod・iPhone時代）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOTと5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
	事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
10	戦略プロファイリング2（戦略プロファイリングの方法）	各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、実在の企業に適用できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年をレビューし、戦略プロファイリングの手順を理解する。	60分
	事後学修	課題1（個別企業の戦略プロファイリング）の作成。	180分
11	戦略プロファイリング3（演習）	各人作成の戦略プロファイリング結果について講評。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順を修得すること（関連目標③）。	
	事前学修	他の参加者のプロファイリング対象企業の戦略情報に目を通す。	120分
	事後学修	作成した戦略プロファイリングへの講評内容を復習し、講評に基づいて戦略マップを修正し、戦略プロファイリングのスキルを修得する。	120分
12	PPM1（理論）	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
	この回の到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年85～100ページを熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの概念を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PPM 2（ケース）	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
	この回の到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	GEのケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケースより、成功事業・失敗事業を選定する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する。	60分
14	コア・コンピタンス（ケース）	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
	この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
	事前学修	ブラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年307～45ページを分析。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる。	60分
15	まとめ（AI時代の経営戦略）	経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの適用についても触れる。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③）。	
	事前学修	課題2：課題1と異なる企業について戦略プロファイリングの実施。	200分
	事後学修	配布資料（PDF）により全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。また、イノベーション＝「価値創造」という認識の下、イノベーションの主要フレームワークをケースを用いながら理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、企業を成長させ従業員の働き方を変えるイノベーションとは何かを理解した上で、イノベーションの主要理論について学修することを目的とする。現象としてのイノベーションを、イノベーション理論で説明できるようになることを目標とする。関連CP・DP：経営法学科3

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、そのための履修態勢が十分にできていること。イノベーション理論を将来の仕事に結びつけようと考えていること。

【授業方法】		
授業で使用する資料（PDF）を、Google Classroom（クラスコード：vqf7rqo）より各自事前にダウンロードして授業に臨む。授業は、履修者の授業内容についての理解度を確認しながら進め、クラス討議や授業内課題の回答結果で各人のクラス参画度を評価する。授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてGoogle Classroomで評価をフィードバック。授業成果を得るために、一定の事前学修・事後学修時間（後掲）を要する。配布資料に基づく十分な事前学修が特に重要。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（問題）に対して回答を提出する。出席管理システム（レスポ等）を出欠確認に使用予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業にとってのイノベーションの重要性を理解し、それを説明することができる。						3					
②	現象としてのイノベーションを、諸イノベーション理論で説明する能力を修得。						3					
③	イノベーションの阻害要因を、実際のケースの中にみつける能力を修得する。						3					
④	イノベーションを起こす、あるいは、それを支援する能力を修得する。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポート：到達目標②④について、中間課題での計画にそって、現象としてのイノベーションを授業で扱った理論で論理的に説明する総合的な能力を評価する。A4（約1,000字詰）×10枚（図表含む）以内のケース研究の形でまとめる。		30		10							40
討論・発表等	中間課題：到達目標②について、現実起きた現象としてのイノベーションについて、適用可能なイノベーション理論をみつける能力を評価する。		20									20
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身についているかを、クラス討議での発言や授業中の課題への回答により評価する。	20		20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間発表は授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポートはGoogle Classroomより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト イノベーション・マネジメント	近能善範・高井文子	新世社	2010	教科書	必携
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書	推奨
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書	推奨
イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		ものづくりの現場で得た知見に基づき、イノベーション理論の経営現場への適用方法を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	企業経営にとってイノベーションの果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	最近の新聞記事の中から、「イノベーション」と思われる事例を2つあげる。	120分
	事後学修	配布資料の復習。	120分
2	イノベーションの定義	代表的なイノベーションの定義をあげ、それらより、授業における定義を作る。また、イノベーションとそうでないものの違いより、イノベーションの意味について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの定義について説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』1～17頁に目を通し、「イノベーション」とは何か（定義）について検討する。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを説明できるようになる。	120分
3	イノベーションとバリューチェーン（理論）	イノベーションがバリューチェーン上を移動する上での阻害要因について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの3つの阻害要因をバリューチェーン上で説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』19～45頁を読む。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
4	イノベーションとバリューチェーン（ケース）	ゼロックスのケースの詳細な分析より、3つの阻害要因の企業活動における実際を学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの生かし方と企業成長の関係について、ゼロックスとアップルの例で説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	ゼロックスのケースについて、ゼロックスの事業定義の変化、PARCでのアルト（Alto）の商品化に向けての阻害要因等について検討。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
5	イノベーションのライフサイクル	イノベーションを時間軸でとらえ、その進展を曲線で表現したモデル（理論）について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションのライフサイクルに関する諸理論を説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』47～80頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの時間による様々なモデルを説明できるようになる。	60分
6	イノベーションの連続性	イノベーションの連続性（非連続性）を性能面、顧客価値（機能）面、経営資源面よりとらえ、相互の差について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの技術・顧客価値による非連続性について説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』73～112頁、119～132頁を読んで、業務用カラオケにおけるイノベーションをワークシートをワークシートを用いて分析する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの連続性の3つの視点間の差を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イノベーションとアーキテクチャ	アーキテクチャ（製品の構造・部品構成）の2つの軸（部品間特性・オープン化特性）について学修する。	
	この回の到達目標	各製品分野でアーキテクチャの果たす役割について説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』113～8頁、191～222頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、特定のイノベーションを2軸に位置付けられるようになる。	60分
8	イノベーションの課題	これまでに扱ったいくつかの間違いやすい類似概念を、実際の例によって確認するとともに、イノベーションを起こすための理論（現象を説明するための理論ではなく）について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーション理論間の関係、イノベーションを起こす理論について、説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	クリステンセン, C. (玉田俊平太訳) 『イノベーションのジレンマ』翔泳社2001年27～58頁（第1章）より技術一顧客価値のマトリクスにHDDにおけるイノベーションを位置付け、アップルのケース1（前期使用）より主要パソコンを部品間特性・オープン化特性の2軸に位置付ける。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを起こす方法について説明できるようになる。	60分
9	中間課題レビュー	イノベーションのケースの中間報告（PPT）に対する講評。	
	この回の到達目標	期末レポート（イノベーションのケース）の作成に向けて、解決すべき調査・分析の問題を明確にする（関連目標②）。	
	事前学修	中間課題（イノベーションのケース分析レポートの中間報告）作成。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、期末課題に向けての指針とする。	60分
10	イノベーションと知的財産	イノベーションの役割を知的財産マネジメントの観点より学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションにおいて果たす知財の役割について理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	知的財産マネジメントのサイクル（モデル）について調べる。	60分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションと知的財産の相互関係について説明できるようになる。	180分
11	イノベーションとBOP（ケース）	BOP（ベース・オブ・ピラミッド：新興国市場）におけるイノベーションとその展開プロセスについて学修する。	
	この回の到達目標	リバースイノベーションの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	ゴビンダラジャン, V (渡部典子訳) 『リバース・イノベーション』ダイヤモンド社2012年247～76頁（コピー事前配布）を読み、GEのリバース・イノベーションの成功要因について検討する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習することにより、リバース・イノベーションの概念を説明できるようになる。	60分
12	イノベーション組織	社会的ネットワーク論の主要なものについて概説し、それらより、イノベーション組織（イノベーションが起きやすい組織）作りの方法について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションを起こすための組織体制について説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	入山章榮『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年、125～148頁（第7章）、149～185頁（第8、9章）、若林広二「柔構造組織の理論」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 13、2020年を熟読し、社会的ネットワーク論とイノベーションの関係について考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション組織が説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	イノベーションの評価	イノベーションの進展を評価するしくみとして、バランス・スコアカードが適用できる。イノベーション評価のツールとしてのバランス・スコアカードについて学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの進捗を評価する手法としてのBSCの使用方法について、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、バランス・スコアカードについて説明できるようになる。	60分
14	イノベーションと経営戦略	「事業定義（経営戦略）→イノベーション→企業成長」という経営における一連の因果関係に直目し、本講座の意義について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションと経営戦略の関係について、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年、1～33頁（前期配布済み）を読み、イノベーション、経営戦略、企業成長の関係について考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション企業成長の関係について説明できるようになる。	60分
15	全体のまとめ	イノベーションの定義、イノベーションとバリューチェーン、イノベーションのライフサイクル、イノベーションの連続性、イノベーションとアーキテクチャ、イノベーションと知財、イノベーションとBOP、イノベーション組織、イノベーションの評価、イノベーションと経営戦略といった項目のポイントについて振り返る。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
	事前学修	期末レポート（イノベーションのケース）の作成。	200分
	事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) I	担当者	川村 佑紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
企業の事業活動によって発生する法律問題は多種多様であり、また、多くの法律領域にまたがっている。本講義では、ビジネスとの関わりのある領域を俯瞰することに主眼を置き、かかる領域において発生する個別の法律問題を法制度の内容とともに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、ビジネスと法の関わりについて学修することを目的とする。 このような、いわゆる”ビジネス法務”を学修することで、ビジネス法に対する基本的理解を涵養し、個別の法律問題に対して妥当な結論を導き出せる能力を身につけることを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスに関する法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1	1						
②	ビジネス法務に関する実務運用状況や、関連法律問題における主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						2	2						
③	ビジネス法において発生する個別の法律問題について講義で得られた知見を活用したうえで考察し、自分の意見を述べるることができる。						2	2						
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	第15回の授業内テストにより、到達目標①②③にかかわるビジネス法の基本的構造を理解しているのか、設定された問題に対して講義で得た知識をもとに妥当な結論を導き出すことができるのかを確認する。	40	40	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に模範解答例・解説などを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ビジネス法務の理論と実践	松嶋隆弘・鬼頭俊泰	芦書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、適宜行う。kawamura.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文具メーカー管理部及び投資会社法務部
実務経験に基づく実践的教育の内容		メーカー勤務の経験を活かし、製造業においてどんなことが現場で教育されているかなどについて、また、現在投資会社勤務しており様々なベンチャーやスタートアップと接していることから、現在のビジネスの特徴や起業の動きなどについて、講義の中でご紹介できればと思っています。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス・導入】ビジネスと法		ビジネス法を学修するにあたって、ビジネス法の全体像を提示し、各法領域と各種法律との関係について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、ビジネスと法がどのようにかかわっているのか、また、ビジネス法においてどのような法律問題が発生していて、何を講義で学ぶのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ビジネスと法とのかかわりがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ビジネス法の全体像につき、確認・整理をする。	120分
2	契約とは何か		小売業を例に挙げながら、民法が定める契約に関するルールについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、契約の内容や締結する過程に問題がある場合のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、民法が定める契約に関するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、民法の定める契約ルールにつき、確認・整理をする。	120分
3	消費者法による民法理論の修正		小売業を例に挙げながら、民法が定めるルールが消費者法によってどのように修正されているのか学修する。
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、消費者法の内容や特性を理解し、民法との違い、民法が定めるルールがどのように修正されているのかを説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、民法が定めるルールが消費者法によってどのように修正されているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、消費者法が定めるルールにつき、確認・整理をする。	120分
4	商取引に対する規律		卸売業を例に挙げながら、商法が定めるルールについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、商人間でなされる取引に適用される商法のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、商法が定めるルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、商法が定めるルールにつき、確認・整理をする。	120分
5	電子商取引に対する規律		電子商取引がなされている状況を例に挙げながら、かかる取引に適用される規律について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、電子商取引に適用されるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、電子商取引と同取引に対する規律がどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、電子商取引に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
6	不動産売買における法律問題		不動産業における不動産売買を例に挙げながら、不動産売買にかかるルールにつき民法を中心に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、不動産売買に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、不動産売買に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、不動産売買に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	不動産賃貸借における法律問題		不動産業における不動産賃貸借を例に挙げながら、不動産賃貸借にかかるルールにつき民法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、不動産賃貸借に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、不動産賃貸借に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、不動産賃貸借に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
8	建設業における法律問題 建物建設		建設業における建物建設を例に挙げながら、不動産建設請負を巡って生じうる法律問題につき民法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、建物建設に関連する民法のルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、建物建設に関する民法上のルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、建物建設に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
9	耐久消費財の製造における法律問題		耐久消費財を製造するに際して発生しうる法律問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、耐久消費財の製造に関わる各種法律（製造物責任法など）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、耐久消費財の製造にあたって、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、耐久消費財の製造にあたって適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
10	非耐久消費財の製造における法律問題		非耐久消費財のうち食品・医薬品・化学製品を例に挙げながら、非耐久消費財の製造にあたって発生し得る法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、非耐久消費財（食品・医薬品・化学製品）の製造にかかわる各種法律（食品衛生法など）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、非耐久消費財の製造にあたって、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、非耐久消費財の製造にあたって適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
11	ロジスティクス業における法律問題 運送・倉庫・場屋		ロジスティクス業のうち、運送・倉庫・場屋を例に挙げながら、それら業種で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）にかかわるルール（主に商法）について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ロジスティクス業（運送・倉庫・場屋）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分
12	金融業（銀行）における法律問題		金融業のうち、銀行を取り上げ、かかる業界で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、金融業（銀行）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、金融業（銀行）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、金融業（銀行）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融業（証券・保険）における法律問題	金融業のうち、証券・保険を取り上げ、かかる業界で発生しうる法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、金融業（証券・保険）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、金融業（証券・保険）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、金融業（証券・保険）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
14	サービス業における法律問題 人材業・仲介業	サービス業のうち、人材業・仲介業を取り上げ、かかる業界で発生し得る法律問題とルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、サービス業（人材業・仲介業）にかかわるルールについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、サービス業（人材業・仲介業）において、関連するルールがどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、サービス業（人材業・仲介業）に適用されるルールにつき、確認・整理をする。	120分
15	授業の振り返りと理解度チェック	第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③と関連して、第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、これまでの講義内容を全体的に振り返り、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、これまでの講義内容につき、確認・整理をする。	120分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) Ⅱ	担当者	川村 佑紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
企業の事業活動によって発生する法律問題は多種多様であり、また、多くの法律領域にまたがっている。本講義では、ビジネスとの関わりのある領域を俯瞰することに主眼を置き、かかる領域において発生する個別の法律問題を法制度の内容とともに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、ビジネスと法の関わりについて学修することを目的とする。 このような、いわゆる”ビジネス法務”を学修することで、ビジネス法に対する基本的理解を涵養し、個別の法律問題に対して妥当な結論を導き出せる能力を身につけることを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスに関する法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1	1						
②	ビジネス法務に関する実務運用状況や、関連法律問題における主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				2	2						
③	ビジネス法において発生する個別の法律問題について講義で得られた知見を活用したうえで考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	第15回の授業内テストにより、到達目標①②③にかかわるビジネス法の基本的構造を理解しているのか、設定された問題に対して講義で得た知識をもとに妥当な結論を導き出すことができるのかを確認する。	40	40	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に模範解答例・解説などを配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ビジネス法務の理論と実践	松嶋隆弘・鬼頭俊泰	芦書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、適宜行う。kawamura.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文具メーカー管理部及び投資会社法務部
実務経験に基づく実践的教育の内容		メーカー勤務の経験を活かし、製造業においてどんなことが現場で教育されているかなどについて、また、現在投資会社勤務しており様々なベンチャーやスタートアップと接していることから、現在のビジネスの特徴や起業の動きなどについて、講義の中でご紹介できればと思っています。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス・導入】企業法務の意義		ビジネス法を学修するにあたって、ビジネス法の全体像を提示し、各法領域と各種法律との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、ビジネスと法務においてどのような法律問題が発生していて、何を講義で学ぶのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、ビジネス法務がどのようなものであるのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、ビジネス法務の全体像につき、確認・整理をする。		120分
2	コンプライアンスとリスク管理		コンプライアンスとリスク管理の問題を取り上げ、企業法務においてそれらがなぜ重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理の重要性について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、企業法務におけるコンプライアンスとリスク管理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
3	コーポレート・ガバナンス		コーポレート・ガバナンスの問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコーポレート・ガバナンスの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、コーポレート・ガバナンスがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、コーポレート・ガバナンスの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
4	M&Aに対する規律		M&Aとそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるM&Aの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、M&Aがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、M&Aの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
5	コーポレート・ファイナンス		コーポレート・ファイナンスとそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務におけるコーポレート・ファイナンスの重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、コーポレート・ファイナンスがなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、コーポレート・ファイナンスの重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
6	企業と従業員（労務管理）		労務管理とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における労務管理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、労務管理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、労務管理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	債権管理・回収		債権管理・回収とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における債権管理・回収の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、債権管理・回収がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、債権管理・回収の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
8	与信取引と担保		与信取引・担保とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における与信取引・担保の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、与信取引・担保がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、与信取引・担保の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
9	取引決済		取引決済とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における取引決済の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、取引決済がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、取引決済の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
10	公正取引の確保		公正取引の確保とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における公正取引確保の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、公正取引の確保がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、公正取引確保の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
11	ビジネスと知的財産権		知的財産権とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における知的財産権の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、知的財産権がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、知的財産権の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分
12	紛争の処理		紛争処理とそれに関連する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれが重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における紛争処理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、紛争処理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。		120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、紛争処理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ビジネスと租税・企業と犯罪	租税・企業犯罪に関する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれらへの対応が重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における租税・企業犯罪への対応の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、租税・企業犯罪への対応がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、租税・企業犯罪への対応の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。	120分
14	企業の倒産処理	倒産処理に関する法律問題を取り上げ、企業法務においてなぜそれらへの対応が重要とされているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②と関連して、企業法務における倒産処理の重要性とその内容について理解し、発生しうる法律問題を関連規定とともに説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、倒産処理がなぜ重要とされているのかについて調べ、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、倒産処理の重要性につき、関連規定と併せて確認・整理をする。	120分
15	授業の振り返りと理解度チェック	第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③と関連して、第1回から第14回までの講義内容を振り返り、理解度を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書該当箇所を読み、これまでの講義内容を全体的に振り返り、講義受講の準備をする。	120分
	事後学修	講義内容を教科書やノートなどで確認し、これまでの講義内容につき、確認・整理をする。	120分

科目名	経済学 I	担当者	生垣 琴絵	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間のなかで講義内容に関する課題やアンケートに答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10							60
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		20	20								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中やGoogle Classroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること） ikegaki.kotoe@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第1章1経済と経済学をよく読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)		経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第1章2経済循環の構造 3市場経済・計画経済・混合経済 4市場機構の仕組み 5経済学の歴史をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。		120分
3	消費者行動の理論(1)		消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用および効用関数の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用及び効用関数の概念を身近な例を挙げて説明できる。加重限界効用均等の法則を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章1消費者行動をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数を自分で描く。		120分
4	消費者行動の理論(2)		消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。		
	事前学修	教科書第2効用関数と無差別曲線をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、無差別曲線を自分で描く。		120分
5	消費者行動の理論(3)		消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を説明できる。。		
	事前学修	教科書第2章3最適消費の条件をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、最適消費点を自分でグラフに描く。		120分
6	消費者行動の理論(4)		消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を説明できる。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章4価格と所得の変化をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線を自分で描く。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1生産者の行動、2生産関数と等量曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3費用関数をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、費用曲線を自分で描く。	120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
10	生産者行動の理論(4)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について微分を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
11	生産者行動の理論(5)		損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章5供給曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線を自分でグラフに描く。	120分
12	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
	この回の到達目標	目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1競争市場をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	競争市場均衡(2)	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2余剰分析、3比較静学をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場	独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。独占企業の利潤極大化条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争市場における独占企業の利潤極大化条件を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1不完全競争市場とは、2完全独占市場とは、3独占的競争・寡占市場とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のミクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学 I	担当者	川又 祐	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
1年生（政治経済学科除く）及び2・3・4年生のみ

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォームを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10							80
小テスト等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出により、到達目標②③にかかわる理解が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはグーグルクラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第1章1経済と経済学をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第1章2経済循環の構造 3市場経済・計画経済・混合経済 4市場機構の仕組み 5経済学の歴史をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。	120分
3	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用および効用関数の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用及び効用関数の概念を身近な例を挙げて説明できる。加重限界効用均等の法則を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章1消費者行動をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数を自分で描く。	120分
4	消費者行動の理論(2)	消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書第2効用関数と無差別曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、無差別曲線を自分で描く。	120分
5	消費者行動の理論(3)	消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を説明できる。。	
	事前学修	教科書第2章3最適消費の条件をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、最適消費点を自分でグラフに描く。	120分
6	消費者行動の理論(4)	消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を説明できる。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章4価格と所得の変化をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線を自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1生産者の行動、2生産関数と等量曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3費用関数をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、費用曲線を自分で描く。	120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
10	生産者行動の理論(4)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について微分を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
11	生産者行動の理論(5)		損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章5供給曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線を自分でグラフに描く。	120分
12	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
	この回の到達目標	目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1競争市場をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	競争市場均衡(2)	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2余剰分析、3比較静学をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場(1)	独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。独占企業の利潤極大化条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争市場における独占企業の利潤極大化条件を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1不完全競争市場とは、2完全独占市場とは、3独占的競争・寡占市場とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のミクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学 I	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。	10	25	25	10							70
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		15	15								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。試験については次回授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済学入門 第2版 (Next教科書シリーズ)	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・経済学とは ・経済学の特徴		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	経済学への扉	・経済学のあゆみ ・数学的準備		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済学の歴史について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済学の歴史」と「ミクロ経済学で必要な数学」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
3	消費者行動(1)	・消費者行動 ・効用関数と無差別曲線		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、効用関数と無差別曲線について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
4	消費者行動(2)	・最適消費の決定		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「予算制約線」の概念と「最適消費の決定」の理論を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
5	消費者行動(3)	・需要曲線の導出		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、需要曲線の導出について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、価格と所得が変化した場合に、それぞれ需要関数がどのように変化するかを理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
6	生産者行動(1)	・生産者行動 ・生産関数と費用関数		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生産関数と費用関数について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「生産関数」と「費用関数」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	生産者行動(2)		・利潤最大化と最適生産の決定	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、利潤最大化と最適生産の決定について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「利潤最大化条件」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
8	生産者行動(3)		・供給曲線の導出	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、供給曲線の導出について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「損益分岐点」と「操業停止点」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
9	市場と社会的厚生(1)		・競争市場	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、競争市場とその市場均衡について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「競争市場の条件」と「市場均衡」、「超過需要」「超過供給」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
10	市場と社会的厚生(2)		・余剰分析	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、社会的余剰について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「消費者余剰」と「生産者余剰」、「社会的余剰」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
11	市場と社会的厚生(3)		・独占市場	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、独占企業の行動と独占市場の社会的余剰について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占企業の行動」と「独占市場の社会的余剰」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
12	ゲーム理論(1)		・ゲーム理論とは ・戦略形ゲーム ・支配戦略均衡	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゲーム理論と戦略形ゲーム、支配戦略均衡について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「戦略形ゲーム」と「支配戦略均衡」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゲーム理論(2)	・支配戦略均衡の限界 ・最適反応戦略 ・ナッシュ均衡	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ナッシュ均衡について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「支配戦略均衡の限界」と「最適反応戦略」、「ナッシュ均衡」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者行動と企業行動、市場と社会的厚生、ゲーム理論について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の1章から5章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認と後期の経済学Ⅱに向けて	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者行動と企業行動、市場と社会的厚生、ゲーム理論について総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の1章から5章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	経済学 I	担当者	横溝 えりか	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、 事前にアポイントメントを取ること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)		経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
3	経済学の基本問題と経済学の課題(2)		市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
4	経済学の基本問題と経済学の課題(3)		経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
5	消費者行動の理論(1)		消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。		
	事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
6	消費者行動の理論(2)		予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。		
	事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
10	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。		
	事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
11	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。		
	事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
12	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。		
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	不完全競争市場(2)		価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	不完全競争市場(3)		不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	講義のまとめ		講義のまとめ
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直す。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中で講義内容に関する課題やアンケートに答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10							60
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		20	20								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはGoogle Classroomを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること） ikegaki.kotoe@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。 広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	国民所得理論における三面等価の原則の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章2三面等価の原則をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、三面等価の原則を整理する。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	国内総生産、および名目値と実質値の相違を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国内総生産、および名目値と実質値の相違を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章3国内総生産（GDP）、4名目と実質をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、自分でパーシェ指数を計算する。	120分
5	均衡国民所得の決定（1）	国民所得を大きくする方法を学習する。 ケインズの有効需要の原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズの有効需要の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1有効需要の原理、2消費、投資と乗数効果の関係をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、消費関数のグラフを自分で描く。	120分
6	均衡国民所得の決定（2）	政府支出増減、増減税の効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出増減、増減税の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線のグラフを自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	均衡国民所得の決定（3）	フィスカル・ポリシーについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィスカル・ポリシーを説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、インフレーションとデフレーションの相違を整理する。	120分
8	国際経済学の基礎（1）	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、国民所得を大きくする方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、絶対優位と絶対劣位を整理する。	120分
9	国際経済学の基礎（2）	生産可能性フロンティアと特化との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産可能性フロンティアと特化との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産可能性フロンティアのグラフを自分で描く。	120分
10	金融論の基礎	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章1金融とは、2貨幣とは、3金利とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の機能を整理する。	120分
11	財政学の基礎（1）	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政の三大機能を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1政府の経済活動、2財政をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の三大機能を整理する。	120分
12	財政学の基礎（2） 公共経済学の基礎	経費論およびプライマリー・バランスを学習する。 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政問題を説明できる。 到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3日本の財政問題をよく読む。 教科書第10章公共経済学の基礎をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎 (3)	国際貿易の基礎理論として、貿易と国内市場均衡が、外国為替相場を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、貿易と余剰の関係、外国為替相場を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論、2外国為替相場と国際収支をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、固定相場制と変動相場制を整理する。	120分
14	国際経済学入門 (2) 日本経済論 (1)	円高、円安の要因とファンダメンタルズを学習する。 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章2外国為替相場と国際収支をよく読む。 教科書第12章1占領政策と戦後復興をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、ファンダメンタルズを整理する。	120分
15	日本経済論 (2) 講義のまとめ	アベノミクスの評価と、講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章2高度経済成長とその終焉、3バブル経済とその崩壊、4小泉構造改革とアベノミクスをよく読む。 初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のマクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
1年生（政治経済学科除く）及び2・3・4年生のみ。経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォームを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10							80
小テスト等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出により、到達目標②③にかかわる理解が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはグーグルクラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。 広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	国民所得理論における三面等価の原則の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章2三面等価の原則をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、三面等価の原則を整理する。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	国内総生産、および名目値と実質値の相違を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国内総生産、および名目値と実質値の相違を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章3国内総生産（GDP）、4名目と実質をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、自分でパーシェ指数を計算する。	120分
5	均衡国民所得の決定（1）	国民所得を大きくする方法を学習する。 ケインズの有効需要の原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズの有効需要の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1有効需要の原理、2消費、投資と乗数効果の関係をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、消費関数のグラフを自分で描く。	120分
6	均衡国民所得の決定（2）	政府支出増減、増減税の効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出増減、増減税の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線のグラフを自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	均衡国民所得の決定（3）	フィスカル・ポリシーについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィスカル・ポリシーを説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、インフレーションとデフレーションの相違を整理する。	120分
8	国際経済学の基礎（1）	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、国民所得を大きくする方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、絶対優位と絶対劣位を整理する。	120分
9	国際経済学の基礎（2）	生産可能性フロンティアと特化との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産可能性フロンティアと特化との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産可能性フロンティアのグラフを自分で描く。	120分
10	金融論の基礎	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章1金融とは、2貨幣とは、3金利とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の機能を整理する。	120分
11	財政学の基礎（1）	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政の三大機能を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1政府の経済活動、2財政をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の三大機能を整理する。	120分
12	財政学の基礎（2） 公共経済学の基礎	経費論およびプライマリー・バランスを学習する。 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政問題を説明できる。 到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3日本の財政問題をよく読む。 教科書第10章公共経済学の基礎をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎（3）	国際貿易の基礎理論として、貿易と国内市場均衡が、外国為替相場を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、貿易と余剰の関係、外国為替相場を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論、2外国為替相場と国際収支をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、固定相場制と変動相場制を整理する。	120分
14	国際経済学入門（2） 日本経済論（1）	円高、円安の要因とファンダメンタルズを学習する。 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章2外国為替相場と国際収支をよく読む。 教科書第12章1占領政策と戦後復興をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、ファンダメンタルズを整理する。	120分
15	日本経済論（2） 講義のまとめ	アベノミクスの評価と、講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章2高度経済成長とその終焉、3バブル経済とその崩壊、4小泉構造改革とアベノミクスをよく読む。 初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のマクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。	10	25	25	10							70
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		15	15								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済学入門 第2版 (Next教科書シリーズ)	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・経済主体と経済循環		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	国内総生産(1)	・国民経済計算 ・国内総生産の定義 ・国内総生産の計算		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民経済計算と国内総生産について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「付加価値」と「国内総生産」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
3	国内総生産(2)	・経済成長と経済成長率 ・三面等価の原則		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、経済成長率の計算方法と三面等価の原則について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済成長率」と「三面等価の原則」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
4	物価(1)	・名目と実質 ・物価水準の指標		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名目GDPと実質GDPの違いと物価水準の指標について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「名目GDP」と「実質GDP」、「GDPデフレーター」、「消費者物価指数」、「企業物価指数」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
5	物価(2)	・インフレーションとデフレーション ・インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ ・インフレーションの経済効果		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、インフレーションとデフレーションについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「インフレーション」と「デフレーション」、「インフレ・ギャップ」、「デフレ・ギャップ」、「インフレーションの経済効果」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
6	失業	・失業の形態 ・失業の計算		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失業の形態と失業率の計算方法について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「失業の形態」と「完全失業率」、「有効求人倍率」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	均衡所得の決定(1)		・有効需要の原理 ・消費、投資と乗数効果の関係(1) 総需要とケインズ型消費関数	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、有効需要の原理と、ケインズ型消費関数と可処分所得の関係について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ケインズ型消費関数」と「限界消費性向」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
8	均衡所得の決定(2)		・消費、投資と乗数効果の関係(2) 乗数効果 ・政府支出拡大と減税の効果(1)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、乗数効果（メカニズム）および均衡国民所得について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「乗数」と「均衡国民所得」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
9	均衡所得の決定(3)		・政府支出拡大と減税の効果(2)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大および減税が均衡国民所得に与える効果について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「政府支出拡大の効果」と「減税の効果」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
10	均衡所得の決定(4)		・政府支出拡大と減税の効果(3)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大の効果について45度線分析による図の説明ができる。		
	事前学修	前回までの「均衡所得の決定(1)～(3)」の内容をしっかりと理解する。特に、「政府支出拡大の効果」と「減税の効果」を計算できるようになること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
11	金融システム(1)		・金融とは ・貨幣とは	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金融システムと金融の役割、貨幣の機能と範囲について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金融の役割」と「貨幣の機能」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
12	金融システム(2)		・金利とは ・中央銀行の役割	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金利と中央銀行の役割について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金利と債券価格の関係」と「中央銀行の役割」を理解するように努力すること。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎	・ 国際貿易の基礎理論	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由貿易均衡を通して貿易の経済効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「自由貿易の利益」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と国際経済学の入門的な内容を総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の6章から11章までと14章1節を読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と国際経済学の入門的な内容を総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の6章から10章までと14章1節を読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、事前にアポイントメントを取ること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	金融論の基礎(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	金融論の基礎(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	財政学の基礎(1)		財政の役割と機能について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割と機能について説明できる。	
	事前学修	教科書(第9章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	財政学の基礎(2)		日本の財政の現状と問題点について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政の現状と問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書(第9章2節、3節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	財政政策と金融政策		財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章、第8章、第9章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	公共経済学の基礎(1)		市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書(第10章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	公共経済学の基礎(2)		どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
	事前学修	教科書(第10章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	国際経済学入門(1)		国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章1節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学入門(2)	外国為替相場と国際収支について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国為替相場と国際収支について説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直す。	120分

科目名	経済行政法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	教科書	推奨
経済行政法の実践的研究	友岡史仁	信山社	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済行政法総論（総説）——経済行政法の位置づけ（1）		経済行政とは何か？公的規制と規制緩和の関係。民間化・民営化などのキーワードを説明し、これから本授業で扱う論点などを概説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解でき、難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。		
	事前学修	本授業で用いる教科書の最初（第1部のサマリー）を一読してみましょう。		120分
	事後学修	授業内容について次の回につなげられるよう、当日扱った教科書の該当箇所をもう一度読んでみましょう。次に出てくる具体例も想定してみてください。		120分
2	経済行政法の位置付け（2）		経済行政上の規制のとらえ方、経済行政法の位置付け等について説明していきます。「経済行政法」という授業は、他の法律分野とは異なり位置づけが難しいところがあります。それを平易に解説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、他の法律との関係性を具体的に説明できることを目指します。		
	事前学修	第1回目で取り上げた授業内容から、教科書ではどのような話が登場するのかを自分なりに考えてみましょう。		120分
	事後学修	第1回目と第2回目の授業内容を比較して、自分が接した時事問題とどのように関係するかを考えたいうえで、第3回目につなげてみましょう。		120分
3	経済行政法の位置付け（3）		経済行政と法治主義、公的規制の機能、独禁法の適用関係などの多様な論点について、学んでいきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、基本的な概念と経済行政法との結びつきを具体例を交えて論じられることを目指します。		
	事前学修	第2回目の事後学習で踏まえた時事問題がどのように法的に問題となるのかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	今回の授業内容は、本授業の中でももっともコアとなり学習するうえでも基礎的な内容を含むものですので、応用的論点に移る前に今一度その内容を復習してみましょう。		120分
4	経済行政法の位置付け（4）		経済行政の歴史と外国法のほか、隣接諸分野との関係として、憲法、民事法、経済法・独禁法、刑事法等を取り上げます。独禁法の適用関係は第3回目で触れていますが、ここで改めて触れることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、外国法との関係性を意識するほか、隣接科目である経済法との接点に分かることを目指します。		
	事前学修	第3回目での基礎的な議論が、他の法分野とどのように関係するかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	他の法分野は受講生の中にはまだ学んだことのない諸君もおられるはずですので、今回の授業の復習を兼ねて、どのような法分野が経済行政法と関わり合いがあるのかを思い描いて見ましょう。		120分
5	経済行政過程論（1）		経済行政の基本的前提となる二面関係・三面関係、および公法私法の関係等について取り上げます。これらは、行政法の講義でも触れる箇所ですが、経済活動を視野に入れて、具体例を織り交ぜながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、私たちに身近な時事問題とこの講義内容との関係性を明らかにできることを目指します。		
	事前学修	今回の授業から、法解釈の方法について学んでいきます。本授業では特に行政法・経済法（独禁法）との接点が密接なため、その両方（または行政法を中心）について、教科書を通じて学ぶよう心がけてください。		60分
	事後学修	理論的な問題、事例的な議論が複雑に絡み合ってきますので、その整理をこの段階でしてみましょう。		180分
6	経済行政過程論（2）		経済行政の政策論であり、経済行政における政策、政策過程がどのように具体的課題と接点を持つかについて検討するものです。本来、法律は条文を解釈するものと思われがちですが、経済行政の世界では政策の実現可能性を踏まえた検討が必要ですので、このことを意識することになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、法律だけではなく政策の観点からどのような課題があるかを自ら発見できることを目指します。		
	事前学修	第5回目の事後学習を通じて得られた概念が、どのように実際に応用されているかを学ぶ必要があり、そのことがまさにこの回の授業内容になりますので、該当箇所の教科書を一読しておきましょう。		60分
	事後学修	授業では経済政策を中心としてどのように形成されていったのかといった歴史的な過程を中心に議論の対象にしていますので、これまで学んできた歴史を中心に、自分の知識と照らし合わせてみましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	経済行政過程論（３）		経済行政計画は経済政策の実現のための具体的なロードマップを示したものです。それがどのように形作られ、それとあわせて、実現過程の中で国民の意思がどのように反映されるのか（国民参加）について、学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政策形成に必要な経済行政計画の具体例について理解できることを目指します。	
	事前学修	経済政策の形成を歴史的にとらえる前回の授業に引き続き、それが具体的にどのような形になっていくのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	難しい言葉が連続して出てきますので、授業で扱われた専門的単語を今一度復習してみましょう。	120分
8	経済行政過程論（４）		経済行政における行為形式（１）として、この回では行政立法について学びます。法律では規定されていない事柄について、いったいどのような形で「規制」するのかという視点から、説明していきます。その中でも、経済行政法として最も多用されている「通達」の形式について、その機能等を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、規制や通達という抽象的な概念が経済行政の世界でどのように機能しているかを理解できることを目指します。	
	事前学修	今回からは「行為形式」として、国や公の団体がどのように「規制」を行っているかという形式面について議論するものです。このため、できる限り「経済行政過程論」を扱う部分の教科書を、読むようにしておきましょう。	120分
	事後学修	複雑な構造を伴う「規制」を具体例を持って説明されますので、どのようにその「規制」が機能しているのかを、時事問題を交えながら考えてみてください。	120分
9	経済行政過程論（５）		経済行政における行為形式（２）として、「行政処分」について学びます。行政法の履修者はこの表現に聞き覚えがあると思いますが、そうではない諸君に対して、ここでイメージ作りをしてもらうよう試みます。その内容としては、伝統的な整理方法のほかに、詳しい機能ごとに整理します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義の隣接科目である行政法の概念を用いることで、「規制」の概念を法的に理解できることを目指します。	
	事前学修	前回の授業で扱った形式以外のものを取り上げる観点から、該当箇所の教科書を読むようにしておきましょう。	60分
	事後学修	許認可と呼ばれる行為形式を今回は学びましたので、自ら日頃接する時事問題に照らして頭にその内容を吸収しましょう。	180分
10	経済行政過程論（６）		経済行政における行為形式（３）として、「行政契約」という内容について、経済活動への「規制」という視点にてらして論じます。通常の契約は対等な当事者間で成立しますが、ここでは一方的な義務を負う側（国・公共団体等）に関する法的問題、その他、公のサービスを民間企業が行う場合の課題について、取り上げる予定です。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。	
	事前学修	今回は前回までに学んだ行為形式とは違い、民法などで取り上げられる「契約」をベースにした議論になります。ですので、民法を履修中または履修済の諸君は、そこで学んでいる（学んだ）内容を思い浮かべながら、該当箇所の教科書を一読しましょう。	120分
	事後学修	今回は、行為形式の中でも、どのような実体があるのかという「現象面」で議論していますので、講義を通じてわかりにくいと感じる諸君については、そこで話された事実がどのように身近な場面で起きているかを思い浮かべるようにしてください。	120分
11	経済行政過程論（７）		経済行政上のエンフォースメント（実効性確保）を取り上げます。独禁法などでは一般的な課徴金納付命令、公共的なサービスでは問題の多い役務提供拒否（給付拒否）などが、この具体例になります。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。	
	事前学修	「規制」は表面上行われても、それが実際に受け手の側で守られなければ意味がありません。なので、該当箇所の教科書を読むことで、どのような手段がそのためにあるのかについて予習してみましょう。	120分
	事後学修	ここでも専門用語がたくさん出てきますので、一つ一つの意味合い（使われ方など）に気をつけながら、疑問点を集約しておきましょう。	120分
12	経済行政過程論（８）		経済行政組織という名称で、「総合調整機能」といった複雑な問題の解決に関する具体的な課題、その組織として独任制（大臣責任制）と合議制（第三者機関制）の関係性など、多様な方法の存在を意識して解説します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行政上の規制を機能させる行政機関の仕組みを、具体例を通じて理解できることを目指します。	
	事前学修	経済行政における行為形式に取り上げた一連の手段は、かなり政策とからみ合わさりながら実行に移されていますので、該当箇所の教科書を一読することで、それらがどのような組織により実行されているのかを意識してみましょう。	120分
	事後学修	国や公の団体を動かすための組織に関するルールとして、今回取り上げた課題がどのような問題点をはらんでいるかについて、考えてみましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	経済行政過程論（9）		具体的な主体として掲げられるものに、特殊法人、独立行政法人といった法的責任を負う主体があるほか、第三者機関として構成される審議会がどのように経済行政に関与しているかについて、具体例を交えながら論じます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、多数の意思形成機関の存在に注意を払う必要性と求められる機能を理解できることを目指します。		
	事前学修	前回で学んだ経済行政組織としてのルールを実際に運用する法的主体も多数存在するため、どのようなものが具体的にあるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	今回取り上げた法主体・機関は行政改革の議論の中でも、その存在意義が問われてきましたので、そのことを思い起こしてみましょう。		120分
14	経済行政過程論（10）		経済行政の行政救済論として、経済行政法の特有の訴訟事例を学ぶための基礎知識を身につけることとなります。具体的には、全体像を眺めることと並び、行政訴訟を中心にその訴訟手続についてとりあげることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義と関連する訴訟手続の基本を理解し、その応用事例の論点を明らかにできるよう目指します。		
	事前学修	ここからは訴訟手続の議論にはいりますが、そもそも裁判手続について聞き慣れない、または学んだことがない諸君がいる場合は、是非訴訟手続について書かれた書物を手に取りながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	訴訟手続が中心的な議論になりますので、頭に入ってくるのは事実です。ですので、しっかりと教科書で復習などしながら、授業中に取り上げた諸事例への当てはめ方について勉強しておきましょう。		120分
15	経済行政過程論（11）		前回の授業中には十分取り上げられなかった裁判所による国・公の団体の活動に対するコントロールの方法や、損害賠償請求、損失補償等の訴訟事例や制度設計の方法について、取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、各種事例が訴訟手続の中でいかに扱われているかをより具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	前回の授業では主に訴訟手続を中心に議論していますが、それが実際にどのように行われるのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	今回までが経済行政法の総論部分となりますので、これまで学んだことを該当箇所の教科書を通じて自分なりにまとめるようつとめてください。		120分

科目名	経済行政法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	参考書	推奨
経済行政法の実践的研究	友岡史仁	信山社	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済行政法各論（総説）——事業規制・業務規制法制（１）		経済行政法各論では、まずは「事業規制」・「業務規制」に関わる法制度について、その意味内容を理解することになります。このような用語方法は、本授業独特の側面があるので、その理解につとめます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。		
	事前学修	今回から経済行政法各論にはいっていきます。まずはどのような内容が各論で扱われるのかを、該当箇所の教科書（とりわけ教科書第2部要旨部分）を一読してみましょう。		120分
	事後学修	用語法の理解を通じて、各論で何が具体的に問題となりそうかについて、総論の復習も兼ねながら考えてみましょう。		120分
2	事業規制・業務規制法制（２）		伝統的に「公企業」とか「公共企業」と呼ばれてきたいわゆる「ネットワーク産業」に関する規制の初歩的な内容についてとりあげます。「ネットワーク産業」とは、電力・ガス、電気通信などの点と点を線で結ばなければ産業として成立しない分野ですが、これには多数の規制が存在していますので、その理解を理論的に説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」という特殊な分野の特質と規制の関係について理解できることを目指します。		
	事前学修	今回から、本当の意味の各論がはじまります。ここで取り上げる「公益事業」とは何を意味するかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	初めて聞く単語ばかりであり、「ネットワーク産業」に対する規制の理由は、経済学とも関係しますので、可能な限り、授業で扱った単語の基礎的理解を進めるよう心がけてください。		120分
3	事業規制・業務規制法制（３）		次回以降に触れる事業規制の具体的内容を踏まえるために、それらの諸規制に見られる共通した機能（公益性担保機能、行政監督機能、補完的機能）の意味、相関関係について取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、規制の様々な機能を法的に整理する方法について、その基準を理解できることを目指します。		
	事前学修	事業規制と業務規制という用語で分けた経済行政に関する「規制」について、多様な目的から成り立っていることを念頭に置き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	さまざまな規制にどのような機能が備わっているかをとらえることの大切さを、授業で取り上げた事例を通じて改めて検討し直してみましょう。		120分
4	事業規制・業務規制法制（４）		事業規制の中身として、参入規制を取り上げます。ネットワーク産業では複数の事業者間で競争が生ずることにより大きな影響（消費者への悪影響等）が考えられるため、従来、そのために独占を保護する規制が存在していた点を踏まえ、それに関連した多様な規制について説明していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争との関係を意識したうえで、どのような規制がそれに対し必要とされているかを具体例を通じて理解できることを目指します。		
	事前学修	前回までに取り上げた内容として「市場」という言葉をキーワードとすることができることから、このキーワードがどのように事業規制と関係するのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	具体例を交えた規制の説明ではありますが、授業内では十分に議論できないところがあるので、自らインターネットや新聞報道等で補うように努めましょう。		120分
5	事業規制・業務規制法制（５）		まずは規制の対象となる「料金」について学びます。その際、ネットワーク産業は私たちの生活にとって不可欠なサービスを提供するものと位置づけられることが多いのですが、それはまた、「公共料金」とも賞されることがあります。授業ではこのあたりを批判的にとらえながら、どのような規制が実際に存在しているかを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、市場原理の根幹である料金設定について行政上の規制の機能やその具体的意義を理解できることを目指します。		
	事前学修	前回は参入規制を主としましたが、今回は事業者が本来自由に設定できる料金が規制される場合について学びますので、身近にある料金規制に関する諸事例を思い描き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	なぜ「公共料金」と呼ばれたり、その料金がどのように規制されているかを考えてみましょう。		180分
6	事業規制・業務規制法制（６）		料金決定手続はかなり複雑ですので、総括原価主義やプライスカップ規制など、基本的な論点として整理し学びます。この場合、規制緩和政策との関係などについても触れることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」に関する料金規制の機能を理解できることを目指します。		
	事前学修	料金規制は単にその種類を論ずるだけではならず、どのような手続によって規制されるかを具体的に検討する必要がありますので、その内容に関する該当箇所の教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	複雑ではありますが、そこにある原理原則は外さずに記憶に残しておくことが重要です。このため、何がここで取り上げる手続の原理原則であるのかを、今一度検討してみましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	事業規制・業務規制法制（7）		料金決定原則の基本は「原価」を規制対象とすることですので、その定義が法的にどのようなになっているのか、その他、参入規制と並び、事業の終了に関わる規制（退出規制）についても学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、料金規制の法的問題を総括的に理解し、他の事業規制法制の存在を理解できることを目指します。		
	事前学修	料金規制の最後の回ですので、前回と前々回の議論を踏まえるためにも、過去2回分の講義内容を復習して今回の授業に臨むことを期待します。		60分
	事後学修	今回は事業規制法制の総括を含む意味もありますので、第1回目以降の議論をここで頭に入れ直してみましょう。		180分
8	事業規制・業務規制法制（8）		業務規制法制を総説します。参入・料金・退出といった事業規制との違いを見据えながら、今回は役務の利用者にとって役務の提供が不可欠とされる場合に、通常の経済活動（競争）では賄えない場合にその提供を義務付けるための規制について、概念・必要性などの諸問題を扱います。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争と規制の具体的関係性が事業規制法制以外に存在することを理解できることを目指します。		
	事前学修	今回は業務規制法制という新たな項目に移りますので、第1回目を取り上げた事業規制法制との区別がどのようなものだったかについて、学び直しましょう。		120分
	事後学修	今回学んだ役務提供義務は、私たちが日常必要とされる公共サービスがその対象とされることが多いので、身近な場面を思い起こしながら、今回学んだ内容を思い起こすようにしましょう。		120分
9	事業規制・業務規制法制（9）		競争が導入される際に、規制の撤廃とあわせて、規制の受け手（事業者）が競争しやすい環境を作り出すなどの競争促進的なさまざまな規制が登場しますので、その種類をここで学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争を生み出すための規制の意義について理解できることを目指します。		
	事前学修	規制緩和とともに、競争が不適切と考えられてきた分野に競争が導入されることになる場合に、どのようにそのギャップを是正するかが問題となります。いかなる規制がその是正に必要とされるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	今回学んだ業務規制が日常接する分野においてどのように活用されているかを、インターネット・新聞報道などを通じて思い起こすようにしましょう。		180分
10	産業保護・育成法制（1）		産業保護・育成法制について学んでいきます。この法制が一体何を意味するのかについて解説し、その必要性について詳述していきます。具体的には、国や公の団体から拠出される補助金などの金銭の提供を通じて、経済活動を担う企業を保護したり育成するための法制度について見ていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、分野を横断する規制の存在とその意義について理解できることを目指します。		
	事前学修	前回までとは違って、個別の規制を見るのではなく、種別の隔てがない形での規制が行われている場合があるので、その一例をここで学びます。		120分
	事後学修	他の箇所とは異なり、聞きなれない言葉遣いにまずは慣れるため、該当箇所の教科書を再読し復習してみましょう。		120分
11	産業保護・育成法制（2）		産業保護・育成法制には、産業助成型、競争制限型、外資規制型といった様々な手段が設けられていることから、それぞれの類型についてどのような制度が存在し、課題とされているかを見ていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業保護・育成がどのように横断的に行われているかを法的に理解できることを目指します。		
	事前学修	言葉遣いに慣れたことを前提に、どのような法制度があるかを該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	ここでは、補助金といった金銭の提供だけで産業が保護・育成されるわけではないことを確認しておきましょう。		120分
12	産業特性を持つ主要分野（1）		今回は、エネルギー産業を取り上げますが、それが電力やガスといった私たちの生活に密接につながっている産業であるために、常に意識せざるを得ない分野であると同時に、複雑な規制、そして規制改革の流れの中で、産業構造自体が大きく変化しています。その内容をできるだけ平易かつ具体例を出しながら、解説していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、エネルギー産業の特質について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	経済行政法各論の集大成の第1回目は、エネルギー産業を取り上げます。これ以前で具体例において時折この産業が登場することあるので、そのことの復習もかねて、どのような話がそれ以前に登場したかを思い起こしながら、該当箇所の教科書を一読しましょう。		120分
	事後学修	現在、電力会社、ガス会社が複数の会社から選択できるようになっているので、履修者諸君のご家庭での実体験があればそのことが、本授業とどのように関連付けられるかを検討してみましょう。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	産業特性を持つ主要分野（２）		交通産業は、その手段に応じて自動車、鉄道、航空機および船舶の４つにわけることができますが、それぞれに特徴のある規制が存在していることも事実です。密接につながりがある一方、特徴を持つ規制もありますので、事業規制・業務規制法制で学んだ知識をここであてはめながら、その内容について解説していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、交通産業の特質について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	各論集大成の第2回目は、交通産業を取り上げます。これまでの授業内でも断片的ではありますが取り上げられることがあった産業がどのような規制によって存在しているかを見ていきますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	身近であるものとそうではないもののがこの産業ではありますが、いずれも経済活動を支える大動脈を担う手段ばかりですので、どのような規制が登場していたのか、それに伴いどのような訴訟などの具体的事例が登場するのかを思い起こしてみましょう。		120分
14	産業特性を持つ主要分野（３）		通信産業は、電気通信と郵便に分けて論ずることが適当と考えられます。時に電気通信は、日進月歩の技術革新によって日々発展し続けていますので、規制がそれに追いついていないこともある一方、郵便は競争とどのようになじんでいるかという問題点を抱えています。このような具体例を事例を通じて検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、通信産業の特質について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	各論集大成の第3回目は、通信産業を取り上げます。第1回目および第2回目と同様に、これまでの授業内で断片的に取り上げてきましたので、ある程度聞きなれた単語が出てきますが、ここではそれを前提にしながら応用的な問題について取り上げますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	通信産業はいずれも身近なものばかりですから、その背景にある規制の構造を把握することで、身近なものの存在を意識してみましょう。		120分
15	産業特性を持つ主要分野（４）		第1回目以降に取り扱った経済行政法の各論にかかわる様々な課題について総括し、今後の経済活動にもたらす影響、その他国民生活への影響やその法的問題点について、ここで展望を明らかにしておきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、総論的論点とあわせて、経済行政法全体の構造を説得的に理解できることを目指します。		
	事前学修	第1回目から第14回目までの議論を前提に、経済行政法の世界で何が起こっていたのかを、まとめてみましょう。		120分
	事後学修	各論で取り扱った授業内容の復習を通じて、発見できた問題がどのように法的に解決されているのか、それとも解決されていないのかについて、具体例をイメージしながら改めて復習してみましょう。		120分

科目名	経済刑法Ⅰ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
履修人数にもよるが、5月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい

【授業方法】
事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例を紹介あるいは報告する際には、争点について全体での議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。						1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。						1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。						1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されている か判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができていないかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについても判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができていないかを判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での発言についてはその都度コメントを行う。レポートについては提出後に論評する。報告については議論の中でコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義において指定する。				

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00 （研究室 9号館2階9209） okanishi.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	経済犯罪とは		経済犯罪に関する諸概念および事例について学修する。
	この回の到達目標	具体的な事例を通じて経済犯罪に関する基礎的知識を身につけ、説明できるようにする。	
	事前学修	経済犯罪と考えるものを調べておく。	120分
	事後学修	経済犯罪についての概念や定義を理解する。	120分
2	経済刑法の概念と範囲		経済法令における罰則の規定のあり方について学修する。
	この回の到達目標	経済法令違反行為の全体を知ることによって、刑法とそれ以外の法令との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書（第1回目で指定したもの。以下同じ）または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
	事後学修	経済刑法に関して比較法的な観点から理解できるようにする。	120分
3	経済刑法の基本理念		経済刑法に関する学説の状況を学修する。
	この回の到達目標	経済刑法に関する理論について基本的知識を有し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
	事後学修	経済刑法に関する基礎的概念を整理し、理解する。	120分
4	経済犯罪に対する法的制裁の体系		刑罰とそれ以外の法的制裁の関係について学修する。
	この回の到達目標	刑罰以外の法的制裁の機能と今日的意義について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、法的制裁に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
	事後学修	刑罰と法的制裁の違いについて理解する。	120分
5	消費者犯罪に関する事例の検討		判例または近年の事例をみながら、消費者犯罪をめぐる問題について学修する。
	この回の到達目標	消費者犯罪の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、消費者犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
6	悪質商法に関する事例の検討		判例または近年の事例をみながら、悪質商法をめぐる問題について学修する。
	この回の到達目標	悪質商法の類型を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、悪質商法に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	食品表示に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、食品表示をめぐる問題について学修する。	
	この回の到達目標	食品表示をめぐる事例に関して問題点を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
8	その他の不当表示に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、不当表示をめぐる問題について学修する。	
	この回の到達目標	不当表示をめぐる事例に関して問題点を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
9	欠陥商品に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、欠陥商品をめぐる問題について学修する。	
	この回の到達目標	製造物責任に関する論点を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、欠陥商品に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
10	独占禁止法上の犯罪	独占禁止法の沿革を概観し、刑事規制のあり方について比較法的観点から検討する。	
	この回の到達目標	独占禁止法について、とくにアメリカ法との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
	事後学修	独占禁止法の基礎的概念を理解する。	120分
11	カルテルに関する事例の検討	カルテルの要件と事例について学修する。	
	この回の到達目標	カルテルに関する判例を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
12	不当な取引制限に関する事例の検討	犯罪として規定されている行為と、その周辺の行為との関係について学修する。	
	この回の到達目標	刑事制裁と行政制裁の対象となる行為が分けられていることの意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権侵害罪に関する事例の検討	著作権侵害に関する事例を概観し、侵害の実態について学修する。	
	この回の到達目標	著作権侵害罪の類型を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
14	不正競争防止法に関する事例の検討	不正競争に関する事例を概観し、違反の実態について学修する。	
	この回の到達目標	不正競争の類型を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
15	新しい経済犯罪の類型とその対策	近年になって問題化しつつある経済犯罪について検討する。	
	この回の到達目標	新たな現象に対して犯罪化する必要性を論じることができる。	
	事前学修	ネットワーク化に伴う新たな経済犯罪について考えておく。	120分
	事後学修	新たな経済犯罪への対応のあり方を考える。	120分

科目名	経済刑法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
履修人数にもよるが、10月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい

【授業方法】
事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例を紹介あるいは報告する際には、争点について全体での議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。				1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。				1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。				1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されてい るか判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができていないかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについても判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができていないかを判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での発言についてはその都度コメントを行う。レポートについては提出後に論評する。報告については議論の中でコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義において指定する。				

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00 （研究室 9号館2階9209） okanishi.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済犯罪の捜査の特徴	他の犯罪に対する捜査と比較しながら、手続等の実態について学修する。	
	この回の到達目標	刑事手続の過程とその他の手続との関係について整理し、説明することができる。	
	事前学修	具体的な経済事犯の流れを調べておく。	120分
	事後学修	犯罪捜査の流れと経済事犯の処理の特徴を理解する。	120分
2	会社法上の犯罪	会社法上の犯罪全体を概観し、個々の類型について学修する。	
	この回の到達目標	会社法が規定する各犯罪の要件について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	会社法の基礎的概念を整理し、個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
3	特別背任罪	特別背任罪に関する事例をみつつ、あわせて粉飾決算について学修する。	
	この回の到達目標	粉飾決算と特別背任罪の関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
4	会社財産を危うくする犯罪	違法配当罪や自己株式取得罪等の犯罪について学修する。	
	この回の到達目標	特別背任罪と会社財産危殆罪との関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
5	利益供与罪	利益供与罪に関する事例を見ながら、その要件について学修する。	
	この回の到達目標	利益供与が犯罪化された経緯を知り、実態が分析できるようにする。	
	事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
6	証券取引をめぐる犯罪	証券取引法から金融商品取引法に至るまでの経緯と、この間に生じた主な犯罪について学修する。	
	この回の到達目標	金融商品取引法上の個々の犯罪について整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
	事後学修	証券取引に関する基本的概念を整理しながら、個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	虚偽有価証券報告書提出罪	粉飾決算との関係及び金融商品取引法の情報開示制度について学修する。	
	この回の到達目標	虚偽有価証券報告書提出罪に関する事例を見ながら要件を理解し、また他罪との関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
8	相場操縦罪	相場操縦に関する限界的な事例をあげて、犯罪の成否について学修する。	
	この回の到達目標	相場操縦罪の要件について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
9	インサイダー取引罪	インサイダー取引行為に関する規制の沿革と事例を通してその意義を学修する。	
	この回の到達目標	インサイダー取引罪の事例について分析し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
10	法人の刑事責任	法人の刑事責任に関する理論を学修する。	
	この回の到達目標	法人処罰のあり方および限界について説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。	120分
	事後学修	法人の刑事責任に関する基礎的概念を整理する。	120分
11	法人の刑事責任に関する事例の検討	刑事責任が認められた事例と否定された事例を比較しながら、その成否について学修する。	
	この回の到達目標	刑事責任を否定した法理について分析し、説明することができる。	
	事前学修	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
12	租税犯罪に関する事例の検討	逋脱罪の成立要件を見るとともに、いわゆる脱税の実態について学修する。	
	この回の到達目標	租税犯罪と課税回避行為との関係について理解し、課題について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書または配布資料で、租税犯罪について考えておく。	120分
	事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際取引をめぐる犯罪	国際取引をめぐる違反行為について概観し、個々の類型について学修する。	
	この回の到達目標	条約に違反する取引等について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書または配布資料で、国際取引と犯罪の関係について考えておく。	120分
	事後学修	国際取引と犯罪に関して現状と問題点を整理しておく。	120分
14	マネーロンダリング	マネーロンダリングの実態を把握し、個別の要件について学修する。	
	この回の到達目標	マネーロンダリングに対する国際協調と国内の立法措置の課題について説明することができる。	
	事前学修	具体的な事例を通して、マネーロンダリングについて考えておく。	120分
	事後学修	マネーロンダリング対策に必要な事項について考える。	120分
15	内部統制と経済犯罪	会社等における内部統制がどのような意義を持つのかについて学修する。	
	この回の到達目標	内部統制が問われる背景について理解し、説明することができる。	
	事前学修	具体的な事例を通して、企業と犯罪の関係について考えておく。	120分
	事後学修	社会人として、あるいは企業の中で果たすべき使命について考える。	120分

科目名	経済史	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の歩みを、第二次戦後から2000年頃までを学習する。戦後の改革と復興期、高度経済成長期、ニクソン・ショックを経て、高度経済の終焉と経済安定期、バブル経済の発生と崩壊、デフレーションなどの現象を取り扱いながら現代の日本経済がどのように形成されたのかについて理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、欧米の経済に大きく遅れをとりながらも、短期間のうちに驚異的な発展を遂げ、欧米先進資本主義国と肩を並べる地位にまで躍進した日本経済の現代史的展開について、第二次世界大戦以降を中心に取り上げる。現代の日本経済がどのように形成されたのか、その歴史的過程を考察することで現代の経済の本質を分析し、また現代日本経済のかかえる問題点を歴史的に検出することを目的とする。受講生が、戦後日本経済に生起した様々な社会経済現象の要因に関する通説を修得して経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストおよび必要に応じて関連する資料を配布して進める。 基本的にスライド(パワー・ポイント)を使用した講義形式をとる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明することができる。							3	3				
②	経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。							3	3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できる思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	リアクションペーパーまたは小テストにより、到達目標①②にかかわる理解が身についているかを確認する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中やGoogle Classroom経由で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦後の日本経済	橋本寿朗	岩波書店	1995	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること）ikegaki.kotoe@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済史の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる重要性を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。	120分
	事後学修	自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	序 戦後経済概観	教科書の序章「私の経験からみた戦後経済」をもとに、第二次大戦後の日本の社会経済を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、終戦直後から高度経済成長の終わりまでの歴史性を論理的、科学的に理解する。	
	事前学修	教科書の「序」を読み、終戦直後から高度経済成長の終わりまでの経済状態について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	I 1990年代の日本経済	敗戦後を振り返る前に、本授業の終着点となる時期である1990年代の日本経済の動向について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、1990年代の日本経済の動向について歴史性を論理的、科学的に理解する。	
	事前学修	教科書第1章前半（pp. 33-55）を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	I 1990年代の日本経済と国際社会	本授業の終着点である1990年代の国際社会の状況について理解し、当時の日本経済との関連について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、1990年代の日本経済と国際社会との関わりについて、その歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書第1章後半（pp. 55-72）を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	II 敗戦からの復興～焼け跡からの再建	第二次大戦後の日本経済の復興に関する、基本的な再建策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦後の「焼け跡からの再建」策について、科学的に理解する。	
	事前学修	教科書 第2章 「敗戦からの復興」のpp. 74-94を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	II 敗戦からの復興～占領改革の開	第二次大戦後の日本経済の復興に関連して、GHQ占領下における改革について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦後の占領改革の歴史性を論理的、科学的に理解する。	
	事前学修	教科書 第2章 「敗戦からの復興」のpp. 94-114を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Ⅱ 敗戦からの復興～「戦後は終わった」とは何か	第二次大戦後の日本経済の復興から、1960年ごろからの基本的な方策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「戦後終わった」とは何かについて、その意味と意義について、論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章 「敗戦からの復興」のpp. 114-134を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	Ⅲ 飛躍的な経済成長～日本の「奇跡」を可能にしたもの	高度経済成長に関して、その主な要因と言われる事柄について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦後日本の高度経済成長の要因について、歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章 「飛躍的な経済成長」のpp. 135-153を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	Ⅲ 飛躍的な経済成長～政府の役割をどう考えるか	高度経済成長期における、財政政策や産業政策関について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高度経済成長期における、財政政策や産業政策について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章 「飛躍的な経済成長」のpp. 153-168を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	Ⅲ 飛躍的な経済成長～日本型企业システムの形成とその競争力	高度経済成長期における、日本の企業活動の特質や取り巻く国際環境について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高度経済成長期の日本企業について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章 「飛躍的な経済成長」のpp. 169-182を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	Ⅳ 経済大国と経済成長のコスト～経済成長率の低下と二つのコクサイ化	1970年代の経済成長率の低下と、二つの「コクサイ化」について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、1970年代の高度経済成長の終焉と財政状況について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 「経済大国と経済成長のコスト」のpp. 183-199を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	Ⅳ 経済大国と経済成長のコスト～産業構造調整と経済摩擦	1970年代～1980年代の経済政策や国際関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1970年代～1980年代の経済政策、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 「経済大国と経済成長のコスト」のpp. 200-216を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	IV 経済大国と経済成長のコスト～バブル経済とその崩壊の影響	バブル経済の発生とその崩壊についての歴史的側面について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バブル経済の発生とその崩壊について理解し、その歴史性を論理的に説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 「経済大国と経済成長のコスト」のpp. 216-238を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認し、この時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	全体の振り返り	教科書全体の内容について振り返り、要点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後から1990年代までの歴史的展開を論理的に理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書全体の内容について理解し、その歴史的な意味や意義を検討する。	120分
	事後学修	初回からの教科書、授業ノート、配付資料を確認し、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。期末試験の準備をする。	120分
15	授業内試験と総括	戦後復興からバブル経済の崩壊までの日本経済の道筋について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、その歴史的な意味や意義を検討し、論理的に説明できる。	
	事前学修	教科書全体の内容について理解し、その歴史的な意味や意義を検討する。	120分
	事後学修	教科書全体を読み直し、学修した内容全体についての理解を確認する。	120分

科目名	経済思想史Ⅰ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅰでは、経済学の形成期から20世紀初頭頃までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済学がどのように成立したかを知ることによって、経済学の理論の理解をより深めることができる。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解することができる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
知識の定着だけでなく、考える力を身につけるためテーマ毎にグループ・ディスカッションなどを取り入れながら行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中でのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済思想を展開したのかを説明できるようになる。				2	2	2					
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを社会的背景等も含め説明できるようになる。				2	2	2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	30	30									60
小テスト等	予習課題および事後課題として小テストまたは小レポートを課す	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	グループ・ディスカッションへの積極的な参加	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中あるいはGoogle Classroomを通じて行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての人のための経済学史	江頭進	新世社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること） ikegaki.kotoe@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について		講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について説明し、受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。さらに、経済思想史を学ぶ意味を考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて理解し、経済思想史の特色を説明できる。		
	事前学修	事前にシラバスをよく読む。教科書を準備し、「はじめに」や各章の冒頭にある「学習のポイント」を読み、自分なりに「経済思想史を学ぶ意味」を考察してみる。		120分
	事後学修	受講ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関連について検討する。「経済思想史を学ぶ意味」を改めて考察する。		120分
2	経済学形成の歴史的背景：資本主義と産業革命		経済学が形成される際に重要となる時代背景を理解し、経済学的な考え方の出発点にどのような現実があったのかを理解し、その特質を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、資本主義の特徴や産業革命の意義とそれらの事柄が経済学の誕生、形成とどのように関連するかを説明できる。		
	事前学修	教科書の年表及び1章の終わりにある「補論」をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、資本主義の特徴や産業革命の意義とそれらの事柄が経済学の誕生、形成とどのように関連するかについて、自分の言葉でまとめ事後課題として提出する。		120分
3	経済学形成の背景1：ジョン・ロック～私的所有権の起源		ジョン・ロックの思想にある市場社会の根本となる制度である私的所有権の考えとその背景を理解する。また、産業革命へとつながるロックの生きた時代の様子を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ジョン・ロックの思想にある市場社会の根本となる制度である私的所有権の考えとその背景、そして、産業革命へとつながるロックの生きた時代の様子を説明できる。		
	事前学修	教科書第1章の1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ロックの私的所有に関わる思想と彼の生きた時代の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
4	経済学形成の背景2：ジョン・ロック～社会契約としての国家		ジョン・ロックの国家論の特徴や社会契約という概念について理解する。さらに、ロックが人々と国家の関わり方を考えた理由を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ジョン・ロックの国家論の特徴や社会契約という概念について説明できる。さらに、ロックが人々と国家の関わり方を考えた理由を説明できる。		
	事前学修	教科書第1章の4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ロックが人々と国家の関わりについて考えたことをまとめ、事後課題として提出する。		120分
5	経済学の産声1：アダム・スミスと道徳哲学		アダム・スミスが生きた時代の様子を理解し、彼の道徳哲学の特徴的な観点（利己心）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アダム・スミスが生きた時代の様子と彼の道徳哲学の特徴的な観点（利己心）を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、アダム・スミスの道徳哲学の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
6	経済学の産声2：市場社会の基礎理論		アダム・スミスがとらえた市場社会の原理を理解する。さらに、スミスの自由主義的な思想の特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アダム・スミスがとらえた市場社会の原理と彼の自由主義的な思想の特徴を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章4-8を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、アダム・スミスがとらえた市場社会の特徴と彼の国家観をまとめ、事後課題として提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	古典派の経済学者たち1：リカードとマルサスの時代	古典派の経済学者デヴィッド・リカードとロバート・マルサスの登場した時代背景を理解するとともに、彼らの思想の背景にある事柄を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リカードとマルサスの登場した時代背景と彼らの経済学・経済思想との関わりを説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1-2を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの生きた時代と彼らの経済学・経済思想との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分
8	古典派の経済学者たち2：リカードとマルサスの論争	リカードとマルサスの論争について、テーマ毎にその主張の違いを理解する。グループ・ディスカッションを通じ、それぞれの主張を議論しながら理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リカードとマルサスの論争について、テーマ毎にその主張の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3-4を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの論争についてそれぞれの主張の違いを意識してまとめ、事後課題として提出する。	120分
9	カール・マルクスの経済学	カール・マルクスの提示した経済学の特徴を理解し、それが生み出された背景にある資本主義社会に生じた問題を捉える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルクスの提示した経済学の特徴とそれが生み出された背景にある資本主義社会に生じた問題を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マルクスの経済学の特徴とその思想的背景や社会的背景をまとめ、事後課題として提出する。	120分
10	カール・マルクスの影響	マルクスによる経済学や経済思想が後世に与えた影響を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルクスによる経済学や経済思想が後世に与えた影響を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マルクスによる経済学や経済思想の影響を捉え、自分なりにその意味を考察し、事後課題として提出する。	120分
11	限界革命：新古典派経済学への道	古典派経済学から新古典派経済学へと至る転換点に起きた「限界革命」は、どのような意味で革命的なのか理解する。さらに古典派と新古典派の「価値論」の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「限界革命」の意義と古典派と新古典派の価値論の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、「限界革命」の意義と古典派と新古典派の価値論の違いをまとめ、事後課題として提出する。	120分
12	限界革命トリオの経済理論	限界革命の立役者である、ワルラス、ジェヴォンズ、メンガー（限界革命トリオ）の経済理論の大まかな特徴を理解するとともに、彼らが目指した経済学の姿がどのようなものであったかを正しく理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、限界革命トリオの理論の特徴と彼らが目指した経済学の姿を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、限界革命トリオの理論の特徴と彼らが目指した経済学の姿をまとめ、事後課題として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新古典派経済学1：マーシャルの経済理論	アルフレッド・マーシャルの登場した時代背景と、彼の経済理論を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーシャルの経済理論の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章(p. 87まで)を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マーシャルの経済理論の特徴をまとめ、事後課題として提出する。	120分
14	新古典派経済学2：マーシャル～有機的成長理論と経済生物学	マーシャルの有機的成長論と経済生物学の特徴（進化論との関係）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーシャルの有機的成長論と経済生物学の特徴（進化論との関係）を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章(p. 87～)を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マーシャルの経済思想と進化論との関係をまとめ、事後課題として提出する。	120分
15	授業内試験と総括	全講義内容について知識の定着度を測るとともに、全体を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想を考察する。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、振り返る。	120分

科目名	経済思想史Ⅱ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、経済学の理論がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅱでは、19世紀末以降の時代を扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済学がどのように成立したかを知ることによって、経済学の理論の理解をより深めることができる。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解することができる。

【履修条件】
経済思想史Ⅰを受講済みであることが望ましい

【授業方法】
知識の定着だけでなく、考える力を身につけるためテーマ毎にグループ・ディスカッションなどを取り入れながら行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中で講義内容に関するグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済思想を展開したのかを説明できるようになる。				2	2	2					
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを社会的背景等も含め説明できるようになる。				2	2	2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	30	30									60
小テスト等	予習課題および事後課題として小テストまたは小レポートを課す	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	グループ・ディスカッションへの積極的な参加	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中，あるいはポータルシステムを通じて行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての人のための経済学史	江頭進	新世社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること）ikegaki.kotoe@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について		講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について説明し、受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。さらに、経済思想史を学ぶ意味を考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて理解し、経済思想史の講義の特色を説明できる。		
	事前学修	事前にシラバスをよく読む。教科書を準備し、「はじめに」や各章の冒頭にある「学習のポイント」を読み、自分なりに「経済思想史を学ぶ意味」を考察してみる。		120分
	事後学修	受講ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関連について検討する。「経済思想史を学ぶ意味」を改めて考察し、事後課題として提出する。		120分
2	経済思想史Ⅰの復習：古典派と新古典派		経済思想史Ⅱで扱う19世紀末までの経済学・経済思想を振り返り、その内容とポイントを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀末までの経済思想の内容とポイントを説明できる。		
	事前学修	教科書第1章から第6章までや経済思想史Ⅰの受講ノートを振り返る。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、19世紀末までの経済思想のポイントをまとめ、事後課題として提出する。		120分
3	ソースティン・ヴェブレン1：進化論と経済学・もの作り本能と競争心		主流派経済学とは異なる視点からのヴェブレンの経済学（進化論的経済学）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヴェブレンの経済学と主流派の経済学の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第7章の1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ヴェブレンの経済学の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
4	ソースティン・ヴェブレン2：顕示的消費、産業社会を見る眼		ヴェブレンが示したオリジナルな経済思想の要素（顕示的消費や金融資本の経済への関わり方に関する視点）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヴェブレンのオリジナルな経済思想のエッセンスを説明できる。		
	事前学修	教科書第7章の4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ヴェブレンの経済思想の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
5	ジョン・メイナード・ケインズ1：ケインズ経済学とは		ケインズ経済学の登場した時代背景とケインズ理論の特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズ経済学の登場した時代背景とケインズ理論の特徴を説明できる。		
	事前学修	教科書第8章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ケインズ理論の時代背景と特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
6	ジョン・メイナード・ケインズ2：経済政策～国家と国民		不況期の財政政策と金融政策の基本的構造を理解する。また、ケインズと関連して、国家が国民の幸福に対し責任をもつという考えが登場した背景を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不況期の財政政策と金融政策の基本的構造や、国家が国民の幸福に対し責任をもつという考えが登場した背景を説明できる。		
	事前学修	教科書第8章3-5を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ケインズの理論を参考にしながら国家と国民の関係について考察し、事後課題として提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フリードリッヒ・ハイエク1：経済理論	ハイエクの経済理論の特徴と、ケインズの対抗理論・思想として語られる背景について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ハイエクの経済理論の特徴と、ケインズの対抗理論・思想として語られる背景について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1-2を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの生きた時代と彼らの経済学・経済思想との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分
8	フリードリッヒ・ハイエク2：社会観・人間観・自由主義思想	ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想についてポイントを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3-5を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想について考察し、事後課題として提出する。	120分
9	グループ・ディスカッション（テーマ：ケインズ 対 ハイエク）	ケインズとハイエクの経済理論、経済思想の違いについて、それぞれがそれぞれを批判するポイントを捉えつつ、グループ・ディスカッションを通じて、自分自身の経済観について考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズとハイエクの対照を通じて、自分自身の経済観を構築し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章と9章および受講ノート等を手がかりに、グループ・ディスカッションで意見を述べるための準備をする	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、グループ・ディスカッションを経て捉えた自身の経済観についてまとめ、事後課題として提出する。	120分
10	ミルトン・フリードマン1：実証主義へのこだわり	フリードマンの経済理論の特徴と実証主義へのこだわりに関して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フリードマンの経済理論の特徴と彼の実証主義へのこだわりを説明できる。	
	事前学修	教科書第10章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、フリードマンの経済理論の特徴と彼が実証主義にこだわったポイントをまとめ、事後課題として提出する。	120分
11	ミルトン・フリードマン2：自由論	フリードマンの自由論の特徴と彼の経済理論との関連を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フリードマンの自由論の特徴と経済理論との関連を説明できる。	
	事前学修	教科書第10章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、フリードマンの自由論の特徴と経済理論との関連をまとめ、事後課題として提出する。	120分
12	ゲーム理論と経済学	ゲーム理論が経済学と結びつくプロセスとその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーム理論と経済学との関わりを説明できる。	
	事前学修	教科書第11章を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ゲーム理論と経済学との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済学の未来	限界革命以降の主流派の経済学とは異なる視点をもつ経済思想について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、限界革命以降の主流派の経済学とは異なる視点をもつ経済思想について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、自分自身が経済学を学ぶ意味をまとめ、事後課題として提出する。	120分
14	グループ・ディスカッション（テーマ：経済理論・経済思想の可能性を探る）	各自で講義全体を振り返りつつ、グループ・ディスカッションにより、意見交換をしながら経済学の理論や思想の意味や意義を自分なりに深く考察する機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分なりの経済理論や経済思想の意義を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想を考察する。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、グループ・ディスカッションでの個人の成果をまとめ、事後課題として提出する。	120分
15	授業内試験と総括	全講義内容について知識の定着度を測るとともに、全体を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想をまとめる。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、全体を振り返る。	120分

科目名	刑事政策Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】		
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するコメントカードを提出してもらう予定である。ゲストスピーカーによる講演の他、グループワーク・ディスカッション、刑事施設や警視庁の見学等、学外での活動も行う可能性がある。ただし、社会の状況によって実施できない可能性が高いため、学外での活動は現時点では予定していない。なお、学外での活動を行った場合には任意参加とし、出席の義務はないものとする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	死刑制度について、ディベートを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムの仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
②	犯罪がなぜ発生するのか、その仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
③	刑罰の歴史や意義を理解し、説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、今後どのような犯罪への対応が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における現行の刑事司法システムに対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】					1	1		1			
⑥	犯罪対策に関する教員からの問いに対して、論理的に応えることができる。【態度】					1	1		1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	15	15	15	15	15						75
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥に関連して、毎回の授業時の担当教員からの問に適切かつ積極的に対応しているか等の評定尺度に照らして、論理的思考能力・問題解決力・積極性が身についているかを評価する。						25					25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	15	25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に毎回、課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
研究室で、火曜日18：00～19：30に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事政策とは何か、犯罪学とは何か		刑事政策学・犯罪学の学問の概要やその歴史について説明し、社会にどのように貢献しているのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	受講生が刑事政策学の概要を理解し、次回以降の講義に備えられるようにする。受講生がこの授業を通じて、どのように到達目標①②③④⑤⑥を達成していくのかを理解し説明できる。		
	事前学修	刑事政策もしくは犯罪学に関して、どの項目でも構わないので、自らの関心のあるテーマを見つけて、ノートに200～300文字程度で列挙し学習意欲を高めておく。	120分	
	事後学修	講義で配布したレジュメを確認し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、刑事政策学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。	120分	
2	犯罪原因論①生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因		犯罪者がなぜ犯罪者になってしまうのか、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因に基づいて犯罪の科学的分析の歴史を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が犯罪の発生原因の1つとされる生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因を理解し、それに基づいて犯罪の原因について説明することができる。		
	事前学修	最近、新聞・ニュース・インターネットで話題となった犯罪について、犯罪者はなぜ行為におよんだのかを考え、理由と思われるものをノートに列記する。授業時には、各自の意見を求める。	120分	
	事後学修	授業で解説した、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因について、自ら考えた理由と対比し、犯罪の発生原因について改めて考えてみる。考えた内容は、ノートに500文字程度で整理する。	120分	
3	犯罪原因論②社会学的要因		犯罪者がなぜ犯罪者となってしまったか、社会学的要因の各理論に基づいて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が社会学的要因の理論を正しく理解し、分化的接触理論やアノミー理論等について具体的事例を用いながら説明することができる。		
	事前学修	マートンの「アノミー理論」と「社会解体理論」について、刑事政策、犯罪学の教科書等を調べ、それぞれ400文字程度でノートに整理した上で、2つ理論について自らの意見をノートに500文字程度で列記する。	120分	
	事後学修	授業で解説した社会学的要因の理論のうち、自らが興味・関心を持った理論について、論文等を探し閲読する。探し方が分からない場合は、授業終了後及びオフィスアワーの時間を使用して、担当教員に質問する。	150分	
4	犯罪原因論③犯罪原因論の転換、犯罪学の新しい動向		1960年代に登場したラベリング理論等、比較的新しい犯罪学の理論・考え方についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が犯罪発生に関する新しい犯罪学の考え方を正しく理解し、ラベリング理論やコントロール理論について論理的に説明することができる。		
	事前学修	「自分が犯罪を行わないのはなぜか？」ということについて考え、ノートに500文字程度で列記してくる。	120分	
	事後学修	ラベリング理論に基づき、少年（少女）が犯罪者となっていく過程について、具体例を自分で考えノートに500文字程度で列記する。	120分	
5	犯罪機会論①犯罪原因論から犯罪機会論へ		犯罪予防に関する考え方について、犯罪原因論から犯罪機会論へ変遷した経緯について歴史的背景に触れつつ解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が犯罪予防の考え方が各刑事司法機関でどのように変わっていったのか、そして現在の犯罪を予防する方法について、どのように考えられているのかについて説明することができる。		
	事前学修	犯罪を事前に予防する方法としてはどのようなものが考えられるか、犯罪者の視点に立って考え、予防方法をノートに500文字程度で列記する。犯罪予防について、自分の住む都道府県の警察本部のホームページを確認してくる。	120分	
	事後学修	①犯罪原因論が衰退した原因、②犯罪機会論の理論、③犯罪機会論が普及した理由、についてそれぞれ400文字程度で整理し、ノートに後で確認しやすいように記述しておく。	120分	
6	犯罪機会論②Broken Window Theory、防犯環境設計の解説		破れ(割れ)窓理論（Broken Window Theory）、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティといった犯罪機会論に基づいて考案された犯罪の事前予防のための理論や政策について、具体例を用いて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が破れ(割れ)窓理論（Broken Window Theory）、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティ等の犯罪の事前予防に関する政策等の内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	ニューヨークで行われた破れ（割れ）窓理論に基づく犯罪対策について調査を行い、ニューヨークの対策前の状況、行われた対策の内容、対策後の状況について、それぞれ400文字程度でノートに記述する。	120分	
	事後学修	破れ(割れ)窓理論、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティは、自分の住む都道府県、市町村ではどのように取り入れられているか、警察本部、役所のホームページで確認し、ノートに列挙しておく。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪機会論③環境犯罪学に基づく犯罪予防策の具体例	環境犯罪学の理論を基に、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使い方について、実際の例を使用して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、受講生が現在の日本の犯罪状況を分析した上で、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使用方法を説明することができる。	
	事前学修	自分の住んでいる都道府県の警察本部のホームページにアクセスし、犯罪発生マップ（都道府県によって名称が異なる）を確認する。そして自分の住んでいる町ではどこで犯罪が発生しているのかを調査しノートに場所や犯罪の種類を列記する。	120分
	事後学修	授業で解説した、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使い方に基づいて、自分の住んでいる町で犯罪予防政策を実施するにはどのようにすれば良いかを、ノートに600文字程度で記述しておく。	120分
8	刑罰論① 刑罰制度総論 刑罰制度各論Ⅰ【死刑制度】	日本及び主要国の刑罰の歴史や刑罰の種類について資料を用いて説明した後、刑罰の意義や役割について解説を行う。また、死刑制度について、現状を分析し、その問題点を抽出し、対応策を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑥に関連して、受講生が刑罰の歴史及び意義並びに死刑制度の意義及び問題点について正しく理解し、刑罰が社会の秩序を維持する上でどのように役立っているのかを説明することができる。	
	事前学修	人類の歴史と共に行われてきた刑の執行方法について、どのようなものがあったのかを調査し、ノートに列記してくる。拷問器具等については、憶測も多く実際に存在したか疑問が呈されているものもあるため注意すること。	110分
	事後学修	刑罰の意義や役割がどのように変化していったのかについて、ノートに図表化してみる。刑罰の歴史の中で、残虐な刑の執行方法や拷問はどのような意味合いをもっていたのか、再整理しノートに列記する。	150分
9	刑罰論② 刑罰制度各論Ⅰ－②【死刑制度】	アクティブラーニングの一環として、死刑制度について、賛成派（存置派）と反対派（廃止派）に分かれて、ディベートを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が死刑制度について理解した上で、自らの意見をまとめ、他者と議論することによって、死刑制度についての知見、論理的思考及び議論を展開する方法についてを修得することができる。	
	事前学修	近年の日本の死刑執行状況と世界の死刑執行状況を調査し、ノートに列記する。刑法典の定める犯罪のうち、死刑が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。	180分
	事後学修	ディベートで出た論点や主張を振り返り、自らの主張の述べ方や反論が正しかったのかを再検討した上で、死刑制度の是非について、500文字程度でノートに記述する。	180分
10	刑罰論③ 刑罰制度各論Ⅱ【自由刑】	自由刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、解決策を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、受講生が自由刑の意義・問題点について正しく理解し、解決策まで説明することができる。	
	事前学修	刑法典の定める犯罪のうち、自由刑（懲役・禁錮・拘留）が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。自由刑が執行される施設にはどういったものがあるか具体的な施設名を調べ、ノートに列記する。	120分
	事後学修	自由刑のメリット・デメリットについて調査し、それぞれノートに500文字程度で記述しておく。	120分
11	刑罰論④ 刑罰制度各論Ⅲ【財産刑】	財産刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、どのような解決策があるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、受講生が財産刑の意義・問題点について理解し、問題点の解決のためにはどのような解決策があるのかを説明することができる。	
	事前学修	刑法典の定める犯罪のうち、財産刑（罰金・科料）が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。財産刑はどこに支払うのかを調べノートに記述してくる。	120分
	事後学修	財産刑のメリット・デメリットについて調査し、それぞれノートに500文字程度で記述しておく。	120分
12	犯罪者の処遇①司法的処遇	犯罪者処遇の歴史及び現行のシステムについて解説した後、警察段階・検察段階・裁判所段階でどのような手続きが行われているか、また各段階でのダイバージョンはどのように実施されているのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が犯罪者処遇の歴史の変遷や現行の刑事司法システムについて正しく理解し、説明できる。日本におけるダイバージョンについて解説を行い、正しく理解し説明できる。	
	事前学修	日本における法定化されたダイバージョンである微罪処分・起訴猶予・執行猶予について、根拠条文及び要件を調査し、ノートに列記してくる。	120分
	事後学修	警察段階・検察段階・裁判所段階での処遇及び猶予制度について整理し、ノートに図式化して記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	犯罪者の処遇②施設内処遇		日本における刑事施設の種類や処遇方針について諸外国と比較しながら説明し、刑事施設の中ではどのような矯正処遇が行われているかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が日本の刑事施設の処遇制度について正しく理解し、諸外国との違いなどについて説明することができる。		
	事前学修	関東には、どのような刑事施設がどこに存在するのか調査を行い、ノートに列記してくる。		150分
	事後学修	刑務所で行われている処遇をノートに列記し、その処遇に対する自分の意見をそこに付け足す。矯正処遇の現状について、犯罪白書（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）で確認しておく。		120分
14	犯罪者の処遇③社会内処遇		犯罪者は刑事施設からの仮釈放が認められた場合、または裁判で執行猶予付判決となり保護観察付となった場合には社会内処遇となる。そうした社会内処遇の制度について、保護観察制度を中心に現状と課題を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が保護観察制度についての現状について正確に理解し、犯罪者の社会内処遇はどのように行われるべきかを説明することができる。		
	事前学修	刑事政策・犯罪学の教科書、法務省のウェブサイト等で、保護観察官とはどのような職業かを調査し、更生保護における保護観察官の役割についてノートに列記する。		120分
	事後学修	保護観察制度の現状と問題点、解決策について、ノートに600文字程度で記述する。保護観察制度の現状について、犯罪白書（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）で確認しておく。		120分
15	刑事政策Ⅰの総括		受講生の希望も聞いた上で、前期で説明した犯罪原因論、犯罪機会論、刑罰論、犯罪者処遇論についてまとめを行い、今後の刑事政策の展望についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生は、まとめを聞くことで前期で学んだ犯罪原因論、犯罪機会論、刑罰論、犯罪者処遇論の内容を定着させ、今後自ら我が国の犯罪対策を考える際に役立てることができる。		
	事前学修	これまでにノートに列記した事項を整理し、再度見直しを行い総復習を実施する。自らが興味がある犯罪情勢についての情報を収集しノートに列記する。		200分
	事後学修	事前学習で自らが収集した犯罪のデータを、第15回の授業で学んだ内容に基づき分析し、今後どのような対策を行うことで犯罪の減少を行うことができるのかを考え、自分の案をノートに500文字程度で列記しておく。		90分

科目名	刑事政策Ⅱ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】		
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するコメントカードを提出してもらう予定である。 ゲストスピーカーによる講演の他、グループワーク・ディスカッション・ディベート、刑事施設や警視庁の見学等、学外での活動も行う可能性がある。ただし、社会の状況によって実施できない可能性が高いため、学外での活動は現時点では予定していない。なお、学外での活動を行った場合には任意参加とし、出席の義務はないものとする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゲストスピーカーによる講演及び質疑応答を行う。 グループワーク・ディスカッション・ディベートの実施を予定している。 ※社会の状況によって変更となる場合がある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の日本における犯罪情勢を説明できる。【知識】				1	1						
②	性犯罪・高齢者犯罪・薬物犯罪・交通犯罪・外国人犯罪等の各種犯罪の原因・特徴を説明できる。【知識】				1	1						
③	犯罪被害者支援策等の近年の刑事司法手続きにおける諸政策を説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、日本は今後どのような犯罪への重点的な対応策が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における各種犯罪対策に対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】					1	1		1			
⑥	各種犯罪対策に関する教員からの問いに対して、その場で考え、論理的に応えることができる。【態度】					1	1		1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	15	15	15	15	15						75
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥に関連して、毎回の授業時の担当教員からの問に適切かつ積極的に対応しているか等の評定尺度に照らして、論理的思考能力・問題解決力・積極性が身についているかを評価する。						25					25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	15	25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に毎回、課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日18：00～19：30に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jpまで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	現在の日本の犯罪情勢と分析方法	日本の犯罪の公式統計にはどのようなものがあり、採用されている統計方法はどのようなものか、また日本の犯罪情勢は どのような現状にあるのかを統計資料を用いて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が犯罪情勢の分析方法や日本の刑法犯認知件数の推移について理解し、説明できる。	
	事前学修	現在の日本の犯罪の発生件数がどのくらいかについて新聞・インターネット等で調べ、ノートに列記しておく。	120分
	事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、刑法犯認知件数と暗数の問題等の犯罪統計に関する正しい知識を確認し、ノートに300文字程度でまとめておく。	120分
2	被害者学Ⅰ 犯罪被害者と刑事司法制度	犯罪被害者とは何か、犯罪被害者支援の意義、犯罪被害者に必要なもの、犯罪被害者と刑事裁判について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が犯罪被害者の置かれてきた立場と犯罪被害者支援の意義について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	犯罪被害の一次被害・二次被害・三次被害とはどのようなものか、調査しノートにそれぞれ200文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	犯罪被害者に必要な4つの点について、それぞれ具体例を添えて150文字程度でまとめノートに列記しておく。	140分
3	被害者学Ⅱ 犯罪被害者の保護と支援	警察・検察・裁判段階の犯罪被害者の保護・支援策について具体的な制度を紹介しながら、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関連して、受講生が警察・検察・裁判所段階における犯罪被害者の保護・支援策について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	自分が犯罪被害者となった場合に公的機関には何をしてほしいか想像し、ノートに400文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	警察・検察・裁判所の各段階の犯罪被害者の保護・支援策について、図表化しノートに分かりやすいようにまとめて記述しておく。	140分
4	被害者学Ⅲ 犯罪被害者支援の課題とこれから	犯罪被害者支援の現状と課題について、そして犯罪加害者家族の被害者性や修復的司法（Restorative Justice）など、新しい議論についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関連して、受講生が犯罪被害者支援の現状と課題について、そして犯罪加害者家族の被害者性や修復的司法など新しい議論について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	修復的司法とは何かについて調査・研究を行い、応報的司法（Retributive Justice）と対比する形でノートに300文字程度で記述してくる。	120分
	事後学修	犯罪被害者支援は、今後、どのようにあるべきと考えるか400文字程度でノートに記述しておく。	130分
5	少年非行Ⅰ 少年非行の基本知識	少年非行とは何か、少年非行の現状、少年非行の原因、少年非行の問題点について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が少年非行の現状や原因、問題点について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	少年が非行にはしる原因は何か、自分の中学～高等頃の周りの様子を参考に予想し、考えた内容をノートに400文字程度でまとめ列記してくる。	120分
	事後学修	自分が予想した内容と授業で解説した少年非行の原因を比較し、自分の考えをより深く考察し、その結果をノートに500文字程度でまとめ記述しておく。	130分
6	少年非行Ⅱ 少年司法制度と少年非行対策	少年法の基本理念、少年司法制度、少年非行対策について簡潔に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が少年法の基本理念、少年司法制度、少年非行対策について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	少年法に対する自分の考え（重要である・不要である等）をノートに500文字程度でまとめ記述してくる。	120分
	事後学修	授業を受けた後で、自分の少年法にもっていたイメージが変わったか変わらなかったを明確にした上で、少年法に対する自分の意見を500文字程度でまとめノートに記述しておく。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	少年非行Ⅲ 少年非行への具体的な対応策の検討 【グループディスカッション】	アクティブラーニングの一環として、グループに分かれ、少年非行Ⅰ・Ⅱで学んだ知見を基に、少年非行の対応策について話し合い、グループごとに政策を提案する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が少年非行の現状・原因・問題点について正しく理解し、グループのメンバーと共有した上で、具体的な対応策を検討・提案することができる。	
	事前学修	少年非行Ⅰ・Ⅱの内容を振り返り、自分は現代社会のどこに少年非行の原因があると考えerのかについてノートに列記してくる。また現在の少年非行はどのような問題点があり、どのようにすれば解決できるのかについても検討し、ノートに列記してくる。	150分
	事後学修	グループで話し合った内容を自分でもう一度再検討、整理し、ノートに500文字以内でまとめて記述しておく。	90分
8	児童虐待 児童虐待の基本知識	児童虐待の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が児童虐待の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明できる。	
	事前学修	近年、ニュースや新聞で取り上げられた児童虐待の事件について調査し、事件の概要を400文字程度でまとめノートに記述してくる。	130分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、児童虐待を効果的に減少させることができると考える政策を考え、ノートに500文字程度で記述しておく。	110分
9	高齢者犯罪	かつては犯罪被害者としての面が強かった高齢者であるが、現在は犯罪加害者としての高齢者が注目されている。高齢者はどのような犯罪を行うのか、また高齢者の社会復帰はどのようにすれば良いのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が高齢犯罪者の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	高齢者はどのような犯罪を起こすのか予想し、その内容をノートに400文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、高齢犯罪者が社会復帰するためにはどのような政策が必要かを考え500文字程度でまとめノートに記述しておく。	120分
10	外国人犯罪	外国人の数が年々増加する日本国内において、外国人犯罪の現状と課題を説明し、今後日本がどのような対策を行うことが必要なのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が外国人犯罪に対して、偏見やイメージに基づかない冷静な分析を行い、その対策について理解し、説明できる。	
	事前学修	外国人の犯罪と聞いてイメージすることを、ノートに500文字程度でまとめ記述してくる。	120分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、外国人犯罪を効果的に減少させることができる政策を1つ考え、ノートに500文字程度で記述しておく。	140分
11	精神障害者の犯罪	日本における精神障害者による犯罪の件数や特徴等の現状を統計データを用いて説明し、それに対する対応策の課題と今後の展望について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が偏見やイメージに基づかない、科学的データに基づく触法精神障害者への正しい理解をした上で、説明することができる。	
	事前学修	精神障害者の犯罪と言われて自分が思い浮かべるイメージをノートに300文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	授業や配布資料で示した資料を基に、精神障害者の何パーセントが犯罪を犯すのかや罪名別の精神障害者の割合について、図表化しノートにわかやすいようにまとめて記載しておく。	120分
12	薬物犯罪	日本で問題となっている薬物にはどのようなものがあり、どのように作られているのか（どのように国内に入ってくるのか）など、薬物犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が薬物犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	薬物犯罪として取り締まりの対象となる薬物にはどのようなものがあるのか調査し、取り締まりの法令も含めてノートに列記してくる。	110分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、薬物犯罪を効果的に減少させることができる政策を1つ考え、ノートに500文字程度で記述しておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	交通犯罪		交通犯罪に関する法改正の歴史と共に、交通犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が交通犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	「妨害運転（あおり運転）」について、取り締まり対象の行為（運転）と取り締まり強化に繋がった事件とその後の法改正の流れについて、ノートに500文字程度でまとめ記述してくる。		140分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、道路交通法違反と刑罰の関係について、まとめを行い500文字程度でノート記述しておく。		120分
14	犯罪対応・犯罪対策の現場 【ゲストスピーカーによる講演】		警察の交通部・刑事部・生活安全部・組織犯罪対策部のいずれかから、現役の警察官若しくはOB・OGを呼び、犯罪対応・犯罪対策の現場についての講演を行ってもらう。 ※ゲストスピーカーによる講演は、社会の状況や先方との日程調整により、中止・変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤⑥に関連して、受講生が犯罪対応・犯罪対策の現場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	警察の組織図（警察庁、各都道府県警察本部のWebサイトなどを参照）を基に、それぞれの部課がどのような業務を行っているかを調査し、ノートに列記してくる。		150分
	事後学修	犯罪対応・犯罪対策の現場の声を聴いた上で、我が国の刑事司法機関について自分の考えを500文字程度でまとめノートに記述しておく。		150分
15	性犯罪		性犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。性犯罪の特徴的な問題点や対応策の難しさ、最新の議論についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が性犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。また性犯罪の現在議論されている最新の問題についても理解し、説明することができる。		
	事前学修	性犯罪者の情報公開制度について調査を行い、制度の概要（日本では実施されていない）を400文字程度でまとめノートに記述しておく。キーワード：ミ（メ）ーガン法		100分
	事後学修	刑事政策Ⅱで学んだ犯罪対策を踏まえて、性犯罪に有効と考えられる政策を考え、ノートに500文字程度でまとめ記述しておく。		140分

科目名	経済政策論	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
経済政策とは、経済理論を背景に政策的介入や規制等の効果について検討を行うものである。本講義ではミクロ経済政策について学修する。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実の経済問題（人口減少、雇用、経済成長、規制緩和、少子化、高齢化、社会保障）に対する、経済政策がどのような効果をもたらすかについて論じることができるようになるために、経済政策についてその理論的背景を修得する。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（同時履修可）

【授業方法】
教科書・講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、リアクション・ペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。					3	3	3	3			
②	ミクロ経済政策の概念や政府の介入の意義を、論理的に説明することができる。					3	3	3	3			
③	外部性や情報の非対称性をはじめとする市場の問題を説明することができる。					3	3	3	3			
④	個々のミクロ経済政策に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。					3	3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、3回行う小テスト・レポートにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、ポータルサイト上にアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナール「経済政策入門」	岩田規久男、飯田泰之	日本経済新聞出版社	2006	参考書	推奨
競争政策論（第2版）	小田切宏之	日本評論社	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		該当しない	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション・需給分析】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、経済政策論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済政策論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討をする。	120分
2	【厚生分析の基礎】	消費者余剰、生産者余剰、総余剰について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済分析の基礎である厚生分析の方法を説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
3	【競争市場と税・規制】	税・補助金の死荷重、価格規制と参入規制の費用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税や補助金による市場介入による死荷重を説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
4	【貿易政策と産業政策】	自由貿易の利益と日本の産業政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由貿易・産業政策の利益と費用を説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
5	【独占と規制】	規模の経済、独占企業の価格規制について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規模の経済と独占が生じる仕組みについて説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
6	【インセンティブと規制緩和】	インセンティブ規制と公益事業の規制緩和について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インセンティブ規制の内容と規制緩和の利益について説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【情報財と知的財産権】	G A F Aに代表される情報財産業を例に知的財産権の基礎理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報財産業の経済学的特徴について説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
8	【情報財と標準化】	情報財産業における標準化政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、標準化のメカニズムについて説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
9	【不完全情報とリスク】	期待効用仮説、リスク・プール、逆選択、モラル・ハザードについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、限界効用逓減、情報の非対称性について説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
10	【不完全情報下の経済政策】	情報開示・消費者保護政策・政策金融の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性についての政策介入について説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
11	【労働市場における経済政策】	労働市場における基礎理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、労働市場の特徴について説明できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
12	【最低賃金法と解雇規制】	最低賃金と解雇規制について経済学的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最低賃金法と解雇規制について経済学の視点から議論できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【所得再分配政策】	効率性と公平性のトレードオフ、所得再分配の基準について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、効率性と公平性の違いについて説明でき、所得再分配政策の基準について議論できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
14	【年金と医療】	保険原理と財政原理の違い、日本の年金制度について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険原理と財政原理の違いについて説明でき、日本の社会保障制度について議論できる。	
	事前学修	講義資料を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で示した課題について説明をまとめること。	120分
15	【まとめ】	ここまでの講義全体の総括と、経済政策論を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、経済政策論を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて準備しておくこと。	240分

科目名	経済法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【履修条件】
憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法ののさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。					2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。					2		2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第9版補訂	岸井ほか	有斐閣	2022	教科書	必携
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
経済法判例審決百選・第2版	金井ほか	有斐閣	2015	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日講義終了後に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	独禁法概説	序論として独占禁止法の全体を眺め、どのような規定があるかを概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。規制の種類が条文に照らしてどのようなものがあるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法はどのような規定であるのかについて、六法を開けてざっと読んでください。	120分
	事後学修	授業で話された内容を六法で確認しておきましょう。	120分
2	独禁法成立経緯（１）	独禁法制定当時の経緯を説明し、新日鉄合併事件などを通じて学びます。ここで景表法などの成り立ちを嚙つき牛缶事件を通じて学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、後で学ぶ独禁法のエンフォースメントの強化に至る具体的経緯を知ることで、現代的意義を理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
3	独禁法成立経緯（２）	独禁法が次第に課徴金制度など規制強化の制度経緯を眺めることで、現在の柱となる概念の活用方法を理解します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法の歴史的経緯に触れることで、独禁法上の既成概念の意義を深く理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	独禁法の基礎的概念（１）	「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」、公正競争阻害性といった独禁法の実体的規定の柱となる法概念の関係性を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法全体で共通して用いられる抽象概念をはじめに理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の実体的規定に共通する概念を六法で見ておきましょう。	120分
	事後学修	これらの概念がどの規定と共通するかを六法で確認しましょう。	120分
5	独禁法の基礎的概念（２）	「事業者」や「公共の利益」など、独禁法の柱となる抽象的概念がどのように活用されるかを、都営芝浦と畜場事件や石油カルテル刑事事件を通じて概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的概念が実際の事例でどのように用いられているかを、最初の段階で知識として取得できることを目指します。	
	事前学修	第4回で学んだ独禁法の実体的規定がどのような場合に当てはまるのかに注意しながら、教科書の該当箇所を一読しましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
6	公正取引委員会の組織と権限（１）	独禁法を具体的に適用する行政組織に与えられる権原、その他の特殊性について取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政組織である公正取引委員会により執行されることを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法を適用する主体が誰であるかを教科書の該当箇所から学び取ってみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	公正取引委員会の組織と権限（２）		独禁法の適用事例を通じて組織上の課題を取り上げます。なお、すでに審判手続は廃止されていますが、学ぶ諸事例はこの手続にのっとり解決されているケースが多数になりますので、現在の制度と対比させながら論じます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政手続を設けることで紛争処理を行っている実態を理解できることを目指します。	
	事前学修	公正取引委員会に与えられる諸権限を六法で確認しておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
8	違反事件の処理手続（１）		公正取引委員会に与えられる行政上の諸権限がどのような意味を持ち、それがどのように行使されるのかについて、主に手続的な問題として取り上げます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が他の行政機関とは独立していることの意義を、紛争事例を通じて習得できることを目指します。	
	事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
9	違反事件の処理手続（２）		公正取引委員会に与えられた特殊な権限が違反事件にいかに関与しているかを概観します。この場合、詳細な手続が委員会規則によって定められていることがあるので、事前学習で調べたものに照らし合わせることを期待します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が独禁法違反の処理を行うための根拠規定の内容とその解釈ができることを目指します。	
	事前学修	公正取引委員会が定めた規則がありますので、その規則をインターネット等で調べてみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた諸権限が具体的にどのように活用されているのかを教科書などで確認しておきましょう。	120分
10	実効性確保手段（１）		公正取引委員会による違反事件に対する行政上の措置として排除措置命令・課徴金納付命令を取り上げる。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有の違反処理に関する実体・手続の両面からの論点を理解できることを目指します。	
	事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
11	実効性確保手段（２）		違反事件に対する民事上・刑事上の現れ方を概観します。特に、独禁法25条に規定される無過失損害賠償訴訟の意義を、鶴岡灯油訴訟を素材に学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、民事・刑事両面にわたり実効性確保手段がどのように機能するかを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の中で訴訟にかかわる部分についてどのような規定があるかを、六法の中から探し出してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
12	独禁法の機能の全体的概観		これまでに取り上げてきた内容について、独禁法がどのように機能するかを全体的に概観します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有のさまざまな現象や行政・民事・刑事の実効性確保を全体的に鳥瞰し、次の実体的な規定の解釈につなげられる能力を身につけられることを目指します。	
	事前学修	独禁法の柱となる概念はどのようなものがあるかを確認するため、教科書を読んでみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行為規制に関する共通規定——「競争の実質的制限」	独禁法2条5項・3条前段の規定の意味を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
	事前学修	私的独占について独禁法がどのように規定しているかを六法から読み取ってみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
14	私的独占（１）——排除型私的独占	私的独占の類型のうち排除型に関する諸事例として、パラマウントベッド事件、NTT東日本FTTH事件などを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
	事前学修	到達目標①②と関連して、典型的な排除型私的独占のモデルを理解できることを目指します。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
15	私的独占（２）——支配型私的独占	私的独占の類型のうち支配型に関する諸事例として、野田醤油事件などを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、支配型私的独占の典型モデルを深く理解できることを目指します。	
	事前学修	第14回で学んだ排除型私的独占と対比させながら、何が支配型私的独占であるのかについて、教科書を一読してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

科目名	経済法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め企業同士で競争しない協定が締結されることもしばしば行われるため、市場原理に反する企業によって競争がゆがめられてしまいます。このように、私たちの日常で起きうるさまざまな競争上の問題を解消する独占禁止法を本授業では取り上げ、その基本的な解釈をできるだけ忠実に条文に照らしながら学ぶことを目的とし、社会に出ても十分に対応できる法的思考（リーガルマインド）を身につけられることを目標とします。

【履修条件】
経済法Ⅰの履修者であることを求めます。なお、憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。				2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第9版補訂	岸井ほか	有斐閣	2022	教科書	必携
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
経済法判例審決百選・第2版	金井ほか	有斐閣、	2017	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日講義終了時に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	独禁法の実体的規定（概要）	経済法Ⅰで学んだ独禁法の基礎的概念や実体的規定を前提に、「競争の実質的制限」を共通要件とする独禁法2条6項・3条後段の規定の意味を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行為規制として重要な違反行為の典型類型をより深く理解できることを目指します。	
	事前学修	今回から不当な取引制限（カルテル）について学んでいきますので、カルテルとは何かなどを、身近な事例で感じながら教科書を一読してみましょう。あわせて六法で該当する規定を読んでおきましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
2	不当な取引制限（１）	多数の不当な取引制限に関する諸事例の典型的なものについて、取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、まずは条文が期待する基本的事例のイメージを理解できることを目指します。	
	事前学修	第16回で概要を理解した「不当な取引制限」がどのように活用されるのかについて、教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
3	不当な取引制限（２）	カルテル・官製談合について、協和エクシオ事件、目隠しシール談合事件のような典型的事例を通じて学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、先に学んだ基本的な事例イメージが具体的事例にいかにか当てはめられるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	不当な取引制限のうち、「談合」を典型として特殊な事例として行政機関が関わるものもあるので、それらが何かについて教科書で一読してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	不当な取引制限（３）	不当な取引制限に関する課徴金納付命令などの特殊な手続について、復習およびそれにかかわる諸手続の問題を検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、課徴金制度の概要とその実効性を制度上どのような課題があるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の実効性確保手段（エンフォースメント）について、六法で該当する規定を探し出してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
5	構造規制（１）——独占的状态規制	構造規制の一つである独禁法8条の4に規定される独占的状态規制について取り上げます。特に、「ネットワーク産業」と競争政策の関係性を意識します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、伝家の宝刀と呼ばれる独占的状态規制の存在意義について、具体的事例を交えて理解できることを目指します。	
	事前学修	構造規制がどのような意味を持つのかについて、教科書で確認してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。	120分
6	構造規制（２）——集中規制概観	企業結合のうち集中規制（一般・市場）の意味について取り上げます。公取委のガイドラインに記された意義について、独禁法の歴史的観点から学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、構造規制の全体像を頭の中で描けるよう、独禁法の仕組みを理解できることを目指します。	
	事前学修	インターネット・新聞報道でもよく扱われるM&Aについて、どのような時事問題が登場するかを意識して教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書やインターネット・新聞報道などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	構造規制（３）——持株会社規制		構造規制の一つである持株会社規制に係る独禁法9条・11条について、関連する公取委ガイドラインに照らしながら、その中身について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財閥復活の抑止力となるこれらの規定の存在意義を理解できることを目指します。		
	事前学修	企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している事業支配力過度集中規制ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。		120分
8	構造規制（４）——株式保有・役員兼任・合併規制		独禁法10条、13条以下について取り上げ、株式保有・役員兼任・合併といった諸規制について概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本来自由であるこれらの諸規制が存在する意義について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	第22回の授業で取り上げられなかった企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している企業結合ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。		120分
9	構造規制（５）——企業結合事例の検討		公正取引委員会による審決例である新日鉄事件、広島電鉄事件、日本楽器事件などを通じて、企業結合に関する諸事例の基本的理解を進めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を説明することで企業結合事例の法的問題を理解できることを目指します。		
	事前学修	企業結合ガイドラインで触れられた内容に照らしてどのような問題が生ずるかについて、教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
10	不公正な取引方法（１）		不公正な取引方法の要件である公正競争阻害性について、私的独占・不当な取引制限とは異なる構成要件とその意味を概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の概念についてその法構造を他の諸規制と照らして説明できることを目指します。		
	事前学修	六法の中で不公正な取引方法はどのように規定されているかを確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた規定の意味を教科書などで確認しておきましょう。		120分
11	不公正な取引方法（２）		排他条件付取引について和光堂事件をはじめとした典型事例を学ぶことで、不公正な取引方法の一角を担う違反行為について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の典型事例を理解し他の関連事例の説明にもつなげられることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
12	不公正な取引方法（３）		独禁法上課徴金の対象となる再販売価格維持行為について、ソニーコンピュータエンタテインメント事件などを取り上げます。これとあわせて、拘束条件付取引にかかわる諸類型について、公取委のガイドラインに照らして検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の中でも違法性の強い再販売価格維持行為のイメージを深く理解できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	不公正な取引方法（４）		共同・その他の取引拒絶、差別対価等の差別的取扱いについて、全農協事件、北國新聞事件（第二次）など、実体法上の論点にかかわる諸事例を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、一般指定の深い読み方を具体的事例に照らして理解できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分	
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分	
14	不公正な取引方法（５）		不当廉売、優越的地位の濫用を、読売新聞社事件や三越事件といった典型事例を中心に学ぶとともに、その他の不公正な取引方法を含めた公正競争阻害性を要件とした行為規制全体像を明らかにします。180	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を頭に入れることで、不公正な取引方法の全体的な把握できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分	
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分	
15	独禁法の実体的規定（総括）		独禁法の総説・実体的規定を通じて学んだ諸事項を総括し、問題発見能力（リーガルマインド）が養われていることを確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済法Ⅰを含めて学んだ独禁法に準備された様々な諸規制が私たちの経済活動にどのように関係しているかを理解できることを目指します。		
	事前学修	経済法Ⅰから前回までに学んだ独禁法に関する諸規定の解釈と具体的な諸事例について、復習してみましょう。	120分	
	事後学修	確認できたことを教科書・百選に照らして検討してみましょう。	120分	

科目名	警察政策	担当者	金山 泰介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
治安行政は、外交及び防衛と並んで重要な国家の基本機能でありながら、我が国の大学ではあまり論じられてこなかった分野である。しかしながら、平成に入ってから犯罪急増、サイバー犯罪、振り込め詐欺、ストーカー等新たな治安への脅威の出現により、治安に対する国民の関心が高まっているところである。本科目においては、警察行政を中心に犯罪や事故等人に起因する危険から個人や社会を守るための行政政策を説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
◎授業目的：治安行政は、平成期に入り犯罪急増等により国民の関心が高まるとともに、配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等の新規立法が相次いで行われるなど大きく進展している。こうした治安行政の中核に担う警察行政の進展の背景、内容を理解し、社会の安全にかかわる施策の企画、立案、執行を担える人材を養成する。 ◎到達目標：近年の警察行政の進展の背景、内容について自分の言葉で説明できるようになるとともに、社会における危険に対して国、自治体、企業、個人それぞれのレベルでの対処について考察し、具体的な対策について説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを用いた講義形式で行うが、予習しておくこと。試験または授業内レポートの解説は、終了後に行う。出席管理システム（レスポンス）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力					
達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	警察制度の変遷について説明できる。【知識】		4		4	4				
②	警察法及び警察官職務執行法の概要を説明できる。【知識】		4		4	4				
③	犯罪統計の概要及び分析手法を説明できる。【知識】		4		4	4	4			
④	平成期の警察政策（社会安全政策）の大きな変化についてその特徴を説明できる。【知識】		4		4	4	4			
⑤	警察政策策定の基本的考え方を説明できる。【知識】		4		4	4				
⑥	危険事態に対処する場合の基本的な警察活動について法的根拠に基づき判断できる。【技能】		4		4	4	4			
⑦	公務員及び警察官の倫理について議論できる。【態度・習慣】		4		4	4	4			
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①ないし⑦に関し、2回の筆記試験または授業内レポートにより評価する。警察に関する断片的な知識の羅列ではなく、社会の発展や国民の意識の変化とのかかわりなど制度や権限の変遷等現行法制の背景を踏まえた総合的な論述を求めます。理解の正しさ、表現力も評価します。	40						40				80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各授業冒頭では、前回の授業についての質問を行うことにより、復習の有無を確認します。	3	3	3	3	3	3	2				20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		43	3	3	3	3	3	42				100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験／授業内レポート後に論点等の解説をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版警察行政概論	金山泰介	立花書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日授業の前後に授業講堂で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を有しています。 警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、日本警察の法制度及び政策の策定プロ説及びその実施について諸外国の警察との比較を交えながら、具体的に説明します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び日本の警察制度	社会の安全を守るための行政の意義と授業の進め方、評価方法等の説明及びそれを担う警察制度の概要	
	この回の到達目標	社会の安全を守るための行政の意義を説明できる。	
	事前学修	シラバス及びテキスト該当部分を精読する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察制度の基本的事項を確認する。	120分
2	犯罪情勢の推移と変化の原因	戦後の犯罪情勢を概観するとともに犯罪統計について理解する。	
	この回の到達目標	刑法犯、特別法犯、交通業務上過失致死傷罪の意義を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪統計の概要を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、犯罪統計におけるキーワードを記憶する。	120分
3	警察権限行使の法理	警察権限の法的根拠とその執行の基本的原則を理解する。	
	この回の到達目標	警察権限行使の裁量における判断基準を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、警察法第1条及び第2条の趣旨を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察権限行使の基本原則をまとめる。	120分
4	警察の捜査	警察の行う犯罪捜査の意義と任意捜査の原則について理解するとともに、主に英米法との比較において任意捜査の原則の意義を考察する。	
	この回の到達目標	任意捜査の原則を法的根拠に基づき説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪捜査の法的根拠を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察、検察それぞれの捜査の違いをまとめる。	120分
5	警察官の倫理	警察官の職務倫理について理解するとともに警察官の倫理の特徴について考察する。	
	この回の到達目標	警察官には一般公務員より高い倫理が求められることに納得し、を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、警察倫理と公務員倫理の違いを考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察官は一般公務員よりも高い倫理性が求められる理由についてまとめる。	120分
6	被害者対策と犯罪予防の理論	犯罪被害者対策の概要及び犯罪理論特に環境犯罪学の概要を理解する。	
	この回の到達目標	犯罪被害者の置かれている状況を知り、その支援の重要性を説明できる。環境犯罪学について説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪被害者の置かれている立場に思いを寄せる。	120分
	事後学修	講義ノート整理し、犯罪予防の理論の発展の経緯を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪対策閣僚会議と行動計画	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定について考察する。	
	この回の到達目標	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定についてその背景及び政策決定のを説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、「行動計画」策定の背景を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、第1次から3次の「行動計画」の発展についてまとめる。	120分
8	授業内試験またはレポート及びその解説	前半全体の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標をクリアする。	
	事前学修	試験の準備	180分
	事後学修	解説を基に答案またはレポートを再構成する。	60分
9	公共空間・地域の安全	公共空間における犯罪防止政策の変遷と現状を理解するとともに、犯罪予防の理論の適用・実践を考察する。	
	この回の到達目標	自らの居住地域の犯罪予防がどのように行われているか具体的に説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪予防の重要性を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、犯罪予防の理論に基づく各種施策をまとめる。	120分
10	家庭等親密圏の安全	配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等親密な関係にある者の間で生ずる事案への対応について考察する。	
	この回の到達目標	親密圏に対する国家の介入の変遷を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、家族間の犯罪について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、夫婦間暴力、ストーカー対策、児童虐待対策に共通する事項をまとめる。	120分
11	反社会的勢力対策	暴力団等反社会的勢力への対処について理解する。	
	この回の到達目標	暴力団等反社会的勢力への対処について、その歴史的背景及び法制度の変遷について説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、暴力団対策の歴史を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、暴力団対策の変化と国民の意識の変化についてまとめる。	120分
12	道路交通の安全	交通死亡事故防止対策について理解する。	
	この回の到達目標	交通安全基本計画の策定経緯を理解し、議院内閣制における省庁横断型政策プロジェクトの基本的な在り方を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分の精読し、交通事故対策の歴史について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、交通死亡事故抑止に効果をもたらした諸要素をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テロ対策	テロの歴史と対策について理解する。	
	この回の到達目標	テロの変遷を理解し、それに伴うテロ対策の転換を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、テロの歴史を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、テロ防止のための規制の必要性和個人の自由とのバランスについてまとめる。	120分
14	サイバー空間の安全	サイバー事案対策の歴史と現行法制度について理解するとともに、サイバー空間の秩序構築について考察する。	
	この回の到達目標	サイバー空間と現実空間との相違及び融合を理解し、サイバー事案対策の特徴を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、サイバーセキュリティ基本法の基本条項に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、サイバー空間の秩序構築のための諸施策についてまとめる。	120分
15	授業内試験またはレポート及びその解説	授業全体の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標をクリアする。	
	事前学修	試験の準備	180分
	事後学修	解説を基に答案またはレポートを再構成する。	60分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	早乙女 宜宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に依拠して、基本的には講義形式で行うが、質疑応答を行う場合もある。あわせて適宜、判例百選等掲載の事例も紹介する。レジュメや資料は、Googleクラスルームでのみ配布。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						1		1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法（第2版）	関 正晴（編）	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁 他（編）	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門	上野幸彦，太田 茂	成文堂	2018	参考書	推奨
最新の六法（指定なし、アプリ版も可）				その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては、アポイントメントをとってもらい別途相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	現在，弁護士15年目で刑事弁護もしています。
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護人として，自ら経験した具体的事件等も踏まえながら講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑事訴訟法を知る		講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 刑事訴訟法がどのような法律か、また、刑事訴訟法を学習する際の注意点
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事訴訟法の意義と目的、刑事手続の概要、刑事訴訟法の担い手（1）（裁判官、裁判員）		到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法の歴史、刑事訴訟法の意義と目的、刑事手続の流れ、刑事裁判権、裁判所の種類と役割、裁判官の除斥・忌避・回避、裁判管轄、裁判員制度
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、日本の刑事訴訟法がどのような経緯で成立したかを知り、刑事訴訟法の意義と目的を説明でき、時系列に従い、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。また、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
3	刑事訴訟の担い手（2）（検察官、捜査機関）		到達目標①、②に関連して、刑事手続における検察官の地位・役割、我が国検察官の特徴を説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国の検察官の特徴、司法警察職員の種類や検察官との関係を知り、刑事手続における司法警察職員の果たす役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。	120分
4	刑事訴訟法の担い手（3）（被告人）		到達目標①、②に関連して、被告人の意義、被告人の確定、当事者能力、訴訟能力を説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における被告人の地位を知り、氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業内で説明した条文、判例を確認する。	120分
5	刑事訴訟法の担い手（4）（弁護士）		到達目標①、②に関連して、弁護人の任務と権限、弁護士選任権を説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における弁護人の役割を知り、弁護士選任権について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。	120分
6	証拠能力、違法収集証拠排除法則		到達目標①、②に関連して、捜査で得られた証拠の証拠能力、それが排除される法則を説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における捜査の適法性が証拠能力とどのような関係にあるかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文や判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	捜査の概説，捜査の端緒（１）	到達目標①，②に関連して，捜査の意義，構造，現行犯人の発見，変死体の検視，告訴，告発，請求，自首について節目	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査の意義や構造，捜査の端緒として現行犯人を発見した際や変死体を発見した際に，どのような手続がとられ，捜査が開始されるかを説明できる。その他告訴告発等による捜査の端緒について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所と該当条文を確認する。	120分
8	捜査の端緒（２）	職務質問，所持品検査（１）	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，職務質問及び所持品検査の法的根拠と法的性格，要件について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所及び警察官職務執行法の条文を確認する。	120分
9	捜査の端緒（３）	所持品検査（２），自動車検問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，所持品検査の法的根拠を知り，その際の実力行使（強制力の行使）の拒否や自動車検問の法的根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	強制処分法定主義（１）	強制処分法定主義の根拠，意義・趣旨，令状主義との関係，強制捜査と任意捜査との区別の基準	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制捜査と任意捜査との区別を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	強制処分法定主義（２）	強制捜査された捜査，任意捜査となる捜査	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，どのような捜査が強制捜査となり，任意捜査となるのかについて，その根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
12	強制処分法定主義（３）	新しい強制処分とされる写真撮影やGPS捜査などについて，適法性やその根拠を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，写真撮影やGPS捜査の適法性やその根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	任意捜査の原則と限界	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）としての警察（捜査）比例の原則を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、捜査のうち任意捜査が原則であることを理解し、比例の原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
14	その他の捜査（新たな捜査手法）	おとり捜査，コントロールド・デリバリー	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、おとり捜査やコントロールド・デリバリーの許容性について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
15	逮捕（１）	通常逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、通常逮捕の要件と手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	逮捕（２）	緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
17	勾留	逮捕前置主義，勾留の要件としての理由と必要性	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、勾留の要件と手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、条文，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	逮捕・勾留に関する諸問題（１）	事件単位の原則，一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、被疑者の身柄拘束をめぐる原則について、理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、条文，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	逮捕・勾留に関する諸問題（２）	別件逮捕・勾留	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，別件逮捕・勾留の問題点と判例及び主要な学説を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，判例や教科書の該当箇所を確認する。	120分
20	令状による捜索・差押（１）	令状請求の要件と手続，電磁的記録の捜査	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，憲法35条の法意を理解し，捜索と差押の実体的要件（理由と必要性）を説明できる。又，電磁的記録の捜査の概要を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
21	令状による捜索・差押（２）	捜索・差押えの実施手続，捜索・差押の実施に「必要な処分」	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜索・差押えの具体的な実施手続を理解し，「必要な処分」として許容される事項を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
22	令状による捜索・差押（３）	強制採尿，強制採血その他体液採取	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制採尿や強制採血等の体液採取の許容性と実施の要件と手続を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
23	逮捕に伴う捜索・差押	逮捕に伴う無令状捜索・差押の対象物，対象となる場所の範囲，時間的範囲	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，無令状捜索・差押が許容される要件や手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
24	取調べ	被疑者の取調べ，被告人の取調べ，余罪の取調べ	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者，被告人の取調べの手続や問題点を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	被疑者の黙秘権，取調べ対応	黙秘権の根拠と保障の趣旨，黙秘権の保障の及ぶ範囲，被疑者の取調べに対する態度	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，黙秘権の保障や取調べに対する態度について，憲法の規定と刑訴法の規定を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
26	弁護人の援助を受ける権利（１）	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利と接見交通権	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，接見交通権の内容と保障の趣旨，接見指定の要件を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
27	弁護人の援助を受ける権利（２）	接見交通権における接見指定	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，接見交通権における接見指定の要件を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
28	証拠保全制度，勾留理由開示請求	被疑者の防御手段としての証拠保全と勾留理由開示制度	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，証拠保全と勾留理由開示制度の内容と保障の趣旨，要件を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
29	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続内外で講じることのできる措置	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，準抗告，違法収集証拠排除法則，国家賠償請求等の手続を通じて，違法捜査からの救済方法を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	捜査手続の終結	検察官の終局処分とその内容、期末レポートの解説	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，検察官の終局処分とその内容や手続を知り，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき，できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが，近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し，その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において，身近に発生しうる犯罪に対し，どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため，刑事手続に内在する問題点を理解し，それを具体的事案にあてはめ，解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑法1（総論），刑法2（各論）を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で説明するが，あわせて適宜，判例百選等の事例も紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し，捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を，具体的事例に即して即して適用し，判断することができる。						1		1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 授業内試験により評価する	60	40									100
小テスト等												
レポート等	。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	推奨
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門 第2版	太田茂・上野幸彦	成文堂	2023	参考書	推奨
ポケット六法 令和6年版		有斐閣	2023	その他	推奨
備考	六法は何を使用してもよいが、必須である。				

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けるほか，メールでも受け付ける（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑事訴訟法を知る		講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 刑事訴訟法がどのような法律で、学習する際の注意点
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事訴訟法の意義と目的		刑事訴訟法の歴史、刑事訴訟法の意義と目的
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、日本の刑事訴訟法がどのような経緯で成立したかを知り、刑事訴訟法の意義と目的を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	刑事手続の概要		刑事手続の流れ
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、時系列に従い、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	刑事訴訟法の担い手①(裁判官)		刑事裁判権、裁判所の種類と役割、裁判官の除斥・忌避・回避、裁判管轄
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、裁判所法の条文を確認する。	120分
5	刑事訴訟の担い手②(検察官)		刑事手続における検察官の地位・役割、我が国検察官の特徴
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国の検察官の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、検察庁法の条文を確認する。	120分
6	刑事訴訟法の担い手③(捜査機関)		捜査機関としての司法警察職員の種類、その地位・役割、検察官との関係
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、司法警察職員の種類や検察官との関係を知り、刑事手続における司法警察職員の果たす役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	刑事訴訟法の担い手④(被告人)	被告人の意義，被告人の確定，当事者能力，訴訟能力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における被告人の地位を知り，氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	刑事訴訟法の担い手⑤(弁護士)	弁護人の任務と権限，弁護士選任権	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における弁護人の役割を知り，弁護士選任権について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，該当する条文を確認する。	120分
9	捜査の概説	捜査の意義，構造	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査の意義や構造を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	捜査の端緒①	現行犯人の発見，変死体の検視	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，現行犯人を発見した際や変死体を発見した際に，どのような手続がとられ，捜査が開始されるかを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	捜査の端緒②	告訴，告発，請求，自首	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，告訴・告発等の意義と内容を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	捜査の端緒③	職務質問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，職務質問の法的根拠と法的性格，要件，実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，警察官職務執行法の条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	捜査の端緒④	所持品検査，自動車検問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，所持品検査の法的根拠を知り，その際の実力行使（強制力の行使）の拒否や自動車検問の法的根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
14	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）としての警察（捜査）比例の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査のうち任意捜査が原則であることを理解し，比例の原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	強制処分法定主義	強制処分法定主義の根拠，意義・趣旨，令状主義との関係，強制捜査と任意捜査との区別の基準	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制捜査と任意捜査との区別を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	新しい強制処分	写真撮影，GPS捜査	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，写真撮影やGPS捜査の適法性やその根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
17	逮捕①	通常逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，通常逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	逮捕②	緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	勾留	逮捕前置主義，勾留の要件としての理由と必要性	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，勾留の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
20	逮捕・勾留に関する諸問題①	事件単位の原則，一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者の身柄拘束をめぐる原則について，理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
21	逮捕・勾留に関する諸問題②	別件逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
22	令状による搜索・差押①	令状請求の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，憲法35条の法意を理解し，搜索と差押の実体的要件(理由と必要性)を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
23	令状による搜索・差押②	搜索・差押えの実施手続，搜索・差押の実施に「必要な処分」	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，搜索・差押えの具体的な実施手続を理解し，「必要な処分」として許容される事項を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	令状による搜索・差押③	強制採尿	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制採尿の許容性と実施の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	逮捕に伴う捜索・差押	逮捕に伴う無令状捜索・差押の対象物、対象となる場所の範囲、時間的範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、無令状捜索・差押が許容される要件や手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
26	取調べ	被疑者の取調べ、被告人の取調べ、余罪の取調べ	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、被疑者、被告人の取調べの手続や問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
27	被疑者の黙秘権	黙秘権の根拠と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、黙秘権の保障について、憲法の規定と刑訴法の規定を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
28	弁護人の援助を受ける権利	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利と接見交通権	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、接見交通権の内容と保障の趣旨、接見指定の要件を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
29	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続内外で講じることのできる措置	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、準抗告、違法収集証拠排除法則、国家賠償請求等の手続を通じて、違法捜査からの救済方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	捜査手続の終結	検察官の終局処分とその内容	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、検察官の終局処分とその内容や手続を知り、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】 刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき，できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが，近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し，その意義や目的を学修する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において，身近に発生しうる犯罪に対し，どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため，刑事手続に内在する問題点を理解し，それを具体的事案にあてはめ，解決できる能力を修得する。

【履修条件】 刑法1（総論），刑法2（各論）を履修済みであることが望ましい。
--

【授業方法】 講義形式で説明するが，あわせて適宜，判例百選等の事例も紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し，捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を，具体的事例に即して即して適用し，判断することができる。						1		1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、定期試験により評価する	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門 第2版	太田茂・上野幸彦	成文堂	2023	参考書	推奨
ポケット六法 令和6年版		有斐閣	2023	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けるほか，メールでも受け付ける（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑事訴訟法を知る		講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 刑事訴訟法がどのような法律で、学習する際の注意点
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事訴訟法の意義と目的		刑事訴訟法の歴史、刑事訴訟法の意義と目的
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、日本の刑事訴訟法がどのような経緯で成立したかを知り、刑事訴訟法の意義と目的を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	刑事手続の概要		刑事手続の流れ
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、時系列に従い、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	刑事訴訟法の担い手①(裁判官)		刑事裁判権、裁判所の種類と役割、裁判官の除斥・忌避・回避、裁判管轄
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、裁判所法の条文を確認する。	120分
5	刑事訴訟の担い手②(検察官)		刑事手続における検察官の地位・役割、我が国検察官の特徴
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国の検察官の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、検察庁法の条文を確認する。	120分
6	刑事訴訟法の担い手③(捜査機関)		捜査機関としての司法警察職員の種類、その地位・役割、検察官との関係
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、司法警察職員の種類や検察官との関係を知り、刑事手続における司法警察職員の果たす役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	刑事訴訟法の担い手④(被告人)	被告人の意義，被告人の確定，当事者能力，訴訟能力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における被告人の地位を知り，氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	刑事訴訟法の担い手⑤(弁護士)	弁護人の任務と権限，弁護士選任権	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における弁護人の役割を知り，弁護士選任権について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，該当する条文を確認する。	120分
9	捜査の概説	捜査の意義，構造	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査の意義や構造を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	捜査の端緒①	現行犯人の発見，変死体の検視	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，現行犯人を発見した際や変死体を発見した際に，どのような手続がとられ，捜査が開始されるかを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	捜査の端緒②	告訴，告発，請求，自首	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，告訴・告発等の意義と内容を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	捜査の端緒③	職務質問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，職務質問の法的根拠と法的性格，要件，実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，警察官職務執行法の条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	捜査の端緒④	所持品検査，自動車検問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，所持品検査の法的根拠を知り，その際の実力行使（強制力の行使）の拒否や自動車検問の法的根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
14	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）としての警察（捜査）比例の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査のうち任意捜査が原則であることを理解し，比例の原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	強制処分法定主義	強制処分法定主義の根拠，意義・趣旨，令状主義との関係，強制捜査と任意捜査との区別の基準	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制捜査と任意捜査との区別を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	新しい強制処分	写真撮影，GPS捜査	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，写真撮影やGPS捜査の適法性やその根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
17	逮捕①	通常逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，通常逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	逮捕②	緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	勾留	逮捕前置主義，勾留の要件としての理由と必要性	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，勾留の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
20	逮捕・勾留に関する諸問題①	事件単位の原則，一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者の身柄拘束をめぐる原則について，理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
21	逮捕・勾留に関する諸問題②	別件逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
22	令状による搜索・差押①	令状請求の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，憲法35条の法意を理解し，搜索と差押の実体的要件(理由と必要性)を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
23	令状による搜索・差押②	搜索・差押えの実施手続，搜索・差押の実施に「必要な処分」	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，搜索・差押えの具体的な実施手続を理解し，「必要な処分」として許容される事項を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	令状による搜索・差押③	強制採尿	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制採尿の許容性と実施の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	逮捕に伴う捜索・差押	逮捕に伴う無令状捜索・差押の対象物、対象となる場所の範囲、時間的範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、無令状捜索・差押が許容される要件や手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
26	取調べ	被疑者の取調べ、被告人の取調べ、余罪の取調べ	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、被疑者、被告人の取調べの手続や問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
27	被疑者の黙秘権	黙秘権の根拠と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、黙秘権の保障について、憲法の規定と刑訴法の規定を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
28	弁護人の援助を受ける権利	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利と接見交通権	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、接見交通権の内容と保障の趣旨、接見指定の要件を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
29	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続内外で講じることのできる措置	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、準抗告、違法収集証拠排除法則、国家賠償請求等の手続を通じて、違法捜査からの救済方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	捜査手続の終結	検察官の終局処分とその内容	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、検察官の終局処分とその内容や手続を知り、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。レポートの解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。					1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。							1		1			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、授業内試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説や講評については、講評等をポータルサイトを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N e x t 教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	平成31年	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁ら編	有斐閣		その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業時間後に、質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい質問や相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事訴訟手続の概説		年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事裁判手続の一般的な説明、捜査手続において中心となる各制度の内容と性質等を概説する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	1年生のときに学習した法学の教科書等の「刑事裁判手続」等の該当箇所を一読するとともに、シラバスを確認して講義全体を概観する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の8頁の図と比べあわせて、全体としての刑事手続の流れの理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
2	刑事訴訟法の意義		刑事訴訟制度の歴史、意義、憲法や刑法との関係、刑事手続を捜査、公訴提起、公判、刑の執行等の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の1頁から10頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
3	刑事訴訟の目的と訴訟構造		刑事訴訟の目的に関して、刑事訴訟法1条に表れている指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容について確認し、訴訟構造に関する当事者主義の意義について、職権主義との対比で内容を説明し、刑事訴訟法の改正事項を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	法律用語辞典や各人の参考書で適正手続主義、実体的真実主義、当事者主義、職権主義という専門用語の内容を確認すること。教科書3頁から7頁、10頁から12頁を読み、近年の司法制度改革によってなされた刑事訴訟法の改正事項を確認する。		60分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		180分
4	刑事訴訟の主体（裁判所）		刑事裁判権、刑事訴訟を担当する裁判所の種類と役割、国法上の裁判所と訴訟法上の裁判所、裁判官の除斥・忌避・回避、管轄についての条文の概要、事物管轄、土地管轄、審級管轄の意義	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の16頁から21頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
5	刑事訴訟の主体②（裁判員裁判）		裁判員裁判について対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決方法等の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
6	刑事訴訟の主体③（検察官、捜査機関を含む）		刑事手続における検察官の地位・役割、司法警察職員の地位・役割、捜査における検察官と司法警察職員との関係について内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の27頁から34頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	刑事訴訟の主体（被告人・弁護人）	疑者・被告人の訴訟法上の地位、当事者能力と訴訟能力、黙秘権・迅速な裁判を受ける権利、弁護人選任権、被疑者と被告人についてそれぞれの国選弁護制度の仕組み、弁護人の弁護義務と真実義務について内容を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の34頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
8	刑事手続における被害者の地位	被害者に対する従来の刑事手続における取扱い、犯罪被害者保護法によって新たに導入されて制度の内容について条文に即して内容を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の44頁から51頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
9	捜査の概説（捜査の意義・構造）と捜査の端緒	捜査の概念・定義、捜査の端緒の意義と種類、告訴・告発等の意義と内容、職務質問の法的根拠と法的性格、要件、実力行使と所持品検査の許否について内容を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の54頁から59頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
10	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組）としての警察(捜査)比例の原則、鑑定の囑託、実況見分、任意同行に対する規制の内容等を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の59頁から61頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
11	強制処分法定主義	強制処分法定主義の条文上の根拠、意義・趣旨、令状主義との関係・異同、任意捜査と強制捜査との区別の基準につて内容等を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の61頁から62頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
12	新しい強制処分説と科学的捜査	科学捜査とされる写真撮影や電話傍受について任意捜査と強制捜査との区別の基準がどのように適用されるか、強制処分とされた捜査手段に対する適法性の判断方法について内容等を説明する。		
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の61頁から62頁を再度読み、また教科書91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	逮捕		逮捕の種類とそれぞれの異同、通常逮捕の要件と手続、現行犯及び準現行犯の意義と要件、緊急逮捕の要件と手続、逮捕後の手続の流れについて、条文に則して内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の62頁から67頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
14	勾留		逮捕前置主義の条文上の根拠と趣旨、勾留の実体要件としての勾留の理由と必要性、勾留の手続（勾留質問、勾留請求権者、勾留請求の時間制限等）、勾留機関と延長、被疑者勾留の場所、勾留に対する不服申立方法について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の68頁から70頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
15	逮捕・勾留の諸問題（1）		事件単位の原則の趣旨と意義、二重逮捕・勾留の許否、再逮捕・勾留の許否（一罪一逮捕の原則）について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の71頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
16	逮捕・勾留の諸問題（2）		別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説と判例、違法な別件逮捕・勾留があった場合の法的効果についてについて内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の72頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
17	令状による捜索・差押		憲法35条の法意、捜索と差押の実体的要件（理由と必要性）、捜索差押令状の請求手続、捜索場所の特定、差押目的物の特定、捜索・差押の実施手続、令状の事前提示が要求される趣旨、捜索・差押の実施に「必要な処分」の内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の73頁から80頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
18	逮捕に伴う捜索・差押		逮捕に伴う捜索・差押が無令状で許される理由、逮捕に伴う捜索・差押の対象物、捜索の対象となる場所の範囲、逮捕に伴う捜索・差押が許される時間的範囲、被逮捕者の身体・所持品の捜索を実施できる場所等についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の85頁から87頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	科学的捜査		強制採尿の許容性と実施の要件と手続、写真撮影と通信の傍受に対する法的規制についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の80頁から83頁、91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
20	おとり捜査に対する法的規制		おとり捜査の意義、適法性の判断基準、違法なおとり捜査の訴訟法上の効果についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の89頁から91頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
21	身柄拘束中の被疑者やの取調べ、余罪の取調べ、被告人の取調べ		捜査構造論、被疑者の取調べ受忍義務の肯定説と否定説、余罪取調べの限界についての学説、起訴後の被告人の取調べの許否についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の97頁から103頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
22	被疑者の黙秘権		黙秘権の根拠条文と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ事項、刑事手続以外の手続における黙秘権の保障の有無についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の103頁から105頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
23	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利		刑事弁護人制度の意義、弁護人依頼権の憲法上及び刑事訴訟法上の根拠、実質的で有効な弁護を受ける権利についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の38頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		60分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		180分
24	被疑者等と弁護人の接見交通権(1)		接見交通権の内容と保障の趣旨、憲法34条の弁護人依頼権との関係、接見指定要件である「捜査のため必要があるとい」の解釈についての学説と判例についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の105頁から109頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	被疑者等と弁護人の接見交通権(2)		接見指定要件を定める刑事訴訟法39条3項の合憲性についての最高裁判例、起訴後の余罪捜査と接見指定の許否について判例の立場と学説の内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の105頁から109頁と各人の参考書の該当箇所を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
26	被疑者の証拠保全制度と被疑者の勾留理由開示請求		証拠保全と勾留理由開示制度について、それらの意義、要件及び手続について条文に則して内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の69頁、99頁等を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
27	違法捜査からの救済		違法捜査に対する刑事手続の内外で講じることのできる措置(準抗告、違法収集証拠の排除法則、控訴棄却、懲戒処分、刑事罰、国家賠償等)の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の109頁から110頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
28	捜査手続の終結と検察官の終局的事件処理の運用原則		検察官への事件装置手続、検察官の行う事件処理の種類(狭義の不起訴処分、起訴猶予処分、起訴処分)についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の110頁から112頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
29	公訴権の運用原則		国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、起訴猶予処分を行う際の考慮要素、公訴の取消制度についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の114頁から116頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
30	検察官の事件処理を適正化する制度		察審査会制度、付審判請求手続、公訴権乱用論の意義と具体例についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の116頁から120頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。レポートの解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。				1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。						1		1		
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、授業内試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説や講評については、ポータルシステムを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法	関正晴編	弘文堂	平成31年	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁ら編	有斐閣		その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業時間後に、受けつける。相談内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事訴訟手続の概要、公訴提起と公判手続の概要		年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事訴訟手続の概要、特に公訴提起と公判手続の概要についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の7頁10頁を読み刑事手続の全体の流れについて理解し、シラバスを確認して講義全体を概観する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
2	刑事裁判の原理(弾劾主義と当事者主義)		刑事訴訟法1条が規定する指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造に関する当事者主義の意義を職権主義との対比で内容を説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の3頁から4頁, 10頁から11頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
3	公訴提起の総説、公訴権の運用とその規制		国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論の意義と具体例についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の114頁から120頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
4	公訴提起の方式と効果		公訴提起の方式、不告不理の原則、条文に則した起訴状の記載事項の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の120頁から125頁、126頁から132頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
5	起訴状一本主義		起訴状一本主義の趣旨、具体的事例に則した予断排除の原則違反の有無を説明、同原則違反の効果についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の123頁から125頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
6	訴因制度		訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の132頁から134頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	訴因変更制度①(訴因変更の可否)		訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の可否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の139頁から147頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
8	訴因変更制度②(公訴事実の同一性)		公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の148頁から155頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
9	訴因変更命令		裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の155頁から158頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
10	公判の諸原則の概説、公判準備①(事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示)		口頭主義、直接主義、公開主義の説明、公判前整理手続の目趣旨・目的、争点を整理し立証計画を立てるシステムについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の161頁から169頁、174頁から182頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
11	公判準備②(被告人の出頭を確保する手続、保釈)		公訴提起後の主要な手続の流れ(起訴状謄本の送達、弁護人選任権の告知、第一回公判期日の指定・通知、被告人の召喚等についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の170頁から174頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
12	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)		第一審公判の手続の進行(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の183頁から190頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公判の分離・併合、公判手続の更新、停止、公判外の手続		公判の分離・併合の意義と趣旨及び手続、公判手続を停止・更新しなければならない場合、公判期日外の証人尋問等についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の191頁から193頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
14	裁判員裁判制度の概説		裁判員裁判の基本構造(対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決の方法)についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
15	簡易手続(簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続)		簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続の意義と内容についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の194頁から199頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
16	証拠法総説(証拠の意義と種類、証拠裁判主義)		証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、証拠裁判主義、厳格な証明と自由な証明の概念、厳格な証明が必要な事実の範囲。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の199頁から209頁、212頁から215頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
17	証拠法総説(自由心証主義、挙証責任)		自由心証主義の意義とその合理性を担保する制度、挙証責任に意義、証拠提出責任、争点形成責任、挙証責任の転換が認められるかについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の209頁から212頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
18	自白法則		自白の意義 自白法則の趣旨についての判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	自白法則に関する裁判例		自白法則に関する裁判例の検討、約束による自白、偽計による自白、違法な手続で採取された自白等の具体的事例に則しての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
20	補強法則		自白に補強証拠を必要とする理由、公判廷自白のも補強証拠が必要とされるか、補強証拠適格、補強証拠が必要とされる事実の範囲、補強証拠に必要とされる証明力の程度、共犯者自白に補強証拠が必要とされるかについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の217頁から221頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
21	伝聞法則①		伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法との関係、伝聞法則の適用外についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の221頁から226頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
22	伝聞法則②		伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める場合の柱、伝聞書面と伝聞供述についての条文に則した例外とされる場合の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の227頁から235頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
23	伝聞法則③		任意性の調査、同意書面、合意書面、証明力を争うための証拠、写真・録音テープ・ビデオテープの証拠法上の取扱いについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の236頁から237頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
24	違法収集証拠の排除法則①		違法収集証拠の排除法則の根拠、違法収集証拠の証拠能力が否定される要件とその判断の際に考慮する要素、判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の238頁から240頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	違法収集証拠の排除法則②		毒樹の果実の法理、違法に収集された証拠から派生して収集された証拠の取扱いと判例の事案の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の240頁から241頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
26	裁判の効力①（確定判決の内容的確定力）		裁判の種類、裁判の成立の時点、裁判の確定の意義その効力、実体裁判の内容的確定利欲の意義とそれが及ぶ事件の範囲についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の243頁から259頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
27	裁判の効力②		一事不再理効の意義及び根拠、一事不再理効の発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の259頁から263頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
28	上訴総説（上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力）		上訴制度の意義と種類、上訴の利益、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の272頁から279頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
29	控訴審、上告審		控訴・上告理由の種類、控訴審の基本構造、審理手続、事実の取調べ、上告理由の種類、上告審の行う裁判の種類、職権破棄事由についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の279頁から295頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
30	非常救済手続（再審、非常上告）		再審、非常上告についての概説、再審開始の要件としての証拠の新規性と明白性についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の297頁から306頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	澤田 康広	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）、刑法Ⅱ（各論）及びh刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教科書に依拠して講義形式で説明するが、あわせて適宜、判例百選等の事例も紹介する。出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。						1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関 正晴編	弘文堂	2019年	教科書	推奨
刑事訴訟法判例百選 (第10版)	井上 正仁編	有斐閣	2017年	参考書	推奨
刑事法入門 第2版	太田茂・上野幸彦	成文堂	2023	参考書	推奨
ポケット六法 令和6年版		有斐閣	2023	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けるほか，メールでも受け付ける（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		23年間検事として勤務。元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。 元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事手続の流れを知る	年間の講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 公訴提起と公判手続の概要	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続の流れを確認し、公訴提起と公判手続の概要を説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事裁判の原理と刑事訴訟法の目的	弾劾主義と当事者主義、適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造における当事者主義の意義と職権主義との対比	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における基本的原理を知り、刑事訴訟法の目的との関係を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	公訴提起の概説	国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、公訴提起に関する基本原則を知り、その例外についても説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	公訴提起の方式と効果	公訴提起の方式、不告不理の原則、起訴状の記載事項	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、条文に則して公訴提起の方式や起訴状の記載事項を知り、公訴提起の手続を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	起訴状一本主義	起訴状一本主義の趣旨、予断排除の原則	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、具体的事例に即した予断排除の原則違反の有無や同原則違反の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	訴因制度	訴因と公訴事実との関係、訴因の明示・特定の要請	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、判例の具体的事例を通じて、訴因が明示・特定されているか否かの基準を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴因変更制度①（訴因変更の要否）	訴因変更手続の意義，訴因の追加，撤回，狭義の変更	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	訴因変更制度②（公訴事実の同一性）	公訴事実の同一性の意義，訴因変更の時期的な限界	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
9	訴因変更命令と訴訟条件	訴因変更における裁判所の在り方	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
10	公判の諸原則の概説，公判準備①	事前準備手続，公判前整理手続と証拠開示	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公判前整理手続の目的及び従前の準備手続との異同や公判前整理手続の実施に伴う証拠開示の拡大について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	公判準備②	被告人の出頭を確保する手続，保釈，公訴提起後の主要な手続の流れ	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴提起後の第1回公判までの手続の流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	公判期日の手続，第1審公判の手続の流れ	冒頭手続，証拠調べ，弁論，論告・求刑，判決の宣告，裁判所の訴訟指揮	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，第1審公判の手続の流れやその際の訴訟当事者の活動について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公判の分離、併合、公判手続の更新・停止	公判外の手続、弁論の分離・併合の意義と趣旨及び手続	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、公判外における手続の意義や趣旨を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	裁判員裁判概説	裁判員裁判の基本構造	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、裁判員裁判の対象事件や裁判員の権限、評決の方法等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	簡易手続	簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、各手続の意義と内容を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	証拠法総説①	証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、厳格な証明と自由な証明	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、証拠裁判主義について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
17	証拠法総説②	自由心証主義、挙証責任	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、証拠による事実認定や訴訟当事者の責任について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	自白法則	自白の意義、自白法則の趣旨	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、自白法則についての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業内で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	自白法則に関する裁判例	約束による自白，偽計による自白，違法な手続で採取された自白	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，具体的事例における自白の証拠能力について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
20	補強法則	自白に補強証拠を必要とする理由	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，補強証拠適格，補強証拠が必要な範囲等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
21	伝聞法則①	伝聞証拠の意義，伝聞法則の趣旨	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則と憲法との関係や伝聞法則が適用されない場合について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
22	伝聞法則②	伝聞法則の例外	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外を認める理由，伝聞書面と伝聞供述の例外について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
23	伝聞法則③	同意書面，合意書面，弾劾証拠	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外に関連して，写真・録音テープやビデオテープの証拠法上の扱いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠排除法則の根拠	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，違法収集証拠排除法則により証拠能力が否定される要件やその判断の際に考慮する要素について，判例の立場や主要な学説の考え方について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	違法収集証拠排除法則②	毒樹の果実の法理，派生証拠の証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，先行行為の違法性が後行行為に承継されるか，後行行為の証拠の取扱いについて，判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
26	裁判の効力①	確定判決の内容的確定力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判の確定の意義とその効力，実体裁判の内容的確定力の意義とそれが及ぶ事件の範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
27	裁判の効力②	一事不再理効	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，一事不再理効の意義と根拠，その発生時期，一事不再理効の及ぶ客観的範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
28	上訴総説	上訴権，不利益変更の禁止の原則，破棄判決の効力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，上訴制度の意義と種類，上訴の利益，上訴における各原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
29	控訴，上告	控訴理由の種類，控訴審の基本構造，上告理由の種類	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，控訴審における審理手続，上告審の種類や職権破棄事由について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	非常救済手続	再審，非常上告	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，再審，非常上告の要件や手続について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法 I	担当者	岡西 賢治	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法の重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。				2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。				2	2	2		2			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題①～⑦について、理解し、私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	10	10	10	10	10	10	40				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	40				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、重要な点についての理解度を確認できるようにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00 （研究室 9号館2階9209） okanishi.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	犯罪を法との関係	犯罪をめぐる日本の現状を概観する。	
	この回の到達目標	犯罪の実態をふまえて、関連する法がどのようなものであるのか説明できるようにする。	
	事前学修	犯罪に関する最近のニュースを調べておく。	120分
	事後学修	犯罪とは何か、刑事司法とは何かについて自説をまとめる。	120分
2	刑事法と刑法の概要	刑事法とは何か、刑法とは何かについて考える。 実体法と手続法、解釈論と立法論、社会学や心理学との関係などについて論じる。	
	この回の到達目標	刑事法に関する基礎的な理解を深め、概念等を説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第1章、4章を読む。	120分
	事後学修	諸概念について内容等を整理しておく。	120分
3	犯罪の原因と刑罰の目的	なぜ犯罪が起き、なぜ処罰されるのか。	
	この回の到達目標	犯罪と刑罰に関する理論について自分の言葉で説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第2章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の原因と対策について考える。	120分
4	犯罪統計の見かた	統計から見た犯罪の動向 犯罪白書の見かた	
	この回の到達目標	犯罪統計を正しく理解し、犯罪の実態を把握できるようにする。	
	事前学修	教科書の第3章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の現状・実態を知る。	120分
5	刑罰の本質	刑罰の目的 死刑制度について考える。	
	この回の到達目標	死刑制度について議論を行い自説が述べられるようにする。	
	事前学修	教科書の第5章、6章を読む。	120分
	事後学修	なぜ人を処罰するのかについて自説を整理しておく。	120分
6	刑罰の種類（1）	生命刑と自由刑	
	この回の到達目標	自由刑をめぐる今日的な問題について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第6章を読む。	120分
	事後学修	刑罰の違いを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	刑罰の種類（2）	財産刑と刑罰に関する今日的課題	
	この回の到達目標	財産刑に関する理論と他の法的制裁との関係について整理し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第6章を読む。	120分
	事後学修	刑罰と刑罰以外の法的制裁との関係を知る。	120分
8	刑事手続の基礎	刑事訴訟法とは 刑事手続の流れ① 犯罪の捜査	
	この回の到達目標	刑事訴訟法と刑事手続に関する法令の概要を把握し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第17章、18章を読む。	120分
	事後学修	刑事手続きの全体を理解する。	120分
9	刑事手続の実態	刑事手続の流れ② 起訴と公判	
	この回の到達目標	検察官の役割と実態について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第18章、19章を読む。	120分
	事後学修	刑事裁判の実態を知る。	120分
10	日本の刑事手続の特色	近年指摘されるような刑事手続に関する問題点を挙げる。	
	この回の到達目標	刑事手続をめぐる問題を自分で発見し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第20章を読む。	120分
	事後学修	裁判の傍聴に行ってみる。	120分
11	裁判員制度の概要	裁判員制度の趣旨と導入された背景を理解する。	
	この回の到達目標	裁判員制度の現状を理解し、課題が指摘できるようにする。	
	事前学修	教科書248～251頁を読む。裁判所のホームページで裁判員裁判の現状を把握しておく。	120分
	事後学修	裁判員になった時のための準備をする。	120分
12	犯罪者の処遇	矯正と保護の実態を把握する。	
	この回の到達目標	犯罪者の処遇がどのように行われているかを知り、課題について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第21章、22章を読む。	120分
	事後学修	犯罪者の社会復帰について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年犯罪の手続と処遇	少年法の沿革と趣旨について理解を深める。	
	この回の到達目標	少年法の理念について理解し、現実の事件を通じて説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第21章288～297頁を読む。	120分
	事後学修	少年犯罪の実態を知る。	120分
14	比較法研究のすすめ	犯罪現象をとらえるうえで他国との比較が重要であることを理解する。	
	この回の到達目標	比較法的手法についてポイントとなるべき諸点について理解し、述べるができるようにする。	
	事前学修	教科書の第23章を読む。	120分
	事後学修	日本の現状を諸外国の制度と比較しながら考える。	120分
15	まとめと授業内試験	刑事手続の概要	
	この回の到達目標	刑事手続法の全体像が把握でき、刑事実体法との違いについて説明できるようにする。	
	事前学修	刑事訴訟法と犯罪者処遇法の理論と実態を整理する。	120分
	事後学修	刑事司法手続の全体を把握しておく。	120分

科目名	刑事法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法的重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。				2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。				2	2	2		2			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	10	10	10	30				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	10	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に解説をclassroomに掲載する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
Googleクラスルームからメールを送信してください。速やかに対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法はいったい何のために存在する のか	刑罰という手段を用いる刑法はないほうがよい、という考えは多数ではないものの存在する。本 当にそうだろうか。	
	この回の 到達目標	さまざまな規範と法との関係、民法と刑法の違い、刑法の存在理由について考察できるようにする。	
	事前学修	序・基礎理論 1～3 まで読む。	120分
	事後学修	他の法律と刑法はどこが異なるのかを考える。	120分
2	罪刑法定主義の重要性とその背後に ある思想とは	犯罪と刑罰は成文法によって定めるべきであるという思想は無味乾燥のように感じる。しかしこ れがなければ、刑法は刑法たり得ない。この原則の意義とは。	
	この回の 到達目標	罪刑法定主義の歴史的背景をふまえて、この原則の意味について考察できるようにする。	
	事前学修	序・基礎理論 4～5 まで読む。	120分
	事後学修	罪刑法定主義と刑法の在り方はどう結びついているのかを考える。	120分
3	なぜ刑法は故意犯処罰の原則を採用 しているのか	被害者の目からすれば、故意によってであろうが過失によってであろうが、関係がないはずであ る。しかし、刑法は故意犯処罰の原則を堅持している。それはなぜなのかを考える。	
	この回の 到達目標	故意犯処罰の原則を刑法の存在理由と絡めて理解し説明できるようになる。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件8～10を読む。	120分
	事後学修	刑法の在り方と故意犯処罰の原則がどう結びつくのかを考える。	120分
4	組織体による過失行為に対して刑法 はどう対処しようとしているのか	企業組織体による過失行為はたびたび起き、被害者が多数に上ることが多い。こうした事件に対 して、刑法はどう臨むべきだろうか。	
	この回の 到達目標	管理過失および監督過失について理解し、企業組織体の刑事責任に対して私見をもてるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件11～13を読む。	120分
	事後学修	JR福知山線脱線事故や東京電力福島第一原発の事故は刑法的にどう考えるべきか。	120分
5	法人を処罰することの意義とは	刑法は個人行為責任を原則としているが、企業組織体による刑事事件が発生した場合に刑法はど のように対処するべきであろうか。	
	この回の 到達目標	個人行為責任の限界を理解するとともに、法人を処罰する理屈はどのように立てうるかを考え表現できるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 2 を読む。	120分
	事後学修	法人処罰により目指すものは何かを考える。	120分
6	犯罪行為から重い結果が生じさえす れば、その者を重罰に処してよいの か	行為責任主義の意義について考える。とくに結果責任主義ではないかとの批判を向けうる結果的 加重犯の在り方について検討する。	
	この回の 到達目標	被害者保護の風潮が高まる中、行為責任主義の意義について説明することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 5～7 を読む。（2時間）	120分
	事後学修	なぜ刑法においては被害者の視点に立つことがなぜ許されないのかを、合理的に考える。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	他者を犠牲にしてまで、自己または他者を救うことがなぜ認められているのか	刑法は人を死亡させることを絶対的に禁止してはいない。正当防衛と緊急避難がこれを一定限度許容している。なぜそうした規定が設けられているのか。	
	この回の到達目標	正当防衛や緊急避難の意義について説明することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 1～4， 5を読む。	120分
	事後学修	刑法と道徳の違いとどう関係するか、さらに法益保護とどう結びつくかを考える。	120分
8	指を詰めてくれと依頼され、その者の指を切り落とすことは犯罪か	被害者が自ら享受している法益を他者によって侵害されることに同意したときは、不可罰であるとい一般的に考えられている。それはなぜか。またその限界はどこにあるかを検討する。	
	この回の到達目標	刑法の存在理由から被害者の同意が不可罰となる理由を理解するとともに、被害者が同意さえすればすべて不可罰とするこの弊害についても考察することができるようになる。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 8を読む。	120分
	事後学修	被害者の同意が許容される範囲と許容されない範囲の線引きを考える。	120分
9	終末期における医療に対し刑法はどうかかわるべきか	私たちはやがて死をだれもが迎えることになるが、死をどう迎えるかを自ら決めることができるとするならば、それはどこまで許容され、どこからは認めえないのかを考える。	
	この回の到達目標	治療中止と安楽死との違いについて理解するとともに、積極的安楽死について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 9を読む。	120分
	事後学修	この問題はおそらく身近だろうから、身近な事例を刑法的に考察する。	120分
10	刑法は、刑罰を科す前提として、刑事責任能力があることをなぜ要求しているのか	犯罪を犯したにもかかわらず、その者に刑事責任を問うことができなければ、刑法はこれを処罰することはできない。一見常識に反するかのようなことの規定の意味について考える。	
	この回の到達目標	心神喪失・心神耗弱について理解するとともに、責任無能力者への対応についても説明することができる。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅲ責任 1 および 2を読む。	120分
	事後学修	刑事責任能力が問題となっている事件について考えてみる。	120分
11	犯罪行為に出たものの結果が生じなかった場合、刑法はどう対応するか	犯罪を思い描いて犯罪行為に及んだものの、それが実現できなかった時に刑法はどう対応するべきかについて考える。	
	この回の到達目標	未遂犯と不能犯が刑法の存在理由と密接に関係していることについて理解するとともに、これについて私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅳ未遂犯 1 および 2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	刑法の役割論とどう関係するか考察する。（2時間）	120分
12	犯罪者にも、1等（正犯）と2等（共犯）とランク付けがあるが、それはなぜか	犯罪に関与したものはすべて等しく刑事責任を負うべきであると考えるところ、刑法はそういう考え方をとらず、正犯と共犯を区別し、前者が第一次的刑事責任を負うとしている。それはなぜか。	
	この回の到達目標	正犯と共犯を区別することや間接正犯の意義を理解するとともに、共犯の処罰根拠について考察することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅴ共犯 1～4を読む。	120分
	事後学修	なぜランク付けするべきなのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まずは共謀罪の意味を正しく知る	組織犯罪処罰法におけるテロ準備罪の制定をめぐり、国論は二分された。まずはこの犯罪について正確に理解するとともに、これからの課題について考える。	
	この回の到達目標	犯罪の企行段階に応じて刑法はどう対応しているか、またその理由について考えるとともに、テロ準備罪の特徴について説明することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・V共犯5～8を読む。	120分
	事後学修	賛成論や反対論はどこか感情的になっている。社会の変化との関係で共謀罪の問題を考える。	120分
14	死刑は本当に必要か	死刑を存置するべきであるとするのがわが国の世論であるが、世界を見渡すと、それは必ずしも当たり前ではない。死刑の必要性について考える。	
	この回の到達目標	最高裁に示した死刑適用基準について理解するとともに、死刑制度について私見をもてるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・VI犯罪の数と量刑理論1および2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ドイツ政府は友好国である日本が死刑を執行するたびに、抗議声明を出している。このことを考える。（2時間）	120分
15	刑法はどうあるべきか（まとめに代えて）	これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	これまでの学びをふまえて、刑法は何のためにあるのかについて、私見を展開できるようにする。	
	事前学修	これまで学んだことを自分なりに頭の中でまとめる（2時間）	120分
	事後学修	自分が考える刑法の在り方についてまとめる。（2時間）	120分

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行っている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世の中で起きている刑事法に関わる事件について説明することができる。						2	2	2		2			
②	刑法の在り方を想起しながら、刑事法に関わる事件にしついて私見を展開することができる。						2	2	2		2			
③	日本の刑事司法制度について説明するとともに、その問題を見極めることができる。						2	2	2		2			
④	事件を解決するために、刑罰法規を解釈することの意義を説明することができる。						2	2	2		2			
⑤	事件を解決するために、解釈された刑罰法規を事件に適用することの意義を説明することができる。						2	2	2		2			
⑥	刑法における犯罪の種類について説明し、その違いが何に由来するかについて述べることができる。						2	2	2		2			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を通じて、到達目標の①～⑥が達成されている かを筆記試験により確認する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、重要な点についての理解度を確認できるようにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00 （研究室 9号館2階9209） okanishi.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法とは	刑法と他の法領域との違いについて考える。	
	この回の到達目標	犯罪論に関する基礎的知識を習得し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第4章を読む。	120分
	事後学修	犯罪と刑罰に関する基礎的知識を整理する。	120分
2	生命身体等に関する罪	殺人罪や傷害罪、過失致死傷罪、逮捕監禁罪、略取誘拐罪、名誉毀損罪、業務妨害罪などの要件を概観する。	
	この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。	120分
3	財産に関する罪	刑法における財産の保護と、窃盗罪、詐欺罪、横領罪、器物損壊罪などの要件を概観する。	
	この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに、交通事件について考える。	120分
4	社会的法益に関する罪	放火罪、偽造罪、薬物犯罪などの要件を概観する。	
	この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに性犯罪について考える。	120分
5	国家的法益に関する罪	職権濫用罪や賄賂罪などの要件を概観する。	
	この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第9章を読む。	120分
	事後学修	偽造犯罪に関する理解を深める。	120分
6	刑法の基本原則	罪刑法定主義とは何か	
	この回の到達目標	罪刑法定主義に関する判例を整理し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第7章を読む。	120分
	事後学修	罪刑法定主義に関する判例を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	構成要件とは何か		構成要件の機能と要素について理解する。
	この回の到達目標	犯罪の成立要件に関する理論について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第10章、11章を読む。	120分
	事後学修	犯罪の成立要件に関する基礎概念を整理する。	120分
8	構成要件の要素		不作為犯、身分犯、因果関係などの概念について理解する。
	この回の到達目標	犯罪に関する基本的な概念について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第11章を読む。	120分
	事後学修	構成要件に関する諸概念をよく理解する。	120分
9	違法の本質		違法の本質をめぐる理論をふまえ、正当行為と緊急行為などの刑法の規定を理解する。
	この回の到達目標	違法の本質に関する議論を整理し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第12章を読む。	120分
	事後学修	刑法における違法とその他の法領域の違法との区別を理解する。	120分
10	責任の概念		刑罰の目的に関連して、責任の本質が理解できるようにする。
	この回の到達目標	刑事責任の本質が、具体的な事件を通して説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第13章を読む。	120分
	事後学修	責任主義という原則について考える。	120分
11	故意と過失		故意犯処罰の原則の意義と過失犯の構造について理解する。
	この回の到達目標	故意の種類および故意に関する理論について説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第14章を読む。	120分
	事後学修	個々の犯罪を通じて故意と過失の違いを理解する。	120分
12	未遂と共犯		未遂犯や共犯が処罰される要件と根拠について理解する。
	この回の到達目標	共犯論をめぐる今日の問題に関して、自説が展開できるようにする。	
	事前学修	教科書の第15章を読む。	120分
	事後学修	共犯や未遂が処罰される根拠を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	刑の適用		量刑および罪数について理解する。
	この回の到達目標	判例を通じて量刑判断の実情を整理し、課題等が説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の第16章を読む。	120分
	事後学修	刑が宣告されるまでの手続を整理する。	120分
14	現代社会と刑法		犯罪に関する今日的な課題を探る。
	この回の到達目標	何を処罰し、どのような行為に対して刑事的規制が必要か、自説が展開できるようにする。	
	事前学修	現在の犯罪の状況を調べる。	120分
	事後学修	犯罪に対する理解や感覚を養う。	120分
15	まとめと授業内試験		犯罪論と刑罰論のまとめ
	この回の到達目標	犯罪論と刑罰論に関する基本的な概念を整理し、説明できるようにする。	
	事前学修	犯罪の成立要件について確認しておく。	120分
	事後学修	犯罪に関する理論を理解する。	120分

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行っている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世の中で起きている刑事法に関わる事件について説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑法の在り方を想起しながら、刑事法に関わる事件にしついて私見を展開することができる。				2	2	2		2			
③	日本の刑事司法制度について説明するとともに、その問題を見極めることができる。				2	2	2		2			
④	事件を解決するために、刑罰法規を解釈することの意義を説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	事件を解決するために、解釈された刑罰法規を事件に適用することの意義を説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	刑法における犯罪の種類について説明し、その違いが何に由来するかについて述べることができる。				2	2	2		2			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に解説をclassroomに掲載する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
Googleクラスルームからメールを送信してください。速やかに対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論において何を学ぶのか	刑法典にはさまざまな刑罰法規が用意されている。一つ一つの刑罰法規の意味について考えることの意義を考える。	
	この回の到達目標	刑罰法規を解釈して処罰範囲を定める作業の重要性について理解する。	
	事前学修	刑事法Ⅰの履修者は刑事法Ⅰで学んだことを振り返る。	120分
	事後学修	殺人罪の規定をよく読みながら、その背後に広がる様々な事件について想像を膨らませよう。（2時間）	120分
2	人の生命はどのように保護されるべきか	人の生命は生きる上で必要不可欠な法益であり、それを侵害する行為は厳しく処罰されるべきである。しかしながら、そもそも「人」の生命はどこからどこまでのことをさすべきなのか。生命に対する刑罰的保護の在り方について考える。	
	この回の到達目標	「人」の意義や、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪の違いについて、理解するとともに、その処罰範囲について説明できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪1および2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	人の始期と終期はどう定められるべき考える。（2時間）	120分
3	人の身体を刑法はどう保護するべきか	身体への侵害行為をどう規制するべきか考える。	
	この回の到達目標	傷害概念と暴行概念について理解するとともに、これをふまえて、同意傷害の可罰性や結果的加重犯についても説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪4および5を読む。	120分
	事後学修	精神障害は刑法上の傷害概念に含むうるかを考える。	120分
4	性犯罪規定はどのように改正されたか	性犯罪の規定が大幅に改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設され、法定刑の引き上げも行われた。旧規定と新規定を比較しながら、新規定が目指すべき方向について考える。	
	この回の到達目標	性犯罪の新しい枠組みについて理解するとともに、処罰範囲について説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪10を読む。	120分
	事後学修	性犯罪が改正された社会的背景を考える。	120分
5	言論の自由と個人の名誉の保護とをどう調和させるべきか	名誉毀損罪は人の社会的評価を保護するためにあるが、これを強調すると、言論の自由を狭めるおそれが出てくる。その調和点を探る。	
	この回の到達目標	名誉毀損罪の基本構造を理解するとともに、報道の真実性が法廷において証明できなかった場合の処理について、私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪12および13を読む。	120分
	事後学修	いずれか一方を強調するときのデメリットを考えよう。	120分
6	刑法は私有財産をどのように保護しようとしているか	刑法による財産保護の体系について学ぶ。	
	この回の到達目標	財物と財産上の利益との区別、故意犯処罰の原則がここにおいて貫かれている点について、説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪15および16を読む。	120分
	事後学修	窃盗罪が保護する財産が限定的であるのはなぜかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財産犯が保護しようとしている法益は何か	財産犯は究極的にどのような法益を保護すべきなのかを考える。	
	この回の到達目標	本権説と占有説について理解するとともに、判例に現れた事案を分析できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪19および20を読む。	120分
	事後学修	最高裁判例が保護法益を占有と解している政策的な理由を考える。	120分
8	詐欺罪が処罰される真の理由はどこにあるか	搭乗券事例やゴルフ場利用事例など、近年、詐欺罪をめぐる裁判例の動きが活発である。また、振り込め詐欺のように今や詐欺は身近な罪といってもよい。詐欺罪の保護法益や構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	詐欺罪が成立するための要件を順番に理解するとともに、最近の裁判例について検討する。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪24～28を読む。	120分
	事後学修	この授業で取り上げた様々な事案をどう考えるべきか、整理しておく。	120分
9	横領罪と背任罪の共通点と相違点は何かー経済犯罪と絡めてー	横領罪と背任罪は経済活動と密接に関係する犯罪の一つである。その処罰根拠について考える。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪の構造について理解するとともに、これをふまえて経済犯罪に関するいくつかの事例について考察することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪30および34を読む。	120分
	事後学修	学んだことをふまえて、刑法と経済のかかわりについて私見をまとめる。	120分
10	盗まれた物を買った者は何罪に当たるか	財産犯の背後で行われる行為を規制するのが盗品等に関する罪である。その存在理由を考察する。	
	この回の到達目標	盗品等に関する罪について全体像を理解するとともに、保護法益について説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪35・36を読む。（2時間）	120分
	事後学修	盗品等に関する罪における故意はどの程度のものでなければならないか。	120分
11	放火罪の処罰範囲について	社会的法益を保護する犯罪の一つである放火罪について学ぶ。比較的既遂に至りやすい犯罪であるため、一つ一つの要件について学んでいく。	
	この回の到達目標	公共危険犯の意義を理解するとともに、保護法益や現住性、建造物の意義、未遂時期や既遂時期について説明できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪1～3を読む。	120分
	事後学修	建造物の物理的の一体性および機能的の一体性を論ずる意義は何か。	120分
12	文書偽造罪が処罰される理由とは何か	文書の社会的機能を考えるとともに、何をもって文書「偽造」といえるのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	文書の定義や偽造概念について理解するとともに、いくつかの事案について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪4～7を読む。	120分
	事後学修	履歴書の氏名記載欄に虚偽の名前を書き、写真欄に自身の写真を添付する行為は、私文書偽造罪に当たるか。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネットとわいせつ罪との関係	わいせつ罪は風俗犯であるが、その保護法益をめぐる対立が以前から続いている。わいせつ罪の存在理由について考える。	
	この回の到達目標	刑法175条の保護法益について理解するとともに、インターネット上の無修正映像の送信について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅱ社会的法益に対する罪8を読む。	120分
	事後学修	わいせつ動画ファイルを販売する行為は、その場所が日本と外国とで、処罰の可否が分かれるかを考える。	120分
14	収賄罪はいかなる構造をもつ犯罪か	本学部は公務員志望者が多いからこそ、この罪をしっかりと学ぶ必要がある。保護法益や処罰範囲をめぐる、学説と裁判例が対立している。この罪の構造を学ぶ。	
	この回の到達目標	収賄罪の保護法益、収賄罪の体系について学ぶとともに、職務権限の範囲をめぐる私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅲ国家的法益に対する罪4および5を読む。（2時間）	120分
	事後学修	収賄罪の保護法益をめぐる対立を整理する。（2時間）	120分
15	刑罰法規と社会生活とのかかわりについて（特に犯罪化の意味について）	これまでの学びを振り返るとともに、犯罪化の時代の意味について考える。	
	この回の到達目標	90年代後半から続く犯罪化の潮流について学ぶとともに、これまでの学びとその潮流との関係について考える。	
	事前学修	これまで学んだことを復習しておく。	120分
	事後学修	社会の変化に刑法はどう対応するべきかを考える。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特にない。ただし、総合ポータルシステムにアクセスして答案を提出できる状況にない人は、本授業を履修すべきではない。

【授業方法】
講義の方法を用いる。 授業形態にかかわらず、Google Classroomを用いて予習用資料等を配信する。クラスコードは、総合ポータルシステムの授業連絡で知らせる。 Google Classroomの「成績評価について」の資料は必ず見てよく理解する必要がある。同資料に示された準則に従って答案を提出しないと単位は取得できない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。					3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。								3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。												3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 授業内試験は、総合ポータルシステムを用いて実施する(出題は7月6日13時、答案提出期限は7月10日13時)。変更もありうるので、同システムを通じて連絡される情報に常に注意していただきたい。また、Google Classroomの「成績評価について」の資料をよく見て理解すること。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
刑法解釈論〔改訂版〕		設楽裕文	八千代出版	2022年	教科書 必携
刑法の目的と解釈（2刷）		設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書 必携
備考	『刑法解釈論〔改訂版〕』の刑法改正による改訂資料を総合ポータルシステムの「授業連絡」を用いて配信する。この資料は、『刑法解釈論〔改訂版〕』と一体のものとして、試験時に参照できる。				

【オフィスアワー】
授業終了後、最大60分程度。ただし、感染防止のため当面メールにより対応する。アドレスは、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 刑法の目的	授業についての説明 刑法の目的と基本原則	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、刑法の目的と基本原則を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	刑法の目的と基本原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
2	刑法の解釈のあり方	刑法の解釈のあり方 厳格解釈の原則 拡張解釈の限界	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の目的・基本原則と解釈・適用のあり方との関係を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	刑法の解釈・適用のあり方について、授業で学んだことをまとめる。	120分
3	明確性の原則	明確性の原則 判断基準 徳島市公安条例事件	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の基本原則としての明確性の原則と具体的事案における問題点について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	明確性の原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
4	実行行為の類型性と危険性	実行行為の類型性と危険性 主観的要素と類型性・危険性	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為の類型性と危険性について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	実行行為の類型性と危険性について、授業で学んだことをまとめる。	120分
5	早過ぎた構成要件実現	早過ぎた構成要件の実現 実行の着手 一連の実行行為 クロロホルム事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、早過ぎた構成要件の実現の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	早過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分
6	遅過ぎた構成要件実現	遅過ぎた構成要件実現 複数の個別行為と結果の発生	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遅過ぎた構成要件実現の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	遅過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	間接正犯と不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	間接正犯 不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、間接正犯、不真正不作為犯を含めた、実行行為論全般について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	間接正犯、不真正不作為犯、実行行為全般について、授業で学んだことをまとめる。	120分
8	因果関係	因果関係 相当性の判断基準 実行行為以外の行為の介在と相当性	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、因果関係の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	因果関係について、授業で学んだことをまとめる。	120分
9	35条による違法性の阻却	35条による違法性阻却の基準 被害者の同意 治療中止 秘密漏示と取材	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、35条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	35条による違法性阻却について、授業で学んだことをまとめる。	120分
10	36条の正当防衛と過剰防衛	正当防衛の趣旨と要件 複数の反撃行為と正当防衛・過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、36条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	36条の規定と適用について、授業で学んだことをまとめる。	120分
11	故意、過失、錯誤	故意と過失の意義 錯誤による故意の阻却	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、故意、過失、錯誤による故意の阻却について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	故意、過失、錯誤について、授業で学んだことをまとめる。	120分
12	共謀共同正犯	共謀共同正犯 練馬事件 大麻密輸入事件 スワット事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共謀共同正犯の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	共謀共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	承継的共同正犯	承継的共同正犯 傷害重篤化事件 特殊詐欺事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、承継的共同正犯の問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	承継的共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分
14	共同正犯の離脱・解消	共同正犯の離脱・解消 強盗着手前立去り事件 おれ帰る事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共同正犯の離脱・解消の問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	共同正犯の離脱・解消について、授業で学んだことをまとめる。	120分
15	中立的行為による幫助	中立的行為による幫助 ウイニー事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中立的行為による幫助の問題を理解し、到達目標①②③に関連して、適正な刑法総則の諸規定等の解釈・適用の方法と文章による的確な表現について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	中立的行為による幫助について、授業で学んだことをまとめる。 今まで授業で学んだことを整理して、的確に文章に表現できるようにする。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法Ⅰ・Ⅱを履修済であること。特に後期は、民法や商法の知識を使うので、民法Ⅱ～Ⅴや商法Ⅰを履修中または履修済であるか、自習できること。

【授業方法】		
毎回、予習用の課題を出題し、その課題の解説と関連する問題の説明を行う。 予め授業スライドを配布し、スライドに基づいて授業を行う。手元でスライドを閲覧できるようにしておくことが望ましい。講義中、スライド以外の資料やWebサイトを参照することがあり、その場合は適宜スクリーンに投影する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	復習用に出した課題のうち、参考となるものについては、講義中で共有して紹介する。 人数やテーマによっては、授業内でアンケートを行うことも考えている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。					3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。								3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。												3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験により，到達目標①に関する理解ができているか，及び，到達目標②の問題の発見ができ，同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し，これを的確に文章に表現できているか，によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	その他	必携
刑法判例百選Ⅱ〔第8版〕	佐伯仁志＝橋爪隆	有斐閣	2020	参考書	必携
刑法2〔第2版〕	亀井源太郎ほか	日本評論社	2024	教科書	推奨
刑法事例の歩き方	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2023	その他	推奨
財産犯バトルロイヤル	高橋則夫ほか	日本評論社	2017	その他	推奨
法を学ぶ人のための文章作法〔第2版〕	井田良ほか	有斐閣	2019	その他	任意
備考	「必携」の指定は“MyKITS”で購入できるようにするための便宜であり，すべて揃える必要はない（詳細は初回に説明する）				

【オフィスアワー】
水曜14:00～16:00（休暇中を除く）ただし，アポイントがあれば随時受け付ける（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp）研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	事例演習の意義（刑法各論）		刑法各論を学修するにあたり、具体的な事例を自力で解決するために、判例を十分に理解することと実際に事例問題を記述することの双方が重要であることを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な事例を自力で解決するために、判例を十分に理解することと実際に事例問題を記述することの双方が重要であることを理解するとともに、犯罪の成否に関する基本的な思考手順を説明することができる。		
	事前学修	シラバスと授業スライドを熟読する。なお、教科書の購入については初回スライドのなかで説明するので、購入前に必ず授業スライドを見ること。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読み、講義内容をまとめておく。事例問題の解き方などに不安がある場合は、参考書なども一読してみる。		120分
2	窃盗における占有の意義		窃盗における占有の意義が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、窃盗における占有の意義が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
3	不法領得の意思		不法領得の意思の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不法領得の意思の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
4	窃盗と詐欺の区別		いわゆる交付行為の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いわゆる交付行為の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
5	強盗罪・事後強盗罪の基本構造		反抗抑圧の有無が問題となる事例や「窃盗の機会」が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、反抗抑圧の有無が問題となる事例問題や「窃盗の機会」が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
6	強盗致死傷罪の基本構造		強盗致死傷罪の成否が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、強盗致死傷罪の成否が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	事後強盗と二項強盗 事後強盗の共犯		事後強盗と二項強盗の成否、および事後強盗の暴行・脅迫のみに関与した者の罪責が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事後強盗と二項強盗の成否、および事後強盗の暴行・脅迫のみに関与した者の罪責が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
8	二項詐欺の基本構造		処分行為の有無が問題となる事例やクレジットカードの不正使用の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、処分行為の有無が問題となる事例問題やクレジットカードの不正使用が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
9	横領罪①		横領罪における「他人の物」の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横領罪における「他人の物」の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
10	横領罪②		横領罪における「横領」の成否が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横領罪における「横領」の成否が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
11	背任罪①		背任罪における委託信任関係の破壊が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、背任罪における委託信任関係の破壊が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
12	背任罪②		二重抵当や担保権侵害が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重抵当や担保権侵害が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	盗品等関与罪の基本構造	盗品等関与罪の成否が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、盗品等関与罪の成否が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
14	授業内試験・解説	授業内試験を行う。やや時間を開けて、試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	試験勉強として、これまでの授業スライドや教科書、判例・裁判例を見返してみる。	120分
	事後学修	授業スライド（試験の解説・採点基準）を読み込むと共に、出題箇所の講義スライドや教科書を読んで、講義内容をまとめる。	120分
15	講評・まとめ	授業内試験の講評を行うとともに、講義全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、これまでの授業スライドも見返してみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。余力があれば、教科書をひとつ長期休暇中に通読してみる。また、問題集についても積極的に取り組んでみる。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	三代川 邦夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法Ⅰ・Ⅱを履修済みか、履修中であること。

【授業方法】		
事前課題として事例問題を設定するので、学生は、それに対してあらかじめ回答を用意して授業に臨む。授業では、学生同士で議論しつつ、教員が適宜解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生はあらかじめ課題に対する回答を作成し、授業内で学生同士が議論をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。					3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。								3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。												3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に言語化して表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜コメントする。希望者には、メール等で質問して貰えればメール等で回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	教科書	推奨
備考	改訂等の可能性があるため、初回授業時の指示を待ってから入手すること				

【オフィスアワー】
月曜4限の時間帯 可能な限り事前にメールをすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	事例問題の解き方		事例問題を解くということは、何をすることなのか。判例や学説をなぜ学ばなければならないのか。「事例問題を解く」という観点から、判例・学説の学修や事例問題を解くことの意義を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的事例を解決する能力を鍛えるとともに、事例を解決するために刑法理論が発展してきたことを理解する。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
2	因果関係		因果関係が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、因果関係が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
3	不作為犯		不作為犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不作為犯が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
4	故意・錯誤		故意・錯誤が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、故意・錯誤が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
5	過失犯		過失犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、過失が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
6	正当防衛		正当防衛が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、正当防衛が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	過剰防衛・誤想防衛・誤想過剰防衛		過剰防衛・誤想防衛・誤想過剰防衛が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、過剰防衛・誤想防衛・誤想過剰防衛が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
8	緊急避難		緊急避難が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、緊急避難が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
9	責任能力		責任能力が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、責任能力が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
10	未遂犯(1)：実行の着手		実行の着手が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、実行の着手が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
11	未遂犯(2)：不能犯、中止犯		不能犯・中止犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不能犯・中止犯が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
12	正犯と共犯		正犯・共犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、正犯・共犯が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共同正犯(1)		共同正犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、共同正犯が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
14	共同正犯(2)		共同正犯が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、共同正犯が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
15	遺棄罪		遺棄罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、遺棄罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特にない。ただし、総合ポータルシステムにアクセスして答案を提出できる状況にない人は、本授業を履修すべきではない。

【授業方法】		
講義の方法を用いる。 授業形態にかかわらず、Google Classroomを用いて予習用資料等を配信する。クラスコードは、総合ポータルシステムの授業連絡により知らせる。 Google Classroomの「成績評価について」の資料は、必ず見てよく理解する必要がある。同資料に示された準則に従って答案を提出しないと単位は取得できない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。					3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。								3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。												3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 授業内試験は、総合ポータルシステムを用いて実施する(出題は12月14日13時、答案提出期限は12月18日13時)。変更もありうるので、同システムを通じて連絡される情報に常に注意していただきたい。Google Classroomの「成績評価について」の動画をよく見て理解すること。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたは Google Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論〔改訂版〕	設楽裕文	八千代出版	2022年	教科書	必携
刑法の目的と解釈（2刷）	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
備考	『刑法解釈論〔改訂版〕』の刑法改正による改訂資料を総合ポータルサイトの「授業連絡」を用いて配信する。この資料は、『刑法解釈論〔改訂版〕』と一体のものとして、試験時に参照できる。				

【オフィスアワー】
授業終了後、最大60分程度。ただし、感染防止のため、当面はメールを用いて対応する。アドレスは、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 胎児性傷害・致死	刑法の各則の諸規定等の解釈一般について 胎児性傷害・致死	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、各則の諸規定等の解釈に関する基本的知識を修得し、到達目標②③に関連して、胎児性傷害・致死について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	胎児性傷害・致死について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	殺人罪と自殺関与罪	殺人罪と自殺関与罪の区別	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、殺人罪と自殺関与罪とを区別する基準を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	殺人罪と自殺関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	傷害罪の「傷害」	傷害罪の「傷害」に関する諸問題 暴行によらない傷害 昏睡・PTSDと傷害	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、傷害の概念と関連する諸問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	傷害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	名誉の保護	名誉に対する罪の客体・保護対象	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名誉毀損罪・侮辱罪の客体・保護対象について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	名誉の保護について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	財物と財産上の利益	財物と財産上の利益に関わる諸問題	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財物と財産上の利益の概念及びこれに関わる諸問題について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	財物と財産上の利益について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	民法的不法と財産罪	民法的不法が財産罪の成否に及ぼす影響	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、民法的不法が財産罪の成否にどのような影響を及ぼすかを理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	民法的不法と財産罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	窃盗罪と不法領得の意思	窃盗罪における不法領得の意思の要否とその内容	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、窃盗罪における不法領得の意思について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	窃盗罪と不法領得の意思について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	詐欺罪と財産上の損害	詐欺罪における欺罔行為と財産上の損害	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、詐欺罪と財産上の損害について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	詐欺罪と財産上の損害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	244条1項と家庭裁判所により選任された後見人の横領	家庭裁判所によって選任された後見人による横領の事案への244条1項準用の可否 成年後見人横領事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭裁判所によって選任された後見人が横領した事案に244条1項が準用されるかについて理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	244条1項と家庭裁判所によって選任された後見人による横領について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯	取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	被害者に戻す行為と盗品関与罪	被害者に盗品を戻す行為と盗品関与罪の成否	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被害者に戻す行為が盗品関与罪に問われるかについて理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	被害者に戻す行為と盗品関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	文書の有形偽造	文書偽造罪における有形偽造の概念と認定基準	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文書偽造罪における有形偽造について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	文書の有形偽造について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	103条の「罪を犯した者」と「隠避」	103条の「罪を犯した者」と「隠避」の解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、103条の「罪を犯した者」と「隠避」の適正な解釈について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	103条の「罪を犯した者」と「隠避」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	197条1項の「その職務に関し」	197条1項の「その職務に関し」の解釈 時間的広がりの問題 同一時点における広がり的问题	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、197条1項の「その職務に関し」の解釈について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	197条1項の「その職務に関し」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	刑法の諸規定等の解釈のあり方	刑法の諸規定等の解釈・適用のあり方 適正な解釈・適用の過程を的確に文章に表す方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の各則の諸規定等の解釈・適用を適正になすために必要なことは何かを理解し、適正な解釈・適用の思考過程を文章に的確に表現する方法を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	学んだ事項を的確に文章に表現できるように整理する。	120分

科目名	刑事法特殊講義 I B	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義 I Bの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義 I Bの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法 I を履修済であり、刑法 II を履修中または履修済であること。

【授業方法】		
毎回、予習用の課題を出題し、その課題の解説と関連する問題の説明を行う。 予め授業スライドを配布し、スライドに基づいて授業を行う。手元でスライドを閲覧できるようにしておくことが望ましい。講義中、スライド以外の資料やWebサイトを参照することがあり、その場合は適宜スクリーンに投影する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	復習用に出した課題のうち、参考となるものについては、講義中で共有して紹介する。 人数やテーマによっては、授業内でアンケートを行うことも考えている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験により，到達目標①に関する理解ができているか，及び，到達目標②の問題の発見ができ，同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し，これを的確に文章に表現できているか，によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	その他	必携
刑法判例百選Ⅰ〔第8版〕	佐伯仁志＝橋爪隆	有斐閣	2020	参考書	必携
刑法1〔第2版〕	亀井源太郎ほか	日本評論社	2024	教科書	推奨
刑法事例の歩き方	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2023	その他	推奨
法を学ぶ人のための文章作法〔第2版〕	井田良ほか	有斐閣	2019	その他	任意
備考	「必携」の指定は“MyKITS”で購入できるようにするための便宜であり，すべて揃える必要はない（詳細は初回に説明する）				

【オフィスアワー】
水曜14:00～16:00（休暇中を除く）ただし，アポイントがあれば随時受け付ける（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp）研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	事例演習の意義（刑法総論）		刑法総論を学修するにあたり、具体的な事例を自力で解決するために、判例を十分に理解することと実際に事例問題を記述することの双方が重要であることを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な事例を自力で解決するために、判例を十分に理解することと実際に事例問題を記述することの双方が重要であることを理解するとともに、犯罪の成否に関する基本的な思考手順を説明することができる。	
	事前学修	シラバスと授業スライドを熟読する。なお、教科書の購入については初回スライドのなかで説明するので、購入前に必ず授業スライドを見ること。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読み、講義内容をまとめておく。事例問題の解き方などに不安がある場合は、参考書なども一読してみる。	120分
2	共犯処罰の基礎理論		共犯を考える上で必要となる視点を整理すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共犯が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出するための視点について、関連判例・学説を踏まえて確認し、理解することができる。	
	事前学修	予習用の問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
3	意思連絡の意義		実行共同正犯と共謀共同正犯のそれぞれにおいて、意思連絡の成否・認定が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実行共同正犯と共謀共同正犯のそれぞれにおいて、意思連絡の成否・認定が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
4	正犯性①：共謀共同正犯と教唆		教唆の構造を理解し、共謀共同正犯と教唆犯の区別が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教唆の構造を理解し、共謀共同正犯と教唆犯の区別が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
5	正犯性②：間接正犯と共犯		間接正犯の構造を理解し、間接正犯と共同正犯・教唆犯の区別が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、間接正犯の構造を理解し、間接正犯と共同正犯・教唆犯の区別が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
6	正犯性③：共同正犯と幫助		幫助の構造を理解し、共同正犯と幫助犯の区別が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、幫助の構造を理解し、共同正犯と幫助犯の区別が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	共謀の射程・教唆の射程と因果性		共謀の射程・教唆の射程が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共謀の射程・教唆の射程が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
8	異なる罪名間の共犯		故意が異なる者同士の共犯の成否、および共犯と錯誤が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、故意が異なる者同士の共犯の成否、および共犯と錯誤が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
9	共犯関係の解消		共犯関係の解消が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共犯関係の解消が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
10	承継的共犯（＋同時傷害の特例）		承継的共犯や同時傷害の特例が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、承継的共犯や同時傷害の特例が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
11	身分と共犯		身分と共犯が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、身分と共犯が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分
12	不作為の共犯		不作為の共犯が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不作為の共犯が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共犯と違法性阻却	共犯と違法性阻却が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共犯と違法性阻却が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習用の事例問題を考え、答案を作成する。その後、授業スライドを熟読し、余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、余力の限りで、同じ分野の問題について、問題集を解いてみる。	120分
14	授業内試験・解説	授業内試験を行う。やや時間を開けて、試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	試験勉強として、これまでの授業スライドや教科書、判例・裁判例を見返してみる。	120分
	事後学修	授業スライド（試験の解説・採点基準）を読み込むと共に、出題箇所の講義スライドや教科書を読んで、講義内容をまとめる。	120分
15	講評・まとめ	授業内試験の講評を行うとともに、講義全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、これまでの授業スライドも見返してみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。余力があれば、教科書をひとつ長期休暇中に通読してみる。また、問題集についても積極的に取り組んでみる。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	三代川 邦夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法Ⅰ・Ⅱを履修済みか、履修中であること。

【授業方法】		
事前課題として事例問題を設定するので、学生は、それに対してあらかじめ回答を用意して授業に臨む。授業では、学生同士で議論しつつ、教員が適宜解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生はあらかじめ課題に対する回答を作成し、授業内で学生同士が議論をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に言語化して表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜コメントする。希望者には、メール等で質問して貰えればメール等で回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	教科書	推奨
備考	改訂等の可能性があるため、初回授業時の指示を待ってから入手すること				

【オフィスアワー】
月曜4限の時間帯 可能な限り事前にメールをすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	暴行罪・傷害罪		暴行罪・傷害罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、暴行罪・傷害罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
2	逮捕・監禁罪		逮捕・監禁罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、逮捕・監禁罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
3	性的自己決定権に対する罪		性的自己決定権に対する罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、性的自己決定権に対する罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
4	住居侵入罪		住居侵入罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、住居侵入罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
5	名誉毀損罪		名誉毀損罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、名誉毀損罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分
6	窃盗罪		窃盗罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、窃盗罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。		
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。		120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	強盗罪		強盗罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、強盗罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
8	詐欺罪(1)		詐欺罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、詐欺罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
9	詐欺罪(2)		詐欺罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、詐欺罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
10	横領罪		横領罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、横領罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
11	背任罪		背任罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、背任罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
12	盗品等関与罪		盗品等関与罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、盗品等関与罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	放火罪		放火罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、放火罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
14	文書偽造罪		文書偽造罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、文書偽造罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分
15	賄賂罪		賄賂罪が争点となる事例を、判例・学説を踏まえながら検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、賄賂罪が争点となるのはどのような事案か、判例・学説はどのような事案を想定し、どのような思考回路で議論を蓄積させてきたのか、といった点を踏まえながら、その事案において重要な事実を抽出し、法的評価を加えて論述できるようにする。	
	事前学修	あらかじめ提示した課題に対し、判例や学説を調べながら回答を作成する。	120分
	事後学修	授業内で議論された点・指摘された点を整理し直して、復習する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法の基本、少なくとも刑法Ⅰの基礎的部分が修得できていること（それがないと難度の高い事例問題への取り組みができない）。

【授業方法】
判例，過去問，オリジナルの設問，学術論文等を教材に用い，各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ，後半を検討・質疑に充てる。通年科目であるが，前学期は総論のテーマを，後学期は各論のテーマを中心的に扱う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき，授業時に意見表明を受講者自身に行わせ，次いで教員が評価を示し，さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより，いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した，刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に、筆記試験についても、その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に説示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料を配布する。）					
備考	六法は必携（出版社、サイズ等を問わない）。				

【オフィスアワー】
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の基礎に関する学力の確認	刑法学修についての基礎、とくに保護法益論と刑法解釈のアプローチにつき詳細に解説する。また、学力レベル確認のための試験を実施する。	
	この回の到達目標	保護法益とは何かを説明することができる。また、自己の刑法分野についての学力水準を正確に知り、適切な学修計画を立てることができる。	
	事前学修	刑法総論・各論について、基本書を読み返すなどして基礎的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。	120分
	事後学修	出題されたテーマについて、提出した自分の答案を振り返り、自己採点、解答点検を怠らないようにする。	120分
2	法解釈と法益概念との関係、および刑法学修計画作成	刑法解釈の技法を確認した上で、この授業のすすめ方、教材・参考書等の準備について綿密な検討・説明を行う。	
	この回の到達目標	個々の受講者ごとに最適な学習計画を立て、十分な準備を行うことができる。	
	事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。	100分
	事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。	140分
3	同意に関する錯誤と犯罪の 成否	自殺関与と殺人の限界（偽装心中と殺人罪の成否）	
	この回の到達目標	被害者の同意ないし承諾が犯罪の成否にいかなる影響を与えるかに関する基本的理解を確かなものにし、法益関係 的錯誤論の是非等発展的テーマを理解する。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
4	同時傷害の特例の問題点	同時傷害の特例の趣旨、射程範囲、判例と学説の見解を検討し、その問題点を解明する。	
	この回の到達目標	刑法207条の同時傷害の特例が、举证責任の転換という刑事裁判の例外を定めた特異な規定であることを正確に理解 し、判例、学説の検討を通じて自己の見解を説明できるようにする。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
5	傷害罪と被害者の承諾	被害者の承諾は犯罪の成否にいかなる影響を与えるか。	
	この回の到達目標	法益の帰属主体による保護法益の処分と犯罪成否との関係を理解したうえ、とくに同意傷害に関して犯罪の成立が 否定される限界をどのような基準で判断するか、自己の見解を展開できる。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
6	監禁罪の保護法益	場所的移動の自由を保護法益とする監禁罪について、その自由が現実的自由であることを要するか、潜在的可能的なもので足りるか、について検討する。	
	この回の到達目標	監禁罪の保護法益について、可能的自由説を採る判例に対して、現実的自由説に立つ有力説からの批判をめぐる議論を正確に理解し自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	住居侵入罪の保護法益		住居・建造物侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷を検討し、同罪をどのようにとられるべきかを考察する。	
	この回の到達目標	住居権説から平穩説を経て新住居権説へと至る判例の変遷と背景をたどしく理解し、保護法益と同罪の処罰範囲、機能をふまえた適切な解釈を行うことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
8	名誉毀損罪と真実性の錯誤		名誉の保護と表現の自由の保護との関係を背景に、とくにマスメディアの取材・報道への刑罰制裁による制約の限界を論じ、同罪の適正な処罰範囲を探る検討を行う。	
	この回の到達目標	名誉の保護と表現の自由との調整を図る規定としての刑法230条の2の趣旨を理解した上で、真実性の錯誤をどう取り扱うかについての判例の考え方をたどしく把握できる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
9	刑法における占有の概念		窃盗罪における占有概念について多角的に検討し、占有をめぐる判例の態度と学説の発展を考察する。	
	この回の到達目標	占有侵害によって特徴づけられる窃盗罪の性格をたどしく理解し、窃盗罪の成否の基準として働く占有の意義、性質の把握をふまえて、占有の有無が問題となった諸判例を分析し説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
10	不法領得の意思		窃盗罪における不法領得の意思の意義、機能、その内容を検討し、判例がそれをどのようにとらえているかを解明する。併せて、横領罪における不法領得意思も視野に入れ、財産領得罪と不法領得の意思の関係を明らかにする。	
	この回の到達目標	不法領得の意思の2つの側面（機能）を理解し、具体的事案における判例の態度と動向を説明し、自己の見解を説得的に展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
11	強盗と恐喝との相違		強盗罪と恐喝罪とが、刑法典のそれぞれ異なる章におかれた異質な類型とされるものでありながら、現象的には脅迫行為の程度の違い、量的差異に過ぎないものとも見えることを切り口に、両罪の比較検討を行う。	
	この回の到達目標	「窃盗および強盗の罪」と「詐欺および恐喝の罪」とを対比し、異なる性格を有する財産犯罪であることを理解した上で、両罪の相違を説明し、行為者に錯誤が生じた場合、被害者の意思抑圧の程度が行為者の意図とは異なった場合等にふみこんで罪責の検討を進めることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）		130分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）		110分
12	死者の占有		死者が生前占有していた財物を死後に領得する行為をどう評価するか。死者が財物を事実上管理支配することはありえないと考えれば、およそ占有侵害を要素とする窃盗も強盗も成立の余地はないことになるが果たしてどうか。この点についての判例、学説を掘り下げて検討する。	
	この回の到達目標	刑法における占有の概念を理論的に厳密に把握するとともに、実質的妥当な結論を導くことの重要性に配慮しつつ、強盗罪、窃盗罪、遺失物等横領罪の成否を適切に論じることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	詐欺罪における処分行為		詐欺罪における処分行為は意識的なものでなければならないか、無意識的なもので足りるかが問題となる。何らかの意思に基づく処分といえるものがなければ窃盗罪に問うほかない。従って、財産上の利益の移転のケースについては、利益窃盗で不可罰となる。処分行為の内容を明らかにすることが重要となる。	
	この回の到達目標	詐欺罪の処分行為をめぐる判例の動向を整理したうえで、学説の状況をふまえ、処分行為の意義と内容を適切に説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	120分	
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分	
14	クレジットカードの不正使用と詐欺		人を欺く行為が行われ、それによって相手方が錯誤に陥り、その錯誤に基づく処分行為行われた結果、財物の交付による占有の移転または財産上の処分行為による利益の移転が惹起されるという詐欺罪に特徴的な構成要件実現のプロセスに照らし、自己名義のクレジットカードを用いた不正行為に詐欺罪を認めうるかが問題となる。	
	この回の到達目標	詐欺罪特有の構成要件の構造を正確に理解し、支払い能力・支払い意思のいずれも欠いた自己名義のクレジットカード利用形態の不正行為が詐欺罪を構成するか否かを論じ、説得力ある結論を導くことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分	
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分	
15	不法原因給付と詐欺罪の成否		たとえば規制薬物を購入する旨偽って代金支払い意思無く薬物を騙し取ったり、売春の対価を支払う意思が無いにあるかのように装いこれに応じさせる行為に詐欺罪が成立するか。民法上返還請求が認められない場合や、履行を要求しえない場合に詐欺罪の成立を認めうるかが問題となる。	
	この回の到達目標	不法原因給付と詐欺罪の成否との関係を適切に理解した上で、民法と刑法との目的の相違をふまえて妥当な見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	100分	
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	140分	

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】 刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。
--

【履修条件】 刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。
--

【授業方法】		
基本的には、シラバス記載の事項のうち、重点的にいくつかのポイントを絞って、深い理解に到達することを目指す。シラバスは、学生が苦手とする部分を集めたものに過ぎず、いわばデフォルトの論点を表示したものに過ぎず、別論点にトライすることも十分にあり得る。刑法各論についての議論も歓迎する。双方向的授業が原則的な進め方となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	法的思考能力が身についているかを，討論や発表の内容により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	因果関係論（1）		ガイダンス。訳の割当て等。因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
	この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
2	因果関係論（2）		因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
	この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
3	不作為犯論		不作為犯論（ここでは不真正不作為犯の解釈論）について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	不作為犯論に関する判例を理解し、少なくとも不作為の殺人の事例において、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、不作為犯に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
4	その他の構成要件論		因果関係及び不作為以外の客観的構成要件に係る判例を読んで、体系的な理解を定着させる。	
	この回の到達目標	構成要件段階でどのような判断が行われるかを理解する。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、構成要件の判断に係る様々な事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
5	被害者の同意論		被害者の同意に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の効果の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、被害者の同意の効果に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
6	正当防衛論（1）		正当防衛のうちの、「急迫不正の侵害」の有無（主に急迫性）に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	急迫不正の侵害の有無の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、急迫不正の侵害の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	正当防衛論(2)	正当防衛のうちの「防衛の意思」の有無に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	防衛の意思の有無の判断に際して、積極的加害意思の有無との関係も意識しながら、様々な事案の解決ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛の意思の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
8	正当防衛論(3)	正当防衛のうちの、「防衛行為の相当性」の有無及び自招防衛や過剰防衛の限界等、その他の要件に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	防衛行為の相当性の判断に関する様々な事案の解決ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛行為の相当性に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
9	誤想防衛論	責任の議論との架橋のために、誤想防衛、誤想過剰防衛についての理解を確認し、これらに関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	自身のよってたつ学説に基づいて、誤想過剰防衛についての判断ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、誤想過剰防衛について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
10	錯誤論（1）	いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
11	錯誤論（2）	いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
12	違法性の意識の可能性	いわゆる違法性の錯誤に関すると思われる判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	違法性の錯誤に関する事例について、どのような場合に故意ないし責任が阻却されることがあるのかを説明できるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、違法性の意識の可能性の処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	過失犯論		過失犯についての基本的な考え方を理論面から確認しつつ、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	過失犯に関する事例の判断ができるようになること		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、過失犯の処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
14	未遂犯論		未遂犯についての判例を読みつつ、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	未遂犯に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、未遂犯の処理について自分なりの解決法を見つけておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
15	罪数論		罪数についての基本的な整理を前提とし、今まで読んできた判例の罪数処理等をも確認しながら、罪数に関する判例も読み、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	罪数に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、罪数処理について自分なりの解決法を見つけておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法の基本、少なくとも刑法Ⅰの基礎的部分が修得できていること（それがないと難度の高い事例問題への取り組みができない）。

【授業方法】
判例，過去問，オリジナルの設問，学術論文等を教材に用い，各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ，後半を検討・質疑に充てる。通年科目であるが，前学期は総論のテーマを，後学期は各論のテーマを中心的に扱う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき，授業時に意見表明を受講者自身に行わせ，次いで教員が評価を示し，さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより，いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した，刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に，筆記試験についても，その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に説示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料を配布する。）					
備考	六法は必携（出版社、サイズ等を問わない）。				

【オフィスアワー】
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	使途を定めて委託した金銭と横領		金銭は、預かったときにその所有権も自己に移転するが、こうした性質から、「自己の占有する他人の物」を客体とする横領罪の成否が問題となる。そこで、この点についての判例の態度と、「金額の所有権」論も含めた学説を検討する。	
	この回の到達目標	金銭の持つ性質をふまえて、理論的整合性をたもちつつ合理的妥当な横領罪の処罰範囲を画する解釈を導く議論を展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
2	横領の意義		横領行為とは何かについて、さまざまな横領の手段・態様を検討したうえで、領得行為説と越権行為説との対立に関する議論を考察しつつ、今日の判例と学説の状況を検討する。	
	この回の到達目標	財産領得罪の一種としての横領罪の性格を理解した上で、判例の立場を説明し、同罪の本質をどうとらえるべきか、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。		140分
	事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。		100分
3	横領と背任の関係		横領罪と背任罪との関係については、しばしば両罪が同時に成立するようにみえる場合があるが、この両罪の区別についてのさまざまな見解を検討し、適切妥当な区別基準を導き出すべく検討を加える。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪との区別について、判例の態度はどうか、学説にはどのようなものがあるかを整理し、もっとも妥当な見解を説得的に展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
4	不動産の二重売買と横領		自己の不動産を売却後に、登記未了のため依然所有名義者としての不動産登記上の外観が維持されていることを利用し、重ねて第三者に売却した場合の罪責を検討する。	
	この回の到達目標	横領罪における占有の概念の正確な理解を前提に、不動産取引と登記に関する知識をふまえ、土地等の二重売買事案についての横領罪成立の可能性を説明できる。さらに、二重売買不動産の譲受者に横領罪の共犯罪責の可能性について述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
5	不動産の二重抵当と背任		自己の不動産を担保に供する抵当権設定契約を締結した者が、登記未了であることを利用し、その後重ねて第三者のために抵当権を設定して登記を了し、本来先順位の抵当権者となるべき者を後順位の位置に置いた場合の罪責を検討する。	
	この回の到達目標	背任罪の「他人の事務処理」とは何を意味するかについての判例の具体的判断基準を理解した上で、学説の対立を整理し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
6	横領後の横領		従来、横領罪が成立すれば、その後同一の客体に対する不法な処分がなされても重ねて横領罪が成立することはないとするのが判例・学説の承認するところであった。しかし、近時最高裁はこの判例を変更した。そこで、これがいかなる理由によるものかを検討する。	
	この回の到達目標	横領物に対する横領行為が、不可罰的事後行為とされてきた従来の法解釈から、どのような事案を念頭に横領罪成立へと変更されたのかをふまえ、横領罪成否について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	放火罪の既遂時期		放火罪の既遂時期について、独立燃焼説に立つ判例の立場と、その早期に過ぎる点で批判を加える学説との対立状況を把握し、今日、具体的妥当な見解は何かを解明する。	
	この回の到達目標	従来の伝統的な判例の見解と、さまざまな学説との対立状況をふまえ、放火罪の罪質や今日の状況にふさわしい既遂時期の基準について妥当な見解を述べ、説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		100分
8	放火罪の客体と建造物の一体性		物理的に独立した複数の建造物が、回廊や通路等で接続する構造を有し、機能的に一体的な施設とみられる場合、それら一部が現住建造物性を具えていれば、他のどの部分に放火しても現住建造物への放火と扱うことができるか、という問題を検討する。	
	この回の到達目標	判例の見解を十分理解し、また今日の高度の難燃性建材・耐火構造の建築物に関する裁判例にあらわれた問題点なども視野に入れ、結論の具体的妥当性をふまえた見解を導くことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
9	コピーと文書偽造		偽造した物自体を真正な文書の原本として用いる場合ばかりでなく、真正な文書のコピーとして呈示する等する場合も偽造文書の行使といえるか（そのような目的で作った場合文書偽造といえるか）が問題となる。判例と、有力な反対説とを検討する。	
	この回の到達目標	コピーが広く普及したことにより生じた現実と、判例の拡張的な解釈に対する学説の批判的態度を正確に理解し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
10	代理代表名義の冒用と文書偽造		狭義の文書偽造とは作成名義の偽りを意味するが、作成名義人の氏名自体の偽りではなく、代理権、代表権の付与なしに代理、代表名義を使用した文書を作る行為を文書偽造罪に問うことができるかを検討する。	
	この回の到達目標	名義人に無断で作成名義を用いた文書を作る行為がなぜ処罰される必要があるかをふまえ、肩書きの冒用ある文書の作成、代理名義・代表名義の冒用ある文書の作成行為が文書偽造に該当するか否か、自己の見解を説得的に述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
11	同姓同名の使用と文書偽造		自分と同姓同名の弁護士Aのいることを知った行為者が、この弁護士に成りすまして「弁護士A」との作成名義を表示した請求書を作成・行使した場合、有形偽造といえるかを検討する。	
	この回の到達目標	有形偽造説と無形偽造説とに分かれる学説の対立を整理し、「人格の同一性」に齟齬を生じさせたか否かを基準とする判例をふまえて自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
12	作成名義人の承諾と文書偽造罪の成否		作成名義人の承諾ある場合であっても、文書によっては、その性質上偽造罪にあたる場合があるが、それはどのような場合で、いかなる原理によるのかを検討する。	
	この回の到達目標	作成名義人の承諾があっても、文書の性質上名義人以外の者による作成行為が許されない場合があるか、あるとすればどのような場合かを、判例の立場をふまえて説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	職務行為の適法性と公務執行妨害罪		公務の適正円滑な遂行を保護する公務執行妨害罪は、公務員による違法な行為はもとより職務の外形があっても適法性を欠く場合、成立する余地はないであろう。そこで、どのような意味・程度に職務行為が適法でなければならないかが問題となる。こうした点を検討する。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪における職務行為の適法性をめぐる判例の態度と、学説状況を整理し、説得的に自己の見解を組み立て、説明できる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
14	犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」の意義		犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」については、真犯人を意味すると解する説、犯罪の嫌疑をかけられ捜査・訴追の対象とされている者を指すとする説、また、真犯人、および合理的判断から真犯人と強く疑われる理由のある者を指すとする説があるが、こうした点を検討する。	
	この回の到達目標	本罪の保護法益の観点をふまえ、各説を整理・分析した上で、整合性と具体的妥当性のある見解に立った議論を展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		100分
15	わいろ罪における「職務に関し」の意義		賄賂罪の保護法益から、その本質的要素として導かれる職務との関連性が、どのような意味で、どの程度要求されるかを検討する。	
	この回の到達目標	判例が、「準職務行為」、「職務密接関連行為」などの概念を用い、広範で包括的な権限を有し高い地位にある公務員による收受行為を処罰範囲に取込む解釈を採用していることについて、適切な検討を加え、説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】 刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。
--

【履修条件】 刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。
--

【授業方法】		
基本的には、シラバス記載の事項のうち、重点的にいくつかのポイントを絞って、深い理解に到達することを目指す。シラバスは、学生が苦手とする部分を集めたものに過ぎず、いわばデフォルトの論点を表示したものに過ぎず、別論点にトライすることも十分にあり得る。刑法各論についての議論も歓迎する。双方向的授業が原則的な進め方となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。						3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。						3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。						3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。						3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。						3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。						3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。						3			3				3
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	法的思考能力が身についているかを，討論や発表の内容により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	単独犯の事件処理		共犯論に入る前に、単独犯の事件処理の刑法的側面を確認する。	
	この回の到達目標	単独犯の事件処理ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、単独犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
2	共犯の処罰根拠論		共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
3	共犯の処罰根拠論		共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
4	共同正犯論		共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共謀共同正犯の成立の限界を、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	判例法として発展してきた共謀共同性犯論に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共謀共同正犯の成立範囲について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
5	共同正犯と幫助		共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共同正犯と幫助犯の判断の分かれ目について、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	共同正犯における正犯性についての事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共同正犯と幫助の境界について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
6	共犯論における関与者の変動		承継的共犯及び共犯関係の解消について、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	承継的共犯及び共犯関係の解消に関する事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、承継的共犯及び共犯関係の解消（中止犯との差異も意識する）について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為犯と共犯，共犯と錯誤	不作為犯や錯誤といった単独犯でも問題となる論点について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	不作為犯と共犯及び共犯と錯誤に関する事案への当てはめができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，不作為犯と共犯，共犯と錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
8	過失犯の共犯	複数人関与の場合の過失犯について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	単独犯としての監督・管理過失及び過失の共同正犯との関係を理解する。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，過失犯と共犯（監督・管理過失を含む）について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
9	正当防衛と共犯	一部の者に違法性阻却事由が付着している場合についての事件処理について（一部の者に積極的 が害意がある場合や，新たな共謀の要否論等），関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	正当防衛と共犯に関する事案への当てはめができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，正当防衛と共犯について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
10	共犯と身分	共犯と身分についての条文適用を含む事件処理の方法について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて共犯と身分に関する事案における条文適用ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，共犯と身分について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
11	間接正犯と共犯	単独犯の法理が適用される間接正犯と，共犯の差を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて間接正犯と共犯に関する事案の判断ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，間接正犯と共犯のどちらが成立するか悩ましい事案における判断順序を含む判断方法について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
12	刑法各論と共犯	事後強盗罪等を取り上げながら，刑法各論における共犯論の議論を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて事後強盗罪等と共犯の文脈における事案の処理ができるようになる。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，事後強盗罪等にかかる共犯の論点について，自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共犯の事件処理（1）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
14	共犯の事件処理（2）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
15	共犯の事件処理（3）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

科目名	刑事法特殊講義ⅢA	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論（捜査手続を中心に）を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）、刑法Ⅱ（各論）及び刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
事例問題を中心に討論形式で実施するが、適宜講義形式で説明することもある。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題について答案を作成、提出してもらい、それに基づいて討論する形式で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。				3			3				3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 事例問題の答案や授業内での発言により評価する。	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
事例問題の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	推奨
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門 第2版	太田茂・上野幸彦	成文堂	2023	参考書	推奨
ポケット六法 令和6年版		有斐閣	2023	その他	推奨
備考	六法は何を使用してもよいが、必須である。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30 に授業講堂で質問を受け付けるほか、メールでも受け付ける（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事訴訟法を知る	講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明、刑事訴訟法を学習する際の注意点	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明することができる。	
	事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	捜査の端緒①	職務質問、所持品検査、自動車検問等	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務質問や所持品検査等各捜査の法的根拠と法的性格、実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	捜査の端緒②	告訴、告発	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、告訴・告発の手続や要件等を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	任意捜査の原則	任意捜査の原則、強制処分法定主義（任意捜査の限界）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意捜査を規制する原理(適法性の判断枠組み)と警察(捜査)比例の原則について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	新しい強制処分	写真撮影	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、写真撮影の適法性や関係判例について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	逮捕・勾留①	通常逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕の理由及び必要性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	逮捕・勾留②	緊急逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、緊急逮捕の合憲性や要件について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	逮捕・勾留③	現行犯逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現行犯逮捕、準現行犯逮捕の要件や関係判例を理解し、説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	逮捕・勾留に関する諸問題	別件逮捕、逮捕前置主義、一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、別件逮捕の適法性や関係判例、一罪一逮捕一勾留の原則について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	搜索・差押え①	令状に基づく搜索・差押え	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法35条の法意を理解し、搜索と差押えの実体的要件(理由と必要性)について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	搜索・差押え②	強制採尿	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、強制採尿の適法性と要件、採尿場所への連行の適法性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	搜索・差押え③	逮捕に伴う搜索・差押え	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕に伴う無令状搜索・差押えの範囲や要件を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接見交通権①	接見指定の合憲性、要件、余罪と接見指定	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接見指定の合憲性、接見指定の手続や要件等についても説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	接見交通権②	初回接見，面会接見	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，初回接見の重要性や接見指定との関係等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	公訴提起	起訴独占主義と起訴便宜主義，検察審査会制度	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，公訴提起に関する基本原則を知り，その例外について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅢB	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、捜査手続から、公訴提起、公判手続を経て判決(裁判)に至るまでの流れを理解し、各手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）、刑法Ⅱ（各論）、刑事訴訟法Ⅰ及び刑事訴訟法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
事例問題を中心に討論形式で実施するが、適宜講義形式で説明することもある。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の答案を作成，提出してもらい，それについて討論する形式で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。				3			3				3
③	公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。				3			3				3
④	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。				3			3				3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、提出を受けた答案や授業内での発言により評価する。	10	10	40	40							100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	40	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事例問題の解説は、適宜授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	推奨
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門第2版	太田茂・上野幸彦	成文堂	2022	参考書	推奨
ポケット六法 令和6年版		有斐閣	2023	その他	推奨
備考	六法は何を使用してもよいが、必須である。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30 に授業講堂で質問を受け付けるほか、メールでも受け付ける（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公訴提起以降の手続の流れを知る	公訴提起後の公判手続の概要	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公訴提起後の手続の流れを確認し、公訴提起と公判手続の概要を説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	訴因①	訴因の特定	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、訴因制度を理解し、公訴事実の違い、訴因の特定について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	訴因②	訴因変更の要否	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、訴因変更の要否の基準について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	訴因③	訴因変更の可否	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、訴因変更の可否の基準について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	訴因④	訴因変更命令	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、訴因変更命令制度、訴因変更命令の効力や義務性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	証拠法	証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、厳格な証明と自由な証明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、証拠裁判主義について、証拠能力と証明力を区別して説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	伝聞法則①	伝聞法則の趣旨(伝聞証拠禁止)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、伝聞法則と伝聞例外について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	伝聞法則②	実況見分調書(被害再現見分調書)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実況見分調書の証拠能力について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	自白法則①	偽計による自白	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自白法則の論拠や判例理論について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	自白法則②	違法な取調べと自白の証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自白と違法収集証拠排除法則との関係等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	自白の補強法則	補強証拠の範囲、補強証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、補強証拠となり得る範囲、補強証拠となる証拠等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠排除法則の要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、違法収集証拠排除法則の要件と判例理論を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	違法収集証拠排除法則②	毒樹の果実の理論	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、毒樹の果実の理論について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	択一的認定	共犯関係と択一的認定	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、有罪判決の理由、択一的認定、共犯関係と択一的認定について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	裁判	一事不再理効	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、既判力や一事不再理効について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	西山 智之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
犯罪の発生から犯罪者の処遇に至るまでの法体系である刑事法は、どのような世界を対象としており、どのように動いているのかを理解するため、具体的な犯罪現象を題材として、犯罪はどのようなことが原因で発生するのかや、犯罪者をどのように取り扱えば犯罪は減っていくのかについて、教員の解説と共に受講生による調査・研究・発表といった演習形式を用いて学修をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法を深く理解するために、各種犯罪の原因の分析や犯罪者の処遇方法、犯罪被害者の支援策、性犯罪や児童虐待、少年非行への対応策などの具体的な問題を取り扱い調査・研究・発表を受講生が自ら行うことで、刑事法が対象とする世界を広く理解し、現行の刑事司法システムの問題点を抽出し対応策を提案できる力を修得することを目標とする。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】		
各テーマについてまず教員がひととおり解説を行った後に、受講生は4～5人のグループに分かれ、取り扱っているテーマについてグループごとに調査・研究を行う。その後、研究成果をPowerPoint等にまとめ、全員の前で発表をしてもらう。発表後に他のグループとの質疑応答を行い、最後に教員が講評を行う。この形式を繰り返して学修を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生には、全員グループワーク・ディスカッション・発表を行ってもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムの仕組みを理解した上で説明することができる。【知識】				3			3				3
②	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、今後どのような犯罪への対応が必要なのかを調べることができる。【技能】				3			3				3
③	日本における現行の刑事司法システムに対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】				3			3				3
④	犯罪対策に関する教員からの問いに対して、論理的に応えることができる。【態度】				3			3				3
⑤	犯罪対策について考えるディスカッションにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、積極的に議論を行うことができる。【態度】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標②③④⑤に関連して、ディスカッション・グループ発表・質疑応答において、積極的に調査・研究を行い意見を述べていたか、他のメンバーの意見を良く聴いていたか、発表後の質疑応答で適切に答えていたか等の評定尺度に照らして評価を行う。		10	10	10	10						40
授業への参画度	到達目標④⑤に関連して、調査・研究を自ら中心となっていて行ったか、他のメンバーと協力し、お互いに切磋琢磨することによって能力の向上を行っていたかという積極性を基準として評価を行う。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終盤に、全体に、場合によって個別に、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
適宜指導を行います。質問等は、nishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。研究室で、火曜日18：00～19：30に行います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、授業の進め方に関する基本事項の説明【導入講義】	本授業の概要について説明を行い、その後、担当教員による調査・研究・発表に関する基本的事項の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が本授業の概要を理解し、次回以降に備えられるようにする。このオリエンテーションを通じて、どのように到達目標を達成していくのかを理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の流れについて理解しておく。 自分が調査・研究をしたい犯罪現象について考えノートに200文字程度で記述してくる。	60分
	事後学修	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、受講する際に必要な関係領域の学習計画立てノートに300文字程度で列記しておく。	180分
2	刑事政策・犯罪学の基礎Ⅰ 刑事政策・犯罪学の研究方法	刑事政策・犯罪学の基本書の輪読を通じて、刑事政策・犯罪学の基礎について解説を行う。特に刑事政策・犯罪学の研究方法について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が刑事政策・犯罪学の研究方法を理解し説明することができる。	
	事前学修	最近起きた刑事事件を1つ300文字程度でまとめ、ノートに列記してくる。 そして、なぜその事件が起きたのかを自分なりに考え、300文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	刑事政策・犯罪学の研究方法について自分なりにまとめを行い、ノートに500文字程度で記述しておく。	120分
3	刑事政策・犯罪学の基礎Ⅱ 犯罪予防の理論	刑事政策・犯罪学の基本書の輪読を通じて、刑事政策・犯罪学の基礎について解説を行う。特に犯罪予防の理論について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、受講生が犯罪予防の理論について理解し、説明することができる。	
	事前学修	犯罪予防の理論にはどのようなものがあるのか、インターネットや図書館で調査・研究し、800文字程度でノートに記述してくる。	210分
	事後学修	解説を行った犯罪予防の理論について、事前学修でまとめたものの後ろに比較できる形でまとめ、どのような点が合っていたか、どのような点が間違っていたかを確認しておく。	30分
4	刑事政策・犯罪学の基礎Ⅲ 刑事司法制度論	刑事政策・犯罪学の基本書の輪読を通じて、刑事政策・犯罪学の基礎について解説を行う。特に刑事司法制度論について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が刑事司法制度論（処分論・過程論・処遇論）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	刑事司法手続の流れを、インターネットや図書館で調査し、ノートに詳細に図式化してくる。	210分
	事後学修	解説を行った刑事司法の手続の流れについて、事前学修で作成した図を修正し、解説を赤字で加えておく。	60分
5	犯罪の事前予防	環境を整備することによって犯罪を防ぐ、環境犯罪学に基づく犯罪の事前予防について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が犯罪の事前予防について正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	犯罪を事前に予防する方法としてどのようなものが考えられるか、犯罪者の視点に立って考え、予防方法をノートに500文字程度で記述してくる。	120分
	事後学修	解説を行った犯罪の事前予防の方法について、ノートに400文字程度で記述し、自分の住んでいる街に当てはめて観察を行っておく。	120分
6	グループでの調査・研究【犯罪の事前予防】	犯罪の事前予防について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が犯罪の事前予防について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。	
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。	210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループでの発表 【犯罪の事前予防】		犯罪の事前予防について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。	210分	
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。	30分	
8	刑罰論		刑罰の歴史や刑罰の種類について資料を用いて説明した後、刑罰の意義や役割について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑罰の歴史や意義について正しく理解し、刑罰が社会の秩序を維持する上でどのように役立っているのかを説明することができる。		
	事前学修	刑罰はなぜ行われるのか、国家が刑罰を科すことはなぜ許されるのかについて考え、400文字程度でノートに記述してくる。	120分	
	事後学修	解説を行った刑罰の意義や役割についてノートに400文字程度でまとめ記述しておく。	120分	
9	グループでの調査・研究 【刑罰論】		刑罰論について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が刑罰論について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。	210分	
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。	30分	
10	グループでの発表 【刑罰論】		刑罰論について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、刑罰論について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。	210分	
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。	30分	
11	犯罪の原因の分析		犯罪者がなぜ犯罪者になってしまうのか、生物学的要因・心理学的要因・社会的要因などの理論を紹介し、犯罪原因の分析の歴史を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が犯罪の原因の分析の歴史について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	「自分が犯罪を行わないのはなぜか？」ということについてその理由を考え、ノートに500文字程度で列記してくる。	120分	
	事後学修	犯罪の原因の分析の歴史について、ノートに表を作成し、400文字程度でまとめて記述しておく。	120分	
12	グループでの調査・研究 【犯罪の原因の分析】		犯罪の原因の分析について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が犯罪の原因の分析について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。	210分	
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	グループでの発表 【犯罪の原因の分析】		犯罪の原因の分析について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、犯罪の原因の分析について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。	210分	
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分
14	性犯罪と刑事司法Ⅰ (性犯罪処罰規定の歴史と議論)		性犯罪処罰規定の歴史と議論について、刑事司法は性犯罪をどのように取り扱ってきたかの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が性犯罪処罰規定の歴史と議論について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	性犯罪は、刑法では何条で規定されているかを調査し、該当する条文をノートに列記してくる。		120分
	事後学修	性犯罪処罰規定の歴史と議論について、自分の考えをノートに500文字程度で記述しておく。		120分
15	性犯罪と刑事司法Ⅱ (性犯罪被害者に対する支援策)		刑事司法手続における性犯罪被害者への支援策の歴史と議論について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑事司法手続における性犯罪被害者への支援の歴史と議論について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	刑事司法手続における性犯罪被害者支援策について、警察庁・検察庁・裁判所のWebサイトを基に調査し、結果をノートに500文字程度で記述してくる。		120分
	事後学修	刑事司法手続の各段階における性犯罪被害者支援策についてノートに図表を用いてまとめ、500文字程度で記述しておく。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	西山 智之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
犯罪の発生から犯罪者の処遇に至るまでの法体系である刑事法は、どのような世界を対象としており、どのように動いているのかを理解するため、具体的な犯罪現象を題材として、犯罪はどのようなことが原因で発生するのかや、犯罪者をどのように取り扱えば犯罪は減っていくのかについて、教員の解説と共に受講生による調査・研究・発表といった演習形式を用いて学修をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法を深く理解するために、各種犯罪の原因の分析や犯罪者の処遇方法、犯罪被害者の支援策、性犯罪や児童虐待、少年非行への対応策などの具体的な問題を取り扱い調査・研究・発表を受講生が自ら行うことで、刑事法が対象とする世界を広く理解し、現行の刑事司法システムの問題点を抽出し対応策を提案できる力を修得することを目標とする。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】		
各テーマについてまず教員がひととおり解説を行った後に、受講生は4～5人のグループに分かれ、取り扱っているテーマについてグループごとに調査・研究を行う。その後、研究成果をPowerPoint等にまとめ、全員の前で発表をしてもらう。発表後に他のグループとの質疑応答を行い、最後に教員が講評を行う。この形式を繰り返して学修を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生には、全員グループワーク・ディスカッション・発表を行ってもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムの仕組みを理解した上で説明することができる。【知識】				3			3				3
②	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、今後どのような犯罪への対応が必要なのかを調べることができる。【技能】				3			3				3
③	日本における現行の刑事司法システムに対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】				3			3				3
④	犯罪対策に関する教員からの問いに対して、論理的に応えることができる。【態度】				3			3				3
⑤	犯罪対策について考えるディスカッションにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、積極的に議論を行うことができる。【態度】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標②③④⑤に関連して、ディスカッション・グループ発表・質疑応答において、積極的に調査・研究を行い意見を述べていたか、他のメンバーの意見を良く聴いていたか、発表後の質疑応答で適切に答えていたか等の評定尺度に照らして評価を行う。		10	10	10	10						40
授業への参画度	到達目標④⑤に関連して、調査・研究を自ら中心となっていて行ったか、他のメンバーと協力し、お互いに切磋琢磨することによって能力の向上を行っていたかという積極性を基準として評価を行う。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終盤に、全体に、場合によって個別に、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
適宜指導を行います。質問等は、nishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。研究室で、火曜日18：00～19：30に行います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	犯罪者の処遇Ⅰ（施設内処遇）		日本の刑事施設の種類や処遇方針について説明し、刑事施設の中ではどのような矯正処遇が行われているかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が施設内処遇について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	関東には、どのような刑事施設がどこに存在するのか調査を行い、ノートに列記してくる。		120分
	事後学修	刑務所で行われている処遇をノートに200文字程度で記述する。そして、その処遇に対する自分の意見を200文字程度で付け足す。施設内処遇の現状については法務省のWebサイトを参考に記述する。		120分
2	グループでの調査・研究【施設内処遇】		施設内処遇について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が施設内処遇について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。		210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。		30分
3	グループでの発表【施設内処遇】		施設内処遇について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、施設内処遇について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割り当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。		210分
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分
4	犯罪者の処遇Ⅱ（社会内処遇）		犯罪者は刑事施設からの仮釈放が認められた場合、または裁判で執行猶予付判決となり保護観察付となった場合には社会内処遇となる。そうした社会内処遇の制度について、保護観察制度を中心に現状と課題を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が社会内処遇について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	刑事政策・犯罪学の教科書、法務省のウェブサイト等で、保護観察官とはどのような職業かを調査し、更生保護における保護観察官の役割についてノートに400文字程度で記述してくる。		120分
	事後学修	保護観察制度の現状と問題点、解決策について、ノートに400文字程度で記述しておく。保護観察制度の現状については法務省のWebサイトを参考に記述する。		120分
5	グループでの調査・研究【社会内処遇】		社会内処遇について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が社会内処遇について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。		210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。		30分
6	グループでの発表【社会内処遇】		社会内処遇について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、社会内処遇について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割り当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。		210分
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	少年非行		少年非行とは何か、少年非行の現状、少年非行の原因、少年非行の問題点について解説を行う。 また少年法についても簡単に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が少年非行の現状や原因、問題点及び少年法の基本事項について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	少年が非行にはしる原因は何か、自分の中学～高等頃の周りの様子を参考に予想し、考えた内容をノートに400文字程度で記述してくる。		120分
	事後学修	自分が予想した少年非行の原因と授業で解説した少年非行の原因とを比較し、自分の考えをより深く考察し、その結果をノートに400文字程度で記述しておく。		120分
8	グループでの調査・研究 【少年非行】		少年非行について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が少年非行について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。		210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。		30分
9	グループでの発表 【少年非行】		少年非行について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、少年非行について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割り当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。		210分
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分
10	児童虐待		児童虐待とは何か、児童虐待の現状や原因、問題点などについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が児童虐待の現状や原因、問題点などについて正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	近年、ニュースや新聞で取り上げられた児童虐待の事件について調査し、事件の概要を400文字程度でノートに記述してくる。		120分
	事後学修	児童虐待の対応の流れについてまとめ、ノートに図式化して記述しておく。		120分
11	グループでの調査・研究 【児童虐待】		児童虐待について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が児童虐待について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。		210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。		30分
12	グループでの発表 【児童虐待】		児童虐待について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、児童虐待について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割り当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。		210分
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	触法精神障害者		日本における精神障害者による犯罪の件数や特徴等の現状を統計データを用いて説明し、それに対する刑事司法手続による対応策の課題と今後の展望について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が触法精神障害者による犯罪の現状や特徴、問題点などについて正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	精神障害者の犯罪と言われて自分が思い浮かべるイメージをノートに200文字程度で記述してくる。また精神障害者が犯罪を行った場合、刑事司法手続ではどのように取り扱われるのかについて調査し、ノートに200文字程度で記述してくる。		120分
	事後学修	触法精神障害者への対応の流れについてまとめ、ノートに400文字程度で記述しておく。		120分
14	グループでの調査・研究 【触法精神障害者】		触法精神障害者について、グループごとに調査・研究を行い、研究成果をPowerPointや原稿にまとめるなど、発表の準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、受講生が触法精神障害者について、資料を探しながらグループのメンバーと協力して調査・研究を進め、発表のスライドを作成することによって、調査・研究・発表のスキルを身につけることができる。		
	事前学修	グループのメンバーと協力して、割り当てられたテーマについて調査・研究を行い、成果をノートに500文字程度で記述してくる。		210分
	事後学修	発表に向けて、PowerPointのスライド及び原稿を完成させておく。		30分
15	グループでの発表 【触法精神障害者】		触法精神障害者について、グループでの発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、適切な発表・質疑応答を行うことにより、触法精神障害者について正しく理解することができる。また他の受講生が納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	当日、適切な発表ができるように割り当てられたテーマについて、グループのメンバーと協力して、原稿・PowerPointのスライド等を完成させてくる。		210分
	事後学修	答えられなかった質問や担当教員の講評をもとにグループの問題点を分析し、グループのメンバーと反省会を行い、ノートに反省点を400文字程度で記述しておく。		30分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特にない。ただし、パソコンから総合ポータルシステムにアクセスして答案を提出できる状況にない人は、本授業を履修すべきではない。

【授業方法】		
講義の方法を用いる。オンデマンド授業を予定している。 Google Classroomを用いて資料等を配信する。クラスコードは、総合ポータルシステムの「授業連絡」で知らせる。 Google Classroomの「成績評価について」の資料は、必ず見てよく理解する必要がある。同資料に示された準則に従って答案を提出しないと単位は取得できない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 授業内試験は、総合ポータルシステムを用いて実施する予定である（出題は12月19日日13時、答案提出期限は12月23日13時）。変更もありうるので、同システムを通じて連絡される情報には常に注意していただきたい。Google Classroomの「成績評価について」の資料をよく見て理解すること。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論 [改訂版]	設楽裕文	八千代出版	2022年	教科書	必携
刑法の目的と解釈 (2刷)	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
Next教科書シリーズ刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	2018年	教科書	必携
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『刑法解釈論 [改訂版] 』の刑法改正による改訂資料を、総合ポータルシステムの「授業連絡」を用いて配信する。この資料は、『刑法解釈論 [改訂版] 』と一体のものとして、試験時に参照できる。				

【オフィスアワー】
授業終了後、最大60分程度。当面は、感染防止のためメールで対応する。アドレスは、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 刑法の解釈とはどのようなものか	授業についての説明 成績評価の方法 刑法の学びの必要性 刑法の基礎 刑法解釈の方法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論（教科書『刑法解釈論〔改訂版〕』を指す。以下同じ）の3頁、目（『刑法の目的と解釈』を指す。以下同じ）の第1章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	刑法解釈の実際	刑法の解釈適用の実際と刑法解釈の技法（文章化の技法を含む）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の3～17頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	憲法と刑法の目的・基本原則・解釈	罪刑法定主義と人権保障 基本的人権保障主義 基本的人権保障主義と刑法解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の3～14頁、目的の第1章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	刑法の基本原則と刑法の解釈	基本的人権保障主義と厳格解釈の原則 拡張解釈の限界	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の15～23頁、目的の第2章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	刑法の基本原則と明確性の原則	明確性の原則 判断基準 徳島市公安条例事件等	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の12～14頁、目の第3章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	43条の「犯罪の実行」と実行行為	実行行為の類型性と危険性	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の29～32頁、目の第4章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為による実行 他人を道具とする実行	不作為による実行と不真正不作為犯 他人の行為を利用する実行と間接正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の32～33頁、目の第7章・第8章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	43条の「犯罪の実行に着手」と早過ぎた構成要件実現	実行の着手 早過ぎた構成要件実現	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解	
	事前学修	論の33～36頁、目の第5章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	43条の「これを遂げなかった」と遅過ぎた構成要件実現	結果の不発生 未遂犯としての所為の終了 遅過ぎた構成要件実現	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の37～39頁、目の第6章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	43条の「これを遂げなかった」と因果関係 中止未遂	因果関係の存否、特に相当性の判断基準 中止未遂の規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の39～41頁、目の第9章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	共犯に関する諸規定の概観 共同正犯の規定の解釈 共謀共同正犯	共犯に関する諸規定の概観 共同正犯の要件 片面的共同正犯 相互利用・補充関係と共同正犯 共謀共同正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の42～46頁、目の第14章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	承継的共同正犯 異なる行為意思を有する者の共同 過失犯の共同正犯	承継的共同正犯の事案において後行者が共同正犯の罪責を負う範囲 異なる行為意思を有するものが共同した場合の共同正犯の成立範囲 過失犯・不作為犯の共同正犯 予備罪の共同正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の46～49頁、目の第15章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共謀の範囲外の犯罪 離脱による共同正犯関係の解消	共謀の範囲（射程）外の犯罪と共同正犯 離脱による共同正犯関係の解消の要件	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の49～51頁、目の第16章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	教唆犯 従犯（1）	教唆犯の要件 未遂の教唆 教唆犯における共犯関係の解消 従犯の要件 不作為による従犯	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の52～55頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	従犯（2）	中立的行為による幫助 ウイニー事件	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の55～56頁、目の第17章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
16	従犯（3） 共犯と身分	幫助の因果性 従犯における共犯関係の解消 共犯と身分	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の56～58頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
17	正当行為の規定の解釈	35条の解釈 被害者の同意 治療中止 秘密漏示と取材	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の58～61頁、目の第10章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
18	正当防衛の規定の解釈（1）	36条1項の趣旨と解釈 予期された侵害 自ら招いた侵害 対物防衛 偶然防衛	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の62～65頁、目の第11章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	正当防衛の規定の解釈（2）	複数の反撃行為と正当防衛・過剰防衛 共犯と正当防衛・過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の65～67頁、目の第12章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
20	緊急避難に関する規定の解釈 過剰防衛の規定の解釈	緊急避難の要件 過剰避難 業務上特別の義務がある者についての特例 過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の67～70頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
21	故意に関する規定の解釈（1）	故意犯処罰の原則 故意の内実	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の70～73頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
22	故意に関する規定の解釈（2）	事実の錯誤と故意	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の73～76頁、目の第13章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
23	過失に関する諸規定の解釈	過失犯と過失 故意と過失の相違 過失の内実	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の76～77頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
24	責任能力に関する諸規定の解釈	39条の解釈 原因において自由な行為 41条の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の77～78頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	科刑に関する諸規定の解釈（1）	犯罪の個数（狭義の罪数論）と犯罪競合論	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の78～79頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
26	科刑に関する諸規定の解釈（2）	科刑上一罪の規定、併合罪の規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の78～83頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
27	刑及びその執行に関する諸規定の解釈（1）	刑の意義・内容・本質・適用（科刑の過程）・執行・消滅	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の82～83頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
28	刑及びその執行に関する諸規定の解釈（2）	没収・執行猶予に関する諸規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の84～89頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
29	刑法の適用範囲に関する諸規定の解釈	場所的適用範囲・時間的適用範囲・他の法令の罪に対する適用に関する規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の5～29頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
30	授業のまとめ	刑法の適正な解釈とはどのようなものか 解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	教科書及びノートを読み返して、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業で得た知識を整理し、文章に表現できるようにする。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストに沿って進める。但し、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取り組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。					1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。						1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。							1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は，実施後の授業期日において，またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	発行予定		
備考	教科書の版，刷が改められた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
土曜日，12時10分から13時までの時間帯に，事前アポイントメントを前提に，場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法の基礎・刑法の意義と役割		刑罰制度と「刑法」の意義、刑法はどのような役割をはたしているのか、他の法分野とのちがいはどうかについて検討を行う。	
	この回の到達目標	刑法は何のためにあり、実際にいかなる仕組みを通じてどのような働きをしているのかを、自分の言葉で説明し、これについての意見を述べることができる。		
	事前学修	もし、窃盗や殺人、放火などが罰せられず放任されるとしたら世界はどうか、また、どんな行為が罰せられるか、まったく分からない世界で生きていかなければならないとしらどうか、想像してみること。		120分
	事後学修	法は権利や利益を保護するためにあるが、民法やその他の法分野と比べ、刑法はいかなる意味で権利・利益を保護しているのか、その特徴は何かを整理し確認する。		120分
2	刑法の基礎・刑法学修の出发点		刑事法の中の刑法の位置について、刑事訴訟法や少年法、刑事収容施設法、更生保護法などとの関係を検討し、また刑法各論と対比し刑法「総論」の意味を確認する。	
	この回の到達目標	刑法とはどんな法で、どのような特徴をもつものなのか、実体法として他の刑事法と有機的に関係することにより刑事司法制度を形づくっていることの意味を説明することができる。		
	事前学修	六法を開き、刑事法分野に属する法令をながめ、どのように分類され、体系的に整理されているか考えたうえで授業に臨むこと。		100分
	事後学修	刑事実体、刑事手続法、矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し、刑法総則と各則の関係、刑法総則の地位について確認する。		140分
3	刑罰の意義と内容		刑罰の種類・内容など刑罰制度の概要と、行政処分や損害賠償等の他の法的統制手段との関係を検討する。	
	この回の到達目標	刑罰の種類・軽重と個々の刑の内容を説明し、法的統制手段としての刑罰固有の性格を説明することができる。		
	事前学修	刑罰の種類と定義に関する条文に目を通し、疑問に思った点を挙げておくこと。		140分
	事後学修	行政処分等と比べ、刑罰の最も大きな特徴は何か、また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。		100分
4	刑罰制度の正当化根拠		害悪の賦課を内容とする刑罰制度について、国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由、財産を剥奪することができるのかを検討する。	
	この回の到達目標	刑罰を純粋に自己目的的な正義の実現ととらえる絶対的応報の観念から説明づける見解から、その対局にある教育刑論、そして本質は応報でありながら犯罪抑止の効果を有する限度で正当化を考える相対的応報刑論、こうした議論を整理し説明することができる。		
	事前学修	国家の手による刑罰も、犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか、自分なりの見解をまとめたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	絶対的応報刑と相対的応報刑、一般予防と特別予防、との関係を整理しておく。		120分
5	死刑制度論		死刑制度について、死刑の存廃をめぐる古くて新しい議論を概観し、今日、真に問題とすべき課題がどこにあるか、冷静な検討を試みる。	
	この回の到達目標	死刑は人道に反する、誤判の可能性を絶無にできない、といった検証不能な主張にとどまることなく、制度をとりまく環境や廃止後の代替措置など、今日の死刑制度が直面する問題を視野に入れた冷静な意見を述べることができる。		
	事前学修	わが国で死刑が言い渡される件数、執行される件数を調べてみる。		110分
	事後学修	直観的・情緒的な議論を除き、死刑存廃に関するさまざまな意見を整理し、授業で取り上げた内容をふまえ、両論を対比し自分なりの一覧表を作成してみる。		130分
6	刑法の基本原則		刑法を支配する基本原則である罪刑法定主義に関し、その沿革、自由主義的側面と民主主義的側面、多様な派生原則について検討する。	
	この回の到達目標	罪刑法定主義の趣旨と内容、罪刑法定主義が問題となった判例の態度について、批判的に検討を加え、自己の見解を述べる。		
	事前学修	罪刑法定主義の否定は何をもたらすか、考察した上で授業に臨むこと。		100分
	事後学修	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求、マグナカルタ以来の歴史的沿革、各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	刑法の政策的基礎		刑法の政策的基礎（刑罰制度の基盤をなすもの）として、法益保護の原則（「法益なければ処罰なし」）と、責任主義の原則（何人も自己の非難に値する行為によらなければ刑罰を科せられない）を明らかにし、詳細な検討を加える。	
	この回の到達目標	刑法の主たる任務が法益の保護にあること、および、非難可能性の認められないところに処罰を行うことはゆるされない、とされることの意味をただしく説明することができる。		
	事前学修	利益と法益と権利、これら三つの概念の異同を辞典、参考書等で調べ、考えてみること。		120分
	事後学修	結果責任主義と団体責任主義に基づく刑事責任の追及が行われた前近代と比べ、非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし、個人責任主義の徹底を図る今日の考え方を対比し、確認しておく。		120分
8	刑法学説の発展と学説		刑法学説史の変遷と近代刑法学の発展について、新派と古典派、現代社会と刑法理論の課題を検討する。	
	この回の到達目標	刑法学の歴史の中で、近代派の主張がどのようなものであったのか、そして近代派の批判による激しい対立状況から生み出されたものが何であったのかを説明することができる。		
	事前学修	犯罪は行為者の悪い性格の一つの表れに過ぎず、未遂と既遂も本質的違いはなく、暴行、器物損壊、公務執行妨害も細かく区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか、考察を試みること。		120分
	事後学修	新派刑法学は、それまでの古典派の考え方に対する批判に端を発した学説であるが、どのような点で古典派は批判されたのか、まとめてみる。		120分
9	刑法理論の今日的課題		自然犯と法定犯とは、非犯罪化論の是非、法人の犯罪と法人の処罰をめぐる争いなど、刑法理論が直面する今日的課題について検討する。	
	この回の到達目標	自然犯法定犯区別説に対する批判的考察、また非犯罪化論の実体は何であったかを説明し、法人の犯罪主体性を否定し法人に対する刑罰的統制に消極的なわが国の刑法に関して、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	さまざまな犯罪の中には、今日、あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典のなかにあるどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。		140分
	事後学修	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか、また、自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か、自身の見解をまとめてみる。		100分
10	犯罪の成立要件		犯罪成立要件の全体をながめ、刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題に拘り、難解な理論構築を志向するのかをふまえた上で、三分体系を採るわが国刑法学の特徴的な思考方法を検討する。	
	この回の到達目標	ある行為について犯罪が成立するか否かは、直感的な判断を排し、一回的な判断でもなく、構成要件該当性・違法性・有責性の三点の具備、すなわち違法な構成要件該当行為をしたことにつき行為者が有責であることの確認による、ということの意味を説明することができる。		
	事前学修	いかなる場合に犯罪は成立し、成立が妨げられるのか、刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何か、考察したうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。		120分
11	構成要件とは何か		犯罪成立要件の構造と特徴、構成要件の客観的要素と主観的要素、構成要件の機能、構成要件と違法性、有責性との関係等につき検討する。	
	この回の到達目標	構成要件はどのような要素からなるか、客観的要素と主観的要素との関係はどうか、構成要件はいかなる機能を有するか、構成要件は違法行為類型であり有責行為類型でもあるとはいかなる意味かを説明することができる。		
	事前学修	犯罪成立要件と構成要件との関係はどうか、考えた上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ、一覧表にするなどして整理確認する。		120分
12	構成要件該当性		不作為犯をめぐる諸問題、とくに作為と不作為、行為とは何か、真正不作為犯と不真正不作為犯、不真正不作為犯の成立要件について検討する。	
	この回の到達目標	不真正不作為犯の成立を認めた判例をあげ、その問題点を説明し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	作為とは何か、不作為とは何か、行為とは何か、考察してみること。		110分
	事後学修	不作為犯、とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し、放火罪に関する判例を検討しておく。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	正犯と共犯の基礎		構成要件該当性の観点から、正犯構成要件に該当する正犯の実行行為、そして正犯以外の方法で関与する共犯の行為を検討し、正犯と共犯・直接正犯と間接正犯・正犯のメルクマールについての考察を行う。	
	この回の到達目標	正犯とは自ら犯罪を実行する者をいい、共犯とは正犯以外の方法で正犯行為に関与する者をいうが、直接正犯・間接正犯の区別、正犯と教唆犯・幫助犯の区別、正犯の基準をどう考えるべきか、について整理し説明することができる。		
	事前学修	自ら手を汚して犯罪を実行する場合と、他人の犯罪に間接的に関わる場合とではその罪悪性にどのような違いがあるか考えてみること。		120分
	事後学修	正犯の概念をめぐる理論刑法学上の議論を整理しておく。		120分
14	刑法における因果関係		刑法における因果関係論の意義、条件説の提唱した条件関係の意義、条件説への批判と相当因果関係説の登場、相当因果関係説内部の対立、相当因果関係説の危機から因果関係の処理に関する新しいアプローチ、について検討する。	
	この回の到達目標	従来の因果関係に関する理論状況を整理した上で、当該行為のもつ危険が結果に現実化したものとみられるか否かという判断方法を探る判例の思考方法を説明することができる。		
	事前学修	ある行為と発生した被害との間に原因・結果の関係が認められなければ、その結果は行為者のしわざとはいえない、とされるのはなぜか、考えた上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	因果関係の有無が問題とされた最高裁判例を検討し、判例がどのような基準に立って判断しているかを整理し確認する。		120分
15	違法性論の基礎		違法性とは何か、違法性の本質、主観的違法性論と客観的違法性論、結果無価値論と行為無価値論などの違法性論の基礎を検討する。	
	この回の到達目標	犯罪は違法な行為であるが、その違法性という評価が、構成要件該当性と、また有責性とどのような関係を有するかを整理したうえで、違法性の本質を説明することができる。		
	事前学修	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか、考察した上で授業に臨むこと。		140分
	事後学修	形式的違法・実質的違法、主観的違法正論・客観的違法正論、行為無価値論・結果無価値論、これらの違法性の本質をめぐる議論を整理しておく。		100分
16	違法性の阻却		違法性阻却事由と違法性阻却の原理を検討する。	
	この回の到達目標	正当防衛、緊急避難、ならびに法令行為、正当業務行為および超法規的違法阻却事由について、個々の違法性阻却事由の要件を検討し、違法性阻却の意義と原理とを説明することができる。		
	事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と、認められにくい状況とを対比して、どのような点がその違いをもたらすかを検討してみる。		120分
	事後学修	刑法35条を拠り所とする違法阻却の場合にはどのようなものがあるか、整理し確認しておく。		120分
17	緊急正当行為		正当防衛と緊急避難とを対比しつつ検討を加える。	
	この回の到達目標	正当防衛と緊急避難とを比較し、両者がいかなる共通点を有し、相違点はどのようなものかについて、また正当防衛に関する近時の判例の動向を説明することができる。		
	事前学修	正当防衛と緊急避難の意義と要件とを整理し、両者の共通点と相違点について考えた上で授業に臨むこと。		110分
	事後学修	違法性阻却事由に関する刑法35条・36条・37条の規定の意義と内容を整理し確認する。		130分
18	責任論の基礎		刑法における違法評価と責任評価との関係をふまえたうえで、期待可能性の概念と規範的責任論の発展について検討する。	
	この回の到達目標	犯罪成立の不可欠の要素としての責任が非難可能性を意味するものであり、非難は他行為可能性が認められて初めて可能になる（それに基づき刑罰を科しうる）という近代刑法の基盤にある考え方を具体例を挙げ説明することができる。		
	事前学修	自分の行為が原因で他人に被害が生じたとき、それが不可抗力であって自分に何の落ち度もないのに、厳しい非難にさらされた場合、どうこたえるか、熟慮してみたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	責任、非難可能性、他行為可能性、期待可能性のそれぞれの意味と関係、位置づけ、また心理的責任論から規範的責任論への近代的責任概念の発展、これらについて整理・検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	責任領域の諸問題		故意と過失、責任能力、心神喪失と心神耗弱、刑事未成年という責任領域の諸問題について検討する。	
	この回の到達目標	刑法が故意犯処罰を原則とし、過失犯処罰を例外としていることの理由、また、犯罪が成立するためには責任能力が不可欠であることの理由について説明することができる。		
	事前学修	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても、心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えを見出すまで考えてみること。	140分	
	事後学修	心神喪失・心神耗弱の意義、刑事未成年の意義、原因において自由な行為、これらの意義と問題点について整理し、まとめる。	100分	
20	故意論		故意の体系的地位、故意の内容、確定的故意と不確定的故意、故意と過失との限界について検討を加える。	
	この回の到達目標	故意は構成要件・違法・有責のいずれに属する要素か、また、不確定的故意とは何か、未必の故意と認識のある過失との区別の基準をどのように考えるべきかについて説明することができる。		
	事前学修	わざとやった場合＝故意の結果惹起と、うっかりやってしまった場合＝過失の結果惹起とでは、その重大性がきわめて大きく異なる、と考えるのはなぜか、考察した上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的・未必的故意の異同、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした諸点を分析整理しまとめる。	120分	
21	事実の錯誤		事実の錯誤を具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤に大別し、具体的事実の錯誤をさらに客体の錯誤・方法の錯誤・因果関係の錯誤とに分類し、抽象的事実の錯誤について構成要件的符合の観点から判断する等、事実の錯誤の処理について総合的に検討する。	
	この回の到達目標	法律の錯誤（違法性の錯誤）と対比して事実の錯誤の性格を論じ、錯誤が具体的事実の点にとどまる場合と、抽象化した事実におよぶ場合との違いをふまえ、とくに方法の錯誤の処理に関し具体的符合説と法定的符合説の対立について説明することができる。		
	事前学修	犯人が①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったとき、②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったとき、罪責に違いが生じるか、考えてみること。	100分	
	事後学修	具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤のちがい、客体・方法・因果関係の錯誤のちがいとその罪責への影響、具体的符合説と法定的符合説、故意の個数の問題、これらを整理しておく。	140分	
22	法律の錯誤		事実の錯誤と対比して法律の錯誤（違法性の錯誤）の区別を論じ、厳格故意説と制限故意説の対立の性格、故意説と責任説との対立、故意と違法性の意識、違法性の意識の可能性について検討する。	
	この回の到達目標	事実自体の錯誤と事実についての評価に関する錯誤の違い、法の不知や、あてはめの錯誤の類型が故意の成立を妨げないのに対して、事実の評価の誤りに相当な理由が認められる場合は故意を阻却する余地のあることを、判例の事案を挙げて説明することができる。		
	事前学修	飼い犬を野犬だと思って撲殺してしまった場合と、飼い犬だが首輪もせず放し飼いなので処分しても罪に問われることはないと確信して撲殺した場合とで罪責は異なるか、考えてみること。	120分	
	事後学修	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち、錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか、判例を挙げて論じてみる。	120分	
23	過失犯		故意犯と過失犯との比較をふまえ、過失犯の構造に関する刑事過失理論の変遷（旧過失論・新過失論・危惧感説）をながめ、予見可能性の内容と程度、信頼の原則、管理・監督過失の問題について検討する。	
	この回の到達目標	過失犯の実体を、法益侵害結果を予見できたのに行為に出て結果を惹起したことに求める旧過失論から、法益侵害結果を予見し、それに従って結果の発生を回避する適切な行動にでなかったことに求める新過失論への進化を説明し、そのような刑事過失理論の変遷の背景に何があったかを明らかにすることができる。		
	事前学修	わざとやったわけではなくとも、過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	旧過失論から新過失論、危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。	120分	
24	犯罪遂行の過程と刑法		犯行の決意から、共謀・準備、実行の着手、結果の発生へと至る、陰謀・予備罪、未遂犯、既遂犯という犯罪遂行のプロセスと刑法の干渉時期について検討する。	
	この回の到達目標	近代刑法は犯行の決意の段階で干渉することはありません、陰謀の段階で処罰するのも稀有の例外、予備はごく限られた重大犯罪に限定され、多くの犯罪は未遂以降を処罰時期とし、既遂になってはじめて罰する類型もあるが、こうした処罰時期の差異は何に由来するかを説明することができる。		
	事前学修	犯罪が未遂に終わって被害が発生していないのに、多くの犯罪についてなぜ未遂犯として処罰する必要があるのか、考えてみること。	140分	
	事後学修	刑法は、さまざまな犯罪類型において既遂のみを罰するものから、未遂をも罰する、あるいは少数ではあるが予備をも罰する、さらに早期の段階、陰謀を捕捉するものもある。その理由を考察する。	100分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	未遂犯		未遂犯の要件、実行の着手の意義、障害未遂と中止未遂、中止未遂の意義と要件、および不能犯について検討を加える。
	この回の到達目標	未遂犯の意義と要件をふまえ、実行の着手時期について、また中止未遂の成立要件についての判例の見解を説明し、また、不能犯の判断基準に関する判例と学説の考え方を示して自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	殺人の用途でピストルを準備した段階（予備）と、それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えること。	100分
	事後学修	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か、中止が認められる要件はどうか、整理しておく。	140分
26	共犯の基礎		必要的共犯と任意的共犯、共同正犯と狭義の共犯（教唆犯・従犯）との区別をふまえ、正犯と対比して共犯の性格を論じ、共犯の処罰根拠、個々の共犯の要件、一部実行・全部責任の法理について検討する。
	この回の到達目標	総則の共犯について、正犯との違い、その処罰根拠をなかに求めるか、一部実行・全部責任の法理とは何か、教唆犯と従犯それぞれの成立要件、共同正犯の特徴、共謀共同正犯の成立要件について説明することができる。	
	事前学修	共犯者としての犯罪への関りにはどのような形態が考えられるか、検討したうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	共犯における「一部実行・全部責任の法理」とは何か、自分で事例を挙げて説明を試みる文章を書いてみる。	120分
27	共犯の諸問題		正犯（直接正犯・間接正犯）と共犯、共犯の従属性（実行従属性・要素従属性・罪名従属性）、承継的共犯、片面的共犯等共犯をめぐる諸問題について検討する。
	この回の到達目標	共犯の正犯との対比、共犯独立性説と従属性説、従属性の内容（実行、要素、罪名の従属性）について、また承継的共犯、片面的共犯、過失犯の共犯について説明することができる。	
	事前学修	盗みをするよう唆したが、唆された者が応じなかった場合、いったん窃盗を決意したが思い返し実行に出なかった場合、実行に出たが発見されて盗めなかった場合、これらの罪責はどうか、考えること。	120分
	事後学修	共犯の従属性につき、実行・罪名・要素の各従属性を説明し、それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。	120分
28	罪数論		犯罪の個数はどのような基準により決するべきかに関し、行為、故意、法益等の罪数決定標準を用いること、また、単純一罪、法条競合、包括一罪等の概念にしたがって判断することを検討する。
	この回の到達目標	一罪の成立を導く法条競合と包括一罪の概念について説明し、加えて、判例がどのような判断を示しているかを説明することができる。	
	事前学修	泥棒がA宅に侵入、書斎にあったAの財布を盗り、次いで子供Bの部屋から貯金箱を、さらに居間のタンスから妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき、窃盗罪は何個成立するか、考えること。	100分
	事後学修	単純一罪、法条競合、包括一罪、科刑上一罪、併合罪、単純数罪、これらの分類・整理を確認し、体系的理解を確かなものにしておく。	140分
29	科刑処理論		複数の犯罪が成立する場合の科刑処理に関し、科刑上一罪、併合罪について検討を加える。
	この回の到達目標	複数の犯罪が成立するとき、行為者に科すべき刑をどのように導き出すかに関し、科刑上一罪、併合罪による科刑処理について説明することができる。	
	事前学修	窃盗罪の懲役刑の上限は10年であるが、空き巣を繰り返し計10件の窃盗について起訴された犯人に科せられる懲役刑は最長何年になるか、10年か、100年か、それとも？この点を考えてみた上で授業に臨むこと。	130分
	事後学修	法定刑⇒処断刑⇒宣告刑⇒執行刑という量刑と刑の宣告手続はどのように行われるか、とりわけ処断刑を導き出す処理はどうか、整理し確認しておく。	110分
30	刑罰の適用		執行猶予、仮釈放、刑の加重減免、刑の時効など刑罰執行上の諸問題について検討する。
	この回の到達目標	執行猶予制度の趣旨と内容、また仮釈放制度はどのような役割を果たしているかについて、刑事政策的意義をふまえた説明をすることができる。	
	事前学修	執行猶予とはどのような制度で、何のためにあるのかを考えた上で授業に臨むこと。	120分
	事後学修	微罪処分、起訴猶予、宣告猶予（立法論）、執行猶予（一部執行猶予を含む）、仮釈放のそれぞれの意義と関係、制度の趣旨の理解を確かなものにしておく。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
刑法を学問することに関心のある人は、ぜひ履修していただきたい。ただし、毎回六法をもってくるのがおっくうな人、継続的に講義に参加する姿勢のない人は、履修を遠慮いただきたい。小事に忠実なことが大成につながると思う。

【授業方法】
テキストの内容を踏まえたレジュメを用意し講義する。なお、今回のシラバスから事前学習と事後学習の欄が設けられた。その理由は開講時に説明する。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。 対面で実施する（大学が認めた受講困難者に対してはハイフレックス方式で対応する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。					1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。						1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。							1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識 が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『講義刑法学総論（第2版）』	井田良	有斐閣	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本館7階1707号室の研究室までいらしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の存在理由と機能	刑法は、刑罰という峻厳な制裁を用いる以上、その存在理由について説得的な説明ができなければ人々の支持されないことであろう。刑法の存在理由について学ぶ。	
	この回の到達目標	刑法の存在理由が犯罪の予防にあること、特にそれが法益保護に向けられるべきことを学ぶ。	
	事前学修	はじがき、第1編1章を読み、理解できないところメモ書きする。	120分
	事後学修	行為規範を用いた法益保護の仕組みを500字程度にまとめる。	120分
2	刑法の基本原則	刑罰という厳しい制裁手段を用いるところに刑法の特色がある。これが出鱈目に用いられては、刑法は国民弾圧の手段と化する。刑法によって立つべき基本原則について概観する。	
	この回の到達目標	行為責任主義の意義、罪刑法定主義の自由主義的側面と民主主義的側面について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	第1編2章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	罪刑法定主義の歴史的背景について500字程度で説明してみる。	120分
3	刑法、刑法典、刑罰法規	刑法を解釈することだけでなく、それがどう制定されるべきかについて考察する。	
	この回の到達目標	日本刑法の歴史とその特徴を学ぶとともに、それを解釈適用する際に注意すべきことについて説明することができるようにする。	
	事前学修	第1編3章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	刑法の構造について500字程度で説明できるようにする。	120分
4	犯罪論の基礎理論	犯罪の本質とは何か、犯罪が成立するためにはいかなる要件をクリアする必要があるのかを考察するところに、犯罪論の意義があり、これが研究の対象ともなる。犯罪論の全体像について学ぶ。	
	この回の到達目標	構成要件該当性、違法性、有責性の意義について理解するとともに、違法性をめぐる結果無価値論と行為無価値論の対立はいったい何をめぐる対立なのかを考察する。	
	事前学修	第2編4章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	結果無価値論と行為無価値論とはそれぞれどのような見解か、500字程度でまとめる。	120分
5	構成要件	構成要件該当性は犯罪論の第一関門であり、行為がいかなる刑罰法規に該当するのかを判断する役目を負っている。このことの意義について考える。	
	この回の到達目標	犯罪論体系における構成要件該当性の判断は罪刑法定主義と密接に関連していることを学ぶとともに、構成要件の種類について説明することができるようにする。	
	事前学修	第2編5章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	犯罪の成立要件について500字程度で説明せよ。	120分
6	結果と因果関係	行為によって結果が発生したならば、その結果について責任を負うべきだとすることは、結果責任主義に陥る恐れがある。行為責任主義をふまえた因果関係論について考える。	
	この回の到達目標	刑法的因果関係について理解するとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
	事前学修	第2編6章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	刑法における因果関係を論ずるに際して、最も大切なことは何か、500字程度でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	不作為犯		作為犯の規定を介して不作為犯を処罰することは罪刑法定主義に抵触する恐れがある。この批判をクリアするためにはどうしたらよいかを考察する。	
	この回の到達目標	作為犯と不作為犯の意義について理解するとともに、不真正不作為犯の処罰根拠について説明することができるようになる。		
	事前学修	第2編7章を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	不作為犯の処罰範囲が拡散することの問題は何か、500字程度でまとめる。		120分
8	故意		故意犯処罰の原則の意義について探究する。	
	この回の到達目標	なぜ故意犯処罰の原則がおかれているのかを刑法の存在理由と関係づけて説明することができるようにするとともに、故意における事実認識はどの程度のものである必要があるのかを説明することができるようにする。		
	事前学修	第2編8章を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	故意行為を重く処罰する理由は何か、500字程度で説明する。		120分
9	具体的事実の錯誤		行為者の故意と行為者が実現した事実とがずれる場合がある。ここでは、一つの刑罰法規が適用可能な範囲内におけるずれについて考察する。	
	この回の到達目標	故意犯処罰の原則と事実の錯誤の意味について理解するとともに、具体的事実の錯誤の諸類型について説明することができるようになる。		
	事前学修	第2編9章1～3節を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	故意犯処罰の原則と錯誤論はどのような関係にたつか、500字以内で説明する。		120分
10	抽象的事実の錯誤		行為者の故意と行為者によって実現した犯罪事実とが、それぞれ別の構成要件にまたがるズレの処理について考察する。	
	この回の到達目標	刑法38条2項の意義について理解し、この規定をめぐる見解の対立点を理解するとともに、解決策について私見をもてるようにする。		
	事前学修	第2編9章4節を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	刑法38条2項の存在理由について500字程度で説明せよ。		120分
11	過失犯		過失犯は刑法典においては例外的に処罰する構えが採られているが、現実には、故意犯よりも件数をはるかに多く、だれもが犯しやすい犯罪である。その構造について考察する。	
	この回の到達目標	過失の本質をめぐる見解の対立を理解し、過失犯の態様について理解するとともに、過失の構造論について私見を展開できるようにする。		
	事前学修	第2編10章を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	旧過失論、新過失論、危惧感説の違いについて500字程度で説明せよ。		120分
12	結果的加重犯		結果責任主義は刑法が採ってはいらない考え方の一つであるが、結果的加重犯に対しては結果責任主義的であるとの批判がある。こうした批判をクリアして、行為責任主義にのっとった結果的加重犯像について学ぶ。	
	この回の到達目標	結果的加重犯の存在理由について理解するとともに、結果的加重犯のあるべき構造について説明することができるようになる。		
	事前学修	第2編11章を読み、理解できないところをメモ書きする。		120分
	事後学修	結果責任の問題について500字程度で説明せよ。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	違法性と違法性阻却事由	ある行為が構成要件に該当するとき、その行為に対しては刑法的違法性が推定されることになる。これを阻却する事由について学ぶ。	
	この回の到達目標	改めて犯罪論体系を思い出し、違法性を阻却するための基礎理論について理解する。	
	事前学修	第2編12章および13章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	違法性阻却事由を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
14	正当防衛	不正な侵害行為に対し刑法が許容している対抗手段が、正当防衛である。対抗手段とはいえ、不正な侵害行為者を侵害するものであるから、その許容範囲が問題となる。このことを学ぶ。	
	この回の到達目標	正当防衛の各要件の意義について説明することができるとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
	事前学修	第2編14章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	公的機関による助けを求めることが可能なときに、正当防衛権は行使できるか。	120分
15	緊急避難	直面した危険から免れる際に他者を侵害したときに、一定限度においてこれを許容するのが緊急避難である。いわれのない他者を傷つけて自分の利益を守るとは基本的に許されないことを前提に、どこまで緊急避難が許されるべきかを考察する。	
	この回の到達目標	正当防衛との違いや緊急避難の法的性格をめぐる議論を正確に理解するとともに、緊急避難の諸問題について自分なりに見解をまとめることができるようにする。	
	事前学修	第2編15章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	二分説について500字程度で説明せよ。	120分
16	自己決定に基づく違法性阻却事由	被害者の同意があれば、その法益侵害行為の違法性は阻却されるといわれる。しかし、その議論の状況をみると、一筋縄ではいかないことに気づく。違法性が阻却される場合と阻却されない場合の線をどこにひくべきかを考察する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の議論状況を理解するとともに、関連する諸問題について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2編16章及び17章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	被害者の同意を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
17	違法性阻却事由の錯誤	構成要件をめぐり錯誤が生じるように、違法性阻却事由をめぐっても錯誤が生じうる。その解決策について考察する。	
	この回の到達目標	違法性阻却事由の錯誤は事実の錯誤か違法性の錯誤かを考察をめぐらし、誤想防衛の諸類型を理解するとともに、その解決策について私見を展開することができるようにする。	
	事前学修	第2編18章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	誤想過剰防衛はどう処理するべきか、500字程度で説明せよ。	120分
18	責任論の基礎	ある行為が構成要件に該当し、違法性があることが確認されたとしても、責任がなければ、その行為者を罰することはできない。責任論の役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	刑事責任能力がなぜ必要なのかを理解するとともに、刑事責任能力が問えない場合の対応や原因において自由な行為について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編19章および20章1節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	刑事責任能力制度の存在理由について、500字程度にまとめよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	違法性の錯誤		刑法38条3項は違法性の錯誤について規定するが、事実の錯誤に比べて寛容ではない。その理由について考えるとともに、罪刑法定主義とこの問題が密接に関係していることについても考察する。
	この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤との違いを説明することができるようになるとともに、違法性の錯誤をめぐるいくつかの事例について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2編20章2節から4節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	刑法を用いた取締りの在り方について考えよ。	120分
20	未遂犯と実行の着手		刑法は犯罪の遂行段階に対応して、規制を用意している。とりわけ実行の着手が重要であるのはなぜか、実行の着手時期をどこに定めるべきかについて考察する。
	この回の到達目標	犯罪の遂行段階とこれに対する刑法の規制について理解するとともに、実行の着手時期をめぐる諸問題のは意義に違法性の本質をめぐる対立が控えていることを理解する。	
	事前学修	第2編21章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	実行の着手時期と違法性の本質論との関係について500字程度にまとめよ。	120分
21	不能犯		実行の着手に当たるようにみえても、法益侵害の危険性がないと評価できる場合が不能犯である。その判断をいかに行うべきかを検討する。
	この回の到達目標	法益侵害の危険性を判断する枠組み、および危険判断の基礎事情について理解するとともに、それをめぐる諸見解について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編22章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	不能犯を論ずる意義について500字程度で説明せよ。	120分
22	中止犯		犯罪の実行に着手しても自己の意思によりその行為を中止したとき、刑法はその者に対して恩典を与えるのが中止犯である。その要件について考察する。
	この回の到達目標	中止犯規定の存在理由および中止犯の要件について理解するとともに、中止行為の任意性について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編23章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	中止犯の規定が存在する理由を考えよ。	120分
23	正犯と共犯		実行に着手した者を正犯、これに背後で関与した者を共犯と区別され、前者に対して最も重い刑事責任が科される。その区別をする意義について考察するとともに、間接正犯の扱いについて考える。
	この回の到達目標	正犯概念および共犯概念を理解するとともに、間接正犯について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編24章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	間接正犯をめぐる議論について500字程度で説明せよ。	120分
24	共同正犯		刑法60条は共同正犯について規定する。共同正犯の本質について考察するとともに、共同正犯に関する判例についても検討を加える。
	この回の到達目標	何を共同するのか、共謀共同正犯とは何かを理解するとともに、共同正犯の成否が問題となった諸判例について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2編25章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	共謀共同正犯について500字以内で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	教唆犯と幫助犯		教唆犯と幫助犯の要件について考察する。
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠について理解するとともに、それぞれの要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編26章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	共犯の処罰根拠論と違法性の本質論との関係について考えよ。	120分
26	共犯をめぐる諸問題		共犯と錯誤、および共犯の中止と共犯関係からの離脱について考察する。
	この回の到達目標	共犯の本質論に基づいて、錯誤論や中止犯論を応用して問題を解決することを理解する。	
	事前学修	第2編27章 1 ～ 2 節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	共犯と錯誤の問題を解決する道筋を500字程度で説明せよ。	120分
27	共犯と身分		身分犯（正犯）に共犯が関与したときの解決策について考察する。
	この回の到達目標	刑法65条の存在理由、同条1項と2項の関係について理解するとともに、同条の適用範囲について説明することができるようになる。	
	事前学修	第2編27章3節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	事後強盗罪は身分犯か否か検討せよ。	120分
28	犯罪の個数および競合		ある行為が構成要件に該当し、違法性及び有責性も肯定できるときに犯罪は成立する。しかし、行為者について最終的に成立するのは一つの犯罪か、それとも複数の犯罪かが問題となる。
	この回の到達目標	犯罪の個数および競合を検討する際に構成要件が重要であること、一罪判断の基準や併合罪、観念的競合、牽連犯について理解する。	
	事前学修	第2編28章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	犯罪の個数を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
29	刑罰とその種類		刑罰という制裁は刑法を最も特徴づけるものである。その理論について検討する。
	この回の到達目標	日本刑法が用意している刑罰の種類について説明することができるようにするとともに、刑罰制度はいかなる理論に基づくべきか私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第3編29章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
	事後学修	死刑存廃論について500字程度で説明せよ。	120分
30	刑罰の適用および刑罰の執行		刑の量定は以下に行われるべきかを考察する。裁判員制度において刑の量定についてまで裁判員は判断しなければならない。そのプロセスについて学ぶ。
	この回の到達目標	法定刑から処断刑、宣告刑のプロセスを理解するとともに、量刑は以下に判断されるべきか私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第3編30章を読む。	120分
	事後学修	執行猶予制度の存在理由について500字程度で説明せよ。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について，その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し，その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために，犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し，刑法固有の理念を修得し，今日的課題について考察する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
予め授業スライドを配布し，スライドに基づいて授業を行う。手元でスライドを閲覧できるようにしておくことが望ましい。 講義中，スライド以外の資料やWebサイトを参照することがあり，その場合は適宜スクリーンに投影する。また，復習用に課題を出すことがあり，その際は次の授業の冒頭で解説を行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 復習用に出した課題のうち，参考となるものについては，講義中で共有して紹介する。また，人数やテーマによっては，授業内でアンケートなどを行うことも考えている。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。				1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。					1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。						1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験により，到達目標①②の理解ができているか，及び，到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し，これを的確に文章に表現できているかによって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法判例百選Ⅰ〔第8版〕 総論	佐伯仁志＝橋爪隆	有斐閣	2020	参考書	必携
どこでも刑法	和田俊憲	有斐閣	2019	教科書	必携
刑法Ⅰ 総論〔第2版〕	亀井源太郎ほか	日本評論社	2024	教科書	必携
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	その他	推奨
備考	「必携」の指定は” MyKITS” で購入できるようにするための便宜であり，すべて揃える必要はない（詳細は初回に説明する）				

【オフィスアワー】
水曜14:00～16:00（休暇中を除く） ただし，アポイントがあれば随時受け付ける（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp） 研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑法総論とは		刑事法学全体における刑法総論の位置づけを学修するとともに、刑法各論を理解するために必要な考え方について学修する。また、授業のスケジュールや成績評価の方法、参考文献の紹介も行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法総論がどのような学問分野であるか、また犯罪論と刑罰論、それらと刑事学や刑事政策との関連性を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスと授業スライドを熟読する。なお、教科書の購入については初回スライドのなかで説明するので、購入前に必ず授業スライドを見ること。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読み、講義内容をまとめておく。教科書を（わからないところがあってもいいので）一読してみる。	120分
2	犯罪論総説 構成要件①		犯罪の定義としての構成要件・違法・有責という概念を理解すると共に、構成要件要素としての実行行為・結果・因果関係・故意という概念の基礎を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪の定義としての構成要件・違法・有責という概念を理解すると共に、構成要件要素としての実行行為・結果・因果関係・故意という概念の基礎を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
3	構成要件②		犯罪の典型である故意既遂犯の構成要件要素を理解すると共に、これと異なる構成要件要素を持つ未遂犯および結果的加重犯という概念を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、故意既遂犯の構成要件要素を理解すると共に、これと異なる構成要件要素を持つ未遂犯および結果的加重犯という概念を理解し、それぞれの構成要件要素の異同を説明することができる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
4	因果関係①		実行行為・結果・因果関係の意義と機能を理解すると共に、法的因果関係の基本的な判断枠組みを理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、実行行為・結果・因果関係の意義と機能を理解すると共に、法的因果関係の基本的な判断枠組みを理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
5	因果関係②		法的因果関係の成否が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、法的因果関係の成否が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
6	故意①		犯罪論における故意の意義と機能を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における故意の意義と機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	故意② 因果関係と錯誤①		いわゆる具体的事実の錯誤が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。また、また、因果関係・故意の応用として、遅すぎた構成要件の実現が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、具体的事実の錯誤や遅すぎた構成要件の実現が問題となる事例の典型例を素材に、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
8	未遂犯		犯罪論における未遂犯の位置づけと、その成立要件を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における未遂犯の位置づけを理解すると共に、「実行の着手」に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
9	不能犯		犯罪論における不能犯の位置づけと、その成立要件を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における不能犯の位置づけを理解すると共に、犯罪の成立に必要な最低限の危険性の判断に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
10	故意③ 因果関係と錯誤②		いわゆる抽象的事実の錯誤が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。また、因果関係・故意・未遂犯の応用として、早すぎた構成要件の実現が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、抽象的事実の錯誤や早すぎた構成要件の実現が問題となる事例の典型例を素材に、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
11	不作為犯①		犯罪論における不作為犯の位置づけを理解すると共に、不作為犯における行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における不作為犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が作為犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
12	不作為犯②		不作為犯における保障人的地位や作為義務の内容を理解するとともに、不真正不作為犯の成否が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、不作為犯における保障人的地位や作為義務の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、不真正不作為犯が問題となる事例群を整理し、各事例における作為義務の存否についての判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	過失犯①		犯罪論における過失犯の位置づけを理解すると共に、過失犯における行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における過失犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が故意犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
14	過失犯②		過失犯における予見可能性や注意義務の内容を理解するとともに、監督・管理過失が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、過失犯における予見可能性や注意義務の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、監督過失・管理過失が問題となる事例の典型例を素材に、各事例の体系的な位置づけや処理において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
15	共同正犯		犯罪論における共同正犯の位置づけを理解すると共に、共同正犯における行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における共同正犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が単独犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
16	狭義の共犯（教唆・幫助）		犯罪論における狭義の共犯（教唆・幫助）の位置づけを理解すると共に、狭義の共犯における実行行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における狭義の共犯（教唆・幫助）の位置づけを理解すると共に、狭義の共犯における実行行為や因果関係の基礎を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
17	間接正犯		犯罪論における間接正犯の位置づけを理解すると共に、間接正犯における実行行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における間接正犯の位置づけを理解すると共に、実行行為や因果関係が単独犯や共同正犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
18	違法性の意義 被害者の同意		犯罪論における違法性の意義を理解し、各種の違法性阻却事由を概観する。また、同意の有無が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における違法性の意義を理解すると共に、実質的違法性阻却事由について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、同意の有無が問題となる事例群を整理し、各事例における同意の有効性についての判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	正当防衛と緊急避難		正当防衛と緊急避難の基本的な成立要件を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛と緊急避難の基本的な成立要件を理解すると共に、各要件の議論における基本的な判例や学説について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
20	正当防衛①		急迫性（又は正当防衛状況）の有無が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、急迫性（又は正当防衛状況）の有無が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
21	正当防衛②		防衛行為の相当性が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、防衛行為の相当性が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
22	正当行為ほか		緊急避難や、他の違法性阻却事由（正当行為、許された危険等）が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、緊急避難やその他違法性阻却事由が問題となる事例群を整理し、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
23	責任の意義 誤想防衛・誤想過剰防衛		犯罪論における責任の意義を理解し、各種の責任要素を概観する。また、誤想防衛・誤想過剰防衛が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における責任の意義を理解すると共に、責任の基礎に関する学説の対立や期待可能性について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、誤想防衛や誤想過剰防衛問題となる事例の典型例を素材に、各事例の体系的な位置づけや処理において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
24	責任能力 原因において自由な行為		犯罪論における責任能力の位置づけと、その成立要件を理解する。また、応用問題として、原因において自由な行為が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における責任能力の位置づけを理解すると共に、その判断方法に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、原因において自由な行為が問題となる事例の典型例を素材に、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	違法性の意識 中止犯		違法性の意識が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。また、犯罪論における中止犯の位置づけと、その成立要件を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、違法性の意識が問題となる事例の典型例を素材に、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。また、到達目標②③④に関連して、犯罪論における中止犯の位置づけを理解すると共に、「自己の意思により」に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
26	共犯の諸問題①		共犯からの離脱や共謀の射程、承継的共犯が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、共犯からの離脱や共謀の射程、承継的共犯が問題となる事例の典型例を素材に、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
27	共犯の諸問題② 罪数		身分犯に関する共犯が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。また、複数の犯罪が成立する場合の罪数処理について理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、身分犯に関する共犯が問題となる事例の典型例を素材に、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。また、到達目標②③④に関連して、罪数処理における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
28	刑罰論		刑罰の意義や刑罰の種類、さらに刑罰の適用方法について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、刑罰の意義や刑罰の種類、さらに刑罰の適用方法における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
29	授業内試験・解説		授業内試験を行う。やや時間を開けて、試験の解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、犯罪の成否が問題となる場合の簡単な事例問題を適切に処理できるようにする。		
	事前学修	試験勉強として、これまでの授業スライドや教科書を見返してみる。		120分
	事後学修	授業スライド（試験の解説・採点基準）を読み込むと共に、出題箇所の講義スライドや教科書を読んで、講義内容をまとめる。		120分
30	講評・まとめ		授業内試験の講評を行うとともに、刑法の基本原則についても学修することを通じて、講義全体のまとめを行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、犯罪の成否が問題となる場合の簡単な事例問題を適切に処理できるようにすると共に、刑法全体の基本原則について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、これまでの授業スライドも見返してみる。		120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。余力があれば、厚めの教科書をひとつ長期休暇中に通読してみる。また、問題集についても積極的に取り組んでみる。		120分

科目名	刑法Ⅰ【法職課程】	担当者	南 由介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
予習をし、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
予習をしてくることを前提に、適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・総論〔第2版〕	井田良	有斐閣	2018年	教科書	推奨
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良＝佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良＝城下裕二編	商事法務	2019年	参考書	任意
刑法の時間	佐久間修＝橋本正博編	有斐閣	2021年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の存在理由と機能	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について学修する。	
	この回の到達目標	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	刑法の基本原則－罪刑法定主義	罪刑法定主義（法律主義、遡及処罰の禁止および派生原則等）を中心に、行為主義、責任主義について学修する。	
	この回の到達目標	罪刑法定主義を中心に、行為主義、責任主義について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	刑罰法規の解釈・適用	刑罰法規の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について学修する。	
	この回の到達目標	刑罰法規の解釈および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	犯罪論の基礎理論、結果無価値・行為無価値、構成要件	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について学修する。	
	この回の到達目標	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	因果関係論（1）	結果の意義および条件関係（仮定的消去法など）について学修する。	
	この回の到達目標	結果の意義および条件関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	因果関係論（2）	法的因果関係（相当因果関係説、行為の危険性の結果への現実化など）について学修する。	
	この回の到達目標	法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為犯論	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠（保証人説など）、不作為の因果関係について学修する。	
	この回の到達目標	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠、不作為の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	故意論（1）	故意における事実認識の対象およびその程度（意味の認識）について学修する。	
	この回の到達目標	故意における事実認識の対象およびその程度について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	故意論（2）	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別（認識説、蓋然性説、認容説、動機説など）について学修する。	
	この回の到達目標	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	錯誤論（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤（法定的符合説と具体的符合説）について学修する。	
	この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	錯誤論（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説と抽象的符合説、実質的重なり合い）について学修する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	過失犯論（1）	旧過失論と新過失論、危惧感説（新・新過失論）について学修する。	
	この回の到達目標	旧過失論と新過失論、危惧感説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	過失犯論（2）	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について学修する。	
	この回の到達目標	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	違法性、違法性阻却事由、正当行為	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為（法令行為、正当業務行為）について学修する。	
	この回の到達目標	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	正当防衛	正当防衛の要件（急迫性、防衛行為、「やむを得ずにした行為」など）および過剰防衛について学修する。	
	この回の到達目標	正当防衛の要件および過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	緊急避難	緊急避難の要件（「現在の危険」、避難行為、法益の均衡など）および過剰避難、その他の緊急行為について学修する。	
	この回の到達目標	緊急避難の要件および過剰避難、その他の緊急行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	被害者の同意、安楽死・尊厳死	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死（特に積極的安楽死）・尊厳死（特に治療中止の根拠）の違法性阻却について学修する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死・尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	責任論の基礎、責任要素	責任の本質、責任の要素、責任要素（責任能力のほか、違法性の意識の可能性、適法行為の期待可能性）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について学修する。	
	この回の到達目標	責任の本質、責任の要素、責任要素（特に責任能力）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）について学修する。	
	この回の到達目標	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	未遂犯論	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について学修する。	
	この回の到達目標	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	不能犯論	危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について学修する。	
	この回の到達目標	危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	中止犯論	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について学修する。	
	この回の到達目標	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	正犯と共犯	正犯の概念、共犯の概念（実行従属性、罪名従属性など）について学修する。	
	この回の到達目標	正犯の概念、共犯の概念について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	間接正犯、原因において自由な行為	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか（間接正犯の正犯性、間接正犯の諸類型など）、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデル（責任モデル）について学修する。	
	この回の到達目標	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデルについて理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同正犯	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯（過失、結果的加重犯、不作為など）について学修する。	
	この回の到達目標	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	教唆犯と幫助犯	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態（片面的、不作為など）、共犯の因果関係について学修する。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態、共犯の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	共犯をめぐる諸問題（1）	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について学修する。	
	この回の到達目標	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	共犯をめぐる諸問題（2）	共犯と身分について学修する。	
	この回の到達目標	共犯と身分について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	犯罪の個数・競合	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について学修する。	
	この回の到達目標	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	刑罰論	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について学修する。	
	この回の到達目標	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南 由介	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法を学習することについて、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
学生に対し適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、 及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解 決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評 価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケーススタディ刑法〔第5版〕	井田良＝丸山雅夫	日本評論社	2019年	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良＝佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良＝城下裕二編	商事法務	2019年	参考書	任意
刑法の時間	佐久間修＝橋本正博編	有斐閣	2021年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法と道徳	刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	罪刑法定主義	罪刑法定主義の古典的内容と現代的 content について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、罪刑法定主義の古典的内容と現代的 content について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	責任主義、刑法の解釈	責任主義の意義および刑法の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任主義の意義および刑法の解釈について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	結果無価値論と行為無価値論	「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	刑法の適用	刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	構成要件	犯罪論の体系と構成要件要素について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、犯罪論の体系と構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不真正不作為犯	不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	因果関係（1）	条件関係について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、条件関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	因果関係（2）	法的因果関係（相当因果関係説、危険現実化説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	故意	事実認識の程度（意味の認識）および未必の故意について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実認識の程度および未必の故意について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	事実の錯誤（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤（法定的符合説、具体的符合説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	事実の錯誤（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説、抽象的符合説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、抽象的事実の錯誤理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	過失犯、結果的加重犯		旧過失論、新過失論、危惧感説（新・新過失論）、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、旧過失論、新過失論、危惧感説、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	違法の実質		違法性、違法性阻却、実質的違法性論について。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違法性、違法性阻却、実質的違法性論について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	正当防衛		正当防衛の成立要件（急迫性、防衛の意思、「やむを得ずにした行為」など）、過剰防衛について。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛の成立要件、過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	緊急避難		緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件（「現在の危難」、避難行為、法益の均衡など）について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	安楽死、尊厳死、終末期医療		安楽死（特に積極的安楽死）、尊厳死（治療行為の中止）の違法性阻却について。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、安楽死、尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	責任能力、原因において自由な行為		責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	違法性の錯誤		違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	違法性阻却事由の錯誤		事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）、誤想過剰防衛について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説、誤想過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	実行の着手		処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	不能犯		未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	中止犯		中止犯の法的性格、任意性、中止行為について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中止犯の法的性格、任意性、中止行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	正犯と共犯		実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	共同正犯		犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
26	共犯の従属性		共犯の従属性（実行従属性、要素従属性など）、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共犯の従属性、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
27	幫助犯		幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助（片面的、不作為、間接、中立的行為など）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
28	共犯の関連問題		不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
29	共犯と身分		構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
30	犯罪の数、刑罰制度		本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	三代川 邦夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的に講義形式で行う。ただ、適宜事例を出して、学生の皆さんに考えて貰いながら進めるというやり方を考えているので、「教員が喋ったことをひたすら（ただ書き写すかのように）ノートする」という授業にはしないつもりです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。							3		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、刑法総論の理解度を筆記試験にて評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
メールで質問してくれれば、メールで回答する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケーススタディ刑法	井田良＝丸山雅夫	日本評論社	2019	教科書	推奨
刑法ポケット判例集	井田良	弘文堂	2019	教科書	推奨
備考	改訂等の可能性があるため、初回授業時の指示を待ってから入手すること。また、小型六法を参照するなど、必ず刑法を参照できる状態にして下さい。				

【オフィスアワー】	
月曜4限の時間帯 可能な限り事前にメールをすること。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の基礎①—刑法の意義、刑罰の意義、刑罰の種類	刑法とは何か、刑罰は何のために存在するのか、刑罰の種類として具体的に何があるかを説明する。	
	この回の到達目標	刑法の最も根幹である刑罰の意義を理解する。	
	事前学修	刑罰をなぜ科す必要があるのか、損害賠償ではなぜ足りないのかを考える。	120分
	事後学修	刑罰を科す根拠を整理し直す。	120分
2	刑法の基礎②—制裁の原理（法益保護主義、責任主義）、罪刑法定主義	刑罰を科すための必要条件として、最も根幹的な法益保護主義・責任主義について説明しつつ、多義的な内容を含む罪刑法定主義についてその理論的根拠と内容を明らかにする。	
	この回の到達目標	刑罰を科すためにクリアしなければならない条件は何か、「罪刑法定主義」と呼ばれているものの実体は何かを理解する。	
	事前学修	刑罰を科すためには、どういう条件が必要かを考える。罪刑法定主義はなぜ必要なのかを考える。	120分
	事後学修	法益保護主義、責任主義とはどのような思考に基づく原理なのか、罪刑法定主義を支える根拠と導かれる帰結は何か、それぞれ整理する。	120分
3	刑法の基礎③—犯罪論体系	日本では、構成要件該当性・違法性・有責性という3段階の犯罪論体系が一般的であるが、そもそもそれはどういうものか、なぜそのような理論体系を採るのかを説明する。	
	この回の到達目標	3段階の犯罪論体系の根拠と内容、そしてその機能的意義を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで、3段階犯罪論体系がなにかについておおよその理解を得る。	120分
	事後学修	3段階犯罪論体系を採用する意義、その内容を整理する。	120分
4	構成要件概論	構成要件とは何か、（因果関係など）具体的にはどういった要素が含まれているのかについて概観する。	
	この回の到達目標	構成要件として論じられているものの中身の概要を説明する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読みながら、具体的な構成要件の内容を把握する。	120分
	事後学修	因果関係、不作為犯などについて概要を理解する。	120分
5	違法性概論	違法性とは何か、（正当防衛・緊急避難など）具体的にはどういった要素が含まれているのかについて概観する。	
	この回の到達目標	違法性として論じられているものの中身の概要を説明する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読みながら、具体的な違法性の内容を把握する。	120分
	事後学修	正当防衛、緊急避難などについて概要を理解する。	120分
6	有責性概論	有責性とは何か、（故意・過失、責任能力など）具体的にはどういった要素が含まれているのかについて概観する。	
	この回の到達目標	有責性として論じられているものの中身の概要を説明する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読みながら、具体的な有責性の内容を把握する。	120分
	事後学修	故意・過失、責任能力などについて概要を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	修正された構成要件（未遂犯・共犯）概論	修正された構成要件である未遂犯・共犯について、そもそも通常の構成要件の何を修正しているのか、それぞれ具体的にはどういったものが論じられるのかを概観する。	
	この回の到達目標	未遂犯・共犯として論じられているものの中身の概要を説明する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読みながら、具体的な未遂犯・共犯の内容を把握する。	120分
	事後学修	未遂犯・共犯などについて概要を理解する。	120分
8	因果関係	どのような場合に因果関係があるとされるのか、因果関係の有無はどのような基準によって判断されるのか、なぜそのような基準を用いるのか、について説明する。	
	この回の到達目標	因果関係の基準や具体的な判断の仕方を理解する。	
	事前学修	因果関係に関する具体例を見ながら、因果関係を認めるべきか否か、どのような基準・理由によりそれを判断するのかを考える。	120分
	事後学修	因果関係の判断基準や具体的な適用について整理する。	120分
9	不作為犯	不作為犯と呼ばれている事例類型はそもそもなぜ問題となるのか、どのような基準により犯罪の成否を判断するのかを説明する。	
	この回の到達目標	不作為犯と呼ばれている事例類型の理論的特徴とその課題、解決法を理解する。	
	事前学修	不作為犯の典型的事例を見て、犯罪の成否を分ける基準はどこにあるのか、なぜそのような基準で判断すべきなのかを考える。	120分
	事後学修	作為義務発生根拠に関する議論を整理して理解する。	120分
10	正当防衛①	そもそも正当防衛はなぜ認められるのか、急迫性はどのような基準で判断すべきなのかを説明する。	
	この回の到達目標	正当防衛の正当化根拠を理解し、急迫性を巡る判例の展開を抑えながらその判断基準を理解する。	
	事前学修	正当防衛がなぜ適法化されるのか、急迫性が問題となる事例を見てどのような基準で判断すべきかを考える。	120分
	事後学修	正当防衛の正当化根拠と、急迫性についての判例理論と具体的な事例を整理して理解する。	120分
11	正当防衛②	防衛の意思や相当性といった要件の判断基準を、具体的事例を踏まえながら説明する。	
	この回の到達目標	防衛の意思や相当性の判断基準及び判例理論を、具体的事例に当てはめながら理解する。	
	事前学修	いかなる場合に防衛の意思が否定されるのか、あるいは相当性が否定されるのか、具体的事例を見ながら考える。	120分
	事後学修	防衛の意思や相当性に関する判例理論及び判例の事案を整理して理解する。	120分
12	正当防衛③	過剰防衛はそもそもなぜ刑が減輕されるのか、いかなる場合に過剰防衛が整理治するのかを説明する。	
	この回の到達目標	過剰防衛の減輕根拠を理解し、その根拠に照らして過剰防衛がいかなる場合に認められるかを具体的事例に沿いながら理解する。	
	事前学修	過剰防衛が単なる犯罪よりも刑が減輕される理由について考え、いかなる場合に過剰防衛の成立を認めるべきかを考える。	120分
	事後学修	過剰防衛の減輕根拠とその具体的な適用範囲を整理して理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	緊急避難	緊急避難の正当化根拠を踏まえながら、具体的事例を用いて説明する。	
	この回の到達目標	緊急避難の正当化根拠と具体的な事例の解決を理解する。	
	事前学修	緊急避難がなぜ適法化されるのか、具体的な事例においてどのように解決されるべきかを考える。	120分
	事後学修	緊急避難の正当化根拠及びその限界を具体的な事例を踏まえながら整理して理解する。	120分
14	被害者の同意	被害者の同意の処罰阻却根拠を踏まえながら、具体的事例を用いて説明する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の処罰阻却根拠と具体的な事例の解決を理解する。	
	事前学修	被害者の同意があればなぜ犯罪が成立しないのか、にもかかわらずなぜ承諾殺人罪は処罰されるのかを考える。	120分
	事後学修	被害者の同意の処罰阻却根拠と、インフォームド・コンセントや安楽死の関係を考える。	120分
15	故意①	なぜ故意が犯罪成立要件なのか、いかなる場合に故意が認められるのかを説明する。	
	この回の到達目標	故意が要求される根拠と、故意を認めるための条件について理解する。	
	事前学修	いかなる場合に故意が認められるのか、具体的事例を踏まえながら検討する。	120分
	事後学修	故意が要求される根拠と、故意を認めるための基準・条件を整理して理解する。	120分
16	故意②	行為者が錯誤に陥った場合、いかなる場合に故意が認められるかを説明する。	
	この回の到達目標	錯誤に陥った場合と故意の有無について理解する。	
	事前学修	錯誤に関する様々な事例を見て、故意が認められるか否かを考える。	120分
	事後学修	故意を正確に定義して、具体的事例において故意の有無を判断する。	120分
17	過失	故意が認められないにもかかわらずなぜ処罰できるのか、どのような場合に処罰できるのかを説明する。	
	この回の到達目標	過失の判断基準及び適用範囲を、具体的事例を踏まえながら理解する。	
	事前学修	具体的事例を見て、過失が認められるか否かを検討する。	120分
	事後学修	新旧過失論やその具体的な帰結、判例理論の展開を整理して理解する。	120分
18	責任能力	責任能力がない場合になぜ不可罰となるのか、いかなる基準により責任能力の有無を判断するのかを説明する。	
	この回の到達目標	責任無能力者の不可罰根拠とその判断基準を、判例理論を踏まえながら理解する。	
	事前学修	責任無能力者をなぜ処罰しないのか、責任無能力者を処罰したら何が問題なのかを考える。	120分
	事後学修	責任能力が犯罪成立要件である理由と責任能力の判断基準についての議論を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	違法性の意識	違法性の意識が犯罪成立要件である理由と、その具体的な判断基準を説明する。	
	この回の到達目標	違法性の意識が犯罪成立要件である理由を理解し、判例理論を理解する。	
	事前学修	違法性の意識が問題となる事例を見て、なぜ犯罪の成立を否定すべきなのかを考える。	120分
	事後学修	違法性の意識の責任阻却根拠を理解し、具体的事例に適用する。	120分
20	実行の着手	実行の着手時期を巡る判例・学説を、具体的事例に即しながら説明する。	
	この回の到達目標	実行の着手時期に関する判例・学説を理解し、具体的事例に適用できるようにする。	
	事前学修	実行の着手時期が問題となる事例を見て、実行の着手を認めるべきか／それはなぜかを考える。	120分
	事後学修	実行の着手時期に関する判例・学説を整理し、具体的事例を検討する。	120分
21	不能犯	不能犯と呼ばれる事例において何が問題となるのか、どのような理由に基づきいかなる基準によって判断するのかを説明する。	
	この回の到達目標	不能犯の成否を、未遂犯の処罰根拠から判断できるようにする。	
	事前学修	不能犯が問題となる事例を見て、未遂犯の成否とその理由を考える。	120分
	事後学修	不能犯に関する学説を整理し、具体的事例を検討する。	120分
22	中止犯	中止犯の減免根拠を踏まえながら、具体的な判断基準を説明する。	
	この回の到達目標	中止犯の減免根拠を踏まえ、中止犯の判断基準を理解する。	
	事前学修	中止犯が問題となる事例を見て、中止犯の成否とその理由を考える。	120分
	事後学修	中止犯の減免根拠を整理し、そこから判断基準を導けるようにする。	120分
23	間接正犯	正犯と共犯の違いは何か、どのような基準により区別されるのかを説明する。	
	この回の到達目標	正犯性の判断基準を理解する。	
	事前学修	正犯性が問題となる事例を見て、どのような基準で正犯性を判断すべきかを考える。	120分
	事後学修	正犯性の判断基準を踏まえ、具体的事例を検討する。	120分
24	共犯の従属性	共犯の従属性とは何か、共犯が処罰されるためにいかなる条件が必要かを説明する。	
	この回の到達目標	共犯の従属性の理論的根拠とその内容を理解する。	
	事前学修	犯罪に関与した者をすべて共犯とすることの問題点を考える。	120分
	事後学修	共犯の従属性の理論的根拠を踏まえ、その具体的内容を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共犯関係からの離脱	共犯関係から離脱した場合に、共犯が不成立となる根拠と具体的事例を説明する。	
	この回の到達目標	共犯関係から離脱した場合の不処罰根拠を、共犯の処罰根拠から説明できるようにする。	
	事前学修	共犯関係から離脱した事例を見て、処罰すべきか否か、それはなぜかを検討する。	120分
	事後学修	共犯関係から離脱した場合の不処罰根拠を、共犯の処罰根拠から説明できるようにした上で、具体的事例を検討する。	120分
26	承継的共犯	承継的共犯の場合にいかなる範囲で罪責を負うのかを、共犯の処罰根拠から説明する。	
	この回の到達目標	承継的共犯の処罰範囲を、共犯の処罰根拠から理解し、具体的事例を解決できるようにする。	
	事前学修	承継的共犯の事例を見て、いかなる範囲で共犯の成立を認めるべきか・その理由はなぜかを考える。	120分
	事後学修	承継的共犯の処罰範囲を、共犯の処罰根拠から説明できるようにするとともに、具体的事例を検討する。	120分
27	共犯と身分	身分犯に対する共犯の成否を、共犯の処罰根拠及び身分犯の意義から説明する。	
	この回の到達目標	身分犯の共犯の成立範囲とその理論的根拠を理解する。	
	事前学修	身分犯の共犯の事例について、共犯の成否とその理由を考える。	120分
	事後学修	身分犯の共犯の適用範囲について、理論的根拠を踏まえて具体的に説明してみる。	120分
28	罪数	複数の犯罪が成立する場合の罪数処理について説明する。	
	この回の到達目標	表面的には複数の犯罪が成立する場合に、そのまま複数の犯罪を成立させるべきか、重い犯罪のみで処罰すべきか等の罪数処理を理論的根拠を踏まえて理解する。	
	事前学修	複数の犯罪が成立している場合に、そのまま複数の犯罪の成立を認めることの問題点を考える。	120分
	事後学修	科刑上一罪や包括一罪の意味や理論的根拠、具体的な適用範囲を理解する。	120分
29	刑の適用	刑の加重減輕事由が存在する場合に、どのような処理によって具体的な刑量を算出するのか、国外で犯された犯罪を処罰できるかといった問題について説明する。	
	この回の到達目標	刑の加重減輕事由がある場合に具体的にどのような帰結を導くのか、刑の場所的・時間的適用範囲を理解する。	
	事前学修	「殺人罪（法定刑は懲役5年以上）が成立するのに、懲役3年の判決をなぜ出すことができるのか」を考える。	120分
	事後学修	処断刑・宣告刑の形成方法、刑の場所的・時間的適用範囲を整理する。	120分
30	法律文書起案法	答案をはじめとする法律文書は、回答だけ記したり、単に事実を羅列して「以上から〇〇という結論になる。」と書くのでは回答としては足りない（説明になっていない）。事例問題について、どのように回答を記述するのかを説明する。	
	この回の到達目標	法律文書の書き方・体裁を理解し、実際に書けるようになる。	
	事前学修	簡潔な事例を題材にして、実際に答案を書いてみる。	120分
	事後学修	授業で言われたことを意識しながら、答案を書いてみる。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特にない。ただし、総合ポータルシステムにアクセスして答案を提出できる状況にない人は、本授業を履修すべきではない。

【授業方法】		
講義の方法を用いる。オンデマンド授業を予定している。 Google Classroomを用いて資料等を配信する。クラスコードは、総合ポータルシステムの「授業連絡」で知らせる。 Google Classroomの「成績評価について」の資料は、必ず見てよく理解する必要がある。同資料に示された準則に従って答案を提出しないと単位は取得できない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを文章に的確に表現できているか、によって評価する。 授業内試験は、総合ポータルシステムを用いて実施する予定である（出題は7月13日13時、答案提出期限は7月17日13時）。変更もありうるので、同システムを通じて連絡される情報には常に注意していただきたい。また、Google Classroomの「成績評価について」の資料をよく見て理解すること。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論 [改訂版]	設楽裕文	八千代出版	2022年	教科書	必携
刑法の目的と解釈 (2刷)	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
Next教科書シリーズ刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編	弘文堂	2017年	教科書	必携
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『刑法解釈論 [改訂版] 』の刑法改正による改訂資料を、総合ポータルシステムの「授業連絡」を用いて配信する。この資料は、『刑法解釈論 [改訂版] 』と一体のものとして、試験時に参照できる。				

【オフィスアワー】
授業終了後、最大60分程度。当面は、感染防止のためメールで対応する。アドレスは、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 刑法の基本原則と解釈	授業についての説明 成績評価の方法 刑法の基本原則と刑法解釈の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法の諸規定の解釈・適用に必要な基本原則に関する基本的知識を修得し、適正な解釈・適用とは何かについて理解する。	
	事前学修	以下、教科書『刑法解釈論〔改訂版〕』を「論」、『刑法の目的と解釈』を「目」と略記する。 論の3～14頁、目の第1章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
2	刑法解釈の方法	刑法の解釈方法 文章表現の技法	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、刑法の解釈方法と文章に表現する技法を理解する。	
	事前学修	論の15～23頁、目の第2章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
3	77～94条の諸規定の解釈	内乱に関する罪、外患に関する罪、国交に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内乱に関する罪、外患に関する罪、国交に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の91～97頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
4	95～96条の6の諸規定の解釈	公務の執行を妨害する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、公務の執行を妨害する罪について理解する。	
	事前学修	論の97～105頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
5	97～105条の2の諸規定の解釈	逃走の罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逃走の罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪について理解する。	
	事前学修	論の105～112頁、目の第30章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
6	106～118条の諸規定の解釈	騒乱の罪、放火及び失火の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、騒乱の罪、放火及び失火の罪について理解する。	
	事前学修	論の113～121頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	119～129条の諸規定の解釈	出水及び水利に関する罪、往來を妨害する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出水及び水利に関する罪、往來を妨害する罪について理解する。	
	事前学修	論の122～129頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
8	130～147条の諸規定の解釈	住居を侵す罪、秘密を侵す罪、あへん煙に関する罪、飲料水に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住居を侵す罪、秘密を侵す罪、あへん煙に関する罪、飲料水に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の129～139頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
9	148～161条の2の諸規定の解釈（1）	通貨偽造の罪の構造と解釈 文書偽造の罪の基本概念	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、通貨偽造の罪と文書偽造の罪の基本概念とを理解する。	
	事前学修	論の139～148頁、目の第29章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
10	148～161条の2の諸規定の解釈（2）	文書偽造の罪の各規定の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、文書偽造の罪の各規定について理解する。	
	事前学修	論の148～154頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
11	162～168条の3の諸規定の解釈	有価証券偽造の罪、支払用カード電磁的記録に関する罪、印章偽造の罪、不正指令電磁的記録に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有価証券偽造の罪、支払用カード電磁的記録に関する罪、印章偽造の罪、不正指令電磁的記録に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の154～165頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
12	169～173条の諸規定の解釈	偽証の罪、虚偽告訴の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、偽証の罪、虚偽告訴の罪について理解する。	
	事前学修	論の165～169頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	174～192条の諸規定の解釈	わいせつ・不同意性交等・重婚の罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、わいせつ・不同意性交等・重婚の罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の169～183頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
14	193～198条の諸規定の解釈	汚職の罪（職権濫用罪、賄賂罪）の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、汚職の罪について理解する。	
	事前学修	論の183～191頁、目の第31章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
15	199～203条の諸規定の解釈	人に対する罪の基本問題 殺人の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人に対する罪の基本問題、殺人の罪について理解する。	
	事前学修	論の192～195頁、目の第18章・第19章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
16	204～208条の2の諸規定の解釈	傷害の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、傷害の罪について理解する。	
	事前学修	論の195～201頁、目の第20章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
17	209～219条の諸規定の解釈	過失傷害の罪、堕胎の罪、遺棄の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、過失傷害の罪、堕胎の罪、遺棄の罪について理解する。	
	事前学修	論の201～207頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
18	220～229条の諸規定の解釈	逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪について理解する。	
	事前学修	論の208～218頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	230～234条の2の諸規定の解釈	名誉に対する罪、信用及び業務に対する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、名誉に対する罪、信用及び業務に対する罪を理解する。	
	事前学修	論の218～226頁、目の第21章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
20	財産罪の諸規定の解釈に入るにあたって	財産罪の概要・分類・基本概念（客体等）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産罪の基本的事項について理解する。	
	事前学修	論の226～227頁、目の第22章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
21	235～245条の諸規定の解釈（1）	窃盗の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗の罪について理解する。	
	事前学修	論の226～228頁、目の第24章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
22	235～245条の諸規定の解釈（2）	強盗の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗の罪について理解する。	
	事前学修	論の228～235頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
23	246～251条の諸規定の解釈（1）	詐欺罪の基本構造と解釈 欺罔行為と財産上の損害	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の基本構造等について理解する。	
	事前学修	論の235～239頁、目の第25章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。。	120分
24	246～251条の諸規定の解釈（2）	電子計算機使用詐欺罪、背任罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、電子計算機使用詐欺罪、背任罪について理解する。	
	事前学修	論の239～243頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	246～251条の諸規定の解釈（3）	背任罪（特に共同正犯の成立範囲関係）、準詐欺罪、恐喝罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、背任罪の共同正犯の成立範囲、準詐欺罪、恐喝罪について理解する。	
	事前学修	論の243～246頁、目の第27章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
26	252～255条の諸規定の解釈	横領の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、横領の罪について理解する。	
	事前学修	論の246～254頁、目の第26章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
27	256～257条の諸規定の解釈	盗品関与罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、盗品関与罪について理解する。	
	事前学修	論の254～259頁、目の第28章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる	120分
28	236～256条の解釈と民法的不法（まとめ）	二項強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、盗品関与罪と民法的不法	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、上記の財産罪と民法的不法の関係について理解する。	
	事前学修	論の229頁、236～237頁、249～250頁、254～256頁、目の第23章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
29	258～264条の諸規定の解釈	毀棄及び隠匿の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、毀棄及び隠匿の罪について理解する。	
	事前学修	論の259～267頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
30	授業のまとめ	刑法各則の諸規定等の解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法を理解する。	
	事前学修	教科書とノートを読み返し、問題点をメモする。	120分
	事後学修	今まで学んできたことを整理する。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
なし。ただし、刑法Ⅰを履修済みであることがのぞましい。刑法総論（刑法Ⅰ）の修得内容の理解を前提に授業を進めるからである。

【授業方法】
テキストに沿って進める。ただし、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。試験の解説は、後日ポータルシステム等により行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取り組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを文章に的確に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説・講評は、実施後の翌授業期日に行い、それが困難な場合はポータルシステムによる配信により行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編	弘文堂	2017年発行		
備考	版，刷があらためられた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法各論の基礎、保護法益の概念および各則の体系		刑法各論という学問分野の特徴をまなび、個々の犯罪定型の解釈指針としてもっとも重要な「保護法益」を検討する。	
	この回の到達目標	保護法益とは何かを正しく理解し、保護法益の帰属主体に基づく各種犯罪類型の体系的配列について説明することができる。		
	事前学修	すでに単位取得済みであっても、刑法総論全般を自身で復習し、基礎的理解を十分なものにしておく。とくに、責任主義と罪刑法定主義、構成要件要素、既遂と未遂、違法と責任分野の基本的テーマ等の理解を確認しておくこと。		100分
	事後学修	保護法益について、「利益」、「法益」、「権利」の意義とそれらの関係、法益の帰属主体による各種犯罪の三分類、体系的把握に関し、整理・確認を行う。		140分
2	生命に対する罪		殺人等の生命を保護法益とする罪の特徴と、固有の論点を検討する。	
	この回の到達目標	人の生命を保護法益とする犯罪類型の概要を説明し、人の始期と終期など生命に対する犯罪類型固有の問題点を整理して説明することができる。		
	事前学修	殺人とその周辺の条文に目を通しておくこと。また、さまざまな法益の中で「生命」がもっとも重要なものであるとされる理由は何か、自分なりの答えを出せるよう考えておくこと。		120分
	事後学修	殺人罪と自殺関与等の罪の法定刑に著しい軽重の差があるのはなぜか、試みに自分の言葉で答案を書いてみる。		120分
3	身体に対する罪		傷害罪など身体に対する罪の全体とその特徴を検討する。	
	この回の到達目標	身体に対する各種犯罪の概要を整理して把握し、暴行・傷害・傷害致死など犯罪類型相互の位置づけと関係を正確に説明することができる。		
	事前学修	刑法が、生命に次いで身体を手厚く保護しているのはなぜか、こう問われたときどう答えるか、考えておくこと。		100分
	事後学修	「傷害」とは何か、「心と体」に対する加害行為が傷害罪にあたる場合とあたらない場合について、判例はどう考えているか、整理しておく。		140分
4	身体に対する罪（過失犯）		生命・身体に対する加害行為と過失致死傷、交通犯罪等の特徴を検討する。	
	この回の到達目標	単純過失傷害、同過失致死、業務上および重過失致死傷、さらに過失運転致死傷等各罪の内容を、それら規定の法改正の経緯をふまえて説明することができる。		
	事前学修	過失犯は、故意に生命を害した場合・傷害を負わせた場合と比較し、どういった点が違うのか、よく考えてみたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	単純過失傷害・致死の刑が著しく軽い理由は何か、また、自動車運転に起因する死傷事故に対する刑事規制はどのように変わってきたのか、整理しておく。		120分
5	人身の自由に対する罪		逮捕・監禁、略取・誘拐の罪について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討する。	
	この回の到達目標	逮捕・監禁罪ならびに略取・誘拐および人身売買罪について、それらの保護法益論をふまえた犯罪類型の特徴と内容について説明することができる。		
	事前学修	人の行動の自由を奪う行為を刑罰を用いて禁圧する理由は何か、いいかえれば逮捕監禁罪は何を保護しようとしているのかを考えてみること。		120分
	事後学修	逮捕監禁罪の保護法益と、略取誘拐罪の保護法益との比較、また略取誘拐、人身売買の罪に関する法改正の内容と経緯・理由について整理しておく。		120分
6	精神的自由に対する罪		脅迫、住居侵入、秘密を侵す罪等の精神的自由を侵害する犯罪類型について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討を加える。	
	この回の到達目標	脅迫罪等の精神的自由を害する犯罪について、それらの概要を示し、とくに住居侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷について説明し、判例の問題点を指摘することができる。		
	事前学修	脅迫罪が保護する自由とは何か、住居侵入・秘密を侵す罪は何を保護しようとしているのか、を考えてみる。		100分
	事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる判例と学説の動向について整理し、自分なりにまとめる。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名誉の保護と名誉毀損罪、侮辱罪		名誉に対する罪の特徴、その構成要件の内容を分析し、現行法が人の名誉をどのように保護しようとしているかを検討する。	
	この回の到達目標	名誉毀損罪について、名誉とは何か、本罪成立に事実の摘示が必要な理由、公然性の要件と公然性が要求される理由について説明することができる。		
	事前学修	名誉とは無縁の一般の人々は、刑法で保護される名誉毀損とはかかわりないのか、刑法が保護する「名誉」は何を意味するのか、考えたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	侮辱と名誉毀損、生者に対する名誉毀損と死者の名誉を毀損する行為、との比較対照を通じてここでの諸テーマを整理する。また、公然性が要求される理由とは何かについて再確認しておく。		120分
8	名誉の保護と言論・表現、取材・報道の自由		刑法230条の2の規定がおかれた理由を考えたうえで、同規定により処罰が妨げられる場合を検討し、とくに真実性の証明に関する判例と学説を考察する。	
	この回の到達目標	真実性の証明に関する判例の意義を理解した上で、個人の名誉の保護と表現の自由、取材・報道の自由、知る権利との関係を適切に整理し、説明することができる。		
	事前学修	誰のどんな事実であっても名誉を傷つける行為全てを処罰する、すなわちどれほど公的地位にある者でも権力者でも、名誉はどこまでも刑罰で保護されるべきだ、という考え方の徹底は、何をもちたらずかを考えてみる。		100分
	事後学修	名誉という個人的法益の保護と、言論・表現の自由、マスメディア等の取材・報道の自由の保護とは、どちらが優先されるか、あるいはどのように調和を図るべきか、整理しておく。		140分
9	業務に対する罪		偽計、威力による業務妨害を処罰する犯罪類型について、その保護法益論をふまえ、成立要件を検討する。	
	この回の到達目標	威力業務妨害、偽計業務妨害罪の成立要件について、具体例をあげて説明することができる。		
	事前学修	「業務」という言葉から何を連想するか、その指し示す意味内容と、なぜ刑法がそれを保護しようとしているのかを考えてみる。		110分
	事後学修	業務として保護されるものには何があるのか、公務執行妨害により保護される公務との関係はどうか、威力と偽計による業務妨害の具体的事例にはどんなものがあるか、整理しておく。		130分
10	性犯罪		強制性交等罪および強制わいせつ罪を中心に、性に関する自己決定の自由を保護する罪としての性犯罪を検討する。近時の大きな改正がもたらした点を中心に、性犯罪の課題にも目を向け考察を行う。	
	この回の到達目標	強制性交等罪、強制わいせつ罪について、それらの成立要件および関連する類型の内容を明らかにし、またその保護法益が性に関する自己決定権であること、その手段たる暴行・脅迫の程度など特徴を説明することができる。		
	事前学修	強制わいせつ罪、強制性交等罪の意義、これらの罪は、わいせつ物頒布等罪など性表現に関する罪とその犯罪としての性質がどう違うのか、考えてみる。		120分
	事後学修	強制性交等罪を中心に近時行われた大きな法改正の内容と、立法経緯、その理由、改正前後の変更点について確認・整理しておく。		120分
11	財産犯罪の基礎		刑法における財産の保護と財産犯の体系を概観し、各種財産犯罪の今日的課題を視野に入れて検討を行う。	
	この回の到達目標	財産犯罪の種類を挙げ、刑法典が、章別にそれらをどのように位置づけているかを説明することができる。		
	事前学修	なぜ刑法は財産を保護する必要があるのか、また財産犯罪の種類について窃盗罪以下の条文を事前に読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	他人の財産に対する加害的行為のうち、刑法はその一部をピックアップし、その特徴を記述することにより犯罪として規定しているが、財産犯全体の構成要件的行為と法定刑を一覧できるよう整理してみる。		120分
12	窃盗罪		窃盗罪について、その構成要件の基本的構造と罪質、成立要件に関して検討を行い、保護法益、占有の概念、実行の着手時期、既遂時期、不法領得の意思等について詳細に検討を加える。	
	この回の到達目標	窃盗罪の罪質の特徴、構成要件の構造、成立要件を説明し、保護法益、占有侵害、不法領得の意思に関する判例の考え方を明らかにすることができる。		
	事前学修	窃盗と強盗は、なぜ同じ章に規定されているか、また、これら二つの罪の違いはどこにあるか、条文の比較を試みる。		110分
	事後学修	窃盗罪の客体たる財物の意義について、占有の意義について、保護法益について、また不法領得の意思に関して、判例と学説を整理しておく。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	強盗罪		強盗罪の構成要件の特徴、実行行為たる暴行・脅迫の概念、強盗に関連する諸類型について検討を加える。
	この回の到達目標	強盗罪の性格と特徴を十分に理解した上で、諸問題についての判例の態度をふまえ、自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	窃盗には財物に対する領得行為を罰する規定しかないが、強盗には財物に対する一項の規定と利益に対する二項の規定があるが、これはなぜかを考えてみることに。	120分
	事後学修	単純強盗と事後強盗、こん睡強盗、強盗致死傷、強盗殺人と強盗致死等の関連する諸規定・諸類型の擬律について整理しておく。	120分
14	詐欺罪		詐欺罪の性格と構成要件の構造と特徴について、判例と学説の整理・分析を通じた考察を行い、詐欺罪の成否が問題となる具体例を素材にした検討を加える。
	この回の到達目標	窃盗などとの比較を通じて詐欺罪の特徴を明らかにし、その実行行為、処分行為などについて、判例の立場を説明し自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	詐欺罪が、「窃盗及び強盗の罪」とは別の章、すなわち次に扱われる恐喝罪と一緒に「詐欺及び恐喝の罪」の章に置かれてのはなぜかを考えてみることに。	140分
	事後学修	詐欺罪の構成要件の構造とその構成要素（人を欺く行為、錯誤、処分行為、財物・利益の移転の連鎖）、処分行為の意義についての判例と学説について整理しておく。	100分
15	恐喝罪		構成要件の内容と特徴、詐欺と恐喝、強盗と恐喝との比較等を通じて検討を加え、恐喝罪に関する諸問題について考察する。
	この回の到達目標	恐喝罪の構成要件の内容と特徴をふまえ、詐欺との関係、強盗との比較など、恐喝罪の概要と関連する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	恐喝罪と詐欺罪との共通の性格は何か、異なる点は何かにについて考えてみることに。	120分
	事後学修	正当な権利を有する者が、その権利行使の手段として用いた方法が脅迫行為に当たる場合、恐喝罪が成立することがあるか、あるとすればどのような場合で、どの範囲について恐喝が認められるか、解答を試みる。	120分
16	横領罪・背任罪		横領罪および背任罪について、それぞれの類型の内容と特徴を明らかにし、両者の関係を検討する。
	この回の到達目標	横領罪の成立要件と横領行為について、および、背任罪の成立要件と特徴を述べ、両罪の関係を説明することができる。	
	事前学修	横領罪に問われる典型的な行為はどのようなものであるか、テキスト等から納得いくまで読み取っておくこと。	100分
	事後学修	横領、業横、遺失物等横領、窃盗を比較対照し、占有侵害の有無、委託信任関係違背の点、背任との区別、占有が委託等による基礎を有するか否か、占有の業務性、など諸点の関係を各自で表を作るなどして整理しておく。	140分
17	盗品等に関する罪		盗品等に関する罪の意義を明らかにし、その保護法益に関する議論をながめ、同罪が規定する各種の類型の内容と問題点を検討する。
	この回の到達目標	盗品等に関する罪がおかれている趣旨をふまえ、その保護法益を説明し、同罪を構成する各種類型の内容を述べ、本犯との関係を説明することができる。	
	事前学修	財産犯罪を抑止するために盗品等の買受行為などを厳しく処罰する必要があるのはなぜか、考えてみることに。	120分
	事後学修	保護法益をめぐる議論、盗品等に関する各種犯罪類型の内容、本犯の共犯者による行為の取扱いについて整理し、自分の考えをまとめておく。	120分
18	毀棄・隠匿の罪		毀棄隠匿の罪について、その保護法益、犯罪類型の特徴、他の財産犯との関係などの諸点について検討を加える。
	この回の到達目標	毀棄隠匿の罪の内容と保護法益、構成要件の結果を説明し、判例の立場と問題点を明らかにして自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	器物損壊は他人の物を破壊等する財産侵害行為であって、物の効用を所有者から完全に奪う点に特徴がある。しかし刑罰は最高3年の懲役で、所有者による回復可能性を残す窃盗より相当軽い。この理由を考えて授業に臨むこと。	100分
	事後学修	物の破壊、隠匿等利用妨害、動物の殺傷など本罪を構成する様々な行為の態様を挙げ、分類・整理しておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	放火罪	放火罪が客体の別および公共の危険発生の別により詳細な規定を持ち、その刑罰の重い点などの特徴を有するものであることをふまえて、既遂時期、客体の把握方法等について検討を加える。	
	この回の到達目標	公共危険犯の典型としての放火罪の問題点を理解した上で、判例の立場を検討し、今日の建造物の構造と建材の特徴をふまえて妥当な見解を述べることができる。	
	事前学修	住宅等への放火に、死刑を含む殺人と同等の重い刑罰が予定されている理由はなぜか、自己の見解を述べられるよう考察しておくこと。	120分
	事後学修	客体の別により、各種放火罪が、具体的危険発生の要否、法定刑の大きな格差など細かにかき分けられていることを条文に即して確認・整理しておく。	120分
20	その他の公共危険犯等	騒乱罪、出水等に関する罪、往来妨害罪、および薬物濫用犯罪について検討する。	
	この回の到達目標	刑法が規定する騒乱罪、往来妨害罪などの公共危険犯の内容と問題点を、判例の態度をふまえて説明し、刑法典以外の罰則におよぶ薬物濫用犯罪の今日の課題を指摘することができる。	
	事前学修	麻薬などの規制薬物を自己に用いる行為は、直接他人向けられた加害行為と言い難い面を持つが、それにもかかわらず処罰の対象とされるのはなぜかを考えておくこと。	120分
	事後学修	薬物濫用行為の規制は、刑法典以外の法令に委ねられている部分がほとんどである。そこで、戦後の薬物規制立法の沿革と内容、現行法令の概要をまとめ、理解を深めておく。	120分
21	通貨偽造罪および有価証券偽造罪	通貨偽造罪、有価証券偽造罪について、その犯罪としての特徴、保護法益、構成要件の内容等について検討を加える。	
	この回の到達目標	通貨偽造罪の保護法益は何か、通貨の意義、偽造の概念と模造、偽造と変造、偽造行為と行使行為、目的犯であること、偽造罪・行使罪・交付罪・取得罪等について説明すること、また有価証券偽造についても同様に説明することができる。	
	事前学修	偽札を作ったり、勝手に人の名前の領収書を作ったりすることを、なぜ重い刑罰で禁止する必要があるのか。仮に、大量の偽札が出回る事態が起こったとして、それが何をもたらすのか。こうしたことを考察してみること。	140分
	事後学修	行使の目的とは何か、偽造と変造の違いは何か、偽造と模造との違いは何か、偽造と行使との関係はどうか、通貨の概念・有価証券の概念、こうしたことについて、自分自身納得がいくまで検討し、確認・整理しておく。	100分
22	文書偽造罪等	偽造の概念と、詔書偽造、公文書偽造、私文書偽造について、および印章偽造、電磁的記録不正作出、不正指令電磁的記録に関する罪等につき検討する。	
	この回の到達目標	文書偽造（有形偽造）と虚偽文書作成（無形偽造）との関係をふまえ、各種文書偽造罪の成立要件を正しく説明し、また電磁的記録不正作出罪等の文書偽造周辺の犯罪について説明することができる。	
	事前学修	他人の名義の文書を勝手に作ることと、内容虚偽の自分名義の文書を作ることが区別され、私文書においては後者は処罰の対象とはならない理由はどこにあるか、自分なりの答えを出したうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	可視性・可読性、永続性、有形偽造と無形偽造、偽造と虚偽文書作成、公・私文書、有印・無印文書、権利・義務、事実証明に関する文書の概念等につき得心が行くまでテキスト等を読み込み、確認と整理を怠らない。	120分
23	わいせつ表現犯罪等	公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等の罪、重婚罪などの各種わいせつ犯罪について検討する。	
	この回の到達目標	公然わいせつ罪等のわいせつ表現犯罪と重婚罪等の保護法益の理解を前提に、これらの類型の内容と問題点を整理し、説明することができる。	
	事前学修	なぜ、わいせつな表現行為に刑法が介入する必要があるのか（刑罰をもって禁圧することが正当とされる理由は何か）、ポルノグラフィーなどを処罰することにより何を護ろうとしているのか、考えたうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	公然わいせつ罪とわいせつ物頒布等の罪の刑罰に、大きな差異が設けられている理由は何かについて、各自、答案を書いてみる。	120分
24	風俗を害する罪	賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪について検討を加える。	
	この回の到達目標	賭博罪や礼拝所不敬罪などの犯罪について、その意義・保護法益をふまえ、内容と問題点を説明することができる。	
	事前学修	自分の金を賭けて賭博に参加することは、自身の財産を自己の意思で処分すること（もとより殆どの場合掛金を失うことになる）なので、刑罰をもって介入禁止する必要があるどこにあるのか、考えてみた上で授業に参加すること。	100分
	事後学修	賭博・富くじの罪、礼拝所・墳墓に関する罪の保護法益は何か、言い換えれば、これらの犯罪は誰の、どのような利益を侵害する犯罪なのか、という設問について答えを書いてみる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	職権濫用罪		公務員を犯罪主体とする罪としての職権濫用の罪について検討する。	
	この回の到達目標	公務員による個人に対する加害行為を罰する職権濫用罪が、国家的法益に対する罪と位置づけられていることの意味を理解した上で、各種職権濫用罪の内容を説明し、問題点を明らかにすることができる。		
	事前学修	職権濫用罪の被害者は誰か、同罪はなぜ「汚職の罪」として位置づけられているのか、十分に考えた上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	職権濫用罪の成否が争われた事例について、そこでは何が争点とされ、裁判所はどのような判断を示したか、その判例の考え方は妥当なものかを論評してみる。		120分
26	賄賂罪		公務員を犯罪主体とする罪としての賄賂の罪について検討する。	
	この回の到達目標	賄賂罪が、公務の公正さと公正さに対する国民の信頼を保護法益とする犯罪であることを説明し、各種賄賂罪の成立要件を明らかにし、職務関連性についての判例の態度とその理由を説明することができる。		
	事前学修	賄賂罪の被害者誰か、賄賂のやり取りは、どのような害悪をもたらすか、よく考えて自分なりの答えを得た上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	収賄罪構成要件の中核にある「職務関連性」をめぐる論点を整理し、わが国の判例がどのような事案について、いかなる判断を示してきたかを整理・分析しておく。		120分
27	公務執行妨害罪		公務を害する罪としての公務執行妨害罪の内容と問題点を検討する。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪、職務強要罪、封印破棄・談合等の罪について説明し、とくに公務執行妨害罪に関する職務行為の適法性について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	刑法は、公務執行中の公務員に暴力を振るったり脅迫を加えたりする行為を処罰しているが、これは何を保護しようとしているのか、この点について自分の考えをまとめた上で授業に臨むこと。		100分
	事後学修	公務執行妨害罪成立のためには、公務の外形を有することで足りるのか、それとも適法なものでなければならないのか、適法性を要するとして、どの程度厳格に要求されるのか、業務妨害との関係はどうかを整理しておく。		140分
28	司法作用を害する罪		逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅、偽証等の刑事司法作用の適正円滑な働きを保護する犯罪を検討する。	
	この回の到達目標	逃走の罪等刑事司法作用を保護する犯罪類型について説明し、これらの司法妨害関連犯罪の諸問題について、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	勾留中の被疑者や、刑務所収容中の受刑者がそれら刑事施設から逃走することや、犯人を匿ったり証拠を消し去ったりすることが処罰されるのはなぜか、考えてみる。		120分
	事後学修	逃走、犯人蔵匿、証拠隠滅、偽証の各罪について、また捜査機関への不協力が犯人蔵匿罪に問われることがあるのか、冤罪を主張して逃走中の者の無実を信じて隠避する行為も同罪に問われるか等論点を整理し、確認する。		120分
29	国家の存立を脅かす罪		国家の存立を脅かす罪としての内乱および外患の罪について検討する。	
	この回の到達目標	内乱に関する罪および外患に関する罪の意義と保護法益を明らかにし、これらに関する問題点について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	内乱罪は国の統治機構自体の破壊を指向する大規模な加害を想定した犯罪であるが、過去に本罪に問われた例はあるのか、調べてみる。		120分
	事後学修	内乱、外患の成立要件と、関連する各種の規定を整理しておく。		120分
30	国交に関する罪		外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪について検討する。	
	この回の到達目標	国交に関する罪の意義と保護法益を理解した上で、外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪がおかれていることの意義を明らかにし、これらの罪の内容と問題点について説明することができる。		
	事前学修	衆人環視の中で外国の国旗を焼いたり、外国に敵対する軍事組織に所属して攻撃する準備を行ったりする行為は、それら外国の利益を保護するためのものなのか、考察した上で授業に臨む。		120分
	事後学修	刑法が国益を護るために定める各種国交に関する罪を整理し、その保護法益、成立要件等を確認する。		120分

科目名	刑法Ⅱ【法職課程】	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
法職課程生向けの授業であるので、総合法コースの学生は同コースの刑法Ⅱをとること。

【授業方法】
事前学習であらかじめ指示した箇所（例えば、「窃盗罪の部分」など）を必ず読み、授業に臨む。教科書は何を使ってもよいが、読んでくるべきところは特定できるようにしてほしい。 シラバスでは一般的な教科書と同じ順番で項目を整理してあるが、講義をする順番はこれと異なることがあることに注意してほしい。おそらく財産犯から講義をすることになる。 判例刑法各論の第8版を購入して授業に臨んでほしい。この判例集の番号を紹介しながら授業をするからである。 必要であれば、定期試験を適宜のタイミングでポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1										
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1									
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1								
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1						
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															
【成績評価の方法・基準・割合】					到達目標								評価方法別の比率(%)		
成績評価方法	評価基準				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。				15	15	30	40							100
小テスト等															
レポート等															
討論・発表等															
授業への参画度															
その他()															
その他()															
その他()															
到達目標別の比率(%)					15	15	30	40							100
【課題に対するフィードバックの方法】															
採点の際に重点をおいた点などの告知。															

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2018	教科書	任意
刑法各論 第8版	西田典之著 橋爪隆補訂	有斐閣	2019	参考書	任意
判例刑法各論 第8版	西田典之ほか	有斐閣	2023	その他	必携
備考					
【オフィスアワー】					
火曜日 昼休み 又は 4限の後					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論で学ぶべきこと	刑法総論と異なり、個々の刑罰法規をめぐる解釈論を展開するのが刑法各論である。その学ぶ心構えについて考える。	
	この回の到達目標	刑罰法規を解釈する意義、保護法益、法益侵害行為、時代の変化と刑法解釈について、説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	個人的法益に対する罪・総説	人の生命は最も重要な法益である。この法益をどのように保護するべきか考察する。	
	この回の到達目標	人の生命に対する罪の全体像を説明できるとともに、人の始期と終期について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
3	刑法による生命保護	殺人罪、同意殺人・自殺関与罪について考察する。欺罔によって得らえた被害者の同意の問題もここで扱う。	
	この回の到達目標	199条と202条の区別について説明できる。積極的安楽死や治療中止について裁判例をふまえて説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	生命・身体に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）	120分
4	刑法による身体の保護（1）	暴行罪、傷害罪、傷害致死罪を中心に、刑法が人の身体をどう保護するべき考察する。	
	この回の到達目標	傷害概念について説明することができる。結果的加重犯としての傷害罪と故意犯としての傷害罪について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
5	刑法による身体の保護（2）	同時傷害の特例、凶器準備集合・結集罪、自動車運転死傷処罰法について考察する。	
	この回の到達目標	同時傷害の特例の適用範囲、凶器準備集合等罪の保護法益、危険運転致死傷罪について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
6	生命身体に対する危険犯	人の生命身体に対する危険犯である遺棄罪について学ぶ。胎児の生命身体に対する危険犯である堕胎罪についても学ぶ。	
	この回の到達目標	危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）と侵害犯について説明できる。遺棄概念について説明できる。胎児性致死傷について論評できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	身体的内密領域に対する罪		平成29年に性犯罪が抜本的に改正された。ただし今も様々な議論が交わされている。新設された犯罪類型とその問題点について考察する。
	この回の到達目標	性犯罪の保護法益、強制性交等罪、監護者わいせつ・性交等罪について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
8	自由に対する罪		生命や身体について、人間が生きる上で重要な法益が自由である。自由という法益の特質をふまえながら、脅迫罪、強要罪、逮捕監禁罪、略取誘拐・人身売買罪について考察する。
	この回の到達目標	それぞれの構成要件について説明することができる。離婚協議中の親による子の奪い合いについて説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
9	個人の私的領域を侵す罪		住居侵入罪や秘密侵害罪について学ぶ。住居侵入罪は他の犯罪と随伴して行われることが多く、解釈論上の重要な論点も存在している。秘密侵害罪の守備範囲についても考察する。
	この回の到達目標	住居侵入罪の保護法益をめぐる議論状況を説明することができる。秘密漏示罪の処罰範囲について説明ができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
10	社会的活動の主体としての人の保護		名誉、信用、業務に対する罪について学ぶ。とくに名誉毀損罪における公共の利害に関する場合の特例（230条の2）は名誉の保護と言論の自由の尊重とをどう調和させるかが課題となる。
	この回の到達目標	名誉毀損罪、信用毀損罪、業務妨害罪について説明することができる。刑法230条の2の法意について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
11	財産犯総論		財産犯に共通する基本概念（財産と財産上の利益、財産犯の保護法益、不法領得の意思、占有概念）について学ぶ。
	この回の到達目標	財産犯に共通する基本概念について説明することができる。財産犯の体系について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
12	窃盗罪と不動産侵奪罪		窃盗罪や不動産侵奪罪、親族相盗例について学ぶ。
	この回の到達目標	窃盗罪や不動産侵奪罪の構造について説明できる。親族相盗例の適用範囲について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	強盗罪	強盗罪の罪質、1項強盗と2項強盗に関わる問題、事後強盗罪および昏睡強盗について学ぶ。さらに240条の擬律に関する問題も学ぶ。	
	この回の到達目標	強盗罪の構成要件について説明できる。事後強盗罪の構造について説明できる。240条の適用範囲について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
14	詐欺罪と恐喝罪	被害者の財産処分行為を介することにより成立する詐欺罪と恐喝罪について学ぶ。とくに詐欺罪に関する最近の裁判例について考察する。	
	この回の到達目標	詐欺罪の構成要件について説明することができる。詐欺罪に関する最近の裁判例について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
15	横領罪と背任罪	横領罪と背任罪の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪の構成要件を説明することができる。両罪の類似点と相違点について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
16	盗品等に関する罪	いわば財産犯を補強する盗品等関与罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	盗品等関与罪の保護法益について説明できる。盗品等関与罪の類型について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
17	毀棄・隠匿罪	窃盗罪に次いで認知件数が多い器物損壊罪をはじめ各種毀棄・隠匿罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	毀棄・隠匿罪の保護法益について説明できる。毀棄隠匿罪の類型について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
18	社会的法益に対する罪・騒乱罪	社会的法益に対する罪の特徴について学ぶとともに、騒乱罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会的法益に対する罪の全体像について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	放火罪	現住建造物等放火罪、非現住建造物等放火罪、建造物等以外放火罪、その他放火に係る罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	放火罪の種類、放火罪の保護法益、焼損概念、建造物の一体性について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
20	往来を妨害する罪	交通妨害および交通危険に関する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	往来を妨害する罪の種類について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
21	通貨偽造罪	通貨偽造罪、偽造通貨行使罪、外国通貨偽造罪など、偽造通貨等取得罪、取得後知情行使等罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	各犯罪の構成要件について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
22	文書偽造罪	公文書偽造罪、私文書偽造罪を中心に文書偽造罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	文書偽造罪の保護法益について説明できる。その理解が偽造罪の成否にどう関係するか説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
23	有価証券偽造罪・印章偽造罪	有価証券や印章に対する信用を害する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	有価証券偽造罪、印章偽造罪の構成要件について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
24	支払用カード電磁的記録に関する罪・不正指令電磁的記録に関する罪	現代社会において重要性が増している支払用カードの信頼に対する罪について学ぶ。いわゆるコンピュータウィルス作成等罪についてもここで学ぶ。	
	この回の到達目標	支払用カードへの保護の必要性について説明できる。コンピュータウィルス作成罪の構成要件について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	わいせつの罪	風俗犯である公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	両罪の保護法益について説明できる。表現・芸術の自由とのバランスを図るためにどうするべきかを説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
26	公務の執行を妨害する罪	公務執行妨害罪やその他の関係する犯罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪により保護されるべき公務とは何かを説明することができる。公務の執行を妨害する罪の全体像について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
27	逃走罪、犯人蔵匿および証拠隠滅の罪	司法作用に対する罪である、逃走罪、犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪の保護法益について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
28	偽証罪・虚偽告訴罪	国家審判作用の安全に対する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。	120分
29	職権濫用罪および賄賂の罪・総論	公務員による犯罪について、職権濫用罪について学ぶとともに、わいろに関する罪の基本概念も併せて学ぶ。	
	この回の到達目標	職権濫用とは何かを説明することができる。賄賂に関する罪の基本概念（保護法益、「職務に関し」、「請託」、不正な職務）について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
30	賄賂の罪・各論	賄賂に関する罪の諸類型、贈賄罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	賄賂罪の諸類型について説明し、どのように処罰範囲が拡張されているかを指摘することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。

【授業方法】
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・各論（第3版）	井田良	有斐閣	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本館1707号室の研究室にいらして下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論で学ぶべきこと	個々の刑罰法規を解釈することの意義とは、私たちの日常生活における行為の自由が広狭することと連動している。このことの意味を考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて、理解し説明することができるようになる。①刑罰法規を解釈する意義、②解釈における保護法益の重要性、③法益侵害行為を明確にすることの重要性。	
	事前学修	はしがき、第1章を読む。	120分
	事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	人の生命に対する罪（1）	人の生命は個人が人生を送るうえで最も重要な法益である。刑法は人の生命をどう保護しようとしているのか、その体系を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことを理解し説明することができるようになる。①人の生命に対する罪の全体像、②人の生命として保護されるのは何時から何時までか（始期と終期）。	
	事前学修	第2章を読む。	120分
	事後学修	人の始期と終期について説明せよ。	120分
3	人の生命に対する罪（2）	殺人罪は、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪とに分かれる。なぜこうした構図を用意しているのかを考察するとともに、両罪の区別に関する事例について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①199条と202条との区別、②暴行・脅迫・欺罔行為によって得られた被害者の同意の効力。	
	事前学修	第2章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）	120分
4	人の身体に対する罪（1）	人の身体は、最も侵害されやすい法益であるとともに、身体の侵害を通じて行われる社会的行為も存在する（スポーツ、治療行為など）。身体に対する罪の基本概念を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）	120分
5	人の身体に対する罪（2）	暴行によって傷害さらには死亡に至ることは、よくあることである。こうした事態を想定している結果的加重犯の構造について学ぶとともに、同意傷害、度維持傷害の特例について触れる、	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①結果的加重犯、②同意傷害、③同時傷害の特例の射程範囲。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	結果的加重犯について説明せよ。（2時間）	120分
6	生命及び身体に対する危険犯	生命及び身体に対する危険犯について学ぶ。危険が生じただけでなぜ処罰されるのか、危険の判断基準をどうすべきかを念頭に置きながら、考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）、②堕胎罪（胎児に対する罪であると同時に母体に対する罪でもあること）、③遺棄罪（遺棄概念、身分犯が置かれている理由）。	
	事前学修	第4章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	危険犯とは何か。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	身体的内密領域に対する罪		刑法典が制定されて以来、約110年ぶりに性犯罪の規定が改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設された。性犯罪の処罰理由について考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①性的自己決定権の内実、②強制性交等罪、強制わいせつ罪の構造、③監護者による性犯罪の構造。		
	事前学修	第5章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。（2時間）		120分
8	自由に対する罪		憲法においては様々な自由が保障されているが、刑法の守備範囲は限定的である。いかなる自由をどのように保護するべきかを考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①脅迫罪の保護法益、②強要罪の性格、③逮捕・監禁罪の保護法益、④略取誘拐・人身売買罪の保護法益。		
	事前学修	第6章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。（2時間）		120分
9	個人の私的領域を侵す罪		プライバシーの保護も憲法においては重視されているが、刑法におけるその保護はやはり断片的である。住居侵入罪と秘密侵害罪を中心に考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①刑法の保護に値する「私的領域」とは何か、②住居侵入罪の保護法益、③秘密侵害の規制方法。		
	事前学修	第7章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。（2時間）		120分
10	社会的存在としての人の保護（1）		社会的評価を受けながら私たちは日常生活を送っている。社会からの評価、信用を侵害する罪について考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①名誉毀損罪の保護法益及び構造、②信用毀棄罪の保護法益、③業務に対する罪の保護法益。		
	事前学修	第8章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	名誉毀損罪の保護法益は何か。（2時間）		120分
11	社会的存在としての人の保護（2）		名誉毀損罪に焦点を当て、真実性の錯誤をめぐる処理の在り方について考察する。刑法230条の2の意義をどう解するかが重要である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①230条の2の沿革、②真実性の証明が失敗した場合の問題点、③言論の自由と名誉保護の調和点はどこか。		
	事前学修	第8章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	真実性の錯誤をどう考えるべきか。（2時間）		120分
12	財産犯総論（1）		財産犯に共通する論点について2回に分けて講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の体系、②故意犯処罰の原則が貫かれている意味、③財物と財産上の利益の区別。		
	事前学修	第9章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	財物と財産上の利益について説明せよ。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財産犯総論（2）	財産犯に共通する問題で、前回触れた以外の論点について講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の保護法益（占有説、本件説）、②不法領得の意思（利益窃盗不可罰の理由）、③占有概念。	
	事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	財産罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
14	窃盗罪と不動産侵奪罪	窃盗罪と1960年代に新設された不動産侵奪罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①窃盗罪の構造（利益窃盗が不可罰であることの理由〔再確認〕、②不動産侵奪罪の構造、③親族相盗例の適用範囲。	
	事前学修	第10章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。（2時間）	120分
15	強盗罪（1）	財産犯の中でも凶悪犯に分類される強盗罪について2回に分けて講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①強盗罪の構造、②1項強盗と2項強盗の違い、③事後強盗罪・昏睡強盗罪と強盗罪との区別。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	強盗罪の要件について説明せよ。（2時間）	120分
16	強盗罪（2）	強盗罪は財産だけでなく、被害者の生命及び身体をも危険にさらす犯罪である。240条はこのことを想定した規定であるが、法定刑が極めて重いため、適用範囲をどう画するかが問題となる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①240罪の構造、②適用範囲をめぐる争い（機会説、手段説、折衷説）。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。（2時間）	120分
17	詐欺罪と恐喝罪	詐欺罪と恐喝罪はともに被害者の意思および行為に基づいて財産が行為者へ移転される罪である。詐欺罪については裁判例が活発な動きを見せている。そうした事案も踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①詐欺罪が既遂に至るための要件、②詐欺罪の処罰根拠、③権利行使と恐喝罪の関係。	
	事前学修	第12章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）	120分
18	横領罪と背任罪	被害者との委託信任関係を裏切ってなされるのが横領罪と背任罪である。両罪の類似点と相違点を明確にするとともに、経済と両罪の関係をも考察する。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①横領罪と背任罪の構成要件における共通点と相違点、②不法原因給付物と横領、③背任罪の本質・	
	事前学修	第13章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	盗品等に対する罪	財産犯の背後をカバーするのが盗品等に関する罪である。財産犯に対して刑法が二段構えをとっている理由を探る。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①盗品等に対する罪の保護法益、②盗品等に対する罪の諸類型とその典型例。	
	事前学修	第14章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
20	毀棄・隠匿の罪	財産を毀損する罪も財産犯のかなめの一つである。毀棄隠匿罪の存在理由について考察する。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①毀棄及び損壊概念、②器物損壊罪の構造、③文書等毀棄罪の構造、④建造物損壊罪の構造。	
	事前学修	第15章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
21	社会的法益に対する罪・総説	以上は個人的法益に対する罪であったが、ここからは社会的法益に対する罪について学ぶ。社会的法益とは何かを明らかにするとともに、その一つである騒乱罪について触れる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①社会的法益とは何か、②騒乱罪の構造。	
	事前学修	第16章、第17章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）	120分
22	放火の罪	放火の罪は社会的法益に対する罪の代表格である。比較的既遂に至りやすいため、放火罪の構成要件を正確に理解することが求められる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①現住建造物等放火罪の構造、②非現住建造物等放火罪の構造、③建造物等以外放火罪の構造。	
	事前学修	第18章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	焼損概念について説明せよ。（2時間）	120分
23	通貨偽造罪	各種偽造罪についてここから学ぶ。偽造罪も社会的法益に対する罪であるが、その法益をどう解するかが重要である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①通貨偽造罪の保護法益および構造、②取得後知情行使等罪の射程範囲。	
	事前学修	第20章、第21章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）	120分
24	文書偽造罪	文書偽造罪について学ぶ。文書には様々な社会的機能があるが、何をもって偽造といえるかが問題となる。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①文書偽造罪の基礎理論をめぐる対立、②公文書偽造罪および虚偽公文書作成罪の構造、③私文書偽造罪の構造。	
	事前学修	第22章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	有価証券偽造罪	通貨や文書以外にも、社会的信頼が担保されなければならない客体がある。とりわけ経済取引に 関係する客体に対する偽造罪について学ぶ。	
	この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①有価証券偽造罪の構造、②支払用カード電磁的記録の罪の構 造、③不正指令電磁的記録に関する罪に対する構造。	
	事前学修	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）	120分
26	風俗犯総説	風俗犯とは、社会集団の生活上の様々な仕方やしきたりを保護するためにあるが、ここでは性風 俗を侵害する罪について学ぶ。性風俗は日々変化し、芸術活動の制約にもつながる恐れがある。 調和点について考察したい。	
	この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①わいせつ罪の保護法益、②わいせつ概念の変遷、③インター ネットとわいせつ罪に関わる問題。	
	事前学修	第27章、第28章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）	120分
27	公務の執行を妨害する罪	公務の執行を担保するための犯罪について学ぶ。	
	この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①公務執行妨害罪の構造、②不正な公務も保護されるのか、③ 職務強要罪の構造。	
	事前学修	第31章、第35条を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）	120分
28	刑事司法作用に対する罪	刑事司法作用を保護する罪について学ぶ。保護法益や罪質をどうとらえるかにより、帰結が大き く変わりうる犯罪である。	
	この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①犯人蔵匿・証拠隠滅罪の構造、②偽証罪の保護法益。	
	事前学修	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	偽証の本質について説明せよ。（2時間）	120分
29	公務員による犯罪	公務員が主体となる犯罪について学ぶ。職権濫用罪と収賄罪、贈賄罪について学ぶ。	
	この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①職権乱用の概念、②収賄罪の保護法益、③収賄罪の類型、④ 収賄罪の守備範囲。	
	事前学修	第40章、第41章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）	120分
30	これまでの学びの振り返り	これまで学んできた刑罰法規について振り返るとともに、刑法の在り方について考える。	
	この回の 到達目標	4つの到達目標を確認しながら、復習する。	
	事前学修	これまでの学びをふりかえる（2時間）	120分
	事後学修	疑問のある点について復習する（2時間）	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	三代川 邦夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法総論の理解を前提として進める。

【授業方法】
講義を基本とし、理解度の確認のために問題演習も織り交ぜる（問題演習の結果は成績に反映しない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、授業内試験によりその理解度を評価する。	10	50	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	50	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜言及する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法II〔各論〕	亀井源太郎ほか	日本評論社	2024	教科書	推奨
刑法ポケット判例集	井田良ほか	弘文堂	2019	教科書	推奨
刑法各論〔第7版〕	西田典之	弘文堂	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜4限の時間帯 可能な限り事前にメールをすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論は何を学ぶ学問か	刑法各論とは一体何をやる学問なのかを説明する。	
	この回の到達目標	刑法各論の意義を理解する。	
	事前学修	教科書の冒頭を読んで、刑法各論の意義を理解する。	120分
	事後学修	授業を踏まえ、刑法各論の意義を再確認する。	120分
2	信用および業務に対する罪(1)	信用毀損罪、業務妨害罪について講義する。	
	この回の到達目標	信用毀損罪、業務妨害罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
3	信用および業務に対する罪(2)	信用毀損罪、業務妨害罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	信用毀損罪、業務妨害罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
4	自由に対する罪(1)	脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪、略取・誘拐罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪、略取・誘拐罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
5	自由に対する罪(2)	脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪、略取・誘拐罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪、略取・誘拐罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
6	自由に対する罪(3)	性的自己決定権に対する罪、住居侵入罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	性的自己決定権に対する罪、住居侵入罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自由に対する罪(4)	性的自己決定権に対する罪、住居侵入罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	性的自己決定権に対する罪、住居侵入罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
8	財産に対する罪(1)	財産犯の体系、窃盗罪、不動産侵奪罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	財産犯の体系、窃盗罪、不動産侵奪罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
9	財産に対する罪(2)	財産犯の体系、窃盗罪、不動産侵奪罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	財産犯の体系、窃盗罪、不動産侵奪罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
10	財産に対する罪(3)	親族相盗例、盗品等関与罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	親族相盗例、盗品等関与罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
11	財産に対する罪(4)	親族相盗例、盗品等関与罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	親族相盗例、盗品等関与罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
12	財産に対する罪(5)	強盗罪、恐喝罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	強盗罪、恐喝罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財産に対する罪(6)	強盗罪、恐喝罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	強盗罪、恐喝罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
14	財産に対する罪(7)	詐欺罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	詐欺罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
15	財産に対する罪(8)	詐欺罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	詐欺罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
16	財産に対する罪(9)	横領罪、背任罪、毀棄・隠匿罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	横領罪、背任罪、毀棄・隠匿罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
17	財産に対する罪(10)	横領罪、背任罪、毀棄・隠匿罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	横領罪、背任罪、毀棄・隠匿罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
18	秘密・名誉に対する罪(1)	秘密・名誉に対する罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	秘密・名誉に対する罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	秘密・名誉に対する罪(2)	秘密・名誉に対する罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	秘密・名誉に対する罪について、理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
20	社会的法益に対する罪(1)	放火罪、文書偽造罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	放火罪、文書偽造罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
21	社会的法益に対する罪(2)	放火罪、文書偽造罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	放火罪、文書偽造罪について、理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
22	国家的法益に対する罪(1)	賄賂罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	賄賂罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
23	国家的法益に対する罪(2)	賄賂罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	賄賂罪について、理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
24	生命に対する罪(1)	殺人罪、堕胎罪、遺棄罪について、講義をする。	
	この回の到達目標	殺人罪、堕胎罪、遺棄罪を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	生命に対する罪(2)	殺人罪、堕胎罪、遺棄罪について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	殺人罪、堕胎罪、遺棄罪の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
26	身体に対する罪(1)	暴行罪、傷害罪、危険運転致死傷罪等について、講義をする。	
	この回の到達目標	暴行罪、傷害罪、危険運転致死傷罪等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで概要を理解する。	120分
	事後学修	ノートを読み返して、理解を整理する。	120分
27	身体に対する罪(2)	暴行罪、傷害罪、危険運転致死傷罪等について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	暴行罪、傷害罪、危険運転致死傷罪等の理解を定着させる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んで正確に理解する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を再確認する。	120分
28	近時の刑事立法	近時盛んに刑事立法がなされており、その立法を概観する	
	この回の到達目標	近時の刑事立法の動向を理解する	
	事前学修	近時の刑事立法を調べる	120分
	事後学修	近時の刑事立法の問題点を考える	120分
29	今後の刑事立法の課題	SNSにおける誹謗中傷や児童虐待など、現在の問題に対する課題を検討する	
	この回の到達目標	現代社会における課題と、従来の刑事法の限界及び課題を理解する	
	事前学修	現代社会における問題点を、ニュース等から把握する	120分
	事後学修	今後のあるべき刑事立法に関して考える	120分
30	授業内試験 まとめ	これまでの理解を統合する。	
	この回の到達目標	刑法各論全体についての理解を再確認し、定着させる。	
	事前学修	これまでの刑法各論の理解を再確認する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を考え直す。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	三隅 諒	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法基礎演習又は刑法Ⅰを履修済であることが望ましい。また、民法や商法の知識を使うことがある。

【授業方法】
予め授業スライドを配布し、スライドに基づいて授業を行う。手元でスライドを閲覧できるようにしておくことが望ましい。 講義中、スライド以外の資料やWebサイトを参照することがあり、その場合は適宜スクリーンに投影する。また、復習用に課題を出すことがあり、その際は次の授業の冒頭で解説を行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 復習用に出した課題のうち、参考となるものについては、講義中で共有して紹介する。人数やテーマによっては、授業内でアンケートを行うことも考えている。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により，到達目標①②の理解ができているか，及び，到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し，これを的確に文章に表現できているかによって評価する。	10	10	25	35							80
小テスト等	中間試験により，到達目標①②の理解ができているか，及び，到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し，これを的確に文章に表現できているかによって評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法判例百選Ⅱ 各論〔第8版〕	佐伯仁志＝橋爪隆	有斐閣	2020	参考書	必携
刑法Ⅱ 各論〔第2版〕	亀井源太郎ほか	日本評論社	2024	教科書	必携
徹底チェック刑法	嶋矢貴之ほか	有斐閣	2022	その他	必携
講義刑法学・各論〔第3版〕	井田良	有斐閣	2023	教科書	推奨
備考	「必携」の指定は” MyKITS” で購入できるようにするための便宜であり，すべて揃える必要はない（詳細は初回に説明する）				

【オフィスアワー】
水曜14:00～16:00（休暇中を除く） ただし，アポイントがあれば随時受け付ける（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp） 研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法各論とは		刑事法学全体における刑法各論の位置づけを学修するとともに、刑法各論を理解するために必要な考え方について学修する。また、授業のスケジュールや成績評価の方法、参考文献の紹介も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、刑法各論がどのような学問分野であるか、また刑法総論や刑事学・刑事政策との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスと授業スライドを熟読する。なお、教科書の購入については初回スライドのなかで説明するので、購入前に必ず授業スライドを見ること。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読み、講義内容をまとめておく。教科書を（わからないところがあってもいいので）一読してみる。		120分
2	財産犯総説 毀棄罪①（器物損壊） 横領罪①（遺失物横領）		刑法各論全体における財産犯の位置づけを学修するとともに、比較的単純な類型である器物損壊及び遺失物横領について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産犯の保護法益と各犯罪類型の位置づけを理解し、説明できるようにする。また、器物損壊及び遺失物横領について、保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
3	窃盗罪①〔他人の財物〕		窃盗罪における「他人の財物」の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗罪の典型的事例を理解し、「他人の財物」の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
4	窃盗罪〔窃取・不法領得の意思〕		窃盗罪における「窃取」の意義、及び「不法領得の意思」の意義及び機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗罪の保護法益と「窃取」の意義、また「不法領得の意思」について、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
5	強盗罪①（1項強盗罪・昏睡強盗罪）		1項強盗罪・昏睡強盗罪について、窃盗罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗罪の保護法益と典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
6	強盗罪②（事後強盗罪・強盗致死傷罪）		事後強盗罪について、窃盗罪および強盗罪との関連を意識しつつ学修する。また、強盗致死傷罪について、非常に重い法定刑が用意されていることの趣旨を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事後強盗罪の典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、強盗致死傷罪の保護法益を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	詐欺罪①（1項詐欺〔欺く行為〕）		1項詐欺罪における欺く行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の保護法益と典型的事例を理解し、欺く行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
8	詐欺罪②（1項詐欺〔交付行為〕） 恐喝罪		1項詐欺罪における交付行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。また、恐喝罪について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の交付行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、恐喝罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
9	2項犯罪①〔財産上の利益〕		2項犯罪（2項強盗罪・2項詐欺罪・2項恐喝罪）の客体である財産上の利益に関して、その該当性や移転性の判断方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、2項犯罪の成否に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
10	2項犯罪②〔2項詐欺〕		主として2項詐欺罪について、1項詐欺罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、2項詐欺罪の成否に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
11	横領罪②（委託物横領罪）		横領罪について、窃盗罪及び遺失物横領罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、委託物横領罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
12	背任罪		背任罪の基本的な成立要件について、横領罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、背任罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	毀棄罪②（器物損壊以外）盗品等に関する罪		器物損壊等以外の毀棄罪について、器物損壊等との対比を踏まえて学修する。また、盗品等に関する罪について、他の財産犯との違いを意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、毀棄隠匿罪と盗品等に関する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
14	財産犯まとめ 罪数		財産犯全体がどのような仕組みになっていたかを整理し、各犯罪類型を的確に位置づけられるようにする。また、罪数論について学修すると共に、中間試験に向けて事例問題の解き方についても説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の財産犯について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにすると共に、適切に罪数処理をできるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
15	中間試験・解説		授業前半に中間試験を行い、その後、直ちに解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各種の財産犯について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
16	殺人罪・傷害罪 堕胎罪		殺人（自殺関与含む）や傷害罪につき、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。また、堕胎につき、母体保護法の存在も意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、殺人・傷害罪と堕胎罪に関し、各種の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
17	遺棄罪		遺棄について、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、遺棄罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分
18	性犯罪		性犯罪について、近年の法改正にも配慮しつつ学修する。 なお、この回については自由受講とするし、欠席してもマイナスに取り扱わない。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、性犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	自由に対する罪		逮捕・監禁の罪，強要・脅迫の罪，略取・誘拐の罪，住居侵入罪について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逮捕・監禁の罪，強要・脅迫の罪，略取・誘拐の罪，住居侵入罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分
20	名誉に対する罪		名誉に対する罪について、憲法上の権利との対抗やプライバシーに対する保護の規制、民事上の責任との関係も意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、名誉に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分
21	秘密漏示罪 業務・信用に対する罪		秘密漏示罪及び業務・信用に対する罪について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、秘密漏示罪と業務・信用に対する罪の各犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分
22	放火罪①〔建造物等〕		現住建造物等放火罪における現住建造物の意義を中心に、放火罪の客体について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の放火罪の保護法益と典型的事例を理解し、放火の客体に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分
23	放火罪②〔焼損・公共の危険〕		放火罪における焼損と公共の危険の意義について、保護法益を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、放火罪における焼損と公共の危険に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分
24	偽造罪①〔文書・作成者〕		偽造罪の類型を学修し、文書偽造罪における文書と作成者の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の偽造罪の保護法益と典型的事例を理解し、偽造罪における文書と作成者に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば，教科書の該当箇所を一読したり，判例・裁判例を調べて読んでみる。		120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに，教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで，講義内容をまとめておく。また，復習用の課題について，余力の限りで考えたり，問題集を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	偽造罪②〔偽造〕	文書偽造罪における偽造の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、偽造の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
26	公務執行妨害罪	公務執行妨害罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の公務を妨害する罪の保護法益と典型的事例を理解し、公務執行妨害に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
27	司法作用に対する罪 職権濫用罪	司法作用に対する罪と職権濫用罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の司法作用に対する罪と職権濫用罪の保護法益と典型的事例を理解し、各犯罪ごとの解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
28	賄賂罪	賄賂罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の賄賂罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読したり、判例・裁判例を調べて読んでみる。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所や判例・裁判例を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えたり、問題集を解いてみる。	120分
29	授業内試験・解説	授業内試験を行う。やや時間を開けて、試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	試験勉強として、これまでの授業スライドや教科書を見返してみる。	120分
	事後学修	授業スライド（試験の解説・採点基準）を読み込むと共に、出題箇所の講義スライドや教科書を読んで、講義内容をまとめる。	120分
30	講評・まとめ	授業内試験の講評を行うとともに、講義全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、これまでの授業スライドも見返してみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。余力があれば、教科書をひとつ長期休暇中に通読してみる。また、問題集についても積極的に取り組んでみる。	120分

科目名	計量経済学	担当者	立福 家徳	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
計量経済学とは、データを用いてその関係性について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデル、手法について講義と演習を行う。計量経済学の手法は、政治学をはじめとする社会科学分野全般に多く用いられており、政策の現場でも「証拠に基づく政策立案（EBPM）」のための重要なツールである。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象を分析するための基本的な分析手法である、計量経済学の基本的な手法（最小二乗法）の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成を目的とする。社会現象についてデータを用いて科学的に分析する手法について理解し、その結果について正しく説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科3，4，5

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいた講義形式を中心として、理解を深めるため演習で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので持参すること。定期試験の解答・解説を後日、ポータルサイト上にアップする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	可能な限りPCを使った演習を行う。 演習が難しい場合は、出席管理システム（レスポん）により、リアクションペーパー（小テスト）を実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	計量経済学における主要な概念や理論を識別することができる。				3	3	3	
②	計量経済学におけるデータを、適切に処理することができる。				3	3	3	
③	計量経済学で用いる統計理論を説明することができる。				3	3	3	
④	計量経済学における回帰分析の結果に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。				3	3	3	
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	10	20	10							70
小テスト等	セメスター中、3回行う演習により、到達目標①②③④に 関わる基礎知識と技能を評価する。	5	15	5	5							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実証分析のための計量経済学	山本勲	中央経済社	2015	教科書	必携
計量経済学の第一歩-実証分析のススメ-	田中隆一	有斐閣	2015	参考書	任意
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 計量経済学とは何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、計量経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、計量経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の第1章を読み内容について概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【データの種類と用語】	データの種類と用語について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平均と分散の求め方を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、用語を整理する。	120分
3	【さまざまな回帰分析】	回帰分析の具体例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような分析が可能か説明ができる。	
	事前学修	教科書第3章を読み内容について概観を理解する。	60分
	事後学修	講義ノートを確認して、知識を整理する。	180分
4	【Stataを用いた統計的実証の方法①】（演習）	Stataを用いた統計的実証を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Stataを用いて統計的実証の操作ができる。	
	事前学修	教科書第4章を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	120分
5	【最小二乗法の仕組み】	最小二乗法とBLUEについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、最小二乗法の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1．2を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、最小二乗法の一階条件を解く。	120分
6	【最小二乗法が使えないとき①】	BLUEが成立しないときについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、BLUEの誤差項過程が成立しないときについて説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、用語について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【最小二乗法が使えないとき②】	不均一分散や共分散への対処法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、加重最小二乗法と一般化最小二乗法について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、分析方法について理解する。	120分
8	【Stataを用いた統計的実証の方法②】（演習）	Stataを用いた統計的実証（加重最小二乗法と一般化最小二乗法）の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Stataを用いて統計的実証の操作ができる。	
	事前学修	これまでの講義内容について確認する。	60分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	180分
9	【プロビットモデルと最尤法】	線形モデルが使えないときのプロビットモデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、プロビットモデルで何を行っているのか説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1．2を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、用語を整理する。	120分
10	【係数と限界効果】	係数と限界効果の違いを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、係数と限界効果の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3．4を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	授業で提示した練習問題について自分の考えをまとめること。	120分
11	【Stataを用いた統計的実証の方法③】（演習）	Stataを用いた統計的実証（プロビット分析）の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Stataを用いて統計的実証の操作ができる。	
	事前学修	これまでの講義内容について確認する。	120分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	120分
12	【パネルデータ分析①】	変量効果モデルと固定効果モデルの違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パネルデータ分析の方法について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章1．2を読み、パネルデータ分析について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、用語を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【パネルデータ分析②】	ハウスマン検定、推定結果の読み方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パネルデータ分析の手順について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章 3 を読み、パネルデータ分析について概観を理解する。	60分
	事後学修	講義ノートを確認して、用語を整理する。	180分
14	【Stataを用いた統計的実証の方法④】（演習）	Stataを用いた統計的実証（パネルデータ分析）の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Stataを用いて統計的実証の操作ができる。	
	事前学修	これまでの講義内容について確認する。	120分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、計量経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、計量経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	計量政治学	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、まず計量政治学における現象の捉え方の基本的立場や研究のプロセスについて議論を行い、その次に分析の基礎として政治現象の数値化を考察するとともに、データの集計や図表による表現方法を扱う。そして統計的な推定や検定の仕組みを概観しながら、多様な回帰分析の手法に取り組む。授業は各手法が用いられる場面や適用例を紹介しながら進められるが、実際のデータを用いたコンピュータによる演習が中心となる。これに加えて、授業で学んだ分析手法を自らの関心に合わせて応用できるようにするため、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマと分析に基づいた研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本授業では、政治学的なテーマを中心に様々な社会現象を題材にして、1) それらに関するデータの計量的な分析手法を理解し、2) そうした分析を用いた学術論文や実務報告書を批判的に読みこなし、3) 自らが分析を行い、かつ結果を解釈することができるようになることを目指す。こうした分析・批判能力は、他の授業におけるレポートや卒業論文などの知的プロジェクトを遂行する上で必要不可欠であるだけでなく、卒業後における諸業務においても重要になってくるものと思われる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義及びコンピュータを用いた演習の形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、グループ・ディスカッションやグループ・ワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。							3				
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見することができる。								3			
③	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、より良い社会・共同体を創造するためにすべきこと着手することができる。									3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを研究論文及び最終発表にて評価する。	20	25	25								70
討論・発表等	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを研究計画発表にて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを（出席を前提とした）講義中の積極的な発言と課題提出にて評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Stataによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2013	教科書	必携
Rによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜3限　kubota.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、授業計画）	計量政治学とは？	
	この回の到達目標	本授業で扱う内容の概要と進め方を理解する。	
	事前学修	実証的な政治分析や統計データの活用に関心をもって授業に参加すること。できれば教科書の該当箇所に目を通し、統計データ分析の方法と応用例、計量政治学の方法と射程について事前にある程度の情報を得ていることが望ましい。	120分
	事後学修	本授業で扱うテーマや課題の内容・量を振り返り、履修するか否かを定める。履修する場合は教科書を次回授業までに購入し、第1章を読み直す。また本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考え始める。その他、授業外で統計データ分析やその分析がどのように行われているかについて常に情報を得られるよう努める。	120分
2	実証研究の基礎（政治学における実証研究、研究デザインと実施のプロセス）	研究テーマの選び方／理論と仮説	
	この回の到達目標	政治学における実証研究の基礎について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、政治学（社会科学）における実証研究とは何か、またそれがどのように行われるのかについて確認する。その際に、自分の興味・関心がどういったテーマにあるのかについて省察し、いかなるリサーチクエスチョンと仮説をたてることができるのかについて考える。	120分
	事後学修	統計データを用いた政治分析やその方法を振り返り、本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考えを進める。その際に、事前学習で考えたリサーチクエスチョンや仮説を見直し、どのように改善することができるかについて考察する。	120分
3	政治現象の数値化（概念の定義・操作化、測定尺度）	記述統計とデータの可視化・視覚化	
	この回の到達目標	政治現象の数値化がどのようにされるのかについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、変数や尺度の種類について学ぶ。特に、カテゴリー（質的）変数（名義尺度、順序尺度）と量的変数（間隔尺度、比率尺度）の違いについて事前に把握する。またこれらの測定尺度がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
	事後学修	政治現象をいかに数字で表すのか、またその際に考慮すべき点について振り返る。また、これらを自らの研究テーマに照らし合わせて、どのような尺度を用いた変数が必要になるかを考えるとともに、入手・使用可能なデータセットがないか探してみる。	120分
4	集計表とグラフ	記述統計とデータの可視化・視覚化	
	この回の到達目標	データの特徴を集計表やグラフによって効率的に表現することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、統計データの特徴・パターンを集計表やグラフによって表現する方法とそのバリエーションについて学ぶとともに、それらを用いた表現方法の目的と特徴について考える。	120分
	事後学修	授業で扱った集計表・グラフについて振り返ると同時に、統計ソフト上での出力方法を確認する。また他の表現方法について調べるとともに、自らが扱う予定のデータ・変数に適した表・グラフについて考える。その際にも、統計ソフト上での出力方法を可能な限り調べておく。	120分
5	記述統計	分布の数値的要約	
	この回の到達目標	データの特徴を目的に応じた代表値によって効率的に表現することができる。	
	事前学修	参考書の該当箇所に目を通し、記述統計量の種類とその考え方について考える。特に、データの中心やちらばりを表す代表値の目的や種類について確認する。また、こうした代表値がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
	事後学修	授業で扱った記述統計量について振り返る。特に標準偏差や分散の概念について、授業資料と参考書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、統計ソフト上でのこれらの記述統計量の計算・出力方法について改めて見直しておく。	120分
6	統計的推定（仮説検定、区間推定、標準誤差）	統計的推定／統計的仮説検定	
	この回の到達目標	統計的推定の基礎について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、記述統計と推測統計の違いについて考える。その際に統計的推定の考え方について予備知識を得るように試みる。特に、標本分布、確率分布、母平均の信頼区間、有意水準、棄却域などといった用語について確認しておく。	120分
	事後学修	仮説検定、区間推定、標準誤差といった概念を中心に統計的推定の考え方について、授業資料と教科書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	変数間の関連性の検定	変数間の関連性	
	この回の到達目標	変数間の関連性の考え方と検定のやり方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、変数間に関係があるとはどういうことか、またその統計的な検定方法について考える。特に相関係数やカイ二乗検定といった検定の目的や方法の違いについて事前に把握し、それらが用いられる場面について考える。	120分
	事後学修	統計的推定に基づいた変数間の関係性に関する検定方法について振り返り、推測統計の考え方を復習する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
8	研究計画発表会	研究論文の構想（リサーチ・クエスチョン、データ、期待する結論など）について報告する。	
	この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。	
	事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。	120分
9	研究計画発表会	研究論文の構想（リサーチ・クエスチョン、データ、期待する結論など）について報告する。	
	この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。	
	事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。	120分
10	回帰分析の基礎とバリエーション	回帰分析の基礎	
	この回の到達目標	回帰分析（最小二乗法）の基本的な考え方について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、回帰分析（最小二乗法）の目的と方法について事前に把握する。特に、これまでの分析や検定とどのように異なるのかについて考える。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。	120分
	事後学修	回帰分析の目的について振り返り、これまで学んだ分析方法との違いを考える。また、最小二乗法の考え方を復習し、基本的なアイデアを確認する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
11	単回帰と重回帰	回帰分析による統計的推定／回帰分析の前提と妥当性の診断／回帰分析の応用／交差項の使い方	
	この回の到達目標	単回帰分析と重回帰分析の違いや、様々な独立変数を用いた分析モデルの特徴について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、単回帰分析と重回帰分析の違いについて考える。また、回帰分析による統計的推定の意味について事前に把握するとともに、最小二乗法を用いた回帰分析の前提とその妥当性の診断方法について確認する。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を振り返り、単回帰分析と重回帰分析の違いについて復習する。また回帰分析と統計的推定や仮説検定との関係について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
12	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析	
	この回の到達目標	ロジスティック回帰分析の特徴や応用例を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、最小二乗法を用いた回帰分析とロジスティック回帰分析との違いについて考える。その際に、回帰分析における統計的推定の意味を再確認する。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を振り返り、回帰分析（最小二乗法）とロジスティック回帰分析の違いについて復習する。またロジスティック回帰分析における統計的推定や仮説検定について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	回帰分析の復習と個別チュートリアル		研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。		
	事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する。		120分
14	回帰分析の復習と個別チュートリアル/研究発表		研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する／研究論文の概要について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる／研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。		
	事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する／研究論文の成果について報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する／授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。		120分
15	研究発表		研究論文の概要について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。		
	事前学修	研究論文の成果について報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。		120分

科目名	原価計算論Ⅰ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、工業簿記や原価計算の専門領域の基礎知識・計算技法を用いてその基本的な内容を学習する。日商簿記検定2級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。日商簿記試験方法の改定により、2級工業簿記は仕訳の重要度が増えることになったので、仕訳についてもきちんと学習することになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定2級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定2級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。質問は私の本務校・武蔵野大学のメール（hirofuna@musashino-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。4回目授業以降、1週間以内にGoogle Formsで回答する確認ミニテストを課す。次回の授業で確認ミニテストの解説を行う。下記に示した成績評価割合で評価しても平均60点に達しない場合は、評価割合を変更する可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	簿記論で学んだ知識を土台にして、工業簿記と商業簿記との相違を専門的視点から理解することができる。				2	2						
②	製造活動と原価計算の必要性を専門的視点から理解することができる。				2	2						
③	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。				2	2	2					
④	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を仕訳等の専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。					2	2	2				
⑤	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。					2	2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。60%の評価割合とする。	12	12	12	12	12						60
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストを4回目以降ほぼ毎回行う予定。40%の評価割合とする。	8	8	8	8	8						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版（ISBN:9784502278716）	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	初版は古い構成のため使用できません。第2版を必ず購入してください。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、簿記検定、電卓	工業簿記と商業簿記の違い及び受験可能な簿記検定を説明することによりこの科目を学ぶ意義を理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、学問としての工業簿記や原価計算について理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、この科目の意義を把握できるように準備すること。	90分
	事後学修	履修すると決めたら、教科書を購入し、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。	150分
2	工業簿記と原価計算の意義と目的	製造業を前提に、その経営活動を理解することで、工業簿記と原価計算の役割や存在意義を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、工業簿記と原価計算の意義と目的を理解することができる。	
	事前学修	教科書第1章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
3	原価の概念と原価計算制度	原価の概念と原価計算制度について、基本的な意味と役割を学ぶ。特に製造原価に関してはしっかりと理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、基本的な原価概念と原価計算制度について理解することができる。	
	事前学修	教科書第2章と第3章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
4	原価計算の体系と原価計算基準	原価計算基準に則り、その構成を学習する。同時に原価計算制度についてもそのフレームワークを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価計算基準について理解することができる。	
	事前学修	教科書第3章と第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第1回確認ミニテスト	120分
5	工業簿記の構造	工業簿記の構造について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級工業簿記でも今後仕訳の重要度が増すので、絶対に理解する必要がある基本単位となる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工業簿記の全体の流れと振替関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第2回確認ミニテスト	120分
6	材料費	材料費の分類、購入、消費額の計算方法を学習し、特に予定価格法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、材料費の応用を理解することができる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第3回確認ミニテスト	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	労務費の基本		労務費の分類、調整計算、支払額と消費額について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の基本を理解することができる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第4回確認ミニテスト	120分
8	労務費の応用と経費		労務費の予定価格法と経費の計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の応用と経費の計算技法を理解することができる。	
	事前学修	教科書第6章と第7章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第5回確認ミニテスト	120分
9	製造間接費の計算と記帳		製造間接費の配賦計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の配賦計算を理解することができる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第6回確認ミニテスト	120分
10	製造間接費の予定配賦		製造間接費の予定配賦について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。材料副費の処理についても学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の予定配賦を理解することができる。材料副費の処理についても理解することができる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第7回確認ミニテスト	120分
11	原価の部門別計算の基本		原価の部門別計算の計算プロセス全体を理解し、そのうち第1次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の基本を理解することができる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第8回確認ミニテスト	120分
12	原価の部門別計算の応用		原価の部門別計算の計算プロセスのうち第2次集計段階と第3次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の応用を理解することができる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第9回確認ミニテスト	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	個別原価計算		個別原価計算について、その意義と計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、個別原価計算を理解することができる。	
	事前学修	教科書第13章の該当箇所を読んでおくこと。第10回確認ミニテスト	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
14	前期のまとめ		工業簿記の基本手続きに関して、全経簿記2級工業簿記過去問を用いた演習を行う。問題を実際に解くことで復習を行える。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工業簿記の基本手続きを再度理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	授業内試験実施とその解説		授業内試験（70分）と試験の解説（15分）および後期に向けて（5分）
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた準備をしておくこと。	180分
	事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	原価計算論Ⅱ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、原価計算論Ⅰで学習した内容を土台にして、工業簿記や原価計算の専門領域の応用知識・計算技法を用いてその発展的内容を学習する。日商簿記検定２級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定２級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定２級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（８桁以上）を持参すること。質問は私の本務校・武蔵野大学のメール（hirofuna@musashino-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。4回目以降、1週間以内にGoogle Formsで回答する確認ミニテストを課す。次の授業の最初に解説を行う。但し、履修者が少ない場合には翌週の授業の最後に実施する方法に変える可能性がある。また、下記に課した成績評価割合で評価しても平均60点に達しない場合は、評価割合を変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。		2	2	2				
②	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。			2	2	2			
③	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。			2	2	2			
④	原価管理概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。			2	2	2			
⑤	短期利益計画概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。			2	2	2			
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。60%の評価割合とする。	12	12	12	12	12						60
小テスト等	Google Formsを用いた確認ミニテストを4回目以降ほぼ毎回行う予定。40%の評価割合とする。	8	8	8	8	8						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版（ISBN:9784502278716）	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	前期の原価計算論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習		夏休みをはさんだので、思い出してもらうために前期の復習を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期の学習内容の振り返りを行うことができる。	
	事前学修	前期で学んだことを復習しておくこと。	120分
	事後学修	日商簿記2級受験希望者は、勉強の計画を立てること。それ以外の学生は、配付したプリントを復習しておくこと。	120分
2	製造間接費配賦差異の細分析		製造間接費配賦差異の細分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費配賦差異について、更なる分析を理解することができる。	
	事前学修	テキスト第5章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
3	日商簿記2級レベルの製造原価報告書、損益計算書		日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、理解することができる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
4	総合原価計算の基礎（単純総合原価計算）		単純総合原価計算を前提に、総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、総合原価計算の基本的な計算手続きについて、理解することができる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第1回確認ミニテスト	120分
5	総合原価計算の応用（減損・仕損）		単純総合原価計算を前提に、減損や仕損が生じた場合の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、減損や仕損が生じた場合の総合原価計算の計算手続きについて、理解することができる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第2回確認ミニテスト	120分
6	工程別総合原価計算		工程別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工程別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第12章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第3回確認ミニテスト	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	組別総合原価計算		組別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、組別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習すること。第4回確認ミニテスト	120分
8	等級別総合原価計算		等級別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの総合原価計算の問題を解くことで、総合原価計算の理解を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、等級別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第5回確認ミニテスト	120分
9	標準原価計算の基礎、記帳方法、損益計算書作成		標準原価計算の役割と基本的計算方法を学ぶことができる。さらに、標準原価計算の記帳方法と損益計算書の作成に関して、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第14章と第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第6回確認ミニテスト	120分
10	標準直接材料費差異、標準直接労務費差異		標準直接材料費差異と標準直接労務費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。	
	事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第7回確認ミニテスト	120分
11	標準製造間接費差異		標準製造間接費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの標準原価差異の総合問題を解くことで、標準原価差異の細分析の理解を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。	
	事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第8回確認ミニテスト	120分
12	直接原価計算の計算構造		直接原価計算の計算構造について、全部原価計算と比較して学習することができる。さらに、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、直接原価計算の計算構造及び固定費調整について理解することができる。	
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第9回確認ミニテスト	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	短期利益計画とCVP分析		短期利益計画とCVP分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。1個当たりのデータが与えられているケースが中心になる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、CVP分析について理解することができる。	
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。第10回確認ミニテスト	120分
14	CVP分析と原価予測の方法		原価予測の方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。さらに、CVP分析に関しては、比率データが与えられている問題と条件を変えるシミュレーション問題を中心とした日商簿記2級レベルの問題を解くことで、さらなる理解を深めることができる。授業内試験について伝達する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価予測の方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	授業内試験の実施とその解説		授業内試験（70分）、試験の解説（15分）、日商簿記2級受験のアドバイス（5分）
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	試験に向けた準備をしておくこと。	180分
	事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	現代行政論Ⅰ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近年、行政と民間セクターの間にあって、公共的課題解決のために不可欠となっている住民参加、官民協働、NPO、ソーシャルビジネス等の諸要素を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、近年、民間セクターを巻き込んで、ネットワーク化が急速に進展する現代行政の特質や運営実態等を当面の諸課題との関連の中で学び、諸アクターの中で調整・交渉を経て課題解決に結びつけるための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式 外部講師による講義も予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として、公共政策課題の解決に当たって官のみに頼らず自助・共助を基本とする行動ができる。				2							
②	官民連携、NPO法人との協力の必要性を専門的観点から理解し、説明できる。					2						
③	一見複雑な社会事象を公共政策学のツールを活用して論理的・科学的・合理的に考察することができる。						2					
④	地域社会の抱える諸課題を自ら積極的にコミットすることで具体的に考察することができる。							2				
⑤	より良い地域社会の構築のために官民連携の在り方はどうすべきか説明できる。								2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②～⑤について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。		20	20	20	20						80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回等の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	20	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び官民連携（PPP）総論	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②PPPとは何かを概略的に学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現代社会において、公共課題解決の担い手が行政のみにとどまらず、民間企業、各種法人、住民等にまで広がりを見 せている理由はなにか、官民はどのように連携すべきか、その政策的意義は何か等について説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②参考文献の目次・序文等に一通り目を通し、授業テーマの概略を把握しておく。③（各回共通）日頃より新聞・ニュースの政治・行政関連記事は常にフォローしておく。	180分
	事後学修	講義で紹介された文献・資料等を収集する。	180分
2	官民連携の諸相①（PFIの基礎概念）】	PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）による公共施設整備等の考え方・制度等を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、公共的な事業に民間資金を導入するPFIの意義とは何か、なぜそれが必要なのか、民間企業等はなぜ資金を投じて公的分野に参入するのかを理解して説明できる。	
	事前学修	指定された文献等によりPFIの仕組み・運営実態等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	官民連携の諸相②（PFIの事例1：刑務所等）	公権力行使の典型である矯正事業に民間企業が参入する意義は何か。運営の実態はどうなっているのか具体的事例に基づき学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、刑務所の民営化はなぜ可能か、民間企業はどのように刑務所の運営に参画できるのかの学修を通じて、官民の役割分担の在り方、PFIの本質とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	指定された文献、公式ウェブサイト等により矯正施設におけるPFIの仕組み・運営実態等の概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこと。	120分
4	官民連携の諸相③（PFIの事例2：空港・道路等）	PFIの一手法として近年注目を集めているコンセッション方式など巨大インフラに対するPFI手法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、なぜ多額の赤字を計上してきた空港事業等に民間企業が参入するのか、その意義・制度の仕組み・実態等を理解し、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献・公式ウェブサイト等により関西国際空港や仙台空港の「経営主体」はどこか、その経緯はどうであったかなどの概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	官民連携の諸相④（PFIの事例3：上下水道・公園等）	最近のPFI等では、住民の健康・生活に直結するライフライン関連事業等もその範囲に含まれつつある。本講ではこうした事業の実例を取り上げ、その実情を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、ライフライン関連事業の民営化の意義と、事業運営の安定性・サービス品質等の懸念への対応等について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された文献・最近の新聞報道等により水道の民営化をめぐる議論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	官民連携の諸相⑤（第三セクター、指定管理者制度、市場化テスト）	第三セクター等すでに定着した官民連携の各種仕組とその実態・問題点を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、自治体の施設運営等は現在その多くが 公務員以外の民間主体により実施されている実態を理解し、その改善点等 を考察、説明することができる。	
	事前学修	受講者が日常的に行政の現場で接する職員は、いわゆる「公務員」なのか、それとも「民間」の職員なのか、可能な限り事例を収集し、授業内で説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	官民連携の諸相⑥（住民意見の把握と社会的合意形成）		政策決定への住民参加の仕組みとして活用されているワークショップ、住民協定、パブリックコメントなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、近年の政策決定過程において説明責任（アカウンタビリティ）が問われるのみならず、住民等の具体的な参画の程度が重要になってきていることを理解し、その具体的な活用方策を考察し説明することができる。		
	事前学修	受講者の居住自治体の公式ウェブサイト等を調べ、住民の意見を行政に反映させる手段としてどのようなものが用意されているか 調べ、授業内で説明できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	官民連携の諸相⑦（住民参加・外国事例）		住民が実際に公共政策実施の現場に参加する事例として 住民による税金の使途決定制度、小規模工事等への直接参加などを学ぶ。併せて諸外国の官民連携事例として ドイツのシュタットベルケなどの仕組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、政策決定への参加にとどまらず、住民が執行過程等にも加わることの意義・重要性等について理解し、説明することができる。		
	事前学修	住民が政策決定・実施に直接参画する制度・手段としてどのようなものがあるか、行政学・地方自治論のテキスト等で学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	NPO論①（総論・現状）		NPO法人（特定非営利活動法人）をはじめとする非営利組織とは何か、その概念・制度・機能等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、NPOと営利組織との違いは何か、NPO等が近年、新たな公共的アクターとしてクローズアップされてきた理由は何かを説明することができる。		
	事前学修	受講者の身近な地域社会にあるNPO法人等の概容を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	NPO論②（各分野でのNPOの活動1）		高齢者福祉、障害者支援、不登校など教育問題、子育て支援などの領域におけるNPOの活動実態と課題等について学習する NPO役職員による講義を予定（日時・内容等未定）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、いわゆるヒューマンサービスの特性を理解した上で、なぜこの分野でNPO等が重要な役割を果たすのか、またこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを理解し、説明することができる。		
	事前学修	受講者の居住自治体における社会福祉施設等の運営主体にはどのようなものがあるか、複数事例に当たり、その類型を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	NPO論③（各分野でのNPOの活動2）		災害対応・コミュニティ再生、住民主体のまちづくり支援などの分野におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOの様々な活動実態を把握し、地域社会における自助・共助の観点からその意義を考察した上で、説明することができる。		
	事前学修	報道状況・各種文献等から災害時等におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	NPO論④（ソーシャルビジネス・世界のNPO）		ソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について学習する。併せて米英仏の非営利組織の制度・現状等を日本と比較することによって、我が国NPOの問題点等を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「新しい公共」分野で発展が期待されているソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について説明できる。また、欧米の制度と比較して我が国NPO等の制度・実態等を分析し説明できる。		
	事前学修	「非営利」組織において事業収益の追求は許されるか？その意義とはなにか？あなたの考えをまとめ、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。また、国際的に著名なNPO・NGOの事例を調べておき、発表できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NPO論⑥（NPO等のマネジメント1）	NPOのマネジメントに関し、特に重要案なミッション（使命）論、リーダー論、意思決定手法、イノベーション手段などについて学習する	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	
	事前学修	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	NPO論⑦（NPO等のマネジメント2）	前講に引き続き、NPOに特有のマネジメント方策として、各種ステークホルダー（利害関係者）との対外関係管理、職員・ボランティア等に係るチーム作り、財務管理等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、特にNPO等の対外・対内関係の重要性につき、具体的事例に即して論理的に説明できる。	
	事前学修	人材マネジメント論・リーダーシップ論などの文献に目を通した上で、「自分がNPO職員だったら」という当事者意識をもって授業に参加できるようにする。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	60分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認しておく。	60分

科目名	現代行政論Ⅱ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
講義前半では、公共政策を実際に担当する公務員の勤務状況の実態・問題点・改善方向などを学ぶ。講義後半では具体的に公務員が働く現場で政治サイドと公務員がどのように関係し、影響し合うのかを歴史的変遷・立法過程における実例などを通して学び、我が国政治行政システムの特性を学習する。 日程の調整状況等によるが実務家の外部講師による授業も予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、公共分野におけるアクターがどのような実態にあり、いかなる原理で機能しているのか理解した上で、具体的な課題解決場面で能動的に行動できる能力を修得する。併せて将来の職業生活においてあるべき働き方とは、どのようなものなのか自ら判断でき実生活を構築できる能力を修得するとともに、将来の職場勤務環境等に係る構想力・提案力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員制度の理解の上で、公務員に求められる倫理とは何か説明できる。				2							
②	公務員法制・働き方の仕組みなどを専門的観点から理解し説明できる。					2						
③	政官関係の現状などを論理的・科学的・合理的に説明できる。						2					
④	現代行政に求められる改善点を自らの分析に基づき考案し、説明できる。							2				
⑤	現場・実地調査の必要性を理解し、調査計画を立てることができる。								2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。	10	20	40	20	10						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	40	20	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜紹介する				

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		勤務管理責任者、複数法律の実務責任者としての経験や、国家・与党との対応を行ってきた経緯などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び公務員をめぐる議論の概況	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現在、公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自でメディア論調等を確認して、公務員の現況に関する考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	公務員法制	国家公務員法、地方公務員法、一般職員給与法等を中心に公務員法制の概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。	
	事前学修	指定された文献等により国家公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	国家公務員の働き方改革 1	我が国において「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」が重要課題となった理由・背景事情を学ぶ。さらに公務員特有の事情が長時間労働・非効率な働き方に拍車をかけている状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、国家公務員の勤務実態及びこれに対する改革への取り組み状況を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	国家公務員の働き方改革 2	国家公務員の働き方改革のため取り組まれている具体的方策を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、フレックス・タイム制、テレワーク、IT化等による業務効率化、管理職の意識改革・マネジメント能力向上等の諸方策について説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	地方公務員をめぐる議論の概況	地方公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、現在、地方公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、地方公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、地方公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	地方公務員の働き方改革 1	地方公務員の勤務実態、働き方改革のための取組を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、地方公務員の勤務実態及びその改革方策について説明できる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公務員の働き方改革 2		地方公務員の「やり甲斐喪失」、「士気低下」等の背景事情として地方公務員独自の要因があることを学習する。さらに最近、特に深刻化が指摘される教員の長時間労働等の勤務実態について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、地方公務員特有の構造的問題とこれを解決するための方策について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	次世代公務員の在り方 1		官民共創の考え方に基づいたプラットフォームビルダー・ファシリテータとしての公務員の在り方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、次世代型公務員にとって最も必要とされる役割・資質について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	次世代公務員の在り方 2		サービスデザイン思考やナッジの考え方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、エンドユーザである国民・住民の側に立った施策立案・運営の重要性を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	次世代公務員の在り方 3		EBPMの考え方を、基礎理論及び国内・国外事例の学修を通じて身に付ける（外部講師による講義予定）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、EBPMの意義及びその重要性・特徴を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	政官関係の基礎理論		政治行政分離論・融合論などの様々な見解や、本人・代理人理論等の分析ツールを学ぶとともに過去の「政治主導」への試みを概観し、その功罪を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、様々な分析ツールを活用することにより、我が国の政治行政関係をめぐる諸論点を多角的に考察し、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	政治任用論		「政治任用」とは何か、その機能・問題点は何か、我が国における政治任用の態様はどうかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、昨今取り沙汰される公務員の「政治化」の問題点とは何か等を具体的事例に即して論理的に説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	諸外国の政官関係		米英独仏の公務員制度を概観し、それぞれの政官関係・政治任用の在り方の違いについて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、各国間の政官関係・政治任用形態の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	我が国政官関係の歴史的展開		戦前期我が国の政治任用制や戦後期のGHQによる公務員制度改革の概要等を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、なぜ我が国官僚制が今日みるような世界的にみても特異な姿 となったか、戦前との比較・GHQ改革の意義などを援用して説明できる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	女性公務員をめぐる現状		我が国の働き方改革の中でも特に課題となっている「女性活躍」及び「女性公務員」「国家公務員の育児対策」等をめぐる諸論点について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、「女性活躍」等について、その意義・重要性、女性公務員の登用が遅れてきた理由、現在取り組まれている対策等について説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

科目名	現代公共論	担当者	有本 新	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講義では、公共性とは何か、どのように公共性を構築していくのかを学修します。近年、高齢者の雇用や女性の活躍促進、LGBTQなどの多様性に関する取り組みが推進され、一人ひとりの個性を尊重する社会が目指されています。しかし、公共性とは、社会に暮らす多くの人々にとって共通の利益や課題を考えるものであり、多様な価値観を尊重しつつ、いかに地域社会における共通の課題を考えていくのかが問題となります。そこで、理想的な「公共性」とは何かを考えつつ、現実との乖離について学修していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共性についての基礎的な考え方を学び、地域社会で発生している社会問題の現状を理解できるようになることを目指します。また、その現状の何が問題なのか、どのような社会を目指すべきなのかについての自分の意見や考えを論理的に提示できるようになることを目指します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
原則として対面での講義形式で授業します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート課題等を通じて、受講者自らが事例を調べ、それに対し主体的に自らの意見や考えを示すことができるように取り組みます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共性に関する基礎的な考え方を理解できる。				2		2					
②	講義で学修した知識を活用して、公共性に関する社会現象について、どのような問題があるのかを論理的に説明できる。				2		2	2				
③	公共性に関する社会現象について、自らの意見や考えを述べることができる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業で毎回出す小レポートと期末レポート課題により、到達目標の①・②・③について正しく理解できているかを評価する。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポート課題の内容は授業の中でフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義に関する質問は授業前後に授業講堂で受け付けます。arimoto@timr.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市問題や自治に関する調査研究機関
実務経験に基づく実践的教育の内容		研究員の実務経験を活かし、現場での問題認識を踏まえながら、公共のあり方について学修する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	公共性とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、公共性についての基礎的な考えを理解できるようになる。	
	事前学修	シラバスなどを確認し、自分に興味がある授業内容かどうかを確認すること。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、公共性の基礎的な考え方について復習しておくこと。	120分
2	人権	一人ひとりの人権に社会がどう向き合うのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、人権を考える意義やその問題点などを理解できるようになる。	
	事前学修	人権に関する個人的に関心があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、人権に関連する社会問題について考えておくこと	120分
3	多文化共生	コロナ禍で生じたマイノリティに対する差別や権利侵害などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、コロナ禍における多文化共生施策の主要な課題を理解をできるようになる。	
	事前学修	多文化共生に関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、多文化共生に関連する社会問題について考えておくこと。	120分
4	障がい者の活躍	障がい者が活躍していくための現状や問題点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、障がいとは何か、障がい者の活躍を阻害する主要な要因を理解できるようになる。	
	事前学修	障がいに関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、障がいに関連する社会問題について考えておくこと。	120分
5	AIと人権	AIの活用が個人の尊重等にどのような影響をもたらすのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、AIを活用するメリット・デメリットを把握し、AIとの向き合い方についての主要な論点を理解できるようになる。	
	事前学修	AIに関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、AIに関連する社会問題について考えておくこと。	120分
6	代議制民主主義	市民ニーズの多様化と代議制民主主義の意義や課題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、市民と政治家の関係から代議制民主主義の仕組みについて理解できるようになる。	
	事前学修	代議制民主主義について自分なりに調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、代議制民主主義に関連する問題点について考えておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策過程と市民参加	公共政策とは何かを考えつつ、いかに政策を作成し実施していくのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②、③に関連して、地域の実情に即した政策を作成するために留意すべき点を理解できるようになる。	
	事前学修	政策過程の概念について自分なりに調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、総合計画などの自治体政策に関連する問題点について考えておくこと。	120分
8	公共事業	震災復興事業を題材に復興のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、公共事業をどのように進めていくべきなのかを理解できるようになる。	
	事前学修	震災復興に関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、震災復興に関連する社会問題を考えておくこと。	120分
9	コミュニティと公共	市民による公共性をどのように構築していくのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、市民によるコミュニティを形成するための条件について理解できるようになる。	
	事前学修	市民活動に関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、市民活動に関連する問題点を考えておくこと。	120分
10	人口減少時代のまちづくり	居住の自由と中心部への移住等のまちづくりの合理化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、中心部への移住等の人口減少時代における都市発展の是非について理解できるようになる。	
	事前学修	都市開発に関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、中心部への移住等に関連する問題点を考えておくこと。	120分
11	公共サービスにおける行政の役割	多様化する公共サービスの供給体制において行政に期待されるべき役割とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②、③に関連して、公共サービスの概念や今日において行政に期待されるべき役割とは何かについて理解できるようになる。	
	事前学修	公共サービスに関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、公共サービスに関連する社会問題を考えておくこと。	120分
12	公共サービスにおける民間活用	民営化などの供給体制の多様化が公共サービスにもたらす影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、公共サービスの供給体制の多様化についての意味を理解できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、公共サービスにおける民間活用の問題点を考えておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共放送	表現の自由とメディア規制などを検討しつつ、マスメディアの役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、放送の自由や公共放送の現状等について理解できるようになる。	
	事前学修	マスメディアに関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、放送の自由に関連する問題点を考えておくこと。	120分
14	インターネット・デモクラシー	インターネットが人々のコミュニケーションにもたらす影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、インターネットでのコミュニケーションの功罪について理解できるようになる。	
	事前学修	インターネットに関する個人的に興味があるものを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、インターネットに関連する社会問題を考えておくこと。	120分
15	まとめ	授業を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②、③に関連して、公共性についての重要なポイントを理解する。	
	事前学修	これまでの授業に関する主要な論点を復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業で得た知識を活かして、新聞などで社会現象を調べてみること。	120分

科目名	現代政治理論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	参考書	推奨
『現代世界の民主主義理論』	白鳥令・曾根泰教編	新評論	1984	参考書	推奨
『議会制民主主義の揺らぎ』	岩崎正洋編	勁草書房	2021	参考書	推奨
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	任意
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	任意
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1985	参考書	任意
『政治学講義〔第2版〕』	佐々木毅	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『日本政治とカウンター・デモクラシー』	岩井奉信・岩崎正洋編	勁草書房	2017	参考書	任意
備考	特定の一冊の教科書に依拠して授業を行うわけではないため、参考書や授業中に紹介する文献をよく読む必要がある。				

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：現代政治理論（現代の民主主義理論）	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治理論（とりわけ、現代の民主主義理論）を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	140分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	100分
2	民主主義とは何か	民主主義とは何かについて、政治理論と現実政治とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義とは何かについて、政治理論と現実政治とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	古典的民主主義と現代民主主義	古典的民主主義と現代民主主義との共通点や相違点について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典的民主主義と現代民主主義との共通点や相違点について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	C. ペイトマンの参加民主主義理論	C. ペイトマンの参加民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、C. ペイトマンの参加民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	A. ダウンズの民主主義の経済理論	A. ダウンズの民主主義の経済理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、A. ダウンズの民主主義の経済理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	R. A. ダールの多元的民主主義理論	R. A. ダールの多元的民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、R. A. ダールの多元的民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論	A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論	A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	T. ロウイの依法的民主主義理論	T. ロウイの依法的民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、T. ロウイの依法的民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	J. フィシュキンの討論民主主義理論	J. フィシュキンの討論民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、J. フィシュキンの討論民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レイブルックの抽選型代議制民主主義理論	レイブルックの抽選型代議制民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レイブルックの抽選型代議制民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	120分
14	P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論	P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論 について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論 について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	今学期のまとめ	今学期のまとめとして、D. ランシマンの民主主義理論，とりわけ、『民主主義の壊れ方』の議論に言及しながら，現代の民主主義理論の鳥観図について，説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，現代の民主主義理論の鳥観図について，説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）	100分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	140分

科目名	現代政治理論	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
社会や政治に対して関心を持ち、積極的に授業に参加する姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小テストを兼ねたリアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中に数回行うリアクション・ペーパーを兼ねた小テストにより、到達目標①に関する知識や政治・社会に対する考察力を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③についての専門的な知識の習熟度や理解度を評価する。	30	30	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問や意見表明などを基準に、特に③に関係する積極的な学習態度が身についているかを評価する。			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを使用して行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共哲学入門	齋藤純一・谷澤正嗣	NHK出版	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る。（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンスおよび導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる	
	事前学修	シラバスを確認して、講義内容全体を概観する。	100分
	事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。	140分
2	政治哲学の歴史①		近代の代表的哲学者であるイマヌエル・カントの政治哲学を学ぶことを通して、近代の政治哲学の基本構造について学修する。カントの哲学は近代的な思考の体系化を実現したものであり、その功績と課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、イマヌエル・カントの哲学における人間像とそれを基礎とする彼の政治哲学を把握した上で、近代の政治哲学の基本構造について説明することができる。	
	事前学修	教科書第2章「公共哲学の歴史I」を読んで、イマヌエル・カントの政治哲学について概観する。	120分
	事後学修	近代哲学や近代の政治哲学における人間観の特質とその問題点について考える。	120分
3	政治哲学の歴史②		ハンナ・アレントとユルゲン・ハーバーマスの政治哲学を学ぶことを通して、現代の政治哲学における重視点のひとつである公共性とその議論に至った問題意識について学修する。特に、彼女らの理論が現代のデモクラシーに関する反省と活性化を目指したものであることに留意しながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハンナ・アレントの政治哲学とユルゲン・ハーバーマスの政治哲学がともに課題としている公共性について把握して、現在の政治・社会状況の問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書第3章「公共哲学の歴史II」を読んで、ハンナ・アレントとユルゲン・ハーバーマスの政治哲学について概観する。	120分
	事後学修	現代社会・現代政治において考えるべき公共性について考える。	120分
4	功利主義		現代における倫理学の中核である功利主義について歴史的に把握すると同時に、功利主義やそれに基づく政策論、加えて社会的風潮も含めて、それらに対する批判について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェレミー・ベンサムやジョン・ステュアート・ミルの初期功利主義からピーター・シンガーらの現代功利主義を理解した上で、ジョン・ロールズらによる功利主義批判について説明することができる。	
	事前学修	教科書第4章「功利主義」を読んで、功利主義について概観する。	120分
	事後学修	現代政治において行われている功利主義的な意志決定の問題点について考える。	120分
5	現代リベラリズム		ジョン・ロールズに代表される現代リベラリズムの政治理論について学修する。近代以降の伝統的なリベラリズムと比較しながら、ロールズの政治理論の特徴とその意義について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正義論に代表されるジョン・ロールズの政治哲学と彼のリベラリズム思想について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書第5章「リベラリズムの公共哲学」を読んで、ジョン・ロールズの正義論について概観する。	120分
	事後学修	現代のリベラリズムが問題提起していることは何なのか、現実の社会・政治現象と関連させて考える。	120分
6	リバタリアニズム		ロバート・ノージックに代表されているリバタリアニズムの政治理論について学修する。前回のロールズの政治哲学と比較しながら、ノージックがロールズを批判した理由を考えながら、リバタリアニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ロバート・ノージックの政治哲学について理解した上で、彼の主張した最小国家論の特徴とその問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書第6章「リバタリアニズムの公共哲学」を読み、ロバート・ノージックの政治哲学について概観する。	120分
	事後学修	リバタリアニズムのような政治哲学が登場した時代背景・社会背景について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ケイパビリティ・アプローチ		社会的・国際的な正義や公正を追求する中でアマルティア・センやマーサ・ヌスバウムによって提唱されたケイパビリティ・アプローチについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アマルティア・センの正義論やマーサ・ヌスバウムによるケイパビリティに関する議論を理解した上で、彼女らの政治哲学の目的や意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書第7章「ケイパビリティ・アプローチの公共哲学」を読み、アマルティア・センやマーサ・ヌスバウムの政治哲学について概観する。	120分
	事後学修	従来型のリベラリズムの政治哲学とケイパビリティ・アプローチに基づいた政治哲学の間の違いについて考える。	120分
8	平等の政治理論		運の平等主義といった現代の政治哲学における平等をめぐる政治理論について学修する。リベラリズムの自己決定論に基づく自己責任論に対するオルタナティブとして提起されている運の平等主義について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、運の平等主義や関係論的平等主義といった平等に関する議論を把握した上で、そのような議論が行われるようになった理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書第8章「平等論と公共哲学」を読み、平等に関する議論を概観する。	120分
	事後学修	社会主義のような従来型の平等に関する議論と現代の平等に関する議論の違いについて考える。	120分
9	社会保障の政治理論		社会保障を支える政治思想や社会的連帯を支える理念について学修する。その際、社会保障に対して行われたさまざまな批判を踏まえた上で、それでもなお社会保障が求められる意味や意義について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会保障の思想的性格とそれを支える理念、そして社会的連帯をめぐる思想的議論について理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書第9章「社会保障の公共哲学」を読み、社会保障を支える政治哲学について概観する。	120分
	事後学修	社会保障が現代社会を維持するにあたって必要である理由について考える。	120分
10	デモクラシーをめぐる政治理論①		古代から近代に至るデモクラシーの歴史をたどりながらデモクラシーの基本概念を把握した上で、現代のデモクラシーの問題点と、それを活性化させるための方策として提起されている熟議デモクラシーの可能性とその限界について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代のリベラル・デモクラシーの特徴やその基本理念について理解した上で、その活性化のために求められた熟議デモクラシーの意義とその問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書第10章「デモクラシーの公共哲学I」を読み、リベラル・デモクラシーが成立した経緯について概観する。	120分
	事後学修	リベラル・デモクラシーに対して熟議デモクラシーが提唱されている理由について考える。	120分
11	デモクラシーをめぐる政治理論②		ポピュリズムに代表される現代デモクラシーの問題点や、デモクラシーの抜本的な性格変容を通してその改善を企図するロトクラシーなどの試みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、デモクラシーの失敗にも見えるポピュリズムについて理解した上で、伝統的なデモクラシーのラディカルな変化を求めるロトクラシーなどの試みについて説明することができる。	
	事前学修	教科書第11章「デモクラシーの公共哲学II」を読み、ポピュリズムの問題点について把握する。	120分
	事後学修	ポピュリズムの持つプラスの面とマイナスの面の両方について考える。	120分
12	フェミニズム		政治理論・政治哲学としてのフェミニズムの政治理論について学修する。フェミニズムはリベラリズムの思想的系譜に位置しながら、リベラリズムを批判しているため、そのような両義的な性格に留意しながら、フェミニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フェミニズムの思想的概要を理解した上で、ジェンダーの概念や家父長制の問題点などについて説明することができる。	
	事前学修	教科書第12章「フェミニズムの公共哲学」を読み、その思想的概要について把握する。	120分
	事後学修	フェミニズムがなぜ近代社会を批判しているのか、その理由について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケアの倫理	近年注目を集めているケアの倫理とそれに基づくケアの政治学について学修する。特に、フェミニズムの文脈においてケアの倫理が持つ性格や特徴について学修する。その上で、ジョアン・トロントによって提唱されているケアの倫理に基づく政治理論についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ケアの倫理の概要を把握した上で、ジョアン・トロントらによって提唱されているケアの政治学の理念やその目標について説明することができる。	
	事前学修	教科書第12章「フェミニズムの公共哲学」を読み、ケアの倫理について概観する。	120分
	事後学修	リベラリズムとケアの倫理・ケアの政治学の思想的違いについて考える。	120分
14	国際社会をめぐる政治理論	国際社会における正義をめぐる政治理論について学修する。特に、分配的正義をめぐる諸理論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会における正義、特に分配的正義の問題について理解した上で、国際社会における公共圏構築に関する構想について説明することができる。	
	事前学修	教科書第13章「国際社会における公共哲学」を読み、国際社会における正義の問題について概観する。	120分
	事後学修	現代の国際社会における現実の事象を念頭に置きながら、国際社会における正義のあり方について考える。	120分
15	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	100分
	事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	140分

科目名	現代政治理論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
特にないが、できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	リアクション・ペーパーにより、到達目標③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休憩時。事前の連絡は必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	授業の設計や成績評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、現代政治理論（とりわけ、現代の民主主義理論）を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の全体像について理解し整理すること。	120分
2	分析枠組の概要	現代政治学で用いられている主要な方法論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、どのような方法論が存在するか識別することができる。	
	事前学修	参考書の該当箇所を精読し、各々の方法論の特徴を考えておくこと。	120分
	事後学修	参考文献に当たり、授業内容を掘り下げること。	120分
3	現代政治学の展開	伝統的政治学と現代政治学の相違点について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、行動論革命の趨勢について認識できる。	
	事前学修	参考書の該当箇所を精読し、新しいアプローチの意味を考えておくこと。	120分
	事後学修	参考文献に当たり、授業内容を掘り下げること。	120分
4	因果関係と因果推論	因果推論の構造について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、因果的推論の概要を把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、「因果関係」が何か考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある「因果関係」を探してみること。	120分
5	「説明」の枠組	因果関係を示す「説明」の要件について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、因果関係を示す「説明」の前提条件について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、「説明」の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、「説明」しようとしてみること。	120分
6	事例研究の概要	事例研究の分類と手法について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、事例研究の分類と手法について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、事例研究の意味について考えておくこと	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、事例研究の手法を用いて「説明」しようとしてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事例研究の実例	選挙に関連して重要な事例研究を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、事例研究の重要性について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、事例研究の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事例研究を探してみること。	120分
8	経験的・帰納的手法の概要	経験的・帰納的手法が成立する要件について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、経験的・帰納的手法の前提条件について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、経験的・帰納的手法の意味について考えておくこと	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、経験的・帰納的手法を用いて「説明」しようとしてみること。	120分
9	経験的・帰納的手法の実例	選挙に関連して経験的・帰納的手法を用いた研究事例を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、経験的・帰納的手法の前提条件について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、経験的・帰納的手法の意味について考えておくこと	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、経験的・帰納的手法を用いて「説明」しようとしてみること。	120分
10	実験研究の概要と事例	選挙に関連する実験手続を用いた研究事例を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、実験手続の概要について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、実験手続の特徴について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、実験手続を用いて「説明」しようとしてみること。	120分
11	合理的・演繹的手法の概要	経験的・帰納的手法と対比しつつ合理的・演繹的手法の概要について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、合理的・演繹的手法の前提条件について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、合理的・演繹的手法の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を探し、合理的・演繹的手法を用いて「説明」しようとしてみること。	120分
12	合理的・演繹的手法の実例	選挙に関連して合理的・演繹的手法を用いた研究事例を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、事例研究の重要性について把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、事例研究の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事例研究を探してみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「政治理論」の様々な再解釈	これまでに示した方法論を踏まえたうえで、方法論間の相互補完性がみられる研究事例を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、方法論間を相互に結び付けて把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、各方法論の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を多角的にみてみること。	120分
14	方法論の相互補完性	これまでに示した方法論を踏まえたうえで、方法論間の相互補完性がみられる研究事例を紹介・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、方法論間を相互に結び付けて把握することができる。	
	事前学修	参考文献の該当箇所を精読し、各方法論の意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、身近にある事象を多角的にみてみること。	120分
15	政治研究は価値中立的でありうるか	授業内試験により履修者の理解度をはかる。その後出題の意図等の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関係で、授業で示された内容を具体的に記述・説明できる。	
	事前学修	これまでの授業内容を把握しておくこと。	120分
	事後学修	解説をふまえつつ自分の回答の妥当性について考察しておくこと。	120分

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
対面で実施。教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】				1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】					1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】					1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正に解釈でき、説明できる。【知識】				1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】										1	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	途中で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	12	12	12	12	12	15				90
討論・発表等												
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	13	13	13	13	14	18				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁、竹下俊郎	NHK BOOKS	2018年	教科書	必携
</						

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。		
	事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。		150分
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
2	現代社会とメディアの関係		現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
	この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。		180分
	事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。		60分
3	現代メディアの利用と環境		ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
	この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。		180分
	事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。		60分
4	各業界 新聞①		第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
	この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる		
	事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。		180分
	事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。		60分
5	各業界 新聞②		第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
	この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。		90分
	事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。		150分
6	メディアの大衆化以前		映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
	この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。		90分
	事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	マスコミュニケーションの成立と近代①		前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
	この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達してきたことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。		
	事後学修	前回提出のレポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。		
8	マスコミュにケーションの成立と近代②		前回の世界各国でのマスコミの成立状況を受けて、アメリカと日本の新聞の日刊紙の成立状況についてその過程を学ぶ。	
	この回の到達目標	マスコミの成立条件を受けて、アメリカと日本の新聞の成立、ジャーナリズムの初期の姿を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	アメリカでのイエロージャーナリズムとは何か、調べ、何故、センセーショナルリズムが起きるか考察する。		
	事後学修	今のアメリカ、日本の新聞や、雑誌、TV、webジャーナリズムは、マスコミ成立時と比べてどうか。比較考察してみる。		
9	各業界 放送① 制度・構造・歴史		テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P.75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
	この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。		
	事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。		
10	各業界 放送② WEB、動画配信と放送		テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P.75～130	
	この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。		
	事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）		
11	各業界 TVニュース小史 放送③		テレビニュースの発達を、機器の発展とともに研究する。フィルムからビデオへ、地上波から衛星へ、アナログからデジタルへ、インターネットとSNS。	
	この回の到達目標	テレビニュースの発達について、機器の発展とともに特に速報性を中心に変わってきた状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	現在のテレビニュースを視聴する。その際、出来るだけ、どのような素材、どのような方法（中継、ビデオ構成、スタジオ原稿、フリップなどのスタジオ展開）で放送しているか注意して観る。		
	事後学修	テレビニュース小史を学び、改めてテレビニュースを見、デジタル新聞や動画ニュース等と比較してみて問題点を復習する。		
12	各業界 出版と広告 業界の概要		教科書P.131～出版、P.169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
	この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P.131～出版、P.169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。		
	事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	各業界エンタテインメント		映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）		
	事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめる。		150分
	事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。		90分
14	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。		2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。その後もあふれる「フェイクニュース」と対処しきれない「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
	この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥⑦関連し理解できる。		
	事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういうことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。		140分
	事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。		100分
15	授業内レポート及び解説		これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
	この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連し理解でき、説明できる。		
	事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。		180分
	事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。		60分

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。ニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。ジャーナリズムに関する理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面授業で実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2						
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2					
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。										2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験（もしくは授業内試験）を実施する。ジャーナリズムを政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論などの観点から考察できるかどうかを確認する。その際、いわゆる「ジャーナリズム批判」とは異なる視座を持てているかどうかを特に確認する。	45	45									90
小テスト等	なし											
レポート等												
討論・発表等	終盤の授業でリアクションペーパーを用いた疑似的なディスカッションを行う。			5								5
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			5								5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。リアクションペーパーについては、次の授業でリプライします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Handbook of Journalism Studies (2nd Edition)	Karin Wahl-Jorgensen and Thomas Hanitzsch	Routledge	2020	その他	任意
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版		世界思想社	2018	その他	任意
現代ジャーナリズム辞典		三省堂	2014	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み（12:10～13:00） 場所は法学部本館9階（研究室または応接スペース）。事前にメールで連絡すること。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	ニュースとニュース価値①	事件・出来事を伝えるコミュニケーションの特徴	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「ニュース価値」の概念について理解することができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	ニュースとニュース価値②	事件・出来事を伝えるコミュニケーションが受ける影響	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、コミュニケーションとしてのジャーナリズムを規定する社会的要因について理解することができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	ジャーナリズム規範論の基礎①	ジャーナリズムに関する規範的議論の系譜をシーバートらの『プレスに関する四理論』をもとに解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムに関する規範論の先行研究をおさえ、独りよがりの道徳論・規範論を展開することの問題を理解すること。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	ジャーナリズムに関する規範論の基礎②	『プレスに関する四理論』以外のジャーナリズムに関する規範論を解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、コミュニケーションに関する規範論を踏まえてジャーナリズムの規範論を展開できるようにすること。	
	事前学修	事前に配布した資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	事実の選択と編集①（フレーム概念）	事件・現実に関する情報の取捨選択についてフレーム概念を中心に解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事実の選択と編集②（物語概念）	事件・現実に関する情報の取捨選択について物語概念を中心に解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
8	事実の選択と編集③（物語概念のつづき）	事件・現実に関する情報の取捨選択について物語概念を中心に解説し、メディア・コミュニケーションの一種としてジャーナリズムをとくにオーディエンスの視点でとらえる。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
9	規範的ジャーナリズム論からの視座①（オルタナティブ・ジャーナリズム）	マス・メディア以外によるジャーナリズム活動の諸問題について考察する。称揚されがちな「オルタナティブ」なジャーナリズムの問題についても検討する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、現代のメディア環境におけるジャーナリズム活動の問題点について理解できる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
10	規範的ジャーナリズム論からの視座②（ジェンダーとメディア）	ジャーナリズムにおけるジェンダーの問題について、送り手側の問題だけではなく、コンテンツや受け手の側の観点から説明する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、現代のジャーナリズムにおけるジェンダーの問題について理解できる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
11	規範的ジャーナリズム論からの視座③（番犬ジャーナリズムのあり方）	「番犬（watch dog）」として理解されることの多いジャーナリズムについて、その意義と問題について説明する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムを「番犬」としてとらえるジャーナリズム論を一定程度相対化できること。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
12	ジャーナリズムと表現の自由	現代社会において制度的に保障されているジャーナリズムの自由について説明する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、報道に関係する基本的な法理を理解をすることができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会理論としてのジャーナリズム論	社会現象としてのジャーナリズムを社会理論を用いて説明する。特に「メディア化」「ジャーナリズム化」について説明する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムに関する社会理論について初歩的な理解をすることができる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
14	「ジャーナリズム論」の問題点	今までの授業（ジャーナリズム論としての新聞学）を概説しながら、現代において可視化が進む「ジャーナリズム批判」の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
15	総括	授業のまとめを行う（場合によっては授業内試験を実施することもある）	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	総括に向けた準備。	190分
	事後学修	自己採点。	50分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、授業内レポート等による振り返りを実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポート等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内レポートなどの能動的学修にどれだけ積極的に取り組んでいるかを基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroomの諸機能を通じて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入：憲法の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論 主義の展開	(1)：憲法とは何か／立憲主義の展開 憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論 憲法総論	(2)：日本憲法史／日本国 明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
5	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145 を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
6	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，政教分離原則違反の違憲審査基準（目的・効果基準）を説明し，履修者が政教分離原則の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準を説明している教科書pp. 145-150を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	精神的自由権（3）：政教分離をめぐる判例		政教分離をめぐる判例（津地鎮祭訴訟，殉職自衛官合祀訴訟，箕面忠魂碑訴訟，愛媛玉串料訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，政教分離をめぐる主要判例に表れた法理を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，政教分離原則違反の違憲審査基準に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離をめぐる判例を説明している教科書pp. 150-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1		150分
8	精神的自由権（4）：学問の自由／内心の自由の総復習		学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明し，履修者が学問の自由の特質を理解できるようにする。また，これまでに学修した内心の自由全般に関する総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明している教科書pp. 161-165を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，学問の自由の意義・判例をノートにまとめ，これまでの学修を振り返って，内心の自由の特質を説明できるようにする。		120分
9	精神的自由権（5）：表現の自由		表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し，履修者が表現の自由の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明している教科書pp. 165-170を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
10	精神的自由権（6）：表現の自由をめぐる判例／知る権利		表現の自由をめぐる判例（チャタレイ事件，夕刊和歌山時事事件，月刊ペン事件，沖縄返還阻止闘争事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，表現の自由との関連で，知る権利・アクセス権の意義を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，表現の自由に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由をめぐる主要判例，知る権利・アクセス権の意義を説明している教科書pp. 170-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1		150分
11	精神的自由権（7）：取材・報道の自由／検閲の禁止		取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例（博多駅テレビフィルム提出命令事件，外務省秘密漏洩事件など），検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例（税関検査事件，家永訴訟，北方ジャーナル事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例，検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，取材・報道の自由，検閲の禁止を説明している教科書pp. 177-186を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，取材・報道の自由の意義・判例，検閲の禁止の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
12	精神的自由権（8）：集会・結社の自由／通信の秘密		集会・結社の自由，通信の秘密の意義及びそれをめぐる判例（皇居前広場事件，泉佐野市民会館事件，東京都公安条例事件，エンタープライズ寄港阻止闘争事件，宗教団体アレフ観察処分取消し請求事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，集会・結社の自由の意義・判例，通信の秘密の意義・判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，集会・結社の自由を説明している教科書pp. 187-200を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，集会・結社の自由，通信の秘密の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済的自由権（1）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	経済的自由権（2）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
15	経済的自由権（3）：その他の経済的自由権／経済的自由権の復習	居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明したのち、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明している教科書pp. 220-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権をめぐる論点をノートにまとめ、その意義や重要判例の概要・争点・判旨、関連する法制度の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	身体的自由権（1）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
17	身体的自由権（2）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-241を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
18	身体的自由権（3）：刑事被告人の権利	刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 241-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	参政権：参政権と選挙制度		参政権の意義及びそれをめぐる判例（外国人地方参政権訴訟，在外選挙権制限違憲訴訟など），選挙の基本原則，選挙制度の概要，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を説明し，履修者が参政権の特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義及びそれをめぐる判例，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権の意義並びにそれをめぐる問題及び判例を説明している教科書pp. 320-326，124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，「法の下の平等」原則との関連において，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ，参政権の特質を説明できるようにする。	120分
20	受益権		受益権（裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権，請願権）の意義を説明し，履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，受益権の意義をノートにまとめ，受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
21	社会権（1）：生存権の法的性格		社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し，履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，社会権の意義，生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ，生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分
22	社会権（2）：生存権をめぐる判例／教育を受ける権利		生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，教育を受ける権利の内容を説明し，履修者がその特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解し，説明することができる。また，到達目標①②③に関連して，教育を受ける権利の内容及び特質を理解し，説明することができる。	
	事前学修	生存権をめぐる判例，教育を受ける権利を説明している教科書pp. 272-280を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，生存権をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，教育を受ける権利の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
23	社会権（3）：労働者の権利		勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を説明し，履修者が労働者の権利の特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，勤労の権利，労働基本権を説明している教科書pp. 280-290を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の意義・内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例をノートにまとめ，労働者の権利の特質を説明できるようにする。	120分
24	包括的人権（1）：法の下での平等		「平等」思想の歴史，「平等」のさまざまな意味，憲法14条の意義を説明し，履修者が「法の下での平等」原則の特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，憲法14条の「法の下での平等」原則の特質を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，「法の下での平等」の意義及び特質を説明している教科書pp. 107-114を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，「法の下での平等」原則の意義，憲法14条の差別禁止自由列举の意義をノートにまとめ，「法の下での平等」原則の特質を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準／判		平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例（性別による差別に関する判例、尊属殺・尊属傷害致死重罰規定に関する 判例、非嫡出子法定相続分規定に関する判例）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理 解できるようにする。	
	この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下 の平等」をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明する ことができる。また、到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等原則違反の違憲審査基準及び「法の下 の平等」をめ ぐる判例を説明している教科書pp. 115-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、平等原則違反の違憲審査基準を説明できるように する。また、「法の下 の平等」をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。 また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分	
26	包括的人権（3）：人権総論と「法の下 の平等」の総復習／個人の尊重と 幸福追求権		人権総論で扱った内容と「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等のワークを行 う。また、個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
	この回の 到達目標	到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等を行い、意見を述べる ことができる。また、到達目標①②に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義を理解し、説明する ことができる。★2		
	事前学修	前回授業の後に課せられた小テストの解答として提出した自分の答案を印刷またはメモして授業に持参する。また、 個人の尊重と幸福追求権を説明している教科書pp. 77-82を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメ モしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
27	包括的人権（4）：プライバシー権・ 肖像権		「新しい人権」の類型を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、一般的人格権 （プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者が事件の概要・争 点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する 判例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、プライバシー権、肖像権を説明している教科書pp. 83-93 を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、「新しい人権」の類型をノートにまとめ、これを説明できるようにする。また、一般的人格権（プ ライバシー権、肖像権）の意義・判例をノートにまとめ、一般的人格権の特質を説明できるようにする。	120分	
28	包括的人権（5）：名誉権・環境（人 格）権／自己決定権		名誉権・環境（人格）権の意義・判例を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を説明し、履修者が自己決定権の特質を理 解できるようにする。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉権・環境（人格）権の意義・判例、自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を理 解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、名誉権・環境（人格）権、自己決定権を説明している教 科書pp. 93-106を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、名誉権・環境（人格）権の意義・判例をノートにまとめ、その趣旨を説明できるようにする。また、自己決定権の意義・判例をノートにまとめ、その特質を説明できるようにする。	120分	
29	補遺：「憲法をまもる」ことの意味		政治的立場のいかに問わず、すべての国民が知っておくべき「憲法 の特質」のことを、「憲法 をまもる」というキーワードを手がかりに説明し、履修者が憲法論議の前提を理解できるように する。	
	この回の 到達目標	到達目標④に関連して、「憲法 の特質」をはじめ、憲法論議の前提についての理解をもとに、憲法問題について自分の意見 を述べる ことができる。		
	事前学修	事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、憲法論議の前提を共有したうえで、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★2	150分	
30	総括：「憲法Ⅰ（人権）」の総復習		本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解で きるようにする。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深める ことができる。		
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、基本的人権の意義や重要判例を理解 し、説明できるようにする。	150分	

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。					1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。							1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法〔第2版〕	斎藤一久・堀口悟郎 編	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。ishizuka.sotaro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	講義の進め方および憲法の概要について説明する。	
	この回の到達目標	講義の趣旨、進め方、評価方法などをよく理解する。また、憲法の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業概要および趣旨をよく理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、憲法の概要についてノートにまとめる。	120分
2	人権総論(1)	憲法上の権利の構造（主体・名宛人・内容）と基本的な論じ方（保護領域・制限・正当化）について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
3	人権総論(2)	憲法上の権利の主体について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
4	人権総論(3)	憲法上の権利の私人間効力について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
5	表現の自由(1)	表現の自由のうち、その保護領域や規制類型について学ぶ。	
	この回の到達目標	表現の自由の保護領域や規制類型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	表現の自由の保護領域や規制類型について振り返り、ノートにまとめる。	120分
6	表現の自由(2)	表現の自由のうち、規制の正当化、審査基準論や二重の基準について学ぶ。	
	この回の到達目標	表現に対する規制の正当化、審査基準論や二重の基準について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	表現に対する規制の正当化、審査基準論や二重の基準について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	表現の自由(3)		表現の自由のうち、各表現類型ごとの考え方について学ぶ。
	この回の到達目標	各表現類型ごとの考え方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	各表現類型ごとの考え方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
8	比較：人権保障1（アメリカ）		米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカにおける人権にまつわる憲法史についてお話いただく。
	この回の到達目標	アメリカにおける人権保障について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカにおける人権保障について振り返り、ノートにまとめる。	120分
9	比較：人権保障2（アメリカ）		米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカにおける人権判例についてお話いただく。
	この回の到達目標	アメリカにおける人権判例について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカにおける人権判例について振り返り、ノートにまとめる。	120分
10	集会の自由		集会の自由を素材に、パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について学ぶ。
	この回の到達目標	パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について振り返り、ノートにまとめる。	120分
11	信教の自由		信教の自由について学ぶ。
	この回の到達目標	信教の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	信教の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
12	政教分離		政教分離について学ぶ。
	この回の到達目標	政教分離について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	政教分離について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学問の自由	学問の自由について学ぶ。	
	この回の到達目標	学問の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	学問の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
14	大学の自治	大学の自治について学ぶ。	
	この回の到達目標	大学の自治について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	大学の自治について振り返り、ノートにまとめる。	120分
15	職業の自由 (1)	職業の自由のうち、保護領域やその制限について学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の保護領域やその制限について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	職業の自由の保護領域やその制限について振り返り、ノートにまとめる。	120分
16	職業の自由 (2)	職業の自由のうち、制限の正当化について、小売市場判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の制限の正当化について理解し、小売市場判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	小売市場判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
17	職業の自由 (3)	職業の自由のうち、制限の正当化について、薬事法違憲判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の制限の正当化について理解し、薬事法違憲判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	薬事法判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
18	財産権 (1)	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について学ぶ。	
	この回の到達目標	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	財産権(2)	財産権の基本的考え方について、森林法判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	財産権の基本的考え方について理解し、森林法判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	森林法判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
20	生存権(1)	生存権の具体化について学ぶ。	
	この回の到達目標	生存権の具体化について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	生存権の具体化について振り返り、ノートにまとめる。	120分
21	生存権(2)	生存権について、朝日訴訟と堀木訴訟を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	生存権について理解し、朝日訴訟と堀木訴訟に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	朝日訴訟と堀木訴訟について振り返り、ノートにまとめる。	120分
22	環境権	環境権について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	環境権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
23	教育を受ける権利(1)	教育を受ける権利について学ぶ。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	教育を受ける権利について振り返り、ノートにまとめる。	120分
24	教育を受ける権利(2)	教育を受ける権利について、旭川学テ訴訟を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利について理解し、旭川学テ訴訟に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	旭川学テ訴訟について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	勤労権・勤労の義務	勤労権・勤労の義務について学ぶ。	
	この回の到達目標	勤労権・勤労の義務について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	勤労権・勤労の義務について振り返り、ノートにまとめる。	120分
26	労働基本権(1)	労働基本権について学ぶ。	
	この回の到達目標	労働基本権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	労働基本権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
27	労働基本権(2)	労働基本権について、特に公務員の労働基本権について学ぶ。	
	この回の到達目標	公務員の労働基本権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	公務員の労働基本権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
28	適正手続	適正手続について学ぶ。	
	この回の到達目標	適正手続について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	適正手続について振り返り、ノートにまとめる。	120分
29	授業内試験とコメント	授業内で筆記試験を行い(60分)、それについてコメントを行う(30分)。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、適切に問題を発見し、解答することができる。コメントに基づき、試験の解答についてポイントを把握することができる。	
	事前学修	筆記試験のために、これまでの授業を復習する。	120分
	事後学修	試験の解答のポイントを踏まえ、自らの解答をレビューする。	120分
30	まとめ・振り返り	憲法上の権利について、統治の考え方と比較して、授業全体を振り返る。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の考え方について理解し、統治の考え方と比較して説明することができる。	
	事前学修	作成したノート全体を振り返る。	120分
	事後学修	憲法上の権利の考えを、統治の考え方と比較して振り返り、ノートにまとめる。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
当該年度は、教科書は使用せず、レジュメ（パワーポイントファイル）を事前に配信し、そのレジュメをもとに授業を行います。なお、レポート作成のための参考書、あるいは各種試験対策のための推奨参考書については、講義中随時指示します。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出席確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全講義中5回程度、チェックテストを実施します。 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図ります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①③についての基礎知識が身についているかを授業内課題により評価する。	25		25								50
レポート等	到達目標②④についての能力が身についているかをレポートにより評価する。		25		25							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10～13:00（事前予約 saito.koki55@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	授業案内：憲法（人権）の学び方		具体的な授業日程、成績評価方法、受講上の注意、予習・復習のやりかた、条文の参照方法、判例・学説の学び方など、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。「権利」とはなにか説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し、説明することができる。また、「権利」という用語を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本国憲法の前文、第1条～40条を通読し、概要を把握しておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを確認し、今後の学修計画を立てる。		120分
2	憲法総論（1）：憲法とはなにか		憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合を説明し、履修者が憲法とはなにかを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史/日本国憲法の基本原理		十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の憲法の歴史を理解する。とくに、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
4	人権総論：人権の類型/人権の享有主体/人権の私人間効力		基本的人権の意義・類型、人権の享有主体、人権の私人間効力を説明し、履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的人権の意義・類型、人権の享有主体、人権の私人間効力を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、基本的人権の意義・類型、人権の享有主体、人権の私人間効力について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、基本的人権の意義・類型、人権の享有主体、人権の私人間効力をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
5	精神的自由権（1）：思想・良心の自由/信教の自由		思想及び良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、思想及び良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、思想及び良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、思想及び良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
6	精神的自由権（2）：政教分離原則		制度的保障としての政教分離の意義、政教分離原則の内容、政教分離原則違反の違憲審査基準（「目的・効果」基準）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政教分離の意義、政教分離原則の内容、政教分離原則違反の違憲審査基準（「目的・効果」基準）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、政教分離の意義、政教分離原則の内容、政教分離原則違反の違憲審査基準（「目的・効果」基準）について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、政教分離の意義、政教分離原則の内容、政教分離原則違反の違憲審査基準（「目的・効果」基準）をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	精神的自由権（3）：学問の自由/内心の自由の総復習	学問の自由の意義、大学の自治を理解し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、これまでに学修した内心の自由全般に関する総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問の自由の意義、大学の自治を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、学問の自由の意義、大学の自治について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、学問の自由の意義、大学の自治をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	精神的自由権（4）：表現の自由	表現の自由の意義（優越的地位）、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現の自由の意義（優越的地位）、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、表現の自由の意義（優越的地位）、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、表現の自由の意義（優越的地位）、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
9	精神的自由権（5）：表現の自由をめぐる判例	表現の自由をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現の自由をめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、表現の自由をめぐる判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、表現の自由をめぐる判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	精神的自由（6）：取材・報道の自由/集会・結社の自由	取材・報道の自由の意義・判例、集会・結社の自由の意義・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取材・報道の自由の意義・判例、集会・結社の自由の意義・判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、取材・報道の自由の意義・判例、集会・結社の自由の意義・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、取材・報道の自由の意義・判例、集会・結社の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	精神的自由権（7）：総復習	これまでに学修した精神的自由権について、日本国憲法の条文解釈（第19条、第20条、第21条、第23条）と判例を整理して総復習を行う。精神的自由権の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、精神的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例を理解し、説明することができる。精神的自由権の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、精神的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例、精神的自由権の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、精神的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例、精神的自由権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	経済的自由権（1）：職業選択の自由	経済的自由権の意義、職業選択の自由（営業の自由）の意義・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済的自由権の意義、職業選択の自由（営業の自由）の意義・判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、経済的自由権の意義、職業選択の自由（営業の自由）の意義・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由（営業の自由）の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済的自由権（2）：財産権	財産権の意義、財産権に関する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の意義、財産権に関する判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権の意義、財産権に関する判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、財産権の意義、財産権に関する判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	経済的自由権（3）：居住・移転の自由/経済的自由権の総復習	居住・移転の自由の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、居住・移転の自由の意義を理解し、説明することができる。また、経済的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、居住・移転の自由の意義について概要を把握しておく。また、経済的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例を確認しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、居住・移転の自由の意義、経済的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
15	身体的自由権（1）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	身体的自由権（2）：被疑者の権利	被疑者の権利の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被疑者の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
17	身体的自由権（3）：刑事被告人の権利	刑事被告人の権利の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、刑事被告人の権利の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
18	参政権（1）：参政権の意義	参政権の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、参政権の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	参政権（2）：参政権をめぐる判例	参政権をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、参政権をめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権をめぐる判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権をめぐる判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
20	受益権	受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
21	社会権（1）：生存権の法的性格	生存権の法的性格に関する学説を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格に関する学説を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権の法的性格に関する学説について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、生存権の法的性格に関する学説をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
22	社会権（2）：生存権をめぐる判例	生存権をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生存権をめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、生存権をめぐる判例に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権をめぐる判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
23	社会権（3）：教育を受ける権利/労働者の権利	教育を受ける権利の内容、勤労の権利・義務、労働基本権の内容を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育を受ける権利の内容、勤労の権利・義務、労働基本権の内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、教育を受ける権利の内容、勤労の権利・義務、労働基本権の内容について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、教育を受ける権利の内容、勤労の権利・義務、労働基本権の内容をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
24	包括的人権（1）：法の下の平等	「法の下の平等」原則の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「法の下の平等」の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「法の下の平等」の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、「法の下の平等」の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準	平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、平等原則違反の違憲審査基準を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、平等原則違反の違憲審査基準に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等原則違反の違憲審査基準について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
26	包括的人権（3）：個人の尊重と幸福追求権	個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、個人の尊重と幸福追求権の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	包括的人権（4）新しい人権	「新しい人権」の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「新しい人権」の意義及びそれに関連する判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「新しい人権」の意義及びそれに関連する判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、「新しい人権」の意義及びそれに関連する判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
28	世界の憲法の学び方	世界の憲法の学び方について説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、世界の憲法の学び方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、世界の憲法の学び方について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、世界の憲法の学び方をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
29	権利を行使することの意味	権利を行使することの意味を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利を行使することの意味を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、権利を行使することの意味について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、権利を行使することの意味をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
30	日本国憲法の将来	日本国憲法のあゆみを振り返り、日本国憲法の将来について説明し、履修者が自分の意見を持てるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、日本国憲法の将来について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを完成させる。日本国憲法の将来について自分の意見をまとめる。総復習を行い、基本的人権の意義や重要判例を理解し、説明できるようにする。	180分

科目名	憲法Ⅰ（人権）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそって対面講義形式で行います。講義で使用するプリントはGoogle Classroomを通じて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがあります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で整理できる能力が身についているかを定期試験により評価します。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価します。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 II 人権 [2版]	新井誠ほか	日本評論社	2021	教科書	必携
判例プラクティス憲法 [3版]	宍戸常寿ほか	信山社	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと	120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること	120分
2	国家とは・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布の資料を読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	人権総論（1）	人権保障の歴史と意義・分類を学習する。歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書1-13ページを読んでくること。「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人権の性質と政府との関係をまとめること。	120分
4	人権総論（2）	人権の享有主体について学習する。憲法上の権利を行使することのできる者について考察する。特に外国人の国内での処遇と人権保障の問題を深く考えていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書20-31ページを読んでくること。人権保障の対象となる人は誰なのかについて考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「人権の享有主体」「平等（人種・外国人）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
5	人権総論（3）	憲法規定の私人間効力について学習する。統治権を行使する政府を生み出す法としての憲法の性質を再確認したうえで、政府の権限行使に制約を課す規定である人権規定の役割を理解し、その間隙に生じる問題への具体的解決方法を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法規定の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書37-41ページを読んでくること。憲法というものの性質と、人権保障が及ぶ場面はどのようなものであるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「私人間効力」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	人権総論（4）	人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題について学習する。無制約な人権は保障されないという常識的な感覚について、それを根拠づける考えを考察する。さらには一般国民とは別に、政府と特別な法律関係を結ぶ人々に対する特異な取り扱いについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書13-16、32-36ページを読んでくること。「自由」と「勝手気まま」とは同じなのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「福祉国家主義」という憲法原則の内容と「内在的制約」の内容をまとめること。また、参考書で「公務員の政治活動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	人権総論（5）		人権を制約する法令の憲法適合性を判断する手法を学習する。公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書16-19ページを読んでくること。ある法律が憲法に違反するということを、どのように決定するのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」の内容をまとめること。		120分
8	法の下での平等		平等原則の意義と内容について学習する。「等しい」とは何を意味するのか、どのような平等ならば憲法上許されるのかなどについての理解を深める。さらに、「合理的区別」による人の異なる取り扱いはいかなる認められるのか、どのような事例に認められているのかなどを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等原則の意義と内容についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書62-80、226-232ページを読んでくること。何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「平等（家族関係）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
9	幸福追求権		「新しい人権」としての幸福追求権を学習する。主に人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」としての人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書42-54ページを読んでくること。電子機器の発展とプライバシー保護との関係を考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「幸福追求権の意味」「プライバシーの権利」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
10	環境権・自己決定権		「新しい人権」である環境権・自己決定権について学習する。環境権の意義と内容について、さらに自己決定権の保障範囲について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」である環境権・自己決定権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書54-61ページを読んでくること。自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「環境権・人格権」「自己決定権・人格権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
11	思想・良心の自由		内心の自由の内容と保障範囲について学習する。内面の精神活動に対する制約を検討することを通して、内心の自由が保障する中核的内容の理解に努める。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内心の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書81-92ページを読んでくること。国旗国歌に起立斉唱しなければならないのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「思想・良心の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
12	信教の自由・政教分離		宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係について学習する。内心の自由の内容と保障範囲、宗教への配慮の問題、宗教的色彩を帯びる政府活動の許容性などについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書93-110ページを読んでくること。風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人々を政府が追悼するのは許されるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「信教の自由」「政教分離原則」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学問の自由・大学の自治	学問研究の自由の内容と保障範囲について学習する。人間の欲望と倫理的制約の関係を念頭に置きつつ、学問研究の自由の限界について考察する。加えて、研究の場である大学の独自性について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問研究の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書175-181ページを読んでくること。人間の複製に関する研究は許されるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「学問の自由と大学の自治」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
14	表現の自由 (1)	表現の自由の意義について学習する。表現の自由に認められる「優越的地位」について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由の意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書111-118, 122-130ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、表現の自由は一般に他の人権よりも「優越的地位」にあるといわれるが、その理由を考えてくること。	120分
15	表現の自由 (2)	表現内容規制について学習する。名誉毀損表現、性表現、ヘイトスピーチなどを扱う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書131-145ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「扇動的言論」「わいせつ表現」「名誉毀損」「営利的言論」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
16	表現の自由 (3)	表現内容中立規制について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容中立規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書145-150ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「ビラ貼り・ビラ配布」「選挙運動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
17	表現の自由 (4)	検閲・知る権利について学習する。表現活動に不可欠な情報の入手はいかに確保できるのかについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、検閲・知る権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書118-121ページを読んでくること。(2時間)	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「情報公開・知る権利」「事前抑制・検閲の禁止」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分
18	表現の自由 (5)	報道の自由、通信の秘密について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、報道の自由、通信の秘密についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書152-157, 162-166ページを読んでくること。(2時間)	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「報道の自由・取材源秘匿権」「通信の秘密」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	集会・結社の自由	集会・結社の自由について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書157-162, 167-175ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「集会・結社の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
20	人身の自由	人身の自由について学習する。日本国憲法下における徴兵制の可否についても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人身の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書213-214ページを読んでくること。（2時間）	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「意に反する苦役」と「強制役務」の違いをまとめること。（2時間）	120分
21	法定（適正）手続の保障	法定（適正）手続の保障について学習する。行政手続にも求められる適正さについても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定（適正）手続の保障についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書215-220ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「適正手続の原則」「行政手続」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
22	刑事手続の保障（1）	被疑者の権利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被疑者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書220-222ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「令状主義」「住居の不可侵」「弁護士依頼権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
23	刑事手続の保障（2）	被告人の権利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被告人の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書223-225ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「残虐な刑罰の禁止」「遡及処罰・事後立法の禁止」「一事不再理・二重の危険」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
24	職業選択の自由	居住移転の自由および職業・営業の自由について学習する。営利活動に対する憲法の姿勢について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、居住移転の自由および職業・営業の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書182-197ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「職業活動の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	財産権	財産権について学習する。憲法が「財産権の不可侵」を規定する意義を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書198-212ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「財産権」「正当な補償」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
26	社会権全般・生存権	福祉国家主義の意義と生存権の内容について学習する。私的自治の内容を確認したうえで、政府による弱者保護の実態を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、福祉国家主義の意義と生存権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書232-238ページを読んでくること。社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「生存権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
27	教育を受ける権利・労働権	教育を受ける権利と労働者の権利を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育を受ける権利と労働者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書238-2248ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「教育を受ける権利」「団結権・団体交渉権」「争議権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
28	国務請求権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書249-252ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「裁判を受ける権利」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
29	参政権	投票権、立候補の自由について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、投票権、立候補の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書253-265ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
30	まとめ	この講義で修得した内容を振り返る。	
	この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
	事前学修	今までの授業内容をまとめておくこと。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第3版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2020年	教科書	必携
憲法判例集（第12版）	渋谷秀樹（編著）	有斐閣	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30研究室にて事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	憲法とは何か		憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法の内容」1を読んでおくこと。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	基本的人権の歴史		基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	基本的人権の主体		基本的人権の主体ないし人的保護領域に関する議論を、国民、外国人、法人を例としながら論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法の基本的人権の享有主体に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	基本的人権の制限と正当化		基本的人権の制限とその正当化にかかわる議論を、公共の福祉論、比較衡量論、二重の基準論、比例原則審査論などを紹介しながら論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的人権の制限と正当化に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、公共の福祉論および違憲審査基準論に関する議論を整理したノートを作成する。	150分
5	私人間効力論		私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	個人の尊重・幸福追求権（1）幸福追求権の保護領域		日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権に関する人格的利益説と一般的自由説との対立、さらにはより現代的な解釈としての「違憲の強制を受けない権利」という理解を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個人の尊重・幸福追求権（2）新しい人権		日本国憲法には明文で保障されていない権利をどのように承認するかについての議論を、前回講義で説明した幸福追求権の保護領域との関係で論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不文の権利の保障根拠、具体的な保障内容について、判例の展開を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」3を読んでおく。	90分	
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、不文の権利の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分	
8	法の下での平等（1）平等概念		絶対的/相対的平等，形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平等概念がもつ意義と問題点、14条後段列举事由の意味が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1を読んでおく。	90分	
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法上の平等概念および14条後段列举事由について整理したノートを作成する。	150分	
9	法の下での平等（2）平等原則と違憲審査		前回講義で説明した14条後段列举事由の解釈を踏まえて、平等原則違反が問題となった具体的事例を挙げながら、平等原則違反に関する違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」2～3を読んでおく。	90分	
	事後学修	平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	150分	
10	思想・良心の自由（1）思想・良心の自由の保護領域		日本国憲法19条が保障する思想・良心の自由の意義および保護領域に関する議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従来の思想・良心の自由に関する解釈論を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分	
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する従来の議論を判例の態度も含めて整理したノートを作成する。	150分	
11	思想・良心の自由（2）思想・良心の自由と行為強制		一連の君が代・日の丸裁判で新たに議論されるようになった「望まぬ行為の強制」と思想・良心の自由への間接的制約の問題を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分	
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分	
12	信教の自由と政教分離原則（1）信教の自由		日本国憲法20条が保障する信教の自由の意義や保護領域、制約事例について、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由の保護領域や制約事例を、エホバの証人剣道実技拒否事件、オウム真理教解散命令事件などを含めて、具体的に説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分	
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	信教の自由と政教分離原則（2）政教分離原則		日本国憲法20条および89条が定める政教分離原則について、意義および内容を論じるとともに政教分離原則違反が問題とされた事例を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政教分離原則の内容とこれに対する違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。		150分
14	学問の自由		日本国憲法23条が定める学問の自由および大学の自治について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問の自由の意義および大学の自治の内容について、主要判例を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、学問の自由および大学の自治について、判例を含めて整理したノートを作成する。		150分
15	表現の自由（1）表現の自由の保護領域		日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域について、古典的表現の自由から知る権利を含めた現代的な表現の自由への展開を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由の現代的な保護領域について整理したノートを作成する。		150分
16	表現の自由（2）表現の自由の制約と正当化		表現の自由に対する多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由に対する制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		150分
17	集会・結社の自由		日本国憲法21条が保障する集会・結社の自由について、保護領域、制約の正当化を中心に、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の意義とともに、泉佐野市民会館事件、広島市暴走族条例事件などの事案を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」5・6を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由の意義と内容および制約事例について整理したノートを作成する。		150分
18	職業の自由（1）職業の自由の保護領域		日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由の保護領域について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	職業の自由（2）職業の自由の制約と正当化	制約態様や規制目的による正当化論証の切り分け論も踏まえて、職業の自由に対する制約事例を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、薬事法違憲判決、小売市場判決、酒税法事件などの主要判例について、そこでの判示内容も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
20	財産権（1）財産権の保護領域と立法者による内容形成	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性を中心に論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の特殊性やそれが顕著にあらわれた判例である森林法違憲判決について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ森林法違憲判決での最高裁の判断を整理したノートを作成する。	150分
21	財産権（2）財産権制約と正当化	財産権に対する制約類型（公用収用を含む）を踏まえて、それぞれの類型における違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を、判例の立場も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
22	身体の自由（1）適正手続保障	日本国憲法31条が定める刑事手続に関する原則規定の解釈のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適正手続保障が何を意味するのか、それはどこまでの射程をもつのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、適正手続保障の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分
23	身体の自由（2）身体の自由各論	日本国憲法33条以下で定められた具体的な刑事手続に関する権利保障を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分
24	参政権（1）選挙権の意義と射程	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	参政権（2）議員定数不均衡	選挙の正当性・有効性を阻害する原因となる議員定数の不均衡という問題について、判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議員定数不均衡問題の所在とこれに対する裁判所判断の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」3・4および第7章「平等権」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、議員定数不均衡訴訟について整理したノートを作成する。	150分
26	受益権・国務請求権	請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権について、その制度依存的な特徴を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権・国務請求権の意義や内容を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「受益権」1～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけそれぞれの権利の具体化を担う法令との関係性を整理したノートを作成する。	150分
27	生存権（1）生存権の法的性格	日本国憲法25条が定める生存権について、その法的性格をめぐる議論を紹介し、生存権保障の特殊性を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格をめぐる議論を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権の法的性格を整理したノートを作成する。	150分
28	生存権（2）生存権訴訟の行方	堀木・朝日の両訴訟をはじめとして、近年の老齢加算廃止違憲訴訟などの展開を踏まえて、生存権訴訟の可能性について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、立法・行政裁量論と裁量統制手法について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、裁量統制手法としての判断過程統制について整理したノートを作成する。	150分
29	教育を受ける権利・労働三権	教育を受ける権利と労働三権について、具体的な事例を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育を受ける権利と労働基本権の保障内容を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」3～5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、教育を受ける権利、労働基本権について整理したノートを作成する。	150分
30	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法を持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東 裕	嵯峨野書院	2015年	教科書	必携
憲法についての素朴な疑問	東 裕	一藝社	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
事前連絡の上、適宜対応する。メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	近代立憲主義と人権概念の成立	近代立憲主義の意義、人権概念、イギリス権利章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、夜警国家等。 ＊教科書：第1講の4，5，第5講，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	近代立憲主義の成立と内容、および当時の人権概念について説明できること。	
	事前学修	教科書「第1講」の4，「第5講」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
2	現代立憲主義と人権概念の変容	現代立憲主義の意義、社会権、社会国家（福祉国家）、行政国家、人権保障の国際化。 ＊教科書：第1講，第5講，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	現代立憲主義の内容と人権の変容をもたらした背景について説明できる。	
	事前学修	教科書「第1講の5」，「第5講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
3	人権の享有主体（1）	人権の享有主体―（1）日本国民 ＊教科書：第6講，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	日本国民のみに保障される憲法上の人権について説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の1」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
4	人権の享有主体（2）	人権の享有主体―（2）外国人 ＊教科書：第6講，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	外国人にも保障される人権について説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の1」を読むこと。特に、判例に注意すること。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
5	人権の享有主体（3）	人権の享有主体―（3）法人 ＊教科書第6講，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	法人にも保障される人権について説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の1」を読むこと。特に、判例に注意すること。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
6	人権と「公共の福祉」	「公共の福祉」に関する学説、「公共の福祉」に関する通説の再検討 ＊教科書「第6講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「公共の福祉」とは何かを学説を整理して説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	幸福追求権と新しい人権（1）		幸福追求権と新しい人権―（1）名誉権・プライバシー権 ＊教科書「第6講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	「新しい人権」とは何かを説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の3」。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
8	幸福追求権と新しい人権（2）		幸福追求権と新しい人権―（2）自己決定権・環境権 ＊教科書「第6講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	自己決定権にはどのような権利・自由があるかを説明できる。	
	事前学修	教科書「第6講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
9	法の下の平等（1）		法の下の平等―（1）憲法14条1項の解釈 ＊教科書「第7講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	憲法14条1項の解釈を説明できる。	
	事前学修	教科書「第7講の2のⅠ，Ⅱ」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
10	法の下の平等（2）		法の下の平等―（2）尊属殺重罰規定違憲判決 ＊教科書「第7講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	尊属殺重罰規定違憲判決（最大判昭48・4・4）の違憲理由を説明できる。	
	事前学修	教科書「第7講の2のⅢ」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
11	法の下の平等（3）		法の下の平等―（3）議員定数不均衡訴訟、投票価値の平等、事情判決、違憲状態等。 ＊教科書「第7講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	最近の議員定数不均衡訴訟について簡潔に説明できる。	
	事前学修	教科書「第7講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
12	精神的自由権（1）		精神的自由権―（1）思想・良心の自由 ＊教科書「第8講」，および授業時にレジュメ配布。
	この回の到達目標	思想・良心の自由が問題となった判例について説明できる。	
	事前学修	教科書「第8講の2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	精神的自由権（2）	精神的自由権―（2）信教の自由の意義・内容・限界、政教分離の原則 ＊教科書「第8講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「目的効果基準」について説明できる。	
	事前学修	教科書「第8講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
14	精神的自由権（3）	精神的自由権―（3）表現の自由、報道の自由、取材活動の自由、二重の基準論、事前抑制、検閲、表現内容規制・表現内容中立規制。 ＊教科書「第9章」（pp.95-106），および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	表現の自由の優越的地位について説明できる。	
	事前学修	教科書「第9章」（pp.95-106）を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
15	精神的自由権(4)	精神的自由権―（4）集会・結社の自由、パブリック・フォーラム ＊教科書「第8講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「集会の自由」の限界について説明できる。	
	事前学修	＊教科書「第8講の4」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
16	精神的自由（5）	精神的自由権―（5）学問の自由 ＊教科書「第8講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「学問の自由」が問題となった事件について説明できる。	
	事前学修	＊教科書「第8講の7」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
17	経済的自由権(1)	経済的自由権―（1）居住・移転の自由 ＊教科書「第9講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「居住・移転の自由」の経済的自由の側面・精神的自由の側面について説明できる。	
	事前学修	教科書「第9講の2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
18	経済的自由権(2)	経済的自由権―（2）職業選択の自由 ＊教科書「第9講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	消極的・警察的規制と積極的・政策的規制について説明できる。	
	事前学修	教科書「第9講の4」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	人身の自由(1)	人身の自由―(1) 適正手続きの保障。罪刑法定主義。 *教科書「第10講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「罪刑法定主義」について説明できる。	
	事前学修	教科書「第10講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
20	人身の自由(2)	人身の自由―(2) 被疑者・被告人の権利 *教科書「第10講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	被疑者・被告人にはどのような権利が保障されているか説明できる。	
	事前学修	教科書「第10講の4」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
21	参政権(1)	参政権―(1) 選挙権、被選挙権、選挙の基本原則、選挙制度。 *教科書「第11講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	選挙権・被選挙権の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書「第11講の2，3，4」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
22	参政権(2)	参政権―(2) 直接民主制の種類、最高裁判所裁判官の国民審査、住民投票、憲法改正の国民投票。 *教科書「第11講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	日本国憲法が定める直接民主制の諸制度について説明できる。	
	事前学修	教科書「第11講の5」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
23	国務請求権(1)	国務請求権―(1) 国務請求権の意義、請願権、請願の手続。 *教科書「第12講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	請願権の意義と請願の手続について説明できる。	
	事前学修	教科書「第12講の2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
24	国務請求権(2)	国務請求権―(2) 裁判を受ける権利、裁判を受ける権利の法的性格、裁判を受ける権利の範囲。 *教科書「第12講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	裁判を受ける権利の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書「第12講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	国務請求権(3)	国務請求権―(3) 国家賠償請求権、刑事補償請求権。 ＊教科書「第12講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	国家賠償請求権と刑事補償請求権の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書「第12講の4，5」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
26	社会権(1)	社会権―(1) 生存権、プログラム規定説、抽象的権利説、具体的権利説。 ＊教科書「第13講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	生存権の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書「第13講の2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
27	社会権(2)	社会権―(2) 教育を受ける権利、教育の機会均等、義務教育の無償、学習権、教育権。 ＊教科書「第13講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	「教育を受ける権利」の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書「第13講の3」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
28	社会権(3)	社会権―(3) 労働基本権、団結権、団体交渉権、団体行動権、公務員の労働基本権。 ＊教科書「第13講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	公務員の労働基本権について説明できる。	
	事前学修	教科書「第13講の5」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
29	最高法規	基本的人権と憲法の最高法規性，憲法尊重擁護義務。 ＊教科書「第20講」，および授業時にレジュメ配布。	
	この回の到達目標	憲法の実質的最高法規性について説明できる。	
	事前学修	教科書「第20講の1，2」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）	180分
30	授業の総まとめ	全講義の中の特に重要な点について、要点を示しながら説明する。	
	この回の到達目標	全講義の中で疑問点を明確に把握できる。	
	事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。（1時間）	60分
	事後学修	全授業で扱った部分をすべて確認すること。（3時間）	180分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
この科目は、法律学科1・2年生の受講を想定している。この科目については、4年生の受講は推奨しない（同一名称の授業科目は複数開講されている）。

【授業方法】		
日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を解説するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。補習・復習用のオンライン教材を用意しているので、ぜひ活用されたい（ただし、この科目は、いわゆるオンライン授業ではなく、対面授業であるので、毎回、講堂で講義を受講することが必要である）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	憲法問題についての小グループ討議	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内課題により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	小グループ討議に積極的に参加できたかどうかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを、評価する。	2	3	2	3							10
授業への参画度												
その他(注意事項)	成績評価は学年に関わらず、公平に行う（4年生であっても、一切、特別な対応を行わない）。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	28	27	18							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法判例百選I〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
『憲法判例百選II〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
『憲法』	柳瀬昇	新世社	2023	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 専門的知見の提供・審議会等での委員の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容	重要な憲法訴訟において私見が参照されたり、メディアからの求めに応じて専門的知見を示したことや、地方公共団体の審議会等の委員としての実務経験等を、講義を通じて伝えていくこととする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	憲法の概念		はじめに、この講義の進め方について説明する。次に、法学の全体像と憲法学の位置を確認したうえで、憲法の概念を確定する。	
	この回の到達目標	「形式的意味の憲法」及び「実質的意味の憲法」の意味及びその異同について理解している。「立憲的意味の憲法」の意義について、「固有の意味の憲法」と対比して理解している。		
	事前学修	「法学I」等の講義で学習した法の意義（目的）、法の存在形式（法源）、法の分類等について復習したうえで、憲法がどのように位置づけられるかを考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の概念について整理する。また、六法を参照しながら、形式的意味の憲法ではないが実質的意味の憲法といえるものをいくつか挙げ、なぜそういえるのかを説明する。		120分
2	立憲主義の基本原則（1）		まず、憲法規範の特質について説明する。次に、憲法の目的について検討したうえで、日本国憲法の基本的原理を確認するとともに、そのうち、人権尊重主義について検討する。	
	この回の到達目標	授権規範性や制限規範性などといった憲法規範の特質について理解している。日本国憲法の基本的原理を挙げ、その相互関係について説明することができる。基本的人権の概念について、標準的な定義を述べることができる。基本的人権の主な類型化論について、それぞれの類型の意義と特色を説明することができる。		
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～憲法総論」を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法規範の特質、日本国憲法の基本原則及び人権尊重主義について整理する。		120分
3	立憲主義の基本原則（2）		日本国憲法の基本的原理のうち、国民主権主義及び平和主義について検討する。	
	この回の到達目標	近代立憲主義の意義及びその歴史的展開について理解している。国民主権の正統性の契機と権力的契機の2つの側面について説明することができる。日本国憲法9条1項にいう「国際紛争を解決する手段」としての戦争及び2項にいう「前項の目的」をめぐる学説対立について理解している。自衛隊の合憲性について、政府見解を説明することができる。		
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～日本国憲法の基本原則」を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国民主権主義及び平和主義について整理する。		120分
4	憲法と人権の限界（1）		人権の享有主体性について論ずる。特に、法人の人権及び外国人の人権（享有主体性、出入国の自由、社会権）について検討する。	
	この回の到達目標	人権の享有主体性という問題の意味を理解している。法人及び外国人の人権享有主体性について、性質説の立場を理解したうえで、保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	八幡製鉄事件最高裁判決（I-8）及びマククリーン事件最高裁判決（I-1）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、外国人の出国の自由事件最高裁判決（I-A1）及び森川キャサリーン事件最高裁判決（I-A2）の説明を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法人の人権及び外国人の人権について整理する。余力があれば、指紋押捺制度事件最高裁判決（I-2）及び塩見訴訟最高裁判決（I-5）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。		120分
5	憲法と人権の限界（2）		まず、人権の享有主体性に関して、特に、外国人の人権（参政権）及び未成年者の人権について検討する。次に、特別な法律関係における人権保障の意義について説明する。	
	この回の到達目標	外国人に選挙権・被選挙権・公務就任権が保障されるか、判例を踏まえて、考察することができる。未成年者の基本的人権が、成人の場合とは異なる特別の制約に服するか否かについて理解している。伝統的な特別権力関係の理論を理解したうえで、日本国憲法下においても、それが妥当するか否かについて、考察することができる。		
	事前学修	定住外国人選挙権訴訟最高裁判決（I-3）及び東京都管理職選考受験訴訟最高裁判決（I-4）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、外国人の人権、未成年者の人権及び特別な法律関係における人権保障の意義について整理する。		120分
6	憲法と人権の限界（3）		一般職公務員の人権及び刑事施設収容者の人権について検討する。	
	この回の到達目標	一般職公務員の人権が特別の制約に服するか否かについて、政治的行為の自由や労働基本権が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。刑事施設被収容者の人権が特別の制約に服するか否かについて、喫煙の自由や図書閲覧の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	猿払事件最高裁判決（I-12）、全農林警職法事件最高裁判決（II-141）及びよど号ハイジャック記事抹消事件最高裁判決（I-14）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、被拘禁者の喫煙の禁止事件最高裁判決（I-A4）の説明を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一般職公務員の人権及び刑事施設被収容者の人権について整理する。堀越事件最高裁判決（I-13）の事実の概要及び判旨等を読んだうえで、猿払事件最高裁判決とどのように事案が異なるのかを確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	憲法と人権の限界（4）	憲法の私人間効力について検討する。	
	この回の到達目標	人権の私人間効力という問題の意味を理解している。私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	三菱樹脂事件最高裁判決（I-9）、昭和女子大事件最高裁判決（I-10）及び日産自動車事件最高裁判決（I-11）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の私人間効力について整理する。日産自動車事件最高裁判決（I-11）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
8	憲法判例の読み方	電子データベースや図書館資料を用いて、判決文や評釈・調査官解説等を探す方法を解説する。憲法判例の読み方について、具体的な事件に係る判決文を用いて実習する。判決文を読むコツを伝授するとともに、判例の学び方についても解説する。	
	この回の到達目標	電子データベース等で判決原文を探すことができる。憲法判断がなされた最高裁判決の主な構造を理解し、重要な部分とそうでない部分とを見分けて読み解くことができる。判例を理解するための資料（評釈や調査官解説等）を収集することができる。	
	事前学修	学内のネットワーク環境から、法学部図書館のウェブサイト（ http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/ ）にアクセスし、「電子ジャーナル・データベース」からリンクされているLEX/DBインターネットでマクリーン事件最高裁判決（最大判昭和53年10月4日）を検索し、その書誌情報から最高裁判所民事判例集（民集32巻7号1223頁）の上告審の判決文をPDFでダウンロードしたうえで、読んでおく（今回の講義では、上告理由の部分は使用しないので、印刷する際には1235頁まででよい）。	120分
	事後学修	他の裁判例などに関しても、電子データベース等で判決原文を探して、重要な部分を見分けて読み解いてみる。また、法学部図書館に行き、調査官解説や判例評釈等を探してみる。	120分
9	幸福追求権（1）	幸福追求権の意義について検討したうえで、新しい人権のうち、プライバシーの権利について考察する。	
	この回の到達目標	日本国憲法13条の法的性格について説明することができる。同条後段の定める幸福追求権に関して、その権利としての性格、保障の範囲、これを母体とし根拠づけられる具体的な権利について、説明することができる。プライバシーの権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	京都府学連事件最高裁判決（I-16）、前科照会事件最高裁判決（I-17）及び「宴のあと」事件東京地裁判決（I-60）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、幸福追求権の意義及びプライバシーの権利について整理する。余力があれば、早稲田大学江沢民講演会参加者名簿事件最高裁判決（I-18）及び住基ネット訴訟最高裁判決（I-19）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
10	幸福追求権（2）	新しい人権のうち、自己決定権及び環境権について検討する。	
	この回の到達目標	幸福追求権を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、特に、自己決定権及び環境権の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	東京学館高校バイク自主退学事件最高裁判決（I-22）、エホバの証人輸血拒否事件最高裁判決（I-23）及び大阪空港訴訟最高裁判決（I-24）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自己決定権及び環境権について整理する。余力があれば、熊本丸刈り校則訴訟第一審判決（I-A5）の説明を読んでおく。	120分
11	法の下の平等（1）	法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について検討する。	
	この回の到達目標	平等の観念について、自由の観念と対比して理解している。形式的平等と実質的平等、絶対的平等と相対的平等、法適用の平等と法内容の平等について、それらの異同を説明することができる。日本国憲法14条1項後段に掲げられた5つの事由の意義について理解している。積極的差別是正措置の意義について、考察することができる。	
	事前学修	自分の身のまわりの事柄で、法の下の平等に関する問題をいくつか取り上げたうえで、それが法の下の平等との関係でどのように問題であるのかについて説明しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について整理する。	120分
12	法の下の平等（2）	法の下の平等が争われた最高裁判例について検討する。尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟最高裁判決（最大判昭和48年4月4日刑集27巻3号265頁）を取り上げる。	
	この回の到達目標	日本国憲法14条1項は、事柄の性質に即応した合理的な根拠に基づくものでない限り、差別的な取扱いを禁止する趣旨であるとする判例の見解について説明することができる。どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟最高裁判決（I-25）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、取り扱った最高裁判例について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法の下の平等（3）	法の下の平等が争われた最高裁判例について検討する。国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（最大判平成20年6月4日民集62巻6号1367頁）、非嫡出子相続分規定違憲訴訟最高裁決定（最大決平成25年9月4日民集67巻6号1320頁）、再婚禁止期間規定違憲訴訟最高裁判決（最大判平成27年12月16日民集69巻8号2427頁）及び夫婦同氏制違憲訴訟最高裁判決（最大判平成27年12月16日民集69巻8号2586頁）を取り上げる。	
	この回の到達目標	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定、日本国民の父と外国籍の母との間に出生した後に父から認知された子に対して帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（I-26）、非嫡出子相続分規定違憲訴訟最高裁判決（I-27）、再婚禁止期間規定違憲訴訟最高裁判決（I-28）及び夫婦同氏制違憲訴訟最高裁判決（I-29）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、取り扱った最高裁判例について整理する。余力があれば、東京青年の家事件控訴審判決（I-30）及びサラリーマン税金訴訟最高裁判決（I-31）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
14	憲法問題についての小グループ討議	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、受講者同士で議論を行う。検討するテーマは、法の下の平等に関連して、優先処遇政策のあり方、憲法適合性及び政策的妥当性等についてである。	
	この回の到達目標	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、自分の主張を的確に述べることができる。歴史的に差別されてきた集団に対して、優先的な処遇を与える積極的差別是正措置が、逆差別として、憲法に違反するか否かについて、具体的事例を挙げ、考察することができる。	
	事前学修	事前に、配布資料「課題研究～法の下の平等とアファーマティブ・アクション」を読んだうえで、必要に応じて、図書館等を利用して資料等を自主的に収集し、小グループ討議において自ら主張する趣旨をまとめておく。	120分
	事後学修	小グループ討議での議論を整理したうえで、自己評価シートを作成する。	120分
15	内心の自由（1）	思想・良心の自由及び信教の自由の意義について検討する。	
	この回の到達目標	思想・良心の自由の内容及び範囲について説明することができる。思想・良心の自由の侵害の態様について、具体的事例を挙げて、説明することができる。信教の自由の保障の内容について、信仰の自由、宗教的行為の自由及び宗教的結社の自由などを挙げて、説明することができる。	
	事前学修	謝罪広告事件最高裁判決（I-33）、麹町中学校内申書訴訟（I-34）、起立斉唱拒否事件最高裁判決（I-37）、オウム真理教解散命令事件最高裁判決（I-39）及び加持祈祷事件最高裁判決（I-38）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、思想・良心の自由及び信教の自由について整理する。	120分
16	内心の自由（2）	まず、信教の自由に関して、政教分離の原則について検討する。次に、学問の自由について検討する。	
	この回の到達目標	政教分離の意義及び法的性格について理解している。目的効果基準について説明することができる。どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、考察することができる。学問の自由の保障の内容について説明することができる。大学の自治の意義及び法的性格について理解している。	
	事前学修	津地鎮祭事件最高裁判決（I-42）、愛媛県玉串料訴訟最高裁判決（I-44）、空知太神社訴訟最高裁判決（I-47）及び東大ボロボロ事件最高裁判決（I-86）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、政教分離の原則及び学問の自由について整理する。エホバの証人剣道実技拒否事件最高裁判決（I-41）の事実の概要及び判旨等ならびに日曜授業参観事件第一審判決（I-A6）の説明を読んでおく。	120分
17	表現の自由（1）	表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容（報道の自由）について検討する。	
	この回の到達目標	表現の自由を保障する意義について、人格価値、真理の探究及び民主政などに関連づけて、理解している。「知る権利」及び通信の秘密について理解している。報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	サンケイ新聞事件最高裁判決（I-76）、博多駅テレビフィルム提出命令事件最高裁決定（I-73）、囑託証人尋問証言拒否事件最高裁決定（I-71）及び外務省秘密電文漏洩（西山）事件最高裁判決（I-75）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の価値・射程及び内容（報道の自由）について整理する。余力があれば、レセプト情報公開請求事件最高裁判決（I-79）及び電話傍受事件最高裁決定（I-59）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
18	表現の自由 (2)		表現の自由の内容（放送の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について検討する。
	この回の到達目標	放送の自由に対する規律の基本的なあり方について説明することができる。「わいせつ」の概念を説明することができる。とともに、わいせつ表現の制約が憲法に適合するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。名誉及びプライバシーを侵害する表現の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	法廷メモ（レベタ）訴訟最高裁判決（I-72）、夕刊和歌山時事事件最高裁判決（I-64）、「チャタレイ夫人の恋人」事件最高裁判決（I-51）、岐阜県青少年保護育成条例事件最高裁判決（I-50）、北方ジャーナル事件最高裁判決（I-68）及びあん摩師等法違反事件最高裁判決（I-54）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の内容（放送の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について整理する。余力があれば、NHK受信料違憲訴訟最高裁判決（I-77）、「悪徳の栄え」事件最高裁判決（I-52）、「四畳半襖の下張」事件最高裁判決（I-53）及び月刊ペン事件最高裁判決（I-65）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
19	表現の自由 (3)		まず、日本国憲法21条2項の定める「検閲」の禁止について、1項で保障される表現の自由の一内容としての事前抑制の禁止との対比で検討する。次に、表現の自由の規制立法に対する違憲審査について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法21条2項の定める「検閲」の概念を述べることができる。検閲と表現の事前抑制との関係について説明することができる。検閲等に該当するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解について、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	税関検査事件最高裁判決（I-69）及び第一次家永訴訟最高裁判決（I-88）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、検閲の禁止及び表現の自由の規制立法に対する違憲審査について整理する。特に、二重の基準論について、その論拠を含めて、自分で説明できるようにしておく。余力があれば、ノンフィクション「逆転」事件最高裁判決（I-61）及び「石に泳ぐ魚」事件最高裁判決（I-62）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
20	表現の自由 (4)		まず、集会・結社の自由について解説する。次に、表現の自由に対する規制の類型化を試みようと、表現の自由を規制する漠然不明確ないし過度に広汎な法令の規定の問題点を説明する。
	この回の到達目標	日本国憲法21条1項にいう「集会」及び「結社」の意味について説明することができる。「パブリック・フォーラム」論について説明することができる。集会の自由の保障及び結社の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。表現の自由を規制する法令の規定のあり方について、漠然不明確性と過度の広汎性を説明することができる。	
	事前学修	皇居前広場事件最高裁判決（I-80）、吉祥寺駅構内ビラ配布事件最高裁判決（I-57）、泉佐野市民会館事件最高裁判決（I-81）、新潟県公安条例事件最高裁判決（I-82）及び福岡県青少年保護育成条例事件最高裁判決（II-108）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、集会・結社の自由及び表現の自由を規制する漠然不明確ないし過度に広汎な法令の規定の問題点について整理する。余力があれば、東京都公安条例事件最高裁判決（I-A8）の説明、ならびに三井美唄炭鉱労組事件最高裁判決（II-144）及び広島市暴走族追放条例事件最高裁判決（I-84）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
21	表現の自由 (5)		表現内容規制と表現内容中立規制の区別、その具体的な内容、適合すべき違憲審査基準等について、学説と判例のそれぞれの立場の違いに留意しつつ検討する。
	この回の到達目標	表現の自由を規制する法令の規定のあり方について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。表現内容規制と表現内容中立規制とどのように具体的に区別するか、それぞれが表現の自由にどのような不利益をもたらすか及び両者の合憲性をそれぞれどのように審査すべきかなどに留意しつつ、説明することができる。	
	事前学修	大分県屋外広告物条例事件最高裁判決（I-56）、大阪市屋外広告物条例最高裁判決（I-55）、立川反戦ビラ配布事件最高裁判決（I-58）及び堀越事件最高裁判決（I-13）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由に対するさまざまな規制とそれに適合すべき違憲審査基準について整理する。	120分
22	経済の自由 (1)		まず、公共の福祉の意義について考察する。次に、経済的自由権のうち、居住・移転の自由及び財産権の保障について検討する。
	この回の到達目標	「公共の福祉」規定の法的性格について説明することができる。居住・移転の自由を保障する意義について理解している。財産権の保障の意味について説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかや、日本国憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について理解している。	
	事前学修	帆足計事件最高裁判決（I-105）、森林法事件最高裁判決（I-96）、土地収用法最高裁判決（I-101）、農地改革事件最高裁判決（I-100）及び河川附近地制限令事件最高裁判決（I-102）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、公共の福祉、居住・移転の自由及び財産権の保障について整理する。余力があれば、証券取引法事件最高裁判決（I-97）及び予防接種事故東京地裁判決（I-103）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
23	経済の自由（2）	経済的自由権のうち、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について検討する。	
	この回の到達目標	職業選択の自由の内容について説明することができる。職業選択の自由に対する規制にはさまざまな態様があるということを理解している。職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、説明することができる。職業選択の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	小売商業調整特措法事件最高裁判決（I-91）、薬事法事件最高裁判決（I-92）及び公衆浴場法事件最高裁判決（I-89）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について整理する。余力があれば、白タク営業事件最高裁判決（I-90）、西陣ネクタイ事件最高裁判決（I-93）、酒類販売免許制事件最高裁判決（I-94）及び司法書士資格制事件最高裁判決（I-95）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
24	人身の自由	奴隷的拘束・苦役からの自由及び法定適正手続の保障について検討したうえで、日本国憲法が定める刑事手続上の権利について概観する。また、死刑制度の憲法適合性について議論する。	
	この回の到達目標	日本国憲法18条の定める「奴隷的拘束」等の意味について理解している。31条の定める「法律の定める手続」の意味について、その手続の内容を含めて、説明することができる。33条ないし39条の定める刑事手続上の権利の内容について、おおむね理解している。死刑が憲法上許されるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	成田新法事件最高裁判決（II-109）、川崎民商事件最高裁判決（II-114）、高田事件最高裁判決（II-116）及び死刑制度違憲訴訟最高裁判決（II-115）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、奴隷的拘束の禁止・意に反する苦役からの自由、法定適正手続の保障、日本国憲法の定める刑事手続上の権利及び死刑制度の憲法適合性について整理する。余力があれば、GPS捜査違憲訴訟最高裁判決（II-112）、国税犯則取締法事件最高裁判決（II-119）及び検察官上訴違憲訴訟最高裁判決（II-121）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
25	国家による自由（1）	国務請求権について概観したうえで、社会権のうち、生存権について議論する。	
	この回の到達目標	いわゆる国務請求権に関して、請願権（16条）国家賠償請求権（17条）、裁判を受ける権利（32条）及び刑事補償請求権（40条）の内容について、おおむね理解している。自由権と社会権の内容及び性格について、その異同を説明することができる。生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について説明することができる。	
	事前学修	堀木訴訟最高裁判決（II-132）、朝日訴訟最高裁判決（II-131）及び老齢加算廃止違憲訴訟最高裁判決（II-135）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国務請求権及び生存権について整理する。余力があれば、郵便法免責規定事件最高裁判決（II-128）、総評サラリーマン税金訴訟最高裁判決（II-133）及び学生無年金障害者訴訟最高裁判決（II-134）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
26	国家による自由（2）	社会権のうち、教育を受ける権利及び勤労に関する権利について検討する。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利の意義、主体及び内容について理解している。「教育権」の所在に関する学説の対立について、説明することができる。初等中等教育機関における教師の「教育の自由」について理解している。日本国憲法27条の定める勤労の権利等の内容について理解している。団結権、団体交渉権及び団体行動権の意義、内容及び性格を説明することができる。	
	事前学修	第二次家永訴訟東京地裁判決（I-87）及び旭川学テ事件最高裁判決（II-136）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、教科書無償訴訟最高裁判決（II-A11）の説明を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、教育を受ける権利及び勤労に関する権利について整理する。余力があれば、公務員の労働基本権に関する全通東京中郵事件（II-139）、都教組事件（II-140）、全通名古屋中郵事件（II-142）及び岩教組学テ事件（II-143）の各最高裁判決の意義について、簡潔にまとめておく。	120分
27	国家への自由（1）	参政権について検討する。	
	この回の到達目標	参政権の意義及び内容を理解している。選挙権の性格について理解している。選挙権及びその行使の制約が憲法違反となるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。近代選挙法の基本原則の内容を説明することができる。公職選挙法による選挙運動の制約等について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	公職選挙法違反事件最高裁判決（II-146）、在外国民選挙権訴訟最高裁判決（II-147）、法定外ピラ訴訟最高裁判決（II-156）及び戸別訪問事件最高裁判決（II-158）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、参政権について整理する。余力があれば、衆議院小選挙区比例代表並立制違憲訴訟最高裁判決（II-152）及び参議院非拘束名簿式比例代表制違憲訴訟最高裁判決（II-154）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
28	国家への自由（2）	一票の較差について検討する。	
	この回の到達目標	選挙における投票価値の平等について、議員定数不均衡問題などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	議員定数不均衡訴訟最高裁判決（II-148、II-153、II-150）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一票の較差について整理する。衆議院における議員定数不均衡に係る平成27年の最高裁判決（II-149）及び地方議会における議員定数不均衡に係る最高裁判決（II-151）の意義について、簡潔にまとめておく。	120分
29	人権の制約／具体化と違憲審査	まず、自由権の保障とその制約について整理したうえで、自由権・平等権・新しい人権・参政権への規制に対する違憲審査基準について、改めて確認する。次に、制度依存性の権利等に関する立法裁量の統制のあり方を議論する。そして、新たな論証の形である三段階審査論について紹介する。	
	この回の到達目標	これまでで検討してきた個別の人権の保障について、その権利としての類型に応じて、その制約・具体化への違憲審査という観点から、横断的に理解している。	
	事前学修	第9回から第28回までの内容に関して、特に、人権の制約・具体化への違憲審査に注目しながら（その権利としての類型を意識する）、復習しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、人権の類型ごとの違憲審査基準等の違いについて整理する。	120分
30	総括	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容について総括する。授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	200分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容を改めて整理する。	40分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、授業内レポート等による振り返りを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポート等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内レポート等の能動的学修にどれだけ積極的に取り組んでいるかを基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroomの諸機能を通じて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入：憲法の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論 主義の展開	(1)：憲法とは何か／立憲主義の展開 憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論 憲法総論	(2)：日本憲法史／日本国 明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	国会（2）：国会の活動	会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	国会（3）：国会の権能と衆議院の優越	国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，国会の権能及び衆議院の優越を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越を説明している教科書pp. 306-315を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国会（４）：議院の権能／国会の総復習		議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、これまでに学修した国会に関する総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院の権能を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院の権能を説明している教科書pp. 315-320を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
8	国会（５）：参政権と選挙制度		参政権の意義（「国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制）の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、参政権の意義と各種選挙制度の特徴を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、選挙制度に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権の意義と各種選挙制度の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1		150分
9	国会（６）：議員定数不均衡（一票の較差）問題		議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し、履修者が投票価値の平等の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
10	内閣（１）：行政権と内閣制度／衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題		行政権の意義、内閣制度の変遷を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題の所在を理解し、説明することができる。		
	事前学修	行政権の意義、内閣制度の変遷を説明している教科書pp. 327-330を通読し、また事前に配布するパワーポイント資料を一読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
11	内閣（２）：議院内閣制		権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院内閣制を説明している教科書pp. 330-337を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみをノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
12	内閣（３）：内閣の組織		内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織を説明している教科書pp. 337-341を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	内閣（４）：内閣の権能		内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、内閣の権能に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の権能を説明している教科書pp. 342-348を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分	
14	天皇（１）：象徴天皇制		日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任、皇位継承の原則を明らかにし、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-34を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
15	天皇（２）：国事行為／皇室経済		天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明し、履修者がその意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明している教科書pp. 34-43を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
16	裁判所（１）：司法権		「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論を説明し、履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律上の争訟」の要件、司法権の限界を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の特質を説明している教科書pp. 349-354を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
17	裁判所（２）：司法権の独立		裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を説明し、履修者が司法権の独立を確保する制度の概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の独立を説明している教科書pp. 354-360を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分	
18	裁判所（３）：裁判所の組織・権能		最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則（裁判の公開、裁判員制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、裁判所の組織・権能を説明している教科書pp. 360-370を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	裁判所（４）：違憲審査制		違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法についての考え方を説明し、履修者が違憲審査制の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、違憲審査制を説明している教科書pp. 370-374を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分	
	事後学修	授業を振り返り、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法をノートにまとめ、参政権の特質を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分	
20	財政（１）：財政民主主義／予算		財政民主主義、租税法律主義を説明し、履修者が財政の基本原則を理解できるようにする。また、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を説明し、履修者が予算とは何かを具体的に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財政の基本原則及び予算を説明している教科書pp. 375-384を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、財政の基本原則及び予算制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
21	財政（２）：決算／公金支出等の禁止		決算の意義と手続、財政状況の報告の意義を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義と、とりわけ慈善・教育・博愛事業との関連で表出する論点を説明し、履修者がこの憲法規定の問題点を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、決算の意義と手続、財政状況の報告の意義、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義及び問題点を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、憲法89条に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、決算、財政状況の報告、公金支出等の禁止を説明している教科書pp. 384-389を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分	
	事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分	
22	戦争の放棄（１）：平和主義の理念		憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平和主義の理念を説明している教科書pp. 44-48を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
23	戦争の放棄（２）：憲法9条の解釈		憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法9条を説明している教科書pp. 49-58を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
24	戦争の放棄（３）：自衛隊に関する判例		自衛隊に関する判例（恵庭事件、長沼事件、百里基地訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自衛隊に関する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、自衛隊に関する判例を説明している教科書pp. 58-65を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、自衛隊に関する判例をノートにまとめ、そこに表れた法理を説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	戦争の放棄（４）：安全保障		在日米軍に関する判例（砂川事件），自衛権の意義，日米安保体制と集団的自衛権の問題，戦後日本の国防法制の展開を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，在日米軍に関する判例，自衛権の意義，日米安保体制と集団的自衛権の問題，戦後日本の国防法制の展開を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，日米安保条約と自衛権，国防法制の展開を説明している教科書pp. 65-76を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，在日米軍に関する判例，自衛権の意義，日米安保体制と集団的自衛権の問題，戦後日本の国防法制の展開をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
26	地方自治（１）：国の統治機構の重要項目の確認／地方自治の本旨		国の統治機構（国会，内閣，天皇，裁判所）に関する復習的講義を行う。また，地方自治の本旨，「憲法上の地方公共団体」の意義を説明し，履修者がこれを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，地方自治の本旨，「憲法上の地方公共団体」の意義を理解し，説明することができる。		
	事前学修	これまでに学修した国の統治機構（国会，内閣，天皇，裁判所）の総復習をするとともに，地方自治の本旨を説明している教科書pp. 390-393を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，国の統治機構の重要項目を確認するとともに，地方自治の本旨をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
27	地方自治（２）：地方公共団体の組織		地方公共団体の組織（議会，長，長と議会の関係，住民の直接的な政治参加の制度）を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，地方公共団体の組織（議会，長，長と議会の関係，住民の直接的な政治参加の制度）を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方公共団体の組織を説明している教科書pp. 393-404を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，地方公共団体の組織（議会，長，長と議会の関係，住民の直接的な政治参加の制度）及び諸制度をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
28	地方自治（３）：条例制定権		国の事務と地方公共団体の事務の区分，条例制定権及びそれをめぐる判例（徳島市公安条例事件，奈良県ため池条例事件，大阪市売春取締条例事件など）を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，国の事務と地方公共団体の事務の区分，条例制定権及びそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，条例制定権を説明している教科書pp. 404-410を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，国の事務と地方公共団体の事務の区分，条例制定権及びそれをめぐる判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
29	憲法改正		憲法改正の意義・限界の有無・手続を説明し，履修者がその概要を理解し，意見を述べるができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して，憲法改正の意義を理解したうえで，立憲主義と憲法改正の関係について，自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	憲法改正を説明している教科書pp. 18-22を通読したうえで，疑問点をノートにメモしておく。また，事前配布する資料を一読し，講義内容を概観しておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，憲法論議の前提を共有したうえで，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★3	150分	
30	総括：「憲法Ⅱ（統治機構）」の総復習		本科目で学修した内容のうち，特に重要な事項につき説明を補い，履修者がこれを十分に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本科目で学修した内容のうち，特に重要な事項についての知識と思考力を深めることができる。		
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し，疑問点・不明点をメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，ノートを補完しつつ，定期試験を視野に入れた総復習を行い，統治機構の重要事項を理解し，説明できるようにする。	150分	

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法〔第2版〕	斎藤一久・堀口悟郎編	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。ishizuka.sotaro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	講義の進め方および憲法の概要について説明する。	
	この回の到達目標	講義の趣旨、進め方、評価方法などをよく理解する。また、憲法の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業概要および趣旨をよく理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、憲法の概要についてノートにまとめる。	120分
2	統治総論(1)	統治構造と基本原則（国民主権・権力分立・民主制原理・法治国家原理）について学ぶ。	
	この回の到達目標	統治の規範構造（組織規範・権限規範・国家目標規定）と基本原則（国民主権・権力分立・法治国家原理・民主制原理）の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	統治構造と基本原則（国民主権・権力分立・民主制原理・法治国家原理）の関係について振り返り、ノートにまとめる。	120分
3	統治総論(2)	統治の基本原則のうち、国民主権について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	国民主権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国民主権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
4	統治総論(3)	統治の基本原則のうち、権力分立について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	権力分立について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	権力分立について振り返り、ノートにまとめる。	120分
5	統治総論(4)	統治の基本原則のうち、法治国家原理について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	法治国家原理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	法治国家原理について振り返り、ノートにまとめる。	120分
6	統治総論(5)	統治の基本原則のうち、民主制原理について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	民主制原理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	民主制原理について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	代表制	代表制の性質と仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	代表制の性質と仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	代表制の性質と仕組みについて振り返り、ノートにまとめる。	120分
8	選挙制度	選挙制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	選挙制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	選挙制度の性質と仕組みについて振り返り、ノートにまとめる。	120分
9	比較：統治制度 1（アメリカ）	米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカの統治制度についてお話いただく。	
	この回の到達目標	アメリカの統治制度について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカの統治制度について振り返り、ノートにまとめる。	120分
10	比較：統治制度 2（アメリカ）	米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカにおける司法の役割についてお話いただく。	
	この回の到達目標	アメリカにおける司法の役割について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカにおける司法の役割について振り返り、ノートにまとめる。	120分
11	立法権および国会	立法権および国会について学ぶ。	
	この回の到達目標	立法権および国会について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	立法権および国会について振り返り、ノートにまとめる。	120分
12	国会の組織および活動	国会の組織および活動について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会の組織および活動について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会の組織および活動について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会・議院の権能	国会・議院の権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会・議院の権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会・議院の権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分
14	国会議員の地位と権能	国会議員の地位と権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会議員の地位と権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会議員の地位と権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分
15	行政権と内閣	行政権と内閣について学ぶ。	
	この回の到達目標	行政権と内閣について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	行政権と内閣について振り返り、ノートにまとめる。	120分
16	内閣の組織と権能	内閣の組織と権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	内閣の組織と権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	内閣の組織と権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分
17	衆議院の解散	衆議院の解散について学ぶ。	
	この回の到達目標	衆議院の解散について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	衆議院の解散について振り返り、ノートにまとめる。	120分
18	司法権の観念	司法権の観念について学ぶ。	
	この回の到達目標	司法権の観念について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	司法権の観念について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	司法の独立と裁判制度	司法の独立と裁判制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	司法の独立と裁判制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	司法の独立と裁判制度について振り返り、ノートにまとめる。	120分
20	違憲審査制 (1)	違憲審査制について、海外の法制度も含めて、その類型を学ぶ。	
	この回の到達目標	違憲審査制の類型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	違憲審査制の類型について振り返り、ノートにまとめる。	120分
21	違憲審査制 (2)	日本の違憲審査制について学ぶ。	
	この回の到達目標	日本の違憲審査制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	日本の違憲審査制について振り返り、ノートにまとめる。	120分
22	憲法訴訟の要件	憲法訴訟の要件について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法訴訟の要件について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法訴訟の要件について振り返り、ノートにまとめる。	120分
23	立法不作為と救済方法	立法不作為と救済方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	立法不作為と救済方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	立法不作為と救済方法について振り返り、ノートにまとめる。	120分
24	法令審査	法令審査について学ぶ。	
	この回の到達目標	法令審査について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	法令審査について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	適用審査	適用審査について学ぶ。	
	この回の到達目標	適用審査について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	適用審査について振り返り、ノートにまとめる。	120分
26	財政	財政について学ぶ。	
	この回の到達目標	財政について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	財政について振り返り、ノートにまとめる。	120分
27	地方自治	地方自治について学ぶ。	
	この回の到達目標	地方自治について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	地方自治について振り返り、ノートにまとめる。	120分
28	憲法改正	憲法改正について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法改正について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法改正について振り返り、ノートにまとめる。	120分
29	授業内試験	授業内で筆記試験を行い（60分）、それについてコメントを行う（30分）。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、適切に問題を発見し、解答することができる。コメントに基づき、試験の解答についてポイントを把握することができる。	
	事前学修	筆記試験のために、これまでの授業を復習する。	120分
	事後学修	試験の解答のポイントを踏まえ、自らの解答をレビューする。	120分
30	まとめ・振り返り	統治について、人権の考え方と比較して、授業全体を振り返る。	
	この回の到達目標	統治の考え方について理解し、人権と比較して説明することができる。	
	事前学修	作成したノート全体を振り返る。	120分
	事後学修	統治の考えを、人権と比較して振り返り、ノートにまとめる。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
当該年度は、教科書は使用せず、レジュメ（パワーポイントファイル）を事前に配信し、そのレジュメをもとに授業を行います。なお、レポート作成のための参考書、あるいは各種試験対策のための推奨参考書については、講義中随時指示します。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	全講義中5回程度、チェックテストを実施します。 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図ります。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①③についての基礎知識が身についているかを授業内課題により評価する。	25		25								50
レポート等	到達目標②④についての能力が身についているかをレポートにより評価する。		25		25							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10～13:00（事前予約 saito.koki55@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内：憲法（統治機構）の学び方	具体的な授業日程、成績評価方法、受講上の注意、予習・復習のやりかた、条文の参照方法、判例・学説の学び方など、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。「統治」とはなにか説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し、説明することができる。また、「統治」という用語を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法の前文、第1条～第9条、第41条～第99条を通読し、概要を把握しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを確認し、今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とはなにか	憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合を説明し、履修者が憲法とはなにかを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の展開、人権と統治の融合を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法とはなにか、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法の意味、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史/日本国憲法の基本原理	十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の憲法の歴史を理解する。とくに、成立過程を踏まえた上で明治憲法との比較において日本国憲法の基本原理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法の成立過程・基本原理について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、日本の憲法の歴史を理解した上で、日本国憲法の基本原理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
4	権力分立の意義/国会の地位	権力分立の意義、代表民主制の趣旨、国会の地位（国会は国権の最高機関であること、唯一の立法機関であること）、国会議員の地位を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権力分立の意義、代表民主制の趣旨、国会の地位（国会は国権の最高機関であること、唯一の立法機関であること）、国会議員の地位を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、権力分立の意義、代表民主制の趣旨、国会の地位（国会は国権の最高機関であること、唯一の立法機関であること）、国会議員の地位について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、権力分立の意義、代表民主制の趣旨、国会の地位（国会は国権の最高機関であること、唯一の立法機関であること）、国会議員の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
5	国会の活動	国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
6	国会の権能/議院の権能	国会の権能（法律の議決、予算の議決、条約の承認、内閣総理大臣の指名など）と衆議院の優越を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、その概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国政調査権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会の総復習	これまでに学修した国会（立法権）に関する総復習を行う。国会の地位、国会の活動、国会の権能・議院の権能を理解し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会の地位、国会の活動、国会の権能・議院の権能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、国会の地位、国会の活動、国会の権能・議院の権能について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国会の地位、国会の活動、国会の権能・議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	参政権と選挙制度/憲法と政党	参政権の意義と各種選挙制度の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、憲法と政党の問題について説明し、その概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、参政権の意義と各種選挙制度の特徴、憲法と政党の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、選挙制度と全国民の代表、および憲法と政党の問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権の意義と各種選挙制度の特徴、憲法と政党の問題について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権の意義と各種選挙制度の特徴、憲法と政党の問題をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
9	議員定数不均衡（一票の格差）の問題	議員定数不均衡（一票の格差）の問題に関する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議員定数不均衡（一票の格差）の問題に関する判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議員定数不均衡（一票の格差）の問題に関する判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、議員定数不均衡（一票の格差）の問題に関する判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	行政権と内閣制度	行政権の意義、内閣制度を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の意義、内閣制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、行政権の意義、内閣制度について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、行政権の意義、内閣制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	議院内閣制	議院内閣制の特質を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、首相公選制など制度改革の試案についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院内閣制の特質を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院内閣制の特質について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、議院内閣制の特質をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	内閣の組織・権能	内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	象徴天皇制		象徴天皇制の特質を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、象徴天皇制の特質を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、象徴天皇制の特質について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、象徴天皇制の特質をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
14	天皇の国事行為/皇室経済		天皇の国事行為、皇室経済の原則を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、天皇の国事行為、皇室経済の原則を理解し、説明することができる。また、経済的自由権に関する日本国憲法の条文解釈と判例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、天皇の国事行為、皇室経済の原則について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、天皇の国事行為、皇室経済の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
15	司法権と裁判所		司法権の特質を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の特質を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の特質について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、司法権の特質をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
16	司法権の独立		司法権の独立を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の独立を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の独立について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、司法権の独立をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
17	裁判所の組織・権能		裁判所の組織・権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裁判所の組織・権能を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、裁判所の組織・権能について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、裁判所の組織・権能をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
18	違憲審査制		違憲審査制の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査制の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、違憲審査制の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、違憲審査制の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	財政民主主義と租税法律主義		財政民主主義と租税法律主義の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政民主主義と租税法律主義の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財政民主主義と租税法律主義の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、財政民主主義と租税法律主義の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
20	予算と決算		予算の法的性格、予算の内容、決算の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算の法的性格、予算の内容、決算の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、予算の法的性格、予算の内容、決算の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、予算の法的性格、予算の内容、決算の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
21	平和主義（1）：平和主義の理念		平和主義の理念を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平和主義の理念を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平和主義の理念について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、平和主義の理念をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
22	平和主義（2）：日本国憲法第9条の解釈		日本国憲法第9条の解釈をめぐる学説および政府解釈を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本国憲法第9条の解釈をめぐる学説および政府解釈を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、日本国憲法第9条の解釈をめぐる学説および政府解釈について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、日本国憲法第9条の解釈をめぐる学説および政府解釈をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
23	平和主義（3）：自衛隊に関する判例		自衛隊に関する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自衛隊に関する判例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、自衛隊に関する判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、自衛隊に関する判例をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
24	平和主義（4）：安全保障		自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、集団的自衛権に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	地方自治（1）：地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営		地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
26	地方自治（2）：条例		条例制定権およびそれをめぐる判例を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，条例制定権およびそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら，条例制定権およびそれをめぐる判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，条例制定権およびそれをめぐる判例をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
27	憲法の最高法規性		憲法の最高法規性の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，憲法の最高法規性の意義を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法の最高法規性の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の最高法規性の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
28	世界の憲法の学び方		世界の憲法の学び方について説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，世界の憲法の学び方を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら，世界の憲法の学び方について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，世界の憲法の学び方をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
29	統治機構改革		統治機構改革の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，統治機構改革の意義を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，統治機構改革に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら，統治機構改革の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，統治機構改革の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
30	日本国憲法の将来		日本国憲法のあゆみを振り返り，日本国憲法の将来について説明し，履修者が自分の意見を持てるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して，日本国憲法の将来について自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し，疑問点・不明点をメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを完成させる。日本国憲法の将来について自分の意見をまとめる。総復習を行い，基本的人権の意義や重要判例を理解し，説明できるようにする。		180分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義プリントを配信して対面講義形式で行う。講義で使用するプリントはGoogle Classroomを通じて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。					1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。						1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。							1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で整理できる能力が身についているかを定期試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法Ⅰ 総論・統治 [2版]	新井誠ほか	日本評論社	2021	参考書	必携
判例プラクティス憲法 [3版]	宍戸常寿ほか	信山社	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。		
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと。		120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること。		120分
2	国家とは・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。		120分
3	統治の原理（1）	民主制と政党・選挙の原則について学習する。直接民主制、代表民主制の違いや、日本国憲法の想定する民主制の在り方を考察し、さらに政党の意義および普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票の意義と内容を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民主制と政党・選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、代表民主制において議員と国民の関係はどのようなものであるのかをまとめること。		120分
4	統治の原理（2）	【統治の原理（2）】平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度について学習する。平等選挙の意義の変容の理解に努めるとともに、「一票の格差」の是正がいかに民意の反映に影響を与えるのかを考察する。またこれに関わる最高裁判例を学ぶことを通して、現行の選挙制度の内容を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙の平等」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
5	国会（1）	憲法の規定する国会の地位について学習する。国会議員に対する命令委任が禁止され、表決の自由が認められる理由や、「国権の最高機関」という規定の実質的意味を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法の規定する国会の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。「国民の代表機関」「国権の最高機関」の意味を確認してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、三権分立の観点から国会の地位はどのようなものであるのかをまとめること。		120分
6	国会（2）	【国会（2）】立法権について学習する。国会で制定すべき法律とはどのようなルールであるべきか、そのようなルール制定において、国会はどのような活動をするのかについて考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、立法権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。「唯一の立法機関」「法規概念」の内容を確認してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、法律で規定すべき内容についてまとめること。また立法手続の過程もまとめておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会（3）	国会の組織と活動について学習する。二院制の意義、衆議院と参議院の関係、衆議院の優越の意義と内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の組織と活動についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、二院制の意義と「ねじれ国会」の問題点をまとめること。	120分
8	国会（4）	国会議員の地位について学習する。国会議員が行使する権能および特権の内容を学ぶ。さらに、国会議員の活動を支える組織についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会議員の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。国会議員の権能と特権の内容を確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「国会議員の特権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
9	国会（5）	国会の権能について学習する。立法権以外にも憲法は国会に多様な権能を認めているが、その内容を確認するとともに、法律上国会の権限として認められるものも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。国会に認められる権能の内容を確認すること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正や条約締結における国会の役割をまとめること。	120分
10	国会（6）	議院自律権と国政調査権について学習する。議院自律権に関する憲法規定を確認するとともに、国政調査権の行使における様々な問題を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院自律権と国政調査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。「議院自律権」の内容を確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「議院自律権」「国政調査権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
11	議院内閣制	議院内閣制の本質、日本における議院内閣制について学習する。憲法の想定する衆議院の解散は、政治的実例を許容するのかについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質、日本における議院内閣制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「衆議院の解散」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
12	内閣（1）	内閣の組織について学習する。内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深める。さらには、内閣に求められる責任、内閣の意思決定機関である閣議についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。文民統制の意義について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「内閣総理大臣の職務権限」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内閣（2）	行政権と内閣の権能について学習する。行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。行政権の内容をどのように確定することができるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「委任命令」「行政権による立法」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
14	財政（1）	租税制度について学習する。租税法律主義の意義と内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「租税法律主義」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
15	財政（2）	予算制度と歳出に対する制約を学習する。予算の法的性質、国会における審議、決算などを理解したうえで、歳出に対する制約、とくに公金支出の禁止規定に該当する場合を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制度と歳出に対する制約についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。私立学校への政府補助について、その必要性和問題点を考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「公の財産」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
16	司法権（1）	司法権の意味と範囲について学習する。司法権の概念を確認したうえで、法律上の争訟の内容についての理解に努める。さらに司法権の限界についての様々な論点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の意味と範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「司法権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
17	司法権（2）	裁判所の組織について学習する。日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係や最高裁判所の権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。裁判員制度の意義について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「特別裁判所の禁止」「裁判官」「国民の司法参加」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
18	司法権（3）	司法権の独立について学習する。政治権力から裁判所が独立することの意義を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、司法権の独立の理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。民意と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、司法権の独立の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	違憲審査制	法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律を無効にする裁判所の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「違憲審査権」「憲法判断の方法」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
20	地方自治 (1)	地方自治の本旨について学ぶ。我が国の国家制度に関する憲法規定を確認したうえで、単一国家における地方自治制度の意義を理解する。そして、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国と地方の関係はどのようなものであるのかをまとめること。	120分
21	地方自治 (2)	地方公共団体の組織と住民の権利について学習する。地方公共団体の種類や住民が持つ条例制定・改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地方公共団体の組織と住民の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを確認してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「地方公共団体」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
22	地方自治 (3)	条例制定権など地方公共団体の権限について学習する。自治組織権、自治行政権、自治財政権および条例制定権について考察する。条例に関しては、法律との関係についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条例制定権など地方公共団体の権限についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「条例制定権とその限界」「自治体財政権」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
23	天皇制	憲法上の天皇の地位について学習する。国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。わが国における天皇の存在はなにかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「天皇」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
24	平和主義 (1)	憲法9条と自衛権について学習する。戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深めたうえで、国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法9条と自衛権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。現在の国際社会での自衛権の行使について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「日米安保条約の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	平和主義（2）	【平和主義（2）】自衛隊と国民保護法制について学習する。国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。自衛隊の任務について確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「自衛隊の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
26	国民主権	「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。さらには、国民の要件である「国籍」について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民が主権を持つことの意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国民主権と立憲主義の関係をまとめること。	120分
27	憲法改正の手続、国際法と憲法	憲法改正に関わる諸問題とその手続、さらには憲法および国内法と国際法との関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法改正、憲法および国内法と国際法との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正の手続と、国際法と国内法の関係をまとめること。	120分
28	憲法史	明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、明治憲法の欠陥はなんであったのか、日本国憲法の特徴は何かをまとめること。	120分
29	憲法規範の特徴と法源	憲法というルールに特徴的な性質や、憲法が破棄された時の国民の権利、憲法の内容が移り変わるなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法規範の特徴と法源についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの関連箇所を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法解釈の権威となるものはなにかをまとめること。	120分
30	まとめ	これまで学んだ事項について、改めて深く考える機会を設け、疑問などを教員に尋ねる。	
	この回の到達目標	この講義で修得した憲法の統治機構の内容についての理解を説明できる。	
	事前学修	今までの授業内容をまとめておき、質問できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題に関するグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	20	30	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第3版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2020年	教科書	必携
憲法判例集（第12版）	渋谷秀樹（編著）	有斐閣	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30研究室にて事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法の概念」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念についてまとめたノートを作っておく。	150分
2	日本憲法史（1）大日本帝国憲法	日本初の近代憲法である大日本帝国憲法について、成立史、特色、運用を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大日本帝国憲法の成立、特色、運用の特徴について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、大日本帝国憲法の特徴および運用についてまとめたノートを作っておく。	150分
3	日本憲法史（2）日本国憲法の成立	現行憲法である日本国憲法の成立史、特色について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」2・3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作っておく。	150分
4	「統治と国家組織」総論	国家の統治という作用と憲法との関係性について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法が国家権力に対して、どのような影響および拘束を与えているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国家統治に関する基礎理論を整理したノートを作成しておく。	150分
5	法治国家原理と法の支配	「法治国家」原理と「法の支配」との異同について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ的な「法治国家」概念とイギリス・アメリカ的な「法の支配」とが、どのような背景から生じ、それぞれどのような経緯をたどってきたのかを、内容的異同を含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、法治国家原理と法の支配の異同について整理をしたノートを作っておく。	150分
6	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくにナシオン主権論・プープル主権論について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民主政原理		国民主権原理の具体的な表れである民主政について、歴史的展開も踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の民主政が抱える問題も含めて、直接民主制、間接民主制、選挙制度などの具体的な制度の関連性を説明することができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくに議会制民主主義の特徴について整理したノートを作成する。		150分
8	天皇制		日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。		150分
9	権力分立原理（1）権力分立論の意義		権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味などを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、権力分立の基礎的理解を整理したノートを作成する。		150分
10	権力分立原理（2）現代の権力分立		とりわけ20世紀以降の権力分立における大きな変化を、行政国家現象、司法国家現象などを素材として概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会国家原理や違憲審査制が導入されて以降の国家権力のあり方の変化を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。		150分
11	国会と立法権（1）立法の概念		国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的立法概念の内容と限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。		150分
12	国会と立法権（2）国会・議院・議員の権能		国会、各議院、国会議員の権能について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの組織や議員個人の権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章3～8を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国会・議院・議員の権能について整理をし、とりわけ国政調査権、議員特権に関する判例をまとめたノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内閣と行政権（1）行政権の概念	行政権の概念について、執政権論を参照しながら、現代的な行政権理解を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の理解についての変遷および執政権論の登場によって生じた理解の変化を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ執政権論について整理したノートを作成する。	150分
14	内閣と行政権（2）議院内閣制	内閣の組織に関する制度である議院内閣制の特徴と、日本国憲法上の問題点について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質論、衆議院解散権の所在・限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」2～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ内閣の衆議院解散権についての議論を整理したノートを作成しておく。	150分
15	裁判所と司法権（1）司法権の概念	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、その特殊性を踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	150分
16	裁判所と司法権（2）司法の独立	司法権の対外的独立、裁判官の身分保障などの司法の独立性保障がいかなる意義をもち、かつどのような問題にさらされているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の独立、裁判官の独立、裁判官の良心について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」2～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、司法の独立がなぜ重要なのかについて、対外的独立と対内的な独立とを対比しながら整理したノートを作成する。	150分
17	違憲審査制（1）違憲審査の類型	違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	150分
18	違憲審査制（2）付随的違憲審査制の特徴と審査技法	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制について、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	違憲審査制（3）違憲判決の手法		法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果について，最高裁判例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，違憲判決の類型および判決の効力について，具体例とともに整理したノートを作成する。		150分
20	国家と財政（1）租税法律主義		国家の財政ルールの一つである租税法律主義について，その意義と射程を，判例も参照しながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，租税法律主義について，判例もあわせて整理したノートを作成する。		150分
21	国家と財政（2）予算と公金支出		予算と公金支出に関する憲法上の規律について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算と公金支出に関する憲法上のルールが説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，予算・公金支出のルールについて整理したノートを作成する。		150分
22	地方自治制度（1）地方自治の本旨		地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに，地方自治の本旨（団体自治・住民自治）の意味するところを具体例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。		150分
23	地方自治制度（2）条例		地方自治体があつた条例制定権について，その意義と射程・限界を，具体例を参照しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，とりわけ条例制定権の射程・限界を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，条例制定権をめぐる問題について整理したノートを作成する。		150分
24	憲法保障制度（1）憲法改正		日本国憲法上の憲法改正手続について，改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	憲法保障制度（2）憲法尊重擁護義務	憲法尊重擁護義務の実質的意味について、昨今の緊急事態に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法尊重擁護義務がいかなる意味をもつのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法尊重擁護義務をめぐる諸問題について整理したノートを作成する。	150分
26	平和主義（1）前文・9条の解釈論	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1～2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分
27	平和主義（2）9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
28	平和主義（3）平和主義の現状	9条改正問題や安保法制などの現状について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条に関する具体的な現状を理解し、自分なりの考えを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」3～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平和主義が抱える問題とそれに対する自分の考えを整理したノートを作成する。	150分
29	統治・国家組織論と人権論	違憲審査制、私人間効力論、生存権保障など、人権論と国家組織論とが交錯する領域についての議論を総括しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論と人権論とがどのように関連しているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、統治・国家組織論と人権論との関係性について整理したノートを作成する。	150分
30	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法、明治憲法およびポツダム宣言の条文がそれぞれ掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、Google Classroomまたはポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東 裕	嵯峨野書院	2015年	教科書	必携
憲法についての素朴な疑問	東 裕	一藝社	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
事前連絡の上、適宜対応する。メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	近代国家と憲法		国家の成立要件、憲法の内容、国家と憲法の関係、近代国家の特徴。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	国家（近代国家）および憲法（近代憲法）の内容を理解し、国家と憲法の関係について説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
2	現代の国際社会と憲法		現代の国際社会の現実、国際社会における国家の存立と憲法の役割。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	現代国際社会の特徴を踏まえて、国家の存立についての憲法の役割を説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
3	現代国家における憲法の目的と機能		現代国家の特徴、近代憲法から現代憲法への変容、福祉国家（社会国家）における憲法の目的と機能。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	現代国家における憲法の目的と機能について説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
4	日本国憲法の成立		ポツダム宣言の内容、明治憲法の改正、日本国憲法の成立過程、八月革命説。 ※教科書：第2講 (pp. 17-31)	
	この回の到達目標	ポツダム宣言の受諾から日本国憲法の成立に至る一連の流れを説明できる。		
	事前学修	教科書第2講 (pp. 17-31)を読むこと。ポツダム宣言の条文を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
5	権力分立		権力分立の意義と目的、日本国憲法における権力分立の在り方。 ※教科書：第2講 (pp. 17-24)	
	この回の到達目標	日本国憲法の条文をもとに権力分立を説明できる。		
	事前学修	教科書第2講を（pp. 17-24）読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
6	日本国憲法の基本原理		国民主権、平和主義、基本的人権、基本原理相互間の関係。 ※教科書：第2講 (pp. 25-31)。第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)	
	この回の到達目標	国民主権、平和主義および基本的人権の保障の相互関係について説明できる。		
	事前学修	教科書第2講 (pp. 25-31)、第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	天皇と国民主権		天皇（1）：天皇の地位、「国民の総意」（憲法1条）の意味。 ＊教科書：第3講（pp. 33-40）	
	この回の到達目標	天皇の地位と国民主権の関係を説明できる。		
	事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
8	天皇と元首		天皇（2）：元首の概念、元首概念の変容 ＊教科書：第3講（pp. 38-40）	
	この回の到達目標	天皇は元首であると言えるか否かについて説明できる。		
	事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。明治憲法の関連条文を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
9	天皇の行為		天皇（3）一国事行為・公的行為 ＊教科書：第3講（pp. 41-44）	
	この回の到達目標	天皇の行為にどのようなものがあるか説明できる。		
	事前学修	教科書第3講（pp. 41-44）を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
10	占領下における憲法解釈		戦争の放棄（1）一ポツダム宣言、占領、占領下における9条解釈 ＊教科書：第4講（pp. 47-55）	
	この回の到達目標	占領下における9条解釈について説明できること。		
	事前学修	教科書第4講（pp. 47-55）および「ポツダム宣言」を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
11	独立回復と憲法解釈の変更		戦争の放棄（2）一日本国との平和条約、独立、保安隊から自衛隊へ、9条解釈の変更 ＊教科書：第4講（pp. 55—64）	
	この回の到達目標	独立回復後の9条解釈の変更の理由（背景）について説明できる。		
	事前学修	教科書第4講（pp. 55—64）を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
12	冷戦後の国際社会と憲法解釈の変更		戦争の放棄（3）一現代国際社会と安全保障 ＊教科書：第4講（pp. 65-70）	
	この回の到達目標	冷戦後の国際社会の変容と憲法解釈変更の理由（背景）について説明できる。		
	事前学修	教科書第4講（pp. 65-70）を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会の地位	国会（１）－国会の地位 ＊教科書：第１５講(pp. 241-244)	
	この回の到達目標	国会の地位について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 241-244)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
14	国会の組織	国会（２）－国会の組織、選挙制度。 ＊教科書：第１５講(pp. 244-248)	
	この回の到達目標	国会の組織と衆参両院の選挙制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 244-248)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
15	国会の権能	国会（３）－国会の権能、議院の権能。 ＊教科書：第１５講(pp. 248-255)	
	この回の到達目標	国会の主要な権能について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 248-255)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
16	国会議員の地位と特権・憲法と政党	国会（４）－国会議員の地位、国会議員の特権、日本国憲法と政党。 ＊教科書：第１５講(pp. 255-259)	
	この回の到達目標	国会議員の特権について説明できる。日本国憲法と政党の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 255-259)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
17	内閣の地位と行政権	内閣（１）－内閣の地位、行政権の意義、独立行政委員会。 ＊教科書：第１６講(pp. 261-263)	
	この回の到達目標	行政権について説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp. 261-263)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
18	内閣の組織と権能	内閣（２）－内閣の構成、内閣の権能、内閣総理大臣の地位と権能。 ＊教科書：第１６講(pp. 267-273)	
	この回の到達目標	内閣はどのように組織され、どのような権能をもっているか説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp. 267-273)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	議院内閣制	内閣（３）―議院内閣制の本質、議院内閣制の原則、衆議院の解散権、大統領制。 ＊教科書：第１６講(pp. 264-267)	
	この回の到達目標	議院内閣制と大統領制の異同について説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp. 264-267)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	首相公選論	内閣（４）―首相公選論 ＊教科書：第１６講(p. 265)	
	この回の到達目標	首相公選制とはどのような制度であるかを説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(p. 265)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	司法権とその独立	裁判所（１）―司法権の意義、法律上の争訟、主観訴訟、客観訴訟、裁判官の独立。 ＊教科書：第１７講(pp. 275-281)	
	この回の到達目標	司法権の意義と司法権の独立を確保するための制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp. 275-281)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	裁判所の組織と権能	裁判所（２）―裁判所の組織と権能、三審制、裁判員制度、規則制定権。 ＊教科書：第１７講(pp. 281-286)	
	この回の到達目標	裁判所の組織と裁判員制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp. 281-286)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	違憲審査制	裁判所（３）―違憲審査制、付随的審査制、抽象的審査制、憲法裁判所、 ＊教科書：第１７講(pp. 286-302)	
	この回の到達目標	わが国の違憲審査制についてせる名できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp. 286-302)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	予算と財政	財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、公金支出制限 ＊教科書：第１８講(pp. 303-315)	
	この回の到達目標	租税法律主義について説明できる。	
	事前学修	教科書第１８講(pp. 303-315)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	地方自治の本旨	「地方自治の本旨」の意義、団体自治、住民自治 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 316-320)	
	この回の到達目標	「地方自治の本旨」について説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 316-320) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
26	地方公共団体の組織と権能	地方公共団体の統治機構（首長、議会、執行機関）、選挙制度、長と議会の選挙および権能。 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 320-322)	
	この回の到達目標	地方公共団体の統治機構のしくみについて説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 320-322) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
27	条例制定権	法律と条例、条例制定権の範囲、住民投票条例とその効力。 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 323-331)	
	この回の到達目標	条例制定権の限界について説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 323-331) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
28	憲法改正	憲法改正の手続き、憲法改正の限界、憲法の変遷。 ＊教科書：第 2 0 講 (pp. 339-346)	
	この回の到達目標	憲法改正手続を説明できる。	
	事前学修	教科書第 2 0 講 (pp. 339-346) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
29	憲法保障	憲法保障の意義、憲法保障のための制度。抵抗権、国家緊急権。 ＊教科書：第 2 0 講 (pp. 333-339)	
	この回の到達目標	憲法保障の制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第 2 0 講 (pp. 333-339) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
30	授業の総まとめ	定期試験についての説明など。	
	この回の到達目標	授業を振り返り、疑問点を明らかにできる。	
	事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
この科目は、法律学科2・3年生の受講を想定している。この科目については、4年生の受講は推奨しない（同一名称の授業科目は複数開講されている）。

【授業方法】
日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を解説するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。補習・復習用のオンライン教材を用意しているので、ぜひ活用されたい（ただし、この科目は、いわゆるオンライン授業ではなく、対面授業であるので、毎回、講堂で講義を受講することが必要である）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	憲法問題についての小グループ討議

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統治機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内課題により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	小グループ討議に積極的に参加できたかどうかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを、評価する。	2	3	2	3							10
授業への参画度												
その他(注意事項)	成績評価は学年に関わらず、公平に行う（4年生であっても、一切、特別な対応を行わない）。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	28	27	18							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法判例百選I〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
『憲法判例百選II〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
『憲法』	柳瀬昇	新世社	2023	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 専門的知見の提供・審議会等での委員の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容	重要な憲法訴訟において私見が参照されたり、メディアからの求めに応じて専門的知見を示したことや、地方公共団体の審議会等の委員としての実務経験等を、講義を通じて伝えていくこととする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	立憲主義の基本原理		日本国憲法の基本的原理として、権力分立及び法治主義・法の支配について説明したうえで、立憲主義の意義と変遷について検討する。	
	この回の到達目標	権力分立の意義及び歴史的展開について理解している。法の支配と（形式的）法治主義との異同を踏まえて、それらの意義及び歴史的展開について理解している。立憲主義の意義及び歴史的展開について理解している。		
	事前学修	「憲法I（人権）」の講義を復習したうえで、人権論と統治機構論とがどのような関係にあるのかを考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、権力分立、法治主義・法の支配及び立憲主義の意義と変遷について整理する。		120分
2	国会と立法権（1）		国会の地位について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法41条にいう「国権の最高機関」及び「国の唯一の立法機関」ならびに43条にいう「全国民の代表」の意味について理解している。実質的意味の立法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。国会中心立法の原則及び国会単独立法の原則について、それぞれの意味及び憲法上の例外を理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の地位について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の地位について整理する。		120分
3	国会と立法権（2）		国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について検討する。	
	この回の到達目標	二院制が採用される理由について理解しているとともに、日本国憲法における参議院の意義及び役割について説明することができる。国会及び各議院の憲法上の権能について理解している。議院自律権の意義について理解している。国会の会期及び参議院の緊急集会について理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について整理する。		120分
4	国会と立法権（3）		国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について検討する。	
	この回の到達目標	両議院の会議の定足数・表決・公開に関する憲法の規定の内容について理解している。衆議院と参議院との関係に関する憲法の規定の内容について説明することができる。国会議員の地位・権限・特権について理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について整理する。		120分
5	国会と立法権（4）		国政調査権の性質と限界について検討する。	
	この回の到達目標	国政調査権の法的性格及び範囲について説明することができるとともに、国政調査権の限界について、司法、検察、一般行政権及び国民の基本的人権との関係で、具体例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	日商岩井事件東京地裁判決（II-171）、造船疑獄有田二郎逮捕許諾決議事件東京地裁決定（II-168）及び病院長自殺国家賠償請求事件最高裁判決（II-170）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国政調査権の性質と限界について整理する。		120分
6	民主政治と選挙		わが国の選挙制度の変遷を概観したうえで、代表制・選挙制度を類型し、その意義について検討する。	
	この回の到達目標	わが国の選挙制度の変遷についておおむね説明することができる。多数代表制と少数代表制（比例代表制を含む）の意義及び大選挙区制と小選挙区制の意義について理解している。投票方法にさまざまな方法があることを知っている。		
	事前学修	衆議院小選挙区比例代表並立制違憲訴訟最高裁判決（II-152）及び参議院非拘束名簿式比例代表制違憲訴訟最高裁判決（II-154）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、わが国の選挙制度の変遷及び代表制・選挙制度の類型について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	民主政治と政党	政党の意義・機能を確認したうえで、政党制について検討する。	
	この回の到達目標	代議制民主主義国家における政党の意義・機能及び政党制について理解するとともに、政党に関するわが国の法制度や判例の立場を説明することができる。	
	事前学修	八幡製鉄事件最高裁判決（I-8）及び共産党袴田事件最高裁判決（II-183）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、政党の意義・機能及び政党制について整理する。	120分
8	内閣と行政権（1）	行政権の概念について検討したうえで、内閣の組織に関する憲法条項を確認し、独立行政委員会の合憲性について議論する。	
	この回の到達目標	実質的意味の行政権の概念について、標準的な定義を述べることができる。内閣の構成及び内閣総理大臣・国務大臣の任命等について、説明することができる。独立行政委員会が憲法に違反するか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、行政権の概念、内閣の組織及び独立行政委員会の合憲性について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、行政権の概念、内閣の組織及び独立行政委員会の合憲性について整理する。	120分
9	内閣と行政権（2）	内閣の権能・内閣総理大臣の権限について確認したうえで、議会と政府との関係について議論する。	
	この回の到達目標	憲法が明文で定める内閣の個別の権限の内容を理解している。内閣が行政権の行使について国会に対して連帯して負う責任の意味を説明することができる。議院内閣制や大統領制など、議会と政府の関係から見た政治体制の類型について理解している。日本国憲法の定める議院内閣制の仕組みについて、憲法の条文に則して説明することができる。	
	事前学修	ロッキード事件丸紅ルート最高裁判決（II-174）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、内閣の権能・内閣総理大臣の権限及び議会と政府との関係について整理する。	120分
10	内閣と行政権（3）	議会と政府との関係に関して、首相公選論や国民内閣制をめぐる議論を敷衍するとともに、衆議院の解散権の所在について議論する。	
	この回の到達目標	首相公選論の問題点と国民内閣制の意義を理解している。衆議院の解散の法的意義を理解している。衆議院を解散する実質的権限が内閣にあることの根拠となりうる条文を、理由を述べつつ挙げることができる。日本国憲法69条が定める場合以外に、内閣の裁量により衆議院を解散することができるか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	苦米地事件東京高裁判決（II-172）及び衆参同日選挙事件名古屋高裁判決（II-173）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、議会と政府との関係及び衆議院の解散権の所在について整理する。	120分
11	憲法問題についての小グループ討議	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、受講者同士で議論を行う。検討するテーマは、公共政策の決定のあり方である。重要な政策課題をめぐる国民（住民）投票などのような直接民主主義的な政治参加の制度の導入が、憲法に違反するか否かについて、考察する。	
	この回の到達目標	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、自分の主張を的確に述べることができる。重要な政策課題をめぐる国民（住民）投票などのような直接民主主義的な政治参加の制度の導入が、憲法に違反するか否かについて、考察することができる。	
	事前学修	事前に、配布資料「課題研究～公共政策の決定のあり方」を読んだうえで、必要に応じて、図書館等を利用して資料等を自主的に収集し、小グループ討議において自ら主張する趣旨をまとめておく。	120分
	事後学修	小グループ討議での議論を整理したうえで、自己評価シートを作成する。	120分
12	裁判所と司法権（1）	国会や内閣といった政治部門との対比で裁判所を法原理機関として位置づける考え方を説明したうえで、裁判所の組織について説明するとともに、裁判員制度の合憲性について議論する。	
	この回の到達目標	政治部門との対比で裁判所を法原理機関として位置づける考え方を説明することができる。裁判所の憲法上の権能について理解している。裁判所の種類・構成・管轄などについて理解している。裁判官の任命等について理解している。わが国の裁判員制度について、陪審制・参審制との異同やその合憲性について説明することができる。	
	事前学修	裁判員制度違憲訴訟最高裁判決（II-175）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、家庭裁判所違憲訴訟最高裁判決（II-A15）の説明を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判所の組織及び国民の司法参加の制度について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	裁判所と司法権（2）		司法権の独立の意義を説明したうえで、憲法が定める裁判官の身分保障の内容及び意義について検討する。
	この回の到達目標	司法権の独立の意義、内容、具体的な発現形態について理解している。	
	事前学修	寺西事件最高裁決定（II-177）、国民審査制度違憲訴訟最高裁判決（II-178）及び高井住男簡裁判事弾劾裁判所判決（II-179）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の独立について整理する。	120分
14	裁判所と司法権（3）		裁判の公開について解説したうえで、司法権の内容について検討する。
	この回の到達目標	裁判の公開の意義について理解している。実質的意味の司法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。「法律上の争訟」の意味について、判例を踏まえて、説明することができる。ある争いが法律上の争訟に当たるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	法廷メモ訴訟（レベタ訴訟）最高裁判決（I-72）、最大決昭和35年7月6日民集14巻9号1657頁（II-124）、板まんだら事件最高裁判決（II-184）及び警察予備隊違憲訴訟最高裁判決（II-187）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判の公開及び司法権の内容について整理する。	120分
15	裁判所と司法権（4）		司法権の限界について検討する。
	この回の到達目標	ある争いが法律上の争訟に当たるとしても裁判所による司法審査の対象となるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	警察法改正無効訴訟最高裁判決（II-180）、苫米地事件最高裁判決（II-190）、富山大学事件最高裁判決（II-182）及び山北村議会議員懲罰事件最高裁判決（II-181）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の限界について整理する。	120分
16	裁判所と違憲審査権（1）		違憲審査権の性格・主体・対象について検討する。
	この回の到達目標	違憲審査制の意義と類型について理解したうえで、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査制の基本的仕組みと特質について説明することができる。日本国憲法が定める違憲審査権の性格・主体・対象について、説明することができる。	
	事前学修	警察予備隊違憲訴訟最高裁判決（II-187）、砂川事件最高裁判決（II-163）及び百里基地訴訟最高裁判決（II-166）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の性格・主体・対象について整理する。	120分
17	裁判所と違憲審査権（2）		違憲審査権の対象に関して、立法の不作为について検討する。
	この回の到達目標	日本国憲法81条の定める「一切の法律、命令、規則又は処分」の意味について説明できるとともに、特に、立法の不作为が違憲審査の対象となるか否かについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	在宅投票制廃止違憲訴訟最高裁判決（II-191）、在外国民選挙権訴訟最高裁判決（II-147）、国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（I-26）、第三者所有物事件最高裁判決（II-107）及び皇居前広場使用不許可事件最高裁判決（I-80）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の対象としての立法の不作为について整理する。	120分
18	裁判所と違憲審査権（3）		違憲判断の方法・効力について検討したうえで、憲法訴訟の訴訟要件と憲法訴訟の当事者適格（違憲主張の適格）の問題を議論する。
	この回の到達目標	違憲審査の方法、法令の全部又は一部違憲、適用違憲などの違憲判断の方法及び最高裁判所による違憲判断の効力について理解している。また、裁判において憲法上の争点を提起する適格について理解している。	
	事前学修	川崎民商事件最高裁判決（II-114）、最決平成26年7月9日判時2241号20頁（II-188）及び恵庭事件札幌地裁判決（II-164）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲判断の方法・効力及び憲法訴訟の訴訟要件と憲法訴訟の当事者適格（違憲主張の適格）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	裁判所と違憲審査権（4）		司法消極主義と憲法判断の方法について考察する。
	この回の到達目標	司法積極主義と司法消極主義の意義について理解している。付随的違憲審査制における違憲審査の必要性の原則及び憲法判断回避の準則について説明することができるとともに、どのような場合に憲法判断自体を回避すべきか、またどのような場合に合憲限定解釈を行うべきかについて、考察することができる。	
	事前学修	都教組事件最高裁判決（II-193）、広島市暴走族追放条例事件最高裁判決（I-84）及び猿払事件旭川地裁判決（II-194）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法消極主義と憲法判断の方法について整理する。	120分
20	財政からみる民主主義		憲法上の財政の基本原則について確認したうえで、公金・公の財産の支出・利用の制限について検討するとともに、予算・決算についての憲法上の制度を概観する。
	この回の到達目標	財政民主主義や租税法律主義の意義について理解している。租税の意味について、誤解することなく、正確に認識している。公金・公の財産の支出・利用の制限、予算及び決算等についての憲法上の制度について、条文に即して、その意義を説明することができる。	
	事前学修	サラリーマン税金訴訟最高裁判決（I-31）、旭川市国民健康保険条例事件最高裁判決（II-196）及び吉川町幼児教室公費助成訴訟東京高裁判決（II-199）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、財政の基本原則、公金・公の財産の支出・利用の制限及び予算・決算について整理する。	120分
21	地方からみる民主主義（1）		日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について検討したうえで、93条2項にいう「地方公共団体」の意味を確認する。
	この回の到達目標	日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について説明することができる。憲法上の地方公共団体とは何かについて、判例を踏まえて、説明することができる。地方公共団体の長及び議会に関する憲法の規定について理解している。地方公共団体の事務についておおむね説明することができる。	
	事前学修	区長公選制廃止違憲訴訟最高裁判決（II-200）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、地方自治の本旨及び憲法上の地方公共団体の意義について整理する。	120分
22	地方からみる民主主義（2）		日本国憲法94条の定める「条例」の意味を画定したうえで、条例制定権の意義とその限界について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法94条の定める「条例」の意義及び条例制定権の意義について理解している。憲法上の法律留保事項について条例で定められるかや、条例が法律の範囲内にあるか否かについて、具体的事例を挙げて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	東京都売春取締条例事件最高裁判決（I-32）、奈良県ため池条例事件最高裁判決（I-98）、大阪市売春取締条例事件最高裁判決（II-208）、神奈川県臨時特例企業税事件最高裁判決（II-201）及び徳島市公安条例事件最高裁判決（I-83）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、条例制定権の意義とその限界について整理する。	120分
23	天皇		天皇の地位・性格及び権限について議論したうえで、天皇・皇族の人権享有主体性について検討するとともに、その他の天皇に関連する論点について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法下の天皇の地位等について、大日本帝国憲法の場合と比較して、説明することができる。天皇の国事行為等の内容及び法的性質について理解している。天皇及び皇族の人権の制約の根拠と範囲について理解している。元号、国旗及び国歌と天皇との関係について理解している。	
	事前学修	ブラカード事件最高裁判決（II-161）及び最判平成元年11月20日民集43巻10号1160頁（II-162）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、天皇の地位・性格、天皇の権限、天皇・皇族の人権享有主体性及び天皇に関連する論点について整理する。	120分
24	安全保障（1）		自衛権の概念について検討したうえで、戦力の不保持と交戦権の否認をめぐる論争を概観する。平和的生存権について考察し、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について議論する。
	この回の到達目標	個別的自衛権や集団的自衛権の意味を説明することができるとともに、日本国憲法9条2項の定める「戦力」及び「交戦権」の意味について理解している。	
	事前学修	長沼ナイキ訴訟札幌地裁判決（II-165）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自衛権の概念及び戦力の不保持と交戦権の否認について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	安全保障（2）		平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について検討する。
	この回の到達目標	平和的生存権をめぐる議論について理解している。日米安全保障体制の基本的仕組みを理解したうえで、駐留米軍が日本国憲法9条2項の「戦力」に該当するか否かについて、判例を踏まえて、説明することができる。自衛隊の国際平和維持活動への参加についての基本的仕組みを理解している。	
	事前学修	参考書等で、平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について整理する。	120分
26	日本国憲法制定史		日本国憲法の制定と運用をめぐる歴史を概観する。大日本帝国憲法の制定から日本国憲法の制定までの歴史について通観し、新旧憲法の特徴を比較する。
	この回の到達目標	日本国憲法の特徴について、大日本帝国憲法との比較において、理解している。日本国憲法の制定過程について、その歴史的経緯を理解した上で、法的観点から説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、日本国憲法の制定史について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本国憲法の制定史について整理する。	120分
27	日本国憲法運用史（1）		戦後の日本政治について、安全保障を通じて検討する。
	この回の到達目標	戦後の安全保障をめぐる基本的な法制度の展開について理解している。	
	事前学修	参考書等で、戦後の日本における安全保障をめぐる議論について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、戦後の日本における安全保障をめぐる議論について整理する。	120分
28	日本国憲法運用史（2）		戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について概観する。
	この回の到達目標	日本国憲法の改正をめぐる戦後の主要政党の姿勢について、各時代の背景を踏まえて、理解している。	
	事前学修	参考書等で、戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について整理する。	120分
29	憲法の変動と保障		憲法保障の意義とその具体的な形態を確認するとともに、憲法改正の意義、手続及び限界について検討する。
	この回の到達目標	憲法保障の意義及びそのための諸制度の内容について理解している。憲法改正の意義を説明することができる。日本国憲法96条が定める憲法改正手続について理解している。憲法変遷論の問題点と憲法改正の限界について理解している。	
	事前学修	参考書等で、憲法保障の意義ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法保障の意義ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について整理する。	120分
30	総括		これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容について総括する。授業内試験を実施し、その解説を行う。
	この回の到達目標	これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容について、自分で整理しておく。	200分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容を改めて整理する。	40分

科目名	憲法A(人権)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、授業内レポート等による振り返りを実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポート等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポート等に真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroomの諸機能を通じて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入：憲法（人権）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論：人権論へのイントロダクション	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	人権総論：人権の種類／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，人権の種類，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
4	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
5	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，目的・効果基準を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則を説明している教科書pp. 145-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	精神的自由権（3）：表現の自由	表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由を説明している教科書pp. 165-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経済的自由権（１）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	経済的自由権（２）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
9	身体的自由権（１）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
10	身体的自由権（２）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
11	受益権	受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、受益権の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
12	社会権（１）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会権（2）：生存権をめぐる判例／その他の社会権		生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、その他の社会権（教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）に表れた法理を理解し、説明することができる。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権をめぐる重要判例、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権を説明している教科書pp. 272-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		
	事後学修	授業を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要をノートにまとめ、説明できるようにする。		
14	包括的人権（1）：法の下での平等		「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、憲法14条の「法の下での平等」原則の特質、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「法の下での平等」の意義及び特質並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 107-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		
	事後学修	授業を振り返り、「平等」のさまざまな意味、「法の下での平等」をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。		
15	包括的人権（2）：幸福追求権と「新しい人権」		個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、を説明している教科書pp. 77-97を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権の意義及びそれに関連する判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。		

科目名	憲法A(人権)	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実には生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】
講義形式で行う。教科書および事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、レポートにより評価する。	30	30	30	10							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法〔第2版〕	斎藤一久・堀口悟郎編	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。ishizuka.sotaro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要および目的を理解すること。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返ること。	120分
2	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法とは何か」Ⅰ～Ⅳを読んでおくこと。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	120分
3	基本的人権の構成	基本的人権の構成要素に関する議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法上の人権の構成に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「人権の射程」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域およびその制限について、判例も含めて整理したノートを作成する。	120分
4	比較：人権保障（アメリカ）	米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカにおける人権にまつわる憲法史についてお話いただく。	
	この回の到達目標	アメリカにおける人権保障について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカにおける人権保障について振り返り、ノートにまとめる。	120分
5	個人の尊重・幸福追求権	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を、新しい人権に関する判例も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権の保護領域に関する議論および、それを踏まえた新しい人権の保障問題について論じる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「包括的基本権」Ⅱ～を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域、新しい人権の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	120分
6	法の下の平等	絶対的/相対的平等、形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈を、主要な判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平等原則の意義およびこれに関する判例である尊属殺重罰規定違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、国籍法違憲判決、再婚禁止期間違憲判決、夫婦同氏制合憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「法の下の平等」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	思想・良心の自由		思想・良心の自由の保護領域およびその制約に関する近年の判例の展開について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「思想・良心の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。		120分
8	信教の自由と政教分離原則		日本国憲法20条が保障する信教の自由および政教分離原則の意義や内容、制約・違反事例について、エホバの証人剣道実技拒否事件や津地鎮祭事件など主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由、政教分離原則の内容とこれに対する制約・違反が問題となった事例およびそこの判示内容が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「信教の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。		120分
9	表現の自由		日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域、さらには多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域、制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7・8章「表現の自由・総論および各論」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		120分
10	集会・結社の自由		日本国憲法21条が定める集会・結社の自由の意義と保護領域、制約事例を説明し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の保護領域、制約の態様と正当化論証を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「集会・結社の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		120分
11	職業選択の自由		日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を論じるとともに、薬事法違憲判決、小売市場判決などの制約事例を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域、制約事例に対する裁判所の判断について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「職業選択の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業選択の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。		120分
12	財産権		日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性、制約類型（公用収用を含む）を踏まえた違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を判例の立場も含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「財産権」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会権	日本国憲法25条が保障する生存権を中心に，社会権保障のあり方，これが問題となった判例などを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，社会権の特徴とその実現に関する議論を説明できる。到達	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「生存権」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，生存権を中心に，社会権保障とそれに伴う問題を整理したノートを作成する。	120分
14	参政権	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に，政治参加のための権利保障，選挙制度について概観する。	
	この回の到達目標	目標①②③に関連して，選挙権の意義・内容について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「参政権と選挙制度」を読んでおく。	120分
	事後学修	選挙権の意義と内容について，在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	120分
15	人身の自由	日本国憲法31条以下が定める刑事手続に関する規律に関する解釈のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「刑事手続上の権利」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
経営法学科1年生のみ。

【授業方法】		
当該年度は、教科書は使用せず、レジュメ（パワーポイントファイル）を事前に配信し、そのレジュメをもとに授業を行います。なお、レポート作成のための参考書、あるいは各種試験対策のための推奨参考書については、講義中随時指示します。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題を出します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを 授業内課題により評価する。	10	20	20								50
レポート等	到達目標④についての能力が身についているかをレポート により評価する。				50							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、Google Classroomを通じて回答に対する講評や注意喚起などを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10～13:00（事前予約 saito.koki55@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内：憲法（人権）の学び方	具体的な授業日程、成績評価方法、受講上の注意、予習・復習のやり方、条文の参照方法、判例・学説の学び方など、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法の前文、第1条～第40条を通読し、概要を把握しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを確認し、今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とはなにか	憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合を説明し、履修者が憲法とはなにかを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史/日本国憲法の基本原理	十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の憲法の歴史を理解する。とくに、成立過程を踏まえた上で明治憲法との比較において日本国憲法の基本原理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法の成立過程・基本原理について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、日本の憲法の歴史を理解した上で、日本国憲法の基本原理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
4	人権の類型/人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力を説明し、履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
5	精神的自由権（1）：思想・良心の自由/信教の自由	思想・良心の自由の意義と保障の範囲・判例、信教の自由の意義と限界・判例を説明し、履修者が精神的自由権の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、思想・良心の自由の意義と保障の範囲・判例、信教の自由の意義と限界・判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、信教の自由の判例に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、思想・良心の自由の意義と保障の範囲・判例、信教の自由の意義と限界・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、思想・良心の自由の意義と保障の範囲・判例、信教の自由の意義と限界・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
6	精神的自由権（2）：政教分離原則	政教分離の意義・内容を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政教分離の意義・内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、政教分離の意義・内容について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、政教分離の意義・内容をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	精神的自由権（3）：表現の自由		表現の自由の意義と限界、表現の自由に対する合憲性審査基準、表現の自由に関する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表現の自由の意義と限界、表現の自由に対する合憲性審査基準、表現の自由に関する判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、表現の自由に関する判例の問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、表現の自由の意義と限界、表現の自由に対する合憲性審査基準、表現の自由に関する判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、表現の自由の意義と限界、表現の自由に対する合憲性審査基準、表現の自由に関する判例をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
8	経済的自由権		経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由と限界・判例、財産権の意義とその制限・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由と限界・判例、財産権の意義とその制限・判例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由と限界・判例、財産権の意義とその制限・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由と限界・判例、財産権の意義とその制限・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
9	身体的自由権（1）：適正手続の保障		奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
10	身体的自由権（2）：被疑者の権利/刑事被告人の権利		被疑者の権利と刑事被告人の権利の意義（残虐刑の禁止に関する判例を含む）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被疑者の権利と刑事被告人の権利の意義（残虐刑の禁止に関する判例を含む）を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、残虐刑の禁止に関する判例の問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利と刑事被告人の権利の意義（残虐刑の禁止に関する判例を含む）について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利と刑事被告人の権利の意義（残虐刑の禁止に関する判例を含む）をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
11	受益権		受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
12	社会権（1）：生存権		社会権の意義、生存権の意義とその法的性格・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会権の意義、生存権の意義とその法的性格・判例を説明し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、生存権に関する判例の問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、社会権の意義、生存権の意義とその法的性格・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の意義とその法的性格・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会権（2）：教育を受ける権利/勤労権/労働基本権		教育を受ける権利の意義、勤労権の意義、労働基本権の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教育を受ける権利の意義、勤労権の意義、労働基本権の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、教育を受ける権利の意義、勤労権の意義、労働基本権の意義について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、教育を受ける権利の意義、勤労権の意義、労働基本権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
14	法の下 の 平等		平等の意味、日本国憲法第14条の意義・判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、平等の意味、日本国憲法第14条の意義・判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、法の下 の 平等に関する判例の問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等の意味、日本国憲法第14条の意義・判例について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、平等の意味、日本国憲法第14条の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
15	幸福追求権/新しい人権		個人の尊重と幸福追求権の意義、新しい人権の内容を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義、新しい人権の内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、個人の尊重と幸福追求権の意義、新しい人権の内容について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義、新しい人権の内容をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	

科目名	憲法A(人権)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。	120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	人権保障の一般原則(1)	人権を憲法で保障することの意義を考察する。西欧の歴史において中世から近代へと以降する時期に、どのように自由や権利の意識が芽生え定着していったのか、。産業革命の進展とともに権利の内容はどのように拡大していったのかを考察し、人権保障に通底する理念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書121-123ページを読み、人権保障の意義について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の中で示された「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を想定してみること。	120分
3	人権保障の一般原則(2)	人権の主体・私人間効力について考察する。憲法上の権利を主張することのできる人は誰かについて、国民、外国人、法人などを区分して考察する。さらに、人権の主張はどのような場面で可能なのかについては、統治権の意義と内容を確認したうえで、国民に及ぼす影響と人権との関係を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体と憲法の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書124-126ページを読み、憲法上の権利を主張することのできる人は誰か、人権の主張はどのような場面で可能なのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、憲法と国民との関係を考えつつ自分が外国に行った時のことを想定してみる。また社会の中の格差や差別をどうやって解決すべきかを考えてみること。	120分
4	人権の一般原則(3)	人権制約の原理について考察する。憲法上の権利は無制約に国民に認められるのか、それとも制約は必要か。どの程度までの制約ならば許されるのか。その制約はいかなる理由で正当化できるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書126-128ページを読み、誰もが無制限に人権を主張した場合に、どのようなことは発生するのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「みなが平和に暮らす」とことと「みな同じように行動しなければダメ」は同じか、違うのかを考えてみること。	120分
5	精神的自由(1)	良心の自由・信教の自由について学習する。良心の自由を保障する意義とその範囲、そして近年の最高裁判例が示した良心の自由に対する制約の原理を学ぶ。そして信教の自由を保障し、政教分離原則を掲げる理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、思想良心の自由および信教の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書135-142ページを読み、信念を持って生きること、信仰に基づいて生活することの意義を考え、それが否定された時の感情を想像してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国旗国歌に起立斉唱しなければならないのか、風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いで追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人たちを政府が追悼するのは許されるかを考えてみること。	120分
6	精神的自由(2)	学問の自由・表現の自由の意義について学習する。学問研究を保障する意義を考察するとともに、表現の自由が人間の発展にどのような影響を及ぼし、さらには民主社会にいかなる意義を持つのかを学ぶ。また表現することに必要な様々な人間の活動についても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問の自由・表現の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書142-144ページを読み、科学研究や表現活動がいかに人間社会を進展させたのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、クローン技術やiPS細胞、AI技術のような人間の生活に大きな影響を与える研究はなぜ推進されるのか、表現の自由は「優越的地位」にあるというのが本当にそうなのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	精神的自由 (3)		表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲を学習する。表現して情報を発信するにおいて、実際にどのような制約が存在しているのか、その制約はいかなる理由により正当化されているのか、その制約に対して裁判所はどのように憲法適合性を判断すべきなのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書144-149ページを読み、表現の自由になぜ制約が必要なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、表現の自由を制約する理由はすべてにおいて同じか、それとも異なる理由づけによるのか考えてみること。		120分
8	精神的自由 (4)		知る権利と報道機関の自由について考察する。知る権利の憲法上の地位を確認するとともに、関連する最高裁判例を学び、情報流通の確保の重要性を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知る権利と報道機関の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書149-152ページを読み、知る権利とはどのようなものであるのか、知る権利を具体化する報道機関の自由は何かを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、新型コロナウイルス流行に際して政府が正しい情報を提供しない場合どうなるのかを考えてみること。		120分
9	精神的自由 (5)		集会・結社の自由について考察する。集会の自由については、公の施設を利用した場合と集团的示威行為とに分けて、最高裁判例を中心にその規制の実態を学ぶ。また結社の自由については、グループを結成して活動を継続することに政府はどのように関与することができるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書152-154ページを読み、集会がどのように人々の政治的意見の形成にかかわるのかを考えてみること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、サークルやバンドを結成し参加して活動することにどのような問題があるのかを考えてみること。		120分
10	経済的自由 (1)		職業選択の自由について考察する。近代市民社会の基本理念である「私的自治」を確認し、契約の自由の意味を理解したうえで、就職し起業して営利を得ることの意義を考えるとともに、営業活動における公平さはいかに確保できるのか、現状の制約は公平といえるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職業選択の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書155-161ページを読み、就職したり起業して営利を稼ぐことは無制限に許されるのか、あるいは何らかの制約は必要なのか、必要ならどのような制約が望ましいのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、人はだれでも生活のために働くが、それを選び継続する自由はどこまで認められるのかを考えてみること。		120分
11	経済的自由 (2)		財産権保障について学習する。「私的自治」における所有権絶対の原則を確認したうえで、その他の財産的権利の内容とその保障の在り方を学ぶ。そして秩序や安全確保のための財産権制約と、弱者保護のための制約の理由を考察して、損失補償の実態を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書161-163ページを読み、各自の持つ服や靴、時計を「所有する」とはどういうことなのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、財産をもつ権利にはどのような制限が及ぶのかを考えてみること。		120分
12	社会権 (1)		福祉国家主義・生存権について学習する。憲法が福祉国家主義を採用した理由を考察するとともに、政府による経済的社会的弱者の救済を社会権の内容を確認したうえで理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、福祉国家主義・生存権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書168-170ページを読み、経済活動を放任した結果貧富の格差が著しい社会はどのようなものなのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差は正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会権(2)		教育権・労働基本権について学習する。教育を受ける権利の意義を考察するとともに、公教育に対する政府の関与と補助の現状を学ぶ。また労働者の権利を理解して、特に労働三権の意義を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育権・労働基本権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書164-168ページを読み、小学校・中学校に通わなかった場合に今の日本で仕事を探すことができるのかを考え、さらに「ブラック企業」と何か調べてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国家が国民に教育を提供することの意味を考え、また労働者が集団で使用者と交渉する権利が認められるのはなぜかを考えてみること。		120分
14	幸福追求権		憲法13条で保障されていると理解される人格権・自己決定権について学習する。「新しい人権」を保障する原理としての「幸福追求権」を理解するとともに、その内容である人格権・自己決定権の内実を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、幸福追求権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書171-185ページを読み、憲法13条の保障する幸福を追求する権利とはどのようなものか、また憲法に明記されていない権利はどのように保障されるべきかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてみよう、また電子機器とプライバシー保護との関係を考えてみること。		120分
15	平等		形式的平等と実質的平等の差異を考えつつ、平等原則の意義を学習する。社会に存在する様々な区別と差別とをいかに見分けるのかについて、最高裁判例を参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書128-133ページを読み、「等しいものは等しく扱い、等しくないものは別々に扱う」ということはどういう意味なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてみること。		120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】
指定教科書に沿って講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど，教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について，簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について，説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について，事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について，一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 日本国憲法	東 裕・杉山幸一	弘文堂	2022年	教科書	必携
憲法についての素朴な疑問	東 裕	一藝社	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
事前連絡の上、適宜対応する。メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	憲法とはどのような法か		憲法と国家、憲法の概念、憲法の歴史、憲法の解釈について（教科書「第1章」，授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	憲法とはどのような法であることを簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の「第1章」を読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	近代立憲主義の成立と展開		近代立憲主義の成立と基本原理（教科書「第1章の3」「第5章の1，2」，授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	近代立憲主義の意義と内容を理解，その基本原理を説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	日本国憲法の基本原理		基本的人権の尊重と国民主権および平和主義との関係について（教科書「第2章の4」，授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	日本国憲法の基本原理とその相互関係について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	人権の享有主体		人権享有主体（国民・外国人・法人・未成年），各種人権の性質，享有主体ごとに保障される人権の種類（教科書「第5章の2，3」授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）
	この回の到達目標	日本国憲法の保障する基本的人権が，その性質に応じて保障されることを理解し，人権享有主体のそれぞれが享有できる人権について簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメで再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
5	人権と公共の福祉		「公共の福祉」とは何か，公共の福祉による人権制約，違憲審査基準（教科書「第5章の4」，授業時配布レジュメ、資料）
	この回の到達目標	「公共の福祉」について学説・判例の見解が簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメで再確認すること。	180分
6	幸福追求権		幸福追求権の意義と範囲，幸福追求権から導き出される人権（名誉権・プライバシー権・自己決定権・環境権）。（教科書「第6章」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）
	この回の到達目標	「新しい人権」について，判例に則して簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法の下での平等		日本国憲法における平等原則（14条1項の解釈・14条1項違反とされた判例），選挙権の平等，家族生活及び職場における男女平等。（教科書「第7章」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	平等原則と合理的な差別について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分
8	人身の自由		人身の自由の意義，奴隷的拘束および苦役からの自由，適正手続の保障，被疑者の権利と被告人の権利，罪刑法定主義。（教科書「第8章」，授業時配布レジュメ・資料）	
	この回の到達目標	刑事手続と罪刑法定主義について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分
9	精神的自由権（1）		表現の自由の意義と内容，集会の自由，結社の自由。（教科書「第9章の3」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	民主政における表現の自由の重要性について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分
10	精神的自由権（2）		思想・良心の自由，信教の自由，学問の自由（教科書「第9章の1，2，4」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	思想・良心の自由，信教の自由，学問の自由の意義とそれぞれの限界について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分
11	経済的自由権		経済的自由権の意義，居住・移転の自由，外国移住・国籍離脱の自由，職業選択の自由，財産権の保障。（教科書「第10章」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	経済的自由権に対する規制について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
12	参政権		参政権の意義，選挙権の法的性質，選挙の基本原則，選挙の方法と選挙運動の規制，直接民主制方式としての参政権。（教科書「第12章の1」，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	代表民主制にとっての参政権の重要性について，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国務請求権		国務請求権の意義，請願権，裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権。（教科書「第12章の2」，授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	国務請求権は自由権や社会権とどう違うか，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	社会権		社会権の歴史的背景，日本国憲法における社会権保障，生存権の法的性格，教育を受ける権利，教育権の所在と教育を受ける自由。（教科書「第11章の1，2，3」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）
	この回の到達目標	生存権に関する主要な判例について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
15	社会権（2）		勤労権，労働基本権の性格と内容，労働基本権の制限（教科書「第11章の4，5」，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）
	この回の到達目標	公務員の労働基本権に関する判例の傾向について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法A(人権)	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実には生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
新聞学科1年生のみ。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。この講義を受講すれば、憲法解釈論の基礎をきちんと理解できるようになる。この講義で扱う内容は、憲法総論及び人権論についてである（なお、統治機構及び憲法史については、後期の同一曜日・時間に設置された「憲法B（統治機構）」で講述する）。毎回、レジュメに沿って、教科書を用いて講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内課題により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(注意事項)	成績評価は学年に関わらず、公平に行う（4年生であっても、一切、特別な対応を行わない）。競技スポーツ部の学生に対する優遇措置は、絶対に行わない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法』	柳瀬昇	新世社	2023	教科書	必携
備考	上記のほかに、第2回の講義以降、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。				

【オフィスアワー】
授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門的知見の提供・審議会等での委員の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		重要な憲法訴訟において私見が参照されたり、メディアからの求めに応じて専門的知見を示したことや、地方公共団体の審議会等の委員としての実務経験等を、講義を通じて伝えていくこととする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	憲法の概念と憲法規範の特質		はじめに、この講義の進め方について説明する。次に、法学の全体像と憲法学の位置を確認したうえで、憲法の概念を確定する。そして、憲法規範の特質について検討する。
	この回の到達目標	憲法の概念に関して、形式的意味、実質的意味、立憲的意味、固有の意味について理解している。憲法の授権規範性と制限規範性について説明できる。	
	事前学修	教科書の1.1.1～1.2.1（2-9頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の概念及び憲法規範の特質について整理する。また、六法を参照しながら、形式的意味の憲法ではないが実質的意味の憲法といえるものをいくつか挙げ、なぜそういえるのかを説明する。	120分
2	立憲主義の基本原則（1）		日本国憲法の基本的原理として、国民主権主義、平和主義及び人権尊重主義について説明する。
	この回の到達目標	日本国憲法の基本原則の相互関係について理解している。人権の概念について、標準的な定義を述べることができる。人権の特質について理解するとともに、人権の類型の意義と特色を説明することができる。国民主権の正統性の契機と権力的契機の2つの側面について説明することができる。日本国憲法9条をめぐる学説対立について理解している。	
	事前学修	教科書の1.2.2（9-12頁）、2.1.1～2.1.6（20-30頁）、16.1.1～16.1.4（356-360頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国民主権主義、平和主義及び人権尊重主義ならびにその相互関係について整理する。	120分
3	憲法と人権の限界（1）		人権の享有主体性に関して、法人及び外国人の人権について検討する。
	この回の到達目標	人権の享有主体性という問題の意味を理解している。法人及び外国人の人権享有主体性について、性質説の立場を理解したうえで、保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の2.2.1～2.2.4（30-37頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法人及び外国人の人権について整理する。	120分
4	憲法と人権の限界（2）		まず、特別な法律関係における人権保障に関して、一般職公務員の人権について検討する。次に、憲法の私人間効力について検討する。
	この回の到達目標	一般職公務員の人権が特別の制約に服するか否かについて、政治的行為の自由や労働基本権が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の2.4.1～2.5.1（51-62頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一般職公務員の人権及び憲法の私人間効力について整理する。	120分
5	幸福追求権		幸福追求権の意義について検討したうえで、新しい人権のうち、プライバシーの権利及び自己決定権について考察する。
	この回の到達目標	幸福追求権の権利としての性格、保障の範囲、これを母体とし根拠づけられる具体的な権利について、説明することができる。プライバシーの権利及び自己決定権の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の3.1.1～3.1.7（63-73頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、幸福追求権の意義、プライバシーの権利及び自己決定権について整理する。	120分
6	法の下の平等		法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について検討する。
	この回の到達目標	形式的平等と実質的平等、絶対的平等と相対的平等、法適用の平等と法内容の平等について、それらの異同を説明することができる。優先的な処遇を与える積極的差別是正措置の意義について、考察することができる。どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟について、第1審の判断と控訴審の判断とでどちらが妥当であるかについて考えておく。また、教科書の3.2.1～3.2.4（73-84頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	内心の自由		思想・良心の自由、信教の自由の意義及び学問の自由について検討する。	
	この回の到達目標	思想・良心の自由の内容及び範囲を説明することができる。信教の自由の内容及び政教分離の原則の意義について、説明することができる。目的効果基準について理解するとともに、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、判例を踏まえ、考察することができる。学問の自由の内容及び大学の自治の意義について、説明することができる。		
	事前学修	教科書の4.1.1～4.3.2（85-101頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、思想・良心の自由、信教の自由の意義及び学問の自由について整理する。		120分
8	表現の自由（1）		表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容（報道の自由・取材の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について検討する。	
	この回の到達目標	表現の自由を保障する意義について、人格価値、真理の探究及び民主政などと関連づけて、理解している。表現の自由の射程について理解している。報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について、判例を踏まえて、考察することができる。わいせつ表現や名誉及びプライバシーを侵害する表現の制約について、考察することができる。		
	事前学修	教科書の5.1.1～5.2.8（102-117頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容について整理する。		120分
9	表現の自由（2）		まず、検閲の禁止について検討する。次に、表現の自由の規制立法に対する違憲審査について考察する。そして、集会・結社の自由について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法21条2項の定める「検閲」の概念（判例の立場）を述べることができる。検閲と表現の事前抑制との関係について説明することができる。どのような場合に検閲等に該当するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。日本国憲法21条1項にいう「集会」及び「結社」の意味について理解している。		
	事前学修	教科書の5.3.1～5.4.4（117-140頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、検閲の禁止、表現の自由の規制立法に対する違憲審査及び集会・結社の自由について整理する。		120分
10	経済の自由（1）		まず、公共の福祉の意義について考察する。次に、経済的自由権のうち、居住・移転の自由及び財産権の保障について検討する。	
	この回の到達目標	「公共の福祉」規定の法的性格について説明することができる。居住・移転の自由を保障する意義について理解している。財産権の保障の意味について説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかや、日本国憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について理解している。		
	事前学修	教科書の2.1.1～2.3.2（37-41頁）、6.1.1～6.1.3（139-144頁）、6.3.1～6.3.3（154-159頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、公共の福祉、居住・移転の自由及び財産権の保障について整理する。		120分
11	経済の自由（2）		経済的自由権のうち、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について検討する。	
	この回の到達目標	職業選択の自由の内容について説明することができる。職業選択の自由に対する規制のさまざまな態様があることを理解している。職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、説明することができる。職業選択の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	教科書の6.2.1～6.2.4（144-154頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について整理する。		120分
12	人身の自由		法定適正手続の保障及び奴隷的拘束・苦役からの自由について検討したうえで、日本国憲法の定める刑事手続上の権利について概観する。また、死刑制度の憲法適合性について議論する。	
	この回の到達目標	日本国憲法31条の定める「法律の定める手続」の意味について、その手続の内容を含めて、説明することができる。18条の定める「奴隷的拘束」等の意味について理解している。33条ないし39条の定める刑事手続上の権利の内容について、おおむね理解している。死刑が憲法上許されるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	教科書の7.1.1～7.2.2（160-170頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法定適正手続の保障、日本国憲法の定める刑事手続上の権利及び死刑制度の憲法適合性について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国家による自由		社会権に関して、生存権及び教育を受ける権利について検討する。
	この回の到達目標	自由権と社会権の内容及び性格について、その異同を説明することができる。生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について説明することができる。教育を受ける権利の意義、主体及び内容について理解している。「教育権」の所在に関する学説の対立について、説明することができる。	
	事前学修	教科書の8. 1. 1～8. 4. 2（171-190頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、生存権及び教育を受ける権利について整理する。	120分
14	国家への自由		参政権について検討する。
	この回の到達目標	参政権の意義及び内容を理解している。選挙権の性格について理解している。選挙権及びその行使の制約が憲法違反となるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。近代選挙法の基本原則の内容を説明することができる。公職選挙法による選挙運動の制約等について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の9. 1. 1～9. 2. 5（191-208頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、参政権について整理する。	120分
15	総括		これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容について総括する。
	この回の到達目標	これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容を改めて整理する。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、授業内レポート等による振り返りを実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポート等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポート等に真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroomの諸機能を通じて適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内：憲法（統治機構）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法の基本原理	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程・基本原理を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	国会（2）：国会の活動	会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	国会（3）：国会の権能／議院の権能	国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。また，議院の権能（議院の自律権，国政調査権）を説明し，これを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を説明している教科書pp. 306-320を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会（4）：参政権と選挙制度	参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制，大選挙区制，比例代表制）の特徴を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。また，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し，その概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
8	内閣（1）：行政権と内閣制度／議院内閣制	行政権の意義，議院内閣制のしくみを説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみを理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院解散総選挙に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，行政権の意義，内閣制度の変遷，議院内閣制を説明している教科書pp. 327-337を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみをノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
9	内閣（2）：内閣の組織・権能	内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明している教科書pp. 337-348を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
10	天皇：象徴天皇制／国事行為／皇室経済	日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-43を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
11	裁判所（1）：司法権	司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を説明し，履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，司法権の特質を説明している教科書pp. 349-360を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例，司法権の限界に関する理論をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
12	裁判所（2）：裁判所の組織・権能	裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明している教科書pp. 360-374を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争の放棄：平和主義／憲法9条／安全保障	憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，戦争の放棄に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明している教科書pp. 44-76を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
14	財政：予算・決算／公金支出等の禁止	予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明している教科書pp. 375-389を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
15	地方自治：地方自治の本旨／地方公共団体の組織・運営	地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明している教科書pp. 390-410を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ，その概要説明できるようにする。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして、日本国憲法の統治機構について、制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら、その組織、権能、および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか、比較憲法の視点にも留意し、国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために、日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し、かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに、時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】		
講義形式で行う。教科書に沿って講義を進める		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、レポートにより評価する。	30	30	30	10							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法〔第2版〕	斎藤一久・堀口悟郎 編	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。ishizuka.sotaro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、人権と統治の考え方の違いについて理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、人権と統治の考え方の違いを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅰを読んでおく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返ること。	120分
2	権力分立原理	権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのか、そして現在どのような変化を生じているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味、現代的变化などを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅱを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。	120分
3	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅲを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国民主権原理とその具体的な表れである民主制との関係性を整理したノートを作成する。	120分
4	国会と立法権	国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じるとともに、国会の組織・権能などを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的な立法概念とは何かを説明でき、また国会の組織や権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「国会」、第20章「議院と議員」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的な立法概念について整理したノートを作成する。	120分
5	内閣と行政権	行政権の概念、議院内閣制、行政組織を中心に、現代的な行政権理解を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の概念、議院内閣制の本質論、主な行政組織について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第21章「内閣」、第22章「行政」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、執政権論、内閣の衆議院解散権についてノートを作成する。	120分
6	裁判所と司法権	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、司法の独立の要請を踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界、司法の独立について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第23章「裁判所」、第24章「司法権と憲法訴訟」Ⅰを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	比較：統治制度（アメリカ）	米国で弁護士として勤務し、在米日本大使館で公使も務めた阿川尚之氏（慶應義塾大学名誉教授）をゲストスピーカーとして呼びし、アメリカの統治制度についてお話いただく。	
	この回の到達目標	アメリカの統治制度について理解し、その特徴と日本との違いについて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	アメリカの統治制度について振り返り、ノートにまとめる。	120分
8	違憲審査制（2）	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制を中心に、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第24章「司法権と憲法訴訟」Ⅱを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	120分
9	地方自治	地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに、地方自治の本旨(団体自治・住民自治)の意味するところ、条例制定権の射程を具体例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第25章「地方自治」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。	120分
10	財政	国家の財政ルールの一つである租税法律主義を中心に、その意義と射程を判例も参照しながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第26章「財政」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、租税法律主義について、判例もあわせて整理したノートを作成する。	120分
11	憲法改正	日本国憲法上の憲法改正手続について、改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第30章「憲法改正」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。	120分
12	平和主義	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第28章「平和主義」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本憲法史	大日本帝国憲法から日本国憲法へと至る歴史的な展開を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを、大日本帝国憲法と対比しながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第29章「日本憲法史」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作成する。	120分
14	天皇制	日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第27章「天皇」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。	120分
15	まとめ・振り返り	統治機構・国家組織論についてのまとめをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治機構・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料とこれまで作成したノートをよく読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
経営法学科1年生のみ。

【授業方法】		
当該年度は、教科書は使用せず、レジュメ（パワーポイントファイル）を事前に配信し、そのレジュメをもとに授業を行います。なお、レポート作成のための参考書、あるいは各種試験対策のための推奨参考書については、講義中随時指示します。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題を出します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	4				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを 授業内課題により評価する。	10	20	20								50
レポート等	到達目標④についての能力が身についているかをレポート により評価する。	20			30							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については，Google Classroomを通じて回答に対する講評や注意喚起などを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10～13:00（事前予約 saito.koki55@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内：憲法（統治機構）の学び方	具体的な授業日程、成績評価方法、受講上の注意、予習・復習のやりかた、条文の参照方法、判例・学説の学び方など、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法の前文、第1条～第9条、第41条～第99条を通読し、概要を把握しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを確認し、今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とはなにか	憲法の前提としての国家、憲法の意味、近代憲法の特徴、立憲主義と民主主義の意義、人権と統治の融合を説明し、履修者が憲法とはなにかを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法の意味、近代憲法の特徴、民主主義と立憲主義の意義、人権と統治の融合をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史/日本国憲法の基本原理	十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の憲法の歴史を理解する。とくに、成立過程を踏まえた上で明治憲法との比較において日本国憲法の基本原理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、十七条憲法の内容、大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法の成立過程・基本原理について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、日本の憲法の歴史を理解した上で、日本国憲法の基本原理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
4	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨、国会の地位（国会は国権の最高機関であること、唯一の立法機関であること）、国会議員の地位を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国会の地位に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位について概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
5	国会（2）：国会の活動	国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則を説明し、履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会の活動（会期）、参議院の緊急集会、会議の諸原則を理解し、会期制の趣旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、国会の活動の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国会の活動をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
6	国会（3）：国会の権能/議院の権能	国会の権能（法律の議決、予算の議決、条約の承認、内閣総理大臣の指名など）と衆議院の優越を説明し、履修者が国会の権能の詳細を理解できるようにする。また、議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、これを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国会の権能と衆議院の優越、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会（４）：参政権と選挙制度、政党	参政権の意義と各種選挙制度の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる理論や判例を説明し、その概要を理解できるようにする。さらに、憲法と政党の問題について説明し、その概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、参政権の意義と各種選挙制度の特徴、議員定数不均衡問題をめぐる理論と判例、憲法と政党の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、憲法と政党に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権の意義、議員定数不均衡の問題、憲法と政党の問題の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権の意義、議員定数不均衡の問題、憲法と政党の問題をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	内閣（１）：行政権と内閣制度/議院内閣制	行政権の意義、議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。首相公選制など制度改革の試案についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政権の意義、議院内閣制のしくみを理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、首相公選制に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能の概要を把握しておく。首相公選制など制度改革の試案についても目を通しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能、首相公選制など制度改革の問題をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
9	内閣（２）：内閣の組織・権能	内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能、財政民主主義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能、財政民主主義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能、財政民主主義の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、内閣の組織、内閣および内閣総理大臣の権能、財政民主主義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	象徴天皇制	大日本帝国憲法（明治憲法）との比較の視点から、日本国憲法における象徴天皇制の特質を説明した上で、天皇の地位、皇位継承の原則、天皇の国事行為、皇室経済の原則などを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇の地位、皇位継承の原則、天皇の国事行為、皇室経済の原則などを理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、象徴天皇制に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、象徴天皇制の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、象徴天皇制の特質、天皇の地位、皇位継承の原則、天皇の国事行為、皇室経済の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	裁判所（１）：司法権	司法権の独立の意義、裁判官の身分保障を説明し、履修者が司法権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の意義、裁判官の身分保障を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の特質、裁判官の身分保障の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、司法権の特質、裁判官の身分保障をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	裁判所（２）：裁判所の組織・権能/違憲審査制	裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	憲法の最高法規性		憲法の最高法規性の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法の最高法規性の意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法の最高法規性の意義の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法の最高法規性の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
14	地方自治		地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営の概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
15	平和主義/日本国憲法の将来		憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、日本国憲法の将来について説明し、履修者が自分の意見を持てるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、日本国憲法の将来に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配信するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制の概要を把握しておく。また、日本国憲法の将来について自分の意見を言えるように準備する。疑問点があればノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制をノートにまとめ、説明できるようにする。日本国憲法の将来について自分の意見をまとめる。		120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか，そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか，筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として，授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて，到達目標④の観点から，それに関わる能力が身についているか，評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国民主権	国民主権の意義・民主主義について学習する。まずは「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。そして、このことと不可分の関係にある民主主義の在り方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書37-43ページと世界史の教科書を読み、人々が政治に参加する権利を獲得してきた歴史を確認してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてみる。	120分
2	選挙(1)	国民の政治参加を具体化する制度、すなわち選挙の原則について学習する。普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票および平等選挙の意義と内容を考察する。その際に「一票の格差」の問題に触れ、近年の最高裁判例の発展について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書43-47ページを読み、選挙の原則の概要を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてみる。	120分
3	選挙(2)	現在の選挙制度について学ぶ。衆議院および参議院の選挙制度の概要を理解したうえで、小選挙区制と比例代表制の内容と問題点を考察する。さらに日本の政党に対する規制についての理解も深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書43-54ページを読み、日本の選挙制度の概要を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現行の選挙制度にはどのような問題点があるのかを考えてみる。	120分
4	国会(1)	二院制・国会の審議方法について学習する。二院制、とくに参議院の存在意義について理解を深めたうえで、国会が法律を制定する際の審査過程を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二院制・国会の審議方法についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書59-63ページを読み、国会の組織と手続の概要を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてみる。	120分
5	国会(2)	立法権・議員特権について学習する。国会が制定すべき法律とはどのようなものであるべきか、また法律を制定する国会議員の任務と特権はどのようなものかを理解する。そしてなぜ国会議員が国民には認められない特権を手にするのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、立法権・議員特権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書63-68ページを読み、国会議員に認められている特権の内容を確認してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国民よりも厚く保護されている国会議員に求められる役割とはどのようなものかを考えてみる。	120分
6	内閣	議院内閣制・内閣の構造と権能について学習する。議会と行政府との関係につき、議院内閣制の特徴を理解する。さらには、内閣の構造と権能を学んだうえで、今日の内閣主導の政治決定のあり様について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制・内閣の構造と権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書69-87ページを読み、内閣の組織と国会との関係の概要を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	裁判所(1)		司法権の内容・日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係を学んだうえで、裁判所が裁判する際に不可欠な条件を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の内容・日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書103-107、109-114ページを読み、裁判所の構成と裁判所の任務について理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてみる。	120分
8	裁判所(2)		司法権の限界・司法の独立について学習する。裁判所が裁判できるにもかかわらず、その権限行使を回避する範囲と理由を考察し、その必要性の理解に努める。また司法の独立の意義を考察し、裁判と民意との関係について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の限界・司法の独立についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書106-109、111ページを読み、司法権が政治部門から独立していることの重要性を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、民主政と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてみる。	120分
9	違憲立法審査権		法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、違憲立法審査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書115-120ページを読み、憲法上最高裁判所に付与された違憲立法審査権の意義について理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてみる。	120分
10	地方自治(1)		地方自治制度・地方公共団体の構造について学習する。憲法の規定する「地方自治の本旨」の理解とともに、現行の地方自治制度の概要および地方公共団体の構造を学ぶ。さらには国と地方公共団体との関係を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治制度・地方公共団体の構造についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書89-95ページを読み、日本の国家制度としての地方自治の概要を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国と地方の関係はどのようなものであるのかを考えてみる。	120分
11	地方自治(2)		住民の権利・条例制定権について学習する。条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。さらに地方公共団体の権限として条例制定権ほかを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住民の権利・条例制定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書95-102ページを読み、地方自治制度の下での住民の権利について理解を深めてくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを考えてみる。	120分
12	天皇		象徴としての地位・国事行為についての理解を深める。国民主権の下での天皇の存在、国事行為以外の天皇の行為の法的性質、象徴として天皇に認められる特権と制約、皇族などについて学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書15-18ページや日本史の教科書を読み、日本の歴史における天皇について考えてくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	平和主義		戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制について学習する。国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係、9条の理解、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書187-200ページを読み、憲法が平和主義を採用するようになった経緯を理解してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現在の国際社会での自衛権の行使について考えてみること。		120分
14	国家について・憲法とは何か、立憲主義		憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家について・憲法とは何か、立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書1-22ページを読み、さらにこれまで学んだことを振り返り、国家の存在意義、国家と憲法との関係について考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてみること。		120分
15	憲法史		明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書22-35ページを読み、と日本史の教科書を読み、幕末から明治維新、条約改正から5・15事件や満州事変を経て敗戦に至る歴史と、GHQの占領、新憲法制定、高度経済成長期にかけての歴史を理解してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてみること。		120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
学科，学年，学生番号により履修制限あり。

【授業方法】
指定教科書に沿って，講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど，教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の結果と講評とポータスシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法入門講義	東 裕	一藝社	2021年	教科書	必携
憲法についての素朴な疑問	東 裕	一藝社	2022年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
事前連絡の上、適宜対応する。メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	国家と憲法		憲法と国家、憲法の分類、憲法の特質、近代憲法の基本原理、近代国家から現代国家への変容と現在憲法の展開。（教科書「序章」「第1章」1-21頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	憲法と国家の関係を理解し、近代から現代にかけて憲法と国家の関係の変容を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	日本国憲法の成立		ポツダム宣言の意味、占領下における憲法の成立、八月革命説。（教科書「第2章」23-35頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	日本国憲法の成立過程を理解し、その問題点を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	日本国憲法の基本原理		日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）とその相互関係。（教科書「第3章」37-45頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	各基本原理の内容を理解し憲法の目的という観点から、基本原理相互間の関係を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	天皇と国民主権		国民主権と天皇、天皇の地位、天皇の権能と行為、皇室経済。（教科書「第4章」47-59頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	主権の意味の多義性を理解し、国民主権と調和する天皇の制度について簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
5	戦争の放棄		日本国憲法の平和主義の特徴・9条解釈のあり方、政府・裁判所の9条解釈、9条解釈についての学説、憲法と安全保障。（教科書「第5章」61-72頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	多様な9条解釈の存在を知り、憲法と国家の安全保障のあり方について各自が一定の見解をもてるようになる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	権力分立原理		権力分立の意義、権力分立の目的、権力分立の現代の変容。（教科書「第1章」13-21頁、「第14章」～「第16章」171-207、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	近代憲法の基本原理である権力分立が日本国憲法にどのように現れているか、条文を示して説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会の地位	国民の代表機関、国権の最高機関、国の唯一の立法機関。（教科書「第14章」171-183頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	国民代表、国会中心立法の原則、国会単独立法の原則について簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
8	国会の組織と権能	二院制、会期、国会の権能と議院の権能、衆議院の優越、国会議員の地位と特権、議会制民主主義と政党。（教科書「第14章」171-183頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	日本国憲法における二院制の特徴について理解し、現代議会政治における議員と政党の関係についての憲法上の問題について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
9	内閣の組織と権能	行政権の意義、独立行政委員会、内閣の構成、内閣の責任、内閣の権能、内閣総理大臣の地位と権能。（教科書「第15章」185-194頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	議院内閣制がどのような制度であるか、大統領制との比較において説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
10	裁判所の組織と権能	司法権の意義、司法権の独立、裁判所の構成・運営・管轄、裁判員制度、最高裁判所の組織と権能。（教科書「第16章」195-207頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	司法権の独立の意義を理解し、それを支える制度について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
11	違憲審査制	違憲審査制の類型、違憲審査の主体と対象、違憲審査制の運用、司法権の限界（党利行為論・立法裁量・行政裁量）、違憲審査の方法と効力。（教科書「第21章」263-273頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	違憲審査制の運用実態について理解し、司法権の限界について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	財政	財政の基本原則、予算の意義・性質・内容、予算の作成手続、決算の意義・効果、公金の支出制限。（教科書「第17章」209-222頁、授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	財政民主主義・租税法律主義について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地方自治	地方自治の概念，わが国の地方自治制度，地方自治の本旨（住民自治・団体自治），地方公共団体の組織，条例制定権とその限界，住民投票，直接請求。（教科書「第18章」223-234頁，授業時配布レジюме）	
	この回の到達目標	国と地方の関係について，憲法と地方自治法をもとに簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジюмеと教科書で再確認すること。	180分
14	憲法改正	憲法改正の手続，憲法改正の限界（教科書「第19章」235-249頁，授業時配布レジюме）	
	この回の到達目標	憲法改正の手続について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジюмеと教科書で再確認すること。	180分
15	国家緊急権	国家緊急権の意義，日本国憲法と国家緊急権（教科書「第22章」275-287頁，授業時配布レジюме）	
	この回の到達目標	日本国憲法と国家緊急権の関係について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジюмеと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分であることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
新聞学科1年生のみ。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。この講義を受講すれば、憲法解釈論の基礎をきちんと理解できるようになる。この講義で扱う内容は、統治機構及び憲法史についてである（なお、憲法総論及び人権論については、前期の同一曜日・時間に設置された「憲法A（人権）」で講述する）。毎回、レジュメに沿って、教科書を用いて講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。						1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。							1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、授業内課題により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(注意事項)	成績評価は学年に関わらず、公平に行う（4年生であっても、一切、特別な対応を行わない）。競技スポーツ部の学生に対する優遇措置は、絶対に行わない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法』	柳瀬昇	新世社	2023	教科書	必携
備考	上記のほかに、第2回の講義以降、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。				

【オフィスアワー】
授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門的知見の提供・審議会等での委員の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		重要な憲法訴訟において私見が参照されたり、メディアからの求めに応じて専門的知見を示したことや、地方公共団体の審議会等の委員としての実務経験等を、講義を通じて伝えていくこととする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	立憲主義の基本原理（２）	日本国憲法の基本的原理として、権力分立及び法治主義・法の支配について説明したうえで、立憲主義の意義と変遷について検討する。	
	この回の到達目標	権力分立の意義及び歴史的展開について理解している。法の支配と（形式的）法治主義との異同を踏まえて、それらの意義及び歴史的展開について理解している。立憲主義の意義及び歴史的展開について理解している。	
	事前学修	教科書の1. 2. 3～1. 2. 4（12-15頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、権力分立、法治主義・法の支配及び立憲主義の意義と変遷について整理する。	120分
2	国会と立法権（１）	国会の地位について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法41条にいう「国権の最高機関」及び「国の唯一の立法機関」ならびに43条にいう「全国民の代表」の意味について理解している。実質的意味の立法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。国会中心立法の原則及び国会単独立法の原則について、それぞれの意味及び憲法上の例外を理解している。	
	事前学修	教科書の10. 1. 1～10. 1. 4（210-216頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の地位について整理する。	120分
3	国会と立法権（２）	国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法について検討する。	
	この回の到達目標	二院制が採用される理由について理解している。国会及び各議院の憲法上の権能について理解している。衆議院と参議院の関係に関する憲法の規定の内容について説明することができる。国会の会期及び参議院の緊急集会について理解している。	
	事前学修	教科書の10. 2. 1～10. 3. 6（216-239頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法について整理する。	120分
4	内閣と行政権（１）	行政権の概念について検討したうえで、内閣の組織、内閣の権能及び内閣総理大臣の権限について考察する。	
	この回の到達目標	実質的意味の行政権の概念について、標準的な定義を述べることができる。内閣の構成及び内閣総理大臣・国务大臣の任命等について理解している。日本国憲法が定める内閣の権能及び内閣総理大臣の権限について理解している。内閣が行政権の行使について国会に対して連帯して負う責任の意味を説明することができる。	
	事前学修	教科書の11. 1. 1～11. 1. 5（252-264頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、行政権の概念、内閣の組織及び内閣の権能・内閣総理大臣の権限について整理する。	120分
5	内閣と行政権（２）	議会と政府との関係について議論したうえで、衆議院の解散権の所在について検討する。	
	この回の到達目標	議院内閣制や大統領制など、議会と政府の関係から見た政治体制の類型について理解している。日本国憲法の定める議院内閣制の仕組みについて、憲法の条文に則して説明することができる。日本国憲法69条が定める場合以外に、内閣の裁量により衆議院を解散することができるか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	教科書の11. 2. 1～11. 2. 4（264-272頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、議会と政府との関係及び衆議院の解散権の所在について整理する。	120分
6	裁判所と司法権・違憲審査権（１）	裁判所の組織・権能及び司法権の独立について検討する。	
	この回の到達目標	実質的意味の司法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。裁判所の憲法上の権能について理解している。司法権の独立の意義、内容、具体的な発現形態について理解している。裁判官の任命等について説明できるとともに、憲法が定める裁判官の身分保障の内容及び意義について理解している。	
	事前学修	教科書の12. 1. 1～12. 1. 8（273-291頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判所の組織・権能及び司法権の独立について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	裁判所と司法権・違憲審査権（2）		司法権の内容及び限界について検討する。
	この回の到達目標	「法律上の争訟」の意味について、判例を踏まえて、説明することができる。ある争いが法律上の争訟に当たるか否かや、法律上の争訟に当たるとしても裁判所による司法審査の対象となるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の12. 2. 1～12. 2. 3（231-238頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の内容及び限界について整理する。	120分
8	裁判所と司法権・違憲審査権（3）		違憲審査権の性格・主体・対象について検討し、裁判所による違憲判断の方法と効力について考察する。
	この回の到達目標	違憲審査制の意義と類型について理解したうえで、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査制の基本的仕組みと特質について説明することができる。日本国憲法の定める違憲審査権の性格・主体・対象について、説明することができる。裁判所の違憲審査の方法と効力について理解している。	
	事前学修	教科書の12. 3. 1～12. 4. 7（299-319頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の性格・主体・対象及び違憲判断の方法・効力について整理する。	120分
9	財政からみる民主主義		憲法上の財政の基本原則について確認したうえで、公金・公の財産の支出・利用の制限について検討するとともに、予算・決算についての憲法上の制度を概観する。
	この回の到達目標	財政民主主義や租税法律主義の意義について理解している。租税の意味について、誤解することなく、正確に認識している。公金・公の財産の支出・利用の制限、予算及び決算等についての憲法上の制度について、条文に即して、その意義を説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法第7章の規定についてあらかじめ目を通しておく。また、教科書の13. 1. 1～13. 2. 4（320-329頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、財政の基本原則、公金・公の財産の支出・利用の制限及び予算・決算について整理する。	120分
10	地方からみる民主主義		地方自治の本旨について検討したうえで、条例制定権とその限界について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について説明することができる。94条の定める「条例」の意味及び条例制定権の意義について理解している。憲法上の法律留保事項について条例で定められるかや、条例が法律の範囲内にあるか否かについて、具体的事例を挙げて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	日本国憲法第8章の規定についてあらかじめ目を通しておく。また、教科書の14. 1. 1～14. 3. 3（330-345頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、地方自治の本旨及び条例制定権とその限界について整理する。	120分
11	天皇		天皇の地位・性格及び権限について議論したうえで、天皇・皇族の人権享有主体性について検討するとともに、その他の天皇に関連する論点について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法下での天皇の地位等について、大日本帝国憲法の場合と比較して、説明することができる。天皇の国事行為等の内容及び法的性質について理解している。天皇及び皇族の人権の制約の根拠と範囲について理解している。元号、国旗、国歌と天皇との関係について理解している。	
	事前学修	教科書の15. 1. 1～15. 1. 7（346-355頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、天皇の地位・性格、天皇の権限、天皇・皇族の人権享有主体性及びその他の天皇に関連する論点について整理する。	120分
12	安全保障		自衛権の概念について検討したうえで、戦力の不保持と交戦権の否認をめぐる論争を概観する。平和的生存権について考察し、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について議論する。
	この回の到達目標	個別的自衛権及び集団的自衛権ならびに日本国憲法9条2項の定める「戦力」及び「交戦権」の意味について理解している。平和的生存権をめぐる議論について理解している。日米安全保障体制及び自衛隊の国際平和維持活動への参加についての基本的仕組みを理解している。	
	事前学修	教科書の16. 1. 1～16. 2. 3（356-375頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自衛権の概念、戦力の不保持と交戦権の否認、平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	日本国憲法の生成と展開（１）		日本国憲法の制定と運用をめぐる歴史を概観する。まず、大日本帝国憲法の制定から日本国憲法の制定までの歴史について通観し、新旧憲法の特徴を比較する。次に、戦後政治について、安全保障を通じて検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法の特徴について、大日本帝国憲法との比較において、理解している。戦後の安全保障をめぐる基本的な法制度の展開について理解している。		
	事前学修	教科書の1.3.1～1.2.2（15-18頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本国憲法の制定史及び運用史について整理する。		120分
14	日本国憲法の生成と展開（２）		日本国憲法の改正論議について概観するとともに、憲法改正の意義、手続及び限界について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法の改正をめぐる戦後の主要政党の姿勢について、各時代の背景を踏まえて、理解している。憲法改正の意義及び日本国憲法の改正手続・限界について理解している。		
	事前学修	教科書の17.1.1～17.2.3（376-382頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、戦後の政党政治と憲法改正論議との関係ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について整理する。		120分
15	総括		これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容について総括する。	
	この回の到達目標	これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。		
	事前学修	これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。		120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容を改めて整理する。		120分

科目名	公共経営論	担当者	鏡 圭佑	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講義では、1980年代以降に日本を含めた世界各国の公共経営の在り方に大きな影響を及ぼしてきたNPM(New Public Management)について解説する。NPMとは、市場活力および民間企業の手法を行政に導入する思想および実践である。NPM型行政改革のもとで、民営化、PFI(Private Finance Initiative)、エージェンシー、政策評価が導入されてきた。こうしたNPMについて総体的な理解を獲得することが本講義の目標となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
NPMの思想をそれが誕生した背景もあわせて理解する。そして、NPMの代表的な手法について、その内容、メリットおよびデメリットを把握する。さらに、日本、アメリカ、イギリスにおけるNPM型行政改革について学修する。これらの知識を通じて、NPMについて自分なりの考えを主張できるようにする。

【履修条件】
特になし。ただし、行政学および政策学系の基礎知識が前提となる点に留意されたい。

【授業方法】
基本的には、講師が講義内容について解説した後、学生がリアクション・ペーパーを提出する形で、毎回の講義を進める。また、NPMに関する制度を所管する公務員をゲスト・スピーカーとして招き、講演をしてもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーに、毎回の講義で講師が話した内容に関する自分の意見を記載してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	NPMの思想をそれが誕生した背景もあわせて理解する。				2							
②	NPMの各手法のメリットおよびデメリットについて自分の意見を主張できる。						2	2				
③	日本、アメリカ、イギリスにおけるNPM型行政改革の歴史と内容を理解する。				2							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義目標①②③に関して受講生の到達度を評価するための 授業内試験を実施する。	20	25	25								70
小テスト等	毎回の講義でのリアクション・ペーパーの提出を通じて、 講義内容に関する理解度を確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	ゲスト・スピーカーの講演時に質問をした学生については 特別に加点する。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説をポータルにて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の公共経営	外山公美ほか	北樹出版	2014	参考書	推奨
備考	その他の参考書については、各回の講義のなかで指示する。				

【オフィスアワー】
講義内容に関する質問等は講義前後に講堂にて受け付ける。また、研究室でも対応可能。その場合は事前にメールでアポイントを取ること (kagami.keisuke@nihon-u.ac.jp)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省行政管理局での勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		総務省行政管理局での勤務を通じて得た行政の実態に関する知識を講義で紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、行政とは何か		講義の全体像および成績評価について確認した後に、これからの講義を理解するために必要となる行政に関する基礎知識を解説する。
	この回の到達目標	今後の講義の前提となる行政の基礎知識について理解する（講義目標①②③に関係）。	
	事前学修	これまでに履修してきた行政学系の講義の内容を振り返る。	120分
	事後学修	講義内容について復習した後に、授業計画を概観し、自分の興味のある分野について調べてみる。	120分
2	NPMの理論		NPMの思想について解説したうえで、その思想がなぜ誕生し、現実の行政改革に導入されてきたのかを考える。
	この回の到達目標	NPMの思想をそれが誕生した背景もあわせて理解する（講義目標①に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	NPMの思想の内容について自分なりの主張を整理する。そして、その主張を補強するための情報を調査してみる。	120分
3	NPMの手法総論		NPMの思想を実現するための各手法（民営化、PFI、エージェンシー、政策評価）について概観する。
	この回の到達目標	NPMの思想と各手法との関係を理解したうえで、今後の講義において詳細に解説される各手法の内容について大まかに理解する（講義目標①②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	NPMの各手法について具体的な事例を調べてみる。	120分
4	NPMの手法①民営化		民営化について、その理論および代表的事例を確認する。そのうえで、民営化のメリットとデメリットに関する行政学の見解を紹介する。
	この回の到達目標	民営化という手法におけるメリットとデメリットについて自分の考えを説明できるようにする（講義目標②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	日本における代表的な民営化の事例である3公社民営化や郵政民営化について自分でも調査してみる。	120分
5	NPMの手法②PFI		PFI(Private Finance Initiative)について、その理論および代表的事例を確認する。そのうえで、PFIのメリットとデメリットに関する行政学の見解を紹介する。
	この回の到達目標	PFIという手法におけるメリットとデメリットについて自分の考えを説明できるようにする（講義目標②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分の生まれ育った地方自治体におけるPFIの事例を調査してみる。そして、どのような問題が指摘されているのかを確認する。	120分
6	NPMの手法③エージェンシー		エージェンシーについて、その理論および代表的なエージェンシー型組織を確認する。そのうえで、エージェンシーのメリットとデメリットに関する行政学の見解を紹介する。
	この回の到達目標	エージェンシーという手法におけるメリットとデメリットについて自分の考えを説明できるようにする（講義目標②に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分が興味のある日本の独立行政法人についてその活動内容を調査してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	NPMの手法④政策評価		政策評価について、その理論および実際の政策評価の手法を確認する。そのうえで、NPM型政策評価のメリットとデメリットに関する行政学の見解を紹介する。	
	この回の到達目標	NPM型の政策評価におけるメリットとデメリットについて自分の考えを説明できるようにする（講義目標②に関係）。		
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	自分の関心のある政策を所管している行政組織の評価書を確認してみる。		120分
8	英米のNPM		イギリスとアメリカにおけるNPM型の行政改革についてその経緯を理解する。そして、改革の結果として導入された制度を紹介する。	
	この回の到達目標	イギリスとアメリカにおけるNPM型行政改革の歴史と内容について理解する（講義目標③に関係）。		
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	レーガンとサッチャーについてその政治上の思想を調べてみる。		120分
9	日本の中央政府におけるNPM		日本の中央政府におけるNPM型行政改革の結果として誕生した新しい制度、NPM型行政改革の代表的な事例を紹介する。	
	この回の到達目標	日本の中央政府におけるNPM型行政改革の歴史と内容について理解する（講義目標③に関係）。		
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	中曽根康弘元首相や小泉純一郎元首相の政治上の思想を調べてみる。		120分
10	日本の地方政府におけるNPM		日本の地方制度において導入されているさまざまなNPM的な制度を解説し、先進的な事例を紹介する。	
	この回の到達目標	日本の地方政府におけるNPM型行政改革の歴史と内容について理解する（講義目標③に関係）。		
	事前学修	事前配布するレジュメを確認し、参考書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	自分が生まれ育った地方自治体においてどのようなNPM型行政改革が導入されているのかを調査してみる。		120分
11	ゲスト・スピーカー①PFI		PFIが導入されている施設の管理について担当している公務員の方を招き、PFIの実態に関して解説してもらう。	
	この回の到達目標	PFIについて先の講義で理解した一般的な知識を参照しながら、より実態的な知識を獲得する（講義目標②③に関係）。		
	事前学修	ゲスト・スピーカーからの指示を別途伝える。		120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの方の講義を聞いて浮かんだ疑問について自分で調査してみる。		120分
12	ゲスト・スピーカー②独立行政法人		独立行政法人制度を所管する公務員の方を招き、独立行政法人制度の変遷および最先端の動向について解説してもらう。	
	この回の到達目標	エージェンシーについて先の講義で確認した一般的な知識を参照しながら、日本の独立行政法人制度の最先端の動向を把握する（講義目標②③に関係）。		
	事前学修	ゲスト・スピーカーからの指示を別途伝える。		120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの方の講義を聞いて浮かんだ疑問について自分で調査してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゲスト・スピーカー③政策評価	政策評価制度を所管する公務員の方を招き、政策評価制度の変遷および政策評価制度の改革の動向について解説してもらう。	
	この回の到達目標	政策評価制度について先の講義で確認した一般的な知識を参照しながら、日本の政策評価制度改革の最先端の動向を理解する（講義目標②③に関係）。	
	事前学修	ゲスト・スピーカーからの指示を別途伝える。	120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの方の講義を聞いて浮かんだ疑問について自分で調査してみる。	120分
14	NPM批判	NPMについて行政学者が指摘してきた多様な批判を紹介する。	
	この回の到達目標	NPMの思想と実践において指摘されてきた批判を理解したうえで、自分でNPMに対する問題点を考え、主張できるようになる（講義内容①②③に関係）。	
	事前学修	事前配布するレジюмеを確認し、参考書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	自分でNPMに対する問題点を考え、主張できるようにする。また、その主張を補強する根拠について調査してみる。	120分
15	講義のまとめと授業内試験	改めて講義の全体像を振り返り、成績評価の方法についても理解したうえで、授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	NPMの思想および実践を復習し、自分自身のNPM観を確立する（講義目標①②③に関係）。	
	事前学修	これまでのレジюмеをさらっと確認し、講義の全体像を振り返る。	120分
	事後学修	授業内試験で回答できなかった部分を確認してみる。	120分

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。							3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。							3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	25	15	20	10							70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。試験については次回授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講（ライブラリ経済学15講）	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・分析の視点：効率性と公平性	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	ミクロ経済学の復習(1)	・市場均衡 ・競争市場 ・消費者行動	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場均衡と競争市場、消費者行動について説明できる。	
	事前学修	ミクロ経済学の参考書などを読み、「市場均衡」と「競争市場」、「消費者行動」の内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
3	ミクロ経済学の復習(2)	・生産者行動 ・余剰分析 ・厚生経済学の基本定理	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者行動と余剰分析、厚生経済学の基本定理について説明できる。	
	事前学修	ミクロ経済学の参考書などを読み、「生産者行動」と「余剰分析」の内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
4	政府の役割と市場の失敗	・市場の失敗：外部性、公共財、情報の非対称性、独占 ・政府の役割（財政の3機能）：資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能 ・大きな政府と小さな政府	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場の失敗と政府の役割を説明できる。	
	事前学修	教科書 第1講 1.4の後半「市場の失敗の例1：独占・寡占」から最後までと、1.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
5	外部性の理論(1)	・外部性とは何か ・非効率とならない外部性 ・均衡と効率の乖離＜負の外部性＞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部性について説明できる。	
	事前学修	教科書 第2講 2.1と2.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
6	外部性の理論(2)	・政府の介入＜負の外部性＞：ピグー税	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部性のピグー税による矯正について説明できる。	
	事前学修	教科書 第2講 2.4の「政府の介入」を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	外部性の理論(3)	・均衡と効率の乖離＜正の外部性＞ ・政府の介入＜正の外部性＞：ピグー補助金 ・自発的交渉（コースの定理） ※次回以降のために、公共財について体験的に学ぶ公共財供給ゲーム実験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部性の自発的交渉による矯正について説明できる。	
	事前学修	教科書 第2講 2.4の「自発的交渉」を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
8	公共財理論(1)	・公共財供給ゲーム ・公共財供給ゲーム実験 ・公共財とは何か	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財とは何かを説明できる。	
	事前学修	教科書 第3講 3.1の全部と3.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
9	公共財理論(2)	・公共財の効率的供給 ・ただ乗り問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財の効率的供給とただ乗り問題について説明できる。	
	事前学修	教科書 第3講 3.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
10	情報の非対称性(1)	・逆選抜 ・保険市場と情報の非対称性 ・資本市場と情報の非対称性	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性について説明できる。	
	事前学修	教科書 第5講 5.1と5.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
11	情報の非対称性(2)	・モラルハザード ・医療保険と事後的モラルハザード ・スクリーニングとシグナリング	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、モラルハザードとスクリーニングについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第5講 5.3と5.4、5.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
12	租税の経済効果(1)	・税の機能 ・物品税が消費選択に与える影響	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の機能と影響について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6講 6.1と6.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	租税の経済効果(2)	・労働所得税が労働供給に与える影響 ・利子課税が貯蓄に与える影響	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の経済効果について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6講 6.3と6.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の第1講から第6講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の第1講から第6講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「公共経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。									3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。									3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。									3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。									3	3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	25	15	20	10							70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。試験については次回授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講（ライブラリ経済学15講）	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・市場の失敗 ・政府の役割（財政の3機能）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	税の帰着と負担(1)		・税の負担 ・税の帰着と価格弾力性 ・法人税の帰結	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税の負担について説明できる。		
	事前学修	教科書 第7講 7.1の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
3	税の帰着と負担(2)		・社会保険料の帰着 ・多国籍企業と租税回避 ・租税競争	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会保険料の帰着と多国籍企業の租税回避、租税競争について説明できる。		
	事前学修	教科書 第7講 7.3と7.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
4	望ましい税制に向けて(1)		・課税のコスト ・次善（セカンドベスト）という考え方	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、課税におけるセカンドベストについて説明できる。		
	事前学修	教科書 第8講 8.1と8.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
5	望ましい税制に向けて(2)		・ラムゼイ・ルール ・生産効率性	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラムゼイ・ルールについて説明できる。		
	事前学修	教科書 第8講 8.3と8.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分
6	最適課税論		・厚生経済学の第二基本定理 ・社会厚生関数 ・最適所得税理論	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、厚生経済学の第二基本定理と社会厚生関数、最適所得税理論について説明できる。		
	事前学修	教科書 第9講 9.1～9.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メカニズム・デザイン	・メカニズム・デザイン ・オークション	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メカニズム・デザインとオークションについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第10講 10.1と10.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
8	コミットメント問題	・展開形ゲーム ・時間非整合性 ・コミットメント ・ソフトな予算制約問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時間非整合性とコミットメントについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第11講 11.1と11.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
9	公共部門の効率化	・公共部門の効率性 ・費用便益分析 ・新しい公共経営	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、費用便益分析と新しい公共経営について説明できる。	
	事前学修	教科書 第12講 12.1～12.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
10	財政赤字と財政再建	・財政政策の効果 ・財政赤字の経済学	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の効果と日本の財政赤字の現状と問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書 第13講 13.1と13.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
11	EBPMという視点	・エビデンスに基づく政策立案（EBPM） ・ランダム化比較実験	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、エビデンスに基づく政策立案（EBPM）とランダム化比較実験について説明できる。	
	事前学修	教科書 第14講 14.1と14.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
12	行動経済学で考える(1)	・行動経済学とは ・行動経済学のいくつかの例	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動経済学とはどのような学問かを説明できる。	
	事前学修	教科書 第15講 15.1と15.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行動経済学で考える(2)	・ナッジとは ・ナッジの実例	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナッジについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第15講 15.3と15.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめ、出題された問題演習等に取り組む。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の第7講から第15講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の第7講から第15講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディベートを実施します。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。								2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。										2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。										2	2	2	2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに公務員の実際を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、公務員とは	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	公務員の種類(国家)	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の国家公務員制度の機能を理解し説明できる。	
	事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	公務員の種類（地方）	日本の地方公務員制度について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
	事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	公務員という職業	日本の公務員の仕事の特質について民間との比較を学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
	事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
	事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	公務員に必要な要素と自分たちに欠けているもの（集団討論）	公務員の社会における使命感とそれに必要な要素について集団討論により学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
	事前学修	公務員による社会貢献や行政の仕事について調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の使命感と必要な要素について集団討論の結果をうけて、自分なりの課題を整理してみる。	120分
6	公務員の特殊性と社会的責任	公務員の仕事の特殊性と社会的責任について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
	事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公務員という仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
	事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	社会における公務員	公務員と社会の関係について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	授業で扱ったグループ・ワークなどの結果をうけて整理してみる。	120分
9	官民の感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	行政手法と公務員	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことをふまえ、務員について自分なりに整理する。	120分
11	公務員の業務の実際と特質	公務員の実際の業務と特質について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	志望先公務員試験（多岐選択問題）	学習者がが志望する公務員試験の選択問題について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、学習者が志望する公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて、情報収集と説明ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	志望先公務員試験（論述問題）	学習者がが志望する公務員試験の論述試験について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、学習者がが志望する公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	まとめ	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	鏡 圭佑	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
受講生によるアクティブ・ラーニングを中心とする。具体的には、グループ・ディスカッションおよびグループワークを中心とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生がディスカッション、プレゼンテーションをした後に、講師がコメントおよびアドバイスする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
基本的に、質問は講堂およびメールにて受け付ける。研究室での対面での質問等を希望の場合は、メールにてアポイントをとること(kagami.keisuke@nihon-u.ac.jp)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省行政管理局での勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		総務省行政管理局での勤務を通じて、受講生が社会人になった後にも有益となるような講義の運営を心掛ける。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	講義の全体像を説明し、グループに分かれて受講生同士での自己紹介を行った後に、今後行うグループ・ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	講義で行うことを理解し、グループ・ディスカッションについてイメージを持てるようにする。	
	事前学修	自己紹介について考えておく。	120分
	事後学修	グループ・ディスカッションについて文献や動画で進め方を確認する。	120分
2	グループ・ディスカッション①	学生生活や就職といった身近な話題についてグループで意見を交換し、その成果を発表する。	
	この回の到達目標	他者の話を聞き、自分の意見を論理的に主張できるようになる。	
	事前学修	グループ・ディスカッションの進め方について学修する。	120分
	事後学修	ディスカッションのなかで、自分ができた点とできなかった点を振り返り、次回の目標を設定する。	120分
3	グループ・ディスカッション②	社会問題についてグループで意見を交換し、その成果を発表する。	
	この回の到達目標	社会問題について、他者の話を丁寧に聞き、自分の意見を主張できるようになる。	
	事前学修	新聞やニュース番組を確認することで、社会問題に対して自分の意見を持てるようにする。	120分
	事後学修	ディスカッションのなかで、自分ができた点とできなかった点を振り返り、次回の目標を設定する。	120分
4	グループ・ディスカッション③	社会問題についてグループで意見を交換し、その成果を発表する。	
	この回の到達目標	社会問題について、他者の話を丁寧に聞き、自分の意見を主張できるようになる。	
	事前学修	新聞やニュース番組を確認することで、社会問題に対して自分の意見を持てるようにする。	120分
	事後学修	ディスカッションのなかで、自分ができた点とできなかった点を振り返り、次回の目標を設定する。	120分
5	グループ・ディスカッション④	社会問題についてグループで意見を交換し、その成果を発表する。	
	この回の到達目標	社会問題について、他者の話を丁寧に聞き、自分の意見を主張できるようになる。	
	事前学修	新聞やニュース番組を確認することで、社会問題に対して自分の意見を持てるようにする。	120分
	事後学修	ディスカッションのなかで、自分ができた点とできなかった点を振り返り、次回の目標を設定する。	120分
6	グループ・ワークの進め方についての説明	講師がグループ・ワークの進め方について説明し、グループ分けを行い、各グループで自己紹介やアイデア出しを行う。	
	この回の到達目標	グループ・ワークの進め方について理解し、グループのメンバーと仲良くなる。	
	事前学修	グループ・ワークの進め方について文献やインターネットで学修する。	120分
	事後学修	グループ内のメンバーで集まって、作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	進捗状況の報告①		各グループごとに、作業がどの程度まで進んでいるのかを報告し、講師がアドバイスする。その後に、グループごとに作業を進める。	
	この回の到達目標	他者と協働しながら、社会問題を分析し、その解決策を考える力を伸ばす。		
	事前学修	グループでの作業を進め、進捗状況を報告できるように準備する。		120分
	事後学修	講師のアドバイスを参考に、グループ内のメンバーで集まって、作業を進める。		120分
8	進捗状況の報告②		各グループごとに、作業がどの程度まで進んでいるのかを報告し、講師がアドバイスする。その後に、グループごとに作業を進める。	
	この回の到達目標	他者と協働しながら、社会問題を分析し、その解決策を考える力を伸ばす。		
	事前学修	グループでの作業を進め、進捗状況を報告できるように準備する。		120分
	事後学修	講師のアドバイスを参考に、グループ内のメンバーで集まって、作業を進める。		120分
9	進捗状況の報告③		各グループごとに、作業がどの程度まで進んでいるのかを報告し、講師がアドバイスする。その後に、グループごとに作業を進める。	
	この回の到達目標	他者と協働しながら、社会問題を分析し、その解決策を考える力を伸ばす。		
	事前学修	グループでの作業を進め、進捗状況を報告できるように準備する。		120分
	事後学修	講師のアドバイスを参考に、グループ内のメンバーで集まって、作業を進める。		120分
10	調査状況の報告④		各グループごとに、作業がどの程度まで進んでいるのかを報告し、講師がアドバイスする。その後に、グループごとに作業を進める。	
	この回の到達目標	他者と協働しながら、社会問題を分析し、その解決策を考える力を伸ばす。		
	事前学修	グループでの作業を進め、進捗状況を報告できるように準備する。		120分
	事後学修	講師のアドバイスを参考に、グループ内のメンバーで集まって、作業を進める。		120分
11	PowerPointを用いたプレゼンテーションのコツ		講師がPowerPointを使ったプレゼンテーションのコツについて説明する。その後に、各グループで資料の構成について話し合う。	
	この回の到達目標	他者を説得できるような正確でわかりやすい学術的な資料の作成方法について理解できるようになる。		
	事前学修	文献やインターネットでPowerPointを使った資料作成のポイントについて学修する。		120分
	事後学修	各グループごとに、これまで調査した情報を資料にまとめる。		120分
12	報告の準備		各グループごとに、資料作成について悩んでいる点を報告し、講師からのアドバイスを受ける。その後に、資料作成とプレゼンテーションの準備を進める。	
	この回の到達目標	社会問題とその解決策について効果的に他者に説明できるようになる。		
	事前学修	各グループごとに、悩んでいる点を報告できるようにする。		120分
	事後学修	来週のプレゼンテーションに備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション①	半分のグループがプレゼンテーションを実施する。その後に講師が講評する。	
	この回の到達目標	社会問題とその解決策について効果的に他者に説明できるようになる。	
	事前学修	この日に、どのグループがプレゼンテーションを実施するかは原則として抽選で決めるため、その準備をしておく。	120分
	事後学修	報告したグループのメンバーは自分の貢献と達成について振り返る。報告しなかったグループは、来週の報告に備える。	120分
14	プレゼンテーション②	残りの半分がプレゼンテーションを実施する。その後に講師が講評する。	
	この回の到達目標	社会問題とその解決策について効果的に他者に説明できるようになる。	
	事前学修	先週に報告したグループは報告書を提出する。この日に報告するグループは準備する。	120分
	事後学修	報告したグループのメンバーは自分の貢献と達成について振り返る。	120分
15	講義のまとめ	講師が講義全体について講評する。その後に、受講生が一年間の成長を振り返り、春期休暇中の目標を明確にする。	
	この回の到達目標	一年間のグループでの作業を通じた自分の成長について把握する。	
	事前学修	この講義を通じて自分がどの程度まで成長できたのかを振り返る。そして、春期休暇中の目標を考える。	120分
	事後学修	春期休暇中の目標をより明確にする。そして、レポートを提出する。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修している行政職課程の学生が対象（他学科・コースの学生は履修できない）。必ず毎回授業に出席すること。※グループ分け、輪読分担決定等を行うので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】		
国家公務員志望者を主な対象に、将来の政策立案の際に必要な基礎知識を確実に身に付けるため、講義形式に加え、個人研究発表、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る） なお、本講義では行政職課程の全学生が一斉に受講する共通授業の機会が設けられる（外部講師の授業など。詳細は授業内で説明する。） 授業日程は外部講師の都合等により随時変更があり得る。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じた個人研究発表、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
対立軸でみる公共政策入門	松田憲忠	法律文化社	2019	教科書	必携
入門公共政策学	秋吉貴雄	中央公論新社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び公共政策学の概容	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策学とはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関し、授業全般の構成について把握するとともに、公共政策学の全体的イメージを理解し、その概要及び他の隣接学問分野との異同について説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
2	講義 1（公共政策課題の発見）	公共政策課題とは何か、その本質とは何か等につき学習する。具体的事例として福祉政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、身近にある様々な問題のうち、社会的解決を必要とするものは何か、そしてそれはなぜ個人や企業の努力で 解決することが出来ないのかななどを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	講義 2（公共政策の設計・決定）	公共政策はどのようなプロセスを経て決定されるのかなどについて学習する。具体的事例として教育政策を取り上げる。具体的事例として経済政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、社会的問題の解決のために考えられる手段としてどのようなものがあるか、政策決定過程に参画する多くのアクター（政治・民間・学界・市民・官僚）はどのような相互作用を行って政策が作られるのかを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により等を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	講義 3（公共政策の実施）	決定された公共政策は実施フェーズにおいて、どのような手段・プロセスを用いて具体化されるのかについて学習する。具体的事例として農業政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、公共政策の現場においてどのように政策が展開されるのか生活保護の事例等を基に具体的に説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	講義 4（公共政策の評価・改善）	公共政策のPDCAサイクル及びその中で基幹的な位置を占める政策評価について学習する。具体的事例として公共事業・公共交通政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、実施された政策の「善し悪し」は何をもって測るのか、また政策が社会に与える「効果」とは何なのか、公共政策を 改善するために市民・専門家等は政策決定過程等にどう参画すべきかなどについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策評価論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	個人研究発表①（政策課題の発見）	参加者輪番により、公共政策課題の発見、アジェンダ化の過程などに係る教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかエネルギー政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個人研究発表②（政策決定課程）	参加者輪番により、政策決定過程の最重要プロセスに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかICT政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
8	個人研究発表③（他アクターとの関係）	参加者輪番により、政策決定・執行するに当たって国会・民間・自治体とはどのような影響を与え合っているのか、各アクターの動きを扱った教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
9	個人研究発表④（政策の実施プロセス、社会資本整備など）	参加者輪番により、施策執行の様々な具体的ケースに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか移民政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
10	個人研究発表⑤（政策の概念と公共政策の歴史）	参加者輪番により、学問としての公共政策学的位置付け、政策の定義・理念型、歴史的発展モデル、現代的な政策課題の諸相などについて教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
11	行政職課程共通授業①	現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	行政職課程共通授業②		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
13	行政職課程共通授業③		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
14	行政職課程共通授業④		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
15	行政職課程共通授業⑤		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
グループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要である。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
対面形式で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。								2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。										2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。										2	2	2	2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題やグループディスカッションに対する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICT政策の現状について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICT成長戦略について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（災害対策）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（教育分野）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（医療分野）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（データ利活用）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	グループディスカッション①	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	グループディスカッション②	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	グループディスカッション③	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習①	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習②	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション①	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	プレゼンテーション②	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	ICT政策に関する主要な論点を修得する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期「公共政策論」を履修していること。グループディスカッションを行うので、毎回授業への出席が必要。

【授業方法】
労働政策分野を中心とした講義と、それを題材にしたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	30	30									60
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	政策の策定プロセス	政策の策定プロセスを実際の法改正に即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、政策の策定プロセスについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	労働政策と平成の経済	労働政策の背景にある平成年間の経済情勢を俯瞰的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、平成年間の経済情勢と基本的出来事（バブル崩壊、不良資産、金融不況、リーマンショック）の関係について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
4	労働政策とコロナ禍	労働政策がコロナ禍で果たした役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、労働政策がコロナ禍で果たした役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	テレワークの将来	テレワークのメリット、デメリット、将来展望等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、テレワークのメリット、デメリット、将来展望等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	政策の策定プロセス	国会中継を視聴し、政策決定プロセスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、国会での議論を通じ、政策の決定プロセスについて、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の効果と課題（グループワーク）		これまでの講義で扱ったテーマを題材に、グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	政策決定のプロセス		政策決定現場で活躍する公務員（ゲストスピーカー）の講話を聴講し、政策決定プロセスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、実際の政策決定のプロセス、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働政策の効果と課題（グループワーク）	グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	労働政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	林 紀行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科の学生のみで、他学科の学生は履修できない。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義および演習 レポート試験や課題レポートの講評を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。			15	15							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する講評を行い、フィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日の昼休みの時間とする。事前にメール等でアポイントメントを取ること。hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会の委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会の委員の経験を取り入れて授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員についてのイメージを整理してくる。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	日本の公務員制度	日本の公務員制度の仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公務員制度の概要を理解し、説明できる。	
	事前学修	公務員の種類について調べ、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	公務員の仕事の実態と特質	日本の公務員の仕事の実態を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公務員の仕事の実態を理解し、国家公務員、地方公務員、公安系公務員の相違について説明できる。	
	事前学修	日本の公務員の種類と採用試験方法について調べ、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	公務員の仕事の実態と特質について	日本の公務員の仕事の実態を民間と比較する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公務員の仕事の内容の実態を理解し、民間企業の仕事との違いを説明できる。	
	事前学修	日本の公務員の仕事の内容を調べ、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	民間の仕事との比較をして、その実態をまとめておくこと。	120分
5	公務員の仕事の特殊性	地方公務員の仕事の特殊性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員の仕事の特殊性を説明できる。	
	事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べ、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分
6	公務員の使命感	公務員の使命感について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公務員の持つ使命感とはなにかを自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	公務員に求められる資質とは何かについて調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の使命感について、授業での議論をうけて整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公務員の仕事の課題	公務員の仕事の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公務員の仕事の課題や困難な状況について自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	公務員の仕事で困難な業務について調べ、とりまとめておくこと。	120分
	事後学修	公務員の仕事の課題について、授業での議論をうけて、整理しておくこと	120分
8	公務員と社会の関係について	公務員と社会の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
	事前学修	公務員が果たすべき役割について整理し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	公務員が果たすべき役割について、授業での議論をうけて、整理しておくこと。	120分
9	ゲストスピーカーによる講演 1	ゲストスピーカーによる講演を通じて、公務員の職務や公務員に求められる資質とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、現代の公務員の職務や求められる資質について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを整理し、自分の言葉で説明できるようにとりまとめておくこと。	120分
10	ゲストスピーカーによる講演 2	ゲストスピーカーによる講演を通じて、公務員の日常生活や業務を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、公務員の日常生活や業務について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを整理し、自分の言葉で説明できるようにとりまとめておくこと。	120分
11	ゲストスピーカーによる講演 3	公務員試験とその準備について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、公務員試験の概要と対策について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験について、就職指導課で調べる。	120分
12	公務員試験（1）	公務員試験の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、公務員試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の問題を実際に解いて、苦手な箇所を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公務員試験（２）	公務員試験の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の問題を実際に解いて、苦手な箇所を理解する。	120分
14	公務員試験（３）	公務員試験の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いて、苦手な箇所を理解する。	120分
15	総括	これまでの授業で取り扱った公務員制度に関する特質を整理し、採用試験について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を整理し、再検討すること。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。

【授業方法】
講義および演習 レポート試験や課題レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会などで議論を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
	この回の到達目標	授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	日本の国家公務員制度	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
	この回の到達目標	日本の国家公務員制度の機能を理解する。	
	事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	日本の地方公務員制度	日本の地方公務員制度について学修する。	
	この回の到達目標	日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
	事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	公務員の仕事の実態と特質について	日本の公務員の仕事の実態について民間との比較を学修する。	
	この回の到達目標	日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
	事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
	事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	公務員の仕事の特殊性	公務員の仕事の特殊性について学修する。	
	この回の到達目標	公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
	事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分
6	公務員の使命感（集団討論）	公務員の社会における使命感について集団討論により学修する。	
	この回の到達目標	公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
	事前学修	公務員による社会貢献について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の使命感について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公務員の仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
	事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	公務員と社会の関係について	公務員と社会の関係について学修する。	
	この回の到達目標	公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
9	公務員と民間感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
	この回の到達目標	現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	行政手法の担い手としての公務員（ゲストスピーカー）	行政手法としての公務員の役割について学修する。	
	この回の到達目標	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
11	公務員の実際と特質（ゲストスピーカー）	公務員の実際と特質について学修する。	
	この回の到達目標	公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。 公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	公務員試験について（多岐選択問題）	公務員試験の選択問題について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公務員試験について（論述問題）	公務員試験の論述試験について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	公務員試験の面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	総括	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
	この回の到達目標	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していることが求められます（他学科の学生は履修できません）。毎回授業に積極的に参加することが必要です。

【授業方法】
毎回グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	毎回発表に代わるペーパーの提出を通じ、到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や政策の定義、意味等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	政策過程に関する基礎的な理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政策過程の代表的な理論モデルの意味を理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
3	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として欧米における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
4	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として日本における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
5	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
6	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	プレゼンテーション（政策過程）		前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら政策過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、政策過程モデルの論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
8	ディベート（政策過程）		前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、政策過程の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、政策過程に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
9	公共政策の現状と課題に関する学修		欧米社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
10	公共政策の現状と課題に関する学修		日本社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
11	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）		グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、他者と協調しながら、現代日本における主要政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
12	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）		前回取り上げた政策について、グループごとにその問題や課題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グループ内の議論に積極的に参加し、現代日本における主要政策の問題についてメンバー全員で理解を共有することができる	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）		前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら日本の公共政策について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現代日本における公共政策の論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
14	ディベート（現代日本の公共政策）		前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、現代日本における政策の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、日本の公共政策の論点に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った政策過程及び諸政策の課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
授業の構成および進行は、公共政策学科の学生を念頭において行われるが、他学科・他学部の学生の受講も大いに歓迎します。

【授業方法】
演習形式を取り、学生の積極的な質問や意見表明を期待する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には各自の評価を伝達する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017		任意
備考	購入は必須ではありません				

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・ウォーミングアップ 導入講義	・ウォーミングアップ（班分けとメンバー間の情報共有） ・課題と評価についての説明	
	この回の到達目標	授業の意図と課題を理解し、自分の演習課題を決定するか、もしくは課題達成までの計画を立てる。	
	事前学修	「入門 公共政策学」を読み、公共政策の全体像をイメージする。	120分
	事後学修	この授業で自分が何をするのかを考え、計画を紙面に起こす。	120分
2	公共政策の基本知識と原理	理念・目的・税との関係および新しい公共を含む公共政策におけるステークホルダーについて説明を行う。 またそれを踏まえて授業の課題を確認する。	
	この回の到達目標	グループが授業の中で取り上げる政策課題を決定する。	
	事前学修	興味のある政策や自治体の取り組みについて調べてくる。	120分
	事後学修	決定した政策について、その概要を整理し、文章化する。	120分
3	課題についての情報収集	自分たちが取り上げる政策について必要の情報の収集を行う。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策について、その特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	政策の評価を行う上で必要な情報をリストアップしておく。	120分
	事後学修	授業のグループ作業を通じて得た情報を踏まえて足りないものがないか確認する。	120分
4	政策の概要の把握	集めた情報を踏まえて、取り上げる政策の概要についてまとめる。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げ政策について、実際に説明する。	
	事前学修	自分（達）が取り上げる政策を効果的に説明する方法を自分なりに考える。	120分
	事後学修	授業での作業を踏まえて、中間発表のための準備をする。	120分
5	中間発表①	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を2回に分けて確認する。	
	この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
	事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
	事後学修	自分（達）の進捗状況をふまえての課題について、対策を考える。	120分
6	中間発表②	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を2回に分けて確認する。	
	この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
	事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
	事後学修	自分（達）の進捗状況をふまえての課題について、対策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策の評価		政策の評価について講義を行う。 グループディスカッション（自分たちの班の評価について考える）	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策について、有効な評価方法が説明できるようになる。		
	事前学修	取り上げる政策の課題について調べてくる。		120分
	事後学修	自分（達）が予定している評価方法に必要な情報を確認する。		120分
8	政策評価のための計画		どのようにして政策評価を行うか、具体的に計画を立てる。	
	この回の到達目標	自分（達）が想定する計画の流れ（論理構成）に沿って説明できる。		
	事前学修	自分（達）が取り上げる政策の評価について、必要と思われる情報を集めてくる。		120分
	事後学修	授業での作業を踏まえて、全体の流れに課題がないか確認する。		120分
9	政策評価の実施		集めた情報および計画に従って、実際に政策評価を行いその結果をまとめる。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策の評価を結論として示すことができる。		
	事前学修	全体の流れを踏まえて足りない情報の確認と、必要な情報の収集を行う。		120分
	事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、最終的な評価をまとめる。		120分
10	発表のための基礎知識		プレゼンテーションの方法と技術、および政策策定における役割について説明する。	
	この回の到達目標	自分（達）が発表する課題解決方法のアピールポイントを挙げ、それをプレゼンテーションに生かす方法を選択することができる。		
	事前学修	さまざまなプレゼンテーションの方法を調べる。		120分
	事後学修	自分（達）の発表のプレゼンテーション資料作りのための計画を立てる。		120分
11	プレゼンテーション(PPT)の作成		これまでの授業を通じて、課題の完成とプレゼンテーションの作成を行う。	
	この回の到達目標	発表に必要なプレゼンテーションの技術を身に着け、自らのプレゼンテーションに生かすことができるようになる。		
	事前学修	最終的なプレゼンテーション作成に必要な資料・情報を集める。		120分
	事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。		120分
12	発表1回目		3～4組程度の発表を行う。	
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。		
	事前学修	自分の発表の改善に必要な情報について調べ、発表の準備を行う。		120分
	事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表2回目		3～4組程度の発表を行う。
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分
14	発表3回目		3～4組程度の発表を行う。
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	全体の発表を受けて、それぞれの計画の違いとその理由について考察する。	120分
15	授業のまとめと振り返り		授業全体を通じた振り返りと、各自（グループ）の発表の講評を行う。希望者には採点結果を伝達する。
	この回の到達目標	授業を通じて完成した計画および策定過程の課題をあげ、具体的な解決策を提案できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	授業を通じて、今後に向けての自己評価と課題の確認を行う。	120分

科目名	公共政策特殊講義A	担当者	松山 毅	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
西洋社会福祉事業史では、日本の社会福祉の形成にも大きな影響を与えた、欧米の社会福祉の流れを概観する。基本的にはイギリスの社会福祉史を中心に、大陸やアメリカの社会福祉も取り入れていく。大きな流れとしては、西洋社会福祉援助思想の根本であるキリスト教福祉思想を底流に、時代ごとの文化・政治・経済・哲学などを紹介しながら、今日の社会福祉観の形成を考える授業にしたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本と西洋の社会福祉制度発達の比較を通して、我が国における社会福祉・社会保障の特徴について理解できること。通史的に社会福祉制度の発達を理解するだけでなく、各時代における社会問題の理解、その解決策として民間慈善事業や社会福祉制度が誕生した背景、当時の代表的な社会思想などを関連させて理解できるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
特になし

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会福祉の制度政策を理解するための諸概念を学び、社会福祉が時に矛盾あるいは相克する価値を内包していることが理解できる。				4		4	4	4			
②	社会福祉制度の必要性の前提となる社会問題およびその発生原因等について理解できる。				4		4	4	4			
③	社会的支援が発生する基準や線引き、社会的支援の目的の変遷について理解できる。				4		4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	30	30	10								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	毎授業時間後にリアクションペーパーを提出する。授業の理解度、授業を踏まえた自分なりの考察がなされているか、について総合的に評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーへの回答やコメントを通してフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉思想史入門	吉田久一・岡田英己子	勁草書房	2000	参考書	任意
社会福祉の歴史（新版）	右田・高沢・古川編著	有斐閣	2001	参考書	任意
資料で読み解く社会福祉	岩崎・池本・稲沢編著	有斐閣	2005	参考書	任意
人物で読む西洋社会福祉のあゆみ	室田保夫編著	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
社会福祉の歴史	高島進	ミネルヴァ書房	1995	参考書	任意
西洋社会事業史論	小山路男	光生館	1978	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
tmatsuya@juntendo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション 差別問題を歴史的に考える意義について		施設コンフリクトや障害者差別はなぜ生ずるのか。差別問題の根底にある歴史的社会的観点の学習を通して、社会福祉の歴史をまなぐ意義を確認する。本講義の概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の差別問題の根底を理解するうえで、歴史的社会的背景を学ぶ必要があることが理解できる		
	事前学修	シラバスを確認すること。事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
2	社会福祉と宗教思想～キリスト教を中心に		西洋の対人援助やボランティアズムの思想的背景を理解する視点としてキリスト教の基本的思想について確認する。制度的福祉が誕生する前の福祉のありようや、近現代におけるボランティア活動を理解するうえで、キリスト教の隣人愛思想の意義と影響力を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、キリスト教に基づく援助思想が、現代のボランティアズム、対人援助思想に影響していることが理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
3	キリスト教慈善の変容		個人の信仰に基づく自発的な隣人愛実践が、キリスト教の国教化を通してどのように教会・修道院を中心とした組織化された慈善事業に発展したのか。慈善の組織化の嚆矢と課題について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、個人的な宗教活動である慈善が、教会・修道院を通した社会的慈善に形成される過程を理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
4	中世後期の慈善救済事業・思想		中世後期から近世初期にかけての社会変動（初期資本主義の登場、絶対王政、疫病や戦乱の頻発等）をとおして、治安維持や労働力確保の一環で誕生する貧民の管理化のプロセスと意義について理解する。英国と大陸の救貧制度の紹介をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貧民救済制度の前段に、治安維持や労働力確保による貧民管理の目的が内包されていること、社会制度が誕生するプロセスについて理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
5	初期救貧法の形成過程～エリザベス救貧法を中心に		有名なエリザベス救貧法は、近世初期から繰り返し制定される救貧制度の集大成である。その形成過程を理解し、貧民管理から貧民救済の観点がどのように形作られてきたのか、法制度の発展過程と社会的背景をあわせて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当時の社会問題の理解、絶対王政の政治的背景の理解、エリザベス救貧法の概要と意義について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
6	市民革命期の救貧事業		市民革命期（おもに17世紀）の救貧行政の変容と、発達する慈善事業（慈善信託法～慈善事業の組織化）の関係をを中心に、貧民救済の概要について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、絶対王政の終焉から市民革命期の社会問題と救貧法の変容、実際の貧民救済を担っていた慈善事業の発達について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	産業革命期の救貧事業（新救貧法）	資本主義の発達と賃金労働者の増加による「新しい貧困層」の増加、労働者保護と救貧制度の見直し、自由主義経済思想の登場などを背景として、貧民救済制度である救貧法がどのように変容したのかを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命時の社会問題と救貧制度の関連、影響を与えた自由主義経済思想（小さな政府論等）について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
8	民間社会事業の興隆（博愛事業、COS、セツルメント）	産業革命期には公的救貧制度は限定的であった。実際の救貧を担っていたのが、急増する博愛事業（フィランソロピー）であった。その概要と課題、当時結成された慈善組織協会（COS）やセツルメント活動についても概観する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、博愛事業急増の背景であるジェントルマンの登場、博愛事業の乱立による社会問題と、慈善活動の社会的役割の在り方の変化について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
9	社会政策への架橋～貧困調査の意義	貧困問題は個人の問題か、社会の問題か。救貧制度の見直しと民間社会事業の発達の中で、貧困問題の認識の転換を迫る社会調査が実施された。チャールズ・ブースとシーボーム・ラウントリの貧困調査の概要と意義、救貧法見直しの議論について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貧困調査により貧困問題が社会構造上の問題であることが確認されたが、救貧法見直し議論には社会問題の視点が採用されない、その矛盾について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
10	社会政策としての貧民対策～社会保険の登場	貧困問題の蓄積による社会的格差の進行対して、従来の救貧法行政の対応は限界を迎える。20世紀を前にして、大陸諸国およびイギリスでは、救貧法に代わる救済制度として社会保険が登場する。その背景と概要、国別の比較、課題について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会問題としての貧困問題とその対応策としての社会保険の登場の意義、発展について理解できる。救貧制度と社会保険の関係についても理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
11	福祉国家の誕生と発展	世界大恐慌以降、第二次世界大戦に向けて戦時体制が強化される。社会保障政策は停滞するが、戦争末期にイギリスのベヴァリッジ卿による社会保障改革案（ベヴァリッジ報告）が提出され、戦後の福祉国家構想がスタートする。マーシャルの社会権思想も踏まえて、福祉国家の基礎について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ベヴァリッジ報告の背景、概要、意義および福祉国家の基礎理論である、ケインズの経済思想、マーシャルの社会権思想、ウィレンスキーの収斂理論などについて理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分
12	福祉国家批判の登場～「大きな政府」か「小さな政府」か	福祉国家は正義なのか。オイルショック以降、中央集権志向の福祉国家の在り方に批判が登場する。新自由主義思想（ハイエク、フリードマン、など）に基づく「小さな政府」志向の国家である。一方で北欧を中心に福祉国家路線を継承する国もある。それぞれの経済体制、政治思想、社会思想などとの比較も含めて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、高度経済成長下での福祉国家、オイルショック後の福祉国家批判の背景と思想、社会民主主義による福祉国家継承など、それぞれの立場の違いとその考え方について理解できる。		
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。		80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	福祉国家の類型化と国際比較	1990年代以降、多様化する福祉国家の在り方について、レジームという新しい枠組みで福祉国家の類型化を試みる、エスピン・アンデルセンの理論が登場する。福祉国家類型化論の概要、意義、批判、課題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、福祉国家類型化論が登場した背景、類型化の枠組みや指標の理解、その後の類型化論への批判や今日の類型化論の位置づけについて理解できる。	
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。	80分
	事後学修	義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。	80分
14	社会福祉供給システム～福祉多元化	現代の福祉社会においては公民協働、PPPなどは自明となりつつある。これまでの社会保障政策や福祉国家論をふまえて、福祉多元化の歴史的背景や意義、今日における公民の役割分担や協働について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、近年の福祉多元化の意義、社会保障の歴史から公民の役割分担の形成過程、民間社会福祉事業やNPO・ボランティアの社会的役割や今後の在り方について理解できる。	
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。	80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。講義内で紹介した文献などをもとにして、講義内容で理解できなかったところ、関心をもったところを調べておく。	80分
15	まとめ	社会的支援はどのように形成されてきたのか。支援の目的、支援の対象、支援の方法、支援の基準、支援の思想など、時代背景との関連を確認しながら、社会政策の社会的意義（公共性・公益性）について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの授業で学んできたことを、今日的な課題の観点から再確認し、歴史的視点から学ぶことの意義について理解できる。	
	事前学修	事前配布の資料を読み、理解できないところを調べておく。	80分
	事後学修	講義を通して理解したことをリアクションペーパーにまとめる。最終レポートの作成を行う。	80分

科目名	公共政策特殊講義B	担当者	松山 毅	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
欧米との比較を念頭に置きながら、日本における社会福祉・社会保障の歴史を概観します。明治大正期・昭和前期・戦時期・占領期・高度経済成長期・低成長期・福祉改革期の各時代の福祉の特徴を確認しながら、今日の社会福祉を再考してみたいと思います。随時、今日的な社会福祉問題を関連させて、その問題の根底にある考え方を指摘していきたいと思います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治期以降の社会福祉・社会保障の社会的支援体制の整備状況について、法や制度の制定過程や背景を、各時代の社会的課題と関連付けて理解できるようになること。 公的な法制度の構築とともに、民間慈善事業や地域の互助システムと関連づけて、公民協働や公共性の観点から理解できるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
特になし

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各時代の背景を踏まえて社会福祉的課題の理解ができる。					4		4	4	4			
②	日本の各領域の社会福祉制度の変遷について、社会的背景からその意味づけを考察することができる。					4		4	4	4			
③	社会福祉的課題において、当事者となる国民は複数おり、社会福祉行政に対する評価や経験は様々であることが理解できる。					4		4	4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる内容が説明できるようになっているかを評価する。	30	30	10								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	毎回の授業後に、授業で理解したことや考察を150字程度で記述し、提出する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でリアクションペーパーへのコメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉思想史入門	吉田久一・岡田英己子	勁草書房	2000	参考書	任意
社会福祉の歴史（新版）	右田・高沢・古川編著	有斐閣	2001	参考書	任意
資料で読み解く社会福祉	岩崎・池本・稲沢編著	有斐閣	2005	参考書	任意
人物で読む社会福祉の思想と理論	室田保夫編著	ミネルヴァ書房	2010	参考書	任意
社会福祉のあゆみ	金子光一	有斐閣アルマ	2005	参考書	任意
社会福祉の歴史	高島進	ミネルヴァ書房	1995	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
tmatsuya@juntendo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 近世以前の慈恵と救済	社会福祉制度の「社会的支援」とは、どこまでが自己責任で、どこからが社会責任となるのか。現代社会における事例を踏まえながら、社会的支援を考える意義について取り上げる。また明治期以前の我が国における救済制度や相互扶助のしくみについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治以前の社会的課題やその解決方策について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	ひきこもりや社会的孤立などの社会的課題の背景や現代社会における支援策について、補足的に調べておく。	80分
2	近世・明治維新期の救済事業・慈善思想	明治維新の背景を踏まえ、明治初期の慈恵主義による公的救済制度の発展過程を中心に、恤救規則の概要をとりあげる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、恤救規則が作られた背景、概要、課題について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	恤救規則やそれ以外の公的救済制度の内容について、わからなかったところを調べておく。	80分
3	近代国家形成期の公的救済と慈善・社会改良思想	わが国最初の体系的な公的救済制度である恤救規則は、対象者が限定される傾向があった。実際の貧困者救済は、明治期以降に急増した慈善事業によるところが大きかった。明治初期～中期の慈善事業について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治初期のボランティアズムである慈善事業について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	明治初期の慈善事業やボランティアについて、気になった人物や事業について文献などで調べておく。	80分
4	産業革命・帝国形成期の公的救済と慈善・感化救済事業	産業革命の進行と日清戦争・日露戦争の勃発により、社会事業においても天皇制を中心とする慈恵救済や感化救済事業が推し進められてくる。公的救済の減退と慈善事業の統制、互助組織の再編による国民統制の概要を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争遂行と国民統制の手段としての救済事業の関連について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	感化救済事業や地方改良運動の思想的背景、感化事業講習会等について、文献をもとに調べておく。	80分
5	大正デモクラシーと社会事業思想	民民主義、社会連帯思想に基づく社会事業の誕生と背景、その成果と限界について、公民社会事業の概要を踏まえて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会連帯思想に基づく社会事業の成立の背景と意義について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	社会連帯思想による社会事業思想や社会事業の制度について資料をもとに確認し、わからないところは調べておく。	80分
6	昭和初期の社会事業思想―社会事業の制度化と組織化	関東大震災から世界大恐慌に至る社会経済体制の変動を踏まえて、大正デモクラシーで開花した社会事業が減退するなかで誕生する救護法の成立過程と概要について解説する。民生委員制度の前身である方面委員制度についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、救護法の成立背景と制度概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	社会変動の中で社会問題意識が薄れていく中で、方面委員の活動や救護法成立の背景との関連など、ソーシャルアクションの歴史について、資料をもとに調べてみる。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日中戦争・太平洋戦争と戦時厚生事業	戦時体制下における社会問題と要支援者の状況と、厚生事業と名称を変える社会制度の背景と思想について、戦争遂行と福祉という観点から解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦時体制における国民統制と社会事業のジレンマについて理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	戦時体制下における社会事業の衰退と厚生事業思想の意義、戦争と福祉のジレンマについて、授業資料や参考文献をもとに調べておく。	80分
8	敗戦と戦後社会福祉の成立―占領期社会事業	戦後の社会問題の概要と、GHQによる被占領期における社会事業の再構築（福祉三法体制）の経緯、今日にいたる社会福祉構造の誕生の意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後社会福祉の基礎構造の成立の経緯について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	GHQの指導による福祉体制再構築の思想、福祉三法体制や社会保障制度審議会勧告など、今日の社会保障・社会福祉の礎を形成した時代の背景についてよく理解しておく。	80分
9	戦後社会事業の思想と理論	社会福祉事業法成立の背景と意義、措置制度の概要、社会保障と社会扶助・社会福祉の関係、社会福祉理論と論争の概要などについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、措置制度の誕生の背景と意義、社会保障制度と社会福祉の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	今日の契約制度前提の社会福祉サービスの観点から、あらためて時代背景を踏まえて措置制度が誕生した理由と意義についてよく理解しておく。	80分
10	高度経済成長期の社会福祉問題・運動・政策	1950年代後半からの高度経済成長時代の特徴と、そこから派生する新しい社会福祉問題の概要について理解し、その解決策として登場する福祉六法体制や社会保障制度改革（国民皆保険皆年金等）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会問題及び福祉六法体制の関連、社会保障制度改革の動向について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	豊かさの中で生ずる新しい貧困問題（相対的貧困）の構造について理解し、社会福祉や社会保障の新しい仕組みが誕生した意義について説明できるように調べておく。	80分
11	高度成長期の社会福祉理論・社会福祉論争	高度成長期は、朝日訴訟や社会福祉運動など、人々の命や暮らしに直結する社会問題への気づきと社会変動・当事者運動などが盛んとなった。その実態と理論的思想的背景を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な社会福祉運動の背景や意義、課題について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	社会福祉運動の当事者たちの想いについて想像し、今日の社会福祉・社会保障制度との連関について、資料などをもとに調べておく。	80分
12	転換期の社会福祉①―日本型福祉社会とその思想	オイルショックに伴う高度経済成長の終焉と低成長社会への移行により、社会保障・社会福祉は総体的にも思想的にもどのように変質したのか。社会経済的な背景を踏まえて、日本型福祉社会論をもとに解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な社会福祉運動の背景や意義、課題について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。	80分
	事後学修	パイの論理や家族含み資産など、日本型福祉社会論の特徴について、海外のオイルショック後の福祉国家体制の変質と合わせて理解できるように、調べておく。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	転換期の社会福祉②ーノーマライゼーション・在宅福祉・地域福祉		1980年代は、少子高齢化や過疎化の急速な進行と、地域福祉への関心の高まりの時期であった。ノーマライゼーション思想の登場、ボランティア活動の促進、在宅福祉サービスの推進など、行政と民間の協働による社会システム（福祉ミックス・多元化）の萌芽期について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地域福祉の誕生の背景と意義、公民協働の課題について理解し、説明できる。		
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。		80分
	事後学修	地域を基盤とする福祉活動の再構築必要性和、公的責任の所在の問題を通して、今日に至る公民協働の思想的課題について文献などを調べておく。		80分
14	90年代の福祉改革ー八法改正・地方分権と社会福祉の計画化		地方分権化の推進により基礎自治体を単位とした社会福祉行政の推進がスタートした。社会福祉の計画化による資源整備、介護保険に代表されるニーズ把握と資源整備と財源確保といった福祉経営の考え方と、福祉供給システムにおける公的責任の在り方等について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権化と社会福祉運営システムの関係、契約制度への移行過程について理解し、説明できる。		
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。		80分
	事後学修	都道府県・市町村において作成される、様々な福祉計画について調べてみる。公的責任と民間の役割について理解したことをまとめておく。		80分
15	社会福祉基礎構造改革とこれからの社会福祉		2000年前後の社会福祉基礎構造改革の意義について評価し、その後の契約制度への福祉制度の移行について概観する。社会福祉の公的責任の在り方について再検討し、権利擁護システム、地域包括ケア、地域共生社会など、今日の社会福祉体制の思想的な背景について歴史的観点から総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今日の社会福祉体制の背景に、これまで見てきた社会福祉の歴史的経緯があることについて理解し、説明できる。		
	事前学修	事前配布資料を読み、関連する内容やわからない用語について、参考文献やネットなどで調べておく。		80分
	事後学修	今日に至る社会福祉の到達点について整理し、レポート課題の作成に関連付けて、自身が関心を持った社会福祉・社会保障・社会政策のテーマを考えておく。		80分

科目名	公共政策論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				○

【授業の概要】
本講義では、政治の表舞台・裏舞台において活動する政治的アクターの組織と機能について触れつつ、実際の公共政策を事例として取り上げ、その形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会を深く観察し、その問題・課題を理解しながら「政策人」としての素養を身に着けることを目的とします。 同時に、社会問題の解決策を究明し、そのための政策オプションについて理解します。

【履修条件】
※公共政策学科の必修科目です。原則として、他学科の学生は履修できません。

【授業方法】		
講義形式で進めます。 ※今年の授業はオンデマンド方式で実施致します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の諸問題や政策形成過程に興味を持ち、新聞を読むようになる。				2		2	2				2
②	学生が、現代社会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。						2	2				2
③	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。						2	2				2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業中に実施される小テストにおいて、主に到達目標②③にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価します。		10	10								20
レポート等	現代社会における政策及び政策形成過程の特質やその問題について、主に到達目標①②③の観点から十分に理解できているかを評価します。	10	30	40								80
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に積極的に参加することが求められます。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の小テスト等に対する講評を行い、政策や政策過程に対する理解の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第4版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2024年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	「公共政策」とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、公共政策の意義やその特殊性について理解することができる。	
	事前学修	履修条件を説明するので、初回ガイダンスには必ず出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認するとともに、教科書を用意しておくこと	120分
2	国家の役割と公共政策	国家の中で果たす公共政策の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、戦前と戦後とで公共政策の果たす役割が大きく変化したことを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
3	公共政策と議会	日本の国会の会期制や委員会制度のついて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の会期制や委員会制度が特殊であることを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
4	公共政策と議会	先進各国の二院制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の二院制が特殊であることを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
5	公共政策と政党	政策形成過程において政党が果たす役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政党の性格や役割、その意義や問題について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
6	政府と官僚制	行政国家の意味や官僚の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、行政国家における官僚制度の特質について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	利益集団の圧力活動		利益集団の定義及び政策過程において利益集団が果たす役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、利益集団の圧力活動のメリットとデメリットについて把握することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
8	政策過程のモデル		主に欧米において用いられてきた政策過程を説明する理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、政策過程を説明するモデルの意味やその限界について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
9	政策類型論		政策の内容が政策過程を決定するという理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、代表的な政策類型モデルを理解するとともに、その問題点を把握することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
10	戦後の日本における公共政策の展開		戦後の日本において、重点政策がどのように変化していくのかを選挙と絡めて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、選挙と政策の関係性を把握しながら、戦後日本政治の流れを理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
11	戦後の日本における公共政策の諸問題		戦後の日本において実施されてきた重要政策の意義や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、戦後政治史における公共政策の変遷やその問題・課題について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
12	現代日本における公共政策の現状		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の概要を把握し、それを他者に説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代日本における公共政策の諸問題	現代日本における公共政策の問題について、具体例を挙げながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の問題点を把握し、それを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
14	現代日本における公共政策の課題	現代日本における公共政策の今後の課題について、具体例を挙げながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の課題を把握し、それを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
15	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策、及び政策過程の問題や課題について整理しながら学修する。	
	この回の到達目標	公到達目標①②③に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を説明することができる。	
	事前学修	公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得する。	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

科目名	公共選択論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
選挙・政党・議会といった政治活動などの過程を経済学の手法を使用して分析する。また、これらの過程を明らかにするのみではなく、投票制度、政治資金に関する規制等、現実の政策論へと展開していくことも対象としているため、政策決定の枠組みを規定する諸制度の設計を重点的に学修する。最終的に、政治過程を理論的に理解することで、経済学が意図する最適な政策を提供することの不確実性及び政治活動の過程における法の重要性を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治活動の過程に関する研究を進めていくために必要な日本及び世界における政治活動の過程に関するシステムの知識及び問題発見・解決力を習得するために、政治活動の過程に関する基本的理論や核心となる概念を理解する。

【履修条件】
特にないが、基本的な政治学及び経済学の知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
参考書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはGoogleClassroomにアップするので必要に応じて持参すること（毎回教員から紙媒体の資料を配布する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共選択論における主要な概念や理論を識別することができる。					2						
②	世界の経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2						
③	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。					2		2				
④	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会の諸問題に対して解決策を提示することができる。					2		2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	25	25							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③④に関わる基礎知識及び問題解決能力を評価する。	5	5	10	10							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(1) 政治と経済はどうつながっているのか	羽田翔	日本経済評論社	2022年	教科書	必携
(2) テキストブック 公共選択	川野辺裕幸・中村まづる編	勁草書房	2013年	参考書	任意
(3) 公共選択の経済分析	小西秀樹	東京大学出版会	2009年	参考書	任意
備考	教科書以外に、上記の参考書、特に(2)を熟読することが望ましい。講義日前日までに講義資料をポータルシステムにて配布する。授業内では配布しないため、必要に応じて持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公共選択論とは何か？：公共選択論の射程、成績評価について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、公共選択論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共選択論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認し、「公共選択」「政治経済」といったキーワードについて自分なりに理解してくること。	90分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの分野に興味があるかを自分なりに考え、日本での現状について調べてみる。	150分
2	公共選択論の対象と方法論について	公共選択論の分析対象と方法論（規範的・実証的）について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共選択論の分析対象とその方法論を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：経済学、政治学、政治経済学	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学及び政治学における各プレイヤーの概念を比較し、その違いをまとめること。また、公共選択の対象とその分析手法について自分なりにまとめること。	120分
3	政府の失敗と市場の失敗の違いについて	経済学における市場の失敗と公共選択論における政府（政治）の失敗について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の失敗と政府の失敗及び2つの失敗の関係性について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政府の失敗、市場の失敗	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学における市場の失敗についてまとめること。また、公共選択論における政府の失敗についても再確認し、2つの失敗がどのように関係しているかをまとめること。	120分
4	公共選択論における大きな政府と小さな政府の違い	政府がどれほど市場又は社会へ関与しているかを意味する指標として、大きな政府と小さな政府について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大きな政府と小さな政府の概念及び関連する統計等の内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：大きな政府、小さな政府、社会保障	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、大きな政府と小さな政府の特徴をまとめること。また、日本、アメリカ、中国などの各国政府はどちらのタイプに当てはまるかを考えてみる。	120分
5	投票ルールの考え方(1)：多数決のルールについて	多数決のルールに関して、最もシンプルである全員一致ルール等に関して説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多数決ルールの考え方とそれぞれのルールの意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：パレート最適、メイの定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、多数決のルール設定についてまとめ、投票ルールが投票結果に与える影響をまとめること。	120分
6	投票ルールの考え方(2)：投票のパラドックスとアローの不可能性定理	投票ルールを考える上での問題点として投票のパラドックスとアローの不可能性定理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票のパラドックスとアローの不可能性定理について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：投票のパラドックス、アローの不可能性定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、投票のパラドックスとアローの不可能性定理についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	投票ルールの考え方(3)：中位投票者定理の理解とその応用	中位投票者定理について説明し、どのように実際の投票ルールに応用するかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中位投票者定理及び現実の投票ルールへの応用方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：中位投票者定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、中位投票者定理の理解及び前回の内容の再確認を行う。	120分
8	選挙時における政治家の行動に関する理論	選挙時における政治家の得票最大化行動について理論的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治家の最大化行動及び現実の問題を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治家、得票最大化行動	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、選挙時に政治家が何を重視して選挙活動を行うかをまとめること。また、現実の世界ではどうなっているかも自分なりに調べてみる。	120分
9	二大政党制及び多数政党制における政党間競争	主にな政党制度として二大政党制及び多数政党制について説明したうえで、両制度においてどのように政党間競争が行われるかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党制度の違い、多党制の発生要因、そして各制度ごとに政党間競争に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：二大政党制、多数政党制	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政党制の違いによって政党間競争がどのように異なってくるかをまとめること。	120分
10	合理的投票者と論理的投票者の理解	投票者の行動を理解するために合理的投票者と論理的投票者について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、両投票者の行動及び自身の投票行動に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：合理的投票者、論理的投票者	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的投票者と論理的投票者の違いについてまとめること。また、自身はどのように投票を行なっているかを考えること。	120分
11	公共選択路における官僚制度に関する理論：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	政治主体の1つである官僚の行動に関して、ニスカネンモデル及びダンレヴィーモデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、官僚制度及び官僚の最大化行動に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、官僚制度における官僚の最大化行動に関してまとめ、日本の現状についてももう一度考えをまとめること。	120分
12	政治的景気循環について	動学的な分析を行うために、政治的景気循環について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済政策と政治（活動）の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治的景気循環、選挙競争、マクロ経済政策	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政治的景気循環についてまとめること。その中でも、特にマクロ経済政策と政治の関係についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共選択論と財政赤字の問題	現在日本でも問題となっている財政赤字を公共選択論の分析フレームワークを使用しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政赤字が公共選択論においてはどのように扱われているかを理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：財政赤字、政治経済学	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、財政赤字とその解消方法についてまとめること。また、経済学と公共選択論における財政赤字への考え方の違いについてもまとめること。	120分
14	公共選択と現実の政策	公共選択論の分析フレームワークを使用し、現実社会で発生している諸問題に関する考え方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共選択論の分析手法を通じて日本及び世界における社会的問題を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：社会保障制度、環境問題、国際貿易問題	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、現実世界で起きている問題を解決する時、公共選択論ではどの分析手法が適しているかをまとめること。また、自身の考えもまとめておくこと。	120分
15	講義のまとめ：公共選択と現実世界のつながり	公共選択論の内容を総括し、理論的メカニズム及び政治活動の過程における諸システムに関する問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して公共選択論における理論的メカニズム及び政治活動の過程における注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で政治行動の過程に関する諸システム対して判断ができる。	
	事前学修	これまでの講義資料を参考に講義内容を見直し、疑問点や興味を持った点等をまとめる。	90分
	事後学修	これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備を進めること。	150分

科目名	広告コミュニケーションⅠ	担当者	吉野 ヒロ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
広告と広報の概要を学修する。授業は広告を中心に展開する。広告と広報の情報発信方法、社会のデジタル化とインターネットの発展による広告と広報の変容、マーケティングのフレームワーク、マーケティングにおける広告と広報の役割、広告の機能と種類、広告業界の仕組み、広告代理店といわれる広告会社の役割、広告を具体化する「広告計画」、広告媒体（テレビ、ネット、新聞、雑誌など広告を掲載するメディア）の特性などをテーマとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常、私たちは広告を目にしないことはない。テレビCM、ネット広告、新聞広告、雑誌広告、電車内の交通広告などに囲まれて生活している。これら広告は、広告主・広告会社・媒体社などの連携によって私たちの目に触れる。この過程には、広告効果を高めるための様々な計画や工夫、法則、理論があり、これらを修得することによって広告の概要を理解する。併せて広報の概要を、広告との違いなどを修得することにより理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面講義形式で行う。 事前に講義資料をポータルシステムに配信するので、ダウンロードまたはプリントアウトして持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	広告と広報の情報発信方法、インターネットの発展による広告と広報の変容を理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
②	広告の機能と種類、マーケティングにおける広告と広報の役割について理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
③	広告業界の仕組み、広告会社の役割について理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
④	広告を具体化するために不可欠な「広告計画」を理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
⑤	積極的な姿勢で授業に臨むことが出来る。【態度 習慣】					3	3	3	3				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	14回目の講義までに、指定テーマに沿った2000字以上のレポートを提出。 レポートの内容により、到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	毎回提出するリアクションペーパーにより、授業への積極的な参画度を評価する。 リアクションペーパーには、講義に関する感想と質問、講義に関連した質問に対する回答を書き、講義終わりに提出する。 リアクションペーパーの一部は、次回講義で紹介することがある。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
主に講義内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広報・PR論〔改訂版〕：パブリック・リレーションズの理論と実際（有斐閣ブックス）	関谷直也ほか	有斐閣	2022	教科書	任意
現代広告論 第3版	岸志津江ほか	有斐閣	2017	教科書	任意
炎上する社会	吉野ヒロ子	弘文堂	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義前後に質問・相談を受け付ける。yoshinohiroko0210@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 広報の定義/広告の定義	講義の進め方、評価方法について説明する。 広報・広告の定義を解説し、事例を通じて違いを説明する。 あわせて、インフルエンサー・マーケティングなど、広報とも広告とも言えない事例も解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告と広報の情報発信方法の違いについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに、広報事例、広告事例、どちらでもない事例について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、広告と広報の違いについて整理する。 マスメディアやネットなどでの企業や商品・サービスに関する情報に注意深く接し、広告か広報か、どちらでもないものか、分類してみる。	120分
2	広報の歴史	19世紀末に印刷メディアの成熟によって出現し、20世紀、21世紀と影響力を増してきている広報の歴史を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広報の歴史（すなわち企業と社会の関係の変化）を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、19世紀から21世紀にかけてのメディアの変化について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、19世紀・20世紀・21世紀の社会の変化について整理する。	120分
3	ステークホルダーとレピュテーション	「ステークホルダー」「レピュテーション」の概念を解説し、あわせて組織と社会の適切な関係作りについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業の社会に対する立ち位置を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、ステークホルダー・レピュテーションについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、キャンセル・カルチャーなど関連する概念について整理する。	120分
4	メディア・リレーションズ	対外広報の主要な活動であるメディア・リレーションズの主な手法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、メディア・リレーションズについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、広報のメディアリレーションズにはどのような方法があるか調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、メディアリレーションズの方法と、効果的なプレスリリースの要素を整理する。	120分
5	マーケティングPR/戦略PR	情報を公開することで信頼を高めることを目標とする広報の手法を応用して、流行を作り出す戦略PRの考え方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、マーケティングPRまたは戦略PRについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、戦略PRの事例について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、マーケティングPR・戦略PRについて整理する。	120分
6	危機管理広報	不祥事などにおいて、適切なメディア対応や情報開示などでダメージを軽減することを危機管理広報と言う。危機管理広報について、事例を交えながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、不祥事対応など危機管理広報について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、危機管理広報の事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、危機管理広報について整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際広報：ボスニア紛争	1990年代に起きたボスニア紛争を事例として国際関係における広報の役割について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際紛争における広報の役割について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、ボスニアやセルビナの歴史や現在について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、国際広報の重要性を整理しておく。	120分
8	広告の歴史	国内の広告の歴史を中心に、江戸時代～現在まで解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告がどのように変化してきたか理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	授業資料を確認し、広告史について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、国内の広告の歴史を整理しておく。	120分
9	ブランドと広告	ブランド構築において広告は重要な役割を果たしていることが多い。ブランドをより高める広告のあり方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ブランド構築における広告の役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、ブランド構築について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、ブランドと広告の望ましい関係について整理する。	120分
10	広告戦略の立案	効果的な広告を実施するには、市場の分析などを踏まえて広告戦略を立てることが必要である。そのプロセスを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、どのように広告が作られているのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、広告戦略について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、広告戦略のプロセスについて整理する。	120分
11	表現計画と媒体計画	広告の効果は、広告表現そのもののだけでなく、どこにどういうタイミングで出稿するかに左右される。表現をどう造りどう出稿するか、考え方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告計画プロセスを理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、自分が普段接しているメディアの媒体資料を検索してどのような条件で広告を出稿できるのか調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、広告の表現計画と媒体計画について整理する。	120分
12	広告の法規と規制	広告には景品表示法など法規制がかかっている。国内の広告に関連した法律を紹介し、その背景にある考え方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告に法規制がかけられている背景を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、景品表示法など広告関連の法律を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、広告関連の法規を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネット広告	インターネットの発達によって、広告は大きく変わった。ネット広告の種類や問題点について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、インターネット広告の種類や問題点を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、インターネット広告の問題点について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、ネット広告の種類や問題点を整理する。	120分
14	2024年度カンヌライオンズ受賞作	2024年度のカンヌライオンズ受賞作を紹介し、グローバルな広告のトレンドについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、グローバルの広告トレンドとその背景を理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、カンヌライオンズ受賞作について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、グローバルな広告のトレンドについて整理する。	120分
15	総括とレポート相互評価	講義を振り返り、14回目に提出されたレポートを受講者同士で読み合い、相互評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告と広報の違いと関連性を理解し、具体的な事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業資料を確認し、不明点について自分である程度調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートや授業資料を確認し、広報と広告の違い、主な手法について整理しておく。	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論（今年度は、前学期は公務員の政治活動の自由、後学期は平等を題材として、それぞれの代表的な最高裁判例を扱う予定である）について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。 憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の（本年度は公務員の政治活動の自由、平等に関する）重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。

【履修条件】
この講義を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】		
授業形態は対面方式とする予定である。 なお、下記の授業計画において主題判例 5、6、7、8 とあるのは、「公法特殊講義Ⅰ（憲法）A」と併せた通し番号を振っているためである。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会に生起する諸事象のなかに憲法問題を発見することができる。						3			3				3
②	発見した憲法問題から法律論としての憲法論を構築することができる。						3			3				3
③	取り扱う主題、素材について判例を用いながら批判的に議論することができる。						3			3				3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業時間内に、前学期・後学期それぞれ1回ずつ以上のレポート等をもって行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の17：00～18：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	開講の辞		憲法の権利論とは何かについて考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論とは何かについて問題意識を持つことができる。		
	事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）		120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）		120分
2	最高裁判例を素材とした憲法の権利論		最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを説明することができる。		
	事前学修	前回の演習内容を前提として今回の演習内容がどのようなものになるかについて想像をめぐらしておくこと（2時間）		120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を可能な限り予測すること（2時間）		120分
3	主題判例1の判断枠組み		主題判例1の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1についてその判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
4	主題判例1の事案類型		主題判例1の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
5	主題判例1の構造		主題判例1の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
6	主題判例2の判断枠組み		主題判例2の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例2の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例2の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	主題判例 2 の事案類型		主題判例 2 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 2 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
8	主題判例 2 の構造		主題判例 2 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 2 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
9	主題判例 3 の判断枠組み		主題判例 3 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
10	主題判例 3 の事案類型		主題判例 3 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
11	主題判例 3 の構造		主題判例 3 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
12	主題判例 4 の判断枠組み		主題判例 4 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 4 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題判例 4 の事案類型	主題判例 4 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の事案類型を説明することができる。	
	事前学修	主題判例 4 の事案類型について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	主題判例 4 の構造	主題判例 4 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の構造を説明することができる。	
	事前学修	主題判例 4 の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	公務員の政治活動の自由に関する最高裁判例	公務員の政治活動の自由に関する最高裁判例を再点検する。	
	この回の到達目標	①②③ 公務員の政治活動の自由に関する最高裁判例について批判的に議論することができる。	
	事前学修	事前の想像とこの講義との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像とこの講義との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論（今年度は、前学期は公務員の政治活動の自由、後学期は平等を題材として、それぞれの代表的な最高裁判例を扱う予定である）について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。 憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の（本年度は公務員の政治活動の自由、平等に関する）重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。

【履修条件】
この講義を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】		
授業形態は対面方式とする予定である。 なお、下記の授業計画において主題判例 5、6、7、8 とあるのは、「公法特殊講義Ⅰ（憲法）A」と併せた通し番号を振っているためである。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	社会に生起する諸事象のなかに憲法問題を発見することができる。						3			3
②	発見した憲法問題から法律論としての憲法論を構築することができる。						3			3
③	取り扱う主題、素材について判例を用いながら批判的に議論することができる。						3			3
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業時間内に、前学期・後学期それぞれ1回ずつ以上のレポート等をもって行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の17：00～18：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	主題判例 5 の判断枠組み		主題判例 5 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 5 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
2	主題判例 5 の事案類型		主題判例 5 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③、主題判例 5 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
3	主題判例 5 の構造		主題判例 5 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 5 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
4	主題判例 6 の判断枠組み		主題判例 6 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 6 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 6 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
5	主題判例 6 の構造		主題判例 6 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 6 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 6 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
6	主題判例 7 の判断枠組み		主題判例 7 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	主題判例 7 の事案類型		主題判例 7 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
8	主題判例 7 の構造		主題判例 7 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
9	主題判例 8 の判断枠組み		主題判例 8 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
10	主題判例 8 の事案類型		主題判例 8 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
11	主題判例 8 の構造		主題判例 8 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
12	平等に関する最高裁判例		平等に関する最高裁判例を再点検する。	
	この回の到達目標	①②③ 平等に関する最高裁判例について批判的に議論することができる。		
	事前学修	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）		120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	最高裁判例を素材とした憲法の権利論の再考察	ふたたび最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを批判的に説明することができる。	
	事前学修	憲法判例とはどのようなものであるかについて考えをめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
14	最高裁判例を素材とした憲法の権利論の再考察	みたび最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを批判的に説明することができる。	
	事前学修	憲法判例とはどのようなものでないかについて考えをめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
15	閉講の辞	憲法の権利論とは何かについてあらためて考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論とは何かについて更なる問題意識を持つことができる。	
	事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について当初想像していたことを思い出してみること（2時間）	120分
	事後学修	開講前に想像していた演習の内容と閉講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	担当者	鵜澤 剛	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
行政法の主要論点について、論点ごとに、現在の立法・行政・裁判実務の運用状況を学修する。また、そのことを通じて、現在の立法・行政・裁判実務の基礎にある考え方がどのようなものであるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行法に対して批判的態度をとるにせよ、それによしとするにせよ、そのためには現行法の深い理解が必要となる。この授業では、行政法の主要論点に関する現在の運用状況に関する知識を修得することはもちろんのこと、それを通じて現在の実務を支配する基本的考え方について理解を深め、さらにそれをみずから運用するための能力を修得することを目指す。

【履修条件】
問題に対して、単なる受け身ではなく、みずから考えていこうとする意欲のある人。

【授業方法】
事前に配布する予習シートの質疑項目に従って、教員との質疑応答を交えながら、論点への理解を深める。授業終了後には授業で扱った論点についての起案課題が出される。提出は任意だが、成績評価のためのレポートは、この起案課題から一つを選んで提出することになる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	法令、判例、文献の調査 デモンストレーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政事件訴訟上の主要な問題について、その具体的な問題の現れ方を正確に表現した上で、これに対応した形で法的解決を論述できるようになる。					3			3				3
②	行政活動の実体的違法事由について、根拠規定の定め方に則した形で、必要な事実関係を指摘して、論述することができるようになる。					3			3				3
③	行政活動の手続的違法事由の有無およびその効果について、問題となっている手続が当該行政活動の決定にとってどのような意味をもっているのかを踏まえて、論述することができるようになる。					3			3				3
④	国家賠償法上の責任について、個々の構成要件の意義およびその機能を踏まえて、責任の成否について論述することができるようになる。					3			3				3
⑤	損失補償責任について、「特別の犠牲」の意義およびその機能を踏まえて、責任の成否について論述することができるようになる。					3			3				3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業で扱った簡単な事例問題についてレポートを作成する。提出されたレポートが、当該事例に対して論理的かつ適切な解答を与えるものとなっているかどうかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかどうかを評価する。	50	15	15	10	10						100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(出席)	授業に3分の2以上出席しなかった者は、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	15	15	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートについては、授業内で総括的にコメントするほか、個別に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケースブック行政法 第7版	野呂充ほか編	弘文堂	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み 研究室（本館6階1615研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	行政の行為形式論		行政の行為形式論に関する知識を、条文や事例に即して学修する。	
	この回の到達目標	条文を見て、その行為の行為形式を答えることができるようになる。また、その行為形式で特徴的な解釈論的帰結について説明できるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。		120分
2	行政上の義務の実効性確保手段		行政上の義務の実効性確保手段に関する知識を、条文や事例に即して学修する。	
	この回の到達目標	行政上の義務の実効性確保手段の分類および解釈論上の論点について、条文を示しつつ、説明できるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。		120分
3	取消訴訟の原告適格①		取消訴訟の原告適格について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟の原告適格が問題となる具体的事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
4	取消訴訟の原告適格②		取消訴訟の原告適格について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟の原告適格が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
5	自己の法律上の利益に関係のない違法主張の排除		行訴法10条1項の自己の法律上の利益に関係のない違法主張の排除について、条文や事例に即して学修する。	
	この回の到達目標	行訴法10条1項が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
6	取消訴訟における訴えの利益①		取消訴訟における訴えの利益について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟における訴えの利益が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	取消訴訟における訴えの利益②		取消訴訟における訴えの利益について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟における訴えの利益が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
8	取消訴訟における訴えの利益③		取消訴訟における訴えの利益について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟における訴えの利益が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
9	取消訴訟における訴えの利益④		取消訴訟における訴えの利益について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟における訴えの利益が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
10	抗告訴訟の対象①		抗告訴訟の対象性（いわゆる処分性）について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分性が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
11	抗告訴訟の対象②		抗告訴訟の対象性（いわゆる処分性）について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分性が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
12	抗告訴訟の対象③		抗告訴訟の対象性（いわゆる処分性）について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分性が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	抗告訴訟の対象④		抗告訴訟の対象性（いわゆる処分性）について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分性が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
14	取消訴訟の本案審理①		取消訴訟の本案審理における諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟の本案審理における諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
15	取消訴訟の本案審理②		取消訴訟の本案審理における諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟の本案審理における諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	担当者	鵜澤 剛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
行政法の主要論点について、論点ごとに、現在の立法・行政・裁判実務の運用状況を学修する。また、そのことを通じて、現在の立法・行政・裁判実務の基礎にある考え方がどのようなものであるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行法に対して批判的態度をとるにせよ、それによしとするにせよ、そのためには現行法の深い理解が必要となる。この授業では、行政法の主要論点に関する現在の運用状況に関する知識を修得することはもちろんのこと、それを通じて現在の実務を支配する基本的考え方について理解を深め、さらにそれをみずから運用するための能力を修得することを目指す。

【履修条件】
問題に対して、単なる受け身ではなく、みずから考えていこうとする意欲のある人。

【授業方法】
事前に配布する予習シートの質疑項目に従って、教員との質疑応答を交えながら、論点への理解を深める。授業終了後には授業で扱った論点についての起案課題が出される。提出は任意だが、成績評価のためのレポートは、この起案課題から一つを選んで提出することになる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	法令、判例、文献の調査 デモンストレーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政事件訴訟上の主要な問題について、その具体的な問題の現れ方を正確に表現した上で、これに対応した形で法的解決を論述できるようになる。					3			3				3
②	行政活動の実体的違法事由について、根拠規定の定め方に則した形で、必要な事実関係を指摘して、論述することができるようになる。					3			3				3
③	行政活動の手続的違法事由の有無およびその効果について、問題となっている手続が当該行政活動の決定にとってどのような意味をもっているのかを踏まえて、論述することができるようになる。					3			3				3
④	国家賠償法上の責任について、個々の構成要件の意義およびその機能を踏まえて、責任の成否について論述することができるようになる。					3			3				3
⑤	損失補償責任について、「特別の犠牲」の意義およびその機能を踏まえて、責任の成否について論述することができるようになる。					3			3				3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業で扱った簡単な事例問題についてレポートを作成する。提出されたレポートが、当該事例に対して論理的かつ適切な解答を与えるものとなっているかどうかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかどうかを評価する。	50	15	15	10	10						100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(出席)	授業に3分の2以上出席しなかった者は、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	15	15	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートについては、授業内で総括的にコメントするほか、個別に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケースブック行政法 第7版	野呂充ほか編	弘文堂	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み 研究室（本館6階1615研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	取消訴訟の判決（理由の差替えを含む）	取消訴訟における判決に関する諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟の判決に関する諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分
2	取消訴訟以外の抗告訴訟①	取消訴訟以外の抗告訴訟における訴訟上の問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟以外の抗告訴訟における訴訟上の諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分
3	取消訴訟以外の抗告訴訟②	取消訴訟以外の抗告訴訟における訴訟上の問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	取消訴訟以外の抗告訴訟における訴訟上の諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分
4	当事者訴訟	当事者訴訟における訴訟上の問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	当事者訴訟における訴訟上の諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分
5	仮の救済①	抗告訴訟における仮の救済について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	抗告訴訟における仮の救済について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分
6	仮の救済②	行訴法44条（民事保全法による仮処分の排除）について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	行訴法44条の適用が問題となる事例について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。	
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	裁量処分①		裁量処分に対する裁判所の審査方法について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	裁量処分の適法性について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	
8	裁量処分②		裁量処分に対する裁判所の審査方法について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	裁量処分の適法性について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	
9	手続的瑕疵・調査の瑕疵		手続的瑕疵や調査の瑕疵の処分への影響について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	手続的瑕疵や調査の瑕疵の処分への影響について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	
10	処分以外の行為形式に関する違法事由①		処分以外の行為形式に対する適法性判断の方法について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分以外の行為形式の適法性について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	
11	処分以外の行為形式に関する違法事由②		処分以外の行為形式に対する適法性判断の方法について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分以外の行為形式の適法性について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	
12	処分以外の行為形式に関する違法事由③		処分以外の行為形式に対する適法性判断の方法について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	処分以外の行為形式の適法性について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。	120分	
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国家賠償法1条1項の責任		国家賠償法1条1項の責任をめぐる諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	国家賠償法1条1項の責任をめぐる諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
14	国家賠償法2条1項の責任		国家賠償法2条1項の責任をめぐる諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	国家賠償法2条1項の責任をめぐる諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分
15	損失補償責任		損失補償責任をめぐる諸問題について、複数の事例を比較検討しながら、現在の裁判実務の状況および基本的考え方を学修する。	
	この回の到達目標	損失補償責任をめぐる諸問題について、条文を的確に運用しつつ、説得的な論証ができるようになる。		
	事前学修	予習シートに従い、関連する条文、裁判例、教科書の記述等を確認した上で、設問に対する自分なりの答えを用意しておく。また、疑問点があれば書き出しておく。		120分
	事後学修	予習シートの設問に沿って授業の内容を振り返り、不安な箇所を洗い出しておく。必要であれば教員に質問し、疑問を解消しておく。練習問題に取り組んでみる。		120分

科目名	公務員制度論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
公務員に関する人的資源管理制度の東である公務員制度について、民間企業との共通点／特殊性に着目しながら学修します。採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素について取り上げた後、日本の公務における雇用システムの特徴・特殊性を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素についてよく理解し、その特徴について説明できるようになる。その上で、雇用システム総体としての、日本の公務労働の特徴、公務員制度の特徴を理解し説明できるようになる。日本の公務員制度についての理解を通じて、公務員という職業への理解を深める。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による講義形式。毎回テーマごとに国家公務員・地方公務員双方について取り扱う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討論・ディスカッションなどを実施予定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員の人的資源管理の特殊性について理解し説明することができるようになる。					2		2					
②	採用・給与・昇進・退職など、日本の公務員制度を構成する諸要素について、その特徴を説明することができる。					2		2					
③	雇用システム総体としての日本の公務員制度の特徴を理解した上で、日本の公務員の働き方について論理的な評価・考察を行い、公務員の働き方に対する自らの意見を述べるようになる。					2		2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているか、 筆記試験により確認する。	15	15	30								60
小テスト等												
レポート等	適期に学習進捗度を課題提出により確認する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークへの貢献度を確認する。	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
試験結果等についてクラスルームで配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】	
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国家公務員（総務省、内閣官房など）としての勤務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験・実例に基づいた制度解説などを行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・公務員とは何か	この授業で扱う内容の概略、学生に求められる事前学習等の内容を把握する。また授業全体の導入として民間労働者と公務員との基本的な違いなどを学ぶ。	
	この回の到達目標	公務員とは何か、なぜ民間労働者と異なる法制度等が存在するのかを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを良く読み、授業内容を確認するとともに必要な質問等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	公務員の特徴、様々な公務員の種類とその特性などについて調べておく。	120分
2	公務員制度総論	公務員に係る諸法制を概観し、制度の理念・改正経緯、人事機関について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員制度の意義を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
3	公務員の任用	任用制度の意義、任用の種類・採用方法、昇任・転任、非常勤採用、派遣制度、人事交流などについて学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員の任用制度の意義、民間雇用との違いなどを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
4	公務員の離職	辞職・定年退職の制度、再任用・定年延長、退職管理の厳格化、退職手当・年金などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員の離職に係る諸制度の意義を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
5	公務員の服務	公務員に課せられる各種義務（守秘義務、職務専念義務、政治的行為の制限など）、公務員倫理、分限・懲戒処分等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員に課せられる各種義務等の存在意義を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
6	公務員の能率確保	成績主義の原則、公務員研修、能力開発、人事評価制度等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員の能率向上・開発の重要性を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公務員の給与・勤務条件		勤務時間、休日・休暇、育児休業、自己開発休業、労働基準法との関係、給与・手当等について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員給与等が法定されている意義、及び民間との違いなどを理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分
8	公務員の利益保護		勤務条件に係る措置要求、公平制度、審査請求、公務災害補償などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して公務員が安心して勤務できるたえの諸制度の意義を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分
9	公務員の労働基本権		職員団体、労働基本権の制限等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して我が国公務員に係る労働基本権制限の経緯・内容を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分
10	諸外国の公務員制度①		米英独仏の4か国における公務員制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して各国公務員制度の違いがなぜ生じるのかを説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分
11	諸外国の公務員制度②		米英独仏の公務員制度と我が国制度との異同を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関してを諸外国と特に我が国制度と共通する部分、異なる部分はどこか、その異同はなぜ生じたかを理解し公務員制度の意義を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分
12	諸外国の公務員制度③		英米独仏の公務員制度の歴史的発展経緯を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して各国の公務員制度がどのような政治・社会経済上の変遷の影響を受けて成立してきたかを理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	我が国公務員制度の歴史①	律令体制・江戸幕藩体系における「公務員」制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して我が国公務員制度がどのような歴史的変遷を経て成立したかを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
14	我が国公務員制度の歴史②	明治期～戦前期における公務員制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して近代我が国公務員制度のうち今日まで継承されているもの、されなかったものは何か、その理由は何かを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された文献・事例等を各自で調査・確認し、次回授業時までに疑問点などを質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等	公務員制度の意義・役割、今後の在り方等について、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	事前配布するレジュメを読み込むとともに、これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。				2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。				2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	20							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業の分類について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	コーポレート・ガバナンスとはなにか	コーポレート・ガバナンスの定義となぜこれが重要なのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かを理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	株式会社とはなにか	コーポレート・ガバナンスと関連の深い株式会社の発展とその背景について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の仕組みについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社の特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	株式会社と会社機関	株式会社はどのような機関構造を有しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の構造について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社における様々な会社機関について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	株式会社と経営者支配	コーポレート・ガバナンスにおける経営者支配論がどのように展開されてきたのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営者支配とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと経営者支配の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	経済の金融化と新制度派経済学	コーポレート・ガバナンスの新制度派経済学アプローチの内容と限界について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、新制度派経済学とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、新制度派経済学アプローチとは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コーポレート・ガバナンスとステイクホルダー論	ステークホルダーとは何か、コーポレート・ガバナンスにおいてなぜこれが重要なのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ステイクホルダーの定義とその重要性について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	ケースメソッドⅠ：企業とステイクホルダー	企業のステークホルダーにはどのようなものが存在し、それらに対して企業はいかなる責任を有しているのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、企業とステイクホルダーとの関係について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	現代企業に求められる責任について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅰ：戦後の経済発展	戦後の経済発展と日本的経営について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本的経営の特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、日本的経営とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅱ：企業不祥事との関係	これまでの企業不祥事の歴史を基に、「企業はだれのものか」という問いについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業不祥事とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業不祥事の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅲ：外部監視と内部統制	外部監視と内部統制に関する制度的展開について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、外部監視と内部統制の内容について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外部監視と内部統制とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅳ：経営者報酬	経営者報酬の仕組みと種類について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、経営者報酬の仕組みと種類について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、世界と日本の経営者報酬の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅴ：同族企業	同族企業の特徴とこれがもたらす問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同族企業のを理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、同族企業の事例を調べ、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅡ：イノベーションとコーポレート・ガバナンス	IT企業におけるコーポレート・ガバナンスの問題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、イノベーションがもたらす問題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	イノベーションとコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	前期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
コーポレート・ガバナンス論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。					2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	20							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	コーポレート・ガバナンスと資本コスト	資本コストとは何か、株主や機関投資家が重視する財務諸表とは何かについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスと資本コストの関係について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、資本コスト削減のための施策について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	コーポレート・ガバナンスと事業投資	事業投資とは何か、事業投資の評価方法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、事業投資の評価方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、事業投資と企業価値の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	コーポレート・ガバナンスと資本政策	資本政策と株式発行、新たな種類株について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式の種類について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株主総会の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	コーポレート・ガバナンスと合併・買収(M&A)	コーポレート・ガバナンスと企業の合併・買収(M&A)の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)の目的について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、合併・買収(M&A)の目的と類型について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	機関投資家とコーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、機関投資家の定義とその役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、様々な投資視点について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケースメソッドⅠ：グローバル化による影響と課題	海外子会社の企業不祥事を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化に関する様々なテーマについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グローバル化の影響と課題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	コーポレート・ガバナンスのグローバル化がもたらす問題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	コーポレート・ガバナンスと社会的企業	社会的企業や非営利組織におけるコーポレート・ガバナンスについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、社会的企業や非営利組織にコーポレート・ガバナンスが求められる要因について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社と非営利組織の比較を通じて、求められるコーポレート・ガバナンスの相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コーポレート・ガバナンスと企業倫理	企業不祥事を防止するために、コーポレート・ガバナンスはどのような役割を担うのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業不祥事を防止するためのコーポレート・ガバナンスの役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事を防止するための経営者や会社機関の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅡ：事業の繁栄と社会の繁栄	これまでの授業内容を踏まえて、従来のコーポレート・ガバナンスの課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、今日におけるコーポレート・ガバナンスの意義と課題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	現代のコーポレート・ガバナンスのあり方について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	後期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
教科書に沿いながら講義する。対面。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	20	20	10						70
小テスト等	セメスター中、リアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	3	3	3	3	3						15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					15						15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	13	23	23	28						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆	有斐閣	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：授業の概要について	
	この回の到達目標	①、②に関連して、授業の概要を把握する。	
	事前学修	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。	120分
	事後学修	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。	120分
2	国際関係史	国際関係と国際関係史について	
	この回の到達目標	①、②に関連して、国際関係と国際関係史の関連性について、国際法に注目しながら、理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（序章）を読む。	120分
	事後学修	国際関係と国際関係史についての授業の内容を復習する。	120分
3	カール5世と宗教改革I	カール5世と宗教改革について（前半）	
	この回の到達目標	③、④に関連して、カール5世の登場と、宗教改革の始まりについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章22～30頁）を読む。	120分
	事後学修	カール5世の登場と、宗教改革の始まりについて授業の内容を復習する。	120分
4	カール5世と宗教改革II	カール5世と宗教改革について（後半）	
	この回の到達目標	③、④に関連して、宗教改革の進展とカール5世の退位までの経緯について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章22～39頁）を読む。	120分
	事後学修	宗教改革の進展とカール5世の退位までの経緯についての授業の内容を復習する。	120分
5	イングランドと宗教改革I	イングランドと宗教改革について（前半）	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ヘンリ8世による国教会の設立とメアリによるカトリック化について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章33～35頁、第2章42～50頁）を読む。	120分
	事後学修	ヘンリ8世による国教会の設立とメアリによるカトリック化についての授業の内容を復習する。	120分
6	イングランドと宗教改革II	イングランドと宗教改革について（後半）	
	この回の到達目標	③、④に関連して、エリザベス1世の治世について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第2章50～63頁）を読む。	120分
	事後学修	エリザベス1世の治世についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	三十年戦争I	三十年戦争の発生から皇帝とデンマークとの戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、三十年戦争の前半の局面を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 65～72）を読む。	120分
	事後学修	宗教戦争の前半の局面についての授業の内容を復習する。	120分
8	三十年戦争II	皇帝とスウェーデンとフランスとの戦争と三十年戦争の終わりについて	
	この回の到達目標	③、④に関連して、三十年戦争の後半の局面を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 72～76）を読む。	120分
	事後学修	宗教戦争の後半の局面についての授業の内容を復習する。	120分
9	ウェストファリア条約	ウェストファリア条約とウェストファリア体制について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、三十年戦争の結果成立したウェストファリア条約とウェストファリア体制について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 76～83）を読む。	120分
	事後学修	ウェストファリア条約とウェストファリア体制についての授業の内容を復習する。	120分
10	ルイ14世I	ルイ14世の治世前半について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ルイ14世の登場から統合政策までの動きについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章pp. 88～97）を読む。	120分
	事後学修	ルイ14世の登場から統合政策までの動きについての授業の内容を復習する。	120分
11	ルイ14世II	ルイ14世の治世後半について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、九年戦争とスペイン王位継承戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章pp. 97～107頁）を読む。	120分
	事後学修	九年戦争とスペイン王位継承戦争についての授業の内容を復習する。	120分
12	ロシア帝国	ロシア帝国の台頭について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ロシア帝国の台頭を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第5章）を読む。	120分
	事後学修	ロシア帝国の台頭についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マリア・テレジアとフリードリヒ2世の確執I	マリア・テレジアとフリードリヒ2世の登場と対立について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、マリア・テレジアとフリードリヒ2世の登場とオーストリア王位継承戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章pp. 132～145頁）を読む。	120分
	事後学修	マリア・テレジアとフリードリヒ2世の登場とオーストリア王位継承戦争についての授業の内容を復習する。	120分
14	マリア・テレジアとフリードリヒ2世の確執II	外交革命と七年戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、外交革命と七年戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章pp. 145～155頁）を読む。	120分
	事後学修	外交革命と七年戦争についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ	前期の授業のまとめをする	
	この回の到達目標	⑤に関連して、カール5世の治世から七年戦争までを復習する。	
	事前学修	前期学習した内容を確認する。	120分
	事後学修	前期学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 （事前にアポイントメントを取る） メールアドレス：kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際関係史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。また、関連科目である国際政治学・国際関係論との違いを示しながら、国際関係史を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	国際政治とは何か	国際関係史を学ぶための前提となる無政府的国際社会についての異なる見方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、現在の無政府的国際社会の見方をリアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から説明することができる。	
	事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第1節（p. 1-p. 21）を読み、無政府的国際社会とは何かについて、自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	現在の無政府的国際社会の見方を、リアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から表にまとめ、相違点についての知見をノートにまとめる。	120分
3	現代に通じる歴史上の紛争要因と倫理的問題	ペロポネソス戦争を事例として取り上げ、安全保障のジレンマを軸に、現代にも応用可能な歴史上の紛争要因を検証する。また、国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から向き合う方法を検証する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史と理論を結びつけるためには、理論と事例を通じての理解が不可欠であることを説明できる。	
	事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第2節・第3節（p. 21-p. 48）を読み、国際関係における倫理的考慮や道義的義務とは何かをノートにまとめる。	120分
	事後学修	国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から、イラク戦争の歴史的解釈を試み、知見をノートにまとめる。	120分
4	国際関係史の主要な概念	国際関係史を学ぶ上で最も大事な概念である主権国家およびパワーとは何かについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際関係史における主要な概念である主権国家およびパワーとは何かを説明できる。	
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第1節（p. 49-p. 69）を読み、主権国家という概念が国際政治学の中でしばしば混乱して語られる理由をノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義の中で出てきた国家、国際的主体、国際システムなどの用語を使い、国家が追求する国益についての知見を整理しノートにまとめる。	120分
5	国際関係における分析のレベル	ウォルツの3つの分析レベルを用いて国際関係史を分析する手法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウォルツの3つの分析レベルについて説明することができる。到達目標③④に関連して、特定の事例をウォルツの3つの分析レベルを用いて分析・検証することができる。	
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第2節（p. 69-p. 81）を読み、3つの分析のレベルの特徴についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	分析レベルについての知見をまとめ、戦争の原因、環境問題の原因など興味のある問題について3つのレベルで考え、ノートにまとめる。	120分
6	国際関係史のパラダイムと理論	国際関係におけるパラダイムとは何か、またパラダイム転換とはどのようなものかを解説する。それらを理解した上で、マルクス主義、コンストラクティヴィズムがどのようなパラダイム転換を、国際社会の紛争と協調の解釈にもたらしたのかを検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、国際関係研究に必要なパラダイムの内容、特に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの理論を説明できる。	
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第3節（p. 82-p. 94）を読むとともに、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』第8章を通読し、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの特徴をノートにまとめる。	120分
	事後学修	第5回のリアリズム、リベラリズムの比較表に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムを加えて、国際社会の紛争と協調をこれらの理論がどのように解釈するのかの知見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際関係史と反実仮想	反実仮想モデルを用いながら、歴史の因果関係を検証する手法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、反実仮想を用いた推論の方法の価値を説明できる。到達目標③④に関連して、反実仮想を用いて特定の事例を分析することができる。	
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第4節 (p. 94-p. 101) や、吉川直人『国際関係理論』(2015年、勁草書房) 第2章などを読み、反実仮想に不可欠な、もっともらしさ、時間の近接性などの意味をノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義で学習した「仮想歴史」の方法論を使って、ペロポネソス戦争についての反実仮想を実施し、そこから得た知見をノートにまとめる。	120分
8	第1回から第7回の復習 (中間テスト<暫定>)	これまでに学んだ事項を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係研究に必要な理論や概念について説明できる。到達目標⑤に関連して、現在の国際社会における様々な課題を国際関係理論を用いて考察できる。	
	事前学修	第1回から第7回の復習をする。これまでのノートを振り返る。	120分
	事後学修	理解が浅かった事項をノートにまとめる。また、新聞に目を通して、今日の国際社会の問題をテーマ毎に分類し、特に興味を持った事項について情報収集をしノートに書きだす。	120分
9	バランス・オブ・パワー	ウェストファリアからナポレオン戦争までの国際関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バランス・オブ・パワーとは何かについて説明できる。	
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」(p. 103-p. 107) を読み、ウェストファリア前後のヨーロッパの情勢について整理してノートにまとめる。	120分
	事後学修	パワー分布としてのバランス・オブ・パワー、政策としてのバランス・オブ・パワーの意味についてノートにまとめる。	120分
10	19世紀のバランス・オブ・パワー	第一次世界大戦前後の国際関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、欧州におけるバランス・オブ・パワーがどのように変化したのか説明できる。	
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の1,2節 (p. 107-p. 123) を読み、19世紀のバランス・オブ・パワーの構造についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	1914年からの「教訓」から戦争回避の政策に関する知見をノートにまとめる。	120分
11	第一次世界大戦の起源	第一次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第一次世界大戦の起源を3つの分析レベルの手法を用いて分析できる。	
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の3節 (p. 123-p. 143) を、第一次世界大戦前後の国際社会を意識しながら読む。	120分
	事後学修	システム・レベルを考えながらテキストを読み返し、戦争が不可避であったのかについてノートにまとめる。	120分
12	集団安全保障の興亡	国際連盟と集団安全保障について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集団安全保障の概念と国際連盟について説明できる。到達目標③④に関連して、第一次世界大戦後の世界の態度を分析して、国際連盟が機能しなかったことを説明できる。	
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第1節 (p. 145-p. 157) を、集団安全保障の意味を考えながら読み、初期の国際連盟とアメリカの関係についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	戦間期における集団安全保障の方法についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第二次世界大戦の起源	第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて説明できる。到達目標⑤に関連して、第一次世界大戦と第二次世界大戦の起源の違いについて説明できる。	
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節前半（p. 157～p. 167）を、ヒトラーの戦略を考えながら読み、3つのレベルに分解して、戦争の起源についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	第二次世界大戦がどのようにして進行していったのか、個人・国内・国際社会システムに分けて知見をノートにまとめる。	120分
14	第二次世界大戦の教訓 期末テスト	二度とヒトラーを生み出さないための政治的発明について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後の国際社会が取った戦争防止のための政策を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、戦争を起こさないための方法の有無及びその理由について自分の考えを説明することができる。	
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節後半（p. 168～p. 178）を、第二次世界大戦の意味を考えながら読み、太平洋戦争の特徴をノートにまとめる。	120分
	事後学修	第二次世界大戦は不可避だったのかについての知見をノートにまとめる。	120分
15	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。	
	事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、前期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
現代の政治、経済および宗教が人間にとってどのような意味をもつかについて、好奇心をもって地道に探究する意志のある者を歓迎する。

【授業方法】
事前に指定する箇所をあらかじめ自宅で通読したうえで、要約作業等の課題をGoogleフォームを通じて提出する。授業は、すでに準備をすませた箇所の内容を再確認し、補足したり履修者間で共有したりする時間に充てる。簡単な口頭発表を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Googleフォーム（あるいは出席用紙）を用いてほぼ毎回課題提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3					
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3					
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3					
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3					
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3						
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題を複数回提出することにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
討論・発表等	口頭発表を行うことにより、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢を簡明に発信することができるかを評価する。			20	15	15						50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福 上巻		ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田裕之訳	河出書房新社	2023	教科書	必携
サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福 下巻		ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田裕之訳	河出書房新社	2023	参考書	推奨
人類史マップ サピエンス誕生・危機・拡散の全記録		テルモ・ピエバニほか	日経ナショナルジオグラフィック	2021	参考書	推奨
備考	教科書は毎回持参する。値段は多少高くなるが、読みやすい単行本の方でもよい。こちらは2023年ではなく2016年の出版となる。					

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義 はじめに	授業の目的、到達目標および進め方を共有する。	
	この回の到達目標	授業の目的、到達目標および進め方を理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで不明点を書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的、到達目標および進め方をあらためて確認する。	60分
2	現代国際関係における人間の現状	現代国際関係において人間がどのような現状にあるかを、歴史的な視点、とりわけ教科書の筆者の視点を手がかりにしながらともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代国際関係において人間がどのような現状にあるかを、歴史的な視点、とりわけ教科書の筆者の視点を手がかりにしながら理解し説明できる。	
	事前学修	教員が指示する教材について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	人間の誕生と繁栄	人間（ホモ・サピエンス）がどのように誕生し繁栄する契機を得たのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間（ホモ・サピエンス）がどのように誕生し繁栄する契機を得たのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	相互協力の源泉	人間（ホモ・サピエンス）がなぜ互いに協力できるのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間（ホモ・サピエンス）がなぜ互いに協力できるのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章「虚構が協力を可能にした」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	人間における狩猟採集の意味	狩猟採集が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、狩猟採集が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	危険な存在としての人間	人間（ホモ・サピエンス）が他の動物にとってどのように危険な存在であるかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が他の動物にとって危険な存在となる経緯を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章「史上最も危険な種」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人間における農耕の意味	農耕が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、農耕が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	人間における神話の意味	神話が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、神話が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章「神話による社会の拡大」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	人間における書記体系の意味	書記体系が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、書記体系が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章「書記体系の発明」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	ヒエラルキーと差別：偏見と人種差別	人間（ホモ・サピエンス）が差別とヒエラルキーをどのように創出してきたのかを、偏見と人種差別の観点からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が差別とヒエラルキーを創出する経緯について、とくに偏見と人種差別の観点から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	ヒエラルキーと差別：女性差別	人間（ホモ・サピエンス）が差別とヒエラルキーをどのように創出してきたのかを、女性差別の観点からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が差別とヒエラルキーを創出する経緯について、とくに女性差別の観点から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	人間による世界の統一化	人間（ホモ・サピエンス）が世界をどのように統一したのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、人間（ホモ・サピエンス）による世界の統一化を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章「統一へ向かう世界」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	貨幣の誕生と普及	貨幣がどのように誕生し普及したのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、貨幣が誕生し普及する経緯を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章「最強の征服者、貨幣」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	帝国の出現	人間（ホモ・サピエンス）が帝国をどのように出現させたのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が帝国を出現させた経緯を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	人間における帝国の意味	出現した帝国が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、出現した帝国が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」後半部について準備する。	180分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
教科書に沿いながら講義する。対面授業。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	20	20	10						70
小テスト等	セメスター中、リアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	3	3	3	3	3						15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					15						15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	13	23	23	28						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆	有斐閣	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要・導入講義	はじめに：授業の概要について	
	この回の到達目標	①、②に関連して、授業の概要を把握する。	
	事前学修	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。（2時間）	120分
	事後学修	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。（2時間）	120分
2	アメリカ合衆国独立	イギリスの拡張とアメリカ合衆国の独立について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、アメリカの独立をヨーロッパとの関連で理解する。	
	事前学修	教科書第7章を読む。	120分
	事後学修	アメリカ合衆国の独立についての授業の内容を復習する。	120分
3	フランス革命	フランス革命について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、フランス革命を他のヨーロッパ諸国との関係で理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（180～186頁）を読む。	120分
	事後学修	フランス革命についての授業の内容を復習する。	120分
4	ナポレオン戦争I	ナポレオン戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ナポレオンのフランスと他のヨーロッパ諸国との間の戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（186～192頁）を読む。	120分
	事後学修	ナポレオン戦争についての授業の内容を復習する。	120分
5	ナポレオン戦争II	ナポレオンの没落について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ナポレオンがどのように没落していったかについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（192～201頁）を読む。	120分
	事後学修	ナポレオン戦争のナポレオン没落についての授業の内容を復習する。	120分
6	ウィーン体制	ウィーン体制と勢力均衡について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ナポレオン戦争の結果成立したウィーン体制について理解する。	
	事前学修	教科書第9章を読む。	120分
	事後学修	ウィーン体制についての内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	クリミア戦争		クリミア戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、クリミア戦争をめぐる英仏トルコとロシアとの関係について理解する。		
	事前学修	教科書230～243頁を読む。		120分
	事後学修	クリミア戦争についての内容を復習する。		120分
8	ドイツ統一		ドイツ統一と普仏戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ドイツ統一に至る過程を理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（243～250頁）を読む。		120分
	事後学修	ドイツ統一についての授業の内容を復習する。		120分
9	アメリカ独立戦争		アメリカ南北戦争について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、アメリカ独立戦争について、ヨーロッパとの関係を中心に理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（254～271頁）を読む。		120分
	事後学修	アメリカ南北戦争についての授業の内容を復習する。		120分
10	ビスマルク体制		ビスマルク体制について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ドイツのビスマルク体制について、ヨーロッパとの関係において理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（274～287頁）を読む。		120分
	事後学修	ビスマルク体制についての授業の内容を復習する。		120分
11	ビスマルク後のヨーロッパ		ビスマルク後のヨーロッパについて	
	この回の到達目標	③、④に関連して、ビスマルク失脚がヨーロッパに与えた影響について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（287～292頁）を読む。		120分
	事後学修	ビスマルク後のヨーロッパについての授業の内容を復習する。		120分
12	第一次世界大戦への道		第一次世界大戦前のヨーロッパについて	
	この回の到達目標	③、④に関連して、第一次世界大戦前のヨーロッパについて、とくに英仏独露に焦点をあてて理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（296～307頁）を読む。		120分
	事後学修	第一次世界大戦前のヨーロッパについての授業の内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第一次世界大戦勃発	第一次世界大戦の勃発について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、第一次世界大戦勃発前のバルカン半島をめぐる情勢を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（307～315頁）を読む。	120分
	事後学修	第一次世界大戦についての授業の内容を復習する。	120分
14	第一次世界大戦の影響	第一次世界大戦の推移とヨーロッパにそれが与えた影響について	
	この回の到達目標	③、④に関連して、第一次世界大戦の推移と、第一次世界大戦がヨーロッパに与えた影響について理解する	
	事前学修	教科書終章を読む。	120分
	事後学修	第一次世界大戦の推移と影響についての授業を理解する。	120分
15	まとめ	授業のまとめ	
	この回の到達目標	⑤に関連して、ヨーロッパの国際関係史について、神聖ローマ帝国から第一次世界大戦までを復習する。	
	事前学修	後期学習した内容を確認する。	120分
	事後学修	後期学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 （事前にアポイントメントを取ること） メールアドレス：kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・国際関係史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。また、関連科目である国際関係論との違いを示しながら、国際関係史を学ぶ意味について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係史を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	冷戦の起源	冷戦がなぜ起こったのか、またなぜ熱戦にならなかったのか議論し、国際社会の態度を明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関して、抑止と封じ込めについて説明できる。		
	事前学修	「第5章 冷戦」の第1節・第2節（p.179-p.201）を読み、冷戦の起源についての、伝統主義者、修正主義者、ポスト修正主義者の見解をノートにまとめる。		120分
	事後学修	抑止と封じ込めの定義を確認し、自分の言葉でノートにまとめる。		120分
3	封じ込めの実践	封じ込めの実践についてキューバ危機を中心に解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、冷戦に対する国際社会の対応を説明できる。到達目標④⑤に関連して、キューバ危機が国際社会に与えた影響を説明できる。		
	事前学修	「第5章 冷戦」の第3節・第4節（p.201-p.235）を読み、ベトナム戦争を調べてノートにまとめる。		120分
	事後学修	キューバ危機はなぜ起こったのか、なぜ衝突を回避できたのかを振り返り、ノートにまとめる。また、その後国際社会はどう変化したか、歴史的な意味を考え、ノートに知見をまとめる。		120分
4	冷戦後の軍事紛争	冷戦後、国家間の軍事衝突は少なくなったが、世界で地域紛争や内戦は起こっている。国際社会が冷戦後、紛争をどのように管理しているのか解説する。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際組織による軍事介入について説明できる。		
	事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」（p.237-p.274）を読み、国際社会が紛争解決のためにどのような施策を行っているのかをノートにまとめる。		120分
	事後学修	介入について、意味を確認し、冷戦後の紛争における介入事例をノートにまとめる。		120分
5	東ヨーロッパの現状	在の引火点としての東ヨーロッパの情勢について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、「新しい冷戦」としての東ヨーロッパの紛争について説明できる。		
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第1節（p.275-p.288）を読み、最近の東ヨーロッパ情勢についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	東ヨーロッパに関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。		120分
6	近東と中東の現状	現在の引火点としての近東と中東情勢を解説する。また、中間テストを実施する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、イスラエル、イラン、アフガニスタン、シリア、イエメンなどの情勢について説明できる。		
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第2節・第3節（p.288-p.322）を読み、最近の近東、中東の情勢についてノートにまとめる。第1回から第6回の復習をしておく。		120分
	事後学修	近東、中東に関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アジアの現状 (中間テスト<暫定>)	現在の引火点としての中国、北朝鮮を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アジアの情勢について説明できる。	
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第4節・第5節（p. 322-p. 338）を読み、最近のアジア情勢をノートにまとめる。	120分
	事後学修	最近の中国、北朝鮮に関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分
8	グローバリゼーションと相互依存	グローバリゼーションと相互依存の概念について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションとはなにか説明できる。	
	事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第1節（p. 339-p. 347）を読み、21世紀のグローバリゼーションの意味をノートにまとめる。	120分
	事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
9	グローバリゼーションへの対応	グローバリゼーションがもたらす政治的態度と反グローバリゼーションについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、相互依存の概念について説明できる。	
	事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第2節・第3節（p. 347-p. 374）を複合的相互依存の意味をノートにまとめる。	120分
	事後学修	相互依存の源泉・利益・コスト・対称性などについての知見をノートにまとめる。	120分
10	情報革命とパワー	近代国際社会を揺るがす情報革命とパワーについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜ情報技術の進歩がウェストファリア体制を脅かす可能性があるのか、その理由と実態について説明できる。	
	事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第1節（p. 375-p. 396）を読み、インターネットがもたらした社会活動の変化を考えながらアラブの覚醒についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	なぜインターネットが世界政治に大きなインパクトを与えるのかの知見をノートにまとめる。	120分
11	情報革命と脱国家主体	情報革命について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、情報化時代における脱国家主体のパワーについて、テロリズムなど負の側面からも説明できる。	
	事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第2節・第3節（p. 396-p. 411）を読み、情報技術とパワーの関係についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	21世紀的な対テロ戦争についての知見をノートにまとめる。	120分
12	新しい世界秩序	20世紀から21世紀へ、新しい世界秩序について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、20世紀から21世紀にかけての国際社会の変化について説明できる。	
	事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第1節（p. 413-p. 440）を読み、テキストの「5つの未来構想」をノートにまとめる。	120分
	事後学修	「5つの未来構想」から得た知見をもとにどのような世界が望ましいか自分の考えをノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	持続可能な社会の実現	持続可能な社会を実現するための方策について検証する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、多様な理論を用いて、複雑な世界を複数の角度から分析し、未来予測をすることの重要性について説明できる。	
	事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第2節（p. 440-p. 453）を、新しい世界秩序の意味を考えながら読み、今後 の世界で起こりうることをノートにまとめる。	120分
	事後学修	今日の世界における様々な問題を整理し、新しい世界秩序についての知見をノートにまとめる。	120分
14	歴史学のパラダイムからのレビュー 期末テスト	第1回から第13回までのレビューを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、これまでに学んだことを自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	これまでに学んだことをテキストを読みながら振り返る。	120分
	事後学修	これまでに学んだ語句や定義を整理しノートにまとめる。	120分
15	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。	
	事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、後期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめる。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
現代の政治、経済および宗教が人間にとってどのような意味をもつかについて、好奇心をもって地道に探究する意志のある者を歓迎する。国際関係史Ⅰを未履修でも履修できる。

【授業方法】
事前に指定する箇所をあらかじめ自宅で通読したうえで、要約作業等の課題をGoogleフォームを通じて提出する。授業は、すでに準備をすませた箇所の内容を再確認し、補足したり履修者間で共有したりする時間に充てる。簡単な口頭発表を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Googleフォーム（あるいは出席用紙）を用いてほぼ毎回課題提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題を複数回提出することにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
討論・発表等	口頭発表を行うことにより、到達目標③④⑤に関するリテラシー・知的姿勢を簡明に発信することができるかを評価する。			20	15	15						50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う。

【教科書・参考書等】						
書 名			著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
サビエンス全史 文明の構造と人類の幸福 下巻			ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2023	教科書 必携
サビエンス全史 文明の構造と人類の幸福 上巻			ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2023	教科書 推奨
現代国際関係史 1945年から21世紀初頭まで			有賀貞	東京大学出版会	2019	教科書 推奨
備考	教科書は毎回持参する。値段は多少高くなるが、読みやすい単行本の方でもよい。こちらは2023年ではなく2016年の出版となる。					

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義 はじめに	授業の目的、到達目標および進め方を共有する。	
	この回の到達目標	授業の目的、到達目標および進め方を理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで不明点を書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的、到達目標および進め方をあらためて確認する。	60分
2	人間における宗教の意味	宗教が人間（ホモ・サピエンス）にとってどのような意味をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宗教が人間（ホモ・サピエンス）にとってもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第12章「宗教という超人間的秩序」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	人間による人間の崇拝	人間（ホモ・サピエンス）が人間をどのように崇拝するのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が人間を崇拝する背景と現状を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第12章「宗教という超人間的秩序」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	歴史の予測と統制	人間（ホモ・サピエンス）がなぜその歴史を予測および統制できないのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間（ホモ・サピエンス）がその歴史を予測および統制できない理由を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章「歴史の必然と謎めいた選択」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	人間による無知の発見	人間（ホモ・サピエンス）がどのように無知を発見したのかをともに考える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が無知を発見した経緯と要因を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	近代科学の成立	人間（ホモ・サピエンス）がどのように近代科学を成立させたのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、人間（ホモ・サピエンス）が近代科学を成立させた経緯と要因を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	帝国主義の成立と科学	帝国主義がどのように成立したかを科学の発展に留意しながらともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、帝国主義が成立した経緯と要因を科学の発展に留意しながらを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「科学と帝国の融合」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	帝国主義の拡張	ヨーロッパで生まれた帝国主義が世界にどのように拡張したかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ヨーロッパで生まれた帝国主義が世界に拡張した経緯と要因を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「科学と帝国の融合」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	資本主義の世界的拡大	資本主義がどのように世界に拡大したのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義が世界に拡大する経緯と要因を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義マジック」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	自由市場の性格と問題性	資本主義の拡大によって生成した自由市場がどのような性格および問題性をもつのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義の拡大によって生成した自由市場の性格とそれがもつ問題性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義マジック」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	資本主義と消費	資本主義と消費主義がどのように一体化したのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義と消費主義が一体化した経緯と要因について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第17章「産業の推進力」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	国家・市場・戦争	国家と市場がどのように個人を生み出しながら戦争可能性を低減させたのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国家と市場が個人を生み出す経緯と要因ならびに戦争可能性を低減させる要因を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文明と人間の幸福	文明は人間を幸福にしているのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、文明が人間を幸福にしている可能性ならびにそのように断定できない理由を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	超ホモ・サピエンスの出現可能性	超ホモ・サピエンスが出現する可能性があるのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、超ホモ・サピエンスが出現する可能性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	まとめ	人間（ホモ・サピエンス）にとって現代の政治、経済および宗教がどのような意味をもつのかあらためて考えつつ授業を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、人間（ホモ・サピエンス）にとって現代の政治、経済および宗教がもつ意味を総合的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の「あとがきー神になった動物」について準備する。	180分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅠ	担当者	本吉 祐樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。適宜、授業の理解度を確認するためのリアクションペーパー等を行う。出席状況を重視する授業なので、公欠以外の欠席は極力控えること。初回授業からの出席を求めますので、履修者は必ず初回から出席してください。4回以上の授業欠席、課題未提出、遅れ等は単位認定対象外となります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。				2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。				2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。				2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。				2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、授業内での発言やリアクションペーパーなどによって評価する。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 国際法（第4版）	渡部茂己，河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14時40分～（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の 到達目標	授業について理解する。	
	事前学修	国際法に関する情報を探してみる。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を確認する。	120分
2	国際法概要	国際社会と国際法	
	この回の 到達目標	国際社会と国際法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
3	近代国際法	近代国際法の成立と発展	
	この回の 到達目標	近代国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。	120分
4	国際法の主体	国際法の主体：国家、国際組織、個人、NGO	
	この回の 到達目標	国際法の主体について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章9-10頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法の主体についての授業の内容を復習する。	120分
5	国際法と国内法	国際法と国内法の関係について	
	この回の 到達目標	国際法と国内法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章11-12頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国内法についての授業の内容を復習する。	120分
6	国際法の法源	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議	
	この回の 到達目標	国際法の法源について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際慣習法	国際法の法源②：国際慣習法	
	この回の到達目標	国際法の法源としての国際慣習法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際慣習法についての授業の内容を復習する。	120分
8	国家の成立要件	国際法と国家①：国家の成立要素	
	この回の到達目標	国家の成立要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。	120分
9	国家承認	国際法と国家②：国家承認	
	この回の到達目標	国家承認の学説および必要性について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章29-31頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承認についての授業の内容を復習する。	120分
10	政府承認	国際法と国家③：政府承認	
	この回の到達目標	政府承認とその必要性について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章32-33頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	政府承認についての授業の内容を復習する。	120分
11	国家承継・政府承継	国際法と国家④：国家承継・政府承継	
	この回の到達目標	国家承継と政府承継について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章34-35頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承継・政府承継についての授業の内容を復習する。	120分
12	国家の基本的権利義務	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除	
	この回の到達目標	国家の基本的権利義務のなかでも重要な国家主権、主権平等、それらから派生する主権免除について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章36-37頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不干渉義務と管轄権	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、管轄権	
	この回の到達目標	不干渉義務と管轄権について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	不干渉義務、管轄権についての授業の内容を復習する。	120分
14	自衛権	国家の基本的権利義務③：自衛権	
	この回の到達目標	自衛権の理論および要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ	まとめ：前期の総まとめ	
	この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
	事前学修	前期の授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前期の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕A I	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。				2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。				2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。				2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。				2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	15	15	15						70
小テスト等	小テストが、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、到達目標①～⑤に関する質問・発言等しているかを評価する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	21	21	21	21						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際法（第4版）	渡部茂己・河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
国際条約集2024年版	植木俊哉・中谷和弘	有斐閣	2024	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の 到達目標	授業について理解する	
	事前学修	国際法に関する情報をネット等で探してみる。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を確認する。	120分
2	国際法概要	国際社会と国際法	
	この回の 到達目標	国際社会と国際法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
3	近代国際法	近代国際法の成立と発展	
	この回の 到達目標	近代国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。	120分
4	国際法の基本原理	国際法の主体（国家、国際組織、個人、NGO）、国際法体系、国際法と国内法	
	この回の 到達目標	国際法の基本原理について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章9-12頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法の基本原理についての授業の内容を復習する。	120分
5	国際法の法源	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議	
	この回の 到達目標	国際法の法源について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。	120分
6	国際慣習法	国際法の法源②：国際慣習法	
	この回の 到達目標	国際法の法源としての国際慣習法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際慣習法についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	条約法	ウィーン条約法条約	
	この回の到達目標	条約に関するウィーン条約法条約について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約法についての授業の内容を復習する。	120分
8	国家の成立要件	国際法と国家①：国家の成立要素	
	この回の到達目標	国家の成立要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。	120分
9	国家承認と政府承認	国際法と国家②：国家承認と政府承認	
	この回の到達目標	国家承認の学説および必要性、ならびに政府承認について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章29-34頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承認と政府承認についての授業の内容を復習する。	120分
10	国家の基本的権利義務	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除	
	この回の到達目標	国家の基本的権利義務のなかでも重要な国家主権、主権平等、それらから派生する主権免除について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章36-37頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。	120分
11	不干渉義務と管轄権	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、自衛権、管轄権	
	この回の到達目標	不干渉義務、自衛権、管轄権について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	不干渉義務、自衛権、管轄権についての授業の内容を復習する。	120分
12	外交法	外交使節と領事機関	
	この回の到達目標	外交使節と領事機関について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。	120分
	事後学修	外交法についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国家責任		国家の国際責任
	この回の到達目標	国家責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家責任についての授業の内容を復習する。	120分
14	国家の領域		国家の領域：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式、日本の領土問題
	この回の到達目標	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式、日本の領土問題について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の領域についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ		まとめ：前期の総まとめ
	この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
	事前学修	前期の授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	本吉 祐樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。適宜、授業の理解度を確認するためのリアクションペーパー等を行う。出席状況を重視する授業なので、公欠以外の欠席は極力控えること。初回授業からの出席を求めますので、履修者は必ず初回から出席してください。4回以上の授業欠席、課題未提出、遅れ等は単位認定対象外となります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。				2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。				2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。				2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。				2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、授業内での発言やリアクションペーパーなどによって評価する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 国際法（第4版）	渡部茂己，河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 4限 14時40分～ 研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレス motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際法の後期分概要 導入講義	授業の説明	
	この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	国際法と領域	国家の領域①：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式	
	この回の 到達目標	国際法における領域の重要性と領域取得の方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章67-76頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式についての授業の内容を復習する。	120分
3	領土問題	国家の領域②：日本の領土問題	
	この回の 到達目標	領土問題の具体例として、日本の領土問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章76-81頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	日本の領土問題についての授業の内容を復習する。	120分
4	海洋法の歴史	海洋法①：歴史的展開	
	この回の 到達目標	海洋法で重要な歴史的な経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章84-85頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の歴史的展開についての授業の内容を復習する。	120分
5	海洋法の構造	海洋法②：海洋法の具体的な構造	
	この回の 到達目標	内水、領海、特殊な地域、EEZ、大陸棚、深海底について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章86-95頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の構造についての授業の内容を復習する。	120分
6	海洋に関する紛争解決	海洋法③：海洋境界の画定と紛争の解決	
	この回の 到達目標	海洋についての境界画定の方法と紛争の解決方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章96-99頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	国際広域		国際公域：国際河川、運河、南極、宇宙
	この回の到達目標	どこの国にも属さない国際広域について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第8章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際公域についての授業の内容を復習する。	120分
8	外交関係法		外交関係と国際法：外交使節と領事使節
	この回の到達目標	外交と領事に関する国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。	120分
	事後学修	外交関係と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
9	条約法		条約法としてのウィーン条約法条約
	この回の到達目標	ウィーン条約法条約について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約法についての授業の内容を復習する。	120分
10	国際人権法		国際法と個人：人権
	この回の到達目標	戦後発展した国際人権法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と個人についての授業の内容を復習する。	120分
11	国際環境法		国際法と地球環境
	この回の到達目標	国際環境法を地球温暖化防止条約を中心に理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。	120分
12	国際経済法		国際法と国際経済
	この回の到達目標	GATT/WTOと地域経済協定について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際機構法と集団安全保障		国際法と国際機構
	この回の到達目標	特に国連と国連憲章について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第12章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国際機構についての授業の内容を復習する。	120分
14	国際責任		国家の国際責任
	この回の到達目標	国家の行為についての責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の国際責任についての授業の内容を復習する。	120分
15	後期授業概要		後期まとめ
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。				2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。				2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。				2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。				2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	15	15	15						70
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が見についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、到達目標①～⑤に関する質問・発言等しているかを評価する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	21	21	21	21						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際法（第4版）	渡部茂己・河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
国際条約集2024年版	植木俊哉・中谷和弘	有斐閣	2024	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際法の後期分概要 導入講義	授業の説明	
	この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	海洋法の歴史	海洋法①：歴史的展開	
	この回の 到達目標	海洋法で重要な歴史的な経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章84－85頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の歴史についての授業の内容を復習する。	120分
3	内水と領海	海洋法②：内水、領海	
	この回の 到達目標	内水と領海について理解する	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章86－88頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	内水と領海についての授業の内容を復習する。	120分
4	接続水域、群島水域、国際海峡	海洋法③：接続水域、群島水域、国際海峡	
	この回の 到達目標	接続水域、群島水域、国際海峡について理解する	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章88－90頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	接続水域、群島水域、国際海峡についての授業の内容を復習する。	120分
5	公海	海洋法④：公海	
	この回の 到達目標	公海について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章90－92頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	公海についての授業の内容を復習する。	120分
6	排他的経済水域	海洋法⑤：排他的経済水域	
	この回の 到達目標	排他的経済水域の法的地位と漁業資源の管理について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章92－93頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	排他的経済水域と漁業資源の管理についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	大陸棚	海洋法⑥：大陸棚	
	この回の到達目標	大陸棚の法的地位と開発について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章93－94頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	大陸棚の法的地位と開発についての授業の内容を復習する。	120分
8	深海底	海洋法⑦：深海底	
	この回の到達目標	深海底の法的地位と開発について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章94－95頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	深海底の法的地位と開発についての授業の内容を復習する。	120分
9	海洋に関する紛争解決	海洋法⑧：海洋境界の画定と紛争の解決	
	この回の到達目標	海洋についての境界画定の方法と紛争の解決方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章96－99頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。	120分
10	国際河川、運河、南極	国際公域①：国際河川、運河、南極	
	この回の到達目標	国際河川、運河、南極の国際法上の地位について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第8章102－106頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際河川、運河、南極の国際法上の地位についての授業の内容を復習する。	120分
11	空、宇宙	国際公域②：空、宇宙	
	この回の到達目標	空と宇宙の国際法上の地位について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第8章106－109頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	空と宇宙の国際法上の地位についての授業の内容を復習する。	120分
12	国際人権法	国際法と個人：人権	
	この回の到達目標	戦後発展した国際人権法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と個人についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際環境法		国際法と地球環境
	この回の到達目標	国際環境法を地球温暖化防止条約を中心に理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。	120分
14	国際経済法		国際法と国際経済
	この回の到達目標	GATT/WTOと地域経済協定について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。	120分
15	後期授業概要		後期まとめ
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	田中 誠	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
授業時に配布する学習資料またはスライド（パワーポイントなど）を併用して教科書に基づいて講義を中心に進めていく。一部の授業回では、学生によるプレゼンテーションおよびディベートを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業では口頭の質疑応答を行いながら理解の定着を図る。事後学修における振り返りとしてリアクションペーパーを作成させ、次回の授業時に提出を受け、質問事項に対しては回答を、または理解不十分な事項に対しては補足説明を行うなど、理解の定着を図る。一部の授業回では、事前に付与した課題について、プレゼンテーションおよびディベートを行わせた後に解説を実施、事後学修としてレポートを作成させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。				3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。				3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。				3					3		
④	個別のおよび集団的自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。				3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力を習得しているかを評価する。	5	5	5	10	10						35
討論・発表等	事例研究課題を付与し、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標②③⑤に関して論理的に話す能力、他人の主張の趣旨を理解した上で合理的な反論をする能力を習得しているかを評価する。		5	5		10						20
授業への参画度	授業時間内における教官または他の受講者からの質問に対する応答、主体的質問、意見表明などの発言回数・内容、事後学修におけるリアクションペーパーの内容によって、到達目標①～⑤に関する積極的な学習態度を習得しているかを評価する。	9	9	9	9	9						45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	19	19	29						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ国際法〔第4版〕	渡部茂己ほか	弘文堂	2022	教科書	必携
国際条約集2024年版	植木俊哉ほか	有斐閣	2024	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日の講義終了後（最大60分）講義講堂において tanaka.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自衛隊における法務教官（法務官養成）及び警務官（司法警察職員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際法による安全保障の現状と課題について実務経験に基づき紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	1 シラバス（授業の目的、到達目標、成績評価、授業計画） 2 国内社会と国際社会における紛争解決手段の相違	
	この回の到達目標	国内社会と国際社会における紛争解決手段の相違について説明することができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
2	国際機構	1 国際機構の概念と歴史 2 国際機構の意思決定	
	この回の到達目標	国際機構が創設された目的について説明することができる。	
	事前学修	教科書163-182頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	国際紛争の平和的解決Ⅰ：非裁判手続	1 国際社会における国際紛争解決 2 当事者間による手続（外交交渉） 3 第三者による手続（その他の伝統的解決手段）：①周旋、②仲介、③審査、④調停 4 対抗措置	
	この回の到達目標	国際紛争の平和的解決手段は、①紛争当事者の合意に基づく紛争処理と②紛争当事者の合意によらない一方的な手段（対抗措置）に分類することができる。	
	事前学修	教科書201-206頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	国際紛争の平和的解決Ⅱ：裁判手続	1 仲裁裁判 2 司法裁判 3 国際司法裁判所の現状と課題	
	この回の到達目標	国際司法裁判所の現状と課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書206-213頁及び学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	国際紛争の平和的解決Ⅲ：国際裁判の判決	1 国際司法裁判所判決 2 国際海洋法裁判所判決	
	この回の到達目標	日本が当事国となった国際裁判の判決につき、事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、プレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
6	国際法における戦争の位置付け	1 神学的正戦論 2 正戦論 3 無差別戦争観 4 戦争制限・戦争モラトリアム 5 戦争違法観	
	この回の到達目標	国際法における戦争観念の変遷について説明することができる。	
	事前学修	教科書216-217項，244-246頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦争の違法化	1 国際連盟における戦争違法観 2 国際連合における戦争違法観	
	この回の到達目標	国際法上戦争の違法化が実現した時期について説明することができる。	
	事前学修	教科書202-203頁，216-217頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
8	武力不行使原則Ⅰ：武力不行使原則の内容	1 武力不行使原則の歴史的意義 2 武力不行使原則の内容（武力、武力の行使、武力による威嚇）	
	この回の到達目標	武力不行使原則によって具体的に何が禁止されるのかについて説明することができる。	
	事前学修	教科書36-40頁，221-222頁，244-246頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
9	武力不行使原則Ⅱ：武力不行使原則の射程	1 自国領域内における法執行措置（内戦などへの適用問題） 2 自国領域外における法執行措置	
	この回の到達目標	非国際的武力紛争に対して武力不行使原則が適用されない理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書36-40頁，221-222頁，244-246頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
10	武力不行使原則の例外Ⅰ：国連憲章上の根拠	1 個別的・集団的自衛権（国連憲章51条）：国連憲章51条の下での自衛権と伝統的国际法の下での自衛権 2 国連による軍事的措置（同42条） 3 旧敵国条項（同53条・107条）の死文化	
	この回の到達目標	自衛権の行使として武力の行使が正当化される根拠について説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、プレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
11	武力不行使原則の例外Ⅱ：国連憲章上の根拠以外の事由	1 相手国政府の同意 2 在外自国民の保護 3 人道的干渉 4 保護する責任	
	この回の到達目標	国連憲章上の根拠以外の事由によって武力の行使が正当化される場合について説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、プレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
12	集団安全保障制度Ⅰ：国際連盟における集団安全保障	1 勢力均衡 2 国際連盟誕生の経緯 3 国際連盟における集団安全保障の限界	
	この回の到達目標	国際連盟が集団安全保障の十分な機能を果たすことができなかった理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書216-220頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	集団安全保障制度Ⅱ：国際連合における集団安全保障	1 国際連盟と国際連合における集団安全保障の相違 2 冷戦期における国連の集団安全保障 3 冷戦後における国連の集団安全保障		
	この回の到達目標	国際連合における集団安全保障の特徴について冷戦期と冷戦終焉後に区分して説明することができる。		
	事前学修	教科書221-232頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
14	集団安全保障制度Ⅲ：国連憲章第7章に基づく武力の行使	1 湾岸戦争における武力行使 2 国連による人道的介入		
	この回の到達目標	国連憲章第7章に基づく武力の行使が容認された事例について説明することができる。		
	事前学修	事例研究課題を解答し、プレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
15	国連平和維持活動（PKO）	1 冷戦期におけるPKOの生成と確立 2 冷戦後におけるPKOの機能変化 3 PKOへの自衛隊参加		
	この回の到達目標	PKOが考案された経緯とその後の機能変化について説明することができる。		
	事前学修	教科書232-237頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	本吉 祐樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。適宜、授業の理解度を確認するためのリアクションペーパー等を行う。出席状況を重視する授業なので、公欠以外の欠席は極力控えること。初回授業からの出席を求めますので、履修者は必ず初回から出席してください。4回以上の欠席、遅刻は単位認定対象外とします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。					3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。					3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。					3					3		
④	個別のおよび集団的自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。					3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、小テストにより評価する。	5	5	5	5	10						30
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	20	20	10	10	10						70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 国際法（第4版）	渡部茂己，河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 4限 14時40分～ 研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレス motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の 到達目標	授業の概要について把握する。	
	事前学修	世界で発生している戦争について調べてみる。	120分
	事後学修	授業で紹介された参考書等を確認しておく。	120分
2	戦争の違法化	戦争の違法化の歴史的経緯	
	この回の 到達目標	戦争の違法化の経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章198頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	戦争の違法化についての授業の内容を復習する。	120分
3	自衛権	国連憲章と自衛権	
	この回の 到達目標	自衛権を、国連憲章と慣習法の観点から理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
4	自衛権(2)	自衛権の要件と集団的自衛権	
	この回の 到達目標	自衛権の要件と、集団的自衛権等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
5	非裁判的手続	国際紛争の平和的解決①：非裁判的手続き	
	この回の 到達目標	国連憲章における非裁判的手続きについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章199－202頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	非裁判的手続きについての授業の内容を復習する。	120分
6	国際裁判	国際紛争の平和的解決②：裁判手続	
	この回の 到達目標	国連憲章における裁判手続について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章202－208頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	裁判手続についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本と国際裁判	国際紛争の平和的解決③：我が国と国際司法裁判所	
	この回の到達目標	我が国が関わった国際裁判について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章99－100頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	我が国と国際司法裁判所についての授業の内容を復習する。	120分
8	国際安全保障の歴史的経緯	国際安全保障①：正戦論から集団安全保障へ	
	この回の到達目標	中世の正戦論から現在の集団安全保障までの経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章212－214頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	正戦論から集団安全保障までについての授業の内容を復習する。	120分
9	集団安全保障	国際安全保障②：国際連盟と国際連合の集団安全保障	
	この回の到達目標	国際連盟と国際連合の集団安全保障制度の違いについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章214－216頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連盟と国際連合の安全保障についての授業の内容を復習する。	120分
10	国連の集団安全保障制度	国際安全保障③：国際連合の集団安全保障制度の変遷	
	この回の到達目標	国連憲章下における集団安全保障制度の変遷について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連合の集団安全保障制度の変遷についての授業の内容を復習する。	120分
11	国連の集団安全保障制度(2)	国際安全保障④：国際連合の集団安全保障制度の現在	
	この回の到達目標	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。昨今の集団安全保障の事例について調べる。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連合の集団安全保障制度の現在についての授業の内容を復習する。	120分
12	PKO	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結まで	
	この回の到達目標	PKOについて、その発生から現在までを理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章228－233頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結までについての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	人道的介入		人道的介入の歴史的展開
	この回の到達目標	人道的介入について、その展開から現在までを理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章38頁、第15章237頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	人道的介入について、その展開から現在までについての授業の内容を復習する。	120分
14	軍備に関する国際法		軍備管理と軍縮
	この回の到達目標	とくに軍備の規制・禁止に関する国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章233－237頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	軍備管理と軍縮についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ		前期まとめ
	この回の到達目標	前期に学習したことを確認、あらためて理解する。	
	事前学修	前期に行った授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	田中 誠	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法 の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
授業時に配布する学習資料またはスライド（パワーポイントなど）を併用して教科書に基づいて講義を中心に進めていく。一部の授業回では、学生によるプレゼンテーションおよびディベートを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業では口頭の質疑応答を行いながら理解の定着を図る。事後学修における振り返りとしてリアクションペーパーを作成させ、次回の授業時に提出を受け、質問事項に対しては回答を、または理解不十分な事項に対しては補足説明を行うなど、理解の定着を図る。一部の授業回では、事前に付与した課題について、プレゼンテーションおよびディベートを行わせた後に解説を実施、事後学修としてレポートを作成させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。				3							
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。				3					3		
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。				3					3		
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。				3							
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力を習得しているかを評価する。	5	5	5	10	10						35
討論・発表等	事例研究課題を付与し、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標②③⑤に関して論理的に話す能力、他人の主張の趣旨を理解した上で合理的な反論をする能力を習得しているかを評価する。		5	5		10						20
授業への参画度	授業時間内における教官または他の受講者からの質問に対する応答、主体的質問、意見表明などの発言回数・内容、事後学修におけるリアクションペーパーの内容によって、到達目標①～⑤に関する積極的な学習態度を習得しているかを評価する。	9	9	9	9	9						45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	19	19	29						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ国際法〔第4版〕	渡部茂己ほか	弘文堂	2022	教科書	必携
国際条約集2024年版	植木俊哉ほか	有斐閣	2024	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日の講義終了後（最大60分）講義講堂においてtanaka.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 自衛隊における法務教官（法務官養成）及び警務官（司法警察職員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際人道法の履行確保を図る方策について実務経験に基づき紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	1 シラバス（授業の目的、到達目標、成績評価、授業計画） 2 国際人道法遵守を阻害する要因	
	この回の到達目標	戦闘という極限状況において、勝利を達成したいという願望と国際人道法遵守の要請との緊張関係をいかに克服するべきかについて自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
2	武力紛争を規制する国際法	1 武力行使それ自体の合法性を判断する規則(jus ad bellum) 2 武力紛争の期間における交戦者の行為を規律する規則(jus in bello) (1) 中立法（交戦国と中立国の関係を規律する規則） (2) 国際人道法（交戦者間の行為を規律する規則）	
	この回の到達目標	「武力紛争を規制する国際法」の体系について説明することができる。	
	事前学修	教科書243-248頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	戦闘様相と国際法	1 武力紛争の二類型（国際的武力紛争と非国際的武力紛争） 2 国際人道法の平等適用原則（戦争の違法化の無影響） 3 国連部隊の活動と国際人道法 4 テロリズムと国際人道法 5 サイバー戦と国際人道法 6 AI時代における国際人道法	
	この回の到達目標	jus ad bellum上の違法性評価はjus in belloの適用に直接影響しない点を指摘することができる。	
	事前学修	教科書240-244頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	戦闘の方法及び手段Ⅰ：国際人道法の原則	1 国際人道法の基本原則（①軍事的必要性、②人道的考慮） 2 国際人道法の派生原則（①区別原則、②均衡性原則、③背信行為の禁止原則、④不必要な苦痛の禁止原則） 3 敵対行為の主体と客体：交戦者（戦闘員・非戦闘員）、文民、軍使、間諜、傭兵、人的軍事目標（戦闘員）と人的非軍事目標（非戦闘員・文民）、物的軍事目標と物的非軍事目標（民人物）、軍事目標を攻撃目標とした場合の非軍事目標に対する付随的損害	
	この回の到達目標	国際人道法の原則が国際人道法を構成する諸条約の条項にどのように反映されているのかについて説明することができる。	
	事前学修	教科書249-251頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	戦闘の方法及び手段Ⅱ：害敵手段	1 特定兵器の使用を規制する理由（無差別的効果を及ぼす兵器、過度の傷害または無用の苦痛を与える兵器） 2 軍備管理と軍縮（軍備管理・軍縮両概念の相違、大量破壊兵器・通常兵器の規制）	
	この回の到達目標	国際人道法の原則という観点から、兵器の使用規制が正当化される理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書237-241頁、249-255頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
6	戦闘の方法及び手段Ⅲ：背信行為と奇計	1 背信行為 (1) それ自体が禁止され違法と評価される背信行為 (2) それ自体は禁止されないが、殺傷又は捕獲のための暴力行為を伴ったときに違法と評価される背信行為 2 奇計 (1) いかなる戦闘条件下でも禁止されない奇計 (2) 一定の戦闘条件下で禁止される奇計	
	この回の到達目標	背信行為と奇計の概念の相違について説明することができる。	
	事前学修	教科書247頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	武力紛争犠牲者の保護Ⅰ：捕虜の取扱い（捕虜たる身分の開始）		1 捕虜尋問に対する回答事項 2 捕虜の所持品の取扱い 3 捕虜に対する人道的待遇	
	この回の到達目標	捕虜に対する人道的待遇について説明することができる。		
	事前学修	教科書252頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
8	武力紛争犠牲者の保護Ⅱ：捕虜の取扱い（捕虜資格を有する者の範囲）		1 ハーグ陸戦規則・ジュネーヴ第3条約上の戦闘員 2 ジュネーヴ諸条約第1追加議定書上の戦闘員 3 戦闘員と文民との区別義務緩和の意義	
	この回の到達目標	文民による敵対行為への直接参加を国際法は禁止していないが、このような文民は捕虜として処遇されず、敵国によって刑法犯として訴追される理由について説明することができる。		
	事前学修	教科書252頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
9	武力紛争犠牲者の保護Ⅲ：傷病者などの保護		1 保護される傷病者・医療要員などの範囲 2 医療要員などに表示される特殊標章	
	この回の到達目標	ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書において保護される傷病者の範囲について説明することができる。		
	事前学修	教科書251頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
10	武力紛争犠牲者の保護Ⅳ：文民・財産の保護		1 被保護者とされる文民の範囲 2 攻撃が一般的に禁止される民用物 3 民用物に表示される特殊標章	
	この回の到達目標	ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書において被保護者とされる文民の範囲について説明することができる。		
	事前学修	教科書252-253頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
11	武力紛争犠牲者の保護Ⅴ：文民の保護		1 「敵対行為に直接参加していない文民」に対する人道的待遇 2 文民であるか否かについて疑義がある場合の処遇	
	この回の到達目標	適用される国際人道法の条項を指摘するとともに、軍事的必要性和人道的考慮の両面について配慮することができる。		
	事前学修	事例研究課題に解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
12	国際人道法の履行確保Ⅰ：履行確保の三類型		1 国際人道法遵守の度合いを高める手段 2 継続している違法行為を中止させるための手段（戦時復仇） 3 被害の事後的救済を図るための手段	
	この回の到達目標	国際人道法の履行確保を図るための手段について分類することができる。		
	事前学修	教科書253-255頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国際人道法の履行確保Ⅱ：ニュルンベルク裁判までの戦争犯罪処罰制度		1 敵国の戦争犯罪人に対する交戦国国内裁判所の管轄権 2 ニュルンベルクおよび極東両国際軍事裁判所の管轄権	
	この回の到達目標	ニュルンベルクおよび極東両国際軍事裁判所の管轄に属する犯罪について説明することができる。		
	事前学修	教科書255頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
14	国際人道法の履行確保Ⅲ：第2次世界大戦後における戦争犯罪処罰制度		1 ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書の「重大な違反行為」に対する普遍的管轄権 2 旧ユーゴスラヴィアおよびルワンダ両国際刑事裁判所の管轄権 3 国際刑事裁判所の管轄権	
	この回の到達目標	今日の武力紛争において国際法上の犯罪とされ、処罰の対象となる行為について説明することができる。		
	事前学修	教科書255-257頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
15	国際人道法の履行確保Ⅳ：日本における国際人道法の実践		1 日本が国際刑事法を受容する際に行った国内法整備の特徴 2 ジュネーヴ諸条約加入（1953年）時の国内法未整備 3 同条約第1追加議定書加入（2004年）時の国内法整備 4 国際刑事裁判所規程加入（2007年）時の国内法整備	
	この回の到達目標	日本が国際人道法の実践のために行った国内法整備の状況について説明することができる。		
	事前学修	日本が国際人道法を受容する際に行った国内法整備の状況を調べるとともに、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	本吉 祐樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法 の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】

教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。適宜、授業の理解度を確認するためのリアクションペーパー等を行う。出席状況を重視する授業なので、公欠以外の欠席は極力控えること。初回授業からの出席を求めますので、履修者は必ず初回から出席してください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。				3						
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。				3					3	
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。				3					3	
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。				3						
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。				3					3	
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、小テストにより評価する。	5	5	5	5	10						30
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	20	20	10	10	10						70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 国際法（第4版）	渡部茂己，河合利修	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14時40分～（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、メールアドレス： motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	国際法の後期分概要 導入講義		授業の説明
	この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	国際人道法の概念と歴史		戦争の残虐化を防止し、戦争犠牲者を保護するための法規範である国際人道法の概念、発展過程について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法とはいかなる法規範かを理解し、その形成・発展について説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の概念について理解しておくこと。	120分
	事後学修	国際人道法の法典化について説明できるようにする。	120分
3	国際人道法の分類と適用範囲		国際人道法の分類および適用範囲について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法をその内容、法源等を基準に分類できるとともに、それが適用される時間的・人的範囲について説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の適用対象について確認しておくこと。	120分
	事後学修	jus ad bellumとjus in bello、ハーグ法 とジュネーブ法に分類される人道法それぞれの性質と関連条約について説明できるようにする。	120分
4	国際人道法の基本原則		国際人道法の基本原則、すなわち目標区別原則、不必要な苦痛を与える兵器の禁止原則、均衡性の原則等について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法の基本原則について、条約規定を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の基本原則について確認しておくこと。	120分
	事後学修	軍事目標主義について説明できるようにする。	120分
5	国際人道法と日本		幕末から第二次世界大戦にかけての国際人道法の受容、及びその適用について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法の受容と実践を通じて、日本における国際法認識を説明することができるようになる。	
	事前学修	日本が国際人道法を受容し、実践した事例を確認しておくこと。	120分
	事後学修	日本がいかにして国際人道法を受容し、実践したかについて説明できるようにする。	120分
6	内戦と国際人道法		内戦に国際人道法を適用する意義、そのための手段としての交戦団体の承認について考察した上で、ジュネーブ諸条約共通第3条と第2追加議定書が定める人道的保護の対象者と内容について解説する。
	この回の 到達目標	内戦への国際人道法適用の意義と限界、ジュネーブ諸条約と追加議定書によって与えられる保護の内容について説明できるようになる。	
	事前学修	なぜ内戦への国際人道法の適用が必要か、また適用する際の問題点について理解しておくこと。	120分
	事後学修	ジュネーブ諸条約と第2追加議定書を比較し、両者の保護規定の違いについて説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	害敵手段の規制(1)：核兵器	核兵器に関する学説、国連総会の決議、国際司法裁判所の勧告的意見および国内裁判所の判決等について解説した上で、核兵器の使用が違法か合法かを検討する。	
	この回の到達目標	武力紛争に関する国際慣習法や関連諸条約、国際機構の決議等をもとに、核兵器の違法性(または合法性)について、自己の見解を述べることができるようになる。	
	事前学修	核兵器の製造、使用、実験等を規制する条約を確認しておくこと	120分
	事後学修	核兵器の規制について説明できるようになる。	120分
8	害敵手段の規制(2)：化学兵器・生物兵器	化学兵器と生物兵器規制の歴史を概観した上で、化学兵器禁止条約と生物毒素兵器禁止条約について解説する。	
	この回の到達目標	化学兵器と生物兵器の製造、保有、使用等を禁止する条約の内容および履行確保制度について説明できるようになる。	
	事前学修	化学兵器および生物兵器の特質と、法規制の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	化学兵器禁止条約の構造と履行確保制度について説明できるようにする。	120分
9	害敵手段の規制(3)：通常兵器の規制・背信行為	対人地雷、焼夷兵器、レーザー兵器、クラスター爆弾等の規制について解説するとともに、背信行為の禁止について説明する。	
	この回の到達目標	個別条約による通常兵器の規制について説明できるとともに、背信行為と奇計の違いを具体例を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	通常兵器それぞれの性質と関連条約について確認しておくこと。	120分
	事後学修	通常兵器の規制をめぐる国際機構やNGOの行動について説明できるようにする。	120分
10	戦争犠牲者の保護(1)：捕虜	捕虜になりうる資格と捕虜の権利義務、捕虜管理国の義務について解説し、さらにテロリストと民間軍事会社要員の捕虜資格について検討する。	
	この回の到達目標	捕虜資格の拡大、捕虜の待遇について説明できるようになる。	
	事前学修	捕虜に関する条約について確認しておくこと。	120分
	事後学修	捕虜資格の変遷とテロリストの捕虜資格について説明できるようにする。	120分
11	戦争犠牲者の保護(2)：傷病者・文民	1949年の傷病者保護条約および文民保護条約を中心に、傷病者と文民の人道的保護について解説する。	
	この回の到達目標	傷病者保護の基本原則と衛生要員の保護、敵の権力内にある外国人たる文民の権利について説明できるようになる。	
	事前学修	1864年に第一回ジュネーブ条約(赤十字条約)が採択された背景とその基本原則について確認しておくこと。	120分
	事後学修	敵国内や敵の占領地内にある、敵の国籍を持たない者の権利について説明できるようにする。	120分
12	国際人道法の履行確保(1)：復仇、利益保護国、事実調査制度など	国際人道法の履行を確保するための手段としての復仇、利益保護国制度、事実調査制度および国際人道法の普及教育について解説する。	
	この回の到達目標	ジュネーブ諸条約と第1追加議定書に採用された利益保護国制度および事実調査制度について説明できるようになる。	
	事前学修	人道法の履行を確保するための諸制度について確認しておくこと。	120分
	事後学修	第1追加議定書が定める事実調査の制度と、その問題点について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際人道法の履行確保(2)：戦争犯罪人の処罰	戦争犯罪の概念と処罰制度の発展を概観した上で、第二次世界大戦終結後の戦争犯罪裁判、冷戦後の国際刑事裁判所の設立、管轄権、訴訟手続等について解説する。	
	この回の到達目標	第二次世界大戦後、戦争犯罪を裁く目的で設立された国際裁判所の管轄権、適用法規、訴訟手続、問題点等について説明できるようにする。	
	事前学修	戦争犯罪の処罰制度の発展について確認しておくこと。	120分
	事後学修	戦争犯罪裁判における被告人の責任阻却事由について説明できるようにする。	120分
14	軍縮と軍備管理	軍備管理の概念と軍縮の歴史について考察した上で、二国間および多国間の軍縮条約と軍備管理条約、相互検証制度などについて解説する。	
	この回の到達目標	大量破壊兵器および通常兵器の軍縮について、関連条約を挙げて説明できるようにする。	
	事前学修	軍縮と軍備管理の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	国連軍縮委員会の組織構造、活動および成果について説明できるようにする。	120分
15	後期授業概要	後期まとめ	
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅠ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」においては、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法を授業の対象とする。「国際関係法〔私法系〕AⅠ」においては、国際私法の必要性と基礎理論、及び「法の適用に関する通則法」（通則法）の総則規定について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「国際関係法〔私法系〕」を学修するために必要となる国際私法の基本的な構造と通則法上の総則規定を理解し、その実際上の適用方法を修得する。より具体的には、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等に関する私的な紛争が発生した場合に、国際私法がどの様にその紛争の準拠法を選択し、その解決を図っているかについて学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。講義の一部は、パワーポイントを使用して行う。理解度を図るために授業内で2度小テストを行い、翌週にその講評・解説を行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回以降、簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的な紛争を解決するために、国際私法が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	他の法律とは大きく異なる国際私法の基本的構造と総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法の総則法上の諸規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3					3		
④	総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3					3		
⑤	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法の基礎的構造に関する知識が身についているか、及び到達目標②に関わる総則規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	30	30									60
レポート等												
討論・発表等	第7回目の講義以降、事例についての課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評定尺度に照らして評価する。			10	10	10	10					40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	10	10	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田 嘉章	有斐閣	2020	教科書	必携
『国際私法 判例百選（第3版）』（別冊ジュリスト）	道垣内正人・中西康編	有斐閣	2021	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の前後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【国際私法とは】	「国際関係法〔私法系〕」の中心となる国際私法の全体像と国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法がどのような法律か、またその国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の国際私法のテキストを読み、国際私法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	100分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、国際私法と国際民事訴訟法・国際取引法との相違と相互関連性についてノートに分類・整理する。	120分
2	【国際私法の必要性】	国際私法は、なぜ必要とされているか、またどのような理念に基づいて国境を越えて発生する私的紛争の解決を図っているかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法がなぜ必要とされているかについて理解し、説明することができる。また、各国の法内容と日本法との相違について、調べることができる。【知識】 【技能】	
	事前学修	教科書第1章の「国際私法の必要性」を読み、世界各国の法制の相違の存在を理解し、なぜ国際私法が必要とされているかについて考察する。また、各国法の併存の状態を解決する方法について調べ、ノートに記述する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、なぜ世界中で国際私法という法律が必要とされているかについて考えるとともに、国際的な私的な法律関係を規律するのに最適な方法は何かについて考察し、ノートに列記する。(時間)	120分
3	【国際私法の基礎的観念】	国際私法の基礎的観念として、国際私法の定義、目的と方法、基本的用語について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の基礎的観念について知るとともに、国際私法の目的と方法、基本的用語について理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第2章の「国際私法の基礎的観念」を読み、その大枠について考察するとともに、それが正しく理解されているかが授業内で確認できるようにノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習の内容と講義ノートと比較し、今後の学修のために、国際私法の基礎的観念及びその目的と規律方法、基本的用語について自分の理解に誤りがないよう確認し、ノートに列記する。	120分
4	【国際私法の法的性質・機能と隣接法分野】	国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を知ることによって、国際私法がどのような法的性質と機能を持つ法律であるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を調べ、他の法分野とは異なる国際私法の性質をより深く理解し、説明することができる。【知識】 【技能】	
	事前学修	教科書第3章の「国際私法の法的性質と機能」・第4章の「隣接法分野」を読み、国際私法の法的性質・機能と隣接する他の法との相違について調べ、大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法の法的性質と機能、及び国際私法と隣接法分野との結びつきについての理解について再度確認し、今後の学修に役立つようにノートに列記する。	120分
5	【国際私法の沿革】	国際私法が歴史的にどのようにして発生し、どのように発達してきたか、そしてそれが現在のサヴィニーの国際私法体系にどのようにつながっているかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の歴史を理解するとともに、それが現在の国際私法が採用するサヴィニーの国際私法体系にどのように結びついているかについて調べ、説明することができる。【知識】 【技能】	
	事前学修	教科書第5章の「国際私法の沿革」を読み、国際私法の歴史的発展について調べ、それが現在の国際私法理論にどのような結びついているかについてノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法体系の歴史的形成に関する自己の理解を確認するとともに、それが現在の国際私法規定にどのように結びついているかノートに列記する。	120分
6	【国際私法の法源】	国際私法の主たる法源である現行の通則法の成立まで展開を知るとともに、現在は、通則法以外の他の国内法と条約の中の国際私法規則から国際私法という法律分野が形成されていることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、通則法成立までの展開と通則法以外の国際私法規則の役割とおおよその内容を調べ、説明することができる。【知識】 【技能】	
	事前学修	教科書第6章の「法源」を読み、国際私法がどのように発展し、現行法に至っているか、通則法以外の法・条約中の国際私法規定に何があるかについて調べてノートに記述し、授業内容をより理解できるように整理する。	120分
	事後学修	事前学修ノートと講義ノートを確認して、国際私法規定の展開について理解を図るとともに、国際私法の法源を成す条約と通則法以外の国内諸法の関係性について整理するためのノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【法律関係の性質決定】 【小テスト】		国際私法規則の適用の過程で最初に問題になる「法律関係の性質決定」の問題について学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の体系から必然的に生じる「法律関係の性質決定」の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じて、これまでの授業内容の体系的な理解を図る。【知識】 【技能】	
	事前学修	教科書第7章の「法律関係の性質決定」を読み、性質決定の問題の重要性について理解する。また、第1回～第6回の授業内で学修したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し小テストに備える。	140分
	事後学修	講義ノートを確認して、法律関係の性質決定の問題について自分なりの説明をノートに列記しておく。また、授業内で配布された法律関係の性質決定に関する課題について、次の授業の中で行われる討議に備え準備する。	140分
8	【小テストの講評・解説】 【連結点の確定】		【小テストの講評・解説】 【連結点の確定】 前回の小テストの講評と解説を行う。準拠法の決定過程における連結点の確定について、連結点の中心をなす国籍、常居所を中心に学修する。また、法律回避の問題についても学修する。さらに、前回の授業の課題である法律関係の性質決定の事例への当てはめに関するディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、連結点の確定の問題を理解し、説明することができる。小テストの講評・解説により学修内容の整理と事例への応用方法を知ることができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、法律関係の性質決定の課題の討議を行い、より深い理解を得ることができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第8章の「連結点の確定」を読み、国際私法規則における各連結点の役割についてノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートで各規定で用いられている連結点について確認し、整理ノートに列記しておく。配布された連結点の確定の問題に関する課題に取り組む。小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで答え合わせをする。	130分
9	【準拠法の指定】		準拠法として指定された当事者の本国（国籍国）が地域的・人的に不統一法国である場合の処理について学修する。また、課題である連結点の確定に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地域的・人的に不統一な国の準拠法が指定された場合の処理について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、課題の連結点の確定について討議を行い、その確定方法のより深い理解を得、他に応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第9章の「準拠法の指定」を読み、準拠法の指定を巡りどのような問題が生じているかについて調べ、それをノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認し、準拠法の指定を巡る諸問題の解決方法について整理しノートに列記しておく。事例へ適用できるようにする。また、授業内で配布された準拠法の指定に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
10	【反致】		反致とは何か、またそれが準拠法決定においてどのような意味を有するかについて学修する。また、授業の課題である準拠法の指定に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、反致の根拠・種類について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、準拠法の指定に関する課題について討議を行い、反致の適用方法をより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第10章の「反致」を読み、反致のシステムについて調べ、ノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、反致の根拠・種類について整理しノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された反致に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	130分
11	【外国法の適用】		準拠法として外国法を適用・解釈することの意味、指定された外国の法規に欠缺や内容の不明があった場合の処理について学修する。また、授業の課題である反致に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、外国法を適用する際に発生する問題の解決方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された反致の問題について討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第11章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程において発生する問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、外国法の適用過程で生じる諸問題についてのノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国法の適用に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
12	【国際私法上の公序】		準拠法として指定された外国法の適用結果がわが国の公序に反する場合に発動される公序則について学修する。また、授業の課題である外国法の適用に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法上の公序の意味と発動方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された外国法の適用上の問題についての討議を行い、解決方法についてのより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第12章の「公序」を読み、国際私法上の公序の問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、国際私法上の公序に関する問題を整理しノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【先決問題と適用問題】		国際私法独自の問題である先決問題と適用問題について学修する。また、授業の課題である公序に関する問題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、先決問題と適用問題の解決方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【自然人】 【小テスト】		自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判の準拠法（国際裁判管轄権を含む）について学修する。授業の後半で、第7回～第13回までの講義内容の理解度をはかるための小テストを実施する。また、前回出された先決問題と適応問題に関する課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判に関する国際私法関連規定を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
15	【小テストの講評・解説】【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。さらに、前回出された自然人の権利能力に関する課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の総則規定全体について概説することにより、これまでに学修した知識を確認し、それらを説明することができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された自然人の権利能力に関する問題の討議を行い、権利能力についての深い理解を得、事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		160分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」は、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（準拠法）を選択する法律である国際私法を中心に学習する。「国際関係法〔私法系〕A」のⅡにおいては、国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）上の各論の規定について学修する。る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際的な私的生活関係の準拠法を選択する通則法上の規定の内容を理解し、実際の場面での適用の仕方を修得することを目的とする。より具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等に関する紛争が発生した場合、国際私法規定がどの様に準拠法を選択し、解決を図っているかについて学修し、それを様々なケースに応用できるようにする。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ」を学修していることを前提に講義が行われるため、その履修の経験者であること。単位の修得には至ってなくても良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的法律関係に適用される個々の規則を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	私法関係に関する日本と諸外国との法内容の基本的な相違について理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法の各論上の諸規定が實際上どのように解釈され・適用されるかを調べることができる。【技能】				3					3		
④	各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3					3		
⑤	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験により、到達目標①②に関わる国際私法の各論上の諸規定に関する知識が身についているか、及び到達目標③④⑤⑥に関わる、各論上の諸規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	20	20	10	10	10	10					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び当時への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けて課題に足し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評価尺度に照らして評価する。			5	5	5	5					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	15	15	15	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題については、授業内で講評と解説を行う。また、試験の解説については、後日ポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際私法判例百選[第3版]』（別冊ジュリスト）	道垣内正人・中西康	有斐閣	2021年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			2022年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【法人】	法人の権利能力の準拠法の決定について、及び外国会社のわが国における権利能力の享有に関する民法等の諸規定について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】		
	事前学修	教科書第15章の「法人」を読み、法人に関する国際私法上の諸規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法人に関する国際私法規定と外国会社の権利義務について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法人の権利能力に関する課題に取り組み、次の討議に備える。		120分
2	【法律行為】	法律行為に関する問題のうち、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法の決定について学修する。また、前回出された法人の権利能力の準拠法に関する課題のディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法人の権利能力の準拠法についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第16章の「法律行為」を読み、法律行為の実質と方式に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法律行為に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法律行為に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備を行う。		120分
3	【物権法】	物権の準拠法について学修する。また、前回出された法律行為に関するディスカッションと課題の解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法律行為の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第17章の「物権法」を読み、物権に関する国際私法規定を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備を行う。		120分
4	【契約（1）】	契約の準拠法につき、特に「当事者自治の原則」とその制限論について学修する。また、前回出された物権に関する課題のディスカッションと解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の準拠法に関する「当事者自治の原則」を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された物権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの1・2を読み、契約債権に関する「当事者自治の原則」を考察し、ノートに記述し授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、「当事者自治の原則」に関する議論について整理し、ノートの列記しておき、事例に適用できるようにする。		130分
5	【契約（2）】	当事者による準拠法選択がない場合の契約準拠法、及び消費者契約及び労働契約の準拠法について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約準拠法に関する当事者の選択がない場合の準拠法を決定する国際私法関連の規定、及び消費者契約と労働契約に関する規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】		
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの2・3を読み、契約債権に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法選択が無い場合の契約準拠法、消費者契約及び労働契約に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約債権に関する課題に取り組む。		120分
6	【法定債権】	不法行為を中心とした法定債権の準拠法について学修する。また、前回出された契約債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、不法行為を中心とする法定債権に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された契約債権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅱ・Ⅲを読み、法定債権に関する国際私法規定の大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、法定債権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法定債権に関する課題に取り組む。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【婚姻の成立】		婚姻の実質的・形式的成立要件（方式）の準拠法について学修する。また、前回出された法定債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の実質的・形式的成立要件に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された法定債権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを読み、婚姻の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の成立に関する課題に取り組む。		120分
8	【婚姻の効力】		婚姻の身分的効力・財産的効力（夫婦財産制）の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の成立に関するディスカッションと課題の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の身分的・財産的効力に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の成立の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅴ・Ⅵを読み、婚姻の効力に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の効力に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の効力に関する課題に取り組む。		120分
9	【離婚】		離婚の国際裁判管轄権、及び離婚の準拠法と婚約と内縁の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の効力に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、離婚の裁判管轄、及び離婚・婚約・内縁に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の効力の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅶ・Ⅷを読み、離婚の準拠法に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、離婚の裁判管轄と準拠法に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された離婚に関する課題に取り組む。		120分
10	【実親子関係】		実親子関係（嫡出親子関係と嫡出でない子の親子関係）の準拠法について学修する。また、準正の準拠法についても学修する。さらに、前回出された離婚に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された離婚の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを読み、実親子関係の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、実親子関係の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された実親子関係に関する課題に取り組む。		120分
11	【養親子関係】		養親子関係の実質的成立要件、離縁の準拠法について学修する。また、前回出された実親子関係に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、養親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された実親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅵ・Ⅶを読み、養親子関係に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、養親子に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された養親子関係に関する課題に取り組む。		120分
12	【親族関係・扶養義務・後見】		親族関係、扶養義務、後見・保佐の準拠法について学修する。また、前回出された養親子に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、親族関係、扶養義務、後見・補佐に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された養親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「親族関係」・第22章の「扶養義務」・23章の「後見・保佐」を読み、それぞれの国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、親族関係と扶養義務及び後見・保佐に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係、扶養義務及び後見・保佐に関する課題に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【相続・遺言】		相続、遺言の準拠法、及び「遺言の方式の準拠法に関する法律」の主要規定について学修する。また、前回出された親族関係、扶養義務、後見・保佐に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、相続、遺言に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された親族関係、扶養義務及び後見・補佐の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。		120分
14	【国際民事訴訟法】		国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の諸問題について学修する。また、前回出された相続と遺言に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された相続及び遺言に関する課題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。		120分
15	【質疑応答】		前回出された国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題のディスカッションと解説を行う。また、後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国際私法規定である通則法の規定全体について質疑応答、及び国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題の討議を行うことにより、これまでに学修した知識を確認し、それを事例に適切に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	教科書と講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕A」を学修済みであること前提に講義を行うため、同科目の履修を終えていること。「BⅠ」と「AⅠ」の同時履修も不可。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する（パワーポイントを使用することもある）。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、翌週の授業内で行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース事例の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】				3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】				3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法と関連条約に関する基礎的知識が身についているか、及び到達目標③に関わる適用規定を適切に発見し、それを実際のケースに適用・応用する力が身についているかを確認する。	20	20	30								70
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいた発表・討論を行うことで、到達目標④⑤に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。				15	15						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係私法入門（第4版補訂）	松岡博編	有斐閣	2021	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実務経験に基づく問題を紹介しながら、授業を行いたい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【国際私法・国際民事手続法・国際取引の関連性】		国際私法・国際民事手続法・国際取引法の大枠について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどのような役割を持つ法律であるかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書等で国際私法、国際民事手続法、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の役割についてノートに分類・整理する。		120分
2	【国際関係私法の学び方】		国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性、及びそれらに関連する条約や商慣習について学修する。また、それらの学び方についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、関連する条約や商慣習についてどのようなものがあるか調べることができる。		
	事前学修	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方及び相互関連性について、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
3	【法選択規則】		国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法、及び国際民事手続法と国際取引法との役割・構造上の相違について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法選択規則の役割及びその構造と規律方法について理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、法選択規則と国際民事手続法と国際取引法上の規定の役割と構造の相違について調べることができる。		
	事前学修	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法についてノートに整理・列記し、事例に適用できるようにする。		120分
4	【準拠法の決定】		準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について、実際のケース事例への適用を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について理解し、応用することができる。また、到達目標③に関連して、それらをケース事例へ当てはめて、解決へ導くことができる。		
	事前学修	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する法律関係の性質決定、不統一法国法の指定、反致に関する国際私法規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
5	【外国法の適用】		準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学修する。また、前回授業で出された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、性質決定・連結点・反致に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する、外国法の適用、公序、先決問題及び適応問題に対する国際私法の解決方法について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
6	【人・法人】		人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人・法人に関する準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人・法人に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【契約】 【小テスト】		契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された人・法人に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じたこれまでの授業内容の整理・理解し、事例へ当てはめることができる。更に、到達目標④⑤に関連し、人・法人に関する事例の討議を通じた法適用プロセスの確認とその様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分	
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	130分	
8	【小テストの講評・解説】 【不法行為・事務管理・不当利得】		前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された契約に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストの解説を通じて、第1回～第6回までの内容を整理・理解する。また、到達目標①②不法行為・事務管理・不当利得の準拠法の決定について理解し、説明することができる。更に、到達目標③④⑤に関連して、契約に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された不法行為に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせをする。	120分	
9	【債権債務関係】		債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学修する。また、前回授業で出された不法行為に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権債務関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、不法行為に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された債権債務関係に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分	
10	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】		物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学修する。また、前回授業で出された債権債務に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権・知的財産の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、債権債務に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第9章の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権・知的財産に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分	
11	【婚姻・離婚】		婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された物権・知的財産に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻・離婚の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、物権・知的財産に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分	
12	【親子】		親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された婚姻・離婚に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親子関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、婚姻・離婚に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親子関係に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【親族関係の諸問題】		親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された親子関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親族関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親子関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【相続・遺言】 【小テスト】		相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された親族関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続・遺言の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親族関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておく。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で 配布された相続・遺言に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		130分
15	【小テストの講評・解説】 【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、 前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、相続・遺言に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」の学修の終了者を対象に講義を行うため、同科目の履修を終えていること（単位の修得には至ってなくても良い）。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】					3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】					3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】					3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】					3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法入門～国際私法・国際民事手続法・国際取引法(第4版補訂)』	松岡 博 編	有斐閣	2021	教科書	必携
『六法』 (特に指定しないが、出来るだけ最新版)			最新版	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の前後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。	100分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。	120分
2	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	130分
3	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
4	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際家事事件(2)】		家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
8	【国際商事仲裁】		国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
9	【国際取引と法】		国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		120分
10	【国際物品売買(1)】		国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国際売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
11	【国際物品売買(2)】		国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
12	【国際運送及び国際保険】		国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	【国際支払】		国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	【事例問題】		国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	【質疑応答】		後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	150分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	150分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際上の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」及び「BⅠ」の学修の終了者を対象に講義を行うため、同科目の履修を終えていること。

【授業方法】		
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」、国際家事事件、外国判決の承認・執行及び国際仲裁に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】				3							
②	国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】				3							
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】				2							
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】				2							
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】									2		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係私法入門（第4版補訂）	松岡博編	有斐閣	2021	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容	日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実務経験に基づく問題を紹介しながら、授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】		後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。		120分
2	【国際裁判管轄の概論】		国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		130分
3	【国際裁判管轄の規定と訴訟競合】		国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。		
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		130分
4	【当事者・送達・証拠調べ】		国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
5	【外国判決の承認・執行】		外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
6	【国際家事事件(1)】		国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際家事事件(2)】 【小テスト】		家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。さらに、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分	
8	【国際商事仲裁】		前回の小テストの講評と解説を行う。国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分	
9	【国際取引と法】		国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分	
10	【国際物品売買とCISG】		国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べることができる。		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分	
11	【国際物品売買とインコタームズ】		国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分	
12	【国際運送及び国際保険】		国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【国際支払】		国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。		
	事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【事例問題】 【小テスト】		国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。さらに、授業の後半で、第1回～第13回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。		
	事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		120分
15	【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。		
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際上の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」の学修の終了者を対象に講義を行うため、同科目の履修を終えていること（単位の修得には至ってなくても良い）。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」及び外国判決の承認・執行に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	国際売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】				3					3		
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】				3					3		
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるすることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるすることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法（第4版補訂）』	松岡博編	有斐閣	2021年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			最新版	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。		120分
2	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】		
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		130分
3	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		130分
4	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
5	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてディスカッションと解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
6	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際家事事件(2)】		家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
8	【国際商事仲裁】		国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
9	【国際取引と法】		国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		120分
10	【国際物品売買(1)】		国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国際売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
11	【国際物品売買(2)】		国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
12	【国際運送及び国際保険】		国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	【国際支払】		国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	【事例問題】		国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	【質疑応答】		後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係論Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。						2						
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。						2						
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。								2				
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。							2					
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					2		2		2			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門1ー紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』(Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 （事前にアポイントメントを取る） メールアドレス：kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際関係論とは	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、国際関係論の学問的な位置づけなどを示しながら、国際政治学、国際関係史との違いや国際関係論を学ぶ意味について考える。ガイダンス期間ではあるが受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書「序 平和学とは何か」(p. 2-7)を読むことに加え、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』第1章1節2節から、国際関係論が扱うテーマをノートに書きだす。また、以下の書籍などに目を通す。石田雄『平和の政治学』(1968年、岩波書店)最初の30ページ程度。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば参考書を入手の上、全体の流れを把握しておく。教科書「序 平和学とは何か」を復習しノートにまとめる。	120分
2	国際関係論と平和学	国際社会を理解するための国際関係論の考え方を整理しながら、国際関係論の歴史や成り立ちを解説するとともに、国際関係論で使われる基本となる概念を理解し、国際関係論を理解するための知の後背地を形成する。さらにこの講義で特に焦点をあてる平和学的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係論の概要、学問としての歴史を説明できる。	
	事前学修	教科書「第1講 平和学と国際関係論」(p. 11-22)を読むことに加え、『国際政治学事典』(弘文堂)、『国際政治経済辞典』(東京書籍)で調べたり、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』の索引を利用しながら、ウェストファリア体制、アナーキー、国家主権などの主要な概念をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ウェストファリアシステム、国家主権、アクターの概念など、国際関係論で使われる基本となる概念についてノートにまとめたことと講義での説明を重ねながら復習する。	120分
3	国際社会のモデル化	無政府状態の国際社会をどのように理解したらよいのかについて、これまで、国際関係論で蓄積されてきた国際社会モデルを使いながら理解を深める。その上で、これまでのモデルでは説明しえない「新しい社会現象」が国際社会に起きていることも確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代国際関係の原型である主権国家体制の意味を説明できる。	
	事前学修	教科書「第2講 国際社会のモデル化」(p. 23-39)を読むことに加え、国際社会モデルについてまとめる。	120分
	事後学修	なぜ、モデル化が物事を考える上で思考を助けるのだろうか。国際社会をモデル化する意義について考え、ノートにまとめる。	120分
4	平和の概念整理	平和の多様性と平和概念の多義性、社会科学における平和の定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平和の概念を説明できる。到達目標④に関連して、平和の多義性に基づいて自分の言葉で平和を定義できる。	
	事前学修	教科書「第3講 平和の概念整理」(p. 41-60)を読むことに加え、自分自身で「平和」の定義をしてみる。そのうえで、以下の書籍などに目を通し平和とはなにかをノートにまとめる。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年)第1講。	120分
	事後学修	講義での知見と、自分の定義した「平和」の概念の違いは何かについてノートにまとめる。石田雄『平和の政治学』(岩波書店、1968年)を図書館で探して復習に使う。	120分
5	現代型平和学以前の平和学	初期の平和学がどのように紛争をとらえてきたのか、国際社会を研究するうえでどのような位置づけになったのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初期の平和学について説明できる。	
	事前学修	教科書「第4講 現代型平和学以前の平和学」(p. 63-70)を読むことに加え、以下の書籍などに目を通して、19世紀以前の平和の考え方と現代における平和の考え方の違いをノートにまとめる。カント『永遠平和のために』(岩波文庫、1985年)。	120分
	事後学修	講義で学んだ平和概念について自分の言葉でノートにまとめる。カントが伝えたかったことが今の国際機関のシステムにどのように生かされているのかを考える。	120分
6	紛争の科学的分析の登場	現代平和研究のさきがけとして、戦争の統計的分析の先駆者リチャードソン、ボールディングらを取り上げ、紛争を科学的に分析する方法論から現代的平和学が始まったことを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争を科学的に分析する手法を理解することができる。到達目標④に関連して、社会科学における数量的アプローチを使うことができる。	
	事前学修	教科書「第5講 紛争の科学的分析の登場」(p. 71-88)を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年)第2講。	120分
	事後学修	講義で学んだリチャードソン方程式やボールディングの相互作用モデルなどを復習する。その折、数学的な論理的思考が社会科学に必須なことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゲーム理論による発展 (中間テスト<暫定>)		「人間が創った環境のなかでの紛争」(アナトール・ラバポート)を取り上げ、ゲーム理論による紛争理解の方法論について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーム理論を説明することができる。到達目標④に関連して、ゲーム理論のアプローチを用いて身近な事象を考察できる。		
	事前学修	教科書「第6講 ゲーム理論による発展」(p. 89-97)を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年)第2講。また、第1回から第6回の復習をしておく。	120分	
	事後学修	講義で学んだラバポートの人類を減ばす4つの事象や囚人のジレンマなどを復習する。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。	120分	
8	平和ならざる状態(ピースレスネス)		新しい平和の概念として登場したダスグプタの「平和ならざる状態(peacelessness)」について解説し、平和学にどのようなパラダイムチェンジが起きたのかを議論する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、新しい平和の概念「平和ならざる状態」を説明できる。到達目標⑤に関連して、現代社会における平和ならざる状態とは何か、自分なりの考察をすることができる。		
	事前学修	教科書「第7講 平和ならざる状態(ピースレスネス)」(p. 99-112)を読むことに加え、平和学のパラダイムチェンジが起こった背景を考える。	120分	
	事後学修	現在の「平和ならざる状態」の具体的事例をあげて、その状態を導く原因と自分なりの解決の対応策を考え、ノートにまとめる。パラダイムチェンジが社会にもたらす変革の意味を一般化できるようにする。	120分	
9	構造的暴力と積極的平和		ガルトゥングは、平和の対概念は、必ずしも戦争ではなく、暴力であると考えている。この講では、暴力を分類することから始めて、「構造的暴力」とは何かを考える。そして、その構造的暴力を無くすための方法論として積極的平和のあり方を考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ガルトゥングの主張を説明できる。到達目標③に関連して、構造的暴力の原因について考察できる。		
	事前学修	教科書「第8講 構造的暴力と積極的平和」(p. 113-128)を読むことに加え、『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』11講を読み、国際社会のなかでの構造的暴力の具体的事例をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	今、自分たちが活きている現代社会の中で、構造的暴力であると考えられる事象に対して、その構造を考え、自分なりの構造変革の解決策をノートにまとめる。	120分	
10	平和学の制度化		平和構築の研究について、教育面、運動面から議論し、どのように制度化されたか、その流れを解説する。	
	この回の 到達目標	①②に関連して、平和研究の進展について説明できる。⑤に関連して、平和研究が平和構築にどのように機能するのか考察すること異ができる。		
	事前学修	教科書「第9講 平和学の制度化」(p. 129-142)を読むとともに、これまで、自分が受けてきた学校教育やコミュニティでの学びの中で、平和教育と考えられるものをノートにまとめてみる。	120分	
	事後学修	平和研究の成果が市民社会に影響を与えた事例をノートにまとめる。	120分	
11	紛争関連の資料の集め方・読み方		武力紛争の変遷を、統計データを使って分析しながら解説する。統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかななどを解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍備、武力紛争に関するデータ集め、分析することができる。		
	事前学修	教科書「第10講 紛争関連資料の集め方・読み方」(p. 145-162)を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ひとつグラフを取り出してその知見をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見から、「非両立性」についての理解をノートにまとめる。	120分	
12	核兵器と安全保障		現代型戦争の特徴、核兵器と平和などについて解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、現代型戦争の特徴について説明できる。また、到達目標③④⑤に関連して、核兵器と平和について考察することができる。		
	事前学修	教科書「第11講 核兵器と安全保障」(p. 163-173)を読むことに加え、文献やインターネットなどを用いて核兵器に対する様々な見解を調べ、自分の意見をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義の知見から、「恐怖の均衡」についての理解と、核兵器への科学者たちの取り組みについてをノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済関連指標と世界の現実	経済の指標である人口、生産、貿易の3つから平和をどのように考えるかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人口、生産、貿易に関する様々な統計資料を読むことができる。また、到達目標③④⑤に関連して、統計資料から世界で起きている状況を考察することができる。	
	事前学修	教科書「第12講 経済関連指標と世界の現実」(p.175-203)を読むことに加え、人口、生産、貿易が平和とどのように関連しているのか考え、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業で出てきた統計などから現在の国際社会における、人口、生産、貿易に関する問題、特に20世紀の意味とは何かを考えノートにまとめる。	120分
14	貧困者の声 期末テスト	貧困問題について、マクロの視点と逆にミクロの視点を使いながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貧困の問題について説明できる。到達目標⑤に関連して、貧困に関する様々な課題を平和構築の視点から考察できる。	
	事前学修	教科書「第13講 貧困者の声」(p.205-216)を読み、インターネットで、世界銀行『貧しい人々の声 (Voices of the Poor)』をダウンロードして読むとともに、内外の具体的な貧困の事例を探し、そこに存在する問題をノートにまとめる。	120分
	事後学修	貧困とは何なのかについて、講義の知見を使いながら、自分なりに定義を試み、ノートにまとめる。	120分
15	前期まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会をどのように理解するのかについて、レビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ平和構築理論や概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。	120分

科目名	国際関係論Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する(パスワードについてはポータルサイトを確認のこと)。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。					2						
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。					2						
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。							2				
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						2					
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				2		2		2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門2--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 （事前にアポイントメントを取る） メールアドレス：kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・前期国際関係論Ⅰのレビュー（前期第2回から前期第7回）		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。前期の国際関係論Ⅰの第2回から第7回までのレビューを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	教科書『平和学入門2』の「序 平和学入門2で何を学ぶのか」（p. 2-3）を読むことに加え、『平和学入門1』の第1講から第6講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度それらの個所を通読しておく。	120分	
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、アナーキー、主権国家、アクターなどの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分	
2	前期国際関係論Ⅰのレビュー（前期第8回から前期第14回）		国際関係論Ⅰの第8回から第14回までのレビューを行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	『平和学入門1』の第7講から第13講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度その個所を通読しておく。	120分	
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、囚人のジレンマ、平和ならざる状態、構造的暴力、恐怖の均衡などの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分	
3	戦争の中立的定義		戦争とは何かを中立的に定義する意味を考える。さまざまな定義があることを紹介しながら、「戦争」とはどういうことを指すのか議論する。国会での有権解釈についても検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の中立的定義を説明できる。到達目標③④に関連して、定義することの意味を説明できる。		
	事前学修	教科書「第1講 戦争の中立的定義」（p. 7-30）を読むことに加え、中立とは何か、一般的にどのような状態を指すのか考え、ノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	社会科学における定義と自然科学における定義の違いをノートにまとめ、なぜ戦争を一意に定義できないのか、その中で中立的定義ということがどのような意味を持つのか考える。	120分	
4	戦争の肯定的定義		クラウゼヴィッツの言説を使いながら戦争の肯定的定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の肯定的定義を説明できる。また、到達目標③に関連して、クラウゼヴィッツの戦争に対する思想を理解することができる。		
	事前学修	教科書「第2講 戦争の肯定的定義」（p. 31-42）を読むことに加え、クラウゼヴィッツの『戦争論』（岩波文庫など）、毛沢東の『毛沢東語録』（平凡社）などから戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	戦争が人類社会にとって不可避なもの、必要悪であるとはどういう意味か、自分の理解をノートにまとめる。	120分	
5	戦争の否定的定義		アナトール・ラパポートの定義を使いながら、戦争の否定的定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アナトール・ラパポートの戦争の定義を説明できる。		
	事前学修	教科書「第3講 戦争の否定的定義」（p. 43-55）を読む。余裕があれば、A. ラパポート 著、関寛治 編訳、『現代の戦争と平和の理論』（岩波書店、1969年）から戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	戦争は必要悪ではなく、意志的に起こされるもの、すなわち、避けるものとして定義する否定的定義について、自分の見解をノートにまとめる。	120分	
6	データから見る戦争		戦争の変遷を統計データを使って解説する。それらの統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかななどを指導する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、武力紛争に関するデータを集め、分析することができる。		
	事前学修	教科書「第4講 データから見る戦争」（p. 59-91）を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見をノートにまとめ、「非両立性」「アノクラシー」についての理解を深める。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	軍事支出と社会支出 (中間テスト<暫定>)		軍事費と人々の日々の生活に直結する公的な社会支出を比較しながら、本来、私たちが戦争をどのようにとらえなければいけないのかを考える。	
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍事費と社会的支出を比較することの意味を説明できる。		
	事前学修	教科書「第5講 軍事支出と社会支出」(p.93-113)を読み、軍事費と教育費の比較などから読み取れることをノートにまとめる。また、第1回から第6回の復習をしておく。		120分
	事後学修	ルース・シヴァードが『世界の軍事支出と社会支出』で世界に何を訴えたかったのかを考え、ノートにまとめる。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。		120分
8	戦争原因の文化人類学的説明など		なぜ人間が戦争を起こしてしまうのかの根源的な問いを文化人類学の知見を援用しながら戦争原因を究明する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜ人間が戦争を起こすのかという文化人類学的視点について説明することができる。		
	事前学修	教科書「第6講 戦争原因の文化人類学的説明など」(p.115-125)を読むことに加え、文化人類学についてインターネットなどで調べてノートにまとめる。		120分
	事後学修	文化人類学から見た戦争原因をノートにまとめる。		120分
9	戦争原因としての軍産官学労情民複合体 中間テスト		戦争原因について、軍産官学労情民複合体という経済的視点から解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍産官学労情民複合体という経済的視点について説明することができる。		
	事前学修	教科書「第7講 戦争原因としての軍産官学労情民複合体」(p.127-145)を読むことに加え、世界の軍事費に占める各国の割合変化や、特定の国家の軍事費の推移の特徴を、国際社会の出来事と連動させてノートにまとめる。		120分
	事後学修	軍事費の推移と「軍産官学複合体」の関係に関する講義の知見を、アメリカ大統領の所属政党の違いとともにノートにまとめる。		120分
10	科学技術の進展と戦争の変化		科学技術と戦争がどういう関係にあったかを説明する。20世紀が、人口増加、科学技術の発展に至るまで、いかに他の世紀とは違う異質な世紀であったかを解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②⑤に関連して、科学技術と戦争がどのような関係にあったのかを説明できる。		
	事前学修	教科書「第8講 科学技術の進展と戦争の変化」(p.147-173)を読むことに加え、20世紀の科学技術、21世紀の科学技術の特徴について、身の回りの技術を思い浮かべながらノートにまとめる。		120分
	事後学修	コピーとドублиケートの違いなど、科学技術の違いが戦争の本質を変えたことについての知見をノートにまとめる。		120分
11	勢力均衡政策		勢力均衡の考え方とその欠点について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、集団安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、集団安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。		
	事前学修	教科書「第9講 勢力均衡政策」(p.177-198)を読むことに加え、勢力均衡政策の歴史についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	勢力均衡政策の限界についての知見をノートにまとめる。特に、第10回講義に備えて、国連の集団安全保障の変遷について理解を深めておく。		120分
12	集団安全保障と協調的安全保障		国際社会の協調的安全保障システムへの進展について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関して、協調的安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、協調的安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。		
	事前学修	教科書「第10講 集団安全保障と協調的安全保障」(p.199-214)を読むことに加え、北大西洋条約機構のウェブページにアクセスし、NATOの安全保障から協調的安全保障への変遷についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	協調的安全保障のどこが優れているのかについて、NATOのシステムの変遷から考えてノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	核の均衡	核による均衡と核廃絶に対する国際社会の現実について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、国際社会に起きている紛争の状況について説明できる。到達目標③④⑤に関して国際社会の平和維持がどこまで可能なのかについて、その限界とともに考えることができる。	
	事前学修	教科書「第11講 核の均衡」(p. 215-228)を読むことに加え、ガリー元国連事務総長の『平和への課題』『開発への課題』をウェブで読み、そのメッセージの意味を考える。	120分
	事後学修	第11講に書かれていることをまとめたうえで、現在の社会の現実を見て、核に対する自分の立場を記述してみる。	120分
14	第1回から第13回のレビュー 期末テスト	これまでに学んだことを通して、国際関係論のみならず社会科学で応用可能な比較と分類の方法論について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関して、国際関係論ⅠとⅡで提示されてきた「一般化」「抽象化」がどのような方法論に基づくものであったかを理解することができる。	
	事前学修	第13回の講義まででわからなかったことや理解の浅い部分をピックアップしておく。	120分
	事後学修	講義を参考に、国際社会を見る上で、これまで自分が使っていなかった方法論が、社会で生活していく中でどのように応用可能かをノートにまとめる。	120分
15	まとめと講評	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会における紛争をどのように理解すればよいのかについてレビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、後期で学んだ戦争についての知見を体系的に説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄を教科書とノートを見ながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、後期で学んだ紛争概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。	120分

科目名	国際金融論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
国際金融論Ⅰでは国際金融について学ぶ土台となる、金融論の基礎から講義を進めていきます。国際金融や国内金融に関わる法律を学ぶ人にとっても、金融の全体像を掴むことに加え、金融取引の目的と仕組みを理解しておく必要があります。この講義では、最近の国際金融の動向や諸問題を理解する上で、知っておくとよいと考えられる、金融の理論や金融制度、金融政策についての知識に加え、金融を理解する上で有用な、経済学のさまざまな概念についても紹介していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際金融論では、国の枠を越えた金融取引や、各国の金融制度や金融政策を扱います。 この授業では、金融の全体像を掴むために、金融の理論や金融制度、金融政策を理解し、説明できる能力を養成することを目的とします。その上で、理解した事柄を、外国のケースと比較・応用できるようにすることを、目標とします。

【履修条件】
経済学Ⅰ，Ⅱの受講を終えていると、この授業で学ぶ内容を理解しやすくなります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。					3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。						3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融論 第3版	家森信善	中央経済社	2022	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室 事前にアポイントメントをとること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際金融論Ⅰを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論Ⅰの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して第1章を読む。	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	貨幣	貨幣の役割、貨幣の定義、新しい貨幣	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における貨幣の役割を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第2章1節、2節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	金利(1)	金利の重要概念、金利と債券価格の関係	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利についての基本知識を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第3章1節、2節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	金利(2)	金利の決定要因、金利の期間構造	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における金利の役割を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第3章3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	中央銀行	中央銀行の機能	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、中央銀行の機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	外国の中央銀行	連邦準備制度(アメリカ)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、中央銀行の機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	金融政策(1)		金融政策全般
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行が実施する金融政策について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第2章4節、第4章2節、第5章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	中間試験 振り返り		中間試験とその解説
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握していて、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	金融政策(2)		金融政策の手段
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融政策の手段について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第6章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	金融システム		金融システムの機能、金融仲介機関の役割
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムについて基本的な説明をすることができる。	
	事前学修	教科書(第3章6節、第7章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	金融機関		銀行、証券会社
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムにおける金融機関の役割を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第7章3節、4節、第8章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	ブルーデンス政策		金融システム安定化のための政策 ブルーデンス政策の政策手段
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ブルーデンス政策についての基本的な説明ができる。また政策手段を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融機関破綻への対応	金融機関破綻への対応	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融機関破綻への対応手段を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第10章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	金融市場規制	金融市場の健全な発展を図るための政策的取り組み	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融市場規制の目的を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第11章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際金融論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
国際金融論Ⅱでは国際金融取引、国際金融市場と国際金融制度について学びます。国際金融に関わる法律を学ぶ人にとっても、まずは金融の全体像を掴むことに加え、金融取引の目的と仕組みを理解しておく必要があります。講義では、最近の国際金融の動向や諸問題を理解する上で、知っておくとよいと考えられる、金融取引の仕組み、為替制度や通貨・金融危機、国際金融分野での国際協調の取り組みについての知識に加え、国際金融を理解する上で有用な、経済学の概念についても紹介していきます。具体的には、外国為替に関わる取引や企業の国際財務活動、各種外国為替制度などを説明します。また統計を参照しながら国際金融取引の現状を見ていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際金融論Ⅱでは、国の枠を越えた金融取引、国際金融制度や金融・為替政策を扱い、国際金融の全体像を掴むことを目的とします。そのために、国際金融の理論や国際金融取引を理解し、説明できる能力を養成することを目標とします。

【履修条件】
経済学Ⅰ、Ⅱ、国際経済論Ⅱ、国際金融論Ⅰの受講を終えていると、授業内容の理解が容易になります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説も行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。						3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。						3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。							3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。									3			3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 現代の国際金融を学ぶ	中條誠一	勁草書房	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室 事前にアポイントメントをとること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際金融論Ⅱを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論Ⅱの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	外国為替	外国為替とは	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、遠隔地の決済システムである為替について説明できる。外国為替と内国為替の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	ユーロカレンシー市場	ユーロカレンシーとは、発行国外で取引される通貨のことである。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ユーロカレンシー市場が伝統的市場に比べて金融コストの低い市場となる理由を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	直物取引と通貨先渡取引	外貨建てでの資金調達には、予測不可能な為替レートの変動によって、高額なコストが発生する可能性がある。資金調達はあらかじめ決められた為替レートで必要な外貨を調達する為替予約(通貨先渡取引)を行うことで、このような可能性に備えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、為替リスクを回避(ヘッジ)する仕組みである、通貨先渡取引(為替予約)を説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	通貨派生取引(1)通貨先物取引	ヘッジとは、取引で発生するリスクを回避するために、相反する取引を行うことをいう。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨先渡取引との違いを含めて、通貨先物取引について説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	通貨派生取引(2)通貨オプション取引	為替リスクをヘッジする方法の1つとして、外国為替市場を利用する通貨オプション取引がある。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨オプション取引の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	企業の国際財務活動(1)為替リスクの管理	為替リスクとは一般に、為替レートの変動によって経済主体が被る損失、または期待した利益を失うというマイナスの影響を指す。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の為替リスクの管理方法について説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	中間試験 振り返り	中間試験の実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	企業の国際財務活動(2)	外貨資金の調達と運用	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業による外貨資金の調達・運用方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第7章1節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	国際収支表(金融収支)	国際収支表の読み方について説明する。	
	この回の到達目標	国際収支表の数字が読めるようになる。	
	事前学修	教科書(第1章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	世界金融危機	証券化 クレジット・デフォルト・スワップ取引	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、証券化とクレジット・デフォルト・スワップ取引の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	アジア通貨危機	様々な外国為替相場制度	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、様々な外国為替相場制度について説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章2節、第4章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際協力(1)		国際通貨基金(IMF)
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際通貨基金の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	国際協力(2)		国際決済システム
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際決済システムについて説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認		理解度の確認
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経営論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案する計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経営の独自問題を説明できる					2	2	2					
②	多国籍企業の歴史について説明できる					2	2	2					
③	内部化理論について説明できる						2	2					
④	グローバル組織について説明できる						2	2					
⑤	マルティドメスティック組織について説明できる						2	2					
⑥	トランスナショナル組織について説明ができる						2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業成立のメカニズムを説明できる						2	2					
⑧	他者へ国際経営組織の特徴を説明できる							2					
⑨	他者の国際経営組織が内在する課題を批判的に検討できる							2					
⑩	優れた多国籍企業の組織モデルについて説明できる						2	2					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等	3,000字程度のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ・ディスカッション，ケーススタディ，個人演習などが含まれる。	5	5	5	5	5	5		5	5		40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	15	10	10	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経営	大木清弘	新世社	2018	参考書	任意
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田	文眞堂	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	国際経営の独自問題	そもそも国境を越える経営である国際経営には国内経営とは異なる独自の経営問題が内在している。これら問題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、国際経営の独自問題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。有名な多国籍企業の動向を新聞記事等で調べておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	多国籍企業の歴史	多国籍企業の歴史と定義について理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の歴史と定義について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	多国籍企業の成立①	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（優位性概念）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	多国籍企業の成立②	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（内部化理論）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	多国籍企業の成立③	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（OLIパラダイム）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	アクティブ・ラーニング①		企業のケースを使って、多国籍企業の成立プロセスを分析する	
	この回の到達目標	①，②，③，⑦，⑧，⑨の関連において多国籍企業の成立プロセスを分析し，報告する		
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分
8	グローバル経営組織①		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において，多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
9	グローバル経営組織②		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において，多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
10	グローバル経営組織③		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において，多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
11	グローバル経営組織④		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において，多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備（レポート提出日）		180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		60分
12	アクティブ・ラーニング②		レポートを相互に分析する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨の関連において，他者のレポートを分析し、アドバイスをを行う		
	事前学修	自身のレポートの整理		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング③（個人演習1）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング④（個人演習2）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
	事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経営論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また受講生各自が特定多国籍企業の国際経営の実践についてレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員がディスカッションに参加する演習形式で実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多国籍企業におけるグローバル生産管理しくみを説明できる				2	2	2					
②	多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみを説明できる				2	2	2					
③	多国籍企業における国際人的資源管理のしくみを説明できる				2	2	2					
④	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割を説明できる				2	2	2					
⑤	多国籍企業におけるグローバル・リーダーシップの機能を説明できる				2	2	2					
⑥	未来の多国籍企業の課題について説明ができる				2	2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業の経営機能を説明できる				2	2	2					
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等	3,000字程度のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	15	20				60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ・ディスカッション、ケーススタディ、個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5	10				40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	20	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経営	大木清弘	新世社	2018	参考書	任意
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田著	文眞堂	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	グローバル生産管理①	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	グローバル生産管理②	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	グローバル・イノベーション・マネジメント①	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
	この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	グローバル・イノベーション・マネジメント②	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
	この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	グローバル・イノベーション・マネジメントのための独自のしくみを考案する	
	この回の到達目標	②と⑦の関連において、グローバル・イノベーション・マネジメントの課題を説明し、解決策を考案できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際人的資源管理①	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
8	国際人的資源管理②	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
9	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）	多国籍企業の国際人的資源管理における新しい機能を考案する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
10	多国籍企業における組織文化と経営理念①	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
11	多国籍企業における組織文化と経営理念②	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備（レポート提出日）	180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
12	グローバル・リーダーシップ	グローバル・リーダーシップの機能と効果について理解する	
	この回の到達目標	⑤の関連において、グローバル・リーダーシップの機能と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング③（個人演習1）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング④（個人演習2）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する。	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
	事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経済法Ⅰ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
現在のグローバル経済を支える大きな仕組みの一つである「WTO体制」を講義の対象とし、GATTの前身である「ITO」、「GATT体制」、「WTO体制」の仕組みを理解し、それぞれの時代背景、交渉経緯、特色等を学修する。さらに、ITOの頓挫、GATTの制定経緯、そして現在のWTO体制の成立から、「WTO体制」基本原則や紛争処理手続きを学修し、具体的事例に紛争処理手続きについて自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自由貿易体制」の意義を理解するための必要な国際経済法の基礎理論および「WTO体制」の基礎知識の修得を目的とする。 国際貿易紛争を「WTO体制」の枠組みにおいてどのように紛争解決を図っているのかを受講生が自らの言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
(重要) 就職活動（インターンシップを含む）は、4年生のみ配慮する。経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。 小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。						2					
②	経済紛争における国際経済法上の問題点を正確に抽出できる。				2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。						2					
④	他者の意見を正確に理解できる。					2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる。				2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。				2	2	2			2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストまたはふり返り質問を10回（9点×10回＝90点）行う。	25	15	5	5							50
レポート等												
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加（10点）。	10	10	10	5	5	10					50
授業への参画度	評価しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	15	10	5	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『2021年版不公正貿易報告書』	経済産業省通商政策局編	経済産業業HP	令和3年		
備考	上記報告書は、 https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2021/honbun.html にUPされている。				

【オフィスアワー】
事前に口頭かメールでご連絡ください。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・導入講義		授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について学修する。 国際経済法Ⅰを学修する意義を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、受講に必要な資料の収集方法、予習の仕方等を理解し実施できる。 国際経済法Ⅰを学修する意義を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	1 シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、目次を確認し講義全体を概観する。 2 テキストXⅤ～XⅦ頁の「略語・頭文字」を確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。	120分
2	WTOの概要と関税制度		WTO体制成立経緯 WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」の概要を学修する。 関税制度の概要について簡単に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、WTO体制成立の経緯とその背景を自分の言葉で説明できる。 WTO協定の概要について簡単に説明できる。	
	事前学修	1 指定されたテキストを印刷し、155～180頁を読み「WTO協定の概要」を確認する。 2 テキスト443～466頁WTOの紛争解決手続きを読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。	120分
3	最恵国待遇原則		最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、WTOにおける最恵国待遇規定について具体例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト181-192頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
4	内国民待遇原則		内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を学修する
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、内国民待遇原則につて具体的な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト193-200頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
5	数量制限禁止原則		数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、何故数量制限が禁止されているのか自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト201-222頁を読んで、「数量制限」制限規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「数量制限」規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
6	正当化事由		正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、紛争事例において正当化事由がどのように主張され、どのような場合に認められるか主要な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト223-254頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関税制度	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、譲許表を用いて関税の計算ができる。	
	事前学修	指定されたテキスト255-268頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
8	アンチダンピング	ダンピング規制・アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、ダンピング規制及びアンチダンピング措置の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト269-294頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
9	補助金	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、補助金のWTO上の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト295-314頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
10	セーフガード	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、セーフガードが認められたケースを用いてどのような場合に認められるか説明できる。	
	事前学修	指定テキスト315-332頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
11	貿易投資関連措置	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、貿易関連投資措置の概要について自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト333-344頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
12	原産地規則	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、原産地規則についてその問題点を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト345-350頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	基準・認証制度		基準・認証制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、基準・認証制度が国際貿易に及ぼす影響について具体的事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト351-376頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
14	サービス貿易		サービス貿易 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、サービス貿易をWTOで取り扱う意義について自分の言葉で説明できる	
	事前学修	指定テキスト377-406頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
15	WTO体制の展望		これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、ここまでの講義を通じて学修した知識をふまえWTO体制の意義について自分の見解を整理し発表できる。	
	事前学修	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
	事後学修	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。	120分

科目名	国際経済法Ⅱ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
国際経済法Ⅱでは、「自由貿易体制」維持の観点から、世界の主要な競争法について制度趣旨・基礎概念・特徴を理解し、特に世界の競争方法をリードするアメリカ競争法（以下、アメリカ反トラスト法という）を中心にEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争の法の基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ、EU、アジア（日本、韓国、中国）における競争法の基礎理論の修得を目的とし、競争法の背後にある経済理論の展開についても留意しながら、各国競争法について学修する。そして、今後の世界の競争法の展開について自分の見解をもち、自分の言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
（重要）就職活動（インターンシップを含む）は、4年生のみ配慮する。経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。								2					
②	経済紛争における国際経済法の問題点を正確に抽出できる。						2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。								2					
④	他者の意見を正確に理解することができる。							2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる						2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。						2	2	2			2		
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストまたはふり返り質問を10回（9点×10回＝90点）行う。	25	15	5	5							50
レポート等												
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加（10点）。	10	10	10	5	5	10					50
授業への参画度	評価しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	15	10	5	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『2021年版不正貿易報告書』	経済産業省通商政策局編	経済産業業HP	令和3年		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
事前に口頭かメールでご連絡ください。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について学修する。 国際経済法Ⅰを学修する意義を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、受講に必要な資料の収集方法、予習の仕方等を理解し実施できる。 国際経済法Ⅰを学修する意義を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	1 シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、目次を確認し講義全体を概観する。 2 テキストXⅤ～XⅦ頁の「略語・頭文字」を確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。	120分
2	WTOの概要と関税制度	WTO体制成立経緯 WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」の概要を学修する。 関税制度の概要について簡単に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、WTO体制成立の経緯とその背景を自分の言葉で説明できる。 WTO協定の概要について簡単に説明できる。	
	事前学修	1 指定されたテキストを印刷し、155～180頁を読み「WTO協定の概要」を確認する。 2 テキスト443～466頁WTOの紛争解決手続きを読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。	120分
3	最恵国待遇原則	最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、WTOにおける最恵国待遇規定について具体例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト181-192頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
4	内国民待遇原則	内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、内国民待遇原則につて具体的な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト193-200頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
5	数量制限禁止原則	数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、何故数量制限が禁止されているのか自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト201-222頁を読んで、「数量制限」制限規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「数量制限」規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
6	正当化事由	正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、紛争事例において正当化事由がどのように主張され、どのような場合に認められるか主要な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト223-254頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関税制度	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、譲許表を用いて関税の計算ができる。	
	事前学修	指定されたテキスト255-268頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
8	アンチダンピング	ダンピング規制・アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、ダンピング規制及びアンチダンピング措置の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト269-294頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
9	補助金	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、補助金のWTO上の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト295-314頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
10	セーフガード	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、セーフガードが認められたケースを用いてどのような場合に認められるか説明できる。	
	事前学修	指定テキスト315-332頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
11	貿易投資関連措置	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、貿易関連投資措置の概要について自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト333-344頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
12	原産地規則	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、原産地規則についてその問題点を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト345-350頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	基準・認証制度		基準・認証制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、基準・認証制度が国際貿易に及ぼす影響について具体的事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト351-376頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
14	サービス貿易		サービス貿易 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、サービス貿易をWTOで取り扱う意義について自分の言葉で説明できる	
	事前学修	指定テキスト377-406頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
15	WTO体制の展望		これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、ここまでの講義を通じて学修した知識をふまえWTO体制の意義について自分の見解を整理し発表できる。	
	事前学修	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
	事後学修	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。	120分

科目名	国際経済論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
国際経済論Ⅰでは国際経済取引、なかでも財貨(商品)の貿易を中心に学びます。経済学の分野では、国際経済学のなかの国際ミクロ経済学(貿易論)に対応します。なぜ貿易を行うのか。財貨の生産・交換を行うことで生まれる利得から、貿易を説明します。では貿易はすべての人に利得をもたらすのか。これは国際政治や国内政治を見ていく上で、欠かすことのできない視点となります。国際経済取引に関する法律を学ぶ人にとって、商品取引を中心とした国際経済の概観を掴む助けになると考えます。授業では最初に、経済学でいう余剰の概念を用いて、貿易政策(関税)を説明します。次に3つの貿易モデルを順に紹介し、貿易からの利得を見ていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際経済取引、なかでも財貨(商品)の貿易を、現状を抽象的に捉えた貿易モデルに基づき、概観できる能力を養成することを目的とする。財貨の貿易から得られる利得、そして損失を、貿易モデル(交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー=オリーン・モデル)を用いて、考えることができるようになることを目標とする。また貿易に関連した統計を自分で調べられること、そして貿易に関する国際機関の働きについて知ること、国際経済取引を概観できることも目標となる。

【履修条件】
経済学Ⅰの受講を終えていることが望ましい。または、経済学の基本的な概念を知っていることが望ましい。

【授業方法】		
講義形式で行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2						2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2					2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2				2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2			2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室 事前にアポイントメントをとること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際経済論Ⅰを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論Ⅰの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、第Ⅰ部の各章冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	世界の通商システムと日本(1)	世界と日本の貿易とGDPを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、世界と日本の貿易とGDPを説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	世界の通商システムと日本(2)	世界貿易機関(WTO)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、世界貿易機関(WTO)について説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	貿易政策(1)	需要曲線と消費者余剰、供給曲線と生産者余剰	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、消費者余剰と生産者余剰の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	貿易政策(2)	貿易の自由化と貿易利益 自由貿易を行うことが国全体のメリットになる理由を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章3節、4節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	自給自足経済	自給自足経済の均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易が行われる前の経済状態を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	交換モデル		自由貿易均衡
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、交換モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	リカード・モデル(1)		絶対優位と比較優位 リカードの比較優位説(リカード・モデル)では、国家間の労働生産性の違いから貿易を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、絶対優位と比較優位の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
9	リカード・モデル(2)		相対価格と貿易パターン 国家間の労働生産性の違いと相対価格から、貿易パターンを説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易パターンを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	リカード・モデル(3)		貿易利益
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章6節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	ヘクシャー=オリーン・モデル(1)		資本・労働比率、生産要素の集約性、生産可能性フロンティア ヘクシャー=オリーン・モデルでは、それぞれの国で入手できる生産要素の割合と、特定の品を生産するのに必要な生産要素の割合との関連性から貿易を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルとの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	ヘクシャー=オリーン・モデル(2)		リブチンスキー定理
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リブチンスキー定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘクシャー=オリーン・モデル(3)	ヘクシャー=オリーン定理	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘクシャー=オリーン定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	ヘクシャー=オリーン・モデル(4)	ヘクシャー=オリーン定理	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ストルパー=サミュエルソン定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経済論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】								
国際経済論Ⅱでは国際経済取引、なかでも金融取引を中心に学びます。経済学の分野では、国際経済学のなかの国際マクロ経済学に対応します。政治を学ぶ人にとって、国際的な協調と対立について考える契機になるでしょう。また国際経済取引に関する法律を学ぶ人にとって、国際経済を概観できるようになっておくことで、その学びが深くなると考えます。 具体的には、外国為替相場や国内総生産、一国規模で見る輸出・輸入から、経済を見ていきます。また公表されている統計を用いて、国際経済取引を概観します。外国為替相場と輸出入との関係、外国為替相場の決まり方の理論の他、経済政策の効果について考察するマクロ経済モデルを紹介します。								

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)								
国際経済取引の中でも、金融取引を中心に、国際経済の捉え方を知り、国際経済を概観できるようになることを目的とします。 開放経済(海外との取引を行う経済)の状態を表す諸変数によって経済を概観できる能力、またそれら諸変数の相互関係について理解し、説明出来る能力を養成することを目標とします。 さらには、経済政策について、経済モデルを用いて抽象的に、その目的を、限界も含めて考えられるようになることを目標とします。								

【履修条件】								
経済学Ⅰ、Ⅱの受講を終えていることが望ましい。								

【授業方法】								
講義形式で授業を行います。また授業中に小テストを実施します。小テストの解説も行います。								

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2	2					2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2					2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2				2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2			2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室 事前にアポイントメントをとること yokomizo.erika NUメール

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際経済論Ⅱを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論Ⅱの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、第Ⅱ部の各章冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国内総生産	国内総生産と対外取引	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国内総生産と国民総所得との違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	国際収支	開放経済と国際収支	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支統計の数字を説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	外国為替相場 変動相場制度	外国為替市場と外国為替相場 為替相場制度と外国為替相場	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国為替取引についての基本的な説明ができる。 到達目標②に関連して、金本位制、金ドル本位制、変動相場制といった為替相場制度について説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章1節、2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	貿易と外国為替相場	外国為替相場の変化と貿易収支	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国為替相場と貿易収支との関係を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	外国為替相場の決定理論(1)	短期における外国為替相場の決定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利平価説を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章5節、第13章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	外国為替相場の決定理論(2)	長期における外国為替相場の決定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、購買力平価説を説明できる。	
	事前学修	教科書(第13章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	開放経済モデル	閉鎖経済モデルと開放経済モデル	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
9	45度線図モデル	45度線図モデルの復習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線図モデルを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	外国貿易乗数	開放経済モデルを使って、需要の変化の影響を見る。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	IS-LMモデル	IS-LMモデルを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS-LMモデルのエッセンスを把握し、説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	マンデル=フレミング・モデル(1)	IS曲線とLM曲線	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS曲線とLM曲線の導出について説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マンデル=フレミング・モデル(2)	国際収支均衡線	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支均衡線の導出について説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	金融・財政政策の効果	金融政策と財政政策の効果	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マンデル=フレミング・モデルを使って、金融・財政政策の効果を説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際契約法Ⅰ	担当者	内田 瑞穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国際ビジネスに不可欠な基本的な法の枠組み、コンプライアンス問題等について理解し、実例を踏まえて適切な契約形態とその交渉方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際ビジネス法の概念を理解し、法的問題点を把握した上で、法的解決方法を自ら導き出し提案し、契約実務を修得する。

【履修条件】
国際ビジネス法務実務への関心と、英文契約書を読める基礎的英語力を必要とする。

【授業方法】
テキストをベースに講師が説明をした後、論点についての質疑応答、グループディスカッション、事例をベースとしたロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前課題についての各自の意見発表、論点についての質疑応答、グループディスカッション、事例をベースとしたロールプレイを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際ビジネス法の概要を理解し、取引に応じた必要な法的枠組みを説明することができる。					2	2				2		
②	国際ビジネス取引に応じた必要な契約形式を特定し、その特性を説明することができる。					2	2				2		
③	国際ビジネス取引に応じた契約形式に、取引内容を落とし込むことができる。					2	2				2		
④	国際ビジネス契約内容を、当事者の立場になり、必要な交渉をすることができる。					2	2				2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる国際 ビジネス取引に適用される契約構造の知識が身につについてい るか確認する。	10	10	25								45
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関し、事例研究をベースとした法的論点、契 約交渉ポイントを論理的に発表し、ロールプレイにより交 渉実演をすることより習得スキルを確認する。				25							25
授業への参画度	事前・事後学修に関する授業中での意見表明をどれだけ活 発にしたかを基準に、到達目標①②に関わる学修度を評価 する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーションに関しては授業内でのフィードバックを行う。小テストは授業内解説と次回までに採 点し返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代国際ビジネス法 第2版	浜辺陽一郎	日本加除出版株式会 社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に口頭・書面にて質問を受け付ける。授業後にメールや予約制で対面対応も可能。 uchida.mizuho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米系企業内法務経験20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国系ファッションブランド企業の法務部長として、国際ビジネスにおける紛争処理、国内及び クロスボーダーの契約交渉、コンプライアンス事案対応経験から、より実務に必要なスキルに フォーカスした授業を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際ビジネス法とは（概要）】	本授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法を説明した上で、書籍・文献紹介と、本授業での修得目標説明をする。 国際ビジネス法とはどういうものか、総論の知識を学修する。	
	この回の到達目標	受講生が本授業全体のロードマップを理解し、各自の期待値や目標を設定した上で各自計画することができる。 到達目標①に関連し、国際ビジネス法の全体像を総論として理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書P2ー16を読み疑問点をクリアにし、全体像の概要理解を深める。また、他にどのような場面でビジネス法が必要となるか、具体的な事例を調べる。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、概要説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
2	国際ビジネスを規律する法的枠組み①	国際ビジネスにおけるルール適用方法（抵触法、通則法、準拠法）について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネス法の全体像の総論として適用法について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P17ー32を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
3	国際ビジネスを規律する法的枠組み②	国際ビジネスにおけるルール適用方法（外国法準拠と、域外適用）について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネス法の全体像の総論としての準拠法、域外適用について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P32ー50を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
4	国際ビジネスの主体①	国際ビジネスの主体としての外国人の地位、国家・団体、会社、パートナーシップについて	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネス法の主体としての外国人の地位、国家・団体、会社、パートナーシップについて理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P51ー65を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
5	国際ビジネスの主体②	国際ビジネスの主体として外国法人、代理人、国際弁護士、外国弁護士について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネス法の主体として外国法人、代理人、国際弁護士、外国弁護士について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P65ー75を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
6	国際取引紛争解決方法①	国際取引における様々な紛争解決手段（国際商事仲裁、外国仲裁承認）についてを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際取引紛争解決のうち、国際商事仲裁、外国仲裁承認、国際裁判、外国の民事判決承認・執行を学修し、適用方法を理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P76ー119を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国際取引紛争解決方法② ロールプレイ		国際取引における様々な紛争解決手段を用いてケーススタディをロールプレイ方式において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際取引紛争解決の種類のうち、国際裁判、外国の民事判決承認・執行を学修し、適用方法を理解し説明することができる。		
	事前学修	授業中に出される課題ケースについて調べて、各自が与えられたルールとしての意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
8	国際ビジネスをめぐる国家の役割		国際ビジネスの中での国家の役割として、投資協定、WTOでの紛争解決について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネスの中での国家の役割として、投資協定、WTOでの紛争解決について理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書P120－127を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
9	小テスト① 国際ビジネスの発展		総論を理解し小テストを行い、その後採点・解説をする。 国際ビジネスの発展、展開方式を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際ビジネスのを地域をまたぎどのように発展、展開方式していくかを理解し説明することができる。		
	事前学修	ここまでの総論を理解しテストに備える。 教科書P130－136を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
10	国際売買契約①		国際売買の中でも、物品売買、CISG、インコターム、UCCについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際売買の中でも、物品売買、CISG、インコターム、UCCについて理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書P137－152を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
11	国際売買契約②		国際売買の中でも、信用状、物品運送、エスクロー、保険、基本契約と個別契約の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際売買の中でも、信用状、物品運送、エスクロー、保険、基本契約と個別契約の関係について理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書P152－170を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
12	国際売買契約③		売買契約の総括を復習し、売買契約における小テスト（演習）を行い、その後採点・解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、国際売買契約の基本構成を理解し説明できる。また、取引の条件に応じて契約条項を適用することができる。		
	事前学修	売買契約書ひな形についての事前課題を読み、各条項について理解を深める。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際的な継続取引①		継続取引の契約形式を学修する（販売店契約、代理店契約、フランチャイズ契約、ライセンス契約）
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際的な継続取引の中でも、販売店契約、代理店契約、フランチャイズ契約、ライセンス契約について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P171～189を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
14	国際的な継続取引②		継続取引の契約形式を学修する（OEM契約、業務提携契約、JV、役務提供契約、電子取引契約）
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、国際的な継続取引の中でも、OEM契約、業務提携契約、JV、役務提供契約、電子取引契約について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P190～203を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
15	国際的な継続取引③ 小テスト②		国際継続契約の総括を復習し、継続契約に関する小テスト（演習）を行い、その後採点・解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、国際継続契約の基本構成を理解し説明できる。また、取引の条件に応じて契約条項を適用することができる。	
	事前学修	継続契約書ひな形についての事前課題を読み、各条項について理解を深めテストに備える。授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、適用法について説明が口頭でできるように理解を深める。	90分

科目名	国際契約法Ⅱ	担当者	内田 瑞穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国際ビジネスに不可欠な基本的な法の枠組み、コンプライアンス問題等について理解し、実例を踏まえて適切な契約形態とその交渉方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際ビジネス法の概念を理解し、法的問題点を把握した上で、法的解決方法を自ら導き出し提案し、契約実務を修得する。

【履修条件】
国際ビジネス法務実務への関心と、英文契約書を読める基礎的英語力を必要とする。

【授業方法】
テキストをベースに講師が説明をした後、論点についての質疑応答、グループディスカッション、事例をベースとしたロールプレイを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前課題についての各自の意見発表、論点についての質疑応答、グループディスカッション、事例をベースとしたロールプレイを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際ビジネス法の概要を理解し、取引に応じた必要な法的枠組みを説明することができる。				2	2				2		
②	国際ビジネス取引に応じた必要な契約形式を特定し、その特性を説明することができる。				2	2				2		
③	国際ビジネス取引に応じた契約形式に、取引内容に必要な条項を適用させることができる。				2	2				2		
④	国際ビジネス契約内容を、当事者の立場になり、必要且つ有利な交渉をすることができる。				2	2				2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる国際 ビジネス取引に適用される契約構造の知識が身につについてい るか確認する。	10	10	25								45
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関し、実例研究をベースとした法的論点、契 約交渉ポイントを論理的に発表し、ロールプレイにより交 渉実演をすることより習得スキルを確認する。				25							25
授業への参画度	事前・事後学修に関する授業中での意見表明をどれだけ活 発にしたかを基準に、到達目標①②に関わる学修度を評価 する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーションに関しては授業内でのフィードバックを行う。小テストは授業内解説と次回までに採 点し返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代 国際ビジネス法第2版	浜辺 陽一郎	日本加除出版株式会 社	2021	教科書	必携
決定版 英文契約書	山本 孝夫	日本能率協会マネジ メントセンター	2022	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業中に口頭・書面にて質問を受け付ける。授業後にメールもしくは予約制で対面対応も可能。 uchida.mizuho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米系企業内法務経験20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国系企業内法務部長として、国際ビジネスにおける紛争処理、複数の契約交渉、コンプライア ンス事案対応経験から、より実務に必要なスキルにフォーカスした授業を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際取引の一般的な契約手法とは（概要）】	本授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法を説明した上で、書籍・文献紹介と、本授業での修得目標説明をする。 国際ビジネス法における一般的な契約手法について総論の知識を学修する。	
	この回の到達目標	受講生が本授業全体のロードマップを理解し、各自の期待値や目標を設定した上で各自計画することができる。 到達目標①に関連し、国際ビジネス法の全体像を総論として理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書P232～246を読み疑問点をクリアにし、一般的な契約手法の理解を深める。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、概要説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
2	国際取引契約の実務的諸問題	国際取引を始める際に検討すべき基本契約、機密保持、デューデリジェンス、表明保障、補償条項など、契約や交渉手順について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、国際取引を始める際に検討すべき契約や交渉手順について、理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書P247～265を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
3	英文契約書概要①	英文契約作成に必要な典型表現、定義規定、付随的義務、解除と終了について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英文契約作成に必要な典型表現、定義規定、付随的義務、解除と終了について理解し説明でき、実践応用することができる。	
	事前学修	教科書P266～274及び参考書P136～162を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
4	英文契約書概要②	英文契約作成に必要な継続的契約の終了方法、一般条項、不可抗力、完全合意、変更修正方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英文契約作成に必要な継続的契約の終了方法、一般条項、不可抗力、完全合意、変更修正方法について理解し説明でき、実践応用することができる。	
	事前学修	教科書P274～286を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
5	英文契約書ドラフティング：一般条項①	英文契約の共通条項である「一般条項」の概要を把握し、各条項の必要性和特徴を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英文契約の共通条項である「一般条項」の概要を把握し、各条項の必要性和特徴について理解し説明することができる。	
	事前学修	参考書P163～223を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分
6	英文契約書ドラフティング：一般条項②	英文契約の共通条項である「一般条項」の概要を把握し、各条項の必要性和特徴を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英文契約の共通条項である「一般条項」の概要を把握し、各条項の必要性和特徴について理解し説明することができる。	
	事前学修	参考書P223～266を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。	150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	英文契約書ドラフティング：機密保持契約 小テスト(1)		国際取引を開始するにあたり最初に必要となる機密保持契約とは何かを理解し、その基本的な構造や様々な形式を学修する。 機密保持契約レビューの小テスト（演習）を行い、その後採点・解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、国際取引を開始するにあたり、最初に必要となる機密保持契約の構造を理解し、様々な形式について理解し説明し・応用することができる。		
	事前学修	参考書P361～407を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、各自が与えられたロールとしての意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
8	英文契約書ドラフティング：売買契約①		貿易の基礎となるクロスボーダー売買契約とは何かを理解し、基本的な契約構造や各条項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、貿易の基礎となるクロスボーダー売買契約とは何かを理解し、契約構造や各条項について理解し説明し・応用することができる。		
	事前学修	参考書P268～286を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
9	英文契約書ドラフティング：売買契約② 小テスト(2)		貿易の基礎となるクロスボーダー売買契約とは何かを理解し、契約構造や各条項について学修する。 売買契約レビューの小テスト（演習）を行い、その後採点・解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、貿易の基礎となるクロスボーダー売買契約とは何かを理解し、基本的な契約構造や各条項について理解し説明し・応用することができる。		
	事前学修	参考書P286～312を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
10	英文契約書ドラフティング：販売店契約①		ビジネスを海外で展開する際の一手段である販売店契約とは何かを理解し、契約構造や各条項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ビジネスを海外で展開している際の一手段である販売店契約とは何かを理解し、契約構造や各条項について理解し説明し・応用することができる。		
	事前学修	参考書P313～340を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
11	英文契約書ドラフティング：販売店契約② 小テスト(3)		ビジネスを海外で展開する際の一手段である販売店契約とは何かを理解し、基本的な契約構造や各条項について学修する。 販売店契約レビューの小テスト（演習）を行い、その後採点・解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ビジネスを海外で展開している際の一手段である販売店契約とは何かを理解し、契約構造や各条項について理解し説明し・応用することができる。		
	事前学修	参考書P340～360を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分
12	英文契約書ドラフティング：ライセンス契約		海外へビジネス進出する手段であるライセンス契約とは何かを理解し、基本的な契約構造や各条項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、海外へ進出する際の手段であるライセンス契約とは何かを理解し、基本的な契約構造や各条項について理解し説明できる。また、取引の条件に応じて契約条項を適用することができる。		
	事前学修	参考書P408～456を読み疑問点をクリアにし、授業にて口頭で説明できるように理解する。 授業中に出される課題ケースについて調べて、意見発表ができるように準備をする。		150分
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	英文契約書ドラフティング：ライセンス契約② 【契約交渉ロールプレイ】		ライセンス契約の総括を復習し、チームに分かれてロールプレイにて契約交渉を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、ライセンス契約上の交渉を、チームに分かれてロールプレイにて論理的に交渉をし意見を述べて、最終的な合意事項を契約上の条項に落とし込むことができる。		
	事前学修	授業中に出される課題ケースについて調べて自身のロールを理解し、ロールプレイ用の意見発表ができるように準備をする。	150分	
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分	
14	ケーススタディ①		今まで学修した国際ビジネス契約を総括して復習しつつ、ビジネス法務担当者としてのケーススタディを行いプレゼンテーション形式にて提案を提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ビジネス法における法的枠組みを理解した上で、必要な条項を応用し、交渉実践を行えるようにする。		
	事前学修	授業中に出される課題ケースについて調べて自身のロールを理解し、ロールプレイ用の意見発表ができるように準備をする。	150分	
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分	
15	ケーススタディ②		今まで学修した国際ビジネス契約を総括して復習しつつ、ビジネス法務担当者としてのケーススタディを行いプレゼンテーション形式にて提案を提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ビジネス法における法的枠組みを理解した上で、必要な条項を応用し、交渉実践を行えるようにする。		
	事前学修	授業中に出される課題ケースについて調べて自身のロールを理解し、ロールプレイ用の意見発表ができるように準備をする。	150分	
	事後学修	講義ノートを確認し、説明が口頭でできるように理解を深める。	90分	

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、柑本が担当する水曜2限の「国際政治学」科目は2年生対象となる（1年生は金曜4限の山本先生ご担当のものを、3・4年生は金曜2限の山本先生ご担当のものを履修すること）。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 （事前にアポイントメントを取ること） メールアドレス：kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		該当しない	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際政治学を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	国際政治学はどのような学問なのか	国際政治学の目指すところや研究領域について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際社会の形成や歴史、今日の課題などを大局的に説明することができる。	
	事前学修	テキスト第1章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の特徴をノートにまとめる。 ウォルツ, K. N. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
	事後学修	国際政治学とはどのような学問なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
3	国際関係の理論について	国際社会を学ぶための基本的な見方を提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会には自然科学のような厳格な理論は存在しないが、国際社会を理解するための見方が存在することを説明できる。	
	事前学修	テキスト第8章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の理論をノートにまとめる。 ウォルツ, K. N. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
	事後学修	国際政治に関する「理論」と自然科学における理論の違いについての知見をノートにまとめる。	120分
4	国際関係の様々な理論について	第二次世界大戦前のユートピアニズムに対する批判としてリアリズム、戦後生まれた古典的リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムといった多様な理論について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムとは何かを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、リアリズムとリベラリズムの特徴をノートにまとめる。 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣, 2013年。	120分
	事後学修	ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムなど、それぞれの見方によって、国家やアナーキーがどのように捉えられているかについての知見をノートに整理する。	120分
5	国際レジーム論	レジームとは何か、機能や設立について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際レジームとは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際レジームの特徴をノートにまとめる。 ポーター, G.・ブラウン, J. W. / 信夫隆司訳『地球環境政治―地球環境問題の国際政治学』国際書院, 1993年。	120分
	事後学修	国際レジームが国際社会で果たす役割と必要性についての知見をノートにまとめる。	120分
6	グローバル・ガバナンス論	グローバル・ガバナンスについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバル・ガバナンスとは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル・ガバナンスの特徴をノートにまとめる。 渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス―政府なき秩序の模索』東京大学出版会, 2001年。	120分
	事後学修	グローバル・ガバナンスと国際レジームの違いについての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	20世紀の国際関係	第一次世界大戦、第二次世界大戦から冷戦期までの国際関係を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、第一次世界大戦から冷戦までの国際社会の歴史的流れを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、第二次大戦と冷戦の特徴をノートにまとめる。山本吉宣『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』東信堂，2006年。	120分
	事後学修	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返り、それぞれの原因についての知見をノートにまとめる。	120分
8	ポスト冷戦時代の国際関係 (中間テスト<暫定>)	ポスト冷戦時代の国際関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、冷戦後の国際社会の特徴について説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、冷戦後のアメリカ基準化についてノートにまとめる。石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂高文社，2000年。 第1回から第7回の復習をしておく。	120分
	事後学修	冷戦終結は世界に何をもたらしたのかについての知見をノートにまとめる。	120分
9	今日の国際関係	ポスト冷戦期以降に国際社会で起こったことを追いながら、今日の国際政治について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、21世紀を象徴するような9.11が起こった背景と、国際政治の対応について説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、9.11とはどのような出来事であったのかをノートにまとめる。ウッドワード，B. /伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社，2003年。	120分
	事後学修	9.11後、アメリカの政治がどのように転換したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
10	今日の国際関係における課題	9.11以降、自国第一の考え方が広まったことについて、国際政治の視点から解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アメリカやヨーロッパ各国の経済、雇用、移民、難民の現状を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、難民問題の特徴をノートにまとめる。遠藤乾『欧州複合危機—苦悶するEU，揺れる世界』中央公論新社，2016年。	120分
	事後学修	なぜ今、自国第一主義の時代なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
11	グローバリゼーション	グローバリゼーションの光と陰について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、われわれの生活が、世界各国と相互依存関係にあることを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第4章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、相互依存論の理解をノートにまとめる。フリードマン，T. /伏見威蕃訳『フラット化する世界—経済の大転換と人間の未来（上・下）』日本経済新聞社，2006年。	120分
	事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
12	今日のグローバリゼーション	グローバリゼーションに対する推進派と反対派の対立など、様々な経済界や市民社会の対応について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションを当たり前のように受け止めるのではなく、その本質を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第4章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル市民社会の特徴をノートにまとめる。重田康博『激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店，2017年。	120分
	事後学修	講義で扱ったグローバリゼーションに対する様々な主張についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	南北問題	南北問題とは何か、新興国の登場によって南北問題はどのように変化しているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、南北問題とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、発展途上国が抱える問題についてノートにまとめる。サックス, J. D. / 鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉—2025 年までに世界を変える』早川書房, 2007 年。	120分
	事後学修	新興国の台頭によって世界の開発の問題がどのように変化したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
14	南北問題をどう解決するのか 期末テスト	国連ミレニアム開発目標について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、国際社会は国連ミレニアム開発目標などを通じて、途上国問題についてどのように対応しようとしているかについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国連ミレニアム開発目標の特徴をノートにまとめる。田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGs と開発教育—持続可能な開発目標のための学び』学文社, 2016 年。	120分
	事後学修	日本におけるSDG's に対する取り組みについての知見をノートにまとめる。	120分
15	まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際政治をどのように理解するのかについて、レビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ国際関係理論を使って考えノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、山本が担当する金曜2限の「国際政治学」科目は3・4年生対象となる（1年生は金曜4限の山本担当のものを、2年生は水曜2限の柑本英雄先生担当のものを履修すること）。

【授業方法】
事前に指定する箇所をあらかじめ自宅で学習する。授業は、その内容を確認および補足する時間に充てる。Googleクラスルームを通じて資料を配布する。出席管理システム（レスポん）または出席用紙を利用する。履修者は（1）教科書、（2）ノート、（3）筆記用具、（4）Googleクラスルームで配布された資料を印刷したもの、（5）充電済みのスマートフォンを毎回持参する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）または出席用紙を用いてリアクション・ペーパーの提出を複数回求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に到達するためのリテラシーと知的姿勢が身についているかを、定期試験または授業内試験の実施によって評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	リアクション・ペーパーを複数回提出することにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 第3版	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を説明する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
	事前学修	教科書の第1章から第7章まで（3ページ～118ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	学問としての国際政治学	国際政治学と国際関係論がどのような学問なのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学と国際関係論がどのような学問であるのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	国際システムの形成	国際システムがどのように形成されたのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際システムがどのように形成されたのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	20世紀前半の国際政治	20世紀前半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀前半の国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	20世紀後半の国際政治	20世紀後半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀後半の国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	核兵器と国際政治	今日の国際政治をどう読むのか、とくに核軍縮を主題にしてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくに核軍縮を主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テロとの戦い	今日の国際政治をどう読むのか、とくにテロとの戦いを主題にしてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくにテロとの戦いを主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	現象としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、現象としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現象としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	課題としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、課題としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、課題としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、伝統的安全保障の面からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	非伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、非伝統的安全保障の面からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を非伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	朝鮮半島と日本	朝鮮半島と日本の国際政治をどう読むのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、朝鮮半島と日本の国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日中韓の関係構築	日中韓の関係構築をどう読むのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、日中韓の関係構築を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦期および冷戦終結後の国際社会を念頭に置いてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦期および冷戦終結後の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	授業内試験の実施、学修成果の確認	授業内試験を行う。定期試験を行う場合は、授業内試験に代えて、セメスター全体の学修成果を確認するための時間に充てることになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、試験問題に解答できる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をふりかえる。	180分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、柑本が担当する水曜2限の「国際政治学」科目は2年生対象となる（1年生は金曜4限の山本先生ご担当のものを、3・4年生は金曜2限の山本先生ご担当のものを履修すること）。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論 Ⅲ(第3版) (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室 (事前にアポイントメントを取る) メールアドレス : kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期授業の進め方・前期の復習 現代の安全保障		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。前期に学習したことを用いて、今日の国際政治を考える。 国際社会における安全保障とは何かについて検討する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。 到達目標①②に関連して、安全保障という問題領域がどのように定義され、その概念がどのように変化していったのかを理解する。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。前期の配布資料に目を通すほか、今週の世界ニュースを新聞やウェブサイトを確認する。 テキスト第5章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門（新訂第4版）』亜紀書房、2009年。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。理解が足りない事項については、ノートにまとめる。		120分
2	集団安全保障		自国の安全を確保するためにどのような地域協力を構築しているのかについて解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、国際安全保障のためにこれまでに各国で取り組んできた仕組みとその限界を理解する。		
	事前学修	テキスト第5章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 神保謙・東京財団「アジアの安全保障」プロジェクト編『アジア太平洋地域の安全保障アーキテクチャー―地域安全保障の三層構造』日本評論社、2011年。		120分
	事後学修	国防のために日本や米国が行っている具体策とその実態を調べ、それらの問題点や課題を考え、ノートに書きだす。		120分
3	国際紛争・国内紛争		現代における国際紛争・国内紛争の特徴について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、国際安全保障のためにこれまでに各国で取り組んできた仕組みとその限界を理解する。		
	事前学修	テキスト第15章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣、2011年。		120分
	事後学修	ポスト冷戦期の紛争を取り上げ、その紛争に対する国際社会の対応についてノートにまとめる。		120分
4	人間の安全保障		人間の安全保障が紛争解決にどのような役割を果たすのかについて解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、人間の安全保障の内容について理解し、国際社会の取り組みを知る。		
	事前学修	テキスト第15章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 武者小路公秀編著『人間の安全保障―国家中心主義をこえて』ミネルヴァ書房、2009年。		120分
	事後学修	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをノートにまとめる。		120分
5	北東アジアの政治と国際関係―韓国・北朝鮮		朝鮮半島の状況と韓国と北朝鮮の政治について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、朝鮮半島の歴史と政治について理解する。		
	事前学修	テキスト第6章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 小倉紀蔵・小針進編『日韓関係の争点』藤原書店、2014年。		120分
	事後学修	韓国・北朝鮮の外交の特徴をノートにまとめる。		120分
6	北東アジアの政治と国際関係―中国		中国の外交と日中関係について解説する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、日中関係の流れを理解する。		
	事前学修	テキスト第6章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 増田弘・波多野澄雄編『アジアの中の日本と中国―友好と摩擦の現代史』山川出版社、1995年。		120分
	事後学修	日韓、日中関係の流れを確認し、ノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか (中間テスト<暫定>)	国際社会の中で日本が置かれている状況について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の安全保障、経済外交、国際社会への貢献について説明できる。また、到達目標④に関連して、国際社会での位置づけを理解する。	
	事前学修	テキスト第7章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版）』有斐閣、2010年。 進藤榮一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交―21世紀アジア共生時代の視座』法律文化社、2007年。	120分
	事後学修	日本の国際貢献にはどのようなものがあるか調べ、ノートに書きだす。	120分
8	地球環境問題と国際社会	地球環境問題に向けた国際社会の取り組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地球環境問題の実態を理解し、さまざまなアクターがどのように対応しているのかについて理解する。	
	事前学修	テキスト第12章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 日本国際政治学会編「特集環境とグローバル・ポリティクス」『国際政治』166号、2011年。	120分
	事後学修	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてノートにまとめる。	120分
9	地球環境問題への対応	国際社会は地球環境問題を解決できるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、地球温暖化の問題を中心に、各国の態度と国際社会が抱える課題について理解する。	
	事前学修	テキスト第12章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 クライン, N. / 幾島幸子・荒井雅子訳『これがすべてを変える―資本主義vs. 気候変動（上・下）』岩波書店、2017年。	120分
	事後学修	地球環境問題に関して、どのような利害関係があるのか調べ、ノートに書きだす。	120分
10	リージョナリズム	リージョナリズムとは何か、EUを例として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、欧州統合の歴史とEUの仕組みについて理解する。	
	事前学修	テキスト第10章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 中村民雄『EU とは何か―国家ではない未来の形』信山社、2016年。	120分
	事後学修	EU統合がなぜ必要だったのかを考えながら、統合までの道のりをノートにまとめる。	120分
11	欧州統合の現状	EUの現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUが現在抱える問題を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、EU加盟国の現状と課題を関連して考えることができる。	
	事前学修	テキスト第10章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU、揺れる世界』中公新書、2016年。	120分
	事後学修	なぜ今EUからの離脱や欧州統合の進展に反対する声が提起されているのか考え、ノートにまとめる。	120分
12	非国家アクターの台頭	非国家アクターとは何か、国際社会においてどのような役割を担っているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非国家アクターの定義とその活動について理解する。	
	事前学修	テキスト第13章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 柑本英雄『国際的行為体とアイデンティティの変容―欧州沿岸辺境地域会議と共通漁業政策をめぐって』成文堂、2000年。 西川潤・佐藤幸男編『NPO/NGO と国際協力』ミネルヴァ書房、2002年。	120分
	事後学修	非国家アクターが登場した理由について考え、自分の言葉でノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	市民社会	市民社会とは何か、国際社会においてどのような役割を担っているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市民社会の定義とその活動について理解する。	
	事前学修	テキスト第14章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 毛利聡子『NGOから見る国際関係ーグローバル市民社会への視座』法律文化社, 2011年。	120分
	事後学修	市民社会が登場した理由について考え、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
14	市民社会の役割 期末テスト	市民社会は現状をどう変えられるのか、その可能性と限界について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会の公的役割について、その現状と必要性を理解する。	
	事前学修	テキスト第14章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 吉川直人・野口和彦編『国際関係理論』勁草書房, 2015年。	120分
	事後学修	市民社会が果たす役割と限界について考え、ノートにまとめる。	120分
15	まとめ	第1回から第14回までのまとめと講評	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際社会の現状を理解し、課題解決への自分なりの方法を思考することができる。	
	事前学修	教科書やノートに目を通し、第14回までに学んだ事柄を振り返る。	120分
	事後学修	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、山本が担当する金曜2限の「国際政治学」科目は3・4年生対象となる（1年生は金曜4限の山本担当のものを、2年生は水曜2限の柑本英雄先生担当のものを履修すること）。

【授業方法】
事前に指定する箇所をあらかじめ自宅で学習する。授業は、その内容を確認および補足する時間に充てる。Googleクラスルームを通じて資料を配布する。出席管理システム（レスポん）または出席用紙を利用する。履修者は（1）教科書、（2）ノート、（3）筆記用具、（4）Googleクラスルームで配布された資料を印刷したもの、（5）充電済みのスマートフォンを毎回持参する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）または出席用紙を用いてリアクション・ペーパーの提出を複数回求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に到達するためのリテラシーと知的姿勢が身についているかを、定期試験または授業内試験の実施によって評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	リアクション・ペーパーを複数回提出することにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 第3版	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
	事前学修	教科書の第8章から第15章まで（121ページ～256ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回到教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	国際政治の現実主義理論	国際政治の現実主義理論とは何かをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の現実主義理論について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	国際政治の自由主義理論とコンストラクティヴィズム	国際政治の自由主義理論とは何かをともに考える。国際政治におけるコンストラクティヴィズム・アプローチがどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の自由主義理論について、ならびに国際政治においてコンストラクティヴィズム・アプローチがもつ意味について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	国際レジーム論	国際政治において国際レジーム論がどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治において国際レジーム論がもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	グローバル・ガバナンス	国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムとは何か、なぜ欧州で統合が進むのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、リージョナリズムと欧州統合の過程について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	EUの成果と課題	EUの成果と課題は何かともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、EUの成果と課題について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	南北問題と国際政治	南北問題をどう解決するのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、南北問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第11章「南北問題をどう解決するのか」について準備する	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	地球環境問題	地球環境問題をどう解決するのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球環境問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第12章「地球環境問題をどう解決するのか」について準備する。	120分
	事後学修	講演会の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	国際政治における非国家アクター	非国家アクターの台頭をどう見るのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの台頭を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章「非国家アクターの台頭をどう見るのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	国際政治における市民社会の位相	市民社会の位相とはいかなるものかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会の位相を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	市民社会と世界	市民社会は世界を動かすことができるのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会が世界を動かす現状と可能性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際紛争と国内紛争	国際紛争・国内紛争をどう解決するのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の事象を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	紛争の解決と日本	国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本がどのように関われるかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本が関わる現状と可能性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	授業内試験の実施、学修成果の確認	授業内試験を行う。定期試験を行う場合は、授業内試験に代えて、セメスター全体の学修成果を確認するための時間に充てる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、試験問題に解答できる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をふりかえる。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

科目名	国際取引法AⅠ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国境を越える商取引に特化する法制度の枠組み、主体、法源を理解した上で、国際売買、国際運送、国際支払、国際的事業の展開について幅広く学修するとともに、民事訴訟、仲裁、調停など国際取引の紛争解決方法も学修する。AIでは特に、国内取引と国際取引の具体的な差異と、主な法体系として大陸法と英米法の観点に焦点を当てつつ、国際取引の全体像を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業のグローバル化が進展しているなかで国際取引における法的関係とその特性を理解し、それに対応できるようになるために、国際売買契約、国際運送、国際支払、国際的M&A（企業買収）、紛争処理など、総論として幅広く学修し、修得することを目的とする。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解し、説明できるようになることを目標とする。次に、さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学修することを目標とする。さらに、国際取引法について自分の意見を系統立て述べるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法についての基礎知識を習得していることが必要である。

【授業方法】
パワーポイントを使用して講義を行う。パワーポイントはGoogle Classroomにおいて共有する。適宜資料等を配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、事例問題を与え、グループディスカッションを経た上でコメントや意見を発表していただきたい。また、授業で行われた説明を念頭においておきながら、発展問題について自己の意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					2	2				2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】					2	2				2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べるることができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるることができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】					2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内テストにより、国際取引法の諸規則の基礎的理解が身についているかを確認する。	20	20									40
小テスト等	小テストにより基礎的理解を応用することができる力が身についているかを確認する。			10	10						10	30
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、授業内でその発表・討論を実施することにより、課題の論理的考察力、グループディスカッションへの積極的な参加、意見の明瞭性・論理性に照らして評価する。					5	5	5	5	5	5	30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	10	5	5	5	5	5	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、具体例に関する解説を行う。試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ベーシック国際取引法	多田望・北坂尚洋編	法律文化社	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実際に起こった問題を紹介しながら、授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際取引の全体像】	授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。国際取引法の意義と特色について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、国際取引の意義がどのようなものか、そしてなぜ必要なのかを理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【国際取引法とは】	国際取引法の主な内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法はどのようなものかを理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際法はなぜ必要かを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法の内容について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	【国際売買とインコタームズ】	国際取引で頻繁に利用されているインコタームズとその機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インコタームズの役割を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際運送の問題は何かを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、インコタームズの特徴について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
4	【国際売買とCISG】	国際取引にCISGを適用した場合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGの役割と特徴を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際取引にあたりどの法律を適用すべきかを考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGの応用について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
5	【国際売買と準拠法】	国際私法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法の役割を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際私法を適用した場合の問題を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法の適用の問題点と利点について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
6	【国際物品運送】	国際運送に関連する条約について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際運送に関する条約の機能を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際物品運送に起こりそうな問題について考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際物品運送に関する条約の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【国際貨物保険】 【小テスト】	国際貨物保険に関する法律の概要を学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貨物保険に関する法律の主な内容を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。③④については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際貨物保険の問題点について考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際貨物保険の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
8	【国際支払】	小テストの解説を行う。貿易条件の必要性とその代表的なものであるインコタームズの概要を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際支払に関する法律の主な内容を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際取引においてどのように安全に支払いができるかを考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際支払に関する問題について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
9	【国際知的財産】	知的財産に関する条約について概観し、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際知的財産に関する条約の機能を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	知的財産について国際的なレーベルではどのような問題が起りうるかを考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で見た条約の内容とその問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
10	【国際的事業展開】	販売店、代理店、プラント移転について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的事業展開の様々な形態を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	貿易以外ではどのように国際取引を行うことができるかについて考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的事業展開の形態とその差異について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
11	【M&A】	国際取引における企業・事業の合併や買収を概観し、その問題点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、M&Aの特徴を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	どの形態で企業を購入できるか、その後どのような問題が起こり得るかについて考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、M&Aのリスクとその解決方法について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
12	【紛争解決】	国際取引において紛争が起きた時に、公権力により問題を解決しようとする場合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して国際紛争解決方法としての民事訴訟の具体的な手続きとその問題点を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	どこの裁判所において国際取引から生じる紛争を解決できるかについて考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、民事訴訟の手続き、民事裁判権免除、当事者、国際的訴訟競合、国際私法共助、保全手続について復習し、授業内で取り上げられた事例と議論をもとに考察し、ノートに列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【国際取引と規制】	国際取引に重要な影響を与える規制とその域外的な運用の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、外国為替や貿易管理に関する法制を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国家が国際取引をどの程度まで自由にすべきかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、WTOの役割などについて復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
14	【国際取引の主体】【小テスト】	国際取引の当事者である外国人、外国法人、国家・国家機関・国際機構に関する法制について学修する。また、授業の後半で、第7回～第13回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、国際取引の当事者がどのようなものか、それと関連する法制を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際企業と国内企業の法的な相違点は何かを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に取り組む当事者に関する法的問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
15	【総括と質疑応答】	小テストの解説を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。	120分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。	120分

科目名	国際取引法AⅡ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国境を越える商取引に特化する法制度の枠組み、主体、法源を理解した上で、国際売買、国際運送、国際的支払い、国際的事業の展開について幅広く学修するとともに、民事訴訟、仲裁、調停など国際取引の紛争解決方法も学修する。AⅡでは「国際物品売買契約に関する国際連合条約（通称はCISG）」に主眼を置き、日本法と英米法の一部であるアメリカ法と比較しながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業のグローバル化が進展しているなかで国際物品売買の問題点を理解し、それに対応できるようになるために、世界で重要な統一法として認められているCISGの概要を学習し、修得することを目的とする。CISGの内容を全般的に理解し、説明できるようになることを目標とする。次に、CISGを応用する場合の問題点と議論を見据えて学修することを目標とする。また、CISGの解釈について自分の意見を系統立て述べるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法、特に債権総論と売買契約についての基本的知識を習得していることが必要である。

【授業方法】
パワーポイントを使用して講義を行う。パワーポイントはGoogle Classroomにおいて共有する。適宜資料等を配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、事例問題を与え、グループディスカッションを経た上でコメントや意見を発表していただきたい。また、授業で行われた説明を念頭においておきながら、発展問題について自己の意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際物品売買において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
②	他の法律とは異なる国際物品売買にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	国際物品売買に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	国際物品売買に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				2	2				2		
⑤	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑥	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べるることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑦	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑧	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑨	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑩	国際物品売買に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、国際取引法の諸規則の基礎的理解が身についているかを確認する。	20	20	5	5							50
小テスト等	小テスト基礎的理解を応用することができる力が身についているかを確認する。			5	5						10	20
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、授業内でその発表・討論を実施することにより、課題の論理的考察力、グループディスカッションへの積極的な参加、意見の明瞭性・論理性に照らして評価する。					5	5	5	5	5	5	30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	10	5	5	5	5	5	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、具体例に関する解説を行う。試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容		貿易会社のために日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実際に起こった問題を紹介しながら、授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【国際取引の全体像】		国際売買取引が行われるプロセスを概観し、運送、保険、手形、信用状などの付属契約の重要性と法源の多様性を示し、国際売買の全体像を学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買は国内取引と比べてどのように異なるかを理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、民法の債権総論と売買に関する規定に目を通し、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【CISG：適用範囲】		CISGはどのような場合に適用されるかについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGを適用できる要件を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際取引と国内取引をどのように区別できるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGの適用方法とその問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	【CISG：物品とは】		CISGはどのような取引を対象にしているかについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGが適用される取引を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	物品をどのように特定できるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物品の定義とその問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
4	【CISG：総則】		CISGの解釈について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGの解釈方法を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	国際条約の解釈をどのように統一できるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGの解釈基準とその問題点問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
5	【CISG：契約の自由・成立】		CISG国際売買契約の成立過程を紹介した上で、CISGはどのように契約成立について定めていることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約成立について英米法と大陸法の相克と、それを超えようとしたCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	日本民法においてはどのように売買契約が成立するか、同規定を用いて国際取引においてどの問題が発生しうるかを考察し、ノートに記述しておいた上授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGによる契約成立の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
6	【CISG：承諾】		国際売買契約の交渉は書類の交換により行われることから各書類の定型条項が異なることがあり、その場合において契約が有効かという問題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、書式の争いについて英米法と大陸法の相克と、それを超えようとしたCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。	
	事前学修	日本民法の判例においてはどの程度で申込みと承諾が一致すべきか、同規定を用いて国際取引においてどの問題が発生しうるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGによる書式の争いの問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【CISG：重大な契約違反】【小テスト】		国際売買においてどのような場合には契約を解除できるかについて学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約解除の要件についてCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	日本民法においてはどのような場合に契約を解除できるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGにおける重大な契約違反について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
8	【CISG：売主の義務】		小テストの解説を行う。国際売買契約の特性に重点を置きながらCISGが適用された場合の売主の義務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売主の義務についてCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	日本民法においては売主にはどのような義務が課されるか、国際取引において同義務はどの程度で拡大するか、または縮小するかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGにおける解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
9	【CISG：契約目的物の適合性】		CISGにおいて契約に見合った物品はどのようなものかを中心に、英米法と大陸法はどの救済体系があり、CISGはどのようにそれを統一したかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約目的物の品質についての英米法と大陸法の相克と、それを超えようとしたCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	日本民法においては契約目的物の適合性についてはどのように定められているかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約目的物の適合性に関する規定の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
10	【CISG：物品の検査】		買主はどの時点といつまで契約目的物の検査を行うことができるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、買主の検査についての英米法と大陸法の相克と、それを超えようとしたCISGの規定を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	日本民法においては買主はいつまでに検査できるかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、検査に関する規定について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
11	【CISG：買主の義務】		買主は契約目的物を受けとるために何をすべきかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、買主の義務を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	買主は売主のために何をすべきかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、買主の義務の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
12	【CISG：危険負担の移転】		国際売買契約の特性を現わす危険の移転の問題を中心に、CISGと国際取引でよく用いられる貿易条件のインコタームズについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、危険の移転についてCISGとインコタームズの違いを理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	国際取引の両当事者の立場からどの時点において危険が移るべきかを考察し、ノートに記述しておいた上で授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、危険の移転についてのCISGの規定とインコタームズの違いについて復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【CISG：救済】		売主が履行をしない場合にCISGはどの救済を買主に与えているかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGにおける救済の内容と機能を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	国際売買においてどのような場合において売主は履行していないといえるかを考察し、ノートに記述しておいた上授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、CISGの救済の問題点について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
14	【CISG：履行期前の拒絶】		CISGでは履行期が到来する前に履行を拒絶できるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、履行期前の拒絶の要件を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	日の民法においてどのような場合には履行を拒絶できるかを考察し、ノートに記述しておいた上授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、履行期前の拒絶の要件について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分
15	【CISG：免責】		国際売買の際に履行ができなくなった場合、あるいは履行が非常に困難になった場合についてCISGの規定とその問題点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、CISGにおける免責とその限界を理解し、説明できる。③④⑩については事例問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。		
	事前学修	国際売買においてどのような場合において不可抗力・ハードシップがあるといえるかを考察し、ノートに記述しておいた上授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、不可抗力・ハードシップについて復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。		120分

科目名	国際取引法BⅠ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、国境を越える商取引に特化する法制度の枠組み、主体、法源を理解した上で、国際売買、国際運送、国際的支払い、国際的事業の展開について幅広く学修するとともに、民事訴訟、仲裁、調停など国際取引の紛争解決方法も学修する。BIIでは、国際取引に関する法律の解釈に関連する論点を学修する。前期においては特に抵触規則の論点に着眼して授業を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法における解釈問題を理解し、それを解決するために学説や海外の実例を学習する。

【履修条件】
国際私法の基礎的な知識が必要である。

【授業方法】
グループディスカッションを中心に授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、事例問題を与え、グループディスカッションを経た上でコメントや意見を発表していただきます。また、授業で行われた説明を念頭においておきながら、発展問題について自己の意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				2	2						
②	国際私法について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				2	2						
③	国際契約法務の条文が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						2	2				
④	国際私法の実生活上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2				
⑤	国際私法の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるができる。【態度・習慣】						2	2				
⑥	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】								2	2		
⑦	国際私法の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から発せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるができる。【態度・習慣】								2	2		
⑧	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】								2	2		
⑨	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】								2	2		
⑩	国際私法の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめて、発表できる。【態度・習慣】								2	2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により、到達目標①②③④について抵触規則の論点の基礎的理解が身についているかを確認する。	20	20	5	5							50
小テスト等	③④に関わる基礎的理解を応用することができる力が身についているかを確認する。			5	5						5	15
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関わる課題の論理的考察力、グループディスカッションへの積極的な参加、意見の明瞭性・論理性に照らして評価する。					5	5	5	5	5	10	35
授業への参画度												
その他()	7割以上の出席率を満たさない履修者は評価の対象とならない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	10	5	5	5	5	5	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、具体例に関する解説を行う。試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際私法（第3版）	中西ほか	有斐閣	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実際に起こった問題を紹介しながら、授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際私法とは】	授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。国際私法を概観し、その役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法の役割を理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、渉外関係にあたりなぜ国際私法が必要かを考察し、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【契約と当事者自治】	テーマに関する事例を通して契約に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
3	【契約と客観的連結】	テーマに関する事例を通して契約に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
4	【労働契約・消費者契約】	テーマに関する事例を通して契約に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
5	【一般不法行為】	テーマに関する事例を通して一般不法行為に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
6	【生産物責任・名誉毀損】	テーマに関する事例を通して生産物責任・名誉毀損に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【債権問題】 【小テスト】	テーマに関する事例を通して債権譲渡など債権に関する解釈問題を学修する。授業の後半に小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
8	【物権】	小テストの解説を行う。テーマに関する事例を通して物権に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
9	【知的財産権】	テーマに関する事例を通して知的財産権に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
10	【外国国家行為】	テーマに関する事例を通して外国国家行為に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
11	【不正競争行為】	テーマに関する事例を通して不正競争行為に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
12	【海事事件】	テーマに関する事例を通して海事事件に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	【法人】		テーマに関する事例を通して法人に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
14	【公序】		テーマに関する事例を通して公序に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
15	【総括・質疑応答】		授業の全体を振り返った上で、授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、授業の主な内容を理解し、説明できる。③④については難解な解釈問題を理解する。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、質疑応答において、自分の意見をより適切に述べることができる。	
	事前学修	授業全体の内容を講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	国際取引法BⅡ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、国境を越える商取引に特化する法制度の枠組み、主体、法源を理解した上で、国際売買、国際運送、国際的支払い、国際的事業の展開について幅広く学修するとともに、民事訴訟、仲裁、調停など国際取引の紛争解決方法も学修する。BIIでは、国際取引に関する法律の解釈に関連する論点を学修する。後期においては特に国際民事訴訟法と国際取引法の論点に着眼して授業を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事訴訟法と国際取引法の解釈問題を理解し、それを解決するために学説や海外の実例を学習する。

【履修条件】
国際私法の基本的知識を習得していることが必要である。

【授業方法】
グループディスカッションを中心に授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、事例問題を与え、グループディスカッションを経た上でコメントや意見を発表していただきます。また、授業で行われた説明を念頭においておきながら、発展問題について自己の意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】					2	2						
②	国際私法について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】					2	2						
③	国際契約法務の条文が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】							2	2				
④	国際私法の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】							2	2				
⑤	国際私法の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるができる。【態度・習慣】							2	2				
⑥	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】									2	2		
⑦	国際私法の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から発せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるができる。【態度・習慣】									2	2		
⑧	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】									2	2		
⑨	国際私法の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】									2	2		
⑩	国際私法の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめて、発表できる。【態度・習慣】									2	2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により、到達目標①②③④について国際民事訴訟法と国際取引法の争点の基礎的な理解が身についているかを確認する。	20	20	5	5							50
小テスト等	③④に関わる基礎的理解を応用することができる力が身についているかを確認する。			5	5						5	15
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関わる課題の論理的考察力、グループディスカッションへの積極的な参加、意見の明瞭性・論理性に照らして評価する。					5	5	5	5	5	10	35
授業への参画度												
その他()	7割以上の出席率を満たさない履修者は評価の対象とならない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	10	5	5	5	5	5	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、具体例に関する解説を行う。試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際私法（第3版）	中西ほか	有斐閣	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	貿易会社
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本とアメリカの物流を担当し、商品の輸入・輸出についての実際に起こった問題を紹介しながら、授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【国際裁判管轄とは】		授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。国際裁判管轄を概観し、その役割について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際裁判管轄の役割を理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、渉外関係にあたりなぜ国際裁判管轄が問題になるかを考察し、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【主権免除】		テーマに関する事例を通して主権免除に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
3	【債務履行地】		テーマに関する事例を通して債務履行地に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
4	【財産所在地】		テーマに関する事例を通して財産所在地に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
5	【営業所在地】		テーマに関する事例を通して営業所在地に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
6	【不法行為地】		テーマに関する事例を通して不法行為地に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【製造物責任・名誉毀損】 【小テスト】		テーマに関する事例を通して製造物責任・名誉毀損に関する解釈問題を学修する。授業の後半に小テストを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
8	【特段の事情】		小テストの解説を行う。テーマに関する事例を通して特段の事情に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
9	【消費者契約】		テーマに関する事例を通して消費者契約に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
10	【仲裁合意】		テーマに関する事例を通して仲裁合意に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
11	【国際訴訟競合】		テーマに関する事例を通して国際訴訟競合に関する解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
12	【国際裁判管轄に関する最先端の問題】		テーマに関する事例を通してインターネットに関わる解釈問題を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【外国判決の承認・執行】	テーマに関する事例を通して外国判決の承認・執行に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
14	【国際倒産】	テーマに関する事例を通して国際倒産に関する解釈問題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関連条項の構造を理解し、説明できる。③④については解釈問題を理解し、そこから派生する発展問題を推測できる。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、事例の討議を行い、法適用プロセスを確認しそれを類似のケースに応用することができる。	
	事前学修	関連条項を熟読し、その連結方法をノートに記述しておいた上で授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、解釈問題について復習し、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに重要なポイントを列記する。	120分
15	【総括・質疑応答】	授業の全体を振り返った上で、授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、授業の主な内容を理解し、説明できる。③④については難解な解釈問題を理解する。また、到達目標⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、質疑応答において、自分の意見をより適切に述べることができる。	
	事前学修	授業全体の内容を講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅰ	担当者	中村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
特にビジネス紛争を中心とする国際的な民事紛争の解決システムについての基礎を学修する。具体的には、いずれも実際に国際的に活動する企業が直面する問題である、①国際取引紛争と準拠法、②国際裁判管轄、③国際訴訟競合、④国際送達、⑤外国判決の承認・執行、⑥外国主権免除、⑦国際仲裁、⑧調停から構成される。授業では、これらの争点について、事例を考察しながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際的な民事紛争の様々な解決システムについて、その種類とそれぞれの解決に至るまでのプロセス、更に各解決システムの基本的事項を理解するとともに、それを事例への当てはめる技能を習得することを目的とする。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法〔私法系〕を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書やパワーポイント等の資料を中心に、講義形式とディスカッション形式を併用して授業を進める。理解度を計るため、小テストを2度行い、翌週にその講評・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指定された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際民事紛争の解決システムに関する基本的知識を身に付け、説明することができる。【知識】				3	3	3	3	3	3		
②	国際民事紛争の解決システムに関する諸規定がどのように解釈され、事例に応訴・適用されているかを調べることができる。【技能】				3	3	3	3	3	3		
③	民事紛争の解決システムに関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3	3	3	3	3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際民事紛争の解決システムに関する基本的知識が身に付いているか、及びその知識を到達目標②③に関わる事例に適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについてディスカッションを通じて確認する。	30	20	20								70
レポート等												
討論・発表等	事例についての課題を与え、授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標①②③に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の名良性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けて課題について適切に事例を調べることができる技能をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際取引紛争～紛争解決の基本ルール〔第3版〕	中村 達也	成文堂	2020	教科書	必携
六法			最新版	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の前後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】 【国際民事紛争の解決方法】	国際民事紛争の解決方法にはどのようなものがあるかを理解し、それぞれの基本的な特徴について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事紛争の解決についてどのような方法があるかを知り、それらの基本的な特徴を調べ理解し、説明することができる。【知識】【技能】		
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに、教科書序章を読み、国際民事紛争の解決方法にどのような手段があるかを調べ、それらを事前学修用ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	100分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、国際民事紛争の解決方法にどのような種類があるかを確認し、それらの基本的な特徴について事前学修ノートに分類・整理する。	120分	
2	【国際取引紛争と準拠法(1)：総論】	国際的な私的法律関係に適用される法（＝準拠法）を決定するための法律である「法の適用に関する通則法」（以下、通則法）の基礎的理念と主要な総則規定について学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、通則法に関する簡単なディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、通則法の基礎的理念と総則規定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に通則法における準拠法の決定についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第1章1節～6節（9頁～22頁）を読み、通則法の基礎的理念と総則規定について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書10頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。	120分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、通則法の基礎的理念と総則規定について確認し、それらの基本的な特徴について事前学修ノートに分類・整理する。	120分	
3	【国際取引紛争と準拠法(2)：契約紛争】	国際的な各種の契約紛争に適用される準拠法がどの様に選択されるかについて学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、契約の準拠法の決定に関する簡単なディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な契約紛争において適用される準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に契約の準拠法の決定についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第1章7節～9節（22頁～44頁）を読み、通則法上の契約に関する諸規定について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書40頁・43頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。	130分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、通則法上の契約に関する諸規定について確認し、それらの諸規定と契約の準拠法の決定プロセスについて事前学修ノートに分類・整理する。	120分	
4	【国際取引紛争と準拠法(3)：不法行為紛争】	各種の国際的な不法行為紛争に適用される準拠法がどの様に選択されるかについて学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、不法行為の準拠法の決定に関する簡単なディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な不法行為紛争の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に不法行為の準拠法の決定についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第1章10節～15節（45頁～63頁）を読み、通則法上の不法行為に関する諸規定について理解し、それを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書46頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。	130分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、通則法上の不法行為に関する諸規定について確認し、それらの諸規定と不法行為の準拠法の決定プロセスについてノートに分類・整理する。	120分	
5	【国際取引紛争と訴訟：国際裁判管轄(1)】	国際民事紛争に関する裁判管轄の基礎的理念、及び管轄権の有無が具体的にどのようなプロセスで決定されているかについて学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、国際裁判管轄に関する簡単なディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事紛争における裁判管轄規定の基礎的理念について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に国際裁判管轄についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第2章1節(1)～(7)（64頁～74頁）を読み、国際裁判管轄の基礎理念を理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書64頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見まとめる。	120分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、国際裁判管轄の基礎理念と管轄権の決定プロセスについて確認し、それらをノートに分類・整理する。	120分	
6	【国際取引紛争と訴訟：国際裁判管轄(2)】	各種の国際裁判管轄規定について、特に契約紛争と不法行為紛争に関する裁判管轄規定を中心に学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約紛争と不法行為紛争に関する国際裁判管轄規定について理解し、説明することができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第2章1節(8)～(10)（75頁～97頁）を読み、契約紛争と不法行為紛争における裁判管轄規定について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。	130分	
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、国際裁判管轄について契約紛争と不法行為紛争に関する規定を中心に確認し、それらをノートに分類・整理する。	130分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際取引紛争と訴訟：訴訟競合】 【小テスト】		国際間で訴訟が競合する問題である国際訴訟競合についての問題性と裁判例について学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、国際訴訟競合に関する簡単なディスカッションを行う。更に、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際訴訟競合の問題性を理解し、説明することができる。到達目標①②③に関連して、事例を基に国際訴訟競合の問題についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。また、到達目標①②③に関連して、小テストの実施を通じ、これ迄の授業内容の体系的な理解を図る。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第2章2節(98頁～105頁)を読み、国際訴訟競合の問題性について理解し、事前学修ノートにまとめ授業に備える。教科書98頁の事例を検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。また、第1回～第6回の授業内で学修したことを教科書や資料、講義ノート及び整理ノートで確認し小テストに備える。		140分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、国際訴訟競合の問題性と学説・判例について確認し、それらをノートに分類・整理する。		120分
8	【小テストの解説・講評】【国際取引紛争と訴訟：訴状送達】		前回の小テストの解説と講評を行う。また、国際訴訟における訴状の送達を中心とする国際司法共助について学修する。更に、教科書掲載の事例を素材にして、訴状の送達に関する簡単なディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴状送達を中心とする国際司法共助について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に訴状送達についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第2章3節(105頁～117頁)を読み、訴状送達を中心とする国際司法共助のシステムを理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書105頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、訴状送達を中心とする国際司法共助について確認し、それをノートに分類・整理する。また、小テストの解説・講評を受けて、教科書・資料と講義ノートで答え合わせをする。		120分
9	【国際取引紛争と訴訟：外国判決の承認・執行】		外国判決の日本における承認と執行について学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、外国判決の承認・執行に関する簡単なディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国判決の承認・執行の制度の基本的な枠組みについて理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に外国判決の承認・執行についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第2章4節・5節(118頁～130頁)を読み、外国判決の承認・執行の制度の枠組みを理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書119頁・128頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、外国判決の承認・執行の制度の枠組みについて確認し、そのプロセスと関連の諸規定についてノートに分類・整理する。		120分
10	【国際取引紛争と訴訟：主権免除】		国家の裁判権からの免除である主権免除を定める「外国等に対する我が国の民事裁判権に関する法律」（以下、民事裁判権法）の主要な規定について学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、主権免除に関する簡単なディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家の主権免除について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に主権免除についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第2章6節(130頁～151頁)を読み、民事裁判権法の主要な規定について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書130頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめる。		130分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、民事裁判権法の主要規定の内容について確認し、それらをノートに分類・整理する。		130分
11	【国際取引紛争と仲裁(1)】		国際民事紛争の仲裁の制度による解決のメリット、その法システムにおける基礎的理念と枠組み、及び仲裁の合意について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事紛争の仲裁の制度における基礎的理念と枠組み、及び仲裁合意について理解し、説明することができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第3章1節(1)・(2)(152頁～190頁)を読み、仲裁の制度による解決システムの枠組みと仲裁合意について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。		130分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、仲裁の制度による紛争解決システムと仲裁合意について確認し、それをノートに分類・整理する。		130分
12	【国際取引紛争と仲裁(2)】		仲裁の制度における仲裁人・審理手続について学修する。また、教科書掲載の事例を素材にして、仲裁の制度に関する簡単なディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仲裁の制度における仲裁人・審理手続について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、事例を基に仲裁の制度についてディスカッションを行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第3章1節(3)・(4)(190頁～216頁)を読み、仲裁人・審理手続について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、教科書215頁の事例について検討し、事前学修ノートに意見をまとめ授業に備える。		140分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、仲裁人・審理手続について確認し、それをノートに分類・整理する。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【国際取引紛争と仲裁(3)】		仲裁判断の取消し、仲裁判断の承認・執行、国際投資紛争と仲裁の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仲裁判断の取消し、仲裁判断の承認・執行、国際投資紛争と仲裁の関係について理解し、説明することができる。【知識】 【技能】		
	事前学修	教科書第3章1節(5)~(7)(216頁~236頁)を読み、仲裁判断の取消し、仲裁判断の承認・執行、国際投資紛争と仲裁の関係について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、仲裁判断の取消し、仲裁判断の承認・執行、国際投資紛争と仲裁の関係について確認し、それらをノートに分類・整理する。		120分
14	【国際取引紛争とADR(調停)】 【小テスト】		国際民事紛争の解決方法の一つである調停制度の長所・短所及び基礎的理念について学修する。また、授業の後半で、第7回~第13回の授業内容の理解度を計るための小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、調停制度の長所・短所及び基礎的理念についての問題性を理解し、説明することができる。また、到達目標①②③に関連して、小テストの実施を通じて、これまでの授業内容の体系的な理解を図る。【知識】 【技能】 【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第3章2節(235頁~245頁)を読み、調停制度の基礎的理念について理解し、それらを事前学修ノートにまとめ授業に備える。また、第7回~第13回の授業内で学修したことを教科書や資料、講義ノート及び整理ノートで確認し小テストに備える。		140分
	事後学修	教科書と講義ノートを見ながら、調停の長所・短所と基礎的理念について確認し、それらをノートに分類・整理する。また、小テストの解説・講評を受けて、教科書・資料と講義ノートで答え合わせをする。		120分
15	【小テストの解説・講評】 【質疑応答】		前回の小テストの解説と講評を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、質疑応答を通じて、国際民事紛争の解決プロセスの全体について学修した知識を確認でき、それを説明することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの解説・講評を受けて、教科書・配布資料、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		140分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
クロスボーダー（国境を越えた）ビジネスや外国の当事者との間のビジネスから発生した法的問題を解決する手段とそれに関する法と実務についての基礎的知識を学修する。授業で扱う法的争点はどれも、実際に国際的に活動する法人・個人やその代理人弁護士が必然的に直面するものであり、本科目では、主に、日本でも国をあけてその活性化が望まれている国際商事仲裁に関する法的問題点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業の目的】 コモンロー法域（イギリス、アメリカ、香港、シンガポール等）とシヴィルロー法域（日本、中国等）における国際ビジネス紛争の解決に関する法と実務を国際仲裁を題材として学修する。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法、国際民事紛争処理法Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
各授業で発言を求められる受講生を事前を選び、配布資料(日本語・英語)を題材として、講義形式とディスカッション形式を併用し授業を進める。		
授業内小テストのフィードバックは、小テストを実施した次の授業中に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指名された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コモンロー系諸国とシヴィルロー系諸国における国際ビジネスの紛争解決の法と実務に関する基本的知識を身に付け、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	コモンロー法域の法律専門用語を正確に理解・説明し、それらを使用してコミュニケーションすることができる。						3	3			3	3		
③	国際契約の一般条項において定められる紛争解決条項について問題点を発見し、起案し、客観的に自己の見解を系統立てて提言することができる。						3	3	3	3	3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標①に関連する基本的知識が身についているか、及び到達目標②に関連する法律専門用語を正確に理解し適切に使用することができているかを確認する。	35	35									70
レポート等												
討論・発表等	事例について課題を提供し、授業中に事前に選ばれた受講生を中心にディスカッション（討議）を行う。その中で、到達目標①②③に関連する個別行動目標が達成されたかどうかを確認する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは行った次の回の授業で講評する。討論は行ったその回に講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。英語と日本語での資料やレジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として国際契約の実務と国際民事紛争の解決に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約と国際民事紛争解決の実務経験に基づき、主に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【国際裁判管轄権】 【管轄合意条項】 【国際民事紛争解決手段としての裁判制度の限界】	国際取引の契約書には、紛争が生じた場合に適用される法や当該紛争を解決する手段について予測可能性を高めるため、あらかじめ準拠法条項や管轄合意条項を設けることがある。日本とアメリカの管轄合意条項の要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカで管轄合意条項が有効となる要件について理解し、説明できるようになり、有効な管轄合意条項を起案し、提言できる。	
	事前学修	配布資料を読み、管轄合意と日本とアメリカの契約書における管轄合意条項の例を2つずつ探し、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した管轄合意条項の要件と例について、授業ノートに分類・整理する。	120分
2	【裁判外紛争解決手段】	裁判以外の国際民事紛争解決の手段としては、交渉、調停、仲裁がある。これらの各手段の国際ビジネスにおける特徴（長所と欠点）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際ビジネスにおける紛争解決手段としての交渉、調停、仲裁の特徴について、理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、国際ビジネスにおける交渉、調停、仲裁の特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した交渉、調停、仲裁の特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分
3	【ハイブリッド条項】	国際民事紛争解決の目的においては、裁判外紛争解決手段(ADR)である調停を裁判に前置したり、調停を仲裁に前置することを合意することによって、裁判や仲裁を事前に回避する紛争解決条項（ハイブリッド条項）の利用が検討されることがある。日本とアメリカにおけるハイブリッド条項の要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、ハイブリッド条項の種類と要件について理解し、説明できるようになり、有効なハイブリッド条項を起案し、提言できる。	
	事前学修	配布資料を読み、ハイブリッド条項について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修したハイブリッド条項の種類と要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分
4	【ハイブリッド条項（続き）】	シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み、シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修したシヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
5	【世界の国際仲裁制度の動向】 【小テスト（第1回目）実施】	世界の著名な国際仲裁機関における国際商事仲裁の件数を概観し、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向を学修する。小テスト（第1回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際仲裁の利用について中国、香港、シンガポール、韓国、欧米の動向を考察し、それとの比較において日本の現状を理解し、説明できるようになる。また、自らが考えるかかる日本の現状の理由について、グループディスカッションをとおしてコミュニケーションし発信することができる。	
	事前学修	これまでにあつかった配布資料を読み、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向とその背景について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の1回目から4回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第1回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	これまでにあつかった配布資料、授業のノートを確認し、学修した諸外国との比較における日本の国際仲裁の利用の動向とその理由について、授業ノートに分類・整理する。	120分
6	【国際仲裁合意の効力】 【小テスト（第1回目）講評】	日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について学修する。小テスト（第1回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について理解し、その違いを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【国際仲裁に関する専門用語】	Arbitration Agreement、Submission Agreement、Severability、Arbitrability、Kompetenz-Kompetenz、Arbitration Award、functus officio等の国際仲裁の実務に関連する法律専門用語の意味を理解し、それらが使用される実務での場面を認識する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際仲裁の実務に関連する法律専門用語の意味を英語と日本語で理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、日本とアメリカの仲裁の実務に関連する法律専門用語を列挙しその意味について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの国際仲裁の実務に関連する法律専門用語の意味について、授業ノートに分類・整理する。	120分
8	【国際仲裁の事実審理の流れと特徴】	日本とアメリカにおける仲裁審理の流れとその特徴を対比して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際仲裁の事実審理の流れと特徴を日本との比較において理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、国際仲裁の事実審理の流れとその特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際仲裁の事実審理の流れと日本との比較におけるその特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分
9	【国際仲裁条項の内容】	欠陥のある仲裁条項（pathological arbitration clause）に関する問題点を考察し、仲裁条項に記すべき内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、仲裁条項の欠陥とその問題点を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、欠陥のある仲裁条項とその問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した欠陥のある仲裁条項の事例と仲裁条項に記すべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分
10	【国際仲裁条項の起案】 【小テスト（第2回目）実施】	国際仲裁条項のドラフティング（起案）について学修し、グループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、仲裁条項に記されるべき内容の理解を深化させ、仲裁条項をドラフティング（起案）し、その起案の理由をコミュニケーションし、最終的な国際仲裁条項を提言できる。	
	事前学修	仲裁条項に記されるべき内容について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の5回目から9回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第5回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した仲裁条項に記されるべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分
11	【国際仲裁条項の起案（続き）】 【小テスト（第2回目）講評】	言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点をグループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点を理解し、説明し、コミュニケーションし、提言できる。	
	事前学修	配布資料を読み、言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
12	【外国仲裁判断の取消】	日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【外国仲裁判断の承認と執行】 【小テスト（第3回目）実施】	外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由についてニューヨーク条約に関連して学修する。また、外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、ニューヨーク条約における外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由について理解し、説明できるようになる。外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所の裁判所における承認と執行の可能性について理解し、説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、ニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の10回目から12回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第3回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修したニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について、授業ノートに分類・整理する。	120分
14	【まとめと質疑応答】 【小テスト（第3回目）講評】	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。 小テスト（第3回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	配布資料を読み、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
15	【まとめと質疑応答（続き）】 【クラスディスカッション】	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	配布資料を読み、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分

科目名	国会論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、前期の立法過程論に引き続き、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性について理解します。

【履修条件】
学修効果の観点から、前期の「立法過程論」を履修していることが必要です。※政経学科の学生のための授業です。他学科の学生は履修できません。

【授業方法】
講義を軸に授業を進めます。 ※本年度はオンデマンド方式で実施致します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。								2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。							2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。							2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第4版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法律の立案－官僚機構	立法過程において官僚の果たす役割とその問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会審議以前に官僚が果たす役割について説明することができる。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	法律の立案－審議会	審議会政治とそれが政策過程に与える影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、審議会政治の特徴やその問題について、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	法令審査	内閣法制局と衆参両院法制局の組織や役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣法制局や両院法制局の仕組みについて理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	与党審査－政務調査会	自民党の政務調査会の組織、役割、課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、与党審査における政務調査会の役割を他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	与党審査－総務会	自民党の総務会の組織、役割、課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総務会の組織や特徴について理解し、それを説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	族議員の登場とその役割	政策形成過程に大きな影響力を行使する族議員の役割、性格等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、族議員の定義を含め、その役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ポスト５５年体制下の与党審査		連立政権が常態化した時代の与党審査の特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単独政権下と連立政権下で与党審査がどのように変化したのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
8	政府内手続き		事務次官等会議をはじめとした政府内手続きの特徴を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、かつて政策形成過程で大きな意味をもった事務次官等会議の特質について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
9	政府内手続き－閣議		閣議決定の仕組みや特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、閣議決定の意味や特徴を理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
10	予算編成と財務省の役割		わが国における予算編成の流れ、及びその特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における予算編成のプロセスや特徴を理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
11	予算編成と経済財政諮問会議		日本の財政状況に触れながら、予算編成の改革の軌跡について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの日本で行われてきた予算編成にかかわる改革の概要を理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
12	国会における決算		国会における決算機能強化の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、軽視されがちな決算審査の意義を、参議院改革の文脈で理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会とマス・メディア	立法過程にマス・メディアの及ぼす影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・メディアの報道が立法過程にどのような影響を与えるのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	国会改革	国会改革の歴史を振り返りながら、その可能性と限界について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの国会改革の概要を理解しつつ、その問題や限界について他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りながら、国会の特質やその問題・課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる				1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる					1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる					1	1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーションの社会学	長谷正人・奥村隆	有斐閣	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	120分
2	コミュニケーションは成立することだけが重要なのか？	日常的なコミュニケーションを観察し、コミュニケーションの原理を考える	
	この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書第2章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
3	コミュニケーションは、パラドックスの関係なのか？	文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
	事前学修	教科書・第3章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
4	コミュニケーションと記号①	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
	事前学修	ポータルサイトにアップした講義資料を読んできること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
5	コミュニケーションと記号②	記号を用いた、実際のコミュニケーションについて考える	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現象を分析し説明することができる	
	事前学修	ポータルサイトにアップした講義資料を読んできること	135分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	105分
6	対話とディス・コミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。コミュニケーションとディス・コミュニケーションとの表裏の仕組みを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第5章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	権力としてのコミュニケーション		コミュニケーションは権力作用、象徴暴力の作用である	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー権力関係を把握し、説明することができる		
	事前学修	教科書・6章を読んでくること		120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		120分
8	説得のコミュニケーション		説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる		
	事前学修	教科書・第7章を読んでくること		120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		120分
9	遊びと笑いのコミュニケーション		キャラとは何か？アバターとは何か？コミュニケーションの演劇性を考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの演劇性、儀礼性を把握し、説明することができる		
	事前学修	教科書・第8章を読んでくること		120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		120分
10	秘密のコミュニケーション		映像資料を用いて、秘密、プライバシーの仕組みを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、秘密と社交について説明することができる		
	事前学修	ポータルサイトにアップした講義資料を読んできること		180分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		90分
11	恋愛としてのコミュニケーション		恋愛とはひとつのノルムでありイデオロギーである	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、恋愛の関係構造を把握し、説明することができる		
	事前学修	教科書・第9章、第10章を読んでくること		120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		120分
12	コミュニケーションと公共性		公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる		
	事前学修	ポータルサイトにアップした講義資料を読んできること		120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	家族のコミュニケーション	映像資料を通して、家族とコミュニケーションについて考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第11章を読んでもくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	コミュニケーションとしてのケア	コミュニケーションにとって他者の存在について考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
	事前学修	教科書・第13章、14章を読んでもくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
	事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
	事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習する	90分

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）

【授業方法】		
講義形式で授業を進めます。指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。資料等の配布・閲覧でGoogle Classroomを使用する場合があります。なお、社会状況に応じて授業形態が変更になる場合もあります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる						2						
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる							2					
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容に関連する小テストを実施し、到達目標①②③の観点から評価する。なお、履修者の状況や授業形態に応じて小レポートへと変更する場合もある。	10	15	25								50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。レポートは期末課題としての実施を予定している。	10	15	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日10:30-11:30（連絡先はGoogle Classroomに掲載する）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
	事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
	事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	コミュニケーション偏重の時代（1）	格差化する人間関係のなかで	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、人間関係をめぐる格差化の問題について説明することができる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	コミュニケーション偏重の時代（2）	コミュニケーション至上主義	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を自身の経験をふまえながら説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	アイデンティティからキャラへ（1）	外キャラという対人関係の技法	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、日常生活の経験に引きつけて「外キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	アイデンティティからキャラへ（2）	内キャラという絶対的な拠り所	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、自身の経験をふまえて「内キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	キャラ社会のセキュリティ感覚（1）	子どもと相似化する大人の世界	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、親や教師との関係におけるフラット化を自らの経験に即して説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	キャラ社会のセキュリティ感覚（2）	子どもをキャラ化する大人たち	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体的な事例に基づき社会における包摂と排除を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	キャラ化した子どもたちの行方	閉塞化するコミュニケーション／「キャラ化」を越えて	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、閉塞化するコミュニケーションの問題を説明し、解決の道筋を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	メビウスの輪の罫り（1）	つながり過剰症候群／多様化する価値観	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、授業の内容をふまえて自身のネットを通じたつながりの実態を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	メビウスの輪の罫り（2）	自由な関係の二面性／関係不安からの依存	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会におけるつながり依存の問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	つながりの格差化（1）	新自由主義とリスク化／コミュニケーション能力	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	つながりの格差化（2）	インフラとしての友だち／「つながり力」専制の時代	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人の数の多さが重視される理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「いいね！」の承認願望（1）	暴走するつながり意識／SNSでの自己承認	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、SNSを通じた承認願望の高まりの理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	「いいね！」の承認願望（2）	世代間ギャップの縮小／承認の耐えられない軽さ	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友だちとの関係性といじめの問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	常時接続を超えて	肥大する承認願望／キャラの機能／つながりの質的転換へ／ほか	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	債権法各論	担当者	竹田 智志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第3編「債権」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、契約の成立要件、契約を締結したのに一方当事者が義務を守らなかった場合の規律などをみる。また、売買や贈与、賃貸借、消費貸借、委任、請負といった主要な契約法の規律を具体例を通して学ぶ。さらに、例えば、事故によって加害者が被害者の権利や法律上保護される利益を侵害した場合に問題となる不法行為法を詳しく学ぶ。不当利得や事務管理についてはその概要を学ぶ。債権法各論は日常生活に関わる事項が多く、本科目は社会における法的問題に対処する上で重要な科目である。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
債権法各論に規定されている条文の具体例や制度趣旨・要件・効果、判例や学説などの必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、そして具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
実務及び学会等の動向、最新の判例等を視野に入れつつ講義を行うことにする。必要に応じて「講義資料」を配布。オンライン講義実施の場合は、毎回Googleclassroom上で出席の確認を取る。その場合、中間・期末レポートの実施する（詳細は初回講義時に行う）。なお対面講義の場合も詳細については初回講義（ガイダンス時）に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員が問いかけた場合、どの様に考えるか。講義終了時のリアクションペーパー等で表現していただく。これは単に知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。			2					
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。			2					
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。			2					
④	債権法各論に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べることができる。			2					
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを 筆記試験によって評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等	区切りの良いところで中間試験を行う。											
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートライン債権法（第7版）	池田真朗	日本評論社	2020	教科書	必携
六法（デイリー・ポケット）				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了時等に受け付ける。 takeda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	新聞記者
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場での経験を披露するケースがある。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び序説	債権の概念、発生、性質、内容、契約各論序説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、契約各論の概要と特徴につき説明できる。	
	事前学修	テキストを読み込み、債権の概念を踏まえ、契約各論の扱う13種類の典型契約を俯瞰する。（テキスト6頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
2	贈与契約	意義・性質・成立・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特殊な贈与を含む贈与契約の全体像を説明できる。	
	事前学修	教科書を読み、贈与契約（無償・片務・諾成契約）の基本的な特色を掴む。（テキスト62頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
3	売買（1）	意義・性質・成立ほか、予約・手付・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、売買契約の基本的枠組みを説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、売買の基本的側面の考察。（テキスト73頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
4	売買（2）	売買契約の効力（売主の担保責任）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、売主の担保責任について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、買主の権利、買戻等を考察する。（テキスト86頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
5	交換・消費貸借・使用貸借	各契約の意義・性質・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、三契約の内容を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、三契約の特色を考察。（テキスト99頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
6	賃貸借（1）	意義・性質・成立・賃貸借の基本的側面・期間	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸借の全体像の説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、全体像の把握を行う。（テキスト113頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	賃貸借（２）	特別法「借地借家法」との関連性を考察	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特別法とのリンクにつき説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、賃貸借契約と特別法の関連性を考察する。（テキスト１１７頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	雇用 (区切りが良ければ中間試験を行う)	意義・性質・労働法との関連性	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法と特別法（労働法）を踏まえた説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、特別法との関連性を考察する。（テキスト１３０頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	請負（１）	意義・性質・成立・報酬の支払時期と注文者の利益に基づく報酬の請求	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、請負契約の基本的枠組みを説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、請負契約の特色を押さえる。（テキスト１３２頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	請負（２）	効力（請負人の義務・担保責任・解除）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、請負人の担保責任等を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、請負契約の効力全般を考察する。（テキスト１３５頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	委任	意義・性質・成立・効力（準委任を含む）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、委任の全体像を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み込み、委任の全体像を考察する。（テキスト１４２頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	寄託	意義・性質・成立・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、寄託契約のスキームについて説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、寄託全般を考察。（テキスト１４５頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	組合	意義・性質・成立・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法上の組合契約について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、組合全般の考察。（テキスト148頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
14	終身定期金・和解	意義・性質・成立・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、両者の全般的説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、両者のスキームを考察する。（テキスト149頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
15	債権法各論のまとめと授業内試験	授業内試験を行う場合は60分を予定。解説30分。定期試験実施の場合は、前期授業の振り返り・解説をポータルサイトで配信（六法のみ持込可とする）。オンライン講義を実施する場合は、前期授業の振り返りとGoogleclassroom上でレポート提出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまで学修してきたことを理解し自ら説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義をよく復習し、わからなかったところを書き出しておく。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめておく。	120分

科目名	債権法総論	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。

【履修条件】
民法総則の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
レジュメに沿って授業を進める。具体的な設例（教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。受講生は事例の関係図を書いたり、担当者の説明を聴いて大事な部分についてレジュメの余白にメモを取ったりして、授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを用いて理解度の確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。					2						
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。					2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力・考察力等が修得できているか否かについて、授業内試験により評価する。後述の授業内課題を3回以上提出していない場合には試験の受験を認めない。	20	25	25	10							80
小テスト等	小テスト（2回の授業で1回程度は実施予定）によって、到達目標①②にかかわる基本概念や制度趣旨が身についているかを確認する。実施形式についてはGoogle Classroomを予定している。授業内課題を3回以上提出していない場合には試験の受験を認めない。なお、授業中の課題が20点を超えた場合には、加点することがある。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	25	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのgoogle classroomによる理解度確認と解説、授業内試験の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法4 債権総論（有斐閣ストゥディア）	山本監修 栗田＝坂口＝下村＝吉永	有斐閣	2018年	教科書	必携
債権総論〔第2版〕	石田＝荻野＝齋藤	日本評論社	2023年	教科書	推奨
民法4 債権総論（有斐閣アルマ）	片山＝白石＝荻野	有斐閣	2023年	教科書	推奨
民法判例百選II 債権〔第9版〕	窪田＝森田宏樹編	有斐閣	2023年	参考書	任意
民法③債権総論 判例30！ 増補版	田高＝白石＝山城	有斐閣	2023年	参考書	推奨
備考	各自の学修目的に応じて必携以外の教科書でもかまいません。最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
授業後に質問してください（その他の時間でも適宜対応しますが、事前にメールを送ってください） yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 「★」を「@」に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入		授業の目的・概要、成績評価方法、教科書・参考書などを説明します。その後、今後の授業を理解するにあたって必要となる債権法総則の全体像や基礎用語・概念を学びます。 履修を希望する学生は、必ずガイダンスに出席して、授業の目的や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、債権法の基本用語、債権法総則の位置づけを理解すること。		
	事前学修	なぜ債権法総則を履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学修することができるのか授業計画を立てること。		30分
	事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。今後、債権法総則を学ぶ際に必要となる重要用語を確認すること。また民法総則を復習しておくことが望ましい。		30分
2	債権の目的 債権の種類		まず、債権の対象（債権者が債務者に対してどのような行為を請求できるのか）を確認します。この事項を踏まえ、債権の種類について、特定物債権と種類債権、金銭債権と利息債権、選択債権について具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権の対象及び債権の種類について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
3	債務不履行の全体像 履行請求及び履行の強制		まず、債務不履行にかかわる制度の全体像を確認します。そして、債務不履行の種類について、履行遅滞・履行不能・その他の債務不履行（契約不適合）について具体例を通して学びます。また、債権の効力のうち、履行請求権とその制限、履行の強制についても学修します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の全体像、債務不履行の種類、履行不能の判断基準、強制執行の方法について、具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
4	債務不履行に基づく損害賠償①―損害賠償の要件		債務者が債務の履行をしない場合に、債権者は債務者に損害賠償を請求できます。この回では債務不履行による損害賠償の成立要件や免責事由、債務の履行に代わる損害賠償の要件などについて具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行による損害賠償の要件、債務者の帰責事由の判断基準などについて、具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
5	債務不履行に基づく損害賠償②―損害賠償の効果		債務不履行に基づく損害賠償の効果について、賠償範囲の確定と金銭評価の問題、過失相殺や違約金の定めなどの規定、損害賠償による代位を具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行によって生じた損害の賠償範囲の画定と金銭的評価、過失相殺、賠償額の予定、損害賠償による代位について、具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
6	債権者代位権①―債権者代位権の意義・要件・行使方法・効果		責任財産制度のうち、債権者代位権（債務者が、自己が有する債権の行使を怠っているときに、債権者が代わってこれを行使する制度）の要件・行使方法・効果について具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、責任財産を保全するための債権者代位権の必要性和要件・行使方法・効果、債権者代位権の事実上の優先弁済機能について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	債権者代位権②―債権者代位権の転用 詐害行為取消権①―意義と要件		債権者代位権が責任財産の保全とは異なる目的で用いられる場合（転用型）について具体例を通して学びます。 授業の後半では、詐害行為取消権（債務者が責任財産を減少させて、債権者による債権の回収ができなくなる行為をしたとき、一定の要件のもとで債権者が当該債務者の行為を取り消しできる制度）の要件について確認します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定の権利を保全するための債権者代位権（債権者代位権の転用）について具体例を用いて説明できるようになること。また、詐害行為取消権の要件について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	詐害行為取消権②―行使方法、効果、期間制限		前回に続いて、詐害行為取消権の行使方法、効果などについて具体例を通して学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、詐害行為取消権の行使方法、効果について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	多数当事者間の債権・債務関係		複数の債権者や債務者がいる場合の法律関係のうち、分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債権・債務について具体例を通して学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債権・債務の意義、各債権者・債務者の1人の行為または1人について生じた事由が他の債権者や債務者にどのような影響を及ぼすか（相対的効力・絶対的効力）について、具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	保証		多数当事者の債権債務関係のうち、保証を学びます。具体的には、保証債務の意義・成立・性質、保証債務の内容、保証人が債権者に対して主張できる事由、保証人の求償権、連帯保証、共同保証、根保証について具体例を通して学修します。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証債務の意義・成立、保証債務の補充性・付従性・随伴性、保証人の抗弁事由や求償権、連帯保証、共同保証、根保証について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	債権譲渡①―債権譲渡の要件		債権譲渡（債権者が自己の債権を他人に移転すること）の意義・成立要件・対抗要件（対債務者対抗要件、第三者対抗要件）について具体例を通して学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債権譲渡の意義・成立要件、債権譲渡の対債務者対抗要件・対第三者対抗要件について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	債権譲渡②―債権譲渡の効果、債権の譲渡性、債務引受		前回に続いて、債権譲渡について、債権譲渡の効果、債権譲渡禁止事由を具体例を通して学びます。その後、債務引受についても学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、将来債権譲渡、債権譲渡禁止特約、債務引受について、具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	債権の消滅原因―弁済、受領遅滞 相殺①―相殺の意義と要件	債権の消滅原因である弁済に関する様々な規律を学びます。また債権の消滅にかかわる問題として、受領遅滞（債務者が債務の履行を提供したにもかかわらず、債権者が受領を拒み又は受領できない場合）を確認します。 その後、時間があれば、相殺制度の意義と要件について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、弁済・代物弁済・供託、弁済による代位、受領遅滞、相殺制度の意義と要件（相殺適状）について、具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	360分
14	相殺②―相殺の要件、相殺と差押え	前回に続いて、相殺の要件を学びます。その後、相殺と差押えという問題について具体的を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相殺の要件、差押えと相殺をめぐる判例法理と改正民法の規律について、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	試験に向けてこれまでの授業を総復習する。レジュメ・教科書を復習し、論述問題の準備をしておくこと。	360分
15	質問と試験	質問があれば回答したのち、試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修してきたことを理解し、自分の言葉で説明できるようになること。	
	事前学修	試験に向けてこれまでの授業を総復習する。レジュメ・教科書を復習し、論述問題の準備をしておくこと。	360分
	事後学修	試験において出来たところ、特に出来なかったところがあれば教科書やレジュメを用いて復習すること。	120分

科目名	財政学Ⅰ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい）。

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う。必要な資料は講義中に配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム（レスポん）、Ｙドライブを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 場合により筆記試験を授業外課題に替えることもある。	20	20	20	20							80
小テスト等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出により、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				5							5
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・ 竹本・川又	八千代	2022	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入講義	教科書の第1章 財政の3大機能から、1 財政と、財政学の歴史を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、社会科学における財政学の位置づけを理解し、財政学を学ぶ意義を認識する。	
	事前学修	古典学派と官房学派及びその代表者について調べる。	120分
	事後学修	財政学の2大源流を説明できるようにする。	120分
2	財政と資源配分機能①	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、受講生が財政の機能の意義について説明できるようにする。	
	事前学修	現代の財政に期待される役割を調べる。	120分
	事後学修	市場の失敗を説明できるようにする。	120分
3	財政と資源配分機能②	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民間財と公共財の違いを認識し、財政の資源配分機能を説明できるようにする。	
	事前学修	公共財の概念を調べる。	120分
	事後学修	純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。	120分
4	財政と所得再分配機能①	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、資本主義は所得不平等を前提とする社会であることを説明できるようにする。	
	事前学修	資本主義における所得の不平等の原因を調べる。	120分
	事後学修	絶対的貧困と相対的貧困を説明できるようにする。	120分
5	財政と所得再分配機能②	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、財政の所得再分配機能を説明できるようにする。	
	事前学修	所得再分配を実現している累進税と生活保護を調べる。	120分
	事後学修	ローレンツ曲線とジニ係数を説明できるようにする。	120分
6	財政と経済安定機能①	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、世界大不況の原因を説明できるようにする。	
	事前学修	J. M. ケインズの経済・財政学界における業績について調べる。	120分
	事後学修	J. M. ケインズの有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財政と経済安定機能②	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにし、そして5 現代財政の課題を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政の経済安定機能を説明できるようにする。	
	事前学修	フィスカル・ポリシー、ビルト・イン・スタビライザーを調べる。	120分
	事後学修	フィスカル・ポリシーの目標である完全雇用を説明できるようにする。	120分
8	財政民主主義	教科書の第2章 予算制度から、1 財政民主主義の歴史と意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、財政民主主義の意義を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義の歴史的背景を調べる。	120分
	事後学修	戦前と戦後の日本における財政民主主義の相違を説明できるようにする。	120分
9	予算制度	教科書の第2章から、2 予算制度の概要を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、予算がどのような過程を経て成立するか、説明できるようにする。	
	事前学修	予算の種類を調べる。	120分
	事後学修	財政法の規定を確認する。	120分
10	予算原則	教科書の第2章から、3 予算原則を中心に財政民主主義との関連を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算原則を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義と予算原則との関係を調べる。	120分
	事後学修	伝統的予算原則と現代的予算原則の相違を調べる。	120分
11	予算制度	教科書の第2章から、4 予算制度の課題をプライマリーバランスの観点から明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、財政の役割を実現するために必要な予算制度を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義を再確認する。	120分
	事後学修	予算制度の課題を調べる。	120分
12	政府支出	教科書の第3章 政府支出の理論と実際から、1 政府支出の理論を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、政府支出（経費）の効果を説明できるようにする。	
	事前学修	ケインズの有効需要の原理、乗数理論を再確認する。	120分
	事後学修	フィスカル・ポリシーの内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	経費膨張		教科書の第3章から、2 政府支出の膨張要因を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、経費膨張の法則を説明できるようにする。	
	事前学修	アドルフ・ワグナーの財政学界における業績を調べる。	120分
	事後学修	ピーコック、ワイズマンの経費膨張論を調べる。	120分
14	政府支出の構造		教科書の第3章から、3 政府支出の構造を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	
	事前学修	政府支出（経費）の効果（乗数効果）を再確認する。	120分
	事後学修	政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	120分
15	経費区分		教科書の第3章から、4 主要な経費を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主要経費やその他の経費区分を説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算の政府支出（経費）を調べる。	120分
	事後学修	主要経費の額を各年度で比較する。	120分

科目名	財政学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱ、財政学Ⅰを履修していることが望ましい。またマクロ経済学Ⅰ、Ⅱを履修中であることが望ましい。）

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う（動画の視聴）。必要な資料は講義中に配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム（レスポンス）、Yドライブを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。								2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。								2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。								2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。								2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 場合により筆記試験を授業外課題に替えることもある。	20	20	10	20							70
小テスト等	グーグルフォーム小テストにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・サイトを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又	八千代	2018	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入講義	教科書第4章 租税の原則と日本の税制 1 税の役割と租税原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税の概念と課税の正義を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげた財政民主主義を調べる。	120分
	事後学修	憲法の租税に関連する条文を調べる。	120分
2	租税原則	教科書 1 税の役割と租税原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スミス4原則、ワグナー4大9小原則、現代租税原則を説明できるようにする。	
	事前学修	租税が果たしている役割を調べる。	120分
	事後学修	その他の租税原則を調べる。	120分
3	公平な税	教科書 2 公平な税とは	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、水平的公平と垂直的公平を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰで言及した比例税と累進税の違いを確認する。	120分
	事後学修	公平な租税をみずから考える。	120分
4	応益原則と応能原則	教科書 2 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公平な課税といわれる累進税を犠牲説によって正当化できるようにする。	
	事前学修	経済学で学ぶ限界効用の概念を確認する。	120分
	事後学修	応益原則と応能原則を調べる。	120分
5	租税の転嫁と帰着	教科書 2) 租税の転嫁と帰着	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、転嫁の種類を説明できるようにする。	
	事前学修	現代租税原則のうち中立原則を再確認する。	120分
	事後学修	前転、後転、帰着を調べる。	120分
6	租税の転嫁と帰着	教科書 2) 租税の転嫁と帰着②	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、租税転嫁によってひきおこされる超過負担を説明できるようにする。	
	事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる余剰概念（消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰）を調べる。	120分
	事後学修	価格弾力性について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課税と経済効率	教科書 3 課税と経済効率	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、所得税と労働供給の関係を説明できるようにする。	
	事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる代替効果、所得効果を調べる。	120分
	事後学修	労働供給に影響を与えるものは何か、を調べる。	120分
8	日本の租税構造	教科書 4 日本の租税構造 5 所得税 6 消費税 7 法人税 8 資産課税	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、各租税の収入の大きさを説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
	事後学修	各租税の収入を各年度で比較する。	120分
9	公債論	教科書第5章 日本の公債問題 1 租税と公債の相違	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税と公債の違いを説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
	事後学修	公債残高を調べる。	120分
10	公債の現状	教科書 2 公債発行の問題 3 公債の負担 4 日本の公債発行の現状	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政赤字を減らす方法を説明できるようにする。	
	事前学修	公債依存度を調べる。	120分
	事後学修	プライマリー・バランスを調べる。	120分
11	社会保障財政	教科書第6章 社会保障財政 1 超高齢社会と社会保障	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、超高齢社会における財政の役割を説明できるようにする。	
	事前学修	日本の人口ピラミッドを調べる。	120分
	事後学修	日本の社会保障制度を調べる。	120分
12	社会保障制度	教科書 2 年金保険制度 3 医療保険制度と財政 4 公的扶助	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、日本の年金保険制度を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげられる財政の所得再分配機能を調べる。	120分
	事後学修	積立方式と賦課方式を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	財政政策		教科書第7章 財政政策の理論 1 政府の目的 2 乗数効果と45度線分析
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、均衡国民所得の決定を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげられる財政の経済安定機能を調べる。	120分
	事後学修	ケインズの有効需要の原理を調べる。	120分
14	IS曲線とLM曲線		教科書 3 IS曲線とLM曲線 4 IS-LM分析
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、IS曲線とLM曲線、クラウディングアウトを説明できるようにする。	
	事前学修	経済学及びマクロ経済学でとりあげられる流動性選好を調べる。	120分
	事後学修	IS曲線とLM曲線を自分で書いてみる。	120分
15	地方財政		教科書第8章 地方の財政問題
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、地方財政の役割を説明できるようにする。	
	事前学修	中央財政と地方財政の違いを調べる。	120分
	事後学修	地方財政の規模を調べる。	120分

科目名	財務諸表論Ⅰ	担当者	古市 雄一朗	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。					2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。					2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。					2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。					2	2	2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験により各到達目標に達しているかを判断し成績評価を行います。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	内容の確認のため必要に応じて講義内課題を課します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の会計	齋藤真哉	放送大学教育振興会	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。 furuichi.yuichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
	この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	会計の意義	(1) 会計の意義と対象領域、(2) 会計の機能と目的、(3) 会計情報伝達の道具としての財務諸表について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	会計の基礎	(1) 財務会計の前提(会計公準) (2) 会計主体について考察し、解説する	
	この回の到達目標	会計公準が果たす役割について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	複式簿記と財務諸表の構成要素(1)	複式簿記の全体像について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計情報において簿記が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	複式簿記と財務諸表の構成要素(2)	前回の複式簿記の全体像について確認した上で、財務諸表の構成要素について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	実際に簡単な簿記処理が行えるようになる。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	損益計算と資産負債の関係(1)	(1) 財務会計におけるキャッシュフロー制約、(2) 収益費用アプローチと資産負債アプローチについて考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計における資産・負債の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	損益計算と資産負債の関係(2)	収益費用アプローチと資産負債アプローチについて確認した上で、（１）収益の費用の計算基準、（２）資産と負債の計算基準について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	資産負債アプローチと収益費用アプローチの異同とその意義について正しく理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	第5章 会計制度（１）	（１）会計制度を規制する主な法律、（２）会計制度の概要、（３）会社法会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	日本におけるトライアングル体制の意義について正しく理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	第5章 会計制度（２）	金融商品取引法会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	会計制度（３）	税務会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計制度と法人税法の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	財務諸表（１）	（１）財務諸表、（２）貸借対照表、（３）損益計算書および包括利益計算書について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	主要財務諸表間の相互の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	財務諸表（２）	（１）株主資本等変動計算書、（２）キャッシュ・フロー計算書について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	財務諸表全体の体系について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会計基準（１）	企業会計原則について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計制度において企業会計原則が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	会計基準（２）	（１）日本版「概念フレームワーク」、（２）会計基準の適用対象について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計基準の体系全体を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
	この回の到達目標	制度会計の基礎について復習し、定期試験に備えて知識を整理する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	財務諸表論Ⅱ	担当者	古市 雄一朗	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。				2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。				2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。				2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。				2	2	2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験により各到達目標に達しているかの成績評価を行います。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	内容の確認のため必要に応じて講義内課題を課します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の会計	齋藤信哉	放送大学教育振興会	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。 furuichi.yuichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
	この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書第の各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	金融商品に関わる取引（１）	（１）金融資産・金融負債の意義と内容、（２）債権・債務について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	金融商品の会計上の特徴について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	金融商品に関わる取引（２）	有価証券について考察し、解説する	
	この回の到達目標	有価証券の会計上の取扱いについて理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	金融商品に関わる取引（３）	（１）デリバティブ（金融派生商品）、（２）ヘッジ取引について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	各種金融商品の会計上の処理について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	棚卸資産に関わる取引	（１）棚卸資産の意義と範囲、（２）棚卸資産の取得原価、（３）棚卸資産の費用化、（４）棚卸資産の評価について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	棚卸資産会計の意義を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	有形固定資産に関わる取引（２）	（１）有形固定資産の内容と意義、（２）有形固定資産の取得原価、（３）有形固定資産の減価償却について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	固定資産会計の意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	有形固定資産に関わる取引（２）	リース取引について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	リース会計の意義および近年の動向を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	有形固定資産に関わる取引（３）	（１）固定資産の減損、（２）資産除去債務について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	減損会計および資産除去債務の会計について具体的にその処理を行えるようにする。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	無形固定資産に関わる取引	（１）無形固定資産の意義と内容、（２）各種無形固定資産、（３）研究開発費などの会計処理について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	引当金等に関わる取引	（１）引当金の意義と分類、（２）退職給付に係る負債について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	引当金の会計上の負債性について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	法人税等に関わる取引（１）	（１）法人税等の意義と会計処理、（２）税効果会計の目的と手続き、（３）一時差異等について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計上の利益と税務上の課税所得の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	法人税等に関わる取引（２）	（１）資産負債法と繰延法、（２）税効果額の記録と財務諸表上の表示、（３）繰延税金資産の回収可能性と繰延税金負債の支払可能性について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	税効果会計の意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	純資産に関わる取引（１）	（１）純資産の意義と内容、（２）株主資本、（３）自己株式について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	企業における株主資本の意義および会計上の純資産について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	純資産に関わる取引（２）	（１）新株予約権、（２）評価・換算差額等について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	純資産の部の構成要素について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
	この回の到達目標	情報システムとして、会計が果たす役割について講義全体を通して理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	産学連携と知的財産Ⅰ	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
産学連携は、イノベーション創出の有力な手段であり、また、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に実施されている。また、産学連携に当たり知財の的確な創出・活用が不可欠である。本授業では、産学連携に関する基本的な知識、産学連携の意義、産学連携の現況、産学連携における知財マネジメント、産学連携を推進するための方策等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。より具体的には、産学連携に関する基本的な知識を習得するとともに、産学連携の意義、産学連携と知的財産との関わり、産学連携を活性化するための方策等に関する理解を深めることにより、企業等において産学連携活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業内で講評・解説・討論を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。 また、経営法学の視点から見る産学連携と知財に関する見識を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	産学連携に関する基本的な概念を説明することができる。						3	3					
②	大学、企業及び政府における産学連携の意義を説明することができる。							3					
③	産学連携の事例について、その成功（失敗）要因、知財取扱上の工夫等を指摘することができる。								3	3			
④	産学連携の現況を説明することができる。							3					
⑤	産学連携における知財の役割及びその取扱上の留意点を説明することができる。							3	3				
⑥	産学連携を推進するための方策を説明することができる。												
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題について、合理性及び論理的思考の程度を評価する。						30					30
討論・発表等	授業内において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	5	5	5	5	5	5					30
授業への参画度	各回の到達目標に達しているか否かを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	6	6	7	7	7	7					40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		11	11	12	12	12	42					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の4限（14：10―16：10） メールアドレス：liu.binbin@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中国甘肅省發明協合理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国專利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入	スケジュール、到達目的、授業内容、成績評価の方法等についての説明。 経営及び知的財産の観点から見る産学連携とは何か。	
	この回の到達目標	本講義の目的と意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、自分の学習計画、産学連携とは何かを整理して復習しておく。	120分
2	産学連携の基本（1）	(1) 産学連携の定義について (2) 産学連携に形態 (3) 産学連携に参加するプレーヤー	
	この回の到達目標	産学連携の定義、形態、参加するプレーヤー等産学連携に関する基本的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	産学連携とは何かについて、資料とかを調べ、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、産学連携に関する基本的な知識について整理し復習しておく。	120分
3	産学連携の基本（2）	大学及び企業が産学連携に取り込む意義	
	この回の到達目標	大学及び企業が産学連携に取り込む意義について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	企業及び大学は産学連携を通して何を実現したいのかについて調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、大学及び企業が産学連携に取り込む意義について整理し復習しておく。	120分
4	産学連携の基本（3）	政府が産学連携を推進する意義	
	この回の到達目標	政府が産学連携を推進する意義について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	政府の産学連携に関する政策を調べ予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、政府が産学連携を積極的推進する意義について整理し復習しておく。	120分
5	イノベーションの源泉としての産学連携	(1) 企業の経営資源としての知識・情報 (2) 知的財産権とイノベーション (3) 知的財産権の調達手段としての産学連携	
	この回の到達目標	イノベーションと知的財産権の関係性、及び知的財産権の調達手段としての産学連携について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	イノベーションと知的財産権の関係、及び知的財産権の調達方法について調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、以下の問題①イノベーションと知的財産権の関係②知的財産権の調達手段としての産学連携の性格と特徴について整理し復習しておく。	120分
6	産学連携の実相及び課題	(1) 日本における産学連携の実相 (2) 産学連携の課題について	
	この回の到達目標	産学連携の実相及び課題について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	日本における産学連携の現状について調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、日本における産学連携の課題について整理し復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	産学連携の事例考察	産学連携の事例について、その成果、成功の要因、産・学の貢献、知財の取扱上の工夫等の分析	
	この回の到達目標	産学連携の事例の分析により、その成果、成功の要因、産・学の貢献、知財の取扱上の工夫等を指摘することができる。	
	事前学修	産学連携の参考事例の調べ、その事例を分析する際に、分析手法や着眼点などについて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、日本における産学連携の事例について分析した項目を整理し復習しておく。	120分
8	産学連携における知財マネジメント（1）	産学連携において知財的的確なマネジメントの重要性と必要性	
	この回の到達目標	産学連携において知財的的確なマネジメントの重要性と必要性について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	知的財産に関する基本的な知識を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、産学連携において知財的的確なマネジメントの重要性と必要性について分析した項目を整理し復習しておく。	120分
9	産学連携における知財マネジメント（2）	産学連携を行う際に知財に関して留意すべき点について	
	この回の到達目標	産学連携を行う際に知財に関して留意すべき点について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	産学連携を行う際に知財に関して留意すべき点は何かについて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、産学連携を行う際に知財に関して留意すべき点について分析した項目を整理し復習しておく。	120分
10	産学連携における知財マネジメント（3）	共同研究の開発・契約・権利主張等における知財の取扱	
	この回の到達目標	共同研究の開発・契約・権利主張等における知財の取扱について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	共同研究の開発、契約等段階において、知財の取り扱いに留意すべき点とは何かを予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、共同研究の開発、契約段階において、知財の取扱に留意すべき点について分析した項目を整理し復習しておく。	120分
11	産学連携における知財マネジメント（4）	ライセンス契約における知財の取扱	
	この回の到達目標	ライセンス契約における知財の取扱について国際的な観点から分析し理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	ライセンス契約における紛争の事前予防と事後解決に関する知財の取扱について予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、ライセンス契約における知財の取扱について、国際的な観点から分析した項目を整理し復習しておく。	120分
12	海外大学における産学連携のマネジメント・制度（1）	(1) 大型共同研究を実現する要素と日本における課題の所在 (2) 米国等の有力大学における産学連携のマネジメント・制度	
	この回の到達目標	海外の有力大学における産学連携のマネジメント・制度に関して理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	産学連携の先進事例として海外の有力大学におけるマネジメントの実情等を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、海外の有力大学における産学連携のマネジメント・制度について分析した項目を整理し復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	海外大学における産学連携のマネジメント・制度（2）		(1) 日本の大学の実態・課題と海外の大学の取り組みの比較 (2) 日本への示唆
	この回の到達目標	日本の大学における産学連携のマネジメント・制度の実態・課題について理解を深め、海外の有力大学の取り組みの比較を通して、与える影響や示唆について説明することができる。	
	事前学修	日本の大学における産学連携のマネジメント・制度の実態・課題について予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、日本の大学の実態と課題と海外の有力大学の取り組みの比較して、得られた示唆について自分なりの考えを整理し、復習しておく。	120分
14	中国における産学連携の実態及び課題に関する考察		知的財産の観点からみる：中国における産学連携の実態及び課題
	この回の到達目標	国際的な観点から、中国における産学連携の実態及び課題について理解を深め、日本の産学連携と比較しながら説明することができる。	
	事前学修	中国における産学連携の実態に関する内容を調べて検討し予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、国際的な観点から中国の産学連携について日本と比較して留意すべき点を整理し復習しておく。	120分
15	授業のまとめ		振り返りとまとめ：産学連携の重要性、必要性及び知財との関係について
	この回の到達目標	到達目標をの状況を確認し、産学連携と知財の重要性等を再認識し、さらなる課題を生み出すことができることについて理解を深める。	
	事前学修	授業中に配布した資料を再読し、産学連携と知財について学修したことを再認識しておく。	120分
	事後学修	学修状況を自己評価し、産学連携と知財について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分

科目名	産学連携と知的財産Ⅱ	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決、グローバル化した環境における経済の発展、企業競争力の強化等に重要な役割を果たす。本授業では、イノベーションに関する基本的な知識、企業の競争力に及ぼす影響、知財の活用とマネジメント、イノベーション創出の活性化を目指した政策等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を養成することを目的とする。より具体的には、イノベーションに関する基本的な知識を習得するとともに、イノベーションと知的財産との関わり、イノベーションと企業の競争力との関わり、イノベーション創出の活性化を目指した政策等に関する理解を深めることにより、企業等においてイノベーション創出に向けた活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業内で講評・解説・討論を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。 また、経営法学の視点から見るイノベーションと知財に関する見識を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	イノベーションに関する基本的な概念を説明することができる。					3	3						
②	イノベーションの事例について、その成功（失敗）要因及び知財の活用方法を指摘することができる。								3	3			
③	イノベーションが企業の競争力に及ぼす影響について説明することができる。						3						
④	イノベーションにおける知財マネジメントについて説明することができる。						3		3	3			
⑤	イノベーション創出を活性化するための政策を列挙し、それぞれの意義を説明することができる。						3						
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題について、合理性及び論理的思考の程度を評価する。					30						30
討論・発表等	授業内において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	6	6	6	6	6						30
授業への参画度	各回の到達目標に達しているか否かを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	8	8	8	8	8						40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	14	14	14	44						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の4限（14：10―16：10） メールアドレス：liu.binbin@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中国甘肅省發明協合理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国專利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入	スケジュール、到達目的、授業内容、成績評価の方法等についての説明。 経営及び知的財産の観点から見るイノベーションとは何か。	
	この回の到達目標	本講義の目的と意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、自分の学習計画、イノベーションとは何かを整理して復習しておく。	120分
2	イノベーションとは何か (1)	イノベーションの概念、イノベーションの特質等、イノベーションに関する基本的な知識について	
	この回の到達目標	イノベーションに関する基本的な知識について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	イノベーションに関する基本知識を調べて、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、配布した資料を再読し、イノベーションとは何かについて自分の考えをまとめて復習しておく。	120分
3	イノベーションとは何か (2)	事例研究の検討を通してさまざまなイノベーション論、イノベーションの推進力等について学修する	
	この回の到達目標	現代のイノベーション論、イノベーションの推進力等について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	イノベーション行動のメカニズム、イノベーションの分類、イノベーションの推進力等についての知識を調べて、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、以下の問題①コア・コンピタンスとは何か②イノベーションの成功要因を考え、まとめて復習しておく。	120分
4	イノベーションと知財技術	(1) 経済財としての技術 (2) 知的財産と専有性 (3) 技術の類型	
	この回の到達目標	イノベーションの視点から技術の特性、類型、知的財産権の種類、フリーライター問題について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	公共財の性格とフリーライター問題、知的財産の種類等についての知識を調べて、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①フリーライター問題を解消する方法②イノベーション視点からみる知的財産権の重要性について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分
5	イノベーションと知的財産問題	(1) ホールドアップ問題と知財 (2) イノベーション市場	
	この回の到達目標	ホールドアップ問題とは何か、知財を巡るホールドアップ問題の現状、深刻さを把握し、説明することができる。	
	事前学修	ホールドアップ問題とは何か、知財を巡るホールドアップ問題の現状、深刻さ等について調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①知財を巡るホールドアップ問題②イノベーション市場の分け方について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分
6	イノベーションと標準規格	イノベーションの視点から見る：標準必須特許 (1) 標準規格と特許 (2) FRAND条件 (3) 海外事例	
	この回の到達目標	標準必須特許とは何か、FRAND条件などについて、イノベーションの視点から理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	標準必須特許、アンチコモنزの悲劇、FRAND条件等に関する知識を調べて、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①標準必須特許を巡る問題点②イノベーションの視点から見る標準必須特許に関する国際の動向について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イノベーションと科学技術指標	(1) 科学技術指標の開発の歴史 (2) 日本の科学技術の指標 (3) 研究開発と生産性 (4) イノベーションの価値指標としての特許及び特許データの利用	
	この回の到達目標	日本の科学技術の指標、研究開発と生産性について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	科学技術の指標の読み方、研究開発と生産性に関する内容、事例を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、授業内でのポイントを考えて整理し、まとめる。	120分
8	イノベーションと企業の競争力	イノベーションが市場における企業の競争力にどのような影響を及ぼすのか	
	この回の到達目標	イノベーションの企業の競争力への影響について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	イノベーションをきっかけに企業の競争優位がどのような変化したのかについて、調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、授業内でのポイントを考えて整理し、まとめる。	120分
9	イノベーションと知財マネジメント (1)	(1) イノベーションに於ける知財の役割 (2) 知財技術の活用とイノベーション	
	この回の到達目標	イノベーションに於ける知財の役割について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	知財に関する基本知識を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、授業内でのポイントを考えて整理し、まとめる。	120分
10	イノベーションと知財マネジメント (2)	(1) 知的財産取引市場の活性化 (2) パテント・コントロール対策 (3) 共有特許の実施許諾 (4) 大学発明の特許化・ライセンス	
	この回の到達目標	知的財産取引市場の活性化の情勢、諸問題に対する対策について、イノベーションの視点から理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	パテント・コントロールとは何か、知的財産取引市場の現状等について調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、授業内でのポイントを考えて整理し、まとめる。	120分
11	イノベーション政策 (1)	(1) イノベーション政策の考え方 (2) 日本のイノベーション政策	
	この回の到達目標	日本のイノベーション政策の変遷及び主な内容について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	日本のイノベーション政策に関する内容を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①日本のイノベーション政策の特徴について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分
12	イノベーション政策 (2)	(1) 米国のイノベーション政策 (2) 中国のイノベーション政策	
	この回の到達目標	米国及び中国のイノベーション政策について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	米国及び中国のイノベーション政策に関する基本内容を予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①米国及び中国のイノベーション政策の特徴②米国、中国と比較して、日本のイノベーション政策との相違点について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	破壊的イノベーション (1)	(1) 破壊的イノベーターだった日本企業 (2) 破壊的イノベーションとは何か (3) 発明とイノベーションの違い	
	この回の到達目標	破壊的イノベーターだった日本企業の例を通して、破壊的イノベーションとは何か、発明との決定的な違いは何かについて、理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	破壊的イノベーターだった日本企業について、調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、講義内容について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分
14	破壊的イノベーション (2)	(1) 破壊的イノベーターになるためのスキル (2) 破壊的イノベーションを起すための基本戦略 (3) 破壊的イノベーションを起す組織	
	この回の到達目標	破壊的イノベーションを起こすための基本戦略、破壊的イノベーションを起こす組織について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	破壊的イノベーターになるため何かが必要なのか、破壊的イノベーションを起こす組織等について調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①破壊的イノベーターになるためのスキル②破壊的イノベーションを起こす組織の特徴について、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分
15	次世代のイノベーション及びイノベーションを続けるための倫理	(1) テクノロジーの最前線に目を向けるイノベーションの構造 (2) イノベーションにおける倫理的な価値観 (3) 問題解決能力を養う	
	この回の到達目標	テクノロジーの最前線に目を向けるイノベーションの構造に目を向けるイノベーションの構造について、また、イノベーションを続けるための倫理についての知識、意識を深め、説明することができる。	
	事前学修	テクノロジーの最前線に目を向けるイノベーションの構造変化について、また、イノベーションを続けるためどのような論理的思考力を求められるかについて調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、配布した資料を再読し、以下の問題①今注目すべき科学的ブレイクスルーとは何か②イノベーションの視点から人も企業も何が積むことが求められるのかについて、自分なりの考えをまとめて整理しておく。	120分

科目名	産業技術と知財A(情報通信)Ⅰ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
I C T（情報通信技術）の全体像や中核技術を概観し、I C Tやデジタルコンテンツによるアプリケーション、サービス、ビジネスと知的財産権との関わり、および法的課題などについて学修する。特に、情報通信Ⅰではコンピュータハードウェアとソフトウェアおよびデジタルコンテンツについて、情報通信Ⅱでは情報通信ネットワークとインターネットおよび情報セキュリティをテーマに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報通信機器やデジタル家電などのI C T（情報通信技術）を用いた装置やシステム、インターネットなどの情報通信ネットワークの仕組みを知ることにより、その効果的・効率的な活用を考える力、およびI C Tによる産業や社会の変化と、それに伴う法的課題などについて考察する力を身につける。

【履修条件】
I C T（情報通信技術）や情報通信サービス、デジタルコンテンツに興味があること。予備知識は不要とする。

【授業方法】
プレゼンテーション資料（プロジェクタ投影）や配布資料による解説と質疑応答に加え、履修生からのレポートへのフィードバックや質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で簡単な課題を与え、提出レポートに対してフィードバックを行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	I C Tの基本要素であるコンピュータや情報通信ネットワークなどの基本的な仕組みを理解し、説明できる。							1					
②	I C Tやデジタルコンテンツ技術が我々の生活の中で使われる際の課題を理解し、既存サービスへの応用において工夫できる。							2	1				
③	自分自身が触れたこと、あるいは見聞したことのないI C Tやデジタルコンテンツ技術を活用したサービスやビジネスについて想像したり予測したりできる。								2	2			
④	I C Tに関連した法令等について理解を深め、運用上の課題などを整理、考察できる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業で簡単な課題を与え、それまでに学修した項目について内容の理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見・考え方が要求する基準となっているかを評価する。	20	10									30
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容について履修生に質問して回答を求めるとともに、履修生にも質問させてそれに回答することで、個々の履修生の学習態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題についてレポートを提出してもらい、授業内において講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：20 iwaki.osamu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 情報通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービスの推進。
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータハードウェアやソフトウェア、インターネットなどの技術的な仕組みのみならず、サービスやビジネスの現状・課題を含めた実務について理解できるように解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス／ I C Tとは	I C T（情報通信技術）の対象、発展の経緯について学修する。また、授業の進め方、成績評価の方法などを確認する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、I C Tの対象、情報処理や情報通信の意味や位置付けについて理解する。		
	事前学修	I T (Information Technology)やI C T (Information Communication Technology)といった用語の意味をWeb等で調べる。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
2	情報のデジタル化	情報の役割、アナログ情報とデジタル情報の特徴、文字・音声・画像情報のデジタル化の方法について学修する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、情報の役割、アナログ情報とデジタル情報の基本的な違いについて理解する。		
	事前学修	「情報」という言葉から自分自身が思い浮かべる内容を整理し、自分が利用しているP Cやスマートフォンの中にはどのような情報が入っているか抜き出してみる。また、アナログとデジタルの違い、2進数とは何かを調べ、1 0進数の“1”から“1 0”までを2進数で表してみる。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特にアナログ情報とデジタル情報の違いについて十分に理解する。		120分
3	コンピュータの仕組み	コンピュータ発達の歴史、コンピュータの種類、コンピュータシステムの構成について学修する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータの種類や構成について理解する。		
	事前学修	情報処理学会（国内最大の情報処理に関する学会）のホームページ「コンピュータ博物館（ http://museum.ipsj.or.jp/ ）」に目を通しておく。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
4	コンピュータハードウェア	コンピュータハードウェアとソフトウェアの違い、ハードウェアの構成と各部の役割、性能指標などについて学修する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータの基本的なハードウェア構成と働きについて理解する。		
	事前学修	自分が使用しているコンピュータ装置（P Cやタブレット、スマートフォン等）の構成要素を洗い出し、リスト化する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
5	コンピュータソフトウェア	コンピュータソフトウェアの構成とそれぞれの役割について学修する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータの基本的なソフトウェア構成と働きについて理解する。		
	事前学修	自分が使用しているP CやスマートフォンのO S (Operating System)、アプリケーションの名称等を確認し、列挙する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
6	コンピュータの動作原理	コンピュータのオペレーティングシステム（O S）とアプリケーションプログラム（A P）の機能と動作について学修する。		
	この回の 到達目標	到達目標①、②に関連して、O SとA Pによるコンピュータの基本的な動作の仕組みについて理解する。		
	事前学修	P Cやスマートフォンで利用可能なアプリケーションにはどのようなものがあるか挙げてみる。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特にO Sの役割について十分に理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パーソナルコンピュータの普及の歴史	パーソナルコンピュータ（P C）の普及に影響を及ぼしたコンピュータ産業の巨人企業、I B M、マイクロソフト、アップルなどの開発競争を振り返り、普及の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、製品の普及に必要な要素について考察する。	
	事前学修	P Cやスマートフォンの売れ筋製品やメーカーにはどのようなものがあるか挙げてみる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
8	デジタルコンテンツとメディア／情報量と情報圧縮	デジタルコンテンツとメディアの位置付け、種類、特徴などについて学修する。また、情報量と情報圧縮の基本原理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、デジタルコンテンツとメディアの概要、情報量などの特徴について理解する。	
	事前学修	P Cやスマートフォン等で保存している文書、音楽、写真、動画のデータ（ファイル）形式を調べる。また、その容量を推測する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特にデジタルコンテンツ・メディアに容量（情報量）があること、およびその量を表す単位について十分に理解する。	120分
9	デジタルコンテンツ産業の市場	デジタルコンテンツに関わる産業の動向について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、デジタルコンテンツ産業の構造と問題点について理解する。	
	事前学修	デジタルコンテンツ産業の市場や企業にはどのようなところがあるか調査する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
10	データベース	データベースの定義と役割や機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データベースの概要を理解する。	
	事前学修	自分がP Cやスマートフォンに保有している大量の情報（情報の種別には拘らない）の管理方法と問題点についてまとめる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特に事前学習で抽出した問題点が授業において解決したかどうかを見直す。	120分
11	データベースマネジメントシステム	データベースマネジメントシステム（D B M S）の役割と仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データベースマネジメントシステムの役割について理解する。	
	事前学修	サーバに格納されている同じ文書を複数のP Cから編集できるようになっているとき、同時に複数の利用者がその文書を編集しようとする場合に気を付けなければならないことは何か。また、そのサーバが障害で故障する恐れがあることを考慮して準備しておく仕組みは何かについて考える。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
12	データウェアハウス、ビジネスインテリジェンスとI C T	デジタルデータのビジネス活用例として、データウェアハウス（D W H）とビジネスインテリジェンス（B I）の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データウェアハウス（D W H）とビジネスインテリジェンス（B I）の概要について理解する。	
	事前学修	スーパーマーケットやコンビニで商品を購入したときにレジで収集する情報にはどのようなものがあるか推測する。また、自分がよく利用するこれらの店舗（あるいはそのサービス）の1日の利用者数や売り上げが変化する場合の条件を考える。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	カスタマリレーションシップマネジメントと I C T	デジタルデータのビジネス活用例として、カスタマリレーションシップマネジメント（CRM）の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、カスタマリレーションシップ（CRM）の概要について理解する。	
	事前学修	店舗が顧客に物やサービスを売るためにどのような工夫をしていると思うか、とりわけ、I C Tを活用するとすればどのような仕組みを取り入れれば良いかを考える。	90分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	ユビキタスと I C T	ユビキタスコンピューティングと I o T（Internet of Things - モノのインターネット）の概念とその応用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ユビキタス、I o Tの概要と関連するサービスやビジネスについて理解する。	
	事前学修	「ユビキタス」という言葉の由来を事前に調べ、ユビキタス、I o Tという言葉を使った様々な概念をピックアップして纏める。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
15	まとめ／I C Tの進化と法的課題	I C Tが普及した現状を振り返り、デジタルコンテンツの保護などの課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、I C Tに関わるサービスやビジネスの課題を見付け、解決方法について考察する。	
	事前学修	今までの授業で学習した内容について、自己の学習目標の達成度などを振り返る。	150分
	事後学修	授業で解説した質問項目に対する回答資料や参考資料をもとに復習する。	90分

科目名	産業技術と知財A(情報通信)Ⅱ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
I C T（情報通信技術）の全体像や中核技術を概観し、I C Tやデジタルコンテンツによるアプリケーション、サービス、ビジネスと知的財産権との関わり、および法的課題などについて学修する。特に、情報通信Ⅰではコンピュータハードウェアとソフトウェアおよびデジタルコンテンツについて、情報通信Ⅱでは情報通信ネットワークとインターネットおよび情報セキュリティをテーマに学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報通信機器やデジタル家電などのI C T（情報通信技術）を用いた装置やシステム、インターネットなどの情報通信ネットワークの仕組みを知ることにより、その効果的・効率的な活用を考える力、およびI C Tによる産業や社会の変化と、それに伴う法的課題などについて考察する力を身につける。

【履修条件】
I C T（情報通信技術）や情報通信サービス、デジタルコンテンツに興味があること。予備知識は不要とする。

【授業方法】
プレゼンテーション資料（プロジェクタ投影）や配布資料による解説と質疑応答に加え、履修生からのレポートへのフィードバックや質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で簡単な課題を与え、提出レポートに対してフィードバックを行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	I C Tの基本要素であるコンピュータや情報通信ネットワークなどの基本的な仕組みを理解し、説明できる。						1					
②	I C Tやデジタルコンテンツ技術が我々の生活の中で使われる際の課題を理解し、既存サービスへの応用において工夫できる。						2	1				
③	自分自身が触れたこと、あるいは見聞したことのないI C Tやデジタルコンテンツ技術を活用したサービスやビジネスについて想像したり予測したりできる。							2	2			
④	I C Tに関連した法令等について理解を深め、運用上の課題などを整理、考察できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業で簡単な課題を与え、それまでに学修した項目について内容の理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見・考え方が要求する基準となっているかを評価する。	20	10									30
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容について履修生に質問して回答を求めるとともに、履修生にも質問させてそれに回答することで、個々の履修生の学習態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題についてレポートを提出してもらい、授業内において講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：20 iwaki.osamu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	情報通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービスの推進。
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータハードウェアやソフトウェア、インターネットなどの技術的な仕組みのみならず、サービスやビジネスの現状・課題を含めた実務について理解できるように解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／ 情報のデジタル化と情報通信	情報のデジタル化とデジタルコンテンツについて復習し、情報通信の位置付けについて学修する。また、授業の進め方、成績評価の方法などを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、情報のデジタル化と情報通信の関係について理解する。	
	事前学修	「通信」という言葉から思い浮かべるサービスの種類、また通信を行う上で必要となる要素を抜き出してみる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
2	通信ネットワークの基礎	情報通信ネットワークの概念、要素、種類などの概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、通信ネットワークの種類や特徴などについて理解する。	
	事前学修	世の中で「通信ネットワーク」と呼ばれるものにはどのようなものがあるか列挙する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
3	通信ネットワークの基礎／ 広域通信網（WAN）とは	通信ネットワークの様々な形態について学修する。また、身の回りにある広域通信網（WAN）を用いたサービスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、通信ネットワークの概念、使用形態や接続形態などについて理解する。	
	事前学修	身近に情報通信によるどのようなサービス（WANサービス）があるか列挙する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
4	広域通信網（WAN）	WAN（Wide Area Network）の基本技術とサービスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、WANの基本技術とサービスについて理解する。	
	事前学修	WANと呼ばれるものの代表的なサービスは電話であるが、電話で受話器を取ってプッシュボタンを押し、相手に繋がって話をした後受話器を置くまで、どのようなルートを通っているか想像してみる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。また、授業で紹介したWANサービスの以外の事例について調査する。	120分
5	構内通信網（LAN）	LAN（Local Area Network）の基本技術とイーサネットの成り立ちおよびサービスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、LANの基本技術とイーサネットの成り立ちおよびサービスについて理解する。	
	事前学修	大学や企業などの中に設置されているネットワークはどのような仕組みであるか調べてみる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
6	無線LAN	無線LANの基本技術とサービスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、無線LANの基本技術とサービスについて理解する。	
	事前学修	無線LANにはどのような種類があるか調査する。また、WiFiという言葉の由来を調べる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	モバイル通信網	モバイル通信の基本技術とサービスについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、モバイル通信の基本技術とサービスについて理解する。		
	事前学修	前回の授業で学んだ電話の繋がる仕組みを参考に、携帯電話やスマートフォンを使って相手との通話やメールのやり取りをする場合の通信の仕組みについて考える。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	
8	インターネットの仕組み	インターネットの基本概念や成り立ちについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、インターネットの基本概念と仕組みについて理解する。		
	事前学修	「インターネット」とは何かについて考察する。とりわけこれまで学習した「WAN」や「モバイル」との仕組みの違いについて考える。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	
9	インターネットのアプリケーションサービス	インターネットで提供されるアプリケーションの仕組みとサービスについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、インターネット上のアプリケーションの仕組みとサービスについて理解する。		
	事前学修	インターネットで提供されているサービスを思い付く限り列挙する。また、これらがサービス形態として類別化できるか検討する。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	
10	情報セキュリティ	情報セキュリティの概念とリスクについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、情報セキュリティの概念とリスクについて理解する。		
	事前学修	I C T分野で近年話題となった情報セキュリティの事件に関する記事を調査する。また、自分のP Cのセキュリティ対策についてとりまとめる。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	
11	情報セキュリティと暗号	情報通信における暗号化の仕組みについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、暗号化・復号化の方式と仕組みについて理解する。		
	事前学修	「暗号」という言葉から連想する内容についてまとめる。子供時代に友達同士で「暗号」を使って遊んだ経験がある履修生は、その時の暗号に必要な要素は何であったかを思い出してまとめる。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	
12	I C Tに関わる法律	I C T分野に関わる法律の種類と概要について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、I C T分野に関わる法律の種類と内容について理解し、適用性について考察する。		
	事前学修	I C Tに関連する法律には何があるか列挙する。	120分	
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	I C Tと知財	I C T分野に関わる知財問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、I C T分野に関わる知財問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。	
	事前学修	I C Tに関わる知的財産や知的財産権にはどのようなものがあるか考える。	90分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。また、これまでの授業内容に関する感想および質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	I C Tにまつわるトレンド	情報通信サービスの最新動向と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、I C T分野の新しいサービスやビジネスについて考察する。	
	事前学修	I C Tの最新トピックや課題をインターネット等で調べる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
15	I C Tのこれからと法的課題	I C Tが普及した現状を振り返り、ネットワーク上を流れる情報の保護などの新たな課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②、③、④に関連して、I C Tに関わるサービスやビジネスの課題を見付け、解決方法について考察する。	
	事前学修	今までの授業で学習した内容について、自己の学習目標の達成度などを振り返る。	150分
	事後学修	授業で解説した質問項目に対する回答資料や参考資料をもとに復習する。	90分

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー)Ⅰ	担当者	三木 優	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
環境・エネルギー問題は、大気汚染や自然災害の様な私たちの生活・健康を脅かすものから地球温暖化などの世界規模での課題まで幅広い範囲が含まれている。このことは経済・社会活動との密接な関係につながっており、環境・エネルギー問題の解決にはビジネスの関わりが欠かせない。環境・エネルギー問題が、企業活動にどのような影響を与えているのか、講師がコンサルティング業務を通じて得た経験・知識をふまえた講義を行い、排出権ビジネス・再生可能エネルギー・エコカーなどのケースを通じて学習する。答えが一つでない領域のため、授業での質疑やレポート等を通じた双方向の意見交換により自分の考えを持つことを目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー問題とビジネスの関係について多面的な視点で理解を深め、1つの定まった解がない環境・エネルギー問題に対して、客観的な事実や過去から現在に至る経緯をふまえて自分の考えを持つことを目指す。更に環境・エネルギー分野に関する知財の取り扱いや事業戦略・マーケティングを考える際の基本的な知識を習得することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを利用した講義形式で実施する。授業内で実施するレポートの講評および他者の意見に対する質疑・ディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマ毎にレポート課題を課し、次回にその解答内容についてフィードバックを行うとともに、他者の意見に対する質疑やディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	排出権が必要となった背景や作り方、経済活動との関係について説明することができる。								2	2	2			
②	主な再生可能エネルギーの特徴を理解するとともに、固定価格買取制度について説明することができる。								2	2	2			
③	エコカーを例として、環境配慮製品のあり方についての自分の意見を述べるができる。								2	2	2			
④	環境・エネルギー問題を解決する制度・ビジネスに求められる視点について、自分の意見を述べることができる。								2	2	2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に対し、客観的な事実や過去から現在に至る状況をふまえて自分の考えをまとめ、適切に説明できているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート実施後の授業で結果や内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
講義後、講義教室で行う。メールでの連絡は随時受け付ける。メールアドレス：mikiyutaka@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	コンサルティング会社において、環境・エネルギー関連の民間・公共プロジェクトに多数参画。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験に基づいた事例紹介や課題の整理、問題解決の方法について講義することにより、環境・エネルギー問題への理解を促進する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	環境・エネルギー問題と社会・経済活動の関係	環境・エネルギー問題と社会・経済活動との関わりについて解説する。	
	この回の到達目標	環境・エネルギー問題が我々の社会や経済活動とどのような関係にあり、身近な製品・サービスを提供している企業が深く関わっている事を理解する。	
	事前学修	環境・エネルギー分野に関わりがある企業を調べ、どのような取り組みをしているか把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
2	排出権はどのようにして作られるのか	排出権と言う概念が必要になった背景や実際にどのようにして作られているかを具体例を通じて解説する。	
	この回の到達目標	排出権がどのようなものであるか、どのようにして作られるか理解する。	
	事前学修	排出権について調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
3	欧州排出権取引制度・EU-ETS	最も排出権の利用が活発に行われている欧州排出権取引制度・EU-ETSについて、過去からの経緯、様々なルール変更を経た現状、今後の見通しについて解説する。	
	この回の到達目標	欧州排出権取引制度・EU-ETSの内容およびその成果について理解する。	
	事前学修	欧州排出権取引制度・EU-ETSについて調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
4	経済活動と排出権	排出権や排出権取引制度は経済活動に様々な影響を与えており、カーボンニュートラルに向けて大きな役割を果たすことを解説する。	
	この回の到達目標	排出権や排出権取引制度が経済活動へ与える影響やその重要性について理解する。	
	事前学修	排出権が利用されているビジネス活動や商品について調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
5	排出権に関するまとめ	第2～4回の内容を振り返り、授業に関連した設問について授業内レポートを行う。レポートは次回解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	第2～4回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第2～4回の講義資料とノートを整理し、復習する。	120分
	事後学修	レポートの設問について復習する。	120分
6	排出権に関するディスカッション	排出権・排出権取引制度に関する様々な評価・意見を解説する。前回提出したレポートについて回答をふまえて解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	産業界やNGO、他者の意見をふまえて排出権に対する自分の意見を見直すことができる。	
	事前学修	排出権や排出権取引制度についてどのような意見や見方があるか調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	他者の意見を読み込み、自分の意見と比較分析する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	再生可能エネルギーの普及動向	太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーの特性、普及動向等について解説する。	
	この回の到達目標	様々な再生可能エネルギーについて特性や普及に向けた課題等を理解する。	
	事前学修	再生可能エネルギーについて調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
8	再生可能エネルギーの固定価格買取制度	再生可能エネルギーの普及に大きな役割を果たしている固定価格買取制度について解説する。	
	この回の到達目標	再生可能エネルギーの固定価格買取制度について概要や役割、カーボンニュートラル実現に向けた位置づけ等を理解する。	
	事前学修	再生可能エネルギーの固定価格買取制度について調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
9	再生可能エネルギーに関するまとめ	第7～8回の内容を振り返り、授業に関連した設問について授業内レポートを行う。レポートは次回解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	第7～8回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第7～8回の講義資料とノートを整理し、復習する。	120分
	事後学修	レポートの設問について復習する。	120分
10	再生可能エネルギーに関するディスカッション	再生可能エネルギーの固定価格買取制度に関する様々な評価・意見を解説する。前回提出したレポートについて回答をふまえて解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	産業界やNGO、他者の意見をふまえて再生可能エネルギーの固定価格買取制度に対する自分の意見を見直すことができる。	
	事前学修	再生可能エネルギーの固定価格買取制度についてどのような意見や見方があるか調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	他者の意見を読み込み、自分の意見と比較分析する。	120分
11	自動車産業とエコカー	周辺産業まで含めると巨大な規模となる自動車産業がEV(電気自動車)をはじめとするエコカーの製造へ急速に向かっている状況を解説する。	
	この回の到達目標	自動車産業が環境配慮製品であるエコカーに注力している背景やその影響について理解する。	
	事前学修	自動車メーカーがどのようなEV、ハイブリッド自動車を製造しているか調べて、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
12	環境性で製品は売れるのか	「エコ」や「地球に優しい」等の環境配慮を謳った製品が実際に成功しているか、実例を通じて分析するとともに環境配慮製品が売れるための条件を解説する。	
	この回の到達目標	これまで環境配慮を謳った製品の売上への効果や環境配慮製品の特性、売れるための条件について理解する。	
	事前学修	環境配慮製品について調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	環境配慮製品に関するまとめ	第11～12回の内容を振り返り、授業に関連した設問について授業内レポートを行う。レポートは次回解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	第11～12回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第11～12回の講義資料とノートを整理し、復習する。	120分
	事後学修	レポートの設問について復習する。	120分
14	環境配慮製品に関するディスカッション	最近の環境配慮製品の動向を解説する。前回提出したレポートについて回答をふまえて解説し、他者の意見をふまえた質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	最近の環境配慮製品の動向や他者の意見をふまえて環境配慮製品に対する自分の意見を見直すことができる。	
	事前学修	環境配慮製品についてどのような意見や見方があるか調べ、概要を把握する。	120分
	事後学修	他者の意見を読み込み、自分の意見と比較分析する。	120分
15	環境・エネルギー問題を解決する制度・ビジネス	講義全体を振り返り、環境・エネルギー問題を解決する制度・ビジネスに求められる視点について質疑・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	環境・エネルギー問題を解決する制度・ビジネスが留意すべき要素・視点について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講義資料とノートを整理し、復習する。	120分
	事後学修	講義全体で学んだことをふまえ、環境・エネルギー問題を解決する制度・ビジネスについて自分の考えをまとめる。	120分

科目名	産業技術と知財C(バイオ・環境化学) I	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
人間の健康や生活の快適さを向上させる産業の発展のために、自然科学を応用した科学物質や動植物、微生物の利用は歴史上古くから行われてきた。近年、遺伝子工学の発展により、患者の体質に合った医療や予防医療も進んでいる。さらに、ヒトなどの遺伝子によってiPS細胞という自分の遺伝子から多能な細胞を作り出すことが実験で可能になり、皮膚、脊椎や臓器などが再生できることがわかっている。この分野の研究は世界的に注目され、研究開発や知的財産の確保に国を挙げて重点的に取り込んでいる。本授業では、バイオなど先端技術の発展・実態について学習し、バイオ・環境化学に関する特許と知財戦略に関する知識を身につけ、理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材としてバイオ・環境化学分野の知識の習得を目的とする。 【到達目標】 バイオ・環境化学分野の諸項目についての発展及び研究現状と見通し、それに関する国内外の最先端技術の開発動向や普及課題等について、国際情勢や経済・政策・外交などの動きと関連付けて理解する。バイオ・環境化学分野の知的財産を取り扱うのに必要な知識を習得し、諸外国比較とする視点から、最新の情報・事例・データ及び判例などを、その背景を含めて理解・分析する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新動向、データ、事例など紹介する。授業内の討論、意見交換を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬に関する基本知識を理解し、説明することができる。							2	2	2			
②	微生物および人類との関わりを理解し、説明することができる。							2	2	2			
③	日本及び世界の再生医療の取組状況を理解し、自分の意見を述べるができる。							3	3	3			
④	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解を説明することができる。							2	2	2			
⑤	バイオ特許戦略の国際性、特許制度の仕組みを理解し説明することができる。							3	3	3			
⑥	日本、米国、中国の特許制度の相違点、および、特許出願や職務発明に関する注意点を理解し説明することができる。							2	2	2			
⑦	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。							2	2	2			
⑧	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。							2	2	2			
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題について、合理性及び論理的思考の程度を評価する。					15			15			30
討論・発表等	授業内において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	2	4	4	4	4	4	4	4			30
授業への参画度	各回の到達目標に達しているか否かを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	5	5	5	5	5	5	5	5			40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	9	9	9	24	9	9	24			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日14：40―16：10 メールアドレス：liu.binbin@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国甘肅省発明協会理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国専利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	バイオテクノロジーの概要および人類社会への影響について	バイオテクノロジーの歴史、応用分野について考察する。また、バイオテクノロジーの将来性について紹介する。人類社会に与える影響など分析する。	
	この回の到達目標	バイオに関する基本知識について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむこと。バイオについて調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	授業内容を確認し、バイオ分野に関する基本を、自分の認識や体験と照らして理解する。	120分
2	(1) バイオ創薬、バイオ医薬品 (2) ゲノム創薬	(1) バイオ創薬とはなにか、動物を利用した創薬、植物を利用した創薬について、説明する。 (2) バイオ医薬品、タミフル、そのほかのバイオ医薬品について、紹介する。 (3) ゲノム創薬とはなにか、グリベック、将来のゲノム創薬などについて、説明する。	
	この回の到達目標	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬について理解し、説明することができる。	
	事前学修	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬について、調べて予習しておく。	120分
	事後学修	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬の現状と見通しをまとめること。以下の問題：①新薬開発には遺伝子の探索がなぜ必要なのか、②抗体医薬とは何か、③ゲノム関係のデータベースにはどのようなものがあるかを考えて、ポイントをまとめる。	120分
3	(1) 人類と生物との関わり (2) 人類と微生物との関わり (3) 環境と微生物	(1) 生命の発生以前の有機物、生命をつかさどる物質の基礎、生物の利用などについて、考察する。 (2) 生物の食品、染料での利用や、微生物の発見などについて、説明する。 (3) さまざまな環境と環境へのアプローチ、特殊環境と微生物、未培養微生物について、解説する。	
	この回の到達目標	微生物および人類との関わりを理解し、説明することができる。	
	事前学修	微生物、環境へのアプローチなどについて 調べて予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容について理解し、以下の問題：①共生関係はお互いに何をもたらすか、②環境から得た遺伝子情報でも特許は獲得できるかについて考えて、まとめる。	120分
4	ゲノム解析と組換えDNA	(1) ゲノム解析の対象 (2) ゲノム情報から判明すること (3) 組換えDNA の基礎 (4) 塩基配列解読	
	この回の到達目標	ゲノム解析、ゲノム情報、塩基配列解読などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲノム解析、塩基配列解読法について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	講義内容について理解し、以下の問題：①ゲノムサイズの大小によりゲノム解析の戦略はどのように異なるのか②配列比較による機能推定の落とし穴③次世代シーケンサーはバイオの世界をどう変えるかを考えて整理し、まとめる。	120分
5	(1) ゲノム情報の利用、遺伝子情報の利用 (2) 遺伝子診断、遺伝子治療	(1) ゲノム情報技術利用について (2) 遺伝子データベース、遺伝子情報と保険、遺伝子に関する特許について (3) 遺伝子診断・治療の現状、将来	
	この回の到達目標	ゲノム情報と遺伝子情報の利用、遺伝子診断・治療に関する知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲノム情報、遺伝子情報の利用、遺伝子診断・治療について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	講義の内容を理解し、以下の問題：①なぜゲノム情報が必要なのか②DNAを利用した犯罪捜査とは何か、をを考えて整理し、まとめる。	120分
6	再生医療の歴史、現状と課題	(1) 細胞医療とは何か、幹細胞、多能性幹細胞、体性幹細胞とは何か (2) 再生医療の歴史 (3) 幹細胞研究の動向 (4) 再生医療の倫理	
	この回の到達目標	日本及び世界の再生医療の取組状況を理解し、自分の意見を述べるすることができる。	
	事前学修	幹細胞、多能性幹細胞などについて調べ、再生医療の概要をつかむ。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①iPS細胞技術扱う企業の開発状況、②将来の再生医療、③再生医療倫理的な問題、自分なりの考えを整理し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制		日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制を考察する。	
	この回の到達目標	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておく。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し授業の内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から、自分なりの認識・理解等をまとめる。		120分
8	環境とバイオテクノロジー		(1) 環境ホルモン、環境ホルモンの実験法、化学物質の管理について、説明する。 (2) 環境保護におけるバイオ技術の応用、解析	
	この回の到達目標	環境ホルモンの基本知識、環境整備におけるバイオ技術の応用状況を理解し、説明することができる。		
	事前学修	環境ホルモンとは何か、環境整備におけるバイオ技術の応用などを調べて予習しておく。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し復習しながら重要なポイントを整理し、まとめる。		120分
9	特許制度の仕組みとバイオ特許 1		(1) バイオ特許と知財戦略：バイオ知財戦略の重要性、国際標準化と絡めたバイオ知財 (2) 特許制度の仕組み	
	この回の到達目標	バイオ特許戦略の国際性、特許制度の仕組みを理解し説明することができる。		
	事前学修	バイオ特許戦略について調べ、ポイントを整理しておく。特許制度の仕組みを予習しておく。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①日本のバイオ特許の現状、及び世界との比較②特許制度は何のためにあるのかを考えて、ポイントを整理しまとめる。		120分
10	特許制度の仕組みとバイオ特許 2		(1) 外国特許をとる基本的な仕組み：各国知的財産権制度について、海外で特許を取得する仕組み、米国・中国特許法の問題点 (2) 特許出願 (3) 職務発明	
	この回の到達目標	日本、米国、中国の特許制度の相違点を理解し、説明することができる。特許出願や職務発明に関する注意点を理解することができる。		
	事前学修	日本、米国、中国の知財制度を調べて予習しておく。		120分
	事後学修	講義内容を復習し、以下の問題：①外国出願する場合、パリ条約ルートとPCTルートのどちらを選べばいいか②発表と特許出願の関係において注意すべきことは何かについて理解・整理し、まとめる。		120分
11	(1) バイオ分野の特許の種類 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許		(1) バイオ分野特許の種類と概要：①化学物質の特許性対象が認められた経緯②バイオ分野特許の種類③微生物に関する特許についての寄託制度 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許	
	この回の到達目標	バイオ分野特許の種類、塩基配列解読手法の進歩に関する知識を理解し、説明することができる。		
	事前学修	化学物質の特許性について、調べて予習しておく。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①農産物など植物の新品種について種苗法があるが、特許や商標との関係はどうなっているのかを考えて、復習しておく。		120分
12	バイオ特許の特徴と特有の問題点について		(1) リサーチツール特許とリーチスルーライセンスについて (2) バイオに関するライセンス契約と特徴と注意点 (3) バイオ特許に関するいくつかの代表的なライセンス事例	
	この回の到達目標	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。		
	事前学修	バイオ特許及びライセンス契約に関する知識を予習しておく。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①医療関連行為に関して、特許を与えるべきかどうか②バイオ関連会社の起業の条件、必要な仕組みについてを考えて、ポイントを整理し、まとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	(日・中・米) バイオ分野におけるイノベーション戦略と知財保護		(1) (日・中・米) イノベーション戦略とバイオ産業 (2) (日・中・米) バイオ分野特許戦略の実態 (3) (日・中・米) バイオ製薬産業の研究開発現状、技術移転、知財保護	
	この回の到達目標	日・中・米におけるイノベーション戦略、バイオ産業の知財戦略について、理解することができる。		
	事前学修	日・中・米のイノベーション国家戦略の概要を調べてつかむ。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から、自分なりの考えを整理し、まとめる。		120分
14	医療・医薬分野のAIに関する技術・知的財産		(1) 医療・医薬分野のAIに関する技術の応用現状および関連政策（比較する視点から） (2) 医療・医薬分野のAIに関する技術の法問題 (3) 医療・医薬分野のAIに関する技術の知的財産について	
	この回の到達目標	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について、理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布するので、諸外国と比較する視点から、予習しておく。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①日本における医療・医薬分野のAI技術の応用、②日本、米国、中国、EUにおける医療AI に関する政策の相違点を考えて、自分なりの考えを整理し、まとめる。		120分
15	中米貿易戦争：中国バイオ関連産業に与える影響及び対策について		(1) バイオ関連産業における中米貿易・競争の実態 (2) 中米貿易戦争が、中国のバイオ関連産業に与える影響 (3) 中国医薬・バイオ技術分野の対応および方策	
	この回の到達目標	中米貿易戦争の背景や、バイオ技術関連産業に与える影響など理解して説明できること。		
	事前学修	中米貿易戦争について調べて、予習して。		120分
	事後学修	講義内容を確認し国際的な視点から、自分なりの理解・考えを整理し、まとめる。		120分

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス) I	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
エレクトロニクスとは一般的に電子部品や電子装置に関する技術を指すが、今や社会生活の基盤として欠かせないコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどの情報通信機器や情報通信ネットワークのみならず、自動車・エネルギー・医療・環境などの様々な分野で各産業を支える基幹技術となっている。本授業では、コンピュータや半導体などのエレクトロニクス中核技術とその産業の進化を概観した後、各種応用サービスやビジネスの現状、知的財産権との関わり、今後想定される法的課題などについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
エレクトロニクスの基礎技術を概観し、社会に普及する各種サービスへの応用事例を知ることにより、その効果的・効率的な活用を考える力、およびエレクトロニクス産業の変化と、それに伴う法的課題などについて考察する力を身につける。

【履修条件】
エレクトロニクスに興味があること。予備知識は不要とする。

【授業方法】
プレゼンテーション資料（プロジェクタ投影）や配布資料による解説と質疑応答に加え、履修生からのレポートへのフィードバックや質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で簡単な課題を与え、提出レポートに対してフィードバックを行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	エレクトロニクス製品の代表格とも言えるコンピュータや、核となる半導体デバイスの基礎的な仕組みを理解し、説明できる。							1					
②	人々の生活においてエレクトロニクス製品が用いられる際の課題等を洞察し、各種サービスへの応用について発想できる。							2	1				
③	自身であまり触れることのないエレクトロニクス技術の応用分野においても、新たなサービスやビジネスについて発想し、予測することができる。								2	2			
④	エレクトロニクス産業に関連した法令等について理解を深め、運用上の課題などを整理、考察できる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	授業で簡単な課題を与え、それまでに学修した項目について内容の理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見・考え方が要求する基準となっているかを評価する。	20	10									30
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容について履修生に質問して回答を求めるとともに、履修生にも質問させてそれに回答することで、個々の履修生の学習態度が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題についてレポートを提出してもらい、授業内において講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、講義資料を配布する。参考図書や資料は都度紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：20 iwaki.osamu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		情報通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービスの推進。 コンピュータなどのエレクトロニクス製品の技術的な仕組みのみならず、サービスやビジネスの現状・課題を含めた実務について理解できるように解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス エレクトロニクス産業の概要	エレクトロニクスの対象、技術基盤、関連産業の全体像について学修する。また、授業の進め方、成績評価の方法などを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、エレクトロニクス技術の基盤と関連産業などの全体像を理解する。	
	事前学修	エレクトロニクスという言葉から思い付く技術やサービスについて自分なりにまとめる。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
2	エレクトロニクスとコンピュータ	情報のデジタル化とコンピュータの仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、エレクトロニクス技術の代表格であるコンピュータについてその仕組みを理解する。	
	事前学修	PCやスマートフォンがどのような装置から構成されているかを考える。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特にデジタル化の意義について理解する。	120分
3	デジタル情報の記録・保存	デジタル情報の記録・保存装置とその仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、デジタル情報機器の基本となるデジタル信号の記録・保存の方法について理解する。	
	事前学修	PCやスマートフォンを利用する場合に、文字、音声・音楽、写真、動画などを記録したり、保存したりする装置にはどのようなものがあるか整理する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特に情報の記録は媒体により記録方式が異なることを理解する。	120分
4	デジタル情報の入出力	デジタル情報の入出力装置とその仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、デジタル情報機器の基本となるデジタル信号の入出力方法について理解する。	
	事前学修	PCやスマートフォンを利用する場合に、文字、音声・音楽、写真、動画などを入出力したり、通信したりする装置にはどのようなものがあるか整理する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特にディスプレイ装置やプリンタ装置において、方式による違いを理解する。	120分
5	コンピュータ産業と知財問題	コンピュータ産業の誕生と発展の歴史、および知財との関わりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、コンピュータ産業の歴史や動向を知り、知的財産権に関わる課題や解決方法について考察する。	
	事前学修	情報処理学会（情報処理の分野で国内最大の学会）のホームページ「コンピュータ博物館」(http://museum.ipsj.or.jp/index.html) に目を通す。また、コンピュータにはどのような知的財産権が含まれているかについて調査する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
6	半導体とコンピュータ素子	半導体の原理とコンピュータ素子の仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、「産業の米」とも呼ばれる半導体（トランジスタ）とは何かについて理解する。	
	事前学修	「デジタル情報の入出力、記録・保存の仕組み」を復習する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特に半導体の原理を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	化合物半導体および半導体加工技術		半導体加工技術の発展、並びに化合物半導体によるオプトエレクトロニクスへの応用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、半導体加工技術によるコンピュータの進化、並びに化合物半導体によるオプトエレクトロニクスの進展について理解する。		
	事前学修	「デジタル情報の記録・保存のしくみ」で学習した高密度化技術について復習する。またNHK高校講座のホームページ「元素の周期表」(https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022150069_00000)に目を通す。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。特に発光／受光ダイオードの仕組みを理解する。		120分
8	半導体産業と知財問題		半導体産業の誕生と発展の歴史、および知財との関わりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、半導体産業の歴史や動向を知り、知的財産権に関わる課題や解決方法について考察する。		
	事前学修	日本半導体歴史館 (http://www.shmj.or.jp/index.html)を閲覧し、「業界動向」、「応用製品」、「集積回路」などの歴史に目を通す。また、半導体にはどのような知的財産権が含まれているか、どのような問題があるのかについて調査する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
9	エレクトロニクスと情報通信		情報通信網の高速大容量化を支えるエレクトロニクス技術について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、インターネットなどの情報通信網において、高速大容量化を実現する技術や、光ファイバの性質と利用形態などを理解する。		
	事前学修	電話がつながる仕組みや、光ファイバとは何かについて調査する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
10	インターネットの普及と知財		インターネットの普及に伴って生まれたネット社会、あるいは情報化社会において生じる情報保護や知財保護の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③、④に関連して、情報通信サービスや産業の発展の歴史や動向を知り、知財などに関わる法的課題について考察する。		
	事前学修	身の回りで情報通信を利用したサービスやビジネスにどのようなものがあるか列挙する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
11	エレクトロニクス応用産業（1）		カーエレクトロニクスの概要と自動車産業の現状、並びにパワーエレクトロニクスの概要と電力産業の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、カーエレクトロニクス技術、パワーエレクトロニクス技術と関連サービスについて理解し、自動車産業や電力産業の課題について考察する。		
	事前学修	近年話題の自動車の「自動運転」について、どのようなエレクトロニクス技術が応用されているかを調査する。また、我が国の自然エネルギーにはどのようなものがあり、その比率や産業規模がどの程度かなどについて調査する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分
12	エレクトロニクス応用産業（2）		メディカルエレクトロニクスの概要と医療システム産業の現状、並びにオプトエレクトロニクスやエコ産業の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、メディカルエレクトロニクス技術、オプトエレクトロニクス技術、エコシステム技術と各関連サービスについて理解し、医療情報産業、光エレクトロニクス産業、エコ産業の課題について考察する。		
	事前学修	電子化された医療機器にはどのようなものがあるかを調査する。また、地球温暖化の原因や問題となる理由、現状や対策などについて調査する。		120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	エレクトロニクス産業と知的財産権	組込みソフトウェアの知財保護、技術情報の流出問題、製品化ごとの知財戦略などの事例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、エレクトロニクス産業における知財問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。	
	事前学修	エレクトロニクス応用製品に関わる知的財産権には何があるか、またどのような問題があるかについて調査する。	90分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	エレクトロニクス産業のグローバル化	エレクトロニクス産業における国際連携や技術規格国際標準化の取り組み、知財紛争の例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、エレクトロニクス分野の国際的な産業連携について理解し、問題の本質について考察する。	
	事前学修	我が国が他国や地域と取り結んでいる国際協力協定等について調査する。	120分
	事後学修	配布した講義資料やGoogle Classroomに掲載した参考資料をもとに復習する。	120分
15	エレクトロニクス産業のこれから	半導体産業におけるA I チップ開発競争などを見据えたエレクトロニクス産業の展望と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、エレクトロニクス関連産業における課題や解決方法について考察する。	
	事前学修	今までの授業で学習した内容について、自己の学習目標の達成度などを振り返る。	150分
	事後学修	授業で解説した質問項目に対する回答資料や参考資料をもとに復習する。	90分

科目名	産業立地論	担当者	相澤 大輝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
本授業では経済主体（i.e., 家計と企業）の立地の基礎理論を解説する。具体的には、農業・工業・商業をはじめとした産業立地の基礎理論と、都市空間における家計の立地の基礎理論を解説する。特に後者では、経済理論に基づいた基礎理論を解説する。また、実空間上の立地の具体例と立地政策も紹介する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
立地政策がどのような効果をもたらすかを、経済地理学・経済学的視点から議論できるようになることを目的とする。政策効果の議論を展開できるようになるために、立地に関する基礎理論の習得を目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式で行う。講義資料などはオンラインで配布する。（google classroomなど）
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無
無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	産業立地論における主要な概念や理論を識別できる。					2	2					
②	実空間の立地の実態を理論的に分析できる。					2	2					
③	現実で実施されている立地政策に対して、理論に基づいた意見を提示できる。					2	2	2				
④	よりよい社会を実現するための立地政策案を提示できる。						2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について，立地の基礎理論を習得できているかを評価する．	10	25	25	10							70
小テスト等	到達目標②③について，立地の基礎理論を習得できているかを評価する．		15	15								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説はオンラインで配布する．

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
産業立地と地域経済	松原宏	放送大学教育振興会	2012	教科書	推奨
都市経済学	高橋孝明	有斐閣	2012	教科書	推奨
経済学・経営学のための数学	岡田章	東洋経済新報社	2001	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールでオフィスアワーを申し込むこと．時間帯はメールでのやりとりを通じて決定する． メールアドレス : haizawa018 [at] g.chuo-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	産業立地の基礎理論（1）		・産業立地論の概要 ・チューネンの農業立地論	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な農業立地論について説明できる。		
	事前学修	ネットや文献などを利用して、実空間ではどのような産業立地が実現されているかを調べる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
2	産業立地の基礎理論（2）		ウェーバーの工業立地論	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、工業立地論について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
3	産業立地の基礎理論（3）		・クリスタラーの中心地理論 ・レッシュの立地論	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中心地理論とレッシュの立地論について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
4	産業立地の基礎理論（4）		ホテリングの商業立地論	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、商業立地論について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
5	産業立地の基礎理論（5）		産業集積論	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、産業集積論について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
6	産業立地の基礎理論（6）		産業立地政策	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、産業立地政策について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	都市内立地の基礎理論（１）		・都市経済学の導入 ・都市規模の決定	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、都市規模の決定メカニズムについて説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
8	経済数学，ミクロ経済学の復習		・数学的基礎 ・最適化 ・効用最大化	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、都市内の立地理論を分析するための、最低限の数学・経済学的基礎を習得する。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
9	都市内立地の基礎理論（２）		消費者の立地選択	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者の立地選択メカニズムについて説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
10	都市内立地の基礎理論（３）		都市の空間構造	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、都市の空間構造が立地に与える影響のメカニズムについて説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
11	都市内立地の基礎理論（４）		土地市場	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、土地市場の資源配分の決定メカニズムについて説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分
12	都市内立地の基礎理論（５）		土地政策	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、土地政策について説明できる。		
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	都市内立地の基礎理論（6）	住宅政策	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、住宅政策について説明できる。	
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。	120分
14	都市内立地の基礎理論（7）	都市交通	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、都市交通について説明できる。	
	事前学修	事前に公開された講義資料を確認して、疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を参考にして学んだ概念と理論をまとめる。疑問点があれば参考書を用いた学習などを通じて解消する。	120分
15	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、産業立地論の基礎について総合的に説明できる。	
	事前学修	これまでの講義資料と小テストの内容を確認して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の講義内容を総復習する。	120分

科目名	ジャーナリズム演習Ⅰ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム研究に関する基礎概念を理解したうえで、現代社会や時事問題に関する問いを自ら設定し、調査研究を行なう演習科目である。任意で「ジャーナリズム演習Ⅱ」・「ジャーナリズム演習Ⅲ」と組合せて履修することが望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズム研究に必要な理論的視座を獲得し、ジャーナリズムに関わる時事問題に対する基礎的な知識を養い、自ら立てた問いを追究するための技能と態度を修得することを目的とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。令和元年度以前入学の新聞学科の学生のうち、Ⅶ群の卒業単位を修得し終えていない学生は必要な単位分を「ジャーナリズム演習Ⅱ・Ⅲ」との組合せて履修登録すること。

【授業方法】
①ディスカッションによってジャーナリズム研究に係る基礎的な知識を涵養するとともに、各自の関心に基づいて研究課題を設定し、研究計画書を作成する。②先行研究の探索方法について学ぶとともに、自ら設定した研究課題に関する先行研究を渉猟する。③先行研究の知見を踏まえたうえで、自ら設定した研究課題に関するリサーチペーパーを作成する。①～③の過程において、随時担当教員に研究指導を受ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、ジャーナリズムの倫理的課題を論じることができる。						3						
②	ニュースメディアのビジネスモデルや組織構造を理解し、説明することができる。							3					
③	ジャーナリズムに関わる問いを立てて考察し、自分の考えを発表することができる。								3				
④	時事問題に関心を持ち、それらに係るメディア言説を分析することができる。								3				
⑤	積極的に意見を述べるとともに、他の受講者の意見を適切に評価することができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ジャーナリズム研究の領域において、自ら問いを立て、調査・考察した成果をリサーチ・ペーパーとしてまとめる。	10	10	10	10	5						45
討論・発表等	研究テーマに関するディスカッションにおいて積極的に発言することができる。研究成果の要旨を端的に説明することができる。	10	10	10	10	5						45
授業への参画度	ワークシート（研究計画書）の記入内容や、積極的な発言を加点要素とする。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomを使用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために（第二版）	大井眞二ほか編	世界思想社	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局における番組の企画、制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		情報収集・分析の方法論、プレゼンテーションの方法論の指導等	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ジャーナリズム研究の射程	初回ガイダンス	
	この回の到達目標	演習の目的を理解するとともに、これまで専門基幹科目や専門展開科目で学んできた「ジャーナリズム」に関する知識を整理する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、これまでに履修してきたジャーナリズム関連科目の復習をしておくこと。	90分
	事後学修	学習方略としてノートテイクを重視するため、受講時に必要なノートを準備し、効率的なまとめ方を模索する。	90分
2	問いを立てる	ジャーナリズムに関する研究テーマを設定する	
	この回の到達目標	これまでの学修で得てきた知識を活かして、自分が研究したいテーマを選ぶ。	
	事前学修	ジャーナリズム研究の射程内で、自分が関心のある研究テーマについて考え、下調べを行なう。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
3	先行研究の批判的検討	検証可能な事実に基づいて、いかなる知見がもたらされているかを把握する。	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、これまでに何が明らかにされていて、何が明らかにされていないのかを腑分けして、問いの焦点を定める。	
	事前学修	自分の研究テーマに関して、どのような研究書や論文が書かれているのかを調べる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
4	研究計画書を書く（1）	研究の「対象」と「方法」を設定する	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、分析対象を定めて研究方法を明確にする。	
	事前学修	分析方法のモデルとなる先行研究を見出し、批判的検討を加える。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
5	研究計画書を書く（2）	「仮説」を設定する	
	この回の到達目標	問いに対して予測可能な理論仮説を立てたうえで、経験的で検証可能な作業仮説に落とし込む。	
	事前学修	自分が研究するテーマについて、経験的に検証することができる射程について考える。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
6	研究計画書を書く（3）	目次を構成する	
	この回の到達目標	「リサーチ・ペーパー」の骨子を立てて、研究の全体像をイメージする。	
	事前学修	この先、2ヶ月間の研究日程を把握し、リサーチ・ペーパーの執筆スケジュールを組み立てる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課題報告／小括	「研究計画書①」の提出と添削	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明することができる。	
	事前学修	「研究計画書①」をまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
8	先行研究のフォローとデータ収集（1）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち1冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
9	先行研究のフォローとデータ収集（2）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち2冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
10	先行研究のフォローとデータ収集（3）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち3冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
11	課題報告／小括	「研究計画書②」の提出と添削（「研究計画書①」の修正版があれば再提出）	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明することができる。	
	事前学修	「研究計画書②」をまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
12	データ分析	収集した一次情報の分析	
	この回の到達目標	検証に必要なデータを分析し、仮説の検証・反証を行なう。	
	事前学修	定性調査・定量調査の技法について復習する。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	分析結果の検証	分析結果から得られる知見の整理	
	この回の到達目標	得られた成果が、当該分野の研究史の中でどのように位置づけられるのかを考える。	
	事前学修	得られた成果を文章でまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
14	草稿の作成	自分の研究成果の意義を主張する	
	この回の到達目標	自分の研究が、先行研究には存在していないどのような点を補う成果であるのかを説明する。	
	事前学修	リサーチ・ペーパーの体裁に基づいて、序論・本論・結論をまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分
15	総括／講評	リサーチ・ペーパーの提出と講評	
	この回の到達目標	自分の研究の限界を自覚し、今後に残された課題について説明する。	
	事前学修	「リサーチ・ペーパー」の完成稿をまとめる。	90分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	90分

科目名	ジャーナリズム演習Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム研究に関する基礎概念を理解したうえで、現代日本におけるジャーナリズムや時事問題に関する問いを自ら立て、調査研究を行なう演習科目である。任意で、「ジャーナリズム演習Ⅰ」・「ジャーナリズム演習Ⅲ」と組み合わせて履修することが望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズム研究に必要な理論的視座を獲得し、ジャーナリズムに関わる時事問題に対する基礎的な知識を養い、自ら立てた問いを追究するための技能と態度を修得することを目的とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。令和元年度以前入学の新聞学科の学生のうち、Ⅶ群の卒業単位を修得し終えていない学生は必要な単位分を「ジャーナリズム演習Ⅰ・Ⅲ」との組合せで履修登録すること。

【授業方法】
①ディスカッションによってジャーナリズム研究に係る基礎的な知識を涵養するとともに、各自の関心に基づいて研究課題を設定し、研究計画書を作成する。②先行研究の探索方法について学ぶとともに、自ら設定した研究課題に関する先行研究を渉猟する。③先行研究の知見を踏まえたうえで、自ら設定した研究課題に関するリサーチペーパーを作成する。①～③の過程において随時担当教員に研究指導を受ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、ジャーナリズムの倫理的課題を論じることができる。						3						
②	ニュースメディアのビジネスモデルや組織構造を理解し、説明することができる。							3					
③	ジャーナリズムに関わる問いを立てて考察し、自分の考えを発表することができる。								3				
④	時事問題に関心を持ち、それらに係るメディア言説を分析することができる。								3				
⑤	積極的に意見を述べるとともに、他の受講者の意見を適切に評価することができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ジャーナリズム研究の領域において、自ら問いを立て、調査・考察した成果をリサーチ・ペーパーとしてまとめる。	10	10	10	10	5						45
討論・発表等	研究テーマに関するディスカッションにおいて積極的に発言することができる。研究成果の要旨を端的に説明することができる。	10	10	10	10	5						45
授業への参画度	ワークシート（研究計画書）の記入内容や、積極的な発言を加点要素とする。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomを使用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は必要に応じて、随時紹介する。				

【オフィスアワー】
【2024年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ジャーナリズム研究の射程	初回ガイダンス	
	この回の到達目標	演習の目的を理解するとともに、これまで専門基幹科目や専門展開科目で学んできた「ジャーナリズム」に関する知識を整理する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、これまでに履修してきたジャーナリズム関連科目の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	受講時のノート振り返り、今後の研究の進め方について考える。	120分
2	問いを立てる	ジャーナリズムに関する研究テーマを設定する	
	この回の到達目標	これまでの学修で得てきた知識を活かして、自分が研究したいテーマを選ぶ。	
	事前学修	ジャーナリズム研究の射程内で、自分が関心のある研究テーマについて考え、下調べを行なう。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
3	先行研究の批判的検討	検証可能な事実に基づいて、いかなる知見がもたらされているかを把握する。	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、これまでに何が明らかにされていて、何が明らかにされていないのかを腑分けして、問いの焦点を定める。	
	事前学修	自分の研究テーマに関して、どのような研究書や論文が書かれているのかを調べる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
4	研究計画書を書く（1）	研究の「対象」と「方法」を設定する	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、分析対象を定めて研究方法を明確にする。	
	事前学修	分析方法のモデルとなる先行研究を見出し、批判的検討を加える。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
5	研究計画書を書く（2）	「仮説」を設定する	
	この回の到達目標	問いに対して予測可能な理論仮説を立てたうえで、経験的に検証可能な作業仮説に落とし込む。	
	事前学修	自分が研究するテーマについて、経験的に検証することができる射程について考える。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
6	研究計画書を書く（3）	目次を構成する	
	この回の到達目標	「リサーチ・ペーパー」の骨子を立てて、研究の全体像をイメージする。	
	事前学修	この先、2ヶ月間の研究日程を把握し、リサーチ・ペーパーの執筆スケジュールを組み立てる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課題報告／小括	「研究計画書①」の提出と添削	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明することができる。	
	事前学修	「研究計画書①」をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
8	先行研究のフォローとデータ収集（1）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち1冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
9	先行研究のフォローとデータ収集（2）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち2冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
10	先行研究のフォローとデータ収集（3）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち3冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
11	課題報告／小括	「研究計画書②」の提出と添削（「研究計画書①」の修正版があれば再提出）	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明する。	
	事前学修	「研究計画書②」をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
12	データ分析	収集した一次情報の分析	
	この回の到達目標	検証に必要なデータを分析し、仮説の検証・反証を行なう。	
	事前学修	定性調査・定量調査の技法について復習する。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	分析結果の検証	分析結果から得られる知見の整理	
	この回の到達目標	得られた成果が、当該分野の研究史の中でどのように位置づけられるのかを考える。	
	事前学修	得られた成果を文章でまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
14	草稿の作成	自分の研究成果の意義を明確に示す	
	この回の到達目標	自分の研究が、先行研究には存在していないどのような点を補う成果であるのかを説明する。	
	事前学修	リサーチ・ペーパーの体裁に基づいて、序論・本論・結論をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
15	総括／講評	リサーチ・ペーパーの提出と講評	
	この回の到達目標	自分の研究の限界を自覚し、今後に残された課題について説明する。	
	事前学修	「リサーチ・ペーパー」の完成稿をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	ジャーナリズム演習Ⅲ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム研究に関する基礎概念を理解したうえで、現代日本におけるジャーナリズムや時事問題に関する問いを自ら立て、調査研究を行なう演習科目である。任意で、「ジャーナリズム演習Ⅰ」・「ジャーナリズム演習Ⅱ」と組合せて履修することが望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズム研究に必要な理論的視座を獲得し、ジャーナリズムに関わる時事問題に対する基礎的な知識を養い、自ら立てた問いを追究するための技能と態度を修得することを目的とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。令和元年度以前入学の新聞学科の学生のうち、Ⅶ群の卒業単位を修得し終えていない学生は必要な単位分を「ジャーナリズム演習Ⅰ・Ⅱ」との組合せで履修登録すること。

【授業方法】
①ディスカッションによってジャーナリズム研究に係る基礎的な知識を涵養するとともに、各自の関心に基づいて研究課題を設定し、研究計画書を作成する。②先行研究の探索方法について学ぶとともに、自ら設定した研究課題に関する先行研究を渉猟する。③先行研究の知見を踏まえたうえで、自ら設定した研究課題に関するリサーチペーパーを作成する。①～③の過程において、随時担当教員に研究指導を受ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、ジャーナリズムの倫理的課題を論じることができる。						3						
②	ニュースメディアのビジネスモデルや組織構造を理解し、説明することができる。							3					
③	ジャーナリズムに関わる問いを立てて考察し、自分の考えを発表することができる。								3				
④	時事問題に関心を持ち、それらに係るメディア言説を分析することができる。								3				
⑤	積極的に意見を述べるとともに、他の受講者の意見を適切に評価することができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ジャーナリズム研究の領域において、自ら問いを立て、調査・考察した成果をリサーチ・ペーパーとしてまとめる。	10	10	10	10	5						45
討論・発表等	研究テーマに関するディスカッションにおいて積極的に発言することができる。研究成果の要旨を端的に説明することができる。	10	10	10	10	5						45
授業への参画度	ワークシート（研究計画書）の記入内容や、積極的な発言を加点要素とする。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、指導時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は必要に応じて、随時紹介する。				

【オフィスアワー】
授業実施期間中の月曜日の12:15～45、メールにて事前にアポイントを取ること。 sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ジャーナリズム研究の射程	初回ガイダンス	
	この回の到達目標	演習の目的を理解するとともに、これまで専門基幹科目や専門展開科目で学んできた「ジャーナリズム」に関する知識を整理する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、これまでに履修してきたジャーナリズム関連科目の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	学習方略としてノートテイクを重視するため、受講時に必要なノートを準備し、効率的なまとめ方を模索する。	120分
2	問いを立てる	ジャーナリズムに関する研究テーマを設定する	
	この回の到達目標	これまでの学修で得てきた知識を活かして、自分が研究したいテーマを選ぶ。	
	事前学修	ジャーナリズム研究の射程内で、自分が関心のある研究テーマについて考え、下調べを行なう。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
3	先行研究の批判的検討	検証可能な事実に基づいて、いかなる知見がもたらされているかを把握する。	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、これまでに何が明らかにされていて、何が明らかにされていないのかを腑分けして、問いの焦点を定める。	
	事前学修	自分の研究テーマに関して、どのような研究書や論文が書かれているのかを調べる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
4	研究計画書を書く（1）	研究の「対象」と「方法」を設定する	
	この回の到達目標	自分の研究テーマに関して、分析対象を定めて研究方法を明確にする。	
	事前学修	分析方法のモデルとなる先行研究を見出し、批判的検討を加える。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
5	研究計画書を書く（2）	「仮説」を設定する	
	この回の到達目標	問いに対して予測可能な理論仮説を立てたうえで、経験的に検証可能な作業仮説に落とし込む。	
	事前学修	自分が研究するテーマについて、経験的に検証することができる射程について考える。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
6	研究計画書を書く（3）	目次を構成する	
	この回の到達目標	「リサーチ・ペーパー」の骨子を立てて、研究の全体像をイメージする。	
	事前学修	この先、2ヶ月間の研究日程を把握し、リサーチ・ペーパーの執筆スケジュールを組み立てる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課題報告／小括	「研究計画書①」の提出と添削	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明することができる。	
	事前学修	「研究計画書①」をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
8	先行研究のフォローとデータ収集（1）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち2冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
9	先行研究のフォローとデータ収集（2）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち2冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
10	先行研究のフォローとデータ収集（3）	研究テーマに関する一次情報・二次情報を整理する	
	この回の到達目標	理論枠組み（採用するアプローチ）を明確にし、必要なデータの収集作業を進める。	
	事前学修	主たる先行研究を3つ選別し、そのうち3冊目の文献の「研究成果の意義」についてまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
11	課題報告／小括	「研究計画書②」の提出と添削（「研究計画書①」の修正版があれば再提出）	
	この回の到達目標	指定された「研究計画書」のフォーマットに基づいて、自らの研究内容を説明することができる。	
	事前学修	「研究計画書②」をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
12	データ分析	収集した一次情報の分析	
	この回の到達目標	検証に必要なデータを分析し、仮説の検証・反証を行なう。	
	事前学修	定性調査・定量調査の技法について復習する。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	分析結果の検証	分析結果から得られる知見の整理	
	この回の到達目標	得られた成果が、当該分野の研究史の中でどのように位置づけられるのかを考える。	
	事前学修	得られた成果を文章でまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
14	草稿の作成	自分の研究成果の意義を主張する	
	この回の到達目標	自分の研究が、先行研究には存在していないどのような点を補う成果であるのかを説明する。	
	事前学修	リサーチ・ペーパーの体裁に基づいて、序論・本論・結論をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分
15	総括／講評	リサーチ・ペーパーの提出と講評	
	この回の到達目標	自分の研究の限界を自覚し、今後に残された課題について説明する。	
	事前学修	「リサーチ・ペーパー」の完成稿をまとめる。	120分
	事後学修	授業やディスカッションを通して新たに気づいたことを整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新聞学科の「新聞」とは、ジャーナリズムの訳語である。つまり、ジャーナリズム論は新聞学科の学生が学修する中心をなす科目である。受講者は、そのことをふまえて、新聞学科の学生が学ぶべきこととは何かを学修する。その中でもジャーナリズム論Aでは、「哲学・規範論」の部分学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズム論といわれる領域の中の規範論を理解し説明できるようになるために、諸理論の知識を身につけ、ジャーナリズムの実践においてどの理論を適用するか判断できる技能を修得する。そのために常に事前学修を十分に行って講義の臨む態度と積極的に質問をする習慣を身につける。

【履修条件】
毎回必ず教科書を持参すること。

【授業方法】
講義形式が中心となるが、レポートの提出と講義ノートのチェック及びそれへのフィードバックを織り交ぜる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出により、講義ノート・チェックにより受講生の講義の理解度を、レポート提出によって講義の臨む態度・習慣をみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	自分は新聞学科で何を学びたいかを説明できる。					3						
②	ジャーナリストの社会における役割を説明し評価することができる。						3					
③	ジャーナリズム研究における規範論と記述論の違いを説明し適用できる。						3					
④	ジャーナリズム論における各規範論を解釈できる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートのチェックによって、講義内容を適切に理解しているかと、事前事後の学修により、理解を深めるような工夫をしているかどうかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
初回の講義で、レポートの書き方とノートの取り方を詳しく説明し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、講義ノートの取り方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝①】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書1・2・3章を読み、ジャーナリズムの理論というもののイメージを固めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	ジャーナリズムとプロフェッション	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムをなぜ学ぶのか、ジャーナリズム論の意義を理解する。①②	
	事前学修	教科書4・5章を読み、ジャーナリズム研究のイメージを固めておき、ジャーナリズム論の意義を考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズム論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	ジャーナリズムと規範理論	ジャーナリズム論における規範理論の位置づけと、記述論との相違を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム論の中での規範理論の意義を理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義の内容を講義ノート及び教科書を使って確実に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、規範論と記述論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	ジャーナリズム論における日本の課題	日本のジャーナリズム研究にどのような問題点があるのかを理解する。	
	この回の到達目標	日本のジャーナリズム研究における規範理論の位置づけを理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義ノート及び教科書の通読等からジャーナリズム論の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、日本のジャーナリズム研究の問題点をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	プレスの自由委員会	プレスの自由委員会の報告書『自由で責任あるプレス』が刊行されるまでの過程とその意義を理解する。	
	この回の到達目標	プレスの自由委員会の活動内容とその意義を理解し説明できる。①②③	
	事前学修	アメリカの1800年代後半から1900年代初めにかけての機械化・工業化・都市化の状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、プレスの自由委員会について学んだことをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	社会的責任論	当初ジャーナリズムの現場からも研究者からも評価されなかった、社会的責任論が『マスコミの自由に関する四理論』を通じて普及していく過程を理解する。	
	この回の到達目標	社会的責任論の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	プレスの自由委員会が、ジャーナリズムの危機と考えたメディア状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジョン・C・メリルの社会的責任論批判	ジャーナリズム論の主流となった社会的責任論を、メリルがどのように批判したかを理解する。	
	この回の到達目標	メリルの社会的責任論批判の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	『マスコミの自由に関する四理論』の内容を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、メリルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	リバタリアン・ジャーナリズム	メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リバタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リバタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	エドモンド・B・ランベスのスティワードシップ論	メリルの社会的責任論批判に対する反論としてのランベスのスティワードシップ論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	ランベスのスティワード・シップ論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	メリルの社会的責任論批判を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ランベスのスティワードシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	リベラル・ジャーナリズム	ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リベラル・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リベラリズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リベラル・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	クリフォード・G・クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論	自由主義や個人主義を批判するクリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	デモクラシーという概念を可能な限り多角的に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	コミュニタリアン・ジャーナリズム	クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	コミュニタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	コミュニタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、コミュニタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリストの行為規範①	ジャーナリストの行為規範を「二つの大前提」・「ジャーナリズムの定義」・「四つのアプローチ」の組み合わせによって構築する方法論を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範の構築の仕方を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	これまでの講義ノートと教科書を使い、これまでの講義の全体像を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリストの行為規範構築の方法論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	ジャーナリストの行為規範②	ナショナリズム・リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの「四つのアプローチ」の内容を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範を適用し評価できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの各ジャーナリズムを復習しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、「四つのアプローチ」をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	総括	講義ノートが適切にとれたか、レポートは適切に書き提出できたか、今後の講義にこの講義で得た知識が応用できるか等を確認する。	
	この回の到達目標	講義全体を通して積極的に受講していたかと、講義の到達目標に達しているかを省察できる。①②③④	
	事前学修	講義全体にわたって疑問点が残らないように質問事項を準備するとともに、講義ノートの精査ができるような準備をしておく。	120分
	事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
民主主義社会においてジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担う。以上のような前提のもと、本科目では具体的な事例を参照しつつ、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、①ジャーナリズムと真実、②ジャーナリズムとニュース、③ジャーナリズムと社会を学習することを通じて、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。そして、ジャーナリズムの活動を多元的に理解することにより、クリティカルな視点で解釈する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライドを用いて講義を実施する。授業では資料は配布しない。Live Campus Uを用いて事前に配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおくことが求められる。また、出欠確認はリアクションペーパー（レスポンス）を活用する。なお、授業スライドは事後に配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に資料を読み込み、受講生は理解を深めておく（反転授業）。また、リアクションペーパー（レスポンス）の実施を通して理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を理解し、適切に用いることができる。						2	2	2				
②	ニュースが報道される仕組みを理解し、具体的に説明できる。						2	2					
③	社会の諸領域とジャーナリズムの関わりについて理解し、的確に説明できる。						2	2	2				
④	授業で修得した知識に基づいて、ジャーナリズムに関する課題に取り組むことができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	リアクションペーパー（レスポンス）への回答から、到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを評価する。	10	5	5	10							30
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力の修得について評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパー（レスポンス）の実施を通して講義の理解度を把握し、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパー（レスポンス）の回答結果については、次回授業内でコメントする。また、レポートに対する総合的な評価についても、同様に授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容および事前・事後の学修の仕方を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	ジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の類型を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムに対する多角的な視点を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
3	ジャーナリズムと教育	ジャーナリズム教育の意義と役割、およびジャーナリズム・リテラシーの大切さを学習する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム教育の重要性を理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
4	客観報道	「客観報道」の意義、歴史、問題点およびニュースの客観性について学習する。	
	この回の到達目標	ニュースにおける「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
5	ドキュメンタリーと真実	ジャーナリズムにおけるドキュメンタリーの意義、そして問題点について学習する。その際、実際にドキュメンタリーを視聴しつつ考察する。	
	この回の到達目標	映像における事実の伝達について学習することを通じて、「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
6	問題報道	「やらせ」や「捏造」、「誤報」とその背景について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	問題報道の構造的な要因について理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	調査報道	調査報道の概念と必要性について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	調査報道の概念と必要性について理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
8	犯罪報道	犯罪報道とその背景について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	犯罪報道の構造的な要因について理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
9	ニュースとは何か	ニュースが報道されるまでの取材と報道の仕組みについて、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	取材と報道の仕組みについて学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
10	ニュースの選択過程	”ニュースの選択過程における理論的枠組み、特に、ゲートキーピングの概念を中心に学習する。	
	この回の到達目標	ゲートキーピングの概念を学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
11	ニュースのフレーム	私たちの社会的現実が、ニュースのフレームによって「切り取られた」ものであることを学習する。	
	この回の到達目標	フレームの概念について学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
12	世論とジャーナリズム	世論とジャーナリズムの関係について、第二次世界大戦における日本を事例として参照しつつ学習する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムと世論が相互に影響しあっていることを理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治とジャーナリズム	権力とジャーナリズムの観点から政治報道について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響について理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
14	戦争とジャーナリズム	戦争とジャーナリズムの関係性について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	戦争時におけるジャーナリズムのあるべき姿について考えを深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
15	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化がジャーナリズムにもたらした問題について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	グローバル化とジャーナリズムの関わりについて理解する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理 I	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本では情報発信者のための倫理学、中でもメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように、倫理学を扱う。それがどれだけ間違ったことであるか、それを明確にするのが本講義の主な内容である。受講者は、情報発信者にとって、自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことの重要性を理解できる人間の育成を目的とする。 倫理学でいうところの自律とは何かを理解し、ジャーナリスト、すなわち情報発信者が遭遇する倫理的諸問題を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
・テキストは必ず毎回持参。第1回から必ず講義に出席すること。欠席する場合は、必ずポータルの連絡に返信すること。

【授業方法】		
講義形式とディベートを組み合わせで講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディベート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。		3						
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。			3					
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。				3				
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。					3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワーク、ディベートにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①②③④にかかわる理解、説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。	25	25	25	25							100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディベートでは終了後に各チームへのコメントをする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディベートのルールとチーム編成、成績評価の方法、作戦会議のやり方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。①②③④	
	事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	120分
	事後学修	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	ジャーナリズム倫理Ⅰの概要	ジャーナリズム倫理Ⅰの概要を確認し、ディベートの準備に繋げる。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム倫理Ⅰの内容を理解し説明できるかを確認する。①②③④	
	事前学修	ジャーナリズム倫理Ⅰの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理Ⅰの概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
4	プライバシー侵害②	プライバシー侵害の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
5	少年法①	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
6	少年法②	少年犯罪報道の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	記者クラブ①	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
8	記者クラブ②	記者クラブの事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
9	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
10	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
11	紛争地取材①	紛争取材の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
12	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国家機密報道①		国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議を行う。
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
14	国家機密報道②		国家機密報道の事例に関するディベートを行う。
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	国家機密報道の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
15	総括		全ディベートを通しての講評と受講者全員への個別指導
	この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
	事前学修	講義全体の疑問点を質問できるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評の内容と自身への指導内容を理解するとともに、今後の学修に繋がられるように記録しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「ジャーナリズム倫理Ⅰ」では、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を専門的に理解し、説明する能力を培った。そのような基礎を前提に、本講義ではジャーナリズム倫理学に関連する諸問題の応用力の養成を主眼とする。具体的な事例を使用して、実際に倫理的判断ができるようにジャーナリズム倫理学の理論をブレインストーミング等を通じて学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学に関する諸問題の分析力、判断力を涵養し、ジャーナリズムに関する倫理学的問題を、適切に分析できる素養を養成することを目的とする。 「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を批判的に捉え、論理的に結論を導き出せるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
ジャーナリズム倫理Ⅰの単位取得者であること。

【授業方法】		
講義形式とディスカッションを組み合わせる講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。				3	3	3	3				
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。				3	3	3	3				
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。				3	3	3	3				
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等	授業におけるディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる理解、説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。			25	25							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションでは終了後に各自へのコメントをし、レポートについては、初回の講義で、レポートの書き方を講義し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディスカッションのやり方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	ディスカッションのやり方とレポートの書き方を確実に把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝③④】	
	事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	『逆転』事件の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	プライバシー侵害の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、『逆転』事件の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	プライバシーの侵害②	プライバシー侵害の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ディスカッションをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	少年法①	少年犯罪報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	少年犯罪報道の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	少年法②	少年犯罪報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	記者クラブ①	記者クラブの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	記者クラブの事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	記者クラブ②	記者クラブの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	紛争地取材①	紛争地取材の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	紛争地取材の事例の概要を把握しておく	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	国家機密報道①	国家機密報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	国家機密報道の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家機密報道②	国家機密報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	総括ディスカッション	ジャーナリズム倫理全般にわたるディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム倫理全般に関して自分の意見を明確に述べられる。①②③④	
	事前学修	前回までのすべての講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理全般の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	総括	ディスカッションとレポートの講評と指導	
	この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
	事前学修	講義全体に関する疑問点を質問できるように準備をする。	120分
	事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	社会情報システム研究	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるためにデータベースソフトを用いる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、基礎的スキルとしてのAccessの基本的操作方法を学習する。Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作を習得すると同時に、データベースを設計し、必要なデータを抽出できる。さらに、グラフや表を作成し、視覚化した資料を作成できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
Accessは比較的難解なため、Excel等の経験者、できれば、前期の「社会情報システム論」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】		
対面形式でコンピュータを利用した演習を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	P Cとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	Accessの基本的操作方法を理解し、操作できる。						4				4				
②	リレーショナルデータベースを適切に設計できる。						4			4	4				
③	テーブル、クエリ、フォーム、レポートなど適切に利用できる。									4	4	4			
④	データベースを使い、統計処理や分析ができる。									4	4	4			
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作や、データベースの設計、必要なデータを抽出できるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックについては授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインできる。 Google Drive上に授業用フォルダを作成する。	
	事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく。	120分
	事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	データベースの概略	データベースの概略について説明する。	
	この回の到達目標	データベースの概略について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	Microsoft Access 1	リレーショナルデータベースについて説明する。	
	この回の到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	Microsoft Access 2	Microsoft Access におけるデータベースの設計について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるデータベースの設計について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	Microsoft Access 3	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	Microsoft Access 4	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Access 5	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	Microsoft Access 6	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	Microsoft Access 7	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	Microsoft Access 8	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	Microsoft Access 9	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	Microsoft Access 10	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Access 11	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	Microsoft Access 12	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会情報システム論	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるために表計算ソフトを用い、統計処理や分析方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Excelの基本的操作方法を学習する。Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数を習得すると同時に、ビジネスグラフを作成し視覚的なデータに加工できる。さらに、データから必要な情報を取り出し 統計処理や分析ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面形式でコンピュータを利用した演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	P Cとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				2							
②	Excelの基本的操作方法を理解する。						2	2				
③	データの集計や視覚化、加工、グラフ化などの処理ができる。						2	2				
④	データを用い、統計処理や分析ができる。				2		2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	解決したいテーマに対しどの統計解析手法を使えばよい か、また、Excelを用いた表の作成および集計を行うための 基本的な計算式や関数の利用等、及び視覚的なデータに加工 できるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に 理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③ ④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックについては授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインできる。 Google Drive上に授業用フォルダを作成する。	
	事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく, 事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	Microsoft Excelの基礎 1	Microsoft Excelの利用法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの基礎について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	Microsoft Excelの基礎 2	Microsoft Excelの利用法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの基礎について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	統計とは何か	統計とは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	統計とは何かについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	データのばらつきと指標（分散、標準偏差など）	データのばらつきと指標（分散、標準偏差など）について説明する。	
	この回の到達目標	データのばらつきと指標（分散、標準偏差など）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	データのばらつきと指標（散布図、相関係数、ジニ係数など）	データのばらつきと指標（散布図、相関係数、ジニ係数など）について説明する。	
	この回の到達目標	データのばらつきと指標（散布図、相関係数、ジニ係数など）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	確率と分布（正規分布、二項分布、ポアソン分布など）	確率と分布（正規分布、二項分布、ポアソン分布など）について説明する。	
	この回の到達目標	確率と分布（正規分布、二項分布、ポアソン分布など）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	確率と分布（t分布、 χ^2 乗分布、F分布）	確率と分布（t分布、 χ^2 乗分布、F分布）について説明する。	
	この回の到達目標	確率と分布（t分布、 χ^2 乗分布、F分布）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	標本調査と統計的検定（仮説検定、棄却域、有意水準）	標本調査と統計的検定（仮説検定、棄却域、有意水準）について説明する。	
	この回の到達目標	標本調査と統計的検定（仮説検定、棄却域、有意水準）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	代表的検定方法（t検定、F検定、 χ^2 乗検定など）	代表的検定方法（t検定、F検定、 χ^2 乗検定など）について説明する。	
	この回の到達目標	代表的検定方法（t検定、F検定、 χ^2 乗検定など）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	回帰分析	回帰分析について説明する。	
	この回の到達目標	回帰分析について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	活用事例 1	Excelを用いた活用事例について説明する。	
	この回の到達目標	Excelを用いた活用方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	活用事例 2	Excelを用いた活用事例について説明する。	
	この回の到達目標	Excelを用いた活用方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	活用事例 3	Excelを用いた活用事例について説明する。	
	この回の到達目標	Excelを用いた活用方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会政策論Ⅰ	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図るための政策である。具体的には、労働政策、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策などが含まれる。 社会政策論Ⅰでは主として社会保障政策、福祉政策について、政策の基本、政策の概要を説明したうえで、政策に関わる論点、今後の政策の方向などを考える。 (労働政策に関しては後期の社会政策論Ⅱで扱います)

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
社会政策は社会に内在する諸課題に対応し、社会の統合、生活の安定を図ることを目的としている。社会生活を送るうえで、誰もががかわりを持つことになる。そのような社会政策について、歴史的経緯、現在の状況、政策課題を理解することは社会生活を送り老後まで見通した生活設計をしていくうえで必須の知識である。社会保障制度や福祉政策に関して客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
パワーポイントの資料に基づいて、社会政策の歴史、現行の社会保障制度、社会保障をめぐる政策課題などを説明します。 厚生労働省で長年にわたり政策の企画・立案に携わってきた経験を踏まえ、政策の現場でどのように考えているのかについて触れたいと思います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力					
達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会政策の基本について理解できるようになる。		2		2	2	2			
②	社会保障制度に関して制度の現況、政策課題を理解できるようになる。		2		2	2	2			
③	社会・経済の変容と社会保障との関連について理解できようになる。		2		2	2	2			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	任意の社会保障分野について政策課題を提示したうえで、 今後の政策の方向性について実態を踏まえて自分の考えを 提示できるか確認する。	10	20	40								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	期間中に任意の社会保障分野に関する小レポートを3回提出 していただき、現行制度を踏まえた政策課題の提示ができ るか確認する。		20	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の中で適宜コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会保障論Ⅰ	香取照幸	東洋経済新報社	2022	参考書	推奨
実務のための労働法制度	岡崎淳一	日本経済新聞出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後質問に対応します。そのほか、メールでの質問に対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	厚生労働省において37年間政策の企画・立案に携わった
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義の中で、政策の現場でどのように政策が企画・立案されてきたか、また、どのように考えていたかなどについて触れたいと思います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 社会政策の概要	授業のテーマ・内容、授業のスケジュール、成績評価方法について説明する。 社会政策の概要、基本的視点などについて説明する。	
	この回の到達目標	社会政策の概要、基本的視点を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、報道等によって最近の社会事象について関心を深める。 参考書「社会保障論Ⅰ」第1章	120分
	事後学修	講義を振り返って、社会政策の基本的視点について整理をする。 また、シラバスを踏まえて、小レポートのテーマ3つ及び最終レポートの対象テーマ1つを選定する。 (テーマは、講義を踏まえて適宜変更してかまいません)	120分
2	社会政策の歴史	社会政策がどのような背景事情の下で生まれて発展してきたのか、産業革命以来の社会の変化との関係で説明する。	
	この回の到達目標	産業革命以来の社会構造の変化とそれに伴って必要とされた社会政策の発展過程を理解し、説明することができる。	
	事前学修	産業革命以来の社会の変化に関して書籍等で確認する。 参考書「社会保障論Ⅰ」第2章	120分
	事後学修	社会政策が必要とされて背景を確認し、社会政策の必要性を整理する。	120分
3	日本の社会保障制度の特徴	日本の社会保障制度の発展過程を説明し、その特徴について考える。	
	この回の到達目標	日本の社会保障制度の特徴を説明することができる。	
	事前学修	日本の社会保障制度の概要について厚生労働省HPなどで確認する。 参考書「社会保障論Ⅰ」第5章、第7章	120分
	事後学修	日本の社会保障制度の特徴を整理する。	120分
4	国家財政と社会保障制度	国家財政の状況、国家財政における社会保障の重みを説明し、社会保障制度に関する財政面からの制約を考える。	
	この回の到達目標	国家財政と社会保障制度との関係を説明できる。	
	事前学修	財務省HPなどで現在の日本の国家財政の状況を理解する。 参考書「社会保障論Ⅰ」第12章	120分
	事後学修	社会保障制度を考える際における財政制約に関して自分の考えを整理する。	120分
5	労働者とは	日本の社会保障制度は職域と地域の二本立てであることから、職域保険の対象となる労働者の定義を説明し、労働者とそうでない一般国民とによる社会保障制度の相違について考える。	
	この回の到達目標	労働者の定義を理解し、職域と地域の制度の違いを説明できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって職域保険と地域保険の制度の違いを確認する。 なお、労働者の定義は、社会政策論Ⅱの教科書に指定している「実務のための労働法制度」第1章第1節に説明があります。	120分
	事後学修	職域保険と地域保険の制度の違いを整理し、非正規雇用労働者や雇用類似の働き方の者に関する課題を整理する。	120分
6	年金制度の概要	年金制度の歴史と現行制度の概要を説明する。	
	この回の到達目標	現行の年金制度の概要を理解し、説明できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって年金制度を確認する。	120分
	事後学修	現行の年金制度について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	年金制度を巡る論点	前回の講義を前提にして、年金制度の課題を提示し、年金制度の在り方について考える。	
	この回の到達目標	年金制度の課題を理解し、年金制度について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによってこれまでの年金制度に関する議論を確認する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、年金制度に関する自分の考えを整理する。	120分
8	健康保険制度の概要	健康保険制度の歴史と現行制度の概要を説明する。	
	この回の到達目標	現行の健康保険制度の概要を理解し、説明できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって健康保険制度を確認する。	120分
	事後学修	現行の健康保険制度について整理する。	120分
9	健康保険制度を巡る論点	前回の講義を前提にして、健康保険制度の課題を提示し、健康保険制度の在り方について考える。	
	この回の到達目標	健康保険制度の課題を理解し、健康保険制度について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによってこれまでの健康保険制度に関する議論を確認する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、健康保険制度に関する自分の考えを整理する。	120分
10	医療と公衆衛生	医療提供体制及び公衆衛生について現在の状況を説明し、医療提供体制の整備、公衆衛生に関する課題を考える。	
	この回の到達目標	医療提供体制及び公衆衛生の課題を理解し、医療提供体制の整備及び公衆衛生に関して自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって医療提供体制と公衆衛生の状況を確認する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、コロナ禍における感染防止や医療提供体制の問題点について自分の考えを整理する。	120分
11	介護保険制度	介護保険制度創設の経緯、その後の制度見直しについて説明し、介護保険制度の在り方について考える。	
	この回の到達目標	介護保険制度の課題を理解し、介護保険制度の在り方に関して自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって介護保険制度を確認する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、介護保険制度に関する自分の考えを整理する。	120分
12	生活保護制度と第2のセーフティーネット	生活保護制度と第2のセーフティーネットに関して現行制度を説明するとともに、救貧・防貧の在り方について考える。	
	この回の到達目標	生活保護制度と第2のセーフティーネットについて理解し、救貧・防貧の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって生活保護制度と第2のセーフティーネットを確認する。	120分
	事後学修	救貧・防貧の在り方について自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	子育て支援	子育て支援に関わる制度について説明し、少子化対策の観点から今後の課題を考える。	
	この回の到達目標	少子化対策の観点から子育て支援の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって子育て支援に関する制度について確認する。 なお、育児休業等企業による支援については、社会政策論Ⅱの教科書に指定している「実務のための労働法制度」第4章第1節に説明があります。	120分
	事後学修	少子化対策の観点から子育て支援について自分の考えを整理する。	120分
14	障害者福祉と障害者雇用	障害者福祉と障害者雇用の状況、制度について説明し、ダイバーシティの観点から障害者政策の在り方考える。	
	この回の到達目標	ダイバーシティの観点から障害者政策の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPなどによって障害者に関する制度について確認する。 なお、障害者雇用については、社会政策論Ⅱの教科書に指定している「実務のための労働法制度」第6章第4節に説明があります。	120分
	事後学修	障害者に関する政策について自分の考えを整理する。	120分
15	社会保障制度改革	社会保障にかかわる社会の変化について説明し、今後の社会保障制度の在り方について考える。	
	この回の到達目標	社会保障制度改革の必要性について理解し、今後の社会保障制度の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	内閣官房HPなどによって社会保障制度改革について確認する。	120分
	事後学修	講義全体を踏まえて社会保障制度改革に関する自分の考えを整理する。	120分

科目名	社会政策論Ⅱ	担当者	岡崎 淳一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図るための政策である。具体的には、労働政策、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策などが含まれる。 社会政策論Ⅱでは主として労働政策について、政策の基本、政策・制度の概要を説明し、政策・制度に関わる論点、今後の政策の方向などを考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策は社会に内在する諸課題に対応し、社会の統合、生活の安定の確保を図ることを目的としている。その中で、労働政策は、安定した雇用が確保され、良好な労使関係の下で適切な労働条件によって健康で安心して働くことができる社会の実現をめざしている。しかしながら、実際の働く場では様々な問題が発生している。労働関係の制度の概要を知り、現在の問題状況、政策課題、議論の内容を理解することは大学を卒業して働く際に必須の知識である。労働政策や働き方に関して客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
労働政策に関して、政策立案の現場にいた経験を踏まえた講義をします。 具体的には、パワーポイントの資料に基づいて、各回のテーマに関して現行の制度・状況を簡単に説明したうえで、それにかかわる政策の経緯、考え方、課題、今後の方向性などについて説明します。 教科書「実務に関する労働法制度」の指定部分を事前に読んでいることを前提に説明します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働政策の基本について理解できるようになる。。					2		2	2	2			
②	労働に関する制度の概要を理解し、現在の政策課題とそれにかかわる議論を理解できるようになる。					2		2	2	2			
③	産業、経済の変化の下で労働政策の今後の方向性を提示できる。					2		2	2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	任意の労働政策分野について政策課題を提示したうえで、 今後の政策の方向性について実態を踏まえて自分の考えを 提示できるか確認する。	10	40	20								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	期間中に任意の労働政策分野に関する小レポートを3回提出 していただき、到現行制度を踏まえた政策課題の提示がで きるか確認する。		20	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の中で適宜コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務のための労働法制度	岡崎淳一	日本経済新聞出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後質問に対応します。そのほか、メールでの質問に対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	厚生労働省において37年間政策の企画・立案に携わった
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義の中で、政策の現場でどのように政策が企画・立案されてきたか、また、どのように考えていたかなどについて触れたいと思います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 労働政策の基本的視点		授業のテーマ・内容、授業のスケジュール、成績評価方法、教科書について説明する。 労働政策全体を通じて妥当する基本的な視点について説明する。	
	この回の 到達目標	労働政策の基本的視点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、報道等によって最近の労働関係の事象（コロナ禍における雇用問題、物価上昇と賃金 引上げなど）について関心を深める。		120分
	事後学修	講義を振り返って、労働政策の基本的視点について整理をする。 また、シラバスを踏まえて、小レポートのテーマ3つ及び最終レポートの対象テーマ1つを選定する。 （テーマは、講義を踏まえて適宜変更してかまいません）		120分
2	構造変化に対応した雇用対策		人口構造や産業構造の変化が労働環境にどのように影響してきたか、また、そのような変化に対 してどのような雇用対策が必要かについて考える。	
	この回の 到達目標	人口構造・産業構造の変化が労働環境に与える影響について理解し説明できるとともに、構造変化に関わる雇用対策の課題 について提示できる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の産業構造と就業構造の変化について調べる。		120分
	事後学修	雇用政策研究会報告書「人口減少・社会構造の変化の中で、ウェル・ビーイングの向上と生産性向上の好循環、多様 な活躍に向けて」を読んで、政府の考え方を理解する。		120分
3	景気変動に対応した雇用対策		景気変動は雇用にどのように影響を及ぼすか、雇用の悪化に対してどのように対処すべきかにつ いて考える。	
	この回の 到達目標	景気変動が労働市場に与える影響について理解し説明できるとともに、景気変動に関わる雇用対策の課題について提示で きる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の景気変動について調べる。		120分
	事後学修	「2020年度雇用政策研究会報告書～コロナ禍における労働市場のセーフティネット機能の強化とデジタル技術を 活用した雇用政策・働き方の推進～」を読んで、現下の政府の雇用対策の考え方を理解する。		120分
4	日本型雇用慣行を巡る論点		日本型雇用慣行について説明し、雇用政策の基本的な考え方として雇用維持と労働移動のどちら に重点を置くべきかについて考える。	
	この回の 到達目標	日本型雇用慣行について理解し説明できるとともに、今後の雇用慣行がどうあるべきかについて自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第1章第5節を読んで日本型雇用慣行について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、雇用慣行に関する自分の考えを整理する。		120分
5	解雇制度		現在の解雇法制及び解雇を巡る議論の状況を説明し、今後の解雇制度の在り方について考える。	
	この回の 到達目標	解雇法制について理解し説明できるとともに、今後の解雇法制がどうあるべきかについて自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第1章第9節を読んで解雇法制について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、解雇法制に関する自分の考えを整理する。		120分
6	教育訓練		教育訓練の現状、政策の経緯を説明し、今後の教育訓練に関わる政策の在り方について考える。	
	この回の 到達目標	教育訓練の現状と政策の推移について理解し説明できるとともに、今後の教育訓練制度に関する政策の方向性について自分 の考えを提示できる。併せて、自分の今後のキャリアデザインを考える端緒とする。		
	事前学修	教科書第1章第6節を読んで教育訓練の制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、教育訓練の在り方、自分の今後のキャリアデザインについて考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働時間制度		労働時間・休暇の現状、政策の経緯を説明し、今後の労働時間・休暇に関わる政策の在り方について考える。	
	この回の到達目標	労働時間・休暇の現状と政策の推移について理解し説明できるとともに、今後の労働時間・休暇に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第3章（第6節を除く）を読んで、労働時間制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、労働時間制度に関する自分の考えを整理する。		120分
8	休暇制度		休暇の現状、政策の経緯を説明し、今後の休暇に関わる政策の在り方について考える。	
	この回の到達目標	休暇の現状と政策の推移について理解し説明できるとともに、今後の休暇に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第3章第6節を読んで、休暇制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、休暇に関する自分の考えを整理する。		120分
9	賃金		賃金水準、賃金制度に関して説明をし、賃金引き上げの余地はないのか、賃金引き上げには何が必要か、また最低賃金政策はどうあるべきかについて考える。	
	この回の到達目標	賃金制度・水準、最低賃金制度について理解し説明できるとともに、今後の賃金に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第2章第1節及び第5節を読んで、賃金制度と最低賃金制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、賃金に関する自分の考えを整理する。		120分
10	非正規雇用の現状と同一労働同一賃金		非正規雇用労働者の状況及び同一労働同一賃金の法制度について説明し、非正規雇用労働者の処遇改善のために何が必要かについて考える。	
	この回の到達目標	非正規雇用労働者の状況について理解し説明できるとともに、同一労働同一賃金の効果、さらなる対応の必要性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第6章第6節を読んで、非正規雇用労働者に関する法制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、非正規雇用と同一労働同一賃金に関する自分の考えを整理する。		120分
11	女性活躍		男女間の賃金格差の現状、男女雇用機会均等制度について説明し、いまだに格差がある原因は何か、どうすれば格差がなくなるか、さらなる法整備が必要かについて考える。	
	この回の到達目標	男女間の賃金格差の現状と男女雇用機会均等制度について理解し説明できるとともに、今後の女性活躍促進の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第1節及び第6章第1節を読んで、男女雇用機会均等、女性活躍に関する制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、女性活躍に関する自分の考えを整理する。		120分
12	ハラスメント防止		現在の職場におけるハラスメント防止対策について説明し、ハラスメント対策は十分か、ほかに対応すべきハラスメント問題はないかについて考える。	
	この回の到達目標	ハラスメントの現状とハラスメント防止対策について理解し説明できるとともに、今後のハラスメント防止対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第3節を読んで、ハラスメント防止対策について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、職場のハラスメント対策に関する自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	雇用保険制度		雇用保険に関して制度や財政状況について説明し、雇用保険制度にかかわる政策課題について考える。
	この回の到達目標	雇用保険に関して制度や財政状況について説明できるとともに、雇用保険制度にかかわる政策課題について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPの雇用保険制度の説明を読んで、雇用保険制度について理解する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、雇用保険制度の運営、改善に関して自分の考えを整理する。	120分
14	安全衛生と労災保険制度		労働安全衛生に関する法制を説明するとともに、労災保険に関して制度や財政状況について説明し、労災保険制度にかかわる政策課題について考える。
	この回の到達目標	労働安全衛生に関する法制度の概要を理解する。 労災保険に関して制度や財政状況について説明できるとともに、労災保険制度にかかわる政策課題について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	厚生労働省HPの労災保険制度の説明を読んで、労災保険制度について理解する。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、労災保険制度の運営、改善に関して自分の考えを整理する。	120分
15	外国人の受け入れ		外国人の就労状況、外国人受け入れ制度について説明し、今後の外国人受け入れをどうすべきか、国際競争対応、人手不足対応、人口減少対応などの視点から考える。
	この回の到達目標	外国人就労の現状と外国人受け入れ制度について理解し説明できるとともに、今後の外国人労働者受け入れの在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第6章第5節を読んで、外国人受け入れ制度について理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、外国人受け入れに関する自分の考えを整理する。	120分

科目名	社会調査概論	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会調査は、社会のさまざまな領域で活用されている。社会の実態を知る上で、社会調査は必要不可欠のツールである。以上のような前提のもと、本科目では、社会調査に関する基本的な知識および方法論を修得する。また、実際に社会調査を企画して、それを実施する基本的な能力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、①社会調査の概念、②社会調査の歴史、③社会調査の方法を学習することを通じて、社会調査に関する基本的な知識および方法論を修得する。そして、社会調査について多角的に理解することにより、そのリテラシーを身につける。

【履修条件】
毎回、授業開始10分以内に出席を確認する。それ以降の出席は欠席扱いとなる。5回以上欠席した場合、単位取得資格を失う。また欠席に当たり、就職活動は考慮しない。履修を希望する際には、その旨を十分理解した上で登録すること。

【授業方法】
スライドを用いて講義を実施する。授業では資料は配布しない。Live Campus Uを用いて事前に配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおくことが求められる。また、出欠確認はリアクションペーパー（レスポん）を活用する。なお、授業スライドは事後に配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に資料を読み込み、受講生は理解を深めておく（反転授業）。また、リアクションペーパー（レスポん）の実施を通して理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	社会調査の概念および歴史を理解し、具体的に説明できる。				2	2						
③	社会調査のデータに対するリテラシーを身につけ、それらをクリティカルに解釈できる。				2	2	2	2				
④	授業で修得した知識と方法論に基づいて、社会調査を企画することができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力の修得について評価する。	10			15							25
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパー（レスポンス）の実施を通して講義の理解度を把握し、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパー（レスポンス）の回答結果については、次回授業内でコメントする。また、レポートに対する総合的な評価についても、同様に授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
系譜から学ぶ社会調査	小林多寿子	嵯峨野書院	2018	教科書	推奨
社会調査の実際	島崎哲彦・大竹延幸	学文社	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、受講準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を通して読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	社会調査とは何か	社会調査の定義や考え方、類型、その意義について学習する。	
	この回の到達目標	社会調査の基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
3	社会調査のルーツ	社会調査のルーツについて、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	社会調査のルーツについて学習することで、社会調査の意義に対する理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
4	古典的社会調査	社会調査の原点ともいえる家計調査および貧困調査について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	家計調査および貧困調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
5	シカゴ学派	シカゴ学派が形成された背景、そしてそこで発展した質的調査について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	シカゴ学派が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
6	地域調査	ミドルタウン調査に代表される地域調査がもたらした影響について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	地域調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディア効果調査	メディア効果調査によるメディアの影響力に対する認識の変化について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	メディア効果調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
8	世論調査	世論調査の誕生からその発展の過程について、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	世論調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
9	量的調査の基礎	量的調査を実施するために必要な基礎的知識として、その概念および技法について学習する。	
	この回の到達目標	量的調査を実施するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
10	量的調査の過程	量的調査について、その企画から報告に至るまでの過程について学習する。	
	この回の到達目標	量的調査を実施する過程について学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
11	調査票の作成	調査票の作成、質問文の作成における注意点を中心に学習する。	
	この回の到達目標	調査票の作成のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
12	量的調査の実施	社会調査の準備と実施、および調査票の回収と点検について学習する。	
	この回の到達目標	社会調査を実施のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	集計と分析		集計の種類、分析の考え方、そして収集したデータを集計、分析する方法について学習する。
	この回の到達目標	データの集計および分析のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
14	質的調査の基礎		質的調査を実施するために必要な基礎的知識として、その概念および技法について学習する。
	この回の到達目標	質的調査を実施するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
15	総括		第2回から第14回までの講義の理解度を測るための授業内試験を実施する。
	この回の到達目標	授業内試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を復習する。	
	事前学修	第2回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、復習する。	120分
	事後学修	授業内試験への復習を通じて、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を復習する。	120分

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に挙げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に挙げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】						2						
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】								2				
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる事ができる。【問題発見・解決力】									2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障法上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	15	15								60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識を身につけているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べるができているかを確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	15	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法 第2版	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2023年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14時40分～16時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会保障法の概念	社会保障が、国民の生活を保障するために、どのような役割を担っているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	社会保障の概念とその役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	医療保険について考える（ワークショップ）	医療保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	医療保険制度の概要	医療保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
4	医療保険制度の課題	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	労災保険制度について考える	労災保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	労災保険制度の概要	労災保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労災保険制度の課題		労災保険制度に関する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分
8	医療保険制度と労災保険制度の差異		医療保険制度と労災保険制度の差異を確認し、各制度における課題とその解決案について考える。	
	この回の到達目標	医療保険制度と労災保険制度の仕組みの差異について理解し、各制度における現代的な課題について、政策提案を含む私見を述べることができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分
9	雇用保険制度について考える		雇用保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	雇用保険の役割について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分
10	雇用保険制度の概要		雇用保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	雇用保険制度について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分
11	雇用保険制度の課題		雇用保険制度に関する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	雇用保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分
12	年金制度について考える		年金保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
	この回の到達目標	年金保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	年金制度の概要	年金保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	年金保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	年金制度の課題	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	前学期のまとめ試験及び振り返り	4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。	
	この回の到達目標	4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
	事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP ： 法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的の考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる ことができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障上の知識と論理的・ 批判的思考力が身についているかを確認する。	30	15	15								60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識が身について いるかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会 保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分 の意見を述べる事ができているか確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	15	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法 第2版	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2023年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14時40分～16時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 福祉オンブズパーソンとして、福祉相談業務を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容	福祉の現場で、どのようなことが課題となっているか、相談業務等を通じた経験を反映させる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会福祉制度及び生活保護制度の歴史と概念	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史を踏まえ、それぞれの役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史と各制度の役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	子育て支援をめぐる制度の概要	子育て支援制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	子育て支援制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	子育て支援をめぐる制度の課題	子育て支援制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	子育て制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。	120分
4	児童虐待をめぐる制度の概要	児童虐待防止制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	児童虐待防止制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	児童虐待をめぐる制度の課題	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	障害者福祉について考える	障害者の福祉ニーズについて学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	障害者福祉制度の概要	障害者福祉制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	障害者福祉制度の課題	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	高齢者福祉について考える	高齢者の福祉ニーズについて学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	高齢者福祉制度の概要	高齢者福祉制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間程度）。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。	120分
11	高齢者福祉制度の課題	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	生活保護制度について考える	貧困問題と生活保護制度の役割について学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	貧困問題と生活保護制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生活保護制度の概要	生活保護制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	生活保護制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	生活保護制度の課題	生活保護制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	生活保護制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	後学期のまとめ試験及び振り返り	福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。	
	この回の到達目標	福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
	事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	山村 りつ	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の生活に関わる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、理解できるだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。					2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。					2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。					2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。		20	20	20							60
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜コメントや質問へのリプライを行う。また最終的にリプライのまとめを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（ただし、この時間であっても事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障と制度の概観	
	この回の到達目標	社会保障制度の枠組みを図示できるようになる。	
	事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	社会保障制度の形成と仕組み	社会保障制度の形成過程とその仕組みについて説明する。	
	この回の到達目標	社会保障形成の大まかな流れを説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度の歴史についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	財源と給付	社会保障制度における方法論について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度における方法論についてその違いを説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度における税方式と保険方式について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	経済と社会保障	経済の動向と社会保障制度に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度と経済政策の関係を説明できるようになる。	
	事前学修	社会福祉基礎構造改革について調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	所得の再分配	社会保障制度の所得の再分配機能について説明する。	
	この回の到達目標	所得の再分配の構造を図示できるようになる。	
	事前学修	所得の再分配機能について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	社会の変化と社会保障制度	社会保障制度と家族制度およびその変化の影響について説明する。	
	この回の到達目標	日本の家族制度の特徴と社会保障制度の形成への影響を自分に言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	扶養家族の制度と税控除の制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	福祉国家レジーム論	福祉国家レジーム論について説明する。	
	この回の到達目標	福祉国家レジーム論の3つのレジームの特徴を説明できるようになる。	
	事前学修	エスピン・アンデルセンについて調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	自由主義レジーム	自由主義レジームとその代表的な政策・制度について説明する。	
	この回の到達目標	自由主義レジームの特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカの社会保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	保守主義レジーム	保守主義レジームとその代表的な政策・制度について説明する。	
	この回の到達目標	保守主義レジームの特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	ドイツの社会保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	社会民主主義レジーム	社会民主主義レジームとその代表的な政策・制度について説明する。	
	この回の到達目標	社会民主主義レジームの特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	フィンランドの社会保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	世界的な展開	現代の社会保障政策にみられる世界的潮流とその社会的背景について説明する。	
	この回の到達目標	現代の社会保障制度にみられる特徴と課題を説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度改革に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	福祉多元主義と地方分権	福祉多元主義の意味と社会保障制度に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	日本の社会保障制度にみられる地方分権について福祉多元主義の観点から説明できるようになる。	
	事前学修	福祉多元主義に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	社会保障財政		日本の社会保障に関する財政とその課題について説明する。
	この回の到達目標	日本の社会保障財政の特徴について自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	2021年度の社会保障財政収支について調べてくる	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	日本の社会保障制度の構成		現在の日本の社会保障制度の構成を整理する。
	この回の到達目標	社会保障論Ⅱに向けて社会保障制度の概要を理解し、その簡単な構成を図示できるようになる。	
	事前学修	厚生労働白書に目を通してくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	テストと総括		これまでの授業のテストと総括を行う。
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとるべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
	事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の生活に関わる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。					2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。					2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。					2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、試験で評価する。		20	20	20							60
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントや質問へのリプライを行う。また最終的にまとめたリプライを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（ただし、この時間でも事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障政策を理解するために必要な基本知識を説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度の基本的な用語について説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	各論①-1：所得保障	所得保障制度の基本的枠組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	所得保障制度の基本的な枠組みと役割について説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している所得保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	各論①-2：所得保障制度と公的扶助	日本の公的扶助制度について説明する。	
	この回の到達目標	生活保護制度の役割と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	自分の生活状況に対する生活保護基準を算出してみる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	各論①-3：所得保障制度と公的年金制度	日本の公的年金制度について説明する。	
	この回の到達目標	日本の公的年金制度の構造とその役割の違いを説明できるようになる。	
	事前学修	自分が加入している年金制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	各論①-4：社会手当	社会保障制度における社会手当の位置づけについて説明する。	
	この回の到達目標	社会手当の制度的特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（受給）できる社会手当について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	各論①-5：労働保険を通じた所得保障	労災保険および雇用保険を通じた所得保障制度について説明する。	
	この回の到達目標	労災保険と雇用保険から所得保障を受けるための条件について説明できるようになる。	
	事前学修	自分もしくは家族などが加入している雇用保険について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各論②-1：医療保障	医療保障制度の基本的枠組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	医療保障制度の基本的な枠組みと役割について説明できるようになる。	
	事前学修	海外の医療保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	各論②-2：社会保険による医療保障制度	日本の医療保険制度について説明する。	
	この回の到達目標	社会保険制度による医療保障体制を図式化できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している医療保険制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	各論②-3：補足的な医療保障制度	日本の捕捉的な医療保障制度について説明する。	
	この回の到達目標	補足的な医療保障制度の特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	自分の住んでいる自治体独自の医療保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	各論③-1：社会サービス給付	社会サービス給付の仕組みにと準市場化について説明する。	
	この回の到達目標	社会サービス給付における準市場化についてその特徴を説明できるようになる。	
	事前学修	日本における準市場化について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	各論③-2：ケア給付（介護保険制度）	ケア給付制度として介護保険制度について説明する。	
	この回の到達目標	介護保険制度の利用条件について説明できるようになる。	
	事前学修	介護保険利用の際の手続について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	各論③-3：ケア給付（障害者のケア）	障害者に対するケア給付について説明する。	
	この回の到達目標	障害者のケアサービスについて高齢者との違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	福祉的就労について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	各論③-4：ケア給付（児童のケア）		児童に関するケア給付について説明する。
	この回の到達目標	日本の児童保育サービスの概要を説明できるようになる。	
	事前学修	自分が子どもころに親が利用していた保育サービスについて調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	現物給付と市場化		社会保障政策において世界的な傾向としてみられる部分的市場化について説明する。
	この回の到達目標	現代社会保障制度における部分的市場化について説明し、それに対する自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	日本の社会保障政策における現物給付について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	まとめと総括		これまでの授業のまとめと総括を行う。
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとるべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
	事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	出版メディアⅠ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1、2、3。

【履修条件】
①将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、②本がなければ生きていけない「書痴」。それ以外の者、特に月1～2冊程度の読書習慣がないものには、つらいだけなので無理に受講しないでください。

【授業方法】
前半は、主に新聞記事（配布します）をもとにした、最近の話題や新刊などについてライブ解説。後半は、出版にまつわる基礎知識。本に興味がないひとには、たいへんつらい授業。課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	【本を読む力】1冊の本を精読し、ポイントを整理しながら全体を理解できる。					3	3	3	3				
②	【文章力】読者に伝わる正確な日本語の文章力／メディア入社試験で最低でも最初の書類選考を通過できる作文能力を身に付ける。					3	3	3	3				
③	【出版状況に対する現状理解】いまの出版界がどのような状況にあるのか、これからどうなるのかを正確に理解できる。					3	3	3	3				
④	【授業への常識的な参画】遅刻や欠席をせず、時間を守って授業に参加することで、社会人への予習的な習慣を身に付ける。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	月に1回、課題書籍を題材とした「書評」を提出する。これによって到達目標①②の実力を身に付ける。3本そろって初めて評価対象とする。月1冊の読書・書評執筆は意外とたいへんな作業になることを承知しておいてほしい。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	全回出席を平常点とし、到達目標③④を身に付ける。遅刻・欠席に応じて減点対象とする。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題（書評）は、原則として翌週に朱字添削と採点を施して、サンプルとあわせて返却し、解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。時間を要しそうな場合は、個別に、あらかじめ時間設定します。 morishige.ryotali@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 出版社で40年余の記者・編集者生活。現役編集者。並行して音楽ライター歴20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容	プロ編集者・校閲者のレベルで課題（書評）を朱字添削します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。Google Classroomを副次ツールに使用します（第1回で説明）。	
	この回の到達目標	この講義の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
2	出版業界	出版業界の現況～なぜ、本はこんなに売れないのか。	
	この回の到達目標	出版業界の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
3	書籍造本	本の構造～なぜ、本は「16頁」の倍数でできているのか。	
	この回の到達目標	書籍の造本構造を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆現在読んでいる本を、1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆書店で、本の「台割」と「奥付」を気にかける。	120分
4	雑誌造本	雑誌の構造～なぜ、週刊誌は、前と後ろにグラビアがあるのか。	
	この回の到達目標	雑誌の造本構造を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆その週の木曜日に発売された「週刊文春」を持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊誌と月刊誌の「製本」のちがいを気にかける。	120分
5	ベストセラー	戦後の主なベストセラー～なぜ、いまでも、漱石『こころ』が文庫売り上げ第1位なのか。	
	この回の到達目標	ベストセラーの条件を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆いま売れている本の「理由」を気にかける。	120分
6	文庫と新書	文庫・新書の歴史～なぜ、書店には、あんなに新書があふれているのか。	
	この回の到達目標	文庫と新書の歴史と現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆文庫か新書を、1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆大型書店の新書売り場を、隅々まで眺めてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	雑誌	雑誌の歴史～なぜ、週刊新潮と週刊文春は同じ発売日なのか。	
	この回の到達目標	週刊誌の歴史と現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊文春に目を通してほしい。	120分
8	図書館	図書館問題～なぜ、人々は本を買わないで、借りるのか。	
	この回の到達目標	図書館問題の要点を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆身近な公共図書館が、どのような状況になっているかを「体験」してほしい。	120分
9	コミック	コミック編集・出版の世界～なぜ、ゴルゴ13の銃口の向きは決まっているのか。	
	この回の到達目標	コミック編集の特徴を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆話題の漫画に目を通してほしい。	120分
10	電子出版	電子出版、ネット書店について～なぜ、アマゾン送料を取らずにやっていけるのか。	
	この回の到達目標	電子出版の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆青空文庫でいいので、一度、「デジタル」で本を読んでみてほしい。	120分
11	取次	取次とは～なぜ、書店で本を注文すると2週間かかるのか。	
	この回の到達目標	出版流通の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆ウェブサイトでいいので、「取次」の業態について知っておいてほしい。	120分
12	出版契約	出版契約について～なぜ、本は3年たたないと文庫にならないのか。	
	この回の到達目標	出版契約について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆所有している「文庫」の、単行本初出時期を気にかけてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	著作権		著作権の話～なぜ、ミッキーマウスの著作権は、いつまでも切れないのか。
	この回の到達目標	著作権の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆奥付にマルＣ表示がある本とない本があることを、気にかけてほしい。	120分
14	映像化		本の映像化について～なぜ、映画化すると、ほとんどがつまらなくなるのか。
	この回の到達目標	本の映像化の条件について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆どんな作品でもいいので、原作（小説）と映画のちがいを、比較してみしてほしい。	120分
15	まとめ		まとめ。前期中にできなかったテーマは、後期（出版メディアⅡ）で解説する予定です。
	この回の到達目標	いままで触れられなかった問題点について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分

科目名	少年法 I	担当者	渡邊 康洋	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法犯に占める少年の割合が半数余にのぼる今、少年事件がどの様に処理されているかについて、少年法の理念や目的を概観しつつ、刑事司法との関係についてその異同を正しく理解するために、比較法的な視点を踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非行少年が、被害者や地域社会との関係改善をどの様に図ることが、改善更生に繋がるかに関する知識を習得するために、刑事訴訟法の特別法である少年法が規定されたのか、その理念と制度設計の概要を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式を中心とする。学習状況の確認や授業への要望を把握するために毎回リアクションペーパーの提出を求める予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	少年法を少年手続と刑事手続との比較を通して、その異同が理解できる					1	1					
②	少年審判の役割や機能について理解し、説明ができる。					1	1					
③	家庭裁判所が管轄権を有する理由を比較法的な側面から説明することができる。					1			1			
④	少年非行の背景にある社会的環境や人的環境要因について調べる。				1				1			
⑤	少年手続を巡る諸問題について考察し、自分の意見をのゝることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを、試験により評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	1回の授業内小テストにより、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中ないしポータルサイト上にて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ビギナーズ少年法 第3版補訂第2版	守山 正・後藤弘子	成文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて適宜実施する。メールアドレスは開講時に指示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	少年法とは何か		少年法の理念と意義を検討する。少年法は一定年齢層を対象とした刑事訴訟法の特別法に当たるが、なぜ、このように犯罪を行った少年を成人と区別して扱うのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、少年法の理念や目的、とくに少年法第1条が掲げる「健全育成」を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第1講を読むこと		120分
	事後学修	刑事訴訟法と比較して、少年法の特徴や意義、理念をノートに整理する。		120分
2	少年法の誕生（1）		世界初の少年法（少年裁判所）は1899年のアメリカ・シカゴで誕生したが、その経緯を学習し、成人と少年の手続的分離がなぜ行われたのか理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、少年法がアメリカやイギリスで創設された意図を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第2講を読むこと		120分
	事後学修	少年法創設の意図をアメリカとイギリスで比較してノートに整理する。		120分
3	少年非行の現状		戦後における少年非行の現状を理解する。とくに、第1、第2、第3の波の時代背景を分析しながら、非行が「社会の鏡」と呼ばれる所以を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、社会変動と少年非行の現象を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第3講		120分
	事後学修	犯罪白書等で少年非行の動向をチェックし、少年非行の現状をノートに整理したうえで分析や考察を加える。		120分
4	少年法改正		少年法は2000年以降、随時大きな改正が行われ、とくに2000年には逆送制度、2021年には少年法適用年齢の引き下げ問題が議論された。なぜ、これらの改正の議論が行われたのか、その背景を理解する	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、少年法改正の契機となった社会情勢の変化、各種事件の発生を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第4講を読むこと		120分
	事後学修	少年法改正の背景と内容についてノートに整理する。		120分
5	非行少年の発見		非行少年発見の端緒にどのような機関が関わり、少年保護手続においてどのように処理されるかを理解する	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、非行少年の発見について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第6講を読むこと		120分
	事後学修	非行少年の発見についてノートに整理する。		120分
6	少年事件の捜査・予防活動		少年事件の捜査、少年非行の予防活動において警察がどのような役割を果たしているのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、少年警察活動について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書第7講を読むこと		120分
	事後学修	少年警察活動についてノートに整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	家庭裁判所の役割		家庭裁判所誕生の経緯、特徴、家庭裁判所の専門家の種類と役割、少年保護事件の受理について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、少年保護手続における家庭裁判所の意義について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書第8講を読むこと	120分
	事後学修	少年保護手続における家庭裁判所の意義についてノートに整理する。	120分
8	小テストと解説		本講義の第1回から第7回で扱った授業内容に関する小テストを行った後、出題の趣旨と正答について解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の第1回から第7回で扱ったテーマについて理解し、説明し、考察することができる。	
	事前学修	第1回から7回まで学習事項を教科書と講義資料で復習しておくこと	120分
	事後学修	今回の小テストで理解できなかった事項を点検し、再度学習すること	120分
9	社会調査		家裁調査官による社会調査の意義、原理、原則、方法について理解する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、社会調査の意義、原理、原則、方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書第9講を読むこと	120分
	事後学修	社会調査の意義、原理、原則、方法についてノートに整理する。	120分
10	少年審判の意義		少年審判の意義、機能、原理、諸原則について成人の公判手続と比較しながら理解する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、少年審判の意義、機能、原理、諸原則について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書第10講を読むこと	120分
	事後学修	少年審判の意義、機能、原理、諸原則についてノートに整理する。	120分
11	少年審判の手続		少年法が定める少年審判の対象、手続について理解する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、少年審判の対象、手続について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10講を読むこと	120分
	事後学修	少年審判の対象、手続についてノートに整理する。	120分
12	逆送と刑事処分		逆送の意義、原則逆送制度、刑事手続、刑事処分、さらに近年改正された「特定少年」の原則逆送についても理解する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、逆送の意義、原則逆送制度、刑事手続、刑事処分について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第12講を読むこと	120分
	事後学修	逆送の意義、原則逆送制度、刑事手続、刑事処分についてノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	少年院		少年院の意義、少年院における処遇の特徴、2014年少年院法改正の背景と概要について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、少年院の意義、少年院における処遇の特徴、2014年少年院法改正の背景と概要について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第13講を読むこと		120分
	事後学修	少年院の意義、少年院における処遇の特徴、2014年少年院法改正の背景と特徴についてノートに整理する。		120分
14	児童自立支援施設、児童養護施設、保護観察		児童自立支援施設、児童養護施設、保護観察の意義、処遇の特徴について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、児童自立支援施設、児童養護施設、保護観察の意義、これらの機関における処遇の特徴について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第13講を読むこと		120分
	事後学修	児童自立支援施設、児童養護施設、保護観察の意義、処遇の特徴についてノートに整理する。		120分
15	授業内試験と解説		本講義で扱ったテーマについて授業内試験を行い、出題の趣旨と正答について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第1回～第14回で扱ったテーマについて理解し、説明し、考察し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	第1回～第14回の学習の内容を踏まえ定期試験の準備をすること		120分
	事後学修	授業内試験について復習しノートに整理する。		120分

科目名	少年法Ⅱ	担当者	渡邊 康洋	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
家庭裁判所における終局決定後の保護処分や刑事処分の現状、及び少年による各種事案毎の概要と対応について概観しつつ、少年法の理念がどの様に反映されているかについて、比較法的な視点も踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
保護処分の種類と内容、及び刑事処分以降の対応に関する知識を修得するために、少年法の理念がどの様に反映されているか、具体的事案に即してどの様な処遇が実施されているかを知る。

【履修条件】
刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式を中心とする。学習状況の確認や授業への要望を把握するために毎回リアクションペーパーの提出を求める予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	終局処分の類型と内容について理解し、説明することができる					1	1					
②	被害者や地域社会との関係改善をどの様に進めることが、更生と社会復帰に繋がるかを理解し、説明ができる。					1	1					
③	少年の刑事手続を巡る現状を理解し、説明できる。					1	1		1			
④	被害者の権利と保護の現象について理解し、少年法と刑事訴訟法上の取扱いの差異について理解し、説明できる。				1		1		1			
⑤	少年事件を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを、試験により評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	1回の授業内小テストにより、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中ないしポータルサイト上にて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
①ビギナーズ少年法 第3版補訂第2版	守山 正・後藤弘子	成文堂	2023	教科書	必携
②ビギナーズ犯罪学 第3版	守山 正	成文堂	2024(公 刊予定)	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて適宜実施する。メールアドレスは開講時に指示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事手続と少年保護手続		刑事手続と少年保護手続の違いを学習し、その違いが少年保護にどのように機能しているかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、刑事手続と少年保護手続を比較し理解することで、少年法の理念や目的、少年保護手続の特徴を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書①第12講と刑事訴訟法の送検・起訴・公判などの手続を学習しておくこと。		120分
	事後学修	刑事手続と少年保護手続を比較しながら両者の特徴をノートに整理する。		120分
2	少年事件と被害者		少年事件と成人事件では、被害者の法的地位に若干の相違がある。近年の被害者救済と少年保護の理念をどのように調整するかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、刑事手続及び少年保護手続における被害者支援を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書①第5講を読んでおくこと。		120分
	事後学修	刑事手続及び少年保護手続における被害者支援についてノートに整理する。		120分
3	少年の福祉を害する犯罪		少年の福祉を害する犯罪はかつて少年法でも規定されていたが、近年非行少年を扱う少年法から除外された。しかしながら、現代においても福祉犯の問題は深刻である。そこで、その理由と課題を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、少年の福祉を害する犯罪の種類とそれらの問題性、福祉犯に関する法制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書①第14講を読んでおくこと。		120分
	事後学修	少年の福祉を害する犯罪の種類とそれらの問題性、福祉犯に関する法制度についてノートに整理する。		120分
4	少年の権利保障		保護主義と権利保障との関係、国際準則と少年法、わが国の少年法における権利保障について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、少年裁判所創設の経緯、国際準則と少年法、わが国の少年法における権利保障を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書①第11講を読んでおくこと。		120分
	事後学修	少年裁判所創設の経緯、国際準則と少年法、わが国の少年法における権利保障についてノートに整理する。		120分
5	少年法廷の試み		アメリカで発展をみた少年法廷（ティーンズ・コート）がどのように少年の更生に役立つプログラムであるかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、世界に存在する種々の非行少年の立ち直り策や非行予防策を学習することで、多様な対策を理解し、説明することができる。		
	事前学修	山口直也『ティーンコート』（現代人文社、1999年）を読むか、あるいは日本テレビ「ティーンコート」（2012年）を参照のこと		120分
	事後学修	授業内容を参照して、ノートに論点を整理する。		120分
6	修復的司法の試み		世界では、とくに少年事件を裁判外で加害少年と被害者の話し合いを通じて解決する修復的司法という制度があるが、この修復的司法のメリットとデメリットを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、事件の解決に被害者の意見を取り入れる修復的司法の意義と特徴を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書②107～112頁、301～303頁を読んでおくこと		120分
	事後学修	修復的司法の意義と特徴を整理し、わが国への適用可能性に関する考察をノートに記述する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	若者の秩序違反行為への対応		イギリスのASBO政策を例として、近年の海外における少年による秩序違反行為への対応を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、少年非行に関して犯罪だけではなく犯罪の前段階に位置する秩序違反行為に対応する必要性について理解し、説明することができる。。		
	事前学修	事前に資料を配布するので、それを読んでおくこと。		120分
	事後学修	秩序違反行為と犯罪との関係性、少年による秩序違反行為の具体例、秩序違反対策に関する法制度をノートに整理する。		120分
8	小テストとフィードバック		本講義の第1回から第7回で扱ったテーマに関する小テストを行った後、出題の趣旨と正答について解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第1回～第7回のテーマを理解し、説明し、考察することができる。		
	事前学修	第1回から7回まで学習事項を教科書と講義資料で復習しておくこと。		120分
	事後学修	今回の小テストで理解できなかった事項を点検し、復習のためにノートに整理する。		120分
9	非行原因論（1）生物学的原因論		少年事件には多様な要因がある。非行原因として生物学的要因を指摘する諸理論とそれらに基づく対策とその効果、司法手続上の課題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、生物学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書②第4講（65～74頁）を読んでおくこと		120分
	事後学修	生物学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題ををノートに整理する。		120分
10	非行原因論（2）心理学的原因論		心理学的精神医学的原因論の主要理論、それに基づく対策と司法手続上の課題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、心理学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書②第4講（75～82頁）で読んでおくこと		120分
	事後学修	心理学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題ををノートに整理する。		120分
11	非行原因論（3）社会学的原因論		非行原因を社会的要因(社会階層、文化、人間関係など)に求める代表的理論とそれに基づく対策、司法手続上の課題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、社会学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書②第4講（83～106頁）を読んでおくこと		120分
	事後学修	社会学的非行原因論とそれに基づく対策、司法手続上の課題ををノートに整理する。		120分
12	家庭内の犯罪：児童虐待		児童虐待は児童の権利を侵害する重大な社会問題であるが、他方で、非行原因としても指摘されている。そこで、児童虐待の実態、児童虐待防止法などの関連法制、児童虐待と非行との関連性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標に⑤関連して、児童虐待の実態、児童虐待防止法などの関連法制、児童虐待と非行との関連性を理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書②第13講（376～386頁）を読んでおくこと。		120分
	事後学修	児童虐待の実態、児童虐待防止法などの関連法制、児童虐待と非行との関連性をノートに整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年による薬物犯罪	わが国は諸外国に比べると薬物犯罪はそれほど深刻とは言えないが、近年若者による大麻・危険ドラッグの乱用が目立っている。そこで、少年による薬物犯罪の実態、薬物犯罪対策とその司法手続上の課題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、少年による薬物犯罪の実態、薬物犯罪対策とその司法手続上の課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に資料を配布するので、読んでおくこと。	120分
	事後学修	少年による薬物犯罪の実態、薬物犯罪対策とその司法手続上の課題をノートに整理する。	120分
14	少年による性犯罪	性暴力は魂の殺人と称されるほど重大な犯罪の一種であり、若年者が加害者にも被害者にもなりやすい。そこで、性犯罪の実態、理論と対策、被害者支援、司法手続上の課題を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、性犯罪の実態、理論と対策、被害者支援、司法手続上の課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書②第13講（359～375頁）を読んでおくこと。	120分
	事後学修	性犯罪の実態、理論と対策、被害者支援、司法手続上の課題をノートに整理する。	120分
15	授業内試験と解説	本講義で扱ったテーマについて授業内試験を行い、出題の趣旨と正答について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の全てのテーマを理解し、説明し、考察することができる。	
	事前学修	第1回～第14回の講義資料やノートを復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業内試験における誤答の部分について復習する。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	王 学士	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について質疑応答を行う等、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステム等デジタルシステムを利用して講義内容や資料を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて講義の進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験・レポート試験になるかは講義の進度やオンラインの利用により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等（オンラインシステムの利用の場合もある）により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。オンラインシステムの利用の場合もある。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムにて後日配信する。試験・レポート等の解説・講評については、後日、ポータルシステム等のデジタルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義1（会社法、第2版）	松嶋隆弘＝大久保拓也編著	中央経済社	2023	教科書	必携
六法				その他	必携
会社法判例百選（第4版）	神作裕之ほか編	有斐閣	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義の質問については、メール（xueshiwang-ut@hotmail.com）にて受け付ける。ただし、メールで質問する際には、件名や所属・フルネームなどを記載してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 総論：会社の意義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 会社の意義はどのようなものであるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	総論：会社法の目的		会社法の目的にはどのようなものがあるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	会社の資金調達：総論		株式とはどのような制度であるのか、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	株主平等の原則、株式の共有		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
5	利益供与、種類株式		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
6	株式譲渡とその制限		株式譲渡とは何か、株式譲渡制限とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株の発行		新株発行とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
8	新株の発行手続、新株予約権		新株発行手続きにはどのようなものがあるか、株予約権とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	新株発行差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどういう制度か、新株発行の無効とはどういう制度か、新株発行の不存在とはどういう制度か何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株式に関する残された諸問題		株式に関する残された諸問題を扱う。株式の併合、分割、無償割当てとは何か、単元株とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	社債		社債とは何か、社債発行規制とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	機関総論		機関とは何か、機関設計にはどのような組み合わせがあるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
14	株主総会の意義・招集手続		株主総会とは何か、株主総会の招集手続はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
15	株主総会決議の瑕疵		株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えとはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
16	役員等の選任等に関するルール		役員等の選任・解任等のルールにはどのようなものがあるか、員数や任期に関する規制の違いは何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
17	取締役会に関するルール		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
18	取締役の義務		善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	競業取引と利益相反取引		競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
20	報酬		取締役・執行役の報酬とは何か、取締役・執行役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
21	監査機関・会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
22	役員等の対会社責任と株主代表訴訟・違法行為の差止め		役員等の対会社責任とは何か、株主代表訴訟・違法行為の差止めとはどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
23	役員等の対第三者責任		役員等の対第三者責任とは何か、役員等の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
24	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
26	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
27	株式会社の設立、解散、清算、特別清算		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮払込はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。会社の解散、清算、特別清算制度についても扱う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
28	持分会社		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
29	組織再編総論		組織変更とは何か、合併はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
30	株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウト、罰則		株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウトとは何か、会社法にはどういう罰則があるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。 授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。		120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について質疑応答を行う等、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。LiveCampus等デジタルシステムを利用して講義内容や資料を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて講義の進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1				4			
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験・レポート試験になるかは講義の進度やオンラインの利用により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容の確認問題（小テスト等）により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。オンラインシステムの利用の場合もある。	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムにて後日配信する。試験・レポート等の解説・講評については、後日、ポータルシステム等のデジタルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義1（会社法）（第2版）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2023	教科書	必携
六法					必携
会社法判例百選（第4版）	神作裕之ほか編	有斐閣	2021	参考書	推奨
備考	六法を持参すること（最新版（2024(令和6)年版以降）が望ましい）				

【オフィスアワー】
火曜昼休み。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 総論：会社の意義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 会社の意義はどのようなものであるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	総論：会社法の目的		会社法の目的にはどのようなものがあるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	会社の資金調達：総論		株式とはどのような制度であるのか、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	株主平等の原則、株式の共有		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
5	利益供与、種類株式		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
6	株式譲渡とその制限		株式譲渡とは何か、株式譲渡制限とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株の発行		新株発行とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
8	新株の発行手続、新株予約権		新株発行手続きにはどのようなものがあるか、株予約権とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	新株発行差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどういう制度か、新株発行の無効とはどういう制度か、新株発行の不存在とはどういう制度か何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株式に関する残された諸問題		株式に関する残された諸問題を扱う。株式の併合、分割、無償割当てとは何か、単元株とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	社債		社債とは何か、社債発行規制とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	機関総論		機関とは何か、機関設計にはどのような組み合わせがあるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
14	株主総会の意義・招集手続		株主総会とは何か、株主総会の招集手続はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
15	株主総会決議の瑕疵		株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えとはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
16	役員等の選任等に関するルール		役員等の選任・解任等のルールにはどのようなものがあるか、員数や任期に関する規制の違いは何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
17	取締役会に関するルール		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
18	取締役の義務		善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	競業取引と利益相反取引		競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
20	報酬		取締役・執行役の報酬とは何か、取締役・執行役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
21	監査機関・会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
22	役員等の対会社責任と株主代表訴訟・違法行為の差止め		役員等の対会社責任とは何か、株主代表訴訟・違法行為の差止めとはどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
23	役員等の対第三者責任		役員等の対第三者責任とは何か、役員等の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
24	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
26	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
27	株式会社の設立、解散、清算、特別清算		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮払込はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。会社の解散、清算、特別清算制度についても扱う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
28	持分会社		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
29	組織再編総論		組織変更とは何か、合併はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
30	株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウト、罰則		株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウトとは何か、会社法にはどういう罰則があるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。 授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。		120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
2・3・4年次を対象とする。

【授業方法】
講義形式で行う。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション 出席管理システム（レスポん）等により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1						
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1		1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。								1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、グーグルクラスルームで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 I	松嶋＝大久保編	中央経済社	2023年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20～13:00 研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について理解する。 会社とは何かを概観する。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 到達目標①②に関連して、会社法の規定のあり方について、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。会社法の位置づけを整理する。		120分
2	会社の意義と会社法の目的		会社の意義、会社の性質、会社法の目的とするものは何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の定義と会社法の目的を識別し、それを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第2講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
3	会社の能力		会社の権利能力の意義、会社の能力が自然人の能力と異なる点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の能力と会社の目的はそれを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第3講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
4	会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任		会社の法人格の意義、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べるようになる。		
	事前学修	教科書第4講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
5	株主平等の原則とその例外		株主平等の原則とどのような制度か、その例外として属人的定めとは何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主平等の原則、属人的定めについて簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第5講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
6	株式の内容		標準となる普通株式とは何か、種類株式とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、普通株式、種類株式に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第6講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株発行		新株発行とは何か、新株発行手続きとはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行、新株発行手続に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第7講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
8	新株発行の差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行の差止め、無効、不存在に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第8講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	株式譲渡		株式譲渡自由の原則、株式譲渡の制限とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式譲渡、株式譲渡の制限に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己株式取得規制に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第10講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株式の分割、併合等		株式の分割とは何か、株式の併合とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式の分割、株式の併合に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第11講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	株主名簿		株主名簿制度とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主名簿の意義、その効果を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	機関総論、株主総会運営の手続	株式会社の機関とは何か、株主総会運営の手続について理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、機関、株主総会運営の手続の内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第13講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
14	説明義務、株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権とはどのような制度かを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、説明義務、株主提案権について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第14講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
15	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴えとはどのような制度か、株主総会決議不存在確認の訴えに関する判例法理の変遷についても、理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主総会決議取消しの訴え、無効確認の訴え、不存在確認の訴えに関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第15講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
16	競業取引と利益相反取引	競業取引、利益相反取引とは何か、判例法理の変遷について理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、競業取引とは何か、利益相反取引に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第16講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
17	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務とは何か、判例法理の変遷について理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、善管注意義務、忠実義務の内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
18	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会の果たす役割とは何か、判例法理の変遷について理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会はどのような役割を果たすか、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会の役割に関してその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第17講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
20	報酬規制		取締役の報酬に関する制度、取締役以外の報酬規制がどのようになされるか、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の報酬規制、他の役員の報酬規制に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第18講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
21	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役		指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社はどのような役割を期待されているかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造に関して、簡潔に説明、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第20講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
22	取締役の対会社責任と株主代表訴訟		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対会社責任と株主代表訴訟に関して、その内容を識別し、簡潔に説明、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
23	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対第三者責任に関して、その内容を識別、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
24	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与の意義、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、監査役、監査役会、会計監査人、会計参与について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第23講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	資本制度と会社の計算	資本制度とは何か、会社の計算制度がいかなるものか、判例法理の変遷とともに、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資本制度と会社の計算について、その内容を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第24講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
26	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限	株式会社の設立手続の概要、発起人とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立手続、発起人の権限について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第21講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
27	株式会社の設立時の払込の手続と仮装払込	株式会社の設立時の払込の手続、仮装払込に関する判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立時の払込の手続と仮装払込についてその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第26講、第27講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
28	合併と分割	合併、会社分割とは何か、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合併、会社分割について、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
29	株式交換・株式移転、事業譲渡	株式交換・株式移転、事業譲渡の意義、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式交換・株式移転、事業譲渡について、その内容を識別、説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。 学期末試験の準備をする。	120分
30	授業内試験	会社法全般について、制度の意義・目的、当該制度における問題点とその解決を適切に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社法全般に関して、その問題点を識別、指摘、説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	会社法全般における主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	フィードバックを確認し、学期末試験の復習をする。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
対面講義。なお、必要に応じて実務家などの外部講師を招聘することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1				4			
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを講義最終回の試験で評価する。	10	20	25								55	
小テスト等	毎回の授業の内容について到達目標②を修得しているか、中間テストで評価する。	15	15	15								45	
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()	中間試験・期末試験（講義最終回に実施）のいずれかを受験していない場合は、各試験の素点に関わらず、評価の対象外とする。												
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	25	35	40							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のレポート内容について次回以降の授業でGoogle Classroomを通じて全体的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法判例集〔第9版〕	神作裕之＝藤田友敬	有斐閣	2023	参考書	必携
商事法講義1	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	2023	教科書	推奨
会社法〔第5版〕	伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征	有斐閣	2021	教科書	推奨
現代の金融機関と法	川口恭弘	中央経済社	2024	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
決定したら連絡する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 会社法総論	講義のガイダンスを行う。会社法のアウトラインを学ぶ。	
	この回の到達目標	講義の全体像を把握するとともに、会社法の基本事項を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
2	機関総論	機関総論を学ぶ。	
	この回の到達目標	機関総論を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
3	株主総会①	株主総会の基本事項を学ぶ。	
	この回の到達目標	株主総会の意義と機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
4	株主総会②	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	この回の到達目標	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
5	株主総会③	株主総会の応用事項について学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役の解任に係る法的問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
6	役員等の選任ルール	役員等の選任ルールなどを学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の選任ルールを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取締役会	取締役会の機能などを学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役会の機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	役員等の義務	役員等の義務を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	役員等の義務と責任追及	役員等の義務を責任追及を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務と責任追及を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	取締役の報酬	取締役の報酬について学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役の報酬について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	監査機関・会計参与	監査機関・会計参与を学ぶ。	
	この回の到達目標	監査機関と会計参与について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	株主代表訴訟	株主代表訴訟について学ぶ。	
	この回の到達目標	株主代表訴訟について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	対第三者責任	対第三者責任について学ぶ。	
	この回の到達目標	対第三者責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	委員会型の会社	委員会型の会社について理解する。	
	この回の到達目標	取締役の業務執行を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	中間考査	講義前半で学んだことを試験ないしレポートで測る	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分
16	資金調達総論	資金調達の総論を学ぶ。	
	この回の到達目標	資金調達の総論を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
17	株式の意義	株式の意義を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の意義を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
18	株式の譲渡	株式の譲渡に関する問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の譲渡に関する問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	新株発行・新株予約権	新株発行・新株予約権を学ぶ。	
	この回の到達目標	新株発行・新株予約権を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
20	自己株式	自己株式についての諸問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	自己株式についての諸問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
21	株式分割・株式併合	株式分割・株式併合を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割・株式併合を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
22	計算規制、会計帳簿、計算書類	計算規制、会計帳簿、計算書類を学ぶ。	
	この回の到達目標	計算規制、会計帳簿、計算書類を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
23	資本制度	資本制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	資本制度を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
24	組織変更・事業譲渡	組織変更・事業譲渡を学ぶ。	
	この回の到達目標	組織変更・事業譲渡を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	合併	合併を学ぶ。	
	この回の到達目標	合併を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
26	株式交換・株式移転・株式交付	株式交換・株式移転・株式交付を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式交換・株式移転・株式交付を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
27	株式分割	株式分割を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
28	キャッシュ・アウト	キャッシュ・アウトを学ぶ。	
	この回の到達目標	キャッシュ・アウトを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
29	会社法関連の罰則	会社法関連の罰則を学ぶ。	
	この回の到達目標	会社法関連の罰則を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
30	期末試験 まとめ	講義で学んだ項目を期末試験で確かめる。	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	酒巻 俊之	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
Google Classroomでの資料閲覧・テスト解答・レポート提出の環境を整えること。提出物作成には指定のPCソフトを使用すること(携帯メール等不可)。

【授業方法】		
授業形式は原則対面方式とする(状況によりオンデマンドに変更する可能性もあり)。パワーポイントにより要点を投写し、教科書参照により講義を進める。対面時の出席確認の他、随時WEBによる小テスト、WEBでのレポート提出、期末WEBテストを行う。テストは参照可で、即日解答ではないので、十分教科書等で調べて解答するように(難問もあり、指定教科書以外やネット等では古い規定等を参照し間違える可能性が高いので注意)。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	随時、PC上で検索エンジン等を用いて上場会社のコーポレート・ガバナンス報告、規程、記事、判例等、様々な検索を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1						
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1		1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。								1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、WEBテストにより評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、毎回の授業における出席確認WEB小テストにおいて評価する。	10	10	5								25
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、レポート提出により評価する。	5	10	10								25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては授業内で、レポート・期末WEBテストは対面・メール・Google Classroomでフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義2024-2025	酒巻俊之	桜門書房	2024	教科書	必携
六法(判例付きも電子版も可)2020年版以降に限る				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
対面授業時は授業間の休み時間及び授業終了後、オンライン時は随時対応、対面授業時以外では予約のこと(sakamaki.toshiyuki@nihon-u.ac.jp)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	会社顧問
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場における実務的な対応の講義	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、法学入門・会社法の位置付け	授業ガイダンス、各法の関係、法の名称、民事訴訟・刑事訴訟、商法・会社法の歴史・変遷についての基礎知識を講義する。	
	この回の到達目標	「法学」の授業で修得した知識に上乗せした知識を習得し、商法・会社法・その他関連法規の役割を覚える。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
2	商法～会社法に至る変遷	商法の制定～会社法に至る変遷、教科書のTOPICS部分を中心に講義する。	
	この回の到達目標	旧商法・新商法・会社法への規定の変遷。手形・小切手、有限会社の現状を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
3	商法～会社法に至る変遷・会社法下の改正	近時の商法改正、会社法制定後の改正について講義する。	
	この回の到達目標	旧商法・新商法・会社法への規定の変遷。手形・小切手、有限会社の現状を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
4	会社法総則・会社の種類	会社法総則、会社の種類について講義する。	
	この回の到達目標	会社の種類や親子会社について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
5	株式会社の設立①	発起人や会社の絶対的記載事項について講義する。	
	この回の到達目標	発起人の概念や絶対的記載事項について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
6	株式会社の設立②	変態設立事項、現物出資等に対する検査役の調査について理解する。	
	この回の到達目標	変態設立事項、現物出資等に対する検査役の調査について理解する（後の募集株式の発行、募集新株予約権の発行等につながる知識を得る）。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	株式会社の設立③		役員の選任・選定、発起人等の責任について講義する。
	この回の到達目標	株式会社の設立全体に対する知識を得る(後の新設合併等につながる知識を得る)。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
8	株式①		株式の性質について講義する。
	この回の到達目標	株式の性質、共有、種類、種類株式等の基礎知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
9	株式②		公開会社の株式譲渡、証券取引所の現状について講義する。
	この回の到達目標	公開会社の株式譲渡、証券取引所の現状について講義する。アクティブラーニングで東証コーポレート・ガバナンス情報サービスを使えるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。東証コーポレート・ガバナンス情報サービスを使いこなす。	120分
10	株式③		公開会社でない株式会社の株式譲渡について講義する。
	この回の到達目標	公開会社でない株式会社の株式譲渡について講義する(後の株式買取請求につながる知識を得る)。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
11	株式④		株主名簿、株券の現状について講義する。
	この回の到達目標	株主名簿、株券の現状についての知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
12	株式⑤		反対株主の株式買取請求、全部取得条項付種類株式の取得、株式の併合・分割について講義する。
	この回の到達目標	譲渡制限株式の会社による買取りと反対株主の株式買取請求、全部取得条項付種類株式の取得、株式の併合における会社による株式の買取りの制度の相違を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	株式⑥	相続人等に対する株式の売渡請求、株主の権利行使に関する利益供与について講義する。	
	この回の到達目標	譲渡制限株式の会社による買取りと反対株主の株式買取請求、全部取得条項付種類株式の取得、株式の併合における会社による株式の買取りの制度と相続人等に対する株式売渡請求の相違を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
14	株式⑦	募集株式の発行について講義する。	
	この回の到達目標	設立時との相違について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
15	新株予約権①	新株予約権についての基礎知識を講義する。	
	この回の到達目標	新株予約権についての基礎知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
16	新株予約権②	募集新株予約権の発行を講義する。	
	この回の到達目標	募集新株予約権の発行を、募集株式の場合と対比して理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
17	機関①	株主総会について講義する。	
	この回の到達目標	株主総会の基礎知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
18	機関②	株主総会についての詳細を講義する。	
	この回の到達目標	株主総会についての細かい知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	少数株主権	少数株主権について詳細に講義する。	
	この回の到達目標	各種少数株主権を理解する(特例有限会社との規定の違いを理解する)。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。レポート課題発表。	120分
20	株主総会以外の機関の設置①	株主総会以外の機関の設置について講義する。	
	この回の到達目標	株主総会以外の機関の設置について全体として理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
21	株主総会以外の機関の設置②	株主総会以外の機関の設置について講義する。	
	この回の到達目標	株主総会以外の機関の設置について全体として理解する。監査役設置会社・監査役会設置会社・監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社について理解する。テストの最重要項目の1つである。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
22	株主総会以外の機関の設置③	監査役設置会社・監査役会設置会社・監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社について理解する。	
	この回の到達目標	監査役設置会社・監査役会設置会社・監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
23	役員等の選任・解任・資格・任期	役員等の選任・解任・資格・任期について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の選任・解任・資格・任期について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
24	計算・役員等の計算に関する責任	計算の基礎知識、役員等の計算に関する責任を講義する。	
	この回の到達目標	計算の基礎知識、役員等の計算に関する責任を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。レポート提出締切り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	役員等の責任①	役員等の会社に対する責任、違法行為差止請求権、代表訴訟について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の会社に対する責任、役員等の会社に対する責任の追及権者、違法行為差止請求権、株主代表訴訟についての知識を、過去の講義内容である株主の権利、監査機関の役割、役員等の責任とともに理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。ここまでの小テストの正解を発表するので、期末WEBテストの学習に役立てること。	120分
26	役員等の責任②	役員等の会社に対する責任、役員等の会社に対する責任の追及権者、違法行為差止請求権、株主代表訴訟についての知識を、過去の講義内容である株主の権利、監査機関の役割、役員等の責任とともに理解する。	
	この回の到達目標	役員等の会社に対する責任、役員等の会社に対する責任の追及権者、違法行為差止請求権、株主代表訴訟についての知識を、過去の講義内容である株主の権利、監査機関の役割、役員等の責任とともに理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
27	役員等の責任③	役員等の責任の免除、役員等の第三者に対する責任、補償契約、役員等損害賠償責任保険について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の責任の免除、役員等の第三者に対する責任、役員等の責任全体を理解し、補償契約、役員等損害賠償責任保険の知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。この回後すぐか、この回前には期末WEBテストをGoogle Classroomにアップしておくので、勉強を始めること。	120分
28	事業譲渡、組織変更	役員等の責任のまとめ、事業譲渡等及び簡易・略式事業譲渡、特別支配会社、組織変更について講義する。	
	この回の到達目標	事業譲渡及びその手続きを理解するとともに、特別支配会社等の用語の知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
29	組織再編①	組織再編等の吸収合併・吸収分割・株式交換・新設合併・新設分割・株式移転・株式交付の概要について講義する。	
	この回の到達目標	組織再編等の吸収合併・吸収分割・株式交換・新設合併・新設分割・株式移転・株式交付の概要について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
30	組織再編②・テストに対する質問の回答・解説	組織再編等の吸収合併・吸収分割・株式交換・新設合併・新設分割・株式移転・株式交付の手続きについて講義する。ここまでに募集した期末WEBテストの質問の回答・解説を行う。	
	この回の到達目標	それぞれの手続き概要について理解する。過去に株式の所で講義した様々な株式買取請求権の制度との相違を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

科目名	消防政策	担当者	濱口 和久	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
消防は、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、傷病者の救急・救助、地震等の災害による被害軽減など、国民の安心・安全に関する重要な役割を担っている。 本講義では、消防に関する制度、組織、主な課題と施策等について、総務省消防庁や県・市の消防防災部局における実務経験も交えながら、基礎的な知識と考え方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
消防に関する基礎的な知識を身につけ、火災や自然災害等に対する自助・共助・公助に繋げていくことができる能力を修得する。 より具体的には、消防白書や消防関連の報道内容等から、消防政策上の主な課題を理解し、社会的背景や具体的な行政施策と関連付けることのできる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、教科書及び配布資料の内容をもとにしたパワーポイントデーターを作成し、座学方式で講義を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	消防に関する法令、統計、政策等の基礎的な知識を理解し、その概要を説明することができる。【知識】					4		4	4	4			
②	消防に関する基礎的な知識を、実社会の動向に対して適切に当てはめることができる。【技能】					4		4	4	4			
③	消防政策上の課題・施策に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる ことができる。【態度・習慣】					4		4	4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する知識、技能および態度・習慣が身についているかを、記述形式で回答してもらことで理解を確認して評価する。なお、試験は授業で使用する教科書、配布資料、ノート等は参照可とする。	30	20	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の振り返りを次の授業の冒頭に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の消防行政の研究	永田尚三	一藝社	2023年	教科書	必携
自治体の災害初動対応	室田哲男	近代消防社	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日10：00～12：00 hamaguchi@jbk.jp.net

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 防衛庁陸上自衛隊、栃木県栃木市首席政策監（防災・危機管理担当兼務）などで勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記の勤務経験に基づく消防政策に関する事例や考え方を解説。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	消防政策に関する概論		消防政策の基礎となる消防行政、「消防行政主体」としての市町村の現状、消防庁と市町村消防との補完体制、消防行政と公助・共助・自助との関係等を学習する。	
	この回の到達目標	消防政策の基礎となる消防行政、「消防行政主体」としての市町村の現状、消防庁と市町村消防との補完体制、消防行政と公助・共助・自助との関係を理解する。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書第1章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
2	消防組織間関係の歴史的分析		消防行政の沿革の概観、国レベルの消防組織間関係、公的消防組織と義勇消防組織間の関係についての歴史的背景を学習する。	
	この回の到達目標	消防行政の沿革の概観、国レベルの消防組織間関係、公的消防組織と義勇消防組織間の関係についての歴史的背景を理解する。		
	事前学修	教科書第2章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
3	消防行政の制度および現状		消防行政の関わる法律、自治体（市町村消防）の原則、消防機関の構成、消防の任務、大規模災害時の広域応援の制度を学習する。	
	この回の到達目標	消防行政の関わる法律、自治体（市町村消防）の原則、消防機関の構成、消防の任務、大規模災害時の広域応援の制度を理解する。		
	事前学修	教科書第3章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
4	消防行政における市町村公助の分析		消防行政における市町村公助、市町村消防本部の保有する消防資源の規模別比較、平常時の市町村公助の現状と課題、大規模自然災害・事故時の市町村公助の現状と課題を学習する。	
	この回の到達目標	消防行政における市町村公助、市町村消防本部の保有する消防資源の規模別比較、平常時の市町村公助の現状と課題、大規模自然災害・事故時の市町村公助の現状と課題を理解する。		
	事前学修	教科書第4章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
5	消防行政における中央地方関係と上下からの垂直補完の分析		国の消防機関と大都市消防本部の関係、消防庁の保有する資源不足、消防庁の資源不足が中央地方関係に与える影響、東京消防庁のパワーの優位性について学習する。	
	この回の到達目標	国の消防機関と大都市消防本部の関係、消防庁の保有する資源不足、消防庁の資源不足が中央地方関係に与える影響、東京消防庁のパワーの優位性について理解する。		
	事前学修	教科書第5章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
6	地方防災行政、消防防災行政における上からの垂直補完（1）		地方防災行政、消防防災行政における垂直補完、地方防災行政、消防防災行政、阪神・淡路大震災時の消防庁の垂直補完について学習する。	
	この回の到達目標	地方防災行政、消防防災行政における垂直補完、地方防災行政、消防防災行政、阪神・淡路大震災時の消防庁の垂直補完について理解する。		
	事前学修	教科書第6章132ページから141ページまでを精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方防災行政、消防防災行政における上からの垂直補完（2）		阪神・淡路大震災以降の防災行政・消防防災行政における垂直補完について学習する。	
	この回の到達目標	阪神・淡路大震災以降の防災行政・消防防災行政における垂直補完について理解する。		
	事前学修	教科書第6章142ページから156ページまでを精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
8	消防行政における市町村消防本部間関係と水平補完の分析		消防行政における市町村消防本部間関係の水平補完、市町村消防本部間の組織資源、情報資源の水平補完、大規模自然災害・事故時の水平補完について学習する。	
	この回の到達目標	消防行政における市町村消防本部間関係の水平補完、市町村消防本部間の組織資源、情報資源の水平補完、大規模自然災害・事故時の水平補完について理解する。		
	事前学修	教科書第7章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
9	消防の共助体制における組織間関係		消防の共助体制における組織間関係、消防団の保有する資源の減少、公的消防組織と義勇消防組織の組織間関係、消防団の多様性の現状、消防団の業務、消防団に対する新しい社会的要請について学習する。	
	この回の到達目標	消防の共助体制における組織間関係、消防団の保有する資源の減少、公的消防組織と義勇消防組織の組織間関係、消防団の多様性の現状、消防団の業務、消防団に対する新しい社会的要請について理解する。		
	事前学修	教科書第8章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
10	東日本大震災時の消防行政における公助・共助の分析		東日本大震災で明らかになった災害時における市町村公助及び水平補完の関係、東日本大震災で明らかになった消防行政における共助の課題について学習する。	
	この回の到達目標	東日本大震災で明らかになった災害時における市町村公助及び水平補完の関係、東日本大震災で明らかになった消防行政における共助の課題について理解する。		
	事前学修	教科書第9章を精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
11	消防行政と他行政分野との行政間関係の考察（1）		オールハザード時代における消防行政への多様な社会的要請、国の防災行政・危機管理行政の中での消防庁の位置づけについて学習する。	
	この回の到達目標	オールハザード時代における消防行政への多様な社会的要請、国の防災行政・危機管理行政の中での消防庁の位置づけについて理解する。		
	事前学修	教科書第10章222ページ～225ページを精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分
12	消防行政と他行政分野との行政間関係の考察（2）		原子力防災体制と消防行政、市町村の防災行政・危機管理行政と消防行政の関係、他行政分野から消防団への期待値について学習する。	
	この回の到達目標	原子力防災体制と消防行政、市町村の防災行政・危機管理行政と消防行政の関係、他行政分野から消防団への期待値について理解する。		
	事前学修	教科書第10章226ページから240ページを精読する。		120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	消防行政の課題と今後向かうべき方向性の検討（１）	消防行政における補完体制のあるべき姿、国の保有する消防資源の強化策について学習する。	
	この回の到達目標	消防行政における補完体制のあるべき姿、国の保有する消防資源の強化策について理解する。	
	事前学修	教科書第１１章242ページから255ページを精読する。	120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。	120分
14	消防行政の課題と今後向かうべき方向性の検討（２）	地域公助の強化策、共助の保有する資源の強化策について学習する。	
	この回の到達目標	地域公助の強化策、共助の保有する資源の強化策について理解する。	
	事前学修	教科書第１１章256ページから287ページを精読する。	120分
	事後学修	授業中に解説した内容をノートに整理することで理解度を高める。	120分
15	授業内試験	授業内試験（６０分）では教科書、配布資料、ノート等は参照可とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関する知識、技能および態度・習慣が身についているかを、記述形式で回答してもらことで理解を確認する。	
	事前学修	第１回から第１４回までの授業の内容を整理したノートを読み返し、試験に備える。	120分
	事後学修	試験終了後、試験問題の解説を行う。	120分

科目名	情報通信政策	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代の経済社会活動の基礎インフラである情報通信技術（ICT）を如何に開発・整備・活用していくか、過去の政策経緯・今後の方向性などを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、国策としてのIT振興の意義、基礎的行政ツールとしての各種ITの展開、ITを活用した行政運営の変革などの理解にたって、今後激変する社会経済情勢の中で、旧来型の発想にとらわれず課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特にICTの専門知識は必要としないが、AI、クラウド、IOT等の用語になじみのない学生は、参考書として掲げた「未来を味方にする技術—これからのビジネスを創るITの基礎の基礎—」を一読しておくことを勧める。

【授業方法】
講義形式 日程調整状況によっては実務家外部講師による授業も予定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				4							
②	我が国の情報通信政策の目指す目標とその手段の適合性などを批判的・論理的に分析し、説明できる。						4					
③	我が国の情報通信政策に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							4				
④	ICTを活用した新たな行政運営・地域社会の発展策などを自ら考案し、提案できる。								4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。		10	30	40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第14・15回の授業におけるグループワークにおいて自分の 意見を述べることができたかを基準に、到達目標①③④に かかわる説明能力が身についているかを評価する。	5		10	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	10	40	45							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		IT政策立案の実務責任者としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び最新ICTの動向①	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②AI、IOT、クラウド、ブロックチェーン等の概要とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	最新ICTの動向②	前回に引き続き、主要ICTの動向とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。	
	事前学修	各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	情報通信政策の概観	Society5.0、官民データ活用など、「世界最先端IT国家」の創造をめざすため、政府が展開している各種施策につき学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国中央政府が示す将来の社会像とその実現のためのICT政策の基本的な方向性を説明することができる。	
	事前学修	「成長戦略」などの主要な政府決定文書を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	情報通信政策等の経緯（通信自由化等）	独占体制であった我が国情報通信市場が、電電公社民営化、新規参入・規制緩和などの自由化を経て今日に至る経緯を学び、競争によるサービス低廉化やネットワーク高度化が多様なIT産業の創出へ結び付いた意義などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、現在の主要通信キャリア各社がどのような変遷（合併・吸収・事業譲渡等）を経て現在の体制になったか、このためにどのような自由化政策が採用され、影響したかを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等に電電民営化以降の経緯論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	電子政府・電子自治体①	我が国中央政府が推進しているデジタルファースト、オンライン申請、マイナンバー、クラウド化などの取 組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、行政のIT化が、どのように業務運営の効率化、意思決定の高度化、国民本位の行政の実現、政府の透明化などに寄与するか説明することができる。	
	事前学修	受講者が居住する自治体の「情報化推進計画」等をネット等で入手して、その特徴を確認しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	電子政府・電子自治体②	自治体クラウドなど地方公共団体におけるICT化の取り組み状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、自治体のICT化はなぜ遅れているのか、その一方でなぜICT化を進める必要があるのかなどについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により電子自治体の進捗状況等を学習するとともに、居住自治体の公式ウェブサイトで施設予約・許認可手続・証明書入手・意見提出等がどうすれば出来るか確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	諸外国の電子政府		エストニア、デンマークなど電子政府先進国と言われる諸外国の取り組み状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、電子政府先端国の成功の理由は何か、これらの国では我が国で指摘される隘路をどう克服してきたのか説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により諸外国での取り組みを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	オープンデータ①（全体像、諸外国の状況）		オープンデータとは何か、我が国より先行している諸外国での状況はどうかなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「データ主導経済」の意味及びオープンデータの内容・重要性を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	オープンデータ②（我が国の状況）		オープンデータに係る我が国政府・自治体の取り組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国におけるオープンデータの進捗状況及びその問題点を具体例に即して説明することができる。		
	事前学修	中央政府のデータカタログ、統計情報提供システムや自治体のオープンデータサイトから実際に情報を入手し、その体験に基づいて授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	個人情報保護①		個人情報保護法の対象となる個人情報とは何か、個人情報の取扱に当たって課せられる義務とは何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、個人情報保護の基本的考え方と法運用の問題点等について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	個人情報保護②		2017年5月から新たに導入された「匿名加工情報」の概念、データエコノミー時代におけるその意義などについて学び、併せてEUのGDPR（一般データ保護規則）への対応など国際的なデータ流通をめぐる課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、匿名加工情報に係る法制度を理解した上で、個人情報の保護と活用のバランスをどのように図っていくべきかを自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	ICTセキュリティ①		個人情報漏えい、サーバ攻撃などのICT利用に当たっての各種脅威の概要とその対策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ICTセキュリティ②		ウイルス感染、サイバーアタックなどの悪意ある侵入者への対策を始めとして、現下の国家的重要課題と なっているサイバー防衛の各種方策を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
14	グループワーク等①		担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。		
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
15	グループワーク等②		担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。		
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分

科目名	情報の科学 I	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの歴史を概観したうえで、情報化の進展した社会に見られる現象を社会科学の観点からアプローチし、理解を深めていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターネットと社会の関係ついて、歴史をふまえたうえで、主に政治や経済の側面からアプローチし、それぞれの布置を把握したうえで、自らの経験や事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。

【授業方法】
講義形式で授業を進めます。必要に応じて、映像や新聞・雑誌記事等を資料として用います。資料等の配布・閲覧でGoogle Classroomを使用する場合があります。社会状況に応じて授業形態が変更になる場合もあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	デジタル化の進展した社会の市民として高い知識と倫理観を獲得することができる						3						
②	デジタル・メディアによりネットワーク化された社会の仕組みを理解することができる							3					
③	デジタル化の進展した社会の実態を論理的かつ科学的に考察することができる								3				
④	自らの日常生活における経験に即してデジタル化の進展した社会の問題を説明できる									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容に関連する小テストもしくは中間レポートを実施し、到達目標①②③④の観点から評価する。なお、授業形態の変更や履修者の状況に応じて毎回の授業内課題へと変更する場合もある。	10	10	15	15							50
レポート等	到達目標①②③④に関する知識が身についているかをレポートにより評価する。レポートは期末課題として実施する予定である。	10	10	15	15							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる——ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	参考書	推奨
フィルターバブル——インターネットが隠していること	イーライ・パリサー	早川書房	2016	参考書	推奨
メディア社会論	辻泉ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	特に指定する予定はありません。				

【オフィスアワー】
金曜日10:30-11:30（連絡先は初回の授業の際に伝える、あわせてGoogle Classroomに掲載する）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	社会科学の観点から見るインターネット	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットが普及した現代社会の実態を理解することができる	
	事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
	事後学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
2	インターネットの歴史	インターネットの誕生から普及までの歴史を追う	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットの歴史を説明することができる	
	事前学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	ウェブ2.0とソーシャル化の進展	ウェブ2.0やソーシャルメディアの発展とその展開を整理する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ウェブ2.0以降に登場した各種の用語を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	インターネットと世論	インターネット上に見られる意見の集合体	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上に見られる意見の集合体を「世論」という観点でとらえ、説明する	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	インターネットと公共性	インターネット公共圏とネットワーク化されたパブリック	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上の現象を公共性の観点から説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
6	インターネットと社会運動・アクティビズム (1)	インターネットを通じた社会運動・アクティビズムの展開	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた社会運動・アクティビズムを具体例を挙げながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	インターネットと社会運動・アクティビズム (2)	ハッシュタグ・アクティビズム／クリックティビズム	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ハッシュタグを通じた社会運動・アクティビズムを、事例を交えながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
8	インターネットと不確かな情報 (1)	インターネット上で流通するうわさ、流言、デマ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上を流通する不確かな情報について概念的に区別し、説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	インターネットと不確かな情報 (2)	フェイクニュース	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、フェイクニュースの特徴を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	情報接触 (1)	情報の選択的接触をめぐる議論の展開	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた情報接触の特徴を、事例を交えながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	情報接触 (2)	集団分極化、フィルターバブル、エコーチェンバー	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた情報接触の偏りについて事例を交えながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	デジタル市場とデータ	デジタル社会におけるデータの位置づけ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、デジタル社会におけるデータの位置づけを説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	デジタル・プラットフォームと資本主義 (1)	コミュニケーション資本主義や監視資本主義の問題を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上を流通する不確かな情報について概念的に区別し、説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
14	デジタル・プラットフォームと資本主義 (2)	プラットフォーム資本主義の問題点	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、プラットフォーム資本主義の問題を具体的な事例に基づき説明することができる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
15	デジタルデータと民主主義	「一般意志2.0」の議論を参考にしながらデジタルデータを活用した民主主義の可能性を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、デジタルデータを活用した民主主義のあり方を考えることができる。本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分

科目名	情報の科学Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットと文化（ネットカルチャー）に焦点を当て、関連する現象を社会科学の観点から読み解き、理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターネット上でユーザーが展開するやりとり、ならびに、それらのやりとりから生じる事象を「文化」の観点から把握し、その意味を明らかにしていきます。授業内で取り上げたテーマを、現在の文脈で見られる具体的事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。

【授業方法】
講義形式で授業を進めます。映像や新聞・雑誌記事等を資料を用いる場合もあります。必要に応じてプレゼンテーション資料を用意します。資料等の配布・閲覧でGoogle Classroomを使用する場合があります。なお、社会状況に応じて授業形態が変更になる場合もあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネット上に見られる現象について高い知識を獲得することができる				3							
②	ネットカルチャーの特徴を理解し、説明することができる					3						
③	ネットカルチャーの問題を批判的に考察し、課題を見つけ、見解を示すことができる						3					
④	ネットカルチャーに関わる事象を観察して問題を発見し、具体的事例に即した考察ができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容に関連する小テストもしくは中間レポートを実施し、到達目標①②③④の観点から評価する。なお、授業形態や履修者の状況に応じて毎回の授業内課題へと変更する場合もある。	10	10	15	15							50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる知識が身についているかを評価する。	10	10	15	15							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「くだらない」文化を考える	平井智尚	七月社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日10:30-11:30（連絡先は初回の授業の際に伝える、あわせてGoogle Classroomに掲載する）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	インターネットと文化	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットと文化の関係を理解することができる	
	事前学修	シラバスや教科書を確認し授業に備える	120分
	事後学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
2	ネットカルチャー概論	インターネットを文化の観点から概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、歴史的な流れをふまえながらインターネットと文化の関係を説明できる	
	事前学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	匿名電子掲示板とネットカルチャー	匿名掲示板に見られる現象を文化の観点から読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、匿名掲示板とネットカルチャーの関係を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	ネットカルチャーとマス・メディア (1)	ネットカルチャーとマス・メディアの関係を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ネットカルチャーとマス・メディアの関係を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	ネットカルチャーとマス・メディア (2)	インターネット上に見られるマスコミ批判の背景を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在の文脈に引きつけてインターネット上のマス・メディア批判を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分
6	ネットの文化と炎上 (1)	「炎上」以前のインターネット上に見られた「祭り」と呼ばれる現象を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、炎上の歴史・背景を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ネットの文化と炎上（2）	「炎上」と呼ばれる現象を文化の観点から把握する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在の文脈に引きつけて炎上の仕組みを説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う	120分
8	ネットカルチャーと現代社会	ネットカルチャーの現代的な意義を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現代社会におけるネットカルチャーの意義を説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	トロール／トローリング	米国を文脈とするインターネット空間で見られるトロール（釣り・荒らし）文化を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、トロール／トローリングを具体的な事例に基づき説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	インターネットミーム（1）	「カエルのペペ」を事例としながらインターネットミームについて理解する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットミームの特徴を説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	インターネットミーム（2）	インターネットミームをもとにインターネットの文化と政治の関係を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットミームをめぐる問題を具体的な事例に基づき説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	新反動主義	オルタナ右翼とインターネットの関係について考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、オルタナ右翼の台頭とインターネットの関係性を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マノスフィア（1）	ポピュラーフェミニズムとポピュラーミソジニー	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、近年のフェミニズムとミソジニーの関係性を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
14	マノスフィア（2）	インターネット空間に見られるマノスフィアの問題を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネット空間に見られるマノスフィアを具体的な事例に基づきながら説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
15	陰謀論	インターネット上に見られる陰謀論について「Qアノン」を中心に検討する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット空間に見られる陰謀論と文化の関係を説明できる。本講義の個別具体目標①～④を振り返り、一般目標を達成する	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分

科目名	情報法Ⅰ	担当者	村上 聖一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報に関する「自由」「規制」「保護」に着目して学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報化社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で実施する。また、授業内でレポート課題を2回行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	表現の自由の意義を説明することができる。				3	3						
②	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。				3	3						
③	情報流通に関する法について説明することができる。					3	3					
④	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。					3	3	3				
⑤	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。						3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤が身についているかを評価する。レポート課題は授業内で2回行う。1回でもレポートを提出しない場合は、成績評価の対象としないので注意すること。	20	15	15	15	15						80
討論・発表等												
授業への参画度	授業の中でコミュニケーションペーパーの記入を求め、それに基づいて発言を求める場合がある。それによって到達目標②③④⑤に関わる学修態度が身についているかを評価する。単なる出席による加点措置は行わない。		5	5	5	5						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題について授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問などはメールで受け付ける。murakami.seiichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局において報道関連の業務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		メディアに関する政策・制度がコンテンツに及ぼす影響について説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	コミュニケーション政策とは何か	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。コミュニケーション政策論の位置づけについて、さまざまな学問分野や他の政策分野を参照しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、大きな変革期にある情報社会におけるコミュニケーション政策を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
2	メディアの構造とコミュニケーション政策	コミュニケーション政策の各論に入る前に、対象となるマスメディアの構造と、それに対する政策の目的・手段について概観する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、コミュニケーション政策の位置づけや、政策目的・手段について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	コミュニケーション政策の歴史（明治～大正）	現在のコミュニケーション政策の特徴についての理解を深めるため、近代日本で展開されてきた政策を振り返る。近代化によってコミュニケーションの形態がどのように変化し、それに対応して政府がどのような政策を展開したかについて概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、近代化後のコミュニケーション政策の概要を説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	コミュニケーション政策の歴史（昭和戦前期）	戦前期の日本におけるコミュニケーション政策について検討する。政策を展開した行政組織や、検閲をはじめとする統制手段、対外情報発信などについて概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、戦前のコミュニケーション政策の目的や手段を説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	コミュニケーション政策の歴史（総力戦体制とメディア統制）	総力戦体制のもとでのコミュニケーション政策について検討する。新聞統合などの統制手段が日本のメディアに何をもたらし、その後どのような影響を与えたのかについて概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、総力戦体制期のコミュニケーション政策について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	コミュニケーション政策の歴史（占領期）	占領下、言論統制法規の多くは廃止され、日本のコミュニケーション政策は大きく転換した。GHQの占領政策にも触れつつ、政策の変化が日本のマスメディアにもたらした影響について考える。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、戦後のコミュニケーション政策や関連する制度について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コミュニケーション政策の歴史（戦後）	新憲法のもとで「表現の自由」が保障される中、コミュニケーション政策の主な対象は放送メディアとなった。戦後の放送制度の成立過程を概説するとともに、そのもとでの政策展開について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、放送制度を中心にその成立過程や政策展開を説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	前半の内容の振り返り レポート課題①	近代日本におけるコミュニケーション政策の展開に関するここまでの内容を振り返る。授業の後半で、理解度を確認するための課題を示し、それに基づくレポート作成を求める。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を確認しておく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	レポート課題①の解説 現代のコミュニケーション政策（放送制度・政策）	第8回で行ったレポート課題の解説を行う。その後、現代のコミュニケーション政策について、放送制度・政策を中心に解説する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、現代の放送制度・放送政策について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	現代のコミュニケーション政策（政策の効果）	前回、解説した放送制度や政策のもとで、放送事業者の経営構造や番組内容にどのような影響がもたらされたかについて解説する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、政策が放送事業者の経営構造や番組内容に何をもたらしたかについて説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	現代のコミュニケーション政策（自主規制の機能）	戦後、マスメディアに対する政策的介入の手段が限られる中で、自主規制がそれに代わる機能を果たしてきた面がある。業界団体や第三者機関などを通じた自主規制の機能や効果について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、政府による直接規制以外の政策手段について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	現代のコミュニケーション政策（放送制度改革）	通信と放送の融合やインターネットの普及に伴い、従来の制度・政策ではメディアが抱える問題に対応できなくなっていた面がある。放送制度に焦点を当てて、どのような改革がなされ、現在どのような制度になっているのかについて解説する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、近年のメディアの変化に伴う政策上の課題や対応策について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新たな政策動向（共同規制など）	メディア環境が変化する中、コンテンツが抱える問題への対処が引き続き求められる一方、政府による直接規制は困難を抱えている面もある。共同規制など海外で導入されている例も参照しつつ、新たな政策動向について考える。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、近年のメディアの変化に伴う新たな政策手法について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	新たな政策動向（政策形成過程の変容）	インターネットの普及に伴い、伝統メディア（新聞・放送など）に代わる新たなメディアの影響力が強まる中で、政策形成過程も変化しつつある。2000年代以降の状況について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、近年のメディアの変化に伴う政策形成過程の変化について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	後半の内容の振り返り レポート課題②	現代のコミュニケーション政策の概要とその課題に関するここまでの内容を振り返る。 授業の後半で、理解度を確認するための課題を示し、それに基づくレポート作成を求める。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を確認しておく。	120分
	事後学修	本講義の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	情報法Ⅱ	担当者	村上 聖一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して情報に関する法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式で実施する。また、授業内でレポート課題を2回行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。						3	3					
②	情報流通に関する法について説明することができる。						3	3					
③	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。							3	3				
④	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。								3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤が身についているかを評価する。レポート課題は授業内で2回行う。1回でもレポートを提出しない場合は、成績評価の対象としないので注意すること。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業の中でコミュニケーションペーパーの記入を求め、それに基づいて発言を求める場合がある。それによって到達目標①②③④に関わる学修態度が身についているかを評価する。単なる出席による加点措置は行わない。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問などはメールで受け付ける。 murakami.seiichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局において報道関連の業務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		メディアに関する政策・制度がコンテンツに及ぼす影響について説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	コミュニケーション政策とは何か		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。コミュニケーション政策Ⅰの内容や試験の結果を振り返るとともに、コミュニケーション政策論の位置づけについて、他の学問分野や政策分野を参照しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、大きな変革期にある情報社会におけるコミュニケーション政策を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができるようにする。		
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分
2	公共政策とコミュニケーション政策		公共政策の一つとしてのコミュニケーション政策の特徴について説明する。また、主要な論点について取り上げるとともに、第3回以降で行う事例分析の枠組みについて説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、コミュニケーション政策の位置づけや、政策目的・手段について説明できるようにする。		
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分
3	戦前・戦時期の言論政策～検閲・言論指導		戦前・戦時期の言論統制をめぐっては、規制側が一方的にメディアに対して統制を加えたともめられることも多いが、詳細に分析すると、規制側・被規制側の密接な関係性など新たな側面も浮かび上がる。事例をもとに言論統制の実態について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、戦前・戦時期のコミュニケーション政策の実態について説明できるようにする。		
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分
4	戦前・戦時期の放送政策		戦前・戦時期の放送政策においては、番組の検閲や事業経営への介入などさまざまな手段を用いて統制が図られてきた。放送メディアを例に、戦前・戦時期のコミュニケーション政策で用いられた手段とその効果について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、戦前・戦時期のコミュニケーション政策の実態について説明できるようにする。		
	事前学修	事前に指示する論文を読み、疑問点などを整理しておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分
5	戦後の放送政策～内容規制・構造規制		戦前の言論統制に対する反省を踏まえ、戦後はメディアの「表現の自由」を重視した制度が形成された。そうした中で、電波の希少性や社会的影響力を根拠とした放送規制がどのように運用されてきたか、その政策展開について概観する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、戦後の放送政策の概要とその影響について説明できるようにする。		
	事前学修	事前に指示する論文を読み、疑問点などを整理しておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分
6	戦後の放送政策～非公式な介入		戦後の言論政策においては、一般にコンテンツに対する直接的な介入は許容されなくなったが、それでもさまざまな制度の存在を背景にした非公式な介入も行われてきた。その実態について検討する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、戦後の放送政策の概要とその影響について説明できるようにする。		
	事前学修	事前に指示する論文を読み、疑問点などを整理しておく。		120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策の効果～民放教育局をめぐる政策展開	一定の目的を達成するために形成された制度・政策が、運用過程で意図しない方向へと変化していく実態について、民放の教育専門局の事例をもとに解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、コミュニケーションをめぐる制度や政策の問題点について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	前半の内容の振り返り レポート課題①	戦前・戦後のコミュニケーション政策の展開に関するここまでの内容を振り返る。 授業の後半で、理解度を確認するための課題を示し、それに基づくレポート作成を求める。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を確認しておく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	レポート課題①の解説 政策決定過程の実態～有識者会議の機能	第8回で行ったレポート課題の解説を行う。 解説ののち、メディアに関する制度・政策の形成にあたって大きな役割を果たしてきた有識者会議のあり方について、放送法改正をめぐる事例を参照しながら概説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、コミュニケーションに関する制度の政策形成過程について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に指示する論文を読み、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	コミュニケーション政策の国際比較	マスメディアの形態や、それに関連した制度・政策は国によって大きく異なっている。マスメディアのあり方にどのような類型が存在し、それと制度・政策がどのように関係しているかについて国際比較を行いつつ概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、コミュニケーションをめぐる制度や政策のさまざまな形態について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	伝統メディアの変容と政策手法の展開	伝統メディア（新聞・放送など）の影響力が相対的に低下していく中で、コミュニケーション政策の対象や手段も変化が迫られている。具体的な事例を参照しつつ、どのような変化が起きているかについて概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、近年のメディア状況の変化やコミュニケーション政策の変容について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	インターネット時代の規制政策～共同規制など	インターネットの普及に伴い、新たなメディアが現れる中で、コンテンツに対する規律をどのように行うかが課題となっている。共同規制など、海外の政策展開の事例を参照しつつ、コンテンツ規律のあり方について検討する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、近年のコミュニケーション政策をめぐる動向について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策決定過程の変化～放送制度改革	伝統メディアに代わる新たなメディアが現れる中で、これまでコミュニケーション政策に関与してきたアクター（行為主体）や政策決定手法についても変化がみられる。近年の放送制度改革を例に政策決定過程の変容について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、近年のコミュニケーション政策の決定過程の変化について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に指示する論文を読み、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	情報空間の変容と公共メディア	インターネットの普及によってだれもが容易に情報発信ができるようになる中、健全な情報空間をどのように維持・構築するかが課題になっている。情報空間が変化する中での「公共メディア」をめぐる近年の議論について概説する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、「公共メディア」の位置づけや近年の議論について説明できるようにする。	
	事前学修	事前に配付する資料を確認し、疑問点などを整理しておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	後半の内容の振り返り レポート課題②	近年のコミュニケーション政策に関するここまでの議論について振り返る。 授業の後半で、理解度を確認するための課題を示し、それに基づくレポート作成を求める。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を確認しておく。	120分
	事後学修	本講義の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
企業のビジョン・ミッション・戦略を実現するために、経営資源としてのヒトをマネジメントするのが人材マネジメントである。この授業では、日本企業で行われてきた人事施策を「人材の多様化」「人材需給のグローバル化」「人材の流動化」という人材の変化に対し、どう対応すればよいのかという観点から「グローバル人事」を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の「事業のグローバル化」を前提にして、「グローバル人事」とはどのようなものか学び、また、グローバル人事における評価制度や人材配置についてその概要を理解した人材を育成する。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本企業のグローバル化の問題点について理解している。				3	2	2	2				
②	グローバル人事の必要性和グローバル組織について理解し説明できる。					2	2					
③	グローバル人事における評価制度や人材配置について理解し説明できる。					3	3					
④	グローバル人事における評価制度や人材配置について提案することができる。				3			3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	日本企業のグローバル化における問題点とグローバル人事における適切な評価制度や人材配置について到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	人材マネジメント論とは何か	人材マネジメント論とは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	人材マネジメント論とは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	日本企業と海外企業の人事慣習の違い	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	グローバル人事の必要性	グローバル人事の必要性について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事の必要性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	人材価値の適正評価	グローバル企業における人材価値の適正評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	人材価値を適正に評価する方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョン	グローバル人事におけるダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの必要性について説明する。	
	この回の到達目標	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョンについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グローバル・グレーディング	グローバル・グレーディングについて説明する。	
	この回の到達目標	グローバル・グレーディングについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	サクセッション・プランニング、人材プール管理	サクセッション・プランニングや人材プール管理について説明する。	
	この回の到達目標	サクセッション・プランニングや人材プール管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	戦略的人事評価制度	グローバル人事における戦略的人事評価制度について説明する。	
	この回の到達目標	戦略的人事評価制度について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	コンピテンシー評価	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	ノーレイティング、1 on 1 ミーティング	ノーレイティングや、1 on 1 ミーティングについて説明する。	
	この回の到達目標	ノーレイティング、1 on 1 ミーティングについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	組織開発とイノベーション	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて説明する。	
	この回の到達目標	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グローバル人事とHRテクノロジー	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	人事におけるA I の活用	人事におけるA I 活用の現状について説明する。	
	この回の到達目標	人事におけるA I 活用の現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅱ	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
I C T分野の急速な発展は企業における労働形態を大きく変化させ、特に、A IやI ｏT、ビッグデータなどの進化は働き方を大きく変えつつある。これらの技術は、人事分野では「H R (Human Resource) テクノロジー」と呼ばれ、業務効率化や採用・配置の精度向上に大きく貢献することが期待されている。この授業では、H Rテクノロジーが企業人事に与える影響を理解することで、学生がH Rテクノロジーを有効活用できる人材になることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
我が国の持続的な経済成長に向けての「H Rテクノロジー」の役割とはどういうものか、また、適切な「H Rテクノロジー」の活用についてその概要を理解することを目的とする。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の生産性革命とHRテクノロジーの関係について理解している。				3	2						
②	世界と日本のHRテクノロジーの現状について理解している。					2	2					
③	HRテクノロジーについて様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）から説明できる。					3	3					
④	HRテクノロジーの活用方法について提案できる。						3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	HRテクノロジーの様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）について、主に到達目標③④の観点から十分に理解できているか評価する。			40	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	50	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	HR（Human Resource）テクノロジーとは何か	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について説明する。	
	この回の到達目標	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	HRテクノロジーの現状と可能性	HRテクノロジーの現状と可能性について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーの現状と可能性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	HRテクノロジーの事例1（採用・配置、技術的視点）	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置の事例について説明する。	
	この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	HRテクノロジーの事例2（採用・配置、HRM的視点）	採用分野におけるHRテクノロジー活用の背景と配置におけるHRテクノロジーの留意点について説明する。	
	この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	HRテクノロジーの事例3（採用・配置、労働法的視点）	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について説明する。	
	この回の到達目標	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	HRテクノロジーの事例4（採用・配置、個人情報保護的視点）	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について説明する。	
	この回の到達目標	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	HRテクノロジーの事例5（人材開発・退職、技術的視点）	A Iの活用による人材育成と退職予測について説明する。	
	この回の到達目標	A Iの活用による人材育成と退職予測について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	HRテクノロジーの事例6（人材開発・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	HRテクノロジーの事例7（人材開発・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーと労働時間の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと労働時間の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	HRテクノロジーの事例8（人材開発・組織開発、個人情報保護的視点）	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	HRテクノロジーの事例9（安全配慮、労働法的視点）	HRテクノロジーと安全配慮義務について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと安全配慮義務について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	HRテクノロジーの事例10（安全配慮・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。				2		2					2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。				2		2					
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。				2		2					
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。				2		2					2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパー・小テストにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	25	20	20	15							80
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自由を考える	杉本竜也	日本経済評論社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・政治思想史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。 また、関連科目である政治哲学との違いを示しながら、政治思想史を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識することができる。	
	事前学修	このシラバスの内容を確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	100分
	事後学修	ガイダンス内容を再確認するとともに、この時点で可能であれば、教科書を入手の上、目を通し、全体の流れを把握しておく。	140分
2	西洋政治思想の目指したもの 個人と共同体	「自由」という概念をキーワードとして、古代から近現代に至る西洋政治思想の流れを学修する。 なお、この回の講義は、この後度々振り返ることになるため、受講者には必ず出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、西洋政治思想の最重要概念である「自由」の多様性を理解すると共に、西洋政治思想史の全体像を把握することができる。	
	事前学修	教科書を入手し、目次に目を通して全体の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	講義内容を復習するとともに、教科書の「はじめに」に目を通す。	120分
3	プラトン（古代の政治思想①）	アテナイを中心とする古代ギリシアにおける人間観・政治観・社会観について学修する。その上で、イデア論を中心とするプラトンの哲学を概説し、そして『国家』に代表される彼の政治思想について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋政治思想の源流となった古代ギリシアの政治思想の思想的意義と、プラトンの政治思想の内容と意味について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第1章第1節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、古代ギリシアについて簡単に調べておく。	120分
	事後学修	第2回講義の内容もあわせて参考にしながら、古代ギリシアにおける政治の意味や役割を考える。そのうえで、プラトンの政治思想の特徴をまとめる。	120分
4	「アリストテレス（古代の政治思想②）」	前回講義したプラトンとの違いを意識しながら、『ニコマコス倫理学』や『政治学』を中心にアリストテレスの政治思想を学ぶ。また、彼の政治思想が現代にいたるまで政治学に影響を与えている理由と、彼の政治思想の意義を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プラトンと比較しながら、アリストテレスの政治思想の思想史上の意義と現代的意義の両方を説明することができる。	
	事前学修	教科書などを利用して、プラトンの政治思想について復習する。また、プラトンとの違いを意識しながら、アリストテレスの政治思想について教科書（第1章第2節）などを利用して簡単に確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（第1章）や配布資料などに使って、プラトンとアリストテレスの政治思想の違いについてまとめる。	120分
5	「中世社会とキリスト教（トマス・アクイナスを中心に）」	まず、草創期から中世にかけてのキリスト教の歴史とその当時のヨーロッパの政治・社会状況を学ぶ。そのうえで、普遍論争やトマス・アクイナスの政治思想について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋社会におけるキリスト教とりわけローマ・カトリックの存在とその影響およびトマス・アクイナスの政治思想について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第2章）や歴史書、またインターネットなどを利用して、中世ヨーロッパについて簡単に確認しておく。その際、特にローマ・カトリックやその長であるローマ教皇（法王）に注目する。	120分
	事後学修	教科書（第2章）を使用して、講義内容について復習する。 また、トマス・アクイナスについては、充実した無料のインターネット講義が開設されているため、関心があればその視聴をすすめる（サイトの情報は、講義の際に紹介する）。	120分
6	「ルネサンスと宗教改革」	まず、当時のイタリアの政治状況について把握したうえで、ルネサンスとその政治的意味について考える。そして、マルティン・ルターやジャン・カルヴァンによって始められた宗教改革とそれが政治や社会に与えた影響について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルネサンスと宗教改革の政治的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第3章第1節）や関連書籍などの資料を利用して、カトリックを中心としたキリスト教の教義や社会教説、歴史について確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（第3章第1節）や前回講義の内容なども参考にしながらキリスト教の特徴や歴史を確認したうえで、宗教改革とその政治的影響についてまとめる。また、現代社会における政治と宗教をめぐる問題についても考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「絶対王政の政治思想（ジャン・ボダンを中心に）」		宗教改革によって生じた政治対立（コンフェッショナリズム）やその克服を目的として打ち立てられたジャン・ボダンの主権理論、そしてボダンの理論などを根拠として成立した絶対王政について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、近代国家の基礎となる概念である主権概念の成立と意味について説明することができる。		
	事前学修	教科書（第3章第2節）や歴史書の利用や講義内容の再確認を通して、封建制を中心とする中世ヨーロッパ社会の特徴について確認しておく。	120分	
	事後学修	封建制を中核的特徴とする中世社会とボダンが提唱した中央集権的な政治体制との違いをまとめる。	120分	
8	「ニコロ・マキアヴェリ 近代政治思想の幕開け」		『君主論』で展開されたきわめて現実的な政治思想と『ローマ史論』に見られる共和主義的な政治思想というニコロ・マキアヴェリ政治思想に見られる2つの側面を比較しながら、彼の政治思想を学び、その政治思想史的意義について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代や中世における政治思想と比較した際のマキアヴェリ政治思想の特徴について説明することができる。		
	事前学修	第2回講義から第4回講義までの講義内容を振り返り、古代社会の政治思想について確認しておく。また、教科書の第4章を読む。	120分	
	事後学修	古代や中世の政治思想と比較しながら、マキアヴェリ政治思想の特徴と彼が後の政治に与えた影響について考えてみる。	120分	
9	「モンテスキュー 自由主義の源流」		『法の精神』を主要な材料として、モンテスキュー政治思想について学ぶ。彼の思想には保守主義的性質と自由主義的性質をあわせ持つ複雑な特徴があるため、具体的な政体論の理解などを通して、モンテスキュー政治思想について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義的性質と自由主義的性質の双方を視野に入れて、モンテスキュー政治思想を説明することができる。		
	事前学修	第7回講義の内容などを確認して、絶対王政について復習する。	120分	
	事後学修	「モンテスキューの考える『自由』とはどのようなものだったのか」という問題意識をもって、教科書（第5章）を用いて講義内容を再確認する。	120分	
10	「社会契約説とは何か？（社会契約説①）」		「個人」や「擬制」（フィクション）といった概念を材料として、さまざまな思想家によって主張され、今日でも国家の成立根拠のひとつとして承認されている社会契約説という政治思想の本質的な特徴について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治という営為はあくまでも人間の営みである」という考え方の登場が、政治に与えた影響について自分なりに解釈することができる。		
	事前学修	「社会や国家は、個人によって形成される」という考え方を意識しながら、第2回講義の内容を再確認する。	120分	
	事後学修	社会や国家といった共同体と個人の作為との関係性に注意しながら、教科書の「小括」を使って講義内容を復習する。	120分	
11	「トマス・ホッブズ（社会契約説②）」		『リヴァイアサン』を主な材料として、「自然状態」「自然権」「自然法」などの概念を注目しながら、トマス・ホッブズ政治思想を学習する。その際、「自然状態」などの概念は社会契約説を考えるうえで重要な概念であるため、特に注意を払って内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」という主要概念を用いて、ホッブズ政治思想について説明することができる。		
	事前学修	前回講義の内容を再確認するとともに、教科書（第6章）を使ってトマス・ホッブズ政治思想を概観する。	120分	
	事後学修	講義内容や教科書（第6章）を確認し、講義内容を理解する。特に、ホッブズのいう「自然状態」「自然権」「自然法」についてまとめる。	120分	
12	「ジョン・ロック（社会契約説③）」		主として『統治二論』で展開されたジョン・ロック社会契約説について学ぶ。「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロック政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロック政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書（第7章）などを使用して、ジョン・ロック政治思想について確認を行う。	120分	
	事後学修	「自然状態」「自然権」「自然法」に注目しながら、トマス・ホッブズとジョン・ロックによるそれぞれの社会契約説の特徴と違いについて考察する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「ジャン＝ジャック・ルソー（社会契約説④）」		他の2人の社会契約論者の考え方や啓蒙思想などとの共通点と相違点に注目しながら、ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想について学ぶ。特に、一般意志をはじめとするルソーの思想概念は独自性が高く、理解しにくいものも多いため、概念把握に注意する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般意志を中心とするルソーの政治思想について理解した上で、ホッブズやルソーの政治思想との違いを説明することができる。		
	事前学修	トマス・ホッブズとジョン・ロックの社会契約説をあらためて確認したうえで、教科書（第8章）などを使って、ジャン＝ジャック・ルソーについて確認する。		120分
	事後学修	トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説を比較しながら、それぞれの思想の内容と特徴を十分に理解し、説明できるようにする。そのうえで、3人の思想に共通する要素を考えて、社会契約説が持っている政治思想史的な意義について考察する。必要なら、他の書籍や資料なども確認する。		120分
14	「フランス革命をめぐる政治思想」		フランス革命のなかで登場してきた政治思想、具体的には急激な改革を求めたジャコバン主義や絶対王政への回帰を望んだ反動思想について学習する。さらに、政治における過激な考え方や実際の暴力といった問題について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会契約説などの政治思想がフランス革命といった現実政治に与えた影響について説明することができる。		
	事前学修	教科書や講義資料などを利用して、トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説について復習を行う。		120分
	事後学修	講義内容を確認するとともに、テロリズムやヘイト・スピーチといった現代の政治的・社会的問題についても考えてみる。		120分
15	前期総括		古代から近代の市民革命の時代にいたる政治思想について、総括的に考える。また、講義内容に関する質疑応答が設定されているため、必要に応じて利用する。試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的に考えることの重要性を説明することができる。		
	事前学修	前期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。		100分
	事後学修	教科書などを総復習し、期末試験の準備を行う。		140分

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2				2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2				
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2				
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2				2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①に関わる基礎知識と到達目標②③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	西洋政治思想史の学問的位置づけおよび学問的意義について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	西洋政治思想の論点	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、それがどのように考えられてきたかを歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	古代ギリシアの政治思想Ⅰ：プラトン	古典古代の政治思想として、プラトンの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ギリシアの都市国家について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	古代ギリシアの政治思想Ⅱ：アリストテレス	古典古代の政治思想として、アリストテレスの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ギリシアの自然哲学について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	古代ローマの政治思想	古典古代の政治思想として、キケロの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	共和政ローマと帝政ローマについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	中世社会Ⅰ：キリスト教	キリスト教の観点から中世社会の政治構造を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	キリスト教の教義について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中世社会Ⅱ：封建制	封建制の観点から中世社会の政治構造を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	中世日本の封建制について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	ルネサンス	近世の政治思想として、マキアヴェリの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	15世紀イタリアルネサンスについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	宗教改革	近世の政治思想として、ルター・カルヴァンの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	カトリックとプロテスタントの違いについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	絶対主義の政治思想	近世の政治思想として、ボダンの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ルイ14世治世下のフランスについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	社会契約説Ⅰ：ホッブズ	近代の政治思想として、ホッブズの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	社会契約説Ⅱ：ロック	近代の政治思想として、ロックの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	名誉革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会契約説Ⅲ：ルソー	近代の政治思想として、ルソーの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	啓蒙思想について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	社会契約論以降	ヒュームの社会思想を手がかりに、市民革命後の政治と経済の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	産業革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代以降の西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。 最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
「西洋政治思想史Ⅰ」を受講していることが望ましいが、未履修でも受講可能である。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。					2		2					2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。					2		2					2
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。					2		2					
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2		2					2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパー・小テストにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	20	20	15							80
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自由を考える	杉本竜也	日本経済評論社	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16:20～17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		「西洋政治思想史Ⅰ」の講義内容について簡単に説明したのち、後期に行う講義の方針や内容、成績評価方法の概要について説明を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、社会契約説を中心とする近代前期の政治思想について説明することができる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、講義の流れを把握しておく。		
	事後学修	今期の講義内容について、教科書を使って全体の流れを把握しておく。		
2	「エドモンド・バーク 革命に対するリアクションとしての保守主義」		「自由」をキーワードとして、エドモンド・バークの保守思想を学ぶ。講義ではバークに限定せず、ヒュームなども含めて広い視野から保守主義について説明を行うので、受講者は保守主義の本質を理解するように努める。また、イギリスとアメリカの保守主義の比較的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義の祖とされるバークの政治思想の本質について、「自由」をキーワードとして説明することができる。		
	事前学修	「保守」または「保守主義」「保守思想」といった言葉が現在一般にどのように使われているのか、インターネットなどを利用して調べてみる。そして、教科書（第9章第2節）を用いて、エドモンド・バークの保守思想について確認しておく。		
	事後学修	教科書などを参考として、「自由」という概念に注目しながら、エドモンド・バークの保守思想について復習を行う。また、現代政治や現代社会における「保守」や「保守主義」「保守思想」についても考えてみる。		
3	「アレクシス・ド・トクヴィル（市民革命後の政治思想①）」		主著『アメリカのデモクラシー』を材料として、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について学ぶ。トクヴィルのいうデモクラシーは一般の認識よりも広い意味を持っているため、その点に注意しながら理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トクヴィルのデモクラシー概念の特徴について説明することができる。		
	事前学修	今日、多様な意味で使われている「デモクラシー」という言葉について、インターネットなどを利用して調べてみる。そのうえで、教科書（第9章第3節）を利用しながら、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について確認しておく。		
	事後学修	まず、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想におけるデモクラシーの意味について、教科書（第9章第3節）などを参考にしながら、復習を行う。そのうえで、現代のデモクラシーが抱えている問題点について考えてみる。		
4	「ジョン・スチュアート・ミル（市民革命後の政治思想②）」		はじめに功利主義やロマン主義について学んだうえで、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想について学習する。ミルの思想的業績は膨大だが、この講義では主に『自由論』と『代議制統治論』について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、功利主義の全体的な特徴を理解した上で、ミルの自由主義思想の特徴を説明することができる。		
	事前学修	教科書や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、功利主義について確認しておく。		
	事後学修	教科書などを利用して、「自由」というものの意味を考えながら、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想の特徴についてまとめる。		
5	「カントとヘーゲル 市民社会と国家」		イマヌエル・カントとゲオルグ・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルの政治思想について学ぶ。彼らの哲学的業績はきわめて多く、多岐にわたるため、この講義では特にそれぞれの人間観や国家観・市民社会観について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カントやヘーゲルに代表されるドイツ観念論について概観した上で、それが市民社会をどのように理解していたのか、英仏の政治思想と対照させながら説明することができる。		
	事前学修	教科書（第10章）や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、ドイツ観念論について確認しておく。詳細は講義の中で説明していくので、事前学習の段階では正確に理解していなくても構わない。		
	事後学修	教科書（第10章）なども利用しながら、講義の内容について再確認しておく。ドイツ観念論は抽象的な議論が多いため、把握困難な個所があればまとめておく。		
6	フランス初期社会主義（社会主義思想①）		はじめに19世紀の急速な産業化・都市化の進展に伴って発生した、貧困をはじめとする社会問題について理解し、説明できるようにする。それを踏まえて、サン＝シモンやシャルル・フーリエ、ピエール・ジョセフ・ブールドンらによって主張されたフランス初期社会主義思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会問題の発生メカニズムとそれらへの対策として構想されたフランス初期社会主義思想の内容と意義について説明することができる。		
	事前学修	18世紀末のフランス革命から19世紀初頭までのフランスの政治・社会状況について、教科書（第11章第1節）や歴史書、またはインターネットなどを利用して簡単に把握しておく。		
	事後学修	「社会」という概念に注目し、その意味を考えながら、それぞれの社会主義者の思想内容についてまとめる		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「カール・マルクス（社会主義思想②）」	「剰余価値」や「上部構造・下部構造」、「疎外」といったカール・マルクスの社会主義思想の基本概念を学習し、そして彼の思想が後の政治に与えた影響やその政治学的な意味について考える。あわせて、現代にも共通する、政治と経済の間に存在する摩擦や緊張に関しても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マルクスの主要な思想概念およびそれが後世に与えた影響について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第10章を中心に）や講義資料などを利用して、第5回講義で取り上げたドイツ観念論および第6回講義のフランス初期社会主義の内容を再確認する。	120分
	事後学修	第5回講義や第6回講義の内容とあわせて、カール・マルクスの社会主義思想・政治思想について復習を行い、その概要をまとめる。必要であれば、各種の書籍やインターネットなども利用する。	120分
8	「レーニン／ベルンシュタイン（社会主義思想③）」	レーニンやベルンシュタインらによって実際に推進された社会主義構想に関して学習する。彼らが自らの理想の実現にあたって直面した困難に触れることを通して、政治における理論と現実の差とそれを埋める困難さについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レーニンやベルンシュタインの革命思想と実際に彼らが推進した革命運動について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第11章を中心に）などを利用して、第6回講義および第7回講義で取り上げた社会主義思想について再確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（第11章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義から第8回講義において取り上げた社会主義思想について再確認する。	120分
9	「全体主義（ファシズム・ナチズム）」	はじめにデモクラシーの特徴とそれを原因として生じる問題点について押さえる。そのうえで、全体主義およびファシズム、ナチズムについて、その定義や特質、発生要因などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、デモクラシーの悪しき帰結としての全体主義という視点から、全体主義が登場した意味を説明することができる。	
	事前学修	第3回講義の内容を再確認して、デモクラシーの本質的な問題点について確認しておく。	120分
	事後学修	教科書第12章第1節なども参考にしながら、「なぜデモクラシーが全体主義の原因になってしまうのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
10	「ハンナ・アレント 全体主義に対する批判」	第一に全体主義批判、第二に『人間の条件』で展開された理想的な政治のあり方、第三に『イェルサレムのアイヒマン』で示された時代や政治、組織の中における人間の存在に関する考察を材料として、ハンナ・アレントの政治思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、全体主義に対するアレントの批判の要点とそれへの対策について説明することができる。	
	事前学修	前回講義の資料などを利用して全体主義の発生要因について確認したうえで、教科書（第12章）などを利用してハンナ・アレントの政治思想について簡単に把握しておく。	120分
	事後学修	現代の社会や政治、デモクラシーに対する批判としての性格を持っていることを認識したうえで、ハンナ・アレントの政治思想の概要をまとめる。近年、アレントに関する映画が公開されており、関心があればその視聴をすすめる。	120分
11	「フェデラリストとリパブリカン（アメリカの政治思想①）」	はじめに、ヨーロッパ人によるアメリカ植民の時代から独立戦争、その後のアメリカ合衆国憲法に代表される国家体制の整備の時代にいたる、政治・社会状況について学習する。そして、その経緯であられたフェデラリストとリパブリカンの対立を把握したうえで、アメリカという国家の原理について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ独立の歴史的経緯と独立運動を支えた政治思想について説明することができる。	
	事前学修	教科書（補論）や歴史書、またインターネットなどを利用して、アメリカの歴史、とりわけ植民地成立期から独立戦争、その後の国家形成のころまでの経緯について簡単に確認しておく。なお、アメリカの歴史については、在日アメリカ大使館・アメリカンセンターのホームページが詳しく、正確である。	120分
	事後学修	教科書（補論）などを利用して、アメリカ独立の指導者（ファウンディング・ファーザーズ）の政治思想について確認する。	120分
12	「ロールズのリベラリズム（アメリカの政治思想②）」	『正義論』の内容を中心に、ジョン・ロールズの政治思想についてその詳細を学ぶ。特に、「無知のヴェール」や「正義の2原理」といったロールズの基本概念に関しては、その意味を正確に理解するように努める。また、彼の政治思想が後の政治学や現実の政治に与えた影響についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロールズの政治思想について正確に理解した上で、その政治思想史・政治哲学上の意義について説明することができる。	
	事前学修	インターネットなどを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について確認しておく。	120分
	事後学修	講義内容などを利用して、『正義論』を中心にジョン・ロールズの政治思想について復習する。特に「正義の2原理」は十分に理解するように努める。必要に応じて、他の書籍なども確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「コミュニタリアニズム（アメリカの政治思想③）」	ジョン・ロールズの政治思想に対する批判の中から生まれた、アラスデア・マッキンタイアやマイケル・サンデルらによるコミュニタリアニズム（共同体主義）について学ぶ。また、アメリカの政治思想における「自由」の意味の多様さについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コミュニタリアニズムに関する諸理論を比較しながら、そのそれぞれについて説明することができる。	
	事前学修	講義内容などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について再確認しておく。特に、彼の重要概念については、その意味を十分に考察する。	120分
	事後学修	ジョン・ロールズの政治思想と比較しながら、さまざまな論者によるコミュニタリアニズムをまとめる。	120分
14	「近代政治思想の再検討」	フェミニズムやクイア理論、ケアの倫理、またアフリカ系アメリカ哲学などによる問題提起を参考として、「個人」や「理性」、「男性」の存在を前提に形成されてきた近代政治思想の問題点について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フェミニズム等によってなされてきた、近代政治思想に対する本質的批判について説明することができる。	
	事前学修	さまざまな書籍や資料、インターネットなどを利用して、女性差別や人種差別、セクシュアル・マイノリティに対する差別といった社会問題について把握しておく。	120分
	事後学修	前回まで取り上げてきた近代政治思想と今回講義したさまざまな政治思想を比較して、それぞれの評価すべき点や功績と問題点の両方について考えてみる。	120分
15	後期総括	市民革命後から現代にいたるまでの政治思想に関する総括的講義を行うため、近現代の政治思想全体を把握するように努める。 試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的に考えることの重要性を説明することができる。	
	事前学修	後期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。	120分
	事後学修	教科書や講義資料などを総復習して、期末試験を準備する。	120分

科目名	政策過程論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
我が国における行政機関、とりわけ地方公共団体における政策課題の発見から政策形成段階、政策実施、政策過程の各段階を学修したうえで、その課題を検討する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政策形成過程の各段階の問題点を理解している。また、どのような作業や手法があるのか説明できる。

【履修条件】
公務員志望である必要はないが政策形成と実施について関心があること。公共政策論を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義を聞いたうえで、授業内の課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				2							
②	政策過程を批判的・論理的に分析し、説明できる。						2					
③	政策過程に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							2				
④	効率的、効果的な行政運営などを自ら考案し、提案できる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。		40	40								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを 評価する。	5		10	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	40	50	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
メール（fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp）など相談すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	政策過程とはなにか。その問題テーマについて。	政策過程論の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	政策過程について説明できる	
	事前学修	政策過程とはなにか、簡単について調べてみる	120分
	事後学修	分権時代における政策過程とはなにか考えてみる。	120分
2	政策過程とはなにか	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について学修する	
	この回の到達目標	政策過程について説明できる	
	事前学修	政策形成について調べる	120分
	事後学修	政策形成の課題について明らかにする。	120分
3	行政のサイクルとその意味	行政のサイクルについて学修する。	
	この回の到達目標	行政サイクルについて具体例で説明できる	
	事前学修	自治体の政策の流れについて調べてくる	120分
	事後学修	本日の講義の具体例について整理する	120分
4	政策の立案の前提過程	問題の発見と課題の設定について学修する	
	この回の到達目標	行政課題の設定の流れを説明できる	
	事前学修	行政課題と社会の課題の違いを理解してくる	120分
	事後学修	行政課題について政策的思考について整理する	120分
5	政策の立案のための分析過程	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について学修する	
	この回の到達目標	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について説明できる	
	事前学修	政策課題について調べてくる	120分
	事後学修	政策立案についてについてまとめる	120分
6	政策の立案における課題発見	問題の発見や課題の設定に関する手法について学修する	
	この回の到達目標	問題の発見や課題の設定に関する手法について説明できる	
	事前学修	問題の発見や課題について復習してくる	120分
	事後学修	問題の発見や課題の設定に関する手法について問題点を書き出す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策の立案のための情報収集	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について学修する	
	この回の到達目標	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について説明できる	
	事前学修	新聞から政策課題を抜き出してみる。情報提供の方法について検討する。	120分
	事後学修	講義で行った手法についてまとめる	120分
8	政策実施の研究	政策実施研究の実態について学修する	
	この回の到達目標	政策実施研究の現在について説明できる	
	事前学修	政策実施とはなにか調べてくる	120分
	事後学修	政策立案と政策実施の関係を理解する。政策実施の研究論文を読む	120分
9	規制行政の実施と実態	規制行政の政策実施について学修する	
	この回の到達目標	規制行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
	事前学修	規制行政について考察してくる	120分
	事後学修	規制行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
10	給付行政の実施と実態	給付行政の政策実施について学修する	
	この回の到達目標	給付行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
	事前学修	給付行政について考察してくる	120分
	事後学修	給付行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
11	ストリートレベルの実施過程の問題点	ストリートレベルの政策実施について学修する	
	この回の到達目標	ストリートレベルの政策実施のジレンマについて説明できる	
	事前学修	ストリートレベルの公務員の特徴について検討してくる	120分
	事後学修	ストリートレベル特有の政策実施についてまとめる	120分
12	現代の政策実施課題の課題	政策実施過程の現代的課題について学修する	
	この回の到達目標	政策実施過程の現代的課題について議論できる	
	事前学修	今までの議論を整理してくる	120分
	事後学修	政策実施過程の現代的課題について自分なりの見解をしめす	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策評価とはなにか	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修する	
	この回の到達目標	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修するか説明できる	
	事前学修	前回の議論について理解する	120分
	事後学修	政策評価の構築のための環境整備について検討する。	120分
14	政策過程の応用	政策評価と政策支援について議論し学修する	
	この回の到達目標	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	
	事前学修	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	120分
	事後学修	政策過程の応用についての可能性について検討する。	120分
15	全体の総括	これまでの授業で扱った政策過程構築の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	これまでの授業で扱った政策過程の基本的な視点について他人に説明できる。	
	事前学修	政策過程制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	政策研究A	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、国家公務員（内閣府）としてNPO法人行政に関わった経験を引きつつ、新しい公共、共助社会において重要な役割が期待される非営利組織（NPO）について、理論と実証を通じて講義を行う。また、適宜ゲストスピーカーからの話題提供を通じて履修者の理解が深まるようにする。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非営利組織が現実の社会問題（人口減少、雇用、少子化、高齢化、まちづくり）解決において果たす・期待される役割について説明できるようになるために、経済学に基づく理論的背景について修得する。また、営利企業との違いやミッション、現状について議論できるようになる力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノートに基づいて講義形式で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、小レポートを2回実施する。また、演習とゲストスピーカーへの質問での極的な授業参加を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	非営利組織における主要な概念や理論を識別することができる。					4		4	4	4			
②	非営利組織のミッションや活動の意義を、論理的に説明することができる。					4		4	4	4			
③	寄付の理論、ボランティアの理論をはじめとする、経済理論を説明することができる。					4		4	4	4			
④	非営利組織（セクター）の活動に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。					4		4	4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、2回行う小レポートにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。				70							70
討論・発表等	授業中の演習・質疑応答において自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標①②③にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	70							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末レポートについては評価のポイント・講評をポータルサイト上にアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に用いない。講義ノートに基づいて講義を行う。参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国家公務員（内閣府）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国家公務員としてNPO行政に携わった経験をふまえ、非営利組織について最新の情報を提供する。また、ゲストスピーカー（NPO関係者）からの話題提供も行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション（非営利組織とは何か）】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、非営利組織の定義など基礎的事項について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、非営利組織について学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	自分の知っている、聞いたことのある非営利組織（NPO法人等）の団体をインターネット等で調べておくこと。	120分
	事後学修	非営利組織について今まで誤解していた部分・初めて知った部分について整理すること。	120分
2	【営利企業と何が違うか（利潤最大化）】	営利企業との違いを理解するために、営利企業の行動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における営利企業の意思決定について説明できる。	
	事前学修	ミクロ経済学の企業行動について復習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
3	【営利企業と何が違うか（費用最小化）】	非営利組織の行動として費用最小化問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における費用最小化行動を説明できる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。ミクロ経済学の企業行動について再復習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
4	【非営利組織は何を目的に行動をするのか（ミッションとは何か）】	非営利組織の目的としてのミッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織のミッションとビジョンについて説明できる。	
	事前学修	インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べ直すこと。	120分
5	【非営利組織は何で評価されるのか、何で評価されるべきか。】	社会的インパクト評価について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織の目標や成果について議論することができる。	
	事前学修	インターネット等で社会的インパクト評価について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で社会的インパクトを調べ直すこと。	120分
6	【ロジックモデルを作成する】	実際にロジックモデルを作成する。（演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分でロジックモデルが作成できる。	
	事前学修	ロジックモデルについて調べておくこと。	120分
	事後学修	自分の関心のある分野のロジックモデルを作成してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【非営利組織の雇用】	非営利組織の雇用について政府統計等を用いて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非営利組織の雇用の状況についてについて説明できる。	
	事前学修	インターネット等で非営利組織の求人・雇用条件等について調べておくこと。	120分
	事後学修	講義内容で紹介したデータについて復習を行うこと。	120分
8	【非営利組織で働くということ】	非営利組織で働くゲストスピーカーから、活動やキャリアについてお話をいただく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
	事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べてくること。	60分
	事後学修	小レポートを作成すること。	180分
9	【寄付について考える】	寄付の経済理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、利他的動機の経済理論について説明できる。	
	事前学修	個人の消費行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
	事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
10	【ボランティアについて考える】	ボランティアの経済理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間の最適配分の理論と利他的動機について説明できる。	
	事前学修	個人の余暇行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
	事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
11	【ソーシャル・ビジネス（営利と非営利のあいだ）】	ソーシャル・ビジネスについてその定義や事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャル・ビジネスの現状について議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等でソーシャル・ビジネスについて調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、ソーシャル・ビジネスについて知識を整理すること。	120分
12	【営利企業の社会貢献（CSRの実態と課題）】	CSRについて、経団連の取り組みや、各企業の取り組みについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、企業の社会貢献活動について説明でき、議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等で企業の社会貢献について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、企業の社会貢献の類型について整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【グローバルな活動について考える】	途上国支援などNGOで活動するゲストスピーカーから、その活動内容やキャリアについてお話を頂く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
	事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べておくこと。	60分
	事後学修	小レポートを作成すること。	120分
14	【行政との協働】	指定管理者制度、ふるさと納税による支援等の実情について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指定管理者制度とふるさと納税について説明でき、そのメリット・デメリットについて議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等で行政とNPOとの協働について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、行政とNPOの協働について整理すること。	120分
15	【まとめ（非営利組織を取り巻く今日的課題）】	ここまでの講義全体の総括と、非営利組織について学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、非営利組織の意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておくこと。	120分
	事後学修	最終レポートを作成すること。	360分

科目名	政策評価論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】 わがくにおける行政機関、とりわけ地方公共団体における政策評価を学修したうえで、その課題を検討する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして政策評価の実態についても学修する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 政策評価制度について理解している。また、政策評価をするには、どのような作業や手法があるのか説明できる。
--

【履修条件】 公共政策論、政策過程定論を履修済みでないと講義の理解はむずかしい。履修する場合は、公共政策の基礎知識を服しておくことが必要である。
--

【授業方法】 講義形式で行う。その後、課題を各自課題を行う。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義のリアクションペーパーを書くことで、課題の理解を含める。各自の意見を述べるが、その中から特徴的なものを適宜講義で取り上げて解説を加える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				2							
②	政策評価を批判的・論理的に分析し、説明できる。						2					
③	政策評価に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。						2					
④	効率的、効果的な行政運営などを自ら考案し、提案できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 課題により評価する。		20	30	30							80
討論・発表等												
授業への参画度	自分意見を述べることができたかを基準に，到達目標①③ ④にかかわる説明能力が身についているかを評価する	5		10	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	40	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーのなかから代表例をとり適宜紹介し回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は利用しない。				

【オフィスアワー】
場所は本館 6 階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会員を多数経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会委員の経験を生かし事例や実務上の問題点などを解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	政策評価論の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	政策評価を学ぶ上での学修技法について説明できる。自ら政策評価について調べることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでくること。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価とはなにか考えてみる。（2時間）	120分
2	政策評価の意義について	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について説明できる。	
	事前学修	国と地方の政策評価制度とはなにかネットで調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の整理を行う。（2時間）	120分
3	政策評価の導入の社会的背景	政策評価の導入の背景について、国地方の社会的背景と制度の誕生について学修する。	
	この回の到達目標	社会的背景と政策評価制度導入の契機について説明できる。	
	事前学修	行政の説明責任について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価が導入された背景について整理する。（2時間）	120分
4	政策評価制度の目的	政策評価の目的について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価の目的について、国、地方の文書などをもと説明できる。	
	事前学修	政策評価の目的について国と自治体について違いがあるか考察する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の目的と導入の背景について合わせて考察する。（2時間）	120分
5	政策評価の対象と手法	政策評価の対象はなにか、またその際の手法・技法について学修する。	
	この回の到達目標	政策体系を理解した上で政策評価の対象について説明できる。	
	事前学修	評価の手法について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	定性的評価と定量的評価の特性についてまとめる。（2時間）	120分
6	政策評価の動向	政策評価の動向について、先進自治体について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の先進自治体について説明できる。	
	事前学修	政策評価は先行自治体について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の先行例をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	政策評価の動向		政策評価制度の基本的な形、類型について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の類型について説明できる。	
	事前学修	政策評価の先行事例と国への伝播について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価制度の傾向についてまとめる。（2時間）	120分
8	政策評価の評価基準		政策評価の評価基準：3Eなどについて学修する。
	この回の到達目標	政策評価の評価基準についてそれぞれ詳細に説明できる。	
	事前学修	政策評価の基準の必要性について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	評価基準がどのように機能するのか整理する。（2時間）	120分
9	政策評価シートの構造		政策評価シートの公開、外部評価などについて学修する。
	この回の到達目標	政策評価シートの構造について説明できる。	
	事前学修	自分居住する自治体の政策評価制度についてネットで調べる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価とアカウンタビリティの確保について検討する。（2時間）	120分
10	政策評価制度の構築		政策評価システムの構築過程の課題について学修する。とくに、地方公共団体での導入過程について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築過程の課題について解決策を説明できる。	
	事前学修	政策評価の構築の障害となるものについて検討する。（2時間）	120分
	事後学修	構築の障害がどのような影響を与えられているのか検討する。（2時間）	120分
11	政策評価制度の構築		政策評価システムの構築過程の課題について学修する。とくに、組織内の弊害について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築過程の組織内の弊害について学修する。	
	事前学修	前回の議論を理解したうえで講義に臨む。（2時間）	120分
	事後学修	構築と様々な主体の役割について理解する。（2時間）	120分
12	政策評価制度の成功への条件		政策評価システムの成功条件をどのように整備すべきか学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築のための成功条件について環境条件について説明できる。	
	事前学修	政策評価システムの成功と地域の状況の関係について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	成功の条件について整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策評価制度の運営継続の条件	政策評価制度の運営継続の条件について学修する。組織内、住民との関係について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の運営継続の条件について説明できる。	
	事前学修	前回の議論について理解する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の成功の条件について、環境整備について検討する。（2時間）	120分
14	政策評価制度の応用	政策評価制度を利用して、行政運営にどのような改善が必要か学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の行政運営の改善例を説明できる。	
	事前学修	政策評価の応用についての可能性について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価と政策支援について検討する。（2時間）	120分
15	まとめ	政策評価制度の全体にまとについて学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の意義、課題について説明できる。	
	事前学修	いままでの学んだ事項を整理し試験に臨む（2時間）	120分
	事後学修	試験でできなかった点を再度勉強しておくこと。（2時間）	120分

科目名	政策法務論	担当者	牛山 久仁彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講座では、地方分権の時代にふさわしい自治体行政運営にとって求められる政策法務について講義を行う。今日の自治体において政策法務が求められていることは広く知られており、多くの自治体での実践が行われている。そこで、まず政策法務が求められてきた状況や背景について理解を進め、その意義について考える。その上で、地方分権改革が政策法務に与えた影響や効果、さらには政策法務の具体的な内容や条例論の展開などについて考えたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義を通じて、政策法務とは何かを学び、地方自治の重要性を理解することを目的とする。また、条例制定や政策への取り組みの具体的な取り組みについて学ぶことで、自治体の法システムを学び、説明できるようになることを目標とする。これらは、公務員を志望する学生にとって必要な知識であるが、公務員志望者でなくとも、地域社会で暮らしていく市民としての知識として政策法務を理解する視点もちたい。関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストを参照しながら、講義を実施する。関連資料は適宜配布するが、基本的には、講義内容をふまえた学生の自主的なノート作成を求めたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治についての確かな知識を習得し、その考え方や内容を説明することができる				2							
②	地方分権の考え方とその実践としての政策法務について理解し、実践するための必要性について説明できる。				2		2					
③	政策法務の基本的な知識を発展させ、具体的な政策に結びつけることができる						2	2				
④	政策を実践するための根拠として、自治体の自主的な法令解釈や条例制定の実務についての知識を習得し、実践することができる。						2	2				
⑤	政策法務の実践によって、住民生活を守り、発展させる取り組むことの必要性について理解し、説明することができる。				2			2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、講義内容についての知識の習得度を 確認する。	10	20	20	10	10						70
小テスト等	定期的に実施するリアクションびペーパーによって、講義 内容についての理解度を確認する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	予定していない。											
討論・発表等	講義後半で行うグループワークによって、条例制定の実務 や政策形成のあり方について議論する。			5	5	5						15
授業への参画度	講義への出席状況を質問などの状況から、講義科目につい ての意欲を確認する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	23	28	18	18						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容についてのリアクションペーパーやグループらワークによる問題提起に対して、適宜コメントやペーパーを用いてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の授業前後，授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義全体の概要と目的 導入講義	講義の内容やスケジュール、成績評価の方法、テキストなどについて説明する。あわせて、講義の全体像を示し、学習の方法や研究姿勢などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	①～⑤の到達目標を実現するため、全体の講義を通じて理解すべき内容の概略を理解する。	
	事前学修	シラバスの内容を確認すると共に、教科書の目次で、事前に全体の内容を確認する。	120分
	事後学修	講義スケジュールなどについて確認し、各自の学習計画を立てる。	120分
2	地方自治の概念	地方自治の必要性と自治体行政のあり方についての概略を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治の基本を理解する。	
	事前学修	地方自治とはいかなるものかについて、自分の経験や新聞等のニュースを通じて考えてくる。	120分
	事後学修	地方自治がなぜ必要かという点についての理解ができたかどうか、講義ノートを通じて振り返る。	120分
3	戦前における日本の地方制度	戦前の日本の地方制度について講義をする。この回では戦前の地方行政制度について、明治憲法下での特徴を、その官治集権的な体制に着目して解説すると同時に、戦後の地方自治に引き継がれている側面にも留意したい。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前の地方自治制度をふり返り、その課題と意義について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦前日本の国家体制と地方制度についての理解を進める。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、戦前の地方制度の特徴をまとめる。	120分
4	地方自治と憲法	日本の戦後の地方自治改革について講義をする。日本国憲法の制定によって日本の地方自治の確立が図られ、法制度が整備された。そこで、ここでは日本国憲法における地方自治の規定について確認し、その意義を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、今日の地方自治制度の基本となる法と制度についての知識を習得する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦後日本の地方自治制度の成立の背景などについて事前に把握する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認すると共に、憲法の該当条文を見直して講義内容を整理する。	120分
5	高度経済成長と地方自治	高度経済成長期の日本の地方自治の状況について講義をする。高度経済成長期、日本の地域社会は大きく変貌を遂げ、自治体のあり方にもさまざまな影響を与えた。そこにおいて、自治体が問われた都市問題等への対応について概説し、自治体の政策法務が発展したことについて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、高度経済成長がもたらした地方自治をめぐる状況の変化とその背景、および自治体による政策法務への取り組みについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、高度成長期の自治体の政策的な取り組みについて考える。高度成長期の日本の状況について、基本的な知識を習得しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体における政策法務の芽生えについて知識を整理する。	120分
6	「地方の時代」と自治体	80年代における、日本の地方自治の発展と課題について講義をする。「地方の時代」と称される80年代に、自治体が直面した政策課題と、そこに生じた課題などについて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、「地方の時代」の下での地方自治の発展と課題について理解し、自治体が行った政策についての知識を習得する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「地方の時代」の下での自治体の状況についての事前の理解を深める。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、80年代の日本の自治体の政策的な取り組みと直面した課題について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方分権をめぐる背景と状況		1990年代に地方分権改革が進められた背景と状況について講義を行う。あわせて、日本の国と地方の関係が変化することの意味を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、地方分権が求められた日本社会の変化と直面した課題について学び、地方分権の必要性について理解を深める。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権改革が進められた背景と状況について学習しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、地方分権とは何だったのかを整理する。		120分
8	地方分権改革の推進		2000年4月に施行された分権一括法によって、どのように地方自治のあり方が変化したのかを解説する。この回では、主に機関委任事務の廃止について論じ、新しい国と自治体の関係について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革によって生じた変化と、それが政策法務に与えた影響について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権一括法の全体像について把握しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、機関委任事務の廃止がもつ意味と自治体政策の変化について整理する。		120分
9	地方分権改革と国地方関係の変化		8回目につき、分権一括法による自治体の変化について論じる。この回では、国の関与の改革による国と自治体の関係変化について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革による国地方関係と係争処理のあり方について、理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「国の関与」とは何かについての基本的な知識を事前学習しておきたい。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、「国の関与」の改革を通じて、国と地方の関係がどのように変わったのかを整理しておく。		120分
10	自治体の条例制定		自治体の条例制定権について、地方自治法の規定を基に解説する。自治体独自の法創造の視点から、条例制定権についての理解を進めたい。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が条例制定を行うことの根拠と意義について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体条例にはどのようなものがあるかを知っておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体が条例制定権をもつことの意味と役割を整理する。		120分
11	自治体の政策形成		自治体が行った「要綱行政」の意義と課題について講義を行う。自治体が直面した政策法務の課題と、その発展方向について、具体的な取り組みを例に論じる。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、1970年代以降にみられた自治体の自主的な政策法務への取り組みのひとつである「要綱行政」の意義と限界について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、1970年代の自治体の「要綱行政」の取り組みについて、その歴史的背景や内容について予習しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、「要綱行政」の意義と限界について整理する。		120分
12	自治体による政策法務の実践		自治体が行った自主的に政策形成に組み、条例制定をふまえた実践を行ってきた具体的な事例について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が行ったさまざまな政策や条例の事例を分析し、その意義について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体の具体的な取り組み事例について概観しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体の取り組み事例を振り返ると共に、その意義と発展方向について確認する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体政策法務の具体的検討①	自治体の政策と条例についての実践的な理解を深めるため、グループワークにより意見交換を行いながら政策と条例について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、あるいは新聞記事などから地域の課題や自治体の政策についての事例等、事前の概略的な知識を習得する。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体にとっての政策の意味や評価のあり方について整理する。（2時間）	120分
14	自治体政策法務の具体的検討②	政策法務の実践を通じて生じる自治体行政の組織や体制の変化と、分権時代にふさわしい今後の自治体のあり方についてグループワークを通じて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげるとともに、その根拠となる条例制定につなげることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を整理し、そこに生じている課題や問題点について考えておくことが望ましい。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、これからの自治体行政組織等のあり方について整理しておく。	120分
15	政策法務についての理解度の確認 まとめ	自治体政策法務の全体的なまとめを行い、時間内に実施する試験を通じて、最終的な受講生の知識の習得状況を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤までの全体的な内容について、理解度を確認し、不足する部分があれば今後の学習の課題として整理する。	
	事前学修	ここまでの講義内容の全体像についてふり返り、問題意識を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを全体的に確認し、理解を深める。	120分

科目名	政治学 I	担当者	浅井 直哉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として、PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に、リアクションペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④に関して説明できるようになっているかについて評価する。				10							10
レポート等	到達目標①～③について求められる学力が身についているかを、学期末レポートにより評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業において学期末レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の政策課題	岩崎正洋編	八千代出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政治学の位置づけ（政治学Ⅰ）	政治と政治学の関係について説明するとともに、政治学における本講義の位置づけについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治と政治学の関係および本講義の位置づけについて整理できる。	
	事前学修	政治と政治学のかかわり、および両者の違いについて考え、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治の仕組み	我々の日常生活と政治とがどのようにかかわりあっているのか、政治がどのように動いているのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治と政治学の関係および本講義の位置づけについて整理できる。	
	事前学修	日本政治について、現時点までの知識を整理するとともに、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	少子化	少子化に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、少子化に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	生殖医療	生殖医療に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、生殖医療に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	医師不足	医師不足に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、医師不足に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	公務員		公務員に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公務員に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	地方創生		地方創生に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、地方創生に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	格差社会		格差に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、格差に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	貧困		貧困に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、貧困に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	外国人労働者		外国人労働者に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、外国人労働者に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	観光		観光に関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、観光に関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	エネルギー	エネルギーに関する諸問題と政治とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、エネルギーに関する諸問題が政治とどのようにかかわりあっているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	政治とカネ	政治とカネのかかわり、政治とカネに関する諸問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治とカネのかかわり、政治とカネに関する諸問題について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	期末総括	これまでの講義内容の総括を行うとともに、さらなる学修に向けて、各回の主な論点や理解を深める必要のある点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学を学ぶ意義について説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認するとともに、疑問点があれば整理しておく。	120分
	事後学修	初回からの授業内容を振り返り、各回の内容について自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治学 I	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（9号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	「組織された集団（1）：鉄の三角同盟」	理容所と美容所の事例を参考に、業界団体、官僚、政治家の三者間で業界の利益を擁護する同盟関係が構築されている点を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、業界団体、官僚、政治家の三者がなぜ同盟関係を結ぶのか、という点を説明できる。		
	事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「1 鉄の三角同盟」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、改めて、業界団体、官僚、政治家の三者間の同盟関係について説明できるようにまとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
3	「組織された集団（2）：少数者たちが支配する？」	業界団体、官僚、政治家の三者間による同盟関係（鉄の三角同盟）に関して、集団理論および多元的民主主義理論の視点から見た場合にどのように理解できるのか、また、フリー・ライダーの可能性が少数者の優位をもたらすのはなぜか、という点を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、業界団体、官僚、政治家の鉄の三角同盟を集団理論および多元的民主主義理論の視点からどのように把握できるのか、またフリー・ライダーの可能性が少数者優位をもたらすのはなぜかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「2 少数者たちが支配する？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、鉄の三角同盟に関する集団理論および多元的民主主義理論の理解、およびフリー・ライダーの可能性と少数者優位の関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
4	「官と民の関係（1）：規制緩和と何が変わったか？」	電話事業の事例を見ながら、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「1 規制緩和と何が変わったか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自然独占」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
5	「官と民の関係（2）：市場の失敗・政府の失敗」	市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのか、という点を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「2 市場の失敗・政府の失敗」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「公共財」および「情報の非対称性」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
6	「大企業と政治（1）：大企業が政治を支配している？」	財界が政治に対してどのような影響力を及ぼしているのか、その反対に政治は財界をどのようにコントロールしているのか、という点を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、財界に政治に対する影響力、および政治による財界の支配がどのように行われているのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「1 大企業が政治を支配している？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互の一般的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「大企業と政治（2）：大企業の構造的な影響力と政治的紛争」		財界と政治の相互の影響力関係について、「製造物責任法」の制定過程や影響力の分布調査から浮かび上がるより実際的な関係性について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財界と政治の相互の影響力関係が経験的な事例から見てどのようなものであるのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互のより具体的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
8	「選挙と政治（1）：政策で選挙は戦えるか」		政策投票とはどのような投票行動であり、実際に政策投票を行うことの困難さについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、政策投票とはどのような投票行動であるのか、また政策投票を行うことに伴う困難さについて説明できる。		
	事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「1 政策で選挙は戦えるか」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政策投票の特徴や実際に行うことの困難さについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
9	「選挙と政治（2）：政策に代わる手がかりは」		有権者の投票行動に関して、政策以外の決定因として候補者の個人的資質や政党がどれだけ効いているのか、および戦後の日本の政党対立がどのような軸に沿って展開されてきたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有権者の投票行動において候補者の個人的資質や政党がどれだけの影響力を持つのか、また戦後の日本政治の対立軸がどのようなものであったのか説明できる。		
	事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「2 政策に代わる手がかりは」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、候補者や政党支持に基づく投票行動モデルにはどの程度の説明能力があるのか、また戦後の日本の政党対立はどのような軸に沿って展開されてきたのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
10	「地方分権（1）：自治体には2つの役割がある」		パスポートの発券や沖縄米軍基地用地の代理署名などの事例を踏まえて、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について説明できる。		
	事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「1 自治体には2つの役割がある」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における機関委任事務が抱えていた長所と短所について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
11	「地方分権（2）：国と地方の相互依存」		地方自治体の権限の決め方として挙げられる「制限列举方式」と「包括授權方式」がどのような特徴を持つのか、また戦後の日本の中央地方関係ではどちらの方式が採用されどのような特徴を示していたのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治体の権限に関する2つの方式の長所と短所、および戦後の日本における地方自治体の権限の特徴について説明できる。		
	事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「2 国と地方の相互依存」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、地方自治体の権限に関する「制限列举方式」と「包括授權方式」の特徴、および戦後日本の地方自治体の特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
12	「マスメディアと政治（1）：マスメディアは政治を動かす？」		実際の事例においてマスメディアが政治に対してどれだけの影響力を発揮したのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞では違いがあるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、政治に対するマスメディアの影響力がどのようなものであり、マスメディアにおける政治的中立性の扱いの違いについて説明できる。		
	事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「1 マスメディアは政治を動かす？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアの政治に対する影響力がどのように発揮されたのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞ではどのように対応しているのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「マスメディアと政治（2）：マスメディアは誰の味方か？」	マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「2 マスメディアは誰の味方か？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、その連携関係がもたらす影響について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	教科書の第1章から第6章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学 I	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポん）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーやレスポんを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、身につけているかを毎回の授業内課題（リアクションペーパー）や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学 増補版	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	必携
政治学〔第3版〕	渡邊容一郎編	弘文堂	2023	参考書	推奨
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	政治とは何か		政治学について理解するために、政治、政治学とは何かについて学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義で取り上げる政治について説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の34～36頁を読み、政治について自分の考えをまとめる。		60分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治について自分の考えを述べられるようになる。		120分
2	政治学とは何か		今後学んでいく政治学についてよりよく理解するために、社会科学における位置づけや特質等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政治学の社会科学における位置づけや特質等について概説できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、政治学について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治学について自分の考えを述べられるようになる。		120分
3	伝統的政治学と現代政治学の確立		現代政治学を学ぶための基礎的な知識を養うために、伝統的政治学や現代政治学の確立について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、伝統的政治学や現代政治学の確立について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えを述べられるようになる。		120分
4	現代政治学の展開		現代政治学を学ぶために、基礎的な知識として現代政治学の展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代政治学の展開について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、現代政治学の展開について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、現代政治学の展開について自分の考えを述べられるようになる。		120分
5	デモクラシー		政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つであるデモクラシーについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、デモクラシーについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、デモクラシーについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、デモクラシーについて自分の考えを述べられるようになる。		120分
6	政治権力		政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つである政治権力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、政治権力について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、政治権力について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治権力について自分の考えを述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	支配、権力構造		政治学に関してよりよく理解するために、政治権力の行使に関係する支配や権力構造について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、支配や権力構造について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、支配や権力構造について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、支配や権力構造について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	リーダーシップ		政治学に関してよりよく理解するために、政治学における基礎的な概念の一つであるリーダーシップについて学修する。これまでの授業についての確認も行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーダーシップについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、リーダーシップについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、リーダーシップについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	市民社会の誕生		政治における国家の役割や政治の発展と社会状況等の変化について理解するために、市民社会の誕生について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、市民社会の誕生について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、市民社会の誕生について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の誕生について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	市民社会の政治		現代の政治状況について理解するために、市民社会の政治とその終焉について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、市民社会の政治とその終焉について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、市民社会の政治とその終焉について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の政治とその終焉について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	大衆社会の成立		現代の政治状況について理解するために、その基礎となる大衆社会の成立とその制度的特徴について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大衆社会の成立とその制度的特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	大衆社会の構造や心理		現代の政治状況について理解するために、現代政治社会の基礎となる大衆社会の構造や心理について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、大衆社会の構造や心理について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、大衆社会の構造や心理について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の構造や心理について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	議院内閣制	政治制度について理解するために、権力分立や議院内閣制の生成と展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、権力分立や議院内閣制の生成と展開について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	イギリスの議院内閣制	わが国の政治制度について理解するために、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、イギリスの議院内閣制の特徴について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、イギリスの議院内閣制について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	現代政治の制度や状況等についてよりよく理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の政治の基礎となる概念や政治状況、政治制度を考慮し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	180分

科目名	政治学 I	担当者	福森 憲一郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを用いた講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中にリアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						1						
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。						1	1					
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。						1	1	1				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						1	1	1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中に行うリアクション・ペーパーにより、到達目標④に関して説明できるようになっているかを評価する。				10							10
レポート等	到達目標①-③に関して求められる学力が身についているかを、学期末レポートにより評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の政策課題』	岩崎正洋編	八千代出版	2016	教科書	必携
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:00～12:50（休暇中を除く。事前にメールで連絡すること）fukumori.kenichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解するとともに、授業計画を確認する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	政治学の位置付け（政治学Ⅰ）		他の学問との違いを踏まえながら、政治学がどのような学問なのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他の学問との違いを踏まえながら、政治学がどのような学問なのかを説明することができる。		
	事前学修	他の学問との違いに注目しながら、政治学がどのような学問なのかについて、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	政治と社会		政治とは何を意味するのかを説明するとともに、政治と社会がどのように関わり合っているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治とは何を意味するのか、政治と社会はどのように関わり合っているのかを説明することができる。		
	事前学修	政治が何を意味するのか、政治と社会はどのように関わり合っているのかについて、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	ソーシャルメディア		ソーシャルメディアをめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャルメディアをめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	エネルギー		エネルギーをめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、エネルギーをめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	生殖医療		生殖医療をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖医療をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	医師不足	医師不足をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、医師不足をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	格差社会	格差社会をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、格差社会をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	貧困	貧困をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、貧困をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	外国人労働者	外国人労働者をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外国人労働者をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	少子化	少子化をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、少子化をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	地方創生	地方創生をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方創生をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公務員	公務員をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公務員をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	防災	防災をめぐる諸問題と、それらがいかに政治と関わっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、防災をめぐる諸問題が政治とどのように関わりあっているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	期末総括	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学を学ぶ意義について説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認するとともに、疑問点があれば整理しておく。	120分
	事後学修	初回からの授業内容を振り返り、各回の内容について自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	政治学 I	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、期末レポートにより評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『公共の利益とは何かー公と私をつなぐ政治学』	松元雅和	日本経済評論社	2021	教科書	推奨
備考	教科書購入の必要の有無については初回授業で指示します。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書序章を読む。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政治とは何か	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、その特徴を権力と公共性の立場から概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第1章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	公共の利益	政治において用いられる公共の利益概念を類型化し、それぞれの特徴を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	自由主義	自由主義の思想的特徴を概観したうえで、社会契約・市場経済の論理を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	民主主義	民主主義の思想的特徴を概観したうえで、有権者の合理性やポピュリズム現象について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	権力分立	権力機構の分割という考え方を、権力論および三権分立論の再検討とともに概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	議会		近代民主主義が採用する代議制の特徴を代表観の複数の類型とともに説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
8	執政部		議院内閣制と大統領制の制度的違い、および行政国家化のもとでの執政権について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第7章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
9	官僚		行政府の主要アクターである官僚（制）の機能を、歴史的経緯も交えつつ概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第8章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
10	選挙		様々な選挙制度がもつメリット・デメリットを確認し、有権者の投票行動の分析モデルを提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第9章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
11	政党		現在の議会政治において主要な役割を果たす政党を組織化の論理の観点から論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第10章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
12	団体		団体政治の性質とその是非を、多元主義およびコーポラティズムの区別とともに検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第11章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中央地方関係	権限配分および資源配分の観点から、現代日本の中央地方関係を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第12章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	国際関係	主権国家体制の成立を歴史的に跡づけながら、グローバル化時代の国際政治現象を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第13章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学 I	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②③④に関わる基礎知識や積極的な学修態度を評 価する。		10	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政治と政治「学」	政治とは何かについて、特にD. イーストンの定義をを説明するとともに、社会科学の一分野としての政治「学」とは何かを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とは何か、学問とは何かを説明することができる。	
	事前学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、どのような問題が政治として取り上げられているかを確認しておく。	120分
	事後学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、自身が関心をもった政治問題について、どのような意見対立があり、どのような決定が下されようとしているのかを調べる。	120分
3	政治学の展開	アリストテレスやマキャベリの研究を通じて、政治学の分析対象の変遷や彼らの研究の方法論がどのようなものであったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学の分析対象の変遷を説明することができる。	
	事前学修	アリストテレスやマキャベリが生きてきた時代背景を知るために、古代ギリシアや中世ヨーロッパの歴史を確認しておく。	60分
	事後学修	アリストテレスやマキャベリが執筆した『政治学』や『君主論』のうち、いずれかを実際に手に取って読んでみる。	180分
4	科学としての政治学	第二次世界大戦以降、伝統的政治学の研究対象や方法論が大きく変化してきたことを取り上げ、行動論革命や脱行動論革命が政治学に対してどのようなインパクトを与えたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動論革命と脱行動論革命とは何かを説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業内容を基にして、学問とは何かを確認し、他分野と政治学の違いを考えてみる。	90分
	事後学修	授業内容を確認した上で、政治学が社会に対して貢献できることは何かを考えてみる。	150分
5	政治システム論	D. イーストンの政治システム論とは何かを検討することで、政治学上、政治システム論がどのようなインプリケーションが持っていたのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の構成要素や意義を説明することができる。	
	事前学修	第4回の授業内容を基にして、行動論革命の特徴を整理しておく。	90分
	事後学修	D. イーストンの政治システム論が行動論革命の中で、どのように位置づけられるのかをまとめる。	150分
6	政治権力	実体的権力概念や関係的権力概念を検討することで、権力行使には様々な様態があり、支配の正統性と密接な関係にあることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つの権力概念、支配の三類型を説明することができる	
	事前学修	いわゆる「権力者」と呼ばれる人物を一人取り上げて、なぜそう呼ばれるのかを調べておく。	120分
	事後学修	各国の指導者と国民の関係について、支配の三類型に照らして分析し違いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リーダーシップ論	指導者が支持を調達を手段として、どのようなリーダーシップを発揮しているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーダーシップの諸類型を説明することができる。	
	事前学修	歴史上の著名なリーダーがなぜ評価されているのかをまとめておく。	120分
	事後学修	歴史上の著名なリーダーをリーダーシップの諸類型に基づいて分類してみる。	120分
8	市民革命と市民社会	市民革命を経て絶対王政から政治体制が変動したことによって、一部の特権階級から市民層が政治の担い手となっていったことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学における「市民」概念を説明することができる。	
	事前学修	イギリスにおけるピューリタン革命と名誉革命、フランスにおけるフランス革命の流れを概観しておく。	120分
	事後学修	イギリス、フランスにおける市民革命とドイツ三月革命の違いを調べる。	120分
9	市民社会と大衆社会	市民社会の成立によって、政治体制が大きく変動したものの民主主義を実現する上で課題が残されていたことを説明する。その背景に、市民社会から大衆社会への移行があったことを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会に残された課題と大衆の特質を説明することができる。	
	事前学修	各国の参政権について、普通選挙の実現がいつなされたのかをまとめておく。	120分
	事後学修	大衆社会の問題点を検討してみる。	120分
10	民主主義論①	多義的な意味をもつ言葉として使われる「民主主義」の定義を説明するとともに、シュンペーターやダールの理論を基にして、民主主義と非民主主義の違いを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の各国の政治体制が民主主義であるか否かを説明することができる。	
	事前学修	日本の政治や報道などの中で、「民主主義」がどのような使われ方をしているのかをまとめておく。	120分
	事後学修	Freedom HouseやPolity IVなどを使用し、世界各国の民主主義について考えてみる。	120分
11	民主主義論②	民主主義がバリエーションに富んだものであることを理解するために、A. レイプハルトの議論を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多極共存型民主主義と多数代表型民主主義とは何かを説明できる。	
	事前学修	イギリスとスイスの政治システムを調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	レイプハルトの理論に基づく日本の民主主義は、どのように位置付けられるのかを検討する。	120分
12	執政制度①	議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的違いを説明するとともに、各執政制度が政治的安定性に与える影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議院内閣制と大統領制を区別する解任と選出のルールを説明することができる。	
	事前学修	首相がいる国、大統領がいる国、両者が併存する国を調べ、整理しておく。	120分
	事後学修	日本において、望ましい執政制度は何かを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	執政制度②	議院内閣制や大統領制は、政権形態や政党の凝集性、大統領に与えられた権限によって、様々なバリエーションを有していることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
	事前学修	日本とイギリスの政党について調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	日本において自民党と民主党が政権を担当した時期を、政党の凝集性の観点から比較してみる。	120分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	浅井 直哉	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主としてPowerpointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～③について求められる学力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④に関して説明できるようになっているかについて評価する。				10							10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業において学期末試験の講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較政治学入門	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を確認する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	政治学の位置づけ（政治学Ⅱ）		政治と政治学の関係について説明するとともに、政治学における本講義の位置づけについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治と政治学の関係および本講義の位置づけについて整理できる。		
	事前学修	政治と政治学のかかわり、および両者の違いについて考え、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	国家		国家とは何か、政治学における「国家」の基本的な理解について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家とは何か、政治学において「国家」という用語がどのような内容を意味するのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	政治システム		イーストン（David Easton）の政治システム論を通じ、政治の流れについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治システムとは何か、「政治システム」という用語がどのような内容を意味するのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	政治体制（民主主義）		政治体制とは何か、政治学における「政治体制」の基本的な理解について、民主主義体制を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治体制とは何か、「政治体制」という用語がどのような内容を意味するのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	政治体制（非民主主義）		政治体制とは何か、政治学における「政治体制」の基本的な理解について、非民主主義体制を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治体制とは何か、「政治体制」という用語がどのような意味をもつのかについて民主主義体制と非民主主義体制とを区別して説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民主主義		現代における民主主義とは何か、政治学における「民主主義」の基本的な理解について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代における民主主義とは何か、政治学における「民主主義」という用語がどのような内容を意味するのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	選挙		現代における選挙の機能や選挙制度の類型、政治学における「選挙」の基本的な理解について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代における選挙の機能や選挙制度の類型について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	政党		政治学における「政党」の基本的な理解について、政治の流れにおける政党の役割や位置づけを中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党とは何か、政治の流れの中で「政党」がどのように位置づけられるのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	政党組織		政治学における「政党」の基本的な理解について、政党組織に関する内容を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党組織の特徴や類型について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	政党システム		政党システムとは何か、政治学における「政党システム」の基本的な理解について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党システムとは何か、「政党システム」という用語がどのような内容を意味するのかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	政党・議会・政権		議会制民主主義の仕組みにおいて、政党・議会・政権がどのように結びついているのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議会制民主主義における政党・議会・政権の結びつきについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	大統領制と議院内閣制	政治学における「大統領制」と「議院内閣制」の基本的な理解について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して議院内閣制と大統領制の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	期末総括：授業内試験	これまでの講義内容に関する理解が定着しているか否かを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回の主な論点や理解を深める必要のある点について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分および自身のノートを読み、講義内容について整理する。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献を読んだり情報を収集したりして、自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	期末総括：フィードバック	これまでの講義内容の総括を行うとともに、さらなる学修に向けて、各回の主な論点や理解を深める必要のある点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学を学ぶ意義について説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認するとともに、疑問点があれば整理しておく。	120分
	事後学修	初回からの授業内容を振り返り、各回の内容について自分なりの考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（9号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
2	「国会（１）：ねじれ国会」		議院内閣制と大統領制の制度的相違を踏まえて、日本の国会で与党に対して野党がどのような抵抗を取ってきたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会において野党が与党に対してどのような抵抗を取ってきたのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第7章 国会」の「1 ねじれ国会」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会における野党の抵抗手段について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
3	「国会（２）：国会の影響力」		自民党一党支配体制の時代の内閣提出法案の成立率を参照しながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能になってきたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本の国会において野党の抵抗がなぜ可能であるのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第7章 国会」の「2 国会の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能なのか、そして与党の対抗手段である強行採決にはどのような制約があるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
4	「内閣と総理大臣（１）：総理大臣と大統領」		議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領は選ばれ方にどのような違いがあり、それぞれの政治的役割はどのようなものであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制における執政部の長の選出方法および政治的役割の相違を説明できる。		
	事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「1 総理大臣と大統領」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領の選ばれ方、および政治的役割の相違について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
5	「内閣と総理大臣（２）：総理大臣の影響力」		議院内閣制下の首相にはどのような影響力資源があるのか、そしてその影響力資源をいかに活用できるのか、あるいはできないのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制下の首相の影響力資源にはどのようなものがあり、それらの資源をどのような場合に活用できるのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「2 総理大臣の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相がどのような影響力資源を持ち、それらの影響力資源をいかに活用できるのか、あるいは活用できないとればなぜかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
6	「官僚（１）：大臣と官僚のバトル」		日本における大臣と官僚の間にはどのような関係性が見られるのか、その関係性を規定する要因には何があるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における大臣と官僚の関係性がどのようなものであり、その関係性を規定する要因について説明できる。		
	事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「1 大臣と官僚のバトル」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における大臣と官僚の関係性を規定する要因にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「官僚（2）：キャリア官僚のキャリア」	キャリア官僚と呼ばれる官僚たちはどのようなキャリアパスを経ているのか、キャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、キャリア官僚のキャリアパスがどのようなものであるのか、またキャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのかを説明できる。	
	事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「2 キャリア官僚のキャリア」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、キャリア官僚のキャリアパスにはどのような特徴があるのか、またその弊害にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（1）：戦後の国際環境」	第二次世界大戦後の国際社会がどのような基本構造をもつものであったのか、そしてその基本構造はそれぞれどのような特徴をもつものであったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、第二次世界大戦後の国際社会の基本構造について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「1 戦後の国際環境」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の国際社会における基本構造である「冷戦構造」と「自由貿易体制」がどのように構築され、どのような特徴をもっていたのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（2）：日本の対外政策」	第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成され定着していったのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、第二次世界大戦後の日本の対外政策の形成と定着の過程について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「2 日本の対外政策」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成・定着していったのか、またその特徴はどのようなものであったのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	「経済交渉（1）：貿易は世界を幸せにするか？」	国際貿易の基礎にある「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「1 貿易は世界を幸せにするか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「比較優位」とはどのような考え方なのか、そして対外政策に国内政治がどのような影響を及ぼしているのかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	「経済交渉（2）：経済交渉の行われ方」	日本とアメリカの経済交渉において、アメリカが日本に圧力をかけるアプローチにはどのようなものがあり、どのような特徴をもつのか、実際にそれらのアプローチがとられた経済交渉にはどのような事例があるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、アメリカが日本との経済交渉において圧力をかけるために用いるアプローチにはどのようなものがあるのか事例を踏まえて説明できる。	
	事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「2 経済交渉の行われ方」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「構造協議アプローチ」と「管理貿易アプローチ」の特徴について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	「国境を越える政治（1）：ビリヤード・ゲームのような国際政治」	市場の失敗の一つである「外部不経済」の特徴がどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐって主権国家がどのような立場に立っているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「外部不経済」とはどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐる主権国家の立場について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「外部不経済」の特徴、および地球環境問題をめぐる国家の対応について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「国境を越える政治（2）：裸になる国家」	国際社会の相互依存関係がどれだけ深化しているのか、またトランスナショナルな国際交流が国際政治にどのような影響をもたらしているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際社会の相互依存の深化、およびトランスナショナルな国際交流が国際政治に及ぼす影響について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「2 裸になる国家」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国際的な相互依存関係の深化、およびトランスナショナルな国際交流の国政政治に対する影響について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	教科書の第7章から第12章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポ）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーやレスポを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、身につけているかを毎回の授業内課題（リアクションペーパー）や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学 増補版	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	必携
政治学〔第3版〕	渡邊容一郎編	弘文堂	2023	参考書	推奨
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	政治過程		政治学について理解するために、政治過程について学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実際のかつ動態的に政治について考えるために、政治過程について理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の147～148頁を読み、政治過程について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	選挙		政治過程について理解するために、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	投票行動		政治現象を理解するために、投票行動について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、投票行動について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、投票行動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	政党		政治現象を理解するために、政党の成立や定義、機能について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党の成立や定義、機能について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政党の成立や定義、機能について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党の成立や定義、機能について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	政党と議会		政治過程を動態的に理解するために、政党システムに関する研究や野党について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政党システムに関する研究や野党について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政党システムに関する研究や野党について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党システムに関する研究や野党について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	官僚制		政治過程を理解するために、官僚制について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、官僚制について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官僚制について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	圧力団体		政治過程を理解するために、圧力団体について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、圧力団体について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、圧力団体について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、圧力団体について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	マスメディア		政治過程を理解するために、マスメディアについて学修する。これまでの授業についての確認も行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マスメディアについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、マスメディアについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、マスメディアについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	政策過程		実際の政治過程を理解するために、政策過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	国際政治		政治過程についてより理解するために、一国の政治過程にも影響を与える国際政治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際政治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、国際政治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、国際政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	地方自治		実際に起こる政治現象を理解するために、地方自治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	日本の政治		政治上の諸問題を理解するために、日本の政治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の政治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の行政	政治上の諸問題を理解するために、日本の行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の行政について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、日本の行政について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、日本の行政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	日本の地方自治	政治上の諸問題を理解するために、日本の地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治過程におけるアクター等について、より広範囲な視野から、そして詳細な分析の視点から理解し、政治のあり方について自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書等の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	福森 憲一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを用いた講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中にリアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中に行うリアクション・ペーパーにより、到達目標④に関して説明できるようになっているかを評価する。				10							10
レポート等	到達目標①-③に関して求められる学力が身についているかを、学期末レポートにより評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	推奨
『権力を読み解く政治学』	羅芝賢・前田健太郎	有斐閣	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:00～12:50（休暇中を除く。事前にメールで連絡すること）fukumori.kenichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解するとともに、授業計画を確認する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	政治学の位置付け（政治学Ⅱ）		他の学問との違いを踏まえながら、政治学がどのような学問なのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他の学問との違いを踏まえながら、政治学がどのような学問なのかを説明することができる。		
	事前学修	他の学問との違いに注目しながら、政治学がどのような学問なのかについて、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	権力と政治		「権力」概念に注目しながら、政治とは何を意味するのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「権力」概念に注目しながら、政治とは何を意味するのかを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	国家と政治システム		政治学における「国家」の基本的な理解を説明するとともに、政治システム論に基づきながら、様々なレベルの政治を分析するための枠組みを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「国家」の基本的な理解と、政治システム論に基づく分析枠組みを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	政治発展		ロッキン（Stein Rokkan）の中心周辺論を通じ、政治発展とは何かを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ロッキンの中心周辺論に基づきながら、政治発展とは何かを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	政治文化		政治文化の基本的なアプローチに基づきながら、現代社会の政治文化についての特徴を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治文化の基本的なアプローチに基づきながら、現代社会の政治文化についての特徴を説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	民主主義体制		多極共存型民主主義論を通じ、民主主義体制に関する基本的な理解を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多極共存型民主主義論に基づきながら、民主主義体制に関する基本的な理解を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	権威主義体制		非民主主義体制のひとつとして、権威主義体制に関する基本的な理解を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権威主義体制に関する基本的な理解を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	民主主義		民主主義のもとにおける競争性と参加に着目しながら、現代における民主主義の特徴を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義のもとにおける競争性と参加に着目しながら、現代における民主主義の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	政党		政治学における政党の基本的な理解に基づきながら、政党がもつ機能を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学における政党の基本的な理解に基づきながら、政党がもつ機能を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	政党システム		リブセット（Seymour M. Lipset）とロッキンの「凍結仮説」に関する議論を踏まえながら、政党システムがいかに形成されるのかを説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リブセットとロッキンの「凍結仮説」に関する議論を踏まえながら、政党システムがいかに形成されるのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	大統領制と議院内閣制		政治学における執政制度の基本的な理解について、大統領制と議院内閣制の違いを説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制と議院内閣制の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策過程	政治と政策の関係を説明するとともに、政治学では政策のどの側面に注目するのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治と政策の関係、政治学において政策のどの側面に注目するのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	ガバナンス	ガバナンスとは何かを説明するとともに、ガバメントとガバナンスの違いを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ガバナンスとは何か、ガバメントとガバナンスの違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業内容を振り返るとともに、関連する文献や資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	期末総括	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学を学ぶ意義について説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認するとともに、疑問点があれば整理しておく。	120分
	事後学修	初回からの授業内容を振り返り、各回の内容について自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、期末レポートにより評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	近代政治原理	自由主義・立憲主義・民主主義がどのように戦後憲法に反映されているかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	近代政治原理前史	近代市民革命の背景として、中世から近世のヨーロッパ政治社会を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	中世・近世について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	自由主義Ⅰ：清教徒革命	ホッブズの社会契約説を17世紀前半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	自由主義Ⅱ：名誉革命	ロックの社会契約説を17世紀後半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	名誉革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	立憲主義Ⅰ：アメリカ独立革命	アメリカ独立革命の政治思想的特徴を自然法の観念から概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	アメリカ独立革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	立憲主義Ⅱ：英米の比較	アメリカ合衆国の建国と憲法制定の理念として、権力分立の概念をイギリスと比較考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	三権分立について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	民主主義Ⅰ：フランス革命まで	フランス革命において目指された人民主権の実際を、直接／間接民主主義の区別から分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	民主主義Ⅱ：フランス革命以降	参政権・社会権の拡大に伴う民主主義の拡大と、それがもたらした正負の結果を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	戦前日本Ⅰ：明治維新と明治憲法	日本の近代化の特徴と、ヨーロッパの近代化との異同を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	自由民権運動について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	戦前日本Ⅱ：議会政治とその挫折	大正デモクラシーを経て軍国主義に向かう戦前日本の経緯を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	大正デモクラシーについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	戦後日本Ⅰ：戦後憲法と講和独立	戦後憲法の政治思想的特徴と、丸山眞男ら「近代主義」者の思想活動を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	日本国憲法について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦後日本Ⅱ：市民運動の時代	反基地闘争、安保闘争、学生運動に至る直接政治行動の時代とその趨勢を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	高度経済成長期について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	「政治」についてどのように「学ぶか」	政治現象について分析するツールとしての政治学の多様な手法を、事例とともに概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	2016年米国大統領選挙について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②③④に関わる基礎知識と積極的な学修態度を評価する。		10	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政党	「民主主義の生命線」といわれている政党の定義や機能を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党の定義や機能を説明することができる。	
	事前学修	現在の日本には、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	授業で学んだ政党の機能について、現実の政党がその機能を果たしているかを検討してみる。	150分
3	政党組織と政党システム	政党内部を分析対象とする政党組織と政党間の関係を分析対象とする政党システムの類型について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党組織と政党システムの類型を説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦から現在に至るまでの日本の政党数や各政党の支持基盤をまとめておく。	120分
	事後学修	現在の日本の政党システムや各政党組織は、理論的にどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
4	政党システム形成の要因	政党システムを規定する要因として、選挙制度、社会構造、有権者の選好それぞれについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党システム形成の要因を説明することができる。	
	事前学修	日本がどのような選挙制度を採用しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	現在の日本の政党システムが上記の要因によって説明することができるかを検討してみる。	150分
5	イギリスの政党政治	典型的な二大政党制の国と言われていたイギリスの政党システムの実態と保守党、労働党の政党組織の変化を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、イギリスは二大政党制の国と評価するか否かを説明することができる。	
	事前学修	イギリスにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	1950年代以降の二大政党の得票率、議席率を調べてみる。	150分
6	ドイツの政党政治	穏健な多党制の国と言われてきたドイツの政党システムを、キリスト教民主・社会同盟、社民党、ドイツのための選択、左派党に着目して検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツの政党システムの変化について説明することができる。	
	事前学修	ドイツにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	1990年代以降、ドイツの政権に参画する政党のバリエーションが増加していることを確認してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の政党政治	1955年から1993年にかけて続いた「55年体制」の下で政党システムと自民党長期政権の要因を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、55年体制とは何かを説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦前後の日本における政党の存在を確認してまとめておく。	90分
	事後学修	自民党政権や1993年の非自民連立内閣、2009年の民主党政権を比較検討してみる。	150分
8	選挙制度論	民主主義を支える重要な制度としての選挙制度を、議席決定方式や選挙制度が与える影響という観点から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議席決定方式や選挙制度が与える影響を説明することができる。	
	事前学修	直近の国政選挙の選挙制度と結果をまとめておく。	120分
	事後学修	自身の国で望ましい選挙制度は何かを考えてみる。	120分
9	投票行動論	投票行動研究における基礎的理論であるコロンビアモデルおよびミシガンモデルを中心に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コロンビアモデルおよびミシガンモデルを説明することができる。	
	事前学修	もし、自身が選挙権を行使するならば、どのような基準で投票先を選択するか基準をまとめておく。	60分
	事後学修	政党のHP、SNS等を利用して各政党が掲げる主張や現職議員のイメージを確認してみる。	180分
10	世論とメディア	第四の権力と言われるマスメディアについて、世論や政治に対してどのような影響力を与えているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メスメディアの影響力について説明することができる。	
	事前学修	同一のニュースについて、各メディアによって伝え方に違いがあるかをまとめておく。	120分
	事後学修	SNSが大きな影響を果たしたとされる事例を検討してみる。	120分
11	利益団体と政治	政党を補完する存在としての利益団体の行動様式や多元社会に与える影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、利益団体の行動様式を説明することができる。	
	事前学修	農協や医師会等、自身が興味を持った利益団体の特徴をまとめておく。	120分
	事後学修	日本における利益団体が政治に与える影響をどのように評価するか検討してみる。	120分
12	国家とは何か	政治学において、最も基本的な分析単位であった国家について、その定義や主権国家体系の成立について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家や主権の定義を説明することができる。	
	事前学修	各国家を比較検討して、それぞれの国の類似点を整理しておく。	90分
	事後学修	20世紀以降に発生した主要な戦争とその原因が何かを検討してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主権国家と超国家的共同体	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の特異性を説明することができる。	
	事前学修	国連等の国際組織の役割や権限をまとめておく。	120分
	事後学修	EUが果たした貢献と問題点は何かを検討してみる。	120分
14	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	90分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	150分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学原論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く、体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。						2		2				
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。						2		2				
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『政治学講義〔第2版〕』	佐々木毅	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『現代政治分析』	R. A. ダール	岩波書店	2012	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：政治学の第一歩	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	教科書および参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治と政治学	「政治」とは何か、「政治学」とは何かについて、「社会」と「社会科学」とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学が対象とする「政治」現象と「政治学」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	現代政治学の対象と方法	現代政治学の対象となる「政治」現象とは何か、その特徴について解説し、現代政治学の方法である「規範的アプローチ」と「経験的アプローチ」のアプローチの特徴や取り扱う内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の対象となる政治現象について具体的に説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	政治権力と国家	現代政治学が取り扱う「政治権力」、「国家」、「政府」との関係と、「政治権力以外の権力」について、政治学の古典にも言及しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「政治権力」と「国家」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	新しい政治学と政治システム論	行動科学革命と現代政治学とのかかわりについて、これまでの授業で取り扱ってきた講義内容を総括するとともに、今後の内容の導入としての解説も併せて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の主な特徴と、主要な分析枠組みである「政治システム」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	政治システム	イーストン（David Easton）による政治システム（political system）論の内容を中心に、現代政治学における位置づけにも言及しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論について説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政治システムの構造機能分析		アーモンド (Gabriel A. Almond) とパウエル (G. Bingham Powell, Jr.) による政治システムの構造機能分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論における政治システムの構造機能分析について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	政治システムと政治文化		政治発展 (political development) と政治文化 (political culture) とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システムの発展と政治文化とのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	民主主義		現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	政党と利益集団		現代民主主義における政党 (political party) と利益集団 (interest group) との共通点と相違点を中心に両者の機能と地位について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学の主な論点である「政党」と「利益集団」とのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	政党		現代民主主義における政党の変容について、デュベルジェ (Maurice Duverger), カッツ (Richard Katz) とメア (Peter Mair) の議論をもとに政党組織と機能という点から説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における主要なアクターである政党について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	政党システム		政党システムのタイポロジーについて、サルトーリ (Giovanni Sartori) による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の比較，議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，議院内閣制と大統領制の違い，大統領制化について説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	政策決定過程	個々の公共政策がどのようにつくられ，どのように実施されるのかについて，政治システム論の枠組みをもとに政策決定過程をいくつかの段階に分けて理解することができる点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，政治システム論をもとにした「政策決定過程」について説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	今学期のまとめ：現代政治学の系譜	現代政治学が単なる政治学ではなく，「現代」の「政治学」であることの意味について，今学期の講義で取り扱ってきた議論をふまえて，総括として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，現代政治学の主たる理論，モデル，概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治学原論	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く、体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
政治や社会に対して強い関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中に、数回行うリアクション・ペーパーを兼ねた小テストにより、到達目標①に関する知識や政治・社会に対する考察力を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③についての専門的な知識の習得度や理解度を評価する。	30	30	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問や意見表明などを基準に、特に③に関係する積極的な学習態度が身についているかを評価する。			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
主としてポータルシステムを使用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学講義（第2版）	佐々木毅	東京大学出版会	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（事前にメールでアポイントメントを取ること。） 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンスおよび導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、社会を構成する市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを確認して、講義内容全体を概観する。	100分
	事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。	140分
2	人間		社会科学・政治学研究における人間像・市民像について学修する。特に、近代において構築された人間像・市民像の功罪と、近年それに対する批判的再検討について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会科学・政治学研究において前提とされてきた人間像・市民像について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書第1部第1章「人間」を読み、政治学研究において前提とされてきた人間観について考える。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、社会科学・政治学だけでなく、近代社会において前提とされている人間像について再検討する。	120分
3	政治		政治学におけるさまざまな提起されてきた「政治」に対する理解とそれらの変遷について学修する。「政治」に関する概念的把握は、研究者や論者によって多様であるため、それらの違いに留意しながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治というものがどのように理解され、検証され、批判されてきたのかといった政治観の変遷について理解し、それらの見解について説明することができる。	
	事前学修	教科書第1部第2章「政治」を読み、政治観の変遷を概観する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政治というものの本質について自分なりに考えをまとめる。	120分
4	権力		政治学の最重要概念のひとつである権力というものの本質について理解した上で、政治学研究の中で登場してきた、ミシェル・フーコーらのさまざまな権力論について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミシェル・フーコーの権力論をはじめとする代表的な権力論について、理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書第1部第3章「権力と政治権力」を読み、さまざまな権力論について概観する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政治における権力の作用の意味と弊害について考える。	120分
5	政治システム		政治学の基本理論である政治システム論を理解した上で、政府と政治制度に対する理論を学び、その上で社会「科学」としての政治学の特徴を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、デイヴィッド・イーストンの政治システム論について十分に理解した上で、政府の機能や政治制度の特徴・有効性について説明することができる。	
	事前学修	教科書第1部第4章「政治システム・政府」を読み、政治システム論について大まかに把握する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考として、それぞれの政治制度の特徴について再確認する。	120分
6	正統性		政治や統治における重要な要素である正統性というものが持つ意義とその重要性について学修する。特に、正統性に関する重要な理論を提示したマックス・ウェーバーとユルゲン・ハーバーマスの議論を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、まずはマックス・ウェーバーによる3類型論とユルゲン・ハーバーマスによる正統性概念の再検討について理解した上で、政治における正統性の重要性について説明することができる。	
	事前学修	教科書第1部第5章「正統性」を読み、マックス・ウェーバーの3類型論について概観する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政治において、なぜ正統性が重要な意味を持つことになるのかということに関して自分なりに考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リーダーとリーダーシップ		政治において求められるリーダーの姿とさまざまなリーダー論について学修する。とりわけ、平等を前提としたデモクラシーにおいて健全に機能しうるリーダーについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グエタノ・モスカ、ロベルト・ミヘルス、ヴィルフレド・パレートに代表されるエリート論を理解した上で、リーダー論の基本的な枠組みについて説明することができる。		
	事前学修	教科書第1部第6章「リーダーとリーダーシップ」を読み、グエタノ・モスカらのエリート論について概観する。		120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政治における適切なリーダーやリーダーシップのあり方について考える。		120分
8	市民の徳		現代において政治や政治学において注目されている公共性に関するさまざまな理論や、それと関連して議論されている市民の徳や共和主義に関する議論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治学の歴史において議論されてきた公共性に関する議論を理解した上で、共和主義やコミュニタリアニズムなどの現代の政治思想について説明することができる。		
	事前学修	教科書第1部第7章「公共の利益と公民の徳」を読み、公共性をめぐる議論について概観する。		120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、現代政治における「公」について考える。		120分
9	デモクラシー		古代から近代にかけて、主に西洋圏で行われてきたデモクラシーに関する諸議論（プラトン、アリストテレスからアレクシ・ド・トクヴィル）、および現状のデモクラシーに対する批判的再検討として提起されている現代の参加デモクラシー論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治学において展開されてきたデモクラシーに関するさまざまな議論を理解した上で、現代の参加デモクラシー論について説明することができる。		
	事前学修	教科書第2部第1章「民主政治」を読み、デモクラシーに関する諸議論を概観する。		120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、デモクラシーの評価すべき点と問題視すべき点を考える。		120分
10	現代デモクラシー理論		ロバート・ダールのポリアーキーをはじめとする、デモクラシーに関する現代の議論について学修する。特に、前回講義が理念中心のデモクラシー理論であったのに対して、今回の講義の実証性・具体性に注意しながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロバート・ダールのポリアーキーに代表される、20世紀以降のデモクラシーに関する諸議論について説明することができる。		
	事前学修	教科書第2部第2章「民主政治の諸条件」を読み、現代のデモクラシーに関してどのような議論が行われてきたのか概観する。		120分
	事後学修	デモクラシーではなく、ポリアーキーという概念が求められた理由を考えながら、デモクラシーの問題点について考える。		120分
11	政治制度		デモクラシーにおいて統治のあり方やそこで採用されている政治制度について学修する。法学に基づいた静的な政治制度理解ではなく、具体的な政治の状況に沿って政治制度やそれに関する理論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アーレンド・レイプハルトの類型論などを踏まえた上で、議会制・大統領制・半大統領制といった政治制度を把握し、それらに関して今日見られている諸現象について説明することができる。		
	事前学修	教科書第2部第3章「民主政治への制度」を読み、議会制・大統領制・半大統領制といった政治制度の概要を把握する。		120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政治の個人中心化（personalization）の問題について考える。		120分
12	政党		現代政治において中核的な役割を果たしている政党の持つ特徴や機能に関する議論、そして政党の機能について考察している政党システム論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党の歴史やそれに関する評価の変遷をたどり、政党というものの本質的特徴を把握した上で、政党システム論について理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書第2部第5章「政党」を読み、政党という存在が肯定された理由について考える。		120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、政党システム論について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	官僚制	マックス・ウェーバーの研究などを参考として近代国家における官僚制の本質的特徴を理解した上で、現代国家における官僚制の特徴と意義、問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マックス・ウェーバーの議論を材料として官僚制の本質的特徴について把握した上で、官僚制と政治家との関係や官僚制と政党政治の関係に関する議論について説明することができる。	
	事前学修	教科書第2部第6章「官僚制」を読み、官僚制をめぐって行われてきた議論について概観する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、官僚制をめぐって主張される「政治主導」のあり方について考える。	120分
14	現代政治の思想的特徴	政治思想・政治哲学的な視点から、世界的に見られる保守主義の台頭やグローバル化によってもたらされる諸弊害といった現代政治における諸現象の意味や評価について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義の台頭やグローバル化の進展といった現代政治における諸現象について把握した上で、それらの現象の歴史的な意味について説明することができる。	
	事前学修	教科書第2部第10章「政治思潮とイデオロギー」を読み、現代政治に見られる諸現象について概観する。	120分
	事後学修	講義内容や教科書を参考にして、現代政治に見られる諸現象が政治適切な維持・運営に与えているマイナスの影響について考える。	120分
15	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	120分
	事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末レポートに向けて準備する。	120分

科目名	政治学原論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く，体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，現代政治学の代表的な理論や概念のほか，さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特にないが、できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休憩。事前の連絡は必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	前学期の授業計画や成績評価等の事項を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、授業計画や成績評価の内容を把握できる。	
	事前学修	国内外で問題となっている政治問題について関心を広げ、その経緯や現状を調べてみること。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたること。	120分
2	政治とは何か	政治という概念について身近な政治現象や主要な学者の説を紹介しつつ、解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、政治が何であるかについて自分なりに説明することができる。	
	事前学修	自分なりに政治が何であるかを考えておくこと。	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、自分なりの政治の考え方を整理・考察しておくこと。	120分
3	政治研究の系譜	政治学史の概要を示しつつ、今後取り扱う主題の重要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、政治学史の見取り図や政治学における基本概念について説明することができる。	
	事前学修	政治学の歴史的展開について参考文献等を用いつつ、事前にチェックすること。	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、政治学の主題について自分なりの整理・検討をしておくこと。	120分
4	権力	政治権力の構造や特質について個別具体的な事例や研究者の学説を示しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、政治権力について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	権力に関するテキストの該当箇所を事前にチェックすること。	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、イデオロギーや価値についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
5	政治システム論	政治システムの考え方について個別具体的な事例や研究者の学説を示しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、政治システムについて自分なりに説明することができる。	
	事前学修	政治システムに関するテキストの該当箇所を事前にチェックすること。	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、政治システムについてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
6	政治研究における他の基礎概念	政治体制や制度の問題について個別具体的な事例や研究者の学説を示しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、政治体制や制度の問題について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	政治体制や制度に関するテキストの該当箇所を事前にチェックすること	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、政治体制についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	近代国家の形成過程①	国家主権の概念や社会契約説について個別具体的な事例や研究者の学説を示しつつ、概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、国家主権の概念について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	主権に関する考えを自分なりに整理しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、国家主権の問題についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
8	近代国家の形成過程②	社会契約説の議論を踏まえつつ、現実が生じた市民革命の歴史的重要性について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、市民革命の歴史的意義について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	市民革命の歴史的趨勢について自分なりに整理しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、市民革命の歴史的展開についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
9	現代政治の基本枠組	現代民主主義のどのような構成要素から成り立つのかについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、現代民主主義の構成要素について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	当該箇所についてテキストを通じて把握しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、現代民主主義のあり方についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
10	民主主義の系譜	現代民主主義の基本概念である民主主義の概要・機能・歴史的重要性について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、民主主義の考えについて自分なりに説明することができる。	
	事前学修	民主主義の原理についてテキストを通じて把握しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、民主主義の考えについてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
11	民主主義における選挙の役割	身近な事例や主要な学説を紹介しつつ、現代民主主義における選挙の役割や機能について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、現代民主主義における選挙の重要性について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	テキストを通じて当該項目について把握しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、現代民主主義の選挙のあり方についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
12	選挙制度	身近な事例や主要な学説を紹介しつつ、現代民主主義における選挙制度の役割や機能について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、選挙制度について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	当該箇所についてテキストを通じて把握しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、選挙制度についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政党	身近な事例や主要な学説を紹介しつつ、現代民主主義における政党の役割や機能について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、現代民主主義における政党の重要性について自分なりに説明することができる。	
	事前学修	テキストを通じて当該項目について把握しておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、現代民主主義の政党のあり方についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
14	日本政治の現状と課題	身近な事例や主要な学説を紹介しつつ、現代日本における政治の現状や課題について説明する。	
	この回の到達目標	身近な事例や主要な学説を紹介しつつ、現代日本における政治の現状や課題について説明する。	
	事前学修	現代日本の政治のあり方について自分のなりの考えを身近な事例から考えておくこと	120分
	事後学修	授業を踏まえたうえで、現代日本の政治のあり方についてさらなる整理検討をしておくこと。	120分
15	前期末試験・まとめ	この講義で説明してきた政治学の基本概念について正確な理解ができているか否か、授業内試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	これまでに配布した資料や参考文献を読み返し、自分なりに授業内容について改めて整理する。	120分
	事後学修	解説を踏まえたうえで、自身の理解とその内容との違いを確認し、十分に対応できなかった箇所について改めて整理検討する。	120分

科目名	政治過程論	担当者	浅井 直哉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
政治過程論は、政治の動態的な側面に注目し、具体的に政治がどのようなメカニズムで動いているのかについて分析を行う分野である。政治過程を①選挙過程，②立法過程，③政策過程の三つに分けて考え，政治の「流れ」をたどることにより，政治過程を体系的に理解するのに必要な用語やモデルを取り扱い，どのようにして政治を捉え，分析するのかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治過程に関する知識を身につけ、現実政治の流れについて体系的に理解することを目的とする。政治現象の全体像を捉えて現実は何が起きているのかを理解し，説明することができるようになるために，政治過程全体や，政治にかかわりを持つアクターをめぐる理論，モデルを修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として，PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治過程の段階を理解し、区分することができる。							2	2					
②	政治過程にかかわるアクターを識別し、説明することができる。							2	2					
③	政治過程にかかわる理論やモデルを識別し、説明することができる。							2	2					
④	政治過程にかかわる理論やモデルを現実政治に援用するための手続きを適用することができる。							2	2					
⑤	政治の現実と理論の両者に対して、問題点や疑問点を考え、説明することができる。							2	2					
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～③について求められる学力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目④、⑤に関して説明できるようになっているかについて評価する。				5	5						10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	5	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業において学期末試験の講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる政治過程論	松田憲忠・岡田浩編	ミネルヴァ書房	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：政治過程論とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治過程論の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	現実政治に関する情報を収集し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治過程の見取り図	イーストン（David Easton）の政治システム論を通じ、政治過程の流れについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治過程論のアプローチ	政治現象を研究するにあたっての考え方や方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、政治学の分析に関する基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	制度論から新制度論へ	制度の比較を通じた研究から制度とアクターのかかわりに注目する研究への展開に目を向けて、政治学において集団に関心が向けられるようになった過程を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	政治過程論の展開	ベントレー（Arther F. Bentley）とトルーマン（David B. Truman）の議論をもとに、政治と集団のかかわりについて理論的な見方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	選挙過程と集団	利益団体の分類や集合行為問題をとり上げて、選挙と集団のかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、投票行動にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	選挙過程と有権者	有権者の投票行動に関する議論として、社会学的アプローチ、社会心理学的アプローチ、経済学的アプローチについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙過程と集団にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	選挙過程とインターネット	マス・コミュニケーション研究の系譜をたどることによって、メディアが政治に与える効果に注目しながら、選挙過程におけるインターネット使用に関する近年の研究動向について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、選挙過程とインターネットにかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	選挙過程と政党	選挙過程において政党が中心的な役割を担うのにはどのような理由があると考えられているのかについて、政党の機能と議員の合理的選択という二つの見方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、選挙過程と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	立法過程と政党	立法過程において政党がどのような役割を担い、実際にどのような行動をとるとされるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、立法過程と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	立法過程と議会	立法過程における議会の位置づけについて、日本の事例に注目し、政党、議会、内閣との結びつきを踏まえながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、立法過程と議会にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	立法過程と利益集団	立法過程と集団のかかわりについて、ネオ・コーポラティズムをとり上げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策決定過程の理論的枠組み	政策過程を分析するための枠組みについて、拒否権プレイヤー論をとり上げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、拒否権プレイヤー論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	期末総括：授業内試験	これまでの講義内容に関する理解が定着しているか否かを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各回の主な論点や理解を深める必要のある点について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分および自身のノートを読み、講義内容について整理する。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	政治過程論の理論と実践	現実政治を題材として、政治過程にかかわる理論やモデルを援用する際の手続き・流れを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治過程論の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を採用入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。						3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。								3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues and Methods in Comparative Politics: An Introduction	Todd Landman and Edzia Carvalho	Routledge	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜3限 kubota.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
	事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	事例比較	Ch.1 Why Compare Countries?	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	事例比較の方法	Ch.2 How to Compare Countries?	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	多事例の比較	Ch.3 Comparing Many Countries	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	少数事例の比較	Ch.4 Comparing Few Countries	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	単一事例の比較	Ch.5 Single-country Studies as Comparison	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	経済発展と民主主義		Ch.6 Economic Development and Democracy	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
8	暴力による政治的異議申し立てと社会革命		Ch.7 Violent Political Dissent and Social Revolution	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
9	非暴力による政治的異議申し立てと社会運動		Ch.8 Non-violent Political Dissent and Social Movements	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
10	民主化		Ch.9 Transition to Democracy	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
11	政治的制度設計と民主主義のパフォーマンス		Ch.10 Institutional Design and Democratic Performance	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
12	人権		Ch.11 Human Rights	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国際関係と比較政治		Ch.12 International Relations and Comparative Politics	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
14	比較政治学の射程と方法		Ch.13 Common Themes and Different Comparisons	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
15	新しい課題		Ch.14 New Challenges for Comparative Politics	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	福森 憲一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者は和訳を作成し、報告を行う。受講状況によって、レポートや小テスト、リアクションペーパーを課す場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書の該当部分の和訳・報告を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート等によって、到達①②に関わる能力が身についているか評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②③について、報告やリアクションペーパーや小テスト、授業内での質問等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告やレポート等に関するリプライを授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ventures in Political Science	Gabriel A. Almond	Lynne Rienner Publishers	2002	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～12:50（休暇中を除く。事前にメールで連絡すること） 研究室（本館3階1302C号） fukumori.kenichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方や教科書の内容、成績評価の方法について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の内容・目的・進め方などについて理解する。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容や授業方法等を把握する。	120分
	事後学修	講義内容な授業方法を再確認し、講義の全体の流れを把握する。	120分
2	Historical Perspectives (1)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、20世紀における政治学の展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所（pp. 23-25）の内容を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
3	Historical Perspectives (2)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、政治学の古典的基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所（pp. 26-28）の内容を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
4	Historical Perspectives (3)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、混合政体と自然法の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所（pp. 28-31）の内容を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
5	Historical Perspectives (4)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、19世紀の政治学の展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 32-34）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
6	Historical Perspectives (5)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、20世紀における政治学の専門化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 35-37）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Historical Perspectives (6)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、シカゴ学派について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 38-40）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
8	Historical Perspectives (7)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、第二次世界大戦が政治学に与えた影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 41-43）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
9	Historical Perspectives (8)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、行動論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 44-46）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
10	Historical Perspectives (9)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、ヨーロッパにおける政治学について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 47-49）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
11	Historical Perspectives (10)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、政治学の展開における反科学について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 50-52）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
12	Historical Perspectives (11)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、ポスト科学と脱行動論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 53-55）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Historical Perspectives (12)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、反多元主義の理論と実践について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 56-58）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
14	Historical Perspectives (13)	第二章「The History of Political Science: An Essay」を読み、合理的選択論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 59-62）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
15	授業のまとめ	今学期のまとめとして、各回で扱った内容を振り返りながら、現代政治学の歴史的展開について学修する。また、成績評価に関する説明および解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期扱った論点に関して、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	今学期で扱った内容に関して、和訳をまとめるとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を採用入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Politics: Interests, Interactions, Institutions	Jeffry Friedman, David Lake, and Kenneth Schulz	WW Norton	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜3限 kubota.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
	事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	国際関係の歴史概観	Ch.1 What Shaped World Politics? A Historical Introduction	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	国際関係における利益、相互作用、制度	Ch.2 Understanding Interests, Interactions, and Institutions	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	国家間戦争	Ch.3 Why Are There Wars?	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	国内政治と戦争	Ch.4 Domestic Politics and War	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	国際制度と戦争	Ch.5 International Institutions and War	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	内戦とテロリズム		Ch.6 Violence by Nonstate Actors: Civil War and Terrorism	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
8	国際貿易		Ch.7 International Trade	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
9	国際財政		Ch.8 International Financial Relations	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
10	国際金融		Ch.9 International Monetary Relations	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
11	開発		Ch.10 Development: Causes of the Wealth and Poverty of Nations	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
12	国際法と規範		Ch.11 International Law and Norms	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	人権		Ch.12 Human Rights	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
14	グローバルな環境問題		Ch.13 The Global Environment	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
15	グローバル秩序における課題		Ch.14 Challenges to the Global Order	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	福森 憲一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者は和訳を作成し、報告を行う。受講状況によって、レポートや小テスト、リアクションペーパーを課す場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書の該当部分の和訳・報告を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート等によって、到達①②に関わる能力が身についているか評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②③について、報告やリアクションペーパーや小テスト、授業内での質問等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告やレポート等に関するリプライを授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Understanding Politics and Society	Fabio de Nardis	Palgrave Macmillan	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～12:50（休暇中を除く。事前にメールで連絡すること）研究室（本館3階1302C号）fukumori.kenichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方や教科書の内容、成績評価の方法について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の内容・目的・進め方などについて理解する。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容や授業方法を把握する。	120分
	事後学修	講義内容や授業方法を再確認し、講義の全体の流れを把握する。	120分
2	Politics and Society (1)	第一章「Politics and Society」を読み、現代政治学における「政治」概念について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 1-3）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
3	Politics and Society (2)	第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学の視座について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 4-6）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
4	Politics and Society (3)	第一章「Politics and Society」を読み、政治学と政治社会学の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 7-9）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
5	Politics and Society (4)	第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学の分析対象について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 10-12）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
6	Politics and Society (5)	第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学における「アクター」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 13-15）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Politics and Society (6)		第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学における「文化」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 15-17）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分
8	Politics and Society (7)		第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学における「経済」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 17-19）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分
9	Politics and Society (8)		第一章「Politics and Society」を読み、政治社会学における「テリトリー」とリサーチ・ロジックについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 19-21）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分
10	Politics and Society (9)		第一章「Politics and Society」を読み、経験的概念の定義と操作化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 22-24）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分
11	Politics and Society (10)		第一章「Politics and Society」を読み、分類と経験的統制の方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 24-26）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分
12	Politics and Society (11)		第一章「Politics and Society」を読み、社会科学における比較について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 26-29）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。		
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Politics and Society (12)	第一章「Politics and Society」を読み、比較における方法論的課題（分析ユニット、空間的・時間的文脈）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 30-32）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
14	Politics and Society (13)	第一章「Politics and Society」を読み、比較における方法論的課題（属性の定義）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書の指定された箇所の内容（pp. 33-35）を理解するとともに、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	該当箇所を読みこみ、和訳を準備するとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分
15	授業のまとめ	今学期のまとめとして、各回で扱った内容を振り返りながら、政治学と政治社会学、政治社会学の視座、政治社会学のサーチ・ロジックについて学修する。また、成績評価に関する説明および解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期扱った論点に関して、疑問点や反論をまとめることができる。	
	事前学修	今学期で扱った内容に関して、和訳をまとめるとともに、概要と質問をまとめる。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、該当箇所の内容を理解する。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
必要な予備知識は、特になし。積極的に参加しうる履修者を希望する。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】		
講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施する。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行う。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施する。場合によっては、出席管理システム（レスポ）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者の希望・人数・習熟度により、ディベートやディスカッションを実施する可能性あり。事前に履修者の意向を確認する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		3	3	4							10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	配布資料の本旨を理解し、それと到達目標①②③④とを関連付けて討論や発表などができるかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業に関する質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	23	23	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 政治学	西山 隆行、向井 洋子	弘文堂	2022	その他	任意
政治学 第3版 (Next教科書シリーズ)	渡邊 容一郎	弘文堂	2022	その他	任意
平和政策	大芝亮他	有斐閣	2006	その他	任意
国際関係論〔新版〕	ジョセフ・フランケル	東京大学出版会	1980	その他	任意
備考	教科書は特に使用しない。 講義用PowerPointファイルを事前に公開予定。既習の政治学の教科書を手元に置いておくことが望ましい。参考文献は適宜紹介予定。				

【オフィスアワー】
講義前後の当該講堂（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。sato.takahisa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 講義全体のテーマ：「戦争と平和」	授業の進め方、担当者の割り当て、成績評価基準についての説明等	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、講義の全体像を理解するとともに、現代の戦争の課題を把握すること。	
	事前学修	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと（2時間）。	120分
	事後学修	当該科目と既修科目との関連性を確認しておくこと。各テーマに関連する映像としてどのようなものがあるのか、調べること（2時間）。	120分
2	国際紛争はどうとらえられてきたのか	伝統的紛争観および冷戦後の紛争の異同を確認した上で、民主的平和論の功罪を検討し、現代の紛争の向き合い方を明らかにする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、現代紛争の特徴を把握すること。	
	事前学修	WWI, WWII, 冷戦, イラク戦争の概要を調べておくこと。	120分
	事後学修	シリア内戦と講義内容との関連性を確認すること。	120分
3	現代紛争の構造とグローバリゼーション	紛争の現状と形態の変化を説明し、グローバリゼーションと紛争とがいかに結びついているのかを明らかにする。その上で、現代紛争のグローバルな構造と私たちとの関係性を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、現代紛争とグローバリゼーションとがどのように関連するのかを把握すること。	
	事前学修	ユーゴ紛争, ルワンダ紛争の概要を調べておくこと。	120分
	事後学修	フェア・トレード, エシカル・コンシュームの事例を調べておくこと。	120分
4	地域機構	冷戦終結と地域機構の再登場という事態を、国際紛争における地域機構の役割および政策としての地域的アプローチという観点から説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地域機構の役割を理解するとともに、その課題を把握すること。	
	事前学修	EU, AUが紛争に関係した事例を調べておくこと。	120分
	事後学修	最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店, 2016年）を読み、講義内容をフォローしておくこと。	120分
5	核軍拡と核軍縮	世界の核兵器の現状を抑えるとともに、核軍拡と核戦略の変遷を辿ることで、戦後の核軍縮の歩みとその現代的課題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、核兵器保有の実態を理解するとともに、それへの対応策を把握すること。	
	事前学修	イラン, 北朝鮮の核問題の論点を確認しておくこと。	120分
	事後学修	萩中三十二, 佐藤優『核と戦争のリスク 北朝鮮・アメリカ・日本・中国 動乱の世界情勢を読む』（朝日新書, 2017年）を読み、講義との関連性を検討すること。	120分
6	人の移動と難民保護（1）	「移動する人々」の実態を踏まえたうえで、人の移動はなぜ起きるのか、その原因を探るとともに、さらに長期難民状況の実態を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、移動する人々の特徴を理解するとともに、その現状を把握すること。	
	事前学修	ミュリエル・ジョリヴェ『移民と現代フランス ーフランスは「住めば都」か』（集英社新書, 2003年）を読んでもらうこと。	120分
	事後学修	日本の移民・難民受け入れ状況とその問題点を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人の移動と難民保護（2）	移民・難民の課題について、移動する人々の脆弱性や受入国の受け取り方から問題を考察する。その上で、移動する人々の問題に対するどう向き合うべきか、どのような対応をすべきなのかを明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、移動する人々の対応の在り方を把握すること。	
	事前学修	内藤正典『ヨーロッパとイスラーム―共生は可能か』（岩波新書、2004年）を読んでくること。	120分
	事後学修	米川正子『あやつられる難民：政府、国連、NGOのはざまで』（ちくま新書、2017年）と講義内容との関連を確認しておくこと。	120分
8	テロリズムとテロ対策	国際テロリズムの動向を抑えたいうえで、テロリズムの原因およびテロ対策を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、利益集団と政党との相違を理解するとともに、利益集団と政治家・政党・官僚のとの関係性を把握すること。	
	事前学修	9.11テロの概要を調べてくること。	120分
	事後学修	「テロ」というレッテルを張られる側の論理を考えること。	120分
9	紛争後選挙と選挙支援	紛争後選挙の意義と課題を考察し、次にそれを支援するための具体的な取り組みを説明する。その上で、移行支援としての選挙支援のあり方を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、紛争後選挙の実態を理解するとともに、その支援の在り方を把握すること。	
	事前学修	東ティモールとカンボジアで行われた日本による選挙支援としてどのような施策がなされたのかを調べておくこと。	120分
	事後学修	選挙監視団が選挙の不正・不公平を報告した事例を調べ、その後の状況を確認しておくこと。	120分
10	開発協力（1）	「開発」とはなにかについて、まずはその意味内容を明らかにした上で、開発の阻害要因としての紛争の影響を説明する。さらに、貧困と紛争とがいかなる関係性を有するのかを解明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、開発協力の定義・内容を理解すること。	
	事前学修	「貧困の罟」「FFW」という用語の意味内容を調べておくこと。	120分
	事後学修	アマルティア・セン『貧困の克服』（集英社新書、2002年）を読んで、講義内容をフォローしておくこと。	120分
11	開発協力（2）	人道支援から開発協力への移行過程を考察する。まず人道支援としての緊急援助の内容を明らかにした上で、依存から自立への過程で取り組まれる諸施策を説明する。それらを踏まえ、平和構築のための開発の位置づけ・意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人道支援と開発協力の共通点と相違点とを把握すること。	
	事前学修	「ODA」の意味内容を調べておくこと。また日本のODAの特徴を調べておくこと。	120分
	事後学修	アマルティア・セン『人間の安全保障』（集英社新書、2005年）を読み、講義内容との関連を検討すること。	120分
12	平和構築とジェンダー	平和とジェンダーとの関係を、種々の社会を検討する中で明らかにする。その上で、ジェンダー的な暴力の連鎖の実態を説明し、それを回避するための平和構築との関係を解明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ジェンダーが紛争・平和とどのような関係性を有しているかを把握すること。	
	事前学修	マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞演説を読んでくること。	120分
	事後学修	国連・国際NGOのジェンダー的暴力の具体的事例を調べておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NGOと市民社会	NGOとはなにかをまずは押さえた上で、地域紛争においてNGOがいかなる役割を果たしているのかを説明する。さらに日本のNGOの現状と課題を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、NGOは紛争・平和にどのように関わっているのかを把握すること	
	事前学修	岸谷美穂『イラクの戦場で学んだこと』（岩波ジュニア新書、2005年）を読んてくること。	120分
	事後学修	任意のNGO団体のHPを調べ、活動内容と財政状況を調べること。	120分
14	平和とは何か？	消極的平和と積極的平和の概念を明らかにし、平和構築の課題を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、消極的平和と積極的平和の概念の違いを把握すること。	
	事前学修	「構造的暴力」の意味内容と、その具体例を調べてくること。ガルトゥング『構造的暴力と平和』（高柳先男・塩屋保・酒井由美子訳）（中央大学出版部、1991年）を読んてくること	120分
	事後学修	ガルトゥング『平和を創る発想術——紛争から和解へ』（京都YWCA/はーぽのぼの会訳、岩波書店、2003年）を読み、講義と関連する関連をまとめておくこと。	120分
15	試験および解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
	この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
	事前学修	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。	120分
	事後学修	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（2時間）。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評、報告に対するコメント。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的の市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的の市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	授業計画の策定		講義の内容や進め方に関して、具体的な担当者の割り振りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の運営について意思決定を行うことで、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	選定された教科書の目次・内容を確認し、次週の報告内容について自分なりに整理する。		120分
3	報告（教員）		選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講座担当者の報告内容を参考にしつつ今後の報告に向けて準備を行うことで、政治的の市民として社会的課題について取り組む知識を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
4	報告①（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
5	報告②（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
6	報告③（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	報告④（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
8	報告⑤（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
9	報告⑥（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
10	報告⑦（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
11	報告⑧（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
12	報告⑨（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告⑩（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
14	報告⑪（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
15	報告⑫（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見を練り直す。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
必要な予備知識は、特になし。積極的に参加しうる履修者を希望する。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】		
講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施する。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行う。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施する。場合によっては、出席管理システム（レスポん）を利用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者の希望・人数・習熟度により、ディベートやディスカッションを実施する可能性あり。事前に履修者の意向を確認する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。				4	4	4	4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テストにより、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		3	3	4							10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	配布資料の本旨を理解し、それと到達目標①②③④とを関連付けて討論や発表などができるかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業に関する質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	23	23	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 政治学	西山 隆行、向井 洋子	弘文堂	2022	その他	任意
政治学 第3版 (Next教科書シリーズ)	渡邊 容一郎	弘文堂	2022	その他	任意
よくわかる政治思想	野口雅弘、山本 圭、高山裕二	ミネルヴァ書房	2021	その他	任意
備考	教科書は特に使用しない。 講義用PowerPointファイルを事前に公開予定。既習の政治学の教科書を手元に置いておくことが望ましい。参考文献は適宜紹介予定。				

【オフィスアワー】
講義前後の当該講堂（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取る。sato.takahisa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 講義全体のテーマ：「映像の中の政治」	授業の進め方、担当者の割り当て、成績評価基準についての説明等	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、講義の全体像を理解するとともに、現代政治の課題を把握すること。	
	事前学修	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと（2時間）。	120分
	事後学修	当該科目と既修科目との関連性を確認しておくこと。各テーマに関連する映像としてどのようなものがあるのか、調べること（2時間）。	120分
2	デモクラシーと政治（1）	映画『十二人の怒れる男』を手掛かりに、デモクラシーの基礎を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、デモクラシーの基礎を理解するとともに、現代政治との関連を把握すること。	
	事前学修	映画『十二人の怒れる男』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	古代ギリシャの民主制を調べ、映画『十二人の怒れる男』との関連性を確認しておくこと（2時間）。	120分
3	デモクラシーと政治（2）	映画『12人の優しい日本人』を手掛かりに、デモクラシーの課題を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、デモクラシーの課題を理解するとともに、それと現代日本政治との関連を把握すること。	
	事前学修	映画『12人の優しい日本人』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	デモクラシーと陪審制との関連性を確認しておくこと（2時間）。	120分
4	選挙と選挙運動（1）	映画『スミス都へ行く』を手掛かりに、選挙運動のあり方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、選挙運動のあり方を理解するとともに、その課題を把握すること。	
	事前学修	映画『スミス都へ行く』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	選挙運動におけるマシーンやメディアの機能を確認しておくこと（2時間）。	120分
5	選挙と選挙運動（2）	映画『選挙』・『選挙2』を手掛かりに、選挙運動の実態を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、選挙運動の実態を理解するとともに、それと現代日本政治との関連を把握すること。	
	事前学修	映画『選挙』・『選挙2』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	地方・国政両方の選挙運動の共通点・相違点を確認しておくこと（2時間）。	120分
6	権力と権威	映画『ゴールデンランバー』を手掛かりに、政治権力のあり方、それへの向き合い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、政治権力の特徴を理解するとともに、それと権威・支配・服従との関連を把握すること。	
	事前学修	映画『ゴールデンランバー』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	政治学の教科書の政治権力、権威、支配、服従の説明を読み、内容を確認しておくこと（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政治制度としての大統領制：アメリカ政治と大統領		映画『アメリカン・プレジデント』を手掛かりに、アメリカの大統領制とアメリカ政治の特徴を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アメリカの大統領制と日本の議院内閣制との相違を理解するとともに、日米の政治文化の違いを把握すること。		
	事前学修	映画『アメリカン・プレジデント』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	政治学の教科書の大統領制と議院内閣制の説明を読み、内容を確認しておくこと（2時間）。		120分
8	利益集団とその活動		映画『女神の見えざる手』を手掛かりに、利益集団の特徴・機能・問題点を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、利益集団と政党との相違を理解するとともに、利益集団と政治家・政党・官僚のとの関係性を把握すること。		
	事前学修	映画『女神の見えざる手』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	政治学の教科書の利益集団（もしくは圧力集団）の説明を読み、内容を確認しておくこと（2時間）。		120分
9	マス・メディアとその機能		映画『新聞記者』を手掛かりに、マス・メディアと政治との関わりを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、マス・メディアの政治における機能を理解するとともに、メディアがときの権力とどのような関係性を築くべきなのかをジャーナリズムの観点から把握すること。		
	事前学修	映画『新聞記者』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	政治学の教科書のマス・メディアの説明を読み、内容を確認しておくこと。また「ジャーナリズム」の意味内容・意義を調べ、講義の内容を復習すること（2時間）。		120分
10	福祉政策とセイフティー・ネット		映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』を手掛かりに、福祉の役割を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、福祉の社会機能を理解するとともに、その変容に伴うコミュニティのあり方を把握すること。		
	事前学修	映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	サッチャリズムおよびそれ以後の英国の新自由主義政策の内容を調べ、講義の内容をまとめておくこと（2時間）。		120分
11	地方自治と地域の課題		映画『美しすぎる議員』を手掛かりに、地方自治と地域の課題を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地方自治とはなにかを理解するとともに、地域がどのような課題をかかえているかを把握すること。		
	事前学修	映画『美しすぎる議員』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	政治学の教科書の地方自治の説明を読み、内容を復習しておくこと（2時間）。		120分
12	ジェンダーと政治		映画『未来を花束にして』を手掛かりに、女性参政権の問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ジェンダーが政治とどのような関係性を有しているかを把握すること。		
	事前学修	映画『未来を花束にして』の概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	政治学の教科書の選挙権、ジェンダーの説明を読み、内容を復習しておくこと（2時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	震災と行政	映画『犬と猫と人間と2 動物たちの大震災』を手掛かりに、震災時の行政のあり方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、震災時に行政はどのような対応をとるのか、またどのような形で変化していくのかを把握すること。	
	事前学修	映画『犬と猫と人間と2 動物たちの大震災』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	動画サイトで東日本大震災を中心とする震災関連動画を複数視聴し、講義との関連性を検討してノートにまとめること（2時間）。	120分
14	移民・難民と政治	映画『はじめてのおもてなし』を手掛かりに、移民・難民受け入れのあり方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、移民・難民受け入れに政治はどのように関わっているのか、また社会はそれをどう受け止めるのかを把握すること。	
	事前学修	映画『はじめてのおもてなし』の概要を調べてくること（2時間）。	120分
	事後学修	日本の移民・難民の受け入れ状況と行政の対応を調べ、講義との関連づけてノートにまとめること（2時間）。	120分
15	試験および解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
	この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
	事前学修	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。	120分
	事後学修	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（2時間）。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメ等の関連資料の配布は、共有フォルダ等の手段を用いて行う。また授業内あるいはポータルシステムを介し、定期的にレポートの提出を求め、授業者の理解度を確認する。定期試験の解説は後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評、報告に対するコメント。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	授業計画の策定		講義の内容や進め方に関して、具体的な担当者の割り振りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の運営について意思決定を行うことで、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	選定された教科書の目次・内容を確認し、次週の報告内容について自分なりに整理する。		120分
3	報告（教員）		選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講座担当者の報告内容を参考にしつつ今後の報告に向けて準備を行うことで、政治的的市民として社会的課題について取り組む知識を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
4	報告①（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
5	報告②（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
6	報告③（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	報告④（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
8	報告⑤（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
9	報告⑥（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
10	報告⑦（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
11	報告⑧（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
12	報告⑨（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	報告⑨（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
14	報告⑩（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
15	報告⑪（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

科目名	政治経済専門研究B(選挙制度論)	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメ等の関連資料の配布は、共有フォルダ等の手段を用いて行う。また授業内あるいはポータルシステムを介し、定期的にレポートの提出を求め、授業者の理解度を確認する。定期試験の解説は後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。												
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。						4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。						4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評、報告に対するコメント。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	授業計画の策定		講義の内容や進め方に関して、具体的な担当者の割り振りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の運営について意思決定を行うことで、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	選定された教科書の目次・内容を確認し、次週の報告内容について自分なりに整理する。		120分
3	報告（教員）		選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講座担当者の報告内容を参考にしつつ今後の報告に向けて準備を行うことで、政治的的市民として社会的課題について取り組む知識を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
4	報告①（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
5	報告②（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
6	報告③（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	報告④（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
8	報告⑤（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
9	報告⑥（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
10	報告⑦（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
11	報告⑧（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
12	報告⑨（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告⑨（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
14	報告⑩（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
15	報告⑪（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分

科目名	政治コミュニケーション	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアが政治に関して報道することはいかなる意味があるのか。この講義では、戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を学んだ上で、メディアが様々な政治的・社会的な問題を報道することが、民主主義社会においていかなる意味を有するのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を養成することを目的とする。政治とメディアに関する様々な議論を学ぶことを通じて、政治的・社会的問題の展開にメディアやコミュニケーションが重要な役割を果たしていることを理解できるようになることを目標とする。

【履修条件】
マス・コミュニケーション論の履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治とメディアの関係について、理解できるようになる。					3	3	3	3				
②	ニュース生産の背景を、自身の関心に基づいて考察できるようになる。					3	3	3	3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②と関連して、ブックレポート課題（任意） と、期末レポートを行う。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、メール等で受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜・金曜の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） できれば事前にメール等でアポイントを入れてください。 mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	シラバスやスケジュール、授業の進め方の確認を行う。	
	この回の到達目標	授業の評価方法や、今後の進め方、政治コミュニケーションの授業で扱う内容などを全体的に理解する。	
	事前学修	シラバスを確認すること	120分
	事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	政治コミュニケーション論の展開 (1)	政治コミュニケーションの基本的な考え方について	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーションの基本的な考え方について理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	政治コミュニケーション論の展開 (2)	政治コミュニケーション論の展開を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション論の展開を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	政治コミュニケーション論の展開 (3)	権力論の観点から、政治コミュニケーションを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、権力論の観点からとらえた政治コミュニケーションを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	ニュースとは何か	政治コミュニケーション研究の観点から、ニュース生産について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション研究の観点から、ニュース生産について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	世論とは何か	世論とメディア、政治との関係について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、世論とメディア、政治との関係について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政治制度とメディア	政治制度としてのメディアの議論を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政治制度としてのメディアの議論を理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	見世物としての政治	政治におけるシンボルと儀礼の概念をもとに、「見世物としての政治」を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、見世物としての政治について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
9	メディア・イベント	メディア・イベント論について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、メディア・イベント論について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	戦争とメディア	戦争とメディアについて学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、映像資料を通じて日常的に接している報道の背景について考察できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	映像資料	政治コミュニケーションに関する映像資料	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、映像資料を通じて日常的に接している報道の背景について考察できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	批判的コミュニケーション（1）	水俣病や地下鉄サリン事件を事例に、言説や物語の有する権力性を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、言説物語の有する権力性について理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	批判的コミュニケーション（2）	メディア上のジェンダー表象を事例に、メディア・フレームの権力性を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メディア・フレームの有する権力性について理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	政治とメディアの今日の課題	政治とメディアの今日の課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とメディアの今日の課題について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	これまでのまとめ	これまでのまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているのかを再確認する。	
	事前学修	これまでの復習。	120分
	事後学修	これまでの課題や講義の内容で分からなかったところを復習する。	120分

科目名	政治制度論	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新制度論と呼ばれる一連の理論・分析枠組みについて、伝統的な制度論との対比を明確にしながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治制度をめぐる諸問題について客観的・批判的に観察し、その本質を理解し説明することができるようになるために、「新制度論」と呼ばれる理論的潮流に含まれる一連の理論や分析枠組みを修得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				2							
②	新制度論の分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				2	2						
③	新制度論の基礎的な知識をもとに、現実の政治制度をめぐる問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				2	2	2					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐってどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新制度論』	B・ガイ・ピーター ス／土屋光芳（訳）	芦書房	2007	参考書	任意
『比較政治制度論 』	建林正彦・曾我謙 悟・待鳥聡史	有斐閣	2008	参考書	任意
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	「旧制度論と新制度論（１）」	伝統的な政治制度論（旧制度論）として位置づけられる研究として、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューの議論がどのような特徴をもつものであったのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューによる政治制度論の特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューがどのような議論を展開していたのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、旧制度論として位置づけられる理論や分析枠組みの特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	「旧制度論と新制度論（２）」	政治学における理論的潮流の変化として、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への移り変わりがどのようにして起きたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への理論的潮流の移り変わりを説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、政治学における旧制度論から行動論・合理的選択論への移り変わりについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治学における旧制度論から現代政治学への変動の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	「旧制度論と新制度論（３）」	マーチ&オルセンが指摘した現代政治学の特徴および欠点がどのようなものであるのか、新たに登場した新制度論にはどのような理論的特徴があり、またどのような学派が存在しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新制度論の理論的特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、現代政治学にはどのような特徴が見られるのか、新制度論と呼ばれる理論的潮流にはどのような特徴が見られるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、現代政治学の特徴と欠点、新制度論の理論的特徴と学派について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	「新制度論のルーツ（１）」	マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）は、制度をどのように捉えているのか、そして政治的事象をどのような枠組みで理解しようとするのか、という点を履修者が説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マーチ&オルセンの提唱する規範的制度論の特徴および現実的妥当性を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）が、制度をどのように捉え、どのような立場から政治的事象の分析を行うのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	「新制度論のルーツ（２）」	マーチ&オルセンの規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応すると理解しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応すると理解しているのかを説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）には、制度の変化をどのような視点から分析するのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「合理的選択論と制度論（１）」	合理的選択制度論が、どのような考え方に立脚し、どのようにして制度が形成されると理解しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、合理的選択制度論の基礎的認識について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、合理的選択制度論がどのような考え方に立脚しているのか、制度をどのように捉えているのかという点を自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択制度論の基本的な考え方と制度の形成に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	「合理的選択論と制度論（２）」	本人-代理人モデルの基本的な考え方がどのようなものであり、本人-代理人モデルの視座からは民主主義はどのようなシステムと理解できるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本人-代理人モデルの基本的特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、本人-代理人モデル（プリンシパル・エージェント・モデル）とはどのようなモデルであるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、本人-代理人モデルに関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	「歴史的制度論（１）」	国家論とはどのような特徴をもち、なぜ登場してきたのか、そしてアクター中心のアプローチにはどのような特徴があるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国家論の登場の背景、およびアクター中心アプローチの特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、国家論アプローチの特徴およびアクター中心のアプローチの特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国家論およびアクター中心のアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	「歴史的制度論（２）」	歴史的制度論の基本的なアプローチの特徴がどのようなものであるか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史的制度論のアプローチの基本的特徴について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論がどのようなスタンスに立ち、どのようなアプローチをとるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、歴史的制度論の基本的なアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	「歴史的制度論（３）」	歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、歴史的制度論は制度の変化をどのように捉えるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「経路依存性」の特徴、および歴史的制度論における制度変化の理解について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、また歴史的制度論では制度の変化をどのように捉えるのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、経路依存性に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	「社会学的制度論（１）」	社会学的制度論では、制度概念をどのようなもの捉えているのか、そして個人の行動に対して制度はどのような影響を及ぼすと捉えているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、社会学的制度論における制度概念、および個人の行動に対する制度の影響の捉え方について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が制度をどのように捉えているのか、またどのような枠組みに基づいて政治的事象を分析するのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論の制度概念および行動に及ぼす制度の影響に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「社会学的制度論（2）」	社会学的制度論が提起する「制度の同型化」とはどのようなロジックであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」のロジック、および現実的妥当性を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論で提起される「制度の同型化」に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各回で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各回で提示された理論やモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治哲学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは自ずから異なる。本講義では、どのような政治目的を追求すべきかという観点から、幸福、自由といった政治哲学の規範的概念について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治哲学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。				3	3						
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。						3					3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	政治目的の規範的分析という観点から政治哲学の諸問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	120分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	政治の倫理：政治目的	政治目的としての公共の利益概念をアリストテレス等を参照しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	政治倫理綱領について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	公共の利益Ⅰ：共和主義	キケロに始まる共和主義的伝統において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	古典古代の政治について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	公共の利益Ⅱ：契約論	近代の社会契約説とその批判者において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	市民革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	公共の利益Ⅲ：功利主義	功利主義の創始者ベンサムを手がかりに公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ベンサムについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	個人と社会Ⅰ：権利論	フランス革命に始まる権利論において個人の権利がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス人権宣言について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個人と社会Ⅱ：自由主義	産業革命以後の自由主義社会において個人の自由がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ビクトリア時代について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	個人と社会Ⅲ：平等論	後期近代の西洋社会において個人間の平等がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	社会主義・労働者運動について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	グループ討議／教材上映	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	討議内容を振り返る。	60分
10	目的の調整Ⅰ：保守主義	過去の政策との連続性の観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス革命以後のヨーロッパについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	目的の調整Ⅱ：妥協	利害や価値観の多元性という観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	南北戦争について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	政治の境界Ⅰ：代表	代表する者とされる者の同一性・非同一性から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス二月革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治の境界Ⅱ：国際関係	国際関係における国家の倫理的立場から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国連憲章について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	政治の境界Ⅲ：世代関係	現在世代と将来世代の関係の観点から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	地球環境問題について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。						2		2				
②	学修者は、税法の解釈適用における問題を、①の憲法原理との関係でその本質を説明できる。						2		2				
③	学修者は、税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2				
④	学修者は、税法における納税者の権利の内容を説明できる。						2		2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話(第2版)』	阿部徳幸	中央経済社	2022年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第12版)』	石村耕治	清文社	2024年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第6版)』	中里 実 他	有斐閣	2023年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 9号館3階研究室 abe.noriyuki17@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	税法の学び方		この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、基礎理論・総論を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	租税とは何か		そもそも租税とはいったい何なのか、なぜわれわれは税を納付しなければならないのか、また税にはどのような種類のものがあるのかといった内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税の意義、納税の根拠及び税の種類を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税とは何か」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	租税法律主義		国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律主義」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	租税条例主義		地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税条例主義」・「地方税制」該当箇所を熟読し、それぞれの内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	税法の解釈適用と実質課税の原則(1)		税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	税法の解釈適用と実質課税の原則(2)		税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	租税負担公平原則	「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税負担公平原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	応能負担原則	租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「応能負担原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	課税最低限	わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税最低限」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	課税の限界	わが国における「課税の限界」とは、どの位なのだろうか。そしてこの限界はどのように導かれてくるのであろうか。この課税の限界について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国における「課税の限界」の具体的内容とその根拠について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税の限界」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	租税法律関係	納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。これにはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律関係」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	租税法と信義誠実の原則	私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法と信義誠実の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	源泉徴収と年末調整		わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給与所得者における課税関係の原則である源泉徴収と年末調整の仕組みを理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	税の使途		税の問題は一般的に納税者からすれば納付に関する内容ばかりが問題とされる。しかし、納付の場面で民主的な制度が構築されていても、その使途が非民主的では意味がない。ここでは税の使途に関する法制度とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の使途に関する法制度とその問題点を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税の使途」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	授業内試験・まとめ		これまで学習してきた内容についての理解度を確認するため、基本的な内容についての試験を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前学期の授業内容についての内容を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書のこれまでの授業内容該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	確認試験問題と教科書をもとに、解答を再度、自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら、税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で、これを理解することは今の時代を読み解き、生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象、租税問題を的確に理解し、法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために、ここではことさら総論としての基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
民・商法、憲法等、法律学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。

【授業方法】
毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	普通の講義型の授業ですが、その場で税法の基本的考え方を習得するのが目標ですから、あえて言うなら、頭の回路は常にアクティブにしておいて下さい。疑問点は放置せずに、その場で質問して理解するように心がけてください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。				2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。				2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。				2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを，期末の筆記試験により評価する。 (ただし、リモート授業が行われた場合その間はレポートをもってこれに代える。)	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	これは、答案やレポートに自ずと表れます。											
その他(集中力)	集中してその場でマスターするつもりで集中して授業に取り組んでください。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終評価以前に個別の対応までは考えていない。ただし、予め解答の注意点を指摘しておくので、話はよく聞いておいてほしい。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論（第9版）	北野弘久（改訂：黒川）	勁草書房	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分、研究室。事前にアポイントメント(kuro-nin@ezweb.ne.jp)を取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	NA
実務経験に基づく実践的教育の内容		NA	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入～税法基礎理論	オリエンテーション、年間講義計画など 租税制度と国民生活・権利	
	この回の到達目標	なぜ「税法のない法学部は未完成である」とわれるのか。現代税法の中心領域といわれる税法の位置と意義を知りましょう。また、この講座での勉強方法も理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
2	租税法律関係と税法の本質	現代の暮らしと税金問題～国民生活と税	
	この回の到達目標	現代社会では人々の生活も人権も物質的（経済的）基盤の上にもみ成り立っています。近代国家を成立させるのに不可欠である税は同時に人々の生活の基盤を切り崩してしまいかねないものもあります。税って何？税法って何？まずは基本的視覚から得ていきましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
3	税法学の特質（1）～財政学との関係	財政学と税法の関係、財政学の問題と限界	
	この回の到達目標	税に関する議論は、あらゆる隣接諸科学の視覚から行われます。税法のそれとの違いと問題点を理解して、まずは交通整理から始めましょう。手始めは財政学です。過去の事例（土地税制論、物税論等）から学びます。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、授業での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
4	税法学の特質（2-1）～会計学との関係（1）	会計学との関係、税務会計学	
	この回の到達目標	会計学も税法問題に億発言のある分野ですが、その関与には限界と制約があります。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
5	税法学の特質（2-2）～会計学との関係（2）	貸借一致の原則、一般会計学の概要と可能性	
	この回の到達目標	会計学の「貸借一致の原則」は、数学の公理を除いては、人類が絶対に正しいと前提できる唯一の原則なのに、税法学において会計学は必ずしも望ましい影響を与えられていません。その問題点と可能性を理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
6	税法学の特質（3-1）～行政法学との関係（1）	行政法学との関係（1）旧公法学理論とその問題点	
	この回の到達目標	かつては税の法的研究は行政法各論の問題と位置付けられてきたが、特殊公法性の理論を軸とする行政法一般理論の応用という視点から現代法の中心領域である税法の研究が果たして可能なのか否か理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	税法学の特質（3-2）～行政法学との関係（2）		行政法学との関係（2）、独立税法学の特質と意義
	この回の到達目標	行政法一般理論の応用による税法研究が不可能であるならば、独立税法学は、どのような性格、特徴を持つのでしょうか。またその機能と使命とは何でしょうか。これを理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
8	租税の法的概念（1）		近代税法における租税概念
	この回の到達目標	日常的に「租税」が徴収されているにも拘わらず、我が国の税法においては租税の定義規定がありません。ほんの20年前までは封建時代の「年貢」と大差のないドグマがこれに代わっていたのですが、その問題点を知り、近代国家における「租税」の備えているべき属性を探ります。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
9	租税の法的概念（2）		現行日本法体系下における租税概念
	この回の到達目標	近代民主主義国家における租税の正当要件を解明して、今日の租税の問題点を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
10	租税の法的分類（1）		国税・地方税、内国税・関税、人税・物税、直接税・間接税、他
	この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これらの議論を正しく理解できるようにします。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
11	租税の法的分類（2）		所得・資産・消費税、普通税・目的税、他
	この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これらん議論を出しく理解できるようにします（後半）。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
12	租税法律主義の原則（1）		税法の根本原理とその意義、憲法原則
	この回の到達目標	税法の立法から解釈適用の全てに通ずる基本原則の意義、内容、憲法との関係等を理解します。税の世界の民主主義・人権保障の考え方を学びます。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	租税法律主義の原則（2）	7つの具体的法理とその内容	
	この回の到達目標	租税法律主義の7つの具体的法理の内容と理論を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）	90分
14	租税法律主義の原則（3）	現代における機能と意義	
	この回の到達目標	租税法律主義の機能と現代性を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	150分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	90分
15	期末試験	学習した重要項目についての総括と理解を図ります。	
	この回の到達目標	テキストの持ち込みを認めていますので、暗記は不要です。近代税法の思考方法が身についていることを示すことが肝要です。	
	事前学修	。 期末試験の解凍ポイントは前回の講義までに解説するので、テキスト・ノートを確認し、考えをまとめて試験に臨むことが大切です	150分
	事後学修	上手く書けなかった場合、どこかの理解が不足していたのか自己分析しておきましょう。	90分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、国際税法の概要とその問題点について説明ができる。				2		2					
②	学修者は、税務調査手続・滞納処分といった租税手続の概要とその問題点について説明ができる。				2		2					
③	学修者は、租税救済制度についてその概要と問題点について説明ができる。				2		2					
④	学修者は、租税制裁制度についてその概要と問題点について説明ができる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	原則として、到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話(第2版)』	阿部徳幸	中央経済社	2022年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第12版)』	石村耕治	清文社	2024年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第6版)』	中里 実 他	有斐閣	2023年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 9号館3階研究室 abe.noriyuki17〇nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	税法の学び方	この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、租税手続法・租税救済法・租税制裁法・地方財政権そして国際課税を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	租税手続法（１）納税義務の成立と確定	納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の成立と確定、ことさらの納税者からの確定手続きについてを理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	租税手続法（２）納税義務成立と確定	納税義務の確定方法、ことさら課税庁による確定方法とその問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の確定方法、ことさら課税庁による確定方法とその問題点、修正申告の勧奨を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	租税手続法（３）源泉徴収と年末調整	わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	租税手続法（４）税務調査(１)	税務調査の種類とその内容、各国が競い合うように制定する「納税者権利憲章」とわが国における現状を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査の種類とその内容、各国の納税者権利憲章制定の背景とわが国の現状を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	租税手続法（５）税務調査(２)	税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	租税手続法（５）滞納処分	近年増加傾向にある税金等の滞納処分、この滞納処分の仕組みとその制度的問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の仕組みとその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	租税手続法（６）滞納処分の緩和	滞納処分を規定する国税徴収法は滞納者にとってことさら厳しい内容となっている。その一方で、いくつもの緩和のための措置もとられている。この緩和措置の内容を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の緩和措置を理解し、これらの内容を説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	租税救済法（１）不服申立制度	課税庁の処分に不満がある場合には税務争訟ができる。ただし、税に関する場合は、まずこの不服申立てがなされなければならない。この不服申立制度の内容とその問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不服申立制度の内容とその問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「不服申立制度」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	租税救済法（２）租税裁判	不服申立てののち、それでも課税庁の処分に不満がある場合には租税裁判へと移行することになる。この租税裁判の種類とその制度的問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税裁判の種類とその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税裁判」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	租税制裁法（１）租税犯と 附帯税	租税犯とはいったい何をいうのであろうか。この租税犯の意義を明確にするとともに、一般刑法との関係を理解する。併せて附帯税とは何を言うのか、どのような場合に附帯税が適用されるのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯の意義、一般刑法との関係、さらに租税犯と附帯税との関係を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯と附帯税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	租税処罰法（２）租税犯則 調査・通告処分	一般的に「マルサ」といわれる租税犯則調査、この租税犯則調査の内容とその問題点を理解するとともに、通告処分といわれる制裁方法の内容と問題点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯則調査・通告処分の意義、その問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯則調査・通告処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	地方財政権		地方分権がいわれて久しい今日、自治体が独自に課税できるかといった地方財政権の根本的問題と課題を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方財政権、すなわち自治体が独自に課税できるかといったといった根本的な問題点とその課題を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「地方財政権」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	国際課税		近年その重要性が高まっている国際課税、この国際課税の仕組みとその概要を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際課税の現状とその具体的内容を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「国際課税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	授業内試験・まとめ		これまで学習してきた内容についての理解度を確認するため、基本的な内容についての試験を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前学期の授業内容についての内容を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書のこれまでの授業内容該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	確認試験問題と教科書をもとに、解答を再度、自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら、税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で、これを理解することは今の時代を読み解き、生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象、租税問題を的確に理解し、法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために、ここではことさら総論としての基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
税法の重要性を理解する人であれば特に設定しません。ただし、税法Ⅰの履修と法律学一般の素養をつけておくべきことは言うまでもありません。

【授業方法】
毎回の講義は税法Ⅰの内容の理解を前提になるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	大人数のため講義型の授業とならざるを得ないが、質問には可能な限り応えていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	税法の意義と機能を説明できる。						2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。						2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。						2		2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを，筆記試験(数回の授業内テスト、授業内期末試験)により評価する。（ただし、リモート授業が行われる場合。その間はレポートをもってこれに代える。）	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	これは、答案やレポートに自ずと表れます。											
その他(平常点)	集中してその場でマスターするつもりで授業に取り組んでください。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
大人数となることが予想されるので、残念ながら最終評価以前に個別の対応までは考えていない。ただし、予め注意点を指摘しておくので、話はよく聞いておいてほしい。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論(第9版)	北野弘久著・黒川功改訂	勁草書房	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
んh金曜 12時00分～ 13時00分、研究室。事前にアポイントメント(kuro-nin@ezweb.ne.jp)を取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	実質課税の原則（1）		草創期の我が国税法学界で猛威を振るった実質課税原則。そのコンセプトと問題点を学びます。	
	この回の到達目標	今日でも時折耳にする「実質課税の原則」。その論理と問題点を学習します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分
2	実質課税の原則（2）		抽象論ではなく、実際に実質課税論者が主張した解釈論を類型化しその構造を分析することにより実質課税論者の目論見を客観的に解明します。さらに、実例を交え、近代税法の正しい解釈のあり方を示して、実質課税論の誤謬性を確認します。	
	この回の到達目標	かつての三越事件のような租税回避事件とその顛末のような具体的な租税法律関係の分析まで含めた近代税法の解釈適用の在り方と、実質課税論の企図したところを対比してその誤謬性を認識します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分
3	実質課税の原則（3）		学界ではすでに否定されているのに、今日でも課税の現場で主張されることのある実質課税論。なぜそのような影響力が残っているのか。その理由を租税現象としての同原則の本質を捉えることによって理解し、類似の議論に騙されないだけの眼力を養います。	
	この回の到達目標	実質課税論が、国民のどういう階層のどういうお金を狙ったものであり、それが我が国税制の中でどう作用するのか考えます。そして、税の公平とは何か、それをどう実現していくのが正しいのか考えてもらいます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分
4	応能負担の原則		憲法の応能負担原則の内容と意義を理解します。	
	この回の到達目標	近代立憲主義国において国民がその能力に応じて平等に租税を負担するというのがなぜ税の基本原則となるのか。その法理論的基礎を学ぶと同時に、同じ平等・公平を出発点としながら、納税者の権利侵害につながる実質課税原則と憲法原則との違いを認識します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分
5	税法と信義則		かつては公法領域には適用がないとされていた一般法原則ですが、今日ではそのドグマは崩れ去っています。税法と信義則の関係を通じて法理論の変化を確認します。	
	この回の到達目標	公法、とりわけ厳しい租税法律主義の支配する税法領域には法の一般原則の適用の余地はないとされていましたが、ある事件をきっかけにそのドグマは崩れ去りました。その経緯と理論的背景を学びます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分
6	租税の法源と通達行政		国民に納税義務を負わせる法的根拠と税務通達との関係を整理して理解します。	
	この回の到達目標	課税の現場では税務通達が大きく幅を利かせていますが、租税の法的根拠・法源は何であるのか、通達とは何で、税法適用の現場でどう扱われるべきなのかをまなびます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	税法の解釈と適用		税法の解釈・適用の仕方を学びます。
	この回の到達目標	事実に対して、税法をいかに適用して国民に納税義務を課すのか、そのやり方を若干の具体例を交えながらまなびます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
8	租税法律関係の性質		素地法律関係の構造と性質を学びます。
	この回の到達目標	税法が創出する国家と国民納税者との間の権利と義務の関係の全体像・構造と性質を学びます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
9	納税義務の成立・確定（1）		納税義務の成立～確定までの流れと法的問題点を学びます。
	この回の到達目標	租税構成要件の充足をもって納税義務は成立しますが、各税ごとにその態様を確認し、含まれる法的問題について分析します。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
10	納税義務の成立・確定（2）		納税義務の成立～確定までの流れと法的問題点を学びます
	この回の到達目標	成立した納税義務は、一定の手続き等を経る事等によって実際に行使しうる状態の租税債権となり（確定）しますが、各税ごとにその態様を確認し、含まれる法的問題について分析します。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
11	連帯納税義務制度		世界的にも珍しい連帯納税義務制度の内容と問題点を学び、考察します。
	この回の到達目標	我が国に特有の連帯納税義務制度は、ある納税者の納付されなかった租税をその納税者と一定の関係を持つ他の者に納付させるというもので、その理論的基礎からして不明な制度ですが、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
12	第二次納税義務制度		世界的にも珍しい第二次納税義務制度の内容と問題点を学び、考察します。
	この回の到達目標	我が国に特有の第二次納税義務制度は、ある納税者の納付されなかった租税をその納税者と一定の条件を満たす源泉徴収制度関係を持つ他の者に納付させるというもので、その理論的基礎からして不明な制度ですが、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	源泉徴収制度		世界的にも珍しい徹底した我が国の源泉徴収制度の仕組みと問題点を探ります。
	この回の到達目標	世界的にも珍しい徹底した我が国の源泉徴収制度を、給与所得者の源泉徴収・年末調整を例に分析し、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
14	税務争訟制度		我が国の税務争訟制度を、行政不服審査段階から訴訟段階までを一体として学び、その問題点を探ります。
	この回の到達目標	我が国の税務争訟は行政不服申立前置主義をとっており、しかも国営不服審判所という国税庁長官の指揮監督の下にある機関がその業務にあたっています。その後の訴訟においても、旧来の行政法理論に基づいた取消訴訟の形で行われることとなりますが、その特徴と問題点を学びます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	150分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	90分
15	期末試験及び振り返り		授業の習得度合をチェックし、評価の素点とします。授業期間中、学習の進捗状況を見て、期末に限らず何度か実施する場合があります。期末試験での失敗に備えての保険としても機能します。
	この回の到達目標	理解した内容を効率的に表現してください。	
	事前学修	事前にテキスト・ノートに目を通して事前に内容をよく纏めておいてください。	150分
	事後学修	自分の理解内容を見直すこと自体理解を深める一助となります。	90分

科目名	税法ⅡA(所得税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら所得税法及び個人住民税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて所得税及び個人住民税の基本的内容を説明できる				2		2					
②	学修者は、簡単なケースにおける所得税額及び個人住民税が具体的に計算できる				2		2					
③	学修者は、わが国の所得税制についての問題点を指摘することができる				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに所得税確定申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話(第2版)』	阿部 徳幸	中央経済社	2022年	教科書	必携
『現代税法入門塾第12版』	石村 耕治	清文社	2024年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第6版)』	中里 実	有斐閣	2023年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室） abe.noriyuki17〇nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	所得税法の学び方	この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の所得税箇所を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の所得税部分を読みかえし講義全体を確認する。	120分
2	所得概念	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの所得とはいったい何をいうのか、さらには実定税法のもと、具体的なその範囲と問題点を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「所得」とはいったいどのようなものをいうのか、またその問題点は何かを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得概念」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	所得税の納税義務者と課税の範囲	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの個人とはいったい何をいうのか、この個人の具体的内容を、さらには非課税の分類とその範囲を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における個人とは何をいうのか、さらには非課税とはどういうことかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の納税義務者と課税の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	収入金額と必要経費 1	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち収入金額について、その問題点とともに学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における収入金額とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「収入金額」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
5	収入金額と必要経費 2	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち必要経費について、その問題点とともに学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における必要経費とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「必要経費」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	所得分類 1	所得税法は、個人が得た経済的利得を 10 種類の所得として分類する。所得税法は、なぜこのように分類することを要求するのか。その意味を問題点とともに学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法は、なぜ 10 種類の所得分類を求めるのか、その理由を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所得分類 2		前回、所得分類の意義について学習した。ここではこの 10 種類の所得分類の具体的内容について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法が要求する 10 種類の所得分類の具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	給与所得課税		給与所得の場合、その税額計算は他の所得を明らかに異なる。ここではこの給与所得課税における具体的計算方法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、給与所得課税における税額の計算方法とその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	源泉徴収と年末調整		給与所得者の場合、課税関係は源泉徴収と年末調整で完了することになる。ここではこの源泉徴収と年末調整について、その問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、源泉徴収とは、年末調整とは何か、さらにはその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	譲渡所得課税		所得分類の一つに「譲渡所得」がある。その譲渡所得の税法的意義をさらに掘り下げて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、譲渡所得課税とは、何に担税力を求め課税するのか。その内容と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「譲渡所得」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	所得税の計算構造 1		具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	所得税の計算構造 2		前回に引き続き具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	人的控除		所得税法には、人的控除と呼ばれるものがある。この人的控除の本質的意義とその具体的内容をここでは学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人的控除の本質的意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「人的控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	物的控除と税額控除		所得税法には、人的控除のほかいくつもの所得控除がある。またいくつもの税額控除がある。これらの意義とその具体的内容をここでは学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、物的控除および税額控除の意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「物的控除および税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	授業内試験・まとめ		これまで学習してきた内容についての理解度を確認するため、基本的な内容についての試験を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前学期の授業内容についての内容を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書のこれまでの授業内容該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	確認試験問題と教科書をもとに、解答を再度、自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅡA(所得税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら所得税法及び個人住民税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめをレスポンドで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて所得税及び個人住民税の基本的内容を説明できる				2		2					
②	学修者は、簡単なケースにおける所得税額及び個人住民税が具体的に計算できる				2		2					
③	学修者は、わが国の所得税制についての問題点を指摘することができる				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての所得税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタンダード所得税法〔第4版〕	佐藤英明	弘文堂	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日の昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、所得税の基礎（所得の概念）。	本授業の説明をして、所得税の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	本授業の概略を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』1頁～27頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	所得税の基礎（課税単位・所得税額算出手順の概観）、所得分類（利子所得）。	所得税の基礎（課税単位・所得税額算出手順の概観）、所得分類（利子所得）を説明する。	
	この回の到達目標	所得税の基礎（課税単位・所得税額算出手順の概観）、所得分類（利子所得）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』28頁～68頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
3	所得分類（配当所得・譲渡所得その1）。	配当所得と譲渡所得の意義を説明する。	
	この回の到達目標	配当所得と譲渡所得の意義を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』69頁～103頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
4	所得分類（譲渡所得その2）。	譲渡所得の計算を説明する。	
	この回の到達目標	譲渡所得の計算を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』104頁～146頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
5	所得分類（譲渡所得その3・給与所得その1）。	譲渡所得の課税方法と給与所得の意義・範囲を説明する。	
	この回の到達目標	譲渡所得の課税方法と給与所得の意義・範囲を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』146頁～175頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
6	所得分類（給与所得その2・退職所得・不動産所得）。	給与所得の計算・課税方法と退職所得と不動産所得を説明する。	
	この回の到達目標	給与所得の計算・課税方法と退職所得と不動産所得を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』175頁～206頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所得分類（事業所得・雑所得）。	事業所得と雑所得の説明をする。	
	この回の到達目標	事業所得と雑所得を理解をする。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』207頁～249頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
8	所得計算の通則（所得の年度帰属・収入金額）。	所得計算の通則（所得の年度帰属・収入金額）を説明する。	
	この回の到達目標	所得計算の通則（所得の年度帰属・収入金額）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』251頁～277頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
9	所得計算の通則（必要経費・実質所得者課税の原則）。	所得計算の通則（必要経費・実質所得者課税の原則）を説明する。	
	この回の到達目標	所得計算の通則（必要経費・実質所得者課税の原則）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』278頁～306頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
10	所得計算の通則（所得の人的帰属と課税）、所得税額の計算（所得計算上の損失の扱い）。	所得計算の通則（所得の人的帰属と課税）、所得税額の計算（所得計算上の損失の扱い）を説明する。	
	この回の到達目標	所得計算の通則（所得の人的帰属と課税）、所得税額の計算（所得計算上の損失の扱い）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』307頁～346頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
11	所得税額の計算（所得控除・税率表の適用と税額計算の特則）。	所得税額の計算（所得控除・税率表の適用と税額計算の特則）を説明する。	
	この回の到達目標	所得税額の計算（所得控除・税率表の適用と税額計算の特則）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』347頁～378頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
12	所得税に関わる手続き（税額確定手続きの概観、納税者による税額確定・修正手続き、課税庁による調査）。	所得税に関わる手続き（税額確定手続きの概観、納税者による税額確定・修正手続き、課税庁による調査）を説明する。	
	この回の到達目標	所得税に関わる手続き（税額確定手続きの概観、納税者による税額確定・修正手続き、課税庁による調査）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』380頁～422頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	所得税に関わる手続き（課税庁の除斥期間、推計課税、理由附記義務、源泉徴収）。	所得税に関わる手続き（課税庁の除斥期間、推計課税、理由附記義務、源泉徴収）について説明する。	
	この回の到達目標	所得税に関わる手続き（課税庁の除斥期間、推計課税、理由附記義務、源泉徴収）を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』423頁～458頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
14	租税法総論の重要事項（租税法律主義）。	税法の基本原則である租税法律主義を説明する。	
	この回の到達目標	税法の基本原則である租税法律主義を理解する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』460頁～484頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
15	租税法総論の重要事項（租税公平主義、合法性の原則の制約要素、租税法の解釈と適用）。	租税公平主義、合法性原則、税法の解釈と税法の適用を説明する。	
	この回の到達目標	租税公平主義、合法性原則、税法の解釈と税法の適用を説明する。	
	事前学修	『スタンダード所得税法第4版』484頁～535頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

科目名	税法ⅡB(法人税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
授業は、企業課税法のうち、所得課税法である法人税法についての基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法人企業経営において税負担は重要事項である。この授業は、企業課税法の考察の一環として、法人税法の理論と計算構造を検討し、現代税制の課題を探ることを目的としている。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめをレスポで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて法人税の基本的内容を説明することができる。				3		3					
②	学修者は、日本の法人税制についての問題点を指摘することができる。				3		3					
③	学修者は、簡単なケースにおける法人税額が具体的に計算できる。				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての法人税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタンダード法人税法第3版	渡辺徹也	弘文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日のお昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、法人税法の基礎。	本授業の説明をして、法人税の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	本授業の概略を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』1頁～21頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	法人所得の意義、公正処理基準。	法人所得の意義を説明し、公正処理基準を説明する。	
	この回の到達目標	法人所得の意義を理解し、公正処理基準を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』21頁～41頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
3	権利確定基準、法人税の納税義務者および税率。	権利確定基準の説明をして、法人税の納税義務者および税率を説明する。	
	この回の到達目標	権利確定基準を理解して、法人税の納税義務者および税率を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』41頁～62頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
4	「益金」とは何か。	法人税法22条2項「益金」の構造を説明し、「無償取引」を説明する。	
	この回の到達目標	法人税法22条2項「益金」の構造を理解し、「無償取引」を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』63頁～92頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
5	「損金」とは何か。	法人税法22条3項「損金」の構造を説明する。	
	この回の到達目標	法人税法22条3項「損金」の構造を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』93頁～108頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
6	収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入。	法人税法上「別段の定め」のうち、収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入を説明する。	
	この回の到達目標	「別段の定め」のうち収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』109頁～139頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	役員給与の損金不算入。	法人税法34条「役員給与の損金不算入」の説明をする。	
	この回の到達目標	法人税法34条「役員給与の損金不算入」を理解をする。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』139頁～158頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
8	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」。	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」を説明する。	
	この回の到達目標	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』158頁～184頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
9	資本の部、現物出資、配当。	株主法人間取引のうち、法人税法における資本の部、現物出資、配当について説明する。	
	この回の到達目標	法人税法における資本の部、現物出資、配当を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』185頁～204頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
10	みなし配当、清算。	株主法人間取引のうち、みなし配当、清算について説明する。	
	この回の到達目標	みなし配当、清算について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』205頁～223頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
11	グループ法人税制概説。	グループ法人税制について説明する。	
	この回の到達目標	グループ法人税制について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』225頁～264頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
12	組織再編税制概説。	組織再編税制のうち、適格要件と非適格要件、三角合併を説明する。	
	この回の到達目標	組織再編税制の概要、適格要件と非適格要件、三角合併を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』265頁～291頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	組織再編税制の課税上の効果。	組織再編税制の課税上の効果について説明する。	
	この回の到達目標	組織再編税制の課税上の効果について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』291頁～311頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
14	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティ。	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティを説明する。	
	この回の到達目標	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティを理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』311頁～340頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
15	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税。	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税を説明する。	
	この回の到達目標	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』340頁～369頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

科目名	税法ⅡB(法人税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
授業は、企業課税法のうち、所得課税法である法人税法についての基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法人企業経営において税負担は重要事項である。この授業は、企業課税法の考察の一環として、法人税法の理論と計算構造を検討し、現代税制の課題を探ることを目的としている。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめをレスポで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて法人税の基本的内容を説明することができる。				3		3					
②	学修者は、日本の法人税制についての問題点を指摘することができる。				3		3					
③	学修者は、簡単なケースにおける法人税額が具体的に計算できる。				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての法人税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタンダード法人税法第3版	渡辺徹也	弘文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日のお昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、法人税法の基礎。	本授業の説明をして、法人税の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	本授業の概略を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』1頁～21頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	法人所得の意義、公正処理基準。	法人所得の意義を説明し、公正処理基準を説明する。	
	この回の到達目標	法人所得の意義を理解し、公正処理基準を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』21頁～41頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
3	権利確定基準、法人税の納税義務者および税率。	権利確定基準の説明をして、法人税の納税義務者および税率を説明する。	
	この回の到達目標	権利確定基準を理解して、法人税の納税義務者および税率を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』41頁～62頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
4	「益金」とは何か。	法人税法22条2項「益金」の構造を説明し、「無償取引」を説明する。	
	この回の到達目標	法人税法22条2項「益金」の構造を理解し、「無償取引」を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』63頁～92頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
5	「損金」とは何か。	法人税法22条3項「損金」の構造を説明する。	
	この回の到達目標	法人税法22条3項「損金」の構造を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』93頁～108頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
6	収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入。	法人税法上「別段の定め」のうち、収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入を説明する。	
	この回の到達目標	「別段の定め」のうち収益の額、受取配当・評価損・還付金の益金不算入を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』109頁～139頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	役員給与の損金不算入。	法人税法34条「役員給与の損金不算入」の説明をする。	
	この回の到達目標	法人税法34条「役員給与の損金不算入」を理解をする。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』139頁～158頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
8	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」。	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」を説明する。	
	この回の到達目標	寄附金の損金不算入、交際費の損金算入制限、その他「別段の定め」を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』158頁～184頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
9	資本の部、現物出資、配当。	株主法人間取引のうち、法人税法における資本の部、現物出資、配当について説明する。	
	この回の到達目標	法人税法における資本の部、現物出資、配当を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』185頁～204頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
10	みなし配当、清算。	株主法人間取引のうち、みなし配当、清算について説明する。	
	この回の到達目標	みなし配当、清算について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』205頁～223頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
11	グループ法人税制概説。	グループ法人税制について説明する。	
	この回の到達目標	グループ法人税制について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』225頁～264頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
12	組織再編税制概説。	組織再編税制のうち、適格要件と非適格要件、三角合併を説明する。	
	この回の到達目標	組織再編税制の概要、適格要件と非適格要件、三角合併を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』265頁～291頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	組織再編税制の課税上の効果。	組織再編税制の課税上の効果について説明する。	
	この回の到達目標	組織再編税制の課税上の効果について理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』291頁～311頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
14	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティ。	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティを説明する。	
	この回の到達目標	スピノフ税制、スクイーズアウト税制、事業体課税を受けるエンティティを理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』311頁～340頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
15	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税。	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税を説明する。	
	この回の到達目標	導管型のエンティティ、信託と公益法人課税を理解する。	
	事前学修	『スタンダード法人税法第3版』340頁～369頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

科目名	税法ⅢA(資産税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである相続税と贈与税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら相続税及び贈与税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて相続税・贈与税の基本的内容を説明する				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける相続税・贈与税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の資産税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに相続税・贈与税 税務申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話(第2版)』	阿部 徳幸	中央経済社	2022年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第12版)』	石村 耕治	清文社	2024年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第6版)』	中里 実 他	有斐閣	2023年	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室） abe.noriyuki17@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	資産税法の学び方		この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、資産税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。		
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読み、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読みかえし講義全体を確認する。		120分
2	相続税のあらまし		相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、その問題点を交えて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、さらにはその問題点を修得する。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税・贈与税のあらまし」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。		120分
3	相続税の納税義務者と納税義務の範囲		相続税ではその納税義務者の違いにより、課税財産の範囲が異なる。ここでは相続税における納税義務者の種類とその内容、さらにそれぞれの課税範囲について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における納税義務者とその課税範囲さらにはその問題点を修得する。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の納税義務者と納税義務の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。		120分
4	相続税の課税価格と税額計算 1		相続税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税財産と非課税財産」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。		120分
5	相続税の課税価格と税額計算 2		相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどのようなものかを修得する。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。		120分
6	相続税の課税価格と税額計算 3		わが国の相続税額計算における特徴的な相続税の総額の計算方法、さらには様々な税額控除の意義と内容について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の総額計算と税額控除の具体的内容を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の税額計算・税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	贈与税の課税価格 1	贈与税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。（2時間）	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
8	贈与税の課税価格 2	相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどうなっているのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
9	相続時精算課税制度	贈与税の課税方式に、暦年課税と相続時精算課税がある。ここではこの相続時精算課税制度の内容と、暦年課税の違いについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における暦年課税と相続時精算課税について修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続時精算課税制度」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
10	贈与税の税額計算	贈与税の税額計算について、暦年課税と相続時精算課税、それぞれについて学習するとともに、実際の税務申告書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税の税額計算を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の計算」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
11	延納・物納・連帯納付義務	相続税・贈与税は財産課税であることから、その税額の納付方法に様々な特例が用意されている。この相続税法特有の納付の特例について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、延納・物納・連帯納付義務とは何かを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「延納・物納・連帯納付義務」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
12	相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の特例	相続税・贈与税においては様々な政策から、納税猶予及び納税免除が定められている。これらの規定の存在意義とその内容について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の内容とその意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税猶予及び納税免除の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事業承継税制		近年、相続税制において様々な事業承継税制が創設されている。またその関心も強いものとなっている。ここでは新たな事業承継税制をその問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、事業承継税制の意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「事業承継税制」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
14	財産の評価		相続税・贈与税は財産課税である。財産課税においてその財産は金額で評価しなければならない。ここでは相続税法における各種財産の評価方法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、財産評価の内容とその具体的方法を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「財産評価」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
15	授業内試験・まとめ		これまで学習してきた内容についての理解度を確認するため、基本的な内容についての試験を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前学期の授業内容についての内容を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書のこれまでの授業内容該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	確認試験問題と教科書をもとに、解答を再度、自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅢA(資産税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである相続税と贈与税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら相続税及び贈与税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめをレスポで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて相続税・贈与税の基本的内容を説明する				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける相続税・贈与税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の資産税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての資産税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図解相続税法「超」入門令和6年度改正	税理士法人山田& パートナーズ/佐伯草一	税務経理協会	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日の昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、資産税制の全体構造。	本授業の説明をして、資産税制の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	資産税制の全体構造を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	民法における相続の基礎。	民法における相続の基礎を説明する。	
	この回の到達目標	民法における相続の基礎を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
3	相続税の納税義務者と課税財産の範囲。	相続税の納税義務者と課税財産の範囲を説明する。	
	この回の到達目標	相続税の納税義務者と課税財産の範囲を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
4	課税価格の合計額の計算。	課税価格の合計額を説明する。	
	この回の到達目標	課税価格の合計額を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
5	相続税の総額の計算。各人の納付税額の計算。	相続税の総額の計算および各人の納付税額の計算を説明する。	
	この回の到達目標	相続税の総額の計算および各人の納付税額の計算を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
6	財産評価その1（財産評価とは。土地の評価）。	財産評価その1（財産評価とは。土地の評価）を説明する。	
	この回の到達目標	財産評価その1（財産評価とは。土地の評価）を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財産評価その2（家屋の評価、株式の評価、その他の財産の評価）。	財産評価その2（家屋の評価、株式の評価、その他の財産の評価）の説明をする。	
	この回の到達目標	財産評価その2（家屋の評価、株式の評価、その他の財産の評価）を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
8	相続税の申告。	相続税の申告を説明する。	
	この回の到達目標	相続税の申告を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
9	相続税の納付と相続税の納税地。	相続税の納付と相続税の納税地を説明する。	
	この回の到達目標	相続税の納付と相続税の納税地を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
10	贈与税の計算と仕組みその1。	贈与、贈与に伴う課税関係、贈与による財産の取得時期、贈与税の対象となる財産とならない財産を説明する。	
	この回の到達目標	贈与、贈与に伴う課税関係、贈与による財産の取得時期、贈与税の対象となる財産とならない財産を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
11	贈与税の計算と仕組みその2。	贈与税の計算方法と贈与税の特例について説明する。	
	この回の到達目標	贈与税の計算方法と贈与税の特例を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
12	贈与税の申告と納税。	贈与税の申告と納税を説明する。	
	この回の到達目標	贈与税の申告と納税を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	相続時精算課税制度。	相続時精算課税制度を説明する。	
	この回の到達目標	相続時精算課税制度を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
14	事業承継税制。	事業承継税制を説明する。	
	この回の到達目標	事業承継税制を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分
15	資産税制のまとめ。	資産税制における課税のあり方を説明する。	
	この回の到達目標	資産税制における課税のあり方を理解する。	
	事前学修	図解相続税法「超」入門令和6年度改正の該当箇所を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。 レスポんに授業のまとめを書く。	120分

科目名	税法ⅢB(消費・諸税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この授業は、市民が日々の消費生活で負担している消費税を規定する消費税法を中心に消費・諸税法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
税金は、国・自治体の財源として重要である。現代社会の租税制度は、所得・資産および消費に対して組み合わせて課税するタックス・ミックス論という考え方に基づいている。この授業は、人々の消費活動に課税する消費税について考えることで、現代税制の特質を理解し、消費課税法の特質を考察することを目的とする。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめのレスポで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者は、この授業を通じて消費税の基本的内容を説明することができる。				3		3					
②	履修者は、日本における消費税制についての問題点を指摘することができる。				3		3					
③	履修者は、簡単なケースにおける消費税額を具体的に計算することができる。				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての法人税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタンダード消費税法	佐藤英明・西山由美	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日の昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、消費税の基礎。	本授業の説明をして、消費税の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	本授業の概略を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』1頁～16頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	消費税法の仕組み、日本における消費税の歴史と特色。	消費税法で規律される消費税の仕組みを説明し、日本における消費税法の歴史と特色を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法の仕組みを理解し、その歴史と特色を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』17頁～34頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
3	「益税」と「損税」、ビジネスと消費税。	「益金」と「損金」を説明し、ビジネスの多様化と消費税の関わりを説明する。	
	この回の到達目標	「益金」と「損金」の概念を理解し、現代ビジネスと消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』34頁～48頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
4	消費税の納税義務者、「国内」「事業」「対価」の要件。	消費税の納税義務者を説明し、「国内」「事業」「対価」の3要件を説明する。	
	この回の到達目標	消費税の納税義務者が誰であるのかを理解し、「国内」「事業」「対価」の3要件を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』49頁～72頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
5	「資産の譲渡等」の意義、非課税取引、課税標準と税率。	「資産の譲渡等」の意義を説明し、非課税取引および課税標準を説明する。	
	この回の到達目標	「資産の譲渡等」の意義を理解し、非課税取引および課税標準を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』72頁～90頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
6	税率、仕入税額控除。	税率と仕入税額控除を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法の税率は10％でないことを理解し、仕入税額控除を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』90頁～105頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	非課税取引と手続要件。	仕入税額控除と非課税取引の関係および仕入税額控除の手続要件を説明する。	
	この回の到達目標	仕入税額控除と非課税取引の関係および仕入税額控除の手続要件を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』106頁～123頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
8	消費税の申告・納付。	消費税法で規律される消費税の申告と納付を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法で規律される消費税の申告と納付を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』124頁～140頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
9	輸入取引と輸出取引。	国境を越える取引と消費税の関係を説明する。	
	この回の到達目標	国境を越える取引と消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』141頁～163頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
10	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税。	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税の関係を説明する。	
	この回の到達目標	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』164頁～180頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
11	中小事業者と消費税。	小規模事業者制度を説明する。	
	この回の到達目標	小規模事業者制度を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』181頁～199頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
12	簡易課税制度、軽減税率の概要。	簡易課税制度と軽減税率の概要を説明する。	
	この回の到達目標	簡易課税制度と軽減税率の概要を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』199頁～214頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	軽減税率の適用対象と消費者の担税力、適格請求書（インボイス）。		軽減税率の適用対象と消費者の担税力を説明し、適格請求書（インボイス）の概要を説明する。	
	この回の到達目標	軽減税率の適用対象と消費者の担税力を理解し、適格請求書（インボイス）の概要を理解する。		
	事前学修	『スタンダード消費税法』214頁～231頁を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分
14	インボイス制度の課題、消費税の脱税。		インボイス制度の課題と消費税の脱税を説明する。	
	この回の到達目標	インボイス制度の課題と消費税の脱税を理解する。		
	事前学修	『スタンダード消費税法』231頁～254頁を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分
15	消費税法以外の消費課税		地方消費税、個別消費税（酒税・たばこ税など）、関税、流通税という消費税法で規律されていない消費課税の概要を説明する。	
	この回の到達目標	地方消費税、個別消費税（酒税・たばこ税など）、関税、流通税という消費税法で規律されていない消費課税の概要を理解する。		
	事前学修	図書館で、消費税法以外の消費課税について言及している書籍を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分

科目名	税法ⅢB(消費・諸税法)	担当者	鳥飼 貴司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この授業は、市民が日々の消費生活で負担している消費税を規定する消費税法を中心に消費・諸税法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
税金は、国・自治体の財源として重要である。現代社会の租税制度は、所得・資産および消費に対して組み合わせて課税するタックス・ミックス論という考え方に基づいている。この授業は、人々の消費活動に課税する消費税について考えることで、現代税制の特質を理解し、消費課税法の特質を考察することを目的とする。

【履修条件】
租税法令掲載六法は特殊なものである。ネットでの法令データを活用できるPC・スマホ等ネット環境を利用することが望ましい。

【授業方法】
講義を行う。テキストのポイントを説明することで、聴講する学生が理解できるように努力したい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、簡単な授業まとめのレスポで提出してもらう。 良い内容には、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者は、この授業を通じて消費税の基本的内容を説明することができる。				3		3					
②	履修者は、日本における消費税制についての問題点を指摘することができる。				3		3					
③	履修者は、簡単なケースにおける消費税額を具体的に計算することができる。				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	上記到達目標①②③についての法人税制の基本が身についているかを、平常点により評価する。	50	40	10								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行うほか、レスポんやGoogleクラスルームを利用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタンダード消費税法	佐藤英明・西山由美	弘文堂	2022	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日～水曜日の昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る） 研究室（9号館5階9503研究室） torikai.takashi@nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、消費税の基礎。	本授業の説明をして、消費税の全体構造の説明をする。	
	この回の到達目標	本授業の概略を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』1頁～16頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
2	消費税法の仕組み、日本における消費税の歴史と特色。	消費税法で規律される消費税の仕組みを説明し、日本における消費税法の歴史と特色を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法の仕組みを理解し、その歴史と特色を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』17頁～34頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
3	「益税」と「損税」、ビジネスと消費税。	「益金」と「損金」を説明し、ビジネスの多様化と消費税の関わりを説明する。	
	この回の到達目標	「益金」と「損金」の概念を理解し、現代ビジネスと消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』34頁～48頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
4	消費税の納税義務者、「国内」「事業」「対価」の要件。	消費税の納税義務者を説明し、「国内」「事業」「対価」の3要件を説明する。	
	この回の到達目標	消費税の納税義務者が誰であるのかを理解し、「国内」「事業」「対価」の3要件を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』49頁～72頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
5	「資産の譲渡等」の意義、非課税取引、課税標準と税率。	「資産の譲渡等」の意義を説明し、非課税取引および課税標準を説明する。	
	この回の到達目標	「資産の譲渡等」の意義を理解し、非課税取引および課税標準を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』72頁～90頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
6	税率、仕入税額控除。	税率と仕入税額控除を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法の税率は10％でないことを理解し、仕入税額控除を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』90頁～105頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	非課税取引と手続要件。	仕入税額控除と非課税取引の関係および仕入税額控除の手続要件を説明する。	
	この回の到達目標	仕入税額控除と非課税取引の関係および仕入税額控除の手続要件を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』106頁～123頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
8	消費税の申告・納付。	消費税法で規律される消費税の申告と納付を説明する。	
	この回の到達目標	消費税法で規律される消費税の申告と納付を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』124頁～140頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
9	輸入取引と輸出取引。	国境を越える取引と消費税の関係を説明する。	
	この回の到達目標	国境を越える取引と消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』141頁～163頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
10	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税。	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税の関係を説明する。	
	この回の到達目標	国境を越えるデジタル役務の提供と消費税の関係を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』164頁～180頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
11	中小事業者と消費税。	小規模事業者制度を説明する。	
	この回の到達目標	小規模事業者制度を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』181頁～199頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分
12	簡易課税制度、軽減税率の概要。	簡易課税制度と軽減税率の概要を説明する。	
	この回の到達目標	簡易課税制度と軽減税率の概要を理解する。	
	事前学修	『スタンダード消費税法』199頁～214頁を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	軽減税率の適用対象と消費者の担税力、適格請求書（インボイス）。		軽減税率の適用対象と消費者の担税力を説明し、適格請求書（インボイス）の概要を説明する。	
	この回の到達目標	軽減税率の適用対象と消費者の担税力を理解し、適格請求書（インボイス）の概要を理解する。		
	事前学修	『スタンダード消費税法』214頁～231頁を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分
14	インボイス制度の課題、消費税の脱税。		インボイス制度の課題と消費税の脱税を説明する。	
	この回の到達目標	インボイス制度の課題と消費税の脱税を理解する。		
	事前学修	『スタンダード消費税法』231頁～254頁を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分
15	消費税法以外の消費課税		地方消費税、個別消費税（酒税・たばこ税など）、関税、流通税という消費税法で規律されていない消費課税の概要を説明する。	
	この回の到達目標	地方消費税、個別消費税（酒税・たばこ税など）、関税、流通税という消費税法で規律されていない消費課税の概要を理解する。		
	事前学修	図書館で、消費税法以外の消費課税について言及している書籍を読んでおく。		120分
	事後学修	講義を参考にして、事前学習の範囲を再読する。		120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的にパワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	20	30	10	10	10						80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識を評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	34	14	14	14						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代ヨーロッパ政治史（増補版）』	杉本稔編	北樹出版	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、水曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、西洋政治史を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、西洋政治史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	民主主義理論	R. ダールのポリアーキーという議論を参照することで、西ヨーロッパ諸国の市民革命を理論的に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポリアーキーを説明することができる。	
	事前学修	高校世界史の教科書等を用いて、イギリス革命やフランス革命の概略を整理しておく。	120分
	事後学修	ポリアーキーを基に、近代日本の歴史を考えてみる。	120分
3	イギリス革命の特質	ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を明らかにしていくとともに、なぜ両革命が起こったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を説明することができる。	
	事前学修	イギリス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	現在のイギリスにおける、女王と議会の関係性について検討してみる。	120分
4	名誉革命体制の意義と課題	絶対王政が打倒されたことによって確立された名誉革命体制とは、どのような体制であったのか、民主主義理論の中で、どのように位置づけられるかを検討していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉革命体制の意義と課題を説明することができる。	
	事前学修	日本やイギリスを例にして議院内閣制とは、どのような制度かをまとめておく。	120分
	事後学修	イギリス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分
5	フランス革命の展開	フランス革命が勃発した原因を明らかにしていくとともに、それぞれの時期に制定された憲法を比較していくことで、どのような階層が革命の担い手であったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、91年、93年、95年憲法の特質を説明することができる。	
	事前学修	フランス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	93年憲法と現代日本の憲法を比較をし、それぞれの特徴を整理してみてみる。	120分
6	フランス革命後の政治体制	ナポレオンが権力を獲得してからナポレオン3世が皇帝になるまで、幾度となく変化してきた政治体制に着目することで、フランス政治の特徴を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナポレオン以降の政治体制の変遷について説明することができる。	
	事前学修	帝政、王政、共和制の違いについて、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	フランス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ帝国の成立	19世紀中ごろまで、ドイツは国民国家としてのまとまりを欠いていた。ビスマルクに焦点を当てることで、ドイツ帝国が成立した過程を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ帝国成立の過程を説明することができる。	
	事前学修	神聖ローマ帝国の歴史を概観し、その流れをまとめておく。	180分
	事後学修	ビスマルク外交がドイツ帝国の成立および安定化に対して、どのような影響を及ぼしたのかを検討してみる。	60分
8	第一次世界大戦とヨーロッパ政治	第一次世界大戦を契機に、ヨーロッパが相対的に没落をしていった一方で、アメリカやロシアの台頭によって、世界のパワーバランスに変化が見られるようになったことを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、世界政治のパワーバランスの変化について説明することができる。	
	事前学修	第一次世界大戦の直接的引きがねとなったサラエボ事件の概略をまとめておく。	60分
	事後学修	アメリカの台頭、ロシアでの共産党政権樹立がヨーロッパ統合の萌芽となる「ヨーロッパ合衆国」構想へと繋がっていったことを調べてみる。	180分
9	イギリスにおける政党政治の構造的変化① 自由党の没落	名誉革命体制以降、イギリス政治の中核を担っていた保守党と自由党のうち、選挙権の拡大や自由主義の変容、第一次世界大戦といった要因によって、自由党が没落していったことを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由党没落の要因を説明することができる。	
	事前学修	イギリスにおける選挙権拡大の歴史をまとめておく。	120分
	事後学修	女性参政権運動の激化について調べ、日本と比較をしてみる。	120分
10	イギリスにおける政党政治の構造的変化② 労働党の台頭	自由党が没落していく中で、有意な存在となった労働党が、いかにして二大政党の一翼を担うようになっていったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、労働党台頭の要因を説明することができる。	
	事前学修	労働者と自由党の結びつきについてまとめておく。	150分
	事後学修	現在のイギリスの政党システムと当時の二大政党制との違いを検討してみる。	90分
11	第三共和制の成立と人民戦線内閣	権力の集中を図った帝政への反省から権力の分散を企図した共和制への移行によって、生み出された不安定な政治状況とファシズム勢力、それに対抗して結成された人民戦線内閣の意義について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人民戦線内閣の意義を説明することができる。	
	事前学修	スペインにおいて成立した人民戦線内閣の特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	現在のフランスの政治は、フランス政治史上どのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
12	ワイマール共和国の誕生	第一次世界大戦によって、崩壊した帝政ドイツ以後、当時、最も民主的な憲法を備えたワイマール共和国がどのように誕生し、どのような政党政治が展開されたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ワイマール共和国誕生の経緯を説明することができる。	
	事前学修	第一次世界大戦によって、なぜ4つの帝国が崩壊したのかを整理しておく。	150分
	事後学修	ワイマール憲法が先進的であり、強大な大統領権限を有していたことを、実際にワイマール憲法を見て確認してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヒトラーの台頭とワイマール共和国の崩壊	世界恐慌をきっかけに不安定化したワイマール共和国が、なぜヒトラーの台頭を招いたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ワイマール共和国崩壊の過程を説明することができる。	
	事前学修	ヴェルサイユ条約によって、ドイツに課された懲罰的な内容をまとめておく。	120分
	事後学修	全権委任法の成立がワイマール憲法に与えた影響を考えてみる。	120分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	120分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	詳細については授業の中で指示する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤が身についているかを定期試験によって評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則としてGCRを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治史	渡邊 容一郎	晃洋書房	2022年	教科書	必携
Next教科書シリーズ 政治学 [第3版]	渡邊 容一郎編	弘文堂	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	改革と自由主義	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、西洋政治史を倒叙法で学ぶ意味について説明し、イギリスで議院内閣制が成立した理由・アメリカで大統領制が成立した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、議院内閣制と大統領制が成立した背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを用意するとともに、教科書『西洋政治史』の序章および第5章の1を熟読し、西洋政治史の特質や政治学との関係などについて理解しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
2	革命と自由主義	フランス第二共和政が帝政となった理由・1848年と1830年が重要な意味をもつ理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1830年と1848年の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第5章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
3	ウィーン体制と保守反動の時代	ウィーン体制が重要な意味をもつ理由・ウィーン体制が保守反動的な理由・ウィーン体制が崩壊した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ウィーン体制の政治史的意義と問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第5章の3を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
4	ナポレオンとその時代	ナポレオン戦争が重要な意味をもつ理由・ナポレオンが皇帝に就任した理由・ナポレオンが政権を獲得できた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ナポレオン時代とボナパルティズムの政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第5章の4を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
5	フランス革命後期	総裁政府が極端な権力分立制を採用した理由・山岳派が独裁と恐怖政治に陥った理由・フランス国王が処刑された理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス革命の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第6章の1を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
6	フランス革命前期	立憲君主政に移行した理由・バスティーユ牢獄が襲撃された理由・三部会が開催された理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス革命勃発の背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第6章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アメリカ独立革命の基本的性格	アメリカ独立戦争が市民革命といえる理由・独立宣言が「人権宣言」といえる理由・植民地側が勝利できた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第6章の3を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
8	アメリカ独立革命の背景	独立戦争に至った理由・最初から戦争とならなかった理由・イギリスが重商主義政策を採った理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命勃発の背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第6章の4を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
9	イギリス革命における名誉革命の役割	名誉革命が重要な意味をもつ理由・名誉革命が成功した理由・名誉革命が起きた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、名誉革命の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第7章の1を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
10	イギリス革命における王政復古の意義	王政復古を通じて名誉革命の原因がつけられた理由・王政復古を通じて二大政党の前身が登場した理由・王政復古が議会の復古でもある理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、王政復古の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第7章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
11	クロムウェルの共和政とその問題点	クロムウェルの共和政が挫折した理由・クロムウェルが独裁者となった理由・ピューリタン革命を通じて共和政が成立した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、クロムウェル共和政の政治史的意義と問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第7章の3を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
12	イギリス革命におけるピューリタン革命の意義	ピューリタン革命が市民革命といえる理由・クロムウェルと独立派が主導権を握った理由・ピューリタン革命が起きた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ピューリタン革命勃発の背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第7章の4を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	絶対王政の基本的性格と意義	植民地を求めて英仏が競い合った理由・絶対王政が重要な意味をもつ理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、絶対王政の基本的性格と政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第8章の1を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
14	絶対王政の構造と成立の背景	英仏で絶対王政の性質が異なる理由・絶対王政が成立した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、絶対王政が成立した背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第8章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
15	宗教改革とルネサンス、新世界の発見と十字軍の遠征	宗教改革が重要な意味をもつ理由・宗教改革が絶対王政と関係がある理由・ルネサンスが重要な意味をもつ理由・新世界の発見と十字軍の遠征が重要な意味をもつ理由について考える。※受講人数次第では、この回が「授業内試験」(60分)に変更される場合もあります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、宗教改革・ルネサンス・新世界の発見・十字軍遠征の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第8章の3と4を熟読しておく。	180分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	60分

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現代欧米政治史を現在の世界情勢も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するうえで不可欠な基本的知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	詳細については授業の中で指示する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤が身についているかを定期試験によっ て評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則としてGCRを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治史	渡邊 容一郎	晃洋書房	2022年	教科書	必携
Next教科書シリーズ 政治学 [第3版]	渡邊 容一郎編	弘文堂	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ウィズ・コロナとポスト・グローバル化の現在	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、西洋政治史を倒叙法で学ぶ意味について説明し、21世紀現在の政治経済的特徴・ポピュリズムの問題点について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、政治と経済の関連性・ポピュリズムが蔓延した背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを用意するとともに、教科書『西洋政治史』の序章および第1章の1を熟読し、西洋政治史の特質や政治学との関係などについて理解しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
2	グローバリゼーション疲れと国民国家の再認識	トランプが大統領選挙に勝利できた理由・イギリスがEUを離脱した理由・スコットランドが連合王国残留を選択した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グローバリゼーションの問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第1章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
3	拡大するEUと変容する米ロ	EUが東方拡大した理由・「9.11」が政治史上の転換点となる理由・プーチンが権力を獲得できた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、EU拡大や米ロ変容の背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第1章の3を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
4	グローバリゼーションへの反応と冷戦の終結	この時期に「リベラル」勢力が支持されるようになった理由・ソ連が崩壊した理由・東西ドイツが統一できた理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グローバリゼーションの政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第1章の4を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
5	冷戦終結の再確認とヨーロッパ統合の再深化	冷戦が終結した理由・ヨーロッパ統合が再深化できた理由・この時期に「保守」勢力が支持されるようになった理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦終結とヨーロッパ統合の政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第2章の1を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
6	相互依存時代の政治経済的変容	この時期に冷戦構造が変化していった理由・アメリカが相対的に弱体化した理由・福祉国家が見直されるようになった理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、この時期に政治経済的な変容が生じた背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第2章の2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	繁栄と模索		この時期にイギリスが現代化を追求した理由・犬猿の仲だったフランスと西ドイツが仲良くなれた理由・イギリスがヨーロッパ統合の仲間入りしようとした理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、この時期にヨーロッパ主要国が変化を模索した背景と要因について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』第2章の3を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分
8	冷戦、福祉国家、ヨーロッパ統合時代の本格的幕開け		ヨーロッパ統合が1950年代に本格スタートした理由・この時期の保守党が労働党の政策を根本から否定しなかった理由・冷戦が始まった理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦・福祉国家・ヨーロッパ統合が本格的に展開されるようになった背景と要因について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』2章の4を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分
9	ナチス側から見た第二次世界大戦とその原因		ドイツが戦争に邁進していった理由・第二次世界大戦を阻止できなかった理由・ヒトラーが東方を目指した理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦勃発の背景と要因について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』第3章の1を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分
10	全体主義台頭の政治経済的要因		ナチ党が政権を獲得できた理由・ナチズムが大衆に支持された理由・イギリスとフランスで全体主義が成立しなかった理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全体主義の問題点や、全体主義が台頭した背景と要因について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』第3章の2を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分
11	福祉国家と民主化をもたらした世界恐慌と第一次世界大戦		世界恐慌がアメリカから始まった理由・第一次世界大戦によって民主化が進展した理由・ヴェルサイユ体制がナチズムを阻止できなかった理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、世界恐慌と第一次世界大戦の政治史的意義について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』第3章の3を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分
12	ドイツ革命、ロシア革命、第一次世界大戦		ドイツ11月革命がロシア革命のようにならなかった理由・ロシア革命が全体主義体制をもたらした理由・第一次世界大戦が第二次世界大戦以上に重要な意味をもつ理由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ革命やロシア革命の問題点と第一次世界大戦の政治史的意義について説明することができる。		
	事前学修	教科書『西洋政治史』第3章の4を熟読しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	帝国主義の展開、ナショナリズムと大衆社会		帝国主義が現代の幕開けとなる理由・西欧諸国がいち早く帝国主義を展開できた理由・ナショナリズムが戦争の原因となる理由・大衆と大衆社会(大衆デモクラシー)が形成された背景と要因について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、帝国主義・ナショナリズム・大衆・大衆社会(大衆デモクラシー)の政治史的意義や、これらが形成された背景と要因について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第4章の1と2を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
14	フランス第三共和政の今日的意義と教訓		フランス第三共和政が長続きした理由・フランス第三共和政が反対勢力に揺さぶられ続けた理由・「パリ・コミューン」が失敗に終わった理由について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス第三共和政とパリ・コミューンの政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第4章の3を熟読しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	120分
15	アメリカ合衆国の発展と帝政ドイツの誕生		南北戦争後のアメリカ合衆国が発展した理由・帝政ドイツが外見的立憲政治とよばれる理由・普仏戦争が勃発した理由について考える。※受講人数次第では、この回が「授業内試験」(60分)に変更される場合もあります。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ合衆国統一や帝政ドイツ誕生の背景と要因、それらの政治史的意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書『西洋政治史』第4章の4を熟読しておく。	180分
	事後学修	教科書・講義ノートの内容を確認して、要点を整理しておく。	60分

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本授業は原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得しているかを評価する。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な知識・能力が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の授業の冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	西洋法制史とは何か	この講義では、法学部において西洋法制史という科目が果たす役割を、実際の歴史的事例に即して概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋法制史という分野の意義を説明することができる。	
	事前学修	西洋法制史とはどのような分野であるのかを調べ、自分なりに定義する。	120分
	事後学修	西洋法制史という分野が法学部において果たす役割をまとめ、他の科目群と関連付ける。	120分
2	物の分類と所有権	物の分類は、自然科学からみれば物質の分類の問題であるけれども、社会科学からみればそれは人間生活におけるフレーム設定の問題でもある。この講義では、法典編纂の基礎としての物の分類方法と、その応用としての所有制度について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物を分類する意義を理解し、その応用として所有制度を歴史的に考察することができる。	
	事前学修	日本法における物の分類を調べて整理する。	120分
	事後学修	物の分類はなぜ法典編纂にとって重要であるかを理解し、その分類が実際のルール作りにどのような影響を与えるかを考察する。	120分
3	占有	近世において、占有は混乱した理解のされた方をしていた。このことは、後にサヴィニーが『占有法論』において指摘したことである。この講義では、近世における占有の理解とその結果発生した諸問題について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における占有理解の問題点から、現代法がどのような改善を加えているかを歴史的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	現在の日本の民法学で説明される占有概念を調べて整理する。	120分
	事後学修	近世における占有概念がどのような問題を抱えていたかを整理し、現在の日本の民法典においてどの程度まで解決されているのかを考察する。	120分
4	役権	現行の日本民法典において、ローマ法の「役権（servitus）」に該当するものとして、地役権が挙げられる。しかし、近世においては、各国の諸事情に合わせて、さまざまな役権が新たに考案されていた。この講義では、役権と法文化との関係について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法上の伝統的な制度である役権を理解し、これを現代法と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典の地役権について復習する。	120分
	事後学修	近世においてローマ法の役権がどのように活用され、その時代ごとに合わせられていたのかを整理する。	120分
5	取得時効	取得時効の意義については、現在の民法学においてもさまざまな見解がある。この講義では、ローマ法の「使用取得（usucapio）」などから派生した取得時効制度について、それが近世においてどのように発展・継承させられたのかを歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取得時効制度の歴史的発展を理解し、現代法の起源を把握して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における取得時効制度を復習する。	120分
	事後学修	近世に発展した取得時効制度を整理し、日本の民法典との異同に注意しつつ、取得時効制度の意義について再考する。	120分
6	担保	担保制度は金融システムの発達を前提とするものであり、近世以降のグローバルな経済活動は、その整備を要請していた。しかし、法学サイドからその需要に対する理解が十分にあったとは言えないものがある。この講義では、質制度をめぐる近世ドイツでの議論を中心に歴史的に概観し、当時の法整備の困難さについて再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保制度の発展史を理解し、現代の担保制度がどのような点でその問題を解決しているのかを把握して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における担保制度について復習する。	120分
	事後学修	近世ドイツにおける質制度が、譲渡担保と質との混合形態として認識されていたことの意義をまとめ、現在の日本法においてどのように分離されているかを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	物の自然な取得		人が物を取得するにあたっては、売買などの契約を通じてこれを行なうこともある一方、川の作用などによる自然現象によってこれが生じることもある。この講義では、近世において「自然な取得（acquisitio naturalis）」と呼ばれていた領域を紹介し、現代法と比較する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約などの取引によらない所有権取得の制度史を理解し、現代の民法典においてどのように活用されているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典において、取引によらずに所有権を取得する制度にはどのようなものがあるかを調べ、整理する。		120分
	事後学修	物の自然な取得と呼ばれた制度が、日本の民法典のどこに位置付けられているかをまとめる。		120分
8	契約の分類		法典編纂を行なうにあたって、社会で実践されているすべての契約類型を網羅的に規律することはできない。そこで、民法典において規律する典型契約とそれ以外のものを分ける作業が必要になる。この講義では、近世においてどのような契約が典型的とされたのかを概観し、そのカタログの意義について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの歴史的な意義を理解し、その整理がどのような基準にもとづいているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における典型契約を調べて整理する。		120分
	事後学修	近世において提示されたさまざまな契約カタログを整理し、それらが日本の民法典における契約カタログとどのように異なるのかをまとめる。		120分
9	給付の均衡		私たちが日常的に取引をするとき、そこには適正価格があることを無意識に前提してしまう。実際、適正価格の概念は法制度のなかでも重要な役割を果たしている。しかし、あたかも物に客観的に価値が付着しているかのように考えると、ある商品に対しては一定の金額を支払うべきだ、という給付の均衡の要請が出てくる。この講義では、給付の均衡が実際の経済システムでは虚構に近いことを踏まえつつ、法典編纂における価格規律の問題を歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格形成が経済システムに依拠していることと、価格規制を行なう法制度との歴史的関係を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本において、取引価格を規制する法律にはどのようなものがあるかを調べる。		120分
	事後学修	取引価格を規制する法律の役割を整理し、それが経済システムが前提とする枠組みとどの程度まで整合的であるかを考察する。		120分
10	過失		過失は、不法行為における難問のひとつであり、近世においてもその理解の困難さは意識されていた。この講義では、法典編纂の機運の中で、過失概念が規律しやすいように単純化される過程を近世ドイツを中心に歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一元的な過失理解が、法典編纂との関係でどのように進められたのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	現在の民法学における過失の概念を復習する。		120分
	事後学修	段階的に理解されていた主観的な過失の定義が、違法性という基準に一元化されていくことの歴史的意義を再考する。		120分
11	無償契約		契約の大きな分類方法として、無償・有償契約がある。この分類は有益であるにもかかわらず、ローマ法には存在していなかった。さらに、近世に入って類似の分類が登場したときも、現在とは異なる理解をされていた。この講義では、無償・有償契約という分類の誕生の歴史的過程を概観し、その前半部として、無償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような無償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	無償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分
12	有償契約		この講義では、前回のテーマの後半部として、有償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような有償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	有償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	家族制度		いわゆる家父長制が解体される前提として、親権概念の変化を挙げることができる。この講義では、親の権利から子に対する義務の履行へという親権概念の転換を概観しつつ、この啓蒙的発想がどの程度まで近世社会において見出されうるのかを歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子の権利という発想の歴史的起源として、ドイツ啓蒙期における親権概念を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法学において親権がどのように位置付けられているかを調べて整理する。		120分
	事後学修	親の権利から子に対する義務へ、という流れが、現代の国際的潮流とどの程度まで親和的であり、どこから異なっているのかを考察する。		120分
14	相続制度		相続がなぜ認められるのか、また、誰が相続するのか、という問題は、近世においてさまざまな角度から考察されてきた。この講義では、ローマ法上の遺言相続の原則から、無遺言相続の原則への転換期にあたる近世ドイツの諸制度を歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高齢社会における相続制度という問題と絡めて、その歴史的発展を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における相続制度を調べて整理する。		120分
	事後学修	相続制度を根拠づけるさまざまな理由について整理し、それらについて批判的な検討を加える。		120分
15	西洋法の歴史の有機的総括		第1回からの講義をまとめ、近世における西洋法の歴史的発展と現代との繋がりを有機的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における西洋法の歴史的発展と現代との繋がりを有機的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。		120分
	事後学修	近世における諸制度の歴史的発展と現代の法制度との関係を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。		120分

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得しているかを評価する。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な知識・能力が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の授業の冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	西洋法制史とは何か		この講義では、法学部において西洋法制史という科目が果たす役割を、実際の歴史的事例に即して概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋法制史という分野の意義を説明することができる。		
	事前学修	西洋法制史とはどのような分野であるのかを調べ、自分なりに定義する。		120分
	事後学修	西洋法制史という分野が法学部において果たす役割をまとめ、他の科目群と関連付ける。		120分
2	物の分類と所有権		物の分類は、自然科学からみれば物質の分類の問題であるけれども、社会科学からみればそれは人間生活におけるフレーム設定の問題でもある。この講義では、法典編纂の基礎としての物の分類方法と、その応用としての所有制度について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物を分類する意義を理解し、その応用として所有制度を歴史的に考察することができる。		
	事前学修	日本法における物の分類を調べて整理する。		120分
	事後学修	物の分類はなぜ法典編纂にとって重要であるかを理解し、その分類が実際のルール作りにどのような影響を与えるかを考察する。		120分
3	占有		近世において、占有は混乱した理解のされた方をしていた。このことは、後にサヴィニーが『占有法論』において指摘したことである。この講義では、近世における占有の理解とその結果発生した諸問題について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における占有理解の問題点から、現代法がどのような改善を加えているかを歴史的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	現在の日本の民法学で説明される占有概念を調べて整理する。		120分
	事後学修	近世における占有概念がどのような問題を抱えていたかを整理し、現在の日本の民法典においてどの程度まで解決されているのかを考察する。		120分
4	役権		現行の日本民法典において、ローマ法の「役権（servitus）」に該当するものとして、地役権が挙げられる。しかし、近世においては、各国の諸事情に合わせて、さまざまな役権が新たに考案されていた。この講義では、役権と法文化との関係について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法上の伝統的な制度である役権を理解し、これを現代法と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典の地役権について復習する。		120分
	事後学修	近世においてローマ法の役権がどのように活用され、その時代ごとに合わせられていたのかを整理する。		120分
5	取得時効		取得時効の意義については、現在の民法学においてもさまざまな見解がある。この講義では、ローマ法の「使用取得（usucapio）」などから派生した取得時効制度について、それが近世においてどのように発展・継承させられたのかを歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取得時効制度の歴史的発展を理解し、現代法の起源を把握して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における取得時効制度を復習する。		120分
	事後学修	近世に発展した取得時効制度を整理し、日本の民法典との異同に注意しつつ、取得時効制度の意義について再考する。		120分
6	担保		担保制度は金融システムの発達を前提とするものであり、近世以降のグローバルな経済活動は、その整備を要請していた。しかし、法学サイドからその需要に対する理解が十分にあったとは言えないものがある。この講義では、質制度をめぐる近世ドイツでの議論を中心に歴史的に概観し、当時の法整備の困難さについて再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保制度の発展史を理解し、現代の担保制度がどのような点でその問題を解決しているのかを把握して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における担保制度について復習する。		120分
	事後学修	近世ドイツにおける質制度が、譲渡担保と質との混合形態として認識されていたことの意義をまとめ、現在の日本法においてどのように分離されているかを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	物の自然な取得		人が物を取得するにあたっては、売買などの契約を通じてこれを行なうこともある一方、川の作用などによる自然現象によってこれが生じることもある。この講義では、近世において「自然な取得（acquisitio naturalis）」と呼ばれていた領域を紹介し、現代法と比較する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約などの取引によらない所有権取得の制度史を理解し、現代の民法典においてどのように活用されているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典において、取引によらずに所有権を取得する制度にはどのようなものがあるかを調べ、整理する。		120分
	事後学修	物の自然な取得と呼ばれた制度が、日本の民法典のどこに位置付けられているかをまとめる。		120分
8	契約の分類		法典編纂を行なうにあたって、社会で実践されているすべての契約類型を網羅的に規律することはできない。そこで、民法典において規律する典型契約とそれ以外のものを分ける作業が必要になる。この講義では、近世においてどのような契約が典型的とされたのかを概観し、そのカタログの意義について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの歴史的な意義を理解し、その整理がどのような基準にもとづいているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における典型契約を調べて整理する。		120分
	事後学修	近世において提示されたさまざまな契約カタログを整理し、それらが日本の民法典における契約カタログとどのように異なるのかをまとめる。		120分
9	給付の均衡		私たちが日常的に取引をするとき、そこには適正価格があることを無意識に前提してしまう。実際、適正価格の概念は法制度のなかでも重要な役割を果たしている。しかし、あたかも物に客観的に価値が付着しているかのように考えると、ある商品に対しては一定の金額を支払うべきだ、という給付の均衡の要請が出てくる。この講義では、給付の均衡が実際の経済システムでは虚構に近いことを踏まえつつ、法典編纂における価格規律の問題を歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格形成が経済システムに依拠していることと、価格規制を行なう法制度との歴史的関係を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本において、取引価格を規制する法律にはどのようなものがあるかを調べる。		120分
	事後学修	取引価格を規制する法律の役割を整理し、それが経済システムが前提とする枠組みとどの程度まで整合的であるかを考察する。		120分
10	過失		過失は、不法行為における難問のひとつであり、近世においてもその理解の困難さは意識されていた。この講義では、法典編纂の機運の中で、過失概念が規律しやすいように単純化される過程を近世ドイツを中心に歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一元的な過失理解が、法典編纂との関係でどのように進められたのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	現在の民法学における過失の概念を復習する。		120分
	事後学修	段階的に理解されていた主観的な過失の定義が、違法性という基準に一元化されていくことの歴史的意義を再考する。		120分
11	無償契約		契約の大きな分類方法として、無償・有償契約がある。この分類は有益であるにもかかわらず、ローマ法には存在していなかった。さらに、近世に入って類似の分類が登場したときも、現在とは異なる理解をされていた。この講義では、無償・有償契約という分類の誕生の歴史的過程を概観し、その前半部として、無償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような無償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	無償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分
12	有償契約		この講義では、前回のテーマの後半部として、有償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような有償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	有償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	家族制度		いわゆる家父長制が解体される前提として、親権概念の変化を挙げることができる。この講義では、親の権利から子に対する義務の履行へという親権概念の転換を概観しつつ、この啓蒙的発想がどの程度まで近世社会において見出されうるのかを歴史的に考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子の権利という発想の歴史的起源として、ドイツ啓蒙期における親権概念を把握し、説明することができる。	
	事前学修	日本の民法学において親権がどのように位置付けられているかを調べて整理する。	120分
	事後学修	親の権利から子に対する義務へ、という流れが、現代の国際的潮流とどの程度まで親和的であり、どこから異なっているのかを考察する。	120分
14	相続制度		相続がなぜ認められるのか、また、誰が相続するのか、という問題は、近世においてさまざまな角度から考察されてきた。この講義では、ローマ法上の遺言相続の原則から、無遺言相続の原則への転換期にあたる近世ドイツの諸制度を歴史的に概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高齢社会における相続制度という問題と絡めて、その歴史的発展を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における相続制度を調べて整理する。	120分
	事後学修	相続制度を根拠づけるさまざまな理由について整理し、それらについて批判的な検討を加える。	120分
15	西洋法の歴史の有機的総括		第1回からの講義をまとめ、近世における西洋法の歴史的発展と現代との繋がりを有機的に考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における西洋法の歴史的発展と現代との繋がりを有機的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	120分
	事後学修	近世における諸制度の歴史的発展と現代の法制度との関係を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	120分

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本授業は原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な知識・能力が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の授業の冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	契約カタログ		西洋法制史IIでは、西洋法制史Iで扱った近世における各種法制度と法典編纂運動との関係を、より理論的なレベルから考察を加える。まず、契約カタログに関わる諸理論の変遷史の概観を通じて、そもそも契約カタログにはどのような機能があるのかを歴史的に明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの意義を、単に実定法上のそれとしてではなく、法典編纂に必要不可欠な規律の方法論として理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における契約カタログによって規律されていない契約を調べる。	120分
	事後学修	契約カタログがない民法典は可能か、また、可能であるとすればどのような形態として可能かを考察する。	120分
2	貨幣と契約理論		契約において、一方の当事者が金銭によって給付を行なう場合、そこには貨幣が介在している。貨幣と何であるかは、近世においても多大な関心を払われていた。この講義では、当時の貨幣論のいくつかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約における貨幣の役割を再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本銀行券とは何であるかを調べる。	120分
	事後学修	近世における貨幣の理解と現代における貨幣の理解との異同を整理してまとめる。	120分
3	契約におけるリスク		契約には、必ずリスクが伴う。それは、債務者の不履行であったり、目的物の予期せぬ滅失によって生じる。この講義では、近世におけるリスクの概念を概観し、当時の人々がどのような対策を講じていたのかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約におけるリスク概念の基礎を理解し、説明することができる。	
	事前学修	契約におけるリスクにはどのようなものがあるかを整理する。	120分
	事後学修	近世におけるリスク概念を整理し、現代におけるリスク対応との異同をまとめる。	120分
4	法的判断と推論		訴訟において、裁判官は法的推論を行なう。それは論理学に服さなければならないという主張は古くから唱えられてきたものの、法学者は法的推論といわゆる論理との差異に着目し続けてきた。この講義では、18世紀ドイツにおける論理主義の台頭と法学者サイドの反論を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法的三段論法といわゆる論理との異同について理解し、説明することができる。	
	事前学修	法的三段論法について調べて整理する。	120分
	事後学修	近世における論理主義と法学者とのあいだの議論を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
5	蓋然主義		ある複数の選択肢が与えられたとき、最も合理的なものを選択することが要請されていると考えてしまいがちである。しかし、歴史的にみると、最も合理的なものを選択せよ、という要請は自明でないだけでなく、強い反論に晒されていた。この講義では、その反論のひとつである蓋然主義を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中世神学において発達した蓋然主義を理解し、その現代的意義を考察し、説明することができる。	
	事前学修	ふたつの選択肢が与えられたときに、両方に誤りがみつからない場合の行動指針として、どのようなものが考えられるかを考察する。	120分
	事後学修	蓋然主義の内容を整理した上で、その現代的意義を考察する。	120分
6	証拠論		訴訟においては、証明が求められる。証明を行なうためには、何らかの証拠を提示する必要がある。この講義では、ある事実を証明するとはどういうことであるのか、また、そのために必要な証拠としてどのようなものが考えられていたのかを歴史的に概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴訟における証明と証拠の意義について再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本の法廷における証拠には、どのような種類があるかを調べる。	120分
	事後学修	歴史的に証拠と考えられてきたものを整理し、日本の法廷で扱われている証拠との異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所有と幾何学		法の制度史、とりわけ領海概念に対しては、幾何学とその応用（測量）が重要な役割を果たしてきた。この講義では、17世紀に生じた領海に関する論争を出発点とし、その現代的意義について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と幾何学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	私たちが所有において視覚的情報に頼っているケースとしては、どのようなものがあるかを考える。	120分
	事後学修	所有と幾何学との歴史的関係を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
8	所有と力学		幾何学的な世界観とは別に、近世においては力学的な世界観から法制度を構築しようとする試みもあった。これは、当時の力学をどのように理解するかという科学史的な問題とも関連している。この講義では、単なる幾何学的な分割は所有の本質ではないとし、主体と客体との作用関係を所有の本質と見る近世の考え方を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と力学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	近世における力学の発展史を予習する。	120分
	事後学修	近世における力学の発展と、物体に対する作用としての所有という考え方を整理し、近代法にどのような影響があったかをまとめる。	120分
9	無体財産		無体財産は、幾何学的規制に服することが困難な財産であり、その規律は視覚情報とは別の規準によらなければならない。この講義では、18世紀における著作権の萌芽的議論を概観し、従来の所有と異なる無体財産に対する法制度の出発点を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無体財産に関する歴史的起源を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代における無体財産にはどのようなものがあるかを調べて整理する。	120分
	事後学修	近世において考えられていた無体財産の規律と、現代におけるそれとを比較してまとめる。	120分
10	人格の価値		人格に価値があることの発露として、名誉毀損に対する損害賠償請求を上げることができる。では、人格に価値がある、ということは、そもそもどのような事態を指しているのだろうか。この講義では、名誉毀損はありえない、という近世の一学説から出発して、人格の価値の本質を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人格の価値に関して歴史的な学説を踏まえた上で自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	名誉毀損に関する日本の民法典の規律を整理する。	120分
	事後学修	名誉毀損に関する歴史的な学説を整理し、日本の民法学に対してどのような示唆を加うるかを考察する。	120分
11	時効の意義と役割		時効制度はローマ法上の諸制度にヒントを得たものであるけれども、より抽象的な次元では、権利の永続性の問題へと帰着させることができる。すなわち、ある権利に一定の持続性が認められる根拠は何であり、その持続期間は何によって規定されているのか、という問題である。この講義では、所有権および債権に永続性が付与される可能性について歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の権利の存続期間というものを設定できる根拠について自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	所有権に消滅時効が存在しないとされている理由について考える。	120分
	事後学修	所有権に消滅時効があるとすれば、どのような場合は、あるいは、消滅時効が存在しない債権というものは考えられるのかについて整理し、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	条文の解釈とは何か		条文を解釈する、ということは、古くから法を巡って行なわれてきた作業である。しかし、歴史的にみると、近世までは、条文を解釈するのではなく、衡平などの上位規範によって条文を不適用にする、という発想もまた存在した。この講義では、ある条文を制限解釈することと、その条文を特定の事案に適用しないということとの間に何らかの差異がありうるかを中心に歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条文の解釈という作業に関する近世の変遷を理解し、説明することができる。	
	事前学修	条文の解釈にはどのような種類があるかを整理する。	120分
	事後学修	条文を解釈することと、ある事案に対して特別なルールを設定して処理することとの間にはどのような違いがあるのかを考察し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法典の複雑性について	法典は、規律を精緻にすればするほどよい、というわけではない。このことは、近世ドイツにおいては、法典編纂が実現するまえから意識されていた。この講義では、法典にとって必要不可欠な規範の量というものがありうるのか否かについて、歴史的観点から踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法典に収録する規範の量を判定する基準の有無および内容を、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	六法のそれぞれの法典にはどのような条文がどのくらいの量の条文があるのかを調べる。	120分
	事後学修	法典に収録する規範の量を考えるときの基準を整理し、具体的な法典がその基準からどのように評価されるかを考察する。	120分
14	規範の理解可能性について	人間の知的能力には限界がある。歴史的には、この知的能力の限界をかなり低く見積もる学派が存在し続けてきた。この講義では、法律というものが実際に人間にとって理解可能なものであるのか、という観点から、近世の議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規範の解釈可能性と人間という存在との関係について、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	通常人にとって、法律は理解可能なものであるか否かを考えて、肯定的な意見と否定的な意見とを考えて整理する。	120分
	事後学修	法律の理解可能性についての学説を整理し、現代の法学に対してどのような示唆を加えることができるかを考察する。	120分
15	近世の法制理論に関する有機的総括	第1回からの講義をまとめ、近世における法制度を巡る理論の相互関連を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における法制度を巡る議論の相互関連を有機的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	120分
	事後学修	近世における法制度を巡る議論の相互関連を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	120分

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本年度の学部の方針に従い、原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な知識・能力が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	契約カタログ		西洋法制史IIでは、西洋法制史Iで扱った近世における各種法制度と法典編纂運動との関係を、より理論的なレベルから考察を加える。まず、契約カタログに関わる諸理論の変遷史の概観を通じて、そもそも契約カタログにはどのような機能があるのかを歴史的に明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの意義を、単に実定法上のそれとしてではなく、法典編纂に必要不可欠な規律の方法論として理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における契約カタログによって規律されていない契約を調べる。	120分
	事後学修	契約カタログがない民法典は可能か、また、可能であるとすればどのような形態として可能かを考察する。	120分
2	貨幣と契約理論		契約において、一方の当事者が金銭によって給付を行なう場合、そこには貨幣が介在している。貨幣と何であるかは、近世においても多大な関心を払われていた。この講義では、当時の貨幣論のいくつかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約における貨幣の役割を再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本銀行券とは何であるかを調べる。	120分
	事後学修	近世における貨幣の理解と現代における貨幣の理解との異同を整理してまとめる。	120分
3	契約におけるリスク		契約には、必ずリスクが伴う。それは、債務者の不履行であったり、目的物の予期せぬ滅失によって生じる。この講義では、近世におけるリスクの概念を概観し、当時の人々がどのような対策を講じていたのかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約におけるリスク概念の基礎を理解し、説明することができる。	
	事前学修	契約におけるリスクにはどのようなものがあるかを整理する。	120分
	事後学修	近世におけるリスク概念を整理し、現代におけるリスク対応との異同をまとめる。	120分
4	法的判断と推論		訴訟において、裁判官は法的推論を行なう。それは論理学に服さなければならないという主張は古くから唱えられてきたものの、法学者は法的推論といわゆる論理との差異に着目し続けてきた。この講義では、18世紀ドイツにおける論理主義の台頭と法学者サイドの反論を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法的三段論法といわゆる論理との異同について理解し、説明することができる。	
	事前学修	法的三段論法について調べて整理する。	120分
	事後学修	近世における論理主義と法学者とのあいだの議論を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
5	蓋然主義		ある複数の選択肢が与えられたとき、最も合理的なものを選択することが要請されていると考えてしまいがちである。しかし、歴史的にみると、最も合理的なものを選択せよ、という要請は自明でないだけでなく、強い反論に晒されていた。この講義では、その反論のひとつである蓋然主義を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中世神学において発達した蓋然主義を理解し、その現代的意義を考察し、説明することができる。	
	事前学修	ふたつの選択肢が与えられたときに、両方に誤りがみつからない場合の行動指針として、どのようなものが考えられるかを考察する。	120分
	事後学修	蓋然主義の内容を整理した上で、その現代的意義を考察する。	120分
6	証拠論		訴訟においては、証明が求められる。証明を行なうためには、何らかの証拠を提示する必要がある。この講義では、ある事実を証明するとはどういうことであるのか、また、そのために必要な証拠としてどのようなものが考えられていたのかを歴史的に概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴訟における証明と証拠の意義について再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本の法廷における証拠には、どのような種類があるかを調べる。	120分
	事後学修	歴史的に証拠と考えられてきたものを整理し、日本の法廷で扱われている証拠との異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所有と幾何学		法の制度史、とりわけ領海概念に対しては、幾何学とその応用（測量）が重要な役割を果たしてきた。この講義では、17世紀に生じた領海に関する論争を出発点とし、その現代的意義について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と幾何学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	私たちが所有において視覚的情報に頼っているケースとしては、どのようなものがあるかを考える。	120分
	事後学修	所有と幾何学との歴史的関係を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
8	所有と力学		幾何学的な世界観とは別に、近世においては力学的な世界観から法制度を構築しようとする試みもあった。これは、当時の力学をどのように理解するかという科学史的な問題とも関連している。この講義では、単なる幾何学的な分割は所有の本質ではないとし、主体と客体との作用関係を所有の本質と見る近世の考え方を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と力学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	近世における力学の発展史を予習する。	120分
	事後学修	近世における力学の発展と、物体に対する作用としての所有という考え方を整理し、近代法にどのような影響があったかをまとめる。	120分
9	無体財産		無体財産は、幾何学的規制に服することが困難な財産であり、その規律は視覚情報とは別の規準によらなければならない。この講義では、18世紀における著作権の萌芽的議論を概観し、従来の所有と異なる無体財産に対する法制度の出発点を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無体財産に関する歴史的起源を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代における無体財産にはどのようなものがあるかを調べて整理する。	120分
	事後学修	近世において考えられていた無体財産の規律と、現代におけるそれとを比較してまとめる。	120分
10	人格の価値		人格に価値があることの発露として、名誉毀損に対する損害賠償請求を上げることができる。では、人格に価値がある、ということは、そもそもどのような事態を指しているのだろうか。この講義では、名誉毀損はありえない、という近世の一学説から出発して、人格の価値の本質を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人格の価値に関して歴史的な学説を踏まえた上で自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	名誉毀損に関する日本の民法典の規律を整理する。	120分
	事後学修	名誉毀損に関する歴史的な学説を整理し、日本の民法学に対してどのような示唆を加うるかを考察する。	120分
11	時効の意義と役割		時効制度はローマ法上の諸制度にヒントを得たものであるけれども、より抽象的な次元では、権利の永続性の問題へと帰着させることができる。すなわち、ある権利に一定の持続性が認められる根拠は何であり、その持続期間は何によって規定されているのか、という問題である。この講義では、所有権および債権に永続性が付与される可能性について歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の権利の存続期間というものを設定できる根拠について自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	所有権に消滅時効が存在しないとされている理由について考える。	120分
	事後学修	所有権に消滅時効があるとすれば、どのような場合は、あるいは、消滅時効が存在しない債権というものは考えられるのかについて整理し、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	条文の解釈とは何か		条文を解釈する、ということは、古くから法を巡って行なわれてきた作業である。しかし、歴史的にみると、近世までは、条文を解釈するのではなく、衡平などの上位規範によって条文を不適用にする、という発想もまた存在した。この講義では、ある条文を制限解釈することと、その条文を特定の事案に適用しないということとの間に何らかの差異がありうるかを中心に歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条文の解釈という作業に関する近世の変遷を理解し、説明することができる。	
	事前学修	条文の解釈にはどのような種類があるかを整理する。	120分
	事後学修	条文を解釈することと、ある事案に対して特別なルールを設定して処理することとの間にはどのような違いがあるのかを考察し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法典の複雑性について	法典は、規律を精緻にすればするほどよい、というわけではない。このことは、近世ドイツにおいては、法典編纂が実現するまえから意識されていた。この講義では、法典にとって必要不可欠な規範の量というものがありうるのか否かについて、歴史的観点から踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法典に収録する規範の量を判定する基準の有無および内容を、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	六法のそれぞれの法典にはどのような条文がどのくらいの量の条文があるのかを調べる。	120分
	事後学修	法典に収録する規範の量を考えるときの基準を整理し、具体的な法典がその基準からどのように評価されるかを考察する。	120分
14	規範の理解可能性について	人間の知的能力には限界がある。歴史的には、この知的能力の限界をかなり低く見積もる学派が存在し続けてきた。この講義では、法律というものが実際に人間にとって理解可能なものであるのか、という観点から、近世の議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規範の解釈可能性と人間という存在との関係について、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	通常人にとって、法律は理解可能なものであるか否かを考えて、肯定的な意見と否定的な意見とを考えて整理する。	120分
	事後学修	法律の理解可能性についての学説を整理し、現代の法学に対してどのような示唆を加えることができるかを考察する。	120分
15	近世の法制理論に関する有機的総括	第1回からの講義をまとめ、近世における法制度を巡る理論の相互関連を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における法制度を巡る議論の相互関連を有機的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	120分
	事後学修	近世における法制度を巡る議論の相互関連を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	120分

科目名	選挙制度論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代民主主義では、選挙で選出された国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は、現代民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、学生が主として選挙制度の類型やその影響について政治学者に関する議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（V群）で学習した政治学に関する基礎的知識を発展させるために、生徒が選挙制度の概要やその役割を理解・説明し、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし選挙制度について理解する姿勢を求める。

【授業方法】
プレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は電子媒体で配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義期間中、リアクション・ペーパー（電子媒体など）の提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	選挙制度に関する主要な構成要素を理解することができる。					3						
②	選挙制度に関する政治学者の主要な理論を説明することができる。					3	3					
③	選挙制度が現実政治に及ぼす影響を評価することができる。						3	3				
④	選挙制度が現実政治に及ぼす影響に対する自分なりの評価を説明できる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての能力が身に付いているかを、 授業内試験により評価する。	20	20	15	5							60
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される 選挙制度に関する議論の内容が定着しているのかどうか を、理解しているのかどうかを、レポートを通じて評価す る。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される 選挙制度に関する議論の内容を理解しているのかどうか を、リアクションペーパーにて確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
前期末の講義にて行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日の昼休憩時に研究室にて（12時～13時まで）。事前の予約が必要。yasuno.nobusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・選挙制度論の概要について	授業目的、講義の概要、成績評価の方針について説明する。また民主主義の問題について、簡単な事例を示し、以降の講義への理解度を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の授業計画について理解し、履修の有無を決定できる。履修する場合は、ガイダンスで提示される民主主義固有の問題について自分なりに評価できる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、講義の流れについて確認する。	120分
	事後学修	シラバスの内容や講義の内容をもとに、自分なりの民主主義に対する考え方を整理しておくこと。	120分
2	代議制民主主義の発展	近代以降の社会的発展なかで民主主義及び選挙制度が重要性を持った歴史的背景について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義と選挙制度の関係、選挙制度の機能と構成要素について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを読み、自分の考えを練っておくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
3	選挙制度の機能と構成要素	選挙制度の機能と構成要素について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の定義と機能、そして構成要素について具体的に説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
4	選挙の基本原則と普通選挙制の拡大	とくにイギリスを中心として選挙の基本原則として選挙権拡大の歴史的背景について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、普通選挙制の歴史的展開とその意義について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
5	平等選挙と一票の格差	選挙の基本原則として、平等選挙の原則と一票の格差の問題を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、一票の格差問題やゲリマンダーについて説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
6	選挙制度の類型：小選挙区制	狭義の「選挙制度」の類型について説明し、そのなかでも、小選挙区制及びそれから派生する制度について、諸外国の事例をふまつつ講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の構成要素と小選挙区制の内容について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	選挙制度の種類：比例代表制	選挙制度の種類のなかでも、比例代表制とその議席配分の方式の差異について、諸外国の事例をふまえつつ講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
8	選挙制度の種類：その他選挙制度	小選挙区制及び比例代表制以外の重要な選挙制度として、混合制及び中選挙区制の内容について、とくにドイツおよび日本を事例としつつ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
9	選挙制度と政党システム	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党システムの関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
10	選挙制度と政党組織	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党組織の関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
11	選挙制度と選挙キャンペーン	選挙制度と選挙キャンペーンの関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な選挙キャンペーンの手段について理解し、それらと選挙制度との関係性について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
12	選挙ガバナンスの諸制度	選挙ガバナンスの機能と目的、それらを構成する制度群について、日本事例も踏まえつつ説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙ガバナンスの重要性について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の選挙制度：中選挙区制から並立制へ	55年体制下で用いられていた中選挙区制下での政治の特徴と94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中選挙区制下での日本政治の特徴について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
14	日本の選挙制度：政治改革と並立制	94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯、およびその後の日本政治の展開について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して講義内容と関連付けながら評価し、説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
15	授業内試験および解説	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その後試験問題に関する解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、グーグルクラスルームからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	本講義の内容を再度確認し、期末試験に備えること。	120分

科目名	専門演習A	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】
労働政策分野を中心とした講義を材料として、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	30	30									60
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5	15	15							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
2	労働政策と平成の労働事情		労働政策の背景にある平成年間の労働事情を、経済指標の推移を見ながら俯瞰的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、平成年間の労働事情（性、年齢階層別失業率、労働力率、産業別労働時間、男女別賃金、勤続年数）と基本的出来事（バブル崩壊、不良資産、金融不況、リーマンショック）の関係について、理解し、課題を発見することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
3	労働政策（働き方改革）と平成の労働事情		働き方改革の内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、政策（働き方改革）と前回授業で発見した課題との関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。		120分
4	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回の授業を復習し、グループワークの題材を考えておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
5	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
6	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
14	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
15	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

科目名	専門演習A	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】
労働政策分野を中心とした講義を材料として、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	30	30									60
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5	15	15							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
2	労働政策と平成の労働事情		労働政策の背景にある平成年間の労働事情を、経済指標の推移を見ながら俯瞰的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、平成年間の労働事情（性、年齢階層別失業率、労働力率、産業別労働時間、男女別賃金、勤続年数）と基本的出来事（バブル崩壊、不良資産、金融不況、リーマンショック）の関係について、理解し、課題を発見することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
3	労働政策（働き方改革）と平成の労働事情		働き方改革の内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、政策（働き方改革）と前回授業で発見した課題との関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。		120分
4	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回の授業を復習し、グループワークの題材を考えておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
5	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
6	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働政策の効果と課題（グループワーク）	グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	労働政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかけるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
毎回グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	発表に代わるペーパーの提出を通じ、主に到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:15～12:55 (研究室) ※事前にメール (mito.katsunori@nihon-u.ac.jp) で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかけるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
毎回グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	発表に代わるペーパーの提出を通じ、主に到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:15～12:55 (研究室) ※事前にメール (mito.katsunori@nihon-u.ac.jp) で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習B	担当者	鏡 圭佑	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
講師による説明に基づいて、グループごとに特定の政策を調査する。具体的には、グループ・ディスカッションを通じて調査を進め、各グループが調査の成果をプレゼンテーションする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。							3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									3	3	3	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
調査の期間中、各グループに適宜アドバイスをを行う。また、プレゼンテーションの後には講師が講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
基本的に、質問は講義前後の講堂にて受け付ける。メールでも対応可。研究室での面談を希望の場合は、メールでアポイントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省行政管理局での勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政の実務上の観点からも受講生の報告にアドバイスを行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・導入		講義の全体像を説明した後で、グループ分けを行う。グループで調査したい政策領域を議論する。
	この回の到達目標	講義の全体像について共有する。そして、グループのメンバーが自己紹介しつつ、政策についての関心を共有する。	
	事前学修	関心のある政策領域について決定する。	120分
	事後学修	グループで調べたい施策について議論する。	120分
2	施策とは何か		講師が政策についての全体像（施策の体系、内容、アクター）について説明する。その後に、各グループが調査したい施策について報告する。
	この回の到達目標	施策とは何かについて学術的に理解し、他者に説明できるようになる。	
	事前学修	グループで調べたい施策について報告する準備をする。また、これまで受けた講義における政策の説明を振り返る。	120分
	事後学修	自分たちの調べる政策が講義で示した枠組みにどのように当てはまるのかについて各グループで議論する。	120分
3	調査する施策の決定		前回の講義で示した枠組みから自分たちの調べたい政策がどのように整理できるのかについて調査する。進捗状況について講師がアドバイスをする。
	この回の到達目標	施策の全体像について自分たちで調査することを通じて深く理解できるようになる。	
	事前学修	自分たちの調べる施策が講義で示した枠組みにどのように当てはまるのかについて各グループで議論した結果を報告する準備をする。	120分
	事後学修	講師のアドバイスを参照にしつつ、調査の結果を暫定的にまとめる。	120分
4	施策課題・施策目標・施策手段		講師が施策を構成する課題・目標・手段について講義する。その後、自分たちが調べる施策の課題・目標・手段について調べる。
	この回の到達目標	自分たちで選択した施策の調査を通じて施策が課題・目標・手段から構成されていることについて理解できるようになる。	
	事前学修	自分たちで調べる施策の課題・目標・手段について調べてみる。	120分
	事後学修	グループで施策の課題・目標・手段について調査した結果を共有し、印象を伝え合う。	120分
5	施策の内容の検討①		自分たちが調べる施策の課題・目標・手段について各自が調べた情報を持ち合って議論し、批判的な検討を行う。
	この回の到達目標	特定の施策を調査し、その結果についてグループで議論することを通じて、施策の課題・目標・手段について批判的に検討できるようになる。	
	事前学修	施策の課題・目標・手段についての問題について自分なりに考えてみる。	120分
	事後学修	グループで議論した結果、さらに調べてみる必要がある点について調査を進める。	120分
6	施策の内容の検討②		前回に引き続き、グループ・ディスカッションを通じて、施策のない移用の批判的に検討してその結果を暫定的にまとめる。
	この回の到達目標	特定の施策を調査し、その結果についてグループで議論することを通じて、施策の課題・目標・手段について批判的に検討できるようになる。	
	事前学修	取り上げる施策の課題・目標・手段について検討した結果について報告できるように準備する。	120分
	事後学修	講師のアドバイスを参照に、施策の内容の調査の結果を暫定的にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	施策を評価する基準		講師が施策を評価する基準について講義する。	
	この回の到達目標	施策を評価する基準にどのようなものがあるのかを理解できるようになる。		
	事前学修	これまでの講義においてどのような基準によって施策が評価されていたのかを振り返ってみる。		120分
	事後学修	グループで講義で説明された基準に基づいて施策を評価してみる。		120分
8	施策の評価の検討①		前回の講義で講師が説明した基準に基づいて施策がどのように評価できるのかを話し合う。	
	この回の到達目標	基準に基づいて施策を評価できるようになる。		
	事前学修	グループで講義で説明された基準に基づいて施策を評価してみる。		120分
	事後学修	講義で説明された基準以外の基準はないか、そうした基準によって施策がどのように評価できるのかを考えてみる。		120分
9	施策の評価の検討②		各グループで、講義で説明された基準以外の基準を考えてみて、その基準に基づいて施策を評価してみる。そして、進捗状況について講師がアドバイスする。	
	この回の到達目標	自分たちで基準を考え、それに基づいて施策を評価できるようになる。		
	事前学修	グループで、講義で説明された基準以外の基準はないか、そうした基準によって施策がどのように評価できるのかを考えてみる。		120分
	事後学修	講師のアドバイスを参照に、グループで調査の結果を暫定的にまとめる。		120分
10	PowerPoint作成・プレゼンテーションのポイント		講師がプレゼンテーションの資料作成方法、話し方についてポイントを説明する。	
	この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションの方法について理解する。		
	事前学修	これまでに自分が作成してきた資料について批判的に振り返ってみる。		120分
	事後学修	グループで資料の作成と当日の報告に関する役割分担を話し合う。		120分
11	準備日		プレゼンテーションについて悩んでいることを講師に報告する。その後、講師の報告に基づいて各グループで作業を進める。	
	この回の到達目標	社会的な問題とそれを解決する方法について、その有効性と問題点を他者に説明できるようになる。		
	事前学修	グループでプレゼンテーションの準備を進め、悩んでいる点を洗い出しておく。		120分
	事後学修	講師のアドバイスに基づいて、プレゼンテーションの準備を進める。		120分
12	プレゼンテーション①		一部のグループによるプレゼンテーションを実施する。	
	この回の到達目標	社会的な問題とそれを解決する方法について、その有効性と問題点を他者に説明できるようになる。		
	事前学修	当日にどのグループが報告するかは原則として抽選により決定する。そのため、すべてのグループが報告に備えておく。		120分
	事後学修	報告したグループのメンバーは報告の結果についてのレポートをまとめる。残りのグループは報告の準備を進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション②	一部のグループによるプレゼンテーションを実施する。	
	この回の到達目標	社会的な問題とそれを解決する方法について、その有効性と問題点を他者に説明できるようになる。	
	事前学修	当日にどのグループが報告するかは原則として抽選により決定する。そのため、残りのすべてのグループが報告に備えておく。既に報告したグループのメンバーはレポートを作成する。	120分
	事後学修	報告したグループのメンバーは報告の結果についてのレポートをまとめる。残りのグループは報告の準備を進める。	120分
14	プレゼンテーション③	残りのグループによるプレゼンテーションを実施する。	
	この回の到達目標	社会的な問題とそれを解決する方法について、その有効性と問題点を他者に説明できるようになる。	
	事前学修	残りのグループは報告に備えておく。既に報告したグループのメンバーはレポートを作成する。	120分
	事後学修	受講生はレポートを作成する。	120分
15	まとめ	講師が講義全体について講評する。その後、各受講生が自分の到達度について評価する。	
	この回の到達目標	一年間を通じて、受講生がどの程度まで講義目標を達成できたのかを確認する。	
	事前学修	これまでの講義における自分の活動について振り返る。	120分
	事後学修	レポートをまとめる。	120分

科目名	専門演習B	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
毎回グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】		
教員の講義を題材として、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じ学修する。人口構造を仔細に観察し、そこから将来の課題を予測、発見し、労働政策の方向性を探る。 また、必要に応じ、公務員希望者向けの題材を課題として取り上げる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。								3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。								3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。										3	3	3	2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	30	30									60
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5	15	15							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	人口構造と公共政策	公共政策の背景にある人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、日本の人口構造（高齢化率、人口ボーナスとオーナス、合計特殊出生率等）を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	国内各地域の人口構造	国内各地域の人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、国内各地域の人口構造を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料（各地域の人口ピラミッド等）を収集する。	120分
	事後学修	前回と今回の授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。	120分
4	政策の効果、課題（グループワーク）	2回目、3回目の授業で発見した課題を題材としたグループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の授業を復習し、過去の政策などグループワークに必要な資料を用意する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	政策の効果、課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策（労働分野）の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	政策（労働分野）の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	政策（労働分野）の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（出生数回復、外国人受入れ、UIJターン等、以下同じ。）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	政策の効果と課題		国家公務員若しくは元国家公務員（ゲストスピーカー）の講話と質疑応答（討議）を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、ゲストスピーカーの講話から学修するとともに、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策の効果と課題（グループワーク）	グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	政策の効果と課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習B	担当者	中山 明広	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
毎回グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】		
教員の講義を題材として、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じ学修する。人口構造を仔細に観察し、そこから将来の課題を予測、発見し、労働政策の方向性を探る。 また、必要に応じ、公務員希望者向けの題材を課題として取り上げる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	30	30									60
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5	15	15							40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	人口構造と公共政策	公共政策の背景にある人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、日本の人口構造（高齢化率、人口ボーナスとオーナス、合計特殊出生率等）を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	国内各地域の人口構造	国内各地域の人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、国内各地域の人口構造を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料（各地域の人口ピラミッド等）を収集する。	120分
	事後学修	前回と今回の授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。	120分
4	政策の効果、課題（グループワーク）	2回目、3回目の授業で発見した課題を題材としたグループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の授業を復習し、過去の政策などグループワークに必要な資料を用意する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	政策の効果、課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策（労働分野）の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	政策（労働分野）の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	政策（労働分野）の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（出生数回復、外国人受入れ、UIJターン等、以下同じ。）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	政策の効果と課題		国家公務員若しくは元国家公務員（ゲストスピーカー）の講話と質疑応答（討議）を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、ゲストスピーカーの講話から学修するとともに、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかけるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
毎回グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	発表に代わるペーパーの提出を通じ、主に到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:15～12:55 (研究室) ※事前にメール (mito.katsunori@nihon-u.ac.jp) で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかけるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
毎回グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	発表に代わるペーパーの提出を通じ、主に到達目標①②③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:15～12:55 (研究室) ※事前にメール (mito.katsunori@nihon-u.ac.jp) で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習C	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、その現状とそこにみられる関係性や課題、重要な理念を理解し、具体的な問題解決案の提示を通じて、それらの情報を活用できるようになること。企業とのかかわりにおける公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。				2		3	2	2	1	1	2
②	個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。				2		2	3	3	3	3	3
③	公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。				2		3	1	2	2	1	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	15	15								40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みとする。事前にメールでアポイントメントをとること。hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要（演習形式）、目的（地方自治体の活性化策の立案）、スケジュール（シラバスにある各回の通り）等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎	公共政策におけるデータの基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの基礎について検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第1回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データの収集	公共政策におけるデータの収集について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの収集について検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データの分析（1）	公共政策におけるデータの分析の基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの分析について検討し、整理することができる。	
	事前学修	第3回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	データの分析（2）	公共政策におけるデータの分析の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの分析について検討し、発表することができる。	
	事前学修	第4回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	グループワーク（1）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	研究対象となる地方自治体について調べ、現状と課題を整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	グループワークで扱った研究対象となる地方自治体について調べ、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループワーク（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、グループワークで活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要なデータについて整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
8	中間プレゼンテーション（１）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、グループワークで活用することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。		120分
9	グループワーク（３）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	グループワークで扱った活性化策の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。		120分
10	グループワーク（４）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
11	中間プレゼンテーション（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。		120分
12	グループワーク（５）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間プレゼンテーション（3）	公公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。	120分
14	グループワーク（6）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
15	最終プレゼンテーション	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、プレゼンテーションとレポートを通じて問題解決方法を説明することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、課題レポートとともに提出すること。	120分

科目名	専門演習C	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、その現状とそこにみられる関係性や課題、重要な理念を理解し、具体的な問題解決案の提示を通じて、それらの情報を活用できるようになること。企業とのかかわりにおける公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。				2		3	2	2	1	1	2
②	個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。				2		2	3	3	3	3	3
③	公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。				2		3	1	2	2	1	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	15	15								40
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みとする。事前にメールでアポイントメントをとること。hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要（演習形式）、目的（地方自治体の活性化策の立案）、スケジュール（シラバスにある各回の通り）等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎	公共政策におけるデータの基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの基礎について検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第1回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データの収集	公共政策におけるデータの収集について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの収集について検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データの分析（1）	公共政策におけるデータの分析の基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの分析について検討し、整理することができる。	
	事前学修	第3回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	データの分析（2）	公共政策におけるデータの分析の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータの分析について検討し、発表することができる。	
	事前学修	第4回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	グループワーク（1）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	研究対象となる地方自治体について調べ、現状と課題を整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	グループワークで扱った研究対象となる地方自治体について調べ、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループワーク（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、グループワークで活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要なデータについて整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
8	中間プレゼンテーション（１）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、グループワークで活用することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。		120分
9	グループワーク（３）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	グループワークで扱った活性化策の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。		120分
10	グループワーク（４）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
11	中間プレゼンテーション（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。		120分
12	グループワーク（５）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。		
	事前学修	研究対象となる地方自治体の現状と課題を検討するのに必要な方法について整理しておくこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間プレゼンテーション（3）	公公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめて提出すること。	120分
14	グループワーク（6）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の立案に活用することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
15	最終プレゼンテーション	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、地方自治体の活性化策の課題解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、プレゼンテーションとレポートを通じて問題解決方法を説明することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。教科書の指定された箇所を読了しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、課題レポートとともに提出すること。	120分

科目名	専門演習C	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
客観的データを用いて現代社会の構造について理解を深化させる。またその課題を明らかにし、問題性の整理とその背景について理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策によって対策が求められる種々の社会問題を正しく理解し、その問題性を客観的なデータを用いて説明できるようになる。その問題の背景について論理的な説明を用いて言語化できるようになる。

【履修条件】
【重要】第3回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのために必要な授業ごとの到達課題と情報の提供を授業内で行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政が関わる社会的課題について制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。					2		3	2	2	1	1	2
②	社会的課題を客観的データに基づいて説明し、行政活動における位置づけと影響を言語化する。					2		2	3	3	3	3	3
③	個別のテーマについて、課題解決の方法について具体的に提示する。					2		3	1	2	2	1	3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、自分取り上げたり自治体の課題について情報収集をしておく。	60分
	事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	社会の問題を捉える	・問題の客観的な把握方法について説明する。 ・データの収集方法と把握方法について説明する。	
	この回の到達目標	データの収集方法や分析方法によって得られる結果が異なることを理解し、自治体の課題を理解するためにデータの扱いにおいて注意すべき点について述べられるようになる。	
	事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマ（自治体の課題）について、基本的な情報を集めておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分が収集したデータを取捨選択し、また足りない情報を収集する。（2時間）	120分
3	取り上げる課題を決定する	・授業で班が取り上げる課題を決定する。	
	この回の到達目標	班の発表テーマを決める。	
	事前学修	発表のテーマについての班での議論のための準備をする。	180分
	事後学修	決められた課題に対して来週の授業での作業に必要な準備を整える。	60分
4	データの取りまとめと資料作成	・班で取り上げる課題について状況を説明するために必要な情報を整理する。 ・まとめた情報を人に伝わるように資料化する。	
	この回の到達目標	自分の班で決定したテーマについて、「何が起きているのか」を明確にするための資料を作成する。	
	事前学修	班の課題について必要な情報を集めておく。	120分
	事後学修	提出した資料を前提として、問題の背景や影響にどのようなものがあるかを考察しておく。	120分
5	課題の背景を理解する	・班で取り上げる課題がどのような背景から起こっているのかを明らかにする。 ・課題が新たに引き起こす課題について考察する。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題について、その背景と原因、そこから引き起こされる課題についてできるだけ多くリストアップし、その関係性を文章化する。	
	事前学修	前回までに集めた情報を踏まえて、問題の背景や影響にどのようなものがあるかを考察しておく。	120分
	事後学修	授業内に挙げられた前後の項目を全体として図式化するにはどうするか考えておく。	120分
6	状況を構造として捉える	・前回の授業で得られた項目との関係で自分たちの班の位置づけを可視化する。	
	この回の到達目標	さまざまな項目のなかで取り上げる課題との関係性の強さを考察し、順位付けと区別をする。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目の関係を説明するためのロジックを考えておく。	120分
	事後学修	最終的な図式化に向けてイメージを作っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	作業日	・ここまでに得られた情報を概念図として図式化し、中間発表に備える。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題を構造的に図式化した概念図を作成する。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目を全体として図式化するにはどうするか考えておく。	180分
	事後学修	中間発表の準備をする。	60分
8	中間発表	・作成した概念図を用いて取り上げる課題について説明する。	
	この回の到達目標	中間発表を行う。	
	事前学修	中間発表の準備をしておく。	120分
	事後学修	中間発表に対する講評について考察しておく。	120分
9	対策と価値の多様性	・対策を具体化する際の価値の意味 ・自分たちが取り上げる課題に対して何を指すのかを定める。	
	この回の到達目標	取り上げる課題についてどのような変化を目指すのかの方向性を示す。	
	事前学修	課題の「解決」とは何を指すのか考えておく。	120分
	事後学修	班で決定した方向性について具体化し言語化しておく。	120分
10	課題の整理と優先順位	・地方自治体の政策においてさまざまな制度や事業に関わる現状を理解する。	
	この回の到達目標	取り上げる課題について、地方自治体全体の活動における位置づけを説明できるようになる。	
	事前学修	対象となる地方自治体について全体的な情報収集をしておく。	120分
	事後学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
11	PPTを用いた発表について	・PPTを用いた発表の手法や注意点について講義を行う。	
	この回の到達目標	授業の内容を踏まえて効果的なPPTを作成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
	事後学修	次回の最終準備に向けて必要な情報や準備をしておく。	120分
12	最終作業日	・発表の準備を完成させる。	
	この回の到達目標	発表に必要なPPTを完成させる。	
	事前学修	PPTの完成に必要な準備をしておく。	60分
	事後学修	発表に向けた練習をしておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	発表③と総括	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。 ・全体に対する講評を行う。	
	この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
	事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	専門演習C	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
客観的データを用いて現代社会の構造について理解を深化させる。またその課題を明らかにし、問題性の整理とその背景について理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策によって対策が求められる種々の社会問題を正しく理解し、その問題性を客観的なデータを用いて説明できるようになる。その問題の背景について論理的な説明を用いて言語化できるようになる。

【履修条件】
【重要】第3回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのために必要な授業ごとの到達課題と情報の提供を授業内で行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政が関わる社会的課題について制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。						2		3	2	2	1	1	2
②	社会的課題を客観的データに基づいて説明し、行政活動における位置づけと影響を言語化する。						2		2	3	3	3	3	3
③	個別のテーマについて、課題解決の方法について具体的に提示する。						2		3	1	2	2	1	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、自分取り上げたり自治体の課題について情報収集をしておく。	60分
	事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	社会の問題を捉える	・問題の客観的な把握方法について説明する。 ・データの収集方法と把握方法について説明する。	
	この回の到達目標	データの収集方法や分析方法によって得られる結果が異なることを理解し、自治体の課題を理解するためにデータの扱いにおいて注意すべき点について述べられるようになる。	
	事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマ（自治体の課題）について、基本的な情報を集めておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分が収集したデータを取捨選択し、また足りない情報を収集する。（2時間）	120分
3	取り上げる課題を決定する	・授業で班が取り上げる課題を決定する。	
	この回の到達目標	班の発表テーマを決める。	
	事前学修	発表のテーマについての班での議論のための準備をする。	180分
	事後学修	決められた課題に対して来週の授業での作業に必要な準備を整える。	60分
4	データの取りまとめと資料作成	・班で取り上げる課題について状況を説明するために必要な情報を整理する。 ・まとめた情報を人に伝わるように資料化する。	
	この回の到達目標	自分の班で決定したテーマについて、「何が起きているのか」を明確にするための資料を作成する。	
	事前学修	班の課題について必要な情報を集めておく。	120分
	事後学修	提出した資料を前提として、問題の背景や影響にどのようなものがあるかを考察しておく。	120分
5	課題の背景を理解する	・班で取り上げる課題がどのような背景から起こっているのかを明らかにする。 ・課題が新たに引き起こす課題について考察する。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題について、その背景と原因、そこから引き起こされる課題についてできるだけ多くリストアップし、その関係性を文章化する。	
	事前学修	前回までに集めた情報を踏まえて、問題の背景や影響にどのようなものがあるかを考察しておく。	120分
	事後学修	授業内に挙げられた前後の項目を全体として図式化するにはどうするか考えておく。	120分
6	状況を構造として捉える	・前回の授業で得られた項目との関係で自分たちの班の位置づけを可視化する。	
	この回の到達目標	さまざまな項目のなかで取り上げる課題との関係性の強さを考察し、順位付けと区別をする。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目の関係を説明するためのロジックを考えておく。	120分
	事後学修	最終的な図式化に向けてイメージを作っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	作業日	・ここまでに得られた情報を概念図として図式化し、中間発表に備える。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題を構造的に図式化した概念図を作成する。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目を全体として図式化するにはどうするか考えておく。	180分
	事後学修	中間発表の準備をする。	60分
8	中間発表	・作成した概念図を用いて取り上げる課題について説明する。	
	この回の到達目標	中間発表を行う。	
	事前学修	中間発表の準備をしておく。	120分
	事後学修	中間発表に対する講評について考察しておく。	120分
9	対策と価値の多様性	・対策を具体化する際の価値の意味 ・自分たちが取り上げる課題に対して何を指すのかを定める。	
	この回の到達目標	取り上げる課題についてどのような変化を目指すのかの方向性を示す。	
	事前学修	課題の「解決」とは何を指すのか考えておく。	120分
	事後学修	班で決定した方向性について具体化し言語化しておく。	120分
10	課題の整理と優先順位	・地方自治体の政策においてさまざまな制度や事業に関わる現状を理解する。	
	この回の到達目標	取り上げる課題について、地方自治体全体の活動における位置づけを説明できるようになる。	
	事前学修	対象となる地方自治体について全体的な情報収集をしておく。	120分
	事後学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
11	PPTを用いた発表について	・PPTを用いた発表の手法や注意点について講義を行う。	
	この回の到達目標	授業の内容を踏まえて効果的なPPTを作成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
	事後学修	次回の最終準備に向けて必要な情報や準備をしておく。	120分
12	最終作業日	・発表の準備を完成させる。	
	この回の到達目標	発表に必要なPPTを完成させる。	
	事前学修	PPTの完成に必要な準備をしておく。	60分
	事後学修	発表に向けた練習をしておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	発表③と総括	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。 ・全体に対する講評を行う。	
	この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
	事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	専門演習D	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式に加え、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る）出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。									4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について対象とコミュニケーションの基礎が自分の言葉で説明できているか等をレポートにより評価する。	5	5	10								20
小テスト等	グループワークにおいて議論をまとめることができたか、自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標④⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。				10	10	5					25
レポート等	到達目標⑤⑥⑦について、多くの者が参加する場において、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度が身についているか等を評価する。					10	5	5				20
討論・発表等	到達目標①②③④⑤に関して、各コミュニケーション対象の立場、考え方が異なる中で、どのように最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できているか評価する。	5	5	5	10	10						35
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	20	30	10	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、広報のキーワード		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政、公共性、コミュニケーションのキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～⑦に関連して、授業全般の構成について把握するとともに、行政とコミュニケーションというものの全体的イメージを理解し、その概要や方法論を説明することができる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で行政にはなぜコミュニケーションが必要か、それがないと行政運営はどうなるか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
2	コミュニケーションの意義		コミュニケーションの概念について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、課題の解決のための政策決定に当たって、なぜコミュニケーションの概念が必要となるのか説明できる。		
	事前学修	自治体の広報紙・ホームページを見て、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
3	Publicの概念		Publicの考え方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政策とPublicのの在り方を自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	民間企業の広報活動を調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
4	コミュニケーション過程概観		コミュニケーションの対象について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、コミュニケーションの意義、その今日的対象の重要性について考察し説明できる。		
	事前学修	行政の広報と民間の広報を比較検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
5	双方向コミュニケーションの理論的考察		双方向コミュニケーションの理論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、対象とのコミュニケーションの必要性を理解し、説明することができる。		
	事前学修	市町村と都道府県の広報の違いを見ておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
6	情報の主体と客体		情報の性質から住民参加について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、情報の考え方が住民参加や政策等にどのように影響を与えているか考察し、説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会構造とコミュニケーション対象	社会構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、社会構造と情報の関係を、具体例に沿って考察し、説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加手法について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	グループ・ワークとディスカッション①	調査対象別にグループ分けを行い、ディスカッションを行いつつ調査計画をたてる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、メディア別のメリット、デメリットを説明することができる。	
	事前学修	自分が調査分析したい、コミュニケーション・メディアについて検討しておく。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、自分の関心領域を、さらに深く理解しておく。	120分
9	グループ・ワークとディスカッション②	研究対象組織の調査・分析を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、官民のコミュニケーション・メディアを分析し、自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	メディア別の課題の整理を行い、発表の構成をそれぞれで考える。	120分
	事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。	120分
10	グループ・ワークとディスカッション③	各グループごとに選定した組織に関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
	事前学修	各自でコミュニケーション・メディア別の課題の整理を行い、自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。	120分
11	グループ・ワークとディスカッション④	各グループごとに選定したコミュニケーション・メディアに関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
	事前学修	各自で自分の担当箇所の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
12	発表①	それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）	
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表②		それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分
14	発表③		それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分
15	まとめと課題発見		これまでの講義・討議などを通じて得られた組織、コミュニケーションに関する知見をベースに、学修者たちが各グループで選択したテーマの研究発表の反省点を共有し、参加者全員で広報の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	書く発表テーマに基づいて自分の反省点を整理し、これまでの学修内容も振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	発表内容、及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見などを再整理し、自分なりの課題をみつ、克服に向けた計画をたてる。	120分

科目名	専門演習D	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。	4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。			4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。				4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。					4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。						4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。							4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。								4
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10					10				30
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④⑤にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。					20	20					40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	20	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の2限とする。事前にメールでアポイントメントをとること。アドレス：hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎知識	公共政策におけるデータの基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの基礎知識について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第1回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データの収集	公共政策におけるデータの収集について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの収集について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データの分析	公共政策におけるデータの分析について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの分析について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第3回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	ゲストスピーカーの講演	公共政策に携わるアクターによる講演を通じて、公共政策の現場について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゲストスピーカーによる講演を通じて、ふるさと納税制度の現状と課題について理解し、レポートで説明できる。	
	事前学修	ゲストスピーカーと講演テーマに関する資料を分析し、質問を考えておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーから提示された課題と講演内容についてとりまとめ、レポートを作成すること。	120分
6	グループワーク（1）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、ふるさと納税制度の概要問題をグループワークで討論できる。	
	事前学修	ふるさと納税について調べ、現状と課題を整理しておくこと。	120分
	事後学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	グループワーク（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、ふるさと納税制度の改革案をグループワークで検討できる。	
	事前学修	ふるさと納税の現状と課題を検討するのに必要なデータについて整理しておくこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
8	中間プレゼンテーション（１）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用して、ふるさと納税制度の改革素案をプレゼンテーションで説明できる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめておくこと。	120分
9	グループワーク（３）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用し、ふるさと納税制度の改革案の検討をグループワークで討論できる。	
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。	120分
	事後学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。	120分
10	グループワーク（４）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用し、ふるさと納税制度の改革案の検討をグループワークで討論できる。	
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
11	中間プレゼンテーション（２）		公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションで説明できる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめておくこと。	120分
12	グループワーク（５）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をグループワークで立案できる。	
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間プレゼンテーション（3）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションで説明できる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめること。	120分
14	グループワーク（6）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をグループワークで立案できる。	
	事前学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、最終プレゼンテーションに向けて不足している点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
15	最終プレゼンテーション	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションし、レポートを通じて問題解決方法を説明することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、課題レポートとともに提出すること。	120分

科目名	専門演習D	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4								
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。						4						
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。							4					
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。								4				
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4			
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。										4		
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10					10				30
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④⑤にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。					20	20					40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	20	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の2限とする。事前にメールでアポイントメントをとること。アドレス：hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎知識	公共政策におけるデータの基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの基礎知識について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第1回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データの収集	公共政策におけるデータの収集について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの収集について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データの分析	公共政策におけるデータの分析について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、公共政策におけるデータの分析について、グループワークで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	第3回の授業で提示された政策課題に関するデータを収集し、整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	ゲストスピーカーの講演	公共政策に携わるアクターによる講演を通じて、公共政策の現場について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゲストスピーカーによる講演を通じて、ふるさと納税制度の現状と課題について理解し、レポートで説明できる。	
	事前学修	ゲストスピーカーと講演テーマに関する資料を分析し、質問を考えておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーから提示された課題と講演内容についてとりまとめ、レポートを作成すること。	120分
6	グループワーク（1）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、ふるさと納税制度の概要問題をグループワークで討論できる。	
	事前学修	ふるさと納税について調べ、現状と課題を整理しておくこと。	120分
	事後学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループワーク（２）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、ふるさと納税制度の改革案をグループワークで検討できる。		
	事前学修	ふるさと納税の現状と課題を検討するのに必要なデータについて整理しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
8	中間プレゼンテーション（１）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用して、ふるさと納税制度の改革素案をプレゼンテーションで説明できる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめておくこと。		120分
9	グループワーク（３）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用し、ふるさと納税制度の改革案の検討をグループワークで討論できる。		
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。		120分
	事後学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、グループワークで不足していた部分の調査を行うこと。		120分
10	グループワーク（４）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を活用し、ふるさと納税制度の改革案の検討をグループワークで討論できる。		
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
11	中間プレゼンテーション（２）		公共政策におけるデータ分析手法を理解でき、問題解決の検討に活用することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションで説明できる。		
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめておくこと。		120分
12	グループワーク（５）		公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をグループワークで立案できる。		
	事前学修	ふるさと納税の課題を解決するのに必要な方法について整理しておくこと。		120分
	事後学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間プレゼンテーション（3）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションで説明できる。	
	事前学修	中間プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	中間プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、グループでとりまとめること。	120分
14	グループワーク（6）	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④～⑥に関連して、公共政策におけるデータ分析手法を使い、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をグループワークで立案できる。	
	事前学修	グループワークで扱ったふるさと納税の現状と課題を整理し、最終プレゼンテーションに向けて不足している点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
15	最終プレゼンテーション	公共政策におけるデータ分析の手法を活用し、ふるさと納税のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、公共政策におけるデータ分析手法に基づくふるさと納税制度の改革案をプレゼンテーションし、レポートを通じて問題解決方法を説明することができる。	
	事前学修	最終プレゼンテーションに向けて、グループのメンバーで、発表用資料を精査し、担当する部分のプレゼンテーションの準備と練習を行うこと。	120分
	事後学修	最終プレゼンテーションで指摘された問題を検討し、発表用資料を修正し、課題レポートとともに提出すること。	120分

科目名	専門演習D	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
【重要】第3回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのために必要な授業ごとの到達課題と情報の提供を授業内で行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。									4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、自分取り上げたり自治体の課題について情報収集をしておく。	60分
	事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	データの収集と理解	・問題の客観的な把握方法について説明する。 ・データの収集方法と把握方法について説明する。	
	この回の到達目標	データの収集方法や分析方法によって得られる結果が異なることを理解し、自治体の課題を理解するためにデータの扱いにおいて注意すべき点について述べられるようになる。	
	事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマ（自治体の課題）について、基本的な情報を集めておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分が収集したデータを取捨選択し、また足りない情報を収集する。（2時間）	120分
3	取り上げる課題を決定する	・授業で班が取り上げる課題を決定する。	
	この回の到達目標	班の発表テーマを決める。	
	事前学修	発表のテーマについての班での議論のための準備をする。	180分
	事後学修	決められた課題に対して来週の授業での作業に必要な準備を整える。	60分
4	課題の整理と中間発表準備	・班で取り上げる課題について状況を説明するために必要な情報を整理する。 ・まとめた情報を人に伝わるように資料化する。	
	この回の到達目標	自分の班で決定したテーマについて、何を取り上げどこまでわかっているのかを明確にするための資料を作成する。	
	事前学修	班の課題について必要な情報を集めておく。	120分
	事後学修	提出した資料を前提として、中間発表の準備を完成させる。	120分
5	中間発表	・これまでの班の作業と決まった内容について発表をする。	
	この回の到達目標	班の課題に対する進捗状況を説明する。	
	事前学修	中間発表のための準備と練習をする。	120分
	事後学修	発表に対する講評を踏まえ、今後の班の作業の進め方について再考する。	120分
6	ゴールの設定	・政策におけるゴール（目標）の意味と立て方について説明する。 ・説明を踏まえてゴールの設定をする。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題についてどこを目指すのかを明確に示す。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目の関係を説明するためのロジックを考えておく。	120分
	事後学修	最終的な図式化に向けてイメージを作っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	原因から対策を考える	・課題の原因や背景を分析し、そこから対策を考える。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題に対して取るべき対策とその理由・根拠を言語化する。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられたゴールを踏まえてどのような対策が考えられるかリストアップしておく。	180分
	事後学修	授業で決めた対策を具体的にシュミレーションしておく。	60分
8	必要な資源	・課題の解決とその対策のために必要な資源は何かを明らかにする。	
	この回の到達目標	班で考案した対策について必要な資源をリストアップする。	
	事前学修	前回の授業で考えた対策について何が必要なのか、シュミレーションを通じて考えておく。	120分
	事後学修	授業内で挙げられた必要な資源について、情報収集の際に聞くべき質問を考えておく。	120分
9	情報収集日	・自分たちが取り上げる対策を実際に行うことについて、自治体の人に話を聞く。	
	この回の到達目標	自分たちが挙げた対策について現実的な課題や難点を明らかにする。	
	事前学修	情報収集のための準備を班で行っておく。	120分
	事後学修	収集した情報を踏まえて自分たちの最終発表にどのように反映させるかを考えておく。	120分
10	対策の具体化	・これまでの情報や考察を踏まえて最終的な対策案を作成する。	
	この回の到達目標	発表に向けて自分たちが提案する対策を具体的に示す。	
	事前学修	これまでの情報を整理しておく。	120分
	事後学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
11	PPTを用いた発表について	・PPTを用いた発表の手法や注意点について講義を行う。	
	この回の到達目標	授業の内容を踏まえて効果的なPPTを作成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
	事後学修	次回の最終準備に向けて必要な情報や準備をしておく。	120分
12	最終作業日	・発表の準備を完成させる。	
	この回の到達目標	発表に必要なPPTを完成させる。	
	事前学修	PPTの完成に必要な準備をしておく。	60分
	事後学修	発表に向けた練習をしておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	発表③と総括	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。 ・全体に対する講評を行う。	
	この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
	事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	専門演習D	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
【重要】第3回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのために必要な授業ごとの到達課題と情報の提供を授業内で行っていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。								4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、自分取り上げたり自治体の課題について情報収集をしておく。	60分
	事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	データの収集と理解	・問題の客観的な把握方法について説明する。 ・データの収集方法と把握方法について説明する。	
	この回の到達目標	データの収集方法や分析方法によって得られる結果が異なることを理解し、自治体の課題を理解するためにデータの扱いにおいて注意すべき点について述べられるようになる。	
	事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマ（自治体の課題）について、基本的な情報を集めておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分が収集したデータを取捨選択し、また足りない情報を収集する。（2時間）	120分
3	取り上げる課題を決定する	・授業で班が取り上げる課題を決定する。	
	この回の到達目標	班の発表テーマを決める。	
	事前学修	発表のテーマについての班での議論のための準備をする。	180分
	事後学修	決められた課題に対して来週の授業での作業に必要な準備を整える。	60分
4	課題の整理と中間発表準備	・班で取り上げる課題について状況を説明するために必要な情報を整理する。 ・まとめた情報を人に伝わるように資料化する。	
	この回の到達目標	自分の班で決定したテーマについて、何を取り上げどこまでわかっているのかを明確にするための資料を作成する。	
	事前学修	班の課題について必要な情報を集めておく。	120分
	事後学修	提出した資料を前提として、中間発表の準備を完成させる。	120分
5	中間発表	・これまでの班の作業と決まった内容について発表をする。	
	この回の到達目標	班の課題に対する進捗状況を説明する。	
	事前学修	中間発表のための準備と練習をする。	120分
	事後学修	発表に対する講評を踏まえ、今後の班の作業の進め方について再考する。	120分
6	ゴールの設定	・政策におけるゴール（目標）の意味と立て方について説明する。 ・説明を踏まえてゴールの設定をする。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題についてどこを目指すのかを明確に示す。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられた前後の項目の関係を説明するためのロジックを考えておく。	120分
	事後学修	最終的な図式化に向けてイメージを作っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	原因から対策を考える	・課題の原因や背景を分析し、そこから対策を考える。	
	この回の到達目標	班で取り上げる課題に対して取るべき対策とその理由・根拠を言語化する。	
	事前学修	前回の授業内に挙げられたゴールを踏まえてどのような対策が考えられるかリストアップしておく。	180分
	事後学修	授業で決めた対策を具体的にシュミレーションしておく。	60分
8	必要な資源	・課題の解決とその対策のために必要な資源は何かを明らかにする。	
	この回の到達目標	班で考案した対策について必要な資源をリストアップする。	
	事前学修	前回の授業で考えた対策について何が必要なのか、シュミレーションを通じて考えておく。	120分
	事後学修	授業内で挙げられた必要な資源について、情報収集の際に聞くべき質問を考えておく。	120分
9	情報収集日	・自分たちが取り上げる対策を実際に行うことについて、自治体の人に話を聞く。	
	この回の到達目標	自分たちが挙げた対策について現実的な課題や難点を明らかにする。	
	事前学修	情報収集のための準備を班で行っておく。	120分
	事後学修	収集した情報を踏まえて自分たちの最終発表にどのように反映させるかを考えておく。	120分
10	対策の具体化	・これまでの情報や考察を踏まえて最終的な対策案を作成する。	
	この回の到達目標	発表に向けて自分たちが提案する対策を具体的に示す。	
	事前学修	これまでの情報を整理しておく。	120分
	事後学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
11	PPTを用いた発表について	・PPTを用いた発表の手法や注意点について講義を行う。	
	この回の到達目標	授業の内容を踏まえて効果的なPPTを作成する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を発表するにあたってどのようにPPTを作成するか考えておく。	120分
	事後学修	次回の最終準備に向けて必要な情報や準備をしておく。	120分
12	最終作業日	・発表の準備を完成させる。	
	この回の到達目標	発表に必要なPPTを完成させる。	
	事前学修	PPTの完成に必要な準備をしておく。	60分
	事後学修	発表に向けた練習をしておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	発表③と総括	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。 ・全体に対する講評を行う。	
	この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
	事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	ソーシャル・キャピタル論	担当者	小藪 明生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この授業では近年注目を浴びている「ソーシャル・キャピタル (Social Capital・社会関係資本)」の概念とそれをを用いた分析の実際について論じる。この議論は幅広い領域に応用されているが、さまざまな目標変数（経済発展、治安、健康など）の向上に効果を持つことから、それ自体の育成が「政策目標」とされる。さらにソーシャル・キャピタルがどのように形成されるのか、どのように目的変数の向上がなされるのかについてのメカニズムを体系的に説明する必要があるという点で「社会理論」ともなっている。本授業では、このような理論、実証、実践にまたがるソーシャル・キャピタル論を体系的に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本講義では、ソーシャル・キャピタル論について現時点までの議論の整理を行い、その概念と議論全体の特徴と、それをを用いた分析の実際について学んで行く。ソーシャル・キャピタル論の特色は、相互に関連しあう社会科学の諸分野の人々が同じ土俵で議論に参加していること、新しい社会指標として政策担当者からも注目されていること、指標と目的変数との関連性が実証研究によりある程度確認されているなどの点にある。本講義では、SCの内容とその影響、及びそれに影響を与える要因を分析することを目的とし、最終的にはこのソーシャル・キャピタルの政策含意を明らかにできることを目標としている。

【履修条件】
なし

【授業方法】

講義形式、配付の資料に基づき講義を行う。適宜映像資料を視聴する。購入が必須の教科書はないが、予習復習・理解の深化のために参考書を適宜参照することを推奨する。
2024年度は教場での授業を基本とするとされているが、状況次第でオンラインにて授業を行う場合に利用するWebサービスなどは、事務所からの連絡ほか、初回講義の説明を必ず確認するようにしてください。
以下の「成績評価の方法・基準・割合」欄の採点配分は、教場授業となった場合のものである。オンラインに変更になった場合は、平常点の割合が高くなる予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ソーシャル・キャピタル概念とそれに関連する概念を理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
②	ソーシャル・キャピタルが豊かである（不足している）と社会にどのような影響をもたらすのか、ソーシャル・キャピタルはどのようにして育成・蓄積されるのか、その社会科学的メカニズムについて理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
③	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定がどのような事例に適応・応用されているのかこれまでの事例や研究を調べることができる。【技能】				2		2	2	2			
④	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定方法を自分の身近な事例に適応・応用し、ある特徴を持った集団・社会がどのようなアウトカムを生み出すのか、またそのような結果がどのようにして生じるのか、社会科学的メカニズムを説明することができる。【技能】				2		2	2	2			
⑤	ソーシャル・キャピタルに関連する討議において、現実・現代の社会の諸条件にも配慮しながら冷静に対象集団・社会の状態を評価し、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				2		2	2	2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポート提出：40% 内容理解問題（①・②）と論述問題（①～⑤）からなる期末レポート提出を行う。この論述には、概念の知識的理解に加え、自分なりの事例分析の視点を踏まえた内容（④・⑤）が含まれる。	5	5	5	5	5						25
討論・発表等												
授業への参画度	平常点評価：60% 授業内容に関連するコメントシートを提出してもらい、その記入内容（①・②・④）および提出回数をもって、出席への積極的関与（⑤）の評価に加える。	15	15	15	15	15						75
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、前回提出のコメントシートに対する講評を行い、受講者の疑問やさらなる応用事例の紹介に努める。

【教科書・参考書等】

書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

備考

購入が必須の教科書はありません。授業内容に関連する参考文献は各回適宜紹介します。

【オフィスアワー】

メールにて相談すること。（アドレスは授業資料に記載）

【実務経験を活かした実践的教育について】

担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。	
	この回の到達目標	授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができるようになる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料（学生教員共有ドライブにアップする予定）で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
2	ソーシャル・キャピタル論登場の時代背景、資本という考え方	ソーシャル・キャピタルという概念がどのような時代背景のもとで登場したのか、この概念を使用し測定を試みる研究者達がどんな目的をもっていたのか、なぜ資本という用語を用いているのか、解説する。（キーワード：ソーシャル・キャピタル、人的資本、第三の道）	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連し、ソーシャル・キャピタル概念とその社会科学のなかでの位置づけについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
3	経済発展・治安とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、開発・経済発展の分野と治安に関する研究を概観する。（開発経済学、マイクロクレジット、地域社会と治安）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、経済学や犯罪心理学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
4	格差と健康とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、公衆衛生学と格差に関する議論と具体的研究事例を解説する。（公衆衛生学、イチロー・カワチ、ウィルキンソン、格差と再生産）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、健康・公衆衛生学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
5	ミクロなソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにミクロ（個人）レベルで解釈・適応している研究者の例としてナン・リン、ブルデューを取り上げ、その議論と分析を解説する。（ナン・リン、ブルデュー、文化資本）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、個人レベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
6	メゾレベルのソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにメゾ（中間集団・地域等の小～中規模社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてJ.S. コールマンを取り上げ、その議論と分析を解説する。（社会学者J.S. コールマン、「コールマン・レポート」）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、メゾレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	弱い紐帯の強さと構造的隙間論		ソーシャル・キャピタル概念のをミクロ～メゾレベルにまたがって、集団間をブリッジ・重複所属することの効果や影響を分析している研究者の例としてグラノベッターとバートを取り上げ、その議論と分析を解説する。（人脈とは、弱い紐帯の強さ、構造的隙間）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、強い紐帯・弱い紐帯の区別やそれがもたらす意義について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
8	マクロレベルのソーシャル・キャピタル		ソーシャル・キャピタル概念のをおもにマクロレベル（大規模集団・広域社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてパットナムを取り上げ、そのイタリア研究と米国研究の議論と分析を解説する。（パットナム、『Making Democracy Work（哲学する民主主義）』、『孤独なボウリング』）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、マクロレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
9	社会的ジレンマ		ソーシャル・キャピタルの豊かさによって影響される重要な問題として社会的ジレンマの基本構造について解説する。また、具体的事例研究としてオストロムらの研究を紹介する。（社会的ジレンマ、フリーライダー問題、エリノア・オストロム）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、社会的ジレンマ（集合行為のジレンマ）について検討する基本的な視座と、エリノア・オストロムらの具体的研究事例について、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
10	ゲーム理論と繰り返し囚人のジレンマゲーム		ゲーム理論とアクセルロッドの繰り返し囚人のジレンマゲームについて基礎的な部分、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。（ロバート・アクセルロッド、繰り返し囚人のジレンマゲーム）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ソーシャル・キャピタルが豊かな社会が、どのようにして個人の協力的態度を引き出し、社会的ジレンマを解決しうるのかを理解し、ゲーム理論の研究成果を応用して説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
11	ソーシャル・キャピタルの豊かさと個人の特性：信頼		ソーシャル・キャピタルの豊かさと信頼の関係について、また人々が一般的信頼を持つことがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、さまざまな先行研究と、特に山岸俊男の議論を取り上げつつ解説する。（山岸俊男、安心社会と信頼社会）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、一般的信頼という概念やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
12	ネットワークの構造・社会参加とソーシャル・キャピタル		ソーシャル・キャピタルの豊かさと社会構造の特徴および自発的社会参加（草の根民主主義）の関係について、また人々が活発に社会参加することがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、パットナムや関連するさまざまな先行研究を取り上げつつ解説する。（社会参加、草の根活動、トクヴィル『アメリカンデモクラシー』）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ネットワークの構造特性および自発的社会参加やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	規範・文化的特性とソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルの豊かさとそれを支える規範・文化的特性について、どのような文化的特性や規範となる社会観・人間観を中心に示えることがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、関連する先行研究を取り上げつつ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、その社会が持っている規範や文化的特性がもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。（政治文化論、文化資源と地域）	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
14	まとめ「社会関係資本が豊かな社会」とは、および試験説明	これまで紹介してきた先行研究の議論を総合し、内向きの関係性と開放的な関係性、ミクロなレベルの分析からマクロなレベルがリンクする社会科学的なメカニズムについてまとめる。また、次週に行う授業内試験の内容や準備・対策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、内向きの関係性と開放的な関係性のそれぞれの利点と欠点、ミクロレベルで分析することとマクロレベルで分析することの視点の違い、およびそれらを総合した視座について総合的に理解し、柔軟な発想で社会を分析することができる。（ミクロ・マクロリンク）	
	事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念と各回相互の関係性についての理解に努める。	120分
	事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
15	まとめ期末レポートの説明	基本概念を理解しているか（①②）、基本概念を用いて事例分析が論理的になされているか（③④）、自分の意見が体験に基づき記述されているか（⑤）について、論述課題を課す。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、知識の理解、分析する技能、冷静に評価する態度を養う。	
	事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念の理解に努める。また、論述問題として出題される自分に身近な事例を使った論考の準備する。	120分
	事後学修	期末レポート作成において自分の理解の浅かった部分やうまく論述できなかった内容について、授業で使用した資料と参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

科目名	地域開発論	担当者	田中 暁子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
本授業では、現在の日本を形成してきたさまざまな地域開発の内容や経緯、成果、問題点などについて学び、考えていきます。とりわけ、国土総合開発法に基づいて展開された全国総合開発計画（第1次～第5次）や産業面（農業・工業）の開発、居住面の都市開発・都市計画について学びます。また、それらの開発・政策によって生じてきたさまざまな問題点を整理し、それら問題点の是正に向けた取り組み（過疎地域対策、地域振興、まちづくりなど）についても、具体的な事例を基に学び、考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業を通じて、これまでに日本で展開されてきたさまざまな地域開発の経緯や内容、成果、問題点などについて正しく理解するとともに、それらの開発の関係性についても把握できるようになることを目標とします。また、それらの開発や問題点の是正に向けた取り組みに対する自身の意見・考えや解決策を提示することができるようになることを目標とします。

【履修条件】
「地域」の課題について日常的に関心を持ち、その解決方法について考える力を身につけていること。

【授業方法】
授業ではパワーポイントを使用した講義を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内では、Google Formを通じたアンケートによって、自分の考えをまとめて、提出してもらいます。数回、グループ・ディスカッションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域開発論における主要な概念や理論を識別できる。						2		2				
②	地域開発論に関連する日本の社会システムにおける主要な概念や理論を識別できる。						2		2				
③	地域開発論に関連する事象を教訓として現代社会における問題を理解し、自分なりの意見・考えを提示できる。						2		2	2			
④	地域開発論に関連する現代社会の問題に対して、新たな考えおよび従来示されてこなかった政策案を提示することができる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回、授業の最後には、参考資料を示すとともに、課題を出し。到達目標①、②、③に関する基礎知識が身についているかを評価します。	30	30	10								70
レポート等	学期末に小論文・レポートとして、まちづくり団体についてレポートを提出していただき、到達目標③にかかわる説明ができるようになっているか、到達目標④にかかわる能力が身についているかを評価します。			15	15							30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業後に提出していただいた課題について、次回の講義で特徴的な意見を紹介したり、質問に答えたりします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
まちをひらく技術 建物・暮らし・なりわい―地域資源の一斉公開	オープンシティ研究会	学芸出版社	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
tanaka@timr.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】、【コミュニティとまちづくりとは】	講義の中心となるコミュニティやまちづくりについて、学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニティやまちづくりについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	空間整備、生活環境の維持・改善のためにまちづくり活動している様々な団体に興味を持ち、気になった活動があったら、ホームページ等でより深くその活動について調べてみる。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
2	震災復興まちづくりを概観する	東日本大震災からの復興まちづくりについて、様々な事例を横断的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災からの復興まちづくりについて、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
3	大槌町赤浜における震災復興まちづくり	住民主体の防潮堤の高さ決定	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりにおける住民の主体性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災からの復興まちづくりにおける防潮堤の高さ問題について、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
4	大槌町吉里吉里における震災復興まちづくり	吉里吉里集落のまとまり	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりにおける住民自治について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災での避難所運営や復興まちづくりにおける高台移転について、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
5	大船渡市における震災復興まちづくり	既存のコミュニティに配慮した高台移転	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりにおける自治体の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災からの復興まちづくりにおける差し込み型（小規模分散型の）高台移転について、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
6	岩沼市における震災復興まちづくり	被災6集落と玉浦のきずな	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりにおける首長のリーダーシップについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災からの仙台平野部の都市における復興まちづくりについて、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	宮古市田老における震災復興まちづくり	昭和三陸津波からの復興と東日本大震災からの復興	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、震災復興まちづくりにおけるコミュニティの役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、東日本大震災からの復興まちづくりとその教訓の継承、防災教育について、本や新聞記事を読み、どのようなことが行われたか、整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
8	オープンシティ（まちを開く取り組み）を概観する	近年のまちにおける「閉鎖的」という問題と、全国で行われつつある「オープンシティ」（まちを開く取り組み）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、「まちを開く」ことの意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、実際身近なまちを歩いてみて、閉鎖的な場所と開放的な場所を見つけて、その特徴を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
9	オープンシティ（まちを開く取り組み）：「城下町村上 町屋の人形さま巡り」	「城下町村上 町屋の人形さま巡り」と新潟県村上市のまちづくりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、そのまちに特徴的な町屋という資源を通じて「まちを開く」ことの意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、HP等で村上市について調べ、その特徴を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
10	オープンシティ（まちを開く取り組み）：「おぶせオープンガーデン」	「おぶせオープンガーデン」と長野県小布施町のまちづくりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、庭を通じて「まちを開く」ことの意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、HP等で村上市について調べ、その特徴を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
11	オープンシティ（まちを開く取り組み）：東京都世田谷区の「地域共生のいえづくり」	東京都世田谷区の「地域共生のいえづくり」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、身近な地域に居場所があることの意義を理解し、説明することができる	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、HP等で、空き家や空き部屋、空き地を地域に貢献するような事例を調べ、その特徴を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分
12	既成市街地における旧来型の自治組織の活動（戸田市の町会・自治会）	既成市街地における地縁組織である町会・自治会とその活動について、戸田市を事例に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、町会・自治会があることの意義や、抱えている課題を理解し、説明することができる	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、自分の住んでいる地域の町会・自治会とその活動について調べ、その特徴を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	住宅地におけるまちづくり団体の活動（城南住宅組合／東京都練馬区）		住宅地における住環境保全活動について、約100年の歴史を持つ住民組織である「城南住宅組合」の活動を事例に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、住環境保全する組織の意義や課題を理解し、説明することができる		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、自分の住んでいる地域の近くで、住環境の良い住宅地を探してみるとともに、そこで の住民組織の有無、その活動内容について調べ、その特徴を整理する。		120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。		120分
14	住宅地におけるまちづくり団体の活動（目白まちづくり団体の系譜）		住宅地における住環境保全活動について、目白文化協会、目白駅美化同好会、目白まちづくり倶楽部の活動を事例に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、住環境保全する組織の意義や課題を理解し、説明することができる		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、自分の住んでいる地域の近くで、住環境の良い住宅地を探してみるとともに、そこで の住民組織の有無、その活動内容について調べ、その特徴を整理する。		120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。		120分
15	既成市街地における「祭り」をきっかけとしたまちづくり（高円寺阿波踊り）		既成市街地における地縁団体以外のコミュニティがまちづくりに与える影響について、高円寺阿波踊りを事例に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、地縁によらないコミュニティの意義や課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、自分の住んでいる地域の近くで、地縁ではなく、共通の趣味などで出来たコミュニティが、まちづくりに影響を与えている事例がないか調べ、その特徴を整理する。		120分
	事後学修	講義ノートや、ポータルを通じて配布する参考資料を確認しながら、課題に取り組む。		120分

科目名	地域コミュニケーションA	担当者	小林 聡明	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
本授業は、グローバル・ヒストリーとしてのテレビの歴史と、そこにまつわる人々（ジャーナリスト）の諸相を、東アジアの地平から見ていこうとする。それは、戦後東アジアの各地で、どのようにテレビが「成立」し、ジャーナリストが「養成」されていたのかについて、各地域と様々なメディアの相互関連の観点から把握することで、テレビやジャーナリスト、さらにはジャーナリズムという知と冷戦（＝政治）の関係について学ぶものとなる。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本授業では、次の到達目標が設定されている。 ①東アジアのメディア状況に対する知識の獲得と理解の促進 ②東アジア社会に対する知識の獲得と理解の促進 ③国民国家を越える歴史的視点の獲得 ※なお、「本／論文の読み方」に関する技法の獲得も、本授業が有する重要な目的の一つであることを付言しておきたい。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
教師による講義形式を中心とするが、受講者には随時、リアクションペーパーを記入し、提出してもらい、教師が、それに応答することで、教師-学生の双方向性を確保する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを通じた質問の提出、それに対する教師からの応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東アジア地域の歴史や文化、政治、経済、社会について説明できる。					3							
②	東アジアの地域連関について説明できる。						3						
③	東アジアのメディア連関について説明できる。							3					
④	東アジア地域における諸問題を発見し、解決にむけた方策をデザインすることができる。								3				
⑤	「他者」の論理に配慮しながら、事実と自らの知見に基づき、議論を組み立てることができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『文化冷戦と知の展開』	小林聡明ほか編	京都大学学術出版会	2022	参考書	任意
『電波・電影・電視』	三澤真美恵ほか編	青弓社	2012	参考書	任意
『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』	貴志俊彦ほか編	勉誠出版	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
グーグルクラスルームを通じてアポイントメントを取ってください。その際、相談内容と希望する面談方法・時間（候補複数）をお知らせください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	授業のテーマや進め方を説明したうえで、東アジアのメディアを学ぶことの意味について講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国や北朝鮮について学ぶことの意味を把握し、社会科学的な思考形式の重要性を認識したうえで、今後の能動的に学修していくための方法を習得することができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	日本におけるテレビ放送体制の成立	日本において、テレビというメディア、放送の形式は、どのように成立したのかについて、主として「教育型テレビ放送」の観点から、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日本におけるテレビ放送の成立について、説明することができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
	事後学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
3	日本におけるテレビ放送の歴史とアメリカの存在	日本のテレビ放送成立期について、アメリカという切り口から説明し、テレビと冷戦の結びつきについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、アメリカが、どのように日本のテレビ放送に関与していたのかについて、冷戦との関係のなかで述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	新中国のテレビ放送	中華人民共和国の初期電視事業について、上海におけるテレビ放送開始の時期を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	台湾のテレビ放送①	台湾におけるテレビ放送の歴史的展開を学ぶうえで必要な前提（歴史、文化、社会など）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、台湾に関する知識を獲得する。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	台湾のテレビ放送②	台湾におけるテレビ放送の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	香港のテレビ放送	香港におけるテレビ放送の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、香港のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	韓国のテレビ放送	韓国のテレビ放送史について、導入期（放送開始期）の焦点をあてて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	北朝鮮のテレビ放送	北朝鮮のテレビ放送史について、導入期を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、北朝鮮のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	新授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
10	ジャーナリズムと冷戦：日本	日本におけるジャーナリズム教育の導入とジャーナリスト養成の政治的文脈に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日本におけるジャーナリズム教育／ジャーナリスト養成の歴史的展開について、冷戦との関係から、その意味について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	ジャーナリズムと冷戦：台湾	台湾におけるジャーナリズム教育の導入とジャーナリスト養成の政治的文脈に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、台湾におけるジャーナリズム教育／ジャーナリスト養成の歴史的展開について、冷戦との関係から、その意味について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	ジャーナリズムと冷戦：香港	香港におけるジャーナリズム教育の導入とジャーナリスト養成の政治的文脈に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、香港におけるジャーナリズム教育／ジャーナリスト養成の歴史的展開について、冷戦との関係から、その意味について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。1	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリズムと冷戦：韓国	韓国におけるジャーナリズム教育の導入とジャーナリスト養成の政治的文脈に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国におけるジャーナリズム教育／ジャーナリスト養成の歴史的展開について、冷戦との関係から、その意味について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	メディアの知と冷戦	冷戦が、いかにメディア研究という学知に影響をあたえ、形づくる政治的要因になっていたのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、メディアをめぐる知の政治的含意を説明することができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	東アジアのメディア／ジャーナリズムが、いかに冷戦というマクロな時代状況と結びつきながら、ミクロな現実を規定し、それが、現代社会の構造や仕組みを形づくっているのかについて説明する。それを踏まえ、東アジア、さらには世界が直面する課題に対する、あらたな視点を提供する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、東アジアのメディアが有する歴史的、構造的特質と、欧米との同質性や相違点を説明することができる。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	地域政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、地域政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。講義を聞きことを前提としているので、地域課題の解決について考えることができること。

【授業方法】
参考書を指定してオンライン形式（オンデマインド）により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。レポートやリアクションペーパーを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。				4							
②	地域政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						4					
③	地域策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
場所は本館 6 階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	地域政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	地域における地方自治体の役割について説明できる	
	事前学修	地方自治体の構成要素や役割について地方自治論の参考書などで調べる	120分
	事後学修	地方自治体の役割について考えて、国との役割の違いを検討する	120分
2	地方分権化時代の地域づくり	地方分権化時代の地域づくりの特徴について学修する。	
	この回の到達目標	地方分権化時代の地域づくりの特徴について説明できる。	
	事前学修	地方分権下の地域における自治体の役割変化や求められることについて検討する	120分
	事後学修	地方分権法の意義について考える	120分
3	ローカルガバナンス	ローカルガバナンスとはなにかについて学修する。	
	この回の到達目標	ローカルガバナンスの概念について説明できる	
	事前学修	ローカルガバメントとの違いについて考える	120分
	事後学修	ローカルガバナンスの主役（主体）はなにか考える	120分
4	国土計画と地域政策の関係	地域からみた国土計画の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	地域からみた国土計画について自分なりに説明できる	
	事前学修	国土計画法の概要について調べる	120分
	事後学修	国土計画の歴史を整理する	120分
5	国土計画と地域政策の諸相	国土計画の半化による地域政策のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	国土計画の考え方の転換点と地方自治体の役割について説明できる	
	事前学修	国土計画の歴史とそれぞれの計画の概要について整理してくる	120分
	事後学修	国土計画の考え方の転換点についてまとめる	120分
6	地域づくりのと公民連携の概要と課題	地域づくりを公民連携によってどのように課題を解決し、新たな地域社会を実現するか学修する。	
	この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法を説明できる	
	事前学修	公民連携の必要性について考える	120分
	事後学修	公民連携の形態について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地域づくりと公民連携の形態	地域づ地域における公民連携の在り方について学修する。	
	この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法とそのメリットとデメリットについて説明できる	
	事前学修	PPPとはなにか整理する	120分
	事後学修	PPPの種類と選択方法について整理する	120分
8	地域づくりの限界と観光政策	地域づくりにおける観光政策の意義と位置づけについて学修する	
	この回の到達目標	定住人口の政策の限界について説明でき観光政策の意義について説明できる	
	事前学修	定住人口と交流人口の違いについて検討する	120分
	事後学修	交流人口政策の意義について整理する	120分
9	地域づくりと観光	地域づくりと観光についてその類型と課題について学修する。	
	この回の到達目標	定住人口政策から交流人口政策としての観光政策の類型と課題について説明できる	
	事前学修	定住人口の限界について学習する	120分
	事後学修	観光政策の手法について整理する	120分
10	国際化と地域の課題	地域の国際化の現状と課題について学修する	
	この回の到達目標	地域の国際化、とりわけ外への国際化について学修する。	
	事前学修	日本の在住外国人の人数や出身国と変化について調べる	120分
	事後学修	諸外国と自治体の関係について考える	120分
11	国際化と地域政策	地域の国際化に対応する政策展開について学修する	
	この回の到達目標	外なる国際化と内なる国際化政策について説明できる	
	事前学修	在住外国人の生活問題について考える	120分
	事後学修	自治体にとって、なぜ国際化が必要なのか整理する	120分
12	ICTの発展と地域政策	ICTを活用した地域づくりの方向性について学修する	
	この回の到達目標	ICTを活用した地域づくりについて説明できる	
	事前学修	ICTとはなにか、その意義について検討する	120分
	事後学修	ICTを活用した地域づくりについて先進例を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ICTを活用した地域づくり	ICTが自治体の住民サービスと運営改革について学修する	
	この回の到達目標	ICTが自治体の住民サービスと運営改革に関して説明できる	
	事前学修	ICTの有効的な手法について考える	120分
	事後学修	ICTの課題について整理する	120分
14	空き家と地域	人口減少時代の空き家問題について学修する。	
	この回の到達目標	空き家に関する解決策について説明できる	
	事前学修	空き家の将来推計について調べる	120分
	事後学修	空き政策の課題と限界を整理する	120分
15	統括と政策思考方法	これまでの授業で扱った政策の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	これまでの授業で扱った地域政策の基本的な視点について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた先進的な地域政策について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	知的財産英語	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本講義では、知的財産英語における基本的な英語表現について説明したうえで、特許法、意匠法、商標法、著作権法それぞれの事例を紹介して、具体的な英語表現についてわかりやすく解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産権のグローバル化に伴い、知的財産に関わる法務では、英語を用いる機会が増加している。そこで、本講義では、知的財産に関する基本的な英語表現について習得することを目的とする。また、本講義では、知的財産英語の基本的な英語表現について理解し、英語で知的財産法務を行えるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法に関する基礎科目の履修は、本講義の履修条件とはしない。）

【授業方法】
講義形式とする。毎回、英語辞書を持参のこと。（知的財産法に関する時事問題として、英語ニュースや英文記事などを題材とする。）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産英語の基本を理解することができる。						4					
②	知的財産英語の実務の基本を説明することができる。						4					
③	知的財産英語（事例）の主要な論点を説明することができる。							4	4			
④	知的財産英語（事例）を巡る諸問題について自分の意見を述べることができる。							4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知的財産英語のスキルを習得しているかについて授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業へのリアクション（出席票、質問・コメント等）により評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室） メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	知的財産英語とは何か	知的財産英語とは何かについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産英語の重要性について理解する。	
	事前学修	知的財産英語とは何かについて考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産英語とは何かについて整理しておいてください。	120分
2	特許法に関する事例（１）	特許法に関する事例（１）について講義します。（事例１：パテント・トロール）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（１）について理解する。（事例１：パテント・トロール）	
	事前学修	事例（１）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
3	特許法に関する事例（２）	特許法に関する事例（２）について講義します。（事例２：強制ライセンス）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（２）について理解する。（事例２：強制ライセンス）	
	事前学修	事例（２）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
4	特許法に関する事例（３）	特許法に関する事例（３）について講義します。（事例３：グリーン・テクノロジー）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（３）について理解する。（事例３：グリーン・テクノロジー）	
	事前学修	事例（３）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
5	意匠法に関する事例（１）	意匠法に関する事例（１）について講義します。（事例１：グリーン・デザイン）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（１）について理解する。（事例１：グリーン・デザイン）	
	事前学修	事例（１）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
6	意匠法に関する事例（２）	意匠法に関する事例（２）について講義します。（事例２：ユニバーサル・デザイン）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（２）について理解する。（事例２：ユニバーサル・デザイン）	
	事前学修	事例（２）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意匠法に関する事例（３）	意匠法に関する事例（３）について講義します。（事例３：ファッション・デザイン）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（３）について理解する。（事例３：ファッション・デザイン）	
	事前学修	事例（３）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
8	授業内試験（１） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	まとめを行いますので、しっかり復習してきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	商標法に関する事例（１）	商標法に関する事例（１）について講義します。（事例１：ブランド管理）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（１）について理解する。（事例１：ブランド管理）	
	事前学修	事例（１）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
10	商標法に関する事例（２）	商標法に関する事例（２）について講義します。（事例２：ブランド戦略）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（２）について理解する。（事例２：ブランド戦略）	
	事前学修	事例（２）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
11	商標法に関する事例（３）	商標法に関する事例（３）について講義します。（事例３：地域ブランド）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（３）について理解する。（事例３：地域ブランド）	
	事前学修	事例（３）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
12	著作権法に関する事例（１）	著作権法に関する事例（１）について講義します。（事例１：マンガ・アニメ）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（１）について理解する。（事例１：マンガ・アニメ）	
	事前学修	事例（１）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権法に関する事例（２）	著作権法に関する事例（２）について講義します。（事例２：グーグルブック訴訟）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（２）について理解する。（事例２：グーグルブック訴訟）	
	事前学修	事例（２）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
14	著作権法に関する事例（３）	著作権法に関する事例（３）について講義します。（事例３：サルの自撮り事件）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（３）について理解する。（事例３：サルの自撮り事件）	
	事前学修	事例（３）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
15	授業内試験（２） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	まとめを行いますので、しっかり復習してきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、可能な限り双方向で授業を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するフィードバックを行う。また、講義内容に基づいて明細書等を作成しレポートとする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題を課し、フィードバックは授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp 事前に要連絡

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許調査など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考える。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理する。	120分
2	特許法の目的	特許法の歴史と制度の目的について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許法の歴史とその制度の目的（特許法1条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許法の目的について復習し、発明の保護と利用の関係について整理する。	120分
3	特許の保護対象	特許上の発明（保護対象）について	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許法上の発明について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許法上の発明（特許法2条1項）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許法上の発明（保護対象）について復習し、特許法2条1項の解釈を整理する。	120分
4	特許要件（1）	産業上の利用可能性について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてくる。	120分
	事後学修	産業上の利用可能性について復習し、その内容を整理する。	120分
5	特許要件（2）	新規性の要件について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてくる。	120分
	事後学修	新規性の要件について復習し、その内容を整理する。	120分
6	特許要件（3）	進歩性の要件について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてくる。	120分
	事後学修	進歩性の要件について復習し、進歩性に関する事例を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	特許要件（４）		先願主義（特許法３９条）について
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、先願主義（特許法３９条）について考えてくる。	120分
	事後学修	先願主義（特許法３９条）について復習し、内容を整理する。	120分
8	特許要件（５）		拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	参考書を読んで、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について考えてくる。	120分
	事後学修	拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について復習し、内容を整理する。	120分
9	権利の主体（１）		発明者・出願人について
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、発明者と出願人について考えてくること。	120分
	事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者、出願人、特許を受ける権利について整理する。	120分
10	権利の主体（２）		職務発明制度について
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてくる。	120分
	事後学修	職務発明制度について復習し、その要件や制度の内容を整理する。	120分
11	特許出願手続き（１）		特許出願書類、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許出願書類について復習し、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について整理する。	120分
12	特許出願手続き（２）		出願公開制度について
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてくる。	120分
	事後学修	出願公開制度について復習し、制度の内容（制度趣旨時期や公開内容）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	特許出願手続き（３）	審査請求制度、特許審査手続きについて	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審査請求制度、特許審査手続きについて理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、審査請求制度、特許審査の手続きについて理解すること。	120分
	事後学修	審査請求制度の内容、審査手続きについて復習し、内容を整理する。	120分
14	出願・審査手続（４）	出願分割・出願変更制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願分割・出願変更制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、出願分割・出願変更について考えてくる。	120分
	事後学修	出願分割・出願変更について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分
15	出願・審査手続（５）	国内優先権制度、外国語出願制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国内優先権制度、外国語出願制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、国内優先権制度・外国語出願制度について考えてくる。	120分
	事後学修	国内優先権制度・外国語出願制度について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。対面による授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するコメントを講義。また、講義内容に従った仮想出願書類作成の体験学習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				1		1					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				2		2	2				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						2	2				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				2		2	2				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法〔第8版〕	高林 龍	有斐閣	2023	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説 22版	特許庁（編集）	発明推進協会	2022	参考書	推奨
特許判例百選 第5版	小泉・田村	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（９号館４階9４０8研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許出願実務経験を通じ、例えば、学生個々に実際に特許庁のデータベースにアクセスさせ、特定の発明特許法上の発明要件の充足性について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総説（１）	知的財産権法の概要及び現状 知的財産権を構成する法律（特許法・実用新案法・意匠法・種苗法・半導体チップ保護法・著作権法・商標法・不競法）の保護対象及び法の制定趣旨を説明し、それぞれの関連を解説する。また、世界で起きている知的財産権に関するトラブル（侵害・模倣・海賊版）の現状を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産権にほどの様な法律があるのか説明できる。	
	事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、知的財産権を構成する法律について、どの様な法律があるのかを教科書で調べノートに列記する。授業時には、それぞれの関連性について説明を行う。 https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai02.html	180分
	事後学修	今まで自己が考えてきた無体財産はどの様な法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどの様な方向に進むべきか考え、ノートに書き出しておく。知的財産権について、問題意識を持って欲しい。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書にて対応する講義主題を確認する。	60分
2	総説（２）	特許法の目的及び特許権成立までの概略 特許法の目的を規定する第1条を解説する。この1条では、特許法の究極目的を「産業の発達」としており、この目的を理解することで、今後講義を行う各制度の意義を理解できるようにする。また、特許権は、発明の着想に始まり特許査定により成立するため、一連の過程を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法が制定された理由及び発明から特許成立までの流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、なぜ特許法が制定されたのか理解し、ノートに書きだしておく。以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、特許成立までの流れを調べ、ノートに列記する。 https://faq.inpit.go.jp/industrial/faq/search/result/10409.html?event=FE0006	180分
	事後学修	特許法1条の各用語の意味を再確認し、ノートに列記する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	60分
3	特許要件（１）	客体要件（発明、産業上の利用性） 「発明」及び「産業上利用可能性」を規定する特許法2条・29条を正確に理解する。「発明」要件を正確に理解しているか確認するため、受講者は、特許庁のデータベースであるJ-platpatを使用し、実際に出願された発明が法上の「発明要件」を満足するか、調査学習を行う。調査学習の成果をレポートにて提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、どのようなアイデアが法の保護対象となっているか説明でき、また、到達目標②③④に関連して、特許法の目的とからめて、特許要件である産業上の利用可能性について説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解し、ノートに書きだしておく。また、特許成立に必要である「産業上の利用性」を理解、ノートに書きだしておく次回授業で発明、産業上の利用性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	講義で説明した発明要件を再確認し、ノートに列挙する。授業内で説明した特許庁データベース（Jplatpat）を各自が利用し、その調査手法を身につける。その上で、各自が調査し、抽出した特許庁に実際に出願されているアイデアが、自己が作成したノートに照らし、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。	140分
4	特許要件（２）	客体要件（新規性、進歩性） 特許を取得するための要件である「新規性」の場所・時間・内容の基準を講義する。また、発明が当業者から見て、従来の技術から容易に発明できる場合（進歩性がない場合）は特許にはならない。この進歩性の判断基準について講義する。また、前回講義の発明性に関する調査学習に関する講評をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許法の要件である新規性・進歩性の要件を説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、新規であるとはどういう状況をいうのか理解し、また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解し、ノートに書きだしておく。次回授業で新規・進歩性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	講義で説明した新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、ノートに列挙し、参考書で確認する。	140分
5	特許要件（３）	新規性喪失の例外 発明者の意に反して自己の発明が公開されてしまったり、自己の発意に基づいて自己の発明が公開した場合に、新規性を失い、特許を取得できないとすることは発明者保護の欠けるので、このような場合の一定の例外規定を講義し、その法的効果についても言及する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、新規でない場合であっても新規であると擬制して取り扱う理由について説明でき、その場合の法的な取り扱いについても説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどの様な場合であるか、理解をし、ノートに列挙する。次回授業で新規性喪失の例外規定について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どの様な場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考察し、その考えをノートに列挙し、参考書で確認する。	140分
6	特許要件（４）	客体要件（不特許事由） 新規性・進歩性を有していても、産業政策上・公益上の理由から特許すべきではない場合がある。それら不特許事由について講義するとともに、最近の裁判例についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、公益を目的として特許の対象から外されている発明にはどのようなものがあるか、なぜそのように取り扱われているかを説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明（例えば犯罪目的の発明など）を具体的にノートに列挙する。そして、その列挙した発明をグループ化し、その理由をノートに書きだしておく。次回授業で 不特許事由について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	事前に考えた特許すべきではない発明が、授業で取り上げなかった場合、講義で説明する不特許事由の趣旨に照らし、自己の考えの正当性についてノートに書きだすとともに、他の受講者と意見交換を行う。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許要件（５）	先願主義 同一の発明が2以上競合した場合、二重特許を排斥する手段として先に出願した人に権利を付与する とした先願主義を講義する。この場合、同日出願と異日出願では手続きが異なるので、その理由 や制度自体を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、二重特許を排斥する手段として日本がなぜ先願主義を採用したのか、また、その制度の内容 について説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、先願主義とは何かを理解し、ノートに書き出しておく。同一の発明が同日 に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解し、ノートに列記する。次 回授業で先願主義について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるかを考察し、ノートに列記する。 また、先発明主義を採用していた国の制度の詳細をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	140分
8	特許要件（６）	拡大された先願範囲の地位 本規定の定義及び制度趣旨（準知知・審査請求制度導入・防衛出願排除）を講義し、規定の内容 としては、先願主義との比較を中心に、同日出願の場合、実用新案法下での出願との関係発明者 同一／出願人同一による例外規定の講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、29条の2の規定を3つの制度趣旨を説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページ及び参考書（逐条解説）の29条の2の解説（本規定は特に理解が難しため）を事前に読んでお き、規定の内容をノートに書き出しておく。次回授業で「拡大先願」について説明するので、調べた内容と答え合わ せができるようにしておく。	100分
	事後学修	本規定の条文である29条の2について、授業後、再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認し、ノートに書き出 しておく。	140分
9	出願・審査手続（１）	出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性 特許出願で提出する書類（願書・明細書。必要な図面。要約書）及びその内容（実施可能要件・ 発明明確要件）を講義する。その後、体験学習として、特定の治具を学生に見せて、その治具が 何の発明であるか各自が考えたうえ、前述の要件にあった出願書類を作成し、次週提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、特許出願書類を準備することができ、また、到達目標②③④に関連して、1つの出願で特許出願 が行える発明の範囲に関し説明できる。	
	事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、出願書類にはどのような記載をすべきであると法が規定しているか理解 し、ノートに列記する。また、1つの出願で権利の請求が行える発明の範囲についてもノートに列記する。 https://www.inpit.go.jp/blob/archives/pdf/patent.pdf	100分
	事後学修	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書で確認し、ノートに列記する。さら に、この回の講義では、体験学習として仮想特許出願書類作成の課題を行うので、自己が作成したノートを参照しつ つ、書類を作成し、次週に提出する。	140分
10	出願・審査手続（２）	優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権） 発明者の権利保護を目的として、第1国の出願にもとづいて優先権を主張して第2国へ出願をする と、後の出願について、一定事項（特許要件等）については、最初の出願の時を基準として判断 される優先権制度での設立趣旨、規定の内容を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、パリ条約の同盟国民及びWTOに加盟する国民が日本に特許出願するに際して、不利な取り扱い を受けない制度である優先権制度を説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解 し、ノートに書き出しておく。次回授業で優先権一般について説明するので、調べた内容と答え合わせができるよう にしておく。	100分
	事後学修	優先権の種類や利用場面を考え、ノートに列挙する。この講義はパリ条約4条に基づき規定された国内法であるた め、パリ条約4条を読み理解を深めるとともに、参考書①の対応箇所も読み、ノートに書き出しておく。	140分
11	出願・審査手続（３）	補正 特許庁への手続（特許出願・請求その他特許に関する手続：3条2項）について、その内容の補 充又は訂正をすることを意味する補正について、講義する。特に明細書や特許請求の範囲の補正 ができる内容的制限や時期的制限に関し、その理由及び規定の内容を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、補正をする目的や補正の制約を説明できる。	
	事前学修	第2回講義の特許取得までのフローを思い出しながら、P246-249を事前に読み、手続きの補正とは何か、何故、そ のような補正を行うのかについて十分理解し、ノートに書きだす。また、そのような補正が何時、どのような範囲で行う ことができるのかをノートに列挙する。	100分
	事後学修	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書で確認し、ノートに書きだす。	140分
12	出願・審査手続（４）	出願分割及び出願変更 一の出願に二以上の発明が含まれている場合、その出願の一部を抜き出して別出願とする分割出 願制度や意匠や実用新案登録出願から特許出願に変更を認める出願変更制度の制度趣旨や規定の 内容を講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、出願分割及び出願変更に関し、制度内容や目的、法上の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、出願分割や変更は、どのような制度であるか、なぜ認められているのか、ど のような状況での利用となるのか、理解し、ノートに書きだす。次回授業で出願分割及び出願変更について説明する ので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であることから、パリ条約4条Fについても、参考書を読 んで、日本の分割・変更制度と内容の同一性に関して確認し、相違点があればノートに列挙する。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	出願・審査手続（５）	外国語書面出願 外国語により作成された書類での特許出願を認めるに至った制度趣旨や規定の内容を講義する。 最終的には日本語の翻訳文を提出するが、誤訳訂正や補正の範囲についても講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、外国語書面で特許出願した場合のその後の手続きについて説明できる。	
	事前学修	参考書内の36条の2及びその解説を事前に読んでおき、日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解し、ノートに書き出す。	100分
	事後学修	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがあった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わないため、どのような手法で誤訳を訂正するのか、講義での内容を確認し、ノートに書き出す。また、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、相違点を理解し、箇条書きにしてノートに書き出す。	140分
14	出願・審査手続（６）	特許庁の行為１（出願公開及び補償金請求権） 出願後、一定期間経過したこと又は出願公開の請求があったことを条件に、審査の段階の如何にかかわらず、特許出願の内容を公衆に知らせる公開制度の意義、公開による仮保護となる補償金請求権の規定（権利行使の時期や手法）について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、早期に発明内容を公開する意義、公開による出願人の保護を行う補償金請求権の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、出願公開の要件及び出願公開に伴い発生する補償金請求権の要件及び内容を理解し、ノートに書き出す。次回授業で出願公開及び補償金請求権について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	参考書の第三章の二（64条-65条）にある出願公開制度、補償金制度、早期公開制度の解説を読み、講義内容、規定の内容、条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
15	出願・審査手続（７）	特許庁の行為２（拒絶理由通知、査定と登録） 特許要件を具備する・具備しない発明に対する特許庁のアクションについて講義する。 尚、上記講義終了後、学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許要件を満たしていない出願に対し、どのような行為をなされるかを説明でき、その対応により、審査部での最終判断としての処分がどのようなものになるか説明できる。	
	事前学修	教科書の対応ページを事前に読んでおき、拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解し、ノートに書き出す。特に最終回の講義では、今まで講義した内容全般から知識を問う形で出題するため、今までまとめてきたノートを繰り返し読み返す	100分
	事後学修	参考書の49条（拒絶査定）、50条（拒絶理由通知）、51条（特許査定）にて講義内容を確認し、ノートに追記する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認し、全体としてのまとめを書き出す。	140分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	加藤 浩	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
対面授業として実施する。 講義プリントを配布・配信して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての特許法に関する基礎的な 制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆 記試験により評価する。	10	10	10	10	10	10					60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業へのリアクション（出席票、質問・コメントなど）に より評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	10	30	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。研究室（本館 6 階　1 6 1 0 号室）　メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産法の概要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	特許法の目的／保護対象	特許法の目的と保護対象について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的と保護対象について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許法の目的（特許法１条）と保護対象（特許法２条１項）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許法の目的について復習し、特許法１条と特許法２条１項の解釈について整理しておいてください。	120分
3	特許要件（産業上の利用可能性）	産業上の利用可能性について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、産業上の利用可能性（特許法２９条１項柱書）について考えてきてください。	120分
	事後学修	産業上の利用可能性について復習し、特許法２９条１項柱書の解釈について整理しておいてください。	120分
4	特許要件（新規性）	新規性の要件について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、新規性の要件（特許法２９条１項各号）について考えてきてください。	120分
	事後学修	新規性の要件について復習し、特許法２９条１項各号の解釈について整理しておいてください。	120分
5	特許要件（進歩性）	進歩性の要件について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、進歩性の要件（特許法２９条２項）について考えてきてください。	120分
	事後学修	進歩性の要件について復習し、特許法２９条２項の解釈について整理しておいてください。	120分
6	特許要件（記載要件）	明細書等の記載要件について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	明細書等の記載要件について復習し、特許法３６条、３７条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許要件（不特許事由）	不特許事由について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、不特許事由について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、不特許事由（特許法３２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	不特許事由について復習し、特許法３２条の解釈について整理しておいてください。	120分
8	授業内試験（１） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
	事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	権利の主体（１）	発明者・出願人について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、発明者と出願人について考えてきてください。	120分
	事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者適格、出願人適格について整理しておいてください。	120分
10	権利の主体（２）	職務発明制度について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	職務発明制度について復習し、特許法３５条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	特許出願手続き（１）	特許出願書類について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許出願書類（特許法３６条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許出願書類について復習し、特許法３６条の解釈について整理しておいてください。	120分
12	特許出願手続き（２）	出願公開制度について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	出願公開制度について復習し、特許法６４条、６５条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	特許出願手続き（３）	特許審査について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許審査について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許審査（特許法４９条、５０条、５１条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許審査について復習し、特許法４９条、５０条、５１条の解釈について整理しておいてください。	120分
14	特許出願手続き（４）	審判制度について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審判制度について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、審判制度（特許法１２１条、１２３条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	審判制度について復習し、特許法１２１条、１２３条の解釈について整理しておいてください。	120分
15	授業内試験（２） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
	事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、可能な限り双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp 事前に要連絡

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業・特許事務所での特許権等に関する訴訟・ライセンスの経験を通じ、これらに関する実践的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	特許権の効力と制限（１）	特許権の存続期間について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、特許権の存続期間について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の存続期間について復習し、内容を整理する。	120分
2	特許権の効力と制限（２）	特許権の効力と制限について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理する。	120分
3	特許権の効力と制限（３）	特許発明の技術的範囲について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてくること。	120分
	事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理する。	120分
4	特許権の効力と制限（４）	権利の共有について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考える。	120分
	事後学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてくる。	120分
5	特許権の活用（１）	実施権（専用実施権・通常実施権）について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてくる。	120分
	事後学修	実施権の内容を復習し、各実施権の内容整理する。	120分
6	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、法定実施権（７９条）、裁定実施権（８３条）について考えてくる。	120分
	事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、権利の趣旨・内容を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許権と他の権利との関係	利用・抵触関係(72条) について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	参考書を読んで、利用抵触関係（72条）について考えてくる。	120分
	事後学修	利用抵触関係（72条）について復習し、規定の趣旨・内容を整理する。	120分
8	特許権の侵害と救済（1）	特許権侵害の成立要件について	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権侵害の成立要件について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
9	特許権の侵害と救済（2）	特許権の間接侵害について	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権の間接侵害（101条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の間接侵害について復習し、その趣旨と内容を整理する。	120分
10	特許権の侵害と救済（3）	特許権侵害に対する救済について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（100条、その他）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法100条、その他関連する条文の解釈について整理する。	120分
11	審判制度（1）	拒絶査定不服審判・審査前置について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判・審査前置制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、拒絶査定不服審判・審査前置制度について考えてくる。	120分
	事後学修	拒絶査定不服審判・審査前置制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分
12	審判制度（2）	特許無効審判制度・特許異議申立制度について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判制度・特許異議申立制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許無効審判制度・特許異議申立制度について考えてくる。	120分
	事後学修	特許無効審判制度・特許異議申立制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	特許訴訟		審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について考えてくる。	120分
	事後学修	審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
14	実用新案法（１）		実用新案権の登録手続きについて
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、実用新案権の登録手続きについて考えてくる。	120分
	事後学修	実用新案制度の登録手続きについて、特許制度の違いを中心に復習し整理する。	120分
15	実用新案法（２）		実用新案権の行使について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の行使について考えてくる。	
	事前学修	参考書を読んで実用新案権の行使について考えてくる。	120分
	事後学修	実用新案権の行使について、特許権との違いを中心に復習し整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。対面による授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				1		1					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				2		2	2				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						2	2				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法〔第8版〕	高林 龍	有斐閣	2023	教科書	必携
工業所有権法（産業財産権法）逐条解説 第22版	特許庁（編集）	発明推進協会	2022	参考書	推奨
特許判例百選 第5版（別冊ジュリスト）	小泉 直樹（編集）他	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館4階9408研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許ライセンス実務経験を通じ、例えば、特許ライセンス手法について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	特許を受ける権利		権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許を受ける権利の発生・消滅・主体変動を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページ、参考書②33-34条及びそれらの解説を事前に読んでおく。		120分
	事後学修	共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解する。		120分
2	職務発明制度		職務発明の従業員の権利及び使用者の権利	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、青色LED事件を用いて法改正がなされた理由や改正により権利の原始的帰属がどのように変わったのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。		120分
	事後学修	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。		120分
3	特許権の効力（１）		効力範囲	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権者の権利（即ち侵害者の行為）を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのか理解する。		120分
	事後学修	特に、消尽説を教科書の該当ページを利用し理解する。		120分
4	特許権の効力（２）		効力の制限、拡張的効力	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の積極的・消極的効力の制限がなされる具体的な状況を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページ（効力制限）及び（間接侵害）を事前に読んでおく。		120分
	事後学修	「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」 平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深める。		120分
5	特許権の存続期間		特許権及び延長特許権の期間の算出方法や延長の手続	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の始期及び周期を説明でき、さらに後発医薬品にかかる問題で69条1項との関係を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解する。		120分
	事後学修	「パシーフカプセル事件」（最高裁判所第1小法廷平成21年(行ヒ)第326号 平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深める。		120分
6	特許権侵害（１）		成立要件（技術的範囲の判断、均等論）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、68条及び70条の規定を説明しつつ、特許侵害の判断手法を説明し、さらに拡張的な例外（均等論）の内容及び要件を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。特許侵害はどのように判断されるのか理解する。		120分
	事後学修	「ボールスプライン軸受」 平成6(オ)1083 を読み、均等の5要件の意味を理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	特許権侵害（２）		民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許侵害の場合に差し止め請求はどこまで認められるのか、損害賠償は、特許法上の規定を利用する場合、どの様に算出されるのか説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解する。		120分
	事後学修	講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算する。		120分
8	権利の変動（１）		専用実施権／許諾による通常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、専用実施権／許諾による通常実施権の内容及び独禁法との境界線や問題点を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解する。		120分
	事後学修	企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要となる要素を考える。		120分
9	権利の変動（２）		法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、すべての法定実施権、裁定による通常実施権を説明でき、また、強制実施権である裁定に関し、その制度存在の是非について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。各実施権の内容を理解する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解する。		120分
	事後学修	国家間で問題となっている国家による強制実施権について考える。		120分
10	権利の変動（３）		権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許を受ける権利に基づくライセンスについて、また、特許権取得後にはそれらがどのように法上で取り扱われるかについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページ（移転）、参考書②34条の2及び34条の3及びそれらの解説（仮実施権）を事前に読んでおく。		120分
	事後学修	仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解する。		120分
11	審判（１）		審判手続	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審判の種類及び共通する審判手続きの流れを説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解する。		120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf		120分
12	審判（２）		拒絶査定不服審判／前置審査	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判の手続き及び意義について説明でき、さらに審判請求時の補正による前置審査制度について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解する		120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	審判（３）	特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判の手続き及び意義について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解する。	120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
14	訴訟	異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許事件に関し、司法で争う場合の手続きや主体要件など、当事者系と査定系に分けて説明できる。また、繰り返し改正される異議申し立て制度の内容及び改正理由（改正ごとに異なる趣旨）を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページ（異議）及び（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解する。	120分
	事後学修	審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を参考書①を利用して理解を深める。	120分
15	実用新案登録制度	実用新案制度及び実用新案技術評価書 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度の存在意義、特許法との相違、その相違から規定されることになった特殊な評価制度の意義を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページ事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどのようなものであるか理解する	120分
	事後学修	特許制度との相違を理解する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面授業として実施する。 レジュメを配布・配信して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業へのリアクション（出席票、質問・コメント等）により評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室） メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	特許権の効力・制限（１）	特許権の存続期間と効力について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間と効力について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の存続期間（特許法６６条、６７条）と効力（特許法６８条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権の存続期間について復習し、特許法６６条、６７条、６８条の解釈について整理しておいてください。	120分
3	特許権の効力・制限（２）	特許権の効力と制限について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	特許権の効力・制限（３）	特許発明の技術的範囲について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許発明の技術的範囲について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	特許権の効力・制限（４）	特許権の利用・抵触と権利の共有について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の利用・抵触と権利の共有について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の利用・抵触（特許法７２条）と権利の共有（特許法７３条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	権利の共有について復習し、特許法７２条、７３条の解釈について整理しておいてください。	120分
6	特許権の活用（１）	実施権（ライセンス）について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権（ライセンス）について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	実施権について復習し、特許法７７条、７８条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、法定実施権（特許法７９条）、裁定実施権（特許法８３条、９２条、９３条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、特許法７９条、８３条、９２条、９３条の解釈について整理しておいてください。	120分
8	授業内試験（１） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
	事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	特許権の侵害と救済（１）	特許権侵害の成立要件について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害の成立要件について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	特許権の侵害と救済（２）	特許権の間接侵害について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の間接侵害（特許法１０１条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権の間接侵害について復習し、特許法１０１条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	特許権の侵害と救済（３）	特許権侵害に対する救済について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（特許法１００条、その他）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法１００条、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	特許権の侵害と救済（４）	特許権侵害に対する刑事罰について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する刑事罰について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する刑事罰（１９６条、１９６条の２）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許権侵害に対する刑事罰について復習し、特許法１９６条、１９６条の２、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	実用新案法（１）	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について考えてきてください。	120分
	事後学修	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	実用新案法（２）	実用新案権の侵害と救済について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の侵害と救済について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の侵害と救済について考えてきてください。	120分
	事後学修	実用新案権の侵害と救済について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	授業内試験（２） 振り返り	授業内試験とこれまでの振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
	事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法B(意匠)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
魅力的な工業デザインは、今日の企業活動における重要な財産である。それらを保護する意匠法を中心に、商標法、及び、両法を補完する関係にある不正競争防止法にも目配りしながら、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
意匠法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 意匠制度をはじめとする知的財産法の法体系を理解し、官民間問わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
意匠法に加えて商標法、不正競争防止法について理解を深めるために、知的財産法C(商標・不正競争防止) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。期末試験の解説は授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	意匠法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。					3	3	3	3	3			
②	意匠法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。					3	3	3	3	3			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②に関して、期末試験により評価する。	30	20									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	30	20									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時にリアクションペーパーにより寄せられる質問、コメントに対して、次回講義時に解説等を加える。期末試験の解説を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
意匠法 第2版	茶園成樹	有斐閣	2020年	教科書	必携
事例から学ぶ意匠制度活用ガイド(以下「ガイド」とする。)	特許庁		最新版	参考書	推奨
備考	『ガイド』は特許庁HPにおける全文掲載を授業内で案内します。				

【オフィスアワー】
水曜11-12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(kato.akiko@nihon-u.ac.jp)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改革準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	知的財産法の体系		知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明した上で、本講義で扱う対象について、概要と進め方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(茶園)の1章1節「知的財産法と意匠法」に目を通す。		120分
	事後学修	配布資料及び教科書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、疑問点について自身で調べる。		120分
2	知的財産法における意匠法の位置づけ		前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特徴を考察する。 「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特徴を説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。		
	事前学修	教科書(茶園)1章に目を通す。		120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧する。「知財ミックス」の事例について調べる。		120分
3	意匠法の沿革、意義		日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのかについて講義する。 意匠法が抱える今日的な問題点についても、概要を説明し、以降の各論への導入とする。	
	この回の到達目標	到達目標①及び②について、日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのか説明できる。意匠法が抱える今日的な問題点について概要を説明できる。		
	事前学修	前回の事前学習対象(教科書1章)に再度目を通す。		60分
	事後学修	特許庁HP掲載書籍「意匠制度120年の歩み」に目を通し、講義内容について理解を深める。興味をひかれた意匠登録事例について調べてみる。		180分
4	意匠法上の意匠		意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて講義する。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて説明できる。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても説明できる。		
	事前学修	教科書(茶園)2章「意匠」に目を通す。		120分
	事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いのか、考えてみる。		120分
5	意匠の登録要件		前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて説明できる。		
	事前学修	教科書(茶園)4章「意匠登録要件」に目を通す。		120分
	事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いのか、考えてみる。		120分
6	意匠権に係る手続き(含む 国際条約)		前回までで学んだ要件を満たす意匠について、特許庁に登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ解説する。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願も説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に意匠登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ説明できる。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願について理解する。		
	事前学修	教科書(茶園)6章「意匠登録出願手続き」、1章5節「意匠に関する国際条約」、15章「ハーグ協定のジュネーブ改正協定に基づく特例」、及び、参考書(土肥著作3章3節3、7章5節)に目を通す。		120分
	事後学修	特許庁HP掲載の「出願の手続」第四章「意匠登録出願の手続」の概要を把握する。国際登録出願についても、特許庁の関連サイトを閲覧しておく。 教科書8章「審判制度」、9章「審決等取消訴訟」を通読する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特別な意匠登録制度（１）秘密意匠、組物の意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）７章３節「組物の意匠制度」、４節「秘密意匠制度」に目を通す。	120分
	事後学修	特許庁ＨＰ掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。秘密意匠、組物の意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
8	特別な意匠登録制度（２）部分意匠、関連意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）７章１節「部分意匠制度」、２節「関連意匠制度」に目を通す。	120分
	事後学修	特許庁ＨＰ掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。部分意匠、関連意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
9	意匠権	前回講義した手続きを経て登録される意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）10章「意匠権」に目を通し、意匠権の排他的効力のあらましについて理解する。	120分
	事後学修	配布資料及び教科書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の時間的、空間的な効力について整理してみる。	120分
10	意匠権の制限	前回講義した意匠権の効力を想起しながら、その制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権の制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）12章「侵害主張に対する防御手段」に目を通す。	120分
	事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の効力が制限される場面、および、その必要性について自身で説明してみる。	120分
11	意匠権の類似の判断と侵害	意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて検討する。意匠権侵害の類型にも触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて説明できる。意匠権侵害の類型を説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）５章「意匠の類似」、11章「意匠権侵害」に目を通す。	120分
	事後学修	『判例百選』に掲載されている類似が判断された事案に関する記事を読み、より具体的に調べてみる。	120分
12	意匠権の侵害に対する救済（１）民事	権利侵害に対してとりえる民事的な措置（差止請求、損害賠償請求等）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、権利侵害に対してとりえる民事的な措置（差止請求、損害賠償請求等）について説明できる。	
	事前学修	教科書（茶園）13章「侵害に対する救済」に目を通す。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例について、より具体的に調べる。知的財産高等裁判所ＨＰを閲覧して、裁判所の機能や知財関連の民事事件の傾向を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	意匠権の侵害に対する救済（２）行政：水際措置、刑事		意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(茶園)13章「侵害に対する救済」に再度目を通す。		60分
	事後学修	講義で紹介された税関、警察庁のHPを自身でも閲覧して、国内や水際における知的財産侵害物品の規制の仕組みと、近時の傾向を理解する。輸出入差止を申し立てている企業の具体的な事例について調べてみる。		180分
14	意匠権の活用		意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて講義する。各企業におけるそれら活用の事例も可能な限り紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて説明できる。各企業におけるそれら活用の事例を紹介できる。		
	事前学修	教科書(茶園)14章「意匠権の利用」に目を通す。		120分
	事後学修	配布資料及び『ガイド』、参考書に基づいて講義内容を復習する。『特許行政年次報告書』における意匠権の変動(譲渡、ライセンス等)に関する記事及び統計を確認する。		120分
15	期末試験及びその解説		期末試験を実施し、その出題意図及び想定回答について解説する。	
	この回の到達目標	期末試験においてこれまでの講義の理解を確認する。		
	事前学修	これまでの配布資料を見返す。		120分
	事後学修	期末試験の内容について確認、復習する。		120分

科目名	知的財産法C(商標・不正競争)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
自社ブランドを体現する商標の保護に係る商標法や、競業者による不正な競争行為を封じることのできる不正競争防止法は、今日の企業活動における重要な法領域であり、とりわけ、ブランドの形成と維持においてこれら標識法の果たす役割は大きい。これらの法の概要と、企業活動におけるこれらの法制度の活用的重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 知的財産法の体系を理解し、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
商標法、不正競争防止法に加えて意匠法についても理解を深めるために、知的財産法B(意匠法) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
基本的に講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。期末試験の解説は授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商標法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	不正競争防止法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。						3	3	3	3	3			
③	商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。						3	3	3	3	3			
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②及び③に関して、期末試験における内容により評価する。	30	10	10								50	
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	30	10	10								50	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	60	20	20							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時のリアクションペーパーにおける質問やコメントに対して、次回講義時に解説する。期末試験の解説は授業内で行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産法入門 第16版		土肥 一史	中央経済社	2019年	教科書	必携
商標・意匠・不正競争判例百選 第2版		茶園、田村、宮脇、横山	有斐閣	2020年	参考書	推奨
備考						

【オフィスアワー】
水曜11-12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(kato.akiko@nihon-u.ac.jp)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産関連シンクタンク勤務時の国内外の調査研究を含めた制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	知的財産法の体系		知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明したうえで、2つの法律を扱う本講義の概要と進め方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(序論)に目を通す。		60分
	事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HP(特に『事例から学ぶ 商標活用ガイド』)の内容、及び、商標制度を紹介する動画を自身で閲覧し、疑問点を自身で調べてみる。		180分
2	知的財産法における商標法、不正競争防止法の位置づけ		前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中で標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを考察する。「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②について、標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。		
	事前学修	教科書(序論)に再度目を通し、商標法及び不正競争防止法の特徴を書き出しておく。		60分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、講義内容と照合する。「知財ミックス」の事例について調べる。		180分
3	商標法の沿革と意義		現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも想起しながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(2章1節「商標の沿革」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載の資料を閲覧して、興味をひかれた歴史的事実や事例について調べてみる。		120分
4	商標の機能、商標法上の商標(商標法上の商品・役務、商標の使用概念)		現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて説明できる。		
	事前学修	教科書(2章2～5節)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、一般にいわれる商標と商標法上の商標とはどのように異なるのか、自身で説明してみる。非伝統的な商標の保護に関する特許庁HP掲載の動画を視聴する。J-Platpatにおいて様々な商標について検索してみる。		120分
5	商標の登録要件		商標登録に当たっては、商標法上の商標であるだけでなく、商標法上の数々の登録要件を満たすことも求められる。それらの要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、商標法上の数々の登録要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら説明できる。		
	事前学修	教科書(2章6節「商標の登録要件」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載動画、および、商標審査基準を自身で閲覧して、どのような商標が登録可能なのか、具体例を挙げて説明してみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べる。		120分
6	商標権に係る手続き(含む マドリッド協定及びマドリッド協定附属議定書)		前回までに学んだ要件を満たす商標について、特許庁に登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら解説する。グローバルな事業展開に必須である、マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に商標登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら説明できる。マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きを理解する。		
	事前学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」に目を通す。教科書(7章4節「商標に関する国際条約」)に目を通す。		120分
	事後学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」、及び、「国際出願」の「マドリッド協定議定書…」に目を通す。仮に自身がある標章を用いて事業を展開するとして、どのような標章についてどのような措置を講ずるか、説明してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	商標権		前回講義した手続きを経て登録できる商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら説明できる。		
	事前学修	教科書(2章10節「商標権」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	教科書を再読して、商標権の時間的、空間的な効力について整理しておく。		120分
8	商標権の制限(実施権の設定を含む)と活用		前回講義した商標権の効力を念頭に置きながら、その制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面について解説し、それら制限の意義を検討する。さらに、譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①及び③について、商標権の効力の制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面と、それらを設ける意義を説明できる。商標件の譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について説明できる。		
	事前学修	教科書(2章10節2～11、7節「団体商標制度と地域団体商標制度」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	特許庁HP掲載の『特許行政年次報告書』で商標権の変動に関する統計・解説を読む。特許庁HP「事例から学ぶ商標活用ガイド」で紹介している事例に目を通す。特許庁HP「地域団体商標について」に目を通し、特許庁HP掲載の地域団体商標制度を紹介する動画を視聴する。		120分
9	不正競争防止法の目的、沿革		明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯をもとに、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを概観する。さらに、日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係の整理を通じて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯、及び、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを説明できる。日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係を整理して説明できる。		
	事前学修	教科書(「1章1節「不正競争防止法の歴史」、2節「不正競争防止法の目的」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HPの「政策について」>「不正競争防止法」の掲載内容を把握しておく。		120分
10	不正競争行為の類型(1)商品・営業主体混同行為、著名商品等表示の無断使用行為(冒用行為)、商品形態の隷属的模倣行為		不正競争防止法が規制する不正競争行為の中でも、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、不正競争防止法が規制する不正競争行為のうち、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節「不正競争行為の種類」)の1～3に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」掲載の解説資料において、3類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。		120分
11	不正競争行為の類型(2)営業秘密及び限定提供データに係る不正競争行為		技術情報から営業情報までを含む営業秘密、さらに有用な情報(限定提供データ)に関する不正競争行為は、度々の法改正を通じて厳しく規制されている。それら規制の背景と留意事項を確認し、行為類型別に規制の在り方を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、営業秘密及び限定提供データに関する不正競争行為の背景と留意事項、行為類型別の規制の在り方について説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節4「営業秘密に関する不正競争行為」、5「限定提供データに関する不正競争行為」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の営業秘密、限定提供データに関する記事を読む。講義で紹介した判例について調べる。仮に自分が所属する営業主体において、営業秘密や有用な情報の保護に関する措置を採る立場に置かれた場合にどうするか、説明してみる。		120分
12	不正競争行為の類型(3)技術的制限手段無効化装置等の提供行為、ドメイン名にかかる不正行為、品質等誤認惹起行為、信用毀損行為、代理人等の商標無断使用行為		古典的といえるものから技術革新を通じて規制対象に加わったものまで、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節6～10)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の上記類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	不正競争防止法の適用除外、商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（１）民事		不正競争行為に対する適用除外の類型を整理した上で、これまで学んだ2つの法律規定に反する行為に直面した権利者がどのような措置を講ずることが可能か、権利者が権利行使をしやすいよう配慮されているか、まず民事的措置から解説する。
	この回の到達目標	到達目標①ないし③について、不正競争行為に対する適用除外の類型、商標法及び不競法の規定に反する行為に直面した権利者が講じることのできる民事的な措置について説明できる。	
	事前学修	教科書（１章7節「適用除外」、４節「不正競争行為に対する救済」）に目を通い、不明な点を調べる。	120分
	事後学修	知的財産高等裁判所のHPを閲覧して、裁判所の機能や知的財産に関する民事事件の傾向を把握する。講義で紹介された事例についてさらに調べる。	120分
14	商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（２）行政、刑事		知的財産侵害物品を規制する、税関による水際措置、及び、刑事手続きの概要と利用の現状について、権利者が利用可能な水際の輸出入差止申立てを含めて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①ないし③について、水際の輸出入差止申立てを含む税関による水際措置、及び、刑事手続きについて、概要と利用の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書（１章８節）に目を通し、不明な点を調べる。税関HP＞知的財産侵害物品の取締り、警察庁HP＞内部部局から＞生活安全局 を閲覧する。	120分
	事後学修	講義で触れた税関、警察庁HPの関連ページを閲覧する。さらに、これまでに学んだ不正競争行為と並んで不正競争防止法が規制している外国・政府間国際機関の紋章等の使用制限、及び、外国公務員等に対する不正利益供与等の禁止に関して、教科書（１章５、６節）に目を通しておく。	120分
15	期末試験・まとめ		期末試験を実施し、その出題意図及び想定回答について解説する。
	この回の到達目標	期末試験によりこれまでの講義の理解を確認する。	
	事前学修	教科書及びこれまでの資料類を整理し、見返しておく。	120分
	事後学修	期末試験の出題内容について復習する。	120分

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	藤田 晶子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な不可欠な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
内容が前期は基礎編、後期は応用編となる。著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
対面方式で実施する。基本的にはパワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。不明な点は、Googleクラスルームのストリームを活用して積極的に質問してほしい。、期末評価の問題のフィードバックは、後日、答案構成を解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	対面方式であるが、Googleクラスルームも併用する。受講者全員で共有が可能なGoogleクラスルームのストリームを活用して質問、意見等を述べてほしい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を，後日，発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名	有斐閣	2019	教科書	必携
標準 著作権法 第5版	高林龍	有斐閣	2022	教科書	推奨
「著作権法 第4版」	中山信弘	有斐閣	2023	参考書	任意
各回の復習レジュメ	藤田 晶子		2023	その他	推奨
備考	各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、特許庁・弁理士試験委員，工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての23年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	著作権法制の概要	オリエンテーション，我が国の知的財産法および著作権法制の概要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法および著作権法の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
2	著作物性 (1) 書体，キャラクター	「著作物」とは何か。裁判例は最判平12.9.7（ゴナ書体事件），最判平9.7.17（ポパイ・ネクタイ事件（キャラクター）等）を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。書体やキャラクターに関する判例を通じて「著作物」の本質を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
3	著作物 (2) 応用美術，編集著作物，データベースの著作物	「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（ファービー人形事件），東京地判平12.3.23（色見本帳事件），東京地判平12.3.17（データベース事件）等）を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
4	著作物 (3) 「二次的著作物」，「共同著作物」	「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。裁判例は知高判平18.9.26（豆腐屋事件），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ事件）等）を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か，両者の特徴，相違点をなどを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
5	「著作者」	「著作者」とは何か。映画の著作物の「著作者」はどのようなものか。裁判例は最判平5.3.30（智恵子抄事件），東京地判平10.10.29（雑誌のインタビュー記事事件）等）を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や、映画の著作物の場合の特殊性を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
6	「職務著作」	「職務著作」とは何か，裁判例は最判平15.4.11（RGBアドベンチャー事件），知高判平18.10.19（計装士学会事件）等）を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作権・「複製権」	「複製」とは何か、翻案との違い。裁判例は東京高判平14.2.18（雪月花），最判昭53.9.7（ワシ・レイニー・ナイト・イン・トーキョー事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」とは何か、複製の要件、翻案との違い等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
8	「翻案権」・二次的著作物の原著者の権利	「翻案」とは何か。裁判例は最判平13.6.28（江差追分事件），東京高判平14.9.6（記念樹事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」とは何か、判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
9	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	複製権，翻案権以外の権利の内容。裁判例は東京高判平17.3.3（2ちゃんねる事件），最判平14.4.25（中古ソフト事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
10	著作権の「制限」	私的複製，引用等の著作権の「制限」。裁判例は東京高判昭60.10.17（藤田嗣治事件），東京地判平9.9.5（ダリ事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
11	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。裁判例は知高判平20.3.27（VonDutch事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
12	「著作者人格権」，「著作隣接権」	著作者人格権の内容・条文。裁判例は東京地判平12.2.29（中田英寿事件），大阪地判平17.1.17（セキスイツーユーホーム事件）等を検討する。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。裁判例は東京高判平成17.3.31（P2Pファイル交換事件），最判平23.1.18（まねきＴＶ事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
14	侵害と救済し侵害等	著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。裁判例は最判平13.3.2（ビデオメイツ事件），東京地判平13.5.16（東京リーガルマインド事件）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
15	刑事罰，国際関係	著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，裁判例は実際の刑事事件を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅰ	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義形式にて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、説明することができるのかを、試験により評価します。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、各回の授業内容に関するリアクション(コメントなど)により評価します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業開始前または授業終了後に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
研究室(9号館1階9105研究室)にて、水曜日・5時限目に行いますが、事前にご連絡(メールアドレス：saito.takashi@nihon-u.ac.jp)をお願いします。なお、ほかの曜日・時限も対応することができます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス(導入講義)	本授業のガイダンス、著作権法(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本授業の内容、著作権法(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	著作権に関する話題について調べておきましょう。	120分
	事後学修	著作権法(総論)について整理しておきましょう。	120分
2	著作物(1)	著作物(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作物(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作物(総論)について整理しておきましょう。	120分
3	著作物(2)	著作物の例示について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作物の例示について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作物の例示について整理しておきましょう。	120分
4	著作物(3)	二次的著作物について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、二次的著作物について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	二次的著作物について整理しておきましょう。	120分
5	著作物(4)	編集著作物、データベースの著作物、応用美術について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、編集著作物、データベースの著作物、応用美術について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	編集著作物、データベースの著作物、応用美術について整理しておきましょう。	120分
6	著作者と著作権者(1)	著作者と著作権者について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作者と著作権者について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作者と著作権者について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作者と著作権者(2)	職務著作制度、映画の著作物の著作者と著作権者について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、職務著作制度、映画の著作物の著作者と著作権者について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	職務著作制度、映画の著作物の著作者と著作権者について整理しておきましょう。	120分
8	著作権(1)	著作権(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、著作権(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権(総論)について整理しておきましょう。	120分
9	著作権(2)	複製権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、複製権について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	複製権について整理しておきましょう。	120分
10	著作権(3)	上演権、演奏権、上映権、公衆送信権等、口述権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、上演権、演奏権、上映権、公衆送信権、公衆伝達権、口述権について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	上演権、演奏権、上映権、公衆送信権、公衆伝達権、口述権について整理しておきましょう。	120分
11	著作権(4)	展示権、頒布権、譲渡権、貸与権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、展示権、頒布権、譲渡権、貸与権について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	展示権、頒布権、譲渡権、貸与権について整理しておきましょう。	120分
12	著作権(5)	翻案権等の二次的著作物に関する権利について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、翻案権等の二次的著作物に関する権利について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	翻案権等の二次的著作物に関する権利について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作者人格権(1)	著作者人格権(総論)、公表権、氏名表示権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作者人格権(総論)、公表権、氏名表示権について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作者人格権(総論)、公表権、氏名表示権について整理しておきましょう。	120分
14	著作者人格権(2)	同一性保持権、名誉声望保持権、著作者の死後の人格的利益の保護について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、同一性保持権、名誉声望保持権、著作者の死後の人格的利益の保護について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	同一性保持権、名誉声望保持権、著作者の死後の人格的利益の保護について整理しておきましょう。	120分
15	まとめ	前期のまとめ、試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、説明してみましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	180分
	事後学修	理解があやふやなところについて整理しておきましょう。	60分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
内容が後期は応用編となる。著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
内容が前期は基礎編、後期は応用編となる。後期は演習問題を使いながらより実践的に考える。パワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。期末評価の問題の解説を後日配信する。基本的に講義形式であるが、受講生も積極的に手を挙げて発言してほしい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	対面方式であるが、Googleクラスルームも併用する。クラスルームには積極的に全員共有の形で意見や質問を投稿してください。積極的な発言を歓迎します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明するだけでなく、問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記期試験の解説・講評を、後日、発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名編	有斐閣	2019年	教科書	必携
標準 著作権法 第5版	高林龍	有斐閣	2022年	教科書	推奨
「著作権法 第4版」	中山信弘	有斐閣	2023年	参考書	任意
復習レジュメ	藤田晶子		2023年	その他	推奨
備考	上記のほか、各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、特許庁・弁理士試験委員，工業所有権審議会委員，財務省関税局専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての23年の経験や，実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	著作権法制の概要	オリエンテーション，著作権法制の概要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法および著作権法の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。（30分）	120分
	事後学修	演習問題，教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
2	著作物性（1）書体，キャラクター	著作物性（1）書体，キャラクター 「著作物」とは何か。裁判例は最判平12.9.7（書体），最判平9.7.17（キャラクター）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。書体やキャラクターに関する判例を通じて「著作物」の本質を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，著作権法上の客体としての「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
3	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物 「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（ファービー人形），東京地判平12.3.23（色見本帳），東京地判平12.3.17（データベース）等を検討。	
	この回の到達目標	「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（ファービー人形），東京地判平12.3.23（色見本帳），東京地判平12.3.17（データベース）等を検討する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
4	著作物（3）「二次的著作物」，「共同著作物」	著作物（3）「二次的著作物」，「共同著作物」 「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。裁判例は知高判平18.9.26（考古学研究事典），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か，両者の特徴，相違点をなどを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，「二次的著作物」，「共同著作物」の意義，違い，条文構造等を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。（2時間）	120分
5	「著作者」	「著作者」 「著作者」とは何か。映画の著作物の著作者。裁判例は最判平5.3.30（智恵子抄），東京地判平10.10.29（雑誌のインタビュー記事）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や，映画の著作物の場合の特殊性を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や，映画の著作物の場合の特殊性を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
6	「職務著作」	「職務著作」 「職務著作」とは何か，裁判例は最判平15.4.11（RGBアドベンチャー），知高判平18.10.19（計装士学会）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作権・「複製権」	著作権・「複製権」 「複製」とは何か、翻案との違い。裁判例は東京高判平14. 2. 18（雪月花），最判昭53. 9. 7（ワ ン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」とは何か、複製の要件、翻案との違い等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、「複製」とは何か、複製の要件、翻案との違い等を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
8	「翻案権」 者の権利	・二次的著作物の原著作者の権利 「翻案権」・二次的著作物の原著作者の権利 「翻案」とは何か。裁判例は最判平13. 6. 28（江差追分），東京高判平14. 9. 6（記念樹）等を検 討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」とは何か、判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、「翻案」とは何か、判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
9	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権 複製権，翻案権以外の権利の内容。裁判例は東京高判平17. 3. 3（2ちゃんねる），最判平14. 4. 25（中古ソフト）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
10	著作権の「制限」	著作権の「制限」 私的複製，引用等の著作権の「制限」。裁判例は東京高判昭60. 10. 17（藤田嗣治），東京地判平9. 9. 5（ダリ）等を検討	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
11	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。裁判例は知高判平20. 3. 27（Von Dutch）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
12	「著作者人格権」，「著作隣接権」	「著作者人格権」，「著作隣接権」 著作者人格権の内容・条文。裁判例は東京地判平12. 2. 29（中田英寿），大阪地判平17. 1. 17（セキスイツーユーホーム）等を検討。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」 各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。裁判例は東京高判平成17.3. 31（P2Pファイル交換），最判平23. 1. 18（まねきＴＶ）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
14	侵害と救済（２）損害賠償請求，みなし侵害等	侵害と救済（２）損害賠償請求，みなし侵害等 著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。裁判例は最判平13. 3. 2（ビデオメイツ），東京地判平13. 5. 16（東京リーガルマインド）等を検討。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分
15	刑事罰，国際関係	刑事罰，国際関係 著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，裁判例は実際の刑事事件を紹介。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	教科書等で，著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。教科書の該当箇所および復習レジュメを読んで演習問題を考えること。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために，著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い，と実感してほしい。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義形式にて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し，わかりやすく説明するだけでなく，問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、説明することができるのかを、試験により評価します。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、各回の授業内容に関するリアクション(コメントなど)により評価します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業開始前または授業終了後に行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
研究室(9号館1階9105研究室)にて、水曜日・5時限目に行いますが、事前にご連絡(メールアドレス：saito.takashi@nihon-u.ac.jp)をお願いします。なお、ほかの曜日・時限も対応することができます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス(導入講義)	本授業のガイダンス、著作権法(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本授業の内容、著作権法(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	著作権に関する話題について調べておきましょう。	120分
	事後学修	著作権法(総論)について整理しておきましょう。	120分
2	著作権の制限(1)	著作権の制限(総論)、私的使用のための複製などについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作権の制限(総論)、私的使用のための複製などについて理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権の制限(総論)、私的使用のための複製などについて整理しておきましょう。	120分
3	著作権の制限(2)	引用などについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、引用などについて理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	引用などについて整理しておきましょう。	120分
4	著作権の制限(3)	著作物の非享受利用などについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作物の非享受利用などについて理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作物の非享受利用などについて整理しておきましょう。	120分
5	著作隣接権(1)	著作隣接権(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作隣接権(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作隣接権(総論)について整理しておきましょう。	120分
6	著作隣接権(2)	実演家の権利について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、実演家の権利について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	実演家の権利の権利について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作隣接権(3)	レコード製作者の権利、放送事業者の権利、有線放送事業者の権利について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、レコード製作者の権利、放送事業者の権利、有線放送事業者の権利について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	レコード製作者の権利、放送事業者の権利、有線放送事業者の権利について整理しておきましょう。	120分
8	著作権の活用(1)	著作権の譲渡について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作権の譲渡について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権の譲渡について整理しておきましょう。	120分
9	著作権の活用(2)	著作物の利用許諾について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作物の利用許諾について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作物の利用許諾の特徴について整理しておきましょう。	120分
10	著作権の活用(3)	出版権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、出版権について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	出版権について整理しておきましょう。	120分
11	著作権の侵害と救済(1)	著作権侵害の構成要件、侵害主体について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作権侵害の構成要件、侵害主体について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権侵害の構成要件、侵害主体について整理しておきましょう。	120分
12	著作権の侵害と救済(2)	みなし侵害について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、みなし侵害について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	みなし侵害について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権の侵害と救済(3)	著作権侵害に対する救済手段について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作権侵害に対する救済手段について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権侵害に対する救済手段について整理しておきましょう。	120分
14	著作権の侵害と救済(4)	著作権侵害に対する罰則(刑事罰)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、著作権侵害に対する罰則(刑事罰)について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	著作権侵害に対する罰則(刑事罰)について整理しておきましょう。	120分
15	まとめ	後期のまとめ、試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、説明してみましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて整理しておきましょう。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約) I	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、パリ条約について講義し、また、知的財産法の各論として、特許法に関する条約、意匠法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（パリ条約）のほか、特許法に関する条約、意匠法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】		
オンデマンド形式で授業を行う。「講義の録画データ」、「講義資料」、「課題」は、Googleクラスルームから配信する。（Googleクラスルームのクラスコードは、履修登録した後にメールで配信されます。） レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステム（又は、Googleクラスルーム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。				3		3					
②	国際出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。				3		3	3				
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。						3	3				
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べることができる。。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、レポート試験により評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにおいて、質問に対する解答を評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017年	参考書	任意
知的財産関係条約（第2版）	茶園成樹	有斐閣	2023年	参考書	任意
備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室） メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	W I P O 設立条約	W I P O 設立条約の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、W I P O 設立条約の概要について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O 設立条約の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	W I P O 設立条約の概要について復習し、W I P O の目的（W I P O 設立条約 3 条）、任務（W I P O 設立条約 4 条）などについて整理しておいてください。	120分
3	パリ条約（1）	パリ条約における「内国民待遇の原則」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、パリ条約の「内国民待遇の原則」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「内国民待遇の原則」（パリ条約 2 条、3 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「内国民待遇の原則」について復習し、パリ条約第 2 条、第 3 条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	パリ条約（2）	パリ条約における「優先権制度」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「優先権制度」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「優先権制度」（パリ条約 4 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「優先権制度」について復習し、パリ条約 4 条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	パリ条約（3）	パリ条約における「各国独立の原則」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「各国独立の原則」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「各国独立の原則」（パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「各国独立の原則」について復習し、パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項の解釈について整理しておいてください。	120分
6	パリ条約（4）	パリ条約における「不実施・不使用」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約における「不実施・不使用」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約における「不実施・不使用」（パリ条約 5 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約における「不実施・不使用」について復習し、パリ条約 5 条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パリ条約（５）	パリ条約における「各論」（特許・意匠・商標など）について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など）について理解すること、	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について整理しておいてください。	120分
8	まとめ（１）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	特許に関する条約（１）	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国際出願・国際公開」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際出願・国際公開」（PCT第３条、第２１条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	特許に関する条約（２）	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」（PCT第１５条、第３３条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
11	特許に関する条約（３）	特許協力条約における「国内段階」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国内段階」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国内段階」（PCT第２２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国内段階」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	意匠に関する条約（１）	ハーグ協定における「国際出願・国際登録」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際出願」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際出願」（ハーグ協定３条～９条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「国際出願」について復習し、ハーグ協定３条～９条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意匠に関する条約（２）	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」（ハーグ協定１０条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	意匠に関する条約（３）	ハーグ協定における「拒絶の通報」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「拒絶の通報」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「拒絶の通報」（ハーグ協定１２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	まとめ（２）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、TRIPS協定について講義し、また、知的財産法の各論として、商標法に関する条約、著作権法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（TRIPS協定）のほか、商標法に関する条約、著作権法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
オンデマンド形式で授業を行う。「講義の録画データ」、「講義資料」、「課題」は、Googleクラスルームから配信する。（Googleクラスルームのクラスコードは、履修登録した後にメールで配信されます。） レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステム（又は、Googleクラスルーム）にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。				3		3					
②	国際出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。				3		3	3				
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。						3	3				
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、レポート試験により評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにおいて、質問に対する解答を評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017年	参考書	任意
知的財産関係条約（第2版）	茶園成樹	有斐閣	2023年	参考書	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室） メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	商標に関する条約（１）	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
3	商標に関する条約（２）	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
4	商標に関する条約（３）	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
5	著作権法に関する条約（１）	ベルヌ条約の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ベルヌ条約について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ベルヌ条約の論点について考えてきてください。	120分
	事後学修	ベルヌ条約の概要について復習し、ベルヌ条約の論点について整理しておいてください。	120分
6	著作権法に関する条約（２）	ローマ条約、レコード保護条約について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ローマ条約、レコード保護条約について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ローマ条約、レコード保護条約の論点について考えてきてください。	120分
	事後学修	ローマ条約、レコード保護条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	著作権法に関する条約（３）		W I P O著作権条約、W I P O実演・レコード条約について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、W I P O著作権条約、W I P O実演・レコード条約について理解すること。		
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O著作権条約、W I P O実演・レコード条約の論点について考えてきてください。		120分
	事後学修	W I P O著作権条約、W I P O実演・レコード条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。		120分
8	まとめ（１）		これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。		
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。		120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。		120分
9	T R I P S協定（１）		T R I P S協定における「一般規定・基本原則」（１条～８条）について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S協定における「一般規定・基本原則」について理解すること。		
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S協定における「一般規定・基本原則」（T R I P S協定１条～８条）について考えてきてください。		120分
	事後学修	T R I P S協定における「一般規定・基本原則」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。		120分
10	T R I P S協定（２）		T R I P S協定における「保護規範」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S協定における「保護規範」について理解すること。		
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S協定における「保護規範」（T R I P S協定９条～４０条）について考えてきてください。		120分
	事後学修	T R I P S協定における「保護規範」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。		120分
11	T R I P S協定（３）		T R I P S協定における「権利行使」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S協定における「権利行使」について理解すること。		
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S協定における「権利行使」（T R I P S協定４１条～６１条）について考えてきてください。		120分
	事後学修	T R I P S協定における「権利行使」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。		120分
12	T R I P S協定（４）		T R I P S協定における「知的所有権の取得・維持」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S協定における「知的所有権の取得・維持」について理解すること。		
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S協定における「知的所有権の取得・維持」（T R I P S協定４２条）について考えてきてください。		120分
	事後学修	T R I P S協定における「知的所有権の取得・維持」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TRIPS 協定（５）	TRIPS 協定における「紛争処理」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「紛争処理」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「紛争処理」（TRIPS 協定 63 条、64 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	TRIPS 協定における「紛争処理」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	TRIPS 協定（６）	TRIPS 協定における「現状と課題」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「現状と課題」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「現状と課題」について考えてきてください。	120分
	事後学修	TRIPS 協定における「現状と課題」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	まとめ（２）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産政策	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本講義では、知的財産政策について解説する。具体的には、知的財産政策における、さまざまなトピックス（マンガ・アニメの海賊版問題、WIPOの取り組み等）に関する政策について、政策課題とその解決に向けた取り組みについて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権の重要性が高まる中、企業や大学、官公庁において、知的財産権を有効に活用するため、知的財産政策について理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産政策の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、さまざまな事例において、知的財産政策を理解し、説明できることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科3，4，5

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産政策を巡る最新の話題・事例も適宜、題材とする。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産政策の基本を理解することができる。						4					
②	知的財産政策の概要を説明することができる。						4					
③	知的財産政策の主要な論点を説明することができる。							4	4			
④	知的財産政策を巡る諸問題について自分の意見を述べることができる。							4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、知的財産政策を理解している かについて授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業へのリアクション（出席票、質問・コメント等）によ り評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特許行政年次報告書（2022年版）	特許庁		2022年	参考書	任意
知的財産推進計画（2022年版）	内閣府		2022年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 5時限目に設定する。研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室） メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	知的財産政策の現状と課題	知的財産政策の現状と課題について考察する。（知的創造サイクルなど）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産政策の現状と課題について理解する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、知的財産政策の現状と課題について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、知的財産政策の現状と課題について整理する。（知的創造サイクル、知的財産推進計画など）	120分
2	企業・大学と知的財産権	企業・大学における知的財産について考察する。（知財マネジメント、オープンイノベーションなど）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、企業・大学と知的財産権について理解する。	
	事前学修	企業・大学と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、企業・大学と知的財産権について整理する。（知財マネジメント、オープンイノベーションなど）	120分
3	イノベーション政策と知的財産権Ⅰ	イノベーション政策と知的財産権について考察する。（生命倫理、遺伝子特許問題など）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、イノベーション政策と知的財産権について理解する。	
	事前学修	イノベーション政策と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、イノベーション政策と知的財産権について整理する。（生命倫理、遺伝子特許問題など）	120分
4	イノベーション政策と知的財産権Ⅱ	イノベーション政策と知的財産権について考察する。（医療行為、強制実施権など）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、イノベーション政策と知的財産権について理解する。	
	事前学修	イノベーション政策と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、イノベーション政策と知的財産権について整理する。（医療行為、強制実施権など）	120分
5	情報社会と知的財産権Ⅰ	情報社会と知的財産権（特許権）について考察する。（パテントプール、パテントロールなど）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、情報社会と知的財産権について理解する。	
	事前学修	情報社会と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、情報社会と知的財産権について整理する。（パテントプール、パテントロールなど）	120分
6	情報社会と知的財産権Ⅱ	情報社会と知的財産権（著作権）について考察する。（マンガ・アニメの海賊版、クリエイティブ・コモンズなど）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、情報社会と知的財産権について理解する。	
	事前学修	情報社会と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、情報社会と知的財産権について整理する。（マンガ・アニメの海賊版、クリエイティブ・コモンズなど）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	秘密情報管理と知的財産権	秘密情報管理と知的財産権について考察する。 (ノウハウ管理、安全保障の問題など)	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、秘密情報管理と知的財産権について理解する。	
	事前学修	秘密情報管理と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、秘密情報管理と知的財産権について整理する。(ノウハウ管理、安全保障の問題など)	120分
8	授業内試験(1) 振り返り	第1回～第7回について、授業内試験を行い、これまでの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産政策(これまでの講義内容)について理解する。	
	事前学修	知的財産政策(これまでの講義内容)について考えておく。	120分
	事後学修	授業内試験を確認して、知的財産政策(これまでの講義内容)について整理する。	120分
9	文化政策と知的財産権	文化政策と知的財産権について考察する。 (クールジャパン、ハンチントン理論など)	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、文化政策と知的財産権について理解する。	
	事前学修	文化政策と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、文化政策と知的財産権について整理する。(クールジャパン、コミケ・コスプレ問題など)	120分
10	地域政策と知的財産権	地域政策と知的財産権について考察する。 (クラスター政策、地域振興策など)	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地域政策と知的財産権について理解する。	
	事前学修	地域政策と知的財産権について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、地域政策と知的財産権について整理する。(クラスター政策、地域振興策など)	120分
11	知的財産権のグローバル化	知的財産権のグローバル化について考察する。 (WIPOとWTOの知財政策の比較など)	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産権のグローバル化について理解する。	
	事前学修	知的財産権のグローバル化について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、知的財産権のグローバル化について整理する。(WIPOとWTOの知財政策の比較など)	120分
12	知的財産政策の国際的課題(開発・環境)	知的財産政策の国際的課題(開発・環境)について考察する。 (WIPOの取り組み)	
	この回の到達目標	達目標②③④に関連して、知的財産政策の国際的課題(開発・環境)について理解する。	
	事前学修	知的財産政策の国際的課題(開発・環境)について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、知的財産政策の国際的課題(開発・環境)について整理する。(IP Advantage、WIPO Greenなど)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	知的財産政策の国際的課題（人権・公衆衛生）	知的財産政策の国際的課題（人権・公衆衛生）について考察する。（WIPOの取り組み）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産政策の国際的課題（人権・公衆衛生）について理解する。	
	事前学修	知的財産政策の国際的課題（人権・公衆衛生）について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、知的財産政策の国際的課題（人権・公衆衛生）について整理する。（IP Advantage、WIPO Re:Searchなど）	120分
14	知的財産政策の新たな課題（生物多様性・文化多様性）	知的財産政策の新たな課題（生物多様性・文化多様性）について考察する。（WIPOの取り組み）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産政策の新たな課題（生物多様性・文化多様性）について理解する。	
	事前学修	知的財産政策の新たな課題（生物多様性・文化多様性）について考えておく。	120分
	事後学修	講義スライドを確認して、知的財産政策の新たな課題（生物多様性・文化多様性）について整理する。	120分
15	授業内試験（2） 振り返り	第9回～第14回について、授業内試験を行い、これまでの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知的財産政策（第9回～第14回の講義内容）について理解する。	
	事前学修	知的財産政策（第9回～第14回の講義内容）について考えておく。	120分
	事後学修	授業内試験を確認して、知的財産政策（第9回～第14回の講義内容）について整理する。	120分

科目名	地方財政論Ⅰ	担当者	長嶋 佐央里	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
社会の基礎をなす組織・制度・慣習を分析に焦点を置き、地方財政に関する原理原則・制度・政策について、地方自治体の予算と収入を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在、日本では、少子高齢社会に伴う福祉政策や地域経済の発展など、私たちが地方自治体（市町村・都道府県）に寄せるニーズは多く、そのニーズに応えるサービスを実施するために必要な財源の確保が課題となっている。私たちのもっとも身近な政府である地方自治体がどのような経済活動を行っているか、日本の地方財政のしくみや地方財政に関する原理原則・制度・政策について具体的な事例や財政統計を示しながら学び、私たちが安心して快適な生活を送るために、地方自治体がどのような役割や機能を果たすべきか、地方財政の課題とその解決策について自分なりに提言できるようにする。

【履修条件】
財政学を履修中もしくは履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
配付資料や板書を併用する講義形式で行う。授業の最後に内容の質問やコメントを記述する時間を設け、次の授業でフィードバックし、履修学生全体で共有する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方財政の専門用語や基本的な考え方・概念を理解し、地方財政に関する事象を説明することができる。					3						
②	日本の地方財政の関する問題点を発見し、客観的かつ多面的に分析し、解決策を示すことができる。							3				
③	学生が自身の居住する地方自治体の財政運営について多面的に検討し、自身の考えを述べるることができる。								3			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを定期試験によって評価する。	40	20									60
小テスト等	到達目標①②③が身についているかを評価する（毎回のふり返りを含む）。	5	5	5								15
レポート等	到達目標②③について、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。		10	15								25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの課題の講評については授業内で行う。定期試験の解説については後日ポータルシステムを利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方財政を学ぶ 新版	沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸	有斐閣	2023	教科書	必携
日本の地方財政 第2版	神野直彦・小西砂千夫	有斐閣	2020	参考書	推奨
地方財政の見取り図	菅原宏太・松本睦・加藤秀弥	有斐閣	2023	参考書	任意
図解よくわかる自治体財政のしくみ 第2次改訂	肥沼位昌	学陽書房	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室内で対応する。 連絡先：nagashima.saori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：地方財政を学ぶ視点	・暮らしと地方自治体の役割 ・国と地方自治体の関係 ・財政民主主義と参加 ・授業のテーマや内容、授業計画、成績評価の方法の説明	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治体の財政と私たちの暮らしの関わりについて理解し、説明できる。	
	事前学修	地方財政の最近の話題について、新聞やニュースなどで触れておく。 教科書の序章を読んでおく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
2	日本の地方財政の全体像：日本の地方財政はどのような機能を果たしているのか	・日本の地方自治の側面 ・制度上・統計上からみた地方財政の姿 ・政府間財政関係からみた地方財政の特徴	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方財政と政府間財政関係の特徴を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
3	政府間財政関係：国と地方の財政はどのように関係しているのか	・財政の役割と地方財政の位置づけ ・政府間財政関係の変容 ・日本の国と地方の財政関係の特徴	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の政府間財政関係を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の政府間財政関係の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第2章を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
4	地方自治体の予算制度：予算制度の意義と日本の地方自治体の予算制度の種類と内容	・予算が効率的・効果的に使われるための予算制度の意義 ・日本の地方自治体の予算制度：予算の種類と内容	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治体の予算制度の意義と、日本の地方自治体の予算の種類と内容について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方自治体の予算の種類と内容についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第4章第1節から第2節2.2までを読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
5	地方自治体の予算制度：予算制度の区分と予算過程と予算制度の課題	・日本の地方自治体の予算制度：予算制度の区分と予算過程 ・日本の地方自治体の予算制度の課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方自治体の予算制度の区分と予算過程を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方自治体の予算制度の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の予算の課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第4章第2節2.3から第3節までを読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
6	地方自治体の財源調達と収入構造	・日本の地方自治体の収入構造 ・日本の地方自治体の収入項目 ・日本の地方自治体の収入の推移	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方自治体の収入構造や収入項目について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方自治体の収入構造の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の収入構造の現状と課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第5章を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方税：地方税の意義と原則	・地方税体系と地方税原則 ・国税と地方税の税源配分	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方税体系と地方税原則、国税と地方税の税源配分について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、国税と地方税の税源配分の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第6章第1節から第3節までを読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
8	地方税のおもな税目：①住民税、②事業税、③地方消費税	・住民税のしくみ ・事業税のしくみ ・地方消費税のしくみ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、住民税、事業税、地方消費税について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、住民税、事業税、地方消費税についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第6章第4節から第6節までを読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
9	地方税のおもな税目：④固定資産税、⑤環境関連税	・固定資産税のしくみ ・環境関連税のしくみ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、固定資産税、環境関連税について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、固定資産税、環境関連税についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第6章第7節と第8節を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
10	課税自主権：地方税は国にどのように統制されているのか	・課税自主権の趣旨 ・日本の地方自治体の課税自主権の行使の状況	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、課税自主権の趣旨について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の課税自主権の行使とあり方についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の課税自主権の行使の現状と課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第6章第9節を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
11	地方交付税：財政調整制度はなぜ必要なのか、地方交付税は個々の地方自治体にどのような基準で配分されているのか	・財政調整制度の意義 ・日本の財政調整制度である地方交付税のしくみの特徴：ミクロの財源保障	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、財政調整制度の意義と地方交付税制度のしくみと特徴のうちミクロの財源保障について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方交付税制度のうちミクロの財源保障についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	教科書の第7章第1節と第2節を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
12	地方交付税制度：地方交付税の総額はどのように財源確保をしているのか・地方交付税制度の課題	・国から地方への補助金の意義 ・国庫支出金制度のしくみ ・地方分権改革と国庫支出金のあり方	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方交付税制度のうちマクロの財源保障を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方交付税制度の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体における地方交付税の現状と課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第7章第3節と第4節を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国庫支出金：国から地方への補助金の意義は何か		・国から地方への補助金の意義 ・国庫支出金制度のしくみ ・地方分権改革と国庫支出金のあり方
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国から地方への補助金の意義と、国庫支出金制度のしくみを理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、国庫支出金制度の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体における国庫支出金の現状と課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第8章を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
14	地方債：地方債発行による財源調達の意味		・日本の地方債制度のしくみ
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方債制度を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方債制度の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体における地方債発行額、元利償還費、地方債現在高の現状と課題について意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の第9章を読んで、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。	180分
15	総括・前期授業のふり返し		・前期授業の復習 ・定期試験準備のポイント ・課題レポートの講評
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方自治体の予算と収入について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方自治体の予算と収入についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。	
	事前学修	第1回から第14回までの授業内容を復習し、疑問点をまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、定期試験の準備をする。	180分

科目名	地方財政論Ⅱ	担当者	長嶋 佐央里	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
社会の基礎をなす組織・制度・慣習に焦点を置き、地方財政に関する原理原則・制度・政策について、地方自治体のサービスと経費を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在、日本では、少子高齢社会に伴う福祉政策や地域経済の発展など、私たちが地方自治体（市町村・都道府県）に寄せるニーズは多く、そのニーズに応えるサービスを実施するために必要な財源の確保が課題となっている。私たちのもっとも身近な政府である地方自治体がどのような経済活動を行っているか、日本の地方財政のしくみや地方財政に関する原理原則・制度・政策について具体的な事例や財政統計を示しながら学び、私たちが安心して快適な生活を送るために、地方自治体がどのような役割や機能を果たすべきか、地方財政の課題とその解決策について自分なりに提言できるようにする。

【履修条件】
財政学を履修中もしくは履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
配付資料や板書を併用する講義形式で行う。授業の最後に内容の質問やコメントを記述する時間を設け、次の授業でフィードバックし、履修学生全体で共有する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方財政の専門用語や基本的な考え方・概念を理解し、地方財政に関する事象を説明することができる。							3					
②	日本の地方財政の関する問題点を発見し、客観的かつ多面的に分析し、解決策を示すことができる。									3			
③	学生が自身の居住する地方自治体の財政について多面的に検討し、自身の考えを述べることができる。										3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを定期試験によって評価する。	40	20									60
小テスト等	到達目標①②③が身についているかを評価する（毎回のふり返りを含む）。	5	5	5								15
レポート等	到達目標②③について、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。		10	15								25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの課題の講評については授業内で行う。定期試験の解説については後日ポータルシステムを利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方財政を学ぶ 新版	沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸	有斐閣	2023	教科書	必携
日本の地方財政 第2版	神野直彦・小西砂千夫	有斐閣	2020	参考書	推奨
Basic 地方財政論	重森暁・植田和弘編	有斐閣	2013	参考書	推奨
入門 地方財政：地域から考える自治と共同社会	平岡和久・川瀬憲子・柴田但馬・霜田博史編著	自治体研究社	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室内で対応する。 連絡先：nagashima.saori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス：地方財政を学ぶ視点		・暮らしと地方自治体の役割 ・国と地方自治体の関係 ・財政民主主義と参加 ・授業のテーマや内容、授業計画、成績評価の方法の説明	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治体の財政と私たちの暮らしの関わりについて理解し、説明できる。		
	事前学修	地方財政の最近の話題について、新聞やニュースなどで触れておく。 教科書の序章を読んでおく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
2	地方自治体の支出・経費：サービス提供における国と地方の役割分担・日本の地方自治体の経費区分・経費からみた地方財政の推移		・サービス提供における国と地方自治体の役割分担の理念と実態 ・日本の地方自治体の経費区分：目的別分類・性質別分類 ・地方自治体の支出構造・経費を賄う財源の内訳 ・政策選択の結果としての経費	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、サービス提供における国と地方自治体の役割分担の理念と実態、日本の地方自治体の経費区分、支出構造と経費を賄う財源の内訳について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、サービス提供における国と地方自治体の役割分担の問題点や日本の地方自治体の経費に関する問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の支出構造の現状と課題について意見を述べるができる。		
	事前学修	教科書の第3章を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
3	地方自治体の財政分析：地方自治体の財政収支と財政構造・財政比較分析		・地方自治体の財政運営を見る視点 ・地方自治体の財政比較分析	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治体の財政運営を見る視点を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方自治体の財政運営の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の財政分析を行い、財政運営の現状と課題について意見を述べるができる。		
	事前学修	教科書の第9章◆さらに◆さらに学ぶ人のために、配付資料を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
4	地域づくりと地方財政：地域経済の不均衡発展、地域格差の現状とその理由		・地域経済における地方財政の役割 ・日本の地域政策の手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地域経済における地方財政の役割と地域政策の手法について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地域政策の手法についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。		
	事前学修	教科書の第11章第1節と第2節を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
5	地域づくりと地方財政：地域振興における地方財政の役割		・日本の地方自治体の公共投資の変遷 ・地域づくりを支える地方財政が直面する課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方自治体の公共投資の変遷と地方財政の役割について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地域づくりにおける地方財政が直面する問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の地域づくり（産業振興）の現状と課題について意見を述べるができる。		
	事前学修	教科書の第11章第3節と第4節を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
6	対人社会サービスと地方財政：対人社会サービスにおける地方自治体の役割・日本の医療と地方財政の関係		・対人社会サービスと地方自治体の役割 ・日本の福祉・教育サービスにおける政府間財政関係の様相 ・対人社会サービスと地方財政の関わり：医療	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、対人社会サービスと地方自治体の役割、日本の福祉・教育サービスにおける政府間財政関係の様相、医療サービスと地方財政の関わりについて理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、医療サービスと地方財政の関わりについての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。		
	事前学修	教科書の第12章第1節から第2節2.2までを読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	対人社会サービスと地方財政：日本の高齢者介護サービスおよび子ども・子育て支援と地方財政の関係・総合的な生活保障における地方財政の役割		・対人社会サービスと地方財政の関わり：高齢者介護サービス ・対人社会サービスと地方財政の関わり：子ども・子育て支援 ・地域の福祉・教育の対人社会サービスにおける地方財政の役割と課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高齢者介護サービスおよび子ども・子育て支援と地方財政の関わり、地域の福祉・教育の対人社会サービスにおける地方財政の役割について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、高齢者介護サービスおよび子ども・子育て支援と地方財政の関わりについての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。また、地域の福祉・教育の対人社会サービスにおける地方財政の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の福祉・教育の対人社会サービスの現状と課題について意見を述べるることができる。		
	事前学修	教科書の第12章第2節2. 3から第3節を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
8	環境と地方財政：環境保全政策における地方自治体の役割		・環境保全と地方財政の関わり ・環境保全型の地方財政の構築に向けた課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、環境保全と地方財政の関わりについて理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、環境保全政策における地方財政の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の環境保全への取組みの現状と課題について意見を述べることができる。		
	事前学修	配付資料を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
9	エネルギーと地方財政：エネルギー政策における地方自治体の役割		・エネルギー政策と地方財政の関わり ・再生可能エネルギーにおける地方財政の役割と課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、エネルギー政策と地方財政の関わりについて理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、エネルギー政策における地方財政の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の再生可能エネルギー政策への取組みの現状と課題について意見を述べることができる。		
	事前学修	配付資料を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
10	災害と地方財政：災害対策と災害復旧における地方自治体の行財政運営		・災害財政制度：災害対策と災害復旧 ・地方自治体の災害行財政運営の課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の災害財政制度を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方自治体の災害行財政運営の問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の災害対策への取組みの現状と課題について意見を述べることができる。		
	事前学修	配付資料を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
11	テーマ：地方公共サービスの供給手法：地方自治体の準政府部門によるサービス提供の理由・供給手法①地方公営企業		・国・地方自治体に存在する準政府部門の役割 ・地方公共サービスの供給手法：地方公営企業	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、準政府部門の役割と地方公営企業のしくみについて理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方公営企業のしくみについての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の公営企業の現状と課題について意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書の第13章第1節から第3節までを読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
12	地方公共サービスの供給手法：供給手法②地方三公社、供給手法③第三セクター		・地方公共サービスの供給手法：地方三公社 ・地方公共サービスの供給手法：第三セクター	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方三公社および第三セクターのしくみについて理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方三公社および第三セクターのしくみについての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。 到達目標③に関連して、自分の居住する地方自治体の地方三公社と第三セクターの現状と課題について意見を述べるができる。		
	事前学修	教科書の第13章第4節を読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
13	地方財政の歴史的展開：日本の明治期から戦後占領期までの変遷		・明治期から戦後占領期までの日本の地方財政の変遷	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治期から戦後占領期までの日本の地方財政の変遷を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書の第10章第1節から第3節までを読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
14	地方財政の歴史的展開：日本の高度経済成長期から現在までの変遷・数値でみる地方財政の変遷		・高度経済成長期から現在までの日本の地方財政の変遷 ・数値でみる明治期から現在までの地方財政の変遷	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長期から現在までの日本の地方財政の変遷を理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、地方財政の変遷を数値により確認し、地方財政の課題を発見し、解決の方向性を示すことができる。		
	事前学修	教科書の第10章第4節から第6節までを読んで、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、配付資料の最後にある「考えてみよう」に取り組む。		180分
15	総括・後期授業のふり回り		・後期授業の復習 ・定期試験準備のポイント ・課題レポートの講評	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地方自治体のサービスとそれを賄う財源について理解し、説明できる。 到達目標②に関連して、日本の地方自治体のサービスとそれを賄う財源についての問題点を発見し、解決の方向性を示すことができる。		
	事前学修	第1回から第14回までの授業内容をふり回り、疑問点をまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、定期試験の準備をする。		180分

科目名	地方自治法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
対面授業で講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。				2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、地方自治法に関する基礎的な知識が十分に身についているかを、授業内試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法（第2版）	池村好道・西原雄二編	弘文堂	2024年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室にて、1部は金曜日12：10に、2部は水曜日17：30に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法を含めて、地方自治法の学習方法等を学修したうえで、地方自治法の概要と重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法とはどのような法律なのか、その概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	地方自治とは何か	地方自治の2つの要素である住民自治と団体自治の意義や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の意義や重要性について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	憲法上の地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則及び地方自治の主要なテーマが何であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	地方自治法の基本構造	地方自治法の基本構造と地方自治法とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	普通地方公共団体	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
	この回の到達目標	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつぎ合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	特別地方公共団体	特別地方公共団体の種類や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特別地方公共団体の種類や内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方公共団体の事務の歴史と特質	地方公共団体の事務の歴史と特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の歴史と特質について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	地方公共団体の事務の種類と内容	地方公共団体の事務の種類と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の事務の種類と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	自治立法	地方公共団体における自治立法の意義や特色について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体における自治立法の意義や特色について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	条例制定権の諸問題	条例制定権をめぐる諸問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条例制定権に関する憲法と条例の問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	法律と条例	法律と条例をめぐる問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律と条例の関係について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	財政	地方公共団体の財政の仕組みや争点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の基本的な内容や原則について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	情報公開		情報公開制度の意義、情報公開条例、判例の展開について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、情報公開条例の意義や内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	個人情報保護		個人情報保護制度の意義と概要について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、個人情報保護の重要性について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	授業のまとめ		地方自治法の基本問題に関して総括的に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
	事前学修	教科書や講義ノート等を使って、レポート課題のための準備をする。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。前期の「地方自治法Ⅰ」で取り上げなかった重要な問題を中心に解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
対面授業で講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。				2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、授業内試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法（第2版）	池村好道・西原雄二編	弘文堂	2024年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業教室にて、1部は金曜日12：10に、2部は水曜日19：30に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、地方自治法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	地方自治の歴史	地方自治の歴史と現代的意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の主要な歴史について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	憲法と地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則と論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	地方自治法の全体像	地方自治法の全体像と主要な内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	地方公共団体の議会	地方公共団体の議会の特色、権限、運営等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の議会の基本的な仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	地方公共団体の執行機関	地方公共団体の執行機関の種類や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の執行機関の基本的な仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	議会と執行機関の関係	地方議会と執行機関の関係について具体的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議会と執行機関の關係の主要な特色について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	住民の参政権	地方公共団体の住民の参政権である選挙権、直接請求、住民投票について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の参政権の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	公の施設利用権	住民の権利の1つである公の施設利用権の意義や内容等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の施設利用権の内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	住民監査請求	住民監査請求の仕組みと論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民監査請求の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	住民訴訟	住民訴訟の仕組みと論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民訴訟の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	住民の義務	地方公共団体の住民の義務、行政サービス制限条例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の義務の具体的内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地方公共団体に対する国の関与	地方公共団体に対する国の関与の意義、基本原則、手続について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国の関与の意義と基本原則について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	国と地方の紛争処理制度	国と地方公共団体の紛争処理制度の意義と概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国と地方の紛争処理制度の重要性と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	授業のまとめ	地方自治法の基本問題について総括的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
	事前学修	教科書や講義ノート等を使って、授業内試験のための準備をする。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	児玉 博昭	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って講義形式で行う。確認問題を解きながら知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるよう努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末の筆記試験によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業時に行う確認問題、質疑等によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に関する解説を後日ポータルサイトで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホーンブック 地方自治（新版）	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次	北樹出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取る）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体の審議会等委員として自治体の総合計画・行政改革・政策評価、制度設計・運営について指導助言している。 審議会等での経験を活かし、行政活動の実際を具体例に挙げるなど、実務感覚のある講義を行うよう努める。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	自治体と地方自治制度	自治体とは何か、なぜ地方自治なのか、地方自治制度の多様性について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体と地方自治制度について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
2	日本の地方自治制度の歴史	明治地方自治制度の形成と変容、占領改革と戦後地方自治制度の成立、戦後地方自治制度の展開について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、日本の地方自治制度の歴史について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
3	地方分権改革	第1次地方分権改革、三位一体改革と第2次地方分権改革、地域主権改革から再び地方分権改革に至る流れについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、地方分権改革について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
4	都道府県と市区町村	二層制の政府体系、政令指定都市制度と中核市制度、都区制度、市町村合併の進展と新たな広域連携施策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、都道府県と市区町村について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
5	制度論のまとめ	自治体と地方自治制度、日本の地方自治制度の歴史、地方分権改革、都道府県と市区町村について総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、地方自治の制度について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
6	自治体の統治構造	二元代表制の統治構造、二元代表制の動態、自治体統治構造の国際比較について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の統治構造について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	首長と執行機関	首長の権力、執行機関多元主義、自治体行政機構に対する国の統制について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、首長と執行機関について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
8	議会と議員	議会の機能と権限、議会と議員の活動実態、議会・議員をめぐる課題と改革について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、議会と議員について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
9	機構論のまとめ	自治体の統治構造、首長と執行機関、議会と議員について総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の機構について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
10	自治体の組織管理	ピラミッド型組織と柔軟化、分業と組織的意思決定、自治体という組織複合体について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の組織管理について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
11	財政運営と財政改革	集権・融合型の地方財政制度、自治体財政運営、自治体財政改革について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、財政運営と財政改革について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
12	職員の職務と人事管理	地方公務員制度と人事管理、任用管理の実際、給与管理の実際について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、職員の職務と人事管理について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政統制と自治体改革	自治による行政統制と国による行政統制、自治体における行政統制の仕組み、自治体改革について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、行政統制と自治体改革について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
14	管理論のまとめ	自治体の組織管理、財政運営と財政改革、職員の職務と人事管理、行政統制と自治体改革について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、行政統制について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
15	授業内試験と解説	地方自治の制度論・機構論・管理論に関する試験を実施し、試験後に問題と解答を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、地方自治の制度論・機構論・管理論について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】
講義と演習(学生による報告等)を中心に授業を進めて行く。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポンス）を利用する。第1回授業では報告の際のグループ決めなどを行うため、やむを得ない事由により欠席をする場合は、事前にメール（「オフィスアワー」欄に記載）にて連絡をすること。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業内での調査レポートの報告、期間中リアクションペーパーやレスポンスを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。			1					
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。			1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。					1			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、身につけているかを毎回の授業内課題(リアクションペーパー)や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	20	15	15								50
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③に関して、授業内での報告（報告資料等は事前提出）等を通じて身につけているか確認する。	5	10	10								25
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	5								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁（編）	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	地方自治とは		地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。		120分
2	地方政府と自治権		地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。		120分
3	明治時代の地方制度		現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分
4	第二次世界大戦期までの地方制度		現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
5	日本国憲法と地方自治		現在の地方自治制度を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。		120分
6	地方公共団体の種類等		地方自治制度をを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方公共団体内の諸機関	動態的に地方自治を理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	地方分権改革と地方自治	現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	第一次地方分権改革以降の地方分権改革	現在の地方自治をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。	120分
10	地方財政制度	地方自治制度の基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	地方財政制度の改革等	地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。	120分
12	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。	120分
14	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 第2版	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している点を生かして実際に教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	明治時代の地方制度	地方自治制度の成り立ちを理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	第二次世界大戦期までの地方制度	地方自治制度の成り立ちをよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度の制度保障を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	地方公共団体の種類等	地方自治制度の基本的枠組みを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公共団体内の諸機関		地方自治の枠組みを理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	地方分権改革と地方自治		地方自治の改革をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	第一次地方分権改革以降の地方分権改革		現在の地方自治の制度改革をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	地方財政制度		地方自治制度の財政的な基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	地方財政制度の改革等		地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政		わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	前期の講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	児玉 博昭	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って講義形式で行う。確認問題を解きながら知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるよう努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。							1					
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。									1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末の筆記試験によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業時に行う確認問題、質疑等によって到達目標①②③の習得状況を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験に関する解説を後日ポータルサイトで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホーンブック 地方自治（新版）	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次	北樹出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取る）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体の審議会等委員として自治体の総合計画・行政改革・政策評価、制度設計・運営について指導助言している。 審議会等での経験を活かし、行政活動の実際を具体例に挙げるなど、実務感覚のある講義を行うよう努める。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	自治体の政策と総合計画（１）	政策の意味と内容、政策のプロセスについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、政策について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
2	自治体の政策と総合計画（２）	自治体の総合計画、人口減少時代の自治体政策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の総合計画について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
3	政策法務と条例	政策法務とは何か、条例制定の意義と限界、広がる条例の世界、政策法務のマネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、政策法務と条例について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
4	産業政策と地方創生	自治体の産業施策、商業観光等の振興と雇用対策、地域振興の歩み、人口減少と地方創生について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、産業政策と地方創生について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
5	まちづくりと公共事業	まちづくりの基礎、都市計画とまちづくりの仕組み、人口減少時代のまちづくり、公共事業の仕組みと課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、まちづくりと公共事業について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
6	環境政策とリサイクル	自治体の環境政策、生活環境の保全、自然環境と地球環境の保全、廃棄物行政とリサイクルについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、環境政策とリサイクルについて理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	福祉政策と健康		福祉政策の概要、介護保険と地域包括ケア、生活保護と生活困窮者支援、地域医療と保健行政について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、福祉政策と健康について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
8	子育て支援と教育		子育て支援の仕組みと課題、教育行政の仕組みと改革、学校教育の課題と対応、生涯学習と文化行政について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、子育て支援と教育について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
9	防災政策と安全		防災政策の概要、防災政策の展開と課題、消防行政の概要、警察行政と安全安心のまちづくりについて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、防災政策と安全について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
10	政策論のまとめ		自治体の政策と総合計画、政策法務と条例、産業政策と地方創生、まちづくりと公共事業、環境政策とリサイクル、福祉政策と健康、子育て支援と教育、防災政策と安全について総括する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の政策について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
11	住民と自治体		住民の捉え方、自治体による住民の把握、住民活動の3つの側面について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、住民と自治体について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
12	コミュニティの自治と協働		町内会とコミュニティ、行政と住民の協働、NPOと協働について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、コミュニティの自治と協働について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	住民運動と市民参加	住民活動の類型、住民運動と住民参加、市民としての住民の直接参加について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、住民運動と市民参加について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
14	住民論のまとめ	住民と自治体、コミュニティの自治と協働、住民運動と市民参加について総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、住民の自治について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分
15	授業内試験と解説	自治体の政策と住民の自治に関する試験を実施し、試験後に問題と解答を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、自治体の政策と住民について理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	教員が作成した確認問題に解答し、基礎知識を定着させること。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなどの基本的なマナーをわかまえていることを求める。

【授業方法】
講義と演習(学生による報告等)を中心に授業を進めて行く。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。出席管理や毎回の授業内課題（リアクションペーパー）の提出等について出席管理システム（レスポンス）を利用する。第1回授業では報告の際のグループ決めなどを行うため、やむを得ない事由により欠席をする場合は、事前にメール（「オフィスアワー」欄に記載）にて連絡をすること。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業内での調査レポートの報告、期間中リアクションペーパーやレスポンスを用いた理解の確認等を通して、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。			1		4			
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。			1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。					1			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、身につけているかを毎回の授業内課題(リアクションペーパー)や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	20	15	15								50
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③に関して、授業内での報告(報告資料等は事前提出)等を通じて身につけているか確認する。	5	10	10								25
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト(含むリアクションペーパー)やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10	5								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁(編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。(例：寄本勝美・小原隆治編(2011)『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。)				

【オフィスアワー】
水曜日12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。メールアドレス（suzuki.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	地方自治制度と自治体		地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。		120分
2	新たな自治体経営の手法		自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
3	自治体経営の具体例		自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分
4	自治体の行政統制（監査制度）		地方自治を動態的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
5	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）		地方自治を動態的に理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
6	自治体の広報・公聴活動		地方自治の現状について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	自治体の情報化		地方自治の現状について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	住民の役割や協働		地方自治を動的に理解するために、住民の役割や協働について学修する。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	住民参加の制度やコミュニティ		地方自治を動的に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分
10	住民運動や自治基本条例		地方自治を動的に理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる		
	事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	自治体の行政組織及び特徴		地方自治の行政、執行について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。		120分
12	持続可能な発展と地方自治		地方自治における課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体における政策	地方自治を動的に理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。調査レポートの作成。	120分
14	自治体の政策の事例	地方自治の現状や課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。調査報告。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。調査レポートについてまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁 編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本号館1603）（事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	新たな自治体経営の手法	ニューパブリックマネジメントにもとづくあたらしい自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	自治体経営の具体例	市場原理が機能しないため、行政に導入された自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	自治体の行政統制（監査制度）	アカウンタビリティと地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	行政責任と行政統制を理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	自治体の広報・公聴活動	行政の外への発信と住民との信頼確保の方策について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	自治体の情報化		地方自治の内部管理と外部との情報管理について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	住民の役割や協働		地域におけるアクターの役割分担とちいきづくりに理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	住民参加の制度やコミュニティ		住民参加に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	住民運動や自治基本条例		地域の自立的運営について理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる		
	事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	自治体の行政組織及び特徴		自治の運営主体である自治体について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	持続可能な発展と地方自治		持続可能な地域課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体における政策	自治体の政策過程について理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	自治体の政策の事例	地域課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	後学期の講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	180分

科目名	調査ジャーナリズム	担当者	石井 育子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
近年の「放送と通信の融合」の中で、放送産業（テレビ、ラジオ）のあり方も変化を余儀なくされている。そうした中での放送メディアの特性・可能性、オーディエンスの動向、今後の可能性と課題について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
変容期にあるメディア産業が置かれている現状についての知識を身に着け、放送メディア（テレビ、ラジオ）の動向、今後への展望、諸課題について考察する力を修得する。

【履修条件】
特になし。放送メディア（テレビ、ラジオ）に対する関心があれば良い。

【授業方法】		
講義形式を中心に進め、クラス内でのディスカッションを行なったり、現場のゲストの話を聞く機会を設ける。状況が可能であれば実際に学生によるラジオ企画も実践したい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各テーマに関連するラジオ番組を聴取し、内容・テーマに関するグループディスカッション、質疑応答等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送メディア（テレビ、ラジオ）の社会的機能、各番組ジャンルの表現・特徴などについて基礎知識を身に着ける						3							
②	海外も含めた放送メディアに関する産業構造を理解する							3						
③	テレビ、ラジオによるジャーナリズムがどのように成立しているのか、歴史的背景も含めて理解する。								3					
④	急激に変化するメディア環境においてオーディエンス（ユーザー）の情報行動がどうなっているのか理解し考察する力をみにつける。									3				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義最終回に到達目標①②③④について、授業全体についての理解度、背景を含めた知識の定着度、並びにテーマに関する論理的思考力を問うことを目的としたレポートを実施する。	20	20	10	20							70
討論・発表等												
授業への参画度	授業の進展に応じて、到達目標①②③にかかる能力、最新ニュースを中心にやり取りし、個々人の社会的な関心の深まりを検証していく。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期間中に実施した授業内レポートについては、採点基準を説明するとともに内容の講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。必要な時はメールで対応していく（ishii.ikuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		在京ラジオ局に３０年以上勤務。報道、CM制作、番組制作、出版事業などに携わる。 ラジオ局の仕事環境や制作現場の現状、メディア環境や課題などについて経験値に基づいた話も取り入れる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 放送メディア概観	本講義の主旨、内容、評価などについて説明する。	
	この回の到達目標	放送メディアの中でも特に音メディアに絞り検討する意義を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み講義内容を把握しておく	120分
	事後学修	ガイダンス内容を再確認する	120分
2	ラジオ史前章	音声メディアの特性とは何か ＊聴覚と視覚の伝わり方などのメディア特性	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、ラジオというメディアの特徴を理解する。	
	事前学修	興味ある番組を探し調査対象として聴いてみる。	120分
	事後学修	講義を踏まえメディアの特性について復習する。	120分
3	ラジオ史概観①	ラジオ誕生の頃 ＊放送誕生前 と 誕生をめぐる時代背景と社会 ＊当時の理念、番組など	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、メディア史の中の位置付けを理解する	
	事前学修	放送史の中でラジオがどう扱われているか調べる	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
4	ラジオ史概観②	戦後GHQ時代の放送 ＊民主化のための施策 ＊制作者の模索と番組	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、メディア史の中の変容を理解する	
	事前学修	前回の講義から流れを踏まえておく	120分
	事後学修	講義の復習	120分
5	ラジオ史概観③ と 現在	民放の歴史と産業構造 ＊始動期の社会と番組・ネットワーク化 ＊放送倫理と現場	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ラジオ産業全般について現在に至る社会背景を理解する	
	事前学修	前回の講義から流れを踏まえておく	120分
	事後学修	講義の整理とノートの再確認	120分
6	ラジオドラマ研究	歴史と変遷 ＊ラジオ初期の作品から現在の状況までエポックとなった時代と作品	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、ラジオドラマの歴史的変化について理解する	
	事前学修	興味のあるラジオドラマを研究対象として聴いておく	120分
	事後学修	講義の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ラジオドキュメンタリー①	歴史と変遷 *ラジオジャーナリズムの萌芽と変遷 *番組試聴	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、放送のジャーナリズム性を理解する	
	事前学修	放送ドキュメンタリーとは何か調べておく	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
8	ラジオドキュメンタリー②	ドキュメンタリーはどのように創られているか、現場の話を聞く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、テレビのドキュメンタリーとは異なる表現があることを理解する。	
	事前学修	指定の作品を聴いておく	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
9	ラジオ報道論①	局内の組織と役割 *ニュース、報道番組はどのように作られているか	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、報道番組の制作プロセスを理解する	
	事前学修	指定した情報を調べておく	120分
	事後学修	次回への準備を検討する	120分
10	ラジオ報道論②	企画と制作 *企画と構成の考え方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、音のみという条件下での表現を考える力を養う。	
	事前学修	実際に企画を考えるとはどういうことか調べておく	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
11	ラジオ報道論③	有事対応 *災害報道への取り組み（地震、台風、有事） *日常の準備と災害時の動き	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、有事のラジオの役割と業務を理解する	
	事前学修	指定した情報を調べておく	120分
	事後学修	講義の復習	120分
12	ラジオ報道論④	地域メディアとしてローカル局の役割と変遷	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して地域メディアとしてのラジオの役割を理解する	
	事前学修	地域メディアという概念について調べておく	120分
	事後学修	講義内容をノートに整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ラジオの現在と未来①	ネット音声コンテンツとラジオ局（海外動向含む） ＊報道番組聴取	
	この回の到達目標	到達目標②④に関して、海外も含めラジオ周辺動向と課題を理解する	
	事前学修	指定された資料を読んでおく	120分
	事後学修	講義を復習して課題整理を行う	120分
14	ラジオの現在と未来②	音声メディアとしての表現の未来	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、現状と課題を理解し、考えることができる。	
	事前学修	関係資料を調べておく（聴いておく）	120分
	事後学修	講義を復習して課題整理を行う	120分
15	総括・振り返り	まとめ Q&A	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して 理解度を確認するとともに音メディアの役割について説明することができる	
	事前学修	これまでの講義内容についてノートを活用して再確認する	120分
	事後学修	学修したことを総括する	120分

科目名	倒産法Ⅰ	担当者	石川 貴康	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、清算型倒産手続の一つである破産法を学ぶ。さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、破産手続を中心とする一連の倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートや復習問題を実施しながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。				3		3					
②	破産手続の基本的な流れを説明することができる。				3		3					
③	倒産実体法の内容について、民法と比較して説明することができる。				3		3					
④	破産手続における担保権の役割について説明することができる。				3		3					
⑤	破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。				3		3					
⑥	破産手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。				3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。				3		3					
⑧	消費者破産手続の必要性について説明することができる。				3		3					
⑨	消費者破産における免責手続について説明することができる。				3		3					
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関する基礎知識が身についているかを、筆記による授業内試験により評価する。	10	10	10	5	5	10	5	10	5		70
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の小レポートや出欠確認時の復習問題が、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身についているかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	15	10	10	5		100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日Googleクラスルームかポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
倒産処理法入門（第6版）	山本和彦	有斐閣	2024	参考書	任意
倒産法（有斐閣ストゥディア）	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
倒産法概説（第2版補訂版）	山本和彦ほか	弘文堂	2015	参考書	任意
破産法・民事再生法（第5版）	伊藤眞	有斐閣	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
事前にメール連絡をして日時を予約すること。メールアドレス：sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 導入講義	倒産処理制度の概要	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、倒産処理制度の概要について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、倒産処理制度とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、倒産手続や企業倒産に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、倒産処理制度の必要性和概観について復習する。	120分
2	破産手続の基本的な流れ		破産手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、実際の企業倒産の事例にも接しながら破産手続の社会における必要性について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	前回のレジュメを復習しながら、倒産処理制度の中で破産手続はどのような役割を担っているか確認しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の基本的な流れについて復習する。	120分
3	破産手続の申立てから開始決定		破産手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。破産法の条文を参考に、破産手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。	120分
4	破産手続における破産財団の範囲・債権の種類と優先順位		破産手続における破産財団の範囲、債権の種類と優先順位について学習する。破産法の条文を参考に、破産財団の固定主義や自由財産、破産債権・財団債権の性質等について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における債権の種類と優先順位について説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産財団の定義と破産手続における債権の種類と優先順位について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産財団の定義・範囲と破産手続における債権の種類と優先順位について復習する。	120分
5	破産手続における担保権の取扱い		破産手続における別除権の取扱いについて学習する。平時における担保権の性質や役割が、破産手続においてどのように反映されているのかについて、各担保物権の知識の再確認とともに学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、破産手続における担保権の取扱いについて、平時における担保権の性質や役割とともに、説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における別除権の取扱いについて予習するとともに、民法における担保物権の種類や各々の担保物権の性質について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における別除権の定義やその取扱いについて復習する。	120分
6	多数債務者関係と破産債権		破産手続における多数債務者関係と破産債権について学習する。平時における保証契約や連帯保証契約が、破産手続においてどのように取り扱われるのか、破産手続における保証人や連帯保証人の地位と債権者の権利について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における保証人や連帯保証人の役割と取扱いについて、説明することができる。	
	事前学修	民法を参考にしながら、保証契約や連帯保証契約について復習しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における多数債務者関係について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	破産手続における双方未履行双務契約（１）		破産手続における双方未履行双務契約の処理について学習する。売買契約を中心にしながら、契約の一方当事者に破産手続が開始した場合、双方未履行状態の双務契約がどのように取り扱われるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて、売買契約を中心にその基本的処遇を説明することができる。		
	事前学修	民法を参考に、売買契約や請負契約を中心とする双務契約について復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、双務契約の性質を確認するとともに、破産手続における双方未履行双務契約の処理について復習する。		120分
8	破産手続における双方未履行双務契約（２）		破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いを復習するとともに、請負契約や雇用契約等の破産手続における取扱いについても、さらに理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて、請負契約や雇用契約などの各種個別契約についてもその取扱いを説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いについて復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、各々の双方未履行双務契約の処理について、民法の条文も再確認しながら復習する。		120分
9	破産手続における取戻権・相殺権		破産手続における取戻権の取扱いと相殺権について学ぶ。特に、相殺の担保的機能が破産手続においてどのように反映されているのかについて、債権者平等原則とともに理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標③⑥に関連して、破産手続における取戻権と相殺権の取扱いについて説明することができる。		
	事前学修	民法を参考にしながら、相殺制度とは何かについて復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における取戻権と相殺権の行使について復習する。特に、民法における相殺の要件を再確認しながら、破産法における相殺権の行使と限界について復習をしておく。		120分
10	破産手続における否認権（１）		破産手続における否認権の制度について学習する。否認制度の趣旨や民法における詐害行為取消権との相違点、さらには基本的な否認類型である詐害行為否認と偏頗行為否認について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②⑦に関連して、破産手続における否認制度の趣旨や、否認権の基本的類型について説明することができる。		
	事前学修	民法を参考にしながら、詐害行為取消権の制度について復習する。債権法改正に伴って、詐害行為取消権は大きく変容したことから、破産法の否認権の条文と民法の詐害行為取消権の条文を比較してみる。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、否認権の制度趣旨と基本類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）について復習する。		120分
11	破産手続における否認権（２）		引き続き、破産手続における否認権の制度について学習する。対抗要件否認や転得者に対する否認など、特殊な否認類型について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②⑦に関連して、破産手続における否認制度の中で、対抗要件否認や転得者に対する否認など特殊な否認類型について、その趣旨とともに説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、否認権の基本的類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）と否認制度の趣旨について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、対抗要件否認や転得者に対する否認等の要件やその効果等を復習する。		120分
12	破産手続における訴訟の中断と受継		破産手続開始決定前に既に係属していた訴訟等の取扱いについて学習する。破産管財人の権限を改めて理解するとともに、既に継続していた訴訟の中断と受継の手続きについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、破産管財人の第三者性を改めて理解するとともに、破産手続開始後の民事訴訟の取扱いについて説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続開始決定に伴う破産者の取扱いと破産管財人の権限について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続開始による係属中の民事訴訟手続等の処理について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	破産債権の届出・調査・確定		破産手続における破産債権の届出・調査・配当までの手続きの流れを学習する。さらに、配当後から破産手続の終了までについても、手続きの流れを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続における債権の届出・調査・確定の流れについて説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文や配布資料等を参考に、破産債権の届出・調査・確定までの流れについて予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産債権の確定手続・配当・終了までの手続きの流れを復習する。	120分
14	消費者破産手続の流れ		消費者破産制度について、その目的や趣旨を理解する。法人の破産手続との相違点を学び、消費者破産手続における免責制度について理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①⑧⑨に関連して、消費者破産手続の概要や手続きの基本的な流れについて説明することができる。	
	事前学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の社会における必要性について復習するとともに、消費者破産に関する報道やニュース記事等を自分で検索してみる。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、消費者破産手続の特徴と免責制度について復習する。	120分
15	破産手続まとめ		破産手続の流れを復習するとともに、契約関係の処理や否認権の制度等、倒産実体法の復習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、破産手続の基本的な流れを確認するとともに、倒産法実体法の内容についても説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、破産手続について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の流れを確認するとともに、倒産実体法の理解を深める。	120分

科目名	倒産法Ⅱ	担当者	石川 貴康	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、主に再建型倒産手続の一つである民事再生法を学ぶ。 さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、民事再生手続を中心とする再建型倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートや復習問題を実施しながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。				3		3					
②	民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。				3		3					
③	民事再生法における倒産実体法の内容について、破産法と比較することができる。				3		3					
④	民事再生手続における担保権の役割について説明することができる。				3		3					
⑤	民事再生手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。				3		3					
⑥	民事再生手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。				3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。				3		3					
⑧	会社更生手続と民事再生手続の相違点について、説明することができる。				3		3					
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③⑧に関する基礎知識が身についているかを、筆記による授業内試験により評価する。	20	20	20					10			70
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の小レポートや出欠確認時の復習問題が、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身についているかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	5	5	5	5	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
倒産処理法入門（第6版）	山本和彦	有斐閣	2024	参考書	任意
倒産法（有斐閣ストゥディア）	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
民事再生法入門（第2版）	松下淳一	有斐閣	2014	参考書	任意
倒産法概説（第2版補訂版）	山本和彦ほか	弘文堂	2015	参考書	任意
破産法・民事再生法（第5版）	伊藤眞	有斐閣	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
事前にメール連絡をして日時を予約すること。メールアドレス：sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 再建型倒産処理手続の概要 導入講義		講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、再建型倒産手続の概要について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再建型倒産手続とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、事業再生や企業再建に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再建型倒産手続の必要性和概観について復習する。	120分
2	民事再生手続の基本的な流れ		民事再生手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、事業譲渡も含めた事業再生概念の拡大について、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文や講義レジュメを参考にしながら、再建型倒産手続の概要について復習し、事業再生と破産とはどのような相違があるのかについて、実際の事業再生事例などを自分で調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の基本的な流れと事業再生の概念について復習する。	120分
3	民事再生手続の申立てから開始決定		民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。民事再生法の条文を参考に、再生手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件について破産法と比較しながら学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。	120分
4	再生手続における各種機関		民事再生手続における機関について、主に再生債務者の法的地位、監督委員の役割と職務、債権者の手続参加を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、民事再生手続における再生債務者・監督委員・債権者等の各機関について説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の機関となる再生債務者、監督委員、債権者の役割について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債務者の第三者性や公平誠実義務、監督委員の役割、債権者集会や債権者委員会について復習する。	120分
5	再生手続における債権の種類と優先順位		再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を中心に、その相違点を学習する。再生債権と再生計画との関係についても理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続と比較しながらその相違点を説明することができる。	
	事前学修	民事再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続の場合と比較して予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を再確認しながら復習する。	120分
6	再生債権の届出・調査・確定		再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続との比較をしながら学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続と比較しながら説明することができる。	
	事前学修	民事再生手続における債権の届出・調査・確定手続について、破産手続と比較して予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債権の届出・調査・確定までの手続について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	再生手続における担保権の取扱い		再生手続における担保権の処遇について学習する。破産手続における別除権との相違や、担保権消滅請求制度の役割についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら予習する。改めて、民法における担保物権の復習もしておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続における別除権の取扱いについて、破産手続との比較も行いながら復習する。		120分
8	債務者財産の調査と確保（１）		再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生債務者による財産の調査や報告、双方未履行双務契約の処理について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文や講義レジュメを参考に、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における双方未履行双務契約の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。		120分
9	債務者財産の調査と確保（２）		第8回に続き、再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生手続における否認権や相殺権の行使について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。		
	事前学修	再生手続と破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について、類似性や相違点について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における否認権や相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。		120分
10	再生計画案の立案・認可		再生手続における再生計画案の立案・認可について学習する。再生債務者による再生計画の立案について、その要件や再生方針の決定など、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案の立案・認可に関して、計画案の内容や認可のための要件等を条文で確認しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の立案要件や権利変更等について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画立案の要件や時期、再生方針の多様性について復習する。		120分
11	再生計画案の決議・認可		再生手続における再生計画の立案と認可について学習する。再生計画案に対する再生債権者の決議と計画案認可の可決要件について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案に対する再生債権者の決議方法と認可のために必要な可決要件について、条文で確認しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の決議と認可の方法について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の決議方法や認可の要件等について復習する。		120分
12	再生計画の履行確保		再生手続において、再生計画認可後の再生計画の履行確保について学習する。再生計画の遂行における監督委員の役割についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画認可後の履行方法について、監督委員の役割とともに説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の履行確保の方法について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の履行確保の方法等について復習する。再生手続における監督委員の役割と職務についても復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	再生手続の終了・廃止	民事再生手続の終結決定と、破産手続へ移行する場合の手続きの流れや各債権の移行について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続の終了・廃止と破産手続への移行について、条文を確認しながら説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の終了や破産手続への移行について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の終了方法や破産手続の移行、その場合の各債権の取扱いについて復習する。	120分
14	個人再生手続	消費者のための再建型倒産手続である個人再生手続について、その概観と手続きの基本的な流れについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人再生手続の概要や手続きの基本的な流れについて、消費者破産制度と比較しながら説明することができる。	
	事前学修	個人再生手続の特徴や必要性について、破産手続と比較しながら予習する。消費者や破産手続ではなく、再生手続を利用する場合のメリットについても自分で考えてみる。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、個人再生手続の流れや特徴について、消費者破産手続と比較しながら復習する。	120分
15	再建型倒産手続まとめ	民事再生手続と中心とした再建型倒産手続のまとめとして、破産手続との比較を行いながら、再確認していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、破産手続や会社更生手続と比較しながら、民事再生手続の流れについて説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、民事再生手続を中心とする再建型倒産手続について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続を中心に再建型倒産手続の流れを理解し、破産手続との相違点を確認する。	120分

科目名	東洋法制史Ⅰ	担当者	田中 俊光	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義では、朝鮮半島における法制史を学修する。 前期では、朝鮮史を上古から近代まで通史的に概観しながら、時代ごとの法の特徴や、法典編纂の沿革を知ること、比較法的視野から現代日本の法制度を深く理解する。 史料の比較的豊富な朝鮮時代、なかでも14世紀末から19世紀末にかけての法について、実際の法典・法令集や法律書の具体的内容を知ること、理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
朝鮮半島の法制度に関する体系的な変遷の理解を通じて、法制度が制定される背景や法典編纂の影響など、東洋法制史に関する基本的な知識を身につける。 前近代の朝鮮半島の法は中国の歴代王朝の法の単なる模倣ではなく、多くの独自の法が制定され、運用されていたことを認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
事前に配布する授業レジュメの内容に沿って講義し、理解確認のためのレポート課題を出す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	朝鮮半島の法の体系的変遷を説明できる。【知識】						2						
②	朝鮮時代の法の性格、中国法との関係について説明できる。【知識】							2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	30	30									60
小テスト等	配布レジュメの空欄内に入る用語を解答する課題を毎回出すので、締め切り（次回授業前日）までにGoogle Classroomでの小テストを受け、正解を確認する。	5	5									10
レポート等	講義を受けて感じたことや疑問に思ったことについて、リアクションレポートを次回授業前までに作成し、提出してもらう。 提出されたレポートが、書式などの所定の要件を満たし、毎回の授業での配布レジュメの内容を理解しているかを確認する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を毎回の授業の冒頭で行い、必要に応じて詳細な解説を交えてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
李朝法典考	中枢院調査課編	朝鮮総督府中枢院	1936	参考書	任意
朝鮮法制史稿	浅見倫太郎	大空社	2001	参考書	任意
朝鮮法制史(朝鮮史講座<分類史>所収)	花村美樹	朝鮮史学会	1924	参考書	推奨
朝鮮社会法制史研究	京城帝国大学法学会編	岩波書店	1937	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史1 先史～朝鮮王朝	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史2 近現代	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
コリアの法と社会	尹龍澤ほか編著	日本評論社	2020	参考書	推奨
備考	教科書は使用しない。Google Classroomを通じて事前に講義資料（PDF）を配付するので、あらかじめ目を通しておくこと。列挙した参考書をベースに作成したシラバスにもとづき講義をおこなうので、余裕があれば参考書を一読することが望ましい。				

【オフィスアワー】
希望する学生はtanaka.toshimitsu@nihon-u.ac.jpまで連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション，導入講義	基礎法学としての法制史の意味や方法、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の解説を行う。	
	この回の到達目標	法制史とはどんな学問か、東洋という領域、なかでも朝鮮を扱う意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、高校の世界史教科書などで朝鮮の歴代王朝の大まかな変遷を確認しておく。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。法制史とはどんな学問かについて理解する。	120分
2	三国時代以前の法	氏族時代の法制度と部族時代の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	氏族時代の法制度と部族時代の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、三国時代以前の朝鮮半島について確認しておく。	120分
	事後学修	古朝鮮の法制度のあり方について理解する。	120分
3	三国時代の法	高句麗・百済・新羅の三国の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	高句麗・百済・新羅の三国の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、高句麗・百済・新羅の国家体制について確認する。	120分
	事後学修	高句麗・百済・新羅の法制度と中国法の関係について理解する。	120分
4	統一新羅時代の法	7世紀後半から10世紀前半の朝鮮半島における新羅の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	統一新羅時代の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮半島が新羅で統一された時代の中国との関係や渤海との関係について確認する。	120分
	事後学修	「村落文書」などの文献から、統一新羅時代の法制度の姿を理解する。	120分
5	高麗時代の法（1）	10世紀前半から13世紀前半までの高麗王朝の法の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	高麗前期の法の形成過程と特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、唐や宋などの外交関係と高麗の国家体制の整備について確認する。	120分
	事後学修	唐や宋の法制が高麗の法に与えた影響について理解する。	120分
6	高麗時代の法（2）	13世紀後半の事元期から14世紀末までの高麗王朝の法の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	事元期および高麗末期の法の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、元の支配下での高麗の国家体制、元の衰退と明の台頭といった情勢下における高麗の政治的対立について確認する。	120分
	事後学修	事元期においてモンゴルの法制が高麗に与えた影響と、元の衰退が高麗末期における法の混乱を招いたことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	朝鮮時代の法（１）	朝鮮初代王の李成桂による『経済六典』と続典の編纂について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮建国当初の法典編纂のあり方について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、高麗から朝鮮への政権交替における政治的状況について確認する。	120分
	事後学修	高麗末期から実権を掌握した李成桂が、これまで継承されてきた高麗の法と李成桂みずから下した命令を集成して『経済六典』が編纂されたことを理解する。	120分
8	朝鮮時代の法（２）	15世紀に成立した『経国大典』の編纂経緯と、その構成や内容について学ぶ。	
	この回の到達目標	『経国大典』の編纂経緯と、その構成や内容について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、15世紀の成宗代に中央集権的な国家体制が完成し、法令の集大成としての法典編纂が行われたことを確認する。	120分
	事後学修	世祖による王位篡奪から法典編纂がはじまり、度重なる改正の後に成宗代に『経国大典』が完成したことを理解する。	120分
9	朝鮮時代の法（３）	『経国大典』施行以降、16世紀末までに編纂された法令集や法典の編纂経緯や意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	『経国大典』施行以降の朝鮮前期の法令集や法典の編纂経緯や意味について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、『経国大典』以降に編纂された法典について確認する。	120分
	事後学修	『経国大典』以降に相次いで制定された法令をどのように整理し法典として編纂していったのかを理解する。	120分
10	朝鮮時代の法（４）	17世紀から朝鮮末期の19世紀後半までに編纂された法令集や法典の編纂経緯や意味のほか、私撰の法律書について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮後期に編纂された法令集や法典、私撰の法律書の編纂経緯や意味について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮後期に編纂された法令集や法典や、私撰の法律書にどんなものがあるのか確認する。	120分
	事後学修	英祖代の『続大典』編纂により、朝鮮の独自法の法源は、『経国大典』と『続大典』、そして以降の王による単行法令によったことを理解する。	120分
11	朝鮮時代の法（５）	朝鮮王朝における『大明律』の継受のあり方や、法の存在形態と立法の特色について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮王朝における『大明律』の継受のあり方や、法の存在形態と立法の特色について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、明の刑罰法である大明律がどのようにして編纂されたのかを確認する。	120分
	事後学修	朝鮮が大明律を刑事法の一般法として継受し、朝鮮の事情に合わない部分は独自の特別法で修正して運用したことを理解する。	120分
12	近代の法（１）	1895年の甲午改革以降に進められた開化期の法制について学ぶ。	
	この回の到達目標	甲午改革以降に進められた開化期の法制について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、開国後に改革を標榜して文物の西欧化を推し進めるなかで、法制度の改革にはどのようなものがあったのかを確認する。	120分
	事後学修	朝鮮の近代化は、欧米列強のアジア進出の思惑のなか、とりわけ日本の干渉のなかで移植され、高まる民族意識のなかで強い違和感や葛藤を生んだことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代の法（２）	植民地期の法制の体系と特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	植民地期の法制の体系と特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、植民地朝鮮の立法における総督府の機能について確認する。	120分
	事後学修	日本の植民地支配における武断統治、同化政策のなかで法がどのように利用されてきたかを理解する。	120分
14	現代の法	現代の大韓民国の法制度の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	現代の大韓民国の法制度の大まかな特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、植民地解放後まもなく分断国家となった韓国の国家体制について確認する。	120分
	事後学修	東西イデオロギー対立のなかでの分断、軍事独裁政権時代を経て民主化へと向かった韓国が指向する法制の特徴について理解する。	120分
15	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施ならびに授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	前期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
	事前学修	授業を総括すること。	120分
	事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	東洋法制史Ⅱ	担当者	田中 俊光	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義では、朝鮮半島における法制史を学修する。 後期では、前近代の王朝の中で比較的多くの資料が残り、法と社会の実態を知ることができる朝鮮王朝における法意識、身分と法的能力、家族関係と財産相続、取引法、刑罰論、裁判制度といった側面から、前近代の朝鮮半島の法と社会について認識するとともに、比較法的な視野から現代日本の法制度を深く理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
朝鮮半島の法制度に関するある程度応用的な知識を獲得し、そこでのさまざまな法制度やその背景を理解する。 朝鮮半島の前近代の家族法、財産法、刑法、裁判手続法の各分野における様々な法理について、何故そのような仕組みとなっているのか、その背景も含めて知ることができる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
事前に配布する授業レジュメの内容に沿って講義し、理解確認のためのレポート課題を出す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	前近代の朝鮮半島における各分野の法制度の特徴について説明できる。【知識】					2							
②	朝鮮時代の法理を知ること、比較法的視野から現代日本の法制度に内在する東アジア的要素を説明できる。【知識】						2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	30	30									60
小テスト等	配布レジュメの空欄内に入る用語を解答する課題を毎回出すので、締め切り（次回授業前日）までにGoogle Classroomでの小テストを受け、正解を確認する。	5	5									10
レポート等	講義を受けて感じたことや疑問に思ったことについて、リアクションレポートを次回授業前までに作成し、提出してもらう。 提出されたレポートが、書式などの所定の要件を満たし、毎回の授業での配布レジュメの内容を理解しているかを確認する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を毎回の授業の冒頭で行い、必要に応じて詳細な解説を交えてフィードバックする。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
李朝の財産相続法		中枢院調査課編	朝鮮総督府中枢院	1936	参考書	任意
朝鮮の祭祀相続法		朝鮮総督府編	国書刊行会	1983	参考書	任意
朝鮮田制考		中枢院調査課編	以文社	1977	参考書	任意
朝鮮朝刑罰制度の研究		矢木毅	朋友書店	2019	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史 1 先史～朝鮮王朝		李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史 2 近現代		李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
備考	教科書は使用しない。Google Classroomを通じて事前に講義資料（PDF）を配付するので、あらかじめ目を通しておくこと。列挙した参考書をベースに作成したシラバスにもとづき講義をおこなうので、余裕があれば参考書を一読することが望ましい。					

【オフィスアワー】
希望する学生はtanaka.toshimitsu@nihon-u.ac.jpまで連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション，朝鮮王朝の法典	基礎法学としての法制史の意味や方法、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の解説を行う。 朝鮮王朝で編纂された法典についての概説を行う。	
	この回の到達目標	法制史とはどんな学問か、東洋という領域、なかでも朝鮮を扱う意味について理解し、説明できる。 朝鮮王朝で編纂された法典について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、高校の世界史教科書などで朝鮮の歴代王朝の大まかな変遷を確認しておく。 前期の受講生は、前期の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。法制史とはどんな学問かについて理解する。 朝鮮王朝の法典の特徴について理解する。	120分
2	法思想と法意識（１）	朝鮮時代の立法者の思想について、その理想とする法のあり方について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の立法者の思想について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の法思想の視角、朝鮮時代に理想とされた法のあり方について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の立法者の理想とする法のあり方について理解する。	120分
3	法思想と法意識（２）	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識、裁判と権利、所有権に対する意識について学ぶ。 あわせて、開化期、植民地期、解放後の韓国の法意識についても概観する。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識および権利意識について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の民衆の法意識や権利意識について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識、裁判と権利、所有権が、開化期および植民地期をへた現代にどのような影響を与えているのかについて理解する。	120分
4	身分制度と法的能力	朝鮮時代における身分制度のしくみと、身分にともなう法的能力について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の身分制度と法的能力について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の身分制度と法的能力について確認しておく。	120分
	事後学修	両班、中人、常民、賤民という身分により、法的能力が異なっていたことについて理解する。	120分
5	戸籍制度	高麗時代までの戸籍制度が、朝鮮時代にどのように代わり、開化期以後へと変化していくのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮半島における戸籍制度の変遷について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮半島における戸籍制度の沿革について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の戸籍制度は、高麗時代のものを継承し、開化期以後近代的な戸口調査によって作成されたことについて理解する。	120分
6	宗族法	朝鮮の伝統社会における家と宅、宗族結合、墓山と位土、家長権について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮の伝統社会における宗族法の概要を説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮の家のあり方について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮の伝統社会における身分階層的地縁結合（宗法型の班村型結合と非宗法型の民村型結合）について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	家族生活の法（１）		朝鮮における親族の範囲と喪服制の史的変遷、婚姻・離婚の要件と法的効果について学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮における親族の範囲、婚姻・離婚の要件と法的効果について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮における親族の範囲や喪服制の史的変遷、婚姻・離婚の形態について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮における親族観念、率壻婚俗、婚姻による身分的・経済的効果、離婚の形態について理解する。	120分
8	家族生活の法（２）		朝鮮時代における親子の法的関係と養子制度について学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮時代における親子の法的関係、養子制度の類型と特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、親生子女の種類、養子の形態について確認しておく。	120分
	事後学修	親に対する子の法的強制、養子制度の発展過程について理解する。	120分
9	家族生活の法（３）		朝鮮時代における家系継承と祭祀継承、財産相続について学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮時代における家系・祭祀継承と財産相続の関係について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、祭祀相続と財産相続のあり方について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の朱子家礼に基づく祭祀相続と財産相続の関係について理解する。	120分
10	土地法		朝鮮時代の土地所有権、小作について学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮時代の土地所有、小作に関する法的根拠について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮における土地制度の私的変遷について確認しておく。	120分
	事後学修	王土思想と土地所有権の関係、土地所有の立証方法、所有と占有、小作の法的形態について理解する。	120分
11	取引生活の法		朝鮮時代における売買とその登記、買戻特約および売買担保について学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮時代における不動産・奴婢の売買、担保制度の形態について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、売買契約の形式、消費貸借、担保制度について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮における売買の法的性格と形式、「立案」手続、買戻特約付売買である「権売」、消費貸借、退賭地売買、売渡担保、質について理解する。	120分
12	刑法		朝鮮における刑事法の特徴と、それらを規準として朝鮮の独自法が制定される過程を具体的な事例を挙げて学ぶ。
	この回の到達目標	朝鮮が継受した中国の刑罰法である律の総則的特徴と各論的内容について説明でき、それらを規準として朝鮮の独自法が制定される過程について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、律の総則的特徴と、律で定める犯罪にどのようなものがあったのかについて確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の刑事一般法であった明律の規定のうち、構成要件や法定刑が朝鮮の事情にそぐわない場合、朝鮮の独自法がそれを補完する機能をもっていたことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	裁判制度（１）	朝鮮時代の民事的裁判である詞訟について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の民事的裁判の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の民事的裁判の概要について確認しておく。	120分
	事後学修	当事者主義的に進行する民事的裁判における当事者能力、訴えの提起の方法、弁論手続、親着決折法、判決後の三度得伸法について理解する。	120分
14	裁判制度（２）	朝鮮時代の刑事的裁判である刑獄について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の刑事的裁判の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の刑事的裁判の概要について確認しておく。	120分
	事後学修	職権主義的に進行する刑事的裁判における検驗、決獄日限、いわゆる必要的覆審制、三覆啓、再審請求について理解する。	120分
15	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施ならびに授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	前期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
	事前学修	授業を総括すること。	120分
	事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	都市政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における都市自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、都市政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに都市における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、講義後のリアクションペーパー等の提出物がないと、単位の取得は難しいので注意すること。併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
参考書を指定し、オンライン形式（オンデマインド）により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。レポートやリアクションペーパーを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	都市政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。					4							
②	都市政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							4	4				
③	都市政策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							4	4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクション ペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身 についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③に関して、身についているかを授業内課題 により評価する。	25	25	20								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	テキストは使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp 研究室本館 6 階

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	都市政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	まちづくりという用語の意味とその背景について説明できる。都市政策とまちづくりの関係を説明できる。	
	事前学修	「まちづくり」とはなにか、どのような場面で使われているか考えてくる	120分
	事後学修	「街づくり」と「まちづくり」の違いを理解できたか考える	120分
2	都市の様相の変化と都市政策	新時代の都市の様相、都市の再生、成熟化する都市について学修する。	
	この回の到達目標	新時代の都市の様相をとらえたうえで、都市の再生、成熟化する都市について説明できる。	
	事前学修	時代ごとに都市はどのような変化について考える	120分
	事後学修	成熟化した都市の住民の考え方について学習する	120分
3	都市形成の歴史	歴史のなかでの都市とはなにかについて学修する。	
	この回の到達目標	都市の機能の移り変わりについて説明できる	
	事前学修	都市の定義について調べてみる	120分
	事後学修	都市の時代ごとの役割を復習する	120分
4	都市の原理	都市をつくる指針について学修する。	
	この回の到達目標	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに説明できる	
	事前学修	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに考えてくる	120分
	事後学修	自分の住む自治体の長期構想を読んでみる	120分
5	都市の機能と時代	都市と時代背景について学修する。	
	この回の到達目標	都市の時代背景について説明できる	
	事前学修	都市の時代背景の関係について、各国で比較してみる	120分
	事後学修	都市の時代背景とその誕生について整理してみる	120分
6	都市の主体と都市の構造	都市の主体はなにか、都市の構造はどのようなになっているかを学修する。	
	この回の到達目標	都市の構造とそのなかで都市の主体が果たす役割について説明できる	
	事前学修	新しい公共とはなにか考える	120分
	事後学修	都市と新しい公共についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	都市の法規		都市を形成するための法規について学修する。
	この回の到達目標	都市を形成する法規について、主要なものについては説明できる	
	事前学修	都市を形成する法規について調べてくる	120分
	事後学修	都市を形成する法規の役割と機能についてまとめる	120分
8	都市計画		都市計画制度について学修する
	この回の到達目標	用途地域について説明できる	
	事前学修	都市計画法を読んでくる	120分
	事後学修	用途地域について事例を考えながらまとめる	120分
9	都市計画		都市計画区域について学修する。
	この回の到達目標	都市計画域の構造について学修する	
	事前学修	都市計画区域について調べてくる	120分
	事後学修	都市計画区域について概要を再認する	120分
10	都市をまもる；安全安心な都市		都市をまもる；安全安心な都市について学修する
	この回の到達目標	体感治安とまちづくりの関係について学修する。	
	事前学修	日本の犯罪率について考える	120分
	事後学修	体感治安とまちづくりに与える影響について検討する	120分
11	安心なまち		安心と安全の違いを学修し、町づくりとの関係について学修する
	この回の到達目標	犯罪をなくす取り組みについて説明できる	
	事前学修	犯罪をなくす先進的な取り組みについて考える	120分
	事後学修	犯罪のない街の特徴を整理する	120分
12	コミュニティ政策		コミュニティとまちづくりの関係について学修する
	この回の到達目標	まちづくりにとってコミュニティの再生が必要なことを説明できる	
	事前学修	コミュニティの定義について過去のものを調べてくる	120分
	事後学修	コミュニティの在り方について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コミュニティ政策と町の形成	現代のコミュニティについて学修する	
	この回の到達目標	現代街づくりに必要なコミュニティについて説明できる	
	事前学修	ソーシャルキャピタルの定義について調べてみる	120分
	事後学修	自治体のコミュニティ政策の変化について整理する	120分
14	環境政策	都市の環境政策の手法について学修する	
	この回の到達目標	都市の環境政策の手法について説明できる	
	事前学修	都市自治体の環境政策について、市町村レベルと都道府県レベルの相違を調べる（2時間）	120分
	事後学修	環境政策の有効性と住民との関係について考える	120分
15	シビックプライド	シビックプライドについて政策との関係を学修する。	
	この回の到達目標	都市のシビックプライドの手法について説明できる	
	事前学修	シビックプライドの概念について調べる	120分
	事後学修	シビックプライドの課題について整理する	120分

科目名	日本経済論Ⅰ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。						2	2						
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。						2	2						
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。							2						
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを評価する。	20	20	30								70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。試験については次回授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本 第22版（読本シリーズ）	大守隆	東洋経済新報社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・停滞する日本経済	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	瀬戸際に立つ課題先進国日本	・デフレ ・長期停滞要因に関する様々な仮説 ・なお残る優位 ・「課題先進国」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の長期停滞について説明できる。	
	事前学修	教科書 第1章 第2節～第5節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
3	日本経済の歩み(1)	・戦前の経済発展 ・戦後復興 ・高度経済成長	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前から高度経済成長までの日本経済の大まかな流れについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	日本経済の歩み(2)	・石油危機（オイルショック） ・円高 ・バブル経済とその崩壊	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、オイルショック以降の日本経済の大まかな流れについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	日本の経済政策(1)	・経済政策の分類 ・効率性と公平性 ・バブル経済までの経済政策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の経済政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	日本の経済政策(2)	・バブル経済崩壊後の経済政策 ・国際経済政策 ・I T政策	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最近の日本の経済政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間まとめ	ここまでの内容の整理と復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の現状と課題、日本経済の歩み、日本の経済政策について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の1章から3章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	財政赤字の急拡大と再建への展望(1)	・財政の3機能 ・財政政策の効果 ・日本の財政制度	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割と日本の財政制度について説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 第1節の全部と第2節の2を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	財政赤字の急拡大と再建への展望(2)	・日本の税制 ・財政の現状 ・財政再建	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本財政の現状について説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 第2節の3と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	異次元緩和が長期化する金融政策(1)	・金融の役割 ・日本の金融システム ・金融政策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の金融制度と金融政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	異次元緩和が長期化する金融政策(2)	・非伝統的な金融政策 ・バブルと金融危機	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、非伝統的な金融政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	創生を目指す地方経済(1)	・補論：地域別人口 ・地方経済の現状	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、地方経済の現状について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	創生を目指す地方経済(2)	・ 地方財政	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、地方交付税制度について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の現状と課題、日本経済の歩み、日本の経済政策、日本の財政の現状と課題、日本の金融政策、日本の地方経済について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の1章から6章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認と後期の日本経済論Ⅱに向けて	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の現状と課題、日本経済の歩み、日本の経済政策、日本の財政の現状と課題、日本の金融政策、日本の地方経済について総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の1章から7章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	日本経済論Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。							2	2				
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。							2	2				
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを評価する。	20	20	30								70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答と解説を、Google Classroomにて配信する。試験については次回授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本 第22版（読本シリーズ）	大守隆	東洋経済新報社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・比較優位	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	国際的な競争環境の変化と企業行動	・日本の比較優位の変化 ・アジア域内での国際分業 ・海外生産の増加 ・課題への対応	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国際的な競争環境と日本の産業構造について説明できる。	
	事前学修	教科書 第7章 第1～4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
3	人材育成力の再構築が求められる労働市場(1)	・労働市場の変化 ・就業ミスマッチ	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本の労働市場の現状について説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	人材育成力の再構築が求められる労働市場(2)	・働き方改革 ・非正規雇用 ・日本的雇用慣行と人材育成	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本の雇用制度の特徴について説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	国民生活の現状と格差問題	・家計の消費、貯蓄の動向 ・家計の保有資産の現状 ・所得格差と貧困	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、家計消費と貯蓄の動向、所得格差、貧困問題について説明できる。	
	事前学修	教科書 第9章 第1節～第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	少子高齢化時代の社会保障(1)	・高齢化と社会保障 ・補足：保険と年金のしくみ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の高齢化と社会保障について説明できる。	
	事前学修	教科書 第10章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	少子高齢化時代の社会保障(2)	・ 公的年金制度 ・ 医療・介護保険制度 ・ 子育て支援		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の年金・医療・介護保険制度と子育て支援制度について説明できる。		
	事前学修	教科書 第10章 第2節～第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
8	増加した所得収支黒字と急減したインバウンド(1)	・ 国際収支とは ・ 日本の経常収支の動向 ・ 日本の貿易構造の変化		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の国際収支の変化について説明できる。		
	事前学修	教科書 第11章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
9	増加した所得収支黒字と急減したインバウンド(2)	・ 固定相場制から変動相場制へ ・ 円レートの推移と日本経済		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円の為替レートと日本経済の関係について説明できる。		
	事前学修	教科書 第11章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
10	資源エネルギー戦略の再構築(1)	・ 原発事故までのエネルギー ・ 原発事故 ・ 今後の原子力発電		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、原発事故と日本のエネルギー政策について説明できる。		
	事前学修	教科書 第12章 第1節～第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
11	資源エネルギー戦略の再構築(2)	・ 再生可能エネルギー ・ 資源・エネルギーをめぐる新しい動き		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、これからのエネルギー政策について説明できる。		
	事前学修	教科書 第12章 第4節～第6節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
12	経済との関係が強まる環境問題(1)	・ 日本の環境問題の歴史 ・ 環境基本法 ・ 循環型社会と経済		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、これまでの日本の環境問題、循環型社会と経済について説明できる。		
	事前学修	教科書 第13章 第1節～第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済との関係が強まる環境問題(2)	・生物多様性の保全と経済 ・気候変動対策と経済	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、生物多様性の保全および気候変動対策と経済について説明できる。	
	事前学修	教科書 第13章 第3節～第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	試験と振り返り	ここまでの内容の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本を取り巻く国際的な競争環境の変化、日本の労働市場と所得格差、日本の社会保障制度、日本の国際収支、日本の資源エネルギー政策、日本の環境問題について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の7章から13章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
15	試験の解説と総括	ここまでの内容の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本を取り巻く国際的な競争環境の変化、日本の労働市場と所得格差、日本の社会保障制度、日本の国際収支、日本の資源エネルギー政策、日本の環境問題について総合的に説明できる。	
	事前学修	前回の試験問題を中心に、教科書の7章から13章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	半年間の授業内容を総復習する。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「メディアと歴史」の単位を先に修得していることが望ましい。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】		
反転授業の方法を採用するため、授業前に課す課題には必ず取り組んでおくこと。レスポんやGoogleフォームを使用し、理解度チェックや質問の機会を設ける。授業内容に適した質問に関しては、受講者全体に向けて解説を加える。学修方略上、ノートテイクを重視しているため、受講の際には必ずノートを用意すること（要約力を涵養するため、スライド資料をそのまま配布することとは行わない）。他の受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合は、翌週回以降に解説と質問に対する回答を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める（反転授業）授業形態を採用する。また、形成的評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる					2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる					2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べるることができる						2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる						2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる						2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる							2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる							2					
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。総括的評価のためのテストは、中盤（実施回は進捗状況による）と最終回（第15回）の計2回実施する。	15	15	15	15	15		15				90
小テスト等	小問形式の授業内課題により、到達目標②③④⑤の知識がどの程度身についているかを形成的評価として判断し、総括的評価の加点要素として加味する。		1	2	1	1						5
レポート等	記述形式の授業内課題により、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを形成的評価として判断し、総括的評価の加点要素として加味する。	1					2	2				5
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	16	17	16	16	2	17				100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内での解説のほか、Google Classroomを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考	随時、参考となる文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
【2024年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
	事後学修	ノートの整理。	120分
2	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
3	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連し、デジタルアーカイブを利用することができる。 到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
4	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
5	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
6	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
8	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
9	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
10	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
11	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
12	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
14	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
15	まとめ 総括的評価テスト	テストと解説（フィードバック）	
	この回の到達目標	本講義の個別到達目標①～⑦を振り返り、本講義の単位修得に求められる知識・技能を示す。	
	事前学修	これまでの授業内容（自筆のノート）の振り返り。	120分
	事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」で扱った幕末期から大正前期の内容を踏まえて、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「日本ジャーナリズム史Ⅰ」の単位を修得していること。

【授業方法】
事前配布資料（PDFおよび動画）に目を通したうえで講義を受ける「反転授業」を採用する。受講者数によってはグループワークを実施する場合がある。授業前に課す課題には必ず取り組んでおくこと。リアクションペーパーを使用し、授業内容に適した質問等には、受講者全体に向けて解説を加える。学修方略上、ノートテイクを重視しているため、受講の際には必ずノートを用意すること（スライド資料をそのまま配布することは行わない）。他の受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合は、翌週回以降に解説と質問に対する回答を行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を実施する。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。		3						
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。			3					
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。				3				
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。					3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関わる知識および技能が身についているかを、総括的評価のためのテストによって評価する。総括的評価のためのテストは、第8回（進捗状況によって前後することがある）と最終回（第15回）の計2回実施する。	30	30	30								90
小テスト等	小問形式の授業内課題により、到達目標④に係る技能がどの程度身についているかを形成的評価として判断し、総体的評価の加点要素として加味する。				5							5
レポート等	記述形式の授業内課題により、到達目標④に係る技能が身についているかを形成的評価として判断し、総体的評価の加点要素として加味する。				5							5
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、出席点（授業に参加することに対する加点）なるものは存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対する回答やテストの解説は、Google Classroomを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2024年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ジャーナリズムの歴史を学ぶ意義	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
	事前学修	日本ジャーナリズム史Ⅰの内容の振り返り。	120分
	事後学修	ノートの整理。	120分
2	国際会議と新聞①	補論1：日本のジャーナリズムと国際通信の歴史 パリ講和会議と新聞	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
3	国際会議と新聞②	軍縮条約交渉と新聞 新聞争議と流言飛語	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
4	国際会議と新聞③	大正期における編集と経営の変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
5	『朝毎』全盛時代①	政党政治の腐敗墮落と新聞 大阪系新聞の東京制覇	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分
6	『朝毎』全盛時代②	東京各紙の没落 新聞の軍部批判	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	『朝毎』全盛時代③		軍部による言論統制と二・二六 補論２：日本における通信社の歴史	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
8	小括 総括的評価テスト①		大正後期から昭和期（戦前）までのジャーナリズムの歴史の小括 テストと解説	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期（戦前）の日本のジャーナリズムについて説明することができる。		
	事前学修	自筆のノートの振り返り。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
9	大日本帝国の崩壊と新聞①		日中戦争と新聞 第２次世界大戦の開幕と新聞	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
10	大日本帝国の崩壊と新聞②		新聞の統廃合	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
11	大日本帝国の崩壊と新聞③ 占領期の新聞①		敗戦と新聞 GHQの新聞政策	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期・占領期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
12	占領期の新聞②		新聞の民主化運動 取材源証言拒否事件と捏造報道	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、占領期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	飛躍する新聞①		対日講和条約と新聞 激化する販売競争	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
14	飛躍する新聞②		新聞界の技術革新と報道協定 安保問題と新聞	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートをまとめ、学修内容を整理すること。配布資料がある場合は目を通しておくこと。		120分
15	まとめ 総括的評価テスト②		大正後期から昭和期までのジャーナリズムの歴史のまとめ テストと解説（フィードバック）	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期（戦後）の日本のジャーナリズムについて説明することができる。		
	事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。		120分
	事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。		120分

科目名	日本政治過程論	担当者	浅井 直哉	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
この授業は、日本を対象としたケーススタディを取り扱う。1993年の非自民連立政権から第2次安倍政権に至るまでの政権においてどのような政治過程が観察されてきたのかに関して、日本政治の流れや各政権の特徴について学修する。日本では、長らく自民党が単独で政権を担っていたが、1990年代に入ると、複数の政党が協力して政権を担当する様子がみられるようになった。このような変化を踏まえると、現代の日本政治を考えるには、連立政権という視点に立つことが重要となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
1990年代以降の日本政治の特徴を理解するために、連立政権という分析視角を修得し、各政権に適用することができるとともに、政権ごとの特色や政権間の共通点および相違点を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として、PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本政治における連立の形態を識別し，説明することができる。						2	2					
②	日本政治における連立政権の形成について理解し，説明することができる。						2	2					
③	日本政治における連立政権の変化について理解し，説明することができる。						2	2					
④	日本政治における連立政権の実績について理解し，その後への影響と結びつけて説明できる。						2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～③について求められる学力が身についているかを，授業内試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④に関して説明することができるかについて評価する。				10							10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業において学期末試験の講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の連立政権	岩渕美克・岩崎正洋編	八千代出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション：日本における連立政権		第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、1993年以降の日本政治の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。		
	事前学修	1993年以前の日本政治に関する知識や情報を整理し、授業前にノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
2	連立政権の理論的枠組み		連立政権とは何か、連立政権を考えるための枠組みにはどのようなものがあるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、連立政権の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	細川政権		細川政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、細川政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	羽田政権		羽田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、羽田政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	村山政権		村山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、村山政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	橋本政権		橋本政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、橋本政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	小渕・森政権		小渕政権・森政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小渕政権・森政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	小泉政権		小泉政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小泉政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	第1次安倍政権		第1次安倍政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、第1次安倍政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	福田・麻生政権		福田政権・麻生政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、福田政権・麻生政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	鳩山政権		鳩山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、鳩山政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	菅・野田政権		菅・野田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、菅政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第2次安倍政権	第2次安倍政権におけるこれまでの政治過程や特徴について、連立政権の形成・変化・実績をそれぞれ説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前の政権とのつながりを踏まえつつ、第2次安倍政権の発足以降を説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	期末総括：授業内試験	これまでの講義内容に関する理解が定着しているか否かを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回の主な論点や理解を深める必要のある点について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分および自身のノートを読み、講義内容について整理する。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	日本の連立政権における展望と課題	日本政治を題材として、連立政権の枠組みを援用する際の手続き・流れを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各政権の特徴を理解するとともに、政権同士の比較を通じて共通点や差異点を導き出し、説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
「日本政治史Ⅱ」（浅野担当分）を受講することがのぞましい。なお、定期試験の答案作成にあたっては黒のボールペンを使用すること。また、状況によっては、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、授業であつかうテーマと関連した、ホットな政治的事象が発生したときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性があることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる					1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる						1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる					1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる					1		1					1
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④の理解と能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い（問題文）に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『増補版 民主党政権下の日本政治－鳩山・菅・野田の対米観－』	浅野一弘	同文館出版	2016	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
『日本政治史－現代日本を形作るもの－』	清水唯一朗・瀧井一博・村井良太	有斐閣	2020	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	戦後政治史のなかの政権交代	われわれは、政権交代の意味について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、戦後政治史の流れのなかで、政権交代の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後史のなかの政権交代の意味を把握することができる。	
	事前学修	高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、政権交代の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
2	戦後政治史のなかの民主党政権の位置づけ	われわれは、民主党政権について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、戦後政治史の流れのなかで民主党政権を位置づけ、その特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後政治史の流れをふまえ、民主党政権の特質を説明することができる。	
	事前学修	高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、民主党政権の位置づけをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
3	戦後政治史のなかの日米関係	民主党政権下の日米関係を考察するにあたり、自民政権下における米国とのかかわりについてとらえる。くわえて、両政権による対米観のちがいにしても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後史のなかの日米関係の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書107頁～130頁を精読し、自民政権下の日米関係の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
4	鳩山由紀夫の思想と行動－戦後政治史のなかの鳩山政権－	鳩山由紀夫の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、鳩山由紀夫の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書25頁～33頁を精読し、鳩山由紀夫の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
5	鳩山由紀夫の考えた日米関係－戦後政治史のなかの鳩山政権－	鳩山政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、鳩山由紀夫の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民政権と鳩山政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書34頁～43頁上から9行目を精読し、鳩山由紀夫の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
6	戦後政治史のなかの鳩山政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、鳩山政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、鳩山政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書43頁上から10行目～47頁を精読し、戦後政治史における鳩山政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	菅直人の思想と行動－戦後政治史のなかの菅政権－	菅直人の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、菅直人の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書49頁～58頁上から8行目を精読し、菅直人の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
8	菅直人の考えた日米関係－戦後政治史のなかの菅政権－	菅政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、菅直人の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民党政権と菅政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書58頁上から9行目～68頁上から7行目を精読し、菅直人の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
9	戦後政治史のなかの菅政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、菅政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、菅政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書68頁上から8行目～74頁を精読し、戦後政治史における菅政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
10	野田佳彦の思想と行動－戦後政治史のなかの野田政権－	野田佳彦の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、野田佳彦の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書75頁～92頁下から7行目を精読し、野田佳彦の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
11	野田佳彦の考えた日米関係－戦後政治史のなかの野田政権－	野田政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、野田佳彦の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民党政権と野田政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書92頁下から6行目～96頁を精読し、野田佳彦の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
12	戦後政治史のなかの野田政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、野田政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、野田政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書97頁～101頁を精読し、戦後政治史における野田政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「地域主権」の意味	歴史的流れのなかで、「地域主権」ということばが登場した背景を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方分権改革の流れをふまえ、「地域主権」の意味を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書133頁～147頁を精読し、「地域主権」の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
14	マニフェストにみる「地域主権」	マニフェストが登場した背景を考えるとともに、マニフェストにみられる「地域主権」の変容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マニフェストのなかで、「地域主権」がどのように位置づけられてきたのを説明することができる。	
	事前学修	教科書148頁～175頁を精読し、マニフェストのなかの「地域主権」の流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
15	民主党政権と「地域主権」	民主党政権がかかげた「地域主権」が日本の地方自治において、どのようなインパクトをあたえたのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主党政権下における「地域主権」の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書176頁～183頁を精読し、民主党政権と「地域主権」の関連をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
後期「日本政治史Ⅱ（中静担当）」と合わせて受講することが望ましい。

【授業方法】
レジュメ（講義各回の構成と概要を示した文書）に基づいて口頭説明を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義の大きなまとまりごとに講義内容の復習となる課題を提示し、回答に対する講評と解説をする。 ※課題の提示・提出にはGoogle classroomを使用する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる						1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる							1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる						1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる						1		1					1
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義期間中に出題する課題への回答を通じて、到達目標①②③④の能力が得られたかを評価する。課題形式は説明文の記述（講義で教えた歴史的事実に関する説明）。評価の基準は、課題の問いに対する応答になっていること、歴史的事実の正しい理解、説明の論理構成と文章表現。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題ごとに、回答の講評と解説を行う（Classroomに配信＋希望者には個別講評も行う）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第2・3・4巻	坂本多加雄ほか	中公文庫	2012-13	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』②③④	牧原憲夫ほか	岩波新書	2006-07	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義と科目の案内 序論 歴史の捉え方 1 学問としての歴史 2 時代区分について	案内：シラバスと講義の捉え方、学問領域と科目の位置、本講義の学修手順 序論：歴史的な「事実」の捉え方、時代区分の意味、近代と現代の区分	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、「事実」に対する認識の仕方と、それに基づく歴史の捉え方を理解し説明できる。 【これは本講義の聴き方、講義内容の理解の仕方でもあると認識してください】	
	事前学修	受講全体の準備：中高で学んだ日本史の近代・現代（明治維新から太平洋戦争終結あたりまで）を復習してください。その際、教科書や参考書の「部」「章」等の区分（目次で一覧できます）がどのように立てられているかも確認してください。	180分
	事後学修	学問上の「事実」の捉え方が解りましたか。中高の教科書や本講の参考書等で、時代区分がどのようになされているかを確認してみてください。「近代国家」の定義が意味する内容を改めて考えてみてください。	60分
2	1. 明治国家の形成 (1) 明治維新と新政府 (2) 統治体制の構築	(1) 明治維新の政治的な意味、統一国家の形成と新政府の確立 (2) 権力中枢の機構、権力行使の機構、憲法制定の経過 以上を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治維新の政治的な意味と新政府の構成、統一国家形成に必要な政策例、明治国家の権力機構を理解し、説明できる。	
	事前学修	前回講義で話した近代国家の定義と、「政府」「統治」「三権（分立）」という語が持つ意味をふまえて、近代国家を作るためにどのような制度やしくみが必要かを、具体的に考えてみてください。	90分
	事後学修	明治維新は要するに何だったのか。どんな人々が新政府を構成したか。近代的な統一国家と統治の体制を作るには何が必要だったか。このように、講義を論題（レジュメの見出し部分）ごとに捉え、その中に細部の説明事項を位置づけると理解しやすくなるはずです。	150分
3	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ①「天皇主権」の規定と運用	(3) 明治国家の政治構造は、帝国憲法と関係法令が規定した政治機構とその運用によって定まる。その主要点について説明する。 ①では、憲法に規定された天皇の地位と権限、天皇の権限の運用方法（大権の発動要件）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、天皇の権限（大権）を天皇の一存では発動できないようにした仕組み（他の国家機構が持つ権限との関係）を理解し、明治国家の政治体制が「親政」ではない理由を具体的に説明できる。	
	事前学修	「大日本帝国憲法」に目を通してください（法律の授業で使う六法に載っています）。特に、条文の前にある「告文」「憲法発布勅語」と、第一章（天皇）・第四章（國務大臣及枢密顧問）の各条文は念入りに読んでください。	90分
	事後学修	大権の種類ごとに設定された権限行使の要件が重要です（それが「親政ではない」状態を作るからです）。それは天皇の権限と他の国家機関（内閣、元老、軍、議会）が持つ権限との対抗関係と捉えることができます。その仕組みと論理を理解してください。	150分
4	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ②「政治」の力量と限界（議会と内閣）	(3)②では、帝国議会[立法府]の構成・権限と、内閣制度[行政府]の特質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、帝国議会に付与された権限とその力量を、内閣・天皇が持つ権限との関係で理解し説明できる（立法府と行政府の制度上の力関係）。また当時の内閣制度の特質と、それが政治運営にもたらす影響（弱点）を理解し説明できる。	
	事前学修	立法府（立法権）と行政府（行政権）の役割と違いを理解していますか。これは近代以降現在に至るまで、政治の基本的な概念であり仕組みですから、理解は必須です（高校までの社会科で教わったはず）。わからなければ勉強すること。	90分
	事後学修	貴族院は身分制議会、衆議院の選挙権は資産制限あり（どちらも当時世界的に存在した仕組みです）。議会の権限は天皇や内閣の権限と対抗関係にある。現在の議会制度（国会）・内閣制度との違いは解りますか。枢密院は天皇主権国家ならではの機関。政治機構は今後の講義全体の前提となるので、くれぐれもよく理解してください。	150分
5	2. 明治国家の確立過程 (1) 初期議会期 (2) 日清日露戦争期 ①日清戦争	(1) 議会政治開始後（初期議会期）の政治の動きについて、内閣（藩閥政府）と衆議院（民党勢力）との関係に焦点を絞って概説する。 (2) ①近代日本初の戦争＝日清戦争について、開戦前の日清関係、開戦の経緯と帰結を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本の議会政治の運営手法の形成過程を理解し、説明できる。到達目標③に関連して、当時の日本にとって朝鮮半島がどのような意味を持っていたか（それが戦争の原因=目的であること）を理解し説明できる。	
	事前学修	議会政治の運営は第4講で話した議会制度を前提に成り立つので、理解を確認しておいてください。「日清日露戦争期」は時期区分の一つです（戦争が時代を画する変化をもたらしたため）。戦争が政治や経済・社会にどんな影響を与え得るか、考えてみてください。	60分
	事後学修	内閣と衆議院の関係が、政治課題をめぐる試行錯誤のうちに「変化していく過程」を理解してください。各動向が生じた理由を知ると共に、時期毎の変化を大きく捉える視点も持つこと。	180分
6	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清日露戦後期 ②日清戦後の内閣と議会	(2)②日清戦後期の政治運営の変化の過程を、「縦断的提携関係」の形成から地租増徴案をめぐる対立、さらに藩閥政治家が結成した政党（立憲政友会）の成立と変質を通じて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本の議会政治の運営手法の形成過程を（初期議会期と日清戦後期の違いを認識して）理解し、説明できる。	
	事前学修	第5講で説明した初期議会期の藩閥政府と民党勢力の関係とその変化を、復習しておいてください。第6講の説明内容は、その続き（さらなる変化）になるからです。	60分
	事後学修	「縦断的提携」「横断的提携」という語は、藩閥内閣と衆議院勢力の関係を把握するための政治史学の概念用語です。レジュメの図示も参考に理解してください。「地租増徴」が対立原因になる理由や、藩閥政治家間に政党に対する考え方の違いがあることも理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清日露戦後期 ③ 日清戦後外交～日露戦争 まとめ：明治国家の確立	(2) ③ 日清戦争と同様に朝鮮半島をめぐる利害関係から、今度はロシアとの戦争に至る経緯と戦争の帰結を説明する。 ここまでの講義のまとめとして、日清日露戦争期を経て明治国家が確立すると共に、この後の日本を左右する新たな課題が生じたことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当時の日本に朝鮮半島が持った意味を理解し説明できる。 到達目標①②③に関連して、明治維新～日露戦争終結までの近代日本政治を大きく捉えて理解し、説明できる。	
	事前学修	第5講で話した日清戦争の原因と帰結について、復習しておいてください。また第2講 1-(1)で説明した、明治維新の目的（必要性）とは何だったかを思い出しておいてください。	60分
	事後学修	戦争を行った理由については、戦争目的（日本にとっての利害）と帰結（講和条約に反映する）を結びつけて、理解するようにしてください。「明治国家の確立」は第2講以降の内容をふまえて理解してください。近代日本が置かれた状況と政治の展開を大きく捉えることになるはずです。	180分
8	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 ① 桂園時代の政局	(1) 日露戦後期に現れた政治運営体制（桂園体制）の下で展開された政治・外交の動向を説明する。 ①では「桂園時代」とその政治体制の意味を説明したのち、政局の具体的推移（政権委譲が始まった第1次西園寺内閣以降～第2次桂内閣まで）を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、桂園時代は単に首相の交代ではなく、桂と西園寺が各々率いる「2つの政治勢力の拮抗状態」が根幹にあること、その2勢力の妥協の手段が政権委譲という手法であったことを、理解し説明できる。	
	事前学修	ここからは、維新の想定を超えた新たな政治課題に対処する過程で、政権の構造が変化していく局面に入ります。新たな政治課題は前回説明した「帝国化」と「大衆化」に概括できますが、それが意味する内容を復習しておいてください。	60分
	事後学修	桂園時代を生んだ2勢力の対抗と妥協の関係は、2-(1)と(2)の②で説明した「内閣と衆議院の関係」が発展したものです。そのつながりを含めて理解するようにしてください。	180分
9	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 ①の続き ② 桂園時代の外交	(1) ①政局の推移の続き（第2次西園寺内閣）を説明する。 ②では、桂園体制期の主要な外交問題を日露戦果の確保と維持と捉え、韓国、満州、列強との権益の相互承認に分けて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、維新以来外交の焦点だった朝鮮半島問題が植民地化に帰結したことと、それが外交を通じて為されたこと、また満州権益はこの時点では必要性の乏しい戦果にすぎず、対策も当面の措置に留まったことを、理解し説明できる。	
	事前学修	朝鮮半島には現在2つの国家が存在しますが、それはいつからか。また「満州」という地域（現在は「中国東北部」と呼ばれる）はどこにあるか。調べて知っておいてください。日露講和条約の内容も確認して思い出しておいてください。	60分
	事後学修	植民地や権益（租借地等）を持つことの得失を、長期的・世界的な視野で考えてみてください。日本でも他国でも、この時代（帝国主義時代）に為したことの影響は現在も様々な形で存在しますから、現代の問題でもあります。日本におけるその影響は何かを調べて考えてみてください。	180分
10	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代 ① 大正政変	第3次桂内閣成立前後に憲政擁護運動が起きた経緯と理由、それが惹起した最初の政変（大正政変）の経過を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、民衆を巻き込んだ運動の高揚によって政変（倒閣）が生じた経緯と、その政治史的な意味を、理解し説明できる。	
	事前学修	「大正デモクラシー」という語が何を指すものか、日本史辞典等で調べてみてください。多義的・多面的であるはずです（講義では、それが政治の動向として現われた局面を話します）。	60分
	事後学修	世論が政治に反映して具体化する過程は見えにくいものですが、大正政変はそれがよくわかる事例です。経過だけでなく、それが日本政治の「民主化」という点で画期的な出来事だという歴史的評価の意味を理解するようにしてください。	180分
11	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代 ② 政府批判運動の再起	大正政変後に元老が選択した山本内閣の成立経緯とその施政、シーメンス事件を機に憲政擁護運動が再び起きる経過と、二度の政変の性格の違いを説明する。	
	この回の到達目標	憲政擁護運動の批判・要求の内容（元老はそれに抵抗する）が持つ政治的な意味と、二度の政変の違い（政界内の対抗図式の違い、それによる政変経過の違い）を理解し、説明できる。	
	事前学修	「政治の民主化」という抽象語の意味を、前回説明した憲政擁護運動の主張内容に当てはめて具体的に捉え、考えてみてください。	60分
	事後学修	運動勢力が「憲政擁護」と唱えたことの意味内容が理解できれば、その後の元老の政権選択が持つ意味がわかるはずです（今回の講義にも続く問題なので、よく理解してください）。また二つの政変の違いがどこにあったかを理解してください。	180分
12	3. 明治国家体制の動揺 (3) 第一次大戦期の政治 ① 第2次大隈内閣の成立 ② 大戦外交	① 政党内閣を求める世論に対する元老ら政界中枢の抵抗によって第2次大隈内閣が成立した経緯と、② 第一次大戦期に加藤高明外相が主導した外交について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第一次大戦期の政治・外交の事実経過と、世論が直ちに政治に反映するわけではない政治の性質を、具体的事実に基づいて理解し説明できる。	
	事前学修	大隈重信がどういう立場で何をした人だったかを調べてみてください（本講義では1-(1)と2-(2)に登場）。また第一次世界大戦は、欧州諸国と日本とではずいぶん様相が違います。大戦全体の概要を調べてみてください。	60分
	事後学修	護憲運動の要求がすぐには政治に反映されない事実（政界内の力関係に左右される側面）と共に、それでも世論は政治に影響し変化をもたらす側面があること、その両面を理解してください。また大戦中の日本の対中外交は、この後の日本の外交関係に影響を残すので、よく理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	3 (3)③政局の推移 4. 第一次大戦後の政治 (1) 政党内閣の成立と施政 ①原内閣成立 ②原内閣の内政	(3) ③大隈内閣総辞職～寺内内閣成立の経緯、シベリア出兵、大戦期の社会情勢を説明する。 4 (1) 本格的な政党内閣＝原政友会内閣の成立と、その主要政策を説明する。 ①原内閣の成立経緯、②原が主導した内政政策を、その政治的意図（党利）と関係づけて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、原内閣の内政を通じて、政策（社会の諸問題への対処）と権力追求（政治的利益の獲得、権力争奪）が表裏の関係にあることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	第一次大戦期の日本の「大戦景気」がどんな様相だったか、それが日本社会にどのような変化をもたらしたかを、調べてみてください。	60分
	事後学修	原敬は、公益にも適う政策手段を駆使して自らの政治目的を実現していく有能な政治家でした。その政治手腕の理解とともに、彼がめざしたものと世論が期待した「デモクラシー」は必ずしも一致しなかったことを理解してください。	180分
14	4. 第一次大戦後の政治 (1) ③原内閣の外交 ④高橋内閣とワシントン会議 (2) 「中間内閣」の継続	(1) ③原内閣の外交をパリ講和会議への対応を中心に説明し、④原暗殺後の高橋内閣の成立とワシントン会議について説明する。 (2) 原死後の政友会の状況とそれによる内閣の崩壊、その後「中間内閣」が3代続いた経緯を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、大戦後に成立した国際的ルールの概要、それと関わる日本の外交路線と権益の関係、政党を基盤とする内閣の特質・政党内閣が続かなかった要因を、理解し説明することができる。	
	事前学修	第一次大戦の経験は世界各国に多大な影響を残し、世界秩序（国家間ルール）の組替えをもたらします。パリ講和会議や、引き続き開かれたワシントン会議の概要を調べ、大戦後の日本が向き合った世界の状況を知ってください。	90分
	事後学修	大戦後の日本外交と新しい世界秩序との関係はその後の日本国の行方に大きく影響しました。よく理解してください。高橋内閣の総辞職は、政党を基盤とする政権が党の内紛によって倒れた例で、ようやく実現した政党内閣が続かなかった理由につながります。	150分
15	課題の解説 講義のまとめ	課題の解説とまとめを通じて、講義の重要点を復習し、理解を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に即して講義内容を理解し、その説明を論理的な文章で記述することができる。	
	事前学修	本講では明治～大正期の日本政治の推移を概説しました。レジュメのタイトル（時期区分と主題を示す）や各部分の見出しを手掛りにして、時期ごとの政治の特質と変化を大きく捉え、その枠組ごとに個別説明の要点を押さえるようにすると、理解しやすくなるはずです。	240分
	事後学修	興味を引かれた時期や事柄を扱った本を探して読んでみてください（参考書欄やレジュメに記した書籍でもよいです）。講義は概説に留まりますが、歴史の本当の面白さは細部にあり、具体的な事実を知るほど面白くなるものです。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
「日本政治史Ⅰ」（浅野担当分）を受講することがのぞましい。なお、定期試験の答案作成にあたっては黒のボールペンを使用すること。また、状況によっては、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、授業であつかうテーマと関連した、ホットな政治的事象が発生したときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性があることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④の理解と能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い（問題文）に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
『日本政治史－現代日本を形作るもの－』	清水唯一朗・瀧井一博・村井良太	有斐閣	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	戦後政治史の流れ	われわれは、戦後政治史の大まかな流れについて把握をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、本授業では、戦後政治史の流れの特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後政治史のもつ意味を把握することができる。	
	事前学修	高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、戦後政治史の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
2	吉田茂という人物	われわれは、吉田茂という人物について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、吉田茂という人物の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後政治史の流れをふまえ、吉田茂の位置づけを説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、吉田茂の人物像をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
3	吉田茂をめぐる評価	われわれは、吉田茂という人物について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、『宰相 吉田茂』をヒントに、吉田茂の評価について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後史のなかにおける吉田茂の評価を説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、吉田茂の評価をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
4	憲法第9条をめぐる吉田茂の認識	われわれは、憲法第9条に対する吉田茂の認識について理解をしているようで、じつはあまり理解していないともいわれる。そこで、国会での審議に着目し、吉田茂と憲法第9条とのかかわりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、吉田茂の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、吉田茂の評価をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
5	吉田ドクトリンの特色	吉田ドクトリンの特徴を学修する。くわえて、その考え方にもとづいて、戦後日本がどのような外交を展開してきたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後保守政治史において、吉田ドクトリンの有する意味を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、吉田ドクトリンの特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
6	戦後政治史のなかのモスクワ・オリンピック	戦後政治史の流れのなかで、モスクワ・オリンピックがどのように位置づけられてきたのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モスクワ・オリンピックと政治とのかかわりについて、戦後政治史の流れのなかで、的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、モスクワ・オリンピックと政治とのかかわりの実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	新冷戦の勃発	モスクワ・オリンピックが開催される前年の１９７９年の新冷戦の勃発と当時の国際情勢について考える。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、１９８０年前後の米ソ両国の行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、新冷戦の特色をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
8	新冷戦の勃発とジミー・カーター米大統領の対応	日米関係の激動という観点から、新冷戦下におけるジミー・カーター米大統領の対応について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日米関係の観点もふまえ、新冷戦下でのジミー・カーター大統領の対応について、的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、ジミー・カーターの行動をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
9	米国からの「外圧」と大平正芳	ジミー・カーターから、モスクワ・オリンピックのボイコット要請を受けた大平正芳政権が、どのような対応をしていったのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大平正芳政権の行動を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、大平正芳政権と米国との関係をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
10	河野謙三と日本体育協会の対応	かつて参議院議長をつとめ、この当時、日本体育協会会長のポストにあった河野謙三の動きを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、河野謙三の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、政治と日本体育協会との距離感をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
11	戦後史のなかの自由貿易の流れ	戦後政治史の流れのなかで、自由貿易に対するスタンスがどのように変化してきたのか、その変遷について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追随外交の観点もふまえ、自由貿易に対する政治家の認識を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、自由貿易に対する日本側の認識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
12	自由貿易と日米経済摩擦の流れ	戦後政治史の流れのなかで、日米間の経済摩擦問題がどのように変化してきたのか、その概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由貿易とのかかわりにおいて、米国側からどのような要望がだされつづけたのかを的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、戦後の日米経済摩擦史をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	T P P 交渉の展開	国際政治・経済の動向に着目しつつ、T P P の枠組みに日本が入ることとなった背景を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際政治・経済の流れをふまえ、日本がT P P の枠組みにとり入れられていった意味を的確に説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、T P P 交渉の流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
14	新聞報道にみるT P P	T P P については、全国紙と地方紙で、そのとりあげ方がまったく異なるとされるが、そのちがいについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新聞報道のなかで、T P P がどのように位置づけられてきたのを説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、T P P をめぐる評価をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
15	米国からの「外圧」とT P P 1 1	ドナルド・トランプ米政権の誕生により、米国はT P P の枠組みから離脱したため、国際貿易の枠組みは大きく変わりつつある。そこで、T P P からの米国の離脱がどのようなインパクトをあたえたのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、T P P 1 1 と米国の離脱の特質を説明することができる。	
	事前学修	本授業の教科書の該当箇所の精読にくわえ、高等学校で使用していた「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、T P P 1 1 の評価と今後の米国の動向をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
中静担当の「日本政治史Ⅰ」を履修していること。

【授業方法】
レジュメ（講義各回の構成と概要を示した文書）に基づいて口頭説明を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義の大きなまとまりごとに講義内容の復習となる課題を提示し、回答に対する講評と解説をする。 ※課題の提示・提出にはGoogle classroomを使用する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義期間中に出題する課題への回答を通じて、到達目標①②③④の能力が得られたかを評価する。課題形式は説明文の記述（講義で教えた歴史的事実に関する説明）。評価の基準は、課題の問いに対する応答になっていること、歴史的事実の正しい理解、説明の論理構成と文章表現。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題ごとに、回答の講評と解説を行う（Classroomに配信＋希望者には個別講評も行う）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第4・5巻	有馬学、北岡伸一	中公文庫	2013	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』④⑤⑥	成田龍一ほか	岩波新書	2007	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィシアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の案内 前史の概観	案内：履修上の注意、講義案内 前史：日本政治史Ⅰで扱った時代と概要を、時期区分で概括して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講の前提となる明治・大正期の日本政治に関する理解を再確認し、昭和戦前期の政治の理解につなげることができる。	
	事前学修	日本政治史Ⅰの講義内容を思い出しておいください。	120分
	事後学修	Ⅱで扱う時期（昭和戦前期）も国家機構や政治運営の仕組みは基本的にⅠの時代と同じですから、その理解がⅡの講義を理解する土台になります。理解の足りない点は十分に復習しておいてください。	120分
2	1. 政党内閣の時代 序論 政党内閣期と元老西園寺 (1) 憲政党内閣の内政と政党の動向 ①護憲三派内閣 ②憲政会単独内閣	序論では「政党内閣期」とその時期の政権選定を行った唯一人の元老・西園寺公望について説明する。 (1)①は政党内閣期の最初に加藤高明内閣（憲政会優位の護憲三派内閣）期、②は憲政会単独内閣となった第2次加藤内閣期について、施政と同時期の政党の動向を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政権を事実上選定する元老という存在と、政党内閣期が元老の下に存立したこと、また政友会以外の政党の伸張と政党間の対抗関係を、理解し説明することができる。	
	事前学修	時代は政党内閣の最盛期に入ります。明治期以来の主要政党について結党以来の経過を確認しておいてください（Ⅰでその都度説明しましたし日本史辞典等には「政党系統図」も載っています）。またⅠの第14回の講義内容を思い出しておいてください（今回の話はその続きから始まるので）。	90分
	事後学修	政党内閣期は各政党の動向が政治を左右する主因になるので、政界状況の説明が増えて話がやや複雑になります。権力獲得をめざす政党の行動は、政治の重要な特質の一つですから、理解に努めてください。	150分
3	1. 政党内閣の時代 (1) ③若槻内閣と政党間対立 (2) 政友会内閣の内政と政党の動向 ①田中内閣 ②政党と初普選	(1)③は前回に続く憲政会の若槻内閣期、(2)は政友会の田中内閣期について、成立事情、内政の概要、各期の政党の動向を説明する。この間に、立憲民政党結成による二大政党体制の成立と、男子普通選挙の初の実施がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、昭和期の政友会の性格の形成要因、政友本党の分裂の消滅により二大政党制が成立した経緯、また拮抗関係にある政党間の権力争奪のあり方と各政党の違いを、理解し説明することができる。	
	事前学修	田中義一はⅠの原内閣期に陸相として登場しましたが、この回で政友会の総裁として党外から迎え入れられまもなく首相になります。田中義一の経歴を調べてみてください（日本史辞典にも人名辞典にも載っているはずです）。	90分
	事後学修	田中内閣は歴史上あまり評判がよくないが、一因は内相の鈴木喜三郎にある。田中も鈴木も新参議員ながらすぐ党幹部となり、昭和期の政友会を形作った人物です。復習に際しては、憲政会-民政党と政友会の違いという対比の視点も持って、理解するようにしてください（次回の外交も同様）。	150分
4	1. 政党内閣の時代 (3) 両党内閣の外交 ①「中国問題」の前提と前史 ②幣原外交 ③田中外交	(3)①外交の中心課題となる「中国問題」の意味を説明したのち、②加藤-若槻内閣の外相幣原重郎の外交と、③田中内閣（兼任外相田中義一）の外交について、対中外交・大陸政策を中心に対比的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、一般に「幣原外交＝協調外交」「田中外交＝積極外交」と称される各外交の特徴と差異を理解し、対比的に説明することができる。	
	事前学修	Ⅰで説明した外交の推移（特に大戦外交～ワシントン会議）を確認して思い出しておいてください。また、辛亥革命（1912-1913年）と以後の中国の国内情勢について調べ、概要を知っておいてください。	90分
	事後学修	「幣原協調外交」「田中積極外交」の語で済むほど現実には単純ではないと理解してください。違いの焦点は満州権益をめぐる対応ですが、それも当該期に関しては程度の違いと見なし得る。そのように捉えて復習してください。	150分
5	1. 政党内閣の時代 (4) 民政党内閣の内政と外交 ①浜口内閣の成立経緯 ②内政 ③政党の動向	(4) 田中義一の辞任に続く浜口民政党内閣期について、①内閣の成立経緯、②主要政策として推進された金解禁政策、③同時期の政党の動向について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金解禁（金本位制復帰）政策の意図と概要、同時期の政党の動向について、理解し説明することができる。	
	事前学修	「金本位制」とはどのような仕組みかを調べて、知っておいてください。	80分
	事後学修	時代が進むにつれ経済政策の重要性が高まる。浜口内閣は井上準之助を蔵相に据えて金解禁を実行しますが、後に判断の誤りとされる結果をもたらすことになります。経済政策は難しいかも知れませんが理解に努めてください。	160分
6	1. 政党内閣の時代 (4) 民政党内閣の内政と外交 ④浜口内閣の外交 ⑤ロンドン軍縮条約問題	浜口内閣の外交（第2次幣原外交）の概要と、ロンドン海軍軍縮条約をめぐる政治問題の発生と展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2次幣原外交を第1次期と異なる中国情勢の難度をふまえて理解する。軍縮条約問題は政友会が内閣批判に利用したため拡大したことを、その批判の論理（「統帥権干犯」の意味内容）と共に理解し、説明することができる。	
	事前学修	再任の幣原外相が直面した中国情勢は以前と違います。国民政府成立（1927年）以降の中国国内情勢を調べてください。また条約問題にはⅠで説明した軍令・軍政の区別の論理（憲法第11・12条）が関係するので、復習しておいてください。	90分
	事後学修	ロンドン軍縮条約問題は、条約自体（外交問題）ではなく国内の政治問題として説明していることに注意。問題の経過と合わせて、条約支持派と反対派の争点となった「論理」を理解してください。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2. 「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム ①昭和恐慌 ②満州事変の勃発	①複合的な要因で発生した「昭和恐慌」と、②「非常時」の引き金を引いた満州事変の発生と初期の経過について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、満州事変の事実経過とともに、1930年代の政治的困難は軍部によるものだけではないという多角的な理解をし、説明することができる。	
	事前学修	世界恐慌（大恐慌）について概要を調べて知っておいてください。	60分
	事後学修	恐慌の実態、特に農村部の惨状は想像しにくいと思います。レジュメの参考文献『労働者と農民』は、近現代日本に生きた「普通の人々」の状態を知りうる好著です。「窮乏の農村」の章だけでも読んでみるように。	180分
8	2. 「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム ③政界の動向 ④満州事変の展開	③「非常時」を受けた政界の動向、④満州事変の拡大と「満州国」の出現、その間のテロリズムの発生（血盟団事件、五・一五事件）について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐慌・事変とテロリズムが連動して発生したこと、政治の側の対処と困難な状況を、理解し説明することができる。	
	事前学修	満州事変の首謀者・石原莞爾は昭和日本のダークヒーロー。関心が高いので関係書も多いです。どんな人物だったか調べてみてください。	60分
	事後学修	この時期の政治（特に軍との関係）を理解するには、テロリズムの恐怖が政治家の身に迫るものとして存在したことを考えに含める必要があります。恐慌と軍の暴走に直面した内閣の動揺と苦難の実態を、具体的に理解してください。	180分
9	2. 「非常時」の政治 (2) 「挙国一致内閣」の成立 ①首相選定 ②内閣成立・高橋財政 ③満州国承認と国際連盟脱退	①五・一五事件後の後継首相選定（政党内閣の途絶）、②斎藤「挙国一致」内閣下の恐慌対策（高橋財政）、③その外交（満州国承認と国際連盟脱退）と満州事変の終結について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「政党内閣の途絶」が迷った末の選択であり、政党内閣が以後途絶するとは考えられていなかったこと、高橋財政の意味と意義、「満州国」の成立と承認が意味することを理解し、説明することができる。	
	事前学修	斎藤内閣の蔵相・高橋是清はこの時期の財政指揮で名を残したが、自らの命を賭すことにもなった。国際連盟脱退時の連盟総会代表・松岡洋右は、後に外相として日本国の運命を導く一人となる。二人の人物について調べてみてください。	60分
	事後学修	満州事変の推移、後継首相選定の経過など、やや細部にわたる事実経過の説明が続きますが、詳細な事実を知らなければ理解できない事があります。十分に復習して理解に努めてください。	180分
10	2. 「非常時」の政治 (2) ④斎藤内閣期の政党 (3) 挙国一致内閣の継続 ①岡田内閣 ②政党と革新勢力	斎藤・岡田両内閣期の政党の動向（小党の形成・政民連携運動、革新勢力との接近）と、その状況下で引き起こされた天皇機関説問題・国体明徴運動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、政権奪取や党の維持存続のための手段が国家・社会に重大な影響をもたらすに至った事実（天皇機関説問題）を、政治が持つ性質の一面として理解し、説明することができる。	
	事前学修	美濃部達吉の憲法学説である国家法人説（「天皇機関説」）の概要を調べ、知っておいてください。	80分
	事後学修	無産政党の結集や既成政党の分裂によって小政党が増え、大政党の方も党内派閥が独自の動きをするなど、政党関係が錯綜する時期なので、十分に復習して理解に努めてください。	160分
11	3. 「革新」の政治 (1) 二・二六事件 (2) 事件後の組閣と施政 (3) 「革新」をめぐる思惑と政界	(1) 二・二六事件の経過概要、(2) 事件後に成立した広田内閣の組閣状況と施政、(3) 政界内の「革新」をめぐる思惑と動きについて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、二・二六事件の経緯と背後の状況要因をふまえて、「軍部の台頭」「軍の政治介入」と言われる事態の具体的様相を知り、その影響が政界内「革新派」の台頭という形で表れることを、理解し説明することができる。	
	事前学修	政治が軍の存在抜きに語れなくなる時期に入ってきています。政治機構上の軍の位置づけ、軍の組織（「省」と「部」の2つの組織区分と役割分担）について、改めて理解を確認しておいてください。	80分
	事後学修	広田内閣が陸軍の強い圧力の下に成立し政策にもそれが反映していること、「革新」色が弱まった林内閣をはさんで、軍・政界の「革新派」の動きが次の近衛擁立を準備する、という事態の推移を、大きく捉えて理解してください。	160分
12	3 (4) 近衛内閣の成立 4. 戦時下の政治 (1) 日中戦争 ①勃発と拡大 ②戦時体制構築	(4) 近衛「革新」内閣の成立経緯を説明したのち、4 (1) ①その下で偶発的に起きた盧溝橋事件が日中間の全面戦争に拡大する経緯、②「国家総動員法」に象徴される国内戦時体制の構築について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日中戦争の発生・拡大の事実経過から「するつもりのない戦争も起こりうる」ことを知る。それを具体的な事実の積み重ねとして理解し説明することができる。	
	事前学修	近衛文麿について人物や経歴を調べてみてください。1945年の敗戦後までカリスマ性を持ち続けた人物ですが、そのことと政治家として現実に為したこととのギャップが謎でもあります。	60分
	事後学修	全面戦争への拡大を導いた重大な要因は、当時の日本に（政界・軍にも国民にも）広く存在した、中国に対する軽侮の意識です。満州事変以降の対中関係は現在に至る日中関係の根底にある問題ですから、事実を正しく学んでください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	4. 戦時下の政治 (1) ③和平の試み (2) 対外関係の混迷 (3) 欧州戦争の下で ①情勢の急転	(1) ③日中戦争の解決を図った和平の試みと挫折を説明したのち、(2)でこの時期(近衛・平沼・阿部内閣期)の対外関係のうち、日独伊防共協定の強化問題・対米関係の悪化・ノモンハン事件をとりあげて概略を説明する。 (3) ①欧州情勢の急転が日本政治にもたらした影響を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日中戦争が解決できないまま、国際情勢の変化や出先の駐留軍・外交官が起した諸問題にに振り回される外交と軍の様相を理解し、説明することができる。	
	事前学修	この時期の対米関係の要因はⅠで話した第一次大戦後の国際法(九ヵ国条約・不戦条約)にあるので、内容を復習しておいてください。またこの時期の日本に大きな影響を与えた国はアメリカと共にドイツです。1930年代のドイツ(特に外交)について調べてみてください。	60分
	事後学修	「出先の暴走」は外交官にもあったことを知ってください。また日中戦争が米国との関係悪化をもたらす淵源(米国が主張する国際的原則の論理)を理解した上で、講義内容を復習してください。	180分
14	4. 戦時下の政治 (3) 欧州戦争の下で ①続き：阿部・米内期の内政 ②南進論の浮上 ③近衛新体制	(3) ①の続きで阿部・米内内閣期の国内情勢と政治の動向を説明したのち、②ドイツ軍の快進撃を受けて生じた外交軍事方針の変化(対独接近論・南進論の浮上)、③それに連動して動き出した「近衛新体制」のなりゆきについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際情勢(欧州戦争の戦況)に乗じた外交・軍事方針の決定、それに連動して再活性化した「革新」政治(近衛新体制)など、戦時期の政治の判断と選択を、具体的な事実に基づいて理解し説明することができる。	
	事前学修	「フランス領インドシナ(仏印)」「オランダ領東インド(蘭印)」が現在のどこに位置するかを調べ、地図上で確認しておいてください。この時期に本格化する「南進」の行き先です。	60分
	事後学修	平沼・阿部・米内と短命内閣が続いた後、近衛がまたも輿望を担って登場する。「大政翼賛会」の名はよく知られるが、それが何をめざした末の帰結だったかを理解してください。また欧州戦争の推移と南進論や国内政治の連動について理解してください。	180分
15	4. 戦時下の政治 (4) 太平洋戦争開戦に至る経緯 ①松岡外交 ②南進と米国の対応 ③開戦方針の推移	①②で松岡外交(日独伊三国同盟・南進推進・日ソ中立条約締結)と米国の対応・対米交渉について、③対米開戦に向う政府方針決定の推移について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、米英との戦争決定を、政治選択を積み重ねた具体的な事実として理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本を幻惑したドイツ軍の快進撃。1939年以降ドイツ軍が侵攻し占領した国々と範囲を地図上で確認してください。	30分
	事後学修	本講では、政党内閣期、その崩壊と「革新」政治(軍を含む)の台頭、止められない対中戦争とそれが要因となった対米英開戦まで、昭和戦前期の政治の推移を説明しました。現実の事象は様々な要因が作用して発生し進展します。「なぜそうなったのか」という視点を持って復習してください。	240分

科目名	日本政治思想史Ⅰ	担当者	繁田 真爾	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
幕末維新期から敗戦までの日本の政治思想史を対象とする。それぞれの思想的立場がどのように成立し、その思想内容はどのようなものであったのか。その歴史的位置と今日的意義に注目しながら学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在の国家・社会状況と論理的・批判的に向き合い、自分の考えを持ち説明することができるようになることを目標とする。そのために、①政治思想史の主要な争点を知り、②その歴史的展開を理解した上で、③政治課題を自ら進んで思考する問題意識の涵養をめざす。

【履修条件】
日本近現代史の基礎的な知識あるいは興味関心を有していることが望ましい。

【授業方法】
前週のレビューシートへの応答と講義の二つのパートに分けて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講者がレビューシートで寄せたコメントや質問を共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の受講生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回の授業で共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代日本の政治思想史の歴史的展開を理解し、その大きな流れを説明することができる。【知識】					2							
②	近代日本の政治思想史における主要な争点を理解し、論理的・構造的に説明することができる。【知識】						2						
③	歴史的視座から現在と批判的に向き合い、「国民」などの通念を疑うことができる。【態度・習慣】							2					
④	思想を同時代の政治社会的文脈において理解し、自分の問題意識をもって、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】												2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④に関する知識や技能が身についているかを、最終回の試験により評価する。	10	20		30							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見をよくふまえ（到達目標②）、常識や通念を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。		20	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で共有と講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』教科書	鹿野政直	岩波書店	1999年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
特に設けません。授業終了後に質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 日本政治思想史を学ぶということ	授業ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価など）ののち、「日本政治思想史」を学ぶことの意義やねらいについて考える。	
	この回の到達目標	本授業で学ぶ内容や目的をよく理解し、「思想」を学ぶことの意義について考え、身近な通念を疑ってみる態度を今後の授業で涵養していくための準備をする。（到達目標③）	
	事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。教科書「はじめに一思想と向き合う」を読んでおく。	120分
	事後学修	シラバスおよび講義資料を確認し、自分の学習計画や他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	開国と啓蒙思想	ペリー来航による開国とともに、西洋思想の強い影響のもと日本で生まれた啓蒙思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	明六社に集った思想家たちについて学び、啓蒙思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	教科書「1 幕末という時代」「2 啓蒙思想」を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、啓蒙思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
3	自由民権運動①自由・平等・民権	明治新政府に対抗しながら生まれ、「国民」の諸権利の獲得をめざした自由民権運動について学ぶ。	
	この回の到達目標	自由民権運動が政府に対して何を要求する運動であったか学び、自由民権思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書「3 自由と平等」p61～66を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、自由民権思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
4	自由民権運動②民権・東洋・天皇	前時につづいて自由民権思想の内容と特徴について学びながら、その天皇制との関係について考える。	
	この回の到達目標	自由民権思想の特徴と歴史的意義についてその全体像を理解し、天皇制との関係について考察し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「3 自由と平等」p67～81を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、自由民権思想の特徴とその天皇制との関係について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
5	国体論と教育勅語	西洋列強と対抗しながら、近代日本で成立した国体論とその代表的産物である教育勅語について学ぶ。	
	この回の到達目標	近代日本の国体論と教育勅語の内容について学び、その特徴および現代までつづく影響について理解し、説明することができる。（到達目標②③④）	
	事前学修	教科書「6 国体論」を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、国体論の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
6	社会主義①初期社会主義の思想	西洋思想の影響を受けながら成立した日本の社会主義について、初期社会主義の特徴と帝国主義批判を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	初期社会主義が国家や社会のあり方に対するどのような批判を展開したか学び、その思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「11 社会主義」p230～236を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、初期社会主義の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会主義②非戦論とアナーキズム		前時につづいて初期社会主義の内容と特徴について、非戦論とアナーキズムを中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	初期社会主義のうち、非戦論やアナーキズムが国家や社会のあり方に対するどのような批判を展開したか学び、その思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）		
	事前学修	教科書「11 社会主義」p236～241を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、初期社会主義の非戦論の内容およびアナーキズムの特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分
8	水平運動 人権と平等の思想		社会主義や宗教思想の影響を受けながら結成された全国水平社について、その部落解放運動や思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	結成100周年を迎えた全国水平社がどのような政治思想を掲げたかを学び、その思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）		
	事前学修	教科書「7 生存権・人権」p153～156を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、水平運動とその思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分
9	フェミニズム①女性のまなざしと青鞆社		近代日本のフェミニズムの源流として、日露戦後の女性運動および青鞆社の思想と実践について学ぶ。	
	この回の到達目標	日露戦後の女性運動と青鞆社がどのような思想を提示したか学び、その特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③④）		
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」p265～277を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、初期女性運動と青鞆社の思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分
10	フェミニズム②新女性主義と3つの論争		前時につづいて近代日本のフェミニズムについて、新女性主義と主要な論争を手がかりに学ぶ。	
	この回の到達目標	新女性主義の思想と、大正期の『青鞆』を舞台に展開した三つの論争の争点を学び、その歴史的意義と現代的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③④）		
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」p277～285を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、新女性主義の思想と、大正期の女性運動をめぐる三つの論争の内容について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分
11	民本主義の思想		大正期の政治思想を代表し、現在の民主主義思想の源流ともされる民本主義について学ぶ。	
	この回の到達目標	政治学や法学などにわたる民本主義の諸相を理解し、その思想的特徴と歴史的意義について考察し説明することができる。（到達目標①②④）		
	事前学修	教科書「8 民本主義と教養主義」p157～166を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、民本主義の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分
12	昭和期の国体論		総力戦体制が構築されるなか、さまざまな思想的背景から現われてきた国家主義について学ぶ。	
	この回の到達目標	国家社会主義・農本主義・日蓮主義など、昭和期の国家主義思想の諸相を理解し、その思想的特徴について考察し説明することができる。（到達目標①②④）		
	事前学修	教科書「6 国体論」p129～138を読んで、分からない用語を調べておく。		120分
	事後学修	授業資料を確認し、昭和期の国家主義思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マルクス主義①日本マルクス主義	1920年代後半以降の思想界に大きなインパクトを与えた日本のマルクス主義について学ぶ。	
	この回の到達目標	日本マルクス主義の諸相を知り、それらが国家や社会のあり方に対するどのような批判を展開したか学んだ上で、その歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③④）	
	事前学修	教科書「11 社会主義」p242～252を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、マルクス主義思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
14	マルクス主義②「転向」という問題	多数のマルクス主義者が1930年代に思想の放棄や運動の離脱を経験した「転向」について学ぶ。	
	この回の到達目標	転向という経験を具体的に知り、戦後それがどのように語られてきたか学び、その歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③④）	
	事前学修	教科書「11 社会主義」p260～264を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、これまで「転向」がどのように語られ評価されてきたか、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
15	まとめと試験	これまで学んできた近代日本政治思想史の流れをふりかえり、論点を整理した上で、授業内容の理解度を確認する試験を実施する。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容と要点を構造的に理解し、自分の考えをふまえてそれを論理的に論述することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	初回からの教科書の各章、授業資料を復習しておく。	120分
	事後学修	授業と試験をふりかえり、教科書「むすびー戦中から戦後へ」を読む。	120分

科目名	日本政治思想史Ⅱ	担当者	繁田 真爾	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
幕末維新期から敗戦までの日本の政治思想史を、主要な思想家に焦点を当てながら学ぶ。思想家たちの思想形成と時代背景にも注目して、その歴史的位置と今日的意義についても考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在の国家・社会状況と論理的・批判的に向き合い、自分の考えを持ち説明することができるようになることを目標とする。そのために、①思想家たちの思想形成のあり方を知り、②その思想内容と歴史的展開を理解した上で、③政治課題を自ら進んで思考する問題意識の涵養をめざす。

【履修条件】
日本近現代史の基礎的な知識あるいは興味関心を有していることが望ましい。

【授業方法】
前週のレビューシートへの応答と講義の二つのパートに分けて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講者がレビューシートで寄せたコメントや質問を共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の受講生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回の授業で共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代日本の政治思想史の歴史的展開を理解し、その大きな流れを説明することができる。【知識】				2							
②	近代日本の政治思想史における主要な争点を理解し、論理的・構造的に説明することができる。【知識】					2						
③	歴史的視座から現在と批判的に向き合い、「国民」などの通念を疑うことができる。【態度・習慣】						2					
④	思想家とその思想形成を同時代の政治社会的文脈において理解し、自分の問題意識をもって、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】											2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④に関する知識や技能が身についているかを、最終回の試験により評価する。	10	20		30							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見をよくふまえ（到達目標②）、常識や通念を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。		20	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で共有と講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』	鹿野政直	岩波書店	1999年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
特に設けません。授業終了後に質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 日本政治思想史を学ぶということ	授業ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価など）ののち、「日本政治思想史」を学ぶことの意義やねらいについて考える。	
	この回の到達目標	本授業で学ぶ内容や目的をよく理解し、思想家の主体形成とともに「思想」を学ぶことの意義について考える。同時に、身近な通念を疑ってみる態度を今後の授業で涵養していくための準備をする。（到達目標③）	
	事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。教科書「はじめに一思想と向き合う」を読んでおく。	120分
	事後学修	シラバスおよび講義資料を確認し、自分の学習計画や他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	福沢諭吉：明治の啓蒙思想	福沢諭吉の思想形成とその時代背景を学び、明治期の啓蒙思想について考察する。	
	この回の到達目標	福沢諭吉がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、啓蒙思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、福沢諭吉の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
3	植木枝盛：自由民権の思想	植木枝盛の思想形成とその時代背景を学び、自由民権思想について考察する。	
	この回の到達目標	植木枝盛がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、自由民権思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③）	
	事前学修	教科書「3 自由と平等」を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、植木枝盛の思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
4	幸徳秋水：初期社会主義の思想	幸徳秋水の思想形成とその時代背景を学び、初期社会主義とアナーキズムについて考察する。	
	この回の到達目標	幸徳秋水がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、社会主義思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③）	
	事前学修	教科書「11 社会主義」p230～242を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、幸徳秋水の思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
5	横山源之助：反近代の思想①	横山源之助の思想形成とその時代背景を学び、資本主義形成期の反近代思想について考察する。	
	この回の到達目標	横山源之助がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、資本主義形成期における反近代思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「7 生存権・人権」p139～146を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、横山源之助の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
6	田中正造：反近代の思想②	田中正造の思想形成とその時代背景を学び、資本主義形成期の反近代思想と環境思想について考察する。	
	この回の到達目標	田中正造がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、資本主義形成期における反近代思想および環境思想の特徴と歴史的意義について理解し、説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「7 生存権・人権」p149～153を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、田中正造の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	出口なお：反近代の思想③	大本教を創始した出口なおの思想形成とその時代背景を学び、資本主義形成期の反近代思想と宗教思想について考察する。	
	この回の到達目標	出口なおがどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、資本主義形成期における反近代思想および宗教思想の特徴と歴史的意義について理解し、説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「5 信仰の革新」p100～105を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、出口なおの思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
8	吉野作造：民本主義①	吉野作造の思想形成とその時代背景を学び、民本主義の政治思想について考察する。	
	この回の到達目標	吉野作造がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、民本主義の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「8 民本主義と教養主義」p157～163を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、吉野作造の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
9	美濃部達吉：民本主義②	美濃部達吉の思想形成とその時代背景を学び、民本主義の法学思想について考察する。	
	この回の到達目標	美濃部達吉がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、民本主義の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「8 民本主義と教養主義」p163～170を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、美濃部達吉の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
10	伊波普猷：マイノリティのまなざし	伊波普猷の思想形成とその時代背景を学び、その沖縄学について考察する。	
	この回の到達目標	伊波普猷がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、その沖縄学の特徴および歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標②③）	
	事前学修	教科書「9 民俗思想」p204～209を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、伊波普猷の思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
11	平塚らいてう：フェミニズムの源流	平塚らいてうの思想形成とその時代背景を学び、日本のフェミニズム思想について考察する。	
	この回の到達目標	平塚らいてうがどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、日本のフェミニズムの特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、平塚らいてうの思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
12	金子文子：反帝国主義の思想	金子文子の思想形成とその時代背景を学び、反帝国主義の思想について考察する。	
	この回の到達目標	金子文子がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、日本の反帝国主義思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「13 反戦論・平和論」p286～292を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、金子文子の思想の特徴について、自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戸坂潤：マルクス主義の思想	戸坂潤の思想形成とその時代背景を学び、日本のマルクス主義思想について考察する。	
	この回の到達目標	戸坂潤がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、日本のマルクス主義思想の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「11 社会主義」p242～252を読んで、分からない用語を調べておく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、戸坂潤の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
14	丸山真男：日本政治思想史研究の出版	丸山真男の思想形成とその時代背景を学び、戦後民主主義と政治思想史研究について考察する。	
	この回の到達目標	丸山真男がどのような時代状況のなかでどのように思想形成を行ったかを学び、戦後民主主義および丸山政治思想史研究の特徴と歴史的意義について理解し説明することができる。（到達目標①②③）	
	事前学修	教科書「むすび」p335～338を読んで、分からない用語を調べておく。各種辞典で丸山真男の項目を読んでおく。	120分
	事後学修	授業資料を確認し、丸山真男の思想の特徴について自分なりに理解した点と疑問点をまとめる。	120分
15	まとめと試験	思想家からみた近代日本政治思想史の流れをふりかえり、論点を整理した上で、授業内容の理解度を確認する試験を実施する。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容と要点を構造的に理解し、自分の考えをふまえてそれを論理的に論述することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	初回からの教科書の各章、授業資料を復習しておく。	120分
	事後学修	授業と試験をふりかえり、教科書「むすびー戦中から戦後へ」を読む。	120分

科目名	日本政治論Ⅰ【水曜3限】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
新型コロナウイルスという“危機”を経験したこともふまえ、今年度は、「危機管理」に着目して、日本政治・行政の実態把握につとめる。授業では、危機管理を学ぶうえで必要となる日本の行政に関する基礎知識を整理したうえで、行政機関の危機管理について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
危機管理という観点から、日本政治・行政の実像をより深く理解するために、日本の行政に関する基礎知識をふまえ、いくつかの事例を取りあげつつ、危機管理の意味について学修する。

【履修条件】
本科目は、すでに浅野の「日本政治論Ⅰ」を履修した経験のある者（再履修者）のみを対象としている。なお、学期末試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。また、状況の変化によって、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の政治・行政に関する基礎知識にもとづき、危機管理の意味を説明することができる。【知識】					1	1						
②	日本の政治・行政の特徴を理解し、それについて論理的に説明することができる。【知識】						1						
③	過去の“危機”の事象をふまえて、“危機”をめぐって、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策の一端を示すことができる。【技能】						1						
④	日本政治・行政における危機管理の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】					1	1						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本政治をめぐる争点-リーダーシップ・危機管理・地方議会-』	浅野一弘	同文館出版	2012	教科書	必携
『現代政治の争点－日米関係・政治指導者・選挙－』	浅野一弘	同文館出版	2013	参考書	推奨
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	参考書	推奨
『増補 「解散」の政治学－戦後日本政治史－』	藤本一美	第三文明社	2009	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、各自事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本における「行政」の意味－政治との関連において－	歴史的視点、さらには比較の視点から、日本における「行政」の意味を考え、日本政治・行政の現実をみる目をやしなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、日本における「行政」の意味について理解し、それらの知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	日本における行政国家化	歴史的視点から、日本において行政国家化がどのように進展したのか、その経緯を修得し、日本政治・行政の“いま”をみる目をやしなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、日本における行政国家化のプロセスについて理解し、それらの知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	日本における情報公開	危機管理との関連をつよく意識しつつ、TAPEということばを手がかりに、日本の情報公開の現状と課題について考える。可能であれば、外国の事例との比較をこころみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な情報公開の意味について深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	日本における官僚制の特色	危機管理との関連をつよく意識したうえで、日本における官僚制の特色について考える。可能であれば、米国の官僚制との比較もおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、ひんばんに登場する官僚制ということばの意味について深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	日本における政官関係	危機管理との関連をつよく意識しながら、政官関係の動向に着目する。このことによって、日本における立法部と行政部との関係の実態を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な政官関係の内容を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	日本におけるガバメントからガバナンスへのシフト	危機管理との関連をつよく意識し、ガバメントとガバナンスということばに着目し、日本における地方分権改革の動向の一端を検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要なガバメントからガバナンスへの変化について深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	日本における「危機」概念の多様化	近年、「危機」ということばのもつ意味が多様化してきているとされているが、ここでは、どのような変化がみられたのかをおさえる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な「危機」概念の多様化の実像を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	日本における「危機管理」の意味	「危機」ということばが多様化すると同時に、「危機管理」という語の意味もひろがってきているので、ここでは、その変容のプロセスについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政において、「危機管理」の意味がどのように変化してきたかを深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	日本の行政機関と危機管理	日本の行政機関の特色をみるだけでなく、国・地方の行政機関において、どのような危機管理策が講じられているかに着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の行政機関における危機管理策を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	新型コロナウイルスをめぐる日本の危機管理	新型コロナウイルスめぐって、日本の行政機関や企業などがどのような対策を講じてきたのかを検証するとともに、現在の状況にも十分留意する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な新型コロナウイルスへの対応策を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	東日本大震災をめぐる日本の危機管理	東日本大震災の折りに、日本の行政機関がどのように対応してきたのかについて検証したうえで、阪神・淡路大震災時の議論にも着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な東日本大震災時の行政機関の対応を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	日本における市町村合併と危機管理	市町村合併の実態について検証したうえで、危機管理についての議論がどれほど軽視されてきたかに関しても着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の一端を考察するうえで、きわめて重要な市町村合併と危機管理との関係を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	環境をめぐる日本の危機管理	近年注目をあつめる環境問題に関して、危機管理という視点からアプローチをすることで、日本の環境政策の一端を学修する。とりわけ、漂着ごみ問題をとりあげる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な環境問題、とりわけ漂着ごみの話題を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	国会議員の“失言”をめぐる危機管理	なぜ、「全国民を代表する」国会議員の“失言”がひんばんにくり返されるのかに着目し、この問題を危機管理の視点からアプローチして学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、国会議員の“失言”問題を深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	リーダーシップと日本の危機管理	危機管理を考えるうえでもっとも重要とされるリーダーシップについて、内閣総理大臣、地方自治体の首長のおのおのにわけ、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治・行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要なリーダーシップを深く理解し、その知識をもちいて日本政治・行政の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅰ【火曜4限】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
配当年次が1年生であるということもふまえ、新聞に登場する国会をめぐる用語（キーワード）を中心に理解を深め、日本政治の特色をおさえる。さらに、日本の独立の経緯やソフトパワーの効能などに着目し、日本外交の歴史と展望についても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の実像をより深く理解するために、国会をとりまく政党、利益集団といった政治的アクターの存在とその動向について学修する。

【履修条件】
「日本政治論Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、学期末試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。また、状況によっては、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	占領・改革の理念や日本国憲法の意義を説明することができる。【知識】		1	1					
②	日本政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】			1					
③	戦後日本政治史上の国会の役割をふまえて、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】			1					
④	日本政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】		1	1					
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『新・国会事典』〔第3版〕	浅野一郎・河野久編	有斐閣	2014	参考書	推奨
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『議会学』	向大野新治	吉田書店	2018	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、各自事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくること（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	日本政治をみる目		日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をとおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべき基礎知識を修得し、日本政治をみる目をやしなう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限必要な基礎知識について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	日本政治のなかの55年体制の意味		日本政治の特質を語るうえで、かならず知っておくべき「55年体制」の特質について考える。可能であれば、選挙制度との関連についても検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する「55年体制」ということばの意味について理解し、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	保守合同の背景		到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、かならず知っておくべき「保守合同」の経緯について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特色について説明することができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する「保守合同」の背景について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	日本政治における“鉄の三角形”		いわゆる“鉄の三角形”ということばを手がかりに、日本政治の特質について考える。可能であれば、外国の事例との比較をこころみる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する“鉄の三角形”ということばの意味について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	GHQによる日本の占領・改革		戦後日本政治のスタートともいえるGHQによる占領・改革に着目することで、国会をめぐる制度成立の背景について探る。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後日本政治の起点となるGHQによる占領・改革に着目することで、国会をめぐる制度成立の背景について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治のいまについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	東西冷戦下の日本の独立	日本の独立にきわめて重要な影響をおよぼした東西冷戦の実状に着目することで、日本の独立をめぐる日本国内の動向について探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の独立にきわめて重要な影響をおよぼした米ソ冷戦の実状に着目することで、当時の日本国内の議論の動向について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治のいまについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	「国権の最高機関」としての国会	「国権の最高機関」ということばを手がかりに、日本国憲法上の国会の位置づけについて考える。可能であれば、外国の議会との比較もおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本国憲法のなかの「国権の最高機関」ということばに着目することで、国会のしくみについて理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	二院制の意義	二院制ということばを手がかりに、一院制との長短について考える。可能であれば、外国の議会との比較もおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、二院制ということばに着目することで、一院制との長短について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	国会の種類	常会・臨時会・特別会ということばを手がかりに、国会の種類について考える。可能であれば、外国の議会との比較もおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、常会・臨時会・特別会ということばに着目することで、国会の種類について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	“金焔火来”ということば	“金焔火来”ということばを手がかりに、日本政治の特質について考える。可能であれば、外国の事例との比較をこころみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する“金焔火来”ということばの意味について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	野党による審議拒否	野党による審議拒否に着目することで、日本の国会における審議の特質について考える。可能であれば、外国の事例との比較をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、野党による審議拒否という戦術に着目することで、国会における審議の動向について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	参考人招致・証人喚問	参考人招致・証人喚問に着目することで、日本の国会における国政調査権の特質について考える。可能であれば、外国の事例との比較をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、参考人招致・証人喚問の歴史に着目することで、国政調査権の実態について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	国会議員の失言	国会議員の失言に着目することで、政治家としての資質について考える。可能であれば、外国の事例との比較をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国会議員による失言の歴史に着目することで、失言が生じる背景について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	公文書と日本政治	近年の日本政治の特質を語るうえで、ひんばんに登場する公文書の意味について考える。可能であれば、外国の事例についても検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公文書管理に着目することで、公文書のもつ意味について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	日本外交におけるソフトパワー	ソフトパワーということばの意味を探り、その重要性を認識すると同時に、ハードパワーとのちがいについても考える。可能であれば、具体例についても検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソフトパワーの意義に着目することで、日本外交におけるソフトパワーのもつ意味について理解し、そこで得られた知識をもちいて日本政治の特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅱ【水曜3限】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
日米関係、リーダーシップ、選挙という3つをキーワードとして、日本政治のしくみ（国政および地方政治）と戦後の日本政治の流れをおさえる。もちろん、それぞれの争点をより深く掘りさげる過程で、関連する事象も数多く登場するので、そうした概念を整理し、体系的に学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の実像をより深く理解するために、戦後政治史の流れをふまえ、政党、利益集団といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【履修条件】
本科目は、すでに浅野の「日本政治論Ⅱ」を履修した経験のある者（再履修者）のみを対象としている。なお、学期末試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。また、状況の変化によって、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	米国による占領・改革の理念や戦後日米関係の意義を説明することができる。【知識】						1	1						
②	リーダーシップの観点から、日本政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】							1						
③	選挙をはじめとした、戦後日本政治史上の事象をふまえて、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】							1						
④	日本政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】						1	1						
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代政治の争点－日米関係・政治指導者・選挙－』	浅野一弘	同文館出版	2013	教科書	必携
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と政治過程－1951年～83年－』	藤本一美・浅野一弘	龍溪書舎	1994	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、事前にならず購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日米関係の流れ	戦後日米関係のおおまかな流れをおさえ、そのことが日本の国内政治にどのようなインパクトをあたえたのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な米国とのかかわりについて理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	日米関係における「外圧」	報道でもよく耳にする「外圧」ということばがあるが、ここではこの「外圧」を類型化するとともに、その発生のパターンについて検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「外圧」ということばの意味について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	日米関係のなかの「年次改革要望書」	日米関係を探るうえで、「年次改革要望書」の存在はきわめて大きいとされる。この「年次改革要望書」について、「外圧」という視点から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「年次改革要望書」の存在について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	政権交代と「外圧」	1993年と2009年の政権交代によって、米国からの「外圧」反応型の政策決定システムはどのように変化したのか、あるいはまた変化しなかったのかに焦点をあてて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙の歴史について理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	日米関係史における首脳会談の位置づけ	日米首脳会談で話しあわれるテーマは、そのときどきの両国間における課題を端的に示していると考えられるが、ここでは、日米首脳会談に焦点をあてて、日本の内政とのリンケージについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な日米首脳会談の特色を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	リーダーシップの意味	日常生活において、ふだん何気なくつかわれる、リーダーシップという用語の意味について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要なリーダーシップの意味を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	内閣総理大臣のリーダーシップ	歴史的な経緯もふまえたうえで、これまでの内閣総理大臣のリーダーシップについて具体的に検討する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な内閣総理大臣のリーダーシップを理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	首長のリーダーシップ	歴史的な経緯もふまえたうえで、これまでの首長のリーダーシップについて具体的に検討する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な首長のリーダーシップを理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	比較リーダーシップ論	日本の政治指導者のリーダーシップの実像をより明確に浮き彫りにするため、米国の大統領および州知事のそれとの比較をこころみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な存在ともいわれる米国の政治指導者のリーダーシップの実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	選挙の意味	民主政治においてもっとも重要といっても過言ではない選挙の意味について、検討をくわえる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な選挙の意味を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	国政選挙のしくみ	国政選挙が現実の政治に大きな影響をおよぼすことは明らかであるが、その選挙のしくみについて包括的に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な国政選挙のしくみを理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	国政選挙の実態	戦後日本政治史において、国政選挙がどのようなインパクトをあたえてきたのか、その実態を詳細に検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な国政選挙の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	地方自治の意味	日本国憲法のなかで規定されている地方自治の内容と現実との乖離について、「地方自治の本旨」ということばをキーワードに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方自治の意味を理解し、そこで得た知識をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	地方分権改革と地方議会	地方分権改革を大きく進展させたとされる、地方分権推進委員会・第2次勧告の内容を詳細に検討し、地方議会のあるべき姿についてどのような提言がなされているかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方分権改革と地方議会との関係を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	地方議会の改革	何十年もまえからその必要性が唱えられながら、おき去りにされてきた地方議会の改革がどの程度すすんだのかについて、組織・構成、運営といった側面から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方議会の改革の現状を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅱ【火曜4限】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
7人の保守政治家に注目し、日本政治のしくみと戦後の日本政治の流れをおさえる。もちろん、それぞれの人物の思想と行動をより深く掘りさげる過程で、関連する事象も数多く登場するので、そうした概念を整理し、体系的に学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の実像をより深く理解するために、保守政治家のリーダーシップに着目しつつ、戦後政治史の流れをふまえ、政党、利益集団といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【履修条件】
「日本政治論Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、学期末試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。また、状況の変化によって、講義や筆記試験などが対面式で実施できない可能性もあるため、この授業では、学期はじめでのGoogle Classroomへの登録を必須とする（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本政治史における保守政治家の意義を説明することができる。【知識】				1	1						
②	日本政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】					1						
③	戦後日本政治史上の事象をふまえて、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】					1						
④	日本政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『歴代自民党総裁のリーダーシップⅠー総裁代行委員～第四代総裁ー』	浅野一弘編	学文社	2023	教科書	必携
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と政治過程ー1951年～83年ー』	藤本一美・浅野一弘	龍溪書舎	1994	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は9号館2階の9203研究室までくこと（asano.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本政治における保守政治家の意味	われわれは、保守政治の意味について把握しているようで、じつは十分理解できていないのではなかろうか。そこで、戦後政治史の流れのなかで、保守政治家がはたした役割などを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な保守ということばの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	三木武吉の思想と行動	三木武吉の政治思想について検討するとともに、三木の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な三木武吉の思想と行動の意義について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	日本政治における三木武吉の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、三木武吉がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、三木武吉のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	大野伴睦の思想と行動	大野伴睦の政治思想について検討するとともに、大野の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な大野伴睦の思想と行動の意義について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	日本政治における大野伴睦の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、大野伴睦がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、大野伴睦のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	緒方竹虎の思想と行動	緒方竹虎の政治思想について検討するとともに、緒方の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な緒方竹虎の思想と行動の意義について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	日本政治における緒方竹虎の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、緒方竹虎がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、緒方竹虎のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	鳩山一郎の思想と行動	鳩山一郎の政治思想について検討するとともに、鳩山の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な鳩山一郎の思想と行動の意義について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	日本政治における鳩山一郎の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、鳩山一郎がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、鳩山一郎のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	石橋湛山の思想と行動	石橋湛山の政治思想について検討するとともに、石橋の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な石橋湛山の思想と行動の意義について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	日本政治における石橋湛山の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、石橋湛山がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、石橋湛山のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	岸信介の思想と行動	岸信介の政治思想について検討するとともに、岸の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な岸信介の思想と行動の意義について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	日本政治における岸信介の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、岸信介がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、岸信介のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	池田勇人の思想と行動	池田勇人の政治思想について検討するとともに、池田の行動が戦後日本の保守政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な池田勇人の思想と行動の意義について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	日本政治における池田勇人の位置づけ	戦後の保守政治史の流れのなかで、池田勇人がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、池田勇人のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容に関連する部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、授業でとりあげる内容の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本法制史Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを修得するために、明治前期を中心に近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性と合わせて理解する。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治初期の国家機構について説明することができる。				2	2						
②	明治初期の刑事法の内容について説明することができる。				2	2						
③	明治初期の民事法の内容について説明することができる。				2	2						
④	明治初期の司法制度について説明することができる。				2	2						
⑤	大日本帝国憲法の内容と権力機構について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	参考書	任意
日本近代法案内	山中 永之佑 編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00、金曜日16：20～17：50研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本法制史の基本的な考え方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	法制史という学問の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	時代区分とそれぞれの法の特色～古代・中世～	大化の改新以前の法、律令法・鎌倉幕府法・室町幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	図書館等で、古代・中世の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
	事後学修	律令制と初期武家法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	時代区分とそれぞれの法の特色～近世～	戦国家法と江戸幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	図書館等で、戦国期・江戸幕府の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
	事後学修	戦国家法と江戸期の法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	時代区分とそれぞれの法の特色～明治期～	明治期を三期に分けて、それぞれの時期の法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治期の法体系の全体像を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	明治初期の国家機構～太政官制～	明治初期の国家機構である太政官制の発足・改正の流れを追いながら、太政官制という統治システムの特色を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	太政官制の特徴と意義を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	明治初期の国家機構～廃藩置県～	中央集権国家体制構築にあたり、従来の体制を解体する過程とこれらの改革から発生した様々な問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	封建体制の解体過程と派生した問題点について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	明治初期の刑事法と治安法制	明治初期に施行された律型刑法典の内容と特徴および言論統制法を中心とした治安立法の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、律型刑法典の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第1節「明治初期刑法と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	律型刑法典の特色と各種治安法制の内容・目的を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	明治初期の民事法	明治初期における統一的民事法の作成作業の流れと現実に発生していた民事事件の解決策の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が、明治初期の民事事件の解決法の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章「財産法制」第2節「明治前期における諸立法」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	統一的民法典作成の動きと現実に発生した民事事件の対処策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	明治初期の司法制度	司法制度の近代化に向けた江藤新平の司法改革・大審院の設置・司法官の養成・代言人制度の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が、明治初期の司法制度の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第1節「太政官制下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的司法制度構築へ向けての動きと法曹養成の方法ついてを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	旧刑法の成立と治安法制	本格的な近代的法典の嚆矢である旧刑法の成立過程とその内容・特徴と自由民権運動対策としての治安立法の整備・強化の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、旧刑法の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第2節「旧刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的法典の嚆矢である旧刑法の特徴と自由民権運動取締の動きについて自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	大日本帝国憲法の制定～制定前史～	明治初期の憲法制定に向けたさまざまな動きの内容と特徴、自由民権運動の拡大に伴う様々な私擬憲法草案の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法制定に至る過程を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治初期の憲法制定へ向けての動きや各種私擬憲法草案の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	大日本帝国憲法の制定～制定過程と内容・特色～	大日本帝国憲法の制定過程の流れと大日本帝国憲法の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	大日本帝国憲法の制定過程とその内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内閣と枢密院	内閣制度の発足当初の特徴と憲法制定に伴い制定された内閣官制の内容、枢密院の組織・権限、元老の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、内閣と枢密院の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	内閣および枢密院の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	帝国議会	帝国議会の組織・各種権限について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、帝国議会の構成と権限を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	帝国議会の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	前期のまとめ	前期をふりかえり、補充説明などを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
	事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	日本法制史Ⅱ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性を合わせて法律学を考える能力を養成することを目的とし、現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治憲法下の司法制度について説明することができる。				2	2						
②	民法、商法の編纂の過程を説明することができる。				2	2						
③	戦前の民事・刑事裁判手続の内容について説明することができる。				2	2						
④	条約改正と日本の対外政策の変化について説明することができる。				2	2						
⑤	大正期の法の再編と戦時立法について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身について いるかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	参考書	任意
日本近代法案内	山中永之佑編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00、金曜日14：40～17：50研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	明治後期から大正・昭和期それぞれの法の特徴	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	法制史という学問の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	明治憲法下の司法制度～裁判所構成法の制定～	近代的司法制度の根拠法である裁判所構成法の制定過程と内容・特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が裁判所構成法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	裁判所構成法の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	明治憲法下の司法制度～司法官の任用と弁護士制度～	近代的な司法官養成制度の内容と旧世代の司法官との人事の入れ替え、弁護士制度の発足と発展の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が司法官養成制度と弁護士制度の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的な法曹養成制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	民法典の編纂と法典論争～民法典の編纂過程～	旧民法の編纂過程とその内容と法典論争後の民法典の編纂過程と民法典の特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が民法の編纂課程と内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	旧民法と新民法の相違点を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	民法典の編纂と法典論争～法典論争の動きと評価～	民法典の編纂をめぐって起こった法典論争の流れとこの論争をめぐる歴史的評価について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法典論争の展開とその評価を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	法典論争における延期派・断行派の主張の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	商法の成立	旧商法の成立過程とその内容、施行延期を受けて新たな商法の成立過程と商法の特徴、施行延期のきっかけとなった商法典論争の動きについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が商法の編纂過程とその特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第1節「明治商法の成立」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	商法の成立過程と商法典論争の動きを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	刑事訴訟法の成立		明治初期の刑事裁判手続の内容と治罪法・明治刑事訴訟法における刑事裁判手続の内容と特徴について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が明治刑事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	治罪法・明治刑事訴訟法における訴訟手続の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	民事訴訟法の成立		明治初期の民事裁判手続の内容と民事訴訟法の成立過程とその特徴について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が民事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第3節「民事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治初期の民事訴訟手続の内容と民事訴訟法の成立過程・特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	条約改正と日本の対外政策		条約改正実現に向けての流れと日清・日露戦争を経た日本の対外政策の変化について説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が条約改正までの過程と対外政策の変化を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第16章「近代日本の対外的軌跡と国際法制」第1節「明治維新以後の日本の対外政策の基調と日清戦争」・第2節「日露戦争と日本帝国主義の確立」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	条約改正の流れと日本帝国主義の確立の過程を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	現行刑法の成立と治安法制		現行刑法の成立過程とその特徴と労働・農民運動対策の治安法制の内容について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が現行刑法の制定過程と治安立法の変化の背景を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第3節「現行刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	刑法の成立過程と労働・農民運動対策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	臨時法制審議会		大正期における法の再編作業のために設置された臨時法制審議会の組織・諮問事項・影響について説明する。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が大正期の法の再編の背景を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第13章「家族法制」第3節「民法改正の動き」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	大正期における法の再編・強化の流れを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	刑事訴訟法の改正と陪審制		大正刑事訴訟法の成立過程とその特徴と日本における陪審制度の導入とその問題点について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が大正刑事訴訟法と陪審法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	刑事訴訟法の改正内容と陪審制の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	普通選挙法と治安維持法の成立	普通選挙法の成立に向けた流れと治安維持法の内容・運用上の特徴と昭和期の改正の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が普通選挙導入の背景と治安維持法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト序章「日本近代法総論」第2節「日本近代国家の法構造の変容」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	普通選挙法の内容と治安維持法の内容・運用の変化を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	国家総動員法の成立と戦時立法	国家総動員法の内容・統制の実際と主要な戦時特別法の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が準戦時・戦時体制下の法の特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第4節「国家総動員法の制定と一九三八年の商法改正」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	国家総動員法による統制の内容と戦時特別法の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	後期のまとめ	後期をふりかえり、補充説明などを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
	事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	青木 紀美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
海外の動きに目を向けて関心を持ち、日本語と英語でニュース記事を読む習慣を身に着ける。英和・和英の辞書（スマホ辞書アプリも可）を持参する。

【授業方法】

当日または事前に配布・提示する記事や資料を読み、日本語と英語の時事的な常識と語彙の範囲を広げるとともに、情報を整理して要点を把握し、自分の言葉でまとめる能力を身に着ける。その時々動きや関心事を題材に取り入れるため、シラバスの内容とは異なるテーマを取り上げる可能性もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	△英語のニュース記事を読み情報を整理して日本語で説明する、△関連情報や背景を調べて発表する、△関心あるニュースを取り上げる、などの機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。						2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関して授業内試験を行う。英語のニュースを読み解き、情報を整理して、要点を把握できているかを基準に評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、授業への参画、授業での発言を基準に評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験や課題についてはその週または翌週にフィードバックを行い、誤りが多い点を指摘して説明する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業内および授業終了後に質問を受ける。 aoki.kimiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 長年、国際報道に携わり、英語と日本語でテレビのニュース・番組を取材・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容	海外の動きにアンテナを張る。情報源を確認し、5 W 1 Hを整理して要点を把握し、適切な日本語で表現する。ニュースの関連・背景情報を調べる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	△授業のねらいと進め方、評価方法を説明 △ニュース英語を学習する各々の目標を設定 △英語のニュース情報源を紹介、特徴を説明	
	この回の到達目標	到達目標①②を念頭に各々が目標を設定。一定の信頼がおける英語ニュースの情報源を知る。	
	事前学修	ニュース英語を学ぶことを通して自分が何を身につけたいかを考える。	120分
	事後学修	英語ニュース情報源を見比べ、日常的にチェックするものを選ぶ。	120分
2	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
3	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
4	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
5	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
6	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英語でニュース記事を読む	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事の読み方、情報の整理と把握について学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読み、同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。関連のニュースをチェックする。	120分
8	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
9	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
10	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
11	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
12	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英語でニュースを見る	△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△関連記事を読む、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	英語でニュースを見ることを学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース動画を見る。同じ題材の日本語のニュースを見る。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
14	授業内試験及び振り返り	△英語のニュース記事を読んで情報を整理し、要点を日本語で説明する △英語のニュース動画を見て情報を把握し、要点を日本語で説明する	
	この回の到達目標	英語ニュース情報の理解、日本語での文章化力を確認する	
	事前学修	前の週までの学習内容を復習する	120分
	事後学修	試験で取り上げた内容を復習する	120分
15	まとめ	△試験結果を返却し、間違いが多かった点などを説明する △各々の目標を達成できたかどうかを振り返る	
	この回の到達目標	到達目標①②にもとづく各々の目標が達成できたか振り返り、後期に向けた見直しの機会とする	
	事前学修	各々の目標を振り返り、達成できたこととできなかったこと、課題などについて整理する	120分
	事後学修	前期の授業で学んだことをおさらいし、後期に向けた目標をそれぞれが考える	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	池畑 修平	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
講義内で辞書（スマホや電子辞書などを含む）は参照可能。期末試験時は紙の辞書と授業内で配布した資料や回答した課題のみ参照可能。

【授業方法】		
英語での、新聞・通信社の記事、公式な声明、テレビニュースの放送内容などを教材として用い、読解力、ヒアリング能力、そしてニュースの背景などに関する理解力を身につけていく。なるべく学生たちが多く発言する機会をつくる。また、適宜、外国における取材活動、英語の国際ニュースを日本国内に伝えること、あるいは、日本のニュースを英語で世界に伝えることについて、それぞれの面白さや意義、課題などについて実務経験に基づいて説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ニュース英語に関する全般的な質疑応答 ②大きなニュースとなっている事象についての意見交換	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関して、授業で取り上げた英語のニュース 英語を読み解き、その背景を理解できているかを、期末試 験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	到達目標①に関して、授業内や宿題で英語記事の翻訳や、 声明やスピーチをもとに日本語の記事を書くことができる か評価する	20										20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②が達成できているのかに関して授業内の質疑応 答で評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
①期末試験の採点と解説 ②授業内や宿題としての翻訳や記事執筆の添削や講評	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後、キャンパス内で質問などに対応。メールでも対応。 ikehata.shuhei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 NHK報道局国際部、複数の海外支局、および国際放送局World News部での勤務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		海外の報道機関が伝える英語ニュースをNHKの日本語放送用に翻訳する上での留意点、ならに びに国際放送局が世界に向けて英語で日本のニュースを伝える際の特徴などを教授する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入授業	授業の進め方を説明。教員・学生の双方が自己紹介をし、学生はどのようなニュースに関心があるか、英語学習でどういう点に難しさを感じるかを説明する。授業の後半では英語のニュース記事を一つ読んで大意を記述し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②を確認し、現時点でのニュース英語を理解する力を把握し、今後の学習に向けた手がかりを得る。	
	事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
	事後学修	提出された記述は教員が確認、意見を加えた上で学生にフィードバックするので、それを精査して自分に足りないところがあれば重点的に復習をする。	120分
2	欧米メディアの伝え方の特徴	同じ事象でも国や言語圏・文化圏によって、ニュースでの伝え方は違いがある。実際にいくつかのニュースを取り上げて、日本のメディアと欧米メディアの伝え方を比較し、違いを検証する。	
	この回の到達目標	日本メディアと欧米メディアの伝え方の違いを理解し、それぞれの長所と短所を考察する。	
	事前学修	複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	各自が関心を持つニュースを選び、日本メディアと欧米メディアの伝え方を比較し、違いなどを確認する。その上で、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
3	社会ニュース①	事件（犯罪）についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。事件報道に関する国ごとの基準の違いなどについてディスカッション。	
	この回の到達目標	ニュース英語の読み解きや翻訳、ヒアリングに慣れ、自主的な学習を進める手掛かりをつかむ。また、犯罪報道をめぐる世界や日本のメディア界の変化について理解を深める。	
	事前学修	事件について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
4	社会ニュース②	自然災害についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。近年、深刻になる一方の自然災害の背景にある気候変動をめぐる世界の報道の潮流などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	自然災害は緊急報道となることが多いため、活字の記事に加えて、テレビのBreaking Newsなど放送素材も多めに視聴することで災害の発生場所や規模、危険性などを迅速に理解できるようになる。	
	事前学修	自然災害について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
5	学生の関心が高いニュース①	社会ニュースの中から、学生たちに関心が高いトピックを選んでもらい、それに関するニュース素材を取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。そのニュースに関する日本と海外での報じ方の違いなどについてディスカッション。	
	この回の到達目標	自分たちで何に関心があるかを考えることからニュース英語の学習に関する自主性を高め、読み解きやヒアリングのレベルアップを図る。	
	事前学修	授業で取り上げることになったトピックについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
6	国際政治ニュース①	朝鮮半島情勢についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。韓国や北朝鮮に関する最新ニュースの背景についてディスカッション。	
	この回の到達目標	韓国と北朝鮮、それぞれの国の英語ニュース記事を読み、地域情勢への理解を深める。とりわけ北朝鮮の国営メディアの記事はアメリカや韓国、そして日本に対して強硬な言葉遣いが多く、その背景について考察する。	
	事前学修	朝鮮半島情勢について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国際政治ニュース②		アメリカと中国の対立についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。世界情勢の流れを大きく左右する米中対立の今後について多角的に検証し、ディスカッション。	
	この回の到達目標	アメリカと中国、双方のメディアのニュースを読み解くことで、両国の立場の違い、また、報道の自由が確立しているアメリカのメディアと中国共産党の管理下にある中国メディアの性格の違いへの理解を深める。		
	事前学修	米中対立について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
8	国際政治ニュース③		EU（欧州連合）に関するニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。米中対立が続く中でEUが果たそうとしている役割などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	EUの歴史や仕組みについての基礎知識を習得し、米中対立の中で第3極としてのEUが目指すものや直面する課題に関する理解を深める。		
	事前学修	EUについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
9	学生の関心が高いニュース②		国際ニュースの中から、学生たちに関心が高いトピックを選んでもらい、それに関するニュース素材を取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。そのニュースに関する日本と海外での報じ方の違いなどについてディスカッション。	
	この回の到達目標	自分たちで何に関心があるかを考えることからニュース英語の学習に関する自主性を高め、読み解きやヒアリングのレベルアップを図る。		
	事前学修	授業で取り上げることになったトピックについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
10	日本についてのニュース①		日本の政治についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。とくに外国人からみると「理解しにくい」とされる日本の政治ニュースを分かりやすく英語で伝える上でのポイントについてディスカッション。	
	この回の到達目標	日本の日々の政治ニュースは、「ニュースソースが『政府高官』『党幹部』など匿名が多い」「『Aという方向性が強いがBという方向性もありえる』といった結論の曖昧さ」など、世界に向けて英語で伝えるには難しい点が少なくないことを理解し、また、日本メディアの伝え方の特徴も考察する。		
	事前学修	日本の政治について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
11	日本についてのニュース②		日本の社会問題（例えば少子高齢化や女性の社会進出など）についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。人口の高齢化など、ほかの先進国とも共通する問題がどう英語で伝えられているのか、具体的な事例も踏まえてディスカッション。	
	この回の到達目標	日本の社会問題についての記事や放送を大まかに翻訳したうえで、同様の問題に直面している他の国のニュースも取り上げて、日本の問題の特異性と普遍性について理解を深める。		
	事前学修	日本の社会問題について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
12	日本についてのニュース③		日本の伝統や風習についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。日本人なら誰でも知っているものの、外国人には新鮮に映る伝統などを英語で伝えるための工夫などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	日本の伝統などが他の文化圏の人たちにはどう映っているのかを考察し、そこに誤解などは混じっていないか、正確な日本の姿が伝わっているかなどについて討議し、そこから「外国のことをニュースで伝えること」の意義や課題について理解を深める。		
	事前学修	日本の伝統や風習について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	期末試験に向けた総括	授業で取り上げた社会ニュース、国際ニュース、日本に関するニュースについて、ポイントとなる単語やニュースの背景を再確認する。	
	この回の到達目標	これまで取り組んだ3つのジャンルのニュースを改めて読み解いたり聞き取ったりすることで、到達目標①②に関してどこまで達成できているかを確認し、期末試験に向けた準備ができるようにする。	
	事前学修	授業全体で取り上げたニュースの記事などを改めてよく読み、内容や背景を理解できているかを自分なりに確認する。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
14	期末試験及びまとめ	期末試験を実施する。	
	この回の到達目標	試験を通じて到達目標①②に関してどこまで達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容全体を復習する。	200分
	事後学修	試験で難しかった内容について改めて授業内で配布した資料を読み直し、復習をする。	120分
15	期末試験のフィードバック	期末試験のフィードバックを行ったうえで、講義全体の復習をする。	
	この回の到達目標	試験結果を踏まえて、到達目標①②に関して、どこまで達成できていたのかを確認する。点数のみにこだわらず、どういうニュースに関心を覚えたかなどについて意見交換し、今後のニュース英語学習に向けた意欲を高める。	
	事前学修	試験で難しかった内容について改めて授業内で配布した資料を読み直し、復習をする。	100分
	事後学修	試験で十分に解けなかった箇所を確認し、復習する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	東 一真	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
日本語・英語のニュースを毎日読む。英和・和英辞書（電子辞書、スマホアプリも含む）とノートを授業に持参する。

【授業方法】
授業で使うテキストは、授業で配布する。学生は授業時間内に英文を読み読解する。そのうえで、英語の構文や重要単語、テキスト内容説明を行う。授業ではパワーポイントを主に使う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の冒頭、最新のニュース記事を、テキストまたは音声で示す。学生に読み取ったり、聞き取ったりさせたうえで、その内容を説明させる。また、ニュースの背景について学生が知っていることを発表させたり、ニュースについて感想を発表させたりする。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名するときもある。また、グループ学習やグループごとの発表などをする場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができているかどうかを基準に評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に定時にきちんと出席し、質問に的確に答えているかどうかを評価する。	10	10									20
その他()	指定した超長文英語を暗唱した学生には、プラスアルファの評価を行う。	20										20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を、次の授業で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了直後に、授業講堂で質問できる

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 新聞社に3.5年間勤務し、海外勤務や海外留学などで、英語での取材・執筆・発表経験がある
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際会議や海外での取材経験に基づき、報道がいかになされるかを説明する。また、英語を読む、聞く能力がいかに大切かを伝える

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／ニュース英語とは	①ニュース英語とは何か②文章の構造をとらえることの重要性③生成AIや翻訳アプリがある時代になぜ英語を学ぶのか④今後の授業の進め方ーなどを説明する	
	この回の到達目標	時事英語を学ぶ意味と今後の授業の進め方を理解する	
	事前学修	シラバスを読んで授業を概観する。日本語の新聞を読み、最新ニュースの概要を押さえる	60分
	事後学修	授業の進め方などを復習し、英語・日本語でニュース記事を読んでみる	180分
2	ニュース英語の基礎 1	見出し、リード、本文の読み方などニュース英語独特の表現を学び、ニュース英語に慣れる。分詞構文などニュース英語で頻出する文法表現などを学ぶ	
	この回の到達目標	ニュース英語の構造を理解できるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
3	ニュース英語の基礎 2	見出し、リード、本文の読み方などニュース英語独特の表現を学び、ニュース英語に慣れる。ニュース英語で頻出する文法表現などを学ぶ	
	この回の到達目標	ニュース英語の構造を理解できるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
4	ニュース英語の基礎 3	見出し、リード、本文の読み方などニュース英語独特の表現を学び、ニュース英語に慣れる。分詞構文などニュース英語で頻出する文法表現などを学ぶ	
	この回の到達目標	ニュース英語の構造を理解できるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
5	ニュース英語の実践的理解 1	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
6	ニュース英語の実践的理解 2	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ニュース英語の実践的理解 3	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
8	ニュース英語の実践的理解 4	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
9	ニュース英語の実践的理解 5	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
10	ニュース英語の実践的理解 6	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
11	ニュース英語の実践的理解 7	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
12	ニュース英語の実践的理解 8	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース英語の実践的理解 9	国際紛争、政治、経済、I T、環境問題など、その時々最新のニュースや、興味深いフィーチャー記事を教材として使い、各分野で頻出する単語や英語表現を学ぶ	
	この回の到達目標	各トピックスに関連する基本的な英語表現を知る。関連の英語ニュースを概略読めるようになる	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
14	授業内試験	ニュース英語 I での学習達成度合いを計測する	
	この回の到達目標	過去 1 3 回の授業の習得度合いを測定する	
	事前学修	過去 1 3 回の授業の総復習テストを行うので、授業で習った重要単語、重要構文をすべて暗唱しておく	180分
	事後学修	試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	60分
15	授業内試験の講評と復習	授業内期末試験の結果レビュー	
	この回の到達目標	試験でできなかった箇所を見直し、問題に正解できるようになる	
	事前学修	試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	180分
	事後学修	試験の講評を踏まえ、試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	60分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	森野 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
授業中の私語、居眠り、授業と関係ない情報機器の使用はしないこと。

【授業方法】

各回、New York Times (US)・Times (UK) などから教員が選んだ新聞記事を教材として配布する。取り上げた記事について、まず、ヘッドライン、サブヘッドから「誰／何が・どうした／どうする」というニュースが一番伝えたい情報を大きくつかんだ上で、その内容がどのように展開されているのかを読み解いていく。記事を日本語に翻訳するのではなく、5W1Hと一般に言われる報道内容の概要を読み取ることを目標とする。そのために必要な記事の読み方のスキルを身に着けること、そして記事の論理的構造を理解することに重点をおいて授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、事前学習レポートの記述内容より評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業当日の昼休み。事前にメール等でアポイントメントをとることが望ましい。 morino.satoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入授業		前半は、授業目標・方法・評価等についてのガイダンスを行う。後半は英語の新聞記事の構造について講義し、記事を訳すのではなく、伝えたい内容を読み取るというアプローチの重要性を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースの読み方、そのために求められるスキルを理解できる。		
	事前学修	シラバスに基づき授業の到達目標を理解するとともに、インターネット等で英語のニュースを視聴・閲覧し、自分の英語リテラシーや時事問題についての知識を確認する。		120分
	事後学修	授業で配布された記事の全文を翻訳し、伝えたい情報を自分がどの程度理解できたかを調べる。この試みから、英語のニュース記事について、訳すことと理解することの違いが把握できているかどうかを確認する。		120分
2	英語のニュース記事の構造		ニュース記事の構造について、具体例に基づき、次の2点について学習する。1) ヘッドラインとサブヘッドから報道内容の大枠（「誰／何が・どうした／どうする」）を読み取る演習を行い、ヘッドラインとサブヘッドから記事内容がどこまで読み取れるのかを理解する。2) 本文の導入（リード）のタイプによる内容の展開のされ方の違いを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ヘッドラインとサブヘッドとリードの情報構造としての役割を理解できる。		
	事前学修	日本の新聞について、ニュース記事の構造がどうなっているのかを調べる。		120分
	事後学修	任意の英文記事を読み、ヘッドライン、サブヘッドとリードから記事の概略がどの程度、読み取れるか、現時点での自分の到達度を確認する。		120分
3	キーワードの役割		ヘッドライン、サブヘッドを別の表現に言い換える演習を行う。この演習を通じてヘッドライン、サブヘッドがニュースの大枠を伝える際、用いるキーワード・キーフレーズに注目して報道内容の概略を読み取るスキルを身に着ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースのキーワード・キーフレーズを見つけることができる。		
	事前学修	インターネット等で同じ事件について複数の英語のニュース記事を参照し、ヘッドラインとサブヘッドの表現の違いを比較する。		120分
	事後学修	任意の英文記事を読み、ヘッドライン、サブヘッドとリードから記事の概略がどの程度、読み取れるか、現時点での自分の到達度を確認する。		120分
4	ニュース記事を精読する①		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分
5	ニュース記事を精読する②		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分
6	ニュース記事を精読する③		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ニュース記事を精読する④	前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースに内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
8	ニュース記事を精読する⑤	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、現段階での達成度が把握できる。	
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
9	ニュース記事を精読する⑥	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
10	ニュース記事を精読する⑦	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
11	ニュース記事を精読する⑧	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
12	ニュース記事を精読する⑨	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース記事を精読する⑩	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
14	授業の振り返り	これまでの授業内容のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、自分の到達度を把握する。	
	事前学修	授業で扱ったニュース記事10件を再読し、概要がきちんとつかめているかを確認する。	120分
	事後学修	自分の到達度に基づき、必要な学修を行う。	120分
15	授業内テスト・まとめ	テスト及びまとめを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習する。	120分
	事後学修	テストでできなかったところを復習する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	青木 紀美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
海外の動きに目を向けて関心を持ち、日本語と英語でニュース記事を読む習慣を身に着ける。英和・和英の辞書（スマホ辞書アプリも可）を持参する。

【授業方法】

当日または事前に配布・提示する記事や資料を読み、日本語と英語の時事的な常識と語彙の範囲を広げるとともに、情報を整理して要点を把握し、自分の言葉でまとめる能力を身に着ける。その時々動きや関心事を題材に取り入れるため、シラバスの内容とは異なるテーマを取り上げる可能性もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	△英語のニュース記事を読み情報を整理して日本語で説明する、△関連情報や背景を調べて発表する、△関心あるニュースを取り上げる、などの機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関して授業内試験を行う。英語のニュースを読み解き、情報を整理して、要点を把握できているかを基準に評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、授業への参画、授業での発言を基準に評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験や課題についてはその週または翌週にフィードバックを行い、誤りが多い点を指摘して説明する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業内および授業終了後に質問を受ける。 aoki.kimiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		長年、国際報道に携わり、英語と日本語でテレビのニュース・番組を取材・制作 海外の動きにアンテナを張る。情報源を確認し、5W1Hを整理して要点を把握し、適切な日本語で表現する。ニュースの関連・背景情報を調べる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	△授業のねらいと進め方、評価方法を確認 △ニュース英語を学習する各々の目標を確認	
	この回の到達目標	到達目標①②を念頭に各々が目標を確認。日常的にチェックするニュース情報源を確認。	
	事前学修	ニュース英語を学ぶことを通して自分が何を身につけたいかを改めて考える。	120分
	事後学修	日常的にチェックする英語と日本語のニュース情報源を確認して更新。	120分
2	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
3	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
4	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
5	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△関連・背景情報の検索、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
6	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英語でニュース記事を読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。関連のニュースをチェックする。	120分
8	英語でニュースを読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
9	英語でニュースを読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△異なる視点の検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方などについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
10	英語でニュースを読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△異なる視点の検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方、異なる視点があることなどについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
11	英語でニュースを読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△異なる視点の検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方、異なる視点があることなどについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
12	英語でニュースを読む・見る	△情報源の確認、△5W1Hの確認、△要点の整理、△日本語と英語で見出し検討、△関連・背景情報の検索、△異なる視点の検討、△時事英語の語彙拡大	
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方、異なる視点があることなどについて学ぶ。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	英語でニュースを読む・見る		△英語のニュース動画を視聴、△字幕をつけて見る、△日本語と英語で見出し検討、△関連記事を読む、△異なる視点の検討、△時事英語の語彙拡大
	この回の到達目標	ニュース記事・動画の情報の整理や把握、見出しのつけ方、関連情報の調べ方、異なる視点があることなどについて学ぶ。。	
	事前学修	英語のニュース記事を読む・見る。同じ題材の日本語の記事を読む。	120分
	事後学修	取り上げた内容を復習。毎日のニュース・チェックに応用する。	120分
14	授業内試験及び振り返り		△英語のニュース記事を読んで情報を整理し、要点を日本語で説明する △英語のニュース動画を見て情報を把握し、要点を日本語で説明する
	この回の到達目標	英語ニュース情報の理解、日本語での文章化力を確認する	
	事前学修	前の週までの学習内容を復習する	120分
	事後学修	試験で取り上げた内容を復習する	120分
15	まとめ		△試験結果を返却し、間違いが多かった点などを説明する △各々の目標を達成できたかどうかを振り返る
	この回の到達目標	到達目標①②にもとづく各々の目標が達成できたか振り返り、今後の学習目標を考える	
	事前学修	各々の目標を振り返り、達成できたこととできなかったこと、課題などについて整理する	120分
	事後学修	授業で学んだことをおさらいし、授業を離れた各々の学習方法を決めて実践する	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	池畑 修平	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
講義内で辞書（スマホや電子辞書などを含む）は参照可能。期末試験時は紙の辞書と授業内で配布した資料や回答した課題のみ参照可能。

【授業方法】		
英語での、新聞・通信社の記事、公式な声明、テレビニュースの放送内容などを教材として用い、読解力、ヒアリング能力、そしてニュースの背景などに関する理解力を身につけていく。なるべく学生たちが多く発言する機会をつくる。また、適宜、外国における取材活動、英語の国際ニュースを日本国内に伝えること、あるいは、日本のニュースを英語で世界に伝えることについて、それぞれの面白さや意義、課題などについて実務経験に基づいて説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ニュース英語に関する全般的な質疑応答 ②大きなニュースとなっている事象についての意見交換	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				3	3						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関して、授業で取り上げた英語のニュース 英語を読み解き、その背景を理解できているかを、期末試 験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	到達目標①に関して、授業内や宿題で英語記事の翻訳や、 声明やスピーチをもとに日本語の記事を書くことができる か評価する。	20										20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②が達成できているのかに関して授業内の質疑応 答で評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
①期末試験の採点と解説 ②授業内や宿題としての翻訳や記事執筆の添削や講評	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、キャンパス内で質問などに対応。メールでも対応。 ikehata.shuhei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 NHK報道局国際部、複数の海外支局、および国際放送局World News部での勤務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		海外の報道機関が伝える英語ニュースをNHKの日本語放送用に翻訳する上での留意点、ならに びに国際放送局が世界に向けて英語で日本のニュースを伝える際の特徴などを教授する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	経済ニュース①、導入		貿易についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。現在の自由貿易体制が直面している課題などについてディスカッション。
	この回の到達目標	専門用語が多く、やや難解な内容が多い経済ニュースに馴染み、ニュースの背景についての理解を深める。貿易立国として経済成長を遂げてきた日本がいま直面している課題について考察する。	
	事前学修	貿易について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
2	経済ニュース②		労働生産性や賃金についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。日本の賃金上昇幅が国際的に非常に低い水準にとどまってきた背景などについてディスカッション。
	この回の到達目標	専門用語が多く、やや難解な内容が多い経済ニュースに馴染み、ニュースの背景についての理解を深める。DXなど、日本の労働生産性を高め、賃金水準を引き上げるために何が必要かについて考察する。	
	事前学修	労働生産性や賃金について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
3	経済ニュース③		金融や証券市場についてのニュースを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。金融や証券市場のニュースが一般国民の暮らしとどう関わっているかなどについてディスカッション。
	この回の到達目標	専門用語が多く、やや難解な内容が多い経済ニュースに馴染み、ニュースの背景についての理解を深める。日本の金融政策やアメリカの証券市場の最新状況を踏まえて、日本や世界の経済先行きなどについて考察する。	
	事前学修	金融について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
4	学生の関心が高いニュース		経済ニュースの中から、学生たちに関心が高いトピックを選んでもらい、それに関するニュース素材を取り上げる。
	この回の到達目標	専門用語が多く、やや難解な内容が多い経済ニュースに馴染み、ニュースの背景についての理解を深める。到達目標①②に関して、経済ニュースに的を絞ってどこまで達成できているかを確認し、今後の学習につなげる。	
	事前学修	授業で取り上げることになったトピックについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
5	声明とニュース①		2022年1月3日に核兵器を保有する5か国（米、英、仏、中、露）が共同で発表した「核戦争回避」の声明 (Joint Statement of the Leaders of the Five Nuclear-Weapon States on Preventing Nuclear War and Avoiding Arms Races) と、その声明をめぐるニュースを取り上げる。声明とニュースの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。声明が出された背景やメディアの視点などについてディスカッション。
	この回の到達目標	公的な声明の原文と、それを土台にしたニュース記事の双方を読み解くことで、ニュースの背景に対する理解を深める。また、記者たちが「何がニュースのポイントか」と判断したのかについての考察をし、自分なら同じ判断をするか、あるいは違うポイントを見つけ出したかについて考察する。	
	事前学修	核軍縮をめぐる近年の動きについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
6	声明とニュース②		2018年6月12日に米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩国務委員長が署名した米朝共同声明と、その声明をめぐるニュースを取り上げる。声明とニュースの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。声明が出された背景やメディアの視点などについてディスカッション。
	この回の到達目標	公的な声明の原文と、それを土台にしたニュース記事の双方を読み解くことで、ニュースの背景に対する理解を深める。また、記者たちが「何がニュースのポイントか」と判断したのかについての考察をし、自分なら同じ判断をするか、あるいは違うポイントを見つけ出したかについて考察する。	
	事前学修	近年のアメリカと北朝鮮の関係について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	声明とニュース③		2021年11月13日に国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）で採択された成果文書「グラスゴー気候合意（Glasgow Climate Pact）」と、その合意をめぐるニュースを取り上げる。声明とニュースの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。声明が出された背景やメディアの視点などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	公的な声明の原文と、それを土台にしたニュース記事の双方を読み解くことで、ニュースの背景に対する理解を深める。また、記者たちが「何がニュースのポイントか」と判断したのかについての考察をし、自分なら同じ判断をするか、あるいは違うポイントを見つけ出したかについて考察する。		
	事前学修	気候変動問題について、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
8	スピーチとニュース①		パキスタンのマララ・ユスフザイさんが2013年7月12日に国連本部で行ったスピーチ(Malala Yousafzai's speech at the United Nations)と、そのスピーチをめぐるニュースを取り上げる。スピーチのヒアリング、字起こしの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。スピーチの背景やメディアの視点などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	スピーチを聞くことでヒアリングの力を高める。字起こしを読み解いたうえでメディアが伝えた記事を読むことで、スピーチへの理解を深めるとともに、メディアが報道したスピーチのポイントと自らが重要と考えたポイントを比較し、共通点や違いを考察する。		
	事前学修	最近のマララさんに関する複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
9	スピーチとニュース②		スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが2019年9月23日に国連気候変動サミットで行ったスピーチ(Greta Thunberg's UN climate speech)と、そのスピーチをめぐるニュースを取り上げる。スピーチのヒアリング、字起こしの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。スピーチの背景やメディアの視点などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	スピーチを聞くことでヒアリングの力を高める。字起こしを読み解いたうえでメディアが伝えた記事を読むことで、スピーチへの理解を深めるとともに、メディアが報道したスピーチのポイントと自らが重要と考えたポイントを比較し、共通点や違いを考察する。		
	事前学修	最近のグレタさんに関する複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
10	スピーチとニュース③		アメリカの詩人アマンダ・ゴーマンさんが2021年1月20日にバイデン大統領の就任式で読み上げた詩(Amanda Gorman's inaugural poem)と、その詩をめぐるニュースを取り上げる。詩のヒアリング、字起こしの読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。詩の背景やメディアの視点などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	詩を聞くことでヒアリングの力を高める。字起こしを読み解いたうえでメディアが伝えた記事を読むことで、詩への理解を深めるとともに、メディアが報道した詩のポイントと自らが重要と考えたポイントを比較し、共通点や違いを考察する。		
	事前学修	2020年に行われた米大統領選挙に関する複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
11	2024年の重大ニュース①		2024年の重大ニュースの中から学生たちの関心が高いものを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。そのニュースの背景と、メディアの伝え方などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、2024年の大きなニュースを題材にしてどこまで達成できているかを確認し、今後の学習につなげる。		
	事前学修	授業で取り上げるようになったトピックについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
12	2024年の重大ニュース②		2024年の重大ニュースの中から学生たちの関心が高いものを取り上げる。ニュース全体の読み解き、理解のポイントとなる単語の精査。そのニュースの背景と、メディアの伝え方などについてディスカッション。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、2024年の大きなニュースを題材にしてどこまで達成できているかを確認し、今後の学習につなげる。		
	事前学修	授業で取り上げるようになったトピックについて、複数の英語ニュース（活字・放送ともに）に接し、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	期末試験に向けた総括	授業で取り上げた経済ニュース、声明、スピーチ、重大ニュースについて、ポイントとなる単語やニュースの背景を再確認する。	
	この回の到達目標	これまで取り組んだ4つのジャンルのニュースや声明などを改めて読み解いたり聞き取ったりすることで、到達目標①②に関してどこまで達成できているかを確認し、期末試験に向けた準備ができるようにする。	
	事前学修	授業全体で取り上げたニュースの記事などを改めてよく読み、内容や背景を理解できているかを自分なりに確認する。	120分
	事後学修	授業で出されたニュースを復習し、内容に対する理解を深め、分からない英単語は辞書で調べて学ぶ。	120分
14	期末試験及びまとめ	期末試験を実施する。	
	この回の到達目標	試験を通じて到達目標①②に関してどこまで達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容全体を復習する。	200分
	事後学修	試験で難しかった内容について改めて授業内で配布した資料を読み直し、復習をする。	120分
15	期末試験のフィードバック	期末試験のフィードバックを行ったうえで、講義全体の復習をする。	
	この回の到達目標	試験結果を踏まえて、到達目標①②に関して、どこまで達成できていたのかを確認する。点数のみにこだわらず、どういうニュースに関心を覚えたかなどについて意見交換し、今後のニュース英語学習に向けた意欲を高める。	
	事前学修	試験で難しかった内容について改めて授業内で配布した資料を読み直し、復習をする。	100分
	事後学修	試験で十分に解けなかった箇所を確認し、復習する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	東 一真	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
日本語・英語のニュースを毎日読む。英和・和英辞書（電子辞書、スマホアプリも含む）とノートを授業に持参する。

【授業方法】
授業で使うテキストは、授業で配布する。学生は授業時間内に英文を読み読解する。そのうえで、英語の構文や重要単語、テキスト内容説明を行う。授業ではパワーポイントを主に使う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の冒頭、最新のニュース記事を、テキストまたは音声で示す。学生に読み取ったり、聞き取ったりさせたうえで、その内容を説明させる。また、ニュースの背景について学生が知っていることを発表させたり、ニュースについて感想を発表させたりする。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名するときもある。また、グループ学習やグループごとの発表などをする場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができているかどうかを基準に評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に定時にきちんと出席し、質問に的確に答えているかどうかを評価する。	10	10									20
その他()	指定した超長文英語を暗唱した学生には、プラスアルファの評価を行う。	20										20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を、次の授業で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了直後に、授業講堂で質問できる

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 新聞社に3.5年間勤務し、海外勤務や海外留学などで、英語での取材・執筆・発表経験がある
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際会議や海外での取材経験に基づき、報道がいかになされるかを説明する。また、英語を読む、聞く能力がいかに大切かを伝える

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	今後の授業の進め方、受講にあたっての注意点、授業内試験のやり方ーなどを説明する	
	この回の到達目標	ニュース英語Ⅱで学ぶ内容と、今後の授業の進め方を理解する	
	事前学修	シラバスを読んで授業を概観する。日本語と英語のニュースを読み、その概要を押さえる	60分
	事後学修	授業の進め方などを理解した上で、英語・日本語でニュース記事を読んでみる	180分
2	ニュース英語の実際 1	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
3	ニュース英語の実際 2	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
4	ニュース英語の実際 3	A P、ロイター、CNNなどの最新のニュース記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
5	ニュース英語の実際 4	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
6	ニュース英語の実際 5	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ニュース英語の実際6	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
8	ニュース英語の実際7	A P、ロイター、CNNなどの最新のニュース記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
9	ニュース英語の実際8	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
10	ニュース英語の実際9	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
11	ニュース英語の実際10	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
12	ニュース英語の実際11	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。 ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース英語の実際12	A P、ロイター、CNNなどの最新記事などを教材に使い、ニュース英語への理解を深める。ニュースの背景についても調べる時間を設け、世界の今を理解する一助とする	
	この回の到達目標	授業で取り上げたトピックスの関連英語記事を読めるようにする	
	事前学修	新聞、ネット、テレビ等で日々の海外ニュースをチェックし、頭に入れておく	60分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再読し、重要単語、重要構文を暗唱する	180分
14	授業内試験	ニュース英語Ⅱでの学習達成度合いを計測する	
	この回の到達目標	過去13回の授業の習得度合いを測定する	
	事前学修	過去13回の授業の総復習テストを行うので、授業で習った重要単語、重要構文をすべて暗唱しておく	180分
	事後学修	試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	60分
15	授業内試験の講評と復習	授業内期末試験の結果レビュー	
	この回の到達目標	試験でできなかった箇所を見直し、問題に正解できるようになる	
	事前学修	試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	180分
	事後学修	試験の講評を踏まえ、試験で正解できなかった重要単語、重要構文を各自チェックし、復習する	60分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	森野 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
授業中の私語、居眠り、授業と関係ない情報機器の使用はしないこと。

【授業方法】		
各回、New York Times (US)・Times (UK)などから教員が選んだ新聞記事を教材として配布する。取り上げた記事について、まず、ヘッドライン、サブヘッドから「誰／何が・どうした／どうする」というニュースが一番伝えたい情報を大きくつかんだ上で、その内容がどのように展開されているのかを読み解いていく。記事を日本語に翻訳するのではなく、5W1Hと一般に言われる報道内容の概要を読み取ることを目標とする。そのために必要な記事の読み方のスキルを身に着けること、そして記事の論理的構造を理解することに重点をおいて授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、事前学習レポートの記述内容より評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業当日の昼休み。事前にメール等でアポイントメントをとることが望ましい。morino.satoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入授業		前半は、授業目標・方法・評価等についてのガイダンスを行う。後半は実際に英語の新聞記事を読みながら、記事を訳すのではなく、伝えたい内容を読み取るというアプローチの重要性を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースの読み方、そのために求められるスキルを理解できる。		
	事前学修	シラバスに基づき授業の到達目標を理解するとともに、インターネット等で英語のニュースを視聴・閲覧し、自分の英語リテラシーや時事問題についての知識を確認する。		120分
	事後学修	授業で配布された記事の全文を翻訳し、伝えたい情報を自分がどの程度理解できたかを調べる。この試みから、英語のニュース記事について、訳すことと理解することの違いが把握できているかどうかを確認する。		120分
2	英語のニュース記事の構造		ニュース記事の構造について、具体例に基づき、次の2点について学習する。1) ヘッドラインとサブヘッドから報道内容の大枠（「誰／何が・どうした／どうする」）を読み取る演習を行い、ヘッドラインとサブヘッドから記事内容がどこまで読み取れるのかを理解する。2) 本文の導入（リード）のタイプによる内容の展開のされ方の違いを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ヘッドラインとサブヘッドとリードの情報構造としての役割を理解できる。		
	事前学修	日本の新聞について、ニュース記事の構造がどうなっているのかを調べる。		120分
	事後学修	任意の英文記事を読み、ヘッドライン、サブヘッドとリードから記事の概略がどの程度、読み取れるか、現時点での自分の到達度を確認する。		120分
3	キーワードの役割		ヘッドライン、サブヘッドを別の表現に言い換える演習を行う。この演習を通じてヘッドライン、サブヘッドがニュースの大枠を伝える際、用いるキーワード・キーフレーズに注目して報道内容の概略を読み取るスキルを身に着ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースのキーワード・キーフレーズを見つけることができる。		
	事前学修	インターネット等で同じ事件について複数の英語のニュース記事を参照し、ヘッドラインとサブヘッドの表現の違いを比較する。		120分
	事後学修	任意の英文記事を読み、ヘッドライン、サブヘッドとリードから記事の概略がどの程度、読み取れるか、現時点での自分の到達度を確認する。		120分
4	ニュース記事を精読する①		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分
5	ニュース記事を精読する②		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分
6	ニュース記事を精読する③		前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。		120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ニュース記事を精読する④	前回配布した記事について、ヘッドラインとサブヘッドより報道内容の大枠をつかみ、さらにリード以下、本文でそのトピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や一番伝えたい情報内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、ヘッドラインとサブヘッドより記事の概要をまとめ、事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
8	ニュース記事を精読する⑤	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
9	ニュース記事を精読する⑥	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
10	ニュース記事を精読する⑦	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
11	ニュース記事を精読する⑧	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
12	ニュース記事を精読する⑨	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース記事を精読する⑩	前回配布した記事について、ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、内容理解に関する事前学習レポートを提出する。	120分
	事後学修	授業での解説をもとに、配布された記事の概略を読み取る。	120分
14	および授業の振り返り	これまでの授業を踏まえ、ニュース英語の読み方を整理する。ヘッドライン・サブヘッドから記事の大枠をつかんだ上で、本文でさらに読み取るべき内容は何か、それがどこで展開されているのかを把握する読み方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、現段階での自分自身の達成度が把握できる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返り、質問等を整理する。	120分
	事後学修	自分の達成度に基づき、必要な学修を行う。	120分
15	授業内テスト・まとめ	テスト及びまとめを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習する。	120分
	事後学修	テストでできなかったところを復習する。	120分

科目名	農業政策	担当者	西川 邦夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・歴史・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガFTAの締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で実施する。授業で使用する資料は事前にポータルシステムにアップロードするので、事前学修として予め目を通しておくこと。なお、授業中に資料は配布しないので、各自でプリントアウト等して準備をすること。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 不定期にリアクション・ペーパーを使用した双方向の議論や、映像視聴の導入を試みる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	農業問題と農業政策の基礎理論を理解し、説明することができる。							4	4	4			
②	農業問題と農業政策の実態を理解し、説明することができる。					4							
③	農業問題と農業政策の歴史を理解し、説明することができる。					4							
④	農業問題と農業政策を国際的な文脈から理解し、説明することができる。					4							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験によって、到達目標①～④を十分に達成できているか確認する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内試験は返却・添削はしない。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書・参考書等は使用しない。授業で使用する資料で参考文献等を紹介する。				

【オフィスアワー】	
授業時間の前後（金曜・5時限）に講堂で対応する。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	プロローグ：農業問題と農業政策		経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④の前提となる、農業政策の基礎理論を理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分
2	農業政策の形成史		農業政策が19世紀末にヨーロッパで発生した農業問題に端を発するとともに、日本においては米政策をめぐって展開してきたことを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、19世紀末以降の農業政策の形成史を理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分
3	国際農産物貿易交渉の展開過程		1980年代のGATTウルグアイ・ラウンドから近年のFTAに至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、GATTウルグアイ・ラウンドからFTAに至る国際貿易交渉の展開過程を理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分
4	TPP・日米貿易協定と日本農業		日本も参加したTPP及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、TPP・日米貿易協定と日本農業の関係について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分
5	アメリカ農業の歴史と現状①		日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、アメリカ農業の歴史と現状について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分
6	アメリカ及びカリフォルニアの稲作		日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、日本とも関係が深いアメリカ及びカリフォルニア州の稲作について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。		120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱ったDVDを鑑賞し、第4～5回授業の理解を深める。		
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、アメリカ農業の歴史と現状について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	
8	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、国際農産物市場の動向と食料自給率等に代表される日本の食料安全保障について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	
9	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、日本の食料消費の変化を経済や家族関係と関連させて理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	
10	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地政策改革に注目して検討する。		
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、日本の農業構造変動と多様な担い手の実態について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	
11	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、脆弱化が進む農業労働力の実態と新しいタイプの労働力について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	
12	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、農業が果たす多面的機能と生態系サービスの効用について理解する。		
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分	
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、中山間地域を中心とした条件不利地域農業の実態と政策について理解する。	
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分
14	エピローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、農業政策と農業問題を関連させて今後の政策のあり方について新しい知見を提供する。	
	事前学修	事前にポータルシステムにアップロードされた資料に目を通すとともに、そこで紹介されている参考文献等を調べる。	120分
	事後学修	資料及び講義ノートを用いて、授業で学んだ内容を確認する。また、事前学修で読んだもの以外の参考文献等を調べる。	120分
15	授業内試験及び解説	授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	これまでの授業で学んだ内容を理解できているか、授業内試験で確認する。	
	事前学修	授業内試験に向けて、これまで配布された資料等を確認する。	120分
	事後学修	授業内試験の内容を改めて見直し、授業の到達目標を満たしたか確認する。	120分

科目名	犯罪心理学	担当者	秋田 悠希	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
犯罪捜査、裁判、矯正、犯罪被害など、司法・犯罪心理学が対象とする範囲は広い。本授業では、少年司法を中軸に添えながら、これらの領域に関わる基本的事項、犯罪理論及び犯罪者処遇について学修する。具体的には、①犯罪というものをどのように理解できるか、理論的、統計的、法制度の側面から基礎的な知識を扱う。②司法・犯罪に関わる関係機関における心理職の実際について触れる。③今日における司法・犯罪心理学の課題、各種犯罪とその心理について扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①犯罪・非行、犯罪被害等についての基本的事項を説明できる力を身につける。 ②新聞報道等の具体的な事例を通じて、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。 対応DP及びCP:公共政策学科1， 3， 4

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	トピックによって、グループ・ディスカッション、ロールプレイを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事司法手続が直面する問題の解決に心理学の知見がどのように活かされているか説明できる。					4							
②	我が国における犯罪・非行の動向について、統計等の客観的な情報に基づいて説明できる。					4							
③	犯罪・非行を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて罪種別に説明できる。					4							
④	児童虐待等の不適切な養育が子供のパーソナリティ形成に与える影響及び非行・犯罪との関係について説明できる。					4							
⑤	犯罪心理学が扱う分野に関する事項について、自ら問いを設定して考察し、その結果を発表できる。							4	4	4			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④の達成度を筆記試験により総合的に評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に配布するフィードバックシートに基づいて、到達目標⑤に関わる能力が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	20	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却、添削

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
司法・犯罪心理学	門本泉	ミネルヴァ書房	2020	教科書	推奨
備考	授業中に、別途資料を配布する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。ybooashigoto@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	法務省法務技官として加害者臨床に従事した。中野区児童相談所児童心理司として虐待対応、触法事案への対応に従事した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		少年鑑別所や児童相談所の心理職として実務経験のある教員が、その経験を活かし、司法犯罪分野における心理臨床の実務について実践的な授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入	①授業の内容、進め方、評価方法等について説明を行う。 ②犯罪・非行行動の心理について、具体的な架空事例を用いて説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①について、犯罪非行行動の心理についての概略を説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義で取り扱った犯罪非行行動の心理について、ノートにまとめる。	120分
2	少年司法手続の概略・犯罪非行の実態	①少年非行を中心に、司法手続の概略について説明をする。 ②各種統計資料から現代における犯罪・非行の実態について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②について、司法手続の概略や統計資料からわかる犯罪非行の実態について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、司法手続の概略や犯罪統計の見方についてノートに整理する。	120分
3	刑事政策における犯罪心理学	①再犯防止推進法に基づく施策において、心理学がどのように活用されているかを説明する。 ②施策の効果検証について説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標①について、刑事政策の現在の動向や施策の効果検証の方法について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。	120分
4	施設内処遇	①少年鑑別所、少年院、刑事施設について理解をする。 ②拘禁の心理、自殺・自傷の心理について説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③について、施設内処遇を担う関係機関の概要、拘禁や自殺・自傷の心理について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
5	社会内処遇・地域社会における支援	①保護観察所を中心に社会内処遇の実情について理解をする。 ②再犯防止に向けた地域援助について理解をする。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③について、社会内処遇を担う関係機関の概要、地域社会における支援体制について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
6	児童福祉と少年非行	①非行少年におけるトラウマの影響について理解する。 ②児童福祉領域における非行のアプローチ方法について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、④について、非行少年の背景にあるトラウマの影響について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	司法面接		①司法場面における子供の供述の課題について理解をする。 ②司法面接という方法について体験的に理解をする。
	この回の到達目標	到達目標①、④について、司法場面において用いられる司法面接という手法について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
8	犯罪被害者と加害者家族		①犯罪被害者支援の施策、犯罪被害の心理について理解をする。 ②加害者家族の置かれた状況、支援について理解をする。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③について、犯罪被害者支援の実情や加害者家族の支援の実情について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
9	犯罪・非行理論		①犯罪心理学・司法心理学の歴史的経緯について説明をする。 ②各種理論について説明をする。
	この回の到達目標	到達目標①、③について、犯罪・非行に関する理論を説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
10	犯罪・非行のアセスメント		①少年鑑別所や刑事施設における鑑別・調査について説明をする。 ②再犯を予測するためのリスクアセスメントについて説明をする。
	この回の到達目標	到達目標①、③について、鑑別手続やリスクアセスメントの概要について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
11	犯罪非行における心理的介入		再犯防止に向けた心理的介入方法について、認知行動療法やグループなどを中心に説明する。
	この回の到達目標	到達目標①について、窃盗や詐欺などの背景にある心理的メカニズムについて説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
12	粗暴犯・窃盗犯		①暴行、傷害などの背景にある心理的メカニズムについて説明をする。 ②窃盗等の背景にある心理的メカニズムについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標②、③について、暴行や傷害・窃盗の背景にある心理的メカニズムについて説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	薬物犯罪		①薬物犯罪の動向やその背景にある心理的メカニズムについて説明をする。
	この回の到達目標	到達目標②、③について、薬物犯罪の背景にある心理的メカニズムについて説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
14	性犯罪		①性犯罪・性非行の動向、その背景にある心理的メカニズムについて説明をする。
	この回の到達目標	到達目標②、③について、性犯罪の背景にある心理的メカニズムについて説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分
15	試験・まとめ		①犯罪心理学に関する基礎的知識について確認を行う。 ②再犯防止という視点で解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④について、犯罪心理学の基礎概念について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	120分
	事後学修	講師に用いた資料を再読し、講義内容の理解を深める。講義内容について、参考書や配布資料の該当箇所と付き合わせてノートを整理する。	120分

科目名	比較行政論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
米英独仏の行政制度を概観し、それぞれの行政と議会との関係、官僚制度、行政運営方式の違い等について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、各国間の行政システム・官僚制度の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を踏まえて課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各国の行政制度の成り立ちが、それぞれ固有の歴史的経緯に根差すものであることを理解し、いたずらに外国制度を賛美・称揚せずに我が国行政組織を分析できる。						2					
②	日米欧各国の行政組織の差異を歴史的経緯や政治文化、国民意識など照らし、論理的に説明できる。					2		2				
③	世界の先進事例を学び、我が国行政の改善策を提案できる。								2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉でき説明できているか等を筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかかわる説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	
		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び政治行政体制区分	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②政治行政体制の大まかなカテゴリーを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、大統領制と議院内閣制の差異、国ごとの政官関係の違い等につき概括的に説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②あらかじめ配布するレジュメに目を通し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	アメリカの政治行政体制①	アメリカ特有の厳格な三権分立制度の成立経緯・実際の運用状況ホワイトハウス、各省などの組織体制等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、アメリカ政治行政の歴史的背景、そのメリット・デメリット、我が国システムとの比較等を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりアメリカ政治行政の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	アメリカの政治行政体制②	アメリカ政治行政制度の歴史的発展経緯などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、日英独仏とアメリカの政治行政制度の主な違いは何か、また違いの生まれる理由は何か説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりアメリカ政治行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	英国の政治行政体制	英国王室・議会・内閣・各省庁・自治体等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して英国と他国の内閣・省庁関係の違いについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により英国政治行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	英国の政治行政体制②	英国政治行政制度の歴史的発展経緯について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、英国政治行政制度の形成過程などについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により英国行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	ドイツの政治行政体制①	ドイツ連邦制の成立経緯・現状、政府の構成などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツの連邦―州関係が成立した理由を歴史的背景を含めて説明することができる。	
	事前学修	行政学テキスト等によりドイツ政治行政体制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ政治行政体制 2	ドイツ政治行政制度の歴史的発展経緯について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツと日英米仏の制度との異同及びその理由を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりドイツ制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	フランスの国家と社会	今日のフランス社会、国家制度、フランス人の意識構造を形作ってきた歴史的展開、気候風土、社会文化、隣国との関係などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスという国は何を指すのか、フランス人とはどういう人たちなのか説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりフランス国家社会の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	フランスの憲法・統治構造	フランス第5共和政の特徴である立法府に対する行政府の圧倒 的な優越等を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの強力な大統領制・行政の立法府に対する優越はどのような経緯で成立 し、具体的にどのように運営されているのか説明することができる。	
	事前学修	世界史教科書等により第2次大戦後にフランスの置かれた状況と、アルジェリア動乱の経緯を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	フランスのライシテ	フランス革命の遺産として今日まで引き継がれた政教分離原則や現代フランスが直面するイスラム教との関係などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ヨーロッパ各国政治行政の歴史におけるカトリック教会の影響力の理解にたつて政教分離原則の意義を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりフランスのライシテについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	フランスの行政制度①	”ナポレオンの確立した近代フランス行政制度の成立背景・特徴などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、近代フランス行政制度の特徴を王政下の行政体制と比較して説明することができる。	
	事前学修	世界史教科書等で皇帝ナポレオン1世が政治・行政体制確立の上で果たした事績について学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	フランスの行政制度②	フランス行政組織の特徴である国務院（コンセイユデタ）、憲法院などの制度を始め、各省庁の構成・組織編成方式 などについて我が国制度と対比させつつ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国務院等の組織の特徴を王政下での歴史的起源も援用しつつ説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により現代フランスの行政システムについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	フランスの行政制度③	フランス行政制度の歴史的発展経緯について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス制度の特徴を日米英独と対比しつつ説明することができる。	
	事前学修	指定された文献によりフランス制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	フランスの地方制度	中世以来の歴史的・文化的地域区分である「州」と大革命期以降に創設された人為的行政区画である「県」が混在した地方制度について学習する。ミッテラン政権時代の分権改革で県が国の機関から「自治体」への変貌した経緯等を学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの地方制度の変遷について我が国の地方分権改革と対比させて説明することができる。	
	事前学修	世界史教科書等で「キューバ危機」の概要を把握し、可能であれば米映画「13デイズ」をDVD等で視聴しておくことが望ましい	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	比較憲法Ⅰ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Ⅰでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅱ（統治機構）」を履修済みであるか、現在、履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。				2							
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30研究室にて事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	比較憲法とは何か		比較憲法とは何かを、比較憲法学の方法論や対象範囲を概説することによって明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、比較憲法学の方法論や比較の対象となる事柄を説明できる。		
	事前学修	教科書第1章「比較憲法とは何か」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、自分なりの講義ノートを作っておく。		150分
2	日本国憲法と比較憲法学		日本にとって比較憲法学がいかなる意味をもつものであるかを、歴史的・現代的観点から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、日本における比較憲法学の意義を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章「日本の憲法学と比較憲法」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、日本の憲法体制の展開、憲法学の展開の流れがわかるような講義ノートを作っておく。		150分
3	近代立憲主義の展開		日本国憲法との比較対象とされることの多い近代立憲主義の憲法体制について、歴史的展開を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、近代立憲主義という憲法体制について説明できる。		
	事前学修	教科書第3章「現代憲法の特徴」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、比較のキーワードとなる近代立憲主義についての自分なりの講義ノートを作っておく。		150分
4	現代の憲法体制の展開		現代の憲法体制の特徴について、特にイギリス、アメリカ、フランス、ドイツを中心に概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツの憲法体制について説明できる。		
	事前学修	教科書第4章「各国憲法の概観（1）イギリス」～第7章「各国憲法の概観（4）ドイツ」を読んでおく。		150分
	事後学修	それぞれの国の憲法体制について、その特徴を理解できるようなノートを作っておく。		90分
5	民主制の2つの類型		民主制に関する「多数派支配型デモクラシー」と「協調型デモクラシー」との違いを、憲法体制の観点から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、多くの憲法体制で採用される民主制のあり方を比較憲法学的手法で説明できる。		
	事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。		90分
	事後学修	民主制の類型についての理解を、事前学修で得た知識と合わせて整理しておく。		120分
6	議会制民主主義と選挙制度		民主制の具体的な形態としての議会制民主主義と、それを支える選挙制度について比較憲法的手法により概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、議会制民主主義のあり方が選挙制度と強く結びついていることを各国の憲法体制の比較から説明できる。		
	事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。		90分
	事後学修	特に各国の選挙制度のあり方に関するノートを作っておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政治部門の権力分立	統治構造における立法府と行政府との権力分立を、比較憲法学的な見地から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、大統領制、議院内閣制などの具体的な権力分立制度を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章「権力分立」を読んでおく。	90分
	事後学修	特に大統領制と議院内閣制との違い（民主的正当化のプロセスの違い）をまとめたノートを作っておく。	150分
8	権力分立と「法律の留保」	議会を中心とした権力分立にとっての重要な理念である「法律の留保」が各国憲法においてどのように位置づけられているのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法条文・憲法実例を素材として「法律の留保」の位置づけを説明できる。	
	事前学修	事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各国の憲法判例を整理して、法律の留保についての各国のスタンスの違いをまとめたノートを作っておく。	150分
9	裁判制度	各国の裁判制度について、比較憲法的手法により、それぞれの特徴を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、一元的裁判所システムや多元的裁判所システムなどの各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第13章「裁判制度」を読んでおく。	90分
	事後学修	講義で取り扱った国の裁判制度について、システムの違いを中心として整理したノートを作っておく。講義中で取り扱えなかった国については、追加資料を参照しておく。	150分
10	司法権と違憲審査権	各国における「司法権」と「違憲審査権（憲法裁判権）」との関係性に関する理解を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、司法権と違憲審査権との関係性が違憲審査制の具体的システムに大きな影響を与えることを説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」を読んでおく。	90分
	事後学修	違憲審査制の類型がどのような憲法理解と結びついているかに関するノートを作っておく。	150分
11	付随的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、付随的違憲審査制を中心に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、付随的違憲審査制の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、付随的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分
12	抽象的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、抽象的違憲審査制を中心に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、抽象的違憲審査制の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、抽象的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	憲法保障	憲法保障の意義と制度について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法における憲法保障がもつ意義を説明できる。	
	事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	講義で述べたことを参考に、憲法保障が憲法体制の維持にとってどのような意味をもっているのかを、具体的な事例との関係で整理したノートを作っておく。	150分
14	憲法改正	憲法保障の一環としての「憲法改正」について、各国の改正制度や改正実例を比較する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、憲法改正の手續や改正実例についての各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、憲法改正についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	まとめ	国家組織に関する各国比較についてのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、国家組織及び国家統治に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
	事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
	事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較憲法Ⅱ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Ⅰでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅰ（人権）」を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。						2						
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。								2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30研究室にて事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	各国の人権保障の展開	憲法上の人権が世界の国々においてどのように保障されてきたかを歴史的な展開を通じて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、比較憲法学における人権保障の理解を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、各国での人権保障の特徴に関するノートを作っておく。	150分
2	現代の人権保障の特徴	現代の憲法体制が共通に抱える人権保障の課題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、人権保障に関する共通の問題性を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	とりわけ人権保障と国家権力の発動との関係性に関する議論について、理解を整理し、ノートを作っておく。	150分
3	包括的人権規定（イギリス・アメリカ）	英米法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	イギリス・アメリカにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
4	包括的人権規定（フランス・ドイツ）	大陸法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	フランス・ドイツにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
5	各国での平等論の変遷	平等という概念の歴史的な展開を各国憲法の条文構造なども参照しつつ概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、平等概念が抱える解釈上の難問を比較憲法学的見地から説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	絶対的平等/相対的平等，形式的平等/実質的平等に関する理解を整理してノートを作っておく。	150分
6	現代の平等問題	各国において問題となっている具体的な平等問題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での具体的な平等問題とそれに対する対応を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	特にアファーマティブ・アクションやパリテに関する議論を整理してノートを作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	信教の自由		各国における信教の自由保障及び政教分離原則のあり方について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ヨーロッパにおけるイスラムスカーフの問題などを信教の自由の観点から説明できる。		
	事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。		90分
	事後学修	信教の自由の位置づけの違いを中心に議論を整理してノートを作っておく。		150分
8	表現の自由		各国における表現の自由保障について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、表現の自由の保障とそれに関わる裁判所の役割論について説明できる。		
	事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。		90分
	事後学修	表現の自由に関する各国の裁判例を整理してノートを作っておく。		150分
9	職業の自由		職業活動の自由が各国の憲法体制においてどのように保障されているかを論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国における職業活動の自由の保障の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。		90分
	事後学修	特にアメリカのロックナー判決やドイツの薬事法判決などを整理してノートを作っておく。		150分
10	財産権保障		各国における財産権保障について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財産権保障のあり方の違い、その具体化に関する議論を説明できる。		
	事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。		90分
	事後学修	財産権保障がもつ共通の特徴に対して各国がどのような対応をしてきたかを整理しノートを作っておく。		150分
11	刑事手続と人権保障		各国における刑事手続と人権保障との関係性を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、刑事手続の重要性と人権保障とのバランスングについて説明できる。		
	事前学修	教科書第18章「人身の自由」を読んでおく。		90分
	事後学修	とりわけ現代的なテロ対策と人権保障との関係についての各国の対応を整理してノートを作っておく。		150分
12	手続的権利・受益権		各国における手続的権利・受益権の保障について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での手続的権利・受益権の保障のあり方を説明できる。		
	事前学修	教科書第19章「参政権・国務請求権」を読んでおく。		90分
	事後学修	各国における手続保障の特徴について整理してノートを作っておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生存保障	各国の憲法体制における生存保障のあり方について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、生存保障の諸類型について説明できる。	
	事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
	事後学修	生存保障を憲法レベルで行う国家（日本、フランスなど）と憲法レベルでは行わない国家（アメリカ、ドイツなど）との比較を整理してノートを作っておく。	150分
14	労働・教育保障	各国の憲法体制における労働・教育保障のあり方について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、労働・教育保障についての各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、労働・教育保障についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	まとめ	人権保障に関する各国比較についてのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、人権保障に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
	事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
	事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較ジャーナリズム史	担当者	小林 聡明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本授業は、メディアと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通すための、一つの思考枠組みを示すねらいがある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、メディアの可能性と限界を把握し、現代社会に構造化されたメディアの諸問題を克服するために、グローバルな視野と歴史的視点を獲得する。それは、異なる地域における歴史的展開を比較し、 歴史の重層性、複数性 (histories) を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を培おうとするものである。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情に興味を持ち、歴史的な観点から考えることに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、日本史や世界史などの歴史に関する授業もあわせて受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内での課題やレポートに対して、次回の授業でフィードバックを行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの歴史的展開について、社会との関係性を踏まえながら、説明することができる。						1							
②	日本を含む東アジア諸国やアメリカにおけるメディアと社会の関係性について、歴史的な観点から、その特徴と構造、メカニズムを説明することができる。							1						
③	現代社会におけるメディアの諸問題について、歴史的な観点から、把握し、その克服の方案を示すことができる。								1					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	5	5	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評するほか、成績評価のための課題についてはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
グーグルクラスルームを通じてアポイントメントを取ってください。その際、相談内容と希望する面談方法・時間（候補複数）をお知らせください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や進め方などについて説明する。グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくなるための心構えを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史から現在を問い、未来を考えるための思考的枠組みを獲得し、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を習得できる。	
	事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	リアクションペーパーの作成（テーマは授業内で指示する） 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	「教養とは何かーなぜ関心のない授業を受講しなければならないのか」	<過去>を見つめるために、私たちは、何をどのように、なすべきなのか。ここでは、歴史学的思考を深めるために、教養の意味を考え、歴史を学ぶことの意義を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、教養を身につけることの意味と、歴史を学ぶことの意義を自らの言葉で説明することができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	私たちは、どのような<問題>を考えるのかーローカルに研究し、グローバルに思考する	どのように過去を捉えるのか。そのための方法論について説明する。 【参考文献】 キャロル・グラック『歴史で考える』岩波書店、2007年 E.H.カー『歴史とは何か』岩波書店、1965-2015年 「はじめに」『歴史学の思考法』東京大学教養学部歴史学会編、2020年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、説明し、歴史学のアプローチについて説明し、その有効性と限界を説明することができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	どのように<過去>を描くのかー作法・現状・課題	過去の捉え方と描き方について、史料に基づいたアプローチの重要性を指摘しながら、具体的に説明する。 【参考文献】第2章「過去の痕跡をどうとらえるのかー歴史学と史料」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史学の多面的な手法と史料の重要性について述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	ジャーナリズム史研究の現状と課題	ジャーナリズム史研究が、どのように展開されてきたのか、そのプロセスにおける、いくつかの重要な研究を挙げながら、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ジャーナリズム史研究の蓄積を把握し、何が達成され、何が達成されていないか、今後の同研究領域における課題について述べることができる。 【参考文献】 佐藤卓己『現代メディア史』新版、岩波書店、2018年 根津朝彦『戦後日本ジャーナリズムの思想』東京大学出版会、2019年 林香里『マスメディアの周縁、ジャーナリズムの核心』新曜社、2002年	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	歴史研究の問題点と新たな潮流	グローバルに過去を捉えるための方法論の一つとして、「比較」という視点からの歴史叙述について説明する。 【参考文献】 第4章「人びとの「まとまり」をとらえなおす」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史研究の潮流を掴み、比較（史）の意義と限界について述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グローバル・ヒストリー①		グローバル・ヒストリーという研究の視座と実践について説明する。 参考文献：第5章「現代社会の成り立ちを考えるーグローバル化の歴史的展開」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーという視座からメディアの歴史をまなぐすことの意味について述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
8	グローバル・ヒストリー②		グローバル・ヒストリーの視座に基づいた具体的な研究例を紹介し、その手法や特徴などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーとしてのメディア史、ジャーナリズム史の叙述可能性について説明することができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
9	「近代」の知を問いなおす		グローバル・ヒストリーと近代主義について、批判的考察を交えながら、説明する。 【参考文献】第10章「近代」の知を問いなおすー歴史学・歴史叙述をめぐる問い」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「近代」とは、いかなるものか。この根源的な問いについて、自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
10	課題へのフィードバック		本の読み方、レポートの書き方などを教授したうえで、どのようにオリジナルな議論を組み立てることができるのか。グローバル・ヒストリーに関する論文を取り上げながら、内在的なコメントの仕方を含めて、これらの点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーの議論に立脚し、自ら問いをたて、それを論理的に論じることができるようになる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
11	メディアと記憶		メディアと記憶の関係について比較の観点を導入しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、日本と東アジアとの歴史的関係性を理解し、そこに残置される記憶の問題について、メディアの観点から述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
12	歴史とは何か、記憶とは何か		立場の違い、世代の違いは、歴史認識や、記憶の形成に、どのような影響を与えるのかについて説明する。 【参考文献】1「歴史とは何か」、「記憶」とは何か」キャロル・グラック『戦争の記憶ーコロンビア大学特別講義ー学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史認識や記憶の形成が、現在の社会において、いかなる問題として顕在化されているのかについて述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	記憶の形成メカニズムとメディアの役割	2「戦争の記憶」はいかに作られるか」キャロル・グラック『戦争の記憶－コロンビア大学特別講義－学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、記憶の形成において、メディアが、いかなる役割を有しているのかに対する批判的な考察を行うことができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	メディアの戦争責任	メディアが、どのように戦争に関わってきたのかについて説明し、その責任を問うてきたこと/問うてこなかったことの意味について説明する。 【参考文献】『東アジアの終戦記念日－敗北と勝利のあいだ』佐藤卓己、孫安石編	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアと戦争との関係について、歴史、そして比較の観点から述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	新たな研究パラダイムの紹介	グローバルに、そして、歴史的に考えることの意義について、あらためて整理・説明したうえで、新たな研究パラダイムの可能性や有効性について紹介する。それは、得られた知識の確認と定着を行うだけでなく、自らの独創的な視点を持ち、学術的な蓄積に基づいて「メディア」を思考することのできる力の獲得へと誘うものとなる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史的な視座で現在を考え、グローバルに、その思考を深めることができる。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	比較政治学	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
比較政治学の基本的な知識を幅広く、体系的に正確に学修する。そのために、初めて比較政治学を学修しようとする場合に「最低限これだけ知っておけば、比較政治学の入門レベルをおさえることができるとともに、これから先の学修に役立つ」という内容を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して、世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために、比較政治学の代表的な理論、モデル、概念などを修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。							2	2	2				
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。							2	2	2				
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。							2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『よくわかる比較政治学』	岩崎正洋他編	ミネルヴァ書房	2022	教科書	推奨
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	任意
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治システム	政治と国家、政治システムとは何か、政治システム論の広がりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第1章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治発展	政治発展とは何か、政治発展論の主な論点、政治発展論の限界について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論および系譜について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第2章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	政治文化	政治システム論、政治発展論とのかかわりから政治文化論に注目し、古典的な政治文化論と現在の政治文化論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治文化の違いを分析する方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第3章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	政治体制	政治体制（民主主義体制、権威主義体制、全体主義体制）の類型化を説明するとともに、民主主義体制と非民主主義体制とを分ける点とは何かについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治体制の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	ポリアーキー	ダール（Robert A. Dahl）によって提示された民主主義体制を分析した概念である「ポリアーキー」論の内容について具体的な事例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義を捉える主要な分析枠組みである「ポリアーキー」論について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	多極共存型民主主義		レイプハルト（Arend Lijphart）による多極共存型民主主義（consociational democracy）論について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多極共存型民主主義論について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	民主化		民主化そのものを理解するために、「民主化の第三の波」と、民主主義体制への移行（transition）について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	民主主義の定着		民主化における体制移行後に民主主義体制が定着する（consolidation）過程について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主化にかかわる一連の過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	民主主義		現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	民主主義の二つのモデル		レイプハルト（Arend Lijphart）による民主主義の二つのモデル（Majoritarian Model of Democracy vs. Consensus Model of Democracy）について、世界各国の状況を示しながら説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義の二つのモデルについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	選挙		現代民主主義における選挙の機能、選挙制度の類型、選挙制度と政党システムとの関連を取り扱った「デュベルジェ（Maurice Duverger）の法則」について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における選挙の意味や問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第7章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	政党と政党システム		政党と政党システムについて、デュベルジェ（Maurice Duverger）やサルトーリ（Giovanni Sartori）による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	教科書の第8章、第9章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
14	政治の大統領制化		議院内閣制と大統領制の比較、議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制と大統領制の違い、大統領制化について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第10章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
15	比較政治学の課題と展望		各国の政治を分析する際には、政治システム論や民主主義論の研究蓄積をふまえつつ、政策決定過程論やガバナンス論といった視点からのアプローチが可能であることを総括として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政治学の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第11章、第12章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		180分

科目名	東アジア経済論	担当者	陳 文孝	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
2 1 世紀はアジアの時代だと言われており、中国やASEAN諸国等アジア新興国の台頭により東アジア地域のみならず、世界の政治経済、国際貿易、環境エネルギー、安全保障などは構造的に変化する。本講義では経済発展の一般理論に基づいて、東アジア地域経済発展の歴史、発展の過程、発展の原動力、産業構造、人口と労働移動、国際貿易、経済統合等諸問題について学習し、当地域政治経済の変動に対する理解を深め、分析力を高めていく。また、現在世界第2位の経済規模を有する中国について、日中関係を含め、当地域にどのような影響を与えるかを最新の資料を用いながらダイナミック的に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
昨今、国際政治経済における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域経済の重要性、多様性、複雑性、可能性等について立体的な視点から考察することは、東アジア経済論の基礎知識を修得するだけでなく、東アジア地域実体経済変動の規律を把握することにとって重要である。本講義は講義全体の学習を通じて学生諸君が東アジア地域経済の学問的基礎知識を習得することを目的とし、東アジア地域経済発展に対する考察力、理解力、分析力、そして説明力を高めることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的にはシラバスに沿ってパワーポイントによる講義を展開する。講義ノートや参考資料の配布、課題宿題、授業連絡などはGoogle Classroom（コートは最初授業時にお知らせ）を通じて行う。時には講義内容の理解を深めるために動画を視聴することやリアクションペーパー、小練習をすることもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済発展論の基礎、東アジア経済発展の歴史、制度的要因、原動力、日本との関わりなどを理解し、説明できる。（知識）							2		2		2		
②	中国経済の発展とその影響、日中・米中関係とその影響について理解、説明できる。（知識）							2		2		2		
③	図表やデータを活用して東アジア地域の経済事象を説明できる。（技能）							2		2		2		
④	実際の経済問題（例えば米中貿易紛争、新型肺炎のショックが経済に与える影響）について分析、説明できる。（知識・技能）							2		2		2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を実施しない。その代わりに期末レポートを作成してもらう。											
小テスト等	前半到達目標①、②、③、④を確認するために、中間課題 や小テストをする予定。	5	5	5	5							20
レポート等	提出されたレポートが作成要項の要件を満たし、課題に適切 にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標①、 ②、③、④に関わる説明ができるようになっているかを評価 する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	授業中に質問や意見表明を推奨し、到達目標①、②、③、 ④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業の参画度は授業内容理解にとって重要であると共に成績 評価の1つの基準でもある。											
その他(リアクション ペーパー)	毎回の講義内容を簡単にまとめ、理解し、質問できるかを 評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義最初にリアクションペーパーや課題、宿題などについて共通問題を解説し、講義最後に個別問題に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アジア経済とは何か―躍進のダイナミズムと日本の活路	後藤健太	中公新書	2019	参考書	推奨
アジア経済論	小林尚朗他編集	文真堂	2022	参考書	推奨
アジアの経済安全保障	伊集院敦他編集	日本経済新聞出版	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間：水曜昼休み。場所：2号館1階講師室。（メール連絡の場合：chin.bunkiyo11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義（アジア経済論とは）	講義内容、学習目標、スケジュール、クラスルームの利用、講義資料、参考書、課題・成績評価等について説明し、質問応答をする。	
	この回の到達目標	アジア経済論を履修する意義、学習範囲、勉強方法、単位取得の必要条件等について理解できる。	
	事前学修	図書館やWebサイトから「アジア経済論」について調べてみる。講義全体について概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの確認、アジア経済についての学習意識を明確にし、学習計画を検討する。	120分
2	現代経済社会の仕組み	現代経済社会の仕組みについて学習し、生産活動の主役（生産者、消費者、政府）とそれぞれの役割を明確にする。経済成長、経済発展の原動力を説明する。また、経済学の源流、諸学派の基本的考え方の違いを紹介する。	
	この回の到達目標	経済活動の主役、政治経済制度、経済成長の原動力および経済学の諸学説の源流等について理解できる。	
	事前学修	現代経済社会の仕組みについて予習する。特に、人類文明の転換、生産活動の歴史について調べてみる。	120分
	事後学修	生産活動に必要な3要素（資本、労働、技術）について復習し、技術進歩の重要性を検討する。	120分
3	産業革命との東アジア地域の経済発展の初期条件	近代アジア経済発展の歴史を研究する。英国産業革命のアジアに与えた影響について、「アヘン戦争」および日本明治維新の歴史研究を通じて明確にし、近代経済発展における西欧や日本の植民地政策の功罪について検討する。	
	この回の到達目標	産業革命は如何に発生したのか。中国の「アヘン戦争」、日本の「明治維新」発生の歴史、経済背景、西欧列強の植民政策の功罪について理解できる。	
	事前学修	イギリス産業革命及び世界経済に与える影響、そして帝国主義時代の植民政策について調べてみる。	120分
	事後学修	日中両国の近代化の過程および共通性と相違性を考察し、比較する。	120分
4	比較優位、分業と国際貿易	分業、比較優位性および国際貿易について学習し、経済効率性や経済グローバル化の理論背景を説明する。	
	この回の到達目標	古典派経済学の基礎知識、絶対優位性、比較優位性および国際貿易の必要性、グローバル経済の基本を身に付けることができる。	
	事前学修	「重農主義」、「重商主義」、アダム・スミスの絶対優位仮説、リカードの比較優位仮説について調べる。	120分
	事後学修	アダム・スミスの絶対優位仮説、リカードの比較優位性仮説についてExcelを使って具体的な数値例をもって確認する。また、比較劣位性はどのような場合に発生するのかをも検証する。	120分
5	労働・人口問題を考える	アジアの経済発展と人口問題について学習する。人口発展の3つの段階や人口爆発、中国の「一人っ子政策」および日本の少子高齢化問題について「機会費用」概念を用いて考えてみる。	
	この回の到達目標	経済社会において生産活動に欠かせない「費用」、「機会費用」の概念を理解し、人口爆発問題、少子高齢化問題について説明できる。	
	事前学修	人口問題について調べ、マルサス人口論や「算数級数」、「対数級数」の概念を予習しておく。	120分
	事後学修	中国の一人っ子政策の廃止後の人口動向を調べ、日本政府の少子化対策の問題点についてまとめる。	120分
6	「緑の革命」とアジアの農業発展	アジア農業の発展と「緑の革命」について学習する。農業生産の特性、品種改良、機械化、大規模農業の形成、資本集約的農業と技術集約的農業の違いについて日本と途上国農業の実態を比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	「緑の革命」発生の原因、アジア農業の発展に与える影響、アジア地域および世界の食糧問題の解決について理解できる。	
	事前学修	東西「冷戦」、計画経済、市場経済の特徴について調べる。需要の価格弾力性の概念を予習しておく。	120分
	事後学修	農業生産における「豊作貧乏」問題に対する処方箋、遺伝子組み換え農産品の食安全の問題について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	経済発展と労働移動		中国を中心に東アジア、東南アジア地域農村地帯における貧困、農村と都市間の経済格差、農業労働移動の実態について事例研究を通じて考察する。貧困と格差問題を解決するために、労働移動の必要性を考える。	
	この回の到達目標	経済発展に取り残された農村地域の貧困問題、都市農村間経済格差問題について理解し、これらの問題を解決する有効な政治経済的な手法を考え出す。		
	事前学修	アジア地域において国民経済（GDP）に占める農業の割合、総労働人口に占める農業労働者の割合のデータを入手し、エクセルでその時系列推移を観察する。		120分
	事後学修	日本や中国では農村から都市への出稼ぎ労働が多く、それぞれの実態を調べ、比較してみよう。		120分
8	経済発展と産業構造変換		産業構造変化と労働移動について学習する。その中で産業の分類、ペティ・クラークの法則、雁行形態、産業移転、労働移動、インフォーマル部門の形成要因等を探る。	
	この回の到達目標	経済発展に伴い産業構造も大きく変換することは先進国、途上国を問わず起きていることを理解し、産業移転や空洞化などの現象を説明できる。		
	事前学修	最新『日経業界地図』から日本の業界分類、注目企業、労働雇用および業界別賃金水準について調べる。		120分
	事後学修	東アジアの過剰都市化問題、スラム街の形成と現状を調べて、非正規労働形成の原因を考える。		120分
9	アジア地域の工業化		東アジアの工業化について学習する。「脱植民地」に成功した東アジア地域経済の事例を用いて、「輸入代替」から「輸出振興」に発展戦略の変換の重要性を検討する。	
	この回の到達目標	政治の独立を果たした東アジア地域の経済は如何に経済の独立を実現したかを理解し、経済連携やグローバル化の必要性を説明できる。		
	事前学修	国民経済（GDP）計算式を予習しておく。輸出入の拡大と経済成長の関係を考察してみる。		120分
	事後学修	貿易依存度を用いて、日本、韓国、シンガポール、ASEAN諸国の経済国際化の度合いを計測し、比較する。		120分
10	中国経済 1：社会主義建国		中国建国、社会主義計画経済の実施とその成果および教訓について学習し、現代中国形成の歴史とその歩みを明らかにする。	
	この回の到達目標	中国は如何に社会主義計画経済を選択、実行したか。「朝鮮戦争」の勃発と東アジア地域に与える影響。旧ソ連の援助と中国工業化の基盤形成。		
	事前学修	中国社会主義建国、朝鮮戦争および「朝鮮特需」と日本経済復興について調べておく。		120分
	事後学修	毛沢東はなぜ「大躍進」戦略をとったのか、またその失敗の後、どのように責任を取ったのかをまとめる。		120分
11	中国経済 2：計画経済		中国の経済「改革・開放」について学習する。「文化大革命」運動の悪影響、米中・日中国交回復によって明示された中国と先進国との経済格差、毛沢東の死去、極貧状態の中国農村部の反抗、「トップ・ダウン」と「ボトムアップ」との改革方式の違いについて検討する。	
	この回の到達目標	中国の計画経済の実施状況、政治経済の激動と混乱、後に改革開放政策の実施の歴史経緯を理解できる。		
	事前学修	中国の「文化大革命」運動、米中・日中国交回復について調べ、政治と経済の関係を考えてみる。		120分
	事後学修	1970年代末期に中国改革・開放政策の実施の諸条件について考えてまとめる。		120分
12	中国経済 3：改革開放		中国の農業生産制度改革、郷鎮企業の興隆、外資の導入および世界工場の形成について学習し、経済発展の初期条件および諸要因を探る。	
	この回の到達目標	中国の改革開放政策の実施、中国農業の実態、政策変更により経済の激変および農業と工業の相互関係について理解できる。		
	事前学修	「緑の革命」を復習し、中国農業生産の拡大、余剰労働の発生、世界工場形成の条件などについて調べる。		120分
	事後学修	中国経済の成功における制度改革の重要性について農業の自由化、外資導入、貿易促進政策などの面から確認し、まとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中国経済４：世界の工場	中国の企業成長と経済の発展について企業レベルから考察し、改革開放後４０年の間に生まれた中国を代表する著名企業の成長、発展の経緯を検討する。	
	この回の到達目標	「世界の工場」と言われる中国工業の発展の歴史、制度改革、成長の原動力などについて事例研究を通じて理解できる。	
	事前学修	ファーウェイ（Huawei）、アリババ（Alibaba）、ハイアール（Haier）、吉利汽車（Geely）という中国を代表する企業について調べる。	120分
	事後学修	米中貿易紛争におけるファーウェイ問題について調べ、先端技術における米中熾烈な競争の実態をまとめる。	120分
14	経済発展と格差問題	経済発展に伴い、様々な問題も生じている。個人や地域間において経済格差の拡大はその1つである。最近20年間の東アジア地域の経済格差についてジニ係数を通じて考察し、その変動の趨勢、対応策を考えてみる	
	この回の到達目標	経済発展に伴う格差の問題を理解、計測することができ、また引き起こす原因が何かを考察するうえ、対策を考えてみる。	
	事前学修	地域間経済協力や経済統合の動きについて調べる。	120分
	事後学修	日本国内における地域間経済格差（例えば県民所得格差）の動向を考察し、格差拡大問題を考えてみる。	120分
15	まとめと期末レポート作成要領	ま半期講義の要点をまとめ、確認するうえ期末レポート作成要領、評価の仕方、提出方法、フィードバックについて説明する。	
	この回の到達目標	半期の講義内容を取りまとめ、理論体系、実際政治経済の動向を通じて要点がよく説明できる。	
	事前学修	半期の学習の要点をまとめ、確認をする。半期授業のポイントを整理したうえ、自分の学習目標の達成状況、基礎知識の修得状況、そして分析力、説明力の向上状況を確認する。	120分
	事後学修	期末レポートを作成、提出する。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅰ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、学術的な思考様式や分析手順を学びながら、アジアにおける政治動態を概観する。特に、複数の国家、地方自治体、社会集団、また個人などの政治的アクター・単位を比較対象としながら、政治（・経済・社会）現象に関する因果関係の解明を試みる。本講義では現象を規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の社会科学関連、あるいは地域研究の科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジア政治論で議論されてきた理論や分析方法を理解し、現実政治における問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら様々な政治（・経済・社会）現象を捉え、そこから国家や社会といった政治単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、自ら現実政治に関する問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。							2					
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。									2			
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかをリーディングに関するリアクション・ペーパー、グループ・ディスカッションに関するレポートにて評価する。	8	8	8								24
レポート等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを研究論文にて評価する。	15	15	15								45
討論・発表等	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかをリーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発表・最終発表にて評価する。	7	7	7								21
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを（出席を前提とした）講義中の積極的な発言にて評価する。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時に指示する				

【オフィスアワー】
月曜3限 kubota.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、アジア政治論のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
	事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	分析の手順	リサーチ・クエスチョン、仮説検証、比較の意味と方法	
	この回の到達目標	実証的な政治分析の方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
	事後学修	授業で示された分析の手順に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	（比較）政治学の歴史とアジア政治論	比較政治学を中心とした政治研究の潮流・動向とアジアの地理的特性、政治動態の歴史・特徴	
	この回の到達目標	比較政治学を中心とした政治研究の潮流や動向について理解する。また、アジアという地域の特性やそこにおける政治の特徴について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治学の歴史とアジア政治論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	政治制度	執政・立法の制度	
	この回の到達目標	執行府や議会関係に関する理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治制度に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	民主主義体制	民主主義に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
	この回の到達目標	民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	非民主主義体制	非民主主義体制に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
	この回の到達目標	非民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された非民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	民主化		民主化の条件とプロセス
	この回の到達目標	民主化の条件とプロセスに関する諸理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された民主化に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	政治と経済		政治と経済の相互関係に関する理論と思想
	この回の到達目標	政治と経済の相互関係に関する理論と思想について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治と経済に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	福祉国家		福祉国家に関する理論と思想
	この回の到達目標	福祉国家に関する理論と思想について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された福祉国家に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	エスニシティ、ナショナリズム		エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論
	この回の到達目標	エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示されたエスニシティ、ナショナリズムに関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	紛争・内戦	紛争・内戦をめぐる現状と理論	
	この回の到達目標	、紛争・内戦をめぐる現状と理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された紛争・内戦に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅱ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、地域研究の学術的な思考様式や分析手順を学ぶ。特に、ここではアジアにおける国内武力紛争と社会を題材に、政治暴力の傾向やパターン、紛争発生メカニズム、紛争の国家や人々に対する影響、平和構築などについて考察する。本講義ではこうした特定のテーマを取り上げるものの、それらを規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の専門科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジアにおける紛争と社会をめぐる議論されてきた理論や分析方法を理解し、当該テーマに関する問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら現象を捉え、そこから国家、社会、個人といった分析単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、それぞれの問題に関して自ら問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。							2		2		2		
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。							2		2		2		
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかをリーディングに関するリアクション・ペーパー、グループ・ディスカッションに関するレポートにて評価する。	8	8	8								24
レポート等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを研究論文にて評価する。	15	15	15								45
討論・発表等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかをリーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発表・最終発表にて評価する。	7	7	7								21
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを（出席を前提とした）講義中の積極的な発言にて評価する。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時に指示する				

【オフィスアワー】
月曜3限 kubota.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、本講義のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
	事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	地域研究の方法	地域研究の方法に関する理論と具体例	
	この回の到達目標	地域研究の方法に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	世界における紛争の傾向とパターン	世界における紛争の傾向・パターンとその背景	
	この回の到達目標	世界における紛争の傾向・パターンとその背景について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	アジアにおける紛争の傾向とパターン	アジアにおける紛争の傾向・パターンとその背景	
	この回の到達目標	アジアにおける紛争の傾向・パターンとその背景について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	個人レベルでみる紛争の要因	個人レベルでみる紛争の要因とその影響	
	この回の到達目標	個人レベルでみる紛争の要因とその影響について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	集団レベルでみる紛争の要因	集団レベルでみる紛争の要因とその影響	
	この回の到達目標	集団レベルでみる紛争の要因とその影響について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	国家と紛争		国家と紛争に関する理論と具体例
	この回の到達目標	国家と紛争に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	紛争と反乱軍組織		紛争と反乱軍組織に関する理論と具体例
	この回の到達目標	紛争と反乱軍組織に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	紛争後社会		紛争が社会にもたらす影響に関する理論と具体例
	この回の到達目標	紛争が社会にもたらす影響に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	リベラル平和構築の理論		紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の試みとその理論
	この回の到達目標	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の試みとその理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	リベラル平和構築の批判と実践	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の批判と実践	
	この回の到達目標	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の批判と実践について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	フォト・ジャーナリズム	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
マスコミもご多分に漏れず活動の中心をネット完全移行に向けて舵を切った。しかし、いかにマスコミを取り巻く環境が大きく変化しようが、伝えるべき情報に変わりはなく、未来永劫、現場のないマスコミなどありえない。「現場」がルーツであり、「現場」が情報の唯一の“宝庫”だからである。本講座はリアルな現場に徹底的にこだわり、社会を脈わせた歴史上の出来事を題材とし、受講者はそれらの現場を通してメディアの果たしてきた役割や問題点並びに今後の課題について検証すると同時に、メディアの功罪とその存在意義を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
これまで報じられてきた、今報じられているニュースや情報をそのまま鵜呑みにすることなく、その“行間”に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考え方を加味して発信できる力を養成することを目的とする。 リアルな「現場」に対する強い問題意識を抱き、知識を獲得し、探求心を深めていく。

【履修条件】
「新聞学科」の肩書を有する学生として、その専門性に誇りを見出したい者、好奇心旺盛な学生を歓迎する。

【授業方法】
担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けられた理論や認識をほとんどのマシニングトークと、一方通行に陥らぬように受講生との意見交換も試み、相互理解に配慮した空間作りに務めた、いわばミュージシャンの熱いライブをイメージした授業スタイルである。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	シラバスの他に、講義の冒頭で受講者からジャンルにとらわれないタイムリーな話題を提案してもらい、フリートークでニュースや情報に鋭敏な感覚を身に付けてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	今日までのメディアの足跡を検証し、社会が直面、内包、予測される問題を的確に捉え、分析することができる【知識】						4	3	4	4				
②	発信されているニュース・情報の行間に隠された意図や思惑を推論し、その価値や意義を再考する【技能】						3	3	4	4				
③	いかなるニュース・情報にも柔軟な思考で対応し理解することができる【態度・習慣】						3	3	4	4				
④	形成されている世論にとらわれることなく、自分の中で自分流にダイジェストし、自分の言葉で表現できる【技能】						4	2	4	4				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業を通して得た知識や思考方法、創造力を駆使した最終的な発表を評価する。				50							50
討論・発表等	問題意識や着眼点に対する評価。		10									10
授業への参画度	90分間集中して授業を面白がり、講師との間で交わされるソフトな丁々発止の対話を通じ、言葉足らずでも課題に積極的に向き合う姿勢を評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	60							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。強いて挙げれば、日々の新聞。				

【オフィスアワー】	
講義のある日は、その一時間前後は講師控室等にて面談可能。他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールにても積極的に対応するが、講師のメルアドは開講後、受講者に告知する。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版、映像現場における取材・評論・執筆活動（現在続行中）
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、机上では適わぬ“生の現場”を教壇から発信し、「リアルな現場」を再現する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方やテーマ・成績の方法等、受講生の授業準備にあたってのオリエンテーション。
	この回の到達目標	日常のニュースや情報に対する問題意識を高め、習慣化する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
2	メディアの影響力		メディアは第四の権力という。権力というからにはその影響力は計り知れないだろうが、その知られざる事例に触れ、内在する力を検証する。ちなみに、2015年、ラグビーW杯で日本は強豪南アフリカを破る大金星を挙げたが、その影の立役者がメディアだったことを御存知か？
	この回の到達目標	メディアの社会における立ち位置を検証し、今、求められているものは何か、その存在意義を再考する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
3	激動昭和の事件史 その1		『グリコ森永事件』。企業恐喝だが、これほど奇々怪々な展開をみせた事件はない。直接的な死者も被害金もない。主役は犯人の怪人21面相と当該企業だろうが、絶対的脇役を務めさせられたのがメディアだった。メディアの存在意義を問う。
	この回の到達目標	現場（情報源）と一般人を繋ぐメディアの役割は何なのか？ 単なるメッセンジャーでは割り切られないメディアの存在意義を見直す。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
4	フォトジャーナリズムの功罪 その1		FF戦争～写真週刊誌の乱立とその残した波紋。写真週刊誌「フォーカス」の成功により大手出版社がこぞって追随し、それなりにブームが起こされ、読者も食いついたが引くのも早かった。その功罪を問う。
	この回の到達目標	メディアとしての写真の力を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
5	激動昭和の事件史 その2		『日本航空機墜落事故』。520人もの命を奪った未曾有の航空機事故。メディアは果たして何を伝えたのか？ 520人とその関係者の人生を狂わせた事故に、メディアはどう向き合ったのか？
	この回の到達目標	事故報道のあり方はどうあるべきか？ 日航だけでなく、メディアも過熱する取材合戦の影で忘れ去られた命への贖罪を問うべきではないのか。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
6	メディアとスポーツの共存共栄		かつてスポーツ報道といえば、プロ野球と大相撲、高校野球くらいのものであった。しかし、時代は通信技術の発達をはじめ、価値の多様化により、マイナーも含めほとんどのスポーツがメディアを通して身近なものとなった。これによりビジネスも生まれた。メディアの力である。
	この回の到達目標	社会におけるスポーツ及びスポーツジャーナリズムの存在意義を認識する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	激動昭和の事件史 その3		『外務省機密漏洩事件』。 スクープを狙って暴いた政治スキャンダルは、女性をたぶらかせて得た情報からだった。 取材倫理が問われる逆スキャンダル事件となってしまう、本来のスキャンダルは闇にまぎれた。 「情報」とは？	
	この回の到達目標	取材方法や情報源の秘匿をめぐる倫理を再考する。 タブーは？		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
8	フォトジャーナリズムの功罪 その2		たった一枚に写真が世界を動かす。 ベトナム戦争時の「裸の少女」、キャパの「崩れ落ちる兵士」、オウム真理教麻原彰晃の拘置所の隠し撮り等々。それらの力に迫る。	
	この回の到達目標	たかが写真、されど写真。一葉に込められたカメラマンと被写体の物語に触れる。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
9	激動昭和の事件史 その4		『リクルート事件』。 バブル経済下ならではの株式を利用した政治疑獄事件。 そもそもバブル経済とは何だったのか？ 一緒に浮かれていたマスコミの姿勢や責任も問われるところである。	
	この回の到達目標	このスキャンダルは時間をかけた調査報道によって事件が明かされた。真相を暴いた者はジャーナリスト冥利に尽きるだろうが、今や、コストがかかる調査報道は難しくなってきた。ネットを含めメディアの置かれている現況も考える。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
10	スポーツの力 その1		『2つの東京オリンピック』。 1964年、奇跡の戦後復興を世界に発信した大会だった。2021年は（震災からの）復興五輪と言われたが。しかし、何はともあれ、世界中を東京に釘付けにした。スポーツに力を感じずにはいられない。	
	この回の到達目標	オリンピックとメディアは切っても切れない二人三脚の関係である。スキャンダルも噴出した。今後のオリンピックのあり方を再考する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
11	激動昭和の事件史 その5		『ロス疑惑』。 テレビのワイドショー隆盛の背景もあり、美談から一転、新手的スキャンダルに日本中が踊らされた。週刊誌と深夜番組が組んだスクラムがスタートだった。	
	この回の到達目標	一週刊誌に調査報道の醍醐味を教えられた。 小さな端緒がきっかけだった。その手法を学修する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
12	芸能ジャーナリズムの功罪		芸能スキャンダルは今や、その日のトップニュースを飾ることもある。 芸能人の社会に及ぼす影響力がその背景にあるが、芸能ジャーナリズムの変遷と社会的意義を問う。	
	この回の到達目標	かつて芸能ニュースは映画やテレビの宣伝がほとんどで、スキャンダルはご法度だった。スターと称されていた芸能人の恥部は見えて見ぬふりをするものとされてきた。今は小さなトラブルでも社会は総スカンを食らわす。芸能ニュースの変遷と芸能ジャーナリズムを検証する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	スポーツの力 その2		スポーツは競技としてだけではなく、政治であり、経済であり、文化であり、娯楽でありとさまざまな要素を持って今、我々のものとなった。その魅力を伝えるメディアの役割は大きい。スポーツの現場を解説する。	
	この回の到達目標	スポーツジャーナリズムの可能性を学修する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
14	メディア倫理		『震災報道』。 東日本大震災。メディアの社会的役割が求められた。伝える力が命を救う。当時の現場を振り返って検証する。	
	この回の到達目標	情報とは何かを現場視線で考える。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分
15	総括		レポート提出と総括	
	この回の到達目標	“時代を映す鏡”としてのメディアを身近なものとして再認識する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		120分

科目名	フォト・ジャーナリズム	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアと社会・政治との関係性をフォトジャーナリズム・報道写真を代表とする視聴覚文化を中心に考察する。まずフォトジャーナリズムの概論として、戦争と報道、メディアとの関係性を、二次大戦中の『FRONT』や戦後の戦争報道写真などを歴史的に理解することで、報道と宣伝という視聴覚文化の特性を考える。その上で、戦前から戦後社会における戦争表象の問題を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
写真という世界共通言語を通してジャーナリズムとメディアを学ぶことを授業目的とする。現代社会におけるフォトジャーナリズム・報道写真や視覚文化を政治・戦争との関係性から理解しその歴史的知識を獲得した上で、自らで視覚文化やメディアの歴史性と政治性を多角的に分析し考察できるようになることを目的とする

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義中心だが、学生によるグループディスカッションや発表などを3-5回程度行う予定。その場合は、資料の閲覧や学術文献を予習として事前 に一読することが必須。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道写真に触れ、それらを通し世界で起きていることを理解することができる					3	3	3	3				
②	報道写真や視覚文化を社会・政治との関係性から理解し多角的に分析できる					3	3	3	3				
③	写真や視覚文化により、戦争等による他者の痛み、他者の理解をすることができる					3	3	3	3				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末に課すレポートにより、フォトジャーナリズム、写真の基礎的知識やメディアと社会・政治との関係性の理解を確認し評価する	20	20	10								50
討論・発表等	授業内で実施するグループディスカッションや発表の参加、それに付随するコメントペーパーの提出によって評価する	20	20	10								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題は授業内での総評やコメントによりフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入	講義テーマである写真とフォトジャーナリズムについて説明	
	この回の到達目標	講義テーマである写真とフォトジャーナリズムについて理解する	
	事前学修	シラバスを読んてくる。	20分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	60分
2	フォトジャーナリズムの概論	写真や写真論の基礎・導入	
	この回の到達目標	写真とフォトジャーナリズムの特徴について理解する	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
3	フォトジャーナリズムの概論	フォトジャーナリズムについての歴史と議論を紹介	
	この回の到達目標	写真とフォトジャーナリズムの歴史・モニタージュアルポルタージュフォトなどの概念を理解する	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
4	フォトジャーナリズムの概論	雑誌・視覚メディアと写真：戦争と報道・メディア グラフ誌	
	この回の到達目標	グラフ誌を中心とした初期の報道写真について理解する	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
5	フォトジャーナリズムの概論	プロパガンダとグラフ誌 戦前戦中の日本の事例	
	この回の到達目標	戦前戦中の日本のグラフ誌の事例から戦争プロパガンダと報道写真の関係性を理解する	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
6	戦争表象の事例分析	戦争写真・報道のあり方：報道と宣伝 戦中の日本の事例：FRONT	
	この回の到達目標	視覚文化と戦争の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	戦争表象の事例分析	グループディスカッションや発表		
	この回の到達目標	報道写真・戦争表象に触れるとともに、その特徴や政治的・社会的背景を理解する		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
8	戦争表象の事例分析	終戦後の報道写真：サンニュース、土門拳、戦後の戦争報道写真		
	この回の到達目標	報道写真・戦争表象に触れるとともに、他社の理解や弱者と関わる報道写真の側面や社会における報道写真の役割とその変化を理解する		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
9	戦争表象の事例分析	第二次大戦、そして戦後における報道写真の利活用：「硫黄島の星条旗」から		
	この回の到達目標	「硫黄島の星条旗」を事例として、戦時中の視覚的イメージがいかに利用され続けたのかを知り、報道写真の社会への影響力を考える		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
10	戦争表象の事例分析	グループディスカッションや発表		
	この回の到達目標	報道写真・戦争表象に触れるとともに、社会における報道写真の役割とその変化を理解する		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
11	戦争表象の事例分析	戦争報道・戦争表象とその利用：デジタル時代の報道写真		
	この回の到達目標	戦後・現代における戦争報道と報道写真の関係について理解する		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
12	戦争と文化とメディア	現代の写真のデジタル化と戦争報道		
	この回の到達目標	現代における報道写真の役割や視覚文化との関係を考察・分析し意見を述べられるようになる		
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分	
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争と文化とメディア	グループディスカッションや発表	
	この回の到達目標	現代における報道写真の役割や視覚文化との関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
14	戦争と文化とメディア	グループディスカッションや発表	
	この回の到達目標	現代における報道写真の役割や視覚文化との関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
15	まとめ・総括	これまでの授業内容の総括的議論	
	この回の到達目標	授業で扱った視覚文化と戦争の関係性、報道写真とニュースメディアの変化やデジタル化について多角的理解を獲得する	
	事前学修	事前に指示された関連文献や資料を読んてくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。レポートを作成する	360分

科目名	福祉契約論	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
この講義では、少子高齢化が家族や社会にもたらす影響やその法的問題について扱う。具体的には、高齢化が進展し、家族の姿が変容する中、高齢者がどのような問題を抱え、高齢期の暮らしを誰がいかに支えていくのかについて考えていく。高齢者の話は、学生の皆さんにとってはまだ先のことに思えるかもしれないが避けては通れない。問題の本質を理解し、その難問につきいかなる解決手段があるのかを考えてみる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、現行民法には規定のない、福祉サービスの提供に関する契約（いわゆる福祉契約）の観点から検討してみることを第一の目的とする。福祉契約は、自由競争・市場原理の世界における手段としての契約とは異なり、契約の新たな一面を感じさせるものであり、発展途上にある学問である。あまり気負うことなく、高齢者問題を考える1つのきっかけになるというくらいの気持ちで、ゆっくりと学んでいきたいと思う。 契約、高齢者福祉の基本的な考え方を身につけることを到達目標とする。

【履修条件】
講義には必ず出席すること、最新の六法を持参すること、わからないことができたときは、面倒がらずに調べるか、もしくは、質問をすること。

【授業方法】
基本的には、レジュメを配布し講義形式で進めていく。ただし、現場の最新情報につき専門家から話を伺うこととする。また、講義の中で、認知症サポーター養成講座も開催し、皆さんには認知症サポーターになってもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるのかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	福祉契約に関する基本用語及び概念を正確に理解し、適切に用いることができる。				2							
②	高齢者福祉の諸制度、民法、消費者法について、その制度や規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				2		2					
③	授業で学んだ知識を用いて、高齢者をとりまく諸問題につき、法的観点から合理的かつ批判的に考察することができる。				2		2	2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる問題の考察力が身についているかを評価する。	20	10	20								50
討論・発表等	授業中における質疑応答を通じて、自分の意見を述べることができたか、また、あらかじめ準備してもらったテーマに関する発表を基準に、到達目標③にまつわる解答能力を身に着けたかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に実施するリアクションペーパーの作成等の機会を通じて、到達目標①②に関する基本概念や制度趣旨などを理解し、正しく身につけているかどうかの確認を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を、後日Classroom等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高齢者福祉	家高将明ほか	ミネルヴァ書房	2022	教科書	必携
備考	認知症サポーター養成講座のテキストが必要となるが、これについては講義内で説明を行う予定。				

【オフィスアワー】
水曜日の12:15～12:50（あらかじめメールでアポイントメントをとること） 研究室（本館 7 F 1720） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・条文の見方	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスにそって授業の概要、目的、到達目標、授業成績、成績評価基準等について説明、確認する。さらに、条文の見方などについても確認しておく。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、福祉契約というものがどのような概念かを理解するとともに、今後の授業の前提となる、六法の見方を理解する。	
	事前学修	テキストを購入し、まえがきを読んでもくること	120分
	事後学修	レジュメを読み、条文の見方等について復習しておくこと	120分
2	高齢者を取り巻く社会環境	高齢者を取り巻く社会環境について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、高齢者にまつわる基本的概念、取り巻く環境について正確に説明することができる。	
	事前学修	テキストの該当頁(1章)を読んで、高齢者の定義、高齢者を取り巻く現在の状況についてまとめること。	120分
	事後学修	レジュメ等を参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること	120分
3	契約の基本①－契約とは何か	民法の基礎となる重要な制度でもある契約の基本について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基礎である契約にまつわる基本的概念について正確に説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するレジュメを読んで、契約とは何かということについてまとめること	120分
	事後学修	レジュメの該当箇所をよく復習しておくこと	120分
4	契約の基本②－消費者契約法と高齢者の取引トラブル	民法の特別法である消費者契約法の基礎について理解を深める。なかでも、高齢者の取引トラブルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の意義、種類、客体といった基本的概念について正確に説明することができる。	
	事前学修	家族、消費者契約法にまつわる新聞記事等の収集を行い、どのような消費者トラブルがあるのかを調べるとともに、事前に配布してあるレジュメに目を通して置くこと	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、消費者契約法についてしっかりと復習しておくこと	120分
5	福祉契約とは何か－定義、特徴、課題	福祉契約という概念を知り、さらにその法的課題について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、福祉契約とはどのような契約なのかにつき、その特徴を知り、正確に説明することができる。	
	事前学修	前回につづき、高齢者の消費者トラブルについてどのようなものがあるのかを調べて置くこと。なお、その際は、消費者庁、国民生活センターのHPなども参考にすること。	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書等の該当箇所を復習すること	120分
6	高齢者の特性と生活ニーズ、高齢者福祉の歴史	高齢者の特性を理解するとともに、高齢者福祉の歴史について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、超高齢社会の現状、高齢社会を支える法理念について正確に説明することができる。	
	事前学修	高齢者にまつわる新聞記事を収集し、また、高齢社会白書などを読んで置くこと。テキストの2, 3章に目を通して置くこと。	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組み：介護保険制度	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組みとして、介護保険制度についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、介護保険制度の意義、法的課題について正確に説明することができる。	
	事前学修	テキストの4章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメなどを参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること	120分
8	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組み：老人福祉法	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組みとして、老人福祉法についての理解を深める。さらに、レポートの書き方、レポート課題について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続や遺言制度について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマ（自由テーマ）について考えてくること、テキストの5章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
9	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組み：公的年金と社会的扶養、医療保険制度	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組みとして、公的年金と社会的扶養とはどのような制度なのかについて学修する。さらに、医療保障制度の基本的な仕組みを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公的年金、扶養、医療保障制度について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポート課題のテーマにまつわる資料収集、参考文献を作成してくること テキストの7章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
10	高齢者の生活にかかわる法制度の仕組み：高齢者虐待	現代の家族が抱える介護にまつわる法的課題について理解を深める。それに関連して、高齢者虐待の実状についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族介護の限界と、介護にまつわる法的課題について正確に説明することができる。	
	事前学修	前回に続き、レポート課題のテーマの資料収集、参考文献を作成してくること テキストの8章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
11	高齢者の住まいとケア－終の住まいの選び方と契約問題	家族介護が厳しい現状の下での高齢期の住まい選びについて学修する。とりわけ、契約トラブルの多い高齢者すまいの問題を中心に理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、高齢期の住まいの種類や特徴を知り、かつ、その契約上の問題点について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマの第一章（問題の所在）を書いてみること、テキストの10章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること レポート作成を本格的に進めること	120分
12	高齢者の社会参加、高齢者と家族の雇用を支えるための法制度	高齢者の社会参加、高齢者と家族の雇用を支えるための法制度についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、高齢者の社会参加、高齢者と家族の雇用を支えるための法制度の現状と課題について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマの第2章以降を書き進めること、テキストの9、11章をよんでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること 前回に続き、レポート課題の作成を進めること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高齢者問題の実状に詳しい介護・法律の専門家の話をきこう！	高齢者問題の実状に詳しい専門家より実務の話を伺い、高齢者特有の問題についてさらなる理解を深める。（ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、高齢者問題の実状に詳しい介護及び法律の専門家の話をきき、その実状や問題点についてさらなる理解を深める。	
	事前学修	1 1 回までの講義を振り返り、テキスト及びレジュメをよく復習しておくこと、専門家に質問してみたいことを考えておくこと	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、講義の感想をまとめる。専門家の話などを参考にしつつ、レポートの完成を進めること	120分
14	認知症サポーターになろう！	認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の理解とその支援の在り方について学修する。（ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、認知症サポーターになることで、認知症およびその支援の在り方について正確に説明することができる。	
	事前学修	認知症及び認知症サポーター制度にまつわる新聞記事等を収集し、読んでくること	120分
	事後学修	講義の感想をまとめるとともに、引き続きレポート作成を進めること	120分
15	総まとめ、課題発表・講評	第14回までの講義でまとめたノート（レジュメ）及び教科書を用いて、総まとめを行う。さらに、各自が作成したレポート報告会を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら発信することができる。	
	事前学修	レポート課題を作成し、提出すること	120分
	事後学修	レジュメなどを参考にし、講義全体の復習をすること	120分

科目名	福祉政策	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉に関する政策について講義を行う。社会福祉についての概観とともに、それに関連する政策を、歴史的な動向と、その背景にある思想や理念の変化とともに考察していく。その後、現代の福祉政策において重要となる個別の理論や思想について整理するとともに、個別領域にも目を向け、実際の政策策定およびその運用における現実的課題との対応を捉え、今後の福祉政策における考察に必要な知識的理解の基礎を得る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
福祉政策の要素と基礎となる概念、拠って立つべき理念を養成することを目的とし、現在の福祉政策に対する自分の意見を持ち、表明できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義方式を取る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	福祉政策の要素をあげ、全体像を図示できるようになる。				4		4	4	4			
②	福祉政策の理念と公共政策との関係について自分の言葉で説明できるようになる。				4		4	4	4			
③	現在の福祉政策の課題を説明するとともにその解決策についての自らの意見を表明できるようになる。				4		4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	試験による評価。試験の詳細については授業内で受講生全体に対して伝達する。	10	20	30								60
小テスト等	各授業回の終わりにコメントカードを配布する。その内容によって一定の点数を加算する。	15	15	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業回のコメントに対しては、次の授業でリプライを行う。また最終回の後に、それまでのコメントおよび質問に対する総合的リプライを行う。試験終了後には模範解答と解説を受講生に対して提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 障害者政策	山村りつ編著	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
社会保障法令便覧2019	社会保障法令便覧編集委員会	労働調査会	2019	参考書	推奨
社会福祉政策 第4版	坂田周一	有斐閣アルマ	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜5限（それ以外是要相談）研究室※ただし、この時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション/イントロダクション	授業の進め方や評価方法についての説明を行う。 また、社会福祉と福祉政策、社会保障などとの関係について説明を行う。	
	この回の到達目標	社会福祉における福祉政策の位置づけを自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、「福祉政策」とは何かについて考える。	60分
	事後学修	授業で得た知識と事前に考察した「福祉政策」の理解について相違点を整理しておく。	180分
2	福祉政策の形成と役割	福祉政策の形成過程と現代の福祉政策の役割について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策の役割とその意義を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
3	ソーシャルワークと政策	ソーシャルワーク活動と福祉政策の関係について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策においてソーシャルワークがどのように位置づけられているか、自らの言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
4	現代社会福祉の生活課題	現代の福祉政策における重要な 이슈として、代表的な生活課題について説明する。	
	この回の到達目標	それぞれの生活課題の問題性とそれに対する福祉政策の働きかけの方法について、自らの言葉で説明できるようになる。。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
5	福祉政策におけるニーズ論	現代の福祉政策の策定・運営において重要なニーズ論について説明する。	
	この回の到達目標	社会福祉におけるさまざまなニーズの意味と政策との関係を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
6	福祉政策における組織と担い手	福祉政策を構成する組織とその担い手について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策に関わる組織構造を図示できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会福祉制度の構造	日本における社会福祉関連制度の構造について説明する。	
	この回の到達目標	社会福祉関連制度の全体像を自らの言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
8	福祉計画と評価	日本における福祉計画とそれに伴う評価について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策における評価のプロセスを図示できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
9	行政による管理	行政による福祉政策運用の管理について説明する。	
	この回の到達目標	行政が管轄する福祉政策の管理部門の一つを取り上げその構造と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。)	120分
10	給付プロセス	福祉サービスの供給におけるさまざまなプロセスを説明する。	
	この回の到達目標	福祉サービスの供給の流れと形式の違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
11	地域福祉の拡大	福祉政策における地域福祉の位置づけと行政との関係を説明する。	
	この回の到達目標	日本の地域福祉の実践を構成する部門について説明もしくは図示できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
12	個別領域の特徴	福祉政策における代表的な個別領域についてその特徴を紹介する。	
	この回の到達目標	授業で説明した個別領域のいずれかについて、その課題と政策の役割を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	給付以外の福祉サービス	給付行政以外の福祉サービスとして行政が関わるものを紹介する。	
	この回の到達目標	給付以外の福祉サービスの特性を理解し、その供給における行政の役割を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
14	福祉政策の動向	福祉政策において国内外にみられる近年の動向とその背景について説明する。	
	この回の到達目標	授業内で説明した近年の福祉政策の特徴的動向を示している具体的な福祉政策を挙げることができるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
15	まとめと振り返り	授業を総評と、まとめを行う。	
	この回の到達目標	与えられた課題について回答を行う。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	今後の課題について、文章化しておく。	120分

科目名	物権・担保物権法	担当者	竹田 智志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典の第2編「物権」に定められたルールについて学修する。具体的には、所有権の意義や効力の他、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールなどを学ぶことになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権法の基礎的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、そして具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
実務及び学会等の動向、最新の判例等を視野に入れつつ講義を行うことにする。必要に応じて「講義資料」を配布。オンライン講義実施の場合は、毎回Googleclassroom上で出席の確認を取る。その場合、中間・期末レポートの実施する（詳細は初回講義時に行う）。なお対面講義の場合も詳細については初回講義（ガイダンス時）に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員が問いかけた場合、どの様に考えるか。講義終了時のリアクションペーパー等で表現していただく。これは単に知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権・担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2						
②	物権・担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。						2						
④	物権・担保物権法に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを 筆記試験によって評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等	区切りの良いところで中間試験を実施。											
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
有斐閣Sシリーズ 民法Ⅱ物権（第5版）	鎌田薫ほか	有斐閣	2022	教科書	必携
六法（デイリー・ポケット）				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了時等に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	新聞記者
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場での経験を披露するケースがある。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び序説	物権法概論	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、物権法の概要につき説明できる。	
	事前学修	テキストを読み込み、物権法の特徴を考察する。（テキスト1頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
2	物権の効力	優先的効力と物権的請求権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、物権の持つ効力について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、具体的な効力について考察する。（テキスト11頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
3	物権変動（1）	物権変動が生ずる法律行為	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権変動の意義、公示の原則・公信の原則、意思主義・形式主義、物権変動の時期について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、物権変動の諸規定を考察する。（テキスト21頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
4	物権変動（2）	不動産物権変動における公示	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産登記の実務や中間省略登記について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、物権変動の諸規定について考察する。（テキスト36頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
5	物権変動（3）	動産物権変動における公示、立木等の物権変動と明認方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、両者の諸規定について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、両者の諸規定について考察する。（テキスト81頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
6	用益物権と占有権	用益物権序説・占有権概説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、用益物権、占有権等の説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、用益物権の具体例、占有権全般を考察する。（テキスト106頁、198頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所有権	所有権概説、内容、相隣関係、共有、区分所有、所有者不明土地問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有権を中心とした諸概念の説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、所有権の全体像を考察する。（テキスト１３２頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	担保物権序説 （区切りが良ければ中間試験実施）	典型担保物権と非典型担保物権の概要	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、典型担保、非典型担保物権の全体像を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、民法上の担保物権、非典型担保を考察する。（テキスト２３９頁以下、３４２頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	法定担保・留置権	意義・成立要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、留置権の全体像を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、留置権の具体的事例を含み考察する。（テキスト２３９頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	法定担保・先取特権	意義・種類・順位・効力・消滅	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先取特権の全体像を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、先取特権全般について考察する。（テキスト２４６頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	約定担保・質権	意義・性質・種類	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、質権の全体像について説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、質権全般を考察する。	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	約定担保・抵当権（１）	意義・性質・設定・効力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権の基本的枠組みについて説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、抵当権の基本的特色を考察する。（テキスト２６９頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	約定担保・抵当権（2）	担保不動産収益執行、法定地上権、代価弁済、抵当権消滅請求、根抵当権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権全般に加え新たな領域を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、抵当権の展開を考察する。（テキスト290頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
14	非典型担保	仮登記担保、譲渡担保、所有権留保	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法以外の規定で成立する担保物権の説明ができる。	
	事前学修	テキストを読み、新たな展開を見せる被典型担保につき考察する。（テキスト345頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
15	物権・担保物権法のまとめと授業内試験	授業内試験を行う場合は60分を予定。解説30分。定期試験実施の場合は、前期授業の振り返り・解説をポータルサイトで配信（六法のみ持込可とする）。オンライン講義を実施する場合は、前期授業の振り返りとGoogleclassroom上でレポート提出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまで学修してきたことを理解し自ら説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義をよく復習し、わからなかったところを書き出しておく。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめておく。	120分

科目名	平和学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○		

【授業の概要】
本授業では、規範的観点から、戦争と平和にまつわる思想的・哲学的諸問題を論じていく。戦後の国際社会では、武力行使の禁止という一般原則と並んで、個別的・集団的自衛権の行使や人道的介入の正当性が認められてきた。こうした議論の基軸となっているのが、正当原因・必要性・比例性・区別など、正戦論に端を発する一連の概念や基準である。この授業では、対テロ戦争やドローン戦争といった今世紀型の戦争も射程に入れながら、世界はどうあるべきか、私たちはどう考えるべきかという規範的問いに取り組むことで、現代の国際社会に対する関心や理解を深めることを目指している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、平和学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。							2	2				
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。									2	2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	戦争倫理という観点から平和学の諸問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	120分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	戦争倫理の論じ方	規範理論における戦争倫理の特徴と課題を紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	正戦論の歴史について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	現実主義と戦争倫理	戦争倫理の観点から見た現実主義の意義と課題を紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	戦争の違法化について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	平和主義と戦争倫理	戦争倫理の観点から見た平和主義の意義と課題を紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	非武装中立の思想について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	自衛権とは何か	開戦法規における正当原因としての自衛について紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国連憲章における個別的・集団的自衛権について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	必要性条件	開戦法規における必要性について紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	武力行使の三要件について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	比例性条件		開戦法規における比例性について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	刑罰戦争について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	グループ討議／教材上映		これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	グループ討議／教材上映を振り返る。	60分
9	戦闘員の地位		交戦法規における区別原則の一角として、戦闘員の地位について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ハーグ法分野について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	民間人の地位		交戦法規における区別原則の一角として、民間人の地位について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ジュネーヴ法分野について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	人道的介入		ポスト冷戦期の国際紛争の形態として、人道的介入について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国連PKOについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	非対称戦争		今世紀の国際紛争の形態として、対テロ戦争について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	ニューヨーク同時多発テロ事件について調べる。	180分
	事後学修	教材内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	遠隔戦争		今世紀の国際紛争の形態として、ドローン戦争について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ドローンの民生利用について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	戦争の終わり方		戦争の終わり方をめぐる規範的議論について紹介・検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	移行期正義について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括		これまでの授業内容を総括する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	法医学Ⅰ	担当者	山口 るつ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法医学は「法律に関係のある医学的問題を研究し応用する学問」であり、医学領域では社会医学に属し、具体的問題を対象として社会活動をしなければならない立場にある。法医学では実務として司法解剖が重要であり、法学領域では刑法・刑事訴訟法などと関連する。また、民事関係でも生命保険・損害保険・損害賠償などが関連している。そこで刑事・民事・社会医学的事例を多く提示し、学生諸君に理解しやすいようにと計画する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：法医学という学問分野が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 到達目標：法医学の基本的事項を修得し、回答できる。ただし医学生レベルまでは求めない。法医学の各事例について、それぞれ問題点を指摘できる。 関連DP及びCP：法律学科1，2 公共政策学科1，3，4

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例検討：法医学解剖模擬事例について、講義で学んだ知識をもとに死因や死因の種類、問題点の考察を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の検死制度・解剖制度について説明できる。				1	1						
②	死の定義、判定方法、脳死の定義について、また臓器移植法について理解している。				1	1						
③	アルコールの功罪について説明できる。				1	1						
④	死体現象、死後経過時間推定について、その困難さや法医学上の問題点をある程度説明できる。				1	1						
⑤	創傷の定義と種類、成傷器の推定について説明できる。また、頭部損傷の特殊性を理解する。交通事故の現状を理解する。				1	1						
⑥	窒息や溺水について定義と分類を説明できる。				1	1						
⑦	薬害や医療事故についてある程度説明できる。				1	1						
⑧	民事事件における法医学の役割について具体例を提示し解説できる。				1	1						
⑨	大規模災害における法医学の役割を理解し、説明できる。				1	1						
⑩	刑事事件や再審請求事件における法医学の役割と現状・問題点に関して具体例を提示して論説できる。				1	1						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業毎に確認テストを実施する。	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	60
レポート等	期末にレポートを課す。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
確認テストの解答を公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEWエッセンシャル法医学 第6版	高取健彦（監修）	医師薬出版	2019	参考書	推奨
死体格差-異状死17万人の衝撃-	山田 敏弘	新潮社	2021	参考書	任意
不自然な死因-イギリス法医学者が見てきた死と人生	リチャード・シェパード	大和書房	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
個別連絡により対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 法医学執刀医、外科・救急医療の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法医学概論	法医学とは、その歴史、関連領域、法医鑑定、死因、死因の種類など。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
2	人体の構造・解剖・生理1	法医学を履修するにあたっての人体の構造・解剖・生理についての基礎知識、関連の医学分野のトピックなど。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
3	人体の構造・解剖・生理2	法医学を履修するにあたっての人体の構造・解剖・生理についての基礎知識、関連の医学分野のトピックなど。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
4	死体現象	早期、晩期、特殊死体現象について、また死体現象に基づく死後経過時間および死因の推定の実際について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
5	損傷総論	創傷の種類と鑑別、死因との関連について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
6	損傷各論	創傷の種類と鑑別、死因との関連について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	窒息1	縊頸・絞頸・扼頸の違いの解説、気道内異物の鑑定事例について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
8	窒息2	溺水の所見、鑑別、日本で多い入浴死について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
9	災害・公衆衛生学的危機と法医学	自然災害や事故などの大規模災害、感染症のパンデミックなどの際の法医学の役割について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
10	虐待	小児虐待事例の法医学的診断、臨床法医学などについて。 外部講師：千葉大学大学院医学研究院附属法医学教育研究センター助教 齋藤直樹先生	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
11	死後画像診断	死後画像診断の実務やその有用性、ビットフォールについてなど。 外部講師：千葉大学大学院医学研究院附属法医学教育研究センター助教 吉田真衣子先生	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
12	労働災害と法医学	労働災害に関連した外傷死・内因死の疫学や、その法医学的問題点。	
	この回の到達目標	法医学的な死因診断の考え方などについて実例をもとに自身で考察し、理解する。	
	事前学修	これまでの講義内容につき復習し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	事例検討：アクティブラーニング	これまで講義で学んだ知識をもとに、法医学解剖の模擬事例について、死因・死因の種類・問題点などを考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
14	法廷における法医学	専門家証人としての法医学者の役割やその実際について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などをWeb検索なども行いつつ確認しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
15	知識の総括	これまでの講義に関する質問、期末の知識確認テストなど。	
	この回の到達目標	これまでの講義で得た知識の整理と定着。	
	事前学修	これまでの講義内容にたいし質問事項があれば整理しておく。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

科目名	法医学Ⅱ	担当者	奥田 貴久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法医学は、法学の分野に医学の知識と原則を適用し、問題解決の一助となることで社会的使命と責任を果たすことを目的としています。特に死因究明は法医学の主要業務であり、死因を決定するために法医解剖を通じたエビデンスの収集を行います。また、薬毒物やアルコール、生命倫理、医療安全、DNA鑑定なども法医学に関連した領域です。法に関連する医学的諸問題を解決するための基本的な事柄を学生諸君に医学的知識がないことを前提にわかりやすく解説します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 法医学が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 【到達目標】 法医学の基本的事項を習得し、回答できる。法医学の各事例についてそれぞれ問題点を指摘できる。 関連DP及びCP：法律学科1，2 公共政策学科1，3，4

【履修条件】
講義内容は他言しない。SNS等で講義内容を拡散させることは厳禁。講義で用いる写真や動画等の撮影は禁止。解剖の写真にはモザイクをかける。人体の構造と機能については自習をお願いしたい。

【授業方法】
授業後の確認テストに回答することで出席とする。希望者には法医解剖の見学機会を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された事例について、死因と死因の種類について回答する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法医学とは何か、死因、死因の種類について説明できる。					1	1						
②	死の判定、心臓死、脳死、臓器移植法について説明できる。					1	1						
③	種々の内因死、外因死について成因や受傷機転を理解し、説明できる。					1	1						
④	交通事故関連法規や交通事故の現状、交通外傷について説明できる。					1	1						
⑤	わが国の死因究明について、実務面と法的側面から説明できる。					1	1						
⑥	違法薬物に関連する法律、薬物依存について説明できる。					1	1						
⑦	硫化水素、フグ毒、ヒ素など稀な毒物による死について説明できる。					1	1						
⑧	代表的医療事故について説明できる。					1	1						
⑨	飲酒がもたらす社会問題について、依存や健康被害の観点から説明できる。					1	1						
⑩	死亡時画像診断について説明できる。					1	1						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験を実施する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
小テスト等	授業毎に確認テストを実施する。	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜～金曜 9:00～17:00 メールにて連絡（okuda.takahisa@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 法医解剖100件/年、臨床医としての20年以上の診療経験、メリーランド州での解剖実務経験、動物を用いた研究10年以上
実務経験に基づく実践的教育の内容		国内外の法医解剖はもちろんのこと、アルコール医学やDNAの基礎研究も行っています。臨床医としての病院勤務経験や専門医資格も有しますので、学生諸君が社会に出てから法学の専門家として必要となる医学的事柄をわかりやすく指導します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	生命と死	生命徴候、心臓死、脳死、臓器移植法などについて、医療倫理の側面と実務面から考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
2	交通死亡事故	交通関連法規、交通事故の現状、交通外傷の法医鑑定事例について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
3	死因究明等推進基本法	死体検案と異状死体について、異状死体の届け出義務について、死因究明等推進基本法についてなど、わが国の死因究明の在り方を考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
4	異常環境による死	焼死・CO中毒・広範囲熱傷・凍死などの成因や鑑定事例について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
5	法中毒①	覚せい剤、大麻などの違法薬物、向精神薬・眠剤などの処方薬の大量摂取に関連する事故・中毒・自殺の鑑定事例について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
6	法中毒②	硫化水素・青酸・ヒ素・フグ毒など稀な毒物による事件・事故、沖縄トリカブト事件について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法医学とインテリジェンス	法医学に関連するインテリジェンスやメディアリテラシーについて（ゲストスピーカー：日本大学医学部社会医学系法医学分野客員研究員の山田敏弘）	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
8	医療安全のしくみ	代表的医療事故を振り返り、医療事故を防止するための医療安全の仕組みについて考察する。法的問題にも触れる。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
9	薬害	繰り返される薬害について法的問題を考える（ゲストスピーカー：増山ゆかり）	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
10	飲酒と社会問題	酒類はアルコールを主成分とする嗜好品であるとともに、依存症を引き起こす薬物でもある。アルコール依存症は飲酒運転・家庭内暴力などの社会問題及び肝疾患・突然死などの健康被害をもたらす。飲酒と社会問題について考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
11	法医学が扱う内因死	異状死体として法医学解剖される内因死について。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
12	アメリカの法医学	銃・麻薬など、アメリカの社会問題の解説。日本とアメリカとの死因究明の違いについて。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブラーニング	提示した事例の死因と死因の種類を考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
14	DNA鑑定	PCRの原理、DNA鑑定の実際、冤罪など。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分
15	知識の総括	これまでの講義に対する質問、期末テストの解説など。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	確認テストに回答する。講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。	170分

科目名	防衛政策	担当者	松浦 一夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
日本とドイツはともに、戦後「平和主義」を掲げる憲法の制約により長く軍事活動の分野を抑制してきた。しかし東西冷戦の終結とともに、両国は国際平和協力のため軍隊を同盟防衛地域外に派遣するようになり、また、 2001年9.11 米国テロ事件以降は、対テロ活動にも軍隊の役割が期待されるようになった。そして今日、サイバー空間や宇宙空間にその活動の場を広げている。本講義では、日本の防衛政策の変化とこれに対応する防衛立法の変遷を追いつつ、これをドイツとの比較の観点から学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
防衛・安全保障分野における将来に向けての日本の立法政策の課題について考える力を養う。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面講義形式で行うことを原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法と安全保障法制、同盟関係等について、再軍備過程を対照しつつ日本とドイツの安全保障政策の法的枠組みの共通点と相違点を理解する。				4	4	4	4	4			
②	日本とドイツの冷戦後の防衛政策の変化と安全保障法制整備の経緯について理解する。				4	4	4	4	4			
③	国際平和協力のための軍隊派遣の憲法上の根拠と国外派遣法制等について、日本とドイツを比較検討する。				4	4	4	4	4			
④	テロ予防・対処とそのための立法および憲法論議等について、日本とドイツの対応を比較検討し、立法課題を抽出する。				4	4	4	4	4			
⑤	外国軍隊の駐留にかかわる諸問題を、日米地位協定（日本）とNATO軍地位協定・ボン補足協定（ドイツ）との比較において検討し、両同盟の構造的相違を理解する。				4	4	4	4	4			
⑥	安全保障の「新領域」（サイバー・宇宙等）にかかわる日本とドイツの最近の議論状況を理解する。											
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内で行う中間試験（1回、資料の持込・参照可）と最終 授業時に提出するレポートをもって総合評価する。	20	20	20	20	10	10					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験後の論点解説及び最終レポートに対する講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新領域安全保障-サイバー・宇宙・無人兵器をめぐる法的課題	笹川平和財団・新領域研究会 [編]	ウェッジ	2024	参考書	推奨
新・防衛法制	田村重信 [編著]	内外出版	2018	参考書	推奨
立憲主義と安全保障法制-同盟戦略に対応するドイツ連邦憲法裁判所の判例法形成	松浦一夫	三和書籍	2016	参考書	推奨
憲法概説（第2版）	松浦一夫・奥村公輔 [編著]	成文堂	2020	その他	任意
ドイツ憲法集（第8版）	高田敏・初宿正典 [訳]	信山社	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤講師のため固定されたオフィスアワーは設定しないが、講義終了後の質問には応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】防衛立法政策の日独国際比較		左記のテーマについて、本講義の全体的構成を説明する。
	この回の到達目標	今後15回の講義の流れと論点を理解する。	
	事前学修	シラバスの講義計画の内容を事前に確認する。	120分
	事後学修	講義内容を確認して他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	憲法と防衛政策Ⅰ（日本国憲法第9条と自衛隊、防衛政策の基礎）		日本国憲法第9条の下での自衛隊の法的地位と防衛政策の法的基礎を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法第9条の制定過程とその解釈（政府見解）、日米安保条約を踏まえ、安全保障政策の法的枠組みを理解する。	
	事前学修	日本国憲法の制定過程および自衛隊創設に至る経緯、政府の9条解釈の変遷、日米安保条約の内容について事前に調べる。	120分
	事後学修	戦後日本の「専守防衛」を基本とする防衛政策の法的基盤を学修し、これをまとめ、整理する。	120分
3	憲法と防衛政策Ⅱ（ドイツ基本法と連邦軍、防衛政策の基礎）		ドイツ基本法（憲法）改正による再軍備と連邦軍の憲法上の地位、および防衛政策の法的基礎を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、改憲による軍隊の設置とその統治機構内への編入により再軍備を実現した（旧西）ドイツの憲法防衛関連規定の概要を理解する。	
	事前学修	ドイツ憲法集や国際条約集等によりドイツ連邦共和国基本法や北大西洋条約の条文を確認できるように準備する。	120分
	事後学修	戦後（旧西）ドイツの「専守防衛」政策の法的基盤を学修し、これをまとめ整理する。	120分
4	安全保障法制整備の背景Ⅰ（冷戦終結以後の日米同盟戦略の変化と自衛隊任務の拡大）		日本国憲法の下で冷戦終結後に形成されてきた安全保障法制整備の政治的背景を説明する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、冷戦終結後、「専守防衛」を原則としつつも、領域外の紛争解決に協力を求められるようになる日本の防衛政策の変質と自衛隊の任務拡大の背景を理解する。	
	事前学修	冷戦後の日米同盟の在り方を示した「日米安全保障共同宣言」（1996）、「日米防衛協力のための指針」（1997）の内容を予習する。	120分
	事後学修	冷戦後の日米同盟の変化とこれに対応するための国内立法の関連性を学修する。	120分
5	安全保障法制整備の背景Ⅱ（冷戦終結後のNATOの戦略転換とドイツ連邦軍の同盟防衛地域外派兵）		ドイツ憲法上制度化された防衛法制が、冷戦後かかえるようになる新たな憲法問題について、その政治的背景を説明する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、バルカン半島危機を背景にNATO防衛地域外での紛争対処を求められるようになるドイツの防衛政策の変質と連邦軍派遣をめぐる憲法問題の背景を理解する。	
	事前学修	冷戦後のNATOの戦略方針の転換を示す「同盟の戦略概念」（1991）の内容を予習する。	120分
	事後学修	参考書『立憲主義と安全保障法制』第1章を参考に、NATOの冷戦後の戦略転換とドイツ国内での憲法論議の関係性をまとめる。	120分
6	国際平和協力のための軍隊国外派遣政策と法整備Ⅰ（自衛隊の国外派遣法制）		冷戦後活発になった国際平和協力活動や日本周辺地域の紛争解決への自衛隊の協力とそれにかかわる憲法問題、およびこれを可能にした立法政策について説明する（国際平和協力法・周辺事態〔重要影響事態〕安全確保法等の意義）
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際平和協力法（1991）等の内容を理解する。	
	事前学修	国際平和協力法等の内容を予習する。	120分
	事後学修	主に1990年代に制定された自衛隊の国際協力関係法から平和安全法制整備（2015）に至る経緯について学修する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	国際平和協力のための軍隊国外派遣政策と法整備Ⅱ（ドイツ連邦軍のNATO防衛地域外派遣のための法制）		冷戦終結後のNATOの戦略転換に伴う同盟防衛地域外への連邦軍の派遣にかかわる憲法問題と憲法訴訟、および「武装軍隊の国外出動に際しての議会関与に関する法律（議会関与法）」制定の意義について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ連邦軍のNATO防衛地域外派遣をめぐる憲法訴訟の概要と「議会関与法」制定に至る経緯を説明する。	
	事前学修	参考書『立憲主義と安全保障法制』第2章を参考に、それまでNATO同盟防衛地域外派兵を違憲とした政府見解の見直しを追認し、域外派兵を合憲とした1994年7月12日ドイツ連邦憲法裁判所第二法廷判決（NATO域外派兵合憲判決）を予習する。	120分
	事後学修	『立憲主義と安全保障法制』第6章を参考に、NATO域外派兵合憲判決と「議会関与法」の関連性を学修する。	120分
8	中間試験		2回～7回の授業内容について中間試験（60分）を行った後、試験内容についての解説（30分）を行う。
	この回の到達目標	これまでの講義の全体的意義を理解する。	
	事前学修	中間試験の受験準備を行う。	120分
	事後学修	試験の設問の意義を復習する。	120分
9	9.11米国同時多発テロ型攻撃対処のための軍隊の使用と法Ⅰ（航空テロ攻撃に対する自衛隊の出動とその憲法上の問題点）		9.11型航空テロ攻撃対処のための自衛隊の出動の法的根拠とその問題点について説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、日本における航空テロ攻撃への軍事的対処の問題点を検討する。	
	事前学修	2008年7月洞爺湖サミットの際の警備体制における航空テロ攻撃対処措置と自衛隊の役割について予習する。	120分
	事後学修	自衛隊による対処措置の法的根拠とその憲法上の問題点について復習する。	120分
10	9.11米国同時多発テロ型攻撃対処のための軍隊の使用と法Ⅱ（航空テロ攻撃に対するドイツ連邦軍の出動と憲法訴訟）		9.11型航空テロ攻撃対処のため連邦軍に出動任務を定める「航空安全法」とこれをめぐる違憲訴訟について説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、航空テロ攻撃への軍事的対処を定めるドイツ「航空安全法」の概要とこれをめぐる違憲訴訟の要点を理解する。	
	事前学修	参考文献『立憲主義と安全保障法制』第8章・第9章を参考に、航空安全法の軍事対処規定と違憲訴訟の概要を予習する。	120分
	事後学修	航空テロ対処における日本とドイツの対応を比較し、解決策を模索する。	120分
11	同盟外国軍隊の国内駐留に関する諸問題Ⅰ（日米地位協定の論点）		日米地位協定については、受入国である日本にとって不利な点があるとして、とくに沖縄県からその問題性が指摘され、改定が要請されてきた。問題点と指摘の妥当性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、日米地位協定に関する沖縄県の主張を確認し、改定提言の要点を理解する。	
	事前学修	沖縄県のホームページ「地位協定ポータルサイト」掲載の記事・資料を参考にして、問題の所在を確認する。	120分
	事後学修	日米地位協定改定提言において参考にされるNATO軍地位協定・ボン補足協定の1993年改定との関連付けについて考える。	120分
12	同盟外国軍隊の国内駐留に関する諸問題Ⅱ（NATO軍地位協定・ボン補足協定の論点）		日米地位協定改定論者は、ドイツにおけるNATO軍地位協定・ボン補足協定の改定を例にとり、その主張の論拠としている。この論拠の妥当性を検討する。
	この回の到達目標	NATO軍地位協定のドイツ国内における運用を定めるボン補足協定は、1993年に改定され、ドイツに有利な配慮がなされたとされる。この改定の要点とその意義を理解する。	
	事前学修	本間浩論文などを参考に、NATO軍地位協定等、軍隊駐留法制の概要を予習する。	120分
	事後学修	ドイツにおけるボン補足協定改定の方法が日米地位協定のモデルとなり得るか、考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「新領域」安全保障政策と軍隊使用の法的根拠Ⅰ（日本の「安保三文書」における位置づけと自衛隊の活動）	2022年末に公表されたいわゆる「安保三文書」は、サイバー・宇宙など安全保障の「新領域」における日本の防衛能力強化を目標として掲げている。自衛隊のこの分野での能力強化とその法的基盤をどう考えるべきか、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、安全保障の「新領域」とくにサイバー安全保障における自衛隊の役割とその法的基盤について、どうあるべきかを考える。	
	事前学修	2022年末に公表されたいわゆる「安保三文書」（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）の内容を予習する。	120分
	事後学修	サイバー戦と日本の既存の防衛法制の関連性を学修する。	120分
14	「新領域」安全保障政策と軍隊使用の法的根拠Ⅱ（ドイツの「国家安全保障戦略」における位置づけとドイツ連邦軍の活動）	2023年6月に公表されたドイツ「国家安全保障戦略」における「新領域」安全保障の位置づけを確認するとともに、この分野での連邦軍の活動の法的根拠に関する政府・議会の立場を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、安全保障の「新領域」とくにサイバー安全保障におけるドイツ連邦軍の役割とその法的基盤について、ドイツ連邦政府・連邦議会の見解を確認する。	
	事前学修	参考書『新領域安全保障』第3章を参考に、NATOのサイバー戦への姿勢とその法的根拠について予習する。	120分
	事後学修	ドイツ連邦軍のサイバー活動と既存の防衛法制の関連性を学修する。	120分
15	総括（防衛政策・防衛立法の日独比較の意義）	15回の講義の全体内容を総括し、日本の将来の防衛政策・防衛立法への示唆について解説する。	
	この回の到達目標	全回の講義内容を復習し、国の防衛政策と安全保障立法の国際比較の意義を考える。	
	事前学修	これまでの講義ノートを復習し、レポートにまとめる。	120分
	事後学修	日本の将来の防衛政策・安全保障立法の課題は何か、考える。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本年度の学部の方針に従い、原則的に対面方式とする。到達目標①②③④⑤⑥に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	15	15	10	10	10	10					70
レポート等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、レポート等によって評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	15	15	15	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	法学とはなにか		法学とはどのような学問領域であり、私たちの社会に対してどのような役割を果たしているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学の学問性とその意義を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
2	リーガル・マインド		それぞれの学問領域に固有の思考法があるように、法学においてもリーガル・マインドという思考法があることを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、リーガル・マインドとはなにかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
3	民事訴訟の構造		リーガル・マインドの例として、民事訴訟におけるものの考え方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、民事訴訟の構造を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
4	要件事実論		民事訴訟におけるリーガル・マインドの根幹である要件事実論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、要件事実論とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
5	攻撃防御の仕組み		要件事実論にもとづく原告と被告の攻撃防御の仕組みを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、原告の被告の攻撃防御がどのようにおこなわれるのかを簡潔に説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
6	契約		リーガル・マインドの実践として、契約とはなにであるか、またそれはどのように履行されるのかを、その経済的意義とともに学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法的な意味での契約とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	債務不履行		契約は、常に履行されるとは限らない。この授業では、契約が適切に履行されなかったとき、どのような救済方法が与えられているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、債務不履行が起こったときの対応方法を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
8	所有権		国民の経済活動の根幹にあるものは、財産権である。この授業では、財産権の意義とその保障制度について、所有権を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、所有権がなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
9	不動産取引		財産権と契約との関係の一例として、不動産取引を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、日本国における不動産取引の制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
10	刑事訴訟の構造		刑事訴訟は、民事訴訟とならぶ代表的な訴訟制度のひとつである。犯罪とはどのような事態を意味し、どのような取り扱いがなされるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、刑事訴訟の構造を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
11	経済犯罪		第9回の授業における不動産取引を素材として、横領罪などのいわゆる経済犯罪の例を学び、刑事訴訟における具体的な考え方を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、不動産取引から発生しうる刑事事件について説明をすることができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
12	人権とはなにか		民事訴訟も刑事訴訟も、その基盤は近代国家制度における人権という考え方に根付いてる。この授業では、人権とはなにであるかを、歴史的経緯も踏まえつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、人権概念の意義を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	経済活動と憲法①（国家と国民との衝突）		国家活動は、その性格からして、国民の人権と衝突することがある。この授業では、国家が国民の経済活動の自由を制限しようとするとき、そこにどのような問題点が生じるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国民の経済活動が国家に規制されている例、およびその例における憲法学上の問題点を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
14	経済活動と憲法②（国民間での衝突）		人権は、国家の規制と衝突するだけでなく、他の国民の人権と衝突することもある。この授業では、国民同士のあいだで人権の衝突が起こったとき、それがどのように調整されるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国民間の人権が衝突する例、およびその例における憲法学上の問題点を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
15	法学と私たちの生活		法学とはなにか、またリーガル・マインドとはどのような思考法であるかをふりかえり、実生活に対してどのような応用が可能であるかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学と実生活とのつながりを理解し、法的思考を実生活に応用する基礎的なスキルを身につける。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	上野 幸彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
基本的に教科書によりながら講義の形式で行う。しかし、多様な意見に接することも、法学の学修においては大切であり、大勢の受講者がいるクラスの授業では制約も大きいですが、できるだけ受講者の意見を共有しながら議論できるチャンスを設けたい。なお、法律について学ぶ授業なので、学習の道具として「六法」は欠かせない。毎時間、必ず六法を持参のこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関して、ポータルの「小テスト」を利用して、択一式による客観テストにより、基礎知識の定着度についてチェックする。	5	5	5	5	5						25
レポート等	基本的な考え方や理解の適切性という観点から評価を行い、到達目標①②③④⑤に照らして十分に説明できる知識・能力が身についているかを判定するとともに、到達目標⑥に関連して思考プロセスの合理性、ロジカルシンキングの定着度をチェックする。	10	5	10	5	10	10					50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション 課題)	到達目標①②③④⑤に関して、授業時に実施する復習的な課題（テスト）としてリアクション課題を実施し、授業内容の理解を確認する。	5	5	5	5	5						25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	15	20	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後、採点を行い授業で解説する。レポート回収後、授業の中でポイント等について説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国家と社会の基本法 第5版	上野幸彦・古屋等	成文堂	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室にて10分程度応接する。これ以外に、メールによる質問等を随時受け付ける。メルアド：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【法律の条文】		法律の学習を始める出発点として、まず法律にはどのようなことが記述されているのかを、実際に具体的な条文（規定）に触れながら理解し、条文の基本的な読み方、法律の分野における表現上の決まり、法律用語の使い方などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律の条文を実際に読み、「六法」に収録されている法律の分け方について理解し、その理由を説明することができる。		
	事前学修	六法（ポケット六法）を手にとって、「日本国憲法」，「民法」，「刑法」というタイトルの法律の条文を読んで、どんなことが書かれているのか確認する。	120分	
	事後学修	六法の引き方・使い方を再確認し、一般の用法とは異なる法令上の用語法について復習する。	120分	
2	【法律の規定の意味について】		法律の条文の記述を通じて、その規定の意味について考える。条文の構造を分析しながら、その条文から導きだされる具体的な意味・内容を明確に理解し、法規定と規範的特質との関係について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実定法の規定構造を理解することにより、法の規範的な性質とその機能について説明することができる。		
	事前学修	法律の条文には、さまざまな指図が含まれている。そこで、刑法199条・177条・179条1項、民法709条・415条1項・4条、憲法13条・21条1・2項・25条1・2項・41条・66条1項・76条1項の各規定について、指図（ないしルール）の内容を確認するとともに、その指図が、誰による、誰に対するものなのかを考える。	120分	
	事後学修	法律用語等につき、Classroom上の「演習問題1」に取り組み、指定された期限までに解答する。この解説は、次の授業時に行う。	120分	
3	【法の分類】		法は、さまざまな観点から分類・整理することができる。ここでは、存在形式、法律関係の対象、規定の内容などを基準として整理し、法のさまざまな種類について知ることにより、法の多様性について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法をどのような仕方でも認識でき、またどのような基準で分類されているのかを知り、法の存在形式および主要な分類について説明することができる。		
	事前学修	教科書222-224頁を読み、（1）国内法と国際法の特徴的な違いと国際法の法源、（2）公法と私法とを区別する一般的な基準とそれぞれに属する代表的な法律、（3）社会法に分類される典型的な法律をチェックしてくる。	120分	
	事後学修	規範的構造、法の分類につき、Classroom上の「演習問題2」に取り組み、指定された期限までに解答する。この解説は、次の授業時に行う。	120分	
4	【国家法の体系的構造】		主権者自身が制定した「憲法」を頂点とする国家法の段階的構造を中心に、憲法と条約との関係、国家法と自治体の自主法との関係、さらに制定法と慣習法との関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法の形式的効力による分類を理解し、一国の法体系が階層構造に基づき成立していることを説明することができる。		
	事前学修	「日本国憲法」，「法律」，「命令」の制定主体は誰か、そしてこれらの形式的効力の優劣関係、さらに制定法である法律と不文法である慣習法との関係について、教科書228-232頁を参照して予習しておく。	120分	
	事後学修	制定主体による法の分類について再確認するとともに、国家主権との関連における憲法と条約をめぐる優劣の問題や国の法令とは別個独立した条例を制定する場合の限界などの問題について復習する。	120分	
5	【法と道徳】		法と道徳との関係や異同に関する伝統的な見解について説明するとともに、道徳に反する法の有効性や道徳に違反しているという理由だけに基づいて法によって強制することの正当性の問題について議論し、考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、社会規範として法と同様の性質を有する道徳との比較を通じ、法と道徳それぞれの妥当領域を理解し、法と道徳との違いと関連について説明することができる。		
	事前学修	法と道徳との関係や違いについて、教科書214-218頁を参照して整理するとともに、現在、欧米では同性婚を認める国が増えているが、婚姻の成立を異性婚に限っている日本の法制度について、その根拠を調べるとともに、問題点を指摘する。	120分	
	事後学修	制定法の種類や相互関係、法と道徳に関する問題について、Classroom上の「演習問題3」に取り組み、指定された期限までに解答する。この解説は、次の授業時に行う。	120分	
6	【法と裁判】		法と裁判との相互関係について歴史的に分析したうえで、日本の司法システムについて、日本国憲法及び裁判所法に基づいて説明するとともに、民事及び刑事事件に関する手続の概要について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、法と裁判との歴史的・機能的な結びつきと裁判の手続きを理解し、両者の関係と裁判手続の概要を説明することができる。		
	事前学修	日本の司法システムについて、（1）裁判所の組織・権限（教科書93-96頁参照），（2）民事及び刑事手続の概要（教科書238-255頁参照）を予習しておく。	120分	
	事後学修	公正な裁判を支える一般的な原則を確認し、日本の裁判システムにおいて、具体的にどのような形で表れているのかをチェックする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【実際の裁判例と法の解釈・適用（１）】		夫婦が生殖補助医療により代理母に出産させた場合における親子関係が問題となった裁判例を取り上げて、新たな問題に対する現行法上の解釈の限界や立法的措置の必要性等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所平成19年3月23日決定を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分	
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分	
8	【実際の裁判例と法の解釈・適用（２）】		従来の判例の傾向とは異なる判断を下した裁判例として注目される事件を取り上げて、変更に至った背景や実質的な考慮を探り、「解釈する」という営みの中にどのような価値判断が控えているのかを明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所平成27年4月9日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分	
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、裁判官がこのような結論を採用するにあたってどのような事情を考慮したと推測できるかを分析し、このような結論が社会に及ぼす影響やその判断の是非を検討する。	120分	
9	【実際の裁判例と法の解釈適用（３）】		刑罰法規における解釈の特徴について理解するとともに、法廷意見と反対意見とを比較しながら、理論的な問題点について分析する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所平成29年3月15日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分	
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分	
10	【実際の裁判例と法の解釈適用（４）】		SNS上の書き込みについて、大きな社会問題となっている中、プライバシー・個人の秘密と社会の公共的関心との衝突に際して、忘れられる権利とも関連させながら、両者の調整について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所令和4年6月24日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分	
	事後学修	争点についての的確に理解し、最高裁判所における利益衡量について検討するとともに、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、その判断の是非を検討する。	120分	
11	【解釈の技法と法の適用】		法律の規定を適用する際の解釈の方法について、これまで授業で取り上げた裁判例を含め、具体的な事例を素材にしながら、解釈を通じた適用の在り方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、法の適用における法解釈の方法を理解し、解釈の技法と法解釈の特徴について説明することができる。		
	事前学修	教科書232-235頁を読み、法解釈の一般的な方法について予習しておく。	120分	
	事後学修	司法システム、裁判手続、法の解釈・適用につき、Classroom上の「演習問題４」に取り組み、指定された期限までに解答する。この解説は、次回の授業時に行う。	120分	
12	【法の紛争解決機能】		社会的な紛争解決の諸方式と裁判とを対比させながら、法と裁判の特徴を理解するとともに、司法及び裁判システムについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、裁判の紛争解決機能の特徴について理解し、法機能の一部である紛争解決機能について説明することができる。		
	事前学修	教科書225-227頁、236-243頁を参照しながら、紛争を解決する方式について、裁判による場合とそれ以外の方式（ADR）とを比較し、それぞれの方式のメリットとデメリットを指摘し、裁判の特徴について説明できるようにしておく。	120分	
	事後学修	日本の司法システムにつき、日本国憲法及び裁判所法の規定を参照しながら、裁判所の組織・権限を整理し、また民事・刑事に関する裁判手続の概要についてまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【社会システムとしての法】	社会の秩序化を図る法という観点から、法の社会統合・秩序化機能と関連させながら、法と国家との関係や法と強制との結合について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会における法の機能について理解し、法の社会的機能を説明することができる。	
	事前学修	法が存在しない社会を仮定したうえで、その状態と法の必要性ないし存在根拠について考える（教科書212-213頁参照）。	120分
	事後学修	社会的機能や社会システムという観点から、法の特徴を分析し、法の構造的な特質について復習する。	120分
14	【法の理念】	法の価値に関する側面に焦点を当て、とくに正義と法的安定性という価値について、実定法と関連させながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法に内在する価値的側面に注目し、法理念としての正義や法が果たしている規範的正当化機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書211-214頁を読み、法の理念に関するこれまでの考え方について予習し、実定法の中に正義あるいは法的安定性の理念が具体的にどのような形で表れているのか、確認する。	120分
	事後学修	法の構造及び理念に関して、Classroom上の「演習問題5」に取り組み、指定された期限までに解答する。この解説は、次の授業時に行う。	120分
15	【法とは何か】	これまでの授業と学修の積み重ねに基づき、「法とは何か」というテーマで議論する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、各自の意見を法的に表現し、法的思考によりながら自分の主張を述べることができる。	
	事前学修	「法とは何か」、あらためて各自考えてくる。	120分
	事後学修	他の受講者の意見や議論を振り返り、自分の意見と比較しながら再検討し、もう一度各自の見解を見直す。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	齋藤 崇	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義形式にて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法学に関する基礎的知識について理解し、説明することができているかを、試験により評価します。	10	10	10	10	10	20					70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④⑤⑥に関して、各回の授業内容に関するリアクション(コメントなど)により評価します。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	15	25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業開始前または授業終了後に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本一やさしい条文・判例の教科書	品川皓亮／土井真一	日本実業出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室(9号館1階9105研究室)にて、水曜日・5時限目に行いますが、事前にご連絡(メールアドレス：saito.takashi@nihon-u.ac.jp)をお願いします。なお、ほかの曜日・時限も対応することができます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス(導入講義)	本授業のガイダンス、法学(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、本授業のガイダンス、法学(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	本授業のシラバスについて確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法学(総論)について整理しておきましょう。	120分
2	法の意義(1)	法とは何かについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法とは何かについて理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法と何かについて整理しておきましょう。	120分
3	法の意義(2)	法と道徳、法と強制について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関して、法と道徳、法と強制について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法と道徳、法と強制について整理しておきましょう。	120分
4	法の意義(3)	権利と義務、法の目的について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関して、権利と義務、法の目的について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	権利と義務、法の目的について整理しておきましょう。	120分
5	法の意義(4)	法の機能について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関して、法の機能について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法の機能について整理しておきましょう。	120分
6	法の種類(1)	法の存在形式(法源)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標③⑥に関して、法の存在形式(法源)について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法の存在形式(法源)について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法の種類(2)		公法と私法、実体法と手続法について講義します。
	この回の到達目標	到達目標③⑥に関して、公法と私法、実体法と手続法について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	公法と私法、実体法と手続法について整理しておきましょう。	120分
8	法の解釈・適用(1)		法の適用について講義します。
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関して、法の適用について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法の適用について整理しておきましょう。	120分
9	法の解釈・適用(2)		法の解釈について講義します。
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関して、法の解釈について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法の解釈について整理しておきましょう。	120分
10	裁判(1)		裁判の意義、裁判所について講義します。
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関して、裁判の意義、裁判所について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	裁判の意義、裁判所について整理しておきましょう。	120分
11	裁判(2)		判例について講義します。
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関して、判例について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	判例について整理しておきましょう。	120分
12	条文の読み方(1)		条文の構造について講義します。
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関して、条文の構造について講義します。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	条文の構造について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	条文の読み方(2)		条文を読むための法令用語について講義します。
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関して、条文を読むための法令用語について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	条文を読むための法令用語について整理しておきましょう。	120分
14	条文の読み方(3)		その他重要な法令用語について講義します。
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関して、その他重要な法令用語について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	その他重要な法令用語について整理しておきましょう。	120分
15	まとめ		前期のまとめ、試験を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法学に関する基礎的知識について理解し、考察し、説明してみましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	180分
	事後学修	理解があやふやなところについて整理しておきましょう。	60分

科目名	法学Ⅰ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法（令和6年(2024年)版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。また、対面授業の際は授業の妨げとなる行為（私語、スマートフォン等の電子機器の使用）を禁ずる。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学入門	宍戸常寿・石川博康 編	有斐閣	2021年	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【イントロダクション、法とは何か～①法の意義、システムとしての法】		社会規範としての法、法と道德との関係、法と権利、法の存在形式（法源）、法の分類等を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会規範としての法、法と道德との関係、法の存在形式（法源）、法の分類を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の2頁から10頁、132頁、174頁、214頁～217頁までを読み、社会規範としての法の役割を踏まえ、法の分類を整理し、社会生活における法の役割を説明できるように準備する。		120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえ、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、法と社会生活との関係を整理する。		120分
2	【法とは何か～②法の解釈と適用】		法規範とその適用（法的三段論法を含む）、法の解釈、解釈の方法等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法的三段論法、法解釈の方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の10頁から21頁までを読み、法の解釈と適用に関する法的三段論法の仕組みを理解し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法的三段論法を具体例を交えて理解し、法解釈の方法を整理する。		120分
3	【法の基本～①法と手続（主に民事訴訟法）】		法と手続を3つの視点（自力救済の禁止、人間の能力と資源の限界、デュー・プロセス）から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、手続法の前提と概観を踏まえ、民事訴訟法（判決手続の開始から終了まで、民事訴訟における重要原則）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の23頁から44頁までを読み、民事訴訟手続の概観を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、手続法という観点から、民事訴訟手続を整理する。		120分
4	【法の基本～②民法Ⅰ】		私法の一般法としての民法、物権と債権との関係、契約自由の原則、契約を支える法制度（意思表示、代理、債務不履行等）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権と債権との関係、契約自由の原則、意思表示、代理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の45頁から53頁までを読み、物権と債権との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約自由の原則、意思表示、代理の諸概念を整理する。		120分
5	【法の基本～②民法Ⅱ】		債務不履行、債権の消滅時効、物権変動をめぐる法的規律を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、債務不履行、債権の消滅時効、意思主義と対抗要件主義、不動産物権変動と177条、動産物権変動と即時取得、取得時効を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の53頁から62頁までを読み、債務不履行、不動産物権変動と177条、動産物権変動と即時取得を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物権変動をめぐる法的規律を整理する。		120分
6	【法の基本～③犯罪と法Ⅰ】		刑事法の意義、刑法の全体像を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、刑法の目的と機能、刑罰の種類と内容、刑法の基本原則、犯罪の成立要件等を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の63頁から76頁までを読み、刑法の機能、犯罪の成立要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、犯罪の成立要件（構成要件該当性、違法性、有責性）を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【法の基本～③犯罪と法Ⅱ】		刑事訴訟法の全体像を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、刑事手続の意義、刑事手続上の基本原則、刑事訴訟の基本構造を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の76頁から96頁までを読み、刑事手続の意義、刑事手続上の基本原則を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、刑法と刑事訴訟法との関係、刑事手続上の基本原則を整理する。		120分
8	【法の基本～④憲法Ⅰ】		立憲主義を踏まえて、日本国憲法の特徴を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、国民主権、個人の尊重と基本的人権、平和主義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の97頁から105頁までを読み、日本国憲法の特徴を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国民主権、個人の尊重と基本的人権、平和主義を整理する。		120分
9	【法の基本～④憲法Ⅱ】		立憲主義を踏まえて、基本的人権の保障、統治機構を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基本的人権の保障（幸福追求権、平等、自由権、社会権、参政権等）、統治機構（権力分立（国会、内閣、裁判所）、地方自治）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の105頁から116頁までを読み、自由権と社会権との違い、権力分立の趣旨を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、権力分立（国会、内閣、裁判所）、地方自治を整理する。		120分
10	【法と社会～①法とライフサイクルとの関係Ⅰ】		出生から成年、親子関係、子の養育、婚姻を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、権利能力・意思能力、実親子・養親子、婚姻・婚姻の解消を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の118頁から126頁までを読み、権利能力・意思能力、実親子・養親子、婚姻・離婚を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、権利能力・意思能力との関係、実親子・養親子との違い、婚姻・離婚を整理する。		120分
11	【法と社会～①法とライフサイクルとの関係Ⅱ】		病気と高齢化、死と相続を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、制限行為能力者制度、相続法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の126頁から130頁までを読み、制限行為能力者、相続を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、制限行為能力者、相続法の概観を整理する。		120分
12	【法と社会～②人々の暮らしと法（不法行為に限定）】		市民の社会生活におけるルールである不法行為とその修正を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、不法行為法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の138頁から142頁までを読み、不法行為法を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、不法行為法を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【法と社会～③組織に関する法】	法人、株式会社、非営利法人、地方公共団体を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法人の設立・消滅、株式会社のガバナンス、非営利法人のガバナンス、地方公共団体のガバナンスを理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の143頁から156頁までを読み、法人の設立、株式会社を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法人の設立・消滅、株式会社・非営利法人・地方公共団体の違いを整理する。	120分
14	【総まとめ・総復習】	これまでの授業における学修項目の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の2頁から200頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分
15	【テスト】	これまでの授業における学修項目の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の2頁から200頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	テストの実施後、その内容について、講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
Google Classroomでレジュメを配布し、講義を行う。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。また、出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	課題提出や授業後の小テスト等により，到達目標①～⑥についての理解度を確認する。	25	5	30	25	10	5					100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	5	30	25	10	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や小テストを後日の授業において行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレップ法学を学ぶ前に〔第2版〕	道垣内弘人	弘文堂	2017	教科書	必携
備考	上記教科書に加えて，最新版の六法を携帯すること。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士としての法律実務の経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		各種裁判手続や法の担い手としての法曹三者につき，実務に依拠した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、「規範」としての法		シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。本授業の全体像を把握させるため、法律学の一般的特徴を説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近接する他の領域との関係で示す法学の一般的特徴について説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、レジュメを確認し、法学の一般的特徴について考察する。		120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し、六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。		120分
2	法規範の構造 ― 法律要件と法律効果		法律要件・法律効果の仕組みを中心として、具体的な条文を用いて法規範の構造を説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、法規範の構造について説明できる。		
	事前学修	教科書1～9頁とレジュメを読み、法規範の構造について考察する。		120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。		120分
3	「法解釈」の必要性とその意味		「法解釈」がなぜ必要とされるのかを説明し、その意味を理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、「法解釈」の必要性とその意味について説明できる。		
	事前学修	教科書9～14頁とレジュメを読み、「法解釈」の必要性とその意味について考察する。		120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。		120分
4	「事実」とその認定ルール		法の適用の前提となる「事実」が何であることを説明するとともに、その認定のルールを説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、法律の条文の基本的な読み方について説明できる。		
	事前学修	教科書14～20頁とレジュメを読み、裁判上の「事実」とその認定ルールについて考察する。		120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。		120分
5	条文の読み方とその引用		具体的な条文を例にとって、その読み方の基本や引用の方法を説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、法律の条文の基本的な読み方について説明できる。		
	事前学修	教科書22～40頁とレジュメを読み、法律条文の読み方について考察する。		120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。		120分
6	法解釈の諸方法		法解釈の諸方法について、それぞれの違いとともに説明し、それらの使い分けを理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、法解釈の諸方法について、それぞれの違いとともに説明できる。		
	事前学修	教科書40～43頁とレジュメを読み、法解釈の諸方法について考察する。		120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法の体系と形式	法の基本的な分類と各種の制定法を説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して，法の基本的な分類と各種の制定法について説明できる。	
	事前学修	到達目標①③に関連して，法の基本的な分類と各種の制定法について説明できる。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
8	民事裁判手続の概要	法の適用過程の1つとしての民事裁判手続を説明し，実体法と手続法の役割分担を理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して，民事裁判手続の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書64～70頁とレジュメを読み，民事裁判手続について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
9	刑事裁判手続の概要	法の適用過程の1つとしての刑事裁判手続を説明し，実体法と手続法の役割分担を理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して，刑事裁判手続の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書70～72頁とレジュメを読み，刑事裁判手続について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
10	裁判以外での法の適用	裁判手続以外の法の適用過程を説明し，法の基本的役割を理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して，法の適用過程全般について説明できる。	
	事前学修	教科書73～76頁とレジュメを読み，法の適用過程全般について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
11	法の担い手	法曹三者（裁判官・検察官・弁護士）を中心に，法の担い手について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して，実体法と手続法の役割分担について説明できる。	
	事前学修	教科書80～86頁とレジュメを読み，法曹三者を中心とする法の担い手について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
12	判例の重要性とその引用	判例の重要性とその引用方法について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して，判例の重要性とその引用方法について説明できる。	
	事前学修	教科書90～97頁とレジュメを読み，判例の重要性とその引用方法について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	判例等の検索		判例等，法律文献の検索方法について説明し，理解させる。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して，判例等，法律文献の検索方法について説明できる。	
	事前学修	教科書98～100頁とレジュメを読み，判例等，法律文献の検索方法について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
14	判例の読み方		実際の判決文を例にとってその読み方を説明し，判例とは何であれか，どこから読み取れるかを理解させる。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して，民事判例と刑事判例の基本的な読み方について説明できる。	
	事前学修	教科書100～118頁とレジュメを読み，民事判例と刑事判例それぞれの読み方について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
15	法学小論文の書き方		論述式の試験やレポートを念頭に，その形式面における基本的作法を説明し，理解させる。
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して，論文式試験における答案作成の基本的作法について説明できる。	
	事前学修	レジュメを読み，論文式試験における答案作成の作法について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
なるべく出席し、あらかじめ図書館等で下調べをして講義に参加することを望む。また、六法は必ず持参のこと。

【授業方法】
板書を中心とした講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ法学 [第3版]	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00、金曜日16：20～17：50研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の方針についての説明	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法律学の学習方法や研究方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「法の学び方」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法の学び方について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	法の目的について	法の目的である正義・合目的性・法的安定性とは、それぞれどういうことであるかを具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の目的の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	正義、合目的性、法的安定性について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	法の社会的機能について	法の伝統的な三つの機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の社会的機能の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法の伝統的機能に加え、新しく注目される機能について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	法とその隣接領域について	法と緊密に隣接する領域である道徳・政治・経済との関係について具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法と隣接する領域の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法と道徳、政治、経済との関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	法源（成文法）について	成文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようなになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が成文法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	成文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	法源（不文法）について	不文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、成文法との関係はどのようなになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が不文法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	不文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法の分類（公法・私法・社会法、実体法と手続法）について		公法・私法・社会法および実体法・手続法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	公法・私法・社会法の内容と実体法と手続法の関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分
8	法の分類（強行法と任意法、一般法と特別法、固有法と継受法）について		強行法と任意法・一般法と特別法・固有法と継受法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	強行法と任意法の内容、一般法と特別法の関係、固有法と継受法の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分
9	法の効力範囲について		法の時間的・場所的・人的効力範囲とはどのようなことを言うのか、具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の効力範囲の内容を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第2章「法の内容」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	法の時間的、場所的、人的効力について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分
10	法と裁判について		日本の裁判制度はどのようなシステムになっているのかについて具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	日本の裁判制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分
11	裁判の特質について		裁判には様々な制約原理がある。また、裁判という紛争解決システムには制約からくる限界がある。これらはどのようなことなのか、そして限界を避けるために色々なシステムが構築されている。これらについて具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	裁判をめぐる制約原理とシステムの限界について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分
12	法的事実の認定方法について		裁判における事実認定の方法＝証拠をめぐる問題とさまざまな事情で事実認定が不可能になった場合どのような方法をとるのかについて具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、学修者が事実認定の方法を説明することができるようにする。		
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。		120分
	事後学修	事実認定の方法と事実認定が不可能な場合の方法について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法解釈の意義について	認定された事実について法を適用するために、解釈という作業を行う。この法解釈はなぜ必要なのか、また法解釈は誰が行うのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法解釈の必要性、法解釈の機関について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	法解釈の技法について	法解釈にはさまざまなテクニックがある。これらについて具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	各種の法解釈の技法の内容と具体例について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	半年間の総括	半年間をふりかえり、補充説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の総括を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照して、ノート等を整理する。	120分
	事後学修	テキストなどを参照して、ノート等の不備な箇所を補充する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するリアクションペーパーを提出してもらう予定である。		
※なお、社会の状況により授業計画が変更になることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	この授業は、講義形式が中心となるが、1度か2度グループにわかれて法学の諸問題に関するディスカッション等を行ってもらう予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】						1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】						1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】						1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】						1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】						1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べる。【態度・習慣】						1				1			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤について、小テスト等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に考察した上で説得的に述べられているかを基準として評価する。	10	10	15	15	15	15					80
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥について、授業時の担当教員からの問いに適切かつ積極的に応えているか等の評定尺度に照らして、法的思考能力が身についているかを評価する。						20					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	15	15	35					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 法学 第3版	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日18：00～19：30に研究室又はオンラインで行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス【授業の進め方、勉強の仕方についての説明】		授業の目的、到達目標、授業の方法、評価方法等について受講生に説明した上で、法を学ぶとはどのようなことなのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。		
	事前学修	法に関するものならば何でも良いので、自らの関心のある法に関係したテーマを見つけて学習意欲を高め、ノートに記述してくる。		120分
	事後学修	授業で配布したレジュメを見直し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、法学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で記述する。		120分
2	法に関する情報の探し方		インターネット上の判例検索システムや雑誌・論文記事索引データベース等を中心に、法に関する学術論文や判例はどのように探せば良いのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が今後、大学での学習を進めるうえで自ら必要な法情報を収集することができる。		
	事前学修	インターネットや図書館等で法に関する情報源にはどのようなものがあるのかについて調査し、ノートに列記してくる。		120分
	事後学修	自分が関心のある法に関するテーマの文献等を、実際にインターネット上のデータベースで検索する。そしてその論文や判例を読み、ノートに500文字程度で要約してみる。		180分
3	社会と秩序と法		社会において、法がなぜ必要なのかについて身近な事例を用いて解説し、法の存在理由について理解を深めてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が法の存在理由について正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の12頁、23～26頁を読み、なぜ社会には法が必要なのかについて考え、自分なりの意見をノートに300文字程度で列記してくる。		120分
	事後学修	社会における法の存在理由について、他学部の友人や家族に説明できるように、ノートに500文字程度で整理し、実際に他学部の友人や家族に説明してみる。		180分
4	法の存在形式		法と呼ばれるものには、「法律」の他、「条約」「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等様々なものが存在する。そうした法の存在形式について、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が「法」と「法律」の違いや、「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等の社会に多く存在する法について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書の35～43頁を読み、生活する上で自分たちの周りにはどのような法が存在するのかを確認してノートに列記してくる。		120分
	事後学修	授業で取り扱った「憲法」「法律」「命令」「条例」「条約」について、どのような関係性にあるのかを図式化してみる。		180分
5	法の分類		自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法等、法の分類方法とその具体例について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が法の分類方法とその具体例について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書の45～53頁を読み、第4回で取り扱った法はどれに分類されるかを考え、ノートに列記してくる。		100分
	事後学修	配付したレジュメを確認し、法の分類について具体例を含めてまとめを行い、改めて自分でノートに図式化してみる。		140分
6	法と道徳		法と道徳の関係性について、具体例を挙げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が法と道徳の関係性について正しく理解し、法と道徳の違いについて説明することができる。		
	事前学修	教科書の12～17頁を読み、法と道徳の関係性について図にまとめ、その説明をノートに300文字程度で記述してくる。		100分
	事後学修	授業で解説した内容について、具体例も含め、法と道徳について自分はどのように考えるのかをノートに500文字程度に列記しておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法と正義 【グループワーク・ディスカッション】	正義とは何かについて、法哲学における正義を取り上げ解説を行う。そして受講生に事例に沿いながら正義とは何かについての意見を求める。またグループに分かれて正義についてのディスカッションを行ってもら可能性がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方について理解した上で、自らの意見を他の受講生が納得できるように論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書の26～29頁を読み、正義とは何かについて考え、自分の考えをノートに列記してくる。	100分
	事後学修	アリストテレスの正義論について、どのような分類がなされているのか、各300文字程度で解説をノートに記述する。	140分
8	条文の読み方	具体的な条文を使用し、条文の基本的な読み方、そして法令用語としての「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の使い方について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後法律を学修する上で問題がないレベルに条文のつくりを理解し、条文を読むことができる。	
	事前学修	教科書の5～7頁、62～63頁を読み、法令用語について確認しておく。 六法を開き、関心のある法律の条文を声に出して読んでみる。	60分
	事後学修	授業で解説した条文の読み方を踏まえて、事前学習で読んだ条文を再び声に出して読んでみる。 「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の使い方についてノートにそれぞれ200文字程度で解説を記述しておく。	180分
9	裁判と法	我が国の裁判の種類や裁判所の構成、裁判の原則、法曹三者、裁判員制度等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、受講生が日本の裁判システムについて正確に理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の213～232頁を読み、法曹三者とは誰の事をいうのか、その三者はどのような仕事をするのかをそれぞれ200文字程度でノートに記述してくる。	80分
	事後学修	ノートに、裁判所の種類とその構成について図式化し、裁判の種類とその概要をそれぞれ300文字程度にまとめ記述しておく。	160分
10	判例の読み方	判例とは何か、判例の構造について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後学修する上で問題がないレベルに判例のつくりを理解し、判例を読みこなすことができる。	
	事前学修	教科書の8～9頁、218～224頁を読み第9回の内容をもう一度復習しておく。 「判例」と「裁判例」の違いを調べノートに200文字程度で記述してくる。	100分
	事後学修	「最大判昭和50年4月30日民集29巻4号572頁」という標記の中にどのような情報が入っているのか、ひとつひとつ書き出し30～100文字でノートに列記しておく。	140分
11	法の解釈と適用	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈等の解釈方法について、具体例を用いながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が様々な法解釈の方法について正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書55～66頁を読み、66頁のコラム「「車馬」の解釈について」はどのようなことを言っているのか、ノートに300文字程度でまとめて記述してくる。	60分
	事後学修	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈の各解釈方法について、ノートに自分の言葉で例を挙げながら解説を書いておく。	180分
12	重要な法(律)用語の解説	「人権」「基本的人権」「基本権」、「法律行為」「法律要件」「法律効果」、「科する」「課する」等の、良く法(律)文献に登場するが意味が曖昧になりがちなものについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後学修する上で問題がないレベルに法(律)用語を理解し、法(律)文献を読みこなすことができる。	
	事前学修	刑法の「一般予防」と「特別予防」はどのような意味か、それぞれ300文字程度でまとめノートに記述してくる。	80分
	事後学修	授業中に話した重要な法(律)用語の意味内容について、忘れないようにカード等にまとめ、何度も復習を行い完璧に暗記する。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	日本国憲法		日本国憲法の構成や基本的人権・統治機構等について、基本的事項を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が日本国憲法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書67～106頁を読み、日本国憲法の前文+1条～99条までを声に出して読んでくる。		80分
	事後学修	日本国憲法とは何か、小学生にも理解できるようにノートに解説を400文字程度で記述しておく。		160分
14	刑事司法制度		刑法の基本原理や犯罪の成立要件、刑罰の意義、刑罰の種類等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑法の機能や刑罰の役割について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書151～170頁を読み、その後、刑法の全ての条文に目を通してくる。		80分
	事後学修	罪刑法定主義から導かれる原則を4つ挙げ、それぞれ300文字程度でノートに解説を記述しておく。		160分
15	法と実務 【ゲストスピーカーによる講演】		法曹（裁判官・検察官・弁護士）や国家公務員・地方公務員（法律職・行政職）などの法の担い手（現職・OBOG）から実務についての講演を行ってもらい、これからの学びに役立ててもらおう。 ※ゲストスピーカーによる講演は、社会の状況や先方との日程調整により、中止や日程変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が、法の実務に関して理解し、説明することができる。		
	事前学修	自らの将来の職業について考え、その仕事と法がどのように関連するかを、400文字程度でノートに記述してくる。		80分
	事後学修	法の実務について聞いた内容を整理し、ノートに400文字程度で記述しておく。		160分

科目名	法学Ⅰ	担当者	三代川 邦夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定教科書と映画（「12人の怒れる男たち」を用いる予定）を踏まえながら講義をしていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映画を視聴し、刑事裁判や議論の仕方について、気づいた点をGoogleFormにて提出して貰う（匿名化する）。それを適宜学生にシェアし、さらに考えを深めて貰う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているか否かを、授業内試験によって行う。	10	10	10	20	20	30					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールで質問してくれれば、メールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレップ法学を学ぶ前に〔第2版〕	道垣内弘人	有斐閣	2017	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜4限の時間帯 可能な限り事前にメールをすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	なぜ法学を学ぶのか	法学部に入った人のほとんどは、法曹になるわけではない。にもかかわらず、なぜ法学を学ぶのだろうか。大学で学んだ知識が社会生活で活きるのだろうか。「なぜ法学を学ぶのか」を考えていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学を学ぶ意義を理解する	
	事前学修	法学を学ぶことにどのような意味があるのかを考える。	120分
	事後学修	法学を学ぶことにどのような意味があるのかを整理して理解する。	120分
2	法規の構造	法規の構造について取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法規の構造を理解し、法解釈・法適用をどのようにすべきか・なぜしなければならないかを理解する。	
	事前学修	教科書第1章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	法規の構造を整理して理解する。	120分
3	法解釈の方法	法解釈の方法について取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法解釈の仕方や条文の読み方を理解する。	
	事前学修	教科書第2章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	法解釈の仕方・条文の読み方を整理して理解する。	120分
4	実践的法解釈	具体的な解釈論を見て、法解釈の具体的なやり方を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、実践的な法解釈の仕方や条文の読み方を理解する。	
	事前学修	教科書第2章を読み返して、法解釈の仕方を理解する。	120分
	事後学修	実践的な法解釈の手法を理解する。	120分
5	法体系	日本の法体系を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、日本の法体系を理解する。	
	事前学修	教科書第3章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	日本の法体系を理解する。	120分
6	法の運用(1)	実際に法を運用していくに際し、裁判所が重要な役割を果たすが、日本の司法制度がどのようなになっているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、日本の司法制度を理解する。	
	事前学修	教科書第3章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	日本の司法制度を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法の運用(2)	法的紛争があった場合、最終的には裁判所が判断を下すが、法に携わるのは裁判官だけではない。どのような人が携わっているのか、それぞれどのような職責を負っているのかを取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、立法の仕方を通じて、法解釈・適用の仕方を理解する。	
	事前学修	教科書第4章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	法の担い手の存在・職責を理解する。	120分
8	判決の読み方	裁判所の下した判断は、あくまで当該事件に対するものであるが、同時に類似事件に対する影響力も有している。そこで、判決の読み方や調べ方について取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、判決の読み方及び調査方法を修得する。	
	事前学修	教科書第5章を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	判決の読み方・調査方法を整理して理解する。	120分
9	問題演習	これまで習ってきた事項について、問題演習をする。	
	この回の到達目標	これまで習ってきた理解を定着させる。	
	事前学修	これまで習ってきた事項を復習する。	120分
	事後学修	解けなかった問題を解き直す。	120分
10	映画の視聴と検討(1)	映画の前半部分を視聴し、刑事裁判のあり方や議論の仕方について考え、意見を提出して貰う。	
	この回の到達目標	刑事裁判のあり方や正しい議論の仕方について検討し、他者の意見も交えることで理解を深める。	
	事前学修	日本や海外の刑事裁判制度を調べる。	120分
	事後学修	いかなる刑事裁判制度が望ましいのか、良い／悪い議論の仕方はどういうものかを考える。	120分
11	映画の視聴と検討(2)	映画の中盤部分を視聴し、刑事裁判のあり方や議論の仕方について考え、意見を提出して貰う。	
	この回の到達目標	刑事裁判のあり方や正しい議論の仕方について検討し、他者の意見も交えることで理解を深める。	
	事前学修	前回視聴した際の刑事裁判制度・議論の作法についての問題点を整理する。	120分
	事後学修	いかなる刑事裁判制度が望ましいのか、良い／悪い議論の仕方はどういうものかを考える。	120分
12	映画の視聴と検討(3)	映画の後半部分を視聴し、刑事裁判のあり方や議論の仕方について考え、意見を提出して貰う。	
	この回の到達目標	刑事裁判のあり方や正しい議論の仕方について検討し、他者の意見も交えることで理解を深める。	
	事前学修	前回視聴した際の刑事裁判制度・議論の作法についての問題点を整理する。	120分
	事後学修	いかなる刑事裁判制度が望ましいのか、良い／悪い議論の仕方はどういうものかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	刑事裁判と議論の作法(1)	映画の視聴を踏まえ、刑事裁判はどうあるべきか、議論はどうあるべきかを考える。	
	この回の到達目標	刑事裁判のあるべき姿、良い／悪い議論の仕方についての理解を深める。	
	事前学修	映画の視聴を通じて、感じたことを整理し直す。	120分
	事後学修	教員や他の学生の意見を踏まえ、改めて自分の意見を考え直す。	120分
14	刑事裁判と議論の作法(2)	映画の視聴を踏まえ、刑事裁判はどうあるべきか、議論はどうあるべきかを考える。	
	この回の到達目標	刑事裁判のあるべき姿、良い／悪い議論の仕方についての理解を深める。	
	事前学修	教員や他の学生の意見を踏まえて、自分の意見をまとめる。	120分
	事後学修	刑事裁判のあるべき姿、議論の作法について、自分の考えと他の人の考えの違いを理解して整理する。	120分
15	授業内試験 まとめ	これまでの授業を踏まえ、法学を学ぶ意義がどこにあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、これまで学んできた理解を統合する。	
	事前学修	これまでの学習内容を整理する。	120分
	事後学修	試験で解けなかった問題を考え直す。	120分

科目名	法学 I	担当者	本吉 祐樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンデマンド授業で実施し、教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。適宜、授業の理解度を確認するための小テスト等を行う。初回授業からの出席を求めるので、履修者は必ず初回から出席すること。4回以上の授業欠席、課題未提出、遅れ等は単位認定対象外となります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、小テストにより評価する。	5	5	5	5	5	5					30
レポート等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、2回のレポートにより評価する。	12	12	12	12	12	10					70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	17	17	17	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 法学（第3版）	高橋雅夫	弘文堂	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14時40分～（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	初回ガイダンス	授業の目的、到達目標、授業の方法、評価方法等について説明した上で、法を学ぶとはどのようなことなのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。	
	事前学修	自らの関心のある法に関係したテーマを見つけてくる。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を復習し、法学の社会での役割について確認する。	120分
2	法に関する情報の探し方	インターネット上の判例検索システムや雑誌記事索引データベース等を中心に、法に関する学術論文や判例はどのように探せば良いのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が今後、大学での学習を進めるうえで自ら必要な法情報を収集することができる。	
	事前学修	自ら法に関心のあるテーマを検索してみる。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を復習し、法学の社会での役割について自分で調べる。	120分
3	社会と秩序と法	法の機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が法の存在理由について正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
4	法の存在形式	法と呼ばれるものには、「法律」の他、「条約」「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等様々なものが存在する。そうした法の存在形式について、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が「法」と「法律」の違いや、「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等の社会に多く存在する法について正しく理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
5	法の分類	自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法等、法の分類方法とその具体例について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が法の分類方法とその具体例について正しく理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
6	法と正義 ①	正義とは何かについて、法哲学における正義を取り上げ解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方について理解した上で、自らの意見を論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法と正義 ②		正義とは何かについて、受講生に事例に沿いながら正義とは何かについての意見を求める。
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方について理解した上で、自らの意見を論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み、正義とは何かについて考え、自分の考えをノートに列記してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
8	条文の読み方		具体的な条文を使用し、条文の基本的な読み方について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後法律を学修する上で問題がないレベルに条文のつくりを理解し、条文を読むことができる。	
	事前学修	教科書を読み、法令用語について確認しておく。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
9	裁判と法		我が国の裁判の種類や裁判所の構成、裁判の原則、法曹三者、裁判員制度等について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、受講生が日本の裁判システムについて正確に理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
10	判例の読み方		判例とは何か、判例の構造について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後学修する上で問題がないレベルに判例のつくりを理解し、判例を読みこなすことができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
11	法の解釈と適用、重要な法(律)用語の解説		拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈等の解釈方法について、具体例を用いながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が様々な法解釈の方法、重要な用語について正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
12	様々な法 ①（日本国憲法）		日本国憲法の構成や基本的人権・統治機構等について、基本的事項を解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が日本国憲法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	様々な法 ②（刑法）	刑法について、基本的事項を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、ポイントをノートに記述してくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
14	様々な法 ③（民法、国際法など）	民法、国際法などについて、基本的事項を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が民法、国際法などについて、おおまかに理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書を読んで、関心のあるテーマについて調べてくる。	120分
	事後学修	講義内容をもとに復習をする。	120分
15	前期授業のまとめ	前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
	事前学修	前期の授業を復習する。	120分
	事後学修	前期の授業のまとめをする。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本年度の学部の方針に従い、原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。								1	
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な知識・能力が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	日本の法制と私たちの生活		私たちの日常生活において、法制度はどのようなところに見出されるのであろうか。この授業では、身近な法律問題から、私たちの生活と法制度との関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、私たちの生活における法制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
2	不動産取引		日本における不動産取引をめぐる法制度を紹介する。とりわけ、登記制度を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産取引に関する法制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
3	借地借家法		借地借家法は、日本における不動産賃貸の枠組みを決める重要な法律である。この授業では、借地借家法の基本部分について、ケーススタディを交えながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、借地借家法の基本事項を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
4	都市計画法・建築基準法		日本の大都市は、都市計画法や建築基準法などの特別な法令によって、さまざまな開発規制・建築規制をかけられている。この授業では、道路幅などのとりわけ重要な項目に焦点をしばって解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、都市計画法および建築基準法の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
5	区分所有法		区分所有法は、分譲マンションの住人たちの権利義務を定める特別法である。この授業では、ケーススタディを交えながら、分譲マンションにおける住人間の利害調整の仕組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、区分所有法の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
6	社会保障制度（年金）		年金は、日本における老後資金の重要な財産項目である。この授業では、現状の年金制度について、その大枠を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、年金制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会保障制度（保険）		日本には、公的医療保険などを始めとするさまざまな社会保険制度が存在する。この授業では、医療保険および失業保険に焦点をしばって、その枠組みを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会保険制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
8	債券		現代社会において、企業も公共団体も、大規模な資金調達を迫られることがある。この授業では、債券という資金調達方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債券とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
9	株式		前回の授業に引き続き、株式という資金調達方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、株式とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
10	金融商品に関する法令		現代においては、さまざまな金融商品が溢れており、その複雑性から、これを厳格に規制する立法が相次いでいる。この授業では、金融商品に関する法令をいくつか取り上げ、その内容について解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品に関する法令をいくつか挙げて説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
11	税法		租税は、近代国家の重要な歳入項目であり、日本に住むひとびともさまざまなかたちで租税を納めている。この授業では、とりわけ代表的な税制にいくつか注目し、これに解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の税制の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
12	家族法		家族は、社会的制度であるとともに、法的制度でもある。家族関係は、民法等によってその権利義務関係を設定されるからである。この授業では、日本における家族制度の大枠について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の家族制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	相続法		人は出生によって権利主体となり、死亡によってその地位を失う。人が生前に有していた財産は、その帰属関係をめぐって法的な規律に服することになる。その最も中心的な枠組みが、相続制度である。この授業では、日本における相続制度の大枠について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジюмеを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
14	現代における人権の諸相		人権は、現代における最も基礎的かつ重要な権利であるが、その内容と実現については、世界情勢と相俟ってさまざまな問題に直面している。この授業では、現代における人権問題のいくつかを取り上げ、解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代における人権問題をいくつか挙げ、これを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジюмеを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
15	法学と21世紀の社会		古代、中世、近世、近代の法学が、現代社会とは異なる枠組みで営まれていたように、21世紀においても法学のかたちは変遷するであろう。この授業では、21世紀において新たに発生した問題と、法学との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、21世紀における法学の役割を理解し、その将来的な方向について自分なりの意見を持つことができる。		
	事前学修	配布されたレジюмеを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義形式にて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標に①②に関して、法学に関する基礎的知識について理解し、説明することができるかを、試験により評価します。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関して、各回の授業内容に関するリアクション(コメントなど)により評価します。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業開始前または授業終了後に行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本一やさしい法律の教科書	品川皓亮／佐久間毅	日本実業出版社	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室(9号館1階9105研究室)にて、水曜日・5時限目に行いますが、事前にご連絡(メールアドレス：saito.takashi@nihon-u.ac.jp)をお願いします。なお、ほかの曜日・時限も対応することができます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス(導入講義)	本授業のガイダンス、法学(総論)について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本授業のガイダンス、法学(総論)について理解しましょう。	
	事前学修	本授業のシラバスについて確認しておきましょう。	120分
	事後学修	法学(総論)について整理しておきましょう。	120分
2	憲法(1)	憲法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、憲法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	憲法の基礎について整理しておきましょう。	120分
3	憲法(2)	人権の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、人権の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	人権の基礎について整理しておきましょう。	120分
4	憲法(3)	統治の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、統治の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	統治の基礎について整理しておきましょう。	120分
5	民法(1)	民法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、民法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	民法の基礎について整理しておきましょう。	120分
6	民法(2)	物権の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、物権の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	物権の基礎について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	民法(3)	債権の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、債権の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	債権の基礎について整理しておきましょう。	120分
8	商法	会社法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、会社法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	会社法の基礎について整理しておきましょう。	120分
9	刑法	刑法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、刑法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	刑法の基礎について整理しておきましょう。	120分
10	民事訴訟法	民事訴訟法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、民事訴訟法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	民事訴訟法の基礎について整理しておきましょう。	120分
11	刑事訴訟法	刑事訴訟法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、刑事訴訟法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	刑事訴訟法の基礎について整理しておきましょう。	120分
12	知的財産法	知的財産法の基礎について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、知的財産法の基礎について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	知的財産法の基礎について整理しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	情報と法	情報と法をめぐる論点について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、情報と法をめぐる論点について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	情報と法をめぐる論点について整理しておきましょう。	120分
14	インターネットと法	インターネットと法をめぐる諸問題について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、インターネットと法をめぐる諸問題について理解しましょう。	
	事前学修	配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	インターネットと法をめぐる諸問題について整理しておきましょう。	120分
15	まとめ	後期のまとめ、試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標に①②に関して、法学に関する基礎的知識について理解し、考察し、説明してみましょう。	
	事前学修	教科書、配布資料の内容について確認しておきましょう。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて整理しておきましょう。	120分

科目名	法学演習A I（憲法基礎演習）	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。質疑応答，典型事例の分析，問題演習など双方向的な授業を行う。履修者数が多い場合、出欠管理システム（レスポん）を利用して出欠確認を行うことを予定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第8版	芦部信喜	岩波書店	2023	教科書	任意
憲法判例百選Ⅰ 第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：20、20：10～20：30　木曜日18：00～18：20、20：10～20：30　13号館（法科大学院）5階　研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、公法と私法の区別などの法学の基礎事項について説明する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	公法と私法の違い、権利と義務の関係、法的三段論法について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、法学の講義（前期）及び憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、憲法がどのような内容をもつ法律であるかを調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	憲法と立憲主義＋判例の読み方	憲法と立憲主義について解説する。また、事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「立憲的意味の憲法」（近代的意味の憲法）の意義について説明することができる。また、法の支配及び法治国家の意義及び歴史的展開について説明することができる。さらに、憲法76条1項の定める「司法権」の意味について、具体的事件・争訟及び「法律上の争訟」の概念と関連付けて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	表現の自由（１）：検閲及び事前抑制の原則的禁止	憲法21条２項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、検討する。また、どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法21条２項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、説明することができる。また、どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	表現の自由（２）：明確性の理論・違憲審査基準	明確性の理論について、判例を踏まえて検討する。また、いわゆる「二重の基準論」について、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確性の理論について、判例を踏まえて説明することができる。また、いわゆる「二重の基準論」について、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	表現の自由（３）：報道の自由、取材の自由	報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	信教の自由と政教分離（１）	信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	信教の自由と政教分離（２）		どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、目的効果基準に照らして検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	思想及び良心の自由		思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合、学校が内申書に政治活動歴を記載する場合及び公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合、学校が内申書に政治活動歴を記載する場合及び公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	職業の自由（１）		職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、解説する。また、職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明することができる。また、職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	職業の自由（２）		職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	生存権（１）		生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	生存権（２）		生存権の実現について、立法及び行政の裁量が広く認められるという立場について説明するとともに、裁判所による裁量統制のあり方を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、裁判所による裁量統制のあり方について説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	平等（１）		どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定及び非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定及び非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
14	平等（２）		どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、夫婦同氏制を定める民法750条など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、夫婦同氏制を定める民法750条など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
15	総復習		前期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分

科目名	法学演習AⅠ	担当者	横山 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、受講者数やテーマに応じて演習形式を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業においても適宜発言を求める。演習形式の授業では、履修者の人数によってはグループディスカッションや報告発表を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中又は課題として小テストを複数回実施する。	40										40
レポート等	レポート課題を実施する。	60										60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		100										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内又はGoogleClassroomで解説・講評を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法（全） 第3版	潮見 佳男	有斐閣	2022	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日18:30～19:30（希望者は、授業終了時又はメールで事前に申し出ること。） yokoyama.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で取り扱った訴訟等の実務経験に基づき、具体的紛争において民事実体法がどのような役割を果たすのかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		この授業で学修する内容と進行方法について説明する。法を学ぶとは何か、法が社会においてどのような役割を果たしているのか等を解説、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、法学の基礎的事項を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、自分が「法」に対してどのようなイメージを持っているのか、この授業を通してどのようなことを学びたいのかを検討しておく。		120分
	事後学修	ガイダンスでの説明を基に、今期の学修計画を作成する。		120分
2	基本的な法概念		法の社会的な役割、憲法と法律の関係、公法と私法、実体法と手続法、一般法と特別法といった各種分類等の法の仕組み及び基本的な法律用語の解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的な法概念や法律用語を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
3	民法の基本的な仕組み		民法典の構造、民法の基本原則（権利能力平等の原則、私的自治の原則、所有権絶対の原則）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、日本の民法典がどのような構造を採用しているか、民法の基本原則とは具体的にどのような内容を意味するのかを説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
4	民法総則（１）		権利主体、権利能力、意思能力、行為能力等について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、権利主体、権利能力、意思能力、行為能力の意味内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
5	民法総則（２）		法律行為、意思表示、意思表示の瑕疵の概要について、具体例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、法律行為、意思表示、意思表示の瑕疵について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
6	民法総則（３）		瑕疵ある意思表示（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）と第三者保護制度について、具体的な事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民法総則（４）		代理制度、条件と期限、時効制度について、具体的な事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、代理制度、条件と期限、時効制度について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
8	民法総則（５）、物権・担保物権（１）		消滅時効と取得時効、物権の基本的事項（物権と債権の違い、物権法定主義）、担保物権の基本的事項（「担保」の意味、担保物権の種類と性質）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、物権と担保物権の基本的事項について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
9	物権・担保物権（２）		物権の基本的事項（物権と債権の違い、物権法定主義）、担保物権の基本的事項（「担保」の意味、担保物権の種類と性質）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、物権と担保物権の基本的事項について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
10	債権総論（１）		債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
11	債権総論（２）		債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
12	債権各論（契約総論）		契約総論（契約の種類、成立、効力、解除）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、契約の種類、成立、効力、解除について、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約各論（典型契約）	贈与契約、売買契約、交換契約、消費貸借契約、使用貸借契約、賃貸借契約、雇用契約、請負契約、委任契約、寄託契約、組合契約、終身定期金契約、和解契約について、具体的な事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、典型契約について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
14	契約各論（法定債権） 家族法（親族法・相続法）	法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）について、具体的な事例を用いて解説する。 民法が親族法と相続法についてどのような制度を定めているかについて、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、法定債権と家族法について理解し、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
15	家族法（親族法と相続法） 総括・復習	民法が親族法と相続法についてどのような制度を定めているかについて、具体的事例を用いて解説する。 前期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、家族法について理解し、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。 到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	前期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項とさらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。当初の学修計画の達成状況を確認する。	120分
	事後学修	前期授業での学修に基づいて、後期授業への取り組み方を検討する。	120分

科目名	法学演習A I	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（レポート）	30	20									50
小テスト等												
レポート等	特定のテーマに関してレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内での講評その他	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考となる書籍等については必要に応じて授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】	
土曜日授業終了後。希望者は授業終了後に申し出ること。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際のベンチャー企業における法務の対応状況等について言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	学習する内容や授業の進行予定等	
	この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	ベンチャー企業と法令	ベンチャー企業が法令を意識すべきであること等について説明する。	
	この回の到達目標	ベンチャー企業と法令の関わり合いについて理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	ベンチャー企業と設立①	ベンチャー企業を設立する際の留意事項、手続き等について説明する。	
	この回の到達目標	会社を設立する際の留意事項、手続き等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	ベンチャー企業と設立②	ベンチャー企業を設立する際の留意事項、手続き等について説明する。	
	この回の到達目標	会社を設立する際の留意事項、手続き等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）	120分
5	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令①	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令②	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令③	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令④	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	ベンチャー企業と利用規約①	ベンチャー企業がサービスを提供する際に利用されることの多い利用規約について概観する	
	この回の到達目標	利用規約の関わる法令、判例等を理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	ベンチャー企業と利用規約②	ベンチャー企業がサービスを提供する際に利用されることの多い利用規約について概観する	
	この回の到達目標	利用規約の関わる法令、判例等を理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	ベンチャー企業と景品表示法①	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	ベンチャー企業と景品表示法②	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ベンチャー企業と業務委託契約等①	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	ベンチャー企業と業務委託契約等②	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	全体の復習等	前期授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
	この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
	事前学修	事前に配布する及び過去の授業時に配布したレジュメをよく読むこと。質問事項等があれば事前に検討すること。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。						1			
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法判例百選Ⅰ第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
(後期) 火曜日18：00～18：20 20:10～20：50 2013号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス： 導入講義	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	事例問題の解き方及び判例の読み方：受刑者及び未決拘禁者の人権	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。また、受刑者及び未決拘禁者の人権が、刑事収容施設において、特別の制約に服するか否かについて、喫煙の自由や図書閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。到達目標①②に関連して、受刑者及び未決拘禁者の人権が、刑事収容施設において、特別の制約に服するか否かについて、喫煙の自由や図書閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	事例問題の解き方及び判例の読み方：集会の自由	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。また、集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	取材の自由	報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について解説した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	営利的表現の自由	営利的表現の自由の保障根拠、制約の根拠及び制約が許される程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、営利的表現の自由の保障根拠、制約の根拠及び制約が許される程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	放送の自由	放送の自由に対する規律の基本的な在り方について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、放送の自由に対する規律の基本的な在り方について説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	職業の自由（１）		職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合及び租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合及び租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
8	職業の自由（２）		職業選択の自由の制約について、司法書士法の資格制及び農業共済組合への当然加入制など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、司法書士法の資格制及び農業共済組合への当然加入制など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
9	プライバシーに対する権利		プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
10	平等（１）		どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、女性の再婚禁止期間など具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下での平等に反するかについて、女性の再婚禁止期間など具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
11	平等（２）		歴史的に差別されてきた集団に対して、優先的な処遇を与える積極的差別是正措置（アフーマティブ・アクション）が、逆差別として、憲法に違反するか否かについて、具体的事例を挙げ、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的に差別されてきた集団に対して、優先的な処遇を与える積極的差別是正措置（アフーマティブ・アクション）が、逆差別として、憲法に違反するか否かについて、具体的事例を挙げ、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
12	外国人の基本的人権享有主体		外国人の人権享有主体性について、肯定説に立った場合に保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国人の人権享有主体性について、肯定説及び否定説の立場を理解した上で、肯定説に立った場合に保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	法人の人権享有主体性		法人・団体の人権享有主体性について、肯定説及び否定説の立場を解説した上で、肯定説に立った場合に保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人・団体の人権享有主体性について、肯定説及び否定説の立場を理解した上で、肯定説に立った場合に保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
14	団体と個人		団体とその構成員の間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、団体とその構成員の間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分
15	総復習		後期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。		
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。		120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	横山 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、受講者数やテーマに応じて演習形式を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業においても適宜発言を求める。演習形式の授業では、グループディスカッションや報告発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1							
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストを複数回実施する。	40										40
レポート等	レポート課題を実施する。	60										60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		100										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内又はGoogleClassroomで解説・講評を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に教科書等は指定しないが、六法に掲載されている条文が確認できる状態で講義に出席すること。				

【オフィスアワー】
水曜日18:30～19:30（希望者は、授業終了時又はメールで事前に申し出ること。）yokoyama.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で取り扱った訴訟等の実務経験に基づき、具体的紛争において民事実体法がどのような役割を果たすのかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	この授業で学修する内容と進行方法について説明し、民法や刑法等の実体法と、実体法の内容を実現する手段として手続法との関係について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、法学の基礎的事項を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、これまで学修してきた実体法上の権利義務が訴訟においてどのように実現されるのかをイメージする。	120分	
	事後学修	ガイダンスでの説明を基に、今期の学修計画を作成する。	120分	
2	訴訟制度概説	日本の訴訟制度、紛争解決制度について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、日本がどのような訴訟制度、紛争解決制度を採用しているのかを説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
3	民事訴訟（１）	民事訴訟手続の概観と訴えの提起について、具体的事例を用いて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟手続の概観と訴えの提起について、基礎的事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
4	民事訴訟（２）	民事訴訟の審理がどのように進行するのかについて、具体的事例を用いて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟がどのような仕組みとなっているのか、民事訴訟の審理がどのように進行するのかを説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
5	民事訴訟（３）	民事訴訟の審理、民事訴訟の重要概念、民事訴訟の終了（主に判決）について、具体的事例を用いて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟の審理、民事訴訟の重要概念、民事訴訟の終了について説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
6	民事訴訟（４）	民事訴訟の終了、上訴について、具体的事例を用いて解説する。 民事訴訟に関する総まとめを解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、訴訟の終了と上訴について、基礎的な事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	刑法（１）		刑法の意義、刑法の基本原則、犯罪の成立要件について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、刑法の基礎的事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
8	刑法（２）		刑法の意義、刑法の基本原則、犯罪の成立要件について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、刑法の基礎的事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
9	刑事事件概観、刑事手続（捜査）		刑事事件の概観、犯罪の捜査と身柄拘束手続（逮捕勾留）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、刑事事件の概観、犯罪の捜査と身柄拘束手続（逮捕勾留）について、基礎的事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
10	刑事手続（犯罪捜査と身柄拘束）		犯罪の捜査と身柄拘束手続（逮捕勾留）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、犯罪の捜査と身柄拘束手続について、具体的事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
11	刑事手続（刑事訴訟１）		刑事訴訟手続について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、刑事訴訟の基礎的な事項を説明できるようになる。		
	事前学修	これまでの学修内容を振り返り、自身が興味を持ち掘り下げたいと思うテーマを（できれば複数）準備しておく。		120分
	事後学修	報告発表するテーマについて、調査・検討を行う。		120分
12	刑事手続（刑事訴訟２）		刑事訴訟手続について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、刑事訴訟の基礎的な事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	刑事手続（刑事訴訟3）	刑事訴訟の重要概念や制度について、具体例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、刑事訴訟の重要概念や制度について、説明できるようになる。	
	事前学修	後期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	授業の解説や質疑応答の内容を復習し、理解を深める。	120分
14	総括・復習（1）	後期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	後期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	授業の解説や質疑応答の内容を復習し、理解を深める。	120分
15	総括・復習（2）	後期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。 期末レポート課題の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	後期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	後期授業での学習に基づいて、今後の法学の学修に対する取り組み方を検討する。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（レポート）	30	20									50
小テスト等												
レポート等	特定のテーマに関してレポートを提出する	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内での講評その他	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考となる書籍等については必要に応じて授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】	
土曜日授業終了後。希望者は授業終了後に申し出ること。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際のベンチャー企業における法務の対応状況等について言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等	
	この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	前期で扱った内容の確認	前期授業の総復習	
	この回の到達目標	前期で扱った内容の概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	ベンチャー企業の資金調達①	ベンチャー企業における資金調達の概要について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における資金調達の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	ベンチャー企業の資金調達②	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	ベンチャー企業の資金調達③	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	ベンチャー企業の資金調達④	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等についての概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ベンチャー企業の資金調達⑤	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等についての概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	ベンチャー企業の資金調達⑥	ベンチャー企業における新株予約権の利用等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における新株予約権の利用等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	ベンチャー企業のM&A①	ベンチャー企業のM&Aのスキームの概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業のM&Aのスキームの概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	ベンチャー企業のM&A②	ベンチャー企業のM&Aにおける留意点等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業のM&Aにおける留意点等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	ベンチャー企業と知的財産権①	ベンチャー企業の著作権等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業の著作権等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	ベンチャー企業と知的財産権②	ベンチャー企業の商標権等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業の商標権等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ベンチャー企業と労務①	ベンチャー企業における労務の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における労務の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	ベンチャー企業と労務②	ベンチャー企業におけるストックオプションの活用の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業におけるストックオプションの活用の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	全体の復習等	後記授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
	この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメ及び過去の授業時に配布したレジュメをよく読むこと。質問事項等があれば事前に検討すること。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習BⅠ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和6年(2024年)版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）の全体像を踏まえて、権利義務の主体を前提とし、債権の発生原因である契約の要件を整理・分類し、説明することができる。【知識】					1						1	
②	債務不履行の要件と効果、売主の担保責任のほか、責任財産の保全の必要性を説明することができる。【知識】					1						1	
③	債権担保の重要性のほか、所有権に関する基本的知識（特に物権的請求権、物権変動）を説明することができる。【知識】					1						1	
④	債権の発生原因である不法行為の全体像を説明することができる。【知識】					1						1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】					1						1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】					1						1	
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法第2版	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2022年	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【イントロダクション】【導入講義】	民法の意義を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法の意義、財産法の全体像（財産権の種類、家族法との関係）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の3頁から24頁、24頁から45頁までを読み、民法の位置づけ、財産権の種類（物権と債権）、パンデクテン体系の意味を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、民法の位置づけ、財産法の鳥観図を整理する。	120分	
2	【権利義務の主体（自然人・法人）】	権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力、法人を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力の違いを理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の48頁から73頁までを読み、権利能力・意思能力・行為能力の違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、権利能力・意思能力・行為能力の区別、行為能力制度（制限行為能力者制度）の概要を整理する。	120分	
3	【契約の成立要件と有効要件①－心裡留保、虚偽表示】	契約の成立要件と有効要件との関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の成立要件と契約の有効要件①（心裡留保、虚偽表示）を理解し、説明することができる。を理解する。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の86頁から98頁までを読み、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度の概要を整理する。	120分	
4	【契約の有効要件②－錯誤、詐欺・強迫】	錯誤、詐欺・強迫の各制度を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の98頁から108頁までを読み、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、錯誤の要件・効果、詐欺・強迫の要件・効果を整理する。	120分	
5	【契約の有効要件③－代理制度】	契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）と、代理制度の全体像を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理制度全体を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の86頁から108頁のほか、116頁から120頁までを読み、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理する。	120分	
6	【契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）】	契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の分類、同時履行の抗弁権等を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の124頁から133頁まで、192頁から196頁までを読み、契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁等）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、契約の分類（双務・片務契約、有償・無償契約）、同時履行の抗弁権が用いられる場面を整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説）】	債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、債権の消滅原因（弁済、相殺、消滅時効等）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の133頁から156頁までを読み、弁済、相殺、消滅時効を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債権の消滅原因という観点から、弁済、相殺、消滅時効を整理する。	120分
8	【債務不履行①－損害賠償請求、解除】	債務不履行による損害賠償請求、債務不履行による解除を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、債務不履行に対する救済手段、債務不履行による損害賠償請求、解除制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の158頁から181頁までを読み、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理する。	120分
9	【債務不履行②－売主の担保責任】	売主の担保責任を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、売主の契約不適合責任（担保責任）の全体像を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から190頁までを読み、売主の契約不適合責任（担保責任）の全体像を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を整理する。	120分
10	【強制履行と債権者代位権】	強制履行と債権者代位権を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、強制執行による債権回収、責任財産の保全制度である債権者代位権を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の198頁から202頁までを読み、強制執行の種類、強制執行と債権者代位権との関係、債権者代位権の要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、強制執行の種類、債権者代位権の要件を整理する。	120分
11	【債権の担保（抵当権、保証）】	債権の担保（抵当権、保証）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の217頁から230頁までを読み、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理する。	120分
12	【所有権①（物権的請求権、物権変動の仕組み前編）】	物権的請求権、不動産の物権変動の仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権的請求権、占有、不動産の物権変動を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の236頁から258頁までを読み、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【所有権②（物権変動の仕組み後編、即時取得、取得時効）】	動産の物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の259頁から273頁までを読み、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理する。	120分
14	【不法行為（一般の不法行為、特殊の不法行為[監督者責任・使用者責任]）】	一般の不法行為（709条以下）、特殊の不法行為（特に責任無能力者の監督者責任・使用者責任）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、不法行為Ⅰ（総論、成立要件、効果等）、特殊の不法行為（責任無能力者の監督者責任、使用者責任）の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の276頁から314頁までを読み、不法行為の成立要件と効果、責任無能力者の監督者責任、使用者責任を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、不法行為の成立要件とその効果、責任無能力者の監督者責任、使用者責任の各制度の概要を整理する。	120分
15	【テスト】	これまでの授業における学修事項の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の3頁から314頁までを読み、各学修項目ポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	テストの実施後、その内容について、講義ノートやレジュメを確認し、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学演習BⅠ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特に、法曹（裁判官・検察官・弁護士）など法律の解釈・適用に携わる職業を志望し、学習意欲のある学生に、この授業を通じてリーガルマインドを養っていただきたい。

【授業方法】
本授業は、いわゆる対面方式の方法で実施する。 講義・説明を踏まえ、基本的には担当者となる学生が各テーマに関連する問題（基本的には事例問題であり、遅くとも当該授業の1回前の授業で次回（以降に）扱う事例問題等の問題を示すこととする。）について検討してもらう。検討に際しては、適宜、質疑応答を行ったり、報告担当者から報告してもらうなどの方法を採用。 さらに、毎回ではないが、法文書（レポート）を作成（起案）していただき、その講評・解説を行うことも予定しているが、履修者の学習水準に応じて（履修者と協議し）、起案の回数などについて調整する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	課題の解決に向けたレポート等を課す。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。					1						
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。	15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートあるいは法文書の講評・解説を基本的には授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後あるいはメールなどで時間を調整し、相談等に応じる。taira.yuusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	法学の重要事項を確認するとともに、行政法の位置づけを説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政法の役割と位置づけを理解する。	
	事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2	法律による行政の原理	講義と問題の検討	
	この回の 到達目標	到達目標①との関係で、法律による行政の原理を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3	法律による行政の原理	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の 到達目標	到達目標②との関係で、法律による行政を説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4	比例原則	講義と問題の検討	
	この回の 到達目標	到達目標①との関係で、比例原則を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5	比例原則	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の 到達目標	到達目標②との関係で、比例原則を説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6	信義則	－講義と問題の検討	
	この回の 到達目標	到達目標①との関係で、信義則を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	信義則	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、信義則について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8	行政情報の公開	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政情報の公開を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9	行政情報の公開	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政情報の公開について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10	行政裁量	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政裁量を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11	行政裁量	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政裁量について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12	行政行為の瑕疵	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政行為の瑕疵を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政行為の瑕疵	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政行為の瑕疵について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14	行政契約	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政契約を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15	行政契約	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政契約について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

科目名	法学演習B I	担当者	高橋 慶悟	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
個人または法人の間で発生した民事紛争を解決するための手続きが民事訴訟であるところ、一般の人々が生活をする中で民事訴訟を利用することはほとんどないため、民事訴訟法がどのように運用されているのか、具体的なイメージが湧かないと思われる。そこで、本講義では、民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説した上で、具体的な事案を挙げて、いくつかの諸問題について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する基礎的知識を養成することを目的とする。更にその上で、具体的な事案を検討する中で問題点について指摘し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
民事訴訟法や民法科目を履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、適宜発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法に関する基礎的事項を理解することができる。				2						2	
②	具体的な事案を検討する際、法律上の問題点を説明することができる。				2						2	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、民事訴訟法に関する指定した テーマについてレポートを作成する。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関連して、授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法〔第2版〕	小田司編	弘文堂	2016	教科書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第6版〕	高田裕成ほか編	有斐閣	2023	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで調整して行います。 takahashi.keigo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・概説	授業のテーマや内容、進行方法について説明する。また、民事訴訟制度の全体像について概説する。	
	この回の到達目標	民事訴訟法の意義や全体像について理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をすること。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて、今後の学習計画を考える。	120分
2	訴訟上の和解	ADRについて説明した上で、訴訟上の和解と錯誤に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	訴訟上の和解に意思表示の瑕疵があった場合に、無効の主張をすることができるか、またどのように訴えるのかについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
3	民事裁判権の範囲―人的範囲	外国国家の主権免除に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	制限免除主義について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
4	民事裁判権の範囲―物的範囲	宗教法人の内部紛争に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	民事裁判権の対象である「法律上の争訟」について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
5	当事者の確定	当事者確定の基準について、氏名冒用訴訟や死者名義訴訟を例にして検討する。	
	この回の到達目標	当事者確定の基準について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
6	当事者能力	法人格のない団体の当事者能力に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	法人格のない団体の当事者能力が認められる要件について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	訴訟能力		訴訟能力の欠缺を看過して本案判決が下された場合の取り扱いについて検討する。
	この回の到達目標	訴訟能力の欠缺を看過して本案判決が下された場合の問題について、判例・学説の立場を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
8	二重起訴の禁止		債権者代位訴訟を例にして当事者の同一性について検討する。また、相殺の抗弁と二重起訴の禁止について検討する。
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
9	訴えの利益—給付の訴え		将来給付の訴えに関する問題について検討する。
	この回の到達目標	継続的不法行為による将来給付請求に関する判例・学説の立場を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
10	訴えの利益—確認の訴え		遺言無効確認の訴えに関する問題について検討する。
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
11	訴えの利益—形成の訴え		株主総会決議取消しの訴えに関する問題について検討する。
	この回の到達目標	決議の瑕疵を争う訴えについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
12	任意的訴訟担当		任意的訴訟担当の許容要件に関する問題について検討する。
	この回の到達目標	任意的訴訟担当が認められる要件について、判例・学説の立場を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	送達	訴状の送達に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	交付送達の実態とその例外について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
14	訴えの変更	訴えの交換的変更に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	旧請求と新請求を交換するために訴えを変更する場合の取り扱いについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
15	境界確定の訴え	境界確定訴訟の性質に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	境界確定訴訟における処分権主義の適否について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。なお、本講座は、法学演習BⅠ（BⅠで民法を履修した者は、引き続きBⅡでも民法を履修することが望ましい。また、BⅠで行政法を履修した者は、引き続きBⅡでも行政法を履修することが望ましい）を履修していることを前提とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和5年[2023年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学演習BⅠで学んだことを整理して、説明することができる。【知識】		1						1	
②	意思表示に関する重要論点、無権代理・表見代理に関する重要論点を説明することができる。【知識】		1						1	
③	債権総論に関する重要事項（弁済、相殺、詐害行為取消権、債務不履行、受領遅滞、債権譲渡・債務引受）、債権各論に関する重要事項（同時履行の抗弁、危険負担、売主の担保責任）を説明することができる。【知識】		1						1	
④	債権の担保（担保物権、連帯債務・連帯保証）、所有権に関する重要事項、法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）を説明することができる。【知識】		1						1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】		1						1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】		1						1	
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法第2版	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2022年	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【法学演習BⅠの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度】		法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の49頁から73頁までを読み、法学演習BⅠで学んだことの総復習を踏まえ、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理する。		120分
2	【心裡留保・虚偽表示の事例演習、法人制度】		心裡留保・虚偽表示の具体的事例、法人制度の概要を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の94頁から98頁、73頁から84頁までを読み、心裡留保・虚偽表示の要件・効果、法人制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を整理する。		120分
3	【錯誤・詐欺・強迫】		錯誤・詐欺・強迫の事例・論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、錯誤・詐欺・強迫の事例・論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の98頁から116頁までを読み、錯誤・詐欺・強迫の事例・論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、錯誤・詐欺・強迫の事例・論点を整理する。		120分
4	【表見代理、無権代理】		表見代理・無権代理の制度・諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、表見代理・無権代理の制度・諸論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の116頁から122頁までを読み、表見代理・無権代理の制度・諸論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、表見代理・無権代理の制度を整理する。		120分
5	【同時履行の抗弁権、危険負担】		同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の130頁から133頁、192頁から196頁までを読み、同時履行の抗弁権・危険負担の事例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、同時履行の抗弁権・危険負担の概要と事例を整理する。		120分
6	【弁済、相殺】		弁済・相殺の制度・諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、弁済・相殺の制度・諸論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の133頁から156頁までを読み、弁済・相殺の制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、弁済・相殺の制度・諸論点を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【債務不履行、受領遅滞】	債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の163頁から181頁まで、190頁から192頁までを読み、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理する。	120分
8	【売主の契約不適合責任（担保責任）】	売主の契約不適合責任（担保責任）の具体的事例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、売主の契約不適合責任（担保責任）の具体的事例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から190頁までを読み、売主の担保責任の類型・具体例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を具体的な事例を用いて整理する。	120分
9	【詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受】	詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の203頁から206頁まで、212頁から216頁までを読み、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理する。	120分
10	【債権の担保①－留置権・先取特権・質権・譲渡担保】	抵当権以外の典型担保物権（留置権・先取特権・質権）、譲渡担保を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の216頁から233頁までを読み、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理する。	120分
11	【債権の担保②－連帯債務、連帯保証）】	債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の208頁から212頁までを読み、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理する。	120分
12	【不動産物権変動の公示とその仕組み】	不動産物権変動の公示、不動産物権変動の諸論点（意思主義、177条の第三者、背信的悪意者）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、不動産物権変動の公示、不動産物権変動の諸論点（意思主義、177条の第三者、背信的悪意者）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の247頁から258頁までを読み、不動産物権変動の公示とその仕組みを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、不動産物権変動の公示とその仕組み全体を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【動産物権変動の公示とその仕組み】	動産物権変動の公示、引渡しの具体的方法、動産物権変動の諸論点（主に即時取得）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、動産物権変動の公示、引渡しの具体的方法、動産物権変動の諸論点（主に即時取得）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の258頁から270頁までを読み、動産物権変動の公示、引渡しの具体的方法、即時取得の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、引渡しの具体的方法、それを踏まえた即時取得の成立要件・効果を整理する。	120分
14	【不法行為－一般の不法行為、特殊の不法行為（工作物責任、共同不法行為）】	一般の不法行為のほか、特殊の不法行為（工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、一般の不法行為、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の276頁から312頁までを読み、一般の不法行為、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、一般の不法行為、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の要件・効果を整理する。	120分
15	【テスト】	これまでの授業における学修事項の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の3頁から312頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	テストの実施後、その内容について、講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえ、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特に、法曹（裁判官・検察官・弁護士）など法律の解釈・適用に携わる職業を志望し、学習意欲のある学生に、この授業を通じてリーガルマインドを養っていただきたい。

【授業方法】
本授業は、いわゆる対面方式の方法で実施する。 講義・説明を踏まえ、基本的には担当者となる学生が各テーマに関連する問題（基本的には事例問題であり、遅くとも当該授業の1回前の授業で次回（以降に）扱う事例問題等の問題を示すこととする。）について検討してもらう。検討に際しては、適宜、質疑応答を行ったり、報告担当者から報告してもらうなどの方法を採用。 さらに、毎回ではないが、法文書（レポート）を作成（起案）していただき、その講評・解説を行うことも予定しているが、履修者の学習水準に応じて（履修者と協議し）、起案の回数などについて調整する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	課題の解決に向けたレポート等を課す。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。					1						
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。	15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートあるいは法文書の講評・解説を基本的には授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後あるいはメールなどで時間を調整し、相談等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	法学の重要事項を確認するとともに、行政法の位置づけや次回以降の授業のテーマに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の役割と位置づけを理解する。	
	事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2	行政指導	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政指導の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3	行政指導	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政指導について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4	行政立法	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政立法の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5	行政立法	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政立法について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6	行政手続	－講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政手続の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政手続	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政手続について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8	行政上の不服申立て	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政上の不服申立ての要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9	行政上の不服申立て	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政上の不服申立てについて説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10	行政訴訟（行政事件訴訟）	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政訴訟（行政事件訴訟）、特に取消訴訟の訴訟要件の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11	行政訴訟（行政事件訴訟）	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政訴訟（行政事件訴訟）、特に取消訴訟の訴訟要件について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12	国家賠償	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、国家賠償請求訴訟の要件を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家賠償	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、国家賠償請求訴訟について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14	損失補償	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、損失補償請求訴訟の要件について理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15	損失補償	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、損失補償請求訴訟について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	高橋 慶悟	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
個人または法人の間で発生した民事紛争を解決するための手続きが民事訴訟であるところ、一般の人々が生活をする中で民事訴訟を利用することはほとんどないため、民事訴訟法がどのように運用されているのか、具体的なイメージが湧かないと思われる。そこで、本講義では、民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説した上で、具体的な事案を挙げて、いくつかの諸問題について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する基礎的知識を養成することを目的とする。更にその上で、具体的な事案を検討する中で問題点について指摘し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
民事訴訟法や民法科目を履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、適宜発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法に関する基礎的事項を理解することができる。				2						2	
②	具体的な事案を検討する際、法律上の問題点を説明することができる。				2						2	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、民事訴訟法に関する指定した テーマについてレポートを作成する。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関連して、授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法〔第2版〕	小田司編	弘文堂	2016	教科書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第6版〕	高田裕成ほか編	有斐閣	2023	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで調整して行います。 takahashi.keigo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・概説	授業のテーマや内容、進行方法について説明する。また、民事訴訟制度の全体像について概説する。	
	この回の到達目標	民事訴訟法の意義や全体像について理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をすること。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて、今後の学習計画を考える。	120分
2	口頭弁論における審理原則	口頭弁論における審理原則のうちの一つである適時提出主義に関連して、時機に遅れた攻撃防御方法について検討する。	
	この回の到達目標	口頭弁論における審理原則について理解することができる。また、時機に遅れた攻撃防御方法とされるのはどのような場合かについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
3	自白	自白の撤回の要件に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	どのような場合に自白の撤回が認められるのかについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
4	違法収集証拠	自由心証主義について説明した上で、違法な手段で入手した証拠の証拠能力について検討する。	
	この回の到達目標	違法収集証拠における学説の状況と裁判例の動向について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、裁判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
5	証明責任	証明責任の分配について、具体的な事案を挙げて検討する。	
	この回の到達目標	法律要件分類説について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
6	文書提出命令	文書提出命令が認められる範囲について、具体的な事案を挙げて検討する。	
	この回の到達目標	どのような場合に文書提出命令が認められるかについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	訴えの取下げ		訴えの取下げの要件や効果について説明した上で、具体的な事案を挙げて検討する。
	この回の到達目標	どのような場合に訴えの取下げが認められるかについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
8	一時金賠償と定期金賠償		一時金賠償と定期金賠償の違いについて説明した上で、これらに関する問題について検討する。
	この回の到達目標	処分権主義との関係で、原告が一時金賠償を求めている場合に、裁判所が定期金賠償の支払を命じる判決をすることができるかについて説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
9	既判力の時的限界		基準時後にする形成権の行使について検討する。
	この回の到達目標	基準時後の各形成権（取消権、建物買取請求権等）の行使について、判例・学説の立場を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
10	一部請求		一部請求後の残部請求の可否について検討する。
	この回の到達目標	一部請求後の残部請求が認められる根拠について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
11	標準時後の事情変更		後発後遺障害による損害賠償の追加請求の可否について検討する。
	この回の到達目標	後遺症の賠償請求について、判例・学説の立場を理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
12	争点効		既判力の客観的範囲について説明した上で、争点効に関する議論を検討する。
	この回の到達目標	争点効理論が提唱された背景について、また判例・学説の立場について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	反射効	既判力の主観的範囲について説明した上で、反射効に関する議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効理論が提唱された背景について、また判例・学説の立場について理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
14	上訴の利益	上訴の利益とその判断基準について検討する。	
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるかについて理解することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分
15	不利益変更の禁止	相殺の抗弁と不利益変更禁止の原則に関する問題について検討する。	
	この回の到達目標	不利益変更禁止の原則の適否について、具体的な事案を例に挙げて説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書や参考書等の該当箇所を読み、授業中に適宜、発言ができるよう準備すること。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、判例・学説の立場を整理する。また、自身の意見を考える。	120分

科目名	法学演習EⅠ	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
訴訟における憲法論について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法論を訴訟に即して考察できる力を養成することを目的とする。 最高裁判決（主題判例）に含まれる憲法論について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
授業形態は対面方式とする予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	訴訟における憲法論について全体的な見通しを持って考察することができる。						3					3	
②	最高裁の憲法判例について精密に読むことができる。						3					3	
③	主題判例について批判的に議論することができる。						3					3	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業時間内に、1回以上のレポート等をもって行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の19：00～20：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	開講の辞		訴訟における憲法論とは何かを考察する。
	この回の到達目標	①② 憲法訴訟についての問題意識を持つことができる。	
	事前学修	憲法訴訟を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
2	主題判例1		在監関係に関する主題判例 1 を対象とする。
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 1 について問題意識を持つことができる。	
	事前学修	主題判例 1 について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を予測すること（2時間）	120分
3	多数意見を読む		多数意見を読む。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点をを説明することができる。	
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
4	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキストを分析することができる。	
	事前学修	多数意見のテキストのなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
5	多数意見の考察 2		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
6	主題判例 2		集会の自由に関する主題判例 2 を対象とする。
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 について問題意識を持つことができる。	
	事前学修	主題判例 2 について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	多数意見を読む		多数意見を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を理解することができる。		
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
8	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキスト分析をすることができる。		
	事前学修	多数意見のテキストのなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
9	多数意見の考察 2		多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。		
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
10	主題判例 3		集会の自由に関する主題判例 3 を対象とする。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 について問題意識を持つことができる。		
	事前学修	主題判例 3 について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
11	多数意見を読む		多数意見を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を理解することができる。		
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
12	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキスト分析をすることができる。		
	事前学修	多数意見のテキストのなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多数意見の考察 2	多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	主題判例間の関係	主題判例間の関係について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例間の関係を説明することができる。	
	事前学修	主題判例間の関係がどのようなものであるかについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	閉講の辞	訴訟における憲法論とは何でないかについて考察する。	
	この回の到達目標	①② 憲法訴訟についての踏み込んだ問題意識を持つことができる。	
	事前学修	事前の想像とこの演習との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と閉講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	法学演習EⅡ	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
最高裁の憲法判断の一般的構造について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3つの主題判例に含まれる憲法判断の構造について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
授業形態は対面方式とする予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	訴訟における憲法論について全体的な見通しを持って考察することができる。				3						3	
②	最高裁判決を精密に読むことができる。				3						3	
③	最高裁の憲法判断の一般的構造について批判的に議論することができる。				3						3	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業時間内に、1回以上のレポート等をもって行う予定である。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の18：00～19：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	開講の辞		訴訟における憲法論とは何かについて考察する。
	この回の到達目標	①③ 憲法判例についての問題意識を持つことができる。	
	事前学修	憲法訴訟を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
2	主題判例 1		主題判例 1 を対象とする。
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 1 について問題意識を持つことができる。	
	事前学修	主題判例 1 について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を予測すること（2時間）	120分
3	多数意見を読む		多数意見を読む。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を説明することができる。	
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
4	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキストを分析することができる。	
	事前学修	多数意見のなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
5	多数意見の考察 2		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
6	主題判例 2		主題判例 2 を対象とする。
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 について問題意識を持つことができる。	
	事前学修	主題判例 2 について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	多数意見を読む		多数意見を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を理解することができる。		
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
8	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキストを分析することができる。		
	事前学修	多数意見のなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
9	多数意見の考察 2		多数意見Cについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。		
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
10	主題判例 3		主題判例 3 を対象とする。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 について問題意識を持つことができる。		
	事前学修	主題判例 3 について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
11	多数意見を読む		多数意見を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を理解することができる。		
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
12	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキストを分析することができる。		
	事前学修	多数意見のなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多数意見の考察 2	多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	主題判例間の関係	主題判例間の関係について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例間の関係を説明することができる。	
	事前学修	主題判例間の関係がどのようなものであるかについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	閉講の辞	訴訟における憲法論とは何でないかについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 憲法訴訟についての踏み込んだ問題意識を持つことができる。	
	事前学修	事前の想像とこの演習との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と閉講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。講義内容について適宜グループディスカッションや発表などを行うこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容について適宜グループディスカッション、発表などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。				2			2				
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。				2			2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②に関し、授業内でリアクションペーパーを作成する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
ジェンダー法学入門	三成美保、笹沼朋子、立石直子、谷田川知恵	法律文化社	2019年	参考書	任意
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーション及び導入講義	ジェンダーと法を学ぶ意義	
	この回の到達目標	ジェンダーとは何か、それが法とどう関係するかにつき理解できるようにする。	
	事前学修	「ジェンダー差別」という言葉から想起される事例を各自考えた上で、教科書Aの序章を読んでおく。	120分
	事後学修	「ジェンダー・ステレオタイプ」の例を挙げる。自分の問題として、ジャンダーがどう関わっているのか、具体例を挙げて考える。	120分
2	ジェンダー法を学ぶ基礎 1	ジェンダーと憲法・民法・刑法	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅰ～Ⅲを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
3	ジェンダー法を学ぶ基礎 2	ジェンダーと社会法・国際法	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅳ、Ⅴを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
4	日本における性差別	歴史的、法的に存在する性差別	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A1章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
5	フェミニズム法学の展開	フェミニズムの主張、フェミニズムが法学に与えてきた影響	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A3章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
6	学校教育に見るジェンダーバイアス	ジェンダーバイアスとはどのようなものか、学校のカリキュラムに潜むジェンダーバイアス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A4章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	家族と平等	婚姻の成立、夫婦同姓、親子関係	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A5章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
8	家族と自由	標準的家族モデル、「家族」の保護	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A6章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
9	逸失利益	失われたものの「値段」の男女差	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A7章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
10	雇用とジェンダー	雇用におけるジェンダー問題、ワーク・ライフ・バランス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A8章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
11	社会保障とジェンダー	社会保障におけるジェンダー問題、第三号被保険者	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A9章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
12	政治・行政、立法、司法分野とジェンダー	三権におけるジェンダーバランスとポジティブ・アクション	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A15、16章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	男性にとってのジェンダー法	男らしさの代償	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A17章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び講評	前期に扱ったテーマの振り返り	
	この回の到達目標	前期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
	事前学修	前期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	前期まとめ	ジェンダー法学の応用	
	この回の到達目標	前期の内容・要点について理解した上で、相互にディスカッションできるようにする。	
	事前学修	これまでの授業の要点につき、再度確認しておく。教科書A18章を読んでおく。	120分
	事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題が他の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。講義内容について適宜グループディスカッションや発表などを行うこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容について適宜グループディスカッション、発表などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。		2			2			
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。		2			2			
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②に関し、リアクションペーパーを作成する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
ジェンダー法学入門	三成美保、笹沼朋子、立石直子、谷田川知恵	法律文化社	2019年	参考書	任意
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ジェンダーとは何か、「ジェンダーと法」が明らかにするもの	
	この回の到達目標	ジェンダーとは何か、ジェンダーの視角を法に取り入れることにより、何が明らかになり得るかを理解する。	
	事前学修	ジェンダーと何か、ジェンダーを巡ってどのような問題があるのかを、自分に引きつけて具体的に考えておく。教科書Aを概観し、ジェンダーと法に関してどのような問題があるのか、把握しておく。	120分
	事後学修	自分に起きたジェンダーに関する具体的問題を、ジェンダー中立的見地から眺めるとどのように考えられるか、挙げておく。	120分
2	セクシュアル・ハラスメント	セクハラ概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A11章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
3	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A12章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
4	性犯罪をめぐる問題	強姦性交等の性犯罪の特徴、強姦神話、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A10章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
5	リプロダクティヴ・ヘルス/ライツ	性に関する自己決定のあり方、中絶におけるプロライフとプロチョイス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A13章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
6	性表現とジェンダー	性表現の自由とその規制のあり方、限界	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A14章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法的性別の根拠		性的マイノリティの多様性、性的に「ノーマル」とは	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B1章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
8	性同一性障がいと法		性的指向と性自認	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B2章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
9	性的マイノリティの親子関係		性的マイノリティは親子関係を持てるのか	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B4章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
10	同性婚と法		異性婚の根拠、同性婚を取り巻く環境	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B5章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
11	性的マイノリティと労働		性的マイノリティからみる労働環境とその問題	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B7章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
12	性的マイノリティと学校教育		学校教育とジェンダーバイアス、性的ノーマティヴィティ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B8章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人権の多様性	クイア理論、法が守る少数派の権利とは	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B9章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び講評	後期の内容全般の振り返り	
	この回の到達目標	後期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
	事前学修	後期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	後期まとめ	「セクシュアリティと法」のゆくえ	
	この回の到達目標	ジェンダーやセクシュアリティの視点から、社会的弱者が法により守られるとはどういうことか、その限界はどこにあるか、理解できるようにする。	
	事前学修	後期の内容につき、再度確認しておく。教科書B12章を読んでおく。それについてディスカッションできるように準備しておく。	120分
	事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題型の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
各回授業時に配布するプリントに沿って、講義を行います。授業終了後、配布したプリントの電子版をGoogle Classroomにアップロードします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。				2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、自然法論等の全体像が身についているかを、15回目に実施予定の授業内試験(記述式説明問題 授業で配布するプリントのみ持ち込み可)により評価する。 授業内試験を受験することが、成績の最終評価の前提となることに注意されたし。 また、履修者数等によって評価方法を変更する可能性があることにも留意されたし。	35	35									70
小テスト等	到達目標①②に関連して、前半の内容を振り返って、自然法論等の基本的枠組みが理解できているかを、7回目の授業終了後に実施予定の「中間小テスト」により評価する (Google Classroomを通じて正誤問題を出題する)。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験及び「中間小テスト」の講評を、後日、Google Classroomを通じて配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』（有斐閣アルマシリーズ）	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』（有斐閣Sシリーズ）	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『世界哲学史 1 ないし 4』（ちくま新書）	山内・納富他	筑摩書房	2020年	参考書	任意
『人が人を罰するということ』（ちくま新書）	山口尚	平凡社	2023年	参考書	任意
『不道德的倫理学講義 人生にとって運とは何か』（ちくま新書）	古田徹也	筑摩書房	2019年	参考書	任意
『そうしないことはありえたか？ 自由論入門』	高崎将平	青土社	2022年	参考書	任意
『時間と自由意志 自由は存在するか』	青山拓央	筑摩書房	2016年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて質問等に応じる。inoue.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	<プレリユード>「自然」という言葉について 4月9日		開幕にあたり、授業で何を話すか、授業をどう進めていくか評価方法も含めて説明します。その上で、古代から中世にかけての「自然法」論の流れを辿る本授業において「船頭」的役割を果たす「自然」という言葉の意味について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、nature＝自然・本性という言葉が通時的に持っている重層的な意味を説明することができるようになる。		
	事前学修	「自然」という言葉の意味を辞典で調べておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然」という言葉がもつ複数の意味について整理しておいて下さい。		
2	<古代ギリシアの法思想と女神達>西洋「法」思想の源流を訪ねて 4月16日		「自然法」論を検討するための前提となる材料を確保するために、戯曲『オイディプス王』等を参照しながら、テミスやディーケ等の女神たちとギリシア法思想が契った関係について概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の舞台でも体感できる古代ギリシアの演劇の中に、法や正義の多様な姿がすでに現れていることを説明できるようになる。		
	事前学修	ソボクレス作『オイディプス王』のあらすじについて調べておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アルカイック期における「自然と人為」の関係性の变化について整理しておいて下さい。		
3	<ピュシスとノモス>その出会いと別れについて 4月23日		プラトンのソフィスト批判に注目して、「自然法」論のはじまりに立てられた「ピュシスとノモス」という二つの旗の意味について考察しながら、古代ギリシアを規定した客観的な正義・法観念を支えた「自然本性」のふるまいを追跡します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代正義論の範型となるソフィストの議論を精確に理解し、プラトンのイデア論が「自然」概念を媒介として国家論、法理論とどのようにつながっているか説明できるようになる。		
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、紀元前6世紀から前4世紀にかけてのギリシアの状況を確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、プラトンが「ピュシス」と「法」の関係についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		
4	<アリストテレスと自然、正義(1)>「幸福」という言葉について 5月7日		万学の祖とされるアリストテレスの「目的」論的世界観を、「自然」、「運動」、「最高善」といった言葉に寄り添って概観し、ポリス＝国家と徳、幸福との関係性について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アリストテレスの「ポリスの動物」という概念を精確に理解し、現在流行中の「徳倫理学」とアリストテレスの議論がどうつながっているか説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが提示した「ポリスの動物」という言葉の意味を確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アリストテレスが「目的」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		
5	<アリストテレスと自然、正義(2)>「全体的正義」あるいは「不随意的行為」について 5月14日		アリストテレスが「正義」について試みた基本的かつ複合的整理を紹介するとともに、彼の「行為」論の中から、「自由意志」や「責任」について考える手がかりを探し出してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「配分的正義」等の種々の「正義」概念の属性を精確に説明し、法や道徳をめぐる現代「行為」論の基盤となるアリストテレスの「行為」概念を的確に操作できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが「徳」という言葉をどのように使用していたか、確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「遵法的正義」、「選択」、「無知」概念の意味について、整理しておいて下さい。		
6	<ストア派周辺の人々と自然法>法体系論と運命論について 5月21日		「自然法」について考えるとき準拠される枠組みをほぼ完成させたストア派周辺の議論を整理し、キケロらが提示した「自然法則」「万民法」「運命」等の概念の意味について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法」論の土台には理性＝ロゴス概念が存在することを精確に提示し、現代思想においても重要論点の一つであり続ける、「自由意志」をめぐる「両立論」について説明できるようになる。		
	事前学修	3回目に配布したプリントに基づいて、ソフィストが「ノモス」をどう批判したか、確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然法」や「運命」という言葉がもつ多層的な意味について、慎重に整理しておいて下さい。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	<アウグスティヌスと自然法>「神の光」と「悪」について 5月28日		「地上の国」の位置付けや「照明」説にも当然目配りしながら、「永久法」概念等に基づくアウグスティヌスのキリスト教的「自然法」論について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アウグスティヌスが「悪」と国家、理性、意志との関係をどのように考えていたかを整理した上で、正義や法をめぐる「主意主義」・「主知主義」的理解について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アウグスティヌスが「秩序」の形成についてどう考えていたか、確認しておいて下さい。	120分	
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アウグスティヌスが「神の光」や「神と悪の関係」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。	120分	
8	<トマス・アキナスと自然法（1）>理性と永久法と自然法について 6月4日		中世スコラ学を体系化し、その後の「法」の見方についても決定的な影響を与えた教会人トマスの「自然法」論について、人間の理性や神の理性との関わりに留意して、アリストテレスやアウグスティヌスの思想と比較しながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「理性的被造物の永久法への参与」と自然法が定義されることの意味を提示し、現代自然法論においても重要な論点となっている自然法と理性との関係性について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、トマスが「超自然」と「自然」との関係についてどう考えていたか、確認しておいてください。	120分	
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスが正義や人間の理性についてどう考えていたか、慎重に整理しておいて下さい。	120分	
9	<トマス・アキナスと自然法（2）>「自然の光」と「神の恩恵」について 6月11日		トマスが国家や法についてどう考えていたか、「自然本性」や「主知主義」といった言葉に立ち戻って包括的に検討した上で、「意志は誤ることはない」といったフレーズを手がかりに「意志と自由意志」論についても考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスが人間を「政治的・社会的動物」とみなしたことの意味を説明し、「意志」と「自由意志」概念を区別しながら、真の自由と選択の自由について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、「主意主義」や「恩恵」という言葉に与えられた意味について確認しておいて下さい。	120分	
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「恩恵は自然を廃さず、むしろそれを完成する」や「善にも悪にも向かい得る自由意志」等のフレーズの意味について整理しておいて下さい。	120分	
10	<『薔薇の名前』の法思想史>オッカムの正義論と「神の意志への服従」「自由意志による服従」について 6月18日		14世紀の哲学者オッカムには主意主義者や唯名論者という属性が通常付与されるのですが、聖書や教会に潜む難題について彼が与えた解答の意味を「神への憎悪は悪ではない」というフレーズや「認容的自然法」というカテゴリー等の枠組に依拠して考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オッカムが「倫理的に正しい行為」をどう定義づけたか精確に提示し、「主意主義」的法実証主義者としてのオッカムが展開した自然法論の概要を説明できるようになる。		
	事前学修	『薔薇の名前』という小説・映画について調べておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「イサクを殺す命令」や「教皇の任命権」を正当化する理由についてオッカムがどう考えたか、整理しておいて下さい。		
11	<「清貧論争」におけるオッカム>墮罪前の「支配の権能」と「使用の権能」について 6月25日		中世末の教会を震撼させた「清貧論争」において、オッカムが「所有していなくても使用できる」と考えた論拠について、墮罪前と墮罪後、カインによる財産分割の前と後等に分けて、詳細に紹介した上で、「共用」、「共有」、「私的所有」等の概念を整理します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「天使的支配権」や「私的所有のライセンス」といった言葉を効果的に使いながら、現在もなお「私的所有」論の典拠とされる、オッカムの自然法上の「使用の権能」論について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、オッカムが「使用の権能」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスとオッカムが「私的所有」と「緊急使用权」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		
12	<グロティウスにおける「所有」と「嘘」>「共用される海」と「悪でない嘘」という言葉に注目して 7月2日		16歳で弁護士になった早熟の天才グロティウスの主著『戦争と平和の法』が含む膨大な論点の中から、「先占」を発端とする「私的所有」成立論や「知る権利」を前提とした「嘘」に関する新しい考え方について紹介します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスやグロティウス等を比較しながら西洋における「所有」にも自然本性的に「共用」が内在していることや民法で登場する「心裡留保」には神学的背景があることを説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、グロティウスが「私的所有」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。		
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「嘘」と「悪」と「心裡留保」の関係について整理しておいて下さい。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	＜「自由意志」論の系譜を探索（１）＞ 古代の「運命」「運」を巡る議論及び現代の「非決定論」に焦点を合わせて 7月9日	法的責任を問う前提とされている「自由意志」をめぐる議論についてはこれまでの授業でも言及したのですが、今回は「非決定論」の立場から、さらに一步踏み込んで「自由意志」論を検討します。現代の議論に登場する「リパタリアンの自由意志」概念と古代ギリシアの戯曲等に登場する「運命」、「運」概念とを対比し、中世の思想家スコトゥスの「偶然」論等にも留意しながら、「自由意志」論でこれまで語られてきたことの普遍的な意味を検討してみます。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「運」に翻弄されながら「運命」に立ち向かう「オイディプス」の姿を意識しながら、非決定論的「自由意志」概念が持つ「可能性」と「限界」について説明できるようになる。		
	事前学修	2回目と6回目に配布したプリントに基づいて、『オイディプス王』等に登場するテュケー概念の意味とストア派の思想における「運命」と「ロゴス」の関係について確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、リパタリアンの「自由意志」論と「運」、そして両立論的「自由意志」論と「運命」の関係性について整理しておいて下さい。		120分
14	＜「自由意志」論の系譜を探索（２）＞ 近世の「必然」論及び現代の「決定論」に焦点を合わせて 7月16日	國分功一郎氏の著作等を出発点に、昨今、17世紀の思想家、スピノザをめぐる議論が白熱しています。今回は「必然」をめぐるスピノザの考え方や「罪」をめぐるアウグスティヌス等の考え方を前提として、「決定論」の立場から、「自由意志などない」と主張すること、あるいは、「それでも自由意志はある」と主張することが持つ可能性と限界について検討してみます。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いにしへの神学者の議論やスピノザをめぐる現在の議論も意識しながら、「自由意志はあるのか」という問いについて自分なりの暫定的解答を提示できるようになる。		
	事前学修	7回目と9回目に配布したプリントに基づいて、アウグスティヌスとトマスが「自由意志」についてどのように語っていたか確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「ハードな決定論」から導かれる「自由意志」論と「源泉性モデルに従った決定論」から導かれる「自由意志」論の異同について整理しておいて下さい。		120分
15	＜授業内試験及び授業の振り返り＞ 7月23日	これまで紹介した様々な自然法論の内容を整理する問題に答えてもらい、「悪」や「自由意志」等に関する、いにしえ人の思考の中に、皆さんが現在を生き抜くヒントを探す作業を振り返ります。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアから中世にいたる自然法論の流れを整理して、現代とのつながりを説明できるようになる。		
	事前学修	授業で言及した「自然」等の重要概念について、授業で紹介した各思想家がどう語っていたか、整理しておいてください。		120分
	事後学修	試験でうまく表現できなかった箇所について反省しながら、自然法論の概略を改めて整理し直しておいて下さい。		120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについてリアクションペーパーを作成する。5回に1回、それまでの授業を内容踏まえた上で、現代的問題とも通底する課題（責任、権利、法の支配）について提示し、検討して、レポートを作成する。リアクションペーパーやレポートは授業内で解説・講評し、さらに理解を深めるための素材とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、5、10、15回目にレポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②に関し、毎時リアクションペーパーを作成する	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーやレポートは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期オリエンテーション及び導入講義		法思想史とはなにか
	この回の到達目標	法思想を学ぶ意義を考え、そもそも法とは何か、法的な正しさと社会的な正しさとは同じなのかについて理解し、要点を示すことができるようにする。	
	事前学修	社会的な正しさと、法的な正しさとの異同を考えておく。教科書A0章を読んでおく。	120分
	事後学修	法思想史における様々なアプローチを大まかに整理し、法思想史を学ぶ意義を押さえておく。	120分
2	古代ギリシアの法思想 1		ソクラテス、プラトンの法思想
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの11～19ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	古代ギリシアの法思想 2		アリストテレス
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの19～26ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
4	神学的自然法論		アウグスティヌス、トマス・アクィナス
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの2章を読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
5	現代の中で考える法思想 1		なぜ責任を問えるのか？ アリストテレスとカントから
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	1～4回の内容について確認したうえで、教科書Bの40～51ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
6	法の支配		クック、ベンサム、ミル
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの42～57ページを読み、時代背景も把握しておく。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会契約論 1		ホッブズ、ロック	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの58～65ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）		120分
8	社会契約論 2		ルソー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの66～73ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）		120分
9	ドイツ観念論		カント、ヘーゲル	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの5章を読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	現代の中で考える法思想 2		権利とは何か？ ホッブズとイエーリングから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	6～9回の内容について確認したうえで、教科書Bの16～27ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	概念法学		サヴィニー、プフタ、イエーリング	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの96～122ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	法社会学の形成		エールリッヒ、ウェーバー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの123～137ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	プラグマティズム		ホームズ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の34～35ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
14	価値相対主義の法哲学		ラートブルフ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの205～218ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
15	現代の中で考える法思想 3		法の支配とは何か ホップズとロックから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	11～14回の内容について確認したうえで、教科書Bの89～102ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。（2時間）		120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
各回授業時に配布するプリントに沿って、講義を行います。授業終了後、配布したプリントの電子版をGoogle Classroomにアップロードします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						4	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、近世社会契約論の全体像が身に ついているかを、15回目に実施予定の授業内試験(記述式説 明問題 授業で配布するプリントのみ持ち込み可)により評 価する。 授業内試験を受験することが、成績の最終評価の前提とな ることに注意されたし。 また、履修者数等によって評価方法を変更する可能性がある ことにも留意されたし。	35	35									70
小テスト等	到達目標①②に関連して、前半の内容を振り返って、自然 権等の基本概念のもつ意味が理解できているかを、7回目 の授業終了後に実施予定の「中間小テスト」により評価す る (Google Classroomを通じて正誤問題を出題する)。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験及び「中間小テスト」の講評を、後日、Google Classroomを通じて配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』（有斐閣アルマシリーズ）	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』（有斐閣Sシリーズ）	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『世界哲学史 6』（ちくま新書）	山内・納富他	筑摩書房	2020年	参考書	任意
『哲学トレーニングブック』	山口尚	平凡社	2020年	参考書	任意
『そうしないことはありえたか？ 自由論入門』	高崎将平	青土社	2022年	参考書	任意
『哲学者たちのワンダーランド 様相の十七世紀』	上野修	講談社	2013年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて質問等に応じる。inoue.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	＜インターミッション＞「契約」という言葉について 9月17日	この授業でどのようなことを話すか、どのように進めていくか、評価方法も含めて説明します。その上で、近世の「社会契約論」について念入りに復習する本授業を貫く鍵概念としての「契約」という言葉がもつ多様な意味を「信約」や「合意」等の言葉と対比しながら確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学部生なら当然知っているべきなのにあやふやな理解にしばしば留まっている、「契約」の基本的な枠組みについて、その歴史的・社会的背景も踏まえて説明できるようになる。	
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ヨーロッパで「近世」と呼ばれる時代のイメージをつかんでおいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「契約」という言葉がどんな意味で使われてきたか整理しておいて下さい。	120分
2	＜グロティウスと近世自然法論＞アベルとカルネアデスをめぐる言説について 9月24日	グロティウスが「自然法」や「自然本性」に与えた複数の属性等を説明しながら「近世自然法論」の基本的な枠組みを確認するとともに、『戦争と平和の法』に登場するカルネアデス批判を通じて「正義」と「社会性」の関係について、アベル殺しの物語を通じて「刑罰権」の起源について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グロティウスの「自然法論」について「社会性」等に注目して説明できるようになるとともに、「緊急避難」等について語るための語彙を増やす。	
	事前学修	「自然法」という言葉の意味を辞典やインターネット等で再度確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、新旧の「自然法」論の違いについて整理しておいて下さい。	120分
3	＜ホブズと社会契約論 総論（1）＞「熟慮する人間」と「あらゆるものに対する権利」について 10月1日	ホブズの「社会契約論」の基層にある「自然権」「自然法」という概念の意味について、情念、意志、理性等の言葉やホブズの人間観、運動論にも留意しながら詳論してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホブズの運動論の基層にある「欲求」「嫌悪」という言葉の意味や彼の権利・自由論の基層にある「自然権」という言葉の意味を精確に説明できるようになる。	
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ピューリタン革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「情念」の一つとしての「恐怖」を出発点として、ホブズが人間をどう描こうとしたか確認した上で、ホブズが提示した「自然法」の属性や「社会契約」の素案について整理しておいてください。	120分
4	＜ホブズと社会契約論 総論（2）＞「役者としての主権者」と「法を命じる主権者」について 10月8日	「信約によって作り出された合一を担う主権者」等の「社会契約」に関するホブズ固有の考え方を手がかりに、国家成立後に登場した「法」や「外的障害がないこと」と定義づけられた「自由」について彼がどう考えていたか紹介します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法が法となった」プロセスについて精確に語り、法・義務と権利・自由の関係についての古典的議論を説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ホブズが「自然法」や「自然権」をどう意味づけたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、契約の担い手や合一、代表等について、ホブズがどのように捉えていたか整理しておいて下さい。	120分
5	＜ホブズと社会契約論 各論＞「片方未履行信約」としての社会契約、そして「自由と必然」の関係について 10月15日	「社会契約を履行することを強制する力はどこにあるのか」という深刻な問題にホブズは明確に答えてはいません。この問題について、「片方未履行信約」を巡る彼の言説を手がかりに検討します。さらに、ホブズが自由と必然の関係について、どのように考えていたか確認することを通して、彼の「自由」論の整理を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホブズが提示した「意志的行為」論と現代の「自由意志論」がどのようにつながっているか説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ホブズが「自由」についてどのように理解していたか「権利」「義務」概念等と対比しながら確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ホブズが「自然科学的」な思考に基づいて導出した「行為」概念について整理しておいて下さい。	120分
6	＜ロックと社会契約論（1）＞「固有物としてのproperty」と「固有権としてのproperty」について 10月22日	経験主義的認識論の紹介や「自然的権力」や「固有権」等の語義確認をした上で、ロックの「社会契約論」について、何を譲渡するのかということにとりわけ注意を払いながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロックが使用する「自然法」「自然権」「自然的権力」等の言葉の意味を精確に提示し、「自己所有権」等をめぐる現代的議論に参加する際にロックのproperty概念を適切に使用できるようになる。	
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、名誉革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然法」が付与した複数の「自然的権力」および固有なものに対する権利としての「自然権」に関するロックの言説の中味を慎重に整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	<ロックと社会契約論（２）> 「governmentの中核としての立法部」と「governmentの解体」について 10月29日	「信託」や「同意」といった言葉に依拠してロックの「社会契約論」に登場するgovernmentについて分析するとともに、彼が法や自由についてどう考えていたか、ホッブズ等と比較しながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「信託」違反行為が発生した際の帰結についてロックがどのように考えていたか精確に示すとともに、法と自由の関係性に関する言説に依拠してロックの「自由」論がもつ「可能性」と「限界」についても説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ロックが「信託」という言葉をどのように使用したか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ロックが「同意」としての「社会契約」において「立法部」をどう位置づけていたか整理しておいて下さい。	120分
8	<ルソーと社会契約論 総論（１）> 「自然的感情」と「理性」の相克について 11月5日	ルソーが展開した論理的シミュレーションとしての『不平等起源論』を出発点として、「憐れみ」や「自己愛」等の概念に注目しながら、彼の「社会契約論」を裏で支えている「理性を具えた人間への批判的視線」について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「純粋な自然状態」には戻れない人間が直面している不平等を生んだ原因についてルソーがどう考えていたか、現代社会にある「不都合な現実」を意識しながら説明できるようになる。	
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ルソーが生きた18世紀フランスのイメージをつかんでおいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが提示した複数の「自然状態」について、それらの異同を整理しておいて下さい。	120分
9	<ルソーと社会契約論 総論（２）> 「自分自身との契約」と「自分で自分を支配する自由」について 11月12日	「自律ファースト」を旨とするルソーの「社会契約論」について、誰と誰の契約なのか、何を譲渡するのか、市民が享有する自由とは何なのか、等の普遍的な論点に留意しながら、慎重に検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「公共」について考える際に今なお参照を余儀なくされる、「共同体全体」と「個人」という二つの名宛人を前提としたルソーの「社会契約論」について、「自然的自由から市民的自由へ」や「法は誤らない」等のフレーズを用いながら精確に説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「一般意志」という言葉をどう意味づけていたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが個人と共同体全体が結んだ関係性についてどのように考えていたか確認した上で、「一般意志」や「自律」と結びつけて「市民的自由」・「道徳的自由」の中味を整理しておいて下さい。	120分
10	<ルソーと社会契約論 各論>「本来的自然法」と「理性的自然法」について 11月19日	理性を自明的前提とした既存の「自然法論」に対するルソーの鋭敏な批判を紹介した上で、原典を参照しながらグロティウスやホッブズの議論を確認して、近世「社会契約論」の暫定的な整理をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代人も享有する「不平等は自然法に反する」という考え方をいち早く提示したルソーが「自然法論」の批判者でもあったことの意味を説明できるようになる。	
	事前学修	これまで配布したプリントに基づいて、ルソーが「憐れみの情」について、ホッブズが「リヴァイアサン」について、どのように発言していたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが「自然法」や「理性」に与えた複数の評価について整理しておいて下さい。	120分
11	<「犯罪者」と「例外状態」を巡る法思想史>「市民としての犯罪者」と「境界線上に立つ狼男」について 11月26日	ホッブズやルソー等の「社会契約論」は刑罰や犯罪者をどう位置付けていたか確認し、ルソーの戦争論についても一瞥した上で、現代イタリアの思想家アガンベンが展開する「ホモ・サケル」論に依拠して、「狼男」、「主権者」等の存在が棲みつく「例外状態」の分析を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズ等の「犯罪者」論やアガンベン「ホモ・サケル」論等に基づいて、社会契約論に登場する「自然状態」が「例外状態」の属性をもつことを、現代社会の現実を批判的に眺めながら説明できるようになる。	
	事前学修	3回目や8回目等に配布したプリントに基づいて、ホッブズやルソーの「自然状態」論について復習しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ホッブズ、ルソー等の議論を参照しながら、これまで紹介してきた各思想家の「刑罰権」、「戦争」、「市民」の位置付け方の違いを整理しておいて下さい。	120分
12	<「主権者」に注目をした「社会契約論」回顧>「リアルに生きている群衆」かつ「不可視な群衆」について 12月3日	現代イタリアの思想家アガンベンが著した『スタシス』に依拠して、『リヴァイアサン』の扉絵や「君主制において臣民たちは群衆であり王は人民である」というホッブズの発言を手がかりに、「社会契約論」の鍵となる「主権者」概念の属性について再度確認してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「群衆」や「人民」という言葉を的確に使用して、ホッブズが語った「主権者」概念について説明できるようになる。	
	事前学修	4回目に配布したプリントに基づいて、ホッブズが「合一」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーやホッブズが社会契約において「主権者」をどう位置づけたか、整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	<「契約」に注目した近世「国家論」回顧>「信約の相手方」及び「交換様式」をめぐるホッブズの語りについて 12月10日	2022年に話題となった本、柄谷行人氏の『力と交換様式』において、ホッブズの契約論が効果的に参照されています。「交換様式」の一つとしての「契約」という柄谷氏の分析枠組を出発点として、「信約」に基づいて構築された「国家」をホッブズがどう意味づけたか、最終的な整理を行ってみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズが精緻に定義づけた「契約」概念を的確に使用して、彼が展開した「国家論」の内容を説明できるようになる。	
	事前学修	10回目に配布したプリントに基づいて、ルソーの『社会契約論』冒頭で、ホッブズの「君主と臣民」論がどのように紹介されていたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ホッブズが『リヴァイアサン』第14章で詳述している「契約」概念の内容について改めて整理しておいて下さい。	120分
14	<「同一性」に注目した近世「責任論」回顧> ジョン・ロックにおける「人格」「自由」「意志」について 12月17日	「法的責任」、「道徳的責任」を問う前提となる要素は多々存在しますが、これまで言及してきた「自由意志」に加えて「人格の同一性」もまた鍵として機能する重要な要素です。今回は、NFTが取引される近未来において圧倒的に重要になるかもしれない「同一性」問題を取り上げます。「同一性」と「責任」という問題群を検討するにあたって、多彩な思想家であったジョン・ロックが提示した「意識の同一性」概念に注目し、ライブニッツやスピノザの議論と比較しながら、いにしえの「責任」論を概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「同一性」についての様々な考え方を整理して、「解離性障害を抱える者に刑事責任を問えるか」等の問いについて自分なりの答えを的確に表現できるようになる。	
	事前学修	7回目と9回目に配布したプリントに基づいて、ロックやルソーが「自由」についてどう考えていたか、復習しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「同一性」に関するロックの「意識」説を参照しながら、「酩酊中の行為に関する法的責任」について自分なりの解答を作成して下さい。	120分
15	<授業内試験及び授業の振り返り> 1月14日	これまで紹介した様々な「社会契約論」の内容を整理する問題に答えてもらい、「自由」や「義務」等に関する、いにしえ人の思考の中に、皆さんが現在を生き抜くヒントを探す作業を振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の様々な法概念とのつながりを意識しながら、近世の様々な「社会契約論」の異同を精確に記述できるようになる。	
	事前学修	「権利」と「法」の関係性について、各思想家がどう説明したか、その違いを整理しておいてください。	120分
	事後学修	試験でうまく表現できなかった箇所について反省しながら、「社会契約論」の全体像について改めて整理し直しておいて下さい。	120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	松島 雪江	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについてリアクションペーパーを作成する。5回に1回、それまでの授業内容を踏まえた上で、現代的問題とも通底する課題（法的人格、デモクラシーと多数決、自由の規制）について提示し、検討して、レポートを作成する。リアクションペーパーやレポートは授業内で解説・講評し、さらに理解を深めるための素材とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、5回に1回レポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②に関連して、毎回リアクションペーパーを作成する	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーやレポートは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期オリエンテーション導入講義	法的妥当性と正義	
	この回の到達目標	法、正義、国家とは何か、それぞれどのような関係にあるのかについて検討し、要点を示すことができるようにする。	
	事前学修	法的な正しさと国家との関係について考えておく。参考書の2、3ページ及び46、47ページを読んでおく。	120分
	事後学修	正義と国家とがどのように関係しているのか、論点を整理しておく。	120分
2	国法学と立憲主義 1	イエリネク	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの77～88ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	国法学と立憲主義 2	天皇機関説	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
4	法実証主義 1	ケルゼン、シュミット	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの153～165ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	現代の中で考える法思想 1	法的な人格とは何か？ ケルゼンから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	16～19回の内容について確認したうえで、教科書Bの28～39ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	法実証主義	H. L. A. ハート	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの170～183ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	再生自然法論		ハート・フラー論争	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの184～202ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
8	正義論 1		ロールズ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの203～216ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
9	正義論 2		ドゥオーキン	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	現代の中で考える法思想 2		デモクラシーと多数決 ルソー、トクヴィルから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	20～24回の内容について確認したうえで、教科書Bの176～189ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	正義論 3		A. セン	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。参考書の182～183ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	正義論 4		リバタリアニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの217～228ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	正義論 5		コミュニタリアニズム、フェミニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の120～123ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
14	正義論 6		多文化主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の124～125ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
15	現代の中で考える法思想 3		自由の規制 ミルとバーリンから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	26～29回の内容について確認したうえで、教科書Bの251～262ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。		120分

科目名	法哲学Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】
その日のテーマについて講義し、適宜グループディスカッションや発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容について適宜グループディスカッション、発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②について、講義内容の理解を毎回リアクションペーパーで確認する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
レクチャー法哲学	那須耕介、平井亮輔	法律文化社	2020年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。2部の時間帯を希望される場合は、希望日時をご相談ください。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーション及び導入講義	法とは何か？	
	この回の到達目標	法と正義の異動について検討し、自分の考えをまとめることができるようにする。	
	事前学修	法とは何か、正義とは何かについて自分の考えをまとめておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』の46・47ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
2	ドーピングは禁止すべきか？ 1	ドーピングをめぐる現在の状況	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の1章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	ドーピングは禁止すべきか？ 2	パターナリズムとフェアプレイ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』90、91ページ及び156ページ「パターナリズムの拒絶と自己責任」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）	120分
4	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 1	自己所有権の意義と正当化	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の2章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 2	ドゥオーキン、ノージックに見る権利概念	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』194、195ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	犯罪者を薬物で改良して良いか？ 1	化学的去勢、刑罰の条件	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の3章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪者を薬物で改良して良いか？ 2	ミルの危害原理	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』88、89ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
8	ダフ屋を規制すべきか？ 1	法規制の根拠	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の4章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
9	ダフ屋を規制すべきか？ 2	功利主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』104～107ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
10	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？ 1	動物の権利	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の5章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
11	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？ 2	自然の権利訴訟	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』164～165ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
12	女性専用車両は男性差別か？ 1	差別はなぜ許されるのか？/許されないのか？	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の6章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	女性専用車両は男性差別か？ 2	フェミニズムと人権の普遍性	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』122、123ページ及び132、133ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び解説	前期の内容に関して	
	この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思われる合理性について論理的に記述できるようにする、	
	事前学修	前期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。	120分
15	法と正義	前期内容のまとめ	
	この回の到達目標	前期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。	120分
	事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法・正義について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】
その日のテーマについて講義し、適宜グループディスカッションや発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容について適宜グループディスカッション、発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識 が身についているかを、筆記試験により評価する。		25	25									50
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②について、講義内容の理解をリアクション ペーパーで確認する。		25	25									50
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
レクチャー法哲学	那須耕介、平井亮輔	法律文化社	2020年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、本館1713研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期オリエンテーション及び導入講義		法的な正しさの作られ方	
	この回の到達目標	正義とは何か、これまでどのように捉えられてきたのかについて理解し、自分の見解をまとめられるようにする。		
	事前学修	正義とは何か、これまでに正義観はどのように把握されてきたのかを整理する。参考書『よくわかる法哲学・法思想』94～101ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
2	相続制度は廃止すべきか？ 1		相続制度の存在理由	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の8章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
3	相続制度は廃止すべきか？ 2		ロールズの格差原理	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』108～111ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)		120分
4	児童手当は独身者差別か？ 1		児童手当の意義、善に対する正義の優位	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の9章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
5	児童手当は独身者差別か？ 2		リベラリズムとコミュニタリアニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』96、97ページ及び120、121ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
6	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 1		世代間正義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の10章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 2		法と経済学、財・資源・潜在能力の平等	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』144、145ページ及び183ページ「センの潜在能力アプローチ」を読んでおく。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
8	女性議席を設けるべきか？ 1		議会の正統性	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の12章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
9	女性議席を設けるべきか？ 2		ポジティブ・アクション	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』166～167ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	悪法に従う義務はあるか？ 1		自然法論と法実証主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の13章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	悪法に従う義務はあるか？ 2		ラートブルフ、ハート、フラー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』48～53ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	国家は廃止すべきか？ 1		最小国家論、国家民営化論	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の14章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家は廃止すべきか？ 2	ハイエク、ノージック	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』112～117ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び解説	後期の内容に関して	
	この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思われる合理性について論理的に記述できるようにする、	
	事前学修	後期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。	120分
15	法的な正しさの考え方	後期のまとめ	
	この回の到達目標	後期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	後期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。	120分
	事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法的な正しさについて自分の考えをまとめる。	120分

科目名	法律外国語A I【経営法学科】	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の4点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に無いが、米国法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】		
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。講義は対面で実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。					1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。					1					1		
③	特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。					1					1		
④	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。					1					1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国憲法・米国不法行為法・米国契約法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを, レポート評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等	適宜授業では, 受講者に判例を1つ担当させ, 事実関係及び判旨を英語で発表させ, その内容を評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。メールアドレス：mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ, 契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Orientation & Constitutional Law(1)	米国憲法が規定する政府の3つのブランチ（立法権、執行権、司法権）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて米国憲法で規定される2つのブランチを説明できる。	
	事前学修	事前に配布する資料（判例要旨及びレジメ）の米国憲法 Article I - III に該当する箇所を読んでおき、詳細をノートに書きだしておく。	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
2	Constitutional Law(2)	連邦議会が制定する連邦法が合衆国憲法に違反した場合の最高裁の違法立法審査権に有無に関する上記判例を用いて解説するとともに、大統領もまた法の支配に服することをNIXON事件を用いて解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて連邦憲法が最高法規であることを判例を用いて説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Marbury v. Madison, 5 U.S. 137 (1803) United State v. Nixon, 418 U.S. 683 (1803)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
3	Constitutional Law (3)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、手続的デュー・プロセスや実体的デュー・プロセスを講義した後、基本的な権利として中絶に関する権利や同性婚、死ぬ権利などについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて個人の権利を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Roe v. Wade, 410 U.S. 113 (1973), Lawrence v. Texas, 539 U.S. 558 (2003) Washington v. Glucksberg, et al	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
4	Constitutional Law (4)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、表現や結社の自由、出版の自由などを名誉棄損との関係で解説する。また、平等による保護と黒人差別について米国での流れについて解説する。まずは、奴隷の開放について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて黒人の歴史や法上の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 New York Times v. Sullivan, 376 U.S. 254 (1964)) Dred Scott v. Stanford, 60 U.S. 393 (1857)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
5	Constitutional Law (5)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、奴隷の開放から平等による保護と黒人差別について上記判例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてSegregation とDiscrimination の相違を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 Plessy v. Ferguson, 163 U.S. 537 (1896) Brown v. Board of Education, 347 U.S. 483 (1954)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
6	Torts Law(1)	子供による不法行為の責任、故意による不法行為の成立要件、故意による不法行為(1)：暴行及び不法監禁について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて米国の不法行為の一般概念を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Van Camp v. McAfsoos, 261 Iowa 1124 (1968), Garratt v. Dailey, 46 Wn.2d 197(1955)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Torts Law(2)	故意による不法行為(2)：不法侵入、土地又は動産への不法侵害、精神的加害による故意の迷惑行為について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて不法行為の種類を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Coblyn v. Knnedey' s Inc, 359 Mass. 319 (1971), Katko v. Briney, 183 N.W. 2d 657 (1971)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
8	Torts Law(3)	過失による不法行為の要件（4要件）を解説する。即ち、 a. Duty of care, b. Breach of this duty by negligence, c. Actual damages, d. Causationを判例を用いで確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて不法行為の要件を説明できる。	
	事前学修	過失による不法行為に関する箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Wilkinson v. Downton, 2 Q.B. 57 (1897) ※イギリス判決	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
9	Torts Law(4)	過失による不法行為の各要件に関する意味を判例を用いで確認する。特に、過失推定論については、Res Ipsa Loquiturという言葉で表現されるので、その意味を十分理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて過失推定論とは何かを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Byrne v. Boadle, 2 H. & C. 722(1863) ※イギリス判決 Summers v. Tice, 33 Cal. 2d 80 (1948)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
10	Torts Law(5)	製造物責任及び動物の不法行為に関する米国での取り扱いを題材に講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてPL訴訟の法的根拠や自己管理課の家畜と野生動物が原因の不法行為の取り扱いに関して説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lee v. Crookston Coca-Cola Bottling Co, 290 Minn. 321(1971) Gehrts v. Batteen, 620 N.W. 2d 775(S.D.2001)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
11	Contract Law(1)	契約法の概略、契約法を管理する法律を解説した後、契約の種類、契約の成立について講義する。 特に、契約の成立には、米国特有のConsideration（約因）が必要であるため、判例を用いて、約因の有無で効力が異なることを理解する。また、Shrinkwrap Licenseも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて契約の種類や成立要件を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lucy v. Zehmer, 196 Va 493 (Va.1954) ProCD, Inc v. Zeidenberg, 96 F.3d 1447(7th Cir. 1996) Mills v. Wyman, 20 Mass. 207 (Mass. 1825)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	Contract Law(2)	契約の成立で重要な相互合意の成立とはどういうことか、また、Parol Evidence Ruleとななにか、契約成立に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて契約内容に当事者の見解の齟齬が発生した場合の解決法について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Webb v. McGowin, 27 Ala.App. 82(Ala.App. 1935) Mitchill v. Lath, 247 N.Y. 377 (N.Y. 1928) Taylor v. Caldwell, 3 Best & S. 826(1863)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
13	Contract Law(3)	義務の放免（履行不能による放免・履行実行困難性による放免）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて契約を履行しないでいい場合について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Jacob & Young v. Kent, 230 N.Y. 239(N.Y. 1921) Walker & Co. v. Harrison, 347 Mich. 630(Mich. 1957) Hadley v. Baxendale, 9 Exch. 341(1854)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
14	Contract Law(4)	重大な契約違反をした場合、些細な契約違反をした場合の相違及び救済について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて契約違反の場合の救済について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v. M’Intosh, 21 U.S. 543(1823) Armory v. Delamirie, 1 Strange 505(1722) McAvoy v. Medina, 93 Mass 548(1866)&Mannillo v. Gorski, 54 N.J. 378(1969)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
15	Contract Law(5)	契約違反をした場合の救済について講義する。また、レポート課題に対し、30分程度の解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて契約違反の場合の賠償の算出手法を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v. Sampson, et al, 11 Cal App.2d 451(1936) In re Marriage of Graham, 574 P.2d 75(1978) Berg v. Wiley, 264 N.W.2d 145(Minn1978)	120分
	事後学修	自己がまとめた課題レポートにおいて言及が足りなかった部分について、再度判決文を読み返し、今まで半期で習ってきた法律用語を見直し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

科目名	法律外国語AⅡ【経営法学科】	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の4点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に無いが、法律外国語AIや米国法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。講義は対面で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。					1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。					1					1		
③	特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。					1					1		
④	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。					1					1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国財産法・米国証拠法・米 国刑法・米国捜査法に関する基礎的な制度・裁判例・現在 の問題点など身についているかを，レポート評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等	適宜授業では，受講者に判例を1つ担当させ，事実関係及び判 旨を英語で発表させ，その内容を評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の講義の時間で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。メールアドレス：mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ，契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入 れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Property Law(1)	財産権法の概要について説明した後、インディアン土地所有権について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて財産の取得手段を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v, M' Intosh, 21 U, S, 543(1823),	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
2	Property Law(2)	不動産の時効取得やLost Item とMislaid itemにおける発見者及び発見場所のオーナー及び元の所有者の権利関係を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて遺失物と置き忘れの法的効果について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Mannillo v, Gorski, 54 N,J, 378(1969), Armory v, Delamirie, 1 Strange 505(1722), McAvoy v, Medina, 93 Mass 548(1866)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
3	Property Law(3)	資格の共有財産,土地の共有財産（Joint Tenancy, the tenancy by the entirety, the tenancy in common）を講義する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて離婚時の財産分与の際、医師資格や弁護士資格の取り扱いや共有で土地を取得した場合の共有財産形態を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v, Sampson, et al, In re Marriage of Graham, 574 P,2d 75(1978),	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
4	Property Law(4)	テナント／大家の関係,土地の収用を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてテナントの権利及び大家の権利を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Berg v, Wiley, 264 N,W,2d 145(Minn1978, Hilder v, St, Peter,144 Vt 150 (1984), Pennsylvania Coral Co, v, Mahon, 260 U,S, 393(1922)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
5	Evidence (1)	証拠法において、証拠は事件と関連性があるものでなければならないが、関連性とは何を意味するのか？	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて証拠にはどのようなものがあるかを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Michelson v, United States, 335 U,S, 469(1948)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
6	Evidence (2)	証拠法における性格証拠とは何かを講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてキャラクターエビデンスの民事上と刑事上の取り扱いの相違を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 State v, Cassidy, 3 Conn,App 374 (1985) United States v, Cunningham, 103 F,3d 553(7th Cir,1996)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Evidence (3)	物的証拠, 文書証拠, 証人の資格（特に幼児の証人適格）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてベストエビデンスルールを説明し、コンフリクトする証拠の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Sirico v, Cotto, 67 Misc,2d 636 (NY 1971) Hill v, Skinner, 81 Ohio App 375 (NY 1947)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
8	Evidence (4)	証人への信ぴょう性の攻撃, 証言特権（特に弁護士特権, 医師特権, 配偶者特権, 聖職者特権について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Owens21 M,J, 117 (NY 1985), United States v, Woodruff, 383 F,Supp 696(Penn 1974), Clark v, State, 159 Texas Cr,R, 187 (1953)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
9	Evidence (5)	伝聞証拠について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Estate of Murdock, 32 Muc, 352 (1983), United States v, English, 201 N,C, 295 (1931), Truck Ins, Exchange v, Michling, 364 S,W,2d 172(1963)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
10	Criminal Law(1)	刑法の管轄権や犯罪の分類, 犯罪の吸収など概略について講義する。また, 犯罪の本質的要素としてであるactus reus及びmens reaについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて犯罪を構成する「犯罪行為」と「犯意」について説明でき, 犯意により分類された様々な犯罪を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 People v, Newton, 340 N,Y,S, 77(1973), Regina v, Prince, L,R, 2 Crim, Cas, Res, 154(CCCR 1875) United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
11	Criminal Law(2)	共犯者責任（正犯・従犯）・不完全犯罪・犯罪能力に関し講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて未完成犯罪の種類や, 犯罪能力について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988) McQuirter v, State, 63 So,2d 388(Ala, App,1953)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	Criminal Law(3)	無罪の基本原理（正当防衛、脅迫の抗弁、同意）について講義する。また、人に対する犯罪、性犯罪（強姦・法定強姦・重婚他）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて暴行、重傷害、殺人、不当監禁、誘拐、性犯罪について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 People v, La Voie, , Rowland v, State, People v, Hickman, People v, Liberta, Brown v, State, State v, Colvin,	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
13	Criminal Procedure(1)	被疑者の権利としてどのような規定があるか、概略を説明する。特に、修正4～6条、修正8条を含めて講義を行う。 まずは証拠排除即として、「毒樹の果実の法理」を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて証拠排除則について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Mapp v, Ohio, 367 U,S, 643(1961)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
14	Criminal Procedure(2)	逮捕（相当な理由がある場合や令状が不要な場合）の講義をし、証拠の搜索や押収の手法について講義する。捜査法や刑事訴訟等を扱った米国のメディアを視聴し、各場面でどのような手続きが行われているのか確認し、課題レポートとして最終回の授業までに提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にて令状不要な6事情を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Illinois v, Gates, 462 U,S, 213(1983), United States v, Watson, 423 U,S, 411(1976) United States v, Robinson, 414 U,S, 218 (1973)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
15	Criminal Procedure(3)	自白（特に、自己に不利な証言を強要されないミランダ警告）、ラインナップ手続きに代表される同一性の確認、プリトライアルや一事不再理について講義する。課題レポートに関しフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語にてミランダ事件について説明できる。また捜査により行われる各種の手続きの法的根拠について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Miranda v, Arizona, 384 U,S, 436 (1966), United States v, Wade, 388 U,S, 218 (1967), Batson v, Kentucky, 476 U,S, 79 (1986), Oregon v, Kennedy, 456 U,S, 667 (1982)	120分
	事後学修	通常の事後学習に加え、再度メディアを見返して、教員のフィードバックの箇所を確認し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

科目名	法律外国語BⅠ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国境を越えて行われているビジネスの世界では英語が共通語であり、その知識は欠かせない。特に、外国の企業との関係を構築するにあたり、お互いに成果を挙げるために自分の意見を適切に述べることは求められる。これに鑑みて、この授業では国際取引について英語でプレゼンテーションの仕方を実践的な練習により学修する。。前期においては、主な法体系である英米法と大陸法の相違点を中心に授業を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、国際取引について英語でのプレゼンテーションの仕方を身に着けるために、（１）国際取引の問題を理解し、（２）それについて調べ、英語でのプレゼンテーションを実施し、（３）プレゼンテーションに参加し、自己の意見を述べ、他者の意見に配慮しつつ自己の見解を系統立て述べる。

【履修条件】
英語でのプレゼンテーションの授業であるため、英語習得に対して熱意があることが望ましい。

【授業方法】		
初回は講義形式で、それ以降は演習形式。講義は日本語で行い、プレゼンテーションを英語で実施する。プレゼンテーションのときには2組のチームが同じテーマについてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションを担当していないチームは報告に対し質疑応答を行い、プレゼンテーションを評価する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者をグループに分け、テーマを割り当て、そのテーマを講義内についてプレゼンテーション・ディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際取引の問題を理解し、それを英語で説明できる。【知識】					2	2						
②	国際取引に関する問題について調べ、プレゼンテーションを実施できる。【技能】										4		
③	プレゼンテーションに参加し、自己の意見を述べ、他者の意見に配慮しつつ自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】										4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが質疑応答の内容を加味して発表した内容を適切に説明しているかを基準に評価する。	15	15									30
討論・発表等	受講者は国際取引と関連するテーマについて議論になる側面及びその具体例を英語で発表し、その出来具合を評価する。もっとも、英語力そのものは評価の対象にならない。	20	20									40
授業への参画度	プレゼンテーションを担当していないグループが討論の際に質問や意見表明をいかに活発に述べたかを基準に評価する。	15		15								30
その他()	7割以上の出席を満たさない学生は評価の対象とならない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	35	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業において適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Civil Law Tradition	John Henry Merryman, Rogelio Pérez-Perdomo	Stanford University Press	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【プレゼンテーションの準備】	授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。次に、グループ分け、プレゼンテーションの準備について説明する。	
	この回の到達目標	英語でプレゼンテーションをするためにパワーポイントの準備、資料の調べ方を理解し、実践できる	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、法分野を問わず関心のあるテーマについて調べ、ノートに整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【ローマ法、カノン法、商人法についてのプレゼンテーション】	担当グループはローマ法、カノン法、商人法について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはローマ法、カノン法、商人法について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
3	【法源についてのプレゼンテーション】	担当グループは法源について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法源について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
4	【法典と成文法についてのプレゼンテーション】	担当グループは法典と成文法について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法典と成文法について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
5	【裁判官についてのプレゼンテーション】	担当グループは裁判官について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については裁判官について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
6	【法解釈についてのプレゼンテーション】	担当グループは法解釈について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法解釈について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【予測可能性についてのプレゼンテーション】	担当グループは予測可能性について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については予測可能性について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
8	【法曹についてのプレゼンテーション】	担当グループは法曹について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法曹について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
9	【法学についてのプレゼンテーション】	担当グループは法学について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法学について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
10	【総則についてのプレゼンテーション】	担当グループは総則について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については総則について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
11	【管轄についてのプレゼンテーション】	担当グループは管轄について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については管轄について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
12	【法分野についてのプレゼンテーション】	担当グループは法分野について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については法分野について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【民事訴訟についてのプレゼンテーション】	担当グループは民事訴訟について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については民事訴訟について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
14	【刑事訴訟についてのプレゼンテーション】	担当グループは刑事訴訟について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については刑事訴訟について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
15	【憲法改正についてのプレゼンテーション】	担当グループは憲法改正について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については憲法改正について英米法と大陸法の相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

科目名	法律外国語BⅡ	担当者	セレナ フランコ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国境を越えて行われているビジネスの世界では英語が共通語であり、その知識は欠かせない。特に、外国の企業との関係を構築するにあたり、お互いに成果を挙げるために自分の意見を適切に述べることは求められる。これに鑑みて、この授業では国際取引について英語でプレゼンテーションの仕方を実践的な練習により学修する。後期においては、国際取引法に関する判例を中心に授業を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、国際取引について英語でのプレゼンテーションの仕方を身に着けるために、（１）国際取引の問題を理解し、（２）それについて調べ、英語でのプレゼンテーションを実施し、（３）プレゼンテーションに参加し、自己の意見を述べ、他者の意見に配慮しつつ自己の見解を系統立て述べる。

【履修条件】
英語でのプレゼンテーションの授業であるため、英語習得に対して熱意があることが望ましい。くわえて、国際取引法の知識も必須である

【授業方法】		
初回は講義形式で、それ以降は演習形式。講義は日本語で行い、プレゼンテーションを英語で実施する。プレゼンテーションのときには2組のチームが同じテーマについてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションを担当していないチームは報告に対し質疑応答を行い、プレゼンテーションを評価する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者をグループに分け、テーマを割り当て、そのテーマを講義内についてプレゼンテーション・ディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	国際取引の問題を理解し、それを英語で説明できる。【知識】				2	2				
②	国際取引に関する問題について調べ、プレゼンテーションを実施できる。【技能】								4	
③	プレゼンテーションに参加し、自己の意見を述べ、他者の意見に配慮しつつ自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】								4	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが質疑応答の内容を加味して発表した内容を適切に説明しているかを基準に評価する。	15	15									30
討論・発表等	受講者は国際取引と関連するテーマについて議論になる側面及びその具体例を英語で発表し、その出来具合を評価する。もっとも、英語力そのものは評価の対象にならない。	20	20									40
授業への参画度	プレゼンテーションを担当していないグループが討論の際に質問や意見表明をいかに活発に述べたかを基準に評価する。	15		15								30
その他()	7割以上の出席を満たさない学生は評価の対象とならない。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	35	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業において適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
International Business Transactions	Daniel C.K. Chow, Thomas J. Schoenbaum	Aspen Opco Llc	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後又はメール（serena.franco@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【プレゼンテーションの準備】	授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。次に、グループ分け、プレゼンテーションの準備について説明する。	
	この回の到達目標	英語でプレゼンテーションをするためにパワーポイントの準備、資料の調べ方を理解し、実践できる	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、法分野を問わず関心のあるテーマについて調べ、ノートに整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目について検討する。	120分
2	【準拠法についてのプレゼンテーション】	担当グループは準拠法について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については準拠法について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
3	【CISGの適用についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGの適用について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGの適用について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
4	【CISGにおける契約成立についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGにおける契約成立について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGにおける契約成立について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
5	【CISGにおける重大な契約違反についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGにおける重大な契約違反について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGにおける重大な契約違反について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
6	【CISGにおける売主の責任についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGにおける売主の責任について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGにおける売主の責任について相違点を調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【CISGにおける免責についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGにおける免責について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGにおける免責について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
8	【CISGにおける救済についてのプレゼンテーション】	担当グループはCISGにおける救済について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についてはCISGにおける救済について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
9	【信用状の独立性についてのプレゼンテーション】	担当グループは信用状の独立性について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については信用状の独立性について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
10	【信用状の厳密性についてのプレゼンテーション】	担当グループは信用状の厳密性について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については信用状の厳密性について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
11	【信用状と詐欺についてのプレゼンテーション】	担当グループは信用状と詐欺について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については信用状と詐欺について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
12	【国際紛争解決についてのプレゼンテーション】	担当グループは国際紛争解決について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については国際紛争解決について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【訴訟についてのプレゼンテーション】	担当グループは訴訟について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については訴訟について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
14	【主権免除についてのプレゼンテーション】	担当グループは主権免除について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については主権免除について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分
15	【判決の承認についてのプレゼンテーション】	担当グループは判決の承認について報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②については判決の承認について調べ、説明することができる。到達目標③については質疑応答により報告の仕方の改善点を理解し、将来に向かってそれに配慮できる。	
	事前学修	報告を担当するチーム：配布された資料を材料にパワーポイントと報告（30分）を準備する。 報告を担当していないチーム：報告の内容について調べ、配布資料にも目を通し、授業に備える。	120分
	事後学修	報告を担当するチーム：報告の仕方について指摘された点を列記し、その改善方法について考察する。 報告を担当していないチーム：報告された内容を確認する。さらに、パワーポイントがどのように使われたか、英語での法律用語がどのように使用されたかを考察し、ノートに列記し、自己学習で確認する。	120分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
授業に出席し、復習に励むこと。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進める。前回の授業内容を復習してから新しいテーマについて学習のポイントを解説する。解説の後は、教科書の問題で演習し、理解度とスキルを高める。簿記では電卓の使用が認められるが、計算機能のみの電卓に限る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の最終的な学習到達度を授業内試験により52％評価する。	13	13	13	13							52
小テスト等	到達目標①②③④の日々の学習状況を小テストにより12％ 評価する。	3	3	3	3							12
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(授業課題)	到達目標①②③④の日々の学習状況を授業課題により36％ 評価する。	9	9	9	9							36
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記〔第4版〕	大野智弘編著	創成社	2024年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールアドレスはono.tomohiro11@nihon-u.ac.jpであるが、返信できないこともあるので、授業終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の到達目標と学習計画	授業概要、目的と到達目標、授業の進め方、成績評価の方法について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④について理解し、自分が目指す学修目標と合致するかを確認する	
	事前学修	シラバスの内容を確認する	60分
	事後学修	学修目的及び学修計画とあわせて履修を検討する	60分
2	簿記一巡の手続きと勘定科目	簿記の目的、一巡の手続き、主な勘定科目について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、簿記の全体像と主な勘定科を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 1 とChapter 2 の「学習のポイント」を読み込む	120分
	事後学修	Chapter 1 とChapter 2 の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	120分
3	取引と仕訳	簿記上の取引と仕訳帳への記帳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、簿記上の取引と仕訳の方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 3 の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 3 の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
4	転記	総勘定元帳への記帳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、転記の方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 4 の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 4 の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
5	試算表	試算表の種類と作成について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、試算表の種類と作成方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 5 の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 5 の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
6	六桁精算表	精算表の役割と仕組み、六桁精算表の作成について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、精算表の役割と仕組み、六桁精算表の作成方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 6 の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 6 の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	財務諸表		財務諸表の役割と仕組み、その作成について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、精算表の役割と仕組み、その作成方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 7の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 7の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
8	元帳の締切り		締切りの意義と元帳の締切方法について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、締切りの意義と元帳の締切方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 8の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 8の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
9	現金預金		現金と預金に関する取引と仕訳について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、現金と預金に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter 9の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter 9の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
10	現金過不足と小口現金		現金過不足と小口現金に関する取引と仕訳について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、現金過不足と小口現金に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter10の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter10の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
11	商品売買と諸掛等の記帳		商品売買と諸掛等に関する取引と仕訳について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、商品売買と諸掛等に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter11の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter11の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
12	内金等を伴う商品売買の記帳		内金等を伴う商品売買に関する取引と仕訳について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、内金等を伴う商品売買に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter12の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter12の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	その他の債権と債務	その他の債権と債務に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、その他の債権と債務に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter14の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter14の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
14	学習到達度の測定	試験の形式で総合的な理解度と学習到達度を測定する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、試験の形式で総合的な理解度と学習到達度を測定する	
	事前学修	これまでの授業内容を総復習する	300分
	事後学修	理解が不十分な個所を教科書等で復習する	60分
15	学習到達度の確認と総括	試験内容をもとに授業内容を総括する	
	この回の到達目標	試験内容をもとに授業内容を総括し、到達目標①②③④に関して学習到達度が不十分な個所を補う	
	事前学修	授業内容について理解不十分な個所を整理する	60分
	事後学修	学習到達度が不十分な個所を補うことで総合的な理解度や到達度を高める	180分

科目名	簿記原理 I	担当者	船越 洋之	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。電卓を用意できる者。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式だが、問題演習も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。教科書にある問題は予習・復習に使うことができるようになっている。質問は授業終了時と私の本務校・武蔵野大学のメール（hirofuna@musashino-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。4回以降、1週間以内にGoogle Formsで回答する確認ミニテストを課す。次回授業で解説する。下記に示した成績評価割合で評価しても平均60点に達しない場合は、評価割合を変更する可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。						1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。							1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。						1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。							1	1					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。70%の評価割合とする。	17	17	18	18							70
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。 30%の評価割合とする。	7	7	8	8							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	24	26	26							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
テスト実施後に講評・解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニュースステップアップ簿記（第4版）	大野智弘編著	創成社	2024年	教科書	必携
備考	章立てや内容が変更になっているので初版から第3版は使用できません。第4版を必ず購入してください。				

【オフィスアワー】	
非常勤講師ゆえ、授業終了後受け付ける。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス（簿記と会計の世界）、簿記検定、電卓		簿記と会計の世界を説明することによってこの科目を学ぶ意義を理解することができる。今後取得できる各種簿記検定について理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④と関連して、学問としての簿記や会計について理解することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、簿記の学習で大切なことを把握できるよう準備すること。		90分
	事後学修	履修を決定したら、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。		150分
2	簿記一巡の手続き		複式簿記の基本前提と一連の手続きの流れについて学ぶ。この授業で扱う日商簿記初級についてその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、複式簿記の基本前提と簿記一巡の流れについて理解することができる。日商簿記初級について、その位置づけと設定目標について理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter1の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
3	勘定の分類		勘定（資産・負債・資本・収益・費用）について、その役割を学ぶ。さらに日商簿記初級で出てくる勘定についてもその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、勘定の意味と役割について理解することができる。日商簿記初級で出てくる勘定について説明することができる。		
	事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
4	取引と仕訳		簿記上の取引と仕訳について、基本的な問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、簿記上の取引について説明することができる。さらに、仕訳の基本的な考え方を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第1回確認ミニテスト		120分
5	仕訳の演習、転記のしくみ		日商簿記初級レベルの仕訳について、応用的な問題を解くことで理解することができる。総勘定元帳への転記についてそのしくみを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの仕訳と転記の方法を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter3と4の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第2回確認ミニテスト		120分
6	試算表の原理		試算表の意義と役割について学ぶとともに、実際に問題を解くことで知識の定着を図る。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、試算表の意義と役割を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter5の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第3回確認ミニテスト		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	損益計算書と貸借対照表の様式		財務諸表である損益計算書と貸借対照表の構造について学ぶ。当期純利益の2つの計算方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、損益計算書と貸借対照表の構造を理解することができる。当期純利益の計算方法について理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter7の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第4回確認ミニテスト		120分
8	普通預金、定期預金、小切手		普通預金、定期預金、小切手に関して、その概念と仕訳を中心に基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、普通預金、定期預金、小切手（振出と通貨代用証券）に関する基本的な仕訳について理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter8の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第5回確認ミニテスト		120分
9	商品売買（三分法と返品）		商品売買の基本的処理方法である三分法に関して、その概念を学ぶ。さらに、返品処理と諸掛も含めた仕訳について基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、三分法のしくみを理解することができる。さらに、返品処理や諸掛を含めて仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter10の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第6回確認ミニテスト		120分
10	商品売買（内金・手付金、クレジット決済）		内金・手付金、クレジットカードによる決済について、その概念を学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仕入諸掛、売上諸掛、前払金・前受金、クレジット売掛金についての仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第7回確認ミニテスト		120分
11	約束手形と電子記録債権債務		約束手形と電子記録債権債務について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、受取手形・支払手形及び電子記録債権・電子記録債務についての仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter12の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第8回確認ミニテスト		120分
12	有形固定資産と税金		有形固定資産と税金について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、未収入金・未払金、有形固定資産の取得、有形固定資産の売却、減価償却、租税公課、消費税についての仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter14と17の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第9回確認ミニテスト		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	月次合計残高試算表	日商簿記初級で出てくる月次合計残高試算表について、そのしくみと構造を学ぶ。この回のみ補助プリントを配付し、そこにある問題を解くことで理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの月次合計残高試算表を解くことができる。	
	事前学修	教科書Chapter18の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。第10回確認ミニテスト	120分
14	精算表のしくみ	6桁精算表のしくみについて学習する。前期の総復習を行うとともに、授業内試験について伝達する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、6桁精算表の問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書Chapter6の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを解くことで復習しておくこと。（2時間）	120分
15	授業内試験実施とその解説	日商簿記初級レベルの授業内試験の実施（45分）及び試験の解説実施（30分）さらに成績評価と簿記原理Ⅱの説明（15分）。授業内試験は電卓のみ持込可とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
	事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	古市 雄一朗	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
座学による講義および問題演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験により到達目標についての総合的な理解が身についているかを評価する	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	理解の確認のため必要に応じて講義内課題を課す。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記ワークブック3級商業簿記	渡部裕亘・片山覚・北村敬子	中央経済社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後および電子メールにより対応します。furuichi.yuichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	簿記の意義 講義の進め方		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて簿記論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の 到達目標	簿記を学ぶ意義と講義の狙いについて理解する。		
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	簿記の意義としくみ（１）		(1) 簿記の意義、(2) 簿記の基礎、(3) 貸借対照表について説明し、簿記の基礎について学習する。	
	この回の 到達目標	簿記学習の基礎的前提を理解する。		
	事前学修	教科書・第1章の「簿記の意義」、「簿記の基礎」、「貸借対照表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
3	簿記の意義としくみ（２）		(1) 損益計算書、(2) 貸借対照表と損益計算書の関係について説明し、簿記の基礎について学習する。	
	この回の 到達目標	主要財務諸表の意義と相互の関連性について理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
4	仕訳と転記（１）		(1) 勘定、(2) 取引の意義と種類、（３）取引の８要素と結合関係について説明し、複式簿記の基礎について学習する。	
	この回の 到達目標	仕訳と元帳への転記の仕組を理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
5	仕訳と転記（２）		(1) 仕訳と転記について説明し、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。	
	この回の 到達目標	仕訳と元帳への転記が実際に行えるようになる。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
6	仕訳帳と総勘定元帳		(1) 帳簿の種類、（２）仕訳帳への記入、（３）仕訳帳から総勘定元帳への転記について説明し、前回に引き続き、複式簿記の基礎となる仕訳と転記について学習する。	
	この回の 到達目標	主要簿と補助簿の関係について簿記の構造及び複式記入の優位性について理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	決算（１）		(1)試算表の作成について説明するとともに、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
	この回の到達目標	継続記録と決算の関係について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	決算（２）		(1)決算の概要、（２）決算の手続、（３）帳簿決算の手順について説明し、帳簿上での決算について学習する。
	この回の到達目標	簿記について決算が果たす役割について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	決算（３）		(1)財務諸表の作成について説明し、帳簿決算から財務諸表の作成への手順について学習する。
	この回の到達目標	簿記一巡の流れを理解し、実際に決算の手続きを行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	現金と預金（１）		「現金」、「現金過不足」について説明し、現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記における現金と預金の意義について理解する	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	現金と預金（２）		「当座預金と当座借越」、「小口現金」について説明し、当座預金勘定および小口現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	この回の到達目標	現金と預金に関する記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	商品売買（１）		商品売買取引に係る会計処理について説明し、特に３分法について学習する。
	この回の到達目標	3分法の意義を理解し、記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	商品売買（２）	商品売買取引に係る補助簿について説明し、補助簿について学習する。	
	この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について理解し、実際に記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	決算（４）	決算手続における精算表の位置づけについて説明し、精算表の作成について学習する。	
	この回の到達目標	精算表の作成が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	講義のまとめ	講義全体の内容を復習し簿記一連の手続きについて確認する。	
	この回の到達目標	簿記一連の手続きを理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う 試験に向けて講義全体を振り返り、十分に準備する。	120分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
授業に出席し、復習に励むこと。簿記原理Ⅰの内容を理解していること。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進める。前回の授業内容を復習してから新しいテーマについて学習のポイントを解説する。解説の後は、教科書の問題で演習し、理解度とスキルを高める。簿記では電卓の使用が認められるが、計算機能のみの電卓に限る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の最終的な学習到達度を授業内試験により52％評価する。	13	13	13	13							52
小テスト等	到達目標①②③④の日々の習得状況を小テストにより12％ 評価する。	3	3	3	3							12
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(授業課題)	到達目標①②③④の日々の習得状況を授業課題により36％ 評価する。	9	9	9	9							36
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で説明する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記〔第4版〕	大野智弘編著	創成社	2024年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールアドレスはono.tomohiro11@nihon-u.ac.jpであるが、返信できないこともあるので、授業終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の到達目標と学習計画	授業概要、目的と到達目標、授業の進め方、成績評価の方法について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④について理解し、自分が目指す学修目標と合致するかを確認する	
	事前学修	シラバスの内容を確認する	60分
	事後学修	学修目的及び学習計画と合わせて履修を検討する	60分
2	約束手形と電子記録債権・債務	約束手形と電子記録債権・債務に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、約束手形と電子記録債権・債務に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter13の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter13の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
3	貸倒れと貸倒引当金	貸倒れと貸倒引当金に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、貸倒れと貸倒引当金に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter15の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter15の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
4	有形固定資産	有形固定資産に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、有形固定資産に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter16の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter16の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
5	株式会社の資本金と繰越利益剰余金	株式会社の資本金と繰越利益剰余金に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、株式会社の資本金と繰越利益剰余金に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter17の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter17の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
6	税金等	税金等に関する取引と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、税金等に関する取引と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter18の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter18の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	費用・収益の見越と繰延	費用・収益の見越と繰延に関する仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、費用・収益の見越と繰延に関する仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter20の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter20の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
8	売上原価と売上総利益	売上原価と売上総利益に関する計算と仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、売上原価と売上総利益に関する計算と仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter21の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter21の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
9	決算整理事項と決算整理仕訳	決算整理事項と決算整理仕訳について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、決算整理事項と決算整理仕訳を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter22の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter22の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
10	八桁精算表の仕組と作成	決算整理事項を踏まえた八桁精算表の仕組と作成手順について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、決算整理事項を踏まえた八桁精算表の仕組と作成手順を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter23と24の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter23と24の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
11	財務諸表の作成	財務諸表の様式と作成手続きについて	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、財務諸表の様式と作成手続きを理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter25の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter25の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
12	伝票会計	3伝票制と仕訳日計表について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、3伝票制への起票と仕訳日計表の作成手続きを理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter26の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter26の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	補助簿		商品有高帳の記帳について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、商品有高帳への記帳方法を理解し、問題に解答することができる	
	事前学修	教科書のChapter27の「学習のポイント」を読み込む	60分
	事後学修	Chapter27の問題演習を通じて、理解度とスキルを高める	180分
14	学習到達度の測定		試験の形式で総合的な理解度と学習到達度を測定する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、試験の形式で総合的な理解度と学習到達度を測定する	
	事前学修	これまでの授業内容を総復習する	300分
	事後学修	理解が不十分な個所を教科書等で復習する	60分
15	学習到達度の確認と総括		試験内容をもとに授業内容を総括する
	この回の到達目標	試験内容をもとに授業内容を総括し、到達目標①②③④に関して学習到達度が不十分な個所を補う	
	事前学修	授業内容について理解不十分な個所を整理する	60分
	事後学修	学習到達度が不十分な個所を補うことで総合的な理解度や到達度を高める	180分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。簿記原理Ⅰないし簿記論Ⅰを学習済みであること。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。教科書にある問題は予習・復習に使うことができるようになっている。質問は授業後と私の本務校・武蔵野大学のメール（hirofuna@musashino-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。第4回以降、1週間以内にGoogle Formsで回答する確認ミニテストを課す。次回授業で解説を行う。但し、履修者が少ない場合には翌週の授業の最後に実施する方法に変える可能性がある。平均60点に達しない場合は、評価割合を変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。					1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。					1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。							1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。							1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。70%の評価割合とする。	18	18	17	17							70
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。 30%の評価割合とする。	8	8	7	7							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		26	26	24	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
テスト実施後に講評・解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニュースステップアップ簿記（第4版）	大野智弘編著	創成社	2024月	教科書	必携
備考	前期の簿記論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。初版から第3版は使用できません。				

【オフィスアワー】	
非常勤講師ゆえ、授業終了後に受け付ける。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習と帳簿決算	夏休みをはさんだので、簿記の知識を思い出してもらう目的で前期の復習を確認する。帳簿上で行われる決算手続きに関して学習する。	
	この回の到達目標	前期に学習した内容の振り返りを行うことができる。帳簿決算において行われる振替仕訳について理解することができる。	
	事前学修	到達目標①～④に関連して、教科書Chapter26の学習のポイントを読んでおくこと。さらに、前期学習した箇所を再度読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
2	当座預金、現金過不足	当座預金の銀行別管理、当座借越への振替え、現金過不足に関して、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、当座預金〇〇銀行、当座借越、現金過不足、小口現金についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter8と9の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	小口現金、発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定	小口現金、売上時の発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定に関して、簿記上の処理について学習する。売上時の発送費については収益認識に関する会計基準が関係する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、小口現金、発送費の立替え、受取商品券、〇〇商店勘定についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	電子記録債権債務、貸倒引当金	債務者請求方式による電子記録債権債務と貸倒引当金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。振込手数料の会計処理についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、債務者請求方式、貸し倒れ、貸倒引当金、振込手数料の処理についての概念と仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter12と13の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第1回確認ミニテスト	120分
5	有形固定資産に関する応用処理	定額法による減価償却、月割計算、有形固定資産の売却、改良と修繕に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、定額法の計算、有形固定資産の売却、改良と修繕についての概念と仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter14の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第2回確認ミニテスト	120分
6	その他の債権と債務	仮払い・仮受け、立替え・預かり、金融手形、法定福利費、差入保証金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仮払金・仮受金、立替金・預り金、手形貸付金・手形借入金、法定福利費、差入保証金についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter15の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第3回確認ミニテスト	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	株式会社純資産、法人税等		株式会社の純資産構成、法人税等に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本金、繰越利益剰余金、利益準備金、法人税等を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter16と17の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第4回確認ミニテスト		120分
8	訂正仕訳、日商簿記3級レベルの仕訳		訂正のための仕訳について学習し、日商簿記3級でよく出題される仕訳問題に関して実際に問題を解くことでさらなる理解を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、訂正のための仕訳と日商簿記3級レベルの仕訳問題の作成方法を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter17と18の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第5回確認ミニテスト		120分
9	売上原価と売上総利益の計算		三分法特有の売上原価に関する決算処理についての考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。訂正仕訳を学習する可能性あり。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、売上原価算定のための振替処理と売上総利益の計算について理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter20の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第6回確認ミニテスト		120分
10	費用収益の繰延と見越		期間損益計算に従って生じる費用と収益の期間帰属に関してその考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、費用収益の前払・前受・未払・未収についての概念と仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter21の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第7回確認ミニテスト		120分
11	決算整理事項のまとめ		今まで学習した決算整理に関する事項の総復習を行うとともに、決算整理後残高試算表作成問題を解いていくことでさらなる理解を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、決算整理事項の確認と決算整理後残高試算表の作成を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter22の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第8回確認ミニテスト		120分
12	日商簿記3級レベルの財務諸表の基本		日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、基本問題を基にその解き方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の基本を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第9回確認ミニテスト		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日商簿記3級レベルの財務諸表の応用	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、応用問題を基にその解き方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の応用を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを讀んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。第10回確認ミニテスト	120分
14	伝票式会計、8桁精算表作成の基礎	伝票式会計に関してその概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。8桁精算表作成の基礎について概説する。授業内試験について伝達する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、伝票を用いた会計システムのしくみと簿記上の処理を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter27の学習のポイントを讀んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
15	授業内試験の実施とその解説	授業内試験実施（60分、教科書・ノート・電卓持込可）、試験の解説（30分）	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
	事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習（将来の日商簿記3級受験も含めて）に役立てること。	60分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特にないが、最低限の簿記会計の専門用語に触れたことがあることが望ましい。

【授業方法】
座学による講義および問題演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末試験により到達目標についての総合的な理解が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	内容の確認のため、必要に応じて講義内課題を課す。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説授業を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記ワークブック3級商業簿記	渡部裕亘・片山覚・北村敬子	中央経済社	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。furuichi.yuichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期科目の振返りと講義の概要説明。	前期末の定期試験の講評を行う。また、前期に学習した内容について概観し、講義の進行方法や成績評価等について説明を行う。	
	この回の到達目標	講義の意義を理解する。	
	事前学修	学習予定の教科書の範囲について読み、後期の講義全体を俯瞰する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、理解できていない部分について教科書、講義ノートを読み返す。	120分
2	債権と債務（１）	売掛金と買掛金、前払金と前受金について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における売掛金と買掛金の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	債権と債務（２）	受取手形と支払手形について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における手形の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	債権と債務（３）	その他の債権と債務について説明し、各々の債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	売掛金、買掛金、手形以外の簿記処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	債権と債務（４）	債権の譲渡（クレジット売掛金）、電子記録債権・債務について説明し、各々の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における電子債権等の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	債権と債務（５）	債権の回収に係る貸倒れと貸倒損失、貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定について説明し、会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	貸倒引当金の意義を理解し、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	固定資産（１）		有形固定資産の取得、売却および減価償却について説明し、有形固定資産の会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記・会計における固定資産の処理の意義について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	固定資産（２）		前回の基本的な会計処理を踏まえて、有形固定資産の減価償却後の売却などについて学習する。
	この回の到達目標	固定資産の処理に伴う各種記録を行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	株式会社会計		株式会社会計の基礎となる資本金、利益剰余金、剰余金の配当について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	資本金の基本的な意義を理解し実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	収益と費用		収益と費用、収益および費用の見越し・繰延べ、消耗品費の処理について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	収益及び費用の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	税金		固定資産税など、法人税・住民税・事業税、消費税について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記・会計における税金の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	伝票		伝票会計について説明し、伝票を用いた会計処理について学習する。
	この回の到達目標	伝票を用いた記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	決算（５）	決算と決算手続について説明し、決算整理事項について学習する。	
	この回の到達目標	決算の意義について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	決算（６）	決算と決算手続にかかる試算表の作成、財務諸表の作成、精算表の作成の総合問題について説明し、答案練習を行う。	
	この回の到達目標	決算手続きが行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返り、情報記録システムとしての簿記が果たす役割について説明する。	
	この回の到達目標	簿記一巡の手続き及び決算の手続きを理解し、実際にそれを記録する事が出来る。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	講義全体の内容を確認し、試験の準備を行う。	180分

科目名	マーケティング戦略論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
海外市場の開拓における理論と実践について理解を深め、国際マーケティング計画（戦略）を評価し、立案するための知識と能力について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、企業による国際マーケティング活動の内容を説明できる能力、国際マーケティング計画（戦略）を立案する能力の修得を目指す。

【履修条件】
「マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」の単位取得が望ましい。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講生各自が独自に考案する国際マーケティング計画（提案書）をプレゼン資料（パワポ）としてまとめ、他の受講生とのディスカッションを通じてブラッシュアップして提出する。優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員がディスカッションに参加し、他者の提案書を皆でブラッシュアップする

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の企業が直面している国際マーケティング問題について説明できる					2	2	2				
②	海外市場参入戦略について説明できる					2	2	2				
③	国際マーケティング環境について説明できる					2	2	2				
④	標準化と適応化戦略について説明できる					2	2	2				
⑤	他者へ国際マーケティング計画を説明できる						3	3		3	3	
⑥	他者の国際マーケティング計画を批判的に検討できる						3	3		3	3	
⑦	成功した企業の国際マーケティング実践について説明できる					3	3	3		3		
⑧	国際マーケティング計画（戦略）を立案できる					4	4	4		4	4	
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する		5	5	5	5	5	5				30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを3回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは、参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはディスカッション、プレゼン、質疑応答などが含まれる	5	5	5	5	5	10	5	20			60
授業への参画度	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる						5	5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	10	10	10	10	20	15	20			100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は授業内（終了後）にてお願いします（必要の応じて個別に時間を取ります） usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	本講義の目的と課題		ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる		
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する		120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する		120分
2	トピック 1：海外市場分析 1		参入すべき海外市場（国市場）の選択に際して必要となる市場分析方法について学ぶ	
	この回の到達目標	①，②，③の関連において、企業が海外市場へ参入際の市場分析方法について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
3	トピック 1：海外市場分析 2		参入すべき海外市場（国市場）の選択に際して必要となる市場分析方法について学ぶ	
	この回の到達目標	①，②，③の関連において、企業が海外市場へ参入際の市場分析方法について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
4	アクティブ・ラーニング 1 a		標的国市場を分析する方法を習得、提案書を作成し、ディスカッションを通じて他者へ説明する	
	この回の到達目標	①，②，③，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において、標的国市場を分析し、他者へ提案できる		
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備		210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出		210分
5	アクティブ・ラーニング 1 b		標的国市場を分析する方法を習得、提案書を作成し、ディスカッションを通じて他者へ説明する	
	この回の到達目標	①，②，③，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において、標的国市場を分析し、他者へ提案できる。また他者の提案書を批判的に検討し、質問やコメントができる		
	事前学修	プレゼンと質問の準備		210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出		210分
6	トピック 2：海外市場参入戦略 1		企業が海外市場へ参入する動機、手順、参入方法（エントリーモード）について体系的に理解する	
	この回の到達目標	①，②，③の関連において、企業が海外市場へ参入する方法について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	トピック 2：海外市場参入戦略 2		企業が海外市場へ参入する動機、手順、参入方法（エントリーモード）について体系的に理解する	
	この回の到達目標	①、②、③の関連において、企業が海外市場へ参入する方法について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		30分
8	アクティブ・ラーニング 2a		企業が海外市場へ参入する動機、手順、参入方法（エントリーモード）について立案し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤、⑥、⑦、⑧の関連において、ケース事業の海外市場参入について分析し、適切なエントリーモードを提案できる		
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備		210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出		210分
9	アクティブ・ラーニング 2b		企業が海外市場へ参入する動機、手順、参入方法（エントリーモード）について立案し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤、⑥、⑦、⑧の関連において、ケース事業の海外市場参入について分析し、適切なエントリーモードを提案できる		
	事前学修	プレゼンと質問の準備		210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出		210分
10	トピック 3：標準化と適応化戦略 1		現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
11	トピック 3：標準化と適応化戦略 2		現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
12	トピック 4：グローバル・マーケティング		国際マーケティングの発展プロセスを学び、グローバル・マーケティングについて体系的に理解する	
	この回の到達目標	⑤、⑥、⑦、⑧の関連において、グローバル・マーケティングについて体系的に理解し、説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	アクティブ・ラーニング 3a		実在の製品の標準化と適応化について分析、適切な戦略を提案し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において、実在の製品の標準化と適応化について分析し、適切な戦略を提案できる		
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備		210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出		210分
14	アクティブ・ラーニング 3b		実在の製品の標準化と適応化について分析、適切な戦略を提案し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において、実在の製品の標準化と適応化について分析し、適切な戦略を提案できる		
	事前学修	プレゼンと質問の準備		210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出		210分
15	フィードバックと総括		全体と個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑧すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する 自身の理解度に関する振り返り		
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り（復習）		270分
	事後学修	振り返り		30分

科目名	マーケティング戦略論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
戦略経営論の基礎と戦略的国際マーケティング論について理解を深め，優れた国際マーケティング組織の能力を分析する知識について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は，急変を繰り返す環境要因を所与としながらも，「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では，教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより，受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて，企業による国際マーケティング活動の内容を説明できる能力，国際マーケティング計画（戦略）を立案する能力の修得を目指す。

【履修条件】
「マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」の単位取得が望ましい。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために，本授業は，講義と教科書，そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから，毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講生各自が独自に考案する国際マーケティング計画（提案書）をプレゼン資料（パワポ）としてまとめ、他の受講生とのディスカッションを通じてブラッシュアップして提出する。優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員がディスカッションに参加し、他者の提案書を皆でブラッシュアップする

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	戦略の発生原理について説明できる						2	2	2				
②	競争市場の構造について説明できる						2	2	2				
③	ポジショニング・アプローチについて説明できる						2	2	2				
④	資源ベース・ビューについて説明できる						2	2	2				
⑤	マーケティング・ケイパビリティについて説明できる						3	3	3				
⑥	国際マーケティング・ケイパビリティについて説明できる						3	3	3				
⑦	理論やフレームワークに基づき、戦略的マーケティング計画を立案できる						3	3	3		3	3	
⑧	他者へ戦略的国際マーケティング計画を説明できる							3			3	3	
⑨	他者の戦略的国際マーケティング計画を批判的に検討できる							3	3		3	3	
⑩	優れた戦略的国際マーケティングを立案し、他者へ説明できる						4	4	4		4	4	

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する		5	5	5	5	5	5				30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを3回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは、参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはディスカッション、プレゼン、質疑応答などが含まれる	5	5	5	5	5	5	5	15	5	5	60
授業への参画度	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる						5	5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	10	10	10	10	15	15	15	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において、適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は授業内（終了後）にてお願いします（必要の応じて個別に時間を取ります） usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	本講義の目的と課題		ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる		
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する		120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する		120分
2	トピック 1：STPと顧客価値提案 1		セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングと顧客へ提案する価値の関係について理解する	
	この回の到達目標	①，②，③の関連において、競争環境下におけるマーケティング戦略の基本を説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
3	トピック 1：STPと顧客価値提案 2		セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングと顧客へ提案する価値の関係について理解する	
	この回の到達目標	①，②，③の関連において、競争環境下におけるマーケティング戦略の基本を説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分
4	アクティブ・ラーニング 1 a		新製品・サービスの提案書を作成し、ディスカッションを通じて他者へ説明する	
	この回の到達目標	①～⑧の関連において、マーケティング戦略を立案し、他者へ提案できる		
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備		210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出		210分
5	アクティブ・ラーニング 1 b		新製品・サービスの提案書を作成し、ディスカッションを通じて他者へ説明する	
	この回の到達目標	①～⑧の関連において、マーケティング戦略を立案し、他者へ提案できる。また⑨と⑩に関連して、他者の提案書を批判的に検討し、質問やコメントができる		
	事前学修	プレゼンと質問の準備		210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出		210分
6	トピック 2：価値連鎖分析 1		マーケティング戦略と価値連鎖分析の関係、競争優位との関係について理解する	
	この回の到達目標	①，②，③，④の関連において、価値連鎖分析を通じて、企業の競争優位の源泉を説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備		30分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	トピック 2：価値連鎖分析 2	マーケティング戦略と価値連鎖分析の関係、競争優位との関係について理解する	
	この回の到達目標	①，②，③，④の関連において、価値連鎖分析を通じて、企業の競争優位の源泉を説明できる	
	事前学修	講義ノート の 準備	30分
	事後学修	リアクションペーパー の 準備	30分
8	アクティブ・ラーニング 2a	グローバル企業の価値連鎖を分析し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	①～⑧の関連において、グローバル企業の価値連鎖を分析し、他者へ説明できる	
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備	210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出	210分
9	アクティブ・ラーニング 2b	グローバル企業の価値連鎖を分析し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	①～⑧の関連において、グローバル企業の価値連鎖を分析し、他者へ説明できる	
	事前学修	プレゼンと質問の準備	210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出	210分
10	トピック 3：ビジネスモデル 1	ビジネスモデルの概念、歴史、現状について理解する	
	この回の到達目標	⑤～⑩の関連において、ビジネスモデルの概念、歴史、現状について説明できる	
	事前学修	講義ノート の 準備	30分
	事後学修	講義ノート の 整理と復習	30分
11	トピック 3：ビジネスモデル 2	ビジネスモデルの理論について理解する	
	この回の到達目標	⑤～⑩の関連において、ビジネスモデルの理論、フレームワークについて説明できる	
	事前学修	講義ノート の 準備	30分
	事後学修	講義ノート の 整理と復習	30分
12	トピック 3：ビジネスモデル 3	グローバル企業（事業）のビジネスモデルを理解する	
	この回の到達目標	⑤～⑩の関連において、グローバル企業（事業）のケースに照らし合わせて、ビジネスモデルの競争力について説明できる	
	事前学修	講義ノート の 準備	120分
	事後学修	講義ノート の 整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング 3a	実在のビジネスモデルを分析し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	⑤～⑩の関連において、グローバル企業（事業）のビジネスモデルの内容について、他者へ説明できる	
	事前学修	2次資料の収集とディスカッションの準備	210分
	事後学修	プレゼン資料の準備と提出	210分
14	アクティブ・ラーニング 3b	実在のビジネスモデルを分析し、他者へ説明する	
	この回の到達目標	⑤～⑩の関連において、グローバル企業（事業）のビジネスモデルの内容について、他者へ説明できる	
	事前学修	プレゼンと質問の準備	210分
	事後学修	プレゼンへのコメントの提出	210分
15	フィードバックと総括	全体と個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する 自身の理解度に関する振り返り	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り（復習）	270分
	事後学修	振り返り	30分

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	佐藤 正弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成，マーケティングの発生、企業によるマーケティング活動の内容につき体系的に講じる。とくにSTPと4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と実践につき理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、市場の形成，企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義はパワーポイントを使って行うので、スライドを各自でノートにまとめて下さい。受講生全員がノートを書き終わってから、次のスライドに進みます。また、講義内で随時質問を投げかけるので、普段からマーケティングに関わるニュース等に関心を持つようにして下さい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	市場の形成の歴史的経緯について説明できる					2	2	1					
②	マーケティングの発生原理について説明できる					2	2	1					
③	製品・サービス戦略について説明できる					2	2	1					
④	価格デザインについて説明できる					2	2	1					
⑤	マーケティング・チャネル戦略について説明できる					2	2	1					
⑥	プロモーション戦略について説明ができる					2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる							2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる							2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる							2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる					2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験、もしくは授業内試験にて評価する。	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中やClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
就活のための自分マーケティング	佐藤正弘	中央経済社	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
毎週水曜日16：20～17：50に研究室にて実施（事前にメールでアポイントを取る事）。メールアドレス：sato.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		食品メーカーの販売企画部にてインスタ・プロモーション等の企画立案業務に従事。 食品メーカー企画部での実務経験を活かして、マーケティング現場の事例を豊富に取り入れた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション：マーケティングとは	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、マーケティングの概要について理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
2	マーケティングの基礎概念	マーケティングの基礎概念について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、マーケティングとは何かとマーケティングの役割について、事例に即して理解し説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
3	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、マーケティングの歴史について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
4	事業の定義：事業の定義とは何か	事業の定義とは何かと事業を定義する際の注意点やポイントについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、事業の定義とは何かと事業を定義する際の注意点やポイントについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
5	事業の定義：事業を定義する方法	事業を定義する方法について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、事業を定義する方法について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
6	消費の目的：消費の目的を考慮する必要性	消費の目的を考慮する必要性と消費者の選択行動における伝統的研究について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、消費の目的を考慮する必要性と消費者の選択行動における伝統的研究について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	消費の目的：消費の目的を考慮した製品選択プロセス		カテゴリー研究の変遷と消費の目的を考慮した製品選択プロセスについて、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、カテゴリー研究の変遷と消費の目的を考慮した製品選択プロセスについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
8	STP：セグメンテーションとターゲティング		STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）のうち、セグメンテーションとターゲティングについて、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標⑦と関連して、セグメンテーションとターゲティングについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
9	STP：ポジショニング		ポジショニングについて、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標⑦と関連して、ポジショニングについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
10	マーケティング・ミックス：Product（製品・サービス）とPlace（流通チャネル）		マーケティング・ミックス（4P）のうち、Product（製品・サービス）とPlace（流通チャネル）について、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標③・⑤と関連して、Product（製品・サービス）とPlace（流通チャネル）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
11	マーケティング・ミックス：Promotion（広告・販売促進）とPrice（価格）		マーケティング・ミックス（4P）のうち、Promotion（広告・販売促進）とPrice（価格）について、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標④・⑥と関連して、Promotion（広告・販売促進）とPrice（価格）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
12	企業の社会的責任とマーケティング：ソーシャル・マーケティングとCSR（企業の社会的責任）		ソーシャル・マーケティングとCSR（企業の社会的責任）について、事例を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標⑧と関連して、ソーシャル・マーケティングとCSR（企業の社会的責任）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業の社会的責任とマーケティング：CRM（コーズ・リレーテッド・マーケティング）とSDGs	CRM（コーズ・リレーテッド・マーケティング）とSDGsについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑧と関連して、CRM（コーズ・リレーテッド・マーケティング）とSDGsについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
14	関係性マーケティング	関係性マーケティングについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑨と関連して、関係性マーケティングについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分
15	サービス・マーケティング	サービス・マーケティングについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑩と関連して、サービス・マーケティングについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・教科書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・教科書を確認し、講義内容について復習する。	120分

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	田村 高志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成，マーケティングの発生、企業によるマーケティング活動の内容につき体系的に講じる。とくにSTPと4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と実践につき理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、市場の形成，企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本、1回の授業にて1テーマについて講義、それに基づくリアクションペーパーを提出。講義においては理論を体系的に学ぶとともに、豊富な事例を紹介することによってビジネスに対する理解を深める。また、対象となる領域での演習および実務家を招いた講義も予定。ビジネスでの実践を見据え、知識と分析力／洞察力およびフレームワークの習得を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業内での演習を実施。※2回予定 ・ビジネスの最前線にいる実務家（マーケター）を招いての講義およびディスカッション ※1回予定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	市場の形成の歴史的経緯について説明できる				2	2	1					
②	マーケティングの発生原理について説明できる				2	2	1					
③	製品・サービス戦略について説明できる				2	2	1					
④	価格デザインについて説明できる				2	2	1					
⑤	マーケティング・チャネル戦略について説明できる				2	2	1					
⑥	プロモーション戦略について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑦から⑩にかかわる説明できるようになっているかを評価する。 ※レポートは2,000文字程度							5	5	5	5	20
討論・発表等	演習において、分析することができたかを基準に、到達目標①から⑥に関わる説明ができているかを評価する。※演習は2回実施。	5	5	5	5	5	5					30
授業への参画度	授業に出席し、アクションペーパーの提出の有無およびその内容を評価する。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評・解説を実施

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田	日経BPマーケティング	2013	参考書	任意
はじめてのマーケティング	久保田・澁谷・須永	有斐閣ストゥディア	2013	参考書	任意
マーケティング戦略	嶋口・和田・池尾・余田	有斐閣	2004	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後に、講師控室で行います。メールで事前にアポイントをとっていただけると助かります。tamura.takashi27@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	マーケティングコンサルティング、事業・サービス開発支援、ブランディング、CRM
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告業界でのマーケティング・ブランディング実務経験の基づき、ビジネスで使える理論と手法を講義と演習、講師のネットワークによる実務家をゲストスピーカーに招き、理解を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義－マーケティングとは－	本講義の進め方、内容、評価方法、課題についてのガイダンスを行う。	
	この回の到達目標	本講義における成果を理解できる。	
	事前学修	シラバスを一読しておくこと	60分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、学習スケジュールと目標を再度理解する	60分
2	マーケティングの考え方－顧客創造と顧客志向－	「マーケティングの本質は顧客の創造である」マーケティング志向の本質、マーケティング理論の体系、マーケティングの基本フレーム、マーケティングの戦略思考などマーケティングと経営との関係を説明する。	
	この回の到達目標	マーケティング志向の本質、マーケティング理論の体系、マーケティングの基本フレーム、マーケティングの戦略思考について理解ができています。	
	事前学修	講義用ノートの準備。前回の資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
3	マーケティングの全体像－顧客価値－	「顧客にとっての価値とは？」顧客はその製品・サービスに期待する恩恵に対してお金を支払う。顧客にとっての価値「顧客価値」とは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	「顧客価値」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
4	マーケティング・マネジメント①－マーケティング活動のやり方－	「マーケティングはどうやるのか？」マーケティング活動を行うための具体的な枠組みについて説明する。 ※分析から計画策定（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）までの概要	
	この回の到達目標	マーケティング活動を行うための具体的な枠組みについて理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
5	マーケティング・マネジメント②－マーケティング活動のやり方－	「マーケティングはどうやるのか？」マーケティング活動を行うための具体的な枠組みについて説明する。 ※計画策定（マーケティング・ミックス）から実行・統制までの概要	
	この回の到達目標	マーケティング活動を行うための具体的な枠組みについて理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
6	マーケティング環境－環境分析のやり方－	「マーケティング環境とは何か？どうやって環境を理解するのか？」マーケティング・マネジメントにおける分析の対象となる「環境」とは何か？および分析手法について説明する。	
	この回の到達目標	マーケティング環境および分析方法について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アクティブラーニング：演習「マーケティング環境分析」	「自ら環境分析をやってみる！」 実存する企業もしくは商品・サービスを対象に、ビジネスの現場でも使えるマーケティング環境の分析を実践。※個人ワークにて	
	この回の到達目標	マーケティング環境分析のフレームワーク・アプローチについて、実践を通じて理解ができている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	演習成果物の提出。	60分
8	消費者の理解－消費者心理と行動－	「人は、外部の刺激をすべて受け入れているわけではない！」 顧客となる消費者の複雑な心理と行動について、基本的な特徴について説明。	
	この回の到達目標	消費者心理・行動の基本的な特徴についての理解ができている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
9	アクティブラーニング：演習「消費者インサイト分析」	「マーケティングの真髄は、欲しがるものを予期せぬかたちで！」 上記を実践するため、消費者の深層ニーズを掘り当てるビジネスの現場でも実践しているインサイト分析を演習。※個人ワーク	
	この回の到達目標	消費者インサイト分析のフレームワークについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	演習成果物の提出。	60分
10	マーケティング計画策定①－STPの実践－	「消費者には個性があり、好みや嗜好が異なる！」 マーケティングを効率的に実践するための計画策定の第1歩となるSTP（セグメンテーション／ターゲティング／ポジショニング）について説明する。	
	この回の到達目標	STPについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
11	アクティブ・ラーニング：ゲスト講義「データで顧客を理解する」	「顧客データはこうやって使う！」 ポイントカードなどで取得する顧客データ（属性／購買履歴等）を活用した顧客のセグメンテーション・ターゲティングについて、データ分析のプロであるマーケティング・コンサルタントの方をお招きし、豊富な事例をもとに説明する。※質疑応答あり。	
	この回の到達目標	データ活用によるセグメンテーション／ターゲティングが理解できている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
12	マーケティング計画策定②－製品のマネジメント－	「どのような新製品を発売するか？どうリニューアルしていくか？」 消費者が対価を支払い購入しようとする直接的な対象が「製品」。自社がどのような製品を提供していくかということに関する活動について説明する。	
	この回の到達目標	製品のマネジメントについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マーケティング計画策定③ー価格のマネジメントー	「顧客にとって魅力的な、あるいは納得のいく価格か？」 価格は、企業が、製品やサービスの対価として顧客に支払いを求める金額。製品・サービスをどのような価格にして展開していくかという活動について説明する。	
	この回の到達目標	価格のマネジメントについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
14	マーケティング計画策定③ー流通チャネルのマネジメントー	「どのような小売店に並べたり、販売形態にすれば、顧客に上手く届くのか？」 チャネルとは、製品・サービスと顧客とを結びつける接点のこと。どのような道のりを経て製品・サービスを顧客に届けるのかという活動について説明する。	
	この回の到達目標	流通チャネルのマネジメントについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
15	マーケティング計画策定④ーコミュニケーションのマネジメントー	「いかにその名前を知ってもらえるのか？買いたいと思ってもらえるのか？」 製品・サービスに関わる情報を人々に伝達する手法や活動（広告／セールスプロモーション／PR／人的販売）について説明する。	
	この回の到達目標	コミュニケーションのマネジメントについて理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出	60分

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	佐藤 正弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくにブランド論と小売業の業態と戦略について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義はパワーポイントを使って行うので、スライドを各自でノートにまとめて下さい。受講生全員がノートを書き終わってから、次のスライドに進みます。また、講義内で随時質問を投げかけるので、普段からマーケティングに関わるニュース等に関心を持つようにして下さい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	セグメント，ターゲティング，ポジショニング（STP）について説明できる				2	2	1					
②	STPと4Pの関係について説明できる				2	2	1					
③	市場調査の方法について説明できる				2	2	1					
④	ブランドについて説明できる				2	2	1					
⑤	流通のしくみについて説明できる				2	2	1					
⑥	多様な小売業態の特徴について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験、もしくは授業内試験にて評価する。	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業中やClassroomを通じて行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】	
毎週水曜日16：20～17：50に研究室にて実施（事前にメールでアポイントを取る事）。sato.masahiro@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	食品メーカーの販売企画部にてインスタ・プロモーション等の企画立案業務に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		食品メーカー企画部での実務経験を活かして、マーケティング現場の事例を豊富に取り入れた講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入：マーケティング戦略とは	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、ガイダンスを行う。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、マーケティング戦略の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義内容について復習する。	120分
2	戦略的マーケティング	戦略的マーケティングの概要について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・⑦と関連して、戦略的マーケティングの概要について、事例に即して理解し説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
3	戦略市場計画	戦略市場計画について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①・⑦と関連して、戦略市場計画について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
4	コミュニケーション戦略：コミュニケーション戦略の概要	コミュニケーション戦略の概要について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、コミュニケーション戦略の概要について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
5	コミュニケーション戦略：IMC	IMC（統合型コミュニケーション戦略）について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、IMC（統合型コミュニケーション戦略）について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
6	ICT時代のコミュニケーション	ICT時代のコミュニケーションについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ICT時代のコミュニケーションについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2段階の顧客満足モデル	2段階の顧客満足モデルについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑦と関連して、2段階の顧客満足モデルについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
8	市場データの分析	市場データの分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、市場データの分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
9	相関分析	相関分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③と関連して、相関分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
10	競争分析：競争構造の分析	競争構造の分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑧・⑨・⑩と関連して、競争構造の分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
11	競争分析：競争戦略の分析	競争戦略の分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑧・⑨・⑩と関連して、競争戦略の分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
12	流通分析：流通業者の存立意義	流通業者の存立意義について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤・⑥と関連して、流通業者の存立意義について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	流通分析：流通システムの分析	流通システムの分析について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤・⑥と関連して、流通システムの分析について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
14	グローバル・マーケティング	グローバル・マーケティングについて、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標④と関連して、グローバル・マーケティングについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分
15	消費者行動	消費者行動について、事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③・④と関連して、消費者行動について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	講義ノート・参考書を読む。	120分
	事後学修	講義ノート・参考書を確認し、講義内容について復習する。	120分

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	田村 高志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくにブランド論と小売業の業態と戦略について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本、1回の授業にて1テーマについて講義、それに基づくリアクションペーパーを提出。講義においては理論を体系的に学ぶとともに、豊富な事例を紹介することによってビジネスに対する理解を深める。また、対象となる領域での演習および実務家を招いた講義も予定。ビジネスでの実践を見据え、知識と分析力／洞察力およびフレームワークの習得を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業内での演習を実施。※2回予定 ・ビジネスの最前線にいる実務家（マーケター）を招いての講義およびディスカッション ※2回予定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	セグメント，ターゲティング，ポジショニング（STP）について説明できる				2	2	1					
②	STPと4Pの関係について説明できる				2	2	1					
③	市場調査の方法について説明できる				2	2	1					
④	ブランドについて説明できる				2	2	1					
⑤	流通のしくみについて説明できる				2	2	1					
⑥	多様な小売業態の特徴について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑦から⑩にかかわる説明できるようになっているかを評価する。 ※レポートは2,000文字程度								5	5	5	5	20
討論・発表等	演習において、分析することができたかを基準に、到達目標①から⑥に関わる説明ができていているかを評価する。※演習は2回実施。		5	5	5	5	5	5					30
授業への参画度	授業に出席し、アクションペーパーの提出の有無およびその内容を評価する。		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評・解説を実施

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オムニチャネルと顧客戦略の現在	近藤・中見	千倉書房	2019	参考書	任意
コマースの興亡史	矢作	日本経済新聞出版	2021	参考書	任意
デジタル社会のマーケティング	廣田・大内・玉置	中央経済社	2019	参考書	任意
手書きの戦略論	磯部	宣伝会議	2016	参考書	任意
デジタル時代の成長戦略サーキュラーエコノミー	ピーター・ヤコブ	日本経済新聞出版	2019	参考書	任意
サーキュラーエコノミー実践	安居	学芸出版	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後に、講師控室で行います。メールで事前にアポイントをとっていただけると助かります。tamura.takashi27@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	マーケティングコンサルティング、事業・サービス開発支援、ブランディング、CRM
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告業界でのマーケティング・ブランディング実務経験の基づき、ビジネスで使える理論と手法を講義と演習、講師のネットワークによる実務家をゲストスピーカーに招き、理解を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義ーマーケティングとはー	本講義の進め方、内容、評価方法、課題についてのガイダンスを行う。	
	この回の到達目標	本講義における成果を理解できる。	
	事前学修	シラバスを一読しておくこと	60分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、学習スケジュールと目標を再度理解する	60分
2	コミュニケーション戦略論①ーブランド論ー	「ブランドとは”らしさ”の記憶」 コミュニケーション戦略のベースとなる論のひとつ「ブランド論」について、ブランドとは？ブランドはなぜ重要か？を理論と豊富な事例をもとに説明する。	
	この回の到達目標	「ブランド論」について理解ができています。	
	事前学修	講義用ノートの準備。前回の資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
3	コミュニケーション戦略論②ーアカウント・ブランニング論ー	「深層心理が人を動かす！」 コミュニケーション戦略のベースとなる論のひとつ「アカウント・ブランニング論」について、インサイトとは？インサイトはなぜ重要か？インサイトからのコンセプト導出のやり方を理論と豊富な事例をもとに説明する。	
	この回の到達目標	「アカウントブランニング論」「インサイト」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
4	アクティブラーニング：演習「インサイトからの広告開発」	「インサイトからの広告開発をやってみる！」 顧客の深層心理の洞察から、製品・サービスのコンセプト開発からの広告表現までを、ビジネスの現場でも使える手法を用いて実践する。	
	この回の到達目標	インサイト洞察・コンセプト導出までのフレームワークについて理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	演習成果物の提出。	60分
5	コミュニケーション戦略論③ーダイレクト論ー	「反応の喚起が人を動かす！」 現代のマーケティング、とりわけコミュニケーション戦略においてデジタルを活用し、存在感を増している理論のひとつである「ダイレクト論」および、その手段である「ネット広告」について説明する。	
	この回の到達目標	「ダイレクト論」「ネット広告」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
6	コミュニケーション戦略論④ーエンゲージメント論ー	「顧客との心理的なつながりが人を動かす！」 現代のマーケティング、とりわけコミュニケーション戦略においてSNSを活用し、存在感を増している理論のひとつである「エンゲージメント論」について理論と豊富な事例をもとに説明する。	
	この回の到達目標	「エンゲージメント論」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コミュニケーション戦略論⑤ークチコミ論ー	「情報の”人づて”が人を動かす！」 現代のマーケティング、とりわけコミュニケーション戦略においてSNSの発展によって存在感を増している理論のひとつである「クチコミ論」および、その応用である「ファン・マーケティング」について理論と豊富な事例をもとに説明する。	
	この回の到達目標	「クチコミ論」「ファン・マーケティング」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出	60分
8	アクティブラーニング：ゲスト講義「地域共創によるファンづくり」	「地域共創によってファンをつくる！」 地域生活者を顧客とする商業施設による地域との共創活動（イベント/ファンミーティングなど）によるファンづくりを、ショッピングセンター運営会社の実務家の方をお招きし、豊富な事例をもとに紹介する。※質疑応答有。	
	この回の到達目標	顧客との共創活動によるエンゲージメント、ファンづくりについて理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
9	これからの顧客との関係づくり①ーオムニチャネル論ー	「複雑化・多様化する顧客との関係づくりとは？」 インターネットとスマートフォンの普及によって消費者の行動およびその消費者とのマーケティング・コミュニケーションは、複雑化・多様化。その消費者・顧客を捉えるうえでの概念「オムニチャネル」とフレームワーク「カスタマージャーニー」について説明する。	
	この回の到達目標	「オムニチャネル論」「カスタマージャーニー」について理解している。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
10	これからの顧客との関係づくり②ーオムニチャネル論ー	「顧客がブランドと出会い、経験する接点こそがオムニチャネル！」、 オンライン・オフラインのそれらを統合し、消費者にシームレスなブランド経験を提供することこそがオムニチャネルであることを、ブランド論の視点より説明する。	
	この回の到達目標	オムニチャネルとブランドの関係について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
11	アクティブ・ラーニング：演習「カスタマージャーニー作成」	「顧客によるブランド体験の旅を描いてみる！」 ブランドの使用前/使用時/使用後における顧客との接点、そこでの顧客行動と感情を、ビジネスでの現場でも使える手法を用いて実践する。	
	この回の到達目標	「カスタマージャーニー」の描き方が理解できている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	演習成果物の提出。	60分
12	マーケティングと社会課題①ーマーケティングによる社会への影響ー	「顧客の声は全て正しいのか？真の顧客志向とは？」 マーケティング活動は、そのあり方によっては、私たちの生活に悪影響を及ぼしたり、逆に好影響を及ぼしたりする可能性がある存在であることを、事例をもとに説明する。	
	この回の到達目標	「真の顧客志向」「経済の外部性」「環境問題」について理解ができています。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	マーケティングと社会課題②ーサーキュラーエコノミーー		「自社の事業が成長すればするほど社会がよくなる！」 これからの企業は、経済価値と社会価値を同時追求する経営モデルへの変革が求められており、その経済モデルであるサーキュラーエコノミー（循環型経済）について、その背景と概念を説明する。
	この回の到達目標	「サーキュラーエコノミー」の概念について理解ができている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
14	マーケティングと社会課題③ーサーキュラーエコノミー型ビジネスモデルー		「社会も良くなり、自社も儲かる仕組みは？」 環境負荷の抑制だけでなく、利益創出やコスト削減、雇用拡大、ビジネスリスク軽減につながる総合的利点を見出さずサーキュラーエコノミーの実践方法について、豊富な事例をもとに説明する。
	この回の到達目標	「サーキュラーエコノミー」の実践について理解ができている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出。	60分
15	アクティブラーニング：ゲスト講義 「社会課題解決型ビジネスの実践」		「事業によって社会課題を解決する！」 環境問題（廃棄物問題）を解決する事業（ビジネス）を立ち上げ、推進する実務家の方をお招きし、事業立ち上げの背景、事業内容を豊富な事例をもとに紹介する。※質疑応答有
	この回の到達目標	社会価値と経済価値を両立させる事業のあり方について理解ができている。	
	事前学修	前回の講義資料を一読しておく。	60分
	事後学修	リアクションペーパーの提出	60分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により理解度確認テストを毎回実施することによって、受講者の理解度を確認しながら講義を行う。また、そのうちの何回かは小テストとして実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2					
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2					
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2					
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、ポータルサイト上にアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル / レイブソン / リスト マクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リ スト	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 マクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	【国の富】	マクロ経済の範囲、GDP算出のフレームワークについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、GDP算出のアプローチ（生産＝支出＝所得）説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1、2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の復習問題1～8について説明をまとめること。	120分
3	【生計費の計算】	消費者物価指数の計測、インフレ率、生産者物価指数、実質値と名目値の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物価指数、インフレ率の算出方法を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3、4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の復習問題9～17について説明をまとめること。	120分
4	【総所得】	生産性と経済成長の関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、豊かな国と貧しい国がなぜ生じるのか説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の復習問題について説明をまとめること。	120分
5	【経済成長の要因】	成長性を高めるための政府の政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済成長を規定する要因について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の復習問題について説明をまとめること。	120分
6	【豊かな国と貧しい国】	なぜ貧しい国はそのまま、豊かな国は豊かになれたのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地理的要因と制度的要因の意味について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第8章の復習問題について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【雇用と失業の測定】	失業率と労働市場均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失業率と労働市場の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1． 2． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第9章の復習問題1～7について説明をまとめること。	120分
8	【失業の性質】	失業が生じる理由と失業の種類について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、失業の性質について説明でき、雇用政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第9章3． 4． 5． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第9章の復習問題8～12について説明をまとめること。	120分
9	【クレジット市場】	クレジット市場について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クレジット市場の均衡、実質金利と名目金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章1． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題1～4について説明をまとめること。	120分
10	【銀行と金融仲介機関】	マクロ経済における銀行と金融仲介の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信用創造と金融仲介機関の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章2． 3． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題5～9について説明をまとめること。	120分
11	【貨幣】	マクロ経済における貨幣の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣数量説について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1． 2． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第11章の復習問題1～4について説明をまとめること。	120分
12	【インフレーションと中央銀行】	中央銀行の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央銀行と政策金利について説明でき、金融政策の基礎について議論できる。	
	事前学修	教科書第11章3． 4． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題5～13について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【開放経済の基礎】	財の国際フローについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貿易の基本的な理論について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章の1．部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第14章の復習問題1～3について説明をまとめること。	120分
14	【経常収支と金融収支】	金融の国際フローについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経常収支と金融収支について説明でき、貿易政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第14章の2．3．部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第14章の復習問題4～12について説明をまとめること。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、マクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日GoogleClassroomにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2					
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2					
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2					
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【オリエンテーション】マクロ経済学の対象と方法と理論体系		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		150分
2	GDPと物価指数(1)： GDPとGNP、付加価値、名目と実質、フローとストックについて		マクロ経済学におけるもっとも重要な経済指標である国内総生産（GDP）の計算方法について説明する。また、統計を理解するうえで重要である名目と実質、フローとストックという概念について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産を含む国民経済計算の仕組みを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「GDP」と「付加価値」の概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPの概念およびGDPとGNPの違いについてまとめること。		120分
3	GDPと物価指数(2)： GDPの計算における消費と投資の違いについて		国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを計算する上で「消費」「投資」という概念がどのように異なるかを理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、内閣府のホームページにある統計データを実際に確認してみること。		120分
4	GDPと物価指数(3)： 三面等価（生産・分配・支出）の原則の理解		国内総生産を生産面・分配面・支出面から確認し、これらが等価になる原則（三面等価の原則）について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、三面等価の原則について理解し、説明ができる。		
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを考える上で「生産」「分配」「支出」といった異なる側面があることを理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「生産」「分配」「支出」面から確認するGDPの値が一致することをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
5	GDPと物価指数(4)： 三面等価の原則と現実の世界について（統計としてのGDPと現実世界の乖離）		三面等価の原則について再度説明し、現実の世界との違いについて説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則と現実世界がどのように乖離しているかを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような場合にマクロ経済学におけるGDPの分析枠組みが有用かを理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPに含まれていないが重要な要素をまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
6	GDPと物価指数(5)： 物価水準の指標とGDPデフレーターとの計算		経済指標を比較する場合に大きく影響する「物価水準」を意味する指標として、GDPデフレーター及び消費者物価指数に関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、GDPデフレーター及び消費者物価指数の計算方法及び解釈を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPデフレーターの計算式および計算式に含まれる各要素の意味を理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、物価水準に関する各指標の特徴をまとめること。また、練習問題の内容及び計算方法を再度確認すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所得の決定メカニズム(1)： 財市場における数量調整と価格調整の違いについて	短期モデルと長期モデルの違いを説明したうえで、供給者の販売戦略として「数量調整」及び「価格調整」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マクロ経済学における短期と長期の概念及び数量調整と価格調整について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような時にモノを販売する財市場において「価格」又「数量」が調整されるのかを理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、総需要曲線と総供給曲線の概念をまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、ミクロ経済学との考えの違いについてまとめること。	120分
8	所得の決定メカニズム(2)： 消費関数と投資関数について（人々の消費行動又は投資行動は何によって決定されているのか）	人々の行動を表す「消費関数」及び「投資関数」について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学における家計の消費行動及び企業の投資行動について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、関数の考え方と、「消費」及び「投資」を決定する要素について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「限界概念」「消費性向」「投資の効率」について正確に理解できるよう自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
9	所得の決定メカニズム(3)： 45度線モデルと所得の決定	国民所得の水準を決定するメカニズムを三面等価の原則及び45度線モデルによって説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線モデル及び三面等価の原則について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、総需要曲線が上にシフトする要因と45度線が意味するものについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、45度線モデルによってどのように所得が決定されるかを自分で作図することで確認することで。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
10	所得の決定メカニズム(4)： 乗数波及効果とデフレギャップ、インフレギャップについて	政府の公共投資の効率性を乗数効果によって説明する。また、デフレギャップ及びインフレギャップについても説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、政府支出乗数及び乗数波及効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、政府「乗数効果」の概念及び計算方法について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政府支出乗数の計算方法及びその意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、再度計算問題を解くこと。	120分
11	貨幣の需給バランスと利子率(1)： ストック（貨幣）市場におけるワルラスの法則について	貨幣市場における需要と供給のバランスについて、ワルラスの法則を用いて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣市場における需給バランスとワルラスの法則について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣市場の定義およびそこで取引される「貨幣以外」の資産について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、ワルラスの法則を示している数式(3)について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
12	貨幣の需給バランスと利子率(2)： 貨幣の3つの機能と割引現在価値	貨幣が有する3つの機能と割引現在価値の概念について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣の3つの機能及び割引現在価値について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣の機能及び貨幣に対する需要の種類について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、割引現在価値の概念とその計算方法について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	貨幣の需給バランスと利子率(3)： 債券価格と利子率の関係	利子率の変動と債券価格及び流動性選好の関係について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、利子率の変動が債券価格及び貨幣需要に与える影響を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、債券価格の決定要因としての利子率の役割について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、利子率が上昇（低下）した場合の債券価格の動きをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	貨幣の需給バランスと利子率(4)： 貨幣の供給と政策について	貨幣市場の需給バランスと中央銀行による金融政策の関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行の金融政策及びその意義について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、日本銀行の役割と金融政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策とその効果についてまとめること。現在の日本において、そのような金融政策が必要であるかを考えること。	120分
15	マクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面で実施。講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題により、到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	30	30	20	10							90
討論・発表等												
授業への参画度	質問や意見などをどれだけ述べることをできたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度を評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは、授業内およびGoogle Classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第6版	中谷巖	日本評論社	2021	教科書	必携
概説経済学	大淵三洋ほか	八千代出版	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日授業後の教室にて行う。質問、要望などがあれば、Google Classroomに投稿していただきたい。higuma.shinobu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 他学部にて、マクロ経済分析の授業、兼任校にて、社会学概論のスクーリング、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論の授業を担当している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		ミクロ経済学だけでなく、資本主義システムと関連して、社会学や経営学など、社会科学の周辺領域のなかで、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会科学のなかでのマクロ経済学とは	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係について解説する。履修希望者は、必ず出席すること。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、社会科学全体のなかで、マクロ経済学の位置づけについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	世界経済のなかでの日本経済	世界経済との関連で、日本経済の動向と今後の展望について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、世界経済との関連で、日本経済の動向について理解することができる。	
	事前学修	第2回に行われる第1章を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	国民所得統計とGDP	フローとストック、名目と実質、静学と動学など、マクロ経済学を学習するためのいくつかの概念を解説したうえで、国民所得統計としてのGDPの概念について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国民所得統計とGDPの概念について理解することができる。	
	事前学修	第3回に行われる第2章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第3回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	マクロ経済の循環	三面等価の原則、ISバランスおよび物価水準について解説したうえで、簡単な数値例を基に、物価水準に関する簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、マクロ経済の循環について理解することができる。	
	事前学修	第4回に行われる第2章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	短期とは	マクロ経済学の枠組みとして、日常生活における「歴史的時間」とマクロ経済学における「抽象的時間」の違いを解説したうえで、「短期」と「長期」の違い、「総供給曲線」と「総需要曲線」の関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、マクロ経済学の短期モデルの概要について理解することができる。	
	事前学修	第5回に行われる第3章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	長期とは	マクロ経済学の枠組みとして、「短期」における総供給曲線と「長期」における総供給曲線の違いから、「有効需要の原理」と「セイの法則」について解説する。その後、「短期」と「長期」のそれぞれにおける物価水準と産出量の決定過程について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、マクロ経済学の長期モデルの概要について理解することができる。	
	事前学修	第6回に行われる第3章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	財市場の分析（消費と投資）		財市場の分析として、消費や投資といった総需要を構成する経済変数に関連して、消費関数、投資の限界効率、投資関数から、国民所得決定の過程について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国民所得決定の仕組みについて理解できる。		
	事前学修	第7回に行われる第4章前半を整理しておくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分
8	財市場の分析（財政政策と金融政策）		財市場の分析として、財市場の均衡式から、財政政策の有効性と乗数について解説する。その後、簡単な数値例を基に、均衡国民所得や乗数に関連する計算問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、財政政策の効果と乗数について理解できる。		
	事前学修	第8回に行われる第4章後半を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分
9	資産市場の分析（貨幣需要）		資産市場の分析として、資産の特性とワルラスの法則について解説したうえで、貨幣の機能、債券価格と利子率の関係から、貨幣の保有動機（貨幣の需要）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、貨幣保有動機と貨幣需要について理解できる。		
	事前学修	第9回に行われる第5章前半を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分
10	資産市場の分析（貨幣供給）		資産市場の分析として、貨幣の種類と乗数について解説したうえで、貨幣の供給について解説する。その後、貨幣市場の均衡と利子率の決定や金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、貨幣供給と金融政策について理解できる。		
	事前学修	第10回に行われる第5章後半を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分
11	IS-LM分析（IS曲線とLM曲線の導出）		財市場のモデルからIS曲線、貨幣市場のモデルからLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、IS曲線とLM曲線とIS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。		
	事前学修	第11回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分
12	IS-LM分析（財政政策と金融政策）		IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、財政政策、金融政策および物価水準の下落によるIS曲線やLM曲線がシフトする仕組みを理解できる。		
	事前学修	第12回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	IS-LM分析（財政政策と金融政策の効果を妨げる現象）	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について解説する。簡単な数値例を基に、IS曲線、LM曲線、IS-LMモデルに関連する簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について理解できる。	
	事前学修	第13回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	国内総生産（GDP）の計算方法と物価水準の計算方法の復習	マクロ経済学Ⅰの復習および応用問題として、国内総生産（GDP）の計算方法と物価水準の計算方法の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、生産・分配・支出面から見た国内総生産（GDP）や3つの物価水準を復習することによって、GDPの全体像を理解できる。	
	事前学修	第14回に行われる第2章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第14回に行った第2章の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	均衡国民所得の計算の復習	マクロ経済学Ⅰの復習および応用問題として、主に均衡国民所得の計算の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、均衡国民所得、政府支出乗数および完全雇用GDPを理解することによって、国民所得の全体像を理解できる。	
	事前学修	第15回に行われる第4章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第15回に行った第4章の内容を復習したうえで、第6章のIS-LM分析（IS曲線やLM曲線がシフトする仕組み）を復習し、マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）の受講準備をしておくこと。（2時間）	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日GoogleClassroomにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。								2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。								2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。								2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。								2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷 巖	日本評論社	2007年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【オリエンテーション】マクロ経済政策とは何か		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、マクロ経済学Ⅰでの内容の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		150分
2	IS-LM分析(1)： IS-LM分析の考え方とIS曲線の導出		財市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するIS曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財市場におけるIS曲線の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「IS曲線」と「LM曲線」の概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の違いについてまとめること。また、IS曲線の導出方法についても自分なりにまとめること。		120分
3	IS-LM分析(2)： IS-LM分析の考え方とLM曲線の導出		貨幣市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するLM曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣市場におけるLM曲線の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「LM曲線」がどの市場を対象としており、そのように導出できるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、LM曲線の導出方法についてまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
4	IS-LM分析(3)： IS曲線とLM曲線の交点とその意味		財市場と貨幣市場を同時に均衡させられるような利子率と国民所得の組み合わせをIS曲線とLM曲線を使用して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS曲線とLM曲線の交点で財市場と貨幣市場の均衡を同時に達成できることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS曲線とLM曲線が交わる点は何を意味するかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の交点とその意味についてまとめる。また、練習問題の内容を確認し、どのようにIS曲線とLM曲線を導出するかを再確認すること。		120分
5	IS-LM分析と財政政策・金融政策(1)： 財政政策・金融政策とIS-LM曲線のシフト		労働市場における均衡を達成させるために有効な手段として財政政策と金融政策があることを説明する。さらに、これらの政策がいずれの曲線をシフトさせるかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完全雇用GDPを達成させるための有効な政策として財政政策及び金融政策が存在することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、財政政策と金融政策には何が含まれるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、それぞれの政策がどちらの曲線をどの方向にシフトさせるかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
6	S-LM分析と財政政策・金融政策(2)： クラウディングアウト、金融政策が機能しないケースについて		クラウディングアウト及び中央銀行による金融政策が機能しないケースについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、金融政策が機能しないケースなどの特殊な例に関して理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策が機能しない状況について重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策が機能しないケースに関して、日本がどのような経験をしてきたかをまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	国際マクロ経済の理解(1)： 国際収支表の理解と為替制度の歴史	国際収支表のシステムについて説明を行う。また第二次世界大戦後の世界の為替制度の変遷についての説明も行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際収支表から読み取れる情報及びその内容を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、国際収支表の概念とその構成要素について重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、為替制度の歴史と講義日時点での（例えば日本円とアメリカドル）の為替レートを確認すること。また、実際の日本の国際収支表についても確認すること。		120分
8	国際マクロ経済の理解(2)： マンデル＝フレミングモデルについて	IS-LM分析の発展形として、国際貿易を含んだ理論モデルであるマンデル＝フレミングモデルについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS-LM分析とマンデル＝フレミングモデルの違いを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS-LM分析に海外部門が加わる意味と為替レートについて重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、海外部門がある時とない時のIS-LM分析の違いをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
9	国際マクロ経済の理解(3)： 固定相場制と変動相場制におけるマンデル＝フレミングモデル	為替制度の違いによってマンデル＝フレミングモデルの結果がどのように変化するかを説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マンデル＝フレミングモデルにおける各為替制度の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、固定相場制と変動相場制における中央銀行の役割および為替レートの決定方法について再確認すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、マンデル＝フレミングモデルにおいて、固定相場制又は変動相場制であるかによって各政策の効果が異なることをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
10	マクロ経済学における短期モデルと長期モデルの違いとその応用	マクロ経済学における短期と長期の概念を確認し、どのように経済モデルに応用するかを説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マクロ経済学における長期と短期の違い及び経済モデルへの応用方法を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第3・8章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、マクロ経済学における「短期」「長期」の概念について再確認すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「長期」におけるIS-LM分析の意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
11	物価水準の決定メカニズム(1)： ケインズと古典派の総供給曲線	古典派経済学とケインズの総供給曲線について再確認し、物価水準との関係を説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総供給曲線の概念について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「総供給曲線」について再確認すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「古典派」が何を意味するかを再確認すること。また、これらの学派における「総供給曲線」についてもまとめること。		120分
12	物価水準の決定メカニズム(2)： 現実的な短期の総供給曲線と価格の調整速度について	短期の総供給曲線と価格調整について、現実的な問題を含めて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現実的な短期の総供給曲線と企業の価格調整について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「価格調整」と「数量調整」について再確認すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、理論的な概念である「短期」と現実の「短期」の違いを再確認すること。また、「短期」という概念を絶対的な時間で理解するのではなく、概念的な時間として考えることで経済学的な思考を試みることに。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インフレーションとデフレーション (1): インフレとデフレを理解する	物価水準が変化することの意味と、インフレーションとデフレーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物価変動を意味するインフレーションとデフレーションについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、インフレとデフレの違い及びそれぞれが景気とどのように連動しているかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	インフレーションとデフレーション (2): 合理的期待形成とインフレ及びデフレの社会的費用	合理的期待仮説と物価変動がもたらす社会的費用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合理的期待の概念と物価変動がもたらす社会的費用について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的期待形成の概念と物価変動が経済などに与える社会的費用についてそれぞれまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
15	マクロ経済学Ⅱのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅱの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
対面で実施。講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。								2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。								2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。								2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。								2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題により、到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	30	30	20	10							90
討論・発表等												
授業への参画度	質問や意見などをどれだけ述べることをできたかを基準に、到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは、授業内およびGoogle Classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第6版	中谷巖	日本評論社	2021	教科書	必携
概説経済学	大淵三洋ほか	八千代出版	2023	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日授業後の教室にて行う。質問、要望などがあれば、Google Classroomに投稿していただきたい。higuma.shinobu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 他学部にて、マクロ経済分析、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論を担当している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		ミクロ経済学だけでなく、資本主義経済の誕生、経営学や社会学など、他の社会科学との関連で、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の復習	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の概要について復習する。履修希望者は、必ず出席すること。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の全体像について理解できる。	
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学Ⅰ《短期モデル》）を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	IS-LMモデルの枠組み	財市場と貨幣市場のモデルからIS曲線とLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みを復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、IS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。	
	事前学修	第2回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	財政政策と金融政策の有効性	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、財政政策と金融政策の有効性、IS曲線、LM曲線の動きについて理解できる。	
	事前学修	第3回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第3回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	IS-LMモデルと計算問題	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、IS-LMモデルの理解を深めることができる。	
	事前学修	第4回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	国際収支の仕組み	国際収支の構造と外国為替制度について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国際収支の仕組みと外国為替制度について理解することができる。	
	事前学修	第5回に行われる第7章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	IS-LMモデルとマンデル＝フレミング・モデル	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度におけるマンデル＝フレミング・モデルについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度における財政政策や金融政策の流れと有効性について理解することができる。	
	事前学修	第6回に行われる第7章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	マンデル＝フレミング・モデルと計算問題	国際マクロ経済学のポイントを整理したうえで、簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、国際マクロ経済学の理解を深めることができる。	
	事前学修	第7回に行われる第7章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
8	長期モデル	短期モデルと長期モデルの枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、短期モデルとの関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第8回に行われる第8章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
9	海外部門と長期モデル	海外部門を考慮した短期モデル（マンデル＝フレミング・モデル）と海外部門を考慮した長期モデルの枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、海外部門との関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第9回に行われる第8章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
10	フィッシャー方程式とインフレ率	名目利子率と実質利子率に関連したフィッシャー方程式、インフレ率を考慮したIS-LMモデルについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、利子率とフィッシャー方程式との関係、インフレ率とIS-LMモデルとの関係について理解できる。	
	事前学修	第10回に行われる第8章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
11	総供給曲線（短期と長期）	ケインジアン総供給曲線と古典派総供給曲線について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、短期（ケインジアン）モデルと長期（古典派）モデルとの関連で総供給曲線の仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第11回に行われる第9章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
12	物価水準と総需要管理政策	物価水準の決定と総需要管理政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物価水準と総需要管理政策の関係について理解できる。	
	事前学修	第12回に行われる第9章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総供給曲線と総需要曲線	総供給曲線から、インフレ供給曲線、フィリップス曲線について、総需要曲線から、インフレ需要曲線について解説する。また、進捗状況によって、合理的期待形成と自然失業率仮説についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、インフレーションとの関連で総供給曲線と総需要曲線の関係について理解できる。	
	事前学修	第13回に行われる第10章を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	短期モデルと長期モデル	短期モデルと長期モデルの総復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、短期モデルと長期モデルの違いを明確に理解できる。	
	事前学修	第14回に行われる第6章から第8章までのポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	ケインジアンモデルと古典派モデル	ケインジアンモデルと古典派モデルの総復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ケインジアンモデルと古典派モデルの違いを明確に理解できる。	
	事前学修	第15回に行われる第9章から第10章までのポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第15回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。また、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題を考え、自分の考えで積極的に議論に臨んでいくこと。（2時間）	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により理解度確認テストを毎回実施することによって、受講者の理解度を確認しながら講義を行う。また、そのうちの何回かは小テストとして実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。						2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、ポータルサイト上にアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	【経済学の原理と実践】	最適化、均衡、経験主義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最適化、均衡、経験主義について説明できる。	
	事前学修	教科書第1章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第1章の演習問題1. 4. について説明をまとめること。	120分
3	【経済学の方法と問い】	経済モデルの役割と相関と因果の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済モデルの役割と相関と因果の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第2章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第2章の演習問題1. 5. について説明をまとめること。	120分
4	【最適化】	水準による最適化と差分による最適化について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、水準による最適化と差分による最適化の違いが説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第3章の演習問題2. 3. について説明をまとめること。	120分
5	【市場と需要】	完全競争市場について説明した後に、買い手の行動から需要曲線の導出について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場と需要の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の復習問題3. 4. について説明をまとめること。	120分
6	【供給と均衡】	売り手の行動から供給曲線の導出を説明した後に、市場の均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、供給の性質と均衡について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章3. 4. 5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の演習問題10. 12. について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【消費者行動】	消費者行動の基礎について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消費者行動の基礎について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1．2．補論の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の演習問題3と補論の練習問題2について説明をまとめること。	120分
8	【消費者余剰と需要の弾力性】	消費者余剰と需要の弾力性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者余剰と需要の弾力性について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3．4．5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の演習問題8．10について説明をまとめること。	120分
9	【生産者行動】	生産者行動の基礎について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産者行動について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の演習問題7．10について説明をまとめること。	120分
10	【生産者余剰と短期・長期】	生産者余剰、企業活動の短期と長期の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生産者余剰生産、企業活動の短期と長期の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書第6章4．5．6の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の演習問題2．4について説明をまとめること。	120分
11	【市場の効率性】	社会的余剰とパレート効率性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会的余剰とパレート効率性について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の演習問題1．3について説明をまとめること。	120分
12	【公平性と効率性】	死荷重と公平性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、死荷重と公平性の基準について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章4．5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の演習問題12について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【独占の基礎】	独占が生じるメカニズム、独占企業の行動、について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、独占が生じるメカニズムとその問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章 1. 2. 3. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第12章の演習問題 1. 5について説明をまとめること。	120分
14	【独占のコスト】	独占による費用、価格差別戦略について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、独占による費用、価格差別戦略について議論できる。	
	事前学修	教科書第12章 5. 6. 7の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第12章の演習問題 6. 12について説明をまとめること。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
	事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日GoogleClassroomにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		150分
2	需要と供給について1： 需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の概念と導出方法について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要曲線と供給曲線の意味及び導出方法を理解し、説明及び導出できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線は何を表しているかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、需要曲線と供給曲線の違いについてまとめること。		120分
3	需要と供給について2： 弾力性と市場価格の決定	価格変化と需要量の関係を示す需要の価格弾力性と市場における価格決定メカニズムについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要の価格弾力性及び市場の価格決定メカニズムについて理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、弾力性の概念と「市場価格」がいかに決定されるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、弾力性の計算方法及び市場価格の決定メカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
4	消費（需要）の理論1：効用関数と限界効用	家計の幸福度を表す効用の概念を説明し、効用関数及び限界効用について確認する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効用関数と限界効用の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「効用」及び「限界」概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、例を参考に効用と限界概念についてうまくイメージしながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
5	消費（需要）の理論2：予算制約、無差別曲線、（限界代替率）	効用最大化行動を理解するための準備段階として、予算制約線及び無差別曲線によって説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制約線及び無差別曲線について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、無差別曲線の考え方を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、予算政策と無差別曲線の解釈について、特に図を書くことでまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
6	消費（需要）の理論3：均衡点及び所得変化の影響	家計の主体的均衡点の導出方法及び所得変化が主体的均衡点に与える影響について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主体的均衡点と所得効果について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、所得変化が効用に与える影響を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、所得が変化することによってどのように効用個人の均衡点が変化するかについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	企業（供給）の理論1：生産関数、限界・平均生産	企業の行動を理解するために、生産関数及び限界生産・平均生産の概念を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産関数及び限界生産・平均生産の意味を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産関数の構成要素及び限界概念を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、消費者側の考え方との違いについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
8	企業（供給）の理論2：等生産量曲線と等費用曲線	生産要素の組み合わせと産出量の関係を理解するために、等生産量曲線及び等費用曲線の概念について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、等生産量曲線と等費用曲線の意味及び違いを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、それぞれの曲線について、その意味及び導出方法を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、図を用いながら2つの曲線の意味と導出方法について再度まとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
9	企業（供給）の理論3：限界費用・平均費用曲線と費用最小化問題	企業の生産費用に関して、限界費用、平均費用について説明した上で、企業の費用最小化問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各費用曲線の意味及び企業の費用最小化問題を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業の行動と費用との関係を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、費用の種類及びその考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
10	生産の決定1：完全競争市場、利潤最大化行動	完全競争市場の概念及び完全競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完全競争市場の設定及び企業の利潤最大化行動について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争の仮定を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争下における企業の利潤最大化（費用最小化）行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
11	生産の決定2：損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線	企業の戦略を説明するために、損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業は生産活動をどこまで行うか、そして市場の供給曲線はどのように表せるかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業がどこまで操業を続けるかを理解するためには何が必要かを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの点に達した時に企業は生産をストップさせるか、改めてそのメカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること	120分
12	市場の均衡1：価格調整メカニズム	完全競争市場における価格調整メカニズムについて説明し、資源配分の効率性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、価格調整メカニズム及び市場の効率性について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線が「シフト」する意味を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、各曲線がシフトする要因及びシフトする方向についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	市場の均衡2：余剰分析、死荷重、政府の介入	余剰分析の概念及び完全競争市場において政府の市場への介入が死荷重を発生させることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、余剰分析を行うことで政府の介入が死荷重を発生させることを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産者余剰及び消費者余剰を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場において、政府の介入は死荷重を発生させてしまうことについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
14	市場の均衡3：パレート最適	パレート最適について説明を行い、資源配分の効率性改善について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パレート最適の概念について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ボックスダイアグラムの見方を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、パレート最適に成立についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
15	ミクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認	ミクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ミクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済問題に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	90分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること	150分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。受講者は、ノートをとること。ただし、第15回講義（7月23日）は教室において対面式で期末試験を行う予定。都合10回程度、Googleclass room/form を用いて宿題が課される。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	10回程度宿題が課される。これにより，到達目標①～④についての理解度を評価する。	10	10	15	15							50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	10回程度宿題が課される。この提出回数より，授業への参画度を測る。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義にて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜15:00～16：00 日本大学経済学部8号館321室 maruta.toshimasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する．高等学校「政治経済」「現代社会」における経済の学習を復讐する．	120分
	事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照．以下同様）を確認して，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する．	120分
2	ミクロ経済学とは（その１）	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を学ぶ．あわせて，ミクロ経済学の目的を明らかにする．	
	この回の到達目標	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる．あわせて，ミクロ経済学の目的を説明できるようにになる．	
	事前学修	教科書第1章，1「価格と価値の違い」2「財・サービスを買う」3「合意に基づく交換」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する．	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．	120分
3	ミクロ経済学とは（その２）	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から明らかにする．	
	この回の到達目標	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる．また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から説明できるようにする．	
	事前学修	教科書第1章，4「交換の利益と余剰」5「価格の決まり方」6「ミクロ経済学の目的」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する．	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，「ミクロ経済学にとって，資源配分とは何か」と自問し，自答してみよう．	120分
4	個人の選択を考える（その１）	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを考える．	
	この回の到達目標	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる．特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを説明できるようにになる．	
	事前学修	教科書第2章，1「個人の選択と効用の最大化」2「人はインセンティブに反応する」3「人々はトレードオフに直面している」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する．	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．授業で議論した報酬体系の事例，トレードオフの事例それぞれについて，同様の考察が成立する類似の事例を自分の生活の中から探してみよう．	120分
5	個人の選択を考える（その２）	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで考察する．	
	この回の到達目標	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる．特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで説明できるようにになる．	
	事前学修	教科書第2章，4「機会費用に着目する」5「人は限界的な部分を見て意思決定を行う」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する．	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に「「限界〇〇」と「〇〇」の関連を述べよ」と自問し，自答してみよう．また，機会費用という考え方がうまくあてはまる事例を自分の生活の中から探してみよう．	120分
6	需要曲線と供給曲線（その１）	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを学ぶ．特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとしての需要曲線を構成する．加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを学ぶ．	
	この回の到達目標	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを説明できるようにになる．特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとして需要曲線を説明できるようにになる．加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを説明できるようにになる．	
	事前学修	教科書第3章1「完全競争市場とは」2「財・サービスと市場」3「需要曲線」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する．	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，与件のどのような変化が需要曲線のどのような変化に対応するか，あらゆる場合を考えて復習しよう．	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	需要曲線と供給曲線（その2）		完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を考える。それを数量-価格平面において集約して表示するものとしての供給曲線を構成する。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを学ぶ。
	この回の到達目標	完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を説明できるようになる。それを数量-価格平面において集約して表示するものとして説明できるようになる。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第3章4「供給曲線」を通読し、需要曲線との異同、関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が供給曲線のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
8	市場均衡と効率性（その1）		需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。
	この回の到達目標	需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第4章1「需要と供給の組み合わせ」2「需要曲線と消費者余剰」3「供給曲線と生産者余剰」を通読し、それぞれの「余剰」の意味と、その数量-価格平面における表示を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、数量-価格平面において各余剰を描いてみよう。	120分
9	市場均衡と効率性（その2）		需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを理解する。また、その点の特徴づける最も重要な性質を学ぶ。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を学習する。
	この回の到達目標	需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを説明できるようになる。また、その点の特徴づける最も重要な性質を説明できるようになる。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第4章4「完全競争市場の効率性」5「市場均衡点の変化」6「ここまでのまとめ」を通読し、均衡が効率的であるとはどのようなことを意味するかを考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が均衡点のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
10	問題演習		これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題に取り組む。
	この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題が解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復讐しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
11	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その1）		価格規制について、経済学的考察を行う。その功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	この回の到達目標	価格規制について、経済学的考察ができるようになる。価格規制の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第5章1「価格規制」を通読し、価格規制のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、価格規制の例を自分の身の回りから探し、そのメリットとデメリットを再考してみよう。	120分
12	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その2）		参入規制、税金、補助金について、経済学的考察を行う。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	この回の到達目標	参入規制、税金、補助金について、経済学的考察ができるようになる。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第5章2「参入規制」3「税金と補助金」を通読し、参入規制や税金・補助金のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、税金・補助金の議論が、「大きな政府vs小さな政府」の議論に与える影響を考えてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	市場の失敗と政府の役割	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して学ぶ。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	
	この回の到達目標	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して説明できるようになる。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第6章1「市場の失敗とは」2「市場の失敗と政府による介入の例」を通読し、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、身近な市場を考え、それは完全競争市場であるかどうか、市場の失敗が認められるかどうかを考えてみよう。	120分
14	問題演習	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題に取り組む。	
	この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題が解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復讐しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
15	講義内試験及び振り返り	これまでの学習内容の理解度を測るため、試験を行う。	
	この回の到達目標	これまでの学習内容を用いて、各章末練習問題や宿題問題類題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復習しよう。	120分
	事後学修	試験後に開示される模範解答と自分の解答を比較して、理解の定着を図ろう。	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、ミクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）

【授業方法】		
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはポータルサイト上にアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により理解度確認テストを毎回実施することによって、受講者の理解度を確認しながら講義を行う。また、そのうちの何回かは小テストとして実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、ポータルサイト上にアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学 戦略的アプローチ	梶井厚志、松井彰彦	日本評論社	2002	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 ゲーム理論とは何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、ゲーム理論について簡単な紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書の第1章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【戦略と均衡】	戦略形表現と支配戦略、最適反応、ナッシュ均衡について学説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第2章の練習問題を解くこと。	120分
3	【裁量ルールか】	展開形表現とバックワード・インダクションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、バックワード・インダクションの解き方について説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第3章の練習問題3. 1、3. 4を解くこと。	120分
4	【情報とゲーム（ベイズ完全均衡）】	ベイズ完全均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときの最適反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章5. 1、5. 2、5. 3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の練習問題5. 1を解くこと。	120分
5	【シグナリング】	混在型均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときのシグナリング効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章5. 4、5. 5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の練習問題5. 5を解くこと。	120分
6	【交渉ゲーム】	最後通牒ゲーム、2段階の交渉、n段階の交渉について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、交渉ゲームの基本について説明できる	
	事前学修	教科書の第4章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の練習問題4. 1を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【公共財供給】	公共財のフリーライダー問題、集団意思決定のインセンティブについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財供給についてインセンティブの視点から説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章7. 1、7. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 2を解くこと。	120分
8	【メカニズムデザイン】	Groves-Clarkeメカニズムについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メカニズムデザインについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章7. 3、7. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 1を解くこと。	120分
9	【オークションの基礎理論】	オークションの種類について学び、それぞれの最適戦略について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが最適戦略にどう影響を与えるかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章6. 1、6. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 4を解くこと。	120分
10	【オークションの比較】	売り手にとって望ましいオークションルール、最低入札価格の意味、オークションのくり返しゲームについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが価格にどう影響を与えるかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章6. 3、6. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 2、6. 5を解くこと。	120分
11	【寡占市場】	クールノー競争について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クールノー競争の反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章10. 1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 1を解くこと。	120分
12	【寡占市場の性質】	寡占市場における最適企業数、談合の効果について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適な企業規模について議論できる。	
	事前学修	教科書の第10章10. 1. 1～10. 1. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 3を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【製品差別化の基礎理論】	ホテリング・モデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、製品差別化が生じる場合と生じない場合について説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章13. 1. ～13. 1. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 1を解くこと。	120分
14	【製品差別の応用】	集積効果、価格競争のある場合の製品差別について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複雑な市場での製品の差別化戦略について議論できる。	
	事前学修	教科書の第13章13. 2. ～13. 3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 3を解くこと。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
	事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰの学習を前提とする。

【授業方法】
対面講義。都合10回程度，Googleclass room/form を用いて宿題が課される。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。							2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	10回程度宿題が課される。これにより，到達目標①～④ についての理解度を 評価する。	10	10	15	15							50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	10回程度宿題が課される。この提出回数より，授業への 参画度を測る。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜15：00～16：00 日本大学経済学部8号館321室 maruta.toshimasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	復習：完全競争市場の効率性		需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。
	この回の到達目標	需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照。以下同様）を確認して，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。また，自分の学習計画と他の履修科目との関係についても検討する。	120分
2	独占（その1）		独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を学ぶ。特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを理解する。
	この回の到達目標	独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を説明できるようになる。特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章1「独占とは」2「独占の定義」3「独占企業による利潤最大化行動」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，「限界収入＝限界費用」条件を適切に図示できるかどうかを再確認する。	120分
3	独占（その2）		独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較する。この比較を，数量－価格平面において適切に図示できるようにする。
	この回の到達目標	独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較できるようになる。特に，数量－価格平面において適切に図示を用いて比較できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章4「独占はなぜ問題なのか」を通読し，独占市場における余剰分析について考える。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，各種余剰を適切に図示できるかどうかを再確認する。	120分
4	独占（その3）		章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察する。
	この回の到達目標	章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章1～4節を通読し，独占市場の理解の定着を図る。また，章末の練習問題に取り組む。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は，あらためて模範解答を書くこと試みる。また，類似の練習問題を自ら作成し，自答してみよう。	120分
5	外部性（その1）		経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて理解する。さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」について学ぶ。
	この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて説明できるようになる。さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第8章1「外部性とは」2「コースの定理と効率的な結果の実現」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。また，自分の身の回りから外部性の事例となるものを探してみよう。さらには，それにコースの定理を適用してその含意を導いてみよう。（2時間）	120分
6	外部性（その2）		正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について説明できるようになる。余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について説明できるようになる。
	この回の到達目標	正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について考える。余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について考察する。	
	事前学修	教科書第8章3「波及効果による外部性」4「生産の正の外部性と消費の正・負の外部性」5「外部性の問題を解決・軽減するための取り組み」を通読し，各図示の理解に努めよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。また，正負様々な外部性について，課税・補助金による問題解決を適切に図示できるかどうかを確認しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	外部性（その3）	外部性問題の理解の定着のため、独自の練習問題を考察する。	
	この回の到達目標	外部性問題の理解の定着のための練習問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書8章全体を通読し、外部性問題の理解の再確認しよう。また、章末問題に取り組もう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
8	非対称情報の経済学（その1）	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて理解する。また、それがどのような問題を引き起こすのかを考える。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて考察する。	
	この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて説明できるようになる。また、それがどのような問題を引き起こすのかを説明できるようになる。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第10章1「情報の非対称」を通読し、それが何を意味し、どのような問題を引き起こすかを考えよう。特に、経済学における「情報」という語の意味・用法、またそれが「非対称」とはどのようなことかを考えよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「逆淘汰」「モラルハザード」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
9	非対称情報の経済学（その2）	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて学ぶ。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に理解する。	
	この回の到達目標	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて説明できるようになる。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第10章2「当事者による情報の非対称への対策」3「情報の非対称に対処するための政府の取り組み」を通読し、「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて、大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「スクリーニング」「シグナリング」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
10	ゲーム理論（その1）	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを学ぶ。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに考察する。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を学ぶ。	
	この回の到達目標	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを説明できるようになる。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに説明できるようになる。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第12章1「ゲーム理論とは何か」2「ゲームの構成要素」3「銀行行動の容疑者たち」4「ナッシュ均衡」5「司法取引と囚人のジレンマ」を通読し、ゲーム理論とはどのような「理論」であるかの大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
11	ゲーム理論（その2）	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について考察する。特に、それらのゲームのナッシュ均衡に注目する。	
	この回の到達目標	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について説明できるようになる。特に、それらのゲームのナッシュ均衡を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第12章全体をあらためて通読し、前回の議論を思い起こそう。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「囚人のジレンマ」「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について、そのナッシュ均衡の性質の違いを復習しよう。	120分
12	公共財	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義する。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的考察を与える。	
	この回の到達目標	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義できるようになる。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第9章1「公共財とは」2「公共財の効率的な活用」3「公共財供給の決定」を通読し、公共財とは何か、その実現に際し何が問題となるのかについて、大まかな理解を得ることを試みよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、公共財の定義を、その実例とともに他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	取引費用・全体のまとめ	「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて概観する。また、理解の定着のため、各章末問題に取り組む。	
	この回の到達目標	「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて説明できるようになる。また、各章末問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書第11章1「取引費用とは？」2「政府による取引費用の削減策」を通読し、「取引費用」とは何かについて、大まかな理解を得ることを目指そう。また、各章末問題に取り組もう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、章末問題の解答が納得できるものであるかを再確認しよう。	120分
14	まとめの練習問題	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各主題について独自の練習問題に取り組む。	
	この回の到達目標	各主題についての練習問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、まとめの練習問題に備えよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
15	講義内試験及び振り返り	講義内試験（60分）を実施し、さらにその解説を与える。	
	この回の到達目標	試験問題に取り組む、さらにその解説を聞くことによって、問題とその解答を解説できるようになる。	
	事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、講義内試験に備えよう。	120分
	事後学修	本講義を履修して学んだことは何か、自問自答してみよう。	120分

科目名	民事執行・保全法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事執行法および民事保全法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事執行制度および民事保全制度を有効かつ適切に利用・運営するため、民事執行および民事保全における様々な場面において適切な法規を適用することができ、また、民事執行法および民事保全法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる能力を修得する。

【履修条件】
民法科目（特に担保物権法）及び民事訴訟法を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式による。授業後には小テストで授業内容を復習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事執行制度・民事保全制度の概要を理解して説明することができる。						3	3						
②	民事執行法および民事保全法における主要な原則の内容を説明することができる。						3	3	3					
③	民事執行および民事保全に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。							3	3					
④	民事執行法および民事保全法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べるることができる。							3	3		3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	民事執行制度および民事保全制度の概要や民事執行法および民事保全法おける原則の基礎的知識を問う (①②③④)。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
					推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室 (9号館3階9305研究室) yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民事執行・民事保全の意義	民事手続の各分野における民事執行と民事保全が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	民事執行手続の構造と執行の主体	金銭執行の基本的な構造と執行裁判所および執行官について解説する。	
	この回の到達目標	金銭執行の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	強制執行の実施要件	債務名義の意義と種類について解説する。	
	この回の到達目標	債務名義の意義を説明し、および種類を複数挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	執行文	執行文の意義、および種類とそれぞれの役割を解説する。	
	この回の到達目標	執行文の種類を挙げ、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	民事執行における救済	民事執行における救済制度の種類、およびそれぞれの性質を解説する。	
	この回の到達目標	執行異議、執行抗告、請求異議の訴え、第三者異議の訴えについて意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	執行手続の進行	執行手続の申立てから終了までの流れを説明する。	
	この回の到達目標	執行手続の当事者がそれぞれの場面でどのような申立てをしなければならないかを理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不動産執行（１）	不動産執行における差押えの意義を解説する。	
	この回の到達目標	不動産に対する差押えの効力を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	不動産執行（２）	不動産競売の準備について解説する。	
	この回の到達目標	３点セットの意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	不動産執行（３）	不動産競売における売却手続の流れを解説する。	
	この回の到達目標	不動産競売における買受人の地位について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	不動産執行（４）	不動産執行における配当の方法について解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行において複数の債権者がいる場合にどのように配当するするか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	動産執行	動産執行の手続を解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行と比較して動産執行の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	権利執行（１）	権利執行の意義と債権執行における差押えの効力について解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行等と比較して債権執行の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	権利執行（２）	債権執行における差押えの効力に関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	債権執行における差押えの効力について判例を意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	権利執行（３）	債権執行における換価の方法について解説する。	
	この回の到達目標	取立てと転付命令の取得の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	非金銭執行	非金銭執行の種類とそれぞれの手続について解説する。	
	この回の到達目標	非金銭請求権の実現方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	担保権実行（１）	担保権実行の総論的解説をする。	
	この回の到達目標	強制執行と担保権実行の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	担保権実行（２）	不動産担保権実行と債権担保権実行について手続を解説する。	
	この回の到達目標	賃料債権に対する物上代位について判例の流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	形式競売・財産開示手続	形式的競売および財産開示制度の手続を解説する。	
	この回の到達目標	財産開示の要件を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	民事保全の意義		民事保全の種類とそれぞれの意義を解説する。
	この回の到達目標	挙げられた事案に必要な保全処分を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	保全命令手続		保全命令手続の概要を解説する。
	この回の到達目標	保全命令手続の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	仮差押え		仮差押命令の発令および執行について、関連する判例とともに解説する。
	この回の到達目標	仮差押えが必要な場合と、仮差押えの効力について解説することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	占有移転禁止の仮処分		占有移転禁止の仮処分命令の発令と執行について関連する判例とともに解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に占有移転禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	処分禁止の仮処分		処分禁止の仮処分命令と執行について関連する判例とともに解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に処分禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	仮の地位を定める仮処分		仮の地位を定める仮処分について関連する判例とともに解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に仮の地位を定める仮処分が必要となるか挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	民事保全における不服申立て（１）	保全異議の申立て、および保全取消しの申立てについて解説する。	
	この回の到達目標	保全異議と保全取消しの違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	民事保全における不服申立て（２）	保全抗告の意義について解説する。	
	この回の到達目標	民事保全における不服申立ての流れについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	民事保全における不服申立て（３）	違法な保全があった場合の損害賠償請求について解説する。	
	この回の到達目標	違法な保全があった場合の損害賠償請求の性質について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	民事保全の現代的課題	インターネットをめぐる民事保全など、民事保全に関する比較的新しい問題を紹介し、検討する。	
	この回の到達目標	授業内で挙げられた社会問題と民事保全の関係を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	民事執行法総合演習	民事執行法に関する総合問題を基に、民事執行法における諸原則の意義を検討する。	
	この回の到達目標	具体的な事案において適用されるべき民事執行法の法規を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分
30	民事保全法総合演習	民事保全法に関する総合問題を基に、民事保全法における諸原則の意義を検討する。	
	この回の到達目標	授業で挙げられた事案について、どのような保全処分を求めるのが適切か挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法等の科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解度を確認するため、3回小テストを行う。また、授業内容について応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	筆記試験により、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例・学説の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			30	30							60
小テスト等	3回の授業内の小テストにより、民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識が身についているかを確認する(①、②および④)。	10	10		10							30
レポート等	レポートを課し、民事訴訟法に関する判例について、関連する文献を自ら調査して、論理的に評することができるかを確認する(④)。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した試験、小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法〔第2版〕	小田司編	弘文堂	2016	教科書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第6版〕	高田・畑・垣内編	有斐閣	2023	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟行為		訴訟行為についての規範を説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論		事実認定の方法の基本的な概念を説明する。
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令		書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	自白		自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了		訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	特別訴訟		少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。
	この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法等の科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解度を確認するため、3回小テストを行う。また、授業内容について応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	筆記試験により、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例・学説の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			30	30							60
小テスト等	3回の授業内の小テストにより、民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識が身についているかを確認する(①、②および④)。	10	10		10							30
レポート等	レポートを課し、民事訴訟法に関する判例について、関連する文献を自ら調査して、論理的に評することができるかを確認する(④)。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した試験、小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法〔第2版〕	小田司編	弘文堂	2016	教科書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第6版〕	高田・畑・垣内編	有斐閣	2023	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	訴訟行為	訴訟行為についての規範を説明する。	
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論	事実認定の方法の基本的な概念を説明する。	
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き	証拠調べのルールを説明する。	
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令	書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	自白	自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。	
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了	訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。	
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	特別訴訟		少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。
	この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	吉田 純平	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式で行う。事前に確認事項と事例問題を配布し、これを解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識を問う (①②③④)。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ブリッジブック 民事訴訟法〔第3版〕	井上治典編	信山社	2022	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟行為		訴訟行為についての規範を説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論		事実認定の方法の基本的な概念を説明する。
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令		書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
17	自白		自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了		訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分
30	訴訟の役割		民事訴訟の目的について考える。
	この回の到達目標	民事訴訟目的論の議論を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「内容確認問題集」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	高橋 慶悟	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的には、教科書に従って授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識が身についているかを、筆記試験により評価する（①②③④）。	20	20	20	20							80
小テスト等	2回の小テストを実施し、授業内容が身についているかを確認する（①②③④）。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法〔第2版〕	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで時間を調整して行います。 takahashi.keigo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	紛争解決と民事手続		民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。また、民事訴訟制度の全体像について概説する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分
2	ADR・民事訴訟法の目的と理念		ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。また、民事訴訟法の目的と理念について説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分
3	裁判所		日本の裁判所の構造について説明する。また、裁判官に関する制度（除斥・忌避・回避）について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官に関する制度を理解することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分
4	民事裁判権の範囲		民事裁判権の限界について、人的範囲と物的範囲に分けて検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分
5	管轄		管轄や移送について説明する。また、国際裁判管轄について概説する。	
	この回の到達目標	どこの裁判所がどのような事件について裁判権を行使するかを説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分
6	当事者		当事者確定の基準について、氏名冒用訴訟や死者名義訴訟を例にして説明する。また、表示の訂正や任意的当事者変更について解説する。	
	この回の到達目標	当事者確定の基準について理解することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	当事者能力・訴訟能力	当事者能力・訴訟能力の意義や基準について説明する。また、法人格のない団体の当事者能力に関する判例の立場を解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力・訴訟能力の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説する。また、債権者代位訴訟等の判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と第三者の訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟の進行		どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また訴状の送達方法について解説する。
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	裁判資料の収集・弁論主義		裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	口頭弁論		口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論の審理原則について説明する。
	この回の到達目標	口頭弁論における審理原則（公開主義、双方審尋主義、口頭主義、直接主義、集中審理・計画審理主義、適時提出主義）について理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	訴訟行為		訴訟行為についての規範、特に口頭弁論における当事者の訴訟行為について説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。また、申立て、主張、立証について理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	証明責任		証明責任の必要性やその分配、また証明負担の軽減について説明する。
	この回の到達目標	法律要件分類説について理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	書証・文書提出命令	書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	訴訟の終了	訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。	
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の意義・既判力の時的限界	既判力の作用について説明する。また、既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	既判力の主観的範囲―原則と例外	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	既判力の主観的範囲―対世効・反射効	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	上訴・再審	上訴・再審の種類と性質について解説する。	
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	共同訴訟	通常共同訴訟や必要的共同訴訟の性質について解説する。	
	この回の到達目標	様々な訴訟形態について理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	訴訟参加	補助参加や独立当事者参加について、その意義や要件、効果について説明する。	
	この回の到達目標	訴訟参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	少額訴訟手続	少額訴訟手続の性質について解説する。	
	この回の到達目標	少額訴訟手続が通常の訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	担当者	井上 哲男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
事例問題を素材として，要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう，教員と学生との質疑応答や起案練習等を中心とした演習を行う。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
要件事実の基本を理解することを目標とする。民法の基礎的な理解を踏まえ，要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ，機能しているかについて理解し，説明できる力を修得する。

【履修条件】
法曹を目指す者又はそれと同等以上に民法等を勉強しようとする意欲を有する者 を歓迎する。

【授業方法】		
要件事実の基本的な事例問題を素材として、授業を進める。質疑応答、起案練習等を盛り込み、双方向性の授業にしたい。レジュメを事前に配布する。 資料は、「クラスルーム」にアップする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	理解度の検証・理解の定着化のために、授業内で練習問題の即日起案を行い、添削指導を行う。質疑応答や議論をする機会を多くする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。								3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質疑応答の内容，練習問題の起案に反映された理解度等を基準に，到達目標にかかわる能力が身に付いているかどうかを総合的に評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した練習問題の答案は採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂 新問題研究 要件事実	司法研修所	法曹会	2023	教科書	必携
4訂 紛争類型別の要件事実	司法研修所	法曹会	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後，講堂又は研究室にて（18時30分ころまで）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	元裁判官（東京地裁・東京高裁など，司法研修所教官，新旧司法試験・予備試験委員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の民事裁判において要件事実が果たしている役割を踏まえながら，分かり易い説明をしたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義	要件事実と法律要件分類説の概要を理解する。	
	この回の到達目標	請求の趣旨や訴訟物の意義を確認するとともに、要件事実の基礎である法律要件分類説を理解する。また、具体的事例を踏まえて、要件事実がどのようなものかを理解する。	
	事前学修	「改訂新問題研究 要件事実」（教科書）の第一章（１～１８頁）を読み込み、内容の理解に努める。理解できないところは、授業で質問ができるように準備しておく。また、レジュメにも目を通しておき、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所の内容が完全に理解できるように復習する。	120分
2	売買代金支払請求をめぐる要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	売買代金支払請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究（教科書）の該当箇所（１９～４６頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
3	貸金返還請求をめぐる要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	貸金返還支払請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（３６～５２頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
4	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実（１）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（５３～８４頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
5	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実（２）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（５３～８４頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
6	不動産登記手続請求をめぐる要件事実（１）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	不動産登記手続請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（８５～１１９頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不動産登記手続請求をめぐる要件事実（2）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	不動産登記手続請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（85～119頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
8	賃貸借契約終了に基づく不動産明渡請求の要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	賃貸借契約終了に基づく不動産明渡請求の要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（120～131頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
9	動産引渡請求の要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	動産引渡請求の要件事実を理解する	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。新問題研究の該当箇所（132～146頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
10	代理の要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	代理の要件事実を理解する。	
	事前学修	類型別（教科書）47頁や民法の教科書等で代理に関する理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
11	建物収去土地明請求	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	建物収去土地明請求における訴訟物、攻撃防御方法等の基本を理解する。	
	事前学修	類型別（教科書）66頁以下を読んで理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
12	保証債務履行請求	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	保証債務履行請求における訴訟物、攻撃防御方法等の基本を理解する。	
	事前学修	類型別（教科書）43頁以下を読んで理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	譲受債権請求訴訟	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	譲受債権履行請求における訴訟物、攻撃防御方法等の基本を理解する。	
	事前学修	類型別（教科書）135頁以下を読んで理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
14	総合問題	総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
15	総復習	これまでの学習の総括を行う。	
	この回の到達目標	学習した全範囲について理解を万全なものにする。	
	事前学修	これまでに学習した範囲を振り返り、理解の有無・程度を確認し、疑問点等について発言できるように準備しておく。	120分
	事後学修	授業の結果を踏まえ、理解不十分であったところを中心に総復習を行う。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	担当者	井上 哲男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題を素材として、実戦的な起案練習等を行うことにより、要件事実についての理解を深め、総合的な事例問題に対応できる実力を涵養する。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
要件事実の基礎的な理解を踏まえ、総合的な事例問題に対応できる力を修得する。

【履修条件】
法曹を目指す者又はそれと同等以上に民法等を勉強しようとする意欲を有する者 を歓迎する。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題を素材として、実戦的な起案練習等を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	理解度の検証・理解の定着化のために、授業内で練習問題の即日起案を行い、添削指導を行う。質疑応答や議論をする機会を多くする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。							3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質疑応答の内容，練習問題の起案に反映された理解度等を基準に，到達目標にかかわる能力が身に付いているかどうかを総合的に評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した練習問題の答案は採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂 新問題研究 要件事実	司法研修所	法曹会	2023	教科書	必携
4訂 紛争類型別の要件事実	司法研修所	法曹会	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後，講堂又は研究室にて（17時30分ころまで）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	元裁判官（東京地裁・東京高裁など，司法研修所教官，新旧司法試験・予備試験委員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の民事裁判において要件事実が果たしている役割を踏まえながら，分かり易い説明をしたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	事例問題（1）演習	要件事実の理解を問う事例問題の演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した内容を復習しておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
2	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
3	事例問題（2）演習	要件事実の理解を問う事例問題演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した内容を復習しておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
4	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
5	事例問題（3）演習	要件事実の理解を問う事例問題演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	これまで学習した内容を復習しておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
6	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事例問題（４）演習	要件事実の理解を問う事例問題演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	これまで学習した内容を復習しておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
8	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
9	事例問題（５）演習	要件事実の理解を問う事例問題演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	これまで学習した内容を復習しておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
10	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
11	事例問題（６）演習	要件事実の理解を問う事例問題の演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
12	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	事例問題（7）演習	要件事実の理解を問う事例問題の演習を行う。	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
14	同	要件事実の理解を問う事例問題の検討を行う	
	この回の到達目標	要件事実及び民法等の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	事例問題に含まれる論点等を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
15	総復習	これまでの学習の総括を行う。	
	この回の到達目標	学習した全範囲について理解を万全なものにする。	
	事前学修	これまでに学習した範囲を振り返り、理解の有無・程度を確認し、疑問点等について発言できるように準備しておく。	120分
	事後学修	授業の結果を踏まえ、理解不十分であったところを中心に総復習を行う。	120分

科目名	民法法特殊講義Ⅱ(判例演習)A	担当者	蓮田 哲也	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と，これに関連する基本的な判例を事前に検討し，授業では，その検討結果を踏まえ，自らの考え方を述べるとともに，教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理して考察しながら，法的問題の解決方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し，基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力，各種事案に含まれる法的問題点を抽出し，その解決策を見出すことのできる力，これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし，民法の基本的な知識，理解を踏まえ，論理的かつ合理的な思考のもと，設例における事案に即した問題点を発見し，その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰを履修済みであること

【授業方法】
教員ではなく、学生（受講生人数によるが、1グループ4～5名を想定）が判例の事案・意義・争点に関する議論状況を報告し、それを踏まえて教員と学生、学生間で判例について検討を行う。判例報告や検討のためには、授業外での予習が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業とは異なり、学生が主体的に授業を進める形式をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語及び概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に考察し、結論づけることができる。							3				
④	民法判例に関する事例問題につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識や法的問題の解決方法に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自己の担当する判例の報告内容や質疑が評価対象となる。 また、他のグループから報告された判例に対する質疑も評価対象となる。なお、無断欠席は厳禁であり、欠席回数が多い場合は成績評価対象外となることがある。	20	20	20	20	20						100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例の報告について適切であるかについては、授業内に評価しコメントをなし、試験について試験実施後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に説明する。				

【オフィスアワー】
初回授業時に説明する。 hasuda.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 【田中・野中・蓮田・山田】		授業の目的・進め方・成績評価方法・教科書などについて説明をする。その後、報告のグループを決めていく。 なお、受講者の人数によって、以下の計画を変更することがある。	
	この回の到達目標	授業の目的や授業方法を理解すること。		
	事前学修	この授業を履修する目的を考え、他に履修しておいた方が良い授業も考え、履修計画を考えること。		30分
	事後学修	次の授業ではPCを使うので、ログイン方法を確認しておくこと。		30分
2	判例評釈の調べ方 【蓮田】		パソコン教室にてD1-lawやWestlaw Japan, Lex/DBなどのデータベースを用いて、判決文を入手する方法、判例評釈を見つける方法を学ぶ。図書館に行き、判例雑誌が置いてある場所も確認したい。	
	この回の到達目標	①～④の到達目標を達する前提として、判例評釈の調べ方の技法を身に着けること。		
	事前学修	提示した判例の中から気になる判例を見つけ、読んでみること。		120分
	事後学修	Webデータベースの使い方を理解し、自分で判例及び判例評釈を調べられるようになること。		120分
3	報告判例の選定 【蓮田】		前回の判例評釈の調べ方もふまえ、グループのメンバーと相談して報告する判例を選ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、判例の事案や結論を理解したうえで、報告する判例を選定すること。		
	事前学修	提示した判例の中から気になる判例を見つけ、読んでみること。		120分
	事後学修	選んだ判例の判例百選の評釈を読むこと。		120分
4	第1回報告判例の検討① 【蓮田】		判例の事案・争点・結論を理解した上で、判例の争点に関する判例評釈を読むこと。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。		
	事前学修	選んだ判例の評釈を読むこと。		150分
	事後学修	判例評釈以外の文献を読むこと。		150分
5	第1回報告判例の検討② 【蓮田】		判例の事案・争点・結論を理解した上で、判例の争点に関する判例評釈を読むこと。判例報告に向けてグループでレジュメを作成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。		
	事前学修	判例評釈以外の文献を読むこと。		150分
	事後学修	レジュメの構成を考え、グループで協力してレジュメを作成すること。		150分
6	第1回報告判例の検討③ 【蓮田】		前回に続いて判例報告に向けてレジュメを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。		
	事前学修	レジュメの構成を考え、グループで協力してレジュメを作成すること。		150分
	事後学修	発表に向けてレジュメを完成させること。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1回判例報告―第1班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分
8	第1回判例報告②―第2班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分
9	第1回判例報告③―第3班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分
10	第2回報告判例の検討①【蓮田】	判例の事案・争点・結論を理解した上で、判例の争点に関する判例評釈を読むこと。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。	
	事前学修	選んだ判例の判例評釈を読むこと。	150分
	事後学修	判例評釈以外の文献を読むこと。	150分
11	第2回報告判例の検討②【蓮田】	判例の事案・争点・結論を理解した上で、判例の争点に関する判例評釈を読むこと。判例報告に向けてグループでレジュメを作成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。	
	事前学修	判例評釈以外の文献を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメの構成を考え、グループで協力してレジュメを作成すること。	120分
12	第2回報告判例の検討③【蓮田】	前回に続いて判例報告に向けてレジュメを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、判例の争点に関する解釈上の議論を理解すること。	
	事前学修	レジュメの構成を考え、グループで協力してレジュメを作成すること。	120分
	事後学修	発表に向けてレジュメを完成させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第2回判例報告―第1班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分
14	第2回判例報告―第2班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分
15	第2回判例報告―第3班の報告【蓮田】	報告班は、事案の概要・争点・判旨の概要を説明した後、争点に関する議論状況を詳しく説明し、判決への賛否を示す。また、それ以外の班は報告班への質問を考え、積極的に発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、報告班は、判例の事案・争点を明らかにし、争点に関する議論状況を報告した上で、判例の賛否を示すこと。聴講班は、報告に対する質問を行い、意見交換を通じて疑問点を解消すること。	
	事前学修	報告班は報告の練習をしておくこと。それ以外の班は、報告判例の評釈を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	報告班は、報告ができた所・できなかった所を振り返る。それ以外の班は、報告判例を振り返る。疑問点があれば、教科書などでさらに調べてみる。	120分

科目名	民法法特殊講義Ⅱ(判例演習)B	担当者	蓮田 哲也	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と，これに関連する基本的な判例を事前に検討し，授業では，その検討結果を踏まえ，自らの考え方を述べるとともに，教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理して考察しながら，法的問題の解決方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し，基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力，各種事案に含まれる法的問題点を抽出し，その解決策を見出すことのできる力，これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし，民法の基本的な知識，理解を踏まえ，論理的かつ合理的な思考のもと，設例における事案に即した問題点を発見し，その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰを履修済みであること

【授業方法】
教員ではなく、学生（受講生人数によるが、1グループ4～5名を想定）が判例の事案・意義・争点に関する議論状況を報告し、それを踏まえて教員と学生、学生間で判例について検討を行う。判例報告や検討のためには、授業外での予習が必要となる。 蓮田，山田，田中，野中 が担当

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業とは異なり、学生が主体的に授業を進める形式をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に考察し、結論づけることができる。								3				
④	民法判例に関する事例問題につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識や法的問題の解決方法に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例の報告について適切であるかについては、授業内に評価しコメントをなし、試験について試験実施後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に説明する。				

【オフィスアワー】
各教員が初回授業時に説明する。 hasuda.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 【蓮田】	授業方法の説明を行う。	
	この回の到達目標	授業の目的や授業方法を理解すること。	
	事前学修	この授業を履修する目的を考え、他に履修しておいた方が良い授業も考え、履修計画を考えること。	30分
	事後学修	次の授業時に関連する判例を読むこと。	120分
2	民法総則① 【蓮田】	民法総則における重要判例について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、民法総則における重要判例の内容を理解する。	
	事前学修	授業で取り上げる重要判例について調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、再度判例に対する理解を深める。	120分
3	民法総則② 【蓮田】	民法総則における重要判例と学説上の理解について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、前回取り上げた重要判例が学説上どのように解されているのかを理解する。	
	事前学修	前回取り上げた重要判例が各種のテキストでどのように取り扱われているかを調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、判例と学説に対する理解を深める。	120分
4	民法総則③ 【蓮田】	民法総則における事例検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④・⑤に関連して、これまでに学習した内容から具体的な事例に対して、どのように法が適用されるのかについて理解する。	
	事前学修	前回までに学習した内容を整理し、民法総則に係る法制度について整理する。	120分
	事後学修	事例検討にあたって、自らの理解と授業で示された内容の相違に着目して、再度民法総則に関する法制度を整理する。	120分
5	物権① 【山田】	物権における重要判例について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、物権における重要判例の内容を理解する。	
	事前学修	授業で取り上げる重要判例について調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、再度判例に対する理解を深める。	120分
6	物権② 【山田】	物権における重要判例と学説上の理解について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、前回取り上げた重要判例が学説上どのように解されているのかを理解する。	
	事前学修	前回取り上げた重要判例が各種のテキストでどのように取り扱われているかを調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、判例と学説に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	物権③ 【山田】	物権における事例検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④・⑤に関連して、これまでに学習した内容から具体的な事例に対して、どのように法が適用されるのかについて理解する。	
	事前学修	前回までに学習した内容を整理し、物権に係る法制度について整理する。	120分
	事後学修	事例検討にあたって、自らの理解と授業で示された内容の相違に着目して、再度物権に関する法制度を整理する。	120分
8	債権総論① 【田中】	債権総論における重要判例について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、債権総論における重要判例の内容を理解する。	
	事前学修	授業で取り上げる重要判例について調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、再度判例に対する理解を深める。	120分
9	債権総論② 【田中】	債権総論における重要判例と学説上の理解について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、前回取り上げた重要判例が学説上どのように解されているのかを理解する。	
	事前学修	前回取り上げた重要判例が各種のテキストでどのように取り扱われているかを調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、判例と学説に対する理解を深める。	120分
10	債権総論③ 【田中】	債権総論における事例検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④・⑤に関連して、これまでに学習した内容から具体的な事例に対して、どのように法が適用されるのかについて理解する。	
	事前学修	前回までに学習した内容を整理し、債権総論に係る法制度について整理する。	120分
	事後学修	事例検討にあたって、自らの理解と授業で示された内容の相違に着目して、再度物権に関する法制度を整理する。	120分
11	債権各論① 【野中】	債権各論における重要判例について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、債権各論における重要判例の内容を理解する。	
	事前学修	授業で取り上げる重要判例について調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、再度判例に対する理解を深める。	120分
12	債権各論② 【野中】	債権各論における重要判例と学説上の理解について知識を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、前回取り上げた重要判例が学説上どのように解されているのかを理解する。	
	事前学修	前回取り上げた重要判例が各種のテキストでどのように取り扱われているかを調べてくる。	120分
	事後学修	自身が調べた内容と、授業内で理解した内容に違いが無かったかを確認し、判例と学説に対する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	債権各論③ 【野中】	債権各論における事例検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④・⑤に関連して、これまでに学習した内容から具体的な事例に対して、どのように法が適用されるのかについて理解する。	
	事前学修	前回までに学習した内容を整理し、債権各論に係る法制度について整理する。	120分
	事後学修	事例検討にあたって、自らの理解と授業で示された内容の相違に着目して、再度物権に関する法制度を整理する。	120分
14	授業内試験 【蓮田】	これまで学習してきた内容を振り返り、自ら事件処理に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、これまで学んだ内容から事件に対する処理に取り組むことができる。	
	事前学修	これまで学習した内容について振り返り、疑問点を抽出し、自ら事件処理できるよう準備する。	120分
	事後学修	試験において取り扱われた事件がどのようなものであったのかを振り返り、整理し直す。	120分
15	総括 【蓮田】	前回実施した試験を振り返りを行うとともに、これまで学んだ内容について総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④・⑤に関連して、これまで学んだ内容について説明できる。	
	事前学修	これまで学んだ内容について、整理しておく。	120分
	事後学修	民法制度と具体的な事件処理の関係性について検討する。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅲ(会社法)A	担当者	菅原 貴与志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
商法、特に会社法の主要な論点を検討することにより、商法・会社法で理解しておくべき法制度を理解してもらいます。 この授業では、重要論点を扱っている司法試験または予備試験と同等・同格レベルの事例問題を題材とし、それを解いていながら、高度な法律論を展開できる実力を育成します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、会社法の重要論点について、その意義・内容・関連性を理解し、商法の今日的課題を正しく把握してもらうことを目的とします。 商法・会社法の重要論点を検討することにより、商法Ⅰで習得した知識を確実なものとし、さらには、これらを具体的事例に解釈・適用して法的な解答を導出する、そうした論理的な思考と技能の修得を目指します。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。民法Ⅰを履修済みであること、商法Ⅰ・商法Ⅱを履修することを望みます。法曹志望者を目指す者を歓迎します。

【授業方法】
新旧司法試験論文式または予備試験と同等・同格レベルの事例問題事例問題を題材とし、それについて解説します。 授業の進行に際しては、一方通行的な講義形式ではなく、ソクラティス・メソッドによる双方向授業を実施する予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で商法・会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法（ソクラテス・メソッド）を用いて検討を行い、内容の理解度を高めていきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法上の重要な制度の特質を識別することができる。					3							
②	会社法の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					3			3				3
③	会社法の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。								3				4
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価します。	25	25	20								70
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標①が身についているか、到達目標②が身についているか、質疑応答において到達目標③が身についているかについて、その発言や議論の質などを評価します。	5	5	10								20
授業への参画度	授業への出欠状況・遅刻の有無、授業への参加度・貢献度を総合的に評価します。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評は、授業内または後日に配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法入門20講	菅原貴与志著	勁草書房	2021	教科書	必携
企業法務入門20講	菅原貴与志著	勁草書房	2021	参考書	推奨
会社法判例百選〔第4版〕		有斐閣	2021	参考書	必携
六法				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の質問・相談は、授業中または授業時間終了後の教室でお願いします。また、メール質問にも対応しますが、アドレスは授業時に提示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容	長年、慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）教授として、実務経験に基づく実践的教育を実施してきました。また、東京弁護士会 会社法部 部長として、会社法の実務経験を積んでいます。裁判実務の観点を活かし、事例をできるだけ紹介しながら、講義を行う予定です。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス。導入		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。会社の種類に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③については、これに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。可能な限り、新聞の経済面を読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
2	会社法総論		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（定款所定の目的、法人格否認の法理等）について解説する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
3	設立Ⅰ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株式会社の設立手続、発起人の権限、開業準備行為）について解説する。たとえば、新司法試験平成29年度民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
4	設立Ⅱ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（払込の仮装、設立に関する発起人の責任）について解説する。たとえば、予備試験平成29年度が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
5	株式Ⅰ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株式と株主、株主平等原則、株式譲渡自由の原則）について解説する。たとえば、旧司法試験平成22年度第1問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
6	株式Ⅱ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株主名簿、株式譲渡の対抗要件、名義書換の不当拒絶）について解説する。たとえば、新司法試験平成25年度民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	株式会社の機関設計		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株式会社の機関設計、監査役設置の有無による株主の監督は正権、取締役会設置の有無による業務執行等）について解説する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
8	取締役・取締役会		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（取締役・取締役会・代表取締役、取締役会の権限、取締役会の招集等）について解説する。 たとえば、新司法試験平成20年度民事系第2問・新司法試験平成28年度民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	監査・内部統制		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（監査役の資格と権限、会計監査人、指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社の監査、内部統制システム）について解説する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	株主総会Ⅰ（非公開会社）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株主総会の権限、議決権、株主総会の決議要件、招集手続、株主総会決議の瑕疵、株主提案権）について解説する。 たとえば、予備試験平成30年度が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株主総会Ⅱ（公開会社）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（議決権、株主総会の決議要件、招集手続）について解説する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	株主総会Ⅲ（公開会社）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株主総会決議の瑕疵、議決権の代理行使、取締役の説明義務、役員報酬等）について解説する。 たとえば、新司法試験平成24年度民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	会社法総則・商行為Ⅰ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる商法上の重要論点（商業使用人、名板貸し）について解説する。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	会社法総則・商行為Ⅱ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる商法上の重要問題（事業譲渡、商号統用）について解説する。 たとえば、新司法試験平成18年度民事系第1問が参考となる。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	問題研究（Midterm Check）		第2回～15回講義を総括し、その補足的な研究をする。 あわせて、これまでの講義に関する知識・技能・態度が身についているかを確認するために、即日起案的な課題レポートを実施する。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅲ(会社法)B	担当者	菅原 貴与志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
商法、特に会社法の主要な論点を検討することにより、商法・会社法で理解しておくべき法制度を理解してもらいます。 この授業では、重要論点を扱っている司法試験または予備試験と同等・同格レベルの事例問題を題材とし、それを解いていながら、高度な法律論を展開できる実力を育成します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、会社法の重要論点について、その意義・内容・関連性を理解し、商法の今日的課題を正しく把握してもらうことを目的とします。 商法・会社法の重要論点を検討することにより、商法Ⅰで習得した知識を確実なものとし、さらには、これらを具体的事例に解釈・適用して法的な解答を導出する、そうした論理的な思考と技能の修得を目指します。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。民法Ⅰを履修済みであること、商法Ⅰ・商法Ⅱを履修することを望みます。法曹志望者を目指す者を歓迎します。

【授業方法】
新旧司法試験論文式または予備試験と同等・同格レベルの事例問題事例問題を題材とし、それについて解説します。 授業の進行に際しては、一方通行的な講義形式ではなく、ソクラティス・メソッドによる双方向授業を実施する予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で商法・会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法（ソクラテス・メソッド）を用いて検討を行い、内容の理解度を高めていきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法上の重要な制度の特質を識別することができる。					3							
②	会社法の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					3			3				3
③	会社法の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価します。	25	25	20								70
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標①が身についているか、到達目標②が身についているか、質疑応答において到達目標③が身についているかについて、その発言や議論の質などを評価します。	5	5	10								20
授業への参画度	授業への出欠状況・遅刻の有無、授業への参加度・貢献度を総合的に評価します。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評は、授業内または後日に配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法入門20講	菅原貴与志著	勁草書房	2021	教科書	必携
企業法務入門20講	菅原貴与志著	勁草書房	2021	参考書	推奨
会社法判例百選〔第4版〕		有斐閣	2021	参考書	必携
六法					必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の質問・相談は、授業中または授業時間終了後の教室でお願いします。また、メール質問にも対応しますが、アドレスは授業時に提示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		長年、慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）教授として、実務経験に基づく実践的教育を実施してきました。また、東京弁護士会 会社法部 部長として、会社法の実務経験を積んでいます。裁判実務の観点を活かし、事例をできるだけ紹介しながら、講義を行う予定です。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	取締役の義務・責任Ⅰ（会社に対する責任）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（善管義務と忠実義務、経営判断原則、利益相反取引と競業取引）について解説する。 たとえば、新司法試験平成27年度民事系第2問・予備試験平成24年度・予備試験平成26年度が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
2	取締役の義務・責任Ⅱ（会社に対する責任）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（取締役の監視義務、役員の会社に対する責任）について解説する。 たとえば、旧司法試験平成18年度第1問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
3	取締役の義務・責任Ⅲ（第三者に対する責任）		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（役員の第三者に対する責任）について解説する。 たとえば、旧司法試験平成19年度第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
4	株主代表訴訟		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（株主代表訴訟をめぐる諸問題）について解説する。 たとえば、平成26年新司法試験民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
5	資金調達Ⅰ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（募集株式の発行、特に有利な金額、募集株式の発行差止めと発効無効）について解説する。 たとえば、新司法試験平成19年度民事系第1問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
6	資金調達Ⅱ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（新株予約権、新株予約権付社債、募集株式の発行差止めと発効無効、新株予約権の発行差止めと発行無効）について解説する。 たとえば、新司法試験令和元年度民事系第2問が参考となる。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	計算・開示		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（計算書類、企業数字の読み方、会計帳簿閲覧謄写請求権、剰余金の分配）について解説する。 たとえば、予備試験平成25年度が参考となる。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
8	自己株式		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（自己株式の取得）について解説する。 たとえば、新司法試験平成23年度民事系第2問が参考となる。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
9	組織再編Ⅰ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（合併・会社分割・株式交換・株式移転・株式交付、新設型組織再編と吸収型組織再編）について解説する。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
10	組織再編Ⅱ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（合併をめぐる諸問題）について解説する。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
11	組織再編Ⅲ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（会社分割をめぐる諸問題）について解説する。 たとえば、旧司法試験平成21年度第1問が参考となる。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
12	組織再編Ⅳ		指定された事前問題を解きつつ、当該問題中に含まれる会社法上の重要論点（少数株主の締め出し）について解説する。
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会社法の最新論点	会社法の重要論点について、最新判例研究を中心に検討する。	
	この回の到達目標	指定された論点に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	問題研究 (Term-end Check)	第16回～28回講義を総括し、その補足的な研究をする。 あわせて、これまでの講義に関する知識・技能・態度が身についているかを確認するために、即日起案的な課題レポートを実施する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	総括と補足 (Wrap up)	講義の全体を振り返り、会社法上の重要論点について考察する。 各自の学習の成果に関する自主的意見の発言とクラス内での知見交換を実施する。	
	この回の到達目標	指定された問題に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)A	担当者	大久保 拓也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義は、複数の商法担当教員が商法に関するさまざまな問題を多様な視点で横断的に取り扱うものである。講義の対象となるのは、講学上商法領域とされている分野である。すなわち、「商法」（商法総則、商行為、海商）に加えて、「会社法」「金融商品取引法」「保険法」、「手形法」・「小切手法」（支払システムを規律する法律を含む。以下「支払システム法」という）等を幅広く扱い、それら法規制重要な論点や裁判例について演習方式で取り扱う。これにより、商法に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義を通じて「商法」「会社法」「金融商品取引法」「保険法」「支払システム法」といった商法に関連する法規制の主要な論点や裁判例が理解できるようになるために、法知識を獲得し、さらに商法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
商法Ⅰ～Ⅴを（同時に・すでに）受講していることが望ましいが、条件は特に求めない。

【授業方法】
学修者と教員で講義で取り扱った主要な論点について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。複数の商法担当教員が担当するため、担当教員がいつの回に担当するかや講義の内容は主にガイダンス時に指示する。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。ゲストスピーカーの話聞く機会を設ける場合もある（講義の進行に応じて、柔軟に対応する）。必要に応じて校外学習の機会も提供したい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。メールで質問を受け付ける。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法領域に関する法規制の全体構造とその特質を識別することができる。				3			3				
②	商法、会社法、金融商品取引法、保険法、支払システム法等の主要な論点に関する法の規定・学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。							3				
③	商法、会社法、金融商品取引法、保険法、支払システム法等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを確認するために、レポートを課すことがある。レポートの実施時期は、担当教員の指示による。オンラインを利用してレポート課題に取り組んでもらう場合もある。	40	20									60
討論・発表等	講義において出題された課題について、レジュメを作成してもらい、それを発表（判例研究等）してもらい、討論を行う。これにより、到達目標③についての知識・技能・態度が身についているかを確認する。			20								20
授業への参画度	毎回の講義における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、または、ポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムもしくはメール等で、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書を指定しない。開講時に指示する。				

【オフィスアワー】
講義の前後に質問を受けつける。その他、メールでアポイントメントをとることができる（ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp）。他の教員のメールアドレスは開講時に示す。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験者をもつ教員が、本演習の中で実務経験に基づいた教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・導入		この講義は複数の商法担当教員が担当するため、担当教員の指示に従い、事前の準備、当日の講義への参加、事後の学習を行うこと。講義方法は担当教員により異なるので、詳細は開講時に指示する。 ガイダンスとして、この講座において提供する知見の内容、勉強をするに際してのポイント、単位の認定方法等について説明を行う。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
2	企業取引の総論		企業取引における契約の成立・効力について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
3	企業取引の実務		契約と契約書の実務、国内取引と国際取引との異同等について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
4	運送法の序論		運送法の全体像・枠組みを概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
5	物品運送人の責任		商法570～588条など、物品運送人の責任について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
6	物品運送人の権利・義務、運送証券		物品運送人の権利・義務、運送証券について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	旅客運送（陸上・海上・航空）		旅客運送（商法589～594条）について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
8	場屋営業、倉庫営業、旅行業		場屋営業、倉庫営業、旅行業について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
9	国際航空法の史的展開		国際航空法の史的展開（パリ条約、ワルソー条約等）を概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
10	航空旅客運送の責任原則		1999年モントリオール条約に基づく航空運送人の旅客運送に関する責任原則について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
11	航空貨物・手荷物の責任原則		貨物・手荷物運送に関する航空運送人の責任原則について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
12	延着責任		延着に関する航空運送人の責任について検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	裁判管轄権、出訴期限等		モントリオール条約の排他的強行性、裁判管轄、出訴期限の各論点を検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
14	航空保険		航空保険（機体保険・損害賠償保険・戦争危険等）の仕組みを検討し、あわせて現在実務が直面する課題にも外観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
15	会社支配権争奪に関する法規制		会社支配権争奪に関して問題となる裁判例を概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)B	担当者	大久保 拓也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義は、複数の商法担当教員が商法に関するさまざまな問題を多様な視点で横断的に取り扱うものである。講義の対象となるのは、講学上商法領域とされている分野である。すなわち、「商法」（商法総則、商行為、海商）に加えて、「会社法」「金融商品取引法」「保険法」、「手形法」・「小切手法」（支払システムを規律する法律を含む。以下「支払システム法」という）等を幅広く扱い、それら法規制重要な論点や裁判例について演習方式で取り扱う。これにより、商法に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義を通じて「商法」「会社法」「金融商品取引法」「保険法」「支払システム法」といった商法に関連する法規制の主要な論点や裁判例が理解できるようになるために、法知識を獲得し、さらに商法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
商法Ⅰ～Ⅴを（同時に・すでに）受講していることが望ましいが、条件は特に求めない。

【授業方法】		
学修者と教員で講義で取り扱った主要な論点について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。複数の商法担当教員が担当するため、担当教員がいつの回に担当するかや講義の内容は主にガイダンス時に指示する。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。ゲストスピーカーの話聞く機会を設ける場合もある（講義の進行に応じて、柔軟に対応する）。必要に応じて校外学習の機会も提供したい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。メールで質問を受け付ける。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法領域に関する法規制の全体構造とその特質を識別することができる。					3			3				
②	商法、会社法、金融商品取引法、保険法、支払システム法等の主要な論点に関する法の規定・学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。								3				
③	商法、会社法、金融商品取引法、保険法、支払システム法等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを確認するために、レポートを課すことがある。レポートの実施時期は、担当教員の指示による。オンラインを利用してレポート課題に取り組んでもらう場合もある。	40	20									60
討論・発表等	講義において出題された課題について、レジュメを作成してもらい、それを発表（判例研究等）してもらい、討論を行う。これにより、到達目標③についての知識・技能・態度が身についているかを確認する。			20								20
授業への参画度	毎回の講義における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、または、ポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムもしくはメール等で、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書を指定しない。開講時に指示する。				

【オフィスアワー】
講義の前後に質問を受けつける。その他、メールでアポイントメントをとることができる（ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp）。他の教員のメールアドレスは開講時に示す。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験者をもつ教員が、本演習の中で実務経験に基づいた教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	株主総会に関する法規制		株主総会に関して問題となる裁判例を概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
2	役員等の対会社責任に関する法規制		役員等の対会社責任追及に関する裁判例を概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
3	役員等の対第三者責任に関する法規制		役員等の対第三者責任追及に関する裁判例を概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
4	金融商品取引法に関する法規制		証券市場と金融商品取引法、金融商品取引法における主要な規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
5	上場会社の有価証券の発行・流通とディスクロージャーに関する法規制		証券市場（発行市場と流通市場）におけるディスクロージャー制度について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
6	証券市場における業者規制に関する法規制		証券市場における金融商品取引業者（証券会社）に対する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	保険法における説明義務に関する法規制		保険法における説明義務に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
8	火災保険に関する法規制		火災保険に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
9	自動車保険に関する法規制		自動車保険に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
10	生命保険に関する法規制		生命保険に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
11	支払決済システムに関する法規制		支払決済システムに関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分
12	銀行振込・資金移動業に関する法規制		銀行振込・資金移動業に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	誤振込みに関する法規制	誤振込みの法律関係に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
14	手形・小切手、電子記録債権に関する法規制	手形・小切手、電子記録債権に関する規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分
15	電子マネー、暗号資産に関する法規制、総括と補足	電子マネー、暗号資産に関する法規制について概観する。ゲストスピーカーを呼ぶことがありうる。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関する講義の予習をする。十分な予習時間が必要である。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
「不動産の現況と権利関係を登記簿に記録して公示する制度」である不動産登記について、登記簿の概要、登記業務を行う官庁である登記所と登記官、実際の登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請情報・添付情報等）を用いて講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
不動産物権変動の対抗要件である不動産登記（民法177条）について、不動産登記法の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。不動産登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合にも役立つ不動産登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8

【履修条件】
・民法の物権・担保物権の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・毎回レジュメ・資料を配布して講義を行う。六法必携のこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法の特別法（手続法）である不動産登記法の特徴を理解したうえで、不動産登記法の概略を説明することができる。					3			3				3
②	不動産登記法は、不動産の物権変動を登記簿に反映するために、どのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。					3			3				3
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	最終講義内で提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
集中講義 不動産登記法〔第3版補訂版〕	齋藤隆夫	成文堂	2019	参考書	任意
詳細 登記六法 2024年版	山野目 章夫 他	一般社団法人金融財政事情研究会	2023	参考書	任意
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜18時以降、講師室（2号館1F）にて。但し、事前にメールでの予約が必要。なお、メール（e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp）により、授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後19年。企業法務経験34年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・不動産登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新的话题を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【登記法とは何か】	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像と当該業務を行う法務局（登記所）等の組織について説明する。	
	この回の到達目標	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像を理解すること。	
	事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内（ http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html ））。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
2	不動産登記制度の概要	不動産登記制度概要－登記簿、登記所、登記官等	
	この回の到達目標	不動産登記制度の概要（登記簿、登記所、登記官等）を理解すること。	
	事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内（ http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html ））。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
3	登記の種類及び順位	不動産登記法総論（１）－登記の種類・登記の順位	
	この回の到達目標	不動産登記にはどのような種類があるか、優劣の順位はどのように定まるかを理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
4	申請原則と申請方法	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理①	
	この回の到達目標	不動産登記の申請原則と申請方法について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
5	申請方法とその後の処理	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理②	
	この回の到達目標	不動産登記の申請方法とその後の登記所内での処理について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
6	登記申請書（申請情報）	不動産登記法総論（３）－登記申請書（申請情報）	
	この回の到達目標	登記申請書の記載内容について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	登記原因証明情報及び登記識別情報	不動産登記法総論（４）－添付情報①（登記原因証明情報、登記識別情報）	
	この回の到達目標	登記申請に必要な登記原因証明情報と登記識別情報について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
8	印鑑証明書と住所証明書等	商不動産登記法総論（５）－添付情報②（印鑑証明書、その他の添付情報）	
	この回の到達目標	印鑑証明書、住所証明書、委任状等について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
9	権利の登記の各種類	不動産登記法総論（６）－権利に関する登記の手續上の分類（移転登記、変更・更正登記、抹消登記）	
	この回の到達目標	権利の登記について、各種の類型について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
10	所有権保存登記	不動産登記法各論（１）－所有権に関する登記①（所有権保存）	
	この回の到達目標	所有権保存登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
11	所有権移転登記	不動産登記法各論（２）－所有権に関する登記②（所有権移転）	
	この回の到達目標	所有権移転登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
12	抵当権設定登記	不動産登記法各論（３）－抵当権等に関する登記①	
	この回の到達目標	抵当権に関する登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	根抵当権設定登記	不動産登記法各論（４）－抵当権等に関する登記②	
	この回の到達目標	根抵当権に関する登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
14	相続登記	不動産登記法各論（５）－単独申請の登記（相続登記）	
	この回の到達目標	単独申請である相続登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
15	その他単独申請の登記（判決による登記、抵当権等抹消登記等）	不動産登記法各論（６）－単独申請の登記（判決による登記、抵当権等抹消登記等）	
	この回の到達目標	単独申請である判決による登記、抵当権等抹消登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に不動産登記法の該当条文を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分

科目名	民法法特殊講義Ⅵ(商業登記法)	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
商業登記制度は、取引の安全等のために「会社について、一定事項を登記簿に記録して公示する制度」である。会社のうち株式会社について、登記簿の概要、登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請書・添付書類）を用いて講義する。その他、司法書士業務である供託、債権譲渡登記及び動産譲渡登記についても簡単に解説する。なお、最終講義で企業法務業務と契約業務の概要を説明する予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・商業登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。本講義では、実体法である商法・会社法の理解を深めるために最低限必要となる商業登記（株式会社に限定）の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。 ・法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合に役立つ商業登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8

【履修条件】
・商法・会社法の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・配布するレジュメ・資料をもとに講義を行う。六法必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法等の特別法（手続法）である商業登記法の特徴を理解したうえで、商業登記法の概略を説明することができる。					3			3				3
②	商業登記法は、企業の情報を公示することにより取引の安全と円滑に資することを目的とするが、そのためにどのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。					3			3				3
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	最終講義までに提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義最終日に又は後日ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商業登記ハンドブック〔第4版〕	松井信憲	商事法務	2021	参考書	推奨
詳細 登記六法 2024年版	山野目 章夫 他	一般社団法人金融財政事情研究会	2023	その他	任意
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜18時以降、講師室（2号館1F）にて。但し、事前にメールでの予約が必要。なお、メール（e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp）により、授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後19年。企業法務経験34年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・商業登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新の話題を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会社法と商業登記法の関係	会社法と商業登記法の関係について全体像を説明する。	
	この回の到達目標	会社法と商業登記法の全体像を理解すること。	
	事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
2	商業登記制度の概要	商業登記法総論（１）①商業登記制度とは ②登記所・登記官・登記簿	
	この回の到達目標	商業登記制度の概要（登記簿、登記所・登記官）を理解すること。	
	事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
3	登記申請手続概論	商業登記法総論（２）①登記申請手続概論 ②印鑑届出制度・商業登記電子証明書 商業登記法各論―株式会社の設立の登記（１）	
	この回の到達目標	登記申請手続の概要について理解すること。	
	事前学修	・事前に商法及び会社法の教科書で、講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
4	株式会社設立登記	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（１）	
	この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
5	株式会社設立登記	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（２）	
	この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
6	商号変更・目的変更・公告方法の変更登記	商業登記法各論―一定款記載事項と登記（１）①商号変更 ②目的変更 ③公告方法の変更	
	この回の到達目標	商号変更、目的変更、公告方法の変更登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	本店移転登記	商業登記法各論―一定款記載事項と登記（２）本店移転	
	この回の到達目標	本店移転の登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
8	役員変更登記	商業登記法各論―役員に関する登記（１）	
	この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
9	役員変更登記	商業登記法各論―役員に関する登記（２）	
	この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
10	募集株式の発行登記手続	商業登記法各論―増資（募集株式発行）の登記	
	この回の到達目標	募集株式の発行手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
11	資本減少の登記 解散及び清算終了の登記	商業登記法各論―減資（資本減少）の登記並びに解散及び清算終了の登記	
	この回の到達目標	資本減少の手続と登記並びに解散及び清算終了の登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
12	吸収合併の登記手続	商業登記法各論―合併・会社分割等組織変更に関する登記（１）	
	この回の到達目標	吸収合併の手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新設合併の登記手続	商業登記法各論―合併・会社分割等組織変更に関する登記（２）	
	この回の到達目標	新設合併の手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 ・参考書の該当箇所を読んでおくことができれば望ましい。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
14	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記	供託法及び動産譲渡登記（法人がする動産の譲渡について登記によって公示）・債権譲渡登記（法人の行う債権譲渡のための簡便な対抗要件制度）	
	この回の到達目標	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記の各手続について理解すること。	
	事前学修	・民法の教科書で、供託及び動産・債権譲渡登記について読んでおくこと。	120分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	120分
15	企業法務・契約	企業法務概論・契約講義	
	この回の到達目標	企業法務全般と契約業務について理解すること。	
	事前学修	・特になし。	0分
	事後学修	・授業において配布するレジュメ・資料を復習すること。	240分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)A	担当者	中西 茂	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
「民事手続法」とあるが、内容は、民事訴訟法である。 この授業では、民事訴訟法の基本的な事項について、実践的な文章作成（訴状や和解条項等の法文書の作成）も併せて、学修する。 説明は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にし、法文書作成は見本をもとに文書を起案するものとするが、授業で取り上げる内容は、民事訴訟法の実際の場面を想定するので、入門レベルにとどまらない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法は、普通の社会生活の中では登場しないので、法曹に進むのでない限り、生活や仕事に直接役に立つものではない。 この授業は、法曹を希望する者にとっては、民事訴訟法学習の第1歩として、基本的な事項の理解ができるようになるのが目的である。法曹を希望していない者にとっては、民事訴訟・民事裁判では、どのような思考や論理のもとで、どのようなことが行われているかを知り、簡単な法文書を作成することによって、その一端を経験することが目的である。

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的に講義形式をとるが、できるだけ多くの具体的な事例を用いて、説明する。可能な限り、毎回の授業の中でも、学生が文書を作成する機会を設ける。 5回ごとに法文書起案の授業とする。起案の回では、当日提示される問題に対して、学生は授業時間内に訴状等の法文書を作成することが求められる。 講義資料（レジュメ）はできるだけ理解しやすいもの、読みやすいものを作成し、授業の場で配布（第1回は第1回授業で、その後は次回以降分を配布）する。レジュメは、classroomにも掲載をする。授業の中で民事訴訟法の条文を読むので、授業には必ず六法を持参すること。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業で説明した内容を含む法文書の起案を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事裁判手続の概括的な流れを理解し、説明することができる。【知識】【態度・習慣】				3			3				3
②	民事裁判の実際を知り、民訴法が適正な紛争解決にどのように機能しているかを理解し、議論ができる。【態度・習慣】【倫理観】				3			3				3
③	民事訴訟の基本的構造や原理（処分権主義、弁論主義、既判力等）を理解し、具体的事例の結論を導き出すことができる。【知識】【技能】				3			3				3
④	具体的事例について、法律上の論点を理解した上で、資料を参考にしながら、実際の法文書を作成することができる。【技能】				3			3				3
⑤	学習した知識を使って、具体的事例について、民訴手続上の問題点を抽出し、説明し、議論ができる。【態度・習慣】【技能】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し、自己の意見を明瞭、的確に述べることができたか、正確かつ簡潔で分かり易い文章を作成できたか等を評価する。				30	20						50
授業への参画度	十分な予習をして、各回の学習内容への取組みをしたか、授業において積極的に発言したか、発言内容は適正なものであったか等を評価する。法文書の起案では、文書作成への意欲、積極性も評価する。	10	10	30								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	30	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
法文書起案では、授業中に、各学生が作成した起案内容を確認する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:00～15:30 研究室（13号館5階1355号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官（東京高裁、東京地裁等）として裁判実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、裁判実務の実態を説明しながら、民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民事訴訟のイメージ・当事者（１）	典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示と訴状の見本、当事者の特定	
	この回の到達目標	民事訴訟事件の典型例をみて、実際の民事訴訟を疑似体験疑似的に体験する。 訴状の見本から何が記載されているかをみて、その意味が説明できるようにする。 民事訴訟における当事者の意味と特定を理解し、説明ができるようになる。	
	事前学修	各自が所持している民事訴訟法の参考書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
2	民事訴訟のイメージ・当事者（２）	当事者能力 訴訟能力 法定代理人と訴訟代理人	
	この回の到達目標	民事訴訟の当事者となる者を理解する。 当事者能力と訴訟能力の違いを理解し、説明ができるようになる。 法定代理人、訴訟代理人を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
3	民事訴訟の構造（１）	訴えと請求 請求の趣旨 訴訟物	
	この回の到達目標	訴えと請求を理解する。 請求の趣旨の具体例を説明できるようになる。 訴訟物の意義・役割を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメを読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
4	民事訴訟の構造（２）	請求原因 証拠の提出 主張立証責任	
	この回の到達目標	請求原因の意義を理解し、具体例を説明できるようになる。 証拠の役割と主張立証責任を理解する。	
	事前学修	レジュメを読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
5	法文書起案（１）	訴状（貸金請求）の起案	
	この回の到達目標	第１回～第４回の授業を前提として、簡単な訴状作成を試みる。	
	事前学修	第１回～第４回の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。	120分
6	民事訴訟の構造（３）	被告の答弁、被告の主張	
	この回の到達目標	請求の趣旨に対する答弁、被告の主張（自白、否認、抗弁）の意義を理解する。 簡単な要件事実を理解する。	
	事前学修	レジュメを読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	訴訟要件		訴訟要件全般 訴訟の形態と訴訟要件
	この回の到達目標	訴訟要件を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
8	処分権主義と弁論主義（１）		処分権主義の意味と内容 弁論主義の第１～第３テーゼの内容と民訴法１７９条
	この回の到達目標	処分権主義の意味と内容を理解する。 弁論主義の第１～第３テーゼを理解し、具体的事例を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
9	処分権主義と弁論主義（２）		弁論主義の機能 弁論主義と裁判所の釈明権・釈明義務、消極的釈明と積極的釈明
	この回の到達目標	具体的事例における弁論主義の機能、特に裁判所の釈明権と釈明義務について理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
10	法文書起案（２）		答弁書・準備書面（貸金請求）の起案
	この回の到達目標	第６回～第９回の授業を前提として、簡単な答弁書又は準備書面作成を試みる。	
	事前学修	第６回～第９回を復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。	120分
11	証明と証拠（１）		証明の意義 本証と反証 法律上の推定と事実上の推定
	この回の到達目標	証明の意味について理解する。 本証と反証を具体的に説明できるようになる。 法律上の推定と事実上の推定を理解し、具体的事例を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
12	証明と証拠（２）		文書の証拠調べ 書証の成立、形式的証拠力と実質的証拠力 二段の推定
	この回の到達目標	文書の証拠調べの実際と役割を理解し、説明できるようになる。 書証の成立を理解する。 二段の推定を理解し、具体的事例で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	判決と既判力（１）	判決の意義 既判力の意義	
	この回の到達目標	判決がどのように言い渡されるかを説明できるようになる。 既判力の意義を理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
14	判決と既判力（２）	既判力の作用 既判力の及ぶ範囲	
	この回の到達目標	既判力の作用について説明できるようになる。 既判力が及ぶ範囲について説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
15	法文書起案（３）	簡単な判決内容の起案	
	この回の到達目標	第１回～第１４回の授業を前提として、簡単な判決内容（判決形式ではなく、判断の要旨を書く。）の作成を試みる。	
	事前学修	１回から１４回までの学習を振り返っておくこと。	120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)B	担当者	中西 茂	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
「民事手続法」とあるが、内容は、民事訴訟法である。 この授業では、民事訴訟法の基本的な事項について、実践的な文章作成（訴状や和解条項等の法文書の作成）も併せて、学修する。 説明は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にし、法文書作成は見本をもとに文書を起案するものとするが、授業で取り上げる内容は、民事訴訟法の実際の場面を想定するので、入門レベルにとどまらない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法は、普通の社会生活の中では登場しないので、法曹に進むのでない限り、生活や仕事に直接役に立つものではない。 この授業は、法曹を希望する者にとっては、民事訴訟法学習の第1歩として、基本的な事項の理解ができるようになるのが目的である。法曹を希望していない者にとっては、民事訴訟・民事裁判では、どのような思考や論理のもとで、どのようなことが行われているかを知り、簡単な法文書を作成することによって、その一端を経験することが目的である。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本的に講義形式をとるが、できるだけ多くの具体的な事例を用いて、説明する。可能な限り、毎回の授業の中でも、学生が文書を作成する機会を設ける。 5回ごとに法文書起案の授業とする。起案の回では、当日提示される問題に対して、学生は授業時間内に訴状等の法文書を作成することが求められる。 講義資料（レジュメ）はできるだけ理解しやすいもの、読みやすいものを作成し、授業の場で配布（第1回は第1回授業で、その後は次回以降分を配布）する。レジュメは、classroomにも掲載をする。授業の中で民事訴訟法の条文を読むので、授業には必ず六法を持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で説明した内容を含む法文書の起案を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事裁判手続の概括的な流れを理解し、説明することができる。【知識】【態度・習慣】				3			3				3
②	民事裁判の実際を知り、民訴法が適正な紛争解決にどのように機能しているかを理解し、議論ができる。【態度・習慣】【倫理観】				3			3				3
③	民事訴訟の基本的構造や原理（処分権主義、弁論主義、既判力等）を理解し、具体的事例の結論を導き出すことができる。【知識】【技能】				3			3				3
④	具体的事例について、法律上の論点を理解した上で、資料を参考にしながら、実際の法文書を作成することができる。【技能】				3			3				3
⑤	学習した知識を使って、具体的事例について、民訴手続上の問題点を抽出し、説明し、議論ができる。【態度・習慣】【技能】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し、自己の意見を明瞭、的確に述べることができたか、正確かつ簡潔で分かり易い文章を作成できたか等を評価する。				30	20						50
授業への参画度	十分な予習をして、各回の学習内容への取組みをしたか、授業において積極的に発言したか、発言内容は適正なものであったか等を評価する。法文書の起案では、文書作成への意欲、積極性も評価する。	10	10	30								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	30	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
法文書起案では、授業中に、各学生が作成した起案内容を確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:00～15:30 研究室（13号館5階1355号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官（東京高裁、東京地裁等）として裁判実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、裁判実務の実態を説明しながら、民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	一部請求		一部請求の意義 一部請求の既判力 後遺障害の発生と既判力	
	この回の到達目標	一部請求の意義を理解し、その機能や問題点を説明することができる。 一部請求の既判力について、後遺障害との関係で、その問題点を議論できる。		
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。		120分
2	請求の客観的併合、訴えの変更、反訴（１）		請求の客観的併合 訴えの変更の意義	
	この回の到達目標	請求の併合の意義と３つの態様について理解し、説明することができる。 訴えの変更の意義、要件を理解し、説明することができる。		
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。		120分
3	請求の客観的併合、訴えの変更、反訴（２）		訴えの変更の要件・効果 反訴 中間確認の訴え	
	この回の到達目標	訴えの変更の要件と効果を理解し、説明できるようになる。 反訴と中間確認の訴えを理解する。		
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。		120分
4	共同訴訟（１）		通常共同訴訟、主観的予備的併合、同時審判の申出	
	この回の到達目標	共同訴訟における基本原則や機能を理解し、説明することができる。		
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。		120分
5	法文書起案（４）		訴状（損害賠償）の起案	
	この回の到達目標	これまでの授業を前提として、訴状（損害賠償請求）の作成を試みる。		
	事前学修	これまでの授業内容（特に第１６回）を復習しておくこと。		120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。		120分
6	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟	
	この回の到達目標	具体的な事例の中で、共同訴訟の特有な論点について議論することができる。		
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	参加（１）		共同訴訟参加、訴えの主観的追加的併合、補助参加
	この回の到達目標	共同訴訟参加の要件、機能について説明することができる。 補助参加の要件、機能について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
8	参加（２）		訴訟告知、独立当事者参加
	この回の到達目標	訴訟告知の意義を理解する。 独立当事者参加の要件、問題点等を具体的な事例の中で説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
9	訴訟承継		当然承継と特定承継、訴訟承継主義
	この回の到達目標	当然承継の意義を説明することができる。 特定承継、訴訟承継主義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
10	法文書起案（５）		訴状（賃貸借）の起案
	この回の到達目標	これまでの授業を前提として訴状（賃貸借の終了）を作成する。	
	事前学修	これまでの授業内容（特に第１９回）を復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。	120分
11	裁判によらない訴訟の完結（１）		訴えの取下げ、請求の放棄・認諾
	この回の到達目標	判決以外による紛争解決手段の実際を知り、その社会的機能について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、業内容を復習すること。	120分
12	裁判によらない訴訟の完結（２）		和解
	この回の到達目標	和解をする理由、役割を理解する。 和解の方法と効力について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	上訴（１）	控訴・上告の意義、確定遮断効と移審、上訴不可分の原則、上訴の利益	
	この回の到達目標	上訴制度の意義、機能、基本原則等について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、授業内容を復習すること。	120分
14	上訴（２）	不利益変更の禁止、控訴審の審理	
	この回の到達目標	上訴による不利益変更の禁止について、具体的に説明をすることができる。	
	事前学修	レジュメ、参考書を読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書に基づき、業内容を復習すること。	120分
15	法文書起案（６）	和解条項の起案	
	この回の到達目標	これまでの授業を前提として、和解条項を作成する。	
	事前学修	これまでの授業内容（特に第２７回）を復習しておくこと。	120分
	事後学修	授業で提示された問題を見直し、授業中にできなかった部分を中心に、復習をすること。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(Googleclassroom)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び開設を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法<1> 第2版 民法総則』	小野秀誠、良永和隆 他3名	法律文化社	2023	教科書	必携
『民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]』	潮見佳男・道垣内弘人編	有斐閣	2018	参考書	推奨
『民法①総則 判例30』	原田昌和・秋山靖浩 他	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、民法の体系と概要	民法の体系を概観し、私法の一般法・民法の体系・民法の各編の概要と関係について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の体系について簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書序「民法を学ぶあたって 民法の体系の概観」を読んで、民法の体系について内容を確認しておく。	120分
	事後学修	民法の各編の概要についてまとめ、各編の関係についてノートにまとめておく。	120分
2	民法の法源	民法の法源：民法典、民法の特別法、民法の口語化、慣習法・判例法・条理、民法の解釈：解釈基準、民法の効力について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈基準の基礎的な考え方について説明し、簡単な文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法の法源、民法の解釈、民法の効力」を読んで、慣習法・判例法・条理の違いについてまとめておく。	120分
	事後学修	講義中に示された判例の事案と判旨をまとめ、民法の解釈基準についての考え方をノートにまとめておく。	120分
3	民法上の権利	民法上の権利：権利の体系、私権の種類、私権の行使・信義則・権利の濫用の禁止、民法の指導原理と効力：民法の基本原則・指導原理、民法1条について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における権利の種類について説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法上の権利、民法の指導原理と効力」を読んで、民法の基本原則と指導原理についてまとめておく。	120分
	事後学修	私権の種類についてノートにまとめ、民法1条の基本的な考え方について整理しておく。	120分
4	民法における能力	権利能力：権利能力の意義、権利能力の始期、胎児、権利能力の終期、意思能力と行為能力(制限行為能力者制度)：意思能力、制限行為能力者制度、未成年者について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における能力の種類につき説明し、文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第2章人「権利能力、意思能力と行為能力(意思能力、制限行為能力者制度の意義と行為能力、未成年者)を読んで、権利能力・意思能力・行為能力の違いについてまとめておく。	120分
	事後学修	未成年者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
5	意思能力と行為能力	意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力と行為能力の違いについて文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第2章人「意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を読んで、成年後見制度についてまとめておく。	120分
	事後学修	高齢者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
6	失踪宣告	住所：住所、居所・仮住所、不在者の財産管理、失踪宣告：失踪宣告の意義・失踪宣告の要件・失踪宣告の効果・失踪宣告の取消しと遡及効について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、住所、居所・仮住所、失踪宣告などについて説明することができる。	
	事前学修	教科書第2章人「住所、不在者の財産管理、失踪宣告」を読んで、失踪宣告の手続きについてまとめておく。	120分
	事後学修	失踪宣告が必要とされる場面について整理をし、簡単な説明ができるようにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法律行為		法律行為の意義：法律行為の意味、法律行為の分類、法律行為の成立、準法律行為、法律行為の解釈：当事者の真意の探求と信義則、事実たる慣習、任意法規について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の法的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の意義、法律行為の解釈」を読んで、法律行為とは何かについて考えてみる。		120分
	事後学修	法律行為の意味、法律行為の分類についてノートにまとめ、具体的な事例にどのようなものがあるかについて考える。		120分
8	公序良俗		法律行為の限界－強行規定および公序良俗：法律行為の限界、公序良俗、公序良俗の分類、強行規定、取締規定、脱法行為について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公序良俗の考え方について説明し、事例をあげることができる		
	事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の限界－強行規定および公序良俗」を読んで、強行規定と任意法規の違いについて考えてみる。		120分
	事後学修	公序良俗が適用される具体的な場面について、教科書を復習しつつノートにまとめる。		120分
9	意思表示		意思表示の意義と構造：意思表示とは何か、意思の不存在と瑕疵ある意思表示を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の不存在と瑕疵ある意思表示の違いについて具体的な事例を挙げながら説明することができる、		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の意義と構造、意思表示の意義」を読んで、意思表示の構造について内容を確認する。		120分
	事後学修	意思表示の基本的な考え方について整理するとともに、具体的な事例をあげて基礎的な説明ができるようにしておく。		120分
10	心裡留保、虚偽表示		意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保と虚偽表示について具体的な事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示」を読んで、心裡留保と虚偽表示の違いについて考えてみる。		120分
	事後学修	心裡留保と虚偽表示の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。		120分
11	錯誤・脅迫		意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤・詐欺・脅迫について具体的な事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第6章「意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫」を読んで、詐欺と強迫の違いについて整理する。		120分
	事後学修	詐欺と強迫の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。		120分
12	意思表示の効力		意思表示の効力発生時期：問題点、問題へのアプローチ、民法が採用する考え方、表意者の死亡・意思能力の喪失・行為能力の制限、意思表示の受領能力について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の効力発生時期について具体的に文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の効力発生時期」を読んで、何が問題となっているのかについて整理する。		120分
	事後学修	意思表示の効力発生時期について、具体的な場面を想定して、その解決方法を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	前半講義まとめ		第1回講義から第12回講義までのまとめを行うとともに、これまでの質問に対する解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を理解することができる。		
	事前学修	これまでの授業で分からなかったところを書き出しておく。		120分
	事後学修	これまでの授業を通して分かったことをノートにまとめておく。		120分
14	代理の意義		序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為(代理既定の適用範囲)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理の基本的考え方について説明することができる。		
	事前学修	教科書第7章代理「序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。		120分
	事後学修	代理の意義、代理の種類について整理し、具体的な契約の場面で想定される代理についてインターネットで検索する。		120分
15	代理の法律関係		代理の法律関係：代理権(本人・代理人間)、代理行為(代理人・相手方間)、代理行為の効果(本人・相手方間)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権・代理行為・代理行為の効果について具体的事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第7章代理「代理の法律関係：代理権、代理行為、代理行為の効果」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。		120分
	事後学修	代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。		120分
16	復代理		復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理と復代理の違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第7章代理「復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係」を読んで、復代理の法律関係について図式化してみる。		120分
	事後学修	復代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。		120分
17	無権代理の意義		無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権」を読んで無権代理の仕組みについて整理しておく。		120分
	事後学修	無権代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、無権代理の法律関係が説明できるようにまとめる。		120分
18	無権代理と相続		無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の発展的事例について具体的事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理」を読んで無権代理人の責任について整理しておく。		120分
	事後学修	無権代理人と相続について、講義で紹介された判例について事案と判旨をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	表見代理の意義	表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理」を読んで表見代理の仕組みについて整理しておく。	120分
	事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、表見代理の法律関係が説明できるようにまとめる。	120分
20	表見代理の類型	表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の類型について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係」を読んで代理権消滅後の表見代理について法律関係を整理しておく。	120分
	事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、無権代理と表見代理の関係について説明できるようにまとめる。	120分
21	無効と取消し	無効と取消し：無効取消しの概念(2つの効果の相違、無効と取消しの二重効、無効または取消しの効果)、無効、取消しについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しの違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第8章「無効と取消し：無効取消しの概念、無効、取消し」を読んで、無効と取消しの違いについて整理しておく。	120分
	事後学修	具体的な契約事例ごとに、無効と取消しの法的効果がいずれが該当するかについて整理する。	120分
22	条件と期間	付款の意義、条件(条件の意義、停止条件と解除条件、条件に親しまない行為、条件付き法律行為の効力、特殊な条件)、期限(期限の意義、条件と不確定期限、期限に親しまない行為、期限付き法律行為の効力、期限の利益)、期間(期間の意義、期間の計算方法)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期間の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第9章条件と期限、期間「付款の意義、条件、期限、期間」を読んで、契約に条件が付けられる場合について具体的な事例をあげてみる。	120分
	事後学修	条件付き契約の類型について整理するとともに、具体的な契約の場面について書き出してみる。	120分
23	時効制度の意義	時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄(時効の援用と援用権者、時効利益の放棄)、時効の完成猶予と時効の更新(時効障害事由の再構成、時効の完成猶予と完成猶予事由、時効の更新、時効の完成猶予または時効の更新の及ぶ者の範囲)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第10章時効「時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄、時効の完成猶予と時効の更新」を読んで、時効の存在理由についてまとめる。	120分
	事後学修	時効の援用と利益の放棄、完成猶予と更新について、具体的な事例をあげて考え方を整理する。	120分
24	取得時効	取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第10章時効「取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効」を読んで、取得時効の類型について整理する。	120分
	事後学修	取得時効について考え方を整理したうえで、具体的事例をあげて考え方を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	消滅時効	消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第10章時効「消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度」を読んで、消滅時効を類型別に整理する。	120分
	事後学修	消滅時効について、具体的事例をあげて要件・効果をノートに整理する。	120分
26	法人の種類	序説：法人の種類、法人の設立について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の種類について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第3章法人「序説：法人の種類、法人の設立」を読んで、法人の種類を整理しておく。	120分
	事後学修	興味のある法人を選んで、当該法人の種類を調べるとともに、法人の設立について整理しておく。	120分
27	法人の能力	法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の能力について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第3章法人「法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人」を読んで、法人の能力であげられる具体的事例を整理する。	120分
	事後学修	一般法人と公益法人の違いについて整理するとともに、法人の能力について類型別に整理する。	120分
28	権利の客体	権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権利の客体について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第4章物「権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実」を読んで、それぞれの類型別に整理する。	120分
	事後学修	権利の客体である「物」を具体的事例をあげて再度整理をし直す。	120分
29	判例解説	講義のまとめと、民法改正、最近の判例についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例について文章にまとめることができる。	
	事前学修	これまでの講義についてよくわからなかったところを書き出しておく。具体的事例に対する条文の適用で不明確な点を整理しておく。	120分
	事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
30	民法総則のまとめ	これまでの講義のまとめるとともに、質問に対する解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでわからなかったことが理解でき、ノートに文章をまとめることができる。	
	事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第29回の講義での解説で残された疑問点を整理し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的事項に関する講義を前提として、事例についての質疑応答を行いつつ授業を進める。 出席管理システム（レスポ）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・出席管理システム（レスポ）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。 ・教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	10							50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法の基礎 1 総則 [第 5 版]	佐久間毅	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:00～13:00（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館423号室） メールアドレス： kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，民法総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 民法とはどのような法律かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
	事前学修	授業の対象となる領域を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
2	法体系における民法の位置，民法の全体像	民法総則の基本事項の確認，民法の全体像	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法総則の基本事項や民法の全体像について説明できる。	
	事前学修	教科書・配布資料等を参考にして，どのような内容を学修するかを知る。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
3	権利能力の主体 1（権利能力の意義）	権利主体としての人に関する権利能力に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，権利主体に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで，事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
4	権利能力の主体 2（失踪宣告）	失踪宣告に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，失踪宣告に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで，事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
5	法律行為 1（法律行為の意義）	法律行為に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法律行為に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで，事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
6	法律行為 2（法律行為の解釈）	法律行為の解釈に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法律行為の解釈について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで，事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意思能力・行為能力1（意思能力・行為能力の意義）	意思無能力、制限行為能力に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思無能力や制限行為能力を理由に法律行為の効力が否定される場合について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
8	意思能力・行為能力2（論点講義）	意思能力・行為能力に関する論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力・行為能力に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
9	心裡留保・虚偽表示1（心裡留保・虚偽表示の意義）	民法93条および94条に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保および虚偽表示に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
10	心裡留保・虚偽表示2（第三者保護の問題）	民法93条および94条における第三者保護について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の無効と第三者保護に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
11	錯誤	民法95条に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤理由とする意思表示の取消しに関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
12	詐欺・強迫	民法96条に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺または強迫を理由とする意思表示の取消しに関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	法律行為の有効要件1（強行法規と任意法規）		法律行為の有効要件に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の無効原因に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
14	法律行為の有効要件2（公序良俗による内容規制）		公序良俗による内容規制に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公序良俗に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
15	無効・取消し		無効と取消しに関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効・取消しに関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	筆記試験の問題を見直し、民法上問題となる点などを整理し、解答を準備する。	120分
	事後学修	解説講義の内容を参考に、自分の答案について見直しを行う。	120分
16	小括		これまでの内容に関するまとめ講義を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
17	代理1（代理総論）		代理に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
18	代理2（有権代理論）		有権代理に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、有権代理に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	代理 3（無権代理論）	無権代理の法律関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
20	代理 4（表見代理）	表見代理に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
21	代理 5（判例検討）	判例の検討を通じて、代理の法律関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
22	条件と期限	条件と期限に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件・期限に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
23	時効 1（時効総論）	時効に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
24	時効 2（時効の完成）	時効の完成に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の完成に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	教Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効3（時効の完成猶予、更新）	時効の完成猶予または更新について学修する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の完成猶予・更新に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
26	時効4（時効の援用、時効利益の放棄）	時効の援用、時効利益の放棄について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の援用等に関する基本的事項を理解し、これらを適切に説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて基本的事項について説明できるようにする。	120分
27	授業内試験、解説	筆記試験および解説講義を通じて、民法総則に関する基本的知識を復習し、事例問題の解答方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する主要な問題点について、民法の規定に基づいて、論理的な解答をつ作成できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習する。	120分
	事後学修	教科書、ノート等を参考に試験問題を見直す。	120分
28	発展講義	授業内試験の結果を踏まえて、民法総則の内容を総括するとともに、発展的な問題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する複数の論点にまたがる問題について回答することができる。	
	事前学修	筆記試験の問題を見直し、民法上問題となる点などを整理し、解答を準備する。	120分
	事後学修	解説講義の内容を参考に、自分の答案について見直しを行う。	120分
29	民法の現代的課題	現代的問題を題材に、民法の現代的問題を検討する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の現代的課題の概要を説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、現代における諸問題を整理し、検討する。	120分
	事後学修	授業で得た知見を基に、現代的問題について自分なりの考えをまとめる。	120分
30	民法の現代的課題	現代的問題を題材に、民法の現代的問題を検討する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の現代的課題の概要を説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、現代における諸問題を整理し、検討する。	120分
	事後学修	授業で得た知見を基に、現代的問題について自分なりの考えをまとめる。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書と六法を手元に用意し、Google Classroomにて配信するレジュメ等の講義資料を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義を受けながらレジュメの穴埋めを行い、また、毎回課される小テストにおいて、授業で得た知識をアウトプットしてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容を踏まえた毎回の小テストにより，到達目標①②③④についての理解度を確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト解答後に問題の解説文を表示するほか，基礎編と発展編の各まとめにおいて，誤答の多かった問題を講義において説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔第2版〕	中舎寛樹	日本評論社	2018	教科書	必携
民法入門・総則〔第5版〕	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，基礎①前半：民法の構造と歴史	履修条件を満たし得ることを確認した上で，シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標，授業方法，成績評価の基準，教科書・参考書について説明し，次回以降，受講生が授業に参加できるよう，その準備や心構えを促すとともに，民法の構造と歴史について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法の構造と民法の歴史について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認し，授業概要を踏まえつつ，各回の授業内容を読み込む。	120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し，教科書・参考書・六法・ノートの購入等，受講に向けた具体的準備を行うとともに，教科書第1章・第2章（1～26頁）を読み，授業のテーマについて再検討する。	120分
2	基礎①後半：民法における権利の主体と客体	民法における権利の主体と客体について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法における権利の主体と客体について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章・第4章（27～59頁）を読み，特に，民法における権利の主体と客体について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
3	基礎②前半：法律行為の構造と解釈	権利変動の原因と法律行為，法律行為の種類，準法律行為，法律行為の成立要件・有効要件について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第5章・第6章（60～87頁）を読み，法律行為の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
4	基礎②後半：法律行為の効力の発生時期	法律行為・意思表示の効力発生時期，契約の成立時期，条件，期限について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の成立，条件・期限について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章（88～111頁）を読み，契約の成立，条件・期限について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
5	基礎③前半：契約の無効原因，意思能力，行為能力①	法律行為遵守の原則を説明した上で，法律行為の実現不可能性，法律行為の不完全性について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の無効原因について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章（112～126頁）を読み，契約の無効原因について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
6	基礎③後半：行為能力②，意思能力	意思無能力，制限行為能力者制度，成年後見制度，任意後見制度について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，意思能力，行為能力について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章（127～152頁）を読み，意思能力，行為能力について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	基礎④前半：虚偽表示	意思表示の意義・構造・基本原理について説明した上で、心裡留保、虚偽表示について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、虚偽表示について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章～第12章（153～191頁）を読み、特に、虚偽表示について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	基礎④後半：錯誤	錯誤の意義・要件・効果、基礎事情錯誤について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、錯誤について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章（203～222頁）を読み、錯誤について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	基礎⑤前半：詐欺・強迫	詐欺、強迫、第三者の保護について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、詐欺・強迫について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章（223～231頁）を読み、詐欺・強迫について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	基礎⑤後半：公序良俗	強行法規違反、公序良俗違反の意義・効果について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、強行法規、公序良俗について説明できる。	
	事前学修	教科書第16章（246～270頁）を読み、強行法規、公序良俗について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	基礎⑥前半：無効・取消し	無効の多様化、無効行為の転換、取消後の法律関係、二重効について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無効・取消しについて説明できる。	
	事前学修	教科書第17章（271～297頁）を読み、無効・取消しについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	基礎⑥後半：代理総論	他人による法律行為の諸態様、代理の意義・要件、代理権の授与、代理権濫用、代理行為について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代理の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち298～333頁を読み、代理の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基礎⑦前半：無権代理，表見代理	無権代理，表見代理の意義・効果，代理権授与表示による表見代理，権限外行為の表見代理，代理権消滅後の表見代理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，無権代理について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち333～379頁を読み，無権代理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
14	基礎⑦後半：時効総論	時効制度の存在理由を，時効の法律構成，時効の完成，時効援用，時効利益の放棄について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，時効の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち380～400頁を読み，時効の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
15	基礎⑧前半：取得時効，消滅時効	所有権の取得時効，所有権以外の財産権の取得時効，消滅時効の対象となる権利，消滅時効の期間・起算点，消滅時効に類似する制度について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取得時効と消滅時効の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち400～429頁を読み，取得時効，消滅時効について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
16	基礎⑧後半：団体の法理	法人の意義・必要性・種類，法人制度の改革，法人の設立・組織，法人の能力・代表，法人制度と実体との調整について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法人制度の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第20章（430～470頁）を読み，団体の法理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
17	基礎⑨前半：一般条項	私権行使の基本原則，信義誠実の原則，権利濫用の禁止について説明し，理解させるとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，一般条項について説明できる。	
	事前学修	教科書第21章（471～491頁）を読み，一般条項について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
18	基礎⑨後半：まとめ（基礎編）	全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させるとともに，基礎編全体を対象とする中間の小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書の各章のうち，無受講等により理解が不十分であった箇所を読み直し，中間テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
	事後学修	中間テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	発展①前半：民法の解釈と契約の解釈	民法の解釈，法律行為の解釈，法律行為の補充・修正について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法の解釈と契約の解釈について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章（74～87頁）を読み，民法の解釈と契約の解釈の違いについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
20	発展①後半：民法94条2項類推適用	不動産取引と登記の公信力，判例による民法94条2項類推適用の発展過程，類推適用の要件・射程範囲，権利概観法理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法94条2項の類推適用法理について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち191～200頁を読み，民法94条2項の類推適用法理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
21	発展②前半：取消後の第三者	基礎編で扱った，詐欺による意思表示の取消前に出現した第三者の保護のあり方（取消前の第三者）を踏まえて，取消後に出現した第三者の保護のあり方（取消後の第三者）について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，取消後の第三者について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち200～202頁を読み，取消後の第三者について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
22	発展②後半：消費者契約法	消費者契約法の目的・対象を説明した上で，誤認取消し，困惑・過量取引取消し，不当条項規制について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，消費者契約法について概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書第15章（232～245頁）と第16章のうち255～258頁を読み，消費者契約法について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
23	発展③前半：名義貸し・なりすまし	代理に関連し，他人による法律行為をめぐる諸問題として，「名義貸し」と「なりすまし」が行われた場合の民事法的処理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，「名義貸し」と「なりすまし」について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち358～360頁を読み，名称の使用許可について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
24	発展③後半：無権代理と相続	無権代理人相続型，本人相続型，共同相続型，二重相続型，追認拒絶後相続型，後見人就任型について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，無権代理と相続の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち344～349頁を読み，無権代理と相続の問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	発展④前半：白紙委任状の濫用	白紙委任状の濫用の問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の諸問題のうち、特に、白紙委任状の濫用の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち349～362頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
26	発展④後半：民法110条の諸問題	権限外の行為の表見代理に関する民法110条の諸問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理規定のうち、特に、民法110条の諸問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち362～379頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
27	発展⑤前半：取得時効と登記	取得時効と登記の問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の諸問題のうち、特に、取得時効と登記の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち400～411頁をもう一度読み、取得時効の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
28	発展⑤後半：時効の援用権者	時効の援用権者について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の諸問題のうち、特に、時効の援用権者について説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち411～429頁をもう一度読み、消滅時効の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
29	発展⑥前半：成年後見制度の諸問題	障害者権利条約と意思決定支援、法定後見制度の問題点、任意後見制度の問題点について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、成年後見制度の諸問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章のうち135～152頁をもう一度読み、成年後見制度の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
30	発展⑥後半：まとめ（発展編）	全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させるとともに、発展編全体を対象とする最終の小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書の各章のうち、無受講等により理解が不十分であった箇所を読み直し、最終テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
	事後学修	最終テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）【法職課程】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。 もっとも、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。 私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および 債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。なお、法改正を踏まえ、最新のものを用意すること。

【授業方法】
講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルベイス民法入門 第5版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2024	教科書	推奨
民法の基礎1 総則 第5版	佐久間毅	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。		120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。		120分
2	民法の体系と位置づけ		民法は、一般に民法総則・物権・債権・親族・相続に分けられるが、それぞれの意義や機能が異なっている。これらの民法の体系について解説するとともに、特別法との関係など民法以外の法分野との関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の体系について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法には総則以外にどのような内容の条文が存在し、どのような意味を有するのか確認しておく。		120分
	事後学修	民法が営む機能について、公法や刑事法の分野とはどのように異なるのかを確認し、民法の位置づけについての理解を深め、自分なりに説明できるようにする。		120分
3	民法の基本原則		民法総則には、民法全体に及ぶ基本原則である信義則や権利濫用の禁止といった概念が規定されている。しかし、このような概念は抽象的であるため、判例などを通じて具体的にはどのように認められるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基本原則について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法総則の中でも信義則や権利濫用の禁止といった概念がどのようなものかを調べておく。		120分
	事後学修	授業内で言及した判例以外の関連判例を調べ、信義則・権利濫用の禁止等の基本原則が判例上どのように扱われているのかを調べる。		120分
4	自然人の権利主体性		民法を学ぶ上では、権利能力・行為能力・意思能力といった各概念を理解する必要がある。これらの能力について具体例や判例を交えながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力・行為能力・意思能力の関係性について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利義務の主体という概念がどのようなものであるか調べ、権利能力という用語の意味を調べておく。		120分
	事後学修	授業内で学習した内容を踏まえ、権利能力・行為能力・意思能力の意味内容のみならず、それぞれの関係について自分なりに説明できるようにする。		120分
5	行為能力の制限		一定の場合に行為能力が制限され、成年被後見人・被保佐人・被補助人といった制度が民法上規定されている。各概念の目的や内容について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行為能力が制限されることの趣旨や機能について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、行為能力が制限される必要性としてどのような場合か調べておく。		120分
	事後学修	行為能力の制限について、意思能力との関係がどのようなものであるか、例えば、行為能力の制限を受けていながら意思能力を有している場合がありえるかなどを検討する。		120分
6	不在者の財産管理		不在者が財産を有している際には、これを管理する必要がある。しかし、特に数年に及ぶ行方不明である場合には不在者の権利関係がそのまま残り、不都合が生じる場合がある。この場合に利用される失踪宣告について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不在者の財産を管理する必要性や制度について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不在者の財産を管理する必要性が生じるのはいかなる場合であり、その場合にどのような問題が生じるのかを確認する。		120分
	事後学修	失踪宣告がなされ、不在者が死亡したものと扱われたのちに、不在者の生存が確認された場合にはどのように扱われるのか、調べ、検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法人の権利能力		法人は現在の社会では欠くことのできない存在であるが、その性質上自然人とは異なった法理が適用される。法人に関する民法の規定を踏まえ、法人の権利能力に関して解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人の行為能力について、自然人の場合と比較しながら説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法人と自然人の概念の違いを確認し、法人を制度の趣旨を調べておく。		120分
	事後学修	法人にも類型が存在するが、民法上にはどのような類型の法人が存在するのかを確認したうえで、それぞれの制度趣旨の相違について検討する。		120分
8	権利の客体		権利の客体としての「物」に関し、動産・不動産の区別や主物・従物の区別を解説し、民法上の扱いを説明する。また、債権の客体についてもこの授業内で取り上げたい。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の対象としての客体やその性質について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利の客体としてはどのような具体例が存在するのか調べ、該当する条文を確認しておく。		120分
	事後学修	財産権には物権と債権が存在するが、物権の客体と債権の客体とではその性質がどのように異なるか、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようにする。		120分
9	法律行為概説		法律行為に共通することとして、法律行為の有効性や法律行為の概念がどのように扱われているかについて解説を行い、次週以降に解説する予定の意思表示との関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の概念と体系について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法律行為がどのような概念であるかを調べ、法律行為の類型を調べておく。		120分
	事後学修	法律行為と事実行為との関係について、それぞれの概念がどう異なっているか、法律上はどのように扱われるかを検討する。		120分
10	意思表示の意義・構造		意思表示は、動機・内心的効果意思・表示意思といった構造を有しており、その構造を解説するとともに、そのような構造を観念することの意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の仕組みと位置づけについて説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思表示が法律行為との関係においてどのような位置づけにあるのかを確認し、その意義を調べておく。		120分
	事後学修	意思表示の構造について、実際に自分が法律行為を行う場面を想定し、自分の行為がどの段階にあたるのかを確認し、法的な意味を考える。		120分
11	法律行為の無効と取消し		法律行為は無効あるいは取消される場合が存在するが、それぞれの法的な効果は異なっている。無効と取消しの意義を説明するとともに、法的な効果の違いを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しと無効の相違について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、無効と取消しの概念がどのような意義を有し、法的な効果がどのようなものであるかを確認する。		120分
	事後学修	法律行為の無効と取消しは、法律行為の構造と関係しており、無効原因と取消し原因が法律行為の構造との間ではどのような関係にあるかをまとめ、説明ができるようにする。		120分
12	意思の欠缺1		心裡留保及び虚偽表示に関して、法律行為の構造との関係を踏まえながら解説を行う。また、関連する判例が多く存在するため、判例の事実関係を踏まえながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思の欠缺に関連して、心裡留保や虚偽表示の趣旨や制度について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思の欠缺が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。		120分
	事後学修	心裡留保及び虚偽表示に関しては、意思の欠缺の問題ではあるが、各規定の趣旨が異なっている。法律行為の構造との関係を踏まえながらも、それぞれの規定が当事者の利害関係をどのように調停しているのかを検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	意思の欠缺2		錯誤及び錯誤に起因する各種の問題点について、昨今の議論を踏まえて解説する。特に、錯誤は第三者の保護との関係で重要な議論があり、第三者の保護の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の趣旨や制度について説明ができるとともに、改正前後の違いを説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回の授業の復習をするとともに、錯誤が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。		120分
	事後学修	錯誤の効果については、無効と取消しの相違に関連して重要な議論があり、各自の教科書等においてそれぞれの立場からの考え方を説明ができるようにする。		120分
14	瑕疵ある意思表示1		瑕疵ある意思表示として、詐欺及び強迫の条文解説から始め、瑕疵ある意思表示が意思の欠缺とはどのように異なるのか、及び、その違いが要件や効果にどのような影響を与えるものであるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の欠缺と瑕疵ある意思表示の相違を説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、法律行為の構造との関係では、どの段階の問題であるかを確認する。		120分
	事後学修	詐欺及び強迫に関し、瑕疵ある意思表示はその効果が取消しとされているが、これはどのような考慮によるものか。例えば、詐欺は刑法でも処罰対象となっているが、民法上の契約は当事者の意思に委ねられている理由は何か、検討する。		120分
15	瑕疵ある意思表示2		詐欺及び強迫は、同一の条文に規定されていながら、第三者の保護に関しては異なる取り扱いをしている。法が第三者を含めた各当事者の利害関係をどのように調整しているのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について、錯誤等の他の制度と比較しながら説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、第三者の保護に関してはどのような取り扱いがなされ、そこから読みとれる法の趣旨を考えておく。		120分
	事後学修	意思の欠缺及び瑕疵ある意思表示において、それぞれ各当事者の利害関係が異なっているが、法律効果にどのような影響を及ぼしているのか、整理し、自分なりに説明できるようにする。		120分
16	代理制度概説		代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度一般に関して説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理制度がどのような構造であるか、登場する当事者を確認し、条文を調べる。		120分
	事後学修	代理の要件について、一般的に3つの要件が必要であるが、これらの要件についてそれぞれが必要とされる趣旨及び欠けた場合の法律関係に関して検討する。		120分
17	無権代理		代理には3要件が存在するが、それぞれの要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無権代理の制度及び無権代理がどのような位置づけであるかについて説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理の要件のうち、いずれが欠けると無権代理となるのか、また、それはなぜか確認しておく。		120分
	事後学修	無権代理となるのは、代理人が勝手に代理人を名乗った場合だけでなく、代理人が過失なく代理権を証明できない場合も含むが、この場合に代理人を保護する方法はないか、検討する。		120分
18	表見代理1		前提となる、表見代理一般の法理論や制度趣旨について解説する。表見代理が相手方保護の法理であることや本人の利益をどの範囲で保護しようとしているかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表見代理一般について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、表見代理がどのような概念か、無権代理との関係を調べておく。		120分
	事後学修	表見代理の成否によって、無権代理の地位はどのような影響を受けるか検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	表見代理2	表見代理の一類型である、代理権授与表示の表見代理について解説する。どのような場合に本人の犠牲のもと相手方の保護が認められるのかを意識して学習してほしい。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法109条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法109条を調べ、表見代理の一類型を知るとともに、要件を確認しておく。	120分
	事後学修	代理権授与表示というものは、実際の判例ではどのようにして認められているのか、授業中に言及した判例の事実関係を意調べ、理解する。	120分
20	表見代理3	表見代理の一類型である、権限外行為の表見代理について解説する。また、民法110条は拡張されて適用される傾向にあり、民法110条が適用される特殊な場面として日常家事代理についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法110条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法110条を調べ、基本権限の概念を踏まえて、要件を確認しておく。	120分
	事後学修	民法110条の基本権限としてどのようなものが含まれるのか、授業中に言及した判例をもとに、検討する。特に、事実行為に関する権限が基本権限に含まれるかについて、関連判例を調べる。	120分
21	表見代理4	表見代理の一類型である、代理権消滅後の表見代理について解説する。また、民法109条と民法110条、民法110条と民法112条の重畳適用についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法112条の表見代理に関して、どのような制度であるか、民法109条及び民法110条との関係性について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法112条を調べ、代理権消滅後の表見代理の事実関係を把握し、要件を確認しておく。	120分
	事後学修	重畳適用について、授業中に言及した判例の事実関係を調べ、どのような事実が認められる場合に適用ができるかを検討する。	120分
22	条件・期限	停止条件、解除条件・停止期限、解除期限の概念について解説し、それぞれの機能や期限の利益喪失等といった関連する法律関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各条件・期限について制度の仕組みを説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、条件・期限の概念を調べ、契約においてどの段階で問題となる概念かを考えておく。	120分
	事後学修	条件・期限がそれぞれ契約に付与された場合にどのような意義を有するのか、検討し、説明できるようにする。	120分
23	時効制度1	事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度について解説する。そのうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について解説を行う予定である。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時効制度一般の趣旨について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、時効制度について、条文を調べ、その意義及び制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	時効制度の趣旨を復習し、時効によって不利益を受ける当事者が存在する場合に、それが正当化されるのか検討する。	120分
24	時効制度2	時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に解説する。また、所有権以外の取得時効についても、制度趣旨の相違を踏まえて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取得時効の要件及び効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、取得時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
	事後学修	時効制度の趣旨を踏まえ、債権の時効取得がなぜ可能か検討し、関連する判例を調べておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に解説する。消滅時効が、取得時効とはどのように異なり、制度趣旨や機能の相違を踏まえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消滅時効の要件及び効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消滅時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
	事後学修	時効の更新や完成猶予について、時効制度全体の趣旨との関連を踏まえて、どのような機能を有しているのか、説明できるようにする。	120分
26	時効制度4	時効と登記の問題や除斥期間について解説する。特に除斥期間は、時効とは異なった制度趣旨を有している類似した制度であり、注意する必要があるため、制度趣旨及びそこから導かれる機能を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効から派生する問題について、その問題点と適用条文等について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、除斥期間の概念を調べ、時効とはどのように異なる概念かを確認しておく。	120分
	事後学修	改正前の民法724条を調べ、時効と除斥期間のいずれであるかを検討し、説明できるようにする。	120分
27	複合的問題について	これまでに解説してきた総則の内容は、それぞれが完全に独立しているものではなく、複合的な問題となって生じる場合がある。簡単な事例問題を題材にし、今までに学習してきた知識を用いて法律関係を理解できるように講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、民法総則の各制度がどのように関係しているかについて説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに学習してきた内容が相互に関係することを理解し、今までに扱った判例等が複合的な問題を有していることを理解する。	120分
	事後学修	授業内で扱った事例や判例について、どのような条文が適用されているのか適用関係を検討し、実際に条文を引く条 文操作を行う。	120分
28	債権法改正	債権法改正の作業が行われ、今後施行される予定であるが、民法総則の分野でも法律行為や時効の範囲において改正が行われている。それぞれの改正がどのような趣旨で行われ、運用に影響を及ぼすものかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権法改正によって民法総則の規定がどのように影響を受けたのか説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正によって、民法総則のうちどの分野が改正されるのかを確認する。また、新旧の条文を確認することが望ましい。	120分
	事後学修	新旧の条文を比較し、どのように改正がなされたのかを確認し、授業で扱った判例の結論や論理構成に影響を与えるものであるか検討する。	120分
29	授業内試験及びまとめ	授業内で試験を行った後、民法総則のまとめとなる解説を合わせて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	授業内試験を行うため、配布したパワーポイントを確認し、復習を行う。	120分
	事後学修	授業内試験で扱った内容のうち、不明点を整理し、次回の授業までに質問ができるようにする。	120分
30	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
	事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
	事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	長谷川 貞之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
1年次および2年次以降の学生を対象とする。学修効果を上げるために、法学や法学演習、憲法・刑法を履修する（している）ことが望ましい。

【授業方法】		
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。 レジュメや資料を通じて 学修のポイントを示し、ビジュアルにかつ立体的に物事を把握すること、判例とその考え方をどきちゃんと理解すること、設例を挙げながら「事例問題を解く」とはどういうことかを具体的に体験しうることが、本講義の特徴である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書やレジュメ・教材資料などに記載の用語や概念、例題などについて、小テスト、課題の提出、文献調査などを通じて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。授業の方法がオンディマンド方式によるビデオ録画による場合には、試験に代わるレポートをもって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答、課題など（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	授業の方法がオンディマンド方式によるビデオ録画による場合には、定期試験に代わるレポートをもって評価する。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題などの解説・講評を、授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅰ——総則〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	山田卓生ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
民法1（有斐閣ストゥディア）	山本敬三（監修）	有斐閣	2021	その他	任意
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
水曜日・12時30分～50分、指定した教室。事前にアポイントを取ること。連絡用メールアドレス：hasegawa.sadayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】民法総則を学ぶ意義／民法とは？		私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法とはどのような法律か、また、民法典がどのような理念に基づいて編纂されたを理解し、説明することができる。	
	事前学修	六法を手に取り、ポイントとなる民法典の規定を人の一生という観点から概観する。併せて、教科書の全体を2・3回ほど通読する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
2	民法の基本原理、民法典の編別とパンデクテン体系		民法典の基本原理、理念と基本原理、民法典の編別などについて、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から、学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が権利の主体である人の権利・義務を、その誕生から死亡に至るまでを5つの編に分けながら、パンデクテン方式をもって体系化していることについて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、近代私法の諸原則——法律行為自由・所有権絶対・過失責任の各原則、および法的人格の平等——を把握しておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
3	権利能力・意思能力・制限能力		権利能力・意思能力・制限能力と相互の関係について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の主体である人の能力について、権利能力・意思能力・制限能力のそれぞれの意義と相互の関係について、ポイントとなる民法典の規定を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の主体である人（自然人）とは何か。人は出生から死亡に至るまでどのような法的地位を有するのかを、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
4	住所と失踪宣告、同時死亡の推定		権利の主体に関して、住所、失踪宣告、同時死亡の推定
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生活の本拠である住所の意義と、最後の住所地を去って行方が知れない者の法律関係について、不在者の財産管理、失踪宣告による身分・財産関係の整理という観点から、説明することができる。また、併せて、所有者不明の不動産について、不在者の財産管理の観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、人が活動する生活の本拠「住所」とは何か、人が行方不明になった場合の取扱いなどについて把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
5	制限行為能力者・成年後見制度——未成年者・事理弁識能力が欠如する者		到達目標①②に関連して、未成年者と事理弁識能力が欠如する者について、権利の主体の観点から、制限行為能力者制度および成年後見制度を学修する。
	この回の到達目標	制限行為能力者制度について、未成年者とそれ以外の事理弁識能力が欠如する者（3類型）を区別したうえで、民法典の規定を挙げながら、その概要を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、未成年者や事理弁識能力が欠如する者について、民法上、どのような処遇がなされるのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
6	法人制度概説		法人制度の意義と概略、その基本的な仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然人と並ぶ権利の主体である法人について、その意義を明らかにししたうえで、社団と財団、営利と非営利などに分類しながら、法人格を取得する手続を説明することができる。また、民法上の法人として、公益法人の設立、法律関係などを説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、自然人以外で権利能力の帰属主体となりうる法人について、公益・営利の観点から分類するとともに、法人制度の意義・内容について、その概要を理解しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	権利の客体		権利の客体に関して、物の分類・種類、不動産と動産、土地の定着物と従物・付合物・付加物の区別について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有体物を不動産と動産に区別する意義、不動産の定着物と従物・付合物・付加物との関係、地上建物（マンションを含む）などについて、民法典の規定を挙げながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の客体である「物」について、不動産・動産の観点から把握する。民法典には、不動産・動産と並んで、定着物・従物・付合物・付加物や果実などの分類もあるので、相互の関係に注意が必要である。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
8	権利の客体と無体物、知的財産		無体物と知的財産について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、無体物は民法上どのように扱われるのか、民法と特許・発明などの知的財産とはどのような関係にあるのか、民法その他の法律の規定を挙げながら、説明することができる。また、有体物主義の問題点を挙げて、無体物に関する権利のあり方について、議論することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物理的に触知しえない物（無体物）について、民法典はどのような取扱いをしているかを把握しておく。あわせて、無体物に対する権利にはどのようなものがあるか、これについても調べておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	法律行為制度——概説		意思表示における意思主義と表示主義、任意法規と強行法規について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思の自律と私的自治の原則の観点から、法律行為の意義を明らかにし、法律行為の種類・内容について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
10	公序良俗、強行法規		公序良俗違反の法律行為とその解釈などについて、法律行為の有効・無効という観点から学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、公序良俗違反の法律行為が無効とされる場合とはどのようなことをいうのか、法律行為の自由に対する制限について、わが国の裁判例を整理したうえで、具体的に説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
11	意思表示と法律行為——民法典における意思主義と表示主義		意思表示の意義、契約と法律行為との関係、意思表示における意思主義と表示主義について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の意味を明らかにしたうえで、契約と法律行為との関係について、意思主義と表示主義という観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
12	心裡留保と通謀虚偽表示		法律行為を構成する意思が欠如する場合に、民法典にはどのような規定が設けられているかを理解し、意思表示論の観点から、心裡留保と通謀虚偽表示について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法が規定する心裡留保・通謀虚偽表示とはどのようなことをいうのか、典型例を挙げながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	錯誤		法律行為に関する錯誤の意義と種類、動機の錯誤について、意思表示論の観点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為のの錯誤を内心的効果意思を中心に分類したうえで、動機などの前提条件に関する錯誤がどのように扱われるか、民法典の規定に即して、説明することができる。／また、近時の債権法改正に伴って改正された錯誤規定について、その概要を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
14	詐欺・強迫と消費者契約法		民法上の詐欺・強迫、および、沈黙による詐欺、不退去などを規定する消費者契約法について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法上の詐欺・強迫の意義、要件・効果を明らかにしたうえで、裁判例を検討し、また、その不備ないし限界を補うために消費者契約法に設けられた誤認・困惑などを理由とする取消しについて、その制度趣旨を理解し、民法上の詐欺・強迫との関係を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、消費者関連基本三法の1つである消費者契約法についても調べておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
15	法律行為の無効・取消と第三者の保護		法律行為の無効・取消に関して、第三者の保護が問題となる場面を取り上げて、善意者保護制度の観点から学修する。、	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が錯誤や詐欺・強迫などを理由に取り消された場合に、その事情を知らないで取引関係に入った第三者を保護するために民法典にはどのような規定が設けられているか、争われた裁判例の事案を紹介しながら、具体的に説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、法律行為が無効・取消となった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
16	代理制度——総論		代理制度の意義、代理の種類と類似する他の制度（委任、間接代理、信託など）について、私的自治の補充・拡張という観点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度の意義、代理の種類と構造について、民法典が定める代理は直接代理であることを理解し、他の類似する制度と比較・対比しながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理制度の意義について理解を深める。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
17	代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理		代理制度に関して、代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理の問題を取り上げ、これについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、代理権の濫用とはどのようなことをいうのか、また、代理権が濫用された場合の効果について、基本となる裁判例を挙げて、問題点を整理したうえで、具体的に説明し、または議論することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理権が濫用された場合の本人保護と相手方の関係について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
18	表見代理		代理における無見代理に関して、表見代が成立する場面を、表見代理の3種類の即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める表見代の意義、要件・効果について、過去の裁判例に現れた事案を整理し、説明するとともに、問題点について議論することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、適法かつ有効な有権代理と無権代理、および表見代理との関係について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	代理をめぐる解釈上の諸問題		代理をめぐる解釈上の問題のうち、代理と相続の問題を取り上げ、判例・学説の議論を踏まえながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、相続と代理をめぐる問題の3類型を整理しながら、その問題点を明らかにし、解決法理について説明し、議論することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理をめぐる解釈上の諸問題について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
20	法律行為の無効・取消し		法律行為の無効・取消しに関し、その意義と効果、取消しの遡及効、出費節約の法理、原状回復などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が無効となり、あるいは、取消権の行使により遡及的に無効とされる場合に、当事者間の法律関係と第三者との関係を、民法典の規定に即しながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
21	無効行為の転換		法律行為の無効に関し、無効の意味と無効行為の転換について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為の効力が全部または一部否定される場合に、無効な法律行為が他の目的のために存続する例を、教科書に挙げられた基本的裁判例を紹介しながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、無効行為の転換とはどのようなことをいうのか、無効行為の転換によって無効な法律行為が一定の要件のもとに有効とされる場合があるかを、検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
22	条件・期限、期間		民法典が定める条件・期限、および期間の意義と民法上の原則について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める条件・期限、および期間について、法律行為の効力発生要件という観点から、売買や金銭消費貸借などの基本となる契約を例に挙げながら、具体的に説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為の効力発生要件である条件・期限、および期間について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
23	時効一総論		時効の意義、時効制度が設けられた意義（存在理由）などについて、民法典の規定に即して、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効の意義、時効制度の存在理由について、時効の援用の意義を明らかにしながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度について調べてみよう。なぜこのような制度が必要とされるのか、時効制度の存在理由はどこにあるのか。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
24	時効と類似するその他の制度		時効と類似するその他の制度、時効と除斥期間との関係について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効と類似するその他の制度として、どのような制度があるか、また、時効期間と除斥期間はどのように区別して扱われるかについて、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効と類似する除斥期間などの制度を調べ、違いを検討してみよう。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	取得時効		時効制度のうち、取得時効の意義、要件・効果について、学修する。、
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の意義、要件と効果について、自主占有の意義、起算点と遡及効、所有権の原始取得などの点に留意しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効について理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
26	取得時効と即時取得		取得時効と即時取得との関係について、動産取引を例に挙げながら、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の目的物が動産である場合に、即時取得を定めた民法192条との関係について、判例・学説を整理し、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効と関連する即時取得について、理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
27	消滅時効		時効制度のうち、消滅時効の意義、要件・効果について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消滅時効の意義、要件と効果について、各種の債権を整理・分類しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、消滅時効について理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
28	時効制度と民法改正		債権法改正に関連して、時効制度の改正点と問題点、課題について整理し、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、時効制度が債権法改正に際してどのように改正されたのか、主要な改正点を理解し、その概要と問題点について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度の問題点などを検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
29	一般条項と民法典		民法典が定める一般条項につき、公共の福祉、信義則、権利の濫用を取り上げ、学修する。併せて、民法典を取り巻く私法の現状と課題について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、公共の福祉、信義則、権利の濫用の意義・概念を理解し、これらをめぐる代表的な裁判例を挙げて、具体的に説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、公共の福祉、信義則、権利の濫用のそれぞれの意義・概念について、基礎知識を得ておく。併せて、教科書に掲載の基本判例を調べてみる。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
30	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、民法総則の意義・内容を整理し、総括する。 (受講者数によっては、最終授業回において、授業内試験を行う)
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、民法に関する基礎知識を総則の規定を中心に整理し、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から私法の基本原理について、説明することができる。	
	事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
	事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	益井 公司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関連しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
授業に必ず出席し、その際、必ず六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	理解できているか、課題を出して、事例問題を自分だけで解決できるか確かめるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験の結果で評価する。90% 成績評価は 試験の結果(90%)と授業の参画度(10%)の合計100%で評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の際に質問をするので、その回答次第で加点する。10%程度		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
択一式問題や簡単な事例問題を解いてもらいc確実な知識の定着を図る。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・マルシェ民法総則	宮本健蔵編著	嵯峨野書院	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
木曜日の12時20分より13時20分までの時間帯でオフィスパワーを行う。もっともこの時間に来ることはできない場合には、講義の終わりに、どの時間が大丈夫か相談していただきたい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民法をどのように学習するか。	学習の仕方を中心とした講義のガイダンス（本を読む際には、なぜこうした制度が必要とされているのか、なぜ学説や判例はわかれているのかを考えるとともに、具体的なケースを想定しながらなぜそうした解決がなされているのかを理解すること）。	
	この回の到達目標	法律の勉強にの仕方について理解する。	
	事前学修	第一回目なので事前の予習は必要ないが、六法を持参すること。	120分
	事後学修	民法の学習の仕方を中心に、法律の学習の仕方、六法の使い方などを説明し、レジュメも配布するので、それをもう一度よく読んでいただきたい。	120分
2	民法とは何か。	民法とは何か、民法の基本原理とその修正（権利の乱用、審議誠実の原則）、法律行為の概略	
	この回の到達目標	民法の基本原理について理解する。	
	事前学修	民法とはなにかから始まって権利の濫用・信義誠実の原則等に至るまでの部分を事前に読んでおくこと。	120分
	事後学修	大判昭和10年10月5日民衆14巻1965頁（宇奈月温泉事件）、最判平成14年3月28日民衆56巻3号662頁（信義則）を検討すること。	120分
3	権利の主体	1 権利の主体 ①自然人 権利能力 意思能力	
	この回の到達目標	権利能力、意思能力について理解する	
	事前学修	権利能力、意思能力の部分をあらかじめ読んでおくこと。	120分
	事後学修	大判昭和7年10月6日民衆11巻2023頁（胎児の権利能力）、大判明治38年5月11日民録11輯706頁（意思能力のないものの行為）、最判昭和61年6月11日民衆40巻4号872頁（人格権）について検討すること。	120分
4	住所・不在者の財産管理・失踪宣告	住所 不在者の財産管理および失踪宣告 同時死亡の推定	
	この回の到達目標	不在者の財産管理・失踪宣告についてりかいする。	
	事前学修	住所 失踪宣告 同時死亡の推定について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	失踪宣告が取り消された場合の効果につき財産行為の場合と身分行為の場合に分け善意・悪意によって違ってくるのかなど学説を整理しておくこと。	120分
5	意思能力、未成年者	制限行為能力者制度 その1（意思能力と行為能力、行為能力と成年後見制度、未成年者、成年被後見人）	
	この回の到達目標	意思能力・行為能力につき理解する。未成年者、成年被後見人について理解する。	
	事前学修	意思能力と行為能力の関係について考えること。行為能力の制限と成年後見制度、未成年者の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	成年年齢がかわったが、これをどう考えるべきかを各人で考えてもらいたい。	120分
6	被保佐人・被補助人	その2（被保佐人、被補助人、任意後見制度、制限行為能力者と取引をした者の保護）	
	この回の到達目標	被保佐人、被補助人、任意後見制度、制限行為能力者と取引をした者の保護について理解する	
	事前学修	被保佐人、被補助人、任意後見制度、制限行為能力者と取引をした者の保護の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和44年2月13日民衆23巻2号291頁（制限行為能力者であることの黙秘は詐術になるか）を検討しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法人	②法人 その1（法人の社会的意義、法人の種類、法人制度の改革、法人の設立、法人の能力）	
	この回の到達目標	法人とは何かを理解する	
	事前学修	法人の社会的意義、法人の種類、法人制度の改革、法人の設立、法人の能力の部分について読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和41年4月26日民集20巻4号849頁（協同組合の院外貸付）、最大判昭和45年6月24日民集24巻6号625頁（会社の政治献金）、最判平成8年3月19日民集50巻3号615頁（税理士会の政治献金）、最判平成14年4月25日判時1785号31ページ（司法書士会の政治献金）について検討すること。	120分
8	権利能力なき社団、法人の組織	その2（権利能力なき社団、法人の組織）	
	この回の到達目標	権利能力なき社団、法人の組織につき理解する。	
	事前学修	権利能力なき社団、法人の組織の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和39年10月15日民集18巻8号1671頁（権利能力なき社団の成立要件）、最判昭和48年10月9日民集27巻9号1129頁（権利能力なき社団の取引上の債務）を検討すること。さらに時間があれば、山田誠一「権利能力なき社団」法学教室193号を読んで勉強すること。	120分
9	権利の客体	2 権利の客体 その1（物の意義〔有体物、支配可能性、非人格性〔肢体、臓器など〕、独立性・特定性〕）	
	この回の到達目標	物とは何かを理解する。	
	事前学修	物の初めの部分を教科書で確認し、読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメに挙げておいた判例等についても再度検討すること。	120分
10	動産・不動産	その2（動産と不動産、主物と従物）	
	この回の到達目標	動産・不動産の法的取扱いにつき理解する	
	事前学修	動産と不動産、主物と従物について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	大判大13年10月7日民集3巻476頁（一筆の土地の一部の取引）大判昭和10年10月1日民集14巻1671頁（建築中の建物）、最判平成2年4月19日判時1354号80頁（従物の例）について検討しておくこと。	120分
11	法律行為	3 法律行為の意義 法律行為とその解釈	
	この回の到達目標	法律行為とはなにかを理解する。	
	事前学修	法律行為の意義、法律行為の解釈に関する教科書の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和62年2月20日民集41巻1号159頁（法律行為の解釈と任意規定）、最判昭和58年3月18日判時1076号116頁（遺言の解釈）について検討すること。	120分
12	意思の欠缺	意思表示の構造 ①心裡留保 ②通謀虚偽表示 94条2項の類推適用	
	この回の到達目標	①心裡留保 ②通謀虚偽表示 94条2項の類推適用につき理解する。	
	事前学修	教科書の心裡留保、痛棒虚偽表示に関する部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	代理権の濫用に93条の類推適用により問題を処理していたが、民法改正により立法的な解決がなされていることを確認すること。最判昭和45年9月22日民衆24巻10号1424頁（民法94条2項の類推適用）、最判平成18年2月23日民衆60巻2号546頁（民法94条2項・110条の類推適用）について検討すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	錯誤	③錯誤、錯誤と担保責任、錯誤と事情変更の原則	
	この回の到達目標	錯誤における議論状況を理解する。	
	事前学修	教科書の錯誤の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判平成元年9月14日判時1336号93頁を検討すること。民法改正により、錯誤に効果はは無効ではなく、取り消しになっていることに注意が必要です。動機の錯誤や不実表示の問題等について検討すること。	120分
14	詐欺・強迫	④詐欺・強迫、消費者契約法による規律、意思表示の効力発生時期	
	この回の到達目標	詐欺・強迫につき理解する。	
	事前学修	教科書の詐欺・強迫の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和49年9月26日民集28巻6号1213頁（詐欺における善意の第三者の登記の必要性）、取消しと登記に関する問題を講義の中でまとめておくのでそれをもう一度よく検討しておくこと。	120分
15	公序良俗違反	⑤公序良俗違反、取締法規違反、動機の不法	
	この回の到達目標	公序良俗違反につき理解する。	
	事前学修	公序良俗違反、取締法規違反について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和35年3月18日民集14巻4号483頁（取締法規違反の効力）、最判昭和61年11月20日民集40巻7号1167頁（不倫な関係にある女性に対する包括遺贈）、最判昭和61年11月20日判時1220号61頁（ホステスの保証）について検討すること。	120分
16	代理	代理 ①代理の意義、代理の法的構造（①代理の基本構造、②代理と類似する制度、③代理の種類）、本人と代理人の関係（代理権授与行為）	
	この回の到達目標	代理の基本構造を理解する。	
	事前学修	代理の意義と存在理由、代理の法的構造について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	使用者と代理に関し、大判昭和9年5月4日民集13巻633頁（使用者とし95条により処理）と大判昭和2年3月23日新聞2677号7頁（表見代理（110条）により処理）とを比べてみよ。代理権授与行為の法的性質をどのように考えるべきかを検討せよ。	120分
17	代理	②代理人の義務、代理権の濫用 代理権の範囲 自己契約・双方代理・復代理 ③代理行為（代理行為の成立要件、代理行為の有効要件、代理行為の効果）	
	この回の到達目標	代理人の義務、代理権の濫用 代理権の範囲 自己契約・双方代理・復代理 ③代理行為（代理行為の成立要件、代理行為の有効要件、代理行為の効果）につき理解する。	
	事前学修	代理人の義務、代理権の濫用 代理権の範囲 自己契約・双方代理・復代理 代理行為（代理行為の成立要件、代理行為の有効要件、代理行為の効果）に関する教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	108条の拡張と縮小に関し、大判昭和7年6月6日民集11巻1115頁、大判昭和14年3月18日民集18巻183頁を検討せよ。また法定代理についての代理権濫用につき最判平成4年12月10日民集46巻9号2727頁も検討せよ。	120分
18	表見代理	④表見代理 その1（表見代理制度の意義、代理権授与の表示による表見代理）	
	この回の到達目標	表見代理制度の意義、代理権授与の表示による表見代理につき理解する。	
	事前学修	表見代理制度の意義、代理権授与の表示による表見代理について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	白紙委任状の問題につき、最判昭和42年11月10日民集21巻9号2417頁および最判昭和39年5月23日民集18巻4号621頁を検討せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	表見代理	その2（権限外の行為の表見代理、代理権消滅後の表見代理、109条と110条及び110条と112条の重畳適用）	
	この回の到達目標	権限外の行為の表見代理、代理権消滅後の表見代理、109条と110条及び110条と112条の重畳適用につき理解する。	
	事前学修	権限外の行為の表見代理、代理権消滅後の表見代理、109条と110条及び110条と112条の重畳適用に関する教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和35年2月19日民集14巻2号250頁（事実行為）、最判昭和51年6月21日民集30巻6号665頁（民法110条の正当理由）、最判昭和60年11月29日民集7号1760頁（代表理事の代表権の制限と民法110条）、最判昭和44年12月18日民集23巻12号2476頁（日常家事債務）、最判昭和45年7月28日民集24巻7号1203頁（109条と110条の重畳適用）を検討。	120分
20	無権代理	⑤狭義の無権代理 その1（無権代理の一般的効力、無権代理人の責任、表見代理と狭義の無権代理の関係）	
	この回の到達目標	無権代理の一般的な効果につき理解する。	
	事前学修	教科書の狭義の無権代理の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和62年7月7日民集41巻5号1133頁（無権代理人の責任）を検討すること。	120分
21	無権代理と相続	その2（無権代理と相続など）	
	この回の到達目標	無権代理と相続につき理解する	
	事前学修	教科書の無権代理と相続の箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判平成5年1月21日民集47巻1号265頁（無権代理人の本人相続）、最判昭和37年4月20日民集16巻4号955頁（本人の無権代理人相続）、最判昭和48年7月3日民集27巻7号751頁、最判平成10年7月17日民集52巻5号1296頁を検討せよ。	120分
22	無効・取消し	無効・取消 その1（無効と取消しの違い、二重効の問題、無効行為の基本的効果、一部無効、無効行為の転換、無効行為の追認）	
	この回の到達目標	無効・取消しにつき理解する。	
	事前学修	教科書の無効・取消しの部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和53年2月24日民集32巻1号110頁（無効行為の転換を肯定）、最判昭和56年6月16日民集35巻4号791頁（養子縁組への転換を否定）	120分
23	取消し	その2（取消しの意義、取消権者、取消しの方法、取消しの基本的効果、土地消すことのできる行為の有効確定（追認、法定追認）、取消権の消滅）	
	この回の到達目標	取消しにつき理解する。	
	事前学修	教科書の取消しの部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	現存利益について、大判昭和7年10月26日民集11巻1920頁、最判昭和50年6月27日金融商事判例485号20頁の判例を検討せよ。	120分
24	条件・期限・期間	条件・期限・期間	
	この回の到達目標	条件・期限・期間につき理解する。	
	事前学修	条件・期限・期間に関する教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判平成6年5月31日民集48巻4号1029頁（故意の条件成就）、期限の利益の喪失条項と相殺について検討しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	時効	時効 ①その意義 ②時効の通則（時効の存在理由、時効の障害（中断と停止（改正法により完成猶予と更新））時効の援用と時効利益の放棄）	
	この回の到達目標	①その意義 ②時効の通則（時効の存在理由、時効の障害（中断と停止（改正法により完成猶予と更新））時効の援用と時効利益の放棄）につき理解する。	
	事前学修	時効の存在理由、時効の障害（中断と停止（改正法により猶予に変更））時効の援用と時効利益の放棄について教科書の該当部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和61年3月17日民集40巻2号420頁（時効援用の効果）、最判昭和41年4月20日民集30巻4号702頁（時効完成後の債務の承認）を検討すること。	120分
26	取得時効	③取得時効 その1（取得時効の認められる権利、取得時効の要件）	
	この回の到達目標	取得時効の認められる権利、取得時効の要件につき理解する。	
	事前学修	教科書の取得時効の認められる権利、取得時効の要件の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和45年12月15日民集24巻13号2051頁・最判昭和62年6月5日判時1260号7頁（賃借権の時効取得）、最判平成8年11月12日民集50巻10号2591頁（相続は新たな権原か）、さいh	120分
27	取得時効	その2（取得時効の要件と効果）自己の物でも時効取得することができるか、物の一部はどうか、占有の承継と善意・無過失の判断辞典、期間計算の起算点、時効と登記	
	この回の到達目標	（取得時効の要件と効果）自己の物でも時効取得することができるか、物の一部はどうか、占有の承継と善意・無過失の判断辞典、期間計算の起算点、時効と登記につき理解する	
	事前学修	教科書の取得時効の要件と効果の部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判昭和42年7月21日民集21巻6号1643頁（自己の物の取得時効）、最判53年3月6日民集32巻2号135頁（前主の無過失と10年の取得時効）、最判昭和46年11月5日民集25巻8号1087頁（取得時効と登記）につき検討しておくこと。しょうm	120分
28	消滅時効	④消滅時効（消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件と効果）、短期消滅時効がなくなるなど消滅時効は大きく変わっているので改正法の内容を説明したい。	
	この回の到達目標	消滅時効につき説明できること。	
	事前学修	教科書の消滅時効の部分をおあらかじめ読んでおくこと。	120分
	事後学修	最判平成6年2月22日民集48巻2号441頁（消滅時効の起算点）について検討すること。	120分
29	除斥期間	⑤時効と類似する制度（除斥期間、権利失効の原則）除斥期間と消滅時効の違い。形成権行使の結果請求権が生じる場合のどのように処理するか。	
	この回の到達目標	除斥期間について説明できること。	
	事前学修	除斥期間、権利失効の原則について図書館で調べてみる。	120分
	事後学修	最判平成10年6月12日民集52巻4号1087頁（除斥期間に158条を類推適用）、最判平成元年12月21日民集43巻12号2209頁（724条の20年は除斥期間）、2段階権利行使の場合前段の形成権行使は除斥期間、公団の請求権は消滅時効（大判大正7年4月13日民録24輯669頁・最判平成4年10月20日民集46巻7号1129頁）を検討せよ。	120分
30	まとめ	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）	
	この回の到達目標	質問等を通して、民法総則のかく制度が理解できているかを確認し、確実な知識を身に着ける。	
	事前学修	これまで学んできたことを再度学習し、わからないことがないか自分で検討しておくこと。	120分
	事後学修	質問の回答を受け、自分のノートを整理するなど、これまで学習したことを文章に表わすことができるかやってみる。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関連しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし。ただし、授業に継続的に出席し、授業後に復習できること。なお、民法Ⅰの前に民法全体の概要を理解したい人は、前期の民法基礎演習を履修しておくことを推奨します。

【授業方法】
レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。受講生は事例の関係図を書いたり、担当者の説明を聴いて大事な部分についてレジジュメの余白にメモを取ったりして、授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを用いて理解度の確認を行うほか、問題演習を適宜行うことによって法的思考能力・文章表現力を向上させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力・考察力等が身についているかを授業内試験により評価する。後述の授業内の課題を4回以上提出していない場合には、授業内試験の受験を認めない。	20	25	25	10							80
小テスト等	小テスト（少なくとも2回の授業で1回程度は実施予定）や授業内での論述演習によって、到達目標①②にかかわる基本概念や制度趣旨が身についているかを確認する。実施形式についてはGoogle Classroomを予定している。授業内の課題を4回以上提出していない場合には、授業内試験の受験を認めない。なお、授業中の課題が20点を超えた場合には、加点することがある。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	25	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのgoogle classroomによる理解度確認と解説、論述課題の解説、授業内試験の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本テキスト民法総則 （第2版）	遠藤研一郎	中央経済社	2020年	教科書	必携
民法1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本監修 香川＝竹中＝山城	有斐閣	2021年	教科書	推奨
民法総則 NBS （日評ベーシック・シリーズ）（第2版）	原田＝吉永＝寺川	日本評論社	2022年	教科書	推奨
ユーリカ民法1 民法入門・総則	大中＝大澤＝原田＝杉本	法律文化社	2019年	教科書	推奨
新ブリメール民法1 民法入門・総則（第3版）	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2022年	教科書	推奨
民法の基礎1 総則（第5版）	佐久間毅	有斐閣	2020年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅰ－総則・物権（第9版）	潮見＝道垣内編	有斐閣	2023年	参考書	任意
民法1総則 判例30！（START UPシリーズ）	原田＝秋山＝山口	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考	第1回目の授業で教科書の使用方法や選び方を説明しますので、教科書を予め購入しなくてよいです。各自の学修目的に応じて必携以外の教科書でもかまいません。				

【オフィスアワー】
授業後に質問してください（その他の時間でも適宜対応しますが、事前にメールを送ってください）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 「★」を「@」に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、民法とは何か①民法総則の位置づけ		ガイダンスでは、受講上の注意、授業の進行方法、教科書・参考書の使用法、成績評価方法について説明します。そのため、第1回目から出席してください！その後、民法総則とは何か、民法における民法総則の位置づけ、民法においてなぜ法解釈が必要とされるのかについて具体例を通してみていきます。
	この回の到達目標	履修を希望する学生は、必ずガイダンスに出席して、授業の方法や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。この授業の到達目標を確認し、単位を修得するためにはどのような学修が必要であるのかを理解する。到達目標①・②に関連して、民法総則で学ぶ事項の概要、民法の解釈の手法について具体例と合わせて説明できるようになること。	
	事前学修	なぜ民法Ⅰを履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学習することができるのか授業計画を立てること。	120分
	事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。以下の教科書は、『民法Ⅰ 総則（有斐閣ストゥディア）』の頁数を記載しています。教科書1～19頁を読み、民法の全体像、基礎知識を復習しておくこと。	120分
2	権利の主体・客体、権利能力、失踪宣告		この回では、権利の主体である「人」・権利の客体である「物」の概要をみます。その後、権利能力を学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされますが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。権利能力に続いて、同時死亡の推定や失踪宣告制度の概要もみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、民法上の「人」・「物」概念、権利能力の意義、権利能力制度が設けられた趣旨、失踪宣告制度の趣旨について説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	失踪宣告の続き（取消後の問題） 意思能力		前回に続いて、失踪宣告制度が取り消された後に生じる問題（失踪宣告によって財産を得た者の返還義務の範囲、失踪宣告と再婚）をみていきます。その後、重度の認知症を患った高齢者が自己の契約の意味を理解せずに契約をしてしまった場合を例にあげて「意思能力」制度の概要やその問題点を確認していきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、失踪宣告取消後に生じる問題点と判例・学説の解釈、意思能力の意義やその問題点について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	行為能力①（未成年保護、成年後見制度）		前回の授業を踏まえて、制限行為能力制度の必要性やその概要を学びます。例えば、未成年者が親の同意を得ずにバイクを購入してしまった場合に契約の効力はどうなるのかをみていきます。また被後見人・被保佐人・被補助人が保護者の同意を得ずにできる行為・できない行為について具体例と合わせて学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、制限行為能力者を保護する制度の概要、それぞれの制限行為能力者が保護者の同意を得ずにできる行為・できない行為について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	行為能力②（相手方の保護、成年後見制度の見直しに向けた課題）		制限行為能力者と契約を締結した相手方の保護に関する問題を検討します。未成年が法律行為をする際に「詐術」をすると、法律行為を取り消すことができません。それでは、未成年の子がスマホゲームをする際に、「あなたは成人ですか？」というチェック欄をクリックをして課金してしまった場合、この行為は「詐術」にあたるでしょうか？他方で、現在、成年後見制度の見直しに向けた検討が進められているので、現状の課題についても確認していきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、「詐術」「電子取引」を例に民法解釈の方法を学ぶこと。制限行為能力制度の現状と課題について知ること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	意思表示・法律行為・物 心裡留保・虚偽表示		まず、次回以降の授業の具体例で必要となる「意思表示」「法律行為」「物（所有権）」をみていきます。その後、法律行為の具体例として「心裡留保」（例えば、Aが自己のパソコンをBに売るつもりがないのに「売ってあげる」とBに言った場合に契約の効力はどうなるのかという問題）を学びます。次に、通謀虚偽表示（例えば、AはGから1000万円を借りているが、差押えを免れるために自己の不動産甲を知人のBに売ったことにした。しかし、Bは甲をCに売ってしまったとき、AはCに甲の返還を主張できるのかという問題）をみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、「意思表示」「法律行為」「所有権」について具体例を用いて説明できるようになること。心裡留保の具体例、民法93条2項は「いかなる考え方によって正当化されるのか」（制度趣旨）を説明できるようになること。通謀虚偽表示の具体例、民法94条2項は「いかなる考え方によって正当化されるのか」（制度趣旨）を説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	虚偽表示の応用①ー民法94条2項と転得者、民法94条2項類推適用		この回では前回に引き続き、民法94条2項を学びます。具体的には、民法94条2項の「第三者」の保護要件の問題、民法94条2項の第三者から目的物を譲り受けた転得者も同条の「第三者」に当たるのかといった問題を学びます。その後、民法94条2項類推適用についてもみていきます（詳細は、次回のシラバスを参照）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、民法94条2項の第三者の保護要件（「登記」や「無過失」の有無）、類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、民法94条2項の制度趣旨（権利外観法理）をふまえてどのような場合に類推適用ができるのかについて、典型的な具体例をあげながら説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		
8	虚偽表示の応用②ー94条2項類推適用と問題演習		前回に続いて、民法94条2項類推適用について考えます。Aから甲土地を買い受けたBが、自己名義ではなく、Aから直接Cへと甲の移転登記を行いました。その後、Cは甲をDに売却しました。このような場合、94条2項を直接適用できません（その理由は前回の授業にて）。そこで、94条2項を「類推適用」することでDを保護することができるか、ということが問題となります。この回では、民法94条2項の制度趣旨を踏まえて、どのような場合に同条の類推適用が認められているかということ等を学ぶとともに、問題演習に取り組みます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、民法94条2項の制度趣旨（権利外観法理）をふまえて類推適用ができるのか、「登記に公信力がない」こととの関係でどこまでの範囲で類推適用が認められるのかについて、具体的な事例に関して自分の意見を述べられるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと（94条2項と110条の重畳適用は、表見代理の所で説明します）。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。事例問題の検討方法を復習する。		
9	問題演習の解説 法律行為の解釈 錯誤①		前回の民法94条2項類推適用に関する問題解説を行います。 その後、法律行為の解釈の概要を学びます。それを踏まえて、錯誤にうつります。「100,000円」で売却するはずのパソコンを「10,000円」で売却してしまった…ある有名な画家の本物の絵画であると信じて絵画甲を高値で買ったが甲は実際には偽物だった…。改正民法によると、前者のパソコンの事例は「意思欠缺錯誤（表示錯誤）」、後者の絵画の事例は「基礎事情錯誤（動機の錯誤）」と呼ばれるところ、その違いや要件についてみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、具体的事例において民法94条2項類推適用が認められるのか否かについて、条文の制度趣旨を踏まえながら検討できること。 到達目標①・②に関連して、錯誤の意義・その簡単な具体例・成立要件の概要を理解できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		
10	錯誤② 問題演習②		錯誤の要件を定めた民法95条の文言は非常に抽象的で分かりにくい規定です（市民に分かりやすい民法を作るはずだったのでどうして…）。そこで、前回に続いて、なぜこのような条文があるのか、改正前の判例や学説の理解によれば、改正法はどのように解釈されるのかについて具体例を通して考えていきます。その後、錯誤に関する問題演習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、錯誤が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのか、なぜ効果は取消しなのか、を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、判例を参照しつつ錯誤の各要件をどのように解釈するのかを踏まえ、錯誤の事例問題に対して法的根拠に基づき自己の意見を示すことができるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		
11	問題演習の解説 詐欺・強迫		前回の錯誤に関する問題の解説を行います。 その後、詐欺や強迫の具体例や成立要件を学びます。その後、第三者からの詐欺や強迫について学びます。例えば、Aが第三者Cから詐欺や強迫を受けてBと契約を締結したとき、どのような場合にAは、AB間の契約を取り消すことができるのか、という問題について考えます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺や強迫が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのかを説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		
12	意思表示の取消しと第三者 法律行為の内容規制		前回に続いて、意思表示の取消しと第三者と呼ばれる問題をみていきます。例えば、AがBに騙されて自己の有する甲土地をBに売却したが、AがBとの当該契約を取り消す前に、甲がBからCに売却されてしまった場合、AはCから甲を取り戻せるのでしょうか？ 法律行為の内容規制に入ります。民法では、当事者間で自由に契約内容を定めることができます。つまり、任意法規と呼ばれる規定よりも当事者の意思が優先します。しかし、強行法規と呼ばれる規定に違反する当事者間の合意には有効性が認められません。この回では、任意法規・強行法規の具体例を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、任意法規・強行法規にはどのような具体例があるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。到達目標③・④に関連して、通謀虚偽表示・錯誤・詐欺の第三者が条文上異なっている理由を説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	法律行為の内容規制		民法では公序良俗に反する法律行為は無効となります。この回では、その具体例をみていきます。例えば、お店とホステスとの間で締結された、客の飲食代金の保証契約は有効か？食品衛生法に違反する食品を販売したことは民法上どのように評価されるのか？宅建業の免許がない者が名義を借りて不動産取引を行い、その利益を分配する旨の合意をしたとき、当該合意が有効か？このような問題を考えるための思考の枠組みを学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、公序良俗にはどのような具体例があるのか、取締規定に違反した場合の効力はどうなるのか、について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
14	消費者契約法		民法の特別法である消費者契約法を学びます。まず消費者契約法の目的やその対象をみます。その上で、甲マンションの売買契約の際に、販売業者が甲の隣に乙マンションが建設されることを知りながら「日当たり抜群！」とお客さんに説明をした場合や、賃貸借契約における敷引特約の有効性などを例にあげて、消費者契約法による契約締結過程や不当条項規制を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、消費者契約法がなぜ制定され、どのような範囲を対象にしているのか、具体例を題材に消費者契約法の規律の概要を説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
15	有権代理		未成年者は、原則として自分で有効に契約を締結することができません。そのため、未成年者の代わりに契約をしてくれる人が必要です。また、自分で有効に契約を締結できる人であっても、専門的知識がある他人に契約をしてもらった方が良いことがあります。このような場合に、代理が使われます。この回では、代理制度の必要性と種類をみます。その後、代理権の範囲や頭名に関わる問題を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理が有効に成立するためにはどのような要件が必要なのか、各問題について関わる条文の制度趣旨・要件・効果について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
16	有権代理 無権代理の基礎		前回に続いて、有権代理に関して代理行為にキズがあった場合に誰を基準として考えるのかといった問題につき考えます。その後、無権代理に入ります。例えば、代理権を有していない人が、本人の代理人と称して相手方と契約をした場合、その効果はどうなるのでしょうか。このような無権代理の効果や無権代理人の責任、相手方を保護するための規定についてみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理行為が行われた場合の効果や相手方を保護するためにいかなる規律があるのかを説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
17	無権代理とみなされうる行為		この回では、利益相反行為や代理権濫用についてみていきます。前者について、親権者の利益になる一方、子にとって不利益を生じさせる代理行為が無権代理とみなされます。後者については、例えば、AがBに甲の売却に関する代理権を与え、BがAを代理して相手方Cに甲を売却しましたが、BがCから得た甲の売却代金の一部を着服する意図でAC間の甲の売買契約を成立させた場合、同契約が有効となるのかといった問題をみていきます。	
	この回の到達目標	また到達目標①・②・③・④に関連して、利益相反行為や代理権の濫用とは何か、これらに関連する最高裁の判例やその問題点について説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
18	無権代理の応用——無権代理と相続		例えば、Aの子であるBがAの代理人と勝手に称して、Aの有する甲土地をCに売却したとします。このとき、本人Aは、Cに対して「Bが勝手に甲を売っただけであり、そんな契約は認めない」と主張できます。これを追認拒絶といいます（前回の授業で学びます）。それでは、上記事例においてBの無権代理行為の後に、Aが死亡して、その地位をBが相続した場合、Bは追認を拒絶できるでしょうか。逆に、Bの無権代理行為の後に、Bが死亡し本人Aがその地位を相続した場合、Aは追認を拒絶できるでしょうか。この回では、こうした無権代理と相続の問題を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、無権代理と相続の各種事例について、まずは判例及び学説の立場を理解できるようになること、その上で判例の問題点をふまえて、判例と学説のいずれの考え方が良いのかを検討し、自分の意見を述べられるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	表見代理の基本——表見代理の意義と具体例（109条1項・110条・112条1項・重畳適用）		無権代理の効果は原則として本人や相手方に帰属しません。しかし、例外的に無権代理行為を代理権のある代理行為と同様に扱い、本人や相手方に効果を帰属させることがあります。それが表見代理です。この回では、なぜ民法では表見代理制度があるのか、どのような表見代理の種類があるのかについて学びます。その後、「白紙委任状と表見代理」の問題を簡単に概観します。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ表見代理制度が認められているのか、なぜ各条文はそのような要件を規定しているのかについて、表見代理制度の制度趣旨をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
20	表見代理の応用①——白紙委任状と表見代理、110条の基本代理権・正当の理由		AがC銀行からお金を借りる際に、自己が所有する甲土地に抵当権を設定しようと考えました。その際、Aは、Bに抵当権設定の代理権を与え、委任事項欄が「白紙委任状」をBに渡しました。しかし、Bは委任状をDに交付しました。その後、Dが空欄の委任事項欄に「甲土地の処分に関する一切の権限」と書き入れ、甲土地をEに売却したとき、は甲土地を取得できるでしょうか。こうした例を題材に「白紙委任状と表見代理」の問題を学びます。また民法110条の基本代理権とは何か、正当な理由をどのように判断するのかという問題についてもみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、白紙委任状を用いて代理人や他人が代理権の範囲外の行為をした場合に、なぜ民法109条1項や110条が問題となるのか、表見代理はどの範囲まで認められるのか（認められないのか）について判例や学説に基づいて、表見代理の成否を考察できるようになること。民法110条の基本代理権とは何か、正当な理由をどのように判断するのかについて具体例と合わせて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
21	表見代理の応用②——権限外の行為の表見代理の応用事例		例えば、夫Aが妻Bから代理権を与えられていないのに、Bの代理人としてBが所有する土地を勝手にCに売却してしまいました。こうした事例を対象に日常家事債務と表見代理の問題をみます。次に、表見代理の応用事例として、民法94条2項と110条の重畳適用の事例について、最高裁の事例や学説の見解を理解します。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日常家事債務と表見代理について判例や学説に基づき、どのような場合に表見代理が認められうるのかについて説明できるようになること、94条2項と110条の類推適用についてなぜ重畳適用が問題となるのか、第三者の保護要件はどうあるべきか、94条2項類推適用の外延について考察し、自分の意見を述べられるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
22	無権代理・表見代理に関する問題演習		無権代理・表見代理に関する問題演習を行い、その後、解説をします。
	この回の到達目標	教科書の該当頁を読むこと。	
	事前学修	到達目標③・④に関連して、無権代理・表見代理に関する論点について、判例や学説の見解を踏まえつつ、自己の見解を述べられるようになること。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
23	無効・取消し、条件・期限		授業の前半では、これまでの授業で登場してきた「無効」「取消し」に関する規律をもう少し詳しく学びます。その後、「3年以内に結婚したらご祝儀で10万円あげる」と友達に約束した、「留年したらもう仕送りを送らない」と親に言われてしまった、成人になったらお祝いのお金をもらおうといった例を参考に、条件・期限を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、条件・期限の意義について具体例を用いて説明できるようになること、取消しと無効の違いについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
24	時効制度の意義、時効の存在理由 消滅時効・取得時効、消滅時効の起算点など		時効とは何でしょうか。例えば、Bが所有する甲土地をAが一定期間占有し、一定の要件をみたせば、Aが甲を取得することを認める取得時効という制度があります。またCがDに対して有していた貸金債権乙を長年の間行使しないでいると、Cが乙の返還を求めることができなくなる消滅時効という制度があります。なぜこのような制度があるのでしょうか？この回では、時効制度の存在理由、時効制度の全体像や消滅時効の起算点などを学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ時効という制度があるのか、時効にはどのような種類があるのか、消滅時効の期間や起算について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効の完成猶予・更新 時効の援用と時効利益の放棄	授業の前半では、時効の完成猶予・更新を学びます。例えば、AがBに弁済期に100万円を貸したが、弁済期が過ぎてもBはお金をAに返さない。そこで、①Aは、Bに裁判外で100万円を返すように求めた。②この求めに対してBは「お金を返すからもう少し待って」と言った。しかし、Bがお金をまったく返さないで、③Aは100万円とその利息の返還を求める訴訟を提起した。これら①～③のような事象は、時効の完成にどのような影響を及ぼすのか、という問題を学びます。授業の後半では、時効の援用を学びます。時効の援用とは、借主が貸主に対して「時効が成立しているからお金を払わない！」という主張をすることです。では、債務者がいったん債務を承認しながら、「時効の完成に必要な期間が経過しているからお金を返さない」といえるのでしょうか？	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、消滅時効の完成猶予・更新の意義、具体例を用いてなぜこの場面では完成猶予や更新が問題となるのか、について時効制度の趣旨を踏まえつつ、説明できるようになること。また、時効の援用とは何か、時効利益の放棄、債務承認後に時効の援用が認められるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
26	取得時効	この回では、AがBの甲土地を長年の間占有をするなどの一定の要件をみたせば、甲土地を取得できるという制度（取得時効）について、その要件（所有の意思とはどのように判断するのか、占有期間など）と効果について具体例を通してみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、取得時効制度の要件と効果に関して具体例をあげながら説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
27	法人	学校法人、財団法人、NPO法人、株式会社といった言葉を聞いたことがあると思います。この回では、人の集合や財産の集まりである「法人」について、法人とは何か、なぜ法人制度が必要なのかを概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、法人制度がなぜ必要なのか、法人制度にはどのような種類があるのかについて具体例を通して説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	論述問題の対策を計画的に行い、実際に答案を書いてみること。	600分
28	質問と試験	授業に関する質問があれば、それに回答した後、授業内試験を行います（ただし、履修者数によっては定期試験期間内での試験に変更の可能性あり）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、これまでの授業の内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになること。	
	事前学修	今までの範囲をレジュメや教科書を用いて復習するとともに、試験に向けて答案練習を行うこと。これまでの小テストも復習しておくこと。	600分
	事後学修	自己の答案を思い出し、出来なかった部分があれば、その部分のレジュメや教科書の該当ページを確認すること。	120分
29	試験の解説	前回の試験に関する解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、試験の解説を聞いて、試験で書けなかった部分があれば復習すること。	
	事前学修	自己の答案を思い出し、出来なかった部分があれば、その部分のレジュメや教科書の該当ページを確認すること。	120分
	事後学修	民法Ⅰを総復習して、次年度の学修につなげること。	120分
30	これからの民法学修に向けて	これまでの授業で出てきた信義則・権利濫用に関して物権法や契約法で関係する事例を取り上げ、2年次以降の学修を予習します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、2年次以降で学ぶ民法の概要を理解し、2年次以降の履修計画・学修計画を組み立てること。	
	事前学修	民法Ⅰを総復習して、次年度の学修につなげること。	60分
	事後学修	民法Ⅰを総復習して、次年度の学修につなげること。	60分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	野中 貴弘	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求めることがある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④の力をはかるべく、授業で扱った事例や判例についてその問題の所在を的確に捉えることができるか等を、授業最後にペーパーを提出してもらい評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第２８回に行う授業内試験について、解説を残り時間および第２９回の冒頭に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門・総則〔第５版補訂版〕エッセンシャル民法１	永田眞三郎ほか	有斐閣	2023年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日１３：００－１７：００（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館６階１６０８） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ		講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような法律かを説明することができる。	
	事前学修	事前にアップされる第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）		民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような場面に適用される法律かを理解したうえで、民法典の構造、契約においてどのような形で債権債務が発生し、物権が移転するのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて素読してみる	120分
3	民法の全体像②（民法の基本概念）		民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の3大原則を説明できるようになるとともに、所有権の移転方法における民法の原則と例外の考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
4	権利の主体（人）①		権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 3つの能力概念には、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてした法律行為の効力をおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
5	権利の主体（人）②		前回の続きとして、行為能力が十分でない者を保護する制度としての「制限行為能力者制度」について、相手方保護の在り方も含めて学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。また、そうして保護をする一方で、相手方にも配慮して一定の制度があることも理解する。	
	事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力者制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れでおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
6	権利の主体（人）③、権利の客体（物）		権利主体の問題として、最後に、失踪宣告制度を学んだ後、権利の客体となる物概念について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失踪宣告制度に関し、判例多数説と有力説との違いを理解し、それぞれの見解を論理的に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第3章 人」と「第5章 物」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 失踪宣告の取消しに関し、民法32条1項後段の「善意」の意味について、講義内容を踏まえ自らの考えをまとめる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	演習（第1回）	民法の全体像、権利の主体（人）、権利の客体（物）として学んだ内容について、復習を兼ねた演習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる		
	事前学修	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する		120分
8	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈）	隔地者間における意思表示はいったいいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にすれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示や契約の成立時期を理解するとともに、成立した契約の内容について両当事者の認識が異なっていた場合にはすぐに錯誤を検討するのではなく、まずは契約内容の確定という契約解釈がなされる必要があることを理解し、その方法を説明することができる。		
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈の箇所を読んでくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる		120分
9	法律行為と意思表示②（心裡留保）	一方当事者が冗談で契約の申込みをし、相手方がその冗談を信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。		
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、心裡留保の箇所を読んでくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと そもそも心裡留保とはどのような場合か、その具体例を複数挙げられるようにしておく。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる		120分
10	法律行為と意思表示③（通謀虚偽表示）	契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通謀虚偽表示があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。		
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示の箇所を読んでくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみる。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる		120分
11	法律行為と意思表示④（錯誤）	契約締結にあたり一方当事者に勘違いがあったとき、当該契約の効力はどうなるか。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。		
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、錯誤の箇所を読んでくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義内容を踏まえ、2017年改正後の民法95条を精読し、レジュメで出てきた知識と条文とを結びつけて理解できるようにしておく。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる		120分
12	法律行為と意思表示⑤（詐欺、強迫）	契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていたとき、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していたときと比べると何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺や強迫があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる		
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでくる		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	演習（第2回）	法律行為と意思表示①～⑤の復習を兼ねて演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
	事前学修	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
14	法律行為の自由と制約	契約は原則として自由であるものの、公序良俗や強行法規に反する場合には当該契約は効力を有しない。それでは、取締規定に反した場合はどうか。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約自由の原則がどういった理由からどのような形で修正されているのかを簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」を読んでくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみる。第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
15	無効と取消し	無効と取消しは、どのような違いがあるのか。取消しの主体や期間はどのように定められているか。取消しができなくなる場合として追認や法定追認も学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しとはどのような差異があるのかを整理して説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第8章 無効と取消し」を読んでくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 無効・取消しの違いを整理する。第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
16	条件と期限	そもそも条件と期限とはどのような差があるか。条件成就を妨害した場合にはどのような法的効果が生じるか。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期限とはどのような観点から区別されるのかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第9章 条件・期限」を読んでくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 「期限の利益」とは何か、自分の言葉で説明できるようにしておく。第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
17	演習（第3回）	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限について、復習を兼ねた演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
	事前学修	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
18	代理①（代理の基本的仕組みと機能）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その構造と機能を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理とはそもそもどのような場合に利用されるのかを説明できるようになる	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでくる（2時間）	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 代理と使者の違いを整理する。第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	代理②（代理権、顕名、代理行為）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理とはどういった要件を満たすと、有権代理として認められるのかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
20	代理③（無権代理）	代理行為の効力は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方として、無権代理人の責任を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、有権代理の要件を満たさない場合には無権代理となるが、無権代理の場合に民法は相手方の保護としてどのような救済を図っているかを整地して説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節を読んでくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 117条は、2017年改正によりどこが変わったのか、条文を比較して整理してみる。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
21	代理④（表見代理）	前回に引き続き、有権代理の要件を満たさないために効果が本人に帰属しない局面における相手方保護の在り方として、表見代理制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の場合にもかかわらず、なお例外的に本人に効果帰属する表見代理について、そのパターンを具体例とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第5節を読んでくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
22	演習（第4回）	代理①～④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
	事前学修	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
23	時効①（取得時効）	永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
24	時効②（消滅時効）	「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節を読んでくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で消滅時効における時効期間が整理されたが、その趣旨を調査したうえで、その是非を考えること。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	時効③（時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度）		取得時効及び消滅時効に共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度における諸論点についての判例の理解をめぐる多様性を理解し、事例が少し変わっただけで結論が変わり得ることを理解する。	
	事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第3節・第4節を読むこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
26	演習（第5回）		時効①～③を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
	事前学修	あらかじめ演習（第5回）の問題を全問検討してくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
27	総合演習（第6回）		民法総則全体を終えて、その重要部分について総復習をする演習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
	事前学修	これまでの授業レジュメ全てと教科書を参照しながら、あらかじめ演習（第6回）の問題を全問検討してくること	120分
	事後学修	演習問題の回答を整理する	120分
28	授業内試験と解説		授業内試験をした後、試験問題についての簡単な解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
	事前学修	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
	事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
29	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）①		民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
	事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみること	120分
	事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる	120分
30	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）②		民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。この最終回は、学生が物権法や債権法にスムーズに入っていけるよう、物権法や債権法をも意識した事例問題を提示する予定である。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
	事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみること	120分
	事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	蓮田 哲也	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 講義に際しては、各回レジュメを配布することを予定している。 第30回講義にて授業内試験を行い、直後に解説等を述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対して、どのように考えるのかを口頭で表現してもらうことを予定している。 また、場合によっては出席管理システム（レスポ）を用いて問題の投げかけに答えてもらうことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の小テストに関しては翌回の授業にて解説を行い、第30回講義にて実施する授業内試験に関しては直後に解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔補訂版〕日評ベーシック・シリーズ	原田政和　ほか	日本評論社	2018	教科書	推奨
別冊ジュリスト237号 民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第8版〕	潮見佳男　ほか編	有斐閣	2018	参考書	推奨
民法の基礎1　総則〔第5版〕	佐久間毅	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考	第1回授業にて説明するため、第1回授業までに準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
初回授業時に説明する。　hasuda.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び民法総則の位置付け		ガイダンスとして、授業の進め方や成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明する。その後、民法における民法総則の位置づけについて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則の民法上の位置づけについて説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の民法総則の導入部分を読み、民法総則の民法上の位置づけについて確認する。		120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、民法総則に関する内容を整理する。		120分
2	基本な法制度と法律用語		民法に限らず、法律学を学ぶ上で法律にかかる専門用語の知識が不可欠となる。ここでは、民法総則を学ぶ上で不可欠と考えられる制度や法律用語について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の基本的な制度や法律用語について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、民法の基本的な制度(無効・取消し・解除)及び法律用語(善意・悪意、及び・並びに、又は・若しくは、適用・準用・類推適用など)について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。		120分
3	民法の基本原則		民法の基本原則の多くは、民法総則(民法第1編)に定められているが、そこに定められているもののみに限られるのではない。ここでは、民法総則に限らず民法全体にかかる基本原則の概要を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の基本原則について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、民法の基本原則について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。		120分
4	権利能力1		民法における権利の主体である人には、自然人と法人とがいる。ここでは、自然人に着目して人の能力の一種である権利能力について、その意義、自然人の出生と権利能力との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自然人の意義、権利能力の意義及び出生と権利能力との関係について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、人、権利能力の意義、出生及び胎児について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。		120分
5	権利能力2、意思能力		前回学修した自然人の権利能力に関連して、胎児と権利能力との関係及び権利能力の喪失について学修し、住所とは何か、自然人の意思能力とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、胎児と権利能力との関係、権利能力の喪失、住所及び意思能力について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、胎児と権利能力との関係、権利能力の喪失、住所及び意思能力について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。		120分
6	行為能力1		人の能力の一種である行為能力とは一体何であるかについて学修するとともに、この行為能力が制限される類型の内、未成年及び成年後見について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、行為能力、未成年者及び成年後見について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、行為能力、未成年者及び成年後見について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行為能力2	前回学修した制限行為能力者の別類型である保佐及び補助並びに制限行為能力者に民法がどのような保護を与えているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保佐、補助及び任意後見制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、保佐及び補助について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
8	任意後見制度、法人1	近時着目されている任意後見制度について学修した後、人の一類型である法人の意義、法人格及び法人の設立について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意後見制度、法人の意義、法人格及び法人の設立について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、任意後見制度、法人の意義、法人格及び法人の設立について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
9	法人2	前回学修した法人について、法人の終了について学修した後、法人に関連する制度である権利能力なき社团及び法人格否認の法理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の終了、権利能力なき社团、法人格否認の法理について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、法人の終了、権利能力なき社团、法人格否認の法理について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
10	物	権利の客体のほとんどは物であり、民法総則に物に関する規定が存在する。そもそも物とは何かとった基本的なことから、民法上の条文に沿って物について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、物について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
11	法律行為1	法律行為とは何かについて概観し、法律行為の有効要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の意義及び有効要件について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、法律行為の意義及び有効要件について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
12	意思表示1	法律行為に不可欠である意思表示の意義について学修し、意思表示に問題がある意思の不存在の一種である心裡留保について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の意義及び心裡留保について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、意思表示の意義及び心裡留保について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意思表示2	意思の不存在の一種である虚偽表示について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、虚偽表示及び周辺法制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、心裡留保及び周辺法制度について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
14	意思表示3	意思表示に問題がある瑕疵ある意思表示の一種である錯誤について定めた民法95条1項および2項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の基本類型について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、錯誤の基本類型について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
15	意思表示3	錯誤について定めた95条3項および4項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤と第三者との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、錯誤と第三者との関係について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
16	意思表示4	意思表示に問題がある瑕疵ある意思表示の一種である詐欺及び強迫について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、詐欺及び強迫について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
17	代理1	代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理制度一般について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理制度一般について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
18	代理2	代理の要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、無権代理制度（無権代理人の責任や無権代理人の地位の相続を含む）について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	代理3	本質的には無権代理であるにもかかわらず、場合によっては、本人への効果帰属が認められることがある。これを認める制度を表見代理といい、どのような場合に表見代理が認められるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、表見代理について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
20	代理4	一見すると、代理の要件を充足していることから有権代理として取り扱われるはずであるが、場合によっては、これが否定される場合がある。こおkでは、民法に定められている代理権の濫用及び利益相反行為（自己契約・双方代理）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権の濫用及び利益相反行為について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理権の濫用及び利益相反行為について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
21	代理5	民法に定められた代理行為の瑕疵とは何か、代理人の代理人といえる復代理とは何か、どのような場合に代理が終了のかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理行為の瑕疵、復代理、代理の終了について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理行為の瑕疵、復代理、代理の終了について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
22	付款1	付款とは一体何を意味するのかについて概観した後、付款の一類型である条件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付款の概要及び条件について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、付款の概要及び条件について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
23	付款2	付款の一類型である期限について学修するとともに、期限に関連する期間の計算について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、期限及び期間の計算について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、期限及び期間の計算について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
24	時効制度1	事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度のうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効制度の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効制度の概要について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効制度2	時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、取得時効について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
26	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、消滅時効について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
27	時効制度4	時効制度において問題となる時効完成の障害事由（完成猶予と更新）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効完成の障害事由について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効完成の障害事由について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
28	時効制度5	時効制度について、時効の援用及び時効の利益放棄について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の援用及び時効の利益放棄について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効の援用及び時効の利益放棄について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
29	民法総則の全体像	これまで学修してきた民法総則の全体像を概観するとともに、他の民法領域とどのように関連してくるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則と他の民法領域との関係性について説明できる。	
	事前学修	これまで学習した内容について振り返り、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
30	授業内試験及び解説	授業内にて試験を行い、また、民法総則の授業のまとめとなるよう試験の解説を合わせて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、試験の解説等を踏まえ、試験で問われた内容及び民法総則全体の概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うためこれまで学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	民法総則と民法との関係を考え、民法総則の役割について検討する。	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得済みであること。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおりに、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり、定期的に演習回が設けられている。受講者数にもよるが、この演習回ではグループでの検討や学生を指名して回答してもらうこともある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦						2							
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての理解度および説明力が身についているかを，選択肢問題と論述式問題への回答を通して評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標③④の力をはかるべく，授業で扱った事例や判例についてその問題の所在を的確に捉えることができているか等を，授業最後にペーパーを提出してもらい評価する。			10	10							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期的に行う演習回の課題については授業内に解説をするとともに、授業内試験の解説も授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
有斐閣ストゥディア民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣	2018年	教科書	任意
新標準講義 民法債権総論 全訂3版	池田真朗	慶應義塾大学出版会	2019年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 13：00ー17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	講義案内、債権法総論の概観		講義テーマやスケジュール、講義方法、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて、債権法総論の学修方法について説明し、そのうえで債権法総論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法における債権法総論の位置づけを説明することができるようになる。		
	事前学修	事前にオンライン上で配付される第1回講義レジュメを読んでおくこと。 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる。		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる		120分
2	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）		民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
3	民法の全体像②（民法の基本概念）		民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
4	契約の履行①（弁済、第三者による弁済）		弁済権者や弁済受領権者、弁済の方法、弁済の充当を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済における各種の原則と例外を整理した後、478条がいかなる理由から債権者ではない者に対する弁済をも例外的に有効としているかを説明できるようになる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
5	契約の履行②（多数当事者の債権債務関係 i）		分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者や債務者が多数になる場合にもいくつかのパターンがあることを認識し、分割債務の原則には不合理な場面も多いことからその例外が広く解されていることを体系的に説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
6	契約の履行③（多数当事者の債権債務関係 ii）		単なる保証と異なる連帯保証、共同保証、根保証を学ぶ。それぞれ、通常の保証とどこが異なるのかを意識しながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保証契約とはそもそも誰との間の契約であるのか、他にも保証人がいると信じて契約した場合には契約をなかったことにできるのかといったことも含めながら、保証債務の性質を説明することができる。また、通常の保証と連帯保証や保証連帯との相違を説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	契約の履行④（多数当事者の債権債務関係Ⅲ）	保証債務の過大な負担により破産等の事態が拡大した過去を背景に、我が国における保証人保護の法理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの保証人保護のあり方だけでなく、2017年改正により新たに導入された保証人保護規定について説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
8	契約の履行⑤（弁済による代位、決済システム）	「弁済による代位」の意味、および代物弁済の実際における用いられ方、さらには供託制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証人や連帯債務者が一定の弁済をすれば主債務者や他の連帯債務者に求償をすることができるにもかかわらず、それに加えてなぜ弁済による代位という制度が用意されているのかを論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
9	演習（第1回）	民法の全体像、契約の履行①②③④⑤を終えて、演習問題の解説を通じて、これまでの復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する演習問題を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
10	契約の不履行①（債務履行の強制Ⅰ）	債務不履行の種類をおさえたうえで、債務者に債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段を学ぶ。また、履行不能の場合には履行請求ができないことから、履行不能とはどのようなものを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行がある場合、債権者は履行請求ができるのが原則であるが、これができない場合もある。それがどのような場合であるのか理解し、条文に即して説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
11	契約の不履行②（債務履行の強制Ⅱ）	履行方法と関連して、「弁済の提供」の制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	弁済の提供という制度がなぜ必要なのかを確実に理解したうえで、その要件と効果を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
12	契約の不履行③（債務履行の強制Ⅲ）	履行強制の方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務の性質に応じてどのような履行強制が用意されているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	契約の不履行④（契約の解除 i）		そもそも契約の解除とはどのようなものなのかから始まり、解除が認められるための要件を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、解除の種類を理解したうえで、民法改正により法定解除が認められる要件がどのように整備されたのかを条文に即して説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
14	契約の不履行⑤（契約の解除 ii）		契約が解除できた場合の効果としての原状回復について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約が解除された場合の原状回復につき、買主が受領物を返還できない場合の法的処理などの未だ解決をみない問題についても近時の有力説を意識しながら自身の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
15	演習（第2回）		履行の強制と契約の解除を終え、演習問題の解説を通じて、これまでの復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。		
	事前学修	上記テーマに関する演習問題を中心に復習をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する		120分
16	契約の不履行⑥（損害賠償請求の要件）		債務不履行による損害賠償の要件を学ぶ。いかなる場合には債務者は免責されるのかを意識して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債務者の帰責事由につき、改正の前後により解釈がどのように変わり得るのかを、事例に即して説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
17	契約の不履行⑦（損害賠償請求の効果）		損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、さらには過失相殺や違約金の定めなどについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償の範囲につき、判例多数説と有力説とはどのような考え方の対立であり、具体的にどのような事例において差が生じるのかを説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分
18	契約の不履行⑧（第三者による債権侵害・受領遅滞など）		債権が債務者ではなく第三者により侵害され得るかどうかも含め、この議論の特殊性を理解するとともに、近時の議論の動きを学ぶ。また、受領遅滞についても改正による影響を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権侵害と受領遅滞につき、改正により明文化された部分とそうでない部分を意識しながら、近時の学説の到達点を説明することができる。		
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	演習（第3回）		損害賠償の要件・効果、さらには第三者による債権侵害や受領遅滞を終え、演習問題の解説を通じて、これまでの復習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する演習問題を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
20	不良債権の回収①―責任財産の保全（総論）		責任財産という概念を理解したうえで、こうした責任財産が減少しようとしている場合における債権者保護の在り方について、債権者の予めの手立ても含め、総合的に学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務者が任意に支払いをしない場合、債権者はどのような手順により債務者の責任財産に対して強制執行をしていくのかをおさえたうえで、こうした強制執行を頼りにするのでは不安点があるという見地から、物的担保や人的担保の必要性や責任財産保全制度の意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
21	不良債権の回収②―責任財産の保全（債権者代位権）		債権者代位権の要件・効果・転用事例を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任財産保全のための制度である債権者代位権が債権回収のために用いられているというのはどういうことかを理解し、こうした法運用をどう評価すべきか自身の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
22	不良債権の回収③―責任財産の保全（詐害行為取消権）		詐害行為取消権の要件・効果を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法改正では、破産法上の否認権との逆転現象を回避すべく詐害行為取消権がどのように改正されたのかという観点から説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
23	演習（第4回）		責任財産の保全総論、債権者代位権、詐害行為取消権を終えて、演習問題の解説を通じて、これまでの復習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する演習問題を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
24	不良債権の回収④―変則的な債権回収（相殺 i）		相殺の一般的要件・方法・効果を学んだうえで、相殺が制限・禁止される場面を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相殺制度に独特の法律用語をおさえたうえで、相殺の要件を説明することができる。また、相殺が制限・禁止される場合については、なぜ制限・禁止されるのかを論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	不良債権の回収⑤―変則的な債権回収（相殺 ii・代物弁済）		相殺と差押えについて、具体的事例を挙げながら、2017年改正前における判例・学説の主張とその論拠をそれぞれ学び、こうした判例学説が改正法においてどのような変化を受けるのかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺と差押えを中心として、改正前の重要判例が改正でどう取り込まれたのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
26	不良債権の回収⑥―変則的な債権回収（債権譲渡 i）		世の中でなぜ債権譲渡が行われるのかをおさえたうえで、譲渡制限特約や債権譲渡の成立要件を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡とはどのような場合に行われるものであり、なぜ譲渡制限特約なるものがなされ、その効果は改正によりどう変更されたのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
27	不良債権の回収⑦―変則的な債権回収（債権譲渡 ii）		債権譲渡の対抗要件や、その他の発展的問題として債権譲渡と相殺について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡では第三者対抗要件についても債務者に対する通知承諾が中核に据えられている理由を論理的に説明したうえで、債権譲渡と相殺といった発展的問題についても概要を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
28	不良債権の回収⑧―変則的な債権回収（債権譲渡 iii）		抗弁の承継や将来債権譲渡について学修する。抗弁の承継をめぐっては、2017年改正により廃止された「異議なき承諾制度」と今後の取扱いについても応用的に学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡がなされた場合に債務者が既に有していた抗弁権がどのように取り扱われるのか、また2017年改正で債務者の異議なき承諾制度が廃止された理由を論理的に説明したうえで、今後の債務者と債権者との利益調整のあり方について自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、演習回における問題を解いておく。	120分
29	演習（第5回）		相殺、代物弁済、債権譲渡を終え、演習問題の解説を通じて、これまでの復習を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する演習問題を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
30	授業内試験、問題解説、質疑応答		60分で授業内試験を行った後、その問題の解説や質疑応答をするとともに、民法Ⅳを学んだ後に学ぶべき法分野の説明等を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	授業内試験の準備	120分
	事後学修	来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	蓮田 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得済みであること。

【授業方法】		
講義形式で行う。 講義に際しては、各回レジュメを配布することを予定している。 第30回講義にて授業内試験を行い、直後に解説等を述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対して、どのように考えるのかを口頭で表現してもらうことを予定している。 また、場合によっては出席管理システム（レスポ）を用いて問題の投げかけに答えてもらうことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の小テストに関しては翌回の授業にて解説を行い、第30回講義にて実施する授業内試験に関しては直後に解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に説明する。				

【オフィスアワー】
水曜日13：00～14：00（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(1611) メールアドレス：hasuda.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び債権法序論―債権の意義と債権法―		ガイダンスとして、授業の進め方や成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明する。その後、債権法序論として債権の意義及び債権法となにかについて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権法の民法上の位置づけについて説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけについて確認する。		120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、債権総論に関する内容を整理する。		120分
2	債権の目的①―債権の目的と債権の種類（特定物債権・種類物債権）―		債権の目的である「給付」とは何かについて学修するとともに、債権の種類として特に特定物債権と種類債権について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給付、特定物債権及び種類債権について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、給付、特定物債権及び種類債権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
3	債権の目的②―金銭債権と選択債権―		債権の種類の中でもここでは金銭債権と選択債権について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の基本原則について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、金銭債権及び選択債権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
4	債権の効力①―総論―		債権の効力について、ここでは総論として、広く債権の効力に係る整理を行う。その他、債権の実現及び特殊な債権債務、第三者による債権侵害について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権の効力、債権の実現及び特殊な債権債務、第三者による債権侵害について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、債権の効力、債権の実現及び特殊な債権債務、第三者による債権侵害について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
5	債権の効力②―履行の強制―		前回概観した債権の実現について、とくに具体的な履行の強制の方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、履行の強制力について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、履行の強制について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
6	債権の効力③―債務不履行の基本―		債務不履行の基本として、債務不履行とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して債務不履行概念について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、債務不履行概念について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	債権の効力④―債務不履行の類型―	前回学修した債務不履行概念を念頭に置き、伝統的な3分類に応じた債務不履行について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、履行遅滞、履行不能及びその他不履行（不完全履行）について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、履行遅滞、履行不能及びその他不履行（不完全履行）について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
8	債権の効力⑤―損害賠償の基本―	債務不履行に対する責任として位置付けられる損害賠償について学修する。ここでは、主に、根拠条文、損害の分類、損害賠償の範囲と因果関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債務不履行責任としての損害賠償に係る根拠条文、損害の分類並びに損害賠償の範囲及び因果関係について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債務不履行責任としての損害賠償に係る根拠条文、損害の分類並びに損害賠償の範囲及び因果関係について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
9	債権の効力⑥―損害賠償の理論的問題点―	前回学修した損害賠償について、さらに深化し、賠償額の算定、その他損害賠償に係る制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賠償額の算定、その他損害賠償に係る制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、賠償額の算定、その他損害賠償に係る制度について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
10	債権の効力⑦―損害賠償と債務不履行類型―	損害賠償について、履行遅滞の場合と履行不能の場合とに分けて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、履行遅滞と履行不能の損害賠償について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、履行遅滞と履行不能の損害賠償について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
11	債権の効力⑧―受領遅滞― 責任財産の保全①―責任財産の基礎―	受領遅滞について学修し、責任財産とは何を意味するのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受領遅滞及び責任財産について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、受領遅滞及び責任財産について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
12	責任財産の保全②―債権者代位権(1)―	債権者代位権について学修する。ここでは特に、債権者代位権の意義と機能、被代位権利について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者代位権の意義と機能、被代位権利について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権者代位権の意義と機能、被代位権利について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	責任財産の保全③―債権者代位権(2)―	前回到引き続き債権者代位権について学修する。ここでは特に、債権者代位権の行使、効果、債権者代位権の転用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者代位権の行使、効果、債権者代位権の転用について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権者代位権の行使、効果、債権者代位権の転用について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
14	責任財産の保全④―詐害行為取消権―	詐害行為取消権について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐害行為取消権について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、詐害行為取消権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
15	多数当事者の債権関係①―総論、分割債権債務、不可分債権債務―	これまでは、原則として債権者と債務者という二当事者を念頭に置いて学修してきたが、これからはそれ以上の当事者が登場する場面について学修する。ここでは、特に多数当事者の債権関係について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多数当事者の債権関係について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、多数当事者の債権関係について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
16	多数当事者の債権関係②―分割債権債務、不可分債権債務―	分割債権債務及び不可分債権債務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分割債権債務及び不可分債権債務について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、分割債権債務及び不可分債権債務について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
17	多数当事者の債権関係③―連帯債務―	連帯債務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、連帯債務について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、連帯債務について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
18	多数当事者の債権関係④―不真正連帯債務、連帯債権―	不真正連帯債務及び連帯債権について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不真正連帯債務及び連帯債権について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、不真正連帯債務及び連帯債権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	多数当事者の債権関係⑤―保証債務(1)―	保証債務について学修する。ここでは、特に保証債務の意義、要件、保証債務の付従性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保証債務の意義、要件、保証債務の付従性について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、保証債務の意義、要件、保証債務の付従性について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
20	多数当事者の債権関係⑥―保証債務(2)―	保証債務について学修する。ここでは、特に保証債務の補充性、求償権、連帯保証・共同保証について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保証債務の補充性、求償権、連帯保証・共同保証について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、保証債務の補充性、求償権、連帯保証・共同保証について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
21	債権譲渡・債務引受①―債権譲渡の基礎―	債権譲渡について学修する。ここでは特に債権譲渡とは何であるのか、債権譲渡の機能及び債権の譲渡性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡概念、債権譲渡の機能及び債権の譲渡性について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権譲渡概念、債権譲渡の機能及び債権の譲渡性について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
22	債権譲渡・債務引受②―債権譲渡の対抗要件―	前回に引き続き、債権譲渡について学修する。ここでは特に債権譲渡の対抗要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡の対抗要件について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権譲渡の対抗要件について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
23	債権譲渡・債務引受③―債務引受・契約上の地位の移転―	債務引受及び契約上の地位の移転について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債務引受及び契約上の地位の移転について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債務引受及び契約上の地位の移転について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
24	債権の消滅①―総論、弁済(1)―	債権の消滅について学修する。ここでは特に債権の消滅がなぜ生じるのかについて概観し、弁済の意義及び弁済の提供について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権の消滅原因、弁済の意義及び弁済の提供について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権の消滅原因、弁済の意義及び弁済の提供について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	債権の消滅②―弁済（2）―	前回に引き続き弁済について学修する。ここでは特に第三者の弁済及び受領権者としての外観を有する者に対する弁済について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第三者の弁済及び受領権者としての外観を有する者に対する弁済について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、第三者の弁済及び受領権者としての外観を有する者に対する弁済について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
26	債権の消滅③―代物弁済、供託―	代物弁済及び供託に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代物弁済及び供託について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代物弁済及び供託について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
27	債権の消滅④―相殺（1）―	相殺について学修する。ここでは特に相殺の意義、相殺適状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺の意義、相殺適状について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、相殺の意義、相殺適状について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
28	債権の消滅⑤―相殺（2）―	前回に引き続き相殺について学修する。ここでは特に相殺の禁止及び相殺の方法・効果について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺の禁止及び相殺の方法・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、相殺の禁止及び相殺の方法・効果について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
29	債権の消滅⑥―更改、免除、混同―	更改、免除及び混同について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、更改、免除及び混同について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、更改、免除及び混同について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
30	授業内試験及び解説	授業内にて試験を行い、また、債権法総論の授業のまとめとなるよう試験の解説を合わせて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、試験の解説等を踏まえ、試験で問われた内容及び債権法総論全体の概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うためこれまで学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	債権法総論と民法との関係を考え、債権法総論の役割について検討する。	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	担当者	平野 裕之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし特になし

【授業方法】
講義を中心とするが、ソクラテスメソッドを取り入れ受講生に質問をしながら授業を進めていきたい。そのため、授業は前列の方で受講して頂きたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	期末試験の採点により評価をし、毎回の授業の質疑応答への参加は加点事由として考慮する。	25	25	25	25							100
小テスト等	予定していない。											
レポート等	予定していない。											
討論・発表等	予定していない。											
授業への参画度	ソクラテスメソッドを取り入れた授業なので、前列に着席をして、質疑応答に積極的に参加して頂きたい。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験後に試験の問題見の解説、採点の感想などを公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
債権総論(第2版)	平野裕之	日本評論社	2023年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
必要に応じて受け付ける。予約必要。 hirano.hiroyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論、債権の種類1(特定物債権)	テキスト1頁以下 債権(債務)の意義、債権の種類1(特定物債権)	
	この回の到達目標	債権(債務)がどのようなものか、物権と比較しながら検討する。特定物債権を理解する。	
	事前学修	テキスト1頁以下を目を通しておくこと。予習はざっとでよい(以下同様)	30分
	事後学修	テキスト1頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。予習よりも復習に力を入れてもらいたい(以下同様)	90分
2	債権の種類2(種類債権など)	テキスト2頁以下 債権の種類2(種類債権など)	
	この回の到達目標	種類債権などを理解する。	
	事前学修	テキスト22頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト22頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
3	債権の効力1(債権侵害など)	テキスト45頁以下 債務と責任、第三者による債権侵害	
	この回の到達目標	債務と責任、第三者による債権侵害を理解する。	
	事前学修	テキスト45頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト45頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
4	債権の効力2(債権に基づく妨害排除請求権)、債権の効力3(債務不履行総論)	テキスト65頁以下 債権に基づく妨害排除請求、債務不履行総論	
	この回の到達目標	債権に基づく妨害排除請求、債務不履行総論を理解する	
	事前学修	テキスト65頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト65頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
5	履行遅滞、履行不能	テキスト84頁以下 履行遅滞、履行不能	
	この回の到達目標	履行遅滞、履行不能を理解する	
	事前学修	テキスト84頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト84頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
6	不完全履行、信義則上の義務違反	テキスト84頁以下 不完全履行、信義則上の義務違反	
	この回の到達目標	不完全履行、信義則上の義務違反を理解する。	
	事前学修	テキスト103頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト103頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	債務不履行の効果	テキスト129頁以下 債務不履行の効果	
	この回の到達目標	債務不履行の効果を理解する	
	事前学修	テキスト129頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト129頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
8	債権者代位権	テキスト159頁以下 債権者代位権	
	この回の到達目標	債権者代位権を)理解する。	
	事前学修	テキスト159頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト159頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
9	詐害行為取消権1(総論、詐害行為)	テキスト187頁以下 詐害行為の意義、要件	
	この回の到達目標	詐害行為の意義、要件を理解する。	
	事前学修	テキスト187頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト187頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
10	詐害行為取消権1(詐害行為の要件(第9回で説明をしたものを除く)、効果)	テキスト212頁以下 詐害行為の要件、効果	
	この回の到達目標	詐害行為の要件、効果を理解する。	
	事前学修	テキスト212頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト212頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
11	多数当事者の債権関係1(総論、分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債務1)	テキスト243頁以下 分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債務1)	
	この回の到達目標	分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債務1)を理解する。	
	事前学修	テキスト243頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト243頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
12	多数当事者の債権関係2(連帯債務2)	テキスト266頁以下 連帯債務の効力	
	この回の到達目標	連帯債務の効力を理解する・	
	事前学修	テキスト266以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト266頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多数当事者の債権関係3(保証債務1)	テキスト285頁以下 保証債務の意義、成立、要件	
	この回の到達目標	保証債務の意義、成立、要件を理解する。	
	事前学修	テキスト285以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト285頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
14	多数当事者の債権関係4(保証債務2)	テキスト303頁以下 保証債務の範囲、求償権1	
	この回の到達目標	保証債務の範囲、求償権1を理解する	
	事前学修	テキスト303以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト303頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
15	多数当事者の債権関係5(保証債務3)	テキスト321頁以下 求償権2(事前求償権)、根保証	
	この回の到達目標	求償権2(事前求償権)、根保証を理解する	
	事前学修	テキスト321以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト321頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
16	債権譲渡1(総論、債権の譲渡可能性、譲渡禁止特約)	テキスト351頁以下 債権の譲渡可能性、譲渡禁止特約	
	この回の到達目標	債権の譲渡可能性、譲渡禁止特約を理解する	
	事前学修	テキスト351以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト351頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
17	債権譲渡2(債権譲渡の効力、債務者への対抗)	テキスト370頁以下 債権譲渡の効力、債務者への対抗	
	この回の到達目標	債権譲渡の効力、債務者への対抗を理解する。	
	事前学修	テキスト370以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト370頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
18	債権譲渡3(債権譲渡の第三者への対抗)	テキスト385頁以下 債権譲渡の第三者への対抗	
	この回の到達目標	債権譲渡の第三者への対抗を理解する。	
	事前学修	テキスト385以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト385頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	債務引受、債権の消滅1(弁済の意義)	テキスト395頁以下 債務引受、弁済の意義	
	この回の到達目標	債務引受、弁済の意義を理解する	
	事前学修	テキスト395以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト395頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
20	弁済の要件、効果(表見受領権者への弁済の要件)	テキスト416頁以下 弁済の要件、効果、表見受領権者への弁済の要件	
	この回の到達目標	弁済の要件、効果、表見受領権者への弁済の要件を理解する。	
	事前学修	テキスト416以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト416頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
21	表見受領権者への弁済の効果、弁済をめぐる補充規定	テキスト434頁以下 表見受領権者への弁済の効果、弁済をめぐる補充規定	
	この回の到達目標	表見受領権者への弁済の効果、弁済をめぐる補充規定を理解する。	
	事前学修	テキスト434以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト434頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
22	弁済者代位の意義、効果	テキスト447頁以下 弁済者代位の意義、効果	
	この回の到達目標	弁済者代位の意義、効果を理解する。	
	事前学修	テキスト447以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト447頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
23	弁済者代位における利害調整	テキスト462頁以下 弁済者代位における利害調整	
	この回の到達目標	弁済者代位における利害調整を理解する。	
	事前学修	テキスト462以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト462頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
24	弁済提供、受領遅滞	テキスト451頁以下 弁済提供、受領遅滞	
	この回の到達目標	、受領遅滞弁済提供を理解する。	
	事前学修	テキスト481以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト481頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	弁済供託、相殺の意義	テキスト497頁以下 弁済供託、相殺の意義	
	この回の到達目標	弁済供託、相殺の意義を理解する。	
	事前学修	テキスト497頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト497頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
26	相殺の要件	テキスト510頁以下 相殺の要件	
	この回の到達目標	相殺の要件を理解する。	
	事前学修	テキスト510頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト510頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
27	差押えと相殺	テキスト526頁以下 差押えと相殺	
	この回の到達目標	差押えと相殺を理解する。	
	事前学修	テキスト526頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト526頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
28	相殺の効果	テキスト534頁以下 相殺の効果	
	この回の到達目標	相殺の効果を理解する。	
	事前学修	テキスト534頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト534頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
29	代物弁済、更改、免除 混同	テキスト538頁以下 代物弁済、更改、免除 混同	
	この回の到達目標	代物弁済、更改、免除 混同を理解する。	
	事前学修	テキスト538頁以下を目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト538頁以下を、授業で理解したこと追加してなされた説明などを補完しつつ確認すること。	90分
30	総復習	1回から29回までの内容を総復習する。	
	この回の到達目標	1回から29回までの授業での理解を確認する。	
	事前学修	総復習をする。	30分
	事後学修	総復習をして試験に備える。	90分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	益井 公司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
講義には必ず出席すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義においてわからないことがあれば積極的に質問すること。また講義中に学生が理解しているか質問をするので積極的に答えるようにしてもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容が理解できているかを短時間で書いてもらう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・マルシェ債権総論	宮本健蔵返書	嵯峨野書院	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の12時20分より13時20分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義の終わりに予約を入れておいていただきたい）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	いかに民法を学習するか。	講義のガイダンス	
	この回の到達目標	債権総論の学習の仕方を習得する。	
	事前学修	第一回目の講義なので、債権法総論に関し予習する必要はないが、民法総則、物権法をすでに学んでいるので、それら全体をもう一度見ておいていただきたい。（2時間）以下カッコ内の時間は詳細に学習するとそれくらいかかるということを示している。	120分
	事後学修	民法の学び方に関し、プリントを配布するので、それをもう一度よく読んでおくこと。120分の復習をすること（以下各授業の終わりには必ず120分の復習をすること）。（2時間）	120分
2	債権の意義	1 債権法の意義 ①債権の基本概念 ②債権と物権 債権法の特質	
	この回の到達目標	債権の基本概念を理解する。	
	事前学修	債権の基本概念 債権と物権 債権法の特質に関する教科書簿部分をあらかじめ読んでくること。120分の予習をすること（以下各授業の初めに120分の予習をすること）。（2時間）	120分
	事後学修	債権と物権の峻別にどのような意味があるのか、債権法の普遍的性質等についてもう一度考えること。（2時間）	120分
3	債権の目的	債権の目的 ①特定物債権 ②種類債権 旧規定による特定物ドグマの否定（新483条）、特定物と機変負担等との関係が新法では改正されていることに注意する必要がある。	
	この回の到達目標	特定物債権・種類債権について理解する。	
	事前学修	教科書の特定債権、種類債権の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和30年10月18日民集9巻11号1642頁、この部分に関する改正法の内容についてもう一度確認しておくこと。（2時間）	120分
4	債権の目的	③金銭債権 ④利息債権 ⑤選択債権 ⑥任意債権	
	この回の到達目標	金銭債権・利息債権につき理解する。	
	事前学修	金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権の箇所をあらかじめ学習しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成22年4月20日民衆64巻3号921頁、最判平成20年6月10日民集62巻6号1488頁をよく読んでみること。（2時間）	120分
5	債権の効力	2 債権の効力 ①序説（債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力） i 不完全債務（自然債務）	
	この回の到達目標	債権の効力につき理解する。」	
	事前学修	債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力、不完全債務（自然債務）について、あらかじめ読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	自然債務という概念が、必要か否を検討すること。（2時間）	120分
6	債券侵害	ii 第三者による債権侵害（不法行為の成立と妨害排除）	
	この回の到達目標	第三者による債権侵害につき理解する。	
	事前学修	第三者による債権侵害と不法行為、債権に基づく妨害排除請求の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大審院大正4年3月10日刑録21輯279頁（第三者の債権侵害と不法行為）、最判昭和30年5月31日民集9巻6号774頁（2重譲渡）、東京地判平成20年12月10日判時2035号70頁（引き抜き）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1515頁（妨害排除）、最大判昭和61年6月11日民集40巻4号872頁（人格権）を検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	現実的履行の強制		②現実的履行の強制	
	この回の到達目標	履行の強制につき理解する。		
	事前学修	債務の履行の強制の部分を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	大決昭和10年12月16日民集14巻2044頁（謝罪広告）、幼児の引き渡し請求の問題について整理しておくこと。（2時間）		120分
8	債務不履行責任の拡大現象		③損害賠償の請求（債務不履行の種類、債務不履行責任の拡大）	
	この回の到達目標	債務不履行責任の拡大現象につき理解する。		
	事前学修	債務不履行責任の拡大（客観的拡大、人的拡大、時間的拡大）、つまり、安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、説明義務違反に基づく損害賠償について、あらかじめ教科書等で見ておくこと（2時間）		120分
	事後学修	最判昭和50年2月25日民集29巻2号143頁（判然配慮義務）、最判昭和59年9月18日判時1137号51頁（契約交渉破棄における責任）、最判平成23年4月22日民集65巻3号1405頁（契約締結説明義務違反）（2時間）		120分
9	債務不履行の種類と要件		i 債務不履行の種類と要件（履行不能、履行遅滞、不完全履行）	
	この回の到達目標	債務不履行に一般的形態につき理解する。		
	事前学修	履行不能、履行遅滞、不完全履行について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）		120分
	事後学修	債務者の帰責事由（帰責事由か免責事由か）履行補助者の故意・過失（どのような形で債務を履行するかという契約内容の問題か）など自分でもう一度整理しておくこと。（2時間）		120分
10	債務不履行による損害賠償		ii 債務不履行による損害賠償（損害賠償の範囲を中心に） 損害の概念 損害の種類、損害賠償の範囲、損害賠償の調整（損益相殺、過失相殺）、損害賠償の予定、代償請求権の新法での明文化	
	この回の到達目標	債務不履行の効果（損害賠償の範囲等）につき理解する。		
	事前学修	債務不履行の効果の部分を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	損害賠償の範囲を中心として、最判平成21年1月19日民集63巻1号97頁（損害回避減少措置）、大審院大正7年8月27日民集24巻1658頁（416条2項の予見時期）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1448頁および最判昭和47年4月20日民集26巻3号520頁（損害算定時期）をもう一度整理しておくこと。（2時間）		120分
11	受領遅滞		④受領遅滞	
	この回の到達目標	受領遅滞につき理解する。		
	事前学修	受領遅滞に関し教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）		120分
	事後学修	新法による受領遅滞における効果の明文化、受領不能か履行不能か争われるケース（最判昭和62年7月17日民集41巻5号1350頁）を検討すること。また受領遅滞の解消に関し最判昭和45年8月20日民集24巻9号1243頁を検討すること。（2時間）		120分
12	債権者代位権		3 責任財産の保全 ①債権者代位権 その1（意義と機能、債権者代位権の要件、債権者代位権の対象となる権利）	
	この回の到達目標	債権者代位権の意義・要件につき理解する。		
	事前学修	債権者代位権の意義・機能と要件の部分教科書等で勉強しておくこと。（2時間）		120分
	事後学修	最判昭和55年7月11日民集34巻4号628頁（内容確定前の金銭債権）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（債務者の無資力）、最判平成13年11月22日民集55巻6号1033頁（遺留分減殺請求）、最判昭和58年10月6日民集37巻8号1041頁（慰謝料請求）、最判昭和43年9月26日民集22巻9号2002頁（時効の援用権）について検討すること。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	債権者代位権	その2（行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用）	
	この回の到達目標	債権者代位権の行使方法・行使の効果。債権者代位権の転用につき理解する。	
	事前学修	債権者代位権の行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用につき教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和44年6月24日民集23巻7号1079頁（行使できる範囲）、大判明治43年7月6日民録16輯537頁（登記請求権の代位行使）、大判昭和4年12月16日民集8巻944頁、最判昭和29年9月24日民集8巻9号1658頁（不動産賃借権の保全）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（金銭債権の特定債権としての保全）を検討すること。（2時間）	120分
14	詐害行為取消権	2 詐害行為取消権 その1（意義、法的性質、詐害行為取消権の要件①[詐害行為]） 相対的取消を否定し絶対的取消を新法では認める。要件は相関的判断による。	
	この回の到達目標	詐害行為取消権の意義・要件につき理解する。	
	事前学修	詐害行為取消権の意義、その法的性質、詐害行為取消権の要件（①詐害行為）について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	時価相当価額での不動産の売却、一部の債権者への弁済または担保の供与等につき新法および旧法での議論を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	詐害行為取消権	その2（詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果、行使期間等）	
	この回の到達目標	詐害行為取消権の効果につき理解する。	
	事前学修	詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	対抗要件を具備させる行為は詐害行為となるか、相続の放棄・遺産分割の合意・離婚に際しての財産分与等は詐害行為になるか検討しておくこと。特定債権でも被保全債権となるか、被保全債権の成立時期さらには取消権の範囲および内容について整理しておくこと。（2時間）	120分
16	多数当事者の債権関係	4 多数当事者の債権関係 ①序説 ②分割債権関係、③不可分債権関係	
	この回の到達目標	多数当事者の債券関係のうち、分割債券関係、不可分債権関係、連隊債権関係につき理解する。	
	事前学修	多数当事者の債権関係の①意義、②分割債権関係、③不可分債権関係について教科書などで勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	平成17年9月8日民集59巻7号1931頁、最判昭和42年8月25日民集21巻7号1740頁の判例を検討すること。不可分的給付の対価の支払い義務は不可分債務か検討せよ（大判対象1年11月24日民集1巻670頁、大判昭和7年6月8日裁判例6巻民179頁）。（2時間）	120分
17	多数当事者の債権関係（連帯債務）	④連帯債務関係 その1（意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力（連帯債務の対外的効力、連帯債務の一人について生じた事由））	
	この回の到達目標	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力につき理解する。	
	事前学修	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	債務者の一人についての無効・取消し、連帯債務の一人について生じた事由につき絶対的効力事由差応対的効力事由について整理しておくこと。（2時間）	120分
18	連帯債務の対内的効力	その2（連帯債務の対内的効力（求償関係）、不真正連帯債務、連帯債権）	
	この回の到達目標	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務につき理解する。	
	事前学修	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務、連帯債権について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大判昭和7年9月30日民集11巻2008頁（有効とみなす効果の法的構成（相対的效果説））、最判平成22年10月8日民集64巻7号1719頁、最大判平成28年12月19日民集70巻8号2121頁を検討せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	保証債務		⑤保証債務 その1（意義と性質、保証債務の成立）
	この回の到達目標	保障債務の意義と性質、保証債務の成立につき理解する。	
	事前学修	保証債務の意義と性質、保証債務の成立について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁、最判平成28年1月12日民集70巻1号1頁を検討しておくこと。（2時間）	120分
20	保証債務		その2（保証債務の内容、保証債務の対外的効力）
	この回の到達目標	保証債務の内容、保証債務の対外的効力につき理解する。	
	事前学修	保証債務の内容、保証債務の対外的効力について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁・最判昭和47年3月23日民集26巻2号274頁、最判昭和20年5月21日民集24巻9頁を検討のこと。（2時間）	120分
21	保証債務		その3（主たる債務者または保証人に生じた事由の効力）
	この回の到達目標	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力につき理解する。	
	事前学修	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成15年3月14日民集57巻3号286頁、最判昭和46年10月26日民集25巻7号1019頁、最判昭和43年10月17日判時540号34頁、大判昭和20年9月10日民集24巻82頁を検討すること。（2時間）	120分
22	保証債務		その4（保証債務の内部関係、特殊な保証）
	この回の到達目標	保証債務の内部関係、特殊な保証（特に根保証）につき理解する。	
	事前学修	保証債務の内部関係、特殊な保証を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成2年12月18日民集44巻9号1686頁、最判昭和60年2月12日民集39巻1号89頁、最判平成27年11月19日民集69巻7号1988頁、平成24年12月14日民集66巻12号3559頁を検討のこと。（2時間）	120分
23	債権・債務の移転		5 債権・債務の移転 ①序説 ②債権譲渡 その1（債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限など）
	この回の到達目標	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限につき理解する。	
	事前学修	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和53年12月15日判時916号25頁、最判平成11年1月29日民集53巻1号151頁、最判平成13年11月22日民集55巻6号1059頁を検討すること。譲渡制限に関しては新法でかなり内容が変わっているので注意すること。（2時間）	120分
24	債権・債務の移転		その2（債権譲渡の債務者および第三者対抗要件）
	この回の到達目標	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件につき理解する。	
	事前学修	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和49年3月7日民集28巻2号174頁、最判昭和55年1月11日民集34巻1号42頁、最判平成5年3月30日民集47巻4号3334頁を検討のこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	債権・債務の移転	③債務引き受け・契約上の地位の移転	
	この回の到達目標	債務引き受け・契約上の地位の移転につき理解する。	
	事前学修	債務引き受け・契約上の地位の移転について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和41年12月20日民集20巻10号2139頁、最判昭和46年4月23日民集25巻3号388頁を検討すること。（2時間）	120分
26	債権の消滅	6 債権の消滅 ①序説 ②弁済	
	この回の到達目標	債権の消滅（弁済）につき理解する。	
	事前学修	債権の消滅 ①序説 ②弁済の部分を教科書等で勉強しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和63年7月1日判時1287号63頁、最判昭和37年8月21日民集16巻9号1809頁、最判昭和59年2月23日民集38巻3号445頁、平成15年4月8日民集57巻4号337頁を検討のこと。（2時間）	120分
27	債権の消滅（弁済者代位）	弁済者代位	
	この回の到達目標	弁済者代位につき理解する。	
	事前学修	弁済者代位の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和59年5月29日民集38巻7号885頁、平成7年3月23日民集49巻3号987頁、最判平成23年11月22日民集65巻8号3165頁、最判昭和61年11月27日民集40巻7号1205頁を検討のこと。（2時間）	120分
28	債権の消滅（相殺）	③相殺	
	この回の到達目標	総裁について理解する。	
	事前学修	相殺の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成25年2月28日民集67巻2号343頁、最判昭和45年6月24日民集24巻6号587頁を検討すること。（2時間）	120分
29	債権の消滅（代物弁済・供託、更改・免除・混同）	④代物弁済・供託、更改・免除・混同	
	この回の到達目標	代物弁済・供託、更改・免除・混同につき理解する。	
	事前学修	代物弁済・供託、更改・免除・混同について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成24年9月4日金判1413号46頁、最判昭和46年10月14日民集25巻7号933頁を検討すること。（2時間）	120分
30	まとめ・質問受付	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）	
	この回の到達目標	債権法は大幅な改正がなされているのでその点に注意しながら、債権総論で良くわからなかった点につき質問を受け、理解を深めてもらう。	
	事前学修	これまでの講義においてよくわからなかった点を自分で整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	質問に対する説明を受けたはずなのでそれを整理しておくこと。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）【法職課程】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
法曹コースに在籍する学生で、民法Ⅰ（民法総則）の単位を取得済みであること。

【授業方法】
基本的事項に関する講義を前提として、事例についての質疑応答を行いつつ授業を進める。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。 ・教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	10							50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質疑応答等により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
債権 エッセンシャル民法3 第2版	永田眞三郎、松本恒雄、松岡久和、横山美夏	有斐閣	2022	参考書	推奨
判例講義民法Ⅱ 債権 新訂第3版	池田真朗、片山直也、北居功編	勁草書房	2023	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:00～13:00（授業期間中。事前にメールでアポイントを取る） 研究室（4号館423号室） メールアドレス：kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、債権各論総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 債権各論とはどのような分野かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法典の中で債権各論がどのような位置を占めているかが説明できる。	
	事前学修	授業の対象となる領域を確認しておく。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
2	契約法の基本原則	契約法における基本原則について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約法の基本原則について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
3	契約の成立	契約の成立および成立過程における問題に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約の成立に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
4	契約締結過程に関する論点	契約締結過程に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約締結過程に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
5	契約の効力	主に双務契約を念頭に、契約の効力に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、同時履行の抗弁など契約の効力に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
6	双務契約の効力に関する論点	契約の効力に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約の効力に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	契約の解除		契約の解除に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約の解除に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
8	解除に関する論点		契約の解除に関する民法上の論点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約の解除に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
9	売買契約の効力		売買契約の効力に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、売買契約の効力に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
10	契約不適合に関する論点		売買契約における契約不適合に関する民法上の論点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約不適合に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
11	贈与		贈与契約に関する基本的事項について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、贈与契約に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
12	無償契約に関する論点		無償契約に関する民法上の論点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無償契約に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	賃貸借（契約当事者間の関係）	賃貸借契約に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸借契約の当事者間の法律関係に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
14	賃貸借に関する論点	賃貸借契約に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸借契約に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
15	賃貸借契約と第三者	賃貸借契約と第三者との関係に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸借契約と第三者との法律関係に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
16	賃貸借と第三者に関する論点	賃貸借契約と第三者との関係に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸借契約と第三者との関係に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
17	役務提供契約	役務提供契約に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、役務提供契約に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
18	役務提供契約に関する論点	役務提供契約に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、役務提供契約に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	その他の典型契約（組合、和解）	組合・和解に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、組合・和解に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
20	非典型契約	非典型契約に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、非典型契約に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
21	不法行為概説、不法行為の要件	不法行為の要件に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不法行為の要件に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
22	不法行為の要件に関する論点	不法行為の要件に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不法行為の要件に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
23	不法行為の効果	不法行為の効果に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不法行為の効果に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
24	不法行為の効果に関する論点	不法行為の効果に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不法行為の効果に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	特殊不法行為	特殊不法行為に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特殊不法行為に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
26	特殊不法行為に関する論点	特殊不法行為に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特殊不法行為に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
27	不当利得	不当利得に関する基本的事項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不当利得に関する基本的事項について説明できる。	
	事前学修	Google Classroomを通じて配布する事前学修資料をよく読んで、事前学修課題に取り組む。	120分
	事後学修	授業内容を復習して、不明な点があれば教科書等を用いて補っておく。	120分
28	不当利得に関する論点	不当利得に関する民法上の論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不当利得に関する主要論点について説明でき、基本的事項を踏まえて自分なりの考えを示すことができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習する。	120分
	事後学修	教科書、ノート等を参考に試験問題を見直す。	120分
29	授業内試験、解説	授業内試験およびその解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権各論に関する問題について回答することができる。	
	事前学修	筆記試験の問題を見直し、民法上問題となる点などを整理し、解答を準備する。	120分
	事後学修	解説講義の内容を参考に、自分の答案について見直しを行う。	120分
30	総括講義	債権各論に関する様々な問題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権各論に関する現代的問題を説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、現代における諸問題を整理し、検討する。	120分
	事後学修	授業で得た知見を基に、現代的問題について自分なりの考えをまとめる。	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式で行う。また、あらかじめパワーポイントの資料を配布する予定。最終授業にて授業内試験の講評・解説及び採点雑感を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について理解し、身につけているかを筆記試験により評価する。	25	25	25	5							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等(形式は履修者数等に応じて異なる)により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
契約法 新版	中田裕康	有斐閣	2021	教科書	推奨
事務管理・不当利得・不法行為 第3版 セカンドステージ債権法III	野澤正充	日本評論社	2020	教科書	推奨
リーガルベシス民法入門 第5版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2024	教科書	推奨
備考	授業内にて説明するため、第一回授業までに準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権各論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債権各論の民法上の位置づけについて説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権各論の導入部分を読み、債権各論の民法上の位置づけを理解する。	120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	契約法の基本原則	授業の後半に扱う法定債権や物権法との性質の違いを踏まえつつ、契約法の基本となる原理原則について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約法の性質や他の制度との相違を説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、契約法の特徴がどのようなものかを確認する。	120分
	事後学修	契約法について、他の制度との相違を踏まえてどのような特徴が認められるか確認する。	120分
3	契約の成立	契約がどのようにして成立するのかについて、契約成立の要件とどのような場合に契約の成立が否定されるのかを踏まえて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約の成立の要件を説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、契約の成立要件を確認し、どのような場合に契約の成立が否定されるかを確認する。	120分
	事後学修	契約の成立の要件を具体例を踏まえながら確認する。	120分
4	契約の解釈と効果	契約の成立を踏まえ、成立した契約をどのように解釈するのか、及び契約の効果について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約の解釈と契約の効果を説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、契約の解釈及び契約の効果についての箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	契約の解釈及び契約の効果について、具体例を踏まえながら説明できるか確認する。	120分
5	契約の解除①	成立した契約が解消される場面である解除について、要件及びその効果を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約解除の要件と効果を説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、契約の解除についての箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	契約解除の要件、効果について、具体的な事例を用いて説明できるか確認する。	120分
6	契約の解除②	契約の解除に関する重要判例、及び民法上の解除に類似する他の制度を紹介しながら解除についての理解を深めるよう解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約解除の重要判例の意義、及び他の制度との相違を説明することができる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、契約の解除についての箇所を確認するとともに、前回の重要事項を確認する。	120分
	事後学修	契約解除の重要判例の意義や解除の他の制度との相違を説明できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	贈与契約①		一方当事者が他方当事者に無償で目的物を譲り渡す契約である贈与契約は、双方の当事者が負担を追う契約と比して当事者の保護の在り方が異なっている。片務・無償契約の典型例である贈与契約の解説を通じ、当事者の利害関係の調整を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、贈与契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、贈与契約の具体的な事例を踏まえ、誰がどのような利益を受ける関係にあるのかを確認しておく。		120分
	事後学修	負担付贈与契約のように受贈者も一定の負担を追う場合、通常の贈与契約とはどのように異なった考慮の必要性があるか検討し、自分の考え方をまとめる。		120分
8	贈与契約②		前回の講義を踏まえ、次回以降に学ぶ有償契約との債権者保護の程度に影響する贈与契約の無償契約としての性質にスポットを当てて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、贈与契約の無償契約としての性質について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、贈与契約の無償契約としての性質を確認しておく。		120分
	事後学修	贈与契約の無償契約としての性質が条文上どのように現れているか確認する。		120分
9	売買契約①		売買契約は双務・有償契約の典型的な契約であり、多くの契約関係に規定が準用される。売買契約では買主と売主間の権利義務がどのように規定されており、どのような考慮に基づくものであるか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、売買契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、売買契約の具体的な事例を踏まえ、贈与契約とはどのように当事者の関係が異なっているのかを確認する。		120分
	事後学修	売買契約において、双務契約であるということがどのような影響を及ぼしているか、贈与契約と比べて各当事者の要保護性はどのように異なっているかをまとめる。		120分
10	売買契約②		売買契約では、権利や目的物に瑕疵が存在した場合には特別な規定を設けている。基本的には買主を保護するための規定であるが、一方的に買主を保護しているわけではなく、売主の利益にも配慮がなされており、具体的な条文を踏まえながら権利関係を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、売買契約において、権利や目的物の瑕疵が存在した場合の法適用について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、売買契約における各当事者の具体的な権利義務としてどのようなものが認められているか、条文とともに確認する。		120分
	事後学修	売買契約における瑕疵担保責任は、債権法改正によって修正されており、従来の規定と内容と比較し、変更点とその意義を検討する。		120分
11	売買契約③		前回までの授業を踏まえ、売買契約の有償契約である点にスポットを当て、両当事者の保護について無償契約である贈与契約との比較を通じて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、売買契約について有償契約であることがどのように制度化されているか説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、贈与契約との相違を確認する。		120分
	事後学修	売買契約が有償契約であることがどのように制度化されているかを条文を挙げながら確認する。		120分
12	消費貸借契約		消費貸借契約は、主として金銭を目的とした契約であるが、実社会において融資を受ける場合などが当てはまる。その法的性質及び権利義務について具体的な事例を交え解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消費貸借契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消費貸借契約がどのような要件・効果を有しているか、条文や具体的な事例と併せて確認し、なぜそのような要件が必要なのか契約の性質から検討しておく。		120分
	事後学修	消費貸借契約の場合でも、目的物に瑕疵が存在していた場合にはどのような処理がなされるのか、条文を確認するとともに、その条文の適用場面を理解し、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	賃貸借契約①		賃貸借契約は、もともと借主よりも貸主に有利な契約であり、借主の権利を保護するために様々な立法や判例が成立してきた。借主と貸主の権利義務に関する解説を主として行い、自身が当事者となった際の権利義務について理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、賃貸借契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、賃貸借契約について、消費貸借契約とは要件・効果の点でどのような違いがあるかあらかじめ考え、自分なりに整理しておく。		120分
	事後学修	授業内にて扱った立法や判例法理が誰のどのような権利を守ろうとしたものであるか、仮にそのような立法等が存在していなかった場合にはどのような権利関係となっていたかについて考察し、自分なりの考えをまとめる。		120分
14	賃貸借契約②		賃貸借契約は、民法の特別法である借地借家法にて特別の規定が設けられている。多くは借主を保護するための規定であるが、借地借家法がどのような点で民法を修正し、借主の保護を図っているかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、賃貸借契約に関連して、借地借家法の概要について説明できる。		
	事前学修	前回の授業にて扱った賃貸借契約について、現行民法でも借主の保護に関して不十分な点がないか、検討しておく。		120分
	事後学修	借地借家法が、貸主の権利についてはどのように扱っているかを検討する。もともと借地借家法は、借主保護の趣旨が強く出ており、貸主の権利についての扱いを理解できるようにする。		120分
15	賃貸借契約③		賃貸借契約においては、当事者間だけではなく、第三者との利害関係の調整が必要となることが多い。それを踏まえ、賃貸借契約における第三者との規律について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、賃貸借契約における第三者との関係を規律した規定を説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、賃貸借契約について、第三者との関係を規律した規定を確認しておく。		120分
	事後学修	賃貸借契約について、借地借家法を含め、これまでの重要論点をまとめる。		120分
16	使用貸借契約		賃貸借契約の理解を前提に、無償で物を貸与する使用貸借について、賃貸借契約との相違を踏まえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、使用貸借の要件・効果と賃貸借契約との相違を説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、使用貸借契約の要件・効果を確認しておく。		120分
	事後学修	使用貸借契約について、要件・効果をまとめるとともに、賃貸借契約との相違を確認する。		120分
17	雇用契約		役務提供である雇用契約について、他の類似した契約と比較しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、雇用契約の要件・効果や重要な判例等を説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、雇用契約の要件・効果を確認しておく。		120分
	事後学修	雇用契約について、要件・効果をまとめるとともに、重要な判例や論点を説明できるか確認する。		120分
18	委任契約		委任契約と雇用契約は類似しているものの、適用される条文や要件・効果が異なっている。それぞれの契約における当事者の地位について解説し、なぜそのような相違が生じるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、委任契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、委任契約の要件・効果がどのようなものであるかを確認するとともに、実際の社会ではどのような契約として存在しているかを検討する。		120分
	事後学修	委任契約の要件・効果を確認するとともに、具体的にはどのような場面で委任契約が成立しているかを説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	請負契約	請負契約は、仕事の完成を目的とするものであるが、請負契約の要件・効果等について解説するとともに、完成した目的物に瑕疵が存在していた場合の適用関係についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、請負契約の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、請負契約について、要件・効果がどのようなものであり、雇用契約や委任契約との要件の違いを確認しておく。	120分
	事後学修	請負人が目的物を完成させる前に、地震等の当事者に帰責性のない原因によって目的物が滅失してしまった場合、いずれの当事者にどのような影響が生じるのかを検討する。	120分
20	寄託契約	物の保管を委託する契約である寄託契約について、有償の場合と無償の場合とを比較しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、寄託契約の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、寄託契約について、要件・効果がどのようなものであるか確認しておく。	120分
	事後学修	寄託契約の具体例を踏まえながら、要件・効果をまとめる。	120分
21	組合契約	複数人が共同で事業を営む組合契約について、法人等との違いを踏まえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、組合契約の要件・効果について具体例を踏まえながら説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、組合契約について、要件・効果がどのようなものであるか確認しておく。	120分
	事後学修	組合契約の具体例を踏まえながら、要件・効果をまとめる。	120分
22	終身定期金契約・和解契約・非典型契約	典型契約のうち、終身定期金契約・和解契約について扱った後、重要な非典型契約について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非典型契約について具体例を踏まえながら説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、各契約について、要件・効果がどのようなものであるか確認しておく。	120分
	事後学修	非典型契約とはどういった概念で、どのような具体例があるかをまとめる。	120分
23	不当利得①	不当利得は、法律上の要件を満たすと債権が発生する法定債権であるが、条文自体は多くない。そのため、判例等を適宜紹介しながら、不当利得に関してどのような論理的考察がなされているのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不当利得制度の概要について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法定債権としてどのような類型があり、契約とは何が異なっているのかを検討する。	120分
	事後学修	不当利得が問題になるのはどういった事実関係なのかを踏まえ、要件・効果をまとめる。	120分
24	不当利得②	前回の授業内容を踏まえ、特に重要な判例理論や学説について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不当利得制度の重要な判例理論や学説について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不当利得の論点や重要な判例を確認しておく。	120分
	事後学修	転用物訴権という用語を各自の教科書で確認し、不当利得とはどのような関係にある問題かを検討し、事実関係やその問題点を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	事務管理		事務管理は、他人のために義務なくして他人の事務処理をした際に生じる債権関係であるが、合意なく債権が生じる法定債権であり、要件が抽象的であるため、具体的な事例や判例を交えながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事務管理制度の概要について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、事務管理について具体例を調べ、法律上の要件・効果について確認しておく。	120分
	事後学修	事務管理は、比較的控えめな債権の成立しか認めていないが、例えば必要経費のみしか請求が認められないのでは他人の事務を積極的に処理する動機が失われることも考えられる。この点についての自分なりの考えをまとめておく。	120分
26	不法行為①		不法行為は条文が少ないにもかかわらず重要な項目であり、不法行為の問題点としてどのようなものがあり、どのような考察がなされているのかを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不法行為制度一般について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の具体例を調べ、どのような場合に成立する法定債権であるのか、要件・効果とともに確認する。	120分
	事後学修	債務不履行とはどのような関係に立つものであるかを確認し、債務不履行責任と不法行為責任のいずれもが成立する類型が存在することを確認し、整理する。	120分
27	不法行為②		不法行為にて生じた債権は、公平の観点などから一定の制限を受けることがあり、過失相殺や損益相殺がどのような制度趣旨であり、またその趣旨が及ぶ限界はどこであるかについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不法行為における過失相殺や損益相殺について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の債権者の債権を制限する法理である過失相殺や損益相殺がどのような制度であるかを確認する。	120分
	事後学修	過失相殺や損益相殺が債務不履行の場合にも認められるものであるか、条文を確認し、不法行為との相違を検討する。	120分
28	不法行為③		前回までの需要を踏まえ、複数人が関与することになる共同不法行為について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共同不法行為の要件・効果について、重要な判例を踏まえながら説明ができる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、共同不法がどういった概念か、どのような問題があるのかを確認する。	120分
	事後学修	共同不法の重要な判例を踏まえながら、問題点を整理し、自分で説明できるか確認する。	120分
29	授業内試験及びまとめ		授業内にて試験を行い、また、債権法各論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権各論全体の概要について説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うため、配布したパワーポイントや教科書を復習する。	120分
	事後学修	授業内試験にてわからなかった点を確認し、パワーポイント等で復習するとともに、次回の授業までに質問事項を整理しておく。	120分
30	試験講評		前回までの授業にて行った授業内試験の講評・解説を行い、同時に質疑にも回答する。また、債権各論と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にしていきたい。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、試験の講評を踏まえて、試験で問われた内容について理解し、説明できる。	
	事前学修	前回までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点について考え、質問事項を検討しておく。	120分
	事後学修	債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
2年次以降の学生を対象とする。民法総則は履修済みであること。あわせて債権総論を履修する（している）ことが望ましい。

【授業方法】		
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業がモットーである。 レジュメや資料を通じて 学修のポイントを示し、ビジュアルにかつ立体的に物事を把握すること、判例とその考え方をどきちゃんと理解すること、設例を挙げながら「事例問題を解く」とはどういうことかを具体的に体験しうることが、本講義の特徴である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書やレジュメ・教材資料などに記載の用語や概念、例題などについて、小テスト、課題の提出、文献調査などを通じて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。授業の方法がオンデマンド方式によるビデオ録画による場合には、定期試験に代わるレポートをもって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答、課題など（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	授業の方法がオンデマンド方式によるビデオ録画による場合には、定期試験に代わるレポートをもって評価する。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや課題、レポートなどの解説・講評を、授業を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅳ——債権各論〔第5版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	藤岡康宏ほか	有斐閣	2023	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
講座：現代の契約法 各論1・2・3	内田貴・門口正人（編）	青林書院	2019	参考書	推奨
改正民法[債権法]における判例法理の射程	伊藤進（監修）	第一法規	2020	参考書	推奨
民法5 契約（有斐閣ストゥディア）	山本敬三（監修）	有斐閣	2022	その他	任意
民法6 事務管理・不当利得・不法行為（有斐閣ストゥディア）	山本敬三（監修）	有斐閣	2022	その他	任意
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
水曜日・12時30分～50分、指定した教室。事前にアポイントを取ること。連絡用メールアドレス：hasegawa.sadayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】債権法各論を学ぶ意義：債権法とは？／付・近時の債権法改正と民法典		これから学ぶ“債権法”とは何か、債権と物権の違い、債権法総則と各論の区別、近時の債権法改正の意義などを理解し、債権法各論を学ぶ意義と目的を学修する。また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める債権法とはどのような法律で、何を規律し、どのような意味を持っているかを、近時の債権法改正を視野に入れながら、その要点ないしポイントを、民法典の体系に即して説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ教科書の全体を２・３回ほど通読する。併せて、これから学ぶ民法典の債権各論に関する規定（民法５２１条―７２４条）を音読しておく（２時間）。	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	
2	契約法総論―契約の意義、契約の種類と性質、契約の分類		契約法総論として、契約の意義、契約の種類と性質について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典に規定された１３種類の典型契約について、契約の意義、契約の種類と性質を理解し、諾成・要物、様式・不様式、有償・無償、双務・片務の観点から、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、債権が売買や賃貸借などの各種の契約を主たる原因として発生すること、契約の一般的ルールがどのようなものであるかを、民法典の規定に即して整理しておく（２時間）。	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	
3	契約自由の原則とその制限、約款取引		契約自由の原則とその制限、約款取引／現代社会における契約の特色――契約の多角的法律関係、複合的給付などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約自由の原則とその制限、約款取引について、その実態を知り、説明することができる。また、現代社会における契約の特質を明らかにし、契約の多角的法律関係という観点から、現代契約の意義ないし特徴を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約に共通する契約の一般的ルールについて、理解を深めておく。併せて、現代社会における契約の特色を調べておく（２時間）。	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	
4	契約の成立と効力（その１）：申込と承諾―契約の成立時期		契約の成立と効力（その１）――申込と承諾、契約の成立時期、契約と信義則、事情変更の原則について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の成立を申込と承諾の観点から把握するとともに、各種の契約について、何時・どの段階で契約が成立するのかを説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約が成立するための要件について、申込と承諾、承諾機関の有無、対話者・隔地者間の取引の違いなどを考慮し、検討しておく。（２時間）。	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	
5	契約の成立と効力（その２）：双務契約と牽連関係		契約の成立と効力（その２）――双務契約と牽連関係、契約締結上の過失理論について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約が成立した後の効力について、売買などの双務契約を中心に、牽連関係という観点から整理し、説明することができる。また、双務契約と牽連関係に関連して、契約締結上の過失理論とは何かを明らかにし、民法典の規定に即して、その意味内容を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの。対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく（２時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	
6	契約の成立と効力（その３）：危険負担、債務不履行		契約の成立と効力（その３）――危険負担、債務不履行について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買や請負などの契約締結後、目的物が引き渡されるまでの間に、当該目的物が滅失・損傷した場合の法律関係について、契約の牽連関係という観点から、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく（２時間）。	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	契約の成立と効力（その４）：契約の解除、解除と第三者		契約の成立と効力（その４）——契約の解除、解除と第三者について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約の締結後、履行期が到来したにもかかわらず、自己の債務を履行しない債務者について、どのような責任が生じるのかについて、説明することができる。また、契約が解除された場合の契約当事者間および第三者との間の法律関係について、判例・学説の見解ないし議論を整理し、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。		120分
8	贈与の意義・種類、成立と効力、特殊の贈与		財貨移転型契約：贈与の意義と種類、成立と効力／特殊の贈与——負担付贈与、死因贈与、定期贈与などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会における贈与の意義を理解し、贈与が成立する場合の要件と効力を、動産・不動産の区別に従って、説明することができる。また、死因贈与、負担付き贈与などの特殊な贈与について、社会における活用と問題点について、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、贈与の社会的意義を知ったうえで、贈与がどのような場合に成立し、いかなる効力を有するかを学習しておく。併せて、贈与の種類についても、理解を深めておく（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。		120分
9	売買：意義と性質、売買の成立		売買の意義と性質、売買の成立と効力、手付の意義・種類、買戻・再売買の予約	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、典型契約の中心となる売買について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、現代社会の取引の根幹をなす売買について、消費者取引の観点から、売買の意義・性質、売買が成立するに至るプロセスを調べておく（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。		120分
10	売買の効力：売主の契約不適合責任		売買における売主の契約不適合責任について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買契約において種類・品質・数量に関して不適合が生じた場合に、売主にどのような責任が生じるのかについて、買主の権利という観点から、民法典の規定に即して説明することができる。また、近時の債権法改正において、どのような改正が行われたかを、民法典の規定に即して説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、引き渡された給付の目的物に欠陥・瑕疵があった場合の処理につて、動産売買と不動産売買とを対比しながら、売主の責任を検討しておく（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。		120分
11	特殊の売買——割賦販売・訪問販売／交換		特殊の売買——消費者契約補、割賦販売・訪問販売など／交換について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、特殊の売買として、消費者契約法や割賦販売法、特定商取引法が制定されている意義、および、これらの特別法が民法とどのような関係に立つのかを、消費者保護の観点か、らその内容を明らかにし、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める売買と異なる取引類型である割賦販売と訪問販売について、消費者取引の観点から理解を深めておく（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。		120分
12	消費貸借意義、成立と効力、金利と利息に関する規制		貸借型契約：消費貸借の意義、成立と効力、利息に関する法規制——金利と利息制限、刑罰などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の消費貸借が金銭を中心に営まれていることを理解したうえで、金銭消費貸借をめぐる法律関係について、金利と利息、刑罰などの観点から、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、金銭などの消費物の借入がどのような仕組みで行われるのかについて学習しておく。金銭の消費貸借は売買と並んで現代社会で最も重要な契約である。併せて、利息に関する法規制についても調べておこう（２時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	使用貸借の意義、成立と効力／賃貸借の意義		使用貸借の意義、成立と効力、使用貸借の終了／賃貸借の意義について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約としての使用貸借契約のわが国における利用について、具体例を挙げながら、説明することができる。／賃借型契約の中核となる賃貸借について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物の貸し借りの中核をなす賃貸借について、意義、成立と効力などを学習しておく。売買と同様に、賃貸借も多様な目的物を対象としているから、注意を要する（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。	120分
14	賃貸借の成立と効力		賃貸借の成立と効力―賃貸借の存続期間・更新、賃貸借の終了、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産に関する賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認し、基本的な法律関係を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、賃貸借が成立した後の当事者間の権利・義務関係について、学習しておく。併せて、賃貸中の不動産の譲渡、賃借権の譲渡や賃借物の転貸などの第三者に対する関係についても、理解を深めておく（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（2時間）。	120分
15	特殊の賃貸借―借地借家契約		特殊の賃貸借―借地借家契約（その1）
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、土地を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、宅地以外の農地などの賃貸借関係についても、農地法などの規定を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。	120分
16	特殊の賃貸借―借地借家		特殊の賃貸借―借地借家（その2）について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、建物を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、区分所有法が対象とする区分所有建物（マンション）の賃貸借関係についても、説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。	120分
17	雇用の意義、成立と効力／請負の意義、成立と効力		労務提供型契約：雇用の意義、成立と効力、雇用の終了／請負の意義、成立と効力、請負人の担保責任、特殊の解除権などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める雇用について、労働基準法や労働者派遣法、労働契約法などの規定を参照しながら、成立と効力、雇用の終了などの基本原則を確認し、特別法によってどのように修正されているかを、労働者保護の観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。	120分
18	請負人の契約不適合責任／委任の意義、成立と効力		請負人の契約不適合責任／委任の意義、委任と準委任、サービス契約などについて、学修する
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、請負契約における請負人の契約不適合責任を、売買における契約不適合責任と対比しながら、到達目標①②および③に関連して、瑕疵修補・代金減額・損害賠償・契約解除の観点から、説明することができる。／現代社会におけるサービス契約の基礎となる委任契約について、法律行為の委任と事務処理の委託（準委任）を区別しながら、その概要および問題点を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める請負・委任について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく（2時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任／寄託の意義、成立と効力、消費寄託と特殊の寄託		委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任寄託の意義、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、委任における受任者の義務を整理したうえで、受任者の善管注意義務、専門家の責任との関係について、説明することができる。／民法上の寄託の意義について、商事寄託と対比しながら、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託などを、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分
20	組合・終身定期金・和解		組合・終身定期金・和解について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が規定する13種類の典型契約のうち、その他の典型契約として組合・終身定期金・和解の各契約が民法典に定められている意義を理解し、それぞれの契約が規律する内容を、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める組合・終身定期金・和解について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分
21	不法行為法——概説		法定債権：不法行為制度の意義と目的、民事責任における不法行為法の現状などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為とは何かについて、法定債権に属する事務管理・不当利得との異同を明らかにしたうえで、民事責任の観点から、不法行為の意義と制度趣旨、機能を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約以外の債権の主たる発生原因である不法行為について、民事責任の観点から事前に学習しておく。現代社会における不法行為は、自動車事故に限らず幅広いものが対象となるから、注意を要する（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分
22	一般的不法行為の成立要件		不法行為における成立要件：故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為を一般的不法行為と特殊的不法行為に分類したうえで、一般的不法行為が成立する要件につき、故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などの観点から、代表的な裁判例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為制度の沿革、あらゆる不法行為に共通する不法行為の成立要件について、事前に学習しておく（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分
23	不法行為の効果		金銭賠償の原則、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為が成立した場合の効果として、金銭賠償の原則を挙げたうえで、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などの基本項目を、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が成立した場合の賠償責任について、賠償の基本的ルールを事前に学習しておく（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分
24	特殊の不法行為：法定監督者の責任、使用者責任		特殊の不法行為（その1）：責任無能力者の不法行為と監督者の責任、使用者責任について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が未成年者などの事理弁識能力のない者であった場合、あるいは、不法行為が加害者の業務執行中に起こった場合、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく（2時間）。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（2時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	特殊の不法行為：注文者の責任、土地工作物責任、動物占有者責任		特殊の不法行為（その２）：注文者の責任、工作物責任、動物占有者責任について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が請負関係にある請負人、土地工作物の設置者（背入社・所有者）、または、動物の占有者（飼主）と認められる場合に、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく（２時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）	120分
26	特殊の不法行為：共同不法行為責任／民法典以外のその他の不法行為		共同不法行為／民法典以外の特別法上の不法行為——運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、共同して生じた１つの不法行為から損害が発生した場合に、誰に・どのような償責任を求めることができるかについて、共同不法行為の観点から、説明することができる。／民法典以外の特別法が定める運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、その概要を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が競合する場合の複数主体による賠償責任について学習しておく。あわせて、民法典以外のその他の不法行為についても、現代社会における民事責任の観点から理解を深めておく（２時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分
27	不当利得の意義と目的、不当利得の類型		不当利得の意義と目的、不当利得の類型について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得とは何か、不当利得を学ぶ意義を理解するとともに、不当利得を利得の不当性という観点から、給付利得・侵害利得・費用利得などに分類して、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得の意義と目的、不当利得の類型を学習しておく。不当利得において類型論的处理が必要とされる理由・根拠をしっかりと理解することが重要である（２時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる（２時間）。	120分
28	不当利得の要件と効果		不当利得の要件と効果 騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不当利得が成立する場合の要件と効果を明らかにし、不当利得で議論されることの多い事例——騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得など——について、議論の状況や問題点などを明らかにし、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得における給付利得にはどのような問題があるのかを理解する。あわせて、多数当事者間の不当利得の問題についても、理解を深めておく（２時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分
29	事務管理		事務管理の意義、要件と効果、代理との関係などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事務管理とは何か、なぜ事務管理に関する規定が民法上必要であるかを理解するとともに、他人の事務の意味内容を明らかにし、事務管理の要件と効果について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、事務管理がどのような場合に成立し、事務管理者はいかなる範囲で本人に対して費用の償還を請求することができるのか、他人の事務の要件・成立範囲、その効果を学習しておく（２時間）。	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる（２時間）。	120分
30	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、契約法および不法行為法などの債権法各論に関する講義内容を整理し、総括する。（受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う）
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会における契約の意義および特質を明らかにし、民法等が定める取引法理を挙げて、その内容を説明することができる。また、現代型の不法行為について、自動車事故、医療過誤、製造物責任などの責任関係を明らかにしながら、説明することができる。	
	事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて３段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する（２時間）。	120分
	事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる（２時間）。	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	峯川 浩子	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
民法総則を受講済みであることが望ましい。

【授業方法】
講義形式による。気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について基礎的知識が身についているか、民法の規定を適切に適用し、様々なケースに応用できるかを2回の授業内試験により評価する。ただし、履修者が多い場合は、学期末の定期試験に変更し、上記内容の評価することもあり得る。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本講義 債権各論〈1〉契約法・事務管理・不当利得	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	教科書	必携
基本講義 債権各論〈2〉不法行為法	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	教科書	必携
新標準講義 民法債権各論 第2版	池田真朗	慶應義塾大学出版会	2019年	参考書	任意
民法判例百選Ⅱ 債権第9版	窪田 充見・森田 宏樹編	有斐閣	2023年	参考書	任意
備考	授業はレジュメを配布して進めるので、教科書は事前・事後学習で活用してもらいたい。				

【オフィスアワー】
メールにて質問を受け付ける（minekawa.hiroko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・債権法の基礎	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について学修する。	
	この回の到達目標	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について理解し説明できる	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
2	契約の成立	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について学修する。	
	この回の到達目標	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
3	同時履行の抗弁権	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について学修する。	
	この回の到達目標	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
4	危険負担/第三者のためにする契約	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について学修する。	
	この回の到達目標	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
5	契約の解除（1）	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について学修する。	
	この回の到達目標	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
6	契約の解除（2）	解除の方法、効果、解除の効果をめぐる問題、解除権の消滅について学修する。	
	この回の到達目標	解除の方法、効果、解除の効果をめぐる問題、解除権の消滅について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	売買契約（１）売主の契約不適合責任	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について学修する。	
	この回の到達目標	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
8	売買契約（２）売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約	売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約について学修する。	
	この回の到達目標	売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
9	贈与契約、	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与について学修する。	
	この回の到達目標	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
10	消費貸借契約	消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について学修する。	
	この回の到達目標	消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
11	賃貸借契約（１）賃貸借契約の成立、効果	賃貸借契約の成立、賃貸人・賃借人の権利義務について学修する	
	この回の到達目標	賃貸借契約の成立、賃貸人・賃借人の権利義務について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
12	賃貸借契約（２）賃貸借契約の終了・効果、賃貸人の地位の移転	賃借権の終了と効果、賃貸人の地位の移転について学修する	
	この回の到達目標	賃借権の終了、効果、賃貸人の地位の移転について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	賃貸借契約（3）賃借権の譲渡、目的物の転貸、使用貸借契約	賃借権の譲渡、目的物の転貸について学修する。 使用貸借契約の成立と効力について学修する。	
	この回の到達目標	賃借権の譲渡、目的物の転貸について理解し説明することができる。 使用貸借契約の成立と効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
14	請負契約	請負契約の意義、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、請負契約の効果（所有権の帰属、目的物の滅失・損傷による危険の移転、請負人の契約不適合責任）について学修する	
	この回の到達目標	請負契約の意義、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
15	委任契約	委任契約の成立と効力、委任と解除について学修する。	
	この回の到達目標	委任契約の成立と効力、委任と解除について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
16	寄託契約/和解契約	寄託契約の成立と効果、和解契約の成立と効果について学修する。	
	この回の到達目標	寄託契約の成立と効果、和解契約の成立と効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
17	組合契約	組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について学修する。	
	この回の到達目標	組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について学修する。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
18	事務管理/不当利得概説・一般不当利得	事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論、給付利得、侵害利得について学修する	
	この回の到達目標	事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論、給付利得、侵害利得について理解し説明することができる	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	第1回小テストと解説	第1回～第17回まで学修したことについて小テストを実施し解説を行う	
	この回の到達目標	第1回～第17回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する。	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する。	120分
20	三当事者の不当利得/特殊の不当利得	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について学修する。	
	この回の到達目標	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
21	不法行為制度概説	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について学修する。	
	この回の到達目標	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
22	一般不法行為の成立要件（1）	故意・過失、権利侵害と違法性について学修する。	
	この回の到達目標	故意・過失、権利侵害と違法性について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
23	一般不法行為の成立要件（2）	損害の発生、因果関係、責任能力について学修する。	
	この回の到達目標	損害の発生、因果関係、責任能力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
24	不法行為の効果（1）	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	不法行為の効果（２）	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効について学修する。	
	この回の到達目標	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
26	特殊な不法行為（１）監督義務者の責任	使用者責任の責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について学修する。	
	この回の到達目標	責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
27	特殊な不法行為（２）使用者責任	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について学修する。	
	この回の到達目標	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
28	特殊な不法行為（３）共同不法行為	共同不法行為の制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について学修する。	
	この回の到達目標	制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
29	特殊な不法行為（４）工作物責任・動物占有者責任	工作物責任および動物占有者責任の意義・要件・効果について学修する。	
	この回の到達目標	工作物責任および動物占有者責任の意義・要件・効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当頁を読み考察する。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習する。	120分
30	第２回小テストと解説	第18回～第29回まで学修したことについて小テストを実施し、解説する。	
	この回の到達目標	第18回～第29回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	野中 貴弘	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
民法Ⅰを履修済みであること。

【授業方法】
授業はレジュメを用いて進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	本授業では、教科書に記載されている内容の説明だけでなく、適宜具体的事例問題を取り上げ、検討の時間を設ける。その後には、学生に適宜発表をしてもらうことを予定している。また、基礎的知識の確認をする講義部分においても、学生の理解度を確かめるべく適宜答えてもらいながら進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての達成度を、論述試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	中間試験を実施し、到達目標①②③④についての達成度を確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期的に実施する演習についてはその授業時間内に解説を行うほか、授業内試験の解説も授業時間中に行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新標準講義 民法債権各論 第2版		池田真朗	慶應義塾大学出版会	2019年	参考書	任意
基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得 第4版		潮見佳男	新世社	2022年	参考書	任意
基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法 第4版		潮見佳男	新世社	2021年	参考書	任意
有斐閣ストゥディア 民法5 契約		大澤彩・三枝健治・田中洋	有斐閣	2022年	参考書	任意
有斐閣ストゥディア 民法6 事務管理・不当利得・不法行為		中原太郎・根本尚徳・山本周平	有斐閣	2022年	参考書	任意
備考	六法を持参すること。					

【オフィスアワー】
事前にメール（nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp）でアポイントメントをとり、適宜日程調整をして行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・債権各論概説		講義の対象領域や講義方法、成績評価方法、教科書の紹介を含め、債権各論の学修方法について説明し、そのうえで債権法各論を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法における債権法各論の位置づけを説明することができるようになる。	
	事前学修	授業の対象となる領域を確認しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み返し、債権各論はどのような問題を扱う領域かを説明できるようにする。	120分
2	民法の全体像		民法がどのような場面において適用される法律であるのかを確認したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権各論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。	
	事前学修	レジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習する。	120分
3	契約総論序説・契約の成立		契約の意義・分類、契約自由の原則、契約の成立時期、同時履行の抗弁等について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の意義・分類、契約自由の原則、契約の成立時期、同時履行の抗弁等について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
4	契約の解釈・同時履行の抗弁に関する具体的事例の検討		具体的事例の検討を通じて、契約の解釈・同時履行の抗弁に関する解釈上の問題について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
5	危険負担・契約締結上の過失・第三者のためにする契約・契約上の地位の移転		危険負担・契約締結上の過失・第三者のためにする契約・契約上の地位の移転について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、危険負担・契約締結上の過失・第三者のためにする契約・契約上の地位の移転について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
6	危険負担・契約締結上の過失に関する具体的事例の検討		具体的事例の検討を通じて、危険負担・契約締結上の過失に関する解釈上の問題について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	契約の解除（解除の要件）		解除の種類を理解したうえで、民法改正により法定解除が認められる要件がどのように整備されたのか等を条文に即して学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解除の種類を把握したうえで、法定解除の要件について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
8	解除の要件に関する具体的事例の検討		具体的事例の検討を通じて、解除の要件に関する解釈上の問題について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
9	解除の効果・給付不当利得・定型約款		解除の効果について、無効・取消しの効果である給付不当利得と比較しながら学ぶ。また、2017年の民法改正で民法典内に設けられた定型約款についても学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解除や無効・取消しの効果および定型約款について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
10	解除および無効・取消しの効果に関する具体的事例の検討		具体的事例の検討を通じて、解除および無効・取消しの効果に関する解釈上の問題について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
11	贈与・交換・売買①（手付など）		契約各論として、贈与契約・交換契約・売買契約について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、贈与契約・交換契約・売買契約の基本的特徴について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
12	売買（手付など）に関する具体的事例の検討		具体的事例の検討を通じて、売買（手付など）に関する解釈上の問題について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	売買②（売主の契約不適合責任など）	売買契約の続きとして、売主が買主に引き渡した目的物に契約不適合があった場合の買主の救済手段等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売主の契約不適合責任に関する民法のルールについて説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
14	売主の契約不適合責任に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、売主の契約不適合責任に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
15	消費貸借・使用貸借	貸借型の契約として、消費貸借と使用貸借について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費貸借と使用貸借に関する民法の基本的ルールを説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
16	消費貸借・使用貸借に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、消費貸借・使用貸借に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
17	賃貸借①（二当事者問題まで）	賃貸借契約について、まずは賃貸人と賃借人のみが登場する基本的場面についての民法上のルールを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賃貸借契約に関する基本的なルールについて説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回に備える。	120分
18	賃貸借②（三当事者問題）	賃貸借契約において、賃貸人たる地位の移転、転貸、賃借権の譲渡など、当事者が3人以上になる場合について、借地借家法も含めたルールを広く学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賃貸人たる地位の移転、転貸、賃借権の譲渡など、当事者が3人以上になる場合についての民法および借地借家法のルールを説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回に備える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	中間試験と問題解説	これまでに学んだ法的知識が問われる比較的長めの事例問題を用いて、実際に論述答案を作成する。その後、簡単な解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	これまで学んだ内容を復習し、適切にアウトプットできるように準備をしておく。	120分
	事後学修	試験問題を再度見直し、疑問点を洗い出し、次回の授業で質問できるようにしておく。	120分
20	採点講評・質疑応答	採点を終えての講評および質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複雑な事例問題においても事案を整理・分析し、基礎的知識を用いて論理的な思考を用いて結論を導くことができる。	
	事前学修	前回の中間試験問題について自分なりの模範答案を作成してみる。	120分
	事後学修	採点講評を踏まえ、再度より良い論述答案を作成してみる。	120分
21	役務提供契約（雇用・請負・寄託・委任）および事務管理	雇用・請負・寄託・委任という役務提供契約のほか、法定債権のひとつである事務管理についても委任と比較しながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、雇用・請負・寄託・委任という役務提供契約のほか、法定債権のひとつである事務管理についても委任と比較しながら説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
22	役務提供契約・事務管理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、役務提供契約・事務管理に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
23	組合・終身定期金・和解・不法行為①（意義・成立要件）	組合・終身定期金・和解・不法行為について学ぶ。不法行為については、まずはその成立要件について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、組合・終身定期金・和解の基本的特徴のほか、不法行為の成立要件について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
24	不法行為の成立要件に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、不法行為の成立要件に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	不法行為②（効果・その他の問題）	不法行為の続きとして、今回は不法行為の効果を学ぶ。具体的には損害賠償の方法・範囲のほか、過失相殺や損益相殺、さらには被害者が死亡した場合の扱い方等も学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
26	不法行為の効果に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、不法行為の効果に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。	120分
27	不法行為③（特別の不法行為）	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・共同不法行為を中心とした特別の不法行為について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・共同不法行為を中心とした特別の不法行為の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書およびレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書およびレジュメを読み返して復習し、次回の事例問題検討に備える。	120分
28	特別の不法行為に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、特別の不法行為に関する解釈上の問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容に関する具体的事例において法的問題点を見つけ出し、基本的知識を駆使して、法的議論を展開できるようになる。	
	事前学修	予め提示されている具体的事例に目を通し、まずは一人で検討しておく。	120分
	事後学修	グループ検討および授業中の解説を踏まえ、当該事例問題において必要な法的知識をおさえ、再度、結論に至る論理過程を丁寧に辿る。次回の授業内試験に備える。	120分
29	授業内試験・問題解説	授業内試験を行った後、その問題の簡単な解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	これまで学んだ内容を復習し、適切にアウトプットできるように準備をしておく。	120分
	事後学修	試験問題を再度見直し、疑問点を洗い出し、次回の授業で質問できるようにしておく。	120分
30	採点講評・質疑応答・総括	採点を終えての講評および質疑応答を行ったうえで、この民法Ⅴを終えた後に取り組むべき課題を展望する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権各論に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	授業内試験問題について、自分なりの模範解答を準備する。	120分
	事後学修	講評を聞いたうえで、自らの理解度を確認し、足りないところを補う。授業全体を通じて得られたものを再確認する。	120分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、家族をめぐる状況を理解し、社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができるために必要となる民法第4編(親族)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ(民法総則)の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書に沿って講義を行う。必要に応じてレジュメを配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	45	15	5	15							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かをレポート等により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には，授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに，解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法〈5〉新版 家族法』	青竹美佳・渡邊泰彦 他	法律文化社	2021	教科書	必携
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志 編	有斐閣	2018	教科書	任意
『家族法 ライブラリ今日の法律学』	常岡史子	新世社	2020	教科書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、家族法とは		親族法総説(家族法の基礎、氏名、戸籍、家事紛争と家庭裁判所、親族)について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍に関する基本用語・概念について説明することができる。		
	事前学修	教科書 第1章親族法総説「1家族法の基礎、2氏名、3戸籍、4家事紛争と家庭裁判所、5親族」について解説する。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分
2	婚姻届の意味		婚姻総説、婚姻の要件(婚姻の成立要件・婚姻の有効要件、婚姻障害事由、制限行為能力者の婚姻と意思能力、婚姻の効果一氏・夫婦間の権利義務・子との関係)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚約の意味・婚姻するために必要なこと(婚姻の形式的要件、実質的要件)について説明することができる。		
	事前学修	教科書 第2章婚姻「1総説、2婚姻の要件、3婚姻の効果(1)一氏・夫婦間の権利義務・子との関係」を読んで、婚姻届を出せない場合についてまとめておく。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分
3	夫婦の役割分担		婚姻の効果(夫婦財産契約、法定財産性)、婚姻の無効と取消しについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、夫婦のお財布事情について法的視点から説明することができる。		
	事前学修	教科書 第2章婚姻「4婚姻の効果(2)一夫婦財産制等、5婚姻の無効と取消し」を読んで、夫婦のお財布事情について考えてみる。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分
4	離婚届と離婚の考え方		離婚(離婚制度の歴史、現代日本の離婚法の特徴)、離婚の成立と効力(協議離婚、調停離婚と審判離婚、裁判離婚、和解離婚・認諾離婚)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、離婚届の意味、具体的離婚原因、抽象的離婚原因について説明することができる。		
	事前学修	教科書 第3章離婚「1総説、2離婚の成立と効力」を読んで、離婚の法律関係の類型についてまとめておく。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分
5	財産分与・面会交流		財産分与の法的性質、離婚後の生活について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財産分与の法的性質、離婚後の生活について説明することができる。		
	事前学修	教科書 第3章離婚「3離婚の効果」を読んで、離婚にあたっての夫婦の財産関係、親子の法的関係についてまとめておく。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分
6	婚外関係の法的保護		婚外関係の法的保護(婚約・内縁(事実婚)・同性カップル)について解説する。具体的には、婚約(成立と効力、婚約の破棄、結納の法的取り扱い)、内縁(成立要件・効果等)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、婚姻外関係の権利義務について説明することができる。		
	事前学修	教科書 第4章婚外関係の法的保護「1総説、2婚約、3内縁(事実婚)、4同性カップルの法的取り扱い」を読んで、親子の法的関係についての法律の考え方をまとめておく。	120分	
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	子どもの出生と親子関係	子どもの出生と名前、親子の権利義務関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法的親子関係の発生について説明することができる。	
	事前学修	教科書 第5章親子「1 親子法総説―法律上の親子、2 実子」を読んで、親子の権利義務関係についてまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分
8	中間振り返り・まとめ	授業内レポートを実施する場合には、レポート作成時間60分、解説30分を実施する。これまで学んだことについての理解を深める	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。	
	事前学修	第1回～第7回までの講義内容をノートにまとめておく。わからなかった点は書き出しておく。中間レポート試験を実施する場合には、講義時間中に試験を解説を行う。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分
9	養子縁組、生殖補助医療	生殖補助医療で生まれた子供、人工授精と体外受精、代理母とその問題、養親子関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療、養子制度について説明することができる。	
	事前学修	教科書 第5章親子「3 養子、4 生殖補助医療による親子(人工生殖子)」を読んで、養親の法的類型についてまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分
10	親子の権利義務	子育てと親の義務、親権者は誰か、親権の意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子の権利義務関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書 第6章親権「1 親権の意義、2 親権者」を読んで、親子の権利義務関係についてまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分
11	親権の内容	親権の内容(身上監護、財産管理、利益相反行為と代理権の濫用、子の引き渡し)、親権の終了について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、親権の内容について自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書 第6章「3 親権の内容、4 親権の終了」を読んで、離婚後の親子関係についてまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分
12	扶養と後見・老親扶養	老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、成年後見制度の概要について説明することができる。	
	事前学修	教科書 第7章後見・保佐・補助、扶養「1後見、2扶養」を読んで、成年後見の制度についてまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゲストスピーカーによる出前講義	ゲストスピーカーの講義を受講し、家族法の実践事例について、考えてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、家族法の実践事例について理解し、問題意識を持つことができる。	
	事前学修	家庭裁判所のホームページにアクセスし、家庭裁判所の仕組みについて調べておく。	120分
	事後学修	家族法の実践事例について理解を深めるとともに、家庭裁判所の役割についてまとめておく。	120分
14	定期試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。	
	事前学修	これまでの講義をよく復習し、よくわからなかったところを書き出しておく。授業内試験を実施する場合には、講義時間中に試験と解説を行う。	120分
	事後学修	講義で解説した内容をノートにまとめ、判例については事案・争点・判旨についてまとめ、関連する社会的課題について追加調査を行う。	120分
15	家族法の最新トピック(全体振り返り)	家族法の最新トピックについて解説を行う。社会的課題等をもとに家族法の考え方やそのあり方を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。	
	事前学修	これまで学んだことを振り返り、自らの意見をまとめておく。	120分
	事後学修	教科書に記載されている事例について考え方をノートにまとめるとともに、自らの考え方を書き留めておく。	120分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
テキストに沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず手元に用意しておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。						2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。							2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。					2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。					2				2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを授業内試験により評価する。	45	15	5	15							80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適 切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、 ②、③、④にかかわる説明をすることができているかを評 価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末テスト等の解説・講評については、後日Classroom等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（本館1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：条文の読み方・家族法総論	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿って、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等について説明する。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業の準備をスムーズに行うことができる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を再確認する。	
	事前学修	シラバスを確認し、授業内容をふまえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること。	120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、親族法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。	120分
2	家族法序論、親族とは何か	民法典の中で第4編親族の位置づけを学修するとともに、家族紛争の処理手続きについて理解し、説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法の意義及び構成、親族、相続法の沿革と基本原則、家族紛争の処理手続きといった家族法の基本を正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の序論（1-7頁）を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書7頁のチェック問題を解いてみること。	120分
3	親族の範囲、戸籍	親族の範囲として、親族の種類、親等などの基礎概念を学修する。さらに、親族関係の発生、消滅を中心に、親族関係の変動を概観し、加えて、氏名、戸籍制度についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法を学ぶ上で必須となる概念の1つである親族の種類、親等など親族の範囲、氏名や戸籍制度などを理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部第1章総則（11-17頁）を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書17頁のチェック問題を解いてみること。併せて関連条文を見直しておくこと	120分
4	夫婦関係（1） 婚姻の成立	婚姻の成立には、実質的要件と形式的要件をみとす必要がある。なかでも、重要なのが、実質的要件としての婚姻意思の合致と婚姻障碍事由の不存在であるので、それを中心に学修する。また、婚姻意思を理解する判例として、子を嫡出子にするための婚姻の有効性が問われた有名な事案があるので、それを素材に判例の読み方についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の成立要件、なかでも実質的要件を正確に理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部2章（18-27頁）読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書26、27頁のチェック問題を解いてみること。あわせて関連条文を見直しておくこと	120分
5	夫婦関係（2） 婚姻の無効・取消し、婚姻の一般的効果・財産的効果（夫婦財産制）	婚姻の無効、取消原因について学修するとともに、婚姻の一般的効果、財産的効果について広く学修していく。婚姻破綻後の不倫と慰謝料をめぐる判例、日常家事債務と表見代理の判例など重要判例が複数存在するので、それらの説明も併せて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の一般的効果、財産的効果を正確に理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び関連条文を確認しておくとともに、教科書の第1部2章（27-43頁）を読んでくること	120分
	事後学修	教科書43頁のチェック問題を解いてみること、その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。	120分
6	夫婦関係（3） 離婚の成立	離婚の方法、種類について学修する。なかでも、自ら婚姻が破たんする原因を作り出した配偶者を有責配偶者というが、この者から離婚請求できるかという有責配偶者からの離婚請求に関する判例法理の展開、諸外国の立法例を含めた議論状況を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の成立、効果につき、正確に理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び、教科書の第1部2章（54-65頁）を読んでくること	60分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書65頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	夫婦関係（４） 離婚の効果	離婚の効果、なかでも財産分与制度について学修する。具体的には、財産分与の内容とその問題点、慰謝料と財産分与との関係に関する判例理論、財産権としての財産分与請求権、年金分割などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の効果、なかでも財産分与制度の意義や問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び、教科書の第１部２章（66-76頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書76頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
8	婚姻外の関係（婚約、内縁・事実婚）、DV	婚約の成立要件と保護の内容、内縁保護法理、内縁の効果、同性婚との同棲カップルの法的保護の状況について学修する。あわせて、夫婦関係にまつわる現代的課題について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、婚姻外の関係を中心に、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を読んておくのとともに、教科書の第１部２章（44-52頁）を読んてくること	120分
	事後学修	教科書52頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
9	親子関係（１） 実親子関係①：嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にある場合の嫡出子をめぐる問題を概観する。嫡出子については法改正がなされたので、改正点を中心に説明を行うこととし、親子関係の基礎についての理解を深めることにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（80-83頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分
10	親子関係（２） 実親子関係②：非嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にない場合の非嫡出子をめぐる問題を概観する。具体的には、認知制度、準正といった制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回に続く、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（88-90頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
11	親子関係（３） 養親子関係：普通養子、特別養子、里親	普通養子制度、さらには特別養子制度の意義につき、養子の実態、特別養子制度導入の経緯も含めて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも法定親子、養子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況等を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（90-94頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
12	親子関係（４） 親権①：親権に服する者、親権者、親権の内容	児童虐待が増える中、親権とは何かについて改めて問われている。親権の意義、親権の当事者、親権行使のルール、親権の具体的内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親権にまつわる法的課題につき、理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部４章（95-121頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後見・保佐・補助、扶養 定期試験に向けての質問受付	未成年者や認知症高齢者など判断能力が十分でない人を法的に保護するための民法上の制度である後見制度の意義、趣旨、内容及び扶養の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後見・保佐・補助、扶養についての意義、趣旨、内容について、正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部5、6、7章（122-152頁）を読むこと。さらに最後の授業となるので、授業全体を通して質問すべき点がないかを考えてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理するのと同時に、教科書135、143、152頁のチェック問題を解いてみる。また、配布したレジュメ、教科書などを全体的に復習すること。	120分
14	実務について知ろう！ （家庭問題にまつわる実務家（ゲストスピーカー）から話を聞く）	家裁の実務等に詳しい専門家をゲストスピーカーとしてお呼びし、家裁の実務についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、家裁の実務について理解を深めるとともに、これまで学修した内容と実務のつながりを理解し、家裁の役割について説明することができる。	
	事前学修	裁判所のHPなどを閲覧等を通じて、家裁実務にまつわる基本的事柄について調べておくこと。	140分
	事後学修	配布された資料等を用いて、講義で学んだことをまとめるとともに、講義の感想を所定の用紙にまとめて提出すること。	100分
15	授業内試験・解説	親族法に関する基礎的事項を確認する。また、試験実施後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に達しているかを確認する。	
	事前学修	授業内試験のために全体の復習を行う。	140分
	事後学修	授業内テストの解説を参考に、理解が不足していた箇所につき復習を行う。	100分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	山田 孝紀	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、家族をめぐる状況を理解し、社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができるために必要となる民法第4編(親族)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
レジュメに沿って授業を進める。具体的な設例（教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。受講生は事例の関係図を書いたり、担当者の説明を聴いて大事な部分についてレジュメの余白にメモを取ったりして、授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを用いて理解度の確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力・考察力等が修得できているか否かについて、授業内試験により評価する。後述の授業内課題を一度も提出していない場合には試験の受験を認めない。	20	25	25	10							80
小テスト等	小テスト（2回の授業で1回程度は実施予定）によって、到達目標①②にかかわる基本概念や制度趣旨が身についているかを確認する。実施形式についてはGoogle Classroomを予定している。授業内課題を一度も提出していない場合には試験の受験を認めない。なお、授業中の課題が20点を超えた場合には、加点することがある。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	25	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのgoogle classroomによる理解度確認と解説、授業内試験の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
家族法〔第3版〕	中川＝小川編	法律文化社	2023年	教科書	必携
民法7 家族（有斐閣ストゥディア）	山本監修 金子＝幡野＝羽生	有斐閣	2023年	教科書	推奨
家族法〔第4版〕（NBSシリーズ）	青竹＝羽生＝水野	日本評論社	2023年	教科書	推奨
みんなの家族法入門	本澤＝大杉編	信山社	2021年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続〔第3版〕	大村＝沖野編	有斐閣	2023年	参考書	任意
民法⑤親族・相続 判例30！	青竹＝金子＝幡野	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考	第1回目の授業で教科書の使用方法や選び方を説明しますので、教科書を予め購入しなくてよいです。各自の学修目的に応じて必携以外の教科書でもかまいません。最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
授業後に質問してください（その他の時間でも適宜対応しますが、事前にメールを送ってください）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 「★」を「@」に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 家族法・親族法の全体像		授業の目的・概要、成績評価方法、教科書・参考書などを説明する。その後、今後の授業を理解するにあたって必要となる家族法・親族法の全体像や基礎用語・概念を学ぶ。 履修を希望する学生は、必ずガイダンスに出席して、授業の目的や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、家族法の概要、民法Ⅵ（親族法）で学ぶ事項の概要について理解すること。この授業の到達目標を確認し、単位を修得するためにはどのような学修が必要であるのかを理解する。		
	事前学修	なぜ民法Ⅵ（親族法）を履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学修することができるのか授業計画を立てること。		120分
	事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。今後、家族法・親族法を学ぶ際に必要となる重要用語を確認すること。		120分
2	婚姻の成立		この授業では、婚姻が成立するための形式的要件と実質的要件（婚姻意思の合致、婚姻障害事由がないこと）について学びます。その過程で、嫡出推定と女性の再婚禁止期間に関する法改正も説明します。その後、婚姻の無効・取消し、婚約の法的意味についても学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、婚姻の成立要件、女性の再婚禁止期間の見直し、婚姻の無効・取消し、婚約の法的意味について説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
3	婚姻の効力		婚姻の成立によって生じる効力のうち、まず一般的効力（夫婦の氏、同居・協力・扶助義務、貞操義務）をめぐる問題を学びます。その後、夫婦の財産関係に関する問題について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、婚姻により生じる一般的効力・財産的効力について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
4	婚姻外関係の男女関係		内縁関係に関する問題について学びます。具体的には、内縁関係を保護する必要性、内縁関係と認められるための基準、内縁の効果、内縁の解消について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、内縁関係を保護するための必要性や法理論について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
5	多様化する家族のあり方と家族法の変容 —夫婦別姓、同性カップルへの法的保護のあり方		社会状況の変化に伴い、家族のあり方も変容しています。こうした中で登場している現代的課題（夫婦別姓制度、同性カップルへの法的保護のあり方）について裁判例や学説をふまえて考えます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、夫婦同氏制度に関する判例とその問題点、同性カップルへの法的保護のあり方について近時の判例を踏まえつつ、説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
6	実親子関係①		夫婦と子との親子関係の成立について学びます。具体的には、父子関係における嫡出推定の規定が改正された背景（無戸籍者問題）を踏まえ、新たな規定の内容を理解します。また、改正された嫡出否認の規定や、嫡出推定の及ばない子についても学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、嫡出推定に関する法改正の背景や改正後の規定、嫡出否認の規定、嫡出推定の及ばない子について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	実親子関係②、 養親子関係		婚姻していない男女とその間に生まれた子との親子関係の成立について、認知制度を学びます その後、養子縁組制度についてみていきます。具体的には、養子縁組の目的の変遷、普通養子縁組の成立と効果、離縁について理解します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意認知と強制認知、認知の効力を説明できるようになること。普通養子縁組の成立と効果、離縁について説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
8	養親子関係 生殖補助医療		前回到続いて、養子縁組制度のうち、特別養子縁組について学びます。 その後、生殖補助医療により出生した子と親の関係を考えます。具体的には、代理出産により生まれた子の母子関係の成立、死後懐胎により生まれた子の父子関係の成立、生殖補助医療により出生した子の出自を知る権利について考えます。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別養子縁組の成立と効果について説明できるようになること。生殖補助医療により出生した子と親との関係について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
9	親権と子どもの保護①		親権とは何か、親権の行使（身上監護・財産管理、親子間の利益相反行為）、子の利益に反する不適切な親権行使に対する親権の喪失や親権の制限について学びます。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、親権の内容や行使、親権の喪失や制限について具体例を用いて説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
10	親権と子どもの保護② 離婚①		親権を行う者がいない場合の未成年後見について学びます。 その後、離婚の方法の種類、裁判上の離婚が認められるための基準について判例の考え方の変遷を学びます。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、未成年後見について説明できるようになること。また、離婚の方法の種類、裁判上の離婚が認められるための基準について説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
11	離婚② 離婚と未成年者の子①		離婚が成立した場合の人的効果と財産的效果について、特に後者の財産分与について詳しく学びます。 その後、元夫婦と未成年者との間で生じる問題のうち、親権者の指定（共同親権から単独親権）、面会交流について学びます。2024年1月現在、法制審議会では、共同親権を可能にする民法改正要綱案がまとめられているため、法改正の動きについても確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、離婚による効果、特に財産分与について説明できるようになること。離婚後の子の親権者の指定、面会交流のあり方について、現在の法状況及び近時の法改正の動きを説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分
12	離婚と未成年の子②		元夫婦と未成年者との間で生じる問題のうち、子の監護費用（養育費）や子の引渡しをめぐる問題についてみていきます。前者に関して法制審議会において「法定養育費制度」の導入が規定されているため、現在の課題とこうした法改正の動きを確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、子の監護費用や子の引渡しをめぐる問題について、現在の法状況及び近時の法改正の動きを説明できるようになること。		
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。		120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	扶養と後見（高齢者の生活保障と法）	成年後見（未成年後見を除く）・保佐・補助制度について復習します（民法総則で学修しました）。その後、民法上の扶養制度について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、成年後見・補佐・補助制度、民法上の扶養制度について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書の該当頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いてこれまでの授業内容について理解できていないところを確認し、論述問題の練習をするなど、試験に向けて準備をしておくこと。	360分
14	質問と試験	質問があれば回答したのち、試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修してきたことを理解し、自分の言葉で説明できるようになること。	
	事前学修	レジュメ・教科書を用いてこれまでの授業内容について理解できていないところを確認し、論述問題の練習をするなど、試験に向けて準備をしておくこと。	120分
	事後学修	試験において書けなかったところがあれば、レジュメや教科書の該当箇所を確認しておくこと。	120分
15	試験の解説	前回の試験の解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、試験においてできた点、特にできなかった点を復習し、理解の再確認に努めること。	
	事前学修	試験において書けなかったところがあれば、レジュメや教科書の該当箇所を確認しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、財産承継に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すために必要となる民法第5編(相続)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を習得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(Googleclassroom)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	45	15	5	15							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についているかをレポート等により評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法〈5〉家族法』	青竹美佳・渡邊泰彦 他	法律文化社	2021	教科書	必携
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志 編	有斐閣	2018	教科書	推奨
『家族法ライブラリ 今日の法律学 家族法』	常岡史子	新世社	2020	教科書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、相続の歴史・根拠	死を迎えたとき：相続のしくみ、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか：相続の歴史・根拠について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第8章相続法総説および相続人「1 相続法総説」を読んで現代の相続の特徴について考えてみる。	120分
	事後学修	わが国の葬儀の特徴についてまとめるとともに、葬儀契約のトラブル事例についてインターネットで検索する。	120分
2	相続人	相続法総説(相続の意義・相続法の構造・相続税)、相続の開始、相続人(胎児、法定相続人)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の開始、相続人について具体的事例をあげながら説明することができる	
	事前学修	教科書第8章相続法総説および相続人「2 相続の開始、3 相続人」を読んで、相続できる相続人の範囲についてまとめる。	120分
	事後学修	相続人の確定に関連する法律にはどのようなものがあるかについて講義の説明をもとにまとめる。	120分
3	相続欠格と相続人の廃除	相続人になれない子ども：相続欠格、親の意思で相続人を決定するのか：相続人の廃除、相続回復請求権について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続欠格と相続人の廃除の違いについて文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書 第8章「4相続資格の剥奪、5 相続回復請求権」を読んで、相続欠格と廃除の違いについてまとめる。	120分
	事後学修	相続廃除に関する判例の事例を確認し、それに対する自らの意見を述べられるようにノートにまとめる。	120分
4	相続の承認・放棄	相続の承認と放棄、「借金」の相続：限定承認、財産分離について解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認と放棄の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書第9章相続の承認、放棄および相続財産の清算「1相続の承認、放棄、2財産分離」を読んで、相続・承認の類型についてまとめる。	120分
	事後学修	相続の承認と放棄の違いについてノートにまとめる。	120分
5	相続人の不存在	相続人が存在しないとき：身寄りのない者の財産と国庫帰属について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続人が存在しないときの財産承継について説明することができる。	
	事前学修	教科書第9章「3 相続人の不存在」を読んで、相続人が存在しない場合の相続事例についてまとめる。	120分
	事後学修	講義で取り上げられた事例のうち、最も興味を持った事例についての法的規制について自らの意見を述べられるようにオートにまとめる。	120分
6	相続財産の共有	相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続財産の所有形態に関する基本的な考え方について説明することができる。	
	事前学修	教科書第10章「1 相続の対象 2遺産共有」について読んで、相続財産の共有に関する法律の考え方をまとめる。	120分
	事後学修	相続財産に関する承継事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特別受益・寄与分	特別受益・寄与分の考え方について学ぶとともに、介護と相続に関する問題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別受益と寄与分の違いについて具体的事例をあげながら説明することができる	
	事前学修	教科書第10章「3 相続分」を読んで、特別受益と寄与分の違いについてまとめる。	120分
	事後学修	特別受益と寄与分に関する承継事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにノートにまとめる。	120分
8	中間振り返り・まとめ	授業内レポートを実施する場合には、レポート作成時間60分、解説30分を実施する。これまで学んだことについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べるができる。	
	事前学修	第1回～第7回にまでの講義内容をノートにまとめる。わからなかった点は書き出しておく。中間レポート試験を実施する場合には、講義時間中に試験の解説を行う。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分
9	遺産分割の種類・方法	遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の基本的考え方に関し簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書第10章「4 遺産分割」を読んで、遺産分割の流れについてまとめる。	120分
	事後学修	遺産分割協議書、登記申請書についてインターネットで調べ、具体的に説明できるようにしておく。	120分
10	遺言制度の概要、遺言の方式	遺言制度の概要、遺言の方式、遺言の撤回と無効・取消しについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言の種類について具体的事例をあげて文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第11章遺言「1 遺言制度の概要、2 遺言の方式、3 遺言の撤回と無効・取消し」を読んで、遺言書の書式事例をインターネットで調べておく。	120分
	事後学修	遺言書に関するトラブルを減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにノートにまとめる。	120分
11	遺贈・遺言の執行	遺贈、特定財産承継遺言、遺言の執行について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈・包括遺贈・遺言の執行について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第11章「4 遺贈、5 特定財産承継遺言、6 遺言の執行」を読んで、遺言による贈与の類型についてまとめる。	120分
	事後学修	遺言による贈与の具体的事例についてインターネットで調べておく。	120分
12	遺留分	最低限は保障されるか：遺留分・遺留分侵害額請求権、遺留分侵害の順序についての基本的な考え方を確認し、計算方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分に関する基礎的事項・計算方法について簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書第12章「遺留分」を読んで、遺留分侵害の制度についてまとめる。	120分
	事後学修	教科書第12章「遺留分」を読んで、遺留分侵害の制度についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	遺留分・特別の寄与	遺留分侵害額請求権の行使、遺留分侵害額請求権の消滅と制限、特別の寄与について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分に関する基礎的事項・計算方法、権利の行使方法、特別の寄与について簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書第12章「遺留分」を読んで、遺留分侵害の制度についてまとめておく。	120分
	事後学修	遺留分の計算方法や基本的考え方について、具体的事例をもとにノートにまとめておく。	120分
14	相続法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例の事案と判旨をまとめることができる。	
	事前学修	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第9回～第13回の講義で配信された資料・教科書を読んで、まとめておく。	120分
	事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
15	全体振り返り	相続法全般を通し、最新の相続法の動向や残された課題について発展的な課題について考える。遺留分制度及び配偶者居住権についての追加解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学んだことを文章にまとめ、簡単に説明することができる。	
	事前学修	疑問点が解決されているかを確認し、解決された内容を理解し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、相続法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
教科書に沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを授業内試験により評価する。	45	15	5	15							80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、③、④にかかわる説明をすることができているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験等の解説・講評を後日Classroom等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の12:15～12:50（メールでアポイントメントをとること）研究室（本館 7 F 1720）yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認）、家族法入門		履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿い、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等についての説明を行う。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業準備をスムーズに行うことが可能となる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法（相続法）の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を理解し、条文を素早く引けるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、授業内容を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること		120分
	事後学修	授業で説明された内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、相続法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。		120分
2	「相続」総論：相続制度の歴史的沿革、意義		民法典の中での第5編相続の位置づけを確認するとともに、相続制度の歴史的沿革、日本と欧米諸国の相続制度の違い、相続制度の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での第5編相続の位置づけを歴史的沿革も踏まえたうえで、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部8章（155－163頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書163頁のチェック問題を解いてみる		120分
3	総則：相続の開始原因、相続回復請求権、相続財産に関する費用		相続の開始原因、さらに、相続が開始した場合に、それに要する費用、自分の相続権が侵害された場合の対応について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の開始原因、相続回復請求権の意義等につき、正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部9章（164－171頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書171頁のチェック問題を解いてみる		120分
4	相続人と相続分(1) 意義、相続人の種類と順位		ここから数回にわたり、法定相続の基本原則について学修する。具体的には、同時存在の原則、相続の種類と順位について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、同時存在の原則、相続の種類と順位につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（172－175頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみる		120分
5	相続人と相続分(2)：相続欠格、廃除		前回に続き、法定相続の基本原則について学ぶ。具体的には、相続欠格、廃除について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、相続欠格、廃除につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（177－181頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみる		120分
6	相続人と相続分(3)、相続の効力(1)：代襲相続人の相続分、相続財産の範囲		前回に続き、法定相続の基本原則及び新たに相続の効力について学修する。具体的には、代襲相続、相続財産の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、代襲相続人の相続分、相続財産の範囲につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章、11章（175-176、182－190頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ここまでの授業のノート整理をしっかりと行うこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	相続の効力(2)：相続分		前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分の意義、算定方法について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(190－198 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書214頁のチェック問題を解いてみる		120分
8	相続の効力(3)：共同相続		前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(198－205 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
9	遺産分割(1)：意義、実行、分割の基準と方法		相続法の重要な論点の1つである遺産分割について学ぶ。具体的には、遺産分割の意義、基準、具体的実行方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の意義、実行、分割の基準と方法について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(205－209 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
10	遺産分割(2)：効果、共同相続人間の担保責任		前回に続き、遺産分割の理解を深める。この回では、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(205－210頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
11	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在		当然相続主義と自己責任の原則とを調和させるために規定されている相続の承認・放棄という制度を扱うとともに、財産分離、相続人の不存在の場合における残された財産の行方について広く学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部12、13、14章(215－230 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書222、226、230頁のチェック問題を解いてみる		120分
12	遺言(1)：意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消し		財産処分に関する自己決定の尊重を人の死後も実現するために認められてきた制度が遺言制度である。この授業では、近年、利用者が増えている遺言の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言制度の意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消しにつき、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章(231－242 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみる		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	遺言(2)：遺贈、遺言の執行 遺留分：意義・目的、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定、遺留分侵害額請求権、遺留分の放棄		前回に続き、遺言についての理解を深める。今回の授業では、遺贈、遺言の執行について学修する。さらに、遺留分とは、被相続人の財産処分の自由と遺された一定範囲の遺族の利益との調整を図ることを目的に用意された制度である。今回は、遺留分制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈、遺言の執行について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章(242-252 頁)、16章(253-258 頁)を読んでくること	120分	
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみる	120分	
14	家裁の実務について知ろう！ (家庭裁判所調査官(ゲストスピーカー)から話を聞く)		家庭裁判所による出前講座を利用し、家裁の実務について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、家裁の実務について理解を深めるとともに、これまで学修した内容と実務のつながりを理解し、家裁の役割について説明することができる。		
	事前学修	裁判所のHPなどを閲覧するなどして、家庭裁判所がどのような裁判所なのかを調べておくこと。その際は、第9、10回の講義の復習も行うこと。	140分	
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、講義の感想を所定の用紙にまとめて提出すること	100分	
15	授業内試験 授業内試験の解説 質問受付		授業内試験を実施し、その解説を行い、全体の総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続法の基本を正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内試験の準備をすること、さらに、最後の授業となるので、授業全体を通して質問事項がないかを考えてくること	140分	
	事後学修	授業内試験の終了後、当該試験及びレポート等の解説を行うので、その解説も参照しながら、間違えた箇所を中心に相続法全体の復習を行うこと。	100分	

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	大杉 麻美	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、財産承継に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すために必要となる民法第5編(相続)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を習得する。

【履修条件】
民法Ⅰ(民法総則)の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
レジュメに沿って授業を進める。具体的な役割(教科書事例や判例の事案を簡略化した設例)に即して説明する。受講生は事例の関係図を書いたり、担当者の説明を聞いて大事な部分についてレジュメの余白にメモを取ったりして、授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	GoogleClassroomを用いて理解度の確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力・考察力等が修得できているか否かについて、授業内試験により評価する。後述の授業内課題を一度も提出していない場合には試験の受験を認めない。	20	25	25	10							80
小テスト等	小テスト(2回の授業で1回程度は実施予定)によって、到達目標①②にかかわる基本概念や制度趣旨が身についているかを確認する。実施形式についてはGoogleClassroomを予定している。授業内課題を一度も提出していない場合には試験の受験を認めない。なお、授業中の課題が20点を越えた場合には、加点することがある。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	25	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのGoogleClassroomによる理解度確認と解説、授業内試験の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
家族法[第3版]	中川＝小川編	法律文化社	2023年	教科書	必携
民法7 家族(有斐閣ストゥディア)	山本監修、金子＝幡野＝羽生	有斐閣	2023年	教科書	推奨
家族法[第4版] (NBSシリーズ)	青竹＝羽生＝水野	日本評論社	2023年	教科書	推奨
みんなの家族法入門	本澤＝大杉編	信山社	2021年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続[第3版]	大村＝沖野編	有斐閣	2023年	教科書	任意
民法⑤親族・相続 判例30！	青竹＝金子＝幡野	有斐閣	2017年	教科書	任意
備考	教科書の購入方法については、民法VI(親族：前期開講)と同じになります。民法VIで説明を受けた教材を持参ください。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、相続の歴史・根拠	死を迎えたとき：相続のしくみ、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか：相続の歴史・根拠について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	現代の相続の特徴について考えてみる。	120分
	事後学修	わが国の葬儀の特徴についてまとめるとともに、葬儀契約のトラブル事例についてインターネットで検索する。	120分
2	子どもの相続分	子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、子どもの相続分について具体的事例をあげながら説明することができる	
	事前学修	相続できる相続人の範囲についてまとめておく。	120分
	事後学修	相続人の確定に関連する法律にはどのようなものがあるかについて講義の説明をもとにまとめておく。	120分
3	相続欠格と相続人の廃除	相続人になれない子ども：相続欠格、親の意思で相続人を決定するのか：相続人の廃除について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続欠格と相続人の廃除の違いについて文章にまとめることができる。	
	事前学修	相続欠格と廃除の違いについてまとめておく。	120分
	事後学修	相続廃除に関する判例の事例を確認し、それに対する自らの意見を述べられるようにノートにまとめておく。	120分
4	相続人の不存在	相続人が存在しないとき：身寄りのない者の財産と国庫帰属、相続財産を取り戻せ：相続回復請求について解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続人が存在しないときの相続の考え方について説明することができる。	
	事前学修	相続法総説および相続人、相続回復請求権、相続の承認、放棄および相続財産の清算、相続人の不存在を読んで、相続人がいないとはどのような事例であるかについて考えてみる。	120分
	事後学修	相続人が存在しない場合の相続手続きについてノートにまとめておく。	120分
5	相続財産	相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)：親の「遺骨」は誰のものか、特殊な相続財産(2)：保険契約の受取人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続できる財産・相続できない財産について説明することができる。	
	事前学修	相続の対象を読んで、相続の対象とすることができる財産の種類についてまとめておく。	120分
	事後学修	講義で取り上げられた事例のうち、最も興味を持った事例についての法的規制について自らの意見を述べられるようにオートにまとめておく。	120分
6	相続財産の共有	相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続財産の所有形態に関する基本的な考え方について説明することができる。	
	事前学修	遺産共有について読んで、相続財産の共有に関する法律の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	相続財産に関する登記が行われる事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	遺言の種類・性質		遺言のスタイル：意義・性質、『遺言書』を書く：自筆証書遺言、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言の種類について具体的事例をあげながら説明することができる		
	事前学修	遺言制度の概要、遺言の方式、遺言の撤回と無効・取消しを読んで、遺言書の書式事例をインターネットで調べておく。		120分
	事後学修	遺言書に関するトラブルを減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにノートにまとめておく。		120分
8	中間振り返り・まとめ		授業内レポートを実施する場合には、レポート作成時間60分、解説30分を実施する。これまで学んだことについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。		
	事前学修	第1回～第7回にまでの講義内容をノートにまとめておく。わからなかった点は書き出しておく。中間レポート試験を実施する場合には、講義時間中に試験の解説を行う。		120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。		120分
9	遺言内容の実現		遺言内容の実現：遺言の効力、遺言による贈与(1)：遺贈・包括遺贈、遺言による贈与(2)：その他の遺贈、遺言内容の実現：遺言の執行について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈・包括遺贈、遺言の執行に関し簡単に説明することができる。		
	事前学修	遺贈、特定財産承継遺言、遺言の執行を読んで、遺言による贈与の類型についてまとめておく。		120分
	事後学修	遺言による遺贈の具体的事例についてインターネットで調べておく。		120分
10	相続の承認・放棄		相続の承認と放棄、「借金」の相続：限定承認について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認と放棄の違いについて文章にまとめることができる。		
	事前学修	相続の承認、放棄および相続財産の清算、1相続の承認、放棄、2財産分離を読んで、相続・承認の類型についてまとめる。		120分
	事後学修	相続の承認と放棄の違いについて、ノートにまとめる。		120分
11	特別受益・寄与分		特別受益、寄与分の考え方について学ぶとともに、介護と相続に関する問題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別受益と寄与分の違いについて文章にまとめることができる。		
	事前学修	相続分のうち、具体的相続分：特別受益がある場合、具体的相続分：寄与分を認める場合を読んで、特別受益と寄与分の違いについてまとめる。		120分
	事後学修	「長男の嫁」問題についてHPで調べて具体的な問題点について説明できるようにまとめる。		120分
12	遺産分割の種類・方法		遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の基本的な考え方について説明することができる。		
	事前学修	遺産分割について読んで、遺産分割の流れについてまとめる。		120分
	事後学修	遺産分割協議書、登記申請書についてインターネット調べ、具体的に説明できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	遺留分	最低限は保障されるか：遺留分・遺留分侵害額請求権、遺留分侵害の順序についての基本的な考え方を確認し、計算方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分に関する基礎的事項・計算方法について簡単に説明することができる。	
	事前学修	遺留分を読んで、遺留分侵害の制度についてまとめておく。	120分
	事後学修	遺留分の計算方法や基本的考え方について、具体的事例をもとにノートにまとめておく。	120分
14	相続法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例の事案と判旨をまとめることができる。	
	事前学修	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第9回～第13回の講義で配信された資料・教科書を読んで、まとめておく。	120分
	事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
15	全体振り返り	相続法全般を通し、最新の相続法の動向や残された課題について発展的な課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学んだことを文章にまとめ、簡単に説明することができる。	
	事前学修	疑問点が解決されているかを確認し、解決された内容を理解し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法総則	担当者	竹田 智志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第1編「総則」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他人Bによって自己Aの所有物が第三者Cに売却された場合のAとCの利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を中心的に学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
実務及び学会等の動向、最新の判例等を視野に入れつつ講義を行うことにする。必要に応じて「講義資料」を配布。オンライン講義実施の場合は、毎回Googleclassroom上で出席の確認を取る。その場合、中間・期末レポートの実施する（詳細は初回講義時に行う）。なお対面講義の場合も詳細については初回講義（ガイダンス時）に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員が問いかけた場合、どの様に考えるか。講義終了時のリアクションペーパー等で表現していただく。これは単に知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。					2						
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。					2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを 筆記試験によって評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等	区切りの良いところで中間試験を実施する。											
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートライン民法総論（第3版）	池田真朗	日本評論社	2018	教科書	必携
六法（デイリー・ポケット）				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了時等に受け付ける。 takeda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	新聞記者
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場での経験を披露するケースがある。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び序説	民法典の歴史、2017年改正法、契約の国際基準への対応、独特な法律用語、学習上のポイントについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、民法総則の概要及び特徴につき説明できる。	
	事前学修	テキストを読み込み、民法総則の特徴を掴む。（テキスト229頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
2	民法典の概観	法体系の中の民法の位置付け	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、民法典の構成について説明できる。	
	事前学修	教科書を読み、民法の一特徴である私的自治の原則を踏まえた民法を考察する。（テキスト2頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
3	民法総則の性質	民法総則のポイントと学習	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、民法総則の基本的な性質を説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、特に最初の規定について把握する。（テキスト22頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
4	意思表示と法律行為	法律行為とは…	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力、意思能力と行為能力とは何かを把握する。。	
	事前学修	テキストを読み、人の法律上の能力について考察する。（テキスト74頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
5	制限行為能力者制度	未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該制度について具体的に説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、制限行為能力者制度を把握、制度の変遷、展開を押さえる。（テキスト81頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
6	意思表示総論	効果意思・表示意思・表示行為、意思表示の構造、意思主義・表示主義	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思表示の実現に向けた民法の基本的スタンスを押さえる。	
	事前学修	テキストを読み、意思自治のもと周囲の人との法律関係の構築経緯の把握が重要。（テキスト94頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意思表示各論	問題のある意思表示とは…	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の不存在、瑕疵ある意思表示につき具体的に説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、意思表示各論を把握する。（テキスト99頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	代理1 (区切りによっては中間試験を実施)	代理制度の意義と構造	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理の意義、機能、類似制度、メカニズムについて説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、代理の基本的な意義と構造を押さえる。（テキスト129頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	代理2	無権代理とは…	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理人の責任、相手方の保護について説明できる。	
	事前学修	テキスト、事前配布資料を読み、無権代理人の責任につき規定、判例法理を考察。（テキスト144頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	代理3	表見代理とは…	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表見代理制度につき三類型の説明ができる。	
	事前学修	テキストをよく読み、具体的な表見代理を考察（重量も含め）。（テキスト148頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	無効と取消し	無効と取消しの区別	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法律行為によって達成しようとした法律効果の発生を否定する制度につき説明できる。	
	事前学修	テキストを読み込み、無効と取消しの区別を考察。（テキスト161頁以下、213頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	条件・期限、住所・失踪、法人	法律行為に付加された約款と法人	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、総則上の約款、社団・財団法人の基本的スタンスを説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、具体例を小まめに考察する。（テキスト173頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時効（１）	時効制度の存在意義、効力、更新と完成猶予、援用と放棄	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、全体的に時効制度を把握。併せて、技術的規定である期間について説明できる	
	事前学修	テキストを読み、時効制度の全体像、併せて期間について考察。（テキスト１８２頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
14	時効（２）	取得事項と消滅時効	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な時効制度が説明できる。	
	事前学修	テキストを読み、取得時効・消滅時効を考察。（テキスト１９８頁以下）	120分
	事後学修	テキストを読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメ、資料や授業中にメモしたノートを見返し、わからない箇所についてはテキストを再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
15	民法総則のまとめと授業内試験	授業内試験を行う場合は60分を予定。解説30分。定期試験実施の場合は、前期授業の振り返り・解説をポータルサイトで配信（六法のみ持込可とする）。オンライン講義を実施する場合は、前期授業の振り返りとGoogleclassroom上でレポート提出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまで学修してきたことを理解し自ら説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義をよく復習し、わからなかったところを書き出しておく。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめておく。	120分

科目名	メディア演習Ⅰ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
新聞メディアを中心にジャーナリズム活動の現状と社会的・法的・経済的環境、およびそれらの理解を通じて、ジャーナリズム活動の構造や社会的な意義・役割について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の中でのジャーナリズム、メディアの構造、制度への理解を深め、メディア、情報に接する主体的判断力を養うことを目的とする。そのため、ジャーナリズム・メディア・言論の自由の問題をさまざまな観点から考察し、ジャーナリズム活動の現状・構造や社会的役割や意義、課題を理解する。

【履修条件】
メディア・コミュニケーション研究やジャーナリズム研究の理論に関する基本的な知識を有していること。

【授業方法】
演習形式で実施する。学術書の精読を通じて、ジャーナリズムの理論の動向を把握する。受講生は課題文献の担当範囲を翻訳し、それをもとにして議論を行っていくことが求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告（翻訳、発表。ディスカッション）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会の中でのジャーナリズムの活動に関連する法制度や倫理の知識を習得し、社会人として情報の受け手や発信者としての役割、倫理観を身に着ける。					3							
②	日本と諸外国におけるメディアの位置づけや制度の違いを理解、説明することができる。						3						
③	日頃のマスメディアの報道を客観的、批判的に考察し、情報の流れ、世論の動向などに対する自分の意見をもつことができる。							3					
④	メディアやジャーナリズムの活動における課題や問題点を見つけ、どのような解決策があるかを提示することができる。								3				
⑤	メディアやジャーナリズムをめぐるさまざまな意見が存在すること、メディアの実態を理解したうえで、ジャーナリズムのあり方について自分の考えを説得性、合理性をもって伝えることができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題を適切に理解し、有意な問題提起をして、説得力ある結論を導くことが来ているか。	15	5	10	10	10						50
討論・発表等	課題文献を適切に理解し、有意な問題提起が出来ているか。	15	5	10	10	10						50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
主に授業中に講評として行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Essential Concepts in Sociology (2nd or 3rd)	A. Giddens and P. Sutton.	Polity	2017	教科書	任意
備考	輪読文献については授業内で指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み（12:10～13:00） 場所は法学部本館9階応接スペースまたは研究室（1914教室）。事前にメール連絡すること。 yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義	新聞学科における原書研究の意義について講義をして、以降の報告分担を決定する。その際に、受講生は自己紹介として自らの研究テーマについて簡単なプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	授業の目的を把握し、自分の研究テーマとの関連を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むこと。自分の研究テーマについて簡単にプレゼンするための準備。	60分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	180分
2	課題文献の精読および討論①	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
3	課題文献の精読および討論②	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
4	課題文献の精読および討論③	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
5	課題文献の精読および討論④	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
6	課題文献の精読および討論⑤	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課題文献の精読および討論⑥	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
8	課題文献の精読および討論⑦	課題文献を輪読し、担当者が報告と問題提起を行い、授業者全員でその内容について議論する。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解すること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
9	原書研究と研究テーマの節合①	今までの授業で学習した内容を自らの研究テーマの結び付けて報告する。	
	この回の到達目標	各自の研究テーマについて教員や他の受講生について説得力をもって報告できること。	
	事前学修	報告資料の作成。	120分
	事後学修	報告を振り返り、次の報告に向けた準備をする。	120分
10	原書研究と研究テーマの節合②	今までの授業で学習した内容を自らの研究テーマの結び付けて報告する。	
	この回の到達目標	各自の研究テーマについて教員や他の受講生について説得力をもって報告できること。	
	事前学修	報告資料の作成。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
11	課題文献の精読と研究テーマに関する議論①	課題文献の精読を行い、自らの研究テーマに基づいて問題提起とディスカッションをしていく。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解し、自分の研究テーマとのかかわりを説明できるようになること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
12	課題文献の精読と研究テーマに関する議論②	課題文献の精読を行い、自らの研究テーマに基づいて問題提起とディスカッションをしていく。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解し、自分の研究テーマとのかかわりを説明できるようになること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題文献の精読と研究テーマに関する議論③	課題文献の精読を行い、自らの研究テーマに基づいて問題提起とディスカッションをしていく。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解し、自分の研究テーマとのかかわりを説明できるようになること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次回の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
14	課題文献の精読と研究テーマに関する議論④	課題文献の精読を行い、自らの研究テーマに基づいて問題提起とディスカッションをしていく。	
	この回の到達目標	課題文献で登場した概念と理論を理解し、自分の研究テーマとのかかわりを説明できるようになること。	
	事前学修	課題文献の該当箇所の精読と議論のための準備。担当者は報告の準備。	120分
	事後学修	次回の授業に向けた課題の読解、および報告に向けた準備。	120分
15	まとめと課題レポート執筆に向けた討論	授業で学習したことを振り返り、自らの研究テーマに節合させ、期末レポートを作成するためのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	原書研究における学習を振り返り、自分の研究テーマとの関連を把握できること。その上に期末レポート作成に向けた準備を行う。	
	事前学修	半年間の学修を振り返り、ディスカッションのための準備をしておくこと。	40分
	事後学修	期末レポートの作成。	200分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
現代社会でマス・コミュニケーションはどのような役割を有しているのだろうか。この講義では、マス・コミュニケーション論の代表的な研究を取り上げつつ、マス・コミュニケーションと社会との関係を検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マス・コミュニケーション論の中でも代表的な効果研究や分析モデルを紹介することを通じて、知識を養成することを目的とする。マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な視点を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。

【履修条件】
コミュニケーション論、コミュニケーションとインターネット（旧カリキュラムのコミュニケーションの科学AB）の履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マス・コミュニケーション論の基本的な思考枠組みが理解できるようになる。					3	3	3					
②	マス・コミュニケーションという社会過程を理解できるようになる。					3	3	3					
③	マス・コミュニケーションと現代社会との関係を分析し、検討できるようになる。					3	3	3					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して授業内試験を行い、マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	50								70
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して小レポートを課す。マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、授業後のリアクションペーパーで受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜・金曜の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義内容の確認とマス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について。第一回目は必ず出席するように。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念を学ぶ。	
	事前学修	シラバスを確認すること	120分
	事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	マス・コミュニケーションの機能	マス・コミュニケーションの機能について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マス・コミュニケーションの機能について学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（1）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（2）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	大衆社会論とマス・コミュニケーション	大衆社会とマス・コミュニケーションについて学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、マス・コミュニケーション研究の黎明期の社会の状況を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	弾丸効果モデルと大衆社会	初期の効果研究を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、初期の効果研究を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	限定効果モデルと多元社会	限定効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、限定効果モデルとそのモデルが登場した社会的背景を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	強力効果モデルとメディア社会	強力効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、強力効果モデルとそのモデルが登場した社会的背景を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
9	戦争とマス・コミュニケーション（1）	戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	戦争とマス・コミュニケーション（2）	戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	グローバリゼーションとマス・コミュニケーション	グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	デジタル社会におけるマス・コミュニケーション（1）	デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	デジタル社会におけるマス・コミュニケーション（2）	デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	これまでのまとめ	現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討する	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討し、論じることができるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	講義の振り返り	定期試験に向けて、講義を振り返り、質問を受け付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連し、マス・コミュニケーション論の理論を用いて、現状を分析的に見ることができるようになる	
	事前学修	これまでの復習。	120分
	事後学修	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること	120分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提にメディアについて考察する。

【履修条件】
マス・コミュニケーション論を先修していることが望ましい。

【授業方法】
授業資料はGoogleClassroomにpdfを入れておくので、事前事後の学習に利用されたい。小レポートの講評は授業内に授業と関連させて、おこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	21世紀のメディア研究の課題と問題点を理解する。				3							
②	現代のメディア研究における、構造主義以降の現代思想の影響と関係を説明する。				3							
③	世界と日本のメディア研究の相違点と問題点を理解する。					3						
④	生活世界とメディアとの関連を説明する。					3						
⑤	これまでの規範的研究の問題点と課題について説明する。						3					
⑥	これまでのメディア研究の問題点を認識し、これからのメディア研究について思考する。						3					
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③④⑤に関連し、小レポートを2回以上課す。課題に適切に答え、議論を構成できているかを基準に評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	到達目標①⑥に関連し、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、現代のメディア研究について理解できているかを評価する。	30					30					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	10	10	10	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小レポートの内容に関して、授業時にサンプルを選んで講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業資料グーグルクラスルームにpdfとしておいておく。参考書は、当資料および授業時に適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro○nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の概要	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにマスコミュニケーション論との関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、規範的研究（効果研究）を中心に、その問題点を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	授業の流れを理解しておくこと。 コミュニケーション論の授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。	240分
2	規範的な研究へのホールの批判①	規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、効果研究を中心にしたメディア研究の問題点を認識し、ホールの問題提起を説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。	60分
3	規範的な研究へのホールの批判②	ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬；遠近法（ルネサンス）、近代における視覚の優位性etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの提起した社会的条件の具体的な内容を説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。	180分
4	規範的な研究へのホールの批判③	デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的＝ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの仮説的なモデルを実例を使って説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。	180分
5	オーディエンス研究①	ホールの議論の確認－レポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提－創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、ホールの提起した問題の意義を理解する。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。	60分
6	オーディエンス研究②	エスノグラフィックなアプローチ エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、エチックとイーミク、外在的理解と内在的理解、厚い記述、オリエンタリズムの衝撃etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホール以降のオーディエンス研究への理論的基盤を理解する。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 言語相対仮説を調べておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ＝ストロースについて調べておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	オーディエンス研究③	モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、CSのオーディエンス研究とホールの議論との関連について説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。	120分
8	オーディエンス研究④	モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義 ←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）→構造主義とは	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、CSを中心にしたオーディエンス研究の意義とこれまでの規範的研究との相違点を説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。	180分
9	オーディエンス研究⑤	フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常的実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc	
	この回の到達目標	到達目標②④⑤⑥に関連し、メディアを生活世界との関連で捉える必要性を理解する。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習する。	180分
10	ハートレイのオーディエンス研究への疑義①	ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ハートレイの問題提起の意義を説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。	120分
11	ハートレイのオーディエンス研究への疑義②	オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連し、ハートレイの議論の意義を理解し、その議論を日本の場合に応用して説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアンの批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。	120分
12	メディア・テクノロジー研究①	ホールの社会的条件の復習 →シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回	
	この回の到達目標	到達目標②④⑥に関連し、生活世界との関係でこれまでのメディア研究の欠落点を認識する。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。構造主義の展開とリミットを考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・テクノロジー研究②	ドメスティケーション・モデルとは－社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc →ホールの仮説的モデルの応用－社会決定論	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連し、ドメスティケーション・モデルを用いて日本の身近な事例について説明することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。	180分
14	メディア・テクノロジー研究③	ドメスティケーション・モデルの問題点 12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、これまでのメディア研究の限界点を認識し、それを批判的に検討することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。	120分
15	全体のまとめ	これからのメディア研究に必要な視点とは？ レポートの課題提示	質疑応答と最終
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、21世紀以降のメディア研究に必要な視点を展望することができる。	
	事前学修	グーグルクラスルームにある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。	480分

科目名	メディア史	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアの歴史は、人びとの言語や記号とコミュニケーションの歴史であり、社会との相互関係の歴史でもある。古代から中世、中世から近代、そして19世紀以降の近・現代のメディアの歴史的展開を追うことで、メディアと社会との歴史的関係を浮き彫りにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、メディアに対する歴史的パースペクティブを身につけるために、通史的な歴史的知識を修得したうえで、学説的なフレームから歴史的変容を説明する力を修得し、さらに具体的な事例研究やケーススタディ研究を学生自らが行う力を修得する。

【履修条件】
V群Ⅲ類の必修科目「比較ジャーナリズム史」を既習しておくことが望ましい

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や歴史資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの文明史的な通史を説明することができる。				3							
②	19世紀以降のメディアの近現代史を地域や国の違いをふまえ、特徴を説明することができる					3						
③	学説を用いて、メディアの歴史的変容を説明することができる						3					
④	歴史的資料を自ら分析し、レポートとしてまとめることができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身に付いているか、レポートによっ て評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②が身に付いているか評価 する	5	5									10
レポート等	到達目標④の分析する力が身に付いているか、レポートで 評価する				10							10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	メディア史の学問的位置づけを確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要を理解し、説明することができる	
	事前学修	シラバスを読み、確認すること。	120分
	事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	120分
2	メディア史の射程	世界史の通史的な流れをふまえ、メディア史との重層的な関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要とメディアとの関係を理解し、説明することができる	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
3	声の文化から文字の文化	オングの議論を通して、コミュニケーションの歴史とメディアの歴史との関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアとコミュニケーションとの関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
4	メディアのシステムと文明	イニスの議論を通して、メディア（＝記号システムと物質性）と文明の政治的システムとのダイナミズムを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと政治システムとの関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
5	中世から近代へ①	映像資料『薔薇の名前』を通して、第3講および第4講の講義内容をブラッシュアップする	
	この回の到達目標	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
6	中世から近代へ②	第4講の映像資料をふまえ、マクルーハンの議論を通して、印刷技術とメディアの近代を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと権力との関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国民国家と出版資本主義	アンダーソンの議論を媒介にして、出版資本主義と国民国家との関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー都市ー近代の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
8	小テスト	第3講～7講の範囲で小テストを前半（45分）で行い、後半（45分）で小テストの解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー出版ー国民国家の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	第3講から7講までの講義内容、資料を復習すること	120分
	事後学修	小テストの結果をふまえ、講義の内容を復習する	120分
9	メディアとプロパガンダ①	プロパガンダ映画の映像資料を視聴し、分析ノートを作成する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が実際に身についているかを自ら評価する。	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
10	メディアとプロパガンダ②	プロパガンダ映像に関する分析とファシズムとの関連を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー市民ー民主主義の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
11	メディアイベントと象徴政治①	映像資料を視聴し、分析ノートを作成する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、表象ーテクノロジーー象徴政治の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
12	メディアイベントと象徴政治①	映像資料の分析とメディアイベントに関する文化社会的な知見を習得する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアイベント概念を通して、社会を分析することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディアと近代のリスク社会①	映像資料を通して、近代および現代のリスク社会について理解を深める	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、近代のリスク社会について説明できる	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	メディアと近代のリスク社会②	映像資料を通して、近代および現代のリスク社会について理解を深める	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディア－戦後社会－テクノロジーの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、現在の情報社会の歴史的位置づけを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連し、情報社会と歴史との関係を把握し、説明することができる	
	事前学修	レポートの作成（テーマは第13講時に提示する）	180分
	事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習する	120分

科目名	メディア／情報産業Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、放送など私たちが普段接しているメディアの産業としての成り立ち方や、インターネットの登場によってメディア産業が抱える課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大きな変革期にあるメディア産業を考察する力を身につけるために、メディアの産業構造、社会的意義を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内レポートを2回実施する。授業内レポートの解説も授業内で行う。出席管理システム（レスポん）により、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアとして社会に受容された過程を説明することができる。				3	3						
②	メディアの媒体特性を説明することができる。				3	3						
③	メディアの産業構造の特徴を説明することができる。				3	3						
④	広告の役割について説明することができる。				3	3						
⑤	インターネットの登場により、メディアが抱える課題について説明することができる。						3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤が身についているか評価する。授業内でレポート課題を2回行う。1回でもレポートを提出しない場合は、成績評価の対象としないので注意すること。	20	20	20	20	20						100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送だけでなく、新聞、出版の業界団体との交流もあった経験を活かし、マスメディアの産業活動の実態や各業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディア産業を概観	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディアとは何か、メディアの自由度と露出度関連などを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、メディア産業を学ぶ意義を理解することで、能動的に今後の学修を進めることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	ガイダンスで紹介されたメディアで興味を持ったものについてその役割を調べる。	120分
2	メディア産業の全体像	日本のメディアの産業の全体像を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、産業としてのメディアの基本構造を説明することができる。	
	事前学修	電通ホームページ内の「2022年 日本の広告費」を読み、ポイントをまとめる。	120分
	事後学修	授業を踏まえ、自分の各メディアに対する自分の評価を再度、まとめる。	120分
3	新聞の歴史	パンフレットから新聞へ。新聞産業と大衆。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、新聞が大衆社会に受け入れられた過程を説明することができる。	
	事前学修	コーヒーハウスの起源について調べる。	120分
	事後学修	どのようにしてマス広告が誕生したのかをまとめる。	120分
4	新聞産業の概況	新聞媒体の種類と特徴、宅配と再版制度を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、新聞媒体の特徴を説明することができる。	
	事前学修	新聞にはどのような種類があるかを調べる。	120分
	事後学修	なぜ、再版制度が必要なのかについてまとめる。	120分
5	放送の誕生過程	通信の発達から放送の誕生までを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、放送の特徴を説明することができる。	
	事前学修	電気を使った通信が始まる前は、どのような手段で通信を行っていたかを調べる。	120分
	事後学修	放送の誕生した理由をまとめる。	120分
6	民放テレビの営業概論 I	民放テレビのビジネスモデル、ネットワークの役割、CMの種類について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、放送の媒体として特徴を説明することができる。	
	事前学修	テレビ、ラジオのネットワークについて調べる。	120分
	事後学修	民放テレビのビジネスモデルについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	民放テレビの営業概論Ⅱ	テレビ営業の仕組みと実態、視聴率と視聴質を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標舞②③④⑤に関連し、テレビCMの特徴を説明することができる。	
	事前学修	ビデオリサーチのホームページで視聴率の調査方法を調べる。	120分
	事後学修	他のサービス産業と放送産業の構造の違いをまとめる。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	出版メディアⅠ	出版メディアの特徴、文庫本革命、ベストセラーなどについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連し、出版の特徴を説明することができる。	
	事前学修	1990年以降の書籍、雑誌の売り上げの推移について調べる。	120分
	事後学修	文庫本の歴史をまとめる。	120分
10	出版メディアⅡ	出版の流通（販売、取次）、再販制度、出版のデジタル化について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、出版流通の特徴を説明することができる。	
	事前学修	電子書籍を読む。	120分
	事後学修	出版のデジタル化のメリットをまとめる。	120分
11	映画産業Ⅰ	サイレント映画から映画のデジタル化まで。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連し、サイレント映画から現在までの映画産業の発展過程を説明することができる。	
	事前学修	エジソンとリュミエール兄弟が発明したものを調べる。	120分
	事後学修	サイレント映画、活動写真、トーキー映画の特徴と違いを整理する。	120分
12	映画産業Ⅱ	興行収入、入場者数の変遷、映画ビジネスの収益配分、映画興行事業の現状を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、映画産業の構造を説明することができる。	
	事前学修	過去10年間の映画の興行収入1位～10位を調べ、特徴をまとめる。	120分
	事後学修	映画ビジネスの収益配分方法についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広告会社とは	広告会社の役割、種類、総合広告会社の組織。	
	この回の到達目標	達成目標④⑤に関し、広告会社の役割を説明することができる。	
	事前学修	どのような広告会社があるのかを調べる。	120分
	事後学修	広告会社の種類とそれぞれの役割をまとめる。	120分
14	これからのメディア	動画配信サービスの特徴、動画視聴方法の変化、既存メディアの対応などを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標⑤に関し、メディア環境の変化について説明することができる。	
	事前学修	さまざまな動画配信サービスの特徴をまとめる。	120分
	事後学修	既存メディアの今後についてまとめる。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア調査	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、テレビ、そしてインターネットをはじめとするメディアからもたらされる情報を的確に収集、分析、そして解釈する能力は、情報化社会において非常に重要である。以上のような前提のもと、本科目では①メディア調査の方法、②データ解釈の方法、そして③メディア調査の実例について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、メディアを社会調査の技法を用いて調査するために、社会調査についての知識と方法論およびメディア調査特有の視点を修得する。また、その過程を通じて、メディアから得られる情報を的確に理解、分析、そして解釈するための能力を修得する。

【履修条件】
毎回、授業開始10分以内に出席を確認する。それ以降の出席は欠席扱いとなる。5回以上欠席した場合、単位取得資格を失う。また欠席に当たり、就職活動は考慮しない。履修を希望する際には、その旨を十分理解した上で登録すること。

【授業方法】
スライドを用いて講義を実施する。授業では資料は配布しない。Live Campus Uを用いて事前に配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおくことが求められる。また、出欠確認はリアクションペーパー（レスポん）を活用する。なお、授業スライドは事後に配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に資料を読み込み、受講生は理解を深めておく（反転授業）。また、リアクションペーパー（レスポん）の実施を通して理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	メディア調査の意義を理解し、その調査方法について立案できる。				2	2	2	2				
③	メディア調査の技法を、調査対象となるメディアの特性に応じて使い分けることができる。				2	2	2	2				
④	メディア調査から得られたデータを、適切に解釈し、読み解くことができる。				2	2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力の修得について評価する。	15			15							30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパー（レスポンス）の実施を通して講義の理解度を把握し、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパー（レスポンス）の回答結果については、次回授業内でコメントする。また、レポートに対する総合的な評価についても、同様に授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 マス・コミュニケーションの調査研究法	鈴木裕久・島崎哲彦	創風社	2006	参考書	任意
社会調査のための統計学	神林博史・三輪哲	技術評論社	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、受講準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	メディア調査の視点	メディア調査の考え方や立場、調査データの利用者について学習する。	
	この回の到達目標	メディア調査の基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
3	メディア研究と調査（1）	統制者分析、内容分析、メディア分析の視点と課題について、それらの実例とともに学習する。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、その基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
4	メディア研究と調査（2）	受け手分析、効果分析の視点と課題について、それらの実例とともに学習する。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、その基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
5	メディア研究と調査（3）	効果分析の視点と課題について、それらの実例とともに学習する。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、その基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
6	メディア調査の手順	定量的な手法でメディアを調査するために必要な知識、およびその手順について学習する。	
	この回の到達目標	メディア調査の方法と手順について学習することで、その基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	調査票をめぐる過程		定量的な手法でメディアを調査するために必要な調査票の設計、集計、統計までの過程について学習する。
	この回の到達目標	メディア調査の方法と手順について学習することで、その基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
8	統制者分析		メディア調査の方法と手順について学習することで、その基本的なリテラシーを獲得する。
	この回の到達目標	統制者分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
9	内容分析（１）		内容分析について、調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。
	この回の到達目標	内容分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
10	内容分析（２）		内容分析について、調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。
	この回の到達目標	内容分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
11	メディア分析		内容分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。
	この回の到達目標	メディア分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分
12	受け手分析		受け手分析について、調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。
	この回の到達目標	受け手分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	効果分析（1）	効果分析について、調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。	
	この回の到達目標	効果分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
14	効果分析（2）	効果分析について、調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。	
	この回の到達目標	効果分析の方法と手順について学習することで、メディア調査の基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	授業テーマについて事前に調べ、理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業内容に対する理解を深める。	120分
15	総括	第2回から第9回、第11回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第2回から第9回、第11回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、復習する。	120分
	事後学修	授業内試験への復習を通じて、授業で修得したメディア調査に関する基本的な知識と理論を復習する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
学部1年生を対象にした少人数制の科目で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、新聞学科での4年間の学びの基礎を身につけるため、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面方式で実施する。 複数の教員によるオムニバス形式で実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野についての基礎的な概念や方法論について説明することができる						1							
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関連する社会の各分野、業界等の特徴や問題点などについて述べることができる							1						
③	メディア史研究や広告研究などの基礎知識や方法論について説明することができる								1					
④	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために基礎的な資料や文献を収集し、解釈することができる									1				
⑤	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために、今後の研究の目標を立てることができる										1			
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関わる能力が身についているかを確認する	20	20	18	18	18						94
レポート等	基礎的知識や方法に関する質疑応答において自分の意見を的確に述べることができるかどうかを基準に、到達目標③⑤に関わる能力や態度が身についているかを評価する			2	2	2						6
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題発表時に授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の月曜日12:15-12:45 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約をとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	「メディアの世界」のねらいと学修方法について 【石川 徳幸】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メディアの世界の学びの概要について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
2	新聞学科の学び	日本大学法学部新聞学科は何を学ぶところなのか 【塚本晴二朗】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新聞学科での学びの概要や特徴などについて説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
3	メディア・コミュニケーション①	メディア研究の基礎概念、方法論 【小林 義寛】	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、メディア研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
4	メディア・コミュニケーション②	コミュニケーション研究の基礎概念、方法論 【佐幸 信介】	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
5	メディア・コミュニケーション③	メディア研究、コミュニケーション研究の射程 【平井 智尚】	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究にどのような意義や可能性があるかについて述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
6	ジャーナリズム①	ジャーナリズムとは何か、その役割と意義 【中 正樹】	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムの存在意義や社会的役割について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズム②	ジャーナリズムと現代社会 【山口 仁】	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代社会におけるジャーナリズムの諸相、問題点について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
8	ジャーナリズム③	ジャーナリズムと政治 【三谷 文栄】	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治とジャーナリズムの関りについて説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
9	放送①	放送メディアの基本的特徴 【笹田 佳宏】	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、放送メディアの基本的なメディア特性について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
10	放送②	放送産業の構造と特徴 【柴田 秀一】	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送産業の基本的な特徴や現状、問題点などについて述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
11	放送③	放送番組の取材・制作過程 【米倉 律】	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送ジャーナリズムの特徴、社会的役割について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
12	メディア史①	日本におけるメディアの歴史 【石川 徳幸】	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本におけるメディア、ジャーナリズムの歴史的展開について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア史②	メディアの歴史から見る「現在」 【小林 聡明】	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メディアの歴史から見る「現在」について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
14	広告	広告業界の産業構造および広告表現の特徴や実相を知る（ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、広告の意義や社会的役割について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
15	総括とレポート	15回の講義を総括し、授業内レポートを作成、提出する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新聞学科で扱われる学問・研究領域の特徴について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生に対してもクラスの振り分けが行われる場合があるので、履修区分に注意すること。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で指示をする（新書2～3冊程度）。教科書代としては総額で2,000～3,000円程度を予定しておいてもらいたい。				

【オフィスアワー】
【2024年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
グーグルクラスルームを通じてアポイントメントを取ってください。その際、相談内容と希望する面談方法・時間（候補複数）をお知らせください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自分と未来のつくり方	石田英敬	岩波書店	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	教科書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	テキストの読解とレジュメのつくり方を学ぶ	教科書・第1章「『モモ』で読み解く労働と産業社会」を読む	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	教科書・第1章を読んでおく	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	レジュメを作成し、プレゼンテーションをする	第2章「欲望をつくる文化産業」を読み、その内容をプレゼン、ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	教科書・第2章のレジュメを作成し、ポータルサイトにアップする	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	テクノロジーと現象について考える	第3章「意識を生み出すテクノロジー」をめぐるディスカッション	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	教科書・第3章を読み、レジュメを作成する	120分
	事後学修	プレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	メディアの仕組みを考える	第4章「メディアという洞窟」を通して、メディアの仕組みをディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	第4章「メディアという洞窟」を読み、レジュメを作成する	120分
	事後学修	プレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	テクノロジーと人間に関する映像資料①	テクノロジーと人間とのあいだの融合的世界を考える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	教科書・第3章をあらためて読み、第4回講義の内容を復讐しておく	120分
	事後学修	映像資料に関するノートを作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テクノロジーと人間に関する映像資料②	人間にとって、ICTは何か？ 映像資料をもとにディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	映像資料についてのノートを作成する	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、論点を整理し直す	120分
8	テクノロジーがもたらす未来に関する映像資料①	テクノロジーと監視社会について考える	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	教科書・第5章「自分と未来のつくり方」を読んでおく	120分
	事後学修	映像資料に関するノートを作成する	120分
9	テクノロジーがもたらす未来に関する映像資料②	テクノロジーと監視社会についてディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	映像資料についてのノートを作成する	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、論点を整理し直す	120分
10	フェイクとは何かを考える映像資料①	ドキュメンタリーの手法とフェイクとは何かについて考える	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書・第4章と、第5回講義を復讐しておく	120分
	事後学修	映像資料に関するノートを作成する	120分
11	フェイクとは何かを考える映像資料②	フェイクについて、ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	映像資料について作成した、メモ・ノートを整理しておく	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	ジャーナリズムの原理についての映像資料①	ジャーナリズムの仕組みと実践について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書・第5章「自分と未来のつくり方」を読んでおく	120分
	事後学修	映像資料に関するノートを作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリズムの原理についての映像資料②	ジャーナリズムの仕組みと実践についてディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	映像資料に関するノートを整理しておく	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	テクノロジーと未来についての映像資料	テクノロジー、民主主義、科学について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書・第5章「自分と未来のつくり方」を読んでおく	120分
	事後学修	映像資料に関するノートを作成する	120分
15	テクノロジーと未来についてのまとめ	後期の授業全体をふりかえり、課題について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	後期の授業全体の内容を復習しておく	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館 9 階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
毎回、授業開始10分以内に出席を確認する。それ以降の出席は欠席扱いとなる。5回以上欠席した場合、単位取得資格を失う。また欠席に当たり、就職活動は考慮しない。履修を希望する際には、その旨を十分理解した上で登録すること。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時のディスカッションを通じて、提出課題に対するフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日11:00-12:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／導入授業	授業全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる。	
	事前学修	シラバスに目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく。	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	テーマの検討	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	取り組みたいテーマについて考える。	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を調べ、その内容を把握する。	120分
3	課題文献の要約①	課題文献の内容についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分
4	課題文献の要約②	課題文献の内容についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	課題文献の要約③	課題文献の内容についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分
6	課題文献の要約④	課題文献の内容についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論点の提示と検討①	課題文献の内容、論点についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分
8	論点の提示と検討②	課題文献の内容、論点についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分
9	論点の提示と検討③	課題文献の内容、論点についてプレゼンを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる。	120分
	事後学修	課題文献の内容、そのプレゼンの内容を振り返る。	120分
10	プレゼンとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分
11	プレゼンとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分
12	プレゼンとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分
14	プレゼンとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分
15	プレゼンとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについて研究成果を発表し、その内容についてのディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、研究成果の発表とディスカッションを実施し、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンを準備する。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日10:30-11:30（連絡先は初回の授業の際に伝える、あわせてGoogle Classroomに掲載する）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜・金曜の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。メディア・テキストの読解に向けた基礎的演習も含む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	総括とふりかえりレポートの作成	これまでの授業を振り返って、自らの学習ポートフォリオとしてレポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	学習ポートフォリオ作成のための資料の準備と整理。	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標③～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	石井 育子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
時事的なニュース・話題の記事に触れながら前半は講義形式、後半は実践と適宜フィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・通信社、放送局の制作者、記者の話を聞くなど、リアルな現場を知る機会を持つ	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週に解説する。必要によっては対面で指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない				

【オフィスアワー】
授業後、質問を受け付ける。その他必要な場合はメール対応します (ishii.ikuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ラジオ局に30年以上勤務 C M、出版、番組制作、報道部門
実務経験に基づく実践的教育の内容		文章の基本、伝わるためのノウハウ、媒体による特性の違いなど基本的な知識を得るとともに、実践している現場担当者の話を聞く機会も作る。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 メディアの文章	講義の概要、目的、スケジュール、評価方法などについて説明する	
	この回の到達目標	講義の概略と、何を軸に進めるか理解する。	
	事前学修	シラバスを確認して概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容から自分の志望先をイメージし、学習計画を検討する。	120分
2	文章の基本①	書く目的と文章表現の違い メディアにおける文章概観	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読んで理解する、文章を感じることを確認する。	
	事前学修	新聞から興味のある記事をできるだけ読んでみる。	120分
	事後学修	ニュースを理解するために知っておくべき用語などの確認	120分
3	文章の基本②	伝わる文章 の工夫はどんなされているのか考える。 新聞記事他を例に文章の基本構成を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポイントを読み取り基本構成を理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	指示されたテーマについて講義内容を踏まえて読んでおく。	120分
4	文章の基本③	文章作成にあたり 構想し構成すること、視点を持つ大切さを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、考察力を養う。伝える楽しさや意味を理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分
5	文章の基本④	文章作成にあたり、何に着目するかということの大切さとその理由を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、考察力を養うとともに実践してみる。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	昨今のニュースについて情報収集しておく。	120分
6	文章の表現①	伝わる表現力とは 語彙、具体表現などのミニトレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、感情などの表現力を探すきっかけを作る事ができる。	
	事前学修	前回までの復習	120分
	事後学修	今回の講義を参考に媒体による表現の違いをリサーチしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文章の表現②	実用文（レポート等）の書き方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本を踏まえながら、自分ならではの表現力を養う方法を知る。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分
8	文章の表現③	媒体による文章表現の違い 現場からゲストを招き話を聞く	
	この回の到達目標	①②に関連して、伝える側の立場の表現によって‘伝わる’深度が異なることを理解する。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
9	文章力を蓄える	文章作成時の落とし穴 文章を書く際、留意すべきこと	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して自然体で書く行為に臨めるようになること。	
	事前学修	これまでの講義内容から必要な要素を抽出しておく。	120分
	事後学修	講義で学んだポイントの復習と次回への準備	120分
10	文章力を蓄える	テーマから書くということ（発想力） あるテーマを設定されたときどう対応するのか。 基本的な準備要素となることを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	日々のニュースを確認しておく。設問内容をまとめる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
11	文章力を蓄える	テーマから書くということ（発想力） 連想から視点を定め、書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
12	文章力を蓄える	テーマから書くということ（構想力） 文章作成にあたり構成を考えて書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政治・経済・社会の動向に関心を持つきっかけを作る	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時事・話題へのアプローチ	テーマから書くということ（構想と構成） 世の中のニュース、記事、関心事から自分の考えを書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、時代、環境に応じた着想と表現を知る。	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
14	現場の文章・プロたちの書面	「企画書」について 業界により違いはあるものの「企画書」を書く機会がある。誰に向けて何を提案企画するのか、その表現事例を示しながら基本的な構造を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して仕上げ段階で必要事項を確認する。	
	事前学修	提示された参考資料を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
15	講義のまとめ・質問	これまでの振り返りをディスカッション形式で確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まとめと理解促進	
	事前学修	これまでの講義内容を整理する。	120分
	事後学修	あらためて全講義の復習をして自分の文章を検証する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	石井 育子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
時事的なニュース・話題の記事に触れながら前半は講義形式、後半は実践と適宜フィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・通信社、放送局の制作者、記者の話を聞くなど、リアルな現場を知る機会を持つ	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週に解説する。必要によっては対面で指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない				

【オフィスアワー】
授業後、質問を受け付ける。その他必要な場合はメール対応します (ishii.ikuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ラジオ局に30年以上勤務 C M、出版、番組制作、報道部門
実務経験に基づく実践的教育の内容		文章の基本、伝わるためのノウハウ、媒体による特性の違いなど基本的な知識を得るとともに、実践している現場担当者の話を聞く機会も作る。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 メディアの文章	講義の概要、目的、スケジュール、評価方法などについて説明する	
	この回の到達目標	講義の概略と、何を軸に進めるか理解する。	
	事前学修	シラバスを確認して概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容から自分の志望先をイメージし、学習計画を検討する。	120分
2	文章の基本①	書く目的と文章表現の違い メディアにおける文章概観	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読んで理解する、文章を感じることを確認する。	
	事前学修	新聞から興味のある記事をできるだけ読んでみる。	120分
	事後学修	ニュースを理解するために知っておくべき用語などの確認	120分
3	文章の基本②	伝わる文章 の工夫はどんなされているのか考える。 新聞記事他を例に文章の基本構成を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポイントを読み取り基本構成を理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	指示されたテーマについて講義内容を踏まえて読んでおく。	120分
4	文章の基本③	文章作成にあたり 構想し構成すること、視点を持つ大切さを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、考察力を養う。伝える楽しさや意味を理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分
5	文章の基本④	文章作成にあたり、何に注目するかということの大切さとその理由を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、考察力を養うとともに実践してみる。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	昨今のニュースについて情報収集しておく。	120分
6	文章の表現①	伝わる表現力とは 語彙、具体表現などのミニトレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、感情などの表現力を探すきっかけを作る事ができる。	
	事前学修	前回までの復習	120分
	事後学修	今回の講義を参考に媒体による表現の違いをリサーチしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文章の表現②	実用文（レポート等）の書き方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本を踏まえながら、自分ならではの表現力を養う方法を知る。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分
8	文章の表現③	媒体による文章表現の違い 現場からゲストを招き話を聞く	
	この回の到達目標	①②に関連して、伝える側の立場の表現によって‘伝わる’深度が異なることを理解する。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
9	文章力を蓄える	文章作成時の落とし穴 文章を書く際、留意すべきこと	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して自然体で書く行為に臨めるようになること。	
	事前学修	これまでの講義内容から必要な要素を抽出しておく。	120分
	事後学修	講義で学んだポイントの復習と次回への準備	120分
10	文章力を蓄える	テーマから書くということ（発想力） あるテーマを設定されたときどう対応するのか。 基本的な準備要素となることを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	日々のニュースを確認しておく。設問内容をまとめる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
11	文章力を蓄える	テーマから書くということ（発想力） 連想から視点を定め、書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
12	文章力を蓄える	テーマから書くということ（構想力） 文章作成にあたり構成を考えて書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政治・経済・社会の動向に関心を持つきっかけを作る	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時事・話題へのアプローチ	テーマから書くということ（構想と構成） 世の中のニュース、記事、関心事から自分の考えを書いてみる	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、時代、環境に応じた着想と表現を知る。	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
14	現場の文章・プロたちの書面	「企画書」について 業界により違いはあるものの「企画書」を書く機会がある。誰に向けて何を提案企画するのか、その表現事例を示しながら基本的な構造を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して仕上げ段階で必要事項を確認する。	
	事前学修	提示された参考資料を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
15	講義のまとめ・質問	これまでの振り返りをディスカッション形式で確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まとめと理解促進	
	事前学修	これまでの講義内容を整理する。	120分
	事後学修	あらためて全講義の復習をして自分の文章を検証する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	新田 直子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし。但し、受講者数には一定の上限を設けている。希望者が超過した場合は抽選となるので、あらかじめ注意されたい。

【授業方法】
ほぼ毎回、講義時間内に実際に課題文などを書いて提出してもらう。それ以外の時間には、前回課題の講評、注意点を述べたり、文章作成上の注意点や論の組み立て方など、基本的なことを解説する。必要に応じて資料を配布する。課題あるいは質問票などの提出を以て、出欠確認を行う。事後学習のため、毎回の課題とは別の課題を提案する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 さまざまな課題を与え、講義時間内に文章を作成する。課題は、前以て示す場合と、その場で示す場合とがある。課題提出のない日にも、アンケートや質問票など、何かしらの文章を書いて提出してもらう。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
文章は添削し、返却する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文章課題となる図書については講義中に指示する。				

【オフィスアワー】	
授業（水曜3限）終了時にアポイントを取ること。その翌週の授業後に時間をもうける。文章作成に関する質問には可能な限り応じる。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版会社編集部勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		読みやすい文章と読みにくい文章の違いはどこにあるのか、「読者」側を意識した文章作成を考える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス・導入講義】表現について	何を目的として、どう書くか、その際に必要な「表現」について考える。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①を念頭に、臆せずに自分の言葉で表現することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義を概観しておくこと。自己紹介に使えるような四字熟語をいくつかピックアップしておく。	60分
	事後学修	ガイダンス及び第1回講義内容の復習。各自、再度各自課題文章を作成し、問題点を確認すること。	180分
2	文章作成の基本（1）文法・文型	適切な表現のために必要な基礎を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、文章の基礎的なルールを学ぶ再確認できる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第2回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
3	文章作成の基本（2）読みやすい文章・読みにくい文章	ほんの少し書き方が違うだけで、読みやすくも、読みにくくなる。他者に内容が過不足なく伝わる表現を学ぶ。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、引き続き文章の基礎的なルールを習得することができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第3回講義内容の復習を求める。再提出を求められた学生は、改めて課題文を執筆する。	120分
4	文章作成の基本（3）書き手の〈視点〉	一人の書き手でも、〈視点〉を変えることができる。そこから別のものの捉え方ができる。文章も同様である。ここでは、〈視点〉を変えることを学ぶ。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標②③を踏まえ、引き続き文章の基礎的なルールを学びつつ、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第4回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
5	文章作成の基本（4）思考法について	さまざまな思考法を駆使し、別の〈視点〉を持つことを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連し、実際に用いられている思考法について知識を得ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第5回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
6	文章作成の基本（5）思考法の応用	書き手の興味と、読み手の要求について考えながら、前回に学んだ思考法を応用し、実際に文章を作成する。 / 課題文作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、与えられた課題に対し、思考し、文章を作成することができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第6回講義内容の復習を求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	創作文（１）ストーリーを考える	だんだん書くことに慣れてきたら、思いきって創作文にも挑戦したい。その際の注意点について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、プロットの組み立て方を学び、自分の想像したストーリーを作り上げることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第7回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
8	創作文（２）ストーリーの文章化	前回の授業で得た知識をもとに、ストーリーを制限字数内で文章化する。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、自在に自分の思い描く世界を文章化できる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第8回講義内容の復習を求める。	120分
9	発想を広げ、文章力を蓄える	一口に「文」「文章」と言っても、新聞記事のような文章もあれば、詩や小説など、それぞれ特徴が異なるものが存在する。それぞれのスタイルや特長について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、自己の目的とする表現にはどのようなスタイルが適切かを知ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第9回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
10	さまざまな課題への対応（１）	具体的には将来、読み手からどのような文章を要求されるのか、また、その要求に対してどう応えればより効果的なのかを、その要求から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、他からの要求にどう応じたら良いか、選択する能力を得ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第10回講義内容の復習を求める。	120分
11	さまざまな課題への対応（２）	キセル文・三題漸について学ぶ。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第11回講義内容の復習を求める。	120分
12	さまざまな課題への対応（３）	抽象的な課題に対して、どう取り組んでいけば良いかを考える。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第12回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	さまざまな課題への対応（４）	前回2回の課題文について、特に問題となるような点について取り上げ、より良い文章表現とは何かを探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第１３回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
14	さまざまな課題への対応（５）時事問題へのアプローチ	「自分の意見」とは何か今一度確認し、説得力ある意見とはどういうものなのかを考える。／課題文作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、「意見文」を作成する能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。	120分
	事後学修	第１４回講義内容の復習をすること。	120分
15	校正・推敲について	基本的な校正方法、自分で行う推敲の方法を学ぶ。。質疑に応ずる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
	事前学修	推敲・校正について講義するので、予備知識を得ておくこと。講義全体について確認し、不明な点を書き出しておくこと。	120分
	事後学修	第１５回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

科目名	メディア・ビジネス	担当者	公野 勉	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
講師はメディア・ビジネス実務者の立場として“ナマの声”で講義する。 コンテンツ産業のエポックメイキングとビジネス実態の概説を展開し、様々なエンターテインメントビジネスの成功ケース・特異ケースを例示する。さらにエンターテインメントビジネスの基礎構造を解説し、具体的なエンターテインメントビジネスの施作が立案スキルを学修する。(担当教員は映画会社日活で製作・配給担当取締役、アニメ会社タツノコプロの取締役を務めた後、VFX企業・白組のコンテンツスーパーバイザー、劇団飛行船 映劇ライヴエンターテインメント社顧問の現任中。映画プロデューサー・映画監督)。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
コンテンツ産業における経済構造とクリエイティヴとプロデュースの関係性実態、各種ビジネスモデル群の把握から、それらを第三者へ説明できるようになる事、さらにはコンテンツ制作組織の機能を他者に説明する事が出来るようになる事を目的とする。 到達目標A： コンテンツビジネスの構造と実態、さらに当該産業の会計基準等の商習慣を第三者に説明できるようになる。 到達目標B： 制作現場編成と興行リテール等の経済的成果や、市場に対するコンテンツマーケティングを含めた企画を第三者にプレゼンテーションできるようになる。

【履修条件】
2年生以上。

【授業方法】
コンテンツ関連の時事情報を例示、学生との意見交換により講義を展開。フィードバックについては質問等を講義内およびメールにて受け付け、返信・回答するが受講者全員の前でレビューした方が良いと判断した場合は講義内で行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 具体コンテンツに関するインタビューを行い、ディスカッション等を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。					3	3	3	3				
②	日本及び世界の各種コンテンツ及びそのビジネスの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。					3	3	3	3				
③	コンテンツ技術の基礎的知識を基に、高いクリエイティビティで、市場的、倫理的かつ歴史承継的な視点を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。					3	3	3	3				
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら参加したコンテンツにより積極的ににかかわる中で、社会や市場を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)															
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩																
試験(定期試験／ 授業内試験)	1. 評価ウェイト＝「①積極的な授業参加度80%」:「②提出レポート課題20%」 2. 出席のみでは評価せず、①では毎回の質疑量を参加度として評価する。 3. ②は講義最終前回に課題を出し、最終回にて回収、完成度によって評価する 【以下：具体例】 <table><tr><td></td><td>積極的な授業参加</td><td>最終課題</td><td>合計</td></tr><tr><td>到達目標A</td><td>40</td><td>10</td><td>50</td></tr><tr><td>到達目標B</td><td>40</td><td>10</td><td>50</td></tr><tr><td>合 計</td><td>80</td><td>20</td><td>100</td></tr></table>		積極的な授業参加	最終課題	合計	到達目標A	40	10	50	到達目標B	40	10	50	合 計	80	20	100										
	積極的な授業参加	最終課題	合計																								
到達目標A	40	10	50																								
到達目標B	40	10	50																								
合 計	80	20	100																								
小テスト等																											
レポート等	(※以下、上記「試験（定期試験／授業内試験）」を受けて詳述) 当該講義の基本的な目的である、スキル確立の到達(他者に説明できるスキル獲得)を講義最終回に提出を求める企画書を講義内試験として測る予定(評価ウェイト20%)。最終講義前回に課題を掲示し質疑応答によって、企画書作成の為の材料・情報を講師から付与する予定。	5	5	5	5							20															
討論・発表等																											
授業への参画度	毎回、受講者との質疑量の積算を「積極的な参加度」(評価ウェイト80%)とする予定。基本的に出席者全員と質疑する予定。	20	20	20	20							80															
その他()																											
その他()																											
その他()																											
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100															

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の質疑応答、講師メールアドレス開示による随時的な質問の受付を行う。最終回前の企画書作成課題に対する総括を最終回で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義設定日の前後休み時間に講義室にて。メールによる受け付けも可能(kuno.tom@gmail.com)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	93年より㈱円谷プロダクションでマーチャンダイジング、95年より映画製作。99年より㈱ギャガで全国配給作品『バトルロワイアルⅡ』製作。05年より日活㈱製作・買付・配給担当取締役、全国配給作品『レディ・ジョーカー』『ユメ十夜』等製作。06年、㈱GONZOにて『AFRO SAMURAI』等配給、07年よりタカラトミー社のコンテンツアドバイザー・タツノコプロ取締役。
実務経験に基づく実践的教育の内容		映画メディアの実製作者の立場から、各種の制作現場の解説・ビジネスモデル群を例示。トレンドにより知財側面からもアップデート行い、現場視点で講義する事によって受講者にメディア制作の疑似的な体感をさせる事を方法論としている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講師紹介およびメディア産業界概観①	講師自己紹介およびガイダンス、メディア業界概説	
	この回の到達目標	講師の紹介と業界概説からメディア産業の構造把握を学修する。この質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の修学目的を定める事が出来る。	
	事前学修	講師の事歴をインターネット等で検索、熟読しておくこと。	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと。	120分
2	メディア産業界概観②(前年例※変更有)	大手メディアの歴史関係解説	
	この回の到達目標	メディア——メジャー大手マスコミを中心とした解説。その戦後構造を歴史的に把握、学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の就職目的に向けた技法の学修を定める事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
3	メディア産業界ビジネス構造外観③(前年例※変更有)	映像業界の構造解説	
	この回の到達目標	メディア——特に映像業界の構造について解説。その勢力関係等の産業構造把握を学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は映像業界を目指した修学目的を定める事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
4	興行概説(前年例※変更有)	映画興行について(コンテンツ・リテール)	
	この回の到達目標	映画興行の構造について解説。映画の利益構造を学修する。興収・配収・配給手数料、P&A等宣伝費等の拠出・回収の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のビジネス構造を理解し、説明する事出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
5	配給概説(前年例※変更有)	映画配給について(コンテンツ・ディストリビューション)	
	この回の到達目標	映画配給の具体的なタスクについて解説。映画のマーケティングを学修する。劇場編成やP&A等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の配給構造を理解し、説明する事出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
6	映画宣伝(前年例※変更有)	映画宣伝について(コンテンツ・マーケティング)	
	この回の到達目標	映画宣伝の具体的なタスクについて解説。映画の配給宣伝を学修する。そのコンセプトワークやP&A等宣伝の予算配分等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のマーケティング構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	二次セールス(前年例※変更有)		劇場公開終了後のビジネス(ライセンス・ビジネス)
	この回の到達目標	映画公開後の具体的な二次販売について解説。映画のライセンス・ビジネスを学修する。そのライセンス先やマーチャンダイジングの収益の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の二次セールス構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
8	海外販売(前年例※変更有)		邦画の海外戦略について(ワールド・セールス)
	この回の到達目標	映画等の具体的な海外での展開について解説。映画の二次販売のさらなる深化を学修する。そのセールス先や翻案権利等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の海外展開の戦略例を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
9	ライセンス・ビジネス(前年例※変更有)		映像版權について(知的財産権的観点)
	この回の到達目標	映画等のマーチャンダイジング展開等について解説。二次販売から発する更なる二次制作等、コンテンツ・ビジネスのさらなる展開を学修する。そのメディア・チェンジの方法や権利切り出し等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のライセンス・ビジネスの構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
10	コンテンツ企業運営(前年例※変更有)		コンテンツ企業のメカニズム解析(トレンド企業のエポックメイキング解説)
	この回の到達目標	メディアにおけるコンテンツのエポックメイキング等について解説。時代を変えたようなコンテンツの誕生と経緯、エポックとなった理由を学修する。そのヒットの解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツのヒット構造のモデル例を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
11	コンテンツの知的財産現況概説(前年例※変更有)		キャラクターコンテンツ企業のメカニズム解析(知財展開例：アニメーション等)
	この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の現状について解説。トレンドと判例の移り変わる事例を学修する。その判例や係争の解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権に対する意識を喚起する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
12	コンテンツの知的財産保全技法概説(前年例※変更有)		玩具企業のマーチャンダイジングメカニズム解析(知財保全技法例等)
	この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の保全方法について解説。移り変わる法事情や著作人格権法理を学修する。その事例から創出される著作権保全法の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権における保全方法を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	企画書作成(前年例※変更有)		企画書の作り方.(その項目等条件の解説)
	この回の到達目標	コンテンツにおける企画書の作成方法について解説。変遷するトレンドやタレント素材編成の方法等を学修する。実際の企画書事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの企画書作成におけるビジネス・プランニングやプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
14	収支計画(前年例※変更有)		収支計画の作り方.(主にPL的視点とCF的事情の解説)
	この回の到達目標	コンテンツにおける収支計画について解説。変質する市場や金融環境に対する収支立案方法等を学修する。実際の予算策定事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの収益計画作成におけるプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	最終講義回収予定のテーマのレポートを作成しておくこと(120分)	120分
15	総括(前年例※変更有)		総括. レポート回収
	この回の到達目標	前回に提示された企画書課題の回収とポイントの作成解説。また講義の総括を行い、メディア・ビジネスのその時点からの未来与作を行う。トレンド・コンテンツ、事件、問題点等の解説を行う。その結果、受講生はメディア・ビジネスに対する修学意識や具体的なビジネス感覚を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示のテーマのレポートを作成しておくこと(120分以上)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認するおくこと(120分)	120分

科目名	メディア法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
この授業で取り上げる法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内レポートを2回実施する。授業内レポートの解説も授業内で行う。出席管理システム(レスポンス)を利用して出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	報道の機能を説明できる。						3						
②	報道の自由の意義を説明できる。						3						
③	マスメディアと法を巡ってどのような課題が生じているかを説明できる。						3	3					
④	マスメディアと法を巡る諸課題について考察し、自分の意見を述べるができる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。授業内でレポート課題を2回行う。1回でもレポートを提出しない場合は、成績評価の対象としないので注意すること。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディアを取り巻く法	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を概説。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。	120分
2	表現の自由と報道の自由	表現の自由はなぜ憲法で保障されているのか、表現の自由と報道の自由・取材の自由の関係について考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、報道の自由が保障されている意義を説明することができる。	
	事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	検閲の禁止と報道の自由	検閲の禁止の意味を具体例を通じて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の禁止とはどのようなことなのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書検定について調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	知る権利とは何か	アメリカのジャーナリストが提唱した「The Right to Know」や博多駅テレビフィルム提出命令事件を通じて、知る権利について考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、知る権利の重要性を説明することができる。	
	事前学修	ケント・クーパーについて調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	名誉棄損と報道の自由	名誉毀損とは、その成立要件と免責要件を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②④に関連し、名誉毀損と報道の自由の関係について説明することができる。	
	事前学修	月刊ペン事件、夕刊和歌山時事事件について調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	プライバシーの侵害と報道の自由	プライバシー権の確立と発展過程と報道を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、犯罪報道とプライバシーの関係を説明することができる。	
	事前学修	イエロージャーナリズムについて調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	裁判の公開と報道の自由	法廷における取材、裁判員制度について考える。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、司法取材の特徴を説明することができる。	
	事前学修	最高裁判所のホームページにアクセスし、どのような情報が公開されているかについて調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	少年法と報道の自由	少年法61条の意義と概要、小松川高校女子生徒殺害事件、徳山高専生殺害事件など実際の報道を検証する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、少年保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
	事前学修	過去の少年事件の報道について調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	取材源の秘匿	証言拒否、ビデオテープの証拠採用、押収、差し押さえについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、取材源の開示の強制やビデオテープの証拠採用がその後の報道活動に与える影響を説明することができる。	
	事前学修	日本テレビ・リクルートテープ押収事件について調べる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	わいせつの概念と表現	わいせつの3要件を修得するとともに、チャタレー事件、悪徳の栄え事件、四畳半襖の下張事件など判例を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、社会変化・時代の変化とともにわいせつの捉え方が変わることを説明することができる。	
	事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	放送の自由 I	放送法と放送の自由を考える。なぜ放送は規制されるのか。放送法以外の法律による制約はどのようなものかを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、法律によって放送が規律される理由を説明することができる。	
	事前学修	放送メディアと印刷メディアの媒体特性の違いをまとめる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送の自由Ⅱ	「番組編集準則」と政府解釈の変遷を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、番組編集準則の解釈が時代とともにどのように変化したかを説明することができる。	
	事前学修	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	放送の自由Ⅲ	自主自律と放送倫理。放送局のガイドラインの考察。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、放送における自主自律の重要性を説明することができる。	
	事前学修	放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）ホームページ内の「ＢＰＯについて」と3つの委員会の役割を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	講義でのメモと配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業業の振り返りとレポート作成、解説	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業で取り上げる法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
メディアと法Ⅰの単位取得者。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内レポートを2回実施する。授業内レポートの解説も授業内で行う。出席管理システム(レスポンス)を利用して出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。						3			3				
②	報道の自由の意義を説明できる。						3			3				
③	マスメディアと法を巡ってどのような課題が生じているかを説明できる。						3	3		3				
④	マスメディアと法を巡る諸課題について考察し、自分の意見を述べるができる。								3	3				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。授業内でレポート課題を2回行う。1回でもレポートを提出しない場合は、成績評価の対象としないので注意すること。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディア法とは	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を説明。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。	120分
2	国家秘密と報道の自由 I	公務員の職務上の秘密、防衛上の秘密について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連し、国家秘密と国民の知る権利について説明することができる。	
	事前学修	外務省沖縄密約事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	秘密国家秘密と報道の自由 II	特定秘密保護法を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、特定秘密保護法の問題点を説明することができる。	
	事前学修	特定秘密保護法の概要を調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	選挙と報道の自由	公職選挙法の概要とともに、政見放送、政党スポットについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、テレビの選挙報道における公平性の考え方を説明することができる。	
	事前学修	政見放送について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	国民投票法と報道の自由	国民投票運動、広報活動、メディア規制について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、国民投票における広告の問題点について説明することができる。	
	事前学修	総務省のホームページ「国民投票制度」 (https://www.soumu.go.jp/senkyo/kokumin_touhyou/) を読んで、概要を把握する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	メディアと人権	パリ原則（国内機構の地位に関する原則）。人権擁護法案。集団的過熱取材。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、メディアスクラムに対する新聞・放送界の取り組みに至る経緯を説明することができる。	
	事前学修	パリ原則（国内機構の地位に関する原則）を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会秩序の維持と表現の自由	ヘイト・スピーチとは何かを考えるとともに、ヘイトスピーチ解消法について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関し、ヘイト・スピーチと表現の自由に関する課題を説明することができる。	
	事前学修	外務省のホームページで「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/conv_j.html)を読んで概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	児童ポルノ禁止法	従来のわいせつ図画とは異なる、18歳未満の児童を被写体とした「児童ポルノ」考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、「児童ポルノ」の規制の特色を説明することができる。	
	事前学修	児童ポルノ法における単純所持規制について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	報道被害と救済	報道被害による損害賠償、謝罪広告、記事の事前差止など具体例を通じて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、報道の自由と人権のバランスのとり方について説明することができる。	
	事前学修	サンケイ新聞事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	公共放送と民間放送Ⅰ	NHKの法的位置づけ、業務内容について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、受信料をめぐる議論について説明することができる。	
	事前学修	NHKのホームページで「NHK経営計画（2021-2023年度）修正版」を読んで、ポイントをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	公共放送と民間放送Ⅱ	放送における構造規制、内容規制、参入規制、資本規制を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送法の規制概要（内容規制以外）の説明することができる。	
	事前学修	放送法の第1章、2章を読んで、どのような規定があるかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	記者クラブ	記者クラブの閉鎖性、発表ジャーナリズム問題を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、記者クラブが抱える問題点について説明することができる。	
	事前学修	記者クラブにはどのようなものがあるか調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	広告の自由と規制	さまざまな広告規制。	
	この回の到達目標	達成目標③に関連し、広告の規制構造の概要について説明することができる。	
	事前学修	日本新聞協会のホームページで「新聞広告倫理綱領/新聞広告掲載基準」を、日本民間放送連盟のホームページで「放送基準（広告に関する部分）」を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア理論	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムとは（メディア・）コミュニケーションの一機能である。したがって、ジャーナリズムを根源的に理解し、調査・研究を行うためには、メディア・コミュニケーションに関する理論の理解は欠かせない。この授業ではそうしたジャーナリズムを理解するのに有用と思われる社会理論を学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディア理論をジャーナリズム研究の点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にそれらに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーとそのリプライ。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア理論に関する概念について説明することができる。					3							
②	メディア理論に基づいて、現代社会のジャーナリズムについて考察し論じることができる。						3						
③	既存のジャーナリズム研究をメディア理論に基づいて批判的に考察し論じることができる。							3					
④	既存のジャーナリズム、ジャーナリズム研究の問題点を認識し、明確に説明することができる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。	25	25	25	15							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。	2	2	2	4							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	27	27	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ソーシャルメディア時代の「大衆社会」論	津田正太郎ほか (編)	ミネルヴァ 書房	2024	教科書	必携
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口 仁	勁草書房	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	ソーシャルメディア社会におけるメディアとジャーナリズムに関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	インターネット社会とメディア理論	現代のインターネット社会におけるメディア・ジャーナリズム理論の困難について論じる。	
	この回の到達目標	授業目標③④に関して、自己反省的な視点から、現代のジャーナリズム研究の問題を理論的に理解することができる。、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論ができるようになる。	
	事前学修	ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	「メディア化」と「ジャーナリズム化」	メディア化（mediatization）の一種としての「ジャーナリズム化」について、劇場型政治家を事例に解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、現代の社会理論にもとづいて世論現象の今日的問題を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	社会的に構築されない「ジャーナリズム」	ジャーナリズムを社会的に構築されるものとしてみなしたとき、現代のメディア環境においてどのような問題が生じうるか解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、ジャーナリズムを構築主義的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	大衆の「救済」とマス・コミュニケーション	現代のメディア社会における大衆民主主義の重要性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、現代のメディア環境において「大衆」を従来とは異なる視点から考えることができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	状態としての「大衆」、イメージとしての「大衆」	現代におけるイメージとしての「大衆」の重要性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「状態」と「イメージ」の両方の観点から大衆について理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コミュニケーション研究における「マス」の再発見	コミュニケーション研究の展開を踏まえながら、「マス」概念について検討する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マス」という概念と理解しながら批判的コミュニケーション研究を一定程度相対化できること。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
8	現代社会における「マス」と感情	メディア研究における感情研究の展開について検討する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、メディア研究の中で感情研究が登場してきた背景を理解し、感情概念をもとに言外社会について考えることができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
9	インターネットの普及に伴う大衆の可視化	「大衆」概念をもとにインターネット社会論の展開を議論する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「大衆」概念をもとにインターネット社会論を相対化できること。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
10	メディア環境の変化と民主政治の正統性の揺らぎ	現代社会の正当性の揺らぎを論じつつ、マス・コミュニケーション過程の再評価について検討する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マスコミ批判」を踏まえながらも、マス・コミュニケーション過程の意味について理解できること。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
11	現代社会と陰謀論政治	現代のメディア環境で問題になりつつある陰謀論について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、批判的観点から陰謀論政治の特徴について理解できること。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
12	「真の弱者」としての「もの言わぬ大衆」	現代社会における「弱者の地位」をめぐるコミュニケーション過程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、現代の大衆の自己イメージについて「真の弱者（論）」をもとに議論することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリズム実践の集合的記憶	ジャーナリズムに関する「歴史的事件」をその集合的記憶が持つ社会的機能について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、第4回の授業で扱った構築主義的ジャーナリズムの理解を深めることができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
14	ソーシャルメディア社会における「大衆」	今までの授業を通じて、「大衆」概念の再評価を行う。	
	この回の到達目標	授業目標③④に関して、今までの授業をもとにソーシャルメディア社会の諸問題について、とくに「マス（大衆）」概念から論じることができること。	
	事前学修	今までの資料全般を振りかえっておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	期末試験代替レポートに向けた準備	160分
	事後学修	自己採点。	80分

科目名	ヨーロッパ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でヨーロッパ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ヨーロッパ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とヨーロッパ諸国に 関係する経済的問題及び解決策を提示そして相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、ヨーロッパ経済の 歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

【履修条件】
特にないが、政治学及び経済学の基礎的知識を有することが望ましい。

【授業方法】		
参考書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートはGoogleClassroomにアップするので必要に応じて持参すること（毎回教員から紙媒体の資料を配布する）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ヨーロッパ諸国の経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2					
②	ヨーロッパ諸国の経済及び政治に関する出来事についての専門用語を理解できる。					2					
③	ヨーロッパ諸国の経済及び政治に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。					2		2			
④	ヨーロッパ経済論に関する他者の評価や意見を尊重することができる。							2		2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についての能力が身についているかを、グループディスカッション及びグループ発表により評価する。			5	10							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、GoogleClassroomにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヨーロッパ経済の基礎知識 2022』	川野祐司	文真堂	2021	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ヨーロッパ経済論を学ぶ意味：ヨーロッパ経済論の枠組みと授業概要について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、ヨーロッパ経済論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ経済論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、ヨーロッパ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。	90分
	事後学修	講義資料を確認し、ヨーロッパ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにヨーロッパ経済の特徴もまとめること。	150分
2	EUの経済政策1：EUの仕組み	EUの設立背景からその現代的意義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUがどのように設立され、現代のヨーロッパ経済の経済政策にとって重要であるかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、EU設立に背景と経済政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、現代のヨーロッパ経済にとっていかにEUが重要であるかをまとめること。	120分
3	EUの経済政策2：欧州2020と地域政策	EUの主要な成長戦略であった欧州2020を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、欧州2020の内容とその成果を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、欧州2020の内容について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、欧州2020の特徴及びその成果についてまとめること。	120分
4	EUの経済政策2：EUの経済ガバナンス	経済政策協調のためのEUの経済ガバナンスに関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、EUにおける経済政策の協調について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、いかに経済政策の協調を達成しているかについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、経済政策協調の内容とその効果・課題についてまとめておくこと。	120分
5	ヨーロッパの国々1：ドイツとフランス	ドイツとフランスにおける経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ・フランスの経済・政治体制及びEUにおける両国の位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、EUにおけるドイツ・フランスの位置付けについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ドイツ・フランスがEUにおいていかにリーダーシップを発揮しているか、そして今後どのように対応すべきかをまとめておくこと。	120分
6	ヨーロッパの国々2：ベネルクス・アイルランド・イギリス	ベネルクス・アイルランド・イギリスにおける経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国の経済・政治体制について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、各国の経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、各国の経済・政治体制の特徴やイギリスのEU脱退についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ヨーロッパの国々3：北欧諸国	北欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国の経済・政治体制について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、各国の経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、各国の経済・政治体制の特徴やEUにおける位置付けをまとめておくこと。	120分
8	ヨーロッパの国々4：南欧諸国	南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、南欧諸国における経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
9	ヨーロッパの国々5：中欧・バルカン諸国	中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
10	ヨーロッパの国々6：東欧諸国	東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
11	ユーロ通貨1：ユーロに関する基礎知識	ユーロ導入の背景やその内容について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユーロ導入の背景・意義や導入国・非参加国への影響について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ユーロ導入の背景やその内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ユーロ導入の背景・意義や導入国・非参加国への影響についてまとめること。	120分
12	ユーロ通貨2：ユーロの金融政策	ユーロ導入後の金融政策に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユーロ導入後の金融政策の内容とその影響について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第12・13章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策の経済学的な意味とその効果について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ユーロ導入後の金融政策の内容とその影響についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	イギリスのEU離脱と日本への影響		イギリスのEU脱退について、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、イギリスのEU離脱及びその意味を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、イギリスがEUを離脱することとなった背景について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、イギリスのEU離脱の背景とその意味についてまとめること。		60分
14	日本とEUの経済連携協定		日本とEUの経済連携協定について、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日本-EU経済連携協定の内容と問題点を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、日本-EU経済連携協定の特徴について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、今後のEUの通称政策について経済学的な意味をまとめること。		60分
15	ヨーロッパ経済論のまとめ及び定期試験の説明		ヨーロッパ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ経済論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。		
	事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。		90分
	事後学修	これまでの講義資料を確認し、定期試験の準備を進めること。		150分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、近年のヨーロッパ各国でみられる共通の現象を理論的に検討するとともに、その理論を用いて各国事例を説明する。その際のキーワードは、デモクラシー、大統領制化、ポピュリズム、極右勢力である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ヨーロッパの各国政治に対する理解を深めるとともに、理論と事例を検討することで、演繹的思考能力、帰納的思考能力を身につける。また、ヨーロッパ政治への理解を深めることで、その知見を日本政治へと応用できるよう能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ヨーロッパ各国の政治制度を理解し説明することができる。					2					
②	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					2					
③	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等で説明できない逸脱事例の有無を検討することができる。					2		2			
④	ヨーロッパ政治の知識を応用して、自身の国の政治システムを相対化することができる。					2		2			
⑤	民主主義社会における政治システムの多様性を理解することで、他者との違いに配慮した議論ができる。					2		2		2	
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	10							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	25	15	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、金曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。民主主義、大統領制化、ポピュリズムといった各キーワードを調べ、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義	A. レイプハルトの“Patterns of Democracy”を基に多数代表型民主主義と多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義と多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明することができる。	
	事前学修	政治学で学んだ政治制度を振り返り、それぞれの特徴をまとめておく。	90分
	事後学修	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義のメリットとデメリットを比較検討してみる。	150分
3	イギリスにおける民主主義	多数代表型民主主義の典型例といわれるイギリスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、イギリス政治の現状を確認しておく。	60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、イギリスが民主化した過程を調べてみる。	180分
4	ドイツにおける民主主義	コンセンサス型民主主義といわれているドイツの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、ドイツ政治の現状を確認しておく。	60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、ドイツが民主化した過程を調べてみる。	180分
5	フランスにおける民主主義	イギリスやドイツと異なり、半大統領制を採用しているフランスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、フランス政治の現状を確認しておく。	60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、フランスが民主化した過程を調べてみる。	180分
6	大統領制化の理論	執政制度の変更を伴わないにもかかわらず、首相のリーダーシップ様式が大統領制におけるリーダーシップに近づいてきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
	事前学修	政治学で学んだ議院内閣制、大統領制、半大統領それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	大統領制化の理論に修正すべき点がないかを検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イギリスにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるサッチャーやブレアの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ブレア後の大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	サッチャーやブレアの政治を自ら調べて、それぞれの特徴を整理しておく。	90分
	事後学修	現在のイギリス首相のリーダーシップについて検討してみる。	150分
8	ドイツにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるシュレーダーの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、メルケル時代のドイツの大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	シュレーダーの政治を自ら調べて、その特徴を整理しておく。	150分
	事後学修	現在のドイツ首相のリーダーシップについて検討してみる。	90分
9	フランスにおける大統領制化	議院内閣制下の大統領制化だけではなく、半大統領制を採用するフランスにおいても大統領制化現象が見られるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第五共和憲法下における大統領権限の変化を説明することができる。	
	事前学修	第五共和憲法の特徴を第五共和制成立過程とともにまとめる。	120分
	事後学修	現在のフランス大統領のリーダーシップについて検討してみる。	120分
10	ポピュリズムの理論	多義的な意味を付与され、ネガティブな現象として語られることが多いポピュリズムに関する定義を説明するとともに、議会制民主主義との関係を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ポピュリズムの理論を説明することができる。	
	事前学修	ポピュリズムという言葉が様々な媒体で、どのような文脈の下で使われているかを調べておく。	120分
	事後学修	ポピュリズムの理論を基にして、日本の政治にポピュリズムが見られるかを検討してみる。	120分
11	ヨーロッパの政策課題①ヨーロッパ統合	ヨーロッパ各国で政策の対立軸となっているヨーロッパ統合問題について、どのような分断が生じているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ヨーロッパ統合をめぐる政党間対立を説明することができる。	
	事前学修	イギリスのEU脱退を調べ、それまでの過程をまとめる。	150分
	事後学修	授業で取り扱わなかったEU加盟国の現在を調べてみる。	90分
12	ヨーロッパの政策課題②福祉国家	ヨーロッパ各国で政策の対立軸となっている福祉国家について、どのような分断が生じているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、福祉国家をめぐる政党間対立を説明することができる。	
	事前学修	「福祉国家」とはどのようなものなのかを調べておく。	150分
	事後学修	授業で扱った国の現況や理論を用いて他国のことも整理してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヨーロッパの政策課題③環境政策	ヨーロッパ各国で政策の対立軸となっている環境政策について、どのような分断が生じているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、環境政策をめぐる政党間対立を説明することができる。	
	事前学修	グローバルな規模での環境規制がどのようなものかを調べておく。	150分
	事後学修	各国とEUとの関係性がどのようなものかを整理してみる。	90分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、ヨーロッパ政治を理解する上で必要不可欠であるEUについて、その歴史、制度およびヨーロッパ統合の理論を説明するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
EUの歴史や制度、ヨーロッパ統合の理論を検討することで、国家の存在を相対化することができる能力を修得する。また、EUを多角的な視点から分析することで、ヨーロッパ統合の現在を理解し、国家の在り方を考察できるための能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヨーロッパ各国とEUの制度的つながりを理解し説明することができる。					2						
②	ヨーロッパ統合の歴史を理解し説明することができる。					2						
③	ECSC、EEC、EC、EUの制度を理解し説明することができる。					2		2				
④	ヨーロッパ統合を説明するための理論を理解し説明することができる。					2		2				
⑤	ヨーロッパ統合の知見を活かし地域統合について自身の考えを述べるができる。					2		2		2		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	5						65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評	5	5	5	5	5						25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	25	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
原則として、金曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	ヨーロッパ統合への道	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの間に展開したヨーロッパの統合を訴える主張とその時代的背景を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、クーデンホーフ＝カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の内容を説明することができる。		
	事前学修	第一次世界大戦と第二次世界大戦がヨーロッパに与えた影響をまとめておく。		90分
	事後学修	「西洋の没落」と米ソが台頭したことによる国際関係の変容を検討してみる。		150分
3	ECSCの誕生	第二次世界大戦後、経済、軍事、規範の面で西ヨーロッパ諸国の協調が進んだことを基礎にしてECSCが誕生していったことを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCが経済的な目的だけでなく政治的な目的を有していたことを説明することができる。		
	事前学修	東西冷戦構造を自ら調べて、ヨーロッパの分裂を招いたことを整理しておく。		90分
	事後学修	現在のEUとECSCを比較することで、主権の共有範囲がいかに異なるかを考えてみる。		150分
4	統合の深化	石炭と鉄鋼に限定されていたヨーロッパ統合が経済の全般的な統合を目指してEECを設立していった過程、関税同盟の形成と共通農業政策の実施について検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCとEECの質的な違いを説明することができる。		
	事前学修	1950年代には、統合の深化を狙って複数のプランが発表されていたことを調べておく。		60分
	事後学修	授業で取り扱った時期において、ヨーロッパでは、ECSC、EEC、EURATOMの3機関が併存していたことを整理してみる。		180分
5	統合の深化と拡大	ECSC、EEC、EURATOMの3機関がECに収束し、統合の深化が進んでいくのと同時に加盟国の拡大が行われていったこと検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ヨーロッパ統合が経済分野だけでなく政治分野にも広がりを見せようとしていたことを説明することができる。		
	事前学修	「ルクセンブルク妥協」がヨーロッパ統合にもたらした影響についてまとめておく。		60分
	事後学修	イギリスのEC加盟の経緯を調べ、現在のBREXIT問題との関係を考える。		180分
6	EUの誕生	ヨーロッパ統合の性質を決定的に変化させたEUの誕生とマーストリヒト条約の下での問題点を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECとEUの違いについて説明することができる。		
	事前学修	ヨーロッパ統合における「民主主義の赤字」についてまとめておく。		60分
	事後学修	EUの誕生によって、ヨーロッパ諸国で、アンチEUの政党や政治勢力が結成されたことを調べてみる。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リスボン条約の締結とEUの現在	マーストリヒト条約以降に締結されたアムステルダム条約、ニース条約、リスボン条約による変化と残された課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ギリシア危機がヨーロッパ統合に与えた影響を説明することができる。	
	事前学修	ユーロ導入の経緯とEUのガバナンスの問題について整理しておく。	90分
	事後学修	現在のEUと国家のあり方どのような方向性に進んでいくのかを考えてみる。	150分
8	欧州委員会	国家における政府と形容される欧州委員会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州委員会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	国家における政府の権限や役割を整理しておく。	150分
	事後学修	国家における政府と欧州委員会の違いについてまとめる。	90分
9	欧州理事会	ヨーロッパ統合の指針を決定する欧州理事会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州理事会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	統合の拡大の歴史をまとめると同時に、特定多数決制度を調べておく。	120分
	事後学修	EUにおける欧州理事会の位置付けと国益との関係について考えてみる。	120分
10	欧州議会	欧州市民の声を代表する欧州議会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州議会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	国家における議会の権限や役割を整理しておく。	120分
	事後学修	「民主主義の赤字」と欧州議会の関係について検討してみる。	120分
11	EUの政策課題①データ保護規制	デジタル領域におけるEUの役割について、加盟国や非加盟国に対する影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、データ保護に関する規制の在り方を説明することができる。	
	事前学修	昨今のデジタル領域における課題が何かをまとめておく。	150分
	事後学修	他国のデジタル政策の在り方を考えてみる。	90分
12	EUの政策課題②環境保護規制	環境保護領域におけるEUの役割について、加盟国や非加盟国に対する影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、環境保護に関する規制の在り方を説明することができる。	
	事前学修	昨今の環境保護領域における課題が何かをまとめておく。	180分
	事後学修	他国の環境保護政策の在り方を考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	規制パワーとしてのEU	グローバルアクターとしてのEUの影響力を、どのように解釈することができるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、国際政治の中でのEUの役割を説明することができる。	
	事前学修	EUの影響が及んでいると考えることができる出来事をまとめておく。	120分
	事後学修	EUと日本の関係をどのように構築するのかを検討してみる。	120分
14	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	リスク・コミュニケーション	担当者	谷 正名	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
前期は「情報行動論」を扱う。現代のテレビ、インターネットなど諸メディアとそれを取り巻く社会環境の特徴・変容、展望について検討する。本授業の特徴は上記の検討をする際、「オーディエンス・ユーザー」「人々」の行動や意識、価値観と、それを把握・理解するためのプロセスとしての「マーケティング」の考え方を「補助線」とすることで、立体的で新鮮な視点を提示することにある。この視点を得ることを体感する過程を通じ、受講者が現代の情報社会を合理的にとらえ、生き抜く上での「知恵」を身につけることも目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディア、コミュニケーション環境の激変の中で、メディア・コンテンツ産業、あるいは、クリエイティブ、ジャーナリズム自体のあり方も革命的と言ってよい激しい変化を余儀なくされている。変容期にあるメディア産業等が置かれている現状についての知識を身に着け、その動向、展望、諸課題、特に放送メディアなど既存マスメディアの強み・可能性および課題、将来像について学生自身が主体的に考察できるような力を修得する。現代情報社会の大きな特徴は、こうした全体の動向を決定する「キーファクター」として、「オーディエンス・ユーザー」自らが情報を発信・共有し、メディア・コミュニケーションの主体となることで、その存在感を大きく増していることにある。講義の重点もこの点に置かれることになろう。

【履修条件】
なし。情報社会・コミュニケーション・メディア、そのユーザー・オーディエンスに関心を持つこと、積極的に授業・議論に参加することを期待する。

【授業方法】
実務経験を交えた講義に加え、学生間の議論の時間を設け意見を発信し他者と突き合わせるという過程を多く体感してもらう。自由に感想、質問等を記すコメントペーパーを毎回任意で提出してもらい、次回以降の内容に反映することで、柔軟で受講者ニーズに添った授業を展開する。ワークショップ等、実践的な内容も予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	議論を積極的に行い、発言や他者の意見への傾聴、発表などを求める。（その方法やコツについても指導するので、これまでの経験、得手不得手は全く問わない。むしろこれを機会にそうしたことを身につけたい学生を歓迎する）。さらに学期中ワークショップ型の授業を予定している。授業中は積極的な参加を期待するが、授業前後に過度の負担を強いることは想定していないので安心してほしい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	放送・映像メディアの社会的機能、その表現・特徴などについて基礎知識を身に着ける		3										
②	海外も含めた放送・映像メディアをめぐる産業構造を（新旧含め）理解する			3									
③	放送・映像によるジャーナリズムがどのように成立しているのか、歴史的背景も含めて理解する				3								
④	急激に変化するメディア環境においてオーディエンス（ユーザー）の情報行動がどうなっているのか理解し考察する力を身に付ける					3							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	なし												
小テスト等	毎回、授業後に簡単なコメントペーパーの提出を求める（任意・内容自由、字数制限なし）。その提出数及び内容（おもに積極性）を基準に、到達目標①②③④が達成されているかを確認する。		10	5	5	10							30
レポート等	期末にレポートを求める。提出されたレポートが、書式等の要件を満たし課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関わる説明が的確にできるようになっているかを評価する。		10	10	10	10							40
討論・発表等	授業内で議論・発表を行う。発信内容の合理性・論理性に加え、その積極性・熱意、他者の意見の傾聴のあり方などの姿勢を同程度に評価対象とする。到達目標①②③④に関わる能力が総合的に発揮されているかを確認する。		5	5	5	5							20
授業への参画度	講義への傾聴の態度、討論・発表・発言への積極性、熱意などを総合的に評価し、到達目標①④の実践の度合いを確認する。		5			5							10
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			30	20	20	30							100
【課題に対するフィードバックの方法】													
コメントペーパーは、期限内に提出されたものについては、個々にフィードバックを加えて返却する（Google Classroomを活用する予定）													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
直接対面での対応は授業の前後は教室、講師控室で行う。それ以外もメール（tanimasana@gmail.com）等で随時対応する					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局で31年勤務。テレビ番組制作・編成・マーケティング・調査・研究等の業務に従事。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		これまでの実務上の知見、特にテレビの視聴者調査とそれに基づく番組開発等の経験を最大限活用した内容を講義に取り入れる。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、概論、受講者の興味関心の共有	本講義の概要、目指すところ、主な内容・ラインアップを紹介するとともに、アイスブレイクとして、講師の自己紹介、および（人数が少なければ）受講予定者の自己紹介・興味のありか、を互いに発表し、共有する。	
	この回の到達目標	本講義の到達目標を理解し、今後の授業に対する、自分なりの関心・態度の持ちようを決定する。	
	事前学修	この講義に期待すること、及び自分がメディア・コンテンツの一人のユーザー・オーディエンスとして関心のある分野・ジャンルについて、考えを巡らせ整理したうえで、短く発言できる準備をしておく。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容、講師および他者の興味・関心を聞いた上で、改めてこの講義に期待すること、今後の授業に対する、自分なりの関心・態度の持ちようを整理し書き留めておく。	120分
2	テレビと日本人、日本社会①～概説	日本人のテレビの見方の特色、およびその時系列的推移について概観する。テレビが1960年代から最近に至るまで、「日本人にどのように見られてきたか」を整理して論じる。その際テレビがいかに日本人の生活に深く根差した存在であったか、その意識・価値観の形成に大きく関与してきたかに重点を置いて、講義する	
	この回の到達目標	日本人のテレビの見方、その歴史について、概観的な知識を得ることで、テレビが1960年代から最近に至るまで、いかに日本人の生活に深く根差した存在であったか、その意識・価値観の形成に大きく関与してきたか、について理解する。	
	事前学修	自分の、幼児時代から現在に至るまでのテレビとの関わりの記憶をたどり、それが自分の生活習慣、意識の形成にどうかかわってきたかをまとめておく。	120分
	事後学修	講義をふまえて、改めて、自分自身及び家族のテレビの見方、テレビとの関わり方について、それを歴史的にみたときの位置付け、特徴について、整理をする。	120分
3	テレビと日本人、日本社会②～80年代・バラエティ全盛期	主に1980年代～2010年代のテレビ、及びその視聴者像、またその社会に与えた影響について概観する。特にテレビにおいて「笑い」「バラエティ」が全盛となった状況、その背景、およびその社会への影響についての内容が中心となる。	
	この回の到達目標	当該世代のテレビおよびその視聴者像、視聴者のありようについて理解を深める。特にこの時代からテレビになぜこれほどまでに「笑い」が求められ、「バラエティ」番組が数多く放送されたのかを、当時の社会、視聴者の状況・風潮との関係性の中で理解する。	
	事前学修	自分自身のテレビ視聴史を振り返り、「笑い」を扱う番組、「バラエティ」ジャンルの番組でどんなものをどのように見ていたか、詳細な状況の記憶をたどり、それが自分にどんな影響を与えたかを考え整理しておく。	120分
	事後学修	講義をふまえ、自分及び親世代のテレビの見方、それと密接に関わる日本人の価値観の歴史的位置づけについて改めて検討し、1980年代～2010年代のテレビ、および日本人の価値観、日本社会の特徴について整理する。	120分
4	インターネット・ケータイ・スマホの登場と情報空間の変容①～デジタル化・ネットワーク化は何を引き起こしたのか	テレビ全盛時代に変容を迫った最も大きな要因の一つが、インターネット・ケータイ・スマホの登場・急激な拡大といった、社会・文化のデジタル化の進展である。このことが、人々の情報行動にどう影響を与え、日本人の情報空間・認識・価値観・情報行動をどう変化させたのか。具体例を基に講じる。	
	この回の到達目標	社会・文化のデジタル化・ネットワーク化等の変容により、日本社会はどう変わったのか、オーディエンス・ユーザーははたしてどこが変わったのか、あるいは変わっていない部分はないのか、などの論点について、それまでのテレビをめぐる諸議論からの変化・推移を手がかりに、整理して考えられるようになる。	
	事前学修	インターネット、ケータイ、スマホがまだなかった時代が確実に存在した。仮に、それらが、今存在しないとしたら、どんな不便が生じるか。翻ってその頃はどんな時代だったと思うか。ありうる限りの想像力で、考え整理する。	120分
	事後学修	講義をふまえ、インターネット・ケータイ・スマホの登場がテレビ全盛時代・社会にどんなインパクトを与えたか、それが日本人の意識、価値観、情報行動をどう変え、日本社会の変容とどう関係していたか、整理する。	120分
5	テレビと日本人、日本社会③～震災・リーマン後の日本人とメディア	主に2010年代～現在のテレビ、その他のメディア、及びその視聴者像、またその社会状況との関わりについて、概観する。東日本大震災やリーマンショックなどのエポックメイキングな出来事を経て、日本人、及び、そのテレビへの志向がどう変化したのか。ネットはそれにどう関わったか。サンドウィッチマンというこの時代を代表するタレントの軌跡をたどりながら論じる。	
	この回の到達目標	2010年代以降のテレビ、テレビ視聴者の（ネットの発達によるものを含む）変化を通じて、日本社会がどのように変化し、それが現在のメディアをめぐる状況・環境とどう関係しているか、理解できる。	
	事前学修	自分自身の2010年以降のテレビの見方、ネットやケータイの使い方について、何をどのように見ていたか、その詳細な状況の記憶をたどり、その特徴、及びそれが自分意識・価値観の形成に与えた影響について、改めて整理し概観しておく。	120分
	事後学修	講義をふまえ、自分及び親世代の2010年代以降のメディアへの触れ方見方、それと密接に関わる日本人の価値観の歴史的位置づけについて改めて検討する。そして、その前の時代のテレビ、日本人の価値観、日本社会の特徴と比較を行い、この時代の視聴者及び日本社会の変化について整理する。	120分
6	インターネット・ケータイ・スマホの登場と情報空間の変容②～激変の光と影・新たなリスクと社会・世界・人々はどう向き合うのか	前回に続き、デジタル化の進展が日本人・日本社会（あるいは世界）に与えた変化を、さまざまな具体例（炎上、フェイクニュースなど）からひも解き、その特徴を考える。その「リスク」について理解を深めるとともに、最終的に、我々ユーザーがどう対応できるか、どうするべきなのか、など「リスクコミュニケーション」のあり方まで考えを進める。	
	この回の到達目標	具体例を通じて、前回提示したデジタル社会における人々の情報行動の変化について、さらに理解を深める。また、その光と影、課題に対する対処のあり方まで考えを深める。	
	事前学修	身近にあった「炎上」「フェイクニュース」などの事例について記憶をたどり、それに、自分含む一般のメディアオーディエンス、ユーザーがどう関わっていたか、どう対応していたか等について整理しておく。	120分
	事後学修	講義をふまえ、現在のデジタル社会を生きていく一市民として、自分自身にどのような意識・行動が求められるか、改めて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	オーディエンス論・情報行動の理論		これまでの伝統的なマス・コミュニケーション研究、メディア研究等におけるオーディエンス論・情報行動の理論の歴史をたどるとともに、その限界、最新の議論の動向について触れていく。	
	この回の到達目標	これまでの伝統的なマス・コミュニケーション研究、メディア研究等におけるオーディエンス論・情報行動の理論の歴史をたどるとともに、その限界、最新の議論の動向を理解する。		
	事前学修	事前に配布する学術的用語リストのうちのいくつかのポイントについて、事前に調べ、その概略について予習するとともに疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	改めて、オーディエンス論・情報行動の理論について、その歴史的概略を整理し、現在の論点を把握・整理した上で、関連する文献・論文を一篇、読んでみる。		120分
8	マーケティング（論）とメディア		マーケティング（論）の考え方、要点を講義する。加えて、それが今後のメディア、コミュニケーションの課題を一定程度克服し、あり方を再構築・再定義する上でなぜ重要と考えられるのか、どう役に立つ可能性があるのかについて、考えを進める。	
	この回の到達目標	マーケティング（論）の考え方を理解し、そこに示され想定される、新たなメディアとユーザー・オーディエンスの関係性が今後の人々のコミュニケーションをデザインする上で重要になってくる背景を理解する。		
	事前学修	世の中には、多くの「ヒット作」「流行」が存在する。その中のひとつを取り上げ、それがなぜ人々に支持されたのか、いくつもの社会的要因を挙げながら、分析する作業を行ってみる。		120分
	事後学修	講義をふまえ、改めてマーケティング（論）における、売り手（作り手・送り手）と買い手（受け手・ユーザー）の関係を整理してとらえ直し、事前学修であげた「ヒット作」「流行」を改めて、その視点から分析し直す。		120分
9	オーディエンス・リサーチとコンテンツ・サービス開発①		放送局におけるマーケティングを活用したテレビ番組の視聴者拡大・新番組・新サービスの開発の実際を通じて、メディアのユーザー・オーディエンスと作り手・送り手がどんな関係を切り結ぶことが必要なのか、その現代的な方向性を考える。一回目はドラマ、バラエティなどのエンターテイメント系のコンテンツを取り上げる。	
	この回の到達目標	放送局におけるマーケティングを活用したテレビ番組の視聴者拡大・新番組・新サービスの開発の具体例に触れることを通じて、いまメディアのユーザー・オーディエンスと作り手・送り手がどんな関係を切り結ぶことが必要なのか、その現代的な方向性を考える。		
	事前学修	エンターテイメント系のテレビコンテンツを一つ取り上げ、それがなぜ人々に見られているのか、そのために作り手・送り手がどんな工夫をしているか想像して分析する。		120分
	事後学修	講義をふまえ、改めて自分が取り上げたコンテンツが見られる理由を「見る人にとってのベネフィット（便益）」というマーケティング観点から分析し、整理する。また、その課題を同様の視点から分析し、改善点を提言する。		120分
10	オーディエンス・リサーチとコンテンツ・サービス開発②		放送局におけるマーケティングを活用したテレビ番組の視聴者拡大・新番組・新サービスの開発の実際を通じて、メディアのユーザー・オーディエンスと作り手・送り手がどんな関係を切り結ぶことが必要なのか、その現代的な方向性を考える。二回目はニュース、ドキュメンタリー、スポーツなどの報道・情報・ライブ系のコンテンツを取り上げる。	
	この回の到達目標	前回到き続き、放送局におけるマーケティングを活用したテレビ番組の視聴者拡大・新番組・新サービスの開発の具体例に触れることを通じて、いまメディアのユーザー・オーディエンスと作り手・送り手がどんな関係を切り結ぶことが必要なのか、その現代的な方向性を考える。		
	事前学修	報道系のテレビコンテンツを一つ取り上げ、それがなぜ人々に見られているのか（あるいは若者になぜ見られていないのか）、そのために作り手・送り手がどんな工夫をしているか、想像して分析する。		120分
	事後学修	講義をふまえ、改めて自分が取り上げたコンテンツが見られる（見られない）理由を「見る人にとってのベネフィット（便益）」というマーケティング観点から分析し、整理する。また、その課題、改善策を同様の視点から分析し、提言する。		120分
11	ワークショップ①ー1 若者にとってベネフィットある映像・テレビコンテンツを考える		ここまでの様々な知見、議論をふまえて、新たなメディア・コミュニケーション・コンテンツの実践的アイデアを考えるワークショップを行う。今回のお題は「（テレビ離れが著しい）若者が思わず見てしまうテレビコンテンツを考える」。グループワークを通じて、当事者の若者ならではの視点から、今後の映像コンテンツの姿を、少人数で考えてみる。	
	この回の到達目標	実際に、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて、ここまで学んだ「人々のベネフィットをコンテンツとして形にする」ための実践を行うことで、今後のメディア人、あるいはメディアユーザーに必要な思考とは何かを身を持って体験し、今後のメディアとのかかわりに活用できるようになる。		
	事前学修	「（テレビ離れが著しい）若者が思わず見てしまうテレビコンテンツを考える」というお題について、事前に渡されたワークシートに基づいて、自分なりの視点・アイデアを整理してまとめておく。		120分
	事後学修	実際手と頭を動かし共同作業をする中で得られた点を、①自分にとっての気づき、及び、②今後のメディア・コミュニケーションにおけるマーケティング的発想の活用に向けた提言、の二つの観点から整理してまとめておく。		120分
12	ワークショップ①ー2 若者にとってベネフィットある映像・テレビコンテンツを考える		前回に続き、ここまでの知見、議論をふまえて、新たなメディア・コミュニケーション・コンテンツの実践的アイデアを考えるワークショップを行う。お題「（テレビ離れが著しい）若者が思わず見てしまうテレビコンテンツを考える」についてのプレゼンテーションと相互批評が授業のゴールである。	
	この回の到達目標	実際に、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて、ここまで学んだ「人々のベネフィットをコンテンツとして形にする」ための実践を行うことで、今後のメディア人、あるいはメディアユーザーに必要な思考とは何かを身を持って体験し、今後のメディアとのかかわりに活用できるようになる。		
	事前学修	前週に行った議論をふまえて、アイデアをブラッシュアップするとともに、その内容を的確に他者に伝えるプレゼンテーションについて、試行錯誤、工夫を試みる。		120分
	事後学修	プレゼンテーション、およびそこに寄せられた、クラスメートの批評、講師のコメントなどを、照らし合わせ、もしよりブラッシュアップするとしたら、どんな方法がとり得るか、検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	これからのコミュニケーションデザインを考える		テレビ・放送、という枠組みをいったん隅において、これから、社会・公共性に貢献し、人々にベネフィットをもたらす、メディアやコミュニケーションをどうデザインし直せるのかを検討する。その可能性をさまざまな実験的な実践などの具体例から考えていく	
	この回の到達目標	これから、社会・公共性に貢献し、人々にベネフィットをもたらす、メディア、コミュニケーションをどうデザインし直せるのか。また一市民として、ユーザーである学生たちがそれにどんな貢献ができるのか。その可能性を各自が考えられるようになる。		
	事前学修	「10年後のメディア・コミュニケーションの理想的な姿、ありよう」を、自分にとってのベネフィット、社会にとってのベネフィット、という両面から、整理して考えておく。		
	事後学修	事前学修で作ったプランを、講義をふまえて修正し、自分なりの「10年後のメディア・コミュニケーションの理想的な姿、ありよう」を完成させてみる。		
14	ワークショップ②-1 「コメント機能」を使った新たなメディアサービスを考える		新たなコミュニケーション・コンテンツの実践的アイデアを考えるワークショップ。今回のお題は、人々が自ら意見や思いを発信できるようになった象徴とも言える「コメント欄」をモチーフに、それを活用した新たなメディアサービスを考えるというもの。グループワーク、プレゼンテーションを通じて、「コメントのベネフィット」を生かした新サービスの考案に挑む。	
	この回の到達目標	実際に、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを通じて、ここまで学んだ「人々のベネフィットをサービスとして形にする」ための実践を行うことで、今後のメディア人、あるいはメディアユーザーに必要な思考とは何かを身を持って体験し、今後のメディアとのかかわりに活用できるようになる。		
	事前学修	事前に配布される、コメント・コメンテーターについての人々やメディアの調査結果に目を通し、「コメント」が持つベネフィットを概観しておく。その上でそれを生かした新サービス、というお題について、事前に渡されたワークシートに基づいて、自分なりの視点・アイデアを整理してまとめる。		
	事後学修	実際手と頭を動かし共同作業をする中で得られた点を、①自分にとっての気づき、及び、②今後のメディア・コミュニケーションにおけるマーケティング的発想の活用に向けた提言、の二つの観点から整理してまとめる。		
15	ワークショップ②-2 「コメント機能」を使った新たなメディアサービスを考える まとめの議論		前回に引き続きワークショップについてアウトプット、相互批評を行った後、15回の講義、実践の概観を通じて、改めて、「次世代のメディア・コミュニケーション」とはどんなものになっていくのか、あるいは、どんなものにしていくのか。その展望、あるいは課題について、総括的な講義・議論を行う。	
	この回の到達目標	「次世代のメディア・コミュニケーション」とはどんなものになっていくのか、あるいは、どんなものにしていくのか。その展望、あるいは課題について、学生一人一人が、論理立てて自分の考えを示せるようになる。		
	事前学修	これまで14回の授業を振り返り、それを通じて何が言えるのか、それに対して自分はどう考えるのか、まとめる。		
	事後学修	授業、他学生との議論をふまえ、事前学修でまとめた自分の考えをブラッシュアップして、最終レポートの礎とする。		

科目名	立法過程論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性に関して理解します。

【履修条件】
政経学科の学生のための授業です。原則として、他学科の学生は履修できません。

【授業方法】
講義を軸に授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。						2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。					2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第4版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社出版	2024	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	国会に関する「常識」と「非常識」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の通説に関する真偽を自分で判断することができる。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	現代の政治と議会	現代社会における議会の存在意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政国家化現象と議会の役割について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	政治制度と議会	議院内閣制と大統領制を取り上げ、制度によって立法過程の意味が大きく変わることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制下においては、議員立法が少なくなる仕組みを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	議会の諸類型	ポルスビーの用いた「変換機能」と「アリーナ機能」に触れながら、議会の基本的な役割を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポルスビーのモデルを用いながら、議会の役割を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	帝国議会と戦後の国会	戦前の帝国議会と戦後の国会の異同について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦前と戦後で、立法府の何がどう変わったのかを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	国会の制度と慣行	国会の運営は制度だけではなく、様々な慣行によっても規定されている。その仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な慣行を示しながら、国会の運営を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	国会一内閣提出法案と議員立法		法案の種類を説明しつつ、議員立法の少ないことが必ずしも国会機能の低下を招いているわけではないことを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本では、なぜ内閣提出法案が多くなるのかについて理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
8	国会一会期制と会期不継続の原則		国会の特質の一つである会期の断片化や会期不継続の原則に触れ、審議・審査が活性化しない背景を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会期の断片化が立法過程にもたらす影響について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
9	国会一委員会における審査と本会議における審議		戦前の本会議中心主義と戦後の委員会中心主義を比較しながら、その両者の特徴を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読会制や定例日制に触れながら、戦前と戦後の議会の相違について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
10	国会一わが国の二院制と参議院		二院制の類型に言及しながら、日本の参議院の特殊性について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他国の二院制と日本のそれがどのように異なるのかを理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
11	与・野党の立法行動		国会内における主たるアクターである政党（会派）に焦点を当て、その行動パターンを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、与党と野党に特有の行動パターンを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
12	議院運営委員会と国会対策委員会		議院運営委員会と国会対策委員会に焦点を当て、なぜ国会の運営が分かりにくくなるのかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院運営委員会と国会対策委員会の違いを理解しつつ、それが立法過程に及ぼす影響を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政党の党議決定と党議拘束	政党による党議拘束に触れながら、国会機能の問題と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政党内意思決定の仕組みを理解しつつ、党議拘束の問題・課題を他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	国会無能論と国会機能論	日本の国会の評価については、相反する「国会無能論」と「国会機能論」が存在している。何がどう異なるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無能論と機能論の相違を理解しつつ、それらが立法過程の何を評価しているのかを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	まとめ	前期の授業内容を振り返りつつ、国会の特質や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	労働事情	担当者	中山 明広	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
労働問題の背景にある社会構造を俯瞰的に捉え、その上で個別分野について学修し、多角的な視点から活用できる基礎知識を身に着ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在の労働事情について理解することを授業目的とし、主要なテーマを一通り取り上げる。それぞれのテーマは密接に関連しており、積極的に参加することで労働問題の背景にある社会構造の全体像が理解できるようになる。

【履修条件】
特にない。

【授業方法】		
担当教員の講義を中心に行うが、いくつかのテーマについては、可能な範囲で、関心を高め知識の定着を図るためグループディスカッションを行う。政策の立案、折衝、実装等様々な段階における教員自らの経験についても、必要に応じ具体例として紹介する。 なお、ホットイシューについても積極的に取り上げるため、シラバスの内容が変更されることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション(履修者数によっては実施しないことがある。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働問題の背景にある社会構造を俯瞰的に捉え、説明することができる。						2		2	2				
②	労働市場、雇用就業について、問題点を理解し、説明することができる。						2		2	2				
③	労働環境とそれに関連するテーマについて、問題点を理解し、説明することができる。						2		2	2				
④	少子化対策、ワークライフバランス実現策について、自分の考えを説明することができる。								2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内で小テスト行い、到達目標にかかわる基礎知識が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	労働事情に関する課題についてのレポートの提出により、所定の様式を満たしているか、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力が認められるかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループディスカッションを通じ、思考力、問題発見力等について評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業はオムニバス形式だが、それぞれの授業は前後の授業と密接に関連していることに留意が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては解答例を題材に講評を行う。（小テストを実施しない場合もある）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旧労働省、厚生労働省等で30年以上にわたり労働行政に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		政策の立案、折衝、実装等様々な段階における自らの経験について、必要に応じ具体例として紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入講義（経済構造の変化）	授業の目的、概要等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し経済構造の変化について理解するとともに、授業の目的、概要等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
2	コロナ禍と雇用調整、テレワーク	コロナ禍で生じた雇用調整と雇用調整助成金、テレワーク等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、コロナ禍が及ぼした影響と雇用調整助成金の仕組み、テレワークのメリット等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
3	外国人労働者と技能実習生	外国人労働者と技能実習生、新たな育成就労制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、外国人労働者、技能実習生が増加した背景と現状について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
4	就職氷河期世代とワーキングプア問題	就職氷河期世代とワーキングプア問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、就職氷河期世代と発生した理由、現状、フリーターについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
5	少子化の原因と影響、課題（グループディスカッション）	少子化の原因と影響、その解決にむけた課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、少子化の原因とそのことが経済社会に及ぼす影響、解決すべき課題について理解し、他の受講生の前で説明することができる。	
	事前学修	前回授業の復習をはじめ、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
6	超高齢社会と高齢者雇用	超高齢社会において高齢者雇用はどのような意味を持つのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、超高齢社会において高齢者雇用がどのような意味を持つのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	担当教員の論文を事前に読み、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	高齢者の社会参加		高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について、専門家（ゲストスピーカー）の講話を聴き、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
8	超高齢社会と働き方改革		超高齢社会における働き方改革の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、超高齢社会における働き方改革の意義、賃金、労働時間の実情について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
9	過労死とワークライフバランス		過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について理解し、説明することができる。		
	事前学修	「過労死防止対策月間」の取り組み等授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
10	ワークライフバランス実現の方策（グループディスカッション）		ワークライフバランスを実現させるための課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、ワークライフバランスを実現させるための課題について、理解し、他の受講生に対し説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
11	女性の活躍と両立支援		女性労働者をとりまく環境について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性の活躍促進とファミリーフレンドリーについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
12	女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理		女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性労働者の就労環境とハラスメントの現状、個別労働紛争処理制度について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非正規雇用労働者	非正規雇用労働者について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、非正規雇用労働者の置かれている状況、課題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業を復習し、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
14	テクノロジーの進化と人材育成	テクノロジーの進化と人材育成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、テクノロジーの進化と人材育成の現状と課題について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
15	総括	労働問題の背景にある社会構造の全体像について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、授業で取り上げた個別分野の課題を踏まえつつ、労働問題の背景にある社会の全体構造を俯瞰的に捉えることができる。	
	事前学修	これまでの授業で扱ったテーマについて復習し、これからの課題について考えてくる。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

科目名	労働政策	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現在の労働事情・労働法制度を理解したうえで、労働政策の考え方、今後の方向について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情・労働法制度の現状や労働政策の考え方・今後の方向性を理解しておくことは、就職活動において、さらに大学卒業後に仕事をしていく上で必須である。これらを理解することによって、社会経済の変化が予想される中で、豊かで実りある職業人生の実現に資する。

【履修条件】
特にない。

【授業方法】		
担当教員の講義を中心に行うが、いくつかのテーマについては、履修者数に応じ、可能な範囲で、関心を高め知識の定着を図るためグループディスカッションを行う。政策の立案、折衝、実装等様々な段階における教員自らの経験についても、必要に応じ具体例として紹介する。なお、ホットイシューについても積極的に取り上げるため、シラバスの内容が変更されることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション（履修者数による）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現在の労働事情・労働法制度について理解し、説明できる。（知識）						4						
②	労働事情に関して、統計や事例によって調べることができる。（技能）								2	2			
③	現在の労働事情や労働法制度の問題点・課題について自分の考えを表明できる。（態度・習慣）								4	4			
④	今後の労働政策に関してあるべき方向性を示し、議論することができる。（態度・習慣）								4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内で小テスト行い、到達目標にかかわる基礎知識が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	労働事情に関する課題についてのレポートの提出により、所定の様式を満たしているか、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力が認められるかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループディスカッションを通じ、思考力、問題発見力等について評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業はオムニバス形式だが、それぞれの授業は前後の授業と密接に関連していることに留意が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては解答例を題材に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること メールアドレス：nakayama.akihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旧労働省、厚生労働省等で30年以上にわたり労働行政に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		政策の立案、折衝、社会実装等様々な段階における自らの経験について、必要に応じ具体例として紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入講義（経済構造の変化）	授業の目的、概要等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し経済構造の変化について理解するとともに、授業の目的、概要等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
2	コロナ禍と雇用調整、テレワーク	コロナ禍で生じた雇用調整と雇用調整助成金、テレワーク等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、コロナ禍が及ぼした影響と雇用調整助成金の仕組み、テレワークのメリット等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
3	外国人労働者と技能実習生	外国人労働者と技能実習生（改正後の育成就労制度）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、外国人労働者、技能実習生が増加した背景と現状及び新たな制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
4	就職氷河期世代とワーキングプア問題	就職氷河期世代とワーキングプア問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、就職氷河期世代と発生した理由、現状、フリーター及びそれらと少子化との関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
5	少子化の原因と影響、課題（グループディスカッション）	少子化の原因と影響、その解決にむけた課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、少子化の原因とそのことが経済社会に及ぼす影響、解決すべき課題について理解し、他の受講生の前で説明することができる。	
	事前学修	前回授業の復習をはじめ、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
6	超高齢社会と高齢者雇用	超高齢社会において高齢者雇用はどのような意味を持つのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、超高齢社会において高齢者雇用がどのような意味を持つのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	担当教員の論文を事前に読み、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	高齢者の社会参加		高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について、専門家（ゲストスピーカー）の講話を聴き、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
8	超高齢社会と働き方改革		超高齢社会における働き方改革の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、超高齢社会における働き方改革の意義、賃金、労働時間の実情について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
9	過労死とワークライフバランス		過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について理解し、説明することができる。		
	事前学修	過労死防止対策白書等授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
10	ワークライフバランス実現の方策（グループディスカッション）		ワークライフバランスを実現させるための課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、ワークライフバランスを実現させるための課題について、理解し、他の受講生に対し説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
11	女性の活躍と両立支援		女性労働者をとりまく環境について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性の活躍促進とファミリーフレンドリーについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分
12	女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理		女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性労働者の就労環境とハラスメントの現状、個別労働紛争処理制度について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非正規雇用労働者	非正規雇用労働者について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、非正規雇用労働者の置かれている状況、課題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業を復習し、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
14	テクノロジーの進化と人材育成	テクノロジーの進化と人材育成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、テクノロジーの進化と人材育成の現状と課題について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
15	総括	労働問題の背景にある社会構造の全体像について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、授業で取り上げた個別分野の課題を踏まえつつ、労働問題の背景にある社会の全体構造を俯瞰的に捉えることができる。	
	事前学修	これまでの授業で扱ったテーマについて復習し、これからの課題について考えてくる。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」及び民法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
対面で行う。講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	対面授業の場合には、15回目の授業において「授業内試験」を実施する。	40	30	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	第1回目の授業「ガイダンス」において成績評価方法については改めて告知したい。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては個別にコメント等を付して返却し、次の授業において解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法	新谷真人	弘文堂	2019	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館3階434研究室） ooyama.seigi@nihon-u.ac.jp（アポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・労働法の概要		講義の進め方、評価方法等についての説明。労働法の概要を解説する。	
	この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。		
	事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する		120分
	事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。		120分
2	戦後社会の変容と労働法		戦後社会における労働法の機能と変化を概説し、現代における問題状況を考察する。	
	この回の到達目標	社会状況の変化に対応する労働法の機能とともに、現状における労働法の課題を説明できる。		
	事前学修	高校の「現代社会」もしくは「政治・経済」を復習し戦後日本社会の変容を学習する。		120分
	事後学修	紹介した裁判例を通じて、労働法の史的展開の意義と役割を理解する。		120分
3	労働関係の成立		どのようにして労働関係が成立するのか、また労働関係の意義を解説する。	
	この回の到達目標	労働関係成立のプロセスそれぞれの場合における問題がどのように処理されるのか説明できる。		
	事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく		120分
	事後学修	労働関係に関わる法文・裁判例等について知識を確実にする。		120分
4	労働関係の当事者		労働関係とは、労働者、労働組合、使用者を基本的形成されることを解説する	
	この回の到達目標	「労働者」「使用者」の概念は各法律の目的によって異なり、その画定作業が重要であることを説明できる。		
	事前学修	労働者概念が問題となる理由・背景を調べる。		120分
	事後学修	「労働者」「使用者」を画定するための実体的要素と法適用の効果を理解する。		120分
5	労働条件の決定と変更		労働条件の決定・変更について、労働契約・就業規則・労働協約それぞれの機能を解説する。	
	この回の到達目標	労働契約・就業規則・労働協約が労働条件決定・変更についてそれぞれの関係性を説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて就業規則の意義を調べる		120分
	事後学修	就業規則で労働条件の決定・変更を行う場合の要件を確認する		120分
6	賃金について		労働関係において重要な賃金に関する法規制について解説する。	
	この回の到達目標	賃金の定義、法規制の意義について説明できる。		
	事前学修	各地域の最低賃金を調べ、教科書の当該テーマ部分を読む。		120分
	事後学修	賃金に関する法規制の原則を確認し、将来、これがどのように変化するのかを考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	労働時間	労働時間の意義と規制方法について解説する	
	この回の到達目標	労働時間は賃金や労働災害の場面だけではなくワークライフバランスの観点からも重要な検討課題であることを説明できる。	
	事前学修	日本における長時間労働問題を調べる。	120分
	事後学修	労働時間の原則的な法規制のあり方を確認する。	120分
8	変形労働時間・裁量労働制	原則的労働時間とは別に変形労働時間や裁量労働制が容認されている背景と課題を説明する。	
	この回の到達目標	変形労働時間制・裁量労働制が認められる要件と実体的課題を説明できる。	
	事前学修	変形労働時間制・裁量労働制について身近な例を考えてみる。	120分
	事後学修	変形労働時間制・裁量労働制に関する法規制の意義を役割を再検討する。	120分
9	休憩時間・有給休暇・休日	労働時間ではない労働者の時間に関する法規制を解説する。	
	この回の到達目標	労働者が労働から解放される時間とはどのような意義を有するのか、法規制のあり方を説明できる。	
	事前学修	有給休暇取得に関する統計データ等を官公庁のウェブサイトで入手し読んでおく。	120分
	事後学修	実効性のあるワークライフバランスを確立するために何が必要か考える。	120分
10	配転・出向について	使用者の配転・出向命令の権限と制限に関して解説する。	
	この回の到達目標	労働契約法や裁判例を通して、配転・出向の有効要件を説明できる。	
	事前学修	配転・出向を労働者のワークライフバランスという観点から検討しておく。	120分
	事後学修	従来の判例法理の課題を踏まえ、今後の展開について考えをまとめる。	120分
11	使用者の懲戒権	使用者の懲戒権とは何か、その根拠と限界について解説する。	
	この回の到達目標	懲戒権に関する判例法理の整理と課題について説明できる。	
	事前学修	懲戒処分に関する基本的事項について教科書等で学習する。	120分
	事後学修	裁判例で出される懲戒権の根拠について整理する。	120分
12	労働関係の終了	労働者による退職、使用者による解雇、それぞれに対する法規制のあり方について説明する。	
	この回の到達目標	使用者の解雇権に対する制約法理を労働契約法や裁判例をとおして説明できる。	
	事前学修	合意解約、退職、解雇、それぞれの法的相違を調べる。	120分
	事後学修	解雇無効の場合における金銭的解決制度の導入の課題をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有期労働契約の終了	非典型雇用である有期労働契約の期間満了と使用者による更新拒絶の場合について、更新拒絶ができない要件を説明する。	
	この回の到達目標	有期労働契約を締結した場合に生じる法的問題を、労働契約法や裁判例を通して説明できる。	
	事前学修	非正規雇用（有期労働契約、パートタイム労働者、派遣労働者等）の現状について官公庁の調査結果を調べる。	120分
	事後学修	法文・裁判例等についての知識を確実にする。	120分
14	非典型雇用と法規制	派遣労働者、パートタイマー、有期契約労働者などに関する法的保護はどのようにになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	非典型雇用で働く労働者の状況と法的保護の課題を説明できる。	
	事前学修	三者間構成される派遣労働の法的関係を整理しておく。	120分
	事後学修	非典型雇用ともに個人事業主やフリーランサーの法的保護のあり方を考える。	120分
15	授業内テスト・概括	総論的に前期講義を概括する。学習状況を確認する。	
	この回の到達目標	労働法の個別的分野の基本的な内容を説明できる。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	120分
	事後学修	テストに出された問題を確認する。	120分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	藤井 直子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
憲法・民法を履修している、もしくは同時履修が望ましい。日頃から労働問題に関心を持ち、新聞報道等に注意してほしい。

【授業方法】
講義で指定した判例集・教科書やレジュメを用いながら、講義を行う。 (15回の講義スケジュールは、授業の進行状況等に応じて変更することがある)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予め教科書、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて意見交換、共有する機会を適宜もつ。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを、期末試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関連して、授業中や授業終了時（リアクションペーパーやレスポンス）の教員からの問いに、適切かつ積極的に応えることができているか等の評定尺度に照らして、法的思考能力および自己の見解をまとめる能力が身についているかを評価する。	10	5	5								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	35	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
問題解答や各自意見の共有、それに対するコメントは、講義のなかで適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法＜第2版＞	新谷 真人編	弘文堂	2019	教科書	推奨
労働判例百選〔第10版〕	村中 孝史ほか編	有斐閣	2022	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜2校時、研究室にて（メールで事前にアポイントメントをとること）。fujii.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・労働法の概要	講義の進め方、評価方法等についての説明、および労働法の概要	
	この回の到達目標	労働法の概要を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。 「働く」とは何か、「働く」ことの特性を考える。民法における契約の原則を理解しておく。	120分
	事後学修	「働く」ことの特性と、労働法の位置づけを理解する。	120分
2	労働法の形成と原理	労働法の原理と労働契約の特性	
	この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられているのか、および、その特性を説明できる。	
	事前学修	契約の基本原則と労働者の権利を概観する。	120分
	事後学修	労働法の原理と特性を理解したうえで、労働法領域の各法律の目的規定を調べて、各法の意義を理解する。	120分
3	戦後社会の変容と労働法	戦後社会における労働法の機能と変化、および現代における問題状況／ジェンダー問題と労働法	
	この回の到達目標	社会状況の変化に対する労働法の機能とともに、現状における労働法の課題を説明できる。	
	事前学修	高校の「現代社会」もしくは「政治・経済」を復習し戦後日本社会の変容を学習する。	120分
	事後学修	労働法を取り巻く課題を各自がさらに調べ、現在の労働法の全体像を理解する。	120分
4	労働関係の当事者	労働者、労働組合、使用者が労働関係では形成されること、各定義	
	この回の到達目標	「労働者」「使用者」の概念は各法律の目的によって異なり、その確定作業が重要であることを説明できる。	
	事前学修	労働者概念が問題となる理由・背景を調べる。	120分
	事後学修	「労働者」「使用者」を確定するための要素と法適用の効果を理解する。	120分
5	労働関係の基本原則	労働基準法の目的・意義と基本原則	
	この回の到達目標	労働基準法制定の史的背景および同法が有する基本原則の趣旨・内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、労働基準法の歴史およびその原則を調べる。	120分
	事後学修	講義で取りあげた各条文を読み直し、その意義と意味を再確認する。	120分
6	労働契約の締結過程と成立	募集・採用・内定・試用期間をめぐる論点	
	この回の到達目標	働き始める際の労働法上の保護や規制について、その目的とともに説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、募集や採用、内定に関連してどのような場合に問題となり得るのか調べる。	120分
	事後学修	募集・採用・内定・試用期間の法的性質と法規制の意義を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	労働条件の決定と変更	労働条件の決定・変更、および労働契約・就業規則・労働協約それぞれの機能	
	この回の到達目標	労働契約・就業規則・労働協約が労働条件決定・変更について、それぞれの関係性を説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、就業規則の意義を調べる。	120分
	事後学修	就業規則で労働条件の決定・変更を行う場合の要件を確認する。	120分
8	企業秩序と使用者の懲戒権	使用者の懲戒権の概要、その根拠と限界	
	この回の到達目標	懲戒権に関する判例法理の整理と課題について説明できる。	
	事前学修	懲戒処分に関する基本的事項について、教科書等で学習する。	120分
	事後学修	裁判例で提示される懲戒権の根拠について理解する。	120分
9	労務指揮権と労働契約	労務指揮権の意義、および使用者の配転・出向・転籍命令の権限と制限	
	この回の到達目標	労働契約法や裁判例と通じて、配転・出向の有効要件を説明できる。	
	事前学修	配転・出向を労働者のワークライフバランスという観点から検討しておく。	120分
	事後学修	従来の判例法理の課題を踏まえ、今後の展開について考えをまとめる。	120分
10	賃金の保護	賃金の定義と法規制、最低賃金	
	この回の到達目標	賃金の法的な定義を理解し、最低賃金の意義を説明できる。	
	事前学修	各地域の最低賃金を調べ、賃金に関する教科書の該当部分を学習する。	120分
	事後学修	賃金に関する法規制の原則を確認し、今後の賃金制度の望ましい方向性を考える。	120分
11	労働時間①	労働時間の概念・定義と、多様な労働時間制	
	この回の到達目標	労働時間の定義・意義を理解し、変形労働時間制や裁量労働制等の概要およびその意義について、説明できる。	
	事前学修	労働時間の原則、多様な労働時間制に関する教科書の該当部分を学習する。	120分
	事後学修	法定労働時間と所定労働時間の違いを復習し、労働時間制判断を確認する。	120分
12	労働時間②	労働時間の意義と規制方法、時間外労働	
	この回の到達目標	労働時間は賃金や労働災害の場面だけでなく、ワークライフバランスの観点からも重要な検討課題であることを説明できる。	
	事前学修	日本における長時間労働の実態を調べる。	120分
	事後学修	労働時間の原則的な法規制のあり方を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働時間③	休憩時間・有給休暇・休日、労働から解放される時間	
	この回の到達目標	労働者が労働から解放される時間とはどのような意義を有するのか、法規制のあり方を説明できる。	
	事前学修	有給休暇取得に関する統計データ等を使って、実態を調べる。	120分
	事後学修	労働時間ではない労働者の時間の意義を確認し、労働時間規制がどうあるべきかを考える。	120分
14	労働関係の終了①	労働者による退職、使用者による解雇、合意解約、定年	
	この回の到達目標	使用者の解雇権に対する制約法理を労働契約法や裁判例を通して説明できる。	
	事前学修	合意解約、退職、解雇、それぞれの法的相違を調べておく。	120分
	事後学修	合意解約、退職、解雇の各要件と効果をまとめ、違いの理解を深める。	120分
15	総合学習・まとめ	第1回から第14回での学修の振り返り	
	この回の到達目標	労働法Ⅰで学修した各テーマおよび内容を系統だてて理解し、それぞれの関係性および課題を説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回での学修内容および事後学修を振り返っておく。	120分
	事後学修	労働法Ⅰの範囲を踏まえ、雇用環境における法課題および望ましい法のあり方を考える。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」および民法の財産法について履修済み、あるいは履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④	新たな労働法分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験によって行う。	20	30	30	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	第1回目の授業「ガイダンス」において成績評価方法については改めて告知したい。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館3階434研究室） ooyama.seigi@nihon-u.ac.jp（アポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・労働法の概要、導入		講義の進め方、評価方法等についての説明。特に集团的労働法の概要を解説する。
	この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。	
	事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する。	120分
	事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。	120分
2	労働災害の予防		労働災害に関し事前予防のための労働安全衛生法について概要を説明する。
	この回の到達目標	労働災害を防止するために労働安全衛生法が果たしている役割を説明できる。	
	事前学修	どのような労働災害が発生しているのか厚労省の発表資料など基に調べる。	120分
	事後学修	労働者のメンタルヘルスケアについて企業が行うべき措置を考える。	120分
3	労働災害に対する補償		法律上、労働災害とは何か、また不幸にして労働災害が発生した場合、被災労働者あるいは遺族に対してどのような補償があるのか、これらを説明する。
	この回の到達目標	労働災害として労働災害補償保険法の適用を受ける場合の業務上外の認定基準について説明できる。	
	事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく。	120分
	事後学修	労災民訴と労災保険との関係を整理する。	120分
4	育児介護への労働者の関わり		労働者のライフステージには育児や介護にかかわる場合が生じる。労働者が働きながら育児介護に携わるための法律である育児介護休業法を説明する。
	この回の到達目標	労働者が育児介護休業等を取得する場合の要件や使用者に不利益取り扱い禁止などについて説明できる。	
	事前学修	育児や介護で休業している労働者が周辺にいる場合、実態の聞き取りをする。	120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考えをまとめる。	120分
5	雇用における均等・均衡待遇問題		雇用機会均等法を中心に雇用における両性の平等、雇用形態を理由とした差別的取扱いの禁止等を説明できる。
	この回の到達目標	合理的な理由ない差別が労働現場において禁止されていることを立法や裁判例を通じて説明できる。	
	事前学修	現代社会における雇用差別とはどのようなものがあるか、調べる。	120分
	事後学修	今後、雇用機会均等法がどのように展開していくと予想されるか、考える。	120分
6	労働組合とは		憲法28条で保障されている労働三権に基づき、労働者は労働組合を結成し活動することができる。労働組合に関する歴史的展開と労働組合が直面する課題について説明する。
	この回の到達目標	労働組合の意義と機能について考え、「刑事免責」「民事免責」が認めらる労働組合は単なる結社ではないこと、また憲法上保障された労働者の権利が公務員については制約されていることも説明できる。	
	事前学修	現在労働組合がどのような活動をしているのかを労働組合のホームページなどで調べる。	120分
	事後学修	これまでの企業別労働組合が直面している課題は何か、また新たな労働組合運動の課題は何かを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	労働組合法上の労働者と使用者		誰が労働組合を結成することができるのか、また誰が労働組合の相手方となる使用者となるのかについて説明する。
	この回の到達目標	労働組合法上の労使関係当事者の決定するためには、それぞれどのような事情が必要となるのか裁判例を通して説明できる。	
	事前学修	新聞、テレビ、ウェブサイトのニュースなどで労使紛争の断面を理解する。	120分
	事後学修	労働組合法上保護を受ける前提として労働組合の組織運営等について調べる。	120分
8	不当労働行為（不利益取り扱い）		使用者は労働者が労働組合員であることなどをもって解雇などの不利益取り扱いをすることは不当労働行為として法的に禁じられている。不当労働行為制度の概要について解説する。
	この回の到達目標	行政救済としての不当労働行為制度と司法救済を裁判例などを通じて説明できる。	
	事前学修	行政救済と取消のための行政訴訟手続きについて調べて理解しておく。	120分
	事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
9	不当労働行為の種類態様		不当労働行為の種類と態様について裁判例などを通じて説明し、不当労働行為についてはどのような救済がなされるのかを説明する。
	この回の到達目標	不当労働行為の種類と態様によってそれぞれ救済方法も異なることなどを説明できる。	
	事前学修	労組法上の使用者概念と労働者概念についてあらためて調べる。	120分
	事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
10	団体交渉		労働組合と使用者との団体交渉の意義、団体交渉事項、使用者が団体交渉を拒否した場合などについて説明する。
	この回の到達目標	使用者の団体交渉拒否と団体交渉応諾義務の内容について説明できる。	
	事前学修	労働者個人の労働条件決定システムについて復習する。	120分
	事後学修	団体交渉が認められてきた歴史的経緯を踏まえ、労働組合の権能について考えてみる。	120分
11	労働協約		労働組合と使用者は、労働条件などについて労働協約を締結することができる。労働協約の効力などについて説明する。
	この回の到達目標	労働協約の形式、効力、法的性質について説明できる。	
	事前学修	労働条件決定システムにおける労働協約の位置づけを調べる。	120分
	事後学修	労働協約の効力について一般的拘束力と少数組合の独立性について考える。	120分
12	労働協約変更による労働条件の不利益変更		使用者と労働組合は労働協約を変更することにより労働組合員等の労働条件を不利益に変更することもできる。この場合の要件等について説明する。
	この回の到達目標	労使自治、協約自治の原則により労働条件の不利益変更は可能であるが、一方で協約自治にも限界があることを説明できる。	
	事前学修	就業規則の不利益変更の場合における、有効要件を労働契約法や裁判例で確認する。	120分
	事後学修	労働協約と就業規則の役割の違いと理解したうえで、労働条件の不利益変更が認められる場合の要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	組合活動		労働組合は、争議行為とは別に情宣活動など通常様々な活動をしている。これらの活動が場合によっては使用者との対立事項となることもある。これらが法的に保護されるための要件について説明する。
	この回の到達目標	判例上、正当な労働組合活動とはどのような形態をいうのか、様々な事例から説明できる。	
	事前学修	ニュースなどで労働組合活動と法的トラブルについて調べる。	120分
	事後学修	労働組合活動の意義と現代的展開について考えてみる。	120分
14	争議行為		労働組合は自らの要求を使用者に認めさせるためにストライキを行う権利を有している。こうした争議行為について説明する。
	この回の到達目標	争議行為の意義、正当性、使用者による対抗手段等について説明できる。	
	事前学修	ニュースなどで過去日本において行われた争議にはどのようなものがあったかを調べる。	120分
	事後学修	争議行為が認められた歴史的経緯を踏まえたうえで、争議行為の現代的な意味を考えてみる。	120分
15	授業内テスト・概括		個別的労働関係および集団的労働関係における労使の権利義務の理解を確認する。
	この回の到達目標	後期講義の個別的労働関係および集団的労働関係における労使の権利義務を説明できる。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	120分
	事後学修	テストに出された問題の論点を確認する。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	藤井 直子	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
労働法Ⅰを履修していることが望ましい（未履修者は教科書の労働法の理念・目的およびその特性に関する部分を読み、理解した上で履修すること）。日頃から労働問題に関心を持ち、新聞報道等に注意してほしい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。 (15回の講義スケジュールは、授業の進行状況等に応じて変更することがある)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予め教科書、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて意見交換、共有の機会を適宜もつ。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④	新たな労働法分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連して、授業中や授業終了時（リアクションペーパーやレスポンス）の教員からの問いに、適切かつ積極的に対応することができているか等の評定尺度に照らして、法的思考能力および自己の見解をまとめる能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
問題解答の提示や意見共有へのコメントは、適宜講義のなかで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法＜第2版＞	新谷 真人編	弘文堂	2019	教科書	推奨
労働判例百選〔第10版〕	村中 孝史ほか編	有斐閣	2022	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日2校時、研究室にて(メールで事前にアポイントメントをとること)。fujii.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・労働法の概要	講義の進め方、評価方法についての説明、および労働法の概要、残された課題	
	この回の到達目標	労働法の概要を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。 「働く」とは何か、「働く」ことの特性を考える。民法における契約の原則を理解しておく。	120分
	事後学修	「働く」ことの特性と、労働法の位置づけを理解する。残された課題を復習する。	120分
2	非典型雇用と法規制①	パート労働者、有期雇用労働者などの法的保護とその課題	
	この回の到達目標	非典型雇用で働く労働者の状況と法的保護の課題を説明できる。	
	事前学修	非典型雇用労働者（パートやアルバイト等）数の推移や男女比、賃金額などの実態を調べる。	120分
	事後学修	現行法の課題と法政策について考え、まとめる。	120分
3	非典型雇用と法規制②	派遣労働者の法的保護とその課題	
	この回の到達目標	派遣労働契約を取り巻く社会状況と法的問題について説明できる。	
	事前学修	三者間構成される派遣労働の法的関係を整理する。	120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考え、まとめる。	120分
4	様々な休業・休暇・休職制度①	育児介護休業法－仕事と育児の両立、その法制度	
	この回の到達目標	労働者が育児介護休業等を取得する場合の要件や使用者の不利益取扱いの禁止などについて説明できる。	
	事前学修	育児や介護で休業している（したことがある）労働者に、実態を聞く、もしくは、新聞記事などで調べる。	120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考え、まとめる。	120分
5	様々な休業・休暇・休職制度②	育児介護休業法－仕事と介護の両立、その法制度、および様々な休職制度	
	この回の到達目標	労働者が介護を理由に休業が認められる要件や各制度の目的、法制度上の休業制度と就業規則上の休職制度の違いを説明できる。	
	事前学修	企業が認める様々な休職制度を調べて、まとめてみる。	120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考え、まとめる。	120分
6	労働者の人格権①	雇用関係における自己決定権、プライバシーの権利と憲法13条幸福追求権	
	この回の到達目標	憲法上の権利と労働者の自己決定との関係性およびプライバシーの権利の意義について説明できる。	
	事前学修	憲法13条の意義について復習する。	120分
	事後学修	労働関係において問題となる様々なプライバシー上の問題について、裁判例を整理し、理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働者の人格権②		職場におけるハラスメント	
	この回の到達目標	ハラスメントの種類および現在の法規制を説明できる。		
	事前学修	職場におけるハラスメントにはどのようなものがあるかを、新聞記事や教科書等を用いて調べておく。		120分
	事後学修	EUなどのハラスメント規制を調べ、日本の法の現状と比較する。		120分
8	女性の保護、男女の雇用平等		労基法上の女性の保護、雇用機会均等法、間接差別	
	この回の到達目標	雇用機会均等法を中心に、雇用における両性の平等を説明できる。また、合理的理由のない差別が労働関係において禁止されていることを立法や裁判例を通じて説明できる。		
	事前学修	労基法上の女性の保護にはどのようなものがあるか、現代社会における雇用差別にはどのようなものがあるか、教科書やその他資料を使って、調べておく。		120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考え、今後、どのように展開していくか（していくべきか）を考えてまとめる。		120分
9	労働災害の予防		労働安全衛生法の役割	
	この回の到達目標	労働災害を防止するために労働安全衛生法が果たしている役割を説明できる。		
	事前学修	どのような労働災害が発生しているのかについて、現状を調べる。		120分
	事後学修	労働者のメンタルヘルスケアについて、使用者（企業）が行うべき措置を考える。		120分
10	労働災害に対する補償		労働者災害補償保険法の適用を受ける業務上外の認定基準	
	この回の到達目標	労働災害として労働者災害補償保険法の適用を受ける場合の業務上外の認定基準について説明できる。		
	事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読み、学習する。		120分
	事後学修	労働災害後の被災労働者あるいは遺族に対する補償を整理する。		120分
11	労働組合		労働組合の意義と機能、刑事免責、民事免責、公務員についての制約	
	この回の到達目標	労働組合の意義と機能について説明できる。		
	事前学修	労働組合がどのような活動をしているのかを、労働組合のホームページなどで調べる。		120分
	事後学修	企業別組合が直面している課題および今後の労働組合運動の課題は何かを考える。		120分
12	不当労働行為（不利益取り扱い）		不当労働行為制度の概要、行政救済としての不当労働行為制度と司法救済	
	この回の到達目標	不当労働行為の種類と態様によって、救済方法が異なることなどを説明できる。		
	事前学修	行政救済と取消のための行政訴訟手続きについて調べて理解する。		120分
	事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について整理して、考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	団体交渉と労働協約	労働協約の法的性質、協約自治の限界	
	この回の到達目標	労働協約の形式、効力、法的性質および協約自治にも限界があることについて、説明できる。	
	事前学修	労働条件決定システムにおける労働協約の位置づけを調べる。	120分
	事後学修	労働協約の効力について、一般的拘束力と少数組合の独立性について考える。	120分
14	争議行為	争議行為の意義、正当性、使用者による対抗手段	
	この回の到達目標	争議行為の意義、正当性、使用者による対抗手段等について説明できる。	
	事前学修	過去日本で行われた争議行為について、どのようなものがあつたかを新聞記事等を通じて調べる。	120分
	事後学修	争議行為が認められた歴史的経緯を踏まえたうえで、争議行為の現代的な意味を考えてみる。	120分
15	総合学修・まとめ	第1回から第14回での学修の振り返り	
	この回の到達目標	労働法Ⅱで学修した各テーマおよび内容を系統だてて理解し、それぞれの関係性および課題を説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回での学修内容および事後学修を振り返っておく。	120分
	事後学修	労働法Ⅱの範囲を踏まえ、雇用環境における法課題および望ましい法のあり方を考える。	120分

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	担当者	浅岡 隆裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
授業テーマは“ソーシャルネットワーク時代における地域情報の生成・流通・消費”である。「地域情報化」「デジタル化」と呼ばれる社会変動の深化によって、地域に流通し、当該地域の住民が受発信する情報の量と質が大きく変容してきている。本講義では、地域情報の産出と流通，消費をめぐる，これまでの経緯と現状について詳しく説明していく。とりわけ《地域メディア》《インターネットによる地域情報の受発信》《地域の魅力の情報発信》といったトピックについて多く学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地域情報や地域メディアに関する歴史，仕組みや原理を体系的に理解し，「メディア・リテラシー」（情報の理解，発信力），「セミオ・リテラシー」（意味の解釈力）を習熟できる。新聞，雑誌記事，映像素材なども活用しながら，ここ最近のトピックスについても言及・解説していくので，現代的な身の回りの社会事象・文化について理解・説明することができるようになる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面形式のレクチャーで，時に映像などを視聴する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域情報や地域メディアに関する歴史，仕組みや原理を体系的に理解している。【知識】					3	3	3	3				
②	地域社会を中心に現代的な身の回りの社会事象・文化について理解・説明することができるようになる。【知識】					3	3	3	3		3		
③	「メディア・リテラシー」（情報の理解，発信力），「セミオ・リテラシー」（意味の解釈力）のレベルが向上する。【技能】					3		2			3		
④	授業で関心を抱いたテーマに対し，自ら様々なメディア内容や文献を調査して更なる問題発見を重ねる積極的な学修態度が備わるようになる。【問題解決】							3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	冬休みに課題レポートを出題し、地域メディアやコミュニケーションについての理解度を問う。期末最終レポートにより、講義した全範囲についての習熟度合いを評価する。	30			30							60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、リアクションコメントを提出してもらい、レクチャーをふまえて考えたことや質問などを挙げてもらう。そこでの記述内容から、授業の参画度について評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	10	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションコメントは適宜、次回以降の授業内で取り上げて解説を加える。課題レポートについては、ポータルシステム等で事後に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
質問や気づいた点などについては、asaoka@ris.ac.jp まで問い合わせ願う。メール題名は具体的な内容について、また本文については学生番号、氏名をそれぞれ忘れずに記載願う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告会社におけるマーケティング実務および地方自治体におけるシティプロモーション等の公職経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		地域における広報・広聴・マーケティング活動について、担当教員が関わった実例なども用いながら、より詳細かつ実践的な解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 基礎的な概念の解説①	現代社会において、地域（社会）、地域メディア、地域情報、それぞれを学ぶ意義を解説する。授業のテーマや到達目標、授業スケジュール、成績評価方法、基本文献などについて概説する。受講者は授業の準備および心構えができるようになる。	
	この回の到達目標	本科目を学ぶ意義について、到達目標①～④と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該科目についての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分
2	基礎的な概念の解説②	本科目を深く学ぶために必要な概念について、「地域」「メディア」「情報」「コミュニケーション」について、学説などをもとに詳細に説明する。それぞれの言葉がもつ学術的な意味付けを理解できる。	
	この回の到達目標	本科目を学ぶ最低限の知識として、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、本講義についての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分
3	地域メディアとしての新聞①	地域メディアの中で古くから存在し、今でも中核的な機能を持つ新聞メディアについて、主に「地方紙」（ブロック紙、県紙）を取り上げて解説する。全国的に知られる「全国紙」と比較して、どのような機能を持っているのか、その存在意義について学びを深める。	
	この回の到達目標	新聞メディアの歴史と今日的な意義について、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該科目についての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地では、こういった新聞（ブロック紙や県紙）が存在するのかをネット上などで調べてもらい、可能な限りその紙面に触れてもらうことを推奨する。	120分
4	地域メディアとしての新聞②	地域メディアの中でも古くから存在する「地域紙」（市区町村や広域エリアを対象とした新聞）を取り上げて解説する。「全国紙」や「地方紙」と比較して、どのような機能を持っているのか、その存在意義について学びを深める。	
	この回の到達目標	よりローカルに根ざした地域新聞の歴史と今日的な意味付けについて、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該科目についての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地に存在する地域紙を探してもらい、可能であれば地域の公立図書館やネット上などでその紙面に触れてもらうことを推奨する。	120分
5	地域メディアとしての民間放送	地域メディアの中で最も到達範囲が広い「ローカル民間放送」（主にテレビ放送）の成立の経緯や現代的な特質について紹介する。民間放送の果たしている機能と同時に、その限界や様々な問題点についても触れていく。	
	この回の到達目標	ローカル民間放送局の歴史と今日的な意義について、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該科目についての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地に存在するローカル民放についてホームページ等で閲覧し、知識を深めてもらいたい。	120分
6	地域メディアとしての民間放送②	ローカル民放（主にテレビ方法）の近年の動向と今後に向けた動きについて説明する。また同じ映像メディアとしてのケーブルテレビについても触れ、地域社会との関りが強いコミュニティ・チャンネルの取り組みについて解説を加えていく。	
	この回の到達目標	映像メディアが地域社会で果たしている役割について、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該テーマについての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではこういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地に存在するケーブルテレビについてホームページ等で閲覧し、知識を深めてもらいたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地域密着型のコミュニティFM放送	地域密着型の電波メディアで比較的新しいコミュニティFMラジオ放送についてレクチャーを行う。小資本で機動的に運営できるが、経営基盤は盤石ではない状況を伝える。またラジオ番組作りの事例をケーススタディとして紹介し、どのような取り組みが行われているのかについて理解を深める。	
	この回の到達目標	地域密着型の放送ゆえのメリット・デメリットを理解する。到達目標①、②と関係する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該テーマについての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではどういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地に存在するコミュニティFM放送についてホームページ等で閲覧し、知識を深めてもらいたい。	120分
8	地域やコミュニティの情報化	政策や理念としての「地域情報化」を後付けて、その現在のな形について、各メディアの布置関係などから照会する。情報化という政策や社会変動の恩恵はいかなるものであるのかについて、各自考えてもらうための材料を提供する。	
	この回の到達目標	地域情報化について、功と罪を挙げて、比較し考察できようになる。到達目標①、②と関係する。	
	事前学修	シラバス内容を事前に一読してもらい、当該テーマについての事前の知識や興味・関心を整理してもらう。必要に応じて、インターネットなどを活用し、ネット上ではどういった情報があるのかを把握する。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。とくに自身の住まいや出身地に関係する地域情報化の動向について、自治体のホームページ等で閲覧し、知識を深めてもらいたい。	120分
9	地域情報を伝えるインターネット	インターネットはグローバルなメディアと認識されているが、地域社会における情報発信の受発信の道具となっている。インターネット上では、どのように地域社会に関わる情報が発信されているのか。	
	この回の到達目標	情報発信の道具としてのインターネットの働きについて、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分
10	“情報大爆発”時代の地域情報	情報流通量がこれまでにない量に達しており、そのようになった背景およびその社会的影響について考察を進める。社会的な情報共有が困難になりつつある現状を具体事例などに触れつつ説明する。	
	この回の到達目標	情報爆発についての実態と影響について理解できた。到達目標①、②と関わり合う。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分
11	情報やメディアが創り出すコミュニティとコミュニケーション	メディアは新しい人間関係としてのコミュニティ形成に多大な影響を及ぼしている。国家のレベルから個人単位のネットワークまで幅広い規模があり、それらについて解説を加えていく。	
	この回の到達目標	地域社会におけるコミュニティ形成についての理解が進む。到達目標①、②と関わり合う。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分
12	地域の魅力を情報発信する	地域の魅力を効果的に発信する試み＝「シティプロモーション」の考え方について、段階的に説明を加えていく。	
	この回の到達目標	多くの自治体が行っているシティプロモーションの役割とその問題点などについて、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。インターネット上ではシティプロモーションについてどういった取り組みがみられるのかについて各自でリサーチする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	シティプロモーションの展開		シティプロモーションがどのように実践的に行われているのか。具体例をみながら、理解していく。また冬休み課題としてレポートを出題するが、その執筆のために必要な調査研究方法についても簡単にレクチャーしておく。
	この回の到達目標	地方自治体の情報発信の役割とその問題点などについて、到達目標①、②と関連付けながら理解する。冬休み課題については、到達目標④が要求される。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。インターネット上ではシティプロモーションについてどういった取り組みがみられるのかについて各自でリサーチする。	120分
14	地方自治体からの情報発信		地方自治体の対内的、対外的情報発信について、それぞれの機能や背景などを説明する。
	この回の到達目標	地方自治体の情報発信の役割とその問題点などについて、到達目標①、②と関連付けながら理解する。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。インターネット上では自治体のホームページを通してどのような情報が発信されているのか確認してもらう	120分
15	これまでの授業内容の補足		14回目講義分までの内容について受講者から質問を事前に受け付け、それについて解説を加えていく。
	この回の到達目標	講義の全体回を通しての総括的な理解をしてもらう。学修した知識を活かし、③のスキルアップに資する。また最終なレポート課題では主体的な調査研究の姿勢、すなわち④が求められる。	
	事前学修	前回までの復習して疑問点や自分なりに重要だと思った論点などを洗い出しておく。	120分
	事後学修	配布資料に基づき、学修内容の確認する。そして自身の身の回りの事例について、考えを向けてもらう。	120分

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の授業の冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ物権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2007	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	物の種類と分類		古典期ローマ法における物の種類とその分類を学修する。物概念は財産法の基礎であり、どのような物が規律の対象となるかは、財産法全体の構造を規定する問いである。この問いを導きの糸として、古代社会と現代日本社会との比較を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における物概念と日本の民法における物概念との異同を理解し、現代日本社会における物概念の特徴を記述することができる。		
	事前学修	日本の民法典における物の定義、種類、分類を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における物概念と日本の民法典における物概念との異同を整理し、現代日本社会における物の特徴をまとめる。		120分
2	占有（総論）		古典期ローマ法における占有の基本ルールを学修する。占有はローマ法の中でも難解な部類に属しており、現在においてもその社会的実像は強い関心を引いている。この講義では、その最も基礎的な部分を学修し、ローマ占有法の全体像を把握するための手がかりを提供する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の基本概念を理解し、日本法における占有概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有制度と日本の民法典における占有制度との異同を整理し、現代日本社会における占有制度の概要をまとめる。		120分
3	占有（占有の取得・継続・喪失）		古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを学修する。占有の取得等の方法は多様であり、必ずしも画一的な基準に服するものではない。この講義では、その多様な占有の取得等を網羅的に紹介し、個々の具体的態様についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを理解し、日本法における占有の取得等のプロセスと比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の取得、継続および喪失に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失と日本の民法典におけるそれらとの異同を整理し、日本法における占有の取得等のプロセスをまとめる。		120分
4	占有（占有の保護）		古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを学修する。ローマ法における占有保護手段の中核は「特示命令（interdictum）」と呼ばれるものであり、この講義では、当該制度を中心に解説を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを理解し、日本法における占有保護の諸制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の保護に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の保護と日本の民法典における占有の保護との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
5	所有（総論）		古典期ローマ法における所有の基本ルールを学修する。所有は近代法と最も密接な関連のある制度のひとつであるが、ローマ法上の「所有（dominium）」概念は、必ずしも近代法のそれと一致するわけではない。この講義ではその異同に注目しつつ、近代法の基盤である私的所有権制度の前身としてのローマ所有法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有の基本ルールを理解し、日本法における所有権概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有制度と日本の民法典における所有制度との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
6	所有（相隣関係）		古典期ローマ法における相隣関係のルールを学修する。相隣関係は、所有権の絶対性を破る重要な例外のひとつであり、古代ローマにおいても無思慮な建設等は社会的制約を受けた。この講義では、古代ローマ人たちが相隣関係をどのように規律して生活していたのか、その一端を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における相隣関係のルールを理解し、日本法における相隣関係法と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における相隣関係のルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における相隣関係のルールと日本の民法典における相隣関係のルールとの異同を整理し、日本法における相隣関係の特徴をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	所有（原始取得）		古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを学修する。日本法においても原始取得と承継取得の区別は維持されており、この講義では、原始取得から順番に紹介を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを理解し、日本法における所有権の原始取得のルールと比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の原始取得を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の原始取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
8	所有（承継取得）		古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを学修する。この講義では、前回の原始取得の学修を踏まえた上で、所有権の承継的な取得について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを理解し、日本法における所有権の承継取得と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の承継取得を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の承継取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
9	所有（所有権の保護）		古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。ローマ法上の所有権の保護は、いわゆる「所有物取戻し請求（rei vindicatio）」をはじめとして多岐に渡る。この講義では、日本法との異同に注意しつつ、これらの所有権保護制度を概観する。古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の保護制度を理解し、日本法における所有権の保護制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の保護制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の保護制度と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
10	役権		古典期ローマ法における「役権（servitus）」を学修する。役権は日本法においても地役権等の制度に名残をのこしているが、必ずしも同一の法制度であるとはいえない。この講義では、古代ローマ社会において重要な役割を果たしてきた役権について、日本法との異同に注意しつつ紹介を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における役権を理解し、日本法における類似制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における地役権を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における役権と日本の民法典における地役権との異同を整理し、日本法における地役権との違いをまとめる。		120分
11	用益権		古典期ローマ法における「用益権（ususfructus）」を学修する。用益権は旧民法では認められていたものの、現行民法の編纂過程で削除された経緯がある。日本では馴染みのない概念であるけれども、比較法上は重要な地位を占める。この講義では、ローマ法上の用益権の紹介を通じて、日本法の特徴について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における用益権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本の旧民法の編纂過程において用益権が削除された理由を調べる。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における用益権を踏まえた上で、日本の民法典が用益権を採用していないことによって生じている論点を整理し、考察する。		120分
12	担保権		古典期ローマ法における担保権を、「質（pignus）」を中心に学修する。現代日本においても「質」という用語は民法典に明確に規定されているけれども、歴史的には日本法における意味が普遍的に妥当するわけではない。この講義では、質契約についても踏まえつつ、古代ローマにおける担保制度を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における担保権を、質を中心に理解し、日本法における担保権と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における担保権を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における担保権と日本の民法典における担保権との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	盗	古典期ローマ法における「盗（furtum）」を学修する。現代法においては私法と公法とが明確に区別されており、窃盗罪と窃盗によって生じた財産権侵害の私法上の救済（例えば損害賠償請求）とは分けて規律される。この講義では、私法と公法の区別が明確ではない古代ローマ法における盗の取り扱いを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における盗を理解し、日本法における諸制度と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の法制度では窃盗に対して私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における盗に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	不法損害	古典期ローマ法における「不法損害（injuria）」を学修する。日本法もそうであるように、他人の名誉を傷つけることは、公法上のみならず私法上も救済の対象となる。この講義では、古代ローマ法における「不法損害」という概念を通じて、人格侵害に対する救済を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における不法損害を理解し、現代日本における人格権の保護と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の法制度では他人の人格を貶めた場合に私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における人格侵害に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	まとめ（ローマ物権法の有機的理解）	この講義では、古典期ローマ法における物権法および不法行為法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	120分
	事後学修	法の歴史的発展について、物権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	120分

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本年度の学部の方針に従い、原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ物権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2007	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	物の種類と分類		古典期ローマ法における物の種類とその分類を学修する。物概念は財産法の基礎であり、どのような物が規律の対象となるかは、財産法全体の構造を規定する問いである。この問いを導きの糸として、古代社会と現代日本社会との比較を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における物概念と日本の民法における物概念との異同を理解し、現代日本社会における物概念の特徴を記述することができる。		
	事前学修	日本の民法典における物の定義、種類、分類を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における物概念と日本の民法典における物概念との異同を整理し、現代日本社会における物の特徴をまとめる。		120分
2	占有（総論）		古典期ローマ法における占有の基本ルールを学修する。占有はローマ法の中でも難解な部類に属しており、現在においてもその社会的実像は強い関心を引いている。この講義では、その最も基礎的な部分を学修し、ローマ占有法の全体像を把握するための手がかりを提供する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の基本概念を理解し、日本法における占有概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有制度と日本の民法典における占有制度との異同を整理し、現代日本社会における占有制度の概要をまとめる。		120分
3	占有（占有の取得・継続・喪失）		古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを学修する。占有の取得等の方法は多様であり、必ずしも画一的な基準に服するものではない。この講義では、その多様な占有の取得等を網羅的に紹介し、個々の具体的態様についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを理解し、日本法における占有の取得等のプロセスと比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の取得、継続および喪失に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失と日本の民法典におけるそれらとの異同を整理し、日本法における占有の取得等のプロセスをまとめる。		120分
4	占有（占有の保護）		古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを学修する。ローマ法における占有保護手段の中核は「特示命令（interdictum）」と呼ばれるものであり、この講義では、当該制度を中心に解説を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを理解し、日本法における占有保護の諸制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の保護に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の保護と日本の民法典における占有の保護との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
5	所有（総論）		古典期ローマ法における所有の基本ルールを学修する。所有は近代法と最も密接な関連のある制度のひとつであるが、ローマ法上の「所有（dominium）」概念は、必ずしも近代法のそれと一致するわけではない。この講義ではその異同に注目しつつ、近代法の基盤である私的所有権制度の前身としてのローマ所有法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有の基本ルールを理解し、日本法における所有権概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有制度と日本の民法典における所有制度との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
6	所有（相隣関係）		古典期ローマ法における相隣関係のルールを学修する。相隣関係は、所有権の絶対性を破る重要な例外のひとつであり、古代ローマにおいても無思慮な建設等は社会的制約を受けた。この講義では、古代ローマ人たちが相隣関係をどのように規律して生活していたのか、その一端を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における相隣関係のルールを理解し、日本法における相隣関係法と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における相隣関係のルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における相隣関係のルールと日本の民法典における相隣関係のルールとの異同を整理し、日本法における相隣関係の特徴をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所有（原始取得）		古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを学修する。日本法においても原始取得と承継取得の区別は維持されており、この講義では、原始取得から順番に紹介を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを理解し、日本法における所有権の原始取得のルールと比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における所有権の原始取得を復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の原始取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	所有（承継取得）		古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを学修する。この講義では、前回の原始取得の学修を踏まえた上で、所有権の承継的な取得について概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを理解し、日本法における所有権の承継取得と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における所有権の承継取得を復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の承継取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	所有（所有権の保護）		古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。ローマ法上の所有権の保護は、いわゆる「所有物取戻し請求（rei vindicatio）」をはじめとして多岐に渡る。この講義では、日本法との異同に注意しつつ、これらの所有権保護制度を概観する。古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の保護制度を理解し、日本法における所有権の保護制度と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における所有権の保護制度を復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の保護制度と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	役権		古典期ローマ法における「役権（servitus）」を学修する。役権は日本法においても地役権等の制度に名残をのこしているが、必ずしも同一の法制度であるとはいえない。この講義では、古代ローマ社会において重要な役割を果たしてきた役権について、日本法との異同に注意しつつ紹介を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における役権を理解し、日本法における類似制度と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における地役権を復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における役権と日本の民法典における地役権との異同を整理し、日本法における地役権との違いをまとめる。	120分
11	用益権		古典期ローマ法における「用益権（ususfructus）」を学修する。用益権は旧民法では認められていたものの、現行民法の編纂過程で削除された経緯がある。日本では馴染みのない概念であるけれども、比較法上は重要な地位を占める。この講義では、ローマ法上の用益権の紹介を通じて、日本法の特徴について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における用益権を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の旧民法の編纂過程において用益権が削除された理由を調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における用益権を踏まえた上で、日本の民法典が用益権を採用していないことによって生じている論点を整理し、考察する。	120分
12	担保権		古典期ローマ法における担保権を、「質（pignus）」を中心に学修する。現代日本においても「質」という用語は民法典に明確に規定されているけれども、歴史的には日本法における意味が普遍的に妥当するわけではない。この講義では、質契約についても踏まえつつ、古代ローマにおける担保制度を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における担保権を、質を中心に理解し、日本法における担保権と比較して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における担保権を復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における担保権と日本の民法典における担保権との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	盗		古典期ローマ法における「盗（furtum）」を学修する。現代法においては私法と公法とが明確に区別されており、窃盗罪と窃盗によって生じた財産権侵害の私法上の救済（例えば損害賠償請求）とは分けて規律される。この講義では、私法と公法の区別が明確ではない古代ローマ法における盗の取り扱いを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における盗を理解し、日本法における諸制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の法制度では窃盗に対して私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における盗に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
14	不法損害		古典期ローマ法における「不法損害（injuria）」を学修する。日本法もそうであるように、他人の名誉を傷つけることは、公法上のみならず私法上も救済の対象となる。この講義では、古代ローマ法における「不法損害」という概念を通じて、人格侵害に対する救済を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における不法損害を理解し、現代日本における人格権の保護と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の法制度では他人の人格を貶めた場合に私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における人格侵害に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
15	まとめ（ローマ物権法の有機的理解）		この講義では、古典期ローマ法における物権法および不法行為法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。		
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。		120分
	事後学修	法の歴史的発展について、物権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。		120分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の授業の冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ債権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2001	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	訴権法体系の基礎		古典期ローマ法における訴権の概念を学修する。日本法はドイツ法の影響から、請求権を中心とする私法体系を構築している。この講義では、それとは異なる「訴権（actio）」概念を用いた古典期ローマ法の体系を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴権を基礎とする古典期ローマ法と請求権を基礎とする現代法との差異を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における請求権の概念を復習する。	120分
	事後学修	講義で扱った訴権法体系と現代の請求権との違いを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
2	債務関係の分類		古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。日本の民法典にも契約カテゴリーが準備されているように、古典期ローマ法においても有名契約という概念が存在した。そこではいわゆる類型強制という仕組みが重要な役割を果たす。この講義では、契約自由の原則が妥当しない古代ローマ法における債務関係の基礎を紹介する。古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法における債務関係が現代法の基礎になっていることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における債務関係にはどのようなものがあるかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における債務関係と日本法における債務関係との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
3	要物契約（消費貸借）		この回からは、順次、古典期ローマ法における契約カタログを、個々の類型ごとに概観していく。まず最初に要物契約から取り掛かり、古典期ローマ法における「消費貸借（mutuum）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における消費貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
4	要物契約（寄託・使用貸借・プレカリウム）		古典期ローマ法における「寄託（depositum）」「使用貸借（commodatum）」「プレカリウム（precarium）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における寄託および使用貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。また、古典期ローマ法で認められていたプレカリウムという法制度がなぜ現代法では消失しているのかを考える。	120分
5	要物契約（質・信託）		古典期ローマ法における「質（pignus）」および「信託（fiducia）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における質および信託と日本の民法における質および信託との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における質および信託とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における質および寄託と日本法における質および信託との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
6	言語契約（問答契約）		古典期ローマ法における「問答契約（stipulatio）」のあり方を学修する。問答契約は、契約内容自由の原則が妥当しない古代ローマ法において、契約に付随的な条項を追加する重要な手段のひとつであった。この講義では、契約内容自由の原則の意義を再確認する文脈で、問答契約の仕組みを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における問答契約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代日本における契約が文言上の要式性を求められていない理由を考える。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における問答契約は、現代日本におけるどのような制度によって代替されているのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	諾成契約（売買：総論）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、成立要件および効果の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買の成立要件と効果を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、その成立要件および効果の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	諾成契約（売買：担保責任）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、担保責任の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買がどのような担保責任によって支えられていたかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買にはどのような担保責任があるのかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、担保責任の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	諾成契約（賃約）	古典期ローマ法における「賃約（locatio conductio）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における賃約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	賃約は日本法におけるどの契約類型に対応しているかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における賃約が日本の民法典においてどのようなかたちで現れているかを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	諾成契約（委任）	古典期ローマ法における「委任（mandatum）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における委任とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
11	諾成契約（組合）	古典期ローマ法における「組合（societas）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における組合とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
12	無名契約	古典期ローマ法における無名契約のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、ある契約が有名契約であるかそれとも無名契約であるかは、民法典の規定の直接的な規律に服するか否かという点において、どちらも有効な契約であることに変わりはない。しかし、古代ローマにおいては、無名契約であることは救済対象にならないというリスクに晒されていた。この講義では、そのような状況下における無名契約の救済手段を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無名契約と日本の民法典における無名契約との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における無名契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無名契約と日本法における無名契約との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	無方式合意	古典期ローマ法における「無方式合意（pactum）」のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、当事者は何ら方式によらずに自由に付随的な合意をなすことができる。しかし、古代ローマ法においては、無方式合意は訴権を発生させず、そのままでは履行を貫徹させられないという構造があった。この講義では、そのシステムと救済手段について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無方式合意を理解し、日本法におけるどのような制度と対応関係があるのかを説明することができる。	
	事前学修	日本の契約実務における付随的な合意にはどのようなものがあるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無方式合意と、日本法における付随的な合意との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	準契約	古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。この講義で扱う準契約とは、いわゆる事務管理や不当利得に類する制度であり、日本法と比較してさまざまな異同を有していた。この講義ではそれらの異同を踏まえつつ、古代ローマ法上の準契約という概念を解説する。古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における準契約を、事務管理およびコンディクチオを中心に理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における準契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における準契約と、日本の民法典における準契約との異同を、事務管理およびコンディクチオを中心に整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	まとめ（ローマ債権法の有機的理解）	この講義では、古典期ローマ法における債務法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	120分
	事後学修	法の歴史的発展について、債権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	120分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
本年度の学部の方針に従い、原則的に対面方式とする。到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	25									75
レポート等	到達目標①②に関する基礎的な能力・知識が身についているかを、レポート等によって評価する。	15	10									25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ債権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2001	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日12:00-13:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	訴権法体系の基礎		古典期ローマ法における訴権の概念を学修する。日本法はドイツ法の影響から、請求権を中心とする私法体系を構築している。この講義では、それとは異なる「訴権（actio）」概念を用いた古典期ローマ法の体系を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴権を基礎とする古典期ローマ法と請求権を基礎とする現代法との差異を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における請求権の概念を復習する。	120分
	事後学修	講義で扱った訴権法体系と現代の請求権との違いを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
2	債務関係の分類		古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。日本の民法典にも契約カタログが準備されているように、古典期ローマ法においても有名契約という概念が存在した。そこではいわゆる類型強制という仕組みが重要な役割を果たす。この講義では、契約自由の原則が妥当しない古代ローマ法における債務関係の基礎を紹介する。古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法における債務関係が現代法の基礎になっていることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における債務関係にはどのようなものがあるかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における債務関係と日本法における債務関係との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
3	要物契約（消費貸借）		この回からは、順次、古典期ローマ法における契約カタログを、個々の類型ごとに概観していく。まず最初に要物契約から取り掛かり、古典期ローマ法における「消費貸借（mutuum）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における消費貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
4	要物契約（寄託・使用貸借・プレカリウム）		古典期ローマ法における「寄託（depositum）」「使用貸借（commodatum）」「プレカリウム（precarium）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における寄託および使用貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。また、古典期ローマ法で認められていたプレカリウムという法制度がなぜ現代法では消失しているのかを考える。	120分
5	要物契約（質・信託）		古典期ローマ法における「質（pignus）」および「信託（fiducia）」のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における質および信託と日本の民法における質および信託との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における質および信託とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における質および寄託と日本法における質および信託との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
6	言語契約（問答契約）		古典期ローマ法における「問答契約（stipulatio）」のあり方を学修する。問答契約は、契約内容自由の原則が妥当しない古代ローマ法において、契約に付随的な条項を追加する重要な手段のひとつであった。この講義では、契約内容自由の原則の意義を再確認する文脈で、問答契約の仕組みを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における問答契約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代日本における契約が文言上の要式性を求められていない理由を考える。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における問答契約は、現代日本におけるどのような制度によって代替されているのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	諾成契約（売買：総論）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、成立要件および効果の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買の成立要件と効果を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、その成立要件および効果の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	諾成契約（売買：担保責任）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、担保責任の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買がどのような担保責任によって支えられていたかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買にはどのような担保責任があるのかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、担保責任の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	諾成契約（賃約）	古典期ローマ法における「賃約（locatio conductio）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における賃約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	賃約は日本法におけるどの契約類型に対応しているかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における賃約が日本の民法典においてどのようなかたちで現れているかを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	諾成契約（委任）	古典期ローマ法における「委任（mandatum）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における委任とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
11	諾成契約（組合）	古典期ローマ法における「組合（societas）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における組合とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
12	無名契約	古典期ローマ法における無名契約のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、ある契約が有名契約であるかそれとも無名契約であるかは、民法典の規定の直接的な規律に服するか否かという点において、どちらも有効な契約であることに変わりはない。しかし、古代ローマにおいては、無名契約であることは救済対象にならないというリスクに晒されていた。この講義では、そのような状況下における無名契約の救済手段を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無名契約と日本の民法典における無名契約との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における無名契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無名契約と日本法における無名契約との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	無方式合意		古典期ローマ法における「無方式合意（pactum）」のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、当事者は何ら方式によらずに自由に付随的な合意をなすことができる。しかし、古代ローマ法においては、無方式合意は訴権を発生させず、そのままでは履行を貫徹させられないという構造があった。この講義では、そのシステムと救済手段について紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無方式合意を理解し、日本法におけるどのような制度と対応関係があるのかを説明することができる。	
	事前学修	日本の契約実務における付随的な合意にはどのようなものがあるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無方式合意と、日本法における付随的な合意との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	準契約		古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。この講義で扱う準契約とは、いわゆる事務管理や不当利得に類する制度であり、日本法と比較してさまざまな異同を有していた。この講義ではそれらの異同を踏まえつつ、古代ローマ法上の準契約という概念を解説する。古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における準契約を、事務管理およびコンディクチオを中心に理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における準契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における準契約と、日本の民法典における準契約との異同を、事務管理およびコンディクチオを中心に整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	まとめ（ローマ債権法の有機的理解）		この講義では、古典期ローマ法における債務法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	120分
	事後学修	法の歴史的発展について、債権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	120分

VIII群

教職課程科目

VIII群

教職課程科目

科目名	教育課程論	担当者	奥田 智	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。その際、全国学力・学習状況調査結果等から生徒の学習課題を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントをはじめとする教育課程編成に関わる全国の事例研究を行う。また、過去の学習指導要領の改訂の歴史的な変遷にも触れながら、教育課程編成の意義についても理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。 【到達目標】 1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、説明できるようになること。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できるようになること。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できるようになること。 4. 学習指導要領改訂にある背景及び要点を理解し、説明できるようになること。

【履修条件】
教員免許の取得を目指す者

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な教育課程編成の事例研究などについては原則は講義形式で行うが、必要に応じて演習形式も随時取り入れ、対話的・協働的な学びの場とする。レポートの講評を授業内にて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5回以降、事例研究に関する課題に関わる演習及びディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	教育課程の基本概念について説明できる。【知識】								
②	新学習指導要領のねらいについて説明できる。【知識】								
③	カリキュラム・マネジメントについて説明できる。【知識】								
④	学校における教育課程編成の手続きと内容について調査及び説明することができる。【知識】【技能】								
⑤	教育課程の意義について積極的に意見を述べることができる。【態度・習慣】【技能】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第3回の授業内において到達目標①②③に関わる内容が理解できているか、レポート等の作成を通して確認する。	20	20	20								60
討論・発表等	第7回及び15回の授業内において到達目標④⑤に関わる事例を踏まえてディスカッション等を行い理解度を確認する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート等及びディスカッション後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成30年度		任意
中学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成29年度		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける。okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員 教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員・教育委員会指導主事の経験を生かして学習指導案作成及び模擬授業指導においてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	教育課程		教育課程の基本概念について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して教育課程の基本概念について理解し説明することができる。	
	事前学修	教育課程の基本概念について事前に調べる。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
2	学習指導要領		学習指導要領の変遷と時代背景について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して学習指導要領の変遷と時代背景について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
3	学習指導要領		新学習指導要領のねらいについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して新学習指導要領のねらいについて理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
4	教育課題		国際学力調査及び全国学力学習状況調査結果からわかる教育課題について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して教育課題について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
5	教育課程編成		教育課程編成の事例研究を行う。1
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
6	教育課程編成		教育課程編成の事例研究を行う。2
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。3	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
8	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
9	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(調査等による課題把握)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
10	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(課題の対応策検討)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
11	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(評価及び更なる改善)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
12	教育課程編成の手続きと内容	学校における教育課程編成の手続きと内容について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して学校における教育課程編成の手続きと内容について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教育課程の意義		教育課程の意義について解説する。(授業改善の重要性)
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
14	教育課程の意義		教育課程の意義について解説する。(学校改善の重要性)
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
15	総括		教育課程の意義について総括する。
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分

科目名	教育原論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育を人類の歴史の中に位置づけ、教育を人類の営みと考えるて教育の原理を考察する。多くの教育論の中から、教育学の成立と発展に大きな影響を与えた人々の教育観に注目して教育について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間と教育の関係、学校の成立とそれを支える教育思想、を歴史的な視点から理解することを目的とし、これからの教育の在り方を自ら考察することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
「教育の方法・技術論（教育方法・ICT活用論）」履修の前に本科目（「教育原論」）を履修することが望ましい。

【授業方法】
講義だけでなく、教員採用試験対策問題等を行いながら、解説を加えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。												
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。												
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。												
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。												
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ラーニングリフレクションを毎時間作成し、講義の理解度を確認しながら講義を進める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後の時間に、講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	人類と教育	人類のいとなみと教育の関係について	
	この回の到達目標	人類史の中で教育をとらえられるようになる。	
	事前学修	各自の教育歴を自ら振り返り、今の自分という人格がはどのようにして形成されたのかを考える。それをもとに人がどのよう成長していくか、人の人格はどのように形成されていくのかについて考える。	120分
	事後学修	文献やインターネットを利用して、人の営みと教育が深くどのように深く関連しているのかを説明する事例を収集する。その中から、各自が各自の言葉で教育について表現できるようにする。	120分
2	教育現象の分類	教育現象の分類について（海後宗臣の教育論紹介を例として）	
	この回の到達目標	教育現象は単純な現象ではなく、分類して検討できることを理解する。	
	事前学修	あらゆる生活現場で起きている教育現象の中から、人格の形成において、人類に共通する問題に注目して、その事例を収集整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「陶冶」「教化」「形成」という教育現象の分類を通して教育を考え整理する。この三つの教育現象のそれぞれの特徴をまとめる。	120分
3	「子ども」文化とはなにか	「子ども」文化の成立と教育の発達について（久木幸男の教育論紹介を例として）	
	この回の到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
	事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	学校の定義	学校の定義について考える	
	この回の到達目標	学校とは何か、なぜ人類は学校を発展させたかについて理解する。	
	事前学修	学校とは何か、学校の発生はいつかという問題に答えることができる文献や記事を収集する。同時に、庶民が学校に通うようになったのはいつ頃かについても考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学校が持つ教育機能について知見を広める。同時に庶民のための学校が存在しない時代でも、庶民は教育を受けていた事実を理解する。	120分
5	古代ギリシャの教育	近代教育学成立以前の教育・学校（古代ギリシャの教育の紹介）	
	この回の到達目標	アテネとスパルタの古代ギリシャの教育を比較して、教育の本質を考える。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目で学んだことを手掛かりに、古代ギリシャの歴史を調べ、アテネとスパルタの国家体制の違いに注目する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、社会体制の違いが教育のありかたに強く影響することを古代ギリシャの諸ポリスの例から確認することができることを、自らの表現で説明できるようにする。	120分
6	ルソーの教育思想	ルソーの教育思想 ― 子どもの発見とは何か ―	
	この回の到達目標	教育学成立の源流としてルソーの教育思想について理解する。	
	事前学修	第3回目の講義を手掛かりに、子どもの発見者と呼ばれるルソーについての知見を広める。高等学校や大学講義を手掛かりにして、18世紀のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
	事後学修	教育学の成立・発展にルソーが果たした役割についてまとめる。『エミール』を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	新教育運動	新教育運動の展開	
	この回の到達目標	近代中部ヨーロッパで展開した教育活動を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、16世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。とくに、宗教改革について注目し、スイス、チェコ、ドイツなど中部ヨーロッパの歴史を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コメニウスの生涯と彼の著作『大教授学』及び「世界図絵」が今日の学校教育に及ぼした影響についてまとめる。	120分
8	ペスタロッチの教育思想	近代教育学の成立（1）ペスタロッチの教育思想	
	この回の到達目標	ペスタロッチの教育思想を学び、近代教育学成立の源流を理解する。	
	事前学修	ナポレオン戦争などを通して多くの孤児が生まれた18世紀前後のヨーロッパの歴史を調べる。当時の社会福祉政策がどのようなものであったかなど混乱したヨーロッパの状況を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ペスタロッチの生き方と後に「直観教授」と呼ばれる教授法の開発についてまとめ、各自が自らの言葉でペスタロッチの業績を説明できるようにする。	120分
9	ヘルバルトの教育思想	近代教育学の成立（2）ヘルバルトの教育思想	
	この回の到達目標	ヘルバルトの生涯を理解し、教育学成立の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、18世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ヘルバルトとペスタロッチの出会いや教育学成立に果たした役割についてまとめ、自らの言葉でその意義を説明できるようにする。	120分
10	デューイの教育思想	進歩主義教育運動の展開	
	この回の到達目標	プラグマティズムとデューイの教育思想を理解し、アメリカでの教育学発達の意味を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、新教育運動がアメリカに伝わって、進歩主義教育といわれるようになった経緯を明らかにし、デューイ主義が世界に及ぼした影響についてまとめる。	120分
11	コアカリキュラム	デューイ主義とコアカリキュラム	
	この回の到達目標	コアカリキュラムとは何かを理解する。	
	事前学修	教育学用語としての「コアカリキュラム」、近年文科省が指摘している「コアカリキュラム」の意味について、教育学辞典や書籍を検索してまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コアカリキュラムの意味を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
12	日本近代教育史	わが国近代公教育の成立と発展	
	この回の到達目標	わが国の学校教育発展の過程から教育の意義や意味を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、近代日本の教育政策について調べる。とくに、富国強兵政策と教育政策の関係についてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、戦前の学校教育が国家主義教育と呼ばれる理由についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦後教育改革	戦後教育改革と学習指導要領の変遷	
	この回の到達目標	戦後教育改革の理念を理解して、現代教育の原点を知る。	
	事前学修	戦後教育改革とはどのようなものであったかを理解するために、高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、終戦と戦後史について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、戦後教育改革が目指したものについてまとめる。とくに、GHQが示した日本の教育改革への指令が意味していたものとは何かまとめる。	120分
14	現代教育の原点	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
	この回の到達目標	ゆとり教育成立の背景を理解し、現代の教育の原点を知る。	
	事前学修	1970年代後半から日本の学校教育が直面した「いじめ」、「非行」、「校内暴力」という言葉について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
	事後学修	1970年代後半から1980年代にかけて日本の教育界が目指したものとは何であったか。そこから試行されてきた「ゆとり教育」の導入がもたらしたものとは何だったか、講義ノートを確認して、まとめる。	120分
15	現代の教育	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
	この回の到達目標	新学力観による学校教育の意味を理解し、これからの教育を展望できるようになる。	
	事前学修	「ゆとり教育」の時代から新しい価値観の教育へと変遷した経過について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、これからの学校が求められるものとは何か、どのような改革が必要か、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
これまでの教職課程での学びを総括するかたちで学習を進めていきます。学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。 【文部科学省「教職実践演習」設置の意向に沿うように、学校教育現場の教師を外部講師として招聘し、教育実践家から学びます】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。受講者の多数が介護等体験や教育実習を経験していることを踏まえ、これまで学び得た知見をグループによる発表と討議をもって、共有、相対化できることを最終的な到達目標とします。

【履修条件】
教職を志望する学ぶ4年生を対象とします。

【授業方法】		
個人報告を中心に進めます。報告内容には、授業ごとに講評いたします。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。なお、予習復習の時間は、あくまで目安であり、個々人の生活状況に応じて調整してください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教職の歴史的意義と、現代における多様な課題について理解し、自己の見解を叙述できる。											
②												
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	口頭報告の内容に関するレポート（50%）。	50										50
討論・発表等	個々人による口頭報告（50%）。	50										50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとの口頭報告に対するリプライ。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方についての説明とグループ分け。	
	この回の到達目標	授業の目的について理解する。	
	事前学修	新聞をチェックし、教職に関する話題に目を向ける。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
2	公教育と教育実践	学生による発表報告（1）学校教育現場の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	公教育と教育実践について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
3	学校教育現場と教職の意義	学生による発表報告（2）学校教育現場の「実践知」について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教職の意義について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
4	学校教育現場と生活指導	学生による発表報告（3）学校教育現場における生活指導について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と生活指導の意義について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
5	学校教育現場と教科教育	学生による発表報告（4）学校教育現場における教科教育について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教科教育の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
6	学校教育現場と授業実践	学生による発表報告（5）学校教育現場における授業実践について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と授業実践の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	学校教育現場と教育実践	学生による発表報告（6）学校教育現場における教育実践について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育実践の関係について学ぶ	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
8	学校教育現場と教育行政	学生による発表報告（7）学校教育現場と教育行政の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育行政の相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
9	学校教育現場と教育政策	学生による発表報告（8）学校教育現場と教育政策の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育政策の相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
10	学校教育現場と社会問題	学生による発表報告（9）学校教育現場と社会問題の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と社会問題の構築について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
11	青少年文化と学校教育	学生による発表報告（10）青少年文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	近年の青少年文化と学校教育の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
12	学校表象と教育課題	学生による発表報告（11）表象文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校表象と教育課題相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	逸脱と非行	学生による発表報告（12）逸脱と非行について学ぶ。	
	この回の到達目標	逸脱と非行と教育課題について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
14	学校教育と犯罪	学生による発表報（13）学校教育と犯罪の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育を分析対象とする犯罪社会学と教育社会学の知見について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
15	教職の歴史と現代日本	まとめ（総括討議）	
	この回の到達目標	教職の歴史と現代日本について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	教職課程での学習を振り返る。	120分

科目名	教育制度論	担当者	李 吉魯	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育においては、その目的とそれに関わる者の範囲（児童、生徒、教師など）が教育制度によって規定されており、目的達成のための方法・手段（学校制度、学校経営、学校組織、教育内容、教材など）にも共通性が認められる。この授業では、教育に関する社会的、制度的および経営的事項についての基礎的知識を習得するとともに、今日に抱えている様々な教育問題や教育動向などに関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・授業目的 教育に関する基礎的知識、概念、また法規や制度について学び、学校教育のあり方や国民の教育を受ける権利などを理解する力を養成することを目的とする。 ・到達目標 教育に関する社会的、制度的および経営的事項について学び、それに基づき今日の教育改革や学校運営の取り組みなど、直面している様々な教育問題を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
①課題等は、提出期日を厳守してください。②欠席届は、事前に提出してください。公欠届は、事後になります。③公共交通機関の遅延による遅刻は、遅延証明を提示してください。

【授業方法】
配布資料等に基づき、講義形式で授業を行う。授業は、主としてパワーポイントを用いて進行する。授業回ごとに、classroomにおいて事前・事後学修の連絡及び各授業回の資料を掲載する。また、毎回の授業の主要論点について、理解を確認するため、受講生に質問するとともに、受講生同士の意見交換を積極的に促していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回以降、現代の教育問題に関する課題を与え、次回の授業で、それに基づいたグループ・ディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学校と教育の歴史・思想について基礎知識を知り、幅広く理解を深めることができる。（知識）										
②	専門知識を系統的に習得し、得られた知識を理解し、説明することができる。（知識）										
③	自ら教職への適性について考え、自己を高めることができる。（技能）										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	8回目（中間テスト）および15回目（授業内試験）により、到達目標①②に関する知識（基礎及び応用）が身についているか、及び到達目標②③に関する専門知識や今日に抱えている教育問題などを幅広く理解しているかについて確認する。	30	30									60
小テスト等	授業内（2回）に実施する小テストにより、1回目は到達目標①にかかわる基礎知識が身についているか、2回目は到達目標②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポート課題が適切に求められている内容になっているか、到達目標③にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたか、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			10								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に作成したリアクションペーパーを含め、試験（授業内試験・小テスト）やレポート課題などについてはフィードバックを行う（例えば、テストの解説・レポートの講評・採点後の返却など）。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説 教育制度	森秀夫	学芸図書	2011年	参考書	任意
新訂版『わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開―』	北野秋男編	啓明出版	2012年	参考書	推奨
現代教育概論	佐藤晴雄	学陽書房	2021年	参考書	推奨
やさしく学ぶ教育原理	古賀毅編	学文社	2021年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
土曜日12:20～13:00 授業講堂にて（事前にメールでアポイントメントを取ること）。メールアドレス：lee.giro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【学校と教育制度】		授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法などを説明し、参考資料の紹介を行う。また、学校と社会・教育との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度が何を意味するのか、またその学校と教育の関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教育及び教育制度の定義などについて調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、自分の学修計画と他の教職科目との関連についてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
2	【公教育の仕組み】		公教育の原理（義務制、無償制、中立性）、及び公教育の理念「教育を受ける権利」と「教育の機会均等」、そして公教育の仕組みなどについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。		
	事前学修	公教育制度をめぐる課題について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、公教育の基本原則及び公教育制度をめぐる課題などについてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
3	【近代学校教育の制度化】		学校のはじまり、近代学校の制度化過程、義務教育制度、学校教育制度発展の道筋などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校教育制度が先行して実施された欧米における学校教育の歴史を理解するとともに、欧米の教育制度に学びながら急速に近代化を果たした日本の学校教育制度の特徴について説明することができる。		
	事前学修	近代化と学校との関係について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認するとともに、欧米と日本の近代学校制度の流れについてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
4	【教育法規】		教育法規の種類や内容を検討し、教育法規が教育の機会均等と教育水準の維持向上に果たしている役割等について学修する。また、教育基本法の改正や教育行政の責任の明確化などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教育法規の種類及びその内容等について幅広く理解し、説明することができる。		
	事前学修	教育法規の中心となる教育基本法及び学校教育法の内容やその特徴について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、教育法規の種類や内容について理解するとともに、教育基本法と改正教育基本法の違いについてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
5	【中央及び地方の教育行政】		教育の目標に重要な役割を果たす文部科学省及び教育委員会の組織と役割について学修する。また、その教育目標を実現させるための教育行政全体の仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央及び地方の教育行政機関の組織と役割について理解し、説明することができる。		
	事前学修	文部科学省と教育委員会の役割について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、中央及び地方の教育行政組織の役割と権限などについてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
6	【学校経営】		教育活動における学校経営、学校の情報公開と説明責任等について学修する。また、地域とともにつくる学校の組織運営制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校の運営組織制度の仕組みを理解し、学校経営における今日的課題について説明することができる。		
	事前学修	近年の学校経営改革の特徴について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、学校経営改革によってもたらした変化等についてノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【学校と教育財政】	教育財政の意義、学校財務、中央と地方における教育財政の特徴などについて学修する。また、学校の教育費（公教育費と私教育費）の実態について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校運営経費の実態を理解するとともに、教職員の給与、経費の負担主体、教育費の位置づけなどを含む今日的課題について説明することができる。	
	事前学修	市区町村教育委員会の教育予算とその内容について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、教育財政制度の制度改革の課題についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	【中間テストおよび解説】	これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているかについて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を見直し、試験に向けて準備する。	120分
	事後学修	試験で理解できなかった学修内容を見直し、重要な部分をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
9	【教員養成】	教員養成の仕組み、教職課程の具体像、教員免許状の種類、教員免許制度改革の動向について学修する。また、教師教育における研修の形態や研修制度などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教職員の法定研修としての初任者・10年経験者研修の目的や実施状況などを知り、説明することができる。	
	事前学修	教育公務員には研修を行う義務があり、研修の機会が保障されている。教職員の研修にかかわる条文（例えば、教育基本法、教育公務員特例法、地方公務員法など）を調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、初任者研修と10年経験者研修の具体的な実施状況を理解し、「学び続ける教員」を支える仕組みについてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	【学校評価】	教育活動における学校評価の在り方について学修する。具体的には、児童生徒の管理および指導、学校評価の導入の経緯とその目的と意義、学校評価の内容と実施方法などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校評価の考え方や進め方などについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	文部科学省編「学校評価ガイドライン」について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、学校評価の基本的な考え方についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	【学校と家庭・地域の連携】	家庭教育とその支援、地域社会に根差した学校づくり、コミュニティ・スクールの仕組みや活動状況などについて学修する。また、近年の学校・家庭・地域社会の連携に関わる法制度の改正について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校・家庭・地域の連携に関わる具体的な内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	近年の学校・家庭・地域の連携に関わる法改正について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、学校と家庭・地域社会との連携の重要性についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	【学校保健及び安全教育】	学校保健及び学校安全の中心となる児童・生徒及び職員の健康診断と食品の安全性の確保、事件・事故や災害時の安全対策などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校保健では健康診断の時期や実施者、感染症予防の措置など、安全管理に関して安全計画や対策を理解し、説明することができる。	
	事前学修	学校保健及び学校安全にかかわる条文について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、災害に対する備えと発生時及び発生後の対応策についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【諸外国の学校制度と教育動向】	アメリカ・イギリスなど、それぞれの国の歴史的事情、社会的条件などを背景として成立した学校教育制度の特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸外国の学校体系や教育制度の仕組みなどを理解し、説明することができる。	
	事前学修	学校体系（複線型、単線型、分岐型）のそれぞれの特徴を調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、諸外国の教育制度と日本の教育制度の共通点と相違点についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	【現代日本の教育制度改革】	子どもの貧困や教育格差、大学入試制度の改革など、今日抱えている教育問題について学修する。また、「格差」と公教育の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭の経済力や教育力の格差が子どもの学力の格差に結びつき、それらがさらに進学や雇用の機会に影響することを理解し、説明することができる。	
	事前学修	「いじめ防止対策推進法」（法律第71号）の成立とその特徴について調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、公教育の役割等についてノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
15	【授業内試験】まとめ	授業のまとめとして、これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているか、及び今日に抱えている教育問題などをも含めて理解しているかについて総合的に確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験に向けて準備する。	120分
	事後学修	試験で理解できなかった学修内容を見直し、重要な部分をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

科目名	教育相談	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
オムニバス形式で3名の担当者が講義中心で行う。講義ごとに、関連したエクササイズまたは知識の確認のための質問を取り入れる。これにはグループ討議、ロールプレイング、心理検査（性格検査等）、事例研究等を含み、最後に討議などを行い、リフレクションペーパーを作成して提出する。文科省等のHPからダウンロードした資料を使用して、グループ討議等行う。最後に課題についてのレポート提出を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
幼児、児童、生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団で適応的に生活する力を育み、個性や人格の成長を支援する。発達状況に即して心理的特質や教育課題をとらえて支援する基礎知識や、カウンセリングの意義、理論、技法の知識を身に着ける。そのために、①教育相談の基本的知識を養成することを目的とし、その実践のために、②組織内外や専門家と、また教員同士と「連携」をしながら、③教師自らがカウンセリングの理論と技術の基礎、基本的態度を身につけ、心理教育的援助の実践に寄与できる知識と資質を得ることを目標とする。そして、教師としての教育相談のあり方を考え、学ぶこととする。

【履修条件】
心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、発達と学習、を履修済みまたは履修中であること。精神分析学を履修することが望ましい。

【授業方法】
3名の担当によるオムニバス形式の授業となる。講義形式を中心として、技法などを実習する。そのために授業中にロールプレイングや場面想定法、検査実習などを行い、集団討議等を行う。それぞれのフィードバックは授業内に行う。課題やレフレクションペーパーの提出に、「レスポンス」や「クラスルーム」を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイング、検査実習等をもとにして、集団討議等を行う。リフレクションペーパーを提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学校における教育相談の意義と課題を理解している。											
②	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。											
③	幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。											
④	学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。											
⑤	受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。											
⑥	職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。											
⑦	いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。											
⑧	教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。											
⑨	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。											
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を行い、授業内容についての理解度を評価する。	2	2	2	2	2	2	2	2	2		18
小テスト等	各授業ごとに、その授業でのキーワードなどの理解度を評価する。また復習としてそれまでの授業でのキーワードなどに関して、知識の定着度を評価する。	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
レポート等	授業全体を通して、「教育相談」に対する各自の考えや興味等に関連する学術文献等を読み、レポートを提出する。文献等の選択、理解度、文章表現等を評価する。	5	5	5				5		5		25
討論・発表等	カウンセリングの意義、理論、技法等の基礎的知識の獲得、ロールプレイングや検査実習等の結果、及び心理学的知識に基づくカウンセリングの理論、基礎的技法の獲得などを評価する。		5	5	5	5	5	5				30
授業への参画度	心理検査実習やロールプレイなどのまとめと各授業でのレフレクションペーパーの内容、提出等から、参画度を評価する。	2	2	2	2	2	2	2	2	2		18
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	10	10	10	15	5	10		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業においてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考					

【オフィスアワー】
各担当者が示すメールアドレスに、法学部から割り当てられたメールアドレスを使用して、学科、学年、学生番号、名前を記入して、質問事項を記入して、事前予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター（森澤亮介）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。 また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教育相談の授業の進め方と受講の注意点を理解する		授業の進め方、評価の方法等の説明と集団討議、心理検査実習、ロールプレイング等のグループ分けの実施、及び、評価の方法について（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 「教師という職業」にとって、なぜ教育相談が必要なのか、どの様に学ぶのかを理解して説明できる。		
	事前学修	授業形式、授業概要、評価の方法、各授業の内容の概要を読み、受講のための注意事項を確認する。		120分
	事後学修	本授業は、3人の担当者によるオムニバス形式であること、実習を含むこと、授業日程（特別指定された日程は別途示す）に注意して、自分の学修計画全体の中の位置づけを確認する。		120分
2	教育相談の歴史		教育相談総論：（1）歴史と理念を理解する （教育相談とは、日本の教育相談の歴史と特徴、諸外国の教育相談の例等）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の歴史を日本と日本以外の国々から学び、現代日本における意義と必要性を理解して説明できる。		
	事前学修	「教育相談」のイメージ、自分の経験の中での教育相談について、まとめる。		120分
	事後学修	「教育相談」のイメージが、授業前後でどのように変化したのか（しなかったのか）、それはなぜか、をまとめる。		120分
3	教育相談のシステム		教育相談総論：（2）理論と方法を理解する （学校という組織、校内相談システムと専門機関との連携、協働、SC、SSWRとの連携と協働、教育相談における予防、治療、開発の側面）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1、8、9 教育相談の理論と方法について、「学校という組織」「連携」という視点から知識を獲得して理解して説明できる。		
	事前学修	「学校という組織」そして「連携」とはどのような意味か。教育相談は、誰が、どのような方法で、だれに対して行うのか、についてまとめる。		120分
	事後学修	学校という組織として「協働」を基本として教育相談が行われるのはなぜか、をまとめる。		120分
4	教育相談の実際		教育相談総論：（3）教育相談の課題と解決のための学校等組織の取り組みを理解する。 （教育相談の年間計画と運営、形態、展開、評価と活用、教育相談担当者に求められる基本的態度、保護者の理解と対応）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 6 児童、生徒、さらに保護者に対する教育相談において、具体的にどのような内容を計画、実施するのかを理解して説明できる。		
	事前学修	学校組織における教育相談の実際を考え、教師として行う行動計画を具体的にまとめる。		120分
	事後学修	学校組織の中で、教育相談の具体的過程を知り、組織の一員としての教師に求められる行動をまとめる。		120分
5	児童生徒にとっての教育相談とは		教育相談総論：（4）児童生徒にとっての教育相談の意味を理解し、援助の方法を理解する。 心理検査等の実習等を行い、アセスメントの理解を深める。（自己開示、悩みと相談、児童生徒の発達課題と教育相談、アセスメントと方法）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 3 児童生徒にとっての教育相談とは何か、について理解して、援助方法を理解して説明できる。		
	事前学修	児童生徒にとって、悩みとは何か。誰に相談するのか、その後の経過について、自分の経験等を通して考えてまとめる。		120分
	事後学修	児童生徒の悩みは、教育相談を通じてどのような過程を経るのか。その際のアセスメントとは何か、その方法についてまとめる。		120分
6	カウンセリングの基礎理論と技法： カウンセリングマインド		カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法 1：カウンセリングマインドの意味と意義を実習をもとに理解を深める。（カウンセリングマインド、カウンセリングにおける人間関係、傾聴、共感リフレーミング）（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標 2、4、5 カウンセリングマインドとは何か、カウンセリングの基礎理論と技法について理解して説明できる。		
	事前学修	教師が教育相談を行う際に求められる資質とは何かを考えてまとめる。		120分
	事後学修	教師にとってなぜカウンセリングマインドが必要であるのか、基礎的な理論と技法をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	カウンセリングの心理学的基礎理論	カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法2：カウンセリングの心理学的基礎理論と技法を理解する。（フロイト、ロジャースの理論、学習理論と認知行動療法）（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標2、4、5 フロイト、ロジャースの理論、学習理論、認知行動療法について、理解して説明できる。	
	事前学修	参考書などから、臨床心理学についての知識を得て、カウンセリングの基礎理論と技法をまとめる。	120分
	事後学修	フロイト、ロジャース、学習理論、認知行動療法、について、その特徴と相違点をまとめる。	120分
8	教育相談の予防、開発的側面	予防、開発的取り組み：ソーシャルスキルトレーニングを中心にしてその理論と技法を理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標2、3、7 教育相談における予防、開発的側面とは何か、具体的に理解してその理論と技法を説明できる。	
	事前学修	上手な人間関係の築き方に必要なスキルについてまとめる。	120分
	事後学修	社会的スキルとは何か、また自分の社会的スキルの自己評価と人間関係について振り返り、まとめる。	120分
9	問題行動と教育相談1 暴力といじめ	「問題行動」と教育相談1：問題行動とはなにかについて、暴力、いじめ問題を中心にして理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標2、3、7 具体的な問題行動、暴力といじめについて、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。	
	事前学修	暴力といじめに関する統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。	120分
	事後学修	暴力、いじめなどについて、加害者と当事者及び教師の立場から、教育相談の関連をまとめる。	120分
10	問題行動と教育相談2 不登校	「問題行動」と教育相談2：不登校を中心にして、ロールプレイングを行い、その理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標2、3、7 不登校について、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。	
	事前学修	不登校についての統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。	120分
	事後学修	不登校の事例について、教師としての立場から教育相談の関連と展開をまとめる。	120分
11	「学力問題」という問題	「問題行動」と教育相談3：「学力問題」という問題について理解する。ロールプレイングを行い、その理解を深める。（学習意欲、学習習慣、学級崩壊等）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標6 児童生徒、教師、保護者のそれぞれの視点から、「学力問題」とは何かを事例をもとにしながら理解して説明できる。	
	事前学修	なぜ学ぶことに積極的になれないのか、なぜ子供の学力が問題なのか、教師にとって児童、生徒の学力問題とは何か、学級崩壊とは何か、等についてまとめる。	120分
	事後学修	学ぶことに消極的な児童生徒に、教師として、保護者として、また教師が保護者に対して、どのような教育相談が考えられるかをまとめる。	120分
12	発達障害と教育相談	発達障害と教育相談；発達障害のとらえ方と対応、アセスメント、認知発達、社会情動発達言語発達とその支援、保護者への支援について、集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）	
	この回の到達目標	到達目標2、3、6、8、9 発達障害の定義、児童生徒及び保護者への教育支援の実際について、事例から理解して説明できる。	
	事前学修	「発達障害」の定義と教育相談の事例を調べてまとめる。	120分
	事後学修	発達障害と教育相談の実際について教師と保護者の視点からまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インクルーシブ教育と教育相談	インクルーシブ教育と教育相談：インクルーシブ教育の基本的概念、インクルーシブ教育の必要条件について検討し、教員への支援、保護者への支援について集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）	
	この回の到達目標	到達目標 2、3、6、8、9 インクルーシブ教育の基本的概念と実際、教員と保護者への支援について、事例から理解して説明できる。	
	事前学修	「インクルーシブ教育」の定義を調べて、日本の現状についての資料等からまとめる。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育の実際について、教師と保護者の視点からまとめる。	120分
14	教師のメンタルヘルス	教師の支援と教育相談：感情労働とバーンアウト、教師のメンタルヘルス、教師支援と教育相談、休職と職場復帰とそのサポートについて、理解をする。（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1、4 教師のメンタルヘルスについて、教師支援という視点から理解して説明できる。	
	事前学修	感情労働、バーンアウト、メンタルヘルス、職場復帰、について定義を調べてまとめる。	120分
	事後学修	教師のストレスとは何かを記述して、自分のストレスに対する対処法の特徴から具体的な対処の例を記述する。	120分
15	教育相談とは何か	総合的なまとめを行う（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の意義、理論、方法、展開について、理解して説明できる。	
	事前学修	授業での資料等をまとめて、理解不足の点をまとめる。	120分
	事後学修	教育相談のを履修した自己評価と、今後の学修計画への展開をまとめる。	120分

科目名	教育の方法・技術論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育方法学は教育学の基礎を形成していて、簡単に言うと、学び方、教え方を探求する学問である。本講義では教育方法学の研究領域と研究方法の基礎を学ぶとともに、具体的な教育技術にも言及して、教育実践力を身につけた教員の養成を目指す。私の実務経験を紹介しながら、教育実践力を身に付けられるような講義を展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができるようになることを目的とし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
「教育原論」をすでに履修していることが望ましい。教職に強い関心がある学生、プレゼンテーション技術を学びたい学生。

【授業方法】
講義を中心に展開するが、適宜レポートを提示して、学生自らが情報機器を利用して教材・資料制作を行う機会を設ける。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育方法学・教育技術論の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	教育方法学・教育技術論が現代の学校教育や社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代学校の問題点はどこに原因があるのか、教育方法学の立場から明らかにして、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の学校教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ラーニングリフレクションを毎時間作成して、講義の理解度を適宜確認しながら講義を進める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後に、講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教育方法学とは何か	教育学における教育方法学の位置について	
	この回の到達目標	ガイダンス、教育学における教育方法学の位置について学ぶとともに、ICT教育を踏まえた授業改善の必要性を考える。	
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、わかりやすい授業とはどのような授業であったか、興味関心が高まる授業とはどんな授業であったかを思いおこしてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教育方法学研究が教育学の成立を促したことをまとめる。教育学研究のなかで、教育方法学の意味について自らの言葉で表現できるようにする。	120分
2	教育方法学の歴史	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践を歴史的に学ぶ。	
	この回の到達目標	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践を歴史的に学び、ICTを活用した授業実践の必要性を明らかにする。教育方法学に寄与した教育家の理論と実践を歴史的に学び、ICTを活用した授業実践の必要性を明らかにする。	
	事前学修	教育原論で学習した「教育学の成立」についてふりかえる。講義ノートを確認して、ペスタロッチやヘルバルトの教育論、教育方法論をまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「直観教授」の理論、「訓育的教授」の理論をまとめて、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	わが国の教育方法学研究	わが国近代公教育の成立と教授法の紹介（古典的教授理論の紹介）	
	この回の到達目標	わが国近代公教育の成立と教授法研究の歴史を紹介し、古典的教授理論をもとに教育方法学理論の基本を理解する。	
	事前学修	日本の近世末期の手習塾の教授方法を調べる。近代公教育で一般的に用いられている「一斉教授」との違いを明確にするために、教育学事典や文献を調査する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、近代公教育の教授法についてまとめる。教育機器やメディアを用いた最新の教育方法の基礎を形成する古典的な教授法の理解に努める。	120分
4	一斉教授法	一斉教授法の成立と問題点	
	この回の到達目標	一斉教授法の成立と問題点に注目し、個を育てる教育方法の重要性とその技術について考察する。	
	事前学修	高等学校での学習や大学での学習を基礎として、イギリス産業革命期の歴史について学ぶ。とくに、年少労働者が過酷な環境のなかで、資本主義の発達を支えた問題に注目して文献検索をおこなう。	120分
	事後学修	産業革命期の庶民教育の方法として、安価で合理的な教授法として「一斉教授」が普及した事実を、講義ノートから確認する。また、この教授法が基本的に無理な教授法であったことに理解を深める。	120分
5	学習集団	学習集団の編成と学習集団に適した指導法の紹介	
	この回の到達目標	授業を構成する基礎要件としての「学習集団」の編成と学習集団に適した指導法について考察し、ICT 環境整備、ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校における ICT 環境の整備の在り方について考える。	
	事前学修	学校教育において、学習は集団を編成して行われる。この集団の種類や編成方法について、各自の教育歴・学校歴の中から経験をまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習集団編成の理論と方法についてまとめる。学習集団の編成とは深い関係があることを理解し、自らの言葉で表現できるようにする。	120分
6	教具・教育機器（1）	教具・教育機器を用いたバズ学習の実践方法	
	この回の到達目標	教具・教育機器を用いたバズ学習を実践して、教師が主導する場合の教育技術、特別に支援を必要とする生徒への指導技術について考察する。	
	事前学修	小集団学習、いわゆるグループ学習の経験を各自の教育歴・学校歴の中から抽出してまとめる。各自の経験の中で、どのような学習集団が望ましかったか考え、その理由についてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、バズセッションの理想的な編成方法と意義についてまとめる。また、バズ学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	教具・教育機器（2）		教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践方法	
	この回の到達目標	教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践を通して、生徒が自ら学ぶ授業の指導技術とそこにICTを効果的に用いる方法について検討する。		
	事前学修	各自お教育歴・学校歴の中から、形成テスト（ドリル・小テストなど）の経験についてまとめる。		120分
	事後学修	完全習得学習の実践方法についてまとめる。また、完全習得学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。		120分
8	ティームティーチング		ティームティーチングでの教具・教育機器の利用	
	この回の到達目標	ティームティーチングにおける各教師の役割と教具・教育機器の利用方法の検討を通して、ICTを用いた授業の構成方法と指導方法を実践的に検討する。		
	事前学修	フィンランドなど北欧諸国の教育を紹介したサイトをインターネットで検索し、それらの国の授業風景との日本の教室での授業風景との違いについて感じることをまとめる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ティームティーチングの方法について自らの言葉でその意義を表現できるようにする。		120分
9	学習指導案		学習指導案とは何か（種類と目的）	
	この回の到達目標	これからの学習環境とテクノロジーの役割をこれからの学習指導案とは何か（種類と目的）という観点から考察する。遠隔・オンライン教育の意義やそれを可能にするシステムについても学び、学習履歴などの教育データを指導や学習評価に活用することや校務 処理と教育情報セキュリティの重要性をも念頭に置いた学習指導案作りについて学ぶ。		
	事前学修	インターネットで文部科学省のホームページを検索して、学習指導案や各種解説の入手方法について学ぶ。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案の意義と目的について理解する。また、各都道府県が示している学習指導案のモデルの入手方法についてまとめる。		120分
10	教材研究		学習指導案作成のための教材研究の方法	
	この回の到達目標	学習指導案作成のための教材研究の方法をICT技術の活用を通して進める方法を実践的に検討する。社会科・地歴科・公民科の教科的特徴を踏まえて、ICT技術を用いて、参考例や模範例を検索しながら、指導案の作成方法を習得する。		
	事前学修	インターネットで紹介されているさまざまな学習指導案を検索し、それらの特徴や注目点について考える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。また、教材研究の方法について考える。		120分
11	古典的教具		教具・教育機器の発達（1）古典的教具	
	この回の到達目標	教具・教育機器の発達（1）古典的教具を用いた授業の実践。		
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、経験したことがある教具、教育機器についてまとめ、それらがそのような教育効果を上げたか、各自の考えをまとめる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、掛け図や紙媒体の資料を実際にPC上で作成してみる。その過程で、教材作成の難しさや煩雑さを体験する。		120分
12	映像メディア		教具・教育機器の発達（2）映像メディア	
	この回の到達目標	教具・教育機器の発達（2）映像メディアを用いた授業の実践。		
	事前学修	各自の教育歴や学校歴の中から経験したことがある映像提示機器についてまとめる。また、映像教材が学習課題の理解にどのように役立ったかを説明できるようにする。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、各自のテーマにしたがって、映像教材を作成してみる。また、映像教材の背景にある制作者の意図と学習課題との関係適切であったかどうかを考える必要性についてまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ICT	教具・教育機器の発達（3）ICTを用いた教育	
	この回の到達目標	教具・教育機器の発達（3）ICTを用いた教育の実践。	
	事前学修	インターネットを検索して、明らかにフェイクニュース・情報であると思われるものを探し、講義の中で紹介できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、インターネットを用いて教材を作るときの問題点を明らかにし、ICT教育の実践において留意しなければならないことを明らかにする。	120分
14	評価法	評価法の種類と歴史及び意義	
	この回の到達目標	評価法の種類と歴史及び意義ICT技術の利用を加味して考察する。る。	
	事前学修	通知表や調査書など教育評価の方法を考える。各自の教育歴・学校歴の中から、教育評価を示す資料にはどのようなものがあるか、どのような方法が用いられているかまとめる。	120分
	事後学修	課題として示すあるクラスの成績をもとに5段階評価と各生徒に伝えるコメントを実際に作成してみる。一覧表をレポートとして提出する。	120分
15	指導要録	通知表・指導要録作成の意義と方法をICT技術の利用方法を加味して考察する。	
	この回の到達目標	通知表・指導要録の違いを理解して、教育評価の記録と通知方法について理解する。	
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中で、各自が通知表や調査書を受け取った経験をまとめる。通知表は子どもや青年にどのような心理的影響を与えるか考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認するとともに、テキストに紹介されている指導要録を見て、教師にとって成績評価の重要性について考え、各自が各自の言葉でこのことを表現できるようにする。	120分

科目名	現代教職論	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
(1) 日本における学校教育や教職の社会的意義を学習します。(2) 教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学習します。(3) 教員の職務内容の全体像や教員の服務上・身分上の義務を学習します。(4) 学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について学習します。(以上、文部科学省「コアカリキュラム」から引用)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本における学校教育や教職の社会的意義を学習し、教育界の動向を踏まえ、今日の教職員に求められる役割や資質能力を養成することを目的とします。また、学校教育現場の実情や教育実践を理解できることを目標とします。

【履修条件】
教育学分野、教育社会学分野に関心のある学生が対象になります。なお、予習と復習の時間は、あくまでも目安になっています。

【授業方法】		
講義形式。毎回、受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、そのつど応答をします。また、学校教育現場に勤務する教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本教育史と戦後史のなかの教職の位置づけを理解し、自己の見解を叙述できる。												
②	教職教育学の知見から教育実践の意義を理解し、自己の見解を叙述できる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (60%) 。	30	30									60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペー パー)	コメントペーパー (40%) 。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に応答いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	被教育体験と教育体験	被教育経験を相対化する	
	この回の到達目標	被教育体験と教育体験の差異について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	教職課程ガイダンス内容について振り返る。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
2	公教育システムと教職（学問／教科教育のルーツ）	古代世界の教育文化から公教育を考える	
	この回の到達目標	公教育システムと教職について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
3	公教育システムと地域・階層・国公立校	多様な学校教育像を知る	
	この回の到達目標	多様な学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
4	戦前（江戸～明治時代）の学校教育と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の到達目標	戦前の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
5	戦前（大正時代）の学校教育と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
6	戦前（アジア・太平洋戦争下）の学校教育と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦後（1945～1950年代）の学校教育 と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
8	戦後（1950～1960年代）の学校教育 と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
9	戦後（1960～1980年代）の学校教育 と教職像	教師観の歴史的変遷を検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
10	教科教育と学校教育	教師の自主研修と教育研究活動について検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
11	社会科教育と教職像	教育実践のあり方について検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
12	歴史教育・地理教育と教職像	教育実践のあり方について検討する	
	この回の 到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	児童生徒対応と教職像	学校教育における児童生徒観について検討する	
	この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
14	教師像の多様さ	教師の理想と現実	
	この回の到達目標	教職像の多様さについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
15	近代教育と教職	近代教育のなかの教師意義と限界	
	この回の到達目標	近代教育と教職の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

科目名	自然地理学概論Ⅰ	担当者	田代 崇	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
近年，中・長期的時間スケールで発生する環境変動とこれに関する人間社会の対応が大きな注目を浴びている。このような自然－人間環境間の問題を理解するためには，分野を超えた幅広い教養が必要とされており，包括的理解の手段として自然地理学は有用である。この授業では，教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では，教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは，各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学生が、主体性をもって自然現象の発生過程やその時間的変化要因について理解・説明できるようになる。												
②	学生が、主体性をもって自然地理学的課題を見つけることが出来るようになる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容のテーマやその繋がりに関する理解度を評価する。	40	40									80
小テスト等	ランダムに実施する小テストにて、各回にて説明をおこなった理論や現象の詳細に関する理解度を評価する。	10										10
レポート等	作成されたレポート課題にて、自然地理学的視座の理解と現象の説明能力の習得度合いを評価する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業におけるリアクションペーパーや課題等への返答は、提出回の次の授業内にて適宜説明や情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00～14：30/金曜日13:00～14：30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の概要と半期の流れ、評価方法の解説、心構え	
	この回の到達目標	前学期の講義内容を理解し、学習計画を立てられるようになる。（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
2	自然地理学の基礎①	地理学・自然地理学とはどのような学問か、基礎的概念について	
	この回の到達目標	地理学とはどのような学問であるかを理解し、自然地理学、人文地理学、統合領域（地理学）に関して理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
3	自然地理学の基礎②	自然地理学の研究対象とその性質、視座と研究方法	
	この回の到達目標	自然地理学的視座の特徴とその研究対象を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
4	自然地理学の基礎③	地域概念、様々な自然の捉え方	
	この回の到達目標	自然地理学的な地域概念と自然環境の捉え方を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
5	宇宙の中の地球	太陽系と地球、地球の形成史	
	この回の到達目標	惑星としての地球の特徴や地球の成り立ちを理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
6	地球の姿	地体構造、地質時代、プレートテクトニクス	
	この回の到達目標	地球の地質構造と現在に至る過程に関する諸学説を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地形①		地形の定義や地形形成にかかわる営力の基礎	
	この回の到達目標	地形とは何であるか、また地形の形成にかかわる様々な営力に関する基礎的知識を理解し説明できるようになる（SBO s ①）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
8	地形②		地形の形成過程、様々な地形とその成因	
	この回の到達目標	実際に存在する様々な地形の形成過程を理解し説明できるようになる（SBO s ①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
9	気候①		気候の基礎的概念、気候要素と気候因子	
	この回の到達目標	気候とは何であるか、また気候を形成する様々な要素や、これを変化させる様々な要因について理解し説明できるようになる（SBO s ①）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
10	気候②		気候の区分方法、日本の気候など	
	この回の到達目標	地球上に存在する様々な気候とこれを分類する方法を理解し説明できるようになる（SBO s ①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
11	植生①		植生区分方法と森林帯、日本の森林帯	
	この回の到達目標	植生・森林帯の区分方法と日本の森林帯の分類方法を理解し説明できるようになる（SBO s ①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
12	植生②		森林と土壌	
	この回の到達目標	森林帯と土壌の関係および土壌帯に区分方法を理解し説明できるようになる（SBO s ①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	課題学習		身近な自然環境を調べる
	この回の到達目標	第7回～第12回の授業内容および授業中に説明する作図方法を理解した上で、各自が設定した地域の自然環境や現象を調べ、その成り立ちや現状を説明することができるようになる（SBO s②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	各自の設定した地域における自然環境・現象を調べ、レポートをまとめる	120分
14	前学期授業の総括		前学期授業内容のまとめ
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	前学期授業内容の復習	120分
15	授業内試験及び解説		授業内試験、試験内容の解説
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s①②）	
	事前学修	前学期の授業内容を確実に理解する	120分
	事後学修	講義ノートの整理	120分

科目名	自然地理学概論Ⅱ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地球温暖化など環境変化の人間社会に対する影響や人間活動による自然環境への影響の理解を十分なものとするために、自然地理学的知識は有用と考えられる。本授業では、環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響に主眼を置いた地理学的諸トピック挙げて、その時空間分布と影響について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
自然地理学概論Ⅰを履修・単位取得されていることが望ましい

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学生が、主体性をもって自然現象の発生過程やその時間的変化要因について理解・説明できるようになる。												
②	学生が、主体性をもって自然地理学的課題を見つけることが出来るようになる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容のテーマやその繋がりに関する理解度を評価する。	40	40									80
小テスト等	ランダムに実施する小テストにて、各回にて説明をおこなった理論や現象の詳細に関する理解度を評価する。	10										10
レポート等	作成されたレポート課題にて、自然地理学的視座の理解と現象の説明能力の習得度合いを評価する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業におけるリアクションペーパーや課題等への返答は、提出回の次の授業内にて適宜説明や情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00～14：30/金曜日13:00～14：30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	後学期講義の概要，評価方法の解説，心構えなど	
	この回の到達目標	後学期の講義内容を理解し、学習計画を立てられるようになる。（SBOs①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
2	自然地理学の概要①	前学期に学習した授業内容の復習、地理学の基礎的概念	
	この回の到達目標	地理学とはどのような学問であるかを理解し、自然地理学、人文地理学、統合領域（地理学）に関して理解し説明できるようになる（SBOs①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
3	自然地理学の概要②	自然地理学の研究対象・研究方法と技能・役割について	
	この回の到達目標	自然地理学の視座や社会的・学術的な役割を理解し説明できるようになる（SBOs①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
4	環境と自然地理学	自然環境を捉える自然地理学的視点について	
	この回の到達目標	世界における様々な自然環境やその変化を捉える自然地理学的視点を理解し説明できるようになる（SBOs①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
5	環境問題と自然地理学	世界の環境問題を地域問題として捉える	
	この回の到達目標	環境変化の認知と問題の抽出に関わる自然地理学的視座を理解し説明できるようになる（SBOs①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
6	環境問題Ⅰ	気候変化・気候変動について	
	この回の到達目標	気候変化・気候変動に関わる諸要因を理解し説明できるようになる（SBOs①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境問題Ⅱ	エルニーニョ現象，オゾン層破壊について	
	この回の到達目標	エルニーニョ現象，オゾン層破壊を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業中に学習した地図の描画方法やＧＩＳの利用方法を実践する	120分
8	環境問題Ⅲ	越境大気汚染および酸性雨について	
	この回の到達目標	越境大気汚染に関わる物質の循環やこれらの影響について理解し説明ができるようになる（ＳＢＯｓ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容の復習と提出課題の作成	120分
9	自然災害Ⅰ	地震，地震に伴う諸現象	
	この回の到達目標	地震発生のメカニズムや地震に伴い発生する諸現象について理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
10	自然災害Ⅱ	火山に係わる自然災害	
	この回の到達目標	火山噴火のメカニズムやこれに伴い発生する自然災害について理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
11	自然災害Ⅲ	気象現象・水環境に係わる自然災害	
	この回の到達目標	気象現象や水に係わる自然災害等を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
12	課題学習	身近な環境問題や自然災害を知る	
	この回の到達目標	各々の身近な地域に存在する環境問題や自然災害のリスクを探し、対応方法を選択できるようになる（ＳＢＯｓ①②）	
	事前学修	第5回～第11回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習と身近な自然災害やその発生リスク・対策について調べ、課題を作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自然地理学的ケーススタディ	自然地理学的な事例研究の紹介	
	この回の到達目標	自然地理学的視座を基にした問題設定、解決方法の選択、結果の提示までの研究の流れを理解し説明することができるようになる（SBO s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
14	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	後学期授業内容の復習	120分
15	授業内試験及び解説	授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	後学期の授業内容を確実に理解する	120分
	事後学修	講義ノートの整理	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	奥田 智	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景及び改訂のポイント及び、中学校社会科公民分野に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、事例研究等を行いながら「思考力」「判断力」「表現力」等々を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 中学校社会科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている中学校社会科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
中学校社会科の教員免許取得に必修である。また、高等学校公民科・地理歴史科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表を行う。 模擬授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成についてについて説明できる。【知識】								
②	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいについて説明できる。【知識】								
③	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】								
④	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】								
⑤	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7・8回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	第9～14回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案作成及び模擬授業後講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版	年1月 一部改		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かしてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
	事前学修	学習指導要領とはどのような性格を有するものか事前に調べる。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて復習する。	120分
2	新学習指導要領	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について復習する。	120分
3	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
4	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
5	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究①を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究②を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	学習指導案作成		グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
8	学習指導案作成		グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り改善を加える。	120分
9	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
10	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする	120分
11	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
12	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1 グループ 3 0 分× 2 グループ 受講者同士で批評する。
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1 グループ 3 0 分× 2 グループ 受講者同士で批評する。
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
15	総括		生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件についてレポートにまとめる 生徒の学習意欲を高める学習指導という観点で授業を総括する。
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して新学習指導要領において求められている授業のあり方について理解及び説明することができる。	
	事前学修	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件について自身の考えをまとめる。	120分
	事後学修	学習意欲を高める授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
社会科・地理歴史科教育法ⅠⅡを既に履修している学生が望ましい。教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科公民科教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の公民科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の公民科教材の問題点はどこにあるのかを明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の公民科教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような力を身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後に、講師室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領に沿った教材の作成を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会科の成立		19世紀末から20世紀初頭のNEAを中心としたアメリカのカリキュラム改革運動に注目し、社会科成立の背景を理解して社会科教育の意義・意味を理解する。アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。		
	事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。		120分
2	社会科の目標と内容		学習指導要領とは何か、どのような記述があるのかから初めて、中学校社会科および高等学校公民科に関する記述を理解する。	
	この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。		
	事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。		120分
3	教育課程と社会科・公民科		教育課程全体のなかで、社会科・公民科教育の位置について理解するために、カリキュラム・教育課程について学ぶ。	
	この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する。		
	事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。		120分
	事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。		120分
4	中学校社会科公民的分野（1）		中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科が目指す「公民的資質」についてまとめる。		120分
5	中学校社会科公民的分野（2）		中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科公民的分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。		120分
6	中学校社会科の構造		中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて考える。	
	この回の到達目標	中学校社会科の3分野の構造と学習における関連性について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理的分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。		120分
	事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高等学校教育と公民科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校公民科が目指す教育目標を明らかにし、公民科学習が現代の青年の育成にいかに関与するかを理解する。	
	事前学修	高等学校公民科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと高等学校王民家の教科書から、高等学校公民科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	高等学校公共	高等学校公共の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校公共が扱う学習範囲と意義について理解する。	
	事前学修	高等学校公共の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校公共の学習課題をまとめる。とくに、政治的分野と経済的分野および青年論的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校現代社会についての理解を深める。	120分
9	高等学校政治経済	高等学校政治経済の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ政治経済の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校政治経済の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校政治経済の学習課題をまとめる。とくに、政治と経済の学習がどのように配置されているかに注目して政治経済学習の今後のあり方を考える。	120分
10	高等学校倫理	高等学校員りの背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ倫理の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校倫理の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校員りの学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	公民科指導の工夫（1）	暗記教科とにならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	公民科教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心を引き付ける教育活動の実態を理解する。ICT教育を用いてアクティブラーニングを実施する方法と学び実践力を身につける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
	事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型公民科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	公民科指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ公民科教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。ICT教育を用いてアクティブラーニングを実施する方法と学び実践力を身につける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、公民科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。	120分
	事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科公民科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公民科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
	この回の到達目標	評価法と公民科の関係について考え、公民科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
	事前学修	これからの高等学校教育や公民科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
	事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科公民科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	教材研究の方法（1）	発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
	この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
	事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科公民科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
	事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	教材研究の方法（2）	発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
	この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身につける。ICT教育を用いてアクティブラーニングを実施する方法と学び実践力を身につける。	
	事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
	事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	奥田 智	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景・ポイント、高等学校公民科に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、ディベート学習等の事例研究等を行いながら生徒の学習意欲を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 高等学校公民科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている高等学校公民科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
高等学校公民科の教員免許取得に必修である。また、高等学校地理歴史科及び中学校社会科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成など演習形式で行う。演習後、指導案等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表、ディベート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習指導要領における「公民科」の内容構成についてについて説明できる。【知識】											
②	学習指導要領における「公民科」のねらいについて説明できる。【知識】											
③	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】											
④	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】											
⑤	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第8・9回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	8～14回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた模擬授業を実施させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案の作成後に評論する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	教育出版	平成22年6月		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かして学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
	事前学修	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて事前に調べる。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて復習する。	120分
2	新学習指導要領	新学習指導要領における新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	公民としての資質とは何かについてまとめる。	120分
3	新学習指導要領	公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	「現代社会」「政治経済」「倫理」の目標等をまとめる。	120分
4	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「現代社会」に関わる事例研究を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
5	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「政治経済」「倫理」に関わる事例研究を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	ディベート理論	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。	
	事前学修	ディベート学習について事前に調べる。	120分
	事後学修	ディベート準備を継続する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ディベート理論	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。	
	事前学修	ディベートに必要な基礎資料を用意する。	120分
	事後学修	公民科におけるディベート学習の有効性を整理する。	120分
8	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
9	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
10	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
11	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
12	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	学習指導案作成		学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	学習指導案を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	学習指導案作成		学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
15	総括		公民科における課題追究学習の重要性についてレポートにまとめる。 公民科における課題追究学習の重要性の観点で授業を総括する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して公民科における課題追究学習の重要性について理解及び説明することができる。	
	事前学修	公民科における課題追究学習の重要性について自身の考えをまとめる。	120分
	事後学修	公民科の授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科公民科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際 to 実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ、Ⅱを既に履修している学生が望ましい。教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が望ましい。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科公民科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の公民科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の公民科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の公民科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後に、講師室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法	
	この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。ICT教育を実践し、調査研究を基礎としたアクティブラーニング指導方法の基礎を学ぶ	
	事前学修	文献や記事、授業で使う資料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分
	事後学修	教科教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分
2	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法	
	この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。ICT教育を実践し、調査研究を基礎としたアクティブラーニング指導方法の基礎を学ぶ	
	事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分
	事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分
3	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題	
	この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。	
	事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分
	事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分
4	中学生・高校生のの学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義	
	この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるため、生徒を理解することを学ぶ。	
	事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバート授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分
	事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分
5	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法	
	この回の到達目標	生徒の学力にあった教材作りとは何かを理解し、実践してみる。	
	事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分
	事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分
6	教育工学	教育の工学的方法について	
	この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法を実際に用いる。ICT教育を実践し、調査研究を基礎としたアクティブラーニング指導方法の基礎を学ぶ	
	事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	紙媒体の資料（プリント）作成		紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
8	映像資料を用いた授業		映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	映像資料を作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
9	インターネットを用いた授業		インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	インターネット用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を身に付ける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
10	教科書の利用		教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。		120分
11	ディベートを用いる授業（1）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。		120分
12	ディベートを用いる授業（2）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。		120分
	事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
	事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
	事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ発表を用いた授業の難しさを理科し、指導方法を考える。	
	事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
	事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
	この回の到達目標	校外教育における実施調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
	事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
	事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程の学部生を対象としています。

【授業方法】

本授業は、講義形式（前半）、模擬授業・プレゼンテーション（後半）で進みます。受講生の人数に応じてコメントペーパー・ディスカッションにて質問に应答します。配布資料をもとに、映像資料・画像資料も活用します。なお、香川の場合、受講生が複数の教員を選択できる科目は、単位認定基準を高く設定しています。「現代教職論」、「道德教育の理論と方法」などよりは、各段に単位認定基準が高いので、ご注意ください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	模擬授業の実施	20	20	20	20	20						100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表内容について口頭で応答します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説 社会編		文部科学省		参考書	任意
高等学校学習指導要領解説 地理歴史編		文部科学省		参考書	任意
備考	明成社、育鵬社、清水書院、山川出版社、日本文教出版、学び舎などの教科書を参考資料として使用する予定です。				

【オフィスアワー】
金曜18:00～19:30 連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u. ac. jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	社会科教育のイメージ、被教育体験について議論する。	
	この回の到達目標	社会科教育の教育目標について具体的な実相を理解する。	
	事前学修	シラバスを読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
2	社会科教育の歴史	社会科教育・歴史地理教育の意義について検討する。	
	この回の到達目標	よりよき市民の育成のために社会科教育の果たす役割を理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
3	どのように市民を育成するか	市民性教育、シティズンシップ教育・主権者教育について検討する。	
	この回の到達目標	よりよき市民の育成のために社会科教育の果たす役割を理解する。そのさいに具体的な教育目標、教育評価の観点についても理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
4	社会問題と市民①	社会問題の考察から社会科教育と社会科の教育実践について検討する。	
	この回の到達目標	多様な社会問題を扱った教育実践事例について理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
5	社会問題と市民②	社会問題の考察から社会科教育と社会科の教育実践について検討する。	
	この回の到達目標	多様な社会問題を扱った教育実践事例について理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
6	社会科教育・歴史地理教育と教育実践事例①（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例②（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
8	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例③（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
9	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例④（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
10	模擬授業の実施①（歴史的分野：前近代篇）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
11	模擬授業の実施②（歴史的分野：近現代篇）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
12	模擬授業の実施③（地理的分野：世界の地域）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬授業の実施④（地理的分野：日本の地域）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
14	模擬授業の実施⑤（公民的分野：日本社会と政治「デモクラシー」）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
15	教育実践と教育評価論	教育実践と教育評価論について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。そのさに、情報機器の操作とともに、映像視聴・音声資料などの活用方法についても理解し、活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。										
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。										
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。										
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようならをみにつける。										
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。										
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後の時間に、講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会科の成立		アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。		
	事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。		120分
2	社会科の目標と内容		学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。		
	事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。		120分
3	教育課程と社会科・地歴科		教育課程の意義と編成方法について考える。	
	この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する		
	事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。		120分
	事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。		120分
4	中学校社会科歴史科分野		中学校社会科地理的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科地理的分野の指導目標と教材構成を理解して、地理的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理的分野・歴史的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科地理的分野・歴史的分野が扱う学習課題を理解する。		120分
5	中学校社会科歴史的分野		中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科歴史的分野の学習範囲と教材構成を理解して、歴史的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	小学校の地理的分野・歴史的分野があつかう教材、高等学校地歴科であつかう教材と中学校社会科があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校地理的分野・歴史的分野が目的とする学習課題を明確にする。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。		120分
6	中学校社会科の構造		中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。	
	この回の到達目標	中学校社会科の3分野と学習における関連性について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。		120分
	事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高等学校教育と地歴科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校地歴科が目指す教育目標を明らかにし、地歴科学習が現代の青年の育成がいかに重要か理解する。	
	事前学修	高等学校地歴科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと高等学校地歴科の教科書から、高等学校地歴科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	高等学校地理	高等学校地理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校地理が扱う学習範囲と意義について理解する。	
	事前学修	高等学校地理の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校地理の学習課題をまとめる。とくに、人文地理学的分野と自然地理学的分野および経済地理学的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校地歴科についての理解を深める。	120分
9	高等学校日本史	高等学校日本史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ日本史学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校日本史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校日本史の学習課題をまとめる。とくに、政治・経済と文化史の学習がどのように配置されているかに注目して日本史学習の今後のあり方を考える。	120分
10	高等学校世界史	高等学校世界史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	地歴教育における「工夫」として、ICT教育実践の意義を考え、実践的にICT教育の重要性を理解する。生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動をGIGAスクール構想の中で実践する。	
	事前学修	高等学校世界史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校世界史の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	地理歴史指導の工夫（1）	暗記教科とまらないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	地歴教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動の実態を理解する。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
	事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地歴科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	地理歴史指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ地理歴史教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、地歴科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。	120分
	事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科地歴科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地歴科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
	この回の到達目標	評価法と地歴科の関係について考え、地歴科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
	事前学修	これからの高等学校教育や地歴科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
	事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科地歴科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	教材研究の方法（1）	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
	この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。また、ICT教育実践の意義を考え、実践的にICT教育の重要性を理解する。	
	事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科・地歴科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
	事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	教材研究の方法（2）	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
	この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身に付ける。また、ICT教育実践の意義を考え、実践的にICT教育の重要性を理解する。	
	事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
	事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	榎澤 和夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材作成の具体的方法について研究する。さらに、私の高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教員免許状取得を目指している学生

【授業方法】
講義・グループディスカッション・模擬授業

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業実践分析、模擬授業分析の際にグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業実践を分析した事前レポートと、毎回授業後に提出するリアクションペーパーが適切な内容であることを基準に、到達目標①に関わる知識が身についているかを評価する。最終講義時に提出する学習指導案が学習指導要領に即した内容になっているかを基準に、到達目標④⑤に関わる能力が身についているかを評価する。	20			20	20						60
討論・発表等	グループディスカッション、及び模擬授業において、積極的に質問し意見を述べることをできたかを基準に、到達目標②③に関わる主体的な学習態度が身についているかを評価する。		20	20								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業後に提出するレポート（授業の感想等）については、次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業時に指示する。umezawa.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校における教員経験
実務経験に基づく実践的教育の内容	高等学校での教員経験を生かし、教育現場に対応した学習指導案の作成や模擬授業実施の指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入	今まで経験してきた社会科・地理歴史科の授業を紹介し合い、その授業の良かった点を議論する。	
	この回の到達目標	各自が経験してきた社会科・地理歴史科の授業を紹介し合うことで、優れた授業の条件とは何かを理解することができる。	
	事前学修	授業のねらいと概要をシラバスで確認しておく	120分
	事後学修	授業で議論した優れた授業の条件について、各自の意見をまとめる。	120分
2	社会科・地理歴史科の科目構成と学習指導要領	学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色について理解する。	
	この回の到達目標	中学校社会科の学習指導要領の特色について理解することができる。	
	事前学修	中学校社会科の学習指導要領解説を通読しておく。	120分
	事後学修	中学校社会科の学習指導要領解説のポイントをレポートにまとめる。	120分
3	生徒が主体的に学ぶ社会科・地理歴史科の授業と「発問」	資料を活用して「発問」づくりを考え、優れた発問の条件を議論する。	
	この回の到達目標	提示した資料をもとに、生徒が主体的に授業に参加できる「発問」づくりの条件を理解することができる。	
	事前学修	生徒が主体的に授業に取り組むためには何が必要なのか、各自の考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、レポートにまとめる。	120分
4	生徒が主体的に学ぶ社会科・地理歴史科の授業と「資料」	資料を活用して、生徒が主体的に取り組む授業づくりの方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	提示した資料をもとに、生徒が主体的に授業に参加できる授業づくりの方法を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で取り上げた、「資料」と「発問」の関係について、各自の考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、レポートにまとめる。	120分
5	教材論①地図教材	地図教材を使った地理の授業実践記録を各自分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	地図教材の取り扱い方を理解することができる。	
	事前学修	地図教材を使った授業実践記録を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
6	教材論②統計資料	統計資料を使った公民の授業実践記録を各自分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	統計資料の取り扱い方を理解することができる。	
	事前学修	統計資料を使った授業実践記録を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教材論③文献資料	文献資料を使った歴史の授業実践記録を各自分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	文献資料の取り扱い方を理解することができる。	
	事前学修	文献資料を使った授業実践記録を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
8	教材論④実物教材	実物教材を使った歴史の授業実践記録を各自分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	実物教材の取り扱い方を理解することができる。	
	事前学修	実物教材を使った授業実践記録を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
9	教材論⑤絵画資料	絵画資料を使った歴史の授業実践記録を各自分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	絵画資料の取り扱い方を理解することができる。	
	事前学修	絵画資料を使った授業実践記録を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
10	模擬授業指導案の協働作成①	グループで実施する模擬授業のテーマと役割分担を決定する	
	この回の到達目標	グループで実施する模擬授業のテーマと役割分担を決定する。	
	事前学修	模擬授業のプランを考え、レポートにまとめる。	120分
	事後学修	グループで決定した授業テーマにかかわる先行実践を調べる。	120分
11	模擬授業指導案の協働作成②	模擬授業で活用する教材を選定し、学習指導案を作成する	
	この回の到達目標	模擬授業で活用する教材を選定し、学習指導案を完成させる	
	事前学修	模擬授業で使用する教材の選定を行い、活用方法をまとめる。	120分
	事後学修	作成した学習指導案に問題点等がないか再検討する。	120分
12	グループによる模擬授業の実施①地理的分野	中学校社会科地理的分野の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の評価できる点、改善点を共有化する。	
	事前学修	グループで作成した学習指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループによる模擬授業の実施②歴史的分野	中学校社会科歴史的分野の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の評価できる点、改善点を共有化する。	
	事前学修	グループで作成した学習指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
14	グループによる模擬授業の実施③公民的分野	中学校社会科公民的分野の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の評価できる点、改善点を共有化する。	
	事前学修	グループで作成した学習指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
15	模擬授業の評価	3回の模擬授業を振り返り評価する。	
	この回の到達目標	3回実施した模擬授業の課題を確認し、後期に実施する個人による学習指導案の作成、及び模擬授業の構想を考える。	
	事前学修	模擬授業を振り返り、優れていた点や、改善点をまとめる。	120分
	事後学修	前期の授業を振り返り、感想レポートを作成する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程の学部生を対象としています。

【授業方法】		
本授業は、講義形式（前半）、模擬授業・プレゼンテーション（後半）で進みます。受講生の人数に応じてコメントペーパー・ディスカッションにて質問に应答します。配布資料をもとに、映像資料・画像資料も活用します。なお、香川の場合、受講生が複数の教員を選択できる科目は、単位認定基準を高く設定しています。「現代教職論」、「道德教育の理論と方法」などよりは、各段に単位認定基準が高いので、ご注意ください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。												
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。												
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。												
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。												
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	模擬授業の実施	20	20	20	20	20						100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表内容について口頭で応答します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説 社会編		文部科学省		参考書	任意
高等学校学習指導要領解説 地理歴史編		文部科学省		参考書	任意
備考	明成社、育鵬社、清水書院、山川出版社、日本文教出版、学び舎などの教科書を参考資料として使用する予定です。				

【オフィスアワー】
金曜18:00～19:30 連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u. ac. jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	専門社会調査士
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィールドワークなど。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	社会科教育のイメージ、被教育体験について議論する。	
	この回の到達目標	社会科教育の具体的な実相を理解する。	
	事前学修	シラバスを読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
2	社会科教育・歴史地理教育と教育実践史	日本教育史上の著名な教育実践について分析する。	
	この回の到達目標	教育実践を通して教科教育と当該科目の意義を理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
3	社会科教育・歴史地理教育と教育政策	教育政策から社会科教育の意義について検討する。	
	この回の到達目標	教育政策や『学習指導要領』の変遷、学校教育現場の実相を重ね合わせて社会科教育の意義について理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
4	社会科教育・歴史地理教育と教育方法の変遷	教育方法の変遷から社会科教育の意義について議論する。	
	この回の到達目標	教育方法の歴史的変遷と現在の到達点について理解することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
5	学校の諸課題と教育実践	カリキュラム編成の意義と社会科教育のついて議論する。	
	この回の到達目標	カリキュラム編成の意義について理解し、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
6	社会科教育・歴史地理教育と教育実践事例①（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例②（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
8	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例③（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
9	社会科教育・歴史地理教育の教育実践事例④（教材論）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
10	模擬授業の実施①（歴史的分野：前近代篇）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
11	模擬授業の実施②（歴史的分野：近現代篇）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
12	模擬授業の実施③（地理的分野：日本の地域）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬授業の実施④（地理的分野：世界の地域）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
14	模擬授業の実施⑤（公民的分野：日本社会と政治「デモクラシー」）	教育実践の構造と展開について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践事例とその方途について理解する。また、情報機器を活用し、映像資料・音声資料を教育実践に活用できるようにする。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分
15	教育実践と教育評価論	教育実践と教育評価論について検討する。	
	この回の到達目標	教育実践とその評価方法の理論について理解する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	配布資料を読む。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようにならからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
講義前後の時間に、講師室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	資料検索の方法（1）		資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法、ICT教育の基礎	
	この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。ICT教育の実践を通じて資料検索の方法を実践的に学び、ICT教育の指導法を身につける。		
	事前学修	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。		120分
	事後学修	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。		120分
2	資料検索の方法（2）		資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法	
	この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。ICT教育の実践を通じて資料検索の方法を実践的に学び、ICT教育の指導法を身につける。		
	事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。		120分
	事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。		120分
3	教材作成と知的財産権		資料収集と知的財産権の問題	
	この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。		
	事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。		120分
	事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。		120分
4	中学生・高校生の学力判断		収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義	
	この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるために、生徒を理解することを学ぶ。		
	事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。		120分
	事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。		120分
5	中学生・高校生に合わせた教材作り		収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法	
	この回の到達目標	生徒の学力にあった教材づくりとはなにかを理解し、実践してみる。		
	事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。		120分
	事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。		120分
6	教育工学		教育の工学的な方法について（ICT教育の基礎理念）	
	この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法に実際に用いる。ICT教育の実践を通じて資料検索の方法を実践的に学び、ICT教育の指導法を身につける。		
	事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	紙媒体の資料（プリント）作成	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
	事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
8	映像資料を用いた授業	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	映像資料の作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
	事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
9	インターネットを用いた授業	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を見つける。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）	120分
	事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）	120分
10	教科書の利用	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。	
	事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。	120分
11	ディベートを用いる授業（1）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
	事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。	120分
12	ディベートを用いる授業（2）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
	事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。	120分
	事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
	事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
	事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	グループ学習を用いた授業の難しさを理解し、指導方法を考える。	
	事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
	事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
	この回の到達目標	校外教育における実地調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
	事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
	事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	榎澤 和夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教員免許状取得を目指している学生

【授業方法】
講義・グループディスカッション・模擬授業

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業実践分析、模擬授業分析の際にグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。												
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。												
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。												
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。												
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業実践を分析した事前レポートと、毎回授業後に提出するリアクションペーパーが適切な内容であるかを基準に、到達目標①に関わる知識が身についているかを評価する。最終講義時に提出する学習指導案が学習指導要領に即した内容になっているかを基準に、到達目標④⑤に関わる能力が身についているかを評価する。	20			20	20						60
討論・発表等	グループディスカッション、及び模擬授業において、積極的に質問し意見を述べることをできたかを基準に、到達目標②③に関わる主体的な学習態度が身についているかを評価する。		20	20								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業後に提出するレポート（授業の感想等）については、次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業時に指示する。umezawa.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校における教員経験
実務経験に基づく実践的教育の内容	高等学校での教員経験を生かし、教育現場に対応した学習指導案の作成や模擬授業実施の指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会科・地理歴史科の科目構成と学習指導要領	学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校地理歴史科の学習指導要領の特色を理解することができる。	
	事前学修	高等学校地理歴史科の学習指導要領解説を通読しておく。	120分
	事後学修	高等学校地理歴史科の学習指導要領解説のポイントをレポートにまとめる。	120分
2	授業方法論①ジグソー法	ジグソー法を使った授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	ジグソー法の活用のしかたについて理解することができる。	
	事前学修	ジグソー法を使った授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
3	授業方法論②K P 法	K P 法を使った授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	K P 法の活用のしかたについて理解することができる。	
	事前学修	K P 法を使った授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
4	授業方法論③授業書方式	授業書方式を使った授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	授業書方式の活用のしかたについて理解することができる。	
	事前学修	授業書方式を使った授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
5	授業方法論④校外学習	校外（博物館）学習に取り組んだ授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	校外（博物館）学習の取り組みかたについて理解することができる。	
	事前学修	校外学習に取り組んだ授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
6	教育方法論⑤ディベート	ディベートを使った授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	ディベートの活用のしかたについて理解することができる。	
	事前学修	ディベート使った授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教育方法論⑥討論	討論を使った授業実践報告を分析し、グループで議論する。	
	この回の到達目標	討論の活用のしかたについて理解することができる。	
	事前学修	討論を使った授業実践報告を通読し、その実践の優れている点、改善すべき点をレポートにまとめる。	120分
	事後学修	受講生の授業感想を共有化し、論点をまとめる。	120分
8	評価論①学習指導要領と学習評価	学習指導要領に示された、学習評価の基本構造と社会科・地理歴史科の学習評価のあり方を議論する	
	この回の到達目標	学習指導要領に示された学習評価のあり方を理解することができる。	
	事前学修	学習指導要領の学習評価に関わる部分を通読し、論点を整理する。	120分
	事後学修	学習指導要領に示された学習評価のあり方をまとめる。	120分
9	評価論②観点別学習状況の評価	レポートや論述、ディスカッションなど、ペーパーテストでは測れない学習評価のあり方について議論する。	
	この回の到達目標	観点別学習状況の評価方法を理解することができる。	
	事前学修	レポートや論述問題の評価方法を示した論文を通読し、論点を整理する。	120分
	事後学修	授業を振り返り感想をまとめる。	120分
10	模擬授業の実施①（高校地理総合）	高等学校地理総合の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の優れている点、改善点を共有化する。	
	事前学修	模擬授業の指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
11	模擬授業の実施②（高校地理探究）	高等学校地理探究の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の優れている点、改善点を共有化する	
	事前学修	模擬授業の指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
12	模擬授業の実施（高校歴史総合）	高等学校歴史総合の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の優れている点、改善点を共有化する	
	事前学修	模擬授業の指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬授業の実施④（高校世界史探究）	高等学校世界史探究の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の優れている点、改善点を共有化する	
	事前学修	模擬授業の指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
14	模擬授業の実施⑤（高校日本史探究）	高等学校日本史探究の模擬授業を実施し、検討する。	
	この回の到達目標	模擬授業の優れている点、改善点を共有化する	
	事前学修	模擬授業の指導案を検討する。	120分
	事後学修	模擬授業の内容を振り返り、感想レポートを作成する。	120分
15	模擬授業の評価	5回の模擬授業を振り返り、評価する	
	この回の到達目標	5回実施した模擬授業の課題を確認し、各自の学習指導案を完成させる	
	事前学修	模擬授業を振り返り、優れていた点や改善点をまとめる。	120分
	事後学修	後期の授業を振り返り、感想をレポートにまとめる。	120分

科目名	人文地理学概論Ⅰ	担当者	杉山 昌謙	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に都市という空間に重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人文地理学に関する諸概念について学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理総合・地理探求」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 本授業では特に都市という空間を取りあげ人文地理学的に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義資料を中心とした講義形式。関連する地図類や動画教材も利用する。また、小テスト・課題についてのフィードバックは必要に応じて授業内で行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	地形図をはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、授業内の提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新詳高等地図	帝国書院編集部編	帝国書院	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
sugi-ma@fc.jwu.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校専任教員 34年間
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本女子大学附属高等学校地理歴史科	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入授業（地理の見方・考え方）		本授業の進め方、受講上の注意について説明する。地理の見方・考え方について詳しく説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業全体の内容や進め方、受講上の注意について説明する。地理の見方・考え方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理の見方・考え方について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（地理の見方・考え方）について復習する。	120分
2	地理学の体系と人文地理学、系統地理学と地誌学、地理学における地域と地域スケール		地理学の体系と人文地理学の関係、および系統地理学と地誌学の関係について詳しく説明し、地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、地理学の体系と人文地理学および系統地理学と地誌学の関係について理解し、説明できる。地理学における地域概念について理解し、具体的に説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（系統地理学、地誌学、地域）を辞書などを使い調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（特に地理学の体系と人文地理学の関係）について復習する。	120分
3	都市とは何か		人間の二大居住形態である都市と、都市に対する概念についての関係、わが国における都市域について詳しく説明する。さらに人文地理学における都市とは何かを詳しく説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、都市－村落関係および、わが国の都市域の変遷について理解し、具体的に説明することができる。	
	事前学修	事前に25分使い、頭の中に浮んだ都市のイメージ図（メンタルマップ）をB5版の紙に描いておく。授業内容に関する地理用語（都市、村落、メンタルマップ）を辞書などを使い調べる。	120分
	事後学修	都市のイメージ図に関して、現状を確認しておく。配布資料の重要事項（都市、村落、メンタルマップ）について復習する。	120分
4	都市化（1） 都市化の波（古代・中世・近世）		都市化とは何か、都市化以前の集団化について詳しく説明する。都市化には波があることを知り、古代から近世までの都市化の波を地域と要因について詳しく説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、都市化とは何かを説明できる。集団化について理解し。古代から近世までの都市化の波について地域とその要因を説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（集団化、都市化）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（古代の都市化、中世の都市化、近世の都市化）について復習する。	120分
5	都市化（2） 都市化の波（近代・現代）、都市化の新たな局面		近代・現代の都市化の波を地域と要因について詳しく説明する。さらに都市化の新たな局面（反都市化、再都市化）について詳しく説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、近代と現代の都市化の波について地域とその要因、都市化の新たな局面について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（反都市化、再都市化）を調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（近代の都市化、現代の都市化）について復習し、反都市化・再都市化についても復習する。	120分
6	都市化（3） スラムとニュータウン		スラムとはどのような空間であるか、そしてその二形態について詳しく説明する。ニュータウンの歴史と形態について詳しく説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、スラムについてスラムの二形態まで含め理解し、説明することができる。スラムとは真逆のニュータウンについて、開発主体と機能から理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（スラム、ニュータウン）を調べ、代表的なニュータウンを探しておく。	120分
	事後学修	配布資料について重要事項（スラム、ニュータウン）を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	都市の内部構造（１） 「古典モデル」		都市内部構造の同心円地帯モデル、扇形モデル、多核心モデルについて、形態などを詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、都市内部構造の「古典モデル」を理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理用語（同心円地帯モデル、扇形モデル、多核心モデル）を調べておく。		120分
	事後学修	配布資料の重要事項（同心円地帯モデル、扇形モデル、多核心モデル）について復習する。		120分
8	都市の内部構造（２） 第二次大戦後の変化		内部構造の「古典モデル」は第二次世界大戦後、大きく変化してきている。その要因と現状について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、「古典モデル」が戦後大きく変化した理由を説明できる。現在、内部構造がどのようなようになってきているかを理解し、説明できる。		
	事前学修	授業内容に関する地理用語（小売業、重工業、インナーシティ）を調べておく。		120分
	事後学修	配布資料の重要事項（小売業の変化、重工業の変化、インナーシティの変化）について復習しておく。		120分
9	都市の内部構造（３） 日本		城下町起源の都市が多いわが国において、城下町の内部構造について詳しく説明する。静岡と岡崎を取りあげ、その後の鉄道駅開設以降の変化について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、わが国の城下町起源の都市の内部構造を理解し、説明でき、鉄道駅開設以降の変化について説明ができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理用語（城下町）と、事例とする都市（静岡、岡崎）について調べておく。		120分
	事後学修	配布した地形図を再度見直しておく。配布資料の事項（城下町など）を復習しておく。		120分
10	都市の成長過程		都市が成長し大きくなるとどうなるかを、形態的に詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、コナベーション、メトロポリタンリージョン、メガロポリス、エキュメノポリスが説明できる。現実の世界と理想の世界を分けることができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理用語（コナベーション、メトロポリタンリージョン、メガロポリス、エキュメノポリス）を調べる。		120分
	事後学修	配布資料の重要事項（コナベーション、メトロポリタンリージョン、メガロポリス、エキュメノポリス）について復習する。		120分
11	都市整備（１） イギリス		最初に都市問題があらわれたイギリスを取りあげ、都市整備の状況を歴史的に詳しく説明する。エベネザー・ハワードの『明日の田園都市』と大ロンドン計画について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、『明日の田園都市』の内容を理解し、説明できる。大ロンドン計画について、具体的に説明できる。		
	事前学修	授業内容に関する人名（エベネザー・ハワード）と地理用語（田園都市、大ロンドン計画）を調べる。		120分
	事後学修	配布資料の重要事項（『明日の田園都市』と大ロンドン計画）について復習する。		120分
12	都市整備（２） 日本		わが国の明治以降の都市整備に関して、歴史的に詳しく説明する。特に「都市計画」や「地方計画」について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、わが国の明治以降の都市整備について歴史的に説明できる。「都市計画」や「地方計画」について理解し、説明ができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理用語（都市計画、地方計画など）を調べる。		120分
	事後学修	配布資料の重要事項（都市計画、地方計画）について復習し、わが国の都市整備について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	世界の都市 パリ①	これまでの都市に関する一般論をふまえて、2回にわたり都市誌としてパリを具体的に取り扱い、説明する。1回目はパリの人口・自然環境・都市化の進展などについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、パリの人口・自然環境・都市化の進展など概要を理解し、説明できる。	
	事前学修	地図でパリの位置を確認する。パリの人口・自然環境・都市化の進展など概要を地誌的に調べる。	120分
	事後学修	配布資料のパリについて、パリの人口・自然環境・都市化の進展を復習する。	120分
14	世界の都市 パリ②	パリの2回目として、パリ市内の地域分化と都市計画などについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、パリ市内の地域分化と都市計画について説明できる。	
	事前学修	パリ市内の地域分化と都市計画について地誌的に調べる。	120分
	事後学修	配布資料のパリ市内の地域分化・都市計画などについて復習し、パリの特徴をまとめる。	120分
15	まとめと補足説明	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。	120分
	事後学修	授業全体の重要事項について復習する。	120分

科目名	人文地理学概論Ⅱ	担当者	杉山 昌謙	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に世界の農業地域に重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人文地理学に関する諸概念や教材としての各種地理資料の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理総合・地理探求」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。本授業では特に世界の農業地域の形成過程を理解し、現在の農業の分類を説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義資料を中心とした講義形式。関連する動画教材も使用する。また、小テスト・課題についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	主題図をはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、授業内の提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新詳高等地図	帝国書院編集部編	帝国書院	2023	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
sugi-ma@fc.jwu.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校専任教員 34年間
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本女子大学附属高等学校地理歴史科	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業（等質地域と機能地域）	本授業の進め方、受講上の注意についてと、地理における地域について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業の進め方、受講上の注意について理解する。地理における地域について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容を確認する。地域について辞書等で調べる。	120分
	事後学修	配布資料の内容（地理における地域）について復習する。	120分
2	農牧業の発達と地域分化、農耕の開始と遊牧	採集・狩猟からはじまった人類の生活が現在にいたるまでを概観する。農耕の開始と遊牧について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、農耕の開始と遊牧について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（農耕の開始、遊牧）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（農耕の開始、遊牧）について復習する。	120分
3	世界の土壌	農業に重要な土壌について種類などを説明し、生産力の高い土壌について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、世界の土壌のなかで生産力の高い土について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（ラトソル、黒土、ポドゾルなど）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（生産力の高い土壌）について復習する。	120分
4	移動耕作（移動式農業）	農耕技術が世界に伝播していき、最終的に熱帯雨林地域で定着した移動耕作（移動式農業）について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、移動耕作（移動式農業）について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（移動耕作）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（移動耕作）について復習する。	120分
5	稲の栽培	農耕の開始から稲を栽培するという技術が伝播し、モンスーンアジアで広まった農業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、稲の栽培について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する用語（稲の栽培）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（稲の栽培）について復習する。	120分
6	小麦の栽培	農耕の開始から小麦を栽培するという技術が伝播し、全世界に広まっていったことについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、小麦の栽培について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する用語（小麦の栽培）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（小麦の栽培）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	二圃式農業、地中海式農業	小麦の栽培技術が地中海などに伝播し、営まれている農業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、二圃式農業、地中海式農業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（二圃式農業、地中海式農業について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（二圃式農業、地中海式農業）について復習する。	120分
8	三圃式農業、輪作栽培	二圃式農業の技術が北西ヨーロッパに伝播し、三圃式農業、輪作栽培と変化していったことについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、三圃式農業、輪作栽培について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（三圃式農業、輪作栽培）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（三圃式農業、輪作栽培）について復習する。	120分
9	混合農業	商業的農業としての混合農業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、混合農業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（混合農業）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（混合農業）について復習する。	120分
10	チューネンモデル、	都市（消費地）との関係で立地した、農業地域を説明するチューネンモデルについて詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、チューネンモデルについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（チューネンモデル）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（チューネンモデル）について復習する。	120分
11	酪農、園芸農業	産業革命以降に立地・発達した、酪農と園芸農業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、酪農と園芸農業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（酪農、園芸農業）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（酪農、園芸農業）について復習する。	120分
12	プランテーション農業	先進国では気候的条件により栽培不可能であった、熱帯・亜熱帯性施供物を栽培するプランテーション農業について、詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、プランテーション農業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（プランテーション農業）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（プランテーション農業）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業の穀物農業	混合農業の技術が南北アメリカやオーストラリアに伝わり、企業の経営として営まれている農業のなかで企業の穀物農業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、企業の穀物農業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（企業の穀物農業）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（企業の穀物農業の分布と特徴）について復習する。	120分
14	企業の放牧業	南北アメリカやオーストラリアのステップ気候下を中心に行われている、企業の放牧業について詳しく説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、企業の放牧業について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理用語（企業の放牧業）について調べる。	120分
	事後学修	配布資料の重要事項（企業の放牧業の分布と特徴）について復習する。	120分
15	まとめと補足説明	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの授業内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。	120分
	事後学修	授業全体の重要事項について復習する。	120分

科目名	生徒指導・進路指導論	担当者	山田 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的に存在している。時代の変化の中で、表面化する問題への対処の仕方にも違いが出てくるが、生徒指導・進路指導には不易な部分がある。この不易な部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、進路指導の在り方や具体的な方策について取り組みについて考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
上記の知識を養成することを目的とする。 中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導及び進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義とアクティブラーニングによる授業を行う。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5・6・9・10・12・13回等の授業の中でディスカッション、プレゼンテーションを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。										
②	中学校・高等学校における生徒の発達に即した進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。										
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験（１回×３０点）	15	15									30
小テスト等												
レポート等	題材系統図の作成（１回×２５点）	10	15									25
討論・発表等	討論への参加状況　リアクションペーパー（１５回×１点）	7	8									15
授業への参画度	授業への参加状況　リアクションペーパー（１５回×２点）	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		47	53									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する解説・講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書　名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（金曜４・５限）終了後、講堂にて。メールでも対応する。tomoyuki@juen.ac.jp　yamada.tomoyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校教諭、主幹教諭、副校長
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験に基づき理論と実践をリアルに解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス・導入】【進路指導・キャリア教育の意義と課題】	ガイダンス及び、進路指導・キャリア教育の意義と課題について学習する。	
	この回の到達目標	本科目の授業展開などを理解し、進路指導・キャリア教育の意義と課題について説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
2	【進路指導・キャリア教育の歴史的経緯】	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について学習する。	
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
3	【進路指導・キャリア発達理論】	進路指導・キャリア発達理論（克蘭ボルツ、スーパー、シャイン等）について学習する。	
	この回の到達目標	進路指導・キャリア発達理論について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
4	【ガイダンスとカウンセリング】	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について学習する。	
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
5	【自己理解】	【AL】自己理解に関わる授業事例の検討し学習する。 人生双六<金の糸>	
	この回の到達目標	自己理解に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
6	【職業観・勤労観】	【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討し学習する。	
	この回の到達目標	職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【これからの時代の進路指導・キャリア教育】	これからの時代の進路指導・キャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	これからの時代の進路指導・キャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
8	【進路指導・キャリア教育の組織と体制】	進路指導・キャリア教育の組織と体制について学習する。（課題提示）	
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の組織と体制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
9	【職場体験とキャリア教育】	【AL】職場体験とキャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	職場体験とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
10	【三者面談とキャリア教育】	【AL】三者面談とキャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	三者面談とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
11	【生徒指導の組織と体制】	生徒指導の組織と体制について学習する。	
	この回の到達目標	生徒指導の組織と体制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
12	【リーダーシップ】	【AL】リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討し学習する。	
	この回の到達目標	リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討・理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【いじめ問題】	【AL】いじめ問題に関連する教育課題と解決策について学習する。	
	この回の到達目標	いじめ問題に関連する教育課題と解決策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
14	【学校現場におけるリスクマネジメント】	学校現場におけるリスクマネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	学校現場におけるリスクマネジメントについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	120分
15	【まとめ】	まとめの学習	
	この回の到達目標	本講義全体について。そのポイントを理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	200分
	事後学修	半期の学びを整理する。（2時間）	120分

科目名	西洋史概論Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、古代オリエントから古代ギリシア・古代ローマを経てカール大帝の時代に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	古代オリエントからカール大帝の時代に至るまでのヨーロッパに関する通史を説明できる。										
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。										
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ヨーロッパ（西洋）とは何か	ヨーロッパの通史を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ（西洋）史の通史を扱うこの講義が、どのような独特な二つの視点に立って展開されていくのかを説明できる。	
	事前学修	「ヨーロッパ（西洋）とは何か」との問いへの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
2	超民族的文化共同体としてのヨーロッパ	超民族的文化共同体としてのヨーロッパを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、超民族的文化共同体を説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパとは、どのような文化を持った世界なのかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	ヨーロッパの歴史的構造	ヨーロッパの歴史的構造：時代区分問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義で学んだ、時代五区分について要点を説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパの通史が、なぜ「古代」「中世」「近代」と分けられているのかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	ヨーロッパの語源	ヨーロッパの語源についての諸説を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパの語源について、どのような説があるかを説明できる。	
	事前学修	古代アッシリア、新バビロニア、アケメネス朝ペルシア、古代ギリシアについて調べ、政治・社会・文化などの特徴を調べ、ノートに整理しておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパ	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地理的表現および価値表現として「ヨーロッパ」という語がどのように用いられていたのか、その理由を説明できる。	
	事前学修	歴史地図を探し、古代ギリシア人が活動した地域がどこまで及んでいたのかを調べておく。また、ペルシア戦争、アテネの民主政、アレクサンドロス大王の功績について調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合が、どのようになされたかを説明できる。	
	事前学修	古代ギリシアの建築、学問、娯楽がどのようなものであったのか、また、「ルネサンス」と古代ギリシアがどのように関係しているか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアの教育方法がどのように現代にまで引き継がれてきたのか、また古代ギリシアと現在のデモクラシーとはどのように異なるのかを説明できる。	
	事前学修	教養教育とは何か、また、古代アテネの民主政がどのように誕生したかについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	「国々」を支配したローマ共和国	「国々」を支配したローマ共和国を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、皇帝のいないローマ共和国も帝國的支配をしていたとはどういうことなのかを説明できる。	
	事前学修	共和政期のローマが、どのように周辺の国々や地域を支配下に置いたのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	ローマ共和国を支配した人々	ローマ共和国を支配した人々を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ共和国がどのような人々によって支配されていたのかを説明できる。	
	事前学修	共和政期の古代ローマの元老院や民会がどのようなものであったのか、またローマの支配者たちがどのようにローマ市民たちを治めていたのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマに支配された地域が、どのようにしてローマの文化的影響を受けたのかを説明できる。	
	事前学修	古代ローマがどの地域まで支配下に置いていたのか、そして今日その地域において古代ローマのどのような遺跡が存在するか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	地中海世界に浸透したローマの「文明」	地中海世界に浸透したローマの「文明」：「自由な帝国」を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの支配者たちがなぜ教養教育を重視したのかを説明できる。	
	事前学修	古代ローマにおいて支配者たちがどのような教育を受けていたのか調べてみる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ヨーロッパ」という言葉が、文化共同体的な意味でどのように使われ始めたかを説明できる。	
	事前学修	ゲルマン民族による民族大移動と西ローマの崩壊の流れを、フランク王国のクローヴィスの時代まで学んでおく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プラン	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プランを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カール大帝がなぜキリスト教帝国を建設しようとしたのか、またどのような政治・社会・文化政策を推進したのかを説明できる。	
	事前学修	フランク王国カロリング朝の王たちの功績や、イギリスの七王国とその文化を調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋史概論Ⅰ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋史概論Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、カール大帝の時代から現在に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	カール大帝の時代から現在に至るまでのヨーロッパに関する通史をを説明できる。												
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。												
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	キリスト教社会（西洋）とは何か（ガイダンス）	カール大帝によって形成された政治社会とはどのようなものであったか概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キリスト教社会がどのように形成され、またどのような特徴があるかを説明できる。	
	事前学修	フランク王国がどのように発展したのか、そしてカール大帝がどのようなことを行なったのかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
2	キリスト教社会の拡充	キリスト教社会の拡充：ベネディクトから托鉢修道会までの発展をを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、修道院が文化共同体を各地で広め、キリスト教社会を支え、発展させていたこと、また、キリスト教社会の崩壊の危機を生み出したことを説明できる。	
	事前学修	ベネディクト修道会、クリューニ修道院、シトー会、フランシスコ会、ドミニコ会がどのような修道会であるか調べておく。また、「中世ヨーロッパの都市」がいつ頃からどのように発展した、インノケンティウス3世とはどんな人物であったのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	大学の登場とその成果	大学の登場とその成果：討論とスコラ哲学を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、大学が知的権威を発揮して分析的・批判的精神を有する人材を輩出し、キリスト教社会を支えていたこと、またキリスト教社会崩壊の危機を生み出したことを説明できる。	
	事前学修	いつ頃から大学がヨーロッパに登場したのか、また、大学で何がどのように学ばれていたのか、またスコラ学とは何かについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス国王などの民族王権の台頭と、ローマ教皇権の衰退がどのように生じたのかを説明できる。	
	事前学修	教皇ボニファティウス8世以降、カペー朝とヴァロア朝のフランス国王たちが教皇権に対抗してどのように王権を強めていったか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	世界像の変容	世界像の変容：新たな地理的知識を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの文化やキリスト教を通じてヨーロッパに継承されてきた世界像が、どのように変容したのか、また、その変容によって、ヨーロッパ人のアイデンティティがどのようなものになったのかを説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパが、セルジューク朝トルコ、モンゴル帝国、中国の元朝、オスマン朝トルコとどのような関係にあったか調べておく。また、北方ゲルマン（ノルマン人やデーン人）の移動やイベリア半島でのレコンキスタについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	キリスト教社会から再びヨーロッパへ	キリスト教社会から再びヨーロッパへ：ヒューマニストによる「ヨーロッパ」の復活を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヒューマニストたちによって、「ヨーロッパ」がどのような意味で用いられ始めたかを説明できる。	
	事前学修	ヒューマニストとは何か、またその作品や業績にどんなものがあるのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ（前半）		宗教改革と何か、また宗教改革がキリスト教社会に与えた影響を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宗教改革とはどのようなものであり、その影響によりキリスト教社会がどのように変容し始めたかを説明できる。	
	事前学修	ルターとカルヴァンによる宗教改革、およびイギリス国教会とはどのようなものか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ（後半）		主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主権国家の形成がどのようになされたのか、また、皇帝権や教皇権に代わって新たな国際秩序形成の力となったものがなんだったのかを説明できる。	
	事前学修	絶対王政、三十年戦争、名誉革命とはどのようなものか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	啓蒙と世俗化のヨーロッパ&平和の模索		啓蒙と世俗化のヨーロッパを概観した後、ヨーロッパの平和の模索がなされた事例としてさまざまな統合案・平和案を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパにおいて、信仰（恩寵の光）ではなく理性の重視へとなぜ変わったのか、また、「理性の時代」にもそれに沿わない、あるいは反する文化が力を伸ばしていたことを説明でき、さらに18世紀末までに、ヨーロッパの平和への多種多様な案が唱えられていたことを説明できる。	
	事前学修	アリストタルコス、プトレマイオス、コペルニクス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンが天文学とどのように関係していたのか調べ、さらに啓蒙思想とは何か、その思想に関係する人物にどのような人々がいるか調べておく。また、教皇権や皇帝権がヨーロッパ世界秩序の要として機能しなくなったこの時代、ヨーロッパ世界の平和を実現するのにどんな方法があるか考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	ナショナリズムのヨーロッパ		ナショナリズムのヨーロッパ：フランス革命とナポレオンを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス革命とナポレオンによって、どのようにナショナリズムがヨーロッパに広まったのかを説明できる。	
	事前学修	フランス革命、ナポレオンによる支配によってヨーロッパがどのように変容したか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	反ナポレオンの「愛欧心」		反ナポレオンの「愛欧心」：ウィーン体制とメッテルニヒを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナポレオン帝国崩壊後のヨーロッパ新秩序がどのようにつくられたのか、また、その新秩序はなぜ不安定となったのかを説明できる。	
	事前学修	ナポレオンがなぜ失脚したのか、ウィーン体制とは何か、メッテルニヒとはどのような人物であったのか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	ヨーロッパ世界の世界的拡大		ヨーロッパ世界の世界的拡大：産業革命および帝国主義を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界がヨーロッパ化されていく過程と、ヨーロッパそのもののが他の文化との接触で変容することを説明できる。	
	事前学修	「産業革命」とはどのように始まったのか、また、「帝国主義時代」とはどのようなものなのか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	テーマ		内 容		
13	「偉大なる社会」の凋落		さまざまヨーロッパ像が共存するヨーロッパ、および、二つの世界大戦を経て共同体形成の模索にいたるヨーロッパを概観する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナショナリズム、リベラリズム、社会主義、民族主義、帝国主義などに基づく新たな理想像が登場したこと、および、ヨーロッパの「近代」に登場した体制や思想・理想が発展し衝突支配ながら、ヨーロッパ列強（主権国家）間の争いが世界規模で戦争を引き起こしたことを説明できる。			
	事前学修	19世紀末のヨーロッパの人々の間にどのような理想的な国家像や世界像があったのか考え、また、第一次世界大戦と第二次世界大戦について、それぞれ原因と経過と結果について調べてくる。		120分	
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分	
14	「西洋史概論Ⅱ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）		講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。			
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。			120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。			120分
15	全体のまとめ		アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。			
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれっていない箇所をまとめてくる。			120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。			120分

科目名	地誌学概論Ⅰ	担当者	落合 康浩	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地誌学は、具体的な地域に焦点をあて、その地域の構造的な特色を総合的にとらえ理解する地理学の一分野である。本講義では、地誌学研究の方法論や中等教育の地理における地誌学の位置づけや役割等を解説した上で、自然環境や社会、文化などについて、日本全体と、日本の中における具体的な地域を事例に整理・紹介し、地域の特色に関する理解を促す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自然環境から産業、社会、文化にいたるまで様々な事象についてとりあげ、それらを関連づけて総合的に地域をとらえるのが地誌学の視点である。そこでこの授業では、具体的な地域をあらゆる視点でとらえ、それら諸事象の特徴を関連づけることで地域のもつ構造的な特色について理解し、説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
資料、教材を提示しながら基本的に講義形式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問票・小レポート等にもとづいて質疑応答を行うなど双方向的な授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地誌学の研究と学修の視点、方法論について整理し説明できる。											
②	日本および国内各地域を地誌学の視点で分析し、その地域的特色を整理することができる。											
③	具体的な地域の特徴を関連づけて、地域の構造をまとめ、説明することができる。											
④	中等教育の授業の地誌において、内容を的確に整理し授業を構成することができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容を的確に理解し、整理して論理的にまとめることが出来ているか検証し、評価する。	10	10	30	10							60
小テスト等	授業中に実施する小テストなどへの解答状況等を評価する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参加状況、質疑応答の内容について評価する	10		10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容及び小テストなどに関する質疑について応答、講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料、提示教材に沿って授業を行う。なお、高等学校使用の地図帳を用意し適宜参照すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後の休み時間。 ochiai.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地誌学による地域の見方	地域を総合的に理解する地誌学の概念と、その研究・学修の視点および、方法について整理する。	
	この回の到達目標	地誌学の概念と具体的地域について理解できる。	
	事前学修	シラバスで授業内容を確認する。	90分
	事後学修	地誌学の概念と研究・学修の視点・方法について整理する。	150分
2	地理学が扱う「地域」と「地域区分」	地域の語の意味と地域区分の視点・方法について整理する。	
	この回の到達目標	地域の概念と地域区分の方法について理解できる。	
	事前学修	地域という語をどのようなときに使うか考えておく。	120分
	事後学修	地域の語の意味するところを整理し、地域区分の仕方について理解する。	120分
3	中等教育の地理であつかう地誌	中学校社会科、高等学校地理歴史科の中で取り扱う地誌について整理する。	
	この回の到達目標	中等教育の中で扱う地誌の内容について理解できる。	
	事前学修	中学校の地理的分野・高等学校の地理の教科書の内容を整理しておく。	120分
	事後学修	中等教育の授業で扱う地誌の内容について理解する。	120分
4	世界における日本の地域性1（地体構造と地形）	世界の地体構造における日本列島の位置と、日本の地形について解説する。	
	この回の到達目標	世界における日本の地形的な特徴について理解できる。	
	事前学修	日本にみられる地形について概観し整理しておく。	120分
	事後学修	日本における地形の種類とそれぞれの位置、要因について理解する。	120分
5	世界における日本の地域性2（気候の特徴）	日本の気候の特徴と、その地域的な特徴・因子について解説する。	
	この回の到達目標	世界における日本の気候的な特徴について理解できる。	
	事前学修	日本の気候について概観し整理しておく。	120分
	事後学修	日本における気候の特徴とその地域性について理解する。	120分
6	世界における日本の地域性3（宗教観と伝統文化）	日本の宗教観と環境との関係を整理し、伝統文化との関連について解説する。	
	この回の到達目標	日本的な宗教観と伝統文化との関連性について理解できる。	
	事前学修	日本人の宗教観について整理しておく。	120分
	事後学修	日本における宗教観と伝統文化との関係について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	世界における日本の地域性4（農業生産と食文化）		日本の農業生産とその問題点、地域性と食文化との関係について解説する。
	この回の到達目標	日本の農業生産および農業と食文化の関係について理解できる。	
	事前学修	日本の農業生産について概観しておく。	120分
	事後学修	日本の農業の現状とその地域性、および食文化との関係を理解する。	120分
8	世界における日本の地域性5（環境と集落・家屋）		日本における集落や家屋の特徴とその地域性に関わる要因について解説する。
	この回の到達目標	集落・家屋の地域性とその要因について理解できる。	
	事前学修	日本の家屋に関する基礎知識を整理しておく。	120分
	事後学修	日本の家屋の地域差と自然環境との関係を考える。	120分
9	日本の事例地域1 沖縄県		沖縄県における環境と社会、文化の特色について解説する。
	この回の到達目標	沖縄県独特の文化的な特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	沖縄県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	沖縄県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
10	日本の事例地域2 静岡県		静岡県における環境と社会、産業等の特色について解説する。
	この回の到達目標	静岡県の社会・産業等の特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	静岡県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	静岡県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
11	日本の事例地域3 新潟県		新潟県における環境と社会・産業等の特色について解説する。
	この回の到達目標	新潟県の社会・産業等の特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	新潟県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	新潟県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
12	日本の事例地域4 東京大都市圏(1)		東京および周辺地域の自然環境とその変化について解説する。
	この回の到達目標	東京および周辺地域の地形・気候の特徴について理解できる。	
	事前学修	東京および周辺地域の自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	東京および周辺地域の地形・気候の特色について整理し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の事例地域 5 東京大都市圏 (2)	東京（江戸）の都市構造について成立から現代までをたどりながら解説する。	
	この回の到達目標	江戸・東京の都市構造を歴史的変遷の中で理解できる。	
	事前学修	東京中心部にある街や各施設の配置を概観しておく。	120分
	事後学修	現代の東京の都市構造を歴史的な経緯を踏まえて整理し理解する。	120分
14	日本の事例地域 6 東京大都市圏 (3)	東京大都市圏の広がりや構造を人口と都市機能の側面から解説する。	
	この回の到達目標	東京を事例に日本の大都市の拡大・成長の過程を理解できる。	
	事前学修	東京とその周辺地域における街や各施設の配置を概観しておく。	120分
	事後学修	東京大都市圏の拡大・成長の過程とその要因について整理し理解する。	120分
15	理解度の確認と総括	授業内試験（レポート提出に代替する可能性あり）を実施し、授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	日本と国内各地の地域構造の特色およびその規定要因について説明できる。	
	事前学修	日本および国内の事例地域の地域構造およびその規定要因について整理し理解しておく。	200分
	事後学修	授業全体の内容を再整理して理解する。	40分

科目名	地誌学概論Ⅱ	担当者	落合 康浩	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地誌学は、具体的な地域に焦点をあて、その地域の構造的な特色を総合的にとらえ理解する地理学の一分野である。本講義では、地誌学研究の方法論や地域を比較する視点などを理解した上で、自然環境や社会、文化等について、ユーラシア大陸にある各地域、すなわち東南アジア、南アジア、中央アジア、ヨーロッパにおける具体的な地域を事例に整理、紹介し、地域の特色に関する理解を促す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自然環境から産業、社会、文化にいたるまで様々な事象についてとりあげ、それらを関連づけて総合的に地域をとらえるのが地誌学の視点である。そこでこの授業では、具体的な地域をあらゆる視点でとらえ、それら諸事象の特徴を関連づけることで地域のもつ構造的な特色について理解し、説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
資料、教材を提示しながら基本的に講義形式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問票・小レポート等にもとづいて質疑応答を行うなど双方向的な授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地誌学の研究と学習の視点、方法論について整理し説明できる。											
②	世界およびユーラシア大陸の各地域を地誌学の視点で分析し、その地域的特色を整理することができる。											
③	具体的な地域の特徴を関連づけて、地域の構造をまとめ、説明することができる。											
④	中等教育の授業の地誌において、内容を的確に整理し授業を構成することができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容を的確に理解し、整理して論理的にまとめることが出来ているか検証し、評価する。	10	10	30	10							60
小テスト等	授業中に実施する小テストへの解答状況等を評価する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参加状況、質疑応答の内容について評価する	10		10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容及び小テストなどに関する質疑について応答、講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料、提示教材に沿って授業を行う。なお、高等学校使用の地図帳を用意し適宜参照すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後の休み時間。ochiai.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	世界の国々と地域区分	世界の国々の位置関係と自然環境や社会条件による地域区分について解説する。	
	この回の到達目標	世界の国々の位置関係と世界の地域区分について理解できる。	
	事前学修	シラバスで授業内容を確認するとともに世界地図を概観する。	90分
	事後学修	世界の国々の位置と世界を地域区分する方法について整理する。	150分
2	ユーラシア大陸における東西の地域差	ユーラシア大陸の東にある日本と西にあるヨーロッパなどの地域的差異について具体的な項目ごとに比較し解説する。	
	この回の到達目標	日本とヨーロッパの様々な地域差と環境的な要因について理解できる。	
	事前学修	日本とヨーロッパの違いについて概観し整理しておく。	120分
	事後学修	日本とヨーロッパにおける地域差とその要因について整理し理解する。	120分
3	東南アジアの自然環境と社会	東南アジアの地形や気候、社会、経済等について解説する。	
	この回の到達目標	東南アジアの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	東南アジアの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。	120分
	事後学修	東南アジアの地域構造とその特色について整理し理解する。	120分
4	東南アジアの事例地域1（カンボジアの自然と社会）	カンボジアにおける自然環境や略史、現代の社会について解説する。	
	この回の到達目標	カンボジアの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	カンボジアの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	カンボジアの産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
5	東南アジアの事例地域2（カンボジアにおける観光開発と地域社会）	カンボジアにおける観光の拠点、シェムリアップ州の観光開発の実態と地域社会の変容、問題点等について解説する。	
	この回の到達目標	カンボジアにおける観光開発の現状と問題点を理解できる。	
	事前学修	カンボジアの観光資源について確認しておく。	120分
	事後学修	シェムリアップ州の観光開発の実情と問題点を整理し理解する。	120分
6	南アジアの自然環境と社会	南アジアの地形や気候、社会、経済等について解説する。	
	この回の到達目標	南アジアの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	南アジアの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。	120分
	事後学修	南アジアの地域構造とその特色について整理し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	南アジアの事例地域1（パキスタンの自然と社会）	パキスタンにおける自然環境や略史、現代の社会について解説する。	
	この回の到達目標	パキスタンの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	パキスタンの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	パキスタンの産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
8	南アジアの事例地域2（パキスタン北部の生活と開発）	パキスタン北部の山岳地域ゴジャール地区の開発実態と地域社会の変容、問題点等について解説する。	
	この回の到達目標	パキスタン辺境地域における開発の現状と問題点を理解できる。	
	事前学修	パキスタン北部山岳地域の自然環境について確認しておく。	120分
	事後学修	ゴジャール地区の開発の実情と問題点を整理し理解する。	120分
9	中央アジアの環境と社会1（キルギスの事例）	キルギス アライ谷における自然環境や略史、現代の社会について解説する。	
	この回の到達目標	キルギスの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	キルギスの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	アライ谷の産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
10	中央アジアの環境と社会2（タジキスタンの事例）	タジキスタンワハン地区における自然環境や略史、社会について解説する。	
	この回の到達目標	タジキスタンの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	タジキスタンの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ワハン地区の産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
11	ヨーロッパの自然環境（地形と気候・植生）	ヨーロッパにおける地形や気候・植生について解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの自然環境とその地域差について理解できる。	
	事前学修	ヨーロッパの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。	120分
	事後学修	ヨーロッパの地形や気候・植生の特色について整理し理解する。	120分
12	ヨーロッパの人文環境（民族と略史）	ヨーロッパにおける民族、宗教などの特色や地域差などについて解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの民族・宗教などの地域差について理解できる。	
	事前学修	ヨーロッパの民族や宗教などについて確認しておく。	120分
	事後学修	ヨーロッパの民族や宗教とその地域的分布について整理し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヨーロッパの事例地域 1（ドイツの農業と食文化）	ドイツを事例にヨーロッパの農業の特色や食文化の特徴について解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの農業と食文化の関係について理解できる。	
	事前学修	ドイツの位置や農業に関するデータを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ドイツにおける農業の特徴と食文化との関係を整理し理解する。	120分
14	ヨーロッパの事例地域 2（ドイツの交通政策と環境対策）	ドイツを事例にヨーロッパの交通政策と環境対策の特色について解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの交通政策と環境対策について理解できる。	
	事前学修	ドイツの都市や交通路線について地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ドイツの交通や環境に関わる地域政策の特徴を理解する。	120分
15	理解度の確認と総括	授業内試験（レポート提出に代替する可能性あり）を実施し、授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	ユーラシア大陸各地の地域構造の特色およびその規定要因について説明できる。	
	事前学修	アジアおよびヨーロッパの事例地域の地域構造およびその規定要因について整理し理解しておく。	200分
	事後学修	授業全体の内容を再整理して理解する。	40分

科目名	哲学概論Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、古代から近代に至るまで西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、ソクラテス以前の自然観が、ソクラテスを経てプラトンに始まり、近代にまで至る形而上学的な自然観によってどのように変貌してゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1. 古代から近代までの西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解すること、2. 様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3. 時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく（履修者が少人数の場合、適宜、演習形式の要素も採り入れていく）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解し、説明することができる。												
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。												
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアク ションペーパーや小レポートの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2000年4 月10日	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@ nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
2	哲学は何を問うてきたのか	常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
	事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	「哲学」の誕生	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ソクラテスのいう「無知の知」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスのいうフィロソフィアについてその意味と役割について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	アイロニーとしての哲学	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	皮肉と嘘の違いや共通点について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスのアイロニーについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	ソクラテス裁判	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ソクラテス裁判について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスの無限否定性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	ソクラテス以前の自然観	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	自然について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテス以前のフュシスについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	授業の前半部の総括		授業の前半部の内容を振り返り、ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ここまでの授業内容を振り返り、自然観という点から見たソクラテスの役割についてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	自然観という点から見たソクラテスの役割についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
8	プラトンのイデア論		プラトンのイデア論の真意を探り、イデア論と物質的自然観との関係について考える。	
	この回の到達目標	プラトンのイデア論と物質的自然観との関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	プラトンのイデア論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	イデア論と物質的自然観との関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
9	アリストテレスの形而上学		アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	プラトンとアリストテレスとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
10	プラトン・アウグスティヌス主義の復興		デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	スコラ哲学について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	スコラ哲学のデカルト哲学への影響についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
11	デカルトと近代哲学の創建		デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	デカルトとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	デカルトによる量的自然観の基礎づけについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
12	近代哲学の構図		デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	科学的世界観について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の構図についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	授業の全体の総括		授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前からデカルトに至るまでの自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	授業内容の全体を振り返り、ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
14	哲学とは何かを振り返る		ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認する。	
	この回の到達目標	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
15	リアクションペーパーの講評・解説、授業全体の総括		リアクションペーパーの講評・解説を踏まえ、授業全体を総括する。	
	この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

科目名	哲学概論Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、近代から現代に向けて西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、近代哲学において形而上学的な自然観がどのように完成されてゆくのか、現代哲学に向かって、近代哲学の自然観の限界がどのように克服されてゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1．近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界を抽出し、現代哲学の源流としてその克服を目指す主要な哲学的立場とその概念を理解すること、2．様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3．時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく（履修者が少人数の場合、適宜、演習形式の要素も採り入れていく）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界の意味を理解し、説明することができる。								
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。								
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。								
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2010年4月10日	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館6階1612） okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」		ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
2	哲学は何を問うてきたのか		常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②		
	事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
3	近代哲学の構図		デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	科学の可能性と限界について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学が招いた問題についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
4	カントと近代哲学の完成		カントのコペルニクスの転回とは何か。直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	カントとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	カントのコペルニクスの転回についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
5	ヘーゲルと近代哲学の完成		ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について考える。	
	この回の到達目標	ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ヘーゲルの弁証法について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ヘーゲルの弁証法、および形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
6	後期シェリングと実存哲学		後期シェリングの実存主義について考える。	
	この回の到達目標	後期シェリングの実存主義について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ヘーゲルとシェリングとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	後期シェリングの実存という概念についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について考える。	
	この回の到達目標	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ここまでの授業を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
8	実存とは	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について考える。	
	この回の到達目標	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	実存主義について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	実存についての後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
9	マルクスの自然主義	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について。	
	この回の到達目標	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	マルクスの労働概念について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	マルクスのいう自然主義についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
10	ニーチェのニヒリズム	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について考える。	
	この回の到達目標	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ニヒリズムについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ニーチェのいう「ヨーロッパのニヒリズム」についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
11	ニーチェと「力への意志」の哲学	「力への意志」という点からニーチェの自然観について考える。	
	この回の到達目標	力への意志」という点からニーチェの自然観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ニーチェのいう「力への意志」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	「力への意志」という考えにおけるニーチェの自然観についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
12	近代から現代へ	近代哲学にまで至る自然観の変遷を振り返る。	
	この回の到達目標	近代哲学にまで至る自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	授業の全体の総括		授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	授業内容の全体を振り返り、近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
14	哲学とは何かを振り返る		近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認する。	
	この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
15	リアクションペーパーの講評・解説、授業全体の総括		リアクションペーパーの講評・解説を踏まえ、授業全体を総括する。	
	この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育実践の目標や内容、指導計画等を理解します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目的とします。（以上、文部科学省「コアカリキュラム」より引用：一部改）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を養成することを目的とします。道徳教育実践を構想し、計画、立案、実践できることを到達目標とします。

【履修条件】
おもに、教職を志望する学生を対象とします。なお、教職を志望していない学生は、基本的には模擬授業の実施の必要はありません。また、予習と復習の時間は、あくまで目安であり、個々人で学習計画を立案してください。

【授業方法】
講義、学生による模擬授業を中心に進めます。模擬授業に対する講評は、そのつど実施します。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～15回のいずれかを予定）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	道徳教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。											
②	天皇制公教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。											
③	戦前における「教育勅語」の位置づけについて理解し、自己の見解を叙述できる。											
④	道徳教育の諸実践の意義と課題について理解し、自己の見解を叙述できる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (30%)	10	10	5	5							30
討論・発表等	模擬授業 (60%)。	20	20	10	10							60
授業への参画度	コメントペーパー (10%)。	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	17	17							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に講評いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いのちに触れる	鳥山敏子	太郎次郎社エディタ ス	2011	教科書	必携
からだといのちと食べものと	鳥山敏子	自然食通信社	2003	参考書	任意
ブタまるごと一頭食べる	鳥山敏子	フレーベル館	1987	参考書	任意
差別原論	好井裕明	平凡社	2007	参考書	任意
「感動ポルノ」と向き合う 障害者像にひそむ差別と排除	好井裕明	岩波書店	2022	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	被教育体験と道德教育	被教育体験のなかの道德教育	
	この回の到達目標	被教育体験と道德教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書や参考文献に目を通しておく。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
2	人間の育ちと道德性	「道德」の輪郭 哲学における道德性の発達と概念の定義をめぐって	
	この回の到達目標	人間の育ちと道德性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
3	日本道德教育史①	日本における戦前の道德教育史 江戸時代の通俗道德から修身教育まで	
	この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。（2時間）	120分
4	日本道德教育史②	日本における戦後の道德教育史 敗戦後から「教科化」まで	
	この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
5	教育実践史と学校教育①	具体的な戦後の道德教育実践（1）「いのち」の授業：黒田恭史を事例として	
	この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
6	教育実践史と学校教育②	具体的な戦後の道德教育実践（2）「いのち」の授業：鳥山敏子を事例として	
	この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	道徳教育の授業実践①	道徳教育の学習指導案 作成と方法	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
8	道徳教育の授業実践②	模擬授業の検討（1） 教材研究	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
9	道徳教育の授業実践③	模擬授業の実際（1） 各グループによる小授業	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
10	道徳教育の授業実践④	模擬授業の検討（2） 各グループへの意見交流	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
11	道徳教育の授業実践⑤	模擬授業の実際（2） 各グループによる授業実践（小学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
12	道徳教育の授業実践⑥	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（中学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	道徳教育の授業実践⑦	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（高等学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
14	道徳教育と教育評価	各グループの教育評価のあり方をめぐって	
	この回の到達目標	道徳教育と教育評価の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
15	道徳教育と公教育システム	総合討議。	
	この回の到達目標	道徳教育と公教育システムについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

科目名	東洋史概論Ⅰ	担当者	伊藤 一馬	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
先史時代から13世紀のモンゴル帝国成立以前までの東洋の歴史を、東アジアや中央ユーラシアを中心としつつ、東南アジア・南アジア・西アジアにも目を配りながら概観する。また、高等学校「世界史探究」の学習指導要領や教科書の内容にも留意し、具体的な史料の紹介・読解も交えながら講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史探究」において、先史時代から13世紀のモンゴル帝国成立以前までの東洋の歴史を教えられるような知識や要点の理解を目的とする。また、具体的な史料から歴史的状況を読み解く能力も養うことを目指す。

【履修条件】
中国やアジア、遊牧民の歴史などに関心があり、教員免許取得に意欲のある学生を歓迎します。授業の欠席はいかなる事情も自己責任として扱い、日本大学もしくは法学部で規定されている場合を除き、一切の配慮・救済・代替措置は行いません。また、他の履修生の迷惑になるような行為や履修放棄とみなされるような行為には厳しく対応します。

【授業方法】
配布する授業レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて板書・パワーポイントを利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	先史時代からモンゴル帝国成立以前までの東洋の歴史について、大まかな流れを理解し、基本的な事項や概念を説明することができる。【知識】												
②	歴史上の多様な社会・文化のあり方を理解し、異なる時代や地域との比較を通じて、それぞれの歴史的意義を議論することができる。【態度・習慣】												
③	講義や自律的な学習を通じて、東洋の歴史に関する高等学校「世界史探究」の授業を構想することができる。【技能】												
④	具体的な史料の読解を通じて、様々な歴史的事実や歴史的意義を発見・議論することができる。【解釈】												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	史料の読解や事項・概念を問う小テストを行い、到達目標①④に関わる知識・解釈について確認する。	30			20							50
レポート等	提出されたレポートが書式などの要件を満たし、課題にこたえる内容をともなったうえで、到達目標②③に関わる自らの見解を提示・説明できている。		30	20								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
史料読解や小テストについては、回収後の授業時に必要に応じて補足説明などを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国と東部ユーラシアの歴史	佐川英治・杉山清彦 (編)	放送大学教育振興会	2020	参考書	任意
市民のための世界史 第2版	大阪大学歴史教育研究会 (編)	大阪大学出版会	2024	参考書	任意
文字と組織の世界史	鈴木董	山川出版社	2018	参考書	任意
備考	各回授業時にも適宜参考書を紹介する。なお、『市民のための世界史』は2024年3月下旬（もしくは4月上旬）に第2版が刊行予定で、内容も大きく初版から増補改訂される予定なので購入の際は初版ではなく第2版を強く推奨します。				

【オフィスアワー】
メールアドレス：ito.kazuma@nihon-u.ac.jp／研究室：法学部本館7階1717研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入：東洋と東アジア・中央ユーラシア・東南アジア・南アジア・西アジア	「東洋」を構成する東アジア・中央ユーラシア・東南アジア・南アジア・西アジアという地理区分について、歴史展開とも大きく関わる気候・風土や社会・文化などを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、東アジア・中央ユーラシア・東南アジア・南アジア・西アジアの特徴について説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集で東洋の歴史に関する内容を確認しておく。	120分
	事後学修	アジアの諸地域の気候・風土や現在の社会状況の特徴について整理する。	120分
2	ユーラシアの古代文明	古代文明のうちメソポタミア文明・インダス文明・中国文明を取り上げ、それぞれの特徴や共通点を確認するとともに、人類の誕生から文明の成立に至るまでの人間社会の変遷を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸文明の成立の要因や特徴について説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でユーラシアの古代文明について確認しておく。	120分
	事後学修	人間社会に文明が成立するにはどのような要素が必要であったかを考える。 ユーラシアに成立した古代文明の特徴を整理し、それぞれの共通点や相違点を考える。	120分
3	中国における初期王朝の成立	中国の殷・周王朝の成立、春秋・戦国時代の展開を概観し、この時期に形成された社会・文化の特徴を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国の歴史を大きく規定する王朝・易姓革命・天命思想・中華思想などの概念を正しく説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で中国の殷・周および春秋・戦国時代について確認しておく。	120分
	事後学修	殷・周の共通点や相違点、春秋・戦国時代の社会の特徴を整理する。 『詩経』の一節を読み、「中国」が本来どのような意味の言葉であったかを考える。	120分
4	秦漢帝国と東部ユーラシア①：中央ユーラシアの遊牧民とオアシス民	中央ユーラシアにおける遊牧民やオアシス民の社会の特徴を確認し、遊牧騎馬民の誕生や遊牧国家の成立にいたる流れを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遊牧民・オアシス民の社会の特徴やその歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で遊牧民やオアシス民について確認しておく。	120分
	事後学修	遊牧民やオアシス民の社会の特徴を整理する。 『史記』匈奴伝を読み、当時の「中国」の人々が遊牧民をどのような価値観で捉えていたかを考える。	120分
5	秦漢帝国と東部ユーラシア②：秦漢帝国の政治・社会・国際関係	秦の始皇帝による中国統一から漢帝国の成立・拡大の流れとそれぞれの諸政策や社会状況、周辺勢力との関係を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、秦・漢代の歴史事象が後代にどのような影響を与えたか説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で秦・漢の政治・社会や国際関係について確認しておく。	120分
	事後学修	秦漢帝国の政治・社会の特徴を整理し、後代への影響を考える。 『後漢書』東夷伝を読み、漢代の東アジアでどのような国際関係が形成されていたかを考える。	120分
6	南アジア・東南アジアの諸国家	南アジア・東南アジアにおける国家の興亡を古代から10世紀ごろまで概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、南アジア・東南アジアにおける国家の興亡と宗教との関わりを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で南アジア・東南アジアの国家について確認しておく。	120分
	事後学修	南アジア・東南アジアに成立した諸国家を整理する。 南アジア・東南アジアの諸国家と宗教との関わりを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	民族大移動の時代①：中国の分裂時代と多民族社会	魏晋南北朝時代における中国の分裂状態と遊牧民の関わりや、この時代に形成された多民族社会について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、魏晋南北朝時代の中国における多民族社会の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で魏晋南北朝時代の中国について確認しておく。	120分
	事後学修	魏晋南北朝時代の中国の政治的展開や社会・文化の特徴を整理する。『宋書』夷蛮伝や「梁職貢図」を参考に、当時の仏教がどのような意義をもっていたかを考える。	120分
8	民族大移動の時代②：中央ユーラシアの変動と国際関係	3～6世紀の中央ユーラシアにおける遊牧民・オアシス民の動向を概観し、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアとの関係について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、この時代の遊牧民の動向がユーラシア規模の歴史展開に大きく影響を与えたことを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で3～6世紀の中央ユーラシアや中国周辺の情勢を確認しておく。	120分
	事後学修	鮮卑・柔然・高車・突厥・エフタルなどの遊牧集団の動向を整理する。『周書』突厥伝を読み、当時の国際関係がどのようなものであったかを考える。	120分
9	民族大移動の時代③：イスラム教の成立とアラブ・イスラム帝国の拡大	イスラム教の成立・拡大のウマイヤ朝・アッバース朝の成立や周辺地域との関わりについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、イスラム教の成立・拡大の歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でイスラム教の成立・拡大について確認しておく。	120分
	事後学修	イスラム教の成立前後のアラビア半島および周辺の歴史展開を整理する。アラブ帝国とイスラム帝国の共通点と相違点を整理する。	120分
10	隋唐帝国の成立と東部ユーラシア	隋唐帝国による中国統一と唐の拡大の流れを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、隋唐帝国における遊牧民やオアシス民の位置付けを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で隋・唐について確認しておく。	120分
	事後学修	隋唐帝国と遊牧民・オアシス民との関わりを整理する。『唐会要』を参考に、唐帝国がどのような性格の国家であったかを考える。	120分
11	唐代の政治・社会・文化とシルクロード	唐代の政治・社会の特徴、シルクロードを通じた文化交流や交易、国際関係について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、唐の政治・社会・文化が近隣地域に与えた影響を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でシルクロードについて確認しておく。	120分
	事後学修	隋唐帝国が整備した諸制度の特徴を整理し、後代に与えた影響を考える。「ソグド人の手紙」や『旧唐書』を読み、ソグド人がどのような人々であったかを考える。唐から日本にもたらされた文物から、日本とユーラシア各地とのつながりを考える。	120分
12	唐帝国の変容と東部ユーラシア	8世紀半ば以降の唐の動揺・変容と東部ユーラシア情勢の変動を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、8世紀半ばから9世紀半ばの時期が東部ユーラシアの歴史にとって大きな画期であることを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で8世紀後半以降の唐および東部ユーラシアの情勢について確認しておく。	120分
	事後学修	唐が衰亡する過程や要因にどのようなものがあつたか整理する。『入唐求法巡礼行記』や『日本後紀』を参考に、唐や東部ユーラシアの変動を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	イスラム世界の拡大と多元化	イスラム世界の拡大・分裂の展開を概観し、多元化するイスラム社会の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、イスラム社会の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で様々なイスラム国家について確認しておく。	120分
	事後学修	イスラム世界の拡大・多元化の過程やイスラム社会の特徴を整理する。 イスラム世界の拡大によって形成された内陸・海域のネットワークの特徴を整理する。	120分
14	東部ユーラシアの多極化の時代①： 中央ユーラシア型国家と盟約の時代	10世紀以降の東部ユーラシアにおける国際情勢の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央ユーラシア型国家と盟約の歴史的意義について説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で10～13世紀の東部ユーラシアの情勢を確認しておく。	120分
	事後学修	10世紀以降の東部ユーラシアに成立した中央ユーラシア型国家の特徴を整理する。 『続資治通鑑長編』を読み、諸勢力間で結ばれた盟約や国際関係の特徴を考える。	120分
15	東部ユーラシアの多極化の時代②： 唐宋変革と中国の社会・文化	唐の滅亡から宋の成立までの流れを概観し、宋代の中国における政治・社会・文化や国際関係の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宋代の政治・社会・文化や国際関係の特徴を唐と比較しながら説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で宋代の中国について確認しておく。	120分
	事後学修	唐から宋に至る中国の政治・社会・文化の変化を整理する。 『続資治通鑑長編』を読み、東部ユーラシアの交易・交流のありかたを考える。	120分

科目名	東洋史概論Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
先史時代から13世紀にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から13世紀にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。												
②	①を踏まえながら、古代から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。												
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。												
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」（一部）に関する授業の組み立てができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③④の能力が身についているかを評価する。	25	25	10	10							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(レポート)	レポートが，書式等の要件を満たし，課題に的確に答えたものかを基準に到達目標①②に関わり、（１）講義内容が把握できているか，（２）講義内容が深化されているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教室内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	筑摩書房	2015	教科書	必携
教養の中国史	津田資久ほか	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	人類の誕生 旧石器時代の中国	〔中国史1〕 授業内容やスケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介をするとともに、人類の誕生、ホモ・サピエンスの登場、さらに中国における人類の足跡やと旧石器時代について概述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「人類の誕生」「旧石器時代の中国」を説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の導入部分を読み、授業にそなえる。	120分
	事後学修	「人類の誕生・ホモ・サピエンスの登場・中国における人類の足跡・旧石器時代の中国」についてまとめてみよう。	120分
2	中国文明の多元性	〔中国史2〕 中国文明の誕生 中国文明の多元性について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国文明の多元性を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	中国文明の多元性についてまとめてみよう。	120分
3	殷周時代	〔中国史3〕 中国初期王朝の形成―殷周時代	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、殷周時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	殷周時代についてまとめてみよう。	120分
4	春秋から秦の統一	〔中国史4〕 春秋戦国 秦の統一	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、春秋から秦の統一を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「3 春秋・戦国から秦の統一へ」を読んで春秋戦国時代から秦の統一についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「春秋戦国 秦の統一」についてまとめてみよう。	120分
5	漢王朝の時代	〔中国史5〕 漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、漢王朝の時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「4 漢帝国と周辺地域」を読んで漢帝国と周辺地域についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興」についてまとめてみよう。	120分
6	魏晋南北朝時代	〔中国史6〕 中国の分裂 三国の鼎立 南北朝時代 中国における胡漢融合と六朝政権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、魏晋南北朝時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「5 分裂と融合の時代」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「中国の分裂 中国における胡漢融合と六朝政権」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	隋唐律令国家	〔中国史7〕 隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、隋唐律令国家を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「6 隋唐帝国の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
8	東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化	〔中国史8〕 東アジア文化圏の成立、隋唐の国際関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「東アジア文化圏の成立」「隋唐の国際関係と文化」を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの「羈縻政策」を読んでまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化」についてまとめてみよう。	120分
9	スキタイと匈奴	〔中央ユーラシア史1〕 騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スキタイと匈奴を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、スキタイ、匈奴を把握してみよう。。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代」についてまとめてみよう。	120分
10	草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開	〔中央ユーラシア史2〕 草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、五胡、柔然、高車、「カンカハンカ」について把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然についてまとめてみよう。	120分
11	古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立まで	〔中央ユーラシア史3〕 古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家 オアシス世界の展開 オアシス世界への中華文化の流入	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立までを説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、突厥についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家」についてまとめてみよう。	120分
12	古代朝鮮から朝鮮三国の抗争	〔朝鮮史1〕 朝鮮の神話と伝承 朝鮮三国以前ー古朝鮮・漢の四郡・三韓 高句麗・百済・新羅・伽耶諸国、朝鮮三国の抗争に	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古代朝鮮から朝鮮三国の抗争までを説明できる。	
	事前学修	参考資料「朝鮮前近代史」を参考にして、古代朝鮮から朝鮮三国の抗争を把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	統一新羅と渤海	〔朝鮮史2〕 中国の王朝と朝鮮 煬帝の高句麗遠征 唐と新羅の連合 百済と高句麗の滅亡 新羅の「朝鮮半島の統一」渤海の成立	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新羅による「朝鮮半島の統一」と渤海の成立を説明できる。	
	事前学修	参考資料「朝鮮前近代史」を参考にして、新羅による「朝鮮半島の統一」と渤海の成立までを把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分
14	唐の滅亡と東アジア世界の変容・中央ユーラシアの変容 教室内試験	〔中国史9／中央ユーラシア史4〕 唐の滅亡と東アジア世界の変容、中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化について概述し、その後、教室内試験をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「唐の滅亡と東アジア世界の変容」「中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク」を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、唐滅亡後の東アジア、ウイグル崩壊後の中央ユーラシアのイスラーム化とテュルク化についてまとめてみよう。教室内試験のそなえる。	180分
	事後学修	授業内容をふまえて「唐の滅亡と東アジア世界の変容 中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化」についてまとめてみよう。教室内試験をもとに復習をおこなう。	60分
15	教室内試験の解説、「東洋史概論Ⅰ」に関する講義総括	教室内試験の解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については旧石器時代から唐の滅亡まで、朝鮮については古朝鮮から統一新羅・渤海まで、中央ユーラシアについてはスキタイ・匈奴から中央ユーラシアの変容までを説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、教師内試験を解く。	120分

科目名	東洋史概論Ⅱ	担当者	伊藤 一馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
13世紀のモンゴル帝国成立以後から近現代までの東洋の歴史を、東アジアや中央ユーラシアを中心としつつ、東南アジア・南アジア・西アジアにも目を配りながら概観する。また、高等学校「世界史探究」の学習指導要領や教科書の内容にも留意し、具体的な史料の紹介・読解も交えながら講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史探究」において、13世紀のモンゴル帝国成立以後から近現代までの東洋の歴史を教えられるような知識や要点の理解を目的とする。また、具体的な史料から歴史的状況を読み解く能力も養うことを目指す。

【履修条件】
中国やアジア、遊牧民の歴史などに関心があり、教員免許取得に意欲のある学生を歓迎します。授業の欠席はいかなる事情も自己責任として扱い、日本大学もしくは法学部で規定されている場合を除き、一切の配慮・救済・代替措置は行いません。また、他の履修生の迷惑になるような行為や履修放棄とみなされるような行為には厳しく対応します。

【授業方法】
配布する授業レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて板書・パワーポイントを利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	モンゴル帝国成立以後から近現代までの東洋の歴史について、大まかな流れを理解し、基本的な事項や概念を説明することができる。【知識】												
②	歴史上の多様な社会・文化のあり方を理解し、異なる時代や地域との比較を通じて、それぞれの歴史的意義を議論することができる。【態度・習慣】												
③	講義や自律的な学習を通じて、東洋の歴史に関する高等学校「世界史探究」の授業を構想することができる。【技能】												
④	具体的な史料の読解を通じて、様々な歴史的事実や歴史的意義を発見・議論することができる。【解釈】												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	史料の読解や事項・概念を問う小テストを行い、到達目標①④に関わる知識・解釈について確認する。	30			20							50
レポート等	提出されたレポートが書式などの要件を満たし、課題にこたえる内容をともなったうえで、到達目標②③に関わる自らの見解を提示・説明できている。		30	20								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
史料読解や小テストについては、回収後の授業時に必要に応じて補足説明などを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国と東部ユーラシアの歴史	佐川英治・杉山清彦 (編)	放送大学教育振興会	2020	参考書	任意
市民のための世界史 第2版	大阪大学歴史教育研究会 (編)	大阪大学出版会	2024	参考書	任意
文字と組織の世界史	鈴木董	山川出版社	2018	参考書	任意
備考	各回授業時にも適宜参考書を紹介する。なお、『市民のための世界史』は2024年3月下旬（もしくは4月上旬）に第2版が刊行予定で、内容も大きく初版から増補改訂される予定なので購入の際は初版ではなく第2版を強く推奨します。				

【オフィスアワー】
メールアドレス：ito.kazuma@nihon-u.ac.jp／研究室：法学部本館7階1717研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	モンゴル時代のユーラシア①：モンゴル帝国の成立と拡大	モンゴル帝国の成立・拡大の流れや、国家構造・支配体制の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モンゴル帝国の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でモンゴル時代について確認しておく。	120分
	事後学修	モンゴル帝国の支配体制の特徴や諸勢力に対する姿勢の共通点・相違点を整理する。 『蒙古国牒状』を読み、モンゴル帝国が周辺勢力に何を求めていたかを考える。	120分
2	モンゴル時代のユーラシア②：モンゴルのユーラシア統合	モンゴル帝国によるユーラシア規模の統合のありかたや、海・陸のネットワークについて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モンゴル時代のユーラシア規模の統合の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でモンゴル時代について確認しておく。	120分
	事後学修	モンゴル時代に形成されたユーラシア規模の統合・交流について整理する。 『東方見聞録』や『三大陸周遊記』を読み、モンゴル時代の交流・交易のあり方を考える。	120分
3	ポスト・モンゴル時代のユーラシア①：明の成立と東部ユーラシア	明の成立によって東部ユーラシアがどのように変容したか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明の政治・社会や国際関係の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で明代の中国や東部ユーラシアについて確認しておく。	120分
	事後学修	明の成立が中国や東部ユーラシアにもたらした影響について整理する。 モンゴルと明による支配体制の共通点・相違点について考える。	120分
4	ポスト・モンゴル時代のユーラシア②：三つのイスラム国家	西アジア・南アジアに成立したムガル帝国・サファヴィー帝国・オスマン帝国について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ムガル帝国・サファヴィー帝国・オスマン帝国の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献でティムール帝国・ムガル帝国・サファヴィー帝国・オスマン帝国について確認しておく。	120分
	事後学修	ポスト・モンゴル政権がモンゴル帝国からどのような要素を継承したか整理する。 『バーブル・ナーマ』や『ティムール帝国紀行』を読み、ポスト・モンゴル時代の遊牧的国家について考える。	120分
5	明清交替と東部ユーラシア①：銀の世紀と結びつく世界	16世紀の中国や東部ユーラシアが銀によって世界と結ばれていたことを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、銀を介した16世紀における世界の結びつきを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で16世紀の世界やアジアについて確認しておく。	120分
	事後学修	16世紀以降の東部ユーラシアの交易・交流の変化と世界情勢との結びつきを整理する。 世界的な銀の流れによって東部ユーラシアでどのような勢力が台頭したか整理する。	120分
6	明清交替と東部ユーラシア②：東アジア・東南アジアの伝統社会の形成	16世紀以降に東アジア・東南アジアで形成された伝統社会の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、東アジア・東南アジアの伝統社会の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で清代の東アジア・東南アジアについて確認しておく。	120分
	事後学修	東アジア・東南アジアの伝統社会の特徴について整理する。 東アジア・東南アジアの伝統社会と現代とを比較する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	明清交替と東部ユーラシア③：大清帝国の興隆	清の成立・拡大の過程や政治・支配体制の特徴を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、清の政治・支配体制の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で清の拡大や政治・支配体制について確認しておく。	120分
	事後学修	清の拡大や政治・支配体制の確立の過程やその特徴を整理する。 清の外交文書を読み、清が諸外国とどのような関係を構築していたかを考える。	120分
8	列強のアジア進出と植民地化の時代①：西アジア・南アジア	列強の進出によって西アジア・南アジアがどのように変動したのか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、西アジア・南アジアの近代化の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で西アジア・南アジアへの列強の進出について確認しておく。	120分
	事後学修	西アジア・南アジアへの列強の進出やその影響について整理する。 「ミドハト憲法」を参考に、アジアへの西欧の影響を考える。	120分
9	列強のアジア進出と植民地化の時代②：東南アジア	列強の進出によって東南アジアがどのように変動したのか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、東南アジアの近代化の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で東南アジアへの西欧列強の進出について確認しておく。	120分
	事後学修	東南アジアへの列強の進出やその影響について整理する。	120分
10	列強のアジア進出と植民地化の時代③：東アジア	列強の進出によって東アジアがどのように変動したのか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、東アジアの近代化の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で東アジアへの西欧列強の進出について確認しておく。	120分
	事後学修	東アジアへの列強の進出やその影響について整理する。 「日朝修好条規」を読み、近代日本が東アジアにもたらした影響を考える。	120分
11	大清帝国の動揺と辛亥革命	19世紀以降の清の変容・滅亡から辛亥革命による中華民国の成立までを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、清で起こった改革運動の特徴を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で19世紀以降の清の動向や辛亥革命について確認しておく。	120分
	事後学修	清の様々な改革運動について整理する。 辛亥革命が中国の歴史においてどのような意味をもつのか考える。	120分
12	二つの世界大戦とアジアのナショナリズム①：第一次世界大戦とアジア	第一次世界大戦期のアジア諸地域の情勢を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第一次世界大戦とアジアの関わりを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で第一次世界大戦前後のアジアについて確認しておく。	120分
	事後学修	アジア各地のナショナリズムについて整理する。 第一次世界大戦とアジア情勢の関わりについて整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	二つの世界大戦とアジアのナショナリズム②：日中戦争から第二次世界大戦へ	第一次世界大戦後から第二次世界大戦期のアジア諸地域の情勢を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦とアジアの関わりを説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で戦間期および第二次世界大戦時のアジアについて確認しておく。	120分
	事後学修	第一次世界大戦終結から第二次世界大戦勃発までのアジア情勢を整理する。	120分
14	戦後のアジアと東西冷戦	第二次世界大戦後から東西冷戦の終結までを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第二次大戦後から東西冷戦の終結までのアジア情勢の展開を説明できる。	
	事前学修	高校世界史教科書・資料集や参考文献で第二次世界戦後のアジアについて確認しておく。	120分
	事後学修	第二次世界大戦後におけるアジア各地の諸国家の変動を整理する。 東西冷戦下におけるアジアの位置付けを考える。 国際条約や政治文書を読み、国際的な組織の意義を考える。	120分
15	現代世界とアジア	現代世界におけるアジアの位置づけを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代世界におけるアジアの位置づけを説明できる。	
	事前学修	現代のアジア情勢のなかでどのような「問題」があるか考えておく。	120分
	事後学修	現代のアジア情勢における様々な「問題」について、どのような歴史的背景があるかを考える。	120分

科目名	東洋史概論Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
12世紀から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポートではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。											
②	①を踏まえながら、12世紀から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。											
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。											
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」(一部)に関する授業の組み立てができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	教室内試験（期末テスト）をおこない、到達目標①②③④の能力が身についているかを評価する。	25	25	10	10							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(レポート)	レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に到達目標①②に関わり、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
教室内試験は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、レポートは返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	筑摩書房	2015	教科書	必携
教養の中国史	津田資久ほか	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	宋朝の成立と中国の統一	〔中国史 8〕 宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宋朝の成立と中国の統一を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」を参考にして宋朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」」についてまとめてみよう。	120分
2	遼と西夏、金－北方民族の台頭	〔中国史 9／中央ユーラシア史 5〕 遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遼と西夏、金について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」、『遊牧民から見た世界史』（p322～p338）を参考に遼、西夏、金についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」」についてまとめてみよう。	120分
3	モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治	〔中央ユーラシア史 6／中国史10〕 モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」「8 元から明へ」、『遊牧民から見た世界史』（p358～p374）を参考にモンゴル帝国の成立と元朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治」についてまとめてみよう。	120分
4	明朝の成立・発展と周辺諸地域	〔中国史11〕 明朝の成立・発展と周辺諸地域	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、明朝の成立・発展と周辺諸地域を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「8 元から明へ」を参考にして、明朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「明朝の成立・発展と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
5	清朝支配の成立と広域統治	〔中国史12〕 清朝支配の成立と広域統治	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、清朝支配の成立と広域統治を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「9 清朝の平和」を参考にして、清朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「清朝支配の成立と広域統治」についてまとめてみよう。	120分
6	チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝	〔中央ユーラシア史 8／朝鮮史 4〕 チベット仏教国家 チベット仏教国家と中国王朝 高麗の歴史	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝について説明できる。	
	事前学修	配布プリントを参考にして、チベットの歴史について、『朝鮮思想全史』（p105～p108）を参考にして、「高麗の歴史」についてまとめてみよう。まとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「チベットの歴史」と「高麗の歴史」についてまとめてみよう	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	清朝の動揺と社会の変容	〔中国史13〕 清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、清朝の動揺と社会の変容を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「10清末の動乱と社会の変容」を参考にして、二つのアヘン戦争と太平天国ついてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失」についてまとめてみよう。	120分
8	中国ナショナリズムの形成	〔中国史14〕 中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命元朝の支配	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国ナショナリズムの形成を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「11中国ナショナリズムの形成」を参考にして、日清戦争から辛亥革命までをまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命」についてまとめてみよう。	120分
9	五・四運動から「国民政府」による中国統一まで	〔中国史15〕 五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、五・四運動から「国民政府」による中国統一までを説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「12五・四運動と社会の変容」を参考にして、第一次世界大戦と中国ついてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一」についてまとめてみよう。。	120分
10	抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	〔中国史16〕 抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抗日戦争と中国革命、中華人民共和国の成立について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「13抗日戦争と中国革命」を参考にして、抗日戦争の展開と人中華人民共和国の成立についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立」についてまとめてみよう。	120分
11	社会主義国家の建設の時代	〔中国史17〕 社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会主義国家の建設の時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「14社会主義国家の建設の時代」を参考にして、人民共和国成立後の中国の歴史をまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題」についてまとめてみよう。	120分
12	近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで	〔朝鮮史5〕 近代の朝鮮王朝から大韓帝国までを、中国・ロシア・日本との関係に留意して概述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近代の朝鮮王朝から大韓帝国までを説明できる。	
	事前学修	参考プリント「朝鮮近代史」を参考にして、朝鮮王朝の時代をまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	韓国併合と日本統治下の朝鮮	〔朝鮮史6〕 韓国併合から日本統治下の朝鮮について概述し、その後朝鮮王朝の成立から日本統治下の朝鮮に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、韓国併合・日本統治下の朝鮮を説明できる。	
	事前学修	参考プリント「朝鮮近代史」を参考にして、韓国併合・日本統治下の朝鮮についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「韓国併合・日本統治下の朝鮮」についてまとめてみよう。	120分
14	東南アジア略史 教室内試験	〔東南アジア史〕 前近代東南アジア史のなかの「中国」／中国の歴代王朝と東南アジアの諸国家の交流／朝貢冊封関係と東南アジア／中国文化の受容－仏教と儒教／ベトナムの独立王朝について概述し、その後、教室内試験をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、東南アジア史を説明できる。	
	事前学修	配布プリントを参考にして、中国と東南アジアとの関係を概述してみよう。教室内試験の準備をする。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて東南アジア諸地域の歴史についてまとめてみよう。教室内試験の復習をする。	120分
15	教室内試験の解説、「東洋史概論Ⅱ」に関する講義総括	教室内試験の解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については五代から現代まで、朝鮮については高麗から近代まで、中央ユーラシアについてはモンゴル・チベットに関連する歴史的展開、さらに東南アジア史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、教室内試験を解く。	120分

科目名	特別活動論	担当者	宮島 健次	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】								
【特別活動】学習指導要領の精読を通してその内容について理解するとともに、ディスカッション等アクティブ・ラーニングの手法を用い、他者に自分の考えや意見を表明し、かつ明確に伝える手段や、自ら考える力を養っていきます。授業で得られた学びをさらに深くするために最終レポートを作成、学びの言語化を行っていきます。 【総合的な学習の時間の指導法】 ・講義，資料作成，相互評価等の学習活動を通して，総合的な学習の時間の教育課程における位置づけや役割を明らかにする。 ・様々な実践例を知り評価する中で，総合的な学習の時間で期待される授業像を探りながら，これからの総合的な学習の時間のあるべき姿を自分なりに構想することができる。								

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)								
【特別活動】学校教育における特別活動の位置づけや意義を理解するとともに「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」のための指導方法について理解し、自分の言葉で説明できる。 【総合的な学習の時間の指導法】 ・総合的な学習の時間の意義と課題を理解するとともに，探究的な学習の指導方法を活かした指導計画の目標や内容を具体的に作成し，学習指導案を作成することができる。 ・総合的な学習の時間で期待される態度の育成に向けて，全体やグループ内で意見交換しながら，めざすべき授業を構想することができる。								

【履修条件】								
なし								

【授業方法】								
・講義 ・資料作成 ・相互作品の鑑賞と評価（総合的な学習の時間の指導法）								

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有		
アクティブ・ラーニングの形態	【総合的な学習の時間】・個人による資料作成とその相互参観・全作品に対する鑑賞と評価の実施		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特別活動の意義について理解できる。												
②	特別活動の各分野の現状と課題について知り、課題の解決について議論し考察することができる。												
③	特別活動の指導法について考察し、当事者意識をもって立案することができる。												
④	総合的な学習の時間ができた意義やこれまでの大まかな流れについて理解できる。												
⑤	経験してきた総合的な学習の時間と他の実践例を比較検討し、理解することができる。												
⑥	総合的な学習の時間の現状と課題を把握し、今後の方向性について考察することができる。												
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	【総合的な学習の時間の指導法】到達目標④⑤⑥に関わる。授業終了までに、大きな課題を3つ程度出題するので、〆切までに提出する。					5	5	10					20
小テスト等													
レポート等	【特別活動】到達目標①に関わる。講義終了後にレポートを提出する。 【総合的な学習の時間の指導法】到達目標④⑤に関わる。毎時間、授業後に自己評価カードを必ず提出する。		40			5	5						50
討論・発表等	【特別活動】到達目標②に関わる。グループでのディスカッションで意見を表明する。 【総合的な学習の時間の指導法】到達目標④⑤に関わる。グループや全体の討論や発表にかえて、受講者全員の作品について鑑賞内容を記述し、評価する。			5		5	5						15
授業への参画度	【特別活動】到達目標③に関わる。毎時間のリアクションペーパーにより確認する。 【総合的な学習の時間の指導法】到達目標④⑥に関わる。課題やレポートをきちんと提出し、授業への感想や意見を述べるなど課題に主体的に取り組んでいる。				5	5		5					15
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)										
			40	5	5	20	15	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
【共通】 レポートの提出

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
【特別活動】授業内で指示します。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	小学校，中学校における教員経験		
実務経験に基づく実践的教育の内容		【鈴木克彦】地域環境の視点から（小中一貫教育指定校における実践・小，中学校） 国際理解，人権教育の視点から（アメリカ合衆国における日系移民について・中学校）他			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	特別活動とは何か～学習指導要領に見る特別活動の扱い (担当：宮島 健次)		・本授業の目的、到達目標、授業計画等を説明する。 ・次に、受講者の過去の体験をふりかえり、特別活動の意義を考える。そののち、学習指導要領における特別活動の扱いを確認する。	
	この回の到達目標	・特別活動の意義を「体験」をもとに考え、理解する。		
	事前学修	・小学校、中学校、高校の各教育段階における自らの教育体験をふりかえり、特徴的なことをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
2	特別活動が内包する問題～実施状況から考える (担当：宮島 健次)		特別活動の実施状況調査から、特別活動が内包する問題を解説する。	
	この回の到達目標	特別活動が内包する問題点を理解するとともに、それらの発生原因や解決方法などを説明できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
3	現代社会における特別活動の意義を考える（1）21世紀の子ども観・学習観 (担当：宮島 健次)		特別活動が抱える問題の根源を、21世紀の子ども観・学習観をキーワードに探っていく。	
	この回の到達目標	21世紀の子ども観・学習観の特徴を理解するとともに、自分が教職についたらどのように対応したらいいか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
4	現代社会における特別活動の意義を考える（2）21世紀の人間観 (担当：宮島 健次)		特別活動が抱える問題の根源を、21世紀の人間観をキーワードに探っていく。	
	この回の到達目標	21世紀の人間観の特徴を理解するとともに、自分が教職についたらどのように対応したらいいか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
5	現代社会における特別活動の指導法を考える（1）指導の在り方 (担当：宮島 健次)		特別活動が抱える問題を意識しつつ、その指導の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
6	現代社会における特別活動の指導法を考える（2）集団活動 (担当：宮島 健次)		特別活動が抱える問題を意識しつつ、集団活動の指導の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手や集団に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現代社会における特別活動の指導法を考える（３）家庭・地域との連携（担当：宮島 健次）	特別活動が抱える問題を意識しつつ、家庭・地域との連携の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手や家庭・知己に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。	
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。	120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。	120分
8	I これまでの総合的な学習の時間を振り返ってみよう ～私が体験した総合的な学習の時間とは～（担当：鈴木 克彦）	・自分が体験してきた総合的な学習の時間を振り返り、説明することができる。 ・各学校において、様々な学習活動があることに気づき、まとめることができる。	
	この回の到達目標	・自分がこれまで小・中・高等学校で経験してきた総合的な学習の時間を振り返るとともに、学年や実施時期、学習のテーマや学習内容について、視点に応じて表にまとめることができる。	
	事前学修	自分がこれまで受けてきた総合的な学習の時間の授業内容で、一番楽しかったことを想起する。	120分
	事後学修	各学校において様々な実践がなされていることを知り、総合的な学習の時間の傾向をまとめる。	120分
9	II 学習指導要領から見る総合的な学習の時間 ～総合的な学習の時間の成立と経過～（担当：鈴木 克彦）	・総合的な学習の時間の成立の様子や、その後の経過について理解することができる。 ・学習指導要領における総合的な学習の時間の意義や目標を理解することができる。	
	この回の到達目標	・学習指導要領における総合的な学習の時間の意義や目標をとらえ、その歴史をたどりながら、総合的な学習の時間の探究的な見方・考え方について理解することができる。	
	事前学修	受講者の学校で、それぞれ多様な実践がなされていることを知り、総合的な学習の時間の授業の傾向をまとめる。	120分
	事後学修	総合的な学習の時間の意義と課題を把握し、各校の学習計画の目標や内容について理解する。	120分
10	III 学習指導要領から見る総合的な学習の時間 ～よりよい探究的な学習活動に向けて～（担当：鈴木 克彦）	・中学校学習指導要領解説、総合的な学習の時間編を参考にして、指導計画の作成や学習指導等について理解できる。 ・総合的な学習の時間の意義と課題に気づき、それが各校で設定する目標や内容を定める際の基本になっていることを理解できる。	
	この回の到達目標	・総合的な学習の時間の意義と課題に気付くとともに、この学習が、自然、環境、人権など、教科横断的、総合的な視点から設定したり、学校の特色を活かしたりしながら指導計画が立てられていることに気付くことができる。	
	事前学修	前時の授業から、総合的な学習の時間が学習指導要領のもとで、学校の実態に応じて構成されていることに気付く。	120分
	事後学修	総合的な学習の時間は、教科横断的で総合的な視点や、学校の特色を活かす視点などから構成されていることを理解する。	120分
11	IV 授業実践例の紹介 ～教科との関連、学校や地域の実態から～（担当：鈴木 克彦）	・小学校及び中学校における授業実践例を学ぶ中から、総合的な学習の時間の学習目標や内容の傾向を大まかにとらえるとともに、各学校においては、地域の実態や学校環境などを生かしながら、様々な視点から学習内容が構成されていることを考えることができる。	
	この回の到達目標	・実践例について、大まかに理解すると共に、自分の意見を持つことができる。 ・総合的な学習の時間の基本的な考え方や様々な視点に気付くことができる。	
	事前学修	前時の授業から、総合的な学習の時間が教科横断的であることに気付く。	120分
	事後学修	校種別、視点の違いによる様々な実践例を知る中で、自分なりの感想を持つ。	120分
12	V 授業実践例の紹介 ～国際理解教育や異文化理解の視点から構想した中学校３学年における移民の授業～（担当：鈴木 克彦）	・中学校３年生に向けた人権意識に関わる授業実践例を学ぶ中から、総合的な学習の時間における一視点を考察することができる。	
	この回の到達目標	・実践事例について、大まかに理解すると共に、自分の意見を持つことができる。 ・総合的な学習の時間の基本的な考え方や様々な視点に気付くことができる。	
	事前学修	前時の授業から、総合的な学習の時間が教科横断的であることに気付く。	120分
	事後学修	校種別、視点の違いによる様々な実践例を知る中で、自分なりの感想を持つ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	VI 総合的な学習の時間における指導計画や学習指導案の作成 ～実際に作成してみましょう～ (担当：鈴木 克彦)	・中学校学習指導要領の考え方をもとに、授業者として、総合的な学習の時間の授業を意欲的に構想しようとする事ができる、 ・総合的な学習の時間の学習指導案の作成のしかたを理解し、単元や目標、学習内容等について大まかに考え、自分なりの学習指導案を作成することができる。	
	この回の到達目標	・中学校学習指導要領の考え方をもとに、授業者として、総合的な学習の時間の授業を意欲的に構想しようとする事ができる、 ・総合的な学習の時間の学習指導案の作成のしかたを理解し、単元や目標、学習内容等について大まかに考え、自分なりの学習指導案を作成することができる。	
	事前学修	・前時までの総合的な学習の時間の実践を知る中から、自分なりの構想を立てる。	120分
	事後学修	・個人で作成した指導計画と他の受講者の作成したものを比較検討し、それぞれの良さに気付く。	120分
14	VII 作成した指導計画をお互いに見合い、良い点について考えてみましょう。 (担当：鈴木 克彦)	・他の履修生が作成した指導計画の内容をよく理解し、お互いに見合いながら、客観的に良い点や改善点を考えることができる。 ・他の履修生が作成した指導計画と自分の指導計画を比較しながらとれるとともに、様々な良い点を自分の計画に生かすことができる。	
	この回の到達目標	受講者全員の作品について鑑賞内容を記述し、客観的に評価することができる。	
	事前学修	・読む側が理解しやすく、的確な内容にまとめておく。	120分
	事後学修	・全員の指導計画を読んで理解するとともに、自分の作成した指導計画と比較し、傾向やそれぞれの良さに気付く。	120分
15	VIII 総合的な学習の時間における、よりよい授業のあり方を求めて～総合的な学習の時間における指導と評価の一体化とは～ (担当：鈴木 克彦)	・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料をもとに総合的な学習の時間における指導と評価の一体化を考えると共に、今後期待される総合的な学習の時間のよりよい授業のあり方や方向性に気付くことができる。	
	この回の到達目標	・児童生徒が楽しめるような総合的な学習の時間の学習計画の作成に関心を持つことができる。 ・総合的な学習の時間の今後の方向性について課題をもつことができる。	
	事前学修	・前時に発表した中の学習計画を元に、全体で話し合えるよう意見をまとめておく。 ・他のグループの発表内容と比較検討しながら聞き、感想をまとめておく。	120分
	事後学修	・個人に配付されたワークシートに、各グループへの評価、自己評価等をまとめ提出する。	120分

科目名	特別支援教育概論	担当者	森澤 亮介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×8回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR、事例検討、グループでの事例検討等を含み、その後にリフレクションペーパーを作成して提出する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
支援を必要としている幼児、児童、生徒に関する特性について基礎的な知識を身につける。また「適応行動の問題」を踏まえて個別の教育的ニーズに応じた支援、対応、教育方法について考え例示することができる。その際、他の教員や、関係機関と連携するといった周囲の資源を活用し、組織的に対応していく方法を学習する。

【履修条件】
教員免許状の取得を希望する者

【授業方法】
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR視聴などを含む 第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各種障害の概要や定義についての知識を身につけ説明することができる。【知識】												
②	特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身につける。【知識】												
③	発達障害を伴うもしくは発達障害の診断がない幼児・児童・生徒への支援方法について考えまとめることができる。【態度・習慣】												
④	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、具体的な支援方法等を明示する様に促す。【技能】												
⑤	「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」に関する基礎的な知識を、講義を通して身につける。さらにこれらが、どのように活用されているのか、現場の実践から考える。 また、架空事例をもとに、「個別の指導計画」を作成する。【技能】												
⑥	実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。【態度・習慣】												
⑦	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。授業づくり2ではチームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。【態度・習慣】												
⑧	「特別支援教育コーディネーター」についての役割や立場など、チームでの連携を見通した、基本的な知識を身につけ説明することができる。【知識】												
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	架空事例を対象とした個別の指導計画の作成や授業の指導案作成を通して、到達目標④、⑤に関わる能力が身についているのか評価をする。				20	20						40
レポート等	授業ごとに各授業に即したレポート課題を出し、到達目標①②⑧に関する知識が身についているか確認する。 また授業後のリフレクションペーパーにより到達目標③⑥について積極的な学習態度が身についているかどうか評価する。	10	10	10			10	10	10			60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとのレポートや作成した課題を取り上げ講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考書等は、各講義の配布資料で紹介します。				

【オフィスアワー】
授業後、講堂にて行う

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。 また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	障害の状態像の理解	特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性および心身の発達の理解	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、障害の特性について理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、自身の障害観について説明することができる。	120分
	事後学修	特別な支援を必要とする子どもの特性についてまとめる。	120分
2	発達障害・特別な教育的ニーズの理解	発達障害及び発達障害に関わらない特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の特性および心身の発達の理解	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、障害の有無にかかわらず支援が必要な幼児・児童及び生徒の支援方法について考えまとめるができる。	
	事前学修	障害のない支援が必要な子どもとはどういうことか資料を確認する。	120分
	事後学修	障害の有無に関わらず、支援が必要な子どもと判断する要因についてまとめる。	120分
3	特別支援教育に関する教育課程、特別支援教育に関する制度	「通級による指導」「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 インクルーシブ教育システムについての理解	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身につけ、説明することができる。	
	事前学修	特別支援教育に関する教育課程について最新の学習指導要領を確認する。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育システムについてまとめる。	120分
4	個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成とその意義	個別的教育支援計画・個別の指導計画に関する基礎的な知識を身につける 架空事例をもとに個別の指導計画を作成する	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連してこれまでの講義で身につけた知識や技能をもとに架空事例から個別の指導計画を作成する。	
	事前学修	個別の指導計画について文部科学省のHP等や書籍を確認してまとめる。	120分
	事後学修	作成した個別の指導計画について振り返り、別の事例でも作成する。	120分
5	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅰ	特別支援教育コーディネーターについて役割や立場などチーム連携を見通した基本的な知識を身につける	
	この回の到達目標	到達目標⑧に関連して特別支援教育コーディネーターについて基本的な知識を身につけその役割について説明することができる	
	事前学修	特別支援教育コーディネーターとは何か書籍や文部科学省のホームページを確認してまとめる。	120分
	事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割や仕事についてまとめることができる。	120分
6	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅱ	架空の校内委員会の事例から連携について考える	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。	
	事前学修	校内委員会について事前に確認しまとめることができる。	120分
	事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割などを踏まえて校内委員会についてまとめることができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅠ	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、これまでの講義の内容を踏まえて具体的な支援方法等を明示する。	
	事前学修	これまでに自身が作成した学習指導案について確認する。	120分
	事後学修	本講義で作成した学習指導案を振り返り、チームで授業を進めるために必要な指導案の内容について考え、まとめる	120分
8	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅡ	チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
	事前学修	7回で作成した学習指導案をもとに、特別支援学校で授業を行うことを想定した学習指導案についてまとめる。	120分
	事後学修	チームで授業を行うために共有すべき必要な要素についてまとめる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【歴史学入門＆日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと。

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。毎回リアクションペーパーの提出を課す。教材の配布、学生への連絡、課題の提出などはすべてClassroomを利用する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 リアクションペーパー・グループワーク・ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	歴史学という学問の特徴について、基本的な理解を獲得する。										
②	日本史という教科の存在理由や問題点を理解する。										
③	各時代の基本的特徴・時代像を把握する。										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	中間課題・期末試験により、到達目標が達成されているかについて判定する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワーク・ディスカッションへの参加とその成果を確認する。		5	5								10
授業への参画度	毎回の授業内課題・リアクションペーパーにより、内容の理解とともに授業への参加度を評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Classroomにフィードバック・レポート試験の講評を掲示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。なお、中学・高校の歴史教科書・日本史教科書（出版社は問わない）を持っておく（持参なくてよい）				

【オフィスアワー】
水曜13：00～14：30。メールでアポイントを取ること（ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp）。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・イントロダクション 講義の目的などの説明	講義の目的・履修案内・注意事項・文献紹介・講義計画	
	この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	よく生きるための歴史 ——なぜ歴史を学ぶのか？	自分の過去を振り返るのはなぜか？を考えることを端緒に、歴史を学ぶことを意義について考える。	
	この回の到達目標	歴史学を学ぶことの意義について、自分なりの答えを持つことができるようになる。	
	事前学修	これまでの日本史・世界史の学習歴を振り返りつつ、「なぜ歴史を学ぶのか」について自分なりの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「なぜ歴史を学ぶのか」について考えをまとめる。	120分
3	過去の痕跡としての史料	史料とは何か？ 史料をめぐる諸問題や史料批判の重要性について考える。	
	この回の到達目標	史料保存の重要性や公文書の作成・保存・公開の重要性について理解する。	
	事前学修	地元の歴史博物館や郷土史料館に足を運んで、史料を見てくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。特に「史料批判」の意義についてまとめる。	120分
4	「歴史」が生まれる ——歴史学という営み	学問としての歴史学とはどういうものか、「歴史」の客観性や科学性について考える。	
	この回の到達目標	歴史学という学問の特徴について、基本的な認識を獲得する。	
	事前学修	「「歴史」とは何か」について、自分なりの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。歴史学という学問の特徴についてまとめる。	120分
5	「日本史」とはなんだろうか——「日本史」の歴史	古代以来の歴史書編纂の歴史を概観し、その歴史認識の特徴や、歴史と政治との関係について考える。	
	この回の到達目標	日本史教育の意義や問題点について、考える視点を獲得する。	
	事前学修	学校教育で、なぜ「日本史」を学習させられるのだろうか？を考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「「日本史」の歴史」の特徴と問題点をまとめる。	120分
6	歴史を教えるということ ——歴史教育と歴史学	歴史学が大きく変化していく中で、既存の「日本史」教育では見えてこなかった問題や「日本史」を相対化する視点が指摘されてきている。一方、学校教育では「歴史離れ」も指摘されている。歴史学の成果を活かした歴史教育の可能性について考える。	
	この回の到達目標	既存の歴史教育の問題点を認識し、それを克服する歴史教育を構想する力を獲得する。	
	事前学修	自らが受けてきた「日本史教育」の問題点を挙げてみる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。既成のスタイルを壊して、どんな歴史の授業をしてみたいかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ヤマト王権の形成と東アジア ー原始から古代へ	東アジア世界の影響の中で王権の形成が進んでいく過程を検討する。	
	この回の到達目標	東アジアとの関係を重視しながら、この時代の歴史過程の基本事項と時代像を獲得する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、原始・古代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	グループワーク	「歴史を学ぶ意味」やそれを実感できる歴史教育のあり方について、グループに分かれて、ディスカッションする。	
	この回の到達目標	①前半期の講義を振り返り、自分なりに「歴史を学ぶ意味」について説明できること。 ②①を踏まえて、どのような歴史教育を实践すべきかを考え、意見交換する。 ③教職課程に関する意見交換をし、つながりを作る。	
	事前学修	中間課題(レポート)を執筆してくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	「日本」の誕生 ー律令制国家の確立と東アジア	律令制の整備とともに、「日本」「天皇」という語が生まれたり、歴史書編さんが始まったこと、「蝦夷」の制圧が進んだことなどに着目しながら、「日本」という古代国家の誕生について検討する。	
	この回の到達目標	東アジア世界との関係を含みこみながら、古代国家形成過程の基本事項と当該期の歴史像を獲得する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、飛鳥時代・奈良時代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	古代から中世へ	律令制の変質と荘園公領制の成立について概観する。	
	この回の到達目標	律令制の変質から中世的要素が誕生する事情について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、平安時代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	中世の政治と社会 ー分権と多元性	権力の分立と社会の多元性という中世社会の特徴について検討する。	
	この回の到達目標	権力の分立と社会の多元性という中世社会の特徴について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世前期の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	いくつもの「日本」 ー中世の西と東・北と南	西国と東国、蝦夷と琉球など、相対的に異なった文化の重層・複合として、日本列島の歴史見ることの重要性を考える。	
	この回の到達目標	日本列島の多様性や東アジアとのつながりについて理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世後期の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争と平和 ——中世から近世へ	「自力救済」を基本とする分権的な中世から、「惣無事」を実現する集権的な権力（幕藩体制）が成立した近世への時代の転換をたどる。	
	この回の到達目標	中世社会の特徴を克服していく過程から近世という時代が始まっていくことについて理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦国時代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	鎖国とは何か——近世の対外関係	近世の特徴の一つである「鎖国」と呼ばれる幕府の対外政策について検討する。	
	この回の到達目標	東アジア世界のなかでの「鎖国」の意義を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、幕府の対外関係の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	期末試験と振り返り	前期の講義内容の理解を問う期末試験に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	本講義の目標に到達したか否かを問う問題について、適切に解答できる。また、自己の達成について振り返り、今後の課題を見出すことができる。	
	事前学修	全講義を復習して期末試験に備える。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	岩田 陽子	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【歴史学入門＆日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や日本史に対して興味関心が高い学生を歓迎する。授業外でも概説書などは積極的に読んでほしい。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式。授業に際しては適宜、意見や感想などのリアクションペーパーを求める。また到達目標の達成度を確認するための授業内試験のほか、小課題も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーならびに小課題。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史学という学問の特徴について、基本的な理解を獲得する。												
②	日本史という教科の存在理由や問題点を理解する。												
③	各時代の基本的特徴・時代像を把握する。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②③の達成度を評価する。	15	10	15								40
小テスト等												
レポート等	小課題により、到達目標①②③の達成度を評価する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、到達目標①②③の理解度と積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において全体的な講評、解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本史概説－知る・会おう・考える	勝田政治ほか	北樹出版	2020	参考書	任意
備考	中学社会科歴史または高校日本史の教科書（会社は指定しない）は用意すること。				

【オフィスアワー】
授業終了時。このほかの時間については相談のうえ、対応する。また質問や相談などはメールでも受け付ける。メールアドレスは iwata.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスーなぜ歴史を学ぶのか	授業の進め方や到達目標、成績評価の方法、小課題などについて説明する。また歴史を学ぶ意義を考える。	
	この回の到達目標	歴史を学ぶ意義について、自分なりの答えを持つことができるようになる。	
	事前学修	これまでに学んだ歴史の授業を振り返り、なぜ歴史を学ぶのか考えておく。	120分
	事後学修	再度シラバスを読み、履修登録するか検討する。	120分
2	日本史を学ぶための基礎知識の整理	「史料（歴史資料）」とは何かを考える。また時代区分論や旧暦など、日本史を学ぶうえで必要な基礎知識について学習する。	
	この回の到達目標	旧暦における西暦併記の問題点について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書にどのような史料（歴史資料）が載せられているか見ておく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題についてテーマの選定を進める。	120分
3	原始日本とヤマト政権の成立	日本列島の特徴や日本人の起源、大王権力が発生した過程を考察する。	
	この回の到達目標	東アジア地域との交流にも注目しながら、古代国家が成立した過程を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、原始・古代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題についてテーマの選定を進める。	120分
4	律令国家の形成と展開	律令体制をもとに中央集権的国家が形成されていく過程を考察する。	
	この回の到達目標	唐との関係のなかで律令体制が成立した歴史的意義を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、古代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
5	摂関政治の隆盛と地方社会	藤原氏の権力掌握過程と摂関政治期の文化を考察する。	
	この回の到達目標	摂関政治期における中央政治とともに、地方社会の実態についても理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、古代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
6	院政の成立と平氏の台頭	院政の実態と保元・平治の乱の歴史的意義を考察する。	
	この回の到達目標	院政期における社会経済の変化と中世社会秩序の確立を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、中世の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について調べたことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	鎌倉幕府と執権政治		鎌倉幕府の成立から滅亡までの過程を考察する。	
	この回の到達目標	承久の乱と蒙古襲来の歴史的意義を考え、鎌倉時代の社会変容の推移を理解する。		
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、中世の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について調べたことをまとめる。		120分
8	中間まとめ		原始・古代から鎌倉幕府滅亡までの流れの整理。また小課題をもとにした自己評価作業を実施する。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容の理解ならびに歴史的事柄に対して、自らが評価、意義付けをしたうえで説明できるようにする。		
	事前学修	これまでの授業内容を復習しておく。		120分
	事後学修	小課題の内容に対して、改めて辞書や概説書などでどのように記されているか調べておく。		120分
9	南北朝の動乱と室町幕府の確立		南北朝対立の原因から室町幕府が確立していくまでの過程と日明貿易について考察する。	
	この回の到達目標	琉球や倭寇の存在なども含め、室町時代の社会を理解する。		
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、中世の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。		120分
10	ヨーロッパとの接触と織豊政権		戦国大名の台頭から織豊政権への推移を考察する。	
	この回の到達目標	織豊政権の特質と歴史的意義を理解する。		
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、中世・近世の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。		120分
11	江戸幕府の成立と「鎖国」		江戸幕府の大名統制策と「鎖国」に至るまでの経緯について考察する。	
	この回の到達目標	いわゆる「鎖国」と呼ばれる江戸幕府の対外政策の実態を理解する。		
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近世の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。		120分
12	幕藩体制の確立と展開		武断政治から文治政治への変化を考察する。	
	この回の到達目標	幕藩体制という江戸時代の支配構造を理解する。		
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近世の該当部分を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	幕藩体制の動揺と社会変容	寛政の改革と天保の改革を社会実態から考察する。	
	この回の到達目標	江戸時代後期における社会の成熟と江戸幕府の矛盾を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近世の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分
14	授業内試験ならびに解説	到達目標の達成度を確認するための授業内試験ならびに解説をする。	
	この回の到達目標	原始・古代から近世までの流れを理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習し、授業内試験に備える。	120分
	事後学修	授業内試験を振り返り、改めて設問の意図や解答を考えてみる。	120分
15	対外危機と江戸幕府の限界	開国の経緯と江戸幕府滅亡までの流れを考察する。	
	この回の到達目標	列強諸国が接近してきた意図と江戸幕府の対応、開国の歴史的意義を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近世・近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	改めて自分が持っている中学・高校の教科書のうち、原始・古代から近世までを読み、理解度が高まっていることを実感する。	120分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。毎回授業内課題・リアクションペーパーの提出を課す。教材の配布、学生への連絡、課題の提出はすべてClassroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本の近現代の歴史に関する基礎的な知識を獲得する。											
②	世界史との連関で日本近現代史の展開を理解する。											
③	日本の近現代史に関するオリジナルな授業を構想できる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	中間課題・期末試験により、到達目標①②③の達成度を評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内課題・リアクションペーパーにより、授業内容の理解とともに授業への参加度合いを評価する。	5	10	10								25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Classroomにおける講評。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜13:00~14:30。メールでアポイントを取ることが望ましい。講義とは直接関係のない質問や相談にも応ずる。試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談には答えられない。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	世界史のなかの近現代日本・イントロダクション	前半で講義の趣旨と概要、履修条件・注意事項・文献紹介 後半で「世界史の中の近現代日本」というテーマ設定の含意を説明する。	
	この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	世界史のなかの「開国」	19世紀の世界のなかでのいわゆる「開国」の歴史的意義について、世界資本主義システムや国民国家体系への包摂という観点から説明する。	
	この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「開国」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
3	「文明国」になるということ——<文明化>と<国民化>	明治維新政府の政策を<文明化>と<国民化>という観点から説明し、「文明国」になるという目標の意味について考察する。	
	この回の到達目標	「文明国」になるという目標から展開された明治新政府の政策の両義性について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治維新」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
4	「民権」と「国権」——明治憲法体制の形成	自由民権運動から大日本帝国憲法制定までの過程をたどりつつ、<文明化>と<国民化>の観点から、その意義と限界を分析する。	
	この回の到達目標	明治憲法制定に至る過程、および憲法制定の意義と限界について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「自由民権運動」「明治憲法」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
5	明治政府の外交と東アジア国際秩序の再編	明治政府の東アジア外交の展開による近隣との関係再編過程を考察する。	
	この回の到達目標	明治政府による東アジア外交の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治政府の外交」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
6	日清・日露戦争——帝国主義と東アジア	日清・日露戦争期に東アジアに帝国主義が本格的に展開していく過程を扱う。	
	この回の到達目標	日本と東アジアにおける帝国主義との関係を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日清戦争」「日露戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「帝国」日本と植民地主義	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質を考察する。	
	この回の到達目標	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質について説明することができる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「韓国併合」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	第一次世界大戦後の世界の変容と日本の針路	第一次世界大戦後の国際秩序の変化と日本の対外政策との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	1920年代の日本外交のあり方について、世界の変容との関わりで説明できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「第一次世界大戦」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	政治的・社会的デモクラシーと政治体制の民主化	大正デモクラシー期における政治的・社会的デモクラシーの傾向と1920年代の政治体制の民主化との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	1920年代の政治・社会の変容を構造的に理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「大正デモクラシー」「政党政治の実現」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	「帝国」の再膨張 ——満州事変から日中戦争へ	満州事変を契機として中国侵略の本格化と立憲政治の後退が進んでいく過程を考察する。	
	この回の到達目標	満州事変以降の日本の動きが当時の世界にもった意味を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「満州事変」「華北分離工作」「日中戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の性格について、日中戦争との連続性、開戦決定過程の特質、「大東亜共栄圏」の実態などの側面から考える。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の基本的性格について説明できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日中戦争」「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	「大日本帝国」の崩壊	総力戦体制下の国民生活の実態、絶望的抗戦における兵士の無残な死、敗戦を引き延ばしたがゆえに拡大した民間人の戦争被害など、内部崩壊していく「大日本帝国」を考える。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の実態、および敗戦過程の特質について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非軍事化と民主化 ——焼跡からの再出発	非軍事化と民主化を基調とする戦後改革とその成果について検討する。	
	この回の到達目標	戦後デモクラシーの意義と限界について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦後改革の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	冷戦下の日本の現代 ——高度成長から経済大国へ	冷戦下の東アジア情勢を背景とした復興・高度成長・経済大国化の進展とその問題点を考える。	
	この回の到達目標	環境破壊や人権軽視、戦後処理の不十分さなどの問題点を抱えた日本の現代について批判的に思考できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、高度成長・経済大国の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	期末試験と振り返り	本講義の目標を達成できているかどうかを試験により考査する。また、自己の達成を確認し今後の課題を発見する振り返りを行う。	
	この回の到達目標	本講義における自己の達成を適切に評価し、今後の課題について説明できる。	
	事前学修	全講義を復習してレポート試験に備える。	150分
	事後学修	これまでの学びを振り返り、獲得したものと足りないものを確認する。	90分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	岩田 陽子	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や日本史に対して興味関心が高い学生を歓迎する。授業外でも概説書などは積極的に読んでほしい。

【授業方法】
PowerPointを利用した講義形式。授業に際しては適宜、意見や感想などのリアクションペーパーを求める。また到達目標の達成度を確認するための授業内試験のほか、小課題も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーならびに小課題。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の近現代の歴史に関する基礎的な知識を獲得する。											
②	世界史との連関で日本近現代史の展開を理解する。											
③	日本の近現代史に関するオリジナルな授業を構想できる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②③の達成度を評価する。	15	10	15								40
小テスト等												
レポート等	小課題により、到達目標①②③の達成度を評価する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、到達目標①②③の理解度と積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内において全体的な講評、解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本史概説－知る・会おう・考える	勝田政治ほか	北樹出版	2020	参考書	任意
備考	中学社会科歴史または高校日本史の教科書（会社は指定しない）は用意すること。				

【オフィスアワー】
授業終了時。このほかの時間については相談のうえ、対応する。また質問や相談などはメールでも受け付ける。メールアドレスは iwata.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスー「世界史のなかの近現代日本」	授業の進め方や到達目標、成績評価の方法、小課題などについて説明する。また「世界史のなかの近現代日本」という意味について考える。	
	この回の到達目標	「世界史のなかの近現代日本」という意味を理解する。	
	事前学修	開国の経緯と江戸幕府滅亡までの流れを復習しておく。	120分
	事後学修	再度シラバスを読み、履修登録するか検討する。	120分
2	近代国家への改革	明治政府の諸改革と文明開化という風潮が起こった歴史的意義を考察する。	
	この回の到達目標	明治政府が中央集権化を達成していく過程を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
3	自由民権運動と政党	自由民権運動の高揚から衰退までの経緯を経済状況と合わせて考察する。	
	この回の到達目標	自由民権運動が果たした歴史的役割を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
4	大日本帝国憲法の制定と初期議会	立憲国家の成立過程と初期議会の特徴を考察する。	
	この回の到達目標	大日本帝国憲法の内容と制定意図を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
5	日清・日露戦争	日清・日露戦争と世界情勢の推移を考察する。	
	この回の到達目標	日清・日露戦争の歴史的意義を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
6	韓国併合	帝国主義拡大の流れと当時の思想を考察する。	
	この回の到達目標	日露戦争後における国際関係の変化について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	大正デモクラシーと第一次世界大戦	国内情勢と第一次世界大戦後の国際体制を考察する。	
	この回の到達目標	ヴェルサイユ体制とワシントン体制について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。また小課題について下調べを進める。	120分
8	中間まとめ	明治政府発足から第一次世界大戦までの流れの整理。また小課題のまとめ作業を実施する。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容の理解ならびに歴史的事柄に対して、自らが評価、意義付けをしたうえで説明できるようにする。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習しておく。	120分
	事後学修	小課題の内容に対して、改めて辞書や概説書などでどのように記されているか調べておく。	120分
9	満州事変から日中戦争へ	戦後恐慌から満州事変、日中戦争までの流れを考察する。	
	この回の到達目標	軍部が台頭した要因について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分
10	アジア・太平洋戦争	戦時下における民衆生活と敗戦までの過程を考察する。	
	この回の到達目標	民衆が戦争に協力した要因について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分
11	占領と戦後改革	占領政策とそれに伴う社会改革の内容を考察する。	
	この回の到達目標	戦前・戦後の社会の変化を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、現代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分
12	高度経済成長と都市問題	国際社会への復帰と高度経済成長について考察する。	
	この回の到達目標	高度経済成長の功罪を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、現代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	昭和から平成へ	政局の変化とバブル経済の崩壊を考察する。	
	この回の到達目標	現在へと続く政治と経済の流れを理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、現代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をノートに整理し、復習する。	120分
14	授業内試験ならびに解説	到達目標の達成度を確認するための授業内試験ならびに解説をする。	
	この回の到達目標	「世界史のなかの近現代日本」という視点で近現代の流れを理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習し、授業内試験に備える。	120分
	事後学修	授業内試験を振り返り、改めて設問の意図や解答を考えてみる。	120分
15	現代日本の諸問題	領土問題や環境問題など現代日本が抱えている諸問題について考察する。	
	この回の到達目標	世界平和と日本の役割について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校の教科書のうち、現代の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	改めて自分が持っている中学・高校の教科書のうち、近現代の部分を読み、理解度が高まっていることを実感する。	120分

科目名	発達と学習【新課程】	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
人間の発達と学習の過程について、その基礎を主に心理学を中心として講義する。そして、実際の教育指導との関連性を講義して、基本的な知識と教育実践でのその応用可能性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を養成することを目的とする。 各発達段階の心理的特性を踏まえて、学習成立の基礎過程と学習活動を支える教育指導の基礎となる考え方を理解し、講義内の心理検査実習等を通じて、実際の知識の獲得と応用を可能にすることを目標とする。

【履修条件】
心理学Ⅰ・Ⅱを履修済み、または履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
講義を中心とする。知識の確認等について、リフレクションペーパーを提出する。また、講義中に検査実習を含めた様々なエクササイズを取り入れる。レポート（テーマは授業中指示）を提出する。なお、課題等の提出に際しては、「レスポソ」や「クラスルーム」を使用する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	心理検査実習、リフレクションペーパー提出等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。												
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。												
③	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。												
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。												
⑤	幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験を行う。到達目標①から⑤までの到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等	授業ごとにキーワードに関する小テストやエクササイズ等を行い、キーワードの理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	講義に関連する学術論文、資料等を読み、その内容と考察をレポートとして提出する。講義で示された内容、キーワードを基本にして、発達と学習に関する論考を評価する。	5	5	5	5	5						25
討論・発表等												
授業への参画度	授業ごとのリフレクションペーパー、提出物、レポート等の内容について、授業の参画をもとにした理解度を評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中またはポータルサイトによってフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育心理学	和田万紀編著	弘文堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2時限目昼休み研究室、wada.maki@nihon-u.ac.jpあてに事前に予約をすること。法学部から割り当てられたメールアドレスを使用して、学科、学年、学生番号、名前を記入した後に、質問事項を記入して下さい

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	発達と教育		発達の概念及び理論と教育における発達理解の意義を考える
	この回の到達目標	到達目標1 発達の概念と定義、教育における発達理解の意義を理解して説明できる。	
	事前学修	発達の定義について、教科書、参考書等からまとめる。この科目を履修する意義をまとめる。	120分
	事後学修	実践的な教育現場で、発達と学習の知識をもつことの重要性、意義についてまとめる。	120分
2	発達の理論		発達の一般的特徴と過程についての理論（遺伝と環境、発達の原理、生涯発達等）
	この回の到達目標	到達目標1 人間の発達の一般的特徴と過程について理解して説明できる。	
	事前学修	人間の心身の発達の特徴をどのようにとらえるのかについて、他の動物等との比較や内的外的要因の相互作用、現代日本の現状についての資料から具体的例を考える。	120分
	事後学修	生涯発達という観点から、自分の現在の発達の特徴はどこにあるのかをまとめる。	120分
3	発達の各時期の特徴と理論		発達の各時期の特徴と理論（ピアジェ、ビゴツキー、バルテス、エリクソン等）
	この回の到達目標	到達目標1 発達に関する代表的理論から、発達の具体的特徴と容を理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	発達に関する各理論から、発達の特徴と内容の説明を比較してまとめる。	120分
4	乳児期、青年期の発達の特徴		発達の各時期の特徴を具体的に理解する（運動、言語、認知の発達、社会性の発達等）
	この回の到達目標	達成目標2 乳児期、青年期の発達の特徴を運動、言語、認知、社会性の発達等から理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、理論等をまとめる。	120分
	事後学修	発達の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達の特徴をまとめる。	120分
5	青年期の心身発達		青年期の心身発達の特徴を理解する（第2の誕生、エリクソンの理論等）
	この回の到達目標	到達目標2 青年期の心身の発達の特徴について、理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の青年期の発達の特徴に関する章を読み、各発達理論についてまとめて比較する。	120分
	事後学修	青年期の発達の特徴と教育場面での具体的な支援の例をまとめる。	120分
6	学習成立の基礎と理論		学習の成立過程を理解する（記憶の過程、ワーキングメモリー、知識等）
	この回の到達目標	到達目標3 学習の形態や概念、過程に関する基礎知識と、発達を踏まえた学習指導の考え方を理解して説明できる。	
	事前学修	学習成立過程について、教科書、参考書から該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習成立過程について、基礎的理論と実際の学習指導の具体例を対応させながらまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	学習成立の基礎：知識の獲得と問題解決		知識の獲得と問題解決の過程について理解して説明できる（メタ認知、直感、アルゴリズム等）
	この回の到達目標	到達目標3 知識の獲得と問題解決の過程について、認知過程から説明を理解して説明できる。	
	事前学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教科書、参考書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教育場面での支援をの例を具体的にまとめる。	120分
8	学習行動と動機づけ		学習の動機づけと行動（外発的、内発的動機づけ、自律性、報酬と阻害効果等）
	この回の到達目標	到達目標4 学習行動について、動機、動機付けの観点から、基礎理論を理解して説明できる。	
	事前学修	学習行動と動機づけについて、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動と動機づけの関係について、教育場面での具体例をについて基礎理論からまとめる。	120分
9	学習行動と認知過程		認知と学習行動（原因帰属、統制感、学習性無力感、目標設定等）
	この回の到達目標	到達目標5 学習行動について、認知過程から基礎理論を理解して説明できる。	
	事前学修	学習行動と認知過程について、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動と認知過程について、教育場面での具体例について基礎理論からまとめる。	120分
10	知的能力と学力観		知的能力と学力（知能とは何か、知能検査の歴史、教師期待効果等）
	この回の到達目標	到達目標4 頭の良さとは何か、それを測ることはできるのか、どの様に測るのか、について、知能の定義、知能検査の歴史、学力観等について理解して、説明することができる。	
	事前学修	測定と評価に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	頭の良さとは何か、について、自分の考えをまとめて考察する。	120分
11	学習行動の形成		学習行動の形成（古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化等）
	この回の到達目標	到達目標5 学習行動の形成に関する基礎理論を理解して、教育場面での具体的な指導へと応用できる。	
	事前学修	学習行動の形成に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動の形成を支援する指導の具体例を、基礎理論に基づいて説明してまとめる。	120分
12	教授法と学習行動		教授法と学習行動（発見学習、仮説実験授業、意味受容学習、適正処遇効果等）
	この回の到達目標	到達目標5 教授法の基礎理論と種類等について理解して、個人に適した学習指導法について提案できる。	
	事前学修	教授法に関する教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	教授法の基礎理論と方法、また適正処遇効果という観点から、自分の学習行動に適した教授法はどれか、それはなぜかを説明する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	評価と学習行動	評価と学習行動（評価目的、評価基準、形成的評価等）	
	この回の到達目標	到達目標4 学習行動の結果としての評価について、評価の目的、基準、種類等を理解して、説明できる。、	
	事前学修	測定と評価についての教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	「測定」と「評価」は、どのような効果、意味を持つのかについて、教師と生徒の各視点から考えてまとめる。	120分
14	発達障害とインクルーシブ教育	発達障害とインクルーシブ教育（発達障害の定義、インクルーシブ教育等）	
	この回の到達目標	到達目標5 発達障害の定義と教育の支援について、インクルーシブ教育という観点から理解して、説明できる。	
	事前学修	文科省HPから発達障害に関する資料をダウンロードして、現代日本のインクルーシブ教育の現状についてまとめるとともに、教科書の該当の章を読む。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育が一般の児童生徒に対して持つ影響を考えてまとめる。	120分
15	学級という社会	学級という社会（教師のリーダーシップ、学級雰囲気、生徒の人間関係等）	
	この回の到達目標	到達目標4 学級という社会の特徴について、生徒個人の視点、生徒個人と学級という集団という視点から理解して、教師として学級運営、教育支援等の提案ができる。	
	事前学修	学級という社会の特徴について、教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	「学級という社会」の特徴と、その特徴が教師と児童生徒に与える影響をまとめる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また、授業内課題（リアクションペーパー）への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（リアクションペーパー）への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説等を通じて、自主的な思考力を養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】										
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】										
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	20	20	18								58
小テスト等	授業内課題（リアクションペーパー）により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	14	14	14								42
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	34	32								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に課題の出題意図の説明や解答例の解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
時間帯：金曜14:30～15:10（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂。メールアドレス：uenoyama.akihiro11■nihon-u.ac.jp（■は@に置き換えて送信して下さい）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。	120分
2	西洋思想と倫理（１）ソクラテス・プラトン	ソクラテス・プラトンの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
3	西洋思想と倫理（２）アリストテレス	アリストテレスの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
4	西洋思想と倫理（３）デカルト	デカルトの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
5	西洋思想と倫理（４）カント	カントの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
6	西洋思想と倫理（５）ヘーゲル	ヘーゲルの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	西洋思想と倫理（６）ニーチェ		ニーチェの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
8	西洋思想と倫理（７）ハイデガー		ハイデガーの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
9	日本思想と倫理（１）親鸞		親鸞の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
10	日本思想と倫理（２）道元		道元の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
11	日本思想と倫理（３）西田幾多郎		西田幾多郎の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
12	日本思想と倫理（４）和辻哲郎		和辻哲郎の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	理解度の確認とまとめ	授業内試験とまとめの授業を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、倫理学という学問を生んだ古代ギリシア哲学の中の倫理思想、西洋倫理に大きな影響を与えたキリスト教の倫理思想、それらを継承しつつも新たな展開を見せた西洋近代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明できるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	できるかぎり学生との対話を取り入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。											
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。											
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の内容を理解し、理解したことを正確に説明できること。	30	10	30								70
小テスト等	授業の内容を踏まえて課題に答えられること。この小テストは授業への参画度の確認でもある。	30										30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	10	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行なう小テストについては、後日、講評をGoogleClassroom上で行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自分の人生を考える倫理学	金子佳司	北樹出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間に教室等にて、または、kaneko.keiji11@nihon-u.ac.jpにて、相談や質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入 公民と倫理学	授業計画や評価方法などの説明。 「公民とは誰か」を考える。また、倫理学という学問の成立について学ぶ。	
	この回の到達目標	公民とはどういう人間のことであるか、倫理学という学問がどのようにして成立したかを理解する。	
	事前学修	教科書の「はじめに」(p. 6～p. 11)を読んで、授業の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
2	生きる意味(1)	①戦後の日本人の生きる意味の構築力の弱体化 ②世界観の変化による生きる意味の喪失(ニヒリズム)	
	この回の到達目標	生きる意味が見出しにくくなった背景を考える。	
	事前学修	教科書p. 14～p. 18を読んで、生きる意味が見出しにくくなった背景を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
3	生きる意味(2)	サルトルの実存主義	
	この回の到達目標	サルトルの実存主義を学んで、生きる意味について考える。	
	事前学修	教科書p. 18～p. 21を読んで、サルトルの実存主義の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
4	生きる目的	アリストテレスの倫理学	
	この回の到達目標	アリストテレスの倫理学を学んで、生きる目的について考える。	
	事前学修	教科書p. 22～p. 27を読んで、アリストテレスの倫理学の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
5	快樂主義(1)	キュレネ派とエピクロスの快樂説	
	この回の到達目標	キュレネ派とエピクロスの快樂説を学んで、求めるべき快樂は何かを考える。	
	事前学修	教科書p. 28～p. 33を読んで、キュレネ派とエピクロスの快樂説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
6	快樂主義(2)	ベンサムの快樂説	
	この回の到達目標	ベンサムの快樂説を学んで、なるべく多くの快樂を求めるべきかを考える。	
	事前学修	教科書p. 34～p. 38を読んで、ベンサムの快樂説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	快楽主義(3)	ミルの快楽説	
	この回の到達目標	ミルの快楽説を学んで、快楽に高級・低級はあるのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 38～p. 41を読んで、ミルの快楽説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
8	幸福とは何か	アリストテレスの幸福論	
	この回の到達目標	アリストテレスの幸福論を学んで、人間らしい幸福とは何かを考える。	
	事前学修	教科書p. 41～p. 44を読んで、アリストテレスの幸福論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
9	徳とは何か	アリストテレスの徳論	
	この回の到達目標	アリストテレスの徳論を学んで、優れた人間とはどういう人かを考える。	
	事前学修	教科書p. 44～p. 49を読んで、アリストテレスの徳論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
10	義務論(1)	カントの義務論(1) 義務に基づく行為	
	この回の到達目標	カントの義務論を学んで、行為はその結果が良ければ道徳的に善いと言えるのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 50～p. 51を読んで、カントの「義務に基づく行為」がどういうものであるかを知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
11	義務論(2)	カントの義務論(2) 道徳法則	
	この回の到達目標	カントの義務論を学んで、道徳に法則はあるのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 51～p. 53を読んで、カントの「道徳法則」がどういうものであるかを知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
12	よい人生とは何か	幸福論と義務論	
	この回の到達目標	人生において大切なのは、幸福を実現することなのか、義務を遂行することなのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 56～p. 57を読んで、幸福論と義務論の違いを知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	徳と幸福	プラトンの幸福論	
	この回の到達目標	プラトンの幸福論を学んで、幸福な悪人は存在するかを考える。	
	事前学修	教科書p. 57～p. 60を読んで、プラトンの幸福論を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
14	まとめ	授業の総まとめ	
	この回の到達目標	この授業の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業の概要を自分で復習しておく。	120分
	事後学修	今回の授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	理解の確認	この授業の内容が理解できたかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、前期の授業の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また、授業内課題（リアクションペーパー）への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（リアクションペーパー）への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説等を通じて、自主的な思考力を養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】											
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】											
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	20	20	18								58
小テスト等	授業内課題（リアクションペーパー）により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	14	14	14								42
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	34	32								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に課題の出題意図の説明や解答例の解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
時間帯：金曜14:30～15:10（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂。メールアドレス： uenoyama.akihiro11■ nihon-u.ac.jp（■は@に置き換えて送信して下さい）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。		120分
2	社会思想と倫理（１）ミル	ミルの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
3	社会思想と倫理（２）アーレント	アーレントの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
4	社会思想と倫理（３）ハーバーマス	ハーバーマスの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
5	社会思想と倫理（４）ロールズ	ロールズの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
6	宗教思想と倫理（１）ユダヤ教	ユダヤ教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	宗教思想と倫理（２）キリスト教		キリスト教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
8	宗教思想と倫理（３）イスラーム		イスラームの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
9	宗教思想と倫理（４）仏教		仏教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
10	宗教思想と倫理（５）儒教		儒教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
11	宗教思想と倫理（６）道教		道教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
12	宗教思想と倫理（７）神道		神道の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	理解度の確認とまとめ	授業内試験とまとめの授業を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、仏教や儒教などの東洋の倫理思想、それらの東洋思想や西洋思想の影響を受けた日本の倫理思想、マルクス主義や実存主義に代表される現代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明できるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	できるかぎり学生との対話を取り入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。												
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。												
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業の内容を理解し、理解したことを正確に説明できること。	30	10	30								70
小テスト等	授業の内容を踏まえて課題に答えられること。この小テストは授業への参画度の確認でもある。	30										30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	10	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行なう小テストについては、後日、講評をGoogleClassroom上で行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自分の人生を考える倫理学	金子佳司	北樹出版	2022年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間に教室等にて、または、kaneko.keiji11@nihon-u.ac.jpにて、相談や質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入 主体性と公共性 近代の人間観	授業計画や授業方法についての説明。 人間の主体性と公共性 デカルト哲学に見られる近代の人間観	
	この回の到達目標	人間の主体性と公共性 デカルトの哲学を学んで、そこに見られる近代的な人間観を理解し、検討する。	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、授業の概要を理解する。 教科書p. 62, p. 71～p. 73を読んで、人間の主体性と公共性を知る。 教科書p. 62～p. 66を読んで、デカルトの人間観の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
2	人間の主体性	カントの自律論とサルトルの実存主義	
	この回の到達目標	カントの自律論とサルトルの実存主義を学び、人間の主体性について考える。	
	事前学修	教科書p. 53～p. 54, p. 66～p. 70を読んで、カントの自律論とサルトルの実存主義の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
3	社会契約説 (1)	ホッブズの社会契約説	
	この回の到達目標	ホッブズの社会契約説を学んで、人間にはなぜ国家が必要なのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 74～p. 78を読んで、ホッブズの社会契約説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
4	社会契約説 (2)	ロックの社会契約説	
	この回の到達目標	ロックの社会契約説を学んで、個人の権利とは何かを考える。	
	事前学修	教科書p. 78～p. 83を読んで、ロックの社会契約説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
5	社会契約説 (3)	ルソーの社会契約説	
	この回の到達目標	ルソーの社会契約説を学んで、人間にはどんな国家がよいのかを考える。	
	事前学修	教科書p. 83～p. 87を読んで、ルソーの社会契約説の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
6	市民社会と国家	ヘーゲルの国家論	
	この回の到達目標	ヘーゲルの考える市民社会と国家の違いを学び、人間らしく生きるとはどういうことかを考える。	
	事前学修	教科書p. 87～p. 91を読んで、ヘーゲルの国家論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会主義	マルクスの社会主義	
	この回の到達目標	マルクスの社会主義を学び、平等な社会がよい社会かを考える。	
	事前学修	教科書p. 91～p. 96を読んで、マルクスの社会主義の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
8	公共性	アレントの公共哲学	
	この回の到達目標	アレントの公共哲学を学び、人間らしく生きるとはどういうことかを考える。	
	事前学修	教科書p. 96～p. 101を読んで、アレントの公共哲学の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
9	正義論(1)	プラトンとアリストテレスの正義論	
	この回の到達目標	①プラトンの正義論を学び、正しい国家とはどういうことかを考える。 ②アリストテレスの正義論を学び、矯正の正義と分配の正義の違いを考える。	
	事前学修	教科書p. 102～p. 109を読んで、プラトンとアリストテレスの正義論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
10	正義論(2)	功利主義の正義論	
	この回の到達目標	功利主義の正義論を学び、なるべく多くの人の幸福を追求することは正義かを考える。	
	事前学修	教科書p. 109～p. 112を読んで、功利主義の正義論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
11	正義論(3)	ロールズの正義論	
	この回の到達目標	ロールズの正義論を学び、公正な分配とはどういうものかを考える。	
	事前学修	教科書p. 113～p. 119を読んで、ロールズの正義論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
12	正義論(4)	ノージックの自由至上主義	
	この回の到達目標	ノージックの自由至上主義を学び、個人の自由の尊重について考える。	
	事前学修	教科書p. 119～p. 123を読んで、ノージックの正義論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	正義論(5)	サンデルの共同体主義	
	この回の到達目標	サンデルの共同体主義を学び、人間と共同体の関係について考える。	
	事前学修	教科書p. 124～p. 127を読んで、サンデルの正義論の概要を知る。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
14	まとめ	授業の総まとめ	
	この回の到達目標	この授業の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	ここまでの授業の内容を振り返っておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	120分
15	理解の確認	この授業の内容が理解できたかどうかを確認する。	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、後期の授業の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分